

漢 譯 對 照

梵 和 大 辭 典

文學博士 荻原雲來編纂

599-1568

監修 辻直四郎

下

新文豐出版公司 影印

中華民國六十八年十月初版

梵和大典

精裝貳冊定價新台幣壹仟伍佰元正

版權



所有

編纂者 荻原雲來 博士

監修者 辻直四郎 博士

編纂主任 大類純先生

發行人 劉修橋

發行所及印刷所 新文豐出版股份有限公司

公司：台北市雙園街九十六號
電話：三〇六〇七五七・三八一八六二四
門市部：台北市羅斯福路一段二十號八樓
電話：三四一五二九三・三四一五二九四
登記證：局版臺業字第四〇六四九號
郵政劃撥：一〇〇四四二一號

漢譯對照梵和大辭典

簡目一覽

A	1	D	517
Ā	178	ḌH	518
I	223	Ṇ	518
ī	232	T	519
U	236	TH	563
ū	284	D	563
Ṛ	287	DH	627
E	291	N	652
AI	301	P	718
O	302	PH	902
AU	304	B	906
K	306	BH	941
G	409	M	982
GH	446	Y	1071
ṅ	451	R	1104
C	451	L	1139
CH	482	V	1162
J	486	ś	1302
JH	515	Ṣ	1364
ñ	516	S	1366
T	516	H	1545
TH	517		

Puṣ, IV. ㊦ **puṣyati** [自動 および 他動]; IX. ㊦ **puṣṇāti** [他動, Ⅲのみ] 繁栄する, 繁茂する, 繁昌する; 繁栄させる; 養う, 愛育する, 育てる; 支持する, 保持する; 増大する; 助長する; 更に榮譽あらしめる; (希望を)満たす; (園)の増加するのを感じる, …を増す, 豊富に獲得する; 得る, (友を)得る; 所有する, 持つ, 享受する; 発達させる, 広げる, 開示する; 漢訳 発; 増長; 養育 *Av-ś.*, *Bodh-c.*, *Lank.*: *cetanām puṣṇāti* 発誓願 *Av-ś. I.154.* 過受分 **puṣṭa** 養われた; 栄養のよい, 強い; 繁栄した; 豊富な, 勝れた(繁昌); (園)に富んだ, …に恵まれた. 使役 **poṣayati** 飼養する, 養う, 愛育する, 食を与える; (園)によって食を与えしめる または飼養せしめる.

ut- IX. ㊦ **utpuṣṇāti** 十分に食べさせる, 肥えしめる; IV. ㊦ **utpuṣyati** 膨脹する.

pari- 過受分 **paripuṣṭa** 愛育された; (園, 一°)に富んだ; 増大した. 使役 **paripoṣaya-** 養う; 愛育する; 漢訳 長養 *Bodh-bh.*

pra- 養う, 支持する; 漢訳 長養, 増長 *Lank.*

vi- 過受分 **vipuṣṭa** 栄養の悪い, 飢えた.

saṃ- IX. ㊦ **sampuṣṇāti** 増加する.

-puṣ ㊦ 養う, 繁栄させる; 獲得する; 開示する.

puṣkara ㊦ 青蓮華; 匙のくぼみ; 太鼓の皮; 象の鼻の先端; 水; 空気, 天空; [聖地の名(現今の *Pokhar*)しばしば Ⅲ]. 同名の三聖地すなわち *jyeṣṭha*, *madhyama*, *kaniṣṭha* の三地の称; [地界七洲 (*dvīpa*)の一の名]. 男 インド鶴 [学名 *Ardea sibirica*]; Ⅲ 飢饉を引き起す雲(の一種); [人名, とくに *Nala* の兄弟の名]; 漢訳 [仏の名] 蓮華(台) *Lal-v.*

puṣkara-cūḍa 男 [地を支える四頭の象の一の名].

puṣkaratā 女 漢訳 花敷 *Gaṇḍ-vy.*

puṣkara-dvīpa 男 [地界七洲の一の名]. → **puṣkara.**

puṣkara-nābha 男 [*Viṣṇu* 神の称].

puṣkara-pattra ㊦ 青蓮華の花弁.

puṣkarapattra-netra ㊦ 蓮の花弁のような眼をもつ.

puṣkara-parṇa ㊦ =**puṣkara-pattra**; [煉瓦の一種(形の類似からこのように名づけられる)].

puṣkara-palāśa ㊦ =**puṣkara-pattra**.

puṣkara-bija ㊦ 蓮の種子.

puṣkara-mukha ㊦ 象の鼻の先端の孔.

puṣkara-viṣṭara 男 [*Brahman* 神の称].

puṣkara-sāri 女 漢訳 (音写) 布沙迦羅書, 仏迦蓮羅書 *Lal-v. 125.*

puṣkara-sārin 男 漢訳 [人名] 蓮花実 *Divy.*; 音写 弗袈娑 *Divy.*

puṣkara-sraja 女 青蓮華の花環. ㊦ 青蓮華の花環を着けた.

puṣkarākṣa ㊦ 蓮華のような眼をした. 男 [諸人の名]; [*Viṣṇu* (*Kṛṣṇa*) 神の称].

puṣkarāgra ㊦ 象の鼻の先端.

puṣkarāranya ㊦ *Puṣkara* 聖地の中の森.

puṣkarārūṇi (°*ra-ār*°) 男 [王侯の名].

puṣkarāvati 女 [*Gāndhāra* の主都の名].

puṣkarāvartaka (°*ra-āv*°) 男 Ⅲ 飢饉を引き起す雲

(の一種).

puṣkarāhva (°*ra-āh*°) 男 インド鶴 [学名 *Ardea sibirica*].**puṣkarikā** 女 [人名].**puṣkarīṇi** 女 蓮のある池; 池; [*Manu* の母または祖母の名]; [*Ulmuka* の妻の名]; 漢訳 池, 小池, 大池, 浴池, 池沼, 清涼池 *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. II.*, *Sūv-pr.*, 梵千., 梵難.**puṣkarin** ㊦ 青蓮華に富んでいる. 男 象.**puṣkarekṣaṇa** (°*ra-ik*°) ㊦ 青蓮華の眼をした. 男 [puruṣa とともに *Viṣṇu* (*Kṛṣṇa*) 神の称].**puṣkala** ㊦ おびただしい, 豊富な; 多くの, 数多い; 富んだ, 優れた; 声高い, 反響する; 漢訳 広大, 円満, 具足 *Lank.*, *Mvyut.* 男 太鼓(の一種); [*Bharata* の息子の名]; Ⅲ 匙のくぼみ; [容積の単位].**puṣkalaka** 男 麝香鹿.**puṣkalatā** 女 漢訳 妙 *Lank.***puṣkalāvata** 男 *Puṣkalāvati* の住民. Ⅲ [Puṣkala すなわち *Bharata* の息子の住居の名].**puṣkalāvati** 女 [町の名, =*Puṣkarāvati*].**puṣkalāvartaka** (°*la-āv*°) 男 Ⅲ =**puṣkarāvartaka**.**puṣkalettra** 男 [村の名].**puṣkasa** 男 [pulkasa の 不確].**puṣkirīṇi** 女 漢訳 [=**puṣkarīṇi**] 池, 池沼, 涌泉 *Av-ś.*, *Divy.***puṣṭa** 過受分 → **Puṣ**. 漢訳 所増, 所園満, 増長, 増上, 長養 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.* Ⅲ (因) 財産, 富裕, 財(とくに子供および牛の).**puṣṭatā** 女 漢訳 円満 *Sūtr.***puṣṭa-vipuṣṭa** 男 Ⅲ 良く養われたことと悪く養われたこと.**puṣṭāṅga** ㊦ (女 -i) 肥えた肢をもつ, 栄養のよい, 強壯な.**puṣṭi** 女 繁昌, 増加; 発達; 夥多, 豊富, 繁栄, 富 [時には Ⅲ]; 養育, (牛等の)飼養; 漢訳 増長, 増長求, 増益, 資益, 滋益, 長養, 生長; 円満 *Abh-vy.*, *Lodh-bh.*, *Guh-y-s.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.***puṣṭi-kara** ㊦ 生長または繁栄を起す, 養う.**puṣṭi-kāma** ㊦ 繁栄または富裕を望む.**puṣṭi-da** ㊦ 繁栄等を与える.**puṣṭi-pati** 男 富財の主.**puṣṭimat** ㊦ 豊富な, 繁昌する, 繁栄する, 富裕な.**puṣṭi-mati** 男 [ある *Agni* の名].**puṣṭi-varḍhana** ㊦ 繁栄を増す.**puṣpa** ㊦ 花, [一° ㊦ (女 -ā, 植物の名の後には通常 -i)]; 月経; 花やかな言葉, 婦人に対する慰勸, 愛の告白; 漢訳 花, 華 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Av-ś.*, *Bodh-c.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.*, 梵千., 梵難. 男 黄玉; [ある書物の名] (*Divy.*).**puṣpaka** (男) ㊦ *Kubera* 神の車; 漢訳 花 *Lank.***puṣpa-karaṇḍa** ㊦ 花籠.**puṣpakaraṇḍodyāna** (°*ḍa-ud*°) ㊦ [*Ujjayini* の近くの庭園の名].**puṣpaka-vimāna** ㊦ =**puṣpaka**.

puṣpa-kāla 男 花の時, 春; 月経時.
 puṣpa-kāsisa 田 帯黄色の緑簪; 黒簪 *Mvyut.*
 puṣpa-kūṭa-dhāraṇi 田 [経の名] (音写) 花積
 陀羅尼経 *Sikṣ.* [華積陀羅尼神呪経, 花積樓閣陀羅尼
 経, 花聚陀羅尼呪経, 師子奮迅菩薩所問経].
 puṣpa-ketu 男 緑簪で造った目薬; 愛の神; [ある王子
 の名]; [仏の名] 花幢, 花英 *Lal-v.*
 puṣpa-gr̥ha 田 温室.
 puṣpa-granthana 田 花(環)を編むこと.
 puṣpa-cāpa 男 花の弓, *Kāmā* 神の弓. 男 [(花の弓
 を持った者), *Kāma* 神の称].
 puṣpa-citra 田 [苑の名] 華巖, 華莊巖, 華飾
Aṣṭ-pr.
 puṣpa-danta 男 [(花の歯), *Śiva* 神の称]; [*Śiva* 神
 または *Viṣṇu* 神の侍者の名]. 田 [ある殿堂の名]; [あ
 る宮殿の名].
 puṣpa-danti 田 [ある *Rākṣasi* の名]; 華齒 *Sa-*
ddh-p.
 puṣpa-dāman 田 花環.
 puṣpa-druma-kusumita-mukuṭa 男 華樹開敷
 冠, 花樹満髻 *Mvyut.*
 puṣpa-dha 男 [*Dhā*] 種姓から追放された婆羅門の息
 子.
 puṣpa-dhanus 男 [(花の弓を持った者), *Kāma* 神の
 称].
 puṣpa-dhanvan 男 [同上].
 puṣpa-dhvaja 男 [仏の名] 花幢 *Sukh-vy. I.*
 puṣpa-nipāta 男 花吹雪.
 puṣpa-nyāsa 男 花の献供.
 puṣpa-paṭa 男 花の衣服.
 puṣpa-patrin 男 矢の代りに花を持った.
 puṣpa-puta 田 (男-*pūṭa*, 女-*pūṭi*) 花のがく; 花
 堆, 花壺 *Mvyut.*
 puṣpa-pura 田 「花の都」, [*Paṭaliputra* の称].
 puṣpa-puri 田 [同上].
 puṣpa-peśala 男 花のように繊細な.
 puṣpa-phala 田 花と果実; 花菓, 華菓 *Saddh-p.:*
 ~air upetaih 多花菓, 華実茂好 *Saddh-p. 325.*
 puṣpa-bali 男 花の献供.
 puṣpa-bāna 男 [(花の矢を持った者), *Kāma* 神の称].
 puṣpa-bhaṅga 男 花環, 花綵.
 puṣpa-bhadra 男 [人名].
 puṣpa-bhadraka 田 [森の名].
 puṣpa-bhadrā 田 [河の名].
 puṣpa-bhājana 田 花籠.
 puṣpa-bhūta 男 為(妙)華, 為(浄妙)華 *Gaṇḍ-vy.*
 puṣpa-bhūti 男 [王侯の名].
 puṣpa-maya 男 (因-i) 花からなった, 花で作られた.
 puṣpa-mātham 男 [Math とともに] 花のように押しつ
 ぶして.
 puṣpa-mālā 田 花環.
 puṣpa-mālin 男 花環を着けた (*Jāt-m.*).
 puṣpa-mās 男 花の月, 春.
 puṣpa-māsa 男 [同上].
 puṣpa-mitra 男 [二人の王侯の名].
 puṣpa-muṣṭi 男 盈掬持花 *Sikṣ.*

puṣpa-megha 男 花(を降らす)雲.
 puṣpameghi-Kr, 花を降らす雲に変える.
 puṣpaya 男 動 男 *puṣpayati* 花が咲く.
 vi-, tena vipuṣpitaṃ 彼は微笑した (*Divy.*).
 puṣpa-rakta 男 (一°)の花のように赤い.
 puṣpa-ratha 男 (花車), 旅行または娯楽用の車.
 puṣpa-rāga 男 (花の色をもつもの), 黄玉; 赤
 琥珀 *Mvyut.*
 puṣpa-reṇu 男 花粉; 飛華, 衆華 *Lal-v.*
 puṣpa-lāvi 田 花を摘む女, 花環を編む女, 花売り.
 puṣpa-lipi 田 (音写) 弗沙書, 富沙富書, 富数波
 書 *Lal-v.*
 puṣpa-loha 田 [宝石の一種].
 puṣpavat 男 花のように. 男 花の咲いた, 花で飾ら
 れた.
 puṣpavati 男 (女) 月経時の(女).
 puṣpa-vartman 男 [(花の路), *Drupada* の匿名].
 puṣpa-varṣa 男 [山の名]. 田 花の雨.
 puṣpa-varṣaṇa 田 雨華 *Gaṇḍ-vy.*
 puṣpa-vahā 田 [河の名].
 puṣpa-vāṭikā 田 花園.
 puṣpa-vāṭi 田 [同上].
 puṣpa-vr̥kṣa 男 開花した樹木; 花樹, 華樹
Gaṇḍ-vy.
 puṣpa-vr̥ṣṭi 田 花の雨; 雨妙華 *Gaṇḍ-vy.*
 puṣpa-veni 田 花冠または花環; [河の名].
 puṣpa-śakuna 男 [(花鳥), 学名 *Phasianus gallus*].
 puṣpa-śayyā 田 花の臥床.
 puṣpa-śarāsana 男 [(花の弓を持った者), *Kāma* 神
 の称].
 puṣpa-śilimukha 男 [(花の矢を持った者), 同上].
 puṣpa-śekhara 男 花環.
 puṣpa-śrī-garbha 男 [菩薩の名].
 puṣpa-sāyaka 男 = *puṣpa-śilimukha*.
 puṣpa-sūtra 田 [*Sāmaveda* に関する *Sūtra* の一
 種].
 puṣpa-sraja 田 花環.
 puṣpa-hāsa 男 (花によって笑っている), 花園.
 puṣpākara (°pa-āk°) 男 花の豊富な; [māsa とともに]
 男 春.
 puṣpāgama (°pa-āg°) 男 (花の到着), 春.
 puṣpāgra 田 めしべ.
 puṣpānanāda 男 [村の名].
 puṣpāpida (°pa-āp°) 男 [ある *Gandharva* の名].
 puṣpābhikirṇa 男 花をふりかけられた; 散花,
 鋪撒花相 *Mvyut.*
 puṣpāmōda (°pa-ām°) 男 花の香り.
 puṣpāmbhas 田 [聖地の名].
 puṣpāyudha (°pa-āy°) 男 [(花を武器として持ってい
 る者), *Kāma* 神の称].
 puṣpārāma (°pa-ār°) 男 花園.
 puṣpārṇa 男 [*Vatsara* の息子の名].
 puṣpāvākirṇa 男 種種雑花皆散布, 散諸好華遍
 滿 *Suv-pr.* 男 [ある *Kimnara* 王の名] (*Kar-vy.*).
 puṣpāvali-vana-rāji-kusumitābhijña (°pa-āv°) 男
 [仏の名] 開敷花王智慧神通 *Lal-v.*

puṣpāsava (°pa-ās°) 男 花の煎汁。
 puṣpāsāra (°pa-ās°) 男 花の雨。
 puṣpīṇī 形 女 月経時にある(女), 性交を望む(女)。
 puṣpita 過受分 花の咲いた, 開花した, 花の多い; 花のようなしるしのある, 斑点のある; 満開した(譬喩); 完全に発展した, 完全に明白となった; 花やいだ(話=空虚な語); (圓, 一°)を具えた; 漢訳 花, 有花, 花敷 *Abh-vy., Mvyut., Saddh-p.* 男 漢訳 [仏の名] 敷花, 開敷蓮花 *Lal-v.*
 puṣpita-palāśa-pratima 形 花の咲いた Palāśa 樹に似た, (すなわち赤い斑点で覆われた)。
 puṣpita-vitāna 男 田 漢訳 花帳 *Lal-v.*
 puṣpitāgra 形 先端が花で覆われた。
 puṣpitāgrā 女 [韻律の一種]。
 puṣpin 形 花を持った, 花の咲いた, 花やいだ(言葉)。
 puṣpeṣu (°pa-iṣu) 男 [(花の矢を持った者), *Kāma* 神の称]。
 puṣpotkāṭā 女 [*Rāvaṇa* の母である *Rākṣasi* の名]。
 puṣpodakā (°pa-ud°) 女 [地下界の河の名]。
 puṣpodbhavā (°pa-ud°) 男 [人名]。
 puṣpopajivin 男 園丁, 花環を作る者。
 puṣpya 名動 他 puṣpyati 花が咲く, 花開く。
 puṣya 1. 田 滋養, 花 [=…の中の最上または最善のもの]。
 puṣya 2. 男 第六の月宿 [=古名 *tiṣya*]; 月が *Puṣya* 宿(星座)にある日, *Puṣya* の日, *Pauṣa* の月 [12月—1月]; [諸王侯の名]; 漢訳 [二十八宿の一] 鬼, 鬼宿, 熾盛 *Divy., Mañj-m., Mvyut.*; [仏の名] 增益仏 *Lal-v.*; 音写 [二十八宿の一] 沸, 仏(星), 李(星), 弗沙, 富沙, 布麗 *Lal-v., Suv-pr., 玄應.*; [仏の名] 弗沙, 富沙 *Av-ś., Lal-v.*; [人名] 補灑 *Divy.*
 puṣya-nakṣatra 田 漢訳 鬼星日 *Suv-pr.*; (音写) 弗沙星, 布麗星日 *Lal-v., Suv-pr.*
 puṣyanakṣatra-yoga 男 漢訳 鬼宿日 *Lal-v.*; (音写) 弗沙星合 *Lal-v.*
 puṣya-mitra 男 [王侯の名]; 漢訳 (音写) 差友 *Divy.*; 音写 弗沙蜜多羅, 弗沙密多羅, 弗沙密多 *Divy.*
 puṣya-ratha 男 車としての *Puṣya* 宿; 娯楽用の車 → *puṣpa-ratha.*
 puṣya-varman 男 漢訳 [人名] 尾鎧星 *Divy.*; 音写 弗沙跋摩, 弗舍摩 *Divy.*
 puṣyase 動 [Puṣ の 爲 不定]。
 pusta 男 田 粘土細工, (粘土で)型どること; 塑像。
 pustaka 男 田 浮出し(飾り); 写本, 書物; 小冊子; 漢訳 経, 經典, 経巻, 書; 竹帛 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mañj-m., Saddh-p., Śikṣ., 梵雜.*: *sad-dharma* ~ 正法經典 *Śikṣ. 139.*
 pustaka-kara 男 浮彫細工人。
 pustaka-karma-kṛta 形 漢訳 經典 *Śikṣ.*
 pustaka-karman 男 = *pustaka-kara.*
 pustaka-kṛt 男 [同上]。
 pustaka-gata 形 漢訳 經典, 所写經典, 経巻 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Saddh-p.*
 pusta-karmāmaya 形 漢訳 膠漆布 *Saddh-p.*
 pustakāvaropitaṃ-Kṛ 漢訳 書写 *Sukh-vy. I.*

pustakāstarāṇa (°ka-ās°) 田 写本の包装。
pustamaya 形 粘土で作られた, 型どられた。
pusta-varopeta 形 漢訳 所司部録 *Lal-v.*
pustikā 女 写本, 書物。
 Pū, I. 田 pavate (因); IX. 田 punāti, punite 洗い清める, 澄ませる, 清浄にする; 純粹にする, 罪を償う; 取捨する, 区別する(因); 工夫する, 作製する(因); 明らかにする, (心を)啓発する(因); [田はまた] 自己を清める; 清く流れる(水または *Soma* 液); 償う; はらい清めるように動くまたは吹く; (風が)吹く; 清めるために(圓)を吹き通す。現分 *pa-vamāna* それ自身を清める; 濾過器を通して流れる(*Soma*)。田 *pūyate* (罪が)清められる, (罪から)清められる。過受分 *pūta* 清められた, 清浄にされた, 清浄な; 脱穀された, (み(簸)で)吹きわけられた。使役 他 *pāvayati* 清くする。希求 他 *pupūṣati* 清めようと欲する。
 ā- 田 清められて(圓)に流れるまたは(因)の中に流れる; (圓)をして(因)に流れさせる。
 ut- 清める, 清浄にする。
 niṣ- (穀粒を)吹き分ける; 清浄にする, 浄化する。
 pari- 濾す; 清浄にする。過受分 *paripūta* 完全に清められた; 殻を去った(穀物)。
 saṃ- 清める, 清浄にする。
 pū 形 (一°)清める, 清浄にする。→ *uda* ~, *ghṛta* ~。
 pūga 男 組合, 団体; 群衆, 多衆; びんろうじゅ(檳榔樹) [学名 *Areca catechu*]; 漢訳 多 共集 *Abh-vy., Mvyut.* 田 檳榔子。
 pūga-pota 男 若い檳榔樹。
 pūga-phala 田 漢訳 檳榔子, 木腰子 *Abh-vy., Mvyut.*
 pūga-yajña 男 団体のために(行なわれる)祭式。
 pūga-yajñīya 形 団体のために行なわれる祭式に関する。
 pūga-vaira 田 団体に対する敵対。
 pūgi-phala 田 檳榔子。
 pūgi-latā 女 檳榔樹。
 Pūj, [使役のみ] 他 *pūjayati* 尊敬または崇敬をもって扱う, 貴ぶ, ねんごろに迎えるまたはもてなす, (圓)をもって敬意を表する(を贈与する); 尊敬を払う; 漢訳 供養, 習近, 敬愛 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Rāṣṭr., Sapt-pr., Sukh-vy. I.* 過受分 *pūjita* (圓)によって貴ばれた, 崇敬された; 尊敬をもって迎えられた, ねんごろにもてなされた; (一°)のためにまたはによって尊ばれた; 認められた, 推挙された; (一°)によってしばしば往来された; 入門を許された; (一°)を支給された。
 abhi- 使役 尊敬をもって接待するまたは迎える; (圓)をもって貴ぶまたは贈与する; …を尊敬する; 激賞する; 漢訳 供養 *Bodh-c.*
 pari- 使役 …に高い尊敬を払う, 非常に尊敬する。
 pra- 使役 …に尊敬を示す, 尊敬する, 称賛する; 恭しく(圓)を贈呈する; 漢訳 供養, 親近供養 *Gand-vy.*
 prati- 使役 尊敬で報いる, 尊敬をもって迎える, 正しく尊敬する; 恭しく(圓)を贈呈する; 嘉納する。
 saṃ- 使役 尊敬をもって迎える; …に尊敬を示す;

恭しく(男)を贈呈する；称讃する；漢訳 供養 *Divy.*, *Lank.*

pūjaka 形(互-ikā)(國, 一°)を尊ぶ, …を尊敬する, …を崇拜する；漢訳 供養者 *Śikṣ.*: dharma~ 供養法者 *Śikṣ.* 324.

pūjana 中(國, 一°)の尊敬, …の崇拜, …のねんごろな接待；漢訳 供養, 供養事 *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*: ~arthāya(國) 欲供養 *Saddh-p.* 161.

pūjanā 因 漢訳 供養 *Dharm-s.*, *Mvyut.*

pūjani 因 [Brahmadatta 王の友のある雌鳥の名].

pūjaniya 未受分(國)によって崇拜または尊敬されるべき；尊敬・崇拜または敬重に値する；漢訳 敬奉, 当, 恭敬, 应当敬重, 供養悉受, 為供養 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Sam-r.*, *Suv-pr.*: mahā-jana-kāyasya ~ḥ 為諸大衆供養 *Bodh-bh.* 29.

pūjayamāna 現分 漢訳 供養 *Sat-pr.*

pūjayitavya 使役 未受分 = pūjaniya；漢訳 応供養 *Aṣṭ-pr.*

pūjayitr 因 崇拜者.

pūjā 因 尊敬, 敬重；敬意, 崇拜, 尊崇；礼拝, 供養；(一°)ねんごろな接待；漢訳 供, 供養, 供具, 恭敬供養, 奉事, 奉獻, 愛敬, 思遇 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*；所宗 *Lal-v.* ~ṃ **Kṛ** 漢訳 奉施, 報恩供養 *Av-ś.*, *Suv-pr.*: upārdhena dhanenāsyā ~ṃ kuryām 当以(所得)珍宝之半奉施彼(仏) *Av-ś.* I. 23.；tasya ~ṃ kariṣyāmaḥ 報恩供養 *Suv-pr.* 178.

pūjā-kara 形(一°)を尊敬する, …に敬意を表す.

pūjā-karman 形 尊敬の行為を表わす, 「尊敬」を意味する；漢訳 中 供養, 為供養, 供養事業 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.* ~ṃ **Kṛ** 漢訳 恭敬供養 *Suv-pr.*

pūjā-grha 中 崇拜の家, 殿堂, 寺院.

pūjādhikārika (°jā-ad°) 形 供養に関する；漢訳 ~ṃ **Kṛ** 以諸供養具而為供養 *Bodh-bh.* 160.

pūjā-megha 因 漢訳 供養雲 *Lank.*

pūjāraha (°jā-ar°) 形 因 [=°rha] 漢訳 所供養, 所敬養 *Lal-v.* 354.

pūjāriha (°jā-ar°) 形 因 [=°rha] 漢訳 応受供者, 堪受供養 *Śikṣ.* 259.

pūjārha (°jā-ar°) 形 尊敬または優遇に値する；漢訳 可供養, 所応供, 可恭敬, 所応恭敬 *Abh-vy.*, *Daś-bh.*

pūjārhattva 中 尊敬または優遇に値すること, 供養に値すること；漢訳 応恭敬供養 *Bodh-bh.*

pūjā-vidhi 因 尊敬の表示.

pūjā-vyūha 因 漢訳 供具, 莊嚴諸物 *Aṣṭ-pr.*

pūjā-sambhāra 因 = pūjopakarāṇa.

pūjā-sthāna 中 崇拜の対象.

pūjita 過受分 → Pūj. 漢訳 所奉, 供養, 得供養, 所応供, 所恭敬, 恭敬供養 *Gaṇḍ-vy.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.* *Sukh-vy.* I. 中 [地名] (*Divy.*).

pūjitaka 中 [同上 中]；漢訳 [城の名] 恭侍 *Divy.*

pūjita-pūjaka 形 崇拜されたものを崇拜する.

pūjopakarāṇa (°jā-up°) 中 敬意を表すのに必要

な物, 神を供養するのに必要な物.

pūjopasthāna (°jā-up°) 中 漢訳 供養, 供事, 供養恭敬 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*

pūjya 未受分 尊敬または崇拜されるべき；尊ぶべき, 崇拜すべき；[國, 國, 一°とともに] 崇拜または尊敬を受けるに値するまたは適する；漢訳 供養, 応供, 受供 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*

pūjyatama 最上 最も崇拜に値する.

pūjyatā 因 尊敬されるべきこと.

pūjyatva 中 [同上]；漢訳 供養, 所供養, 所奉供養 *Bodh-bh.*

pājya-pūjā-vyatikrama 因 崇拜すべきものを崇拜するのに怠慢なこと.

pūjya-pūjita 形 漢訳 堪供養, 応供養所供養 *Mvyut.*

pūjyamāna 因 現分 漢訳 供養 *Lank.*

pūt. [吹く音の 擬音].

pūta 1. 過受分 → Pū. 漢訳 頭 *Divy.*

pūta 2. 形 [Pūy 参照] 腐敗した, 悪臭のある, 悪臭を発する；漢訳 腐朽 *Śikṣ.* 212.

pūtata 因 清浄.

pūta-dakṣa 因 清浄な意力をもつ.

pūta-dhānya 形 脱穀された穀物を含む.

pūtana 因 悪魔(の一種), 妖怪；漢訳 鬼, 臭者 *Lank.*, *Mvyut.*；鼻 臭；[音] 富单那, 富多那, 布恒那, 福单那, 福多羅 *Lank.*, *Saddh-p.*, 梵維., 玄应.

pūtanā 因 [一種の小児病を起し *Kṛṣṇa* 神に殺された女悪魔の名].

pūtanātva 中 Pūtanā の性質.

pūtanāya 名 因 中 pūtanāyati Pūtanā を表現する.

pūtanikā 因 = pūtanā.

pūta-pāpa 形 罪を清められた.

pūta-pāpman 形 [同上].

pūta-bhṛt 因 [浄化した Soma を容れる器の一種].

pūta-mūrti 形 形または身体の洗い清められた, 清くなった, 清められた.

pūtaṃ-manyā 形 自ら清浄であると考え.

pūta-svabhāva 因 清浄な本質または自性.

pūti 1. 因 [Pū] 浄化, 清浄.

pūti 2. 形 [Pūy] 悪臭を発する, 腐敗した；漢訳 臭, 臭穢, 穢；敗, 腐敗, 朽敗, 陳朽；壞；爛, 爛壞 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.* 因 膿, 膿汁；漢訳 膿 *Mvyut.*

pūtika 形 [同上 形]；漢訳 摧朽 *Saddh-p.* → a~.

pūti-kaḍvara 因 漢訳 穢身 *Divy.*

pūti-kāya 因 漢訳 身臭穢(膿流不可愛) *Suv-pr.*

pūti-kuṇapa 中 腐敗した死屍；漢訳 死屍 *Gaṇḍ-vy.*

pūti-gandha 因 悪臭, 臭気.

pūti-gandhika 形 悪臭のある；漢訳 臭 *Śikṣ.*

pūti-nāsika 形 悪臭のある鼻をもつ.

pūti-bija 中 漢訳 種子爛壞 *Mvyut.*

pūti-bhāva 因 腐敗物.

pūti-mukta 因 または 中 煎薬；漢訳 陳棄 *Divy.*, *Mvyut.*；棄查 *Mvyut.*

pūtimukta-bhaiṣajya 中 漢訳 陳棄薬, 医薬 *Mvyut.*

pūti-mukha 中 漢訳 口氣臭 *Saddh-p.*

pūti-mṛttika 因 [(悪臭を発する地をもつ), ある地獄

の名]。

pūti-vaktra ㊦ 悪臭を発する息(口)をもつ。

pūti-vaktratā ㊦ [同上 ㊦]。

pūti-vāta ㊦ 屁。

pūty-aṇḍa ㊦ [(悪臭を発する卵をもつ), 悪臭を発する羽虫の一種]。

pūpa ㊦ 菓子; ㊦ 糞, 糞 Divy. → a~.

pūpalikā ㊦ ふくろ(囊)に入れてあぶりまたは煮た特殊な菓子 (Av-s.); ㊦ 餅 Av-s.

pūpa-sālā ㊦ 菓子を焼く場所。

pūpikā ㊦ 飲器(?); 菓子(の一種)。

Pūy, I. ㊦ pūyati 腐敗する, 悪臭を発する。

ā- 悪臭を発するに至る。

pūya ㊦ ㊦ 膿, 膿汁; ㊦ 膿, 膿汁 Bodh-bh., Bodh-c., Mvyut., Śikṣ., 梵雜。

pūya-nadi ㊦ ㊦ 膿河 Vijñ-v.

pūya-bhuj ㊦ 化膿した屍を喰う。

pūyamāna, [Pū の ㊦ 現分]。

pūya-śoṇita ㊦ 敗血, 膿汁; ㊦ 膿血, 膿血(不浄) Divy., Śikṣ.

pūra ㊦ 満ちた; 満足させる; ㊦ 満, 盛満 Divy. ㊦ 充滿; 満足; 河または海洋の増溢; 多量の水, 洪水, 流れ [しばしば水または他の流動体を表わす語とともに 一°]; (一°)の過剰, …の高い程度; 菓子; 鼻でゆるやかに息を吸入すること [苦行の一種]; ㊦ 満水, 決決(決?) 乎満水 Mvyut. → mukha ~.

pūraka ㊦ (㊦, 一°)を満たす, …を充滿する, …を完成する; 成就する, 満足させる。㊦ 流れ, 流出; 乗数; 鼻からゆるやかに息を吸うこと [苦行の一種]; くえん(拘礙)樹。

pūraka-piṇḍa ㊦ ㊦ (祖霊祭の)終末に献げられる祭餅。

pūrakāpūpa ㊦ [菓子(の一種)]。

pūraṇa ㊦ (㊦-ī) 満たす; かなえる, 満足させる; 産出する; ㊦ 円満 Mvyut., Śikṣ. ㊦ [(数を満たすものまたは完成するもの), (dvitiya 以上の)序数]; ㊦ 音写 [人名] 富蘭那, 富樓那, 布刺拏, 喃刺拏, 拏刺拏 Abh-vy., Av-s., Divy., 玄奘.: ~h kāśyapaḥ 護光究竟; 音写 富蘭那迦葉, 補刺拏迦葉波 Mvyut. ㊦ 満たすまたは充滿させる動作; (弓を)完全に引き絞ること; 成し遂げること, 満足させること; 準備を整えること; ㊦ 円満, 成, 遂 Abh-vy., Madhy-vibh., Sātr.

pūraṇa-pratyaya ㊦ 序数を作る接尾辞=suffix (㊦法)。

pūraṇiya ㊦ ㊦ 満たされるべき, 供給されるべき; 充滿せしめられるべき, 満足せしめられるべき。

pūraya, [Pr 1. の ㊦]。

pūrayitavya ㊦ ㊦ 満たされるべき, 完成されるべき; 満足させられるべき。

pūrayitr ㊦ (㊦)を満たす人; 成し遂げる人, 満足させる人。

pūrārgha ㊦ ㊦ 満足 Śikṣ.

pūrikā ㊦ 菓子(の一種)。

pūrīta ㊦ ㊦ ㊦ [Pr 1.] 満たされた; 強調された(音); 吹奏された(法螺貝); ㊦ 満足, 令充滿;

積 Rāstr., Śikṣ.

-pūrin ㊦ (一°)を満たす; 成し遂げる。

pūru ㊦ 人(?); [ある種族の名]; [ある王侯の名, Yayāti の息子]; [ある Veda 讃歌の作者の名]。

pūruṣa ㊦ [=puruṣa]。

pūrotpiḍa (°ra-ut°) ㊦ 急激な増水。

pūrṇa ㊦ ㊦ 満たされた, 満ちた。→ Pr 1. ㊦ 満

満, 充滿, 盛満, 溢満, 充徧, 盈; 満足; 具足 Bodh-bh., Divy., Lal-v., Rāstr., Saddh-p., Śiv-pr., 梵千。

㊦ [樹の一種]; [拍子の一種]; [ある Nāga の名]; [ある Devagandharva の名]; ㊦ [人名] 円満

Divy.; 音写 [仏弟子の名] 富婁那, 富樓那, 分耨 Lal-v., Saddh-p., 玄奘. ~o maitrāyaṇi-putrah

㊦ ㊦ [仏弟子の名] 満慈子, 満願子, 満見子, 満嚴飾女子 Aṣṭ-pr., Sapt-pr., 玄奘.; (音写)富樓那

弥多羅尼子, 邠耨文陀尼子 Aṣṭ-pr., 玄奘.; (音写)富那曼陀弗多羅, 邠耨文陀弗, 邠那文陀弗, 富羅拏

梅伍黎夜富多羅 玄奘. → pūrṇa-maitrāyaṇi-putra.

pūrṇaka ㊦ [樹の一種]; [青色の懸菓(?); ㊦ [人名, =Pūrṇa] 円満 Divy.

pūrṇa-kāma ㊦ 欲望の満たされた。

pūrṇa-kumbha ㊦ (水の)満ちた水差し [±apām]. ㊦ ㊦ (特殊な形の)壁穴。㊦ 充滿した水差しを持った。

pūrṇa-gātra ㊦ ㊦ 身充滿, 飽 Mvyut.

pūrṇa-candra ㊦ 満月; ㊦ 満月 Rāstr.; [菩薩の名] 満月 Saddh-p.

pūrṇacandra-nibha ㊦ 満月に似た。

pūrṇacandra-prabha ㊦ ㊦ 明月光, 明淨月光明, 凝光如満月 Gaṇḍ-vy.

pūrṇacandra-prabhā ㊦ 満月の光。

pūrṇacandra-maṇḍala ㊦ ㊦ 盛満月 Gaṇḍ-vy.

pūrṇatā ㊦ 充滿; 夥多; ㊦ 増 Saddh-p.

pūrṇatva ㊦ [同上]; (一°)に満ちたこと; ㊦ 満, 盈満 Mvyut., Sapt-pr., Śivik-pr.

pūrṇa-pātra ㊦ 満ちた器, 器一杯 [また容積の単位]. ㊦ (善い知らせをもたらしした者に与える衣類等の)贈物。

pūrṇapātra-pratibhāṭa ㊦ 充滿を競う=溢れる, この上ない(榮譽)。

pūrṇa-pātramaya ㊦ (㊦-ī) 充滿した器からなる, pūrṇa-pātra と称する容積からなる; ただそれだけの(言葉)。

pūrṇapātra-vṛtṭyā ㊦ 満ちた器にならって, たくさんに。

pūrṇa-pātri ㊦ =pūrṇa-pātra (㊦)。

pūrṇa-bhadra ㊦ [ある蛇形の悪魔の名]; ㊦ 満賢(王)Śiv-pr., 音写 富那跋陀 Śiv-pr.

pūrṇa-maṇḍala ㊦ 全円。

pūrṇa-mānasa ㊦ 心の満足した。

pūrṇa-mās ㊦ 満月。

pūrṇa-māsa ㊦ 満月; 満月の時に行なわれる祭式; [人格化された満月 = Dhātṛ および Anumati の息子]; [Kṛṣṇa 神の息子の名]。

pūrṇa-māsi ㊦ 満月の日または夜; ㊦ 十五日, 十五夜 Gaṇḍ-vy., Sam-r.: ~syām rātrau 十五夜

Gaṇḍ-vy. 26.

pūrṇa-mukta 形 完全に引き絞られた弓で射られた(矢).

pūrṇa-mukha 田 充滿した口; 圓 両頬を膨ませて(吹く). 男 [(満ちた顔をした), ある蛇形の悪魔の名].

pūrṇa-muṣṭi 男 田 手一杯.

pūrṇa-maitrāyaṇi-putra 男 漢訳 [仏弟子の名] 満慈子, 満願子 *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*, *Sukh-vy. I.*; (音写) 富婁那弥多羅尼子, 富樓那弥多羅尼子, 邠耨文陀尼子 *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*; (音写) 布刺拏梅邠麗行那尼弗咀羅 *Mvyut.* → pūrṇa.

pūrṇa-yūna 形 漢訳 盛年時, 少壯人 *Abh-vy.*

pūrṇa-yoga 男 [戦闘の一種].

pūrṇa-yauvana 形 青春の盛りにある.

pūrṇa-ratha 男 (完全な戦車をもつ者), 秀でた戦士.

pūrṇa-lakṣmīka 形 光輝または富に満ちた.

pūrṇa-vapus 形 完全に円い(月).

pūrṇa-viṃśati-varṣa 形 満二十歳の.

pūrṇa-śasāṅka 形 漢訳 満月 *Suv-pr.*

pūrṇaśasāṅkopama (°ka-up°) 形 漢訳 如満月 *Suv-pr.*

pūrṇa-śrī 形 豊かな富をもつ.

pūrṇāñjali 男 両手一杯.

pūrṇātman (°ṇa-āt°) 男 [恐らくは prāṇātman の誤り].

pūrṇānanda (°ṇa-ān°) 男 完全な喜び.

pūrṇāpūrṇa 過受分 (ある時は)十分で(ある時は)不十分な(量).

pūrṇāmṛtāṃśu-vadana 形 満月のような容貌をもつ.

pūrṇāyata (°ṇa-āy°) 過受分 田 十分に引き絞られた弓.

pūrṇārtha 形 目的を達した, 望みの満たされた.

pūrṇāhuti (°ṇa-āh°) 田 完全な供物, 祭匙一杯の供物; 漢訳 満杓供, 火供杓子 *Mvyut.*

pūrṇika-sūtra 田 [仏典の題名].

pūrṇikā 田 [鳥の一種, nāsā-chinni ともし嘴の重なったまたは裂けたものと伝えられる, 懸巢(鳥)類の一種(?)].

pūrṇiman 男 [Marici の息子の名].

pūrṇimā 田 満月の日または夜.

pūrṇimā-dina 田 満月の日.

pūrṇimā-rātri 田 満月の夜.

pūrṇimā-śarvari 田 [同上].

pūrṇi-Kṛ, 満たす, 完全にする.

pūrṇeccha (°ṇa-ic°) 形 (その)欲望の満たされた.

pūrṇendu (°ṇa-in°) 男 満月.

pūrṇendu-vadana 形 満月のような容貌をもつ.

pūrṇotsaṅga (°ṇa-ut°) 形 臨月の.

pūrṇoda (°ṇa-uda) 形 十分な河床をもった(河).

pūrṇopamā (°ṇa-up°) 田 完全な譬喩 [四個の要素を全部具えた直喩, luptopamā の対].

pūrta 過受分 → Pr 1. 満たされた; 与えられた; かなえられた. 田 譲与; 報酬; 功績; (婆羅門に食を施す, 井戸を掘る等の)慈善的行為.

pūrtaya 名動 田 pūrtayati [dharmam とともに] 慈善行為をする.

pūrṭi 田 満たすこと, 完成; 成就; 報酬.

pūrṭi-kāma 形 (一°)を完成せんことを望む.

pūr-devi 田 町を守護する女神.

pūr-dvāra 田 = pur-dvāra.

pūr-bhid 形 城砦を破壊する.

pūr-bhidya 田 城砦の破壊.

pūrya 采受分 満たされるべき, 満足させられるべき.

pūrva 形 前に在る, 前の; 前面の, 東の; (田)の東に在る; 先行する; 先の, 以前の; (田, 一°)より以前の; 昔の, 伝統の, 往時の; (系列の中の)第一の; 最も低い(科料); あらかじめまたは初めに述べられたまたは挙げられた; [きわめて通常 過受分 の後に附して] あらかじめまたは前に [田 drṣṭa ~ 前に見られた]; 一° 田 …を先行する事物としてもつぎに先行された, …に伴われた, …に基づいた; 漢訳 前, 先, 在先; 先発, 先来, 従先来; 先時, 先世, 昔, 古昔, 往昔, 宿, 宿世, 過去; 曾, 夙, 旧; 初, 始, 本, 元宗, 源宗 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Nyāy-pr.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sāṃkhy-k.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*, *Vajr-pr.*, *Vijñ-t.*, 梵千., 梵雜.; 東 *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, 梵千., 梵雜.; [= ~ m] 久 *Saddh-p.* 326.: ~ e cakṛta-puṇyatā 先作福, 宿作福 *Mvyut.*; ~ ā dig avan-amati paścimā dig unnamati 東方低西方高, 東方没西方涌 *Mvyut.*; āditya ~ (太陽を祖先とする, 日系の)日光之元宗, 日光之源宗 *Buddh-c.*: na drṣṭa ~ ān paśyāmi 昔所未見而今始見 *Gaṇḍ-vy.* 294. → a ~, ānu ~, bhūta ~. ~ e vayasi 幼時に. ~ m 田 前に, あらかじめ, 以前に, すでに; 第一に; 往時に, 久しい以前に [時として 田 とともに用いる]; 漢訳 先, 向; 本, 前世, 従昔来 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Av-s.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.* adya ~ m 今日に到るまで. 一° また ~ eṇa 田 田 …に従って, …の中に, 後に, とともに [田 が前にある時は = …なしに]. 男 田 古人, 先祖, 祖先; 田 田 前部.

pūrvaka 形 (田 -ikā) 以前の, 先行の, 先の; 第一の; 一° …に伴われたまたは先行された, …に基づいた, とりわけ…に依存する; 漢訳 先, 前, 為先, 為首, 先依, 前行, 已; 宿, 宿世, 過去, 過去世; 創; 本, 本得 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Nyāy-pr.*, *Sāṃkhy-k.*; 待 *Lank.*: bhāṣita ~ 已宣説 *Lal-v.* 5. ~ m 田 (一°)の後に, …とともに, …の中に, …に従って; 漢訳 為先 *Nyāy-pr.*, *Sāṃkhy-k.* 男 先祖, 祖先.

pūrvaka-jñāna 田 漢訳 宿智, 本得智慧 *Bodh-bh.*

pūrva-karma-kṛta-vādin 男 過去の行為のみが現在の行為を決定すると説く学徒 (*Jāt-m.*).

pūrva-karmā-ja 形 漢訳 宿業所生 *Abh-vy.*

pūrva-karman 田 先のまたは前世の行為; 準備; 漢訳 宿業, 宿世業, 宿世所修習業, 宿因 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*

pūrvakarma-vipāka 男 漢訳 宿世(悪)業応受, 過去諸業報応, 由先世業力得 *Aṣṭ-pr.*, *Sūtr.*

pūrva-kalpa 男 前の習慣, 先例; 昔時, 過去 [田 田]

種のみ].
 pūrvakātma-bhāva (°ka-āt°) 男 漢訳 前生 *Bodh-bh.*
 pūrvakāya 男 (動物の)身体の前部, (人の)上体.
 pūrvakārin 男 第一に行動する; …に対して最初に奉仕する.
 pūrvakārya 男 最初になされるべき.
 pūrvakāla 男 以前に属する; 前に述べられた; 漢訳 先時, 古時, 昔, 昔時, 過去, 本, 昔者, 初 *Bodh-bh., Mvyut.*
 pūrvakālatā 女 以前に属すること.
 pūrvakāla-bhava 男 漢訳 過去有, 昔有, 本有, 先有 *Abh-vy., Mvyut.*
 pūrvakālika 男 以前に属する.
 pūrvakālina 男 以前の.
 pūrvakuśala-mūla 男 漢訳 過去世善根(力), 往昔所種善根(力), 先…善根 *Bodh-bh., Lanik.*
 pūrvakuśala-mūla-balādhāna (°la-ādh°) 男 漢訳 過去善根力, 過去(積集)善根力 *Gaṇḍ-vy.*
 pūrvakṛta 男 以前になされた, 前生になされた; 漢訳 先所作, 宿命所行 *Bodh-bh., Saddh-p.* 男 以前の行動, 前生になした行為.
 pūrvakṛta-karman 男 漢訳 先所作業, 本…所作業 *Lanik.*
 pūrvakoṭi 女 議論の出発点; 最初の陳述 = pūrvapakṣa; 漢訳 前際, 先際, 本際, 前極 *Lanik., Madhy-v., Mvyut., Śikṣ.*
 pūrvakramāgata (°ma-āg°) 男 祖先から伝えられた.
 pūrvakriyā 女 準備.
 pūrvaga 男 前に行く, 先行する; 漢訳 先 *Sūtr.*
 pūrvagaṅgā 女 [(東方の *Gaṅgā* 河), *Narmadā* 河または *Revā* 河の称].
 pūrvagata 男 前に行った.
 pūrvagama 男 先行する; (一°)を先行させる; 熱心に仕える (*Divy.*), …を首とする, …に支配された, …に指揮された; 漢訳 先, 為先, 最先, 前, 在前, 前行, 進行; 導, 前導, 為前導, 為先導, 導首, 上首, 為首, 為上首, 為導首; 尊, 為尊為導; 為(其)本 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lanik., Mvyut., Sam-r., Śikṣ., Sukh-vy. I.*; 等 *Mvyut.*: bodhi-citta ~ tā 大菩提心恒為導首 *Bodh-bh. 291.*
 pūrvagamatva 男 漢訳 先導, 為上首 *Bodh-bh., Daś-bh.*
 pūrvagamana 男 漢訳 為首 *Sam-r.*: kuśala-mūla ~ 修善為首 *Sam-r. 5.*
 pūrvacārama 男 漢訳 始終 *Mvyut.*
 pūrvacaryā-pariniṣpanna 男 漢訳 本修淨行円満 *Aṣṭ-pr.*
 pūrvaciti 女 [pūrvacitti の誤(綴)].
 pūrvacitti 女 予感, 予想; [圖のみ] 最初の合図で, 直ちに; [(偏愛), ある *Apsaras* の名].
 pūrvacittikā 女 [ある *Apsaras* の名].
 pūrvacitti 女 [同上].
 pūrvacintana 男 以前の心配または心労.

pūrvacodita 男 前に述べられた, 以前に規定された.
 pūrvacoditva 男 [同上 圖].
 pūrvaja 男 (他のものより)前に生まれたまたは生産された, 以前の, 昔の; 最初に生まれた, 年長の, 最年長の(息子・兄弟・姉妹); (一°)より以前の. 男 祖先, 先祖; 長子; 年長のまたは最年長の息子.
 pūrvajanma-kṛta 男 前生または以前の生存状態においてなされたまたは行なわれたまたは作られた.
 pūrvajanman 男 前生, 以前の生存状態; 漢訳 過去世, 宿生 *Bodh-bh., Lanik.* 男 (先に生まれた者), 兄
 pūrvajanma-yoga 男 男 前の生存によってまたはの結果として.
 pūrvajanmāvadāna 男 漢訳 本行因縁 *Śikṣ.*
 pūrvajāta 男 漢訳 前生 *Madhy-v.*
 pūrvajāti 女 = pūrvajanman (男).
 pūrvajina 男 漢訳 先仏, 過去仏 *Lanik., Saddh-p. Sam-r., Sapt-pr., Siv-pr.*
 pūrvajina-kṛtādhikāra 男 漢訳 已曾供養諸仏, 已曾供養(無量)諸仏, 曾供養(無量)諸仏, 過去供養諸仏 過去已曾供養(無量)如来, 恭敬供養過去諸仏 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Lanik.*
 pūrvajānāna 男 前生の知識.
 pūrvatana 男 前の, 先の.
 pūrvatara 男 比較 さらに以前の, 永い過去の; = pūrvam 男 久しい以前に; 漢訳 先 *Bodh-bh., Śikṣ.*
 pūrvatas 男 前に, 前方に; 東方に, 東方に向って最初に.
 pūrvataskara 男 前に賊であった者, 改心した盗賊
 pūrvatā 女 (一°)に伴われた状態.
 pūrvatra, [=pūrvam の 因, 例 ~janmani 前生にいて; ~dine 前日に]; 男 以前に, 前の部分で上記において (*uttaratra* の 因).
 pūrvatva 男 先立つこと; 以前であること; 以前状態.
 pūrvathā 男 以前に, 太古から; 以前のように; 最後に, 前に.
 pūrvadakṣiṇa 男 (因-ā) 東南の; 漢訳 東南 *Saddh-pūrvadakṣiṇā* 女 漢訳 東南 *Mvyut.*
 pūrvadatta 男 以前に与えられたまたは贈られた.
 pūrvadarśana 男 [人名].
 pūrvadig-bhāga 男 漢訳 東方分, 東方方処 *Vijñ-pūrvadiś* 女 東方, 東.
 pūrvadiṣṭa 男 前の行為によって決定された.
 pūrvadikṣin 男 (二人またはそれ以上の者が同時に所において祭式を行なう場合)最初に *Dikṣā* の信を受ける.
 pūrvadugdha 男 前に(搾乳されたすなわち)枯渴されたまたは掠奪された.
 pūrvadrṣṭa 男 前に見られた; 以前に見られた, の; 古くからまたは長い間(因)とみなされた.
 pūrvadeva 男 太初の神.
 pūrvadevatā 女 [同上].
 pūrvadeśa 男 東方; 東方の国; 因 ~e (因)の東
 pūrvadeha 男 以前の身体; 漢訳 前身 *Sūtr.* 男 前の生存において.
 pūrvadehika 男 前世になされた.

pūrva-daihika 形 [同上].
 pūrva-dvāra 名 漢訳 東門 *Guhy-s.*
 pūrva-dharma-sthititā 名 漢訳 本住法, 本法体而住 *Laik.*
 pūrva-dhyāna 名 漢訳 (音写) 初禪 *Buddh-c.*
 pūrva-nipāta 名 文法 [ある語が(規則的にあるいは不規則的に)合成語の前分となること].
 pūrva-nimantrita 形 漢訳 先受請, 請食 *Prāt-m.*
 pūrva-nimitta 名 前兆 (*Lal-v.*); 漢訳 前相, 先相, 本相, 瑞相, 前兆 *Aṣṭ-pr., Lal-v.: pañca ~ āni prādurbhavanti* 先現五衰之相 *Divy. 193.*
 pūrva-nirmita 形 漢訳 先時化, 在先化 *Laik.*
 pūrva-nivāsa 名 過去の生存 (*Divy.*); 漢訳 宿住, 宿命, 宿世 *Abh-vy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut., Sūtr.* → pūrve-nivāsa.
 pūrvanivāsānusrīti 名 漢訳 宿命通, 随念宿住(智作証智) *Bodh-bh., Dharm-s.*
 pūrvanivāsānusrīti-jñāna-bala 名 漢訳 宿住随念智力 *Dharm-s.*
 pūrva-nivṛta 形 (他の人によって)前に作られた.
 pūrva-nyāya 名 仮の判決.
 pūrva-pakṣa 名 前の部分または側; 陰暦の一カ月の前半(月が満ちつつある間); 一カ年の前半; (一見して証拠の十分な事件), 起訴者の最初の申し立て, 訴訟の第一段階; (相手の主張に対する)最初の異議 [*Mīmāṃsā* 派の論法]; 漢訳 前品, 前宗, 前指 *Mvyut., Nyāy-pr.*; 因縁法, 先所説宗 *Laik.*
 pūrva-pakṣā 名 漢訳 先観待, 領於他法 *Laik.*
 pūrva-pakṣin 形 (相手の主張に対して)最初の異議を立てる.
 pūrva-pakṣi-Kṛ, 相手の主張に対して最初の異議を立てる.
 pūrva-paṭhita 形 漢訳 先所誦 *Śikṣ.*
 pūrva-patha 名 以前の路, 前と同じ路.
 pūrva-pada 名 文法 合成語の前分.
 pūrva-padya 形 文法 合成語の最初の部分に属する.
 pūrva-parikarma-kṛta 形 漢訳 宿業成熟 *Aṣṭ-pr.*
 pūrva-parikarman 名 漢訳 宿業 *Aṣṭ-pr.*
 pūrva-parigraha 名 最初の要求, 優先権, 特権. 形 (國)により特権として要求される.
 pūrva-pāścān-mukha 形 (因-i) 東と西とに流れる.
 pūrva-pāścimatā 名 漢訳 前後 *Abh-vy.*
 pūrva-pāda 名 前脚.
 pūrva-pādaka 形 漢訳 初句, 順前句, 言合上 *Abh-vy., Mvyut.*
 pūrva-pitā-maha 名 前の祖父すなわち祖先.
 pūrva-piṭhikā 名 緒言; [*Daśakumāracarita* の序の名].
 pūrva-puruṣa 名 先祖 [種 祖先達], 父に始まる三代の祖先; [(原始の *Puruṣa*), *Brahman* 神の称].
 pūrva-puruṣopārjita (°ṣa-up°) 形 祖先によって集められた.
 pūrva-pūjita 形 前に捧げられた.
 pūrva-pūrva 形 先行する各々の, 先に述べられた各々の. 名 種 (古い)祖先.
 pūrva-pūrvatama 名 最上 [同上 (形)].

pūrva-pūrvokta (°va-uk°) 形 各々前に述べられた.
 pūrva-peya 名 先に飲むこと; 優先[一般に].
 pūrva-prajñā 名 過去の知識, 記憶.
 pūrva-praṇidhāna 名 漢訳 本願, 本行願, 本願力, 宿願, 宿昔願力, 昔願(力) *Gaṇḍ-vy., Laik., Saddh-p., Śikṣ., Śikh-vy. I., Sūtr.*
 pūrva-praṇihita 形 漢訳 本願 *Laik.*
 pūrva-pratijñā 名 漢訳 本願 *Lal-v.*
 pūrva-pratipanna 形 以前に…に賛成したまたはを約束した.
 pūrva-pravrta 形 以前に起った.
 pūrva-prasthita 形 以前に出発した, 先に立って急ぐ.
 pūrva-preta 形 以前に去ったまたは飛び去った; 死亡した (*Divy.*). 名 種 諸 *Pitr.* 先祖の霊, 死んだ家族の霊 (*Av-ś.*); 漢訳 先霊 *Lal-v.*
 pūrva-preta-pūjaka 形 祖霊を尊敬する (*Lal-v.*).
 pūrva-phalguni 名 [第十一月宿]; 漢訳 [二十八宿の一]張 *Mvyut.*
 pūrva-phālguni 名 漢訳 [二十八宿の一]張, 前徳 *Divy.*
 pūrva-bandhu 名 第一のすなわち最善の友.
 pūrva-buddha 名 漢訳 (音写) 先仏, 昔仏, 過去(諸)仏, 往昔(諸)仏 *Gaṇḍ-vy., Laik.*
 pūrva-buddhādhyuṣita 形 漢訳 過去諸仏所遊止処, 往昔諸仏曾所止住 *Gaṇḍ-vy.*
 pūrva-bhakta 名 漢訳 前食, 食前 *Prāt-m.*
 pūrva-bhaktikā 名 朝食 (*Divy.*); 漢訳 小食 *Divy.*
 pūrva-bhadra-padā 名 = pūrva-bhādra-pada; 漢訳 [二十八宿の一]室, 前賢迹 *Divy.*
 pūrva-bhava 名 前生; 種 漢訳 曾世世 *Saddh-p. ~ eṣu* 種 漢訳 世世已曾 *Saddh-p.*
 pūrva-bhāga 名 前部, 上部; (一日中の)より早い部分(=午前, 朝).
 pūrva-bhāj 形 最初の分け前を受ける, 特権のある; 優秀な; 先行したものに關する.
 pūrva-bhādra-pada 名 [第二十五星宿の名]; 漢訳 [二十八宿の一]室 *Mvyut.* → pūrva-bhadra-padā.
 pūrva-bhādra-padā 名 [同上].
 pūrva-bhāva 名 先であること, 先行, 先在.
 pūrva-bhāvin 形 先行する, 以前の.
 pūrva-bhāṣin 形 最初に語る, 懇切な.
 pūrva-bhukti 名 先に占有すること, 先のまたは永く続いた所有.
 pūrva-bhūta 形 前に在る, 先行した.
 pūrva-bhū-bhrt 名 (その背後から太陽の昇る)東方の山; 以前の王侯.
 pūrva-madhyāhna 名 午前.
 pūrva-mārin 形 (ある人より)前に死ぬ, 先立って死ぬ.
 pūrva-mimāṃsā 名 前期 *Mīmāṃsā* 派 [*Jaimini* によって基礎づけられた哲学体系で *Veda* 聖典とくに祭式に關して論究する; *Upaniṣad* すなわち *Vedānta* の部分を論究する *uttara-m°* (後期 *Mīmāṃsā* 派)の種で, 通常 *Mīmāṃsā* 派とは *pūrva-m°* を指す].

pūrva-mukha 形 東方に面する。
 pūrva-yajña-vāṭa-prakṛta 形 是昔施場，曾是
 往古諸仙施場 *Gaṇḍ-vy.*
 pūrva-yuga 男 耆旧 *Buddh-c.*
 pūrva-yoga 男 [*Pāli* *pubba-yoga.*] 前世の關係すなわ
 ち前世の身または業との關係，前世の行為（とその成
 果）(*Mah-v.*)；*漢* 本事，本生，往古，往古学，本
 生事，往昔事，本事相応，本事因縁，縁，昔因縁，
 本所修行 *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*
 pūrvayoga-pratisamyukta 形 先世相応，宿世
 因縁 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*
 pūrvayoga-saṃpanna 形 方便具足，方便道
Gaṇḍ-vy.
 pūrva-raṅga 男 (劇の)序幕，序曲。
 pūrva-rāga 男 最初のまたは燃え始めた愛情，以前の
 事柄が原因となって生じた恋愛。
 pūrva-rāja 男 前王。
 pūrva-rātra 男 夜の最初の部分，初夜；*漢* 初夜，
 上半夜 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*
 pūrvārātrāpara-rātra 男 初夜後夜 *Bodh-bh.*
 pūrva-rūpa 中 (前の顕現)，前兆；(圖)の先駆者，
 (prati)の確実な徴候；二個の連接する要素の代りに
 残る前の要素，例えば *o < -o a-* (文法)；*漢* 前
 相，前起相 *Abh-vy.* 形 以前の形をもつ，前と同じ
 な。
 pūrva-rṣi (°va-rṣi) 男 過去聖人 *Lank.*
 pūrva-lakṣaṇa 中 先行する徴候，前兆。
 pūrvavat 1. 副 前のように，以前のように；前にい
 われたように；*漢* 先，前，如前，同前，如上；如
 先説，如上説，如上所言 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-*
v., *Mvyut.*, *Nyāy-pr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*
 pūrvavat 2. 形 …に先立たれた，原因(から結果に至
 る推測)を含んだ(議論)。
 pūrvavattara 比較 以前の，前の。
 pūrva-vayas 形 人生の初期にある，若い。
 pūrva-vayaska 形 [同上]。
 pūrva-vartitā 因 前にあること。
 pūrva-vartin 形 (一°)の前にある；以前に存在す
 る。
 pūrva-vāda 男 (最初の訴願)，訴訟，告訴。
 pūrva-vādin 男 告訴者，原告。
 pūrva-vid 形 過去の事または出来事を知っている。
 pūrva-vidaha 男 [Dvipaの名] 東勝身，東神州，
 東勝身洲，前離体 *Abh-vy.*, *Dharm-s.*, *Mvyut.*,
 玄応；(音写) 東毗提訶，東(弗婆)提 *Diby.*, *Lal-v.*；
 (音写) 弗婆提，弗于逮，弗婆毗提呵，達利婆鼻提賀
 玄応。
 pūrva-vidhaka 形 東勝身人；(音写) 東毘提訶
 人 *Abh-vy.*
 pūrva-vidhi 男 前の規則。
 pūrva-vṛta 形 以前に選ばれた。
 pūrva-vṛtta 形 前に起った；前の事件に関する。 中
 前の事件，古い出来事；前の行動。
 pūrvavṛttānta 男 昔時事，前所更事 *Abh-vy.*
 pūrva-vairin 形 最初に敵対を始める。
 pūrva-śiṣya 男 前のまたは古い弟子。

pūrva-śiṣyā 因 [同上]。
 pūrva-śirṣa 形 (因 -ā) 東に向いた頭または頂をもつ。
 pūrva-śaila 男 東方のまたは太陽の昇る山；*漢* 東山部
 [仏教部派の名] 東山部，東山家 *Mvyut.*
 pūrvaśaila-saṃghārāma (°gha-ār°) 男 [ある仏教僧
 院の名]。
 pūrva-saṃcita 形 前に集められた。
 pūrva-sabhika 男 賭博場の首長。
 pūrva-samudra 男 東方の海洋。
 pūrva-sara 形 前に行く，先行する；東の。
 pūrva-sāgara 男 東方の海洋。
 pūrva-sārin 形 前に行く，秀でた。
 pūrva-sāhasa 中 第一のまたは最も重い科料または刑罰。
 pūrva-siddha 形 前に決定されたまたは樹立された。
 pūrva-supta 形 前にまたはすでに眠りにおちた。
 pūrva-suhṛd 形 永い間親しい。
 pūrva-stha 形 前に立った，秀でた。
 pūrva-hetu 男 前因，宿因，往昔因，先宿縁
Bodh-bh., *Buddh-ē.*
 pūrvā 因 東。
 pūrvākṣara 形 前に字を伴った。
 pūrvāgni 男 根源的のすなわち家庭的儀式の祭火。
 pūrvāṅga 中 前(生)の身体；先行するものの構成部
 分。 男 (常用の暦月の)第一日。
 pūrvācala 男 東方のまたは太陽の昇る山。
 pūrvācārya (°va-āc°) 男 昔のまたは以前の師；*漢* 先
 旧師，前軌範師 *Abh-vy.*, *Prajñ-vy.*
 pūrvādya (°va-ād°) 形 東に始まる。
 pūrvādri 男 =pūrvācala。
 pūrvādhika 形 前より大きな。
 pūrvādhika-dyuti 形 前より一層光り輝く。
 pūrvādhyuṣita 形 以前に住した。
 pūrvānukrama 男 連続。
 pūrvānupūrva 形 曾 *Sapt-pr.*
 pūrvānubhūta 形 前に経験した；*漢* 先所経，先所
 受，本受用，曾所習行 *Lank.*, *Vijñ-t.*
 pūrvānta 男 先行する語の語尾；予想；*漢* 前際，
 先際，前辺，前極；昔時，過去，過去世，先世；前
 本，甫 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*,
Kāśy., *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Sam-r.*, *Sapt-*
pr., *Śikṣ.*
 pūrvānta-koṭi 因 過去際，過去世，往世 *Gaṇḍ-*
vy., *Śikṣ.*
 pūrvāntakoṭi-gata 形 尽過去際 *Gaṇḍ-vy.*
 pūrvānta-jñāna 中 前際智 *Sam-r.*
 pūrvāntatas 副 前に (*Lal-v.*)；*漢* 先世，於先世，
 於先世中，於前世，常 *Aṣṭ-pr.*
 pūrvānta-śūnyā 因 前際空 *Madhy-vibh.*
 pūrvāntāparānta-cyuty-upapatti 因 前後歿生，
 前際後際没生，死此生彼 *Gaṇḍ-vy.*
 pūrvāntika 形 (因 -i) *漢* 前際 *Śikṣ.*
 pūrvāpakārin 形 以前に…に害を加えた。
 pūrvāpara 形 前後にある，前方と後方にむいた；東
 方と西方との；初期と後期の；先行し後続する，通
 続した，相対的に關係のある；*漢* 前後，先後，前
 後 *Bodh-bh.*, *Madhy-v.* 中 前後にあるもの，東と

西；関連。～eṇa 圓 圓 順を追って (*Av-ś*)。pūrvāpara-dakṣiṇa 形 東方・西方および南方の。pūrvāpara-dina 田 午前と午後。pūrvāpara-rātri 因 夜の前半と後半。pūrvāpara-viruddha 形 漢訳 前後相違 *Bodh-bh.*。pūrvāpari-bhāva 男 連続。pūrvā-bhādra-padā = pūrva-bhadra-padā。pūrvābhibhāṣaṇa 形 漢訳 先意問訊 [*Tib. gsoñ por smra ba*] *Kāśy.*: smita-mukha ~ tā 含笑先意問訊 *Kāśy.* 49。pūrvābhibhāṣin 形 = pūrva-bhāṣin; 漢訳 先言, 先言問訊, 先意問訊 *Bodh-bh.*。pūrvābhimukha 形 東方に向いたまたは流れる。pūrvābhilāpitā 因 漢訳 先以愛語 *Śikṣ.*。pūrvābhilāpin 形 漢訳 先言問訊, 先意問訊, 先語問訊, 先意慰問, 先發善言 *Bodh-bh. Mvyut.*。pūrvābhiṣeka 男 準備的灌頂の儀式。pūrvābhyāsa 男 前のものの反復; 漢訳 先習, 宿習 *Bodh-bh.* 圓 圓 再び新たに。pūrvābhyāsatas 副 漢訳 宿習 *Madhy-vibh.*。pūrvābhyāsa-samutthita 形 漢訳 先習起 *Bodh-bh.*: ~ m bijam 先習起種子 *Bodh-bh.* 401。pūrvāmbudhi 男 東方の海洋。pūrvārjita (°va-ār°) 形 前にまたは以前の仕事によって得られた。pūrvārdha 男 田 (圃) 前部, 上部; 東側; 初めの半分。形 漢訳 上, 上半 *Bodh-bh., Mvyut.* ~ m dinasya 一日の前半, 午前。pūrvārdha-kāya 男 上半身。pūrvārdha-bhāga 男 前部, (矢の)先端。pūrvālāpin (°va-āl°) 形 漢訳 先意問訊 *Av-ś.*。pūrvāvadhīrita 形 前に軽蔑された。pūrvāvaropita 形 漢訳 宿種 *Śikṣ.*。pūrvāvedaka (°va-āv°) 男 原告。pūrvāsā (°va-āsā) 因 東方; 東。pūrvāsin (°va-ās°) 形 (還, 因) よりも先に食う。pūrvāśādhā 因 [第十八または第二十の星宿]; 漢訳 [二十八宿の一] 箕, 前魚 *Divy., Mvyut.*。pūrvāhṇa 男 午前 [一般に 因]; 漢訳 日初分, 初日分, 昼初分, 朝, 晨朝, 晨朝時, 食前, 未食之前, 早, 平旦, 清旦 *Bodh-bh., Divy., Lal-v., Mvyut., Śikṣ., Sukh-vy. I., Śiv-pr., Vajr-pr., 梵雜.*。pūrvāhṇa-kāla-samaya 男 漢訳 日初分時, 初日分時, 日初時分, 晨朝, 晨朝時 *Lal-v., Śikṣ., Sukh-vy. I., Vajr-pr.*。pūrvāhṇika 形 (因 -i) 午前に属する。田 朝の祭式または儀式。pūrvika 形 以前に行なわれた, 古くから始まった (*Kār-vy.*); 漢訳 前, 依, 以為先 *Bodh-bh., Mvyut., Sāṃkhy-k.*; 昔引過, 昔作過 *Mvyut.*。-pūrvin 形 漢訳 先 *Abh-vy.* → a~。pūrvi, [puru の 因]。pūrvena 男 副 副 [屬, 屬 とともに] の前に, …の前で; …の東に, → pūrva。pūrve-dyus 副 前日に, 昨日; 早朝に。pūrve-nivāsa 男 = pūrva-nivāsa; 漢訳 [*Pali pubbe-*

nivāsa.] 宿住 *Bodh-bh.* 389。

pūrve-nivāsānusmṛti-jñāna 田 漢訳 宿住随念智, 知過去世, 宿命智, 宿住智, 宿命通 *Bodh-bh., Mvyut.*。pūrvenivāsānusmṛtijñāna-bala 田 漢訳 宿住随念智力, 知過去世力, 宿住智力, 宿命智力, 知宿命力, 得宿命力 *Bodh-bh., Mvyut.*。pūrvenivāsānusmṛtijñāna-sākṣāt-kriyā 因 漢訳 随念宿住智作証(通) *Bodh-bh.*。pūrvendra (°va-in°) 男 昔の *Indra* 神。pūrvokta (°va-uk°) 形 前に言われたまたは述べられた, 前述の; 漢訳 先説 *Madhy-v.*。pūrvocita (°va-uc°) 形 以前から慣れた, 古くから知られた。pūrvottara (°va-ut°) 形 東北の [因 東北において]; 田 前と後との; 漢訳 東北 *Abh-k.*; 前後 *Lank.*; 先者(滅)後(起) *Sūtr.*。pūrvottara-vacana-vyāghāta 形 漢訳 前後所説自相違, 所説前後相違 *Lank.*。pūrvottara-virodha 男 漢訳 前後自相違 *Lank.*。pūrvottarottara (°va-ut°, °ra-ut°) 形 漢訳 次第上上, 漸次増勝, 前後転進 *Lank.*。pūrvotthāyin (°va-ut°) 形 (朝に)最初に昇る。pūrvotthita (°va-ut°) 形 前にあがった(煙)。pūrvotpatti (°va-ut°) 形 前に起る。pūrvotpanna (°va-ut°) 形 前に起った; 漢訳 前生(身) *Sāṃkhy-k.*。pūrvotpannatva (°va-ut°) 田 先であること。pūrvopakārin (°va-up°) 形 以前に奉仕をした。pūrvopanihita (°va-up°) 形 前に埋蔵された(宝)。pūrvopapanna (°va-up°) 形 [恐らくは]以前の請求権をもつ。pūrvopārjita (°va-up°) 形 以前に獲得された。pūrvya 形 以前の, 昔の; 先行の, 最初の; 次の; 最も優れた, ~m 圓 以前に, 最初に, 久しい以前から。pūla 男 東; 覆 藁。pūlaka 男 [同上 圃]。pūlā 因 漢訳 有帶靴, 短鞞靴 *Mvyut.*, 玄応; 音写 福羅, 布羅, 腹羅 玄応。pūlika 男 東。pūlikā 因 [同上]。pūṣaṇa 男 = pūṣan。pūṣaṇvat 形 *Pūṣan* に伴われた。pūṣan 男 [*Veda* の神の名, 家畜の群を守り繁栄をもたらす神; 太陽の機能の一面を代表してあらゆるものを監視し, 旅行および次の世界に至る道の指導者とされる]; 太陽。Pr 1., III. 田 piparti (因, 圃); VI. 田 圃 pṛnati (-te) (因); IX. 田 圃 pṛnāti (因)。満たす [田 充らる]; 空気をもって満たす, (圃) の中に吹き込む; 満たす, 集まらせる; 満足させる, 養う, 活気を与える; (圃) に豊富に授与する, (圃) を贈与する; (望みを)満たす; 漢訳 円満, 具足 *Suv-pr.* 現分 pṛnat 豊富に与える, 惜気なく与えるすなわち惜しまない, 気前のよい。IV. 田 [叙詩 はまた 田] または 田 pūryate(-ti) (圃) で満たされる, …で満ちる。

過受分 [まれに] **pūrta** 満たされた；(圓)に満ちた；[一般に] **pūrṇa** (圓, 圓, 一°)で満たされた, 満ちた [月(太陰)にも用いる]；完全な, 全体の, 満(数)；豊富な；十分に引かれた(弓, 矢)；満了した(時)；成就した(誓願)；充足された；設定された, 締結された(協定・契約)；満足させられた。使役 他 圓 **pūrayati(-te)** (圓)で満たす, 充滿する, (圓音で)満たす, (音を)強める；空気で満たす, (螺貝を)吹く；(弓・矢を)十分に引く；(言語, 文章を)完全にする, 補足する；(圓)で完全に覆う, …で圧倒する, …を注ぎかける；(圓 贈物)を豊富に与える, (圓)を贈る；(欲望・希望等を)満たす；(時期を)満了させる；**圓** 満, 令満, 成満, 具満, 円満, 令円満, 満足；盛；熱 *Daś-bh., Divy., Sūtr., Suv-pr.*；修, 修行 *Suv-pr.*；張 *Divy.*：udakena pūrayitvā 盛水 *Suv-pr.* 173.；dhanuḥ pūrayitvā 張弓 *Divy.* 39.

ati- IV. 他 **atipūryati** 大いに満ちる, あふれる。
anu- 使役 他 **anupūrayati** (欲望等)を満たす, …を達する；**圓** 充 *Daś-bh.*

abhi- IX. 他 [三人單圓] **prñihī** 満たす。受 **abhipūryate** (圓)で満たされる, …で満ちる。**過受分** **abhipūrṇa** (圓, 圓, 一°)で満たされた。使役 他 **abhipūrayati** 満たす；積み込む；(圓)で圧倒する；(贈物を)豊富に与える, (圓)を惜気なく贈る；(苦痛などが)心を満たす；増大する；成就する。

ā- III. 他 **āpiparti** 満たす；充足する, 完全にする, (欲望を)満足させる；VI. 圓 満たされる；(圓)に飽満する。受 **āpūryate** (圓, 圓)で満たされる, …で満ちる；(身体の)大きさを増す；(弓が)十分に引かれる；(圓)を豊富にもつ；**圓** 満, 遍 *Sūtr.*

過受分 **āpūrṇa** 満ちた[月(太陰)にも用いる]；(圓, 一°)で満たされた；(一°)の響き渡った；満足させられた。使役 **āpūrayati(-te)** 満たす, 充足する；(圓)で響き渡らせる；空気で満たす, (吹楽器を)吹く；(圓)で完全に覆う, ちりばめる；**圓** 普聞, 流布 *Suv-pr.*；吹 *Sukh-vy. I.*

anu-prā (anu-pra-ā)- 成就する **不定** **anuprāpuritum** = **anuprapūrayitum** または **anuprāpunitum** (Āp) の誤；**圓** 求, 逮 *Lal-v.*

sam-ā- 受 **samāpūryate** (圓)で満たされる。**過受分** **samāpūrṇa** 満, まる(一年)。使役 **samāpūrayati** (圓)で満たす；(弓を)十分に引く。

ni- IX. 他 **°prñāti, °prñuyāt** 注ぐまたは置く, 捧げる [祖靈祭に関する術語]。

niṣ- **過受分** **niṣpūrta** 注ぎ出された。

pari- 受 **paripūryate** (圓)で満たされる, …で満ちる；**圓** 足, 増益, 増長 *Kaśy., Prāt-m.* **過受分**

paripūrṇa 満たされた；(圓)で満たされた；(一°)で覆われた；完全な, 全体の；富んだ, 豊富に所有する；充足された；達せられた(目的)。使役 **paripūrayati** 満たす, 充足する；(圓)で響き渡らせる；(穴を)塞ぐ；完成する, 成就する；初めから終りまでなしとげる；**圓** 満, 円満, 成満, 能円満, 令満足, 称満, 悉令満足；具, 具足, 具足円満, 具足充滿；成就 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Av-ś., Bodh-bh., Daś-*

bh., Lal-v., Lanḥ., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I.

不變分 **paripūrya** **圓** 満足, 成満, 満中, 具足 *Av-ś., Saddh-p., Sam-r., Sapt-pr.* 使役 圓分 **pa-pūrayat** **圓** 満, 満足, 円満 *Aṣṭ-pr.* 使役 **過受分** **paripūrta** (一°)で満たされた；(一°)を完全になしとげた；豊富な。

pra- IX. 他 **prapṇāti** 満たす, 完成する。受 **prapūryate** 満たされる, 満ちる；飽きる；完全になる；充足される；**圓** 成就 *Suv-pr.* 使役 **prapūrayati** (圓)で満たす, …で充足する；(圓)で響き渡らせる；完成する；(贈物をもって 圓) 富ませる, …を豊富に与える；**圓** 円満, 遍満, 満足 *Gaṇḍ-vy., Guhy-s.*；吹 *Lal-v., Saddh-p.*：prapūrayiṣyaty ayam dharma-śāṅkhaṃ 吹法螺 *Saddh-p.* 421. 使役 **過受分** **prapūrta** (一°)で満たされた, …で満ちた。

prati- **過受分** **pratipūrṇa** 満ちた [月(太陰)にも用いる]；(圓, 一°)で満たされた, …で満ちた；満了した。使役 **pratipūrayati** 満たす, 充足させる；(人を)満足させる；成就する；**圓** 円満 *Aṣṭ-pr.* **sam-** 受 **sampūryate** 満ちる。**過受分** **sampūrṇa** 満ちた [月(太陰)にも用いる]；(圓, 圓, 一°)で満たされた, …を完備した, …で充滿した；完全な, 全体の；豊富な；多くを所有する；充足された。使役 **°pūrayati** 充足する；(欲望を)満たす, …を満足させる。

Pr 2., III. 他 **piparti** (因)。 (圓)を越えてまたはの方にもたらず；(圓)から救出する；保護する；助長する, 支持する；(人を)凌駕する；(不定)することができる。使役 他 因 圓 [叙述] はまた 圓 **pārayati(-te)** 越えて導くまたはもたらず；(圓)から救出する；保護する, …の生命を保つ；越える, 打ち勝つ；(圓)に抵抗する；(不定)することができる [この動が 受 [pāryate] の場合には 不定 は 受の意味]。

ati- (圓)を越えてもたらずまたは導く；(約束を)遂行する, 履行する。使役 他 **atipārayati** …を越えて導くまたはもたらず；圓 **atipārayate** (圓)から救出する。

niṣ- (圓)から救出する, …から助ける。使役 **niṣpāraya** [同上]。

sam- 使役 **sampāraya-** 成就する。

Pr 3., [ā とともにのみ用いる]

ā- V. 他 **āprñoti** (圓)に忙しい。**過受分** **āprta** 多忙な。

vy-ā- V. 圓 **vyāprñute**。受 **vyāpriyate** (-artham)のために忙がしい。**過受分** **vyāprta** (因, 一°-artham, -hetos)で多忙な, …に従事した。使役 他 **vyāpārayati** (圓, 因 に, -arthamのために)従事させる, 多忙ならしめる, 使役する；…へ(視線を向けさせる；**圓** 助, 當助 *Bodh-bh.* **vāṇim vyāpārayati** 声を出す, **hastam vyāpārayati** 手を振る。使役 **過受分** **vyāpārta** (-artham) …に従事したまたは任命された。

prkta **過受分** → **Pr.**

prkṣ 因 慰め, 栄養物。

pṛkṣa 形 斑点のある, 斑らの; [註釈家によれば] 食物を供給された. 圓 斑点のある馬; [人名].

pṛṅga [また bṛṅga] 圓 綵絹 [Tib. dar ri mo can] Mvyut.

Pṛc, VII. pṛṅakti, pṛṅkte (因); III. 圓 pipṛgdhi (圓, まれに 因) と混ざる, 混合する, 結合する, 連接する; 満たす, 満たさせる; (圓) のために (圓, 圓) を豊富に与える; 増大する. 過受分 pṛkta (圓, 一°) と混じた, 結合した, 接触した; (圓, 一°) で満たされた, …で満ちた.

ā- 行きわたる; (圓) と混合する.

upa- 因 に付加する; 増加する; (圓) に接近する.

sam- 圓 混ざる, 結合する, 触れる; (圓) を与える; 圓 および 圓 混合される, 結合される, 接触する. 過受分 sampṛkta (圓, 一°, まれに 因) と混合した・結合した・触れた または 接触した; (圓) で満たされた.

pṛccha, [Prach の 圓 音].

pṛcchaka 形 (圓) について尋ねる, 問う; 能発問者 Saddh-p.

pṛcchamāna 現分 → Prach.

pṛcchā 因 (一°) に対する質問, (一°) についての容問; 未来に関する探求; 問 Ast-pr.

pṛcchat 現分 → Pr 1.

pṛt 因 闘争, 戦争 [因 圓 のみ].

pṛtana 因 敵の軍勢.

pṛtanā 因 戦闘, 戦争; 敵の軍勢; 軍隊; とくに軍団 [243 頭の象・243 の戦車・729 人の騎兵および 1215 人の歩兵からなる].

pṛtanā-jit 形 戦いに勝つ.

pṛtanā-nirmathana 因 軍隊の破壊.

pṛtanā-ni 男 軍の統率者, 指揮者.

pṛtanā-pati 男 [同上].

pṛtanāya 名動 [現分 pṛtanāyat のみ].

pṛtanāyat 現分 戦う, 男 敵.

pṛtanā-śah 形 [因 音 -śah] 敵の軍勢を征服する.

pṛtanya 名動 圓 pṛtanyati …と戦う, 襲撃する.

現分 pṛtanyat 戦う.

pṛtanyat 現分 → pṛtanya. 男 敵.

pṛtanyu 形 襲撃する. 男 敵.

pṛtha 男 手のひら(掌); [長さの単位=13 aṅguli].

pṛthak 副 [広くまたは別々に向けられた: Prath+añc の 因] 離れて, 別々に; 各自に [しばしば反覆して用いる]; 別, 各別, 分別, 各各, 独, 離, 異 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Lan̄k., Madhy-vibh., Prajñ-h., Śikṣ., Sūtr., 梵千., 梵維.: ~g …niveśita 別為, 分立 Abh-k. 副 [因 とともに] …なしに; 除いて. ~Kṛ 分かつ; 切り離す; (因) からそらす. ~vi-Kṛ 圓裂 Av-s. ~g BHū 分離する, 独特である (Divy.). 過受分 pṛthagbhūta 分離した, 異なった.

pṛthak-kāraka 形 圓 散 Mvyut.

pṛthak-kārya 因 別々の仕事, 私事.

pṛthak-kṛti 因 個人.

pṛthak-kriyā 因 分離.

pṛthak-kṣetra 形 圓 (同父) 異母から生まれた(子供

等).

pṛthak-ceṣṭā 因 種々異なった活動.

pṛthaktā 因 別異; 分離, 別個; 個性.

pṛthaktva 因 [同上]; 異, 異性, 異法, 異相, 別, 別異, 別体, 異体, 各類 Lan̄k., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Vaiś-s. 圓 ~ena 個々に, 一つ一つ.

pṛthak-pada 形 単独の(合成しない)語からなる.

pṛthak-piṇḍa 男 (他の親族と共同しないで) 別々に Śrāddha 祭の供物を捧げる(遠い親族).

pṛthak-pṛthak 副 圓 各, 各各, 各別 Abh-k., Abh-vy, Saddh-p.

pṛthakpṛthag-bhāva 男 圓 異, 異相 Madhy-v.

pṛthak-śabda 男 個々のまたは独立した語.

pṛthak-śayyā 因 独りで眠ること.

pṛthak-sukha 形 別々の喜びをもつ.

pṛthak-sthiti 因 別々の存在, 分離.

pṛthag-artha 形 別々の利益をもつ; 個々別々の意味をもつ.

pṛthag-arthatā 因 別々の意味.

pṛthag-ālaya 形 圓 別々の住居をもつ.

pṛthag-upādāna 因 別々に挙げること.

pṛthag-gaṇa 男 別々のまたは別個の群.

pṛthag-gotra 形 圓 異なった氏族に属する.

pṛthag-jana 男 低い階級の人; 圓 圓 民衆; 圓 凡, 凡夫, 凡人, 凡夫人, 凡愚, 愚癡凡夫, 愚夫, 異生(類) Ast-pr., Bodh-bh., Divy., Lan̄k., Madhy-bh., Madhy-vibh., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr., Vajr-pr., 梵千.

pṛthagjana-kalyāṇaka 男 宗教的向上を求めて努力する凡夫 (Divy.); 圓 賢善異生 Bodh-bh.

pṛthag-janatya 因 圓 凡夫, 凡夫性, 異生性, 愚癡 Abh-vy., Rāṣṭr.

pṛthagjana-dharma 男 圓 異生法 Sapt-pr.

pṛthagjana-bhūmi 因 圓 凡夫地, 異生地 Ast-pr.

pṛthagjana-rati 因 圓 異生事 Ast-pr.

pṛthag-janavat 副 低級な人のように.

pṛthag-jaya 男 決闘における勝利.

pṛthag-jāti 因 圓 異趣 Buddh-c.

pṛthag-dṛś 形 …を(從) とは異なったものと見る.

pṛthag-dvāra 因 圓 特別の門すなわち達成の方法・手段.

pṛthag-dharma-vid 形 圓 各々が異なった法規を知っている.

pṛthag-nirodha 男 圓 前後滅, 相離尽 Abh-vy.

pṛthag-bhāva 男 別個の状態, 分離, 差異, 相違; 圓 異(相) Madhy-v.

pṛthag-bhūta 形 圓 別々の, 異なった; 圓 差別, 独住, 各処而住 Abh-vy., Śikṣ.

pṛthag-yoga 形 圓 異なった運命をもつ [恐らくは -bhoga または -bhāga の 不確].

pṛthag-rasamaya 形 (因 -i) 異なったまたは特別の樹液・エキスからなる.

pṛthag-lakṣaṇa 形 異なった特質をもつ.

pṛthag-vartman 形 種々の道程をもつ.

pṛthag-varṣa 因 圓 各別の一年, 毎年.

prthag-vidha 形 種々の, 多様の, 様々の; (圓) より異なる; 漢訳 種々別, 各差別 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*
 prthañ-niṣṭha 形 各別に存在する, 各々異なったものとしてある.
 prthā 女 [*Pāṇdu* の妻の一人の名 = *Kuntī*].
 prthā-janman 男 [*Prthā* の息子, *Yudhiṣṭhira* の母系].
 prthā-tanū-ja 男 [*Prthā* の息子, *Arjuna* の母系].
 prthātma-ja (°thā-āt°) 男 = prthā-janman.
 prthā-bhū 男 [同上].
 prthā-suta 男 = prthā-tanū-ja.
 prthā-sūnu 男 [同上].
 prthivi 因 [= prthu + i] (広い) 大地, 地界 [因 では三重の地界を説く]; (神格化した) 大地; 国土, 領域; 地面; (dhātu '要素' としての) 地; 漢訳 地, 大地, 大地土, 国 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*, *Vaiś-s.*, 梵千., 梵雜.: ~ vyāṃ pratiṣṭhāpya 著地 *Suv-pr.* 57.
 prthiv-kampa 男 地震; 漢訳 地動, 大地震動 *Suv-pr.*
 prthivi-kṛtsna 形 漢訳 地遍(処定) *Gaṇḍ-vy.*
 prthivikṛtsnāyatana (°na-āy°) 因 漢訳 地遍処, 地遍処(定) *Mvyut.*
 prthivi-kṣit 形 大地に住む; 大地または国土を支配する. 男 王侯, 王.
 prthivi-candra 男 [*Trigarta* の王侯の名].
 prthivi-cara 男 漢訳 地居 *Mañj-m.*
 prthivi-cāla 男 漢訳 地動, 地震動 *Bodh-bh.*, *Sapt-pr.*
 prthivi-tala 因 大地の表面, 地面; 世界, 地獄(地の底).
 prthivi-tirtha 因 [聖地の名].
 prthivi-daṇḍa-pāla 男 国の司法長官.
 prthivi-daṇḍa-pālatā 女 国の司法長官の職務.
 prthivi-devatā 女 漢訳 地神, 主地神, 地天 *Gaṇḍ-vy.*, *Suv-pr.*: dṛḍhā ~ 地神堅牢, 堅牢地神衆 *Suv-pr.* 4.
 prthivi-devi 女 [人名].
 prthivi-dhātu 男 漢訳 地界, 地種, 地大, 土地, 大地 *Abh-k.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
 prthivim-dadā 女 [ある *Gandharva* 女の名] (*Kār-vy.*).
 prthivi-pati 男 大地の主, 王侯, 王.
 prthivi-paripālaka 男 王侯, 王.
 prthivi-parpaṭaka 男 [食用きのこの一種]; 漢訳 地餅, 地膏 *Mvyut.*
 prthivi-pāla 男 大地の守護者, 王, 王侯.
 prthivi-pālaka 男 [同上].
 prthivi-pradeśa 男 漢訳 処, 方処, 地方, 地方処, 地方所, 方地, 国土 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Lank.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Vajr-pr.*
 prthivi-bhuj 男 大地の享受者, 王侯, 王.
 prthivi-bhujamga 男 大地の愛人, 王侯, 王.
 prthivi-bhṛt 男 (地を支える), 山.

prthivi-maṇḍa 男 漢訳 地醍醐 *Mvyut.*
 prthivi-maṇḍala 男 または 因 漢訳 国境, 国界, 方域 *Bodh-bh.*
 prthivimaya 形 大地からなる, 地の.
 prthivi-rajasa 因 漢訳 地塵, 大地微塵 *Vajr-pr.*
 prthivi-rasa 男 漢訳 地肥, 沃壤, 豊壤 *Suv-pr.*; 地味, 饒地, 饒地精 *Mvyut.*: ~ ena vivardhayiṣyati 豊壤倍常 *Suv-pr.* 114.
 prthivi-rājya 因 国土の主権, 王権, 王国.
 prthivi-ruha 男 (地から生ずる), 植物, 樹木.
 prthivi-vajra 男 漢訳 [菩薩の名] 金剛地 *Guhy-s.*
 prthivi-vara-locana 男 [菩薩の名] (*Kār-vy.*).
 prthivi-vivara-samudgama 男 漢訳 從地涌出 *Saddh-p.*
 prthiviśa (°vi-iśa) 男 大地の主, 王侯, 王.
 prthiviśvara (°vi-iś°) 男 [同上]; 漢訳 人王, 国君 *Lal-v.*
 prthivi-saṃjñā 女 漢訳 塵想, 地想 *Bodh-bh.*, *Divy.*
 prthivy-āpiḍa (°yī-āp°) 男 [*Kashmir* の二人の王侯の名].
 prthivy-upasaṃkramaṇā (°vi-up°) 女 [ある *Kimnara* 女の名] (*Kār-vy.*).
 prthivy-ojas (°vi-oj°) 因 漢訳 地精, 湿地 *Mvyut.*
 prthu 因 (因 -vi および 因 で -u) 広大な, 広い, 広々とした, 大きい, 偉大な; 豊かな; 豊富な; 広範囲の, 多様の, 数多の; 詳細な; 漢訳 広, 広大, 広博, 寛; 大; 長; 勝; 衆 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.* 男 [長さの単位 (= prtha)]; [*Śiva* 神の称]; [*Viśve Devāḥ* の一神の名]; [ある *Dānava* の名]; [諸人の名]; 漢訳 匿写 [王の名] 卑儉(王) *Buddh-c.*
 prthuka 男 因 半熟で粗く搗き砕かれた米, 男 男の子; 動物の子.
 prthu-kirti 形 名声の拡がった.
 prthu-kucotpidam (°ca-ut°) 因 盛り上った(彼女の胸を押しつけて).
 prthu-cāru-maṇḍala-gātra 形 漢訳 身支広妙円満, 身肢奇妙, 妙広狭相称, 身潤沢 *Mvyut.*
 prthucārumaṇḍalagātratā 女 漢訳 (膝)輪(堅固)処 好莊嚴好 *Dharm-s.*
 prthu-cārv-añcitekṣaṇa (°ta-ik°) 因 広く美しく弓なりに曲った目をもつ.
 prthu-jaghana 形 広い腰をもつ.
 prthutara 比較 非常に広い, 大きい.
 prthutari-Kṛ, (目を)さらに大きく開く.
 prthutā 女 大きいこと, 偉大, 広さ.
 prthutva 因 [同上].
 prthu-damṣṭra 形 大きな歯(牙)をもつ.
 prthu-datta 男 [ある 蛙の名].
 prthu-darsin 形 先見の明ある.
 prthu-dharaṇi-dhara 男 [*Viṣṇu* 神の称].
 prthu-dhāman 形 広く輝く, すばらしい.
 prthu-dhāra 形 広い刃をもつ.
 prthu-parsu 形 広やかな肋骨をもつ.
 prthu-pāṇi 形 広い手をした (*Savitṛ* 神).
 prthu-prajña 形 広い知識をもつ; 漢訳 広慧(者), 慧

広, 勝智慧, 利根(之人) *Bodh-bh.*, *Mvyut.*

pr̥thu-pratha 形 名声の広がった。

pr̥thu-protha 形 広い鼻孔をもつ(馬)。

pr̥thu-bāhu 形 腕の太い。

pr̥thu-bhuvana 田 広い世界。

pr̥thu-mrdvikā 因 [恐らくは]乾葡萄。

pr̥thu-yaśas 形 名声の広がった。

pr̥thu-rāṣṭra 田 廣博国 *Gand-vy.*

pr̥thula 形 広い, 大きな。

pr̥thu-lalāṭa 形 廣説 [三十二相の一]額広平正, 額寛平正 *Gand-vy.*, *Mvyut.*

pr̥thulalāṭatā 因 廣説 額広平正好 *Dharm-s.*

pr̥thula-vakṣas 形 広い胸をもつ。

pr̥thula-vikrama 形 非常に勇敢な。

pr̥thulākṣa 男 [王侯の名]。

pr̥thu-locana 形 大きな眼をもつ。

pr̥thulaujas (°la-oj°) 形 大きな精力をもつ。

pr̥thu-vakṣas 形 広い胸をもつ。

pr̥thu-vṛddhi-vaipulyatā 因 廣説 増長広大 *Bodh-bh.*

pr̥thu-vega 男 [王侯の名]。

pr̥thu-vaipulya-prāpta 形 廣説 深広流布 *Aṣṭ-pr.*

pr̥thu-vyaṃsa 形 広い肩をもつ, 肩の広い。

pr̥thu-sīras 形 広いまたは平たい頭をもつ, 頭の広いまたは平たい。

pr̥thu-śravas 形 名声の広がった。男 [諸人の名]; [ある *Nāga* の名]; [*Skanda* の従者の名]; [北方で大地を支える神話的な象 (*dinnāga*) の名]。

pr̥thu-śrī 形 非常に繁栄した, 極度に幸運な。

pr̥thu-śroni 形 因 大きな腰をもつ。

pr̥thu-śroni 形 因 [同上]。

pr̥thu-ṣeṇa 男 [諸人の名]。

pr̥thu-ṣṭuka 形 大きな髪の毛をもつ(馬)。

pr̥thu-saṃpad 形 極めて富んだ。

pr̥thūdaka 田 [聖地の名]。男 [±svāmin] [ある註釈家の名]。

pr̥thūdara 男 [(広大な腹をもつ), ある *Yakṣa* の名]。

pr̥thvi 因 [pr̥thu-i] (広い)大地; 国土, 領土; 地面; (*dhātu* '要素' としての)地; [韻律の一種 (4 × 7 音節)]. → *pr̥thivi*.

pr̥thvi-khāta 田 洞窟または地の穴。

pr̥thvi-garbha 男 [ある菩薩の名]。

pr̥thvi-gr̥ha 田 地中の住家, 洞窟。

pr̥thvi-tala 田 地表, 陸地。

pr̥thvi-daṇḍa-pāla 男 国の司法長官。

pr̥thvi-daṇḍa-pālatā 因 国の司法長官の職務。

pr̥thvi-dhara 男 (大地を支える)山。

pr̥thvi-pati 男 大地の主, 王侯, 王。

pr̥thvi-patitva 田 主権。

pr̥thvi-pāla 男 [人名]。

pr̥thvi-prasāstr 男 王。

pr̥thvi-bhuj 男 大地の享受者, 王侯, 王。

pr̥thvi-bhṛt 男 大地の保持者, 王侯, 王。

pr̥thvi-rājya 田 国土の主権, 王権。

pr̥thvi-rūpa 男 [王侯の名]。

pr̥thviśa (°vi-īśa) 男 大地の主, 王侯, 王。

pr̥thvi-hara 男 [人名]。

pr̥dāku 男 まむし(蝮), 蛇。

pr̥śana 田 [Spr̥ś] 愛撫。

pr̥śani 因 [Spr̥ś] 愛撫, 誘惑; 媚態を呈する女。

pr̥śni 形 斑らの, 斑点のある(とくに牝牛); 田 多様な。男 [王侯の名]; 田 [聖仙の家系の名]。因 斑点のある牝牛; 乳; 大地; 雲; 星の多い空; [*Marut* の母の名]; [*Savitṛ* の妻の名]; [田 ではこの語は固有名詞としてのみ出る]。

pr̥śni-garbha 男 [*Viṣṇu-Kṛṣṇa* 神の称]。

pr̥śnimat 形 *pr̥śni* の語を含んだ。

pr̥śni-mātr 形 大地または *Pr̥śni* を母とする。

pr̥ṣat 現分 (<*Pr̥ṣ* ふりかける, そそぐ) 形 (因 -i) 斑らの, 斑点のある(因)。男 斑点のある羚羊。~āṃ *patiḥ* 男 斑点のあるもの(雲)の主, 風。

pr̥ṣata 男 斑点のある羚羊; 水滴; 斑点。

pr̥ṣati 因 斑点のある牝牛; 斑点のある牝馬; 斑点のある羚羊の雌。

pr̥ṣatka 男 (雑色の), 矢。

pr̥ṣad-aśva 形 斑点のある馬をもつ (*Marut* 神)(*RV.*)。男 風 [また人格化して用いる]。

pr̥ṣad-ājya 田 斑らのあるバター, 凝乳と混合したバター。

pr̥ṣad-varā 因 [*Menakā* の娘, *Ruru* の妻の名]。

pr̥ṣātaka 男 田 = *pr̥ṣad-ājya*。男 [儀式の一種 (種)]; [*Rudra* 神の称]。

pr̥ṣodara (°ṣa-ud°) 形 斑らの腹をもつ。

pr̥ṣta 過受分 問われた, 質問された; 要請された。

→ *Prach.* 廣説 問, 已問, 請問 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Sapt-pr.* → a~。

pr̥ṣta-prativacana 田 質問に答えること。

pr̥ṣtamāna, → *sākṣi* ~ *m*.

pr̥ṣtavat 過能分 質問した。

pr̥ṣtābhidhāyin 形 問われた時に答える, 常に答えを用意した。

pr̥ṣti 因 肋骨。

pr̥ṣtha 田 [*pr̥-ṣtha*, cf. *pra-stha*, 突起した(背)?] (動物の)突起した背; 背; 上側, 表面; 高处, 隆起線, 頂; 背部, 後部; [*Stotra* の一種 (種々の *Sāman* からなり, 日中の *Soma* 压榨に用いられる)]; 背, 背後, 後; 終; 後起 *Abh-vy.*, *Av-ś.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, 梵千., 梵維. → *aśva* ~。因 (田) の背で, 後部からまたは後で, 後に。~*m* *Dā* 深くお辞儀をする。~*ena* *Yā* (田) に乗って行く。~*ena* *Vah* 背で運ぶ。

pr̥ṣthaka 田 背。~*e* *Kṛ* ...を後に置く, 無視する; 放棄する。

pr̥ṣtha-ga 形 (田, 一°) に乗って行く。

pr̥ṣtha-gāmin 形 随行する, 帰依した, 忠実な。

pr̥ṣtha-gopa 男 後部の守護者。

pr̥ṣtha-tap 形 (太陽で)背を焦がす。

pr̥ṣthataś 田 田 背の上に, 背に; 背後から; 後方に; (田, 一°) の背後に; 背を向けて=顔を背けて; 背後で, 秘密に; 廣説 後, 在後, 従後, 随; 密 *Aṣṭ-pr.*, *Cat-ś.*, *Divy.*, *Mvyut.*: ~*to* 'nubaddhā 常随侍, 侍衛其後 *Saddh-p.* 288. ~*taḥ* *Kṛ* 背に載せる; 背を向ける; 背後に置く; 放棄する, 無視す

る。～to Gam 従う, 追う。～to 'nu-Gam 隨後行 *Vin.* ～～ 隨 *Gaṇḍ-vy.*: ～taḥ ～to 'nubaddhaḥ 隨逐, 隨從 *Gaṇḍ-vy.* 53. ～to BHū 背後にあるすなわち取るに足りない。～Yā 逐, 追 *Rāstr.*

prṣṭha-tāpa 男 (背を焼くこと), 正午。
prṣṭhato-mukha 形 顔を背けた (*Divy.*)
prṣṭha-deśa 男 背部, 後部; 函 (圖) の後に。
prṣṭha-pātinī 形 …の背後にある; …を注視する, を監視する。
prṣṭha-piṭhi 女 広い背。
prṣṭha-bhaṅga 男 背部屈折 [闘法の一つ]。
prṣṭha-bhāga 男 後部, 背; 背後。
prṣṭha-bhūmi 女 (家屋の)上階層, (宮殿の)屋上露台。
prṣṭha-madhya 男 背の中央。
prṣṭha-māmsa 中 背肉。～m KHād または BHakṣ 背肉を噛む; 誹謗する。
prṣṭhamāmsāda (°sa-āda) 男 陰口をきく人。
prṣṭha-yāna 中 乗って行くこと。形 (一°) に乗る。
prṣṭha-yāyin 形 [同上 形]。
prṣṭha-lagṇa 形 (圖) の背にまつわりつく, 付き従う。
prṣṭha-labdha 形 後得, 隨得 *Bodh-bh.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*
prṣṭha-vamśa 男 背骨; 背骨 *Mvyut.*, *Śikṣ.*
prṣṭha-vāstu 中 (家屋の)上階層。
prṣṭha-vāha 男 荷馬, 荷牛。
prṣṭhānuga 形 後から行く, 隨行する。
prṣṭhānugāmin 形 [同上]。
prṣṭhānusārin 形 [同上]。
prṣṭhāvagunṭhana-paṭa 男 馬の背を覆う布, 馬衣。
prṣṭhāsthīla 男 または 中 亀の甲。
prṣṭhi-kaṇṭhaka 男 または 中 (また *prṣṭha-*, *prṣṭhi-*, °kaṇṭhaka; *Pali* *piṭṭhi-kaṇṭhaka*) 背骨; 背梁, 背骨連 *Lal-v.*
prṣṭhi-BHū, (世俗的事物から)顔を背ける, きらう, 意気消沈する; 転背後, 退失, 没退, 沈没 *Ast-pr.*, *Mvyut.* → *ava-prṣṭhi-kṛta*, *parā-prṣṭhi-kṛta*, °bhūta.
prṣṭhe-mukha 形 (女-i) 顔を背ける。
prṣṭhya 1. 形 背負う; [±aśva 男] 乗用または荷用の馬。
prṣṭhya 2. 形 高地から来る, 高地に属する。
prhā 女 函 [=sprhā] 熱望; 惓樂 *Śikṣ.*
Pṛ, → **Pr** 1.
pe, [=Pali *peyālam* の略] 乃至, 以要言之 *Śikṣ.* 187, 188, 322.
pecaka 男 鼻; 象の尾の先端または根本。
peja 男 函 [<peya] 飲料, 粥, 飯, 麵 *Mvyut.*
peṭa 男 (?) 籠, 小箱; 箱, 篋 *Sūtr.*, 梵雜。
peṭaka 男 中 小籠, 小箱; 極 *Mvyut.* 中 多数, 仲間, 群。～m Kṛ 團結する。
peṭā 女 =peṭa; 篋 *Divy.*, *Sūtr.*
peṭikā 女 =peṭaka。
peṭi 女 =peṭa。
peṭṭāla 男 中 籠。
peṭṭālaka 中 (?) [同上]。

peḍā 女 [同上]; 函, 篋 *Ast-pr.*, *Divy.*; 所縛, 被絞人 *Abh-vy.* 638.
petva 男 牡羊; 去勢した羊。
pedu 男 [人名]。
pepiśat 強意 現分 → **Piś.**
pepiśāna 強意 現分 → **Piś.**
pepiyamāna 現分 [Pā 1.] 別々にまたは貪って飲む。
peya 未受分 飲まれるべき, 吸われるべき; 飲用に適する; 味わうことのできる; 心地よい (例耳に)。男 飲料の供養; 飲料, 粥, 飯 *Mvyut.*, 梵雜。中 (一°(圖))を飲むこと, …の一飲み; 飲物; 漿飲 *Sam-r.*
peyā 女 おもゆ(重湯); スープ; 粥 *Divy.*
peyāla-dharma 男 略法, 重説諸義 [*Tib. mth-un par sbyar.ba = abhisamkṣepa-nyāya*] *Abh-vy.* 424.
peyālam 副 [*Pali* *peyyālam*] 等々; 略言すれば; 乃至, 乃至広説, 如応広説, 当知亦爾, 如是作, 如前所作 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*
peyūsa 男 中 牝牛の初乳; 甘露。
peru 形 [Pi 2.] 漲る, 漲らす, 豊饒にする。
pela 男 鞏丸; 卵 *Mvyut.*
pelava 形 柔かい, 柔軟な, 繊細な; (一°)には繊細に過ぎる; 軽 *Bodh-bh.*
pelava-paṭa 男 軽殻, 羅殻 *Bodh-bh.*
pelava-puṣpa-patrin 形 繊細な花を矢とする。
pelu 男 または 女 置写 [数の名] 白盧, 婁羅 *Mvyut.*
peśa 男 [Piś] 裝飾。
peśana 形 (女-i) よく形づくられた; 飾られた, 美しい。
peśala 形 美術的に形づくられた, 飾られた; 美しい, 魅惑的な, 愛らしい; 柔軟な; 洗練された; 熟練した, 器用な, 巧妙な, 伶俐な; 清浄, 純浄; 妙勝全, 具全; 美; 柔和, 柔和善順, 心性和柔, 調柔尊重, 尊善好 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*: su～ 極調柔 *Daś-bh.* 48. 中 美, 魅惑。～m 副 優美に, 繊細に。
peśala-citta 形 其心純浄 *Bodh-bh.*
peśalatva 中 器用, 熟練。
peśala-madhya 形 細い腰をした, 柳腰の。
peśalākṣa 形 麗しい目の。
peśalākṣatā 女 [同上 圖]。
peśali-Kṛ, 魅力的にする, 美しくする。
peśas 中 形, 像; 美術的の像, 裝飾, ししゅう(刺繍)刺繍した衣服。
peśas-kārin 男 すずめ蜂。
peśas-kāri 女 女刺繍師。
peśas-kṛt 男 (造形者すなわち)手; すずめ蜂。
peśi 女 肉塊; 筋肉; [太鼓の一種]; 團, 肉団成団, 軟骨, 砲, 凝結; 長条 *Av-s.*, *Mvyut.*, 立忘。置写 閉戸, 卑戸, 閉戸, 蔽戸, 算戸, 俾戸, 罽羅 *Lank.*, *Mvyut.*, 立忘。→ *māmsa*～。
peśi-ghanārbuda 中 (置写) 蔽戸厚砲膏, 閉及稠胞 *Lank.*
peśy-aṇḍa 中 肉片(とくに妊娠直後の胎児)。

peṣa 形 (因-i) (一°) を砕く, …を挽く. 男 (…を
または…によって 一°) を砕くことまたは挽くこと.
peṣaka 男 (一°) を砕くもの, …を挽くもの.
peṣana 中 砕くこと, 挽くこと. ~m Yā 砕かれる.
peṣaṇi 因 石の挽き臼.
peṣikā 因 =peṣaka.
peṣi-Kṛ. 砕く, 挽く.
peṣṭr 男 砕くもの, 挽くもの.
peṣtra 中 骨.
peṣya 未受分 (一°) に砕かれるべき.
paiṅgala 男 [Piṅgala からの 父系]. 中 Piṅgala の
著作.
paiṅgalya 中 黄褐色.
paiṅgi 男 [Yaska の 父系].
paiṅgin 形 Paiṅgya に由来する. 男 Paiṅgya の遵
奉者.
paiṅgya 男 [ある師の 父系]. 男 Paiṅgya の教理.
paicchilya 中 粘性.
paija 男 [ある師の名].
paijavana 男 Pijavana の息子; [諸人の 父系].
paiṭhara 形 (因-i) [piṭhara から] 深鍋で煮られた.
paiṭhinasi 男 [ある古師の 父系].
paiṇḍapātika 形 [piṇḍa-pāta から] 施物で生きる;
漢訳 乞食, 常乞食, 次第乞食, 団随, 食団 Dharm-s.,
Mvyut., 玄応; 音写 分衛, 分越, 賓茶夜, 賓茶波
多 玄応.
paiṇḍilika 男 漢訳 乞食 Śikṣ.
paitāputriya 形 [pitā-putra から] 父と子とに関する.
paitā-maha 形 (因-i) 祖父に関する, 祖父から受け
継いだ; Brahman 神に属するまたは関する; 漢訳 祖
父 Lal-v. 男 Brahman 神の息子.
paitudāra 形 Pitudāru 樹から由来する.
paitrka 形 (因-i) 父方の, 祖先の; 祖霊に関するまた
はに献じた; 漢訳 霊 Divy. 中 父方の家; 父の気
質; 祖霊に献じられた儀式 = Śrāddha 祭.
paitṛmedhika 形 [pitṛ-medha から] 祖霊への供養
(=葬儀)に関する.
paitṛyajñika 形 [pitṛ-yajña から] [同上].
paitṛyajñiya 形 [pitṛ-yajña から] [同上].
paitṛṣvaseya 形 (因-i) [pitṛ-ṣvasṛ から] 父の姉妹か
ら生じた. 男 父方のおばの息子.
paitta 形 (因-i) 胆汁に関する, 胆汁質の.
paittika 形 (因-i) [同上]; 胆汁質をもつ.
paitra 形 (因-i) 祖霊に関するまたはに献じられた.
paināka 形 Śiva 神に属するまたはから起る. 男 父系
Pināka の後裔.
paippala 形 Pippala 樹すなわち神聖ないちじく(無花
果)樹の材で造った.
paippalāda 形 Pippalāda に由来する. 男 父系 Pi=
ppalāda の後裔; 種 [Atharva-veda の一学派の
名].
paippalādi 男 [Pippalāda からの 父系].
paila 男 母系 Pīlā の息子; [ある師の名].
pailava 形 Pīlu 樹で造った.
pailottaka, -ttika 中 漢訳 [Pali pilotikā 参照] 漏器
Mvyut.

paiśalya 中 愛想のよいこと.
paiśāca 形 (因-i) Piśāca に関するまたは固有な; 悪魔
に属する, 悪魔のような. 男 =piśāca; [結婚の諸
形式中の第八番目で最下等のもの(男が睡眠・酩酊・
精神錯乱中の娘を誘拐する場合をいう)]; [ある種族
またはその言葉の名].
paiśāca-graha 男 悪魔の憑くこと.
paiśācika 形 (因-i) Piśāca に関する, 悪魔のような.
男 漢訳 鬼音 Mvyut.
paiśuna 中 告げ口, 密告, 中傷, 讒謗.
paiśunika 形 中傷的な (Divy.); 漢訳 綺語 Gaṇḍ-
vy.
paiśunya 中 =paiśuna. 漢訳 両舌, 両舌語, 離間,
離間語, 誑言 Abh-vy., Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut.,
Prat-m., Śikṣ., Sūtr., Suvik-pr.: ~āt prativiratih
不両舌, 不誑言 Mvyut.
paiśunya-vādin 形 中傷的な.
paiṣṭa 形 (因-i) 小麦粉またはあら粉で作った.
paiṣṭika 形 [同上].
pogaṇḍa 形 まだ完全に成長しない, 若々しい; 不具
の. 男 少年.
Poñch, I. 中 poñchate [正しくは proñchati (Uñch),
Pali puñchati] 清める (Divy.491). → Uñch
(pra-).
poñchitum 不定 中 → Uñch(pra-).
poṭā 因 男女両性を具えた人またはひげをたくわえた
女, 下婢.
poṭi 因 直腸.
pota 男 動物の子 [動物の名とともに 一° のみ]; 若芽,
若い植物 [植物の名とともに 一° のみ]; 漢訳 子, 雛
Abh-vy., Divy., Śikṣ. 男 中 小舟, 船, 短艇; 漢訳
船, 船舫, 大舟, 舟航 Daś-bh., Lal-v., Saddh-p.,
Suv-pr.
potaka 男 動物の子; (一°) 若(木); 漢訳 子, 小兒
Lal-v.
potatva 中 短艇または舟たること.
pota-plava 男 舟乗り.
pota-bañij 男 =pota-vañij.
pota-bhaṅga 男 難船.
potaraka 男 または 中 [同下] (仏教).
potala 男 または 中 [Indus 河口の海港の名, (後世で
は Lhasa の Dalai Lama の居住する宮殿等にも
用いられる)(仏教)].
potalaka 男 ポタラ山, 普陀落山; 漢訳 [山の名] 白
花山, 海島 Mvyut.; 音写 補世洛迦, 補陀落迦
Gaṇḍ-vy., Mvyut.
pota-vañij 男 航海商人.
potādhāna (°ta-ādh°) 中 幼魚, 幼魚の群.
potāsa 男 樟腦(の一種).
potikā 因 布, 衣.
potṛ 男 (清める人) [十六人の祭官の一人, 理論上
brahman 祭官を補佐する].
potra 中 Potṛ 祭官に属する Soma の杯; Potṛ の職;
野猪の鼻.
potraka 男 [人名].
potrin 男 野猪.

potri-rathā 因 [Maya の称] (仏教).
 potriya 形 Potr に属するまたは関する.
 potha 男 打撃, (一°) の打撃.
 ponti 因 (Pāli ponti, ponti) 布, 頭巾, ぼろ(襤褸) (Dīvy.).
 popphala 因 [pūgaphala の 因] 檳榔子; 漢訳 木腰子 *Mvyut.* → pūgaphala.
 poplūyate 動 [Plu の 漢意]. → Plu.
 poma 因 漢訳 音写 [数の名] 普摩, 波麻麻 *Mvyut.*
 poṣa 男 繁栄, 隆盛; 発達, 増加; 豊富, 富; 養育, 育成, 培養; 漢訳 恩養, 長養, 養育, 養者, 育者, 養育者 *Aṣṭ-pr., Buddh-c., Daś-bh., Mvyut., Rā-ṣṭr., Śikṣ.*
 poṣaka 形 養う, 繁殖させる, 培養する; 漢訳 養育 *Bodh-bh.* 男 養育するもの, 繁殖させるもの.
 poṣa-grāha 男 漢訳 取長養 *Lank.*
 poṣaṇa 形 (一°) を養う, …を育てる, …を庇護する. 因 養育, 扶養, (樹・感官の)培養・養成; 漢訳 養, 養育 *Rāṣṭr., Śikṣ.*
 poṣaṇiya 未受分 養育されるべき.
 poṣadha 男 [=upoṣadha. Pāli (u)posatha] 精進, 精進日, 聖日 (*Jāt-m., Lal-v.*); 漢訳 長淨, 清淨戒, 清淨齋戒 *Lal-v., Mvyut.*; 音写 布薩, 布麗他, 褒麗陀 *Abh-vy., Mvyut.*
 poṣadha-vastu 因 漢訳 説戒根由, 長淨事; (音写) 布薩事, 褒麗陀事 *Mvyut.*
 poṣadha-sthāpana 因 漢訳 (音写) 開布薩, 開褒麗陀 *Mvyut.*
 poṣadhika 形 (因 -ikā) 精進日を守る(人); 漢訳 (音写) 持褒麗陀者 *Mvyut.*; 音写 布薩, 褒麗陀 *Mvyut.*
 poṣadhin 形 精進日を守る; 漢訳 持淨戒 *Lal-v.*
 poṣadhotsava (°dha-ut°) 男 精進日, 聖祭 (*Jāt-m.*).
 poṣayitnu 形 (業) を繁栄させる.
 poṣayiṣṇu 形 繁栄をもたらす, 有益な.
 poṣika 形 漢訳 能養 *Abh-vy.*
 poṣiṭṭr 男 養育する者, 繁殖させる者.
 poṣin 形 (一°) を培養する, …を養育する.
 poṣuka 形 繁栄する.
 poṣṭr 男 養育者, 育成者.
 poṣya 未受分 繁栄する, 栄養のよい; 豊富な; 栄えさせる; 養育されるべき.
 poṣya-putraka 男 養子.
 paumścaliya 形 [pumś-cali から] 娼婦に関する.
 paumścalya 因 [pumś-cali から] (女が) 男の跡を追うこと, 淫売.
 paumsna 形 人の; 男に適した; 漢訳 男, 男人 *Abh-vy.* 因 男らしさ, 男性的の力.
 paumsya 形 雄々しい, 男に固有な. 因 男らしさ; 雄々しい力・勇気または行為; 因 男の群.
 paugaṇḍa 形 少年らしい. 因 少年時代(五歳乃至十歳). → pogauṇḍa.
 pauccha 形 尾にある, 尾の.
 paunaki 男 因系 *Punaka* の後裔.
 paundarika 形 蓮で造られた(花環). 男 (十一日間続く)ある Soma 祭.
 paundra 男 [*Bhīṣma* の法螺貝の名]; 因 *Paundra* 族;

因 *Paundra* 族の王侯. 因 宗派の記号.
 paundra 男 因 [ある民族の名 = *Paundra*]; 因 *Paundra* の王侯; [ある混血種姓(階級)の名]. 因 (一°) の宗派の記号.
 paundra-matsyaka 男 [王侯の名].
 paundra-rāja 男 *Paundra* 族の王.
 paundra-varadhana 因 [町の名].
 paundra-viṣaya 男 *Paundra* の国.
 paunya 形 正しい行動をする, 徳のある, 価値ある.
 pautana 男 [国の名].
 pautināsikya 因 [pūti-nāsa から] 鼻の悪臭に悩むこと.
 pautra 形 (因 -i) 息子または児童に関するまたはから弄する; [iṣṭi 因 とともに] 息子を得ようとするための(祭式). 男 息子の息子, 孫; 漢訳 孫 梵千.
 pautraka 男 [同上 男].
 pautraki 因 孫娘.
 pautrāyaṇa 男 [pautra から] 因系.
 pautrikeya 男 息子のない父のために子孫を設けるために養子とされた娘 (putrikā) の息子.
 pautrikeyavat 形 養女の生んだ孫をもつ.
 pautrin 形 孫をもつ.
 pautri 因 孫娘.
 paudgalika 形 [pudgala から] 実質的な, 物質的な [*Pāli* puggalika] 個人の, 個人的な (*Dīvy.*); 漢訳 独, 己物, 己所有 *Rāṣṭr., Śikṣ.*; 縦情-*Bodh-bh.*
 paudgalika-paribhoga 男 漢訳 独(先)受用 *Śikṣ.*
 paunaḥpunya 因 [punaḥ-punaḥ から] しばしば繰返すこと.
 paunaruktya 因 [punar-ukta から] 反復; 類語反復
 paunar-bhava 形 再婚の女 (punarbhū) に関するまたは由来する. 男 再婚した婦人の息子.
 paunarbhavika 形 (因 -ā, -i) [punar-bhava から] 再生に関する; 漢訳 後有, 招後有, 又生, 更受生, 更受後生, 未来有; 引身 *Abh-vy., Av-ś., Bodh-bh. Lank., Mvyut.*; ~ā dharmāḥ 後有法 *Av-II. 107.*; ~i 後有愛 *Mvyut.*
 paunarvasava 形 医師 *Punar-vasu* に関する. (一°) [yuvan とともに] 医学生.
 paunarvācika 形 [punar-vāc から] 冗言の, 余計の
 paura 形 都市の. [因 -i: vāc (ā) とともに, または 独に] 都会風の, 礼儀正しい, 優雅な(言葉)(仏教) 漢訳 近, 城邑辺, 円上 [*Tib. groñ khyer du ḥg ba*] *Bodh-bh., Mvyut.*; ~i ca sā vān nirmi 又此化語円上 *Bodh-bh. 65.* [*Mah-v. III. 322* paūriyē vācāye とある. *Pāli* porī vācā.]. 男 民, 市民; 漢訳 人民, 臣民, 臣 *Dīvy., Kāśy.*
 paura-kānyā 因 都市の少女.
 paura-kārya 因 公務.
 paura-jana 男 町民, 市民.
 paura-jānapada 形 (因 -i) 都会と地方に属する. 因 市民と地方人; 漢訳 国土聚落 *Lank.*; 人民 *Ivy.*
 pauraṃjana 形 (因 -i) *Puraṃjana* および *Puraṃja* に由来する.
 pauraṃdara 形 (因 -i) *Puraṃdara* すなわち *Indra*

に属するまたは関する。

paura-mukhya 男 [pura-mukha から] 都市の首長。

paura-ruci-deva 男 [人名]。

paura-loka 男 闍 闍 町民, 市民。

paurava 形 (因-i) *Pūru* に属するまたはに由来する。

男 *Pūru* の後裔; 闍 *Pūru* の種族。

paura-vṛddha 男 =pauramukhya。

paura-vyavahārika 男 闍 守邑者, 守城者 *Mvyut.*

paurasakhya 闍 市民間の友誼または平等。

paurastya 形 前方 (puras) に位置した, 最前方の;

闍 東方の民族 (=Gauḍa 人)。

paurastya-pavana 男 東風。

paurāgra-gaṇya 男 都市の首長。

paurāṅganā 因 都市の婦人, 女市民。

paurāṇa 形 (因-i) 過去時に関する, 古代の; 闍 古,

故, 昔, 往昔, 往日, 古先, 宿, 宿作, 本, 本行 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Lal-v., Lan̄k., Saddh-p.*

paurāṇaka 形 闍 本 *Lal-v.* → paurāṇa。

paurāṇa-nagara 闍 闍 古城, 本城 *Lan̄k.*

paurāṇanagara-patha 男 闍 古城平坦正道, 本城平坦正道, 古城平坦旧道 *Lan̄k.*

paurāṇa-sthiti-dharmatā 因 闍 本住法 *Lan̄k.*

paurāṇika 形 (因-i) =paurāṇa; 古代の物語を熟知した; 闍 過去, 本(住) *Lan̄k.*

paurika 男 町民, 市民。

pauri, → paura。

paurukutsa 男 父系 *Purukutsa* の後裔。

pauruṣa 形 (因-i) 人間の; 男らしい; *Puruṣa* に属するまたは関する。男 一人で担うことのできる荷; 召使 (*Mah-v.*) 闍 男たること; 男らしいこと; 男らしい勇気または行為, 剛勇, 勇敢; 力 [智の因]; 人の身長; 世代; 男根; 闍 [*Pali porisa*] 高…人量 *Sukh-vy. I.: sapta~* 高七人量 *Sukh-vy. I. 43.* → a~。

pauruṣaka 男 召使=pauruṣa; 闍 使 *Divy.*

pauruṣika 男 *Puruṣa* の崇拜者。

pauruṣeya 形 (因-i) 人によって作られた, 人から出たまたはに属する; 精神または靈魂に由来する。闍 人の努力, 人の仕事; 闍 士用, 功力 *Abh-vy.* 男 雇人, 日やとい人夫 (*Saddh-p.*); [*Rākṣasa* の名]; 闍 僕, 僕使, 使者, 作使, 傭作者, 以利銭為業 *Bodh-bh., Divy., Mvyut.*; 士夫, 大臣 *Bodh-bh.*; 売酪, 魁膾者 *Divy., Mvyut.* → a~。

pauruṣeyatva 闍 人間にもとづいたこと, 人間の本性。

pauru-ṣṭuta 形 *Puruṣṭuta* すなわち *Indra* 神に関する。

pauruṣya 形 *Puruṣa* に関する。闍 男らしい行為, 勇気。→ rāja~。

pauru-hūta 形 *Puruhūta* すなわち *Indra* 神に関する。

paurūravasa 形 *Purūravas* に固有の。男 [*Purūravas* からの 父系]。

pauro-gava 男 王侯の厨房長。

paurodhasa 闍 [puro-dhas から] *Purohita* 祭官の任務または地位。

paurobhāgya 闍 [puro-bhāga から] 悪意, 嫉妬。

paurohitya 闍 [puro-hita から] =paurodhasa; 闍

門師 *Divy.*

paurṇa-māsa 形 (因-i) 満月に属するまたは関する, 満月の時に捧げられた。男 闍 満月祭。闍 満月の日。

paurṇa-māsi 因 満月の夜または日。

paurta 形 [=pūrta karman] 闍 (婆羅門への饗応, 井戸を掘ること等の) 功德のある行為。

paurtika 形 布施または慈善行為 (pūrta) に関する。

paurva 形 闍 前 *Sūtr.*

paurvaka 形 祖先に由来する, 継承された; 以前の, 昔の (*Vajr-pr.*); 闍 先, 前, 昔, 過去 *Aṣṭ-pr., Lal-v., Saddh-p., Vajr-pr.*

paurvakālya 闍 [pūrva-kāla から] 時間的に先き立つこと。

paurvajanmaka 形 [pūrva-janman から] 闍 先世, 前世, 前生, 過去世 *Sikṣ.*

paurvajanmika 形 [pūrva-janman から] 前生の (*Vajr-pr.*); 闍 宿生, 過去生 *Abh-vy., Vajr-pr.*

paurvadehika 形 [pūrva-deha から] 前世に関するまたはに由来する; 前生になされた。

paurvadaihika 形 [pūrva-deha から] [同上]。

paurvavidehaka 形 [pūrva-videha から] 闍 (音写) 東毘提訶 *Abh-vy.*

paurvāparya 闍 [pūrvāpara から] 前後の関係, 継起, 相続くこと; 闍 前後, 前後(所得)展転 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Sūtr.*

paurvāhṇika 形 (因-i) [pūrvāhṇa から] 午前に関する。

paurvika 形 (因-i) 前の, 先立った, 以前の, 古の (*Lal-v.*); 闍 本, 前 *Saddh-p.*

paurṣeya 男 [=pauruṣeya] 闍 作使者, 作業使人 *Sikṣ.*

paulastya 形 *Pulasti* または *Pulastya* に関するまたはから出た。男 父系 *Pulasti* または *Pulastya* の後裔; [*Kubera* 神 および *Ravana* 神の称]; 月(太陰)。

pauluṣi 男 [*Puluṣa* からの 父系]。

pauloma 形 *Pulomā* に関する または について説く。

男 闍 悪魔(の一種)。

paulomi 因 [*Indra* 神の妃の 父系]。

paulomi-vallabha 男 [(*Paulomi* の愛人), *Indra* 神の称]。

paulkasa 男 [*Niṣāda* または *Sūdra* を父とし *Kṣatriya* を母とする混血児]。

pauṣa 形 (因-i) 月が *Puṣya* 星宿にある時に関する。

男 [曆月の名, 十二月~一月]; 闍 十月 梵雜; 仲冬 *Mvyut.*

pauṣi 因 *Pauṣa* 月における満月の夜または日。

pauṣkara 形 (因-i) 青蓮華に関する。

pauṣkalya 闍 完全な発達, 全力。

pauṣṭika 形 (因-i) 繁栄または生長に関するまたはを助長する; (闍) を助長する; 闍 増益, 増長(吉祥), 円満 *Guhy-s., Mañj-m., Mvyut.*

pauṣṇa 形 (因-i) *Pūṣan* に属する または に関する, *Pūṣan* に捧げられた; 太陽に関する。闍 *Revati* 星宿。

pauṣpa 形 (因-i) 花に関するまたはで作られた; 闍

華, 如花 Lal-v., Lanik.

pauspaka 甲 または 形 [=puspaka]. 華 Lanik.

pauspaketava 形 愛神 Puṣpa-ketu に関する.

pauṣya 形 Puṣya 星宿に関する.

Pyai, I. 目 pyāyate 満ち溢れる, 膨脹する, 溢れる!

ā- (液体が)膨脹する, 醱酵する; (圓) で満ちる, 充滿する, 豊富となる; 増長 Abh-vy. 使役 他 目 āpyāyati(-te) 膨脹させる; 満たす, (Soma に水を)注ぐ; 促進する, 新たに作る, 力づける; 充たす, 増す. 使役 過受分 āpyāyita 肥えさせられた, 力づけられた.

sam-ā- 膨脹する, 増加する. 使役 samāpyāyati (-te) 養う, 生気をつける, 気分を爽快にする.

pra 1. 副 [動 とともに] 前に; 前方に, 進んで, 上に, 先の方に; [名 とともに °一] 前..., 先...; [とくに親族関係を表わす 名 とともに] 曾 [例 prapitāmaha 曾祖父, prapautra 曾孫]; [形 とともに °一] 極めて, 甚だ; 勝 Sūtr.

pra 2. 形 °一 充たす, 満足させる; 養う; 類似した. 甲 充実.

pra-ūga 甲 [恐らくは pra-yuga からの派生] (車の)かじ棒の前部; 三角形. 男 甲 [朝の Soma 压榨における第二の Śastra の名].

pra-kaca 形 如髮散乱 Mvyut.

pra-kaṭa 過受分 [恐らくは pra-kṛta の 副] 開示された, 顕わされた, 見える; 明顕 Mvyut.

°一, ~m 副 明らかに, 明白に. 男 [人名].

pra-kaṭana 甲 顕現, 明らかにすること.

prakaṭaya 名動 他 prakaṭayati 顕わす, 明らかにする; 示す, 暴露する. 過受分 prakaṭita 開示された, 示された. °一 副 明白に.

prakaṭa-raktānta-nayana 形 めじり(管)の著しく赤い.

prakaṭāya 名動 他 prakaṭāyati 顕わす, 告示する; 微拳 Lal-v.: kāṣāyāni vastrāṇi prakaṭāyati 微拳袈裟 Lal-v. 382.

prakaṭi-Kṛ, 顕示する, 示す, 開示する.

prakaṭi-BHū, 顕われる, 見える.

pra-kathita 過受分 説 Raṣṭr.

pra-Kamp prakampate. → Kamp.

pra-kampa 形 震える. 男 顛動, 震動; 震動 Mvyut.: ṣaḍ-vikārāḥ ~āḥ 六種震動 [1. pūrvā dig avanamati paścimā dig unnamati 東方没西方涌, 2. paścimā dig avanamati pūrvā dig unnamati 西方没東方涌, 3. dakṣiṇā dig avanamati uttarā dig unnamati 南方没北方涌, 4. uttarā dig avanamati dakṣiṇā dig unnamati 北方没南方涌, 5. antād avanamati madhyād unnamati 辺没中涌, 6. madhyād avanamati antād unnamati 中没辺涌] Mvyut.

pra-kampana 男 風; [ある Asura の名]. 甲 震動すること, あちらこちらに動くこと; 震動 Gaṇḍ-vy.

pra-kampita 甲 震動. 過受分 [pra-Kamp]; 動, 震動, 遍動, 徧動, 震動 Av-ś., Divy., Mvyut., Saddh-p., Sam-r.

pra-kampin 形 震える, あちらこちらに動く.

pra-kampya 未受分 おののかせられるべき, 震わせられるべき; 動 Aṣṭ-pr. → a~.

pra-kara 男 [Kṛ] (まき散らされた) 堆積, 量, 豊富.

pra-karaṇa 甲 生産, 創造; 論議, 説明, 論評; 論議の題目, 話題; 章, 節; 綱要書; 特殊論文, 専門論文; 戯曲(の一種) [仮想・架空の筋によるもの]; 分別, 弁別 Abh-vy., Mvyut.; 論, 注解 Abh-vy., Mvyut.; 品類, 衆事分 Abh-vy., Mvyut.; 縁 Divy.; 時, 極所作 Mvyut. asminn eva ~e この一点に関して, これに関して. asmin ~e 此時, 於此時 Mvyut. na ca ~m vetsyi お前は問題となった点が何であるかさえ知らない.

prakaraṇa-grantha 男 品類(足)論, 分別道理論 Abh-vy.

prakaraṇatas 副 適当な機会に.

prakaraṇatva 甲 (一°) を論議すること.

prakaraṇa-pāda 男 弁別句, 品類足論, 衆事分阿毘曇論 Mvyut.

pra-kari 因 [歌の一種]; (筋のつづきを明らかにするため挿入された) 短い間劇 (戯曲).

pra-kartavya 未受分 準備されるべき; 明らかにされるべき, 明るみに出されるべき; (因) に任命されるべき.

pra-kartṛ 男 原因となって起こすもの.

pra-karṣa 男 (優先, 有利), 卓越, 優越, 優秀; 強烈, 過度; 優勢; °一の多量(例えば adhva- 遠距離, kāla- 長時間); 勝, 最勝 Abh-vy.; 近中遠 Abh-vy.; 多時 Abh-vy. 形 °一 主として...に存する. 男, 因, °一 大いに, 強く, 徹底的に.

prakarṣa-gata 形 極度に達した.

pra-karṣana 男 煩わすもの, 悩ますもの. 甲 引きまわること; 突出; 延長, 長い継続.

pra-karṣavat 形 優れた; (一°) において顕著なものは卓越した.

prakarṣālabhāna (°ṣa-āl°) 甲 最勝所縁, 最勝境界 Madhy-bh., Madhy-vibh.

pra-karṣita 使役 過受分 交絡 Śikṣ.

pra-karṣin 形 引張る, 動かす, (軍隊を)指揮する 非常に優秀な, 最勝の (Jat-m.).

pra-kalpanā 因 分配, 配当, 決定.

pra-kalpita 過受分 適合させられた, 配列された, された; 思惟, 想 Bodh-bh.; 妄計, 起妄想, 分別彼法 Lanik.; 化作, 造変応 Divy., Mañj-m.

pra-kalpya 未受分 分配されるべき, 定められるべき

pra-kāṅkṣā 因 食欲.

pra-kāṇḍa 男 甲 木の幹 [根と枝との間]; 書籍の小節. °一 形 卓越した, 優れた.

pra-kāma 男 喜悦, 愛欲, 欲望の対象. ~m, ~ta °一 副 喜んで, 自ら進んで; 欲望のままに, 十分に; 実に, 全く.

prakāma-bhuj 形 心ゆくまで食う.

pra-kāra 男 種, 類, 族; 方法, 手段; 種, 種類, 品, 品類, 種類; 諸雑; 部, 別, 差別, (類)差別; 事; 相, 相貌, 諸色像; 行, 行相; 義; Abh-vy., Aṣṭ-pr., Av-ś., Bodh-bh., Lanik., Madh.

bh., Madhy-vibh., Mvyut., Nyāy-pr., Saddh-p., Śikṣ., Vijñ-v.: bhakṣya-bhojya ~ 種種飲食 Av-ś. I. 189. kena ~ eṇa どんな方法で, 如何に (Kar-vy.). ㊦ na kenacit prakāreṇāsti 無理趣可説為有, 無別道理令有 Madhy-bh. ~ aih なんとかして. rāmāyaṇasya bhāratasya vā ~ h 一種の Rāmāyana または Mahābhārata. ㊦ (一°) の性質の, …のような.

pra-kāraka ㊦ [同上 ㊦].

pra-kāratā ㊦ 特殊性.

prakāra-prabheda ㊦ 品類差別 Bodh-bh.

prakāra-bheda ㊦ 種差別, 品類差別, 品別 Bodh-bh., Sūtr.

pra-kāravat ㊦ ある種類に属する.

pra-kārya ㊦ 示されるべき.

pra-kālana ㊦ 駆る. ㊦ [ある Nāga の名].

pra-kāś prakāśate(-ti), → Kāś.

pra-kāśa ㊦ 輝く, 照らす, 清澄の, 明瞭な, 晃々たる, 顕われた, 開いた, 見えた, 公の; (一°) によつて生じたまたは引きおこされた; (圓, 一°) をもつてまたは(一°)で一般によく知られた; (一°) のように見える, …に類する; ㊦ 光, 明, 照, 焼照 Abh-vy., Sāmkhy-k.; 如, 猶, 猶如, 等 Gand-vy., Lal-v., Sūtr., Sv-pr.: kāñcana-giri ~ 等金山, (晃曜)如宝山(王) Sv-pr. 91.: gagana ~ 猶如虚空 Lal-v. 419. ~ m, ° ㊦ 公に, 一般に; 声高く [㊦ ㊦]. ㊦ 光沢, 壯麗, 光; 解説 [しばしば註釈; 書の表題において 一°]; 顕示; 栄光, 名声; 展覧; 出現; 発展, 普及; 空地, 空間; 公開; ㊦ 明, 光明; 照, 顕; 開, 露 Bodh-bh., Bodh-c., Divy., Lanik., Madhy-v., Sāmkhy-k.; 虚空 Lanik. ㊦ 明らかに, 確かに. ㊦ 公然と; 声高に.

pra-kāśaka ㊦ (因 -ikā) 清澄な, 晃々たる, 輝く; 広く一般に知られた, 名声のある; 照耀した; 明らかならしめる, 説明する; 表現する, 指示する. ㊦ 照らすもの, 太陽; ㊦ 光(相) Sāmkhy-k.

prakāśa-kartṛ ㊦ 太陽.

prakāśa-karman ㊦ 光明を与えることをその務めとする(太陽).

pra-kāśatā ㊦ 光輝, 光沢; 名声; 公開. ~ m Gam 知られるようになる.

pra-kāśatvā ㊦ 顕現, 出現, 名声; ㊦ 顕 Abh-vy.

prakāśa-devi ㊦ [人名].

pra-kāśana ㊦ 照らす. ㊦ 照耀; 顕わすこと, 顕示; ㊦ 照, 了, 顕了, 照了, 明了 Madhy-vibh.; 開, 開示, 正開演; 説, 広説, 顕説; 能現, 能顕 Bodh-bh., Gand-vy., Madhy-k., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.

pra-kāśanā ㊦ ㊦ 顕示, 開示, 開演, (正為他)開演(文義), 広説, 顕説 Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.: granthasyārthasya ~ (正為他)開演文義, 如道理及名句味顕説 Madhy-vibh. 211.

prakāśa-nāri ㊦ 公娼, 娼婦.

pra-kāśaniya ㊦ 示されるべき; ㊦ 応照了, 応顕了 Madhy-vibh.

prakāśaniyatva ㊦ [同上 ㊦] ㊦ 応照了, 応顕了

Madhy-bh.

pra-kāśayitavya ㊦ 使役 ㊦ 未受分 顕了または明白にさせられるべき; 顕示されるべき.

pra-kāśayitr ㊦ ㊦ 顕示, 開示 Abh-vy.

prakāśātmakatva (°śa-āt°) ㊦ 照耀.

prakāśātman (°śa-āt°) ㊦ 光耀を本性とする, 照耀する.

pra-kāśita ㊦ 過受分 現われた, 露わされた, 清澄の, 明白な; 明示された, 開かれた, 発見された; 照耀された, 照らされた; 公にされた, 発布された; ㊦ 示, 開示, 顕示; 宣説, 説, 演説 Bodh-bh., Lanik., Sam-r.; 所讃 Sv-pr.: samyak-su ~ 真実開示 Mvyut.

pra-kāśitā ㊦ 光輝, 光明.

pra-kāśitva ㊦ [同上].

pra-kāśin ㊦ 輝く, 照らす; (圓) を明るみへ出す, 闡明する.

prakāśi-kāraṇa ㊦ 照耀.

prakāśi-Kṛ, 照らす; 公けにする.

prakāśi-bhāva ㊦ 明るくなること, 夜明け.

prakāśetara (°śa-it°) ㊦ 明らかでない, 見えない.

prakāśya 1. ㊦ 未受分 明るみへ持ち出されるべき, 顕示されるべき; ㊦ 照, 令顕, 応照了 Sāmkhy-k.

prakāśya 2. ㊦ 不変分 ㊦ 照, 顕 Sāmkhy-k.

pra-kāśyatā ㊦ 公開.

pra-kirāṇa ㊦ 散布すること, ばらまくこと.

pra-kirṇa ㊦ 過受分 心の乱れた, 激した. → Kṛ. ㊦ 散; 雑, 誼雑, 蓬乱; 擺, 擺列 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ. ㊦ 雑多.

pra-kirṇaka ㊦ 散乱した, 雑多の. → bhikṣu ~. ㊦ 髪払い; 髪のおさ [馬の装飾]; 雑多; (法典に規定のない)特殊の訴訟(に対する裁決).

prakirṇa-keśa ㊦ (因 -i) 髪のお散乱した; ㊦ 散髪 Lal-v.

prakirṇa-keśin ㊦ ㊦ 頭髪蓬乱 Sv-pr.

prakirṇa-vāc ㊦ 雑多なことを話す, 饒舌な (Buddh-c.); ㊦ 雑言 Śikṣ.

pra-kirtana ㊦ 宣言, 告知.

pra-kirtanā ㊦ 述べること.

prakirtaya ㊦ 名動 ㊦ prakirtayati. → kirtaya.

pra-kirti ㊦ 讚嘆, 称揚.

pra-kirtita ㊦ 過受分 告知された, 宣言された, 明示された, 陳述された, 言われた, 言及された; 名づけられた, 呼ばれた; 可とされた, 讚嘆された, 称揚された; ㊦ 説, 所説 Mañj-m., Saddh-p., Śikṣ.

pra-kuñca ㊦ (約) 手一杯(に等しい量の単位).

pra-Kup prakupyati. → Kup.

pra-kupita ㊦ 過受分 → Kup.

pra-Kūrd prakūrdati. → Kūrd.

pra-Kṛ prakaroti, prakurute, prakṛnoti, prakṛnute 等. → Kṛ 1.

pra-kṛta ㊦ 過受分 → Kṛ 1. 応ずる [Tib. skabs dañ sbyar ba] (Abh-vy. 77.); ㊦ 所作 Daś-bh.; 於先身造 Av-ś.

pra-kṛtatva ㊦ 討議中の事柄 (Sāmkhy-k.); 感情を害すること (Jāt-m.).

pra-kṛti 因 (前に置くこと, 前提), 本来のまたは自然の形態または状態 [vi-kṛti (派生的の形態)の因]; 性質, 素質, 傾向, 気分; 基本形態, 型, 標準, 規則 [とくに儀式において]; 自然 [因 精神 (因)]; 因 物質的要素 [まれに]; (自然の) 始原的構成要素 [それから他のすべてが展開される, 八種がある, (avyakta 未顕現, buddhi 覚または mahat 大, ahaṃ-kāra 我慢 および五唯 tanmātras=五要素); まれに五要素のみを指す(因)]; (国家の) 構成要素 [普通七種: 王, 大臣, 城砦, 領土または人民, 財宝, 軍隊, 盟邦]; 戦争に関する種々の王侯 [第一義的な王侯として madhyama, vijigīṣu, udāsina, śatru の四種, 第二義的な王侯として mitra, ari-mitra, mitra-mitra, arimitra-mitra, parṣṇi-grāha, ākranda, pārṣṇigrāhāsāra, ākrandāsāsa の八種が区別され, これらの十二種の各々に, 五種の prakṛti (大臣, 領土, 城砦, 財宝, 軍隊)がある]; (王自身の国の) 構成要素(王自身を除く); 大臣; 人民, 市民; 因 因 語基部; 因 性, 本性, 自性, 性自, 自体, 稟性, 志性, 体性; 自性本来, 本, 本来, 本来性, 先来; 法; 自然, 自然本性; 実性, 真実之性, 真実之相; 性行; 受性自爾; 畢竟 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Buddh-c.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sāṃkhy-k.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suvik-pr.*, *Suv-pr.*; 事 *Lal-v.*; 因縁 *Suv-pr.*; 音写 [人名] 波機提 *Divy.* °— 因 自然に, 原始的に, 正当に; 原始状態において, 不変に; 因 [-tyā] 性, 本性, 稟性, 以性, 自性, 性自, 性本, 本自性, 任性; 本, 本来, 自然 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*: ~ tyāivopapadyamāna 稟性生時, 以性受生 *Bodh-bh.* 360.; ~ tyā prabhāsvaratvāc cittasya 心性本淨故, 心本清淨故 *Madhy-vibh.* 61.; ~ vinaṣṭāsaya 本無志力 *Gaṇḍ-vy.* 338.

-pra-kṛtika 因 [同上 °—]; 性 *Bodh-bh.*, *Sāpt-pr.* → kṛta ~, bodhi ~.

prakṛti-kṛpaṇa 因 ((因)につき)性来分別力薄弱な。

prakṛti-ja 因 性来の。

prakṛti-jāti-smara 因 自憶宿命 *Av-ś.*

prakṛti-duḥkhita 因 性苦, 性苦体 *Bodh-bh.*

prakṛti-durbala 因 体性怯弱 *Śikṣ.*

prakṛti-duṣṭa 因 自性悪 *Sūtr.*

prakṛti-duṣṭatva 因 性難調 *Śikṣ.*

prakṛti-parinirvṛta 因 (音写) 自性涅槃, 自性本来入於涅槃 *Lank.*, *Sūtr.*

prakṛti-parisuddha 因 本淨, 本性清淨, 自性清淨, 自性本来清淨 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Suvik-pr.*

prakṛti-parisuddhi 因 本清淨, 本性清淨, 本来清淨, 自性清淨, 畢竟清淨 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*

prakṛti-puruṣa 因 自然と精神 (因); 大臣; 召使。

prakṛti-prabhāsvara 因 性淨, 本性淨, 本性清淨, 自性清淨 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Sūtr.*

prakṛti-prabhāsvaratā 因 本性明白, 本性清淨 *Madhy-vibh.*, *Suvik-pr.*

prakṛti-prabhāsvaratva 因 本性清淨, 自性清淨

Madhy-vibh.

prakṛti-bhadratā 因 性自仁賢 *Bodh-bh.*

prakṛti-bhāva 因 原始的のまたは変更されない状態。

prakṛti-maṇḍala 因 人民の全体, 全領土。

prakṛtimat 因 原始的の・自然のまたは通常の状態または形態をもつ。

prakṛti-laya 因 prakṛti に帰入すること, 宇宙の解消 (*Sāṃkhy-k.*); [yogin の一階級の名]; 没性 *Sāṃkhy-k.*

prakṛti-vatsala 因 性慈愛, 性常慈愛 *Bodh-bh.*

prakṛti-vikṣepa 因 自性散乱, 自性散動 *Madhy-vibh.*

prakṛti-vimukta 因 本性解脱, 自性解脱 *Lank.*

prakṛti-vivikta 因 離性, 本性離 *Aṣṭ-pr.*

prakṛti-viśuddha 因 本性淨 *Madhy-vibh.*

prakṛti-śīla 因 性戒, 本性戒; (音写) 自性尸羅 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*

prakṛti-śūnyatā 因 性空, 本性空, 自性空 *Bodh-bh.*, *Dharm-s.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*

prakṛti-saṃpanna 因 高貴な性質を賦与された。

prakṛti-saṃbhūta 因 自性生, 從体生, 從本所生 *Madhy-v.*

prakṛti-sāvadya 因 性罪, 自性罪 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*

prakṛti-sāvadyatā 因 体性是罪 *Śikṣ.*

prakṛti-subhaga 因 自然に美しい。

prakṛti-stha 因 自然の状態または状況にある, 自然の, 生得の, 正規の; 健康な; よい環境にある; 性, 本性, 本性住, 住自然, 性種 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*: ~ m gotram 本性住種姓 *Bodh-bh.* 3.; ~ m bijam 本性住種子 *Bodh-bh.* 401.; suvarṇam ~ m 鉉性金 *Bodh-bh.* 331.

prakṛti-sneha 因 性深愛著 *Bodh-bh.*

prakṛtyendriya (°ta-in°) 因 根闇鈍 *Suvik-pr.*

prakṛty-abhāva 因 性(皆)空, 從本不実 *Suv-pr.*

prakṛty-ātmatā 因 性成就 *Bodh-bh.*

pra-Kṛṣ prakarṣati. → Kṛṣ. 1.

pra-kṛṣṭa 因 拡張した, 長い(道路); 顕著な。 → Kṛṣ 1. 勝, 最勝, 殊勝, 出勝 *Abh-vy.*, *Mvyut.*

pra-kṛṣṭatva 因 優秀。

pra-Kṛ prakirati. → Kṛ.

pra-Kṛp prakalpate. → Kṛp.

pra-kṛpta 因 過受分 → Kṛp.

pra-kṛpti 因 現存すること, 存在すること; 所を得たこと, 正当なこと; 假説, 執有 *Abh-vy.*

pra-keta 因 知覚, 知能, 理解; 知者。

pra-kopa 因 激烈(戦・病気の); 狂暴, 騒動, 暴動; 怒, 激怒; 乱, 錯乱, 心胃起興; 違損; 不平等 *Abh-vy.*, *Buddh-c.*, *Mvyut.* ~ m Kṛ (因) について怒る。

pra-kopana 因 (因-i) (一°) を刺激する, 激発させる... 因 いらだつこと; 煽動すること, いらだたすこと, 怒らすこと。

pra-kopana 因 [同上]。

pra-kopita 因 過受分 [Kup] 煽動された, 憤激さ

せられた。

pra-koṣṭha 男 前膊；宮殿の門に近い空地；宮殿の中庭。

pra-Kram prakrāmati, prakramate. → Kram.

pra-krama 男 大股の歩行(Br., S.); (男) 開始 [また S.]; 割合, 量; (語の正しい)配列, (文法的)構造; 𑖀 atikrama ~ 往来, 去来 *Vijñ-t.* 32.

pra-kramaṇa 男 大股に前進すること; (一°)の方に進むこと; 前進; 𑖀 行, 速行出; 越, 超越 *Abh-vy., Śikṣ.*

prakrama-bhaṅga 男 (文法的)構造の違反。

pra-krānta 過受分 → Kram. 𑖀 往, 至, 詣; 去, 已出; 遊, 遊行 *Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Sa-ddh-p.* 𑖀 撤去, 出発。

pra-krāntatva 男 開始; の意味されること。

pra-krāmaṇi 男 𑖀 [呪術の一種] 返 *Divy.*

pra-kriyā 女 手続き, 方法, 仕方; 儀式; 形式的なこと; 特権, 大権, 優越, 高位; (高位の)標識; 特徴の表示; 章; 𑖀 史(=史話); 根由(=因縁談) *Mvyut.*; 事業在前 *Lank.*

pra-Kriḍ prakriḍati(-te), prakriḍati(-te). → Kriḍ.

pra-kriḍa 男 娯楽; 運動場。

pra-kriḍita 過受分 → Kriḍ.

pra-kriḍin 男 遊戯する (RV.).

pra-Kruś prakrośati. → Kruś.

pra-kruṣṭa 過受分 → Kruś.

pra-Klid prakliḍyate. → Klid.

pra-kinna 過受分 → Klid.

pra-kvātha 男 煮沸 (*Jāt-m.*).

Prakṣ, Pṛkṣ (RV.) 過受分 pṛsta- 強められた, 励まされた。

upa- 満たす, 満足させる (Pṛc 参照)

ā- (安否を)たずねる (Pṛś, Prach 参照)。

pra-kṣapaṇa 男 破壊。

pra-kṣaya 男 [同上]; 壊滅, 終局。

pra-kṣaraṇa 男 流れ出ること。

pra-Kṣal prakṣālayati. → Kṣal.

pra-kṣālaka 男 洗う。男 洗う者。

pra-kṣālaṇa 男 (しばしば)沐浴する。男 洗うこと, 洗い落とすこと, 清めること, 浄化; 洗滌用水; 浄化の手段; 𑖀 洗, 洗除, 濯 *Divy., Lal-v., 梵雜.*

pra-kṣālana, =pra-kṣālaṇa.

pra-kṣālita 過受分 → Kṣal. 𑖀 滌, 洗濯 *Mvyut.*, 梵千。

pra-Kṣi prakṣiṇāti. → Kṣi 3.

pra-Kṣip prakṣipati(-te). → Kṣip.

pra-kṣipta 過受分 → Kṣip. 𑖀 置, 下; 投, 擲, 拳擲, 擲置; 植 *Divy., Gaṇḍ-vy., Lank., Madhy-v., Sapt-pr., Śikṣ.*: mahāndhakāra ~ 置幽闇処 *Gaṇḍ-vy.* 353.

pra-kṣiṇa 過受分 → Kṣi 3.

pra-kṣuṇṇa 過受分 → Kṣud.

pra-Kṣud prakṣuṇṇati. → Kṣud.

pra-Kṣubh prakṣubhate, prakṣubhyati. → Kṣubh.

pra-kṣubhita 過受分 𑖀 遍震, 徧震, 極擊, 極乱動 *Mvyut., Sam-r.*

pra-kṣepa 男 投げること, 投擲; …に投げることもまたは撒くこと; (足を)下ろすこと [pāda ~ 𑖀 歩行]; (後人の)挿入; (商組合員によって)供託された額; 𑖀 引入, 引置; 安 *Abh-vy., Mvyut.* → a ~.

pra-kṣepaṇa 男 …に撒くことまたは注ぐこと; (一°)の中にまたは上に投げること; (価格 一°)を定めること。

prakṣepa-lipi 女 𑖀 (音写) 般羅憩波書 *Lal-v.* 126.

pra-kṣepin 男 (一°)に投げるまたは置く。

pra-kṣeptavya 未受分 (男) の中にまたはの上に投げ込まれるべき; …の上に撒かれるべき; 𑖀 捨, 応加 *Abh-vy.*

pra-kṣepya 未受分 装われるべき(装身具)。

pra-kṣvedana 男 鉄箭。男 叫び; 𑖀 悄言以誇 *Mvyut.*

pra-kṣvedā 女 さわがしい音, ざわめき。

pra-kṣvedita 過受分 騒がしい, 叫ぶ, やかましい; 𑖀 唱 *Lal-v.* 𑖀 叫び, ざわめき, 絶えず唸ること (*Jāt-m.*).

pra-khara 男 非常に荒い。

pra-khala 男 大悪漢。

pra-khya 男 [KHyā] 見える; 明瞭な, 輝いている; 一° …の姿をもつ, …に類似する, …と同様な; …のように輝いているまたは美しい。→ pra-khyā.

𑖀 一° 如, 若, 同於 *Divy., Lank., Sūtr.*: sumeru ~ 若妙高 *Divy.* 492.

pra-KHyā prakhyāti → KHyā.

pra-khyā 女 外観, 姿; 光沢, 美 [一° 男のみ。→ pra-khya].

pra-khyāta 過受分 → KHyā.

pra-khyāti 女 知覚できること; 𑖀 光起 *Sutr.*

pra-khyāpana (使役) 男 (一°)を知らせること, (一°)の告知。

pra-khyāpita 使役 過受分 → KHyā.

pra-khyālaṇa 男 𑖀 [<pra-kṣālaṇa] 𑖀 洗 *Śikṣ.* 153.: pāda ~ 洗足 *Śikṣ.* 153.

pra-khyai 男 不定 [KHyā] (RV. 用例一回のみ)。

pra-gata 過受分 前進した, 出発した; 離れた, 別れた; かるうじて行った; 𑖀 極 (?), 増極 (?) *Abh-vy.* 653.

pra-Gam pragacchati. → Gam.

pra-gama 男 (求愛における愛の最初の)申し出; 𑖀 証, 品行 *Madhy-bh.*

pragamāmbana (°ma-āl°) 男 𑖀 勝得境界, 分証所縁 *Madhy-bh., Madhy-vibh.*

pra-Garj pragarjati. → Garj.

pra-garjita 過受分 唸り, 騒音; 𑖀 徧擊, 極吼, 最顛倒 *Mvyut.*

pra-gardhin 男 進もうと努める, 突進する (RV.).

pra-Gal, → Gal.

pragalbha 1. 名動 男 pragalbhate 勇敢である, 果断である; (男)に堪能である, (不定)ができる。

pra-galbha 2. 男 大胆な, 勇猛な, 果断な, 傲慢な; 成熟した(年齢); 𑖀 自大, 無有羞恥, 懷傲慢, 僣蹇驕傲 *Lal-v., Śivik-pr.*

pragalbha-kulāla 男 巧みな陶工。

pra-galbhata 因 大胆, 確信.
 pragalbha-dhārṣṭya 因 漢 匈暴, 鹵莽, 叫, 搖頭
 尾 *Mvyut.*
 pra-Gā prajigāti. → Gā 1.
 pra-gāḍha 過受分 → Gāh. 漢 逼切; 堅固; 精
 勤, 猛利, 深 *Bodh.-bh., Divy., Sūtr.* ~m 副 大
 いに, 非常に; 確實に, 堅固に; 漢 切 *Vijñ-t.*
 pra-gātha 男 [Satobrhati と Brhati または Kakubh
 との結合を一聯とする詩の形式]; [聖仙の名].
 pra-gīta 過受分 → Gai. 因 歌.
 pra-guṇa 形 まっすぐの, 正しい(道路); 良好な状態
 にある, 効力のある; 優れた; 漢 正, 順, 勝能
Abh-vy., Mvyut.
 praguṇaya 名動 他 praguṇayati 整頓する; 明白に
 する; 示す. 過受分 pra-guṇita 整頓された, 適当
 に整えられた.
 praguṇa-racanā 因 適当な順序にすること.
 pra-guṇita 過受分 → praguṇaya.
 pra-guṇin 形 (因) に対して親切な.
 praguṇi-karaṇa 因 整頓すること, 整理すること;
 漢 較正真, 調整 *Mvyut.*
 praguṇi-Kṛ, 適当な順序とする, 整える; (因) に従順
 にする.
 pra-grhita 過受分 → Grah. 漢 高, 挙, 広 *Aṣṭ-
 pr., Saddh-p.*; 取, 摂 *Aṣṭ-pr.:* ~āni cittāni 举
 心 *Aṣṭ-pr.*
 pragrhita-pada 形 各語が独立に発音された [すなわち
 sandhi によらない].
 pra-grhitavya 未受分 漢 可摂, 応摂取 *Gand-vy.*
 pragrhitañjali 形 漢 合掌 *Mvyut.*
 pra-grhya 1. 不変分 → Grah; 漢 受 *Lank.*
 pra-grhya 2. 未受分 独立に発音されるべき, sandhi
 の規則に従わない(母韻).
 pra-Gṛ pragrṇāti. → Gṛ 1.
 pra-ge 因 副 早朝に.
 pra-getana 形 早朝の.
 pra-Gai pragāyati. → Gai.
 praggharati 動 因 [<prakṣarati. pra-Kṣar. *Pali*
paggharati] 流れ出る; 漢 甚漏 *Mvyut.* →
 praggharati.
 pra-Grah pragrṇāti, pragrṇite. → Grah.
 pra-graha 男 呈示すること, 差し出すこと; つかむ
 こと, 捕捉すること; (太陽または月を)捕獲すること,
 蝕の始め; 親切; 強情[まれに]; 手綱, 馬勒[一般に];
 指導者, 指揮者; 伴侶, 従者; 漢 挙, 扯手 *Bodh-
 bh., Mvyut., Sūtr.*; 摂益 *Lal-v.*
 pragraha-kāla 男 漢 挙時 *Bodh.-bh.:* ~e 於応挙
 時 *Bodh.-bh. 205.*
 pra-grahaṇa 男 指揮者, 指導者 [一° 形のみ…に
 よって導かれた]. 因 つかむこと, 捕捉すること;
 蝕の始め; 漢 摂, 摂取, 乘, 受持 *Aṣṭ-pr., Daś-
 bh.:* dharmolkā ~ 乘法炬 *Aṣṭ-pr. 331.*
 pragraha-nimitta 因 漢 起相, 挙相 *Bodh.-bh.,*
Sūtr.
 pra-grahitavya 未受分 抑制すべき (*Vajr-pr.*); 漢 抑
 応摂伏, 摂伏; 降伏応, 降伏 *Vajr-pr.*

pra-grāham 因 (語を)独立にしておいて [すなわち sa-
 ndhi の規則に従ってそれらを結合しないで (*Br.*)].
 pra-griva 男 (家屋を)囲んだ手摺りまたは垣.
 pra-ghaṇa 男 [Han] (玄関外の)空地.
 pra-gharat 因分 因 [pra-Kṣar] 漢 流 *Divy. 472.;*
 臭悪 *Śikṣ. 78.* → pragharati.
 pragharati 動 因 [<prakṣarati. pra-Kṣar. *Pali*
paggharati] 流れ出る, 滲み出る, 流れる, 滴る
 (*Av.-ś., Divy.*). → pra-gharat.
 pra-gharita 過受分 因 [<prakṣarita. pra-Kṣar.]
 漢 涌 *Śikṣ. 77.*
 pra-gharṣa 男 摩擦.
 pra-ghāṇa 男 = pra-ghaṇa.
 praghātaya 名動 他 praghātayati (*Divy.*). →
 ghātaya.
 pra-ghātita 過受分 漢 害 *Śikṣ.*
 pra-GHṛ pragharati. → GHṛ.
 pra-ghoṣa 男 音, 騒音.
 pra-cakita 過受分 → Cak.
 pra-Cakṣ pracacṣte → Cakṣ.
 pra-caṇḍa 形 激烈なまたは急激な; 非常に有力な(熱);
 非常に猛烈な, 熱烈なまたは恐るべき; 漢 大, 猛,
 暴悪, 可畏 *Divy., Rāstr., 梵雜.:* ~duḥkha (種
 種)苦難堪難忍 *Śikṣ. 68.* 男 [ある Dānava の名].
 pra-caṇḍatari-BHū, 一層熱烈となる.
 pracanḍa-varman 男 [王の名].
 pra-catā 男 副 [Cat] [guhā とともに] ひそかに逃れ
 て (*RV.* 用例一回のみ).
 pra-caya 男 [Ci] 採集, 摘取; 蓄積, 蒐集; 多量,
 多数.
 pra-cayana 因 蒐集.
 pracaya-svara 男 [蓄積された音] アクセントの一種
 (Svarita に続くアクセントのない音節 (anudatta)
 がアクセントをもつもの (udatta) として発音され
 る).
 pra-Car pracarati(-te). → Car.
 pra-caraṇa 因 仕事に着手すること.
 pra-caraṇi 因 補助用の木製の匙 (器).
 pra-caraṇiya 未受分 実際に使用される (*Br., S.*).
 pra-carita 過受分 → Car. 漢 行 *Lank.*
 pra-caritavya 未受分 因 非人 とりかかるべきであ
 る.
 pracarita-sūnyatā 因 漢 行空 *Lank.*
 pra-Cal pracalati(-te). → Cal.
 pra-cala 形 動く, 震える, 動揺する.
 pra-calana 因 震動, 動揺; 逃避; 漢 動 *Abh-vy.*
 pra-calāya 名動 pracalāyati, te 居眠りして點頭す
 る (*Jāt-m.*).
 pra-calāyita (名動 過受分) 因 [āsina ~ 坐った姿
 勢で居眠りして點頭すること].
 pra-calita 過受分 → Cal. 漢 震動, 遍踊, 徧起,
 極震, 極動 *Lal-v., Mvyut., Sam-r.*
 pra-cāra 男 散歩, 歩き廻ること; (一°) を追求する
 こと; 姿を現わすこと, 明示, 出現; 適用, 使用;
 流行, 慣習; 行為, 行状; 牧場; 運動場; 漢 行
 行相, 相行, 所行, 現行, 往往, 行境界 *Abh-vy.,*

Bodh-bh., Buddh-c., Daś-bh., Lan̄k., Sam-r., Śikṣ.;
入, 普遊 *Daś-bh.*; (業)起 *Bodh-bh.* 255.

pra-cāraṇa ㊦ 撒布.

pra-cāratā ㊦ 現行, 所行 *Madhy-v., Sātr.*

pra-cārim ㊦ 歩き廻る; (因, 一°) に執着した; 活動する, 振舞う; ㊦ 行 遊行, 修行, (常)行; 得 *Daś-bh., Lan̄k.*

pra-cālaka ㊦ 揺, 掉, 挙 *Mvyut., Prāt-m.*
→ bēhu~.

pra-Ci pracinoti, pracinute. → Ci 1.

pra-Cit praciketti(-te). → Cit.

pra-cita ㊦ 過受分 [Ci] pracaya アクセントで発音された. → Ci 1.

pra-Cint pracintayati. → Cint.

pra-Cud pracodati. → Cud.

pra-cura ㊦ 豊富な, 広大な, 多量の, 多数の; しばしば起る; (一°) に豊富な, …に満ちた; ㊦ 多, 最多, 衆多, 饒; 興盛, 熾盛, 熾烈, 熾然 *Abh-vy., Bodh-bh., Lan̄k., Mvyut.*; 成弁 *Śikṣ.*

pracura-gaḥaṇa ㊦ 多くの不通過路をもつ.

pra-curatara ㊦ 比較 ㊦ 多 *Lan̄k.*; 極為熾然 *Bodh-bh.*

pra-curatā ㊦ 多種, 多数; ㊦ 熾盛 *Bodh-bh.* → vali~.

pra-curatva ㊦ [同上]; (一°) の豊富なこと.

pracura-ratna-dhanāgama (°na-āg°) ㊦ 宝珠と財貨との収入の多い.

pracuri-BHū, 拡大する.

pra-Crt pracrtati. → Crt.

pra-crtta ㊦ 過受分 → Crt.

pracrtta-śikha ㊦ 弁髪を解いたまたは垂れ髪.

pra-cetas ㊦ 注意深い, 理解力のある, 賢明な (因).
男 (園) [*Varuṇa* 神の称]; [ある *Prajāpati* または聖仙の名]; [諸王侯の名].

pra-ceya ㊦ 伝播する, 諸方へ流布する (*Jāt-m.*).

pra-codana ㊦ 煽動, 刺激; 命令.

pra-codita ㊦ 使役 ㊦ 過受分 → Cud. ㊦ 問, 興請問 *Lan̄k.*

pra-codin ㊦ (一°) を前進させる, …を駆る.

pra-cCHad pracchādayati(-te) (使役). → CHad 1.

pra-cchada 男 覆い物, 敷布.

pra-cchanna ㊦ 過受分 [CHad] 隠された, 秘密にされた, 姿を変えた等; ㊦ 覆蔵, 蔵隠, 隠身 *Buddh-c., Divy., Śikṣ.* ~m ㊦ 竊 *Divy.*

pra-cchādaka ㊦ (一°) を蔽う, …を隠す. 男 (弦楽器の伴奏により夫に捨てられた婦人の孤独な状態を) 暗示する歌.

pra-cchādana ㊦ (一°) を蔽う, …を隠す. ㊦ 隠蔽; ㊦ 覆形, 覆身勿現肢体 *Śikṣ.*

pra-cchādānā ㊦ ㊦ 隠蔵, 覆蔵 *Vijñ-t.*

pra-cchādita ㊦ 使役 ㊦ 過受分 → Chad 1. ㊦ 深覆 *Śikṣ.*

pra-cchādya ㊦ 未受分 隠されるべき.

pra-cchāya ㊦ (?) 蔭の多い場所, 蔭.

pra-cchita ㊦ 過受分 [CHā].

pra-cCHid pracchinatti, pracchintte. → CHid.

pra-cchinna ㊦ 過受分 ㊦ 断, 断除 *Mvyut.*: ~o
granthaiḥ 断諸結縛, 断除諸結 *Mvyut.*

pra-cCHuḍ pracchoḍayati (使役). → CHuḍ.

pra-ccheda 男 断片, 細片; 音楽上の区画, 小節(?) (*Divy.*). ㊦ 分分, 可分段 *Abh-vy.*

pra-cyavana ㊦ 撤退, 退去; (因) の喪失.

pra-Cyu pracyavate(-ti). → Cyu.

pra-cyuta ㊦ 過受分 落とされた, 貶された, 追放された等. → Cyu. ㊦ 没, 退, 已捨, 謝滅 *Abh-vy.*

pra-cyuti ㊦ = pra-cyavana; ㊦ 死 *Buddh-c.*

sāmyāvasthānāt~ 平衡を失なったこと.

Prach, VI. ㊦ [因 は大体 韻律] prcchati(-te) 問う, 尋ねる, …を問い合わせ; (園) について (園) に問う, (占星家に未来の運命を) 相談する; 求める, 探す; 請う, 懇願する; ㊦ 問, 問訊, 請問, 諮問; 啓白, 自言 *Abh-vy., Av-ś., Divy., Lan̄k., Prāt-m., Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Sapt-pr., 梵雜.* [na とともに] (園) を問題としない. nāmato mātaram Prach (園) の母の名を問う. ㊦ 過受分 ㊦ prcchamāna 自身に尋ねる. ㊦ prcchyaṭe (園) について問われる [園 および 園 において間接目的語は時として 園, 因, prati, -arthe, -hetoḥ または adhikṛtya によって言い表わされる]. ㊦ 過受分 prṣṭa 尋ねられた, 問われた, 質問された, 懇請された, 欲求された [例外として間接目的語にかかる].

anu- 問う, 尋ねる; …を問い合わせ. ㊦ 過受分 anu-prṣṭa 問い合わせされた.

ava- *許可を求める; ㊦ 白, 囑 *Prāt-m.*: santam anavaprcchya 不白, 不囑 *Prāt-m.* 522.

ā- ㊦ [叙詩 はまた ㊦] (園) に暇を乞う, …と袂別する; (神に) 祈る; 問う, 尋ねる.

sam-ā- …に暇乞いをする, 別れを告げる.

pari- 問う, …について問う; (園) [間接目的語は例外として 園, 因, prati] を (園) に問うまたは尋ねる; ㊦ 問, 請問, 諮問, 借問, 敬問, 問訊 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lan̄k., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ.*

prati- 問う; (園) に (園) を尋ねる; ㊦ 問, 還問 *Aṣṭ-pr.*

vi- 問う, …について尋ねる; 尋ね出す.

sam- 談話する, 互いに挨拶する; 問う; …について尋ねる; (将来のことについて) 相談する. ㊦ 過受分 samprṣṭa 問われた.

pra-channa ㊦ 過受分 → CHad 1. ㊦ 覆蔵 *Śikṣ.*

~m ㊦ → CHad 1.

pra-CHā, → CHā.

pra-ja ㊦ 生じる, 出産する. → pra-jā.

pra-jaṅgha 男 [ある 猿の名]; [ある *Rākṣasa* の名].

pra-jaṅghā ㊦ [もも(股)の一部] (*Jāt-m.*).

pra-Jan 'prajāyatē(-ti). → Jan.

pra-jana 男 (㊦) 生殖, 受胎; 出生, 分娩. 男 生ましめるもの, 生殖者.

pra-janana ㊦ 生産する, 生殖する. ㊦ 受胎; 分娩, 生殖; 出生, 生誕; 繁殖; (一°) の生産; 生殖器; 後裔, 子供.

pra-jaya 男 勝利.

pra-Jalp prajalpati. → Jalp.
 pra-jalpa 男 談話；饒舌。
 pra-jalpana 男 話すこと，語ること。
 pra-jalpita 過受分 → Jalp.
 pra-java 男 急速，速力。
 pra-javana 男 非常に早く走る。
 pra-javita 過受分 駆りたてられた，刺激を受けた，鼓舞された；非常に早く走る。
 pra-javin 男 急ぐ，早く走る，速かな。
 pra-jas 男 一° = pra-jā. 子孫。
 pra-jahana 男 銷滅，除滅 *Gaṇḍ-vy.*: sarva-sattva-kleśa ~ 除滅一切衆生煩惱 *Gaṇḍ-vy.* 356.
 pra-jahita 過受分 中止された，棄てられた。
 pra-jā 男 生殖，繁殖，生誕；子孫，子女，家族，後裔；創造物，生きとし生けるもの；人々，民，(王の)臣；[一° 男 は pra-ja]；[漢語] 人；民；子；衆生，有情，群生；世間 *Abh-vy.*, *Av-s.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.*
 prajā-kāma 男 子孫を欲する。男 子孫を欲すること。
 pra-jāgara 男 見守る，目ざめた。男 見張人；見張，覚醒；目ざめること。
 pra-jāgarāṇa 男 覚醒，不眠。
 pra-jāgarā 女 [ある Apsaras の名]。
 prajā-guṇṭi 女 人民の保護。
 pra-Jāgr, → Jāgr.
 prajā-ghni 女 [-han の 女]。
 prajā-candra 男 人民にとっての月 [王侯の敬称]。
 prajā-tantu 男 家族の存続，子孫。
 pra-jāta-mātra 男 漢語 生，初生 *Lank.*
 pra-jāti 女 生殖，分娩，繁殖，生誕；生殖力。
 prajāti-kāma 男 繁殖を願う。
 pra-jātimat 男 生殖(に関する語)を含んだ(詩)。
 prajā-tirtha 男 生産のめでたい瞬間。
 prajā-dāna 男 子を生むこと。
 prajā-dvāra 男 [(子孫のための門戸)，太陽の称]。
 prajā-dhara 男 生物を保持する (*Viṣṇu* 神)。
 prajā-dhenu 女 乳牛のような人民。
 prajādhyaṅga (°jā-adh°) 男 [(生物の監督者)，太陽・*Dakṣa* 等の称]。
 pra-jāna 男 男 = prajānat 過受分 [Jñā]. 漢語 知，了知 *Aṣṭ-pr.* 100.
 pra-jānatā 女 [同上 女]。漢語 智 *Lal-v.* 34.
 prajā-nātha 男 [(生物の主)，*Brahman* 神・*Manu* または *Dakṣa* の称]；人民の保護者，王，王侯。
 prajā-niṣeka 男 子種の注入，受精させること。
 prajāntaka (°jā-an°) 男 [(生物の破壊者)，*Yama* 神の称]。
 prajā-pati 男 生物の主，繁殖を司る守護神，生命の保護者；創造主 [*Veda* 時代の諸神を主宰する至上神の名，この称は *Veda* 以後の時代において造物者と見なされた多くの聖者に適用される]；(人格化された)時間；火星；[諸人の名]；[漢語] 生主，衆生主；世主，世間主，世界主 *Aṣṭ-pr.*, *Buddh-c.*, *Lank.*, *Mvyut.*；九類主 *Mvyut.*；梵天，梵王，梵天王，有信天 *Divy.*, *Lank.*, *Mvyut.*；[漢語] 波闍波提 *Buddh-c.*, *Divy.*

prajāpati-nivāsini 女 [Gandharva 女の名] (*Kar-vy.*)
 prajāpati-pati 男 [*Brahman* 神の称]；[*Dakṣa* の称]。
 prajāpati-yajña 男 *Prajāpati* に対する祭儀=(法に基づいて)子供を生むこと。
 prajāpati-loka 男 *Prajāpati* の世界。
 prajā-pati 女 [*Śakyamuni* の叔母で乳母である婦人の名]；婦人，老婦人，淑女 (*Divy.*)；[漢語] [*Pali* *paṇḍarī*] 妻 *Divy.*
 prajā-pāla 男 [(生物の守護者)，*Kṛṣṇa* 神の称]；人民の保護者，王侯，王；[王侯の名]；[漢語] 王守護国，守護衆生 *Lank.*
 prajā-pālana 男 人民の保護；[漢語] 握天下 *Buddh-c.*
 prajā-pālya 男 人民の守護者または王者の役目。
 prajā-puṇya 男 人民の善行。
 pra-jāyini 男 男 まさに生もうとする；(一°)を生む，…の母である。
 prajā-rthe (°jā-ar°) 男 子孫のために。
 prajāvat 男 (因 -i) 子孫を生ずる，後裔を賦与する；子孫に富んだ，多産な；[-i] 受胎した；(一°)を生む，…の母である。
 prajāvati 女 兄弟の妻。
 prajā-vṛddhi 女 子孫の多いこと。
 prajā-vyāpāra 男 人民に対する配慮または関心。
 prajā-sṛj 男 [(世界の創造者)，*Brahman* 神または *Kaśyapa* の称]。
 prajā-han 男 (因 -ghni) 子孫を殺す。
 pra-Jinv prajinvati, prajinoti. → Jinv.
 pra-jihirṣu 男 まさに打とうとする。
 pra-jivana 男 生計，扶持。
 pra-jivin 男 [鴉王 *Meghavarna* の大臣の名]。
 pra-juṣṭa 過受分 → Juṣ.
 pra-Jū prajavate. → Jū.
 prajāśa (°jā-iśa) 男 生物の主，創造主；生殖を支配する守護神；人民の主，王侯，王。
 prajāśvara (°jā-iś°) 男 [同上]；[漢語] 世界主 *Śikṣ.*
 prajāhā (°jā-ihā) 女 子孫を欲すること。
 prajāji 男 [人名]。
 pra-jñā 男 理解力のある；(一°)を知った，…に通曉した；[漢語] 慧，知法 *Mvyut.*, *Vin.* → a ~。
 pra-jñatā 女 知識。
 pra-jñāpita 過受分 漢語 致立 *Divy.*；説 *Mudhy-v.*
 pra-jñāpta 過受分 命ぜられた，指定された；(痛として)配置された (*Divy.*)；[漢語] 敷，敷置，而敷其上，而為敷具；覆；設，施，施設，所敷設，所施設，所安立所説；制；擺；造；安置，建立 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mudhy-bh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Samr.*, *Śikṣ.*, *Siv-pr.*, *Vajr-pr.*；教授 *Bodh-bh.*；具表 *Śikṣ.*；化作 *Saddh-p.*：~ evāsane nyaṣidat 敷如常座(結跏趺)坐 *Sapt-pr.* 193.；buddha ~ śikṣā 仏教勅 *Śikṣ.* 19.；simhāsanam ~ m 設師子座，擺獅座 *Mvyut.* → āsāna ~。
 pra-jñāpti 女 教訓，報知；知らせること；言葉による表示；陳述；指示；配置；[擬人化された魔術の一種]；[漢語] 仮，仮立，仮安立，仮施設，虚仮，仮名，

仮名字, 施設, 施設仮名, 施設制, 制, 建立, 建立施設; 立名; 定; 整理; 按上; 言説; 正表 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Madh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Sātr.*, *Su-vik-pr.*: pūrvikā ~ h 創制 *Divy.543.* → āsana ~

prajñapti-kausika 男 [Prajñapti 魔術に通じたある師の名].

pra-jñapti(tas) (?) 所施設, 言説, 仏所立 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*

prajñapti-dharma 男 仮, 仮名法 *Abh-vy.*

prajñapti-bhāṣya 男 [論の名] 仮名論, 施設(足)論 *Abh-vy.*

prajñapti-mātra 男 唯施設, 唯仮建立, 施設仮名, 施設量 *Bodh-bh.*, *Lank.*

prajñapti-mātraka 男 施, 施設, 唯仮名 *Lank.*

prajñapti-vāda 男 仮説 *Bodh-bh.*

prajñaptivāda-svabhāva 男 仮説自性 *Bodh-bh.*

prajñapti-vādin 男 [仏教部派の名] 説仮部, 執一切語言部 *Mvyut.*

prajñapti-vyavasthāna 男 施設建立, 仮建立, 流布 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*

prajñapti-śāstra 男 [論の名] 施設論 *Mvyut.*

prajñapti-saṃvṛti 男 仮世俗, 立名俗諦 *Madhy-bh.*

prajñapti-sat 男 仮, 仮名, 仮有, 仮名有, 仮有情, 仮名人 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*

prajñapti-sāvadya 男 遮罪, 制罪 *Abh-vy.*

prajñā-pradīpa 男 慧燈 *Śikṣ.*

prajñā-viyūha 男 韻律 [^ovīyūha] 惠嚴 *Śikṣ.*

pra-Jñā prajānāti. → Jñā.

pra-jñā 男 教訓, 報知; 識別, 判断, 知能, 了解; 知慧, 知; 目的, 決心; 慧, 妙慧, 勝慧, 覺慧, 智, 智慧 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Dharm-s.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*; *Sūtr.*, 梵千.; 音写 般若 *Bodh-bh.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Sūtr.*, *Vajr-pr.*: tri-vidhā ~ 三慧 [1. śrutamayī ~ 聞所成慧, 聞生慧, 聞慧, 2. cintāmayī ~ 思所成慧, 思生慧, 思慧, 3. bhāvanāmayī ~ 修所成慧, 修生慧, 修慧] *Mvyut.*

prajñā-kūṭa 男 [菩薩の名] 智積 *Saddh-p.*; 音写 般若拘 *Saddh-p.*

prajñā-kośa 男 [人名].

prajñā-khaḍga 男 般若刀 *Su-vik-pr.*

prajñā-gupta 男 知慧によって護られた.

prajñā-gocara 男 慧境界, 智所行 *Lank.*

prajñā-cakṣus 男 理解の眼; 慧眼, 智慧眼 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy.1.*, *Sūtr.*, *Vajr-pr.* 理解の眼をもって見る; 心で理解する, 賢明な; 盲目の.

prajñā-cāra 男 慧行 *Bodh-bh.*

prajñā-jīva 男 慧命 *Sūtr.*

prajñā-jñāna 男 慧智, 智慧 *Daś-bh.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*

prajñājñāna-viśiṣṭa-locana 男 廣大智慧觀 *Saddh-p.*

prajñādhyā (°nā-ādhy°) 男 [(知慧に富んだ); 人名].

pra-jñāta 男 よく知られた. → Jñā. 所知識 *Divy.*

pra-jñātavya 男 知られるべき.

pra-jñāti 男 教訓, 知識, 報知; (男) への道を明らかにすること.

pra-jñātr 男 道を知る者, 案内者.

prajñātman (°nā-āt°) 男 知慧を本性とした, 知慧につつまれた.

prajñāditya (°nā-ād°) 男 [(知慧の太陽), 賢人の称].

prajñāditya-maṇḍala 男 慧日, 慧日輪 *Gaṇḍ-vy.*

prajñā-daurbalya 男 失慧 *Mvyut.*

prajñā-dhana 男 慧財 *Mvyut.*

prajñādhiṣṭhāna (°nā-adh°) 男 慧処, 慧摂持 *Mvyut.*

pra-jñāna 男 認知; 知識; 承認の表徴, 識別の標識; 記念するもの; 了, 知, 覚; 見知, 可知 *Abh-vy.*, *Madh-bh.*, *Sūtr.*

prajñāna-tṛpta 男 知慧で満足した, 知慧に満ちた.

prajñāntarāya (°nā-an°) 男 破慧 *Śikṣ.*

pra-jñāpana 男 述べること; 按上, 整理 *Mvyut.*

prajñā-parihāṇi 男 智慧…減 *Dharm-s.*; 慧…減 *Sūtr.*

prajñā-pāramitā 男 最高度の知識または理解; 智慧到彼岸 *Mvyut.*; (音写) 慧波羅蜜, 慧波羅蜜多, 般若到彼岸 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 音写 般若波羅蜜, 般若波羅蜜多 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*; [経名] 般若経 *Śikṣ.*: ~ ardhā-śatikā ((百五十(頌)般若波羅蜜多経)) [= prajñāpāramitā-naya-śatapañcāśatikā] *Madhy-v.*

prajñāpāramitā-naya-śatapañcāśatikā 男 [経名, 大樂金剛不空真実三摩耶経, 金剛頂瑜伽理趣般若経, 般若理趣分(大般若経第十会)等].

prajñāpāramitā-pañca-śatikā 男 [経名] (音写) 般若五百頌 *Mvyut.*

prajñāpāramitā-pratīvarṇika 男 作如智慧到彼岸, 像似慧到彼岸 *Mvyut.*

prajñāpāramitā-bhāvanā 男 (音写) 修般若波羅蜜多 *Aṣṭ-pr.*

prajñāpāramitāṣṭasahasrikā (°tā-aṣ°) 男 [説名] (音写) 八千頌般若波羅蜜多経 [大般若波羅蜜多経第四会, 小品般若波羅蜜経等] *Śikṣ.*

prajñāpāramitā-sūtra 男 (音写) 般若波羅蜜多経 *Prajñ-vy.*

prajñāpāramitā-hṛdaya 男 [二種の仏典の名: 1. 般若波羅蜜多心経等, 2. 普遍智藏般若波羅蜜多心経等].

prajñāpeta (°nā-ap°) 男 知識を欠いた.

prajñāpya 男 施設, 仮名 *Lank.*

prajñā-pratibhāsita 男 [Samādhi の名] (*Kar-vy.*).

prajñā-pradīpa 男 [Samādhi の名] 慧燈, 慧炬 *Mvyut.*

prajñā-bala 男 慧力, 智力, 智慧力 *Mvyut.*, *Sūtr.*

prajñā-madhya-vyavasthāna 田 処中智 *Saddh-p.*
 prajñāmaya 形 知慧からなる。
 prajñāmalā (°nā-am°) 因 淨慧, 淨智 *Abh-k.*
 prajñā-mātrā 因 認識の要素または基礎, 感官。
 prajñā-yukta 形 修智慧者, 智者 *Lank.*
 prajñā-ratna-samanvāgata 形 慧宝成就, 具大宝慧, 大宝慧 *Mvyut.*
 prajñāloka (°nā-āl°) 形 慧光明, 智光明 *Ast-pr.*
 prajñāvat 形 智慧のある, 賢明な, よく知っている, 伶俐な; 有慧, 具慧, 有智慧, 具智慧, 智慧具足, 具足妙慧, 聰明多智, 智慧明了, 智慧究竟 *Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Vajr-pr.*
 prajñāvattama 最上 功智弁者 *Lal-v.*
 prajñā-vāda 男 知慧の語。
 prajñā-vimukta 形 慧解脱 *Mvyut.*
 prajñā-vimukti 因 慧解脱, 慧脱 *Sūtr.*
 prajñā-viśeṣa 男 慧差別, 智勝因 *Abh-vy.*
 prajñā-vṛddha 形 智慧にたけた。
 prajñā-śāstra 田 般若劍, 慧刃 *Bodh-c., Suvik-pr.*
 prajñā-sampad 因 慧具足, 智慧具足 *Bodh-bh., Śikṣ.*
 prajñā-sahāya 形 智慧をともなった, 賢明な, 智慧のある, 伶俐な。
 prajñā-sāgara 男 [ある大臣の名]。
 prajñā-skandha 男 慧蘊, 慧衆, 知聚 *Ast-pr., Mvyut., Vin., Sūtr.*
 prajñendriya (°nā-in°) 田 慧, 智根, 慧根, 恵根 *Madhy-bh., Mvyut., Śikṣ., Sūtr.*
 prajñopāya-viniścaya-siddhi (°nā-up°) 因 [仏典の名, *Anāgavajra* 作]。
 pra-jvara 男 疫病, 暴疫病 *Mvyut.*
 pra-jval prajvalati(-te). → Jval.
 pra-jvalana 田 燃え上ること。
 pra-jvalita 過受分 → Jval. 焼, 然, 熾然, 炯然, 放火 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Saddh-p., Śikṣ.* 田 燃え上ること, 燃烧。
 pra-jvāra 男 熱病。
 pra-jvālana 田 (火を)点ずること。
 pra-jvālā 因 火炎。
 pra-ḍi, → ḍi.
 pra-ḍina 過受分 飛び去った, 飛び上った。田 飛翔。
 pra-ṅakha 田 (?) 爪先。
 pra-ṅata 過受分 屈した等。→ Nam. 低向, 傾向, 曲(躬), 傾(身), 曲躬恭敬, 恭敬, 謙下, 謙格; 隨 *Ast-pr., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Rāṣṭr., Saddh-p.*; 尋 *Mvyut.*; 轉變 *Madhy-vibh.*: avanata-kāyāḥ ~ kāyāḥ samnata-kāyāḥ 曲躬, 傾身 *Saddh-p.* 485.; ye ...parvatās te 'pi sarve yena bodhi-maṇḍas tena ~ ā abhūvan 大小諸山皆悉低峯向菩提樹 *Lal-v.* 273.
 praṅata-kāya 形 身を屈めた (*Saddh-p.*); 曲躬, 傾身 *Saddh-p.* → pra-ṅata.
 praṅata-pratyak-satya 形 尋各真諦 *Mvyut.*

praṅata-bahu-phala 形 多くの果実またはよい物が捧げられた。
 praṅata-śarira 形 曲躬頂礼, 礼侍 *Gaṇḍ-vy.*
 praṅatāṅga 形 曲躬 *Gaṇḍ-vy.*: ~ ā nama-syanti 曲躬恭敬, 拳体投地, 五体敬礼 *Gaṇḍ-vy.* 128.
 praṅatātmatvat (°ta-āt°) 形 身を屈めた, 低頭した。
 pra-ṅati 因 (圓, 因, 一°) に対する敬礼・恭々しい挨拶または服従。
 pra-ṅad praṅadati. → Nad.
 pra-ṅadita 過受分 → Nad.
 pra-ṅapāt 男 曾孫。
 pra-ṅapṭṛ 男 [同上]。
 pra-ṅam praṅamati(-te). → Nam.
 pra-ṅama, → ekā~.
 pra-ṅamana 田 (圓, 一°) の前に敬礼すること。
 pra-ṅamanatā 因 → avanamana~.
 pra-ṅaya 男 先導者; 指導; 顕示, 發揮; (因) に対する信頼; 友誼的な尊敬; 親交; 愛情, 愛; (愛人の) 愛着, 愛情の発露; (因) に対する願望, ...に対する渴望; (根拠を) 提示すること (*Jat-m.*); 恭順, 敬慎, 親愛, 相投; 契友, 心疼者 *Bodh-bh., Mvyut.* 圓, 因, 一° および ~ opetam 圓 信頼して, 恐れることなく; 腹蔵なく, 遠慮なく。
 praṅaya-kalaha 男 親愛のあまり起る喧嘩。
 praṅaya-kupita 形 愛のために怒った, 怒りを装った。
 pra-ṅayana 田 持ち来ること, 取り来ること; 取り来る方法または器物; 顕示, 發揮; 拳示; (武器を) 揮うこと, 罰(*daṇḍa*)を課すること; 創設, 建設; 遂行, 執行; (一°) の構成; (一°) を満足させること, 飽かしめること; 當為 *Bodh-bh.*
 praṅaya-peśala 形 愛情のこまやかな。
 praṅaya-prakarṣa 男 極度の愛着。
 praṅaya-bhaṅga 男 信頼を裏切ること。
 praṅaya-madhura 形 愛によって甘い。
 praṅaya-maya 形 信頼に充ちた (*Jat-m.*)。
 praṅaya-vacana 田 恋の告白または愛情の表示。
 pra-ṅayavat 形 腹蔵なくまたは遠慮なく行なう, 気取らない; (因, 一°) に愛情を寄せる; (一°) にふける, ...に通暁した。
 praṅaya-vimukha 形 (因-i) 愛情または友誼に逆らった。
 praṅaya-vimukhatā 因 嫌恨棄背 *Bodh-bh.*
 praṅaya-sprṣ 形 愛情を引き起す, 情愛の深い。
 praṅayāparādha 男 愛情を傷つけること, 相互の信頼を害うこと。
 pra-ṅayi-kriyā 因 好意ある尽力。
 pra-ṅayi-jana 男 友人, 愛人(また集合的に)。
 pra-ṅayitavya 因 過受分 応潔白 *Gaṇḍ-vy.*: svacittam eva ~ m jñānānugameṣu 応以智証潔白自心 *Gaṇḍ-vy.* 83.
 pra-ṅayitā 因 (因) に対する愛, ...への愛情; (圓, 一°) に対する願望, ...に対する渴望。
 pra-ṅayin 形 (圓) に愛された, ...に親愛な; 愛着した, 愛情のある, 情愛の深い; (圓, 一°) を嗜む, ...

を好んだ, …に専心した, …を渴望した; (一°) にしばしば現われる, …に住するまたは在る; (一°) をねらった, …を目的とする; (一°) と結合したまたはを備えた. 男 寵愛を受ける人, 親友; 愛人, 夫.

pra-ṇayī 因 主婦, 妻.

praṇayī-Kṛ, 密着させる.

praṇayī-kṛta 形 (因, 一°) に密着した.

praṇayī-BHū, (因) に再び愛着する.

praṇayonmukha (°ya-un°) 形 (因-i) 恋を打ち明けようとする, 恋い焦れた.

praṇayopetam (°ya-up°) 副 → pra-ṇaya.

pra-ṇava 男 [Nu] 聖音 om.

pra-ṇavaka 形 一° [同上].

pra-ṇaś praṇaśati, praṇaśyati. → Naś 1.

pra-ṇaṣṭa 過受分 = pra-naṣṭa. 漢訳 失, 失壊 Bodh-bh., Daś-bh.

pra-ṇādikā 因 水路: 因 副 間接に; (一°) によって.

pra-ṇādi 因 [同上].

pra-ṇāda 男 大音響, 叫び, 喊声, 吼声, 呼号, 嘶く声等; 耳鳴; 漢訳 妙声, 極吼哮 Mvyut.; [王の名] 声, 叫声 Divy.

pra-ṇāma 男 (一°) への敬礼. 随順または敬礼; 漢訳 礼拝, 作礼, 帰命, 拜礼敬, 最敬; 奉 Bodh-bh., Mvyut., Saddh-p., 梵千. → pañca-maṇḍala ~. bhuvi または bhūmau ~ 地に身を屈して敬礼すること.

praṇāma-kāra 形 漢訳 奉事 梵千.

praṇāma-kṛti 因 身を屈すること, 敬礼すること.

praṇāma-kriyā 因 漢訳 奉事 梵千.

praṇāmāñjali 男 合掌をもって敬礼すること.

praṇāmādara (°ma-ād°) 男 敬礼, 礼拝.

pra-ṇāmin 形 (一°) に敬礼する, …に礼拝する.

pra-ṇāyaka 男 (軍隊の) 指揮者; 漢訳 将導, 導師 Saddh-p.

pra-ṇāyya 未受分 適当な, 価値のある(弟子).

pra-ṇāla 男 列, 系列(?).

pra-ṇālikā 因 溝, 水管; 方法: 因 間接に; …によって.

pra-ṇāli 因 溝, 水道; 媒介, 方法; 漢訳 渠, 小渠 Suv-pr., 梵千.; 音写 婆那利 Suv-pr.

pra-ṇāśa 男 消滅, 停止, 消失, 喪失; 死去, 死; 漢訳 壊, 滅 Bodh-bh., Buddh-c., Śikṣ., Sūtr.; 咄且(?) Divy. 606.: ~ vṛśala 咄且愚穴(?) Divy. 606.

pra-ṇāśana 形 (因-i) 停止させる, 破壊する, 除去する; 漢訳 破, 断 Rāṣṭr. 因 破壊.

pra-ṇāśin 形 破壊する; 除去する [一° 因 (°ini) のみ, 半偈の終りに用いられる].

pra-ṇi-DHā praṇidadhāti, praṇidhatte. → DHā.

pra-ṇidhātavya 未受分 (因) に向けられるべき; 漢訳 所応願 Bodh-bh.

pra-ṇidhāna 因 適用, 使用; 努力, 勤勉; (因) に対する恭しい行為, (一°) の意志に従順であること; 深奥な瞑想; 熱望, 祈願, 誓願 (弘誓); 漢訳 願, 所願, 志願, 思願, 誓願, 本願, 正願, 勝願; 作願, 発願, 弘願, 弘誓願; 願求, 願樂, 欲樂 Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Laik.,

Madhy-bh., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sukh-vy. II., Sūtr., Suv-pr., 梵千.: ~ m kartavyam 応発願, 应当発願 Sukh-vy. II. 96.

praṇidhāna-pāramitā 因 漢訳 (音写) 願波羅蜜多, 願波羅蜜, 誓願波羅蜜, 誓願波羅蜜多 Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr.; 音写 波泥陀那波羅蜜 Madhy-bh., Madhy-vibh.

praṇidhāna-bala 因 漢訳 願力, 志願力 Mvyut., Saddh-p.

praṇidhāna-balika 形 漢訳 有願力 Daś-bh.

praṇidhāna-mahā-daśa 因 漢訳 十大願 Sūtr.

praṇidhānavat 形 漢訳 発弘誓願, 常願 Bodh-bh., Sūtr.

praṇidhāna-vaśa 男 漢訳 願力, 悲願力, 願自在 Bodh-bh., Divy., Madhy-bh., Sukh-vy. I., Sūtr., Suvik-pr.

praṇidhāna-vaśitā 因 漢訳 願降伏, 大願力, 願自在 Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut.

praṇidhāna-vivarjita 形 漢訳 作願…除捨 Saddh-p.

praṇidhāna-viśeṣa 男 漢訳 勝願, 殊勝之願, 殊勝妙願 Aṣṭ-pr., Sukh-vy. I., Sūtr.

praṇidhānākālpa 形 漢訳 願恒常(?), 願無分別 Mvyut.

pra-ṇidhāyin 形 (密使を) 雇う.

pra-ṇidhi 男 探偵すること; 密使を派遣すること; 請願; 念願; 間諜, 密使; 漢訳 願, 誓願, 大願, 大誓願, 弘誓, 願求, 勝樂, 樂欲 Abh-vy., Av-ś., Bodh-c., Dharm-s., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Rāṣṭr., Sam-r., Sapt-pr., Śikṣ., Suv-pr., 梵千., 梵千. ~ m cakāra 発願, 発大誓願 Suv-pr. 140.

praṇidhi-karman 因 漢訳 (再三) 罰(?) [Tib. nan dur du bya ba 密偵すること] Mvyut.

praṇidhī-cakra-maṇḍala 因 漢訳 願輪, 行願輪 Gaṇḍ-vy.

praṇidhi-citta 因 漢訳 願心, 誓願心 Bodh-c.

praṇidhi-jñāna 因 漢訳 願智 Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut. 形 漢訳 善知願境, 願知文 Mvyut.

praṇidhi-viśeṣa 男 漢訳 妙願, 大願(門), 大誓願 Gaṇḍ-vy.

pra-ṇidhi, [韻律 = pra-ṇidhi] 漢訳 弘誓 Saddh-p. 447.

praṇidhi-BHū, (一°) の(ために)間諜となる.

praṇidhi-sāgara 男 [韻律 = °dhi-s°] 漢訳 弘誓深如海 Saddh-p. 447.

pra-ṇidheya 未受分 適用されるべき; 間諜として派遣されるべき.

pra-ṇi-DHyai, → DHyai.

pra-ṇi-Pat praṇipatati. → Pat 1.

pra-ṇipātana 因 人の前にひれ伏すこと, 平伏.

pra-ṇipātita 過受分 恭しく礼をした, 敬礼する; 漢訳 普礼, 謙下普礼, 敬礼 Gaṇḍ-vy.

pra-ṇipāta 男 平伏, 恭しい挨拶; (因) につつましく服従すること.

praṇipāta-pratikāra 形 服従のみを対策とする, 服従によつてのみ救われる.

praṇipāta-rasa 男 武器に対して唱えられる呪文。

pra-ṇipātin 形 平伏する, 屈服する。

pra-ṇi-Han praṇihanti. → Han.

pra-ṇihita 過受分 → DHā. 願, 願求, 樂欲
Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy.,
Sam-r., Sūtr.

pra-ṇihitvatva 中 願所引 Bodh-bh.

pra-ṇi praṇayati(-te.) → Ni.

pra-ṇi 男 先導者。

pra-ṇita 過受分 → Ni. 特徴のある, 卓絶した, 優
秀な (Dīvy., Jāt-m., Mvyut.); 妙, 最妙,
上妙, 美妙, 珍妙, 勝妙, 微妙, 細妙; 勝, 最勝;
美, 多美; 上, 好, 上好, 勝好, 好善; 精; 芳; 富
貴; 廣大; 淨利 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-
bh., Dīvy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Madhy-v., Madhy-
vibh., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., Vin., 梵千;
上饌, 美膳, 好食, 美食 Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.; 飄
汎 Daś-bh.; 所説, 所宣説 Bodh-bh.: prabhūtānām
~ ānām 多得淨利 Dīvy. 290.; vāta-maṇḍali ~
風輪飄汎 Daś-bh. 138.; ~ m ā-KHyā 為微
妙 Aṣṭ-pr.

pra-ṇitatara 比較 妙, 最極殊妙 Bodh-bh.

pra-ṇitātā 因 勝 Bodh-bh.

praṇita-dhātuka 形 界妙, 身妙 Mvyut.

praṇita-bhojana 中 美食 Prāt-m., Śikṣ.

praṇita-vijñāpana 中 索美, 乞美食 Mvyut.

pra-ṇitā 因 覆 (儀式の朝に)取って来た水, 聖水。

praṇitā-caru 男 聖水用の容器。

praṇitā-praṇayana 中 聖水を取って来るための器。

pra-ṇiti 因 指導; 導き去ること。

pra-ṇu praṇavati(-te), praṇauti. → Nu 1.

pra-ṇutta 過受分 → Nud.

pra-ṇud praṇudati(-te). → Nud.

-pra-ṇud 形 駆逐する, 除去する, 追い散らす。

pra-ṇuda 形 [同上]。

pra-ṇunna 過受分 → Nud.

pra-ṇejana 形 (因-i) 拭う。 中 洗うこと, 水浴; 洗
い水。

pra-ṇetavya 未受分 導かれるべき, 案内されるべき;
行なわれるべき, 使用されるべき。

pra-ṇetu-kāma 男 欲造(論), 欲正造(論) Abh-
vy.

pra-ṇetr 男 (属; 因は 覆) の指導者, …の案内者;
作製者, 創造者; 著作者; 馭者 (Buddh-c.); 造
造, 造師, 作, 指示 Lanik., Madhy-bh., Madhy-
vibh., Mvyut.

pra-ṇetrmat 形 pra-ṇetr を含んだ。

pra-ṇetri 因 能引 Abh-vy.

pra-ṇeduh 三過 三人 覆 [Nad] 彼等は叫んだ。

pra-ṇeya 未受分 導かれるべき, 案内されるべき; 屈
服しやすい, 従順な; 使用されるべき, 適用される
べき; 行なわれるべき, なされるべき; 定められる
べき, 決定されるべき; 随, 随教, 随転 Lanik.
→ para ~.

pra-ṇodita 使役 過受分 → Nud.

pra-ṇodya 未受分 駆逐されるべき。

pra-tānkam 形 滑って, 這って。

pra-taṣa 中 (?) 高い堤。

pra-Taḍ pratādayati. → Tad.

pra-tata 過受分 拡がった, ゆきわたった, 覆われた,
満たされた; 常, 恒常 Bodh-bh. ~m 副 間
断なく, 絶え間なく; 恒常 Bodh-bh.

pratata-pāni 形 満手(施) Mvyut.

pratata-pānitā 因 恒舒(施)手 Sam-r.

pra-tatāmaha 男 曾祖父。

pra-Tan pratanoti, pratanute. → Tan 1.

pra-tanu 形 非常に細かい, 繊細な, 微細な, 狭い,
細い, 薄い, 瘦せた, 小さい, 取るに足りない。

pra-tanuka 形 非常に繊細な; 薄饒, 軽 Bodh-
bh.

pra-tanū-Kṛ, 非常に減らすまたは弱める (Jāt-m.).

pratanv-āvaraṇa 中 小障, 狭小障 Madhy-bh.,
Madhy-vibh.

pra-Tap pratapati. → Tap.

pra-tapatra 中 日傘。

pra-tapana 中 温めること; 照朗 Sūtr.

pra-tapta 過受分 → Tap. 中 精煉された黄金。

pra-taptr 男 焼くもの, 燃やすもの, 焦がすもの。

pratamām (最上 因 覆) 副 特に。

pra-tara 男 (一°) を渡ること。

pra-taraṇa 形 (因-i) 助長する, 進める, 増す。 中
渡ること, 越えること。

prataram (比較 覆) 副 より遙かに, なお一層; 将来
において。

prataram 副 [同上]。

pra-Tark, → Tark.

pra-tarka 男 推論, 推測。

pra-tarkya 未受分 考えられるべき, 量り知られるべ
き。

pra-tardana 形 破壊する。

pra-tavas 形 気力旺盛な, 強力な。

pratas 副 前 Bodh-bh.

pra-tāna 男 卷鬚; 卷鬚のある植物, はい上る植物;
弥漫 Daś-bh.

pratānatā 因 増, 広大 Madhy-bh.

pra-tānatālabhana (°tā-āl°) 中 増広所縁, 増
長所縁, 相続境界 Madhy-bh., Madhy-vibh.

pra-tānavat 形 卷鬚をもつ; 枝を派生する, 分岐す
る。

pra-tānita 過受分 散漫に扱われた。

pra-tāpa 男 熱; 壮麗; 威厳, 品位, 優越 [しばしば太
陽の熱に比較される]; 気力, 力, 勢力; [人名];
熱 Lal-v.

pra-tāpaka 形 摧 Lal-v.: kugaṇi ~ 摧邪道
Lal-v. 4.

pratāpa-candra 男 [王侯の名]; [ある Jaina の著作
者の名]。

pra-tāpana 形 …のために熱くする, 強く圧迫する,
煩わす, 苦しめる。 中 熱すること。 男 [地獄
の名] 極熱, 極焼然, 最熱, 大焼然, 大熱(地獄);
受煩 Abh-k., Abh-vy., Dharm-s., Mvyut.

pratāpa-pāla 男 [人名]。

pratāpa-pura 田 [町の名].
 pratāpa-mukuta 男 [王侯の名].
 pra-tāpavat 形 品位のある, 強力な, 威厳のある, 榮譽のある(人); 𑀧𑀲𑀭 [仏の名] 苦行 *Sukh-vy. I.*
 pratāpa-sīla 男 [王侯の名].
 pratāpāditya (°pa-ād°) 男 [(威厳のある太陽), 諸王侯の名および称].
 pra-tāpita 過受分 𑀧𑀲𑀭 焼, 熾然 *Gaṇḍ-vy.*
 pra-tāpitṛ 男 [体は pra-Tap の 𑀧𑀲𑀭 使役 三人 男として用いられる].
 pra-tāpin 形 熱い, 燃える, 焦がす; …のために熱くする, 煩わす, 苦しめる; 榮譽のある, 威厳のある, 品位を与える.
 pra-tāmra 形 非常に赤い.
 pra-tāra 男 (𑀧𑀲) を渡ること.
 pra-tāraka 形 欺く, 瞞す. 男 詐欺.
 pra-tāraṇa 田 (水上に)導くこと; (𑀧𑀲, 一°)を渡り越えること [=pra-taraṇa]; 欺く, 瞞す.
 pra-tāraṇā 因 詐欺, 詭策; 𑀧𑀲𑀭 仮許 *Sūtr.*
 pra-tāraṇi 因 𑀧𑀲𑀭 济度 *Śikṣ.*
 pra-tāraṇiya 未受分 欺かれるべき, 瞞されるべき.
 pra-tārayitṛ 男 促進するもの, 増加するもの.
 prati 1. 副 [動 または 因 とともに °一] に対して, 反対して; 返して, 返報として; [また 因 とともに] 各々の; 副 1. [𑀧𑀲 とともに通常その後には置かれる] に対して, …の方へ, …へ, …の上に, …の方向に, 前に, …の現前または眼前に; …の周囲に, …に近く, …において, …に; …の時に, …の頃; …を通じて, …の間(時について); …より(保護する); …に比較して; …のために; …に関して, …の故をもって, …によって; として [賓辞の 𑀧𑀲 とともに用いられる]; 𑀧𑀲 …と見なす, …と認める]; …に随えば; …によれば; 各々の…にまたはにおいて; 2. [𑀧𑀲 とともに] …の時に, …の頃 [RV. のみ]; 3. [𑀧𑀲 とともに] …について, …に関して; [副詞的合成語の初めにあって]…の方へ; …の時に, …の頃; …に随って, 各々の…にまたはにおいて; 𑀧𑀲𑀭 対, 対対; 各各; 約; 依; 至 *Abh-vy., Cat-ś., Nyāy-pr., Saṃkhy-k., Vijñ-v.*; 𑀧𑀲𑀭 鉢刺底 *Abh-vy.: sūnyatām ~* 依無相空 *Cat-ś. 494.* → a~. ātmānam ~ 自身に(語る). ciraṃ ~ 長い間. bhṛsaṃ ~ 反覆して. mām ~ わが意見では, 思うに. varṣaṃ ~ 毎年. na bubhuṣitaṃ ~ bhāti kiṃ cit 飢えた者にとっては何物もつまらない. mām ~ aranyavat pratibhāti 私にとってそれは(寂しい)森のように見える. ~ ~ 𑀧𑀲𑀭 別別 *Guhy-s.*
 prati 2. 男 [*Kuśa* の子の名].
 prati-kañcuka 男 (総ての攻撃)に対して武装した人, 頑固な敵手.
 prati-kañṭham 副 単独に, 一つずつ.
 prati-kañṭhukayā 男 副 [または °kañṭha, °kañṭhi°] [同上] (*Divy.*).
 prati-kara 形 (因-i) (一°)に對抗する. 男 (一°)の償い.
 prati-karaṇa 田 𑀧𑀲𑀭 悔除 *Bodh-bh.*
 prati-karaṇatā 因 𑀧𑀲𑀭 悔, 悔除 *Bodh-bh.*

prati-karkaśa 形 (一°)と同様に堅い, …と同じ堅さの.
 prati-kartavya 未受分 (善または悪が)報いられるべき; (𑀧𑀲) に対し返報されるべき; 報酬としてなされるべき; 償還されるべき(負債); 反対または対抗されるべき. 田 (非人)人は (𑀧𑀲, 𑀧𑀲)に報いるべきである; (𑀧𑀲)に(負債として)償うべきである; (𑀧𑀲)に対して対抗または反抗すべきである; (𑀧𑀲)に医療を加えるべきである.
 prati-kartṛ 男 報復者; 敵手.
 prati-karma 副 各々の行為にとって; 各々の儀式または祭礼に臨んで.
 prati-karman 田 報復; (一°)に対応する動作; 対抗, 妨害; (医療上の)処置; 身体の装飾.
 prati-karṣa 男 結合.
 prati-kala-kamaniya 形 その各部分の好ましい.
 prati-kalpya 形 設定または整備されるべき.
 prati-Kāṅkṣ pratikāṅkṣate. → Kāṅkṣ.
 -prati-kāṅkṣa 形 𑀧𑀲𑀭 求 *Raṣṭr., Sūtr.:* vipākā~ = tā 不求果報 *Raṣṭr. 15.* → niṣ~.
 -prati-kāṅkṣaṇa 田 願望, 期待; 𑀧𑀲𑀭 求, 固求, 疑惑 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.:* sarva-dāneṣu vipākā~ cittam 於諸施物不求果報, 於一切布施無疑惑心 *Gaṇḍ-vy. 319.*
 prati-kāṅkṣitavya 未受分 期待されるべき (*Vajr-pr.*); 𑀧𑀲𑀭 应当希冀, 应当希望; 所求, 希求, 応希求, 起望, 希(事), 起欲, 可知, 欲知; 得 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut., Śikṣ.:* na ~ ā 決定, 必定 *Śikṣ. 174.*
 prati-kāṅkṣin 形 (一°)を願望する; 𑀧𑀲𑀭 求, 希, 欲及, 愛樂, 稟受 *Gaṇḍ-vy., Kāśy., Śikṣ.:* a-vipākā~ 不希果報 *Śikṣ. 21.*; vipākā~ 不求果報 *Gaṇḍ-vy. 357.*
 prati-kāmam 副 望みのままに, 随意に.
 prati-kāmin 形 不快な.
 prati-kāmini 因 女性の競争者.
 prati-kāya 男 (反対者), 敵手.
 prati-kāra 男 (善悪 一°)の報い, …の報酬または代償; 反対, 治療の手段をとること; 軽減, 療治; 𑀧𑀲𑀭 報, 報恩, 念恩; 対治; 転施 *Bodh-bh., Kāśy., Sa-ddh-p., Śikṣ., Sūtr.;* 禪方法 *Divy. 448.:* tathāgatānām ~ h kṛtaḥ 已報諸仏之恩 *Saddh-p. 485.*
 pratikāra-karman 田 反対, 抵抗.
 pratikāra-jña 形 療法または対策を知っている.
 pratikāra-vidhāna 田 医療.
 prati-kārin 形 (一°)を除去する, …を妨げる; …に對抗する.
 prati-kārya 田 (𑀧𑀲) に対する報酬または返報. 男 敵(?).
 prati-kitava 男 遊戯の相手.
 prati-kuñjara 男 敵対する象.
 prati-Kup pratikopayati(使役). → Kup.
 prati-kubjita 過受分 𑀧𑀲𑀭 [Pali paṭikujjita] 田, 満(?) *Mvyut.*
 prati-kūla 形 (岸に向って, 丘の上に), 反対の, 逆の(風, 運命等); 邪まな, 悪い, 不快な, 忌わしい; (𑀧𑀲)に敵対する, 強情な, …に叛逆する; 𑀧𑀲𑀭 違, 違逆, 違害, 不順, 不相投, 不応; 憎, 不可愛; 悪,

不意以眼看；対治 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.* → a~. ~m
 圃 (ある人に)反対して, (風に)逆らって; 反対に.
 圃 反対の順序; 反抗的または忌わしい行為 [また *prā-tikūlya* と綴る].

pratikūla-kārin 圃 (圃) に対して抵抗を企てる, …に反対する.

prati-kūlatā 圃 (運命の)逆なこと; 反逆, 敵意; 漢訳 違背, 不順 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*

prati-kūlatva 圃 [同上]; 漢訳 違 *Abh-vy.*

pratikūla-darśin 圃 漢訳 見有相違, 可惡見者 *Suv-pr.*

pratikūla-daiva 圃 運命の逆な, 不運な.

pratikūla-daivatā 圃 逆運, 不運.

pratikūla-pravartin 圃 逆の進路をとる(船)および敵意をもって行動する(舌).

pratikūla-bhāṣin 圃 反駁する.

pratikūlaya 名動 圃 *pratikūlayati* (業) に対抗または反対する.

pratikūla-vacana 圃 反駁.

prati-kūlavat 圃 強情な, 反抗的の, 反逆する.

pratikūla-vartin 圃 (圃) に対抗する, …に反対する, …を乱す.

-pratikūla-vāda 圃 抗論, 反駁. → a~.

pratikūla-vādin 圃 (圃) に対し抗論または反駁する.

pratikūla-visarpin 圃 風または流れに逆行する(船)また同時に怨みを含んで行動する(悪漢の舌).

pratikūla-vṛtti 圃 (圃) に抵抗する, …に反対する.

pratikūla-vedaniya 圃 不快に感ぜられる.

pratikūla-śabda 圃 不快に響く.

pratikūla-saṃjñā 圃 漢訳 違逆想, 不相投想, 厭離想 *Lañk.*, *Mvyut.*

pratikūlācarita (°la-āc°) 圃 攻撃的な動作, 加害.

prati-kūlika 圃 [正しくは *prātik°*] 敵対する.

pratikūlokta (°la-uk°) 圃 圃 反駁.

prati-Kṛ *pratikaroti*, *pratikurute*. → *Kṛ*.

prati-kṛta 圃 過受分 返された, 報いられた等; 漢訳 悔除 *Bodh-bh.* 圃 報復, 返報; 抵抗; 漢訳 報, 報恩 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*

prati-kṛti 圃 抵抗; 模写; 肖像, 似顔; 漢訳 求報恩 *Sūtr.*; 調伏 *Guhya-s.*; 像, 形像 *Divy.*, *Mvyut.*

pratikṛti-racanā 圃 肖像を描くこと.

prati-kṛṣṭa 圃 過受分 → *Kṛṣ.* 漢訳 呵厭 *Śikṣ.*

prati-Kṛp *pratikalpate*. → *Kṛp*.

prati-kopa 圃 激怒, 怒り.

prati-kausālikā 圃 返礼の贈物.

prati-Kram *pratikrāmati*. → *Kram*.

prati-krama 圃 逆の順序; 漢訳 来 [*Tib.* *hoñ ba*] *Bodh-bh.* 97.

prati-kramaṇa 圃 あちらこちらを闊歩すること; 懺悔に行くこと (仏教).

prati-krānta 圃 過受分 → *Kram*. 更にまたはその後 (一°) から還った (*Vajr-pr.*); 漢訳 還(本処), 還至(本処); 棄, 廻転 *Mvyut.*, *Vajr-pr.*

prati-kriya 圃 (一°) を防ぐ, …に抵抗する.

prati-kriyā 圃 (一° 事物) に対するまたは (一°, 圃 ま

たは 圃 人)に対する報復(善悪ともに); 代償, 報酬; 抵抗; 対抗, 対策, 療治, 助力; (うっ憤を)漏らすこと; 装身具; 漢訳 対治 *Abh-vy.*

pratikriyā-vastu 圃 漢訳 改作事, 改作分 *Mvyut.*

prati-Krudh *pratikrudhyati*. → *Krudh*.

prati-Kruś *pratikrośati*, *pratikrośayati* (漢訳). → *Kruś*.

prati-kruṣṭa 圃 過受分 憐れむべき, 貧しい, 悪い, 劣る; 漢訳 [*Pāli* *paṭikūṭṭha* = *paṭikitṭha*] 所恥, (人)所軽賤 *Divy.*; 不宜, 匪宜 *Abh-vy.* 圃 漢訳 [*<*prati-kṛṣṭa] 曠野 *Mvyut.*

prati-krodha 圃 返報としての怒り.

prati-kṣaṇam 圃 刹那または瞬間ごとに, 引続いて; 漢訳 念念 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*; (音写) 一一刹那, 於刹那時分 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*; (音写) 刹那, 刹那刹那 *Bodh-bh.*

pratikṣaṇotpāda 圃 漢訳 念念起, 念念生 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*

prati-kṣapam 圃 毎夜.

prati-kṣayānta-kāla 圃 漢訳 滅時, 滅度後 *Saddh-p.* 287.

prati-Kṣip *pratikṣipati*. → *Kṣip*.

prati-kṣipta 圃 過受分 投げ込まれた等; 送られた, 急送された; 拒否された, 侮られた; 漢訳 所棄, 不許, 遮制 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Sam-r.*; 謗, 誹謗, 怨嫉 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*: *sad-dharmaḥ* ~h 謗正法, 誹謗正法 *Suv-pr.* 23.

prati-kṣiptatva 圃 拒絶, 拒否, 棄却.

prati-kṣetra 圃 地点, 場所; 圃 (圃) の代りに.

prati-kṣepa 圃 論争; (一°) と争うこと; 拒否; 漢訳 毀, 謗, 毀謗, 謗毀, 誹謗, 疑謗; 違逆(不信), 敗逆; 輕慢; 棄, 遮, 各棄捨; 対治 *Kāśy.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*: *sad-dharma* ~ 謗正法 *Śikṣ.* 95.

prati-kṣepaka 圃 漢訳 謗 *Rāṣṭr.*

prati-kṣepaṇa 圃 (一°) と争うこと; 漢訳 遮; 仮制; 対治, 破壊 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*

prati-kṣepaṇatā 圃 漢訳 毀, 遮滅 *Bodh-bh.*

pratikṣepaṇa-sāvadya 圃 漢訳 遮罪, 具遮罪, 具禁呵責 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*

prati-kṣeptṛ 圃 漢訳 謗 *Sūtr.*

prati-kṣoṇi-bhṛt 圃 相手の王.

prati-KHyā *pratikhyāti*. → *KHyā*.

prati-gaja 圃 敵対する象.

prati-gata 圃 過受分 → *Gam*. 圃 帰還.

prati-Gam *pratigacchati*. → *Gam*.

prati-gamaṇa 圃 帰還.

prati-gara 圃 (Hotṛ 祭官に対する *Adhvaryu* 祭官の) 返答(例 03thāmo daiva).

prati-garitr 圃 *prati-gara* を行なう人.

prati-Garj *pratigarjati*. → *Garj*.

prati-garjana 圃 (雲の)反響.

prati-garjanā 圃 [同上].

prati-garvita 圃 過受分 漢訳 有驕慢 *Divy.*

prati-gātra 圃 (一°) 各肢において. ~m 圃 [同上].

prati-Gāh *pratigāhate*. → *Gāh*.

prati-giri 男 向い側の山。
 prati-giryam 未受分 非人 返答すべきである。
 prati-gu 副 牛に対して。
 prati-gupta 過受分 守られた, 護られた; 隠, 蔵 Bodh-bh., Divy.: ~e pradese 無人処 Divy.409.
 pratigupta-bhojin 形 隠費 Bodh-bh.
 prati-gupya 未受分 非人(縛) を警戒すべきである。
 prati-grham 副 各々の家において。
 prati-grhita 過受分 取られた, 受けた, 結婚した; 受, 哀受, 納受, 承捧, 取, 所取 Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Saddh-p.
 prati-grhitavya 未受分 [正しくは °grahitavya] 懇ろに招かれるべき; 歓迎されるべき。
 prati-grhitṛ 男 [正しくは °grahitṛ] 受ける者; 受 Sapt-pr.
 prati-Gṛ pratigrṇāti, pratigrṇite. → Gṛ 1.
 prati-geham 副 各々の家において。
 prati-Grabh, → Grabh.
 prati-Grah pratigrṇāti, pratigrṇite. → Grah.
 prati-graha 男 受領, (施物の)受納, 施物を受ける権利 [婆羅門の特権; 施物を与える人は °一, 縛, 屬土 sakāśāt; 品物は °一 である]; 友好的な歓迎; 愛顧, 恩寵, 恩恵; (耳をもって)受け容れること, 聞くこと; 受ける者; 施物, 贈品; 授受, 受取, 能取, 取, 与取, 許; 得; 感 Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Sūtr.; 共洗器, 鍋 Mvyut. 圓 施物として, 贈物として. ~m Kṛ 贈物を受ける。
 prati-grahaṇa 形 受ける. 囀 受け入れること, 受納すること; (施物の)受領; 取, 授受 Abh-vy.
 pratigraha-dhana 囀 贈物として(受け取られた)金銭. 形 その富が贈与品(のみで)作られた。
 pratigraha-prāpta 形 贈物として受領された。
 prati-grahitavya 未受分 受領されるべき, 嘉納されるべき; 当受 Ast-pr.
 prati-grahitṛ 男 (贈物の)受納者; (少女を)受ける人, 娶る人; [囀 單 は 囀 として用いられる].
 prati-grāmam 副 各村において。
 prati-grāhaka 形 (囀 -ikā) [一° のみ] 贈物を受ける(人); 受, 受者, 受持, 普受, 能受, 受施者, 受布施者, 可受施者, 取 Abh-vy., Divy., Gand-vy., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.; 能授 Bodh-bh.: bali-pratigrāhikā devatā 受祭神 Divy. 1.
 prati-grāhin 形 受ける(人), 受け入れる, 嘉納する。
 prati-grāhya 未受分 (縛) から受けるべき; その人から…を受けるべき。
 prati-gha 男 […に対して打つこと: Han から] 障害, 抵抗, 妨害; (一°) に対して争うこと; 激怒, 憤怒, 憎悪; 対, 有対, 対治; 礙, 罣礙, 碍; 破; 対害, 害, 損害 Abh-k., Abh-vy., Lal-v., Mvyut., Śikṣ.; 瞋, 瞋心, 瞋恚, 瞋忿, 恚; 憎, 有憎, 恚惱; 悩害, 悩乱; 恨, 怨 Abh-vy., Bodh-bh., Dharm-s., Divy., Gand-vy., Kāśy., Lal-v., Lank., Madhy-bh., Mvyut., Suvik-pr., Sūtr., Vijñ-t. → a~, para-varṇa~.
 pratigha-citta 形 瞋心, 瞋恚心, 恚惱心 Bodh-bh. 囀 瞋, 悩, 瞋心, 損害心, 対治心 Gand-vy., Śikṣ.

pratigha-nimitta 囀 瞋因 Abh-vy.
 pratigha-saṃyojana 囀 恚結, 心堅礙結 Ma-dhy-bh., Madhy-vibh.
 pratigha-saṃjñā 囀 有対想 Mvyut.
 prati-ghāta 男 撃退, 予防, 抑止, 妨害, 障害, 抵抗; 障, 礙, 对礙, 变礙, 障礙; 嫉; 損悩, 瞋害, 暴害, 恚惱, 冤害对 Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Śikṣ., Sūtr., Vijñ-v.; 奔逐 Gand-vy.: vetāḍa~ 死屍奔逐 Gand-vy. 450.
 prati-ghātaka 形 悩ますこと, 乱すこと; 損壊, 損害, 除断 Daś-bh.
 pratighāta-kṛt 形 (屬) から (屬) を奪う。
 prati-ghātana 囀 撃退すること。
 pratighāta-vid 形 如何に反抗すべきかを知った, 反抗的傾向のある。
 prati-ghāti 囀 (?) 相礙 Abh-vy. 716.
 prati-ghātin 形 撃退すること; 乱すこと; 害すること; (眼を)くらますこと; 对礙, 相礙 Abh-vy.
 prati-Cakṣ praticāṣṭe. → Cakṣ.
 prati-cakṣaṇa 囀 眺めること, 見ること; 出現; 目に見えるようにすること。
 prati-cakṣya 未受分 見える。
 prati-candra 男 仮月, 幻月。
 prati-cārta 過受分 回らされた, 流布された, 公布された, 公にされた。
 -prati-cārin 形 行 Mvyut.
 prati-cikirṣ 希求 形 [囀 -cikiḥ] (囀) に返報または復讐したいと思う。
 prati-cikirṣā 囀 (業, 囀) に返報または報復しようとする願望。
 prati-cikirṣu 希求 形 (業) に報いたいと思う。
 prati-citta-kṣaṇam 副 念念, 於念念中 Gand-vy.
 prati-Cint praticintayati(-te). → Cint.
 prati-cintaniya 未受分 新たに熟考されるべき。
 prati-codanā 囀 禁止, 否定。
 prati-cHad praticchādayati(使役). → CHad 1.
 prati-cchanda 男 肖像, 似姿 [一° =…のような].
 prati-cchandaka 男 似姿, 代用物。
 prati-cchanna 過受分 → CHad 1. 覆, 掩覆, 隠覆, 弥覆, 覆体, 覆護, 覆蔵, 所覆蔽, 蔵隠, 覆障処, 屏覆処; 隠 Ast-pr., Bodh-bh., Divy., Gand-vy., Prāt-m.: sva-keśa-roma~ aiḥ 自髮覆体 Divy. 7. → rahas~.
 praticchanna-kalyāṇa 形 覆(自)善, 覆蔵善, 不雑善, 不息於善 Bodh-bh., Mvyut., Śikṣ.
 prati-cchannatā 囀 弥覆 Gand-vy.
 prati-cchādana 囀 (または -cchadana) 覆うこと, 隠すこと; 覆う布; 覆, 遮(衣), 蓋(巾), 覆蔵, 覆蔭, 隠覆 Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Śikṣ., Vin.
 prati-cchādanatā 囀 覆蔵 Bodh-bh.
 prati-cchāyā 囀 似姿, 肖像。
 prati-cchāyikā 囀 肖像, 幻像。
 praticchita 過受分 [韻律, =praticchita] 所授受 Sam-r.
 prati-cchinna 過受分 断除 Sam-r.
 prati-Jan pratijāyate. → Jan.

prati-jana 男 敵。
 prati-janam 副 各人において。
 prati-janman 中 再生。
 prati-Jap pratijapati. → Jap.
 prati-jāgarāṇa 中 (圖) を見張っている, …に注意する。
 prati-Jāgr pratijāgati. → Jāgr.
 prati-jāta-kopa 形 再び怒りを発した。
 prati-jihirṣu 希求 形 (業) に返報しようと思う, 復讐したいと思う。
 prati-jivana' 中 蘇生。
 prati-jivita 過受分 中 [同上]。
 prati-Juṣ pratijuṣate. → Juṣ.
 prati-Jñā pratijñāti, pratijñāte. → Jñā.
 prati-jñā 因 一致, 理解, 同意, 約束; 主張, 宣言; 起訴, 訴訟(法律); 宗すなわち論証されるべき命題(論理); 許; 願, 誓, 誓言, 誓願, 本誓, 要誓, 弘誓 *Buddh-c., Divy., Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Sam-r., Vajr-pr.*; 答 *Bodh-bh.*; 称, 自知, 自称歎, 自所称歎; 言説, 説言, 自号言説, 記句 *Bodh-bh., Mvyut.*; 宗, 立宗, 所立, 立義 *Abh-vy., Lank., Mabhy-bh., Madhy-v., Mvyut., Nyāy-pr.*; ~ m ārūdhah 立誓言 *Divy. 26.*; aśramaṇaḥ śramaṇa-pratijñāḥ 非沙門称沙門 *Mvyut.* → pūrva~.
 pratijñā-kāraka 形 自言, 応与自言治 *Mvyut.*
 prati-jñāta 過受分 約束された, 一致した; 提議された, 提案された; 所許; 称歎, 自称歎; 自証, 所立要 *Bodh-bh.* 中 約束。
 prati-jñātavya 未受分 約束または同意されるべき; 答, 答言; 自称歎, 応称歎 *Bodh-bh.*
 pratijñā-doṣa 男 似立宗過 *Nyāy-pr.*
 prati-jñāna 中 許可, 同意, 約束; 主張; 宗すなわち命題を提議すること; 許, 請; 立; 自称歎 *Abh-vy., Bodh-bh.* → a~.
 pratijñāntara (°nā-an°) 中 (論証における)命題の変換すなわち異宗, [負処(nigraha-sthāna)の一(論理)].
 pratijñā-paripālana 中 約束の固守, 誓約に忠実なこと, 言を守ること。
 pratijñā-pāra-ga 形 約束を守る。
 pratijñā-pāraṇa 中 誓約を実行すること。
 pratijñā-pālana 中 =-pari-pālana.
 pratijñā-pūrvakam 副 告訴から始めて。
 pratijñā-bhikṣu 男 (音写) 自称苾芻, 自言苾芻, 比丘称 *Abh-vy., Mvyut.*
 pratijñā-virodha 男 主張命題(=宗)(と理由命題(=因)との矛盾することすなわち矛盾宗, [負処(nigraha-sthāna)の一(論理)].
 pratijñā-visaṃvādana 中 誓約の不履行 (*Jāt-m.*).
 pratijñā-saṃnyāsa 男 (主張が否定された時に自身の)命題を棄却することすなわち捨宗, [負処(nigraha-sthāna)の一(論理)].
 pratijñā-hāni 因 自己の実例(=喩)の中に反喩の法を認めることすなわち壊宗, [負処(nigraha-sthāna)の一(論理)].
 pratijñōttaraka (°nā-ut°) 形 遮下浴身, 慎其

独, 堅守要期 *Mvyut.*
 prati-Taḍ pratitādayati. → Taḍ.
 prati-tantra-siddhānta 男 (全体ではなくして)個々の学派において認められた定説。
 prati-Tap pratitapati. → Tap.
 prati-tara 男 水夫; 漕ぐ者。
 prati-tarām [3Hū とともに], ますます引きさがる, ますますしりごみする。
 prati-taru 副 各々の樹において。
 prati-tarjya 不変分 威嚇して, 恐れさせて。
 prati-tāḍitavya 中 非人 応返打, 還打 *Mvyut.*
 prati-tālaka 中 鍵; 鑰匙 *Mvyut.*
 prati-try-aham 副 毎回三日間。
 pra-tithi 男 [ある聖者の名]。
 prati-daṇḍa 形 (杖に反対な), 強情な。
 prati-danty-anikam 副 象軍に対して。
 prati-darśa 男 見ること。
 prati-darśana 中 見ること, 注視, 認識すること; 秀われること; 光景, 外観; 見, 可見 *Lank.*
 prati-Dā pratidadāti, pratidatte. → Dā 1.
 prati-dātavya 未受分 返却されるべき。
 prati-dāna 中 返報として与えるまたは贈ること。
 prati-dāpya 未受分 返却を強要される。
 prati-dinam 副 毎日, 日々, 日毎に。
 prati-Div pratidivvyati. → Div 1.
 prati-divasam 副 =prati-dinam. 日日, 日々 *Bodh-bh.*
 prati-Diś pratideśayati(使役). → Diś.
 prati-diśam 副 いずれの場所または方角においても, 何処でも。
 prati-dīvan 男 博戯の相手。
 prati-duh 中 [困 -dhuk] 搾りたての(牛)乳。
 prati-dūta 男 返答の使者。
 prati-Dṛś, → Dṛś.
 prati-dṛś 形 類似の。
 prati-dṛśam 副 各人の見るところにおいて, だれ眼にも。
 prati-dṛśānta 男 反例, 反喩。
 pratidṛśānta-sama 男 論敵の実例(=喩)を無視す反対の実例を挙げて不適當な異議を立てることすなわち反喩相似 [誤難(jāti)の一(論理)].
 prati-deya 未受分 返却されるべき。
 prati-devatam 副 各々の神に対して。
 prati-devatā 因 相応する神格。
 prati-deśanā 因 懺悔, 悔過 *Sātr.*
 prati-deśaniya 未受分 対説, 悔過法, 悔過, 彼悔 *Mvyut., Prāt-m.*; 音写 波羅底提舍尼, 波提提舍尼, 波羅提舍尼 *Mvyut., Prāt-m.*; ~ ā dh māḥ 悔過法, 波羅提舍尼法 *Prāt-m. 525.* catraḥ ~ āḥ 四波羅提舍尼 [1 bhikṣuṇi-piṇḍa grahaṇam 尼僧自手食, 從苾芻尼受食, 2. pañk vaiṣamya-vādānivārita-bhuktiḥ 不辭比丘尼所推与食, 衆不平等言不拒食, 3. kula-śikṣābhaṇ pravṛttiḥ 犯禁入聚落, 犯家制入, 4. vana-vicā gatam 遊走於林中, 於觀察林] *Mvyut.*
 prati-deśam 副 どの地方においても。

prati-deśika 形 有説 *Sūtr.*
 prati-deham 副 各々の身において。
 prati-daivatam 副 各々の神に対して。
 prati-dyotita 過受分 照耀 *Gaṇḍ-vy.*
 prati-dvandva 男 敵手, 競争者, 仇敵; 所対, 対立, 敵対, 対治, 能対治, 相对治, 二種相翻, 怨 *Abh-vy.* → a~:
 pratidvandvaya 名動 他 pratidvandvayati 競争する (*Divy.*); 競, 諍 *Divy.* 403.
 prati-dvandvin 男 =prati-dvandva. 形 (一) と競争する, …と張り合う。
 pratidvandvi-BHū, 敵対者となる。
 prati-dvādaśan 形 種 十二ごとの。
 prati-dvāram 業 副 戸または門ごとに。
 prati-dvāri 形 副 [同上]。
 prati-dvirada 男 敵対する象。
 prati-dvipam 副 世界のどこの部分にも。
 prati-dhartṛ 男 妨害者。
 prati-DHā pratidadhāti, pratidhatte.
 prati-dhā 因 [飲み下す: DHe] 一と飲み。
 prati-dhāna 中 (一) にまたはの上に置くこと; 警戒をすること。
 prati-dhāvana 中 (業) を攻撃すること, …に襲いかかること。
 prati-dhi 男 (鞍に付けられた)横木。
 prati-DHṛ pratidhārayati(-te). → DHṛ.
 prati-dhṛṣya 未受分 (一) に抵抗できる。
 prati-dhvani 男 反覆された響, こだま。
 prati-dhvāna 男 [同上]。
 prati-dhvānin 形 こだまする。
 prati-nagaram 副 各々の町において。
 prati-Nad pratinadati. → Nad.
 prati-nadi 副 各々の川において。
 prati-Nand pratinandati. → Nand.
 prati-nandana 中 挨拶, 歓迎。
 prati-namas-kāra 形 恭しく挨拶を返す。
 prati-nayana 副 (一) 眼中へ。
 prati-nava 形 新しい, 若い, 新鮮な; 最近の。
 pratinava-javā-puṣpa 中 新しく咲いた庚申ばら (薔薇)。
 prati-nāga 男 敵意をもつ象。
 prati-nāḍi 因 支脈。
 prati-nāda 男 反響。
 prati-nāma 副 名をいえば。
 pratināma-grahaṇam 中 副 個々の名をあげて。
 prati-nāman 形 名称の上で関連する。
 prati-nāyaka 男 主人公に対立する役 (戯曲)。
 prati-nāri 因 女性の競争者。
 prati-ni-DHā pratinidadhāti. → DHā.
 prati-nidhātavya 未受分 代用されるべき。
 prati-nidhāpayitavya 使役 未受分 代用させられるべき。
 prati-nidhi 男 代用; 代用物; 肖像, 似姿; (一) の対応物。
 pratinidhi-Kṛ, (一) の代りに (業) を用いる。
 prati-nidheya 未受分 代用されるべき。

prati-ninada 男 反響。
 prati-nipāta 男 落ちること。
 prati-niyata 過受分 → Yam. 個々単独に定まった, 個々に特別の, 個々別々の; 確立した, 変え難い (*Jāt-m.*); 定, 各別, 各相对, 各各相对 *Abh-vy.*
 prati-ni-Yam, → Yam.
 prati-niyama 男 各々の特殊(な場合)のための規定; 定, 別, 定別, 定異, 各異定, 決定 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyūt.*, *Sāṃkhy-k.*
 pratiniyama-hetu 男 定別因 *Bodh-bh.*
 prati-nirdeśa 男 再び (副) に言及すること, あらためて…に言及すること。
 prati-nirdeśaka 形 再び言及する。
 prati-nirdeśya 未受分 再び言及されるべき。
 prati-nir-Yat, → Yat.
 prati-niryātana 中 返却, 回復, 賠償。
 prati-nirvṛtta 過受分 還 *Av-ś.*
 prati-nivartaka 形 能却, 退散 *Suv-pr.* → para-cakra~.
 prati-nivartana 中 帰還。
 prati-nivartita 過受分 帰還または後退させられた; 還 *Divy.*
 prati-nivartitu-kāma 形 欲退還, 寧可(共)還 *Sa-ddh-p.*
 prati-nivāraṇa 中 防ぐこと, 遠ざけること。
 prati-nivāsana 中 [衣類の一種] (仏教); 副 副裙, 襪禅裙 *Mvyūt.*; (音写) 副泥伐散娜 *Mvyūt.*
 prati-ni-Viś pratiniviśati. → Viś.
 prati-niviṣṭa 過受分 → Viś.
 pratiniviṣṭa-mūrkhā 男 頑固な患者。
 prati-ni-Vṛ pratinivārayati(使役). → Vṛ.
 prati-ni-Vṛt pratinivartate. → Vṛt.
 prati-nivṛtta 過受分 → Vṛt. 還, 還反, 廻去 *Divy.*, *Suv-pr.*
 prati-nivṛtti 因 帰還。
 prati-niśam 副 毎夜。
 prati-niścaya 男 反対意見。
 prati-niṣevāna 中 習近, 修習 *Bodh-bh.*
 prati-niṣṭha 形 反対(の側)に立つ。
 prati-nisarga 男 [正しくは *prati-niḥsarga*] 放棄すること, 放置すること; 棄, 定棄 *Mvyūt.*
 prati-ni-Sṛj pratinisṛjati. → Sṛj.
 prati-nisṛjya 形 放棄されるべき; 捨了 *Mvyūt.*
 prati-nisṛṣṭa 過受分 [=prati-niḥsṛṣṭa] 棄捨 *Divy.*
 prati-nisevya 中 受用, 服 *Śikṣ.*
 prati-niḥsaraṇa 中 捨離 *Rāṣṭr.*
 prati-niḥsarga 男 [*Pali paṭinissagga*] 棄捨, 廃止; 拒絶, 辞謝 (*Av-ś.*); 棄 *Lal-v.*
 prati-niḥ-Sṛj pratinisṛjati. → Sṛj.
 prati-niḥsṛṣṭa 過受分 [*Pali paṭinissatṭha*] 捨てた, 廃止した (*Divy.*)
 prati-nihita 過受分 → DHā.
 prati-nṛpati 男 競争相手の王。
 prati-noda 男 拒絶。

prati-nyasya 〔不受分〕(人々に対し)別々に置いて。
 prati-nyāyam 〔副〕逆の順序において。
 prati-nyāsa 〔男〕対抗上の供託物。
 prati-pakṣa 〔男〕反対の側；反対，反対党；対立者，敵；(一°)における競争者；〔義〕治，能治，対治，能対治，能対治道，対除；除，除遣，断除；逆；制止；助道品，助道法 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Śikṣ.*, *Vijñ-v.* 〔形〕(一°)に反対する，に對抗する；〔義〕能除，能断 *Aṣṭ-pr.*: *samsāra* ~ 能除(一切)生死(苦惱)，能断(衆生)生死(苦惱) *Aṣṭ-pr.* 171。
 pratipakṣa-graha 〔男〕反対側に立つこと。
 pratipakṣa-janman 〔形〕敵によって生じたまたはなされた。
 pratipakṣatā 〔因〕反対，敵意；〔義〕能対治 *Sūtr.*
 pratipakṣatva 〔因〕[同上]；〔義〕能治，能対治，近対治 *Madhy-bh.*, *Sūtr.*
 pratipakṣa-dūratā 〔因〕〔義〕対治遠 *Abh-vy.*
 pratipakṣa-bhāvanā 〔因〕〔義〕修対治，修習対治 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*
 pratipakṣa-samudācāra 〔男〕〔義〕対治行 *Śikṣ.*
 pratipakṣānta 〔男〕〔義〕能治辺，対治辺 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*
 pratipakṣābhisaṃdhi 〔男〕〔義〕対治節，対治秘密 *Mvyut.*, *Sūtr.*
 prati-pakṣita 〔過受分〕反対した，矛盾した。
 prati-pakṣin 〔男〕敵対者，敵。
 prati-pana 〔男〕交換；(博戯における)相手方の賭け物。
 prati-panya 〔因〕[*Pali* paṭibhaṇḍa 参照] 交易による代償として提供された商品 (*Divy.*)；〔義〕貨物，余物(?) *Divy.*: *panyam visarjayitvā* ~ *m ādāya* 易己財貨更収余物 *Divy.* 271。
 prati-Pat pratipatati. → Pat 1.
 prati-pattavya 〔未受分〕得られるべき；受けられるべき；与えられるべき(答え)；理解されるべき；〔義〕行，応行，所修，当習，応学 *Aṣṭ-pr.*, *Sūtr.* 〔因〕〔非〕人は振舞うべきである；想定または主張すべきである；〔義〕応修行 *Vajr-pr.*
 prati-patti 〔因〕獲得，取得；知覚，会得；理解，観察，認識，知識；想定，見解，主張；許容；(因 一°)に与えること，…に贈与すること；ひき起こすこと；(一°)を引き受けること；(因，因)におけるまたはに対する計画・手続・行動または行為；恭しい振舞，敬意の表示，尊敬；信頼，保証，決定；(因)のための手段，…の方法，(因)に対する方策；高位，支配，主権；決定；〔義〕行，修行，奉行，取行，勝行，有行，正行，(堅固)正行，善行，所作，所修，随修，修習，所修，正行；順，随順；成就，威儀 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gand-vy.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*；道 *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*, *Madhy-bh.*；跡，入於 *Mvyut.*；向，趣向 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*: *anta-dvaya-varjane* ~ *h* 離二辺正行，遠離二辺修行 *Madhy-vibh.* 233. → a ~ . ~ *m* Dā 尊敬を表わす。 *tatra kā* ~ *h* *syāt* その場合何をすべきか。 *kā tasya* ~ *h* それについて何をなすべきか。

pratipatti-gata 〔形〕〔義〕正行，至処道 *Bodh-bh.*
 pratipatti-dakṣa 〔形〕機智に富む。
 pratipatti-niṣṭhura 〔形〕難解な。
 pratipatti-paramārtha 〔男〕〔義〕正行勝義，正行真実 *Madhy-bh.*
 pratipatti-pūjā 〔因〕〔義〕修行供養，正行供養，上妙正行供養 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*
 pratipatti-pūrvakam 〔副〕恭しく。
 pratipatti-pradāna 〔因〕尊敬を表わすこと。
 pratipatti-prayoga 〔男〕〔義〕正行加行 *Bodh-bh.*
 pratipattimat 〔形〕知的な，機智に富んだ，機敏な，なすべきを知った。
 pratipatti-yukta 〔形〕〔義〕順行，随順，能具修 *Gand-vy.*: *buddhānuśāsti* ~ 順行諸仏教，随順諸仏法，随順仏教能具修 *Gand-vy.* 323。
 pratipatti-vipratipatti 〔因〕〔義〕有行無行 *Kāśy.*
 pratipatti-virahita 〔形〕〔義〕遠離正行 *Bodh-bh.*
 pratipatti-visārada 〔形〕=pratipatti-dakṣa。
 pratipatti-samuḍāgama 〔男〕〔義〕正行修証，修行習起 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*
 pratipatti-sampad 〔因〕〔義〕行具足，行満，具豊足 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
 pratipatti-saṃpanna 〔形〕〔義〕具行 *Aṣṭ-pr.*
 pratipatti-sāra 〔形〕〔義〕堅固行，専修眷眷然 *Mvyut.*, *Sam-r.*
 pratipatti-sthita 〔形〕〔義〕能住(如実)修行 *Śikṣ.*
 prati-pattṛ 〔男〕知覚するまたは聞く者；会得または了解する者；確言または主張する者；〔義〕行者，能行 *Abh-vy.*
 pratipatty-ānuttarya 〔因〕〔義〕正行無上，修行無上 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*
 prati-patnivat 〔副〕競争者(女)のように。
 prati-patha 〔°— または ~*m*] 〔副〕路に沿って，後の方へ。
 prati-Pad pratipadyate. → Pad.
 prati-pad 〔因〕入ること，接近；始め；冒頭の偈，序詩節；[半月(白月または黒月)のまたはとくに上半月(白月)の]最初の日；(…に対する)嗜好 (*Jat-m.*)；〔義〕行，正行，通行，現行，行迹，行跡；道，道跡，所行道通；法；順 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*: *yayā yayā* ~ *ā* 行如是道，因所行道 *Aṣṭ-pr.* 564.；*catasrah* ~ *aḥ* 四行 [1. *duḥkhā* ~ *dhandhābhijñā* 苦遲通行，2. *sukhā* ~ *dhandhābhijñā* 楽遲通行，3. *duḥkhā* ~ *t kṣiprābhijñā* 苦速通行，4. *sukhā* ~ *t kṣiprābhijñā* 楽速通行] *Mvyut.*
 prati-pada, 〔°— または ~*m*] 〔副〕一步ごとに；何処にも，すべての場合において；語ごとに；逐語的に，明瞭に；各々単独に。
 prati-panna 〔過受分〕獲得された，得られた；打ち克たれた，征服された，抑制された；承認した，約束した；(因)に対して行動する。 → Pad. 〔義〕住，得住；経過；至，向，趣，入 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Gand-vy.*, *Mvyut.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, 梵千.；行，正行，行者，履行，修行，修行者，行正行，奉行，修勤修行；順，能順；具足，具，具足成就；常勤，恒業 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*, *Kāśy.*, *Mvyut.*

Śikṣ.; 受 *Kāśy.*; 増 *Saddh-p.*: ~o bhavati 修行正行 *Bodh-bh.* 198.; akuśala-mūla~ 増不善根 *Saddh-p.* 267.; mithyāmārga~ 住於邪道, 趣於邪徑 *Gaṇḍ-vy.* 229.; sarva-jagad-dhita~ 但為利益一切衆生 *Gaṇḍ-vy.* 357.; sarva-jagad-dhita-sukha~ 常勤利樂一切衆生, 常能利益一切衆生, 長夜饒益一切衆生 *Gaṇḍ-vy.* 5.

prati-pannaka 形 向, 向者, 入 *Abh-vy.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*; 前, 先 *Abh-vy.*: 四果向 [1. srota-āpatti ~h 預流向, 2. sakṛd-āgāmi ~h 一來向 3. anāgāmi ~h 不還向, 4. arhat ~h 阿羅漢向] *Mvyut.*

prati-pannatva 甲 約束されたこと.

pratipanna-prayojana 形 (自己の)目的を達した.

prati-pannavat 過受分 承認した, 約束した.

prati-panmaya 形 従順な, 柔和な, 恭順な (*Jat-m.*).

prati-parigamana 甲 再びまたは後方に回って行くこと.

prati-paryāyam 副 毎回.

prati-parva 副 各 parvan (月の変わり目)ごとに.

prati-pallava 男 向い合ったまたは広がった枝.

prati-Paś pratipaśyati. → Paś.

prati-pāna 形 物々交換する. 男 對抗するための賭物; 賭博において復讐すること.

prati-pātram 副 (劇の)各々の役割に従ってまたはについて.

prati-pādaka 形 (因-ikā) (一°)を与える, ...を授ける; 論議する, 主題として扱う, 教える; 説明的の, 解説的の. 男 寝台の脚(?). 甲 落髪器 *Mvyut.*

prati-pādatva 甲 陳述すること, 教示すること, 説明すること.

prati-pādana 甲 (一°)に得させること; (因, 一°)に与えるまたは授けること; 返却すること, 返すこと, 戻すこと; (一°)に就任すること; 生ずること, ひき起すこと; 発表すること, 論ずること, 提示すること, 解説すること, 教えること; 開始; 施, 恵施; 趣, 趣向, 行至; 成, 成弁, 所成就 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Nyāy-pr.*, *Sūtr.*

pratipādanāsambhava 男 不容成 *Nyāy-pr.*

prati-pādaniya 未受分 与えられるべき; 嫁がせられるべき(娘); 提示・論議または討議されるべき.

prati-pādapam 副 各々の樹において.

prati-pādam 副 どの詩行 (pāda) においても.

prati-pādayitavya 未受分 授与または贈与されるべき.

prati-pādayitṛ 男 (因)に授与する者; 提示者, 教師.

prati-pādita 使役 過受分 獲得させられた, 与えられた(嫁がせられた), 捧げられた; 論証された, 説明された, 教示された; 生起した, 生産された; 施, 恵施, 与; 奉; 供養; 満足 *Av-s.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Śikṣ.*

prati-pāduka 形 (因-i) (業)を再び獲得する, とり戻す.

prati-pādukā 因 台.

prati-pādya 不変分 提示・説明または論議されるべき; 論議中の; 授在, 授, 応授入; 所為, 所示; 所染 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*

prati-pāna 甲 飲むこと; 飲料水.

prati-pāpa 形 悪い返報をする, (因)に悪をもって報復する.

prati-pālana 甲 見守ること, 守ること, 保護, 養育すること, 飼育(動物について); (圖, 一°)を保つこと, ...を遵守すること, ...を維持すること; 期待.

prati-pālaniya 未受分 期待または待望されるべき.

pratipālaya 名動 他 pratipālayati. → pālaya.

prati-pālayitavya 未受分 =prati-pālaniya.

prati-pālin 形 守る, 保護する.

prati-pālya 未受分 保護されるべき, 守られるべき; 待望されるべき.

prati-pitsā 因 得ようとする願望, 奮闘努力すること.

prati-pitsu 希求 形 (業, 一°)を得たいと思う, ...に奮闘努力する; (業)を学ぼうと願う.

prati-pipādayiṣā 因 (業)を提示または論議しようとする願望.

prati-pipādayiṣu 希求 形 提示・論議または説明したいと思う.

prati-piṣṭa 過受分 相互に摩擦された, 互いに摩擦する(馬), 相互に打たれたまたは傷つけられた, 交叉した(剣); 破碎された.

prati-Piḍ pratipīḍayati. → Piḍ.

prati-pīḍana 甲 圧迫すること, 悩ますこと; (一°)を荒廃疲弊させること.

prati-puṁ-niyata 形 とくに各人の自我のために定められた.

prati-puruṣa 男 類似の人, 代理者; 仲間; 人形(盗人の用いる); 三処人 *Sāmkhy-k.* ° ~ m 副 人々互いに, 各人に; 各個人に.

prati-pustaka 甲 原本の写本, 謄本, 写し.

prati-Pūj pratipūjayati. → Pūj.

prati-pūjaka 形 (圖, 一°)を尊敬する.

prati-pūjana 甲 (圖)を尊敬すること.

prati-pūjā 因 (圖, 因)を尊敬すること; 酬 梵千.

prati-pūjita 過受分 尊敬または尊崇された; (圖)を捧げられた.

prati-pūjya 未受分 尊敬されるべき.

prati-pūraṇa 甲 (圖)を満たすこと, 占有すること; (圖)をもって満たされたこと; 阻止, 障害.

prati-pūri 因 具足, 円満, 究竟満足 *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*

prati-pūrita 使役 過受分 満たされた, 充ちた; 満足させられた.

prati-pūruṣa 男 =prati-puruṣa.

prati-pūrṇa 過受分 =prati-pūrita. → Pr 1. 円満, 満足, 満中, 成満, 遍満, 具足, 多有, 多具足 充滿 *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy.* I., *Sūtr.* → a~.

pratipūrṇa-bimba 形 満ちた(月).

prati-pūrṭi 因 成就, 完成 (*Lal-v.*).

prati-Pr, → Pr 1.

prati-prcchaka 形 請者 *Sapt-pr.*

prati-prṣṭhā 因 葉の各面.

prati-pra-Grah, → Grāh.

prati-Prach pratiprcchati. → Prach.

prati-prajñāti 因 識別, 確認.
 prati-praṇavam 副 各々の om において.
 prati-praṇava-samyukta 因 各々の場合に om を伴った.
 prati-praṇāma 男 対礼, 答礼.
 prati-prati 因 (男 中) (業) と対を成した, 均衡を保つ; 業に匹敵する. 副 各各, —— *Lank.*, *Saṃkhy-k.*
 pratiprati-guṇa 男 各各徳 *Saṃkhy-k.*
 prati-pratika 〇, ~m 副 各各最初の語において; 身体の各部において.
 prati-pra-Dā, 再び返す, 再び戻す → *Dā.*
 prati-pradāna 中 返却すること, 返還; 嫁がせること.
 prati-pradūṣita 過受分 → *dūṣaya.*
 prati-prabhā 因 覆 (火の) 反射.
 prati-prabhātam 副 毎朝.
 prati-pra-Yam pratiprayacchati. → *Yam.*
 prati-prayavana 中 反覆して混合すること.
 prati-pra-Yā pratiprayāti. → *Yā.*
 prati-prayāna 中 帰還.
 prati-prayānakam 副 毎日の旅行とともに.
 prati-pra-Yuj pratiprayunakti, pratiprayunakte. → *Yuj.*
 prati-pra-Vac, → *Vac.*
 prati-praśna 男 反問, 答.
 prati-praśrabdha 過受分 [*Śrambh*] 和らげられた, 鎮められた, 穏かにされた, 静かになった (*Divy.*, *Mah-v.*); 休息, 除滅 *Gaṇḍ-vy.* → *a~.*
 prati-praśrabdhi 因 [*Śrambh*]. 除, 捨, 離, 断 *Abh-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.* → *a~.*
 prati-pra-Śrambh pratipraśrabhyate. → *Śrambh.*
 prati-prasava 男 反対の規則, (一°) に関する禁止の取消し; 元の状態への復帰. ~m 副 各々の出生において.
 prati-pra-Srj, → *Srj.*
 prati-prasthātṛ 男 *Adhvaryu* 祭官を助ける祭官.
 prati-prasthāna 中 *Pratiprasthātṛ* 祭官の地位.
 prati-prasrabdha 過受分 → *prati-praśrabdha.* 息, 止息, 休息; 已滅, 断, 除 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Suvik-pr.* → *a~.*
 prati-prasrabdhi 因 → *prati-praśrabdhi.* 除, 除断; 軽安 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*
 pratiprasrabdhi-sukha 中 軽安之樂 *Bodh-bh.*
 prati-pra-Srambh pratiprasrambhayati (使役). → *Śrambh.*
 prati-prasrambhaṇa 中 [= *prati-praśrambhaṇa*]; 休息, 捨, 棄捨 *Daś-bh.*, *Lank.*, *Sutr.*
 prati-prasrambhaṇatā 因 [= *prati-praśrambhaṇatā*]; 息 *Bodh-bh.*
 prati-prahāra 男 反撃, 返報の一打.
 prati-prākāra 男 外壁; 外郭, 外城, 外圍 *Abh-vy.*, *Mvyut.*
 prati-prāṇi 副 各生物においてまたはに対して.
 prati-prāṇi-grahaṇa 因 一切生物に打ち勝つ.
 prati-prābhṛta 中 返礼の贈物.

prati-prāsthānika 因 *Pratiprasthātṛ* 祭官の地位に関する.
 prati-priya 中 返報の好意, 好意に対する返報; 報 *Saddh-p.*
 prati-prekṣaṇa 中 再び(ある人を)眺めること.
 prati-preman 中 相愛.
 prati-praiṣa 男 返答としての指示.
 prati-prokta 過受分 答えられた.
 prati-plavana 中 後方へ跳ぶこと.
 prati-PHal pratiphalati. → *PHal 1.*
 prati-phalana 中 反射, 反射した像.
 prati-phalita 過受分 反射された.
 prati-baddha 過受分 → *Bandh.* 属, 随属, 繫属, 所繫, 有靠, 相連, 継, 補処; 能礙; 有, 徧了; 得 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.* → *prasāda~.*
 pratibaddha-citta 因 心を(一°)に向けたまたは執着した; 継心, 心貪著 *Bodh-bh.*, *Raṣṭr.*
 prati-baddhatā 因 (一°) との結合.
 pratibaddha-rāga 因 (因) に適応した音譜 (*rāga*) をもつ.
 prati-banddhṛ 男 障害者, 妨害者.
 prati-banddhṛtā 因 障害.
 prati-Bandh pratibadhnāti, pratibadhnīte. → *Bandh.*
 prati-bandha 男 結合; 包囲, 攻囲; 障害, 妨害; 停止, 未決; 論理上の障害, 妨害的論証; 支持; 遮, 遮過, 所遮, 礙, 障, 障礙, 対障; 覆; 阻, 断; 不容; 作難, 作魔; 有隔, 被隔不通, 纏逼 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.* → *a~.* 圓 (あらゆる種類の) 障害を使用して.
 prati-bandhaka 男 一° [同上]. 因 (因 -*ikā*) 妨げる, 妨害する.
 prati-bandhatā 因 妨害すること.
 prati-bandhana 中 遮礙 *Abh-vy.*
 prati-bandhavat 因 障害をもつ, 障害をもってふさがれた.
 prati-bandhi-kalpanā 因 (正当な) 反駁にあい易い仮定.
 prati-bandhitā 因 阻止すること, 障害.
 prati-bandhin 因 妨害または阻止され易い; (一°) を妨害する, …を妨げる.
 prati-bandhu 男 地位または階級が等しい.
 prati-bala 中 敵軍. 因 (因) と等しい力量のある, …と比肩する, …の好敵手である, (一°) において強さの相等しい; (不定, 行作 因) の 因) を能くする, …するに適した; 有力, 有力能, 有勢力, 有大勢力, 随力, 能, 力能, 自能, 堪能, 耐煩 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Vin.* → *a~.* 圓 好敵手.
 prati-Bādh pratibādhatē(-ti). → *Bādh.*
 prati-bādhaka 因 (因 -*ikā*) (一°) を撃退する.
 prati-bādhana 中 (因, 業, 一°) を阻止すること, 撃退すること.
 prati-bādhita 過受分 撃退させられた, 駆逐された.
 prati-bāhu 男 前腕; [諸人の名].

prati-bimba 1. (男) 甲 (水中における太陽または月の) 映像; 反映, 反射, 陰影, 肖像; 影, 像, 影像, 色像 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Gand-vy., Lan̄k., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.*; 鏡像, 鏡中像 *Lan̄k., Madhy-v., Mvyut.*

prati-bimba 2. (名動) 他 **pratibimbati** 反射する, 反映する.

prati-bimbaka 甲 = **pratibimba** 1. 像, 色像, 影 *Abh-vy., Lan̄k., Madhy-v.*; 如 *Sūtr.*

prati-bimbana 甲 反射; 比較すること.

prati-bimba-pratibhāsa 男 影像 *Bodh-bh.*

prati-bimbaya (名動) = **prati-bimba** 2.

prati-bimbita (名動) 過受分 反射した, (一°) において反射した.

pratibimbi-Kṛ (男) を反射する, …に類似する.

prati-buddha 過受分 → **Budh.** 覺, 覺悟, 覺時, 慧, 慧慧 *Bodh-bh., Buddh-c., Divy.*; 測量 *Sam-r.* 64.

pratibuddha-vastu 形 事物の本性を理解する.

prati-buddhi 因 目覚めること (譬喩).

prati-Budh **pratibudhyate(-ti).** → **Budh.**

prati-budhyamāna 現分 → **Budh.**

prati-bodha 男 目覚めること; 知識; 智, 智慧 *Gand-vy.*

prati-bodhaka 形 (男) を目覚めさせる. 男 教師.

prati-bodhana 形 (一°) を目覚めさせる, …に活気を与える. 甲 目覚めること; 拡がること, 流布; 目覚めさせること; 啓発すること, 教えること; 令悟 *Saddh-p.*

prati-bodhanā 因 目覚めること, 意識の回復.

prati-bodhaniya 未受分 目覚めさせられるべき.

prati-bodhavat 形 理解をもつ, 理性をもつ.

prati-bodhita 過受分 目覚めさせられた; 警覺 *Divy.*

prati-bodhitavat 過能分 目覚めさせた.

prati-bodhin 形 目覚めた.

prati-Brū **pratibravīti, pratibrūte.** → **Brū.**

prati-bha 形 聡明な, 賢明な.

prati-BHaj **pratibhajati.** → **BHaj.**

prati-bhaṭa 形 (ある人の) 好敵手である, …に等しい; (屬, 一°) に對抗する. 男 敵対者.

prati-bhaṭatā 因 (屬) に敵対すること.

pratibhaṭi-Kṛ …と対立させる, …と同等に遇する.

prati-BHaṇ **pratibhaṇati.** → **BHaṇ.**

prati-bhaya 形 怖るべき, 恐ろしい, 危険な; 怖 *Bodh-bh.* ~m 過受分 恐れて. 甲 (屬, 一°) に対する恐怖; 危険; 怖畏, 恐畏, 作畏, 畏心, 醜苦 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Sūtr.*

pratibhaya-kara 形 恐怖を起させる.

pratibhayaṃ-kara 形 [同上].

prati-bhavanam 屬 家ごとに.

prati-BHā **pratibhāti.** → **BHā.**

prati-bhā 因 肖像, 似姿; (一°) の光, …の光沢; 理解, 知能; 沈着; 立派な觀念, うまい考え; 根拠のある仮定; 空想, 幻像; 普現照 *Daś-bh.*; 弁才, 勝言説, 言無滞礙 *Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v.*

prati-bhāga 男 区分, 分け前; 日々の贈物 [果・花・蔬菜からなり王に献ぜられる]; 分別 *Lan̄k.*

prati-bhāgasās 屬 分割して, 分類して.

prati-bhāṇaka 形 弁説, 樂説 *Daś-bh.*

prati-bhāṇavat 形 [= **prati-bhāṇavat**] 言詞弁了, 言語辯了 *Suv-pr.*

prati-bhātas 屬 想像をもって.

pratibhā-dāna 甲 能施辯才 *Bodh-bh.*

prati-bhāna, -bhāna 甲 明白なこと; 着想のすばらしさ; 沈着; 理解; 能弁なこと (*Lal-v.*); 弁, 弁才, 巧弁, 弁説, 辞弁, 弁了, 能弁説者, 説, 所説, 能説法者, 樂説; 言詞, 言語 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gand-vy., Lal-v., Lan̄k., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Sapt-pr., Śikṣ., Sukh-vy.I., Suv-pr.*; 分別 *Saddh-p.*; 智慧力 *Aṣṭ-pr.*; **anantaḥ ~ena** 無辺弁才 *Mvyut.*; ~m **utpannam** 具足辞弁, 善能問答 *Suv-pr.* 11.

pratibhāna-kūṭa 男 [菩薩の名] 弁積, 弁才集 *Mvyut.*

prati-bhānatā 因 = **prati-bhāna.** 樂説弁才 *Saddh-p.*; **asaṅga ~** 樂説無礙弁才 *Saddh-p.* 327.

pratibhāna-pratisamvid 因 辯無礙解, 弁才無礙慧, 樂説無礙慧, 樂説無礙智, 於諸樂説無礙弁, 悟各美弁才 *Bodh-bh., Mvyut.*

pratibhāna-bhūmi 因 (無礙) 弁才地 *Sam-r.*

prati-bhānavat 形 機敏な, 冷静な性質を賦与された, 敏捷な; 具辯才, 得無礙弁 *Rāṣṭr., Śikṣ.*

prati-bhānavattva 甲 明敏, 敏速.

pratibhāna-saṃpanna 形 具弁, 弁才無礙 *Aṣṭ-pr.*

prati-bhāva 男 対応するもの; よく似たもの(人).

prati-bhāvat 形 冷静な性質を賦与された; 機敏な.

prati-bhāvatā 因 [prati-bhāva の 因].

prati-bhā-vaśāt 屬 = **prati-bhātas.**

prati-BHāṣ **pratibhāṣate(-ti).** → **BHāṣ.**

prati-BHās **pratibhāṣate.** → **BHās.**

prati-bhāsa 男 顕現すること; 外觀; 思想の生起; 妄想; 影, 光影, 影現, 影照, 影而現, 影像, 像; 光, 光明, 明, 像照明; 照, 照了; 幻, 幻影; 翳; 現, 普現, 所現, 普見, 顕現, 相似顕現, 似現, 似顕現, 似, 変似, 似生; 電, 電光; 眼華 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gand-vy., Lal-v., Lan̄k., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Śikṣ., Suvik-pr., Vijñ-v.* → **ātma ~.**

prati-bhāsatā 因 似顕現 *Vijñ-v.*

prati-bhāsatva 甲 光 *Sūtr.*; 顕現, 似顕現 *Madhy-bh., Madhy-vibh.*

prati-bhāšana 甲 顕現すること; 外貌, 外觀.

pratibhāsa-prāpta 形 影現, 現影 *Daś-bh.*

pratibhāsa-mātraka 形 唯影像 *Bodh-bh.*

pratibhāsa-sama 形 如影現, 如影普現, 猶如影像, 如電光 *Gand-vy.*

pratibhāsaopama (°sa-up°) 形 独如影像, 如電, *Gand-vy.*; 譬如 *Śikṣ.*

prāti-BHid **pratibhīṭti.** → **BHid.**

prati-bhinna 過受分 → **BHid.**

prati-bhinnaka 形 暴露された, 明らかにされた (?)

(Divy.); 漢訳 黙然(?) Divy.

prati-bhi 因 恐怖.

prati-BHuj pratibhunakti. → BHuj 2.

prati-BHū pratibhavati. → BHū.

prati-bhū 男 (因, 属, 一) に対する保証人または保証; …の代表者=…に等しいもの; 漢訳 証, 質 Mvyut.

prati-bhū-pāla 男 敵対する王侯; 因 各々の単独の王侯.

prati-bhū-bhṛt 男 敵対する王侯.

prati-BHūṣ pratibhūṣati. → BHūṣ 2.

prati-BHṛ pratibharati, pratibharti. → BHṛ.

prati-bheda 男 分離; 暴露, 発見.

prati-bhedana 因 分裂, 破裂, 粉々に破碎すること.

prati-bhairava 形 恐るべき.

prati-bhoga 男 享樂; (医薬上の)規定食.

prati-ma 形 (一) に類似する, …のような; 漢訳 如, 猶如, 譬如, 与等, 等倫, 量等 Bodh-bh., Buddh-c., Divy., Lal-v., Lañk., Saddh-p.; 容 Saddh-p.: svapnopabhoga ~ 猶如夢所得 Buddh-c. 89. → a ~.

prati-maṅgala-vāra 男 因 毎火曜日.

prati-maṅdana 因 漢訳 莊嚴 Mañj-m.

prati-maṅḍala 因 対応するまたは第二の円; 漢訳 莊嚴 Gaṇḍ-vy.

prati-maṅḍita 過受分 裝飾された (Saddh-p.); 漢訳 莊嚴, 嚴飾, 校飾, 以為嚴飾; 所成, 各各茂盛; 清淨 Aṣṭ-pr., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lañk., Rāstr., Saddh-p.

prati-maṅḍita-vyūha 男 漢訳 莊嚴, 間錯莊嚴 Gaṇḍ-vy.

prati-Man pratimanute → Man.

prati-mantraṇa 因 応答.

prati-mantram 副 各偈とともにまたはにおいて.

pratimantraya 名動 因 pratimantrayati. → mantraya.

prati-mantrayitavya 未受分 答えられるべき; 漢訳 復説, 復演説, 所応呼 Mvyut.

prati-mantrita 過受分 → mantraya.

prati-mandiram 副 各々の家において.

prati-manv-antara 因 各々の Manu の期間.

~m, ~e 副 各々の Manu の期間において.

prati-malla 男 相撲の相手, 敵対する戦士; 競争者.

prati-mahiṣa 男 敵の水牛.

prati-Mā pratimimite. → Mā 1.

prati-mā 因 (対量), 似顔, 肖像, 画像; 絵画; 偶像; 象徴 [月を意味する語とともに °— = 反映した月, 月の影]; 量; 漢訳 像, 形, 形像 Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Divy., Lal-v., Mañj-m., Śikṣ., 梵千., 梵維.: tathāgata ~ 如来像 Śikṣ. 313. 形 → prati-ma.

pratimā-karaṇa 因 漢訳 造立形像 Śikṣ.

pratimā-gata 形 偶像中に宿った(神).

pratimā-candra 男 月影, 反映した月.

prati-mātr 副 それぞれ母の異なるに随って.

prati-mātrā 因 因 すべての mora (普通短音節に当る韻律の単位; 記号 ~).

prati-māna 因 対量; 力量匹敵する相手; 典型, 模範; 比較, 類似, 同等; 重量.

prati-mānanā 因 長上に対する敬意, 敬意を表すこと.

pratimāna-pratimāna-kalpa 形 類似する, 同様の.

prati-mānayitavya 未受分 顧慮または考慮されるべき.

prati-māyā 因 対抗する咒法.

prati-Mārg, → Mārg.

prati-mārga 男 帰途. ~e 因 互いに出会う路において (Divy.); 漢訳 於中路 Divy.

pratimā-viśeṣa 男 肖像または画像(の一種).

pratimā-śaśāṅka 男 = pratimā-candra.

prati-māsa, [°—, ~m] 副 毎月.

prati-mita 過受分 → Mā 1.

prati-Miv pratimivati. → Miv.

prati-mukula-, °— 副 各々の芽に.

prati-mukta 過受分 → Muc.

prati-mukti 因 (告別の)許可, 賜暇.

prati-mukha 因 戯曲中の筋が発展する部分 [インド戯曲の五接合 (samdhi) の第二, 古代ギリシア戯曲の epitasis に比せられる]; 返答, 返事. 形 (因-ā, -i) 前方にある, 反対の, 対立する; 緊急の, 面前にある; 漢訳 対面, 作現前, 現前 Vajr-pr. °—, ~m 副 (属) の前方に; …に対してまたは後方へ.

prati-Muc pratimuñcati(-te). → Muc.

prati-Muṣ pratimuṣayati(使役). → Muṣ.

prati-Mud pratimodate(-ti). → Mud.

prati-mudrā 因 偽造の印章; 捺印; 漢訳 印文, 印像 Gaṇḍ-vy., Lal-v.

prati-Muh pratimohayati(使役). → Muh.

prati-muhus 副 再三再四, 絶えず.

prati-muhūrtam 副 各瞬間に, 絶えず.

prati-mokṣa 男 [仏教僧徒の生活を規定した条目] (Kār-vy.). → prati-mokṣa.

prati-mokṣaṇa 因 (租税の)免除; 漢訳 解脱, 救脱, 別別棄捨 Abh-vy.

prati-mokṣa-sūtra 因 [仏典の名].

prati-mocana 因 免れること, (一) からの解放.

prati-mocita 使役 過受分 解放された, 救われた, 解脱した.

prati-Yat pratiyatate. → Yat.

prati-yatna 男 …に払われた労力, 苦心, 準備, 造. 形 警戒する, 用心深い (Jat-m.).

prati-Yabh, → Yabh.

prati-Yā pratiyāti. → Yā.

prati-yāta 過受分 → Yā.

prati-yātana 因 報復.

prati-yātanā 因 肖像, 画像, (神の)彫像. °— 形 の姿に現れた.

pratiyāta-nidra 形 眠りから覚めた.

pratiyāta-buddhi 形 (因) に心に向けた.

prati-yāna 因 帰還.

prati-yāmini 副 毎夜.

prati-yāyin 形 逆っている, 攻撃する.

prati-Yuj pratiyunakti, pratiyunkte. → Yuj.
 prati-yuddha 過受分 戦われた。 田 對抗して争うこと、応戦。
 prati-Yudh pratiyudhyate(-ti). → Yudh.
 prati-yuvati 因 女性の競争者、妾。
 prati-yuvam 副 若者に向って。
 prati-yūthapa 男 敵(象軍)の首領。
 prati-yoga 男 反対、抵抗； 圓 醫薬または解毒剤によって。 ~m 副 (規則を)逐条的に。
 prati-yogika 形 (一°) と相関的な、…と対照をなした。
 prati-yogikatva 田 相互関係。
 prati-yogitā 因 相関、対照。
 prati-yogitva 田 [同上]。
 prati-yogin 形 相関的な、対照をなした。 圓 対立者、敵手。
 prati-yojayitavya 未受分 弦を張られるべきまたは調律されるべき(琵琶)。
 prati-yoddhavya 未受分 応戦されるべき。
 prati-yoddhṛ 男 戦士；好敵手。
 prati-yodha 男 戦士、敵対者。 ~m 副 各戦士のそばに。
 prati-yodhana 田 戦うこと、戦闘。
 prati-yodhin 男 戦士、(一°)に匹敵する敵対者。
 prati-yoni 副 各々の出生に従って。
 prati-yoṣit 因 =prati-yuvati。
 prati-Rakṣ pratirakṣati. → Rakṣ.
 prati-rajani 副 毎夜。
 prati-rañjita 過受分 染色された、赤くされた。
 prati-rata 過受分 (因) を喜んだ。
 prati-ratha 男 戦における敵手、力量匹敵する敵対者。
 prati-rathyam 副 各々の路において。
 prati-rava 男 …を叱咤すること、口論すること、喧嘩； [圓 副] こだま、反響。
 prati-Ras pratirasati. → Ras 1.
 prati-rasita (過受分) 田 こだま、反響。
 prati-rāja 男 対立したまたは敵対した王。
 prati-rājan 男 [同上]。
 prati-rātram 副 毎夜。
 prati-rātri 副 [同上]。
 prati-rāddha 過受分 → Rādh.
 prati-Rādh, → Rādh.
 prati-ripu 副 敵に対して。
 prati-Ruc pratirocate. → Ruc.
 prati-ruta 過受分 叫びまたは呼ぶのに答えた； 田 対答 Lal-v.
 prati-ruddha 過受分 → Rudh 3.
 prati-Rudh pratirunaddhi, pratirunddhe, pratirundhati(-te). → Rudh 3.
 prati-Ruṣ pratiroṣayati(使役). → Ruṣ.
 prati-Ruh pratirohati. → Ruh 2.
 prati-rūḍha 過受分 → Ruh 2.
 prati-rūpa 田 (対応する形)、像、肖像、似顔； 模範； (圓) の贗造物； 田 似； 所応、(共)相応 Bodh-bh., Divy., Śikṣ. 男 相似 Bodh-bh. 形 似た； 対応した、適当した； うるわしい、容姿秀麗な；

相似；相称、応、像似、相稱；如法；無不順； 対類 Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Mvyut., Śikṣ.; 虚 Bodh-bh.; 儘勾(?), 鍋台(?) Mvyut.: ~o go careṇa 行境無不順 Mvyut.; ~vastu 虚事 Bodh-bh. 234. → a~.

prati-rūpaka 形 (因-ikā) 似た、…の外貌をもつ； 贗造の； 田 像、像似、形像、影像、似象、似、相似、似相、非而似、非而現相； 詐現相； 作如； 对； 名字 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., Sūtr. 男 藪医者、山師。 田 贗の法令； 田 似、相似、非実 Bodh-bh., Śikṣ.

pratirūpa-caryā 因 模範的行為。

prati-rūpatā 因 類似； 田 機宜可否 Bodh-bh.: nātmāna eva ~m viditvā 非自能了機宜可否 Bodh-bh. 271.

pratirūpa-deśa 男 田 中国、順境 Mvyut.

pratirūpadeśa-vāsa 男 田 勝土(輪)、住勝土； 生中国、居順境 Mvyut., Sūtr.

prati-rūpā 因 [Meru の娘の名]。

prati-rūpika 形 類似する、対応する、(一°)の外観を呈する。

prati-roddhṛ 男 (圓) の対立者、…の反対者。

prati-rodha 男 障害、妨害。

prati-rodhaka 男 反対者、妨害者； 盗人。

prati-rodhana 田 妨害、予防； (圓) を無効としてしまうこと。

prati-rodhin 形 妨害する。 圓 盜賊。

prati-ropita 過受分 再び植えられた。

prati-roṣitavya 田 非人 田 応返贖、還怒 Mvyut.

prati-raudra-karman 形 他者に対して暴行を加える。

prati-lakṣaṇa 田 徴候、しるし、標幟； 検証の印。

prati-Laṅgh, → Laṅgh.

prati-labdha 過受分 田 得、所得、已所得、已得、曾得、獲、獲得、逮得、所獲得、曉得、証、(皆)已証得； 逮致、已知； 成就； 通達； 具足； 生 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Mvyut., Rāstr., Saddh-p., Sapt-pr., Suvik-pr.

prati-labdhavat 過受分 田 得、逮得 Saddh-p.

prati-labdhu-kāma 形 田 欲得 Śikṣ.

prati-Labh pratilabhate. → Labh.

-prati-labha 形 田 得 Gaṇḍ-vy.: manuṣya ~ 得人身 Gaṇḍ-vy. 116.

prati-labhamāna 過受分 田 受、受用、納受、取 Śikṣ.

prati-labhya 未受分 受けられるべき、得られるべき； 田 可得 Sapt-pr.

prati-Lamb, → Lamb.

prati-lambha 男 獲得、取得； (一°) の回復、…の回收； 会得； 田 得、所得、可得、能得、獲得、至得、逮得、証得； 証、証契； 獲、逮、逮致； 受； 通達； 成就、成立； 得遇； 招； 生 Abh-vy., Bodh-bh., Daśbh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lan̄k., Madhy-bh., Madhy-vibh., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr.: tathāgata-jñāna ~ 得如来(微妙)智 Bodh-bh.14.; bhoga ~ 得財宝 Bodh-bh. 6.; lokottara-dharma ~ 得出世間法、証出世間法 Madhy-vibh. 194. → avabhāsa ~.

pratilambha-paramatā 因 至得最勝，至得無比
Madhy-bh., Madhy-vibh.
prati-lambhika 形 得，獲 Abh-vy., Lanik.
prati-lābha 男 獲得，取得；財利 Bodh-bh.
pratilābha-satkāra 男 財利供養 Bodh-bh.
prati-lābhika 形 獲 Mvyut.
prati-lābhitā 因 得，獲得 Gand-vy.
prati-lābhin 形 得，至，証 Bodh-bh., Lal-v.,
Lanik.
prati-Likh pratilikhati. → Likh.
prati-likhita 過受分 返信された。
prati-līngam 副 各々の男根に。
prati-Lih pratilehayati. → Lih.
prati-Li, → Li 1.
prati-lina 過受分 → Li 1. 覆われた；羞恥
(?) Lal-v. 157.
prati-Lubh pratilobhayati(使役). → Lubh.
prati-lekhana 因 規定に従ってすべての什器を淨める
こと。
prati-lekhā 因 [同上].
prati-loka 男 各々の世界。
prati-loma 形 髪に逆った，不本意な，反対の，不利
の；敵意のある；逆の，自然または規定の順序に反す
る；種姓(階級)に反する(父の種姓が母の種姓より低
い)；逆，不順，不随順，不合理，不出於理
Abh-vy., Daś-bh., Mvyut. °—, ~m 副 逆の順
序に，誤った方向において，逆に。圓 副 不親切な
仕方。
prati-lomaka 形 逆の，自然または規定の順序に反し
た。因 逆の順序，転倒。
prati-lomatas 副 順序または方向が逆であるために，逆
の順序方向において。
prati-loman 因 不順 Mvyut.
pratiloma-rūpa 形 逆な。
prati-lomā 因 [特殊の咒文の名(終りから始めへ逆に
誦えられる)].
pratilomānuloma 形 (意に反しまたは意に順ずる)，或
いは好意的に或いは逆に。°—, ~m 副 逆の順序
・方向および(または)自然の順序・方向で。
pratilomānulomatas 副 不親切および親切な方法で。
prati-vaktavya 未受分 答えられるべき；与えられる
べき(返答)；争われるべき，論ぜられるべき；反駁
されるべき(人)。
prati-Vac prativakti → Vac.
prati-vacana 因 (圓, °—) に対する返事，…への応
答；報言，報答，与言談 Sam-r., Śiks.
prativacani-Kṛ, 返答を与える，(圓) をもって答える。
prativacani-kṛta 形 答えられた。
prati-vacas 因 返答。
prativat 形 prati という語を含んだ。
prati-vatsara 男 年，~m 副 毎年。
prati-Vad prativadati. → Vad.
prati-vaditavya 未受分 争われるべき，論ぜられるべ
き。
prati-vanam 副 各々の森林において。
prati-vanitā 因 女性の競争者。

prati-Vand, → Vand.
prati-Vap prativapati. → Vap 2.
prati-varjita 過受分 関閉 Abh-vy.
prati-varṇa 男 各種姓(階級)。~m 副 各種姓(階級)
にとって。
prati-varṇika 形 対応する色の，類似の；相似，
像似，似相，形像，作如 Aṣṭ-pr., Mvyut., Sūtr.:
prajñā-pāramitā ~ā (因) 相似般若波羅蜜多 Aṣṭ-
pr. 298.; bodhisattva ~ 似菩薩相，形像菩薩 Aṣṭ-
pr. 738.
prati-vartita 過受分 會転 Lal-v.
prati-varṣa, [°—, ~m] 副 毎年。
prati-vallabhā 因 女性の競争者，妾。
prati-Vas prativasati. → Vas 3.
prati-vasati 副 各々の家の中にまたは上に。
prati-vastu 因 対応する事物，同等な物，代償；別
別事，如錢鈔(?)，[Tib. nor dan ḥdra ba] Mvyut.
prativastūpamā 因 直喩または比較(修辭)。
prati-Vah prativahati. → Vah.
prati-vahana 因 返還すること；撃退すること，阻止
すること；仍回退 Mvyut.；誹謗 Sūtr.
prati-vahni-pradakṣiṇam 副 祭火の(左から)右へ廻り
歩くたびごとに。
prati-vākya 因 返答。
prati-vāc 因 (圓) 呼びかけること，吠えること；返答。
prati-vācita 因 返答。
prati-vāni, °nī 因 反対，拒絶，嫌悪；瞋恨，違
礙想 Aṣṭ-pr. 931.; 相違(?) Aṣṭ-pr. 516.; 不投，不
投合 Mvyut. → a~.
prati-vāta 男 向い風；非順風 Mvyut. ~m 副
風に逆って；逆風 Abh-vy. 因 風下に。
prati-vāda 男 否定，反駁。
prati-vādin 形 反対する；強情な。男 敵対者，(訴訟
における)被告；敵論，敵論者；講過；犯批
Cat-s., Mvyut.
prativādy-asiddha 形 敵論者不成，不成於犯争，
犯不成 Mvyut.
prati-vāraṇa 形 防御する，阻止する。因 避ける
こと；敵対する象，偽装の象(象の形を取ったある
Daitya)。
prati-vārīta 使役 過受分 → Vr 1. 因 防御。
prati-vārttā 因 報道。
prati-vārya 未受分 撃退・阻止・抑止または防御される
べき(一°)。
prati-vāvadat 陸意 現分 → Vad.
prati-Vās prativāśyate. → Vās.
prati-vāsaram 副 日々。
prati-vāsita 1. 過受分 (圓) をまとった。
prati-vāsita 2. 使役 過受分 住した(Divy.).
prati-vāsin 形 近隣の人。
prati-vikalpa 男 妄想，妄想計，妄想計著，計，
分別，虚妄分別，執著 Lanik.
prati-vikalpana 因 妄想，虚妄分別 Lanik.
prati-vikalpanā 因 妄想，分別，虚妄分別 Lanik.
prati-vikalpayitavya 未受分 生分別 Lanik.
prativikalpa-saṃdhi 男 執著相續，妄想計著相

続 *Lank.*

prativikalpābhiniveśa-saṃdhi 男 妄想計著相
続, 分別執著相続 *Lank.*

prati-vi-Klp prativikalpayati. → Klp.

prati-vigata 過受分 捨 *Divy.*

prati-vighāta 男 阻止すること, 防御すること.

prati-vijñapti 因 了已, 了別已, 各了別, 各各
別, 能了別, 知, 対対視; 建立, 施設; 表了, 表色
Abh-k., Abh-vy., Maddh-v., Śikṣ.

prati-vi-Jñā prativijñāti. → Jñā.

prati-viṭapam 副 各々の枝に.

prati-Vid prativetti (1.), prativindati(-te) (2.). →
Vid 1,2.

prati-vi-Drś prativipaśyati. → Drś.

prati-viddha 過受分 [Vyadh] 貫かれた, 打たれた,
傷つけられた; 了, 知, 覚知, 了知, 決定了知,
了達, 達, 通達, 曉, 覚; 得, 速 *Abh-vy., Bodh-
bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut.* → prati-vedha.

prati-vidyam 副 各々の理論において.

prati-Vidh, → Vidh 1.

prati-vi-DHā pratividadhāti, pratividhatte. →
DHā.

prati-vidhātavya 未受分 使用されるべき; …に対し
て備えられるべき; 應勤通積, 応起対治 *Abh-
vy.* 甲 罪人 人は注意すべきである.

prati-vidhāna 甲 予備, 対抗, 防護, (圓, 一°) に対
する反対行動・予防または警戒; (一°) に対する注
意または準備; 回言, 復回答, 回改 *Mvyut.*

prati-vidhī 男 (一°) のための手段または療法.

prati-vidhitsu 因 対抗しようとする欲求または意図.

prati-vidheya 未受分 逆らわれるべき; 排斥されるべ
き. 甲 罪人 人は警戒すべきである; 人は (因) に
対する措置を講ずべきである.

prati-vidhya 不変分 通, 得通達 *Sūtr.*

prati-vi-ni-Srj prativinisrjati. → Srj.

prati-vinita 過受分 (prati-vi-Ni から, =Pali paṭivi-
neti, °nita) 移された, 除かれた, 駆逐された, 制
せられた (*Mah-v.*).

prati-vi-Nud, prativinudati. → Nud.

prati-vinodana 甲 除遣, 開解 *Bodh-bh.*

prati-vindhya 男 [ある王の名 (*Vindhya* 山の一地方
を統治した)]; [*Yudhiṣṭhira* の息子の名]; 甲 *Prati-
vindhya* の後裔.

prati-viparita 過受分 正反対の.

prati-vipaśyat 現分 智観 *Lank.*

prati-vibuddha 過受分 覚, 覚已, 覚悟, 夢覚
已, 從睡寤, 開悟 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-v., Laṅk.,
Śiv-pr.*

prati-vi-Budh prativibudhyate. → Budh.

prati-vibhāga 男 分配, 割り当て; 差別, 分別
Daś-bh., Laṅk.

prati-vibhāvayamāna 現分 了達, 分別観察
Lank.

prati-vi-BHū prativibhāvayati(使役). → BHū.

prati-vimānanā 因 輕慢 *Kaśy.*

prati-vimba 男 [=prati-bimba] 像, 鏡像, 影

Lank., Mvyut.

prati-virata 過受分 離, 遠離, 不 *Aṣṭ-pr., Śikṣ.:*
prāṇātipātāt ~ 不殺生 *Aṣṭ-pr. 667.* → a ~.

prati-virati 副 各々の休止または消失において. 因
離, 不 *Bodh-bh., Mvyut.*

prati-vi-Ram prativiramati. → Ram.

prati-viramanatā 因 離, 捨, 捨離 *Bodh-bh.*

prati-viruddha 過受分 敵意ある, 不和な, 謀叛した
(*Divy.*); 起逆, 忿諍 *Av-ś., Divy.*

prati-virodha 男 相違 *Bodh-bh.*

prati-vivardhana 形 漸増長 *Bodh-bh.*

prati-viśiṣṭa 過受分 更に顕著な, 特殊の, 更に善い
または悪い; 勝, 最勝, 殊勝, 勝出, 最為殊
勝, 為最勝尊, 最尊最勝, 奇巧超絶 *Bodh-bh., Divy.,
Lal-v., Śiv-pr.*

prati-viśiṣṭatara 比較 勝上 *Divy.*

prati-viśiṣṭābhyudgata 過受分 最極高勝 *Śikṣ.*

prati-vi-Śudh prativišodhyate. → Śudh.

prati-viśeṣa 男 特殊性, 特殊の事情; 別, 差別
Abh-vy., Aṣṭ-pr.

prati-viśeṣaṇa 甲 詳記すること.

prati-viśrabdha 過受分 信頼に満ちた.

prati-viśva 形 種 だれもかれも; 因 すべての場合に.

prati-viṣa 形 解毒剤を含んだ. 甲 川鳥 *Mvyut.*

prati-viṣaya 男 種 すべての感覚の対象; 対塵
Saṃkhy-k. °-, ~m 副 各個の感覚の対象に関
して.

prati-vihita 過受分 反撃された, …から守られた.

prati-Vi prativeti. → Vi 1.

prati-vikṣya 不変分 見終って.

prati-vita 過受分 → Vyā.

prati-vira 男 敵対者, 匹敵する対抗者.

prati-Vṛ prativārayati(使役). → Vṛ 1.

prati-Vṛt prativartate. → Vṛt.

prati-vṛttā 因 ニュース, 報道.

prativṛttāntam 副 言いならわしによれば, 言われて
いるように.

prati-vṛṣa 男 敵対する牡牛.

prati-vedam 副 各 *Veda* の場合に, 各 *Veda* にと
つて.

prati-vedayitavya 使役 未受分 開悟 *Bodh-bh.*

prati-vedāntam 副 各 *Upaniṣad* において.

prati-vedita 過受分 (業) に関する報道を受けた.

prati-vedha 男 [Vyadh: Pali paṭivedha] 洞察, 理
解, 上達, 知見, 知識 (*Mah-v.*); 通, 能通,
達, 通達, 善通達, 知; 分別, 覚悟; 入, 穿徹 *Abh-
vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Madhy-
vibh., Raṣṭr., Śikṣ., Sūtr., Śivik-pr.*

prati-vedhanā 因 通達, 堪達 *Abh-vy.*

prativedhāmbana (°dha-āl°) 甲 通達所縁, 通
達境界 *Madhy-vibh.*

prati-velam 副 各々の機会において.

prati-veśa 形 隣接した; 補助の, 從属した, 小さな.
男 隣人, 隣家.

prati-veśaya 男 [同下 男].

prati-veśin 形 (因 -ni) 隣接した. 男 隣人.

prati-veśma 副 各々の家において。
 prati-veśman 甲 隣家。
 prati-veśya 男 隣人。
 prati-vaira 甲 対応する敵意, 復讐。
 prati-voḍhavya 未受分 (家に)持ち帰られるべき。
 prati-Vyadh pratividhyati(-te). → Vyadh.
 prati-vyāhāra 男 返答; 答 Bodh-bh.
 prati-Vyūh prativyūhate(-ti). → Vyūh.
 prati-vyūha 男 陣地を対峙させること, 陣容を整えること; こだま, 反響。
 prati-saṅkā 女 (一°) であると想像または思考すること。
 prati-satru 男 闘士, 対抗者, 敵。
 prati-sabda 男 こだま, 反響; 響, 応声, 形声 Mvyut., 梵千。
 prati-sabdaka 男 [同上]。
 pratiśabda-ga 形 響きに従う, 音の方角に赴く。
 prati-sabdavat 形 反響する。
 prati-Śam pratisāmāyati(使役). → Śam.
 prati-sama 男 (一°)の停止。
 prati-samana 甲 除, 除珍 Suv-pr.
 prati-sayita 過受分 → Śi 2. 甲 しつこさ。
 prati-sara 男 破碎。
 prati-saraṇa 形 [=prati-saraṇa] 漢訳 一°, 依, 依止, 所依止処, 帰依, 所依; 随, 随順; 信 Daś-bh., Lan̄k., Śikṣ.: dharma~ 依止法者 Śikṣ. 324. → a~. 甲 (一°)に対する信頼 (Divy.); 依, 依止, 依処, 所依処, 依止処, 依怙, 所依怙; 帰, 帰依; 救護, 拯濟; 摂; 随順 Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Śikṣ., Sūtr.; [囹 < patisarāṇa 十なわち prati-smaraṇa(?)] 念 Śikṣ. 183. → prati-saraṇa.
 prati-saraṇatā 女 [=prati-saraṇatā] 漢訳 依, 救護, 普覆 Gaṇḍ-vy., Madhy-v.
 prati-saraṇa-bhūta 形 [=pratis°] 依所となった, 圓をその庇護所とする (Divy.); 漢訳 作所依処, 為依怙, 作所依怙, 為帰, 為帰依, 作帰依; 為拯濟, 能救護; 能摂 Divy., Gaṇḍ-vy.
 prati-sarāsana 甲 敵対者の弓。
 prati-saśin 男 幻月, 仮月。
 prati-sākham 副 各々の Veda 学派にとって。
 prati-sākhavat 形 (一°)を横枝としてもつ。
 prati-sākhā 女 横枝; 圓 Veda の全学派。
 prati-sānta-kopa 形 怒りの去った(人)。
 prati-sāpa 男 対応する呪詛, 返報の呪詛。
 prati-sāmaka 形 漢訳 安処, 善処 Bodh-bh.
 prati-sāmita 過受分 ためて置かれた, 取り除かれた; 分付 Divy.
 prati-Śās pratisīṣyate. → Śās 1.
 -prati-sāsana 甲 対抗する命令・権威。
 prati-siṣṭa 過受分 → Śās 1.
 prati-siṣyakā, → siṣya~.
 prati-Śi, → Śi 2.
 prati-sulka, [prati-śrutkā の誤] Lal-v. 218.
 prati-Suṣ pratisuṣyati. → Suṣ 1.
 prati-syāya 男 感冒, カタル。
 prati-śrama 男 労苦 (Divy.).

prati-śraya 男 庇護, 援助; 避難所, 庇護所; 住所, 居所, 住居; (圓)の貯蔵所; 漢訳 止憩処, 安置住処, 舍宅 Bodh-bh., Divy. tvam tasya ~h お前はそれをすべて知っている. 形 (一°)に住する。
 pratiśrayārthin 形 漢訳 求止憩処 Bodh-bh.
 prati-śrava 形 答える (因). 男 約束, 約定, 保証。
 prati-śravaṇa 甲 回答; 約束; 同意。
 pratiśravānte 副 約束の期限を過ぎた後に。
 prati-śrita 甲 避難所。
 prati-Śru pratisrṇoti. → Śru 1.
 prati-śrut 女 反響; 返答; 約束。
 prati-śruta 過受分 → Śru 1. 男 [Ānakadundubhu の息子の名]. 甲 約束; 漢訳 谷響 Śikṣ.
 prati-śruti 女 返答; 約束; 反響; 漢訳 聞 Bodh-bh.
 prati-śrutka 甲 漢訳 空中響声, (於)山谷中(自聞其響 Lan̄k. 20.
 prati-śrutkā 女 反響; 漢訳 響, 声, 出声, 音響, 響, 呼響, 呼聲響, 応声, 山中呼聲, 谷響 Aṣṭ-pr. Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lan̄k., Mvyut. Saddh-p., Suvik-pr., 梵雜。
 pratiśrutkopama (°kā-up°) 形 漢訳 如響, 猶如谷響, 猶如呼響, 如呼聲響 Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy.
 pratiśrutkopama-kṣānti 女 漢訳 如響忍, 響忍 Gaṇḍ-vy.
 prati-śloka 副 各 Sloka において。
 prati-Śic. → Sic.
 prati-śiddha 過受分 → Sidh 1. 漢訳 遮, 被遮, 可遮止; 制; 断, 断除; 撥 Abh-vy., Bodh-bh., Divy.
 pratiśiddha-karman 甲 漢訳 制業 Bodh-bh.
 prati-śiddhavat 過能分 → Sidh 1.
 prati-Śidh pratiśedhati. → Sidh 1.
 prati-śeddhavya 未受分 抑制されるべき, 阻止されるべき; 否定されるべき; 漢訳 応遮, 可遮, 応制, 所応制 Bodh-bh.
 prati-śeddhṛ 男 (圓, 時として事物の 圓)の防止者・拮制者または反対者。
 prati-śedha 男 防止, 阻止, 抑制; 禁止; 廢除, 否定・否認, 拒絶; 禁止の強制または想起(修辭); 漢訳 遮能遮, 遮止, 遮制, 遮防, 制; 除, 棄除, 遺除; 破断; 撥; 滅; 翻; 遠離; 対治 Abh-vy., Bodh-bh. Buddh-c., Lan̄k., Mvyut., Nyay-pr., Śikṣ., Sūtr Vijn-v.
 prati-śedhaka 形 (因 -ikā) 防ぐ, 禁ずる; 否認する 漢訳 不能壞 Śikṣ.; 療 Daś-bh.: sarva-paropakrama ~ Śikṣ. 27.
 prati-śedhana 形 防ぐ. 甲 (圓)からの防止・阻止または抑制; (圓)に対する禁止; 棄却, 論駁; 漢訳 遮止 Bodh-bh.
 prati-śedhanatā 女 漢訳 制 Bodh-bh.
 prati-śedhaniya 未受分 抑制または防止されるべき。
 prati-śedhayitavya 使役 未受分 漢訳 応遮 Madhy-v.
 prati-śedhayitr 形 (因 -tri) 否認する。
 pratiśedhākṣara 甲 拒絶。
 pratiśedhātmaka (°dha-āt°) 形 否定の形式をもつ。
 pratiśedhāpavāda 男 禁止の廢棄。
 pratiśedhārthiya 形 否定の意義をもつ。

pratiśedhokti (°dha-uk°) 因 否定的または禁止的表現。
 pratiśedhopamā (°dha-up°) 因 否定(形をもつ)比較。
 pratiśedhya 未受分 防止・禁止または棄却されるべき；
 否定されるべき。
 prati-śkabh, → Skabh.
 prati-śtambha 男 妨害, 障礙, 阻止；廢除。
 prati-śtambhin 形 (一°) を阻害する。
 prati-śtubh pratiśtobhati. → Stubh.
 prati-śtha 形 堅固な；抵抗する；(一°) で終る, …
 に導く (Jāt-m.); 住, 安住 Gaṇḍ-vy. →
 a~.
 prati-śthā pratitiśthati(-te). → Sthā.
 prati-śthā 因 立ちどまっていること, 停止, 静止；
 不動, 安定；(一°) において堅忍不拔なこと；地
 位, 位置；貯蔵所；基礎；支持；後裔 (譬喩)；住
 所, 家宅, 住居；(人または動物の) 台すなわち 足；平
 穩；卓越；身分, 高位, 威嚴；儀式・祭典または 奉獻
 式の施行；王座に登ること；像または liṅga を立て
 ること；[諸韻律の名]；住, 所住, 住持, 持,
 任持, 能持；住処, 所住処, 国土, 器世間；立,
 安立, 建立；持用法；依止, 依処, 所依 Abh-vy.,
 Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Madhy-vibh., Sūtr.
 pratiśthā-kāma 形 定住所または高位を欲する。
 prati-śthāna 因 確乎たる立場, 基礎；台, 足；都市
 の建設；[Gaṅgā 河と Yamunā 河の合流する地点に
 位置した都市 (Allāhabad の対岸) の名]；住,
 安住, 善住, 善安住, 依住, 堅住, 所住, 住処, 処,
 安立, 建立；任持, 住持 Gaṇḍ-vy., Laṅk., Saddh-
 p., Sam-r., Śikṣ. 男 [Godavari 河畔の一地方の
 名(ギリシヤ人は Paithana と呼び, かつて Andhra
 王朝の一首都であった)].
 pratiśthāna-kūṭāgāra 因 善住楼閣, 善安住楼
 閣 Gaṇḍ-vy.
 prati-śthāpaka 形 安置, 安立 Lal-v., Sukh-vy. I.
 prati-śthāpana 因 像の建設；確立, 確証；立,
 安立, 令安立, 住, 令住, 安住, 建立, 置中, 安置；
 令趣；令得 Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Laṅk.,
 Śikṣ., Sūtr. → pāda~.
 pratiśthāpana-kāmatā 因 欲安置 Bodh-bh.
 prati-śthāpanā 因 反対主張, 反対命題の陳述；
 建, 建立 Bodh-bh., Saddh-p.
 prati-śthāpayitavya 未受分 置かれるべき, 確定され
 るべき；住, 入, 建立 Laṅk.
 prati-śthāpita 未受分 建設または樹立された；
 起, 令得安住 Divy., Saddh-p.: mūrdhni pāniḥ
 ~h 摩頭, 手摩其頭 Saddh-p. 480.
 prati-śthāpya 未受分 (因) の上に置かれるべきまたは
 築かれるべき；(因, 因) に委託されるべき。
 pratiśthā-phala 因 安立果, 依止果 Abh-vy.
 prati-śthāsu 希求 形 去りたいと思う。
 prati-śthi 因 抵抗。
 prati-śthita 未受分 有名な, 著名な；(因) に熟達し
 た。→ Sthā. 住, 安住, 所住, 所依住；有,
 在；踞；置；安立, 建立, 所建立；所依止, 為依止；
 堅固 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-
 vy., Kāśy., Laṅk., Madhy-v., Mvyut., Saddh-p.,

Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr., Vajr-pr.: ~o 'titānāgata-
 pratyutpannānām buddhānām bhagavatām jñāne
 住於過去未來現在諸仏智慧 Mvyut. → a~.
 prati-śthitatva 因 住 Abh-vy.
 pratiśthita-pada 因 規定数の(音節を含む)詩の行(pā-
 da)をもつ。
 pratiśthita-mātra 形 足場・基礎を確立したばかり
 の。
 prati-śthiti 因 安定した立場または足場。
 prati-śthiv pratiśthivati. → Śthiv.
 prati-śthihitvā 未受分 因 [=prati-śthāya] 安
 住 Saddh-p. 63.
 prati-śvad pratiśvādayati(使役). → Svad.
 prati-saṃ-Yat pratisaṃyatate. → Yat.
 prati-saṃyatta 未受分 → Yat.
 prati-saṃ-Yā, → Yā.
 prati-saṃyukta 未受分 …と関係のある (Jāt-m.);
 相応, 繫, 所繫；具足 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-
 bh., Madhy-v., Mvyut. → a~, bhoga~.
 prati-saṃ-Yudh, → Yudh.
 prati-saṃyoddhṛ 男 闘士, 敵対者。
 prati-saṃruddha 未受分 自己の中に引き込まれた
 (一°)；収縮した。
 prati-saṃlayana 因 [Pāli paṭisallāna] 一定の場所
 に退くこと (Lal-v.); 完全に没頭すること (Saddh-
 p.); 静思のために退くこと, 独居して沈思黙考する
 こと, 孤独, 退隱, 閉籠 (Divy.); 冥黙；禪
 定；精思閑定, 安於内, 実於内, 内実安定 Bodh-
 bh., Divy., Mvyut., Saddh-p.
 pratisaṃlayana-guruKa 形 好坐禪 Saddh-p.
 277. [刊本は °lāpa-guruka].
 pratisaṃlayana-sārūpya 形 独居するに適する；
 随順冥黙 Bodh-bh.
 prati-saṃlāna 因 [=pratisaṃlayana]. 空閑処
 Aṣṭ-pr. 705.
 pratisaṃlāna-gocara 形 樂禪定 Saddh-p. 343.
 prati-saṃ-Li pratisaṃliyate. → Li.
 prati-saṃlina 未受分 [Pāli paṭisallina] 閉じられ
 た, 退居した, 孤独になった, 虚心な, 静思する；
 離れた (Divy.); 止住, 住於静室, 独処閑居；
 寂然禪定, 入深禪定；悉皆遠離 Divy., Lal-v.,
 Raṣṭr., Saddh-p.
 prati-saṃvatsaram 男 毎年。
 prati-saṃ-Vad pratisaṃvadate. → Vad.
 prati-saṃvit-prāpta 男 [菩薩の名] 無礙慧 Lal-
 v.
 prati-saṃ-Vid pratisaṃvedayati. → Vid 1.
 prati-saṃvid 因 特別の知識 (Lal-v.); 辯, 辯
 才, 妙辯才, 無礙解, 無礙辯, 無礙辯才, 無礙慧,
 無礙智；悟 Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v.,
 Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Sūtr., Suvik-pr.:
 catasrah ~ aḥ 四無礙解 [1. dharma ~ 法無礙解,
 2. artha ~ 義無礙解, 3. nirukti ~ 詞無礙解, 4.
 pratibhāna ~ 辯無礙解] Mvyut.
 prati-saṃvidā 男 因 (?) 無礙慧 Saddh-p. 204.
 無礙解 Bodh-bh.

pratisamvid-avatāra-jñāna 甲 入無礙辯智
Sam-r.
 prati-samvidita 過受分 知, 覺(了), 預報 *Bodh-bh., Divy.*
 pratisamvid-bala 甲 辯力, 無礙解辯才之力 *Gaṇḍ-vy.*
 prati-samvidhāna 甲 反対行為, 仕返し.
 pratisamvin-nīscayāvatāra 形 決定入無礙解, 定入各真覺 *Mvyut.*
 pratisamvin-mati 因 無礙慧 *Sūtr.*
 prati-sam-Viś, → Viś.
 prati-samvedaka 形 経験する, 知覚する; くわしい通知を与える; 告, 分付 *Mvyut.* → a~.
 prati-samvedana 甲 (何ものかを)知覚または意識すること; 知, 領受, 証受 *Abh-vy., Sūtr.* → a~.
 prati-samvedanā 因 受者, 受報者, 応知 *Bodh-bh., Śikṣ.*
 prati-samvedita 過受分 所受 *Abh-vy.*; 令覚知 *Bodh-bh.*
 prati-samvedin 形 感覺する, 経験する, …を意識する, 享受する, 受ける(*Divy.*); 覺; 遭, 所遭; 受, 領納, 享用; 証 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Mvyut.* → a~.
 prati-sam-Veṣṭ pratisamveṣṭate. → Veṣṭ.
 prati-sam-Śikṣ pratisamśikṣate. → Śikṣ.
 prati-sam-Śri, → Śri.
 prati-samśrutya 不変分 約束しおわって.
 prati-samśkartavya 未受分 応為興作, 修治 *Śikṣ.*
 prati-samśkāra 男 回復; (一)に入ること; 修治 *Śikṣ.*
 prati-samśkāraṇa 甲 修理 *Lal-v.*
 prati-samśkāraṇ Kṛ, (業)を回復する (*Kār-vy.*).
 prati-samśkārita 過受分 造, 興立, 修補 *Gaṇḍ-vy., Lal-v.*
 prati-sam-s-Kṛ, → Kṛ.
 prati-samstara 甲 各各分散 *Mvyut.*
 prati-sam-Smṛ, → Smṛ.
 prati-sam-haraṇa 甲 摂受, 拘檢, 聴讞悔 *Bodh-bh.* → punaḥ~.
 prati-samharaṇiya 未受分 応収摂 *Mvyut.*
 prati-samhartṛ 形 護持 *Bodh-bh.*
 prati-samhāra 男 撤去, 回収; (圖, 一)を棄却すること; (從)から遠ざかること.
 prati-samhārya 未受分 摂受 *Bodh-bh.* → a~.
 prati-samhita 過受分 [DHā 1.] …に向けられた.
 prati-sam-Hṛ pratisamharati(-te). → Hṛ 1.
 prati-samhṛta 過受分 引き止められた, 阻止された, 抑制または制御された; 還帰, 還摂 *Buddh-c., Raṣṭr.*
 prati-sam-Hṛṣ pratisamharṣati. → Hṛṣ.
 prati-samhṛṣṭa 過受分 幸福な.
 prati-samkākṣikā 因 汗衫, 汗衣衫, 副掩腋衣 *Mvyut.*; (音写) 副僧腋敲迦 *Mvyut.*

prati-samkāśa 男 類似した容貌.
 prati-samkucita 形 閉ざされた (*Buddh-c.*).
 prati-samkrama 男 溶解, 再吸収; 印象.
 prati-samkrāma 男 浴解, 再吸収.
 prati-samkrudha 過受分 (業)に対して怒った.
 prati-samkhyā-bhāvanā 因 数修習 *Sūtr.*
 prati-sam-KHyā pratisamkhyāya (不変分). → KHyā.
 prati-samkhyā 因 意識; 択, 思択, 揀択, 簡択, 数択 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Sūtr.* → a~.
 prati-samkhyāna 甲 再考, 熟慮; 事情に対する冷静な理解(*Jāt-m.*); 思惟, 能思惟, 思択, 正思択, 能正思択, 正思簡択, 思量計数, 数習 *Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Sūtr.*
 pratisamkhyāna-bala 甲 思惟力, 思択力, 正思択力, 智慧力 *Bodh-bh., Madhy-vibh.*
 pratisamkhyāna-balika 形 思惟力, 思択力勝 *Bodh-bh.*
 pratisamkhyā-nirodha 男 択滅, 各各観察定 *Abh-k., Abh-vy., Madhy-vibh., Mvyut.*
 prati-samcara 男 (一)への退却; 崩壊, 世界の崩壊; 運動場; (その中へあるものが)吸収されるまたは解消するもの; 人・獣のしばしば往来する場所.
 prati-samjāta 過受分 生起した, 出現した.
 prati-samjihirṣu 希求 形 (業)を断念したいと思う, …から離脱しようとする.
 prati-Sad, → Sad.
 prati-sadanam 副 各々の住所に.
 prati-sadma 副 各々の家においてまたはの内に.
 prati-sam-Diś pratisamdiśati. → Diś.
 prati-samdeśa 男 返信, ことづけに対する返答.
 prati-samdeṣṭavya 未受分 ことづけに対する返答が伝達されるべき.
 prati-sam-DHā pratisamdadhāti, pratisamdhatte. → DHā.
 prati-samdhatṛ 男 回想する人.
 prati-samdhāna 甲 再び結合すること; 結合, 連合; 接合(点), (世界の二時期の)転換期; 回想; 和合, 和好, 更和合, 還合, 続, 相続, 接 *Abh-vy., Bodh-bh.* → bhinna~.
 prati-samdhi 男 再び合体すること; (一)にまたは胎中に再び入ること, 再生; 結合; 接合(点), (世界の二時期の)中間; 逆(運); 結, 相和合; 生, 結生, 託生, 続生, 相続, 投胎; 受身 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Madhy-v., Mvyut.* → a~.
 ~ṃ Grah 生, 受生 *Divy.*
 prati-samdhika 形 相続 *Abh-vy.*
 pratisamdhi-jñāna 甲 認知.
 prati-samdhita 過受分 再び造られた; 続 *Abh-vy.*
 pratisamdhi-bandha 男 界連, 結生縛, 合胎相連 *Mvyut.*
 prati-sama 形 等しい. → a~.
 prati-samayya 使役 不変分 [=prati-śamayya] 収 *Divy. 201.*

prati-sam-ā-Diś pratisamādiśati. → Diś.
 prati-samādiṣṭa 過受分 命ぜられた。
 prati-sam-ā-DHā pratisamādadhāti. → DHā.
 prati-samādhāna 甲 再び自分に返ること, 平静。
 prati-samāpana 甲 (屬) を襲撃すること。
 prati-samāsrita 過受分 (屬) に頼っている。
 prati-sam-Ās pratisamāste. → Ās.
 prati-samāsana 甲 (屬) に対する抵抗; (屬) に匹敵すること。
 prati-samāsita 過受分 匹敵された, 対抗された, 争われた。
 prati-samāhita 過受分 [DHā 1.] つがえられた(矢)。
 prati-samīkṣaṇa 甲 再び視ること, 見返すこと。
 prati-saṃbaddha 過受分 → Bandh.
 prati-saṃbandhi 副 それぞれの関連に従って。
 prati-saṃbuddha 過受分 → Budh.
 prati-saṃ-BHū, → BHū.
 prati-saṃ-Mud pratisaṃmodate, pratisaṃmodayati. → Mud.
 prati-saṃmodana 甲 挨拶 (Jat-m.); 慶慰 Bodh-bh.
 pratisaṃmodana-kathā 因 挨拶の言葉 (Jat-m.).
 pratisaṃmodanā 因 =°saṃmodana; 共語 Divy.
 prati-sara 男 (魔除けとして用いられる) 護符紐 [とくに結婚式において首または腕に巻きつけられる; また -ā 因]; 輪; 腕環; 従僕。
 prati-saraṇa 形 (一°) に頼っている, …に準拠する; 依, 依止, 依倚, 為依止, (普)作依止, 作所依怙, 所依止処; 摂取; 随順; 念能為救護; 所致 Bodh-bh., Gand-vy., Kāśy., Lan̄k.: kalyāṇa-mitra ~ 依善知識, 念善知識能為救護 Gand-vy. 83.; sarva-jagat ~ 為諸衆生究竟依止, 普作一切世間依止 Gand-vy. 126.; sarva-sattva ~ 摂取一切衆生, 一切衆生作所依怙 Gand-vy. 202. 甲 (液体が) 後方に流れること; …に頼ること; 依, 所依, 勝依, 怙, 堅固 Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Sūtr.: catvāri ~ āni 四依 [1. artha-pratisaraṇena bhavitavyaṃ na vyañjana-pratisaraṇena 依義不依文, 2. dharma-pratisaraṇena bhavitavyaṃ na pudgala-pratisaraṇena 依法不依人, 3. jñāna-pratisaraṇena bhavitavyaṃ na vijñāna-pratisaraṇena 依智不依識, 4. nītārthasūtra-pratisaraṇena bhavitavyaṃ na neyārthasūtra-pratisaraṇena 依了義経, 不依不了義経] Mvyut. → prati-śaraṇa.
 prati-saraṇatā 因 [同上 (形) 因] (Lal-v.).
 prati-saraṇatva 甲 所依 Bodh-bh.
 prati-sarā 因 [仏典の名, =mahā~] (Dharm-s.).
 prati-sarga 男 (宇宙の破滅に次ぐ)再創造. ~m 副 各創造において。
 prati-sartavya 未受分 当依, 正依住; 御, 作御 Śikṣ.
 prati-Sah, → Sah.
 prati-sādhana 甲 反証。
 prati-sāmanta 男 反対者, 敵。
 prati-sāmarthya 甲 情況に適應すること。

prati-sāyam 副 夕方に, 暮れ方に。
 prati-sāraṇa 甲 (傷に療治を)施すこと。
 prati-sārin 形 めぐりゆく, 甲から乙に越く。
 prati-siṃha 男 対抗するまたは敵対する獅子。
 prati-siddha 過受分 所除, 所遮, (能)滅, 断, 断絶 Abh-vy., Divy., Madhy-v.
 prati-simā-daiśika 男 了分位(善)説法師 Abh-vy. 539.
 prati-sirā 因 幕, 垂れ幕。
 prati-sundari 因 女性同志の競争者, 妾。
 prati-supta 過受分 睡った。
 prati-sūrya 男 幻日 [→ prati-śaśin]; [(ひなたぼっこをする), とかげ(蜥蜴)の一種]; 二日並現, 二日俱時出 Śuv-pr.
 prati-sūryaka 男 [同上]。
 prati-Sṛ pratisarati. → Sṛ.
 prati-Sṛj, → Sṛj.
 prati-Sṛp, → Sṛp.
 prati-senā 因 敵軍。
 prati-Sev pratisevate. → Sev.
 prati-somodaka-dvijam (°ma-ud°) 副 月または水または婆羅門に対して。
 prati-skandha 男 各々の肩; 圓 各々の肩で。
 prati-s-kirṇa 過受分 → Kṛ.
 prati-s-Kṛ pratiskirati. → Kṛ.
 prati-Skhal, → Skhal.
 prati-skhalita 過受分 → Skhal.
 prati-stabdha 過受分 …にもたせかけられた, 圧せられた; 止められた, 阻止された, 妨げられた; 便秘した。
 prati-sthānam 副 各所において, どこでも。
 prati-sthāpana 甲 [=prati-ṣṭhāpana] 安処, 住, 安住 Daś-bh.
 prati-sthita 過受分 [=prati-ṣṭhita] 安立 Bodh-bh.
 prati-sneha 男 [pati-sneha の誤]。
 prati-Spardh, → Spardh.
 prati-spardhin 形 (屬) と張り合う, …と競争する; (一°) に似た, …のような; 如, 似, 相对 Av-ś., Divy., Lan̄k.
 prati-spaśa 形 偵察する, ひそむ。
 prati-sphuṭa 形 踊悦, 大喜皆充遍 Śuv-pr.; 開敷 Rāṣṭr.
 prati-Smṛ pratismarati(-te). → Smṛ.
 prati-smṛti 因 [呪術の一種]。
 prati-syandana 甲 広, 寛広, 寛博 Gand-vy.
 prati-srota 形 逆 Rāṣṭr. ~m 副 流れに逆らって, 流れを溯って。
 pratisrota-gāmin 形 逆流, 逆流行, 水返 Lal-v., Mvyut.
 prati-srotas 副 =prati-srotam; 逆流, 逆香暴流, 常廻遮 Abh-vy., Mvyut.
 prati-Svan, → Svan.
 prati-svana 男 [復, または °一] こだま, 反響。
 prati-svam 副 各々単独で。
 prati-svara 男 反響, こだま。

prati-hata 過受分 → Han. 違, 違害, 礙, 罣礙, 對礙, 所害, 加害; 破, 壞, 毀壞, 障礙; 憎背, 憎礙, 憎背, 憎嫉; 輕毀 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Suvik-pr.* → a~.

pratihata-citta 形 懷惡心, 違害心, 具嗔惱心 *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*

pratihata-cetas 形 心斷, 不令生(於如是之)心 *Lank.*

pratihata-dhī 形 敵意を含んだ.

pratihata-roya 形 (一°)によって流れが阻止された.

prati-hati 因 打撃; 反撃.

prati-Han pratihanti. → Han.

prati-hantavya 未受分 反対されるべき; 応損害 *Śikṣ.*

prati-hantr 男 防御者, 防止者.

prati-hartṛ 男 撤回者; 破壊者; 除去者, 防止者; [十六祭官の一(Udgātrの補助者)].

prati-harṣa 男 喜びの表現.

prati-harṣaṇa 形 返礼として喜ばせる.

prati-hasta 男 (手近かにいる人), 代理人, 代官.

prati-hastaka 男 代理人, 身代り.

prati-hastatva 因 代理を勤めること.

prati-hasti 副 象に対して.

prati-hastin 男 娼家の主人.

prati-Hā, → Hā.

prati-hāna-kūṭa 男 [恐らくは °hāra° の誤] [ある *Samādhi* の名] (*Kā-vy.*).

prati-hāra 男 …に向って打つこと, (齒と舌の)接触; [*Sāman*歌詠に当り *Pratihartṛ* 祭官が担当する部分の名]; [武器に対して唱えられる呪文の一種]; 門; 門衛; 門官, 守門者 *Mvyut.*

pratihāra-goptri 因 女門衛.

pratihāra-pa 男 門衛.

pratihāra-bhājin 形 [歌詠において] *pratihāra* に参加する.

pratihāra-bhūmi 因 門の位置または場所, 入口; 門衛の職.

pratihāra-rakṣi 因 女門衛.

pratihārāya 名動 門衛または戸口の番の役をする.

prati-hāri 因 女門衛.

prati-hārya 因 奇術; 變 *Av-s.*

prati-hiṃsita (過受分) 因 被害に対する報復, 復讐.

prati-hita 過受分 [DHā].

prati-hiti 因 (矢を)つがえること.

pratihiteṣu (°ta-iṣu) 形 矢を(弦に)つがえた.

prati-Hṛ pratiharati(-te). → Hṛ 1.

prati-hṛdayam 副 各々の心において.

prati-Hṛṣ pratihṛṣyate. → Hṛṣ.

prati-homa 男 補充の祭式.

prati-hrāsa 男 短縮, 省略.

prati-hvara 男 傾斜.

prati (prati-I) pratyeti. → I.

prati, 副 [合成 = prati].

pratika 形 → *pratyāñc.* (一°)の方へ向いた, …に面するまたはを見渡す; 坂を登る. 因 表面; 外貌, 外見, 顔色, 顔; 口; 像, 象徴; 写し, 模写, 見本;

前面; 冒頭の語句. 因 肢, 支分, 身体の部分; [*Vasu*の子, *Oghavat*の父の名].

pratika-darsana 因 象徴的な観念.

prati-kāra 男 反動, 報復, 復讐; 反作用, 防止; 療治; 予防策; 脱出の方策または方法; [以前の功勞に報いるという想定のもとに結ばれた同盟の様式]; 報, 反報, 返報, 報恩, 恩報; 治, 対治; 侵害 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*; 消 *Śikṣ.*

prati-kāsa 男 反映; 外観; 出生 *Guhy-s.* 形 (一°)に類似の.

pratikṣ (prati-Īkṣ) pratikṣate. → Īkṣ.

pratikṣa (°ti-ik°) 形 (一°)を振り返り見る; 待つ, 期待する; (一°)に対して思いやりのある, …を顧慮する. ~m 副 …を待って, …を期待して.

pratikṣaka (°ti-ik°) 形 (一°)を待つ, …を期待する.

pratikṣaṇa (°ti-ik°) 因 考慮, 顧慮; 遵守, 履行.

pratikṣaniya (°ti-ik°) 未受分 待たれるべき; 期待されるべき.

pratikṣā (°ti-ik°) 因 期待; (一°)を顧慮すること.

pratikṣita (°ti-ik°) 過受分 熟考された; 尊敬された; 期待された; 待 *Saddh-p.*

pratikṣin (°ti-ik°) 形 待つ; (一°)を待つ, …を期待する.

pratikṣya (°ti-ik°) 1. 未受分 期待されるべき, 待たれるべき; 保持・遵守または履行されるべき; 考慮して取扱われるべき, 価値のある.

pratikṣya (°ti-ik°) 2. 不変分 → Īkṣ.

prati-ghāta 形 (一°)を防ぐ. 男 予防, 阻止, 抑止, 妨害, 障害; 抵抗.

prati-ghātin 形 (一°)を妨害する.

pratici 因 [*pratyāñc*の因] 西方; [河の名].

praticina 形 …の方へ向いたまたは来る; 顔を背ける背を向ける, 後方から来るまたはにある; 西方に向いたまたは横たわった; さし迫った, 未来の; (因)に続く. ~m 副 後に, 後で, 後方に.

pratici-pati 男 [*Varuṇa*神の称]; 大洋.

praticchaka 男 受者; 領受 *Sūtr.*

praticchana 因 受 *Gaṇḍ-vy.*

praticya 形 西方にあるまたは住する; (一°)西方.

pratiḍ (prati-Īḍ), → Īḍ.

pratita 過受分 → I. 明了, 所了別 *Abh-vy Sūtr.*; 称, 善称 *Mvyut.* → a~.

pratitātman (°ta-āt°) 形 決心した, 確信した, 自信のある.

pratitārtha 形 認められた意義をもつ.

pratiti 因 接近; 明白なこと; 周知; 明智, (ある事象に対する)明瞭な観念または理解; 自信; 信賴, 信用 得成 *Sāmkhy-k.*

pratitya 不変分 [*Pali* *paṭicca*] …に縁って, …の理由によって, …に関して, …の故に; 因, 原因, 託, 縁, 縁起, 縁生, 因縁, 藉 *Abh-vy.*, *Dabh.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*

pratitya-dharmodaya (°ma-ud°) 男 縁起法 *Sūtr.*

pratitya-samutpanna 形 縁起, 縁生, 縁已生, 從來縁已生, 因縁 *Bodh-bh.*, *Lank.*

pratītya-samutpannatva 因縁 縁生性, 縁生相
Abh-vy.

pratītya-samutpāda 因縁 原因と結果との連鎖関係(Lal-v.); 一方の他方への依存による生起; 縁起, 縁生, 因縁, 縁起法, 縁生法, 因縁法, 衆因縁生法, 従衆縁生法, 縁起理趣 Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Dharm-s., Divy., Lal-v., Lan̄k., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Śikṣ., Sūtr.: dvādaśāṅga ~ āḥ 十二縁生, 十二支縁起 [1. avidyā 無明 2. saṃskāraḥ 行 3. vijñānam 識 4. nāma-rūpam 名色 5. ṣaḍ-āyatanam 六入, 六処 6. sparśaḥ 触 7. vedanā 受 8. tṛṣṇā 愛 9. upādānam 取 10. bhavaḥ 有 11. jātiḥ 生 12. jarāmaraṇam 老死] Dharm-s., Mvyut.

pratītyasamutpāda-kausālya 因縁 縁起善巧 Bo-dh-bh.

pratītya-samudāgata 因縁 因縁和合生 Lal-v.

pratītyāvatāra 因縁 従縁起, 従因縁生 Gand-vy.

pratītyotpāda-cakra (°ya-ut°) 因縁 縁生輪 Sa-ddh-p.

prati-nāha 男 (耳または鼻の)閉塞; 旗.

pratindhaka 男 [Videha の王侯の名].

pratipa 因縁 反対の, (あるもの)の方へ来るまたは飛ぶ; 逆の, 反した; 返り来る(響=反響); いこじな, 矛盾した; 乱雑な; (因縁)を快しとしない; 片意地な, 強情な, 妨害となる. 男 反対者, 敵; [王侯の名]. 因縁 逆の比較 [因縁月は汝の顔の如し]. ~m 因縁 流れに逆って, 後方に; …の方へ; 後ろへ, し返しに(打つ等); 逆の順序で; 強情に. ~m Gam 抵抗する. ~m abhy-upa-Gam 反抗する, 対抗する.

pratipaka 因縁 対立する, 敵対する, 妨げる. 男 [王侯の名].

pratipa-ga 因縁 …の方に来るまたは流れる; 後方へ流れる, 逆流する.

pratipa-gati 因縁 逆行.

pratipa-gamana 因縁 [同上].

pratipa-gāmin 因縁 (一°)に逆って行く, …に反対して行なう.

pratipa-taraṇa 因縁 流れに逆って航行すること.

pratipaya 名動 因縁 pratipayati (因縁)に反抗する, …に反対する; 回転させる, 逆にする.

pratipa-vacana 因縁 異議を申し立てること, 異議.

pratipokti (°pa-uk°) 因縁 [同上].

prati-māna 因縁 重量.

pratiyamāna 因縁 → I.

pratira 因縁 岸.

prati-vāpa 男 混合 (とくに煎じ薬の).

prati-vāha 男 報酬.

prati-vi 因縁 嘉納する, 喜んで受取る. 男 因縁 受納, 嘉納.

prati-veśa 因縁 隣接する.

pratiśa 因縁 羞愧 Lodh-bh. → a ~ tā.

pratiṣ (prati-Iṣ) praticchati. → Iṣ 2.

pratiṣṭa 因縁 因縁 接取 Divy.

prati-hartṛ 男 門衛, 侍従.

prati-hāra 男 門番, 守衛.

prati-hāratā 因縁 門番または侍従の職.

prati-hāratva 因縁 [同上].

pratihāra-dhuraṃ-dharā 因縁 女守衛.

prati-hāri 因縁 [同上].

pra-Tud pratudati. → Tud.

pra-tuda 男 [啄木鳥の類]; 刺針.

pra-tuṣṭi 因縁 満足.

pratuṣṭi-da 因縁 (一°)に満足を与える.

pra-tūrṇa 因縁 非常に速かな.

pra-tṛd 因縁 裂く.

pra-Tṛp pratarpayati(因縁). → Tṛp.

pra-Tṛ pratarati(-te), pratirati(-te). → Tṛ.

pra-toda 男 (獣を追いやるための)突棒または長い鞭;

因縁 鞭, 鞭策, 杖捶, 挿, 払 Buddh-c., Divy., Lal-v., Mvyut.

pra-todana 因縁 擊撻 Prāt-m. → aṅguli ~.

pratoda-yaṣṭi 因縁 =pratoda (Divy.) [Pali patoda-latṭhi] 御者の鞭, 家畜を追う鞭 (Divy.); 因縁 鞭, 杖 Divy.

pra-toli 因縁 広い道, 大通り.

pra-tolika 男 因縁 一° [同上].

pra-toṣa 男 [Manu svāyambhuva の十二人の子の一の名].

pra-tta 因縁 過受分 → Dā 1.

pra-tti 因縁 賜物.

pra-tna 因縁 古代の, 老いた; 伝統的の.

pra-tnathā 因縁 以前のように, 慣習によって.

pra-tnavat 因縁 [同上].

praty-aṃśa 男 分け前, 割り前 (Divy., Jāt-m., Lal-v.); 因縁 分, 各分, 運分, 半 Aṣṭ-pr., Divy., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.

praty-aṃsam 因縁 肩の上に.

pratyak 因縁 [pratyāñc の 因縁] 後方に; 反対方向に; (因縁)の後方に; 西方に; 西方において; (因縁)の西方に; 内に.

pratyaktva 因縁 後方, 自らへの方向.

pratyak-puṣkara 因縁 頭部を西方に向けた(祭式用の匙).

pratyak-pravaṇa 因縁 個人我に専念した.

pratyak-śiras 因縁 頭を西方に向けた.

praty-akṣa 因縁 眼前にある, 一目瞭然な, 見える, 知覚できる; 明瞭な, 明白な, 顕著な; 疑われない, 現実の, 真実の; 即刻の, 直接の; (因縁)に関する明瞭な知識をもつ; 因縁 現, 現前, 現見, 現照, 現在, 現(法), 親見, 親見; 驗, 証, 現証, 証見, 所証見, 証知, 親証, 親自証 Abh-vy., Daś-bh., Divy., Gand-vy., Lan̄k., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr., Sv-pr., 梵千.: ~o bhavati 知見, 自然曉了 Śikṣ. 62. 因縁 (因縁)の管理, …の世話; 証拠, 直接の知覚; 認知; 因縁 現, 現前, 現見, 現量, 現証, 証, 現法 Abh-vy., Daś-bh., Lan̄k., Mvyut., Nyāy-pr., Sam-r., Sūtr., Vaiś-s. ~m 因縁 眼前にまたは面前に; (因縁, 一°)に直面して; 目に見えて, 明白に, (自己の)直接の知識から; 明瞭に, 明確に; 現実に, 真実に; 直ちに, 直接に, 親しく; 因縁 对其前, 今現証 Divy., Vijñ-v. → a ~ m. ~āt 因縁 現実に, 実際に; 直ちに. ~eṇa

圓, ~e 因 眼前に, 面前へ; 一見して, 明白に。
 °—, 面前に, 目に見えて; 明瞭に; 現実に; 直接に, 親しく。

pratyakṣa-karaṇa 因 親しく観察すること。

pratyakṣa-kārin 形 現証, 現前証 *Aṣṭ-pr.*

pratyakṣa-kṛta 形 直接にまたは親しく呼びかけられた (第二人称で); 直接の呼びかけを含んだ(祈願)。

pratyakṣa-gocara 男 現前境界, 分明現見 *Lank.*

pratyakṣa-cārin 形 (圓) の前を肉体をもった形で動く。

pratyakṣa-jñāna 因 直接の知識; 現覚智, 現証智 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy.*

praty-akṣatamāt 副 最も明白に, 直接にまたは現実に等。

praty-akṣatamām 副 [同上]。

praty-akṣatas 副 眼前に; 目前 *Buddh-c.* [Śru とともに] (自身の)耳で聞く。

praty-akṣatā 因 目に見えること; 現見 *Satr.*
 圓 副 目に見えて。

praty-akṣatva 因 明白なこと; 明瞭なこと; 直接の知覚であること; 現量, 現証, 現前知, 現前知見 *Daś-bh., Śikṣ., Vijñ-v.*

pratyakṣa-darśana 因 自己の眼で見ること; (神を)具体的に見る力。

pratyakṣa-darśin 形 自己の眼で (圓) を見るまたは見た; 現見, 親見, 現知見, 眼証見, 面前而見, 目驗 *Bodh-bh., Divy.*

pratyakṣa-darśivas 形 自己の眼で…を見た; (圓, °—) をあたかも現前しているかのように明瞭に見る。

pratyakṣa-dṛś 形 あたかも自己の眼をもってするかのように明らかに…を見る。

pratyakṣa-dṛśya 形 自己の眼で見える, 明白な。

pratyakṣa-dṛṣṭa 形 自己の眼で見られた; 現見 *Divy.* ~m Kṛ 明らかにする。

pratyakṣa-dviṣ 形 明らかかなことを好まない。

pratyakṣa-dharmatva 因 証法性, 証見(正理)法 *Abh-vy.*

pratyakṣa-dharman 形 (人の)長所を考慮する。

pratyakṣa-pramā 因 感覚の証拠によって(得られた)正しい観念。

pratyakṣa-pramāṇa 因 目に見える証拠, 感覚による証拠, 感覚器官; 現量, 証量 *Vijñ-v.*

pratyakṣa-buddhi 因 現覚, 証智 *Vijñ-v.*

pratyakṣa-bhakṣa 男 実際に食うこと。

pratyakṣa-bhūta 形 顕示された, 見えるようになった, 具現した, 具体的の姿を顕わした。

pratyakṣaya 名動 他 pratyakṣayati 明白にまたは見えるようにする, 自己の眼で見る。

praty-akṣara-śleṣamaya 形 °— 各級字ごとに二重の意味を含んだ。

praty-akṣavat 副 あたかも完全な確実性があるかのように, あたかも自明または確実なように。

pratyakṣa-vādin 男 感覚による以外の証拠を認めない(者), 仏教徒。

pratyakṣa-vidhāna 因 明白な規定。

pratyakṣa-viruddha 男 現量相違 *Nyay-pr.*

pratyakṣa-viṣayi-BHū, 視野の範囲内(のみ)に現われる。

pratyakṣa-vihārin 形 見法 *Lank.*

pratyakṣa-vihita 形 明確に命ぜられた。

pratyakṣa-vṛtti 形 明瞭にまたは理解しうるよう形成された(語)。

pratyakṣāgamana (°ṣa-āg°) 因 具体的な姿で近づくこと。

pratyakṣānumāna 因 現量 *Bodh-bh.*

pratyakṣābhāsa (°ṣa-ābh°) 男 似現量 *Nyay-pr.*

pratyakṣābhijñatā 因 現見 *Gaṇḍ-vy.*

pratyakṣāya 名動 自 pratyakṣāyate 明らかに眼前に現われる, 明らかになる。

pratyakṣāyamānatva 因 明らかに眼前に現われること。

pratyakṣāvagama 形 直ちに理解される。

pratyakṣin 形 自己の眼で見る。 圓 目撃者 (*Jāt-m.*)

pratyakṣi-karaṇa 因 検閲; 視察。

pratyakṣi-kartu-kāma 形 欲現 *Divy.*

pratyakṣi-kāra 男 現前 *Abh-vy.*

pratyakṣi-Kṛ, 自己の眼で見る; 親観, 驗, 観驗 *Divy.*

pratyakṣi-kṛta 形 眼で見られた; 顕示された, 明らかにされた; 所現見, 所証, 深観察委悉 *Abh-vy., Divy.*

pratyakṣi-bhāvana 形 可現見 *Sapt-pr.*

pratyakṣi-bhāvanā 因 現見修習 *Sapt-pr.*

pratyakṣi-BHū, 明白となる, 具体的な姿で現われる。

pratyakṣopalabdhi-lakṣaṇa 因 現前得相, 現見所得相 *Mvyut.*

pratyak-satya 形 各真諦 *Mvyut.*

pratyak-sarasvatī 因 西方の *Sarasvatī* 河。

pratyak-sthali 因 [ある祭壇の名]。

pratyak-srotas 形 西方に流れる。

pratyag-akṣa 因 内的器官。 形 内的器官をもつ。

pratyag-ātma 形 個人に関する。

pratyag-ātmatā 因 内我または個我たること。

pratyag-ātman 圓 内部のまたは個体の我, 個我, 個人。

pratyag-ānanda 形 内的歓喜からなる。

pratyag-āsis 因 個人的の願望。 形 個人的な願望を含んだ。

pratyag-udak 副 西北に。

pratyag-eka-rasa 形 内部すなわち自己の内我に対しのみ嗜好をもつ。

pratyag- jyotis 因 内部の光。

pratyag-dakṣiṇatas 副 西南に。

pratyag-dakṣiṇā 副 [同上]。

pratyagdakṣiṇā-pravaṇa 形 西南方に向って峻しい。

pratyag-diś 因 西方。

pratyag-dṛś 因 内的な凝視, 内観。 形 凝視を内部に向けた。

pratyag-dhāman 形 内部の光をもつ。

praty-agni 副 火の方へ; 各々の火に, 各々の火に!

ってまたはの中に。

- praty-agra 形 (初めに在る), 新しい, 新鮮な; 若い; 早朝の(日光); 近時の; 更新された, 反覆された; 新, 勝 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Mvyut.*; 揺車(?) *Mvyut.* ~m, ° 園 近頃.
- pratyagra-prasavā 形 因 生んで間もない, 積を生んで間もない.
- pratyagra-yauvana 形 非常に若い.
- pratyagra-rūpa 形 若い.
- pratyagra-vayas 形 若年の.
- praty-ankam 副 一幕ごとに (戯曲).
- praty-aṅga 田 身体の小部分 [額, 下顎, 鼻, 耳, 指等]; 区劃, 部分; 武器; 分, 身分, 肢, 枝, 節, 肢節 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*; *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Vajr-pr.* 園 [王侯の名]. °, ~m 副 身体の各部分において; 自身にとって; (祭式の)各部に対して; 各語幹において(文法).
- pratyāṅga-dakṣiṇā 因 (祭式の)各部分に対する報酬.
- pratyāṅga-vartin 形 自身に専念した.
- praty-āṅgiras 男 [ある神話的人物の名].
- praty-āṅgirasa 男 [同上].
- pratyāṅ-mukha 形 (因-i) 顔を西方に向けた.
- pratyāṅc 形 (因 pratici) (園) の方へ向いた, …に面する; やがて来る(季節); 後方にあるまたはから来る; 後方に向いた, 顔を背けた; 後方の; 反対の方向に動くまたは去る; 背後にある, 西方の, 西の, (園) の西方にある; 後方に行く, (sāman について) 逆の順序の; 振り向いたすなわち内部の; (園) に等しい (因). 園 内我または個人我.
- praty-adhikaraṇam 副 各章または各節において.
- praty-anantara 形 (園) に直ちに隣接した; 次位の. 園 最も近い親族, 相続推定者.
- praty-anantaram 副 (園) の直後に.
- praty-anantari 因 侍女, 女友達.
- praty-anantari-BHū, (園) に接近する.
- praty-anika 形 (顔を反対に向ける), (園) に敵対する, …に反対の; 抵抗する, 反抗する; 侵害する, 害する; 対立する; 張り合った; 能対治; 違, 怨害 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.* 園 敵対者, 敵. 田 敵軍; 敵意, 対抗 (園 園); (敵の追従者に対する)報復的悪口; 敵家, 怨家 *Divy.*, *Mvyut.*
- pratyānika-bhāva 園 反対すること.
- praty-anu-Kamp pratyānukampate. → Kamp.
- praty-anu-Ni pratyānūnāyati(-te). → Ni.
- praty-anubhavana 田 領受 *Bodh-bh.*
- praty-anubhavanatā 因 領受 *Bodh-bh.*
- praty-anu-BHū pratyānūbhavati. → BHū.
- praty-anubhūtavat 過能分 受 Śikṣ.
- praty-anumāna 田 対立するまたは反対の推論, 反対の結論.
- praty-anuyukta 過受分 反質, 渡回 *Mvyut.*
- praty-anuyoga 園 反問.
- praty-anta 園 境界, 辺境; (園) 未開の種族, 辺, 辺地 *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*
- pratyanta-janapada 田 境界にある国, 辺国. 園 辺地, 辺地人, 辺地下賤 *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*,

Śikṣ., *Suvik-pr.*

- pratyanta-deśa 園 境を接する国.
- pratyanta-dvipa 園 辺地 *Lal-v.*
- pratyanta-dvipika 形 辺鄙之人, 辺国 *Suv-pr.*: asmākam eva ~ ānām brāhmaṇānām 我等辺鄙之人, 我等辺国婆羅門等 *Suv-pr.* 12.
- praty-antari-BHū, (園) に接近する.
- praty-anta-vāsa 田 (?) 境界地 (*Lal-v.*).
- praty-antāt 副 各々の場合に最後まで.
- praty-antika 形 境界にある (*Kar-vy.*); 辺地, 辺国, 辺地国 *Abh-vy.*, 梵雜.
- praty-antima 形 [=praty-antika. *Pali paccantima*] 境界の (*Divy.*); 辺, 辺方, 辺地 *Divy.* 21, 426.
- praty-andhakāra 形 陰影の拡がった (*Jāt-m.*).
- praty-apakāra 園 (危害または侮辱に対して)危害または侮辱をもって報いること, 復讐; 返報, 報怨 *Bodh-bh.*
- praty-apa-Kṛ, → Kṛ.
- praty-apara 形 [正しくはpraty-avara] (園) より低い, より卑しい (*Vajr-s.*); 下劣 *Vajr-s.*
- praty-abdam 副 毎年.
- praty-abhighāraṇa 田 供物の残部に ājya を灌ぐこと.
- praty-abhi-Car pratyābhicarati. → Car.
- praty-abhijñā 形 (一°) を認知または再認識する.
- praty-abhi-Jñā pratyābhijñāti, pratyābhijñāte. → Jñā.
- praty-abhijñā 因 認知, 再認識; 意識の回復; 認, 知 *Mvyut.*
- praty-abhijñāta 過受分 認められた, 知られた; 記識 *Divy.*
- praty-abhijñāna 田 認知, 再認識; 再認知の証左; 相互関係; 更知 *Abh-vy.*; 解 *Sātr.*
- praty-abhijñāpana 田 認知または承認させること.
- praty-abhijñāyamānatva 田 認知されること.
- praty-abhi-DHā pratyābhidadhāti, pratyābhidhatte. → DHā.
- praty-abhi-Nand pratyābhinandati. → Nand.
- praty-abhinandin 形 (一°) を感謝をもって受け容れる.
- praty-abhiniviṣṭa 過受分 (園) に専念または熱中した.
- praty-abhibhāsin 形 (園) に語る.
- praty-abhimarsa 男 (手で)打つことまたは触れること.
- praty-abhimarsana 田 [同上].
- praty-abhimukha 形 対, 能対句 *Abh-vy.*
- praty-abhi-Mṛś pratyābhimṛśati. → Mṛś.
- praty-abhimethana 田 嘲弄した返答.
- praty-abhiyukta 過受分 → Yuj.
- praty-abhi-Yuj pratyābhīyunkte. → Yuj.
- praty-abhiyoga 園 反訴; 論 *Bodh-bh.*
- praty-abhilekhyā 田 反駁書, 反対側から提出された文書.
- praty-abhi-Vad pratyābhivadati. → Vad.
- praty-abhivāda 園 挨拶に答えること.
- praty-abhivādaka 形 人に挨拶を返す.

praty-abhivādana 中 (屬) に対して挨拶を返すこと、
(屬) に対する答礼。
praty-abhivādayitṛ 男 挨拶を返す人。
praty-abhiskandana 中 反訴。
praty-abhyanujñā 因 許可, 同意。
praty-abhyāsam 副 反復すること。
praty-abhyutthāna 中 (客を)迎えるために立ち上ること。
praty-amitra 形 敵対する。男 敵, 反対者, 競争者;
[因] 悪友, 悪知識, 怨家, 冤家 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*,
Mvyut.
praty-aya 男 (...に行くまたは向うこと, 頼ること),
(屬, 因, 一°) への信頼, 信念, 信仰; 確信, 確実;
実証, 確定; 仮定; 解決, 説明; 概念, 想念, 観念;
原因; (神意による) 試罪法; 次の音または文字(文法);
接尾辞(格・人称語尾を含む), 接尾辞に終る語(文法);
欲望, 需要 (*Kār-vy.*); [因] 因, 縁, 因縁, 遇縁, 縁起;
信, 憑, 決定信 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-c.*, *Bodh-*
bh., *Cat-ś.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*,
Saddh-p., *Sapt-pr.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*, 梵千.: *dvau*
hetū dvau ca ~ au 有二因縁 *Suv-pr.6.*; *tathaiva*
dvau ca ~ au 由斯二種因, 故説二縁 *Suv-pr.6.*;
tri-saṃgati ~ 三縁合(生) *Lank.41.*; *catvāraḥ ~*
āḥ 四縁 [1. *hetu* 因縁, 2. *samanantara ~ ḥ* 等無
間縁, 3. *ālambana ~ ḥ* 所縁縁, 4. *adhipati ~ ḥ*
増上縁] *Mvyut.* 中 [因] 因縁 *Madhy-v.1.*
pratyaya-kara 形 信頼を生ずる, 信頼するに足る。
pratyaya-kāraka 形 [同上]。
pratyaya-kāraṇa 形 [同上]。
pratyaya-kṛti 因 [因] 縁起 *Daś-bh.*
praty-ayatā 因 [因] 縁性, 縁起 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*
pratyaya-dhātu 男 名称動詞語幹(文法)。
praty-ayanam 副 毎年。
pratyaya-prativācāna 中 確答, 明答。
pratyaya-pratityāvartana (°ya-āv°) 中 [因] 随縁
転, 随縁転変 *Gaṇḍ-vy.*
pratyaya-pravāraṇā 因 [因] 別請, 独自恣請 *Prat-m.*
pratyaya-pravṛtti 因 [因] 縁生, 依生 *Madhy-vibh.*
pratyaya-buddha 男 [因] 縁覚 *Śikṣ.*
praty-ayamaya 形 [因] 從縁生 *Madhy-v.*
pratyaya-vijñāna 中 [因] 縁識 *Madhy-vibh.*
pratyaya-vihvala 形 [因] 迷因縁, 於縁起驚怖 *Lank.*
pratyaya-vikṣaṇa 中 [因] 待縁, 待因縁, 願誘縁
Lank.
pratyaya-saṃkala 男 中 (?) [因] 縁鈎鎖 *Lank.*
pratyaya-saṃbaddha 形 [因] 諸縁縛, 因縁縛 *Lank.*
pratyaya-saṃbhava 男 [因] 託縁成, 縁力起, 從諸
因縁和合而有 *Suv-pr.*
pratyaya-sarga 男 知的創造物 [*viparyaya*, *aśakti*,
tustī, *siddhi* を含む, *bhūta-sarga*(*bhautika-sarga*):
含識生, 生物界)の 因]。
pratyaya-svabhāva 男 [因] 縁自性, 縁性自性 *Lank.*
pratyayāgama (°ya-āg) 男 [因] 当縁 *Sūtr.*
pratyayātma (°ya-āt°) 形 信頼を生ずる。
pratyayābhivyakti 因 [因] 縁分明, 縁明了, 縁了別
Lank.

pratyayāvaikalya 中 [因] 縁無闕, 因縁具足 *Madhy-*
vibh.
praty-ayita 名動 [過受分] 証明された; 信用するに足
る; [因] 衆所奉, 意堅, 托心 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*:
śraddheyo bhavati ~ ḥ 衆所信奉 *Bodh-bh.28.*
praty-ayitavya 未受分 信用すべき。
praty-ayin 形 信用するに足る。
pratyayi-BHū 因 [因] 為縁 *Abh-vy.*
pratyayotpanna (°ya-ut°) 形 [因] 縁生, 從縁生
Lank.
pratyayodbhava (°ya-ud°) 形 [因] 縁起生, 因縁生
Lank.
praty-aranya- 副 森の近くにまたは森の中に(居住す
る) (*Jāt-m.*)
praty-arā 因 (車輪の)副輻(そえや)。
praty-ari 男 (屬) に匹敵する敵, …と対等の力をもつ
好敵手。
praty-arka 男 幻の太陽。
praty-arcana 中 挨拶を返すこと。
praty-artham 副 …に関して。
-praty-arthika 男 競争者, 對抗者; 敵; [因] 怨, 怨
対, 怨害, 怨憎, 怨嫌, 怨憎不饒益, 仇怨; 怨敵, 怨
賊, 怨家; 賊; 回犯 *Aṣṭ-pr.*, *Eodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*
Kāśy., *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*
外道 *Lal-v.*
pratyarthika-nigraha 男 [因] 降伏諸怨 *Sam-r.*
pratyarthika-saṃjñin 形 [因] 仇怨意, 怨嫌之心
Saddh-p.
pratyarthikāśaya (°ka-āś°) 男 [因] 怨憎想, 怨嫌意
樂 *Bodh-bh.*
praty-arthin 形 敵意のある; (一°) と競う, …と引
合う。男 反対者, 相手, 競争者; 被告; [因] 怨家
Bodh-bh.
pratyarthi-bhūta 形 障害となった。
praty-ardhi 中 (屬) の側に立つ, …に等しい。
praty-arpaṇa 中 返却, 弁済。
praty-arpaṇīya 未受分 返却または返済されるべき。
praty-arpita 過受分 [因] 廁鉗, 廁填, 間錯荘嚴 *Bodh-*
bh., *Daś-bh.*: *ratna ~* 妙宝間錯荘嚴 *Daś-bh.179*
praty-arṣa 男 (丘の)側面, 斜面。
praty-arha 形 → *yathā ~*。
praty-avakarṣaṇa 形 破壊する。
praty-avagantavya 未受分 [因] 応知, 当知 *Bodh-bh.*
praty-avagama 男 [因] 智, 解, 慧解, 印解,
了, 自内慧解 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*
praty-ava-Tī pratyavatarati. → *Tī*。
praty-avanejana 中 新しく洗い浄めること。
praty-ava-BHāṣ pratyavabhāṣate. → *BHāṣ*。
praty-avabhāṣa 男 [= *praty-avabhāsa*]。
praty-avabhāṣā 因 [同上]。
praty-avabhāsa 男 (...の)前に現われること。
praty-avamarsā 男 内的考察, 瞑想; 逆に結論す
こと; 想起; 意識 (*Jāt-m.*)
praty-avamarsāna 中 内観, 反省。
praty-avamarsavat 形 冥想的の, 反省的の。
praty-ava-Mṛś pratyavamṛśati. → *Mṛś*。

praty-avayava, ◦—, ~m 副 身体の各部において; 各部に対して, 個々に, 逐一に.
 pratyavayava-varṇanā 因 詳細な記述.
 praty-avara 形 (因) より一層低い, …より一層無意義な, …より一層価値の少い; 下劣, 微劣, 鄙下, 鄙穢, 卑賤, 弊陋; 微毫, 微細 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*
 pratyavara-kālam 副 (因) より遅く, …の後に.
 praty-avaruddha 過受分 止められた, 抑えられた.
 praty-avarudhya 不変分 恢復して, 回収して.
 praty-ava-Ruh praty-avarohati. → Ruh.
 praty-avarodhana 因 障害.
 praty-avaroha 男 (…の方へ下り来ること; 下降の順列; [Mantra の一種]. ~m 副 下って.
 praty-avarohaṇa 因 (座席等から) …の方へ下り来ること; [Mārgaśrṣa 月に執行される家庭祭].
 praty-avarohin 形 下の方へ動く, 下る.
 praty-avalokana 因 観察, 楽観 *Kāśy.*, *Śikṣ.*
 praty-avasāna 因 食うこと.
 praty-avasita 過受分 [Sā] 再び以前の(悪い)生活に堕した.
 praty-avasṛta 過受分 去った (*Divy.*).
 praty-avasṛpya 不変分 這い出て.
 praty-avaskanda 男 攻撃, 奇襲.
 praty-ava-Sthā pratyavatiṣṭhate. → Sthā.
 praty-avasthāna 因 反対; 反駁, 抗議; 立, 成立, 建立, 処; 往外推, 分安者 *Lank.*, *Mvyut.*
 praty-avasthita 過受分 別々にまたは向い合って立った; 特殊の状態にある; 現前 *Bodh-bh.*
 praty-avahartos, [Hr の 因 不定].
 praty-avahāra 男 引き戻すこと, 撤去, 回収; 分解, 消滅.
 praty-ava-Hr, → Hr 1.
 praty-avāp (praty-ava-Āp), → Āp.
 praty-avāya 男 減少, 縮小; 逆, 反対のコース, 正反対の行為; 不快なこと; 不利益; 失望; 罪.
 praty-ave (praty-ava-I) pratyavaiti. → I.
 praty-avekṣ (praty-ava-Īkṣ) pratyavekṣate. → Īkṣ.
 praty-avekṣa 詳 梵千.
 praty-avekṣaka 男 伺察 *Vijñ-t.*
 praty-avekṣaṇa 因 世話すること, 監督, 注意, 心労; 親, 観察, 内審観察; 思惟, 念; 見, 求見 *Daś-bh.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Raṣṭr.*, *Śikṣ.*, *Satr.*
 praty-avekṣaṇaka 形 親 *Satr.*
 pratyavekṣaṇa-jñāna 因 智現前証, 現前明哲 *Lal-v.*
 praty-avekṣaṇā 因 = °ṇa; 観察, 能正観察, 妙観察 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
 pratyavekṣaṇā-jñāna 因 妙観察智 *Mvyut.*
 praty-avekṣayitavya 使役 未受分 各察, 応各別察 *Mvyut.*
 praty-avekṣā 因 = praty-avekṣaṇa; 親, 観察, 諦観; 思惟 *Gaṇḍ-vy.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Madhy-vibh.*, *Śikṣ.*, *Satr.*
 pratyavekṣāsana (°ṣā-ās°) 因 看坐, 観察坐

Mvyut.

praty-avekṣita 過受分 親, 観察, 觀察詳審, 諦観, 見; 思惟 *Daś-bh.*, *Divy.*, *Mañj-m.*, *Śikṣ.*
 praty-avekṣitavya 未受分 審諦観察 *Bodh-bh.*
 praty-avekṣya 未受分 考慮または注意されるべき; 当親, 当親照 *Bodh-c.*
 praty-As pratyasyati. → As 2.
 praty-asta-gamana 因 (太陽が)没すること.
 praty-astam 副 [Gam とともに] 没する, 止む.
 pratyastam-aya 男 停止.
 praty-astra 因 投げ返された飛道具.
 praty-Ah, → Ah.
 praty-aha 形 日々の. ~m 副 毎日; 日日 *Bodh-bh.*
 praty-ā-Kal, → Kal.
 praty-ākālita (過受分) 因 [被告人が抗弁をした後, 係争者中のいずれがその主張を証明すべきかに関する法的審議].
 praty-ā-Kṛṣ pratyākṛṣati. → Kṛṣ.
 praty-ā-Kram pratyākramati, pratyākramate. → Kram.
 praty-ā-Kruś pratyākrośati. → Kruś.
 praty-ākroṣṭavya 未受分 悪口をいい返すべき; 還毀, 応返罵 *Mvyut.*
 praty-ākṣepaka 形 愚弄する, 嘲笑する.
 praty-ā-KHyā pratyākhyāti. → KHyā.
 praty-ākhyāta 過受分 退けられた, 拒絶された, 否定された, 却下された; 捨, 棄, 失, 破斥, 棄捨, 所棄捨; 遠離; 奉, 奉献 *Mvyut.*, *Śikṣ.*
 praty-ākhyātātva 因 拒否, 拒絶, 否定.
 praty-ākhyātavya 未受分 非難されるべき, 否定されるべき..
 praty-ākhyātṛ 男 拒絶者.
 praty-ākhyāna 因 拒絶, 拒否; 排除; 鬭争(感情等の); 非難, 否定, 否認; 捨, 捨離, 棄捨, 遠離; 壊, 破 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*
 pratyākhyāna-nimitta 因 遠離相, 捨離相 *Aṣṭ-pr.*
 praty-ākhyāyin 形 (一°) を拒否する. → a~.
 praty-ākhyeya 未受分 反撥または拒否されるべき; 治癒できる(病).
 praty-āgata 過受分 再び還り来た, 返った, 到着した; 還, 却来, 退廻 *Divy.*, *Lal-v.*
 pratyāgata-prāṇa 形 呼吸すなわち生命を回復した.
 pratyāgata-smṛti 形 記憶の蘇った.
 pratyāgatāsu 形 =-prāṇa.
 praty-āgati 因 帰還; 還来, 更還 *Abh-vy.*
 praty-ā-Gam pratyāgacchati. → Gam.
 praty-āgama 男 =praty-āgati.
 praty-āgamana 因 (一°) に帰り来ること, …への帰還; 回来, 退還 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.* → punaḥ~.
 praty-ā-Gṛ pratyāgrṇāti. → Gṛ 1.
 praty-āghāta 男 拒絶.
 praty-ā-Cakṣ pratyācaṣṭe. → Cakṣ.
 praty-ācaksāṇaka 形 (業) を論議しようとする.

praty-ācāra 男 対応する行為, 相当する行為.
 praty-ā-Jan pratyājāyate. → Jan.
 praty-ājāta 過受分 生, 已生, 受生已 *Bodh-bh.*,
Lal-v.
 praty-ājāti 因 生 *Bodh-bh.*
 praty-ātāpa 男 日当りのよい場所.
 praty-ātma, [°—, ~m] 副 各人にとってまたはおいて, 個々に; °—, 内, 自内, 对自身 *Abh-vy.*,
Sūtr.; 自覚, 自証, 内身証 *Lank.*; ~m 内, 内別, 自 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*
 praty-ātmaka 形 自身に属する, 個人個人の.
 praty-ātma-gati 因 内身所証(法), 内行, 内心行; 自悟処, 自証行, 自証処, 自智所行, 自証智境, 自覚境界 *Lank.*
 praty-ātma-gatika 形 内身実智 *Lank.*
 praty-ātmagati-gamya 形 内証智所行 *Lank.*
 praty-ātmagati-gocara 男 自証法, 自到境界, 自覚境界, 内行境界, 内身智境界, 内身聖智修行境界, 自証聖智所行, 自証聖智所行境界 *Lank.*
 praty-ātmagati-cintaka 形 内心善思惟, 証智常明了 *Lank.*
 praty-ātmagati-vijñāna 中 内身証修行法, 証自智境界, 自覚聖智趣 *Lank.*
 praty-ātma-jñāna-gati 因 自証聖智, 聖智境界, 自覚聖智 *Lank.*
 praty-ātma-jñānatā 因 自知, 自内智 *Bodh-bh.*
 praty-ātma-tathatā 因 内身真如, 内証(浄)真如 *Lank.*
 praty-ātmatathatā-jñeya 形 内身証境界, 自証真如境 *Lank.*
 praty-ātma-dṛṣṭa-dharma 男 内身見諸法, 自内現証法 *Lank.*
 praty-ātma-dharma 男 自証法, 内身証法, 内身証於法 *Lank.*
 praty-ātma-dharmatā 因 内法, 自証法, 自身内証法, (縁)自得法 *Lank.*
 praty-ātmadharmasthititā 因 自証本住法, 内身証法性, (縁)自得法住 *Lank.*
 praty-ātma-naya-lakṣaṇa 中 内身如実之相 *Lank.*
 praty-ātma-bhūmi 因 自証之位, 内身内証智地, 自覚地 *Lank.*
 praty-ātma-vedaniya 形 自覚証, 内心領受 *Śikṣ.*, *Sūtr.*
 praty-ātma-vedya 形 自証, 自所証, 自覚, 証智, 内身証, 自内所証; 内心所知 *Lank.*, *Sūtr.*
 praty-ātmavedya-gati 因 内心所知法, 証智之所知 *Lank.*
 praty-ātmavedya-yāna 中 自内所証乘 *Lank.*
 praty-ātma-śāsana 中 内証法, 縁自与教法, 自証及教法 *Lank.*
 praty-ātmādhigata 形 自身内証, (得縁)自覚 *Lank.*
 praty-ātmādhigama 男 了達自証, 自身内証, (縁)自得 *Lank.*
 praty-ātmādhigamana 形 内証, 得自覚 *Lank.*

praty-ātmādhigamārya-jñāna-gocara (°ma-ār°) 男 自証聖智所行, 自覚聖智境界, 内身聖智証境界 *Lank.*
 praty-ātmārya-gati (°ma-ār°) 因 自覚聖趣, 内証聖行, 内身聖行, 自内身証智証法, 自証聖境 *Lank.*
 praty-ātmāryagati-gamya 形 向自覚聖趣, 獲自証智, 已入自内身証智証法 *Lank.*
 praty-ātmāryagati-gocara 男 自覚聖智所行, 自証聖行境界 *Lank.*
 praty-ātmārya-jñāna (°ma-ār°) 中 自覚聖智, 自証聖智, 内身聖智 *Lank.*
 praty-ātmāryajñāna-gata 形 自覚聖智修行(者)自身進趣証聖智, 自証聖法 *Lank.*
 praty-ātmāryajñāna-gati 因 自覚聖智趣, 自覚聖智所趣, 自覚聖智究竟, 自覚聖智相, 自証聖智相, 自身内証聖智修行相 *Lank.*
 praty-ātmāryajñānagati-gocara 男 自覚聖智所行境界, 聖智修行境界行処, 自証聖智所行 *Lank.*
 praty-ātmāryajñānādhigama 男 自覚聖智所得聖智内身証得, 自証聖智所行 *Lank.*
 praty-ātmārya-dharma (°ma-ār°) 男 自証聖法, 自覚聖趣 *Lank.*
 praty-ātmika 形 (因 -i) = praty-ātmaka; 独内 *Saddh-p.*
 praty-ātmya 中 自己に似ていること; 男 自身の像よって.
 praty-ādarśa 男 [praty-ādeśa の誤].
 praty-ādāna 中 回復, 再獲得; 反復, 繰返し.
 praty-āditya 男 幻日. °— 副 (°—) 太陽の方へ太陽に向って.
 praty-āditsu 希求 形 獲得または再び獲得したいと
 う.
 praty-ā-Diś pratyādiśati. → Diś.
 praty-ādeya 未受分 受領されるべき.
 praty-ādeśa 男 指図, 命令; 否認, 拒否; 拒絶; 防, 阻止, (抑圧するための)みせしめ; 顔色なかしめること; (日月の)食; 申し出 (*Jāt-m.*).
 praty-ādhāna 中 保存する場所.
 praty-ādhāram 副 (劇中の)個々の人物において.
 praty-ānāyana 中 再び取り来ること, 持ち帰ること
 回復; 還 *Bodh-bh.*
 praty-ā-Ni pratyānāyati(-te). → Ni.
 praty-āneya 未受分 回復されるべき, 償われるべき
 praty-Āp, → Āp.
 praty-āpatti 因 (悪から)立戻ること, 改心, 回復, 復旧; 贖罪, 穢を浄めること; 還
 制止 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*
 praty-āpatti-bala 中 制止力 *Śikṣ.*
 praty-ā-Pad, → Pad.
 praty-āplavana 中 跳ね返ること.
 praty-āmnāna 中 反対のまたは変更された指示.
 praty-āmnāya 男 [同上]; (推論における)結論
 ni-gamana].
 praty-āya 男 租税, 貢賦; 税, 貢, 貢頂,
Divy., *Mvyut.*

praty-āyaka (使役) 形 [I] 知らせる, 理解させる; 確信させる, 信用すべき.

praty-āyana (°y-ā-ay°) 1. 田 (太陽が) 没すること.

praty-āyana 2. 形 [I の使役 から] 確信させる, 信用すべき; 開悟, 開曉 Nyāy-pr. 田 明解, 説明, 表示; 後補 Mvyut.

praty-āyanā 因 確信させること, 慰めること; 信服 Mvyut.

pratyāyanārtha (°nā-ar°) 形 為信服故, 令被信服故 Mvyut.

praty-āyayitavya 未受分 明解または表示されるべき.

praty-ā-Yā pratyāyāti. → Yā.

praty-āyita (使役 過受分) 男 信任できる人, 代理人.

praty-ārambha 男 再び始めること; 禁止; 廃棄.

praty-ā-Ruh pratyāropayati (使役). → Ruh 2.

praty-ārdra 形 新鮮な (Jāt-m.).

pratyārdratara 比較 更に新鮮な (Jāt-m.).

praty-ārdri-Kṛ, 再び湿らす, 再び新たに作る.

praty-āliṅ 名動 pratyāliṅgati 抱擁し返す. → āliṅ.

praty-āliṅgana 田 抱擁し返すこと.

praty-āliḍha 過受分 [Lih] 矢を射るときの姿勢の一 (左足を前に出し右足を後にひく) 展左 Mvyut.

praty-āvartana 田 帰還.

praty-āvartya 未受分 退, 退転 Bodh-bh.

praty-āvāsakam 副 あらゆる天幕に.

praty-āvāsam 副 あらゆる家で.

praty-ā-Vṛt pratyāvartate. → Vṛt.

praty-āvṛtta 過受分 → Vṛt.

praty-āvṛtti 因 帰還.

praty-ā-Vraj pratyāvrajaṭi. → Vraj.

praty-ā-Śaṃs pratyāśaṃsate. → Śaṃs.

praty-āśaṃsatā 因 希望 Bodh-bh.

praty-āśaṃsitavya 未受分 称讚, 希(求) Bodh-bh.

praty-āśam 副 すべての方向で.

praty-āśā 因 (一) に信頼すること; 希望, 期待.

praty-ā-Śi pratyāśete. → Śi 2.

praty-āśraya 男 避難所, 住所.

praty-āśrāva 男 āśrāvaṇa に対する答 [祭式において Agnidhra 祭官が唱える astu śrauṣaṭ の句].

praty-āśrāvaṇa 田 [同上].

praty-āśrāvita 田 [同上].

praty-ā-Śvas pratyāśvasiti. → Śvas.

praty-āśvasta 過受分 → Śvas.

praty-āśvāsa 男 再び呼吸すること, 回復.

praty-āśvāsana 田 慰め.

praty-āsaṃkalita (過受分) 田 かれこれ考量すること, (問題の) 当否を熟考すること.

praty-āsaṅga 男 結合, 関連; (一) 近接. → ati~.

praty-āsatti 因 近接 [時間または空間の]; 類推; 快活, 上機嫌; 極近 Mvyut.

praty-ā-Sad pratyāsidati. → Sad.

praty-āsanna (過受分) 近い, 接近した, 手近かの. → Sad. 数現在前, 重起 Abh-vy.

praty-āsannatā 男 [同上]. 親近 Abh-vy.

pratyāsanna-bhāva 因 近接.

praty-āstarāṇa 田 = praty-āstāra. [Pali paccattharaṇa] (下または上に) 掘られたもの, 覆い, 上敷, 敷物, 蒲団, 坐蒲団, 坐具 (Divy., Mvyut.): āstarāṇam ~ m 臥具 Divy.

praty-āstāra 男 仏教比丘の敷物.

praty-āstṛta 過受分 極微 Mvyut.

praty-āsvara 形 反射する.

praty-āha 形 [praty-aha の誤] 日々の.

praty-āhata 過受分 → Han. 相撃, 相搥 Abh-vy.; 所障蔽, 不受還 Divy.

praty-ā-Han pratyāhanti. → Han.

praty-āharāṇa 田 持ち帰ること; (因) から撤回または抑制すること.

praty-āhāra 男 (軍勢の) 撤退, 後退; (因) から(感覚を)抑制すること; (感覚作用をその対象から)引き戻すこと; (創造物の)回収, (世界の)分解, 消滅; 記号による省略法 (文法) [一列の音または接尾辞を最初のもの首字と最後のものの結字を組合せて単純な単綴字となし, その全体を代表させる: al は母韻の最初の a に子音の最後の ha-l (すなわち h) を加えたもので(この場合 l は anubandha である), アルファベットの子母音全体を意味する]; [恐らくは prav-yāhāra の 訛] 話しかけ, 声, 音 (Kār-vy.).

praty-āhāraṃ Kṛ, (因) に話しかける (Kār-vy.).

praty-āhāriṇi 因 [prati-hārin から]. → oja~.

praty-āhārya 未受分 (因) から受取られるべきまたは学ばれるべき.

praty-ā-Hṛ pratyāharati. → Hṛ 1.

praty-āhvaya 男 反響.

praty-ukta 過受分 → Vac. 応, 已答, 已遮 Madhy-v., 梵雜. 田 答.

praty-uktatva 田 論駁, 論破.

praty-ukti 因 答.

praty-uc-Car pratyuccārayati (使役). → Car.

praty-uccāra 男 反復; 復説 Mvyut.

praty-uccāraṇa 田 再説すること; 復説 Mvyut.

praty-uj-Jiv pratyujjivati. → Jiv.

praty-ujjivana 田 再生, 蘇生.

praty-ujjivita 過受分 → Jiv.

praty-uta 副 反対に, むしろ, …さえも.

praty-utkarṣa 男 卓越または凌駕すること.

praty-ut-Kram, → Kram.

praty-utkrānta-jivita 過受分 死に瀕した.

praty-uttabdhi 因 支持すること, 支えること, 固定させること.

praty-ut-tambh (praty-ud Stambh) pratyuttabhñāti, pratyuttabhñoti. → Stabh.

praty-uttambha 男 = praty-uttabdhi.

praty-uttambhana 田 [同上].

praty-uttara 田 応答すること, 返答; 応梵千.

pratyuttari-karaṇa 田 返事をする, 答え.

pratyuttari-Kṛ, 答える.

praty-ut-thā (praty-ud-Sthā) pratyuttiṣṭhati. → Sthā.

praty-utthātavya 未受分 漢訳 当起 *Saddh-p.*
 praty-utthāna 甲 起ち上って(客を)迎えること, 恭しく(客を)迎えること; …に対して起ち上ること, 敵意; 漢訳 起迎, 奉迎, 起奉迎, 出奉迎, 現起 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 懇勸 *Bodh-bh.*
 praty-utthāyin 形 再起する; 恭しく立ち上る。 → a~.
 praty-utthita 過受分 (業)に会うために立ち上った; 漢訳 起, 現前 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*
 praty-uttheya 未受分 起立して尊敬すべき。
 praty-utpanna 過受分 → Pad. 迅速な, 即座の; 現存する, 現在の (*Vajr-pr.*); 漢訳 現, 現在, 現時, 現世, 今 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lānk.*, *Madhy-vibh.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*, *Siv-pr.*; 中際 *Aṣṭ-pr.*, *Madhy-vibh.*: ~o 'dhvany asaṃgama-pratihata-jñāna-darśana 現在無礙 *Dharm-s.*; ~o 'dhvā 現在世 *Dharm-s.* ~m 副 漢訳 現在, 今 *Bodh-bh.*
 pratyutpanna-buddha-saṃmukhāvasthita 形 漢訳 現在仏前住, 現在仏面 *Mvyut.*
 pratyutpanna-mati 形 沈着な心をもつ。 男 [(機知のあるもの), ある魚の名].
 pratyutpanna-śūnyā 因 漢訳 中際空 *Madhy-vibh.*
 pratyutpanna-sukha 甲 漢訳 現樂, 現在樂 *Bodh-bh.*, *Lānk.*
 praty-ut-Pā pratyutpipite. → Pā 3.
 praty-udadhi 副 海において。
 praty-udāvarta 男 漢訳 退転, 退還 *Bodh-bh.*
 praty-udāvartaniya 未受分 漢訳 退転 *Daś-bh.*
 praty-udāvartita 過受分 漢訳 超, 已超(究竟) *Abh-vy.*
 praty-udāvartya 未受分 漢訳 退転 *Bodh-bh.* → a~.
 praty-ud-ā-Vṛt pratyudāvartate. → Vṛt.
 praty-udāvṛtta 過受分 漢訳 回, 廻 *Madhy-v.*, *Mvyut.*: ~m cittam 回心, 不欲 *Madhy-v.* 498.
 praty-udāharaṇa 甲 反例, 反対の例証; 漢訳 復比喩 *Mvyut.*
 praty-udāhāra 男 甲 (?) 漢訳 答 *Bodh-bh.* → vāk~.
 praty-udāhārya 未受分 反例すなわち 反対の例証として挙げられるべき。
 praty-ud-ā-Hṛ pratyudāharati. → Hṛ 1.
 praty-ud-I pratyudeti. → I.
 praty-ud-Īr pratyudirayait. → Īr.
 praty-udgata 過受分 → Gam. 漢訳 迎, 出迎, 迎接, 迎接奉事, 所奉迎, 待来 *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*
 praty-udgati 因 会うために行くこと(とくに尊敬の表示として).
 praty-ud-Gam pratyudgacchati(-te). → Gam.
 praty-udgama 男 =praty-udgati.
 praty-udgamana 甲 [同上]; 漢訳 迎, 起迎, 来朝 *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 梵雜.
 praty-udgamaniya 未受分 (客を)尊敬して招待するに適した。
 praty-uddhāra 男 [(一旦与えたものを)取り戻すこと] 漢訳 転, 令還, 捨 *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.* → chanda

~.
 praty-uddhāratā 因 漢訳 持 *Sikṣ.*
 praty-ud-dhṛ (praty-ud-Hṛ), → Hṛ 1.
 praty-udbuddha 過受分 → Budh.
 praty-ud-BHū, → BHū.
 praty-udbhūta 過受分 → BHū.
 praty-ud-Yam pratyudyacchati. → Yam.
 praty-udyama 男 釣合い, 均衡.
 praty-udyamin 形 均衡を得た。
 praty-ud-Yā pratyudyāti. → Yā.
 praty-udyāta 過受分 → Yā.
 praty-udyātṛ 男 攻撃者。
 praty-udyāna 甲 漢訳 迎, 来迎 *Abh-k.*, *Mvyut.*; 往彼, 彼請, 遣使而降 *Mvyut.*
 praty-udyāmin 形 反抗的な。
 praty-ud-Vraj pratyudvrajati. → Vraj.
 praty-unnamāna 甲 はね返ること, 反発。
 praty-un-Miṣ pratyunmiṣati. → Miṣ.
 praty-upakāra 男 親切に対する返報, 感謝, 返報としての奉仕; 漢訳 報, 報恩, 恩報, 反報, 酬報, 現前酬報 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Sūtr.*
 pratyupakāra-kāma 形 漢訳 欲報徳者 *Bodh-bh.*
 praty-upakārin 形 親切に報いる;(一)に返報する; 漢訳 希報 *Aṣṭ-pr.*; 報(菩薩)恩 *Sūtr.*
 praty-upa-Kṛ pratyupakurute. → Kṛ.
 praty-upakriyā 因 親切に対する返報, 感謝, 返礼としての奉仕。
 praty-upa-Diś pratyupadiśati. → Diś.
 praty-upadeśa 男 返報として教示すること。
 praty-upa-Dru pratyupadravati. → Dru.
 praty-upapanna 過受分 → Pad.
 pratyupapanna-mati 形 沈着な心をもつ。
 pratyupapanna-matitva 甲 沈着。
 praty-upabhoga 男 享樂, 享受; 漢訳 用事 *Sāṃkhy-k.*
 praty-upamāna 甲 反対の比喩すなわち典型中の典型。
 praty-upa-Yā pratyupayāti. → Yā.
 praty-uparuddha 過受分 塞がれた, (咽喉の)詰った
 praty-upa-Labh, → Labh.
 praty-upaveśa 男 (同意を得るために)取り巻くことまたは詰めよること。
 praty-upa-Sthā pratyupatiṣṭhati(-te). → Sthā.
 praty-upasthāna 甲 接近, 切迫; 漢訳 現, 現前, 現前住, 現在前, 現証住, 住, 近居, 近対; 勤行; *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*
 praty-upasthānatā 因 漢訳 現前 *Bodh-bh.*
 praty-upasthāpana 甲 思い浮べること。
 praty-upasthita 過受分 → Sthā. 漢訳 現, 現前, 現在前, 正現在前, 出, 出現, 出前奉現; 起, 於正起; 住, 安住; 依止, 作所依怙 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.* *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Sapt-pr.*, *Vijñ-t.*; 助供養, 親近 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*; 臨, 將至, 已至欲 *Eodh-bh.*, *Divy.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*; 潛 *Aṣṭ-pr.*: parvaṇi ~ā 節日將至 *Divy.* 87.; maṛaṇa-kāla-samaye ~e 臨命終時, 臨壽終時, 臨 *Sukh-vy. I.* 47.; saddharmāntardhāniṃ ~ām 法欲滅 *Bodh-bh.* 14.

praty-upasparšana 田 再び洗うこと, 再び濯ぐこと.
 praty-upahāra 男 復旧, 返済.
 praty-upākarāṇa 田 Veda の学習を再び始めること.
 praty-upāsanam 副 個々の尊崇・崇拜に関して.
 praty-upeya 未受分 (具) をもって応対されるべきまたは取扱われるべき.
 praty-upta 過受分 → Vap 2. 飾, 嚴飾, 莊嚴, 莊嚴間錯, 間錯莊嚴, 間錯, 廁填, 雜廁間錯, 宮飾, 廁填, 鈿廁其間; 在 *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Suv-pr.*; 打扮者 *Mvyut.*: *ratna-jāla* ~ 妙宝網莊嚴 *Lal-v.* 41.
 praty-urasam 副 胸に向ってまたはの上に.
 praty-ulūka 男 梟のような鳥.
 praty-ul-Las, → Las.
 praty-Uṣ pratyōṣati. → Uṣ.
 praty-uṣa 男 夜明け; 朝 梵千.
 praty-uṣas 田 [同上].
 praty-ūḍha 過受分 受け入れられない, 拒まれた; 凌駕されたまたはぬきんでられた; 覆われた, 包まれた; 無視された (*Divy.*); 違 *Divy.*
 praty-ūrdhvam 副 (案) の上方へ, …の上に.
 praty-ūṣa 男 田 (?) 暁, 夜明け; 天明, 後夜 *Divy.* 男 [Vasu 神の一].
 pratyūṣa-kāla 男 明清旦 *Sam-r.*
 praty-ūṣas 田 = praty-ūṣa; 旦 梵雜.
 pratyūṣa-samaya 男 天明, 後夜時 *Divy.*
 praty-ūh pratyūhati(-te). → Ūh 1.
 praty-ūha 男 障害, 阻害, 妨害.
 pratyūha-kārin 形 妨害する.
 praty-ūhana 田 中止, 停止.
 praty-R, → R.
 praty-ṛcam 副 各々の詩節 (Rc) においてまたはをもつて.
 pratyē (praty-ā-I), → I.
 praty-eka 形 各個の; 別, 各別, 各々差別, 一々各有, 独 *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*; [~ = buddha の略] 緣覚, 独覚 *Lank.*, *Saddh-p.*; 音写 辟支迦 *Kāśy.* °, ~m 副 単独に, 個々において, 個々に, 個々でまたはにとって; 各々に関して; [~m] 各, 各各, 別, 各別, — *Abh-vy.*, *Bodh-c.*, *Śikṣ.*, *Vijñ-v.* 田 別 *Mvyut.*
 pratyeka-jina 男 緣覚, 緣覚者 *Lal-v.*, *Lank.*, *Saddh-p.*; [pratyeka-buddha の音写] 辟支仏 *Lank.*
 pratyeka-naraka 男 別獄, 別地獄; 小地獄, 雜地獄; 孤独地獄 *Divy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*; (音写) 孤独那落迦 *Bodh-bh.*
 pratyeka-pratyeka 形 各 *Divy.*
 pratyeka-buddha 男 (自己の救済のみを考える) 単独の仏陀; 緣覚, 独覚, 緣一覺 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.*; 音写 辟支仏 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.*
 pratyekabuddha-gotra 田 独覚種姓 *Bodh-bh.*
 pratyeka-buddhatva 田 独覚, 緣覚果; (音写) 辟支仏道 *Aṣṭ-pr.*
 pratyekabuddhatva-tathatā 因 緣覚果如, 緣覚

果真如; (音写) 辟支仏道如 *Aṣṭ-pr.*
 pratyekabuddha-dharma 男 独覚法 *Sapt-pr.*
 pratyekabuddha-bhūmi 因 独覚地; (音写) 辟支仏地 *Aṣṭ-pr.*
 pratyekabuddha-yāna 田 緣覚乘, 独覚乘; (音写) 辟支仏乘 *Aṣṭ-pr.*, *Dharm-s.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*
 pratyekabuddhayāna-gotra 田 独覚乘(聖)種姓; (音写) 辟支仏聖人性 *Lank.*
 pratyekabuddhayānābhisamaya-gotra 田 緣覚乘現觀種性, 独覚乘現觀種性 *Lank.*
 pratyekabuddha-yānika 形 緣覚乘 *Aṣṭ-pr.*; (音写) 辟支仏 *Lank.*: ~āḥ pudgalāḥ 緣覚乘人 *Aṣṭ-pr.* 328.
 pratyekabuddha-yāniya 形 求緣覚 *Kāśy.*; (音写) 求辟支仏者, 行辟支仏乘, 為辟支仏道 *Kāśy.*, *Saddh-p.*
 pratyekabuddha-rūpa 田 (音写) 辟支仏形, 辟支仏身 *Saddh-p.*
 pratyeka-bodhi 因 = pratyeka-buddhatva (*Kār-vy.*). 男 緣覚 *Saddh-p.*; 音写 独覚菩提 *Bodh-bh.*
 pratyekabodhi-buddha 男 緣覚 *Sūtr.*; 音写 辟支仏 *Sūtr.*
 praty-ekāśas 副 単一に, 個々に対して.
 pratyeka-śrāvakiya 男 田 二乘行, 二乘地 *Lank.*
 praty-etavya 未受分 (因) と認められるべき・承認されるべきまたは見なされるべき; 分別当知, 応如是知, 応知 *Lank.*, *Sūtr.*
 praty-etos 副 不定 [I] [īśvaraḥ を補って].
 praty-enas 男 最も近い繼承者.
 praty-enasya 田 (因) に最も近い繼承權.
 praty-eṣaka 形 受, 能受者, 能信受 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*
 praty-eṣita 過受分 受け取られた (*Lal-v.*).
 pra-Tvakṣ, → Tvakṣ.
 pra-tvakṣas 形 勢力のある, 力強い.
 pra-tvakṣāṇa 現分 → Tvakṣ.
 Prath, I. 自 prathate; まれに 他 prathati 広げる [因のみ]; 広がる [P.のみ]; 自 prathate 広げられる, 広く行きわたる(名譽・風説等); 増す, 増大する; 開示される, 出現する, 起る, 現われる; (心に) 起る; 流 *Sūtr.* 過受分 prathita 広げられた, 広く行きわたった, 増大された, 知られた, 喧伝された, 著名な. 使役 他 自 prathayati(-te) 広げる, 増す; 繁榮させる; 広く行きわたらせる, 有名にする; 展示する, 暴露する; …の上に輝く (R V.); 自 広がる, 増す (因).
 ati- 自 非常に有名になる (*Jat-m.*).
 vi- 他 広げる (RV.); 自 広がる, 広い (因). 過受分 viprathita 広く行きわたった. 使役 他 viprathayati 広げる, 広く行きわたらせる; 展示する, 示す.
 sam- 過受分 samprathita 周知の, 著名な.
 prathana 田 広げること, 拡張; 拡張の場所 (Br.); (一) の顯示 (案); 舒 *Bodh-bh.*, 流 *Sūtr.*
 prathama 形 [=pra の最上 最も前の] 第一の; 最

も早い；元の；…より以前の，前の，先の；首位にある，最も優れた，卓越した，主な；[しばしば 圃の意味がある] 最初に，初めて；前に，前もって；直ちに；**初** 初，最初，始，首，前，第一；後有 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Divy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.* 梵千., 梵雜. → *tat* ~. °—, ~m 圃 最初に，まず最初に，初めて；やっとならしたばかり；直ちに，前に，先に；[圃 とともに]…の前に，…より先に. ~āt 圃 最初に；**初** 最初 *Lal-v.* 圃 (同列中の)最初の子音 [すなわち無声無含気音 (k, c, t, p)]; 第一人称 [ヨーロッパ語の第三人称およびその語尾]. 圃 圃 [集合的に] 最初のもの.

prathamaka 圃 最初の；**初** 創 *Sapt-pr.*

prathama-kathita 圃 前記の，前述の.

prathama-kalpa 圃 最も重要な規定.

prathama-kalpita 圃 第一位の；最も重要な.

prathama-garbha 圃 最初の懐胎.

prathama-garbhā 圃 始めて懐胎した.

prathama-cittotpāda (°ta-ut°) 圃 **初** 初発心，初心起，前心 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*

prathama-cittotpādika (°ta-ut°) 圃 (...をしようとの)考えをまず発した (*Kār-vy.*); **初** 初発心，最初発心，初発意，初発(道)心 *Bodh-bh.*, *Kāśy.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*

prathama-ja 圃 最初に生れた，初物；本来の；最初に(記された婚姻において)生れた.

prathama-jā 圃 [同上].

prathama-jāta 圃 最初に生れた.

prathamata [°~, ~m] (比較) 圃 最初に；**初** [~m] 最先 *Śikṣ.*

prathamatas 圃 最初に；直ちに；(圃) より先にまたは先立って；(一°)より先にまたは以前に；**初** 初，最初，先 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mañj-m.*

prathama-darśana 圃 (圃) をはじめて見ること.

prathamadarśana-dina 圃 (圃) を見た最初の日.

prathama-dugdha 圃 しばられたばかりの(乳).

prathama-dhāra 圃 (?) 最初の一滴.

prathama-dhyāna 圃 **初** 初定，初静慮 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*

prathama-dhyānika 圃 **初** 初静慮，初定(天) *Abh-vy.*

prathama-nirdiṣṭa 圃 最初に述べられたまたは挙げられた.

prathama-parigṛhita 圃 以前に結婚した.

prathama-puruṣa 圃 第一人称 [ヨーロッパ語の第三人称]. (文法)；**初** 第一男子(第三人称) *Mvyut.*

prathama-pravada 圃 産ぶ声を挙げる(赤児).

prathama-prasūtā 圃 始めて仔を産んだ.

prathama-prasthāna 圃 **初** 初発 *Gaṇḍ-vy.*

prathama-prahara 圃 定更，(初更) *Mvyut.*

prathama-bhāj 圃 最初の分け前を得た.

prathama-bhāvanā 圃 **初** (発)修 *Madhy-vibh.*

prathama-madhyama-pāścād-rātra 圃 **初** 中後夜 *Lank.*

prathama-yajña 圃 最初の祭祀.

prathama-rātra 圃 初夜.

prathama-vayasin 圃 若い.

prathama-vasati 圃 元のまたは古い住所.

prathama-vittā 圃 最初の妻.

prathama-vṛttānta 圃 先の事情，以前の話.

prathama-śri 圃 財産または幸運をえたばかりの.

prathama-saṅgama 圃 [人名].

prathama-saṃnipāta 圃 **初** 初会 *Sukh-vy. I.*

prathama-samāvṛtta 圃 (圃) の方へ向けられたばかりの.

prathamā 圃 第一格すなわち体格(呼格を含む)，体格(呼格を含む)の語尾；圃 最初の二格すなわち体格と業格，最初の二格の語尾.

prathamāgāmin (°ma-āg°) 圃 最初に来るまたはあげられる.

prathamādeśa (°ma-ād°) 圃 (指示代名詞の)初回の使用.

prathamānāsrava 圃 **初** 初無漏，初無流 *Abh-vy.*

prathamāpatti (°ma-āp°) 圃 **初** 初犯罪 *Prat-m.*

prathamābhitapta 圃 最初に熱せられた・焼かれたまたは煮られた.

prathamābhidheya 圃 根本の意義.

prathamābhidheyatā 圃 [同上圃].

prathamābhinirvṛtta 圃 **初** 初生，劫初起 *Abh-vy. Mvyut.*

prathamārdha 圃 前半.

prathamārya (°ma-ār°) 圃 **初** 初聖 *Abh-k.*

prathamāvaratva 圃 より高いおよびより低い階位，先輩と後輩.

prathamāstamita 圃 (日)没直後.

prathamāham 圃 最初の日において.

prathamāhāra (°ma-āh°) 圃 最初の使用.

prathamī 圃 **初** (地) *Lank.*

prathametara (°ma-it°) 圃 第一以外の，第二の.

prathamottara-bhūmi-lakṣaṇa (°ma-ut°) 圃 **初** 地上上増進相，於初地…得上上地…之相，入初地漸次証得 *Lank.*

prathamodita (°ma-ud°) 圃 前述の，最初に言われた.

prathayat 圃 広げる，拡張する.

prathayitṛ 圃 広げる者.

prathas 圃 広さ；拡張.

prathasvat 圃 広い，広がった.

prathā 圃 広がること；名譽，名声；(一°)の根源 **初** 遠聞，流聞，明

Bodh-bh., *Divy.*, *Mvyut.*

prathita-yasas 圃 広く名高い；**初** 名称遠 *Sūtr.*

prathita-vidiśā-lakṣaṇa 圃 *Vidiśa* の名で著名な.

prathiman 圃 広さ，大きさ；拡張，増大.

prathivi 圃 → *prthivi.* 大地.

prathiṣṭha, [*prthu* の 最上].

prathiyas, [*prthu* の 比較].

prathu 圃 遠い，長い(旅)；(圃)より更に遠く達す.

pra-da 圃 [一般に 一°] 与える，付与する，譲る給する；発言する，発音する；ひき起す，生ずる

【漢訳】与, 施, (等)施, (普)施 *Bodh-bh., Lal-v., Sūtr.*

→ sukha~, hita~.

pra-dakṣiṇa 形 (太陽と同じ方向すなわち)右に動く; 右方に立ったまたはある; きざしのよい, 都合のよい, 栄える; 右側を…に向ける, 恭々しい; 【漢訳】右; 順, 順応, 応順, 随順 *Bodh-bh., Lal-v., Mvyut.*; 極尊重 *Śikṣ.* ~m **Kṛ** または **pra-Kṛ** (尊敬の表示として) 右側を(圓)へ向ける; 【漢訳】右旋, 右遷, 礼 *Aṣṭ-pr., Lal-v., Śikṣ.* °—, ~m 副 右の方へ, 左から右へ(尊敬の表示として右側をあるものの方に向かせるように); 南の方へ; [**Kṛ** または **pra-Kṛ** とともに] 右側を(圓)に向ける. 男 田 右側を…の方に向けること, 左から右へ廻ること [尊敬の対象は 屬 または °—, また **Kṛ** または **Dā** が用いられる場合は 爲, 屬, 因].

pradakṣiṇa-kriyā 因 右側を向けて廻る尊敬の表示.

pradakṣiṇa-grāhin 形 (因-ñi) 【漢訳】順, 随順, 執順, 所作順右, 運動順右, 当恭敬, 随順而取, 随順教誨, 善受教誨, 随順一切善事 *Bodh-bh., Daś-bh., Kāśy., Lal-v., Mvyut.*

pradakṣiṇa-paṭṭikā 因 【漢訳】田地 *Mvyut.*

pradakṣiṇaya 名動 他 **pradakṣiṇayati** 左から右に または 東から西に歩き廻る.

pradakṣiṇa-varta 形 【漢訳】右旋 *Suv-pr.*

pradakṣiṇa-vāhin 形 【漢訳】随流右転, 随流右旋 *Gaṇḍ-vy.*

pra-dakṣiṇā 因 = **pra-dakṣiṇa** (男 田); 【漢訳】随順 *Bodh-bh.*

pradakṣiṇānuloma 形 恭謙で従順な(奴隷).

pradakṣiṇārcis 形 右方に向って焰をだす.

pradakṣiṇāvarta (°ṇa-āv°) 形 右方に向いた; 【漢訳】右旋, 右繞, 趨繞右旋 *Bodh-bh.*

pradakṣiṇāvarta-keśa 形 【漢訳】髮毛右旋, 頭髻右旋 *Mvyut.*

pradakṣiṇāvarta-gāmin 形 【漢訳】向右, 廻顧右旋, 回身顧視必皆右旋 *Mvyut.*

pradakṣiṇāvarta-nābhi 形 【漢訳】臍右旋 *Mvyut.*

pradakṣiṇāvarta-sikha 形 = **pradakṣiṇārcis**.

pradakṣiṇāvartaika-romatā (°ṇa-āv°) 因 【漢訳】身諸毛孔各生一毛右旋(紺青)相 *Dharm-s.*

pradakṣiṇāvṛtka (°ṇa-āv°) 形 右の方へ向いた, (人または物を自己の)右方に配した.

pra-dakṣiṇit 副 (自己の)右側が(ある物の)方へ向けられるようにして.

pradakṣiṇi-Kṛ, 右側を(圓)の方へ向ける, 左から右に(圓)を廻る; 【漢訳】右繞, 右遷, 遷, 繞, 圍繞 *Aṣṭ-pr., Av-s., Lal-v., Lank., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ.*: tri(h)~ 右繞三匝, 右繞三市, 圍繞三匝 *Aṣṭ-pr. 198., Mvyut.*

pra-dakṣiṇiya 形 左方から右方へ廻り歩くべき, 非常に尊敬すべき (*Vajr-pr.*); 【漢訳】右遷 *Vajr-pr.*

pra-dakṣiṇena 男 副 (左から)右へ, 南の方へ.

pra-dagdha 過受分 → **Dah**.

pra-dagdhavya 未受分 焼かれるべき.

pra-datta 過受分 人手に渡された, 贈られた. →

Dā 1. 【漢訳】奉施 *Divy.* 男 [ある *Gandharva* の名].

pradatta-nayanotsava (°na-ut°) 形 眼を楽しませる, すなわち麗わしい.

pra-dara 男 (軍の)分散, 潰走; 裂け目, (地面の)割れ目; 矢(の一種); 種 [民族の名].

pra-darśa 男 外貌 (一°); 指示すること, 命令.

pra-darśaka 形 示す, 指示する; 提示する, 教える. 男 教師.

pra-darśana 田 外貌 [しばしば 一°]; 示すこと, 明示; 指示; 教えること, 例証; 【漢訳】見, 現, 顕, 顕了, 顕現, 顕示, 示, 示導 *Daś-bh., Gaṇḍvy., Lank., Madhy-vibh.*

pra-darśanā 因 指示.

pra-darśita 使役 過受分 示された, 指示された; 教えられた, 言及された, 特記された.

pra-darśin 形 (一°) を見る, …を見る; 示す, 指示する.

pra-darśya 使役 不変分 見せて, 示して.

pra-dalita 過受分 【漢訳】極入(?), 尋(?) (裂?) *Mvyut.*

pra-Dah **pradahati**(-te). → **Dah**.

pra-dahana 田 (陶器の)窯焼.

pra-Dā **pradadāti**, **pradatte**. → **Dā** 1.

pra-dātavya 未受分 与えられるべき, 授与されるべき; 嫁がせられるべき; 引き渡されるべき, 返還されるべき; 許容されるべき; 認められるべき; (因)に置かれるべき.

pra-dātṛ 男 与える者, 授与者 [しばしば 一° (事物とともに, 例外的には受者とともに)]; (娘を)嫁がせる者; (屬, 一°)の報告者またはにおける教師; (願望を)叶える者.

pra-dāna 田 与えること, 授与; (火中に供物を)捧げること [またその際唱えられる聖句]; 讓与; 贈物, 賜物; (娘 屬)を(爲)に嫁がせること; 呪詛; 許容, 許諾(賜物の); 報告, 教示, 宣示; 宣言; 適用; 生じさせること, 起すこと; 【漢訳】施, 施他, 布施, 奉施, 授 *Abh-vy., Bodh-bh., Saddh-p., Śikṣ., Suv-pr.*

pradāna-kṛpaṇa 形 物惜しみする, 貪欲にふける.

pradāna-pūrvam 副 贈物を伴って.

pradāna-ruci 男 【漢訳】[人名] 樂行布施 *Divy.*

pra-dānavat 形 惜しまずに与える, 慈悲深い.

pradāna-sūra 男 (施与の勇士), 非常に寛大な人 (*Lal-v.*); 【漢訳】[菩薩の名] 勇施, 妙勇 *Saddh-p.*

pradāna-sūra 男 [=°sūra] 【漢訳】[王の名] 惠施, 健施 *Lal-v.*

pra-dānika 形 (一°)の贈与に関係した. → **go**~, **jala**~.

pra-dānta 過受分 【漢訳】極調柔 *Lal-v.*

pra-dāya 田 贈物.

pra-dāyaka 形 与える, 授ける, 付与する, 報告する; 【漢訳】与, 能与 *Suv-pr.* → **parama-sukha**~.

pra-dāyitva 田 与えること; (一°)の供給者たる地位.

pra-dāyin 形 = **pra-dāyaka**; 引き起す, 産出する.

pra-dārita 過受分 [Df] 【漢訳】破 *Lal-v.*

pra-dāsa 男 = **pra-dāsa** 【漢訳】惱 *Vijñ-t.*

pra-dāsa 男 嫉視, 論難 (*Dharm-s.*); 【漢訳】[Pali

palāsa, palāsa] 惱 *Abh-vy.*, *Mvyut.*
 pra-dāha 田 燃烧, 火で熱すること; (一°) の破壊.
 pra-dāhaka 形 能焼 *Sūtr.*
 pra-digdha 過受分 → *Dih.*
 pra-ditsā 因 与えようとする意欲 (*Jāt-m.*).
 pra-ditsu 系羽形 (翼) を与えたいと思う.
 pra-div 1. 因 [困 -*dyaus*] (第三十なわち) 最高の天界(祖
 霊の住処); [また七天中の第五天の名].
 pra-div 2. 形 往昔の, 久しく存在する, 古代の; *divas*
 随 古来, 曾て.
 pra-Diś *pradiśati(-te)*. → *Diś.*
 pra-diś 因 指示, 指導, 命令, 主権 (因); 方向, 方
 位; 中間の方角, 半方位 [例 東北], 随 随 すべて
 の方角において.
 pra-diṣṭa 過受分 指摘された, 指示された, 決定され
 た, 命ぜられた.
 pra-Dih *pradegdhi*. → *Dih.*
 pra-didhyāna 現分 光り輝いている.
 pra-Dip *pradīpyate*. → *Dip.*
 pra-dipa 男 燈火, 燈; (譬喩) 裝飾, (一°) の裝飾;
 [しばしば 注釈書の標題として 一° =] 注釈, 随 随
 光, 明, 現, 燈, 燈光, 燈明, 燈炬, 燈焰, 燈燭,
 燃燈, 炬, 火把 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*,
Gaṇḍvy., *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mañj-*
m., *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-*
pr. → *taila* ~.
 pra-dīpaka 男 田 (小さい) 燈; 略釈.
 pra-dīpa-kalpa 形 随 随 猶如燈 *Sāṃkhy-k.*
 pra-dīpana 形 燃やす; 随 随 可燃 *Madhy-v.* 男 毒
 薬(の一種). 田 点火すること.
 pra-dīpa-bhūta 形 随 随 猶如燈, 猶如燈燭 *Gaṇḍ-vy.*
 pra-dīpaya 名動 自 *pradīpayate* 燈の役目を代表する
 または演ずる.
 pra-dīpavat 副 随 随 如燈 *Sāṃkhy-k.*
 pra-dīpa-śaraṇa-dhvaja 男 随 随 [mahoraga 王の名]
 護炬幢 *Mvyut.*
 pra-dīpikā 因 = *pra-dīpaka*.
 pra-dīpita 過受分 随 随 熾然 *Śikṣ.*
 pra-dīpta 過受分 点火された, 燃え輝いた, 焼けた;
 刺激された, 鼓舞された. → *Dip.* 随 随 燃, 燒
 然, 熾然, 炎熾, 盛火然, 焚燒, 極焰 *Abh-vy.*, *Bu-*
ddh-c., *Divy.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*
 pra-dīpta-bhās 形 光輝燦然たる.
 pra-dīptākṣa 男 [(燃える眼をもつ), ある *Yakṣa* の名].
 pra-dīptimat 形 輝く, 光を発する.
 pra-dīrgha 形 非常に長い.
 pra-Du *pradūyate*. → *Du.*
 pra-dugdha 過受分 [(乳等を)だした] 随 随 構, 穀(?)
Lal-v. 386.
 pra-Duṣ *praduṣyati*. → *Duṣ.*
 pra-duṣṭa 1. 過受分 → *Duṣ.* 随 随 悪 *Sūtr.*
 pra-duṣṭa 2. 過受分 随 随 [< *pra-dviṣṭa*] 随 随 瞋恚
Rāṣṭr. 26.
 pra-duṣṭa-citta 形 随 随 悪心, 懷不善心, 懷恨 *Saddh-*
p., *Śikṣ.*
 pra-duṣṭa-mānasa 形 随 随 興害意 *Saddh-p.*

pra-dūṣaka 形 汚す, 穢す.
 pra-dūṣaṇa 形 悪化させる, 害う.
 pra-dūṣaya 名動 随 随 *praduṣayati*. → *dūṣaya* 1, 2.
 pra-dūṣita 過受分 墮落した; 汚された; 随 随 起心過
 失 *Divy.*
 pra-dṛpti 因 放縱, 狂気.
 pra-Dṛś, → *Dṛś.*
 pra-Dṛ, → *Dṛ.*
 pra-deya 未受分 (一°, 随) に与えられるべき, 授与
 または提供されるべき; 嫁がせられるべき, 結婚に適
 する, 婚期の (-ā 因); (随, 一°) に伝えられるべき
 (ニユース・教義) または教えられるべき; (因) を伝授
 されるべきまたは教授されるべき. 男 贈物.
 pra-deśa 男 称呼, 言及; 決定, 明示; 先例に訴える
 こと; 例; 地点, 場所, 部位 [しばしば身体の一部
 とともに 一°]; 暫時; 随 随 言 *Mvyut.*; 分, 一
 分, 少分 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Cat-ś.*, *Sūtr.*; 処,
 所, 処所, 方処, 域, 辺, 国, 地, 陸地, 高地 *Abh-*
vy., *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-c.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sapt-*
pr., *Śikṣ.*, *Suv-pr.*; 一 有量 *Gaṇḍ-vy.* 26.: *amu-*
ṣmin ~ *e* 此処 *Aṣṭ-pr.* 521.; *kaṃ-cid eva* ~ *n*
 何処, 数端 *Mvyut.*
 pra-deśa-kārin 形 随 随 持少処, 能学少分 *Abh-vy.*;
 日時行 *Mvyut.*
 pra-deśatas 副 随 随 略 *Saddh-p.*
 pra-deśa-bhāj 形 短期の.
 pra-deśa-mātra 田 随 随 少分 *Saddh-p.*
 pra-deśa-rāja 男 随 随 棄散 (王) *Lal-v.*
 pra-deśavat 形 一所を占める.
 pra-deśa-vartitā 因 僅かの間存在すること.
 pra-deśa-vartin 形 = *pra-deśabhāj*.
 pra-deśa-śāstra 田 実例を含んだ書.
 pra-deśa-stha 形 = *pra-deśabhāj*.
 pra-deśita 使役 過受分 促がされた, さし向けられた
 pra-deśin 形 随 随 有分, 具分 *Abh-vy.*, *Cat-ś.*
 pra-deśinī 因 食指; 第二の足指; 索引.
 pra-deṣṭṛ 男 首席判事; 随 随 断事官, 嘱付 *Mvyut.*
 pra-deha 男 油脂を塗ること; 膏薬, 軟膏.
 pra-doṣa 1. 男 (国の) 混乱状態, 騷擾, 反乱.
 pra-doṣa 2. 形 悪い; 不正な, 罪のある. 男 随 随 悪
 過失 *Śikṣ.*, *Sūtr.*
 pra-doṣa 3. 男 夕方, たそがれ; (人格化された) 夕 (*D-*
ṣa の息子). ~ *m* 副 夕方において, 暗黒の中で.
 pra-doṣa 4. 男 随 随 [< *pra-dveṣa*] 随 随 瞋, 憤, 憤恚
 忿責, 憎想 *Abh-vy.* 408., *Sam-r.* 4., *Vijñ-v.* 10
 pra-doṣaka 男 夕方.
 pra-doṣa-kāla 男 夕刻.
 pra-doṣa-timira 田 夕やみ.
 pra-doṣāgama (°*ṣa-āg*°) 男 夕暮の近づくこと, た
 がれ.
 pra-doṣānila 男 夕風.
 pra-dyumna 男 愛の神; 喜ばしいもの (= *kāma*);
 性 (= *manas*); [*Manu* と *Naḍvalā* との息子等
 の他の人の名]; [王の名]; [山の名]; [河の名].
 pra-dyumnaka 男 愛の神.
 pradyumna-pura 田 [都城の名].

pradyumna-sikhara 田 [高地の名].
 pradyumnāstra 田 愛の神の武器, 矢.
 pra-dyota 男 閃めくこと, 輝き, 光; [ある Yakṣa の名]; [諸王の名]; 燈, 燈明, 光, 明, *Ast-pr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; [王の名] 勝光, 極現 *Lal-v.*, *Mvyut.*; 晉亨 [国の名] 鍛樹 *Lal-v.* → taila ~ drṣṭānta, loka ~.
 pradyota-kara 形 能照耀, 為開曉 *Gaṇḍ-vy.*
 pra-dyotana 男 [王侯の名]. 圃 [王朝の名].
 pra-dyotika 形 → taila ~.
 -pra-dyotin 形 解説する, 説明する (一°).
 pra-drava 形 流動する.
 pra-drāṇaka 形 非常に悩まされた, 非常に貧しい.
 pra-drāvin 形 遁走中の, 逃げる, 逃げ去った.
 pra-Dru pradravati. → Dru.
 pra-druta 過受分 逃れ去った; 速至, 往趣 *Abh-vy.*
 pra-droha 男 怨敵 *Gaṇḍ-vy.*
 pra-dvār 女 戸口または門前の空地.
 pra-dvāra 田 [同上].
 pra-Dviṣ pradveṣṭi, pradviṣṭe. → Dviṣ.
 pra-dveṣa 男 (圃, 因, 一°) の嫌忌, 嫌悪; 敵意, 憎悪.
 pra-dveṣaṇa 田 憎むこと.
 pra-dveṣi 女 [*Dirghatamas* の妻の名].
 pra-dhana 田 戦利品, 捕獲物; 闘技の賞品; 闘技, 戦闘; 財物(中の)最上の物, 貴重品.
 pradhanāghātaka (°na-āgh°) 形 闘技を開始する.
 pradhanāṅgaṇa 田 戦場.
 pra-DHām, → DHmā.
 pra-dharṣa 男 攻撃 (一°); 侵, 勝 *Lal-v.*
 -pra-dharṣaka 形 …の感情を害する, (他人の妻)を凌辱する.
 pra-dharṣaṇa 形 攻撃する, 悩ます. 田 殴打, 毀損, 虐待; 降伏 *Lal-v.*
 pra-dharṣaṇā 女 [同上 田].
 pra-dharṣaṇiṇya 未受分 殴打・虐待または侮辱をこうむり易い.
 pra-dharṣita 過受分 襲われた, 害された, 傷つけられた.
 pra-DHā pradhate. → DHā.
 pra-dhā 女 [正しくは prādhā] [*Dakṣa* の娘の名].
 pra-dhāna 田 (前方に置かれるもの), 重要または主要な事物または人; 本質的な・最上のまたは最も重要な部分, 頭目 [一° = …の首長, 首領]; 渾沌状態における物質界, 物質界の根本原質; 最高のまたは宇宙的な原理; 勝, 勝性, 勝妙, 最勝, 最殊勝, 微妙, 最上, 尊, 尊者; 愛 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*; 性, 自性, 本 *Lank.*, *Sāṃkhy-k.* 男 宰相; [ある Rājarsi の名] 形 (一°) を首長・主要人物または主要な事物とする, 主として (一°) に依拠した; (一°) に捧げられた; 最も優れた, 最上の, 首位の, 主たる, 主要な; (圃) において卓越した; (圃) より更に善い, …より勝れた; 勝, 最勝, 最上, 最極, 無上, 大, 上首 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*

pra-dhānaka 田 物質界がそこから開展する根本原質.
 pradhāna-kāraṇa-vāda 圃 Pradhāna (根本原質) をもって(物質界の)根源であると主張する説, *Sāṃkhya* すなわち転変説.
 pradhāna-ja 形 Pradhāna (根本原質) からまたはとして生じた.
 pra-dhānatama 最上 最も卓越した, 最も重要な.
 pra-dhānatara 比較 更に善い, 更に優れた.
 pra-dhānatas 圃 その優越性の故に, 最も優れているが故に:
 pra-dhānatā 女 優越, 卓越, 上位, 第一位; 勝 *Sūtr.*
 pra-dhānatva 田 [同上]; 勝 *Abh-vy.*
 pradhāna-puruṣa 男 主要人物, 権威者, 首長; [最高精神である *Śiva* 神の称]; 大福德人 *Divy.*
 pradhāna-puruṣāntara 田 自性我異 *Sāṃkhy-k.*
 pradhāna-bhāj 形 (圃) の中で最も卓越したまたは首位にある.
 pradhāna-bhūta 形 主要人物である; 勝依, 勝法 *Abh-vy.*
 pradhāna-mantrin 男 宰相.
 pradhāna-mitra 田 主な友人.
 pradhāna-vādin 男 *Sāṃkhya* 派の徒.
 pradhāna-vāsa 田 最上の衣類, 盛装.
 pradhāna-vinivṛtti 女 自性遠離 *Sāṃkhy-k.*
 pradhāna-sattva 男 最勝有情 *Suvik-pr.*
 pradhāna-sabhika 男 賭博場の頭目.
 pradhāna-sevā 女 主な奉仕.
 pradhāna-hetu 男 勝因, 因尊 *Mvyut.*
 pradhānāṅga 田 (身体の) 主要部分, (国家の) 主要人物.
 pradhānātman (°na-āt°) 圃 最高原理, 宇宙精神, 宇宙我.
 pradhānādhyakṣa 男 監督の長.
 pradhānādhyakṣatā 女 監督長の地位または職.
 pra-dhānin 男 宰相.
 pra-dhānya, → prā-dhānya.
 pra-dhāraṇa 男 田 (?) 持 *Satr.*
 pra-dhāraṇā 女 精神を一点に集中すること; 内持, 定依止 *Madhy-vibh.*
 pradhāraṇā lambana (°nā-āl°) 田 内持所縁, 定依止境界 *Madhy-vibh.*
 pra-dhārya 形 (圃) と思われるべき (*Buddh-c.*).
 pra-DHāv pradhāvati(-te). → DHāv 1, 2.
 pra-dhāvana 1. 男 走る人.
 pra-dhāvana 2. 田 沐浴, 洗い浄め.
 pra-dhāvita 過受分 → DHāv 1. 至, 疾走 *Divy.*
 pra-dhi 男 [DHā] (車輪の) 輪ぶち(または 圃); (月) 輪.
 pra-dhura 田 棒の尖端.
 pra-DHū pradhūnoti, pradhūnute. → DHū.
 pradhūpaya, → dhūpaya.
 pra-dhūpita 過受分 (香を) 薫ぜられた, 芳香を付された; 熏, 焚 *Bodh-c.*, *Śikṣ.*: gandha ~ 焚香 *Śikṣ.* 340.
 pra-dhūmita 過受分 → dhūmaya.
 pra-DHṛ, → DHṛ.

pra-DHṛṣ pradharṣati, pradhṛṣṇoti. → DHṛṣ.
 pra-dhṛṣṭi 因 克服.
 pra-dhṛṣya 未受分 攻撃されるべき. → a~, su~.
 pra-DHmā pradhmatī. → DHmā.
 pra-dhmāpita 過受分 吹き鳴らされた(螺貝).
 pra-dhyāna 因 熟考, 反省, 沈思.
 pradhyāna-para 形 禪 常極静慮, 常思惟禪定; 収心於内, 投了心悟 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
 pra-DHyai pradhyaṅyati(-te). → DHyai.
 pra-DHvaṃs, → DHvaṃs.
 pra-dhvaṃsa 男 絶滅, 殲滅, 破壊; (病の)消滅; 滅壊, 滅体 *Lank.*
 pra-dhvaṃsana 形 破壊する, 絶滅する. 男 破壊者.
 pradhvaṃsābhāva 男 (絶滅による無), 存在の停止; 已滅無, 壊後無 *Mvyut.*
 pra-dhvaṃsin 形 滅すべき, 一時の; (一°)を破壊する; 滅 *Lank.*
 pra-DHvaṇ pradhvanati. → DHvan 2.
 pra-dhvasta 過受分 → DHvaṃs. 滅 *Lank.*
 pra-naṣṭa 過受分 → Naś 1. 失, 喪, 退墮, 壊, 変壊; 遠離 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Sūtr.*, → mārga~.
 pranaṣṭa-svāmika 形 所有主を失った(財産).
 pranaṣṭādhigata 過受分 紛失して再び発見された.
 pra-nāsayitṛ 形 消滅, 能去 *Suv-pr.*
 pra-nihita 過受分 願 *Kāśy.*
 pra-niḍa 形 [pra-dina の誤り].
 pra-Nṛt pranṛtyati(-te). → Nṛt.
 pra-nṛtta 過受分 → Nṛt. 因 舞踊.
 pra-nṛttavat 過能分 踊り始めた.
 pra-pakva 形 熟し過ぎた; 化膿した, 炎症を起した [医学].
 pra-pakṣa 男 翼の尖端(また鳥の形に布陣した軍隊についていう). 形 翼の尖端を成した.
 pra-pañca 男 (圓, 一°)の拡大・発展・冗長・増大・分化または複雑化; 現象; (圓)の顕示または形態; 現象界(圓); 心にもなく寝め合うこと(移植); 馬鹿げた対話(戯曲); 戯論, 虚偽, 妄想 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍvy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.* → niṣ~. 圓, ~tas 副 詳細に.
 pra-pañcaka 形 (因 -ikā) (一°)を増加する; 敷衍する, 詳細に説明する.
 prapañca-catura 形 異なった形態を装うのに熟達した.
 prapañca-cārin 形 戯論行 *Śikṣ.*
 pra-pañcana 因 詳細なまたは冗漫な話.
 pra-pañcanā 因 戯論 *Suvik-pr.*
 prapañca-nirmāṇa 因 現象界の創造.
 prapañca-buddhi 形 ずるい, 悪賢い. 男 [人名].
 prapañcaya 名動 詳細に記述または説明する; 誤った形で表現する; 楽の音(圓)を長くのばす; 説, 戯論 *Madhy-v.*, *Mañj-m.*, *Sapt-pr.*
 prapañca-vacana 因 冗漫な議論.
 pra-pañcita 過受分 拡大された, 拡張された; 詳細に取り扱われた; 誤った形で表現された; 戯論, 所戯論 *Saddh-p.*, *Suvik-pr.*

prapañcopaśama (°ca-up°) 男 (世界)展開の終熄; (善)滅諸戲論, 滅(一切)戲論 *Madhy-v.*
 pra-paṇa 男 商売, 現物交易, 購買.
 pra-Pat prapatati → Pat 1.
 pra-patana 因 (從, 一°)から飛び去ること; (因, 一°)の中へ落下すること; 墮 *Lank.*
 pra-patita 過受分 飛び去った, 飛んで行った; 落ちた, 下った; (業)の中へ落ち込んだ; 墮, 墮落, 墮墜, 顛墮; 入 *Abh-vy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*; 打 *Mvyut.*; 躄 *Raṣṭr.*; 放身卧, 委身而卧 *Suv-pr.*; vyāghryā abhimukhaṃ ~h 於餓虎前委身而卧, 放身卧餓虎前 *Suv-pr.* 192.
 pra-patti 因 敬虔; 忍従または献身; 隨順修行 *Suvik-pr.*
 pra-patha 男 前途, 旅行; 路, 大道.
 pra-pathin 形 彷徨する.
 pra-Pad prapadyate. → Pad.
 pra-pad 因 路; 足の前部.
 pra-pada 因 足の前部または先端.
 pra-padana 因 入ること, (一°)に入ること.
 pra-padam 副 [詩節を同数の音節に区切って各切りに prapadye なる語を含む定型句を挿入するよう方法で誦唱して] (*Br.*).
 pra-padais 男 副 足の指先の上に.
 pra-panna 過受分 [pad] 達した, 到った, 来た [*śaraṇam* ~ 庇護下に来た]; [*pāda* とともに] …の下に跪いた]; 近づいた, 出現した; 得た, 獲得した; (圓)を支給された. → Pad. 入, 没, 墮, 墮在; 遭 *Daś-bh.*, *Divy.*
 prapanna-pāla 男 歎願者を守護する者 (*Kṛṣṇa* 神).
 pra-palāya (pra-palā-I) prapalāyate, prapalāyamaṇa (現分). → I.
 pra-palāyana 因 遁走すること, 逃亡.
 pra-palāyita 過受分 逃亡した; 潰走した, 敗れた.
 pra-palāyin 形 逃れ去る, 逃れた.
 pra-Paś prapaśyati. → Paś.
 pra-Pā prapibati. → Pā 1.
 pra-pā 因 水槽, 貯水池, 井; (旅人のための)水をつく小屋, (池等に注ぐ)流れ; 泉 *Buddh-c.*
 pra-pāka 男 (潰瘍等の)化膿; 消化; 成, 熟 *Sūtr.*
 prapā-gṛha 因 宿屋.
 pra-pācana 因 成, 成熟 *Sūtr.*
 pra-pācanā 因 勝成熟 *Sūtr.*
 pra-pāṭikā 因 芽 *Mvyut.*; 火小星 *Abh-vy.* → ayas~.
 pra-pāṭha 男 課(書物における細区分).
 pra-pāṭhaka 男 [同上].
 pra-pāṇi 男 前膊, 二の腕.
 pra-pāṇika 男 [同上].
 pra-pāṇḍu 形 非常に白い.
 pra-pāṇḍura 形 [同上].
 pra-pāta 男 飛び方(の一種); 前方に跳ぶこと; 急去ること; (從, 一°)からまたは (因, 一°)の中に入る; (髪)の脱落; (精液)の射出; (…の上に線)を投げる; 急な下り坂, 断崖; 墮, 墮落 *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Raṣṭr.*, *Sik*

坑, 坑, 深坑, 深坑, 大坑; 谷 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*; 堆阜, 丘, 山陵; 巖; 崖 *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*; 險, 險道, 險難, 險処, 險悪処, 大嶮難, 嶮峻 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*, 梵千. → *aśani* ~. ~m 網 落ちて.

pra-pātana 田 伐り倒すこと, 投下すること; (眼を) (一) に向けることまたは止めること. 形 墮 令 墮, 墮入 *Lal-v.*

prapāta-pātana 田 墮 墮 墮 *Bodh-bh.*

prapāta-patha 男 險道 *Gaṇḍ-vy.*

prapāta-samjñin 形 坑之想, 臨深想, 如登嶮 險 *Kāśy.*

prapātābhimukha 形 (因-i) 断崖から墜落しようとする.

pra-pātita 使役 過受分 摧壊 *Lal-v.*

pra-pāna 田 飲むこと, すゝること.

prapā-pālikā 因 水槽・井または水小屋の女番人.

prapā-pāli 因 [同上].

prapā-maṇḍapa 男 (旅人のための)水小屋.

pra-pālaka 男 保護者, 守護者.

pra-pālana 田 守護, 保護.

pra-pitāmaha 男 (父方の)曾祖父; [*Brahman* 神および *Kṛṣṇa* 神の称]; 曾祖 *Mvyut.*; 曾祖父たち, 祖先.

pra-pitāmahi 因 (父方の)曾祖母; 曾祖母 *Mvyut.*

pra-pitṛvya 男 父方の大おじ.

pra-pitva 田 (因) [食事前] 朝; 前進, 突進; 優越; 暗黒(?).

pra-pitsu 1. 希求 形 [Pat] (因) に身を躍らそうまた墜落しようとする.

pra-pitsu 2. 希求 形 [Pad] (因) に飛び込みたいと思う, (路に 因) 踏み入ろうと欲した.

pra-Pinv *prapinvati(-te)*. → *Pinv.*

pra-Piṣ *prapinaṣṭi*. → *Piṣ.*

pra-Piḍ *prapiḍayati*. → *Piḍ.*

pra-piḍana 田 圧迫すること, 圧搾すること; (腫瘍を)絞り出す方法; 按摩 *Bodh-bh.*; 逼悩, 苦悩 *Daś-bh.*

pra-piḍita 過受分 圧せられた, 悩まされた, 苦しめられた; 所逼, 逼迫, 所逼迫, 逼切, 困 *Gaṇḍ-vy.*, *Śikṣ.*

pra-purāṇa 形 長く保存された, 古い.

pra-Puṣ *prapuṣyati*, *prapuṣṇāti*. → *Puṣ.*

pra-puṣpita 過受分 花に覆われた, 花の咲いた.

pra-Pūj *prapūjayati*. → *Pūj.*

pra-pūjita 過受分 尊敬された.

pra-pūraka 形 (因-ikā) 果たす, 満足させる.

pra-pūraṇa 形 (因-i)(油を)満たし(愛情を)増す; 能満, 円満 *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-vibh.* 田 (因, 一) の中に挿入すること; (弓を)引き絞ること; (*Indra* 神の旗の) 裝飾.

pra-pūri 因 満 *Sūtr.*

pra-pūrīta 過受分 満たされた; 完成された; 円満 *Guhy-s.*

pra-pūrṇa 過受分 → *Pr* 1. 満 *Daś-bh.*, *Sūtr.*

pra-pūrya, [*Pr* 1. 受 罽] 全く満たされるまたは満足させられる; ふち(縁)まで満たされる.

pra-Pr *prapṛnāti*. → *Pr* 1.

prapothaya 名動 他 *prapothayati* 打つ, 押す.

pra-pautra 男 曾孫(男).

pra-pautri 女 曾孫(女).

pra-Pruth *prapṛthati*. → *Pruth.*

pra-plāvana 田 水で火を消すこと.

pra-pharvi 因 みだらな娘.

pra-phulla 過受分 満開の, 花の咲いた; 花で覆われた(湖水); (満開の花のように)見開いた(目). → *udgata* ~.

pra-phullana 形 開敷(革) *Gaṇḍ-vy.*

praphulla-nagavat 形 花の咲いた樹の多い.

pra-phullita 過受分 開敷, 発 *Lal-v.*

pra-baddha 過受分 → *Bandh.*

pra-banddhṛ 男 作者, 著者; 註釈者.

pra-Bandh *prabadhnāti*. → *Bandh.*

pra-bandha 男 ひも, 鞆帯; 中断のない連結, 間断のない系列; 文学(的)作品, 詩作; 註釈; 続, 相続; 流, 流注 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*

pra-bandhana 田 縛ること, 紐帯; 結合; 相続, 相続; 流注 *Lank.*

prabandha-nirodha 男 相続滅, 流注滅 *Lank.*

prabandha-sthiti 因 相続住, 流注住 *Lank.*

prabandhārtha 男 一書の主題.

prabandhotpāda (°*dha-ut*°) 男 相続生, 流注生 *Lank.*

prabandhoparama (°*dha-up*°) 男 間断 *Mvyut.*

pra-Barh, → *Barh* 1.

pra-barha 形 (因 一) の中で最も善い, …の中で最も卓越した.

pra-bala 形 強い, 力強い, 力のある; 重い, 重要な; 激しい(苦痛等); 大いなる; (一)に富んだ; 大力, 強剛, 威勢 *Divy.*, *Lal-v.* 男 [*Kṛṣṇa* の息子の名]; [ある *Daiṭya* の名]; [*Viṣṇu* 神の侍者の名]. ~m 副 強く, 非常に.

pra-balatā 因 力.

pra-balatva 田 [同上]; 力 *Sūtr.*

prabala-paṅka 男 田 泥の奔流.

prabalaya 名動 他 *prabalayati* 強める.

prabala-rudita 田 強い号泣, 激しい慟哭.

pra-balavat 形 強い, 力の強い.

prabala-virasā 因 衰微 (*Divy.*).

prabali-BHū, 他 *prabali-bhavati* 力が強くなる.

pra-bāḍa-sāgara 男 [= *pravāḍa*°] [仏の名] 珊瑚海 *Lal-v.*

pra-Bādh *prabādhate(-ti)*. → *Bādh.*

-pra-bādhaka 形 …を撃退する, 防御する.

pra-bādhana 田 撃退, 防御; 悩ますこと, 苦しめること.

pra-bādhana 因 苦しめること, 苛責 (*Jat-m.*).

-pra-bādhin 形 …を悩ます, 苦しめる.

pra-bāla 1. → *pra-vāla*.

prabāla 2. 男 甲 [=pravāḍa] 珊瑚 Lal-v.
 pra-bālaka 男 [ある Yakṣa の名].
 prabāla-puṣpa 甲 寶花 Divy.
 pra-bāhu 男 前腕; [人名].
 pra-bāhuk 副 同列に, 相並んで.
 pra-buddha 過受分 目覚めた, 全く目覚めた; 覚まされた. → Budh. 覺, 真覺, 能普覺知, 了知 Gaṇḍ-vy., Sūtr., Vijñ-v. → a~. 男 [ある教師の名].
 prabuddha-tattva 甲 覺真 Sūtr.
 pra-buddhatā 女 賢明, 英知, 悟り.
 pra-Budh prabudhyate. → Budh.
 pra-budh 形 注意深い, 用心深い. 女 覺醒.
 pra-budha 男 大賢.
 pra-bodha 男 覺醒; 蘇生, 意識の回復; 意識; (花の) 目覚め=開花; (知能の) 顕示, 顕現; 醒めたこと, 眠らないこと; 知識, 理解, 知能; 目覚めさせること; 発散した香がよみがえること; 忠告; 覺, 覺寤, 能開 Abh-vy., Gaṇḍ-vy.
 pra-bodhaka 形 覚ます=開かせる, 花咲かせる, 一° 形 (女 -ikā) =prabodha 知識, 理解.
 prabodha-candra 男 知識の月.
 prabodhacandrodaya (°ra-ud°) 男 「意識に目覚めた月の出」, 「Kṛṣṇa Mīśra 作の哲学的寓話劇の題名」.
 pra-bodhana 形 覚ます, 起こす. 甲 覚めること, 理解, 会得; 教えること, 悟らせること; 覚ますこと. 男 覺 [仏の名] 正覺 Av-s.
 pra-bodhita 使役 過受分 起こされた, 覚まされた.
 pra-bodhitavat 過能分 覚めた.
 pra-bodhitā 女 覚めたこと. → a~.
 pra-bodhin 形 覚める, 覚めた.
 prabodhodaya (°dha-ud°) 男 知識の顕現; [ある著作の題名].
 pra-bodhya 1. 使役 不変分 教えて, 説明して, 示唆して, 注意を喚起して.
 pra-bodhya 2. 采受分 覚まされるべき.
 pra-Brū prabraviti, prabrūte. → Brū.
 -pra-bha 形 → pra-bhā. 男 光, 常光, 所放光明 Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v. → avabhāsa~.
 pra-bhagna 過受分 破碎された, 敗られた.
 prabhāṃ-kara 男 放光者, 作光明, 能作大光, 照耀; 燃灯, 然灯, 勝灯; 日 Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Samr., Śikṣ., Sukh-vy. I. → niḥ~.
 pra-bhaṅga 男 破碎者, 粉碎者; 粉碎, 破壊.
 pra-bhaṅgin 形 破る, 粉碎する, 破壊する.
 pra-bhaṅgunatā 女 =°guratā 壊滅, 死滅すべきこと (Mah-v, III. 338).
 pra-bhaṅgura 形 速滅, 極壊 Mvyut., Suvik-pr.
 pra-bhajyamāna 現分 破碎されつつある.
 pra-BHañj prabhanakti. → BHañj.
 pra-bhañjana 形 =pra-bhaṅgin. 男 暴風雨, 荒天, 暴風; 風; 風神; [ある Samādhi] (Kār-vy.). 甲 破ること.
 pra-bhadra 形 非常に美しい. 甲 [韻律の一種];

[一文章を成す4の Śloka の結合].
 pra-bhartavya 采受分 養われるべき, 維持されるべき.
 pra-bhartṛ 男 (國) をもたらす者, 獲得者 (RV.).
 pra-bharman 甲 前に置くこと, 呈すこと; (讃歌の) 唱誦.
 pra-bhava 形 卓越した; (因 -ā, 一°) …から起ったまたは生じた, …をもって始まる, …の中にまたはの上にある; 生, 所生, 從所起, 成 Bodh-bh., Daś-bh., Lanḅ.: jñāna~ 從智所起 Bodh-bh. 35. 男 起源, 根源, 存在の原因, 出生所; 生, 所生, 極出生, 力 Abh-vy., Daś-bh., Lanḅ., Mvyut.
 pra-bhavat 現分 (因 -anti) 現われる, 起こる; 力強い, 有力な.
 pra-bhavatā 女 (因) 生性 Bodh-bh.
 pra-bhavitr 男 力強い者, 偉大な主君.
 pra-bhaviṣṇu 形 力強い, 卓越した; 生ずる, 創造する. 男 (國, 因, 一°) の権力者, 主人, 支配者; [Viṣṇu 神の称].
 pra-bhaviṣṇutā 女 支配者たること, 主権; (不定) する能力; 暴政.
 pra-BHas, → BHas.
 pra-BHā prabhāti. → BHā.
 pra-bhā 女 (輝き出ること), 壯麗, 光輝, 光, 燦爛; [しばしば 一° 形 -a] …のように輝かしい; 光, 光明, 光照, 放光, 熒, 焰明, 炎明 Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lanḅ., Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr.
 prabhā-kara 男 太陽; [第8 Manu の治下における神神の一階級の名]; [ある Nāga の名]; [Atri 族の賢人の名]; [Jyotiṣmat の息子の名]; [その他の諸人の名]; 覺光 [仏の名] 発光 Sukh-vy. I.; [Samādhi の名] 発光, 発光明 Mvyut.; 圖 太陽と月. 形 (女 -i) 照, 能照, 照明, 明, 発光 Lal-v., Mvyut., Saddh-p.
 prabhākara-deva 男 [諸人の名].
 prabhākara-varadhana 男 [王侯の名].
 prabhākara-varman 男 [ある大臣の名].
 prabhākara-siddhi 男 覺光 [古師の名] 光成 Mvyut.
 prabhākara-svāmin 男 [ある Viṣṇu 神の殿堂の名].
 prabhā-karin 形 發光明 Lal-v., 明 Sūtr.
 prabhā-karī 女 發光(地) Bodh-bh., Dharm-s.
 pra-bhāga 男 区分.
 pra-bhāta 過受分 [BHā] 輝き出た, 明るくなり始めた; 過夜已 Suv-pr.: rātri ~ ā 'bhūt 至天明已, 過(是)夜已 Suv-pr. 180. 甲 夜明け, 曉天; 曉, 天明 Divy., Lal-v.
 prabhāta-karaṇiya 甲 朝の祭式または儀式.
 prabhāta-kalpa 形 ほとんど明るくなった, 夜明けに近い(夜).
 prabhāta-kāla 男 夜明けの時, 早朝; 晨朝 Mañj-m.
 prabhāta-prāya 形 =prabhāta-kalpa.
 prabhā-tarala 形 震動して輝く, 閃く.
 prabhāta-samaya 男 =prabhāta-kāla.
 pra-bhātā 女 明旦 Divy. → a~.

pra-bhānu 男 [Kṛṣṇa の息子の名].
 prabhā-pallavita 過受分 絢爛たる(宝石).
 prabhā-praroha 男 光の閃めき, 光線.
 prabhā-maṇḍala 男 光の輪または円; 円光, 円満光, 光明円満 Gaṇḍ-vy. 男 [ある Samādhi の名] (Kār-vy.).
 prabhā-maṇḍalaka 男 [同上].
 prabhāmaṇḍala-vyūha 男 円光照耀, 円満光明, 莊嚴 Gaṇḍ-vy.
 pra-bhāmaya 男 (因-i) 光からなる, 輝く.
 -prabhā-rūpa 男 形 Gaṇḍ-vy.: parvata-devatā ~ eṇa 作山神(地神)形 Gaṇḍ-vy. 226.
 prabhā-lepin 男 輝く, 光り輝く.
 pra-bhāva 男 力; 威嚴; 品位; 超自然力; 効能; (因)を支配する権力; 壯麗, 華美; 威, 威勢, 威徳, 力, 威力, 威神力, 威神之力, 威神自在力, 威光, 神変威力, 神力, 勢力, 自在力, 功力, 功能, 勢用; 通, 神通; 妙, 殊妙, 真妙, 妙莊嚴; 光明 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Lan̄k., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr. 男, 因, ~tas 男 ... の方法で, ...の故に, ...に依って.
 pra-bhāvaka 男 卓越した, (因, 一°)において卓越した.
 pra-bhāvat 男 光輝のある, 華麗な.
 pra-bhāvatā 女 能生, 出生 Aṣṭ-pr.: samyak-sambuddhānām ~ bhavati 能生諸仏, 出生諸仏 Aṣṭ-pr. 564.
 pra-bhāvati 女 [韻律の一種]; [ある Śruti の名]; [太陽神の妃の名]; [Skanda に仕えるある Mātṛ の名]; [ある天女の名]; [諸人の名]; [河の名]; [女神の名] 有光 Lal-v.
 pra-bhāvana 男 (因-i) 創造する, 創造的な; 説明する; 繁栄を授ける; 出生, 顕発 Gaṇḍ-vy. 男 思惟, 観想, 修 Guhy-s., Mvyut., Sukh-vy. I.; 威力 Gaṇḍ-vy. 男 創造主.
 pra-bhāvanā 女 (教義の)宣伝; 説, 宣, 顕放, 開, 開示 Daś-bh., Mvyut.
 pra-bhāvani 女 楽 Śikṣ.
 prabhāvaya 名動 他 prabhāvayati 有力となる, (因)を統治する.
 pra-bhāvayitr 男 (因)を勢力または品位あらしめる.
 pra-bhāvavat 男 力のある, 力の強い.
 pra-bhāvita 使役 過受分 [同上]. → BHū. 所顕, 所顕示, 所顕了, 所顕現, 顕示, 顕了; 説; 教授; 標; 了達; 普照; 所作; 極放, 極開; 慶大增勝 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Madhy-vibh., Mvyut., Śikṣ., Suvik-pr., Vajr-pr.; 果 Aṣṭ-pr. 出, 從此生, 從此起 Gaṇḍ-vy.: saṃsārarātra ~ 出生死夜 Gaṇḍ-vy. 447.
 pra-bhāvitatva 男 示現, 所顕, 勝 Abh-vy., Sūtr.
 pra-bhāvin 男 = pra-bhāvita.
 prabhā-vyūha 男 [天の名] 光嚴 Lal-v.
 pra-BHāṣ prabhāṣate(-ti). → BHāṣ.
 pra-bhāṣa 男 宣言; 教義.
 pra-bhāṣaṇa 男 説明.

pra-bhāṣita 過受分 話された, 述べられた. → BHāṣ. 所説, 名 Lan̄k. → buddha ~. 談話.
 pra-bhāṣin 男 語る, 話す.
 pra-BHāṣ prabhāṣate(-ti). → BHāṣ.
 pra-bhāsa 男 (光輝), [ある Vasu の名]; [Candra-prabha の大臣の息子の名]; 光, 光明, 明, 明照, 普照, 照明, 光巍巍 Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Mvyut., Rāṣṭr., Sūtr., Suv-pr., 梵千. → udaka ~. 男 男 [Deccan の西海岸にある聖地の名].
 pra-bhāsana 男 輝かすこと, 照らすこと.
 pra-bhāsura 男 強く輝く.
 pra-bhāsvat 男 輝く.
 pra-bhās-vara 男 [同上]; 光明, 光彩, 光麗, 光浄, 光浄極; 最上光, 明白, 明浄, 明曜, 明朗, 明亮, 明顕, 顕耀; 浄, 清浄 Aṣṭ-pr., Daś-bh., Lal-v., Lan̄k., Madhy-vibh., Mvyut., Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr., Suvik-pr. → prakṛti ~.
 pra-bhās-varatara 男 明了, 明浄, 光麗 Daś-bh.
 pra-bhās-varatā 女 明浄, 明潔 Gaṇḍ-vy.
 pra-bhās-varā 女 [ある神秘的植物の名] (Divy.).
 pra-BHid prabhinatti. → BHid.
 pra-bhinna 過受分 → BHid. 分別, 分析 Śikṣ. 男 発情した象.
 prabhinna-karaṭa 男 こめかみ(鬚鬚)の割れ裂けた(すなわち液を分泌する交尾期の象). → pra-bhinna (BHid).
 prabhinnakarata-mukha 男 こめかみ(鬚鬚)の割れ目から分泌液を流す(象).
 prabhinnāñjana 男 眼薬(の一種, 油を混ぜたもの).
 pra-BHi, → BHi.
 pra-bhīta 過受分 → BHi.
 pra-bhu 男 [因 また -ū] (因 -bhvi) 優れた; 力の強い; (因)より力の強い, (因)を支配する; ...に匹敵した; (不定, 動詞的 因の 因, 一°) ...の能力ある, ...し得る; 豊富な; 主, 主宰; 自在; 尊, 殊勝 Bobh-bh., Guhy-s., Mvyut. 男 主人, 支配者, 王; 夫; [Brahman 神, Śiva 神, Indra 神および Prajāpati 神の称]; [第8 Manu の治下における神の一階級の名]; [諸人の名]; [Śakti の名]; 師, 尊貴位 Bodh-bh., Guhy-s. ~r bhūtvā 居尊貴位, 有自在力 Bodh-bh. 195.
 prabhu-kṛta 男 主によってなされた, 主人から授けられた.
 pra-bhutā 女 支配者たること, 主権, 統治権, 最高権; 力, (因)に対する力; 優勢 [因 = 大部分は]; (一°)を所有すること.
 pra-bhutva 男 支配者たること, 統治権, 主権; 高位, 首領たること; 力, (因, 因, 一°)に対する力; 優勢 [因 = 大部分は]; 主, 自在 Abh-vy., Divy.
 prabhutva-bodhi 女 最高の力と結合した認識 (Kār-vy.).
 prabhutvākṣepa (°va-āk°) 男 [愛人の行動を肯定するかのごとく装いつつ, 威力ある言葉でそれを阻止する暗示法](隱語).

prabhu-dravya-balin 形 豊財 Śikṣ.
 prabhu-bhakta 過受分 主人に献身した。
 prabhu-vimita 甲 Prabhu の宮殿。
 prabhu-śabda-śeṣa 形 主の称号(のみ)が残った。
 pra-BHū prabhavati(-te). → BHū.
 pra-bhū 形 → pra-bhu. 多 Sam-r.
 prabhū-cita 形 多饒 Sam-r.
 pra-bhūta 過受分 多い, 豊富な. → BHū. 多, 多饒, 豊饒, 衆, 衆多, 極多; 最大; 無量, 広; 充溢, 盈溢, 盈溢無所之 Bodh-bh., Divy., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., Śuv-pr., 梵千. 甲 [Sāmkhya 哲学において = mahā~]; 大 Sāmkhy-k.
 prabhūta-koṣa 形 庫蔵充溢 Śikṣ.
 prabhūta-jihva 形 広長舌 Lal-v.
 prabhūta-jihvatā 因 舌相長広, 広長舌相, 舌相広薄(何以覆面至髮際)相 Dharm-s., Gaṇḍ-vy.
 prabhūta-tanu-jihva 形 [三十二相の一] 舌広薄, 其舌広薄, 舌軟薄; 広長舌, 広長舌相 Bodh-bh., Lal-v., Mvyut.: ~ḥ prabhūtatvāj jihvāyāḥ mukhāj jihvām nirṇāmya sarvaṃ mukha-maṇḍalam avacchādayati keśa-paryantam 其舌広薄若從口出 普覆面輪及髮邊際 Bodh-bh., 376.
 prabhūta-tanu-jihvatā 因 [三十二相の一] 其舌広薄, 広長舌相 Bodh-bh.
 pra-bhūtatama, [pra-bhūta の 最上].
 pra-bhūtatara, [pra-bhūta の 比較]. 増勝, 多 Bodh-bh.
 pra-bhūtatāraka 形 多衆 Bodh-bh.
 pra-bhūtatā 因 量, 多量, 多数.
 pra-bhūtatva 甲 [同上].
 prabhūta-dhana 形 大財 Mvyut.
 prabhūta-dhana-dhānyavat 形 金銭と穀物とに富んだ。
 prabhūta-nāgāśva-ratha 形 多くの象と馬と戦車とをもつ。
 prabhūta-bhrānta 甲 いつもさまよい歩くこと。
 prabhūta-yavasendhana (°sa-in°) 形 牧草と薪とに富んだ。
 prabhūta-ratna 男 [仏の名] 多宝, 衆宝 Saddh-p.
 prabhūta-vayas 形 高齢の, 老年の。
 prabhūta-varṣa 甲 多年。
 prabhūtaśas 副 しばしば。
 pra-bhūtā 因 具足, 弁具足, 自在 Gaṇḍ-vy.
 pra-bhūti 因 (因) 本源; 暴力; 充足。
 prabhūtodrikta (°ta-ud°) 過受分 衆多 Bodh-bh.
 pra-BHṛ prabharati(-te). → BHṛ.
 pra-bhṛta 過受分 → BHṛ.
 pra-bhṛti 因 (讚歌または供物を)捧げること; 投擲, 一打, 打撃; 始め. 形 (一°) を始めとする, …に始まる, …およびその他の, …等の [± 因 因]; 等, 類, 為初 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Lanḥ., Madhy-v. 副 [一° または ~tas の形の 副 または 時を表わす 副 に続いて] …からこの方; 以上

Abh-vy.: dṛitīyāt ~yāvad bhavāgram 第二(静慮)以上(諸地)乃至有頂 Abh-vy. 64. janma~ 生れて以来. tataḥ または tadā~ その時から以後, 爾来; [tataḥ~] 從此之後 Divy. yataḥ~ 自從是来 Saddh-p. adya~ 今または今日から [不変語 eva は原則として prabhṛti に続き, prabhṛti の前の 副 のすぐ後には用いられない].
 pra-bhṛtika 形 一° = prabhṛti; …を始めとする, …等の。
 pra-bhṛtha 男 供物; 捧げ物。
 pra-bheda 男 断ち割ること, 貫通すること, 区分; 交尾期に象のこめかみ(顛鬚)が割れ裂けること; 分離, 差別, 差異; 種, 類; 差別, 分別, 品類, 品類差別, 差別(相), 分破 Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lanḥ., Madhy-vibh., Mvyut., Śikṣ., Sūtr., Vijñ-v.; 解, 解釈 Daś-bh.; [夢の名] 万 Mvyut., 梵千。
 prabheda-gati-lakṣaṇa 甲 差別之相, 差別行相, 分別相 Lanḥ.
 prabheda-jñāna 甲 差別智 Sam-r.
 prabheda-tattva 甲 差別真実, 分破真実 Madhy-vibh.
 pra-bhedana 形 (一°) を割り裂く, 貫通する; 差別, 分別 Gaṇḍ-vy., Lal-v., Sūtr.
 prabheda-lakṣaṇa 甲 差別相 Madhy-vibh.
 pra-bhedaśas 副 分別, (若) 広分別, 差別 Bodh-bh., Daś-bh.
 pra-BHramś prabhramśyate. → BHramś.
 pra-bhramśin 形 落下する。
 pra-BHram prabhramati, prabhramayati (使役). → BHram.
 pra-bhraṣṭa 過受分 → BHramś. 墮, 墮失, 撒 Mvyut.
 prabhraṣṭa-śīla 形 墮落した, 不道德な(人).
 pra-bhrāj 形 [困 -t] 燃え上る。
 pra-bhvi 因 [Śakti の一種].
 pra-mamhiṣṭhiya 甲 [RV. I. 57 の称, pra mamhiṣṭhiya という語で始まるのでその名を得た].
 pra-maṇḍala 甲 (恐らく) 車輪の輪ぶち, 輞。
 pra-mati 男 [第 10 Manvantara のある Ṛṣi の名] [諸人の名]. 因 世話, 保護; 供給者, 保護者。
 pra-matta 過受分 → Mad 1. 放逸, (説自) 放逸, 放逸者; 昏醉, 迷醉, 酒醉; 迷悶; 雜乱; 耽溺 (無厭), 耽著欲樂 Bodh-bh., Bodh-c., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Śikṣ., Sūtr. → a~.
 pra-mattavat 過能分 無頓着な, 不注意な. 不変 形で酔ったように, 酩酊したもののよう。
 pramatta-saciva 形 不注意な大臣をもつ。
 pra-Math pramathati, pramathnāti. → Math.
 pra-matha 男 [(悩ますもの), Śiva 神に随伴する妖の一種].
 pra-mathana 形 (因 -i) 苦しめる, 悩ます; 破壊する, 除去する. 男 [ある Dānava の名]; [武器にして唱えられる呪文の名]. 甲 破壊, 傷害; 摧伏, 極摧壞 Lal-v., Mvyut.
 pramatha-nātha 男 [Śiva 神の称].

pramathâdhipa 男 [同上].

pra-mathita 過受分 → Math.

pra-mathin 形 苦しめる, 責めさいなむ, 悩ます;
 摧能摧, 降伏 *Raṣṭr.*, *Śikṣ.*

pra-mathya 不変分 暴力をもって, 強いて.

pra-Mad pramadati, pramandati, pramādyati(-te).
 → Mad 1.

pra-mada 男 喜悦, 喜び, 歓喜; [ある Dānava の
 名]; [*Vasiṣṭha*の息子の名]. 形 酔った, 粗暴な,
 奔放な, 狂気の.

pra-madana 田 愛の喜び, 娯楽の場所, 運動場.

pramada-ropya 田 [*Deccan* 地方の都市の名].

pramada-vana 田 (王侯の)娯楽の森, 後宮に付属する
 内庭または遊園.

pra-madā 女 美しい・あでやかなまたは生々とした女;
 婦女; 妓女 *Raṣṭr.*

pramadā-jana 男 女人, 女性, 婦人.

pramadāya 名動 他 pramadāyati 放縦な女のように
 振舞う.

pramadā-vana 田 (後宮の)婦人の遊園, =pramada-
 vana.

pramadāspada (°dā-ās°) 田 後宮, 婦人の部屋.

pra-maditavya 未受分 非入 (因) に関して意を留め
 てはならない.

pra-madvara 形 愚かな. 男 患者.

pra-madvarā 女 [*Ruru*の妻の名].

pra-manas 形 注意深い; 優しい; 満足した, 嬉しい;
 心から進んでする.

pra-mantha 男 [その回転によって木板から火を鑽
 (き)り出す棒].

pra-manthu 男 [*Manthu*の弟の名].

pra-manyu 形 (因) に対して憤ったまたは激怒した;
 非常に悲しい.

pra-maya 男 滅亡, 死.

pra-mara 男 死.

pra-marāṇa 田 死すること, 死.

pra-mardaka 形 粉碎する, 破壊する; 能伏, 能
 破, 能制, 滅, 摧滅, 摧伏 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-
 v. para-sainya* ~ 能伏怨敵 *Gaṇḍ-vy.* 269.

pra-mardana 形 (因 一°) を粉碎する, 破壊する,
 絶滅させる; 摧, 能摧, 摧伏; 降伏; 滅, 能滅,
 散滅 *Gaṇḍ-vy.* *sarva-māra-kali* ~ 降伏一切衆魔,
 能滅一切諸魔軍衆, 散滅一切諸魔軍衆 *Gaṇḍ-vy.*,
 66. 男 [*Viṣṇu* 神の称]; [ある妖精の名]; [ある *Vi-
 dyādhara* の名].

pra-mardita 使役 過受分 → Mrd.

pra-marditṛ 男 粉碎者, 破壊者.

-pra-mardin 形 粉碎する, 破壊する; 摧壊
Mvyut. → *Vajra* ~.

pra-mahas 形 大威力のある.

pra-Mā pramimite. → Mā 1.

pra-mā 因 基本, 土台 (因); 量, 尺度 (因); 真の概
 念, 正しい観念.

pra-māṇa 田 量, 尺度, 標準; 広さ, 大きさ; 長さ,
 距離; 重さ; 容量; 継続期間; とくに(作詩上の母音
 の)長さ; 体力の限度; 元金(利子の 因); 正しい量,

規準, 権威; 行動の法則; 正しい認識の手段, 証拠,
 真実の概念, 正しい観念; 量, 広量, 定量,
 限量, 称量, 形量, 分量, 量数, 限; 規, 分齊, 判;
 理; 因明 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Di-
 vy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Nyāy-
 pr.*, *Prāt-m.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sāṃkhy-k.*, *Sapt-pr.*,
Sūtr., *Vajr-pr.*, 梵雜; [一° 形] 大如 *Mvyut.*:
kuṭi ~ 房量 *Prāt-m.* 480.; *sugata-civara* ~ 仏
 衣量 *Prāt-m.* 524.; *na* ~ *baddhaḥ bhaviṣyati* 不
 可計数, 数(甚多)不可称計 *Aṣṭ-pr.* 746.; *puḍgale*
vā mā ~ *m udgṛhṇātu* 於人亦莫持量 *Mvyut.*;
trīṇi ~ *āni* 三量 [1. *pratyakṣam* 現量, 2. *anumā-
 nam* 比量, 3. *āgamaḥ* 聖教] *Mvyut.* *bhavati* また
 は *bhavantaḥ* ~ *m* あなたは権威(規準)であるすなわ
 ち決定はあなたに一任する [この意味においてこの
 語は殆ど 田 に限って用いられるがまれに 田 または 因
 (-i) に用いられる]; [不定 とともに]…の権限を受け
 られた人. ~ *m* *Grah* 称量, 度量, 撥度, 規
 模, 知其限数 *Aṣṭ-pr.* *parataḥ* ~ *m* 他量, 別
 規 *Mvyut.* *svataḥ* ~ *m* 自量, 本規 *Mvyut.*

pra-māṇaka 形 一° = *pramāṇa*, 量等, 認識の手段,
 証拠.

pramāṇa-koṭi 因 証拠の極点=争う余地のない証拠.

pra-māṇatara 田 (因) より偉大な権証. 形 (因) より
 偉大な権証の.

pra-māṇatas 副 量・大きさ・重さ・長さ等に関して.

pra-māṇatā 因 正しいこと, 根拠, 権証たること.

pramāṇa-traya 田 三量 [1. *pratyakṣam*, 2.
anumānam, 3. *āgamaḥ*. → *pramāṇa*] *Madhy-
 vibh.*

pra-māṇatva 田 = *pramāṇatā*.

pramāṇa-dṛṣṭa 形 権証として認められた, 論証でき
 る.

pramāṇa-patha 男 論証の道: ~ *m* *nāva-Tr.* 立証の
 余地がない.

pramāṇa-paddhati 因 [同上].

pramāṇa-puruṣa 男 裁決者, 審判者, 仲裁者.

pramāṇa-bhūta 形 真実称量 *Śikṣ.*

pramāṇaya 名動 他 *pramāṇayati* 調整する; (因)を
 (因)における権証または標準と見なす・認めるまたは定
 める; 証拠として用いる; 立証する, 明示する.

pramāṇa-yukta 形 正しい量をもった.

pra-māṇavat 形 証明された, 根拠の十分な(陳述).

pramāṇa-vākya 田 権証.

pramāṇa-śāstra 田 権威ある聖典, 經典.

pramāṇa-siddhi 男 [人名].

pramāṇa-sūtra 田 測量用の紐.

pramāṇa-stha 形 正常な大きさの; 正常な状態にあ
 る, 泰然たる.

pramāṇādhika 形 通常の量を過ぎた, 過度の; (一°)
 より長い.

pramāṇānurūpa 形 (自己の)体力に適合した.

pramāṇāntaratā 因 別の証拠たること.

pramāṇābhāva 男 (判断すべき)標準のないこと.

pramāṇāthyadhika 形 更に広大な, 更に大きな.

pramāṇāyāmatas (°na-āy°) 副 大きさと長さにと従

って。

pra-māṇika 形 (女-i) 齊等, 有限 *Divy., Sukh-vy. I.: kāya* ~ 身齊等 *Divy. 419.* ~ ṃ *Kṛ* 量作 *Prat-m.*

pra-māṇi-karaṇa 中 権証として引用すること。

pra-māṇi-Kṛ, (業)を(圖)に割り当てる;(人または物)を権証として見なすまたは採用する;(圖)に従って行なうまたはに従う;証拠と認める; 量, 作校量, 為定量 *Sapt-pr., Śikṣ.*

pra-māṇi-kṛta 形 (圖)に割り当てられた;権証として認められた;…に適合した;証拠と見なされた。

pra-mātavya 未受分 殺されるべき。

pra-mātāmaha 男 母方の曾祖父。

pra-mātr 男 正しい観念または判断をもつ人, 権威者; 真正な観念(に至る精神活動)をする人。

pra-mātrtā 女 [同上 圖].

pra-mātrtva 中 [同上].

pra-mātra 男 [数の名] 極量 *Mvyut.*; 音写 波羅摩多羅, 鉢囉摩怛囉 *Mvyut.*

pra-mātva 中 真正な観念または認識たること。

pra-mātha 男 引き抜くこと;暴力で(婦女を)拉し去ること;屈従させること;破壊;[ある *Dānava* の名].

pra-māthin 形 切断する;攪乱する, 煽動する, 悩乱させる, 苦しめる. 男 (一°)を破壊する者; [ある *Rākṣasa* の名]; [*Dhṛtarāṣṭra* の息子の名]; [ある猿の名].

pra-māda 男 酔い;狂気, 誤謬; (一°)に関する不注意・等閑視または怠慢;災厄, 不幸; 放逸, 驕逸 *Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Madhy-vibh., Mvyut., Rāṣṭr., Śikṣ., Sūtr., Vijñ-t.*; 逸 *Abh-k.*; 音写 [数の名] 鉢囉摩陀, 波羅麻達, 勃囉摩那 *Mvyut.*

pra-māda-pada 中 (男) 放逸迹 *Bodh-bh.*

pra-māda-pāṭha 男 誤った読み方。

pra-māda-bahula 形 多放逸 *Bodh-bh.*

pra-māda-sthāna 中 放逸具, 放逸処 *Bodh-bh.*

pra-māda-sthāna-virati 女 離放逸処 *Bodh-bh.*

pra-mādita 過受分 浪費された, 没収された, 失なつた。

pra-mādītā 女 [同下 圖] (*Jat-m.*).

pra-mādin 形 不注意な, 怠慢な, 油断した; 放逸 *Lank.*

pra-mādyā 中 放逸 *Abh-vy.*

pra-māpaka 形 証明する。

pra-māpaṇa 1. 中 [Mā の 使役] 形, 姿。

pra-māpaṇa 2. 形 (女-i) [Mi の 使役] 殺害する。

男 殺人者. 中 殺すこと。

pra-māpayitr 形 破壊に導く。

pra-māpayitṛtva 中 [同上 圖].

pra-māyū 形 破滅し易い。

pra-māyuka 形 [同上].

pra-māra 男 死去。

pra-mārjaka 形 拭い去る, 除去する。

pra-mārjana 中 拭い去ること, 除去; (涙を)拭うこと, 慰めること。 → *aśru* ~.

pra-Mi praminoti, praminute. → *Mi* 1.

pra-mita 過受分 → *Mā* 1.

pramitākṣara 中 僅かの言葉。

pra-miti 女 正しい概念;証明または確証されたこと; 顕示。

pra-Mi pramināti, pramiṇāti, pramiṇoti, pramiyate (圖). → *Mi*.

pra-mita 過受分 → *Mi*.

pramita-patikā 形 女 夫に死なれた。

pra-miti 女 破壊。

pra-Mil pramilati. → *Mil*.

pra-milaka 男 眼を閉じること, 睡気を催すこと。

pra-milā 女 [同上].

pra-milikā 女 [同上].

pra-milita 過受分 → *Mil*.

pra-Miv pramivati. → *Miv*.

pra-mukta 過受分 → *Muc.* 放, 発, 出, 離, 出離, 解脱 *Gaṇḍ-vy., Lank., Mvyut.* → *aśru* ~.

pramukta-kaṇṭham 圖 [pra-Rud とともに] わっと(泣き出す)。

pra-mukti 女 解放。

pra-mukha 形 (業)の方へ面を向けた;最も前の, 最初の, 主要な, 主な, 卓越した; [一般には 一°] (一°)を最前者とした=(一°)に次いだまたは続いた, …等の; 首, 上首, 元首, 将領 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., Sūtr.*; 等, 及 *Divy., Guhy-s., Lal-v., Rāṣṭr.*: *buddha* ~ ṃ *bhikṣu-saṃgham* 如来及諸弟子 *Divy. 43.*; *śakra-devendra* ~ āḥ *kāmāvacarā deva-putrāḥ* 天帝釈将領主 *Aṣṭ-pr. 560.* 中 (一章の)冒頭; 現在時; 図 [圖, 一°]の前に, …に対して, …に面して; 一面前にある, 目前にある。

pra-mukhatas 圖 前方に, 先頭に; 相對して; (圖, 一°)の面前にまたは前に; まず第一に。

pra-mugdha 過受分 → *Muh*.

pra-Muc pramuñcati(-te). → *Muc*.

pra-muca 男 [聖仙の名].

pra-muci 男 [同上].

pra-mucu 男 [同上].

pra-mucya 不変分 (圖)から離脱して。

pra-muñcana 形 放, 普放 *Gaṇḍ-vy.*: *jñāna-raśmi* ~ 普放智光明, 普放慧光明 *Gaṇḍ-vy. 29.*

pra-Mud pramodate. → *Mud*.

pra-mud 女 喜び, 快樂; 愛の喜び。

pra-mudita 過受分 → *Mud.* 喜, 歡喜, 極喜, 極歡喜, 最喜, 生歡喜, 歡樂, (深心)歡悦, 以歡喜心, 適悦, 悦予 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Lank., Mvyut., Suv-pr.*: *tuṣṭā udagrā ātta-manasaḥ* ~ āḥ *priti-saumanasya-jātāḥ* 歡喜踊躍 *Saddh-p. 209.*; ~ *sya priti-jāyate* 最喜中生極喜, 極喜者生喜 *Mvyut.* 中 歡樂, 陽氣。

pramudita-citta 形 心喜, 心生歡喜 *Bodh-bh., Suv-pr.*

pramudita-pralamba-sunayana 男 美目長喜 *Mvyut.*

pra-muditavat 過能分 喜んだ。

pramudita-hṛdaya 形 心のなかで喜んだ。
 pramuditā 女 歡喜(地) Dharm-s., Sūtr.
 pra-Muṣ pramuṣṇāti → Muṣ.
 pra-muṣita 過受分 → Muṣ. 失, 忘失, 迷失 Bodh-bh., Daś-bh.
 pra-muṣṭa 過受分 → Muṣ. 失 Śikṣ.
 pra-Muh pramuhyati. → Muh.
 pra-mūḍha 過受分 → Muh.
 pramūḍha-saṃjñā 形 当惑した, 迷った。
 pra-Mṛ, → Mṛ 1, 2.
 pra-mṛgya 未受分 訪ねられるべき=とくに(爲)に適合した。
 pra-Mṛj pramārṣti, pramārjati(-te). → Mṛj.
 pra-mṛḍa 形 慈悲深い; 喜ばせる。
 pra-mṛṇa 形 破壊的な。
 pra-mṛta 過受分 → Mṛ 1. 中 死; [寓意的に] 耕作, 開墾(多くの生物の死を招くものとして)。
 pra-mṛtaka 形 死んだ。
 pra-Mṛd pramṛdnāti. → Mṛd.
 pra-Mṛṣ, → Mṛṣ.
 pramṛṣṭa 過受分 → Mṛj.
 pramṛṣṭa-maṇi 男 磨かれたまたは輝いた宝玉。
 pramṛṣṭa-maṇi-kunḍala 形 磨かれた宝石の耳飾りをもつ。
 pra-mṛṣṭi 女 (一°)を一面に塗布または擦り込むこと。
 pra-meya 未受分 量られるべき, 限られた; 確かめられ得る, 論証されるべき; 正しい観念の形成されるべき(もの); 量, 所量 Bodh-bh., Mvyut. → a~. 中 正しい知識または論証の対象; 境 Sāmkhy-k.
 pra-meyatva 中 論証されうること; 所量性 Nyāy-pr.
 pra-meha 男 尿に関する病; 尿, 遺尿 Mvyut., Śikṣ.
 pra-moka 男 自由にすること, 解放。
 pra-moktavya 未受分 解放されるべき。
 pra-mokṣa 男 喪失; (一°)からの解放または離脱; 解脱; 解脱; 度 Lal-v., Śikṣ.
 pra-mokṣaka 男 [山の名]; [竜王の名] 令解脱, 作解脱 Mvyut.
 pra-mokṣaṇa 中 (日または月)食の終り; 放, 解脱 Bodh-bh., Bodh-c. 一° 形 能除, 除滅 Gaṇḍ-vy.
 pra-mocaka 形 解, 令解脱, 度脱, 令得度脱, 放, 令離, 免出 Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Saddh-p.
 pra-mocana 形 (因-i) (一°)から解放する; 能濟, 普濟, 救濟, 度脱 Gaṇḍ-vy., Saddh-p.: dukkha~度脱苦 Saddh-p. 264. 中 (涙を)流すこと; (一°)から自由にすることまたは解放すること。
 pramocanātā 女 [同上] 放 Gaṇḍ-vy.: puṇya-raśmi-jāla ~放諸功德光明之網 Gaṇḍ-vy. 110.
 pra-moda 男 喜悅, 大なる喜悅[時として] 團; 強烈な芳香; [ある Nāga の名]; [Skanda の従者の名]; [諸人の名]; 歡喜 Sūtr.

pra-modaka 男 米(の一種); [人名].
 pramoda-kārin 形 能歡喜 Śikṣ.
 pra-modana 形 喜ばせる. 中 享樂, 歡喜; 喜ばせること, 喜ぶこと。
 pra-modanā 女 喜 Sūtr.
 pra-modaniya-prabha 男 [Amitābha 仏の属性] 喜光, 歡喜光 Sukh-vy. I.
 pra-modita 使役 過受分 [Mud] 隨喜 Śikṣ. 男 [Kubera 神の稱]; [人名].
 pra-modin 形 喜んでいる. 男 米(の一種).
 pramodoparuddha (°da-up°) (過受分) 中 (悅樂の隠れ家), 後宮。
 pra-modya 中 喜, 喜悅, 歡喜, 悅予 Bodh-bh., Daś-bh., Sam-r.
 pra-moṣa 男 剝奪; 妄, 失 Śikṣ.
 pra-moha 男 惑乱; 無意識, 氣絶。
 pramoha-citta 形 精神惑乱した。
 pra-mohana 形 (因-i) 惑乱させる。
 pra-mohita 過受分 惑乱した, 惑わされた。
 -pra-mohin 形 =pra-mohana.
 pra-Mlā pramlāyati. → Mlā.
 pra-mlāna 過受分 → Mlā.
 pramlāna-vadana 形 病人のような顔色の。
 pra-mlocā 女 [ある Apsaras の名].
 pra-Yakṣ prayakṣati(-te). → Yakṣ.
 pra-Yaj prayajati(-te). → Yaj.
 pra-yaj 女 献供。
 pra-yajyu 形 崇拜すべき。
 pra-Yat prayatate. → Yat.
 pra-yata 過受分 を与えられた, 捧げられた; 自制した; 恭しい, 敬虔な. → Yam. 一心 Saddh-p. 男 敬虔な人。
 pra-yatatā 女 清淨。
 pra-yatatva 中 [同上].
 pra-yatana 中 =pra-yatna.
 prayata-mānasa 形 敬虔な, 禁欲的な。
 prayatātman (°ta-āt°) 形 [同上].
 prayatātmavat (°ta-āt°) 形 [同上].
 pra-yati 女 献供; 贈与, 贈物; 意図, 意志; 正行 Madhy-vibh.
 pra-yatita 過受分 → Yat.
 pra-yatitavya 未受分 中 非人 努力または尽力すべきである; (因)について労を取るべきである (Jāt-m.).
 pra-yatta 過受分 → Yat.
 pra-yattavya 未受分 中 非人 =pra-yatitavya.
 pra-yatna 男 (因, 一°)についての意志的努力・撓まない尽力・骨折・心労または配慮; 企図; 活動; 勤, 勤勇, 精勤; 功用, 人功; 人工; 尋 Abh-bh., Buddh-c., Lan-k., Mvyut., Sūtr., Vaiś-s. → a~. 圓, 圓, ~tas 副 奮闘して, 注意深く, 熱心に; [~tas] 正意細心 Mañj-m. 圓, °一 副 [因 因の前に] 漸くにして, 辛うじて。
 prayatna-cchid 形 (因)の尽力を挫折させる。
 prayatna-prekṣaṇiya 形 辛うじて見える。
 prayatna-muktāsana (°ta-ās°) 形 辛うじて座から起ち上った。

pra-yatnavat 形 努力する, 細心の注意を払う。
 prayatnānantariyaka 形 摩訶 勤勇無間(所発), 尋之
 便成 *Mvyut.*, *Nyāy-pr.*
 prayatnānantariyakatva 田 摩訶 勤勇無間(所発)性
Nyāy-pr.
 pra-yantṛ 男 (園, 園) の授与者, …を与える者; 指導
 者; (象の)御者。 → gaja~.
 pra-Yabh prayabhati. → Yabh.
 pra-Yam prayacchati(-te). → Yam.
 pra-Yas prayasyati. → Yas.
 prayas 田 [Pri] 享樂, 歡喜; 清涼飲料水, (牛酪の)
 供物。
 pra-yasta 過受分 → Yas.
 pra-yasvat 形 供物を献げる。
 pra-Yā prayāti. → Yā.
 pra-yāga 男 「祭式の場所」, [*Yamunā* 河と *Gaṅgā* 河
 との合流点にある著名な巡礼地の名; また王国の名
 として知られる]; 園 *Prayāga* の住民; [人名].
 pra-Yāc prayācati(-te). → Yāc.
 pra-yācaka 形 (-artham とともに) 懇願する。
 pra-yācana 田 懇願。
 pra-yāja 男 (主要な献供に)先立って行なわれる献供
 [一般に5種, 時として9種または11種を行う].
 pra-yāṇa 田 出立, 出て行くこと, 出発; 行進, 旅行;
 一日の旅; 歩調; (一°)の攻撃, (園)に乗ること;
 生命の終熄, 死亡; 始め; (騎士の乗る)馬の背;
 遊, 入, 趣, 行, 行路 *Abh-vy.*, *Mvyut.*: ~e
 kṛtāvi samvṛttah 善能於陣出 *Divy.* 58.
 pra-yāṇaka 田 行軍, 旅行, 一日の行進。
 prayāṇa-kāla 男 死期; 死。
 prayāṇa-paṭaha 男 行進の太鼓。
 prayāṇa-bhaṅga 男 旅行の中止または中断。
 pra-yāta 過受分 → Yā. 行; 墮, 墜, 墮遂;
 奔騰; 所迷 *Daś-bh.*, *Rāṣṭr.* → utpatha~.
 pra-yātavya 未受分 攻撃または襲撃されるべき。田
 非入 出立すべきである。
 pra-yātṛ 男 行く・行き得るまたは飛び得る者。
 pra-yāpya 使役 未受分 [Yā] 送られるべき。
 pra-yāma 男 広がり, 範囲, 進行 (*Jat-m.*).
 pra-yāyin 形 (一°) で行くまたはに乗って行く, …と
 ともに行進する。
 pra-yāsa 男 (一° : -arthāya, -nimittena; 園, 園) に
 ついての努力, 心労, 尽瘁; 高い程度 (*Jat-m.*); 無厭怠
Śikṣ.
 pra-yāsita 使役 過受分 → Yas. 田 [同上].
 pra-Yu prayauti (1). → Yu 1,2.
 pra-yukta 過受分 → Yuj. 相応, 共相応, 合,
 和合, 相投, 相名, 調適; 入, 既進趣已; 繫 *Bodh-*
bh., *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Vijñ-v.*; 修, 勤修,
 勤修行, 勤修習, 正勤所修, 已正勤修, 修習已終,
 習, 精勤, 專勤, 求, 專求, 加行 *Abh-vy.*, *Bodh-*
bh., *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*; viryāra-
 m̐bhena ~o bhavati 精進勇猛 *Bodh-bh.* 251.
 pra-yuktatva 田 和合, 聚集 *Abh-vy.*
 prayukta-saṃskāra 形 磨きをかけた(宝石).
 pra-yukti 形 衝動; 使用; 用法。

pra-Yuch prayucchati. → Yuch.
 pra-Yuj prayunakti, prayunkte. → Yuj.
 pra-yuj 因 (?) (因) [車につながれた] 一組の動物
 衝動, 動機; 獲得。
 pra-yuta 過受分 → Yu 1,2. 田 100万. 男 [英
 の名] 正 *Mvyut.*; 園 鉢羅摩多 *Mvyut.*
 pra-yuti 因 (因) 放(心).
 pra-yuddha 過受分 → Yudh. 田 競争, 戦闘。
 pra-Yudh prayudhyate(-ti). → Yudh.
 pra-yudh 形 攻撃する。
 pra-yoktavya 未受分 放たれるべき(飛道具); 使用ま
 は適用されるべき; 上演されるべき(戯曲); 発音ま
 は発言されるべき。
 pra-yoktṛ 男 (飛道具の)射手; 実行者, (ある行動の)行
 為者; 祭式の施主, 祭主; 獲得者; (一°)の使用者
 俳優, 道化役者; 演奏者; 話者, 朗誦者; 作者, 詩
 者, 詩人; (金銭の)貸主。
 pra-yoktṛtā 因 [同上 園].
 pra-yoktṛtva 田 [同上].
 pra-yoktra 田 束縛 (*Divy.*).
 pra-yoga 1. 形 激励する(?) [*Agni* 神について];
 (因). 男 [古聖仙の名].
 pra-yoga 2. 男 結合; (語の)添加または使用 [因はしば
 ば=…の場合において]; (飛道具の)発射, 擲射; 呈
 呈, 授与; …に着手すること, 始め, 開始; 工夫, 多
 出, (ある人 一°)の行為; 適用, 雇用, 使用; 用例
 慣習; 医薬または呪法の使用; 手段 [園 園のみ]; 用
 用すべきまたは普通の形 (文法); 上演, 実演 [~t
Dṛś, 舞台上に見る]; 脚本; 暗誦, 発言, 演説; 誦
 誦されるべき詩句; 利子を取って貸すこと, 投資
 利子を取って貸した資本金; 相応, 和合, 離
Abh-vy., *Daś-bh.*, *Guhy-s.*, *Śikṣ.*; 行, 加行,
 勤行, 發行, 修行, 正行, 所修, 勤修, 能修習, 修
 修習, 所作, 造作; 経営, 精進; 始 *Abh-vy.*, *Bodh-*
bh., *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Madhy-vibh.*
Mvyut., *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*; 方便, 方便行, 加行
 方便, 方便正行, 誑作 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*
Gaṇḍ-vy., *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Sūtr.*; 出息, 出
 利, 方便出息 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*; 療治 *Saddh-p.*
 ~āyoga 出入息利 *Saddh-p.* 111. 園, 園, ~tas
 (一°)の手段によって. ~ais 園 ある手段によ
 て。
 prayoga-grahaṇa 田 慣習の習得。
 prayoga-nipuṇa 形 実際に通じた。
 prayoga-pratibaddhatva 田 属加行, 繫属加行
Abh-vy.
 prayoga-pradhāna 形 實際を主とした。
 prayoga-bala 田 加行力, 修習力, 方便力 *Bodh-*
bh., *Mvyut.*
 prayoga-viśuddhi 因 加行清淨 *Bodh-bh.*
 prayoga-virya 田 發行精進, 勤方便為自性 *Sūtr.*
 prayoga-sattva 男 加行薩埵 *Suvik-pr.*
 prayoga-sampatti 因 加行圓滿 *Bodh-bh.*
 prayogādhiḥkṛta 男 職員。
 prayogāvaraṇa (°ga-āv°) 田 加行障, 修行障
Madhy-vibh.

prayogāvasthā 因 行位, 加行位 *Madhy-vibh.*
 pra-yogitā 因 正加行 *Bodh-bh.*
 pra-yogitva 因 [同下 因]; 加行, 勤方便 *Bodh-bh.*
 pra-yogin 形 適用される, 適用できる, 普通の; 上演する; 方便 *Sutr.*; 加行 *Bodh-bh.* 因 俳優.
 pra-yogiya 形 (医薬の)使用に関する.
 pra-yogya 因 くびきで繋がれるべき獣, 牽獣.
 pra-yojaka 形 (因 -ikā) (因, 因, 一) を起す・生ずるまたはに導く; 本質的な. 因 作者; 債権者.
 pra-yojakatā 因 作因.
 pra-yojakatva 因 [同上].
 pra-yojana 因 機会, 対象, 動機; 原因, 目標, 結果; 目的, 計画, 関心; 仕事; 獲得の手段; (因) の用途・必要または要求; 用, 要, 須, 所須 *Abh-vy., Divy., Mvyut., Sāṃkhy-k., Sūtr., 梵千., 梵維.;* 所為 *Divy., 義 Lan̄k.;* 因縁 *Buddh-c., Madhy-v.*
 → niḥ~. 因 副 ある意因をもって. *kiṃ ~m* 何のために, 何故に. *kena ~ena* [同上]. ~m *ati-Kram* 機会を見逃す.
 pra-yojanavat 形 目的のある, 役立つ; 利害関係をもつ, 利己的な.
 prayojana-vaśāt 副 =pra-yojana (因).
 pra-yojaniya 未受分 用 *Mañj-m.*
 pra-yojayitr 因 原動者, 惹起者.
 pra-yojya 未受分 投げられるべき または 発射されるべき(飛道具); 雇用または使用されるべき; 委任されるべき; (舞台にて)演ぜられるべき; 応配属 *Cat-ś.* 因 (利子を取って貸すべき)資金.
 pra-yotr 因 除去する者.
 pra-Rakṣ prarakṣati. → Rakṣ.
 pra-rakṣaṇa 因 保護.
 pra-rakṣita 過受分 (因) から保護された.
 pra-raṇita 過受分 極爆, 徧吼, 極舞動声 *Mvyut.*
 pra-Rad praradati. → Rad.
 pra-Ran praraṇati. → Ran.
 pra-Rapś, → Rapś.
 pra-Ric praricyate. → Ric.
 pra-Ruc prarocate. → Ruc.
 pra-Ruj prarujati. → Ruj.
 pra-Rud praroditi. → Rud.
 pra-rudita 過受分 → Rud. 悲泣, 捫涙 *Śikṣ.*
 pra-Rudh prarudaddhi, prarunddhe. → Rudh 3.
 pra-Ruh prarohati. → Ruh.
 pra-ruh 形 (植物が)発芽する. 因 芽, 若芽.
 pra-rūdha 過受分 → Ruh 2. 現, 生 *Gaṇḍ-vy.;* *gandhānkura* ~ 現香芽, 生衆香芽 *Gaṇḍ-vy.* 374.
 prarūdhā-keśa 形 髪の毛の伸びた, 髪の毛の長い.
 pra-rūdhi 因 盛んに伸びること; 生長, 増加.
 pra-rūpaṇa 因 示すこと, 教えること; 便, 顯相 *Abh-vy.*
 pra-rūpaṇā 因 [同上]; 最解 *Mvyut.*
 prarūpaṇānukūla 形 隨便, 隨顯相 *Abh-vy.*
 prarūpaya 名動 因 prarūpayati. → rūpaya.

pra-reka 因 豊富.
 pra-recana 因 [同上].
 pra-rocana 形 (因 -i) 扇情的な, 恋情を催させる(呪文), 魅惑的な. 因 扇動, 誘惑; 賞讃; 説明.
 pra-rocanā 因 頌詞; 賞讃によって興味をそそること(修辭); 未来を有望に描くこと(戯曲).
 pra-rocita 過受分 称讃または推賞された, 可とされた, 好まれた.
 pra-rodana 因 哭 *Mvyut.*
 pra-ropita 使役 過受分 蒔かれた, 植えられた.
 pra-roha 因 発芽すること, 大きくなること [また 譬喩]; 芽, 若芽, 蕾; 瘤; (一) の放射=光線; 生, 能起, 生長, 長養 *Abh-vy., Gaṇḍ-vy.*
 pra-rohaṇa 因 発芽または生長すること [また 譬喩]; 芽, 若芽, 蕾; 芽 *Daś-bh.* → *aparohaṇa-dharmaka.*
 praroha-dharmin 形 所生 *Lan̄k.*
 pra-rohin 形 芽ばえる, 生長する, (一) から生長する; (一) を生み出す, 生長させる.
 prarohi-śākhin 形 枝の再び生長した.
 pra-laghu 形 非常に小さいまたは取るに足りない(従者).
 pra-laghutā 因 非常に小さなこと, ささいなこと.
 pra-Lap pralapati. → Lap.
 pra-lapana 因 しゃべること, 無駄話をする; 悲歎.
 pra-lapita 過受分 → Lap. 因 おしゃべり, 雑談; 悲歎.
 pra-labdha 過受分 つかまれた; 欺かれた, だまされた.
 pra-labdhavya 未受分 愚弄されるべき, 欺かれるべき.
 pra-labdhṛ 因 詐欺師.
 pra-Labh pralabhate. → Labh.
 pra-Lamb pralambate. → Lamb.
 pra-lamba 形 垂れ下った, ぶら下った; かがんだ; 下垂; 長, 脩 *Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut.* 因 [Baladeva または Kṛṣṇa に殺されたある Daitya の名].
 pra-lambatā 因 懸垂.
 pralamba-pāda 形 垂足, 伸脚 *Bodh-c., Śikṣ.*
 pralamba-bāhu 形 腕を垂れた; [人名]; [三十二相の一] 脩臂, 臂膺長, 其臂纖長, 臂肘(膺直立)垂(過膝), 二手過膝 *Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut.* → *sthitāvanata ~ tā.*
 pralambabāhutā 因 両臂(膺平立)過膝相 *Dharm-s.*
 pralamba-bhuja 形 腕を垂れた. 因 [ある *Vidyādhara* の名].
 pralambāṇḍa 因 翠丸の垂れ下った人.
 pra-lambita 過受分 → Lamb. 垂, 垂下, 懸, 懸垂, (最勝)垂掛 *Gaṇḍ-vy., Mvyut., Raṣṭr., Sa-ddh-p.*
 pralambita-bāhu 形 脩臂下垂 *Suv-pr.*
 pra-lambin 形 垂下した.
 pralambi-Kṛ, 垂下させる.

pra-lambodara (°ba-ud°) 男 [ある Kimnara 王の名] (Kār-vy.); [ある伝説上の山の名] (Kār-vy.).
 pra-lambha 男 獲得; [また 覆] だますこと, 欺瞞.
 pra-lambhana 男 詐欺, 瞞著; 欺瞞の具 (Jat-m).
 pra-laya 男 消滅, 破壊, 死; 世界の破滅または終末 (Kalpa の終末); (星の) 没すること; 消滅の原因; 気絶; 覆 滅, 壊, 竟 Lank., Sāṃkhy-k.
 pralaya-ghana 男 (世界を破滅させる) 雲.
 pralayaṃ-kara 男 (因-i) 破壊させる.
 pra-layatā 因 消滅. ~ṃ Gam 破滅する.
 pra-layatva 男 [同上]. ~āya Klp 荒廢に帰す, 壊滅する.
 pralaya-dahana 男 世界を破滅させる大火災.
 pralaya-sṭhiti-sarga 男 覆 世界の破壊と維持と創造.
 pralayānta-ga 男 世界の終末において(のみ) 滅する (太陽).
 pralayodaya (°ya-ud°) 男 覆 破壊と創造.
 pra-lalāṭa 男 突き出た額をもつ.
 pra-lava 男 断片, (葦の) 切れはし.
 pra-lavana 男 (穀物を) 刈ること.
 pra-lāpa 男 饒舌, 雑談, 無駄話; 悲歎(の聲); たわごと, うわごと; 覆 言, 言説, 戲論, 無義語 Abh-vy., Lank.; 号嘯, 啼哭 Daś-bh. → bāla~, vāk~.
 pra-lāpana 男 語ることを教えること.
 pra-lāpitā 因 (愛人の) おしゃべり.
 pra-lāpin 男 しゃへる, 無駄話しをする, 語る [一般に 一°]; 悲歎する; うわごとをいう状態の(熱病); 覆 言, 説, 発語言, 穢語, 散語 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Rāṣṭr.; 常悲怨 Bodh-bh.
 pra-Likh pralikhati(-te). → Likh.
 pra-Lip pralimpati(-te). → Lip.
 pra-lipta 過受分 → Lip.
 pra-Li praliyate. → Li 1.
 pra-lina 過受分 → Li 1. 覆 封著 Śikṣ.
 pra-lugna 過受分 [=pra-rugna] 覆 朽壊, 損失 Bodh-bh. 147., Śikṣ. 56.
 pra-Luj pralujyate. → Ruj (pra-Ruj).
 pra-Luṭh praluṭhati. → Luṭh 1.
 pra-Lup pralumpati. → Lup.
 pra-lupta 過受分 → Lup. 覆 故壊 Gaṇḍ-vy.
 pra-lubdha 過受分 → Lubh.
 pra-lubdhā 因 (saha) に対して不義の愛情を懷いた(女).
 pra-Lubh pralubhyati(-te). → Lubh.
 pra-lepa 男 (一°) に粘着すること; 軟膏, 膏藥; 覆 塗, 研塗 Divy., 梵千.
 pra-lepaka 男 [恐らくは] 貝殻石灰; 消耗熱; 覆 凍石末 Mvyut.
 pra-leha 男 肉汁(の一種).
 pra-lehana 男 なめること.
 pra-lopa 男 破壊, 絶滅; 覆 壊, 沮壊, 敗壊, 壊敗, 毀散, 滅 Bodh-bh., Daś-bh., Śikṣ., Śivik-pr.
 pra-lobha 男 誘惑.
 pra-lobhaka 男 誘惑者, [ある豺の名].
 pra-lobhana 男 誘惑する. 男 誘惑.

pra-lobhin 男 誘惑する, 魅惑的な.
 pra-lobhya 男 誘惑する, 魅惑する.
 pra-lola 男 荒れ狂う(海洋).
 prava 男 空を舞う, 飛翔する.
 pra-vaktavya 未受分 提示・伝授または教授されるべき.
 pra-vaktṛ 男 (一°) を告げる・伝えるまたは言う人; 能弁家; 教師, 提示者, 解説者; 物語の創始者.
 pra-vaktṛtva 男 教師たること.
 pra-Vac pravakti. → Vac.
 pra-vacana 男 語ること; 提示すること, 解説すること; 朗誦すること; 教授; 表現, 表示; 提示された教義, 聖篇, 聖典とくに *Brahmaṇa*; 覆 言, 教, 言教, 所説; 法, 妙法, (仏) 語, 聖言量; 経 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; *tathāgatānām* ~e 如来聖言量 *Śikṣ* 68.; **bhagavataḥ* ~ 於佛法中 *Saddh-p.* 405.; *navāṅga* ~ āni 九部法 [1. *sūtram* 契経, 2. *geyam* 祇夜, 3. *vyākaraṇam* 受記, 4. *gāthā* 伽陀, 5. *udānam* (漢訳闕((自説))), 6. *jātakam* 本生, 7. *vaipulyam* 方広, 8. *adbhuta-dharmah* (漢訳闕, ((希法))), 9. *upadeśah* (漢訳闕, ((論義))), (漢訳は別に諷誦, 因縁, 本事を加える)] *Dharm-s.*
 pravacana-paṭu 男 弁舌に巧みな, 雄弁な.
 pra-vacaniya 未受分 提示されるべき, 解説されるべき.
 pra-vaṇa 男 男 (?) 坂, 下り坂; 深淵, 深み [因においては 因の 男 および 覆 (一回のみ) に限り, 叙詩においてはまた 因 男 に用いる]. 男 (一°) の方へ傾いたまたは傾斜した; (因, 覆, 因, 不定, 一°) し勝ちな, ...する傾向がある, ...する性癖がある; 衰頹した, 消失した; (一°) の方に向けられた; 覆 向, 趨向, 傾仰, 傾仰尊敬, 随順, 專住, 愛, 樂, 樂聽, 習, 降伏 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*; *dharmā* ~ 樂聽正法 *Divy.* 50.; *sarvajñatā* ~ ḥ 習普慧学, 随順一切智 *Mvyut.* 因 性急に.
 pra-vaṇatā 因 (一°) への傾向または性癖.
 pra-vaṇa-prahaṛṣa 男 喜びまたは幸福を失なった.
 pra-vaṇa-vidheyi-BHū, 喜んで(命令に)従う.
 pra-vaṇāyita (名動 過受分) 男 (因) への傾向または性癖.
 pra-vaṇi-Kṛ, (業) をして好意を寄せさせるまたは心を傾かせる.
 pra-vaṇi-kṛta 男 (一°) に好意をもった.
 pra-vaṇi-BHū, 好意を寄せる.
 pravat 1. 男 前方に向けられた, 燃え立つ (*Agni* 神) *pra* または *Pr* なる音節を含んだ.
 pravat 2. 因 山の傾斜(面); 頂上 [また天界の頂上]; 坂路, 滑かなまたは速い進路. 男 (因 ~ā, 覆 ~dbhiḥ) 男 丘を下って, 坂を降りて, 下方に; 速かに.
 pravatvat 男 高地に富んだ; 速かな; 速かな進路を提供する.
 pra-Vad pravadati(-te). → Vad.
 pra-vada 男 音を出す.
 pra-vadana 男 提示すること.
 pra-vaditṛ 男 (覆; 叙詩は 因) を発言する.

pra-vaditos ㊦ ㊦ 不定 発言し始める。

pra-vadyāman ㊦ (天界の)斜面を走るすなわち疾走する。

pra-Vadh, → Vadh.

pra-Vand, → Vand.

pra-Vap pravapati. → Vap 1. 2.

pra-vapaṇa 1. ㊦ [Vap. 1.] (髻を)剃り落すこと。

pra-vapaṇa 2. ㊦ [Vap. 2.] 蒔くこと。

pra-vayaṇa 1. ㊦ [Ve] 織布の端。

pra-vayaṇa 2. ㊦ [Vi] (家畜を駆るための)突棒。

pra-vayas ㊦ とくに力強い；高齢の，年老いた。

pra-vara 1. ㊦ [Vr 1.] 蓋い；上衣；㊦ 犢毛布 *Mvyut.*

pra-vara 2. ㊦ [Vr 2.] 招聘 [㊦ 儀式を執行するために婆羅門を]；祭式執行中におこる種々の選任 [ソーマ祭の *dikṣā* (準備としての潔斎) において, *Adhvaryu* 祭官の行う *Hotṛ* 祭官の選任；新月・満月祭において, *Hotṛ* 祭が *Agni* 神を先祖伝来の *Hotṛ* 祭官として招致する儀式, この際古代の聖仙の列挙を伴う；現実の *Hotṛ* 祭官の選任, *Adhvaryu* 祭官は *Agni* 神に捧げた文句の中に古代の聖仙を祭主の祖先として挙げる。その数は普通三で五を超えてはならず, 聖仙の名は家系に従って詳細に規定されている]；前記の選任に必要な古代の聖仙の系譜ならびにこれを載せたストラ文献；祖先；㊦ 賦頌 *Divy.* 637.

pra-vara 3. ㊦ [pra+vara または Vr 2. より] 卓越した, 高貴の；(㊦, 一°)の中において主な, 最善の, 最も優れた, 最年長の(息子)；(㊦)より善い；(一°)をもって著名な；㊦ 勝, 最勝, 殊勝, 妙, 最妙, 微妙, 第一, 最第一, 最上, 極；尊；雄猛 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.* ㊦ [Indra 神のある使者で朋友である者の名]；[ある *Dānava* の名]；㊦ 音写 [数の名] 鉢羅伐羅 *Mvyut.* ㊦ ろかい(蘆薈)樹。

pravara-guṇa ㊦ ㊦ 勝徳 *Suv-pr.*

pravara-jana ㊦ 貴人。

pravara-dhātu ㊦ 貴金属。

pravara-nṛpati ㊦ [王侯の名]。

pravara-pura ㊦ [Kashmir の都市の名]。

pravara-bhūpati ㊦ [王侯の名]。

pravara-mūrdha-ja ㊦ 美しい髪をもつ。

pravara-rūpa ㊦ (㊦ -ā) 形の美しい。

pravara-sena ㊦ [王侯の名]。

pravaraṅgra ㊦ ㊦ 最上, 上妙, 微妙 *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*

pravaraṅgra-dharma ㊦ ㊦ 上妙法 *Saddh-p.*

pravaraḍhyāya ㊦ (祖先の系譜として古代の聖仙の名を家系ごとに列挙した書), [諸書物の題名]。

pravareśa (°ra-iśa) ㊦ 有名な君主(?)；[王侯の名]。

pravareśvara ㊦ [*Pravara-sena* の建立した寺院の名]。

pra-varga ㊦ 大きな土製の瓶 [*Pravargya* 祭に用いられる]。

pra-vargya ㊦ (*Soma* 祭に)先立って行なわれる儀式

[この時新鮮な牛乳を灼熱した瓶の中に注ぐ]。

pra-vargyavat ㊦ *Pravargya* 祭に関連した。

pra-varjana ㊦ *Pravargya* 祭の執行, 火の中まはた近くに置くこと。

pravaraṇaya ㊦ ㊦ 話す, 伝える。

pra-vartaka ㊦ (㊦ -ikā) 前方へ転じさせる, 動かす；奨励する, 教唆する；引き起す, 生ずる；㊦ 転, 正転；生, 能生, 起；(生死)順流 *Abh-vy.*, *Cat-ś.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*；作入(?) *Mvyut.* ㊦ 開祖, 著者。㊦ (予め披露された人物が序幕の後に)舞台上に登場すること (戯曲)。

pra-vartana ㊦ 前進, 前方への移動；(㊦)から出現すること；(水の)流れ；歩行；活動；(㊦, ㊦)にたずさわるとは従事すること；進むこと, 進行, 起ること, 生ずること；手続き, 振舞；推進；建立；(職務の)履行；(㊦, 一°)の刺激・促進・産出・導入または雇用；㊦ 転, 生, 起, 進, 流布 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Guhya-s.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Sūtr.* ㊦ (㊦ -i) 動く, 流れる；転ずる (*Divy.*)。

pra-vartanaṭā ㊦ ㊦ 生, 随, 随逐 *Kaśy.*

pra-vartanaṭā ㊦ 活動へと刺激すること；㊦ 転 *Bo-dh-bh.*

pra-vartaniya ㊦ ㊦ 使用されるべき；始められるべき。

pra-vartayitṛ ㊦ (㊦)のまたは (㊦)に対する教唆者；(㊦)の創造者；建設者, 導入者；使用者。

pra-vartayitṛtva ㊦ 教唆。

pra-vartita ㊦ ㊦ 使用された, 施行された；進行することを許された；強いられた；㊦ 転, 已転；生, 出；起；作, 所成, 随行 *Abh-by.*, *Lank.*, *Sūtr.*, → a~。

pra-vartitavya ㊦ ㊦ ㊦ 非人 行動すべきである；㊦ 転 *Bodh-bh.*

pra-vartitṛ ㊦ 生産する者, もたらす者, 決定または確定する人。

pra-vartin ㊦ 出て来る, 流出する；前方に動く, 流れる；行動に従事する；流れさせる；生産する；使用する；導入する, 宣伝する。

pra-vartya ㊦ ㊦ 扇動されるべきまたはされる。

-pra-varḍhaka ㊦ (㊦ -ikā) (一°)を増加する, ...を増大する。

pra-varḍhana ㊦ [同上]。

pra-varḍhita ㊦ ㊦ ㊦ 増 *Sūtr.*

pra-varṣa ㊦ 雨 [時として ㊦]。

pra-varṣaka ㊦ ㊦ 雨 *Sūtr.*

pra-varṣaṇa ㊦ 雨の降ること, 雨を降らすこと；最初の雨。㊦ [山の名]。㊦ 一° ㊦ 雨 *Gaṇḍ-vy.*

pra-varṣita ㊦ ㊦ ㊦ 雨 *Saddh-p.*

-pra-varṣin ㊦ 雨が降る, 雨を降らす；注ぐ；㊦ 降雨 *Śikṣ.*

pra-varha, → pra-barha.

pra-Valh pravalhate. → Valh.

pra-valha ㊦ 謎。

pra-valhita ㊦ ㊦ ㊦ → Valh.

pra-Vas pravasaṭi. → Vas 3.

pra-vasatha ㊦ 出発；(㊦)から分離すること (㊦)。

pra-vasana 甲 旅立つこと, 死ぬこと, 死亡.
 pra-Vah pravahati. → Vah.
 pra-vaha 形 運ぶ, 吹き送る. 男 (遊星を)運行させる(七種の)風の一; 火の(七の)舌の一; 水を(入れるための)容器.
 pra-vahaṇa 甲 (少女を)嫁がせること; 車両; 船 [また -i 女] [一° 形 (女 -ā)]; 漢訳 流出 *Daś-bh.*
 pravahaṇa-bhaṅga 男 船の難破.
 pra-vahaṇi 女 → pra-vahaṇa.
 pra-Vā pravāti (1.). → Vā 1,4.
 pra-vāc 形 大言壮語する, 饒舌な.
 pra-vācana 甲 宣言, 言明; 名声.
 pra-vācya 未受分 声明されるべき, 称讃されるべき; 話しかけられるべき.
 pra-vāḍa 男 甲 [=pra-vāla] 珊瑚; 漢訳 珊瑚 *Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Śuvik-pr.*; 根芽, 牙茎 *Gaṇḍ-vy.*
 pra-vāṇa 甲 織布の縁.
 pra-vāta 過受分 風に吹かれたまたは煽られた. 甲 微風, 気流; 通風のよい場所または風の強い天候.
 pravāta-dīpa-capala 形 風前の灯のように揺れる.
 pravāta-nilotpala (°la-ut°) 甲 風に揺れる蓮華.
 pravāta-śayana 甲 通風のよい所に置かれた寝台.
 pravāta-sāra 男 [仏の名] (*Lal-v.*).
 pravāta-subhaga 形 爽やかな微風のために快い(所).
 pravāte-ja 形 風の多い場所に生ずる.
 pravāte-jā 形 [同上].
 pra-vāda 男 発言; 命名, 言及; 陳述, 諺, 格言, (一°)についての物語・風説または報告; 悪評, 中傷(覆); (一°)として自身を通用させること; (覆, 一°) [ある語から語尾・接尾辞等の添加によって作られる任意の形] [特殊形の 形]; 漢訳 論, 言論, 説言, 諍論, 希奇語 *Lank., Mvyut.* ~ena 男 世に言う所では(しかし実際はそうではない). ~āya 男 噂を広めるために.
 -pra-vādaka 形 響かせる, 奏する.
 pra-vādita 過受分 漢訳 奏, 鼓 *Aṣṭ-pr., Daś-bh.*
 pra-Vādin 1. 形 [pra-Vad] 声を出す, 叫ぶ, (一°)について述べるまたは語る; 漢訳 論, (異)論 *Bodh-bh., Lal-v.* → para~.
 pra-vādin 2. 形 [pra-vāda から] 一切の転化形を包括する(語) (文法).
 pravādyamāna 使役 受 現分 → Vad.
 pra-Vāpin 形 (一°)に種を播く.
 pra-vāyya 甲 飛翔, 迅速.
 pra-vāra 男 覆い, 毛布.
 pra-vāraka 甲 漢訳 積毛布 *Mvyut.*
 pra-vāraṇa 甲 願望の成就; 漢訳 随意, 開具 *Mvyut.* → viśada~.
 pravāraṇa-vastu 甲 漢訳 随意事, 開具時 *Mvyut.*
 pravāraṇa-sūtra 甲 [経の名; 請請経(中阿含第百二十一経)等].
 pra-vāraṇā 女 自恣 (*Divy.*); 漢訳 [Pali pavāraṇā] 請, 自恣請, 広恣, 自恣食, 与 *Bodh-bh., Prāt-m.*, 立恣; 音写 鉢和蘭, 鉢和羅 立恣; cāturmāsikā~ 四月請, 四月自恣請 *Prāt-m. 520.*; punaḥ~ 更請,

数数自恣請 *Prāt-m. 520.*
 pra-vāraṇi 女 漢訳 恣 *Bodh-bh.*
 pra-vārayitavya 未受分 漢訳 自恣 *Av-s.*
 pra-vārika 形 漢訳 將開, 作随意 *Mvyut.*
 pra-vārita 過受分 提供された, 売り出された; 漢訳 請, 所請, 供養, 恣施家, 供給, 惠賜, 已開, 已作随意 *Bodh-bh., Divy., Mvyut.*
 pravāritārthātisevā 女 漢訳 受(他)請了(非分)強索((利)), 濫用所請利, 作客過時 *Mvyut.*
 pra-vārya 未受分 (願望を)満足させられるべき.
 pra-vāla 男 甲 芽, 若芽 [しばしば足または唇に壁えられる]; 珊瑚; 漢訳 珊瑚 *Śikṣ., Śuv-pr.*
 pravāla-phala 甲 赤旃檀.
 pra-vālavat 形 萌芽した, 若芽をもった.
 pra-vāsa 男 他国における寓居, 旅にあること, 家にいないこと; 漢訳 在路 *Bodh-c.* ~m Gam 他国へ行く. ~m Yā [同上]. ~m ā-Pad [同上]. ~m pra-Vas [同上]. ~ād ā-I 他国から帰る. ~ād upā-Vṛt [同上].
 pravāsa-gata 形 他国へ行った, 家から離れた; 漢訳 至余国, 遠行 *Saddh-p.*
 pra-vāsatā 女 漢訳 驅擯 *Bodh-bh.*
 pra-vāsana 甲 郷国から放逐すること, 国外追放, 屋外に追い出すこと, (覆)からの追放; 漢訳 驅擯, 驅出, 流移 *Bodh-bh.*
 pra-vāsana 女 漢訳 驅擯 *Bodh-bh.*
 pra-vāsaniya 未受分 漢訳 応驅擯 *Mvyut.*
 pravāsa-stha 形 他国へ行った, 旅にある, 家にいない.
 pravāsa-sthita 形 [同上].
 pra-vāsita 過受分 放逐または追放された.
 pra-vāsin 形 他国に居住する, 家にいない, (一°)に滞在する.
 pra-vāsya 未受分 追放されるべき.
 pra-Vāh pravāhate. → Vāh.
 pra-vāha 男 (水の)流れ, 潮流; 連続; 系列; 思惟の連続; 漢訳 水 *Lank.*; 相続, 相似相続, 常 *Abh-vy., Mvyut.*
 pra-vāhaṇa 形 運び去る. 男 [人名]. 甲 突き出ること, 放出.
 pra-vāhikā 女 下痢.
 pra-vāhin 形 牽く; 運んで行く(河); (一°)を貫流るまたはに注ぐ; 漢訳 普散 *Gaṇḍ-vy.* 男 牽引用物.
 pra-vāhini 女 漢訳 大海 *Sūtr.*
 pra-vikarṣa 男 (弓の弦を)引くこと.
 pra-vikarṣaṇa 甲 引くこと, 引きずること (*Jāt-m.*)
 pra-vi-Kas pravikasati. → Kas.
 pra-vikasita 過受分 → Kas.
 pra-vikirṇa 過受分 ばらまかれた, 散らされた, 散された.
 pra-vi-Kṛ, → Kṛ.
 pra-vikṛta 過受分 → Kṛ.
 pra-vi-Kṛ pravikirati. → Kṛ.
 pra-vikta 過受分 → Vij.
 pra-vikṣipta 過受分 → Kṣip.

pra-vikhyāta 過受分 周知の、著名な、(因)として知られた、…と呼ばれた。
 pra-vi-Gal pravigalati. → Gal.
 pra-vigraha 男 (発音上結合された)語を明確に分離すること。
 pra-vighaṭana 中 粉々に破壊すること。
 pra-vighaṭita 過受分 → GHaṭ.
 pra-vicaya 男 調査 (Lal-v.); 漢訳 択, 簡択, 揀択, 思択, 選択, 正択, 能択, 妙簡択, 妙揀択, 極簡択, 最極簡択, 択観; 分別, 分析求, 分析推求, 辯; 觀察, 思惟觀察, 周徧觀察 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lal-v., Laṅk., Madhy-vibh., Mvyut., Sam-r., Sūtr., Vijñ-t.
 pravicyaya-buddhi 女 漢訳 觀察智, 觀察覺, 以智慧思惟觀察, 觀察(如実)智慧 Laṅk.
 pra-vi-Car pravicarati. → Car.
 pra-vicarita 過受分 正確に検討または試験された。
 pra-vi-Cal pravicalati. → Cal.
 pra-vicalita 過受分 動かされた, 振られた。
 pra-vicāra 男 區別; 種類。
 pra-vicāraṇā 女 [同上]。
 pravicāra-mārga 男 覆 一方から他方へ跳び移ること(戦法の一つ)。
 pra-vicārayat 使役 現分 → Car.; 漢訳 観, 觀察 Laṅk.
 pra-vicārayamāna 使役 現分 漢訳 観, 觀察, 覺 Laṅk.
 pra-vi-Ci pravicinoti. → Ci 2.
 pra-vicita 過受分 → Ci 2. 漢訳 所諮嗟 Sam-r.
 pra-vi-Cint pravicintayati. → Cint.
 pra-vicintaka 形 予知する。
 pra-vicetana 中 会得。
 pra-vi-Ceṣṭ praviceṣṭate. → Ceṣṭ.
 pra-Vij, → Vij.
 pra-vijahya 形 漢訳 最棄 Mvyut.
 pra-vitata 過受分 → Tan 1.
 pra-vi-Tṛ, → Tṛ.
 pra-Vid pravetti. → Vid 1.
 pra-vidalana 中 破碎。
 pra-vidāra 男 粉々に破裂すること。
 pra-viddha 過受分 [Vyadh] (因)の中へ投げられた; 撒かれた(水); 詰め込まれた; 満たされた; 放棄された。
 pra-vidruta 過受分 分散した, 四散した。
 pra-vidvas 三過分 知った, 意識した。 → Vid 1.
 pra-vi-DHā pravidadhāti, pravidhatte. → DHā.
 pra-vidhāna 中 使用された方法。
 pra-vidhuta 過受分 → DHū.
 pra-vi-DHū, → DHū.
 pra-vidhvasta 過受分 [DHvams] 放擲された, 動揺させられた。
 pra-vinaṣṭa 過受分 全く破壊された。
 pra-vinirdhūta 過受分 投げつけられた。
 pra-vi-Ni pravinayati. → Ni.
 pra-Vip, → Vip.
 pra-vibhakta 過受分 → BHaj. 漢訳 差別, 分別,

分散 Daś-bh., Divy.
 pravibhakta-raśmi 形 光を分配された, 光を分配する。
 pra-vibhakti 女 漢訳 差別 Daś-bh.
 pra-vi-BHaj pravibhajati. → BHaj.
 pra-vibhāga 男 区分, 分離, 分類; 部分; 漢訳 差別, 分別, 広分別, 分齊; 広辯, 辯了, 解 Bodh-bh., Daś-bh., Laṅk., Madhy-v., Sūtr.
 pra-vibhāgavat 形 細分された。
 pra-vibhāgaśas 副 分離して。
 pra-vibhinna 過受分 → BHid.
 pra-vi-Muc pravimuñcati(-te). → Muc.
 pra-vimṣya 不変分 反省して, 考慮して。
 pra-virata 過受分 → Ram.
 pra-vi-Ram, → Ram.
 pra-virala 形 遠く離れて存する; 孤立した, 稀な。
 pra-vi-Lamb, → Lamb.
 pra-vilambin 形 卓越した。
 pra-vilambya 不変分 懸けて。
 pra-vilaya 男 溶解; 完全な分解または消滅。
 pra-vi-Las pravilasati. → Las.
 pra-vilāpana 中 絶滅。
 pra-vilāpayitavya 未受分 絶滅させられるべき。
 pra-vilāpitatva 中 完全な絶滅。
 pra-vilāpin 形 悲歎する。
 pra-vilāpya 未受分 全く破壊されるべき。
 pra-vi-Li praviliyate. → Li 1.
 pra-vi-Lup, → Lup.
 pra-vilupta 過受分 → Lup.
 pra-vi-Lok pravilokayati. → Lok.
 pra-vivardhita 使役 過受分 → Vṛdh.
 pra-vivāda 男 論争。
 pra-vivikta 過受分 → Vic. 漢訳 遠離, (樂)遠離, 行遠離行, 修遠離行; 独住; 虚閑 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Kāśy., Sukh-vy. I. 中 (?) 孤独 [因 覆 のみ]。
 pravivikta-cakṣus 形 視力の鋭い。
 praviviktatā 女 世俗の権力から遠ざかること (Jat-m.).
 pravivikta-bhuj 形 美食をとる。
 pravivikta-vihārin 形 漢訳 独处空閑, 独一静処, 心樂寂靜不与人居 Bodh-bh.
 praviviktāhāratara (°ta-āh°) 比較 更に美味な食物をとる。
 pra-vivikṣu 希求 形 (樂)に入りたいと思う, まさに入ろうとする。
 pra-vi-Vic, → Vic.
 pra-vi-Vṛdh, → Vṛdh.
 pra-viveka 男 全くの隠棲 (Lal-v.); 區別; 漢訳 離, 出離, 遠離; 独静, 閑静, 空静, 独处, 遠離処, 静処, 閑静地, 空閑寂靜之处; 暢 Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Śikṣ., 梵干。
 praviveka-gata 形 漢訳 居遠離処 Bodh-bh.
 praviveka-ja 形 漢訳 最寂中生 Mvyut.
 praviveka-vāsābhirati 女 漢訳 樂遠離, 不生喜足 Bodh-bh.
 praviveka-sukha 中 漢訳 遠離樂 Bodh-bh.

pra-vivepita 使役 過受分 震わせられた。

pra-Viś praviśati(-te).

pra-vi-Śiṣ praviśinaṣṭi. → Śiṣ.

pra-viśuddha 過受分 完全に清い。

pra-viṣaṇṇa 過受分 [Sad] 落胆した, 意気銷沈した。

pra-viṣaya 男 範圍. ~ṃ dr̥ṣṭer Gam 視野に入る。

pra-viṣṭa 過受分 入った, 入れられた。 → Viś.

證入, 入, 入已, 得入, 極入, 摂入, 随入, 来入, 悟入, 既悟入已, 証入, 已証入; 至, 往至; 住, 在, 隨在; 帰, 所摂 *Aṣṭ-pr.*, *Av-ś.*, *Bodh-bh.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*

pra-viṣṭaka 中 舞台に登場すること [舞台指示として 圓 圍 ~ena のみ 登場して].

praviṣṭakāya 名動 圓 praviṣṭakāyate 自身で現われる。

pra-viṣṭatva 中 證入 Bodh-bh.

praviṣṭa-dikṣa 形 dikṣā (潔斎)の宗教儀式に服している (*Buddh-c.*).

pra-visarpiṇ 形 徐々に伝播する (*Jāt-m.*).

pra-vi-Sṛ, → Sṛ.

pra-visṛta 過受分 → Sṛ.

pra-vistara 男 広さ; 圓 詳細をきわめて。

pra-vistarāṇa 中 廣, 廣大 *Gaṇḍ-vy.*, *Śikṣ.*

pra-vistarāṇatā 女 廣為分別, 能為広辯 *Bodh-bh.*

pra-vistāra 男 = pra-vistara.

pra-vispaṣṭa 過受分 全く明白な。

pra-vihata 過受分 撃退された, 敗走した。

pra-vi-Hā pravijahāti. → Hā 2.

pra-Vi praveti. → Vi 1,2.

pra-vikṣ (pra-vi-Īkṣ) pravikṣati. → Īkṣ.

pra-viṇa 形 (形, 一) に巧みな・精通したまたは伶俐な; 能, 熟 *Mvyut.*

pra-viṇatā 女 巧妙, 伶俐, 才能。

pra-viṇatva 中 [同上].

praviṇi-Kṛ, …に適合させる。

pra-vira 男 英雄, (圓, 一) の中の勝れた英雄, …で優れた人; [諸人の名].

pra-viraka 男 [諸人の名].

pravira-bāhu 男 [ある Rākṣasa の名].

pravira-vara 男 [ある Asura の名].

pra-vivivikṣu 形 侵入しようとする, 汜濫しようとする。

pra-Vṛ pravṛnoti (1,2.), pravṛnute (1,2.), pravṛnāti (2.), pravṛnite (2.). → Vṛ 1,2.

pra-vṛkṣa 過受分 [Vraśa] 切り取られた。

pra-Vṛj pravṛnakti, pravṛnkte. → Vṛj.

pra-vṛdha 過受分 [= pra-br̥dha] → Barh 1.

pra-Vṛt pravartate (-ti). → Vṛt.

pra-vṛta 過受分 → Vṛ 1,2.

pra-vṛtta 過受分 → Vṛt. 起, 現起, 発起, 生, 現入; 遭遇; 転, 流転; 通利; 欲; 観 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*: varṇam bhāṣayitum ~āḥ 歎功德 *Av-ś.* 1,2. → a~, āmukhi~.

pravṛtta-cakra 形 障害なく回転する車輪をもつ; 無

限の威力をもつ。

pravṛtta-cakratā 女 無限の威力。

pra-vṛttatva 中 起ったこと; 轉, 隨轉, 起 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*: a~ 不隨轉 *Bodh-bh.* 379.

pravṛtta-pāniya 形 水の豊富な(井戸)。

pravṛtta-yajña 形 祭を始めた。

pra-vṛttavat 形 (不定) し始めた。

pravṛtta-vāc 形 雄弁な。

pravṛtta-saṃprahāra 形 鬭争を開始した。

pravṛtta-saṃprahāratva 中 [同上 圓].

pra-vṛtti 中 前方へ動くこと, 前進, 進歩; 出現, 顕現, 産出; 生起, 起源; (春等の)到来, 始まること; 活動, 効力, 機能; (形, 一) に進入すること, …の遂行, …に従事すること, 自己を(危険に)さらすこと, …を特に好むこと, …への傾向または惑溺; 所業, 従業; 振舞, 実行; 使用, 利用, 通用; (文法的規則の)適合性または効力; 継続, 普及, 持続する効力; 運, 運命; (圓, 一)の便り; 轉, 流転, 転生, 転作; 生, 起, 生起; 行, 入, 進, 増長; 成, 造, 作事, 舒用; 流布; 所住; 生死 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Cat-ś.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Sāṃkhy-k.* *Sūtr.*, *Suwik-pr.*: ~ś ca nivṛttiś ca 卷舒用 *Cat-ś.* 484.

pravṛtti-nivṛtti 女 流転還滅 *Divy.*

pravṛtti-nivṛttimat 形 活動と無活動とに関連する。

pravṛtti-pakṣa 男 流転分(法) *Bodh-bh.*

pra-vṛttimat 形 (ある事に)専念する。

pravṛtti-lakṣaṇa 中 轉相, 生起相 *Lank.*, *Madhy-vibh.*

pravṛtti-vijñāna 中 外界の事物に対する認識 (圓教); 轉識 *Lank.*, *Madhy-vibh.*

pravṛtti-śila 中 轉作戒 *Bodh-bh.*

pravṛtti-satya 中 流転諦, 生諦, 生(苦)実 *Bodh-bh.*

pra-vṛddha 過受分 → Vṛdh. 増, 増長, 生, 重 *Abh-vy.*, *Bodh-c.*, *Mvyut.*

pra-vṛddhi 女 生長, 増大, (価格の)高騰; 登用, 昇進, 向上; 繁榮; 増長, 増盛 *Daś-bh.*

pra-Vṛdh pravardhati(-te). → Vṛdh.

pra-vṛdh 女 生長。

pra-Vṛṣ pravṛṣati. → Vṛṣ.

pra-vṛṣṭa 過受分 → Vṛṣ.

pra-veka 形 (一) の中で選ばれた・主な・絶妙なまたは最も優秀な。

pra-vega 男 極めて迅速なこと; 急速。

pravegita 名動 過受分 速やかに動く。

pra-vejita 過受分 投げられた。

pra-veṇi 女 長く編んだ髪(とくに寡婦または夫不在中の婦人の結った); 染めた羊毛布 [鞍に代用される]; 妙衣服 *Saddh-p.*

pra-vetṛ 男 御者。

pra-vetṛ 男 (一) に精通した人, …の鑑識家。

pra-vedana 中 知らせること, 宣言すること。

pra-vedanā 女 覚 *Sūtr.*

pra-vedita 過受分 示, 所詔, 所証, 所行, 行処 *Daś-bh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*

pra-vedin 形 (一)をよく知った。
 pra-vedya 未受分 知らされるべき。
 pra-vedha 男 発射；[尺度の一種] [Pāli pabbedha] (Divy.).
 pra-vedhita 過受分 俗 [<pra-vyathita, Pāli pave-dhita] 遍起, 徧湧, 極涌, 極動 *Mvyut.*, *Sam-r.*
 pra-Vep, → Vip.
 pra-vepa 男 震動。
 pra-vepita 中 [同上].
 pra-vepin 形 震える。
 praveraya 名動 他 praverayati (業)の中に投げる。
 pra-verita 過受分 投げられた；[漢訳] 擲著 *Buddh-c.*
 pra-veśa 男 (際, 屬 土 antar, 一°) に入ること・滲透することまたは闖入すること；舞台に登場すること；家に入ること, (自己の)所有に帰すること [例 預り物が]；出過ぎたこと, 嚙を入れがちなこと；(際)に入ること=に入ること許されるべきこと, …に適當なこと；(一°)の使用または利用；入口, 戸；手段, 方法 (*Lal-v.*)；[漢訳] 入, 能入, 趣入, 垂入, 深入, 証入, 悟入, 入解, 入門, 赴, 進, 投, (遍)遊, (普)遊 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, 梵雜；門 *Daś-bh.*: agni~ 赴火 *Bodh-bh.* 262.; sarva-jñeya~ 悟入一切所知 *Bodh-bh.* 212. ~m Kṛ 入る。
 pra-veśaka 形 (一)に入る；[漢訳] 入 *Nyāy-pr.*
 男 幕合劇 [二幕の間に起ったことを説明しつつ次の幕の理解に必須な事柄を知らせる].
 pra-veśana 中 (圖, 際, 一°) に入ること, …に滲透すること；性交；(際)に導入すること；(家畜を)家へ驅ること；[漢訳] 入 *Bodh-bh.*, *Lank.*
 praveśa-bhāgika 男 租税の徴集者。
 pra-veśayitavya 未受分 導入されるべき。
 praveśa-sabhāgatā 女 [漢訳] 同趣入, 同入処, 深入共法 *Gaṇḍ-vy.*
 praveśānūsaranatā 女 [漢訳] 随順普入 *Gaṇḍ-vy.*: daśa-dik~ 随順普入十方(世界) *Gaṇḍ-vy.* 98.
 praveśāvatāra 男 [漢訳] 入, 趣入 *Daś-bh.*
 praveśāvasthā 女 [漢訳] 入位, 証入位 *Madhy-vibh.*
 pra-veśita 使役 過受分 導入された, 入らせられた, 入ることを許された；(眠りに)誘い込まれた；任命された, 敍せられた. 中 舞台に登場せしめること。
 pra-veśin 形 (一)に入る；(一°)を通してまたは越えて近づきやすい；(一°)と性交をする。
 pra-veśya 未受分 入れられるべき, 近づきやすい；奏せられるべき(楽器)；誘い込まれるべき, 導入されるべき。
 pra-veṣṭavya 未受分 入れられるべき；入るのを許されるべき；中 非入 (際)に入るべきである, …に滲透すべきである。
 pra-veṣṭita 過受分 (圖)に覆われた。
 pra-veṣṭu-kāma 形 [漢訳] 欲入 *Śikṣ.*
 pra-veṣṭṛ 男 入る者。
 pra-veṣṭṛtva 中 [同上 圖].
 pra-voḥṛ 男 誘拐者。
 pra-voḥṛ 男 因 [同上].

pra-vyakti 因 顕現, 出現。
 pra-Vyath pravvyathate(-ti). → Vyath.
 pra-vyathita 過受分 → Vyath.
 pra-Vyadh pravidhyati. → Vyadh.
 pra-vyādha 男 発射, 射程。
 pra-vyāharaṇa 中 発言, 説話の能力 (*Divy.*).
 pra-vyāhāra 男 論議の延長または継続；[漢訳] 言, 説, 演説；讚 *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.* ~m Kṛ (圖)に話しかける (*Kār-vy.*).
 pra-vy-ā-Hṛ pravvyāharati. → Hṛ.
 pra-vyāhṛta 過受分 話された, 予言された；[漢訳] 説, 詮表 *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*
 pra-Vraj pravrajati. → Vraj.
 pra-vrajana 中 他国に行くこと, 家を離れること, 移住；[漢訳] 出家, 度 *Abh-vy.*
 pra-vrajita 過受分 → Vraj. [漢訳] 出家, 出家(法), 出家已, 捨家；趣 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, 梵雜: svā-khyāte dharma-vinaye ~āḥ bhaviṣyanti (我)正法毗奈耶中出家 *Aṣṭ-pr.* 401. 男 出家者, 行乞者, 遊行者 [等四住期における婆羅門]；[漢訳] 出家, 出家者, 出家人 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*；沙門 *Saddh-p.* 227. 中 出家生活, 行乞生活, 遊行生活。
 pravrajita-pakṣa 男 [漢訳] 出家分 *Bodh-bh.*
 pra-vrajitā 因 尼僧。
 pra-vrajya 中 他国に行くこと, 移住, 出家すること；[漢訳] 出家 *Sūtr.*
 pra-vrajyā 因 出家すること, 行乞をすること；苦行期, 遊行(すなわち第4の)時期に入ること, [漢訳] 出家, 出家之法, 非家出家, 清淨出家, 出家学道；発意求仏；初度 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Kāśy.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*
 pravrajyāntarāya-sūtra 中 [漢訳] [経の名] 障礙出家経 *Śikṣ.*
 pravrajyā-vastu 中 [漢訳] 出家事, 初度之時分, 出家根由 *Mvyut.*
 pra-vraska 男 切ること。
 pra-vrāj 男 [困-t] 行乞者, 隠者。
 pra-vrāja 男 河床 (因)。
 pra-vrājaka 男 行乞者；[漢訳] 出家 *Bodh-c.*
 pravrajaka-stri 因 女行乞者。
 pra-vrājana 中 追放。
 pra-vrājikā 因 = pravrajaka-stri；[漢訳] 外道女 *Lank.*
 pra-vrājita 過受分 修行者となった (*Divy.*)；[漢訳] 出家, 出家人 *Lank.*
 pra-vrājīn 形 出て行く, (一°)に随って行く. → dvi ~i. 男 行乞者。
 pra-vlaya 男 沈むこと, 崩壊。
 pra-Vli pravlināti. → Vli.
 pra-vlina 過受分 → Vli.
 pra-Śaṃs praśaṃsati(-te). → Śaṃs.
 -pra-śaṃsaka 形 称讚する；[漢訳] 讚 *Bodh-bh.*
 pra-śaṃsana 中 称讚。
 pra-śaṃsaniya 未受分 称讚されるべき；[漢訳] 讚歎, 歎美 *Sam-r.*, *Siv-pr.*

pra-śamsā ㊦ 称讚, 讚辞, 喝采 [時として㊦]; 名声, 榮譽; ㊦ 讚, 最讚, 讚頌; 譽, 称譽, 大名称, 廣大名称 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Sam-r.*, *Sūtr.*
 praśamsā-kāma ㊦ 称讚を願う.
 praśamsā-nāman ㊦ 称讚の辞.
 praśamsālāpa (°sā-āl°) ㊦ 称讚, 喝采.
 praśamsā-vacana ㊦ ㊦ 称讚の語.
 praśamsāvali (°sā-āv°) ㊦ 讚頌.
 pra-śamsita ㊦ 受分 称讚された, 推賞された; ㊦ 所歎, 讚歎, 最讚, 称讚; 所供養 *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*
 -pra-śamsin ㊦ 称讚する, 称揚する.
 praśamsopamā (°sā-up°) ㊦ 称讚を寓する直喩(修辭).
 pra-śamstavya ㊦ 受分 称讚に値する.
 pra-śamsya ㊦ 受分 [同上], (㊦)より一層善い.
 pra-śak, → Śak.
 pra-śaṭha ㊦ (㊦ -ṭhā, -ṭhatā)? 意義不明. ㊦ (-ṭhatā) 降諸相 *Mvyut.*: (-śaṭha) ~ vāthitā 等流, 平等而流, 放捨, 放流相續 *Madhy-bh.* 52.
 pra-śat, → Śat.
 pra-śam praśāmyati. → Śam 2.
 pra-śama ㊦ 平静にすること, 鎮定, 慰撫; 沈着, 平静; 停止, 消(火), 輕減, (障害・苦痛等の)除去; 精神的平静, 静穩; [*Ānaka-duṇḍubhi* の息子の名]; ㊦ 寂, 寂靜, 寂消, 消寂, 寂滅, 滅, 滅除, 除滅, 銷除; 息, 息除; 捨 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.* 解脱果 *Divy.* 396.; 除差, 得差, 除愈, 救療, 瘳治 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*; 吐棄, 變吐 *Suv-pr.*: parama ~ 最勝寂滅, 第一寂滅 *Bodh-bh.* 212.; na ~ m Gam 不滅 *Saddh-p.* 408. → vyādhi ~.
 pra-śamaka ㊦ (一°)を静かにする, …を無害にする (*Kār-vy.*).
 praśamaṃ-kara ㊦ (㊦)を停止させる, 妨げる.
 pra-śamana ㊦ 静穩にする, 平静にする, 鎮める, 消す, 瘳す; ㊦ 除, 滅, 除滅, 息除, 息滅, 能滅 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*: para-duḥkha ~ 息除他苦 *Śikṣ.* 322.; roga ~ 除(諸)病苦, 除(一切)病 *Suv-pr.* 100. ㊦ 静穩にすること, 鎮定; 緩和, 輕減; 瘳すこと; 無害にすること; (財産の)確保; [魔術の武器の一種]; ㊦ 息, 善治, 療 *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
 pra-śamanatā ㊦ ㊦ 息滅, 休息 *Bodh-bh.*
 praśama-sthita ㊦ 静止の状態にある.
 praśamāyana ㊦ 静かに歩む; 平静を失わない.
 praśamārtha ㊦ ㊦ 寂靜義 *Madhy-vibh.*
 pra-śamita ㊦ 使役 ㊦ 受分 → Śam 2. ㊦ 滅 *Daś-bh.*
 praśamita-ripu ㊦ すべての敵を鎮定した.
 praśamitāri ㊦ [同上].
 pra-śami ㊦ [ある Apsaras の名].
 pra-śas ㊦ 斧, 小刀.
 pra-śasta ㊦ 受分 → Śams. ㊦ 讚, 讚嘆, 所歎, 所讚, 所称歎, 讚美, 称讚; 妙 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Mañj-m.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; 善祥, 吉祥 *Lal-v.*, *Mvyut.*

praśasta-kalaśa ㊦ [人名].
 pra-śastatva ㊦ 優秀.
 praśasta-mūlatva ㊦ ㊦ 吉祥樹根 *Sutr.*
 praśasta-vacana ㊦ ㊦ 称讚の語.
 pra-śastavya ㊦ 受分 称讚されるべき, 称讚に値する.
 pra-śastā ㊦ [河の名].
 pra-śasti ㊦ 讚歎, 称讚; 榮光; 指㊦; 指導; (國土平安の願望を述べる最後の)祝福(贊曲); (韻文で書いた)称揚の碑文.
 praśasti-kṛt ㊦ 称讚する, 賛成する.
 praśasti-paṭṭa ㊦ 勅書.
 pra-śasya ㊦ 受分 称讚に値する, 推賞されるべき, 優秀な; 祝福された; 幸福と称せられるべき; ㊦ 称讚 *Bodh-bh.*
 pra-śasyatā ㊦ 優秀.
 pra-śākhavat ㊦ 多くの枝をもつ.
 pra-śākhā ㊦ 枝; (身体の)末端; ㊦ 枝葉, 枝枝, 支節, 五支; 末; 形位 *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*; ㊦ 鉢羅奢法, 波羅捨法, 鉢羅除估叉 *Mvyut.*, ㊦.
 pra-śāhikā ㊦ 小枝, 細枝.
 pra-śātana ㊦ 折りとること.
 pra-śānta ㊦ 受分 → Śam 2. ㊦ 寂, 極寂, 勝寂, 寂靜, 辺寂靜, 最極寂靜, 至極寂靜, 寂滅, 寂定, 寂然; 銷滅, 除滅, 滅尽, 尽; 息, 休息; 靜默; 極柔善 *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy.* I.
 pra-śāntaka ㊦ (心が)平穩な.
 praśānta-kāma ㊦ 欲望の鎮まった, 満足した.
 praśānta-cāritra-mati ㊦ ㊦ [菩薩の名]寂意行 *Lal-v.*
 praśānta-citta ㊦ 心の平穩な, 落ち着いた.
 praśānta-ceṣṭatā ㊦ (行動が停止した状態)心の平穩なこと.
 pra-śāntatā ㊦ 平静, 沈着.
 praśānta-dhī ㊦ =praśānta-citta.
 praśānta-rātri ㊦ ㊦ 未映之時 *Mvyut.*
 praśānta-viniścaya-prātihārya-nirdeśa ㊦ ㊦ [経名]寂靜決定神變説, 指示極柔善決定顯化經, (寂靜神變三摩帝經) *Mvyut.*
 praśānta-viniścaya-prātihārya-sūtra ㊦ ㊦ 寂靜決定神變經, 決定寂靜神變經 *Śikṣ.*
 praśānta-vinīteśvara (°ta-iś°) ㊦ [ある神聖な者の名] (*Lal-v.*).
 praśāntātman (°ta-āt°) ㊦ =praśānta-citta.
 pra-śānti ㊦ 鎮靜, 慰撫, 緩和; 寂靜, 平穩; 減少, 休止; (火の)消えること, 滅亡; 心の平静, 冷靜, 沈着; ㊦ 寂靜 *Śikṣ.*
 praśānti-dūti ㊦ 老齡.
 praśāntendriya (°ta-in°) ㊦ ㊦ 諸根成寂定, 諸寂靜 *Bodh-bh.*, *Divy.*
 praśānteryā-patha (°ta-ir°) ㊦ ㊦ 威儀寂靜, 威儀序 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*
 praśānteryāpatha-saṃpanna ㊦ ㊦ 威儀寂靜, 具行道, 行用具足來善 *Mvyut.*
 pra-śām ㊦ (㊦-ṇ) 苦痛のない.

pra-Śās praśāsti. → Śās.

pra-śāsaka 男 精神上の指導者.

pra-śāsana 甲 指導, 統治, 支配.

pra-śāsita 過受分 治められた, 支配された.

pra-śāsitr 男 支配者, 主人, 最高の支配者, 独裁者.

pra-śāstr 男 精神上の指導者; [Hotr 祭官の補助者たる祭官の称(また Maitrāvaruṇa と呼ばれる)]; 報事者 *Mvyut*.

pra-śāstra 甲 Praśāstr 祭官の職または彼に属する Soma の容器.

pra-śāsya 1. 不変分 支配して, 命令して.

pra-śāsya 2. 未受分 (属) によって命令されるべき.

pra-śīthila 形 非常に緩い・締りのないまたは弛緩した; 非常に微弱な, 辛うじて認知できる.

praśīthili-Kṛ, 非常に緩くする.

praśīthili-kṛta 形 非常に緩められた.

praśīthili-BHū, 非常に緩くなる.

pra-śiṣṭa 過受分 → Śās.

pra-śiṣṭi 因 命令, 指令.

pra-śiṣya 男 孫弟子; 徒孫 *Mvyut*.

pra-śiṣyatva 甲 [同上 翻].

pra-śis 因 命令, 規定.

pra-śirṇa 過受分 破砕された.

pra-Śuc praśocate. → Śuc.

pra-śuci 形 全く純潔な.

pra-śuddhi 因 清澄, 純粹.

pra-śubdha 過受分 威耀 *Lal-v.*

pra-Śubh, → Śubh 1,2.

pra-Śumbh, → Śubh 1.

pra-śuśruka 男 [*Maru* の息子である王侯の名].

pra-Śī praśṛṇāti. → Śī.

pra-śoṣa 男 乾燥.

pra-śoṣita 使役 過受分 竭, 使空竭 *Lal-v.*

pra-Ścut praścotati (praścyotati). → Ścut.

pra-ścotana 甲 滴り落ちること, 撒布すること.

praśna 1. 男 質問; 問い合せ [占星等についても]; 法律上の取調べまたは調査; (一°) について尋ねること; 論議の題目, 論点, 問題; (*Veda* 学習における) 課業; (書物の) 節または段; 問, 所問, 問難, 難問, 諮問; 楽聞 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v., Lank., Rāṣṭr., Saddh-p.*; 疑 *Sūtr.*; 事 *Divy.*: sarva ~ pra-prcchanatā 善能諮問一切深義, 楽聞一切甚深梵義 *Rāṣṭr. 8.* → a ~, catur-vidha-pada ~. ~ m I 問題を (属) の裁決に委ねる. ~ m ā-Gam [同上 (但し属の代りに 於)]. ~ m Prach 興問難 *Bodh-bh.*: ~ m praśṭah 有問難 *Saddh-p. 343.* ~ m pari-Prach 起(諸)問難 *Śikṣ.*

praśna 2. 男 かご細工, 編み籠.

praśna-kathā 因 疑問(を含む)物語.

praśna-nirṇaya 男 問, 評定 *Mvyut*.

praśna-pūrvakam 副 疑問を先として, 試験の後に.

praśna-pūrvam 副 [同上].

praśna-prṣṭa 男 於彼問難 *Bodh-bh.*

praśnaya 名動 他 praśnayati (属) を (属) に問う, 質問する; 問い合わす; 問 *Abh-vy.*

pari- paripraśnayati 問難, 諮問, 請問 *Aṣṭ-*

pr., Śikṣ.

praśna-vivāda 男 論議, 論点.

praśna-vyākaraṇa 甲 記問 *Mvyut*.

praśna-saṃsādana 甲 随事故問彼作異思 *Bodh-bh.*: ~ enānādeya-vacanam kartu-kāmān 問事不答, 随事故問彼作異思拒而不答 *Bodh-bh. 151.*

praśni, → praśni.

praśnin 男 疑う人, 質問する者.

praśnottara (°na-ut°) 甲 問答; 問答体からなる詩節;

praśnodadhi (°na-ud°) 男 問難海, 大問海 *Gaṇḍ-vy.*

praśnodāhāra (°na-ud°) 形 能問, 能発起問 *Gaṇḍ-vy.*

praśnopaniṣad (°na-up°) 因 [六問六答からなる *Upa-niṣad* の題名].

pra-śrabdha 過受分 [*Pali passaddha*] 鎮まった, 平靜な (*Divy.*); 止息 *Sūvik-pr.*

pra-śrabdhi 因 信頼, 信任 (*Lal-v.*); 安, 軽安 *Abh-k., Abh-vy., Sūtr., Vijñ-t.*; 猗 *Sūtr.*

praśrabdhi-saṃbodhy-aṅga 甲 (音写) 軽安菩提分 *Dharm-s.*

pra-śraya 男 支持, 休息所; (前方へ傾くこと), 尊敬を表わす挙動, 恭順の意を表わすこと, 慇懃, 謙遜.

pra-śrayaṇa 甲 尊敬を表わす挙動, 謙遜.

pra-śrayavat 形 恭順の意を表わす; 虔心 *Buddh-c.*

praśrayāvanata 形 恭しく身を届した.

pra-śrayitā 因 恭しいこと.

pra-śrayin 形 = pra-śrayavat.

praśrayottara (°ya-ut°) 形 謙遜に満ちた(語).

pra-śravaṇa 甲 = pra-sravaṇa; 流, 細流 *Śikṣ.*

pra-Śri praśrayati. → Śri.

pra-śrita 過受分 恭しく身を届した; 謙遜した, 謙讓の, 礼儀正しい; 隠された, 不明瞭な; 遜順 *Buddh-c.* ~ m 謙遜して, 恭しく. 男 [*Ānakadu-ndubhi* の息子の名].

pra-Śru, → Śru 1,2.

pra-ślatha 形 非常に緩い.

pra-ślita 過受分 [= pra-śrita] 有声音の前の as を o に変ずる(連声).

pra-śliṣṭa 過受分 二音の結合によって生じた [連声法において母韻 a または ā が次に来る母音と結合し, また他の母韻が同種のものとは結合すること, 例: e < a+i, o < ā+u]; 結合の結果できた母音またはその母音のアクセント(文法).

pra-śleṣa 男 緊密な接触または圧迫; (母音の)結合.

pra-Śvas praśvasiti, praśvāsayat (使役). → Śvas.

pra-śvasitavya 未受分 甲 非人 (属) によって (属) を回復または蘇生させるべきである.

pra-śvāsa 男 吸入; 入息 *Śikṣ.*; 出息 *Abh-vy., Lal-v., Madhy-v.*

praṣṭavya 未受分 [*Prach*] (属 ± prati) に関して尋ねられるべき, 質問または試問されるべき; (於) について尋ねられるべき; …について相談されるべき; 応問, 当問, 所問, 宜請問 *Aṣṭ-pr., Prāt-m.*

【非人】尋ねるべきである。

pra-ṣṭi 圓くびきをつけた(数頭の)馬のわきまたはの前で引き具をつけた馬。わき馬または先導馬；傍観者；(皿を載せる)三脚架。

pra-ṣṭimat 圓 わき馬をもつ。

praṣṭi-vāhin 圓 三頭の馬を繋いだ(車)。

praṣṭr 圓 尋ねるまたは問うもの、質問者、尋問者。

pra-ṣṭha 圓 (因 -i) 前に立つまたは行く；(一°)の中で主な、最前の、最も勝れた、最善の；【漢訳】勝、尊 *Mvyut.*、圓 名目上の首領、指導者。

pra-ṣṭhatva 圓 技群なこと。

pra-sakala 圓 非常に豊満な(胸部)。

pra-sakta 過受分 → Sañj. 【漢訳】著、樂著；有 *Buddh-c.*、*Madhy-v.*、*Lal-v.*。〇— ~m 圓 絶えず。

pra-saktavya 未受分 (因) に付着させられるべき。

prasaktâśru-mukha 圓 (因 -i) 涙に濡れた顔をした。

pra-sakti 因 …に対する愛着・献身または惑溺、(因)に耽溺または没頭すること；(事件の)発生；関連；适当性、実際的なこと；【漢訳】樂著 *Boddh-c.*。~m pra-Yā 実行される。

pra-saṅktavya 未受分 起こらしめられるべき。

pra-saṅkhyā 因 総計；考慮。

pra-saṅkhyāna 圓 支払い、清算、金額。圓 列举；反省、冥想；名声、世評。

pra-saṅga 圓 執着、癖性；…に対する愛好または惑溺；(因、圓、一°)に耽溺すること；満足、(圓)に満足すること；(一°)と親交または交際すること；悪癖、不法な追求；适当性；偶発の事件；機会、時機；結合 [圓 あることに関連した全てまたはあることから生ずる全て]；【漢訳】和合；相関、相応、応是、応如此、応在、応有、容有 *Abh-vy.*、*Boddh-c.*、*Mvyut.*；過、失、過失、応成失、成反質難 *Abh-vy.*、*Lank.*、*Madhy-v.*、*Mvyut.*；起品、超品 *Mvyut.*：ānusaṅgikah ~h 傍論、随所欲説相関 *Abh-vy.* 90。圓 ~ena 孜孜として、精神こめて；(一°)の経過中に；【漢訳】有過故、有失故 *Lank.*。圓、因、〇— ~tas 圓 時々、たまたま。amunā~ena その機会に。tat ~ena [同上]。~enāgata 【漢訳】由…所引来、因…乘茲 *Abh-vy.*：dhātu-prabheda~enāgatānām 因分別界(根非根)差別乘茲、由分別界差別義所引来 *Abh-vy.* 123。~e kutrāpi ある機会において。etat ~e この機会に。

pra-saṅgatva 圓 【漢訳】過 *Lank.*

prasāṅga-proṣita 圓 (°ra-uṣ°) たまたま不在である。

pra-saṅgavat 圓 時々の、偶然の。

prasāṅga-vinivṛtti 因 偶発事件が再発しないこと、再発を予防すること。

pra-saṅgitā 因 (一°)への執着、…への熱中。

pra-saṅgin 圓 (一°)に執着または献身した；…に結合した；偶発する；第二義的の、本質的でない。

pra-saṅgha 圓 多数、無数。

pra-sajya 未受分 適用される；【漢訳】無(?) *Mvyut.*

pra-sajyatā 因 [同上 圓]。

prasajya-pratiṣedha 圓 適用される(すなわち肯定的)陳述の否定形；【漢訳】是遮、無滅、無而滅者 *Mvyut.*

prasajya-pratiṣedhatva 圓 [同上 圓]。

pra-Sañj prasajati(-te)。→ Sañj.

prasāṭhatva 圓 【漢訳】運、生界(?) *Madhy-bh.*：~ālabhana 等運所縁、生境界 *Madhy-bh.* 74。→ pra-śaṭha。

pra-saṭhālabhana(°ṭha-āl°)圓 【漢訳】等運所縁 *Madhy-vibh.* 254。→ praśaṭha。

pra-satta 過受分 → Sad。

pra-satti 因 仁慈であること；思龍、満足。

pra-Sad prasidati(-te)。→ Sad。

pra-saṃ-DHā、→ DHā。

pra-saṃdhāna 圓 結合、合同。

pra-sanna 過受分 → Sad。【漢訳】浄、清浄、善浄、純浄、明浄、澄浄(無穢)；浄信、浄信者、已浄信者、清浄信；歡喜、欣樂、喜明；安、安靜 *Abh-vy.*、*Boddh-bh.*、*Buddh-c.*、*Divy.*、*Gaṇḍ-vy.*、*Lal-v.*、*Mvyut.*、*Saddh-p.*、*Śikṣ.*、*Sūtr.*、*Sūv-pr.*

prasanna-kalpa 圓 ほとんど平穏な；かなり穏かな。

prasanna-citta 圓 【漢訳】浄心、清浄心、明浄心、心(必)清浄、至心清浄、清浄信心、專注心無乱；起於善心、起善心、歡喜心、發喜心已、欣然心中開解 *Ast-pr.*、*Gaṇḍ-vy.*、*Lal-v.*、*Saddh-p.*、*Śikṣ.*、*Sūv-pr.*

圓 【漢訳】清浄心、一念清浄、善浄心；喜心、歡喜 *Lal-v.*、*Saddh-p.*、*Sam-r.*、*Sūtr.*

prasanna-jala 圓 清水を容れた。

prasanna-tarka 圓 正しく推測した。

pra-sannatā 因 清澄、清浄；輝き；明白；満足、上機嫌。

pra-sannatva 圓 清澄、輝き。

prasanna-padā 圓 因 [月称 (*Candrakīrti*) 造中論疏すなわち *Madhyamika-vṛtti* の名]。

prasanna-pāniya 圓 【漢訳】清水 梵雜。

prasanna-prāya 圓 むしろ明瞭なまたは正しい。

prasanna-manas 圓 【漢訳】慈心 *Śikṣ.*

prasanna-mānasa 圓 心の平靜な。

prasanna-mukha 圓 顔容温和な、満足したような顔付の、ほほえんだ。

prasanna-salila 圓 = prasanna-jala。

prasannātman (°na-āt°) 圓 心やさしい、親切な。

prasabha、〇— ~m、~ena 圓 強いて；烈しく、暴に；非常に、きわめて；執拗に；【漢訳】[~m] 力或去、或現西 (!) *Mvyut.*

prasabha-damana 圓 強いて服従させること。

prasabhodhṛtāri (°bha-ud°) 圓 暴力をもって敵根絶させた。

pra-sama 圓 [=pra-śama] 【漢訳】滅、止息 *Lal-v.*

pra-sam-īkṣ prasamikṣate。→ īkṣ。

pra-samikṣita 過受分 見られた、注目された、考された；宣言された。

pra-samikṣya 不変分 考慮して。

pra-sara 圓 前進；流布、拡大、延長；範圍；(煙)出ること；(他の制限を受けない)自由な範圍、十な余地；(眼の)動き；出現、顕現；優勢、勢力；れ、洪水；多数、多量；【漢訳】流散、流布、遍；満；無辺、広大；行 *Daś-bh.*、*Gaṇḍ-vy.*、*Raṣ* 実大力用 *Lank.*；処 *Daś-bh.*：cittasya ~o na c yaḥ 制御其心不令流散 *Boddh-bh.* 366.；vālāgra。

毛端之処 *Daś-bh.* 164. → *kṣetra* ~.

pra-saraṇa ㊦ 進むこと, 流れること; 走り去ること, 逃れること; 通用すること; いんぎん, 温和; 漢訳 行; 走, 奔馳 *Abh-vy.*

prasara-yuta ㊦ 広い(森).

pra-sarita 過受分 漢訳 分(!), 広, 遍満 *Mvyut.*

pra-sarga ㊦ 迸り出ること, 奔流, ; 解放.

pra-sarpa ㊦ 祭官が *Sadas* と呼ばれる祭場の部分に行列して赴くこと.

pra-sarpaṇa ㊦ 前方に行くこと, 前進すること; (歴) に赴くこと. = *prasarpa*. 漢訳 増, 長, 引長, 流引 *Abh-bh., Mvyut.*

pra-sarpita 使役 過受分 → *Srp.*

pra-sarpin ㊦ (一°) から出る; こそこそ逃げ去る; *sadas* へ赴く.

pra-sava 1. ㊦ [Su 1.] *Soma* の圧搾.

pra-sava 2. [Sū 1.] 動かすこと, 衝動; 進路, 流れ; 元気づかせる力, 刺激, 激励, 促進; 助力; 命令; 獲得; 活力を与えるもの; 漢訳 引 *Sūtr.*

pra-sava 3. ㊦ [Sū 2.] 産出すること, 生殖; 妊娠; 出産すること, 生むこと; 誕生, 起源; 分娩, 産褥にあること; 増加; 出生地; 花; (圍, 覆) 子孫, 後裔 [一°. 時として = 若い...]; 漢訳 生, 生長, 産, 有処 *Abh-vy., Av-ś., Divy., Sūtr.*; *prabāla-puṣpa* ~e 有宝花処 *Divy.* 406. ~ṃ *Dā* 漢訳 滋茂 *Saddh-p.*

prasava-karma-kṛt ㊦ 子をもうける行為をするもの, 生ませる人, 父親.

prasava-gṛha ㊦ 産室.

prasava-dharman ㊦ 産出する能力をもつ (*Buddh-c.*).

prasava-dharmin ㊦ [同上]. 漢訳 能生 *Sāṃkhy-k.*

pra-savana ㊦ 産出すること, 子を産むこと; 多産.

prasava-mālā ㊦ 花環.

prasava-rajās ㊦ 花粉.

prasava-vedanā ㊦ 陣痛, 産みの苦しみ.

prasavānukrama ㊦ 生み出された秩序.

pra-savitṛ 1. ㊦ [Sū 1.] (圍) の推進者・激励者または活力を与える者.

pra-savitṛ 2. ㊦ [Sū 2.] 生殖者, 父.

pra-savitri ㊦ 母; 子孫をもたらす者.

pra-savin ㊦ 産む, 産出する.

prasavonmukha (°va-un°) ㊦ (女-i) 子を待ち望んでいる, まさに出産しようとする.

pra-savya ㊦ (あるものの周囲を廻る場合) 左側を…の方向に向ける: ~ṃ *Kṛ* 右方から左方に向って廻る. ~ṃ 圍左方に [pradakṣiṇam の 廻].

pra-Sah prasahate(-ti). → *Sah.*

pra-sah ㊦ [強 翰 -sah] 克服する.

pra-saha ㊦ (一°) に耐えるまたは抵抗する. ㊦ 忍耐, 抵抗 [一°]; 肉食の獣または鳥; 漢訳 忍 *Mañj-m.*

pra-sahana ㊦ 抵抗; 克服; 抱擁.

pra-sahya 1. 不変分 → *Sah.* 漢訳 頭頭 *Bodh-bh.*; *prasahya prasahya* 頭頭訶讚 *Bodh-bh.* 404. → a~.

pra-sahya 2. 未受分 征服されるべき, 打ち克たれる

べき; [不定 とともに] されることの可能な.

prasahya-kārin ㊦ 乱暴に振舞う.

prasahya-haraṇa ㊦ 強制的に誘拐すること, 掠奪, 盗用.

pra-Sā, → *Sā* 2.

prasāda 1. 名動 ㊦ *prasādati* 輝く; (圍) の恩恵を与える (*Divy.*).

pra-sāda 2. ㊦ (水または声の) 清澄であること; 輝かしいこと; (言語または文体の) 明瞭; (顔容の) 光輝; (心の) 平静, 晴朗; 愉快, 上機嫌; 親切, 仁慈, 恩顧; 助力, 援助; 恵み深い施物; 偶像に捧げられた食物; 師匠の食の残余 [ためらわず食べてよいものとする]; 漢訳 浄, 清浄, 澄浄, 澄清浄; 浄心, 清浄心, 殷浄心, 心清浄, 信, 信心, 浄信, 実信, 帰信, 敬信, 正信, 敬信, 深信, 篤信, 清浄信, 妙浄信心, 信樂, 信受, 信敬心, 清浄信樂, 珍重心; 善心; 心念; 淳 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lal-v., Mvyut., Sam-r., Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr., Suv-pr., Vajr-pr.*; 欣, 喜, 歡喜, 妙喜, 歡喜心, 喜愛之心 *Bodh-bh., Divy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Sukh-vy. I.*; 威力 (?) *Divy.* 451.; 恩, 撫 梵千.; *cetasah* ~h 心喜 *Mvyut.*

→ a~, *avetya*~, *citta*~. ~ṃ *Kṛ* (一°) 慈悲深くする, 恩恵を示す; (不定, 一°) の恵みを与える.

pra-sādaka ㊦ 清澄にする, 透明にする; 元気づける, 喜ばせる.

prasāda-kari ㊦ 漢訳 嚴浄 *Śikṣ.*

prasāda-citta ㊦ 漢訳 清浄心 *Śikṣ.*

pra-sādana ㊦ (女-i) 明らかにする, 清くする; 心を清澄にさせる; 漢訳 浄, 能清, 澄清; 浄信; 生歡喜 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*; *āvilāmbu* ~ 能清諸濁水, 澄清諸濁水 *Gaṇḍ-vy.* 27. ㊦ 明らかにすること, 清澄化; 和らげること, 静穏にすること, 平静にすること; 元気づけること; 喜ばせること; なだめること; 漢訳 清浄, 能清浄; 善和諍訟 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy.*

pra-sādaniya 未受分 なだめられるべき; 爽快にするのに役だつ, 心地よい (*Lal-v.*). → *guru*~.

prasāda-pada-sthāna ㊦ 漢訳 信依処, 浄信住処 *Bodh-bh.*

prasāda-parāṇmukha ㊦ (女-i) (誰の) 恩顧に対しても無関心な; (圍) からその恩恵を取り去る.

prasāda-pātra ㊦ 寵愛の対象.

prasāda-pratilabdha ㊦ 漢訳 有信, 得信 *Lal-v.*

prasāda-bahula ㊦ 漢訳 淳厚 *Bodh-bh.*

prasāda-bhūmi ㊦ 寵愛の対象, 寵愛される者.

prasāda-manasikāra ㊦ 漢訳 浄信作意 *Sūtr.*

pra-sādayitavya 未受分 (*upari*) に対して恵み深くされるべき.

prasāda-labdha ㊦ 贈物として受けとられた.

pra-sādat ㊦ 喜ばしい事 (= *prasanna*); 漢訳 能信, 浄信, 篤信, 清浄 *Daś-bh., Laṅk.*

prasādati-samādhi ㊦ 漢訳 (音写) 清浄三昧, 善心浄三昧 *Saddh-p.*

prasāda-vitta ㊦ の恩恵に富む, (圍, 一°) に深く寵

愛される。男 寵愛される者。
 prasāda-vittaka 形 男 [同上]。
 prasāda-sabhāgatā 女 漢訳 同浄信, 浄信共法 *Gaṇḍ-vy.*
 prasāda-sumukha 男 (文 -i) (顔容温和である)他を寵愛する傾向のある。
 prasādāntara 男 恩恵の別のしるし。
 pra-sādika 形 漢訳 心行調柔 *Sam-r.* → a~。
 pra-sādita 使役 過受分 [Sad] 喜ばされた, なだめられた, 十分満足させられた; 漢訳 清 *Sūtr.*
 pra-sādin 形 輝かしい(眼, 顔); 澄んだ(甘露); 明瞭な; 元気づける, 喜ばせる。
 prasādi-Kṛ, (圖) に恩恵として (圖) を与える, 恵み深く贈る。
 pra-sādyā 1. 使役 不変分 慰撫して, 喜ばせて, なだめて。
 pra-sādyā 2. 未受分 なだめられるべき; 漢訳 浄信 *Śikṣ.*
 pra-Sādh prasādhayati (使役) → Sādh.
 pra-sādhaka 形 (女 -ikā) 飾る; 漢訳 建立, 成立 *Lank.* 男 着付けをする人, 装飾者, (貴人の衣類を世話する)従者。
 pra-sādhana 形 完成する; 漢訳 成就 *Guhy-s.* 男 完成; 整理, 排列; 装飾, 身を飾ること, 化粧; 装飾の方法, 化粧の要具; (一)の装飾; 漢訳 成就, 成立 *Bodh-bh., Guhy-s., Sūtr.*
 prasādhana-vidhi 男 装飾または飾りの様式。
 prasādhana-viśeṣa 男 最高の装飾, 最も優れた装飾。
 pra-sādhani 女 櫛。
 pra-sādhikā 女 貴婦人の侍女。
 pra-sādhita 過受分 完成された; 装飾された; 漢訳 成, 所建立 *Bodh-bh., Lank.*
 pra-sādhi-vārika 男 漢訳 治造者 *Mvyut.*
 pra-sādhya 未受分 征服または支配されるべき。
 pra-sānta 過受分 [=pra-śānta] 漢訳 寂靜 *Lal-v.*
 pra-sāra 男 拡げること, 伸張すること, 延長; 上昇, (塵の)舞い上ること; 開くこと; 漢訳 展, 舒, 店 *Mvyut., 梵千.; 流散 Bodh-bh.*
 pra-sāraṇa 男 伸張すること, 延長すること; 発展; 拡張, 流布, 増加; 半母音の母音化(文法); 漢訳 伸, 伸業, 展 *Bodh-bh., Mvyut., Vaiś-s.*
 pra-sāraṇin 形 母音化され得る半母音を含む(文法)。
 pra-sārīta 使役 過受分 [Sṛ] 延長された, 拡大された, 流布された; (売りに)差し出された; 漢訳 伸; 開, 開敷; 流出; 入, 深入 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Mvyut., Śikṣ.*
 prasārīta-cakṣus 形 漢訳 普観 *Gaṇḍ-vy.*
 pra-sārin 形 (一)より現れ出る, …より送り出る; 拡がる; (一)に及ぶまたは達する。
 pra-sārya 1. 使役 不変分 延長して, 差出して。
 pra-sārya 2. 未受分 母音化されるべき(半母音)。
 pra-Si, → Si 1,2.
 pra-sikta 過受分 → Sic.
 pra-Sic prasiṅcati. → Sic.
 pra-sita 1. 過受分 → Sā 2.
 pra-sita 2. 過受分 → Si 1,2.

pra-siti 女 (因) (火の)突進; 攻撃; 発射, 飛道具; 延長, 範囲; 持続; 主権, 勢力。
 pra-siddha 過受分 → Sidh 2. 漢訳 成, 極成, 成就, 最成就, 所成立, 建立; 正; 最称讃; 許; 宗説 *Adh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Lank., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Nyāy-pr.*; 有, 皆有 *Lank.*
 pra-siddhaka 男 [王侯の名]。
 prasiddha-tattva 男 漢訳 極成真実, 成就真実 *Madhy-vibh.*
 pra-siddhatā 女 あまねく知られたこと。
 pra-siddhatva 男 [同上]。
 prasiddha-sambandha 男 漢訳 相符極成 *Nyāy-pr.*
 pra-siddhi 女 完成, 成功; 論証; 通説, 一般に承認されること; 公然たること, あまねく知られたこと; 名声, 高名; 漢訳 勝 *Lal-v.*; 成, 成弁, 所成立, 宗 *Bodh-bh., Lank., Madhy-v.* ~m utpādyā 評判を拡めて, ato me śāśaṅka iti ~h それだから私は一般に Śāśaṅka として知られる。
 pra-siddhimat 男 一般に知られた, 有名な。
 pra-Sidh prasidhyati. → Sidh 2.
 pra-Su prasavati (3.), prasauti (3.), → Su 1,3.
 pra-suta 過受分 → Su 1. 男 数ヵ月間にわたって Soma を搾ること, 男 漢訳 [数の名] 正 *Mvyut.* 音写 鉢羅婁多 *Mvyut.*
 pra-sup 形 仮睡する。
 pra-supta 過受分 → Svap. 漢訳 睡, 眠, 昏睡 *Abh-vy., Lal-v.;* nidrayā~ 昏熟 *Vijñ-v. 9.*
 pra-suptatā 女 睡いこと。
 pra-supti 女 [同上]。
 pra-suhma 男 種 [ある民族の名]。
 pra-Sū prasuvati (1.), prasauti (1.), prasūte (2.) prasūyate (2.). → Sū 1,2.
 pra-sū 形 産む, 生む; よく実を結ぶ, 多産の, 豊饒な; (一)を生産または給与する, 女 母; 芽; 花のついた祭式用の草。
 prasūcaya 名動 他 prasūcayati 指示する, 明示する
 pra-sūta 1. 過受分 生まれた, 生じた. → Sū 2. 漢訳 生, 所生; 現; 出, 得出現; 獲 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh. Daś-bh., Divy., Lank., Mvyut.* → a~. 男 最初の精神または物質(音). 男 漢訳 子 *Lal-v.;* rājakula~ 太子 *Lal-v. 266.*
 prasūta-janman 形 漢訳 現生, 現於生 *Lank.*
 pra-sūtā 女 出産した女, 最近出産した女。
 pra-sūti 1. 女 [Sū 1.] 教唆, 命令; 許可。
 pra-sūti 2. 女 [Sū 2.] 生産すること, 分娩; (卵を)産み落とすこと; 生誕; 出現, (果実・花等の)生産; 産者; 子, 子孫, 後裔; 生産物; 漢訳 生, 能生 *Bodh-bh., Buddh-c.*
 pra-sūtikā 形 女 最近産褥についた; 近く仔を産んだ。
 pra-sūna 過受分 [Sū]. 男 開花, 花。
 prasūna-bāṇa 男 [(花の)箭をもつもの], Kāma 神[称]。
 prasūna-mālā 女 花環, 花鬘。
 prasūna-varṣa 男 花の驟雨。
 prasūna-stabaka 男 花束。

prasūnāsuga (°na-ās°) 男 = prasūna-bāṇa.
 pra-sūyat 現分 (因 -anti) 産まれる。
 pra-Sṛ prasisarti, prasarati(-te). → Sṛ.
 pra-Sṛj prasṛjati. → Sṛj.
 pra-sṛta 過受分 → Sṛ. 生, 所生, 從…生, 起; 造, 履; 所流, 馳散; 随順; 流布, 通暢, 徧, 遍, 普, 周徧, 充滿; 具足 *Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sapt-pr., Vajr-pr.:* dig-āloka ~ jñāna 智慧光明充滿十方, 智慧光照充滿十方, 明淨智慧普照十方 *Gaṇḍ-vy. 99.* 男 さしのべてくぼみを作った掌; 一握りの量 [2 pala に等しい]; 團 *Bodh-bh.* → saktu~.
 prasṛta-ja 男 息子の一種 (姦通によって生まれた男児).
 prasṛtā 因 随捨(声) *Sutr.*
 prasṛtāgra-pradāyin 形 成長したもののの中の最上のものを他に提供する。
 prasṛtāgra-bhuj 形 成長したもののの中の最上のものを食する。
 pra-sṛti 因 流れ; 順調な進展; 流布; = pra-sṛta(男).
 prasṛti-yāvaka 男 一握りの大麦(より多くない)粥を食すること。
 pra-Sṛp prasarpati. → Sṛp.
 pra-sṛpta 過受分 扱げられた, 流布された。
 pra-sṛmara 形 湧出する, したたり落ちる; (圓) の先頭に立って行く, …の頭にある。
 pra-sṛṣṭa 過受分 → Sṛj.
 pra-sṛṣṭā 因 擲 [戦闘中における特殊の動き].
 pra-seka 男 进出; 唾液の分泌, 嘔気; 滲出, 樹脂; (柄杓の)口。
 pra-sekin 形 液を出す.; (過度の)流涎症を患う。
 pra-sena 男 [諸侯の名]. 因 明頭 *Mvyut.*
 prasena-jit 男 [諸王侯の名]; 勝軍, 勝光, 勝光王 *Aṣṭ-pr., Divy., Mvyut.;* 音写 波斯匿 *Av-ś., Divy., Mvyut.*
 pra-seva 男 [同下] 因 (?) 袋, 帛 梵千., 梵雜。
 pra-sevaka 男 袋, 囊; (琵琶の頸部にある)振動抑止の装置。
 pra-sotr 形 [Sū] 生(者) *Bodh-bh.*
 pra-skaṇva 男 [Veda の聖仙の名]; 因 *Praskaṇva* の後裔。
 pra-Skand praskandati. → Skand.
 pra-skanda 男 根(の一種)。
 pra-skandana 形 前方へ跳ぶ, 攻撃する, [*Śiva* 神の称]; 下痢に苦しむ. 因 (一°) を跳び越えること; 下劑。
 pra-skandita 過受分 深著, 未捨 *Kaśy.*
 pra-skandin 形 (一°) に跳び入る; 挑戦的な, 厚顔な (*Jāt-m.*); 鎮圧, 跳躑 *Mvyut.;* 音写 鉢羅塞建提 *Abh-vy., Mvyut.*
 praskandi-bala 因 鎮圧力, 跳躑力 *Mvyut.;* (音写) 鉢羅塞建提力 *Mvyut.*
 pra-skandha 形 [= pra-skanda] 入, 極入, 行, 沈 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.:* dṛṣṭi-gahana-kāntāra ~ 入諸邪見, 入諸邪(網)悪見稠林 *Gaṇḍ-vy. 321.*
 pra-skanna 過受分 → Skand. 随, 随遂, 沈

Daś-bh., Mvyut.
 pra-skunda 男 支柱または [註釈者に従えば] 円い祭壇。
 pra-Skhal praskhalati. → Skhal.
 pra-skhalat 現分 よろめく, よちよち歩く。
 pra-skhalana 因 つまづくこと, よろめくこと; 蹶, 跌 *Abh-vy.*
 pra-skhalita 過受分 → Skhal.
 pra-stabdha 過受分 [Stambh] 固い, 硬い。
 pra-stambha 男 固くなること。
 pra-stara 男 (撒布されたもの), 藁の臥床, 草または葉の床, 敷藁; (一°) の臥床; 祭壇に置く一握りの吉祥草; 平面, 敷石, 台地; 平野, 高原; 石, 岩石; 章, 節; 放 *Lank.;* 石 *Lank. 一°* 形 平 *Saddh-p.*
 prastara-ghaṭanopakaraṇa (°na-up°) 因 石割り用具。
 pra-staraṇa 因 臥床, 座席。
 pra-stava 男 讚歌; 時間 *Mvyut.*
 pra-stāra 男 撒布, 流布; 豊富; 敷藁, 藁床; 臥床; 層; (水辺に導く)階段; 平面; (ある韻律における音節のあらゆる可能な)組合せ表。
 prastāra-paṅkti 因 韻律の一種 (12+12+8+8 音節)。
 pra-stārin 形 扱がった, …に及んだ。
 pra-stāva 男 予備的な記載, 前置き, 暗示, 話題の提示または紹介; 会話の題目, 話題; 機会, 季節, 時機; 始, 開始; 序言; Prastotr 祭官の歌う *Sāman* の部分; 時 *Śikṣ.* 圓 都合のよい時に; 於後時 *Śikṣ.* 因 適当な機会において, 時機に適って。
 pra-stāvatas 副 (一°) の間に, …の序でにまたは機会に。
 pra-stāvanā 因 吹聴すること, (圓) によって言いふらすこと; 初め, 開始; 序言, 序幕 [祈願と第一幕の初めとの間にある一場] (戯曲)。
 prastāva-bhājin 形 prastāva に参与する。
 prastāva-saḍṛsa 形 (因 -i) 時宜に適った, 季節向きの, 適当な。
 prastāvāntaragata 形 他の事に従事した (*Jāt-m.*)
 pra-stāvita 使役 過受分 → Stu 1.
 pra-Stigh, → Stigh.
 pra-Stu prastauti, prastavate. → Stu 1.
 pra-stuta 過受分 → Stu 1. 説 *Divy.*
 pra-stutatva 因 審議中の状態。
 prastutānkura 男 [目前の事態の指示によって聴取者の心に潜在しているものを暗示する譬喩法 修辭]。
 pra-stuti 因 称讚。
 prastuti-kāma 形 称讚を願う。
 pra-Stubh, → Stubh.
 pra-Str prastrṇoti, prastrṇute, prastrṇāti, prastrṇite. → Str.
 pra-stotr 男 [Udgātr 祭官の助手の祭官 (prastāva を歌う役をする)。
 pra-stobha 男 (圓) を暗にほのめかすこと。
 pra-stha 男 因 (前に立った, 卓越した), 山上の台地,

高原；平坦な地域，平野；容量の名 [=32 Pala]；
 崖，山巖，藪，曠絶之处 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*,
Mvyut.；升，斤，一升 *Lank.*，梵千，梵雜；
 鉢他 *Lank.* 居 *Mvyut.*

pra-Sthā pratiṣṭhati(-te). → Sthā.

pra-sthāna 出発，進行，行進；到来；(品物の)発
 送，次の世界への旅立ち；行乞生活；考察の方法，
 手段，体系，宗派；(下級の)戯曲(の一種)；行，
 発，発趣，発処，趣向；趣求，求，発願，発願求；
 処，入；分；勝 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Gaṇḍ-*
vy., *Mvyut.*；sarva-jñatā～求一切智 *Gaṇḍ-vy.*
 394. → jñāna～.

prasthāna-dundubhi 進軍の(合図をする)太鼓。

prasthāna-bhūmi 入地 *Gaṇḍ-vy.*

pra-sthāniya 出発に関する。

pra-sthāpana 送付すること，派遣すること，退去
 させること，放逐すること [disaḥ～四方八方へ派
 遣する]；(ある表現を)通用させること；建立衆
 生 *Sūtr.*；極放 *Mvyut.*

pra-sthāpanā 送付すること，派遣すること，去ら
 せること。

pra-sthāpita 使役 過受分 [Sthā] 送付された，派遣
 された；建立された，与えられた (*Divy.*)。

pra-sthāpya 使役 未受分 送付されるべき，去らせら
 れるべき。

pra-sthāyin 出発する，去る。

pra-sthita 過受分 出立した，出発した；行進した；
 旅に出た。→ Sthā. 行，趣，発趣，趣入；
 求；住 *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.*
 出発。

prasthita-yājyā 呼ばれる Soma の杯
 を捧げる時に唱えられる詩節。

pra-sthitavat (°vān) 過能分 → Sthā.

pra-sthiti 出立，出発。

pra-stheya 未受分 出立または出発すべきであ
 る。

pra-snava 乳等の流れまたは盛んな流出；涙；
 尿。

prasnava-samyukta ほとぼしり出る(涙)。

pra-Snā prasnāti. → Snā.

-pra-snāvin 滴り落ちる，流れ出る。

pra-snigdha 過受分 → Snih.

pra-Snih, → Snih.

pra-Snu prasnauti, prasnute. → Snu.

pra-snuta 過受分 滴り落ちた，流れ出た。→ Snu.

prasnuta-stanī (女) 乳の流れ出る乳房をもつ。

pra-snuṣā 孫の妻。

pra-sneya 未受分 沐浴に適した。

pra-Spand praspandate(-ti). → Spand.

pra-spandana 慄えること，動悸の打つこと。

pra-Spardh, → Sprdh.

pra-spardhin 競争するすなわち匹敵する。

pra-Spūrdh, → Spūrdh.

pra-Sprdh praspardhate. → Sprdh.

pra-Sphuṭ praspfuṭati. → Sphuṭ.

pra-sphuṭa 平易な，顕著な，明白な。

pra-Sphur praspfurati. → Sphur.

pra-sphurita 過受分 揺れた，動揺した，震えた；明
 らかにされた。→ Sphur.

praspfuritādhara 下唇を震わせた。

pra-sphuliṅga 男 または 田？ きらめく火花。

pra-sphoṭaka 男 [ある Nāga の名] 極壞 *Mvyut.*

pra-sphoṭana 裂けること；拡がらせること，開花
 させること；開；払，拭 *Mvyut.*

pra-smayat 現分 爆笑する。

pra-smartavya 未受分 忘れられるべき。

pra-Smi prasmayate. → Smi.

pra-Smṛ prasmarati. → Smṛ.

pra-smṛta 過受分 → Smṛ.

pra-Syand prasyandati(-te). → Syand.

pra-syanda 滴りまたは湧出。

pra-syandana [同上]；滲出。

pra-syandita 過受分 漫流 *Śikṣ.*

pra-syandin 漏出する；一° (涙を)流す。男 夕
 立。

pra-sraṃsa 男 落下。

pra-sraṃsana 溶剂。

pra-sraṃsin (女 -ni) 落す，流産する。

pra-srabdha 過受分 [=pra-śrabdha] 止息，伏
 息，蒙休息，輕安，輕利，寂靜；清，淨 *Bodh-bh.*
Lal-v., *Mvyut.*；撰 *Divy.*；rddhiḥ～ā 撰神
Divy. 48.

prasrabdha-kāya 男 [=praśrabdha°] 身清，
 身淨，身輕安 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*；～h sukhaṇ
 vedayati 身清即得安樂，身淨即得安樂，身輕安則受
 樂 *Mvyut.*

prasrabdhakāya-saṃskāra 身行輕利，淨
 身行 *Mvyut.*

pra-srabdhi (女) [=pra-śrabdhi] 安，輕安，捨
 止息，寂靜，倚 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*
Mvyut., *Sūtr.*

prasrabdhi-sambodhy-aṅga 輕安覺支 *Mv*
yut.

pra-srabhya [=pra-śrabhya] 止；極淨 *Mvyut.*

pra-Srambh praspabyate. → Śrambh.

pra-srava 流出；流れ，溢れ出ること；乳の出
 ること [乳の流れる時に]；溢れ出る涙；
 樹 *Saddh-p.*

pra-sravaṇa ほとぼしり出ることまたは流出，滴下
 漏出；(一°の，…よりまたは…中への)放出；泉，
 源，(容器の)口；(清)流，泉流 *Buddh-c.*, *Gaṇḍ-*
vy. 泉；[人名]；[Malaya 国境の山脈の名]。

prasravaṇopeta (°na-up°) 泉流榮帯，泉
 池沼悉具足 *Gaṇḍ-vy.*

prasrava-yukta 乳を出す(乳房)。

prasrava-samyukta [同上]；(涙の)流れ出る。

pra-sravīn (一°) を注出または放出する；乳を出
 (牝牛)。

pra-Srā praspāpayati (使役)。→ Srā.

pra-srāva 男 尿 (*Kār-vy.*)；尿，便，便穢，
 便，溲便 *Av-s.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śik*
 → uccāra～。

prasrāva-karaṇa ㊦ 尿道；㊦ 小便道，密根 *Mvyut.*
 pra-srāvaṇa ㊦ 小便 *Raṣṭr.*
 pra-Sru prasravati(-te). → Sru.
 pra-sruta ㊦ 漏れた，発した。 → Sru. ㊦ 流 *Divy.*
 pra-svana ㊦ 音，噪音。
 pra-Svap prasvapati, prasvapiti. → Svap.
 pra-svādas ㊦ 甚だ快い，非常に喜ばしい。
 pra-svāpa ㊦ 眠りを誘う，催眠の(飛道具)。 ㊦ 寝入ること；夢。 ㊦ [武器の一種]。
 pra-svāpana ㊦ (㊦ -i) 仮睡させる；㊦ 令偕睡 *Lal-v.* ~i daśā ㊦ 睡眠の状態。 ㊦ 眠らせること。
 pra-sveda ㊦ 発汗。
 pra-svedin ㊦ 発汗する，汗に濡れた。
 pra-haṇana ㊦ 打撃。
 pra-hata ㊦ 打たれた，叩かれた等。 → Han.
 prahata-muraja ㊦ 太鼓を打ち鳴らした。
 pra-hati ㊦ 打撃，殴打。
 pra-Han prahanti. → Han.
 pra-hantavya ㊦ 殺されるべき。
 pra-hantr ㊦ (㊦) を打ち倒す・殺すまたは殺害する。
 pra-hara ㊦ (どらをつつこと)，看守時間の一区切り [約三時間交代]，当直時間；㊦ 打，捶打 *Raṣṭr.*；更 [時の量]；巡 *Mvyut.*
 pra-haraka ㊦ [同上]。
 pra-haraṇa ㊦ 打つこと，叩くこと；ついでむこと；攻撃すること；争闘；撤去，駆逐；武器；㊦ 除断 *Lal-v.*；劍，兵仗，器仗，刀杖，器械，手器械 *Divy.*，*Gaṇḍ-vy.*，*Mvyut.*，*Śikṣ.*
 praharaṇi-Kṛ, 武器として使用する。
 pra-haraṇiya ㊦ 攻撃されるべき；除去または駆逐されるべき。 ㊦ 武器；飛道具。
 prahara-virati ㊦ 当直時間の終り(午前九時)。
 pra-hartavya ㊦ 攻撃されるべき；㊦ 非人 (㊦, ㊦) を打撃または攻撃すべきである。
 pra-hartr ㊦ 発使者；攻撃者，闘士，戦士；㊦ 為征戦 *Divy.*
 pra-harṣa ㊦ 大きな喜び，恍惚；㊦ 歎，歎喜 *Śikṣ.*，*Suv-pr.* ~m Kṛ (㊦) を喜ぶ。
 praharṣa-jāta ㊦ ㊦ 心生歎喜，心得歎喜，(常)生歎喜 *Suv-pr.*
 pra-harṣaṇa ㊦ (身の毛を)逆立たせる；非常に喜ばせる，狂喜させる。 ㊦ (身の毛の)直立；喜悅，狂喜。
 praharṣaṇa-kara ㊦ (㊦ -i) 大いに喜ばせる。
 pra-harṣayitvā ㊦ ㊦ [=pra-harṣya] ㊦ 令歎喜已 *Saddh-p.* 25.
 pra-harṣavat ㊦ 喜んだ。
 pra-harṣini ㊦ [韻律の一種(4 × 13 音節)]。
 pra-harṣita ㊦ ㊦ ㊦ 非常に喜んだ，非常に幸福な；㊦ 歎悦，悦予，生歎喜，大歎喜，甚歎喜 *Daś-bh.*，*Gaṇḍ-vy.*，*Lal-v.*，*Suv-pr.*
 praharṣita-cetasa ㊦ ㊦ 心生歎喜，心生大歎喜 *Suv-pr.*
 praharṣita-manas ㊦ ㊦ 心甚歎喜 *Lal-v.*
 praharṣita-mānasa ㊦ ㊦ 心生歎喜，心大歎喜 *Gaṇḍ-vy.*

pra-harṣin ㊦ 喜ばせる。
 pra-Has prahasati(-te). → Has.
 pra-hasa ㊦ 皮肉；[*Śiva* 神の称]；[ある *Rakṣas* の名]。
 pra-hasat ㊦ (㊦ -anti) 笑う，微笑する。
 pra-hasana ㊦ 笑，嘲笑；喜劇(の一種)，道化芝居；皮肉，冗談。
 pra-hasita ㊦ ㊦ → Has. ㊦ [ある *Kimnara* 王の名] (*Kār-vy.*)；[ある仏陀の名]。 ㊦ 笑い出すこと，爆笑；華美な色彩を見せること (*Jāt-m.*)；㊦ 微笑；現微笑；熙怡 *Gaṇḍ-vy.*，*Mañj-m.*
 prahasita-nayana ㊦ ㊦ 現微笑眼 *Gaṇḍ-vy.*
 prahasita-netra ㊦ ㊦ [仏の名] 目悦，微笑目，目明備 *Lal-v.*，*Mvyut.*
 prahasita-vadana ㊦ ㊦ 熙怡微笑；面載微笑 *Lal-v.*，*Mañj-m.*
 pra-hasta ㊦ 指を伸ばした手；[人名]；[ある *Rākṣasa* の名]。 ㊦ 長い手の。
 pra-Hā prajihite (1.)，prajahāti (2.)。 → Hā 1,2.
 pra-hāṇa ㊦ 抽象作用，思索，思弁；放棄，回避 (*Lal-v.*)；㊦ 断，断除，断尽，断滅，断取，永断，悉断，除断，所断，正断，能断，頓断；除，除滅，对除，悔除；離，離滅，厭離，滅離，遠離，捨離；滅，消滅，尽；棄，捨，所棄捨；能止；破，壞；愈；無；決 *Abh-vy.*，*Aṣṭ-pr.*，*Bodh-bh.*，*Bodh-c.*，*Dharm-s.*，*Divy.*，*Gaṇḍ-vy.*，*Lal-v.*，*Lank.*，*Madhy-v.*，*Madhy-vibh.*，*Mvyut.*，*Raṣṭr.*，*Sam-r.*，*Śikṣ.*，*Sūtr.*；断(集) *Madhy-v.* 477.；anunaya-pratigha ~ 無怨親(心) *Lal-v.* 33.；ābādha ~ 病愈 *Abh-vy.* 514.；nimitta ~ 断除諸相 *Sam-r.* 5.；vi-mati ~ 決疑網，断無明妄想 *Raṣṭr.* 8.；sarva-kāma-rati ~ 遠離慾樂，捨離一切欲樂 *Gaṇḍ-vy.* 119.；sarva-māna-mada ~ 除一切慢，断除一切驕慢 *Gaṇḍ-vy.* 117.；sarvāvaraniya-karma ~ 悔除業障，悔除一切諸惡業障 *Gaṇḍ.* 119.；catvāri ~ āni 四断 [1. anutpannānām pāpakānām akuśalānām dharmānām anutpādāya chandaṃ janayati 於未生惡不善法為不生放生欲，2. utpannānām pāpakānām akuśalānām dharmānām ~ āya chandaṃ janayati 於已生惡不善法為令断放生欲，3. anutpannānām kuśalānām dharmānām utpādāya chandaṃ janayati 於未生善法為令生放生欲，4. utpannānām kuśalānām dharmānām sthitāya bhūyobhāvāya asaṃpramoṣāya paripūraṇāya chandaṃ janayati vyāyacchate vīryam ārabhati cittaṃ pragṛhṇāti samyak pradadhāti 於已生善法為欲令住令倍修習令不妄失令円満生欲，策励，発勤，策心，持心] *Mvyut.*
 prahāṇa-bala ㊦ ㊦ 断力 *Dharm-s.*
 prahāṇa-mārga ㊦ ㊦ 滅道，能断道 *Madhy-vibh.*
 pra-hāṇavat ㊦ ㊦ 永断 *Bodh-bh.*
 prahāṇa-viveka ㊦ ㊦ 断除 *Bodh-bh.*
 prahāṇa-saṃskāra ㊦ ㊦ 断行 *Madhy-vibh.*，*Sūtr.*
 pra-hāṇi ㊦ 消失。
 pra-hātavya ㊦ ㊦ 放棄されるべき，放置されるべき (*Vajr-pr.*)；㊦ 応断，応永断，所断；滅，所滅；応捨，棄，応去 *Abh-vy.*，*Bodh-bh.*，*Lank.*，*Mv-*

yut., *Saddh-p.*, *Vajr-pr.*
 prahātavya-satya 甲 漢訳 応永断諦, 遠離実 *Bodh-*
bh.
 pra-hāra 男 (一°) による; 因 または時に 一° に対する
 打撃, 殴打, ごつんと打つこと, 切ること, 突き刺
 すこと, 発射, けること; 漢訳 打, 打撲, 搏 *Prat-*
m., *Śikṣ.* ~ṃ Dā 漢訳 槌 *Divy.*
 pra-hāraka 形 漢訳 害 *Sūtr.*
 prahāra-da 形 (一°) に一撃を与える, ...を打つ.
 prahāra-dāna 甲 漢訳 打, 撃撻 *Mvyut.*
 prahāra-varman 男 [*Mithilā* の王侯の名].
 prahārārta (°ra-ār°) 形 傷つけられた.
 pra-hāritā 女 漢訳 射入, 害, 闘争 *Mvyut.*
 pra-hārin 形 (一°) をもって打つ, (圓, 一°) と戦
 う. 男 よい闘士.
 pra-hāsa 男 大笑い, 嘲弄, 皮肉; (花の)色の光彩 (*Jat-*
m.).
 pra-hāsin 形 笑う, 嘲笑的な, 諷刺のよくきいた;
 燦爛たる (*Jat-m.*).
 pra-Hi prahiṇoti, prahiṇute, prahiṇvati(-te). →
 Hi.
 pra-hi 男 井戸.
 pra-hita 1. 過受分 → Hi.
 pra-hita 2. 過受分 [DHā 1.] 送られた, 派遣された,
 委任された等.
 prahitaṃ-gama 形 (屬) ...へ使者に立つ.
 pra-hitavat 1. 過能分 → Hi.
 pra-hitavat 2. 過能分 [DHā 1.] 送った.
 prahitātman (°ta-āt°) 形 [*Pāli* pahitatta] 決然た
 る, 熱心な (*Divy.*); 漢訳 一心 *Divy.*
 pra-hiṇa 過受分 → Hā 2. 漢訳 断, 已断; 滅, 已
 滅, 滅尽; 除, 除滅; 対治; 離, 遠離, 永離; 捨,
 已棄; 消 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Daś-bh.*,
Divy., *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Laṅk.*, *Madhy-vibh.*,
Mvyut., *Saddh-p.*, *Sam-r.*: sarva-kleśa-vāsanā ~
 除滅一切煩惱垢障 *Gaṇḍ-vy.* 150. → a ~.
 prahiṇa-kleśa 形 漢訳 断煩惱, 煩惱断 *Aṣṭ-pr.*, *Bo-*
dh-bh.
 pra-hiṇatā 女 漢訳 断滅 *Aṣṭ-pr.*
 pra-hiṇatva 甲 漢訳 断, 已断, 永断; 已滅 *Abh-vy.*,
Aṣṭ-pr.
 pra-hina 過受分 [=pra-hiṇa] 漢訳 得断, 遠離, 尽
Lal-v., *Sūtr.*
 pra-Hu prajuhoti, prajuhute. → Hu 1.
 pra-huta 過受分 捧げられた.
 pra-huti 女 供物を捧げること.
 pra-Hṛ praharati(-te). → Hṛ 1.
 pra-hṛta 過受分 → Hṛ 1. 甲 (一°) との闘争.
 pra-Hṛṣ prahrṣyati. → Hṛṣ.
 pra-hṛṣṭa 過受分 大いに喜んだ, 歡喜した. → Hṛṣ.
 漢訳 喜, 歡喜, 樂, 踊躍 *Bodh-c.*, *Divy.*, *Rāṣṭr.*,
Sūtr., *Suv-pr.*
 prahrṣṭa-citta 形 心中喜んだ, 非常に喜んだ; 漢訳
 生歡喜, 心踊躍 *Rāṣṭr.*
 prahrṣṭa-manas 形 心中喜んだ, 非常に喜んだ.
 prahrṣṭa-mudita 過受分 非常に喜んできげんのよい,

嬉しくて夢中になった.
 prahrṣṭa-rūpa 形 心地よい姿の. 男 [ある Asura の
 名].
 prahrṣṭa-roman 形 (身の毛が)逆立った. 男 [ある
 Asura の名].
 prahrṣṭātman 形 喜悦の心をもつ.
 pra-heṇaka 甲 [*Pāli* pahaṇaka] 贈物, 糖菓 (*Divy.*).
 pra-heya 1. 未受分 [pra-Hi から] 送られるべき, 使
 者の役をする.
 pra-heya 2. 未受分 [pra-Hā から] 漢訳 断, 所断, 所
 滅, 応止, 可捨, 応捨離 *Abh-vy.*, *Laṅk.*, *Madhy-*
v., *Madhy-vibh.*
 pra-helā 女 拘束を受けない振舞い; 圓 束縛なしに,
 自由に.
 pra-helikā 女 謎, 不可解なこと; 漢訳 謎 *Mvyut.*
 pra-hrāda 男 =pra-hlāda.; [ある Asura の主長の名];
 漢訳 歡喜 *Suv-pr.*; 音写 波呵黎(子) *Suv-pr.*
 pra-hrāsa 男 短縮, 減少, 衰頽.
 pra-Hlād prahlādate. → Hlād.
 pra-hlāda 男 快い興奮, 喜びの感情; [敬虔なある *Da-*
itya の名 (=Prahāda)].; 漢訳 清涼; 極潤; 極満
Mvyut., *Śikṣ.*
 pra-hlādaka 形 (女 -ikā) 爽快にさせる, 喜ばせる.
 pra-hlādana 形 (女 -i) 愉快にさせる, 喜ばせる; 漢訳
 喜, 令喜悦; 清涼 *Lal-v.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.* manah ~
 意喜 *Śikṣ.* 126. 甲 爽快にさせること, 喜ばせる
 こと; 漢訳 悦, 悦樂; 踊躍; 安穩 *Gaṇḍ-vy.*, *Śikṣ.*
 prahlādana-karin 形 (女 -i) 漢訳 能令得清涼, 適,
 (猗) *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*
 prahlādānā 女 [=prahlādana 甲].
 pra-hlādaniya 未受分 爽快にさせる, 楽しませる (*Lal-*
v.); 漢訳 歡喜 *Rāṣṭr.*
 pra-hlādika 形 漢訳 悦樂 *Divy.*
 pra-hlādita 使役 過受分 喜ばせられた, 大いに喜ば
 せられた; 漢訳 歡喜; 清涼; 柔軟 *Av-ś.*, *Gaṇḍ-vy.*
 prahlādita-kāya-citta 形 漢訳 身心柔軟 *Gaṇḍ-vy.*
 pra-hlādin 形 喜んだ.
 pra-hva 形 前方に傾いた, 傾斜した, 斜めの, 曲っ
 た; (圓) の前にお辞儀する; 謙遜な.
 pra-hvaṇa 甲 お辞儀.
 prahvaya 名動 他 prahvayati (業) を屈従させる.
 prahvāñjali 形 合掌してお辞儀する[恭礼のしるし].
 prahvi-BHū, 卑下する, 謙遜する.
 pra-Hve, → Hve.
 Prā, V. [Pr 1. の副次形. ただ 三過 二過 ならびに
 過受分 のみに用いられる] 充たす. 過受分 prāta 充
 たされた, 満ちた.
 ā- 果たす.
 vi- [同上].
 prāṃsu 形 (upāṃsu の因) 高い, 聳えた, 丈の高い,
 長い; 強い(光輝). 男 [*Manu* *Vaivasvata* の息子
 の名]; [*Vatsapri(-ti)* の息子の名].
 prāṃsuka 形 大きな(動物).
 prāṃsutā 女 高さ.
 prāṃsu-prākāra 形 長い城壁をもつ.
 prāk, [prāñc の甲] 副(從)の前に, ...の前面に;

(廻) より前に [順序において]; (廻, まれに 廻) より以前に, …に先立つて; (廻) の東方に; 最初に, 第一に; その後; 前, 先 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Sūtr.* ~g eva 少し以前に; まして(仏教); 況, 何況, 況復, 云何, 先 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Av-ś.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Vajr-pr.*

prākāṭya 中 明白なこと, 顕示.

prākaraṇa (pra-āk°) 形 品類(足), 分別道理(論) *Abh-vy.* 456.

prākaraṇika (°pra-āk°) 形 問題の事柄に属する, 章に属する; 種類に属する.

prā-karṣakatva 中 長 *Abh-vy.*

prā-karṣika 形 遠続, 約多時 *Abh-vy.*

prā-kāmya 中 完全な意志の自由; 具欲歎, 具貪欲, 樂欲自在 *Mvyut.*

prā-kāra 男 (撒布された, 堆土), 囲いの壁, 墨壁; 墻, 牆, 牆垣, 垣墻, 垣牆, 壁, 墻壁, 牆壁 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, 梵雜.; 城 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*; 園 *Mvyut.*; 雉堞 *Gaṇḍ-vy.*

prākāra-karṇa 男 [(壁耳), 梟王 *Arimardana* の大臣の名].

prākāra-khaṇḍa 男 城壁の破片.

prākāra-dvāra 中 重門 *Saddh-p.*

prākāra-dharaṇi 女 城壁上の露台.

prākāra-parikṣipta 形 為牆 *Gaṇḍ-vy.*

prākāra-bhañjana 形 城壁を破壊する.

prākāra-mardin 男 [人名].

prākāra-śeṣa 形 墨壁(のみ)を残した.

prākāra-stha 形 墨壁上に立った.

prā-kāśa 男 金属製の鏡.

prākāśya 中 明白なこと; 評判, 名声.

prākṛta 過受分 (女 -ā, -i) 根本物質 (prakṛti) と関連する, 自然の, 原初の; 変えられない; 普通の, 尋常の; 平凡な; 低い, 賤しい; 根本物質から出たまたはに関する(廻); 中期インド・アリアン語 (Prākṛit) 的な; 下劣, 俗, 凡, 凡劣, 鄙賤, 小, 平常, 常流, 世間非巧便 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*: a~ 無俗 *Daś-bh.* 18. 男 賤しい人. 中 中期インド・アリアン語 [サンスクリット戯曲で婦女ならびに下級人物の用いる諸言語], プラークリット語 (*Prākṛit*); 平常(俗語) *Mvyut.*

prākṛtaka 形 [=prā-kṛtika, *Pali* pākātika] 自然の, 原始または自然の状態の (*Bodh-c.*); 所生, 父母所生 *Saddh-p.*: śrotrendriyaṃ ~ṃ hi tāvat 但用所生耳 *Saddh-p.* 359.

prākṛta-kṛt 形 Prākṛit 語で書いた詩人.

prākṛta-candrikā 女 Prākṛit の月光 [*Vararuci* 著 *Prākṛit* 文典の題名].

prākṛta-prakāśa 男 Prākṛit 詳解 [同上].

prākṛta-bhāṣin 形 Prākṛit 語を話す.

prākṛta-śāsana 中 Prākṛit 語に関する論書.

prākṛta-hasti-bala 中 大象力, 凡象力 *Mvyut.*

prākṛtika 形 (女 -i) 自然の; 根本物質から生じた; 自性成 *Sāṃkhy-k.*

prā(pra-ā)-Kṛṣ prākaraṣati. → Kṛṣ.

prākoṭaka 男 種 [民族の名]. 形 *Prākoṭaka* 族に関連した.

prāk-karman 中 ある予備の手続き; 前世においてなされた行為.

prāk-kalpa 男 前の劫 (kalpa).

prāk-kūla 形 → [prāk-tūla の誤].

prāk-kṛta 過受分 以前になされた, 前世でなされた. 中 前世でなされた行為.

prāk-kośala 形 東 *Kośala* 国に属する.

prāk-ciram 副 遅くならないうちに, 早く, ちょうどよい時に.

prāk-cchāya 中 東方に影を落すこと.

prāktana 形 (女 -i) 以前の, 前の; 先立つた; 古代の; 前 *Abh-vy.*

prāktana-karman 中 以前または前生でなされた行為; 運命.

prāktana-janman 中 前生.

prāk-tanaya 男 以前の弟子.

prāktarām 副 更に東方に.

prāk-tūla 形 東方に向けた房 [円錐花序] をもつ (*Kuśa* 草).

prāk-tūlatā 女 (祭式の用具が) 東に向けられること.

prāk-pada 中 合成語中の最初の語 (文法).

prāk-paścāt 副 先後 *Lank.*

prāk-pravaṇa 形 東方に傾斜した.

prāk-prastuta 過受分 前述の.

prāk-prātar-āsika 形 朝食前に学習されるべき.

prākramika 形 (どれをも完成しないで多くのものに) 着手する.

prākśas 副 東方に.

prāk-śiras 形 東方に頭を向けた.

prāk-śiraska 形 [同上].

prāk-śrotas 形 [-srotas の誤].

prāk-saṃstha 形 東方で終る.

prāk-saṃdhyā 女 朝の薄明.

prāk-soma 形 *Soma* 祭に先立って説かれる(諸祭式).

prāk-saūmika 形 (女 -i) [同上].

prāk-srotas 形 東方に流れる.

prā-kharat 現分 廻 [<prakṣarat] 流れ出る; 流樹 *Saddh-p.* 126.

prākharya 中 (矢の) 鋭さ.

prāg-agra 形 先端または尖頭を前方または東方に向けた.

prāg-apavargam 副 東方において終結して.

prāg-abhāva 男 以前に存在しないこと; 無前, 徒前無, 未生無 *Mvyut.*

prāg-abhihita 過受分 前に論ぜられた.

prāgalbhi 女 自信, 確信.

prāgalbhya 中 [同上].

prāgalbhya-buddhi 女 判断における自信.

prāgalbhyavat 形 自信のある, 大胆な; (一・) を誇る.

prāg-avasthā 女 以前のまたは前生の状態.

prā-gāṅgam 副 [prāggaṅgam の誤].

prāgātha 形 (女 -i) *Pragātha* 形式 すなわち *Rg-veda* 第八巻に属する. 男 父系 *Pragātha* の後裔.

prāg-āyata 過受分 東方に拡がった。
 prāg-āhnika 形 午前に関した。
 prāg-ukti 因 以前の発言。
 prāgunya 甲 正しい位置または方向。
 prāg-uttara 形 東北の。圓, ~tas 副 (従, 屬)の東北において。
 prāguttara-dig-bhāga 男 (屬)の東北方。
 prāguttara-dig-vibhāga 男 [同上]。
 prāg-uttarā 因 [±diś] 東北。
 prāg-utpatti 因 最初の出現。
 prāg-utpanna 過受分 前生 Bodh-bh.
 prāg-udak 副 [°udañc の 甲] 東北方に。
 prāgudak-plavaṇa, -plavana 形 東北方に傾いた。
 prāgudañ-mukha 形 東北方に面した, 東方または北方に面した。
 prāg-udañc 形 (因 °udici) 東北方の。
 prāg-udici 因 東北。
 prāg-ūdhā 因 以前に結婚した(女)。
 prāg-gaṅgam 副 Gaṅgā 河の東方において。
 prāg-gamanavat 形 前方に行く。
 prāg-gāmin 形 先に行くまたは先に行こうと企てる。
 prāg-guṇa 形 前に述べた性質をもつ。
 prāg-griva 形 首を東方に向けた。
 prāg-janman 甲 前生, 前世。
 prāg-jāta 過受分 甲 前生。
 prāg-jāti 因 [同上]。
 prāg-iyotiṣa 形 東方から照された; Prāgīyotiṣa 都城に関する。男 Prāgīyotiṣa の王侯または国土; 覆 Prāgīyotiṣa 国の住民。甲 [悪魔 Naraka の住居したとされる都城の名]。
 prāg-dakṣiṇa 形 東南方の。
 prāg-dakṣiṇā 因 東南。副 東南方に。
 prāgdakṣiṇā-pravaṇa 形 東南方に傾いた。
 prāg-deśa 男 東の国。
 prāg-daiḥika 形 前生に属する。
 prāg-dvār 因 東方に面した門。
 prāg-dvāra 甲 [同上]; 門前の空地。形 東方に面した門をもつ。
 prāg-bhāga 男 前部, 上部, 東側。
 prāg-bhāra 男 下り傾斜, 勾配, 坂 (Divy.); 傾向 (Lal-v.); 多数, 多量; 山崖, 懸崖, 崖岸, 山澗, 下降 Mvyut. 一° 形 向, 臨入, 降下, 垂墮 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Divy., Mvyut.; 敬, 重, 尊重, 傾仰尊敬, 為上首 Daś-bh., Divy., Mvyut., Śikṣ.: saṅgha ~ (苾芻) 僧伽而為上首 Divy. 50。
 prāg-bhāva 男 前生。
 prāgra 甲 極点。
 prāgra-sara 形 真先に行く, 前方に位する; (一°, 屬)の中で最前方の, 最も主要な; (一°)の先頭に立つ。
 prāgra-hara 形 (最善であるものを占有した), (屬, 一°)の中で主たる, 重要な。
 prāgrya 形 最前の, 最善の, 最も優れた。
 prāg-lajja 形 最初に恥じた。
 prāg-vaṃśa 1. 男 以前の種族。
 prāg-vaṃśa 2. 形 梁を東方に向けた。男 祭場 (mahā-

vedi) の西方にある四角の小舎 (śālā) [上梁が東西に向うのでこの名がある]。
 prāg-vacana 甲 以前の言葉。
 prāg-vaṣa 男 甲 [町の名]。
 prāgvat 副 前のように, 以前のように, 他の場合のように; 前述のように [書物において]。
 prāg-vāta 男 東風。
 prāg-vijñāna 甲 初識 Lank.
 prāg-vṛtta 甲 以前の行為。
 prāg-vṛttānta 男 以前の出来事または冒険。
 prāg-vṛtti 因 前生における行為。
 prāg-veṣa 男 前の衣裳。
 prāghuṇa 男 [prāghūrṇa の 因] 客。
 prāghuṇaka 男 [同上]。
 prāghuṇika 男 [同上]。
 prāghuṇi-Kṛ, (一°)を訪れさせる, …に到達させる。
 prāghūrṇa 男 (彷徨する者), 客。
 prāghūrṇaka (pra-āgh°) 男 [同上]。
 prāghūrṇika (pra-āgh°) 男 [同上]。甲 歓待。
 prāghūrṇikā 因 [同上 甲]。
 prāñ, [prāñc の 男 因 甲]。
 prāṅgaṇa 甲 庭, 中庭。
 prāṅgana 甲 不確 [同上]。
 prāñ-nyāya 男 以前の方法 [原告はかつて同一の提訴を行い, かつ敗訴したことを述べる特殊の抗弁]。
 prāñ-mukha 形 (因 -ā, -i) 前方または東方に面するまたはを指す; (一°)の方に傾くまたはを欲する; 東面 Rāstr.
 prāñmukhāñcana 形 東方に面した。
 prācāṇḍya 甲 強烈なこと, 熱情のあること。
 prācā 男 副 → prāñc.
 prācāra (pra-āc°) 男 翅蟻。
 prācārya (pra-āc°) 男 師の師。
 prācinvat 男 [Janamejaya の息子の名]。
 prāci 因 東。
 prācina 形 前面に向った; 東の; 東方の, 東に住する; 前の, 以前の, 先立つ, 古い; 随日転 Divy 391. ~m 副 前方に; (従)の前において; 東方に, (従)の東に; (従)より以前にまたはの前に。
 prācina-kūla, =prāk-kūla =prāk-tūla.
 prācina-garbha 男 [ある Ṛṣi の名]。
 prācina-griva 形 首を前方または東方に向けた。
 prācina-nimna 形 下に傾き垂れ下った, 前に屈んだ 垂影 Bodh-bh.
 prācina-barhis 男 [Indra 神の称]; [ある Prajāpati の名]; [Havirdhāman の息子の名]; [Manu の息子の名]。
 prācina-mūla 形 根を東方に向けた。
 prācina-yoga 男 [古代のある学者の名]。
 prācina-yogi-putra 男 [Prācinayoga の息子の名]。
 prācina-yogya 男 [同上]。
 prācina-vaṃśa, =prāg-vaṃśa.
 prācina-śāla 男 [人名]。
 prācināmalaka 男 [植物の一種, 学名 Flacourtia ca taphracta]。
 prācināvita (°na-āv°) 甲 右肩から左腋に向って聖糸

を帯びること。

prācināvitin (°na-āv°) 形 右肩から左腋に向って聖紐を帯びた。

prācinopavita (°na-up°) 形 [同上]。

prāci-mūla 田 東方の地(水)平線。

prācira 男 棚, 垣。

prācurya 田 豊富, 饒多, 多量; 広さ, 冗長; 普及, 流通; 悉 Śikṣ. 圓 圓 大部分は; 詳細に。

prācetasa 形 Varuṇa (Pracetas) に関する [āsā とともに 因 西方]; Pracetas から出た。男 [Manu, Dakṣa ならびに Vālmiki の 父系]。

prācyā 形 前方にある; 東方に位置するまたは住する。普及したまたは話される, 東方の; …より以前の, 先立った; 前述の [書物において]; 以前の, 古代の, 古い。男 圓 東方の住民; 東方の国土; 古代人。

prācyāka 形 東方に位置した。

prācyā-pada-vṛtti 因 語末の e が語頭の a の前で変化しない連声法, 例えば te agrepāh.

prācyā-ratha 男 東方の(国で使用される)車。

prācyā-sāman 男 圓 [特殊の歌詠者の称]。

prācyodañc (°ya-ud°) 形 (因 °udici) 東から北に走る。

prāch 男 [因 prāt] 質問者。

prājaka 男 (荷馬車の)御者。

prājana 男 田 (畜類を駆るための)突棒, 鞭。

prājāpata 形 (因 -i) [同下形]。

prājāpatya 形 Prajāpati に由来する に関するまたはに捧げた [śakata 男 田 とともに Rohiṇī の車], 男 父系 Prajāpati の後裔; [±kṛcchra または upavāsa = 苦行の一種]; [±vivāha 男] Prajāpati (様式の)結婚 [これによれば父は婿からなんらの贈物を受けないでその娘を与える]。

prājika 男 (前方に駆る, 追跡者), 鷹。

prāji-dhara 男 [人名]。

prāji-maṭhikā 因 [地方の名]。

prājña 形 (知性 prajñā に関する), 知的の; 理解力のある, 賢い, 伶俐な; 有智, 具慧, 巧慧, 聡慧, 妙慧大慧, 智慧具足, 聡, 善達, 明, 哲 Bodh-bh., Gand-vy., Lal-v., Mvyut., Śikṣ., 梵千.; 音写般若 Sūtr. 男 賢いまたは分別のある人; 擬人化された智慧 (音); 智者 Buddh-c.

prājñatā 因 知識, 英知, 伶俐。

prājñatva 田 [同上]。

prājñaptika 形 假, 假名, 施設(足)中, 分別(世)中 Abh-vy., Prajñ-vy.

prājñā-mānin 形 自ら賢いと考える。

prājñam-mānin 形 [同上]。

prājñā-vādika 形 [同上]。

prājya (pra-āj°) 形 (多量のバター油をもつ?), おびただしい, 豊富な; 多くの; 偉大な, 大きな, 重要な; 長い。

prājya-kāma 形 享楽に富んだ。

prājya-bhuja 形 長い腕をもつ。

prājya-vikrama 形 大力をもつ。

prājya-vṛṣṭi 形 雨を豊富に降らせる。

prāñc 形 (因 prāci) 前方に向けられた; 前面にある,

面した; 東の, 東方の; (因) の東方にある; …したがる, 欲する; 前の, 先立った, …より以前の; 東 Lal-v.; 前 Abh-k.; 先已, 先 Madhy-v. ~am kalpaya (…の方へ向けさせる, 面を向ける。圓 prācā 前方へ; 東方へ。

prāñcam-Kṛ, もたらず, 招来する, 捧げる; (指を)伸ばす, 拡げる; (路を)まっすぐにする。準備するまたは清潔にする。

prāñjala 形 (手を広げた); 率直な, 正直な, 隠し立てのない; 平坦な(道路); まっすぐな。

prāñjalatā 因 率直なこと, 平明なこと(意味等の)。

prāñjali 形 (因 -i) (尊敬または謙遜のしるしとして)手を合わせて差し伸べる; 合掌 Divy., Lal-v., Śikṣ. ~m Nam 合掌恭敬 Aṣṭ-pr.

prāñjalika 形 [同上]; 合十爪掌 Sam-r.

prāñjali-kṛta 形 合掌 Suv-pr.

prāñjali-pragraha 形 手を合わせて差し伸ばした。

prāñjali-bhūta 形 合掌, 合掌恭敬, 至誠 Gaṇḍ-vy., Śikṣ.

prāñjali-sthita 形 手を合わせて差し伸べて立った; 合掌住立 Śikṣ.

prāñjali-BHū, 手を合わせて差し伸べる (Kār-vy.).

prād-vivāka 男 (審問 prāch しかつ決裁する), 裁判官。

prāṇ (pra-An) prāṇiti. → An.

prāṇa 男 息, 呼吸; 活力, 生氣 [圓 生命]; 風氣 [一般に五種あるとされるがまた三種・六種・七種・九種, 時には十種を説くこともある]; (とくに)出息; そよ風, 風; (時の一単位としての)呼吸 [十箇の長音節を発音するに要する時間]; 氣力, 精力, 力; 精神 (Sāṃkhya 哲学における); 個人我, 全体と一致される宇宙精神 (Vedānta); 生命力の標識(圓); 感官 (口, 鼻, 眼, 耳: 圓); [Brahman 神の称]; [ある Vasu の名]; [Vasu-dhara の息子の名]; [ある Marut の名]; [Dhatṛ の息子の名]; [Vidhatṛ の息子の名]; [第二 Manvantara のある Ṛṣi の名]; 生, 命, 生命, 性命; 身命; 寿, 寿命 Abh-vy., Divy., Suv-pr.; 衆生 Bodh-bh., Lal-v., Śikṣ., Sūtr.; 音写波那, 波羅那 Abh-vy., Sāṃkhy-k. 圓 圓 ~aiḥ 拳命 Abh-vy. 一° 形 (一°) を生命のように愛するまたはに一命をかけた。

prāṇaka 男 小動物, 虫 (Kār-vy.); 獸, 虫, 有命, 微命 Lal-v., Raṣṭr., Mvyut., 梵千., 梵雜。

prāṇaka-jāta 男 生類, 有微命者, 小虫, 螻蛄 Aṣṭ-pr., Mvyut., Śikṣ.

prāṇa-kara 形 活気を与える。

prāṇa-karman 田 生活機能。

prāṇa-kṛcchra 田 生命の危険。

prāṇa-koṭi 因 無量衆 Saddh-p.

prāṇa-ghna 形 生命を破壊する, 致命的な。

prāṇa-cchid 形 生命を縮める, 致命的な。

prāṇa-ccheda 男 生命の破壊, 殺害。

prāṇaccheda-kara 形 殺害する(者)。

prāṇa-tyāga 男 生命の放棄, 自殺; 死。

prāṇa-trāṇa 田 生命の救助。

prāṇatha 男 呼吸。

prāṇa-da 形 生命を与える；(圖, 一°)の生命を救う。
 prāṇa-dakṣiṇā 因 生命の贈与。
 prāṇa-dayita (過受分) 男 生命のように愛される夫。
 prāṇa-dātṛ 形 生命を授けるまたは救助する。
 prāṇa-dāna 因 生命の贈与, 生命を救うこと；生命の放棄。
 prāṇa-durodara 因 生命を賭けること。
 prāṇa-dyūta 因 生命を賭けた勝負事または闘技。
 prāṇa-droha 男 殺害しようとして企てること。
 prāṇa-drohin 形 (一°)の生命をおびやかす。
 prāṇa-dhara 男 [人名]。
 prāṇa-dhāraṇa 因 生命の維持または保存；生命を支える方法。
 prāṇadhāraṇam-Kr, 因 …の生命を支える；因(自己)の生命を支える, 食をとる。
 prāṇa-dhārin 形 (圖)の生命を保持する。
 prāṇana 形 [An] 生気づける, 元気づける。因 呼吸；生気づけること。
 prāṇa-nātha 男 命の主, 愛人, 夫。
 prāṇanānta 男 生命の終り, 死。
 prāṇa-nāśa 男 生命の喪失, 死。
 prāṇa-nigraha 男 呼吸の抑制。
 prāṇam-dada 男 生命を与える者 [Avalokiteśvaraの称] (Kār-vy.)。
 prāṇa-pati 男 生命の主, 精神。
 prāṇa-parikraya 男 自己の生命を賭けること。
 prāṇa-parikṣiṇa 形 生命の衰えたまたは終りに近づいた。
 prāṇa-parigraha 男 生命の所有, 生存すること。
 prāṇa-parityāga 男 生命の放棄, 自殺, 死。
 prāṇa-prada 形 生命を回復または救助する。
 prāṇa-pradāyaka 形 (因-ikā) [同上]。
 prāṇa-pradāyin 形 [同上]。
 prāṇa-prayāna 因 生気の離脱, 死。
 prāṇa-priya 形 生命のようにいとおしい。男 愛人, 夫。
 prāṇa-prepsu 形 自己の生命を保持したいと思う, おびえきっている。
 prāṇa-bandhana 形 呼吸と結合した。
 prāṇa-bādha 男 生命に対する危険, 生命の危機。
 prāṇa-bhakṣa 男 呼吸または大気(のみ)を食とすること(すなわち食物飲料(の香気)を嗅ぐのみで)。
 prāṇa-bhaya 因 死の恐怖。
 prāṇa-bhāj 形 生命をもつ。男 生物；人間。
 prāṇa-bhūta 形 生気の状態の。
 prāṇa-bhṛt 形 生命を保持する；生命のある, 生きている。男 生物；人間。
 prāṇa-maya 形 生気または呼吸からなる。
 prāṇa-mokṣaṇa 因 呼吸の放棄, 自殺。
 prāṇa-yātrā 因 生命を支えること；生計。
 prāṇa-yātrika 形 生計に必要な。
 prāṇayātrika-mātra 形 生活の必需品のみを所有する。~hi syāt 彼は生命を維持するだけのもののみを所有すべきである。
 prāṇayita (過受分) 生存させられた；(不定)をするように励まされた, …をしようと切望する。
 prāṇa-yuta 形 生命を賦与された, 生命のある, 生き

ている。

prāṇa-yoni 因 生命の源泉。
 prāṇa-rakṣaṇa 因 生命の保護。
 prāṇarakṣaṇārtham 因 生命の保護のために。
 prāṇa-rakṣā 因 =prāṇa-rakṣaṇa。
 prāṇarakṣārtham (°ṣā-ar°) 因 =prāṇarakṣaṇārtham。
 prāṇa-randhra 因 口, 鼻孔。
 prāṇa-rājya-da 形 生命と王位とを授けるまたは救う。
 prāṇa-rodha 男 呼吸の抑制；[地獄の名]。
 prāṇa-lābha 男 生命を救うこと。
 prāṇavat 形 生命を賦与された, 生きている；強健な, 強い。
 prāṇa-vallabhā 因 生命のようにいとおしい愛人または妻。
 prāṇa-vināśa 男 生命の喪失, 死。
 prāṇa-viprayoga 男 [同上]。
 prāṇa-vṛtti 因 生命の活動または機能。
 prāṇa-vyaya 男 生命の放棄または犠牲。
 prāṇa-vyāyacchana 因 生命を危うくすること。
 prāṇa-śarira 形 生気を身体とする。
 prāṇaśarira-netṛ 形 生気よりなる身体を導く(者)。
 prāṇa-samyama 男 呼吸の一時的停止。
 prāṇa-saṃśaya 男 生命に対する危険[時として 覆]。
 prāṇa-saṃśita 形 生気によっていきいきした。
 prāṇa-saṃkaṭa 因 =prāṇa-saṃśaya。
 prāṇa-saṃtyāga 男 生命の放棄。
 prāṇa-saṃdeha 男 生命に対する危険または危難。
 prāṇa-saṃdhāraṇa 因 生命の保持。
 prāṇa-saṃnyāsa 男 生命を捨棄すること。
 prāṇa-sama 形 (自己)の生命のようにいとおしい。
 prāṇa-samā 因 愛人, 妻。
 prāṇa-saṃmita 形 =prāṇa-sama；鼻に達する。
 prāṇa-sāra 因 生命力。形 力に満ちた, 強健な, たくましい。
 prāṇa-hara 形 (因-i) 生命を奪う, (一°)に対して致命的な；死(刑)の；奪命 Lal-v。
 prāṇa-haraka 形 (因-ikā) [同上]。
 prāṇa-harin 形 [同上]。
 prāṇa-hāni 因 生命の喪失。
 prāṇa-hāraka 形 (因-ikā) 生命を奪う, 致命的な。
 prāṇa-hārin 形 [同上]。
 prāṇa-hīna 形 生命を奪われた, 生命のない。
 prāṇāghāta (°ṇa-āgh°) 男 生命または生物の滅亡。
 prāṇācārya (°ṇa-āc°) 男 侍医。
 prāṇātighāta 男 殺 Mvyut。
 prāṇātipāta 男 殺害の企図, 生命を奪うこと, 生物を殺すこと；殺, 殺生, 害生, 害生命, 断生命, 断他命；互相残害 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Dharm-s., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Śikṣ., Śuc-pr.；~ād viratiḥ 不殺, 離断生命 Mvyut。
 prāṇātipāta-kāraka 男 殺者 Abh-vy。
 prāṇātipāta-prativirata 形 不害生命 Śuc-pr。
 prāṇātipāta-virati 因 離殺, 離殺生, 遠離殺生 不殺生, 棄殺生, 棄捨殺生 Bodh-bh., Mvyut。
 prāṇātipāta-viramāṇa 因 不殺, 不殺生, 離害生, 離害生命, 不害生命 Aṣṭ-pr., Śuc-pr。

prāṇātipātāvadya 田 殺生罪 *Vijñ-v.*
 prāṇātipātin 田 殺生, 行殺, 害生命, 害他命,
 奪他命, 殺害衆生 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy.*
 prāṇātilobha 田 生命に対する過度の執着.
 prāṇātman (°ṇa-āt°) 田 生氣我 [人間にある三種の我
 の中で最も低級のもの: 他の二は *jivātman* とおよび
paramātman である].
 prāṇātyaya 田 生命に対する危険.
 prāṇādhika 田 生命よりいとしい; 精力においてさ
 らに優れた, 一層活動力のある.
 prāṇādhipa 田 生氣の主, 靈魂.
 prāṇānuga 田 死ぬまで (田) に従う.
 prāṇānta 田 生命の終り, 死. 田 (生命を終る), 死
 (刑) の.
 prāṇāntika 田 (因 -i) 生命に対して破壊的な, 致命的
 な, 死(刑)の; 生涯の; 命がけの, 熱烈な(愛, 願望).
 ~m 田 死に至るまで. 田 生命に対する危険.
 prāṇāpāna 田 呼吸と吸息.
 prāṇāpetam 田 捨生 *Abh-vy.*
 prāṇābādha (°ṇa-āb°) 田 生命に対する危害, 生命
 の危険.
 prāṇābhisara 田 生命の救い手.
 prāṇāyana 田 感官.
 prāṇāyāma (°ṇa-āy°) 田 呼吸の一時的停止 [時として
 田].
 prāṇāyāmaśas (°ṇa-āy°) 田 しばしば呼吸を停止し
 て.
 prāṇāyāmin (°ṇa-āy°) 田 呼吸を一時的に停止する.
 prāṇāyaya 田 適当な, 至当な. → *pra-nāyaya.*
 prāṇārthavat 田 生命と富とを所有する.
 prāṇārthin 田 生命を熱望する.
 prāṇālābha 田 生命の喪失, 生命の犠牲, 自己を犠牲
 に供すること.
 prāṇāvarodha 田 呼吸の一時的停止.
 prāṇāvāśeṣa 田 余命 *Suv-pr.*
 prāṇi-ghātin 田 生物を殺す.
 prāṇi-jāti 田 虫 *Śikṣ.*
 prāṇita 田 生命.
 prāṇi-dyūta 田 動物(を闘争させる)賭博 [闘雞・闘
 羊等].
 prāṇin 田 呼吸する; 生きている. 田 生物; 動物;
 人間; 田 生, 人, 衆生, 有情, 群生, 含靈, 含
 血之類; 虫, 蟲; 微命 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Av-ś., Bo-
 dh-bh., Divy., Lal-v., Lanḅ., Mvyut., Nyāy-pr.,
 Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.*
 prāṇi-bhūta 田 有命者, 有命之者, 活物, 衆生,
 蠢動, 蠢動旁生之類, 蠢動有情 *Bodh-bh., Daś-bh.,
 Mvyut.*
 prāṇimat 田 生物を所有する(国土).
 prāṇi-vadha 田 生物の殺害; 田 殺, 殺生, 殺害衆
 生, 断生命 *Abh-vy., Gaṇḍ-vy.:* ~ād *vinivartayati*
 皆令永断殺, 讚歎不殺 *Gaṇḍ-vy. 155.*
 prāṇi-sahasra-koṭi 田 無量衆 *Saddh-p.*
 prāṇi-himsā 田 動物を害することまたは殺すこと; 田
 殺害含血之類 *Divy.*
 prāṇeśa (°ṇa-iśa) 田 生命の主, 愛人, 夫; [(氣息の

主), [ある *Marut* 神の称].
 prāṇeśā (°ṇa-iśā) 田 (自己の)生命の女主人, 妻.
 prāṇeśvara (°ṇa-iś°) 田 生命の主, 愛人, 夫.
 prāṇeśvari (°ṇa-iś°) 田 愛人, 妻.
 prāṇotkrānti (°ṇa-ut°) 田 生氣が去ること, 死.
 prāṇotsarga (°ṇa-ut°) 田 生命の放棄.
 prāṇoparodha (°ṇa-up°) 田 断(其)命 *Mañj-m.*
 prāṇopasparśana (°ṇa-up°) 田 感官(すなわち口・鼻・耳
 ならびに眼)に触れること.
 prāṇopahāra (°ṇa-up°) 田 (生命に対する供物), 食
 物.
 prāṇy-aṅga 田 動物または人間の肢体.
 prāta 田 過受分 → *Prā.*
 prātaḥ-kalpa 田 ほとんど朝となった(夜).
 prātaḥ-kārya 田 朝の勤めまたは儀式.
 prātaḥ-kāla 田 朝の時間, 早朝.
 prātaḥ-kṛtya 田 朝の儀式.
 prātaḥ-kṣaṇa 田 朝の時間.
 prātaḥ-prahara 田 朝の当直時間(午前六時から九時).
 prātar 田 [*<prā-tar*] 夜明けに, 早く, 朝において;
 翌朝または明朝に. 田 (擬人化された)朝. ~h ~h
 毎朝.
 prātar-adhyeya 田 早朝に読誦されるべき.
 prātar-anuvāka 田 早朝の讚誦 [*Prātaḥ-savana* は
 この儀式で始まる].
 prātar-anta 田 朝に終る.
 prātar-apavarga 田 [同上].
 prātar-abhivāda 田 朝の挨拶.
 prātar-avanega 田 朝の沐浴.
 prātar-aśana 田 朝食, 朝餉 (*Divy.*).
 prātar-aḥṇa 田 一日の早い部分, 午前.
 prātar-āśa 田 = *prātar-aśana*; 田 朝食, 昼食 *Abh-
 vy.*
 prātar-āsita 田 朝食をとった.
 prātar-āhuti 田 朝の *Agnihotra* 祭.
 prātar-i-tvan 田 [呼 *tvas*] 早く出て行くまたは来る.
 田 朝の来客.
 prātar-japa 田 朝の祈禱.
 prātar-nādin 田 (早朝に鳴くもの), 雄鶏.
 prātar-dugdha 田 過受分 田 朝の牛乳.
 prātar-doha 田 [同上]; 朝の乳搾り.
 prātar-yajña 田 朝の祭式.
 prātar-yāvan 田 早朝に出て行く.
 prātar-yukta 田 朝早く軛された(車).
 prātar-yuj 田 早朝に軛する, 早朝に軛した.
 prātar-vastṛ 田 早朝に輝く.
 prātar-huta 田 早朝の祭式.
 prātar-homa 田 [同上].
 prātas-candra-dyuti 田 朝の月の色をもつ(すなわち青
 白い).
 prātaṣṭana 田 早朝の. 田 早朝 [一日を五区分した
 その一つ; 他の四とは午前・正午・午後および夕方].
 prātaṣṭya 田 早朝の, 朝の.
 prātas-tri-vargā 田 [*Gaṅgā* 河の称].
 prātaḥ-samdhya 田 朝の薄明, 黎明.
 prātaḥ-sava 田 早朝の *Soma* 压榨の儀式.

prātaḥ-savana 田 [同上].
 prātaḥ-sāva 男 朝の Soma 压榨.
 prātaḥ-snāna 田 朝の沐浴.
 prātaḥ-snāyin 形 早朝に沐浴する.
 prātikāmin 男 (他人の欲望に従って行動する, prati-kāmam), 奴僕; 使者.
 prātikūlika 形 (因 -i) [prati-kūla から] 抵抗する, 敵対の, 反対の.
 prātikūlikatā 因 反対, 敵意.
 prātikūliya 田 [prati-kūla から] 不親切なこと, 反対; 抵抗すること; 不愉快なこと; (一) と一致しないこと; 違逆, 厭逆 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*
 prātikṣepika 形 [prati-kṣepa から] 消除, 從消除成, 棄絶 *Mvyut.*
 prātijña 田 論議の主題.
 prātidaivasika 形 日々に (prati-divasam) 起る.
 prātinidhika 男 代表者.
 prātipakṣa 形 [prati-pakṣa から] 敵または反対者に属する.
 prātipakṣika 形 治, 対治, 能対治, 退治; 障 *Bodh-bh.*, *Sutr.*: duḥkha ~ sukha 苦対治樂 *Bodh-bh.* 26.
 prātipakṣya 田 [prati-pakṣa から] (圓) に対する敵対, ...に対する敵意.
 prātipathika 形 [pratipatham から] 道に沿って行く. 男 徒歩旅行者 (*Divy.*).
 prātipada 形 [prati-padam から] 始めを形成する. 男 [人名].
 prātipadika 形 明瞭な, 明白な. 田 名詞の語幹 [格語尾を伴わない形].
 prātipauruṣika 形 [prati-pauruṣa から] 男らしさまたは豪勇に関する.
 prātibha 形 (因 -i) [prati-bhā から] 直観の, 田 直観; 沈着; 暗覚 *Mvyut.*
 prātibhaṭya 田 [prati-bhaṭa から] 競争.
 prātibhā 因 沈着.
 prātibhānika 形 (因 -i) [prati-bhāna から] 具弁才 *Bodh-bh.*
 prātibhāvya 田 [prati-bhū から] 保証, (一) に対する保証; (圓) に関する確実性または信頼できる報道.
 prātibhāsika 形 [prati-bhāsa から] 外観にのみ存する, うわべだけの.
 prātimokṣa 男 [*Pali* pātimokkha または pāti° = pratimokṣa] 別解, 別解脱, 別別解脱, 各各解散 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Kāśy.*, *Śikṣ.*; 禁戒, 解脱戒 *Kāśy.*, *Pratm.*; 波羅提木又 *Abh-vy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*; [また経の名 = bodhisattva ~ *Śikṣ.* 125.].
 prātimokṣa-saṃvara 男 別解脱律儀, 別解脱戒; (音写) 波羅提木又護 *Bodh-bh.*, *Sutr.*
 prātimokṣa-sūtra 田 [仏典の名] 解脱戒経; (音写) 波羅提木又戒本 *Prat-m.* [十誦比丘波羅提木又戒本等].
 prātirūpika 形 [prati-rūpa から] 偽の, 偽造の; 虚偽の秤または偽造貨幣を用いる.

-prātilambhika 形 [prati-lambha から] 得 *Mvyut.*
 prātilomya 田 [prati-lomam から] 転倒, 逆の順序; 反対, 敵意; 逆 *Abh-vy.*
 prātivesāka 男 [prati-veśa から] 隣人 *Divy.*
 prātivesika 男 [prati-veśa から] 隣人. 田 反射, 反映.
 prātivesikā 因 [prati-veśa から] 隣家の婦女.
 prātivesmika 男 隣人.
 prātivesmikā 因 隣家の婦女.
 prātivesmiki 因 [同上].
 prātivesya 形 [prati-veśa から] 隣接の; (一) に隣接した. 男 向い合った家の人, 隣人; 隣人 *Divy.*
 prātivesyaka 男 [prati-veśa から] 隣人.
 prātisākhyā 田 [prati-śākham から] [*Veda* 聖典中の語の音韻変化を各派の原典に従って (prati-śākham) 説明した書].
 prātiśrutka 形 [prati-śrut から] 反響の中に存在する.
 prātiśatvanam 副 Satvan に向って.
 prātiśima 男 [prati-siman から] 隣人 (*Divy.*).
 prātiśvika 形 (因 -i) [prati-sva から] 自己の, 特殊の, 他に共通しない.
 prātihata 男 [Svarita アクセントの一種].
 prātihartra 田 Prati-hartṛ 祭官の役目.
 prātihārika 男 [prati-hāra から] 門衛.
 prātihārya 田 [prati-hāra から] 門衛の役目; 奇術, 奇蹟を行なうこと; 奇蹟 (*Kar-vy.*, *Lal-v.*); 変, 変化, 変現, 変通, 神変, 神変相, 神通, 神通変化事, 神力, 神力変化, 神足; 導, 示導, 示現; 瑞 *Abh-vy.*, *Av-ś.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Sāddh-p.*, *Samr.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy.* I, *Suv-pr.*: triṇi ~ āṇi 三示導 [1. ṛddhi ~ m 神変示導, 2. ādeśanā ~ m 記心示導, 3. anuśāsam ~ m 教誡示導] *Mvyut.* → ādeśanā ~.
 prātihārya-guṇa 男 神変功德 *Sāddh-p.*
 prātihārya-saṃdarsana 男 [Samādhi の一種] (*Kar-vy.*).
 prātitika 形 [pratiti から] 観念のみに存する, 主観的な.
 prātipa 男 [*Śaṃtanu* の父系].
 prātipya 田 敵意.
 prātyakṣika 形 [praty-akṣa から] 直接知覚できる.
 prātyantika 男 [praty-anta から] 隣国の首長.
 prātyayika 形 [praty-aya から] 頼みになる; (借主の信用のために保証する(人)); (圓) の信頼があること
 prātyahika 形 [praty-aham から] 日々の.
 prāthanā 因 請 梵千.
 prāthamakalpika 形 (因 -i) [prathama-kalpa から] まず第一にまたはその語の厳密な意味において...である; 天地始元初時 *Divy.*; (音写) 劫初, 去初時, 劫初生 *Abh-vy.*, *Buddh-c.*, *Divy.* 男 初生者, 学習における初心者; 初学, 初学人 *Abh-vy.*; (音写) 劫初人, 劫初生人 *Abh-vy.*
 prāthamika 形 最初の, 首部の, 第一の; 始めて走った.

prāthamya 田 優先権, 先取権.
 prādakṣiṇya 田 pra-dakṣiṇa をすること; 恭敬を表わす動作.
 prāduḥ-Kṛ, → prāduṣ-Kṛ.
 prādu-bhūta 過受分 [=prādur-bhūta] 生 Śikṣ. → a~.
 prādur 副 (戸外に), [As, BHū, Kṛ または BHū, Kṛ の派生形とともにただ 一 の形をとって用いられる] 外へ, 見えて, 明白に, 目前で; [As, BHū とともに] 明白となる, 現われる, 自己を明示する; 起る; 響く; [Kṛ とともに] 明白にする, 明示する; 現わす, (火を)燃やす; 一 ~h syāt 応起 Abh-vy.
 prādur-bhāva 男 明示, 出現[また神の地上への出現]; 出, 出現, 出興, 出生, 出世, 生, 起, 現, 顕現行, 顕然 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lan̄k., Saddh-p., Sukh-vy. I.
 prādur-BHū, → prādur; 出, 出現, 現, 生, 有生, 起, 涌出; 発応, 滋潤, 繁茶 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Madhy-v., Sukh-vy. I., Sūtr.: pu-spāni prādurbhavanti 開華, 花出 Aṣṭ-pr., 474; phalāni prādurbhavanti 結実, 果出 Aṣṭ-pr. 474.
 prādur-bhūta 過受分 露頭した, 明白または明瞭になった, 現われた, 明示された; 発起, 造立, 起得生已 Bodh-bh., Śikṣ.
 prāduṣ-karaṇa 田 明示; 生産すること, (火を)点ずること.
 prāduṣ-kāra 男 (一)の啓示.
 prāduṣ-Kṛ, → prādur; 現, 放, 従出 Aṣṭ-pr., Lal-v., Saddh-p.
 prāduṣ-kṛta 過受分 見えるようにされた, 明らかにされた, 燃え上った(火).
 prāduṣ-kṛtavat 過能分 現 Saddh-p.
 prādeśa 男 一あたり [親指とひとさし指を広げた間の指尺; また尺度としては 22 aṅgula].
 prādeśa-mātra 田 指尺の長さ. 因 (因-i) 一あたり (指尺の長さ)の.
 prādeśa-sama 因 [同上 (因)].
 prādeśāyāma (°śa-āy°) 因 [同上].
 prādeśika 因 [pra-deśa から] 先例をもつ; 地方の, 限られた, 限られた区域の; 小, 少分, 一分, 一方, 一処, 狭劣 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Madhy-vibh., Sapt-pr. 男 小地主, 地方の長.
 prādeśika-yāna 田 類乗(?), 平等乗(?), 雜乗 Mvyut.
 prādeśikeśvara (°ka-iś°) 男 =prādeśika (男).
 prādeśin 因 一あたり(一指尺の長さ)の.
 prādeśi 因 ひとさし指.
 prādoṣa 因 [pra-doṣa から] 夕暮に関するまたは現われる, 晩の.
 prādhānika 因 [pra-dhāna から] 戦具, 武器.
 prādhānika 因 [pra-dhāna から] 卓越した, 最も優れた, 根本物質 (pra-dhāna) に関するまたはから出た; 就勝, 約勝義 Abh-vy.
 prādhānya 田 [pra-dhāna から] 優勢, 優位, 卓越, 顕著; 支配権, 至上権; 勝, 最勝, 多 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Sūtr. 一 圓, 因, ~tas 副 主

として, 大部分は, 主なまたは重要な点に関して, 要約して. 男 主なまたは最もきわだった人.
 prādhī (prādhī-I) prādhyeti, prādhīte. → I.
 prādhīta 過受分 学習を始めた; (Veda の学に) 通曉した, (Veda の知識に) 熟達した. → I.
 prādheya 因 Pradhā (Dakṣa の娘) に由来する.
 prādhyayana 田 暗誦・読誦または学習の開始.
 prādhyeṣaṇa 田 鼓舞, (学習への) 奨励.
 prādhva 因 [pra-adhvan から] 旅に出ている. 男 出立, 先立つこと [~e Kṛ (業) を (圓) の首位に置く]. ~m 副 遠くあちらに [~Kṛ とともに=わきにやる, 片づける, 別に置く]; (圓) の先例に従って; 都合よく, 親切に; 謙遜して.
 prādhvaṃsana 男 父系 Pradhvaṃsana の後裔.
 prān (pra-An) prāniti. → An.
 prānāḍi 因 [pra-nāḍi=pra-nāli の誤].
 prānta 男 田 (極端), はし(端), へり(縁), 辺, きわ(際), すそ; 終末, 極点, 尖端; 隅(唇・眼等の); (馬車の) 背部; 極, 辺際, 極辺 Bodh-bh., Mvyut.; 清浄 Mvyut.: ~m śayyāsanam 辺際臥具, 住極辺地, 清浄住処 Mvyut. 一 副 結局, 畢竟. 因 端に置かれた, 隔った (Divy., Mvyut.).
 prānta-koṭika 因 辺際, 遠際 Abh-vy., Mvyut.: ~m dhyānam 辺際静慮, 極禪定之彼岸 Mvyut.
 prānta-nivāsin 因 国境の近くに住んだ.
 prāntara 田 [長距離], 遠い荒涼とした道路.
 prānta-vana-prasthā 因 林中, 辺際山巖林藪 Mvyut.
 prānta-virasa 因 結局において味の無い.
 prānta-vṛti 因 地(水)平線.
 prānta-śayanāsana-bhakta (°na-ās°) 因 田舎に住む (Divy.); 樂住空閑 Divy.
 prānta-śayyāsanika (°ya-ās°) 因 空閑処坐 Śikṣ.
 prāp (pra-Āp) prāpnoti. → Āp.
 prāpaka (pra-āp°) (使役) 因 (一)に導くまたは運ぶ; 得る; 有効にする, 建設する; 成, 成就, 満足; 証 Lan̄k.
 prāpaṇa (pra-āp°) 因 (因-i) (一)に導く; 入, 得入 Gand-vy. 田 発生, 出現; (腕の) 達する距離, 到達範囲; 達成, 獲得; (因) に到達すること; 運ぶこと; (因) への拡張または言及; 有効にすること, 確立; 陳述, 説明; 得, 所得, 令及得, 令至; 令解, 所証, 証修, 誨示 Abh-vy., Daś-bh., Madhy-vibh., Sūtr.
 prāpaṇatā (pra-āp°) 因 隨 Śikṣ.
 prāpaṇika 男 (取引 (pra-paṇa) に関係した), 商人, 貿易業者.
 prāpaṇiya (pra-āp°) 未受分 到達させられるべき, (業) にもたらされるべき, 運搬されるべき; 得られるべき.
 prāpaya, [pra-Āp の使役]. → Āp.
 prāpayitr (pra-āp°) 男 得させる人, 授与者.
 prāpayitri (pra-āp°) 因 [同上].
 prāpitatva (pra-āp°) 田 発生; 獲得.
 prāpin (pra-āp) 因 (一)に到る, 達する; 得

Abh-vy.

prāpta (pra-āp°) 過受分 得られた, 獲られた, 勝ち得た; 到達した, 達成した; 遭遇した, 発見された; 課せられた, 負わされた; 到着した, 来た [~eṣu kāleṣu] ある期間において]; ある規則の結果として起る (文法) [iti ~e 前述の規則によってこのように結果するから]. → Āp. 得, 所得, 至得, 已得, 獲得, 逮得, 証得, 所証; 至, 到, 逮, 逮及, 致達; 生; 成, 成就; 已円満; 具, 具足; 遭, 遭遇, 能入 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Laṅk., Madhy-v., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ., 梵千., 梵雜.: ~o 'si buddhājñānam 成正覺 Saddh-p. 177; āścarya ~ 心生希有 Lal-v. 238; kāla ~o buddhotpādaḥ 時至仏出, 正是仏出時 Mvyut.; vicikitsā ~ 生疑惑 Saddh-p. 181; sambādha-saṃkaṭa ~ 遭遇艱難之事 Bodh-bh. 365. → a ~, āsvāsa ~.

prāpta-karmatva 因 [同下 因].

prāpta-karman 因 他の規則から演繹されて(行為の)直接目的語と認められる.

prāpta-kārin 因 正当または適当なことをする.

prāpta-kāla 因 到来した時節, 適当な季節, 適当な時, 好都合の瞬間. 因 時の到った; 機会に適当な, 時機に適った, 時機をえた; 婚期の(因). ~m 副 適当な時に; 時到 Vin.

prāpta-kālatva 因 時機に適ったこと, 時機をえたこと.

prāpta-krama 因 適切な, 適当な, 得策の (Jat-m.).

prāpta-grahaṇa 因 至(根方)取 Abh-vy.

prāpta-jivana 因 生命を回復した, 死から救われた.

prāptatva (pra-āp°) 因 (文法上の規則から)結果したこと; 得, 獲得 Aṣṭ-pr., Bodh-bh.

prāpta-doṣa 因 罪過を招いた.

prāpta-nirvāna-saṃjñin 因 (音写) 得涅槃想 Saddh-p.

prāpta-pūrva 因 曾得知, 所能得 Laṅk.

prāpta-phala 因 得果 Abh-vy.; 得道者 Saddh-p.

prāpta-bija 因 種がまかれた.

prāpta-manorathā 因 希望のものを獲得した.

prāpta-yauvana 因 青春に達した, 青年期の, 婚期にある.

prāpta-rūpa 因 適当な, 正当な; 学識のある, 賢明な.

prāptavat (pra-āp°) 過能分 (因-i) 獲得した, ひき起した.

prāpta-vikalpa 因 (文法上の一規則からの帰結に対して)その代りとなりうるもの.

prāpta-vikalpatva 因 代用の正当性 (文法).

prāpta-viśayatva 因 至境, 至塵 Abh-vy.

prāptavya (pra-āp°) 未受分 遭遇または見出されるべき; 入手または獲得されるべき; 應得, 所應得 Bodh-bh.

prāptavyam-artha 因 [名を問われて常に prāptavyam arthaṃ labhate manuṣyaḥ (得られるべき物を人は常に取る)と答えた人の綽名]. 因 [nāman

名とともに用いられたとき].

prāpta-śri 因 幸運を得た.

prāpta-saṃjñin 因 謂得 Saddh-p.

prāpta-sūrya 因 [diś とともに] 因 太陽のある方位すなわち太陽が頂点にある方角.

prāptāparādha 因 過失を犯した.

prāptārtha 因 達せられた目的. 因 目的を達した, 富を得た.

prāptārthāgrahaṇa 因 得られた利益を保証しないこと.

prāptāvasara 因 適当な機会. 因 適当な, 妥当な.

prāpti (pra-āp°) 因 到来, (時の)出現すること; 到達する領域, 範囲; (一°)への到着; (欲しいあるものを)得る力 [八超自然力 (siddhi) の一]; (因)から救うこと; 達成, 獲得, 利得; 遭遇; 発生; 発見, 決定; 普及, (法則の)効力; 運命, 幸福, 喜ばしい出来事 (戯曲); (特殊な事物の観察に基づく)推測 (戯曲); 得, 所得, 至得, 能得, 獲得; 至; 証, 証得; 到何処, 無処不到; 遭, 遭遇; 受; (知足著) Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-v., Laṅk., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Sūtr., 梵雜.: saṃbādha-saṃkaṭa ~ 遭艱難事, 遭遇艱難之事 Bodh-bh. 365.

prāpti-jñā 因 知至, 知言至 Abh-vy.

prāpti-dharma 因 正法得, 証法(実) Laṅk.

prāpti-dharmatā 因 所得法 Laṅk.

prāpti-parājita 因 知足著 Sūtr.

prāpti-prāpti 因 得得 Abh-vy.

prāptimat (pra-āp°) 因 遭遇する; (一°)を達成した, ...に到達した; 所得, 有至得 Abh-vy.

prāpti-viśeṣa 因 果勝, 至得勝, 至得殊勝, 得奇特性 Laṅk., Madhy-vibh., Sūtr.

prāptiviśeṣāvaraṇa (°ṣa-āv°) 因 至得勝障, 至得殊勝障 Madhy-vibh.

prāpti-saithilya 因 わずかの蓋然性.

prāpti-sākṣāt-karaṇa 因 証得, 証至 Madhy-vibh.

prāptodaka (°ta-ud°) 因 水を得た.

prāpty-anuṣaṅga 因 得与相連, ((与得相連)) Mvyut.

prāpty-avasthā 因 至得位, 証得位 Madhy-vibh.

prāpty-āvaraṇa 因 至得障 Madhy-vibh.

prāpty-āsā 因 (自己の)目的を達する希望 (戯曲).

prāpya (pra-āp°) 未受分 達せられるべき, 得られるべき; 獲得できる; 適当な; 應得事, 所應得 Bodh-bh., Sūtr.

prāpya-rūpa 因 むしろ容易に達せられるべき (Jat-m.).

prābandhika 因 (因-i) [pra-bandha から] 連綿, 相続, 次第続 Bodh-bh.

prābandhikatva 因 [同上 因] 相続起 Abh-vy.

prābalya 因 [pra-bala から] 優越, 優勢; 適合, 効力 (法則または論証の); 最勝 Sūtr.

prābodhaka 因 [pra-bodha から] 朝になって国王を目覚ます役目をもつ楽人.

prābhāñjani 因 風神の子, [Hanumat の父系].

prābhavatya ㊦ [pra-bhava から] 力, 権威.
 prābhākara ㊦ Prabhākara [Pūrva Mimāṃsā 学派
 の中の一支派の祖] の学徒. ㊦ Prabhākara の著
 作.
 prābhātika ㊦ (因 -i) [pra-bhāta から] 早朝の, 朝の.
 prābhṛta ㊦ (供物 prabhṛti に関する), 贈物, 施物;
 ㊦ 供, 貢, 進物, 進奉, 奉上, 奉獻; 財物 *Abh-
 vy., Divy., Saddh-p.*
 prābhṛtaka ㊦ [同上].
 prābhṛti-Kṛ, …の贈物をする, 贈与する.
 prāmāṇika ㊦ [pra-māṇa から] 量として制定または通
 用される, 証拠または権威に基づいた, 権威のある;
 論証できると考えられる; ㊦ 量, 限量, 可信的
Lal-v., Mvyut., Sūtr.
 prāmāṇikatva ㊦ [同上 ㊦] 権威のあること, 説得
 力のあること; ㊦ 則 *Bodh-bh.:* ~ena stheyah
 取則 *Bodh-bh. 28.*
 prāmāṇya ㊦ [pra-māṇa から] 権威のあること; 確実
 性; 証拠; ㊦ 量 *Bodh-bh.*
 prāmādika ㊦ [pra-māda から] 不注意による, 誤っ
 ている, 過失のある, 誤った(読方等).
 prāmukhya ㊦ ㊦ 上首, 導首 *Bodh-bh., Sūtr.* ㊦
 ~ena ㊦ ㊦ 為上首 *Bodh-bh.*
 prāmōdika ㊦ (因 -i) 魅力のある.
 prāmōdya ㊦ [pra-mōda から *Pāli pāmojja, pāmuja*]
 狂喜, 歓喜, 喜び, 幸福 (*Divy., Lal-v.*); ㊦ 喜,
 勝喜, 歓喜, 悦, 欣, 欽, 楽, 欽悦, 喜悅, 喜樂,
 欣樂, (自)慶, 和悦予; 踊躍 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-
 bh., Daś-bh., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr.,
 Śikṣ., Sūtr.*
 prāmōdya-jāta ㊦ ㊦ 歓喜, 欣樂 *Saddh-p.*
 prāmōdya-pūrvaka ㊦ ㊦ 先喜 *Mvyut.:* nava ~ā
 dharmāḥ 先喜九種法 [1. pramuditasya pritiṛ jā-
 yate 極喜者生喜, 2. pritiṛmanasaḥ kāyaḥ prasra-
 bhyate 意喜而身輕安, 3. prasrabdha-kāyaḥ sukhaṃ
 vedayati 身輕安則受樂, 4. sukhitasya cittaṃ sa-
 mādhiyate 樂而後心得定, 5. samādhiṛ-citto yathā-
 bhūtaṃ prajānāti yathā-bhūtaṃ paśyati 心得定則
 如実知如実見, 6. yathā-bhūta-darśiṛ nirvidyate 如
 実見則厭, 7. nirviṇṇo virajyate 厭則離, 8. virakto
 vimucyate 離則解脱, 9. vimuktasya vimukto 'smīti
 jñāna-darśanaṃ bhavati 解脱者知見我已解脱]
Mvyut.
 prāmōdya-rāja ㊦ ㊦ [菩薩の名] 喜王 *Raṣṭr.*
 prāmōdya-harṣa ㊦ ㊦ (大)歓喜 *Saddh-p.*
 prāya ㊦ [I] (戦いに)出て行くこと; (生命からの)離
 脱, 断食によって死を求めること; (卓越したもの
 =)主要部, 大部分. 一° ㊦ [㊦ の後に] …を主
 要部とした, 主として…からなる, …中で優位を占
 める, …に富む; 本来…のつもりである; しばしば
 (罰を)適用または課する; …に近い, まさに [㊦ 成就]
 しようとする; …のような, …に似た; [㊦ または
 ㊦ の後に] 大部分; [㊦ の後に] 言わば;
 ほとんど. ~ena ㊦ ㊦ 多分, 恐らくは; 大部分,
 大抵, 概して, 一般に; ㊦ 多, 多分, 従多,
 従多分; 倍 *Abh-vy., Lanḥ., Sūtr.* ~m Ās, upa-

Ās, Kṛ, upa-Viś, upa-I, ā-Sthā, sam-ā-Sthā また
 は Kṛ 生命を棄てる, 死を求める(とくに何物かを強
 請りとるために断食の手段をもって). ~m Kṛ
 (使役), (案)をして餓死の決心をさせる.
 prāya-gata ㊦ 死に近づいた.
 prāyaṇa ㊦ 入ること, 開始; 生涯の過程, 経歴; 生
 命からの離脱, 死; 避難所. ~m Kṛ 死を求める.
 prāyaṇatas ㊦ 最初に.
 prāyaṇānta ㊦ 生存の終り. ~m ㊦ 死に到るまで.
 ㊦ 生存の終りにおいて.
 prāyaṇiya ㊦ 序の, 冒頭の. ㊦ (*Soma* 祭の)冒頭の
 祭儀.
 prāyaṇiyā ㊦ [同上 ㊦].
 prāyatya ㊦ 敬虔な心構え, 祭式上の純淨.
 prāya-darśana ㊦ しばしば現われる現象.
 prāya-vidhāyin ㊦ 餓死を決心した.
 prāyaśas ㊦ 通例, 大体においては, 大抵, 一般に,
 原則として, 恐らくは.
 prāyaś-citta ㊦ 償い, 贖罪, 苦行; 賠償, 弁済義務
 の履行.
 prāyaś-citti ㊦ [同上]. ㊦ 贖罪する (*Agni* 神).
 prāyaś-cittika ㊦ (因 -i) 贖罪に適當な; 贖罪を必要
 とする (弘教). ㊦ ㊦ 隨, (燒煮)隨(惡趣), 応対治
Mvyut.; ㊦ 波逸提, 波羅夜質胝柯 *Mvyut.*
 prāyaś-cittin ㊦ 贖罪する.
 prāyaś-cittiya 1. ㊦ ㊦ prāyaścittiyate 苦行を強
 制される.
 prāyaś-cittiya 2. ㊦ 贖罪として役立つ; 苦行を強制
 された.
 prāyaś-cittiyatā ㊦ 苦行をする責任.
 prāyaś-cetana ㊦ 贖罪, 賠償.
 prāyas ㊦ = prāyaśas.
 prā-Yā (pra-ā-Yā) prāyāti. → Yā.
 prāyāṇika ㊦ (因 -i) [pra-yāṇa から] 行進または旅行
 に適當なまたは必要な.
 prāyātrika ㊦ [pra-yātra から] [同上].
 prāyāsa ㊦ 大きな努力.
 prāyika ㊦ 普通の, 通常の; 大部分を含んだ(ただし
 すべてではない).
 prāyikatva ㊦ [同上 ㊦].
 prā-Yudh (pra-ā-Yudh) prāyudhyate. → Yudh.
 prāyeṇa ㊦ ㊦ → prāya.
 prāyoktra ㊦ (因 -i) [pra-yoktr から] 時々使用され
 る.
 prāyogika ㊦ [pra-yoga から] 適用できる; ㊦ 加
 行, 正加行, 加行生, 加行得, 加行所得, 由加行,
 為加行, 由功用; 和合中出; 方便 *Abh-k., Abh-vy.,
 Bodh-bh., Mvyut.*
 prāyogikatva ㊦ [同上 ㊦] ㊦ 加行, 方便 *Bodh-
 bh.*
 prāyojya ㊦ 必要なものに属する.
 prāyopagamana (°ya-up°) ㊦ 死に至ること, 自己を
 餓死させること.
 prāyopayogika (°ya-up°) ㊦ 最も通常の.
 prāyopaviṣṭa (°ya-up°) ㊦ 餓死しようとして坐る.
 prāyopaveśa (°ya-up°) ㊦ 断食で餓死すること.

prāyopaveśana (°ya-up°) 田 [同上].
 prāyopaveśin (°ya-up°) 形 = prāyopaviṣṭa
 prāyopeta (°ya-up°) 形 [同上].
 prāyo-bhāvin 形 一般にまたは規則正しく起る.
 prāyo-vāda 男 言いならわし, ことわざ.
 prār (pra-R) preyarti. → R.
 prāranya 田 [prāvanya の誤] (Lal-v.); 漢語 (音写)
 空寂蘭若 Sam-r.
 prā-rabdha 過受分 → Rabh.
 prā(pra-ā)-Rabh prārabhate. → Rabh.
 prā-rambha 男 仕事の始め, 企図, 企業; 開始; 漢語
 生, 始起, 発起所作, 作己 Abh-vy., Lanik.
 prārambha-vinivṛtti 因 漢語 始起即捨, 始造即便捨,
 発起所作而不作, 離始造, 遠離於始造, 作己而捨
 Lanik.
 prā(pra-ā)-Rud prārodati. → Rud.
 prā-roha 男 芽, 嫩芽.
 prā-rohaka 男 [同上].
 prārc (pra-arc=Rc) prārcati. → Rc.
 prārtha 形 熱心な; 漢語 希梵千. 男 備品, 用具.
 prārthaka 形 (因-ikā) 懇請する, 口説く(とくに娘を).
 男 懇請者, 求婚者.
 prārthana 田 (因, 一°) に対する懇願, 懇請, 懇望,
 祈禱, 要求, 熱望; 歎願, 求愛; (一°) に対する哀
 願; 漢語 求, (定)希求 Bodh-bh., Śikṣ.
 prārthana-duḥkha-bhāj 形 乞い求める事の苦痛を忍
 ぶ.
 prārthanā 因 = prārthana; 漢語 求, 所求, 希求;
 所希求, 追求; 忻求; 樂, 生願樂, 求恋, 希欲, 趣
 欲 Abh-vy., Bodh-bh., Lanik., Madhy-v., Śikṣ.,
 Vijñ-t., 梵千.
 prārthanā-bhaṅga 男 要求の拒絶.
 prārthanābhāva (°nā-abh°) 男 求婚のないこと.
 prārthanā-siddhi 因 欲望または要求の成就.
 prārthaniya 未受分 願望または懇請されるべき; 願わ
 しい; 乞われるべき(人); 漢語 希, 所求 Divy.,
 Śikṣ.
 prārthaniyatva 田 漢語 欣求, 所愛 Abh-vy.
 prārthaya 名動 田 prārthayate. → arthaya.
 prārthayāna 名動 現分 欲する等.
 prārthayitavya 未受分 願わしい; 漢語 (希)求 Bodh-
 bh.
 prārthayitr 男 求婚者, 愛人.
 prārthita 過受分 懇願された, 懇望された; 欲求さ
 れた, 探し求められた, 要求された; 着手された;
 漢語 求, 求願, 所欲; 愛 Lal-v., Mañj-m., Saddh-
 p., Sūtr. 田 欲望, 願望.
 prārthita-durlabha 形 欲求されたが得難い.
 -prārthin 形 欲する, 願っている.
 prārthya 未受分 (因, 一°) によって願われるべ
 き; 望ましい; 非因 要求すべきである.
 prārpana 男 鼓舞する者 (因).
 prārpya 不変分 鼓舞して.
 prā-lamba 形 かかる, 垂れ下った. 田 (?) (首から)
 垂れ下った花環.
 prāleya 1. 名動 田 prāleyati 雪等に類似する.

prāleya 2. 田 (?) 霰; 雪; 霜; 露.
 prāleya-bhū-dhara 男 [(雪山), Himalaya 山脈の称].
 prāleya-raśmi 男 (冷光の), 月(太陰).
 prāleya-rocis 男 [同上].
 prāleya-varṣa 田 (?) 雪が降ること.
 prāleya-śaila 男 = prāleya-bhūdhara.
 prāleyāṃsu 男 = prāleya-raśmi.
 prāleyādri 男 = prāleya-bhūdhara.
 prā(pra-ā)-Lok, → Lok.
 prā-lokya 不変分 → Lok.
 prāv (pra-Av) prāvati. → Av.
 prā-vacana 形 (Veda 聖典を) 誦する際に慣例的な.
 prā-vacanika 形 [同上].
 prāvanya 田 [pra-vaṇa から] (因, 一°) の傾
 向のあること, …に傾倒すること. (Lal-v.).
 prā-varaṇa 田 覆うこと; 外套, 上衣; 漢語 衣, 衣
 服, 衣裳 Abh-vy., Suv-pr.
 prāvārṣin 形 [pra-varṣa から] 雨が降り始める.
 prāvāduka 男 相手(論戦における).
 prā-vāra 男 外套, 上衣; [地方の名]. 形 (蚤等が)上
 衣についた.
 prā-vāraka 男 外套, 上衣.
 prāvāra-karṇa 男 [ある鼻の名].
 prāvāra-kiṭaka 男 衣服につく虱.
 prā-vārika 男 上衣の製造者.
 prāvālika 男 [pra-vāla から] 珊瑚を売る人.
 prāvitr 男 (因) の保護者.
 prāvivekya 田 [pra-viveka から] 漢語 遠離, 樂処遠
 離, 空閑淨処, 空閑静処, 修習寂静 Bodh-bh.
 prā(pra-ā)-Viś prāviśati. → Viś.
 prāviṣ-kṛta 過受分 漢語 告 Divy.
 prāviṣ-kriyamāṇa 現分 [pra+Skt. āviṣ-Kṛ; 仏教梵
 語: 示す] 示された (Divy.); 漢語 告示 Divy.
 prāvi 形 (神々を) 勧請する (Agni 神).
 prāviṇya 田 (因, 一°) においての巧妙, 器用, 熟練.
 prā(pra-ā)-Vṛ prāvṛnoti, prāvṛnute. → Vṛ 1, 2.
 prā-vṛt-kāla 男 雨季.
 prāvṛt-kāla-vaha 形 雨季の間だけ流れる(河).
 prā-vṛṇmaya 形 (因-i) 雨季に似た.
 prā-vṛṇ-māsa 男 漢語 雨際月 Abh-k.
 prā(pra-ā)-Vṛt prāvartayati (使役). → Vṛt.
 prā-vṛta 過受分 覆われた等. → Vṛ 1. 漢語 著,
 所著, 著身 Divy., Lal-v., Suv-pr. 田 外套, 上
 衣; 覆うこと, 包むこと.
 prā-vṛṣ 因 雨季, 降雨期 [曆の一区分として Āśadhā
 ならびに Śrāvāṇa 月を包括し, 実際の降雨期の前半
 に相当する]; 漢語 雨際 Abh-vy.
 prā-vṛṣika 形 雨季に関係する, 雨季に生れた.
 prāvṛṣi-ja 形 雨季に生じたまたは起った.
 prā-vṛṣiṇa 形 雨季に属するまたはの始めをなす(日).
 prā-vṛṣeṇya 形 雨季に関するまたは属する.
 prā-vṛṣeya 男 種 [民族の名].
 prāvenya 田 特種の獣類の柔軟な皮革. → praveni.
 prā-vepa 男 (樹上に)揺れながら垂れ下っている果実.
 prāveśika 形 (因-i) [pra-veśa から] (家)に入ること
 または(舞台に)登場することに関する; 漢語 入 Abh-

vy.

prāvrājya ㊦ [pra-vraja から] 行乞僧の生活。
prās(pra-Aś) **prāśnoti** (1.), **prāśnāti** (2.), **prāśnite** (2.). → Aś 1,2.
prāśa(pra-āśa) ㊦ 食うこと, 味うこと; 食物; (幼児に飯を)始めて食べさせること。
prāśana ㊦ [同上]; 食べさせること。
prāśanārthiya ㊦ 食べさせようとする。
prāśaniya ㊦ 未受分 食物として役立つべき。㊦ 食物。
prāśastya ㊦ [pra-śasta から] 称讃に値すること, 卓越, 優秀。
prāśā(pra-āśā) ㊦ 熱望。
prāśita ㊦ 過受分 食べられた。
prāśitavya ㊦ 未受分 食べられるべき, 食べられる, 食用に適する。=prāśaniya。
prāśitṛ ㊦ 食べる人。
prāśitra ㊦ 祭式においてブラフマン祭官が食べる供物の分け前。
prāśitra-haraṇa ㊦ Prāśitra を容れる器物。
prāśu(pra-āśu) ㊦ 非常に迅速なまたは敏捷な。
prāśnika ㊦ [praśna から] 多くの疑問を含んだ。㊦ (質問者), 仲裁者, 審判者; ㊦ 問者, 有問者 Nyāy-pr.
prāśni-putra ㊦ [教師の名]。
prāśya ㊦ 未受分 食べられるべき, 食べられる =prāśaniya。
prāśva-medha ㊦ 準備の馬祠祭。
prās(pra-As) **prāsyati** (2.), → As 1,2.
prāsa(pra-āsa) ㊦ 投げること, 擲つこと; 撒くこと; 投槍; [人名]; ㊦ 刀鎗, 標鎗, 牌鎗, 槊 Abh-vy., Mvyut., 梵雜。
prā-saṅga ㊦ [軌の一種]。
prāsaṅgika ㊦ (因-i) [pra-saṅga から] 密接な関係または接触から出た, 相応した; 偶発的な, 挿話的の, 偶然の; [中観学派の一派] 必過空性派, 必過性空派; ㊦ 極善相応 Śikṣ. → svātantrika。
prā-sah ㊦ 強大な。㊦ 力, 権力; ㊦ 強いて。
prā-saha ㊦ 力, 権力; ㊦ 強いて。
prā-sāda ㊦ 坐るための高い台, 露台; 高い建物の最上層; 高い基礎の上の大建築, 宮殿; 神殿, 祠堂; ㊦ 閣, 堂閣, 楼, 楼閣, 高楼, 観, 台観; 殿, 大殿, 宮殿, 宮, 堂, 堂舎, 殿堂, 講堂, 法堂, 舎, 精舎, 房, 美屋 Aśt-pr., Av-ś., Divy., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Lal-v., Lan̄k., Rāṣṭr., Saddh-p.: vaijayantah ~ ḥ 殊勝殿, 最勝法堂 Divy. 395. Mvyut.
prāsādaka ㊦ [pra-sāda から] ㊦ 鮮榮可愛 Lal-v.
prāsāda-gata ㊦ 宮殿の平屋根に行った。
prāsāda-garbha ㊦ 宮殿の内室または寢室。
prāsāda-tala ㊦ 家屋または宮殿の平屋根; ㊦ 楼, 閣上 Aśt-pr.
prā-sādana ㊦ ㊦ 殿堂, 宮殿, 室寺舎 Śikṣ.
prāsāda-prṣṭha ㊦ 宮殿の屋上における露台。
prāsāda-prastara ㊦ =prāsāda-tala 家または宮殿の露台。
prāsāda-vāsin ㊦ 宮殿に住んでいる。
prāsāda-sāyin ㊦ 宮殿に寝るのに慣れた。

prāsāda-śṛṅga ㊦ 宮殿または神殿の尖塔, 小塔。
prāsāda-stha ㊦ 宮殿(の頂上)に立った。
prāsādāgra ㊦ 宮殿の頂上。
prāsādāṅgana ㊦ 宮殿または神殿の中庭。
prāsādāṅganā ㊦ [同上]。
prāsādika ㊦ [pra-sāda から] 恵み深い; 愛らしい (Kār-vy., Lal-v.); ㊦ 端正, 端雅, 端妙, 端嚴, 端正可愛, 端嚴殊特, 端嚴微妙, 端嚴殊妙, 相好端嚴, 相好殊妙, 顔容殊妙, 形容端正, 妙, 美; 俊; 善; 可喜, 所愛敬; 理趣; 妍, 媚 Aśt-pr., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sukh-vy., Suv-pr., 梵千.; 梵雜.: ~ ṃ darśaniyam 相好端嚴, 端嚴殊特 Gaṇḍ-vy. 355. → a~.
prāsādikatva ㊦ [pra-sāda から] ㊦ 清浄, 顔容殊妙 Bodh-bh., Śikṣ.
prāsādikā ㊦ [pra-sāda から] 家の屋上の室。
prāsādi-vārika ㊦ ㊦ 治造者 (?) Mvyut.
prāsika ㊦ ㊦ 執鎗者 Mvyut.
prāsuka ㊦ 生物から離れた, 潔い。
prāstāvika ㊦ (因-i) [pra-stava から] 序の, 序曲を形成する; 時機を得た。→ a~.
prāsthānika ㊦ [pra-sthāna から] 旅行または出発に関する; 出発に適するまたは都合のよい。㊦ 旅行準備。
prāsthika ㊦ 1 prastha を含む, …の重さの, …の価いの。
prāh(pra-Ah) **prāha** (三過)。→ Ah.
prāharika ㊦ [恐らくは =prāhārika]。
prā-havaniya ㊦ 未受分 [Hu] ㊦ 極応施 Mvyut.
prāhārika ㊦ [pra-hāra から] 番人, 使丁。
prā-hita ㊦ 過受分 ㊦ 纏綿 Śikṣ.
prāhuṇa ㊦ [pra-āhuṇa, Pali pāhuṇa] 賓客。→ prāghuṇa, °ghūrṇa(ka).
prāhuṇaka ㊦ [同上]。
prāhuṇika ㊦ [同上]。
prāhuṇikā ㊦ 女客。
prāhuṇi ㊦ [同上]。
prāhṇa ㊦ 午前; ㊦ 午前において。
prāhrādi ㊦ ㊦ 系 [Prahāda の後裔]。
prāhlādaniya [pra° の誤] (Lal-v.).
priya ㊦ [Pri] (為, 圓, 因, 一°) に親しい, …に愛された; 寵愛を受ける, 慈しまれた; 喜ばしい, 愉快な; 親しい, 高価な(きわめてまれ); (因, 一°) を好む, …に傾いたまたは執着した; 〇一 [㊦ 合或において ㊦ の前におかれるとき] を好む, …に専心した; [㊦ とともに] より親愛な; ㊦ 愛, 所愛, 可愛, 所可愛, 所重愛, 愛者, 慈愛, 敬愛, 愛念, 所愛念, 愛樂, 樂; 軟; 惜者; 敬伏; 喜, 欣悦; 善; 染 Aśt-pr., Av-ś., Bodh-bh., Divy., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr., 梵千.: ativakavi~ 好楽才学 Divy. 73. → a~. ~ ṃ Kṛ ㊦ (圓) を愛する。~ ṃ 副 愉快に, 親切に。㊦ 喜んで。㊦ 友人; 愛人, 夫; 婿; ㊦ 愛, 可愛, 恩愛, 所愛敬, 尊重敬愛 Aśt-pr., Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Sāṃkhy-k., 梵雜。㊦ 親切, 寵愛; 喜ばしいまたは親切な行為。
priyam-vada ㊦ (圓, 一°) に対して優しく話す・も

の柔かなまたは気持のよい；**漢** 言常柔軟 *Bodh-bh.* 男 [鳥の一種]；[ある *Gandharva* の名]；[人名]。

priyaṃ-vadaka 男 [人名]。

priyaṃ-vadatā 女 言葉の好ましいことまたは親切なこと。

priyaṃ-vadā 女 [人名，とくに *Sakuntalā* の最も親しい女友達の名]。

priyaka 男 鹿(の一種，非常に柔かい毛の)；鳥(の一種)；[樹の一種]。 田 [ある花の名]。

priya-kara 形 愉快的な，喜ばしい。

priya-karaṇa 形 (女 -i) **漢** 可愛 *Śikṣ.*

priya-karman 田 愛人の行為。 形 奉仕をする，親切な。

priya-kalaha 形 けんか好きな。

priya-kāma 形 (男) に奉仕しようとする；親切な心をもった。

priya-kāmyā 女 (男) に奉仕しようとする願望。

priya-kāra 形 (男) に奉仕をする，…に愛を示す。

priya-kāraka 形 愉快にさせる，愉快的。

priya-kāraṇa 田 親切のための誘因。 田 ある人に親切をつくすために。

priya-kāritva 田 [同下 田]。

priya-kārin 形 (女 -nī) (ある人に)親切を示す；**漢** 為愛念，成愛念 *Bodh-bh.* 男 友人，善行者。

priyaki 女 *priyaka* 鹿の皮。

priya-kṛt 形 奉仕をする。 男 親切な人；友人；善行者。

priya-guṇa 形 徳を愛する。

priyaṃ-kara 形 (女 -ā, -i) (男) に奉仕または親切をするまたは愛想のよい；愉快的な；喜ばしい。 男 [ある *Dānava* の名]；**漢** [菩薩の名] 愛作，愛敬，樂作 *Śikṣ.*

priyaṅgu 男 女 [蔓草の一種，婦人が触れると花が咲くと云われる]；黒芥子 [学名 *Sinapis ramosa*]；**漢** 卮子，稷，粟，穀 *Mvyut.*，梵雜。

priyaṅgu-varṇa-syāma 男 **漢** 紫綠色 *Mañj-m.*

priyaṅgu-syāmā 女 [*Naravāhana-datta* の妻の名]。

priya-cikīrṣā 女 (男) に親切にしようとする欲望。

priya-cikīrṣu 希羽 形 (男) に奉仕したいと思う

priya-cittatā 女 **漢** 愛樂心 *Śikṣ.*

priya-jana 男 愛される人(男または女)。

priya-jāni 男 恋人，愛人。

priya-jivita 形 生命を尊ぶ。

priya-jīvitatā 女 生命に対する愛着。

priya-tanaya 形 息子を愛する (*Jat-m.*)。

priyatama 最上 非常に親愛な。 男 愛人，配偶者。

priyatamā 女 女主人，妻。

priyatara 比較 さらに親愛な；**漢** 愛他過於自 *Sātr.*

priyataratva 田 (田) よりも (田) に親愛なこと。

priyatā 女 人望；愛情；(°—)に対する溺愛または愛；**漢** 可愛 *Divy.*；愛念 *Bodh-bh.*

priyatva 田 [同上]；**漢** 愛樂 *Bodh-bh.*

priya-dattā 女 [大地の神秘的な称]；[人名]。

priya-darsā 形 見た眼に爽快な。

priya-darsāna 田 親(愛な)友を見ること。 形 (男) に

対して愛らしい容貌をもつ，美貌の，美わしい；**漢** 愛見，憲見，所喜見，所樂見，衆生樂見，衆生所樂見，所有見者皆歡喜 *Mañj-m.*，*Saddh-p.*，*Suv-pr.* 男 [Gandharvas のある王の名]；[*Vāsuki* の息子の名]。

priya-darsānā 女 [ある *Surāṅganā* の名]；[諸婦人の名]。

priya-darsikā 女 [*Harṣa* 作の戯曲およびその女主人公の名]。

priya-darsin 男 [(親切な容貌をもつ)，*Aśoka* 王の称あるいはむしろ本名]。

priya-dāra-putra 男 **漢** 妻子，所愛男女 *Suv-pr.*

priya-devana 形 娛樂または賭事を好む。

priya-dhanva 形 [*Śiva* 神の称]。

priya-nivedana 田 よい便り。

priya-nivedayitṛ 形 よい便りをもたらず。

priya-nivedikā 女 よい便りをもたらず婦人。

priyaṃ-dada 形 愛を与える (*Kār-vy.*)。

priyaṃ-dadā 女 [ある *Gandharva* の女の名] (*Kār-vy.*)。

priya-putra 男 [鳥の一種]；**漢** 所愛子 *Suv-pr.*

priya-praśna 男 親切に尋ねること(健康等について)。

priya-prāya 形 非常に親切な(語)。

priya-bhāva 男 愛の感情。

priya-bhāṣaṇa 田 親切な語。

priya-bhāṣin 形 親切な言葉を話す。

priya-bhojana 形 食を好む。

priya-makaranda 形 (その人にとって) *Makaranda* が非常に大切な。

priya-maṇḍana 形 裝飾を好む。

priya-madhu 形 蜜を好む。 男 [*Balarāma* の称]。

priya-mādhava 形 (女) *Mādhava* を愛する(婦人)。

priya-mukhā 女 [ある *Gandharva* の女の名] (*Kār-vy.*)。

priya-medha 男 [ある聖仙の名]。

priyaṃ-bhāvuka 形 親愛になる。

priya-rūpa 形 好ましい外貌の。

priya-vaktṛ 男 喜ばしいことを言う人[善悪両様の意味で]；へつらう人。

priya-vaktṛtva 田 親切に語ること。

priya-vacana 田 親切なまたは優しいことば；**漢** 善言，愛語 *Dharm-s.*，*Suv-pr.* 形 快く話す。

priya-vacas 田 形 [同上 (田，形)]。

priya-vadyatā 女 **漢** 愛語 *Śikṣ.*

priya-vayasya 男 親友；**漢** 仁 *Divy*

priya-vasantaka 男 いとしい春と親しい *Vasantaka*

(一語二義)。

priya-vastu 田 大好きな事柄または話題。

priya-vāk-sahita 形 親切なことばを伴った。

priyavāc 女 親切なことば。 形 親切にまたは懇切に話す。

priya-vāda 男 親切なことば。

priya-vādikā 女 楽器(の一種)。

priya-vāditā 女 愛想のよいことば；へつらい；**漢** 愛語，愛語撰，喜語，軟語 *Bodh-bh.*，*Mvyut.*，*Sātr.*

priya-vāditva 田 [同上]。

priya-vādin 形 気持よくまたは親切に話す, 愛嬌たっぷりに話す; へつらう. 男 へつらう人.
priya-vādyā 中 [Pali peyya-vajja] 愛想よく話すこと (Mah-v.).
priya-vāla 形 美しい髪の.
priya-vigrahaka 形 漢訳 毀所愛 Bodh-bh.
priya-vinā-kṛta 形 最愛の人に捨てられたまたは見捨てられた.
priya-vinā-bhāva 男 漢訳 愛別離, 恩愛別離 Raṣṭr.
priya-vipariṇāma-duḥkha-satya 中 漢訳 愛恋苦諦, 愛別離苦実, 所愛変壞苦諦 Bodh-bh.
priya-viprayoga 男 親愛な者と別れること; 漢訳 愛別離, 可愛別離, 恩愛別離 Gand-vy., Mvyut., Sāmkhy-k., Śikṣ.: ~e duḥkham 愛別離苦 Mvyut.
priyaviprayoga-duḥkha-vyupāsama 男 漢訳 捨離(種種)恩愛別離苦, 捨離愛別離苦, 除滅愛別離苦 Gand-vy.
priya-vrata 形 その掟の愛される(神). 男 [諸人の名].
priya-śravas 形 [(名声を愛する), Kṛṣṇa 神の称].
priya-saṃyoga 男 漢訳 会所愛 Bodh-bh.
priya-saṃvāsa 男 愛人との同棲.
priya-sakha 男 親友. 形 友を愛する.
priya-sakhī 女 親友.
priya-saṃgamana 中 [(愛人の会合), Indra 神および Kṛṣṇa 神がその親 Kaśyapa および Aditi に会ったという場所の名].
priya-satya 形 喜ばしくかつ真実な.
priya-samāgama 男 漢訳 所愛会, 恩愛集会 Bodh-bh.
priyasamāgama-kāma 形 漢訳 欲所愛会, 欲恩愛集会 Bodh-bh.
priya-saṃprahāra 形 闘争または訴訟を好む.
priya-sāhasa 形 無分別な行為に耽る.
priya-sāhasatva 中 [同上 編].
priya-suhrd 男 親友.
priya-sena 男 [人名] (Divy.).
priya-sevaka 形 召使に親切な.
priya-svapna 形 睡眠を好む, 怠惰な.
priya-hita 形 喜ばしくかつ有益な. 中 愉快でかつ有益なもの.
priyā 女 愛人, 女主人, 妻; 雌; 漢訳 妻 Saddh-p.
priyākhyā (°ya-ākh°) 形 よい便りを告げる; 快樂と呼ばれる.
priyākhyā (°ya-ākh°) 女 漢訳 愛語 Sūtr.
priyākhyāna (°ya-ākh°) 中 漢訳 愛語 Sūtr.
priyākhyāna-dāna 中 喜ばしい知らせに答える贈り物 (Jāt-m.).
priyākhyāyin (°ya-ākh°) 形 喜ばしい知らせをもたらす (Divy.). 男 漢訳 能説喜事 Divy.
priyā-jana 男 漢訳 愛人たち, 情婦たち.
priyātithi 形 客を好む, 厚遇の.
priyātman (°ya-āt°) 形 気持よい性質の, 快い.
priyā-nāsa 男 愛人が失踪したまたは見えなくなること.
priyānna 中 高価な食物.
priyānnavatva 中 食物の高価なこと; 食物の欠乏, 飢

饑.
priyāpriya 中 (圓 固 覆) 愉快なもの和不愉快なもの, 満足と不満, 好きなものと嫌いなもの 漢訳 愛不愛, 樂不樂, 憎愛, 怨親 Raṣṭr., Śikṣ.
priyāpriyatva 中 漢訳 愛念与不念 Buddh-c.
priyābhāṣin 形 漢訳 愛語 Mañj-m.
priyābhidheya 形 愛人と呼ばれる価値のある (Buddh-c.).
priyāmātya 男 漢訳 所重大臣, (国)所重大臣 Svap.
priyā-mukhi-BHū, 愛人の顔に変わる.
priyāya 名動 自 **priyāyate** 愛情をもって取扱う, 漢訳 樂 Śikṣ.
priyārāma (°ya-ār°) 形 園を好む.
priyārtham 不変 愛する者のために, 好意として.
priyārha 形 愛情または親切に値する.
priyāla 男 [樹の名, 学名 *Buchadania latifolia*. 通常 Piyal と呼ばれる].
priyālāpa (°ya-āl°) 男 漢訳 愛語, 軟語, 善語 Sukh-vy. I.
priyālāpin (°ya-āl°) 形 快く話す, 心の優しい; 漢訳 愛語而問訊 Av-ś.
priyā-śoka 男 愛人の悲しみ.
priyāsūyamati 女 [人名].
priyaiṣin (°ya-eṣ°) 形 (°一) の愉快を願っている.
priyokti (°ya-uk°) 女 親切なまたは友情のある語.
priyopabhoga (°ya-up°) 男 愛人の享樂.
Pri, IX. priṇāti, priṇite. 他 満足させる, 楽しませる, 喜ばせる; 親切を示す, 情誼を施す; なだめる; (圓, 固, 覆) をもって満足させる, 楽しませる; 固 喜ぶ, うれしがる; 漢訳 生樂 Abh-bh. 覆 または IV. 自 **priyate** [叙詩 はまた 他 **priyati**] (圓, 固, 覆, 人の 固) で満足するまたはを喜ぶ; 愛する (叙詩); 漢訳 愛樂 Bodh-bh. 現分 **priyamāṇa** 喜んでいる; 親切な(語). 過受分 **pṛita** (圓, 固, 一°; または人の 固) で喜んだ・喜ばしい・喜ばせられたまたは満足した; (固, 一°) に愛された, …に親愛な; 親切な(語). 使役 他 **priṇayati** 喜ばせる; なだめる; 漢訳 快樂, 娛樂, 受樂受 Divy., Lank. pipriṣati (希求) 他 (因) なだめたいと思う.
abhi- 過受分 **abhiprita** 満足させられた.
-ā 満足させる, 喜ばせる; なだめる; (Āpri 詩節をもって)清める; 固 喜ぶ (因). 過受分 **āpṛita** 喜んだ; (Āpri 詩節をもって)清められた.
pari- pariṇāti 漢訳 悉具足 Mvyut. 過受分 **pariprita** 親切に取扱われた; 親愛な; 大いに喜んだ.
saṃ- saṃpriyate (固, 固) で満足するまたは喜ぶ. 過受分 **saṃpṛita** 喜んだ. 使役 他 **saṃpriṇayat-** 満足させる, 喜ばせる.
-pri 形 に親切な; を喜ぶ.
priṇana 形 喜ばせる, なだめる. 中 歎喜, 満足; 満足させること等の方法.
priṇaya, [Pri の 使役] → Pri.
priṇita 過受分 喜んだ; 漢訳 喜, 歎喜, 和悦, 慶悦, 欣慶, 喜樂 Daś-bh., Gand-vy.
pṛita 未受分 → Pri. 漢訳 歎喜, 歎喜勇[踊]躍

Bodh-bh., Daś-bh., Saddh-p.

pritatara 比較 一層喜んだ。

prita-manas 形 心中喜んだ；喜，意喜，歡喜 *Divy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.*

prītātman (°ta-āt°) 形 [同上]。

priti 因 (因，一°) においての満足・喜悅・歡喜または快樂；親切な感情，好意；友情，(samam, 一°) に対する友情；(圓，因，一°) に対する愛情・愛または愛好；喜 [人格化された「喜悅」，とくに *Dakṣa* の娘で *Kāma* 神の妻の一人として]；喜，喜心，歡喜，悅，欣慶，欣敬；所愛，恩愛，愛樂，愛敬，愛慕，慕，恋，憐，欽情 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lank., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Sāmkhy-k., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr., 梵* 千；[ある魔女の名] 可愛樂 *Buddh-c.* → a~。

圓 副 喜ばしく；親切に；愛情をもって。

priti-kara 形 (一°) に満足を興える，喜ばせる；愛，発起，大歡喜 *Bodh-bh., Lal-v., Rāṣṭr.*

priti-karman 中 愛の行為，親切な行動。

priti-kūṭa, [村の名]。

priti-cheda 男 喜悅の破壊。

priti-datta 形 愛情または愛によって与えられた。

priti-dāna 中 愛の贈物。

priti-dāya 男 [同上]。

priti-dhana 中 友情によって(与えられた)金銭。

priti-puro-ga 形 愛情を第一とする，愛する。

priti-pūrvakam 副 親切に，愛情をもって。

priti-pūrvam 副 [同上]。

priti-pramukha 形 親切な(言葉)。

priti-pramukha-vacana 中 親切な言葉。

priti-prāmodya 中 歡喜，歡悅，最上歡喜，最勝廣大歡喜 *Bodh-bh., Sukh-vy. I., Suv-pr.*

priti-prāmodya-jāta 形 歡喜踊躍 *Saddh-p.*

priti-bhāj 形 (ある人の)愛情をうけた，親愛な，愛された，喜んだ。

pritimāt 形 喜んでいる；満足した；(圓，圓，因) に対して愛情または友情を感じず；親切な(言葉)。

pritimaya 形 (因 -i) 喜びによって生じた(涙)。

priti-yuj 形 愛された，いとしい。

priti-rasayana 中 喜びを与える妙薬。

priti-vacas 中 親切なまたは友情ある言葉。

priti-varadhana 男 (喜びを増すもの)，[第四曆月の名]。

priti-viśrambha-bhājana 中 愛情と信頼が貯えられているところ。

priti-saṃyoga 男 友情関係。

priti-saṃgati 因 (圓) との友情ある同盟。

priti-saṃjananatā 因 生歡喜 *Gaṇḍ-vy.*

priti-saṃbodhy-aṅga 中 喜覺支，喜覺分 *Abh-vy., Mvyut.*；(音写) 喜菩提分 *Dharm-s.*

pritisukha 中 喜樂，喜樂生，悅樂 *Bodh-bh., Mvyut., Sūtr.*

pritisukha-janana 形 (因 -i) 生喜樂，発喜樂 *Mvyut.*

priti-saumanasya 中 深心愛樂 *Sapt-pr.*

pritisaumanasya-jāta 形 快樂，歡喜，甚大歡

喜，最喜心中樂生，自慶慰 *Aṣṭ-pr., Divy., Mvyut.*；*tuṣṭā udagrā āttamanasaḥ pramuditāḥ ~ āḥ* 歡喜踊躍 *Saddh-p. 209.*

priti-sthāniya 形 順喜，助喜 *Abh-vy.*

priti-snigdha 形 愛情の涙にぬれた(目)。

priti-sphuṭa 形 喜充徧，歡喜充徧 *Saddh-p.*

priyati 男 [語根 Pri の称]。

priyamāna 現分 → Pri。

priyāya 名動 自 priyāyate (業) について喜ぶ。

Pru, I. 自 pravate 飛び上る。使役 他 prāvayati (業) に達する。

ud- 飛び出る。

vi- 過受分 vipruta 投げ捨てられた。

Pruth, I. 他 prothati (馬が) 荒い鼻息をする。使役 prothayati 力を用いる。

apa- 吹き払う。

pra- 音高く鼻息をする；膨脹させる。

Pruṣ, V. 他 自 prušṇoti, prušṇute 撒く，灌ぎかける。過受分 prušita 水を灌いだ，湿された。

abhi- V. 自 abhipruṣṇute 水を灌ぐ。

vi- IV. 他 vipruṣyati ほとぼしる。

pruṣāya 名動 他 自 prusāyati(-te) 撒く，灌ぎかける。

abhi- 濡らす，潤す，

ā- 灌ぎかける。

pruṣita 過受分 → Pruṣ。

pruṣvā 女 霜，氷；露 梵雜。

pre(pra-I) praiti. → I。

prekṣ(pra-Īkṣ) prekṣate(-ti). → Īkṣ。

prekṣaka(pra-ik°) 形 (因 -ikā) 眺める；(業) を見るまたは視ようとする；考察する，調査する，判断する；觀舞 *Sāmkhy-k.* 男 觀客。

prekṣaṇa(pra-ik°) 中 觀察，熟視；(演技を) 観ること；觀察；見ること；眼；公演，見世物。

prekṣaṇaka (pra-ik°) 形 眺める。男 觀客。因 見世物；演劇 [現実事の 因]。

prekṣaṇika (pra-ik°) 形 [同上 形]。男 俳優(?)。因 (?) 睇 *Bodh-bh. 302.*

prekṣaniya (pra-ik°) 未受分 (圓) によって見られるべき，見える；(一°) を眺められるべき，…のように見える；(一°) によって見られる価値のある；見て美しい。

prekṣaniyaka (pra-ik°) 中 興行，見世物。

prekṣaniyatama (pra-ik°) 最上 見て最も美しい，非常に美しい。

prekṣaniyatara (pra-ik°) 比較 見て一層美しい。

prekṣaniyatā (pra-ik°) 因 見られるのに適したこと。

prekṣamāna (pra-ik°) 現分 [Īkṣ] 瞻視，證視，觀察 *Lank.*

prekṣā (pra-ik°) 因 見ること，觀察，(演技または演芸を) 見ること；外貌，美貌，美；公演，興行；(一°) と見なされるまたはの意味に取られること；反省，熟慮，理解；觀察，瞻視，證視，直視 *Lank., Śikṣ.*；求，求欲 *Abh-vy.*

prekṣā-kārin 形 用意周到に行動する。

prekṣāgāra (°ṣā-ag°) 男 中 演技場，劇場。

prekṣā-gr̥ha 甲 [同上].
 prekṣā-pūrva, [°—, ~m] 副 熟慮して.
 prekṣā-prapañca 男 舞台上の演技.
 prekṣāvat (pra-ik°) 形 用心深い, 思慮のある.
 prekṣā-vidhi 男 舞台上の演技.
 prekṣā-samāja 男 副 公開の見世物と集会.
 prekṣikā (pra-ik°) → sa-viśvasta ~.
 prekṣita (pra-ik°) 過受分 見られた, 眺められた等;
 漢語 視, 諦視, 目視, 瞻視, 視瞻; 胸 Bodh-bh.,
 Gaṇḍ-vy. 甲 一瞥, 注視.
 prekṣitavya (pra-ik°) 未受分 見られるべき.
 prekṣitṛ (pra-ik°) 男 傍観者.
 prekṣin (pra-ik°) 形 見る, 眺める, …の方を眺める,
 …を見張る; (一°, 例 鹿) のような眼をもつ; 漢語
 観, 観視, 諦視, 視瞻, 顧; 凶, 思惟; 欲, 欲求,
 求, 伺, 伺求, 伺得; 受 Ast-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-
 vy., Prāt-m., Saddh-p., Śikṣ., Vin. → upasampat
 ~, vitapana ~.
 prekṣya (pra-ik°) 未受分 見られるべき, 見える; 眺
 められるべき, 認められるべき; (一°) によって見
 られる価値のある. → hāsya ~.
 preṅkh (pra-Īṅkh) preṅkhati(-te). → Īṅkh.
 preṅkha (pra-īṅ°) 形 揺れる, 揺れ動く, 縦に揺れ
 る, 漂う. 男 鞞韃戲.
 preṅkhana (pra-īṅ°) 形 (一°) の方へ動く. 甲 揺れ
 ること; [一幕の下級戯曲の一種].
 preṅkhā (pra-īṅ°) 女 = preṅkha (男).
 preṅkhola 1. 名動 他 preṅkholati 揺れる, 振動す
 る, あちらこちらに動く.
 preṅkhola 2. (pra-īṅ°) 形 揺れる, 振動する, あち
 こちに動く, 動揺する. 男 (風の) 吹くこと; ブラン
 コ, ハンモック.
 preṅkholana (pra-īṅ°) 甲 動揺, 振動; ぶらんこ.
 preṅkholanā (pra-īṅ°) 女 (風が) 吹くこと.
 preṅkholaya 名動 他 揺り動かす, 動揺させる.
 過受分 preṅkholita 揺れた, 振動した, あちらこち
 らに動く.
 preḍ (pra-Īḍ) preṭṭe. → Īḍ.
 preta (pra-ita) 過受分 前方に行ったすなわち去った,
 死んだ. → I. 男 死人, 死体; 亡霊(とくに正規
 の葬儀完了以前の), 悪霊; 漢語 靈, 祖父, 祖父鬼
 Bodh-bh., Lal-v., 玄応; 鬼, 餓鬼 Abh-vy., Bodh-
 bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lank., Mvyut., Saddh-
 p., Suv-pr., Vijñ-v., 玄応. 音写 薛荔, 薛脇, 薛荔
 陀, 薛荔多, 閼麗多, 閼梨多, 閼黎多, 俾礼多, 弥
 荔多, 卑帝梨, 卑帝梨耶 玄応.
 preta-karman 甲 葬式.
 preta-kārya 甲 [同上].
 preta-kṛtya 甲 [同上].
 preta-kṛtyā 女 [同上].
 preta-gata 形 死者のもとに行った, 死んだ.
 preta-gati 女 死者の路; 漢語 餓鬼趣 Buddh-c.,
 ~m Gam 死ぬ.
 preta-gopa 男 (Yama 神の国における) 死者の守護者.
 preta-cārin 形 死者の間をさまよう (Śiva 神).
 preta-tiryag-naraka 男 漢語 ((餓鬼傍生地獄)), 三塗,

三悪処 Gaṇḍ-vy.

pretatva (pra-it°) 甲 死者の状態, 死; 亡霊の状態.
 preta-dhūma 男 (燃える) 死体からの煙.
 preta-nātha 男 [(死者の主), Yama 神の称].
 preta-niryātaka 男 死体の運搬人.
 preta-nirhāraka 男 [同上].
 preta-pakṣa 男 = pitṛ-pakṣa; 祖霊の半ヶ月, (Bhā-
 dra 月における黒) 半月.
 preta-pakṣaka 男 [同上].
 preta-patākā 女 弔旗.
 preta-pati 男 [(死者の主), Yama 神の称].
 pretapati-paṭaha 男 (Yama 神の太鼓), 火葬の際に
 打つ太鼓.
 preta-piṇḍa-bhuj 形 祖霊祭 (śrāddha) に参与する.
 preta-pitṛ 形 父の死んだ.
 preta-puri 女 死者の都城, Yama 神の住所.
 preta-prasādhana 甲 死者の装飾.
 preta-bhāva 男 死者の状態, 死. ~āya samsiddhaḥ
 死ぬ覚悟のついた.
 pretabhāva-stha 形 死んだ.
 preta-maharddhika (°hā-rd°) 男 罪障の軽減した亡
 者; 漢語 飛行餓鬼 Av-ś.
 preta-medha 男 葬送儀礼.
 preta-rāja 男 [(死者の王), Yama 神の称].
 pretarāja-niveṣana 甲 Yama 神の住所.
 pretarāja-pura 甲 [同上].
 preta-loka 男 死者の世界 [この世界に一年間または
 Śrāddha 祭の営まれるまで死者が住すると云われ
 る]; 漢語 祖父世界 Bodh-bh.
 preta-laukika 男 漢語 鬼世界 Bodh-bh.
 preta-vaśa 男 死者の力. ~m Ni 殺す.
 preta-viṣaya 男 漢語 餓鬼趣 Sukh-vy. I.
 preta-śilā 女 死者の石 [Gayā の附近にありその上に
 祖霊祭の団子 (piṇḍa) が供えられる].
 preta-suddhi 女 死者または死後の穢い浄め; 親族の死
 後の穢い浄め.
 preta-śauca 甲 [同上].
 preta-saṃkṣipta 形 死者のために準備された(食).
 preta-sparsin 男 死体の運搬者.
 preta-hāra 男 [同上].
 pretādhīpa 男 [(死者の主), Yama 神の称].
 pretādhīpati 男 [同上].
 pretādhīpa-nagari 女 = preta-puri.
 pretānna 甲 祖霊に供えられた食物.
 pretāyana 男 [地獄の名] (Kār-vy.).
 pretālaya (°ta-āl°) 男 漢語 餓鬼処 Gaṇḍ-vy.
 pretāvāsa (°ta-āv°) 男 墓地.
 pretāsthi 甲 死者の骨.
 preti (pra-iti) 女 出発, 逃走.
 preteśa (°ta-iśa) 男 [(死者の主), Yama 神の称].
 preteśvara (°ta-iś°) 男 [同上].
 pretya (pra-it°) 不変分 死後にすなわちあの世で [iha
 の対]; pretya ca iha ca 二世 Madhy-v. → I.
 pretya-jāti 女 来世での位置.
 pretya-bhāj 形 死後に(なんらかの果を)享受する.
 pretya-bhāva 男 死後の状態, 来世での生存.


pretya-bhāvika 形 死後の状態に関する。
 pretvan (pra-it°) 形 (因°tvāri) 自由に歩き廻る。
 男 [Indra 神の称]。
 prepsā (pra-ip°) 因 得たいという願望, 欲望; 仮定, 想定。
 prepsu (pra-ip°) 希求 形 得ようと欲する, 求める, 望む, 狙う; 仮定する, 想定する。
 prema 形 一° = preman; 愛, 愛樂, 愛重; 敬; 希; 憐 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Śikṣ.; śāstr~ 敬師 Śikṣ. 183; sattva~ 憐諸有情 Bodh-bh. 182.*
 prema-gaurava 形 愛敬 *Bodh-bh.* 中 愛敬, 愛重 *Bodh-bh.*
 prema-citta 形 愛樂心, 愛念心, 愛念想 *Bodh-bh., Śikṣ.*
 prema-jāta 形 生恭敬, 起虔敬渴仰之心 *Suv-pr.*
 premaṇiya 形 [Pāli pemaṇiya] 愛されるべき; (*Lal-v., Mah-v., Saddh-p.*); 善愛, 可愛, 愛樂, 甚可愛樂; 善; 慈悲 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Sūtr.*
 premaṇiya-prabha 男 [Amitābha 仏の属性] 愛光 *Sukh-vy. 1.*
 prematā 因 愛念 *Bodh-bh.*
 preman 男 中 [Pri] 愛, 愛情; やさしさ, 親切, 好意; 偏愛, 嗜好; (因, 一°) に対する愛好; 愛, 愛樂, 愛念, 愛敬, 愛重, 深愛; 樂, 樂著, 貪樂; 虔重; 愍念, 憐愍, 慈; 親近 *Abh-k., Aṣṭ-pr., Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.* 男 冗談, たわむれ, 遊び; [諸人の名]; 男 premnā. 愛情をもって。
 prema-bandha 男 愛のきずな, 愛情。
 prema-bandhana 中 [同上]。
 prema-bhāva 男 愛情。
 prema-rāsi-BHū, 愛情の塊りとなる, (愛に) 熱中する。
 premavat 形 (因 -i) 愛する, 愛情をもつ。
 prema-viśvāsa-bhūmi 因 愛と信頼との対象。
 premākara (°ma-āk°) 男 豊かな愛情。
 premānugata 形 深生渴仰 *Gaṇḍ-vy.*
 premā- 因 [合成語において] = preman.
 premā-bandha 男 = prema-bandha.
 preyas 比較 [priya] さらにいとしい, 一層快い等。
 男 愛人, 中 へつらい (修辭)。
 preyasi 因 愛人, 妻。
 preyas-kara 男 愛人の手。
 preyastā 因 さらにいとしいこと, 一層大きな親愛。
 preyastva 中 [同上]。
 prer (pra-īr) prerte. → Ir.
 preraka (prā-īr°) 形 促す, 強いる; 推, 起行, 引行 *Mudhy-vibh.* 男 激励するもの, 教唆者。
 prerāṇa (pra-īr°) 中 (prati) への激励, 教唆, 刺激; 活動, 動作; 引, 引令出 *Abh-vy.*
 prerāṇiya (pra-īr°) 未受分 促されるべき, (爲) に対して促されるべき。
 prerita (pra-īr°) 過受分 促された, 教唆された等; 送られた, 派遣された; 起, 発, 動, 吹動, 所推運 *Bodh-bh., Lanḍ., Sūtr., Suv-pr.*

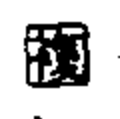
preritṛ (prā-īr°) 男 教唆者, 刺激者。
 preṣ (pra-iṣ) preṣate, preṣyati(-te). → Iṣ 1.
 preṣaka (pra-iṣ°) 形 送る, 命令する; 差使者, 放呪 [*Tib. rbod-gtoñ*] *Mvyut.*
 preṣaṇa (pra-iṣ°) 中 (使者を) 遣わすこと, (prati) に対して(使者を) 遣わすこと; 使命をあたえて派遣すること, 依嘱, 委任, 命令; 奉仕をすること; 使, 役使, 令作 *Saddh-p., Śikṣ.*
 preṣaṇa-kāraka 形 爲人所使 *Saddh-p.*
 preṣaṇa-kṛt 形 命令または委任を履行する。
 preṣaṇādhyakṣa 男 行政長官。
 preṣayitṛ (pra-iṣ°) 形 = preṣaka。
 preṣita (pra-iṣ°) 過受分 送られた, (使に) 派遣された。 → Iṣ. 1. 遣, 送, 齎, 寄, 放, 所使 *Divy., Lal-v., Mvyut., Saddhy-p.*
 preṣitavya (pra-iṣ°) 未受分 中 罪人 命令されるべきではない。
 preṣṭha 最上 [priya] 最もいとしい, 最愛の。 男 愛人, 夫。
 preṣṭhatama 最上 = preṣṭha (形)。
 preṣṭhā 因 愛人, 妻。
 preṣya (pra-iṣ°) 未受分 送られるべき, 派遣されるべき。 男 召使, 下僕, 奴隸; 僕 *Bodh-bh., Saddh-p.* 中 召使たること; 訓令, 命令。
 preṣya-kara 形 (爲) の命令を履行する。
 preṣya-jana 男 家族, 世帯; 召使。
 preṣyatā (pra-iṣ°) 因 (一°) の召使であること, …の束縛, 隷属。
 preṣyatva (pra-iṣ°) 中 [同上]。
 preṣya-dārikā 因 婢, 婢使, 使女 *Divy.*
 preṣya-bhāva 男 召使の身分, 束縛。
 preṣya-manuṣya 男 作人 *Divy.*
 preṣya-vadhū 因 侍女, 下婢。
 preṣya-varga 男 召使の一同, [集合的に] 従者。
 preṣyā (°pra-iṣ°) 因 侍女。
 preṣyātva (pra-iṣ°) 中 侍女の身分。
 prehi 動 [I. 命 三人 單] 出発せよ。
 praitos (pra-et°), 屬 不定 [I] (Br.).
 praiyamedha 男 父系 *Priya-medha* の後裔。
 praiyarūpaka 男 [priya-rūpa より] 美しいすがた。
 praiyavrata 形 (因 -i) *Priyavrata* に関係のある。 男 父系 *Priyavrata* の後裔。 中 *Priyavrata* の一生または運命。
 praīṣa (pra-eṣa) 男 命令; (とくに祭式における) 命令, (一°) への勧誘。 男 召使。
 praīṣa-kara 形 命令を履行する。
 praīṣa-kṛt 形 [同上 形]。
 praīṣya (pra-eṣ°) 形 下僕の [jana とともに] 男 召使。 男 召使, 下僕。 中 召使たること。
 praīṣya-jana 男 [集合的に] 僕婢, 従者。
 praīṣya-bhāva 男 下僕の身分, 召使たること。
 praīṣya-varga 男 = preṣya-varga。
 praīṣyā (pra-eṣ) 因 召使, 下婢。
 pro, 因 [pra+u, 連声の法則に従わない]。
 prokta (pra-uk°) 過受分 宣言された等。 → Vac. 説, 所説, 開示, 得名 *Abh-vy., Bodh-c., Gu*

hy-s., Mañj-m., Saddh-p., Vajr-s.: na ca jātu
 ~m 不妄開示 *Saddh-p.* 292.

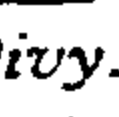
prokta-kārin 形 言われたことをする。

prokṣ (pra-Ukṣ) prokṣati. → Ukṣ 1.

prokṣaṇa 田 (水を)灌ぐこと；灌水によって浄めること；聖水の容器； 弾震 *Mvyut.*；殺祠 *Divy.* 624.

prokṣaṇi (pra-uk°) 女  灌ぐための水，聖水(米ならびに麦の穀粒を混ぜた)；田 聖水の容器。

prokṣaṇiya (pra-uk°) 田 [田 灌] 聖水。

prokṣita (pra-uk°) 過受分 灌がれた，灌いで浄められた； 殺祠祀 *Divy.* 623.

proccaṇḍa (pra-uc°) 形 非常に粗暴なまたは力の強い。

proc(pra-uc)-Cal proccalati. → Cal.

proccāṭanā (pra-uc°) 女 威嚇して追い払うこと。

proccārita (pra-uc°) 使役 過受分 → Car.

proccais (pra-uc°) 具 副 非常に声高に；非常に高度に。

procchal (pra-uc-Śal) procchalati. → Śal.

procchalat (pra-uc°) 現分 → Śal.

procchrita (pra-uc°) 過受分 → Śri.


procchri (pra-uc)-Śri, → Śri.

proc(pra-uc)-CHvas procchvasati. → Śvas.

projjh (pra-Ujjh) projjhati. → Ujjh.

projjhita (pra-uj°) 不定 [Ujjh] 逃げるために，避けるために。

proñch (pra-Uñch) proñchati. → Uñch.

proñchana (pra-uñ°) 田 拭い去ること； 巾，拭 *Mvyut.*，梵雜。

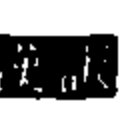
prod (pra-ud)-Di, → Di.

prodḍina (pra-ud°) 過受分 飛び上った。

prodḍiya (pra-ud°) 不変分 飛び上って。

protā (pra-uta) 過受分 織られた，縫われた等。 → Vā 4.

protā-ghaṇa 形 雲に包まれた。

protkaṭa (pra-ut°) 形 非常に大きな； 現，甚出 *Mvyut.*

protkaṭa-bhṛtya 男 高官。

prot (pra-ut)-Kaṇṭh, → utkaṇṭh.

protkaṇṭha (pra-ut°) 形 首を遙かに差し伸べる；声を限りの(叫び等)。

protkruṣṭa (pra-ut°) (過受分) 田 声高い叫び，叫声。

prot(pra-ut)-KHan protkhanati(-te). → KHan.

prottāna (pra-ut°) 形 広くのぼされた。

prottāla (pra-ut°) 形 非常に声高い。

prottuṅga (pra-ut°) 形 非常に高い。

prot(pra-ut)-Tṛ prottarati. → Tṛ.

protthā (pra-ut-Sthā) prottiṣṭhati. → Sthā.

protthita (pra-ut°) 過受分 → Sthā.

protphulla (pra-ut°) 形 満開の，十分に開いた(花)；広く見開いた(目)。

protphulla-nayana 形 広く見開いた目をもつ。

prot(pra-ut)-Sad protsādayati(使役). → Sad.

prot(pra-ut)-Sah protsahati. → Sah.

protsārita (pra-ut°) 使役 過受分 中止した，断念した等。 → Sr.

protsāha (pra-ut°) 男 大きな努力。

protsāhana (pra-ut°) 田 (一°)への教唆，…への刺激または勧誘。

protsāhanā (pra-ut°) 女  勧発，勸令，誘進 *Lank.*

protsāhita (pra-ut°) 使役 過受分 刺激された。

protsāhya (pra-ut°) 使役 不変分 → Sah.

protsikta (pra-ut°) 過受分 → Sic.

prot(pra-ut)-Sic. → Sic.

prot(pra-ut)-Sṛ protsarati. → Sṛ.

prot(pra-ut)-Sṛj protsṛjati. → Sṛj.

Proth, I. 他 自 prothati(-te) (過, 圖)の好敵手である，…に匹敵する。他 満ちる。

protha 男 田 (?) (馬の)鼻孔；(豚の)鼻口部；(人の)尻。

prodaka (pra-ud°) 形 したたる，濡れた；水の(流れ)去った。

prodakī-bhāva 男 水のしたたり落ちること。

prod(pra-ud)-I prodeti. → I.

prodgata (pra-ud°) 過受分 → Gam.

prod(pra-ud)-Gam, → Gam.

-prodgārin (pra-ud°) 形 放出する，発する。

prodgīrṇa (pra-ud°) 過受分 投げ分した，放出した (*Divy.*).

prod(pra-ud)-Gai, → Gai.

prod(pra-ud)-GHuṣ prodghoṣayati(使役). → GHuṣ.

prodghuṣṭa (pra-ud°) 過受分 反響した，鳴り響いた。

prodghoṣaṇā (pra-ud°) 女 声高く宣言すること。

proddanda (pra-ud°) 形 卓越した，膨脹した。

proddāma (pra-ud°) 形 異常な，驚異的な。

proddipta (pra-ud°) 過受分 燃え立った。

proddhā (pra-ud-Hā), → Hā 1.

proddhūṣita (pra-ud°) 過受分 [proddhṛṣita(Hṛṣ の 過受分)の副]。

proddhṛ (pra-ud-Hṛ) proddharati(-te). → Hṛ 1.

proddhṛṣ (pra-ud-Hṛṣ), → Hṛṣ.

proddhṛṣita (pra-ud°) 過受分 (毛の)逆立った。 → Hṛṣ.

prodbaddha (pra-ud°) 過受分 → Bandh.

prodbodha (pra-ud°) 男 目覚めること，出現；目覚ますこと。

prodbhava (pra-ud°) 男 出現。

prodbhinna (pra-ud°) 過受分 突発した，突然現われた。 → BHid.

prodbhūta (pra-ud°) 過受分 → BHū.

prodbhūti 女  生，出生 *Sūtr.*

prodyata (pra-ud°) 過受分 → Yam.

prodyata-yaṣṭi 形 杖を持ち上げた。

prod (pra-ud) -Yam prodyacchati. → Yam.

prodvalgat (pra-ud°) 現分 跳躍する。

prodvāha (pra-ud°) 男 結婚。

pronata (pra-un°) 過受分 → Nam.

pron (pra-un) -Ni pronayati. → Ni.

-pronmāthin (pra-un°) 形 破壊する。

pron (pra-un) -Miṣ, → Miṣ.

pron (pra-un) -Mil pronmilati. → Mil.

pronmukta (pra-un°) 過受分 → Muc.
 pron (pra-un) -Muc, → Muc.
 proru (pra-Ūrnu) proruoti, proruoti, proruote.
 → Ūrnu.
 proruṇaviṣu (pra-ūr°) 希求 形 覆いまたは隠したい
 と思う。
 prol (pra-ul) -Las, → Las.
 prollassat (pra-ul°) 現分 明るく輝く, きらめく; 鳴
 る, 聞かれる; あちらこちらに動く。
 prol (pra-ul), -Likh prollickhati. → Likh.
 proṣita (pra-uṣ°) 過受分 → Vas 3. 形 旅に出た;
 不在の; 死んだ。
 proṣita-bhartṛkā 形 (女) 夫が不在の。
 proṣṭha 男 [pra-ava-stha?] 腰掛, 椅子, 床几; 覆
 [住民の名]。
 proṣṭha-pada 男 [單, 覆 ならびに 覆] [第三および第
 四月宿の一对の星宿の名]。
 proṣṭha-padā 女 [同上]。
 proṣṭha-śaya 形 臥床に横たわる。
 proṣṇa (pra-uṣ°) 形 熱く焼けた。
 praṇḍha (pra-ūḍha) 過受分 [Vah] 十分に生長した,
 十分に発展した; 成熟した, 中年の(婦女); 繁茂し
 た(草木); 大きな, 重大な, 強い, 猛烈な; 厚い,
 ち密な; (一°)で満ちた; 自信のある, 大胆な, 図
 々しい, 無遠慮な(とくに少女)。
 praṇḍhatva (pra-ūḍh°) 中 大胆なこと, 図々しいこ
 と, 不躑躅なこと。
 praṇḍha-pāda 形 足を伸した(すなわち腰掛けの上に休
 息した)。
 praṇḍha-puṣpa 形 満開の花をもつ。
 praṇḍha-yauvana 形 青春期の。
 praṇḍha-vāda 男 大胆なまたはごう慢な主張。
 praṇḍha-svaram 副 高声で。
 praṇḍhāṅganā 女 臆面のない女。
 praṇḍhācara (°ḍha-āc°) 男 大胆なまたは拘束のない
 行動(覆)。
 praṇḍhi (pra-ūḍhi) 女 生長, 増加; 成熟, 熟達; 自
 信, 大胆, 確信。
 praṇḍhi-BHū, 生長する, 成熟する。
 praṇḍhokti (°ḍha-uk°) 女 大胆な主張。
 praṇḍha-pada 形 (女 -i) 月宿 Proṣṭha-pada に関す
 る。男 [歴月の名 (=Bhādra-pada 八月-九月)];
 [Kubera 神の宝庫の番人として人格化される]。
 praṇḍha-padā 女 覆 = proṣṭha-padā。
 praṇḍha-padi 女 Praṇḍha-pada 月における満月の
 日。
 plakṣa 男 波状の葉のあるいちじく樹 [学名 *Ficus*
infectoria]; [ある Dvipa の名]; 音写 波叉,
 畢洛叉(樹) Gand-vy., Lal-v.
 plakṣa-jātā 女 [Sarasvatī 河の称]。
 plakṣa-praroha 男 いちじく樹の若芽。
 plakṣa-prasravaṇa 男 [Sarasvatī 河の水源地の名]。
 plakṣa-rāja 男 [同上]。
 plakṣavati 女 [恐らくは plakṣa-jātā]。
 plakṣa-sravaṇa 中 = plakṣa-prasravaṇa。
 plakṣā 女 = plakṣa-jātā。

plakṣāvatarāṇa 中 [聖地の名]。
 plava 形 [Plu] 泳ぐ, 浮ぶ; (一°)の方に傾くまたは
 傾斜する; つかの間の; 浮 梵千., 梵難. 男 中
 船, 小舟; 筏 Divy. 男 [あひるの一種 (Kā-
 raṇḍava)]; 泳ぐこと; 沐浴すること; (河の)氾濫,
 洪水; 跳ること, 跳ね返ること。
 plavaka 男 (職業的の) 跳躍者, 綱渡り師; 蛙。
 plava-ga 男 (跳躍によって動く), 蛙; 猿。
 plavaga-rāja 男 [Sugrīva の称]。
 plavagendra (°ga-in°) 男 [(猿猴の主), Hanumat
 の称]。
 plavaṃ-ga 形 跳躍によって動く(とくに火). 男 猿。
 plavaṃ-gama 男 蛙; 猿。
 plavana 形 (一°)の方へ傾くまたは傾斜する。中 泳
 ぐこと; 沐浴, (一°)に浴すること; 飛ぶこと; 跳
 ぶこと, (一°)を跳び越えること; (馬の)早足;
 覆 躑躅 Śikṣ.
 plavavat 副 船をもってするかのよう。形 船を所
 有する。
 plavita (過受分) 中 游泳または跳躍; 履水 Lal-v.;
 跑 Mṛyut.
 plaviṭṭ 男 [距離の 属 とともに] 跳ぶ者。
 plākṣa 形 Plākṣa 樹に関するまたは属する。
 plāta 男 父系 Plati の息子。
 plāya 動 I. 自 [=prāya] plāyate 去る (因)。
 plāva 男 [Plu] 溢れ出るまたは溢れ出すこと; 跳躍。
 plāvana 中 沐浴, 浴びること; 溢れ流れるまでに満
 たすこと(液体の浄化のために); 母音を長く延ばし
 て発音すること。
 plāvayitṭ 男 泳がせる人; 渡船夫。
 plāvita 使役 過受分 泳がせられた; 洪水に浸され
 た; (一°)に濡れた, …に覆われた。→ Plu. 中 洪
 水, 氾濫; 長く延ばされた(母音), [このようにし
 て歌う唱歌の一種]。
 plāvin 形 (一°) 拡げる, 弘める; (一°)から流れ
 る。
 plāvi → busa~.
 plāvya 未受分 (男) に浴させられるべき, 漬けられ
 るべき。
 plāsi 男 [單, 覆] 内臓(の一種)。
 plāsuka 形 [=pra-āsuka] 再び急速に生長する。
 plihan 男 脾臓。
 plīha 中 覆 脾, 臓 Lal-v., Śikṣ.
 plihan 男 = plihan; 脾臓の疾患。
 plihā 女 脾臓; 覆 肝 Mṛyut.
 plihodara (°hā-ud°) 中 脾臓の疾患。
 plihodarin (°hā-ud°) 形 脾臓の疾患に苦しむ。
 Plu, I. 自 (まれに 他) plavate (-ti) 浮ぶ, 泳ぐ; 沐
 浴する; 帆走する, 航海する; (覆)へ船で渡る; あ
 ちらこちらに揺れる, 飛翔する, 飛ぶ; (風が)吹
 く, (時が)経過する; (母音が)引き延される; (覆)か
 ら(覆)の中に・の上にまたはを越えて跳ぶまたは飛ぶ;
 覆 浮 Abh-vy. 過受分 pluta (因) の中で泳ぐ,
 で泳ぐ, 浮いた; (覆, 一°)に浴した, …の溢れ流
 れた; …で覆われたまたは満たされた; (三モーラの
 長さに)延長された(母音); 飛んだ, (一°)へ飛ん

だ；跳んだ。使役 𑀧 plāvayati [韻律の関係上時として𑀧] 泳がせる，浮ばせる；洗う，洗い落とす；水浸しにする，沈ませる；(𑀧)をもって圧倒する(十なわち豊富に贈る)；(罪等を)洗い去る，除去する；浄める；(母音)を延ばす。使役 過受分 plāvita. 𑀧 poplūyate 泳ぎ廻るまたは急速に泳ぐ。
 anu- 続く，従う；(𑀧)に耽る。
 abhi- (𑀧)に航行するまたは赴く；圧倒する；…の方へ跳ぶ。過受分 abhipluta [𑀧 または 𑀧 の意味で] …に行った，達せられた；(𑀧，一°)によって圧倒された：rajasā～ 月経中の。
 sam-abhi- 洗う；圧倒する。過受分 samabhipluta (𑀧)によって圧倒された；食された(月)：rajasā～ 月経中の。
 ava- 浸水する；(𑀧)から跳び下りる；急ぎ去る，(𑀧)から急ぎ去る。
 ā- 浴びる，沐浴する；洗う；溢れる，汜濫する；自ら(水 𑀧)に没する；(𑀧)に・の上にはまたはを越えて跳び上る；(𑀧)から跳び下りる。過受分 āpluta 沐浴した；(一°，祭式の終りの沐浴 ava-bhṛtha)を行った；(𑀧)をもって溢れ流れた または 覆われた；(𑀧，一°)をもってまたはによって圧倒された。使役 āplāvaya- 浴させる，洗う；そぐ，水浸しにする；浸す。
 upa-ny-ā- (𑀧)へ泳ぐ。
 sam-ā- 浴す，浴させる；水浸しにする；…を覆う。
 ut- 上方へ泳ぐ，(水中から)出る；(雲が)起る；飛び上る，(𑀧)から跳び上る；(𑀧)から跳び出す；(𑀧)を跳び越える，(空中 𑀧)に飛び上る；𑀧 迸，涌出；発出，踊出，出去；跳，騰，過 Abh-vy., Divy., Lal-v., M-vyut.；増 Ast-pr. 使役 utplāvaya 𑀧 救度 Bodh-c.
 upa- 表面を泳ぐ，浮ぶ；(𑀧)の方へ航行するまたは吹き送られる，水浸しにする，汜濫させる；(月を)食する；(𑀧)から(𑀧)の上に落ちる。過受分 upapluta 攻撃された，包囲された，圧倒された；食された(日・月)；涙に曇った(眼)；悩まされた，苦しめられた。
 upa-ni- 近寄る=類似する。
 pari- 泳ぎ廻る；浴びる；汜濫する；水浸しにする；…で覆う；攻める，圧倒する；動揺する；歩き廻る，まき散らされる；𑀧 漂没，漂溺，溟渤，𑀧 Das-bh., Śikṣ. 過受分 paripluta (𑀧，一°)をもって浴させられた；水を漑がれた；圧倒された等。
 abhi-pari- 過受分 abhiparipluta (𑀧，一°)をもって覆われた，…で充たされた；…で圧倒された。
 vi- 離れ離れに浮ぶ，漂う，散乱する；混乱する，混乱に陥る；さ迷う，失われる，滅びる。過受分 vipluta 混乱した，さ迷った；悪徳の，不徳の；(saha)

と姦通をする；破滅させられた；混乱した(話)；かすんだ(眼)；乱れた(声)；動揺させられた；破られた，侵された(誓約)。使役 viplāvaya- 泳がせる，浮ばせる；知らせる，暴露する；破滅させる，破壊する；混乱させる，当惑させる [𑀧 viplāvaya-]. sam- 共に流れる，(河が)会う；(雲が)共に集る；(船が)沈没する；動揺する，(心が)逡巡する。過受分 sampluta 共に流された；(一°)に浴した；(𑀧，一°)で汜濫した，…をもって覆われた，満たされた。使役 samplāvaya- 共に流れさせる，水浸しにする。abhi-sam- 浴する；拡がる，溢れる。過受分 abhisampluta (𑀧，一°)をもって覆われた，満たされた。

pluta 過受分 → Plu. 𑀧 灌，超 Abh-vy., Saddh-p.；音韻高下 Lank. 𑀧 跳躍；躍進。

pluta-gati 𑀧 跳んで動くこと。

pluti 𑀧 溢れること，汜濫，洪水；(母音を三モーラの長さに)延ばして発音すること，延長；跳躍，躍進。

Pluṣ, I. 𑀧 ploṣati. 𑀧 pluṣyate 焼ける，焦げるまたは表面が焼ける。過受分 pluṣta 焼かれた，焦された；凍った。

ā- 過受分 āpluṣta 少し焦された。

niṣ- 過受分 niṣpluṣta 焼かれた。

vi- 過受分 vipluṣta 焦された，焼かれた。

pluṣi 男 [害虫の一種，蚤(?)].

pluṣta 過受分 → Pluṣ.

plenkha 男 ぶらんこ。

plota 男 𑀧 布，包帯，ぼろ切れ。

ploti 女 連繫，関連 (Divy.)；𑀧 縁 Divy.: karma ～業縁 Divy. 87.

plotika 形 𑀧 因，障 Mvyut. → chinna～.

ploṣa 男 燃烧，大火災。

ploṣaṇa 形 焼く，焦す。

ploṣin 形 [同上]. 男 (一°)を焦すもの。

ploṣta 過受分 [正しくは proṣta <pra-uṣ]. 𑀧 焦爛 Saddh-p.

psara, 一° [sa～ において].

psaras 𑀧 栄養，享樂。

Psā, II. 𑀧 psāti [bh(a)s-ā] 噛む；食い尽す，むさぼり食う，嚙みこむ。過受分 psāta 噛み砕かれた，食い尽された。

sam- 噛み砕く。

psāta 過受分 → Psā.

psāna 𑀧 食うこと，食物。

psu 一° (意味不確実)財物 (:vasu)? 氣息 (:bhas 吹く)?

psuras 𑀧 [bh(a)s-ur-as] (意味不明) 栄養?

pha-kāra 男 pha の字または音；**𑖀𑖩𑖪** 頗字 [五十字門の一]：～e phala-prāpti-sākṣāt-kriyā-śabdaḥ (→ a-kāra) 唱頗字時出得果入現証声 *Lal-v.* 127.；[四十二字門の一]～m parikīrtayataḥ sarva-sat-tva-paripāka-koṭi-gata-maṇḍalaṃ nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱頗字時能甚深入般若波羅蜜門名教化衆生究竟円満処 *Gaṇḍ-vy.* 450.

PHakk, I. **𑖀𑖩𑖪** phakkati ふくれる [きわめてまれに].

phakka 男 不具者；**𑖀𑖩𑖪** 手歪者，手残者 *Mvyut.*

phakkikā 女 仮の陳述，証明されるべき命題；[ある註釈書の題名].

phaṭ **𑖀𑖩𑖪** パチッ！等 [また神秘音].

phaṭā 女 蛇のかさ状の頭部.

phaṭāṭopa (°tā-āṭ°) 男 蛇のかさ状の頭部の膨張.

PHaṇ, I. **𑖀𑖩𑖪** phaṇati 動く. **𑖀𑖩𑖪** phāṇayati 飛躍させる，(液体の表面の上澄を) すくい取る. **𑖀𑖩𑖪** [現分 pamphaṇat のみ] 跳躍する.

ā- **𑖀𑖩𑖪** [現分 āpaniphaṇat のみ] 跳躍する.

phaṇa 男 泡 (因)；蛇の頭のような形に作った杖；鼻孔；[普通は] 蛇のかさ状の頭部；**𑖀𑖩𑖪** 頭 *Lal-v.*, *Lank.*

phaṇa-dhara 男 かさ状の頭部をした蛇；蛇；[Śiva 神の称].

phaṇa-bhṛt 男 (かさ状の頭部をした) 蛇.

phaṇa-maṇi-sahasra-ruc 女 (蛇王の) 頭部にある千の宝石の光輝.

phaṇa-maṇḍala 男 [膨張した球]，円形に膨張した蛇の頭部.

phaṇavat 男 頭部の膨張した (蛇). 男 頭部の膨張した蛇；蛇.

phaṇa-sreṇi 女 蛇の膨張した頭部の行列または線.

phaṇa-stha 男 蛇の膨張した頭部にある.

phaṇā 女 鼻孔；蛇の膨張した頭；**𑖀𑖩𑖪** 頭 *Lank.*

phaṇā-phalaka 男 蛇の膨張した頭部上の平面.

phaṇā-bhṛt 男 頭部の膨張した (蛇).

phaṇāvāt 男 頭部の膨張した蛇；[守護神の一種].

phaṇi 男 蛇 [𑖀𑖩𑖪 𑖀𑖩𑖪 のみ].

phaṇi-kanyā 女 蛇の娘.

phaṇin 男 頭部の膨張した蛇；蛇；[Rāhu および Patañjali の称].

phaṇi-nāyaka 男 (蛇族の主長)，[Vāsuki の称].

phaṇi-pati 男 蛇族の主長，巨大な蛇；[(蛇族の長)，Śeṣa の称]；[Patañjali の称].

phaṇi-bhāṣita-bhāṣyābdhi 男 [(Patañjali によって) 誦出された註釈の海洋]，Patañjali の Mahā-bhāṣya の称].

phaṇi-bhāṣyābdhi 男 [同上].

phaṇi-bhuj 男 (蛇を食うもの)，孔雀.

phaṇi-mukha 男 (蛇の口) [夜盗の道具の一種].

phaṇi-latā 女 きんま (こしょう科の植物).

phaṇi-valli 女 [同上].

-phaṇi-vallika 男 [同上].

phaṇi-virudh 女 [同上].

phaṇindra 男 [(蛇族の主)，Śeṣa および Patañjali の称].

phaṇiśa (°ṇi-iśa) 男 [Patañjali の称].

phaṇiśvara (°ṇi-iś°) 男 [同上].

phat, **𑖀𑖩𑖪** [phut の誤].

PHar, **𑖀𑖩𑖪** pharpharat 一回のみ] 撒布する？ (因).

phara 男 楯；**𑖀𑖩𑖪** 柝，梵雜.；牌鎗 (?), 標鎗 (?) *Mvyut.*

phara-pharita 男 馬の口を結ぶこと (静かにして置くために).

pharpharāya **𑖀𑖩𑖪** [PHar] 男 pharpharāyate 急速にあちらこちらを動き廻る.

PHal 1., I. **𑖀𑖩𑖪** phalati 破裂する，破れ または裂けている；跳ね返る；反射する，(熱を) 発する；**𑖀𑖩𑖪** 碎 *Lal-v.*

ut- 跳ね上る；噴出する. **𑖀𑖩𑖪** utphālayati (目を) 広く開く.

prati- 跳ね返る；反射する.

vi- きれぎれに裂ける，裂ける.

PHal 2. I. **𑖀𑖩𑖪** (男) phalati(-te) 果実を結ぶまたは生ずる，熟す；結果を生ずる；実現する；結果する；成果または報酬を得る；(成果：園，まれに 園) を産む；(願望を) はたす；(因) の分担になる；**𑖀𑖩𑖪** 生果 *Abh-vy.* **𑖀𑖩𑖪** phalita 果実を結んだ，よく実を結ぶ，実りの多い；成功した；(願望を) 果たした；十分に熟した；結果として生じた. 男 **𑖀𑖩𑖪** 果実は (園) によって結ばれた.

vi- 実を結ぶ.

phala 男 [一 男 (女 -ā, -i)] 果実 (とくに樹の)；(果実の) 核 [まれに]；果=結果；報い，報酬，利益；報復，罰，損失，不利益；利得，享受；代償；計算の結果，積，商等 [数学において]；[(資本の) 利子]；とばく台；刀身；矢じり；**𑖀𑖩𑖪** 果，能果，菓，果報，果実，実，報 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Nyāy-pr.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy I.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*, 梵千., 梵雜.；榮利 *Buddh-c.*；pañca ~ āni 五果 [1. niṣyanda ~ m 等流果, 2. adhipati ~ m 増上果, 3. puruṣakāra ~ m 士用果, 4. vipāka ~ m 異熟果, 5. viśaṃyoga ~ m 離繫果] *Mvyut.*；satya-ratna-karma ~ 諸宝業果 *Abh-vy.* 128.

phalaka 男 (女 -ikā) 一° 成功，利益，利得. 男 台，厚板；(書または 画に用いる) 厚板または薄板；絵画；とばく用または勝負用の台；土台，台座；木の腰掛；平面 [しばしば 一° 身体のとくに 骨の平坦な部分を示す語とともに]；掌；矢じり；楯；樹木の内皮 (衣服の材料として)，蓮花の芯；**𑖀𑖩𑖪** 板，板片，橙，蹬，級 *Aṣṭ-pr.*；編椽 *Lal-v.*；分 *Śikṣ.* 男 **𑖀𑖩𑖪** 皮袋，有鈕子 *Mvyut.*；**𑖀𑖩𑖪** [人名] 頗囉迦 *Divy.*

phalaka-cchadana 男 **𑖀𑖩𑖪** 板房，門樓板房，門樓板房 *Mvyut.*

phalaka-paridhāna 男 樹皮の衣服を着用すること.

phala-karma-kartṛ 男 結果のある行為をする.

phala-kāṅkṣin 男 報酬を欲する.

phala-kāma 男 報酬に対する願望.

phalakin 男 木の腰掛.

phalakinī 女 厚板，床板 (?) (*Divy.*).

phalaki-vana 男 [Sarasvatī に捧げられた林の名].

phala-kośa 男 [團, 圃] 陰囊.
 phala-khaṇḍana 中 果実または報酬に関する失望.
 phala-graha 形 (...より)利益を得る. 男 利益の獲得.
 phala-grahi 形 果実を結ぶ.
 phala-cāraka 男 遷果子, 遷果人, 遷菓者 *Mv-yut.*
 phala-tantra 形 利益(のみ)を目的とする, 利益のある動機によってのみ動かされる.
 phalatas 副 報酬に関して.
 phalatā 女 果実の状態; 果, 果報 *Abh-vy.*
 phalatva 中 [同上].
 phala-da 形 果実を結ぶ, 生産的な; 利益のある, もうかる; 報いる, (圃, 一)をもって報いる.
 phala-darśin 形 観(其)果, (定)有果見 *Bodh-bh.*
 phala-dāna 中 与果 *Abh-vy., Bodh-bh.*
 phala-dharman 形 果実の本性をもつ (すなわち急速に熟しそして腐敗する).
 phala-niṣṭatti 女 果実の生産, 結果が現われること.
 phalaṃ-dadā 女 [ある Gandharva 女の名] (*Kar-vy.*).
 phala-parigraha 形 得果 *Sūtr.*
 phala-pariṇati 男 果実の成熟.
 phala-pariṇāma 男 [同上]; 果能変 *Vijñ-t.*
 phala-parivṛtti 女 豊かな収穫.
 phala-pāka 男 果実が熟すること; 結果が現われること.
 phalapāka-niṣṭhā 形 女 果実の成熟後に枯れる, 果実を生じて後に枯れる (一年生植物).
 phalapākāntā 形 女 [同上].
 phala-pātana 中 果実をたゞき落とすことまたは集めること.
 phala-pādapa 男 果樹.
 phala-pura 中 [都城の名].
 phala-puṣpa 中 果(諸)華 *Lank.*
 phalapuṣpavat 形 果実と花とで飾られた.
 phalapuṣpopaśobhita (°pa-up°) 形 [同上].
 phala-pratyanubhāvanatā 女 果(当知)領受 *Bodh-bh.*
 phala-prada 形 =phala-da.
 phala-pradāna 中 果実の付与 [結婚式の一儀式].
 phala-prasūti 女 果実の栽培 または収穫.
 phala-prāpti 女 成功; 得果, 至果 *Abh-vy., Lank., Madhy-bh., Madhy-vibh.*
 phala-prepsu 形 果実を欲する, 結果を得ようと欲する.
 phala-bandhin 形 実を結ぶ.
 phala-bhakṣa 形 果実を食って生存する.
 phala-bhakṣatā 女 果実を食糧とする.
 phala-bhāga 男 結果または利益の分け前.
 phala-bhāgin 形 報酬にあずかる.
 phala-bhāj 形 [同上].
 phala-bhāva 男 果事, 果性 *Madhy-vibh.*
 phala-bhuj 男 (果実を食べるもの), 猿.
 phala-bhūti 男 [ある婆羅門の名].
 phala-bhūmi 女 報酬または報復の場所 (天国または地獄).

phala-bhūyastva 中 一層大きな報酬.
 phala-bhṛt 形 実を結ぶ.
 phala-bhogya 形 使用権の許された(担保).
 phalamaya 形 果実からなる.
 phala-mūlamaya 形 果実と根から形成される.
 phala-mūlavat 形 果実と根とをもつ.
 phala-mūlāsana 形 果実と根とを常食とする.
 phala-mūlin 形 食用に適する果実と根とを有する(草木).
 phala-yukta 形 報償と結合した.
 phala-yoga 男 報酬, 賃銀.
 phalavat 形 果実の多い, 枝もたわわに実った; 成功した; もうかる.
 phalavattā 女 有利なこと.
 phalavattva [同上].
 phala-vikrayiṇi 女 果物を売る女.
 phala-vipāka 男 果報, 果異熟 *Bodh-bh., Śikṣ.*
 phalavipāka-saṃmoha 男 昏於果如何熟之理 *Mv-yut.*
 phala-vṛkṣa 男 果樹, 菓樹 *Mv-yut., Sv-pr.*
 phala-vaiśeṣya 中 果勝 *Bodh-bh.*
 phala-sālin 形 報酬を生ずる; 結果を経験するまたはにあずかる; 萌 *Mv-yut.*
 phala-samyukta 形 報酬と結合した.
 phala-samyoga 男 報酬との結合.
 phala-saṃkleśa 男 果難, 果雑染 *Madh-bh., Madhy-vibh.*
 phala-saṃgrhita 形 果撰 *Bodh-bh.*
 phala-samudāgama 男 得果 *Sūtr.*
 phala-satya 中 果諦, 果実 *Bodh-bh.*
 phala-samāropa 男 增益果 *Madhy-bh.*
 phala-sasya-vanṣ-devatā 女 林果苗稼神 *Sv-pr.*
 phala-sahasra 中 一千の果実.
 phala-sādhana 中 結果の発生, 目的の実現.
 phala-siddhi 女 成功.
 phala-stha 形 得果人, 住果者, 已住果, 得者 *Abh-vy., Madhy-v.*
 phala-sthāna 中 結果の享受される境位 (仏教).
 phala-sthāniya 形 如果 *Bodh-bh.*
 phala-haka 男 盤, 厚板.
 phala-hina 形 果実の欠けたおよび賃銀を支払わない.
 phala-hetu 形 結果を動機 または 目的として行動する. 男 因果, 果因 *Lank., Madhy-bh., Madhy-v., Madhy-vibh.*
 phalahetu-tattva 中 因果真実, 果因真実 *Madhy-bh., Madhy-vibh.*
 phalākāṅkṣā (°la-āk°) 女 都合のよい結果を望むことまたは期待すること.
 phalākāṅkṣin (°la-āk°) 形 結果を希望する, 好結果を望む.
 phalākṣepa (°la-āk°) 男 取果 *Abh-vy.*
 phalāgama (°la-āg°) 男 果実の到来, (すなわち果実の熟する時), 秋.
 phalāḍhya (°la-āḍh°) 形 果実の豊富な (=密生する果実で覆われた).

phalānubandha 男 (一) の結果。
 phalānumeya 形 その結果で判断できる。
 phalānuśamsa 男 果勝利, 果福利 Bodh-bh.
 → anuśamsa.
 phalāpavāda 男 損減果 Madhy-bh.
 phalāya 名動 自 phalāyate (一) の報酬または結果である。
 phalārāma (°la-ār°) 男 果園 Mṛyut.
 phalārthin 形 果実を望む。
 phalāvasthā 女 果位 Madhy-bh., Madhy-vibh.
 phalāśin (°la-ās°) 形 果実を食って生存する。
 phalāsava (°la-ās°) 男 果実の煎じ薬。
 phalāhāra (°la-āh°) = phalāśin.
 phalika 形 (一) の報酬を受ける。
 phalita 通受分 → PHal 2. 有果 Abh-vy.
 phalitavya 未受分 中 罪人 (具) によって果実が結ばれるべきである。
 phalin 形 果実を生ずるまたはを産出する, 果実の多い; 利益を得る (因); 頭部が鉄の(矢). 男 果樹。
 phalina 形 果実を生ずる。
 phalini 女 [植物の一種]。
 phali-karaṇa 中 穀粒から殻を除くこと. 男 籾(米の) 穀殻または [註釈家によれば] 最小の穀粒。
 phali-kāra 男 籾 [同上 (男-籾)].
 phali-Kṛ, (穀粒の) 殻を除く。
 phali-BHū, 報酬を得る; 得 Lanik.
 phale-grahi 形 実を結ぶ; 成功する。
 phaletara (°la-it°) 中 (?) 果実でないもの, 果実の欠如。
 phaletaratā (°la-it°) 女 果実でないこと; 果実の欠如。
 phalepsā (°la-ip°) 女 将来の報酬に対する欲望。
 phalotpatti (°la-ut°) 女 果実の産生, 利得, 所得, 利益; 結実 Abh-vy.
 phalotprekṣā (°la-ut°) 女 比喩(の一種)。
 phalodaya (°la-ud°) 男 (属, 因, 一) に対する結果の出現, 報酬, 報復, 代償, 刑罰; 成功の獲得; 果起 Sutr.
 phalodgama (°la-ud°) 男 籾 果実の生長。
 phalodbhava (°la-ud°) 形 果実から得られた; 有果 Madhy-v.
 phalonmukha (°la-un°) 形 まさに果実を生ぜんとする。
 phalopagama (°la-up°) 形 実を結ぶ。
 phalopajivin (°la-up°) 形 果実(の販売)で生計を立てる。
 phalopabhoga (°la-up°) 男 結果の享受, (何物かの) 結果または報酬にあずかること; 受用果 Bodh-bh.
 pholopabhoga-parikṣayatā 副 受用果有尽 Bodh-bh.
 phalgu 形 (因 -ū, -vi) 赤みがかかった(因); 力のない; 弱々しい; 無意義な; 価値のない; 無益な; 微細な, きわめて小さな; 虚妄 Bodh-bh.; 枝葉 Saddh-p.; 膚 Bodh-bh., Mṛyut. 女 [Gaya 付近を流れる河の名]. 画 [ある月宿の名].

phalgu-gata 形 膚, 在膚 Bodh-bh.
 phalgutā 女 無意義なこと, 価値のないこと, 空虚。
 phalgutva 中 [同上]。
 phalgu-darsin 形 観虚妄 Bodh-bh.
 phalguna 形 (因 -i) 赤みがかかった, 赤い。
 phalgunaka 男 [人名]; 画 [ある民族の名]。
 phalguni 女 [画, 画, 画] [一对の月宿の名, pūrva ならびに uttarā すなわち第九および第十]; 張宿, 翼宿 Mañj-m.
 phalguni-pūrva-samaya 男 Pūrva-phalguni 中に月が宿る時。
 phalgu-prāsaha 形 僅少の力をもつ。
 phalgu-vyapagata 形 無用のものがない(Saddh-p.); 無枝葉 Saddh-p.
 phāṭika 中 [=sphāṭika] 画 写 頗梨, (妙) 頗梨 Suv-pr. 28.
 phāṇita 使役 通受分 [PHan]. 男 中 さとうきびの濃汁, シロップ; 砂糖, 糖霜, 粗糖, 石蜜 Lal-v., Mṛyut., Prāt-m.; 甘蔗汁 Lanik.
 phāṇṭa 形 濾過によって得られた. 男 (粉末剤に四倍の熱湯を加え) 濾過した煎薬. 中 攪拌によって得られたバターの最初の部分。
 phāla 男 [PHal 1. 裂くもの] すき(犁)の頭部; シヤベル(の一種); 跳躍, シトロンの芯. 男 中 たば(束), ふさ(房), 花束。
 phāla-kuddāla-lāngalin 形 くわ(鋤)と踏みぐわとつき(鋤)とをもつ。
 phāla-kṛṣṭa 形 耕された; 耕された土地に生長する 中 (?) 耕地. 男 耕地の農産。
 phālāhata (°la-āh°) 形 耕された。
 phālguna 形 (因 -i) 月宿 Phalguni に属する. 男 (満月が) Phalguni に宿るその月(二月-三月); [Arjuna の称]; 孟春, 十二月 Mṛyut., 梵雜.; 音 頗勒具那, 頗勒囊拏(月) Mṛyut., 玄志. 中 [Som 草に代用される草の名]; [巡礼地の名]。
 phālguni 男 父系 [Abhimanyu の称]。
 phālguni 女 Phālguna 月における満月の日; Phalguni 月宿。
 phāṣa 形 安穩, 安樂 Prāt-m.
 phāṣaka 形 樂, 安樂 Prāt-m.
 phāsa 形 安穩 Śikṣ. 129.
 phit-sūtra 中 [文法書の題名]。
 phiraṅga 形 フランク人に属する, ヨーロッパの. 男 フランク人の地方すなわちヨーロッパ。
 phiraṅgin 男 ヨーロッパ人。
 phuṭa 中 (?) 蛇のかさ状の頭部。
 phuṭāṭopa (°ṭa-āt°) 男 蛇の頭部の膨張。
 phuṭṭaka 中 [価値のない衣服の一種] (Divy.); 蠶服 Divy. : ~air vastraiḥ 蠶衣 Divy. 29.
 phuṭṭaka-vastra 中 [同上]; 蠶衣 Divy.
 phuṭṭikā 女 [織物の一種]。
 phut 擬音 間投 [常に Kṛ とともに] プツと吹く, く; 鋭く叫ぶ, わめく。
 phut-kāra 男 プツと吹くこと, 吹くこと, シツとすること; 鋭く叫ぶこと, わめき。
 phut-kṛta 中 吹奏楽器の響; 鋭い叫び, わめき。

phut-kṛti 因 吹くこと, シツと言うこと; 吹奏楽器を吹くこと.
 phutphu-kāraka 形 呵気, 呼呼吸声 *Mvyut.*: na ~ m 不呵気, 不呵気食, 勿露冷相, 勿呼呼吸声.
 phupphusa 男 肺 *Sikṣ.*
 phupphusa 男 肺; 肺, 愛器 *Mvyut.*
 PHull I. 他 phullati 開く, 花咲く.
 phulla 過受分 [PHal 1.] 開いた, 咲いた(花); 広く開いた, 見開いた(目); ふくれた, ふくらんだ(頬); 輝く, 微笑を含んだ(顔); 寛い(衣服).
 phullana 形 一° ふくらます.
 phulla-nalini 因 満開の蓮.
 phulla-padmotpalavat (°ma-ut°) 形 諸種の満開した蓮に富んだ.
 phulla-pura 因 [都城の名].
 phullita 過受分 [PHull] 開, 花開, 栄茂, 敷栄 *Lal-v.*, *Mvyut.*
 phullotpala (°la-ut°) 因 [(花咲く蓮をもつ), ある湖水の名].
 phūt 擬音 間投 = phut.
 phūḥ-svāhā 間投 音写 普莎訶, 部莎訶 *Abh-vy.*, 玄応.
 pheñjaka 男 [鳥の一種].
 pheṭ-kāra 男 ほえること, わめくこと.
 pheṇa [phena の 翻].
 pheṇṭa 男 [鳥の一種].
 pheṇṭaka 男 [同上].
 phet 擬音 間投 [ほえる声].

phet-kāra 男 ほえること, わめくこと.
 phet-kārin 形 ほえる, わめく.
 phet-kṛta 因 = phet-kāra.
 phena 男 (因 用例一回のみ) 泡, 泡沫・唇の潤い; 泡, 沫, 聚沫, 水聚沫, 水泡沫, 水沫泡 *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*, 梵雜. 因 いか(烏賊)の甲.
 phenaka 男 米粉のスープ.
 phena-giri 男 [*Indus* 河口にある山の名].
 phena-dharman 形 泡沫の性質をもつ, つかの間の.
 phena-pa 形 泡を飲む, 泡を食って生きる.
 phena-piṇḍa 男 水上泡, 水中生泡, 聚沫, 水聚沫 *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sikṣ.*
 phena-marici-kalpa 形 如水沫泡焰 *Saddh-p.*
 phenavat 形 泡立った, 泡のような.
 phenāya 名動 自 phenāyate 泡立つ.
 phenāhāra (°na-āh°) 形 泡沫を食って生きる.
 phenila 形 (一°) をもって泡立った. 男 [樹の一種].
 phenopama (°na-up°) 形 泡沫に似た(生命).
 phe-rava 男 豺(Jackal); = Rākṣasa. 因 Pherava のほえる声.
 phe-ru 男 (男) 豺.
 phe-ruṇḍin 男 [同上].
 phela 男 音写 [数の名] 啤羅 *Mvyut.*
 phelā 因 [恐らく pelā = peṭā の 翻] 籠, 箱または櫃 (*Divy.*) → peṭā, peḍā.

B

Baṃh, Bah, 過受分 bādha. 使役 自 baṃhayate 強くする, 増大させる.
 ava- 過受分 avabādha 露わにされた.
 ni- 過受分 nibāḥa 包み隠された, 埋められた.
 sam- 使役 他 saṃbaṃhayati 強くする, 増大させる.
 baṃhiṣṭha 最上 [bahula] もっとも強い, もっとも強固な; もっとも豊富な; 非常に力のあるまたは太い(調子); もっとも肥えたまたは肥満した.
 baṃhiyas 比較 [bahula] さらに多いまたは広い等.
 baka 男 あおさぎ [の一種, 学名 *Ardea nivea*: 用意周到と同時にまた詐欺と偽善との典型と見なされる]; 悪漢, 詐欺師; 偽善者; [ある悪魔の名]; [*Bhīmasena* に征服されたある Rākṣasa の名]; [*Kṣṇa* に征服されたある Asura の名]; [ある聖仙の名]; [ある農夫の名]; [ある王侯の名]; (種) 犬民の名]; 鷺, 寒鴉 *Bodh-c.*, *Mvyut.*
 baka-kaccha 男 [(あおさぎの岸), 地方の名].
 bakatva 因 あおさぎの性質または状態.
 baka-nakha 男 [*Viśvāmitra* の息子の名].
 baka-puṣpa 因 [植物の名, 学名 *Agati grandiflora*];

漢訳 艾花 *Mvyut.*
 bakabakāya 名動 自 bakabakāyate ガーガーと鳴く.
 baka-mūrkhā 男 あおさぎのような愚者.
 baka-rāja 男 [(あおさぎの王), *Kāśyapa* の息子の名].
 baka-ripu 男 [(*Baka* の仇敵), *Baka* に征服されたある Rākṣasa の名]; [*Bhīmasena* の称].
 bakavat 不変 あおさぎのように.
 bakavati 因 [河の名].
 baka-vadha 男 [Baka の殺害] [*Mahābhārata* I. 6103-6315 の名].
 baka-vṛtti 形 あおさぎのように振舞う, 偽善的な. 男 偽善者.
 baka-vrata 因 あおさぎの行為.
 bakavrata-cara 形 あおさぎのように振舞う, 偽善的な.
 baka-vratika 形 偽善的な.
 baka-vratin 形 [同上].
 baka-saha-vāsin 男 あおさぎの同宿者すなわち蓮華.
 bakāya 名動 他 bakāyati Asura *Baka* のように振

(cūdākarāṇa, caula)をすましていないすなわち幼い。

baddha-śrotra-manas-cakṣus 形 耳・意および眼を(因)に固定した。

baddha-sīman 形 有限礙, 有所縛 *Aṣṭ-pr.*

baddha-sneha 形 (因)に対して愛情を抱く。

baddha-spr̥ha 形 (因)に対して憧憬を感じる。

baddhāṅgulitra 形 こて(籠手)を着けた。

baddhāñjali 形 合掌した[祈願の際または尊敬のしるしとして]。

baddhāñjali-puta 形 両手を合わせて盃状にした。

baddhādara (°dha-ād°) 形 (一°)に大きな価値を認める。

baddhānanda (°dha-ān°) 形 それに喜びを感じる, 喜ばしい(日)。

baddhānurāga 形 愛着を抱いた, 恋着した。

baddhānuśaya 形 抑え難い怨みを抱いた。

baddhāndha-kāra 形 闇に包まれた。

baddhāvasthiti 形 不変の。

baddhāśa (°dha-āśa) 形 (一°)の希望を抱く。

baddhāśaṅka (°dha-āś°) 形 懸念する。

baddhotsava (°dha-ut°) 形 祭日を祝う, 祝祭に参加する。

baddhodyama (°dha-ud°) 形 (不定)しようと努力するまたは準備する。

badbadhāna 強意 現分 → Bādḥ.

badva 中 (男 一回のみ) 大勢[非常に大きな数を称する]。

Badh, = **Vadh**.

badha 男 = **vadha**; 損壊, 害, 悩害 *Sāṃkhy-k., Śikṣ.*

badhaka 男 = **vadhaka**. 屠, 兇 *Lal-v., Śikṣ.*

badhaka-puruṣa 男 [= **vadh°**]; 行殺者, 悪人 *Divy., Śikṣ.*

badhaka-saṃjñā 女 [= **vadh°**]; 兇想 *Śikṣ.*

badhira 形 聾の; 聾, 聾者; 極者(?) *Abh-vy., Av-ś., Bodh-bh., Lal-v., Laṅk., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.* 男 [ある Nāga¹の名]。

badhiratā 女 聾。

badhiraya 名動 他 **badhirayati** つんぼにする。

過受分 **badhirita** つんぼにされた。

badhirāndha 男 [(つんぼで盲目な) ある Nāga の名]。

badhirita 過受分 → **badhiraya**.

badhiri-Kṛ, つんぼにする, 聞こえなくする。

badhū 女 [正しくは **vadhū**]; 婦 *Mvyut.*

badhya-ghātaka 男 [= **vadh°**]; 行殺之人; 真陀羅 [caṇḍāla の音写] *Divy. 421.*

bandi, 縛 *Śikṣ. 181.*, → **bandin** 1.

bandi-graha 男 捕虜とすること, 捕獲。

bandi-grāha 男 夜盗。

banditā 女 [同下 捕]。

bandin 男 1. 捕虜, 奴隸. 2. 王侯付きの詩人; 頌讚者。

bandi-putra 男 詩人の子, 王侯付きの詩人; 頌讚者。

bandi-stri 女 女の頌讚者。

bandi-sthita 形 禁錮された。

bandi 女 監禁; 捕虜, 囚人 [男 または 因]; 掠奪品。

bandi-kṛta 形 捕虜にされた; 捉えられたすなわち圧倒

された。男 囚人, 捕虜。

bandi-gṛhita 形 捕獲された, 盗まれた。

bandi-graha 男 捕獲, 掠奪。

Bandh, IX. 他 固 **badhnāti**, **badhnite** 縛る, 結ぶ,

固定する; 定着する, 取り付ける; 足枷を掛ける;

罾にかける, 捕える, 捕獲する; 魅惑する; 罰する,

懲らす; 縛る=(因)に(犠牲を)供える; 身に着ける

または結びつける, 腰に帯びる [固 因; 固 固];

結合する, 接合する; (こぶしを)握る, (手を *añ-*

jalim, *añjali-putam*) 合わす; (限界を)確立する;

(橋またはせき(堰)を)築く; [± *setunā*] 橋をかける

; (河を)せき止める, 堤で囲む; 閉じる; 阻止する,

保留する, 抑止する; (因, 不定)に(眼, 耳,

心)を集中する, 固定する; (讚頌, 詩)を作る; 整理する,

(姿勢を)整える; (住所を)定める; 産出する,

作る; (果を)結ぶ, (根)づく; 明示する, 表現する,

抱く, 持つ, (友情を)結ぶ, (敵意を)発する;

縛, 繫縛, 繫, 繫属; 閉; 制; 栓; 砌;

拘執 *Bodh-bh., Buddh-c., Divy., Lal-v., Laṅk.,*

Madhy-v., Mvyut., Prāt-m., Saddh-p., Sāṃkhy-

-k., Śikṣ., 梵千.; 肩(鑑) *Divy.* 固 **badhyate** 結ば

れる; 捕えられる; (輪廻または悪業のために)繫縛

される; 束縛される=影響される, 経験する, こう

むる。過受分 **baddha** 結ばれた, 固定された, 足枷

を掛けられた; 捕えられた; (輪廻または悪業のため

に)繫縛された; 禁固された, 幽閉された; 結い上

げられた(弁髪); (固, 一°)と連合・合同または結合

された, …で鋳飾をされたまたはちりばめられた,

…を挿入された; 抑制された; 生産された; 胸中に

秘められた, 心に抱いた; 明示された, 明白な。

使役 他 **bandhayati** 束縛させる, 捕獲させる, 投

獄させる; 構成させる; 堤で包囲せしめる または せ

き止めさせる。

anu- …に結ぶ, 固定する; 足枷を掛ける[また 譬喩];

合同する, 連合する; …に結びつける, (弟子を)惹

きつける; …に従属する, 密接して随う, 後を追う

; 付き添う [譬喩]; 似る; 産出する, ひき起す;

(感情・情緒等を)示す・抱くまたは持つ; 付着する;

続く, 結果を継続する; …を固執する; 強いる;

強請る; 随, 随逐, 随縛, 随護, 逼逐, 追

侍, 従; 親近 *Abh-vy., Gand-vy., Lal-v., Laṅk.,*

Śikṣ. 固 **anubadhyate** 結果として起る; **anubandha**

すなわち文法上の指示文字として付け加えられる

(文法)。過受分 **anubaddha** 結ばれた, 固定された

; 抱擁された; 魅惑された(心); …と結び合わされ

た。

sam-anu- 随, 侍 *Lal-v.*; *pr̥ṣṭhataḥ samanubaddhāḥ*

密接して従った (*Kar-vy.*)。

api- 身に着ける。

abhi- 固 **abhibadhyate** 定着される, 耐久的となる。

ava- 結びつける; 固 自身に固定するまたは着ける。

過受分 **avabaddha** (固, 一°)に固定された, 結び

つけられた; 魅惑された; しっかり着けられた,

(一°)に突き刺されたまたは挿まれた; (因)に愛着

した, (因)について心配する。

ā- (自身に) 固定する, 結びつける, 着ける [固]; 叙詩 はまた 固; 合同する, 接合する, 組み合わせる, 結合する, (雲が) 密集する; (圓) によって (ある人を) しっかり捉える; (会話に) 従事する; (足場を padam) 得る, 永続する; 著 Lal-v. 過受分 ābaddha (一°) に (視線または心を) 定着した; 産出された, 開示された, 形成された; 一° = 形成する, 展示する; (圓状に) 坐った.

sam-ā- (自身に) 着ける.

ud- 結び上げる (すなわち頭の頂に); (頸に) しっかりと結ぶ; 引き出す; 抑制する, 中止する; [固 または 固 + ātmānam または śariram] 首をつって死ぬ. 過受分 udbaddha (固) より垂れ下った, …に掛った; 息を止められた, しめ殺された; 強い, 丈夫な (子牛等).

sam-ud- しっかりと結ぶ.

prod (pra-ud)- 過受分 prodbaddha 強い, 丈夫な (子牛).

upa- (手または足に) 結ぶ; 結合する.

ni- (固) に縛る, しっかりと締める, (固) に糸を張る; 自身に固定する または 着る; (固) に足枷を掛ける (譬喩); 捕える; 獲る; 接合する; (こぶしを) 握る; 中止する; 建てる; (天幕を) 張る; 抑止する, 抑制する, 禁固する; (足 padam を 固 に) 置く = 企図する; (固) に定着する, 鋌でとめる, …の方へ向ける; 記録する, 著作する, 編集する; 論ずる [受述べられる]; 開示する; [bhrukūtim とともに] 眉をしかめる, しかめ顔をする. 過受分 nibaddha (固) に結ばれた, (圓) に依った; (一°) で組立てられた, …に伴われた, …を支給された; (圓) によって覆い隠された, …をもって覆われた; (石で) 囲まれたまたはふち (縁) どりされた, (一°) で象眼された, 鋌飾りされたまたは飾られた; (固, 一°) の上にまたは中に形づくられた または 存する, …に含まれた, …に属する; (一°) で形成または構成された; (固, 一°) と関係ある, …に関する; 立てられた, 建てられた; (固, 一°) に定着された または 鋌で止められた; 使用された (言語, 文字); 禁ぜられた.

upa-ni- 繫, 擬繫, 安置, 係念 Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh. 過受分 upanibaddha (一°) に密着した; 記録された, 書きとめられた; 著作または編集された; 論ぜられた.

vi-ni- 両側に固定する; 束縛する (Jat-m.). 使役 vinibandhayati 束縛する (Jat-m.).

sam-ni- 過受分 samnibaddha (一° 樹の) 植えられたまたは点在した; (固) に付随した, …に従属した.

nir- 強いる; 強請る. 過受分 nirbaddha (固) の上に取り付けられた; 迫られた, 強請られた.

pari- 自身に巻きつける; 固定する, 縛る, 包囲する. 過受分 paribaddha 阻まれた, 阻止された.

使役 paribandhaya- 取巻く, 締める.

pra- 縛る, 締める, 結ぶ. 過受分 prabaddha 結ばれた, 足枷を掛けられた; (一°) に鎖で繋がれた, …に従属した; 阻まれた, 阻止された.

prati- (固, 一°) に縛るまたは固定する; 自己の(圓)

を縛る (固); (固) に (宝石を) はめこむ; 結合する, 接合する; 固定する, 向ける; 阻む, 鎖す; (ある人を) 抑止する; 否認する, 拒絶する; 遮 Abh-vy. 固 pratibaddhyate 障, 断 Abh-vy. 過受分 pratibaddha (一°) に固定 または 取付けられた; (一°) に従属した; (圓, 一°) によって または …をもって結合 または 接合された, …で鋌飾りされた, …を支給された; (固) と調和した; (一°, upari) に留められた または …の方へ向けられた; …から隔離された; 錯綜した.

vi- さまざまの個所で結ぶ; 伸す, 広げる; 阻む. sam- 一緒に縛る, 結合する, 取りつける; 集める, 連合する; 相統, 通相繫属, 和合 Lank. 固 sambaddhyate 合同される, 付着する; (圓) に取り付けられる または 属する; (固) において補われる (文法); 相応 Abh-vy. 過受分 sambaddha 一緒に結ばれた; 閉ざされた; 関係のある, 終始一貫した; (圓, 一°) と結合された; (圓) で覆われた; (一°) をもって満たされた; (一°) と結合された + すなわちを含んだ; 収縮された, 形作られた = 現前の, 存在する. 使役 sambandhaya- 結ばせる, (固) に結びつかせる; (圓) と自己との関連性を主張する.

anu-sam- 過受分 anusambaddha (一°) と結ばれた または …に伴われた.

abhi-sam- …と結合する すなわちを意味する. 固 abhisambaddhyate (圓) と結合される すなわち属する; 和合 Mvyut.: pratyekam ~ それぞれに結合される または 満たされる.

prati-sam- 過受分 pratisambaddha 結合された.

bandha 固 結ぶこと, 締めること, 縲帯をすること; 捕えること, 捕獲; 足枷を掛けること; 阻止; (一°) との結合; (一°) との交際; 組み合わせること, つなぐこと (手等を); 姿勢, 手と足との位置; 組み立て, (橋等の) 架設; (河を) せき止めること; 架橋; (固) に固定すること, …の方へ向けること; (一°) (姿を) 現わすこと, (身体を) 得ること; (一°) の明示・開示または所有; 保証の品, 供託金, 担保; (現世の) 束縛 [最後の解脱の固]; 束縛, きずな; 帯, 紐; 縲帯; 足枷; 躰; 容器; 語 または 文字の結合; 縛, 繫縛, 繫, 繫閉, 結; 伴 Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v., Lank., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Sāmkhy-k., Śikṣ., 梵雜., 梵千.; 眷属 Lal-v.; 音写 満駄 Guhy-s.

bandhaka 固 (動物を) 縛る人; (一°) を捕える人; 綱, 革紐, 足枷; 部分 [一° 序数とともに, 例 第 10 の部分]; 挿縛 Bodh-bh. 固 (?) 質に入れること. → ādhamana ~.

bandha-karaṇa 固 結ぶこと または 束縛すること, 囚人 とすること; 魔術によって足枷を掛けること または 阻止すること.

bandha-kartṛ 固 縛る者, 足枷を掛ける者, 抑止する者 (Śiva 神).

bandhaki 固 不貞節の女, 淫売婦.

bandhana 固 (固-i) 縛る, 足枷を掛ける; 魅惑する. 固 縛ること, 結ぶこと, 締めること; 縲帯すること; (帯等を) 結びつけること; 絡むこと, 巻きつけ

ること；捕獲；禁錮，投獄，監禁；(橋等の)建設；(水を)堤で囲むことまたはせき止めること；架橋；連結；(因)に固定すること，…の方へ向けること；阻止，抑止；(現世の)束縛 [最後の解脱の因]；束縛，足かせ；綱，繩，革紐，端綱，繫繩；(譬喩)縛=(因)を結合すること；牢獄；腿，筋肉；堤防；(花または果実の)柄，軸；縛，可縛，繫，繫縛，縛(法)，縛録，縲紲，禁閉，繫拘禁；帶，腰帶 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Guh-y-s.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*；結使 *Śikṣ.*；続，相續 *Daś-bh.*；獄，牢獄，囹圄，囹圄縛 *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Divy.*, *Śikṣ.* 一〇 形(因)に結ばれた，(一〇)で足かせを掛けられた。

bandhana-kāritā 因 [同下 因]。

bandhana-kārin 形 (一〇)に足枷を掛ける，を抱き締める。

bandhana-pālaka 男 獄卒 *Mvyut.*

bandhana-baddha 形 繫縛，繫縛枷鎖，枷鎖繫 *Bodh-bh.*, *Suv-pr.*；獄囚，牢獄繫者 *Lal-v.*

bandhana-baddhaka 形 禁囚 *Lal-v.*

bandhana-mokṣa 男 縛解，解脱(一切)繫縛 *Lal-v.*, *Madhy-v.*

bandhana-stha 形 禁錮または囚人の状態にあるまたはの生活をする，投獄された。男 囚人，囚人。

bandhana-sthāna 因 (繫ぐ場所)，家畜小屋；牢獄 *Abh-vy.*

bandhanāgāra (°na-āg°) 男 監禁の家，監獄；獄，牢獄 *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*

bandhanika 男 獄吏。

bandhaniya 未受分 囚人として捕えられるべき；堤で囲まれるべき。

bandha-pāśa 男 足かせ。

bandha-mocanikā 因 [(束縛から自由にする)，ある *Yogini* の名]。

bandha-mocani 因 [同上]。

bandhayitr 男 縛る人。

bandhavat 形 縛 *Lank.*

bandha-hetu 男 縛因 *Lank.*

bandhābandha-vikalpa 男 縛解分別，縛不縛分別，縛不縛妄想 *Lank.*

bandhi 男 [ある *Asura* の名] 縛者 *Mvyut.*

-bandhin 形 を縛る；捕える；形成する，産出する；開示する，示す。

bandhu 男 結合，関係；親戚であること，親戚関係；(母方の)血族；親族；朋友；夫；親，親戚，親枝，所親，(六)親，(六)親眷属；眷属；善友 *Abh-vy.*, *Bodh-c.*, *Buddh-c.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Sūtr.* 一〇 形 [また -ū] の項目の下に来るすなわち名のみ；極端に似た；によってしばしば訪れられるまたはに好意をもつ。

bandhu-kāma 形 親族または友人を愛する。

bandhu-kṛtya 因 親戚の義務；朋友の務め，朋友的奉仕。

bandhu-kṣit 形 親族の中に住む，…に属する(RV. 用 例一回のみ)。

bandhu-jana 男 親戚；親族；朋友；親 *Suv-pr.*

bandhu-jiva 男 [樹の名，学名 *Pentapetes phoenicea*；正午に美しい赤色の花を開き翌朝日の出に散る]。

bandhu-jivaka 男 [同上]；[ある *Cakravartin* の名]；**𑀧𑀲𑀭𑀸𑀓𑀾𑀢𑀺𑀓** (音写) 般豆時婆迦，玻都只臥，班都只卧 *Mvy-ut.*

bandhujivaka-puṣpa 因 **𑀧𑀲𑀭𑀸𑀓𑀾𑀢𑀺𑀓** (音写) 般豆時婆迦華，玻都只臥花，班都只卧花 *Mvyut.*

bandhutā 因 連絡，関係；血縁。

bandhutva 因 血縁，親族関係。

bandhu-datta 形 親族によって与えられた。男 [人名]。

bandhu-dattā 因 [人名]。

bandhu-dāyāda 男 血族と相続人。形 血族関係によって遺産の権利を与えられた。

bandhu-pāla 男 [人名]。

bandhu-pṛcch 形 自己の同族について尋ねる(RV. 用 例一回のみ)。

bandhu-prabha 男 [ある *Vidyādhara* の名]。

bandhu-priya 形 親族または友人に愛せられた。

bandhu-pṛiti 因 親族または友人の愛。

bandhu-bhāva 男 親族関係；友情。

bandhu-bhūta 形 親者 *Sūtr.*

bandhu-mat 形 縁者をもつ；血縁者に取り巻かれた。男 **𑀧𑀲𑀭𑀸𑀓𑀾𑀢𑀺𑀓** [諸人の名]；[王の名] 有親 *Divy.*；**𑀧𑀲𑀭𑀸𑀓𑀾𑀢𑀺𑀓** [人名] 槃頭末帝 *Av-ś.*

bandhumati 因 [人名]；[都会の名]；**𑀧𑀲𑀭𑀸𑀓𑀾𑀢𑀺𑀓** [都城の名] 親慧 *Divy.*；**𑀧𑀲𑀭𑀸𑀓𑀾𑀢𑀺𑀓** 槃頭末帝，満度摩帝 *Av-ś.*, *Divy.*

bandhumatiyaka 形 *Bandhumati* の町に属するまたはに関する (*Divy.*)。

bandhu-mitra 男 [人名]。

bandhura 形 魅する，愛らしい，美しい，端麗な；傾いた，曲った；心を寄せた；(一〇)をもって飾られた；**𑀧𑀲𑀭𑀸𑀓𑀾𑀢𑀺𑀓** 美，妙 *Mvyut.* → *vandhura.*

bandhura-komalāṅguli 形 まるみを帯びた繊細な指をもつ(手)。

bandhura-gātri 形 因 愛らしいまたは曲線をしたすなわちまるみを帯びた四肢をもつ(婦人) [美人の形容]。

bandhurita (名動) 未受分 傾けられた，曲げられた；わん曲した。

bandhula 男 私生児。

bandhuvat 因 親族のように。

bandhu-varga 男 血縁の全体。

bandhu-śoka 男 親族に対する悲歎。

bandhu-hina 形 親戚のない；朋友のない。

bandhu-hetu 男 縛因，縛及因 *Lank.*

bandhū 形 → *bandhu.*

bandhūka 男 [樹の名，学名 *Pentapetes phoenicea*]。因 *Bandhūka* 樹の花。

bandhūka-puṣpa 因 *Bandhūka* 樹の花。

bandhūkapuṣpa-rajasa 因 *Bandhūkapuṣpa* の花粉。

bandhū-Kṛ, …を朋友とする；(一〇)と関係させる。

bandhū-jana 男 **𑀧𑀲𑀭𑀸𑀓𑀾𑀢𑀺𑀓** [韻律，= *bandhu-j°*] 親族 *Lal-v.*

bandhū-BHū, …の親族となる=に似たようになる。

bandhū-bhūta 形 親属，常為眷属 *Lank.*

bandhya 未受分 縛られるべき, 足枷を掛けられるべき, 投獄されるべき; 組立てられるべき; 中止されるべき; 実を結ばない, 不毛の, 不妊の, 無益な; (圓)をもたない [→ vandhya]; 可縛, 所縛 *Lank. Madhy-v.* → a~.

bandhya-bandha-hetu 男 能縛所縛因, 能縛及縛因, 縛与縛因 *Lank.*

bandhyā 女 子供のできない女または動物, うまずめ; 石女 *Lank., Nyāy-pr.*; 槃大 *Lank.*

bandhyā-putra 男 石女兒 *Lank.*; (音写) 槃大子 *Lank.*

bapyanila, [国の名].

baps, → BHas.

bababā 擬音 間投 [Kr とともに] (火が) パチパチと音を発する.

babhasa 男 貪り食う人.

babhri 形 (因) (業)を担う (RV.); 養育する(?) (AV.).

babhru 形 [また-ū] 赤褐色の, 褐色の, 黄褐色の; 赤褐色の髪をもつ. 男 [ねこいたちの一種]; [Krṣṇa 神, Viṣṇu 神, Śiva 神の称]; [ある王の名]; [ある星座の名]. 女 [-u] 赤褐色の牝牛.

babhru-piṅgala 形 赤褐色の, 灰褐色の.

babhru-mālin 男 [(褐色の花環をもつ), ある Muni の名].

babhru-loman 形 (女 -mni) 褐色の髪をもつ.

babhru-vāhana 男 [Arjuna と Citrāṅgadā との子の名].

bambharāli 女 蠅.

barāsi 女 衣服 (の一種).

baru 男 [ある聖仙の名].

barkara-karkara 形 (?) すべての種類の.

barku 男 [人名].

barkku [同上].

barjaha 男 乳房 (RV. 用例一回のみ).

barbara 男 どもる; 縮れた. 男 非 Ārya 人, 野蛮人; 卑賤な者, やくざ者 [輕蔑の語として用いられる].

barbarita 形 混乱した, 紛糾した.

barsa 男 田 結び目; 先端.

barsa-naddhi 女 結び目をつくること.

Barh (Varh) 1., VI. 他 bṛhati (vṛhati) (根を引) 引き抜く. 過受分 bṛdha (vṛdha).

ā- 引き抜く, 引き裂く, はぎ去る; 詞 *Prat-m.* 使役 過受分 āvarhita 根こそぎにされた.

ud- 引き抜く, 強いて引き出す; 抜 *Buddh-c.*

sam-ud- 引き出す.

ni- 投げつける, 地面に投げつける. 使役 他 ni-barhayati [同上]; 破壊する, (罪を) 除去する.

pra- 裂き離す, 引き裂く, はぎ去る; 破壊する; 圓 自身の方へ引く. 圓 離れる. 過受分 pravṛdha 裂き離された.

vi- きれぎれに裂くまたは碎く; はぎ去る.

Barh 2., IV. 他 bṛhati [→ bṛhat], 使役 他 自 bṛmhayati (-te) 肥えさせる; 力強くする; 増す, 増加する; 進歩させる; 増, 長, 増長 *Aṣṭ-pr., Gand-vy., Śikṣ.* 使役 過受分 vṛmhitā ...によ

って増大された=...を賦与された.

ati- 使役 過受分 力づけられた.

anu- 使役 anubṛmhayati. 増長, 随令増長, 令漸増長, 長養 *Bodh-bh., Mañj-m.*

abhi- 使役 力強くする.

upa- 使役 他 upabṛmhayati 力強くする, 増大させる; 長, 増長, 令増長, 令広大 *Aṣṭ-pr., Mṛyut.* 使役 過受分 (圓, 一°) で増強された, ...をもって用意された, ...に伴われた, ...と一致した. 強意 upabarbṛh- 烈しくまたは繰返して圧する.

pari- 他 自 取り巻く; 強くする. 過受分 parivṛdha, paribṛdha 堅い, 固い. 使役 他 paribṛmhayati 力強くする. 使役 過受分 paribṛmhitā (圓, 一°) によって力強くされた=...に伴われたまたは用意された.

vi- 互に堅く抱き締める.

sam- 堅く結合する. 使役 他 sambarhayati (圓) と結合または連合させる; 他 sambṛmhayati 力強くする, 励ます.

Barh 3., VI. 他 bṛmhati 吼える, 叫ぶ, (象が) 鼻を鳴らす. 過受分 bṛmhitā.

barha 女 形 尾の羽毛; (鳥の) 尾, (とくに孔雀の尾); 葉.

barha-ketu [*Sagara* の息子の名]; [第九 Manu の息子の名].

barha-cakra, [ある山村の名].

barhaṇa 形 (一°) をむしり取る; (眼を 屬) 眩惑する. 甲 (一°) をむしり取ること.

barhaṇā 圓 副 (因) しっかりと, 強く, 力強く; 非常に, まことに, たしかに (強調).

barhaṇavat 形 (因) 力強い, 熱烈な 甲 副 力強く, 熱烈に.

barhaṇāsva 男 [*Nikumbha* の息子であるある王侯の名].

barha-bhāra 男 孔雀の尾.

barhāpiḍa (°ha-āp°) 男 (頭の頂に着ける) 孔雀の羽毛の環.

barhāya 名動 過受分 barhāyita 孔雀の尾の眼のような文様に似た.

barhi 男 [ある Āṅgīrasa の名]. 甲 韻律 = barhis.

barhiṇa 形 孔雀の羽毛で飾られた. 圓 孔雀.

barhiṇa-lakṣaṇa 形 孔雀の羽毛で飾られた.

barhiṇa-vāja 男 孔雀の羽毛で飾られた矢.

barhiṇa-vāsas 形 孔雀の羽毛で飾られた (矢).

barhi-dhvaja 男 [(孔雀の旗をもつ), *Skanda* の称].

barhin 男 孔雀; [ある Devagandharva の名]; [聖仙の名]; 孔雀, 鷓鴣 *Mṛyut., Rāṣṭr., Saddh-p.*

barhi-yāna 男 [(孔雀を乗物とした), *Skanda* の称].

barhir-uttha 男 (草から発するもの), 火.

barhi-vāhana 男 = barhi-yāna; [*Ganeś* の称].

barhi-śad 形 祭壇の敷草の上に坐った. 圓 圓 [祖霊の類]; 圓 [聖仙の名].

barhiṣka 形 祭壇の敷草で覆われた. 甲 祭壇の敷草.

barhiṣṭha 最上 もっとも力強い, もっとも威力のある, 最高の. ~m 副 もっとも高声で.

barhiṣmat 形 祭壇の敷草をともなつたまたはをそなえた；祭壇の敷草をもつまたは敷いた＝祭祀者。

barhiṣmati 女 [Priyavrata の妻の名]；[Brahmāvarta にある都会の名]。

barhiṣya 形 祭壇の敷草または祭祀に属するまたは適する。

barhiṣ-śad, =barhi-śad. 男 [Havirdhāna の子の名, Prācīna-barhis]。

barhiṣ-śtha 形 祭壇の敷草の上にある。男 供物。

barhiṣ-śthā 形 [同上(形)]。

barhis (男) 田 祭壇の敷草 [一般に Kuśa=Darbha 草が用いられ祭壇 (Vedi) の上に一面に敷きつめられ、その上に供物が置かれ、神々が坐るものとされている]。田 (人格化された) 聖草 [Prayāja および Anuyāja の中の神格として]；祭祀；[Bṛhadraja の息子その他の名]。

Bal, [強意 balbaliti のみ] 旋回する (ŚB. 用例一回のみ)。

bala 1. 田 [圃, 圃] 力, 能力, 体力, 活力；強力な手段, 暴力；効力；(因) の能力, …に熟練したこと；軍隊, 軍勢, 陸軍 [圃, 圃]；力, 有力, 勢力, 気力, 諸力, 大力, 強力, 大勢, 広大勢力；兵, 兵衆 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Dharm-s., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Madhy-bh., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. II., Sūtr.；音写 嚩羅 Guhy-s.；[数の名] 婆羅, 跋藍 Mvyut.：～m sukha-sparśavihāratā ca 氣力而安樂住 Mvyut.；pañca～āni 五力 Dharm-s., Mvyut. [1. śraddhā～m 信力, 2. vīrya～m 進力, 精進力, 3. smṛti～m 念力, 4. samādhi～m 定力, 5. prajñā～m 慧力] Dharm-s., Mvyut.；tathāgatasya daśa～āni または daśa-tathāgata～āni 如来十力 Bodh-bh.384., Dharm-s., Mvyut. [1. sthānāsthāna-jñāna～m 処非処智力, 2. karma-vipāka-jñāna～m 業異熟智力, 自業智力, 3. nānādhimukti-jñāna～m 種種勝解智力, 4. nānā-dhātu-jñāna～m 種種界智力, 5. (sattva-) indriya-parāpara-jñāna～m 根上下智力, 根勝劣智力, 6. sarvatra-gāmini-pratipaj-jñāna～m (または °pratipatti°) 徧趣行智力, 遍趣行智力, 7. (sarva-) dhyāna-vimokṣa-samādhi-samāpatti-saṃkleśa-vyavadāna-vyutthāna-jñāna～m 一切静慮解脱三摩地三摩鉢底出離雜染清淨智力, 淨[静?]慮解脱等持等至智力, 8. pūrva-nivāsānusmṛti-jñāna～m 宿住随念智力, 9. cyuty-upapatti-jñāna～m 死生智力, 10. āsrava-kṣaya-jñāna～m 漏尽智力, (Dharm-s. の漢訳には 9. を闕き, 別に知衆生性智力を加える) Dharm-s., Mvyut.；daśa-bodhisattva～āni 菩薩十力 [1. āśaya～m 意樂力, 2. adhyāśaya～m 増上意樂力, 3. prayoga～m 加行力, 4. prajñā～m 慧力, 5. pranidhāna～m 願力, 6. yāna～m 乘力, 7. caryā～m 行力, 8. vikurvaṇa～m 神變力, 9. bodhi～m 菩提力, 10. dharma-cakra-pravartana～m 轉法輪力] Mvyut.；bodhi-sattvānām daśa～āni Dharm-s. [1. adhimukti～m (漢訳闕, (勝解力)), 2. pratisaṃkhyāna～m (漢訳闕, (折滅力)), 3. bhāva～m (漢訳闕, (有力)), 4. kṣānti～m 忍力, 5. jñāna～m

智力, 6. prahāna～m 断力, 7. samādhi～m (漢訳闕, (定力)), 8. pratibhāna～m (漢訳闕, (辯才力)), 9. puṇya～m (漢訳闕, (福力)), 10. pratipatti～m (漢訳闕, (行力)), (漢訳は別に解脱力, 拔苦力, 觀力, 聞力, 願力, 円満力, 愛力を加える) Dharm-s. → a～, alpa～, tejo～, yathā～m. 圓, 圃, 一°, ～tas 圃 (圃, 一°) の力によって=によってまたはの力で。圃 圃力強く；(自己の)意志に反して, 不本意ながら, 如何ともする術がなく；強 Lal-v., Sūtr.

bala 2. 男 鳥；[ある悪魔の名, (因 は Vala), Vṛtra の兄弟で Indra 神に殺される]；[Kṛṣṇa の兄の名, また Baladeva, Balabhadra, Balarāma 等とも呼ばれる]。

balaka 男 [ある悪魔の名]。

bala-kara 形 力づける。

bala-kāma 形 力を欲する。

bala-kāya 男 軍勢, 軍 (Divy.)；兵, 兵衆, 軍衆 Divy., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Suv-pr.：catur-āṅga～ena 四兵, 四種兵, 四種兵衆 Gaṇḍ-vy. 275. → catur-aṅga～。

bala-kṛt 形 力づける。

bala-kṛta 形 無理にされた。

bala-kṛti 女 力強い行為。

bala-ketu 男 力撞 Gaṇḍ-vy.

balakṣa 形 (女 -i) 白色の。

balakṣa-gu 男 (白い光のあるもの), 月 (太陰)。

bala-kṣobha 男 軍勢の間の騒乱, 叛乱。

bala-gupta 男 [人名]。

bala-cakra 田 主権, 軍隊。

bala-cakra-vartin 男 強力転輪, 大勢転輪(王)。転輪聖王 Saddh-p.

bala-ja 男 穀類の堆積。

bala-jā 女 [同上]。

bala-da 男 牡牛；[Agni 神の称]。

bala-darpa 男 力の誇り。

bala-dā 形 力を与える。

baladi-BHū, 牡牛となる。

bala-deva 男 [Kṛṣṇa 神の兄の名, Viṣṇu 神のただ一条の白髪から生れ白髪を有している]；[ある Nāga の名]；[ある婆羅門の名]；[竜王の名] 力天, 天力 Mvyut.

bala-dhara 男 [人名]。

bala-nāśana 男 [(Bala の殺戮者), Indra 神の称]。

bala-niṣūdana 男 [同上]。

balam-dharā 女 [Bhīmasena の妻の名]。

bala-pati 男 力の主；軍隊の指揮者, 將軍。

bala-pāramitā 女 力, 力到彼岸 Madhy-bh., Mvyut.；(音写) 力波羅蜜, 力波羅蜜多 Bodh-bh., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr.；音写 婆羅波羅蜜 Madhy-bh., Madhy-vibh.

bala-pura 田 Bala の城砦。

bala-prada 形 力を与える。

bala-bandhu 男 [Manu Raivata の息子の名]；[第10 Dvāpara の Bhṛgu の息子の名]。

bala-bāhu 形 強 梵千。

bala-buddhi-samanvita 形 有智力 *Mañj-m.*
bala-bha 男 [毒虫の一種].
bala-bhadra 男 [(力の優れたもの), ある神の名, 後 *Baladeva* と同一視される]; [*Bharata* の一子孫, その他の人名]; [*Śakadvīpa* の山の名].
bala-bhid 男 [(*Bala* の殺戮者), *Indra* 神の称].
bala-bhṛt 形 強い, 力のある.
bala-mada 男 力を誇ること; 恃力 (僞慢) *Lal-v.*
bala-mukhya 男 軍隊の指揮者.
balaya 名動 他 *balayati* → *upodbalaya*.
bala-yukta 形 力を賦与された, 力強い.
bala-yuta 形 [同上].
bala-rāma 男 [*Kṛṣṇa* の兄の名 (*Bala*)].
balavat 形 強い, 力のある, 力強い; 烈しい (欲望等); 濃い (闇); 肥満した, 重い; 広く行なわれる, 主要な; (従) よりも重いまたは重要な; 軍隊をともなった; 有力, 大力, 多力, 強力, 有勝力, 有大勢力; 強, 最強, 強盛; 健, 勇健, 壯; 勝, 有勝勢用 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Saddh-p.* 副 強く, 有力に; 重く, 肥満して, 大いに, さかんに.
balavattama 最上 最も強い.
balavattara 比較 より強い.
balavattā 女 力のあること, 優勢なこと.
balavattva 中 [同上]; 強, 力強, 勢力強, 勝 *Abh-vy.*
bala-varjita 形 力の欠けた, 弱い.
bala-vardhana 男 [*Dhṛtarāṣṭra* の息子の名].
bala-varman 男 [諸人の名].
bala-vaśitābhijñāna (°fā-abh°) 中 力通自在, 自在神力, 自在神通 *Lank.*
bala-vipula-hetu-mati 男 [ある *Asura* の名] 力広根慧 *Mvyut.*
bala-viśeṣa 男 力勝 *Sūtr.*
bala-virya 中 力と勇氣.
bala-vṛtra-ghna 男 [(*Bala* と *Vṛtra* の殺戮者), *Indra* 神の称].
bala-vṛtra-niṣūdana 男 [同上].
bala-vṛtra-han 男 [同上].
bala-vegavat 形 速疾力, 速疾具足諸力 *Gand-vy.*
bala-vaiśāradya 中 力無畏 *Sūtr.*
bala-vyasana 中 軍隊における混乱.
balavyasana-saṃkula 形 軍隊の混乱に当惑させられた (王).
bala-vyūha 男 [Samādhi の名] 力莊嚴, 精力 *Mvyut.*
bala-sālitā 女 [同下 中].
bala-sālin 形 力のある, 強い, 強健な.
bala-samaṅgin 形 成(十)力者, 具力者, 得諸力者 *Aṣṭ-pr.*
bala-samūha 男 軍隊の集合, 軍隊.
bala-sampatti 女 力成就 *Sūtr.*
bala-sampad 女 大力具足 *Bodh-bh.*
bala-saṃpanna 形 大力具足, 充健 *Bodh-bh.*,

Lal-v.

bala-sūdāna 形 (一°) の軍隊を破滅させる. 男 [(*Bala* の殺戮者), *Indra* 神の称].
bala-sena 男 [ある戦士の名]; [人名] 力軍 *Divy.*
bala-senā 女 軍隊, 強い軍隊.
bala-stha 形 強い, 有力な, 偉大な(人物); 有兵戎 *Divy.* 男 戦士, 兵士.
bala-han 形 軍隊を打ち破る.
bala-hantr 男 [(*Bala* の殺戮者), *Indra* 神の称].
bala-hara 男 [(力を剝奪する), 人名].
bala-hina 形 力の欠けた, 弱い.
bala-hinatā 女 虚弱.
balā 女 [呪文の一種]; [*Dakṣa* の娘で *Kaśyapa* の妻の名]; [*Rudrāśva* の娘の名]; [ある若い農婦の名].
balāka 男 [一般には 女 -ā] 鶴(の一種, その肉は食用に適する); [諸人の名].
balāka-jāti 形 *Balāka* 種の.
balākā 女 → *balāka*; [人名]; 鶴, 鳧, 白鷺, 水孔子 *Abh-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*
balākā-paṅkti-hāsin 形 鶴の列が微笑のように通過する(雲), 鶴の列によって微笑するように見える(雲).
balākāśva 男 [*Jahnu* の子孫, その他の人名].
balākin 形 鶴をともなったまたはに富んだ. 男 [*Dhṛtarāṣṭra* の息子の名].
balākṣa 男 [ある王侯の名]. 中 跋羅撓 *Mvyut.*
balāgra 中 非常な力; 軍隊の長; 勢力, 主将, 遊軍, 旋軍 *Prāt-m.* 512.
balāḍhya (°la-ādh°) 形 大力 *Lal-v.*
balāt 中 副 → *bala*.
balātibala 男 または 中 優勢な者と超優勢な者, [二つの呪文 (*bala* と *atibala*) の称].
balāt-kāra 男 力の使用, 暴力. °—, 男 無理に, 暴力で; 強く, 猛烈に. ~m, ~ena 強いて.
balātkārābhīlāsin 形 暴力を用いようと欲する.
balāt-kṛta 形 (男, 一°) によって強いられた, 圧倒された; 所(駈)逼 *Buddh-c.*
balāt-kṛtya 不変分 力づくで, 暴力で.
balādhāna (°la-ādh°) 中 力, 力持, 力所任持, 力増, 増長力 *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Mvyut.*; 威神 *Aṣṭ-pr.*; 引, 所生, 所致 *Abh-vy.*, *Saddh-p.*: jñāna~ena punya~ena 由福德智慧淳厚所致 *Saddh-p.* 144.
balādhānatā (°la-ādh°) 女 力持, 力所持, 力所任持, 力持性 *Bodh-bh.*
balādhika 形 力において勝れた [例 競走において].
balādhikarāna 中 軍事.
balādhikṛta 男 将校.
balādhyakṣa 男 軍隊の検閲官, 陸軍大臣.
balāñjika 男 [人名].
balānuja 男 *Baladeva* の弟, [*Kṛṣṇa* の称].
balānvita 形 力を付与された, 力強い; 力を想起させる.
balābala 中 強いことと弱いこと, 比較的強いこと, 重要なことまたは意義のあること; 相対的に高(価)な

こと；**漢訳** 有力無力，堪与不堪 *Bodh-bh.* **形** ある時は強くまた他の時は弱い。
balābhijña 男 [仏の名] (*Sukh-vy. I.*).
balābhra 田 雲(の形をした)軍隊。
balāya 名動 自 **balāyate** 力を示す。
balāri 男 [(*Bala* の敵), *Indra* 神の称].
balārthin 形 力を欲する。
balāvaṣṭambha 男 **漢訳** 強逼 *Bodh-bh.*
balāvastha 形 強い，有力な。
balāvasthā 女 **漢訳** (五)力位 *Madhy-bh.*
balāsanā 女 [草の一種].
balāsa 男 [病の一種]；(飲み下すことを妨げる)のど(咽喉)の中のはれもの。
balāsura 男 [ある洗濯人の名].
balāhaka 男 雨または雷雲；雲；[世界破滅の時に現われる七雲の一]；[蛇の一種]；[山の名]；[*Viṣṇu* の四馬の一の名]；[*Jayadratha* の兄弟の一人の名]；**漢訳** 雲 *Mvyut.*；雨 *Lal-v.*：vāta ~ air deva-putraih 風天雨天 *Lal-v. 273.*
balāhakāśva-rājan 男 **漢訳** 雲馬王，馬王如雲疾 *Mvyut.*
bali 男 税，租税，貢；捧げ物，贈物，供物，食物の供養 [一般に米・穀類またはバター油等を空中に投じて生物とくに鳥に与える。また *bhūta-yajña* と称す；きわめてしばしば目的・時・場所または供物の材料とともに一°]；(蠅払いの柄)；[ある *Daiya* の名，*Virocana* の子で三世界の主権を獲得したが，こびとの形で現われた *Viṣṇu* 神に対して三步だけの土地を与えることを約束した。 *Viṣṇu* 神は三濶歩により悉く三世界を占領し，*Bali* は下界 (*Pātāla*) に追いやられわずかにこれを領することを許された]；[ある *Muni* の名]；[ある王侯の名]；**漢訳** 施食，祭 *Divy.*，*Mvyut.*；鬼神 *Mañj-m.*；力者，大力者 *Lank.*；**音写** [悪魔の名] 婆維，薄離 *Lal-v.*，*Siks.*；[人名] 婆羅 *Buddh-c.*
balika 形 **漢訳** [一°] 力，力勝 *Bodh-bh.*，*Sūtr.* 男 **漢訳** [竜王の名] 具力 *Mvyut.*
bali-kara 男 田 租税。
bali-karman 田 (すべての生物に対する) *Bali* または食物供養。
bali-kṛt 形 税を払う。
bali-dāna 田 供物を捧げること。
balin 形 強い，有力な；**漢訳** 強力，福力，以…為力；多，豊，*Abh-vy.*，*Divy.*，*Lal-v.*；**音写** 婆稚，波利 *Suv-pr.*：kośa ~ 以物為力，以庫蔵珍宝以為力用 *Divy. 430.* → *dravya* ~，*prabhūta-dravya* ~。男 兵士；[人名]；**漢訳** **音写** [*Asura* 王の名] 婆釋 *Saddh-p.*；[人名] 力 *Lank.*；**音写** 婆梨，婆離 *Lank.*
bali-niyamanodyata (°na-ud°) 形 *Bali* を征服するのに専心した。
bali-putra 男 [(*Bali* の子)，*Asura Bāna* の呼称。
bali-puṣṭa 男 (供養の食物に育てられたもの)，鳥。
bali-pratigrāhaka 形 (女-ikā) 供物を受ける (*Divy.*)；**漢訳** 受祭 *Divy.*：~ikā devatā [*Pali bali-paṭi-ggāhikā devatā*] 受祭神 *Divy. 1.*

bali-bhuj 形 供養の食物を食う。男 鳥。
bali-bhṛt 形 貢物を納める。
bali-bhojana 男 鳥。
balimat 貢物を受ける；供養の食物を施された。
bali-varḍa 男 牡牛。
bali-vāka 男 [*Muni* の名].
bali-vindhya 男 [*Manu Rāivata* の息子の名].
bali-vyākula 形 供物(を献すること)に従事する。
bali-seṣa 男 供物の残り。
bali-ṣaḍ-bhāga 男 貢物としての六分の一。
baliṣaḍbhāga-hārin 形 貢物としての六分の一を取る。
baliṣṭha 最上 [*balin*] もっとも強い，もっとも強力な；もっとも有力な；(廻)よりも強い；**漢訳** 最強 *Abh-vy.*
baliṣṭhatama 最上 [同上].
bali-sūdāna 男 = [*bala-sūdāna* の誤].
bali-haraṇa 形 (女-i) 供物を捧げるに適する。田 献供。
bali-hāra 形 税を払う。男 献供。
bali-hṛt 形 貢物を納める。
bali-homa 男 献供。
bali-Kṛ 供物とするまたはとしようとする；**漢訳** 作有力 *Aṣṭ-pr.*
bali-kṛta 形 供物として捧げられたまたは献ぜられることに定められた。
balina 男 [ある *Asura* の名].
baliya 名動 他 **baliyati** [= *Pali*] 力を有する，強くなる，力を得る，うち勝つ (*Mah-v.*)
baliyas 比較 [*balin*] さらに強い，より有力なまたは重要な；非常に強いまたは有力な；決定力のある；**漢訳** 強，有力 *Abh-vy.* 副 力強く，強く，非常に。
baliyasa 形 = *baliyas* (比較).
baliyastara 比較 [二重] [*balin*] きわめて有力な。
baliyastva 田 すぐれたまたは優越した力；優位，さらに重要なこと；**漢訳** 最強，最強盛 *Abh-vy.* → a ~。
bali-varḍa 男 牡牛；**漢訳** 牛 *Lal-v.*，*Lank.*，*Mañj-m.*，*Mvyut.*；象 *Mvyut.*
baliha 男 田 [住民の名].
balendra-ketu (°la-in°) 男 **漢訳** 力尊幢，力尊相 *Suv-pr.*
balotkṛta (°la-ut°) 形 非常に強い。
balotsāha (°la-ut°) 男 軍の鋭気。
balonmatta (°la-un°) 形 力をたのんで逆上した，力に酔った。
balopeta (°la-up°) 形 力を賦与された。
balaugha (°la-ogha) 男 (軍隊の激流)，大軍；**漢訳** 兵衆，大気力 *Av-s.*
balba-ja 男 [粗野な草の一種，学名 *Eleusine indica*]；**漢訳** 草葛 *Siks.*；**音写** 刺羅，波羅波(草) *Mvyut.*
balbalā-kāra 男 どもり(吃音).
balbalā-Kṛ，どもって発音する (*Br.*).
balya 形 元気づける。
baly-asura 男 **漢訳** [*Asura* の名] 団円，最勝 玄応；**音写** (跋稚迦) 婆稚阿修羅 玄応

baly-upahāra 男 献供。
 baly-upahāra-vidhāna 中 祭祀結界之法 *Divy.*
 438.
 ballava 男 牛飼；[*Bhimasena* が *Virāta* 王のもと
 に料理人に擬装していた間の名]；覆 [住民の名]。
 ballavatā 女 牛飼の役目。
 ballavatva 中 [同上]。
 ballava-yuvati 女 若い牛飼の女。
 ballavi 女 牛飼女。
 ballāla 男 [諸人の名]。
 ballāla-sena 男 [諸人の名]。
 balluka 男 熊。
 balluka-yuvan 男 仔熊。
 balvi 女 [valli の誤]。
 balhika 男 [人名]；覆 (AV.) [住民の名]。
 baṣkaya 形 (RV. 用例一回のみ) 成長した (仔牛)。
 baṣkayani, °yini 女 仔牛をもつ牝牛。
 basta 男 牡山羊。
 basta-mukha 形 (安-i) 牡山羊のような顔をした。
 bastājina 中 山羊の皮 (因)。
 basti 男 膀胱。
 basti-śiṣa 中 覆または 男 覆 膀胱の頸部。
 basri 副 (RV. 用例一回のみ) 朝早くに。
 Bah, → Bamh.
 bahala 形 厚い、密な；房々とした、粗毛の(尾)；広
 い、広汎な；深い(色・調子)；多様な、おびただし
 い、豊富な；(一°)で満ちた、主として(一°)か
 らなる。一°副 大いに。
 bahalatā 女 厚いこと。
 bahalānurāga 形 濃赤色の。
 bahiṣ-kubja 形 覆 鷄胸 *Mvyut.*
 bahiṣ-prayāna 中 外出すること；覆 出遊 *Buddh-*
c.
 bahitas 副 覆 外 *Sūtr.*
 bahir 副 一° = bahis.
 bahir-aṅga 形 外部の；本質的でない。
 bahir-aṅgatā 女 [同上 覆]。
 bahir-aṅgatva 中 [同上]。
 -bahir-argala 形 外からの門をもつ。
 bahir-artha 男 外部のもの。
 bahir-āyāma 男 覆 擾乱 *Mvyut.*
 bahir-upādhi 男 外面的状態。
 bahir-gata 形 = bahiṣ-kṛta；外へ出て来た、明白な；
 覆 外馳 *Sikṣ.*；散乱 *Lal-v.*
 bahir-gatatva 中 出現。
 bahir-giri 男 [(山の向うの国), 国の名]；覆 [住民の
 名]。
 bahir-girya 男 覆 [同上 (覆)]。
 bahir-gehām 副 家の外側に。
 bahir-grāma-pratīśraya 形 村の外に住んだ。
 bahir-grāmam 副 村の外に。
 bahir-dṛś 形 うわべだけを見る、浅薄な(人)。
 bahir-desaka 男 覆 覆 外方諸師, (闍賓)国外諸師
Abh-vy. 134.
 bahir-dvāra 中 外部の戸；戸外の場所。
 bahir-dvārin 形 戸外にある。

bahirdhā 副 副 [因 とともに] の外側に、…から離れ
 て (因)；覆 外 *Abh-v.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lanik.*,
Madhy-v., *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*, *Śikṣ.*, 梵雜。
 bahirdhā-rūpa 中 覆 外色 *Dharm-s.*
 bahirdhā-vikṣepa 男 覆 外散乱, 外(縁)散動 *Ma-*
dhy-bh., *Madhy-vibh.*
 bahirdhā-sūnyatā 女 覆 外空 *Dharm-s.*, *Madhy-*
bh., *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*
 bahir-nirgamana 中 (因) から出て行くこと。
 bahir-niḥsarāṇa 中 取り出すこと, 除去。
 bahir-bhava 形 外部の。
 bahir-bhāga 男 外部。
 bahir-BHū, 外に出る, 外に現われる。
 bahir-maṇḍala-stha 形 圏外にある。
 bahir-manaska 形 うわのそらの (*Divy.*)。
 bahir-mukha 形 口より出る；(一°)から顔をそむけ
 た, (一°)を嫌った[また (因) とともに (*Divy.*)] (自
 己の心を外界に向けた。中 覆 外門 *Abh-vy.*
 bahir-yātrā 女 外出すること, 外に車を駆ること, 旅
 行, 国外に出征すること。
 bahir-yāna 中 [同上]。
 bahir-loma 形 毛髪が外に向いた。
 bahir-loman 形 [同上]。
 bahir-vāsa 中 上衣。
 bahir-vikāra 男 梅毒。
 bahir-vikāram 副 個体の存在から離れて (*Sāṃkhya*
 因)；不変に。
 bahir-vṛtti 女 外的事物に専心すること, 外面的状
 態。
 bahir-vedi 女 Vedi の外部の場所。副 Vedi の外部
 に。
 bahir-vedika 形 Vedi の外部にある。
 bahiṣ-cara 形 外部に動くまたは現われた, 外部の；外
 部化された；[prāṇa とともに 男 (覆) または hṛdaya
 とともに 中] 体外の氣息または心臓すなわち自己の生命
 または心臓のように貴重なもの。男 間諜。
 bahiṣ-śālā 女 外部の室。
 bahiṣ-śita 形 外部の冷やかな, 感触の冷やかな。
 bahiṣka 形 [barhiṣka の誤]。
 bahiṣ-karaṇa 中 外部の器官；(因)から除外するこ
 と；覆 却, 簡異 *Abh-vy.*
 bahiṣ-kārya 未受分 追放されるべき；(因)から除外
 されるべき。
 bahiṣ-Kṛ, 放逐する, 追放する, (因, 因)から除外す
 る, しりぞける, 棄てる, 放棄する。
 bahiṣ-kṛta 形 追い払われた；(因)から放逐された；
 (因)から取り出された, 見捨てられた；(一°)から
 退けられた, …に棄てられた；(因)の外にまたは範囲
 外に住む, (因)の外部に置かれた；(因)によって閉
 めだされた=…の外に住む；(因, 一°)を奪われた,
 …の欠乏した, …を欠いた, …を止めた, …から除
 外された；露出された, 現わされた, 明るみに出さ
 れた, 外部化された；覆 擯出 *Abh-vy.*
 bahiṣ-kṛti 女 除外。
 bahiṣ-kriya 形 神聖な儀式から除外された。
 bahiṣ-kriyā 女 外的行為 (沐浴等)。

bahiṣtāt 副 外側に。(因).
 bahiṣ-paṭa 男 上衣.
 bahiṣ-paṭṭikā 女 外層 *Mvyut.*
 bahiṣ-paridhi 副 祭火の囲い (paridhi) の外に.
 bahiṣ-pavamāna 男 田 [Prātaḥ-savana に際し, Sadas または Vedi の外部で歌われる Soma 祭の第一 Stotra の ṛca (三詩節) を基礎として組み合わせた trivṛt-stoma の形式が用いられる].
 bahiṣ-pavamāni 女 種 Bahiṣ-pavamāna 中の詩節.
 bahiṣ-prajña 形 外的認識をもつ, 外界にその認識が向けられた.
 bahiṣ-prāna 男 体外の氣息すなわち (自己の) 生命のように貴重なもの; 黄金. 形 氣息または生命が外部にある (因).
 bahiṣ 副 (家・町・国等の) 外側に; 戸外に (行く等); 形 外, 除 *Lank.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.* 副 (因, 因) の外部から, の外にまたはの外側に. ~*Kṛ.* → bahiṣ-Kṛ. ~*kṛta.*
 bahiṣ-tapas 田 外面的苦行.
 bahiṣ-saṃvṛta 形 外狭, 外精緻, 塞満 *Mvyut.*
 bahiṣ-saṃstha 形 (町の) 外にあるまたは位する.
 bahu 形 (因-vi) 豊富な, 多量の; 多数の, 反覆された, たびたびの; (因) に富んだまたはの多くある; 形 多, 諸, 衆, 衆多; 無量, 無数, 広 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, 梵千. *kim ~nā* 何で多言を要することがあろうか, 要するに. *tasmin ~v etad api* 彼にはこれだけで十分だ (すなわち予想以上である). *tvayā hi me ~ kṛtaṃ...yad* お前は…で私に大きな奉仕をした. 田 副 多く, しばしば, 繰返して; 大いに, きわめて, はなはだ, 非常に; °— [時としては] = 大部分, ほとんど, かなり. ~ *Man* 重んずる, 高く評価する, 尊重する, (因) より大切にす. 田 複数.
 bahu-kara 形 多くのことをする, (因) に非常に役立つ; 形 多作, 多所作, 要 *Mvyut.*, *Śikṣ.*; 当作希罕, 当遊希罕, 作遊戯 *Mvyut.*
 bahu-karaṇiya 形 作多 *Mvyut.*
 bahu-kartavyatā 女 多所作 *Bodh-bh.*
 bahu-kālpa 形 多くの種類の, 多様の.
 bahu-kalyāna 形 (因-ā, -i) 非常に貴い.
 bahu-kāma 形 多くの欲望を持った.
 bahu-kāla 男 久時 *Abh-vy.*
 bahu-kṛtya 形 = bahu-kāraṇiya; 形 多事, 事多, 多作事縁 *Mvyut.*, *Śikṣ.*
 bahu-kṛtvas 副 幾度も, しばしば.
 bahu-ketu 男 [山の名].
 bahu-kleśa 形 多煩惱, 煩惱熾盛 *Bodh-bh.*
 bahu-kṣama 形 大いに耐える, 大いに忍耐する.
 bahu-kṣirā-duh 形 牛乳を多量に出す.
 bahu-gamana 形 多くの行路または進路をもっている.
 bahu-garhya-vāc 形 非難されるべきことを多く話す, おしゃべりの.
 bahu-gava 男 [ある王侯の名].
 bahu-guṇa 形 多くの糸をより合わせた (繩); 多様の, 多くの; 多くの徳をもつ.

bahu-gotra-ja 形 多くの血縁をもつ.
 bahu-graha 形 多くを容れる (瓶), 多くを受け取る (大臣).
 bahu-glānya 形 多病 *Daś-bh.*
 bahu-citra 形 非常に多様なまたは様々の.
 bahu-cchala 形 欺瞞に満ちた, 偽りの.
 bahu-cchalatva 田 偽りの多いこと.
 bahu-jana 男 大群集; 形 衆, 衆生, (無量) 衆生, 衆人, 群生, 多人 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.* 形 (その周囲に) 多くの人をもつすなわち多くの人々に取り巻かれた.
 bahujana-pariyāra 男 [Samādhi の一種] (*Kār-vy.*).
 bahujana-priya 形 衆人喜, 多人喜, 衆人所愛, 衆人愛敬 *Mvyut.*, *Saddh-p.*
 bahujana-sukha 田 安楽無量衆生 *Bodh-bh.*
 bahujana-hita 田 公共の安寧 (*Saddh-p.*); 形 利益無量衆生 *Bodh-bh.*
 bahu-janya 田 衆人, 具衆人, 衆人具 *Mvyut.*
 bahu-jalpa 形 おしゃべりな.
 bahu-jalpitṛ 男 饒舌家.
 bahu-tanaya 形 多くの息子をもつ.
 bahutama 最上 もっとも多い, 非常に多い; もっとも遠い. ā ~āt puruṣāt もっとも遠い子孫に至るまで.
 bahutara 比較 (因) よりさらに多数の, …よりさらに多い; さらに広い, さらに大なる (火); 余りにまたは非常に多い; 多数の; 形 甚多, 極広, 弥広多 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.* ~*m* 副 さらに多く; はなはだ多く; 主として, 大体において; 繰返して. *etad evāsmākaṃ ~m...yad* …ということは我等にとって実に一大事である.
 bahutaraka 形 非常に多いまたは多数の; 形 多, 多分 *Aṣṭ-pr.*
 bahutarām (因 業) 副 大いに, 非常に.
 bahutā 女 多いこと, 豊富, 多数, 大多数, 沢山; 形 多 *Sūtr.*
 bahu-titha 形 (多くの titi をもつ), 長い (時間); 数多い, 様々の. ~*m* 副 大いに, はなはだ, 高度に. ~*e 'hani* 幾日も = 多くの日の間.
 bahu-tṛṇa 形 草の多い. 田 草のように多いこと, ほとんど草に等しいこと, 単に草の葉とも称すべきもの, 重要でないもの.
 bahu-tṛṣṇa 形 非常な渴に苦しむ.
 bahu-tri-varṣa 形 ほとんど三年を経た.
 bahutva 田 多種多様, 多数; 多数意見; 複数; 形 多, 多体, 多性 *Lank.*, *Madhy-v.*, *Sūtr.*
 bahu-daṃṣṭrā-karāla 形 多くの牙のために恐ろしい.
 bahu-dakṣiṇa 形 多くの報酬をともなった (祭式).
 bahu-dāna 田 沢山の贈物. 形 物惜しみしないで与える.
 bahu-dāyin 形 [同上 (因)].
 bahu-duḥkha-vāsam 不変 [Vas とともに] はなはだ苦痛の多い住居をもつ.
 bahu-dṛśvan 男 偉大な観察者, 非常に学識のある人.

bahu-devata 形 多くの神格に向けられた(詩節).
 bahu-devatya 形 多くの神々に属する.
 bahu-daivata 形 多くの神々に関する.
 bahu-doṣa 男 大なる損害または不利. 形 多くの欠点のある(林), はなはだ邪悪なまたは悪い.
 bahu-dohanā 形 女 多くの乳を生ずる.
 bahu-dhana 形 巨富をもっている, 非常に富んだ.
 bahu-dhanatva 中 [同上(形)].
 bahudhaneśvara (°na-iś°) 男 非常に富んだ人.
 bahu-dhanvin 形 [(多くの弓を持った), Śiva 神の称].
 bahudhā 副 多くの方法で, 多くの部分に, 多くの場所において, 種々に; たびたび, 繰返して; 非常に;
 形 多 Bodh-bh., Mvyut.
 bahudhā-Kṛ, 増加する, 数多くする; 弘める; 公けにする, あばく.
 bahu-dhātuka 男 形 [経の名] 多界(経) Abh-vy., Madhy-bh.
 bahudhātmake (°dhā-āt°) 形 (女 -ikā) 種々の形で存在する, 本質において多様な.
 bahu-dhānyaka 男 中 [地方の名].
 bahu-dhenuka 中 多数の乳牛.
 bahu-nānā-prakāra 形 衆多品類種種, 衆多品類 Bodh-bh.
 bahu-nāman 形 多くの名をもつ.
 bahu-patnika 形 多くの妻をもつ.
 bahu-patnikatā 女 一夫多妻.
 bahu-pada 形 多くの足のある; 形 多足 Bodh-bh.
 bahu-parṇa 形 多くの葉のある.
 bahu-pāśu 形 家畜に富んだ.
 bahu-pākya 形 (貧者のために) 多くの食物を料理させる.
 bahu-pāda 形 多くの足のある; 多くの pāda (詩行)をもつ.
 bahu-putra 形 多くの息子または小児をもつ. 男 [Pr-ajāpati 神の称].
 bahu-puṣpa-prabālavat 形 多くの花と若芽のある.
 bahupuṣpa-phalopeta (°la-up°) 形 多くの花と果実とをもっている.
 bahu-prakāra 形 多様の; 形 種種, 多種 Nyay-pr., Saddh-p., ~m 副 種々に; 繰返して.
 bahu-prakāra-kaṣṭha 形 様々の点で苦しい.
 bahu-prakṛti 形 多数の名詞語幹からなる(合成語).
 bahu-praja 形 子孫に富んだ.
 bahu-prajña 形 非常に賢い.
 bahu-prajñāna-sālin 形 多くの知識をもつ.
 bahu-pratijña 形 多数の告訴 または 訴因を含んだ(法律); 複雑な.
 bahu-prapañca 形 はなはだ散漫な, 冗長な.
 bahu-pralāpin 形 饒舌の.
 bahu-bāhūru-pāda (°hu-ūr°) 形 多くの腕・ももおよび足をもつ.
 bahu-buddha-koṭi 女 形 無数仏 Saddh-p.
 bahu-buddha-sūtra 中 [経の名: Mah-v. 所収].
 bahu-bollaka 形 非常に多弁な (Divy.). 男 形 多言多語 Divy. 338. → bahu-vollaka.

bahu-bhāṣitā 女 多弁, 饒舌.
 bahu-bhāṣin 形 饒舌の.
 bahu-bhāṣya 中 = bahu-bhāṣitā.
 bahu-bhuj 形 多く食べる.
 bahu-bhūmika 形 多くの層からなった(建物).
 bahu-bhokṭṛ 男 大食漢.
 bahu-bhogyā 女 淫売婦.
 bahu-bhojaka 形 多く食べる, 大食の.
 bahu-bhojitā 女 大食.
 bahu-bhojin 形 = bahu-bhojaka.
 bahu-bhauma 形 (女 -i) 多くの層のある(建物).
 bahu-mata 形 非常に重んぜられた, 高く評価された, 高い価値のある.
 bahumatatva 中 形 多生恭敬 Sūtr.
 bahu-mati 女 高い評価, 尊敬, 敬意.
 bahu-matsya 中 魚の多い場所.
 bahu-madhya-ga 形 多数に属する.
 bahu-mantavya 形 大いに尊敬または尊重されるべき, 高く評価されるべき.
 bahu-manyamāna 形 尊敬される, 高く評価される.
 bahu-māna 男 (人または物の形, まれに人の形) に対する高い評価または敬意, 評価, 尊敬; (形) に大きな重要性を付すこと; 形 恭敬, 深生恭敬, 宗敬, 欽重心, 甚希奇想; 貴尊, 尊貴, 承侍 Abh-vy., Bodh-bh., Buddh-c., Mvyut; Sūtr.; 宝絵画 Mvyut. 多慢(求) Sūtr. 75. → ātma~.
 bahumāna-jāta 形 形 生恭敬 Bodh-bh.
 bahumāna-puraḥ-saram 副 尊敬をもって.
 bahu-mānin 形 尊重された, 尊敬された.
 bahu-mānya 形 大いに尊重されるべき, 尊敬すべき.
 bahu-māya 形 多くの詭計をもつ, 術策にたけた, 信用の置けない.
 bahu-mārga-gā 女 [(多くの路を行くもの), Gaṅgā 河の称].
 bahu-mitra 形 多くの友をもつ.
 bahu-mukha 形 (女 -i) 多くの口のある, 多くのことを話す, 様々に話す; 形 多門 Sūtr.
 bahu-mūlaka 男 [ある Nāga の名].
 bahu-mūla-phalānvita 形 多くの根と果実とをそなえた.
 bahu-mūlya 中 多額の金銭. 形 高価な, 費用のかさむ.
 bahu-yājīn 形 多くの祭式を行った.
 bahu-yājya 形 多くの祭式依頼者をもつ, 多くのもののために祭式を行う.
 bahu-rajās 形 ひどく塵にまみれた, 多くの花粉をもつ.
 bahu-ratna 形 宝石に富んだ.
 bahu-ratha 男 [王の名].
 bahura-madhya 形 中間(昼の圧搾)において濃密な(Soma).
 bahu-rasa 形 液の多い.
 bahu-ripu 形 多くの敵をもつ.
 bahu-rūpa 形 多くの色のある, 雑色の; 多形の, 多様の, 多種の; 形 種種 Saddh-p. 男 [Śiva 神の称]; [ある Rudra の名]. 中 [ある Varṣa の名].

bahu-rūpaka 形 (因 -ikā) 多形の, 多様の.
 bahurūpaka-sobhita 形 様々に飾られた.
 bahurūpa-vikāratā 因 随形応物 *Lank.*
 bahurūpa-vicitrita 形 種種巖好 *Saddh-p.*
 bahu-rūpin 形 = bahu-rūpa.
 bahula 形 厚い, 密集した; 濃い (闇); 幅広い, 広い, 範囲の広い, 大きい; 豊富な, おびただしい, 数多い, 多い; (圓, 一) に富んだ, …に満ちた, …によって随われたまたはともなわれた; 多, 多有; 諸; 厚; 重; 増 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Śiks.*, *Suv-pr.*: āyāsa ~ 受諸苦惱, 多受苦惱 *Suv-pr.* 84. ~ m 副 しばしば; 多 *Bodh-bh.* 圓 月の暗い半ヵ月 (黒半月); [ある *Prajāpati* の名]; [*Tālajanṅha* の王侯, その他の人名], 圓 [ある民族の名]. 因 匿写 [数の名] 婆呼羅, 波乎羅 *Mvyut.*
 bahulatā 因 (一) の豊富なこと; 増, 増長 *Bodh-bh.*
 bahulatva 因 [同上]; 多様, 多数.
 bahula-parṇa 形 葉の多い.
 bahula-palāśa 形 [同上].
 bahu-lābhatā 因 多財利 *Śiks.*
 bahulāyāsa (°la-āy°) 形 多くの困難を伴う.
 bahulālāpa (°la-āl°) 形 多弁な.
 bahulāviṣṭa (°la-āv°) 形 多数の人々によって居住された, 人口の稠密な.
 bahulāśva 因 [王侯の名].
 bahulita 過受分 増加した.
 bahulī-karaṇa 因 多修習 *Bodh-bh.*
 bahulī-kariṣṇu 形 増大しようと努力する.
 bahulī-kāra 因 熱心な実行または習練 (*Lal-v.*); 善随順 *Lal-v.*
 bahulī-Kṛ, 因 広, 多修習 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*
 bahulī-kṛta 形 密接または濃密にされた, 増加された, 拡大された, 広げられた; あばかれた, 公けにされた; (圓) によって混乱させられた; 多作, 多所作; 多修習; 作熟者; 数起 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Mvyut.*
 bahulī-bhāva 因 著名なこと, 周知なこと.
 bahulī-BHū, 因 bhavati 多い状態となる, 増加する, 増大する; 広がる; 増長 *Buddh-c.*
 bahulī-bhūta 形 弘まった, 公けにされたまたは著名となった.
 bahuletara-pakṣa (°la-it°) 因 圓 一ヵ月の中の暗い半ヵ月とその (反対の) 明るい半ヵ月.
 bahu-loka-dhātu 因 無量世界 *Saddh-p.*
 bahulauśadhika (°la-oṣ°) 形 豊富な薬草をもつ, 薬草の繁茂した.
 bahu-vaktavya 形 それに関して多く言われるべき
 bahu-vaktra-netra 形 多くの口と眼をもつ.
 bahu-vacana 因 複数; 複数の格および人称語尾.
 bahuvat 副 複数において.
 bahu-varṇa 形 多色の.
 bahu-varṣa-sahasraka 形 数千年を経た, 数千歳の.
 bahu-varṣa-sahasrin 形 [同上].
 bahu-valkala 因 *Priyāla* 樹 (学名 *Buchanania lat-*

ifolia).

bahu-vādin 形 多く語る, 多弁の.
 bahu-vāra 因 [小樹の一種, 学名 *Cordia Myxa*].
 bahu-vāraka 因 [同上].
 bahuvāraka-phala 因 *Bahuvāra* 樹の果実 (*Śelu*).
 bahu-vāram 副 しばしば, 幾度も.
 bahu-vārṣika 形 (因 -i) 多くの歳をとった; 多年継続した.
 bahu-vāla 形 毛の多い, 毛むくじゃらの (尾).
 bahu-vighna 形 多くの困難をともなった.
 bahu-vid 形 多くを知った, 博学の.
 bahu-vidya 形 多くの知識をもつ, 学識のある.
 bahu-vidha 形 多くの種類の, 多様の, 種々の; 種種 *Abh-vy.* ~ m 副 種々に, 繰返して, 様々の方向に.
 bahuvidhākāra (°dha-āk°) 形 様々の形の.
 bahu-vistara 因 大拡張. 形 広く広がった, 多様の, 種々の; 非常に詳細な.
 bahu-vistāra 形 広い範囲にわたった.
 bahu-vistirṇa 形 広く広がった, 広く散乱した.
 bahu-vistirṇatā 因 [同上 圓].
 bahu-virya 形 大きな力の, きわめて有効な.
 bahu-velam 副 たびたび, しばしば.
 bahu-vollaka 因 多漫言, 性好多語 *Abh-vy.* 708 [= *bahu-pralāpa* とする]. → *bahu-bollaka*.
 bahu-vyāla-niṣevita 形 多くの野獣または蛇が住んだ, または荒す.
 bahu-vrihi 因 (多くの米をもつ), 所有形容合成語, 有財積 [最後分は 因, 全体は 形 の役目をし他の 因 を形容し性はこれと一致する. この合成語の名 *bahuvrihi* は実例に基づく]; 多米, 多穀, 多財, 多子 *Mvyut.*
 bahu-śakti 因 [王子の名].
 bahu-śaṅku 因 [地獄の名] 多釘 *Śiks.*
 bahu-śatru 形 多くの敵をもつ.
 bahu-śabda 因 複数.
 bahuśas 副 豊富に, 非常に数多く; しばしば, 反覆して; 頻頻, 数数 *Divy.*: ~o ~ 於数度 *Divy.* 87.
 bahu-śākha 形 多くの枝をもつ; 広く分岐した (家族); 多様の.
 bahu-śākhin 形 多くの枝をもつ.
 bahuśubhāya 名動 自 *bahuśubhāyate* 大なる祝福となる.
 bahu-śruta 形 非常に学識のある; *Veda* に通曉した; 多聞, 多聞者, 多聞人, 広聞, 多聞 (不忘) *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*, *Vin.*
 bahu-śrutatva 因 多聞 *Sūtr.*
 bahu-śruti 因 (本文において) 複数形で出ること.
 bahu-śrutiya 因 圓 [仏教部派の名] 多聞部.
 bahu-śvāpada 形 多毒獸. *Saddh-p.*
 bahu-saṁsthita 形 しばしば訪れられた.
 bahu-saṁkhyāka 形 数多い.
 bahu-sattva 形 動物に富んだ.
 bahu-sadṛśa 形 非常に似た, 非常に適当な.

bahu-sava 形 しばしば祭式を行うまたは多年(あること)をする; 多くの祭式または歳を含む。
 bahu-sasya 形 穀物に富む。 圃 [村の名]。
 bahu-sādhana 形 実現するための多くの方法または機略をもつ。
 bahu-sādhanatā 因 [同上 圃]。
 bahu-sādhāra 形 多くの支持をもつすなわち どうしたらよいかを知る。
 bahu-sāra 形 多くの髓のある, 強固な(樹)。
 bahu-sāhasra 形 (因 -ā, -i) 数千からなる またはに達する。
 bahu-sāhasri 因 圃 数千。
 bahu-suvarṇa 形 黄金に富んだ。
 bahu-suvarṇaka 形 多くの金貨を所有する。 圃 [王侯の名]; [Gaṅgā 河沿岸の Agra-hāra (婆羅門への下付地) の名]。
 bahu-suvarṇatā 因 [bahu-suvarṇa の 圃]。
 bahu-strika 形 多有(端正)婦女 Lal-v.
 bahu-sprś 形 多くのものに触れる, 一般に拡がった。
 bahu-svara 形 多音節の。
 bahu-svarṇa-lakṣa-mūlya 形 数百千金に価する。
 bahu-hastika 形 象に富んだ。
 bahu-hiraṇya 形 黄金に富んだ。
 bahūda 形 水の多い。 圃 聖地をしばしば訪れて喜捨により生活する乞食僧。
 bahūdaka 形 水に富んだ。 圃 [同上(圃)]; [ある Nāga 王の名] (Kār-vy.)。
 bahūdana 圃 [bahu-odana (?)] 様々な食物の蒐集(?).
 bahūdara 形 多くの腹または胸をもつ。
 bahūpamā 因 多くのものとの比較 (修辭)。
 bahūpāya 形 多くの手段をもつ, 強力な。
 bahv-akṣara 形 多音節の。
 bahv-agni 形 Agni 神を多く挙げた(詩節)。
 bahv-añcana 形 多くの行路または進路をもつ。
 bahv-antara 圃 多分 Vija-t.
 bahvantara-viśiṣṭa 形 殊勝 Mvyut.
 bahv-anna 形 食物に富む。
 bahv-apatya 形 多数の子孫をもつ。 圃 (?) はつかねずみ。
 bahv-apāya 形 多くの危険をともなった。
 bahv-abaddha-pralāpin 形 多くの無意味なことをしゃべる。
 bahv-abhidhāna 圃 複数。
 bahv-amitra 形 多くの敵をもつ。
 bahv-ārtha 形 多くの意義をもつ。
 bahv-avarodha 形 多くの妻を所有する。
 bahv-aśva 形 馬に富んだ。 圃 [人名]。
 bahv-ājya 形 バター油に富んだ。
 bahv-ādin 形 多く食する, 大食の。
 bahv-āśin 形 [同上]。 圃 [Dhṛtarāṣṭra の息子の名]。
 bahv-āścarya 形 多くの驚異を含んだ。
 bahv-āścaryamaya 形 [同上]。
 bahv-āśrayā 因 [ある Kimnara 女の名] (Kār-vy.)。
 bahv-ṛc 形 多くの詩節をもつ [とくに Rg-veda に適用

される語]。

bahv-ṛca 形 [同上 (形)]。 圃 Rg-veda を知る人 またはこれを奉ずる祭官。
 bahv-enas 形 多くの罪を犯した。
 bahv-oda 圃 [= -uda. → bahūdaka] [(行為に対立する) 知識を主とする苦行者の一種]。
 bahv-auśadhika 形 [= -ośadhika] 薬草に富む。
 bākura 形 [dṛti とともに] 圃 (bakura? 製の) 風笛の一種 (RV. 用例一回のみ)。
 bākula 形 Bakula 樹に属する。
 bāḍita 過受分 [Bād] 墮落した (Divy.); 傾没 Divy. 505.
 bāḍha, bālha 過受分 → Bamh. 重 Bodh-bh. 形 力強く (RV. 用例一回のみ)。 ~m 圃 (圃) 確かに, 確実に, 真に, 実際に, 非常に; [一般に承諾の 不変辭「諾」「よろしい」, 確認の 不変辭「然り」; 同意の 不変辭「然り」として用いられる]; 堅, 剛, 固, 著実, 甚哉 Mvyut.
 bāḍha-glāna 形 遭疾病, 重病 Bodh-bh.
 bāṇa 圃 (芦の) 矢がら, 矢; 五の数 [Kāma 神が五本の矢をもっているが故に]; (矢の) 標的または狙い; [Kādambari と Harṣacarita の著者の名 (西暦七世紀)]; [諸人の名]; [ある Asura の名]; 青い花の咲く Barleria; 箭 Lal-v.
 bāṇa-gocara 圃 矢の射程, 矢を射るのに都合のよい距離。
 bāṇatā 因 矢の状態。
 bāṇa-tūni-Kṛ, 矢筒とする。
 bāṇa-tūni-kṛta 形 矢筒とした。
 bāṇa-dhi 圃 (矢入れ), 矢筒。
 bāṇa-patha 圃 = bāṇa-gocara.
 bāṇapathātita 形 矢の射程を過ぎた。
 bāṇa-pāta 圃 矢を射ること; 矢の射程。
 bāṇapāta-patha 圃 矢の射程。
 bāṇapāta-vartin 形 矢の射程内にある。
 bāṇa-bhaṭṭa 圃 [Bāṇa (著作者) の名]。
 bāṇamaya 圃 矢からなるまたはで形成される。
 bāṇa-yojana 圃 矢筒。
 bāṇa-rekhā 因 矢によってつけられた長い傷。
 bāṇavat 圃 (芦で作られた) 矢; (矢を容れる) 矢筒。
 bāṇa-varṣin 形 矢を雨のように射る。
 bāṇa-vāra 圃 多数の矢; (矢を防ぐ) 胸当て, 胴衣。
 bāṇa-saṁdhāna 圃 矢を(弦に)つがえること。
 bāṇa-siddhi 因 矢が命中すること。
 bāṇāvali (°ṇa-āv°) 因 (一文章をなす) 五つの Śloka の結合。
 bāṇāsana (°ṇa-ās°) 圃 弓, 弓弦。
 bāṇāsani-Kṛ, 弓にする。
 bāṇin 圃 矢をもつ。
 bādara 形 (因 -i) なつめの樹に属するまたはに由来する, 粗い, 粗大な [sūkṣma の 圃]; 木綿製の。 至なつめ。
 bādarā 因 綿花の灌木。
 bādarāyaṇa 圃 (因系) [Badara の息子], 諸学者の名, とくに Uttara-mīmāṃsā 派の Śātrakaśātra の著者として有名な人の名。 圃 Bādarāyaṇa によっ

て作られた。

bādarāyaṇi (°ra-āy°) 男 [Vyāsa の息子の名].

bādari 男 父系 Badara の後裔.

Bādh, I. 自 [韻律] は また [他] bādhate (-ti) 撃退する, 追い出す, 追い払う; 強いて分離させる (因); 悩ます, 烈しく圧迫する, 包囲する; 圧迫する; そこなう, 損傷する; いら立たせる, 煩わす, 掻き乱す, 悲しませる; 苦しめる; 妨ぐ, はばむ; 影響する, 影響を及ぼす; 取り去る; 廃す, 取り消す, 除く; 苦, 患; 悩壊, 逼悩, 生悲悩, 逼切, 逼迫; 違; 失 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Sūtr.* 因 bādhyate 苦しむ; 擾, 損悩, 所逼切, 在難中 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.* *Lal-v.*: vyādhyā bādhyate 遇疾疫, 在疾疫難中 *Aṣṭ-pr.* 742.

bādhita 悩まされた等; 不条理な, ばかげた. 使役

bādhayati 悩ます, 煩わす, 苦しめる. 希求 因 bibhatsate (因) を嫌う, 忌み嫌う, からしりごみする. 希求 過受分 bibhatsita 嫌悪を感じた, 忌み嫌う. 強意 bābadhe badbadhe 烈しく圧迫する, 苦境に陥らせる. 強意 現分 badbadhāna 幽閉された, 閉じ込められた.

ati- (業, 屬) を大いに悩ます.

ādhi- 悩ます, いら立たせる.

anu- 悩ます, 苦しめる, 責める.

apa- 追い出す, 追い払う, 取り去る. 使役 apabādhaya- 追い出す. 希求 apabibhatsate (因) を嫌う.

abhi- (敵に) 襲いかかる; はばむ; 悩ます.

ava- 抑制する.

ā- 悩ます, 苦しめる; 虚偽であると宣言する. 使役

ābādhayati 害, 中害 *Mvvyut.*

vy-ā- 悩 *Saddh-p.* 使役 (業) に非常な苦痛を与える (*Divy.*).

ni- 押し下げる, 重圧を加える; 悩ます, 煩わす.

pari- (因) から隔てる, 遠ざける, 除外する; (屬) を防止する; (因) から保護する; 悩ます, 煩わす, そこなう.

pra- 前方に駆り立てる; 助長する; 撃退する, 追い出す, 追い散らす; 悩ます, 苦しめる, 責める; 傷つける, 害する; 除く, 取り消す, 廃する; 悩 *Sūtr.*

saṃ-pra- 撃ち返す, 撃退する; 苦しめる, 責める.

prati- 撃退する, 抑制する; 掻き乱す, 悩ます; 逆, 拒, 背; 破, 壊, 毀壊 *Aṣṭ-pr.*, *Madhy-v.*, *Saddh-p.*: pratikṣipsyanti...pratibādhiṣyante 拒逆, 毀 *Saddh-p.* 183.

vi- 強いて分離させる; 追い出す; 苦しめる, 悩ます; 害する, (暴力をもって) 犯す.

saṃ- 押し下げる, …の上に重圧を加える; 苦しめる, 悩ます.

bādha 男 悩ます者; 抵抗. 男または因 bādha 苦痛, 苦悩, 不幸, 受難, (因 一°) からの迷惑; 傷害, 損傷, 損害, (一°) に対する侵害; (一°) からの除外; 閉塞, 廃棄, 停止; 矛盾, 不条理; 受苦, 損害; 害生, 殺 *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Sikṣ.*

bādhaka 男 (因 -ikā) 困惑させる, 悩ます; 傷害す

る, 侵害する; 除外する, 廃棄する; 破壊 *Lank.* 男 [樹の一種].

bādhakatva 因 廃棄.

bādhana 男 悩ます, 困しめる. 因 迷惑, 妨害, 苦痛 [時として 覆]; 取り消し, 廃棄; 除去; (因) に対する障害; 逼害, 逼悩, 逼害事 *Vijñ-v.*; 罰; 教 *Bodh-bh.*

bādhanā 因 心労, 苦悩.

bādhaniya 未受分 除去されるべき.

bādhayitr 男 加害者, 压制者.

bādhayitri 女 [同上].

bādha 女 → bādha. 害, 害事, 所受苦 *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*

bādhita 過受分 → Bādh. 違, 違越 *Abh-vy.*

bādhitatva 因 廃棄, 取り消し.

bādhitavya 未受分 困らされるべき, 悩まされるべき, 煩わされるべき; 取り消されるべき, 廃棄されるべき, 除かれるべき.

bādhitr 男 困らせる者, 苦しめる者, 悩ます者.

-bādhin 男 侵害する, 妨害する (*Jāt-m.*).

bādhirya 因 雙.

bādhyā 未受分 煩わされるべき, 困らされるべき, 悩まされるべき; (一°) で自己を苦しめる; 阻止されるべき; 取り消されるべき, 破棄されるべき, 取り去られるべき, 廃棄されるべき.

bādhyatā 女 侵害 *Bodh-bh.*

bādhyā-bādhakatā 女 苦しめられるものと苦しめるものとの(相互)の状態; 苦しめられるべき者を苦しめる状態.

bādhyamānatva 因 廃棄されること, 取り消されること, 破棄されるまたは論駁される状態.

bādhyā-retas 男 その精液が阻止された; 無気力な, 精力消耗した.

bāndhava 男 (血族関係 bandhu をもつ), 血縁, 血族; 母方の親類, 友人; 親戚, 親衆, 親愛; 眷属; 姓 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Rāṣṭr.*, *Sam-r.*; 侍従 *Divy.*: ādityā ~ 姓日 *Divy.* 415. → jñāti ~.

bāndhavaka 男 血族に関する.

bāndhava-jana 男 [團, 覆] 親類, 血族 [集合的に].

bāndhava-dhur 男 友人たる務めを果たす.

bāndhava-dhurā 因 親切的な尽力.

bāndhava-saṃsthā 女 親類または友人の集り.

bāndhava-samāja 男 [同上].

bāndhavi 女 女性の親類.

bāndhavya 因 血族関係, 親類.

bābhava 男 父系 Babhru の後裔.

bābhavya 男 [同上]; [*Ratnāvali* 中の一大臣, その他の人名].

bārāṇasi 女 → Vārāṇasi. [都城の名] 江邊城 立地; [音写] 波羅奈, 婆羅奈, 婆羅捺, 波羅奈斯, 婆羅宛斯, 婆羅捺斯 立地.

bārha 男 孔雀の尾の羽毛で作られた.

bārhatā 男 (因 -i) Bṛhati 韻律に関する.

bārhataka 男 [人名].

bārhatānuṣṭubha (°ta-ān°) 男 Bṛhati と Anuṣṭubh

韻律からなる。

bārhad-iṣava 男 [Bṛhad-iṣu からの 父系].

bārhad-daivata 中 [ある著作の題名 = Bṛhad-deva-
ta].

bārhad-bala 形 (女 -i) Bṛhad-bala に関係ある。

bārhad-ratha 形 (女 -i) Bṛhad-ratha に関係ある；
[Jarāsamdha の 父系].

bārhaspata 形 (女 -i) Bṛhas-pati に関係あるまたは
から出た。

bārhaspatya 男 父系 Bṛhas-pati の後裔, Bṛhas-pati
の弟子；[ある唯物論の名]；唯物論者, 不信者. 中
Bṛhas-pati の Artha-śāstra；[論] 王論 Lal-v.

bārhiṣada, bārhiṣada 男 Barhi-śad または Barhih-
śad からの 父系.

bāla 1. 形 若い, まだ十分成長していない；昇ったば
かりの(太陽), 曙(光), 新(月)；子供らしい, 稚気の
ある, 愚かな；[論] 幼稚, 穉小；愚, 癡, 愚癡,
凡愚 Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r. 男 児童, 少年, 未
成年者 [十六歳未満]；愚物, 馬鹿；[ある Rakṣas
の名]；[ある王侯の名]；[論] 童子, 幼童, 童幼,
童稚, 嬰兒, 小兒, 嬰兒；愚, 愚人, 愚小, 愚昧,
愚夫, 愚童, 愚者, 凡夫, 凡夫人, 凡愚, 愚癡凡
夫, 無智人 Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Cat-ś.,
Divy., Lal-v., Lan̄k., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.,
Sūtr., Vajr-pr., Vijñ-t.；毛道凡夫 [vāla (bāla
2.) を混入する] Lan̄k.

bāla 2. 男 [=vāla] 尾の毛等；[論] 毛 Sapt-pr.

bālaka 形 (女 -ikā) 若い, 子供らしい, まだ十分成
長していない；[論] 幼少 Saddh-p. 男 児童, 少
年, 未成年者；(動物の)子；五歳の象；[王侯の
名]；[論] 兒 Abh-vy.

bāla-kāṇḍa 中 [少年篇, Rama の少年期を取扱った
Rāmāyana 第一篇の題名].

bāla-kundānuviddha 過受分 清新なジャスミン (素
馨) の花で飾られた. 中 (頭髮の中に) 巻き込まれ
た清新なジャスミン (の小枝).

bāla-kṛṣṇa 男 少年 Kṛṣṇa.

bāla-keli 女 子供の勝負事.

bāla-keli 女 [同上].

bāla-kriyā 女 子供の行為.

bāla-kriḍana 中 小児の遊戯.

bāla-kriḍanaka 男 中 子供の玩具. 中 小児の遊戯.

bāla-kriḍā 女 小児の遊戯, 子供らしい遊び.

bāla-khilya 男 中 =vālakhilya.

bāla-gaja 男 若い象.

bāla-graha 男 子供に危険な病魔, 子供を襲う (と云
われる) 悪魔.

bāla-ghna 男 子供の殺害者.

bāla-candra 男 新月または弦月. 中 (特殊な形の壁等
の) 隙間.

bāla-candramas 男 新月.

bāla-candrikā 女 [人名].

bāla-carita 中 [(神等の)幼年期の生活]；[Bhāsa の作
と伝えられる作品の題名].

bāla-carin 形 [論] 愚夫行 Śikṣ.

bāla-caryā 女 童児の行為.

bāla-cārin 男 [論] 愚癡, 凡人 Lal-v.

bāla-cūta 男 若いマンゴー樹.

bāla-jana 男 [論] 愚夫, 無智人 Saddh-p., Śikṣ.

bāla-jana-praśasta 形 [論] 愚夫称讃 Śikṣ.

bāla-jātika 形 [論] 愚癡, 愚癡種 Lan̄k.

bāla-jātiya 形 [論] 小兒, 幼稚, 容如童, 豎子之
輩, 愚夫, 愚人, 愚癡, 愚癡凡夫 Aṣṭ-pr., Lan̄k.,
Mvyut., Saddh-p.

bāla-tantra 中 助産術.

bāla-taru 男 幼樹, 小さい樹.

bālatā 女 幼児たること；幼年時代.

bālatva 中 [同上]；[論] 豎；愚癡, 愚惑 Suv-pr.,
梵千.

bāla-darsam 中 児童を見て.

bāla-dhana 中 幼児または未成年者の所有物.

bāla-dhi 男 [=vāla-dhi] 尾.

bāla-netra 形 (女 -ā) 愚者に導かれたまたは操られた
(船等).

bāla-pattra 男 [樹の一種].

bāla-patha 男 [論] 愚道 Daś-bh.

bāla-pādapa 男 =bāla-taru.

bāla-putra 形 幼児または幼獣をもつ, Khadira 樹.

bāla-putraka 男 小さい息子；Khadira 樹.

bāla-pṛthag-jana 男 [論] 愚夫, 凡夫, 凡愚, 愚癡
凡夫, 無智之人 Lan̄k.

bālapṛthagjana-gotra 中 [論] 愚夫種性, 凡夫種性
Lan̄k.

bālapṛthagjana-bhūmi 女 [論] 凡夫地, 凡愚地 Ga-
nd-vy.

bāla-prajñatā 女 [論] 愚夫覚慧, 愚癡智慧 Bodh-bh.

bāla-prajñā 女 [論] 劣慧, 有癡, 童蒙 Bodh-bh.

bāla-pralāpa 男 [論] 愚夫戯論 Lan̄k.-

bāla-bandhana 男 子供の束縛者(病魔).

bāla-buddhi 形 [論] 小智, 無智, 凡愚 Saddh-p.,
Suv-pr.

bāla-buddhi-pracāra 男 [論] 凡夫愚行, 愚夫行, 作
愚夫行, 愚夫悪行 Śikṣ., Suv-pr.

bāla-bhañjaka 男 [人名].

bāla-bhāra 男 毛の塊；毛のもじゃもじゃとしている
尾 (vāla).

bāla-bhāva 男 児童たること；幼時, 青春時, 未成
年；幼児 [集合的に]；(遊星の) 最近の出現；[論] 小
児意 Divy.

bāla-bhūmi 女 [論] 凡地 Bodh-bh.

bāla-bhṛtya 男 年少時からの奴僕.

bāla-mati 形 子供らしい知能.

bāla-mandāra-vṛkṣa 男 若い珊瑚樹.

bāla-mitra 中 幼年時代からの友.

bāla-mūla 中 [論] 嫩蘿蔔 Mvyut.

bāla-mṛga 男 小鹿；小さいかもしか.

bāla-mṛṇāla 男 中 蓮の柔らかい繊維.

bāla-rāmāyaṇa 中 [Rājasekhara 作の戯曲の題名].

bāla-roga 男 小児病.

bāla-latā 女 若いかずら(葛) または 蔓草.

bāla-lilā 女 小児の遊戯.

bāla-vatsa 形 幼い子供をもつ. 男 幼い仔牛.

bāla-vanitā ㊦ 若い女。
 bāla-vinaṣṭa ㊦ [人名]。
 bāla-vinaṣṭaka ㊦ [同上]。
 bāla-vṛkṣa ㊦ =bāla-taru。
 bāla-vaidhavya ㊦ 子供で寡婦になること。
 bāla-vyajana ㊦ vāla-vyajana。
 bāla-vyajani-kṛta ㊦ [=vāla°] (馬の毛で作られた) 弘子(王位の象徴)に変えられた。
 bāla-śṛṅga ㊦ 未発達の中の(角)のある。
 bāla-sakhi ㊦ 幼少時からの友人；愚かな友人。
 bāla-sakhitva ㊦ 愚者を友人とすること。
 bāla-sattva ㊦ ㊦ 愚癡有情 *Bodh-bh.*
 bāla-suhṛd ㊦ 幼少時からの友人。
 bāla-sūrya ㊦ ㊦ 日初出 *Lal-v.*
 bāla-han ㊦ (㊦ *bāla-ghni*) 児童を殺す。
 bālā ㊦ 娘, 若い女；一歳の牝牛。
 bālāgra ㊦ [=vālāgra] 毛髪先端；鳩小屋(?)。
 bālāgra-śata-bhāga ㊦ 毛髪先端の百分の一。
 bālātapa (°la-āt°) ㊦ 朝日, 早朝の日光, 朝の光または熱 [また ㊦]。
 bālāditya (°la-ād°) ㊦ 昇ったばかりの太陽；[王侯の名]。
 bālādhyāpaka ㊦ 児童の教師。
 bālādhyāpakatā ㊦ 児童の教師たること。
 bālānucara-gupta ㊦ [*Śiva* 神の称]。
 bālānucara-goptā ㊦ [同上]。
 bālāpatya ㊦ 若い子孫。
 bālāmaya (°la-ām°) ㊦ 小児病。
 bālāyani ㊦ [ある師の ㊦]。
 bālārūṇa ㊦ 早暁。
 bālārka ㊦ 昇ったばかりの太陽。
 bālārka-pratimā ㊦ 昇る太陽の像または反映。
 bālārka-varṇa ㊦ ㊦ 昇る太陽のような色をもつ。㊦ [*Śiva* 神の称]。
 bālālaya (°la-āl°) ㊦ ㊦ 凡愚宅 *Gaṇḍ-vy.*
 bālāvabodhana ㊦ 若い人または未経験者の教育。
 bālāvaya (°la-āv°) ㊦ ㊦ 愚者 *Sam-r.*
 bālāvastha ㊦ 若い, 年若い。
 bālāsoka ㊦ 若い *Aśoka* 樹。
 bālāha ㊦ [または *vālāha*, *vālāhaka*] [ある神話的馬の名] (*Kār-vy.*, *Lal-v.*)；㊦ [ある馬の名] 長毛玄鹿；㊦ 婆羅訶 *Divy.*, ㊦。
 bālāhaka ㊦ [ある *Nāga* の名]。
 bālāhāsva ㊦ [*Pali* *valāhassa*] =bālāha (*Divy.*)
 bāli, → vāli.
 bālikā ㊦ [bālaka] 少女。
 bālin, → vālin.
 bālīśa ㊦ 若い, 子供らしい, 馬鹿らしい, 愚かな；㊦ 愚癡 *Buddh-c.* ㊦ 愚者, 鈍物；㊦ 凡夫, 愚夫, 愚者, 凡愚, 愚迷之人, 無智 *Lal-v.*, *Lank.*, *Mañj-m.*, *Saddh-p.*
 bālīśatā ㊦ 子供らしいこと, 愚かなこと。
 bālīśatva ㊦ [同上]。
 bālīśa-mati ㊦ 幼稚な, 間の抜けた。
 bālīśya ㊦ =bālīśatā。
 bālu, → vālu.

bāluka, → vāluka.

bālukā ㊦ [=vālukā] ㊦ 沙 *Divy.*, ㊦。
 bālukā-ghaṭa ㊦ [=vāl°] ㊦ 沙瓦 *Divy.*
 bārendu (°la-in°) ㊦ 新しいまたは次第に満ちる月。
 bāleya ㊦ 供物 (*bali*) に適した；*Bali* から出た。㊦ ㊦。
 bālopacaraṇa (°la-up°) ㊦ 小児に対する医療。
 bālopacaraṇiya (°la-up°) ㊦ 小児の医療に関する。
 bālopacāra (°la-up°) ㊦ =bālopacaraṇa。
 bālopacārika (°la-up°) ㊦ ㊦ 凡夫所行, 愚夫所行, 愚癡凡夫所行 *Lank.*
 bālollāpana (°la-ud-lā°) ㊦ [°ud-Lap から] ㊦ 誘小児, 誑童子, 誘引童子, 誑惑 (小児) *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*
 bālbaja ㊦ (㊦ -i) *Balbaja* 草で作られた。
 bālyā ㊦ 嬰兒たること, 幼児たること；(月が) 次第に満ちる状態；子供らしいこと, 精神の未熟なこと, 稚氣, 愚昧。
 bālyatā ㊦ 幼児たること。
 bālhi, bāhli ㊦ (?) [国の名, *Balkh*]。
 bālhika, bāhlika ㊦ [民族の名 (㊦)]；*Pañjab* の種族；*Bālhika* 族の王侯。㊦ *Balkh* 産の (馬)。
 bālhi-ja, bāhli-ja ㊦ [同上(㊦)]。
 bālhi-jāta, bāhli-jāta ㊦ [同上]。
 bālhika, bāhlika ㊦ [民族の名 (㊦)]；*Bālhika* 族の王侯；[人名, とくに *Pratipa* の息子の名]。
 bālhiki, bāhliki ㊦ *Bālhika* の王妃 または *Bālhika* の婦人。
 bāṣkala ㊦ [ある *Daitya* の名]；[ある 師の名]；㊦ *Bāṣkala* の学派。㊦ *Bāṣkala* に属する。
 bāṣkala-śākhā ㊦ (*Rg-veda* の) *Bāṣkala* 派またはその本集。
 bāṣpa ㊦ 涙；蒸気, 水蒸気；㊦ 氣, 瀟, 霧 *Nya-pr.*, *Mvyut.*；[仏弟子の名] 焰然, 氣；㊦ 波敷, 婆師波, 婆洩波 *Mvyut.*, ㊦。
 bāṣpa-kaṅṭha ㊦ (㊦ -i) 涙にむせんだ。
 bāṣpa-kala ㊦ 涙で不明瞭な または むせんだ(声)。
 bāṣpa-grathita ㊦ 涙にむせんだ。
 bāṣpa-cchedya ㊦ (?) [柔らかい草の一種]。
 bāṣpa-digdha ㊦ 涙に濡れた。
 bāṣpa-durdinākṣa ㊦ (㊦ -i) その眼が涙に曇った。
 bāṣpa-paryākulekṣaṇa (°la-ik°) ㊦ [同上]。
 bāṣpa-pihita-locana ㊦ [同上]。
 bāṣpa-pūra ㊦ 涙の溢れ出ること。
 bāṣpa-prakara ㊦ 涙が流れ出ること。
 bāṣpa-pramocana ㊦ 涙を流すこと。
 bāṣpa-bindu ㊦ 涙の滴, 涙。
 bāṣpa-mukha ㊦ その顔が涙に濡れた。
 bāṣpa-mokṣa ㊦ =bāṣpa-pramocana。
 bāṣpa-varṣa ㊦ 涙の雨。
 bāṣpa-viklava ㊦ 涙に圧倒された, 泣いて混乱した。
 bāṣpaviklava-bhāṣin ㊦ (㊦ -ni) 嗚咽で途切れた声で語る。
 bāṣpa-viśrāma ㊦ 泣くのを止めること。
 bāṣpa-vṛṣṭi ㊦ 涙の雨。
 bāṣpa-saṃdigdha ㊦ 涙でおし殺されて不明瞭な(声)。

bāṣpa-salila 甲 涙。
 bāṣpa-stambha 男 涙をおさえること。
 bāṣpa-hatekṣaṇa (°ta-ik°) 形 涙で目の見えない。
 bāṣpākula (°pa-āk°) 形 涙で曇ったまたはさえぎられた(声, 言葉)。
 bāṣpāmbu 甲 涙。
 bāṣpāmbu-śikara 男 種 涙の滴。
 bāṣpāmbhas 甲 = bāṣpāmbu。
 bāṣpāya 名動 自 bāṣpāyate 涙を流す。過受分 bāṣpāyita 涙に濡れた。現分 bāṣpāyamāṇa 涙を流す。
 ati- 激しく泣く。
 bāṣpāyitekṣaṇa (°ta-ik°) 形 涙に満ちた眼の。
 bāṣpāvilekṣaṇa (°pa-āvila-ik°) 形 涙で眼の曇った。
 bāṣpāsāra (°pa-ās°) 男 = bāṣpa-vṛṣṭi。
 bāṣpin 形 涙のように(一°を)流す。
 bāṣpotpīḍa (°pa-ut°) 男 涙のほとばしり。
 bāsa 男 [人名, bhāsa の訛]。
 bāsta 形 (因 -i) 牡山羊 (basta) から生ずる。~m carma 山羊の皮。
 bāstika 甲 山羊の群。
 bāhava 男 腕(因)。
 bāhavi 男 [Bahū からの因系, ある師の名]。
 bāhā 因 腕。
 bāhita 過受分 [=vāhita, Vah] 漢訳 遠離 Lal-v. 353。
 bāhira 形 漢訳 外 Gand-vy., Lanik., Saddh-p.
 bāhiraka 形 局外者の, 仏教を信じない, 非仏教徒の, 外道の (Mah-v.); 漢訳 外道 Śikṣ.
 bāhiriya 形 俗 漢訳 外 Saddh-p. 373. → bāhiraka.
 bāhiṣāstra 甲 漢訳 外論 Bodh-bh.
 bāhika 男 [しばしば bāhika または bālhika と混同される] [軽蔑された Pañjab の民族の名 (種)]; Bahika 族の人; 人足, 牧牛者(?); 漢訳 昏人 Mvyut. 甲 [湖水の名]。
 bāhu 男 [Bah] 腕; とくに前膊; (動物の) 前肢; とくに前肢の上部; 門柱; (尺度としての) 腕 [=12 aṅgulas]; [ある Daitya の名]; [諸王侯の名]; 漢訳 臂, 肘臂, 臂肘腕; 手 Bodh-bh., Bodh-c., Gand-vy., Mañj-m., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Vajr-s., 梵千.; 牛 Divy. 44。
 bāhuka 形 一° =-bāhu; 矮小な。男 [諸王侯の名]; [Nala が Rtuparna の御者であったときに用いた名]; [ある Nāga の名]。
 bāhu-guṇya 甲 多くの長所をもつこと。
 bāhu-cyuta 形 腕 または 手から落とされた または 落下した。
 bāhujanya 甲 [bahu-jana から] 漢訳 多人 Divy.
 bāhu-taraṇa 甲 腕で横断することすなわち(川を)泳ぎ渡ること。
 bāhutā 副 両腕の中に (因)。
 bāhu-daṇḍa 男 長い腕。
 bāhu-dantaka (形) 甲 (śāstra とともに) [Indra によって要約された法律書の名]。
 bāhu-dantin 男 [Indra の称]。
 bāhudanti-putra 男 [Indra の息子 (ある Tantra の作

者 Jaya-datta の名)]。
 bāhu-dā 因 [Parikṣit の妻 Suyāsa の称]; [Prasenajit の妻 Gauri の変形といわれる河の名]。
 bāhu-niṣṣṛta 甲 [(敵の手から刀をもぎ取る), 戦法の一つ]。
 bāhu-pariṣvaṅga 甲 抱きしめること。
 bāhu-pāsa 男 腕 かせ, 巻きつける腕; [戦闘における姿勢の一つ]。
 bāhu-pracālaka 形 漢訳 掉臂, 挙手 Mvyut., Prāt-m. ~m 副 腕をふるわせて。
 bāhu-prasāra 男 両腕を伸ばすこと。
 bāhu-prasāraṇa 甲 [同上]。
 bāhu-bandhana 甲 巻きつける または 抱きつく腕; 肩 胛骨。
 bāhu-bala 甲 腕力。男 [王侯の名]。
 bāhu-balika 形 漢訳 有力, (身) 手有力 Saddh-p.
 bāhu-balin 形 強い腕をもつ。
 bāhu-bādha 男 種 [民族の名]。
 bāhu-madhya 形 腕で中位を占める: ~āni karmāṇi 腕が用いられ(従って)中位を占める行為。
 bāhu-mūla 甲 腕のつけ根, 肩。
 bāhu-yuddha 甲 腕と腕の闘い, 接戦, 拳闘, 一騎討ちの勝負。
 bāhu-yodha 男 拳闘家。
 bāhu-yodhin 男 [同上]。
 bāhula 男 [人名]。
 bāhulaka 甲 多様なこと, 一の規則 または 語形の種々な使用; 副 (文法上の規則の) 種々な適用のために。
 bāhu-latā 因 蔓草のような腕。
 bāhulatāntara (°tā-an°) 甲 両腕の間隔, 胸部, 胸骨。
 bāhuli 男 [Viśvāmitra の息子の名]。
 bāhulika 形 漢訳 従多, 約多義, 扱多分 Abh-vy.
 bāhulya 甲 豊富, 潤沢; 多量, 多数; 多様, 多種; 通常, 事物の普通の経過 または 順序; 漢訳 多, 倍多 Abh-vy., Bodh-c., Śikṣ., Sūtr. ~ena 副 大体において, 大概, 一般に; 漢訳 多 Bodh-bh. ~āt 副 = 副; 多分。
 bāhulyatas 副 漢訳 常 Ast-pr.
 bāhu-vikṣepa 男 両腕の運動, 水泳。
 bāhu-vimarda 男 接戦, 拳闘。
 bāhu-vīrya 甲 腕力。形 腕の強い。
 bāhu-vyāyāma 形 漢訳 具力, 開力, 労臂, 操臂 Mvyut..
 bāhu-śakti 男 [(腕の強い), 王侯の名]。
 bāhu-śālin 形 (強い) 腕をもつ, 剛勇の, 好戦的な。男 [Śiva 神の称]; [ある Dānava の名]; [諸人の名]。
 bāhu-śikara 甲 肩; 漢訳 肩頭 Mvyut.
 bāhuśrutīya 男 [bahu-śruta から] 漢訳 [仏教部派の名] 多聞部, 多聞家 Mvyut.
 bāhuśrutya 甲 [bahu-śruta から] 博学; 漢訳 多聞 Bodh-bh., Lanik., Rāṣṭr., Saddh-p., Sūtr., Śikṣ.
 bāhu-sahasrin 形 千の腕をもつ。
 bāhu-svastika 男 甲 交叉した腕。
 bāhūtkṣepam 副 腕を挙げてまたは振り挙げて。

bāhūpapiḍam 𑖀 腕で圧して。

bāhū-bāhavi 𑖀 (腕と腕とが) 肉薄して, 接戦して。

bāhya 𑖀 [bahis から] 外側にある (戸・家・村等), (𑖀, 一°) の外側に位した; 外の, 外部の; 他国の, 外国の; 種姓 (階級) または共同社会から除外された, 放逐された, (𑖀, 一°) の外にある=…からはずれた, …と抵触する, …の範囲外の, …となんら関係のない; [taddhita とともに 𑖀] 第二 taddhita 後接字 (他の taddhita の後に付加される); [artha とともに 𑖀] (直接の語義と関係のない) 外的的の意義; 𑖀 外, 外(具) *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Rāṣṭr.*, *Sāṃkhy-k.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*; 依外 *Sāṃkhy-k.*: ~āni āyatanāni 外処, 外塵 *Madhy-bh.* 25.; ~ā(h) bhāvāḥ 外物, (一切) 外万物 *Madhy-v.*, *Sūtr.* ~m 𑖀 (戸) 外へ (出る); 𑖀 外 *Sūtr.* ~m Kṛ 追い出す, 放逐する. ~āt 𑖀 外から. ~m, ~ena, ~e, °一, 𑖀 または 𑖀 (𑖀, 一°) の外に. 𑖀 死体。

bāhyaka 𑖀 𑖀 外, 外道, 在正法外 *Abh-vy.*, *Sūtr.*

bāhya-karaṇa 𑖀 外部感覚器官; 𑖀 外具 *Sāṃkhy-k.*

bāhya-karṇa 𑖀 [ある Nāga の名].

bāhyaka-sāstra 𑖀 𑖀 外論 *Bodh-bh.*

bāhya-kuṇḍa 𑖀 [ある Nāga の名].

bāhyatara 𑖀 𑖀 外部の等; 放逐された。

bāhyatas 𑖀 𑖀 (𑖀, 𑖀) の外側に または 外に。

bāhyatā 𑖀 (𑖀) からはずれること または 離反すること。

bāhya-doṣa 𑖀 外部的欠点。

bāhya-dravya 𑖀 𑖀 外事, 外法, 外境界 *Lank.*

bāhya-nāman 𑖀 手紙の外側に書かれた名前とくに宛名または差出人の名前。

bāhya-paripāka 𑖀 𑖀 外道法 *Sūtr.*

bāhya-pūjā-vidhi 𑖀 [仏典の名].

bāhya-prakṛti 𑖀 𑖀 (王以外の) 外国の国家構成部分. → prakṛti.

bāhya-bija 𑖀 𑖀 外種, 外種子 *Abh-vy.*

bāhya-bhāva 𑖀 𑖀 外法, 外性 *Lank.*

bāhyabhāvābhāva 𑖀 𑖀 外性非性, 外境無物有物 *Lank.*

bāhya-bheda 𑖀 𑖀 外別 *Sāṃkhy-k.*

bāhya-vastu 𑖀 外面的な富。

bāhya-vāsin 𑖀 村または町の外に住する (caṇḍāla).

bāhya-sparśa 𑖀 外的事物との接触。

bāhyāṃsa 𑖀 𑖀 両膝の外側に手を置いた。

bāhyādhyātmika 𑖀 𑖀 内外 *Gaṇḍ-vy.*

bāhyāntar 𑖀 外と内とから。

bāhyārtha 𑖀 外的的の意義; 外部の対象・事物または実在; 𑖀 外(種種)義, 外(種種)境界 *Lank.*

bāhyārtha-darśana 𑖀 𑖀 見外義, 見外境, 見諸外境 *Lank.*

bāhyārtha-drṣṭi 𑖀 𑖀 外見, 外義邪見(之相) *La-nik.*

bāhyārtha-vāda 𑖀 外(界)が実在であるという説。

bāhyārtha-vādin 𑖀 外(界)の実在を主張する(𑖀);

𑖀 説外事, 外境論者, 言外事有者 *Mvyut.*

bāhyālaya (°ya-āl°) 𑖀 追放された者(賤民)の住処= *Bahika* 族の国。

bāhyāśva 𑖀 [人名].

bāhyendriya (°ya-in°) 𑖀 外部感覚器官。

bāhyopavana (°ya-up°) 𑖀 (町の) 外に在る林園。

bāhli → bālhi.

bāhlika, → bālhika.

bāhli-ja → bālhi-ja.

bāhli-jāta, → bālhi-jāta.

bāhlika, → bālhika.

bāhliki, → bālhiki.

bāhvṛcya 𑖀 *Bahv-ṛca* 祭官の伝統的知識 + なわち *Rg-veda.*

bāhv-ojas 𑖀 腕力. 𑖀 腕っぷしの強い。

biḍāla 𑖀 猫; 𑖀 猫, 猫 *Bodh-c.*, *Mvyut.*; 狐 *Mv-yut.*

biḍālaka 𑖀 [同上].

biḍāla-pada 𑖀 [重量の一単位 (=1 karṣa または 16 māśas)].

biḍāla-padaka 𑖀 [同上].

biḍāla-putra 𑖀 [人名].

biḍāla-bañij 𑖀 [(猫商人), ある人の綽名].

biḍālā 𑖀 雌猫。

biḍālākṣa 𑖀 (𑖀 -i) 猫のような眼の. 𑖀 [ある Rā-kṣasa の名].

biḍālikā 𑖀 小猫, 猫。

biḍāli 𑖀 雌猫。

bidala, → vidala.

bidala-saṃhita 𑖀 両半分から合成された。

bindu 𑖀 しずく(滴); 小球; 点, 斑点; 随韻 anusvāra) の記号 [非常に神秘的意義をもちかつ *Śiva* 神に関係あるとされる]; ゼロ (零), 零の記号 (0); (抹殺を取消すために文字の上に記された) 点; (一見) 重要でない(しかもその影響の拡大すること水上における油の一滴のような) 事件 (戯曲); (象の身体に描かれた) 斑点 または 記号; [諸人の名]; 𑖀 滴, 滲, 一滴 *Abh-vy.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*; 露 *Rāṣṭr.* → avasīyāya ~.

binduka 𑖀 しずく(滴)。

bindukita 𑖀 𑖀 過受分 (𑖀) のしずくで一面に点を付された または 覆われた。

bindumat 𑖀 泡または凝塊のある. 𑖀 [*Marici* の息子の名].

bindumati 𑖀 [詩節の一種]; [諸人の名].

bindu-rekhā 𑖀 点線; [*Caṇḍavarman* の娘の名].

bindu-sara 𑖀 韻律 [同下].

bindu-saras 𑖀 [(神聖な) 湖水の名].

bindu-sāra 𑖀 [王侯の名 (*Candra-gupta* の息子)].

bindūya 𑖀 𑖀 自 bindūyate しずくとなる, したたる。

bindūyamāna 𑖀 現分 滴り落ちる, 濡れた, 湿った。

bibodhayiṣu 𑖀 [*Budh* の 使役 希求] 呼び起そうと企てる。

bibboka 𑖀 傲慢な無関心; 無関心を装うこと, 媚態。

bibhakṣayiṣā (使役 希求) 女 食欲。
bibhakṣayiṣu 希求 形 食いたいと思う, 飢えた。
bibhaṇiṣu 希求 形 言おうと欲する。
bibhitsā 女 (業, 屬) を貫通・突破または破壊しようとする欲望。
bibhitsu 希求 形 突破または潰走させたいと思う。
bibhiṣaṇa 形 [BHī 使役] 恐怖させる, 恐しい。男 [ある Rākṣasa の名, Rāvaṇa の弟]。→ vibhiṣaṇa。
bibhiṣikā 女 [vibhiṣikā の誤] おびやかすこと。
bibhedayiṣu (使役 希求) 形 争わせたいと思う。
bibhrat 形 [Bhr] 担う, 運ぶ。
bimba 男 田 (太陽または月の) 表面; 球, 半球, 円盤, とくに (身体の) 円い部分 (腰・尻); 鏡, 影像, 映像, 比較されるもの [pratibimba (比較の対象) の因]; 漢訳 像, 形像, 影像, 色像, 相, 鏡影, 色, 質本 *Abh-vy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Guhy-s.*; *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*; 厚 *Mvyut.*; 漢訳 賓波, 頻婆 *Mvyut.*, 玄応。男 とかげ (蜥蜴), カメレオン; [人名]。田 [学名 *Momordica monadelphica* 樹の果実: 熟する時赤色であるから美人の唇はしばしばこれと比較される]; 漢訳 相思, 相思果 *Mvyut.*, 玄応.; (音写) 頻婆果 *Lal-v.*; (音写) [数の名] 賓波 *Mvyut.*。
bimbaka 田 丸顔 (*Divy.*)。
bimbaki 男 [王侯の名]。
bimba-grāha 男 反映すること。
bimba-pratibimbatā 女 比較されるものと比較の対象との状態。
bimba-pratibimbatva 田 [同上]。
bimba-pratibimba-darsana-vadana 形 漢訳 面如満月, 面満浄如満月, 面門円満 *Mvyut.*。
bimba-pratibimba-bhāva 男 = bimba-pratibimbatā。
bimbapratibimboṣṭhatā (°ba-oṣ°) 女 漢訳 音写 唇如頻婆菓好 *Dharm-s.*。
bimba-phala 田 Bimba 果。
bimbaphalādharoṣṭha 形 (女 -i) (赤いこと) Bimba 果のような唇をもつ。
bimbara 男 田 漢訳 [数の名] 十兆 玄応.; (音写) 頻婆羅, 頻跋羅, 頻波羅 *Mvyut.*, *Śikṣ.*, 玄応。
bimbā 女 [王妃の名]。
bimbākṛti (°ba-āk°) 女 漢訳 像形 *Lank.*。
bimbādhara 男 (赤いこと) Bimba 果のような下唇。
bimbīta 名動 過受分 反映した。
bimbiya 男 [人名]。
bimbi-sāra 男 [釈尊と同時代の *Magadha* 王の名]; 漢訳 影勝, 影勝王, 影堅王, 形牢, 色像妙, 顔色端正, 具宝色蔵王, 模実 *Divy.*, *Mvyut.*, 玄応.; (音写) 瓶沙, 瓶沙 (王), 沙 (王), 頻婆娑羅, 頻婆娑羅 (王), 頻毘娑羅, 頻毗娑羅 *Divy.*, *Mvyut.*, 玄応。
bimbeśvara (°bā-iś°) 男 [*Bimbā* 后妃の建立した *Śiva* 神の殿堂の名]。
bimboḍgrāha (°ba-ud°) 男 反映すること。
bimbopadhāna (°ba-up°) 田 枕 (*Divy.*); 漢訳 厚枕, 臥具 *Mvyut.*。
bimboṣṭha (°ba-oṣ°) 男 Bimba 果のような唇。形

(女 -i) Bimba 果のような唇をもつ; 漢訳 唇色赤如頻婆果, 唇色赤好如頻婆果, 唇如相思果, 唇紅如相思果 *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*。
birada, → *viruda*。
biruda, → *viruda*。
bila 田 洞穴, 空虚な処, 穴, (巢) 穴; 孔隙, 間隙; (容器・匙等の) 口。男 [*Indra* 神の馬 *Ucchaiṣravas* の称]。
bila-yoni 形 *Bila* 種の(馬)。
bila-vāsa 形 穴居の。男 穴中に住む動物。
bila-vāsin 形 男 [同上]。
bila-śaya 形 男 [同上]。
bila-śāyin 形 男 [同上]。
bila-svarga 男 (地下の天), 地獄。
bilāyana 田 地下の洞穴, 洞穴。
bile-śaya 形 穴中にひそんだ。男 穴の中に住む動物。
bilaukas (°la-ok°) 形 男 [同上]。
bilma 田 木片 (RV. 用例一回のみ)。
bilva 男 [美味な実を結ぶ樹の一種, 学名 *Aegle marmelos*, 未熟の時に薬用に供せられる]。田 *Bilva* 樹の果実; [重量の一単位 (=1 pala)]; 漢訳 吉祥果 *Mañj-m.*。
bilvaka 男 [ある *Nāga* の名]; [巡礼地の名]。
bilva-tejas 男 [ある *Nāga* の名]。
bilva-daṇḍa 形 *Bilva* 材の杖をもつ。男 [*Śiva* 神の称]。
bilva-daṇḍin 形 男 [同上]。
bilva-pattra 男 [ある *Nāga* の名]。
bilva-patramaya 形 (女 -i) *Bilva* 樹の葉からなる。
bilva-pāṇḍara 男 [ある *Nāga* の名]。
bilva-pāṇḍura 男 [同上]。
bilva-mātra 田 *Bilva* 果の重量。形 *Bilva* 果の大きさの, 1 *Bilva* 果の重さのある。
bilva-vana 田 *Bilva* 樹林。
bilva-vṛkṣa 男 漢訳 吉祥果木 *Mañj-m.*。
bilhaṇa 男 [ある 大臣 にして 詩人の名]。
biśa, [bisa の誤]。
biṣa, [bisa の誤]。
bisa 田 蓮の根または根茎, 蓮または水蓮の薄皮または繊維; [一般に] 蓮; 漢訳 蓮根, 蓮根藕, 泥藕 *Samr.*, *Mvyut.*。
bisa-kisalaya-ccheda-pātheyavat 形 旅の糧として数片の蓮根の若芽をもつ。
bisa-guṇa 形 蓮の繊維で作られた弦をもつ(弓)。
bisa-granthi 男 蓮根の節。
bisa-tantu 男 蓮根の繊維 (藕糸)。
bisa-tantumaya 形 (女 -i) 蓮根の繊維で作られた。
bisa-prasūna 田 蓮華。
bisa-prasūnu 田 [同上]。
bisa-mṛṇāla 田 = *bisa-tantu*。
bisa-latā 女 蓮 [学名 *Nelumbium speciosum*]。
bisavati 女 蓮根に富んだ場所。
bisābharāṇa (°sa-ābh°) 田 蓮の繊維で作られた裝飾。
bisinī 女 蓮 [植物全体を称す]または蓮華の群。

bisini-pattra 田 蓮の葉。

bija 田 (植物の) 種子, (動物の) 精液, 穀類の種子, 穀粒, インドいちじく樹のねばえ(根生); 胚種, 要素; 源泉, 起原, 発端; 詩または戯曲の発端[筋はそれから発展する]; 代数学; 水銀; [ある神の Mantra に必要な部分を形成する] 神秘的な文字または音節, 仏教の種子(しゅうじ); 出産時における子の腕の位置; 田 種, 種子, 因, 子 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madh-bh.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*, *Vijñ-v.*, 梵千., 梵維. → *bodhi* ~. 一° 田 … に起因するまたはから起る。

bijaka 田 シトロン. 田 種子; 田 種, 子 *Lank.*

bija-kāṇḍa-prarohin 田 種子または切枝から成長した。

bija-kāṇḍa-ruha 田 [同上].

bija-kośi 田 果皮(とくに蓮の).

bija-kriyā 田 代数学的解決。

bija-gaṇita 田 代数学。

bija-grāma-pātana 田 田 断種子, 殺衆草木 *Prāt-m.*

bija-grāma-bhūta-grāma-vināśana 田 田 壊種子(村)有情村, 毀壞諸種与鬼神村 *Mvyut.*

bijatva 田 起原または原因たること; 田 因 *Sūtr.*

bija-dravya 田 根本的物質。

bija-dharman 田 種子の状態にある。

bija-dhāni 田 [河の名]; 穀物置場。

bija-nirvāpaṇa 田 種を播くこと。

bija-pūra 田 シトロンの樹 [学名 *Citrus medica*]. 田 シトロン。

bija-pūraka 田 [同上(男)].

bija-pūrṇa 田 [同上]. 田 = *bijapūra* (田).

bija-prada 田 生む者, 生殖する人。

bija-prabhāva 田 種子の力または精力。

bija-prarohin 田 種子から生長する。

bija-bhūta 田 種子である, 種子をなす。

bija-mātra 田 ただ種子または種族(の保存)のために(必要なもの)。

bija-muṣṭi 田 または 田 一握りまたは少量の種子。

bija-yajña 田 [(種子を捧げること), ある 譬喩的な祭式の名].

bija-ruha 田 種子から生長する。

bijavat 田 種子または穀粒をもつ. 田 穀粒のように。

bija-vāpa 田 種を播くこと。

bija-śeṣa-mātra 田 残りはただ種子だけであること。

bija-saṃgrhita 田 種子所授 *Madh-bh.*

bija-saṃhṛtimat 田 発端と大団円とを含んだ(戯曲)。

bija-sekṭr 田 = *bija-prada*.

bija-svabhāvatva 田 田 種子性, 種子自性, 種体 *Madhy-v.*

bijākṣara 田 (Mantra または呪文の)冒頭の音節。

bijānkura 田 種芽; 田 種子と芽。

bijānkura-nyāya 田 種子と芽の原理 [両者の一方が順次に他方の原因となること = 相互的因果関係].

bijānkurāvināśa 田 田 種生芽不失壊 *Gaṇḍ-vy.*

bijāñjali 田 手一杯の種子または穀粒。

bijādhya (°ja-ādh°) 田 (種子に富んだ), シトロン。

bijāśva 田 種馬。

bijin 田 実を結んだ(植物); (一°)の種子または血族である. 田 種子の所有者または施与者, 現実の生殖者, [名義上の父または夫の 田].

bijotkrṣṭa (°ja-ut°) 田 [bijotkrṣṭr の誤].

bijotkrṣṭr (°ja-ut°) 田 (残部も同一品質であると思わせるために良い) 穀粒を取出す人または示す人。

bibhatsa (希求) 田 [Bādh] 厭わしい, 嫌悪を感じさせる, 忌むべき; [rasa とともに 田] 嫌悪の感情(戯曲); 田 悪; 可畏; 醜, 醜者, (臭)穢 *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*

bibhatsaka 田 [人名].

bibhatsa-karman 田 忌わしいまたは邪悪なことをする, 嫌悪すべきことをする。

bibhatsatā 田 嫌悪すべき状態, 忌わしいこと。

bibhatsamāna 希求 田 現分 厭う, 嫌悪する。

bibhatsa-rūpa 田 田 醜悪, 姪陋 *Rāṣṭr.*

bibhatsita 希求 田 過受分 → *Bādh.* 田 可惡 *Saddh-p.*

bibhatsu 希求 田 (女) 嫌悪または反感の情を抱く; 遠慮深い. 田 [Arjuna の称].

bibhatsosṭha (°sa-os°) 田 田 醜唇 *Saddh-p.*

Bukk I. 田 bukkati; X. 田 bukhayati ほえる, 鳴く, 響く, 語る。

bukkā 田 心臓。

buḍila 田 [人名].

buddha 田 過受分 [Budh] 目覚めた, 完全に目覚めた; 開いた(花); 開悟した, 賢明な; 知られた, 認められた. 田 仏陀 [善行と涅槃(nirvāna)に対する真知により, これを得る道を世に啓示する覚者](田 類); (歴史上の) 仏陀 [*Śākyamuni Gautama* と称した仏教の創始者]; 田 覺, 覺悟, 正覺, 解, 聰慧, 已成仏, 学者, 明人, 覚者, 如来, 仏如来, 世尊 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-c.*, *Buddh-c.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*; 田 寫 仏(宝) *Madhy-v.*; 仏, 仏陀 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Dharm-s*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*, 梵千.

buddha-kara 田 田 如来(身)手 *Lank.*; (田 寫) 仏手 *Lank.*

buddha-karaka 田 田 (田 寫) 成仏 *Abh-vy.*

buddha-kāya-varṇa-pariniṣpatty-abhinirhārā 田 田 (田 寫) 引發仏身色円満, 仏身色現成円満, 仏嚴成円満 *Mvyut.*

buddha-kārya 田 田 (田 寫) 仏事, 仏所作事, 仏事業, 仏行 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Suv-pr.*

buddha-kūla 田 田 如来家 *Śikṣ.*

buddha-kṛtya 田 田 (田 寫) 仏事 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.* *Suv-pr.*: ~m *Kṛ* 田 施作仏事 *Aṣṭ-pr.*

buddhakṛtya-karaṇatā 田 田 (田 寫) 作仏事, 作諸仏事, 作一切仏事 *Bodh-bh.*

buddha-koṭi 田 田 (田 寫) 無数仏 *Saddh-p.*

buddha-kośa 田 田 (田 寫) 仏(法宝)蔵 *Saddh-p.*

buddha-kṣetra 田 田 仏陀の領域 または 活動範囲

- (*Kār-vy.*); (音写) 仏土, 仏国, 仏国土, 仏世界, 仏境, 仏境土; 刹土 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I. II.*, *Sūtr.*; (音写) 仏刹 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Rāṣṭr.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*
- buddhakṣetra-parisuddhi** 女 漢訳 (音写) 浄土, 嚴浄仏土, 仏土清浄 *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suvik-pr.*
- buddhakṣetra-parisodhana** 中 漢訳 刹土清浄, 浄修一切仏土 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*
- buddhakṣetra-vyūhānanta-praṇidhāna-prasthāna-parigṛhita** 形 漢訳 (音写) 摂受仏国莊嚴無辺願発趣, 持入無量諸仏国土莊嚴願 *Mvyut.*
- buddhakṣetra-suddhi** 女 漢訳 (音写) 嚴浄仏土 *Aṣṭ-pr.*
- buddhakṣetra-samādhi** 男 [ある *Samādhi* の名] (*Kār-vy.*)
- buddha-gata** 形 漢訳 (音写) 於仏所 *Śikṣ.*
- buddha-gayā** 女 仏陀伽耶 (現在のビハール州の *Bodhgayā*) [仏陀が正覚を得た *Gayā* 付近の聖地の名すなわち仏陀成道の聖蹟].
- buddha-garbha** 男 漢訳 如来蔵 *Śikṣ.*; (音写) 仏蔵 *Śikṣ.*
- buddha-girindra** 男 漢訳 (音写) 仏山王 *Suv-pr.*
- buddha-guṇa** 男 漢訳 (音写) 仏徳, 仏功德 *Lank.*, *Suv-pr.*
- buddha-gocara** 男 漢訳 (音写) 仏境界, (諸) 仏行処 *Suv-pr.*
- buddha-gotra** 中 漢訳 (音写) 仏性 *Sam-r.*
- buddha-ghoṣa** 男 [人名, 有名な仏教学者で西暦紀元第五世紀初葉に生存した]; 漢訳 (音写) 仏名字 *Saddh-p.*
- buddha-cakṣus** 中 漢訳 (音写) 仏眼 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*
- buddha-carita** 中 [*Aśvaghōṣa* 作の仏陀伝の題名, 仏所行讃].
- buddhacarita-kāvya** 中 [同上].
- buddha-carya** 中 仏陀の行為.
- buddha-jñāna** 中 仏陀の智慧; 漢訳 聖慧 *Saddh-p.*; (音写) 仏智, 仏慧, 仏之智慧, 仏乘 *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Sūtr.*
- buddhajñāna-pratigrāhaka** 形 漢訳 普受聖慧 *Saddh-p.*; (音写) 受持仏智 *Saddh-p.*
- buddhajñāna-sri** 男 [ある仏教学僧の名].
- buddhatā** 女 漢訳 如来如実知覚 *Lank.*; (音写) 仏, 仏体, 仏体性, 仏正覚, 仏之知覚 *Lank.*, *Sūtr.*; 法身 *Lank.*
- buddhatva** 中 仏陀たること; 漢訳 正覚, 無上果 *Lal-v.*, *Lank.*, *Śikṣ.*; (音写) 仏体, 仏果, 仏性, 仏法, 仏地, 仏道 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*
- buddhatva-lābha** 男 漢訳 (音写) 仏聖財 *Śikṣ.*
- buddha-datta** 男 [*Candamahāsena* 王の一大臣の名].
- buddha-darśana** 中 漢訳 (音写) 見仏, 見諸仏 *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Sapt-pr.*, *Sūtr.*
- buddha-dig-vilokana** 中 漢訳 (音写) 観仏境界 *Gaṇḍ-vy.*
- buddha-dūta** 男 漢訳 如来使 *Gaṇḍ-vy.*
- buddha-dharma** 男 仏陀の法; 漢訳 真法, 覚法, 如来諸功德, 如来(不共)法 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*; (音写) (不求) 仏法 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*; (十八) 仏(不共)法 (國) *Aṣṭ-pr.*
- buddhadharma-kāma** 形 漢訳 楽法人 *Lank.*
- buddhadharma-gaṇa** 男 漢訳 (音写) 仏法僧 *Śikṣ.*
- buddhadharmākṛti-sthiti** (°ma-āk°) 女 漢訳 仏法真実体 *Lank.*
- buddha-nidarśana** 中 漢訳 (音写) 見仏 *Śikṣ.*
- buddha-nirmāṇa** 中 漢訳 (音写) 化仏 *Sūtr.*
- buddha-niṣpatti** 女 漢訳 如来… (果)満, (音写) 仏果円満 *Madhy-bh.*
- buddha-netri** 女 漢訳 正覚理趣, 法母, 正法 *Lank.*, *Mvyut.*, *Sam-r.*; (音写) 仏眼, 仏道, 諸仏正法 *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
- buddha-parigraha** 男 漢訳 (音写) 仏所護念 *Saddh-p.*
- buddha-pālita** 男 [人名, *Nāgārjuna* 系の仏教論師]; 漢訳 (音写) 仏護, 護仏 *Madhy-v.*, *Mvyut.*
- buddha-putra** 男 漢訳 (音写) 仏子 *Saddh-p.*
- buddha-prabhāṣita** 形 漢訳 名如来 *Lank.*; (音写) (諸) 仏得名 *Lank.*
- buddha-praśasta** 形 漢訳 (音写) 仏称讃 *Śikṣ.*
- buddha-bimba** 男 中 漢訳 (音写) 仏像 *Lank.*, *Sūtr.*
- buddha-buddhatā** 女 漢訳 正等覚体, 法身之相 *Lank.*; (音写) 仏陀仏陀 *Lank.*
- buddha-boddhavya** 形 漢訳 覚所覚 *Lank.*
- buddha-bodhi** 男 漢訳 無上覚 *Gaṇḍ-vy.*; (音写) 仏道 *Saddh-p.*; (音写) 仏菩提 *Gaṇḍ-vy.*, *Śikṣ.*
- buddhabodhy-ākara** 形 漢訳 出生無上覚 *Gaṇḍ-vy.*; (音写) 出生仏菩提, 令満菩提(願) *Gaṇḍ-vy.*
- buddha-bhadra** 男 [ある仏教学僧の名].
- buddha-bhāvin** 形 漢訳 (音写) 当得成仏 *Lal-v.*
- buddha-bhūmi** 女 漢訳 如来地, 正覚地 *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*; (音写) 仏地 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*; [経の名] 正覚地経; 仏地経 (音写) *Mvyut.*
- buddhabhūmi-samudāgama** 男 漢訳 (音写) 仏地修証, 仏地習起 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*
- buddha-manasi-kāra** 男 漢訳 (音写) 念仏 *Sukh-vy. II.*
- buddha-mārga** 男 仏陀の行法または教義, 仏道.
- buddha-māhātmya** 中 漢訳 如来(無量)功德, 如来(諸大)功德 *Lank.*
- buddha-mitra** 男 [ある仏教の長老の名].
- buddha-yāna** 中 漢訳 正等覚乘 *Aṣṭ-pr.*; (音写) 仏乘 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*
- buddhayāna-gotra** 中 漢訳 (音写) 仏乘種性 *Lank.*
- buddha-rakṣita** 男 [人名].
- buddha-rakṣitā** 女 [人名].
- buddha-rūpa** 中 漢訳 (音写) 仏身 *Lank.*, *Saddh-p.*
- buddha-locanā** 女 漢訳 (音写) 仏眼, 仏眼母 *Guhy-s.*, *Mvyut.*
- buddha-vaṃśa** 男 漢訳 (音写) 仏種, 仏法種, 仏性

Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Sam-r.

buddhavaṃśa-saṃdhāraṇa 甲 漢訳 (音写) 受持仏性, 護佛法種使不断絶, 不断仏種 *Gaṇḍ-vy.*

buddhavaṃśa-saṃbhūta 形 漢訳 (音写) 生仏家 *Śikṣ.*

buddha-vacana 甲 仏陀の語, とくに仏教聖典; 漢訳 (音写) 仏説, 仏所説, 仏言, 仏語, 真仏語, 諸仏語言; 仏教, 仏正教, 仏聖教, 仏正法 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Lan̄k. Śikṣ., Sūtr.*; 内明 *Bodh-bh. 103.*

buddha-vajra-saṃdhāraṇa-saṃdhi 男 漢訳 持賞金剛和 *Mvyut.*; (音写) 任持仏金剛結 *Mvyut.*

buddhāvati 女 漢訳 (音写) 仏慧 *Śikṣ.*

buddha-viṣaya 男 = **buddha-kṣetra**. 漢訳 如来境界 *Suv-pr.*; (音写) 仏境, 諸仏境, 仏境界, 仏之境界 *Sapt-pr., Śikṣ., Suv-pr.*

buddha-vihāra-samādhi 男 漢訳 (音写) 仏所住三昧 *Gaṇḍ-vy.*

buddha-śabda 男 漢訳 (音写) 仏音, 仏音声 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p.*; 仏名 *Gaṇḍ-vy.*

buddha-śarīra-prabhāvana 甲 漢訳 (音写) 得仏身 *Aṣṭ-pr.*

buddha-śāsana 甲 漢訳 (音写) 仏教, 仏聖教, 仏法 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Madhy-v.*

buddha-śrāvaka 男 漢訳 (音写) 仏弟子 *Aṣṭ-pr.*

buddhaśrāvaka-pratyekabuddha 男 漢訳 如来声聞縁覚; (音写) 仏声聞縁覚 *Lan̄k.*

buddha-saṃgīti 女 漢訳 [経の名] 正覚真正集聚経; (音写) 諸仏要集経 *Mvyut.*

buddha-samāgama 男 漢訳 如来衆会, 如来聖会 *Śikṣ.*

buddha-saṃpad 女 漢訳 (音写) 仏功德, 仏正法 *Gaṇḍ-vy.*

buddha-suta 男 漢訳 (音写) 仏子 *Lan̄k., Saddh-p.*; 菩薩 [bodhisattva の音写] *Rāṣṭr., Śikṣ.*

buddhasuta-bhūmi 女 漢訳 (音写) 仏子地 *Lan̄k.*

buddha-stotra 甲 漢訳 仏如来 *Sūtr.*

buddhāgama (°dha-āg°) 男 仏陀の教義.

buddhānkura 男 漢訳 菩提芽 [菩提は bodhi の音写] *Śikṣ. 159.*

buddhātma-ja (°dha-āt°) 男 漢訳 (音写) 仏子 *Sūtr.*

buddhādhiṣṭhāna 甲 漢訳 (音写) 仏像, 仏身 *Aṣṭ-pr.*

buddhānubhāva 男 漢訳 世尊威神力 *Aṣṭ-pr.*; (音写) 仏威神, 仏威神力, 仏威力, 仏神力, 仏神通力 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Suv-pr.*

buddhānuvarṇita 形 漢訳 (音写) 諸仏所説, (先) 仏所説 *Lan̄k.*

buddhānuśāsana 甲 漢訳 (音写) (諸) 仏教, (諸) 仏法 *Madhy-v.*

buddhānuśāsani 女 漢訳 (音写) 仏教 *Gaṇḍ-vy.*

buddhānusmṛti 女 仏陀を常に憶念すること (*Lal-v.*); 漢訳 (音写) 念仏, 仏念 *Bodh-bh., Dharm-ṣ., Lal-v., Rāṣṭr., Śikṣ., Sukh-vy. II., Sūtr., Suv-pr.*

buddhānusmṛti-mukha 甲 漢訳 (音写) 念仏門, *Gaṇḍ-vy.*

buddānta 男 目覚めている状態.

buddhābhijñāgra-samaya (°ñā-ag°) 男 漢訳 (音写) 仏最上三昧通力 *Guhy-s.*

buddhālaṃkāra-vyūha 男 漢訳 [Samādhi の名]; (音写) 仏莊嚴 *Lal-v.*

buddhālaṃkāradhiṣṭhitā 形 女 漢訳 (音写) 仏嚴授受, 諸仏莊嚴神変 *Mvyut.*

buddhāvataṃsaka 男 または 甲 (?) 漢訳 [経の名] 大法華経; (音写) ((仏陀華嚴), 大方広仏華嚴経 *Mvyut.*

buddhāśaya (°dha-ās°) 男 漢訳 (音写) 仏心, 仏意 *Sūtr.*

buddhāśraya (°dha-ās°) 男 漢訳 (音写) 仏身 *Guhy-s.*

buddhi 女 知能, 理解力, 理性, 知性, 精神; 識別, 判断; 沈着, 機知; 知覚; 会得; 意見, 見解; 信仰, 確信; 想定; (因) に関する思案; (一° 例 憐愍) の感情; 正しいまたは合理的な見解; (因) に関する反省または瞑想; 意向, 目的 (真-buddhyā …の意向をもって, …するために); (一° 例 壁=そのものが壁であるとの) 印象・信念または概念; 漢訳 大覚, 覚慧, 覚悟, 覚解, 覚知, 知覚, 開覚, 勝覚慧, 慧, 正慧, 真慧, 勝慧, 智, 智慧, 勝智慧, 知, 意, 思, 解, 悟, 想, 心, 胸意, 智意, 曉了, 通達 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Daś-bh., Lan̄k., Madhy-bh., Madhy-ribh., Mvyut., Nyāy-pr., Sāṃkhy-k., Sam-r., Śikṣ., Sūtr., Vaiś-s.* → *alpa* ~. ~yā 男 (一°) …と考えて, …と信じて (例 虎=虎であると信じてまた獲得=あるものを獲得したと考えて). ~ṃ Kṛ (不定, 因, prati+行作 蜀 の 蜀) を決心する. ~ṃ pra-Kṛ (ある人に) 意向を説明する, 決心する, 決定する.

buddhika 男 漢訳 [竜王の名] 具意 *Mvyut.*

buddhi-kāri 女 [ある王妃の名].

buddhi-kṛt 形 (一°) の考えを生じる, …と臆測する.

buddhi-kṛta 形 賢明に行動した.

buddhi-gamya 形 知能によって感知されるべき, 理解できる.

buddhi-grāhya 形 [同上]; 漢訳 覚慧取, 知慧所了 *Abh-vy.*

buddhi-cintaka 形 賢く考える.

buddhi-jivin 形 知能によって生計を立てる.

buddhi-tattva 甲 理性の諦 (tattva) [*Sāṃkhya* において根本 *Prakṛti* から生じる].

buddhin 形 漢訳 意 *Saddh-p.* → ~kṛpā.

buddhi-nāsa 形 知能を失った.

buddhi-pūrva 形 あらかじめ考えた, 故意の. ~ṃ 蜀 故意に.

buddhi-pūrvaka 形 [同上 形]. ~ṃ 蜀 [同上 蜀].

buddhi-prabha 男 [王侯の名].

buddhi-pravicaya 男 漢訳 智慧観察, 以智觀察, 如実観察 *Lan̄k.*

buddhi-prāgalbhi 女 判断の健全さ.

buddhi-bheda 男 精神錯乱.

buddhimat 形 理解力のある; 鋭敏な, 賢い; 漢訳 具智, 具覚, 覚者 *Daś-bh., Mvyut.*

buddhi-matīkā 女 [人名].

buddhimattara 比較 さらに賢い, 非常に賢い.
 buddhimattā 因 漢訳 得覚 Sūtr.
 buddhimattva 因 知慧; 漢訳 有覚悟 Sūtr.
 buddhimaya 形 (因 -i) 知能からなる.
 buddhi-moha 男 乱心.
 buddhi-yukta 形 知能に恵まれた, 理解力のある.
 buddhi-yoga 男 理性による精神統一, 心の修練; 最高精神との知的合一.
 buddhiyogamaya 形 (因 -i) 心の修練から生じる; 最高精神との知的合一から生じるまたはなる.
 buddhi-lāghava 中 判断の軽薄または軽卒なこと.
 buddhi-vadha 男 漢訳 智害 Sāmkhy-k.
 buddhi-vara 男 [Vikramāditya の大臣の名].
 buddhi-varjita 形 理解力の欠乏した, 愚かな.
 buddhi-vināsa 男 知力の喪失, 理解力の不足.
 buddhi-vibhrāmaṇa 形 漢訳 迷覆知覚 Śikṣ.
 buddhi-vivardhana 形 知力の増大する.
 buddhi-visphuraṇa 男 [ある Samādhi の名] (Kārvy).
 buddhi-vrddhi 因 知力または知恵の増大.
 buddhivṛddhi-kara 形 知力または知恵を増大させる.
 buddhi-śarira 男 [人名].
 buddhi-śastra 形 知恵で武装した.
 buddhi-śālin 形 知力をもつ, 理解力のある, 賢い.
 buddhi-śuddha 形 目的の純粋な.
 buddhi-śuddhi 因 知性を清めること.
 buddhi-śri-garbha 男 [ある菩薩の名].
 buddhi-śreṣṭha 形 最上 知力によってもっとも優れた. ~āni karmāni 理性によるがゆえにもっとも勝れている行為.
 buddhi-saṃyoga 男 = buddhi-yoga.
 buddhi-saṃpanna 形 知力に恵まれた, 理解力のある, 賢い.
 buddhi-saṃmita 形 理性によって均衡を得た.
 buddhi-sāgara 男 [諸人の名].
 buddhiskandhamaya 形 (因 -i) 幹が理性からなる.
 buddhi-stha 形 心に現存する, 意識した.
 buddhisthatva 中 [同上 因].
 buddhi-hīna 形 理解力を欠いた, 鈍才の.
 buddhi-hinatva 中 理解力の不足, 愚鈍.
 buddhindriya 中 知覚器官; 種 聴・視・触・味・嗅の五器官; 漢訳 知根 Sāmkhy-k.; (種) 五意根, 五知根 Mṛyut.
 buddhokta-saṃsārāmaya (°dha-uk°, °ra-ām°) 男 [仏典の題名].
 buddhotpāda (°dha-ut°) 男 漢訳 如来出生; (音写) 仏興, 仏出世, 諸仏出興 (於世), 仏出現於世, (世間) 有仏興出 Bodh-bh., Madhy-bh., Saddh-p., Śikṣ.: ~ārāgaṇa 得値仏恭敬供養, 事諸仏 Madhy-bh. 62.
 buddhopāsaka (°dha-up°) 男 仏陀の帰依者.
 buddhopāsikā (°dha-up°) 女 仏陀の女帰依者.
 buddhy-adhika 形 理解力に優れた, 一層賢明な.
 budbuda 男 泡 [無常の象徴]; 受胎後五日間を経た胎児; 漢訳 泡, 水泡, 水中泡, 水沫 Divy., Mṛyut., Śucik-pr., Vajr-pr., 梵雑. → udaka ~ ph-

ena.

budbudaka 男 漢訳 泡 Lanik.

budbudā 女 [ある Apsaras の名].

budbudākṣa 形 漢訳 目如水泡, 浪 Mṛyut.

Budh, I. 他 bodhati [因 に通常の形]; IV. 自 [韻律

はまた他] budhyate (-ti) [属 に通常の形, 叙述は

ほとんどのこの形に一定] 目覚める [また 暁の譬喩];

意識を回復する; 目覚めている, 眠らないでいる;

気づく, 親しく知っている; (属) に注意する, …に留意

する; 知覚する, 理解する, 学ぶ, 知る; (業) を

(業) であると思ふまたは認める; (業) を (業) である

と思ふまたは見なす; (ある人について) 考える = (真)

を贈与する (因); 目覚ます, 覚醒させる; 漢訳 覚, 能

知, 了知; 成, 成仏 Lanik., Saddh-p. 過受分 buddha

→ buddha. 使役 他 bodhayati 目覚ます, 覚醒

させる; 復活させる, 蘇生させる; (花を) 開かせる,

(芳香を) 生ぜしめる; 想起させる, 思い出させる,

訓戒する; (ある人の) 注意をひく; 正気に帰らせる;

(業) を (業) に知らせる・伝達する または報道

する; (業) を (業) に教え込むまたは親しませる;

理解させる, 会得させる. 使役 過受分 bodhita

(因) を教えられた; (prati) について教え込まれた.

希求 自 bubhutsate 知りたいと思う. 強意 他 bo-

budhiti (業) を十分に理解する.

anu- IV. 自 気づく, 学ぶ; 考慮する, 留意する;

漢訳 知, 覚知, 随覚 Daś-bh., Madhy-vibh. 使役

anubodhayati 思い出させる, 教え込む.

abhi- 漢訳 証, 証得, 解; 成就 Aṣṭ-pr., Lanik.

Rāṣṭr.

ava- IV. 自 目覚める; 知覚する, 注目する; 知

る, 理解する; 漢訳 覚, 覚了, 能覚, 知覚, 知, 了,

了知, 解 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Lanik., Sad-

dh-p., Śikṣ.; 得菩提 [菩提は bodhi の 音写] La-

nik. 25. pratibalaḥ syād avabodddhum 能覚 Bodh-

bh. 180. 使役 avabodhayati 目覚ます, 覚醒さ

させる; 想起させる; 理解させる; 教え込む. 希求

avabubhutsate 知りたいと思う.

sam-ava- 気づく, 学ぶ.

ā- I. 他 …に留意する (RV. 用例一回のみ); 漢訳 覚,

妙覚, 能覚知 Aṣṭ-pr.

ud- 目覚める. 過受分 udbuddha 開いた, 花咲い

た; 明示された.

praty-ud- 過受分 pratyudbuddha 目覚めた.

sam-ud- 使役 samudbodhayati 喚起する, 覚醒さ

せる.

ni- I. 他 (属) に留意する, 注意する (因); [他の用法

は常に 三人 属 (種) 命], 他 (属) または 自 (叙述

まれに) (業) を聞く, …を学ぶ; (ある人業) を (業)

であると思ふまたは理解する.

使役 nibodhayati 漢訳 諦聴 Lanik.

sam-ni- I. 他 [ただ 三人 属 (種) 命のみ] (業) を

学ぶ, …に注意する.

pari- 漢訳 能解 Saddh-p.

pra- IV. 自 目覚めるまたは目覚まされる; (花が) 開

く; I. 他 (業) を…であると思ふ; 漢訳 覚 Lanik.

過受分 prabuddha 目覚めた; 咲いた (花); 展開さ

れた、顕現された；効果を顕わしはじめた(呪文)；認められた；開悟した(精神)；慧眼の；賢い。使役 **prabodhayati** 目覚めさせる、覚醒させる；(花)を開かせる；告げる；勧告する；(業)に(業)を教える、知らせる；**能開悟 Bodh-bh.**

anu-pra- 使役 **anuprabodhayati** 想起させる。

vi-pra- 過受分 **viprabuddha** 目覚めた。使役 **viprabodhaya-** 議論する。

sam-pra- IV. 目 (呪文が) 効果を顕わし始める。

過受分 **samprabuddha** 目覚めた。使役 **samprabodhayati** 目覚めさせる、覚醒させる；説得する；議論する。

prati- IV. 目 目覚める；(花)が開く；(業、屬)を知覚する、…に注目する；**覚、覚悟、寤、知** *Ast-pr., Lal-v., Lan̄k., Sapt-pr.* 現分 **pratibudhya-māna** 再び目覚める；**寤 Bodh-bh.** 過受分 **pratibuddha** 目覚めた[また暁について]；開悟した(人・精神)；認められた、許された。使役 **pratibodhayati** 目覚めさせる、覚醒させる；教え込む、教授する、開悟させる。

vi- IV. 目 目覚める；聞く、学ぶ；**覚、覚寤、寐寤、悟** *Abh-vy., Daś-bh., Lan̄k., Rāṣṭr.* 過受分 **vibuddha** 目覚めた；開いた(花)；(因)において開悟した、…に賢明な、…に経験のある。使役 **vibodhayati** 目覚めさせる、覚醒させる；意識を回復させる、教授する；本心に帰らせる；明示する、表明する(*Jāt-m.*)

prati-vi- **覚、驚寤** *Lan̄k., Sv-pr.*

sam(m)- IV. 目 目覚める；知覚する、気づく、認める；**成等正覚** *Lan̄k.* 現分 **sambodhyamāna** 意識して行なう。過受分 **sambuddha** 理解力のある、賢い、知覚された、認められた。使役 **sambodhayati** 目覚めさせる、眠りから起す[また**譬喩**]；(業)に(業)を教え込む、教授する、開悟する；話しかける。

abhi-sam(m)- IV. 目 全く目覚める、十分に(知識を)把握する(*Kār-vy.*)；十分に理解されるまたは認められる(*Vajr-pr.*)；**覚、覚了、当現等覚、現満成仏、得大菩提、証菩提、証仏菩提**[菩提は *bodhi* の音写]；証、能証、証得、証覚、現証、速証；得、阿惟三仏法得[阿惟三は *abhi-sam* の音写] *Ast-pr., Bodh-bh., Lan̄k., Mvyut., Sapt-pr., Sukh-vy. II., Vajr.*；[*samyak-sambodhin* とともに]最高の完全な知識を得る(*Sukh-vy. I.*)。過受分 **abhisambuddha** 開悟した；(因)に精通した；全く理解された(*Kār-vy., Vajr-pr.*)；十分に認められた(*Vajr-pr.*)。

prati-sam- 過受分 **pratisambuddha** 意識を回復した。

budha 1. 語根 *Budh* (文法)。

budha 2. 形 理解力のある、伶俐な、賢い；**智、明智、覚** *Abh-vy., Lan̄k., Sūtr.* → a~。男 知者、賢人、聖者；神；[*Soma* の子の名]=水星；諸人の名]；**悟、慧者、智者** *Bodh-c., Buddh-c., Śikṣ.*；水星、水大曜、辰星 *Divy., Mañj-m., Mvyut.*

udhaka 男 [人名]。

budha-dina 田 水星の日、水曜日。

budha-vāra 男 [同上]。

budha-svāmin 男 [*Bṛhatkathā-śloka-saṃgraha* の作者の名]。

budhāna 三過 分 (RV.) 目覚めた、眠りからさめた；留意された。

budhna 男 田 底、深さ、最も低い部分；容器の底；樹木の最下部；根。

budhnya 形 深みから来るまたはに属する。男 [多くの場合 *ahi* とともに, RV.] 深淵の蛇(神名)；[叙詩では *Ahir-budhnya* は *Śiva* 神の称またはある *Rudra* の名とされる]。

bunda 男 矢 (RV.)。

bubodhayiṣu (希求 使役) 形 (業) を教え込もうと欲する、正気に返らそうと望む。

bubhukṣā 女 (一°) を享受しようとする；食おうとする欲望、食欲；**飢餓**；**飢、飢饉** *Mvyut., Śikṣ., 梵千.*

bubhukṣā-kāntāra 男 **饑饉、飢饉、飢饉難** *Ast-pr., Śikṣ.*

bubhukṣāpanayana (°sā-ap°) 男 飢餓をいやすもの、食物。

bubhukṣita (希求) 過受分 [BHuj] 飢えた、餓死せんとする；**飢、饑、飢饉、飢者、患飢、甚飢渴** *Ast-pr., Av-ś., Daś-bh., Divy., Lal-v., Śikṣ., Sv-pr., 梵雜.*

bubhukṣu (希求) 形 飢えた；(現世の)享樂を欲する[終局の解脱を欲するの 詞]。

bubhutsā 女 (業、一°) を知ろうとする欲望。

bubhutsita (希求 過受分) 田 知ろうとする欲望、知識欲。

bubhutsu (希求) 形 (一°) を知ろうと欲する；せんさく好きな；(すべてを)知ろうと欲する[諸神の称]；**欲得** *Lan̄k.*

bubhūrṣā (希求) 女 (屬) を支持しようとする。

bubhūrṣu (希求) 形 (一°) を支持しようとする。

bubhūṣaka 形 (屬、一°) の安寧を欲する。

bubhūṣā (希求) 女 存在欲、生存欲。

bubhūṣu (希求) 形 力を得ようとする、有力になろうと欲する；(困)となろうと欲する；(ある人の)安寧を願う。

buruḍa 男 籠または蓆の製造者。

Bul, X. 田 **bolayati** 水中に入らせる、沈ませる；沈む、水中に飛び込む、水中に飛び込んで再び浮び上る。

buli 女 女陰；尻；**肛門** [*Tib. rkub*] *Mvyut.*

bullā 男 [人名]。

buśa [busa の 詞]。

buṣa [同上]。

busa 田 蒸気、霧(RV.)、屑、廢物；**糠** *Mvyut.*

busa-plāvi 女 **麦糠** *Divy.*

Bṛm̥h → *Barh, Vṛm̥h.*

br̥mhaṇa 形 肥えさせる、養う；**脂腹** *Lalv.* 田 肥えさせること、元気づけること。

br̥mhaṇatva 田 強くする性質。

br̥mhaṇiya 形 肥えさせる, 養う。
 br̥mhayitavya 未受分 強くされるべき。
 br̥mhayitr̥ 形 力づける, 増大する; 円満, 増長…者 *Mvyut.*
 br̥mhita 1. 過受分 → Barh 2. 増長 *Śikṣ.*
 br̥mhita 2. 過受分 → Barh 3. 甲 (象が)ラッパのよ
 うな声を発すること; (獅子の)咆哮。
 -br̥gala 甲 一片, 小片。
 br̥dha 過受分 → Barh 1.
 br̥bu 男 [人名]。
 br̥saya 男 [ある悪神の名] (RV.).
 br̥sikā 女 ふとん; 袋 *Mvyut.*
 br̥si 女 編んだ草の一巻き, 枕, 蒲団とくに修行者ま
 たは苦行者の敷物。
 Br̥h, → Barh 1. 2. 3.
 br̥h, → br̥haspati.
 br̥hac-cāṇakya 甲 [*Cāṇakya* に帰せられる箴言集の
 一種]。
 br̥hac-chandas 形 高い屋根をもつ。
 br̥hac-charira (°at-śa°) 形 大きな身体をもつ, 丈の
 高い。
 br̥hac-chuka (°at-śu°) 男 きつつき (の一種)。
 br̥hac-choka (°at-śo°) 形 大いに悩まされた。
 br̥hac-chravas (°at-śr°) 形 高く響いた; 周知の。
 br̥hac-chloka 形 (°at-śl°) 周知の。
 br̥haj-jaghana 形 腰 または下肢の大きな。
 br̥haj-jyotis 形 高らかに輝く。男 [*Brahman* 神の孫
 の名]。
 br̥hat-ṭika 男 [人名]。
 br̥hat 現分 → Barh 2. 形 (女 -i) 高い, そびえる,
 長い, 丈高い, 広大な, 豊富な, 広範囲の; 多くの;
 強い, 強力な; 大きな, 広い, 偉大な [すべての
 意味で譬喩]; 十分に成長した, 老いた; 広がった,
 輝く(光); 高い, 強い, 明瞭な(音); 大, 広
Abh-vy., Mañj-m. 副 広く, 高く; 密に, しっかり
 と; 明るく; 高声に; 力強く; 非常に。甲 高さ;
 [Br̥hati の韻律形式をもつ種々の *Sāman* の名]。
 男 または 甲 言語 (br̥hatām patih = *Br̥haspati*)。
 br̥hatikā 女 上衣, 外套。
 br̥hatī 女 [三十六音節の韻律の一種 (8+8+12+8);
 後にはすべての三十六音節の韻律にこの名を与え
 る]; 三十六(なる数); [諸人の名]。
 br̥hat-kathā 女 [*Guṇādhyā* が *Paiśaci* 語で書いた物
 語集(散佚)。Somadeva の *Kathāsaritsāgara* およ
 び *Kṣemendra* の *Br̥hatkathāmañjarī* (ともに 11世
 紀) はこれのカシュミール伝本に基づく短縮本]。
 br̥hatkathā-śloka-saṃgraha 男 [*Budhasvāmin* 作
 の物語集, *Guṇādhyā Br̥hatkathā* のネパール伝
 本に基づく]。
 br̥hat-kapola 形 頬の豊かな。
 br̥hat-karman 男 [諸王侯の名]。
 br̥hat-kāya 男 [*Br̥had-dhanus* の息子の名]。
 br̥hat-kirti 形 名高い。男 [*Brahman* 神の孫の
 名]; [ある *Asura* の名]。
 br̥hat-ketu 形 旗を高く掲げる (*Agni*) (RV. 用例一回
 のみ)。男 [人名]。

br̥hat-kṣatra 男 [王侯の名]。
 br̥hat-tṛṇa 甲 強い草。
 br̥hat-tejas 男 (偉大な輝きの), 木星。
 br̥hattva 甲 大きいこと, 広大な広がり。
 br̥hat-pāda 形 足の大きな。
 br̥hat-pr̥ṣṭha 形 *Br̥hat-sāman* を第一 *Pr̥ṣṭha-stotra*
 としてもつ。
 br̥hat-phala 男 種 [仏教所伝の天の一階級の名];
 広果, 広果天, 果実天 *Abh-vy., Bodh-bh.,*
Dharm-s., Gaṇḍ-vy., Mvyut. 形 大きな果実をも
 つ, 大きな利益または報酬をもたらす, 長い尖端をも
 つ(矢)。
 br̥hat-saṃhitā 女 [*Varāhamihira* 作の天文学および
 占星術に関する著書の題名; その他の書物の題名]。
 br̥hat-sahāya 形 有力な伴侶をもつ。
 br̥hat-sāgara-nāga-rāja-paripṛcchā 女 [経の
 名] (音写) 娑伽羅竜王所問経 *Śikṣ.*
 br̥hat-sāman 甲 [*Sāman* の名]。形 *Br̥hat-sāman*
 で歌われる。男 [ある *Āṅgīraṣa* の名]。
 br̥hat-sena 男 [諸王侯の名]。
 br̥hat-senā 女 [*Damayanti* の乳母の名]。
 br̥hat-sphij 男 [人名]。
 br̥had-aṅga 形 身体の大きな。
 br̥had-aśva 男 [*Nala* 王物語を *Yudhiṣṭhira* に語っ
 た聖仙の名]; [諸人の名]。
 br̥had-āra 男 [=br̥had-ara (?), *Asura* の名]
 大輻 *Mvyut.*
 br̥had-āraṇyaka 甲 [*Śatapatha-br̥hmana* の最終巻
 最後の六節を成している *Upaniṣad* の題名]。
 br̥hadāraṇyakopaniṣad (°ka-up°) 女 *Br̥had-āraṇ-*
yaka 奥義書。
 br̥had-iṣu 男 [諸人の名]。
 br̥had-uktha 形 名声のある。男 [*Tapas* の子であ
 るある *Agni* の名]; [諸人の名]。
 br̥had-ṛju-gātra 形 [三十二相の一] 身臚直,
 得身臚相, 身分洪直 *Bodh-bh.*
 br̥hadṛjugātratā 女 [三十二相の一] 身臚相,
 身臚直相, 身分洪直 *Bodh-bh.*
 br̥had-garbha, [*vṛṣa-darbha* の誤]。
 br̥had-guru 男 [人名]。
 br̥had-diva 形 高天に属する, 天の。男 [*Atharvan*
 の息子で *R̥g-veda* X. 120 の作者の名]; *Br̥had-*
diva の(作った)讃歌。
 br̥had-devatā 女 [*Śaunaka* に帰せられる韻文の *An-*
ukramaṇī の一種, *R̥g-veda* の神名を挙げ神話を
 添えている]。
 br̥had-dyuti 形 明るく輝いている。
 br̥had-dyumna 男 [王侯の名]。
 br̥had-dhanus 男 [同上]。
 br̥had-dhvanī 女 [河の名]。
 br̥had-bala 男 [二人の王侯の名]。
 br̥had-brahman 男 [*Brahman* 神の孫の名]。
 br̥had-bhānu 形 偉大な輝きの。男 [ある *Agni* の名];
 [*Viṣṇu* 神の一形体の名]; [*Kṛṣṇa* の息子の名];
 [王侯の名]。
 br̥had-bhāsa 男 [*Brahman* 神の孫の名]。

bṛhad-bhāsā 因 [太陽神の娘で Agni Bhānu の妻の名].

bṛhad-raṇa 男 [王侯の名].

bṛhad-ratha 男 (大きな車をもつ), 勇者 (RV. 用例一回のみ); [諸人の名].

bṛhad-rathamtara 因 因 Bṛhat-sāman および Rathamntara-sāman.

bṛhad-rayi 形 巨大な富をもつ (RV. 用例一回のみ).

bṛhad-vadha 男 諸種の殺害; 婆羅門を殺すこと.

bṛhad-vādin 形 自慢する. 男 ほら吹き.

bṛhad-vrata 因 (純潔の)大誓戒. 形 (純潔の)大誓戒を執行する.

bṛhan-nala 男 背の高い葦 (の一種). 男 または 因 (-ā) [Arjuna が宦官またはふたなり(男女両性をそなえたもの)として Virāta に仕えたときに用いた名].

bṛhan-nalā 因 → bṛhan-nala.

bṛhan-niveśa 形 広大な, 大きな, 突出した.

bṛhan-manu 男 Manu 法典を拡大した書物の名 [引用によって知られる].

bṛhas-pati 男 [(祈禱主), 神名; 隕においては知恵と雄弁の神で, Niti-sāstra その他の諸書の作者と称せられる]; 木星; [諸人の名]; 漢訳 木星, 木大曜 Muñj-m., Mvyut.

bṛhas-patimat 形 Bṛhaspati 神に伴われた.

bṛhaspati-misra 男 [Raghuvaṁśa の註釈家の名].

bṛhas-pativat 形 = bṛhas-patimat.

bṛhaspati-sava 男 [ある 祭式の名].

baijika 形 種 (bija) に関する, 種から出た, 精液の; 自己の父から継承した (罪); 売姪に関する.

baidāla 形 (因 -i) 猫に特有な, 猫の.

baidāla-vratika 形 猫の様態に従う, いつわりの, 猫かぶりの [= bhaṇḍa-tapasvin].

baidāla-vratin 形 [同上].

baida 男 [Bida からの 父系].

baidala, → vaidala.

baimbika 男 (Bimba のような唇に耽溺した人), 情人, 愛人.

bailma-vega-rudra 男 種 [Śiva 派苦行者の一類の名] (Kār-vy.).

bailva 形 Bilva 樹から生じた, Bilva 材で作製した.

baiṣka 因 (?) 猛獣またはわなによって殺された獣の肉.

baihinari 男 また vaih° [bahinara に由来する 不規 父系]; [ある侍従の名].

boddhavya 未受分 顧慮されるべき; 注目または注意されるべき, 考察・理解または会得されるべき; 知られるべき; 認められるべき; 啓発または教授されるべき; 通告されるべき. 因 非人 寝ないでいるべきである, 覚醒しているべきである; 漢訳 応覚, 応知, 応憶, 有所覚了 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Sūtr.

bodhr 男 知覚または会得する人; 知る人; (因) に通曉した者; 漢訳 覚, 解, 了達 Mvyut., Sūtr.

bodha 形 理解する, 知る. 男 目覚めていること, 覚醒状態, 意識; (花の)開くこと, 咲くこと; (香気を)呼び起すこと; (呪文の)有効となり始めること; 会得, 知識, 理解; 表現; [人名]; 漢訳 覚, 知 Sūtr.; 音写 菩提 Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Madhy-v.,

Sukh-vy. I.; [人名] 浮因 Divy.: ~āya 為証菩提 Bodh-bh. 373; ~āya praṇidadhāti 発菩提心, 発菩提心出生大願 Gaṇḍ-vy. 121.

bodhaka 形 (因 -ikā) 目覚ます, 眠りから起こす; 知らせる, 教える, 説明する; (一°)を表現する, …を指示する; 啓発する, 教授する. 男 教師, 教授者; [人名].

bodha-dhiṣaṇa 男 知識を精神とする人.

bodhana 形 (因 -i) 目覚めさせる + なわち (花を)咲かせる; 起す, 呼び起す; 知らせる, 通告する, 教える. 男 水星 因 目覚めること, 覚醒すること; 知覚, 理解, 知識; 喚起; (呪文)を有効ならしめること; 知覚または理解させること; 教授, 通告, 啓発; 表現, 指示; (Durgā が)目覚める日 [Bhādra 黒月の第九日]; 漢訳 覚, 解 Abh-vy., Sūtr. → gati ~.

bodhani 因 (Viṣṇu 神が)目覚める日 [Kārttika 白月の第十一日].

bodhaniya 未受分 勧告されるべき; 理解されるべき; …と見なされるべき.

bodha-pūrvam 副 知って, 意識して, 故意に. → a~.

bodhamaya 形 (純粹の)知識からなる.

bodhayitavya 未受分 (業)を通告されるべき.

bodhayitr 男 覚醒させる者, 教師.

bodhayiṣṇu 形 覚醒させたいと思う.

bodhavya 未受分 漢訳 所覚, 所見, 可見 Lank.

bodhāśraya (°dha-ās°) 男 漢訳 依覚 Sūtr.

bodhi 1. [Budh および BHū の 命 三過 三人 單].

bodhi 2. 因 男 (完全な)開悟 [これを得ることによって Buddha または Jina となる]; 漢訳 覚, 道, 得道 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Bodh-c., Divy., Gaṇḍ-vy., Lank., Madhy-bh., Madhy-vibh., Saddh-p., Sūtr., Suv-pr.; 音写 菩提 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Bodh-c., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Lal-v., Lank., Madhy-bh., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Sapt-pr., Śiks., Sukh-vy. I.: ~ḥ prāptayyā 必得…菩提 Madhy-bh. 32. ~er āśrayāṅgam 覚所依支, 覚依止分 Madhy-bh. 53. 男 菩提樹 [仏陀はこの樹下において成道した, 学名 Ficus religiosa]; [前生における Buḍḍia の一名称] (Jat-m.); 漢訳 菩提樹 Divy., Lal-v.; 種 [住民の名].

bodhi-guṇa 男 漢訳 道功德 Suv-pr.

bodhi-cari-pada 因 漢訳 (音写) 菩提行句 Guhy-s.

bodhi-cari 因 漢訳 (音写) 菩提妙行, 菩薩行 [菩薩は bodhisattva の音写] Gaṇḍ-vy.

bodhi-carya 因 漢訳 (音写) 菩提行 Bodh-c.

bodhi-caryā 因 漢訳 (音写) 菩提行 Rāṣṭr.

bodhicaryā-gatiṃ-gata 形 漢訳 (音写) 究竟菩提行, 能集菩提行; 究竟菩薩道 [菩薩は bodhisattva の音写] Gaṇḍ-vy.

bodhicaryāvatāra (°yā-av°) 男 [仏典の名: Śānti-deva 作菩提行経].

bodhicaryāvatāra-pañjikā 因 [同上の注釈, Prajñā-karamati 作].

bodhi-cārika 形 漢訳 音写 菩提行 *Sam-r.*
 bodhi-citta 中 漢訳 覺心 *Bodh-c.*; (音写) 菩提心 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Lal-v., Madhy-bh., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr.*
 bodhicitta-pravartaka 形 漢訳 (音写) 從菩提心轉 *Guhy-s.*
 bodhicitta-vajra 男 漢訳 [仏の名] (音写) 金剛菩提心 *Guhy-s.*
 bodhicitta-vivarāṇa 中 [仏典の名, *Nāgārjuna* 作].
 bodhicittāṅga-pariśodhana 形 漢訳 (音写) 淨菩提心枝 *Gaṇḍ-vy.*
 bodhicittāsampramoṣa 男 漢訳 (音写) 不妄菩提心, 不忘菩薩心 [菩薩は *bodhisattva* の音写] *Mvyut.*
 bodhicittotpāda (°ta-ut°) 形 漢訳 發願, (音写) 發菩提心 *Dharm-s., Madhy-bh., Sūtr.*
 bodhita 使役 過受分 知らしめられた等 → *Budh.*
 bodhitavya 未受分 知らされるべき, 伝達されるべき.
 bodhi-druma 男 漢訳 覺樹 *Gaṇḍ-vy.*; (音写) 菩提樹 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*
 bodhidrumendra (°ma-in°) 男 漢訳 覺樹王; (音写) 菩提樹王, 菩提大樹王 *Gaṇḍ-vy.*
 bodhidrumendra-niṣaṇṇa 形 漢訳 (音写) 菩提樹下坐, 坐菩提樹王下 *Gaṇḍ-vy.*
 -bodhin 形 注目する, 留意する; 知る; 知らせる, 知覚させる; 目覚めさせる, 啓発する.
 bodhi-pakṣa 男 漢訳 覺分, 道品, 助道, *Aṣṭ-pr., Divy., Lal-v., Lanḱ., Madhy-vibh., Sūtr.*; (音写) 菩提分, 助菩提, 菩提方 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Lanḱ., Madhy-vibh., Mvyut.* : *saptatrimśad ~ ā dharmāḥ* 三十七菩提分法 *Aṣṭ-pr. 234.*
 bodhipakṣa-dharma 男 菩提に属する特性 (*Lal-v.*); 漢訳 助道法, 道品法 *Aṣṭ-pr., Divy., Lal-v.*; (音写) 菩提分法, 助菩提法 *Aṣṭ-pr., Divy., Lal-v.*
 bodhipakṣa-nirdeśa 男 漢訳 [経の名] (音写) 指示菩提分, 真示菩提方, 現示菩提行 *Mvyut.* [大乘善見变化文殊師利問法経].
 bodhi-pakṣika 形 菩提に属する (*Saddh-p.*); 漢訳 助道, 道品 *Saddh-p.*; (音写) 菩提分 *Bodh-bh., Sapt-p.*: *sapta-trimśad ~ ā dharmāḥ* 三十七品助道法, 三十有七道品之法 [1. *catvāri smṛtyupasthānāni* 四念処, 2. *catvāri samyak-prahāṇāni* 四念断, 3. *catvāra ṛddhipādāḥ* 四神足, 4. *pañcendriyāṇi* 五根, 5. *pañca balāni* 五力, 6. *sapta bodhy-aṅgāni* 七菩提分, 7. *āryāṣṭāṅgika-mārgaḥ* 八聖道] *Dharm-s., Saddh-p. 458.*
 bodhi-pakṣya 形 漢訳 道分, 覺分, 助道, 助道品法, 道品 *Bodh-bh., Madhy-bh.*; (音写) 菩提分 *Bodh-bh., Madhy-bh., Śikṣ.*
 bodhipakṣya-caryā 女 漢訳 (音写) 菩提分行, 菩提分(法)行 *Bodh-bh.*
 bodhipakṣya-dharma 男 漢訳 (音写) 菩提分法 *Bodh-bh.*
 bodhi-patha 男 漢訳 (音写) 菩提道 *Rāstr.*
 bodhi-paricārika 形 漢訳 (音写) 護菩提樹 *Lal-v.*

bh.

bodhi-pariṇamita 形 漢訳 廻向菩提 *Bodh-bh.*
 bodhi-pariṇāmanā 女 漢訳 (音写) 廻向菩提 *Madh-bh., Madhy-vibh.*
 bodhi-pariṇiṣpatti 因 完全な開悟 (*Sukh-vy. I.*)
 bodhipariṇiṣpatty-upagata 形 漢訳 得涅槃者 [涅槃は *nirvāṇa* の音写] *Aṣṭ-pr. 746.*
 bodhi-pākṣika 形 漢訳 道品 *Lanḱ.*; (音写) 菩提分, 助菩提 *Daś-bh., Lanḱ.*
 bodhipākṣika-dharma 男 漢訳 (音写) 菩提分法, 助菩提法 *Daś-bh.*
 bodhi-prakṛtika 形 漢訳 (音写) 有菩提之性 *Sapt-pr.*
 bodhi-praṇidhi-citta 中 漢訳 (音写) 願菩提心 *Śikṣ.*
 bodhi-prasthāna-citta 中 漢訳 (音写) 住菩提心 *Śikṣ.*
 bodhi-prasthita 形 漢訳 (音写) 行菩提行 *Gaṇḍ-vy.*
 bodhi-prāptu-kāma 形 漢訳 有欲証…菩提 *Madhy-bh.*
 bodhi-bala 中 漢訳 (音写) 菩提力 *Mvyut.*
 bodhi-bīja 中 漢訳 覺因 *Sūtr.*
 bodhi-bhājani-bhūta 形 菩提を部分的に得た (*Lal-v.*).
 bodhi-maṇḍa 男 または 中 (?) 開悟の座 [釈尊が成道した菩提樹下にあり, 地から昇起したという]; 漢訳 [Tib. *byañ chub kyi sñiñ po*] 道場, (最勝) 道場, 覺樹道場, 道樹下, 仏樹下 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Saddh-p., Sam-r., Sukh-vy. I., Siv-pr.*; (音写) 菩提場, 菩提座, 妙菩提座, 菩提道場, 大菩提場, 菩提樹下, 菩提樹処, 菩提樹院, 道場菩提樹下 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lal-v., Mañj-m., Mvyut., Sapt-pr.* [maṇḍa を字義通りに解して] 妙菩提 *Mvyut.* ~ *smi niṣaṇṇa āsit* (韻律) 坐道場 *Saddh-p. 190.* ~ *e niṣaṇṇasya* 宴坐, 安処道場 *Aṣṭ-pr. 614.*
 bodhimaṇḍa-niṣadana 中 漢訳 極坐道場 *Sūtr.*; (音写) 坐菩提座 *Bodh-bh.*
 bodhimaṇḍa-parisāmantā-gata 形 漢訳 (音写) 在菩提樹院辺 *Aṣṭ-pr.*
 bodhi-maṇḍala 中 (仏陀)開悟の場所; 漢訳 道場 梵雜.
 bodhimaṇḍa-varāgra-gata 形 漢訳 詣道場, 詣覺樹坐於道場, 現往詣莊嚴道場, 坐道場; (音写) 坐菩提場 *Gaṇḍ-vy.*
 bodhimaṇḍa-sthita 形 漢訳 坐道場; (音写) 処菩提座 *Gaṇḍ-vy.*
 bodhi-mārga 男 漢訳 (音写) 菩提道 *Bodh-bh.*
 bodhi-mūla 中 漢訳 (音写) 菩提樹下 *Divy.*
 bodhi-yāna 中 漢訳 [悟りに導く乗物+なわち教え] 摩訶衍 [mahā-yāna (大乘)の音写] *Gaṇḍ-vy. 54.*
 bodhi-labhya 形 漢訳 成仏得; (音写) 菩提得 *Abh-vy.*
 bodhi-vaṭṭa 男 菩提樹; 漢訳 (音写) 菩提場 *Lal-v. 364.*
 bodhi-vara-citta 中 漢訳 無上道心 *Lal-v.*
 bodhi-vibodhana 中 漢訳 成仏 *Lal-v.*
 bodhi-vṛkṣa 男 漢訳 (音写) 菩提樹 *Lal-v., Saddh-p., Sūtr.*; 仏樹 *Saddh-p.*
 bodhivṛkṣa-devatā 女 漢訳 (音写) 護菩提樹神 *Lal-v.*

bodhivṛkṣa-mūla 中 𑖀𑖩𑖪 (音写) 仏樹下, 菩提樹下
Saddh-p.

bodhi-sattva 男 菩薩 [仏陀となる前の最後の段階にある仏教の聖者], 悟りを求める人; 𑖀𑖩 開士, 大士 *Daś-bh., Saddh-p.*; 音写 菩薩, 菩提薩埵 *Ast-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lan̄k., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Sapt-pr., Śikṣ., Sukh-vy. I., II., Sv-pr., Sūtr.* 等: ~ o mahā-sattvaḥ 菩薩摩訶薩 *Ast-pr. 386* 等; ~ h prapadyate 菩薩修行, 菩薩觀(空), 菩薩行 *Madhy-bh.*; 八大菩薩 [1. *Avalokiteśvaraḥ* 觀自在, 2. *Maitreyaḥ* 慈氏, 3. *Ākāśa-garbhaḥ* 虚空藏, 4. *Samanta-bhadraḥ* 普賢, 5. *Vajra-pāṇiḥ* 金剛手, 6. *Mañjuśrī-kumārabhūtaḥ* 妙吉祥法王子, 7. *Sarva-nivaraṇa-viṣkambhi* 除一切蓋障, 8. *Kṣiti-garbhaḥ* 地藏] *Mvyut.*

bodhisattva-gaṇa 男 𑖀𑖩 諸大士 *Saddh-p.*

bodhisattva-garbha 男 𑖀𑖩 (音写) 菩薩藏 *Gaṇḍ-vy.*

bodhisattva-gotra 中 𑖀𑖩 (音写) 菩薩種性, 菩薩種姓 *Bodh-bh., Madhy-vibh.*

bodhisattva-gotraka 男 𑖀𑖩 菩薩種性(法) *Madhy-bh.*

bodhisattva-caryā 女 菩薩の行為 (*Lal-v.*); 𑖀𑖩 (音写) 菩薩行, 菩薩所行, 菩薩道行, 菩薩所行之道, 菩薩道, 菩薩之道 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Saddh-p., Sukh-vy. I., Sūtr.*; 菩提道 *Madhy-v.*

bodhisattvacaryā-vaṃśa 男 𑖀𑖩 (音写) 菩薩行性 *Gaṇḍ-vy.*

bodhisattvacaryā-srotas 中 𑖀𑖩 (音写) 菩薩行流 *Gaṇḍ-vy.*

bodhisattva-cārika 形 𑖀𑖩 (音写) 菩薩行 *Ast-pr.*

bodhisattvatā 女 [bodhi-sattva の 𑖀𑖩]; 𑖀𑖩 菩薩体性 *Madhy-bh.*

bodhisattva-nyāma 男 [=°nyāma] 𑖀𑖩 (音写) 菩薩地 *Ast-pr.*

bodhisattva-pakṣa-nirdeśa 男 [仏典の名].

bodhisattva-parśad 女 𑖀𑖩 (音写) 菩薩衆 *Lan̄k.*

bodhisattva-piṭaka 中 𑖀𑖩 (音写) 菩薩藏 *Bodh-bh., Mvyut., Śikṣ., Sūtr.*; [経の名] 菩薩藏經 *Śikṣ.*

bodhisattva-prātimokṣa 男 𑖀𑖩 [仏典の名] (音写) 菩薩別解脱, 菩薩別解脱經, 菩薩別解脱戒 *Śikṣ.*

bodhisattva-buddhānusmṛti-samādhi 男 [仏典の名].

bodhisattva-bhūta 形 𑖀𑖩 (音写) 菩薩, 菩薩位 *Ast-pr., Bodh-bh.*

bodhisattva-bhūmi 女 𑖀𑖩 (音写) 菩薩地 *Bodh-bh., Lal-v., Madhy-bh.*; [仏典の名: 瑜伽師地論本地分菩薩地等].

bodhisattvabhūmy-avasthāna 中 𑖀𑖩 (音写) 住菩薩地 *Gaṇḍ-vy.*

bodhisattva-mahā-sattva 男 𑖀𑖩 (音写) 菩薩摩訶薩 *Lan̄k.*

bodhisattva-yānika 形 𑖀𑖩 (音写) 菩薩乘, 住菩薩乘, 求菩薩道者, 菩薩種性 *Ast-pr., Lal-v., Sapt-pr.*

bodhisattva-rūpa 中 𑖀𑖩 (音写) 菩薩形 *Saddh-p.*

bodhisattva-śikṣā 女 𑖀𑖩 学処 *Sūtr.*; (音写) 菩薩

学, 菩薩正所学 *Bodh-bh.*

bodhisattva-śīla-skandha 男 𑖀𑖩 (音写) 菩薩戒藏 *Bodh-bh.*

bodhisattva-saṃvara 男 または 中 𑖀𑖩 (音写) 菩薩戒 *Sūtr.*

bodhisattva-saṃcodanī 女 [ある光線の称] (*Lal-v.*).

bodhisattva-samavadhāna 中 𑖀𑖩 (音写) 与諸菩薩而共同住 *Gaṇḍ-vy.*

bodhisattva-samuccayā 女 [ある仏教の女神の名].

bodhisattvādhiṣṭhāna 中 𑖀𑖩 (音写) 菩薩神力, 菩薩神通力, 菩薩化神力, 菩薩住持 *Bodh-bh., Lan̄k.*

bodhisattvāvadāna-kalpalatā 女 [仏典の名, *Kṣemendra* 作].

bodhisattvāvavāda 男 𑖀𑖩 (音写) 教菩薩(法) *Saddh-p.*

bodhi-saṃdarsana-samudāgama 男 𑖀𑖩 (音写) 顯菩提習起, 示現菩提修証 *Madhy-bh., Madhy-vibh.*

bodhi-saṃbhāra 男 𑖀𑖩 (音写) 菩提具, 菩提資糧, 莊嚴菩提 *Bodh-bh.*

bodhi-snapana 中 𑖀𑖩 (音写) 灌菩提樹 *Divy.*

bodhya 未受分 理解されるべき, (困)と見なされるべきまたは認められるべき; 知らされるべき; 教えられるべき, 本心に戻らされるべき. 中 𑖀𑖩 理解すべきである. → dur~. 男 [聖仙の名].

bodhy-aṅga 中 菩提の主要支分 (*Lal-v.*); 𑖀𑖩 覺支, 覺分, (七)覺支, (七)覺分, (七)覺, 覺品, 助道 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy.; Kāśy., Lal-v., Lan̄k., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Sukh-vy. I., II., Sūtr., Sv-pr.*; (音写) 菩提分, 助菩提法 *Bodh-bh., Lan̄k., Sukh-vy. II.*: sapta~āni 七菩提分 [1. *smṛti-saṃ~m* 念菩提分, 念覺支, 2. *dharma-pravicaya-saṃ~m* 択法菩提分, 択法覺支, 3. *virya-saṃ~m* 精進菩提分, 精進覺支, 4. *pṛīti-saṃ~m* 喜菩提分, 喜覺支, 5. *praśrabdhī-saṃ~m* 輕安菩提分, 輕安覺支, 6. *samādhi-saṃ~m* 定菩提分, 定覺支, 7. *upekṣā-saṃ~m* 捨菩提分, 捨覺支] *Dharm-s., Mvyut.*

bodhy-aṅgavati 女 𑖀𑖩 [Samādhi の名] 具覺支; (音写) 菩提枝 *Mvyut.*

bodhy-adhyāśaya 男 𑖀𑖩 (音写) 菩提願 *Gaṇḍ-vy.*

bollaka, → bahu~.

baudha 形 心 (buddhi) の中にある, 心の (=まだ発言されない), 理性・理解に関する; 仏陀 (Buddha) に属するまたは関係した; 𑖀𑖩 (音写) 仏 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Sūtr.* 男 仏教徒; 𑖀𑖩 (音写) 仏弟子 *Nyay-pr.*

baudha-darsana 中 仏教の教理.

baudha-mata 中 [同上].

baudha 形 水星に関するまたは属する; [ahan とともに 中] 水星の日, 水曜日.

baudhāyana 男 父系 [古代のある *Veda* 学匠の名]; 種 *Baudhāyana* 族; *Baudhāyana* の学派. 形 (女 -i) *Baudhāyana* に関するまたはが作った.

baudhāyaniya 男 種 [黒 *Yajur-veda* の一派の名].

bradhna 形 赤い, 赤みがさした. 男 太陽; [Manu *Bautya* の息子の名]. 中 鉛.

bradhna-bimba 甲 太陽の面。
 bradhna-maṇḍalā 甲 [同上]。
 bradhna-loka 男 太陽の世界 (AV.)。
 brahma 男 一° 祭官 [例 asura-]。甲 = brahman
 甲；梵，梵天 *Saddh-p.*
 brahmaka 形 一° = brahman。男 *Brahman* 神。
 brahma-kara 男 婆羅門族へ(払われる)貢物。
 brahma-karman 甲 婆羅門の任務；祭官の職務(とくに
 brahman 祭官の)。
 brahmakarma-samādhi 形 *Brahman* (梵)なる行作に
 専心する，その瞑想にふける。
 brahma-kalpa 形 *Brahman* 神に似た。男 *Brahman*
 神の宇宙的世期。
 brahma-kāṇḍa 甲 [聖典の教義的部分]；[*Bharṭṛ-*
hari の作品またはその一部の題名]。
 brahma-kāya 男 覆 [ある神群の名]；梵 (音写) 梵
 衆 *Aṣṭ-pr.*
 brahma-kāyika 形 *Brahma-kāya* に属する。男 覆
 梵 [天の名] 淨身天 立応；(音写) 梵衆，梵衆天
Abh-bh., *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*；(音写) 梵迦夷 立応。
 brahma-kilbiṣa 甲 婆羅門に対して犯した罪 (RV. 用例
 一回のみ)。
 brahma-kūṭa 男 非常に博学な婆羅門。
 brahma-kūrca 甲 [牝牛が生産する五種の食料を食う
 苦行の一種 (= pañca-gavya)]。
 brahma-kṛt 形 祈禱を唱えるまはは捧げる(また *Indra*,
Viṣṇu, *Marut* 等の諸神についていう)；[*Viṣṇu* 神
 の称]。
 brahma-kṛti 女 祈禱を唱えること，敬虔。
 brahma-kośa 男 聖典の宝庫，*Veda* の全体；[ある地
 方の名]。
 brahma-kṣatra 甲 [軍，画] 婆羅門階級と武士階級。
 brahmakṣatra-sava 男 覆 婆羅門階級と武士階級と
 によって行われる祭式の一つ。
 brahma-kṣetra 甲 [聖地の名]。
 brahma-gaṇa 男 梵 (音写) 梵衆，諸梵衆 *Saddh-*
p.
 brahma-gavi 女 婆羅門の牝牛；画 [二種の詩節また
 は呪文の名]。
 brahma-gītā 女 覆 [*Brahman* 神に帰せられる若干
 の詩節の名]。
 brahma-gitikā 女 [(*Brahman* 神の歌)，若干の詩節
 の名]。
 brahma-gupta 男 [*Brahman* 神の息子の名]；[ある天
 文学者 (西紀 598 年誕生) その他諸人の名]。
 brahma-gola 男 宇宙。
 brahma-ghātaka 男 婆羅門殺害者。
 brahma-ghātin 男 [同上]。
 brahma-ghātini 女 月経二日目の婦人。
 brahma-ghoṣa 男 低声の祈禱 [時として 覆]；聖語，
Veda [集合的に]；梵 淨妙声，(音写) 梵音 *Rāṣṭr.*,
Sikṣ.；[仏名] 淨音，(音写) 梵音 *Sukh-vy. I., II.*
 brahmaghōṣa-rava 男 祈禱を低く唱える声。
 brahma-ghna 男 婆羅門殺害者。
 brahma-ghni 女 [brahma-han の女]。
 brahma-cakra 甲 *Brahman* 神の車輪，宇宙圏；(一

種の神秘的な) 圏；梵 (音写) 梵輪 *Abh-vy.*
 brahma-carya 甲 宗教的学習；(婆羅門青年の) 宗教
 的学習期，[独身生活を営む婆羅門の宗教生活に
 ける第一期]；とくに自制，禁慾，淨行；梵 淨行
Mvyut.；(音写) 梵行，淨梵行 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*
Bodh-bh., *Buddh-c.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*
Rāṣṭr., *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Vajr-*
 → a~, ~m upa-I, ā-Gam, ~m Grah, Ca
 または Vas 禁慾を実行する。
 brahma-caryatva 甲 禁慾，淨行。
 brahma-caryavat 形 禁慾を実行する。
 brahmacarya-vāsa 男 梵 (音写) 修梵行，住淨
 行 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*
 brahma-caryā 女 禁慾；梵 淨行 *Prāt-m.*；(音写)
 梵行 *Saddh-p.*
 brahmacaryāśrama (°ya-ās°) 男 宗教的学習期。
 → brahma-carya.
 brahma-cārika 甲 婆羅門の学習期にあること。
 brahma-cārin 形 (女 -ni) 宗教的学習期にある；とくに
 禁慾を実行する；梵 (音写) 梵行，修梵行 *Saddh-*
p., *Śikṣ.* → a~。男 宗教的學習者；禁慾者
 [ある *Gandharva* の名]；梵 (音写) 梵行者 *Bodh-*
bh.
 brahmacāri-vāsa 男 *Brahma-cārin* の生活。
 brahmacāri-vāsin 形 *Brahma-cārin* の生活をする。
 brahmacāri-vrata 甲 禁慾の誓戒。
 brahmacāry-āśrama 男 梵 (音写) 《住淨行》；(音写) 居
 梵 *Mvyut.*
 brahma-(c)chadman 形 *Brahman* または *Brahman* を
 の形をとる。
 brahma-ja 形 神聖なものから生じた (*Kārttikeya*)。
 brahmaja-jña 形 *Brahman* から生じ *Brahman* を
 知るまたは *Brahman* から生じたものを知るすなわ
 すべてを知る。
 brahma-janman 甲 聖智による再生，婆羅門の師
 に入門すること。形 *Brahman* 神から生じた。
 brahma-jāla 男 梵 [経の名] (音写) 梵網経 *Abh-*
vy.
 brahma-jivin 形 聖智によって生活する。
 brahma-jña 形 聖典または *Brahman* を知っている
 賢明な，神聖な。
 brahma-jñāna 甲 聖典 または *Brahman* の知識。
 brahma-jya 形 婆羅門を圧迫する。
 brahma- jyotis 甲 *Brahman* の光輝。形 *Brahman*
 または *Veda* の光輝ある。
 brahmaṇas-pati 男 = bṛhas-pati.
 brahmaṇas-patni 女 *Brahman* 祭官の妻。
 brahmaṇya 1. 名動 [現分 *brahmaṇyat* のみ] 祈
 する，敬虔な。
 brahmaṇya 2. 形 聖智に専念する，信心深い，敬
 虔な，婆羅門に好意のある。男 [*Kārttikeya* の称]
 brahmaṇyat 現分 → brahmaṇya 1.
 brahmaṇyatā 女 婆羅門族に対していんぎんなこと
 信心深いこと。
 brahmaṇvat 形 祈禱を伴った，敬虔な；神聖な行
 を実行するおよび婆羅門をもつ；祭官の身分を伴

または代表する；Brahman という語を含む。

brahma-tattva ㊦ 真実に Brahman を知ること。

brahma-tantra ㊦ *Veda* の中に教えられることの全体。

brahmatā ㊦ 婆羅門の状態；Brahman の性質。

brahma-tuṅga ㊦ [山の名]。

brahma-tejas ㊦ Brahman の栄光または力；**梵** [仏の名] (音写) 梵光 *Lal-v.* ㊦ Brahman の栄光または力のある。

brahma-tejomaya ㊦ (㊦ -i) Brahman の栄光を形成した。

brahmatva ㊦ *Brahman* 祭官の職務；婆羅門の地位；Brahman の状態またはとの一致；**梵** (音写) 梵，梵天，(大)梵天王 *Bodh-bh., Lan̄k., Śikṣ.*

brahma-da ㊦ *Veda* を与える，*Veda* を教える，聖智を伝授する。

brahma-daṇḍa ㊦ *Brahman* 神の杖 [神秘的武器の一種]；婆羅門の呪い；[Śiva 神の称]；[王侯の名]。

brahma-daṇḍin ㊦ [古代のある聖者の名]。

brahma-datta ㊦ Brahman または *Brahman* 神によって与えられた。㊦ [Śalva の王の名]；[Pañcāla その他の王侯の名]；[ある商人その他の人名]；**覆** [ある王の子孫]；**梵** [仏の名] 清浄施；(音写) 梵施 *Śikṣ.*；[王の名] 淨徳 *Lai-v.*；(音写) 梵徳，梵授，梵予 *Av-ś., Divy., Lal-v., Mvyut.*；(音写) [王の名] 梵摩達多 *Av-ś.*

brahma-dātṛ ㊦ *Veda* の伝授者，精神上的の教師。

brahma-dāna ㊦ *Veda* の授与，聖智を伝授すること。

brahma-dāya ㊦ *Veda* を伝授する。㊦ 遺産としての聖智；婆羅門の相続財産。

brahmadāya-hara ㊦ (㊦) より遺産として *Veda* を受ける。

brahma-dāyāda (°ya-āda) ㊦ 遺産として *Veda* をうける。㊦ *Brahman* 神の子息；婆羅門の現世における所有物。

brahma-dūṣaka ㊦ *Veda* を誤り伝える。

brahma-deya ㊦ *Brahman* 神または婆羅門の方式に従って嫁がせる。㊦ [vidhi とともに] (*Brahma-deya* 式の結婚。㊦ *Veda* における教授，聖智の伝授，婆羅門への贈与 (*Divy.*))。

brahmadeyānusaṅgātāna ㊦ その家族において *Veda* を(教えることを)世襲とする。

brahma-daivata ㊦ **梵** (音写) 梵天 *Divy.*

brahma-dvāra ㊦ Brahman への入口。

brahmadvāra-pāra ㊦ [=°pāla] *Brahma-dvāra* の番人。

brahma-dviṣ ㊦ 聖智 または 婆羅門に対して敵意のある，不信心な。㊦ 婆羅門を憎む者。

brahma-dveṣa ㊦ 聖智に対する憎悪，不信心。

brahma-dhara ㊦ 聖智をもつ，*Veda* を知っている。

brahma-dharma-dviṣ ㊦ 聖智 および法を憎む。

brahma-dhātu ㊦ Brahman の根本要素。

brahma-dhvaja ㊦ **梵** [仏の名] (音写) 梵幢，梵相 *Saddh-p.*

brahman 1. ㊦ 神聖な言葉，祈禱，呪文，*Veda* の言

葉，その中に存する神秘力・呪力；聖音 om；*Veda*，神聖な知識，神(智)学；最高絶対にして万物を超越しかつ万物に遍満する非人格的原理，*Upaniṣad* の根本原理，梵 (*ātman* 参照)；聖智の保持者の特性，その階級；清浄な生活とくに禁慾，純潔，淨行；婆羅門の特性，その階級 [集合的に；まれに個人に用いられる]。

brahman 2. ㊦ 聖智に満ちた者，婆羅門；祭官とくに *Veda* 祭式を総監する祭官；**梵** ㊦ を神格化した最高神，梵天，宇宙の創造者として保持者 *Viṣṇu* および破壊者 *Śiva* とともに *trimūrti* を形成する；理性 [=buddhi]；[ある幻術師の名]；[*Brahman* 神の世界の住者] (*Jāt-m.*)；**梵** 真浄，妙浄，清浄，浄潔，清潔，寂靜 *Lan̄k.*，*玄*。；[仏の名] 清浄 *Śikṣ.*；(音写) 梵天，梵王，大梵王，梵天王，大梵天王，梵主，梵尊 *Ast-pr., Bodh-bh., Lal-v., Lan̄k., Śikṣ., Sukh-vy. II., Śuv-pr.*；[仏の名] 梵徳 *Śikṣ.*；(音写) 梵，梵矣，梵摩 *Divy., Saddh-p., Sāmkhy-k.*，梵千，*玄*。；～ā saḥām-patiḥ 梵王，梵娑婆主，梵索訶主，梵魔三鉢 *Ast-pr., Mvyut.*，*玄*。；～ā hiraṇya-garbhah 梵金胎，梵親心，浄梵親心 *Mvyut.*

brahma-nadī ㊦ [*Sarasvatī* 河の称]。

brahma-nirvāṇa ㊦ Brahman (㊦) に帰入すること。

brahma-niṣṭha ㊦ Brahman (㊦) (の静観) に没入した。

brahma-niḍa ㊦ Brahman (㊦) の座所。

brahma-pattra ㊦ *Brahman* 神の葉 = *Palāśa* 樹(学名 *Butea frondosa*) の葉。

brahma-patha ㊦ *Brahman* 神 (㊦) または Brahman (㊦) への道；敬虔の路 (*Lal-v.*)；**梵** (音写) 梵道，梵行 *Lal-v., Mvyut.*

brahmapatha-kovida ㊦ **梵** (音写) 明於梵道 *Mvyut.*

brahma-pada ㊦ Brahman (㊦) の座所。

brahma-pariprechā ㊦ **梵** [経の名] (音写) 梵天所問経 *Śikṣ.*

brahma-parṣad ㊦ **梵** (音写) 梵衆 *Bodh-bh.*

brahma-pārāyaṇa ㊦ *Veda* の完全な学習，聖智の獲得。

brahma-pāriṣadya ㊦ **梵** (音写) [天の名] 梵衆天，梵眷 *Mvyut.*

brahma-pārṣadya ㊦ **梵** (音写) [天の名] 梵衆天 *Dharm-s., Gaṇḍ-vy., Lal-v.*

brahma-putra ㊦ 祭官または婆羅門の息子，*Brahman* 神の息子；[植物性毒薬の一種]；[*Himālaya* 山の北に発し *Gangā* 河に合流する大河の名]；[ある湖水の名]。

brahma-pura ㊦ (天界における) *Brahman* 神の都城；[都市の名]；心識；身体；**梵** (音写) (勝妙) 梵宮 *Lal-v.*

brahma-puraka ㊦ **梵** [住民の名]。

brahmapurākhyā (°ra-ākḥ°) ㊦ *Brahma-pura* と呼ばれる。

brahma-purāṇa ㊦ [ある *Purāṇa* の題名]。

brahma-purī ㊦ = *brahma-pura*；[*Benares* 市の称]。

brahma-puruṣa ㊦ *Brahman* 祭官の助手；*Brahman* 神の召使い (五種の生氣についてもいわれる)。

brahma-purohita 男 覆 𑖀𑖩 [天の名] (音写) 梵輔, 梵輔天, 梵先行, 梵先行処, 梵先行天, 梵前益天, 梵先益天 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Dharm-s.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, 玄応.; 音写 梵富楼 玄応.

brahma-prakṛtika 形 Brahman を本源とする(世界).

brahma-prakṛtikatva 中 Brahman を本源とすること.

brahma-prabha 男 [人名] (*Divy.*).

brahma-prāpta 形 Brahman に到達した.

brahma-priya 形 信心深い.

brahma-pri 形 [同上] (*RV.*).

brahma-bandhava 中 祭官の助手の任務.

brahma-bandhu 男 えせ祭官 [軽蔑的に用いる], 価値のない婆羅門, 種姓(階級)のみの婆羅門, 名のみの婆羅門; とくに朝夕の *Samdhya* 祭を執行しない婆羅門 [*Sāyana* に依る].

brahma-bindu 男 [Brahman の点 (*anusvāra*), ある *Upaniṣad* の題名].

brahma-bija 中 *Veda* の種子, 聖音 *om*.

brahma-bodhyā 女 [河の名].

brahma-bruvāṇa 現分 自 自ら婆羅門と称するまたは婆羅門を装う.

brahma-bhavana 中 *Brahman* 神の居所.

brahma-bhāga 男 *Brahman* 祭官の分け前.

brahma-bhāva 男 *Brahman* への帰入.

brahma-bhāvana 形 *Veda* を明示するまたは教える.

brahma-bhid 形 (一の) *Brahman* を(多数に)分ける.

brahma-bhuvana 中 *Brahman* 神の世界.

brahma-bhūta 形 *Brahman* となるすなわち *Brahman* に帰入する.

brahma-bhūya 中 *Brahman* となることすなわちこれに帰入すること; 婆羅門の地位, 婆羅門たること.

brahma-bhūyatva 中 *Brahman* となることすなわちこれに帰入すること.

brahma-bhūyas 形 *Brahman* に帰入する. 中 [同上 中].

brahma-bhraṣṭa 形 聖智を失った.

brahma-maṅgala-devatā 女 [*Lakṣmī* 女神の称].

brahma-maṭha 中 [*Kashmīr* のある学寮の名].

brahma-mati 男 [ある悪魔の名] (仏教).

brahmamaya 形 (女 -i) *Brahman* からなるまたはで形成された.

brahma-maha 男 婆羅門に敬意を表する祝祭.

brahma-māla 男 覆 [ある林の名].

brahma-mimāṃsā 女 *Brahman*(の本性)の探究, *Ve-dānta* 哲学.

brahma-mukha 形 婆羅門を先頭とする, 婆羅門に随従する.

brahma-medhyā 女 [河の名].

brahma-yajña 男 *Veda* の暗誦または学習 [家長の行なう日々の五祭式の一].

brahma-yaśas 中 *Brahman* の栄光.

brahma-yaśasa 中 [同上].

brahma-yaśasin 形 婆羅門の名誉をもつ; 神聖をもって有名な.

brahma-yāna 中 𑖀𑖩 (音写) 梵乘 *Lank.*

brahma-yuga 中 婆羅門の(宇宙的)世期 [*kṣatrasya yugam* の因].

brahma-yuj 形 祈禱を輒として結びつけられた=祈禱にこたえて神をもたらす.

brahma-yoga-yukta 形 *Brahman* との合一に専念する.

brahma-yoni 中 *Brahman* (中) から生じることまたはに住すること; [ある聖地の名]. 形 *Brahman* を居所とする; *Brahman* から生じた.

brahmayoni-stha 形 *Brahman* (中) を本源として住するまたは *Brahman* との合一のために努める.

brahma-rakṣas 中 悪魔または亡霊の一類 [とくに生前に婦人を犯し他人の財物を奪った婆羅門の亡霊].

brahma-ratna 中 婆羅門に(贈与された)高価な贈物.

brahma-ratha 男 婆羅門の車.

brahma-rasa 男 *Brahman* の味.

brahma-rasāsava (°sa-ās°) 男 *Brahman* の甘露味.

brahma-rākṣasa 男 =brahma-rakṣas; 𑖀𑖩 (音写) 婆羅門魅 *Mvyut.*

brahma-rāja 男 [諸人の名].

brahma-rāta 男 [(*Brahman* 神から与えられた), *Śuka* の称]; [*Yājñavalkya* の父の名].

brahma-rātra 男 [夜間のある時間の名].

brahma-rāsi 男 *Veda* の原典または聖智の全体. 中 [ある星座の名].

brahma-ruta 中 𑖀𑖩 (音写) 梵音, 梵響 *Śikṣ.*, *Suv-pr.*

brahmaruta-svara 形 𑖀𑖩 (音写) 具足浄梵音, 具足梵音声, (言辞) 具足梵音声 *Gaṇḍ-vy.*

brahma-rūpa 男 [*Viṣṇu* 神の称]. 中 𑖀𑖩 (音写) 梵王身 *Saddh-p.*

brahma-rṣi (°ma-rṣi) 男 婆羅門である聖者 [*Vasiṣṭha* その他のような古聖仙に用いる語]; 𑖀𑖩 (音写) 梵仙, 梵行仙人 *Buddh-c.*, *Lal-v.*

brahmarṣi-deśa 男 *Brahmarṣi* の国土 [*Kuru-ksetra* および *Matsya* 族, *Pañcāla* 族, *Śūrasenaka* 族の住所を含む地域].

brahma-loka 男 *Brahman* 神の世界または天 [時として 覆]; 𑖀𑖩 (音写) 梵世, 梵世間, 梵天, 梵天世界, 梵処 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*: *yāvad~ād~api sattvām kāyena vaśe vartayati* 身極至梵天世界有情, 身權至於梵天世界有情, 乃至梵世以身制諸有情 *Mvyut.*

brahma-laukika 形 *Brahman* 神の世界に住する.

brahma-vakṛ 男 *Veda* の解説者.

brahmavat 副 *Veda* に従って, *Veda* のように. 形 *Brahman* または聖智を有する.

brahmavati 女 𑖀𑖩 [人名] 浄妙 *Divy.*

brahma-vadya 中 *Veda* の暗誦.

brahma-vadha 男 婆羅門の殺害.

brahma-vadhyā 女 [同上].

brahmavadhyā-kṛta 中 婆羅門殺害の行為.

brahma-varcasa 中 聖智において卓越すること, 神聖, 超人的な力.

brahmavarcasa-kāma 形 神聖または聖智を欲する.

brahma-varcasitara 比較 さらに神聖な等.

brahma-varcasin 形 聖智に秀でた, 神聖な。
 brahma-varcasya 形 (女 -ā) 神聖または聖智を授ける。
 brahma-varcasvin 形 =brahma-varcasin.
 brahma-vāṭiya 男 [Muni の一類].
 brahma-vāda 男 神聖なことに關する論議。
 brahma-vāditva 中 Veda を解説すること。
 brahma-vādin 形 聖典について論議する。 男 Bra-
 hman の教義の信奉者, Vedānta 学徒。
 brahma-vāluka 中 [聖地の名].
 brahma-vāsa 男 Brahman 神の居所または天。
 brahma-vāhas 形 祈禱が捧げられる(神).
 brahma-vittva 中 Brahman の知識, 聖智, 神学,
 哲学。
 brahma-vid 形 Veda を知っている, 聖智ある; 呪
 術に巧みな。 男 Veda 学者, 神学者, 哲学者。
 brahma-vidyā 女 Veda または Brahman に関する知
 識, 聖智。
 brahma-vidvas 形 Brahman を知っている。
 brahma-vimāna 男 梵宮殿 (音写) 梵宮殿 *Saddh-p.* 190
 [刊本は brāh°].
 brahma-vivardhana 形 [(聖智を増す), Viṣṇu 神の
 称].
 (ārya-) brahma-viśeṣa-cintā-paripṛcchā 女 經
 の名] (音写) 勝思惟梵天所問經, 聖施大梵天所問
 經 *Mvyut.*
 brahma-vihāra 男 敬虔なる行為 (*Lal-v.*, *Saddh-p.*)
 ; 梵住; 梵行 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
 : catvāro ~ āḥ 四梵住 *Aṣṭ-pr.* 786.: [1. maitri
 慈, 2. karuṇā 悲, 3. mudita 喜, 4. upekṣā 捨]
Dharm-s.
 brahma-vṛkṣa 男 樹木としての Brahman.
 brahma-vṛtti 女 婆羅門の生計。
 brahma-veda 男 呪法の Veda すなわち *Atharva-veda* ;
 婆羅門の Veda ; Veda の知識。
 brahma-vedi 女 [ある地方の名].
 brahma-vedin 形 Brahman または Veda を知る。
 brahma-vaivarta 中 [ある Purāṇa の題名].
 brahma-vaivartaka 中 [同上].
 brahma-vrata 中 純潔の誓戒。
 brahmavrata-dhara 形 純潔の誓戒を実行する。
 brahma-sāyin 形 Brahman に安住する。
 brahma-sālā 女 Brahman 神の殿堂 ; [聖地の名].
 brahma-sīras 中 [神話上の飛び道具の一種].
 brahma-sīrṣan 中 [同上].
 brahma-saṃsad 女 Brahman 神の謁見室 ; 婆羅門の
 集合。
 brahma-saṃstha 形 Brahman または 聖智に専念す
 る。
 brahma-saṃsparśa 男 Brahman との密接な接触また
 は融合。
 brahma-saṃhitā 女 祈禱集。
 brahma-sattra 中 祈禱の祭式, Veda を間断なく誦
 すること。
 brahma-sattrin 形 祈禱の祭式を執行する ; Brahman
 に没入した。

brahma-sadana 中 Brahman 祭官の座 ; Brahman
 神の居所または天。
 brahma-sadas 中 Brahman 神の居所または天。
 brahma-sabhā 女 Brahman 神の会堂または謁見室 ;
 [ある蓮池の名] (音写) 梵階 *Divy.*
 brahma-sambhava 形 Brahman 神から生じた。
 brahma-saras 中 [ある浴地の名].
 brahma-sava 男 祈禱の効果 (RV.) ; [祭式の一種] ;
 婆羅門によってなされる (とくに Soma の) 祭式。
 brahmasāt-Kṛ, Brahman と合一させる。
 brahma-sāma 中 Soma 祭において Brāhmaṇaccha
 ṃsin の Śāstra に相応する stotra (第三 pṛṣṭha
 stotra).
 brahma-sāman 中 [同上].
 brahma-sāyujya 中 Brahman との完全な合一。
 brahma-sārṣṭitā 女 Brahman との合一。
 brahma-sāvāṇa 男 [第十 Manu の名].
 brahma-sāvāṇi 男 [同上].
 brahma-siddhānta 男 [諸種の天文学書の題名].
 brahma-siddhi 男 [ある苦行者の名].
 brahma-suta 男 Brahman 神の息子。
 brahma-suvarcalā 女 [植物の一種] ; (この植物の
 煎じ汁 [一種の贖罪としてこれを飲む].
 brahma-susvara 男 梵音 (音写) 梵音 *Saddh-p.*
 brahma-sūtra 中 婆羅門が(肩に掛ける)神聖な紐,
 Brahman に関する Sūtra ; [*Bādarāyaṇa* または
Vyāsa の作と称せられる *Vedānta* 哲学に関する
 Sūtra の題名].
 brahmasūtra-pada 中 *Brahma-sūtra* の言葉。 形 (女
 -i) *Brahma-sūtra* の言葉からなる。
 brahma-sūtrin 形 聖紐を掛けた。
 brahma-sṛj 男 [(Brahman 神の創造者), Śiva 神の
 称].
 brahma-soma 男 [ある聖者の名].
 brahma-stamba (または °bha) 男 宇宙, 世界。
 brahma-stena 男 (*Veda* の盗賊=) 権利なくして *Veda*
 (の知識) を得た者。
 brahma-steya 中 (*Veda* の偷盗=) 権利なくして *Veda*
 (の知識) を得ること。
 brahma-sthala 中 [ある 都城および諸村の名].
 brahma-sthāna 中 [ある聖地の名].
 brahma-sva 中 婆羅門の財産。
 brahma-svara 男 妙音 *Gaṇḍ-vy.* ; (音写) 梵
 音, 梵響 *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.* 形 [三十二
 相の一] (音写) 得梵音, 得大梵音, 梵音声, 梵音
 相, 声如梵王, 音如梵王 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.* :
 ~ ḥ kālaviṅka-manojña-bhāṇi dundubhisvarani-
 rghoṣaḥ 得大梵音言辞哀雅能悦衆意譬若羯羅頻迦之
 音其声雷震猶如天鼓 *Bodh-bh.* 376.
 brahma-svaratā 女 [三十二相の一] (音写) 得
 大梵音, 梵音声相 *Bodh-bh.*
 brahmasvara-ruta-ghoṣa 男 (音写) 梵音, 梵
 声, 梵音声 *Lank.*
 brahmasvara-ruta-ravitā 女 (音写) 梵声 *Sz-*
tr.
 brahmasvara-rutā-ravitā 女 (音写) 梵音, (大)

梵音, 出妙梵音, 如梵音声(響) *Mvyut., Rāstr.*
brahma-hatyā 因 婆羅門を殺すことまたはこれと同等の罪.
brahma-han 婆羅門殺害者.
brahma-hita 男 婆羅門または聖智の繁栄.
brahma-hṛdaya 男 甲 [ある星の名, *Capella*].
brahmākṣara 甲 聖字 om.
brahmākṣaramaya 形 聖音からなる.
brahmāgni 男 *Brahman* である火, 火と同一視された *Brahman*.
brahmāṅga-bhū 形 身体の諸部分を *Brahman* に捧げた.
brahmāñjali 男 *Veda* 学習のために合掌すること.
brahmāñjali-kṛta 形 *Veda* 学習のために合掌した.
brahmāṇi 因 [(*Brahman* 神の妃または女性的勢力), *Durgā* の称]; [河の名].
brahmāṇḍa 甲 *Brahman* 神の卵, 宇宙, 世界 [時として 覆].
brahmāṇḍa-kapāla 男 世界の半球=人の住地.
brahmādi (°ma-ādi) 形 *Brahman* から始まる.
brahmādi-stamba-paryanta 形 漢訳 (音写) 梵初柱 為後 *Sāṃkhy-k.*
brahmādya (°ma-ād°) 1. 形 婆羅門族に食われるべき.
brahmādya 2. 形 =°ādi: *Brahman* 神を始めとする.
brahmādhigamika 形 *Veda* の学習に関する.
brahmādhyeṣaṇā 因 漢訳 (音写) 梵天勸請, 梵天王勸請, 梵天王啓請 *Bodh-bh.*
brahmānanda (°ma-ān°) 男 *Brahman* との合一における大歓喜.
brahmāpeta (過受分) 男 [ある *Rākṣasa* の名].
brahmābhyāsa 男 *Veda* の学習.
brahmāya 名動 目 **brahmāyate** *Brahman* 神となる.
brahmāyus (°ma-āy°) 甲 *Brahman* 神の命数. 形 *Brahman* 神(に等しい)寿命のある. 男 [ある婆羅門の名].
brahmāranya 甲 [ある林の名].
brahmārambha (°ma-ār°) 男 *Veda* の暗誦を始めること.
brahmārpaṇa 甲 聖智または聖典を捧げること; [ある呪文の名].
brahmāvati 因 [人名]; [蓮池の名] (*Divy.*); 漢訳 [蓮池の名] (音写) 妙梵 *Divy.*
brahmāvarta (°ma-āv°) 男 [*Sarasvati* 河と *Dṛṣadvati* 河との間の神聖な地域の名]; [*Rṣabha* の息子の名].
brahmāsana (°ma-ās°) 甲 *Brahman* 祭官の座; 神聖な瞑想(に適した)坐り方.
brahmāstra 甲 *Brahman* 神の飛び道具 [ある神話上の武器].
brahmāsya (°ma-ās°) 甲 *Brahman* 神の口.
brahmāhuti (°ma-āh°) 因 *Veda* または 聖智を供物として捧げること.
brahmin 形 *Brahman* または *Brahman* 神に関する.

男 [*Viṣṇu* 神の称].

brahmiṣṭha (最上) 男 最高度の意味における婆羅門, 非常に博学のまたは篤信の婆羅門; [*Bṛhas-pati* 神の称]; [*Prajāpati* 神の称]; [ある王侯の名].
brahmi 因 漢訳 (音写) 梵書, 梵麻書 *Lal-v. 125.*
brahmiyas (比較) 男 一層敬虔なまたは一層博学な婆羅門.
brahmendra (°ma-in°) 男 漢訳 (音写) 梵王, 梵天王, 大梵天王, 大梵尊天 *Suv-pr.*
brahme-śaya 形 *Brahman* の中に安住する.
brahmojjha (°ma-uj°) 形 *Veda* の学習を放棄した.
brahmojjhatā (°ma-uj°) 因 [同上 甲], *Veda* を忘れること.
brahmodupa (°ma-ud°) 男 甲 *Brahman* または *Brahman* 神の小舟, 船の役目をはたす敬虔.
brahmottara (°ma-ut°) 男 覆 [(主として婆羅門族からなる) 住民の名]. 甲 [*Skanda-purāna* の中の一節の題名 (主として *Brahman* 神を取扱う)]; [都市の名] (*Divy.*).
brahmodumbara (°ma-ud°) 甲 (?) [ある巡礼地の名].
brahmodbhava (°ma-ud°) 形 *Brahman* または *Brahman* 神から生じた.
brahmodya (°ma-ud°) 甲 神学上の微妙な問題についての論議, *Veda* の中の謎による問答.
brahmodyā (°ma-ud°) 因 [kathā とともに] *Veda* からの物語または謎.
brahmopaniṣad (°ma-up°) 因 *Brahman* 神または婆羅門に関係のある神秘的教義; [遊行主義のある *Upaṇiṣad* の題名].
brahmaudana (°ma-od°) 男 婆羅門(とくに祭官のための米の)粥.
brāhma 形 (因 -i) *Brahman* または *Brahman* 神に関する, …に捧げられた; 婆羅門階級に属する, 婆羅門に特有な, 婆羅門に好意をもつまたはからなる, 婆羅門の; [nidhi とともに] 婆羅門へ贈与された(金銭); *Veda* に規定された, 聖典に基づいた; 霊的な(出生); 神聖な, 神的の; [tirtha とともに 甲 手の親指の付け根の部分]; [vivāha とともに 男 *Brahman* 形式の結婚 (八種の結婚様式中の最高形式であってなんら報酬を受けないで新婦を新郎に与える)]; *Brahman* 神の世界の住者に属する (*Jat-m.*); 漢訳 (音写) 梵 *Bodh-bh., Sutr.*: ~m cakram pravartayati 転梵輪 *Bodh-bh. 285.* 男 父系 [諸人の名]. 甲 *Veda* の学習.
brāhma-cakra-pravartanā 因 漢訳 (音写) 転於梵輪 *Bodh-bh.*
brāhmaṇa 1. 男 (*Brahman* または 聖智に満ちた), *Veda* に通じた人, 神学者, 祭官, 婆羅門, 四姓中第一階級に属する人; [*Agni* 神の称]; 漢訳 淨行, 静胤 *Mvyut.*, 玄応; (音写) 梵志, 承習梵天法者 *Aṣṭ-pr., Lal-v., Saddh-p.*, 玄応; (音写) 婆羅門, 婆羅欲末學, 婆羅賀摩學, 婆羅賀磨學 *Abh-uy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-v., Lank., Mvyut., Prāt-m., Saddh-p., Suv-pr., Vajr-s.*, 玄応.
brāhmaṇa 2. 形 (因 -i) 婆羅門に属する, 婆羅門の. 甲 *Brahman* (甲), 神聖なもの (因); 神聖な力; 名

Veda に属する散文の説明部分: 祭式の規定, 由来, 解釈, これに関係する神話, 物語等を含む一連の著作の名, すなわち梵書 (*Brahmaṇa*); *Brahmaṇa* 書中の一節; Bahaman 祭官の Soma 容器; (音写) 梵天 *Gand-vy.*; (外道) 婆羅門法 *Saddh-p.*; (音写) 婆羅門 *Gand-vy.*

brāhmaṇaka 男 賤しむべきまたは単に名のための婆羅門.

brāhmaṇa-kalpa 形 婆羅門に似た.

brāhmaṇa-kāmyā 女 婆羅門への愛情.

brāhmaṇa-kumāra 男 婆羅門の少年.

brāhmaṇa-kula 中 婆羅門の家.

brāhmaṇa-gr̥ha 中 [同上].

brāhmaṇa-ghna 男 婆羅門殺害者.

brāhmaṇa-cāṇḍāla 男 (*Cāṇḍāla* のような婆羅門) = 賤しむべき婆羅門.

brāhmaṇa-jāta 中 婆羅門種族.

brāhmaṇa-juṣṭa 形 婆羅門にとって喜ばしい.

brāhmaṇa-ḍimbha 男 若い婆羅門, 婆羅門の若者.

brāhmaṇatā 女 婆羅門の地位, 婆羅門たること.

brāhmaṇatva 中 [同上].

brāhmaṇa-dārikā 女 婆羅門の少女.

brāhmaṇa-dravya 中 婆羅門の所有物.

brāhmaṇa-dveṣin 形 婆羅門を憎む.

brāhmaṇa-nindaka 形 婆羅門をののしる.

brāhmaṇa-patha 男 *Brahmaṇa* 書の原典.

brāhmaṇa-putraka 男 婆羅門の少年.

brāhmaṇa-prasaṅga 男 *Brahmaṇa* という語の適用性, 婆羅門という概念.

brāhmaṇa-prātivesya 男 近隣の婆羅門.

brāhmaṇa-priya 男 婆羅門の友.

brāhmaṇa-bruva 男 [自ら婆羅門と称する], 名のための婆羅門.

brāhmaṇa-bhāva 男 婆羅門たること, 婆羅門の地位.

brāhmaṇa-bhūyiṣṭha 形 主として婆羅門からなる.

brāhmaṇa-bhojana 中 婆羅門の饗応.

brāhmaṇa-mahā-śāla-kula 中 (音写) 婆羅門種如婆羅大樹 *Mryut.*

brāhmaṇa-yajña 男 婆羅門 (のためのまたはよって行なわれる) 供儀.

brāhmaṇa-yoni 女 婆羅門として再生することまたは存在すること.

brāhmaṇa-rūpa 中 (音写) 婆羅門形, 婆羅門身, 似婆羅門, 梵志形(像色貌) *Lank., Saddh-p., Sv-pr.*

brāhmaṇa-vacana 中 *Brahmaṇa* 書の所説.

brāhmaṇavat 形 *Brahmaṇa* 書に説明された, それに合致したすなわち正しい; 婆羅門に関係した.

brāhmaṇa-vadha 婆羅門殺害.

brāhmaṇa-vara 男 [王侯の名].

brāhmaṇa-varcasa 中 婆羅門の優越または地位.

brāhmaṇa-vākya 男 *Brahmaṇa* 書の所説.

brāhmaṇa-vidhi 男 *Brahmaṇa* 書の規定.

brāhmaṇa-vilāpa 男 [(婆羅門の悲歎), 普通に *Baka-vadha-parvan* と呼ばれる *Mahābhārata* 中の挿話の題名].

brāhmaṇa-vihita 形 *Brahmaṇa* 書中に規定された.

brāhmaṇa-śramaṇa-nyāya 男 婆羅門の Śramaṇa (沙門) の方式 [厳密に言えばこの語は婆羅門教の仏教徒の意味で一つの矛盾を含んでいる]. (音写) *brāhmaṇa-śramaṇa* すなわち上記の矛盾を含む方式に従って.

brāhmaṇasāt-Kṛ, 婆羅門に贈る.

brāhmaṇasād-As, 婆羅門に属する.

brāhmaṇaspatya 形 *Brahmaṇas-pati* に捧げられた.

brāhmaṇa-sva 中 (音写) 婆羅門の所有物.

brāhmaṇa-svara 男 *Brahmaṇa* 書にのみ通用するアクセント.

brāhmaṇa-han 男 婆羅門殺害者.

brāhmaṇac-chamsin (°ṇāt-śa°) 男 (*Soma* 祭において理論上) *Brahman* 祭官を助ける祭官(ただし実際は *Hotṛ* 祭官の助手).

brāhmaṇac-chamsiya (°ṇāt-śa°) 中 *Brāhmaṇac-chamsin* 祭官の職.

brāhmaṇac-chamsiyā (°ṇāt-śa°) 女 [同上].

brāhmaṇac-chamsya (°ṇāt-śa°) 形 *Brāhmaṇac-chamsin* 祭官に関する. 中 = *brāhmaṇac chamsiya*.

brāhmaṇātikrama 男 婆羅門に対する無礼.

brāhmaṇātithi 男 婆羅門の賓客.

brāhmaṇāda 形 婆羅門を食う (*Rākṣasa*).

brāhmaṇādarśana 中 婆羅門に対し考慮を払わないこと.

brāhmaṇābhyupapatti 女 婆羅門に対する保護または親切.

brāhmaṇāyana 男 単なる婆羅門の子孫.

brāhmaṇī 女 婆羅門の婦人; (赤い尾の) とかげ (の一種); [河の名]; (音写) 梵志, 梵志女 *Divy., Lal-v.*

brāhmaṇi-BHū, 婆羅門となる.

brāhmaṇokta (°ṇa-uk°) 形 *Brahmaṇa* 書中に規定された.

brāhmaṇya 形 婆羅門に相当した; (音写) 遵婆羅門 *Lal-v.* 中 婆羅門たること, 祭官たる性質; 婆羅門の威厳, 婆羅門社会; (音写) 清浄行 *Lank.*; (音写) 梵徳, 梵法, 婆羅門性, 婆羅門果, 実婆羅門, 真実婆羅門 *Abh-ry., Kāśy., Lank*; (音写) 婆羅門 *Abh-ry., Eodh-bh., Lal-v., → a~*.

brāhmaṇyaka 男 (音写) 修浄行者 *Divy.*

brāhma-punya 中 (音写) 梵福, 梵福德 *Bodh-bh.*

brāhma-vihāra 男 (音写) 梵住 *Bodh-bh., Sūtr.*

brāhmī 女 [brāhma の 女] *Brahman* 神の女性的勢力; 言葉の女神 [*Brahmān* 神の妃 *Sarasvatī* の称]; 言葉; 宗教的な慣習; *Brāhma* 結婚様式に従って (娶られた妻; [種々の植物の名] [河の名]; 印度文字の一系統 (→ *brahmī*)).

brāhmī-putra 男 *Brāhma* 様式に従って結婚した女の息子.

brāhmya 形 *Brahman* 神または 婆羅門に関係のある.

brāhmya-tirtha 中 [手の一部]. → *brāhma*.

brāhmya-vihāra 男 (音写) 梵住 *Sūtr.*

brāhmya-huta 甲 婆羅門に対する尊敬。
 bruva 形 (一°)と自称する, 単に名義上の; 假名 *Buddh-c.* → *suhṛd* ~.
 bruvat [Brūの現分 他]. → Brū.
 bruvāṇa, [Brūの現分 自].
 Brū, II. 他 *braviti*, 自 *brūte* [ただ 現 幹 としてのみ用いられ, 他の形には *Vac* を用いる], (因, 属, 因)に(業)を言う・発言する・語る・伝達するまたは述べる; (業 時として 属)に話す; (業 語等)を(業)に話しかける; (業)を(業)と称す・宣するまたは言明する; (業 土 *prati* または *adhikṛtya*) に関して話す, …に言及する; (問いに)答える [または *punar* とともに]; 予言する; 布告する. 自 (因, まれに *iti* とともに: 因, 叙詩)と自称するまたは呼ばれる; 自 自己のために表示する, 選ぶ (*Br.*); 言, 説, 説言, 作是言, 開演, 演暢 *Abh-vy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Nyāy-pr.*, *Saddh-p.* 現分 *bruvat* 説, 能表, 能詮 *Abh-vy.*, *Cat-ś.*
 ati- 罵る, 侮辱する.
 adhi- (親切に 属)話しかける, (因)を励ます (因).
 anu- (ある人に続いて言う), 繰返す, 朗誦する; (因)

に教える, …に伝達する; (尊敬して) (因)に話しける; (属)に(因)を招く; 言う, 話す, 宣する; …見なす; 自(ある人の後に)繰返す, 暗記する, 学
 apa- (業)の喪失に対して(因)を慰める.
 upa- 自 (業)に話す; (因, まれに 属)のために懇願する; 哀願する, 切願する.
 nir- 高声にまたは明瞭に発言する; 説明する.
 pra- 叫ぶ; 宣する, 告知する, 暴露する; 伝達する, 教える, 布告する; 不利なことをいう, 密告する; ほめる; (因)に親切に話す; (業)を(業)と呼または述べる; (因)に差出す, …に贈呈する.
 prati- (業)に言い返す, …に答える; (業)に(業)答えとして与える; こぼむ [まれに]; 自 (業)に(害等)で応酬する (因).
 vi- 自 意中を述べる, 宣する, 証言する, 供述する; (業)に関し(自身の)所見を述べる, (問いに)える; 解釈する, (法を)裁決する; 虚偽の供述をる; 否認する, 抗論する.
 sam- 他 自 対話する (因); 自 一致する (因); (業)に(業)を言う (叙詩).
 bleṣka 男 しめ殺すなわ, とらえるなわ, わな.

BH

bha, 一° 形 =bhā (因) 外観, 類似. 甲 星, 星座, 月星宿, 黄道帯の(十二)宮.
 bhaṃsas 甲 [身体(下腹部)の一部分の名, おそらく恥部] (因).
 bhakabhakāya 擬音 名動 自 *bhakabhakāyate* (蛙等が)があがあ鳴く.
 bha-kāra 男 *bha* の字または音; 婆字 [五十字門の一]: ~e *bhava-vibhava-śabdaḥ* (→ *a-kāra*) 唱婆字時出断一切有声 *Lal-v.* 128.; [四十二字門の一]: ~ṃ *parikīrtayataḥ sarva-bhavana-maṇḍala-vijñapti-vyūham nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam* 唱婆[蒲我反]字時能甚深入般若波羅蜜門名円満莊嚴一切宮殿 *Gand-vy.* 450. → *a-kāra*.
 bhakta 受分 献身した等 → *BHaj.* 孝順 *Mañj-m.*: *mātr-pitr* ~ 孝順父母 *Mañj-m.* 155. 誠信をもって帰依する者. 甲 食物; 食時, 食事, 米の飯; 食, 飲食, 餅, 大米飯; 供, 齋 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Vajr-pr.*, 梵千. → *paścād* ~. 圓 ~ena 設齋 *Lal-v.*
 bhakta-kara 男 食物を準備する人, 料理人.
 bhakta-kṛtya 甲 [*Pali* *bhatta-kicca*] 食事の準備 (*Divy.*). → *kṛta* ~.
 bhakta-echanda 甲 食欲.
 bhakta-ccheda-kāraṇa 甲 令断食, 入断食処 *Mvyut.*
 bhaktatva 甲 (一°)の一部たることまたはに属すること.

bhakta-da 形 (属)に食を贈る.
 bhakta-dāyaka 形 [同上].
 bhakta-dāsa 男 (その日その日の)食物に(ありつくめ)仕える奴隷.
 bhakta-dveṣa 男 食物に対する嫌悪, 食欲の欠乏.
 bhakta-dveṣin 形 食物を嫌う, 食欲を欠いた.
 bhakta-pātra 甲 食物の皿.
 bhakta-ruci 因 食欲.
 bhakta-rocana 形 食欲をそそる.
 bhaktavya 未受分 応承事, 尊重 *Ast-pr.*
 bhakta-śaraṇa 甲 料理場.
 bhakta-śālā 因 食堂; 厨 梵維.
 bhaktākāṅkṣā (°*ta-āk*°) 因 食欲.
 bhaktāgra 男 甲 食堂 (*Divy.*); 食時 *Divy.* 335. [*Pali* *bhattagga*].
 bhaktācchādana-hetu 男 因 ~oḥ 為衣食 *Bodh-bh.*
 bhaktābhilāṣa-男 食欲.
 bhaktābhisāra 男 食堂; 食物の供給 (*Divy.*); 食所 *Divy.*
 bhaktāruci 因 食物に対する嫌悪.
 bhakti 因 分割, 分配 (因); (あるものの)一部分ること, (あるものに)属すること; 附属物; 分前, 部分; 分界, 線, 条; 順序, 連続; (属, 属一°: …に対する, …における等) 愛着, 献身 服従, 尊敬, 尊重, 崇拜, 帰依, 誠信, 信仰 [通意味]; (一°)の形をとること [属 歩調]; 信心, 深信, 敬, 敬重, 敬奉, 深敬勤, 尊敬, 恭敬,

敬心, 恭敬心念, 尊重, 親 *Buddh-c.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Sūtr.* 圓 圓 譬喩的に; 連続して (また ~tas).

bhaktika 形 食, 飲漿, 齋 *Mvyut.* → *uttara* ~, *eka* ~, *paurva* ~.

bhakti-kṛta 形 中敬養, 敬事心所作 *Abh-vy.*

bhakti-ccheda 男 切断された線または糸; 彩色ある線 (とくに *Viṣṇu* 神や *Kṛṣṇa* 神等の信仰の標識として額・鼻・頬・胸・腕に画かれたもの).

bhakti-jña 形 信仰を知っている, 誠実に愛着した.

bhaktijñatā 因 誠実, 忠誠 (*Jat-m.*).

bhakti-jñatva 中 [同上].

bhaktitas 副 連続して. → *bhakti*.

bhakti-namra 形 崇拜または尊敬のしるしとして敬虔に腰を屈めた.

bhakti-pūrvakam 副 敬虔に, 恭しく.

bhakti-pūrvan 副 [同上].

bhakti-bhāj 形 誠実な愛着または信心をもつ; (因) に非常に献身した.

bhaktimat 形 (因, 一°: …に対して, …において) 愛着した, 忠誠な, 献身した, 帰依した, 敬虔な信仰をもつ; 心至誠 *Buddh-c.*

bhakti-mahat 形 真に献身した (*Divy.*).

bhakti-yoga 男 敬虔な信仰, 帰依; 解脱道の一.

bhakti-rasa 男 帰依の感情.

bhakti-rāga 男 (因) への偏愛; 熱烈な帰依.

bhakti-vāda 男 帰依または愛着の告知または宣言; 愛敬説, 朋敬語 *Abh-vy.*

bhakti-śataka 中 [仏典の名].

bhakti-hina 形 信仰の欠けた.

bhaktottarikā (°ta-ut°) 因 貴重な接待 (*Divy.*).

bhaktōddeśaka (°ta-ud°) 男 管齋者, 一処会食 *Mvyut.*

bnaktopasādhaka (°ta-up°) 男 食物を準備する人, 料理人.

BHakṣ, [BHajよりの派生形] I. **bhakṣati** (-te) (因: 非常にまれ); 食 *Lank.* 使役 他 [因, 因]

bhakṣayati 因 [まれに: Br., 叙詩] **bhakṣayate** (因; 因 はまた部分を表わす 因) を食べる, 貪り食う; (因 は概して流動物, 因 はほとんど固形物を) 飲食する; かむ; 腐蝕する, 破壊する; 食い尽す (=…の財源を涸渇させる); (金銭, 財宝)を消費するまたは使い尽す; 噉, 噉食, 食噉, 嚼, 服 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Sikṣ.* 使役 過受分 **bhakṣita** 食われた; 飲まれた, 消費された等. 希求 他 **bibhakṣiṣati**, **bibhakṣayiṣati** 食いたいと思う, 貪り食いたいと思う.

pari- 使役 他 **paribhakṣayati** 消費する (叙詩); 食 *Saddh-p.*

vi- 使役 現分 **vibhakṣayat** 咀嚼, 嚼齧 *Saddh-p.*

sam- 使役 **sambhakṣayati** 貪り食う, 消費する.

bhakṣa 男 食物の摂取, 飲むこと, 食うこと; 飲料 (因), 食物 [通常の意義]; 食 *Abh-vy.* 一° 形 [用例多い] …を食う, …で身を養う; 食, 噉, 飲, 飲食 *Abh-vy.*, *Bodh-c.*, *Gaṇḍ-vy.*; *mā-*

mā- **rudhira** ~ 飲血噉肉, 飲血食肉 *Gaṇḍ-vy.* 196.

bhakṣaka 形 (一°) を食する, …で身を養う. 因 (因, 一°) を食べる人, …を食う者.

bhakṣaṇa 中 (因, 一°) を飲むこと, 食うこと, を常食とすること, (因) によって貪り食われること; 食, 食噉; 残害 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lank.*, *Suv-pr.* ~ *m* **Kṛ** (一°) を食うまたは消費する.

bhakṣaṇiya 未受分 食われるべき, 食べられうる; 得食 *Sikṣ.*

bhakṣaṇiyatā 因 食べられうること.

bhakṣayat 現分 [BHakṣ] 食べる, 飲む.

bhakṣayitavya 未受分 食べられるべき, 貪り食われるべき.

bhakṣayitu-kāma 形 欲食噉, 欲(噉)噉(之) *Aṣṭ-pr.*

bhakṣayitr 男 食う人.

bhakṣa-vikāra 男 種々の食物または料理.

bhakṣi 男 語根 BHakṣ (文法).

bhakṣita 使役 過受分 → BHakṣ. 噉噉, 所食噉 *Madhy-v.*, *Sikṣ.* 中 (因) によって貪り食われること.

bhakṣitavya 未受分 食べられるべき.

bhakṣita-śeṣa 形 食い残された. 男 食物の残余.

bhakṣitāśeṣāhāra (°ṣa-āh°) 男 残りものの食事, 残ったものからなる食事.

bhakṣitr 男 食べる人.

bhakṣitva 中 [同下 因].

bhakṣin 形 食べる [概して 一°].

bhakṣya 未受分 食べられるべき, 食べられうる, 食用に適する. 中 食物, とくに (かまれるべき) 固形食. 男 食物, 一皿 [bhakṣa の誤].

bhakṣya-bhakṣaka 男 食物と食う者.

bhakṣya-bhojya 中 飲食 *Av-ś.*

bhakṣya-bhojyamaya 形 (因 -i) あらゆる種類の食物からなる.

bhakṣya-bhojya-vihāravat 形 諸種の食物と食堂とを備えた.

bhakṣyamāṇa 因 現分 食われる, 消費される, かまれる.

bhakṣya-mālyāpaṇa (°ya-āp°) 男 食料品および花環を売る市場.

bhakṣya-vastu 中 食用品, 食料品.

bhakṣyābhakṣya 中 食べてよいものと悪いもの, 許された食物と禁ぜられた食物.

bhaga 男 [分与者: BHaj] (諸神 とくに *Savitṛ* の称 因); [*Āditya* 神群中の一, 財宝・幸福をもたらし結婚を成就させる]; [月宿 *Phalguni* の名]; 太陽; 分け前, 幸福, 好運 [主として 因]; 威厳, 壮麗 [主として 因]; 愛らしいこと, 美しいこと; 愛, 愛情, 好色, 恋の楽しみ; 陰部とくに女陰; 才 梵千. → *dur* ~. 一° 形 (因 -ā, -i) …の勝れた才能, 壯嚴, 威嚴, 卓越; …の陰部とくに女陰.

bha-gaṇa 男 星の群, 星座の群, 月宿の群, 黄道; 黄道中の運行, [また一般に] 惑星の運行.

bhaga-tti 因 [bhaga-d-ti] 幸福の贈与 (因 用例一回の

み).
bhaga-datta 男 [Prāggyotiṣa の一王侯の名].
bhagadattātma-ja (°ta-āt°) 男 Bhagadatta の息子 [Vajra-datta の称].
bhaga-deva 男 (女陰を神とする), 好色な. 男まったくの放蕩者.
bhaga-devata 男 Bhaga 神を神格とする.
bhaga-daivata 男 [同上]; 結婚生活の幸福を与える; [田±nakṣatra] 月宿 Uttara Phalguni.
bhagadaivata-māsa 男 田 [ある暦月の名 (=Phalgunā)].
bhaga-netra-ghna 男 [(Bhaga 神の眼の破壊者), Śiva 神の称].
bhaga-netra-nipātana 男 [同上].
bhaga-netra-han 男 [同上].
bhaga-netra-hara 男 [同上].
bhaga-netra-hṛt 男 [同上].
bhaga-netrāpahārin 男 [同上].
bhagamdara 男 陰部または肛門の瘻管; [ある古賢の名]; 漢訳 胎漏 Mvyut.; 癰 (?) Śikṣ. 77.
bhaga-bhakṣaka 男 (女陰によって生活する者), 姪事の媒介者, 妓楼主.
bhagavat 男 幸運をもつ, 幸運な, 恵まれた; 崇拜すべき, 尊敬すべき, 神性ある (諸神および諸半神の称呼), 尊厳な, 著名な, 神聖な(聖者); [呼 (bhagavan, bhagavas (因), bhagos, 因 bhagavati, 男 覆 bhagavantah) または 三入 男 とともなる 困] 尊者. 男 [Viṣṇu 神・Kṛṣṇa 神または Śiva 神の称]; [仏陀・菩薩または Jina の称]; 漢訳 世尊, 有徳, 徳成就; 摠摂衆徳, 出有, 出有壞 Abh-vy., Bodh-bh., Lan̄k., Mvyut., Saddh-p., Sūtr., 玄応; 如来, 仏, 仏世尊 Abh-vy., Lan̄k., Madhy-v., Mvyut., Raṣṭr., Saddh-p., Vajr-pr., Sukh-vy. II., Sv-pr.; 音写 薄伽梵, 婆伽婆 Mvyut., Raṣṭr., Sukh-vy., Vajr-pr. II., 玄応.
bhagavati 女 [Lakṣmī 女神および Durgā 女神の称]; 漢訳 女人 (?) [Tib. bcom pa ma (刊本 bhāgavati)] Gaṇḍ-vy. 201; 尊者 Gaṇḍ-vy.; [経の名, 三 ~ prajñā-pāramitā (-sūtra)] (音写) 般若経 [般若若は prajñā の 音写] Śikṣ. 210, 202; (音写) 般若 [prajñā] Śikṣ. 188.
bhagavat-kāya 男 漢訳 仏身 Sv-pr.
bhagavattva 田 Viṣṇu 神の地位または品位.
bhagavat-padi 女 [Gaṅgā 河の源の名].
bhagavad-āśraya-bhūta 男 Bhagavat (Viṣṇu 神) の座席または休息所である.
bhagavad-gita 田 Bhagavat (Kṛṣṇa 神) によって (歌われた) 歌.
bhagavad-gītā 女 覆 [± upaniṣad] Bhagavat (Kṛṣṇa 神) によって歌われた秘密の教え [著名な哲学詩の題名, Maha-bhārata 第六篇中の一挿話を形成する].
bhagavad-dṛṣa 男 (因 -i) 最高者に似た.
bhagavad-yāna 田 Kṛṣṇa 神の出発または旅行.
bhagavadyāna-parvan 田 [Maha-bhārata 中の一節の名].

bhagavad-rāta 男 [人名].
bhagavanmaya 男 (因 -i) Viṣṇu 神または Kṛṣṇa 神に献身した.
bhaga-vedana 男 婚姻の慶事を布告する.
bhagas 田 =bhaga. 男 幸福.
bhagākṣi-han 男 =bhaga-netra-ghna.
bhagānka 男 烙印としての女陰. 男 女陰の烙印を擦された. 女 (-ā)女陰によって特徴づけられた(女).
bhagānkita 男 (因 -ā) [同上].
bhagādhāna (°ga-ādh°) 男 婚姻の幸福を与える.
bhagāla 男 =kapāla, 頭蓋.
bhagin 男 栄える, 幸福な, 好運な; 光輝ある, 光栄ある.
bhaginikā 女 小さい姉妹.
bhagini 女 姉妹 [幸福な, 一人子ではなくて兄弟をもつものとして]; [ある仏教の女神の名]; 漢訳 妹, 妹子, 姊, 大姊, 姊姊, 姊妹 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Lan̄k., Mañj-m., Mvyut., Śikṣ., 梵雜.; 大舅 Mvyut.; 女人 [Tib. sriñ mo], 天女 Aṣṭ-pr. 745, Sapt-pr. 215.
bhagini-pati 男 姉妹の夫, 義理の兄弟.
bhagini-rakṣitā 女 漢訳 姉妹護, 姉妹相護 Mvyut.
bhagini-suta 男 姉妹の息子, 甥.
bhagi-ratha 男 [bhagi-ratha, 光栄ある車をもつ] [古王の名, Rāma の祖先, Dilipa の息子で Sa-gara の曾孫, Śiva 神の助けで天上の Gaṅgā 河を地に下し Sa-gara の息子達の死灰を清めてその河を Sāgara (海) に導いた].
bhagiratha-kanyā 女 (Bhagiratha の娘), [Gaṅgā 河の 父系], Gaṅgā 河.
bhagiratha-sutā 女 [同上].
bhagiratha-yaśas 女 [Prasena-jit の娘の名].
bhagoḥ [bhagavat の 呼].
bhagga 過受分 困 [bhagna] 漢訳 折 梵千.
bhagna 過受分 破られた等. → BHañj. 漢訳 破, 壊, 破壊, 研散, 折, 已折, 摧折, 碎; 滅 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Av-ś., Divy., Lal-v., Raṣṭr., Śikṣ., 梵雜.; 譏刺 Divy.; 漢訳 Lal-v. 305. 田 脚の骨折.
bhagna-krama 田 文章構成上の違反.
bhagna-jānu 男 膝を折った.
bhagnatā 女 破られた状態; 漢訳 癡癡 Śikṣ. ~ pravahanasya 船の難破の状態.
bhagna-damṣṭra 男 牙を折られた.
bhagna-prṣṭhi-Kṛ, 漢訳 憂, 憂悔, 屈 Aṣṭ-pr. 460, 849.
bhagna-prakrama 田 (前に用いたものに適應しない語の使用に基づく) 不適當な連続 (後翻).
bhagna-pratijñā 男 約束を破った, 不実な.
bhagna-bāhu 男 腕を折った.
bhagna-bhāṇḍa 男 瓶をこわした.
bhagna-manas 男 (心の破られた), 落胆した.
bhagna-manoratha 男 失望した.
bhagna-māna 男 誇りが傷つけられた.
bhagna-yācūa 男 要請が拒絶された.
bhagna-yuge 男 軛の折れたときに.

bhagna-vilina 過受分 減 Śikṣ.
bhagna-vrata 形 誓を破った。
bhagna-śakti 形 力がくじかれた。
bhagna-śṛṅga 形 つの(角)を砕かれた。
bhagna-saṃdhi 形 関節が壊れた。
bhagnāśa (°na-āśa) 形 希望を失わせられた, 失望した。
bhagnāsthi 形 骨を砕かれた。
bhagnotsāha-kriyātman (°na-ut°, °yā-āt°) 形 努力と労力どが無益となった。
bhagnodyama (°na-ud°) 形 努力が徒労となった, 挫折させられた。
bhagnoru-danda (°na-ūr°) 形 大腿骨を折った。
bhankṭṛ 男 破壊者。
bhaṅga 形 破る (因 用例一回のみ), 男 破ること [また波について], 打倒すること, 破り取ること; 摘み取ること; 脱落すること; 傷害; (骨)折; 分離, (語)の分解; 彎曲, カーブ; 崩潰, 没落, 降下, 壊滅, 滅亡, 腐朽; 遮断, 妨害; 挫折, 失敗; 侵害, 減少; (命令の)不履行; 分散, 敗北, 潰走, 負けること [また訴訟において]; 恐怖; 拒否, 拒絶; 論破; 断片; せばめること, (眉を)しかめること; ひだ(髪); 波; [ある Nāga の名]; 滅, 滅壊, 壊破; 散; 犯 Abh-vy., Cat-ś., Daś-bh., Lank., Madhy-v., Mvyut., Śikṣ., Sūtr. → a~, utpāda ~.
bhaṅga-kara 形 破る, 男 破壊者, 侵害者。
bhaṅgā 因 大麻 (学名 *Cannabis sativa*); 大麻製の酒; [植物の一種, 学名 *Convolvulus turpethum*]; 麻梵雜。
bhaṅgā-svana 男 [ある Rājarsi の名]。
bhaṅgi 因 破壊; 彎曲, カーブ; 曲った路, 迂回した路; 婉曲な語法, 談話または動作の迂遠な方法; 仕方, 方法; 着衣の方法, 服装, 衣裳; (一°)の変装, 外貌; 形; 階段; 波, 男 bhaṅgyā 間接に, 婉曲な語法で。
-bhaṅgin 形 もろい, 消滅する。 → kṣaṇa ~。
bhaṅgi-bhūta 形 (一°)に類似した。
bhaṅgimat 形 波状の(髪)。
bhaṅgiman 男 波状; つむじ曲り。
bhaṅgi-vikāra 男 (顔)貌のゆがみ, 洗面。
bhaṅgi-viśārada 形 婉曲法に巧みな。
bhaṅgi 因 = bhaṅgi。
bhaṅgi-bhakti 因 階段の形成, 波状の階段。
bhaṅgura 形 (一°)のようにもろい, 束の間の, 消滅すべき; 変りやすい, 変化しやすい; 曲った(眉等); 散; 滅 Bodh-bh.
bhaṅguratā 因 一時的なこと, 消滅すべきこと。
bhaṅguratva 因 壊性 Abh-vy.
bhaṅgura-niścaya 形 気まぐれな, 不実の。
bhaṅgura-bhrū 因 しかめた眉。
bhaṅguraya 名動 他 bhaṅgurayati 破る, 破壊する; 巻く。
bhaṅguri-Kṛ もろくする。
bhaṅgy-antareṇa 男 他の方法で; 間接の仕方で。
BHaj, I. bhajati (-te) 分配する, 分かつ; (因, 男)に

分配する, …に割り当てる; (因)と分け合う; (男)に分け前を与える; 授与する, 贈与する (因); (因)を賦与する; (自己の)分け前として獲得する, (男)を(男)として受取る, 分け前を受ける, [(因); 因はまた (男); まれに (因)]を享受する; 経験する, こうむる, 体験する, 得る, 陥る [(因) (因)とともに, Gamならびに他の「行く」の意をもつ (因)の項を比較せよ]; 赴く, 行く; 頼る; 有する, 所有する; (男)の分担になる; (形を)とる, (衣服を)着る; 選ぶ, 選り抜く, 抜擢する; 使用する; 実行する, 従う, 守る; 好意を示す; 愛する; …を肉体的に知っている; 尊敬する, 崇め尊ぶ, 崇拜する; 親近, 能事, 承事; 恭敬, 生恭敬; 崇習, 修習 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Gand-vy., Rāṣṭr., Śikṣ. āsanam ~ 坐る, nidrām ~ 睡眠に陥る, punar ~ …に返る, mūrchām ~ 気絶する, maunam ~ 黙る。
過受分 bhakta 分配された; 割当てられた; (男, 男, 因, 一°)に心服した, …を崇める, …を崇拜する。
使役 因 bhājayati 分与する; 分け前を受けさせる または享受させる。
apa- (男)の分け前を(因, 男)に委ねる。
abhi- (男)の方におもむく, …に逃げる。
ā- (男) (まれに(因)), (因)に分け前を与える, …を享受させる。
anv-ā- 因 (ある人の)後で(因)に関与させる。
過受分 anvābhakta (因)に関与した。
nir- (因)から除外する; (男)を(男)で満足させる。
prati- 再び(男)の分担になる。
vi- (男)を(男, 因, 因)に(または人の(男)に(物の(男)を分与する, 分配する; 割り当てる, 分け合う [(因)互いに分かつ]; 崇拜する; 根本的に会得する(Divy.); 分, 分別, 分析, 分布, 部分差別, 揀択; 捨, 散捨, 普捨 Bodh-bh., Daś-bh., Gand-vy., Lal-v., Lank., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ. 因 vibhajyate 分別, 所分 Abh-vy. 過受分 vibhakta 分与された, (男)の間に分与された; 分配した; (自己の)分け前を受領した; (男, 一°)によって分離された; (男)より区別された すなわち…なしに存在する; 孤立した; 別な, 異なった, 多様の; 規則正しい部分 または 列に分れた, 均斉のとれた。 使役 vibhājaya- 分配する; 区分する。
pra-vi- 分配する; 区分する, 分離する; 分ける; 決択 Gand-vy. 過受分 pravibhakta 分離・分割 または分配された; (自己の)分け前を受けた; (一°)に分配された, …より成った, 散在した(建物)。
saṃ-vi- (男 ± saha; 因, 男)と(男)を分け合う; 区分する, 分離する; (男)を贈るまたは与える; 分, 分別, 有分, 捨施, 普捨, 給施 Aṣṭ-pr., Bodh-c., Divy., Lal-v., Śikṣ., Mvyut.; 饒益 Aṣṭ-pr. saṃ- (自己の)分として受ける; 贈物を贈る(因); 分配する, 区分する; 尊敬する。 過受分 sambhakta (男)にあずかる, …を与えられた; 分たれた; 献身的な。
bhajana 因 尊敬, 崇拜; 恭, 恭敬; 親近 Mvyut., Śikṣ.; 涉, 交渉, 相応 Abh-vy.; 器 Śikṣ.

→ anyonya ~.

bhājanatā 女 尊敬, 崇拜.

bhājaniya 未受分 愛せられるべき, 尊敬されるべき.

bhājitavya 未受分 [同上].

bhājin 男 [ある王侯の名]; [ある教師の名].

BHañj, VII. 他 (固 用例一回のみ) **bhanakti** 破る, 砕く, 粉碎する, 裂く; (軍隊を) 潰走させる, 敗る; (sūtra を) 解体するすなわち分割する; 曲げる; くじく, はばむ, 乱す; (会合を) 解散する; 破壊する, 荒廢させる; 滅, 壊滅, 打碎; 不統 *Lal-v.*, *Lank.*, 梵雜. 過受分 **bhagna** 破られた; 負かされた; 破壊された; 曲げられた, 失われた [時として一°ならびに一°].

apa- 折り取る

abhi 粉々に砕く, 破壊する.

ava- 砕く, 破壊する.

vy-ā- 過受分 **vyābhagna** 粉々に砕かれた, 粉碎された.

nir- 粉々に砕く; (軍隊を) 敗る.

pari- 過受分 **paribhagna** 破られた; はばまれた; 破壊された.

pra- 潰走させる, 敗る.

vi- 消散させる; 分散させる, 潰走させる.

saṃ- 粉々に砕く, 粉碎する. 過受分 **saṃbhagna** 破られた; 潰走させられた, 破壊された; くじかれた.

bhañja 男 破 降 *Sūtr.* → māra ~.

bhañjaka 男 (門戸の) 破壊者. 形 破 *Sūtr.*

bhañjana 形 破壊する. 男 (一°) の破壊者; 駆逐者. 固 破ること, 破壊すること; 駆逐すること, 除去すること; 乱すこと, 中断すること; 降伏 *Rāṣṭr.*

BHañ, [固 名動 <bhaṇa] 使役 他 **bhāṇayati** やとう.

bhaṇa 男 固 [<bhr̥ta, やとわれた] 傭兵, 兵士; 戦士; 傭人, 召使; 使, 係役 *Lal-v.*, *Mvyut.*; 中師 *Mvyut.*; 官人, 臣 *Śikṣ.*; 或失, 或中 [*Tib. sor ba* または *bkrabs pa*] *Mvyut.*; 固 聖 [人名] 婆吒, 婆哆, 拔利 *Divy.*

bhaṇa-balāgra 男 優秀な戦士, 勇士 (*Divy.*); 守大市 *Mvyut.*; 勝力兵衆 *Divy.* 固 軍力, 軍隊 (*Divy.*).

bhaṇi 女 兵士の妻.

bhaṇiya 形 *Ārya-bhaṇa* に関する.

bhaṇṭa 男 固 [<bhartṛ] 博士 [大学者の称号: 本名の前または後に付されて本名はしばしば略される. 例 *Kumārila-bhaṇṭa*]; 主人; [目下の者の王侯に対する敬称]; 固 閣下, 王様; [世襲的宮廷詩人または吟遊詩人を職としたある混合種姓 (階級) の名]; [しばしば *bhaṇa* の誤綴]; 破 固 [= *bhaṇa*] 将帥 *Śikṣ.* 100.

bhaṇṭa-gopāla 男 [人名].

bhaṇṭa-deva 男 破 固 最勝王 *Lal-v.*

bhaṇṭa-nārāyaṇa 男 [*Veṇi-saṃhāra* の著者等の名].

bhaṇṭa-vārttika 固 [ある著作の題名].

bhaṇṭā 女 [ある女魔術師の名].

bhaṇṭācārya (°ta-āc°) 男 有名な教師 [一般に *K. rila-bhaṇṭa* の称].

bhaṇṭāra 男 固 [<bhartṛ の 固 固] [諸人の:

bhaṇṭāraka 男 主, 尊敬または 崇拜すべき者 [神高位の人々または 学者に用いられる]; [*Śiva* 派 侶の一種]; 破 固 至尊, 神尊 *Mvyut.*

bhaṇṭāraka-maṭha 男 [ある大学の名].

bhaṇṭāraka-vāra 男 主の日, 日曜日.

bhaṇṭārakāyatana (°ka-āy°) 固 主の家, 神殿.

bhaṇṭi 男 [*Bhaṇṭi-kāvya* の作者の名, (種々の註によって *Bhartṛhari* と同一人であるとされる

bhaṇṭi-kāvya 固 *Bhaṇṭi* 作の美文体詩の名 [西六または第七世紀に属し, その主な目的は *Ram* 行為を叙述するかたわら, サンスクリット諸語 解説することにある].

bhaṇṭoji 男 [*Siddhānta-kaumudī* の作者である 家の名].

bhaṇṭoji-dikṣita 男 [同上].

bhaṇṭoji-bhaṇṭa 男 [同上].

bhaṇṭotpala (°ta-ut°) 男 [*Varāhamihira* の著 註釈者の名, 西紀第十世紀に属する].

bhaṇṭopama (°ta-up°) 男 [ある仏教学者の名].

bhaṇa 男 [ある混合種姓 (階級) の名].

BHañ I. 他 **bhaṇati** [固] (業 土prati) に対しすまたは言う; …について話す, 叙述する; (業 (業) と呼ぶまたは名づける; 破 固 説, 広説, 語, 誨; 誨 *Gand-vy.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*

bhaṇat 破 固 誨 *Saddh-p.*; **bhaṇamāna** 破 固 *Gand-vy.* 過受分 **bhaṇita** 話された; (固 固 (固) によって (prati) に対して言われた.

prati- (ある人に) 答える.

bhaṇana 形 (一°) について論ずる, 宣言する. 話, 会話.

bhaṇaniya 未受分 言われるべき.

bhaṇita 過受分 → **BHañ**. 破 固 説 *Śikṣ.* 固 談 議論; 破 固 語, 所言論 *Aṣṭ-pr.*

bhaṇiti 女 [同上 固].

Bhaṇḍ I. 固 **bhaṇdate** 非難する; 嘲笑する; 冗いう; 話す. I 固 **bhaṇdati**, X **bhaṇdayati** である, 幸運にさせる; 吉兆な行為をする; I (**bhaṇdayati**) 能弄 *Bodh-bh.* 固 破 固 (**bhaṇḍy** 所弄 *Bodh-bh.* 過受分 **bhaṇḍita**.

prati- 破 固 報弄 *Bodh-bh.*

vi- X, (顔を) しかめる (*Divy.*).

bhaṇḍa 男 諧謔者, 道化師; [ある 混合種姓 (階 級) の名].

bhaṇḍatva 固 道化.

bhaṇḍa-dhūrta-niśā-cara 男 固 道化者・悪漢: 夜遊びする男.

bhaṇḍana 固 災害; 会戦, 戦争; 甲冑; 破 固 諍, 訟諍, 訐人過; 闘, 闘戦 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *yut.*, *Prāt-m.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.* → *kalaha* ~.

bhaṇḍaniya 未受分 嘲けられるべき. 男 [*Śri-h.* 王の大臣の名].

bhaṇḍi 男 [*Śri-harṣa* 王の大臣の名].

bhaṇḍika 男 器 *Mvyut.*
 bhaṇḍita 過受分 弄, 呵責 *Bodh-bh., Kāśy.*
 bhaṇḍī 女 [植物の名, 学名 *Rubia munjista*].
 bhaṇḍī-puṣpa-nikāśa 形 *Bhaṇḍī* の花に似た.
 bhaṇḍira 男 榕樹 [学名 *Ficus indica*].
 bhaṇḍūka 男 [魚の一種].
 bhadanta 男 [仏教またはジャイナ教の僧の敬称];
 大徳, 尊, 尊者, 世尊, 真正 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Sapt-pr., Śikṣ.*
 bhaddālin 男 音写 [人名] 跋陀離 *Divy.*
 bhadrā 形 [称讃すべき; BHand] 祝福された, 吉兆の; 麗わしい, 美しい; よい; 幸福な, 好都合な; (形) に巧みな; 呼 (男) わが善友よ, 尊敬すべき君よ; (女, *bhadre*) わが貴婦人よ; (覆) よい人々よ; 賢, 賢善, 仁賢; 善, 妙, 微妙; 勝; 聡明; 仁者 *Abh-vy., Av-ś., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., 梵千., 玄応;* 音写 跋陀玄応: ānanda ~ 仁者阿難 *Saddh-p. 217.* ~ ā diś 女 吉兆である方位, 南方. ~ ā vāc 女 親切な言葉. ~ m 副 (因) 喜ばしく, 幸運に, 幸福に. ~ yā 男 副 (因) [同上]. ~ m Kr よくやる, (因) に幸福を与える; 幸福である. ~ m ā-Kr 自身の髭を剃る. ~ m Car 幸福である. ~ m ā-Car よくやる. 男 敬虔を装う偽善者; [悪漢の一種]; [象の一種]; [大地を脊に支えるといわれる神話上の象の名]; [*Viṣṇu* 神の息子の名]; [*Vasudeva* 神の息子, *Kṛṣṇa* その他の人名]; 覆 [第三 *Manu* の支配下における一群の神々の名]; [民族の名]. 男 幸福, 祝福, 好都合: ~ m te' または *vas* なんじ(ら)に繁栄あれ, 神のなんじ(ら)を祝福し給わんことを [しばしば挿句的に文章中に用いる].
 bhadra-ka 形 (女 -ikā) よい, 立派な; 覆 ~ ās, 呼 [挨拶の辞として用いる] よい人々よ, わが愛する者よ; 吉; 賢善, 賢聖, 端嚴, 端正殊妙 *Divy., Saddh-p.* 男 [豆の一種]; [ある王侯の名]; 覆 [民族の名].
 bhadra-kara 男 [(幸福をもたらす), 人名]; 覆 [国の名] (*Divy.*).
 bhadra-kalpa 男 [現代の称] (仏教); 音写 賢劫 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*
 bhadrakalpāvadāna 男 [仏典の名].
 bhadra-kalpika 形 *Bhadra-kalpa* 賢劫中に住する (*Divy.*); 音写 賢劫 *Divy., Mvyut.*
 bhadrakalpika-sūtra 男 [経典の名] (音写) 賢劫経 *Śikṣ.*
 bhadra-kalyāṇa 形 賢善 *Bodh-bh.*
 bhadrakā 女 [人名].
 bhadra-kāraka 形 繁栄させる.
 bhadra-kāli 女 [ある女神の名, 後には *Durgā* 神の一形態].
 bhadra-kāṣṭha 男 *Deva-dāru* 樹 (学名 *Pinus deodora*) の木材.
 bhadra-kṛt 形 繁栄させる, 祝福する (因)
 bhadra-ghaṭa 男 (幸福の壺), 抽籤の瓶; 賢瓶, 賢餅, 天徳瓶 *Śikṣ.*
 bhadra-ghaṭaka 男 [同上].

bhadra-cari, -i 女 普賢行 *Gaṇḍ-vy 544.*

bhadra-cariya, 形 [<bhadra-caryā] 普賢行 *Gaṇḍ-vy. 34.*

bhadra-cari-praṇidhāna-bala 男 普賢行願力, 普賢願力 *Gaṇḍ-vy. 543.*

bhadra-cari-praṇidhāna-rāja 男 [仏典の名, 普賢菩薩行願讚等].

bhadra-caryā 女 賢善行 *Śikṣ.*; [経の名] 普賢行経 *Śikṣ.*; sarva ~ 普賢行 *Gaṇḍ-vy. 34.*

bhadratara 比較 さらによい, さらに幸福な, 一層繁栄する.

bhadratā 女 正直, 方正; 賢善, 仁賢 *Bodh-bh.*

bhadra-danta 男 [ある象の名].

bhadra-dāru 男 男 *Deva-dāru* 樹.

bhadra-nidhi 男 [(幸運の宝), *Viṣṇu* 神に捧げられたある貴重な容器].

bhadra-pada 男 [韻律の一種].

bhadra-pāla 男 [菩薩の名] 賢護, 賢守, 善守, 妙護 *Mvyut., Rāṣṭr., 玄応;* 音写 跋陀婆羅, 跋陀波羅, 跋陀羅波梨, 跋陀和, 跋陀 *Saddh-p., Suvik-pr., 玄応.*

bhadrapāla-sūtra 男 [経の名, 般舟三昧経, 大方等大集経賢護分等].

bhadra-piṭha 男 吉兆の座, 王座; 宝座 *Mañj-m.*

bhadrapiṭha-mudrā 女 宝座印 *Mañj-m.*

bhadra-bāhu 男 [*Vasudeva* の息子の名]; [*Magadha* の王侯の名]; [*Jaina* の六 *Śrutakevalin* の一人の名].

bhadra-bhaṭa 男 [人名].

bhadra-manas 女 [*Airāvata* 象の母の名].

bhadra-manda 男 [象の一種]; [*Kṛṣṇa* の息子の名].

bhadramandra-mṛga 男 [象の一種].

bhadra-mitra 男 善友, 善知識 *Rāṣṭr.*

bhadra-mukha 形 (女 -i) [(吉兆な容貌をもつ) ただ呼 (または因 = 三因 因) にのみ用いられて] やさしい方よ, 閣下; 覆 よい人々よ; 賢首, 賢面, 仁者 *Av-ś., Bodh-bh., Divy., Lal-v.*; 音写 跋陀羅目阿 *Divy.*

bhadra-musta 男 [*Cyperus* の一種, 学名 *Cyperus rotundus*]; 蘇子 *Mvyut.*

bhadra-mṛga 男 [象の一種].

bhadra-ratha 男 [人名].

bhadra-rūpa 男 妙事 *Saddh-p.*

bhadra-rūpā 女 [人名].

bhadravat 形 吉兆の.

bhadravati 女 娼婦; [人名]; [ある牡象の名].

bhadra-vargiya, -giya, -gika 男 覆 (*pañcaka* とともに) 仏陀の最初の五弟子; 音写 跋陀羅 (賢部) *Lal-v. 245, 264.*

bhadra-vasana 男 華麗な衣裳.

bhadra-virāj 女 [韻律の一種].

bhadra-vihāra 男 [ある仏教僧院の名].

bhadra-sākha 男 [*Skanda* 神の一形態].

bhadra-sāla-vana 男 = bhadra-sāla-vana.

bhadra-silā 女 漢訳 [町の名] 賢石 *Divy.*
 bhādra-śravas 男 [Dharma の息子の名].
 bhadra-śrī 男 漢訳 [仏の名] 賢, 善, 賢吉祥, 堅徳
Śikṣ., 玄応; 音写 跋陀師利 玄応.
 bhadra-sāla-vana 中 [(美しい Sāla 樹の林), 林の
 名].
 bhadra-sena 男 [諸人の名]; 漢訳 [Māra-pāpiyas の
 軍隊の指揮者の名] 賢将 *Lal-v.*
 bhadrā 女 [種々の女性神格・人物の名]; [種々の川
 の名]; 漢訳 [池の名] 賢, 賢善 *Aṣṭ-pr.*
 bhadrā-Kṛ, (髭などを)剃る. → bhadrām ā-Kṛ.
 bhadrā-kṛta 形 剃られた.
 bhadrākṣa 男 [王侯の名].
 bhadrāyudha (°ra-āy°) 男 [諸人の名]; 漢訳 [人名]
 賢踊; 音写 跋陀羅由他 *Divy.*
 bhadrāśva 男 [*Vasudeva* の息子その他の人名]. 男
 (また 覆), 中 [ある *Dvipa* または *Varṣa* の名];
 [*Meru* 山の北方にある国の名].
 bhadrāsana (°ra-ās°) 中 華麗な座, 王座; [苦行者の
 坐法の一つ]; 漢訳 賢座, 仁賢床, 宝座 *Lal-v.*
 bhadrīka 男 [*Śākya* 族のある王侯の名]; 漢訳 [人
 名] 具妙 *Mvyut.*; 音写 跋陀羅, 跋提羅, 拔提
Av-ś., *Lal-v.*
 bhadrēsa (°ra-iśa) 男 [*Śiva* 神の称].
 bhadrēśvara (°ra-iś°) 男 [*Śiva* 神の種々の彫像およ
 び標章の名]; [ある地方の名]; [ある書記 (*Kāyastha*)
 の名].
 bhadrōttamā (°ra-ut°) 女 漢訳 [池の名] 賢上 *Aṣṭ-
 pr.*
 BHan I. 中 bhanati (RV.) 話す, 宣言する. ā- 呼
 びかける.
 BHand, I. 中 bhandate 歡呼喝采を受ける (RV.).
 bhandad-iṣṭi 形 (因) 称讚(者)を求める (*Maruts* 神).
 bhandana 形 叫ぶ.
 bhandanā 女 呼号, 称讚 [時として 覆].
 bhandanāya 名動 中 [ただ 現分 のみ] bhandanāyat
 叫ぶ, わめく (RV. 用例一回のみ).
 bhandiṣṭha 最上 もっとも声高く叫ぶ, もっともよく
 ほめる.
 bhappaṭa 男 [ある神殿の建立者の名].
 bhappaṭeśvara (°ṭa-iś°) 男 [*Bhappaṭa* の建立した
 神殿の名].
 bhambharāli 女 蠅.
 bhambha-rāva 男 (牡牛の) 咆哮.
 bhaya 中 (因, 屬, 一°) についての恐れ, 驚き, 恐
 怖, 心配; 中 覆 (因, 一°からの; 一°に対する)
 恐怖, 危険, 危難; 漢訳 怖, 畏, 可怖, 可畏, 怖
 畏, 能怖畏, 恐畏, 恐, 恐怖, 恐懼, 懼, 驚悸, 憂
 惶, 可怖畏事 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Av-ś.*, *Bodh-bh.*,
Divy., *Gaṇḍ-vy.*, *Guhy-s.*, *Lal-v.*, *Laṅk.*, *Mad-
 hy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*,
Śikṣ., *Sūtr.*, *Suv-pr.*, 梵千., 梵雜.: pañca ~ āni 五怖
 畏 *Bodh-bh.* 322. 中 ~āt 恐怖のために; 漢訳 畏
 …故, 畏怖故, 由怖畏 *Bodh-bh.* ~m Kṛ (因) を
 恐れる. ~m Dā 恐怖を与える, 恐れさせる.
 bhaya-kara 形 恐怖させる; (屬) を危地に陥らせ

る.
 bhaya-kartr 男 恐怖させる者, 危地に陥らせる者.
 bhaya-kṛt 男 [同上].
 bhaya-gāmin 形 漢訳 随怖 *Prat-m.*
 bhaya-gaurava 中 漢訳 畏敬 *Bodh-bh.*
 bhaya-grahaṇa 中 漢訳 摂伏令懼 *Bodh-bh.*
 bhayaṃ-kara 形 (因 -i) (一°) に恐怖を起させる,
 恐怖させる, 恐るべき. ~m 副 恐ろしく. 男 [Viś-
 ve Devāḥ 中の一神の名]; [諸人の名]; 漢訳 [魔
 子の名] 可怖 *Lal-v.*; 音写 婆娑迦囉 *Guhy-s.*
 bhaya-ḍiṇḍima 男 戦闘用の太鼓.
 bhaya-trasta 形 恐怖のために戦慄した, 威嚇され
 た.
 bhaya-trātr 男 危険から救う者.
 bhaya-da 形 (屬, 一°) を恐怖させるまたはに危険を
 もたらす.
 bhaya-darsin 形 危険に気づく, 恐れている; 漢訳
 (深) 見怖, 見怖畏, 見者生驚怖, 懷畏懼, 觀看怖
Bodh-bh., *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Sūtr.*
 bhaya-dāna 中 恐怖のために (与えられた) 贈物.
 bhaya-dāyin 形 恐怖を起させる.
 bhaya-dhana 形 恐怖にみちた, 恐ろしい.
 bhaya-pratiśamana 形 漢訳 能除怖畏, 怖畏悉能除
 珍 *Suv-pr.*
 bhaya-pratikāra 男 危険の除去.
 bhaya-prada 形 恐怖を起させる.
 bhaya-pradāyin 形 (一° からの) 危険に陥らせる.
 bhaya-bhita 形 恐怖におよびやかされた; 漢訳 怖,
 畏, 怖畏, 為怖 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Śikṣ.*
 bhaya-bhairava 形 漢訳 恐怖, 猛利怖畏 *Bodh-bh.*
 bhaya-viklava 形 漢訳 怖畏, 惶怖 *Śikṣ.*
 bhaya-vihvala 形 恐怖によって動揺させられた;
 漢訳 惶怖 *Śikṣ.*
 bhaya-vyūha 男 [全方面からの危険を考慮した軍の
 陣列の一つ].
 bhaya-śānkita 形 恐怖し心配する.
 bhaya-śoka-samāviṣṭa 形 恐怖と悲しみとにみたま
 された.
 bhaya-saṃjanana 形 漢訳 見者惶怖, 見者無不恐怖
Gaṇḍ-vy.
 bhaya-saṃtrasta-mānasa 形 恐怖をもって心がおど
 りやかされた.
 bhaya-sthāna 中 危険な場合; 漢訳 怖畏処 *Bodh-bh.*
 bhayasthāna-śata 中 覆 幾百の危険な場合.
 bhaya-hara 形 漢訳 除怖 *Śikṣ.*
 bhaya-hartṛ 形 恐怖を除去するまたは消散させる.
 bhaya-hāraka 形 恐怖または危険から免れる.
 bhaya-hetu 男 恐慌の原因. 男 ~nā 漢訳 由有怖;
 故 *Suv-pr.*
 bhayādraśitva 中 漢訳 不見怖 *Abh-k.*
 bhayānaka 形 恐るべき, 恐ろしい; 漢訳 怖畏,
 悪 *Mvyut.*, *Sam-r.* 中 恐怖. 男 虎.
 bhayāpaha 形 (一°) からの恐怖を除く; …からの
 險を避ける.
 bhayābādha 形 恐怖によってかき乱されない.
 bhayābhaya 中 危険と安全.

bhayārta (°ya-ār°) 形 恐怖に悩まされた, 恐怖させられた.

bhayārdita 形 有恐懼, 懷怖心, 恐怖者, 生憂怖心, 恐驚懼 *Śikṣ.*

bhayāvadirṇa 形 恐怖に当惑した.

bhayāvaha (°ya-āv°) 形 恐怖または危険を(一°)へもたらす.

bhayottara (°ya-ut°) 形 恐怖に伴われる.

bhayopāsama 男 恐怖を緩和または鎮めること, 鼓舞すること.

bhayya 未受分 (中 非人) (徒) 人は…を恐れるべきである.

bhara 形 (一°)を担う; 授ける; 維持する. 男 担うこと, 運ぶこと(因); 得ること(因); 掠奪品(因); 戦い, 戦闘(因); 重荷, 荷, 重量; 量, 多数, かさ(嵩); 集団; 過多; 称讚の歓声または歌詠(因). 男 ~ena, 徒 ~āt 副 十分に, 全力をあげて, 非常に. ~m Kr 自己の重量を(因)にもたせかける; 最大の努力をする.

bharaṇa 中 担うこと; (衣服一°)を着ること; もたらすこと, 得ること; 維持すること, 支持すること, 養育すること; 労銀, 賃金; 漢訳 資具 *Śikṣ.*

bharaṇi 因 [一般に 覆: 二十八番目の月宿の名]; 漢訳 胃, 長息 *Dirvy.*

bharaṇiya 未受分 支持されるべき, 養育されるべき, 食物を与えられるべき.

bharaṇḍa 男 主, 主人.

bharat, [BHṛ の 現分].

bharata 男 (保持されるべき), [人々の配慮によって保持される一種の *Agni*] (因); [同名の子をもつ一種の *Agni*] (叙詩); 俳優, 踊手; [*Duṣyanta* と *Śakuntalā* の息子で十二 *Cakra-vartin* の第一王その他の王侯の名]; [*Rāma* の弟でその留守中政務を担当した人その他の人名]; [部族の名, *Bharata* の後裔(覆)]; [*Bharata* の作と伝える劇論者(*Nāṭya-sāstra*)の名]; 漢訳 [転輪王の名] 作満 *Mṛyut.*; 音写 婆羅多 *Rāṣṭr.*

bharata-ṛṣabha 男 [=°tarṣa°, *Viśvāmitra* の称].

bharata-khaṇḍa 中 [*Bhārata-varṣa* の一区域の名].

bharatatva 中 *Bharata* という名.

bharata-putra 男 *Bharata* の子, 俳優.

bharata-pura 中 [都市の名].

bharata-roha 男 [人名].

bharata-rohaka 男 [人名].

bharatarṣabha (°ta-rṣ°) 男 [(*Bharata* 族中の牡牛+なわちもつともすぐれた者, *Viśvāmitra* など諸人の称].

bharata-varṣa 中 *Bharata* 王国, インド.

bharata-vākya 中 [(*Bharata* のことば), 戯曲の最後の部分で劇中の人物または観客に対する一種の祝福の言葉].

bharata-sārdūla 男 *Bharata* 族中の虎+なわちもつともすぐれた者.

bharata-sreṣṭha 形 *Bharata* 族中のもつともすぐれた者.

bharata-sattama 形 [同上].

bharata-sena 男 [*Megha-dūta*, *Raghu-varṣa*, *Śiśu-pāla-vadha* ならびに *Bhaṭṭi-kāvya* の註釈者の名].

bharatāgra-ja 男 *Bharata* の兄 (十なわち *Rama*).

bharad-vāja 男 ひばり; [ある聖者の名とくに RV. 第六巻の詩人]; [~*sūtra* および ~*smṛti* の著者の名]; 覆 [*Bharad-vāja* の後裔]; 漢訳 音写 [人名] 頗羅隨 *Buddh-c.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. II.*

bharadvāja-dhanvantari 男 [ある神性なものの名].

bharadvāja-sa-gotra 形 漢訳 (音写) 姓頗羅隨 *Saddh-p.*

bharadvājavedita (°ja-āv°) 形 *Bharadvāja* によって告知された.

bharadhyai 因 [BHṛ の 為 不定].

bhara-hūti 因 (RV.) ときの声, ときの聞をあげること.

bhari 形 支持する, 所有する, 養育する. → *ātmaṃ*~, *udaraṃ*~, *kuṣiṃ*~. 男 (?) 漢訳 長養, 満足 *Śikṣ. 137.*

bharita 名動 過受分 (屬, 一°)にみちた, …をもってみたされた; 漢訳 充, 満, 充滿, 具, 塞, 所集, 周匝, 多, 滋茂; 咸; 乘 *Lal-v.*, *Rāṣṭr.*, *Suv-pr.*, 梵千.: *kṛmi-śata* ~ 多諸蟲戸, 諸蟲所集 *Suv-pr. 191.*; *siri*~(俗) 咸吉祥 *Lal-v. 363.*

bharu 男 [*Viṣṇu* 神ならびに *Śiva* 神の称]; 同 *Viṣṇu* 神と *Śiva* 神.

bharuka 男 [ある王侯の名].

bharu-kaccha 男 = *bhṛgu-kacchā*. 漢訳 [都城の名]. 沃田 *Gaṇḍ-vy. 452.*; [竜の名] 妙魔 *Mṛyut.*

bharga 男 光輝 (因); [*Śiva* 神の称]; [諸人の名]; 覆 [ある好戦的部族の名].

bhargas 中 輝かしい形相 (因); 光輝.

BHṛj → **BHrajj**.

bharjana 形 あぶる, 焼く, 破壊する. 中 あぶること, 焼くこと, 油で揚げること, 揚げ鍋.

bharjita 使役 過受分 → **BHrajj**.

bhartavya 未受分 担われるべき; 支持されるべき, 維持またははぐくまれるべき; 賃賃または保留されるべき.

bhartṛ 男 (屬, 一°)の保持者, …の支持者; 維持者, 扶養者; 主, 命令者, 指揮者, 指導者, 主長 [-*tri* 因 母]; 夫; 漢訳 夫, 夫主 *Bodh-bh.*, 梵雜.

bhartṛka 形 一°夫.

bhartṛ-guṇa 男 夫の長所または徳.

bhartṛ-ghna 形 主人または支持者を殺す.

bhartṛ-ghnatva 中 [同上 種].

bhartṛ-ghni 因 夫を殺す婦女.

bhartṛ-cittā 因 夫を思うこと.

bhartṛ-jaya 男 夫を支配すること.

bhartṛtva 中 主人または夫たる地位.

bhartṛ-darsana-kāṅkṣā 因 夫に合いたいと思う願望.

bhartṛ-darsana-lālasā 形 因 夫に合いたいと切望する.

bhartṛ-dāraka 男 王の息子, 皇太子 (とくに 戯曲).

bhartṛ-dārikā 因 王の娘, 王女 (戯曲).

bhartṛ-duhitṛ 因 [同上].

bhartṛ-devatā 形 因 夫を神と崇めること。
 bhartṛ-daivatā 形 因 [同上]。
 bhartṛ-priya 形 主人に献身する。
 bhartṛ-priyā 形 因 夫に忠実な。
 bhartṛ-bhakta 形 = bhartṛ-priya。
 bhartṛmatī 形 因 夫をもつ、結婚した(女)。
 bhartṛ-menṭha 男 [ある詩人の名]。
 bhartṛ-rājyāpaharaṇa 中 夫の王国の奪取。
 bhartṛ-rūpa 形 夫の姿をした。
 bhartṛ-loka 男 夫の(死後に行く)世界。
 bhartṛ-vatsalā 男 形 夫にやさしい。
 bhartṛ-vallabhatā 因 夫に愛せられること。
 bhartṛ-vyatikrama 男 夫に対する罪悪。
 bhartṛ-vyasana-piḍita 形 主人または夫 [この場合名 -ā 因] の災難によって悩まれた。
 bhartṛ-vrata 中 夫への貞淑。
 bhartṛ-vratatva 中 [同上 中]。
 bhartṛ-vrata-cāriṇi 形 因 [同下]。
 bhartṛ-vratā 形 夫に献身する。
 bhartṛ-śoka 男 夫または主人のための悲しみ。
 bhartṛśoka-parā 形 因 夫または主人のための悲しみに耽る。
 bhartṛśoka-paritāṅgi 形 因 夫または主人のための悲しみによって四肢が力を失った。
 bhartṛśokābhipiḍitī 形 因 夫または主人のための悲しみに悩まされた。
 bhartṛsāt-Kṛ, 少女を(夫に)嫁がせる。
 bhartṛ-sneha-paritā 形 因 夫に対する愛情にみちた。
 bhartṛ-hari 男 [Vākyapadiya を著わした文法家(西紀第五世紀), Śṛṅgāra-śataka, Niti-śataka, Vai-rāgya-śataka の三百頌集を残した詩人(西紀第七世紀?) の名, 両者が同一人か否か確定しない]。
 bhartṛhari-śataka 中 [Bhartṛhari の百節からなる詩集の題名]。 → bhartṛ-hari。
 bhartṛ-hārya-dhana 形 (その) 所持品を主人が自己の物とすることのできる(奴隷)。
 bhartṛ-hina 形 主人または夫 [この場合 -ā 因] に棄てられた。
 bhartṛi 因 → bhartṛ。
 BHarts I. 中 bhartsati [まれに]; 使役 中 因 bhartsayati(-te) おびやかす, 威嚇する; ののしる, 悪口する, 嘲笑する; 使役 中 因 bhartsita きびしく譴責された, 叱責された, 嘲笑された。 使役 中 因 bhartsayamāna 威嚇する。
 abhi- おびやかす, 悪口を言う, あざける=凌駕する。
 ava- 威嚇する, 悪口を言う; 使役 中 因 映蔽 Divy. 366。
 nir- [同上]; あざける, 嘲笑する; 消失させる。
 使役 中 因 nirbhartsayati 使役 中 因 伏, 降伏 Divy。
 abhi-nir- 叱責する, 譴責する。
 pari- 威嚇する; 悪口を言う。
 vi- 中 vibhartsyate 使役 中 因 減削 Lal-v。
 sam- 威嚇する, 悪口を言う。
 hartsana 中 おびやかすこと; 悪口を言うこと。

bhartsanā 因 [同上]。
 bhartsita 使役 中 因 過受分 → BHarts. 中 威嚇, (因) に対する威嚇。
 bharman 中 維持, 養育。
 bharmyāśva 男 [王侯の名]。
 Bharv, I. 中 bharvati かむ, 食う (RV.)。
 BHal [ただ 一° のみ]
 ni- 使役 中 因 nibhālayati(-te) 見る, 眺める, 観察する; 使役 中 因 待, 観 Abh-vy。
 vi-ni- 調査する。
 nir- 眺める, 見なす [中 nibbhālaanti のみ]。
 sam- 中 sambhālayati 聞く。
 bhala 附帯 中 不変辞 真に, 実に (因)。
 bhalandana 男 [人名]。
 bhalla 1. 男 矢 (の一種), (半月形の) 飛び道具; 熊。 使役 中 因 斧刃箭 Mvyut. 中 矢じり (の一種)。
 bhalla 2. 形 中 [< bhadra] 使役 中 因 好 梵千。
 bhallāta 男 [植物の名, 学名 *Semecarpus Anacardium*] 中 カシュナツの実。
 bhallātaka 男 中 [同上]。
 bhallika 男 使役 中 因 音写 [人名] 波利, 婆履 Divy., Lal-v。
 bhalli 因 矢 (の一種)。
 bhalluka 男 使役 中 因 熊 Mvyut。
 bhallūka 男 熊。
 bhallūka-yuvan 男 小熊, 若い熊。
 bhava 男 誕生, 生起; 起源, 本源; 存在, 生; 現世の存在; 世界; 安寧, 繁栄; [ある神の名, *Rudra* 神の随伴者] (因); [*Śiva* 神の称] (叙詩, 中); [諸人の名]; (一°) となること, …に変わること; 使役 中 因 有, 諸有, 生, 生者 Abh-k., Abh-vy., Dharm-s., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Madhy-bh., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Svapṛ., Svavik-pr., Sūtr.; 法 Cat-ś.; 生死 Abh-vy., Gaṇḍ-vy.; 勝位 Abh-vy.; [人名] 自在 Divy.: ca-tvāro ~ āḥ [1. mārāṇa ~ ḥ 死有, 2. antarā ~ ḥ 中有, 3. upapatti ~ ḥ 生有, 4. pūrva-kāla ~ ḥ 過去有] Mvyut. → punar ~. 一° 形 …より発する, …より生じた, …に存在する, …より来る。
 -bhavaka, 形 = 存在。
 bhava-kṣiti 因 誕生地。
 bhava-khāmi 男 [人名]。
 bhava-gati 因 使役 中 因 有道, 有趣 Gaṇḍ-vy., Madhy-v。
 bhavagaty-upapatti 因 使役 中 因 諸趣, 受生 Gaṇḍ-vy。
 bhava-candra 男 [人名]。
 bhava-cchid 形 現世の存在を切断する, 輪廻から解放する。
 bhava-ccheda 男 現世の存在の切断, (未来の) 輪廻からの解放; [村の名]。
 bhavat 1. 現分 [BHū] [中 bhavan; 因 bhavanti] 在る, 現存する; 使役 中 因 為 Bodh-bh。
 bhavat 2. 現分 [おそらく bhagavat から]。 男 [三人] とともに (例外的に [三人] とともに) 敬称 [三人] 中 (因 bhavān, 因 bhavati) として用いられ, [三人] 中 と交替して用いられる。 中 は時として多大な尊敬の表

示として用いられる。しばしば atra, tatra および時として sa と結合される]；**有汝** 汝，汝等 *Lal-v.*, *Madhy-v.*, *Saddh-p.*

bhava-tṛṣṇā-satya 有愛諦，有愛実 *Bodh-bh.*

bhavat-putra 御子息，貴下の息子。

bhavat-pūrva **形** bhavat という語に先行された。
～m 最初に bhavat という語を用いて。

bhava-traya 三有，三種 *Lank.*, *Sūtr.*

bhava-trāta [諸人の名]；**護** [人名] 守護 *Divy.*

bhavad-antya **形** 終りに bhavat という語をもつ。

bhavad-anya **形** あなたとは別の。

bhavad-āhārārtham 副 あなたの食物のために。

bhavadiya **形** [尊敬の意をこめて] 貴下の，あなたの。

bhavad-uttaram 副 終りに bhavat という語を用いて。

bhava-dṛṣṭi 有見，見諸有 *Lank.*

bhavad-vacāna 御言葉，御話し。

bhavad-vidha [尊敬の意をこめて] あなたのよう
な人の。

bhavad-viraha-nāma あなたからの別離というだけのことば。

bhavana 家，住所，邸宅；宮殿；神殿；(生誕時の) 星位，生誕の運星；生れ来ること，生産；(何にもせよ) 生長する場所；**所住** 所住，処，住処，宮，天宮，王宮，宮殿，最勝殿；房子 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mvuyut.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*；天 *Lank.*；生死之処 *Gaṇḍ-vy.*：tuṣita
～兜率天宮，觀史多天宮 *Bodh-bh.* 275. →
deva～。

bhavana-dvāra 宮殿の門。

bhava-nanda [ある俳優の名]。

bhava-nandana [Śiva 神の息子，*Skanda* の
父系]。

bhava-nandin [人名] 歓喜 *Divy.*

bhavana-śikhin 飼われた孔雀。

bhavanāṅgana 宮殿の中庭。

bhava-nāśini [(現世の存在を絶滅する)，*Sarayū*
河の称]。

bhava-nibandha-vināśin 現世の存在の繫縛を絶滅する。

bhava-nirodha 有滅 *Suv-pr.*

bhavaniya 未受分 あるべき，起るべき。yusmābhir
etad. ～m ca nānyathā そうして汝等はこれを別異
たらしめるべきでない。

bhava-netrikā 女 次の生または輪廻に導く (渴愛)
(*Mah-v.*)。

bhava-netri 女 [同上]。

bhavanodyāna (°na-ud°) 家または宮殿に属した庭。

bhavanti (現分) 女 現在時。

bhavantas 男 複 → bhavat 2. **汝等** *Saddh-p.*

bhavan-madhya **形** 中間に bhavat という語をもつ。

～m 副 中間に bhavat という語を用いて。

bhava-pratyaya 有縁 *Suv-pr.*

bhava-prahīna 断 (一切) 有 *Saddh-p.*

bhava-priya 有愛 *Sūtr.*

bhava-bhaṅga 現世の存在の絶滅。

bhava-bhāva 世界への愛。

bhava-bhāvana 安寧を授ける；(一°)を幸運である
と思う。

bhava-bhāvanā 女 (一°)を幸運であると見なすこ
と。

bhava-bhiru 再生を恐れる。

bhava-bhūta 存在の源である。

bhava-bhūti 幸運な存在。男 [戯曲詩人の名，*Mā-*
latimādhava, *Mahāvīra-carita* および *Uttararā-*
ma-carita の作者で西紀およそ700年を中心として
生存した]。

bhava-bhoga 世間の歓楽。

bhava-manyu 世間に対する憤怒。

bhavamaya (因 -i) Śiva 神から生じた，Śiva 神
からなる。

bhava-mocana 現世から離脱させる。男 [*Kṛṣṇa*
神の称]。

bhava-rāga 有貪 *Mvuyut.*

bhavarāga-mardana 断除愛欲，破諸煩惱者
Saddh-p.

bhava-viti 女 この世の存在から離脱すること，世間
的な行為の止滅。

bhava-vyaya 男 生と死。

bhava-śarman 男 [人名]。

bhava-samyojana 有結 *Saddh-p.*

bhava-saṁśodhana 男 [Samādhi の一種] (*Kār-vy.*)。

bhava-sakti 女 貪著諸有 *Mvuyut.*

bhava-saṁkaṭa 有峻難 *Suv-pr.*

bhava-saṁkrānti 女 転有 *Bodh-bh.*, *Mvuyut.*；
[経の名] 遷有(経)，(大乘) 流転諸有(経) *Mvuyut.*

bhavasamkrānti-sūtra 有経 *Bodh-bh.*

bhava-saṅga 有結，煩惱 *Divy.*

bhava-saṅgin 現世に執着する。

bhava-sattva-samudra 生死海 *Suv-pr.*

bhava-saṁtati 女 輪廻の連続；**相続**，有相続
Madhy-v.

bhava-saṁtrāsa-vicchettṛ 能除生死怖 *Gaṇḍ-*
vy.

bhava-samudra 現世(生死)の大洋。

bhava-samudroccalita (°ra-uc°) 永出有海，
離生死海 *Gaṇḍ-vy.*

bhava-sāgara 有海，(三) 有海，(三) 有(大)海，生死流 *Raṣṭr.*, *Suv-pr.*：
tareyaṁ ～āt 度三有海，濟度生死流 *Suv-pr.* 25.

bhava-sāyujya 女 (死後の) Śiva 神との結合。

bhava-sāra 現世(生死)の海。

bhava-sindhu 男 [同上]。

bhavāgra 世界之最上部 (*Saddh-p.*)；**有頂**，
第一有 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*；極天 *Lal-v.*

阿迦尼吒[*akanīṣṭha* の音写] *Saddh-p.* 6.

bhavāgra-stha 至極天 *Lal-v.*

bhavāṅga 有支 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*


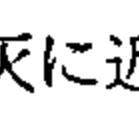
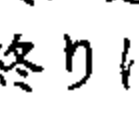
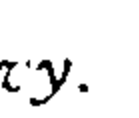

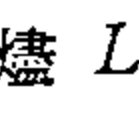
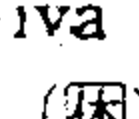

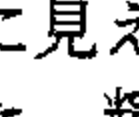

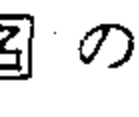
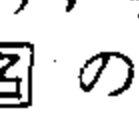
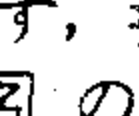
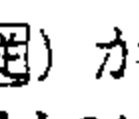

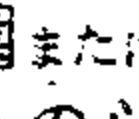
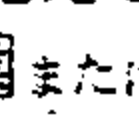
bhavātiga 現世的存在を超えた。

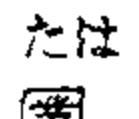
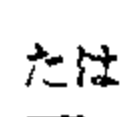
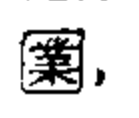
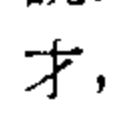
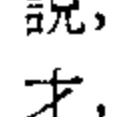
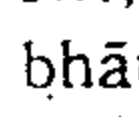
bhavā-dṛś [尊敬の意をこめて] あなたのような。

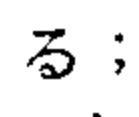
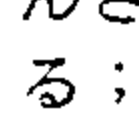

bhavā-dṛśa (因 -i) [同上]。

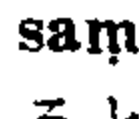
bhavāni 因 [ある女神の名 (S.), 後に Śiva 神の妃 Parvati と同一視される (圍)]; [諸婦人の名]; [ある河の名].
bhavāni-pati 男 [Śiva 神の称].
bhavāni-vallabha 男 [同上].
bhavāni-sakha 男 [同上].
bhavānta 男 有辺際, 無辺処 Mañj-m., Mvyut.
bhavānta-kṛt 男 [(世間的存在を絶滅した) Brahman 神の称]; [仏の称] 作有辺際, 出三有; 能出三有 Mvyut.
bhavāntara 因 他の生存 (過去または未来).
bhavāntara-prāptimat 因 再生を得る.
bhavābdhi 男 現世(生死)の海.
bhavābhava 男 有無有, 成敗之法 Mvyut.
bhavāmbu-rāsi 男 = bhavābdhi.
bhavārṇava 男 有海, 諸有海 Abh-k., Gaṇḍ-ry.
bhavāsrava (°va-ās°) 男 有漏 Abh-ry.
bhavitavya 未受分 起るべき, あるべき [しばしば 因 罪人. 主辞は 因 となり, 賓辞はそれと一致する]. 因 避け難い必要.
bhavitavyatā 因 あるべき状態, 避け難い必要, 運命.
bhavitu-kāma 因 欲生 Daś-bh.
bhavitr 因 (因 -tri) まさに存在しようとする, 未来の, 切迫した [困はまた BHū の困として用いられる]. 男 能有, 有者, 事用者, 起作用 Abh-ry.
bhavin 男 生物; 六間.
bhavila 男 [人名] 安楽 Divy.
bhaviṣṇu 因 あるべき, 未来の; [am に終る 因 とともに -°]…となる; 発達する; 続生 (?), 於余処生 (?) Abh-ry. 267.
bhaviṣya 因 まさに存在しようとする, 未来の; さし迫った, 焦眉の. 因 未来.
bhaviṣyat 困 因 あるべき, 未来の; 当有 Abh-ry. 因 未来, 未来時制.
bhaviṣyat-kāla 因 未来時制に関する.
bhaviṣyattā 因 未来性.
bhaviṣyattva 因 [同上].
bhaviṣyat-purāna 因 [ある Purāna の題名].
bhaviṣyad-anadyatana 男 未来のしかも今日に属しない時.
bhaviṣyad-dhetu 男 当因, 当有因 Lan̄k.
bhaviṣyanti 因 第一未来 (文法).
bhaviṣya-purāna 因 [ある Purāna の題名 = Bhaviṣyat-purāna].
bhaviṣya-purāniya 因 Bhaviṣyat-purāna に属する.
bhaviṣyottara (°ya-ut°) 因 Bhaviṣyat-purāna の第二部.
bhaviṣyottara-purāna 因 [同上].
bhavoccheda (°va-uc°) 男 = bhava-ccheda.
bhavottāraka (°va-ut°) 男 [Samādhi の一種 (Kār-ry)].
bhavodbhava (°va-ud°) 男 [Śiva 神の称].


bhavopakaraṇa (°va-up°) 因 有具, 有資具 Vijñ-t.
bhavaugha (°va-ogha) 男 有暴流, 有暴河, (諸有流, (諸)有瀑流, 有海 Abh-ry., Divy., Gaṇḍ-ry=
bhavya 因 現在の; 来來の; まさに起ろうとする; そうあるべきである, 適当な; よい, すぐれた; 立派な, 美しい; 恵み深い, 好意ある; 吉兆の, 吉慶の, 幸運の; 堪能, 有堪能, 堪任, 有所堪任; 有分, 必定; 可使; 美 Abh-ry., Buddh-c., Bodh-bh., Mvyut., Śiks. 因 現在; 存在; 未来; 繁榮. 因 [植物の名, 学名 *Averrhoa carambola*]; [Manu Cākṣuṣa の支配下における一群の神々の名]; [第九 Manvantara のある Ṛṣi の名]; [Dhruva の息子の名]; [Priyavrata の息子の名]; 修福者 Śiks.; [古師の名, また Bhāvaviveka と称す] 清辯, 有清分 Mvyut. → a~.
bhavyatā 因 美.
bhavyatāvasthā (°tā-av°) 因 堪能位; 成修住 Madhy-bh., Madhy-vibh.
bhavyatva 因 能, 力能, 成生 Abh-ry.
bhavya-rūpa 因 美しい; 堪能 Bodh-bh. 因 美しい姿または形.
bhavyākṛti (°ya-āk°) 因 端麗な.
BHaṣ, I. bhaṣati(-te) 吠える, 吠えつく (叙詩); (業) をののしる.
bhaṣa 因 吠える (VS. 用例一回のみ).
bhaṣaka 男 犬 (圍).
bhaṣita 因 吠えること (Jāt-m.).
BHaṣ, I. bhaṣati, III. babhaṣti および bapsati [ba-bh(a)s-a-ti] かむ, 食り食う, 食い尽す (因). nir- かみ切る (因). pra- きれぎれにかむ, 食う (RV.).
bhaṣ, = bhaṣman, 灰 [因 のみ (P.)].
bhaṣad 因 尻; 女陰.
bhāṣita 過受分 灰とされた (圍), [*BHaṣ 吹く]. → bhaṣ, bhastrā, bhaṣman.
bhastrā 因 囊, 袋, ふいご; 袋 Bodh-c.
bhastrābharāṇa (°rā-ābh°) 因 箆 (の一種).
bhastrikā 因 小さな袋, 財布.
bhaṣmaka 男 胎漏 Mvyut.
bhasma-kūṭa 男 灰の堆積.
-bhasma-kṛt 因 灰とする (一°).
bhasma-kṛta 因 灰とされた.
bhasma-caya 男 灰の堆積.
bhaṣmatā 因 灰の状態. ~m Yā 灰となる.
bhaṣman 1. 因 かみ砕ぐ(齒) (RV. 用例一回のみ). → Bhaṣ かむ.
bhaṣman 2. 因 吹くこと (RV. 用例一回のみ); 灰. → BHaṣ 吹く; 灰, 灰土, 灰炭, 灰燼, 灰囊, 塗灰, 糖根 Abh-ry., Divy., Gaṇḍ-ry., Lal-v., Mañj-m., Śiks., 梵千., 梵雄.; 沙 Av-s.
bhasma-puñja 男 灰の堆積.
bhasma-priya 因 灰を好む (Śiva 神).
bhasma-bhūta 因 灰とされた.
bhasma-rāsi-kṛ, 灰の堆積とする.
bhasma-rāsi-kṛta 因 灰の堆積とされた.

bhasma-reṇu 男 灰の塵埃。
 bhasma-lalāṭikā 女 灰をもって(作られた)額部の標識。
 basma-sāyin 形 灰の上に横たわる； 臥塵土中 *Buddh-c.*
 bhasma-śuddhi-kara 形 (自身を)灰で浄める (*Śiva* 神)。
 bhasmasaya 名動 他 bhasmasayati 灰となる。
 bhasmasāt 副 [As, BHū, Gam または Yā とともに] 灰とされる。[Kr または Ni とともに] 灰とする。
 bhasma-stoka 中 少量の灰、一つかみの灰。
 bhasmākhyā (°ma-ākh°) 形 灰と呼ばれる=単なる灰。
 bhasmānta 1. 中 灰に近いこと； 灰に近く。
 bhasmānta 2.  灰となって終る、終りには焼かれる(肉体)。
 bhasmānti 副 灰に近く。
 bhasmāpāśraya 形  臥灰土上 *Divy.*
 bhasmālabuka 中 灰(を貯蔵するのに用いられた)ひょうたん。
 bhasmāvaśeṣa 形 灰のみを残した、灰とされた。~m Kr () を灰に帰せしめる。
 bhasmita 過受分 灰とされた、絶滅させられた。
 bhasmi-Kr, 灰とする； 竭、成灰燼 *Lal-v.*, *Suvik-pr.*
 bhasmi-bhava 男 灰の状態。~m gata 灰となった。
 bhasmi-bhāva 男 灰となること。~m Gam 灰とされる。
 bhasmi-BHū, 灰とされる。
 bhasmi-bhūta 形 灰に帰した、灰とされた；単なる灰の=無価値の。
 bhasmeśvara (°ma-iś°) 男 [薬剤の一種]；[将来の *Tathāgata* としての *Śiva* 神の称] (*Kār-ty.*)
 bhasvan 形 輝かしい。
 BHā, II. 他 bhāti 光る、輝く；さんぜんと輝く；自己を示す、現われる；見える、( ±iva または -vat 副) のように思われるまたは見える；() と見なされる；[na とともに] 光らない、貧弱に見える； 放光明 *Raṣṭr.* 過受分 bhāta 光った、輝いた、輝かしい。
 ati- 強く輝く、さらに強く輝くまたは光る。
 abhi- 輝く； 遍照 *Lal-v.*
 ava- 下の方へまたは…の方に光る；現われる、自己を示す。
 ā- 輝き出す、輝く；照す；自己を示す、現われる；(iva, yathā, -vat, -nibha , -tva  の ) のように思われるまたは見える。
 sam-ā- (iva) のように思われるまたは見える。
 ud- 光を発する、現われる；(iva) のように見える。
 nir- 光を発する、自己を明示する、() から起る；(iva) のように思われる。過受分 nirbhāta 光った；() に現われた、…に明示された。
 pra- 光を発する；明るくなり始める(夜明けについて)；(±iva) のように思われるまたは見える。
 prati-…の上に光る、照らす；(人の  または ) に自己を示す、…に明らかになる；(同上)の心に現われ

る、に明らかであるまたは理解される、…に思い浮ぶ；( ±prati または ) に ( ±iva, yathā または -vat 副) のように見えるまたは思われる；(人の , ) によく見える、…を気にいる； 説、樂説、能説、辯説、当説、能喜説、説法、樂辯、辯才、以辯才宣示；誦；辨了、惟付 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Sapt-pr.*, *Saddh-p.*；prati-bhātu te 汝可誦 *Divy.*

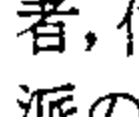
vi- 輝く、明るくなり始める(夜明けについて)；さんさんと輝く；眼を射る；自己を示す、明示される；響く；() であると見えるまたは思われる、( ±iva または -vat 副) のように見える；照らす； 頭照 *Saddh-p.*

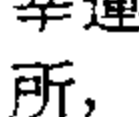
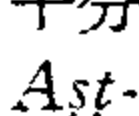
saṃ- 輝く、自己を示す；() ±iva, yathā) であるとまたはのように見えるまたは思われる。

bhā 女 光輝、光明、莊麗等。→ bha.  光明 *Lal-v.*

bhā-ṛjika 形 光をもって輝く。

bhāḥ-kūṭa 男 [魚の一種]。

bhākta 形 劣った、第二次的の。男 *Bhakti* の信奉者、信仰深い人； (ある *Śaiva* 派ならびに *Vaiṣṇava* 派の称)。

bhāga 男 配当された部分、分け前、割当て、相続分；幸運；部分、一部[全体の ]；方面、区域、場所、地点、空地；(分数の)分子；度(円周の三百六十分の一)； 分、一分、少分、類、辺 *Abh-ty.*, *Ast-pr.*, *Lal-v.*, *Miyut.*, *Suv-pr.*, 梵雜；(一°)… 分之一 *Saddh-p.* → pañcama ~. 一° 形 …の代理である。

bhāgaka 形 一° = bhāga. に参与する、の分け前をもつ。

bhā-gaṇa 男 星の群。

bhāga-dheya 中 分け前、当然受けるべきもの；運勢、運命、幸運、繁榮；財産；王の分け前、税[また 男 または 女 -ā]. 形 (女 -i) 分け前として当然な(吠)。

bhāga-bhāj 形 (…において) 分け前をもつ。男 参与者。

bhāga-bhuj 男 (税を享受する者)、王。

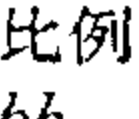
bhāga-mukha 男 [人名]。

bhāga-lakṣaṇa 中 (女 -ā) 部分の間接指示(修辭)。

bhāgavata 形 (女 -i) *Bhagavat* (*Viṣṇu* 神または *Kṛṣṇa* 神)に関する または から出た。男 *Bhagavat* の信奉者、*Vaiṣṇava* 派の信者。中 = *Bhāgavatapurāṇa*。

bhāgavata-purāṇa 中 [*Vaiṣṇava* 派の重要な *Purāṇa* の題名]。

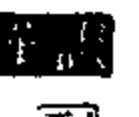
bhāgavitti 男 [*Cūla* という婆羅門学徒の父系]。

bhāgaśas 副 諸部分に(分ける)、部分毎に、適当な比例で、徐々に； 分分、分別 *Abh-ty.*, *Daś-bh.* ~h *Klp* 使役 諸部分に分かつ。

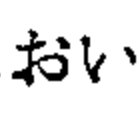
bhāga-hara 形 分け前を受け取る。男 嗣子。

bhāga-hāra 男 (算術における)除法。

bhāga-hārin 形 (財産を)相続する。男 嗣子。

bhāgāda (°ga-āda)  賊 *Abh-k.*

bhāgānubhāgena 男 副 異なった割合で。

bhāgārthin 形 分け前を要求する( 祭式において)。

bhāgika 形 一部分を形成する。男 [人名].
bhāgin 形 分け前を受ける権利をもつ；分け前を受け
 るまたは受けた；(属, 因, 一°) にあずかるまたは関
 する；分け前からなる。男 参与者；所有者；幸運
 な人；漢訳 有分者 *Mvyut.*
bhāgini 女 漢訳 姉妹 *Av-s.*
bhāgineya 男 姉妹 (*bhagini*) の子；[年少者に対する
 親しみを表わす呼びかけの語] (*Divy.*)；漢訳 小弟,
 甥 *Divy.*, 梵千., 梵維.
bhāgineyaka 男 [同上].
bhāgi-Kṛ. 分ける.
bhāgiya 形 …に属する, に関係する；にあずかる；
 に導く(仏教)；漢訳 分, 順分, 分能；類 *Abh-vy.,*
Bodh-bh., Divy., Mvyut., Sūtr. → *anyathā ~,*
avara ~, ūrdhva ~, nirvedha ~, mokṣa ~.
bhāgiyas 比較 [bhāgin] より大きな分け前を得る権
 利のある.
bhāgiratha 形 (女 -i) *Bhagiratha* に関する.
bhāgirathī 女 [(*Bhagiratha* の娘), *Gaṅgā* 河の称,
 また *Gaṅgā* 河の三源流の一および一支流の名]；漢訳
 梵伽河 [梵伽は *gaṅgā* の音写] *Mañj-m.*
bhāgirathī-nātha 男 *Gaṅgā* 河の主, 海洋.
bhāgirathī-putra 男 [*Bhīṣma* の称].
bhāgirathī-vallabha 男 *Gaṅgā* 河の愛人, 海洋.
bhāguri 男 [諸人の名].
bhāgya 1. 形 *Bhaga* に関する。中 [*Pūrva-phalguni*
 星座の名].
bhāgya 2. 形 幸福な。中 (運, 覆) 運命, 宿命 (前生
 においてなされた行為の結果)；幸運, 運；繁栄,
 幸福, 安寧；(運) 報酬；漢訳 福, 功德 *Divy.*；感
Sāṃkhy-k. → *manda ~.* 男 副 運よく, しあわ
 せにも.
bhāgya-krama 男 運命の進路。男 副 運命の転変に
 よって.
bhāgyatara 比較 (従) より幸福な.
bhāgyatā 女 = *bhāgyavattā.* 漢訳 福 (力) *Śikṣ.*
bhāgya-nātha 形 運命を保護者とした.
bhāgya-rahita 形 幸運に見捨てられた, 悲惨な；漢訳
 無福人 *Divy.*
bhāgyavat 形 幸運な, 幸福な.
bhāgyavattā 女 幸福.
bhāgyavaśa 男 運命の力；従 運命の力によって.
bhāgya-viparyaya 男 不運.
bhāgya-viplava 男 [同上].
bhāgya-vaiṣamya 中 [同上].
bhāgya-samṛddhi 女 繁栄, 幸運.
bhāgya-saṃkṣaya 男 = *bhāgya-viparyaya.*
bhāgya-sampad 女 = *bhāgya-samṛddhi.*
bhāgyāyatta (°ya-āy°) 形 運命に依存した.
bhāgyodaya (°ya-ud°) 男 覆 幸運の階昌, 幸福なで
 き事, 隆々たる繁栄.
bhāṅga 形 麻 (*bhaṅgā*) で作った.
bhāṅgaka 中 漢訳 麻布, 麻衣 *Mvyut.*
bhāṅgāsuri 男 *Bhāṅgāsura* の子, [*Rtuparna* の
 父系].
bhāj 形 (一°, まれに 属) にあずかるまたは参与す

る, …の権利を賦与される；を所有する, 有する,
 享受する；実行する, …に専念する；…の一部を成
 す, …に属する；…と関係または結合した；…を占め
 る, …に居住する；…に行くまたは広がる, (膝に) 落
 ち入る；尊敬する；崇拜する；漢訳 成, 得 *Abh-*
vy.

bhājaka 男 (計算法の) 除数；漢訳 分, 分人, 散,
 擺 *Mvyut.*
bhājana 中 (属=属の代理として)；(一°) を代表す
 ること, …と等しいこと (因)；容器；皿, 壺；(属,
 一°) を容れるもの, …の貯蔵所；(属) を受けるに適
 当な事物または人；[容量の一単位=64 palas]；漢訳
 器盤, 鉢, 外器；(根) 器, (法) 器；器 (世間) *Abh-*
k., Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v.,
Lank., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ.,
Sūtr., Suv-pr., 梵千., 梵維.；素 *Lank.* → *āma ~.*
 一° 形 …にあずかる, …の権利を賦与された, …に
 関するまたは属する.
bhājanatā 女 (属) の容器であること；所有.
bhājanatva 中 (属) の容器であること, ふさわしい
 こと；漢訳 器, 器果, 器体, 令成器 *Madhy-bh.,*
Madhy-vibh., Sūtr.
bhājana-bhūta 形 漢訳 器, 所依器, 為 (法) 器；堪
 受能受持, 堪任受持, 可化, 応受化者 *Ast-pr., Di-*
vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Saddh-p.
bhājana-loka 男 無生物の世界 [*sattva-loka* の因]
 (*Dharm-s.*)；漢訳 世器, 器世間, 器世界 *Abh-k.,*
Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-bh., Madhy-vibh., Sū-
-tr., Vijñ-t.
bhājana-vārika 男 容器保管者 (*Divy.*)；漢訳 管器
 人, 管操者 *Mvyut.*
bhājana-sattva 男 漢訳 器有情, 器衆生 *Bodh-bh.*
bhājani-bhāva 男 漢訳 令成器 *Sūtr.*
bhājani-BHū. (一°) の容器となる, …を得る；漢訳
 成器, 為器, 是器 *Gaṇḍ-vy.*
bhājani-bhūta 形 (一°) の容器となった, …を得た
 漢訳 器, (法) 器, (真法) 器, 成器, 器堪受, 堪
 器, 堪受 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Suvik-pr.*：~o buddha
dharmāṇām 成仏法器, 修諸仏法 *Gaṇḍ-vy. 53;*
ārya-dharmāṇām ~ āh 堪聖法器, 堪受聖法, (身
 器(清浄) 堪受聖法 *Gaṇḍ-vy. 356.* → *bodhi ~.*
bhājīn 形 (一°) に参与する, …を得る；…と結合し
 た.
bhājya 未受分 分けられるべき.
bhāṭa 中 貸貸, 賃金；賃貸料.
bhāṭaka 中 [同上].
bhāṭi 女 料金 (とくに娼婦の)；売淫による稼ぎ.
bhāṭṭa 男 *Kumārila-bhāṭṭa* の学徒, 覆 [住民の名].
bhāṇ 擬音 [氣息音, 叱声].
bhāṇa 男 [演劇の一種].
bhāṇaka 形 漢訳 説, 讚歎 *Bodh-bh., Daś-bh.,*
 志.; 音写 唄蓋 玄志. 男 漢訳 (音写) 婆師 玄志.
bhāṇikā 女 = *bhāṇa.*
-bhāṇin 形 漢訳 言, 語 *Bodh-bh.* → *kalaviṅk*
manojña ~, madhura ~.
bhāṇḍa 中 容器, 壺, 手桶, 皿；樽；ケース, 箱

器具, 道具; 楽器; 製品, 商品 [時として 男 覆]; 宝玉, 貴重品, 宝物; 資本, 元金; 道化; 覆器, 器物, 儲器物, 什物, 物, 坏瓦瓶; 財物, 資生, 資産 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lañk.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; 音写 鞍駄 *Divy.*

bhāṇḍaka 中 男 壺; 函; [一 覆] 製品, 商品; 覆器 *Lal-v.*

bhāṇḍa-gopaka 男 覆蔵器物人, 管家火器者 *Mvyut.*

bhāṇḍana 中 [正しくは *bhaṇḍana*, *Pāli bhaṇḍana*] 諍論, 紛争 (*Divy.*).

bhāṇḍa-pati 男 商人.

bhāṇḍa-pūrṇa 覆 容器 または 商品を積んだ (荷馬車).

bhāṇḍa-bhājaka 男 覆分器物人, 擺家火者 *Mvyut.*

bhāṇḍa-mūlya 中 商品 (からなる) 資本, 在庫品.

bhāṇḍa-vādana 中 楽器を奏すること.

bhāṇḍa-vādyā 中 楽器.

bhāṇḍa-śālā 女 倉庫.

bhāṇḍāgāra 中 貯蔵室; 宝庫; 宝物.

bhāṇḍāgārika 男 倉庫の管理者; 出納係.

bhāṇḍāgārin 男 出納係, 家令.

bhāṇḍā-pura 中 [町の名].

bhāṇḍāyana (°ḍa-āy°) 男 [ある婆羅門学徒の名 (→ *dāṇḍāyana*)].

bhāṇḍāyani (°ḍa-āy°) 男 [人名, 父系].

bhāṇḍāra 男 貯蔵室, 倉庫.

bhāṇḍārika 男 倉庫の管理者, 出納係; 覆庫蔵者 *Mvyut.*

bhāṇḍārin 男 [同上].

bhāṇḍāvakaśa-da 男 (盗賊に) 道具を供し隠れ家を与える者または(盗賊に)その道具を隠す部屋を与える者.

bhāṇḍin 男 覆 [竜王の名] 持瓶, 無行, 雑行, 妙行 *Mvyut.*

bhāṇḍini 女 箱, 籠.

bhāṇḍira 男 いちじくの樹 (学名 *Ficus indica*) [とくに *Govardhana* 河畔の大きな *Nyagrodha* 樹の名]; [ある *Dānava* の名].

bhāṇḍodara (°ḍa-ud°) 中 容器の内部または内側.

bhāṇḍopaskara (°ḍa-up°) 男 覆器物, 什物, 衆具, 資具, 資生什物, 資産什物 *Bodh-bh.*

bhāṇḍopaskāra (°ḍa-up°) 男 覆資生衆具 *Bodh-bh.*

bhāta 過受分 → BHā. 中 非人 あるものが (男) 現われた.

bhāti 女 光沢, 光輝, 光明; 知覚, 知識.

bhā-tvakṣas 覆 強い光をもつ (RV. 用例一回のみ).

bhādra 男 曆月 *Bhādra-pada*.

bhādra-pada 男 [雨季に属する曆月の名 (八月—九月)]; 覆孟秋, 六月 *Mvyut.*, 梵雑. 画 [pūrva ~ および *uttara* ~] 室宿壁宿 *Mañj-m.* 音写 婆達羅鉢陀 (月) *Mvyut.*

bhādra-padā 女 画 [二つの星宿の名+なわち第三 および第四の *Nakṣatra*].

bhādra-mauñja 覆 (女 -i) 植物 *Bhadra* ならびに *Muñja* で作った.

bhādri 女 *Bhādra-pada* 月における満月の日.

bhāna (bhā-ana) 中 外貌; 知覚.

bhānaka 覆 演説 *Lal-v.*

bhānava 覆 太陽に特有な.

bhānaviya 覆 太陽に属する, 太陽の.

bhānu 男 光沢, 光輝のあること, 光明; 光線; 太陽; (覆) *Bhānu* の息子等, *Āditya* 神群; [ある 辞書中の章の名]; [ある *Āditya* の名]; [ある *Devagandharva* の名]; [*Kṛṣṇa* の息子, その他諸人の名]; [第三 *Manvantara* における一群の神々の名]; 覆日, 光明 *Lal-v.*, *Sūtr.* 女 [*Dakṣa* の娘の名]; [*Kṛṣṇa* の娘の名]; [*Dānava Śakuni* 等の母の名].

bhānu-ja 男 太陽の子, 土星.

bhānu-tanayā 女 太陽の娘, [*Yamunā* 河の父系].

bhānutā 女 太陽の状態.

bhānu-datta 男 [諸人の名].

bhānu-dina 中 日曜日.

bhānu-bhṛt 男 太陽.

bhānu-maṇḍala 中 覆日輪.

bhānumat 覆 光を発する, 輝く, 光輝ある. 男 太陽; [*Kṛṣṇa* の息子, その他の人名].

bhānumati 女 [諸人の名].

bhānumaya 覆 (女 -i) 光線からなる.

bhānu-mitra 男 [諸人の名].

bhānu-ratha 男 [同上].

bhānu-varman 男 [人名].

bhānu-vāra 男 日曜日.

bhānu-sena 男 [人名].

BHām, 過受分 **bhāmita** 激怒した(覆).

bhāma 1. 男 光沢, 光明, 光線 (RV.).

bhāma 2. 男 憤怒, 激怒 (覆).

bhāma 3. 男 姉妹の夫.

bhā-maṇḍala 中 覆円光 *Divy.*

bhāma-nī 男 [(光明を導く者), 眼中的 *puruṣa* (瞳) の称].

bhāmaha 男 [*Kāvya-lamkāra* および *Vararuci* 作 *Prākṛta-prakāśa* の注釈書の著者の名, おそらく西紀第七世紀].

bhāmā 女 [*Kṛṣṇa* の妻の名].

bhāmita 1. 覆 光り輝く, 赫々たる.

bhāmita 2. 過受分 → BHām.

bhāmin 1. 覆 光り輝く, 輝く, 著しく目立った, 美しい(婦女).

bhāmin 2. 覆 怒ったまたは情熱的な(婦女).

bhāmini 1. 女 愛らしい婦女.

bhāmini 2. 女 怒った婦女.

bhāmini-vilāsa 男 [*Jagannātha* 作の詩の題名].

bhāyaya, [BHī 使役].

bhāra 男 積荷, 重荷; 労働, 辛苦, 劳作, 仕事, 心労; (覆, 一) に課せられた仕事; 負担; 嵩, 量, 豊富 [しばしば 一 髪を意味する語 とともに]; [一定の重量 = 20 *tulās*]; 肩につける軛 (*Kār-vy.*); 覆重, 担, 重担, 担負, 摧圧, 駄; 事業 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Kāśy.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*,

Sūtr., 梵千.

bhāraka 男 積荷, 重荷; 嵩, 量 [また *-ikā* 因]. 形 (一°) を積載された, 課せられた

bhāra-cchinna 形 漢訳 因重所傷, 以背乏者 *Mvyut.*

bhāra-jivin 男 (荷物を運搬して生計を立てる), 運搬人.

bhāraṇḍa 男 [ある架空の鳥].

bhāraṇḍī 女 同上の雌.

bhārata 形 (因 *-i*) (*Bharata* または *Bharata* 族から出た), [*Agni* 神の称]; *Bharata* の後裔の; *Bharata* 族に属する [*yuddha* 因, *saṃgrāma* 男, *samara* 男 または *saṃiti* 因 とともに = *Bharata* 族の戦い; *ākhyāna* 因, *itihāsa* 男 または *kathā* 因 とともに = *Bharata* 族の物語; *maṇḍala* または *varṣa* 因 とともに = *Bharata* の領土, インド; *vṛtti* 因 とともに = 文体の一種]; インドに住する. 男 *Bharata* の後裔; [*Yudhiṣṭhira* の称]; 漢訳 音写 婆羅多 *Laṅk.* 因 *Bharata* の国土, インド; *Bharata* 族 (およびその戦争) の物語 [= *Mahā-bhārata*, しかし時としてこれと区別されることがある].

bhārata-varṣa 因 *Bharata* の国, インド.

bhārata-sattama 男 *Bharata* 族の後裔中のもっともすぐれた者; 種 *Pāṇḍava* 王子達.

bhārata-sūtra 因 [*Mahā-bhārata* I. 61 の名].

bhāratācārya (°*ta-āc*°) 男 [ある学者の名]; [*Arjunamiśra* の称].

bhāratī 因 [*Veda* のある神格, のちに弁舌の女神 *Sarasvatī* と同一視される]; 弁舌, 声; 鶉.

bhārativat 形 *Bhāratī* 女神に伴われた.

bhāradvāja 形 (因 *-i*) *Bharadvāja* から出たまたはに属する. 男 *Bharadvāja* の後裔; [*Agastya*, *Droṇa* ならびに その他の父系]; 火星; 雲雀; 漢訳 音写 [大仙の名] 婆羅墮婆闍 *Mvyut.*

bhāradvājaka 形 *Bharadvāja* に属するまたはから出た.

bhāradvājikā 女 雲雀.

bhāradvājīn 男 種 [ある学派の名].

bhāradvājī 女 *Bharadvāja* の女性の後裔; 雲雀; [河の名].

bhāradvājiya 形 *Bharadvāja* に関する. 男 種 *Bhāradvāja* 学派.

bhāra-pratyavara 形 荷物 (を担うが故に) もっとも低級な(動作).

bhāra-bhārin 形 荷物を担う.

bhāravat 形 重い.

bhāravattva 因 [同上 因].

bhāra-vahana 因 漢訳 荷負 *Sikṣ.*

bhāra-vāha 形 荷を担う. 男 荷を担う人.

bhāra-vāhaka 男 荷物運搬者, 運搬人.

bhāra-vāhana 男 [同上].

bhāra-vāhin 形 荷を運搬する; (一°) の荷物を担う.

bhāravī 男 [*Kirātārjunīya* の作者の名 (西紀第六世紀)].

bhāra-vodhṛ 男 荷を運搬する人.

bhāra-saha 形 (重) 荷を担う, 偉大な仕事に堪える, 非常に強力な.

bhāra-sādhana 形 大事業を完成する, 非常に有効な (武器).

bhāra-sādhin 形 [同上].

bhāra-hāraka 男 漢訳 担夫 *Sikṣ.*

bhāra-hārin 形 重荷を担う (*Kṛṣṇa* 神).

bhārākrānta (°*ra-āk*°) 形 荷を積み過ぎた (船).

bhārāya 名動 自 **bhārāyate** (属) にとって重荷となる.

bhārāyita 過受分(属) にとって重荷な. → **bhārāya**.

bhārāvatarāṇa 因 (因) から荷を下ろすことまたは除去すること.

bhārika 形 重苦しい, 重い. 男 荷物運搬者, 運搬人.

bhārikā 女 たくさん, 多数. → **bhāraka**.

bhārin 形 (一°) を担う, 運ぶ; 重い; 沈んだ (調子). 男 荷物運搬者, 運搬人.

bhāraṇḍa 男 = **bhāraṇḍa**. 因 [ある *Sāman* の名]. [ある森の名].

bhā-rūpa 形 明るい, 彩色のある, 明らかな, 輝いている.

bhārodvaha (°*ra-ud*°) 男 荷物運搬者, 運搬人.

bhārodvahana (°*ra-ud*°) 因 漢訳 負極重 *Sikṣ.*

bhāropajivana (°*ra-up*°) 因 荷 (を運搬すること) によって生計を立てること.

bhārga-bhūmi 男 [王侯の名].

bhārgava 形 (因 *-i*) *Bhṛgu* から出た・に属するまたはに属する; *Bhārgava* (*Śukra*) に属する. 男 *Bhṛgu* の後裔 *Paraśurāma*; [*Daiṭya* 魔族の師 *Śukra* の父系]; [*Śiva* 神の称]; [諸人の名]; 予言者, 占星者; 陶器工; 漢訳 瓦師 *Saddh-p.*; [音写] [人名] 跋伽, 跋祇, 婆羅伽婆 *Buddh-ĉ., Divy.*

bhārgava-nandana 男 [*Jamadagni* の称].

bhārgava-rāghaviya 形 *Paraśurāma* ならびに *Rāma* に関する.

bhārgava-śreṣṭha 男 *Bhṛgu* の後裔中もっともすぐれた者.

bhārgavāstra 因 [神の武器の一種].

bhārgavī 女 *Bhṛgu* の女性の後裔; *Bhārgava* (*Śukra*) の娘 (*Devayāni*); [*Pārvatī* の称].

bhārgaviya 形 *Bhṛgu* に関する.

bhārmya 男 [*Mudgala* の父系].

bhārmyasva 男 [同上].

bhārya 未受分 負わされるべき; 支持されるべき, いつくしむまたは養育されるべき. 男 他によってえられるもの, 従属者, 召使; 傭兵, 兵士.

bhāryā 女 妻; (動物の) 雌; 漢訳 妻, 婦, 妻妾, 女夫人; 王后, 正后, 第一夫人, 明妃, 嬪室 *Abh-ry Divy., Gaṇḍ-ry., Guhy-s., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Suv-pr., Sūtr.,* 梵千., 梵雌.

bhāryā-jita 形 妻に支配された, 妻に左右される.

bhāryātva 因 妻たること.

bhāryā-drohin 形 妻に対して意地悪く行動する.

bhāryā-pati 男 因 夫と妻.

bhāryā-patitva 因 夫婦関係, 婚姻.

bhāryāvat 形 妻を有する.

bhāryā-sama 形 妻と等しい.

bhāla 甲 額；光輝。

bhāla-paṭṭa 男 額。

bhāluki 男 [ある聖者の名]。

bhālukin 男 [ある学匠の名]。

bhāluki-putra 男 Bhāluki の息子。

bhāllavaya 男 [Indradyumna の 父系]。

bhāllaveya 男 [同上]。

bhāva 男 生成すること，生起すること，起ること；(一°)に変わること，(因)に変形すること；在ること，存在；永続，存続；[一° -tā ならびに -tva. のように 固 を形成する]…である状態；あることまたは成ること [固 の抽象的基礎概念，抽象名詞の表わす意味，(因) (例 pacyate) に見られる意味]；振舞，行状；状態，状況；階級，地位；(占星術における) (遊星の) 視座；真の状態，真実 [一° 副 實際に]；あり方，性質；心境，性向，氣質；考え方，思想，意見，心情，感情；情緒 [修辭 において八種または九種の根本的の bhāva を数える，これは rasa 十なわち 情趣の数と一致する]；想定；意義，趣旨 [iti ~h は常に ity arthaḥ または ity abhiprāyah のように註釈者によって説明の最後に用いられる]；愛情，愛；情緒の所在，心臓，精神；物，事物；実在，生類；思慮ある人 [戲曲：呼 旦那様 (とくに劇場の支配人を呼ぶのに用いる)]；占星術上の宿または宮 (天を十二分するものの一つ)；[修辭] 有，有性，有法，有分，有果；本，性，法，体，自体，有体，物体，法体；身；事，物，事物，專用；資生具 Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Cat-ś., Lan̄k., Madhy-bh., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Nyāy-pr., Saddh-p., Sāṃkhy-k., Sapt-pr., Sūtr.；意，心 Bodh-bh., Divy., Sūtr.：~ena praviśati 能正悟入，此理得入 Madhy-bh. 63.；一° 作，性，為，成，得 Abh-vy.；(固) 諸法，万物，諸体 Madhy-v. → a~, ātma~, āmukhī, āvir~, bhikṣu~, ~o ~ṃ nigacchati 類をもって集まる。~ṃ dr̄ḥam Kṛ 固い決心をする。~ṃ Kṛ または Bandh (因) に対して愛情を抱く。~ṃ amaṅgalaṃ Kṛ (因) に対して悪意を抱く。~ṃ pāpakaṃ Kṛ [同上]。anyaṃ ~ṃ āpadyate 死ぬ。副 ~ena まことに。

bhāvaka 形 (一°) をしてあらしめる，…を生ずる；(固) の福祉を増進する；(固，一°) であると想像する，空想する；美の感覚をもつ，詩的趣味をもつ；[修辭] 有法 Lan̄k.

bhāva-kartr̄ka 形 (その) 行作者として状態を表わす (抽象名詞) をもつ (動詞)。

bhāva-gata 形 (一°) の状態となった。

bhāva-gambhīram 副 心底からすなわち思う存分 (笑う)；荘重に，厳肅に。

bhāva-gamya 形 想像または心によって認められるべき。

bhāva-grāhya 形 [同上]。

bhāvata 互 [修辭] 法体，自性 Lan̄k.

bhāvata 形 汝の，おんみ (卿) の [敬語として]。

bhāvana 1. 形 (因 -i) 結果する，生ずる；(固，一°) の福祉を促進する，増進する；想像する，空想す

る；教える。男 創造者，産出者，有能者。甲 生ずること，…の結果を生ずること；概念，観念；想像，空想，仮定；[修辭] 修，修習，勤修，得成 Bodh-bh., Madhy-bh., Madhy-vibh. 甲 一° 本性。~ṃ Bandh (因) に想像を働かす，に想いを向ける。

bhāvana 2. 甲 光明の林すなわち火焰。

bhāvanatā 因 [修辭] 修，勤修 Lal-v.

bhāvanā 因 = bhāvana (甲)；定めること，決定すること，証明；静慮，瞑想 (弘教)；正しい観念または概念 (ジャイナ)；(因) に対する信仰または信頼；(粉を液に) 浸すこと；[修辭] 修，修習，修行，修道，修集，修定，所修，勤修，正修，修息，教習，数習，熏習，行，正行；観，観想 Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Madhy-bh., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Sam-r., Sapt-pr., Sūtr. 副 bhāvanayā 思考において，想像で。~ṃ Bandh = -aṃ Bandh.

bhāvanākāra (°nā-āk°) 男 [修辭] 修行相 Bodh-bh.

bhāvanā-prahātavya 男 [修辭] 修所断，以観想棄事，棄観想事 Mvyut.

bhāvanā-phala 甲 [修辭] 修果，修習果 Abh-vy., Bodh-bh.

bhāvanā-bala 甲 [修辭] 修力，修習力 Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh.

bhāvanāmaya 形 (因 -i) [修辭] 修，修所成，修生，修類，修性；修慧 Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr.：~ṃ jñānam 修慧，修所成慧 Madhy-vibh. 253；~ṃ puṇyākriyā-vastu 修中福，想中福，修類福業事 Mvyut. → prajñā.

bhāvanā-mārga 男 静慮の状態 (Divy.)；[修辭] 修道，修道 (位) Abh-vy., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr.；[経の名] 観想道経 Mvyut.

bhāvanā-yoga 男 観想に没入すること (Kār-vy.)；[修辭] 観行 Aṣṭ-pr.

bhāvanāyogānuyuktatva 甲 [修辭] 観行相応 Aṣṭ-pr. bhāvanārāmatā (°nā-ār°) 因 [修辭] 喜修，喜静慮 Mvyut.

bhāvanā-heya 形 [修辭] 修所断，修習道所断，修道断，修道所滅，思惟所断，以観想棄 Abh-vy., Madhy-bh., Madhy-v., Mvyut.

bhāvanikā 因 [人名]。

bhāva-nirvṛtti 因 [修辭] 無有 Sāṃkhy-k.

bhāvaniya 未受分 始められるべき，現われるべき；耐えられるべき (苦痛)；いつくしまれるべき；想像または実現されるべき；推測または仮定されるべき；経験されるべき；世話されるべき；[修辭] 所修 Sam-r.

bhāvanottama (°nā-ut°) 形 [修辭] 最上観想 Guhy-s.

bhāva-pratidūṣita 形 心の乱された；本来汚れた (器物)。

bhāva-bandhana 形 心を一つにさせる。

bhāva-bodhaka 形 感動を露呈する。

bhāva-bhaṭa 形 [vāgbhaṭa の 詔] [修辭] [古師の名] 父使 (?), 有使 Mvyut.

bhāva-madhura 形 自然の (模倣または随従) によって甘

美な(絵画等).
bhāva-mīśra 男 且那樣(戯曲).
bhāvaya [BHū の使役].
bhāvayitavya 使役 未受分 いくつしまれまたは促進されるべき; 修, 修習(応習), 応修習, 応須修習, 修行, 所修法, 可得, 所住著 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*
bhāvayitavya-satya 中 修実, 応修習諦 *Bodh-bh.*
bhāvayitr 男 助成者, 保護者.
bhāva-rūpa 形 実際に存在する.
bhāva-lakṣaṇa 中 有相 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*
bhāva-vacana 形 状態を言い表わす(動詞).
bhāvavat 形 ある状態または関係にある.
bhāva-vikāra 男 存在または生成の変態(種類).
bhāvaviveka 男 有別 [中観派の論師の名] 分別明(?) *Madhy-v.* → *bhavya*.
bhāva-vṛtta 形 創造に関する.
bhāva-śabda 男 動詞.
bhāva-śuddhi 女 心の純潔なこと.
bhāva-sūnya 形 愛情を欠いた.
bhāva-saṃśuddhi 女 = *bhāva-śuddhi*.
bhāva-saṃjñā 女 有想 *Sapt-pr.*
bhāva-samanvita 形 実在性をもつ, 存在する, 愛情または正常心をもつ.
bhāva-samāhita 形 心の落着いた, または *Brahman* 神に心を専注した.
bhāva-skhalita 中 精神的(にのみなされた)違犯.
bhāva-stha 形 愛する, 惚れた.
bhāva-sthira 形 心に根ざした.
bhāva-snigdha 形 心からまたは深く好いている.
bhāva-svabhāva 男 性自性 *Lank.*
bhāvasvabhāva-vigata 形 離有, 無性為性 *Daś-bh.*
bhāvasvabhāva-sūnyatā 女 性自性空 *Lank.*
bhāvasvabhāvābhāva-nirvāṇa 中 (音写) 性自性非性涅槃, 諸法自性無性涅槃 *Lank.*
bhāvākūta (°va-āk°) 中 愛情を激発すること, 愛情.
bhāvākhyā (°va-ākh°) 形 有名 *Sāṃkhy-k.*
bhāvāgrika 形 [bhavāgra から] 有頂 *Abh-vy.*
bhāvātmaka (°va-āt°) 形 真実の性質をもつ, 真の.
bhāvānta 男 有辺 *Sūtr.*
bhāvāntara 中 異物 *Lank.*
bhāvābhāva 男 有無, 有無有, 有無体, 有非有, 性非性, 性無性 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Sūvik-pr.*, *Sūtr.*
 : ~ *vinirmukta* 離有離無 *Madhy-bh.* 72.
bhāvābhāva-kara 男 [*Śiva* 神の称].
bhāvābhāva-samatva 中 有無悉平等, 有無法平等, 性非性平等 *Lank.*
bhāvārtha 形 動詞の意義をもつ.
bhāvāva 形 生類に親切な, やさしい, 同情のある.
bhāvika 形 (女 -i) 真の, 実際の; 情趣にみちた, 表情に富んだ. 中 (過去または未来の事物の) いきいきとした叙述(修辞); 情味豊かな言語.

bhāvikatā 女 性, 其性, 所有性 *Bodh-bh.* → *yathāvad* ~, *yāvad* ~.
bhāvi-cakra-vartin 男 将来の王, 皇太子.
bhāvita 使役 過受分 → *BHū.* 修, 習, 所修, 已修 已修習, 修成, 成, 練, 行, 熏, 熏習; 觀察, 思惟熟 *Abh-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*
bhāvita-buddhi 形 知能を浄化または形成した.
bhāvita-bhāvana 形 (自ら)促進されかつ(他を)促進する; 創造されかつ創造する.
bhāvitavat 過能分 修者, 能修者 *Aṣṭ-pr.*
bhāvita-viṣa-vikriya 形 中毒によって身体をねじ曲げる真似をする.
bhāvitavya 未受分 応修習 *Bodh-bh.* 292.
bhāvitā 女 (一°)への適合.
bhāvitātman (°ta-āt°) 形 精神が浄化されたまたは(最高)精神が瞑想の対象とされた; 信仰深い, 聖なる; (一°)に従事するまたは專注する; 已修性, 性観成観性, 性現, 現性 *Mvyut.*
bhāvitva 中 存在の必然; 免れがたいこと; (一°)であること, …に適應すること.
bhāvin 形 [一般に 一°] …である, …となる, …であるのを常とする; 未来の, 焦眉の[しばしば=*BHū*の困]; 免れがたい; (一°)を所有する; 明らかにする, 示す; 一° 促進する, 祝福する; 崇拜する; 当, 当有, 当来, 当得成; 出, 成 *Abh-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.* → *buddha* ~. 男 āを除いた他の母音.
bhāvini 女 麗わしい婦人, 貴婦人; [*Skanda* の従者の母の名]; [ある *Gandharva* 女の名].
bhāvi-Kṛ, 有 立, 取為有 *Lank.*
bhāvuka 形 (困または -am に終る 副とともに 一°)となる; 審美感をもつ. 中 情緒に満ちた言語. 男 姉妹の夫.
bhāvaika-rasa (°va-ek°) 形 恋愛の情趣のみに支配される.
bhāvodaya (°va-ud°) 男 情緒の高まり.
bhāvya 未受分 あるべき, 起るべき; 未来の[時として *BHū* の困]; 実現されるべき, 完成させられるべき; 感ぜられるべき; 想像されるべき; 推察されるべき; 承認されるべき; 有罪と断ぜられるべき; 証明または論証されるべき; 可修習 *Madhy-v.* 可観 *Lank.* 370. 中 非人(圓)はあるべきであるまたはあらなければならない; 理解されるべきである.
bhāvyaatā 女 未来.
bhāvyaatva 中 [同上].
BHāṣ, I. 自 (叙詩はまた 他) **bhāṣate** (-ti) 言う, 語る, 話す; (業)を(業)に話しかけるまたは言う; …について話す, 論ずる; 告知する, 告げる; (業)を(業)と名づけるまたはと呼ぶ; (業)を(業)と記述する; 談話中に使用する; 説, 言, 語, 作言, 言, 起語, 告, 講説, 宣説, 解説, 分別解説, 敷演, 言表 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Sukh-vy.* I., *Vajr-pr.*; 讚, 称美, 称揚 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*
bhāṣiṣye'ham te 我与爾説, 吾当為汝分別解説

Mvyut.; *vācam* ~ 言, 語能表 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.* *ātmanam* ~ 自己を(業)であると装う。受 現分 *bhāṣyamāṇa* 聞説 *Aṣṭ-pr.* 過受分 *bhāṣita* 話された, 言われた, 告知された。使役 他 *bhāṣayati* 話させる; 考えさせる; 煽動する; 言う, 話す。 *adhi-* …に話しかける, …を語る, 暗誦する (*Lal-v.*); 宣 *Saddh-p.* *anu-* (業)に後方から呼びかける, 呼びかける; (業)に対して言う, 話す, 語る; (業)について話す; 告白する; (業)の語を信ずる。使役 *anubhāṣayati* (業)と対話する; 読む。 *apa-* 誤って言う; 悪口する, ののしる; 説言, 設謗言 *Abh-vy.* *abhi-* 話しかける; (業)と対話する; 話す, 言う; …と言うのを常とする; 物語る, 話す, 伝える, 伝達する, 宣言する; (業)を(業)に言う; (業)について話す; 指名する, ほめる; (業, 業)を告白する; 慰問 *Lal-v.* 過受分 *abhibhāṣita-* 話しかけられた。 *ava-* 過受分 *avabhāṣita* 悪口された(?)。 *praty-ava-* 告 *Divy.* *ā-* (業)に話す, 話しかける; (*saha*)と会話する; 言う, 話す, 告げる; 叫ぶ; (業)を(業)に言う; 名づける; 約束する; 出音 *Lal-v.*; 問従 *Sam-r.* 32. *vy-ā-* …に話す, 話しかける; 語る; 発言する。 *sam-ā-* …に話す, 話しかける; 告げる; 報道する。 *pari-* さとす; 話しかける; 説明する, 教える; ののしる, 悪口する, 非難する, 辱かしめる (*Divy.*); 能訶, 呵責, 罵詈, 誹謗, 罵辱譏毀 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.* 受 *paribhāṣyate* 所訶 *Bodh-bh.* 過受分 *paribhāṣita* (困)と説明された; 明白に述べられた, 教えられた; 原則として定められた; (中, 非人) *paribhāṣā* において言われている。 過能分 *paribhāṣitavat* 悔責 *Av-ś.*: *sa svacittam paribhāṣitavān* 自悔責 *Av-ś.* 1.24. 使役 *paribhāṣaya-* 責 *Saddh-p.* *pra-* 宣言する, 告げる, 言明する; 暴露する; 言う, 話す; 説明する; 名づける; (業)と対話する; 説, 演説, 宣布 *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.* 過受分 *prabhāṣita* 話された; 説明された。 *sam-pra-* (業)に言う, 話す; 言明する, 宣言する; 唱える; 題名 *Saddh-p.* *prati-* …に話す; (業)に対して返答する, …に答える; 答えて言う; (演説を)する, 発言する; (業)を(業)と名づけるまたはと呼ぶ; 称説 *Lank.*; 呵, 誹謗 *Aṣṭ-pr.* *vi-* 悪口する。受 *vibhāṣyate* 二者択一を容認する, 選択に任す。 過受分 *vibhāṣita* 任意の。 *sam-* (業 ± *saha*)と対話する; …に語る, 話しかける, 挨拶する; 対話に加わる; 同意する; 納得させる; 唱える; 問訊 *Bodh-bh.* 使役 *sambhāṣayati* (業)と対話する; 話しかける; 納得させる; 奉迎 *Bodh-bh.*: *samyak sambhāṣayaty utthāya* 能正奉迎, 尊重奉迎 *Bodh-bh.* 254. *bhāṣ* 形 ほえる。 → *rakṣo* ~.

bhāṣaka 形 (一°)について語るまたは喋る。 *bhāṣana* 中 話すこと, 語ること, 喋ること; 演説; 親切的な語; 説, 発語 *Mvyut.*, *Śikṣ.* *bhāṣanā* 因 称 *Bodh-bh.* *bhāṣā* 因 言葉, 談話, 言語; 日常語, 口語, 方言, [*Veda* 語に対する口語形 *Sanskrit* または *Sanskrit* に対する *Prākṛit* を意味する]; 記述, 定義; 告訴, 告発または起訴 (法律)。因 (*bhāṣāyām*) 語において (*Veda* 語との相違を示す, *chandasi* の 因); 音, 言, 語 *Abh-vy.*, *Sūtr.*, 梵千。 *bhāṣā-citraka* 中 言語上のしゃれ。 *bhāṣā-jña* 形 (諸言語に通じた)。男 [人名]。 *bhāṣā-pariccheda* 男 [*Vaiśeṣika* 学派の綱要書の題名]。 *bhāṣā-sama* 男 *Prākṛit* と同一である文章 [すなわち *Sanskrit* と同じ *Prākṛit* と同じ見なされる単語からなる] (修辭)。 *bhāṣika* 形 方言に関する。中一般法則。 *bhāṣikā* 因 言語。 *bhāṣita* 過受分 言われた, 語られた。 → *BHās.* 説, 所説, 宣説, 所宣説, 演説, 説 (法), 所宣, 宣暢, 所言; 歎 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mañj-m.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy.* II., *Vajr-pr.*, 梵雜: *tathāgata* ~ 如來說 *Bodh-bh.* 174; *sarva-buddha* ~ 如来所宣説, 一切如来 (同) 所説 *Rāṣṭr.* 11. 中 言葉, 発言, 言語; 言, 語, 言説, 所説, 語言, 言詞, 讚頌 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*: *jina* ~ 仏所説 *Śikṣ.* 83. *bhāṣitavat* 過能分 宣説 *Saddh-p.* *bhāṣitavya* 未受分 話しかけられるべき。 *bhāṣitr* 形 (業)を言う, 発言する (*Br.*); (一°)を話す。 *bhāṣin* 形 言う, 話す; おしゃべりな; [一般に 一°] 話す, 語る; 所説, 詞 *Mvyut.* *bhāṣi-pakṣin* 男 人語を話す鳥。 *bhāṣṭa* 過受分 [= *bhāṣita*] 所説 *Lank.* 283. *bhāṣya* 中 話すこと, 語ること; 共通語または方言で (書かれた) 著作; (本文とくに *Sūtra* を逐語的に説明する詳しい) 註釈; 積論; [*Patañjali* の *Pāṇini* 文典の註釈の題名, *Mahā-bhāṣya* と同じ]; 説, 所説, 言, 語言, 論, 講説, 講章, 積論, 經書 *Abh-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.* *bhāṣya-kāra* 男 註釈者 (とくに *Patañjali* の称)。 *bhāṣya-kṛt* 男 [同上]。 *bhāṣya-pravacana* 中 才辯 *Divy.* *bhāṣya-bhūta* 形 説明または註釈の役をする。 *bhāṣyākṣepa* (°*ya-āk*°) 男 乘言便 *Abh-vy.* *bhāṣyārāma* (°*ya-ār*°) 形 好 (世俗) 言語 *Śikṣ.* *BHās.* I. 他 *bhāṣati* (因), 自 *bhāṣate* (業) 光る, 輝く; 自 (困, 困 の 業) のように見える; 心に浮ぶ, 明らかになる, 理解される; 照朗, 普照, 晃耀, 照曜, (路) 明顯, 巍巍然 *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.* 過受分 *bhāṣita* 光輝ある。 使役 *bhāṣayati* (韻律 -*te*) 輝かせる, 照らす, 明らかにする; (困 の 業) のように見えさせる, 明白にす

る；**漢** 照耀 *Sikṣ.*
ava- 光る；(囀の圓)のように明白となる，見える，(-vat 圓)のようである；**漢** 普照，徧照，傍照，晃耀，舒光；**漢** 曉悟 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Rāṣṭr.*, *Suv-pr.* **使役** **avabhāsaya-** 輝かせる，見えさせる；**漢** 照，光照，光明照曜 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Saddh-p.*
vy-ava- 自 **vyavabhāsate** **漢** 露 *Lal-v.* **使役** **vyavabhāsaya-** 完全に照らす。
ā- 自 (iva) のように見える。 **使役** **ābhāsaya-** 照らす；虚妄であることを示す，支持しにくいことを証明する。
ud- 輝く，輝き始める；顕著である。 **使役** **udbhāsaya-** 照らす；目立たたせる；美しくする，飾る。
sam-ud- (圓)をもって輝く。
o- (囀 =ava) **使役** 囀 **obhāsesi** [*<avabhāsayasi*] **漢** 普照 *Lal-v.* 162.
nir- 輝き出る。 **使役** **nirbhāsaya-** 照らす。
pari- (iva) のように見える。 **使役** **paribhāsaya-** 飾る。
pra- 光る，ひらめく；(iva) のように見える。 **漢** 照 *Sūtr.* **使役** **prabhāsaya-** 照らす；**漢** 照 *Saddh-p.*
prati- 自 (困) のようにまたは (囀の圓) として自己を示す，のように見える；輝かしい，重要である，勢力がある。
vi- 光る，輝く。
bhās 囀 (囀)，囀 光沢，光輝，光明；光線。
bhāsa 囀 光沢，光輝，光明；[猛禽の一種]；[ある劇作家の名]；[*Candra-prabha* 王の大臣の息子の名]；[ある *Dānava* の名]；[山の名]；**漢** 光 *Abh-vy.*
bhāsaka 囀 示す，明らかにする。 囀 [ある劇作家の名，=*Bhāsa*].
bhāsa-karṇa 囀 [ある *Rākṣasa* の名].
bhāsatā 囀 猛禽の状態。
bhāsana 囀 光ること，ひらめくこと；優秀，卓越；**漢** 能照，普照 *Gaṇḍ-vy.*
bhāsas 1. 囀 [BHās] 光明，光線。
bhāsas 2. 囀 [BHas] 食物，餌食。
bhāsā-ketu 囀 光明を標識とする (*Agni*) (*RV.*).
bhāsita 過受分 → BHās.
bhāsītā 囀 一°，輝くこと。
-bhāsin 囀 光る。 → *ūrdhva* ~.
bhāsi 囀 [ある禿鷹の母の名，(*Tāmra* の娘)]；[*Prādhā* の娘の名].
bhāsura 囀 光る，輝く，輝やかしい；(一°) によって顕著な；**漢** 清浄 *Lank.*
bhāsura 囀 [人名]；[ある獅子の名].
bhāsura-simha 囀 [ある獅子の名].
bhāsura 囀 光輝。
bhāsura-deha 囀 輝かしい身体または形をもつ。
bhāsura-mūrti 囀 [同上].
bhāsura-hema-rāsi 囀 黄金の輝かしい堆積，多くの輝く黄金。
bhās-kara 囀 (光を作る)，光る，輝く，光輝ある。 囀 太陽；[人名とくに有名な天文学者の名 (西暦第十二

世紀)]；(盗賊によって作られた一種の) 破れ口；**漢** 日 *Abh-vy.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Suv-pr.*, 梵雜。
bhāskāra-nandin 囀 太陽の子。
bhāskāra-varman 囀 [ある王侯の名および称].
bhās-kari 囀 [土星および猿の王 *Sugriva* の父系].
bhās-kariya 囀 *Bhāskāra* から出た。 囀 *Bhāskāra* の弟子。
bhāsmāna 囀 灰からなる，灰の。
bhāsya 囀 明白となる，知られるに至る。
bhāsyatva 囀 顕現。
bhāsvat 囀 (囀 -i) 光る，光輝ある，赫々たる；**漢** 所照 *Abh-vy.* 囀 太陽；光輝，光明。
bhās-vara 囀 光る，光輝ある，きらめく；**漢** 光，明 *Divy.*, *Sūtr.* 囀 [太陽神の一衛星の名].
bhāsvaratva 囀 [同上 囀] **漢** 清浄 *Madhy-bh.*
bhāsvara-varṇa 囀 明るい色をもつ。
bhāḥ-satya 囀 光をその本質とした。
bhīḥkha-rāja 囀 [王の名].
BHikṣ, I. 自 **bhikṣate** [BHaj の 垂求 分け前を望む] (囀，業) を願望する；(業) を (業) から乞う，(業) から懇請する；施物を乞う；**漢** 乞 *Abh-vy.* 過受分 **bhikṣita** 布施として乞われた，懇請されたまたは得られた。 **使役** 他 **bhikṣayati** 乞わせる，乞食させる。
bhikṣāna 囀 乞食をすること，乞食。
bhikṣā 囀 乞うこと，懇願すること，乞食；乞われた食，施物；**漢** 乞，乞食，乞濟活 *Divy.*, *Sikṣ.*, 梵千；食 *Abh-vy.* ~ṃ *Kṛ* 乞う。 ~ṃ *Aṣṭ* 乞食に行く，乞食する。 ~ṃ *Car* [同上]。 ~ṃ *BHram* [同上]。 ~ṃ *Yā* [同上].
bhikṣāka 囀 乞食者；**漢** 乞，乞求 *Bodh-bh.*
bhikṣā-karṇa 囀 乞食すること，乞食(生活).
bhikṣāka-vṛttādhiṣṭhāna 囀 **漢** 乞行処 *Bodh-bh.* (音写) 比丘隨戒処 *Bodh-bh.*
bhikṣā-cara 囀 (囀 -i) 探し求める，乞食にでる，乞食をする，布施で生活する。 囀 [*Bhoja* の息子の名].
bhikṣā-caraṇa 囀 乞食(生活)。 ~ṃ *Car* 乞食に行く。
bhikṣā-carya 囀 [同上]。 ~ṃ *Car*, 乞食に行く。
bhikṣācarya-caraṇa 囀 [同上].
bhikṣā-caryā 囀 [同上].
bhikṣā-cāra 囀 乞食生活を実行する。 囀 乞食者。
bhikṣāṭana (°ṣā-aṭ°) 囀 乞食して歩き廻ること，乞食(生活)。 ~ṃ *Kṛ* 乞食をする。 ~ṃ *Kṛ* (使役) 乞食をさせる，(業) をして乞食に出させる。
bhikṣā-da-kula 囀 **漢** 施主 *Aṣṭ-pr.*；檀越 [dāna-pati の音写] *Aṣṭ-pr.* 522.
bhikṣādakula-guruka 囀 **漢** 重於檀越 *Aṣṭ-pr.* 522.
bhikṣānti, **漢** 音写 [mantra-pada の一] 毘鼻提，鼻鼻提 *Bodh-bh.* 273.
bhikṣānna (°ṣā-an°) 囀 乞食によって(得られた)食。
bhikṣā-pātra 囀 乞食用の鉢，施物を受ける皿。
bhikṣā-pracāra 囀 乞食をするために出て行くこと。
bhikṣā-bhāṇḍa 囀 乞食用の容器。

bhikṣā-bhuj 形 施物で生活する。
bhikṣāyaṇa (°sā-ay°) 中 乞食(生活)。
bhikṣārthin (°sā-ar°) 形 施物を乞う。男 乞食者。
bhikṣāvat 形 施物を受ける, 乞食する。
bhikṣā-vṛtti 形 施物で生存する。
bhikṣāsītva (°sā-ās°) 中 乞食して得た食物を食うこと, 施物で生活すること。
bhikṣāsin (°sā-ās°) 形 乞食して得た食物を食う, 施物で生活する。
bhikṣāhāra (°sā-āh°) 男 乞食して得た食物; 乞食者。形 施物で生活する。
bhikṣita 過受分 BHikṣ.
bhikṣin 形 布施を要求する, 乞食する。
bhikṣu (希求 形), 男 乞食者; とくに宗教的乞食者[第四期の生活において住家と家族を捨離し, ただ施物のみで生活する 婆羅門; また Samnyāsin と称す]; 仏教徒の乞食僧; [Bhoja の息子の名]; 漢訳 乞士, 出家 Ast-pr., Mvyut., Vajr-pr.; 音写 比丘, 苾芻 Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh., Lanik., Mvyut., Rāstr., Saddh-p., Sukh-vy. II., Sūtr., Vajr-pr.: jñapti-caturtha-karmanopasampanno ~h 白四羯磨円具苾芻 Mvyut.; bhikṣata iti ~h 乞食苾芻, 乞者比丘, 為命比丘, 乞求名苾芻, 為尋求的比丘 Abh-vy., Mvyut.: bhinna-kleśatvād ~h 破惑苾芻, 破煩惱比丘, 破煩惱苾芻, 為除煩惱比丘, 改煩惱的比丘 Abh-vy., Mvyut.; ṣaḍ-vargikāḥ (~avaḥ) 六群比丘 [1. nandaḥ 喜, 2. upanandaḥ 近喜, 3. punarvasuḥ 満宿, 4. chandaḥ 樂欲, 5. aśvakaḥ 馬, 6. udāyi 出現] Mvyut.; 七衆 [1. bhikṣuḥ 乞士, 2. bhikṣuṇī 乞女, 3. śrāmaṇeraḥ 勤策男, 4. śrāmaṇerikā 勤策女, 5. śikṣamāṇā 正学女, 6. upāsakaḥ 近事男, 7. upāsikā 近事女] Mvyut.
bhikṣuka 男 乞食者; 宗教的乞食者, 乞食僧; 漢訳 乞 徒雜。
bhikṣu-karman 中 漢訳 (音写) 比丘業, 比丘応羯磨 Lanik.
bhikṣu-kārya 中 漢訳 (音写) 比丘事, 比丘法 Lanik.
bhikṣuki 女 乞食女。
bhikṣu-caryā 女 乞食すること; 宗教的乞食生活。
bhikṣuṇī 女 仏教の女乞食僧+なわち尼僧; 漢訳 乞女, 出家 Ast-pr.; Mvyut.; 音写 比丘尼, 苾芻尼 Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh., Lanik., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., Vajr-pr.
bhikṣuṇī-dūṣaka 形 漢訳 (音写) 汗苾芻尼, 破汗比丘尼者 Mvyut.
bhikṣuṇī-paripācīta-piṇḍa-pātopabhoga 男 漢訳 (音写) 食尼僧造食, 受用苾芻尼所教化食 Mvyut.
bhikṣuṇī-piṇḍaka-grahaṇa 中 漢訳 尼僧自手食食, (音写) 從苾芻尼受食 Mvyut.
bhikṣuṇī-prātimokṣa 男 [仏典の名, 根本説一切有部苾芻尼戒經等]。
bhikṣuṇī-rūpa 中 漢訳 (音写) 比丘尼形, 比丘尼身 Saddh-p.
bhikṣutva 中 漢訳 (音写) 比丘 Lanik.
bhikṣu-pariṣad 女 漢訳 (音写) 比丘衆 Prat-m.

bhikṣu-paiśunya 中 漢訳 (音写) 苾芻離間語 Mvyut.
bhikṣu-prakirṇaka 男 中 (?) 漢訳 (音写) [仏典の名] 比丘雜誦律 Śikṣ.
bhikṣu-bhāva 男 漢訳 (音写) 苾芻性, 為苾芻, 修苾芻行, 成苾芻分, 得比丘分 Bodh-bh., Divy., Mvyut.
bhikṣu-rākṣasa 男 比丘の姿をした Rākṣasa (Jat-m.).
bhikṣu-rūpa 中 漢訳 (音写) 比丘形, 比丘身 Saddh-p.
bhikṣu-varga 男 漢訳 (音写) 比丘衆, 諸比丘 Lanik.
bhikṣu-veśa 形 [=°veśa] 漢訳 為出家形 Buddh-c.; (音写) 化為比丘形 Buddh-c.
bhikṣu-veśa 男 漢訳 (音写) 苾芻相, 苾芻像 Ast-pr.
bhikṣu-saṃgha 男 仏教比丘の教団; 漢訳 (音写) 比丘衆, 諸比丘, 諸比丘衆, 苾芻衆 Rāstr., Saddh-p., Sapt-pr., Sukh-vy. I, II. 音写 比丘僧 Sukh-vy. II.
bhikṣopabhogin (°sā-up°) 形 漢訳 行乞食 Buddh-c.
bhinda 男 [灌木の一種, 学名 *Abelmoschus esculentus*].
bhinda 女 [同上].
bhinda-pāla 男 [=bhindi-pāla の訛] 漢訳 一器器械 Mvyut.
bhitta 中 断片, 分割した部分; 隔壁, 壁。
bhitti 女 破壊すること, 裂けること; 割いた芦から作ったむしろ; 壁, 隔壁, 羽目板; [一°, 身体の諸部とともに] 壁のように垂直に肉の落ちた身体の表面; 漢訳 壁, 墻, 牆壁 Abh-vy., Gand-vy., Lanik., Mvyut., Saddh-p.
bhittika 形 (女 -ā) 一° 割いた芦で製作したむしろ; 壁, 隔壁. 中 (?) 漢訳 壁 Abh-vy. 577.
bhitti-buddhi-kara 形 壁の印象を生ずる+なわち壁のように思わせる。
BHid, I. 中 bhedati [因 きわめてまれに]; VII. 中 (自) bhinatti, (hintte) 裂く, 割る, 貫く, きれきれに裂く, 破る, 突破する, こわす, (穴を)あける, 押しつぶす; 通過する; 掘り上げる, 発掘する; 分散させる, 破壊する; 分解する, 分割する; 違犯する, 侵害する, (規則を)破る; (計画を)もらす; 分裂させる, 反目させる; 拡げる, 開く, 開花させる; 放つ, 解く, ゆるませる, 解散させる; 変える, 変更する; 困惑させる, 惑乱させる; かき乱す, 邪魔する; 取り去る, 除去する; 識別する, 区別する; 漢訳 破, 壊, 摧破, 摧壊, 震裂, 侵蝕, 降, 滅; 刺; 分, 分別, 差別 Abh-k., Abh-vy., Buddh-c., Divy., Lal-v., Lanik., Mvyut., Saddh-p.
自 bhidyate 破られる, 裂ける, 暴露される; 破壊される; 分割される; 拡がる; 流れる, あふれる; 分解される; (圓)から離れている; 自己と相争う; 困惑する; (徒)と異なる; 漢訳 破, 勞, 分析 Abh-vy., Mvyut. 不変分 bhittvā 漢訳 分, 滅 Abh-vy., Lal-v.: ~ mahim āgataḥ 從地而踊出 Saddh-p., 313. 自 現分 bhidyamāna 漢訳 分析, 分 分開之 Abh-vy. 過受分 bhinna 破られた, 碎かれた等; 漏水する(船); 破壊された; 分割された;

分離した, 離された, (一°)がない; 全体的でない, (貨幣の)破片; 広げられた, 開花した; こめかみから液の流れる(象); 反目させられた; (一°)によっていろいろに使われた; 変えられた, 作り(声); (廻, 一°)と異なった; はずれた, 異常な, 不規則な; (圓, 一°)と混合または混和された; (因, 一°)に固着する. **使役 他 bhedayati** 裂く, 割る, 破る, 砕く; 破壊する; 分割する, 不和にさせる, 分裂させる; 自己の側にくみさせる, 誘惑する; 困惑させる; **漢訳 壊 Aṣṭ-pr.** **希求 他 bibhitasati** 突破しようとはまたは分散させようと努める. **強意 他 bebhiditi, bebhetti** 反覆して裂く.

vy-ati- **受 vyatibhidiate** **漢訳 所雜** (離?) *Abh-vy.* **過受分 vyatibhinna** (圓)と不可分に結合された.

anu- 全部裂く. **受 anubhidiate** 開く (自動).

antar- 反逆を企てる.

abhi- **受 abhibhidiate** きれぎれに破られる.

ava- 裂く, 貫く. **過受分 avabhinna** 負傷した (*Jāt-m.*).

ā- 引き裂く, かき裂く.

ud- (圓)を突破するまたは貫通する. **受 udbhidiate** 飛び出る, 発芽する, 生長する, 現われる; 破裂する. **過受分 udbhinna** 飛び出た, 顕示された; 裏切られた; 起き上った; (一°)をそなえた.

prod (pra-ud)- **過受分 prodbhinna** 勃発した.

nir- きれぎれに裂く, 引き裂く, 突破する, 押しつぶす; 貫く; (眼を)えぐりだす; 傷つける; (圓)に入口を作る; (結び目を)解く; 見出す. **過受分 nirbhinna** きれぎれに裂かれた等; (-tas) から遠ざかった; 裏切られた; 分裂した, 相争う.

abhi-nir- **漢訳 穿過, 穿壞 Lal-v.**

vi-nir- 二つに破る, 裂く; 貫く. **過受分 vinirbhinna** 貫かれた; 開かれた(耳).

parā- 貫く, 傷つける.

pari- **受** 突破される; **漢訳 壊, 破壊, 爛壊;** 欠; 変異 *Aṣṭ-pr.* **過受分 paribhinna** きれぎれに破られた, 押し砕かれた; 変えられた.

pra- 裂く, 割る, きれぎれに破るまたは裂く; 貫く; **漢訳 解 Lal-v.** **受 prabhidyate** きれぎれに破れる; 分割される; 分解される, 開く. **過受分 prabhinna** 破られた, 打ち割られた, もがれた, 貫かれた, 砕かれた, 開いた(花); 滲出する(血); (こめかみから液を)分泌する(象); 中断された; 醜くされた, 変えられた.

prati- 貫く; 裏切る; …に対して憤る, 非難する. **過受分 pratibhinna** (圓)をもって(一°)と緊密に接触した.

vi- きれぎれに裂く, きれぎれに破る; 貫く, しみ透る; 刺す; 破壊する; 緩める; 侵害する, 冒す; 変える. **受** 破裂する. **過受分 vibhinna** 貫かれた; 破壊された; 感情に変化を来たした, 不忠実となった; 変わった; 開いた, 開花した; 液を分泌する(象のこめかみ); 分散された; 撒布された; 分離した; 不和に暮す; 不和に満ちた(場所); 矛盾した; (一°, 自己の希望において)失望した; 異なった;

(圓)と混じた. **使役 vibhedaya-**(圓)をして(因)と不和にさせる; **漢訳 令背 Bodh-bh. pra-vi-** **過受分 pravibhinna** 裂かれた, 破裂した. **saṃ-** きれぎれに破る; 貫く; さえぎる, 棄てる; 接触させる, 合同する, 混ぜる, 結合する; (ある人 圓)にくみする. **過受分 sambhinna** きれぎれに破られた等; 突破された(限界); 放棄された(生活様式); 収縮した(肢体); 接触した, 結合した.

bhid **形** 一° きれぎれに破る, 裂く; 押しつぶす; 貫く; 打つ, (標的を)射あてる; 破壊する. **因** 侵入(?) (RV. 用例一回のみ); 区別; 種類.

bhidā **因** 引き裂くこと, 破裂すること; 分離, 区別; 差異; 種類.

bhidāpana **甲** [不規則な **使役 動** *bhidāpaya-* から] 破壊させること, 裂けさせること, 粉碎させること.

bhidā-bhṛt **形** 裂かれた, かき裂かれた.

bhidura **形** 裂くことのできる; もろい, 砕けやすい; (一°)を破壊する; (一°)と混和または混合する.

bhidya **男** 奔流. **甲** (一°)をきれぎれに破ること.

bhindi-pāla **男** **漢訳 矛槩,** 稍 *Diry. 186.*

bhindu **男** 破壊者 (RV. 用例一回のみ); 泡, 気泡 (因).

bhinna **過受分** → BHid; **漢訳 破, 壊, 所壊, 破壊, 毀破, 傷;** 離散, 乖離, 乖離諍訟, 鬪諍; 除, 欠; 別, 各別, 差別, 有差別, 分, 異 不同 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Daś-bh., Laik., Mvyut., Sam-r., Sūtr.,* 梵千. → a~. **甲** 断片, 部分; 突傷.

bhinnaka **形** 破られた; **漢訳 差別, 異 Sūtr.** **男** [仏教比丘の名].

bhinna-kaṭa **形** こめかみに(液を分泌する)裂け目のある(交尾期の象).

bhinna-karaṭa **形** [同上].

bhinna-karindra-kumbha-muktāmaya **形** (因 -i) 象王の裂けた前額の隆起から(落下した)真珠からなる.

bhinna-kāla **形** 時間を守らない.

bhinnakī-Kṛ, 離す, 分つ.

bhinna-kūṭa **形** 異なった戦略を用いる.

bhinna-krama **形** 順序を誤った, 置き誤られた; **漢訳 不次第, 依次相合 Mvyut.**

bhinna-kleśa **形** **漢訳 除煩惱 Mvyut.**

bhinnakleśatva **甲** **漢訳 除煩惱, 破煩惱 Mvyut.**

bhinna-gaṇḍa-karaṭa **形** = *bhinna-kaṭa.*

bhinna-gati **形** 不規則なまたは激しい歩き方をする. 大股に歩く, 速かに歩く.

bhinna-garbha **形** (内部に不和のある=) 内部のあつれきに苦しむ, 秩序の乱れた(軍隊).

bhinna-caritra-darsana **形** 有徳の行為を識別することのできなくなった.

bhinna-jati **形** 異なった階級の.

bhinna-jātiya **形** 種々の.

bhinnatva **甲** (一°)と異なること.

bhinna-darśin **形** 差異を見る, 区別する, 不公平な.

bhinna-dṛś **形** [同上].

bhinna-deśa 形 異なった場所に起る。
 bhinna-deśatva 中 かけ離れた場所における出来事。
 bhinna-prakāra 形 異なった種類の。
 bhinna-pratisaṃdhāna 中 和好乖離諍訟 *Bodh-bh.* 175.
 bhinna-bhrū 形 眉をひそめた。
 bhinna-mata 形 異心, 異見 *Bodh-bh.*
 bhinna-mantra 形 計画をもらした。
 bhinna-maryāda 形 境界を破るまたは踏みこえる。
 bhinna-ruci 形 異なった趣味をもつ。
 bhinna-lakṣaṇa 形 相不同 *Abh-vy.*
 bhinna-līṅga 中 (譬喩における語の)性の不一致。
 bhinna-līṅgaka 形 (女 -ikā) 異なった性の語を含んだ。
 bhinna-vacana 形 異なった(数の)語を含んだ。中 (譬喩において)数の不一致。
 bhinna-varṇa 形 色が変わった, 色のない, 蒼白な。
 bhinna-vṛtta 形 不規則に行動する, 悪い生活をする。
 bhinna-vṛtti 形 異なった職業をもつ; 異なった生業をもつ, 邪悪な生活をする。
 bhinnavṛttitā 女 [同上 中]。
 bhinna-saṃhita 形 分為多部, 分成多部, 破壊結集 *Lank.*
 bhinnāñjana 中 (いろいろのものを)混合した目膏(油で塗る)。
 bhinnāñjana-varṇa 形 混合目膏の色をもつ。
 bhinnāñjana-varṇatā 女 [同上 中]。
 bhinnāñjana-saṃnibha 形 bhinnāñjana に似た。
 bhinnārtha 形 異なった目的をもつ; 明白な意義をもつ, 明瞭な, 理解できる。
 bhinnārthatā 女 明瞭, 理解できること。
 bhīyas 男 (因) 恐怖 [ただ 圓 および 圓 の 圓 のみ (因)]. ~e 為 [=BHi の 不定].
 bhīru 男 除患 *Divy.* [ある大臣の名]
 bhīruka 男 [同上] (*Divy.*).
 bhīru-kaccāna 中 除患 *Divy.* [城の名]
 bhīlla 男 [粗野なある山地の住民の名]; *Bhīlla* の 王侯 [=bhīlla-rāja 男].
 bhīllī 女 *Bhīlla* 族の女。
 bhīscā 女 [人名].
 bhīṣaktama 男 二人の最良の医者), *Aśvin* 雙神の称].
 bhīṣag-dravya 中 藥 *Lank.*: ~m pra-Yam 処藥, 投藥, 隨授藥, 処方 *Lank.* 39.
 bhīṣag-vara 男 =bhīṣaktama; 大医王 *Lal-v.*
 bhīṣaṅka 男 [=bhīṣaṅka] 大医王 *Lal-v.*
 BHiṣaj, II. 他 bhīṣakti 癒す (RV. 用例一回のみ).
 bhīṣaj 形 癒す. 男 [困 -k] 癒す者, 医師; 療治 (因); [諸人の名]; 医, 良医, 医生 *Abh-vy., Lank., Mvyut., Rāṣṭr.*; 藥 *Lank., Rāṣṭr.* → dharma ~.
 bhīṣajya 1. 名動 他 bhīṣajyati 癒す, 治す; (因)の 医師となる; (因) のための医師または医藥である, … に対し支配力をもつ, …に勝つ。
 bhīṣajya 2. 形 治癒の力をもつ。

bhīṣajyā 因 治癒すること。
 bhīṣāyaka 男 Yakṣa.
 bhīṣāyakapura 男 [町の名].
 bhīṣaj 動 他 癒す, abhiṣaj (RV. 用例一回のみ).
 bhīṣajya 動 他 bhīṣajyati 癒す。
 BHi, I. 中 bhayate [因における普通の語形]; III. 他 bibheti 恐れる, (従, 屬)を恐れる; (従)を氣遣う; 畏, 惧, 法, 怖, 恐怖, 恐畏, 憂怖, 有憂懼, 生驚怖; 嫌棄 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ. mā bhaiḥ* または *bhaiṣiḥ* 恐れるな. *mā bhaiṣṭa* 莫惧, 不惧 *Mvyut.* 過受分
 bhīta おどろかされた, 危急を知らされた, こわがる, (従, 屬, 一)を恐れる; 危険にさらされた; (一)を氣遣う. 使役 他 中 bhīṣayati(-te), 他 bhāyayati おどろかす, 恐れさせる; おびやかす; 恐怖, 令恐怖 *Bodh-bh.*: bhīṣayati uttrāsayati 令恐怖 *Bodh-bh.* 152.
 ati- 極度に恐れる。
 pra- (従)におどろかされる; 驚怖, 驚吠 *Lank.* 過受分 prabhīta 驚愕した。
 vi- 恐れている; 怖, 愁恐驚懼 *Divy., Śu-pr.* 過受分 vibhīta 驚愕した, おびやかされた. 使役 vibhīṣayati (-te) おどろかす, おびやかす. saṃ- 過受分 saṃbhīta (屬)を恐れた。
 bhī 女 (従, 因, prati とともに 圓, 一)に対する恐怖・驚愕・恐慌または畏怖; 畏, 驚畏, 驚懼 *Bodh-bh., Lal-v., Sūtr.*
 bhī-kara 形 (一)をもって恐怖を起す, …で恐れさせる。
 bhīta 過受分 → BHi. 怖, 畏, 怖者, 怖畏, 畏怖, 恐怖, 遭怖畏; 驚, 驚怖 *Bodh-bh., Bodh-c., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lank., Mañj-m., Saddh-p., Sūtr.*: ~ās trastāḥ 怖畏, 恐怖 *Gaṇḍ-vy.* 120, *Saddh-p.* 187. → a~.
 bhīta-citta 形 心配する, 不安な。
 bhīta-paritrāṇa-vastu 中 恐怖する者または危険にある者を助ける方法。
 bhīta-bhīta 過受分 極度におどろかされた。
 bhītavat 副 おどろかされた者のように, 臆病に。
 bhīti 女 (従, 一)に対する恐怖・恐慌たることまたは畏怖; 危険; 畏 *Av-ś.*
 bhīti-kṛt 形 恐怖を起す。
 bhīti-cchid 形 恐怖を除く, 危険を遠ざける。
 bhītitas 副 (一)に対する恐怖によって。
 bhītimat 形 臆病な。
 bhīma 形 恐ろしい, 恐るべき; 作怖 *Mvyut.* 一 副 恐ろしく. 男 [*Rudra-Śiva* 神の称]; [*Śiva* 神の八形相の一の名]; [*Pāṇḍu* の第二子の名]; [*Vidarbha* の王の名]; [ある *Dānava* の名]; [ある *Vidyādhara* の名].
 bhīma-karman 形 恐るべき行為をする, 恐るべき武勇の。
 bhīma-khaṇḍa 中 [*Mahābhārata* ならびに *Skanda-purāna* 中の一節の題名].
 bhīma-gupta 男 [王侯の名].
 bhīma-grāhavat 形 恐るべきわに(鱒)をもつ。

bhima-jā 女 *Bhima* の娘 *Damayanti*.
 bhimatā 女 畏怖すべきこと.
 bhima-darsana 形 恐るべき形相の.
 bhima-dhanvan 男 [王侯の名].
 bhima-dhanvāyana 形 (因 -i) 恐るべき弓を持った.
 bhima-nandini 女 *Bhima* の娘.
 bhima-nāda 男 恐るべき音. 形 恐ろしく響く.
 bhima-nāyaka 男 [人名].
 bhima-parākrama 形 恐るべき勇氣または武勇をもつ. 男 [人名].
 bhima-putrikā 女 *Bhima* の娘.
 bhima-pura 中 [Gangā 河畔のある町の名].
 bhima-pūrva-ja 男 *Bhima* の兄 [Yudhiṣṭhira の称].
 bhima-bala 形 恐るべき力をもつ; [ある Deva Yajñ-
 amuṣ の名]; [Dhṛtarāṣṭra の息子の名].
 bhima-bhaṭa 男 [人名].
 bhima-bhavi-BHū, *Bhima* の娘すなわち *Damayanti*
 の姿をとる.
 bhima-bhuja 形 恐るべき腕をもつ. 男 [人名].
 bhima-mukha 形 恐るべき顔をもつ. 男 [ある猿の
 名].
 bhima-ratha 男 [(恐るべき車をもつ), ある Rākṣasa
 の名]; [諸人の名]; 漢訳 [転輪王の名] 作怖車
Mvyut.
 bhima-rathā 女 [Himālaya 山中のある河の名].
 bhima-rathi 女 [第七十七歳の第七月第七夜の称].
 bhima-rūpa 形 恐るべき形の.
 bhima-vacana 中 *Bhima* の命令.
 bhima-vikrama 形 恐るべき剛勇をそなえた. 男
 [Dhṛtarāṣṭra 息子の名].
 bhima-vega 形 恐るべき速度をもつ. 男 [ある Dāna-
 va の名]; [Dhṛtarāṣṭra の息子の名].
 bhima-sāsana 中 *Bhima* の召喚.
 bhima-sutā 女 *Bhima* の娘, *Damayanti*.
 bhima-sena 男 (恐るべき軍隊をもつ), [人名とくに
Pāṇdu の第二王子の名 = *Bhima*]; [ある Gāndhar-
 va の名]; [ある Yakṣa の名]; 漢訳 怖軍, 怖部,
 令怖部 *Mvyut*.
 bhimasenamaya 形 (因 -i) 全く *Bhīmasena* (*Pāṇ-
 du* の第二王子) のみからなる.
 bhīmā 女 [Durgā ならびにある Apsaras の名]; [諸
 河の名]; [地方の名].
 bhīmākara (°ma-āk°) 男 [人名].
 bhīmāṅgada 男 [人名].
 bhīmā-deva 男 [人名].
 bhīmābhirakṣita 形 *Bhima* に護衛された.
 bhīmārjuna-sama 形 *Bhima* と *Arjuna* とに等し
 い.
 bhimottara (°ma-ut°) 男 漢訳 [ある Kumbhāṇḍa の
 名] (最上怖畏), 怖畏師 *Mvyut*.
 bhimaujas (°ma-oj°) 形 怖るべき力のある.
 bhira 形 恐れさせる.
 bhīru 形 [また -ū] 臆病な, 恐ろしがる, いくじのな
 い; ものおじする; (因, 一°) を恐れる; 漢訳 怖,
 畏, 怖畏, 懼 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Saddh-
 p.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.* 中 因 [しばしば呼びかけに用いられ

る]小胆なものよ. *paratra* ~ 来世を恐れる.
 bhīruka 形 臆病な, いくじのない; (一°) を恐れる.
 bhīru-jana 形 いくじのない従者をもつ. 男 (團, 團)
 臆病な人々または従者.
 bhīrutā 女 臆病, 内気なこと; 小胆; (一°) に対
 する恐怖または畏怖; 漢訳 畏, 怖畏 *Madhy-vibh.*
 bhīrutva 中 [同上].
 bhīru-bhīru 形 極度に臆病な.
 bhīrumaya 形 怖るべき, 恐ろしい.
 bhīru-yodha 形 卑怯な兵士によって守備された.
 bhīru-sattva 形 臆病な性質をもつ, 小胆な.
 bhīrū 形 = bhīru 女.
 bhīluka 形 小胆な, いくじのない; (一°) を恐れる.
 bhīṣaṇa 形 (因 -ā, 一) (團, 一°) を恐れさせる, …
 にとって怖るべき; (一°) によって・のようにまたは
 において恐るべき (時); 漢訳 可怖, 可畏, 怖畏
Guhy-s., *Lal-v.*, *Mañj-m.* 中 恐れさせること;
 漢訳 恐怖他, 驚怖, 驚惶 *Ast-pr.*, *Mvyut*.
 bhīṣaṇaka-vāna 中 漢訳 [地名] 恐怖(鹿)林, 恐怖
 稠林 *Vin*.
 bhīṣaṇatā 女 恐怖させること.
 bhīṣaṇatva 中 [同上].
 bhīṣaṇika 形 漢訳 怖畏 *Saddh-p.195*.
 bhīṣaṇiya 形 恐怖させる (*Kār-vy.*); 漢訳 可畏 *Gand-
 vy. 334*.
 bhīṣaya, [BHī の 使役].
 bhīṣā 1. 女 威嚇.
 bhīṣā 2. 男 副 (因) (因) に対する恐怖によって.
 bhīṣita 過受分 恐怖した, 畏怖した.
 bhīṣma 形 恐ろしい, 怖るべき; 漢訳 怖, 可怖,
 威, 大威猛 *Gand-vy.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.* 男 [Gan-
 gā と *Sāmtanu* との息子の名, *Pāṇdu* 王子達の
 大おじであって *Kuru* 族の軍勢の指導者]; 漢
Bhīṣma の一族または随従者; 漢訳 音写 [人名] 毘森
 摩 *Buddh-c*.
 bhīṣmaka 男 賤しむべき *Bhīṣma*; [*Rukmiṇi* の父の
 名].
 bhīṣmakātma-jā (°ka-āt°) 女 [*Rukmiṇi* の 父系].
 bhīṣma-garjita-nirghoṣa-svara 男 漢訳 [仏の名] 雷
 吼音, (大) 雲雷音, 雷音威王 *Ast-pr*.
 bhīṣma-garjita-svara-rāja 男 漢訳 [仏の名] 威音
 王, 寂趣音王 *Saddh-p*.
 bhīṣma-parvan 中 [*Bhīṣma* の巻, *Mahābhārata* の
 第六巻の題名].
 bhīṣma-stava-rāja 男 [*Kṛṣṇa* に対する *Bhīṣma* の
 讃歌, *Mahābhārata* 中の一節の名].
 bhīṣma-stuti 女 [*Mahābhārata* および *Bhāgavata-
 purāna* 中のある stotra の名].
 bhīṣma-svara 男 漢訳 [仏の名] 威音 *Saddh-p*.
 -bhu 形 [=bhū] …となる, …より起る.
 bhūḥkhāra 男 *Bokhara*.
 bhukta 過受分 食われた等. → BHuj 2. 漢訳 受用
Saddh-p. 中 食すること, 食べられるもの, 食物,
 食事する場所. 一° 形 …を食物としてもつ, …で
 生活する.
 bhukta-pita 過受分 食われかつ飲まれた.

bhukta-bhoga 形 享受・使用または利用された。
bhukta-mātra 形 食われたばかりの。形 ~e 食後直ちに；漢訳 食後，飽食然後 *Surv-pr.*
bhuktavaj-jane 副 人々が食事をしたときに。
bhuktavat 過能分 食った [=動 の人称形]。
bhukta-śeṣa 男 食事の残余。形 食事で残された。
bhukta-supta 過受分 食後に眠った。
bhukti 女 食うこと，享受；享有，所有；食物；(天文学上の) 惑星の日々の運行；循環(とくに一年の)；漢訳 封 梵雜。
bhukti-pātra 中 食物の皿。
bhuktimati 女 [河の名]。
bhukti-varjita 形 食ってはならぬ(食物)。
bhuktochiṣṭa (°ta-uc°) 中 食事の残物。形 使用後に残された。
bhuktorvarita (°ta-ur°) 過受分 食後に残った。
bhuktvā 不変分 [BHuj 2.] 享受して，食って，所有して；漢訳 食已 *Bodh-bh.* : ~ ~ 数数食已 *Bodh-bh.* 114.
bhukṣa-pipāsita 形 漢訳 飢渴 *Lal-v.*
bhugna 過受分 → BHuj 1. 漢訳 凹凸，偏曲 *Mvyut.*
bhukta 男 中 (?) 漢訳 飲食 *Sikṣ.* 143.
BHuj 1., VI. 他 **bhujati** 曲げる，かがめる。受 **bhujyate** 曲げられる；落胆させられる。過受分 **bhugna** かがめられた，身を屈した；曲げられた，歪められた；皺をよせた(眉)；かた寄せられた，ゆがんだ(目)；恐れさせられた，落胆させられた；[唇音でない母音の前の o ならびに au の連声法の称]。
ā-曲げる；漢訳 結 *Vajr-pr.*；審観 *Abh-vy.* : *nyasīdat paryāṅkam ābhujya* 結跏趺座 *Mvyut.*
過受分 **ābhugna** 曲げられた。
vy-ā- 過受分 **vyābhugna** かがませられた，曲げられた。
nir- わきへ曲げる：oṣṭhau **nirbhujati** 唇をゆがめる。受 **nirbhujyate** わきに逸れる，逃げる 過受分 **nirbhugna** ゆがめられた，ぎよろつく(目)。
pari- 抱きしめる，抱擁する。
BHuj 2. I. **bhoja-** [RV. きわめてまれに]； VI. 他 自 **bhuñjati** (-te) [叙詩 まれに]； VII. 他 自 **bh-unakti**, **bhunkte** [因 運] 享受する，用いる，所有する；(圓 因)；一般に 運 (運) を食う，…を食い尽す；食う，食事をする(自)；肉欲的に享樂する(因)；他 享受する，支配する，(国または都を)所有する；使用する；利用する；(ある人を)利己的に利用する；甘受する，(業)のために報いを受けるまたは 屬によって酬いられる；堪える，経験する；他 (業) に役立つまたは仕える (因)；(業) を通り過ぎる(占星術上)；(時を)過ごす，暮す，ある期間続く；漢訳 食，喫食，齋；用，受用，受，摂受，存活，濟命 *Bodh-c., Buddh-c., Cat-s., Divy., Lal-v., Mvy-ut., Saddh-p., Sikṣ., Sūtr.* 不変分 **bhuktvā** 漢訳 食已，齋竟 *Abh-vy.* 希求(他 用例一回のみ) 自 **bubhu-kṣate(-ti)** 食いたいと思う，飢える；享受したいと思う。強意 他 **bobhujiti** 享受する；自 **bobhujyate**

しばしば食べられる。過受分 **bhukta** → **bhukta**。
使役 他 **bhojayati** (業)をして(業，圓)を食べさせる，…をもって養う；享受させる(まれに)；食物として用いる；漢訳 以飲食供養 *Lal-v.*
adhi- 食う；享受する。
anu- (業)の報酬を享受するまたはの報いを受ける；享受する，…に参与する，経験する；漢訳 食 *Surv-pr.*
upa- 享受する，味う；食う，食い尽す；使用する，利用する，…で生活する；支配する；耐え忍ぶ，経験する(善いまたは悪いことを)；肉欲的に(人の 業または śariram) を享樂する；(業)の報いを受ける；(業)に役立つ。
pari- 食う，食い尽す，消費する；享受する；用いる；漢訳 食，喫食，取食，服，嗜；受，受用；納受，堪受 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Lank., Saddh-p., Sapt-pr., Sikṣ., Vin.* : *rasān paribho-kṣyante* 嘗味，了味 *Aṣṭ-pr.* 835.
prati- 享受する。
saṃ- 一緒に食う；享受する；肉欲的に享樂する。
使役 **sambhojaya-** (業)を(圓)で養う。
bhuj 女 (因) 効用，利益，有利；享受；所有[圓はまた不定として用いられる]；漢訳 食，受 *Abh-k.* 圓 食う者(Agni神)。形 (運) 一°，享受する，食う；耐え忍ぶ，経験する；肉欲的に享樂する；[「大地」を意味する語とともに] 支配する，治める；…の報いを受ける；…に有利な；(時を)過ごすまたは満たす；漢訳 噉 *Lank.*
bhujā 男 腕；(象の)牙；枝；曲線，(蛇の)とぐろ；~ **yor antaram** 中 両腕の中間，胸；漢訳 臂 *Mañj-m.*；鼻 *Divy.* : *gaja~* 象王鼻 *Divy.* 493.
bhujā-ga 男 (曲って動く)，蛇，大蛇；[ある Nāga の名]；漢訳 蛇，毒蛇，竜 *Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Lal-v., Rāṣṭr., Sikṣ.*
bhujā-gatva 中 蛇の状態。
bhujāga-pati 男 蛇王。
bhujāga-bhuj 男 孔雀。
bhujāga-rāja 男 蛇の王，[Śeṣa の称]。
bhujāgarājāya 名動 自 **bhujāgarājāyate** 蛇の王となる。
bhujāga-valaya 男 中 蛇(からなる)腕環。
bhujāga-śayana 中 蛇の臥床。
bhujāga-śiśu-sṛta 形 若い蛇の歩きぶりをした。
bhujāga-śiśu-sṛtā 女 [韻律の一種]。
bhujāgātma-jā (°ga-āt°) 女 若い雌蛇。
bhujā-gi 女 雌蛇。
bhujāgendra (°ga-in°) 男 蛇の王，大蛇；漢訳 竜王 *Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Sikṣ.*
bhujāgeśvara (°ga-īś°) 男 蛇の主，[Śeṣa の称]；漢訳 竜王 *Divy.*
bhujāṃ-ga 男 (曲って行く)，蛇，大蛇；情人，やさ男；王侯の放蕩な友達；王侯の忠実な友；[人名]；漢訳 蛇 *Divy.*；竜神 *Daś-bh.*
bhujāṃga-kanyā 女 若い雌蛇；Nāgi。
bhujāṃga-gatā 女 遊蕩，放縱。
bhujāṃga-dirgha 形 蛇のように長い。

bhujamga-prayāta 甲 蛇の歩きぶり [韻律の一種].
 bhujamga-bhojin 男 蛇を貪り食う者, [Garuḍa の称].
 bhujam-gama 男 (曲って動く)蛇, 大蛇; Nāga; 漢訳 手行 *Mcyut*.
 bhujam-gamā 女 雌蛇; Nāgi.
 bhujamga-śatru 男 蛇の敵, [Garuḍa の称].
 bhujam-gi 女 雌蛇; Nāgi.
 bhujamgendra (°ga-in°) 男 蛇の王.
 bhujamgeśa (°ga-iśa) 男 [同上], [Piṅgala の称].
 bhujā-cchāyā 女 腕の陰すなわち安全な避難所.
 bhujā-taru-vana 甲 樹々が腕である林 (=Śiva 神の十臂).
 bhujā-daṇḍa 甲 長い腕.
 bhujā-bandhana 甲 両腕で抱きしめること, 抱擁.
 bhujā-madhya 甲 両腕の中間, 胸部.
 bhujā-mūla 甲 肩.
 bhujā-yaṣṭi 女 長く細い腕.
 bhujā-yoktra 甲 両腕で抱きしめること, 抱擁すること.
 bhujā-latā 女 蔓草のような腕 (=bhujā-yaṣṭi).
 bhujā-vīrya 形 腕の強い.
 bhujā-śālin 形 (強い)腕をもつ.
 bhujā-śikhara 甲 (腕の上部), 肩.
 bhujā-saṁśraya 形 (誰かの)腕に避難する.
 bhujā-saṁbhoga 男 抱擁.
 bhujā-stambha 男 腕の麻痺.
 bhujā-stambhāpavidha 形 柱のような強い腕で投げられたまたは突き返された.
 bhujā 女 わん曲, (蛇の)とぐろ; 腕; 幾何学的図形の辺.
 bhujāṁsa 男 漢訳 腋 *Buddh-c.*
 bhujāṁsa-deśa 男 腕の上端.
 bhujāgra 甲 腕の先端, 手.
 bhujāghāta (°ja-āgh°) 男 腕による打撃.
 bhujāṅka 男 抱擁.
 bhujāntara 甲 両腕の中間, 胸. ~m 副 両腕の間に, 抱擁して.
 bhujāntarāla 甲 [同上 (甲)].
 bhujā-bhujī 副 腕対腕, 接戦において.
 bhujā-mūla 甲 肩.
 bhujā-latā 女 蔓草のような腕 (=bhujā°).
 bhujī 1. 女 (因) 抱擁.
 bhujī 2. 女 享樂を与えること; 愛顧; 後援者.
 bhujīṅga 男 覆 [住民の名].
 bhujīṣya 形 食物を与える (因). 男 召使, 奴隸 (重). 甲 漢訳 具自在 *Mcyut*.
 bhujīṣyā 女 侍女, 婢女.
 bhujopapīdam (°ja-up°) 副 腕で抱きしめて.
 bhujman 形 産出物(とくに水)に富む(山) (RV.).
 bhujyu 形 (因) 享樂をもたらす(車) (RV.). 男 [Aśvin 双神の被保護者の名]. 女 [毒蛇の一種 (?)].
 bhujña 男 甲 (?) 漢訳 食 *Siks.*
 bhujñāna 現分 甲 漢訳 飯 *Siks.* 143.
 bhujñāpaya 動 使役 他 [BHuj 2.] bhujñāpayati 養う.

bhujñin 形 漢訳 食 *Siks.*
 bhujña 男 [人名].
 bhujña-pura 甲 *Bhujña* の都城.
 bhujñeśvara (°ta-iś°) 男 [*Bhujña* の建立した神殿の名].
 bhudhuka, 漢訳 鳩鷓 *Lank.*; 音写 浮彌迦 *Lank.*
 bhumanyu 男 [*Bharata* の息子の名]; [*Dhṛtarāṣṭra* の息子の名].
 bhuyya 男 [人名].
 BHur, VI. bhurati (-te) (RV.) けいれんして動く, 震える, あがく. 漢訳 jarbhuriti [同上]; (火が) ゆらめく.
 BHuraj, bhuraja- [RV. 用例一回のみ] 焼く (?) または進呈する(?).
 bhurāṇa 形 活発な, 活動的の (RV.).
 bhurāṇya 名動 他 bhurāṇyati (RV.) 休まず動く, 活動的である; (液を) 攪拌する.
 bhurāṇyu 形 (因) 休みのない, 活動的の, ゆらめく.
 bhurij 女 (前後に動く), 副 腕 (因); 車大工の道具 [二コの腕木からなり木材を挟んで固定するに用いる].
 bhurūṇḍa 男 [獣および鳥の一種]; [人名].
 bhuvat, [BHū の 三過 三入 重] (因).
 bhuvana 甲 存在, 生物, 存在するもの (因); 世界, (三界の一つ) 地界 [普通は 三つの世界, また時として七または十四界があるとされる]; 王国 [地上に十四があるとされる]; 生存の場所, 住所 (因); 漢訳 宮 [=bhavana] *Guhya-s.* 137.
 bhuvana-kośa 男 地界, 地球.
 bhuvana-candra 男 [人名].
 bhuvana-carita 甲 世界の活動(世事).
 bhuvana-tala 甲 地表; 大地.
 bhuvana-traya 甲 重 三つの世界 [天界・空界・地界].
 bhuvana-dvaya 甲 重 二つの世界 [天界と地界].
 bhuvana-dviṣ 男 世界または大地の敵.
 bhuvana-pati 男 生物または世界の主 (因).
 bhuvana-pāvana 形 (因 -i) 世界を浄める.
 bhuvana-pāvanī 女 [*Gaṅgā* 河の称].
 bhuvana-bhartr 男 世界の主.
 bhuvana-bhāvana 男 世界の創造主.
 bhuvana-bhīma 男 世界を恐怖させる.
 bhuvana-matī 女 [ある王妃の名].
 bhuvana-mātr 女 世界の母, [*Durgā* 女神の称].
 bhuvana-rāja 男 [王侯の名].
 bhuvana-vidita 形 世界に著名な.
 bhuvana-vivara 甲 空間, 大気.
 bhuvana-vṛttānta 男 世界の出来事.
 bhuvana-śāsin 男 世界の支配者, 王.
 bhuvanāṇḍaka 甲 (創造神話における)宇宙の(本源たる)卵.
 bhuvanādbhuta 形 世界を驚かす.
 bhuvanābhyudaya 男 [ある詩の題名].
 bhuvaneśa (°na-iśa) 男 世界の主; [ある Rudra の名]; [地方の名].
 bhuvaneśvara (°na-iś°) 男 世界または大地の主, 王;

[Śiva 神の称].

bhuvaneśvari (°na-iś°) 因 [諸女神の称].

bhuvanaukas (°na-ok°) 因 天界の住者, 天人, 神.

bhuva-bhartṛ 因 空界の主.

bhuvas 1. [BHū の 因 三過 三人 因].

bhuvas 2. 問投 不変 [恐らくは BHū の 因 因] [bhūr ~ h svaḥ の形式で用いられ, 空界を意味すると解せられる (三 vyāhṛti 中の第二). 十四の世界を仮定した時には下より数えて第二に相当する].

bhuvi-ṣṭha 因 地面に立つ(車上でなく); 地上に住む (天界でなく).

bhuvi-sprś 因 地に触れる.

bhusuṅḍī 因 [武器の一種].

BHū 1. 他 (まれに 因) **bhavati** (-te) (因 または, -i または -ū の 因 とともに 一°) となる; 発生する, 生ずる, 起る; (因) から出現する; (因) において見出される; 存在する; 成生する, (因) から生ずる; 生存する, 生存し続ける; …の状態にある, 暮して行く; 留まる, 残る; (因) として役立つ; 可能である; 許されうる; (因) に導くまたは資する; (因, まれに 因 または 因 : しばしば=所有の意味を示す) の分担になる, …の所有となる, …に属する; (因) に味方する; (因) にたずさわるとは 従事する; 価値がある; 繁栄する, 成功する; (因) の状態に入る, …に達する; …である [しばしば 因 とともに 因 の人称形の代りに用いられる]; 成, 作, 為; 有; 出, 現 *Abh-vy.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Sāmkhy-k.*, *Sukh-vy.* 1. *cetasi* または *manasi* ~ (因) の心に浮ぶ. *anyathā* ~ 変る. *dūrataḥ* ~ 遠ざかる, 離れる. *śatadhā* ~ 百に分かれる. *kva* ~ どうなるか=万事休す. *na* ~ 無に帰す, 消滅する, 死ぬ, 死人である. *iha na* ~ 地上に生じないすなわち再び生れない. *ābhāsi* ~ 現前 *Daś-bh.* *tathā bhavatu* 随意当作 *Divy.* *tasyaitad* ~ 作是念, 彼作是念, 作是思惟 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Suv-pr.* *asmin sati idaṃ bhavati* 此有故彼有, 因此法生彼, 依此法生此, 有此因縁故則有此法生 *Lank.* 104. **bhavet** [因 三人 因] あるかも知れない, …と仮定して. *iti ced bhavet* もしこの疑問が提出されるとすれば. *nābhijānāmi bhaved evaṃ na vēti* 私はそれがそうであるかないか知らない. **bhavatu** あるかも知れない, ありうる, 全く可能である; よし; 十分である, 更に多言または熟考の必要がない; 全く明白である. **tad bhavatu** 気にかけるに及ばない. 過受分 **bhūta** → **bhūta**. 使役 **bhāvayati** (韻律 はまた -te) あらしめる, ならせる; 創造する, 生ずる, 起す, 創始する; 明示する, 顕示する; 大事にする, 養う, 保存する, 世話をする; 元気づける, 生気を与える; …に献身する, 実行する; 自己の支配下にもたらすまたは持つ; …に変化または変形させる; (心に) 思い浮かべる, 空想する, 想像する; 認める; (因) を (因) であると思ふまたは思う; 有罪と断ずる, 罪を信ぜしめる; 確定する, 確証する, 決定する; 混合する; 浸す, 漬ける; 想, 観, 観察, 想現, 修, 修得, 修行, 勤修 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*,

Guhy-s., *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.* 使役 過受分 **bhāvita** 生産された, 開示された, 得られた; 一° …に変形された; 愛育された; 上機嫌な, 喜ばしい, 得意の気分である; (自己の) 力を意識した; 想到された, 考えられた, 認められた, 経験された; 全く (因, 一°) をもって充滿または彌漫された, …によって夢中にさせられた; 鼓舞された; (因) の方へ向けられた; 芳香をもって薫ぜられた; (一°) を想像するまたは想像させる. 希求 他 **bubhūṣati** (因) でありたいまたはなりたいと思う; 何ものかでありたいと欲する, 成功したいと思う; (因) を所有したいと思う; 歓待する; (因) に気をくばる, …に興味をもつ; 好む, 尊重する, 尊敬する. 強意 他 **bobhaviti** しばしば起る; (因) に変形させられる.

ati- 高度に…と成る または として生じる; …より以上である, …に優る, …を凌駕する [時として 因]; 圧倒する. 過受分 **atibhūta** 食された (太陽).

anu- (後にある), 囲む; 等しい; (因) の限り続く; 感ずる, 経験する, 享受する, 耐え忍ぶ; 知覚する, 聞く, 学ぶ, 理解する; 受, 得受, 執受, 領受, 忍受, 領納, 随得受用 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Sikṣ.*; 観 *Bodh-c.*; 作嘗, 嘗 *Mvyut.* 受 **anubhūyate** 受, 獲 *Sikṣ.*, *Suv-pr.* 使役 **anubhāvaya-** (因) をして (因) を感じさせる または 経験させる; …に気づかせる. **manasā anubhāvaya-** 心に思い浮べる. 希求 **anububhūṣa-** 感じたいまたは享受したいと思う.

praty-anu- 単独に享受する・知覚するまたは遭遇する (*Kār-vy.*); 受, 受用, 能受, 現受, 領受, 還受, 得領受, 獲其果; 具足; 得; 現; 有; 知, 了知 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Av-s.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*; *dharma-sambhogam praty-anubhavati* 受用法樂 *Madhy-vibh.* 208.

sam-anu- 感ずる, 享受する; 随受 *Daś-bh.*

antar- (因) に入込む; (因) に含まれる; 収入 *Abh-vy.* 過受分 **antarbhūta** 内にある, 内部にある; (一°) の中に含まれた.

apa- はるかかあなたにある, 不在である.

api- (因) (因) の中にある, …の中に落ちる; (因) に関与する.

abhi- (対抗する), 優る, 卓越する; 優秀である, 勝利者である; 打ち克つ, 克服する; 襲う, 攻撃する; (因) を支配する, …に優越する; 屈辱を感じさせる; (因) に向うまたは来る (因); 勝, 勝過, 普勝, 得勝, 為殊勝, 超; 得自在; 制伏, 摧伏, 善能摧伏, 銷伏, 能銷, 降, 破; 映蔽, 覆蔽, 蔽抑; 勇決 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Sukh-vy.* 1. *Sūtr.*; *na tvāṃ śaktaḥ abhibhavitum* 無有与汝等者 *Saddh-p.* 420. 受 **abhibhūyate** 壊 *Saddh-p.* 使役 **abhibhāvaya-** 打ち克つ; 退 *Sūtr.* 使役 受 **abhibhāvayate** 充分に修習する [*Tib.* *śin du goms gyur*] (*Prajñ-vy.*). 希求 **abhibubhūṣa-** 凌駕したいと思う; 攻撃

したいと思う。

sam-abhi- 過受分 **samabhibhūta** 全く征服された
または破壊された (*Jāt-m.*).

ā- (因) 現存する, (業, 因) の中にまたはにおいて存在する; 出現する, (従) から現われる; (adhi をともなう 業) の方に向く; (adhi をともなう 業) に延びる。

anv-ā- (因) (業) に従う, 模倣する。

abhy-ā- (Br.) (業) に生ずる, …に起る。

ud- 起る, 飛出す; 増す, 生長する; …に対して立ち上る, 謀反する; 受(身) *Lal-v.*: bhūyo na cōdbhaviṣyati 不復受後身 *Lal-v.* 375. 過受分

udbhūta 起った, 高まった; 生じた, 生長した。

使役 **udbhāvaya-** 生ずる, 発生させる; 発展させる, 公示する; (題目を) 切り出す; (業) を (業) と見なす; 観察する, 注目する (*Jāt-m.*); 顕, 顕示, 分別顕示, 示現; 説; 修集 *Divy., Lañk.*

prod (pra-ud-) 過受分 **prodbhūta** 生じた, 起った: *dūratas* ~ 遠方から来た。

praty-ud- 立ち上る; 拡がる, 生長する。 過受分 **pratyudbhūta** 高まった, 高く上る。

sam-ud- 起る, (思考が) 心に浮ぶ; 増す。 過受分 **samudbhūta** 起った, 生じた; 現存する, 存在する。 使役 **samudbhāvaya-** (名誉を) 盛んならしめる, 高める (*Jāt-m.*).

nir- 歩み去る (*RV.*).

parā- 去る, 消滅する, 屈服する, 滅ぶ; 征服する; 害する, 侮辱する。 過受分 **parābhūta** 汚された; 克服された; 侮辱された, 害された。 使役 **parābhāvaya-** 破壊する; 征服する。

anu-parā- (業) に続いて破壊される。

pari- 周囲にある, 包含する, 含む (因); 取り囲む (*RV.*); 伴う (*RV.*); (祭式を) 指導する (因); 勝つ, 優る, 卓越する; 克服する, 征服する; 無視する; 蔑視する, 侮蔑して取扱う; 屈辱を感じさせる; (業) をあざける; (業) を辱かしめる; (知能が) 減少または毀損される; 軽, 蔑, 輕蔑, 輕陵, 輕慢, 起輕心, 起輕想 *Bodh-bh., Saddh-p.* 過受分 **paribhūta** 克服された, 敗られた; 蔑視された, 貶された, 侮辱された。 使役 **paribhāvaya-** 広く拡げる, 知らせる; 想像する; 考慮する, 熟慮する; (業) を (業) と認める。 使役 過受分 **paribhāvita** 全く (一°) で充たされた (*Lal-v.*)。 使役 受 現分 **paribhāvyaṃāna** 修習, 修行 *Daś-bh.*

pra- (従) から現われる・起る・飛出す・生み出されるまたは由来する; 出現する, 見える; 起る; より多い, 多数である; (前にある) 優位を占める, 優る, 有力である, 力を増加する; (圓, 圓, 因) を支配する・統御するまたは意のままに駆使する; (圓, 因) に匹敵する, …する力がある; (不定) をなし得る; (解放を) 得る; (圓) に役立つ (因); (圓) には十分である, …を容れることができる (因): **prabhūḥ prabhavati** わが君には命令または決定なさいませ; 能 *Saddh-p.*; 出生 *Lal-v.* 過受分 **prabhūta** (従) より生じた; (一°) に変形した; 豊富な, 多い, 広い, 多数の; 著しい, 大きな; (不定) することを得る; 一 副 非常に, 大いに, はなはだ。 使役

prabhāvaya- 増す, 広める; 栄えさせる; 有力ならしめる; 自己を有利にする; 認める; 現, 出現, 顕了, 顕示, 明, 照臨; 有; 極令生; 令得, 令修 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Mvyut.*; 説, 宣説 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy.* 使役 受 **prabhāvyaṃ**

現, 顕現, 顕了, 宣説 *Aṣṭ-pr., Daś-bh. Madhy-vibh.*; 開, 放, 分別; 説名, 得名 *Aṣṭ-pr. Mvyut.*; 増; 修 *Abh-vy.* 使役 過受分 **prabhāvita** 有力となった, 力の強い (*Vajr-pr.*)。 使役 希求 受 **prabibhāvayaṣati** 増そうとまたは伸長したいと思う

anu-pra- 過受分 **anuprabhūta** (業) に行きわたった; 滲透された, (圓) によって滲透された。

prati- 使役 **pratibhāvaya-** 観察する。 受 **pratibhāvyaṃ** (因) と認められる。

prādur- → **prādur.**

vi- 明白となる, 発生する, 現われる (因); (業, 圓) に匹敵する, …にとって十分である (因)。 使役 **vibhāvaya-** 現われさせる, 明示する, 開示する, 外観を呈する, 装う; 知覚する, 発見する, 探知する; 認める, (業) と認める; (業) を (業) と見なす, 想像する; 考慮する, 熟慮する; (業) を (因) に帰する; 立証する, 確定する; 有罪であると断ずる; 信させる; 現; 知, 了知, 能知, 曉了, 分別見, 観, 想, 観想, 観察, 思惟, 思惟観察 *Bodh-c. Buddh-c., Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Lal-v., Lañk., Saddh-p., Sūtr.*; 除遣 *Madhy-vibh.* 使役 受 **vit** **hāvyaṃ** 知 *Mañj-m.*

pra-vi- 使役 受 現分 **pravibhāvyaṃāna** 生信解 *Aṣṭ-pr.*

prati-vi- 使役 **prativibhāvayaṃ** 心に喚び起こる (*Lañk.*); 知, 了知, 善分別 *Abh-vy., Lañk.*

saṃ- (圓 ± sāha, 因) と会合する, …と出会う, …と合体する; 集合する; 性交する, (圓 ± saḥ または sārḍham, 業) と性交する; (因) に余地を見ずまたは容れられる; 適當である; 起る, 飛出す, 生じる, 生まれる; 発展する; 偶発する, 起る; 間に流布する; 見出される, 存在する, ある; 可である, 考えられる [na とともに不可能である] (因) であるまたはとなる; (圓, 因) の運命に陥いる, 普及する, 有効である; (因) に対して資格がある (不定) することができる; (業) に入る, …に達する; 生, 生長; 起, 能起; 出; 有; 同遊止, 共同遊止 *Abh-vy., Gaṇḍ-vy., Lañk., Lal-v., Mvyut., Śikṣ.* 過受分 **sambhūta** (従, 一°) 起った, …から生じた; (一°) で形成されたまたはられた, …から出た; (因) となった, …に変形した; 一 その人に…が起った, …がその人の手帰した=…をもって鼓舞された, …を所有する, を具えた。 不変分 **sambhūya** 一緒に, 結合し

共同で。 使役 **sambhāvaya-** 生ずる, 来たす, 完する; つかまえる, つかむ; 会得する; 養う, 大にする; 頼る; (生きて) 見出す; (業) に挨拶する, いんぎんに (敬礼を) 受ける; (業) をもって尊敬する, …を贈呈する; (圓, 因) に帰するまたは負れる; (因) において想像する・臆測するまたは仮定する; (業) を (業) と見なす; 可能であると見なす

㊦ **sambhāvayate** 生きながらえて…を見る, 経験する. **annena sambhāvaya-** 食物で(子に)会釈する = その最初の食を与える; **an yathā sambhāvaya-** (業) を誤解する, …に信用を置かない; **doṣeṇa sambhāvaya-** (業) に責めを負わせる; **abhyāgataḥ katham sa sambhāvayeyam** この私はどのようにして到達することができるであろうか. 使役 受 **sambhāvayate** 頭 **Abh-vy.** 使役 過受分 **sambhāvita** つかまれた; 会得された; 尊敬された; 可能と考えられた; 考え及ばれた; …に信頼をもった. **na sambhāvitam asmābhir adya dharmāsanam adhyāsitum** 私は今日裁判の席に坐することは不可能と考える.
abhi-saṃ- (業) に入る, …を所有するに至る(因).
prati-saṃ- (業) に専心従事するまたは没頭する.
vi-saṃ- 滅 **Sikṣ.**
bhū 形 (一°) となる, 発生する, …から出るまたは生ずる; 在る, 存在する, 因 存在の場所, 空間, 世界 [また 園 (因)]; 大地; 地面; 床; 土地, 領地; 土 [一種の物質としての]; 場所, 地点; (論議等の) 題目; 状態, 有様; 地 **Abh-k., Abh-vy., Lanik., Madhy-bh., Mvyut.** 因 **bhūvi** 地上において; 地面において; 地上 **Mvyut.** **bhūvo bhartṛ** 男 大地の主, 王.
bhūḥkhāra 形 **Bokhāra** から来た(馬).
bhū-kampa 男 地震.
bhū-kāśyapa 男 王.
bhū-kṣira-vāṭikā 因 [地名].
bhū-gata 形 地上に存在するまたは住居する.
bhū-gr̥ha 因 地下室, 穴蔵.
bhū-geha 因 [同上].
bhū-gola 男 地球.
bhū-golaka 男 [同上].
bhū-cara 形 地上を動くまたはに住する, 地上の; 住地上 **Mañj-m.** 男 地上の居住者; [**Śiva** 神の称]; 陸行, 陸衆生, 陸有命 **Lanik.**
bhūta 過受分…となった, あった, 過去の; 現実に起った; 存在する, 現存の; …である [賓辞とくに 因 と合成して 形 を作る; また同様に 園 はそれに相応する 形 に変わる]; (一°) と混合または結合された; 浄められた; 真, 実, 真実, 真誠, 如実, 実有, 誠諦, 正 **Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lal-v., Prāt-m., Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Sikṣ., Sūtr., Śivik-pr.** : ~ **ṃcittam** 心実有 **Madhy-bh.70**; 成, 住, 所起; 曾 **Abh-vy., Bodh-bh.**; 一° 為, 作, 得, 具, 生, 已生 **Abh-vy., Mvyut.**; 如, 猶如, 譬 **Abh-vy., Gaṇḍ-vy., Lal-v.** : ~ **ām vācam** 誠諦之語, 誠諦至教 **Saddh-p.315**; **āśraya** ~ (為他)作所依止 **Abh-vy.141**; **kha-ga-vāyu** ~ 如風行空, 猶如空中風 **Gaṇḍ-vy.474.** → **a** ~, **āmukhi** ~, **tathā** ~, **trāṇa** ~, **yathā** ~. 男 因 存在物 [神・人・動物および植物をも含む]; よい存在物(因); 被創造物; 世界(因) [一義に 因]; 怪物, 精霊, 幽霊, 魔物, 鬼類(園); 有情, 衆生, 一切衆生; 已生; 諸行; 形類; 世間 **Aṣṭ-pr., Divy., Ga-**

ṇḍ-vy., Lanik., Sāṃkhy-k., Sikṣ., Vajr-s., 立心; 鬼, 鬼神, 魅, 妖魅, 非人 **Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Prā-m., Saddh-p., Sikṣ., Vijñ-v., 梵千, 梵難**; 園 部多 **Buddh-c., Guhy-s., Mvyut., Sikṣ., 立心** 因 過去; 事実, 現実, 実際の出来事; 幸福; 元素 [とくに 大元素=地・水・火・風・空; 身体はこれらをもって構成され, かつこれらに分解すると考えられる: → **pañcatva**]; 実, 真実 **Aṣṭ-pr., Lal-v., Saddh-p., Sam-r., Sapt-pr., Sikṣ., Vajr-pr.**; 大, (五)大, 大種, 実種, (四)大, (四)大種 **Abh-vy., Buddh-c., Lanik., Madhy-v., Sāṃkhy-k., Sūtr., Vijñ-v., Nyāy-pr.**; **pañca** ~ **āni** 五大 **Buddh-c.**
bhūta-karaṇa 因 過去時制を作るもの, とくに **a-** (augment) (文法).
bhūta-kartṛ 男 存在物の創造者, **Brahman** 神.
bhūta-karman 男 [人名].
bhūta-kalyāṇa-mitra 因 真善知識 **Gaṇḍ-vy.**
bhūta-kāla 男 過去の時制 (文法), 過去.
bhūta-kālika 形 過去に関する.
bhūta-kṛt 形 存在物を創造する. 男 存在物の創造者.
bhūta-ketu 男 [ある **Vetāla** の名]; [**Manu Dakṣasavarṇi** の息子の名].
bhūta-koṭi 因 存在の極点(仏教); 實際, 真實際, 本際 **Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Lanik., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Rāṣṭr., Sam-r., Sapt-pr.**; 衆生際, 衆生界 **Aṣṭ-pr., Rāṣṭr.**
bhūta-koṭi 因 實際 **Bodh-bh.**
bhūta-gaṇa 男 創造物の群; 精霊の一群; 諸鬼神 **Suv-pr.**
bhūtagaṇādhīpa 男 [**Nandin** の称].
bhūta-guṇa 男 真実功德 **Bodh-bh.**
bhūta-graha 男 鬼所魅, 鬼邪變, 鬼病 **Bodh-bh., Daś-bh.**
bhūta-grāma 男 (園, 種) 創造物の集団, 存在物の仲間; 多数の精霊; 鬼村, 鬼神村 **Prāt-m.** : **bija-grāma** ~ **vināśanam** 毀壞諸種与鬼神村 **Mvyut.**
bhūtagrāma-pātana 形 傷破鬼村, 壞鬼神村 **Prāt-m.**
bhūta-cārin 形 創造物の間を動く (**Śiva** 神).
bhūta-cikitsā 因 如実治, 畢竟(智)藥 **Kāśy.**
bhūta-citta 因 真実心, 心有実 **Kāśy.**
bhūta-cintā 因 元素の考察.
bhūta-caitanika 男 精神(が物質的)元素(から生じたという説)を信ずるもの.
bhūta-caitanya 因 物質が知性をもつ状態.
bhūta-janani 因 (すべての) 存在物の母.
bhūta-jāta 因 創造物の総体; 万物.
bhūta-jñāna 因 真智, 如実智 **Sam-r., Sūtr.**
bhūta-iyotis 男 [王の名].
bhūta-tathatā 因 真如, 真如, 真性真如, 真実真如 **Vajr-pr.**
bhūta-tanmātra 因 微細な元素.
bhūtata 因 真実, 真理; 真実性 **Bodh-bh.**

bhūtatva 田 被創造物または元素の状態；真，実 Bodh-bh., Sūtr.

bhūta-dayā 因 (すべての) 創造物に対する憐れみ。

bhūta-duṣkhatā 因 [=°duḥkhatā] 諸行是苦 Śikṣ.

bhūta-druh 因 創造物を傷つける。

bhūta-dhara 因 過去を記憶する。

bhūta-dharā 因 創造物の支持者，大地。

bhūta-dhātri 因 創造物の支持者(睡眠)；大地；持物；生依；地，大地 Mvyut., Sv-pr.

bhūta-dhāman 男 [Indra 神の息子の名]。

bhūta-dhāriṇi 因 大地。

bhūta-nanda 男 [王侯の名]。

bhūta-naya 男 真実理趣，実相 Ast-pr.

bhūta-nātha 男 精霊の支配者，[Śiva 神の称]。

bhūta-nicaya 男 (元素の集団)，身体。

bhūta-pati 男 創造物(とくに魔物)の主，[Agni 神・Bhava 神・Śarva 神および Śiva 神の称]。

bhūta-pāla 男 創造物の保護者。

bhūta-pūrva 因 前にあった，以前の；古い(物語)；故人となった；曾有，昔曾有 Abh-vy. ~m 前に，以前に；過去，於過去，乃往，乃往過去，乃往古昔，乃去往古，古昔，昔時 Divy., Mvyut., Saddh-p.

bhūta-pūrvatā 因 以前の情況。

bhūta-pūrvatva 田 已有，曾有性 Abh-vy.

bhūta-prakṛti 因 創造物の最初の起原，万物の源。

bhūtaprakṛti-mokṣa 男 現世からの解放。

bhūta-pratipatti-śramaṇa 田 (音写) 実行沙門，真実沙門，行不犯真沙門 Kāsy.

bhūta-pratyavekṣa 因 真実見，実観，如実観 Madhy-bh., Madhy-vibh., Sūtr.

bhūta-bodhisattva 男 真実菩薩 Svik-pr.

bhūta-bhartṛ 男 精霊の主，[Śiva 神の称]。

bhūta-bhavya 男 過去と未来。

bhūta-bhavya-bhavad-īśa 男 過去・現在・未来の主，[Śiva 神の称]。

bhūtabhavyeśa (°ya-īśa) 男 過去と未来の主。

bhūta-bhāvana 因 生物の安寧をつくるまたはもたらす，[Viṣṇu 神・Śiva 神ならびに Brahman 神の称]。

bhūta-bhāvin 因 存在物を創造する；過去と未来との。

bhūta-bhāṣā 因 魔物(とくに Piśāca)の言語。

bhūta-bhāṣita (過受分) 田 [同上]。

bhūta-bhṛt 因 創造物を支える。

bhūta-bhautika 因 元素ならびに元素で作られたものからなる。

bhūta-bhautikatva 田 能造所造，(四)大及造色，大及塵 Lank.

bhūtamaya 因 (-i) (すべての) 創造物を含む；(五) 元素から作られた；真実の，純真な。

bhūta-maheśvara (°hā-īś°) 男 精霊の偉大な主，[Śiva 神の称]。

bhūta-mātr 因 =bhūta-janani；母神 Sv-pr.：hāriti ~tā 鬼子母神，訶利底母神 Sv-pr. 4.

bhūta-mātrā 因 微細な元素(tanmātra)；粗なる元素と微細な元素。

bhūta-mātrika 因 唯有大 Abh-vy.

bhūtamātrika-pakṣa 男 立唯有大義 Abh-vy.

bhūta-mārgopanaya (°ga-up°) 因 得入真実道，現真実道 Gaṇḍ-vy.

bhūta-yajña 男 (すべての) 創造物に対する供養 [家長たるものの日々行なわなければならない五種の Mahāyajña の一で Bali 供養とも呼ばれる。→ bali]。

bhūta-yoni 因 創造物の本源。

bhūta-roya 男 第五 Manu の支配下における一群の神々]。

bhūta-rāj 男 精霊の王，[Śiva 神の称]。

bhūta-rūpa 因 魔物の形状をもつ。

bhū-tala 田 地の表面，地面，大地；大地，地中 Lank.

bhūta-lakṣaṇa 田 真実相，如是相 Lank.

bhūtala-maṇḍala 田 世間 Mañj-m.

bhūtavat 1. 田 あたかも過ぎ去ったかのように。

bhūtavat 2. 因 魔物に囲まれた；bhūta という語を含む。

bhūta-varga 男 精霊の集団

bhūta-varṇa 男 如実讚，真実称讚 Bodh-bh., Mvyut.：~m niś-Car (使役) 流布真実称讚 Mvyut.

bhūta-vādin 因 実語者 Vajr-pr.

bhūta-vāsa 男 創造物の住所。

bhūta-vāhana 因 魔類を乗物とする(Śiva 神)。田 魔類によって曳かれる車。

bhūta-vid 因 創造物を知る；(人を悩ます)魔類を知り(かつ駆除する)。

bhūta-vidyā 因 鬼神論，鬼神学。

bhūta-vināyaka 男 魔類の指揮者。

bhūta-viśeṣa-saṃgha 男 あらゆる創造物の集合。

bhūta-vira 男 種族の名]。

bhūta-śarman 男 [人名]。

bhūta-śuddhi 因 (身体における) 元素の浄化。

bhūta-saṃsāra 男 創造物のこの世における存在，万物の輪廻。

bhūta-saṃsveda 男 湿気，四大氣 Abh-vy.

bhūtasamsveda-ja 因 湿生，從四大氣所生 Abh-vy.

bhūta-saṃghāta 男 大種和合 Nyāy-pr.

bhūta-saṃjñā 因 真実想 Vajr-pr.

bhūta-saṃtāpa 男 [ある Asura の名]。

bhūta-saṃtāpana 男 [ある Daitya の名]。

bhūta-saṃniveśa 男 事物の配置または形状。

bhūta-samāgama 男 人間の相会うこと。

bhūta-saṃplava 男 創造物または世界の滅亡，世界の終局。

bhūta-sarga 男 存在物の創造；元素の創造。

bhūta-sākṣin 男 創造物(がなすすべてを見る)証人。

bhūta-sūkṣma 田 =(bhūta-) tanmātra；五唯 [tanmātra と同意で śabda, sparśa, rūpa, rasa, gandha の五からなる]。

bhūta-srj 男 存在物の創造者；Brahman 神。

bhūta-stha 形 創造物または元素中に存する, 実体中に住する.

bhūta-sthāna 田 創造物の住所.

bhūta-sprṣṭa 形 鬼魅所纏縛 *Lal-v.*

bhūta-hatyā 因 創造物の滅亡.

bhūtātma (°ta-āt°) 形 元素の性質をもつ, 元素から組成された.

bhūtātman (°ta-āt°) 男 生物の靈魂, [*Brahman* 神・*Viṣṇu* 神ならびに *Kṛṣṇa* 神の称]; 個々の精神, 自我; (元素を本質とする) 身体; 自性, 大自性 *Lank.* 形 その精神が浄められた.

bhūtādi (°ta-ādi) 男 (すべての) 万物の最初のもの, [*Viṣṇu* 神の称]. 男 田 元素の本源としての *Ahaṃkāra* (*Sāṃkhya* 田); 大初 *Sāṃkhya-k.*

bhūtādhipati 男 = *bhūta-pati*

bhūtānadyatana 男 過去ではあるが今日に属さないこと (第一過去で表わされる 文法).

bhūtānātmatā 因 諸法無我 *Śikṣ.*

bhūtānityatā 因 諸行無常 *Śikṣ.*

bhūtānukampā 因 万物に対する憐憫.

bhūtānta 男 眞実辺者, 知究竟者 *Lank.*; 音写 歩多, 浮単陀 *Lank.*

bhūtāntaka 男 創造物の破壊者, 死神, *Yama* 神.

bhūtānta-karin 男 逼鬼 *Mañj-m.*

bhūtābhiṣanga 男 魔物につかれること.

bhūtārabdha (°ta-ār°) 形 元素から作られた. 田 (?) 覆 すべての有機物.

bhūtārtha 男 (実際に) 起ったこと, 実際の事実, 眞実; 眞実, 眞事, 眞義, 眞境, 眞実法 *Bodh-bh., Suddh-p., Sūtr., Vijñ-t.*

bhūtārtha-vādin 形 眞実を語る, 眞実を解する.

bhūtārtha-vyāhṛti 因 事実の陳述.

bhūtārtha-śuddhitva 田 眞浄, 眞実清浄 *Abh-vy.*

bhūtārtha-śobha 形 眞理の現われる.

bhūtārthika 形 眞義 *Bodh-bh., Sūtr.*

bhūtāvāsa 男 (°ta-āv°) 形 創造物の住所, [*Viṣṇu* 神ならびに *Śiva* 神の称]; (元素の住所), 身体.

bhūtāvīṣṭa (°ta-āv°) 形 魔物につかれた.

bhūtāveśa (°ta-āv°) 男 魔物につかれたこと.

bhūtāsana (°ta-ās°) 田 (魔物の座席), [ある魔法の車の名].

bhūti 因 (強力な) 存在, 能力, 資格, 力; 幸福; 繁栄, 富, 幸運, [また人格化して *Lakṣmī* と同一視される]; 裝飾(とくに象の); 灰; 有, 眞実 *Abh-vy.*; 福 *Mañj-m.*; 音写 [人名] 負梨 *Av-s.*

bhūti-karman 田 幸福を祈る儀式 [出生時における家庭的儀式].

bhūti-kalāśa 男 [人名].

bhūti-kāma 形 繁栄または財富を願う.

bhūti-kāla 男 繁栄の時間, 吉兆の時.

bhūti-kṛt 形 繁栄をきたす (*Śiva* 神).

bhūti-kṛtya 田 = °*karman*.

bhūti-da 形 繁栄を授ける (*Śiva* 神).

bhūtimat 形 繁栄する, 幸運な.

bhūti-varḍhana 形 繁栄を増す.

bhūti-varman 男 田 [ある *Rākṣasa* の名]; [王侯の名].

bhūti-śiva 男 [人名].

bhūti-śubhra 形 灰で白い (*Śiva* 神).

bhūti-sita 形 [同上].

bhūti 因 (音写) 浮多女 *Lank.*

bhūte-chad 因 覆 [*Atharva-veda* XX, 135, 11-13 の讃歌の名].

bhūtejya (°ta-ijya) 形 精霊に供物を供える.

bhūteśa (°ta-iśa) 男 創造物の主, [*Brahman* 神・*Viṣṇu* 神ならびに太陽の称]; 魔物の主, [*Śiva* 神の称].

bhūteśvara (°ta-iś°) 男 [同上].

bhūtodana (°ta-od°) 男 魔物(を遠ざけるために食する) 一皿の飯.

bhūtonmāda (°ta-un°) 男 魔物のために起る(二十種の) 精神異常.

bhūtopadeśa (°ta-up°) 男 (すでに) 存する(もの) に言及すること.

bhūtopamā (°ta-up°) 因 (他の) 生物との比較.

bhūtopasarga (°ta-up°) 男 魔物につかれること.

bhūtopahata (°ta-up°) 形 魔物につかれた.

bhūtopahata-citta 形 心が魔物につかれた.

bhūty-artham 副 繁栄のために.

bhū-dina 田 曆日.

bhū-divasa 男 [同上].

bhū-deva 男 地上の神, 婆羅門; [諸人の名].

bhū-dhara 形 地を支える; 地上に住む. 男 山; [*Kṛṣṇa* 神および *Śiva* 神の称]; [*Śeṣa* 竜の称].

bhūdhara-ja 男 (山に生じた), 樹木.

bhū-dharatā 因 地を支えること.

bhūdharāranya 田 山林.

bhūdhareśvara (°ra-iś°) 男 [(山の主), *Himālaya* 山の称].

bhū-dhra 男 [=°*dhara*] 山.

bhū-nandana 男 [王侯の名], 火星 (=°*putra*).

bhū-nāyaka 男 大地の指導者, 王侯, 王.

bhū-pa 男 大地または土地の保護者, 王侯, 王.

bhū-patā 因 王の威厳.

bhū-pati 男 万物の主, [*Rudra* 神の称]; 大地の主, 王侯, 王; 大地主, 王 *Bodh-bh., Lal-v.*

bhū-patita 形 地に落ちた.

bhūpa-putra 男 王の息子, 王子.

bhū-paridhi 男 大地の周囲.

bhūpa-suta 男 王の息子, 王子.

bhū-pāta 男 地に落ちること.

bhū-pāla 男 大地の保護者, 王侯, 王; [*Somapāla* の息子の名].

bhūpāla-loka 男 王侯の群.

bhūpāla-vallabha 男 王者の寵愛物 (すなわち馬); [諸著作者の名].

bhū-putra 男 (大地の息子), 火星.

bhū-putri 因 (大地の娘), *Sita*.

bhū-prakampa 男 地震.

bhū-pradāna 田 土地の贈与.

bhū-pradeśa 男 境土, 界(中), 国(内) *Śikṣ.*

bhū-bimba 男 甲 地球.
 bhū-bhaṭa 男 [人名].
 bhū-bhartṛ 男 大地の主, 王侯, 王.
 bhū-bhāga 男 大地の一部分, 場所, 地点: krośa-mātraḥ ~ḥ —krośa だけの距離.
 bhū-bhuj 男 大地の享受者, 王侯, 王.
 bhū-bhṛt 男 大地を支えるもの, 山; [Viṣṇu 神の称]; 王侯, 王.
 bhūma, [時として 一°] = bhūmi.
 bhū-maṇḍala 甲 地球; 大地の周囲.
 bhūman 1. 甲 (因) 大地; 地面; 地区, 地域; 場所; 世界; 創造物; 覆 万物.
 bhūman 2. 男 豊富, 多数; 富; 大きな数, 複数; [Kṛṣṇa 神の称]. 一° 形 …に満たされた. 圓
 bhūmnā 大部分は, 一般には. 因 bhūmni 複数では.
 bhū-manyu 男 [王侯の名].
 bhūmi [時として -i] 因 大地; (圓) のための地面, 土地 [時として 覆]; 地方, 地区, 国土, 地域; 土壤; 地点, 敷地, 場所; (建物の) 階, ゆか (床); 地位, 役目; (俳優の) 役割; (Yoga における) 段階; 程度, 範囲; (愛, 信頼の) 対象, (娯楽の) 機会, (無遠慮の) 典型; 覆 地, 聖地, 地面; 道; 位, 処 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Dharm-s., Lan̄k., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Śiks., Sūtr., : sapta ~ ayah 七地 [1. gotra ~ 種姓地, 2. adhimukti-caryā ~ 勝解行地, 3. śuddhādhyāśaya ~ 淨勝意樂地, 4. caryā-pratipatti ~ 行正行地, 5. niyata ~ 決定地, 6. niyata-caryā ~ 決定行地, 7. niṣṭhā-gamana ~ 到究竟地], Bodh-bh. 367; daśa ~ ayah 十地 [1. pramuditā 歡喜(地), 2. vimalā 離垢(地), 3. prabhākari 発光(地), 4. arcīṣmatī 焰慧(地), 5. sudurjayā 難勝(地), 極難勝, 6. abhimukhi 現前(地), 7. dūraṅgamā 遠行(地), 8. acalā 不動(地), 9. sādhumatī 善慧(地), 10. dharmameghā 法雲(地)] Dharm-s., Mvyut.
 -bhūmika 形 覆 地 Bodh-bh.
 bhūmi-kandali 因 [植物の一種 = Kandala].
 bhūmi-kampa 男 地震; 覆 地動, 大地動 Śiv-pr.
 bhūmi-kampana 甲 [同上].
 bhūmikā 因 大地, 地面, 土地; (書用の 一°) 薄板; (一°) のための地点, 場所; (建物の) 階, ゆか(床); 段階, 程度; (俳優の) 役割または演出する人物; (像等の) 裝飾; 序言, 緒論: [gr̄hopari とともに] 平屋根.
 bhūmikā-bhāga 男 ゆか(床), しきい.
 bhūmi-krama 男 覆 地次第, 漸(住)諸地, 次第(入)諸地 Lan̄k.
 bhūmikrama-vyavasthā 因 覆 立地 次第, 次第(説)諸地相 Lan̄k.
 bhūmi-kṣaya 男 領土の喪失.
 bhūmi-gata 形 地面に落ちた.
 bhūmi-garta 男 地面における坑.
 bhūmi-guhā 因 覆 土窖 Mvyut.
 bhūmi-gr̄ha 甲 地下室, 穴蔵; 覆 地牢 Divy.
 bhūmi-cala 男 地震.
 bhūmi-calana 甲 [同上].

bhūmi-cāra 男 覆 地震 Daś-bh.
 bhūmi-ja 形 大地から生じた; 覆 生…地, 生於地 Lan̄k. 男 火星.
 bhūmi-jāta 形 地上に生じたまたは形成された.
 bhūmi-joṣaṇa 甲 地面の選択.
 bhūmim-jaya 男 [Virāṭa (Matsya) の息子の名].
 bhūmi-tanaya 男 (大地の息子), 火星.
 bhūmi-tala 甲 大地の表面, 地面; 覆 地, 地上, 地台, 地根 Aṣṭ-pr., Mvyut., Śiks.
 bhūmi-tuṇḍika 男 [地名].
 bhū-mitra 男 [王侯の名].
 bhūmitva 甲 大地または土壤たること.
 bhūmi-da 形 土地を賦与する.
 bhūmi-dāna 甲 土地の賦与.
 bhūmi-deva 男 地上の神, 婆羅門.
 bhūmi-dhara 男 大地を支えるもの, 山; 王侯, 王.
 bhūmi-nātha 男 大地の主, 王者.
 bhūmi-pa 男 大地の守護者, 王.
 bhūmi-pati 男 大地の主, 王; 覆 轉輪位 Buddh-c.
 bhūmi-patitva 甲 主権, 王たること.
 bhūmi-parimāṇa 甲 平方積.
 bhūmi-parvan 甲 [Mahābhārata 中の一章の題名].
 bhūmi-pāla 男 地の保護者, 王侯, 王.
 bhūmi-putra 男 (大地の息子), 火星; [王侯の名].
 bhūmi-puraṇḍara 男 (地上における Indra 神), 王, [Dilīpa の称].
 bhūmi-pra 形 (因) 大地を満たす(名声).
 bhūmi-pracala 男 地震.
 bhūmi-pradeśa 男 覆 処 Bodh-bh.
 bhūmi-praviṣṭa 形 覆 入地, 入大地, 入聖地, 已入…地, (未)入初地(?) Bodh-bh., Śiks. Sūtr.
 bhūmi-praveśa-pariśodhana 甲 覆 趣入修治地, 入地為治淨 Madhy-bh.
 bhūmi-prāpta 形 地面に落ちた.
 bhūmi-bala-vaiśāradya-dhārin 形 覆 持地力無畏 Mvyut.
 bhūmi-budhna 形 大地を底とした.
 bhūmi-bhāga 男 (まれに 甲) 大地の一点, 場所, 位置.
 bhūmi-bhuj 男 地の享受者, 王.
 bhūmi-bhūta 形 (あるものの) 土地を形成する, (あるものの) 底を形づくる; 大地となった; 地上に在る.
 bhūmi-bhṛt 男 地を支えるもの, 王侯, 王.
 bhūmi-bhedin 形 地(上のもの)と異なった.
 bhūmi-lakṣaṇa 甲 覆 地相 Sūtr.
 bhūmi-vajra-maṇi 男 覆 土地と金剛石と宝石.
 bhūmi-varadhana 形 繁栄を増す. 男 甲 死骸.
 bhūmi-varadhanā 因 覆 kartavyā ~ 当須斬其首 Divy. 565.
 bhūmi-vāsin 形 平地に住む.
 bhūmi-śaya 形 地上または中に横たわるまたは生活する. 男 地上または地中に住む動物; [王侯の名].
 bhūmi-ṣṭha 形 地上または地面に立った; 地中に横たわる; (自己の) 国にある; [ambu とともに] よどんだ(水).

bhūmi-saṃcāra 男 易地, 度余地 *Abh-vy.*
 bhūmi-sattra 田 土地の寄贈からなる祭式.
 bhūmi-saṃniveśa 男 国土の一般的外観または形態.
 bhūmi-sāmrājya 田 大地に対する至上権.
 bhūmi-suta 男 (大地の息子), 火星.
 bhūmi-sūcaka 男 狗 *Saddh-p.*
 bhūmi-sena 男 [第十 Manu の息子の名]; [ある仏教学者の名].
 bhūmi-sprś 形 大地に触れる.
 bhūmi-svāmin 男 大地の主, 王.
 bhūmi 女 → bhūmi.
 bhūmicchā 女 地面 (に横たわりたいと思う) 願望.
 bhūmi-bhṛt 男 大地を支えるもの, 山.
 bhūmi-ruh 男 草本, 樹木.
 bhūmi-ruha 男 [同上].
 bhūmi-śaya 形 = bhūmi-śaya.
 bhūmi-śayya 形 地面に眠る.
 bhūmiśvara (°mi-īś°) 男 大地の主, 王. → eka~.
 bhūmy-anantara 形 (自己の) 国土に直ちに隣接した. 男 隣接した国の王侯.
 bhūmy-anṛta 田 土地に関する偽証.
 bhūmy-antara-stha-carāṇa-vastu 田 遷移別処時分, 遷移別処根由, 遷移別処分, 住行余処事 *Mvyut.*
 bhūmy-ākramaṇa 田 登地, 得入地, 鎮地, 住地 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.*
 bhūmy-ākramatā 女 入地 *Gaṇḍ-vy.*
 bhūmy-eka-deśa 男 領土の一部分.
 -bhūya 田 …となること, …なること.
 bhūyaḥ-palāyana 田 繰返し逃げること.
 bhūyaśas 副 大体において, 原則として; 再び, 新たに.
 bhūyaś-chandika 形 類愛, 恒欲 *Mvyut.*
 bhūyas 比較 (より大きな程度となる), (従) より以上の・多いまたは豊富な; (従) より一層重要な, …より価値多い; (従) より大きな・偉大なまたは強大な; 数多い, 多い, 多くの, はなはだ大きな, 激しい; (圓, 一) に富んだまたはおびただしい; 更, 増, 多, 增多, 多分, 上, 益加, 倍 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Śuv-pr. bhūyasyā mātrayā* 副 多, 多分, 益, 益加, 重, 倍, 増倍, 倍增, 倍復, 転増, 転復; 広大 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.* 田 副 一層多く; もっとも多く; 大いに, 非常に, はなはだ; その上に; なおまた, さらに, そのほかに, なお一層; ふたたび, 新たに; 復, 而復, 復重, 更, 猶, 又, 爾, 麼; 以後 *Av-ś., Bodh-c., Daś-bh., Divy., Lal-v., Madhy-v., Mvyut., Prāt-m., Saddh-p., Sūtr.:* mā ~ evaṃ kariṣyatha 以後不須如此 *Mvyut.* ~o'pi [同上 (副)]; 又, 復次, 或復次, 又麼, 他麼 *Mvyut.* ~ś cāpi [同上]. punar ~ [同上]. ~o ~ 再三再四, 反覆して; 数, 数数, 倍復, 展転 *Daś-bh., Śikṣ., Sūtr. pūrvam...* ~ 最初は…後には. kim ~ これ以上言って何の役に立とうか. ādau...pascāt... ~ 最初は…後には…ふたたび. 圓 bhūyasā 副 非常に, 法外に, 高度に; 非常に多く;

大部分は, 一般に, 原則として; 多 *Abh-vy.*
 bhūyas-kāma 形 非常に願望する; 更望 *Prāt-m.*
 bhūyas-kāmatā 女 欲, 愛, 多欲 *Mvyut.*
 bhūyastarām 副 (従) より高い程度において; 再び.
 bhūyastva 田 優勢; 増加; 多数, 豊富, たくさん; 広範囲. 圓 ~ena 副 多 *Daś-bh., Mvyut.:* te ca bodhisattva-mahāsattvā ~ sarve kumārabhūtāḥ 諸大菩薩悉皆多是孺童 *Mvyut.*
 bhūyaḥ-saṃnivṛtti 形 再び帰って来る. 女 帰還.
 bhūyiṣṭha 最上 副 もっとも多い, もっとも豊富なまたは数多い; もっとも重要な, 主な, 第一の; 非常に大きな, 広大な, 多いまたは数多い; 一・大部分…から組み立てられたまたは成り立った, …によって著しく特色づけられた, …で満たされた. [過受分の後 一] 大部分は, ほとんど[過受分に属する] 形は 過受分 と bhūyiṣṭha との間に入る; 多, 最多, 多的, 具多, 多之; 大蓋 *Mvyut.* ~m, ~ena (圓) 副 もっとも多く; 大体において, 大概, 主として; 非常に, 非常に多く, 非常に高度に; ほとんど全く.
 bhūyiṣṭhataram 副 滋茂 *Śuv-pr.*
 bhūyiṣṭhatā 女 大きい数.
 bhūyiṣṭhaśas 副 非常に数多く.
 bhūyo-guṇa 形 重複された; 多くの徳をもつ.
 bhūyottare (°yas-ut°) 副 転更 *Daś-bh.*
 bhūyonāgamana (°yas-an°) 田 再び帰らないこと.
 bhūyo-bharṭṛ-saṅgama 男 夫と再び一緒になること.
 bhūyo-bhāva 男 増加, 成長, 発達; 増上, 増益, 増広, 倍増長, 倍修習 *Bodh-bh., Mvyut.*
 bhūyo-bhāvatā 女 増上 *Mvyut.*
 bhūyobhiprāya (°yas-abh°) 形 想, 想多, 頻思, 類思 *Mvyut.*
 bhūyo-mātra 田 (圓)の大部分.
 bhūyo-ruci 形 はなはだ意に適った.
 bhūyo-rucitā 女 [同上 副]; 漸欲 *Mvyut.*
 bhūyo-vidya 形 一層多く知る, 一層学識のある.
 bhūr 不變 [bhū 大地の 呼] [mantra ~ bhuvah svah における三箇の vyāhṛti の一, この中 bhūr は地を意味する; 十四種の世界を数える中では上部の七界の第一に当る]; 匿写 在 *Divy.*
 bhū-rati 男 [(武器に対して唱えられる) ある呪文の名].
 bhū-ramaṇa 男 王侯, 王.
 bhūri 形 豊富な, おびただしい; 大きな, 多くの; しばしば起る, 数多くの; 広大な, 強大な; 遍, 広大 *Gaṇḍ-vy., Lal-v.* 副 豊富に, 多く, 大いに, しばしば. 男 [Viṣṇu 神および Indra 神の称]; [人名]. 女 [Pali bhūri] 知ること, 理解, 智慧 *Lal-v., Mah-v.*
 bhūrika 男 [人名] (*Divy.*).
 bhūri-karman 形 多くのことをする; はなはだ多忙な; 多くの祭式を行う.
 bhūri-kālam 副 長い間.
 bhūri-kṛtrima-māṇikyamaya 形 (因 -i) 多くの擬造の紅玉からなる.

bhūri-gadgadam 副 多く吃って。
 bhūri-guṇa 形 大いに増加する。
 bhūri-janman 形 多くの生を享ける。
 bhūritara 比較 さらに多くの, さらに豊富なまたは数多い。
 bhūritā 因 多数, 多様性。
 bhūri-tejas 形 偉大な光輝をもつ。 男 [王侯の名]。
 bhūri-tejasa 形 [同上 (形) (とくに火の形容)].
 bhūri-toka 形 子福者の。
 bhūri-da 形 多く与える, 寛大な。
 bhūri-dakṣiṇa 形 豊富な報酬をともなう (祭式); 物惜しみせず贈物を与える (とくに祭式の時婆羅門に対して), 豊富な報酬を与える, 寛裕な. ~m 副 多くの贈物を与えて。
 bhūri-dāvan 形 (因 -dāvāri) 多く与える, 物惜しみしない。
 bhūri-dyumna 男 [敬虔な王侯の名]; [第二 Manu の息子の名]。
 bhūri-dhāman 形 偉大な力または光輝をもつ。
 bhūri-nidhana 形 さまざまに滅びる。
 bhūri-putra 形 子福者の。
 bhūri-prajñā 因 龍 [ある竜の名] (大慧, 広慧), 実智, 仏智 (?) [Tib. śes rab chen po] Gand-vy. 28.
 bhūri-prayoga 形 しばしば用いられる (語). 男 [しばしば用いられる語を含む辞典の題名]。
 bhūri-bhī 形 大きな危険を含む。
 bhūri-bhoja 形 多くの享樂をもつ。
 bhūri-retas 形 種子に富んだ。
 bhūri-varcas 形 大きな光明をもつ, 非常に輝かしい。
 bhūri-vasu 男 [ある大臣の名]; [ある婆羅門の名]。
 bhūri-vikrama 形 偉大なる勇気をもつ。
 bhūri-vr̥ṣṭi 因 過度の雨。
 bhūri-vyaya 形 多く消費する, 浪費する。
 bhūriśas 副 種々に。
 bhūri-śṅga 形 多くのつの (角) をもつ。
 bhūri-śravas 男 [Soma-datta の息子の名]。
 bhūri-sthātra 形 多くの在所をもつ, 多くの場所にある。
 bhū-ruh 男 (大地から生ずる), 草本, 樹木。
 bhū-ruha 男 [同上]。
 bhūrja 男 かば (樺) (の一種) [学名 *Betula bhojpatra*. その樹皮は書写の材料に用いられる]. 因 かば (樺) (の樹皮から作った書写用の) 葉片 (*Kār-vy.*); 文書; 樺, 樺皮, 樺皮 (貝葉) *Abh-vy.*, *Divy.*, *Mañj-m.*; (音写) 浮休隈皮 *Abh-vy.*
 bhūrja-kantaka 男 [混血種姓 (階級) の一種, 婆羅門階級から追放された男女の間の子供]。
 bhūrja-gata 形 樺の (樹皮) 上に描かれた。
 bhūrja-tvac 因 樺の樹皮 [字を書くのに用いられる]。
 bhūrja-druma 男 樺の木。
 bhūrja-pattra 男 [同上]; 樺皮 *Mañj-m.*
 bhūrṇi 形 (因) 興奮した, 激烈な, 荒々しい; 怒った, 性急な [BHur]。
 bhūr-bhuva 男 [*Brahman* 神の精神的息子の称]。

bhūry-akṣa 形 多くの眼をもつ (RV. 用例一回のみ)。
 bhūr-loka 男 地界。
 bhū-loka 男 [同上]。
 bhūloka-sura-nāyaka 男 地上の *Indra* 神. → *bhūmi-puraṃdhara*.
 bhū-valaya 男 因 大地の周囲; 地球。
 bhū-vallabha 男 大地の主または夫, 王。
 bhū-śaya 形 地上に横たわるまたは住む; 地中に生活する. 男 地中に住む動物。
 bhū-śayyā 因 (露出した) 土の上の寝床。
 BHūṣ, I. 因 bhūṣati (因) (為) のためにはたらく, …努力する, …に味方する, …を助長する; (為) のために (業) を獲得しようとする。使役 因 bhūṣayati 飾る, 装飾する; (因) をまき散らす, …で覆う; 自身を飾る (因)。過受分 bhūṣita 飾られた *ati*- 使役 因 (他人) より先に自身を飾る。
 abhi- 使役 abhibhūṣaya- 飾る, 優美にする。
 ā- (因) (業) に広がる; (日々を) 暮す・過すまたは費す。
 upa- (因) (業) に近づく。
 pari- (因) (業) に奉仕する; 飾る; (業) を走り廻る; 凌駕する。使役 paribhūṣaya- 飾る (寂詩)。
 prati- (因) 準備する; 奉仕する; 満足させる。
 vi- 使役 vibhūṣaya- (業) 飾る, 装飾する。過受分 vibhūṣita 飾られた。
 bhūṣaṇa 形 (因 -i) (一°) を飾る; 一° で飾られた。 男 [*Viṣṇu* 神の称]; [ある *Daitya* の名]. 因 (まれに 男) 飾り, 装飾; 莊嚴, 莊嚴具, 宝嚴具, 瓔珞, 瓔珞具 *Bodh-c.*, *Buddh-c.*, *Lank.*, *Rāṣṭr.*, *Siv-pr.*
 bhūṣaṇatā 因 装飾品の状態, 飾り。
 bhūṣaṇa-peṭikā 因 宝石の手箱。
 bhūṣaṇa-bhūṣaṇa 形 装飾品で飾られた。
 bhūṣaṇa-vāśas 因 装飾品と衣服。
 bhūṣaṇa-vikṛti 因 莊嚴具 *Daś-bh.*
 bhūṣaṇa-vyūha 男 嚴具 *Śikṣ.*
 bhūṣaṇacchādanāśana (°na-āc°) 因 装飾品・衣服および食物。
 bhūṣaṇi-kṛta 形 装飾として用いられた。
 bhūṣaṇiya 未受分 飾られるべき。
 bhūṣaṇendra-prabha (°na-in°) 男 [ある *Kimnara* の名] 莊嚴主光 *Muyut*.
 bhūṣayitavya 未受分 飾られるべき。
 bhūṣā 因 装飾品; 莊嚴 *Sūtr.*
 bhūṣā-peṭi 因 宝石箱。
 bhūṣāya 名動 因 bhūṣāyate 装飾品として役立つ。
 bhūṣita 使役 過受分 → BHūṣ 2. 嚴, 莊嚴 *Abh-k.*, *Divy.*, *Rāṣṭr.*, *Sūtr.*
 bhūṣin 形 (一°) で飾られた。
 bhūṣṇu 形 生長する; 繁栄を願う。
 bhūṣya 未受分 飾られるべき。
 bhū-suta 男 大地の息子, 火星。
 bhū-suparvan 男 王侯。
 bhū-sura 男 地上の神, 婆羅門。
 bhū-str̥ṇa 男 [芳香のある草の一種, 学名 *Andropogon schoenanthus*]。

bhū-stha 形 地上に生活する。

bhū-svargāya 名動 自 **bhūsvargāyate** 地上の天国であるまたはとなる。

BHṛ, II. 他 **bharti** (RV. 用例二回のみ); I. 他 自 **bharati** (-te); III. 他 **bibharti** [因 二過 **jabhāra**] (因) の上にまたは中に担う・運ぶ, (因) の中に保つ; 孕む; (長いまたは整えられない髪・鬚・爪)を蓄える; 担う, 含む, 所有する, 持つ; 心に留める; 維持する, 養う, 育くむ, 保護する; (大地を) 支配する; 僱う; 堪える, 忍ぶ, 経験する; もたらすまたは持ち来る; 自 もたらされる (RV.); 運び去る, ちとる; もたらす, 提供する, 授与する; (命令に) 服従する, 従う; (声を) 張り上げる (RV.); (因) で満たす; 因 因 **Sikṣ.** 過受分 **bhṛta** 担われた, 保たれた; 支持された, 養われた; 僱われた; (一°) によって支払われた, (一°: 因 牛乳) で支払われた; 得られた; (因, 一°) で満たされたまたは詰めこまれた。使役 **bhāraya-** 備われる。希求 他 **bu-bhūrṣati** 支持したいと思う。強意 他 **baribharti** あちらこちらに運ぶ (因)。

ati- 越えて広がる (RV.). 過受分 **atibhṛta** 満たされた (因)。

apa- 運び去る。

ā- 近くもたらす, 授与する; 満たす。過受分 **ābhṛta** (一°) で満たされた。

sam-ā- 集める。

ud- 持ち上げる (因); 選ぶ (因); 高く挙げる。

upa- もたらす, 獲得する。過受分 **upabhṛta** (因) にもたらされた; 得られた; (因) に定められている。

ni- 押し下げる, 押し倒す。過受分 **nibhṛta** (因, 一°) で詰めこまれた, …で満たされた; 十分に評価された; 固定された, 堅固な, 不動の; 静止した, 沈黙した; (自己の目的を) 堅持する [一°…に専念した]; 確立された, 確実な; つよく愛着した, 忠誠な; 知覚されない, かくされた; 内密の, 秘密の; 寂しい, 孤独の; 閉ざされた (戸); 謙遜な, 卑下した。~m, 一° 因 秘密に, 見られないで, 内密に, ひそかに; 沈黙して, 静かに。

sam-ni- 過受分 **samnibhṛta** 秘密にされた; 謙遜な。

nir- (因) (因) から取り出す。

pra- (因) (前方へ運ぶ), もたらす, 提供する; 前方へ延ばす; 投げうつ, (因) に置く; 自 ふるえる; もたらされる; ほめる。過受分 **prabhṛta** (因) で満たされた; 強い, 偉大な (*Jāt-m.*)。

prati- …の方へもたらす, 提供する (RV.); 扶養する (*Divy.*)。

vi- 分離する, 広げる; 自 分配する (因), 堪える (叙詩)。過受分 **vibhṛta** 分配された。

sam-vi- 修習, 修集 *Daś-bh.*

sam- (織物を) 折り畳む; 掻き集める, 集める; 準備する, 用意する; 維持する, 養う; 集 *Daś-bh.* 過受分 **sambhṛta** 集められた, 蓄積された; 高められた; 準備された; (因, 一°) で詰めこまれた, …で覆われた, …を備えた; (胎内に) 保たれた; 得られた, 獲得された; 維持された, 養われた; 尊

敬された; 生産された, 成し遂げられた, 成就された; 組み立てられた; 作られた; よく肥えた (馬); 高い (調子)。使役 **sambhārayati** 調達する, 準備させる; 修 *Daś-bh.*

bhṛ-, = **bhrū**。

bhṛ-kuṭi 因 [また -i] 眉の収縮, 眉をしかめること; 鬢, 鬢眉, 鬢鬢, 鬢額 *Bodh-bh., Guhy-s., Mañj-m., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.*; 瞋怒 *Sam-r.*; 音写 勃哩酷致 *Guhy-s.* ~m **Kṛ** 作色 *Saddh-p.*

bhṛkuṭi-kuṭilānana (°la-ān°) 因 (因) に対して眉をしかめる。

bhṛkuṭi-dhara 因 (因) に対してしかめ面をする, …に対して怒る。

bhṛ-kuṭi 因 → **bhṛ-kuṭi**. 鬢鬢, 鬢鬢, 顔色不悦 *Lal-v., Saddh-p.*: ārya ~ 聖忿怒母, 具忿怒勝母 *Mvyut.* ~m **Kṛ** 眉をしかめる。

bhṛ-kuṭika 形 眉 (恒) 廢 *Raṣṭr.*

bhṛkuṭi-kṛta 形 鬢鬢, 鬢鬢 *Bodh-bh.* → **samdaṣṭoṣṭha-tri-vali** ~.

bhṛkuṭi-mukha 形 鬢鬢, 貌鬢鬢 *Lal-v., Sikṣ.*

bhṛg 擬音 [火のパチパチ鳴る音]。

bhṛgu 男 [輝く: *BHṛāj*] [火と密接な関係にある神話的種族の名。かれらは火を発見して人類中にもたらし木の中にこれを封じたという]; (因) [主要な婆羅門族の名]; [上記婆羅門族を代表する聖者の名で *Varuṇa* の息子, 七 *Rṣi* の一人, 最初の *Manu* によって創造された 十 *Maharṣis* の一人, 法典制定者等と称せられる]; 金星 [彼の日は金曜日である]; 断崖, 深淵; [王の名, 大仙の名] 棄惡 *Mvyut.*; 音写 毘求 *Buddh-c.*

bhṛgu-kaccha 男 因 *Bhṛgu* の岸, [*Narmadā* 河の北岸にある聖地の名, 現在の *Broach*].

bhṛgu-kacchā 因 [同上]。

bhṛgu-ja 男 *Bhṛgu* の息子, 金星。

bhṛgu-tanaya 男 [同上]。

bhṛgu-tuṅga 男 *Himalaya* または *Vindhya* 山中の一聖山の名]。

bhṛgu-devata 因 *Bhṛgu* を崇拝する。

bhṛgu-nandana 男 *Bhṛgu* の息子, [*Śaunaka, Ruru, Paraśurāma* ならびに金星の因系]。

bhṛgu-patana 因 絶壁から落ちること。

bhṛgu-pati 男 *Bhṛgu* 族中の主, [*Paraśurāma* の称]。

bhṛgu-putra 男 *Bhṛgu* の息子, 金星。

bhṛgu-prasravaṇa 男 [山の名, 恐らくは *bhṛgu-tuṅga*].

bhṛgu-vaṃśa 男 *Bhṛgu* 族, [*Paraśurāma* を祖とする家族の名]。

bhṛgu-śārdūla 男 [(*Bhṛgu* 族中最上者), *Paraśurāma* の称]。

bhṛgu-śreṣṭha 男 [同上]。

bhṛgu-sattama 男 [同上]。

bhṛgu-suta 男 = **bhṛgu-putra**。

bhṛgu-sūnu 男 [同上]。

bhṛgūdbhava 男 [(*Bhṛgu* の子孫), *Paraśurāma*,

Śukra, Utāṅka の [交系].

bhṛṅga 男 大きな黒蜜蜂；フォーク状の尾をもつもず(百舌).

-**bhṛṅgaka**, 大きな黒蜜蜂 (=bhṛṅga).

bhṛṅga-rāja 男 もず(の一種).

bhṛṅga-rola 男 すずめ蜂(の一種).

bhṛṅga-sārtha 男 蜜蜂の群.

bhṛṅgādhipa 男 (蜜蜂の王=)女王蜂.

bhṛṅgāya 名動 自 **bhṛṅgāyate** 蜜蜂のように振舞う.

bhṛṅgāra 男 甲 (黄金製の)水差し [とくに帝王の即位式に用いる]; 瓶, 金瓶, 宝瓶 *Daś-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*; [三十六宮の一] 浄瓶(宮) *Mañj-m.*: *sauvarṇa* ~ 金瓶 *Daś-bh.* 184.

bhṛṅgāraka 男 [同上].

bhṛṅgāra-grāhin 男 水差しを運ぶ者.

bhṛṅgāli (°ga-āli) 女 蜜蜂の群.

bhṛṅgin 男 [*Śiva* 神のある従者の名].

bhṛṅgi-riṭa 男 [同上].

bhṛṅgi-riṭi 男 [同上]; 音写 ト力哩帝 *Mvyut.*

BHṛjj, → **BHrajj**.

bhṛjja-kaṇṭaka 男 =**bhūrja-kaṇṭaka**.

bhṛjjana 甲 フライパン.

bhṛjya-kaṇṭha 男 =**bhūrja-kaṇṭha**.

-**bhṛt** 形 担う；所有する，もつ，備えた；もたらす，供給する；保持する，支持する.

bhṛta 過受分 備われた等. → **BHṛ**. 雇 *Abh-k.* 男 傭人，傭兵.

bhṛtaka 形 傭われた，支払を受ける，賃金を受ける. 男 支払いを受ける召使または教師；雇，傭力者 *Divy.*, 梵千., 梵雄.

bhṛtaka-puruṣa 男 作人，客作人 *Divy.*

bhṛtaka-vithi 女 市店所 *Divy.*

bhṛtakādhyāpaka 男 給料を受けて傭われた教師.

bhṛtakādhyāpita 形 傭われ教師に教えられた. 男 (*Veda* の) 学習に金を払う学生.

bhṛti 女 (一°) を持ち来ること → *idhma* ~; 支持, 保持, 養育; 傭い賃, 賃金; 奉仕; 食物 (*RV.*); 価 *Divy.*

bhṛtikā 女 報酬, 給料 (*Divy.*); 傭力, 傭賃 *Divy.*

bhṛttva 甲 (一°) の運搬.

bhṛtya 未受分 養われるべき; 食禄 *Divy.*

男 召使; 王の使僕, 大臣; 奴, 賤奴, 僮僕, 奴婢, 傭作, 傭作人, 使者 *Gand-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sātr.*; 治官 *Śikṣ.*; 親属, 眷属 *Bodh-bh.*

bhṛtyatā 女 奉仕, 奉公, 従属.

bhṛtyatva 甲 [同上].

bhṛty-anna 甲 甲 賃金と食事.

bhṛtya-paramānu 男 召使のうちでもっともつまらないもの=もっとも卑賤な召使.

bhṛtya-bharāṇa 甲 召使の維持または扶持.

bhṛtya-bhāva 男 召使の境遇.

bhṛtya-bhāvin 形 召使であるまたはとなる.

bhṛty-artham 副 (屬) を養うために.

bhṛtyavat 副 如僮僕, 似奴婢 *Mvyut.*

bhṛtya-varga 男 召使たち, 召使の全体.

bhṛtya-vātsalya 甲 召使に対する親切.

bhṛtya-vṛtti 女 召使の扶養.

bhṛtyā 女 (一°) を養育すること.

bhṛtyādhyāpana 甲 金銭を受けて *Veda* を教授すること.

bhṛtyāya 名動 自 **bhṛtyāyate** 召使のように振舞う.

bhṛtyi-BHū, 召使の身分となる.

bhṛtha 男 (?) 供物を捧げること (*RV.* 用例1回のみ).

bhṛma 男 [*BHram*] 錯誤 (?) (*RV.*).

bhṛmala 形 感覚のない (*AV.* 用例1回のみ).

bhṛmi 形 [*BHram*] 速かな, 活発な (*RV.*).

bhṛśa 形 力の強い, 力のある; はげしい(苦痛); 極度の, きびしい(処罰); 豊富な(食物). ~*m*, °一 副 極度に, 烈しく, 大いに, 高度に, 非常に多く; しばしば; ちゅうちよなく; 堅, 剛; 最, 甚; 善 *Mvyut.*; 滋 *Suv-pr.*: *adharmo vardhate* ~ *m* 非法便滋長, 増長悪聚 *Suv-pr.* 126.

bhṛśa-kopana 形 激怒しやすい.

bhṛśatara 比較 大, (復) 過於是 *Bodh-bh.*

bhṛśatā 女 猛烈なこと.

bhṛśa-daṇḍa 形 (笞) を厳しくこらしめる.

bhṛśa-dāruṇa 形 非常に恐るべき.

bhṛśa-duḥkhita 形 大いに悩まされた.

bhṛśa-nāstika 形 非常に懐疑的な, 非常に不信心な.

bhṛśa-pīḍita 形 極度に苦しめられた.

bhṛśa-ṛaya 形 非常に激烈な, 性急な.

bhṛśa-vismita 形 非常に驚いた, 当惑した.

bhṛśa-śoka-varḍhana 形 (因 -i) 非常な悲しみを増す.

bhṛśa-samyuta 形 非常に(圓)に専心した.

bhṛśa-samhr̥ṣṭa 形 非常に喜ぶまたは楽しむ.

bhṛśa-svid 形 非常に汗を流す.

bhṛṣṭa 過受分 あぶられた等. → **BHrajj**. 甲 焼肉, 焼かれたまたはあぶられた食物.

bhṛṣṭa-kāra 男 焼いたまたはあぶった食物の調理者.

bhṛṣṭi 女 尖端; 端.

bhṛhat-phala 男 [=bṛhat°]. [天の名] 広果天 *Bodh-bh.*

bheka 男 蛙.

bheki 女 雌蛙.

bheki-pati 男 雄蛙.

bheda 男 筏, 有筏 *Mvyut.*

bheda-giri 男 [山の名].

bhedara 男 [ある *Agrahāra* の名].

bhetavya 未受分 [*BHī*] 恐れられるべき; 畏, 応驚畏 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Śikṣ.* (甲) 罪人 人は(圓, 屬)を恐れべきである.

bhettavya 未受分 [*BHid*] 裂かれるべき; 破られるべき; 暴露されるべき, 裏切られるべき.

bhettr 男 裂き手, 破る者, 破壊者, 貫く者; 勝利者; かき乱す者, 妨害者; (計画等を)もらす者; [*Skanda* の称, (*Krauñca* 山を裂いたという)]; [武器に対して唱える呪文の一種]; 能破者 *Abh-vy.*

bheda 男 1. [圓の意味] 破ること, 裂くこと, 破

裂させること、貫くこと、穿孔すること、開くこと；区分、分離；(秘密の)暴露；騒乱、中止、違犯；不和の種をまくこと、味方に引き入れること [四 upāya の一]；迷わせること、誘惑。2. [圖の意味] (破られること等)、破裂すること、不和、絶交；加害、傷害；ぱっと開くこと、花開くこと；(ひげの)生ずること；(眉)をひそめること；(圓)の間のまたは(一°)における不一致または不和；変化、転化、変更；差別、差異。3. [具体的] 分界、部分；裂け目、間隙；種別、種、種類；破、壊、破壊、変壊、壊滅、壊散、破散壊；散、捨、離、乖離 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Sāṃkhy-k.*；別、分別、差別、各別、別異、分、別分析、異、殊、不同、不定 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Cat-ś.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Saddh-p.*, *Sāṃkhy-k.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Vajr-s.*, *Vijñ-v.*；失 *Divy.*；開、各各開 *Mvyut.*；種、種類、別類 *Gaṇḍ-vy.*, *Sāṃkhy-k.*, *Sūtr.*；kāyasya ~āt 死已、於身壊後、身壊命終 *Bodh-bh.* 196；~m gataḥ 不定、差別 *Abh-vy.* 37；~m Gam 分析 *Divy.* 27。→ a~, aṅga~.

bhedaka 破る、押し入る、突破する、貫く；(貯水池の)せきを押しつぶす；(水路を)転じる；(境界標を)破壊する；(大臣を)迷わす；弁別する、区別する；(意義を)区分する、決定する；破 *Mvyut.* 田 形容詞。

bheda-kara 破 (因 -i) (一°, 橋) を破壊する、押し入る；(圓, 一°) の間に不和の種をまく。

bhedaka-sūcaka 行両舌者 *Raṣṭr.*

bheda-kārin 不一致をきたす；相違を生じる、変えられた。

bheda-kṛt 一° 破壊する、押し入る；(圓, 一°) の間に不和をもたらす。

bhedatas 離れて、単一に；差別に従って。

bhedana 裂く、開く、破る、貫く。田 1. [圖の意味] 裂くこと、細長く切ること、開くこと、貫くこと；(秘密の)暴露；不和の種をまくこと、不調和をもたらすこと。2. [圖の意味] 破れること、破裂すること；紛争、不和、不調和；破、壊、破壊、散壊、毀壊；敗壊 *Aṣṭ-pr.*, *Śikṣ.*, *Mvyut.*

bhedanaka, → ghaṭa~.

bhedanātmaka (°na-āt°) 敗壊 *Lank.*

bhedaniya 未受分 裂かれるべき、割られるべき。

bheda-bhinna 差別、変壊 *Lank.*, *Sūtr.*

bheda-lakṣaṇa 田 壊相、変壊相、差別、差別相、分破 *Lank.*, *Madhy-bh.*

bheda-varṇa-vādin 田 譏謗 *Aṣṭ-pr.*

bheda-vādin 田 二元論 [神と世界との間の差別を認める説] の支持者。

bheda-saha 誘惑されやすい、墮落しやすい。

bhedābheda-vādin 田 (神と世界の) 差別と同一性を (同時に認める説) の支持者。

bhedita 使役 過受分 → BHid.

bhedin 破る、裂く、貫く；(眼を)えぐりだす；(協約等を)破る；(圓)から区分する、分離する；…の中にまたはの間に不調和を生ぜしめる；(瞑想を)

さまたげる；易壊 *Raṣṭr.*

bhedonmukha (°da-un°) 田 まさに開花しようとする。

bhedya 未受分 裂かれるべき；貫き得る；論破すべき；裏切られるべき；墮落しやすい；(その)同盟者から引離されやすい；区別または決定されるべき；可破、可壊、可沮壊、開除 *Abh-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.* 田 実名詞。

bheya (未受分 [BHi]) 田 非人 (圖) を恐れるべきである。

bheraṇḍa 田 = bheruṇḍa.

bheri 田 鼓 梵千., 梵雜. → bheri.

bheri 田 (まれに -i) 半月形の太鼓；鼓, 大鼓 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Suv-pr.*

bheri-bhām-kāra 田 太鼓の響き；[ある詩人の名]。

bheri-śaṅkha-vāda 田 太鼓を打ち法螺貝を吹き鳴らす(人)。

bheri-śabda 田 鼓声 *Abh-vy.*

bheruṇḍa 田 恐るべき。田 [鳥の一種]；[猛禽の一種]。

bheruṇḍaka 田 [獣の一種]、狐；狼 *Mvyut.*, *Saddh-p.*

bhelaka 田 小舟、いかだ。

bhelu 田 音写 [数の名] 魄盧 *Mvyut.*

bheṣaja 田 (因 -i) 治療する、なおす (因)。田 医薬、薬、薬物；(圓, 一°) に対する治療；(*Atharva-veda* の) 治病の呪文；薬, 良薬 *Abh-vy.*

bheṣaja-kṛta 田 治癒した。

bheṣaja-candra 田 [人名]。

bheṣajatā 田 治癒の効果。

bheṣajāgāra (°ja-āg°) 田 薬屋、薬種商の店。

bhaikṣa 田 (因 -i) 施物で生活する。田 乞食、乞食の生活；乞われた食物、施物、慈善；乞食 *Divy.* ~m Car (一°) のために乞食に廻る；施物を乞う。~m ā-Hṛ [同上]；施物または食物を集める。~m sam-ā-Hṛ [同上]。~eṇa Vṛt (使役) 施物で生活する。

bhaikṣaka 一°, = bhaikṣa 施物。田 乞食の生活。

bhaikṣa-carāṇa 田 乞食に廻ること、施物を乞い集めること。~m Kṛ 乞食を実行する。~m Car 乞食生活を業とする、乞食する。

bhaikṣa-carya 田 = bhaikṣa-carāṇa.

bhaikṣa-caryā 田 [同上]。

bhaikṣa-bhuj 田 施物で生活する、乞食をする。

bhaikṣava 田 乞食僧 (bhikṣu) に属する。

bhaikṣavat 田 施物のように、施物として。

bhaikṣa-vṛtti 田 施物で生活すること、行乞生活。田 施物で生活する。

bhaikṣāka 田 乞士、乞食 *Buddh-c.*

bhaikṣā-kula 田 施物を渡す家 (*Divy.*)；常施食家 *Divy.*

bhaikṣānna 田 乞い得た食物。

bhaikṣāśin (°ṣa-ās°) 田 乞い得た食物を食う。

bhaikṣāśya (°ṣa-ās°) 田 施物で生活すること。

bhaikṣāhāra (°ṣa-āh°) 田 乞い得た食物を食う。

bhaikṣuka 田 乞化 *Mvyut.* 田 貧兒

Lal-v. ㊦ 乞食者の群。
 bhaikṣopajivin (°ṣa-up°) ㊦ 施物で生活する。
 bhaikṣya ㊦ 乞食によって得た食物；㊦ 乞食 *Divy., Lanik.*
 bhaikṣya-pātra ㊦ ㊦ 乞食鉢 *Lanik.*
 bhaima ㊦ (女 -i) *Bhima* に関する。㊦ ㊦ *Bhima* の後裔。
 bhaima-praviṇa ㊦ (男) *Bhaima* 族中のもっとも勇敢な(者または主長)。
 bhaima-pravira ㊦ [同上]。
 bhaima-ratha ㊦ (女 -i) *Bhima-ratha* に関する。
 bhaimi 女 ㊦ *Bhima* の娘, *Damayanti.*
 bhairava 1. ㊦ (女 -ā, -i) 恐るべき；㊦ 怖畏, 顛畏, 顛怖畏 *Aṣṭ-pr., Mvyut.* → *bhaya* ~. ~ m ㊦ 恐ろしく。男 [*Śiva* 神の形相の一]；[*Śiva* 神所属の軍隊の指揮者の名]；[*Śiva* 神の息子の名]；[ある *Nāga* の名]；[ある *Yakṣa* の名]；[諸人の名]；[河の名]。
 bhairava 2. ㊦ (女 -i) *Bhairava* に関する。
 bhairavācārya (°va-āc°) 男 [ある学匠の名]。
 bhairavānanda (°va-ān°) 男 [ある *Yogin* の名]。
 bhairavi 女 [*Durgā* の一形相]。
 bhairaviya ㊦ *Bhairava* に関する。
 bhaiṣaja ㊦ 薬劑；㊦ 薬 *Rāṣṭr.*
 bhaiṣajya ㊦ 治療の効果；薬物, (㊦) に対する薬物；㊦ 薬, 良薬, 妙薬, 湯薬, 医薬, 薬餌, 薬草, 医王, 含消薬 [四種含消薬: *sarpīḥ* 酥, *tailam* 油, *madhuḥ* 蜜, *phāṇitam* 石蜜 (*Prat-m.* 502)] *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Bodh-c., Daś-bh., Divy., Kāśy., Lal-v., Lanik., Mañj-m., Mvyut., Prāt-m., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., 梵雑.; 味, 津, 丹 Mvyut.*
 bhaiṣajya-guru-vaidūrya-prabha 男 ㊦ [経の名, = ~ *rāja-sūtra*] 薬師琉璃光, 薬師琉璃光如来本願功德経 *Mvyut.*
 bhaiṣajyaguruvaidūryaprabha-rāja-sūtra ㊦ ㊦ (㊦) 薬師琉璃光王経 *Śikṣ.* [薬師如来本願経, 薬師琉璃光如来本願功德経, 薬師琉璃光七仏本願功德経]。
 bhaiṣajya-taru 男 ㊦ 薬樹 *Śikṣ.*
 bhaiṣajya-da ㊦ ㊦ 給施医薬 *Bodh-bh.*
 bhaiṣajya-bhūta ㊦ ㊦ 為良薬 *Saddh-p.*
 bhaiṣajya-rāja 男 ㊦ [仏の名, 菩薩の名] 薬王, 薬師(仏), 薬師王(仏) *Gaṇḍ-vy., Lal-v., Saddh-p., Sūtr.*
 bhaiṣajyarāja-samudgata 男 ㊦ [菩薩の名] 薬上, 超薬 *Saddh-p.*
 bhaiṣajya-vastu ㊦ ㊦ 薬事, 薬分, 算根由(?) *Mvyut.*
 bhaiṣajya-vṛkṣa 男 ㊦ 薬樹 *Śikṣ.*
 bhaiṣajya-śarāvaka 男 ㊦ 薬碗 *Mvyut.*
 bhaiṣajya-samudgata 男 ㊦ [菩薩の名] 薬上, 超薬 *Saddh-p.*
 bhaiṣajya-sena 男 [菩薩の名] (*Kar-vy.*)
 bhaiṣajyāñjana-nālikā 女 ㊦ 眼薬器血 *Mvyut.*
 bhaiḥ [BHi の ㊦ ㊦ ㊦, ㊦ のように用いられ

る]。

bho ㊦ = *bhoh* [母音 および 有声子音の前において]；㊦ 唯, 唯唯 *Mvyut.*

bhoktavya ㊦ ㊦ [BHuj] 享受されるべき, 食われるべき；用いられるべき；利用されるべき；支配されるべき(地)；養われるべき。㊦ ㊦ 食うべきである；[*asti* とともに] 食うものがある。

bhoktu-kāma ㊦ ㊦ 欲受；欲愛 *Daś-bh.*

bhoktu-kāmatā 女 ㊦ ㊦ 食慾 *Abh-vy.*

bhokṭṛ 男 (女 -trī) 享受者, 食する者；使用者, 所有者, (快樂または苦痛の) 経験者；支配者, 王；㊦ 能食, 食者, 噉者, 受(果)者 *Abh-vy., Madhy-bh., Madhy-v., Madhy-vibh., Saṃkhy-k., Śikṣ.*

bhokṭṛtva ㊦ 享受；知覚；所有；㊦ 受者, 受者性, 食者 *Madhy-vibh.*

bhokṭṛ-bhāva 男 [同上]。

bhokṭṛ-sūnyatā 女 ㊦ ㊦ 能食空, 食者空 *Madhy-bh., Madhy-vibh.*

bhoktri 女 [bhokṭṛ の 女]。

bhoga 1. 男 [BHuj 1.] 彎曲, (蛇の) とぐる；蛇の膨大な頭部；[陣形の種類]；蛇；㊦ 蛇冠, 蛇盤身 *Mvyut.*

bhoga 2. 男 [BHuj 2.] 食うこと, 享受すること, 消耗すること；享有, 享受 使用, 使役, 適用；用益；性的享樂；支配, 統治；感覚, 知覚(快樂また：痛苦の)；功用, 利益；快樂, 歡喜；享樂の対象；財産, 収益；㊦ 噉 *Sutr.*；用, 受, 受用 *Lanik., Madhy-bh., Mvyut., Śikṣ., Sūtr.*；樂, 快樂, 染愛 *Abh-vy., Mañj-m., Vijñ-t.*；財, 財用, 財物, 財位, 財宝, 資財, 大財, 多財, 珍財, 錢財, 大財富, 富, 資, 資生, 資具, 妙資具, 資糧(法), 所有, 所須, 所用要, 受用物, 樂具, 衆具, 富貴, 禄位 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Lanik., Madhy-vibh., Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sūtr., Su-pr., ; 境, 境界, 欲塵 Abh-k., Madhy-vibh., Sukh-vy. I., ; 利, 利養, 財利 Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ.* → *alpa* ~, *mahā* ~.

bhoga-kara ㊦ (女 -i) 享樂を供給する。

bhoga-gṛha ㊦ 婦人の部屋, 後宮。

bhogatā 女 ㊦ ㊦ 受用 *Sutr.*

bhoga-tṛṣṇā 女 ㊦ 現世の享樂を欲すること；利己的享樂。

bhogatva 1. ㊦ [BHuj 1.] 彎曲した状態。

bhogatva 2. ㊦ [BHuj 2.] 享樂・享受等の状態。

bhoga-dattā 女 [人名]。

bhoga-deva 男 [人名]。

bhoga-deha 男 享受の身体 [火葬後に *Śrāddha* 祭によって死人の取る微細な中間の身体。生前の行為に従って快樂もしくは苦痛を享受するとされる]。

bhoga-pati 男 (収入の主), 都城または地方の長, 総督。

bhoga-parājita ㊦ ㊦ 財著 *Sutr.*

bhoga-pācana ㊦ ㊦ 受用成熟他, 薬法成熟 *Maa-hy-bh.*

bhoga-pratisamyukta ㊦ ㊦ 財位相応, 錢財具足 *Bodh-bh.*

bhoga-bhuj 形 快樂にふける。男 富者。
bhogavat 1. 形 [BHuj 1.] とぐるをまく (蛇)。男 蛇, Nāga.
bhogavat 2. 形 [BHuj 2.] 享樂する, 楽しい, 享樂的生活をする; 得財宝 *Lal-v.*
bhogavati 1. 女 [BHuj 1.] 雌蛇, Nāgi; (地下にある)蛇の都城; [地下にある神聖な河の名, 地下の *Gaṅgā* 河].
bhogavati 2. 女 [BHuj 2.] [*Dvāpara* 期における *Ujjayini* の都城の名]; [都城の名]; [陰曆月中の第二日の夜]; 福德 *Mañj-m.*
bhoga-varman 男 [諸人の名].
bhoga-vastu 中 享樂の対象。
bhoga-vāsa 男 寢室。
bhoga-vipāka 男 富異熟, 熟感富樂 *Abh-vy.*
bhoga-vihina 形 乏財位, 貧窮困苦 *Bodh-bh.*
bhoga-vaikalya-duḥkha-satya 中 財位賤乏苦諦, 貧窮苦諦, 貧窮苦実 *Bodh-bh.*
bhoga-sakti 女 著財, 資財著, 貪著資財, 貪著有資糧法 *Madhy-bh., Sūtr.*
bhoga-saṃdarśana 中 受用現前 *Sūtr.*
bhoga-sena 男 [人名].
bhogāyatana (°ga-āy°) 中 享樂の場所。
bhogārthika 形 貪財宝 *Gand-vy.*
bhogāvali (°ga-āv°) 女 (職業的詩人によって作られた) 讚頌。
bhogin 1. 形 [BHuj 1.] (女 -i) とぐるをまく。男 蛇, Nāga; 竜 *Mañj-m.*
bhogin 2. 形 [BHuj 2.] (一°) を食う, 享受する; 享樂に没頭したまたは富んだ, 逸樂にふける; 富裕な; 経験する; 受, 有財 *Abh-vy., Sūtr.* 男 富者; 放蕩兒。
bhogini 女 雌の蛇または Nāgi.
bhogaiśvarya (°ga-aiś°) 中 享樂の世界。
bhogaiśvarya-gati 女 享樂の世界に導くもの。
bhogaiśvarya-prasakta 形 享樂の世界に執著する。
bhogya 未受分 享受されるべき, 用いられるべき, 利用されるべき; 有用な, 役に立つ, 有益な; (利己的に)利用されうる; 堪えられるべき; 受用 *Śikṣ.*
bhogyatā 女 役立つこと, 有益なこと, 利用されるべき可能性。
bhogyatva 中 [同上].
bhogya-vastu 中 商品。
bhoja 形 寛大な (因); 逸樂にふける。男 [特別の資格をもつ王の一種] (Br.); (因) [Berar 地方における住民の名]; *Bhoja* 族の王; [人名, とくに *Mālva* 国の *Dhāra* の王の名(西曆1018-70), 文学の擁護者として知られ, 伝説・逸話に富み, 彼の著と伝えられる多くの書物がある = *Bhoja-deva*].
bhojaka 1. 形 (一°) を食する; (因) を養う。男 食事の際の召使い。
bhojaka 2. 男 太陽崇拜の一派の祭官 [*Magi* と *Bhoja* 族の婦人との結婚による子孫と想像される]; 占星者。
bhoja-kāṭa 中 [*Bhoja* 国 (*Bhojpur*?) のある都市の

名]. 男 團 *Bhoja-kāṭa* の住民。
bhoja-kanyā 女 *Bhoja* 族の少女。
bhoja-kula-pradipa 男 [*Vidarbha* 族の王の名].
bhoja-deva 男 [*Dhārā* 王 *Bhoja* の名]. → *bhoja*.
bhojana 形 (女 -i) 養う (*Śiva* 神)。中 享受すること; 使用すること; 食うこと, 食事; 食物 [一° 形 ...で生活する, を食物として供給する, の食物として役立つ]; 財産, 所有 (因); 享樂の対象; 快樂; 食物を与えること, 養うこと; 食物の用意, 調理; 喫, 食噉, 食, 飲食, 所食, 食語, 膳, 饌, 饌, 珍饌, 盛饌, 餽饌, *Abh-vy., Av-s., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Lank., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr.*, 梵雜: śata-rasaṃ ~m 百味食 *Aṣṭ-pr. 503.*
bhojana-kāla 男 食事の時間。
bhoja-nagara 中 [都市の名].
bhojana-pāna 中 飲食 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Śikṣ.*
bhojana-pradāna 中 施食, 施他飲食 *Suv-pr.*
bhojana-bhāṇḍa 中 食物の皿。
bhojana-bhūmi 女 食事の場所, 食堂。
bhojana-mātram-jñātr 男 飲食(常自)知量 *Lal-v.*
bhoja-narendra (°ra-in°) *Bhoja* 王 [= *Bhojadeva*].
bhojana-viśeṣa 男 特別の食物, 選択した食物, 美食, 美味な食物。
bhojana-vṛtti 女 食をとること, 食事 [時として 中].
bhojana-velā 女 食時の時間。
bhojana-vyagra 形 食事に多忙な, 食事の中の。
bhojana-vyaya 男 食料のための支出, 食費。
bhojana-sūnyatā 女 所食空 *Madhy-bh., Ma-dhy-vibh.*
bhojanādhikāra 男 糧食の管理者, 糧食経理部。
bhojanārtham 副 由食 *Suv-pr.*
bhojanārthin 形 食を欲する, 飢えた; 求食, 乞食 *Bodh-bh., Saddh-p.*
bhojaniya 未受分 食用に適した, 食べられる; 養われるべき; 享樂の与えられるべき。中 食物 [とくに咀嚼の要のないもの (*Divy.*); 可食 立; 音写 蒲闍尼 (食), 蒲禪尼 *Divy., Sam-r.*, 立].
bhoja-pitr 男 王侯の父。
bhojayitavya 使役 未受分 養われるべき。
bhojayitr 男 (ある人にあるものを) 享受させる人。
bhoja-rāja 男 *Bhoja* 王. → *bhoja*.
bhojika 男 [ある婆羅門の名].
-bhojin 形 一° 享受する, 食う; 利用する; 食, 費 *Bodh-bh., Śikṣ.* → *mātrā* ~.
bhojya 未受分 食われるべき; 食べられる; 享受または使用されるべき; 肉欲的に享樂されるべき; 経験または感受されるべき; 養われるべき; 應食, (炊熟) 方得成食 *Lank.* 中 食べられるもの, 糧食, 食物; 食うこと; 享受, 利益 (因); 食, 飲食 *Abh-vy., Sūtr.*
bhojya-kāla 男 食事の時間。
bhojyatā 女 食物であること. ~m *Yā* 食物となる。
bhojyatva 中 [同上].
bhojyā 女 [*Bhoja* 族の一王女の名].

bhojyāna 形 食べ得る食物をもつ。

bhoṭa 男 チベット；**漢** 吐蕃 梵雑。

bho-bhavat-pūrvakam 副 bhoḥ および bhavat を先として。

bhoḥ-śabda 男 bhoḥ という語。

bhos 副投 [因 bhavat の 呼, bhavas の短縮形] [男女を問わず人々に呼びかける時使用される (しばしば数人に対して)] 卿よ！おお！もし！聞き給え [しばしば反覆される bho bhoḥ]；[独語の場合＝] ああ！[終末の止声 (visarga) は硬音の前にだけ残り, 母音および軟音の前では消失する]；**漢** 唯 Divy.

bhos-kāra 男 呼びかけの規則 (Divy.)；**漢** 唱誦音声 Divy.

bhaujaṅga 形 (因 -i) 蛇に関する, 蛇のような (挙動)。

bhaujya 中 bhoja (の称号を帯びる王の) 地位。

bhauṭa 男 チベット人。

bhauta 形 生物 (bhūta) に関するまたはを意味する；魔物につかれた, 精神錯乱の, 低能な；元素から構成された, 自然界の, 物質的の。男 愚者；(一°) 愚かな (例 rāja° 愚かな王), (jala°) (水) に関して無知な。

bhautaka 一°, =bhauta (一°)。

bhauta-tulya 形 愚者のような, 精神錯乱した, 低能な。

bhauta-prāya 形 [同上]。

bhautika 1. 形 (因 -i) 生物 (bhūta) に関するまたはを意味する；粗大な元素 (mahābhūta) からなる, 自然界の, 物質的の；**漢** 所造, 造色, 大種所成, 含識 Abh-k., Abh-vy., Lan̄k., Mvyut., Sāṃkhy-k. → abhauti～。

bhautika 2. 男 [Śiva 神の称]；[祭官の一種]。

bhautika-rūpa 中 **漢** 大種所成色 Mvyut.

bhautika-sarga 男 **漢** 含識生 Sāṃkhy-k.

bhauma 形 (因 -i) 大地に属するまたはに関する, 大地から発する；地上または地中にある, 現世の, この世の；土で製した, 土の；火星または火曜日に関する, 火曜日に起る；**漢** 地上, 地居, 地上居 Mvyut.；**音写** 菩摩 Divy. 男 [ある地神の 母系]；火星 [その相当日は火曜日]。中 地上の塵 (種)；穀粒；床, 階 [一° のみ]。

bhauma-dina 中 火星の日, 火曜日。

bhauma-devatā 因 **漢** 祇 梵千。

bhauma-deva-lipi 因 **漢** (音写) 暴磨提婆書, 浮摩提婆書 Lal-v. 126.

bhaumana 男 [正しくは bhauvana], [Viśvakarman の名]。

bhauma-vāra 男 火星の日, 火曜日。

bhaumika 形 地上にある, この世の；地上に集められた(水)。

bhaurika 男 出納官, 造幣長官。

bhaurja 形 樺から生じた。

bhauvana 形 世界に属する(因)。男 [Viśvakarman その他の 父系]。

bhauvādika 形 (因 -i) bhū で始まる語根の部類

(bhū-ādi) に属する [すなわち 第一種活用第一類に属する (文法)]。

BHyaś, I. 因 [BHī からの派生 動] bhyasate (因) を恐れる, …の前におののく (因)。

BHraś, BHraś, I. 因 (因；**叙詩** にはまれ) bhraśate；IV. 他 因 bhraśyati (-te) 落ちる, 落下する, 散乱する；(因) に衝突する, (因) からはね返る；墮落する, 没落する；(因) から逃れる, …から逃げ去る；(因) から消失する；消え去る, 去る；衰える, 不足する；(因) から迷う・離れるまたははずれる；(因) を奪われる, …を失う；(因) からそっと逃げだす；**漢** 失, 損 Lal-v., Suddh-p. **過受分** bhraśta (因, 一°) からまたは(因) に落下した・脱落した・落伍したまたは投下された；畏縮した(身体)；墮落した, 没落した；(天界から)地上に追放された；(因) から逃れた, …から解放された；消滅した, 失われた, 過ぎ去った；(因, 一°) から迷いでた, …から離れた, …を奪われた, …を失った。**使役** 他 bhraśayati 落下させる [また **譬喩**]；投げ落す, 倒す；消失させる, 失わせる；(因) から逃れさせる；(因) から(業) を奪う；(因) から外れさせる。**使役** **過受分** bhraśita 落された, 投げ落された, (因) から外れた。apa- **過受分** apabhraśta (標準から)外れた, 転訛した(方言)。

pari- 逃げる。**過受分** paribhraśta (因) からまたは(因, 一°) の上にまたはの中に落ちた・落下したまたは滑り落ちた；倒された；垂れた(乳房)；墮落した, 没落した；迷いでた, 逃れた；消滅した, 去った；(因, 一°, まれに 因) を奪われた・失ったまたは欠く；(因) から解放された；(一°) を自制する。

pra- 落ちる, 落下する, 滑り落ちる；(因) から走り去る；消える, 消失する；…を奪われる。**過受分** prabhraśta 落下した；逃れた, 走り去った；(捕虜 因) から逃れた。**使役** prabhraśayati (因) を奪う。vi- (因) において失敗するまたは不成功となる；(因) から離れる, …から立ち去る。**過受分** vibhraśta 落ちた (**譬喩**)；(一°) から逃れた；消失した；(一°) において不成功な；(一°) を奪われた。**使役** vibhraśayati 除去する, 引き離す；落下させる；消失させる, 破壊する；(因) から外れさせる, …を奪う。

saṃ- 滑り去る。

bhraśa 男 失敗すること, 落伍すること, 滑り落ちること, 逃れ去ること, 落下；衰頹, 朽敗；破壊, 没落；(一°) から分離すること, 逃れること；喪失, 消失；(一°) の剝奪；(因, 一°) から外れること, …の棄却；(興奮に基づく) 失言 (**戯曲**)；**漢** 破, 壊；退, 退失；差忘 Abh-vy., Bodh-bh., Śiks. → rūpa～。

bhraśana 形 (因 -i) 落下させる, 倒す。中 (因) を奪われること, …を失うこと；(因) を奪うこと。

bhraśita **使役** **過受分** → BHraś.

bhraśin 形 (一°) から落ちる, 落伍する, 失敗する；墮落する, 没落する；破壊させる, 破壊する；(一°) 無常な。→ a～。

bhra-kuṭi 形 =bhrū-kuṭi

bhraj 形 [一のみ:RV. 用例一回のみ] (山) から送り出る。

BHrajj, VI. 𑖀 bhrjjati 油揚げにする, あぶる, 焼く, (穀粒を)い(炒)る。 𑖀 bhrjsta 油揚げにした, 炒った。 使役 𑖀 bharjayati あぶる, 油揚げにする, 焼く。 使役 𑖀 bharjita あぶられた, 油で揚げられた, 焼かれた; (譬喩) 破壊された。 pari- 油揚げにする, 炒る。

sam- 𑖀 sambhrjsta い(炒)った, 乾いた。

BHram, I. 𑖀 bhramati; IV. 𑖀 bhrāmyati 徘徊する, 逍遙する, さすらう; 漫歩する; (蜂が) 飛び廻る; (舌を) しきりに動かす; (眼を) あちらこちらに動かす; 不安定に動く, 震える, 閃めく, ひらひら動く [無生物について]; よろめく, よろめいて歩く; 動揺する, 当惑する, 疑う; 過ちを犯す, 間違え; 回転する, 輪状に動く, 回転する; (園) を逍遙する・さすらうまたは遍歴する; 𑖀 旋, 周旋, 転, 廻転, 流転, 旋転, 廻転(下), 輪転, 輪廻, 循環; 漂; 繽紛(下) *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Lan̄k., Rāstr., Saddh-p., Śikṣ.*: 迷惑, 錯乱, 有猶予, 心疑不決, 周樟閃走, 迷没沈淪 *Abh-vy., Rāstr., Saddh-p.*: bhikṣām ~ 食を乞うて徘徊する。 𑖀 bhrānta 徘徊または逍遙した; 不安定に動く, よろめく; (園) を逍遙した; 遍歴した; 旋回した, 回転した; 当惑した, 混乱した; 過った, 間違えた。 bhrāntam 𑖀 非人 あちらこちらを徘徊した。 使役 𑖀 bhrāmayati 徘徊または逍遙させる; あちらこちらに駆るまたは動かす, 煽動する; 回転・旋回または輪転させる, 揺れ動かす; (馬車で) (園) を駆り過ぎる; 乱雑にする; 誤まらせる, 混乱させる; 𑖀 迷, 逃走, 悠悠 *Mvyut.*: paṭahaṃ または paṭaha-ghoṣaṇāṃ bhrāmayati 太鼓で伝える, すなはち太鼓を打って告示する。 使役 𑖀 bhramita 回転または旋回させられた等; (一) と思い誤まられた, …と間違えられた。 𑖀 bambhramiti 目当てなく徘徊する; 𑖀 bambhramyate 逍遙する; 遍歴する; 遍歴される (受)。

anu- 追いかける, 随伴する (*Jat-m.*).

ud- 飛び上る; 昇る (太陽); 𑖀 擾, 乱驚, 流転 *Lal-v., Śikṣ.* 𑖀 udbhrānta 飛び上った(鳥); 高まった, 揺り動かされた(波浪); 上に向けられた(一瞥); 過ぎ去った(生命); 徘徊する, 旋回する; 興奮した; 煽動された, 困惑した, 心乱れた。 使役 𑖀 udbhrāmayati 揺り動かす, 振り廻す; 興奮させる, 煽動する。

sam-ud- 𑖀 samudbhrānta 興奮した; 御しくくなくなった(馬)。

pari- 逍遙する, 徘徊する, 飛び廻る; (園) の上を逍遙する; 回転する, 旋回する, 輪転する; (園) の周囲に輪を画く; 𑖀 馳走, 流転, 普遊行 *Divy., Mvyut., Śuv-pr.* 使役 𑖀 paribhrāmayati あちらこちらに動く; 攪拌する, 動揺させる。 受 使役 𑖀 paribhrāmyate 𑖀 値吹漂 *Av-ś.*

pra- 逍遙する; (園) の上を遍歴する。

vi- 徘徊する, さすらう, 飛び廻る, 飛翔する, 輪転する; よろめく, 震える; (園) の上を逍遙する;

振り廻す(尾); おどして追い払う, 追い散らす; びん乱または混乱している; 困惑または当惑している; 𑖀 迷乱, 迷惑, 去来, 沈淪 *Lan̄k.* 𑖀 vibhrānta 動き廻る, 回転する(眼); 広く弘まった(名誉); 混乱した, 困惑した。 使役 𑖀 vibhrāmayati 混乱させる, 混雑させる, 当惑させる。

sam- 徘徊する, 逍遙する; 過誤に陥いる; 当惑している; 𑖀 畏, 愁悩 *Lal-v.* 𑖀 sambhrānta 困惑した, 混乱した; 興奮した; 快活な(歩調)。 受 使役 𑖀 sambhrāmayati (園) に関して当惑する, …に絶望する。

upa-sam- 𑖀 upasambhrānta (園) から飛び上った; 顛倒した; 興奮した, 困惑した。

bhrama 男 逍遙すること, さすらうこと; (一) の中を徘徊すること; (眼の) 動き廻ること; 回転; 渦巻く焰 (RV.); 渦; 陶工のろくろ(轆轤); めまい; 困惑, 当惑, 過誤, 過失, 迷妄; 一°…についての謬見=…であるまたはであったという謬見 [例 *maṇi-āt* それは宝石であったという謬見のもとに]; 𑖀 転, 旋転, 旋歴 *Sāṃkhy-k., Śikṣ., 梵雜.*; 迷, 妄 *Sūtr.*; 頭旋 *Mvyut.*

bhramaṇa 𑖀 徘徊すること, さすらうこと; (一) の上をまたは通って遍歴すること; よろめくこと, 不安定; 回転, 旋回; (天体の) 軌道; めまい; (太鼓で) 伝えること [= 太鼓を打って人々を集めること]。

bhramaṇiya 未受分 遍歴されるべき(地)。

bhramantra 𑖀 音写 [数の名] 波羅滿多羅, 教摩怛囉 *Mvyut.*

bhrama-bhrāmīta 形 𑖀 輪廻, 輪転(生死) *Rāstr.*

bhramara 男 (徘徊する, 飛翔する), 蜜蜂; 𑖀 蜂, 蜜蜂, 黒蜂, 玄蜂, 狂蜂 *Lal-v., Lan̄k., Mvyut., Śikṣ.*; 蠅 *Vijñ-v.*; 荒乱 *Lan̄k. 30.*

bhramaraka 𑖀 唸りごま(独楽)。

bhramaraka-bhrāmam 𑖀 ~ṇi bhrāmaya (使役) 唸りごま(独楽)のように回転させる。

bhramara-karaṇḍa 男 蜜蜂を容れる小函 [夜間盗人が蜂をこの函の中から出して屋内の燈火を消させる]。

bhramara-karaṇḍaka 男 [同上]。

bhramara-bādhā 𑖀 蜜蜂に悩まされること。

bhramara-maṇḍala 𑖀 蜜蜂の渦または群。

bhramara-vilasita 形 蜂が周囲に群がった。 𑖀 蜂の飛翔; [韻律の一種]。

bhramara-vilasitā 𑖀 [韻律の一種]。

bhramara-saḍṛṣa-keśa 形 𑖀 髪紺青如黒蜂, 髪色紺青如蜂王 *Mvyut.*

bhramarāya 名動 𑖀 bhramarāyate 蜜蜂のように振舞う。

bhramarikā 𑖀 (眼が) あらゆる方向にさまようこと。

bhramarita (名動) 𑖀 蜂で覆われた。

bhramari 𑖀 雌蜂; [ある *Apsaras* の名]。

bhramātra 男 𑖀 音写 [数の名] 教摩怛囉 *Mvyut.*

bhrami 𑖀 回転; 陶工のろくろ(轆轤); 渦; 円陣; 𑖀 旋 *Lal-v.*

bhramita 使役 𑖀 → BHram.

bhramukāntara (正しくは °mukha°) 甲 [=bhrū-
mūkhāntara]. 漢訳 眉間 *Saddh-p.*

BHraś, → BHraśś.

bhraṣṭa 過受分 → BHraśś. 漢訳 失, 已失, 永失,
退失; 離, 遠離; 散, 墮, 墜墮, 壞, 毀犯 *Abh-
vy., Bodh-bh., Buddh-c., Divy., Lal-v., Mvyut.,
Saddh-p., Śikṣ. : śikṣā-padād ~ ā* 毀犯禁戒 *Śikṣ.*
174.

bhraṣṭa-kriya 形 規定の行為を中止または省略した.

bhraṣṭa-parisrama 形 疲労 または 困憊から解放され
た, 休息した.

bhraṣṭa-mārga 形 道を失った, 迷った.

bhraṣṭa-rājya 形 王国を失ったまたは剝奪された.

bhraṣṭa-sīla 形 漢訳 (音写) 毀犯尸羅 *Bodh-bh.*

bhraṣṭa-sri 形 幸運を剝奪された, 不運な.

bhraṣṭādhikāra 形 役を剝奪された, 免職された.

bhraṣṭādhikāratva 甲 役目の喪失.

BHrāj, I. 同 (まれに 他) bhrājate (-ti) (因, 羣) 光
る, 発光する, 閃めく, 輝く; 漢訳 為光麗; 俊;
華 *Bodh-bh., Mvyut.*; na ~ 光らない; 重要でない.
使役 他 bhrājayati 光らせる, 輝かせる;
漢訳 照 *Aṣṭ-pr.*

pari- あまねく光輝を伝播する.

vi- 閃めく, 発光する; (因) をくまなく照らす;

漢訳 照明 *Śikṣ.* 使役 vibhrājayati 輝かせる.

saṃ- 閃めく, 輝く.

bhrāj 因 (因 -t) 光輝 (因).

bhrājad-rṣṭi 形 (因) 閃めく槍をもつ (*Marut* 神).

bhrājana 甲 光らせること.

bhrājas 甲 閃めくこと, 照らすこと; 光沢, 光輝.

bhrājasvat 形 光輝ある.

bhrājin 形 光る, 輝く.

bhrājiṣṭha 形 非常に輝くまたは閃めく. 男 [ある
Ghṛtaprṣṭha の息子の名].

bhrājiṣṇu 形 光る, 発光する, 赫々たる.

bhrājiṣṇutā 因 光輝.

bhrājiṣmat 形 =bhrājiṣṇu.

bhrātṛ 男 兄弟; [しばしば親友を指す]; [また親愛を表
わす呼びかけの言葉として用いられる] 友よ, わが
善き友よ; 漢訳 兄弟, 弟兄 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.,
Lank., Mañj-m., Mvyut., 梵雜.*; 異母弟 *Divy.:*
kaniyāṃ (=°yān) ~ ā 弟 *Mvyut.* → dharma
~.

bhrātṛka 一°, [同上].

bhrātṛ-gandhi 男 名のみの兄弟.

bhrātṛ-gandhika 男 [同上].

bhrātṛ-jāyā 因 兄弟の (=友の) 妻.

bhrātṛtva 甲 兄弟関係.

bhrātṛ-datta 形 兄弟によって与えられた. 甲 結婚に
際し兄弟から姉妹へ与えた物.

bhrātṛ-bhagini 因 因 兄弟および姉妹; 漢訳 兄弟姉
妹 *Aṣṭ-pr.*

bhrātṛ-bhaṇḍa 男 甲 双生児の兄弟.

bhrātṛ-bhāryā 因 兄弟の妻; 漢訳 兄弟たちの妻たち.

bhrātṛmat 形 兄弟または兄弟たちをもつ.

bhrātṛ-rakṣita 形 漢訳 (因 -ā) 兄護, 兄弟護, 兄護

妹 *Mvyut.*

bhrātṛ-loka 男 兄弟の世界.

bhrātṛloka-kāma 形 兄弟の世界を望む.

bhrātṛvya 男 (父の) 兄弟の子, 従兄弟; [ほとんど 因
のみ] 敵意のある従兄弟, 敵対者, 敵.

bhrātṛvyavat 形 敵手をもつ.

bhrātṛvya-han 形 (因 -ghni) 敵手を殺す.

bhrātṛ-siṃha 男 [人名].

bhrātṛ-sthāna 形 兄弟に代わる. 男 兄弟の代表者

bhrātṛ-han 男 兄弟殺し.

bhrātra 甲 兄弟関係 (因).

bhrātrya 甲 [同上].

bhrānta 過受分 → BHram. 漢訳 迷, 迷惑, 沈迷,
沈溺, 乱, 錯乱, 不調, 悶絶; 謬, 迷謬, 愚癡, 無
明 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lank., Mvyut.,
Sam-r., Śikṣ., Sūtr.* → a~. 甲 逍遙すること.
動き廻ること; 過誤, 誤謬.

bhrānta-citta 形 精神の錯乱した, 困惑した; 漢訳
心乱, 心迷謬, 心常迷乱 *Aṣṭ-pr., Suvik-pr.*

bhrāntatva 甲 漢訳 迷謬, 乱性, 散乱(執起) *Madhy-
bh., Sūtr.*

bhrāntākulita-cetana (°ta-āk°) 形 精神が疑惑または
誤謬によって悩まされた.

bhrānti 因 徘徊; (雲が) あちらこちらに動くこと,
ただようこと; (電光が) 閃めくこと; よろめくこ
と; 回転, 旋回; 一°(地を) 圍繞すること; 当惑,
混乱; 不確定, 疑惑; 過誤, 誤謬, 妄想, 誤った観
念または印象[(一°)(あることが…であるまたはあつ
たとする)誤った観念: 例 *sukha* ~ 快樂というよう
なものがあるという妄想]; 漢訳 迷, 迷乱, 迷倒,
迷惑法, 惑乱, 乱, 乱識, 散乱, 妄法 *Abh-vy.,
Lank., Madhy-bh., Madhy-vibh., Śikṣ., Sūtr.*

bhrāntika 形 漢訳 有迷 *Sūtr.*

bhrānti-darśana 甲 誤った認知.

bhrānti-nimitta 甲 漢訳 迷因 *Sūtr.*

bhrāntimat 形 回転する; 逍遙する; (あるものが
一°であるとの)誤った印象のもとにある; 謬見[一
つの物が類似性のために他の物と誤って表現される
修辞法] 修辭.

bhrānti-mātratva 甲 漢訳 唯乱性, 唯有散乱 *Madhy-
vibh.*

bhrānti-lakṣaṇa 甲 漢訳 迷相 *Sūtr.*

bhrāntṛ 男 漢訳 迷惑者 *Lank.*

bhrānty-abhrānti-phala 甲 漢訳 乱無乱二果 *Madhy-
bh.*

bhrāma 男 徘徊すること, 不安定なこと, 変わり易
いこと.

bhrāmaka 形 (因 -ikā) 人を欺くまたは惑わす.

bhrāmaṇa 甲 動揺または回転させること; めまい.

bhrāmara 形 蜜蜂に関するまたは属する. 甲 蜂蜜.
漢訳 蜂蜜 *Mvyut.*

bhrāmarin 形 めまいを起し易い, 癲癇の.

bhrāmari 因 [Durgā の称].

bhrāmīta 形 [BHram (使役) から] 漢訳 迷, 迷惑 *Lank.*

bhrāmin 形 混乱した.

bhrāśya 未受分 落されるべき (RV. 用例一回のみ).

makara-dhvaja 男 = makara-ketana; [Makara のよ
うな形状をした陣形の種類].
makaranda 男 花汁, 蜂蜜; [諸人の名]; [Ujjayint
近くにある遊苑の名].
makaranda-kanāya 名動 自 makarandakanāyate
花汁のしずくに似ている.
makarandikā 女 [韻律の種類]; [Vidhyādhara の
娘の名].
makarandodyāna (°da-ud°) 中 [ある遊苑の名].
makara-lañchana 男 = makara-ketana.
makarākara (°ra-āk°) 男 (Makara の容器), 海洋.
makarākṣa 男 [(Makara の眼をもつ), ある Rākṣa-
sa の名].
makarālaya (°ra-āl°) 男 (Makara の住処), 海洋.
makarāvāsa (°ra-āv°) 男 [同上].
makarikā 女 頭飾り(の種類); Makara の形像.
makari 女 雌の Makara.
makari-pattra 中 (Lakṣmi 神の面上に付けられた)
Makari の標識.
makari-lekhā 女 [同上].
ma-kāra 男 ma の字または音; 漢訳 摩字 [五十字門
の一]: ~ e mada-mānōpaśamana-śabdaḥ (→ a-
kāra) 唱摩(上声)字時出銷滅一切橋慢声 Lal-v. 128;
弄字 [四十二字門の一]: ~ m parikirtayato mahā-
vega-vicitra-vega-śikharam nāma prajñā-pārami-
tā-mukham avakrāntam 唱弄字時能甚深入般若波
羅蜜門名大速疾現種種色如衆高峯 Gaṇḍ-vy. 449.
maṣṭa 中 = mukṣṭa (Divy.); 漢訳 冠, 宝冠, 宝篋
Divy., Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Lal-v., Mañj-m.,
Rāṣṭr. 一° 形 漢訳 戴冠 Gaṇḍ-vy.
maṣṭa-danti 女 漢訳 [ある Rākṣasi の名] 黒齒(?)
Saddh-p. 400.
maṣṭa-bandhana 中 [ある寺院の名] (Divy.).
maṣṭa 男 = maṣṭha; 漢訳 黒荳 Mvyut.
maṣṭha 男 豆(の種類) [学名 *Phaseolus aconitifol-
ius*].
makkoṭaka-parvata 男 漢訳 (音写) 鑿酷吨山 Sikṣ.
makkola 中 白あ(瑩); 漢訳 土粉 Mvyut.
makṣ 男 または 女(?) 蠅 (RV.) = makṣā.
makṣā 女 蠅 (因); 漢訳 蠅 Sikṣ.
makṣika 男 漢訳 蠅, 蜂 梵雜.
makṣikā 女 蠅; 蜜蜂 [圍は 時として -a 男 (韻律)];
漢訳 蠅, 飛蠅, 蜂蠅, 娘 Abh-vy., Bodh-c., Daś-
bh., Divy., Kāśy., Lan̄k., Sikṣ., Sv-pr.
makṣi 女 蠅 (Mah-v.).
makṣū 形 (因) [男 種 makṣūbhis のみ] 速かな, た
だちの. 副 速かに, 直ちに (因).
makṣūta 最上 (RV.) 最も速かに(来る); 最も近
い(日).
makha 形 贈物に富む, 寛裕な (因). 男 祭式; 供
養; (= magha) 贈物 (RV.); (ある悪魔の名) (因).
makha-kriyā 女 祭式の施行; 漢訳 祠祀修大会
Euddh-c.
makha-dviṣ 男 祭式の敵, 悪鬼, Rākṣasa.
makha-mathana 中 祭式の施行.
makhamaya 形 (因-i) 祭式を含むまたは伴う.

makha-mukha 形 祭式を始める.
makhalā 女 漢訳 宝帯 Mañj-m.
makha-vigraha 男 祭式の妨害.
makha-vedī 女 祭式の場所.
makhas, [一° のみ] 形 (RV. 用例一回のみ). →
sadma~.
maḥasya 名動 他 自 makhasyati (-te) 寛裕である
(RV.).
makhasyu 形 寛裕であろうとする (RV.).
makhāṃśa-bhāj 男 (祭式に参加する), 神.
makhāpeta 男 [ある Rākṣasa の名]
makhālaya (°kha-āl°) 男 祭式の家.
maga 男 マギ祭官, 太陽の神官; 圍 [Śaka-dvīpa に
おける一住民, 主として婆羅門からなる].
magadha 男 [国の名, 南部 Behar]; 圍 [Magadha
国に住する住民の名]; 漢訳 善勝国, 無惱害国, 不
悪処国, 星処国, 甘露処国 玄応.; (音写) 摩竭国, 摩
伽陀国 Lal-v.; (音写) 摩竭, 摩竭陀, 摩竭陀, 麻伽
陀, 摩伽陀, 摩竭提, 麻葛答, 默偈陀 Av-ś., Lal-v.,
Mvyut., 玄応.; ~ rājan 摩竭陀王, 麻葛答王 Mv-
yut.
magadha-deśa 男 Magadha の国土.
magadha-puri 女 Magadha の都市.
magadha-pratiṣṭha 男 Magadha の住人.
magadhā-lipi 女 漢訳 (音写) 摩訶底書 Lal-v.
magadha-vaṃśa-ja 形 (因 -ā) Magadha 族から生ま
れた.
magadha-vaṣaya 男 漢訳 (音写) 摩伽陀国 梵雜.
magadhā 女 Magadha 国の都市; 長胡椒; 漢訳 善
勝 Mvyut.; (音写) 摩竭陀城, 馬葛答地方 Mvyut.;
音写 摩竭陀, 摩竭提 Mvyut.
magadhājira 中 Magadha 国 (Buddh-c.).
magadheśvara (°dha-iś°) 男 Magadha 国の王侯;
[Magadha の王侯の名].
magadhodbhavā (°dha-ud°) 女 (Magadha に生じ
た), 長胡椒.
maganda 男 高利貸し.
magaya 中 漢訳 (音写) [数の名] 摩伽婆, 摩伽婆, 麻
伽班 Mvyut.
magna 過受分 沈められた, 浸された等. → Majj.
漢訳 入, 入(水), 溺, 漂没, 没(苦海), 深著 Abh-k.;
Buddh-c., Lan̄k., Saddh-p.
magha 中 [Magh = Mah] 贈物, 報酬, 賜物.
maghatti 女 [°t-t, Dā] 贈物の授受 (RV.).
maghavat 男 漢訳 天帝釈 [śakro devānām indrah]
Buddh-c. → maghavan.
maghavattva 中 惜しみなく与えること, 寛裕 (RV.
用例一回のみ).
maghavan 形 [因: 圍 鞞 -vān; 中 鞞 -vat; 男 鞞
maghon = magha-un: 困 -vā または -vān, 女 magho-
ni] 惜しまないで与える, 寛裕な. 男 贈物・祭祀
の報酬を与える者; 惜しまないで与える者 (Indra
神) [圍 はただ Indra 神の称].
maghā 女 圍 種 [一般に 圍; まれに maghas] [第十
または(第八, 第十五)の星宿の名]; 漢訳 星, 星宿
Divy., Mañj-m., Mvyut.; [二十八宿の一] 土地

Divy.

maghi 女 摩祇 [薬の名] 神丹 玄応；(音写) 摩祇，摩蚘，摩醯，莫耆，末祇 *Ast-pr.*，玄応。
 maṅkaṇaka 男 [Rṣi の名]；[ある Yakṣa の名]。
 maṅku 形 よろめく (Br.)。
 maṅku-bhāva 男 愧恥，耻愧，赧愧，恥懼 *Bodh-bh.* 123, 254。
 maṅku-bhūta 形 羞愧，恐懼，疲乏 *Mvyut.*
 maṅktavya (未受分) 中 非人 [Majj] 水に入るべきである。
 maṅkṣu 副 即時に，直ちに。
 maṅkha 男 王室付きの吟詠詩人；[諸人の名]；[Maṅkha-kośa の作者の名]。
 maṅkhaka 男 [人名]。
 maṅkha-kośa 男 [ある辞書の題名]。
 maṅkhanā 女 [人名]。
 maṅgala 中 幸運，しあわせ，幸福，無上の喜び [時として 獨]；繁栄；安寧；吉慶；吉兆，吉祥な結果に導くもの；祝福の祈願，祝福すること；吉慶 またはしあわせをもたらす物，護符；壮嚴な儀式，吉慶の祭式 [重要な場合における]；善い旧習，善行，**漢** 吉，吉祥，吉祥事，吉相，吉福，瑞応，歡樂 *Bodh-bh.*，*Buddh-c.*，*Divy.*，*Lal-v.*，*Madhy-v.*，*Mañj-m.*，*Mvyut.*，*Suv-pr.*；*kṛta* ~ *kautūhala-svastyana* ト問良辰為吉祥事 *Divy.* 501。形 吉慶の，吉祥の，吉兆の；**漢** 現吉祥 *Mvyut.* 男 火星；[諸人の名]；**漢** [仏の名，竜王の名] 吉祥 *Lal-v.*，*Mvyut.*
 maṅgala-karaṇa 中 (企業の)吉祥な(成果のために)祈禱を唱えること。
 maṅgala-karman 中 [同上]。
 maṅgala-kalaśa 男 祭式用の瓶 (=°ghaṭa)。
 maṅgala-kalaśamaya 形 祭式用の瓶からなる。
 maṅgala-kāraka 形 繁栄を生ずる，吉祥な。
 maṅgala-kāla 男 吉祥な時。
 maṅgala-kṣauma 中 画 麻製の二枚(上および下)の祝祭用の衣服。
 maṅgala-gāthikā 女 荘重な歌。
 maṅgala-gīta 中 [同上]。
 maṅgala-gṛha 中 吉祥な家(とくに殿堂)；火星の(星)宿。
 maṅgala-gṛhaka 中 吉祥な家(とくに殿堂)。
 maṅgala-ghaṭa 男 祭祝において神に捧げる水を満たした瓶；[ある象の名]。
 maṅgala-caṇḍikā 女 [*Durgā* 神の一形態]。
 maṅgala-tūrya 中 祝祭(に用いられる)楽器。
 maṅgalatūrya-nisvana 男 吉祥な楽器の響き。
 maṅgalatva 中 **漢** 吉祥 *Sūtr.*
 maṅgala-devatā 女 守護神 → *brahma* ~。
 maṅgala-dvāra 中 (祝祭の際に開かれるべき)宮殿の正門 (*Lal-v.*)。
 maṅgala-pattra 中 護符(として用いられる)葉。
 maṅgala-pāṭhaka 男 祝禱をする人，職業的讃頌者。
 maṅgala-pāṇi 形 吉祥な手をもつ。
 maṅgala-pātra 中 吉祥の瓶または容器(吉兆の物を容れる)。

maṅgala-pura 中 [都市の名]。
 maṅgala-puṣpamaya 形 (因 -i) 吉祥な花で造られた(花環)。
 maṅgala-pūrṇa-kumbha 男 **漢** 吉祥瓶 *Lal-v.*
 maṅgala-posadha 男 **漢** 修習祥善 *Mvyut.*；(音写) 吉祥布薩，吉祥薩羅陀 *Mvyut.*
 maṅgala-pratisara 男 護符の紐；=Maṅgala-sūtra。
 maṅgala-prada 形 幸福を授ける，吉祥の。
 maṅgala-prastha 男 [山の名]。
 maṅgalamaya 形 (因-i) 幸運の外の何物をも含まない，幸運からなる。
 maṅgala-mātra-bhūṣaṇa 形 maṅgala-sūtra だけを装飾品とする。
 maṅgalavati 女 [*Tumburu* の娘の名]。
 maṅgala-vādin 形 祝福を述べる。
 maṅgala-vāra 男 火星の日，火曜日。
 maṅgala-vidhi 男 吉祥な祭儀；祭儀の準備。
 maṅgala-vṛṣabha 男 吉祥な(しるしのある)牡牛。
 maṅgala-śabda 男 祝福，挨拶。
 maṅgala-saṃstava 形 祝福を含む。
 maṅgala-samāmbhāna 中 吉祥な膏油。
 maṅgala-sūcaka 形 幸運を示す，吉祥な。
 maṅgala-sūtra 中 (幸福の紐) [結婚式の時新郎によって新婦の首に結ばれ，夫の生存中帯びるもの]。
 maṅgalā 女 [*Umā*(*Śiva* 神の妃)の一形態]；**漢** 吉祥 *Lal-v.*
 maṅgalācaraṇa (°la-āc°) 中 (企業の)吉祥な成果に対する祈禱。
 maṅgalācāra (°la-āc°) 男 吉祥な儀式の遵守。
 maṅgalācāra-yukta 形 maṅgalācāra をともなった。
 maṅgalātodya (°la-āt°) 中 吉祥な場合に打つ太鼓。
 maṅgalādeśa-vṛtta (°la-ād°) 形 吉凶を教えて生計を立てる。男 職業的な占い者。
 maṅgalāyana 中 安寧への道。形 安寧の道を歩む。
 maṅgalālamkṛta 形 吉祥な装飾で飾られた，晴れ着で飾られた。
 maṅgalālabhāna (°la-āl°) 中 吉祥な物体の接触。
 maṅgalālabhaniya (°la-āl°) 形 それに触れることが吉祥な(物)。
 maṅgalālapana (°la-āl°) 中 祝禱。
 maṅgalāvāsa (°la-āv°) 男 殿堂。
 maṅgali 男 [人名]。
 maṅgaliya 形 吉祥な。
 maṅgalya 形 吉祥な，幸運な，しあわせな；**漢** 吉利 *Divy.* 男 豆(の一種)。中 祝禱；吉祥な事物 **漢** 吉，吉祥，吉祥相，希有吉祥相 *Lal-v.*，*Mañj-m.*，梵千。 → a ~。
 maṅgalya-daṇḍa 男 [人名]。
 maṅgalya-lipi 女 **漢** (音写) 曹伽羅書 *Lal-v.*
 maṅgalya-vastu 中 吉祥な事物；**漢** 吉事 *Bodh-bh.*
 mac-charira (mad-śa°) 中 わが身体。
 mac-chiṣya (mad-śi°) 男 わが弟子。
 Majj, I. 中 (因) *majjati*(-te) 沈む；落ちる，滅びる；地獄に行く；(因 地獄)に墮ちる；(因)にもぐる，…に飛び込む；沐浴する；(因 水)に入る；(因)に赴く；**漢** 沈，沈没，漂，溺 *Abh-vy.*，*Lal-v.*，

Saṃkhy-k. 過受分 magna (因, 一°)に沈んだ, …に飛び込んだ; …に浸された; 没した(月); 不運に沈んだ; (一°)に突き刺さった(矢); (一°穴の中)にひそんだ; 垂れ下った(乳房). 使役 働 majjayati 浸す, 溺れさせる, 氾濫させる; (因)に打ち込む; 沈ませる, 滅ぼす.

ā- 過受分 āmagna 全く沈んだ, (一°)の中に全く沈んだ.

ud- (水中から)出て来る, 浮かび上る; もぐる(S.); 働 生, 発生, 起, 涌出, 踊出; 在 *Daś-bh.*, *Saddh-p.*; 入 *Saddh-p.* 過受分 unmagna 浮かび上った. 使役 unmajjayati 上って来させる, 浮かばせる.

sam-ud- もぐる.

upa- 沈む, もぐる.

ni- 沈む, 沈下する; もぐる; (因 水中)に飛び込む; 沈んだままでいる; (矢が)(因)を貫通する; (因)の中に没入する(=観察の眼をまぬがれる); 消失する; 沈ませる(譬喩); 働 陷, 陥没 *Divy.* 過受分 nimagna (因, 一°)に沈められた, 浸された, 投げ込まれた; (水中に)落ちた; もぐった; 沈んだ(太陽); 貫通した(飛び道具); (因 胸)におしつけられた; 深く沈んだ, へこんだ, 深い(臍), 細い(腰). 使役 nimajjayati 水中にもぐらせる, 水中に投げる, 溺れさせる.

sam-ni- 沈下する, (因)の中に沈下する.

nir- 沈下する; 氾濫する. 過受分 nirmagna 沈んだ; (一°)に(眼を)ひきつけられた, 全く…に向けられた.

sam- 過受分 sammagna (一°)に浸された, …に投げ込まれた.

majja-gata 働 徹骨髄 *Sūtr.*

majjan 男 髓; (草木の)髓; 頭のふけ; 働 髓, 骨髓 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Rāṣṭr.*, *Sūtr.*, *Śikṣ.*, 梵雑.

majjana 働 沈むこと, (水中に)沈下すること, 没入; (水)中に飛び込むこと, 沐浴, 水浴; 溺れさせること, 圧倒すること.

majjana-gata 働 浴槽に飛び込んだ.

majja-maṇḍa 男 働 髓汁 *Śikṣ.*

majjas 働 髓.

majjā 女 [同上]; 働 髓, 骨, 本身 *Śikṣ.*, *Suv-pr.*, *Mvyut.*, 梵千. → *asthi*~.

majman 男 偉大, 豊富 または 威力 (因) [單の眞(RV.) または 因 (AV.のみ)].

Mañc, [nis- とともに 不変分 のみ] nirmañcya 浄めて.

mañca 男 (円柱上の)舞台, (宮殿の上の)テラス, さじき(棧敷), 高い壇, 王座; 臥床; 台座; 働 床, 牀, 床座, 牀座, 臥床, 座, 座子, 床褥臥具 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Prāt-m.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; 輿 *Lal-v.*; 樓 *Abh-vy.*

mañcaka 男 働 (同上); 働 牀座 *Saddh-p.*

mañca-piṭha 働 壇上の座席(*Kār-vy.*); 働 床, 床座, 繩床 *Divy.*, *Bodh-bh.*

mañca-yūpa 男 テラスを支える柱.

mañcikā 女 椅子; 脚のある槽.

mañjara 働 花房.

mañjaraya 名動 働 mañjarayati 花房をもって飾る.

過受分 mañjarita 花房をもつ.

mañjari 因 (また -i) 花房; 蕾; 平行した列 または 線 (-i); [植物の一種 (-i)]; 一° [しばしば花房の意味で, 著作の標題に用いられる].

mañjarikā 女 [王侯夫人の名].

mañjarita 名動 過受分 → mañjaraya.

mañjari-dhārin 働 花房をもつ.

mañjari 女 → mañjari. 働 苞, 穂, 枝, 梢, 華葉 *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.* → *āmra*~.

mañjari-Kṛ, 蕾に変える.

mañjari-cāmara 働 払子のような房.

mañjari-jāla 働 蕾または花の密集.

mañjarijāla-dhārin 働 蕾または花で厚く覆われた.

mañjari-piñjalita 働 花房で黄色に彩られた, または 真珠と黄金とをもつ.

mañjiman 男 美, 愛らしいこと.

mañjiṣṭha 働 (女 -ā) [mañju の 最上? 恐らく正しくは mā°] 鮮赤色の, インド茜草の色の. 働 働 紅色 *Divy.*

mañjiṣṭhā 因 インド茜草; 働 茜草 *Mvyut.*; 紅 *Bodh-bh.*

mañjiṣṭhā-rāga 男 インド茜草の色; インド茜草の(色)のように(魅力的で永続性のある)愛情.

mañjira 働 男 裸飾り, 脚飾り.

mañjira-kvaṇita 働 裸飾りの鳴る音.

mañju 働 愛すべき, 美しい, 魅力のある; 働 妙, 妙, 美妙, 美好, 和暢; 和雅 *Mvyut.*, *Sam-r.*, *Sukh-vy. II.*, 梵千., 梵雑.

mañju-garta, [国の名, *Nepal*].

mañju-gir 働 美しい声を有する.

mañju-ghoṣa 働 美しい声を出す; 働 和雅音, 音深妙 *Rāṣṭr.*, *Sam-r.* 男 働 [菩薩の名 = *Mañju-śrī*] 音写 文殊 *Bodh-c.*; 文殊師利 [mañju-śrī] *Saddh-p.*

mañjughoṣa-svara 働 働 出妙歌頌 *Lal-v.*

mañjutara 働 [mañju の 比較].

mañju-deva 男 = mañju-śrī (仏教).

mañju-dhvaja 男 働 [仏の名] 妙幢 *Sukh-vy. II.*

mañju-nātha 男 = mañju-śrī (仏教).

mañju-bhāsin 働 やさしく話す.

mañju-mati 女 [王侯夫人の名].

mañjūla 働 魅力のある, 愛らしい, 美しい. 男 働 鶻 (鶻) (の一種).

mañjulā 女 [河の名].

mañjulikā 女 [人名].

mañju-vāc 働 = mañju-bhāsin.

mañju-vādin 働 [同上].

mañju-vādinī 女 [人名].

mañju-śrī 男 働 [<°śrī] 働 [菩薩の名] 妙吉祥 *Gaṇḍ-vy.*; 音写 文殊師利, 曼殊室利 *Gaṇḍ-vy.*

mañju-śrī 男 働 [菩薩の名] 妙徳, 妙吉祥, 妙吉祥尊, 敬首, 濡首, 溥首 *Guhy-s.*, *Mañj-m.*, *Mvyut. Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Sukh-vy. II.*, *Suv-pr.*, 玄奘 音写 文殊, 満濡, 文殊師利, 曼殊室利, 曼殊尸;

Gaṇḍ-vy., *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*,
Sukh-vy. II., *Suv-pr.*, *Raṣṭr.*, 玄応.
mañjuśri-kumāra-bhūta 男 𑖀𑖩𑖪𑖫 妙吉祥法王子
Mvyut.
mañjuśri-pariprechā 因 [経名] *Madhy-v.* [仏説大
乗善見變化文殊師利問法経].
mañjuśri-buddha-kṣetra-guṇa-vyūha 男 𑖀𑖩𑖪𑖫 [経
名] 妙吉祥仏土功德莊嚴(経), 妙吉祥仏土莊嚴功德
(経) *Mvyut.*
mañjuśribuddhakṣetraguṇavyūhāḷamkāra-sūtra 因
𑖀𑖩𑖪𑖫 [経名] (音写) 文殊莊嚴仏刹功德経, 文殊師利
莊嚴仏刹功德経 *Śikṣ.* [文殊師利仏土嚴浄経, 文殊
師利授記経 (大宝積経第十五会), 太聖文殊師利菩薩
仏刹功德莊嚴経].
mañjuśri-mūla-kalpa 男 [経の名, 大方広菩薩藏文
殊師利根本儀軌経].
mañjuśri-vikrīḍita-sūtra 因 𑖀𑖩𑖪𑖫 [経の名] (音写)
文殊神変経 *Śikṣ.*
mañjuśri-vihāra 男 𑖀𑖩𑖪𑖫 [経名] 大浄法門経, 大莊
嚴法門経 *Mvyut.*; (音写) 文殊聖住 *Mvyut.*
mañjuśaka 因 = mañjuśaka (*Kār-vy.*); 𑖀𑖩𑖪𑖫 [花の
名] 柔輒, 柔軟, 赤花, 赤色花 *Mvyut.*
mañju-svana 形 心地よく響く.
mañju-svara 形 [同上]. 男 𑖀𑖩𑖪𑖫 [仏の名] 妙音
Sukh-vy. I.; (音写) [菩薩の名 = Mañjuśri] 文殊
Saddh-p.
mañjuśaka 男 [天上の花の一種]; 𑖀𑖩𑖪𑖫 搵花 玄応;
(音写) 曼殊沙, 曼殊沙(華), 曼殊顔 *Saddh-p.*, 玄応.
mañjuśā 因 小函, 箱, 函, 籠; 𑖀𑖩𑖪𑖫 櫃 [櫃?] 梵雜.
maṭaka 男 因 [mṛtaka の 因] 死骸.
maṭaci 因 いなご(蝗).
maṭaci-hata 形 いなご(蝗)に害われた.
maṭṭa 男 太鼓(の一種).
maṭha 男 因 [因-i] 小屋, 苦行者または学匠の孤立し
た小屋, 小房; 出家の学林, 学苑.
maṭha-cintā 因 僧院の世話. ~m sam-ā-Car 僧院
を管理する.
maṭhaya 名動 他 maṭhayati 建てる, 設立する.
maṭhara 形 (因) を固執する. 男 [人名].
maṭhādhipati 男 僧院または学林の首長.
maṭhāyatana (°ṭha-āy°) 因 僧院.
maṭhikā 因 小屋, 小房.
maṭhi 因 = maṭha.
maṭhośi-loṭhikā 因 [人名].
maḍaka 男 因 [住民の名].
maḍara-rājya 因 [*Kāśmīra* の地名].
maḍḍa-candra 男 [人名].
maḍḍuka 男 太鼓(の一種).
maḍmaḍāyita 名動. 過受分 (樹の裂ける) 音響に包ま
れた.
maṇi 男 真珠; 珠玉, 宝石; 小球; 磁鉄; (らくだの)
隆肉; [ある Kimnara 王の名] (*Kār-vy.*); 𑖀𑖩𑖪𑖫 珠,
意珠, 宝珠, 如意宝珠, 明珠, 珠宝, 宝 *Abh-vy.*,
Lañk., *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Sūtr.*, 玄応;
(音写) 摩尼珠 *Saddh-p.*; (音写) 摩尼, 末尼 *Ast-pr.*,
Bodh-bh., *Lañk.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, 玄応.

maṇika 男 大きな水甕; 因 (ある動物の肩の上にある)
肉瘤.
maṇi-kaṇṭha 男 𑖀𑖩𑖪𑖫 頂宝, 珠髻, 頂宝頸 *Mvyut.*,
Suv-pr.; (音写) 摩尼瓔 *Mvyut.*; (音写) 摩尼乾陀
Suv-pr.
maṇi-karṇikā 因 真珠または宝玉の耳飾り; [*Benares*
の近くにある聖池の名]; [人名].
maṇi-kāñcana 男 [山の名].
maṇi-kāra 男 宝石商; 𑖀𑖩𑖪𑖫 穿珠者, 穿珠匠, 鑽珠
匠 *Mvyut.*, *Sapt-pr.*; (音写) 摩尼師 *Bodh-bh.*
maṇi-kuṇḍala 因 𑖀𑖩𑖪𑖫 (音写) 末尼環玊 *Bodh-bh.*
maṇi-kūṭa 男 [二つの山の名].
maṇi-garbha 男 [ある園林の名] (*Divy.*).
maṇi-grīva 男 真珠(等)を頸に着けた. 形 [*Kubera*
神の息子の名]. 男 *Guhyaka.*
maṇi-cīra 因 [恐らくは] 宝石をもって飾られた衣服.
maṇi-cūḍa 男 [ある Vidyādhara の名]; [*Sāketana-*
gara の王侯の名]; 𑖀𑖩𑖪𑖫 [竜の名] 宝髻, 頂珠
Mvyut.; [王の名] 珠髻 *Lal-v.*
maṇi-cūḍā 因 [ある Kimnara 女の名] (*Kār-vy.*).
maṇita 因 交接する際に発する不明瞭な声.
maṇi-tulā-koṭi 因 宝石の脚飾り.
maṇi-tsaru 形 宝石のつかをもつ.
maṇi-daṇḍa 形 宝石の(飾りのある)柄をもつ.
maṇi-datta 男 [ある商人の名].
maṇi-dara 男 [*Yakṣa* のある首長の名].
maṇi-darpaṇa 男 宝石の飾りのあるまたは宝石からな
る鏡.
maṇi-dāman 因 𑖀𑖩𑖪𑖫 宝珠瓔珞 *Mvyut.*
maṇi-dīpa 男 宝石の燈 (珠玉をもって燈心の代り
としたもの).
maṇi-dīpaka 男 [同上].
maṇi-dhanu 男 虹.
maṇi-dhanus 因 [同上].
maṇi-dhara 形 計算するために糸を通した小球をも
つ. 男 [Samādhi の一種] (*Kār-vy.*).
maṇi-dharā 因 [印契の一種] (*Kār-vy.*).
maṇi-dhāriṇi 因 [ある Kimnara 女の名] (*Kār-vy.*).
maṇi-nāga 男 [ある Nāga の名].
maṇi-padma 男 [菩薩の名].
maṇi-pura 因 [*Kāliṅga* の海岸の一都市の名].
maṇi-puṣpaka 男 [(珠玉の花をもつ), *Sahadeva* の
臥床の名].
maṇi-puṣpeśvara (°pa-iś°) 男 [*Śiva* 神の一従者の
名].
maṇi-pūra 因 = maṇi-pura.
maṇi-pradāna 因 [*Rāmāyaṇa* 中の一章の題名].
maṇi-pradīpa 男 = maṇi-dīpa.
maṇi-prabhā 因 [韻律の一種]; [海の名]; [ある
Apsaras の名] (*Kār-vy.*).
maṇi-praveka 男 非常にすぐれた宝石.
maṇi-bandha 男 宝石を結び付けることまたは着ける
こと; (宝石を結び付ける場所), 手首; 𑖀𑖩𑖪𑖫 手腕
Mvyut.
maṇi-bandhana 因 真珠の紐または装飾; 手首.
maṇi-bhadra 男 [人名]; [*Kubera* 神の兄弟で *Yakṣa*

の王の名]; [ある長者の名].

maṇi-bhava 男 [ある Dhyāni-buddha の名].

maṇi-mañjarī 女 真珠の列.

maṇi-maṇḍapa 男 水晶の広間, 水晶の(柱で支えられる)広間.

maṇimat 形 宝石を具えた. 男 [ある Yakṣa の名]; [Śiva 神の従僕の名]; [ある Rakṣas の名]; [ある Nāga の名]; [王侯の名]; [山の名]; [聖地の名].

maṇimati 女 [Daitya の都市の名]; [河の名].

maṇimaya 形 (女-i) 宝石からなる.

maṇimaya-bhū 形 宝石からなるゆか(床)をもつ.

女 宝石をちりばめたゆか(床).

maṇi-mālā 女 宝石の紐, 首飾り.

maṇi-mukūṭa 形 宝冠を頂いた.

maṇi-mekhala 形 珠玉を帯とした, 宝石に圍繞された.

maṇi-yaṣṭi 女 = maṇi-mālā.

maṇi-ratna 中 宝石; 漢訳 宝, 宝珠, 珠宝, 神珠宝, 大宝神珠, 宝玉, 浄明珠, 如意宝 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Sūtr.*; (音写) 摩尼宝, (大)摩尼宝, 摩尼珠宝, 浄摩尼宝 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Dharm-s.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*: anargham ~ m 無価宝, 無価宝珠, 無価摩尼珠宝 *Aṣṭ-pr.* 510; anargham ~ m 無価珠宝 *Mvyut.*

maṇiratna-garbha 中 漢訳 [園の名] (音写) 摩尼宝蔵 *Divy.*

maṇi-ratnamaya 形 (女-i) 宝石からなる, 水晶の.

maṇi-ratnavat 形 宝石を含む.

maṇiratna-vitāna 男 漢訳 宝帳; (音写) 摩尼宝帳 *Gaṇḍ-vy.*

maṇiratna-sādrśa 形 漢訳 如宝珠, 如浄明珠 *Saddh-p.*

maṇi-ratha 男 漢訳 (音写) 末尼車 *Śikṣ.*

maṇi-radana 形 真珠の歯をもつ.

maṇi-rāga 男 宝石の色.

maṇi-rāja 男 (宝石の王), (恐らくは)金剛石; [王侯の名]; 漢訳 (音写) 摩尼王 *Raṣṭr.*

maṇi-rocanī 女 [ある Kimnara 女の名] (*Kār-vy.*).

maṇi-varman 男 [ある 商人の名]. 中 宝石の護符 (*Divy.*); 漢訳 宝甲 *Divy.*

maṇi-śṛṅga 男 太陽.

maṇi-śyāma 形 サファイアのように青い.

maṇi-sara 男 真珠の紐, 真珠の首飾り.

maṇi-sūtra 中 真珠の紐.

maṇi-sopāna 中 宝石または水晶の階段.

maṇi-stambha 男 宝石または水晶の柱.

maṇi-sraja 女 宝石の花環.

maṇi-harmya 中 水晶宮, [ある宮殿の名].

maṇindra 男 宝石の王, 金剛石.

maṇiya 名動 中 maṇiyate 宝石に似る.

Maṇḍ, X. 他 maṇḍayati 飾る; 称讃する; 漢訳 莊嚴 *Divy.*, *Lal-v.* 過受分 maṇḍita 飾られた, 裝飾された.

prati- 漢訳 莊嚴 *Raṣṭr.* 過受分 pratimaṇḍita 飾られた.

maṇḍa 男 中 1. 煮た穀物の浮きかす(滓); 乳脂; ア

ルコール飲料の濃い部分, アルコール; 餅; 汁, 米汁; 果, 果汁; 水, 漿, *Mvyut.*, 梵千., 梵雜.; 醍醐, 妙, 清涼, 上味 *Abh-vy.*, *Mvyut.*; 心, 相合 *Mvyut.* → dadhi ~.

maṇḍa 2. 座, 場 *Bodh-bh.* 377., *Sapt-pr.* 213. 等. → bodhi ~, mahi ~.

maṇḍaka 形 (女-ikā) 一°, 浮きかす(滓). 男 [小麦粉および砂糖で製した大きくかつ非常に薄い菓子的一种].

maṇḍana 形 裝飾する, 飾る; …に対する飾りとなる = (都市または国土) に住するまたはを支配する. 男 [諸人の名]. 中 裝飾; 裝飾物; 飾, 嚴, 嚴好, 莊嚴; 備 *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*

maṇḍanaka 形 [同上(形)].

maṇḍana-kāla 男 裝飾のための時.

maṇḍana-priya 形 裝飾品を好む.

maṇḍanārha 形 裝飾品にふさわしい.

maṇḍa-pa 1. 形 煮た米の浮きかす(滓)・乳脂または酒の泡を飲む.

maṇḍa-pa 2. 男 中 [女-i] [祝祭の場合に建てられる] 小屋または広間, 亭; 祠堂; [一° その材料となる植物の名とともに] あずまや, いおり; 殿, 舎, 臺觀, 延堂, 聚所, 日量馬房(?) *Abh-vy.*, *Divy.*, *Mvyut.*, 梵千.; 蓋 *Divy.* 43.

maṇḍapa-kṣetra 中 [聖地の名].

maṇḍapikā 女 小さい(扉のない)亭または屋舎.

maṇḍa-pi 女 = maṇḍapa 2.

maṇḍa-pūla 男 靴, 短靴 *Mvyut.*

maṇḍamaya 形 (女-i) 浮きかす(滓)または乳脂からなる.

maṇḍala 形 円形の, 円い. 中 [女-i (まれに)] 円盤 [とくに太陽または月について]; 球形の物, 円 [圓 円の中に], 環, 円周; 車輪; (奇術師の) 円状の結界, 聖域. 中 (天体の) 軌道; 太陽または月の周囲の光輪; 球, 球体; [十卷よりなる] *Rg-veda* の巻の名; 輪, 円, 円満, 円満輪, 円満処, 中 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Sapt-pr.*, *Sūtr.*; 檀 *Mañj-m.*, *Suv-pr.*; 場 *Gaṇḍ-vy.*, *Śikṣ.*; (音写) 曼拏羅, 曼荼羅 *Guhys.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*: taṃ puṇya ~ m pariśodhayan 浄彼円満功德, 浄彼福德輪, 浄彼福德場 *Gaṇḍ-vy.* 142. → ādarśa ~, sām̐kathya ~. 男 中 [女-i] 圈=群, 団体, 集合, 軍隊, 群衆, 集団; (蜜蜂の) 群; 全体, 総体; [ある王の遠近諸隣邦一円(それら相互間ならびに自国との関係について王侯は有利に調整しようとする努力すべきであるといわれる; このような王侯に四・六・十および十二種があるといわれる)]. 男 中 軍隊の陣, 圈=地域, 領域, 地方, 国土; 會, 衆, 軍, 軍衆 *Lal-v.*; 界, 地 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*: māra ~ vidhvamsana-kara 摧伏一切諸魔軍衆 *Lal-v.* 275. → parśan ~, māra ~. 男 犬.

maṇḍalaka 中 円盤; 輪 (*Divy.*); 群; (四角形の) 結界 (*Kār-vy.*); 壇 *Divy.*, *Suv-pr.*; (音写) 漫拏羅 *Divy.*: pañca ~ ena vanditvā 五輪礼敬 *Śikṣ.* 65. → trapu ~.

maṇḍala-kārmuka 形 (十分に引きしぼられた) 円形の

弓をもつ。

maṇḍala-janman 甲 聖衆生 *Sūtr.*

maṇḍalatva 甲 円いこと。

maṇḍala-nābhi 男 近隣諸侯団の長(=中央)。

maṇḍala-nābhita 女 [同上 圖]。

maṇḍala-nyāsa 男 円を画くこと。 ~m Kṛ 円を画く。

maṇḍala-bandha 男 円の形成。

maṇḍala-bhāga 男 円の部分, 孤。

maṇḍala-māḍa 男 円形の会堂または場所。 → °vāta。

周廊, (道場, (菩提道場) *Mañj-m., Mvyut.*

maṇḍala-mātra-vyūha 男 道場, 講堂 [Tib. ḥkhor gyi khyams] *Lal-v. 6.*

maṇḍalaya 名動 他 maṇḍalayati 巡回する。

maṇḍala-vaṭa 男 円を形成するいちじくの樹。

maṇḍala-vartin 男 地方または小王国の支配者。

maṇḍala-varṣa 甲 (?) (全国一帯ではなく) 地域的に降る雨。

maṇḍala-vāṭa 男 = °māḍa; 道場 *Divy. 59.*;

食堂 *Divy. 288.* → maṇḍa-vāṭa。

maṇḍalāgra 形 円い尖端をもつ。 男 彎曲した刀。

maṇḍalādhipa 男 国土の統治者。

maṇḍalādhiśa 男 [同上]。

maṇḍalāya 名動 自 maṇḍalāyate 輪をつくる, 輪になる。

maṇḍalāvṛtti (°la-āv°) 女 巡回運動。

maṇḍalāsana (°la-ās°) 形 環になって坐る。

maṇḍalikā 女 群, 団体。

mandalaya 名動 他 mandalayati 巡回する。 過受分

maṇḍalita 回転する, 輪になった, 巻いた。

maṇḍalita-hasta-kāṇḍa 形 鼻を輪に巻いた(象)。

maṇḍalin 形 円または環を形成する; 一国を支配する;

[vāta 男 とともに] 旋風; 輪, 具輪, 甲 *Mvyut.*

男 一国の支配者; 蛇または蛇の一種; 小王 *Lank., Saddh-p.*

maṇḍali 女 → maṇḍala。

maṇḍali-Kṛ, 円くする。

maṇḍali-kṛta 形 円くされた, 十分に引きしぼられた(弓)。

maṇḍali-BHū, 円くなる, 円を形成する。

maṇḍali-bhūta 形 円くなった, 十分に引きしぼられた(弓)。

maṇḍaleśa (°la-iśa) 男 一国の支配者。

maṇḍaleśatva (°la-iś°) 甲 一国の統治権。

maṇḍaleśvara (°la-iś°) 男 = maṇḍaleśa。

maṇḍa-vāṭa 男 (正しくは maṇḍala-) (*Divy.*); 食堂 *Divy.* → maṇḍala-vāṭa。

maṇḍita 過受分 → Maṇḍ. 蔽, 莊蔽, 莊飾 *Guhy-s., Lal-v., Lank., Śikṣ.*

maṇḍitr 男 飾る者=裝飾物(譬喩)。

maṇḍilaka 男 [パンの一種] (*Divy.*)。

maṇḍuka 男 または 甲 = saṃgraha (?) つかむこと(器)。 男 太鼓 [→ maḍḍuka]。 [= maṇḍuka 写誤?] 蝦蟇 *Mvyut.*

maṇḍūka 男 蛙; 馬(の一種); 蝦蟇, 蝦蟇 *Mvyut., Śikṣ., 梵雜.*

maṇḍūka-kula 甲 蛙の集合。

maṇḍūka-gati 女 蛙のように飛ぶこと。 形 蛙のように跳ねる; 中間の sūtra を飛び超えて連結する(文法)。

maṇḍūka-pluti 女 蛙の跳躍; 中間の sūtra を飛び超えて連結すること(文法)。

maṇḍūka-yoga 男 [(蛙の冥想), 苦行者が蛙のように動かないで坐る冥想]。

maṇḍūka-sīyin 形 蛙のように臥す。

maṇḍūki 女 雌蛙。

maṇḍodaka (°ḍa-ud°) 甲 酵母。

mat 代 [aham の 代] 私から; °— [aham の 代として用いられる]。 → mad。

-mat 接尾 [所有を示す] 有, 具。 → dhi~, dhṛti~, niti~, buddhi~, mati~, smṛti~ 等。

mata 過受分 → Man. 覚, 所覚, 知, 応知, 念,

所敬; 作; 族望 *Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-*

bh., Śikṣ., Sūtr.; 許 *Abh-k., Śikṣ.*; (是故)名 *Sūtr.*;

求 *Sūtr. : dṛṣṭa-śruta ~ vijñāta* 見聞覚知 *Aṣṭ-pr.*

732. → iṣṭa~, saṃgha~, sva~. 甲 意見,

見解, 教説; 意, 判, 理, 理趣, 宗, 分別,

解悟, 執; 言, 説, 所説, 所説義 *Abh-vy., Lank.,*

Mvyut., Sūtr.

maṅga 男 象; [ある Dānava の名]; [聖者の名; 種 その種族]。

maṅga-ja 男 象。

maṅgajatva 甲 象たること。

maṅga-deva 男 [物語りの中に現われる生物の名]。

maṅga-pura 甲 [都市の名]。

maṅga-yajñāgni 男 *Maṅga* 祭の火。

maṅga-vāpi 女 [ある聖地の名]。

maṅga-sarasa 男 [湖の名]。

maṅgini 女 [*Mandara* の娘の名]。

ma-bheda 男 (屬 および saha をともなう 圓) の間における意見の相違。

matallikā 女 (一°) の亀鑑, 立派なこと, 優秀。

matalli 女 [同上]。

matākṣa 形 さいころに熟達した。 男 [*Śakuni* の称]。

matānujñā 女 [敵者の推論中に過誤あることを主張しつつ, しかも自己の推論にそれと類似の過誤を認容すること]。

mati 女 敬虔な思想, 祈禱, 崇拜(因); 讃歌(因);

(為, 因, 不定 とともに) に対する思考, 腹案, 意図,

目的, 決心, 性向, 欲望; 意見, 観念, 印象, 見

解, 信念; 知覚, 思想, 知性, 理解, 意識, 機知,

感覚, 判断, 尊敬, 尊重; 意, 慧, 意慧, 智,

智慧, 智聡, 點慧, 能知, 覚知, 心 *Abh-k., Abh-*

vy., Bodh-bh., Bodh-c., Buddh-c., Daś-bh., Divy.,

Gand-vy., Lank., Mvyut., Rāṣṭr., Sam-r., Sukh-

*vy., Sūtr., 梵千.; 計 *Sāṃkh-k.* 男 [王子の名]*

有意 *Saddh-p.* 圓 matyā 故意に, わざと, 知りな

がら; (一°) の印象のもとに(=…であると考えて

で)。 ~m Kṛ (自己の)心を(為, 因, prati+ 圓,

-artham) に置く, …について考える, …しようと

決意する; 決心する。 ~m DHā (為, 因) しようと

決意する。～m ā-DHā [同上]。～m sam-ā-DHā [同上]。～m DHr (囹, 困) について計画を懐く。～m ā-Sthā 決心をする。～m ni-Vṛt (使役), (行作 囹 の 困) の観念を捨てる。

mati-karman 囹 知性または理解の事柄 (問題)。
 mati-gati 囹 思考の道程。
 mati-garbha 囹 (内に理解力をもつ), 理解力のある, 伶俐な。
 mati-darśana 囹 囹 (他人の) 思想または意向の認知。
 mati-dvaidha 囹 見解の相違。
 mati-nāra 男 [王侯の名]。
 mati-patha 男 熟慮の道。～m Ni 慎重に省察する。
 mati-pūrva 囹 故意の。～m. ～e 囹 故意に, わざと, 知りながら。
 mati-pūrvakam 副 =mati-pūrvam。
 mati-prakarṣa 男 すぐれた伶俐, 天才の発露。
 mati-bhinna 囹 漢訳 心差別, 意差別 *Lank.*: anekā- ~ 種種心差別, 意義別無量 *Lank.* 342。
 mati-bheda 男 意見の変化; 意見の相違。
 mati-bhrama 男 精神の混乱; 漢訳 妄慧 *Sikṣ.*
 matimat 囹 理解力のある, 賢明な, 聡明な; 漢訳 智者, 有智人, 有智力, 智慧者, 具慧力; 黠慧者 *Ast-pr.*, *Lank.*, *Sam-r.*, *Sūtr.*
 mati-varadhana 男 [ある註釈家の名]。
 mati-vid 囹 信心または意向を知る。
 mati-viparyaya 男 誤った意見, 錯覚。
 mati-vibhrama 男 精神の混乱; 謬見。
 mati-sālin 囹 理解力をもつ, 聡明な, 賢明な。
 mati-saciva 男 賢い助言者; 協議に参加する者 (*Jāt-m.*)。
 mati-sabhāgatā 囹 漢訳 同慧, 大慧共法 *Gand-vy.*
 mati-hina 囹 理解力の欠乏した, 機知のない, 愚鈍な。
 mati-Kṛ, 耕すまたは鋤で鋤きならす。
 matka 囹 私の。
 matkuṇa 男 なんきん虫; 牙のない象; 漢訳 壁虱 梵雜。
 mat-kuṇatva 囹 [同上 囹]。
 mat-kṛta 囹 私によってなされた。
 matta 過受分 → Mad 1. 漢訳 酔, 酔酒; 寤 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, 梵千.; 憍, 貢高 *Mañj-m.*, *Mvyut.*; 迷 *Bodh-bh.*
 mattaka 囹 多少傲慢な。男 [人名]。
 matta-kāla 男 [王侯の名]。
 matta-kāśini 囹 女 陶醉した風の [魅力のある婦人 に関して, とくに呼びかけの言葉として用いられる]。
 matta-dvipa 男 漢訳 酔象 *Sikṣ.*
 matta-puruṣa 男 漢訳 昏醉人, 昏醉人 *Lank.*
 matta-pramatta 過受分 漢訳 迷悶 *Bodh-bh.*
 matta-mayūra 男 喜びに酔った孔雀。
 matta-vāraṇa 男 狂象。囹 (?) 家を囲む垣。囹 小塔, 小尖塔。
 mattavāraṇa-vikrama 囹 狂象の力をもつ。
 matta-vāraṇiya 囹 (戦車の) 小尖塔 (櫓) に付けられた。
 mattas 副 [二人 代 の 困] 私から (=mat)。

matta-hastin 男 狂暴な象, 発情期にある象; 漢訳 酔象 (將軍) *Abh-vy.*
 mattebha (°ta-ibha) 男 [同上]。
 mat-para 囹 私に献身した。
 mat-parama 囹 [同上]。
 mat-parāyana 囹 [同上]。
 mat-pūrva 男 私の兄。
 matya 囹 まぐわまたは地ならし用具。
 mat-saṁsthā 囹 私との結合。
 mat-sakhi 男 [困 -ā] 私の友または同輩 (*RV.* 用例一回のみ)。
 mat-samakṣam 副 私の眼前で。
 matsara 囹 喜ばせる, 酔わせる (困); 喜ばしい (困); 自己本位の; 嫉妬する, 羨望する; 漢訳 慳, 慳行 *Bodh-bh.*, *Sikṣ.* 男 喜ばせるもの = Soma (困); 嫉妬, 羨望, (困, 一°) についての嫉妬・羨望; 憎悪, 敵意; 激怒, 憤怒, (困, 一°) に対する激情; 漢訳 慳, 慳惜, 嫉妬 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*, *Rāstr.*
 matsarā 囹 蠅。
 matsari-kula 囹 漢訳 慳家 *Bodh-bh.*
 matsaritva 囹 漢訳 有恪 *Sūtr.*
 matsarin 囹 喜ばせる (*RV.*); 嫉妬する, 羨望する, (困, 一°) について羨望する, …を嫉妬する; (困) に惑溺した, …を熱情的に好む; 漢訳 慳, 慳者, 恪, 慳恪, 慳吝, 慳吝者, 慳吝者, 慳貪, 慳貪者, 慳貪之人, 慳慳, 慳嫉, 慳貪, 嫉妬, 慳恪嫉妬, 慳惜貪恪 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gand-vy.*, *Lal-v.*, *Sam-r.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.*
 matsi 囹 雌魚 [=matsyā]。
 matsya 男 魚; [住民の名] (囹); *Matsya* 族の王; 囹 双魚宮 [天体十二宮の一の名]; 漢訳 魚 *Av-s.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Rāstr.*, *Suv-pr.*, 梵千., 梵雜.: sthālyām pluta iva ~ā dharanyās tale 如魚処陸 *Suv-pr.* 198. 囹 [ある Vasuī の名]。
 matsyaka 男 小魚。
 matsya-gandha 囹 (女 -ā) 魚臭を発する。
 matsya-ghāta 男 魚を殺すこと = 捕えること。
 matsya-ghātin 囹 魚を殺す。男 漁夫。
 matsya-jivat 囹 魚で活計を立てる。
 matsya-jivin 男 (魚で活計を立てる), 漁夫。
 matsyaṇḍikā 囹 さとうきびの煮つまった液汁; 漢訳 音写 末千提 *Lank.*
 matsyaṇḍi 囹 [同上]。
 matsya-dhvaja 男 魚の旗印。
 matsya-putrikā 囹 鳥 (の一種)。
 matsya-purāṇa 囹 [*Viṣṇu* 神が魚に化現して説いた *Purāṇa* の名]。
 matsya-prādurbhāva 男 魚としての *Viṣṇu* 神の化現。
 matsya-baḍīśa 囹 [=°baḍīśa] 漢訳 魚鉤 *Kāśy.* 147。
 matsya-bandha 男 魚をとらえる者, 漁夫。
 matsya-bandhin 男 [同上]。
 matsya-māṁsa 囹 魚肉; 漢訳 魚肉 *Sikṣ.*
 matsya-rāja 男 *Virāṭa* [*Matsya* 族の王]; 魚族の

最上者(種).

matsya-vikāra 男 魚変, 魚躍 *Mvyut.*

matsya-sagandhin 形 = matsya-gandha.

matsya-han 男 魚を殺す者, 漁夫.

matsyā 女 [Virāta の姉妹で Vyāsa の母, Satya-vati].

matsyāṇḍa 中 魚卵.

matsyāda (°ya-āda) 形 魚を食う, 魚で生活する.

matsyāvatāra 男 洪水期に魚の形をとった (Viṣṇu 神)の化身 = matsya-prādurbhāva.

matsyāśin (°ya-āś°) 形 = matsyāda.

matsyodariya (°ya-ud°) 形 魚の腹から出た. 男 [Matsyā の息子 Vyāsa の称].

matsyōpajivin (°ya-up°) 男 (魚で生計を立てる), 漁夫.

Math, Manth, I. 他 (自) mathati(-te), manthati

(-te), IX. 他 (自) mathnāti, mathnite. 強く廻転する, 攪拌する [agnim とともに摩擦によって火を起こす]; (業 鑽木)を摩擦する; (牛乳からバターを作るために)攪拌する; 振る; かきまぜる, 動揺させる; 悩ませる, 非常に困惑させる; 押しつぶす, 傷害する, 破壊する; 鑽, 鑽燧 *Buddh-c., Lal-v.* 受 mathyate. 受 現分 mathyamāna 引風吹鼓 *Lal-v. : karmāra-gargaryām ~ āyām* 引風吹鼓鞴囊 *Lal-v. 251.* 過受分 mathita 攪拌された等; 困惑させられた; つみ取られた, 枯れた (植物).

adhi- 摩擦によって火を (agnim) 起こす.

ud- かきまぜる, 振りまぜる; 切断する, 裂き離す; 擦って除く, 剥ぎ離す; 根こぎにする; 根絶させる, 殺す, 破壊する, 論駁する; 揺るがす, 動揺させる; 混合する.

prod (pra-ud)- 肉迫する, 威圧する (*Divy.*).

nir- 摩擦によって (業) から (火) を起こす; 攪拌によって取り出す; 攪拌する, 揺るがす; 押しつぶす, 破壊する; 振り出す, 抜き出す; 打つ; 動揺させる; 拭い去る; 磨滅 *Sikṣ.* 過受分 nirmathita 拭い去られた. 不変分 nirmathya 強いて.

vi-nis- 押しつぶす, (敵を)破る.

pari- (点火するために木を)摩擦する (*Jāt-m.*).

pra- (海洋を)攪拌する; 切断する, 裂き離す, 引き去る; 悩ます, 非常に困惑させる, 強いて...させる; 破壊する, 荒廃させる; 打碎, 摧壞, 摧逼 *Lal-v., Sikṣ.* 過受分 pramathita もぎ取られた, 引き離された; 悩まされた, 害された, 殺された. 使役 他 pramāthayati 悩ます; 殺す, ほふる.

vi- 自 もぎ取る; 自 ずたずたに裂くまたは破る; ずたずたに切る. 過受分 vimathita 破壊された (都市); 困惑した (心).

math 形 (一°)を破壊する. → madhu ~. 男 攪拌の棒 [mathin の 弱 翰]. → mathin.

mathan [自 mathnā のみ] 鑽木 (P.).

mathana 形 (因 -ā, -i) 悩ます, 苦しみます; 破壊する. 因 摩擦; 攪拌; 悩ますこと; 破壊; 攪; 鑽; 能摧, 能降 *Lank., Mvyut.*

mathanācala 男 (攪拌の山), Mandara 山 [乳海攪拌に当り神々および諸 Dānava によって攪拌の棒として用いられたという].

mathani 女 鑽, 草 (?) [金剛上味陀羅尼經], 木 (?) [金剛場陀羅尼經] *Madhy-v. 50.*

mathāya 名動 他 mathāyati (因), 摩擦によって(火を)起こす; もぎ取る; 震わす.

mathita 過受分 攪拌された等. → Math. 壊, 崩 *Mvyut.* 男 [ある讃歌作者の名]. 因 水をまぜないで攪拌したミルク・バター.

mathitr 男 押しつぶす者, 破壊者.

mathitos [Math の 属 不定].

mathin 男 [中 翰 は mathi; 弱 翰 は math; 因 manthāh, 業 manthām] 攪拌用の棒.

mathura 男 [人名].

mathurā 女 [諸都市の名, とくに Yamunā 河畔にあり古く有名で婆羅門教徒および仏教徒の間にきわめて神聖視された都市の名, 現今の *Muttra*]; 摧壞 *Mvyut.*; 音写 摩偷羅, 摩突羅, 麼土羅, 磨土羅, 末突羅 *Divy., Lal-v., Mvyut.*: ~ā nagari 摩偷羅城 *Lal-v. 21.*

mathyamāna 受 現分 → Math.

Mad 1. Mand, I. 他 madati (因), mandati (-te)

(因) [他 は 他動, 自 は 自動]; III. 他 mamatti (因); IV. 他 (自動) mādyati (Br., 業). 喜ぶ, 非常に喜ぶ, (自, 業, 因, まれに 業)を喜ぶ, ...に狂喜する, ...に夢中になる; (自)によって酔わされる [また 譬喩]; (神々および祖先の)祝福を享受する; 泡立つ, 沸く (水について); 喜ばせる, 鼓舞する, 酔わせる. 過受分 matta 喜び興奮させられた, 狂喜させられた; 酔わされた, 酩酊した [また 譬喩]; 淫蕩の, 交尾期の (とくに象). 使役 他 mādayati, 自 mādayate, 他 mandayati (因) 大いに喜ばせる, 元気を与える; (欲望を)満足させる; 酔わせる [また 譬喩]; 激昂させる; 自 喜ぶ, 幸福に生活する (因).

anu- 声を挙げて(業)を歓迎する.

un- 惑乱している, 理性を失なう; 喜ばせる, 大いに喜ばせる (RV.). 過受分 unmatta 惑乱した, 狂乱した, 狂気の; 酩酊した; 惑わされた; 瘡猛な (獣); 興奮した(眼). 使役 unmādayati 恍惚たらしめる, 感覚を奪い去る, 狂気にする.

nir- 浴 使役 nirmādayati 洗いおとす (*Divy.*); 洗, 令洗, 摩拭 *Divy. 53, Sikṣ. 58.*

pra- 喜ぶ, 非常に喜ぶ(因); (因, 因)について不注意である, ...に無頓着である, ...に怠慢である; (因)に関して軽卒である, ...について(自己の)務めを忘れる; 混乱に陥る (無生物について). 過受分 pramatta 酔った; 淫奔な; (因, 一°)について不注意な, ...に無頓着な, ...に怠慢な; (因)について(自己の)務めを忘れた.

abhi-pra- 喜ばせる, 大いに喜ばせる.

vi-pra- 過受分 vipramatta 除外されない, 等閑視されない (?). 使役 vipramādayati 浪費する; 縦情受用 *Bodh-bh. : stauṇṇikam vā dravyam vipramādayanti* (取)率堵波物 (言是已有)縦情受用

Bodh-bh. 166.

vi- 喜んでいる；気を取り乱す；交尾期にある；迷わす。過受分 *vimatta* 取り乱した；交尾期の。使役 [三過 *vyamimadam* のみ] 混乱させる。*saṃ-* (圓) をもって喜ぶ (因)；(圓)において大いに喜ぶ (因)。過受分 *saṃmatta* (圓)によって有頂天にさせられた；(一°)によって酔わされた；交尾期の (象)。使役 他 *saṃmādayati* 元気を与える；酔わせる；自 *saṃmādayate* 元気を与えられる，酔わされる。

Mad 2., Mand, I. 他 *madati* (因)；III. 他 *mamatti* (因) 延引する，停止する。

mad [一人 因 鞞；合成語 および 派生語に用いる]；

我 *Lal-v.*, *Saddh-p.* → *mattas*, *madvat*.

mada 男 快活，爽快な気分，恍惚，酩酊；(一°)に對する熱情；放縱，情欲；(動物の)発情；(圓，一°)についての自負，傲慢，厚顔，自尊；酔わせる飲物；蜂蜜；(象の)こめかみの分泌液；醉，所醉，醉乱，迷醉；狂；楽味著；放逸，僞逸，僞，僞恣，傲，慢，恃，自恃 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Laṅk.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Suv-pr.*, *Śikṣ.*, *Vijñ-t.*

mada-kara 形 酔わせる。

mada-karin 男 交尾期の象。

mada-kala 形 熱情的に快い(調子)；愛に熱中してやさしい声を出す；熱情に酔った；酩酊してよろめく；交尾期の，交尾期に入ろうとする(象)。

madakala-yuvati 女 恋に酔った乙女。

mada-kārin 形 酔わせる。

mada-kṛt 形 [同上]。

mada-guru-pakṣa 形 羽が蜜で重い(蜂)。

mada-cyut 形 興奮してよろめく，Soma で元気を与えられた，快活な(因)；こめかみから液をしたたらす(象)。

mada-jala 田 (象の)こめかみの分泌液。

mada-jvara 男 熱情または盛んな自負。

mada-durdina 田 (象の)こめかみの分泌液の流出。

mada-dvipa 男 交尾期の象。

madana 男 性愛，熱情，情欲；愛の神，*Kāma* 神；[諸人の名]；[植物の一種，学名 *Vanguiera spinosa*]

狂 *Suv-pr.*；酔果 立応；音写 末達那，摩陀那，摩陀羅(?) 立応。

madana-kalaha 男 痴情による喧嘩。

madana-kliṣṭa 形 愛で心を痛めた。

madana-jvara 男 愛の熱情。

madana-tantra 田 性愛の教説。

madana-daṃṣṭrā 女 [王侯夫人の名]。

madana-damana 男 [(*Kāma* 神の克服者)，*Śiva* 神の称]。

madana-dahana 男 [(*Kāma* 神を燃焼するもの)，*Śiva* 神の称]。

madana-dviṣ 男 [(*Kāma* 神の敵)，*Śiva* 神の称]。

madana-pāla 男 [王侯の名，(この王侯に帰せられる種々の著作がある)]。

madana-pura 男 [都市の名]。

madana-prabhā 女 [ある妖精の名]。

madana-bādhā 女 愛の煩悶。

madana-māncukā 女 [*Madana-vega* の娘の名]。

madana-mañjari 女 *Yakṣa* 王 *Dundubhi* の娘の名]；[諸人の名]；[ある説法する鳥の名]。

madanamaya 形 (女 -i) 愛に支配された。

madana-maha 男 *Kāma* 神 (のたために行なう)大祭。

madanamahotsava (°ha-ut°) 男 [同上]。

madana-mālā 女 [人名]。

madana-mālini 女 [人名]。

madana-mohana 男 [(*Kāma* 神を困惑させるもの)，*Kṛṣṇa* 神の称]。

madana-yaṣṭi-ketu 男 旗 (の一種)。

madana-rāja 男 [人名]。

madana-ripu 男 [(*Kāma* 神の敵)，*Śiva* 神の称]。

madana-lekha 男 恋文。

madana-lekhā 女 [同上]；[人名]。

madana-viklava 形 激情に惑わされた。

madana-vega 男 [ある妖精の王の名]。

madana-śalākā 女 [鳥の一種，*Turdus salica*]；[インド郭公の雌]。

madana-saṃdeśa 男 愛の伝言。

madana-sundari 女 [諸人の名]。

madana-senā 女 [同上]。

madanātura (°na-āt°) 形 恋に患う。

madanāditya (°na-ād°) 男 [人名]。

madanāntaka 男 [(*Kāma* 神の破壊者)，*Śiva* 神の称]。

madanāri 男 [(*Kāma* 神の敵)，*Śiva* 神の称]。

madanāvastha 形 恋する，恍惚とした。

madanāvasthā 女 恋する状態。

madanāsaya (°na-ās°) 男 性欲。

madanikā 女 [人名]。

madaniya 形 酔わせる；醉，醉乱，生歡喜 *Abh-vy.*, *Raṣṭr.*

madanotsuka (°na-ut°) 形 恋のためにやつれたまたはものうい。

madanodyāna (°na-ud°) 田 [(*Kāma* 神の花園)，ある花園の名]。

mada-paṭu 形 交尾期の(象)。副 朗らかに(さえずる)。

mada-prada 形 酔わせるおよび高慢にする。

mada-pramāda 男 放逸，驕逸 *Gaṇḍ-vy.*

mada-praseka 男 (交尾期の象が)こめかみから液を分泌すること；酒を灌ぐこと。

mada-prasevaṇa 田 [同上，第一義]。

mada-prasravaṇāvila (°na-āv°) 形 (象の)こめかみの分泌液で混濁した。

mada-bhaṅga 男 誇りを傷つけること。

mada-bhrānta-tāra 形 熱情に眼のくらんだ。

mada-matta 形 昏醉，醉傲，放逸，放逸昏醉，傲逸，驕恃，僞慢，自恃，貪著 *Gaṇḍ-vy.*, *Śikṣ.*

mada-māna 形 我慢 *Divy.*

mada-mukhara 形 酩酊しておしゃべりとなった。

mada-muc 形 こめかみから液を分泌する(象)。

mada-mohita 形 酩酊して知覚を失なった。

madayantikā 女 [人名]。

madayanti 女 [Mad 1.: 使役 現分 大いに喜ばせる], 野生のそけい(素馨); [*Kalmāṣa-pāda* (また *Mitrasaha* ともいう) の妻の名].
madayitr 男 [Mad 1.: 使役] 大いに喜ばせる者, 酔わせる者.
mad-artha 男 私の目的. ~m 副 私のために.
mad-arpata-pura 甲 [都市の名].
mad-arpita-pura 甲 [同上].
mad-lekhā 女 (象の) こめかめの分泌液のすじ.
mada-vallabha 男 [ある Gandharva の名].
mada-vāri 甲 (象の) こめかみの分泌液.
mada-vihvala 形 激情に興奮させられた, 好色の, 淫奔な.
mada-vihvalita 形 [同上].
mada-virya 甲 激情または激怒の力.
mada-srāvin 形 = mada-muc.
madākula (°da-āk°) 形 激情または情欲に心乱れた, 発情によって怒り狂う.
madātyaya 男 過度の酩酊, その結果の病患 (譫妄症).
madādhmāta (°da-ādh°) 形 慢心を増長させた.
madāndha 形 酩酊して目のくらんだ, 泥酔した; 熱情に目のくらんだ, 交尾期の; 自負に目のくらんだ.
madāmbu 甲 (象の) こめかみの分泌液.
madāmbhas 甲 [同上].
madālasa 形 酔って疲れた.
madālasā 女 [*Gandharva Viśvāvasu* の娘の名]; [書名].
madāvaśeṣa 男 酩酊につづく状態.
madāvasthā 女 淫奔, 発情.
madin 形 (因) 喜ばせる, 酔わせる; 愛すべき.
madira 形 [同上].
madira-dṛś 形 恍惚とさせる眼をもつ.
madira-nayana 形 [同上].
madirā 女 酒精飲料; [*Durgā* の称]; [*Kādambari* の母, その他の女性の名].
madirākṣa 形 (因 -i) = madira-dṛś.
madirāmaya 形 (因 -i) 酒精飲料からなる.
madirāvati 女 [ある少女の名で *Kathā-sarit-sāgara* の第十三 Lambaka の題名].
madirāśva 男 [*Rājarṣi* (聖仙) の名]; [*Daśāśva* の息子で *Ikṣvāku* の孫である王の名].
madirāsava (°rā-ās°) 男 酒精飲料.
madirekṣaṇa (°ra-ik°) 形 (因 -ā) = madira-dṛś.
madirotkata (°rā-ut°) 形 酩酊した; 狂暴な, 発情期にある. 男 [ある獅子の名].
madironmatta (°rā-un°) 形 発情期にある; 酔った, 慢心に酔った.
madiṣṭha 形 [madin の 最上] (因).
madiya 形 私の, 私に属する; 我, 吾 *Lal-v.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Mañj-m.*, *Saddh-p.*, *Śiks.*
madugha 男 かんぞう (甘草) (の一種).
madotkata (°da-ut°) 形 酒で興奮した 酔った; 激情で興奮した, 猛烈な; 好色の, 発情した(象); 兇狂 *Buddh-c.*

madodaka (°da-ud°) 甲 = madāmbu.
madodagra (°da-ud°) 形 激情で興奮した, 猛烈な.
madoddhata (°da-ud°) 自負に満ちた, 尊大な.
madonmatta (°da-un°) 形 激情に酔った, 発情した, 慢心に酔った.
madgu 男 [水鳥の一種]; ガリー船, 戦闘船(の一種); [混合種姓(階級)の一種].
madguka 男 [水鳥の一種].
madgura 男 魚(の一種); 潜水者, 真珠貝採取者 [混合種姓(階級)の一種].
mad-deha 男 私の身体.
mad-bhakta 形 私に献身した.
mad-bhāgya-samkṣaya 男 私の財産の消滅.
mad-BHū, 私と成る.
madya 形 (因) 喜ばせる, 元気を与える, 酔わせる. 甲 酒精飲料, とくにブランデー酒; 酒 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Prāt-m.*, *Śiks.*, *Sūtr.*, 梵千., 梵雑.; 飲酒 *Abh-vy.* 379; (音写) 末陀酒, 蒲陶酒 *Prāt-m.*, 玄応.; (音写) 末陀 *Bodh-bh.*, 玄応.; *prakṛti-sāvadyam* ~m 飲酒是性罪 *Abh-vy.* 379.
madya-kumbha 男 酒びん.
madya-kṣipta 形 酩酊 *Divy.*
madya-ghaṭa 男 酒甕 *Suv-pr.*
madya-pa 形 酒類を飲む; 樂酒者 *Śiks.* 男 大酒家.
madya-pāna 甲 酒類を飲むこと; 酒精飲料; 飲酒 *Abh-vy.*, *Mvyut.*; 酒 *Divy.*, *Śiks.*
madyapāna-virati 女 不飲酒, 離飲諸酒, 棄昏酔 *Mvyut.*
madya-bhāṇḍa 甲 酒類の容器.
madyamaya 形 酒からなる (*Jāt-m.*)
madya-misra 甲 酒雑 *Bodh-bh.*
madya-vikraya 男 酒の販売; 売酒 *Mvyut.*
madya-samsrṣṭa 甲 酒染 *Bodh-bh.*
madyākṣepa (°ya-āk°) 男 飲酒に耽溺すること.
madyāsattaka (°ya-ās°) 男 [人名].
madra 男 [ある住民の名] (種); *Madra* 族の国; *Madra* 国の王侯.
madraka 男 [ある蔑視された住民の名] (種); *Madra* 族の王侯; *Madra* 国の住民. 甲 [歌の一種].
madra-nābha 男 [ある混合種姓(階級)の名].
madra-pa 男 *Madra* 族の統治者.
madra-stri 女 *Madra* 族の婦女.
madrā 女 [*Gāndhāra-grāma* (音階)の第一 *Mūrchanā* の人格化]; [*Randraśva* の娘の名]; [河の名].
madrik 副 [= madyak] 私の方へ (RV.).
madrikā 女 *Madra* 族の婦女.
madyak (甲) 副 私の方へ (RV. 用例一回のみ).
madyaṅc 形 私の方へ向いた (RV. 用例一回のみ).
mad-vacanāt 副 私の名で, 私から.
madvat 1. 副 私のように, 私に関して.
madvat 2. 形 元気を与える (Br.); Mad 1. の派生語を含む.
madvan 形 喜びまたは酔におぼれる, 元気を与える (RV.).
mad-vidha 形 私のような, 私のような種類の.

mad-vihina 形 私から分離した。

madhavya 形 Soma (を飲む) 性向または資格のある (因)。

madhu 形 (因-u, -ū または -vi) 甘い, 美味の; 心地よい, 魅力のある, 好ましい; 漢訳 微妙 *Divy.* 男 [春季の最初の月の名 (= *Caira*, 三月一四月)], 春; [二人の *Asura* の名]; [Manu *Cākṣuṣa* 治下の七賢人の一]; [第三 Manu の息子の名]; [諸王侯および諸人の名]; [山の名]. 田 甘露, 蜂蜜酒, Soma (因); 牛乳, バター (因); 蜂蜜; 美酒 (因); 漢訳 蜜, 蘇蜜, 石蜜 *Bodh-bh., Dharm-s., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lan̄k., Mañj-m., Mvyut., Śikṣ., 梵雜.*; 蜜水(海) *Prāt-m.*; (音写) 末度漿 *Divy.*

madhuka 形 蜂蜜の色をもつ [locana (眼) とともにのみ]. 男 [樹の一種]; 漢訳 美果 立忘.; (音写) 摩頭, 末度迦 立忘. 田 かんぞう (甘草).

madhu-kara 男 蜜を作るもの, 蜜蜂; 漢訳 作蜜, 作成蜜, 蜂 *Lal-v., Mvyut.*

madhukaramaya 形 蜜蜂からなる.

madhukara-rājan 男 蜜蜂の王 = 女王蜂.

madhukarāya 名動 田 madhukarāyate 蜜蜂を表わす.

madhu-karikā 因 [人名].

madhu-karin 男 蜜蜂.

madhu-kari 因 雌蜂; [人名].

madhuka-locana 男 [(蜜色の眼をもつ), *Śiva* 神の称].

madhu-kāṇḍa 田 [*Bṛhad-āranyakopaniṣad* の第一 *Kāṇḍa* の名].

madhu-kānana 田 *Asura Madhu* の林 [*Yamunā* 河畔にある].

madhu-kāra 男 蜜蜂.

madhu-kāri 因 雌蜂.

madhu-kulyā 因 蜂蜜でみちた小川, 流れをなす蜂蜜; [*Kuśa-dvīpa* の河の名].

madhu-kṛt 形 甘味または蜂蜜を生ずる. 男 蜜蜂.

madhu-gandhika 形 快く匂う.

madhu-gandhin 形 蜜の香りをもつ.

madhu-cāru-mañju-svaratā 因 漢訳 (梵)音美妙 (具足)好 *Dharm-s.*

madhu-cchattra 男 (?) [(心地よい蔭をもつ), 樹の一種].

madhu-cchanda 男 [同下].

madhu-cchandasa 男 [聖仙の名]; [*Viśvāmitra* の百一子の中第五十一子の名; (種) その全兄弟達].

madhu-cyut 形 蜂蜜を滴らす.

madhu-cyuta 形 [同上].

madhu-ja 形 蜂蜜から生じた.

madhu-jihva 形 弁舌の巧みな, 心地よく話す (因).

madhu-taru 男 さとうきび.

madhu-trṇa 男 田 [同上].

madhutva 田 甘いこと.

madhu-digdha 形 漢訳 持蜜, 蜜塗 *Śikṣ.*

madhu-doham 總 (乳を搾って =) 蜂蜜を作って.

madhu-dviṣ 男 [*Viṣṇu* 神の称].

madhu-dhārā 因 蜂蜜の流れ; 美酒の流れ.

madhu-nādi 因 (蜂の巣の) 蜜房; [*Rg-veda III, 54. 55* の讃歌の称].

madhu-nirgama 男 春の過ぎ去ること.

madhu-pa 形 甘味または蜂蜜を飲む. 男 蜜蜂.

madhu-paṭala 男 蜂の巣.

madhu-pati 男 [*Kṛṣṇa* 神の称].

madhu-parka 男 蜂蜜の混和物 [客の接待品: 通常蜂蜜またはバターを混ぜた凝乳からなる]; これをもって客を歓待する儀式.

madhu-parkika 形 *Madhu-parka* を捧げる.

madhu-parṇikā 因 [種々の植物の名].

madhu-pavana 男 春風.

madhu-pātra 田 酒盃.

madhu-pāna 田 蜂蜜を飲むこと.

madhu-pāyasa 田 漢訳 乳漿 *Divy., Lal-v.*

madhu-pāri 因 酒盃.

madhu-pāla 男 蜂蜜の番人.

madhu-pura 田 (*Asura Madhu* の都市, *Mathurā*).

madhu-puri 因 *Madhu* 族の都市, *Mathurā*.

madhu-prapāta 男 蜜(を採集しつつある時遭遇した) 深淵.

madhu-prasaṅga-madhu 田 春に関連する蜂蜜.

madhu-psaras 形 蜜(ソーマ)を享樂する (*RV.* 用例一回のみ).

madhu-phāṇita-śarkara 男 漢訳 石蜜 *Lal-v.*

madhu-bhadra 男 [人名].

madhu-bhāṇḍa 田 酒盃.

madhu-bhid 男 [*Viṣṇu* 神の称].

madhu-bhuj 形 甘味または喜びを享受する.

madhu-makṣā 因 (蜜蠅), 蜜蜂.

madhu-makṣikā 因 [同上].

madhumat 形 甘い; 心地よい, 魅力のある; 蜂蜜を混和した; 蜂蜜に富む; madhu なる語を含む.

madhumati 因 [河の名]; [都市の名]; [*Asura Madhu* の娘の名]; [*Lakṣmī* の侍女の名].

madhu-matta 形 春に酔った. 男 [人名]; 田 [住民の名].

madhu-math 男 [*Viṣṇu* 神の称].

madhu-mathana 男 [同上].

madhu-mada 田 銘酩.

madhu-manta 男 [都市の名].

madhu-mantha 男 蜂蜜を混和した飲料.

madhumaya 形 (因 -i) 蜂蜜からなる; 蜂蜜のように甘い, 蜜で甘くした.

madhu-māmsa 田 蜂蜜と肉.

madhu-mādhava 男 田 田 [春季の二カ月の名 (= *Caitra* および *Vaiśākha*, 三月一五月)].

madhu-mādhavi 因 蜜の豊富な春の花; [興奮性飲料の一種].

madhu-māsa 男 春の暦月.

madhumāsa-mahotsava (°ha-ut°) 男 春の大祭.

madhumāsāvatāra 田 春の初め.

madhu-mura-naraka-viśāna 男 [(*Madhu*, *Mura* および *Naraka* なる *Daitya* を破滅させるもの), *Viṣṇu* 神の称].

madhu-maireya 男 蜂蜜酒.

madhu-yaṣṭi 因 さとうきび；かんぞう(甘草)；
 甘草 梵雑。
madhura 因 甘い；魅力のある，好ましい；流ちょうな(語)，調子のよい(音)；**漢** 甘，甘美，甜；美，妙，美妙，美(語)，和美，極美，微妙；軟，柔軟，柔順，軟和，調和 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*, *Sūtr.*, 梵千., 梵雑。
 因 親切な態度；**漢** 蜜，石蜜漿，蜜餞 *Divy.*, *Suv-pr.*；味 *Madhy-v.* 因 親切に。~m 因 愛らしく。男 [マメ科植物の一種]；[*Skandā* のある従者の名]；**漢** [Gandharva 王の名] 美 *Saddh-p.*
madhuraka 因 甘い。
madhura-kaṇṭhin 因 愛らしく歌う。
madhura-katha 因 **漢** 美妙言詞 *Bodh-bh.*
madhura-gātra 因 (因 -i) (容姿の) 優美な。
madhura-ghoṣa 男 **漢** 美樂 *Sūtr.*
madhura-cāru-mañju-svara 因 **漢** 音韻美好，音韻和暢，音韻和雅美妙 *Mvyut.*
madhuratā 因 甘いこと；魅力；親切，心のやさしいこと。
madhuratva 因 甘いこと；(声，談話の) やさしいこと，魅力。
madhura-nirghoṣa 男 **漢** 美妙音 *Gaṇḍ-vy.*；*Māra* の子の名] 美音，妙鳴，軟音 *Lal-v.*
madhura-pragita 因 心地よくさえずる。
madhura-bhāṣin 因 **漢** 美語，美言 *Bodh-bh.*
madhura-bhāṣin 因 快くまたは親切に話す。
madhura-madhura 因 **漢** 妙 *Av-s.*
madhuramaya 因 (因 -i) 甘美に満ちた。
madhura-rāvin 因 愉快に轟く(雲)。
madhura-vara 因 **漢** 美妙，深美 *Daś-bh.*
madhu-rasa 男 蜂蜜の汁；甘味，魅力。
madhurasamaya 因 (因 -i) 蜂蜜の汁に満ちた。
madhura-svara 因 美音を発する；流ちょうな(言葉)；**漢** 和音，柔順音，妙語 *Mvyut.*, *Saddh-p.* 男 **漢** [Gandharva 王の名] 美音 *Saddh-p.*
madhurasvara-nirghoṣa 男 **漢** 微妙音，微妙声 *Sukh-vy. I.*
madhurā 因 [都市の名，= *Mathurā*].
madhurākṣara 因 因 親切な言葉。因 快く響く，流ちょうな(言葉)。
madhurālāpa (°ra-āl°) 男 心地よいまたは旋律の美しい音調。
madhurā-vaṭṭa 男 [人名].
madhurāsvāda (°ra-ās°) 因 甘味の。
madhurita 過受分 甘くされた [また**漢**].
madhu-ripu 男 [(*Madhu* の敵)，*Viṣṇu* 神または *Kṛṣṇa* 神の称].
madhuriman 男 甘いこと [また**漢**].
madhu-ruha 男 [人名].
madhureśvara (°ra-iś°) 男 [*Lavana* または *Śatrughna* の名].
madhuropanyāsa (°ra-up°) 男 親切な呼びかけまたは言葉。
madhula 因 甘い (因).

madhu-lih 因 (一°) から蜜をなめた。男 (蜜をなめるもの)，蜜蜂。
madhuvat 因 蜂蜜のように。
madhu-vana 因 蜂蜜の林 [*Sugrīva* の林の名]；[*Yamunā* 河畔に在る悪魔 *Madhu* の林，ここに *Śatrughna* は *Mathurā* 市を建設した].
madhu-vāra 男 因 酒宴，酒盛り。
madhu-vidyā 因 [ある神秘説の名].
madhu-vidviṣ 男 [*Viṣṇu* 神または *Kṛṣṇa* 神の称].
madhu-vindu 男 **漢** 甘露 *Lal-v.*
madhu-vrata 因 常に蜜を生ずる (RV. 用例一回のみ)。男 蜜蜂。
madhuvrata-pati 男 蜂の王，女王蜂。
madhu-vrati 因 雌蜂。
madhu-śarkarā 因 蜜糖。
madhu-śiṣṭa 因 (蜂蜜の残り)，蜜蠟。
madhu-śesa 因 [同上].
madhu-ścut 因 甘味をしたたらすまたは流す。
madhu-ścuta 因 [同上].
madhu-śrī 因 [擬人化された] 春の栄光。
madhu-ṣyandin 因 蜜をしたたらす。
madhus 因 甘味 (因).
madhu-saṃdṛśa 因 愛らしく見える。
madhu-saṃbhava 男 **漢** 音写 [未来仏の名] 末度三幡 (仏) *Lal-v.* 因 [ある *Jina* の称]. (*Lal-v.*).
madhu-saṃmīśra 因 蜂蜜を混ぜた。
madhu-sarpis 因 因 蜜とバター油。
madhu-sahāya 男 春を伴侶とするもの，愛の神。
madhu-sūdana 男 [(悪魔 *Madhu* を破滅する者)，*Viṣṇu* 神または *Kṛṣṇa* 神の称]；[ある学匠の名].
madhusūdana-sarasvatī 男 [ある著者の名].
madhu-sena 男 [王侯の名].
madhu-syanda 男 [*Viśvāmītra* の息子の名].
madhu-srava 因 甘味をしたたらす。
madhu-svādu 因 **漢** 甘美 *Abh-vy.*
madhu-han 男 蜂蜜を集めるもの；[(悪魔 *Madhu* の殺戮者) *Viṣṇu* 神または *Kṛṣṇa* 神の称].
madhu-hantr 男 [*Viṣṇu* 神の権化としての *Rāma* の称].
madhūka 男 蜜蜂；[樹の一種，学名 *Bassia latifolia*]. 因 *Madhūka* 樹の花。
madhūka-cchavi 因 *Madhūka* の花の色をもつ。
madhūka-dāman 因 *Madhūka* の花環。
madhūka-mālā 因 [同上].
madhūcchiṣṭa (過受分) 因 (蜜の残り)，蜜蠟；**漢** 蜜濁，黄蠟 *Mvyut.*
madhūttha 因 蜂蜜から生じたまたはで作製した。因 蜜蠟。
madhūtsava 男 (*Caitra* 月の満月の日に行なう) 春の祭。
madhūdaka 因 蜂蜜水。
madhūdyāna 因 春の園。
madhūpaghna 因 (?) [都市の名，= *Mathurā*].
madhūlaka 因 蜂蜜，甘味。
madhūlikā 因 [蜜蜂の一種]；[穀類の一種]；[*Bassia latifolia* 樹の一種].

madhya 形 中の [罽 においては‘…の中央’ (例 *madhye samudre* 海の真中で)]; 中央の; なみの, 平凡な, 中位の; 中等の大きさの; 適度の, 中間の; 中性の [~ā vṛtti 罽 中道, 中庸]; 漢訳 中, 間, 中間, 中央 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sāmkhy-k.*, 梵雜. (罽) 罽 (身体の) 中央, (とくに 婦人の) 腰; 漢訳 腰 *Abh-vy.* 罽 中間, 中央; 内側, 内部; 極点; (罽) の中間の状態; [数の名] 一万兆 [koṭi, と *parārdha* との中間の数]; 漢訳 中, 中間, 間中, 中品, 中際, 中央, 仲 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*; 中道, 中道法 *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*; 中智 *Madhy-bh.*; 中人, 中輩 *Mvyut.*; ~syāntayoś ca …, 処中二辺, 中両辺 *Madhy-bh.75*; [数の名] 柿, 百載 *Mvyut.*; 音写 [数の名] 末陀 *Mvyut.*: ~ e *kalyāṇam* 中善 *Saddh-p.17.* ~m 罽 (罽, 一°) の中へ, …の中に, …の間に. 罽 (罽, 罽, 一°) の中に, …の中を通過して, …の中間に. 罽 (罽, 一°) の中から, …から, …の間から. 罽 中間において, …間に; (罽, 一°) の中間において, …の内に, …の中へ, …の間に. 一° [罽 または 罽 としつて用いられる]. ~e **Kṛ** 中央に置く, ……の媒介とする; (一°) の数に入れる. ~e-**krtya** (罽) に関して.

madhya-kaumudī 罽 [文典の題名=*Madhya-siddhānta-kaumudī*].

madhya-ga 形 (罽, 一°) の中間に動く, …の中にある, …の上または間に在る, …に含まれる, …の間に住する, …に共通な.

madhya-gata 形 (罽, 一°) の中間にある, …の中にまたは間にある; 漢訳 在 *Gaṇḍ-vy.*

madhya-cārin 形 (罽) の中間または間に動く.

madhyatas 罽 中間から, 中に, 中央に; (罽, 一°) から, …の間に; 中等の部類の.

madhyatā 罽 平凡; 漢訳 中品 *Bodh-bh.*

madhyatva 罽 漢訳 中品, 中者 *Bodh-bh.*

madhya-deśa 罽 中央の区域; 腰; 中部地方 [*Himālaya* 山脈と *Vindhya* 山脈との間に位し, 西は *Vinaśana*, 東は *Prayāga* に及ぶ国土]; (罽) *Madhya-deśa* の住民; 漢訳 中国, 中方之処 *Divy.*, 梵雜.; 中天竺国 *Divy.*

madhyadeśa-jambū-dvīpa 罽 漢訳 中国 *Aṣṭ-pr.*; (音写) 閻浮提中, 瞻部洲中国 *Aṣṭ-pr.*

madhya-deśīya 形 *madhya-deśa* に属するまたは住する.

madhya-deśya 形 [同上].

madhya-deha 罽 身体の中央.

madhya-dhātuka 形 漢訳 身中, 界中 *Mvyut.*

madhya-nagara 罽 都市の内部.

madhya-nihita 形 内側に置かれた.

madhyam-dina 罽 真昼, 正午; 昼のソーマ圧搾の祭儀 (*savana*).

madhyamdina-gata 形 正午に達した (太陽).

madhya-patita 形 中間に横たわる.

madhya-pada 罽 = *madhyama-pada*; 漢訳 中言, 中語 *Abh-vy.*, *Mvyut.*

madhyapada-lopa 罽 = *madhyama-pada-lopa*; 漢訳 [~m kṛtvā] 不言中語, 略去中言 *Mvyut.*

madhya-pāta 罽 交際.

madhya-prajñā 罽 漢訳 中慧, 中智, 中根之人 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*

madhya-praviṣṭa 形 こっそり他人の信頼を得た.

madhya-bhāga 罽 中央部; 腰. 罽 その中へ; (罽) の内に.

madhya-bhāva 罽 適度の距離.

madhya-bhāvanā 罽 漢訳 中位修, 中行修, 中(行)修 *Madhy-bh.58.*, *Madhy-vibh.*

madhyama 形 (最上) もっとも中央の, 中間に位した; 中央にある, 中央の; 中位の種類または力の, 中位の大きさの, 中位の, 平凡な, 適度の; *中立の; 漢訳 中, 処中 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*: ~ā *pratipad* 中道, 中道(行), 中道(義), 中行道 *Bodh-bh.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.* 罽 = *Madhya-deśa*; 中部 [=音階中の第四または第五音]; [三音階中の中央のもの]; 中位国の君主; 第二人称(文法); 漢訳 [音階の名] 中令, 中婦. 罽 罽 身体の中央部, 腰. 罽 中央; 子午線.

madhyamaka 形 (罽 -*ikā*) (罽) に共通な. 罽 内部. ~m *pra-Viś* 入り込む.

madhyama-kakṣā 罽 中央の中庭.

madhyamaka-vṛtti 罽 = *mādhyamika-vṛtti* (*Madhy-v.*).

madhyamakāvatāra 罽 [仏典の名] (*Madhy-v.*).

madhyamakāvatāra-prakarāṇa 罽 [仏典の名] (*Madhy-v.*).

madhyama-jāta 形 中間に生まれた (息子).

madhya-mandira 罽 女陰; 肛門.

madhyama-pada 罽 (合成語の) 中間語 (文語).

madhyamapada-lopa 罽 (合成語の) 中間語の省略 (文法), [例 *śāka-priya-pārthiva* (蔬菜を愛する王を省略して *śāka-pārthiva* というように)].

madhyamapada-lopin 形 中間の語を省略した (合成語).

madhyama-puruṣa 罽 [擬人化の一種]; 第二人称 (文法); 漢訳 中男, 中男子 *Mvyut.*

madhyama-pūruṣa 罽 平凡な人.

madhyama-pratipad 罽 漢訳 中道, 中行 *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*

madhyamapratipad-anusārin 形 漢訳 順入中道 *Bodh-bh.*

madhyama-bhāva 罽 適度の距離.

madhyama-yāna 罽 中道, 悟りに導く中庸の道(仏教)

madhyama-rātra 罽 夜半.

madhyama-loka 罽 中間の世界=地上.

madhyamaloka-pāla 罽 大地の保護者, 王.

madhyamalokendu (°ka-in°) 罽 大地の月, 王.

madhyama-vayasa 罽 中年.

madhyama-sāhasa 罽 中位の罰金, 中位の犯罪にする刑罰.

madhyama-svara 罽 中位の音程. 罽 中音をもつ発音された.

madhyamā 因 中指。
madhyamāgama (°ma-āg°) 男 經の名] 中旨 (音写) 中阿笈摩, 中阿含經 *Mvyut.*
madhyamāṣṭakā 因 *Māgha* 月の黒半月の第八日。
madhyamika 男 覆 [恐らく正しくは mā°] [仏教学派の名]。
madhya-rātra 男 夜半。
madhya-rātri 女 [同上]; 中夜 梵雑。
madhya-rekhā 女 中央の線 [*Laṅkā, Ujjayini, Kurukṣetra* およびその他の場所から *Meru* 山に引かれたと想像される]。
madhya-vayas 形 中年の。
madhya-vartin 形 (一°) の中央・内部 または 中間にある。
madhya-vibhāga 男 弁中辺, 分別中 *Madhybh. 75.*
madhya-śarira 形 適度に肥満した。
madhya-śāyin 形 内部に横わる。
madhya-siddhānta-kaumudī 女 [*Siddhānta-kaumudī* の中形摘要本の題名 (*Varadarāja* 作)]。
madhya-stha 形 中央にある; 空中にある; 内部にある; (圖, 一°) の内部または中間にある; (圖) の中間を占める; 中間の; 無關心の, 不偏の, 中立の, 中間に立った (=いづれにも属さないまたは両党に属する (土地等)); 処中者, 処中住者; 中現, 中庸, 為性中平無有阿曲 *Bodh-bh., Divy., Guhy-s. : maṇḍala ~ 曼拏羅中現 Guhy-s. 49.*
madhya-sthatā 女 無關心; 不偏不党; 心平 *Buddh-c.*
madhya-sthala 因 中央部, 譬部。
madhya-sthāna 因 中央の場所, 大氣。形 処中者, 処中住者 *Bodh-bh.*
madhya-sthita 形 (圖) の中間に在る; 無關心な。
madhya-sthitatā 女 無關心。
madhya-svabhāva 男 中平 *Buddh-c. 12.*
madhyā 男 副 (RV.) (圖) の中間に, その間に。
madhyākṣara-lipi 女 中間字書 *Lal-v. ; (音写) 末荼叉羅書, 末提惡羅刹書 Lal-v.*
madhyāṅguli 因 中指; 中指 *Mvyut.*
madhyāditya (°ya-ād°) 男 正午の太陽。~gate 'hani 正午。
madhyānta 男 中際 *Bodh-bh.*
madhyānta-vibhāga 男 [書名]; 弁中辺 (境), 分別中道及二辺 *Madhy-bh. ; 弁中辺論, 中辺分別論 Madhy-bh. ~ kārikā-bhāṣya 因 同上 Maddy-bh. ~ bhāṣya 因 分別中辺論, 中辺分別大乘論 Madhy-bh.*
madhyāntavibhāga-ṭikā 女 [仏典の名, *Sthiramati* 作]。
madhyāntika 男 [仏教の阿羅漢の名]。
madhyā-varṣa 因 雨季の中間。
madhyāhāriṇi-lipi (°dhya-āh°) 女 中御書, 中流 *Lal-v. ; (音写) 末提訶尼書, 末荼婆晒尼書 Lal-v.*
madhyāhna 男 正午; 日中, 午時, 昼中分 *Bodh-bh., Mvyut., 梵雑.*
madhyāhna-kāla 男 正午。

madhyāhna-kāla-samaya 男 日中, 日中分, 日中時分, 中日分時, 中時 *Ast-pr., Śiks., Sukh-vy. I., Vajr-pr.*
madhyāhna-velā 女 = *madhyāhna-kāla.*
madhyāhna-samaya 男 [同上]。
madhyāhna-savana 因 日中のソーマ压榨の祭儀。
madhye-jāṭharam 副 身体の中央に。
madhye-nagaram 副 都市の内に。
madhye-nadi 副 河の中にまたは中へ。
madhye-nareśvara-sabham (°ra-iś°) 副 諸王侯の集会の中において。
madhyendriya (°ya-in°) 形 中根, 有中根 *Bo-dh-bh., Mvyut.*
madhye-padma 副 蓮華の内に。
madhye-prṣṭham 副 背中に。
madhye-raṇam 副 戦闘において。
madhye-rathyam 副 街道の真中に。
madhye-vāri 副 水中に。
madhye-vindhyāṭavi 副 *Vindhya* の林において。
madhye-vindhyāntar 副 *Vindhya* の中央において。
madhye-vyoma 副 空中において。
madhye-sabham 副 集会において, 公けに。
madhye-samudram 副 海の中央において。
madhva 男 [南インドの *Vaiṣṇava* 派の開祖の名]。
madhvaka 男 蜜蜂。
madhv-akṣa 形 蜜色の眼をもつ。
madhva-guru 男 = *Madhva.*
madhvācārya (°va-āc°) 男 [同上]。
madhv-āpāta 男 (最初には) 蜜(享樂)をうること。
madhv-āsava 女 蜂蜜 (から作る) 酒。
madhv-āhuti 女 蜂蜜等の甘い物を供物として捧げること。
Man, 1. 目 *manate* (因); VII. 目 *manute* (因) [圖には まれに]; IV. 目 [時として 他 韻律] *manyate* (因, 圖) 考える, 信ずる, 想像する, 空想する, 推測する; ...を信ずる, 確實またはありそうであると見なす; (圖) を (圖) であると思う, 見なす, 理解する [賓辞は 時として *iva, -vat* または その他の 副 とともに]; (輕蔑的に: 圖, 圖) に等しいと見なす; 自己を (因) [時として *iva* とともに] であると思う, 困と考えられる, ...と見なされる, ...と評価される, ...と認められる; 意見をもつ, 適當と考える, 承認する; 考慮する, 尊重する, 尊敬する, 崇敬する [*na ~*: 無視する, 蔑視する]; 想到する, 願望する, 熱望する, 志す (因); (祈禱等において) (圖; 時として 圖) を思念する, ...を記憶する, ...を挙げる (因); 案出する (因); (圖; 因) はまた (圖) を知覚する, 認める, 学ぶ, 知る, 理解する; 念, 作念, 作想, 意, 思意, 意起, 意謂然, 謂, 興心; 思量; 欲, 願恋; 知, 識; 能解; 觀 *Abh-vy., Ast-pr., Divy., Kāśy., Lal-v., Laṅk., Madhy-v., Mvyut., Saddh-p. ; 侍怙, 侍執, 執, 執著 Abh-vy., Ast-pr., Suvik-pr. ; 矜, 慢, 高慢, 高, Abh-vy., Ast-pr., Sūtr. : vinetavyam manyeta* 欲度, 欲調伏 *Ast-pr. 374. bahu ~ 重んずる, 非常に尊重する, 高く尊敬する. laghu ~ 輕視する, 軽く*

評価する. *sādhu* ~ 十分に考慮する, 十分に重んずる, 承認する, 称讃する. *manye* 私は…であると思う[しばしば文章中において前後の構成に影響しないで挿入される]. 過受分 *mata* (困, または 圃) と考えられた, 見なされた, 思われた, 評価された; 承認された, 認可された, 十分に考慮された; (圃) によって尊重された, 尊敬された, 好遇された; (一°) によって高く評価された; 意図された; 臆測された; 知られた. 使役 他 (自) *mānaya* (-te) 尊敬する; …に敬意を払う; 敬重, 尊敬, 讃歎 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.* 使役 過受分 *mānita* 尊敬された, 重んぜられた. 希求 自 (他) *mimāṃsate* (-ti) 熟慮する, 考える, 調査する, 試験する, 研究する; (因) に関して疑いをはさむ, 疑う; 観察, 試, 議論 *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.* 希求 過受分 *mimāṃsita* 熟慮された; 疑われた(人).

ati- 軽んずる, 蔑視する (因).

adhi- 尊重する, 尊敬する; °*manyati*(-te) 軽蔑する (弘教); 輕慢 *Kaśy.* 39.

anu- 一致する, 同意する; 承認する; 認容する, 許容する; 許可する; 認許する; (不定) することを許す; (因) に (業) を許すまたは与える; …を是認する, 従う; (因) のために (業) に認可を与える, またはを許す, (業) に (業: 現分 または 困分) することを許す; (業) を赦す; [na *anu-Man*] 軽く考える, はねつける, 無視する. 過受分 *anumata* 承認された等; (一°) によって認容された または 認められた; (圃) によって許された; 容れられるべき; 従われた; [男 愛人]. 使役 *anumānaya* (-te) (業) の許可を乞う, 出発の許可 (業) を乞う, (業) に別れを告げる; (業) を求める; 尊敬する, 重んずる; 考慮に入れる, 顧慮する (*Jāt-m.*). 希求 *anumimāṃsate* (-ti) 結論する, 推量する.

sam-anu- 一般に (業) を (業) と認める. 過受分 *samanumata* (圃) の一般的是認のある. 使役 = *anu-Man* (*Jāt-m.*).

apa- 使役 *apamānaya* (-te) 蔑視する.

abhi- 得たいと思う, 望む, 欲する, 貪る; 愛好する, 好む; 害したいと思う, おびやかす; 殺す; (業) を是認する, …に同意する; (あること: 分の業) がなされようとすることを認める; (業) を (圃) の自由に委ねる; 空想する, 想像する; (業) を信ずる, …と仮定する; (業) を (業) または *-tra* で終る 圃 因 の業 または (圃) と見なす. 過受分 *abhimata* 熱望された, 親愛な; 願わしい, 快い; 是認された, 許容された.

ava- …を見下す, を軽く考える, 無視する, 軽蔑する, 軽視する; 輕蔑, 輕陵, 輕弄, 輕易, 輕弄毀蔑, 輕易惡賤, 陵蔑, 凌蔑; 生驕慢, 生憍慢 陵蔑, 懷驕慢 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Rāṣṭr.*: *na cainam avamanyate* 亦不輕陵令心退没 *Bodh-bh.* 254. 因 *avamanyate* 輕蔑される. 過受分 *avamata* 無視された, 輕視された; 忌み嫌われた. 使役 *avamānaya* (-te) 輕蔑する, 輕視する; 無視する; 輕毀 *Bodh-bh.*

abhy-ava- 侮蔑する.

prati- 使役 *pratimānaya* (ある人を) 尊敬する; (あるものを) 尊重する; 好意をもって受け入れる; 顧慮する; (圃) をもって (圃) に報いる (*Jāt-m.*). *vi-* 識別する; 藐視, 分外殺 *Mvyut.* 過受分 *vi-mata* 輕蔑された, 輕視された; 任意の, ある, 各各の. 使役 *vimānaya* 輕蔑をもって取扱う, 輕蔑する; 輕慢; 嫌; 欺 *Kaśy.*, *Lal-v*; 行罰 *Śikṣ. aparāddham vimānaya* 行酷罰 *Śikṣ.* 156.

saṃ- 考える, …という意見である; (圃) を (圃) と見なすまたは考える; 意図する; 尊重する, 尊敬する. 過受分 *saṃmata* (圃) によって尊重された, 尊敬された; (圃, 一°) によって是認された; (一°) と台致した; 認可された: *yuṣmākaṃ yadi saṃmatam* もし汝らが承認または同意すれば. 使役 *saṃmānaya* 尊敬する, 重んずる; (圃) に (圃) を保証する.

abhi-saṃ- 過受分 *abhisammata* (一°) によって尊敬または尊重された.

mana, °— = *manas.*

mana-āpa 形 心を奪う, 魅了する, 美しい; 可愛, 愛樂, 可意, 如意, 悅意, 欽仰, 好 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.* → *manāpa.*

manaḥ-Kṛ, → *manas.*

manaḥ-kṣepa 男 心の混乱.

manaḥ-kṣobha-kara 形 心を動揺させる.

manaḥ-pūta 形 心の清い.

manaḥ-pra-Kṛ, → *manas.*

manaḥ-praṇita 形 心にいとしい.

manaḥ-pradoṣa 男 惡意 *Sūtr.*; [=°*pradveṣa*] 瞋心, 意憤, 意憤恚 *Vijñ-v.* 10.

manaḥ-prasāda 男 心の静穩または沈音.

manaḥ-priya 形 心にいとしい.

manaḥ-pṛiti 女 心の満足, 喜び.

manana 甲 思惟, 思考, 熟慮; 敬意; 思量 *Madhy-vibh.*, *Vijñ-t.* → *a* ~.

manana-yukta 形 敬意をもって仕える.

mananavat 形 [同上].

mananā 女 微細分別 *Gaṇḍ-vy.*

mananiya 未受分 尊重されるべき.

manavate 動 [Man の 現 圃 圃 圃].

mana-varjita 形 離心 [= *mano-v°*] 離(心)意, 離意 (識) *Lank.* 149, 324.

mana-vijñāna 甲 意識 [= *mano-v°*] 意識 *Lank.* 323, 350.

manaḥ-sāma 男 心の平静

manaḥ-sīla 男 甲 韻律 [同下].

manaḥ-silā 女 赤砒素; 雄黃 *Mvyut.*, *Suv-pr.*; 音写 末捺摩羅 *Suv-pr.*

manaḥ-sighra 形 思惟のように速かな.

manaḥ-sūka 甲 心の悩み, 苦勞 (*Divy.*).

manaḥ-śaṣṭha 形 意識を第六(感覺)とする.

manas 甲 (広い意味における知的作用ならびに情緒のよりどころとしての) 心, 内的器官; 理解力, 知力; 精神, 心情; 良心; 思想; 概念; 想像; 思考, 熟慮; 意向, 欲望, 意志; 気分, 性向; [哲学諸体系においては *manas* は *ātman* と区別され, その単なる器官

に過ぎずしかも (Nyāya を除いて) 滅すべきものと
考えられる]; [しばしば 不定 -tu とともに 形 一° と
して用いられる: ...したいと願うまたは欲する; 例
prazṣtu ~ 質問したいと思う]; 意, 意識, 意念,
心意, 心, 心識, 識, 知 Abh-k., Abh-vy., Lan̄k., Ma-
dhy-bh., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-
p., Saṃkhy-k., Sūtr., Vaiś-s., Vijñ-v., 梵千.,
立心.; (音写) 染末那 Madhy-bh. 音写 末那 Madhy-
vibh., Vijñ-t., 立心. → ātta~. ~Kṛ 決心す
る, 決意する; (自己の) 心または感情を(圖)の上に固
定する; 思考を(圖, 形, prati, 不定)に向ける, ...
を考える; 思惟, 如理思惟, 観 Bodh-bh., Ma-
dhy-bh., Sūtr. ~pra-Kṛ 思考を(圖, 形, prati,
不定)に向ける, ...を考える. ~DHā [同上]. ~
DHṛ [同上]. ~niveśaya (ni-Viś) (便覆) [同上]. ~
Bandh [同上]. ~vi-DHā [同上]. ~sam-ā-DHā
気をとりなおす, 落ち着く. 圓 ~ā 心をもって; 思考
または想像において; 衷心から, 欣然として; (圖) の
許可によって. ~eva (~ā iva) 直ちに, たちど
ころに. ~ā Man 自己の心において考える+なわち志
す. ~ā Gam 心の中で行く=想像する, 回想する,
~ā sam-Gam 同意する. ~i Kṛ 記憶する, 熟
慮する; 念, 思念, 憶念, 作念, 作意, 作想,
思惟, 心忍, 作意思惟 Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh.,
Lan̄k., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sukh-vy. I, II.,
Vajr-pr., Vin.; 總持 Mvyut. → yoniśas (yoniśo
~). 過受分 ~i-kṛta. ~i ni-DHā 心に印象づけ
る, 心にとどめる; 瞑想する. ~i Vṛt (自己の) 心
に起る.

-manasa 中 =manas.

mana-saṃvara 男 [=naḥ-s°] 漢訳 意戒 Madhy-v.
289.

manasā 女 [ある女神の名]; [ある Kimnara 女の名]
(Kār-vy).

manasi-karaṇa 中 漢訳 正思惟, 作意思惟, 正思量,
如理思惟, 作意, 思, 観察 Abh-vy., Madhy-bh.

manasi-kāra 男 留意 (Lal-v.); 漢訳 思, 思惟, 思
量, 想, 心, 意, 作意, 意念, 念, 正念, 憶念, 正
念思惟, 作意正念思惟 Abh-vy., Ast-pr., Gaṇḍ-vy.,
Madhy-bh., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut.,
Saddh-p., Sapt-pr., Suv-pr., Sūtr.; 方便 Sūtr.;
不忘失 Gaṇḍ-vy.: deśa ~ 念方処 Ast-pr. 511; rā-
ja ~ 念王事 Ast-pr. 512.

manasikāra-pratipatti 女 漢訳 作意正行, 思量修行,
思惟(修)行, Madhy-bh., Madhy-vibh.

manasikāra-vikṣepa 男 漢訳 下意散乱, 作意散乱,
思惟散動 Madhy-bh., Madhy-vibh., Sūtr.

manasi-Kṛ, → manas.

manasi-kṛta 形 漢訳 思惟, 作意思惟, 善観 Bodh-
bh., Saddh-p., Sapt-pr.

manasi-kriyā 女 漢訳 憶, 思惟 Madhy-bh., Sūtr.

manasi-ja 男 (心に生じた), 愛, 情欲; 愛の神; 月
(太陰).

manasija-taru 男 樹として考えられた愛.

manasija-ruj 女 愛の苦痛.

manasi-ni-DHā, → manas.

manasi-manda-ruj 女 愛の苦惱.

manasi-Vṛt, → manas.

manasi-śaya 男 (心に横わる), 愛; 愛の神.

manaska 中 [manas の 指小]. 形(一°)その上に心
または思想を固定した. → ātta~.

manas-karman 中 漢訳 意業 Ast-pr., Bodh-bh.,
Gaṇḍ-vy., Mvyut.

manas-kānta 形 心にいとしい, 楽しい, 快い.

manas-kāra 男 心の作用; 漢訳 意, 作意, 思, 思惟,
思忖, 思量心, 覚, 念, 正念 Abh-k., Abh-vy.,
Bodh-bh., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Sa-
ddh-p., Śikṣ., Sūtr., Vijñ-t. → a~.

manaskāra-vidhi 男 祈念 (Jāt-m.).

manas-īKṛ, → manas.

manas-kṛta 過受分 → Kṛ 1.

manas-keta 男 心的映像, 概念, 思想.

manas-kriyā 女 漢訳 思惟, 思量, 憶 Madhy-vibh.,
Sūtr.

manas-tāpa 男 精神的苦痛, 心の苦惱, 苦悶; 悔恨.

manasya 名動 manasyati (-te) (因) 記憶する; 考
える.

manasvat 形(因) 元気のよい.

manasvitā 女 英知, 知恵.

manasvin 形(女 -ini) 知恵のある, 賢い; 気嫌のよ
い, 楽しい, → a~. 男 漢訳 [竜王の名] 聡慧,
具威 Mvyut.; 音写 那斯, 摩那斯 Lal-v., Saddh-
p., Sam-r.

manasvini 女 [月(太陰)の母の名]; [Mṛkaṇḍu の妻
の名].

manaḥ-saṃvara 男 心の制圧 (Lal-v.); 漢訳 意戒,
護意 Lal-v., Sam-r.

manaḥ-saṃsparśa 男 漢訳 意触 Ast-pr., Bodh-bh.

manaḥsaṃsparśa-ja 形 漢訳 意触所生 Bodh-bh.:

~āyām vedanāyām 意触所生(諸)受 Ast-pr. 140.

manaḥ-saṃkalpa 男 心の欲望.

manaḥ-saṅga 男 心の執着, (愛人を) 絶えず思うこ
と (恋愛の第二段階).

manaḥ-saṃcetanāhāra (°na-āh°) 男 漢訳 思食, 意
思食 Mvyut. → āhāra.

manaḥ-saṃtāpa 男 心の苦痛, 苦悶.

manaḥ-sam-ā-DHā → manas.

manaḥ-samunnati 女 高潔な心をもつこと.

manaḥ-saṃṛddhi 女 心の満足.

manaḥ-sahita 形 漢訳 意俱(生), 所与意等俱, 共意
Lan̄k.

manaḥ-sukha 形 心に適った, 美味な. 中 心の喜び.

manaḥ-sucaritam 副 漢訳 修意妙行 Ast-pr.

manaḥ-stha 形 心に宿る, 心の.

manaḥ-sthiti 女 漢訳 心安定 Buddh-c.

manaḥ-sparśa 形 心に触れる.

manaḥ-sprhā 女 漢訳 (五) 欲 Divy. 422.

manaḥ-svāmin 男 [ある婆羅門の名].

manaḥ-svāsthya 中 健全な精神.

manā 女(因) 欲望, 熱心, 専念; 嫉妬.

manāk 副 少し, 幾分, 僅かに; 直ちに, 非常に早く,
即刻; 唯: na~, na~g api, ~g api na 少しも

…しない. na~〔過受分〕および api とともに〕ほとんど
 〔例〕~g asmi na pātitaḥ 私はほとんど倒され
 そうになった〕. kālam~ 暫時.
 manāga, [manāpa の誤] (Lal-v.).
 manāpa (°na-āpa) 形 [=mana-āpa] 漢訳 可意, 悦可
 意, 適可其心, 可喜, 歡喜, 愛, 所愛, 有好, Bo-
 dh-bh., Gand-vy., Rāṣṭr. → a~.
 manāpa-karaṇa 形 (女 -i) 漢訳 適悦 Sikṣ.
 manāpa-vacana 中 漢訳 愛言, 愛語 Bodh-bh.
 manāya 名動 細 manāyati (RV.) 熱心である, 專
 念する; 熱慮する, 思う.
 abhi- 自 abhimanāyate 安心する, 落着く; 欲求
 する.
 manāyatana (°na-āy°) 中 漢訳 意処, 意入, 境界
 Mvyut.
 manāyu 形 (RV.) 專念する, 祈る.
 manīṣṭhakā 女 漢訳 拳 (?) Mvyut.
 manimuṣa-grāma 男 [村邑の名].
 manīṣā 女 (因) 熟慮; 概念; 理解; 靈感(による発言),
 讃歌; 祈禱, 願望.
 manīṣikā 女 理解, 知恵; 期待.
 manīṣita (名動) 過受分 願われた, 望まれた, 乞われ
 た; 貴重な. 中 願望, 欲望.
 manīṣita-varṣin 形 願われた事物を雨降らす.
 manīṣitā 女 知恵.
 manīṣin 形 思慮のある, 賢い, 靈感ある; 祈禱する,
 敬虔な (因); 漢訳 智者, 慧者, 智慧者 Buddh-c.,
 Lanik.
 manu 形 賢明な (因). 男 人, [集合的に]人類 (因);
 思想 [因 精神力]; 祈禱, 呪文; [ある神性の者の名,
 人類の始祖; これに適用される多くの 父系] の中も
 っとも普通なものは Vaivasvata, Svāyambhuva お
 よび Hairanya-garbha である. Veda 以後の年代論
 においては七 Manu が仮定され, 各々一宇宙世期
 (manvantara) を支配しその期間中万物の創造者な
 るに維持者となるという, なお後代にはこれに更に
 七 Manu が加わる]; 漢訳 音写 魔筭 Buddh-c.
 manu-ja 男 (Manu から生じた), 人, 人間; 漢訳 人,
 人民 Daś-bh., Lal-v., Madhy-v., Saddh-p., Sikṣ.,
 Sātr.; (因) 世間 Sikṣ.; 意生 Mvyut., Sikṣ.; 舍特
 所生 [舍特は Tib. śed の 音写] Mvyut.
 manu-ja-nātha 男 人間の主, 王, 王侯.
 manu-ja-pati 男 [同上].
 manu-ja-loka 男 人間の世界, 大地.
 manu-ja-vyāghra 男 (虎のような人間), 偉大な人.
 manu-jā 女 女性, 婦人.
 manu-jāta 男 人間.
 manujātma-jā (ja-āt°) 女 人間の娘.
 manujādhipa 男 人間の王.
 manujādhipati 男 [同上].
 manu-jī 女 = manu-jā.
 manuji-Kr, 人間に変える.
 manujendra (°ja-in°) 男 人間の主, 王.
 manujendra-putri 女 王女.
 manujeśvara (°ja-iś°) 男 人間の主, 王.
 manu-yuga 中 一 Manu の支配する期間 [=311, 040,

000年].
 manur-hita 形 人々に対して親切なまたは有益な
 (RV.).
 manu-vṛta 形 人々によって選ばれた.
 manu-vyāghra 男 (虎のような人間), 偉大な人.
 manu-śreṣṭha 最上 人間の中でもっとも勝れた, [Vi-
 śnu 神の称].
 manuṣa 男 人間 (RV.).
 manuṣa-bhūta 中 漢訳 人身 Sūtr.
 manuṣya 形 (因) 人の; 人々に適当な; 人類に対し
 て好意のある. 男 人間; 男; 夫; 因 人類の祖
 先 [祖霊の一群で Pinda 供儀を受けるもの]; 漢訳
 人, 丈夫, 人身, 人類, 人民, 世人, 国人, 土人
 Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Lanik., Madhy-v., M-
 vyut., Saddh-p., Sikṣ., 梵千; 音写 末奴沙, 摩菴沙
 玄応. → a~.
 manuṣya-kāya 形 人の体をもつ.
 manuṣya-kāra 男 人間の努力.
 manuṣya-gati 女 漢訳 人趣, 成人者 Mvyut.
 manuṣyagati-parigṛhita 形 漢訳 人趣所撰, 凡被人
 所知者 Mvyut.
 manuṣya-gandha 男 人間の匂い.
 manuṣya-janman 形 人間から生まれた.
 manuṣya-jāta (過受分) 中 人類.
 manuṣya-jāti 女 [同上].
 manuṣyatā 女 人間の状態; 人たること.
 manuṣyatva 中 人間の状態; 人たること; 漢訳 人性,
 人身 Abh-vy., Bodh-bh. ~m Yā 人間となる.
 manuṣyatva-sampad 女 漢訳 人性具足 Bodh-bh.
 manuṣya-deva 男 人中の神=婆羅門 (因) または王.
 manuṣya-dharman 男 [Kubera 神の称]; 人間 (Jāt-
 m.).
 manuṣya-puṣpa 中 漢訳 人華 Saddh-p.
 manuṣya-pota 男 小さい男児.
 manuṣya-prakṛti 形 人間から生じた.
 manuṣya-pratilambha 男 漢訳 得人身 Sikṣ.
 manuṣya-bhāva 男 漢訳 丈夫体 Bodh-bh.
 manuṣya-bhūta 形 漢訳 人, 人身, 人性具足, 於人
 中 Bodh-bh., Lal-v., Sūtr.
 manuṣya-yajña 男 人間に対する祭式 [五種の Ma
 hā-yajña の一]=賓客の歓待.
 manuṣya-ratha 男 人間の車.
 manuṣya-rāja 男 人間の王; 漢訳 国王 Suv-pr.
 manuṣya-rājan 男 [同上].
 manuṣya-rūpa 中 人間の形.
 manuṣya-loka 男 人間の世界; 漢訳 人間, 人世界
 Bodh-bh., Saddh-p.
 manuṣya-vis 女 人類.
 manuṣya-visa 中 [同上].
 manuṣya-visā 女 [同上].
 manuṣya-sambhūta 形 漢訳 生在人中 Suv-pr.
 manuṣya-sākṣya 中 証人として人々の出席すること.
 因 証人たる人々の前において.
 manuṣya-hina 形 漢訳 下賤人 Sukh-vy. I.
 manuṣyājāneya (°ya-āj°) 男 漢訳 善士 Suvik-pr.
 manuṣyātikrānta 形 漢訳 人間所無 Lal-v.

manuṣyāmanuṣya 男 園 人間および人間でない者
(*Sukh-vy. I.*) 人非人 *Bodh-bh.*
manuṣyendra (°ya-in°) 男 人中の最上者; 人帝
Suvik-pr.
manuṣyendra-bhūta 形 王, 人王 *Lank.*
manuṣyeśvara (°ya-iś°) 男 人間の主, 王.
manuṣvat 男 (因) 人間のように, 人間として, 人々
の間におけるまたはのためのにように; *Manu* のよ
うに.
manu 男 (因) 人間; 人類; 男.
manu-saṃhitā 因 *Manu* の法典.
manu-smṛti 因 *Manu* の法典.
manendriya (°na-in°) 男 意根 *Bodh-bh.*, *Mv-*
yut., *Saddh-p.*, *Suv-pr. 49.*
mano-gata 形 心中におこる, 心中に隠された, 秘密
の. 男 思想, 観念, 意見; 欲求, 願望.
mano-gati 因 (心の動き), 欲求, 願望; 意趣,
意境界 *Lank.* 形 意のままに行く, 人の望むどこへ
でも行く(車).
mano-grāhin 形 心を捉える, 魅する.
mano-grāhya 形 心に捉えられるべき, 魅力のある.
mano-glāni 因 意気消沈.
mano-ghna 形 おどす.
mano-ja 男 (心に生じた), 愛, 愛の神.
mano-janman 男 [同上].
mano-jalpa 男 (意語), 想像 (*Mvyut.*); 意言,
意言分別, 意解, 念, 慮 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*,
Vijñ-t.
mano-java 男 思考の迅速 (因); [*Anila* (風) の息子
の名]; [*Rudra Īśāna* の息子の名]; [第六 *Manva-*
ntara における *Indra* 神の名]; [*Medhatithi* の息
子の名]; [ある馬の名]; [呪術の一種] 呪, 速
念 *Divy. 53, 636.* 形 思考のように迅速な.
mano-javas 形 [同上 (形)] (因).
manojava-sadṛśa 形 迅疾如意, 速疾如意 *Lank.*
manojavā 因 [魔力の一種] (*Divy.*).
mano-javin 形 =mano-java (形).
mano-javiṣṭha 最上 (接詞) 思考のようにきわめて速
い.
mano-jāta 形 心に生じた.
mano-jighra 形 (ある人の) 思想を(嗅ぐ) = 推測する.
mano-jū 形 思考のように速かな.
mano-jña 形 (心に感知された), 心に適った, 快い,
美しい, 愛すべき, 魅力のある; 喜, 意喜,
喜悦, 可意, 適意, 悦意, 悦可意, 如意, 意楽, 熙
怡, 好, 愛, 可愛, 愛楽, 可愛楽; 妙, 微妙; 和雅,
仁和 *Abh-vy.*, *Ast-pr.*, *Av-s.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*,
Divy., *Gand-vy.*, *Madhy-v.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*,
Saddh-p., *Sam-r.*, *Sikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.*
[*Gandharva* 王の名] 楽 *Saddh-p.* → a~.
manojña-kṣetra 男 意楽国 *Saddh-p.*
manojña-gandha 男 好香, 妙香, 名香 *Gand-*
vy., *Saddh-p.*
mano-jñatā 因 美しいこと, 愛らしいこと.
manojña-nirṇāda-svara 男 [Kimnara の名] 声
音如意 *Mvyut.*

manojña-ruta 男 美音 *Sikṣ.*
manojñaruta-siṃha-dhvaja 男 [Gandharva の
名] 如意獅子音声幢 *Mvyut.*
manojña-rūpatā 因 形色可愛楽 *Bodh-bh.*
manojña-śabdābhigarjita 男 [Kalpa の名] 妙
音偏滿 *Saddh-p.*
manojña-svara 男 [Gandharva の名] 楽音
Saddh-p.
mano-jvara 男 心痛.
manotā 因 [因として取り扱われた *manotr* の 因
圍, (*manotā* なる語を含む) *Rg-veda VI, 1.* の称];
Manotā 讃歌を誦する間に供物が捧げられる神.
manotr 男 [Man の 因 轉 *manu* から] 工夫する者,
発明者; 分与者 (因).
mano-dāṇḍa 男 思想を完全に支配すること; 意罰,
心重罰 *Vijñ-v.*
mano-duḥkha 男 精神的苦痛, 心痛.
mano-duścārīta 男 意悪行, 意罪 (三) 業
Mvyut.
mano-duṣṭa 形 想いの不純な.
manodbhava (°na-ud°) 形 從於意生 *Lank.*;
(音写) 依末那起 *Lank.*
manodyama (°na-ud°) 男 意勇 *Sūtr.*
mano-dharma 男 意法, 心及法 *Madhy-bh.*
mano-DHā, → manas.
mano-dhātu 男 眼界 *Mvyut.*
mano-dhāraṇa 男 心持, 能持心 *Sūtr.*
mano'dhinātha 男 (心の主), 愛人; 夫.
mano-DHṛ, → manas.
mano'navasthāna 男 心の散乱, 不注意; 心不
定 *Saṃkhy-k.*
mano-nāśa 男 精神力または理解力の喪失.
mano-nirjāta 形 從心生, 從心化出 *Ast-pr.*
mano'nukūla 形 心に楽しい. ~m 副 順意,
中意 *Mvyut.*
mano'nuga 形 心にかなう, 楽しい, 快い.
mano'pahārin 形 心を捉える, 喜ばしい.
mano'peta 形 理解力を欠いた.
mano-Bandh, → manas.
mano-bhava 形 心に起こる, 空想の. 男 愛 [因 怒];
(性)愛, 愛の神.
manobhavāgni 男 愛の焰.
mano'bhiprāya 男 心の欲望.
mano'bhiprāya-ja 形 願わしい.
mano'bhirāma 形 心に楽しい, 満足させる. 男
[仏国の名] 意楽 *Saddh-p.*
mano-bhū 男 (心に起こる), 愛, 愛の神.
mano-bhūmika 形 心地, 意(識)地 *Abh-vy.*
mano-mathana 男 (心の攪乱者), 愛の神.
manomaya 形 (因 -i) 心からなる, 精神的の [物質
的でない]; 意, 意生, 意成, 如意, 如意意,
心所成, 随心所化生 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*,
Lal-v., *Lank.*, *Sūtr.*, 玄応; (音写) 摩菟摩, 摩奴末耶
Gand-vy., *Lal-v.*, 玄応.
manomaya-kāya 男 意生身, 意成身, 如意意身
Lank.

manomaya-dharma-kāya 男 意生法身 *Lank.*
 mano-mātra 中 意量 *Cat-ś.*
 mano-yāyin 形 意のままに行く, (自己の)望むところに行く.
 mano-yuj 形 (因) 単に思想(意志)によって(手をほどくことなく)くびきをつけられた(馬, 車, 譬喻讚歌); 理解するにさとい. 賢い.
 mano-ratha 男 願望, 欲求; 空想, 幻影; 間接的に表明された願望; [諸人の名]; 意車 *Bodh-bh.*; 意, 願, 所願, 所欽, 求, 欲, 希欲, 本望 *Bodh-c., Buddh-c., Divy., Gaṇḍ-vy.*
 manoratha-dāyaka 男 願望を叶えること; [ある *Ka-lpa* 樹の名].
 manoratha-prabhā 因 [人名].
 manoratha-bandha 男 希望を抱くこと.
 mano-rathamaya 形 (因 -i) 多くの希望からなるまたはをもつ.
 manoratha-siddha 男 [siddhi の誤] 願望の達成; [人名].
 manoratha-siddhi 因 願望の達成. 男 [人名].
 -manoratha-siddhika 形 [同上 一]. 男 [人名].
 mano-rathā 因 = manoratha-prabhā.
 manorathāntara 男 最愛の物または人.
 mano-rama 形 心を喜ばせる, 心を引きつける, 心に適った, 魅力のある, 愛らしい, 美しい; 可意, 悦意, 得意, 適意, 適悦, 意楽, 可楽, 悦可心, 可愛; 微妙, 端嚴 *Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Daś-bh., Lal-v., Madhy-v., Mvyut., Rāstr., Sa-ddh-p., Sūtr.* 男 [Nāga の名]; [山の名].
 mano-ramā 因 [韻律の一種]; [書名]; [諸人の名]; [ある *Apsaras* の名]; [河の名]; [ある *Gandharva* 女の名] (*Kar-vy.*).
 mano-rāga 男 愛情, 情欲.
 mano-rājya 中 空想の領域. ~āni *Kṛ* 空中樓閣を作る.
 mano-ruj 因 心痛, 傷心.
 mano-laya 男 意識の喪失.
 mano-laulya 中 気まぐれ, 移り気, 気まま.
 manovati 因 [ある *Apsaras* の名]; [*Vidhyādhara Citraṅgada* の娘の名]; [*Asurapati Sumāya* の娘の名]; [人名]; [*Meru* 山上の都市の名].
 mano-vallabhā 因 心を支配する女性, 愛する女性.
 mano-vahā 因 大動脈.
 mano-vāñchita (過受分) 中 心の願望.
 mano-vijñapti 因 意所作, 心意識, 心意意識 [*Tib. yid dan rnam par rig pa*] *Lank. 227.*
 mano-vijñāna 中 意識, 第六意識 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Lank., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr., Vijñ-t.*
 manovijñāna-dhātu 男 意識界 *Mvyut.*
 manovijñāna-samprayukta 形 意識相応 *Bodh-bh.*
 mano-vi-DHā, → manas.
 mano-viśuddhi 因 心の清浄なこと.
 mano-vṛtti 因 心の活動, 精神作用; 思想の系列; 気分, 氣質.

mano-Viś (使役 *veśaya*), → manas.
 mano-han 形 心を破壊する.
 mano-hara 形 (因 -ā, -i) 心を捉える, 心を魅する, 心を引きつける; 魅力のある, 美しい; 道意, 心可楽 *Bodh-c., Lank.*; 奪意, 奪人心, 転意 *Gaṇḍ-vy.*
 mano-haratara 比喩 一層美しい等.
 mano-haratva 中 さらに美しいこと.
 mano-harā 因 [ある *Apsaras* の名]; [諸人の名]; [Kimnara 王女の名] 悦意 *Divy.*
 mano-harin 形 美しい.
 mano-hartṛ 男 心を奪う者, 魅惑する者.
 mano-hārikā 因 [人名].
 mano-hārin 形 心を魅惑する, 心を迷わせる, 魅力のある, 美しい.
 mano-hṛt 形 生命を奪うと心を楽しませるとの二義をかねる.
 mano-hlāda 男 心の喜び.
 mano-hlādin 形 心を喜ばせる, 心をひきつける, 美しい.
 mantavya 未受分 考えられるべき; (因) と見なされるべき; 仮定または設定されるべき; 考察されるべき; 是認されるべき, 受け入れられるべき; (中 非入) まさに思考または想像すべきである.
 mantu 男 助言者, 支配者; 助言; 侮辱.
 mantumat 形 [因のみ] 賢明な.
 manṛ 男 考える人; 同意する人; 知者 *Vijñ-v.*
 mantra 男 (中) (敬虔な) 思想, 祈り, 讚歌; *Veda* 讚歌・祭詞・呪詞 (*brāhmaṇa* の因), 聖典(の文句); 神秘の句, 呪文; 相談, 決定, 助言, 計画; 秘密の企図; 言, 語言, 言語, 辞, 言辞 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Sam-r., Śikṣ.*; 秘密 *Gaṇḍ-vy.*; 真言, 呪, 呪禁, 禁呪, 呪術, 呪語, 呪論, 密呪, 神呪, 呪術言辞, 文詞呪術; 明, (大) 明, 明呪 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Bodh-c., Divy., Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Kāśy., Lank., Mañj-m., Mvyut., Prajñ-h., Sa-ddh-p., Śikṣ., Suv-pr., Sūtr.*; ayukta ~ 不如理言 *Śikṣ. 107.* → lokāyata ~.
 mantra-karaṇa 中 *Veda* の本文.
 mantra-kārya 中 協議の題目.
 mantra-kāla 男 協議の時間.
 mantra-kuśala 形 協議に熟達した.
 mantra-kṛt 男 讚歌の作者; 助言者, 忠告者; 密使, 使者.
 mantra-gaṇḍaka 男 護符 (の一種).
 mantra-gupta 男 [人名].
 mantra-gupti 因 秘密を守ること.
 mantra-grha 中 会議室.
 mantra-caryā 因 真言行, 呪行 *Guhy-s., Mañj-m., Mvyut.*
 mantra-jala 中 聖句によって浄められた水.
 mantra-jihva 男 火.
 mantra-jña 形 聖典を知る; 協議に経験のある.
 mantra-jyeṣṭha 形 聖典の知識に従って優位を占める.
 mantrapa 中 協議, 熟慮.

mantraṇā 女 [同上]; 説, 論, 所言境 *Mvyut.*
 mantra-tattva-vid 形 協議の精髓を知る, 協議に深い経験を積んだ.
 mantratas 副 *Veda* 聖典(の知識)に関して.
 mantra-toya 中 聖句をもって浄められた水.
 mantra-da 形 *Veda* を伝えるまたは教える; 忠告を与える.
 mantra-darsin 形 聖典を知る.
 mantra-dāṭṭr 男 *Veda* の学匠.
 mantra-dṛś 形 讃歌を(見る=)作る; 聖典を知る; 協議に経験のある. 男 讃歌の作者; 助言者.
 mantra-devatā 女 讃歌等の中で名を唱えられる神.
 mantra-draṣṭṛ 男 聖典の(見者=)作者.
 mantra-druma 男 [第六 *Manvantara* における *Indra* 神の称].
 mantra-dhara 男 助言者, 忠告者; 大臣 *Buddh-c.*
 mantra-dhāraṇi 女 呪陀羅尼 *Bodh-bh.*
 mantra-dhārin 男 [同上].
 mantra-pattra 中 聖典を書写した葉片.
 mantra-pada 中 呪語; 真言, 真言句, 呪, 呪句, 呪文句, 諸呪章句, 呪術章句 *Bodh-bh., Lanik., Mañj-m., Śikṣ.*; 陀羅尼 [dhāraṇi の音写] *Lanik.* 360.
 mantra-paryeṣṭi 女 学經典, 読誦修学經 *Kāśy.*
 mantra-pāṭha 男 聖典の暗唱; [仏典の題名].
 mantra-puruṣa 男 持明者 *Guhy-s.*
 mantra-pustikā 女 呪文の書.
 mantra-pūta 形 聖典によって浄められた.
 mantra-prabhāva 男 呪文の力.
 mantra-prayoga 男 聖典の使用; 呪術, 呪語.
 mantra-phala 中 協議の結果.
 mantra-baddha 形 呪言に縛られた (*Buddh-c.*).
 mantra-bala 中 魔術の力.
 mantra-bija 中 呪文の(種子=)最初の綴り字; 協議の萌芽
 mantra-brāhmaṇa 中 同 mantra (讃歌等) と brāhmaṇa (祭式の説明), すなわち *Veda.*
 mantrabrāhmaṇa-vid 形 同上を知る.
 mantra-bheda 男 特殊の呪文; 諸種の呪文; 協議の違反, 計画をもらすこと.
 mantramaya 形 (女 -i) 呪文からなる.
 mantra-mālā 女 [*Kuśa-dvīpa* 河の名].
 mantra-mūrti 形 呪文(からなる)身体をもつ (*Śiva* 神).
 mantra-mūla 形 協議に基づく.
 mantraya 名動 中 mantrayate (男 中); 中 mant-rayati (男) 話す, 語る, 言う; (男 ± saha) とともに (男) につき熟慮する・考慮するまたは協議する; (不定) しようと決心する; (男) を熟慮する, …を論ずる; (男) を忠告する; 呪文を唱える; 名 *Bodh-bh.*
 過受分 mantrita 論ぜられた, 忠告された.
 anu-(iti で強調されたある語) を (男) に添える; (ある言葉) をある人 (男) のあとから呼びかける; 勧告する; 呪文で浄める; (男) 暇を乞う, いとまを告げる; 許可を与える. 過受分 anumantrita 呪文で浄められた; 祝福をもっていとまを与えられた.

abhi- (男) に, または (男) を (男) に話しかけるまたは語る, (少女) に言い寄る, 呪文で浄める; 挨拶する; (男) に暇を告げる.
 ā- 話しかける; 呼ぶ, 召集する, 招く; (ある人に) 請う; 挨拶する; (男) に暇を告げる; 告, 告言, 告…言, 普告, 語, 語言, 白, 白言; 讃曰, 讃言; 記, 告白授記; 議; 命…言; 喚, 集 *Aṣṭ-pr., Av-ś., Divy., Lanik., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., Sukh-ry. II.* 過受分 āmantrita 話しかけられた; 召集された等; 暇を告げた.
 upā (upa-ā)- 話しかける; (男, 女) に招くまたは促す; 暇ををするように告げる.
 upa- (ある人に) 呼びかける; (男) に招く または 説得する. 過受分 upamantrita 呼ばれた, 招聘された; 説得された; 話しかけられた.
 abhy-upa- (男) に呪文を唱える.
 ni- (男) を (男) へ (男, 不定) のために招く; (男) を (男) をもって招く = …に…を提供する; 請, 現前勧請 *Divy., Śikṣ.*
 abhi-ni- 召集する, 招く; 謂言, 勧諭, 安慰 *Aṣṭ-pr.*
 upa-ni- 招待する; (男) を…に提供する; 請, 奉請, 延請; 奉獻, 命 *Bodh-bh., Divy., Lal-v.:*
 āsanenopanimantraya 敷座延坐 *Bodh-bh.*; utthāyāsanenopanimantrayati 奉迎敷座延坐, 奉迎設床請坐 *Bodh-bh. 254*; bhaktenopanimantraya 餉 *Śikṣ. 12.*
 saṃ-ni- 招く.
 pari- 呪文で浄める.
 prati- (男) に呼びかける, 呪文で浄める. 過受分 pratimantrita 呪文で浄められた.
 sam- (男 ± saha または samam) と相談する, 協議する; 意見を表明する; (男) を熟慮する; 挨拶する. 不変分 sammantraya 説 *Mañj-m.*
 mantra-yantra 中 呪文のある護符.
 mantrayitavya (不変分) 中 非 協議されるべきである.
 mantra-yukti 女 呪文の適用, 呪文; 聖典の使用; 魔術 (?).
 mantravat 形 聖典の文句を伴った; 魔法をかけられた, 呪文で浄められた; 聖典に精通した. 副 聖典の文句を伴って; 協議の規定に従って.
 mantra-varjam 副 聖典の文句を伴わないで.
 mantra-varṇa 形 (女 -i) 呪文の形をとった (すなわちに似た). 男 聖典の文面; 聖典の文句または呪文の音節.
 mantra-vāda 男 聖典の文句の内容; 呪文の唱誦, 呪術.
 mantravāda-śloka 男 聖句を内容とする Śloka.
 mantra-vādin 男 呪文の唱誦者, 呪術者; 誦呪者 *Mvyut.*
 mantra-vid 形 聖典または呪文を知った.
 mantra-vidyā 女 呪文の知識, 呪術; 真言明, 明句, 禁呪, 呪術 *Śikṣ.*
 mantravidyā-dhara 形 持明人, 取明之人, 善知呪術 *Śikṣ.*

mantravidyā-bala ㊦ 漢語 真言明力, 明句力, 呪術力 *Śikṣ.*
 mantra-vyavahāra ㊦ 漢語 語言 *Gaṇḍ-vy.*
 mantra-śakti ㊦ 呪術の力, 呪文.
 mantra-śruti ㊦ 立聞きされた協議.
 mantra-saṃvaraṇa ㊦ 協議または計画の隠蔽.
 mantra-saṃskāra ㊦ 聖典の文句で浄めること.
 mantrasaṃskāra-kṛt-pati ㊦ 神聖にされた夫.
 mantra-saṃhitā ㊦ *Veda* 本集.
 mantra-sādhaka ㊦ 呪文を唱える人, 呪術者.
 mantra-sādhana ㊦ 呪文の唱誦.
 mantra-sādhana ㊦ [同上].
 mantra-sādhya ㊦ 呪文によって支配されるべき; 協議によって到達されるべき.
 mantrā-siddha ㊦ 呪文によって成就された; 呪文に通曉した.
 mantra-siddhi ㊦ 呪文の効果; 協議の遂行.
 mantra-sūtra ㊦ 紐 (に付着した) 護符.
 mantrākṣara ㊦ 呪文の音節.
 mantrādhirāja ㊦ 呪文の至上主 (すなわち *Vetāla*).
 mantrādhiṣṭhāna ㊦ 漢語 大明加持 *Guhy-s.*
 mantrārādhana (°ra-ār°) ㊦ 呪文によって得ようと努めること, 呪文によって呼び出すこと.
 mantrārtha-yukta ㊦ 漢語 真言行人 *Mañj-m.*
 mantrāvali (°ra-āv°) ㊦ 一連の呪文.
 -mantrika ㊦ = mantrin.
 mantrita 過受分 → mantraya; 漢語 呪, 教勅 *Aṣṭ-pr.* ㊦ 協議; 計画.
 mantritā ㊦ 王の助言者たる職務, 大臣たること.
 mantritva ㊦ [同上].
 mantrin ㊦ 賢明な (VS. 用例一回のみ); 呪文を知った. ㊦ 呪術者, 奇術師; 王の助言者, 大臣; 漢語 持呪者, 密呪; 臣, 大人 *Mvyut.*, 梵千., 梵雜.
 mantri-pati ㊦ 宰相.
 mantri-parśad-adhyakṣa ㊦ 漢語 内大臣, 《首相》*Mvyut.*
 mantri-putra ㊦ 大臣の息子.
 mantri-pradhāna ㊦ 宰相.
 mantri-mukhya ㊦ [同上].
 mantri-vara ㊦ [同上].
 mantri-śreṣṭha ㊦ [同上].
 mantri-suta ㊦ 大臣の息子.
 mantri-sūnu ㊦ [同上].
 mantrokta (°ra-uk°) ㊦ 聖典の文句の中に述べられた.
 mantrodaka (°ra-ud°) ㊦ 呪文(で浄められた)水.
 mantrauśadhi (°ra-oṣ°) ㊦ 漢語 呪薬, 医薬呪術, 医方呪術 *Gaṇḍ-vy.*, *Suv-pr.*
 Manth, → Math.
 mantha ㊦ 攪拌すること; 殺すこと; 混合飲料[一般に炒った大麦の粉を混ぜた牛乳]; 攪拌用の匙; 攪拌用の棒. ㊦ ㊦ 摩擦によって火を点ずる道具.
 mantha-daṇḍa ㊦ 攪拌用の棒.
 mantha-daṇḍaka ㊦ [同上].
 manthan, → mathin.
 manthana ㊦ (一°) 摩擦によって(火を)起こす. ㊦

攪拌用の棒. ㊦ (木片の)摩擦によって(火を)点ずること; ゆすること, 揺り動かすこと; 攪拌すること; (一°) 攪拌によって取り出すこと. ㊦ (?) 摩擦によって(火を)点ずる道具.
 manthana-daṇḍa ㊦ 攪拌用の棒.
 manthara ㊦ 遅い, のろい, ぐずぐずする, 怠惰な; 鈍い, 愚鈍な, 愚かな; 曲った, 彎曲した, ゆがんだ, せむしの; (一°) するにまたはにおいて遅い. ~m, °一 ㊦ 遅く. ㊦ [ある亀の名].
 mantharaka ㊦ [人名]; [ある亀の名]; [ある愚かな織師の名]; [あるせむしの名].
 manthara-kaulika ㊦ (*Mantharaka* と呼ばれる)愚かな織師.
 mantharatā ㊦ 遅いこと.
 manthara-viveka ㊦ 判断の遅い, 決断を欠いた.
 mantharā ㊦ [人名].
 mantharābhidhāna ㊦ *Manthara* と名づけられた.
 mantharita (名動) 過受分 怠惰にされた.
 manthā ㊦ [困-sのみ, panthā-s 参照] 攪拌用の棒. ㊦ [同上]; 漢語 麵子, 酪漿, 碎塊 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
 manthācala ㊦ (乳海において攪拌用の棒として用いられた) *Mandara* 山.
 manthādri ㊦ [同上].
 manthāna ㊦ [(震動させる者), *Śiva* 神の称]; 摩擦によって(火を)点ずる道具; 攪拌用の棒; 漢語 打扒 *Mvyut.*
 manthānādri ㊦ = manthācala.
 manthā-vala ㊦ [動物の一種], 狐, こうもり(蝙蝠) (?).
 manthin ㊦ 攪乱する. ㊦ (小麦粉)を混ぜた *Soma* 液 (㊦).
 manthu ㊦ [人名].
 Mand, → Mad.
 manda ㊦ (㊦, 一°) において遅い, 懶惰な; (㊦) に対して冷淡な, 無頓着な; 弱い, 微弱な; かすかな, 低い(声), 穏かな(雨, 風); 鈍才な, 遅鈍な, 愚かな; 不幸な; 病気の, 気分の悪い; 漢語 緩; 少, 微, 薄, 微薄, 微味, 微劣, 軽, 軽微, 薄弱, 羸弱; 味, 有闇味者, 鈍, 闇鈍, 鈍根, 下; 弊 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Madhy-v.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, 梵千. ~m ㊦ 徐々に, 漸次に, [また °一]; わずかに; かすかに, 静かに, 低声で: ~m ~m ㊦ きわめて遅く, 非常にゆっくりと; 漢語 徐 *Śikṣ.* ㊦ 土星.
 mandaka ㊦ 乏しい, 少しの; 鈍い, 愚鈍の.
 manda-karṇa ㊦ 漢語 悲心微薄 *Bodh-bh.*
 manda-karṇi ㊦ [ある聖者の名].
 manda-karman ㊦ 不活発な.
 manda-kārin ㊦ 愚かに振舞う.
 manda-kiraṇa ㊦ 弱い光線をもつ.
 manda-kileśa ㊦ ㊦ [°kleśa] 漢語 煩惱微細, 消諸惑 *Śikṣ.* 330.
 manda-krodha ㊦ 漢語 輕瞋忿 *Bodh-bh.*
 manda-kleśa ㊦ 漢語 薄煩惱 *Bodh-bh.*
 manda-ga ㊦ 徐々に動くまたは行く. ㊦ 土星.
 manda-gati ㊦ 徐々に動く.

manda-gatitva 甲 遅い歩調。
 manda-gāmin 形 = manda-gati; 摩步 *Buddh-c.*
 manda-glānatā 女 少病, 少悩, 蠲除衆病 [または疾], (聖)体康強力勢 *Saddh-p.*
 manda-cetas 形 放心した; 鈍才の, 愚鈍な, 愚かな。
 manda-caila 形 故弊之服 *Lal-v.*
 manda-cchāya 形 その美の曇らされた, どんよりした, 光沢のない。
 manda-jaras 形 徐々に老いる。
 manda-jāta 形 徐々に生じた。
 manda-tamaska 形 微闇 *Bodh-bh.*
 mandatarā 形 さらにまたは非常に遅い等。
 mandataratama 最上 漸歇薄, 漸劣漸微 *Abh-vy.*
 mandatā 女 怠惰; 軽微, 些細なこと; 愚鈍, 遅鈍, 魯鈍。
 mandatva 甲 軽微, 些細なこと, 微弱なこと。
 manda-dausthulya 形 嚴重羸弱, 嚴重性自微弱 *Bodh-bh.*
 manda-dhī 形 鈍才の, 遅鈍な, 愚かな。
 manda-nivarāṇa 形 (諸)蓄軽微, 陰蓋軽微 *Bo-dh-bh.*
 manda-pāla 男 [ある聖者の名]。
 manda-puṇya 形 不幸な, 不運な; 薄福德 *Sa-ddh-p.*
 manda-prajña 形 鈍才の; 劣慧 *Mvyut.*
 manda-preman 形 愛情に乏しい。
 manda-phala 形 実りの少い, 些少な結果の。
 manda-bala 形 弱い。
 manda-buddhi 形 鈍才な; 少智, 少智慧, 悪覚 *Lank., Śikṣ.*
 manda-bhāgin 形 悪運の, 薄幸な, みじめな。
 manda-bhāgya 甲 不幸. 形 悪運の, 不運な, 不幸な, 憐むべき; 薄福, 無福 *Divy.*
 manda-bhāgyatā 女 不幸なこと。
 manda-bhāj 形 不運な。
 manda-bhāṣya 形 寡言 *Mvyut.*
 manda-mati 形 鈍才の. 男 [ある車大工の名]; [ある獅子の名]。
 manda-manda 形 漸微細, 漸漸微細 *Abh-vy.*: ~ā vāyavaḥ 微細風漸漸, 漸有微細風 *Abh-vy.* 335. → śanair ~. ~m 副 きわめて徐々に, 漸次に, 次第に, きわめて静かに; 徐徐 *Divy.*: śanair ~m 徐徐 *Divy.* 7.
 mandamandātapa (°da-āt°) 形 きわめて微弱な熱をもつ, 涼しい。
 manda-medhas 形 = manda-dhī; 少智愚癡者, 鈍根 *Madhy-v.*
 mandaya 名動 他 mandayati (飢えを)軽減する, やわらげる。
 mandayitr 男 喜ばせる者。
 mandara 男 天界の樹 [*Indra* 神の天界における五種の樹木の一]; [乳海の攪拌に用いられた聖山の名]; [ある *Vidyādhara* の名]。
 manda-rajaska 形 性薄塵穢, 少諸塵穢 *Bodh-bh.*

manda-rajaskatā 女 薄塵垢 *Bodh-bh.*
 mandara-deva 男 [ある *Vidyādhara* の王の名]。
 mandara-devī 女 [*Mandara-deva* の姉妹の名]。
 mandara-deviya 形 *Mandara-deva* に関する。
 manda-raśmi 形 弱い光線の, おぼろな。
 mandara-hariṇa 男 [*Jambudvīpa* の八 *Upadvīpa* の一]。
 manda-rāgin 形 少貪 *Mañj-m.*
 mandarāya 名動 自 mandarāyate *Mandara* 山を表わす。
 manda-vicēṣṭita 形 徐々に動く。
 manda-viṣa 形 少量の毒を含んだ. 男 [ある蛇の名]。
 manda-visarpa 男 [(徐々に滑る), ある蛇の名]。
 manda-visarpiṇī 女 [ある虱の名]。
 manda-visarpin 形 徐々にほふく(匍匐)する。
 manda-virya 形 男らしさに乏しい, 弱い。
 manda-vedana 形 僅かに傷つける。
 manda-sīsira 形 幾分涼しい。
 mandasāna 男 喜んだ, 喜ばしい, 元気づけられた, 酩酊した (*RV.*)。
 manda-hāsa 男 温和な笑い. 形 なごやかに笑う. ~m 副 微笑して。
 mandākini 女 [*Gaṅgā* 河の支流および天上の *Gaṅgā* 河の名]; 漫流, 慢流, 慢水; 音写 曼那吉爾, 鰻陀吉尼 *Divy., Mvyut.*, 玄応。
 mandākini-pravāhaya 名動 *Mandākini* 河を表わす。
 mandākrānta (°da-āk°) 形 徐々に近づく。
 mandākrāntā (°da-āk°) 女 [韻律の一種, *Meghadūta* はこの韻律からなる (4×17音節)]。
 mandākṣa 形 視力の弱い. 甲 当惑, 羞恥心, 極度の怠慢または寛大。
 mandāgni 男 消化不良. 形 消化不良の。
 mandācāra (°da-āc°) 善良な行為の不足した。
 mandātman (°da-āt°) 形 鈍才の, 愚鈍な。
 mandādara (°da-ād°) 形 (因)に対して顧慮しない, …について無頓着な。
 mandānala 形 消化不良に苦しむ。
 mandānalatva 甲 消化不良。
 mandānila 男 微風; 微風 *Buddh-c.*
 mandābhiniveśa 形 (因)に執着しない。
 mandāya 名動 自 mandāyate 手間どる, 遅延する, 遅れる; (光が)微弱またはもうろうとなる。
 夏分 mandāyamāna 微薄 *Bodh-bh.*
 mandāyus (°da-āy°) 形 短命の。
 mandāra 男 珊瑚の樹, [学名 *Erythrina indica*]; [*Indra* 神の天界における五種の樹木の一]; [山の名]. 甲 *Mandāra* 樹の花; 音写 (音写) 曼陀羅花 *Saddh-p.*; 音写 曼陀羅 *Buddh-c., Saddh-p.*
 mandāraka 男 珊瑚の樹。
 mandāra-deva 男 [王侯の名]。
 mandāra-puṣpa 甲 音写 (音写) 曼陀羅花 *Buddh-c.*
 mandāra-mālā 女 *Mandāra* 樹の花環 [ある天女の名, *Vasu* の娘]。
 mandārava 男 *Mandāra* 樹; 音写 音写 [花の名] 曼陀羅 *Divy.*
 mandāravati 女 [人名]。

mandāra-varṣa 甲 漢語 (〜m vi-Srj)(音写) 雨曼陀
羅花 *Saddh-p.*
mandārikā 女 [人名].
mandāsu 形 氣息えんえんたる.
mandika 形 漢語 味劣, 味鈍 *Abh-vy.*
mandin 形 (RV.) 喜ばせる; 喜ばしい.
mandiman 男 遅いこと; 鈍いこと, 愚鈍.
mandira 甲 住居, 住所, 家; 邸宅, 宮殿; 殿堂.
mandi-Kṛ, 減少させる, ゆるめる.
mandi-BHū, 減ぜられる, 弱くなる, 薄暗くなる.
mandi-bhūta 形 減ぜられた, ゆるめられた.
mandu 形 喜ばしい, 喜んだ (因).
manduraka 甲 [布団の一種] (*Divy.*); 漢語 布褥
Mvyut.
mandurā 女 うまや.
mandurā-pāla 男 厩番, 馬丁.
mandeha 男 種 Rākṣasa (の一種); [*Kuśadvīpa*に
おける *Sūdra* の称].
mandotsāha (°da-ut°) 形 落胆した, 失望した.
mandodaka (°da-ud°) 形 水の不足した.
mandodari 女 (°da-ud°) [*Rāvaṇa* の最年長の妻の
名].
mandoṣman (°da-uṣ°) 形 少々暖かい, 涼しい.
mandoutsukya (°da-aut°) 形 (prati) に対してただわ
ずかばかり熱心な, …に対し気の進まない.
mandra 形 快い, 魅力のある (因); 快く響くまたは話
す (因); 深い, 低い (声, 響), うつろな, ごろごろ
と鳴る. ~m 副 深く, 低く等. 男 象(の一種).
mandra-kaṅṭha-garjita 甲 (象の)咽喉の奥から発す
る深い唸り声.
mandra-jihva 形 快い声の.
mandra-dhvani 男 うなり声.
mandra-sniḡdha 形 深くて快い(轟き).
man-dhātṛ 男 (因) 思慮のある人, 思索家; 信心深い
または敬虔な人.
manmatha 男 [攪乱者; *Math* の強意] 愛, 愛の神.
manmatha-bandhu 男 (愛の友), 月.
manmatha-math 形 愛の神を滅する.
manmatha-yuddha 甲 愛の闘争.
manmatha-lekha 男 恋文.
manmathavat 形 恋した.
manmatha-samāna 形 同等の愛情をいだく.
manmathāyatana (°tha-āy°) 甲 女陰.
manmathoddipana (°tha-ud°) 甲 愛情を燃えたたせ
る行為.
manmathonmāda (°tha-un°) 男 愛の陶醉.
manman 甲 (RV.) 心, 思考, 理解; 靈感; 祈禱, 讚
歌.
manmanā 男 親しげなささやき; 愛, 愛の神.
man-manasa 形 私を考える.
manmaya 形 (因 -i) 私からなる, 私のような, 私の
ことばかり考える.
man-māmsa 甲 私の肉.
manmāmsārthin 形 私の肉を熱望する.
man-mukha 甲 私の口.
-manya 形 自分を…と思う, …として通る. 因 語根

Man.

manyati 男 [三人 單の因となったもの] 語根 Man.
manyānā 女 漢語 意, 思惟, 思量, 分別 *Gaṇḍ-vy.*,
Lank.; 愛樂 *Śikṣ.*; 妄取, 虚妄, 疑惑, 乱心 *Gaṇḍ-*
vy., *Lank.*, *Mvyut.*; 矜心, 自举心, 僞慢, 僞舉,
増上慢 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*; 執持(持?), 持執 *Sur-*
ik-pr.: ~ākāra 思量性, 解相 *Madhy-bh.*
manyamānatā 女 漢語 所思慮 *Aṣṭ-pr.* → a~.
manyā 女 [因, 種] えり首(うなじ)の筋肉; 頸.
manyita 過受分 [=mata] 漢語 疑悔, 猶予 *Saddh-*
p. 63, 336; 持執 *Survik-pr.*: vicikitsām ca varj-
itvā iñjitā ~āni ca 若人悉無有一切諸疑悔 *Sad-*
dh-p. 336.
manyu 男 気分, 精神, 元氣(因); 熱意, 激情; (因)
に対する憤り, 激怒, 憤激; 傷心, 悲歎, 苦惱(比較的
まれに); (擬人化された)激怒; 漢語 怒 *Mvyut.*; 怒,
怨結 *Daś-bh.*, *Mvyut.*; 賊 *Mvyut.*
manyuṃ-Kṛ, (因, prati) に対して怒りを表わす, …
に対して怒る.
manyu-parita 形 怒で満たされた.
manyu-pratikriyā 女 怒を表わすこと.
manyupratikriyāṃ-Kṛ, (因) に対して怒りを表わす.
manyumat 形 熱烈な, 熱心な; 憤った, 怒った, 激
怒した.
manyumaya 形 (因 -i) 憤怒からなる.
manyu-mūla 甲 憤怒または憂悶の原因.
manyu-sambhāvanā-jāta 形 漢語 猜阻(?), 疑(?)
Bodh-bh. 169.
manv-antara 甲 *Manu* の時期 [約七十一の mahā-
yuga (各々の人間の4, 320, 000年に相当) からなり,
特殊な *Manu* によって支配される, 現今は第七の
Manu Vairasvata の支配下にある] → manuyuga.
manv-iddha 形 人間によって点火された.
mama [代 mad の 因]; 漢語 我, 我所 *Abh-vy.*, *Bodh-*
bh., *Madhy-v.*, 梵語. → a~.
mamaka 形 私の (RV.).
mama-kāra 男 (私のものとする), (因) に対する執着,
関心; 漢語 我所, 執我, 於我執 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-*
vy., *Mvyut.*, *Śikṣ.*
mamatā 女 「私のもの」という感情, 私欲; (因) に
おける関心, …に対する執着.
mamatā-sūnya 形 われらに対する関心を欠く.
mamatva 甲 私欲; (因) に対する関心, 執着.
mamatvaṃ-Kṛ, …に執着する.
mama-parigraha 男 漢語 授我所 *Abh-vy.*
mama-samjñā 女 漢語 我想 *Sukh-vy.* I.
mama-satya 甲 (私のものであること), 所有に關す
る論争(RV. 用例一回のみ).
mamāntika 形 漢語 我所 *Sapt-pr.*
mamāya 名動 自 mamāyate (業)をうらやむ; 漢語
撰於己, 撰為己物 *Śikṣ.*; 憐撫如愛己子 *Lal-v.*
mamāyita 過受分 漢語 撰受, 我所 *Daś-bh.*
mamṛvas 三過分 能 → Mṛ I.
mamma 男 [人名].
mammaka 男 [人名].
mammaṣa 男 [(=mahima-bhaṭṭa), *Kāvya-prakāś.*

の作者の名].

mamruṣi 因 → Mr 1.

maya 1. 形 (因 -i) 接尾 形成された, 造られた, ... からなる, ...にみちた; 所成, 合成, 所合成, 造, 造作; 性, 類 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. I.* 等: śruta-cintā ~ 聞思所成 *Abh-k. II. 53.* → cinta ~, bhāvanā ~, śruta ~, tan ~ 等. 男 [ある Asura の名 (熟練した工匠, 幻術師にしてまた天文学ならびに戦術の師)].

maya 2. 男 馬 (VS. 用例一回のみ).

maya-grāma 男 [村の名].

mayatā 因 類, 類性 *Abh-vy.*

mayas 因 欽喜, 喜悦 (因).

mayā [因 mad の因].

mayi [因 mad の因].

mayi-vasu 形 私において善い.

mayu 男 Kimnara (または人間に似た動物の一種).

mayūkha 男 木釘 (とくに織物または皮を抜げるための) (因); 光線 (因); *Agni* 神(の一形態); 光, 光明 *Divy., Lanik.*

mayūkha-mālin 男 (光の花環をもつ), 太陽.

mayūkhavat 形 輝く.

mayūkhin 形 輝く, 輝かしい.

mayūra 男 孔雀; 孔雀 *Abh-vy., Lanik., Mvyut., Rāstr., Sukh-vy. II.* 梵雑.

mayūra-keṭu 男 [(孔雀を標章とした), *Skanda* の称].

mayūra-candraka 男 孔雀尾 *Mañj-m.*

mayūratā 因 孔雀の状態.

mayūratva 因 [同上].

mayūra-patṭrāya 名動 孔雀の羽に似る.

mayūra-patṭrin 形 孔雀の羽を矢羽とした(矢).

mayūra-piccha 因 孔雀の尾羽.

mayūrapicchamaya 形 (因 -i) 孔雀の尾羽からなる.

mayūra-pitta 因 化粧料 (の一種).

mayūramaya 形 孔雀からなる.

mayūra-vaicitrya 因 孔雀文彩 *Lanik.*

mayūra-hastakā 因 孔雀羽扇, 孔雀王尾 *Lal-v.*

mayūrahastakā-parigṛhita 形 持孔雀羽扇, 執持孔雀王尾 *Lal-v.*

mayūrāṅki 因 [宝石の一種, おそらくトルコ玉]; 孔雀石 *Mvyut.*

mayūrāṅga-hastaka 男 (?) 羽扇 *Lal-v. 77.* → mayūra-hastakā.

mayūri 因 雌孔雀.

mayūri-BHū, 孔雀となる.

mayo-bhu 形 (因 -ū) 欽喜に導く, 爽快ならしめる, 喜ばしい; 有益な, 恩恵を与える (因). 男 *Agni* 神 (の一形態).

mayo-bhū 形 [同上 (形)].

mayya 男 [ある 婆羅門の名].

mara 男 死ぬこと, 死; 死の世界, 大地. → a ~.

maraka 男 疫病, 流行病.

marakata 因 エメラルド(緑玉石); 綠色宝, 大青宝, 日子母緑; 珊瑚; 緑鴉鵂 *Guh-y-s., Mañj-m.,*

Mvyut.; 音写 摩羅伽多, 摩羅伽陀, 末羅羯多 *Mvyut.*, 玄応.

marakatamaya 形 エメラルドからなる.

marakata-silā 因 エメラルドの板.

marakata-syāma 形 エメラルドのように暗色または緑色である.

mara-kāyika-deva 男 梵衆天 *Bodh-bh.*

maraṇa 因 死ぬこと; 死; 死滅, 停止; 死, 滅, 滅度, 生滅, 終, 命終, 壽終, 喪亡, 衰亡 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lanik., Madhy-v., Mvyut., Prāt-m., Rāstr., Saddh-p., Sāṃkhy-k., Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr.*: ~m anusamvarṇayati 讚死 *Prāt-m. I. 3*; ~m upa-Gam 失身命, 自殞没 *Aṣṭ-pr. 682*; ~m ni-Gam 致命終, 及命終 *Aṣṭ-pr. 399.* 形 (一) によって死ぬ.

maraṇa-kāla 男 死時, 壽終時 *Saddh-p., Sūtr.*

maraṇakāla-kriyā 因 殞没 *Bodh-bh.*

maraṇakāla-samaya 男 命終時, 壽終時, 臨死時, 臨終時 *Abh-vy., Sukh-vy. I.*: ~e pratyupasthite 命終時, 臨命終時, 臨壽終時, 壽欲終時 *Sukh-vy. I. 14.*

maraṇam-Kṛ, (因) 死ぬ.

maraṇa-daśā 因 臨終時.

maraṇa-duḥkha 因 死苦 *Mvyut.*

maraṇa-dharmaka 男 死法 *Bodh-bh.*: ~sya maraṇam 死法死 *Bodh-bh.*

maraṇa-dharman 形 死の法則に従う, 死ぬべき. 男 死の法則.

maraṇa-niscaya 形 死ぬと決心した.

maraṇa-prāpta 形 定死 *Lanik.*

maraṇa-bhaya 因 死の恐怖; 死畏, 死怖, 死怖畏 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy.*

maraṇa-bhava 形 死有 *Abh-vy., Mvyut.*

maraṇa-maṇḍana 因 (夫の火葬の薪の上で) 殉死する 婦人がつける装身具.

maraṇa-mātraka 形 近死 *Aṣṭ-pr.*

maraṇa-vyādhi-śoka 男 死と病と悲歎.

maraṇa-samaya 男 = maraṇa-daśā.

maraṇāṃśika 形 臨死 *Mvyut.*

maraṇātmaka (°ṇa-āt°) 形 (因 -ikā) 死をもたらす.

maraṇādhan 男 死の路.

maraṇānta 形 死をもって終る; 咸婦死 *Divy.*

maraṇāntika 形 [同上]; 近死辺際 *Divy.*

maraṇāndha-tamasa 因 死の暗黒.

maraṇāvasthā 因 終, 命終, 命尽, 至死 *Aṣṭ-pr.*

maraṇiya 形 死ぬべき運命の, 死を免れない; 死 *Bodh-bh.*

maranda 男 [因 覆] 花の液.

marārāma (°ra-ār°) 男 [ある Daitya の名].

marāla (形) 柔軟な. 男 鵝鳥またはフラミンゴ(の一種).

marālikā 因 [同上].

marica 男 こしょうの木; [人名]; 胡椒, 末椒 *Divy., Mvyut., 梵千.*; 音写 摩梨遮, 弥梨遮 *Abh-vy., Divy.*

marica-pānaka 男 胡椒飲; (音写) 弥梨遮飲

Abh-vy.

marica 男 こしょうの木；[人名]。田 こしょうの実。
marici (男) 因 (大氣中に浮遊する)輝く微塵 (因)；光線；**釋** 光，炎，焰，燄，陽焰，陽燄，陽炎，除暗，除暗得光 *Aṣṭ-pr.*，*Cat-ś.*，*Lal-v.*，*Lank.*，*Madhy-bh.*，*Madhy-v.*，*Mvyut.*，*Saddh-p.*，*Śikṣ.*，*Sūtr.*，*Suvik-pr.*，*Suv-pr.*，**梵雜**；野馬，鹿渴 *Madhy-bh.*，*Madhy-v.*，*Madhy-vibh.* 男 [*Prajāpati* の名，七 *Rṣi* の一]；[大熊星座中の星の名]；[ある *Daitya* の名]。
marici-svapnodaka-candrādi (°na-ud°， °ra-ādi) 男 **釋** **釋** 陽焰夢境水月等，野馬夢幻水月等 *Madhy-bh.*
maricika 男 **釋** **音写** [世界の名] 摩利支 *Divy.*
maricikā 女 蜃気楼；**釋** 陽焰 *Aṣṭ-pr.*，*Lank.*；野馬 *Aṣṭ-pr.*
marici-garbha 男 **釋** [ある世界の名]；[ある神の一群の名]。
marici-toya 田 =maricikā.
maricin 男 (輝く)，太陽。
marici-pa 男 **釋** [*Rṣi* の一族の名]。
maricimat 形 (一) を光線としてもつ。男 太陽。
marici-mālin 男 光線の花環をもつ (太陽)。
marici-dhāraṇi 因 [仏典の名，摩利支天陀羅尼呪経]。
maricy-upama 形 **釋** 如熱時炎，如熱時焰，如熱時燄 *Gand-vy.*
maru 1. 男 乾燥した地域，砂の多い荒地，沙漠；山，岩石；[ある *Daitya* の名]；[諸王侯の名]；[*Haryaśva* の息子の名]；[国の名およびその住民の名 (*Maruwar*) (釋)]；**釋** 高巖，絶辺広川 *Lal-v.*，*Mvyut.*
maru 2. 男 =marut. **釋** 天 *Av-ś.*，*Saddh-p.*，*Śikṣ.*
marukaccha 男 [国の名]；**釋** [*Marukaccha* の住民の名]。→ *bharukaccha.*
maru-kanyakā 女 **釋** 天女 *Daś-bh.*
marut 男 **釋** 暴風の神群 [*Indra* 神の伴侶]；神々；**釋** 風の神；風；生氣；空氣；氣息；[*Brhadhratha* の称]；**釋** 天 *Lal-v.*，*Saddh-p.*
maruta 男 風；**釋** 天 *Saddh-p.*
marut-kanyā 女 **釋** 天姪女 *Lal-v.*
marutta 男 [諸王侯の名]。
marut-taruṇi 女 (風の乙女)，妖精。
marut-paṭa 男 帆。
marut-pati 男 [(*Marut* 神群の主)，*Indra* 神の称]。
marut-patha 男 風の路，大氣。
marut-pāla 男 [(*Marut* 神群の守護者)，*Indra* 神の称]。
marutvat 形 *Marut* 神群に伴なわれた。男 [*Indra* 神の称]；[*Dharma* の息子の名]；**釋** [神の一階級]。
marutvati 女 [*Dakṣa* の娘の名]。
marutvatiya 形 *Indra Marutvat* に関する [とくに昼のソーマ压榨 (*savana*) における三回の *graha* およびその焼灌と飲用との後に行なわれる讃誦 (*śastra*) について]。
marut-sakha 形 風を伴侶とする (雲)。男 火 (の称)。

marut-sakhi 形 [困 男 因 -ā のみ] *Marut* を伴侶とする。
marut-sahāya 形 風を伴侶とする (火)。
marut-suta 男 [風の息子，*Hanumat* の父系]。
marut-snuṣā 女 **釋** 天女 *Lal-v.*
maru-deva 男 [王侯の名]；[*Arhant Rṣabha* の父の名]；[山の名]。
marud-gaṇa 男 *Marut* 神群または神々の群；**釋** 天衆 *Saddh-p.*
marud-vṛddhā 女 [河の名]。-
marud-vega 男 [(風のように速い)，ある *Daitya* の名]。
maru-dhanvan 男 [まれに °*dhanva*] 乾燥した荒地，荒野，沙漠。
marunmaya 形 (女 -i) 風からなる。
maru-pati 男 **釋** 天王 *Daś-bh.*
maru-patha 男 乾燥した地域，砂の多い荒地，沙漠
maru-prṣṭha 田 [同上]。
maru-prapāta 男 岩の多い崖，けわしい岩山。
maru-bhava 男 沙漠の住民。
maru-bhavana 田 **釋** 逝宮 *Abh-vy.*
maru-bhūti 男 [人名]。
maru-bhūtika 男 [同上]。
maru-bhūmi 因 沙漠の地方，曠野；[国の名 (*Maruwar*)]。
maru-maṇḍala 田 [(沙漠の地方)，国の名]。
maru-marici 女 **釋** 沙漠の蜃気楼。
maru-maricikā 女 [同上]；**釋** 曠野焰，憂陽 *Mvyut.*
maru-mahī 女 沙漠の土地，曠野。
maru-mārga 男 沙漠を通る道。
maru-vaka 男 [花の一種]。
maru-vadhu 女 [=marud-vadhū] **釋** 天姪女 *Lal-v.*
maru-sthala 田 沙漠の地域，曠野，砂の多い荒地
maru-sthali 女 [同上]。
marū-BHū，砂の多い荒地となる。
marka 1. 男 破滅，死 (RV. 用例一回のみ)。
marka 2. 男 [Asura たちの *Purohita* の名]，[小に敵意をもつ悪鬼の名]。
markaṭa 男 猿；**釋** 猴，驪猴 *Av-ś.*，*Bodh-ś.*，*Divy.*，*Mvyut.*，*Śikṣ.*，*Suv-pr.*，**梵雜**，玄志。[磨竭，磨迦吒 *Suv-pr.*，玄志]。
markaṭaka 男 [同上]。
markaṭa-karṇa 形 **釋** 耳如猴者 *Mvyut.*
markaṭa-jāla 田 **釋** 中寛 (?) *Mvyut.*
markaṭa-joḍa 形 **釋** 額如猴，顔如猴 *Mvyut.*
markaṭa-danta 形 **釋** 齒如猴，牙如猴者 *Mvyut.*
markaṭa-nāsa 形 **釋** 鼻如猴 *Mvyut.*
markaṭa-locana 形 猿のような眼をもつ。
markaṭa-hrada 男 [(猿の池)，*Vaiśālī* 付近の名] (仏教)。
markaṭa-hrada-tira 田 **釋** [地名] 驪猴河岸。
markaṭikā 女 雌猿。
markaṭi 女 [同上]。
markaṭi-BHū，猿になる。

markaṭi-bhūta 形 猿になった。

marca 男 [=marica] 胡枿 梵雜。

marditr 男 同情を表わす人, 慰めを与える者 (RV.).

marta 男 死ぬべきもの, 人 (因).

martavya 未受分 中 非人 死なねばならない。

martya 形 死ぬべき。男 死ぬべきもの, 人; 死ぬべきものの世界, 地界; 人 Divy., Mañj-m., Saddh-p.; 有情 Vajr-s. 中 死滅するべきもの, 身体。

martyatā 因 死ぬべきこと; 人間の状態。

martyatva 中 人間の状態。

martya-dharma 男 擧 人生の法則または状態。

martya-dharman 男 死ぬべきもの, 人間。

martya-dharmin 男 [同上]。

martya-bhāva 男 人間の本性。

martya-bhuvana 中 死ぬべきものの世界, 地界。

martya-maṇḍala 中 [同上]。

martya-loka 男 [同上]。

martyāmartya 男 擧 死ぬべきものと不死なるもの。

martyāmṛta 中 死ぬべきものの不死性。

martyendra (°ya-in°) 男 人帝 Divy.

marda 形 (一°)をひ(挽)く, 粉末にする, 押しつぶす, 破壊する。男 烈しい圧迫または摩擦。

mardaka 形 (一°)において激痛を起す。

mardana 形 (因 -i) (屬, 一°)をひく, 押し潰す, 破壊する, 悩ます, 苦しめる; (戦闘において 一°, をはなはだしく苦しめる; 破, 鏽除, 降伏 Divy.) Saddh-p. 男 [ある Vidyādhara の王の名]. 中 ひくこと, 粉末にすること, 押しつぶすこと, 荒廃させること; 摩擦すること; (油を) (圓) 塗ること, (髪を)くしげざること; 破 Saddh-p.; 按摩, 塗摩 Śikṣ.

mardaniya 未受分 押しつぶされるべき, 踏みにじられるべき。

mardala 男 太鼓 (の一種)。

mardita 使役 過受分 [Mrd] 摩擦された等; 滅, 摧滅, 摧伏, 除, 拔, 碎 Lal-v., Saddh-p., Sam-r.

mardita-kaṇṭaka 形 除棘刺者 Sam-r.; 定乱, 攪刺, 害不能攪 (?) Mvyut.

marditavya 未受分 破壊されるべき, 荒廃させられるべき。

mardin 形 (一°)を押しつぶす, 粉碎する, 破壊する。

marma-ga 形 関節を貫通する, 痛烈な; 急所をつく。男 致命傷。

marma-guhyaka 男 [鳥の名] 隱密 Śikṣ.

marma-ghni 形 [-han の因]。

marma-cchid 形 関節を貫通する, 急所をつく, 非常に痛烈な。男 急所を貫くこと, 極端な苦痛。

marma-ccheda 形 [同上]. 男 関節を貫通すること, 激痛をひき起こすこと; (音写) 断末摩 Abh-k.

marma-cchedin 形 急所をつく, 非常に痛烈な。

marma-jña 形 弱点または傷つきやすい部分を知る [また 醫論]; (一°)について (事物の) 蘊奥を知るまたは深い洞察力をもつ; きわめて伶俐な。

marma-tāḍana 形 急所を貫く, 重傷を負わせる。

marma-tra 中 胸あて, くさりかたびら。

marman 中 関節, (身体の) 露出したまたは致命的な部分; 弱いまたは傷つきやすい場所 (醫論); 骨節, 死節, 要処; 気脉, 心腑 Buddh-c., Divy., Śikṣ., Vijñ-t., 玄応; 諱, 過 Bodh-bh. 255; 音写 末摩 Abh-k., 玄応。

marma-pāra-ga 形 (一°)の一番奥の所に透徹する, …に完全な洞察力をもつ。

marma-bheda 男 傷つきやすい部分を貫通すること, 弱点をつくこと。

marma-bhedin 形 傷つきやすい部分を貫通する, 急所をつく。男 矢。

marmamaya 形 (因 -i) (ある人の) 弱点からなるまたはに関する。

marmara 形 さらさらと音がする (葉または衣服)。男 さらさらと音がすること, さらさらいう音。

marmara-pattra-mokṣa 形 さらさらと音がして葉の落ちる。

marma-rāja 男 [人名]。

marmarāya 名動 目 marmarāyate さらさらと音がする, さらさら音を立てる。

marmarita 過受分 荒野と化した (?)。

marmari-BHū, さらさらと音を立て始める。

marmari-bhūta 形 さらさらと音を立てる。

marma-vid 形 (ある人の) 弱点または傷つきやすい部分を知る。

marma-vidāraṇa 形 急所を切り裂く, 致命傷を負わせる。

marma-vibhedin 形 =marma-bhedin (形)。

marma-vivara 男 中 骨節間 Śikṣ.

marma-vegītā 女 [恐らくは °veditā の 詠]。

marma-veditā 女 弱点に関する知識。

marma-vedin 形 =marma-vid.

marma-vedha 男 中正処 Mvyut.: ~e kṛtā. vi samvṛttah 随其要処悉能射之 Divy. 58.

marma-vedhitva 中 所放之处箭入甚深 Lal-v= 165.

marma-vyathā 女 骨髓に徹する苦痛。

marma-sprś 形 急所にふれる, 急所をつく; 非常に鋭いまたは痛烈な。

marma-han 形 (因 -ghni) 急所を打つ, きわめて痛烈な (語)。

marmātiga 形 関節または急所に深く貫通する, 痛く苦しめる; 致命的な (醫論)。

marmāvaraṇa (°ma-āv°) 中 胸あて, くさりかたびら。

marmā-vidh 形 急所を貫く, 非常に鋭い (語)。

marya 男 (因) 人, とくに若い人 [覆 (呼びかけにおいて) 人々]; 求婚者, 愛人; 種馬。

m. ryādā 因 目印, 境界標; 境界線, 限界; 終局; 目的地; 海洋の縁, 海岸; 厳密に定義された関係; 道德の限度, 道德, 確定された慣例; 礼儀の限界; 明確なまたは固定した法則; 堅い同盟または契約; 田界, 疆畔 Mvyut 凡 梵千.; 仏教 (?) Sam-r. 53: ~m vyavasthāpāyanti 立疆畔, 田界峰堆 Mvyut.

maryādā-giri 男 境界の山。

maryādācala (°dā-ac°) 男 [同上].
 maryādā-dhāvana 田 目的地に向って走ること.
 maryādā-bandha 男 境界内に保つこと (Divy.).
 maryādā-bhedaka 男 境界標の破壊者.
 maryādāmaya 形 (因 -i) 道德の限界を形成する.
 maryādā-vacana 田 限界を述べること.
 maryādā-vyatikrama 男 限界を超えること.
 maryādin 男 辺境地方. 形 境界の外に出ない.
 maryādi-Kṛ, (業) の限界を作る, …に達する.
 maršana 田 接触; 調査すること.
 marṣa 男 忍耐; 漢訳 耐, 堪忍 Bodh-bh., Sūtr. → a~.
 marṣa-kṛta 形 漢訳 耐, 堪忍耐 Vijñ-t.
 marṣaṇa 形 (一°) を赦す. 田 忍耐, 堪忍; 漢訳 忍, 能忍, 忍受, 堪忍, 能堪忍, 耐, 受, 安受 Bodh-bh., Madhy-bh., Madhy-vibh., Śikṣ., Sūtr., Vijñ-t.
 marṣaṇiya 未受分 赦されるべき; 赦免に値する.
 marṣita 過受分 堪えた, 忍んだ, 赦された; 漢訳 忍, 忍受 Divy. → a~.
 marṣin 形 堪忍する, 忍耐する, 辛抱強い, 寛大な.
 mala 田 [圍 はまた 男] 汚物, 垢, 不浄 [また道德的にもいう]; (身体の) 分泌物; 漢訳 垢, 垢膩, 垢膩塵汚, 垢穢, 垢染, 垢濁, 瑕垢, 不浄 Bodh-bh., Gand-vy., Lañk., Madhy-bh., Mvyut., Rāṣṭr., Sapt-pr., Śikṣ., Sukh-vy, I., Sv-pr.; 煩惱 Gand-vy. → a~. 田 下等金属 (の一種); 真鍮 (?).
 mala-karmānta 男 漢訳 垢業 Bodh-bh.
 mala-karṣaṇa 形 汚れを除去する.
 mala-ja 男 種 [住民の名].
 mala-jñu 形 汚れた膝の.
 malatva 田 汚れであること.
 malada 男 種 [住民の名].
 mala-dāyaka 形 (ある人に) 汚名を与える.
 mala-digdhāṅga 形 (因 -i) 身体が泥で汚された.
 mala-dhātri 因 小児の汚物を取り除く付添婦; 漢訳 洗母, 濯孌, 洗濯母, 澡浴母, 洗浴 (母) Divy., Lal-v., Mvyut.; 抱母 Mvyut.
 malana 田 おしつぶすこと, すりつぶすこと.
 mala-paṅka 男 汚泥.
 malapaṅkānuliptāṅga 形 (因 -i) 身体が塵と泥とにまみれた.
 mala-paṅkin 形 塵と泥とに覆われた.
 mala-mallaka 田 腰布.
 mala-māsa 男 不浄の月 [この月には宗教的な儀式を行わない], 閏月.
 mala-mūtra-parityāga 男 大小便の排泄.
 malaya 男 [白檀の樹に富んだ Malabar (南インドの西海岸にある西部 Ghats) の南部にある山脈の名]; (種) [住民の名]; 漢訳 音写 [山の名] 摩羅耶, 摩羅耶 (山) Divy., Lañk., Mvyut.
 malaya-ketu 男 [諸王侯の名].
 malaya-giri 男 Malaya山, Malaya山脈.
 malaya-ja 形 Malaya山脈に生ずる. 男 白檀樹. 男 田 白檀の香木; 白檀.
 malayaja-rajasa 田 白檀.

malayaja-rasa 男 白檀の香水.
 malayajālepa 男 (°ja-āl°) 男 白檀の膏油.
 malaya-deśa 男 男 Malayaの国土.
 malaya-druma 男 白檀樹.
 malaya-dhvaja 男 [人名].
 malaya-parvata 男 Malaya山脈.
 malaya-pura 男 [町の名].
 malaya-prabha 男 [王侯の名].
 malaya-bhū-bhṛt 男 Malaya山脈.
 malaya-marut 男 Malayaから(吹く)風.
 malaya-mālin 男 [人名].
 malaya-ruha 男 (Malayaに生ずる), 白檀樹.
 malaya-vati 因 [人名].
 malaya-vāta 男 =malaya-marut.
 malaya-vāyu 男 [同上].
 malaya-siṃha 男 [人名].
 malayā 因 [人名].
 malayānila 男 =malaya-marut.
 malayodbhava (°ya-ud°) 田 白檀.
 malara 男 漢訳 音写 [数の名] 摩羅羅 Mvyut.
 malavat 形 不潔な.
 malavad-vāsas 形 汚れたまたは不潔な衣服を着た, 経中の.
 mala-vāhin 形 不浄を運ぶまたは含む(身体).
 mala-vigama 男 漢訳 客塵離 Sūtr.
 mala-viśuddhi 因 漢訳 無垢 Sūtr.
 mala-viśodhana 形 汚れを清める.
 mala-visarjana 田 (殿堂の) 清浄化.
 mala-vyapeta 形 漢訳 (浄) 無垢, 無所垢汚, (浄) 諸垢, (清浄) 無諸垢 Lañk.
 mala-hāraka 形 汚れまたは罪を除去する.
 malāpeta 形 漢訳 離垢 Sūtr.
 malāvaha (°la-āv°) 形 不浄を生ずる, 汚す.
 malina 形 汚れた, 不潔な, 濁った, 泥に汚れた, みのある; 不浄な, 不純な, 曇った, 暗くされ (智); 暗色の, 暗灰色の, 黒い; [-ā 因] 月経の 漢訳 所汚, 所染汚, 垢, 垢膩, 弊垢, 結垢, 破穢, 穢悪不浄, 濁乱 Abh-vy., Divy., Gand-vy., Lal-Lañk., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr. 田 劣悪, 邪悪.
 malinatā 因 汚れたこと, 不潔なこと.
 malinatva 田 黒いこと; 邪悪なこと.
 malina-manasa 形 心の不浄な.
 malinaya 名動 他 malinayati 汚す, よごす, 曇す [また 譬喩]. 過受分 malinayita 汚された.
 malina-vasana 田 汚れた衣服 [悲哀の表徴].
 malinātman (°na-āt°) 形 斑点のある(月); 心の不浄な.
 maliniman 男 黒いこと; 劣悪, 邪悪.
 malini-kara 形 汚す.
 malini-karaṇa 田 汚すこと, 曇らすこと; 不浄を起こす動作.
 malini-karaṇiya 形 不浄にさせる.
 malini-Kṛ, 汚す, よごす; 不潔にする; 覆いかく (天体を) 食する.
 malini-BHū, 汚れる, 曇る, 消失する.
 malimluc 男 [Mluc の 漢訳 から] 強盗, 盗人.

malimluca 男 [同上]; [悪魔の一種]; 閏月.
 mali-kṛta 形 垢染, 所雜染 *Lank.*
 malimasa 形 汚れた, 不潔の, しみのある; 不浄の,
 不純の [また] 濁; 黒ずんだ色の, 暗灰色の.
 maluda 男 音写 [数の名] 摩魯陀 *Mvyut.*
 maluma 男 音写 [数の名] 摩魯摩 *Mvyut.*
 malūka 男 虫 (の一種).
 malopahata (°la-up°) 形 汚れた, よごれた.
 malla 男 職業的力士; 強健な人, 非常に力のある人;
 [混合種姓 (階級) の一種]; [Nārāyaṇa の称]; [あ
 る Asura の名]; [諸人の名]; 飲器, 容器 (*Divy.*)
 ; 種 [住民の名]; 力士, 壮士, 将士, 勇力, 相
 撲 *Av-s., Divy., Lal-v., Saddh-p.:* ~ ānām up-
 avartanam 力士生処 *Divy. 208.*
 mallaka 男 [人名]; 容器 (*Divy.*); (種) [住民の名];
 器 *Divy. 90.*
 malla-kūṭa 男 田 (?) [村の名].
 malla-koṣṭa 男 [人名].
 malla-koṣṭaka 男 [人名].
 malla-ghaṭi 形 無言劇 (の一種).
 malla-nāga 男 [Vātsyāyana の称].
 malla-bhūmi 形 [国の名].
 malla-yuddha 田 拳闘の試合, 拳闘.
 mallava 男 種 [住民の名].
 mallā 女 [人名].
 mallāri 男 [(Asura Mallu の敵), Kṛṣṇa 神 ならびに
 Śiva 神の称].
 mallāsura 男 Asura Malla.
 mallikā 形 じゃすみん (素馨) (の一種) [学名 *Jasm-
 inum Sambac.* 花ならびに樹を言ひ]; (特殊の形状を
 もつ) 陶製の容器; 鬘花, 鬘生, 堪作鬘 *Mvyut.*;
 奈 (?) 立; [音写] [花の名ならびに香の名] 末利, 末
 利華, 末利迦, 末利迦 (華) *Guhy-s., Saddh-p.,*
 mallikākṣa (°kā-ak°) 男 [眼に白い斑点のある馬の
 一種属の称]; [鷺鳥の一種].
 mallikākhyā (°ka-ākhyā) 男 鷺鳥 (の一種).
 mallikārjuna 男 [Śiva 神の一形相], 至 [Śiva 神と
 して祭った Linga の名].
 mallinātha 男 [詩人で著名な註釈家の名 (西暦第十五
 世紀), Kolācala と呼ばれ, Kālidāsa の三作 *Raghu-
 vaṃśa, Kumāra-sambhava, Megha-dūta, Bhaṭṭi-
 kārya, Kirātārjuniya, Śiṣupāla-vadha* および *Na-
 iśadhīya* 等に註釈した].
 malva 形 思慮のない, 愚かな (AV.).
 mavara 男 音写 [数の名] 摩婆羅 *Mvyut.*
 maśaka 男 蚊, ぶよ, [ある学匠の名]; (種) [Śāka-
 dvīpa の一 Kṣatriya の名]; 蚊, 蚊虫, 蚊虫
 蟻, 蚊蚋, 蚋, 蚤, 螢 *Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh.,
 Bodh-c., Daś-bh., Mvyut., Sur-pr.*
 maśaka-kuṭi 女 蚊帳 *Mvyut.*
 maśaka-pāda 男 蚊脚, 蚊脚, 蚊脚足 *Sur-
 pr.*
 maśaka-varṇa 田 蚊拵子, 蚊拵子 *Mvyut.*
 maśūra 男 [=masūra] 豆 *Sikṣ. 210.*
 maśam 副 [Kr (使役) と] 粉砕する.
 maṣi 男 または 女 [また -i] 粉 ~īm Kr 砕いて粉

にする]; 骨炭, 墨; 墨, 燼, 煤燼, 烟, 煙,
 煙灰 *Gaṇḍ-vy., Mvyut., Saddh-p., Sikṣ., Vajr-pr.,
 梵千., 梵維.*
 maṣi-bhāṇḍa 田 [同上].
 maṣi-bhāvuka 形 墨のように黒くなる.
 maṣimaya 形 骨炭からなる, 墨のように黒い.
 maṣi 女 =maṣi; 墨 *Mvyut.*
 maṣi-kūrcaka 男 筆.
 maṣi-guḍikā 形 墨の小球またはしみ (染).
 maṣi-patra 田 墨壺.
 maṣi-lipta 形 墨で汚された.
 maṣnāra, [地方の名]. 田 [儀式の名] (?).
 maṣy-abhāva 男 墨の欠如.
 maṣy-ādhāra 男 墨壺.
 masaka [maśaka の 詠].
 masāra 男 サファイアまたはエメラルド.
 masi 女 [また -i] [maṣi の 詠]; 墨 *Divy. 532.,
 Lal-v. 122.* 等.
 masi-piṇḍa 男 聚墨 *Lal-v.*
 masi-mrakṣitaka 形 墨凶, 墨塗 *Lank.*
 masi-BHū, 墨のように黒くなる.
 masira 男 種 [住民の名].
 masura 男 [豆の一種]; 赤豆 *Lank.*; [音写] 摩
 脩羅 *Lank.*
 masūra 男 [同上]; 小荳, 江豆, 謁豆, 華豆屑
Abh-vy., Divy., Mvyut.; [音写] 摩須羅 *Abh-vy.*
 masūraka 男 枕.
 masūra-vidala 田 (?) 裂けた豆.
 masūrikā 女 [(豆に似た) 発疹または天然痘の一種];
 蚊帳.
 masṛṇa 形 柔かい, 柔軟な, 滑かな; 油質の, ぎら
 ぎら輝く; 温和な, 静穏な (声).
 masṛṇaya 名動 他 masṛṇayati 柔かくする, 滑らか
 にする. 過受分 masṛṇita.
 masṛṇa-vāṇi 形 優しいまたは穏かな声をもつこと.
 maskarin 男 (maskara 竹をもつ), 乞食僧; [人名];
 ~i gośāli-putraḥ [人名] 普行牛舎男, 普行
 黒神男 *Mvyut.*; [音写] 末羯利瞿舍利子, 末塞羯梨瞿
 舎梨子 *Divy., Mvyut.*; [音写] 末伽黎拘路黎 *Mvyut.*
 mastaka 男 田 頭, 頭蓋骨; 頂上, 最上端 (一°とく
 に山ならびに樹木の); 頭, 尖 *Abh-vy., Lal-v.,
 Mañj-m., Mvyut., Sikṣ.,* 梵維; 脳, 脳髓 *Mvyut.,
 Sikṣ.*
 mastaka-jvara 男 頭痛.
 mastaka-dāru 田 Deva-dāru 樹 [学名 *Pinus Deo-
 dora*].
 mastaka-piṇḍaka 男 田 発情期の象のこめかみにあ
 る円い突起.
 mastaka-luṅga 田 脳膜; 脳膜, 腦子皮, 腦後,
 腦脂髓 *Mvyut., Sikṣ.*
 mastaka-sūla 田 頭痛.
 mastiṣka 男 田 頭腦.
 mastu 田 すっぱいクリーム.
 mastu-luṅga 男 田 頭腦.
 masmā 女 [二人の王女の名].
 Mah i. I, 田 mahate [また RV., 叙詩]; X. 田

mahayati (-te) (因, 圍). 意気揚々とさせる, 喜ばせる, 大いに喜ばせる [一般に 固]; 覚ます (因); 賞揚する, 尊崇する, 尊敬する; 固 (圍, 圓) を喜ぶ (因); 賦与する (因); 供, 供養 *Buddh-c.*, *Mvyut.* 受 **mahiyate** 供養 *Lal-v.* 過受分 (圍)
mahita (固, 一°; 人または事物) によって尊崇された, 高く崇敬された.
sam- (因) 刺激する; ほめる, 賞揚する.
mah 2. 形 (因) (因 mah または -i) 偉大な, 力強い; 豊富な; 老年の.
mah 3. 形 一°, [例 *nātha* ~ 師匠を尊敬する].
maha 1. 男 祭; 筵, 施会, 大施会, 齋会 *Divy.*, *Mvyut.* → *indra* ~, *toyikā* ~.
maha 2. 形 偉大な, 豊富な (RV.). 固 偉大な行為 (RV.).
mahac, → **mahat.**
mahac-chabda (°at-sa°) 男 称号としての **mahat** 「偉大」.
mahat 形 [強 鞏 **mahānt**; °一 はほとんど常に **mahā** となる (→ **mahā**); 叙詩では 固 圍 圍 がときに 固 圍 圍 として用いられる] 偉大な; 1. [空間において] 大きな, 巨大な, 広い; 高い(樹); 深い; 長い(距離); 十分に生長した; 粗大な(原素, *Sāṃkhya* 哲学において = **mahābhūta** 覆 五大); 2. [時間において] 長い; 進んだ(一日中の時間); 3. [量において] 豊富な, 沢山の, あまたの, 数多い; 4. [程度において] かなりの, 重要な, 重大な; 高い(価); 価値のある(報酬); 強い(感情); 烈しい(苦痛); 濃い(闇); 高い(声); 5. [階位において] 高い, 顕著な, 卓越した, 有力な, 著名の, 高貴の; [**jana** とともに 男] 民衆の集合; [**ātman** とともに 男] 偉大な精神 = 知性; 大, 広大, 甚大, 極 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*; 明 *Bodh-bh.* 257: ~i *prajñā-pāramitā* 大般若[経名] *Śikṣ.* 275. → **mahāpadeśam.** 男 偉大な・卓越したまたは高貴な人. 男 (**ātman** を補う), 固 (まれに, **tattva** を補う) 知性 (*Sāṃkhya* 哲学において = **buddhi**); 大覚 *Sāṃkhya-k.* 固 重要な事柄, 重大事件; 偉大性, 威力; 大部分. 副 (~ **BHū**) (月が)満ちる.
mahatā 固 偉大なこと.
mahat-katha 形 勝れた人の述べたまたは噂に上った.
mahat-kāruṇya 固 大慈悲心, 悲愍 *Gand-vy.*
mahat-kula 固 大家族.
mahat-Kṛ, 固 作大 *Aṣṭ-pr.*
mahat-tattva 固 Mahat なる原理, 知性 = **buddhi** (*Sāṃkhya* 哲学).
mahattama 最上 もっとも大きなまたは非常に大きな; 最大, 具大, 大的 *Mvyut.*; 最殊勝 *Bodh-bh.*
mahattama-pada 形 非常に高い地位を占める (*Di-vy.*).
mahattara 比較 (固) より大きなまたは強い; きわめて大きな, 強いまたは威力ある. 男 年長者, 主長, 首領; 家令; 廷臣.
mahattaraka 男 廷臣, 家令.
mahattarikā 固 貴夫人の召使い.

mahattā 固 大きなこと; 高い位置; 大, 広 *Aṣṭ-pr.*
mahattva 固 大きなこと, 大きな容積, 多量; 力強烈, 猛威; 高い位置; 道徳的の偉大さ; 性, 大体, 大勢, 広大, 勝; 大乘性 *Bodh-bh.*, *Śikṣ. Vaiś-s.*: *sapta* ~ *āni* [1. *dharma* ~ *m* 法大性 2. *cittotpāda* ~ *m* 発心大性, 3. *adhimukti* ~ 勝解大性, 4. *adhyāśaya* ~ *m* 増上意樂大性, 5. *sambhāra* ~ *m* 資糧大性, 6. *kāla* ~ *m* 時大性 7. *samudāgama* ~ *m* 円証大性] *Bodh-bh.* 297.
mahat-puṇya 固 大果報, 大功德 *Lal-v.*
mahad-abhikhya 形 おおげさな名をもつ.
mahad-ādi 男 大等 *Sāṃkhya-k.*
mahad-āyudha 固 大きな武器.
mahad-āvaraṇa 固 広大障, 大障 *Madhy-bh.*
mahad-āvāsa 男 広い住所.
mahad-āsā 固 大きな期待または希望.
mahad-āśraya 男 偉大な者に頼ること.
mahad-gata 形 [*Pāli mahag-gata*] 拡大された, 大なる; 崇高な; 甚大な (*Divy.*); 大, 広 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*: ~ *āni cittā* 大心 *Aṣṭ-pr.* 548. → *a* ~.
mahad-gatatā 固 多, 大 *Daś-bh.*
mahad-guṇa 形 大人物の徳をもつ.
mahad-guṇatva 固 [同上 固].
mahad-bhaya 固 大きな危険または窮迫.
mahad-bhū 形 大きくまたは完全になる.
mahad-bhūta 形 [同上]; 大, 転大 *Mvyut.*
mahadvat 形 **mahat** なる語と関係した.
mahad-vyatikrama 男 大きな違犯.
mahan 固 (因) 偉大, 威力; 豊富: [固 圍 **mahnā** および 覆 (用例一回) **mahabhih** のみ]. 副 力強く.
mahana 固 称讚.
mahaniya 固 称讚に値する.
mahar 不変 上方に向って層をなした七世界の中の四.
mahartvij (°hā-rt°) 男 主祭官 [四人の主な祭官の称 *Hotṛ*, *Adhvaryu*, *Udgātṛ* および *Brahman*].
maharddhi (°hā-rd°) 形 非常に富んだ; 非常に力ある; 非常に賢明な.
maharddhika (°hā-rd°) 形 非常に富んだ; 大きな自然力をもつ; 大神通, 大神通力, 速大神, 大神用, 大威神力, 大徳, 有大威徳, 威徳力具 *Gand-vy.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr. evaṃ* ~ *au* 有大神用, 有大神通 *Mvyut.*
maharddhi-kiṃnareśvara (°ra-iś°) 男 大神通緊那羅神 *Suv-pr.*
maharddhi (°hā-rd°) 形 非常に富んだ.
maharddhi-prātihārya 固 希有事 *Saddh-p.*
maharddhi-prāpta 男 [Garuḍa 王の名] 如 *Saddh-p.*
maharddhi (°hā-rd°) 形 大きな繁栄をもたらす
maharddhika 形 [= **maharddhika** (°hā-rd°)] 威力者 *Guhya-s.* 86.
mahar-loka 男 = **mahar.**
maharṣi (hā-rṣi) 男 大聖者; [*Śiva* 神の称];

陀の称]; 大仙, 大儒, 大聖 *Divy.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; 金仙 *Mvyut.*: ~er uttarasya jātakam [経名] 最上大仙本起経 *Śikṣ.* 189.

mahalla 形 老いた, 年長の (*Divy.*); 老, 無知 玄応. 男 老人, 年長者 (*Divy.*); 老, 老衰者; 急困; 黄門, 宦官 *Mvyut.*; 老苾芻, 老叟苾芻 [苾芻は bhikṣu の 音写] *Divy.* 520; 音写 摩訶羅玄 応.

mahallaka 形 (因 -ikā) 老いた, 年長の, 老衰した; 老, 旧, 耆旧, 衰朽 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*; 病侵 *Mvyut.*; 半路修行 *Mvyut.* 形 大きな(住宅); 大房, 大寺, 大住処, 過量不応法処 *Mvyut.*: ~vihāra 大房舎 *Prāt-m* V. 20.

mahallikā 因 [*Prahlāda* の娘の名].

mahas 因 偉大, 威力, 光栄 [因; 男 力強く]; 豊富, 饒多 (因); 光, 光沢 (男); 祭, 儀式 (男). 形 大きな (因). **mahas** 副 (RV.) 大いに; 力強く.

mahasvat 形 (偉大な), 讃えられる (因); 大きな, 力強い; 輝く, 光沢のある.

mahasvin 形 輝く, 光沢のある.

mahā 形 大きな [RV. においてのみ独立 形 として現われる: 副 mahām. この語は 因 副 ともにきわめてしばしば 形 (大きな) または 副 (大いに, 非常に) の意義で 一° として用いられる. 従って mahat は少数の場合を除き 因 副 の意義のみに用いられる]; 漢訳 大, 広大, 巨 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*, 梵千等.

mahā-kaṅkara 男 漢訳 [数の名] (音写) 大矜羯羅 *Mvyut.*

mahā-kaccha 男 高い *Cedrena Toona* 樹.

mahā-kathā 因 大きな物語.

mahā-kapāla 男 [ある Rākṣasa の名].

mahā-kapi 男 [王侯の名]; [仏陀の三十四化身の一の名] (*Jāt-m.*).

mahā-kapṣiṇa 男 漢訳 音写 [仏弟子の名] 摩訶劫 賓那 *Sukh-vy.* II.

mahā-kāmbu 形 まっ裸の (*Śiva* 神).

mahā-kāra 男 [仏陀の名] (*Lal-v.*).

mahā-karabha 男 漢訳 [数の名] (音写) 大羯臘婆 *Mvyut.*

mahā-karuṇa 形 非常に同情深い.

mahā-karuṇā 因 普遍的憐憫の情 (*Lal-v.*); 漢訳 大悲, 慈愍, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Laṅk.*, *Mvyut.*, 玄応; 音写 摩訶迦樓那 玄応.

mahākaruṇā-candri 男 [菩薩の名].

mahākaruṇā-puṇḍarika 因 [経の名] 悲華経, 大慈白蓮経, 大慈白蓮華経; (音写) 大悲分陀利, 大悲芬陀 *Mvyut.* → *karuṇā-puṇḍarika.*

mahākaruṇāpuṇḍarika-sūtra 因 漢訳 [経の名] 大悲経 *Śikṣ.* [悲華経, 大乘悲分陀利経].

mahākaruṇā-sūtra 因 漢訳 大悲経 *Śikṣ.*

mahā-karkaru 男 漢訳 大白色花 *Mvyut.* → *karkaru.*

mahā-karṇa 形 大きな耳をもつ (*Śiva* 神).

mahā-karman 因 大きな事業. 大きな事業をする

(*Śiva* 神).

mahākarma-vibhaṅga 男 [経の名, 分別善惡報応経].

mahākarma-vibhāga-sūtra 因 漢訳 [経の名] 大分別業経, 大分別諸業契経 *Abh-vy.*

mahā-kalā 因 新月の夜.

mahā-kalpa 男 大きな宇宙論的期間; 漢訳 大劫 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Dharm-s.*, *Mvyut.*

mahā-kavi 男 偉大なまたは古典文学の詩人 [*Kalidāsa.* *Bhavabhūti* 等のような].

mahā-kātyāyana 男 漢訳 [仏弟子等の名] (音写) 大迦旃延, 大迦多衍那, 大迦多演那 *Divy.*, *Sapt-pr.*, *Vijñ-v.*; 音写 摩訶迦旃延, 摩訶迦多衍那 *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy.* II.

mahā-kāya 形 大きな身体をもつ, かさ張った, 巨大な; 巨大な(樹); 漢訳 大身 *Bodh-bh.*, *Vajr-pr.* 男 [*Śiva* 神の称]; [*Śiva* 神につき従う一族の名]; 漢訳 [*Garuḍa* 王の名] 大身 *Saddh-p.*

mahā-kāyatva 因 大きな容積.

mahākāra (°hā-āk°) 形 大きな, 広い.

mahā-kāruṇika 形 非常に慈悲深い (*Lal-v.*); 漢訳 大悲, 大(慈)悲, 具足大悲心, 大(慈)悲憐愍 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Laṅk.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*

mahā-kāla 男 [世界の大破壊者としての *Śiva* 神の一形相]; [*Śiva* 神の従者の名]; きゅうりの一種; [*Ujjayini* における *Śiva Mahākāla* の殿堂の名]; [山の名] (*Kar-vy.*); 漢訳 大黒, 大時 *Mvyut.*, *Suv-pr.*; 音写 摩訶伽羅, 摩訶伽吒 *Mvyut.*, *Suv-pr.* 因 [ある著名な *Liṅga* の名].

mahākāla-pura 男 *Mahākāla* の都城, *Ujjayini.*

mahā-kālī 因 [*Durgā* 神の一形相].

mahā-kāvya 因 偉大なまたは古典文学の詩 [とくに *Raghuvamśa*, *Kumāra-sambhava*, *Megha-dūta*, *Kirātārjunīya*, *Śiśupāla-vadha* ならびに *Naiṣadha-carita* の六篇に適用される].

mahā-kāśyapa 男 漢訳 [仏弟子の名] 大欽光 *Aṣṭ-pr.*; (音写) 大迦葉, 大迦葉波 *Abh-vy.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*; 音写 摩訶迦葉 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy.* I., II.: ~sya vastu-pravrajyā-sūtram [経の名].

mahā-kīrti 形 有名な.

mahā-kula 因 著名なまたは高貴な家族. 形 高貴な家族に属する.

mahā-kulina 形 高貴な家族に属する.

mahā-kulinatā 因 高貴な生れ, 名門の出身.

mahākuloṭpanna (°la-ut°) 形 高貴な家族に生まれた.

mahā-kuśa 男 漢訳 [*Cakravartin* の名] 大香草, 大吉祥草; (音写) 大孤沙 *Mvyut.*

mahā-kūla 形 高い堤をもつ.

mahā-kṛcchra 因 激しい苦行 [*Viṣṇu* 神の称].

mahā-kṛtya 因 漢訳 大事 *Aṣṭ-pr.*

mahā-kṛpa 形 漢訳 大悲 *Śikṣ.*, *Sātr.*

mahā-ketu 形 大きな旗をもつ (*Śiva* 神).

mahā-keśa 形 濃い髪をもつ (*Śiva* 神).

mahā-kośa 形 大きな鞞丸をもつ (*Śiva* 神).

mahā-kośi 因 [河の名].
 mahā-koṣṭhila 男 [仏弟子の名, = mahā-
 kauṣṭhila] 執大蔵 *Aṣṭ-pr.*; [音写] 摩訶俱絺羅
Aṣṭ-pr.
 mahā-kaūṣitaka 因 [ある *Veda* 原典の題名].
 mahā-kaūṣṭhila 男 [仏弟子の名] 膝, 大膝,
 執大蔵 *Mvyut.*, *Sapt-pr.*, 玄応; [音写] 俱絺羅, 摩
 訶拘絺羅, 摩訶拘絺羅, 摩訶俱絺羅, 摩訶俱瑟祉羅,
 摩訶俱瑟耻羅 *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I., II.*,
 玄応.
 mahā-kaūṣṭhilya 男 [同上].
 mahā-kratu 男 大きな祭式 [例えば *Rajasūya* および
Aśva-medha].
 mahā-krodha 形 非常に怒りやすい. 男 [*Siva* 神の
 称].
 mahākṣa (°hā-ak°) 形 大きな眼をもつ (*Siva* 神).
 mahā-kṣatra-pa 男 偉大なサトラップ(太守).
 mahākṣa-pāṭalika (°hā-ak°) 男 公文書保管所の主
 長.
 mahākṣobhya (°hā-ak°) 男 [数の名] [音写] 大
 阿閼婆, 大阿闍婆 *Mvyut.*
 mahā-khāta 因 深い溝渠.
 mahā-khyāta 形 非常に有名な.
 mahā-gaṅgā 因 [河の名].
 mahā-gaja 男 大きな象; 地を支える象 (=dig-gaja).
 mahā-gaṇa 男 大きな群集・集団または団体.
 mahāgaṇa-pati 男 群団の大きな主, [*Ganeśa* の称].
 mahāgaṇeśa (°ṇa-iśa) 男 [同上].
 mahā-gati 因 [数の名] [音写] 大掲底 *Mvyut.*
 mahā-gada 1. 形 大きな棍棒を手にした. 男 重病;
 [病の一種].
 mahāgada 2. (°hā-ag°) 男 [(大解毒剤), 薬剤の一
 種].
 mahā-gandha 形 強いにおいのする, 非常に芳香の
 ある.
 mahā-garbha 形 大きな母胎をもつ. 男 大きな母胎,
 [*Siva* 神の称]; [ある *Dānava* の名].
 mahā-gala 形 太いまたは長い首をもつ.
 mahā-giri 男 大きな山.
 mahā-gita 男 [*Siva* 神の称], (偉大な歌人).
 mahā-guṇa 形 大きな徳をもつ, 非常に功績の多い;
 非常に効果のある; [大功德] *Sukh-vy. I.*
 mahāguṇa-dhara-buddhi-prāptābhijña 男 [仏
 の名] 持大功德(法施)神通 *Sukh-vy. I.*
 mahā-guru 男 非常に尊敬される人.
 mahā-gṛha 因 大きな家.
 mahā-govindīya-sūtra 因 [経の名] (仏教).
 mahā-gauri 因 [*Durgā* の九種形相の一]; [河の名].
 mahā-graha 男 [*Rahu* の称].
 mahā-grāma 男 大群 (RV. 用例一回のみ); 大きな村;
 種 [住民の名].
 mahā-grāsa 男 大最勝(?), 大飲食神 *Suv-pr.*
 149.
 mahā-grāha 男 大きな鮫.
 mahā-griva 形 長い首をもつ (*Siva* 神).
 mahā-ghaṭa 男 大きな甕.

mahā-ghora 形 非常に恐ろしい.
 mahā-ghoṣa 形 強い音を発する, 雷をとどろかす(雲)
 mahāghoṣa-svara-rājan 男 [菩薩の名] 大音王.
 大声王, 大音声王, 大声音王 *Mvyut.*
 mahāghoṣānugā 因 [Tantra 女神の名] 随入
 大音, ((随入大音母)) *Mvyut.*
 mahāghoṣeśvara (°ṣa-iś°) 男 [Yakṣa の名] 大
 音自在 *Mvyut.*
 mahāṅga (°hā-aṅ°) 形 大きな体または肢をもつ (*Siva*
 神).
 mahā-cakra 因 大きな車輪または円盤.
 mahācakra-praveśa-jñāna-mudrā 因 入大輪智
 印, ((入大輪智手印)) *Mvyut.*
 mahācakra-vartitā 因 大帝王の威厳.
 mahācakra-vartin 男 大帝王, 全世界の君主.
 mahācakra-vāḍa 男 [山の名] 大鉄罫, 大鉄罫
 山, 大鉄輪罫, 大輪罫, 大輪山, 大開罫山 *Dharm-*
s., *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*
 mahā-caturaka 男 [(非常に狡猾な), ある豺の名].
 mahā-candra 男 [大臣の名] 大月 *Divy.*
 mahā-camū 因 大軍.
 mahā-caryā 因 大きな行跡 (すなわち Bodhisattva の
 行跡). ~m Grah Bodhisattva の生活に入る.
 mahācala (°hā-ac°) 男 大きな山.
 mahācalendra-rāja (°la-in°) 男 不可傾動(如)
 須弥山 [須弥は *sumeru* の音写] *Gaṇḍ-vy.*
 mahācārya (°hā-āc°) 男 大学匠 (*Siva* 神).
 mahā-citra-pāṭala 因 [花の名] 大灰緑色 *Mv-*
yut.
 mahā-cuṇḍa 男 [音写] [仏弟子の名] 摩訶注那,
 摩訶周那, 摩訶剛那 *Sukh-vy. I.*
 mahāja (°hā-aja) 男 大きな牡山羊.
 mahā-jaṭa 形 大きな弁髪をもつ (*Siva* 神).
 mahā-jatru 形 大きな鎖骨をもつ (*Siva* 神).
 mahā-jana 男 種(種) 多くの住民, 人の群集, 集団,
 庶民, 民族; 偉大なまたは著名な人または人々; 衆
 衆, 大衆, 衆生 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.* 形 多
 くの人の住む(家).
 mahājana-kāya 男 大衆, 諸大会, 世人, 群臣
Av-s., *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Laṭ-v.*
 mahājana-pada 男 大城, 大国 *Saddh-p.*
 mahājana-virodha 男 多くの人々または生物の敵意.
 mahā-jaya 男 [ある *Nāga* の名].
 mahā-java 形 非常に迅速な(馬, 矢).
 mahā-jātaka-mālā 因 [仏典の名].
 mahā-jihva 形 長い舌をもつ (*Siva* 神).
 mahā-jñāna 因 大智 *Mvyut.*, *Sūtr.*
 mahājñāna-gītā 因 [Tantra 女神の名] 大智歌
 音, ((大智歌音母)) *Mvyut.*
 mahājñāna-nidhi 形 秘密の知識をもっている.
 mahājñānākara (°ṇa-āk°) 男 大智蔵 *Sūtr.*
 mahā-jñānin 形 博識な (*Siva* 神). 男 偉大な占術者.
 mahā-jyotis 形 大光明をもつ (*Siva* 神).
 mahā-jvara 男 大きな苦惱.
 mahā-jvāla 形 激しく燃え立つ (*Siva* 神). 男 [ある地
 獄の名].

mahāñjana (°hā-añ°) 男 [山の名].
 mahāṭavi (°hā-aṭ°) 因 大きな林.
 mahā-dīna 因 [飛び方の一種].
 mahādhya (°hā-ādh°) 因 非常に富んだ.
 mahā-tattva 因 知性, =buddhi (*Sāṃkhya* 哲学).
 mahā-tapas 因 非常に苦しめられた; 大苦行をする.
 男 [ある Muni の名].
 mahā-tapasvin 因 非常に悩まされた.
 mahā-tamas 因 大きな暗黒 [*Avidyā* の五段階の一].
 mahā-tala 因 [(大きな底), ある地獄の名].
 mahā-tārā 因 [仏教の女神の名].
 mahā-tikta 因 非常ににがい.
 mahā-tiṭibha 男 因 [数の名] (音写) 大地致婆
Mvyut.
 mahā-tithi 因 陰暦の月の大事な日+なわち第六日.
 mahā-tuṣita 男 [Viṣṇu 神の称].
 mahā-tuṣṭi-jñāna-mudrā 因 因 (大満足智印), 大
 悦智手印, 光悦因智手印 *Mvyut.*
 mahā-teja 因 [同下 因].
 mahā-tejas 因 偉大な輝きをもつ, 栄光に輝く [神々
 一ならびに人々について]. 男 [Skanda の称]; [戦士
 の名]; 因 [Garūḍa 王の名] 大威徳 *Saddh-p.*
 mahā-taila 因 貴重な油 [または油の名].
 mahātodya (°hā-āt°) 因 太鼓.
 mahātmatā (°hā-āt°) 因 因 大力, 大我, 威徳
Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.
 mahātman (°hā-āt°) 男 至上精神, 宇宙我, 根本原理;
 知性; 因 大師 *Daś-bh.* 因 偉大な精神をもつ,
 高尚な心をもつ, 高貴な; 大いに知性に富む, 非常に
 天分の豊かな, 非常に賢い; 気高い, 顕著な, 有名な
 (家族), 威力のある; 因 有大度量, 大自性, 大我,
 大徳, 大威徳, 大仁; 最第一 *Bodh-bh., Divy.,*
Mvyut., Saddh-p.
 mahātmatvat (°hā-āt°) 因 非常に天分の豊かな, 非
 常に伶俐な.
 mahātmya (°hā-āt°) 因 [mahātmya の誤]; 因
 大, 広大, 寛弘, 大我性, 力 *Daś-bh.*
 mahātyaya (°hā-at°) 男 大きな災厄. 因 大災厄を招
 く.
 mahā-tyāga 男 非常に寛大なこと. 因 非常に寛大な.
 mahātyāga-citta 因 心の非常に寛大な (*Lal-v.*).
 mahā-tyāgamaya 因 非常な寛大からなる.
 mahā-tyāgin 因 非常に寛大な (*Śiva* 神).
 mahā-daṃṣṭra 因 大きな牙をもつ (*Śiva* 神). 男 [人
 名]; [ある *Vidyādhara* の名].
 mahā-dakṣiṇā-pariśodhaka 因 因 住大浄福田, 清
 浄大施主, 消除施障 *Mvyut.*
 mahā-daṇḍa 男 大きな杖または長い臂; 苛酷な刑罰.
 mahā-danta 因 大きな歯をもつ. 男 長い牙をもつ
 象.
 mahā-daridra 因 非常に貧しい.
 mahā-dāna 因 貴重な施物. 因 大きな施物をとまな
 う(祭式).
 mahā-dāna-pati 男 非常に寛大な人 (*Lal-v.*); 因
 大施主, 広大施主 *Saddh-p., Sapt-pr.*
 mahā-dāru 因 *Devādāru* 樹 [学名 *Pinus deodo-*

ra].

mahāditya (°hā-ād°) 男 因 大日 *Sātr.*
 mahā-diś 因 主な方角 (東西南北).
 mahā-duḥkha 因 大きな不幸.
 mahā-durga 因 大きな危険; 非常に近づきにくい場
 所.
 mahā-duṣṭa 因 因 大悪者 *Guhy-s.*
 mahā-dṛti 男 大きな袋.
 mahā-deva 男 偉大な神 [とくに *Rudra* 神または彼に
 関係のある神々の一つに用いられる語 (因); 因では
 =*Śiva* 神]; [*Viṣṇu* 神の称]; [山の名]; [諸人の
 名]; 因 大天, 大神 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.*; 音写 摩
 訶提婆 *Suv-pr.*
 mahādeva-kṛtyā 因 *Siva* 神に対して犯した悪行.
 mahādeva-giri 男 [山の名].
 mahā-devi 因 大女神 = *Pārvatī*; *Lakṣmī* 女神; 王の
 第一夫人; [諸人の名].
 mahādbhuta (°hā-ad°) 因 非常に驚くべき. 重 大き
 な驚異.
 mahā-dyuti 因 偉大な輝きの, 輝かしい, 栄光のある.
 mahā-dyotā 因 因 [Tantra 女神の名] 大作明母
Mvyut.
 mahā-druma 男 大樹; 因 大樹 *Saddh-p.*
 mahā-dvāra 男 因 正門.
 mahā-dvipa 男 因 天下 *Saddh-p. 19.*
 mahā-dhana 因 多額の金銭に値する, 高価な; 多く
 の金銭をもつ, 富んだ; 因 大財, 饒財, 多饒財宝,
 多饒珍財, 富長者 *Divy., Mvyut., Saddh-p., Suv-*
pr. 男 [ある商人の名]; 因 [王の名] 財 *Divy.* 因
 大戦 (RV.); 大きな賭物, 獲物 (RV.); 大きな富
 (華).
 mahādhana-pati 男 (大富の主), 大いに富んだ人.
 mahā-dhanin 因 因 富, 長者 *Saddh-p.*
 mahā-dhanur-dhara 男 大射手.
 mahā-dhanuṣmat 男 [同上].
 mahā-dhanus 因 大きな弓を持つ (*Siva* 神). 重 大
 きな弓.
 mahā-dharma-dundubhi 男 [仏の名] (*Sukh-ry. 1.*).
 mahādharma-dhvaja 男 [同上] (*Sukh-ry. 1.*); 因
 殊勝法幢, 最勝法幢 *Suv-pr.*
 mahādharma-bhāṇakatva 因 因 大法師 *Sātr.*
 mahādharma-saṅkha 男 因 極妙法螺, 極妙法
 螺 *Suv-pr.*
 mahā-dhātu 男 [*Siva* 神の称].
 mahādhipati (°hā-adh°) 男 因 [Tantra 女神の名]
 大主母, 大我母 *Mvyut.*
 mahādhivāsana (°hā-adh°) 因 因 大忍 *Sātr.*
 mahā-dhi 因 偉大な理解力のある, 非常に賢い.
 mahā-dhṛti 男 [王侯の名].
 mahānaka (°hā-ān°) 男 太鼓 (の一種).
 mahā-nakha 因 大きな爪またはかぎ爪をもつ; [*Siva*
 神の称].
 mahā-nagara 因 大都市 [またはある 都市の名]; 因
 城 梵千.
 mahānagara-svāmin 男 因 城主 梵千.

mahā-nagna 男 (赤裸の), 情人・(因); 力士 (*Kār-vy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*); 力士, 大力士, 大氣力, 大露形神 *Av-ś.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.* 音写 摩訶諾健那, 摩訶諾伽那 *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 玄應.
mahānagna-bala 中 大薰力 (?), 大露形神力; (音写) 摩訶諾健那力 *Mvyut.*
mahā-nagni 因 娼婦.
mahā-nada 男 大きな流れ.
mahā-nadi 因 河; [*Gaṅgā* 河その他諸河の名]; 江 梵千.
mahānana (°hā-ān°) 形 大きな口または顔をもつ (*Śiva* 神).
mahānanda (°hā-ān°) 男 大きな喜びまたは幸福; [仏弟子の名]; [王侯の名]; [河の名].
mahā-nandi 男 [王侯の名].
mahā-nayuta 男 [数の名] 潤; (音写) 大那婁多 *Mvyut.*
mahā-naraka 男 [ある地獄の名]; (音写) 大那落迦 *Bodh-bh.*
mahā-narendra (°ra-in°) 男 大奇術師または魔術者.
mahānasa (°hā-an°) 中 貨物車; 台所; 厨 *Divy.*, *Mvyut.*; 多穴 *Mvyut.*
mahānasādhyakṣa 男 台所の管理者.
mahānasi (°hā-an°) 因 料理人, 台所の女中.
mahā-nāga 男 大蛇; 大象; 大竜; 大象, 大竜象, 大象王, 象王 *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Sapt-pr.*, *Sukh-vy.*, I.; 音写 摩訶那伽 玄應.
mahā-nāṭaka 中 大戯曲; [戯曲の一種].
mahā-nāda 男 大きな音, 叫声, 怒号等; [*Śiva* 神の称]; [ある *Rākṣasa* の名]. 形 大音を発する, 怒号する等.
mahā-nābha 形 大きな臍に類するくぼみをそなえた. 男 [武器に対して唱えられるある呪文]; [ある *Dānava* の名].
mahā-nāma 男 [人名] 大名 *Mvyut.*; 音写 摩訶男, 摩訶那摩 *Mvyut.*
mahā-nāman 男 [人名, 仏弟子の名] 大名, 大号 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Sukh-vy.*; 音写 摩訶南, 摩訶那摩, 摩訶那弥 *Abh-vy.*, *Lal-v.*, *Sukh-vy.*
mahānāma-sūtra 中 [経の名] 大名経; (音写) 摩訶那摩経 *Abh-vy.*
mahā-nāmnī 因 獨 [vidā maghavan という語で始まり, *Sama-veda* に属する九頌の名].
mahā-nāyaka 男 偉大な指導者または主長; 真珠の首飾りの大きな中央珠玉.
mahā-nārāyaṇopaniṣad (°na-upa°) 因 [ある *Upaniṣad* の題名].
mahā-nāsa 形 大きな鼻をもつ (*Śiva* 神).
mahā-nidāna-paryāya-sūtra 中 [経の名] 大縁起経, 大因縁経 *Abh-vy.*
mahā-nidra 形 熟睡するまたは長く眠る.
mahā-nidhāna 中 大蔵, 珍宝 *Kāśy.*
mahā-nimba-rajasa 中 [数の名] (音写) 大拈筏羅闍 *Mvyut.*
mahā-niyama 男 [(大なる祈誓), *Viṣṇu* 神の称].
mahā-niraya 男 [地獄の一種]; 大地獄 *Aṣṭ-pr.*

mahā-nirdeśa 男 無量義 *Saddh-p.*
mahā-nirnādin 男 [竜の名] 大音, 大声 *Mvyut.*
mahā-nirvāṇa 中 完全な涅槃 (仏教).
mahā-niveśa 形 大量の.
mahā-niś 因 深夜, 夜の第二および第三更 [午後九時から午前三時まで].
mahā-ñila 形 暗青または黒色の. 男 サファイア; 大青宝, 大青珠 *Mvyut.*
mahā-ñilamaya 形 サファイアからなる.
mahāñilopala (°la-up°) 男 =mahā-ñila (男).
mahāñubhāva (°hā-an°) 形 非常に力強いまたは栄光のある; 雅量のある, 高潔な, 高貴の; 有大威徳 *Divy.* 男 大威徳, 威徳最大 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
mahāñubhāvātā (°hā-an°) 因 高潔なこと, 高貴なこと.
mahāñubhāvātva (°hā-an°) 中 [同上].
mahāñuśaṃsa (°hā-an°) 形 [*Pali mahāñisaṃsa*] 非常に称讃に値する (*Mah-v.*).
mahāñuśaṃsaka (°hā-an°) 形 大きな利益のある (*Divy.*).
mahāñūpa (°hā-an°) 形 大きな沼沢のある.
mahā-nṛtya 男 偉大な舞踏者 (*Śiva* 神).
mahā-netra 形 大きな眼をもつ (*Śiva* 神).
mahāntaka (°hā-an°) 男 偉大な終了者 [死, *Śiva* 神の称].
mahāndha-kāra (°hā-an°) 男 真の暗黒, 知性が全くもうろうとなること.
mahāndhraka (°hā-an°) 男 *Videha* の王侯.
mahā-nyāya 男 基本的法則.
mahānvaya (°hā-an°) 形 高貴な血統の.
mahā-pakṣa 形 多くの支持者をもつ, 多数の部下のある; 大朋党 *Bodh-bh.*
mahā-pakṣatā 因 大朋翼 *Bodh-bh.*
mahāpagā (°hā-ap°) 因 大河, 河; [河の名?].
mahā-paṅka 中 (?) 深泥.
mahā-paṅkti 因 [四十八綴字からなる韻律の一種].
mahā-paṇḍita 形 非常に博学である. 男 大学匠.
mahā-patha 男 主な街路; 公道; 大旅行, 他の世界への巡礼 [~m *Yā* 死ぬ]; [地獄の一種]. 形 大道をもつ.
mahāpatha-giri 男 [山の名].
mahā-pathika 形 大旅行に出発する.
mahāpadeśa (°hā-ap°) 男 大説, 明説 [*Tib chen po bsdan pa*] *Bodh-bh.* 257.
mahā-padma 中 [ある高単位の数の名]; 大蓮華 *Lank.* 男 [魔術 *Padmir* と関係した八種宝物の一]; [ある *Nāga* の名]; [竜王の名] 大蓮華, 大蓮花 *Mvyut.*; [八地獄の一] 大紅蓮華, 大紅蓮花, 裂如大蓮 *Dharm s.*, *Mvyut.*
mahāpadma-pati 男 [(百万人の主長), *Nanda* の称].
mahāpadma-saras 中 [湖水の名].
mahāpadma-salila 中 [同上].
mahā-padya-ṣaṭka 男 [六古典詩節からなる詩の題

(*Kalidāsa* の作と称せられる)].

mahā-panthaka 田 [仏弟子の名] 大路, 大路边 *Divy.*, *Mvyut.*; [音写] 莫訶半託迦, 摩訶槃陀迦 *Divy.*, *Mvyut.*

mahāparādha (°hā-ap°) 男 大きな罪または傷害.

mahā-pariṇāma 男 [漢訳] 大廻向 *Ast-pr.*

mahā-parinirvāna 田 [漢訳] 徧円寂 *Sukh-vy. I.*; [音写] 大般涅槃, 大涅槃, 尽般泥洹 *Lank.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.*; [経の名] 大涅槃経 *Mvyut.*

mahāparinirvāna-sūtra 田 [経の名, 大般涅槃経等].

mahā-parivāra 田 [漢訳] 大眷属 *Bodh-bh.*

mahā-parivāratā 女 [漢訳] 大僚属 *Bodh-bh.*

mahā-parvata 男 高山.

mahā-pavitra 形 非常に純化する; 不利な影響に対して固く守護する, [*Viṣṇu* 神の称].

mahā-paśu 男 多数の家畜.

mahā-pāṭala 田 [漢訳] [花の名] 大灰色 *Mvyut.*

mahā-pāta 男 長い飛翔. 形 遠く飛ぶ (矢).

mahā-pātaka 田 大きな悪事または犯罪 [五種がある: 婆羅門を殺すこと, 飲酒, 偷盗, 師の妻と姦通すること, これら四種の犯罪者と交際すること].

mahā-pātakin 形 重罪を犯す.

mahā-pātra 田 宰相.

mahā-pāda 形 大きな足をもつ (*Śiva* 神).

mahā-pāna 田 美味しい飲料.

mahā-pāpa 田 大罪.

mahā-pāpman 形 非常に有害な.

mahā-pāra 男 [ある人格化の一種]. 形 向う岸の遠い, 広大な(海).

mahā-paruṣaka 田 [漢訳] [花の名] 大三色, 大三色花 *Mvyut.*

mahā-pārśva 形 広い脇腹をもつ (蛭); [ある *Dānava* の名]; [ある *Rākṣasa* の名].

mahā-pāśa 男 [*Yama* 神の警吏の名]; [漢訳] [竜の名] 大羂索 *Mvyut.*

mahā-pāsupata 形 *Śiva Paśupati* の崇拜者の大願 [vrata 田 とともに]. 男 *Śiva Paśupati* の熱心な崇拜者.

mahā-piṭha 田 高い坐.

mahā-puṃsa 男 偉大な人物.

mahā-puṇya 形 非常に吉祥な(日); 非常に善いまたは美しい; 非常に神聖な; [漢訳] 大福, 大福德, 大功德 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*

mahāpuṇya-nidhāna 田 [漢訳] 大功德蔵 *Bodh-bh.*

mahā-pura 田 大きな城砦; [聖地の名].

mahā-puri 田 大きな城砦.

mahā-puruṣa 男 偉大なまたは著名な人; 至上精神, 宇宙我 [また *mahā-puruṣa*]; [*Viṣṇu* 神の称]; [漢訳] 大人, 大士, 丈夫, 大丈夫, 最勝丈夫, 無上人, 雄猛者, 人中豪貴 *Abh-vy.*, *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Rāstr.*, *Śikṣ.*

mahāpuruṣa-bhāva 男 [漢訳] 大丈夫身, 大丈夫事 *Bodh-bh.*

mahāpuruṣa-lakṣaṇa 田 [漢訳] 大人相, 大人之相, 大士相 (好), 大丈夫相 *Bodh-bh.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*

mahāpuruṣalakṣaṇa-vaipākya 形 [漢訳] 大士相異熟 *Bodh-bh.*

mahā-pūja 田 [儀式の一種]; [漢訳] 大供養 *Lank.*

mahā-pūta 形 極めて淨い.

mahā-puruṣa 男 → *mahā-puruṣa*.

mahā-pūrṇa 男 [漢訳] [*Garuḍa* 王の名] 大満 *Saddh-p.*

mahā-pṛthivī 田 大地; [漢訳] 大地 *Ast-pr.*, *Sapt-pr.*, *Sukh-vy. II.*; 四天下 *Av-s.*

mahā-pṛṣṭha 形 背の広い.

mahā-paiṅgya 田 [ある *Veda* 原典の題名].

mahā-prakarāṇa 田 問題の主な論述.

mahā-prajā-pati 男 偉大な造物主, [*Viṣṇu* 神の称].

mahā-prajā-pati 田 [漢訳] [人名] 大愛道, 大敬達, 衆主, 大世主 *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*; 瞿夷 [*gautamī* の音写] *Suv-pr. 212.*; [音写] 波闍波提, 摩訶波闍波提 *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*; ~ *gautamī* 衆主, 摩訶波闍波提鬘曇弥, 摩訶鉢刺鬘鉢底喬荅弥 *Mvyut.*

mahā-prajña 形 [漢訳] 大慧, 慧大, 妙智, 智慧, 大智, 大智者 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*

mahā-prajñatva 田 [漢訳] 大慧 *Sūtr.*

mahā-praṇāda 男 [漢訳] [人名] 大叫声 *Divy.*; [転輪王の名] 大声, 大妙声, 大哮吼, 極大哮吼 *Divy.*, *Mvyut.*; [音写] [人名] 摩訶波(那)羅 *Suv-pr.*

mahā-praṇālin 男 [漢訳] [山の名] 大渠 *Suv-pr.*; [音写] 摩訶波那 *Suv-pr.*

mahā-praṇidhāna 田 すぐれた誓願 (*Sukh-vy. I.*); [漢訳] 大願 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*

mahā-pratāpa 形 偉大な威厳をもつ, 威風堂々とした.

mahā-pratibhāna 男 [漢訳] [菩薩の名] 大弁, 大樂説 *Saddh-p.*

mahā-pratisarā 田 [仏典の名, 随求即得大自在陀羅尼神呪経等].

mahā-pratihāra 男 門衛長.

mahā-pratyāṅgirā-dhāraṇi 田 [仏典の名, 大白傘蓋総持陀羅尼経等].

mahā-pratyupakāra 男 [漢訳] 大報恩(徳) *Bodh-bh.*

mahā-pradāna 田 大きな施物.

mahā-pradipa 男 [漢訳] [仏の名] 大光(仏), 大然, 大炬, 大燈光 *Lal-v.*, *Suv-pr.*

mahā-pradeśa 男 [漢訳] 廣大説 *Śikṣ.*; *kālopadeśa* ~ 時説及廣大説 *Śikṣ. 63.*

mahā-prapañca 男 大世界.

mahā-prapāta 男 [漢訳] 大坑, 大深坑, 懸險之処, 懸險之処 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*

mahā-prabha 形 非常に光輝のある, 非常に美事な; [漢訳] 大光, 円満光 *Gaṇḍ-vy.* 男 [漢訳] [仏の名] 大光, 大明 *Sukh-vy. II.*

mahā-prabhā-maṇḍala-vyūha-jñāna-mudrā 田 [漢訳] (大光輪莊嚴智印), 大光中圍智手印 *Mvyut.*

mahā-prabhāva 形 非常に強い. 男 [漢訳] 大神力, 大神通力 *Bodh-bh.*

mahā-prabhu 男 偉大な主; 主長; [*Viṣṇu* 神の称].

mahā-pramāṇa 形 非常に広い.

mahā-pramāda 形 非常な不幸をとまなう.

mahā-prayuta 男 [漢訳] [数の名] 載; [音写] 大鉢羅

更多 *Mvyut.* → mahā-prasuta.
 mahā-pralaya 男 (宇宙の最終時における) 大崩壊.
 mahāpralaya-kāla 男 宇宙の大崩壊の時.
 mahā-prasna 男 大きなまたは重要な疑問.
 mahā-prasāda 男 大きな贈物. 形 非常に恵み深い.
 mahā-prasuta 男 漢訳 [数の名] 載; (音写) 大鉢羅
 更多 *Mvyut.*
 mahā-prasthāna 男 大きな出発, 死去.
 mahā-prasthānika 形 [Mahābhārata 中の章の題名].
 mahā-prājña 形 非常に賢明なまたは思慮のある(人).
 mahā-prāṇa 男 硬気音, 含気音; 大きな力. 形 硬気
 音をともなって発音される, 含気の; 大きな忍耐力
 または体力のある.
 mahā-priti-vega-sambhava-jñāna-mudrā 女 漢訳
 出喜大力智手印, 喜大力出智手印 *Mvyut.*
 mahā-priti-harṣā 女 漢訳 [Tantra 女神の名] 大喜
 足, 大喜以令足, 大喜歡母 *Mvyut.*
 mahā-plava 男 大洪水, 氾濫.
 mahā-phaṇaka 男 漢訳 [竜の名] 大辮, 大舌頭
Mvyut.
 mahā-phala 男 大きな果実; 大きな報償. 形 大きな
 報償を生ずる; 漢訳 大果(報) *Madhy-bh., Sūtr.*
 mahā-bala 形 非常に強い・力強いまたは効果のある;
 漢訳 獲大力勢, 得大勢力 *Suv-pr.* 男 [第四 Man-
 vantara における Indra 神の称]; [王侯の名];
 [諸人の名]; 漢訳 [王の名, 竜の名] 大力 *Mvyut.,*
Sam-r. 男 漢訳 [数の名] (音写) 大跋藍 *Mvyut.*
 mahābala-parākrama 形 大力をもつ (*Viṣṇu* 神);
 漢訳 雄猛具大力 *Suv-pr.*
 mahābala-sūtra 男 漢訳 [経の名] 大力経 *Mvyut.*
 mahābalākṣa 男 漢訳 [数の名] (音写) 大跋羅憐
Mvyut.
 mahā-bādha 形 非常に傷害的な.
 mahā-bāhu 形 長いまたは強い臂をもつ. 男 [*Viṣṇu*
 神の称]; [ある *Dānava* の名]; [ある *Rākṣasa* の
 名]; [*Dhṛtarāṣṭra* の息子の名]; [王侯の名].
 mahā-bimbara 男 漢訳 [数の名] (音写) 大頻婆羅,
 大頻婆羅 *Mvyut.*
 mahā-bila 男 深い坑.
 mahā-bīja 形 精力に富む (*Siva* 神).
 mahā-buddha 男 偉大なる Buddha.
 mahā-buddhi 形 大智のある, 非常に伶俐な. 女 漢訳
 大般若 [般若は *prajñā* の (音写) *Sūtr.* 29. 男 [あ
 る *Asura* の名]; [人名].
 mahā-brhatī 女 [韻律の一種].
 mahā-bodhi 男 または 女 仏陀の大智; 漢訳 (音写) 大
 菩提, 無上菩提 *Bodh-bh., Sūtr.* 男 仏陀; [仏陀
 の一本生譚に現われる商人の名] (*Jāt-m.*).
 mahā-bodhi-pariṇāmana 男 漢訳 (音写) 廻向無上正
 等菩提, 廻向(無上)(趣大)菩提 *Madhy-bh.*
 mahābodhi-samghārāma (°gha-ār°) 男 [仏教の僧院
 の名].
 mahābodhy-āṅgavati 女 漢訳 (音写) [Tantra 女神
 の名] 具大菩提枝葉, (具大菩提支母) *Mvyut.*
 mahā-brahma 男 大 *Brahman* 神; 漢訳 (音写) 大
 梵天 *Gand-vy.*

mahā-brahmatva 男 漢訳 (音写) 大梵天王 (性)
Sukh-vy. I.
 mahā-brahman 男 =mahā-brahma; 漢訳 (音写) 大
 梵, 大梵天, 大梵王 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh.,*
Dharm-s., Mvyut.
 mahā-brāhmaṇa 男 偉大な婆羅門 [また諷刺的に用い
 られる]. 男 書名 = *Tāṇḍya-mahā-brāhmaṇa.*
 mahā-bhaṭa 男 偉大な戦士; [ある *Dānava* の名];
 [戦士の名].
 mahā-bhadra 男 [山の名]; 漢訳 大(智)徳 *Saddh-p.*
 男 [海の名].
 mahā-bhaya 男 大きな危険または困難. 形 非常に危
 険な; 漢訳 可怖, 可畏 *Saddh-p., Suv-pr.*
 mahābhaya-samudra 男 漢訳 可畏大海 *Suv-pr.*
 mahā-bhara 形 非常に重い.
 mahā-bhavārṇava 男 漢訳 大海 *Suvik-pr.*
 mahā-bhāga 形 大きな幸運をもつ, 非常に幸運な,
 大いに祝福された; 非常に顕著な, 非常に著名な [し
 ばしば呼びかけの辞として用いられる]; 漢訳 福大,
 功德大, 具柄権 *Mvyut.*; (音写) 大婆伽 *Suv-pr.*
 mahā-bhāgavata 男 *Bhagavat (Viṣṇu)* の大崇拜者.
 男 大 *Bhāgavata-purāna* (書名).
 mahā-bhāgā 女 漢訳 騷香 *Suv-pr.*; (音写) 莫迦婆伽
Suv-pr.
 mahā-bhāgin 形 非常に幸運な, 大いに祝福された.
 mahā-bhāgya 男 高位, きわめて重要なこと, 偉大
 な力. 形 非常に幸運な.
 mahā-bhāgyatā 女 大きな幸運.
 mahā-bhāṇḍa 男 大きな容器.
 mahābhāṇḍāgāra (°ḍa-āg°) 男 主要な宝庫.
 mahā-bhārata 形 男 男 [± (戦争を意味する語)]
Bharata 族の大戦争. 男 [± *ākhyāna*] *Bharata*
 族の戦争に関する偉大な物語 [有名な大叙事詩の題
 名].
 mahā-bhāṣya 男 [*Pāṇini* の文典ならびに *Kātyāyana*
 の *Vārttika* に *Patañjali* の施した註釈 (恐らく西紀
 前第二世紀)].
 mahā-bhikṣu 男 大乞食行者, [*Sākyamuni* の称].
 mahābhijāna (°hā-abh°) 男 名門の出身者, 高貴の
 出身.
 mahābhijñā-jñānābhibhū (°hā-abh°) 男 漢訳 [仏の
 名] 大通智勝, 大通衆慧 *Saddh-p.*
 mahābhijñā-vikrīḍita (°hā-abh°) 形 漢訳 神通遊戯,
 大神通遊戯, 以神力遊戯, 以大神通力遊戯 *Mvyut.*
 mahābhiyoga (°hā-abh°) 男 大きな告訴または問責.
 mahābhiṣa 男 [王侯の名].
 mahābhiṣava (°hā-abh°) 男 *Soma* 液の大压榨; [王
 の名].
 mahābhiṣeka (°hā-abh°) 男 荘厳な灌頂式; [*Kath-*
āsaritsāgara の第十四 *Lambaka* の題名].
 mahābhisamskāra (°hā-abh°) 男 漢訳 大加行, 大巧
 用 *Abh-vy.*
 mahā-bhīta 形 大いに恐れた.
 mahābhiśu (°hā-abh°) 形 輝く, 光輝ある.
 mahā-bhīṣanaka 形 大恐慌をきたす, 非常に恐るべ
 き.

mahā-bhuja 形 長い臂をもつ。
mahā-bhūta 形 大きい (叙詩)。 男 大きな生物。 中 粗大元素 [空, 風, 火, 水ならびに地]; 大, 大種, (四)大 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Lanik., Mvyut., Sūtr., Suv-pr.*: catvāri ~ āni 四大種 [1. pṛthivī-dhātuḥ 地界, 2. ab-dhātuḥ 水界, 3. tejo-dhātuḥ 火界, 4. vāyu-dhātuḥ 風界] *Mvyut.*
mahābhūta-prakṛty-abhāva 男 大種性皆空, 諸大従本不実 *Suv-pr.*
mahābhūta-bhautika 中 大種造色, 四大造色, 四大及四塵 *Lanik.*
mahābhūta-samatāpādana 中 共修四大, 想受定 [大種を平等に至らせること] *Mvyut.*
mahābhūta-svabhāva 男 大種自性, 大性自性, 大種性自性 *Lanik.*
mahā-bhūmi 因 大きな地域; (王の)全領土; 大地, 大地 (法) *Abh-k., Bodh-bh.*
mahā-bhūmika 形 大地, 大処, 大処地者 *Abh-vy., Mvyut.*: daśa ~ ā dharmāḥ 十大地法 [1. vedanā 受, 2. saṃjñā 想, 3. cetanā 思, 4. sparśaḥ 触, 5. chandah 欲, 6. prajñā 慧, 7. smṛtiḥ 念, 8. manaskārah 作意, 9. adhimokṣaḥ 勝解, 10. samādhiḥ 等持] *Mvyut.*
mahābhūmi-praviṣṭa 形 入大地 *Bodh-bh.*
mahābhoga (°hā-abh°) 形 大きな範囲の, 広がった。
mahā-bhoga 1. 形 大きなとぐろを巻いた (蛇)。 男 蛇。
mahā-bhoga 2. 男 偉大な享楽。 形 (因-ā) 偉大な享楽をもたらす (*Durgā* 神); 大財, 大財宝; 貨財豊足, 穀食豊長 *Bodh., Divy.*
mahā-bhogatā 因 大財位, 大富饒 *Bodh-bh., Śikṣ.*
mahābhoga-sampad 因 栄楽, 富贍 *Gand-vy.*
mahā-bhoja 男 偉大な王侯; [王侯の名]。
mahābhra 中 (°hā-abh°) 大きなまたは密な雲。
mahābhra-ghoṣa 形 雷のように重々しく響く。
mahā-makha 男 大きな祭式 (= -yajña)。
mahā-mañjuṣaka 中 [天上の花の一種] (*Kār-vy.*); [花の名] 大柔軟, 大柔軟 *Mvyut.*
mahā-mañjuṣaka 中 [同上]; [花の名] (音写) 摩訶曼殊沙華 *Saddh-p.*
mahā-maṇi 男 高価な宝玉。
mahāmaṇi-dhara 男 [菩薩の名] (*Kār-vy.*)。
mahāmaṇi-ratna 男 [山の名] (*Kār-vy.*)。
mahā-maṇḍala 男 音写 [人名] 莎 (?) 呵蔓荼羅 *Divy. 369.*
mahā-maṇḍalika 形 [竜の名] (具大輪), 具大中因 *Mvyut.*
mahā-mati 形 非常に機智のある, 伶俐な; 大慧 *Bodh-bh.* 男 [人名]; [菩薩の名]; [人名, ある Yakṣa の名] 大慧 *Lanik., Mvyut.*
mahā-mati 因 [Anigiras の娘として人格化された太陰暦日の名]; [人名] 大智慧 *Sam-r.*
mahā-manas 形 慢心した, 尊大な, 高慢な; 大度量の, 雅量のある。 男 [王侯の名]。
mahā-manasvin 男 [Samādhi の一種] (*Kār-vy.*)。

mahā-manuṣya 男 大人物, 高位の人。
mahā-mantra 男 非常に効験のある呪文 (とくに蛇毒に対して)。
mahāmantrānusāriṇi 因 [仏教の女神の名]; [仏典の名, 大護明大陀羅尼經]。
mahā-mantrin 男 最高顧問, 宰相。
mahā-mandārava 男 [花の名] (音写) 大曼答娑花 *Mvyut.*
mahā-mayūri 因 [仏教の女神の名]; [仏典の名, 孔雀王呪經の類本]。
mahā-mayūri-vidyā-rājñi 因 [仏典の名, 仏母大金曜孔雀明王經等]。
mahā-marakata 男 大きなエメラルド。 形 大きなエメラルドで飾られた。
mahāmarṣa (°hā-ām°) 形 激怒した (蛇)。
mahā-maha 形 非常に強力な (RV.); 大筵 *Mvyut.*
mahā-mahas 中 大きな(天上の)光体。
mahā-mahiman 男 真の偉大。 形 真に大きな。
mahāmahima-sālin 形 真の偉大さをもつ。
mahā-mahopādhyāya (°hā-up°) 男 非常に偉大な学匠 [大学匠: 例 *Mallinātha* 等に対して用いられる称号]。
mahā-māmsa 中 高価な肉 (とくに人間の肉)。
mahāmātya (°hā-am°) 男 宰相; 大臣 *Suv-pr.*
mahā-mātra 形 大量の, 大きな; (一°) の中で最大の, 最善の。 男 高位の人, 高位の官人, 大臣, 宰相; 象の御者; 尊長, 頭目, 大臣, 宰官 *Bodh-bh., Divy., Mvyut.*
mahā-mānin 形 非常に尊大な。
mahā-māndāra 男 (?) [花の一種] (*Kār-vy.*)。
mahā-māndārava 男 [花の名] (音写) 摩訶曼陀羅華 *Saddh-p.*
mahā-mānya 形 (屬) によって非常に尊敬された。
mahā-māya 形 大きな幻力をもつ; 大きな欺瞞を行なう。 男 [Viṣṇu 神の称]; [*Śiva* 神の称]; [ある Asura の名]; [ある Vidyādhara の名]。
mahā-māyā 因 [世界が真に存在しているかのように思わせ, したがってある意味では世界を創造することになる] 大きな幻力。
mahā-māyūra 中 [菓の一種]; (一°) [祈禱文の一種]。
mahā-māruta 男 大風, 疾風, 猛疾風 *Gand-vy.*
mahā-mārga 男 主要道路。
mahāmārga-pati 男 道路の監視長。
mahā-māla 形 大きな花環を担った (*Siva* 神)。
mahā-māheśvara (°hā-iś°) 形 *Maheśvara* すなわち *Śiva* 神の大崇拜者。
mahā-mukha 中 大きな口 [また河口について]。 形 (因-i) 大きな口をもつ (*Śiva* 神)。
mahā-mucilinda 男 [山の名] (音写) 大林陀, 大目隣 *Mvyut., Saddh-p.*; 音写 摩訶目真隣陀 *Mvyut., Saddh-p., Sukh-vy. 1.*
mahā-mudrā 因 [Yoga における手 または足の姿態の一種]; [数の名] (音写) 大姥達羅 *Mvyut.*
mahā-muni 男 大聖者 [とくに *Buddha* および *Jina* の

- 称]; [*Jahnu* および *Vasiṣṭha* の称]; 大聖, 大仙, 世尊 *Lank.*, *Madhy-v.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Vajr-s.*; (音写) 牟尼, 大牟尼 *Lank.*, *Rāṣṭr.*, *Vijñ-t.*; 大摩尼 *Lank.* 29.
- mahā-mūḍha** 形 非常に愚かな. 男 大愚者.
- mahā-mūrkhā** 男 大愚者.
- mahā-mūrti** 形 偉大な形態をもつ (*Viṣṇu* 神).
- mahā-mūrdhan** 形 大きな頭をもつ (*Śiva* 神).
- mahā-mūla** 中 大蘿蔔 *Mvyut.*
- mahā-mṛga** 男 大きな野獣; 象.
- mahā-mṛdha** 中 大戦闘.
- mahā-megha** 男 大きなまたは濃密な雲; [*Śiva* 神の称].
- mahāmegha-nivāsin** 男 [(密雲の中に住する), *Śiva* 神の称].
- mahā-medha** 男 偉大な祭式.
- mahā-meru** 男 *Meru* 大山; (漢訳) (音写) 大迷盧山 *Sukh-vy. I.*; [仏の名] 大山, 大須弥 [須弥は *sumeru* の音写] *Sukh-vy. II.*
- mahāmeru-dhara** 男 [Samādhi の一種] (*Kār-vy.*).
- mahā-maitri** 女 大きな愛情, 大きな憐憫; (漢訳) 大慈, 大慈心, 慈心 *Lank.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*
- mahāmaitri-mahā-karuṇā** 女 (漢訳) 大慈大悲 *Mvyut.*
- mahāmaitrimahākaruṇā-daśa-dig-loka-dhātu-spha-
raṇa** 形 (漢訳) 大慈大悲徧滿十方世界, 大慈大悲徧十方世界 *Mvyut.*
- mahāmaitrimahākaruṇā-samanvāgata** 形 (漢訳) 成就大慈大悲, 具大慈大悲 *Mvyut.*
- mahā-moha** 男 心の大きな迷乱または惑溺; (漢訳) 大礙 *Sāṅkhy-k.*
- mahā-mohana** 形 心の大迷乱をひき起こす.
- mahāmoha-mantra** 男 非常に効験のある呪文.
- mahāmohamantratva** 中 [同上 中].
- mahā-maudgalyāyana** 男 (漢訳) [仏弟子の名] 大採菽氏 *Sapt-pr.*; (音写) 大目犍連, 大目乾連 *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*; (音写) 摩訶目犍連, 摩訶目乾連 *Lal-v.*, *Sukh-vy. I, II.*
- mahāmbuda** (°hā-am°) 男 (漢訳) (慧)雲 *Saddh-p.*
- mahā-yakṣa** 男 大 *Yakṣa*, *Yakṣa* の王; (漢訳) (音写) 大藥叉 *Mvyut.*
- mahāyakṣa-senā-pati** 男 大 *Yakṣa* の大将; (漢訳) 鬼神大将, 鬼神最大將軍, 施碍大将 *Mvyut.*, *Supr.*; (音写) 藥叉神, 《大藥叉軍主》 *Mvyut.*, *Supr.*
- mahā-yakṣi** 女 大 *Yakṣi*.
- mahā-yajña** 男 大きなまたは主な供養 [家長たるもの日々実行すべき五種供養の一: これに *bhūta-yajña*, *manuṣya-yajña*, *pitṛ-yajña*, *deva-yajña* および *brahma-yajña* の五種がある]; [*Viṣṇu* 神の称].
- mahā-yantra** 中 大きな機械装置.
- mahāyantra-pravartana** 中 大きな機械の操作.
- mahā-yamaka** 中 大 *Yamaka* [修辭法の一つ, 一詩節の四行が悉く同一の音形をもちしかも意味を異にするもの: 例 *Kirātārjunīya XV. 52*].
- mahā-yaśa** 男 (漢訳) 大名称 *Sam-r.*
- mahā-yaśas** 形 非常に有名な, 顕著な(人); (漢訳) 大名, 大名称, 大称, 大名称士, 最大名称人; 大徳 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*
- mahāyasa** (°hā-āy°) 形 (大きな鏃のある矢のように) 多くの鉄をもつ.
- mahā-yāgika** 男 種 [*Sama-veda* の一学派の名] (*Divy.*).
- mahā-yāna** 中 大乘 [仏教の一大分派の名, インドで *Nāgārjuna* (竜樹)時代以降発展したといわれる. 中国仏教・日本仏教等もこれに属する. 例 *hina-yāna*]; [(大きな車を所有する) *Vidyādhara* の王の名]; (漢訳) 大乘, 最上乘 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Dharm-s.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*; (音写) 摩訶衍 *Bodh-bh.*, *Lank.*
- mahāyānāpratikṣepa** 男 (漢訳) 不謗毀大乘, 不毀謗大乘法 *Madhy-bh.*
- mahāyānābhidyōtana** 中 (漢訳) 顯了大乘 *Madhy-bh.*
- mahāyāna-gati** 女 (漢訳) 進行大乘, 進修大行 *Lank.*
- mahāyāna-carita** 中 (漢訳) 修大乘行, 能修(菩薩)大乘(之道) *Lank.*
- mahāyāna-nirdeśa-nairātmya-paripṛcchā** 女 [仏典の名, 尼乾子問無我義經].
- mahāyāna-niryāṇa** 中 (漢訳) 無上乘出離, 大乘出離 *Madhy-bh.*
- mahāyāna-parigrahaka** 男 大乘仏教徒.
- mahāyāna-prabhāsa** 男 [菩薩の名].
- mahāyāna-prasāda-prabhāvana** 中 (漢訳) 大乘敬信思惟, 於大乘敬信思惟 *Mvyut.*
- mahāyāna-maṇḍala** 男 中 (漢訳) 大乘会 *Daś-bh.*
- mahāyāna-saṃgraha** 男 (漢訳) 攝大乘; (音写) 摩訶衍撰 *Bodh-bh.*
- mahāyāna-saṃprasthita** 形 (漢訳) 向大乘, 趣大乘, 發大乘意 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*
- mahāyāna-sūtrālaṅkāra** 男 (漢訳) [論書の名, *Asaṅga* 作] 大乘莊嚴經論; (音写) 大乘修多羅莊嚴論 *Sūtr.*
- mahāyānācyuta** 男 (漢訳) 不退大乘, 不失大乘者 *Mvyut.*
- mahā-yānika** 男 (漢訳) 大乘, 大乘人, 住大乘者 *Bodh-bh.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*
- mahāyānopadeśa** (°na-up°) 男 (漢訳) 大乘論議, 大乘密意 *Mvyut.*
- mahā-yāmya** 男 [*Viṣṇu* 神の称].
- mahā-yuga** 中 大 *Yuga* [=四 *Yuga* すなわち4, 320, 000年].
- mahāyuta** (°hā-ay°) 男 (漢訳) [数の名] 壞; (音写) 大阿庾多, *Mvyut.*
- mahā-yuddha** 中 大戦闘.
- mahāyudha** (°hā-āy°) 形 大きな武器を帯びた (*Siva* 神).
- mahā-yoga** 男 (漢訳) 大修行, 大(如実)修行 *Lank.*
- mahāyoga-yogin** 形 (漢訳) 住大修行 *Lank.*
- mahā-yogin** 男 偉大な *Yogin* [*Viṣṇu* 神 および *Siva* 神の称]. 形 (漢訳) 住大修行, 善能修行如実行法 *Lank.*
- mahāyogeshvara** (°ga-iś°) 男 *Yoga* の大師範.
- mahā-rakṣa** 女 [仏教の守護神の名].

mahā-rajata 田 黄金.
 mahā-rajana 田 サフラン. 形 サフランで染められた.
 mahā-rañjana 田 [同上 (田) 正しくは mahā-rajana].
 mahā-raṇa 男 大戦争.
 mahāraṇya (°hā-ar°) 田 大きな林.
 mahā-ratna 田 貴重な宝石.
 mahāratna-ketu 男 形 [仏の名] 大宝幢, 宝相 *Sukh-vy. II.*
 mahāratnamaya 田 高価な宝石からなる.
 mahāratnavat 形 高価な宝石で飾られた.
 mahāratna-varṣā 女 形 [Tantra 神の名] 兩大宝, 兩大宝母 *Mvyut.*
 mahā-ratha 男 大きな戦車; (大車を御する)偉大な戦士; [ある Rākṣasa の名]; [Viśvāmitra の息子の名]; [王侯の名]; [大臣の名]; 形 大車 *Suv-pr.*; 音写 摩訶羅陀 *Suv-pr.*
 mahā-rathyā 女 主要道路.
 mahārambha (°hā-ār°) 男 大きな計画; 形 大方便, 方便大 *Bodh-bh., Sutr.* 形 進取的な, 能動的の.
 mahā-rava 男 大きな咆吼または叫声; [ある Daitya の名]; [人名]. 形 大声を発する, 大声に叫ぶ.
 mahā-rasa 形 非常に風味のある. 男 風味.
 mahā-rāja 男 大王, 支配する王侯, 主権者; 形 大王 *Saddh-p., 梵雜.*; 天王 *Divy.*; caturṇām ~ ānām 四天王 *Divy. 393.*
 mahārāja-kulina 形 大王の家族に属する.
 mahārājādhirāja 男 大王中の主, 帝王.
 mahā-rājika 男 [Viṣṇu 神の称]; 形 大王, 大天王, 神妙天 *Abh-k., Lal-v.*
 mahārājika-deva 男 形 [天の名] 大王衆 *Abh-k.*
 mahā-rājñi 女 支配する女王, 女王; [Durgā の称].
 mahā-rājya 田 主権者たること, 王の支配, 王の位 または称号; 形 王位, 大王位 *Gand-vy.*
 mahā-rātra 田 深更を經過した夜, 夜の終り.
 mahā-rātri 女 [同上]; (宇宙の崩壊に続く) 大夜.
 mahā-rāva 男 大叫声.
 mahā-rāṣṭra 男 形 *Mahratta* 族.
 mahā-rāṣṭraka 形 (女 -ikā) *Mahratta* 族に属する. 男 形 *Mahratta* 族.
 mahā-rāṣṭri 女 [(*Mahratta* 語), 中朝インド語の一].
 mahā-ruj 形 非常な苦痛をもたらす.
 mahā-ruja 形 [同上].
 mahāruṇa (°hā-ar°) 男 [山の名].
 mahā-rūpa 形 形態の大きな (*Śiva* 神). 男 形 [Kalpa の名] 大相 *Saddh-p.*
 mahā-rūpin 形 形態の大きな.
 mahā-retas 形 =mahā-bija.
 mahā-roga 男 危険な病.
 mahā-roca 男 形 [花の名] 大妙花 *Mvyut.*
 mahā-roman 形 非常に毛髪が多い (*Śiva* 神); [王侯の名].
 mahā-rohi 男 [大きなかもしかの一種].
 mahā-raudra 形 非常に恐るべき.
 mahā-raurava 男 [地獄の一種]; 形 [地獄の名] 大

叫, 大叫喚, 大叫 (地獄) *Abh-vy., Dharm-s., Mvyut.*; 災旱, 大災旱, 亢旱 *Abh-vy., Bodh-bh.*
 mahārgha (°hā-ar°) 形 大きな価の, 貴重な, 価値のある; 高価な; 形 貴 梵千., 梵雜.
 mahārghatā (°hā-ar°) 女 貴重なこと, 大きな価値.
 mahārghatva (°hā-ar°) 田 [同上]; 形 価直無量 *Aṣṭ-pr.*
 mahārgha-rūpa 形 美事な形をもつ.
 mahārghya (°hā-ar°) 形 貴重な価値のある.
 mahārghyatā (°hā-ar°) 女 [同上 田].
 mahārcis (°hā-ar°) 形 激しく燃える.
 mahārci-skandha 男 形 [仏の名] 大焰肩, 大光蘊 *Sukh-vy. II.*
 mahārci-skandhin 男 形 [仏の名] 大聚光 *Lal-v.*
 mahārṇava (°hā-ar°) 男 形 大海, 海洋; 形 大水 *Mvyut.*
 mahārtha (°hā-ar°) 男 偉大な物事; [ある Dānava の名]; 形 大義, 広大義, 大義利, 大利益, 利益大; 最勝; 大志意 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Madhy-bh., Sutr.* 形 大きな富をもつ, 富んだ; 大きな意義のある, 重要な.
 mahārthatva (°hā-ar°) 田 形 大義 *Sutr.*
 mahārtha-bodhi 女 形 大義覚 *Sutr.*
 mahārthavat (°hā-ar°) 形 大きな意義のある, 重要な.
 mahārthika (°hā-ār°) 形 形 大財, 大利益, 広大利益, 具大義用 *Aṣṭ-pr.*
 mahārha (°hā-ar°) 非常に価値のある, 高価な, 壮麗な; 形 無価, 上, 美好 *Buddh-c., Divy.*
 mahā-lakṣmi 女 偉大な *Lakṣmi* 神, *Nārāyaṇa* の Śakti; (また=) *Durgā* または *Sarasvatī*; [人名].
 mahā-lalāṭa 形 大きな額をもつ.
 mahā-lābha 男 形 大利, 利多 *Aṣṭ-pr.*
 mahā-līṅga 田 大きな līṅga. 形 大きな男根を所有する (*Śiva* 神).
 mahā-loman 男 [仏教のある長老の名].
 mahā-vaṃśya 形 高貴な血統の.
 mahā-vaktra 形 大きな口をもつ. 男 [ある Dānava の名].
 mahā-vakṣas 男 胸の広い (*Śiva* 神).
 mahā-vaṇij 男 大商人.
 mahā-vada 男 大学匠 (すなわち *Veda* のもっとも主要な知識を具備する).
 mahā-vadha 形 強力な武器をもつ (RV.).
 mahā-vana 田 大きな林; 形 [林の名] 大林 *Divy.*; 音写 摩訶婆那 *Divy.*
 mahāvāna-saṃghārāma (°gha-ār°) 男 [仏教の僧院の名].
 mahāvaraṇa (°hā-āv°) 田 形 大障 *Madhy-vibh.*
 mahā-varāha 男 大野猪 (すなわち *Viṣṇu* 神が野猪に権化したもの); [王侯の名].
 mahā-valli 女 大きな蔓草.
 mahā-vastu 田 [(大事), 仏典の名] (*Madhy-v.*).
 mahā-vākya 田 長篇の著作, 文学上の著作; 大格語.
 mahā-vāta 男 暴風, 疾風.
 mahāvāta-samūha 男 暴風雨.

mahā-vāyu 男 =mahā-vāta.
 mahā-vārttika 田 大 *Vārttika* [*Pāṇini* の文典に対する *Kātyāyana* の *Vārttika* の題名].
 mahā-vārṣiki 女 漢訳 [花の名] 大夏生 *Mvyut.*
 mahā-vāstu 田 大きな空間. 形 大きな空間を占める.
 mahā-vāhana 男 漢訳 [数の名] (音写) 大婆喝那 *Mvyut.*
 mahā-vikrama. 形 大勇のある, 剛勇な. 男 [ある獅子の名]; 漢訳 [竜の名] 大勇, 大本 *Mvyut.*
 mahā-vikrāmin 男 漢訳 [菩薩の名] 大力 *Saddh-p.*
 mahā-vighna 男 田 大きな障礙.
 mahā-vijñā 形 非常に感じやすい.
 mahā-vidagdha 形 非常に伶俐な.
 mahā-vidyā 女 [(広大な知識をもつ), *Lakṣmi* または *Durgā* の称]; [ある *Mantra* の題名]; 漢訳 広大明, 大神呪 *Aṣṭ-pr.*
 mahā-vidyut-prabha 男 漢訳 [竜の名] 大雷光 *Mvyut.*
 mahā-vibhūta 男 漢訳 [数の名] (音写) 大毗歩多 *Mvyut.*
 mahā-vibhūti 女 大きな威力の表示, 卓越した威力; 福祉の偉大な女神 *Lakṣmi*. 形 大きな威力のある.
 mahā-vimāna 田 漢訳 大殿 *Lal-v.*
 mahā-viyūha 男 [窟 < vyūha] 漢訳 [仏の名] 大巖 (仏) *Lal-v.* 172.
 mahā-viraha 男 悲しむべき別離.
 mahā-virāva 形 (女 -ā) 声高く響く・叫ぶ または ほえる.
 mahā-virāha 男 漢訳 [数の名] (音写) 大毗婆訶 *Mvyut.*
 mahā-viṣa 形 非常に毒のある.
 mahā-vistara 形 非常に冗長な (書物).
 mahā-vihāra-vāsin 男 田 漢訳 [*Ceylon* 仏教部派の名] 大寺住部, 住勝妙宮家, 法勝部 *Mvyut.*
 mahā-vici 男 [(大きな波をもつ), 地獄の一種].
 mahā-vira 男 偉大な英雄; 大きな陶製の鍋 [主として *Pravargya* 祭式に用いられる]; [諸王侯の名]; *Jaina* 教の集大成者の称; 漢訳 [Buddha の別称] 大雄, 大勇, 大勇猛, 世雄, 世尊 *Diry., Lan̄k., Saddh-p., Sam-r., Suv-pr.*
 mahāvira-carita 田 [大英雄(*Rāma*)の行跡, *Bhava-bhūti* 作の戯曲の題名].
 mahāvira-caritra 田 [*Mahāvira* の行跡, ある著作の題名].
 mahā-viryā 形 力強い, 非常に強力な.
 mahā-vrkṣa 男 大樹.
 mahā-vrddha 形 非常に老いた.
 mahā-vrnda 田 [数の名, =100000 *Vṛnda*].
 mahā-vrṣa 男 大きな牡牛; 田 [西部 *Himālaya* 山地の住民の名].
 mahā-vega 形 大いに動揺する (海); 非常に迅速な.
 mahāvega-labdha-sthāman 形 漢訳 [Garuda の王の名] 得大力, 《速翔得勢》 *Mvyut.*
 mahā-vela 形 潮の高い, 奔流の, 波濤の多い, 波立った.
 mahā-vidya 男 漢訳 大医, 良医, 大良医 *Bodh-bh.,*

Saddh-p.

mahā-vaipulya 田 広汎なこと.
 mahā-vaira 田 深い怨恨.
 mahā-vairājya 田 [ある *Sāman* の名].
 mahā-vairocana-vajra 男 漢訳 [Samādhi の名] (大) 遍照金剛 *Guhy-s.*
 mahā-vaiśasa 田 非常な災害.
 mahā-vyavasāya 男 漢訳 大事務 *Bodh-bh.*
 mahā-vyādhi 男 重病.
 mahā-vyāhṛti 女 祭式に用いられる特殊な感投詞 [+ なわち *bhūr bhuvah svar*].
 mahā-vyutpatti 女 [仏典の名, 翻訳名義大集].
 mahā-vyūha 形 漢訳 大莊嚴 *Gaṇḍ-vy.* 男 漢訳 [Samādhi の名] 大巖 *Lal-v.*; [Devaputra の名] 大莊嚴 (天子) *Lal-v.*; [Kalpa の名] 大莊嚴. 弘大 *Saddh-p.*
 mahā-vrata 田 大きなまたは根本の義務; 大きな誓; 大きな宗教上の戒行; [*Gavāmayana* の最終日の前日に歌われる, ある *Sāman* または *Stotra* の名, (また当日ならびに祭式そのものをも指す)]; *Śiva Paśupati* 神の崇拜者の掟. 形 大きな義務または誓約を企てた, 偉大な苦行を実行する, 非常に献身的な; *Pāśupata* 派の掟に従う. 男 *Pāśupata* 宗徒.
 mahā-vratika 形 *Pāśupata* 派の掟に従う. 男 *Pāśupata* 宗徒.
 mahā-vratin 形 [同上 (形)]; *Jaina* 教徒の五種の根本的義務を実行する. 男 *Pāśupata* 宗徒; 漢訳 勇猛, 行大勇猛 *Mvyut.*
 mahā-vratiya 形 *Mahāvrata* 祭(日)に関する.
 mahā-vrihi 男 大量の米.
 mahā-śakuni 男 漢訳 [*Cakravartin* の名] (大瑞鳥) *Mvyut.*; (音写) 大沙孤尼 *Mvyut.*
 mahā-śakti 形 非常に力強い (*Śiva* 神). 男 [*Kṛṣṇa* の息子の名].
 mahā-śaṅkha 男 大きな貝; [ある *Nāga* の名].
 mahāśana (°hā-ās°) 形 多く食う, 大食の (蛙). 男 大食漢, 暴食家.
 mahāśani (°hā-ās°) 女 漢訳 雷霆霹靂 *Buddh-c.*
 mahāśani-dhvaja 男 大きな電光をえがいた旗.
 mahā-śabda 男 高い音響; mahā で始まる称号 または それに相応する官職; mahā (mahat) という語.
 mahāśaya (°hā-ās°) 男 海洋. 形 高尚な心をもつ, 高貴の.
 mahā-śayana 田 高い臥床; 漢訳 大牀 *Mvyut.*
 mahā-śayyā 女 高いまたは壮麗な臥床.
 mahā-śarira 形 大きな身体をもつ.
 mahā-śalka 男 海蟹 (の一種).
 mahā-śalkalin 形 大きな鱗をもつ (魚).
 mahā-śastra 田 強力な武器.
 mahā-śāka 田 野菜 (の一種).
 mahā-śākya 男 偉大なまたは顕著な *Śākya*.
 mahā-śaṅkha 男 大きな貝; [ある *Nāga* の名].
 mahā-śānti 女 大鎮静 [災厄を払う祭儀の一種].
 mahā-śāla 男 大きな家の所有者, 大家長; 漢訳 大家, 貴家, 長者 *Abh-vy., Av-ś., Śikṣ.*; (音写) 摩訶娑羅(家) *Abh-vy.*

mahā-sālina 形 非常にけんそんした。
 mahā-sāsana 甲 偉大な支配。形 大支配を行なう。
 mahā-sīras 形 大きな頭をもつ。男 蛇(の一種)。
 mahā-sītavati 因 [仏教の守護神の名]; [仏典の名, 大寒林聖難拏陀羅尼経]。
 mahā-sīla 男 [Janamejayaの息子の名]。
 mahā-sūkla-dharma 男 大白法 Bodh-bh.
 mahā-sūdra 男 高級の Sūdra, 上位の召使い。
 mahā-sūnyatā 因 大空, 大空性 Dharm-s., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut.
 mahā-sāila 男 大きな岩または山。
 mahā-śoṇa 男 [河の名]。
 mahāśman (°hā-as°) 男 宝石。
 mahā-smāśāna 甲 [同下]; 尸陀林 [尸陀は śita の音写, 林は vana の訳。→ śita-vana] Divy. 476.
 mahā-smāśāna 甲 大きな墓地; [Benaresの称]。
 mahā-sramaṇa 男 [Śākya-muniの称]; [Jinaの称]。
 mahā-srāvaka 男 偉大な Śrāvaka, (Śākya-muni または Jinaの) 大弟子; 大弟子 Saddh-p.
 mahā-srotriya 男 偉大な Veda 学者または師匠。
 mahāśva (°hā-as°) 男 [人名]。
 mahā-śvabhra 甲 大深溝; 悪大友 Mvyut.
 mahāśva-sālā 因 王室の大厩舎; その長官の役目。
 mahā-śvetā 因 [ある女神の名]; [人名]。
 mahā-saṃkṛta 甲 大きな危険または苦境。
 mahā-saṃghika 男 種 [°sāṃghikaの誤] 種 [仏教部派の名] 大衆部, 多僧部; (音写) 摩訶僧祇部 Mvyut.
 mahā-saṃjñā 因 種 [数の名] (音写) 大珊若 Mvyut.
 mahā-sati 因 非常に貞節な妻, 貞女の模範。
 mahā-sattā 因 絶対の存在; 大有, 大有性 Mvyut.
 mahā-sattra 甲 大規模な Soma 祭。
 mahā-sattva 男 偉大な人間; [菩薩の称] (仏教); 大士, 大菩薩 [菩薩は bodhisattvaの音写] Mvyut.; (音写) 摩訶薩, 摩訶薩埵 Mvyut., Saddh-p., Sukh-vy. II., Sūtr., Suv-pr. 形 高潔な; 高尚な心をもつ, 高貴な; 非常に勇気のある; 大きな獣を含む。
 mahā-sattvatā 因 高潔な人格ならびに大きな獣を包含すること。
 mahāsana (°hā-as°) 甲 壮麗な座席。
 mahā-saṃdhi-vigraha 男 平和と戦争とに関する首相の職分。
 mahā-saṃnāha-saṃnaddha 形 種 作大莊嚴, 大誓莊嚴, 被大(功德)鎧, 被大(乘)鎧大乘莊嚴, 被精進甲 Aṣṭ-pr., Lal-v.
 mahā-sabhā 因 大(食)堂; 大衆 Bodh-bh.
 mahāsabhā-praveśa 男 種 入大衆 Bodh-bh.
 mahā-sama 男 種 [Sāma-vedaの一派の名] (Divy.).
 mahā-samaya-maṇḍala 甲 種 (音写) 大三昧耶曼拏羅 Guhy-s.
 mahā-samāja 男 種 大会 Prāt-m.

mahā-samāpta 男 種 [数の名 (音写) 大三磨鉢耽 Mvyut].
 mahā-samudra 男 大洋; 大海, 海 Aṣṭ-pr.
 mahāsamudra-gata 形 種 入海, 行大海, 泛大海, 大海中 Aṣṭ-pr.
 mahā-saṃbhava 男 種 大有, 大興 Gand-vy.
 mahā-saṃbhavā 因 種 [世界の名] 大成 Saddh-p.
 mahā-saṃbhāra 男 種 廣大資糧 Bodh-bh.
 mahā-saṃmata 男 種 [転輪王の名] 大同意, 大平等王, 多敬 Mvyut.
 mahā-sarga 男 (宇宙の大崩壊の後の)大創造。
 mahā-sahasra-pramardana 甲 種 [経の名] 守護大千国土経, 善護大千国土経(?), (護国)大千最敬摧壞 Mvyut.
 mahā-sahasra-pramardini 因 [同上]。
 mahā-sāgara 男 種 巨海 Sūtr.
 mahāsāgara-prabhā-gambhira-dhara 男 種 [Garuḍaの王の名] 持光如深海 Mvyut.
 mahā-sāṃghika 男 種 [仏教部派の名 = °saṃghika]。
 mahā-sādhana-bhāga 男 行政の長官。
 mahā-sādhu 形 非常に善い。
 mahā-sādhvi 因 貞女の模範。
 mahā-sāṃtāpana 男 苦行(の一種)。
 mahā-sāṃdhi-vigraha 男 [mahā-saṃdhi-vigrahaから] 平和と戦争とをつかさどる宰相。
 mahā-sāmānya 甲 広義における一般性; 大総, 大同 Bodh-bh., Mvyut.
 mahāsāmānya-lakṣaṇa 甲 種 大総相 Bodh-bh.
 mahā-sāra 形 強い; 貴重な, 高貴な。
 mahā-sārtha 男 大きな隊商。
 mahā-sāvadya 形 種 大罪者 Śikṣ.
 mahā-sāhasika 形 非常に大胆な, 非常に粗暴な。男 追いはぎ, 盗賊。
 mahā-sāhasikatā 因 大きな精力; 男 思い切った決断をもって。
 mahā-sāhasra 形 種 千, 大千 Mvyut.
 mahā-siṃha 男 大きな獅子; [二王侯の名]。
 mahāsīṃha-tejas 男 種 [仏の名] 大師子光(仏) Lal-v.
 mahā-siddha (過受分) 男 大聖。
 mahāsiddhānta 男 [(天文学の大著), 小 Āryabhaṭa 作の書物の名]。
 mahā-siddhi 因 大きな魔術の力。
 mahā-sudarsā 男 種 [王の名] 大快見王 Buddh-c.
 mahā-sudarsana 男 種 [転輪王の名 および 竜王の名] 大善見, 大妙見, 最明見 Mvyut.
 mahā-subhikṣa 甲 糧食の非常に豊富なこと; 非常に善い時期(種)。
 mahāsura (°hā-as°) 男 偉大な Asura。
 mahāsuri (°hā-as°) 因 偉大な Asuri。
 mahā-sūkta 甲 大讃歌; 種 Rg-veda 第十巻の大讃歌 (1-128). 男 Rg-veda 第十巻の大讃歌の作者。
 mahā-sūkṣma 形 非常に微細な。
 mahā-sūci (形) [vyūha とともに 男, 戦争における陣列の一種]。

mahā-sena 形 大軍をもつ。男 [Skandaの称]; [諸王侯の名].
mahā-senā 因 大軍勢.
mahā-sainya 因 大勇健軍 *Guhy-s.*
mahā-skandha 形 大きな肩をした; 力強い幹のある。男 らくだ.
mahā-stoma 形 偉大な Stoma をもつ (日).
mahāstra (°hā-as°) 因 大きなまたは力強い飛道具, 大きな弓.
mahā-sthāna 1. 因 高い場所または位置.
mahāsthāna 2. (°hā-ās°) 因 大きな応接室.
mahā-sthāma-prāpta 男 菩薩の名] 大勢至, 得勢至, 得大勢 *Mvyut., Saddh-p., Sukh-vy. I.*
mahā-sthāla 因 花の名] (音写) 大薩陀羅 *Mvyut.*
mahā-sthūla 形 非常に粗大な.
mahā-snāna 因 偉大な沐浴.
mahāspada (°hā-ās°) 形 力強い.
mahā-smṛti 因 偉大な伝承; 大念 *Bodh-bh.*
mahāsmṛty-upasthāna 因 経の名] 正法念処経, 《大念住》 *Mvyut.*
mahā-sragvin 形 大きな花環をになった (Śiva 神).
mahā-svana 男 高い音響. 形 高く響く, 大いに叫ぶ, 高い(音).
mahā-svara 形 高く響く.
mahāsvāda (°hā-ās°) 形 非常に風味のよい.
mahā-haṃsa 男 [Viṣṇu 神の称].
mahā-hata-manda 形 大きな困難において発せられた(叫び) (*Divy.*).
mahā-hanu 男 大なるあごをもつ.
mahā-haya 男 [王侯の名].
mahā-harmya 因 大宮殿.
mahāhava (°hā-āh) 1. 男 大戦闘.
mahā-hava 2. 男 大祭式.
mahā-havis 因 [Śiva 神の称].
mahā-hasta 男 大きな手をもつ (Śiva 神).
mahā-hāsa 男 大きな笑い. 形 大声に笑う.
mahāhi (°hā-ahi) 男 大蛇.
mahāhi-sayana 因 大蛇 (Śeṣa) の上の (Viṣṇu 神の) 睡眠.
mahā-hetu 男 数の名] (音写) 大嚩都 *Mvyut.*
mahāhna (°hā-ah°) 男 すでに長時間の経過した昼間, 午後.
mahā-hrada 男 大きな池; [聖地の名].
mahī 形 [中 困 驚 罵 のみ] =mahat, 大きな (因). 副 大いに, 多く, 非常に (因). 男 至大きなこと (P.); [buddhi を意味する mahat に同じ] (P.).
mahikā 因 [一 のみ] 寒冷; 霧, 霞, 霧騰, 烟 *Mvyut.*
mahikāṃśu (°kā-am°) 男 (冷い光線をもつ), 月.
mahita 過受分 尊敬された等. → Mah. 漢訳 所貴, 所帰依, 所供養, 作供養 *Divy., Lal-v., Mvyut.*
mahitā 因 大きいこと.
mahitva 因 [同上]; 力.
mahitvana 因 [同上]; 具~ā 副.
mahī-dāsa 男 [聖仙の名].

mahin 形 (RV.)=mahat; 大きい, 強大な.
mahinasa 男 [Rudra 神の一形態].
mahiṃ-dhara 男 持地 (天子) *Lal-v.*
mahi-maṇḍa 男 道場, 菩提座 [菩提は bodhi の音写] *Lal-v.*
mahimat 形 多い, 豊富な.
mahiman 男 大きいこと, 威厳; 権力; (力の) 高揚, 品位; [人名]; 大, 作供 *Mvyut.* 男 mahimnā mahinā 力強く, 強いて (RV.).
mahimā 因 韻律 大きいこと等.
mahila 因 婦女.
mahilāropya (°lā-ār°) 因 [Madras に近い南インドの町の名].
mahiṣa 形 (因 -i) 強大な, 力のある (因). 男 水牛 (因, 園); [Durgā または Skanda に殺された Asura の名]; 水牛 *Av-s., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ. 梵雑.*
mahiṣaka 男 園 [南方の住民の名].
mahiṣatva 因 水牛の状態.
mahiṣa-pāla 男 水牛を飼う人.
mahiṣa-pālaka 男 [同上].
mahiṣa-mardini 因 [(Mahiṣa を殺すもの), Durgā の称].
mahiṣārdana 男 [Skanda の称].
mahiṣāsura-sūdini 因 [悪魔 Mahiṣa をおしつぶす者, Durgā の称].
mahiṣita 形 水牛に変わった.
mahiṣi 因 牝水牛; (強大な王妃), 王の第一夫人, 王妃; [時として単に] 王の妻; 妃, 明妃, 夫人, 后, 正后 *Buddh-c., Daś-bh., Divy., Guhy-s.*; 羊 *Divy. 435: agra ~ 国大夫人 Divy. 287.*
mahiṣi-pāla 男 漢訳 牧牛人 *Av-s. I. 331.*
mahiṣi-bhāva 男 牝水牛の状態.
mahiṣṭha 最上 [mahat] もっとも大きい; 最広 *Abh-vy.*
mahiṣmat 男 [王侯の名].
mahi 因 [mah] 地; 地面, 土地 [また 園]; 陸地; 国, 王国; 土壌; (幾何学的図形の) 底辺; 空間 (RV.); 畜 (RV.); 牝牛 (因); [河の名]; (因) 天と地 (因); (園) 大水, 流れ, (RV.); 漢訳 地, 大地 *Bodh-bh. Mvyut., Saddh-p., Suv-pr.*
mahi-kampa 男 地震; 漢訳 地震 *Bodh-bh.*
mahi-Kṛ, 拡大する, 高める.
mahi-kṣit 男 大地の支配者, 王.
mahi-cara 形 地上 (空中の因) を動くまたは歩く.
mahi-cāra 形 [同上].
mahi-cārin 形 [同上].
mahi-ja 形 [大地から生じた], 荒地に生じた [馬の称]. 男 草木, 樹木; 火星.
mahi-tala 因 地表, 地面; 漢訳 大地 *Mañj-m.*
mahi-durga 形 地勢上近づきにくい. 因 地の利また土塁によって護られた城砦.
mahi-dhara 形 大地を支える. 男 山; [人名 とく Vājasaneyi-saṃhitā の註解者の名]; 山, 土地 *Bodh-c., Divy.*

mahī-dhra 男 山；[Viṣṇu神の称].
 mahina 男 大地の主，王.
 mahī-nātha 男 [同上].
 mahindra (°hī-in°) 男 [同上].
 mahindrendra (°ra-in°) 男 諸王侯中のIndraたる者.
 mahī-pa 男 大地の保護者，王.
 mahī-patana 中 地上に落ちること，地面に平伏する敬礼.
 mahī-pati 男 =mahīpa；漢訳 王 *Laik.*
 mahī-pāla =mahī-pa；[諸王侯の名].
 mahīpāla-putra 男 王の息子，王子.
 mahī-putra 男 大地の息子；火星.
 mahī-pṛṣṭha 男 地表，地面.
 mahī-prakampa 男 地震.
 mahī-praroha 男 (大地から生ずるもの)，樹木.
 mahī-prasāsana 中 地上の支配.
 mahī-bhartṛ 男 大地を支える者，王.
 mahī-bhuj 男 大地の享受者，王.
 mahī-bhṛt 男 (大地を支えるもの)，山；王.
 mahī-maghavan 男 =mahīpa.
 mahī-maṇḍala 中 大地の円周，全土；漢訳 (道)場 *Sikṣ.*
 mahimaya 形 (因 -i) 土製の.
 mahī-mahikāṃśu 男 地上の月，有名な王.
 mahī-mahendra (°hā-in°) 男 世界の偉大な主，主権者.
 mahī-mṛga 男 地上のかもしか [tārā-mṛga の因].
 mahiya 名動 中 mahiyate 喜ぶ，喜色にみちる，狂喜する；至福を享受する；栄える；(屬)によって大いに尊ばれるまたは尊敬される.
 mahiyas 比較 さらに大きい，さらに力強い，さらに有力なまたは重要な等；非常に大きい，非常に力強い，非常に顕著な，非常に声高い(笑い)等.
 mahiyā 因 中 ~yai 喜悅 (因).
 mahī-rajās 中 大地の塵；砂粒.
 mahī-randhra 中 地中の穴.
 mahī-ruh 男 [因 -t] 草木，樹木.
 mahī-ruha 男 [同上].
 mahī-vallabha 男 大地の愛人，王.
 mahīśa 男 [Kṛṣṇaの息子の名].
 mahī-śāsaka 男 種 漢訳 [仏教部派の名] 賢部，示地家，化地部 *Mvyut.*
 mahīśvara (°hī-ś°) 男 大地の主，王.
 mahī-sura 男 地上の神，婆羅門.
 mahe 為 不定 喜ぶために (RV.).
 maheccha (°hā-ic°) 形 高い目的をもつ，野心のある；漢訳 有大欲者 *Bodh-bh.*
 mahecchatā (°hā-ic°) 因 野心；漢訳 大欲 *Abh-vy.*
 mahettha 男 [国の名].
 mahendra 男 (°hā-in°) 男 天 *Indra* 神；首長；[山脈の名]；漢訳 [教の名] (音写) 大印達羅 *Mvyut.*
 mahendra-ketu 男 *Indra* 神の旗.
 mahendra-cāpa 男 *Indra* 神の弓，虹.
 mahendratva (°hā-in°) 中 大*Indra* 神の名またはその地位.
 mahendra-dvipa 男 [ある洲の名，*Parasurāma* の国].

mahendra-dhvaja 男 =mahendra-ketu.
 mahendra-mantrin 男 大*Indra* 神の顧問，木星 (*Bṛhaspati*).
 mahendra-mandira 中 *Indra* 神の宮殿.
 mahendra-varman 男 [王侯の名].
 mahendra-śakti 男 [人名].
 mahendra-sūna 男 [*Arjuna* の名].
 mahendrā (°hā-in°) 因 [河の名].
 mahendrāditya (°ra-ād°) 男 [王侯の名].
 mahelā 因 婦人.
 mahēsa (°hā-iśa) 男 偉大な主，神；[*Śiva* 神の称]；[仏教のある神の名]；[諸人の名].
 mahēśākhyā (°śa-ākh°) 形 偉大な主と称せられる，高貴な (*Lal-v.*, *Saddh-p.*)；宏大な，立派な (*Divy.*)；漢訳 大勢 *Bodh-bh.*
 mahēśākhyatā (°śa-ākh°) 因 漢訳 大勢 *Bodh-bh.*
 mahēśākhyā-mahēśākhyā 男 漢訳 大大勢，大自在，大自在者，大自在称，称大自在 *Mvyut.*
 mahēśvara (°hā-iś°) 男 偉大な主，首長；神；[*Siva* 神および *Viṣṇu* 神の称]；[*Deva-putra* の名] (*Lal-v.*)；[諸人の名]；(種) 世界の守護者 [*Agni* 神，*Indra* 神，*Yama* 神および *Varuṇa* 神]；漢訳 [天の名，*Yakṣa* の名] 大自在，大自在天 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Laik.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*, 立応；音写 摩醯首羅 *Laik.*, *Suv-pr.*, 立応.
 mahēśvara-rūpa 中 漢訳 大自在天身 *Saddh-p.*
 mahēśvari (°hā-iś°) 因 [*Durgā* 神の称].
 mahēśvaryādhipatya (°hā-iś°, °ya-ād°) 中 漢訳 大自在，豪貴自在，大威豪将 *Daś-bh.*
 mahēṣu (°hā-iṣu) 男 大きい矢.
 mahēṣu-dhī 因 大きい矢筒.
 mahēṣv-āsa 男 (弓の)大射手.
 mahaitareya (°hā-ait°) 中 現在の *Aitareya Brāhmaṇa* より広汎な原典の名；*Aitareya Upaniṣad* の名.
 mahaiśvarya (°hā-aiś°) 中 大きい力.
 mahokṣa (°hā-uk°) 男 大きいまたは十分成長した牡牛.
 mahokṣatā (°hā-uk°) 因 大きい牡牛の状態.
 mahocchraya (°hā-uc°) 形 非常に高いまたは大きい.
 mahocchrāyavat (°hā-uc°) 形 [同上].
 mahojaska (°hā-oj°) 形 漢訳 現大威力 *Mañj-m.* 154.
 mahottama (°hā-ut°) 中 (?) 芳香料.
 mahotpala (°hā-ut°) 中 蓮花 (の一種) [学名 *Nelumbium speciosum*].
 mahotsaṅga (°hā-ut°) 男 漢訳 [数の名] (音写) 大囉譜伽 *Mvyut.*
 mahotsava (°hā-ut°) 男 大祭；漢訳 聚会，(賓客)聚会 *Suv-pr.*
 mahotsavin (°hā-ut°) 形 大祭を行なう.
 mahotsāha (°hā-ut°) 形 大力をもつ；強い意志をもつ，精力のある；忍耐する；漢訳 勇猛大 *Sūtr.*
 mahotsāhatā (°hā-ut°) 因 漢訳 大堪能，大力 *Bodh-bh.*
 mahodadhi (°hā-ud°) 男 大海，大洋 [四海があると

される]; 漢訳 海, 大海 *Aṣṭ-pr.*, *Laṅk.*
mahodadhi-ja 男 貝.
mahodadhi-taraṅga 男 漢訳 海浪, 大海波, 大海而有波浪 *Laṅk.*
mahodaya (°hā-ud°) 男 大昇進・幸運または繁榮; [諸人の名]; [山の名]; 漢訳 大生, 増上勇出 *Bodh-bh.*; 出離大 *Sūtr.* 形 大きい幸運または祝福を与える; 非常に繁榮する; 非常に幸福な. 田 [Kānyakubja 市の称].
mahodaya-svāmin 男 [ある神殿の名].
mahodayā (°hā-ud°) 田 [月世界中の会堂の名].
mahodara (°hā-ud°) 田 大きい腹, 水腫. 形 (田-i) 腹の大きい; 漢訳 大腹 *Mañj-m.* 男 [Nāgaの名]; [ある Dānava の名]; [ある Rākṣasa の名]; [諸人の名].
mahodara-mukha 男 [*Durgā* 神の侍者の名].
mahodyama (°hā-ud°) 形 非常に努力する, 精励する, 勤勉な; (不定または田の田) に忙殺される.
mahonnata (°hā-un°) 形 非常に高い.
mahonnati (°hā-un°) 田 高く昇ること; 高い階級または地位.
mahopakārin (°hā-up°) 形 非常な助けとなる; 大いに協力する.
mahopāya (°hā-up°) 男 漢訳 大方便 *Sūtr.*
mahopādhyāya (°hā-up°) 男 大教師.
mahopekṣā (°hā-upa-ik°) 田 非常な寛大 (*Sukh-vy. I.*).
mahoraga (°hā-ur°) 男 大蛇; (田) [地獄の蛇の名]; 漢訳 大腹行, 大有行竜 *Mṛyut.*, 立念; (音写) 摩睺勒, 摩休勒, 摩睺羅加, 摩睺羅伽, 牟呼洛迦, 莫呼洛迦 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Laṅk.*, *Mṛyut.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Suv-pr.*, 梵難., 立念.
mahoraga-rūpa 田 漢訳 (音写) 摩睺羅伽身, 摩休勒形 (像色貌) *Saddh-p.*
mahoraga-lipi 田 [書体の一種] *Lal-v.*
mahoragi (°hā-ur°) 田 漢訳 (音写) 摩睺羅伽女 *Laṅk.*
mahoraska (°hā-ur°) 形 広い胸をもつ.
mahormin (°hā-ūr°) 形 非常に波の高い.
mahormi-mat (°hā-ūr°) 形 大波を伴なう.
maholkā (°hā-ul°) 大きなたいまつ; 大きな流星.
mahaugha (°hā-ogha) 形 強い潮流をもつ. 男 [*Tv-aṣṭr* の息子の名]; 漢訳 水, 水流, 大水流, 大瀑流, 河; 大海, 大海水 *Laṅk.*, *Sūtr.*,
mahaujas (°hā-oj°) 形 非常に元気のあるまたは力のある; 非常に強力な. 男 [王侯の名]; (田) [種族または住民の名]; 漢訳 大威力 *Mañj-m.*
mahaujaska (°hā-oj°) 形 非常に力の強い; 漢訳 有大勢力, 具大威, 具大威勢, 大威力, 大威力者, 威德熾盛, 大神力 *Aṣṭ-pr.*, *Mṛyut.*
mahaudavāhi (°hā-aud°) 男 [*Veda* の聖者の名].
mahauṣadha (°hā-auṣ°) 田 効験のあるまたは最上の医薬.
mahauṣadhi (°hā-oṣ°) 田 非常に有効な薬草; [ある Nāga 女の名] (*Kār-vy.*).
mahauṣadhi (°hā-oṣ°) 田 非常に有効な薬草.

mahman 男 大きいこと (AV. 用例一回のみ).
mahya 未受分 大いに尊敬されるべき.
mahyam, [aham(私)の田].
mahy-uttara (°hi-ut°) 男 種[住民の名].
mahlāṇa 男 [王の名].
mahlāṇa-svāmin 男 [*Mahlāṇa* 王の建立した神殿の名].
mahlāṇa-pura 田 [町の名].
Mā 1., II. 田 **māti** (田); III. 田 **mimite** 量る; 測定する, 区分する; 横切る; (田) と比較する; (田) に足る大きさ. または長さをもつ; (田; II. 田) の中におさまるまたは含まれる, …に分配する, 与える (RV.); 形成する, 構成する, 製造する, 建築する (田); 顕示する, 示す (RV.); 推断する, 決論する; [na とともに] (田; II. 田) のため自制しない, …で我を忘れる; 漢訳 容受 *Aṣṭ-pr.*: na māyet 不能容受 *Aṣṭ-pr. 364.* 田 **miyate** 量られる等. 過受分 **mita** (一°) だけの分量のある, …からなる; (田, 一°) で量られる=…と等しい; (田) によって制限されたまたは束縛された; 量られた, 適度の, 乏しい, 僅少な, 簡潔な (語); 量られた=秤量された, 調査された. 使役 田 **māpayati** 量らせる; 測量する, 区分する; 建てさせる; 建立する; 漢訳 量度, 量知多少, 検量知多少 *Divy.*; 造立, 建立 *Divy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*; 変, 化作 *Lal-v. 203, 278.* 希求 田 **mitsati**.
anu- 量において劣る, (田) において (田) に及ばない (RV.); (田) の概念を作る, …を (iva, yathā とともに) (田) と思う; (田) から (田) を推定する; (田) を (田) と決定する. 田 **anumiyate** 漢訳 比知, 比量 *Abh-vy.* 過受分 **anumita** 考えられた; 推定された, 決定された. 使役 **anumāpayati** (田) を推定させる; 演繹させる, 立証する.
ud- 過受分 **unmita** (一°) だけの分量のある.
upa- 田 田 与える (RV.); 田 (田) と比較する. 田 **upamiyate** 有益である. 過受分 **upamita** 比較された, 等しい, …に類似した.
ni- 過受分 **nimita** 量られた; (田) によってひき起こされた.
nir- (ある物から) 作る, (田, 田) から産出する, 創造する, 形成する, 作り出す; 建てる, 組立てる; (文学上の作品を) 創作する; (絵を) 画く; 言う, (話を) する; ひき起こす, 産出する; 呈示する, 示す; 漢訳 造, 造立, 作像, 作相 *Aṣṭ-pr.*; 現, 示現 *Daś-bh.*; 化, 化作, 現化現, 変, 変形 *Buddh-c.*, *Daś-bh.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Laṅk.*, *Madhy-v.*; bhikṣūn **nirmāya** 作苾芻像, 作苾芻相 *Aṣṭ-pr. 524.* 不変分 **nirmitvā** (語幹 ~Min! 漢訳 現変已 *Madhy-v. 331.* 過受分 **nirmita** (田, 一°) によってまたは (田, 田, 一°) から産出された, 創造された, 構成された, 形成された, 作られた, 建てられた [通常の意味]; ひき起こされた; 実行された, 祝われた; 定められた, 指定された; 隔離された, 孤立した. 使役 **nirmāpayati** 創造させる, 形成させる, 建立させる. 希求 田 **nirmitsati** 作りたいと思う, 建てたいと思う.
abhi-nir- 産出する; 構成する; とくに不思議な力に

よって現出する (*Lal-v.*, *Kār-vy.*) ; 化, 化作, 変, 変為, 変其形, 現作変化, 化現, 現, 出現 *Aṣṭ-pr.*, *Av-ś.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Guhy-s.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.* 〔不變分〕 *abhinirmāya* 變其形為, 現作諸變化 *Guhy-s.*, *Lal-v.*; (*abhinirmāyā*, 語幹 ~ *Min!*) 化 *Saddh-p.* 63: *garuḍarūpam abhinirmāya* 變其形為金翅鳥 *Lal-v.* 270.

; *sarva-bimbāni (stri-bimbāny) abhinirmāya* 現諸影像作諸變化 *Guhy-s.* 2. 〔過受分〕 *abhinirmāya* 創造された (*Lal-v.*); 形成された; 建てられた.

vi-nir- (圓, 因) から創造する, 構成する, 形成する, 建てる. 〔過受分〕 *vinirmāya* (因, 一) から創造された, 作られた; 設計された(庭); 決定された, 指定された; (因) …であることになっている; 実行された, 祝われた.

saṃ-nir- 〔過受分〕 *saṃnirmāya* (因) で構成された. *pari-* いたるところをまたは完全に測量する; (圓) で囲む; はかる, 評価する. 〔過受分〕 *parimāya* 限界づけられた, 制限された; 小さい, 僅かな, 短い.

pra- 量る, 評価する; 創造する, 形成する; (業) の正しい観念を構成する; 量, 校量, 度量, 格量, 思量 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Suv-pr.* 〔過受分〕 *pramāya* (一) だけの分量のある; 限られた, 適度の, 小さい, 少い, 僅かな; 正しい観念の構成された. *prati-* (…に対して量る), …を模倣する. 〔過受分〕 *pratimāya* 反射された, 模倣した.

vi- 測量する; 列挙する; 横切る; 定める, 決する; 用意する.

abhi-vi- 因 *abhivimāya* おのずからに予想される.

saṃ- 測る; (圓) を標準として測る, …に等しくする [大きさ, 数等において]; (圓) と比較する; 測定する, 与える; [II. 因 または 受] (因) の中におさまるまたはの中へ入る. 〔過受分〕 *saṃmāya* 測定された; ちょうどそれだけある, ちょうどそれだけの; (圓, 一) と等しい広さ・長さ・幅または高さの; (一) に達する; (圓, 一) と等しい; (一) と釣り合った, …と相応したまたは適合した; (一) に似たまたはと見なされる; (圓, 一) を具備したまたはからなる; (一) に定められた. *saṃmāyam* 〔正しくは *saṃmāyam*] どこでも, 常に (*Kār-vy.*).

Mā 2., 圓 *-māya*.

ni- (*mayati*) 交換する. 因 *nimāya* (圓) と交換される.

mā 1., [禁止の 副 接詞 = Gk. μή] …なかれ, …なからんことを; ないように: [1. 因 とともに; 2. 因 とともに(普通ではない)] …なからんことを, 願わくは…ないように; 3. [いわゆる *injunctive* とともに 因, 業] では接頭字 *a-* のない, 一過 (まれに), 三過 (きわめて普通) の 因 とともに (叙詩 は時に *a-* を伴う) なかれ, なからんことを; 4. [因 とともに; 業, 叙詩; 普通ではない] …ないように; 5. [現分 とともに (非常にまれに: 例 ~ *jīvan* 彼は生きるのに値いしない)]; 6. [過受分 とともに: 例 *gataḥ sa ~* 彼は行ったはずがない (非常にまれ)]; 7. [業 のない省略形] なかれ; 勿, 莫, 不 *Av-ś.*, *Mṛyut.*, *Saddh-p.*, 梵千. ~ ~ *evam*

(*maivam*) [同上]. ~ *tāvat* [同上]. *yathā ~* …ないように. *bhavatu ~ vāstu (vā-astu)* そのあるとないを問わない. ~ *katham nu bhavatu* どうしてそうであってはいけないのか. ~ *bhūḍ āgataḥ* 彼が到着しないようなことがあるか = 彼は確かに到着しだに相違ない. ~ *nāma rakṣiṇaḥ* 番人であるなどということのないように. ~ *na* [三過 の *inj.* 形とともに = 肯定の 副 例 *mā dviṣo na vadhīr mama* 'わが敵を殺せ' (業; はなはだまれ)]. ~ *u (mo)* しかも…なかれ (因). ~ *sma* [業 または 三過, まれに 一過 の *inj.* 形とともに] なかれ, …しないように. *sma ~* [同上]. *mo sma* [同上] (*Br.*). ~ ~ *uta (mota)*, …でもなく…また…でもない.

mā 2., [aham (私) の 附帯 業].

mā 3., 曆月 [因 業 *māsu* (因 用例一回のみ)].

mā 4. 因 權威; 知識.

māms 因 肉 [一 のみ].

māmsa 因 (業 業) 肉, 獣肉 (また魚・蟹ならびに果実の); 動物質の食物; 肉, 身肉, (皮) 肉, 肉滓 *Abh-vy.*, *Av-ś.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*; *Mṛyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.* *Vajr-pr.*, 梵千., 梵維.; 饌 *Divy.* 男 [混血種姓(階級)の一種].

māmsa-kila 男 猴瘡 *Mṛyut.*

māmsa-kṣaya 男 (肉の住居), 身体.

māmsa-khaṇḍa 因 肉の一片.

māmsa-khaṇḍikā 因 肉屑 *Śikṣ.*

māmsa-gṛdhyin 因 肉を渴望する.

māmsa-cakṣus 因 肉体的の眼 (*Vajr-pr.*); 肉眼 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.*, *Vajr-pr.*; 父母所生眼 *Saddh-p.* 355.

māmsatva 因 肉たること; 肉の真の意味または起源 (< *mām sah*).

māmsa-parivarjana 因 肉食を禁ずること.

māmsa-piṇḍa 男 因 肉の塊; 腫瘍; 肉団, 肉丸, 肉搏 *Abh-vy.*, *Divy.*

māmsa-peśi 因 肉片; 筋肉; 肉団, 肉屑 *Av-ś.*, *Divy.*

māmsa-bhakṣa 因 肉食の; 食(血)肉者, (鳥獸多) 食肉(血) *Suv-pr.*

māmsa-bhakṣaṇa 因 肉を食うこと; 食肉 *Lank.*, *Vajr-s.*

māmsabhakṣaṇa-vinivṛtta 因 断肉, 捨肉不食 *Lank.*

māmsa-bhikṣā 因 肉を乞うこと.

māmsa-bhūta 因 肉である, 餌を形成する; 肉と結合された.

māmsa-bhettr 因 肉を傷つける.

māmsa-bhojana 因 食肉 *Lank.*

māmsamāya 因 (因 -i) 肉からなる.

māmsa-yoni 男 肉(と血)のある生物.

māmsa-ruci 因 肉食を好む.

māmsa-rudhira 因 血肉 *Lank.*

māmsarudhira-bhakṣa 因 飲血啖肉, 飲血食肉 *Gaṇḍ-vy.*

māmsarudhirāhāra (°*ra-āh°*) 男 血肉, 血肉(不浄), 血肉(不浄之) 食 *Lank.*

māṃsala 形 肉づきのよい；筋肉隆々たる；かさ張った；力のある，重々しい(音響)。
 māṃsa-latā 女 しわ(皺)。
 māṃsa-lubdha 形 肉を欲する。
 māṃsa-varṣin 形 肉(蝗?)を雨ふらす。
 māṃsa-vallūra 中 肉脯 *Prat-m.*
 māṃsa-vikraya 男 肉の販売；売肉 *Mvyut.*
 māṃsa-vikrayin 男 肉を売る人。
 māṃsa-vikreṭṭ, 男 [同上]。
 māṃsa-śoṇita 中 肉と血；血肉 *Śikṣ.*
 māṃsād 形 肉食の。
 māṃsāda (°sa-āda) 形 [同上]；食肉 *Lank.*
 māṃsādin (°sa-ād°) 形 [同上]。
 māṃsārgala 男 中 (口から垂れ下った)肉片。
 māṃsāsana 中 肉を食うこと，肉の食物。
 māṃsāsīn (°sa-ās°) 形 肉を食うまたは肉を食って生存する；食肉之人 *Lank.*
 māṃsāhāra (°sa-āh°) 男 獣肉の食物。
 māṃsika 男 屠殺者，肉屋 (*Saddh-p.*)；屠殺 *Saddh-p.*
 māṃsopajivin (°sa-up°) 男 肉商人。
 māṃsaudana (°sa-od°) 男 肉を入れた飯。
 māṃs-pacana 形 (女 -i) 肉を料理するのに適する。
 māṃkanda 男 マンゴー樹。
 māṃkandikā 女 [*Gaṅgā* 河畔の町の名]。
 māṃkandī 女 [同上]。
 māṃkara 形 (女 -i) 海の怪獣 *Makara* に関連した。
 男 [ākara とともに] (*Makara* の宝庫)，大洋。
 māṃkaranda 形 (女 -i) 花の汁から出たまたはからなる；蜜で満ちた。
 mā-kis 副 [ただ *inj.* とともに禁止の文章にのみ用いられる]…せしめないように，…をして…せしめないように；誰も…しないように (*RV.*)。
 mā-kim 副 [同上] (*RV.*)。
 māṃṣika 形 蜂に由来する。中 蜂蜜；[鉱物の一種]，黄鉄鉱；蜜 *Mvyut.*，梵干。
 māṃṣika-svāmin 男 [地方の名]。
 māṃṣika 男 蜘蛛。中 蜂蜜。
 māṃṣika-dhātu 男 黄鉄鉱。
 māṃgadha 形 (女 -i) *Magadha* に関連した・に由来する・で生じたまたはで通用する。男 *Magadha* の王侯；[混血種姓(階級)の一種，*Vaiśya* を父とし *Kṣatriyā* を母とした子孫]，職業的吟遊詩人，王侯の称讃者；(種) *Magadha* の人々；音写 摩竭，摩陀 *Lank.*
 māṃgadhaka 形 *Magadha* に属する (*Kar-vy.*)
 māṃgadhadeśīya 形 *Magadha* 国から来た。
 māṃgadhapura 中 [町の名]。
 māṃgadhika 男 *Magadha* の王侯。
 māṃgadhikā 女 (單 および 複) こしょう。
 māṃgadhī 女 *Magadha* の王女；女流吟遊詩人 (*Vaiśya* を父とし *Kṣatriyā* を母とした子孫の)；*Magadha* 語 [プラークリット語の一種]；[香料の一種]。
 māṃgha 形 (女 -i) *Maghā* 星座に関連した。男 [曆月の名，一月一二月]；[*Śiśupālavadhā* の作者(おそらく西紀第七世紀末葉)の名]；季冬，十一月 *Mvyut.*，

梵干；(音写) 磨伽月 *Mvyut.*
 māṃgha-kāvya 中 *Māgha* の詩 (*Śiśupālavadhā*)。
 māṃgha-pākṣika 形 (女 -i) *Māgha* 月の前半または後半に属する。
 māṃghamā 女 雌蟹。
 māṃgha-māsika 形 (女 -i) *Māgha* 月に属する。
 māṃghavata 形 *Indra* 神に属する。
 māṃghavata-cāpa 男 中 虹。
 māṃghavana 形 (女 -i) *Indra* 神に属する；[*kakubh* 女 とともに] *Indra* 神の方位すなわち東。
 māṃgha-śukla 男 *Māgha* 月の白月(前半)に関する。
 māṃghī 女 *Māgha* 月の満月の日。
 māṃghona 中 惜みなく与えること (*RV.*)
 māṃ, [不変辞 *mā* の文法的名称]。
 māṃgalika 形 (女 -i) 吉祥な結果を切望する；幸運の助けとなるまたはを暗示する。中 (?) 吉祥なもの，護符。
 māṃgalikā 女 [人名]。
 māṃgalikya 中 (?) 護符。
 māṃgalya 形 幸運の前兆のある，吉祥な；吉祥 *Lal-v.* 中 吉祥なもの，護符；祝福；吉祥な儀式または祝祭。
 māṃgalya-deśanottama (°nā-ut°) 形 吉祥傑中勝 *Suv-pr.*
 māṃgalya-mṛdaṅga 男 吉祥な時に打つ太鼓。
 mā-ciram 副 (長くない)，猶子なく，速かに，すぐに [ただ 副 または 接頭字 *a-* のない 三過 をもつ命令文にのみ，しかもほとんど常に詩節の終りにのみ用いられる]。
 mājika 男 [人名]。
 māṃjiṣṭha 形 (*maṃjiṣṭhā* に関連した)，あかねで染められた，あかねのように赤い；紅，紅紫 *Aṣṭ-pr.*，*Mañj-m.*
 māṃjiṣṭhaka 形 [同上]。
 māṃjiṣṭhika 形 [同上]。
 māṃjiṣṭhī-Kṛ, あかねのように赤く染める。
 māṃṭa 男 鼓司 *Mvyut.*
 māṃṭhara 男 [*Sūrya* の侍者，その他の人名]；(種) [住民の名]。
 māṃṭhavya 男 [ある婆羅門の名]。
 māṃḍa 男 [=vāṭa] 座，場 *Aṣṭ-pr.* 764, *Mañj-m.* 1. → *maṃḍalā* ~。
 māṃḍava 男 [混血種姓(階級)の一種]。
 māṃṇava 男 少年，若者，青年；(とくに)婆羅門の少年；人，儒童，年少浄行，行者 *Vajr-pr.*，*ḥḥ*；婆羅門，浄行婆羅門 [婆羅門は *brāhmaṇa* の音写] *Rāṣṭr.*，*Vajr-pr.*；音写 摩納，摩納婆，摩那婆，摩鬘縛，摩納縛 (迦) *Divy.*，*Rāṣṭr.*，*Vajr-pr.*，*ḥḥ*。
 māṃṇavaka 男 [同上]；婆羅門の少年 [侮蔑的に成人に用いられる]；童子，儒童；善男子；梵志，学志，婆羅門，少婆羅門，婆羅門童男，婆羅門童子 *Aṣṭ-pr.*，*Gand-vy.*，*Lal-v.*，*Mvyut.*，*Śikṣ.*；外道童子 *Gand-vy.*；音写 摩拏嚩迦，摩納縛迦 *Divy.*，*Śikṣ.*
 māṃṇavikā 女 少女，下女；童子 *Divy.*
 māṃṇika 男 宝石細工人。

māṇikā 因 [重量の単位の一つ].
 māṇikya 因 ルビー (紅玉). 男 [人名].
 māṇikyamaya 因 (因 -i) 紅玉で作られたまたはからなる.
 māṇikyavṛkṣāya 名動 ルビーの樹に類似する.
 māṇikyādri 男 [山の名].
 māṇicara 男 [神の一種].
 māṇi-cāra 男 [Yakṣa の王の名].
 māṇi-bhadra 男 [同上]; 寶賢, 宝王 *Suv-pr.*; 音写 摩尼跋陀 *Suv-pr.*: ~sya ca mahā-yakṣa-senā-pateḥ 宝賢大将, 摩尼跋陀鬼神大将 *Suv-pr.* 75.
 māṇi-vara 男 [同上].
 maṇḍa-karṇi 男 父系 [ある Muni の名].
 maṇḍapa 因 神殿に属する.
 maṇḍalika 因 一地方を支配する; 藩 *Mvyut.* 男 領主; 藩 ~rājan 小王, 藩王 *Mvyut.*
 maṇḍalya 因 円 *Lanik.*
 maṇḍavi 因 [*Dakṣyaṇi* の名]; [*Kuśadhvaṇa* の娘で, *Bharata* の妻の名].
 maṇḍavya 男 父系 [maṇḍu から] [ある学匠の名]; (因) *Maṇḍavya* 師の後裔, [*Bahvṛca* の一学派の名] (*Divy.*).
 maṇḍūka 因 (因 -i) *Maṇḍūka* から出た. 男 因 [ある学派の名].
 maṇḍūkāyana 男 因 [ある学匠の名].
 maṇḍūkeya 男 父系 [ある学匠の名]; (因) *Maṇḍūkeya* の後裔.
 maṇḍūkyopaniṣad (°ya-up°) 因 [ある *Upaniṣad* の題名].
 mātaṅga 男 象, (一°) の中の象たる者 = 主なまたは最上の者; 最下級の種姓(階級)の人 [*Cāṇḍāla*]; [*Kirānta* の一種]; 象, 牛 *Bodh-c., Mvyut.*; [竜王の名] 大象 *Mvyut.*; 屠家, 屠種, 下賤種, 暴厲 *Mvyut.*; 梅陀羅 [*cāṇḍāla* の音写] *Divy.*; (音写) 梅陀羅, 摩登伽種 *Divy.*; 音写 摩登, 摩鄢, 摩騰, 摩登伽, 摩登伽 *Divy., Lal-v.*; [*Pratyeka-buddha* の名] 音写 摩登 *Lal-v.*; [林の名] 末證伽(林), 摩登伽(林), 摩登伽 (因) *Vijñ-v.*
 mātaṅgaka 男 [*Cāṇḍāla* のある首長の名].
 mātaṅga-kumāri 因 *Cāṇḍāla* の少女.
 mātaṅga-ja 因 象から出た.
 mātaṅgatva 因 *Cāṇḍāla* たることまたはその身分.
 mātaṅga-dārikā 因 邪呪女 (?), 梅陀羅女, 女梅陀羅種; (音写) 摩鄢女 *Divy.* 611. → mātaṅga.
 mātaṅga-nakra 男 象ほどの大きさの鱗.
 mātaṅga-pati 男 *Cāṇḍāla* の首長.
 mātaṅga-rāja 男 *Cāṇḍāla* の王; 有志; (音写) 摩登王 *Divy.*
 mātaṅgi 因 象族の神話的母の名; *Cāṇḍāla* 族の婦女; 音写 [人名] 摩登伽 *Divy.*
 mātari-śvan 男 [母の中で生長する; すなわち鑽木の中に隠された: *Śū*] [*Vivasvat* の使者で, 隠れた *Agni* (火) を天から *Bhṛgu* 族へもたらした神の名]; [*Agni* 神の神話的名称]; 風 [因] における通常の意義; [聖仙の名].

mātali 男 [*Indra* 神の御者の名].
 mātali-sārathi 男 [(*Matali* を御者とする), *Indra* 神の称].
 mātali 男 [*Yama* 神ならびに祖霊達と同居する神の名].
 mātaliya 因 *Matali* に関連した.
 mātā 因 = mātr [若干の 合 成 において °-].
 mātā-duhitṛ 因 因 母と娘.
 mātā-pitr 男 因 父と母, 両親; 父母, 尊親 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Suv-pr.*
 mātā-pitrka 因 父母 *Saddh-p.*
 mātāpitṛka-sambhu 因 父母所生 *Saddh-p.*
 mātāpitṛ-ghātaka 男 因 弑父母者 (*Kār-vy.*).
 mātāpitṛ-ja 因 父母生 *Samkhy-k.*
 mātāpitṛ-bhūta 因 因 如父母, 猶如父母, 而作父母, 作真実父母 *Gaṇḍ-vy., Suv-pr.*
 mātāpitṛ-marāṇa 因 父母喪亡 *Bodh-bh.*
 mātāpitṛ-saṃjñin 因 父母として考量する (*Lal-v.*).
 mātāpitṛ-samaṅgin 因 待親父母, 父母守護 *Gaṇḍ-vy.*
 mātāpitṛ-sambhava 因 父母所生 *Saddh-p.*
 mātā-putra 男 因 母と子.
 mātā-paitṛka 因 父母所生 *Divy.*
 mātā-maha 男 母方の祖父; (因) 母方の祖父母; (因) 母の父・祖父ならびに祖先; 大祖母 *Aṣṭ-pr.* 因 (因 -i) 母方の祖父(祖母)に関するまたは属する.
 mātā-mahī 因 母方の祖母; 外祖母 梵雜.
 māti 因 腰 *Mvyut.*
 mātura, = mātr.
 mātura 男 母の兄弟, (母方の)おじ [寓話ではろばと豺とが互いに相手をこのように言う]; 大兄, 舅, 舅舅, 大舅, 親舅 *Divy., Mvyut., 梵雜.*; 音写 [また数の名] 摩親羅, 摩都羅, 麻盧独 *Mvyut.*
 mātulaka 男 [同上(ただしさらに親愛の情を含む)] 親愛なおじ [寓話では鶴が蟹のおじと呼ばれる].
 mātulāni 因 母方のおじの妻.
 mātulīṅga 男 因 = mātulūṅga.
 mātulīṅgi 因 シトロン(くえん)の木.
 mātulūṅga 男 [同上]. 因 シトロン, くえん; 枸櫞, 枸櫞花, 枸櫞子, 紫白冬, 紫白冬青子 *Abh-vy., Mvyut.*; 音写 磨独竜伽(花), 摩東籠伽(花) *Abh-vy., Mvyut.*
 mātuleya 男 母方のおじの息子, いとこ.
 mātulya 因 母方のおじの家.
 mātr 1. 因 母 [獸類をも含む; 因 父母 (RV.)]; (母なる)大地 [因 天と地 (RV.)]; 牝牛; 水 [因 (RV.)]; 火を鑽りだすための二個の木片 [因 および 因 (RV.)]; [*Lakṣmi* 女神の称]; [*Durgā* 女擬人化した] 神母神の称; (因) [(七, 八, 九, 十六の) 諸神の精力を [母なる語は また一般に 近親または尊敬すべき親族の婦人にも親愛を表わす辞として用いられ, 親密な会話においては一般の年長婦人にすら拡大される]; 母, 生母, 慈母 *Aṣṭ-pr., Lanik., Mvyut., Nyāy-pr., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., 梵千.*
 mātr 2. 男 測量者. (RV.).
 mātrka 因 母から生まれたまたは継承した; 母方の.

母方のおじ。母たる性質。
māṭṛka-dhara 形 [=māṭṛkā-dhara]; 誦阿毘曇 [阿毘曇は abhidharma の 音写]; (音写) 持摩帝隸迦 *Prāt-m.* V. 75.
māṭṛ-kalpa 形 譬如慈母 *Sūtr.*
māṭṛkā 因 [一般に 一°] 母; 祖母; 起原; (因形上に描かれ、かつ神秘力があると想像された) 文字, [集合的に] (それらに使用された) 諸文字または字母; 字母; [Aryaman の妻の名]; [Abhidharma-piṭaka の別称] (仏教); (因) 神母 (māṭṛ); 母 *Gaṇḍ-vy.*, 玄應; 字母, 本母, 行母, 根本之字, 行境界 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, 玄應; (音写) 摩夷, 摩得勒伽, 摩德勒伽, 摩恒理伽, 摩怛履伽, 摩伍黎迦, 摩致履伽 *Bodh-bh.*, *Lal.*, 玄應. → a-kāra, deva~, nadi~.
māṭṛkā-dhara 形 持論, 持陰母 *Mvyut.* → māṭṛka-dhara.
māṭṛkāmaya 形 (因 -i) 神秘的文字からなる。
māṭṛ-gaṇa 男 神母の集合。
māṭṛ-gandhini 因 香 (すなわち外觀) のみの母 [無慈悲な母].
māṭṛ-garbha 男 胎, 子宮。
māṭṛ-gupta 男 [王侯の名].
māṭṛ-gr̥ha 中 神母の神殿。
māṭṛ-grāma 男 女性 (*Lal-v.*); 女人, 婦人, 女家, 母邑 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Prāt-m.*, *Saddh-p.*, *Sikṣ.*; ~eṇa saha svapnaḥ 与女人同室宿, 与婦人同室宿 *Mvyut.*; ~sya dharmam deśayati 為女人説法 *Prāt-m.* V. 5.
māṭṛgrāma-bhāva 男 女身 *Sikṣ.*
māṭṛ-ghāta 男 殺母者; 殺母 *Mvyut.*
māṭṛ-ghātaka 男 [同上]; 殺母, 殺母者 *Mvyut.*
māṭṛ-ghātin 男 殺母者; 殺母 *Saddh-p.*
māṭṛ-ghna 男 [同上].
māṭṛ-cakra 中 諸神母を含む神秘的な群; 神母の群。
māṭṛ-jña 形 母を認めるまたは尊敬する (*Lal-v.*); 知母恩, 孝養母, 供養母; 識母 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*
māṭṛtamā 最上 因 もっとも母性的な (水についていう: 因).
māṭṛtas 副 母に関して, 母の権利において。
māṭṛtā 因 母たること。
māṭṛtva 中 [同上]; 母 *Lank.*
māṭṛ-datta 男 [諸人の名].
māṭṛ-dattā 因 [人名].
māṭṛ-deva 形 母を神として尊敬する。
māṭṛ-doṣa 男 母の欠陥または劣等 (すなわち卑賤な階級の出であること).
māṭṛ-nandana 男 [*Skanda* の称].
māṭṛ-pālita 男 [ある *Dānava* の名].
māṭṛ-piṭṛ-vadha 男 殺父母, 害父母 *Lank.*
māṭṛ-pūjana 中 神母の崇拜。
māṭṛ-pūjā 因 [同上].
māṭṛ-bandhu 男 母方の親戚。母方の親族たること。

māṭṛ-bandhū 因 名のみ母, 無情な母。母とは名のみ。
māṭṛ-bāndhava 男 母方の親族。
māṭṛ-bhakti 因 母に対する敬信。
māṭṛ-bhagini 因 姨母 *Saddh-p.*
māṭṛ-maṇḍala 中 神母の仲間または群。
māṭṛmaṇḍala-vid 男 神母に対する祭官。
māṭṛ-yajña 男 神母への祭式。
māṭṛ-yāga 男 [同上].
māṭṛ-rakṣitā 形 因 母護 *Mvyut.*
māṭṛ-vaṃśa 男 母の家系。
māṭṛ-vaṃśya 形 母の家系に属する。
māṭṛvat 副 母のようにまたはとして; 母に対するように。
māṭṛ-vatsala 形 母に優しい。男 [*Skanda* の称].
māṭṛ-vadha 男 母殺し。
māṭṛ-vidūṣita 形 母によって汚されたまたはそこなわれた。
māṭṛ-śvasṛ 因 母の姉妹, 母方のおば; 嫂 *Mvyut.* → māṭṛ-śvasṛ.
māṭṛ-śvaseya 男 母の姉妹の息子。
māṭṛ-śvaseyi 因 母の姉妹の娘。
māṭṛ-saṃjñā 因 母想, 母心 *Aṣṭ-pr.*
māṭṛ-saṃjñin 形 起慈母想, 発慈母心 *Gaṇḍ-vy.*
māṭṛ-śvasṛ 因 [māṭṛ-śvasṛ の誤]; 姨母 *Lal-v.*
mātra 中 要素 [P. のみ]; (一°) だけの量・大きさ・高さ・深さ・長さ・幅または距離; 分量, 総額 (金銭の); (時間の) 持続または間隔; (数詞とともに余分に用いられる 例 śata~ = śata) 数; 全量, 全体, 合計, もっとも広い意義 (例 rāja~ 'およそ rājan と呼ばれるもの全部'); (...という語の意味する所に) 他ならないものすなわちただ...のみ, ただ単に (と訳される); 量 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*; 一° 唯, 但, 但有, 分齊 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Sāmkhy-k.*, *Sūtr.*, *Vijñ-v.*; upamā~ 小分譬喩, 譬喩唯是少分, 唯以少分爲其喩耳 *Lank.* 230; nāmadheya~ 但有仮名 *Aṣṭ-pr.* 111; skandha~ 唯諸蘊 *Abh-k.* III. 18; sva-citta-drśya~ 自心所現分齊 *Lank.*, 40. 一° 形 (因 -ā, -i) ...程の大きさ・高さ・深さ・長さ・広さまたは距離の; ...程の, ...程多くの; ...より多く持たない, 単に...に達する, ただ...のみからなる; ただ...のみである, 単なる; ...にすぐ続く; [過受分 とともに] ...するや否や, かるうして, ...の途端に; (いくつかの) モーラ (morae) からなる; ...の間続いた; ...を自己の所有物として所有する; 量; 唯, 但, 但是, 如...許, 少, 微, 纒頃, 暫 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.* *Saddh-p.*, *Sikṣ.*; abhisambuddha~ 初得覚時 *Aṣṭ-pr.* 614; go-doha~ 搆牛乳頃 *Bodh-bh.* 236 paṭhita~ 但能読誦 *Sikṣ.* 62; pratimā~ darśan 暫見形像 *Sikṣ.* 311. ~m 副 少 *Nyāy-pr.*
mātraka 中 一° = mātra, ...だけの量・大きさ等; 少, 少分, 片; 暫 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*; śradhā~ 少分信 *Aṣṭ-pr.* 585. → alpa~, avara~, dār~. 一° 形 = mātra, 単なる, わずかに...で; 近 *Aṣṭ-pr.* → maraṇa~.

mātra-jña 因 知量, 知臨節 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 覺暖, 覺火候 *Mvyut.* → a~.

mātra-jñatā 形 知量 *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*

mātraṃ-jñātṛ 男 常自知量 *Lal-v.* → bhojana ~.

mātratā 因 [mātra (一°) の 圖].

mātratva 因 [同上].

mātrā 因 尺度, 物指し; 広さ; 分量; 時間, 寿命; 尺度の単位, 尺; 時間の単位, 瞬間; 韻律の単位 (*mora*) [一短母音を発音するのに要する時間]; 音楽上の時間の単位 [これに三種ある]; 正しい量, 順序 (*RV.*); 小部分, 微粒子, 些少, 少量; 重要性, 価値, 重大性; 要素; 物質, 物質的世界; 財産, 貨幣; 家具; 耳環, 裝飾物; 量, 分量, 極限 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.*; 暫 *Bodh-bh.* 因 ~*ayā* 小部分において, わずかの量において, 適度に; 如量, 知量, 応時 *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.* → *bhūyas* (*bhūyasyā* ~*ayā*), *rājeti* (°*jā-iti*) *kiyati* ~ 王に何の価値があるか, (因) にとっては王は全く重要ではなく, 全くつまらぬものである. *kā* ~ *samudrasya* 海のごとき何かあらん? = 海は容易に制御されるであろう.

mātrā-(c)chandas 因 [モーラの数のみで計算される韻律].

mātrā-cyutaka 因 (モーラの脱落), 競技の一種 [競技者は故意に省略された詩句のモーラを補充する].

mātrā-bhastrā 因 錢入れ, 財布.

mātrā-bhojin 形 食分量, 知量而食, 於食知足 *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*

mātrā-lābha 男 富の獲得, 収得.

mātrā-vṛtta 因 = *mātrā-(c)chandas*.

mātrāsin (°*rā-ās*) 形 適度に食う; 飲食知量, 飲食知足 *Bodh-bh.*

mātrā-saṅga 男 器物に対する執著.

mātrā-sparśa 男 物質との接触.

-mātrika, ...のすべて, ...のあらゆる種類; 唯有 *Abh-vy.* → *bhūta* ~.

mātrikā 因 一° = *mātra*, ...だけの量・大きさ等; 韻律上の単位; 模範; [<*mātrkā*> 文字之母 *Kāśy.*

mātriya 名動 因 *mātriyati* 母として考えるまたは遇する.

mātsarika 形 ねたむ, しつと深い, 悪意のある.

mātsarya 因 しつと, 悪意; 不満; 慳, 慳貪, 慳吝, 慳吝, 慳嫉, 慳行, 慳著, 慳惜, 吝, 吝著, 慳, 嫉妬, 貪妬 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Av-ś.*, *Bodh-bh.*, *Dharm-s.*, *Gand-vy.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.*, *Suvik-pr.*, *Vijñ-t.*, 梵千.: *pañca* ~ *āṇi* 五貪妬 [1. *dharma* ~ *m* 法貪妬, 2. *lābha* ~ *m* 利養貪妬, 3. *āvāsa* ~ *m* 住貪妬, 4. *kuśala* ~ *m* 為善貪妬, 5. *varṇa* ~ *m* 名聞貪妬] *Dharm-s.* → *irṣyā* ~.

mātsarya-samyojana 因 慳結, 慳吝結 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*

mātsaryopahata-citta (°*ya-up*) 形 慳誑心 *Sikṣ.*

mātsika 男 漁夫; 捕魚, 漁人 *Mvyut.*

mātsya 形 魚に関するまたは属する, 魚に由来する. 男 [聖仙の名]; *Matsya* の王. 因 = *Matsya Purāna*.

mātha 男 押し砕くこと, 破壊.

māthaka 男 破壊者.

māthava 男 [Mathu の 父系].

māthura 形 (因 -i) *Mathurā* に属する・から来たまたは生まれた. 男 *Mathurā* の住者; [ある賭博場の所有者の名].

māthuraka 男 *Mathurā* の住者.

māthura-deśya 形 *Mathurā* 地方から来た.

mādaka (使役) 形 酔わせる, 麻醉させる.

mādatva 因 [同上 圖].

mādana 形 喜ばせる (*RV.* 用例一回のみ); 酔わせる (因); 醉, 醉 (果) *Daś-bh.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, 玄応.; 音写 摩陀那玄応. 因 [神話的武器の名].

mādaniya 形 酔わせる (因). 因 酔わせる飲料.

māduṣa 因 [mānuṣa の語原的説明の為に案出された語].

māduṣatva 因 圖 因 [同上].

mādrś 形 [因 -k] 私のような.

mādrśa 形 (因 -i) [同上]; 如我, 我等 *Saddh-p.*, *Vijñ-v.*

mādraka 男 *Madra* の王侯.

mādravati 因 *Madra* の女王.

mādrī 因 *Madra* の王女 [*Pāṇdu.*, *Sahadeva* および *Kṛṣṇa* の妻の名].

mādreya 男 *Mādrī* の息子, [*Sahadeva* および *Nakula* の 母系].

mādhava 形 (因 -i) 春に属するまたはに関する, 春の; *Madhu* の後裔に属するすなわち *Yādava* 族. 男 [春の(第二)月(さらに普通には *Vaiśākha* と呼ばれる: 四月一五月)の名]; 春; *Madhu* の息子または後裔, [*Yadu* の種族の人, *Kṛṣṇa*, *Viṣṇu* および *Para-Śurāma* の 父系]; [諸人の名]; 音写 摩達網 (漿) *Divy.* 221.

mādhava-gupta 男 [人名].

mādhava-valli 因 春の蔓草 (*Gaertnera racemosa*).

mādhava-sena 男 [王侯の名].

mādhavasena-rāja 男 [王侯の名].

mādhavācārya (°*va-āc*) 男 [ある有名な学者の名, *Sāyana* の兄弟].

mādhavikā 因 = *mādhava-valli* (*Gaertnera racemosa*); [人名].

mādhavi 因 大地; *Madhu* または *Yadu* の種族の婦女; [芳香のある白色の花を開く春の蔓草の名, 学名 *Gaertnera racemosa*].

mādhavi-maṇḍapa 男 因 *Mādhavi* 草で覆われたあずまや.

mādhaviya 形 *Mādhava* または *Mādhavācārya* に属する・に関する・に捧げられたまたはによって作られた.

mādhavi-latā 因 = *mādhava-valli* (*Gaertnera racemosa*).

mādhavya 男 [戯曲 *Śakuntalā* に出る *Vidūṣaka* の名].

mādhavya-mānavaka 男 婆羅門少年 *Mādhavya* [反

語的に成人について言われる]。

mādhu-kara 形 (女 -i) 蜂 (madhu-kara) または蜂蜜に関するまたはに由来する。

mādhu-cchandasa 形 *Madhu-cchandasa* に関するまたはに由来する。

mādhu-tailika 形 蜂蜜と油とからなる。

mādhu-parkika 形 (女 -i) madhu-parka という儀式に関するまたはその際に捧げられる。

mādhura 形 (女 -i) *Madhura* に関する。 田 *Madhura* 蔓草 (*Jasminum sambac*) の花。 男 *Madhura* の領主。

mādhuri 因 美味；愛嬌，愛らしいこと；蜜酒，酒。

mādhurya 田 美味；この上なく美しいこと，愛らしいこと，愛嬌；温雅，やさしさ；文体の優美，とくに一文章の中で一語一語離して使用すること [因 *śleṣa* (修辭)]； 漢 甘，美好，美妙，妙，柔軟 *Abh-vy.*, *Daś-bh.*, *Lañk.*, *Sam-r.* 形 優しく話す。

mādhurya-bhramśa 男 漢 壞美，壞美(語) *Bodh-bh.*

mādhūka 形 *Madhūka* 樹 (*Bassia latifolia*) から製した；声の美しい [混血種姓 *Maitreya* の称]。

mādhyā 形 中央の。

mādhyam-dina 形 (女 -i) 日中に属する。 男 園 [白 *Yajur-veda* の一分派であるある学派の名]。

mādhyamdina-sākhā 因 *Mādhyamdina* 学派。

mādhyam-dināyana 男 [ある師の名]。

mādhyama 形 中間に属する，中央の，(国の) 中央に住する。 男 園 [*Rg-veda* の中間部 (第二篇から第七篇) の作者達]。

mādhyamaka 形 (女 -ikā) 中間の領域(すなわち空界)に関するまたはに属する。

mādhyamika 形 [同上]。 男 (園) [中国(*Madhyadesā*) の住民]；[仏教学派の名，中観派]； 漢 中人，中道者，中観論者 *Madhy-v.*, *Mvyut.*

mādhyamika-vṛtti 因 [仏教の論書の名，中論疏，*Prasanna-padā* と名づけ，*Candra-kīrti* の作]。

mādhyastha 形 無関心な，公平な。 田 無関心；中庸。

mādhyasthya 田 [madhya-stha から] 無関心，無頓著；公平，中立； 漢 中直 *Sāmkhy-k.*

mādhyāhnika 形 (女 -i) [madhyāhna から] 正午に属する。

mādhva 男 *Madhva* の学徒。

mādhvika 男 蜂蜜採集者。

mādhvi 形 (女) 甘い (因)。 男 園 蜜を愛好する = *Aśvin* 双神 (因)； 女 [酒の一種 (園)]； = *mādhavavalli* (*Gaertnera racemosa*)。

mādhvika 田 [酒の一種]。

māna 1. 男 田 [Man] 意見，観念；意志，目的；自己を高く評価すること，自己をたのむこと；自負，高慢，尊大；尊敬，敬意，尊敬のしるし [通常の意義；一般に 男]；傷つけられた名誉，移り気，しつとに狂った怒り [とくに婦人において]，すねること； 漢 慢，慢心，慢下，僞慢，高慢，我慢，恚慢，高貢，自大；心 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Dharm-s.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Madhy-vibh.*,

Mvyut., *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*；敬，恭，恭敬，尊敬，愛敬 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Suv-pr.*；*sapta* ~ *āḥ* 七慢 [1. ~ *h* 慢，2. *ati* ~ *h* または *adhi* ~ *h* 過慢，3. *mānāti* ~ *h* 慢過慢，4. *asmi* ~ *h* 我慢，5. *abhi* ~ *h* 増上慢，6. *ūna* ~ *h* 卑慢，7. *mithyā* ~ *h* 邪慢] *Vijñ-t.* 28., *Mvyut.*

māna 2. 男 [Mā 1.] 建物，住居(因)；祭壇。 田 測定；物指し；測量用の綱，標準；広さ，大きさ，高さ，長さ [また時について]，重さ；[重量の単位の一つ]；形，外觀(RV.)；相似，類似；証明，証拠。

māna 3. 男 [*Agastya* の父の名] (RV.)。

mānaka 田 度量，重量。

māna-kalaha 男 しつとの怒りから (起る) 争い。

māna-kali 男 お互いに憤ること。 形 尊敬を与える，敬意を表わす。

māna-kṛt 形 他人を尊敬する，他人に敬意を表わす。

māna-kṣati 因 名誉毀損，屈辱，侮蔑。

māna-granthi 男 激怒。

māna-grahaṇa 田 発作的にすねること。

māna-grāhin 形 漢 慢所持 *Śikṣ.*

mānatas 副 尊敬のために。

mānatā 因 証拠たること。

māna-tuṅga 男 ほまれ高い人，[ある著作者の名]。

mānatva 田 尺度たること；罰の一種 (仏教) ([*Palī mānatta*])； 漢 音写 摩那埵 *Prāt-m.*, *Mvyut.*

māna-da 形 尊敬を与える，敬意を表わす。 男 尊敬を与える者 [一般に呼びかけの語として用いられる]。 田 [神秘的武器の名]。

māna-daṇḍa 男 測量用の竿。

māna-darpa 男 漢 僞慢 *Śikṣ.*

māna-darpita 形 漢 僞慢 *Śikṣ.*

māna-dhana 形 名誉に富んだ。

māna-dhmāta 形 高慢のために得意となった。

mānana 田 [まれに， = *mānanā*] 名誉または尊敬を示すこと。

mānanā 因 [同上]； 漢 尊敬，承侍，承事，作画 (?) *Mvyut.*

māna-nigraha 男 漢 捨於僞慢 *Sam-r.*

mānaniya 未受分 尊敬されるべき，(園) の尊敬に値する； 漢 為讚歎，為…供養恭敬 *Bodh-bh.* 男 尊敬すべき人。

māna-para 形 非常に高慢な。

māna-parā 因 [人名]。

māna-parikhaṇḍana 田 名誉の喪失。

māna-puraḥ-saram 副 敬意を表わしつつ。

māna-prāṇa 形 生命のように名誉を重んずる。

māna-bhaṅga 男 名誉の毀損，屈辱，侮蔑。

māna-bhadra 男 大テント (の一種)。

māna-bhāj 形 (一°) から尊敬を受ける。

māna-bhṛt 形 高慢な。

māna-mahat 形 誇りの高い，非常に高慢な。

māna-mātra 田 単なる尊敬。

māna-mānya 形 尊敬されるべき。

māna-mauna 田 ごう慢な沈黙。

mānaya, [Man の 使役] 尊敬する，敬意を表わす。

māna-yajña 男 高慢心をもって始められた祭式。

māna-yaśas 甲 画 ごう慢と栄光.
 mānayāna 現分 敬意を表わす.
 mānayitavya 使役 未受分 [Man] 尊敬されるべき、
 尊敬に値する.
 mānayitr 男 (他人を)尊敬する人.
 māna-yoga 男 覆 測定の適用.
 mānava 形 (因 -i) 人に特有な、人間の; *Manu* に関
 する・属するまたはに由来する. 男 人間, 人; (覆)
 人類; 臣民; 人種 [五または七種を数える]; [黒
Yajur-veda の一学派の名]; 漢 人, 儒童, 力子
Lañk., *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*; 舍特子 [舍持は
Tib. śed の音写] *Mvyut.*; (覆) 群生 *Rāṣṭr.* 甲
 (尺度としての)人間の身長; [苦行の一種]; *Manu*
 の法典.
 mānavat 形 名誉を享受する.
 mānavati 形 因 しのつためのために怒った. 因 すねる
 女.
 mānava-deva 男 人間の中の神, 王.
 mānava-dharma-śāstra 画 *Manu* の法典.
 mānava-pati 男 人間の主, 王.
 mānava-rākṣasa 男 人間の姿をした *Rākṣasa*.
 māna-varjaka 男 覆 [住民の名].
 māna-varjita 形 尊敬を失なった; 辱かしめる.
 māna-wardhana 形 (ある者の)名誉を増進する, 尊敬
 を表示する.
 mānavikā, → cañcā ~.
 māna-vikrayin 形 (自己の)名誉を売るまたは犠牲にす
 る.
 māna-vijaya 男 画 ごう慢と優越.
 mānavī 因 人間の娘, 婦人; *Manu* の娘; [河の名];
 (覆) [ある詩句の名].
 mānaviṣya 形 *Manu* から生じた. 甲 [苦行の一種].
 mānavendra (°va-in°) 男 人間の首長, 王.
 mānavya 男 父系 *Manu* の後裔.
 mānaḥ-śila 形 (因 -i) 鶏冠石または赤砒素からなる.
 mānasa 形 (因 -i) 心に関するまたはから生ずる, 心
 の, 精神的の; 心中でなされた(祈禱等), 意中に抱
 いた, 考られる; *Mānasa* 湖に住するまたはに關
 する; 漢 心, 意 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-*
bh., *Lal-v.*, *Lañk.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*;
 依意根, 心依止 *Abh-vy.* 甲 心的機能, 心, 心臓; [野
 生の鷲鳥がモンスーン初めの繁殖期に行く *Kailasa*
 山上の神聖な湖と巡礼地(現今の *Mānasarovar*) の
 名].
 māna-samyojana 甲 漢 慢結, 我慢結 *Madhy-bh.*,
Madhy-vibh.
 mānasaka 甲 漢 心 *Lal-v.*
 mānasa-cārin 男 (*Mānasa* 湖に往来するもの), 鷲
 鳥.
 mānasa-janman 男 (心中に生じた), 愛の神.
 mānasa-vega 形 思考のように速い. 男 [ある王侯の
 名].
 mānasa-śuc 因 精神的苦悩.
 mānasa-samtāpa 男 精神的煩悶, 心痛.
 māna-sāra 男 甲 高度のごう慢. 男 [*Mālava* の王
 の名].

mānasika 形 心の; 想像上の (*Kār-vy.*). 男 [*Viṣṇu*
 神の称].
 māna-sūtra 甲 測量用の綱.
 mānasotka (°sa-ut°) 形 *Mānasa* 湖に憧れる.
 mānāsottara (°sa-ut°) 男 [*Indra* 神の居住する山の
 名].
 mānasaukas (°sa-ok°) 形 *Mānasa* 湖に住する. 男
 鷲鳥.
 māna-stabdha 形 漢 僞慢者, 高挙(我)慢 *Sikṣ.* 男
 漢 音写 [人名] 摩那答陀 *Av-ś.*
 māna-stambha 男 漢 高慢心 *Bodh-bh.*
 māna-han 形 (圖)の慢心をくじく.
 mānāgni-hotra 甲 高慢心をもって始められた *Agni-*
hotra 祭.
 mānātimāna 男 漢 慢甚, 慢過慢, 過過慢 *Abh-vy.*,
Mvyut., *Vijñ-t.* → māna.
 mānāndha 形 慢心で盲目になった.
 mānāpamāna 甲 画 名誉と不名誉.
 mānāpya (°na-āp°) 甲 漢 意喜, 敬事 *Mvyut.*;
 音写 摩那卑夜 *Mvyut.*
 mānābhiniḥṛita 形 漢 慢所執, 僞慢所持, 僞慢
 所成 *Bodh-bh.*
 mānābhībḥūta 形 漢 我慢所覆 *Aṣṭ-pr.*
 mānārha 形 尊敬に値する.
 mānāvātāraṇa 形 漢 定(彼)僞慢 *Divy.*
 mānāvabhaṅga 男 ごう慢または怒りをくじくこと.
 mānāsa (°na-āsa) 形 自慢を追い払う.
 mānāsakta (°na-ās°) 形 尊大な.
 mānasi 因 [*Kimnara* 女の名] (*Kār-vy.*).
 mānikā 因 [量の単位]; 漢 五升 *Divy.*
 mānita 使役 過受分 → Man. 甲 尊敬のしるし;
 漢 恭敬, 瞻礼供養 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Sikṣ.*
 mānitā 因 想像上(一°)を所有すること; (一°)を
 尊敬すること.
 mānitva 甲 自ら(一°)をもつまたは(一°)である
 と想像すること; 誇り; 尊敬されること.
 mānin 形 (一°)と仮定する, …と見なす; 自ら(一°)
 をもつまたは(一°)であると空想する; (一°)のよう
 に見えるまたはとして通る; (一°)を尊敬する; 考
 える, …という意見である; (*prati*) に対して自負す
 る, 高慢な, 不遜な; 自尊の; 非常に尊敬される;
 漢 有慢, 名声 我慢自矜高 *Bodh-c.*, *Saddh-p.*,
Sūtr.
 mānini 形 (因) 軽蔑する, (愛人に)すねる. 因 (一°)
 の妻.
 mānutantavya 男 [*Manutantu* からの 父系].
 mānuṣa 形 (因 -i) 人間の; 人間的な, 親切的. 男 人
 間, 男; [黄道帯中の三の獣帯宮: 双子宮 (*Gemini*),
 処女宮 (*Virgo*) および天秤宮 (*Libra*) の称]; (覆) 人
 種 [五種を数える]; 漢 人 *Abh-k.*, *Lal-v.*, *Lañk.*
 梵千. → a ~. 甲 人間の習慣(因); 人間の状態,
 人道; 人間の行為または努力.
 mānuṣaka 形 人間の; 漢 人道 *Sāṃkhy-k.*
 mānuṣatā 因 人間たること, 人間の状態 ~ṃ Gam
 人間となる.
 mānuṣatva 甲 人間たること.

mānuṣa-divya 甲 漢訳 人天 Śikṣ.
 mānuṣa-daivika 形 人と神々とに関する.
 mānuṣa-mantra-pada 甲 漢訳 人中明呪 Śikṣ.
 mānuṣa-māmsāda (°sa-āda) 形 人肉を食う.
 mānuṣa-rākṣasa 男 人間の姿をした Rākṣasa.
 mānuṣa-rākṣasi 女 人間の姿をした Rākṣasi.
 mānuṣa-laukika 形 人間界に属する, 人間の.
 mānuṣāda (°sa-āda) 男 人食い.
 mānuṣādatva (°sa-ād°) 甲 人を食うこと.
 mānuṣi-buddha 男 人間的仏陀.
 mānuṣi 女 婦人; 漢訳 人 Śikṣ.
 mānuṣi-BHū, 人間となる.
 mānuṣopeta (°sa-up°) 形 人間の努力と合した.
 mānuṣya 甲 人間の状態または性質, 人間性; 漢訳 人
 Lan̄k. 男 漢訳 人道 Sāmkhy-k. 形 人間の; 漢訳
 人 Mvyut.
 mānuṣyaka 形 人間の (Kār-vy.); 漢訳 人, 人間,
 人中 Bodh-bh., Daś-bh. 甲 人間の状態または性質,
 人間性; 漢訳 人情 Mañj-m. 形 人力の及ぶ限り.
 mānuṣya-gati 女 漢訳 人道, 世所知 Lan̄k.
 mānuṣya-māmsāda (°sa-āda) 形 漢訳 食人肉 Lan̄k.
 mānuṣya-loka 男 漢訳 人世 Mvyut.
 mānuṣya-vigraha 男 漢訳 人身, 将成人者 Mvyut.
 mānotsāha (°na-ut°) 男 自信によって(生じた)エネ
 ルギー.
 mānonnata (°na-un°) 形 誇りをもってもたげられた
 (頭); 漢訳 驕慢, 驕慢者, 高举(我)慢 Śikṣ.
 mānonnati (°na-un°) 女 偉大な名誉または尊敬.
 mānonmāda (°na-un°) 男 慢心におぼれること.
 mānonmukta (°na-un°) 形 名誉を失った.
 mānavarṇika 形 (女 -i) [mantra-varṇaから]
 Veda 讃歌の語の中に含まれた.
 māntrika 男 呪文を誦する者, 呪術者.
 māntharya 甲 遅鈍; 緩漫; 脆弱.
 māndāra 男 (?) [神話上の花の一種] (Kār-vy.).
 māndāraṇa 男 [同上]; 漢訳 微妙音花, 天上微妙音
 花 Aṣṭ-pr.; (音写) 曼陀羅花 Lal-v.; (音写) 曼陀,
 曼陀羅 (華) Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sukh-vy. II., Suv-
 pr.
 māndāraṇa-puṣpa 甲 漢訳 (音写) 曼陀花, 天上曼陀
 羅華 Suv-pr.
 māndāravapuṣpa-varṣa 甲 漢訳 (音写) 雨曼陀花,
 雨天上曼陀羅華 Suv-pr.
 māndārya 男 [人名].
 māndya 甲 遅鈍, 不活発, 懶惰; 無神経; 不健康,
 病氣; 漢訳 昧, 昧劣 Abh-vy.; (ati-) 極少位 Sūtr.
 māndya-vyāja 男 仮病.
 mān-dhāta 男 [=mām-dhātṛ] 漢訳 自乳, 我養, 我
 行 Mvyut., 立応.; (音写) 曼駄多立.
 māndhātṛ 男 [Yuvanāśvaの息子であるある古代国王
 の名]; 漢訳 頂生, 頂生王 Abh-vy., Lan̄k.; (音写)
 曼陀, 曼陀(王), 曼陀多, 曼駄多, 曼駄多(王)
 Abh-vy., Buddh-c., Divy., Lan̄k.
 māndhāla 男 [動物の一種, 恐らくはこうもり].
 mānmatha 形 (女 -i) 愛に関する, 愛によって生じ
 た, 愛で満たされた; 愛の神に属する.

mānya 未受分 尊敬されるべき, 尊敬に値する; 尊敬
 された. 男 父系 Māna の息子.
 mānya-sthāna 甲 尊称.
 māpaka 形 (属) を測るに適した.
 māpana 甲 形づくること, 形成すること, 形どること.
 māpanā 女 測ること (とくに祭場の測量).
 māpaya, [Mā および Mi の 使役].
 māpita 使役 過受分 漢訳 立, 造, 修建 Divy.,
 Mvyut., Rāṣṭr.
 mā-bhi-da 形 安全を与える.
 mām, [aham(私)の 業].
 māmā 男 [私に属する: mama] 親しい友 [呼のみ,
 寓話では鶴が蟹・亀および魚に, またロバが豺に呼び
 かけるのに用いる].
 māmaka 形 (女 -ikā, -i) 私に属する, 私のものでは
 る, 私の; 漢訳 我 Lan̄k.
 māmakin 男 漢訳 音写 [菩薩の名] 摩摩枳 Guhy-s.
 māmaki 女 漢訳 [仏教の女神の名] 我母, 自己母
 Mvyut.
 māmakina 形 私の, 私のものである.
 māmakiya 形 =māmaka.
 māmateya 男 [mamatā から] [Dirghatamas の
 母系].
 māmaha, [Mahの 強意 幹].
 māmukhi 男 [仏教のある神の名].
 māya 1. 形 幻像を創造する (Viṣṇu神).
 māya 2. [韻律 =māyā].
 māya-kāra, 男 [=māyā-kāra] 漢訳 幻師 Śikṣ.
 māya-kāra 男 [=māyā-kāra]; 漢訳 幻師 Daś-bh.
 māya-bhūta 形 [=māyā-bhūta]; 漢訳 如幻化 Rāṣṭr.
 māyavat 形 幻術の [韻律, =māyavat].
 māyā 女 術, 不可思議の力 (因); 策略, 計略, 狡計;
 詭計, 詐欺; 手品, 妖術; 幻像, 幻想; 幻影 [Ve-
 dānta では, 世界がブラフマン(宇宙精神)とは別箇
 に真に存在するものであるかのように思わせる力];
 一° (の形をとった)幻像; °一 幻像・幻影または虚妄
 の; 仮装の; [Durgā 神の称]; 詐欺 [Anṛta (虚偽)
 と Adharma (非法)との娘として擬人化された];
 漢訳 幻, 幻化, 幻事, 幻法, 幻目 Aṣṭ-pr., Bodh-bh.,
 Buddh-c., Cat-ś., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lan̄k.,
 Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Rāṣṭr.,
 Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr., Suvik-pr.,
 Vajr-pr.; 誑, 欺誑, 誑諂, 諂, 奸, 媚惑 Abh-k.
 Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut.
 Rāṣṭr., Śikṣ., Suvik-pr., Vijñ-t.; (音写) [仏の母の
 名] 摩耶 Buddh-c., Divy., Lal-v.: stri ~ 婦女媚
 惑 Lal-v. 320.; 十喻 [1. māyā 幻術, 2. maricit
 陽焰, 3. udakacandraḥ 水中月, 4. svapnaḥ 夢,
 5. pratiśrutkā 応声, 6. pratibhāsaḥ 光影 7. prati
 bimbam 像, 8. nirmāṇam (?), 9. upamaḥ 譬喩,
 10. dharmādhimuktaḥ (?)] Mvyut.
 māyā-kapota 男 幻影の鳩.
 māyākapota-vapus 形 幻の鳩の体をもつ.
 māyā-kāra 男 奇術師, 手品師; 漢訳 幻師, 巧幻師
 工幻師, 幻者, 幻術, 幻術者 Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy.

Lank., *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*

māyākāra-dṛṣṭānta 男 幻師喩, 幻師譬
Madhy-bh., *Madhy-vibh.*

māyādivat (°yā-ād°) 副 如幻等, 譬如幻化
Madhy-bh.

māyopamatā (°yā-up°) 因 幻等喩, 幻化譬
Madhy-bh.

māyopamā (°yā-up°) 因 [同上].

māyā-kṛta 中 幻事, 幻術, 幻夢形質, 神力變現
Bodh-bh., *Lal-v.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*,
Mvyut., *Sūtr.*: ~m iva bimbam 像如神力變現,
像如同神力變現 *Mvyut.*

māyā-gata 形 如幻, 如幻起, 幻住 *Gand-vy.*

māyā-gocara-sambhava 形 幻境之所起 *Lank.*

māyā-cāra 形 偽って行動する.

māyā-citta 中 心幻 *Lank.*

māyā-cchadma-para 形 欺き偽るのに熱心な.

māyā-jāti-kṛta 形 幻生作 *Lank.*

māyā-devi 因 [*Buddha* の母の名]; 大幻, 妙后, 大妙幻后 *Mvyut.*; (音写) 摩耶夫人 *Śiks.*; 摩訶摩耶 [摩訶は mahā の音写] *Mvyut.*; (音写) 摩耶提毘 *Mvyut.*

māyādevi-suta 男 [*Śākya-muni* の母系].

māyā-dhara 形 奇術または魔法に精通する. 男 [ある *Asura* の王の名].

māyā-dharma 男 幻法, 幻等法 *Lank.*

māyādhika (°yā-adh°) 形 魔術に満ちた.

māyā-nirmita-sadrēa 形 如幻如化 *Aṣṭ-pr.*

māyā-paṭu 形 魔法に熟練した.

māyā-pur 因 [町の名].

māyā-puri 因 [同上].

māyā-puruṣa 男 幻士, 幻人, 幻化人, 幻化者, 幻所化人 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Sapt-pr.*

māyā-prayoga 男 欺瞞性; 変幻自在.

māyā-baṭu 男 [*Śabara* 族の王侯の名].

māyā-balavat 形 特殊な呪力をもつまたはそれを他人に譲る(者).

māyābhyudayana (°yā-abh°) 男 [ある *Kāyastha* 階級の名].

māyāmaya 形 (因 -i) 幻影の, 虚妄の; [ある *Rākṣasa* の名].

māyā-mṛga 男 幻影のかもしか, 幻の鹿.

māyā-moha 男 (幻惑) [ある *Jina* または *Buddha* の称].

māyā-yantra 中 妖術; °一 魔法の.

māyā-yoga 男 幻像の応用または使用, 魔術の使用.

māyā-yodhin 形 欺いてまたは詭計をもって戦う.

māyā-rāja 男 幻王 *Sūtr.*

māyā-vacana 中 偽善的な言葉.

māyāvat 形 幻術を行なう (RV.); 偽りの, 狡猾な; 魔術を伴なう.

māyāvati 因 [擬人化された魔術の一種]; [*Pradyumna* またはある *Vidyādhara* の妻の名]; [ある王女の名].

māyā-vāda 男 幻影説 [仏教および *Vedānta* 派に対して用いられる語].

māyā-vid 形 魔術に精通する.

māyā-vidhū-jña 形 [同上] (*Divy.*).

māyāvin 形 [同上]; 詐欺的の, 悪たくみの多い, 偽りの; 幻影の; 誑, 欺誑, 行誑惑, 矯誑, 諛曲, 大幻, 幻偽, 幻惑心, 詭詐, (詭詐者) *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Suvik-pr.* → a ~. 男 呪術師, 魔術師, 奇術師; [Maya の息子の名].

māyā-sāṭhya 中 誑誑 *Bodh-bh.*

māyā-śīla 形 偽りの, 詐欺の.

māyā-suta 男 [*Śākya-muni* の母系].

māyā-svapna-svabhāvaka 形 自性如幻夢 *Saddh-p.*

māyā-svapnopama (°na-up°) 形 如幻夢 *Lank.*

māyā-svapnopamatā (°na-up°) 因 如幻夢, 如幻如夢 *Bodh-bh.*

māyā-hastin 男 幻象 *Lank.*, *Sūtr.*

māyika 形 幻影の.

māyitā 因 欺くこと.

māyin 形 技巧に富む, 妖術に熟練した; 偽心に満ちた, 計略の多い, 狡猾な, 惑わす; 妄想に捉われた. 男 魔術師, 妖術師. 中 魔術.

māyu 男 (獣の) 鳴き声.

māyūra 形 (因 -i) 孔雀に属するまたはに由来する; 孔雀の羽で作った; 孔雀にとって親愛な; 孔雀に引かれる(車).

māyūraka 男 孔雀捕獲者.

māyūra-vratin 男 [教派の名] 孔雀行者, 具孔雀勇力 *Mvyut.*

māyūrika 男 =māyūraka.

māyopajivin (°yā-up°) 形 虚偽によって生活する.

māyopama (°yā-up°) 形 幻, 如幻, 如幻化, 如知幻 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*, *Lank.*, *Suv-pr.*, *Sūtr.*

māyopamatā (°yā-up°) 因 幻等喩, 幻化譬 *Madhy-vibh.*

māyopamatva (°yā-up°) 中 如幻 *Lank.*

māyopama-samādhi 男 如幻定; (音写) 如幻三昧, 如幻諸三昧 *Lank.*

māyo-bhava 中 安寧, 歡樂.

māyo-bhavya 中 [同上].

mār 形 (一°) を殺す.

māra 形 殺す, 破壊する. 男 死; 疫病 (とくに ペスト); 殺害; 障害; 愛, 愛の神; 誘惑者, 悪魔(仏教); 障; 悪者, 煞者 *Aṣṭ-pr.*, 立応.; (音写) 悪魔, 邪魔, 魔怨, 魔王 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*, 立応.; (音写) 魔, 魔羅, 磨羅 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śiks.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*, 立応.: ~h pāpiyān 魔, 魔事, 悪魔 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*: catvāro ~āh 四魔 [1. skandha ~h 蘊魔, 2. kleśa ~h 煩惱魔, 3. devaputra ~h 天魔, 4. mṛtyu ~h 死魔] *Dharm-s.*

māraka 形 (因 -ikā) (一°) を殺す. 男 殺害者; 疫病, ペスト [また擬人化して用いる].

mārakata 形 (因 -i) エメラルドのような. 男 エメラルド.

māra-katātva 甲 エメラルドの色。
 māra-kanyā 女 漢訳 (音写) 魔女 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p.*
 māra-karman 甲 漢訳 (音写) 魔業, 魔事, 魔事業 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lan̄k., Sūtr.*
 māra-karma-samatikrānta 形 漢訳 (音写) 超諸魔業, 出諸魔業 *Mvyut.*
 māra-kāyika 形 悪魔の従者に属する。男 漢訳 (音写) 魔衆, 魔民, 魔眷属, 魔官属, 魔徒衆, 魔(陰悪)徒党 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Śikṣ.*
 māra-gocara-cārin 形 漢訳 樂行魔境 *Suvik-pr.*
 māra-camū 女 漢訳 (音写) 魔, 魔軍 *Mvyut.*
 māra-cittā 女 [仏教の女神の名]。
 māra-jit 形 漢訳 (音写) [仏陀の称] 降魔者, 降魔軍, 伏調魔 *Mvyut.*
 māraṇa (使役) 甲 殺害, 殺戮, 虐殺; 焔焼; (敵を) 破滅させるための(魔術的)儀式; 漢訳 殺, 令死 *Abh-vy., Mvyut., Śikṣ. ~m pra-Āp* 死に臨む。
 māraṇāntika 形 漢訳 死辺 *Śikṣ.*
 māratva 甲 漢訳 (音写) 魔, 魔身 *Bodh-bh.*
 (ārya-) māra-damana-sūtra 甲 [経の名, 聖調魔経] *Madhy-v.*
 māra-dharṣaṇa 甲 漢訳 (音写) 調魔 *Mvyut.*
 māra-dhvaṃsana 甲 漢訳 (音写) 降魔 *Lal-v.*
 māra-nirghātana 甲 漢訳 (音写) 破魔 *Saddh-p.*
 māra-pakṣa 男 漢訳 (音写) 魔品 *Aṣṭ-pr.*
 māra-patha 男 漢訳 (音写) 魔境 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*
 māra-paryutthita 形 漢訳 (音写) 為魔所著者 *Saddh-p. 474.*
 māra-parṣad 女 漢訳 (音写) 魔民, 諸魔宮従 *Saddh-p.*
 māra-pāpiyas 男 悪魔 (*Lal-v.*)
 māra-pāśa 男 漢訳 (音写) 魔羂, 魔網 *Lal-v., Suv-ik-pr.*
 māra-putra 男 悪魔の息子すなわち悪魔 (*Lal-v.*); 漢訳 (音写) 魔子 *Saddh-p.*
 māra-pratyarthika 形 漢訳 (音写) 破魔, 魔怨 *Bodh-bh., Sūtr.*
 māra-pramardana 形 漢訳 (音写) 降魔 *Śikṣ.*
 māra-bandhana 甲 漢訳 (音写) 魔縛, 為魔所縛 *Aṣṭ-pr.*
 māra-bala 甲 漢訳 (音写) 魔衆, 魔王軍 *Diry.*
 māra-bija 甲 呪文(の一種)。
 māra-bhañja 男 漢訳 (音写) 降魔 *Sūtr.*
 māra-bhañjaka 男 漢訳 (音写) 破魔 *Sūtr.*
 māra-bhavana 甲 漢訳 (音写) 魔宮, 天魔王宮, 魔宮殿, 諸魔宮殿 *Bodh-bh., Śikṣ., Sūtr.*
 māra-maṇḍala 甲 漢訳 (音写) 魔軍, 魔境界, 諸魔, 衆魔 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy.*
 māra-mohita 形 愛の神に夢中にさせられた。
 māra-ripu 男 [(Māra の敵), Śiva 神の称 (俗)].
 māra-va 形 (女 -i) 砂漠 (maru) をなしたまたはの中にある。
 māravat 形 愛に満たされた。
 māra-vidhvaṃsana 形 漢訳 魔縛 *Suvik-pr.*
 māra-sainya 甲 漢訳 (音写) 魔軍, 魔軍衆, 諸魔, 諸

魔軍衆 *Gaṇḍ-vy., Suv-pr.*
 mārānka 形 愛欲のしるしを示す。
 mārānkuśa 男 漢訳 (音写) 魔鉤 *Śikṣ.*
 mārātmaka (°ra-āt°) 形 (殺害を性とする), 殺人的な。
 mārādhiṣṭhita 形 漢訳 (音写) 魔所執, 魔所執持, 魔所魅著, 悪魔所著, 魔所使, 為魔所使, 魔力所持, 魔力所加, 魔力所加持 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*
 mārābhibhu 形 漢訳 (音写) 伏魔, 降魔 *Mvyut.*
 mārābhirāma 形 殺戮を喜ぶ, 殺人的な。
 mārāri 男 [(Māra の敵), Śiva 神の称]。
 mārīkā 女 疫病, ペスト。
 mārīca 形 こしょうで作った。甲 [cūrṇa とともに] 粉末こしょう。
 mārīta (使役) 過受分 殺された, 破壊された; 漢訳 殺 *Abh-vy.*
 mārīn 形 一° 死にかけている; 殺す。男 (一) の殺害者。
 mārīṣa 男 [俗 (例えば *Pali mārīsa*) = mārīśa から梵語に還元されたもの] 価値のある・貴いまたは卓絶した人 [ほとんど常に呼びかけの辞として 甲 に用いられる = 私の貴い友よ]。
 mārīśā 女 [*Dakṣa* の母の名]; [*Śūra* の妻の名]; [河の名]。
 mārī 女 殺害, 屠殺; 疫病, ペスト; [また擬人化されて] 死の女神。
 mārīca 形 *Marīci* に関する。男 父系 *Marīci* の息子; [ある *Rākṣasa* の名]。甲 こしょうの灌木林。
 mārīci 女 [*Parjanya* の妻の名]; 漢訳 (音写) [真言の名] 摩利支 *Śikṣ.*
 mārīcyā 男 種 [*Agniśvāta* の父系]。
 mārīya 形 愛の神に属する。
 mārūka 形 死滅する。
 mārūta 形 (女 -i) *Marut* 神群すなわち暴風神に関するまたは属する; 風に関する, 風に由来する。男 風, 空気; 風の神; 生氣; 呼吸; [ある *Marut* の名]; (種) *Marut* 神群; 漢訳 風, 大風, 疾風, 迅疾風, 猛疾風 *Bodh-c., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut., Śikṣ., Suv-pr.*; 紅風 *Mvyut.*
 mārūtamaya 形 風からなるまたはの性質をもつ。
 mārūta-sadṛśa 形 漢訳 猶如(好)風 *Gaṇḍ-vy.*
 mārūta-samīrita-nīrnādīta 形 漢訳 風動成音, (微) 風吹動発(和雅)音 *Gaṇḍ-vy.*
 mārūta-sūnu 男 父系 風の息子 (*Hanumat*)。
 mārūtā 女 [人名]。
 mārūtātma-ja (°ta-āt°) 男 風の息子 [火の称]。
 mārūtāndolīta 形 風にゆれる。
 mārūtāyana 甲 (風の通路), 円窓。
 mārūtāsana 形 空気のみを食べて生存する。
 mārūti 男 父系 [marut から] [*Hanumat* および *Bhīma* の称]。
 mārūti 女 [diś とともに] 西北。
 mārūtodvellīta 形 = mārūtāndolīta。
 māreśvara (°ra-īś°) 男 漢訳 (音写) 魔王 *Lal-v.*
 mārkāṭa 形 (女 -i) 猿に属する, 猿のような。
 mārkāṇḍeya 男 父系 *Mrkāṇḍa* の息子 [ある古聖賢

の名]; (覆) *Mārkaṇḍeya* の子孫. 形 *Mārkaṇḍeya* によって作られた.

mārkaṇḍeya-purāṇa 甲 [ある *Purāṇa* の題名].

mārg 名動 [mārga から] 他 固 **mārgati(-te)**; 他

mārgayati [まれに]; 探す, 探索する; くまなく探し

求める; 得ようと努める; 買おうと努める; (従, 時

として 業) に (業) を求めるまたは乞う; (娘を)嫁と

して求める; 求, 尋求, 募覓, 質, 将, 伴

Abh-vy., *Divy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*: *dvitiyam bh-*

ikṣu mārgeta 将一比丘 *Saddh-p.* 280. 過受分

mārgita 求められた, 探された等.

anu- anumārgati くまなく探し求める.

pari- 探す; くまなく探し求める; 得ようと努める;

求める; 求, 訪求, 思求, 志求, 求覓, 覩 *Das-*

bh., *Lal-v.* 現分 **parimārgam-āṇa** 求 *Saddh-*

p.

prati- 要求する.

mārga 形 (因 -i) [*mrga* から] 獵獣または鹿に属する

(肉等). 男 (野獣の通った跡), 小道, 道, 道路 [また

譬喩 星 および風の通路]; (於, 一°) に至る道,

(一°) を通ずる道; 正道, 正しい路, 正当の進路;

旅; (体内の) 通路または道筋; (屬, 一°) する手段・

方策または方法; 仕方, 様式, 方式, 方法; 正しい

用法, 古い習慣; (法規の) 標題, 件名; 書式, 文

体, 語法; 無言劇, 雅舞; 雅曲; *Mārga-śirṣa* 月

(十一月一十二月); [*Viṣṇu* 神の称]; 道, 聖

道, 正道, 勝道, 進道, 所行正道; 道径, 道路,

路, 正路, 径路; 導 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*,

Av-ś., *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Dharm-s.*, *Gand-vy.*,

Lal-v., *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Madhy-*

v., *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Śiks.*, *Sūtr.*, 梵千., 梵雜.; 道諦,

道聖諦 *Mvyut.*; 地 *Mvyut.*; 求 梵雜.; ~m *bh-*

āvitvā 修行於道 *Saddh-p.* 92.; *āryāṣṭāṅgo* ~h

八聖道 *Divy.* 208; *āryāṣṭāṅga* ~h 八支聖道 [1.

samyag-drṣṭiḥ 正見, 2. *samyak-saṃkalpaḥ* 正思

惟, 3. *samyag-vāk* 正語, 4. *samyak-karmāntaḥ*

正業, 5. *samyag-ājivaḥ* 正命, 6. *samyag-vyāy-*

āmaḥ 正精進, 7. *samyak-smṛtiḥ* 正念, 8. *sam-*

yak-samādhiḥ 正定] *Mvyut.* → *aṣṭa-vartman.* 甲

野獣の肉, 獵獣の肉. ~m *Dā* また *Yam* (屬) に至

る道を開く, 通過を許す. ~eṇa 圓 (一°) (例 戸口)

を経て=を通過して・横切ってまたはに沿って; (一°)

に依って. ~eṇa *Yā* (一°) …の道を行く=と同一の

運命に遭遇する. ~aiḥ 圓 覆 (一°) を通じて.

~āya 圓 (屬) のために道を開くべく. ~e 因 道

に: ~e *pra-Cal* (自己の) 道に出発する; *nija* ~e

Gam 自己の道を行く.

mārgaka 形 覆 一° 求索者 *Saddh-p.*

mārga-cchinna 形 覆 以路乏者, 涉路而損 *Mvyut.*

mārga-jina 形 覆 勝道, 道生 (?) *Abh-vy.* 387.,

Mvyut.

mārga-jivin 形 覆 命道, 道養者, 以道養者 *Mvy-*

ut.

mārga-jñā 形 覆 了知道, 了諸道, 知道者 *Mvyut.*

mārga-jñāna 甲 覆 道智, 知道 *Mvyut.*

mārgaṇa 形 探す; 要求する. 男 乞食, 歎願者; 箭;

探索; 穿鑿; 道 *Daś-bh.*

mārgaṇatā 因 矢の性質. ~m *Gam* 矢となる.

mārga-bhāvana 形 覆 勤(修)道, (修)道得成 *Ma-*

dhy-bh.

mārgaṇa-priyā 因 [*Pradhā* の娘の名].

mārga-toraṇa 甲 道の上に(建てられた)凱旋門.

mārga-traya 男 覆 三道 *Abh-vy.*

mārgatva 甲 覆 道 *Abh-vy.*

mārga-dakṣaka 男 道路工事に通曉した人.

mārga-darsaka 男 道案内者, 案内人.

mārga-darsayitri 因 覆 能照(一切世出世)道 *Aṣṭ-*

pr.

mārga-dūṣin 形 覆 汙道, 能窮道 *Mvyut.*

mārga-deśika 形 覆 引導, 示道, 示道者, 指道,

指道路, 演道 *Mvyut.*

mārga-draṅga 男 路上にある町.

mārga-draṅgā 因 [同上].

mārga-druma 男 路傍の樹木.

mārga-niruttara 形 覆 無上道 *Mañj-m.*

mārga-pa 男 道路管理人(役人).

mārga-pati 男 [同上].

mārga-patha 男 進路.

mārga-pariṇāyaka 男 = *mārga-deśika*. 形 覆 導於

道者, 抜一切道 *Mvyut.*

mārga-pranaṣṭa 形 [Naś] 道から離れた (*Jat-m.*);

道を失なった.

mārga-pranaṣṭaka 形 覆 失道 *Sūtr.*

mārga-phala 甲 覆 道果 *Aṣṭ-pr.*

mārga-bandhana 甲 道路の障害.

mārga-rakṣaka 男 道路の保護者.

mārga-rodhin 形 道路をふさぐ.

mārgava 男 [混血種姓(階級)の一種, *Niṣāda* の男

と *Ayogava* の女との子孫].

mārga-vartmasu 副 どこにも.

mārga-vaśāgata (°śa-āg°) 形 路傍に横たわる.

mārga-vaśānuga 形 [同上].

mārga-vaśāyāta (°śa-āy°) 形 [同上].

mārga-vāśas 形 鹿の皮を着た.

mārga-vid 形 覆 悟道 *Mvyut.*

mārga-vinodana 甲 旅行中の楽しみ.

mārgaveya 男 [ある *Rāma* の 父系 または 母系].

mārga-śākhin 男 路傍の樹木.

mārga-śiras 男 [曆月の名(十一月一十二月)].

mārga-śira 男 覆 九月 梵雜.

mārga-śirṣa 男 [± *māsa*] [曆月の名, その月の満月

は *Mrgaśiras* 星座にあり, 古くは一年の第十月, 後

世は第一月を指す]; 覆 孟冬 *Mvyut*; 音写 末伽

始羅(月) *Mvyut.*

mārga-śirṣā 因 = *mārga-śirṣi*.

mārga-śirṣi 因 [± *paurṇa-māsi*] 満月が *Mrgaśiras*

星座にある日.

mārga-śodhaka 男 道路清掃人.

mārga-śobhā 因 道を浄めること (*Divy.*).

mārga-satya 甲 覆 道諦, 長(聖)諦 *Abh-k.*,

Madhy-bh., *Madhy-vibh.*

mārga-saṃdarsana 男 [Samādhi の一種] (*Kar-vy.*).

mārga-samaya 男 行路時 *Prāt-m.*
 mārga-stha 形 正しい道に留まった [また 譬喩].
 mārga-harmya 男 甲 公道にある宮殿.
 mārgākhyāyin (°ga-ākh°) 男 案内人; 講道
Mvyut.
 mārgāgata (°ga-āg°) 形 旅から来た. 男 旅行者,
 放浪者.
 mārgāṅga 甲 道支, 道分 *Madhy-bh., Madhy-
 vibh., Sūtr.:* ~sya aṅgaṃ 道支, 道分 *Madhy-bh-
 mārgāyāta (°ga-āy°) 男 =mārgāgata (男).*
 mārgālanbanatva (°ga-āl°) 甲 道所縁境 *Ma-
 dhy-bh.*
 mārgāli 因 行路, 進路.
 mārgāvatāra 男 趣正道, 趣向道 *Aṣṭ-pr.*
 mārgāvatāraṇa 形 (因 -i) 令入正路 *Aṣṭ-pr.*
 mārgāvalokin 形 道を見つめる, 待望する.
 mārgita 過受分 → mārg. 求 *Śikṣ.*
 mārgitavya 未受分 探されるべき, くまなく探され
 るべき, 求められるべき.
 mārgin 男 道案内者, 道の番人.
 mārgesa (°ga-īsa) 男 道の管理人.
 mārgopadīś (°ga-up°) 男 道の指示者, 案内人.
 mārjana 形 (因 -i) ぬぐう, 清掃する. 男 洗濯者,
 甲 ぬぐうこと, ぬぐい去ること, 清潔にすること;
 掃除すること; 太鼓の皮を(灰または泥で)擦ること.
 mārjanā 因 [同上 (甲)]; 太鼓の音.
 mārjani 因 浄化; 刷毛または箒.
 mārjara 男 猫 *Mvyut.*
 mārjāra 男 (自らぬぐい浄める (Mrj) 動物), 猫 [また
 -i]; [いたちの一種], 野性の猫; 猫, 猫, 猫狸
Abh-vy., Bodh-bh., Lan̄k., Mañj-m., Śikṣ.
 mārjāraka 男 猫.
 mārjāra-liṅgin 形 猫の特性をもつ.
 mārjāra-vaktra 形 猫のような容貌の.
 mārjāri 男 [*Sahadeva* の息子の名].
 mārjāri 因 雌猫. → mārjāra.
 mārjāliya 形 斎戒沐浴を好む (*Śiva* 神). 男 *Mahā-
 Vedi* の南辺に位置する) 火炉 [上屋をもち, そこで
 祭式の器具を洗う].
 mārjita (使役) 過受分 浄められた箒. → Mrj.
 mārḍika 甲 [Mrḍ] 憐憫, 慈悲.
 mārtaṇḍa 男 [因 の mārtaṇḍa の後世の形] 太陽,
 太陽神; 太陽神の像.
 mārtaṇḍa-maṇḍala 甲 日輪.
 mārtaṇḍiya 形 太陽の.
 mārtaṇḍa 男 [死卵(mrtaṇḍa) から出た] *Aditi* の子,
 第八番目の *Āditya*, 太陽 (RV.); 太陽神の像.
 mārṭika 形 (因 -i) 粘土製の, 土製の. 甲 土製の容
 器.
 mārṭtikāvata 男 (?) [国の名]; 男 (因) [住民の名];
Mārṭtikāvata の王侯. 甲 (?) 町の名.
 mārtya 甲 [mārtya から] (人間の) 肉体的部分; 死の
 免れがたいこと.
 mārdaṅgika 男 [mr̄daṅgaから] 鼓手.
 mārḍava 甲 [mr̄du から] 柔らかさ; 柔順; 柔和, 温
 順; 温和, (因) に対する温和; 柔軟, 柔順,

調柔, 柔和, 和 *Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v., Mv-
 yut., Saddh-p., Sam-r., Sukh-vy. I.*
 mārḍavi-Kṛ, 柔らかくする, 寛大にする.
 mārḍita 過受分 摧, 去除 *Aṣṭ-pr.*
 mārḍita-kaṇṭaka 形 摧諸棘刺, 去除棘刺 *Aṣṭ-
 pr.*
 mārḍvika 形 ぶどうから製造した. 甲 ぶどう酒.
 mārṁika 形 (因, 一°) に通曉する.
 mārsa 男 立派な人 [ただ呼びかけの辞として 因 のみ
 =mārīṣa]; 仁者, 賢者, 友, 汝 *Divy., Lal-v.,
 Lan̄k., Mvyut.*; 大仙 [*Tib. grogs po*] *Aṣṭ-pr.*;
 (因) 諸子等 *Saddh-p.:* bho ~āḥ 汝等 *Lan̄k.*;
 vatā (batā) ~āḥ 嗚乎諸友, 嗚呼諸友 *Mvyut.*
 mārsaṣṭavya 未受分 [Mrj] 清浄にされるべき, 掃除さ
 れるべき.
 māla 男 [地方の名]; (因) [住民の名]. 甲 野原.
 māla-karmānta 男 垢業 *Bodh-bh.*
 māla-guṇa-parikṣipta 形 男之定期, 纏髪条
Mvyut.
 mālatikā 因 [人名].
 mālati [まれに・i] (夕方近く香ばしい白い花を開く)じ
 やすみん (の一種) [学名 *Jasminum grandiflor-
 um*]; [*Bhavabhūti* 作の戯曲 *Mālati-mādhava* の
 女主人公の名]; [河の名].
 mālati-mādhava 甲 *Mālati* と *Mādhava* [女主人公
 と主人公の名で *Bhavabhūti* 作の戯曲の題名].
 mālati-mālā 因 *Mālati* の花環.
 māla-bhārin 形 (一°) の花環を着けた.
 mālaya 1. 名動 他 mālayati 花環で飾る.
 mālaya 2. 形 *Malaya* 山脈から来る. 甲 隊商の旅
 宿.
 mālava 男 [中インドの国の名, 現今の *Mālva*];
 (因) [住民の名]; [町の名]; *Mālava* の王侯; [人
 名]. 形 (因 -i) *Mālava* の住民に属するまたはに関
 する.
 mālava-gauḍa 男 [*Rāga* の一種].
 mālava-deśa 男 *Mālava* 国.
 mālava-nṛpati 男 *Mālava* 国王.
 mālava-viśaya 男 *Mālava* の領土.
 mālava-stri 因 *Mālaya* の婦女.
 mālavādhiśa 男 *Mālava* 国王.
 mālavikā 因 [*Kalidāsa* 作の戯曲 *Mālavikāgnimitra*
 の女主人公の名].
 mālavikāgni-mitra (°kā-ag°) 甲 *Mālavikā* と *Agni-
 mitra* [女主人公と主人公の名で *Kalidāsa* 作の戯
 曲の題名].
 mālavī 因 [*Aśvapati* の妻の名]; *Mālava* の王女.
 mālavīya 形 *Mālava* から来る.
 mālavodbhava (°va-ud°) 形 (因 -ā) *Mālava* に生ま
 れた.
 māla 因 花環, 花冠; 数珠[まれに]; 首飾り; 線列,
 線条, 連続; *nāmnām* ~ 語彙, 辞典(語根を除く)
 髪, 花髪, 華髪; 纏絡 *Divy., Kāśy., 梵千.,
 梵雑., 玄奘.*; 傅飭 *Kāśy. 189*; 音写 摩羅 玄志.
 māla-kāra 男 花環の製作者, 庭師 [混血種姓 (階級
 の一)]; 結髪師, 穿花髪 *Divy., Mvyut.*

mālā-dāman 田 花環, 花鬘.
 mālā-dipaka 田 修辭 連鎖状 dipaka, おのおの先行文に依存する一連の文章よりなる修辭法.
 mālā-dhara 形 花環を着けた. 男 [人名].
 mālā-dhāra 男 天 [天の名, また 圃] 持鬘, 雜地 *Abh-k., Divy., Mvyut.*
 mālā-dhāri 田 [Rākṣasi の名] 持鬘 *Saddh-p.*
 mālāmaya 形 (一) の連続または層からなる.
 mālā-rūpa 形 列を作った, 列状をした.
 mālāvat 形 花環を着けた. 圃 如冠華 *Abh-vy.*
 māli 形 一, =mālin.
 mālika 男 花環を造る人; 草花栽培者, 庭師.
 mālikā 田 花環; 首飾り; 列, 連続; 音写 [花の名] 摩利迦 (花) *Lal-v.*
 mālika 名動 過受分 (一) でからまれたまたは圍繞された.
 mālin 形 [時として-māli] (圓) を巻きつけた; [通常 一] (一) の花環を持つ, …の首飾りを着けた, …で取り巻かれた; 圃 周匝 *Saddh-p.* 圃 花環の製作者, 花卉栽培者, 庭師; [Rākṣasa *Su keśa* の息子の名].
 mālini 田 草花栽培者または庭師の妻; [*Durgā* の称]; [*Durgā* の祭典に *Durgā* に扮する七歳の少女]; [*Tantra* の題名]; [ある *Apsaras* の名]; [*Skanda* の七神母の一人の名]; [*Durgā* のある従者の名]; [ある *Rākṣasi* の名]; [*Draupadi* の称]; [*Ruci* の妻で *Manu Raucya* の母, その他の人名]; [町の名]; [諸河の名]; [韻律の一種(4×15 音節)].
 mālinya 田 [malina から] 不潔, 不浄; 暗黒; 当惑したまたは羞恥の顔色.
 māliya 形 花環として予定されたまたはに適した; 圃 鬘 *Mvyut.*
 mālu 男 [混血種姓(階級)の一種]. 田 [蔓草の一種]; 圃 藤蔓 *Śikṣ.*; 音写 摩婁 *Lal-v.*
 mālu 田 音写 [数の名] 麻盧丹, 麻盧独, 謎嚕陀, 摩覩羅 (?) *Mvyut.*
 mālu-dhāna 男 [動物の一種].
 mālu-dhāni 田 [蔓草の一種].
 mālu-latā 田 [同上]; 圃 藤蔓 *Śikṣ.*
 mālūra 男 [植物の一種].
 mālopamā (°lā-up°) 田 複合の直喩 [この場合一の事物は唯一のものと比較されないで数種のものと比較される] または 連鎖状の直喩 [圃 太陽における熱のように, 昼間における太陽のように, 空中における日のようにそのように勇氣は汝に光彩を与えた].
 mālya 田 花環; 圃 鬘, 花鬘, 華鬘; 瓔珞; 妙華, 雜華; 飾 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ.*
 mālyaguṇāya 名動 圃 mālyaguṇāyate 花環をつらぬく紐となる.
 mālya-jivika 男 花環売り.
 mālya-dāman 田 花環, 花鬘.
 mālya-pana 男 花環市.
 mālyavat 形 花環を巻きつけた, 花環で飾った. 男 [ある *Rākṣasa* の名]; [*Śiva* 神の従者の名]; [山の名].

mālyavati 田 [河の名].
 mālya-vṛtti 男 花環売り.
 mālyāpana (°ya-āp°) 男 花環を売る市場; 圃 花鬘舗 *Mvyut.*
 mālla 男 [混血種姓(階級)の一種].
 mālvya 田 無分別, 愚昧.
 māvat 形 私のような (RV.).
 mā-vilambam 圃 遲滞なく, 即刻, 即時に [命令の場合].
 mā-vilambitam (過受分) 田 圃 [同上].
 māvellaka 男 圃 [住民の名].
 māṣa 男 豆 [圃 植物としての豆; 圃 種子としての豆]; [重量(また金の価)の単位=十六分の一 *Suvarṇa* =五 *Kṛṣṇala*]; 圃 [akṛṣṭāḥ とともに] 野生の豆; [聖仙の一族の名]; 圃 豆, 小豆, 烏豆, 荳類 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Lan̄k., Mvyut., 梵雜.* 音写 摩沙 *Lan̄k.*
 māṣaka 男 小さい豆. 男 田 [重量(また金の価)の単位]; 圃 悪(?) 錢 *Divy.*; 音写 摩沙, 磨灑, 麻沙迦, 磨沙迦 (価八十貝, 価値百十海巴) *Lan̄k., Mvyut.:* pañca ~ ādi 五磨沙等 *Mvyut.*
 māṣa-taila 田 豆油.
 māṣa-piṣṭa 田 豆粉.
 māṣa-puṣpa 豆の花.
 māṣa-peṣam 圃 [Piṣ とともに] (粟) を豆のように砕く.
 māṣa-mantha 男 豆粉を混ぜた飲料.
 māṣamaya 形 豆からなる.
 māṣa-rāsi 男 花の堆積.
 māṣiṇa 田 豆畑.
 mās 1. 田 =māmsa, 肉 (RV.).
 mās 2. 男 [時を計るもの:Mā] 月 (太陰) [圃 圃 mādbhiḥ (RV.); 月 (曆月); 圃 月 *Abh-vy.*
 māsa 男 月 (曆月); 圃 月 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut., Prāt-m., Saddh-p., Śikṣ., Vin., 梵千.:* pāścima ~ 末月, 末後月 *Vin. 5;* [インド曆の十二カ月はヨーロッパ曆と正確には一致しない. *Caitra, Vaiśākha:* 三月—五月; *Jyaiṣṭha, Āṣāḍha:* 五月—七月; *Śrāvaṇa, Bhādra:* 七月—九月; *Āśvina, Kārttika:* 九月—十一月; *Mārgaśīrṣa, Pauṣa:* 十一月—一月; *Māgha, Phālguna:* 一月—三月]; 圃 dvādaśa ~ āh [1. phālgunaḥ 孟春, 2. caitraḥ 仲春, 3. vaiśākhaḥ 季春, 4. jyēṣṭhaḥ 孟夏, 5. āṣāḍhaḥ 仲夏, 6. śrāvaṇaḥ 季夏, 7. bhādrapadaḥ 孟秋, 8. āśvinaḥ 仲秋, 9. kārttikaḥ 季秋, 10. mṛgaśīrṣaḥ 孟冬, 11. pauṣaḥ 仲冬, 12. māghaḥ 季冬] *Mvyut.* ~ m 圃 一カ月間. ~ m ekam 一カ月: ~ m ekam nirantaram 圃 経於一月 *Vajr-s. 222.* ~ ena 圃 一カ月間に. ~ e 圃 一カ月に =一カ月の後に.
 māśaka 男 月 (曆月); 圃 月 *Abh-k.*
 māsa-kālika 形 毎月の.
 māsa-cārika 形 一カ月間ある事に没頭する.
 māsa-tālā 田 圃 [太鼓の皮に用いられる(犢)の革の部分].
 māsa-traya 田 三カ月.

māsadhā 副 月毎に。
 māṣa-nāman 甲 曆月の名。
 māsa-praveśa 男 曆月の初め。
 māsaśas 副 一カ月に、月毎に。
 māsa-saṃcayika 形 一カ月間の糧食をもつ。
 māsānumāsika 形 毎月起る、毎月の。
 māsānta 男 月末。
 māsāvadhika 形 少くも一カ月に一度起る。
 māsāhar 甲 月日 *Abh-k.*
 māsāhāra (°sa-āh°) 形 一カ月に一回(だけ)食べる。
 māsika 形 (女 -i) (一) の曆月に関する；毎月行われるまたは与えられる、毎月の；一カ月間存続または継続する；月の内にまたは終りまでに起るまたは完了する。甲 毎月の祖先祭 (*Śraddha*)。
 māsikānna 甲 死んだ祖先へ毎月供えられる食物。
 māsi-Kṛ, 月に変える。
 māsina 形 毎月の。
 māsūra 形 (女 -i) レンズ豆または豆類 (*masūra*) で作った。
 māsopavāsa (°sa-up°) 男 一カ月間断食すること；
 一月都不食 *Bodh-bh.*
 māsopavāsaka (°sa-up°) 男 [同上]。
 māsopavāsin (°sa-up°) 形 一カ月間断食する。
 māsopavāsinī (°sa-up°) 女 (一カ月間断食する女、諷刺的に=)娼婦の媒介をする女。
 māsyā 形 一カ月経た。
 mähācamasya 男 [*Mahācamasa* からの 父系]。
 mähātṃmika 形 [*mahātman* (°hā-āt°) から] 高位の人に属する、堂々とした、威光のある。
 mähātṃmya 甲 [*mahātman* (°hā-āt°) から] 雅量に富むこと、大度；高位、威嚴、品位；称讚(を内容とする作品)；
 大、広大、勝広大、勝、勝大、極弘大、大性、大義利、大之意；大身；大業、大事；大徳、功德、功德之力；威力、大威力、威徳、大威徳、広大威徳、殊勝威徳、奇特、尊高；自在、大自在 *Abh-vy., Buddh-c., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Laṅk., Mṃyut., Sukh-vy.I., Sūtr., Suv-pr.*
 mähānāmana 形 *Mahānāmani* 詩節に属する。
 mähārājya 甲 主権。
 mähārāṣṭra 形 (女 -i) *Mahā-rāṣṭra* すなわち *Maharāṣṭra* 国に属する。
 mähārāṣṭri 女 *Mahratta* 語すなわち *Mahratti*。
 mähā-vratī 女 *Pāsupata* 派の教理。
 mähika 男 種 [住民の名]。
 mähitra 甲 [*Rg-veda* X. 185の称、その始めに *mahitrinām* の語があるからこのように言われる]。
 mähina 形 [*mahin* から] (RV.) 喜ばしい、楽しげな、愉快な；喜ばせる。
 mähīṣa 形 (女 -i) 水牛に属するまたはに由来する。
 mähīṣaka 男 種 [住民の名]。
 mähīṣika 男 水牛の番人；不貞な女性の密夫。
 mähīṣikā 女 [河の名]。
 mähīṣmatī 女 [都市の名]。
 mähīṣya 男 [混血種姓(階級)の一種、Kṣatriya を父とし Vaiśya を母とした子孫]。
 mähendra 形 (女 -i) 大 *Indra* 神に関するまたは属す

る；東方の、東の；[*ambhas* 甲 とともに] 雨水；[*dhanus* 甲 とともに] 虹；[*diś* または *āsā* 女 とともに] 東方。
 mähendri 女 東；[*Indra* 神の擬人化された性力(七神母の一)]。
 māheya 形 (女 -i) [*mahi* から] 大地の。男 母系 大地の子、火星。
 māheyī 女 牝牛。
 māheśvara 形 (女 -i) *Śiva* 神に属するまたは関する；*Śiva* 神を崇拝する。男 *Śiva* 神崇拝者。
 māheśvaratā 女 *Śiva* 神の崇拝。
 māheśvari 女 (擬人化された) *Śiva* 神の性力。
 Mi 1., V. 甲 [(因) 非常にまれに 甲] *minoti* 固定させる、(柱を)建てる；建設する、建立する；量る(量)；感知する、知る。受 *miyate*。過受分 *mita*。un- (柱を)建てる。
 ni- 地中に固定する、建てる；建設する、建立する；定める、決定する。
 nir- 造る、建立する、化作する (*Divy.*)。
 abhi-nir- *abhinirminoti* 化作する、造る (*Divy.*)。
 pra- 推断する、感知する、把握する。
 sam- 共にまたは同時に固定する、建設する、建立する。
 Mi 2., *mināti, minoti.* → Mi.
 Miṣ, [*miśra* 等の *Miś* の 希求 動] 甲 *mimikṣati* (圓)と混合するまたは混ぜる；
 自 *mimikṣate* 混ぜられる(因)。使役 *mekṣayati* (Br.) (圓)と攪伴または混合する。
 Miñj, X. 甲 *miñjayati*。
 sam- *saṃmiñjayati* (身体の部分、とくに腕を)後方へ曲げる、折り曲げる、縮める (*Divy., Mah-v., Mañj-m.* 等)。
 miṭi, 音写 蜜胝、密致 *Bodh-bh.*
 mit 1. 女 建てられた柱、支柱 (RV. 用例一回のみ)。
 mit 2. 形 文法 *m* を無声字とする (語根)。
 mita 1. 過受分 量られた等。→ *Mā* 1. 有量 (有数) *Bodh-bh.* → *a* ~。
 mita 2. 過受分 → *Mi* 1。
 mita-jñu 形 強い膝をもつ。
 mita-dru 形 健脚で走る、よく走る (RV.)。
 mita-dhvaja 男 [玉侯の名]。
 mita-bhāṣitr 形 少しくまたは適度に語る。
 mita-bhāṣitva 甲 [同上 甲]。
 mita-bhāṣin 形 = *mita-bhāṣitr*。
 mita-bhukta 過受分 節約して食う。
 mita-bhuj 形 [同上]。
 mita-bhojana 形 食物を節する。
 mita-mati 形 理解力の乏しい、頭のにぶい。
 mitaṃ-paca 形 適量または少量を煮る、小さなまたは適度な大きさの(料理用具)；けちな。
 mita-vacana 形 節言、知量而説、発言称量 *Aṣṭ-pr.*
 mita-vārṣika 男 短夏時、夏短時 *Mṃyut.*
 mita-sāyin 形 ほとんど眠らない。
 mitākṣara 形 限定された音節数で作られた(詩)、韻律による；限定された、短い、簡潔な(話)。

mitākṣarā 因 [種々の簡潔な注釈書の名, とくに *Yājñavalkya* の注釈書の題名].

mitārtha 男 よく考量された事柄. 因 用心深く行なう; [密使の一種].

mitārthaka 男 [密使の一種].

mitāsana 因 節約して食う.

mitāhāra (°ta-āh°) 男 乏しい食物. 因 節約して食う.

miti 1. 因 [Mā: 量る] 尺度, 重量, 価値; 正確な知識.

miti 2. 因 [Mi 1.] 建てること, 建設.

mitokti (°ta-uk°) 因 慎重な言葉.

mitya 因 (?) [Mā, 量る] 価.

mitra 1. 名動 因 mitrati 友として振舞う.

mitra 2. 男 友人, 仲間; 神名 [*Āditya* 神群の一, 一般に *Varuna* と並び挙げられる, 多く (因)]; 太陽 (墨). 因 契約(原義), 友誼 (RV.); 友人 [通常の意義および性; 政治上では, その領土が直接に隣接した王侯を「朋友」と呼ぶ]; 友=の生写し: 一° = 似た; 漢語 [また 男] 友, 朋友, 善友, 親友, 厚友, 朋, 朋侶, 同侶, 親, 親属, 知識, 親善, 善知識 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.*, 梵千., 梵雜. → a ~ kalyāṇa ~ pāpa ~.

mitra-karman 因 友情のある行為または奉仕; 友誼: °karma *Kṛ* (墨) と有誼を結ぶ.

mitra-kāma 因 友を望む; 漢語 恒慕善友, 樂近善友 *Aṣṭ-pr.*

mitra-kārya 因 友としての役目, 朋友の務め.

mitra-kulā 因 漢語 親友家 *Aṣṭ-pr.*

mitra-kṛti 因 友情のある行為.

mitra-kṛtya 因 友としての役目, 朋友の務め.

mitra-gupta 因 *Mitra* 神に守護された. 男 [人名].

mitra-gṛha 因 漢語 親友家 *Saddh-p.*

mitra-ghna 男 [ある *Rākṣasa* の名].

mitratā 因 友情; (一°) と等しいこと; 漢語 慈愍, 親厚 *Kāśy.*

mitratva 因 [同上]; 漢語 友 *Sūtr.*

mitra-daivata 因 漢語 親神 *Divy.*

mitra-druh 因 [困 -dhruk] 仲間を害しようと企てる, 叛逆的な.

mitra-droha 男 仲間を害すること, 叛逆.

mitra-drohin 因 叛逆的な.

mitra-dveṣin 因 仲間を憎むまたは害する. 男 叛逆的な仲間.

mitra-dheya 因 友情の契約.

mitra-ṛatikṣā 因 仲間に対する留意.

mitra-bandhu-bhina 因 友人と親戚とに乏しい.

mitra-bala 因 漢語 友力 *Sūtr.*

mitra-bhadra 男 漢語 善知識 *Sam-r.*

mitra-bhānu 男 [王侯の名].

mitra-bhāva 友情.

mitra-bheda 男 友人の離間, 友情を破ること; [*Pañca-tantra* の第一巻の題名]; 漢語 離親, 乖離 他愛, 破壊親友 *Bodh-bh.*

mitra-mahas 因 *Mitra* 神または友人のごとく尊敬され

た [一般に 因 (RV.)].

mitra-mitra 因 朋友の朋友 [政治上では他の三王侯の領土によってその領土が他の領土と隔てられた王侯].

mitra-mukha 因 (真実の友人でないが) 友人のように語る.

mitra-lābha 男 友を得ること; [*Hitopadeśa* の第一巻の題名].

mitravat 因 朋友のように. 因 友をもつ; 漢語 具慈 *Aṣṭ-pr.*

mitra-vatsala 因 友人に誠実な.

mitra-varaṇa 因 友人の選択.

mitra-varman 男 [人名].

mitra-vidhvasta 因 友人に滅ぼされた.

mitra-vindā 因 [ある *Iṣṭi* の名]; [*Kṛṣṇa* の妻の名]; [*Kuśadvipa* の河の名].

mitra-vaira 因 友人間の不和.

mitra-śarman 男 [諸人の名].

mitra-śālā 因 漢語 親友家 *Saddh-p.*

mitra-sampad 因 漢語 善友具足 *Bodh-bh.*

mitra-saṃprāpti 因 朋友を獲得すること; [*Pañca-tantra* の第二巻の題名].

mitra-saha 男 [(友人に寛大な), 王侯の名].

mitra-sāha 因 友人に対して寛大な.

mitra-suhṛd 男 漢語 親友 *Bodh-bh.*

mitra-sneha 男 友愛, 友情.

mitra-han 因 友人を殺す.

mitra-hana 因 [同上].

mitrā 因 [ある *Apsaras* の名]; [*Maitreya* および *Maitreyi* の母の名].

mitrācāra (°ra-āc°) 男 友人に対するふさわしい行為.

mitrātithi 男 [人名].

mitrābhidroha 男 朋友を害しようと企てること, 叛逆.

mitrāmātya 男 漢語 朋属, 朋友僚庶 *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*

mitrāmītra 因 墨 友と敵; 漢語 怨親 *Bodh-bh.*

mitrāmītrodāsina (°ra-ud°) 因 漢語 怨親中, 怨親中人, 於怨於親非怨親中 *Bodh-bh.*

mitrāyu 男 [ある学匠の名]; [*Divodāsa* の息子の名].

mitrā-varuṇa 男 因 *Mitra* 神と *Varuṇa* 神.

mitrāvaruṇa-devatya 因 *Mitra* 神と *Varuṇa* 神とを主神とする.

mitrā-vasu 男 [*Viśvāvasu* の息子で *Siddha* 族の王の名].

mitriya 因 友に由来するまたは関する, 朋友の.

mitri-Kṛ, (墨) を朋友とする.

mitri-kṛta 因 友として得られた.

mitri-BHū, (墨) と朋友となる.

mitriya 名動 因 mitriyati 朋友にしようと望む; 友と見なすまたはとして扱う; 友情または同盟の意向をもつ.

mitreśvara (°ra-iś°) 男 [hara とともに] [*Mitra-sarman* の建立した *Śiva* 神の殿堂の名].

mitrodaya (°ra-ud°) 男 日の出; 朋友の幸福.

Mith, I. 因 methati; IV. 因 mithati (因). [(ある人と) 仲間になる; 衝突する, 論争する, 口論する;

(業)を非難する；固 衝突する。
mithah-kṛtya 固 相互の責任。
mithas 副 (固)と一緒に；相互に，互いに，交互に；
 交代に；ひそかに，秘密に；漢訳 互 *Abh-k.*, *Abh-*
vy.
mithah-samaya 男 相互の一致。
mithi 男 [王侯の名]。
mithila 男 種 [住民の名]；圍 [*Mithilā* を開いた王
 侯の名]。
mithilā 女 [*Videha* の首都の名]；漢訳 音写 密締
 羅，弥梯羅，蜜提羅，蜜提羅 *Divy.*, *Lal-v.*, 玄奘：
 ~nagari 弥梯羅城 *Lal-v.* 22.
mithilādhipati 男 [*Janaka* の称]。
mithu 副 (因)交代に；誤って，逆に。
mithuna 形 一对をなした；漢訳 雙 *Sāmkhy-k.* 男
 (雄と雌との)つがい，夫婦 [因は一般に固，圍はほ
 とんど固 圍]；双生児；漢訳 男女 *Mañj-m.* 固 残
 余の部分，補充 [まれに]；交尾，交合；[双女宮(黄
 道帯十二宮の一)]；(文法)(前置詞)と合成された語
 根；漢訳 女 *Mañj-m.*
mithunatva 固 一对をなすこと。
mithuna-bhāva 男 [同上]。
mithuna-vratin 形 夫婦生活を尊重するまたは実行す
 る。
mithuni-Kṛ, 一对とする，(固)と一对にする；一对と
 なる。
mithuni-cārin 形 同棲する。
mithuni-bhāva 男 同棲，(固)と同棲すること。
mithuni-BHū, (固)と一对になるまたは交合する；(固)
 と夫婦になる，(saha)と結合する。
mithuny-As, (°ni-As) [同上]。
mithuyā 固 副 [衝突して]，不法に，偽って (因)。
 ~ **Kṛ** 打ち消す。
mithū 副 =mithu。
mitho-virodhin 形 種 互いに争う。
mithyā 固 副 [mithuyā の後世の形] 不法に，不正
 に；偽って，不正直に，欺いて；真実ではなく，外
 観のみで；目的なしに，実を結ばないで，無益に；
 漢訳 邪，邪妄，邪謬，邪執，妄，虚，虚妄，虚誑，
 虚不実 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Cat-s.*, *Gaṇḍ-*
vy., *Laṅk.*, *Madhy-v.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, 梵千。~ **Kṛ**
 不法に行う；(約束を)破る [na とともに，約束を守
 る]；否定する。~ **Brū**, ~ **Vac**, ~ **Vad** 偽って言
 明する，うそを言う，偽わる。~ **BHū** 虚妄となる
 またはと判る。~ **pra-Vṛt** (因)に対して不適當な挙
 動をする。
mithyā-kāruṇika 形 同情を装う。
mithyā-kṛta 形 誤ってなされた；漢訳 邪作 *Sūtr.*
mithyā-kopa 男 装った怒り。
mithyā-kraya 男 不正の価格。
mithyā-graha 男 無益な強情。
mithyā-grāha 男 漢訳 邪執，邪摂受 *Bodh-bh.*
mithyā-glaha 男 賽戯における不正。
mithyācāra (°thyā-āc°) 男 不正なまたは不当な行為；
 漢訳 邪行，邪婬 *Bodh-bh.*, *Mvyut.* → **kāma** ~。
 形 偽善的行為をする。

mithyā-jalpita (過受分) 固 不正なまたは偽った談話。
mithyājīva (°yā-āj°) 男 漢訳 邪命 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-*
bh., *Vijñ-t.* : ~ena jivikāṃ kalpayati 邪命活，
 以邪法而自活命 *Aṣṭ-pr.* 819.
mithyājīva-kara 形 漢訳 邪命 *Bodh-bh.*
mithyājīva-karaka-dharma 男 漢訳 起邪命之法
Bodh-bh.
mithyā-jñāna 固 誤解，誤り；漢訳 邪智，邪識，妄
 智 *Laṅk.*, *Mvyut.*
mithyātva 固 虚妄，不真実；漢訳 邪，邪性，邪位
Abh-vy., *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*
 → a ~。
mithyātva-niyata 形 [*Pāli micchatta-niyata*] 虚偽
 に専心した(*Sukh-vy. I.*)；漢訳 邪定，実邪 *Lal-v.*,
Sukh-vy. I., *Gaṇḍ-vy.* : ~o rāsiḥ [*Pāli micc-*
hatta-niyato rāsi] 邪性定聚 (*Mah-v.*)
mithyātvanīyata-rāsi 男 漢訳 邪性蘊，邪性定聚
Mvyut.
mithyā-darśana 固 偽りの外觀または現象；漢訳 邪見，
 悪見 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*；世智弁
 聰 *Mvyut.*
mithyādarśana-viramaṇa 固 漢訳 不邪見 *Aṣṭ-pr.*
mithyā-dūta 男 偽りの使い，嘘をつく使い。
mithyā-dṛś 男 漢訳 邪見 *Abh-vy.*
mithyā-dṛṣṭi 女 異端，邪教 (*Lal-v.*)；漢訳 邪見，疑
Abh-vy., *Bodh-bh.*, *Dharm-s.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*,
Madhy-bh., *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Vi-*
jñ-t. : ~eḥ pravīratih 不邪見，離邪見 *Mvyut.*；
 labhyā ~h prahātum 能棄邪見，可棄邪見 *Mv-*
yut.
mithyā-dṛṣṭika 形 漢訳 邪見，住邪見 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-*
bh., *Divy.*
mithyādṛṣṭi-kula 固 漢訳 邪見家，邪見(無義)之家
Saddh-p.
mithyādṛṣṭi-graha 男 漢訳 執邪見 *Śikṣ.*
mithyā-dharma 男 漢訳 邪道，邪法 *Mvyut.*
mithyādharmā-parita 形 漢訳 随邪道，随邪法，壞
 法 *Mvyut.*
mithyādhita (°yā-adh°) 固 誤った研究。
mithyādhyavasiti (°yā-adh°) 女 不可能な仮定 [有り
 得ない事を条件として，有り得ない事を表わす修辞
 法；固 空気を華鬢とした者のみがか売春婦の情愛を
 得るだろう]。
mithyā-paṇḍita 形 外見のみ智者または賢者らしい。
mithyā-paribhoga 男 漢訳 邪受用 *Bodh-bh.*；
mithyā-puruṣa 男 外見のみの人間。
mithyā-praṇidhāna 固 [*Pāli micchā-panihita*] 邪
 しまな願 (*Divy.*)
mithyā-pratijñā 形 違約する，誠実でない。
mithyā-pratipatti 女 漢訳 邪行，邪向，邪趣 *Bodh-*
bh., *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*；顛倒 *Madhy-*
v.
mithyāpratipatti-tattva 固 漢訳 邪行真実 *Madhy-*
bh.
mithyā-pratipanna 形 漢訳 邪行，邪趣，行邪惡行，
 背正向邪 *Bodh-bh.*

mithyā-prayukta 形 無益に使用する；**起邪方便** *Bodh-bh.*
mithyā-pravādin 形 妄語する，嘘をつく。
mithyā-prahāṇa 中 **邪断**，邪観，邪解脱行 *Vajr-pr.*；邪勤 [prahāṇa=pradhāṇa] *Vajr-pr.* 43.
mithyā-phala 中 想像上の利益または報酬。
mithyā-buddhi 因 誤解。
mithyābhāsa (°yā-abh°) 男 **無物而見物**，虚妄相 *Laṅk.*
mithyābhigṛdhna (°yā-abh°) 形 不当にまたは熱心に貪る。
mithyābhidhā (°yā-abh°) 因 偽名。
mithyābhidhāna (°yā-abh°) 中 偽った陳述。
mithyābhiniṣṭa (°yā-abh°) 形 **邪著** *Sūtr.*
mithyābhiniveśa (°yā-abh°) 男 **邪執**，邪計著 *Bodh-bh.*
mithyābhiyogin (°yā-abh°) 形 偽りの告訴をする。
mithyābhiśamsana (°yā-abh°) 中 誣告。
mithyābhiśamsin (°yā-abh°) 形 誣告する。
mithyābhiśasta (°yā-abh°) 誣告された。
mithābhiśasti (°yā-abh°) 形 偽りの告訴。
mithyābhiśāpa (°yā-abh°) 男 [同上]；偽りの予告。
mithyābhiśaṅga (°yā-abh°) 男 不正な呪咀。
mithyā-bhrānti-vikāṣita 形 **迷妄計**，迷惑邪分別 *Laṅk.*
mithyā-mano-rama 形 外観のみ美しい。
mithyā-māna 男 **邪慢** *Abh-ry., Mṛyut., Saddh-p., Vijñ-t.*
mithyā-yoga 男 誤った使用。
mithyārambha (°yā-ār°) 男 不当な処置。
mithyā-vacana 中 不真実を語ること。
mithyā-vākya 中 誤った陳述，嘘。
mithyā-vāc 形 偽って語る，嘘をつく。
mithyā-vāda 男 偽った陳述，嘘；**妄語** *Sūtr.*
 形 不真実を語る，嘘をつく。
mithyā-vādin 形 [同上 形]。
mithyā-vikalpa 男 誤った疑念 (*Jāt-m.*)；**邪分別** *Bodh-bh.*
mithyā-vitarka 男 **妄説** *Laṅk.*
mithyā-vyāpāra 男 不当な仕事，自己に関係のないことに干渉すること。
mithyā-vyāhārin 形 偽って語る，嘘をつく。
mithyāśaya (°yā-ās°) 男 **邪思念** *Śikṣ.*
mithyā-saṃjñā 女 **邪想** *Laṅk.*
mithyā-satya 中 **邪諦** *Laṅk.*
mithyā-samtirita 形 **邪思(倒解)** *Sūtr.*
mithyā-sākṣin 男 偽った証人。
mithyā-stava 男 理由のない称讃 (種)。
mithyā-stotra 中 種 [同上]。
mithyāhāra (°yā-āh°) 男 不当な食物。
mithyopacāra (°yā-up°) 男 偽りの奉仕または親切；誤った治療法。
Mid, Mind IV. 他 *medyati* (因)；VI. 中 *medāte* (RV.)。肥える。使役 他 *medayati* 肥えさせる (因)。
midi, mindi 男 [語根 *Mid, Mind* の称]。
middha 中 精神的遲鈍，怠惰 (*Lal-v.*)；**眠**，睡，

睡眠，悔眠，昏睡，昏滯 *Abh-k., Abh-ry., Bodh-bh., Lal-v., Laṅk., Mṛyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Vijñ-t., Vijñ-v.*；懈怠 *Sam-r.*：styāna～m avakrāmet 昏寝，昏睡安寝，仮寐，昏寝 *Gaṇḍ-ry.20.*
middha-guruka 形 **睡眠所覆**，睡眠所覆昏重 *Aṣṭ-pr.*
mindā 因 身体の欠陥 (因 用例一回のみ)。
mindi → *midi*。
minvat 現分 [Mi 1.]。
mimāṅkṣu 希求 形 [Majj] 水に入ろうとする。
mimardayiṣu 希求 使役 形 [Mrd] おし潰そうとする。
mimardiṣu 希求 形 [同上]。
mimārayiṣu 希求 使役 形 [Mr] 斬り殺したいと望む。
mimikṣuḥ [Myakṣ の 三過 三人 複]。
mimiyāt 願 [Mi]。
mime [Mā の 現 二人 單 固]。
miyedha 男 [pādaの末尾において =medha (RV.)]。
mirapha 男 **音写** [数の名] 秘喇婆 *Mṛyut.*
Mil, VI. 他 *milati* [きわめて後世の語根で 叙詩または *Kalidasa* には現われない，恐らくは *miśla*=*miśra* の 名動 **miśla-ti* の 固形 **mil* (h)° から抽出されたものであろう] (圓 ±*saha*, 圓, 固) の仲間になる。参加する，と会う，偶然に出会う；現われる，顕われる；遭遇する；集まる，群がる，群集する，集合する；と接触する，結合される；起る，偶発する。過受分 *milita* 遭遇した，現われた，顕われた；一緒になった，合一した，集合した；衝突した，会戦した；偶発した；一緒にされた；(一°) と結合した [現分 *milat* もまた 同義]；(圓) をそなえた。使役 他 *melayati* (圓) に遇わせる，一緒にする，集合する。*pari-* 過受分 *parimilita* (一°) と結合したまたはに付添われた；四方から集った。*sam-* 参集する，…の仲間になる，参加する。過受分 *sammilita* 現われた，顕われた；(圓) の所有に帰した。
milat 現分 → *Mil*。
milad-vyādha 形 (周囲に群がる狩人をもつ=) 狩猟者に囲まれた。
milana 中 会合，遭遇，接触。
milita 過受分 → *Mil*。
militākṣa 形 **眼間太登**，眼毛乱散 *Mṛyut.*
milinda 男 蜂；[王の名=*Menandros*] (弘教)。
milindaka 男 [蛇の一種]。
milimilin 男 [*Śiva* 神の称]。
millā 因 [人名]。
 [Miś, 混合する。希求 *mimikṣa-*]。
miśra 形 混合した，混淆した，混和した，結合した；種々の，多様の，異なる；からみ合った，もつれた；(圓 ±*samam*, 圓, 一°, まれに 一°) と混合した，連結したまたは会合した；一° [名前とともに] …その他，某とその伴侶 [*ādi* または *ādya*, 一° と同義]；一° [敬称とともに] =(我等の)… [例 *ārya* ~ 尊敬すべき…]；一° [しばしば，時として 一°] [名前とともに，とくに学者の名前とともに敬称となる]；(一°) を混合するまたはに混ぜ物をする；**雜**，合 *Abh-k., Bodh-bh., Bodh-c.* 圓 [miśra に終わる名前の略

味, 論究; 見解; 聖典の論究; [ある哲学体系の名称で二派に分れる, 十なわち一は *Pūrva* ~ または *Karma* ~ と称せられ *Jaimini* を祖とし, 主として *Veda* の儀軌を正しく説明しようとする. 他は *Uttara* ~, *Brahmī* ~ または *Śātraka* ~ と称せられるが, もっともよく知られる名称は *Vedānta* である. *Bādarāyana* を祖とし, 主として *Brahman* 十なわち宇宙我の性質を論究する汎神論的体系である]; 〔漢訳〕思惟, 思量, 思惟諮問, 諮問; 観, 観察 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Lañk.*, *Madhy-vibh.*, *Mṛyut.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.*; 〔音写〕弥婆 [娑 (?)] *Vajr-s.*

mimāṃsā-kṛt 男 *Mimāṃsā* 学派の始祖 十なわち *Jaimini*.

mimāṃsā-samādhi-prahāṇa 中 〔漢訳〕我定断 *Dharm-s.*

mimāṃsita 希求 〔過受分〕 → *Man.*

mimāṃsitavya 形 吟味されるべき, 考量されるべき (*Jāt-m.*).

mimāṃsya 〔未受分〕 研究されるべきまたは疑問とされるべき; 〔漢訳〕思惟, 須更思量 *Abh-vy.*

Mil. I. 他 *milati* (Br., 翻) 目を閉じる; (目が) ふさがる; 集まる. 〔過受分〕 *milita* 目を閉ざされた, 眠気を催した; 消失した, 消滅した; (圓) と遭遇した; 集められた. 〔使役〕 *milayati* (目, 花) を閉じる.

〔使役〕 〔過受分〕 *milita* 閉ざされた(目).

anu- 〔使役〕 *anumilayati* (目を) 閉じる.

abhi- 目 目をそらす.

ā- 〔使役〕 *āmilayati* (目を) 閉じる; (心を) 完全に捉える.

vy-ā- 〔使役〕 *vyāmilayati* (目を) 閉じる.

un- 目を開く; (目が) 開く; 明白となる, 出現する, 現われる. 〔過受分〕 *unmilita* 開かれた(目), 開いた(花); 示された, (絵で) 顕示された. 〔使役〕 *unmilayati* (目を) 開く, (花を) 開かせる; 喚起する, 展開する, 示す.

pron(pra-ud)- 目を開く; 開花する, (花が) ふくらむ; 明白となる, 現われる. 〔使役〕 *pronmilayati* (目を) 開く; 顕示する, 明示する.

sam-un- 明白となる, 現われる. 〔使役〕 *samunmilayati* (目を) 開く; 顕示する, 明示する.

ni- (目を) 閉じる; (花が) 閉じる; 消失する; 〔漢訳〕閉, 閉眼 *Lal-v.*, *Śikṣ.* 〔過受分〕 *nimilita* 目を閉じた; 閉ざされた; 消滅した. 〔使役〕 *nimilayati* (目, 花を) 閉じさせる; 瞑目する; (業) をして目を閉じさせる.

vi-ni- 〔過受分〕 *vinimilita* 閉じた(目).

saṃ-ni- 目を閉じる.

pra- 〔同上〕. 〔過受分〕 *pramilita* 瞑目した, 目を閉じた.

sam- 目を閉じる (因); (花が) 閉じる. 〔使役〕 *sammilayati* (目を) 閉じる; 瞑目する; 目を閉じさせる, 暗くする, 破壊する.

milana 中 目を閉じること, またたき; (目または花が) 閉じること; (修辭) 暗喩.

milita 〔使役〕 〔過受分〕 閉ざされた等. → *Mil.* 中 〔修辭〕 暗喩の一種 [例] 亜麻の衣類およびジャスミンの髪等を

装った若い女は月光中では目につかない=かれらは月光のように白く輝く].

Miv. I. 他 *mivati* (因) 動かす [〔過受分〕 *mūta* (一°) のみ]. 〔過受分〕 *mūta* (一°) に動かされた.

ā- (戸を) 押し開く; 開く [〔過受分〕 *āmivita* および 〔現分〕 *āmivat* のみ].

ni- 押し下げる [〔nimivat〕 のみ].

pra- 前方に押す.

prati- 押し返す; 閉ざす.

mukūṭa 男 中 王冠, 宝冠, (冠の) 飾り; 〔漢訳〕冠, 頭冠, 宝冠, 花冠, 月冠; 髻, 頂髻; 頂戴 *Lal-v.*, *Lañk.*, *Mṛyut.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, 梵雜.

mukūṭa-ratna 中 兜の珠玉, 王冠の宝石.

mukūṭin 形 王冠で飾られた.

mukunda 男 [〔Viṣṇu神の称〕; [〔Śiva神の称〕]; [財宝の一種]; 〔漢訳〕円鼓, 鼓音美 *Mṛyut.*

mukura 男 鏡; 蓄.

mukula 中 蓄 [また歯について 〔譬喩〕]. 男 [諸人の名]. 形 閉じた(目).

mukula-jāta 形 〔漢訳〕半開 *Mṛyut.*

mukulaya 名動 他 *mukulayati* (目を) 閉じる.

〔過受分〕 *mukulita* 蓄をもつ, 咲いた; 蓄のように閉じた(目, 手, 花); 閉じた.

mukulāya 名動 自 *mukulāyate* 蓄のように閉じる, 閉じた蓄に類似する. 〔過受分〕 *mukulāyita*.

mukulikā 女 小児を寝かせるための低い声音.

mukulita 〔過受分〕 → *mukulaya*.

mukulita-nayana 形 (女 -i) 目を半ば閉じた.

mukulitā 女 [〔Gandharva女の名〕] (*Kār-vy.*).

mukulitākṣa 形 (女 -i) = *mukulita-nayana*.

mukulin 形 蓄をもつ, 開花せんとする.

mukuli-Kr, 蓄のように閉じる, (指を) まげる.

mukuli-kṛta 形 蓄のように閉じた.

mukuli-bhāva 中 (花が) 閉じた状態.

mukta 1. 〔過受分〕 [〔Muc〕] (圓, 圓) から放たれた, ... から釈放された; ゆるめられた, 離された, 落下した (果実); 弛緩した, 倦怠を覚える(肢); ゆるめた(手綱); 放任された, 自由な(路); 草木のない(堤); 今しも(太陽の) 離れた(方位); 捨てられた, 中止された; 脱ぎ捨てられたまたは捨てられた(衣類); 放置された(花); 去った, 消滅した [とくに一° 形]; 流された(涙); 発せられた(音); 派遣された, 発せられた; 投げ落された, 投げられた, 放たれた, 投げうたれた; 加えられた(足蹴); 悲観した; 男または存在の繫縛から脱れた, 解脱した; (圓, 一°) のまじした; 〔漢訳〕解, 脱, 解脱, 得解脱者, 得度, (所) 放, 放而去; 発, 散, 散著, 開; 離, 所出, 出過, 免; 無滞礙 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Daś-bh.*, *Diry.*, *Lal-v.*, *Lañk.*, *Madhy-bh.*, *Mṛyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*: ~ś carati 捨離繫縛 *Vajr-s.* 225.; ~o ~pariyārah 具解脱眷属, 自解脱具解脱眷属 *Mṛyut.* 男 [ある料理人の名].

mukta 2. [= *muktā*, 韻律]. 〔漢訳〕真珠 *Bodh-bh.*, *Suv-pr.*

muktaka 形 離された, 独立の; 〔漢訳〕解脱 *Gand-vy.* 中 独立の *Śloka* [それ自身で意義の完結したも

の]；単純散文[複合語のない]。男 漢訳 解脱(経)，余(経) *Abh-vy.* 335.
mukta-kaṇṭha 形 [Krand または Rud とともに] (拡げられた咽喉をもって = あらん限りの声で) 叫ぶまたは泣く。～m 副。
mukta-kara 形 大まかな，気前のよい，物惜しみしない。
mukta-keśa 形 (女 -ā, -i) 髪を解いたまたは乱した；漢訳 垂髪，被髪 *Gand-vy.*
mukta-citta 中 漢訳 心解脱，自脱心 *Sūtr.*
mukta-cchatra-pravāḍa-saḍṛśa 男 漢訳 [仏の名] [如] 真珠珊瑚蓋 *Sukh-vy. I.*
muktatā 女 存在の繫縛からの解放，究竟の解脱。
mukta-tyāga 男 漢訳 長施，広施 *Mvyut.*
muktatva 中 = muktatā.
mukta-dhvani 形 (雲のように) 雷鳴を発する。
mukta-nidra 形 覚めた。
mukta-puṣpa 形 漢訳 散諸花彩，心華散著 *Suv-pr.*
mukta-pratibhāna 形 漢訳 具辯説，具辯解，辯才解脱 *Mvyut.*
mukta-phūt-kāra 形 鋭い叫び声を発する，鋭く叫ぶ。
mukta-phūt-kṛti 女 鋭い叫び声を発すること，鋭く叫ぶこと，シュッと叫ぶこと。
mukta-bandhana 形 きずなから釈放された。
mukta-buddhi 形 精神の解脱した。
mukta-mūrdha-ja 形 = mukta-keśa.
mukta-rodho-nitamba 形 臀部に似た岸を去る。
mukta-lajja 形 羞恥を棄てた。
mukta-vasana 男 (衣服を脱ぎ捨てた)，*Jaina*の行者 (= dig-ambara).
mukta-śāpa 形 呪詛が止んだ，呪詛から解放された。
mukta-śikha 形 髪のを束を解いた，髪を垂らした。
mukta-śaiśava 形 (少年期を脱した)，成長した。
mukta-saṃśaya 形 疑いを免れた，疑われない。
mukta-sūryā 形 女 [diś とともに] 今しがた太陽の離れた方位。
mukta-svāmin 男 [ある殿堂の名]。
mukta-hasta 形 大まかな，物惜しみしない，気前のよい；漢訳 展手 *vy.*
mukta-hastatā 女 漢訳 開手，舒手恵施 *Bodh-bh., Sūtr.*
mukta-hāra 男 [= muktā-hāra] 漢訳 纓絡 *Sikṣ.*
mukta-hārin 男 [= muktā-hārin] 漢訳 真珠纓，宝纓絡 *Lal-v.*
muktā 女 [過受分] *Muc.* (牡蠣から) 分泌された] 真珠；漢訳 真珠 *Bodh-bh., Raṣṭr., Saddh-p., Suvik-pr.,* 梵雑。
muktā-kaṇa 男 [人名]。
muktā-kalāpa 男 真珠の首飾り。
muktākalāpi-Kṛ, 真珠の首飾りとする。
muktākāra (°tā-āk°) 形 真珠のように見える。
muktākāratā (°tā-āk°) 女 真珠のような外観。
muktā-keśava 男 [*Kṛṣṇa* 神の像の名]。
muktā-guṇa 男 一連の真珠または真珠の首飾り；真珠の卓越性，真珠の浄光。

muktāccha (°tā-ac°) 形 真珠のように清い。
muktā-jāla 中 真珠の首飾り；漢訳 真珠網 *Sukh-vy. I.*
muktā-jālamaya 形 (女 -i) 真珠からなる。
muktātman (°ta-āt°) 形 心の解脱した，解脱した。
muktā-dāman 中 一連の真珠；漢訳 珍珠瓔珞 *Mvyut.*
muktāpad (°ta-āp°) 形 不運から救い出された。
muktāpīḍa (°tā-āp°) 男 [ある王侯の名]；[ある詩人の名]。
muktā-pura 男 [*Himālaya* 山における神話上の町の名]。
muktā-phala 中 真珠。男 [*Sabara* の王侯の名]。
muktā-phalaka 中 漢訳 珠子顆 *Mvyut.*
muktāphala-ketu 男 [*Vidyādhara* の王侯の名]。
muktāphala-jāla 中 真珠の首飾り。
muktā-phalatā 女 真珠たること。
muktāphala-dhvaja 男 [ある王侯の名]。
muktā-phalamaya 形 真珠からなる。
muktāphala-latā 女 一連の真珠。
muktāphali-bhūta 形 真珠に変わった。
muktā-maṇi 男 真珠。
muktāmaṇi-sara 男 一連の真珠。
muktāmaya 形 (女 -i) 真珠からなる。
muktāmukta 過受分 投げられかつ投げられない [投じた後も手中の武器として用いられるある飛道具について言う]。
muktāmbara 男 *Jaina* の行者 (= dig-ambara).
muktā-ratna 中 真珠。
muktā-raśmimaya 形 真珠で輝く。
muktā-latā 女 [人名]。
muktāvāli (°tā-āv°) 女 一連の真珠。
muktāvālī (°tā-āv°) 女 [同上]；[*Candra-ketu* の妻の名]；漢訳 珍子数珠 *Mvyut.*
muktā-sukti 女 真珠貝。
muktāsana (°tā-ās°) 中 解脱者の坐法。形 (自身の) 座から立ったまたは立っている。
muktā-sara 男 真珠の首飾り。
muktā-sāra 男 漢訳 堅固解脱 *Gand-vy.*
muktā-sena 男 [ある *Vidyādhara* の王の名]。
muktā-sthūla 形 真珠大の(涙)。
muktā-hāra 1. 男 一連の真珠，真珠の首飾り；漢訳 瓔珞，纓絡，真珠瓔珞，真珠(天妙)瓔珞 *Divy., Saddh-p., Suv-pr.*
muktāhāra 2. (°ta-āh°) 形 断食した。
muktāhāra-latā 女 真珠の首飾り
mukti 1. 女 (一°) からの解放，…からの救済；存在の繫縛からの解脱，最後の至福；(一°)の放棄；投棄，投擲，放出；漢訳 解脱，能解脱 *Abh-vy., Madhy-bh., Madhy-vibh., Sūtr., Vijñ-t.,* 梵雑。
mukti 2. 女 漢訳 真珠 *Bodh-bh., Lal-v., Raṣṭr.*
mukti-kalāśa 男 [*Bilhana* の祖先の名]。
muktikā 女 真珠；漢訳 珍珠 *Mvyut.*
mukti-kṣetra 中 救済の地，*Benares* 市。
muktitā 女 解脱の状態。
mukti-pati 男 救済の主。
mukti-pura 中 [ある *Dvipa* の名]。

mukti-pūr-dasyu 男 救済の城における強盗。
muktivat 形 (徒) から解放された。
mukte (過受分 因) 前 (圓) を除いて。
muktvā 不変分 → Muc.
mukha 甲 [一° 形, (因 -ā, -i)] 口; あご; 顔; (獸類の)鼻口部, (鳥の)嘴; 方向, 方位; 口(容器の:まねに); (圓, 一°) の口, 出口, 入口; 前部, 先端, 尖端, (矢の)頭; 刃; 表面, 頂上, 上部; 頭目, 首領; 開始; (劇の筋の)発端; (圓, 一°) の本源, 端緒; 手段; 口, 口面, 口門, 口角; 面, 面門, 面目, 面部, 顔, 下顔, 容; 咽; 門 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Av-ś.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Nyāy-pr.*, *Mvyut.*; *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, 梵雜., 梵千.: *sva ~ m prakṣālya* 自洗其面, 澡洗其面, 澡面漱口 *Gaṇḍ-vy.* 219. 一° 形 口中にまたは口としてもつ; [蒼白等の属性を表わす 形 とともに] …の容貌をもつ; …のような顔をもつ [例 山羊面の]; (例 涙, 洗面, 怒等) によって覆われたまたはを示す顔をした; …に面するまたはの方を向いた [~m 副]; …を発端とした, …で始まる; …に似たまたは類似した (*Jāt-m.*); 面, 向 *Abh-vy.* → *adho ~*, *aśru ~*, *prāñ ~*. ~m 副 (一°) に面してまたはの方を向いて; 前 *Śikṣ.*
mukha-gata 形 口または顔に存する; 前面にある。
mukha-grahaṇa 甲 口に接吻すること。
mukha-candra 男 月のような顔。
mukha-candramas 男 [同上].
mukha-capala 形 饒舌の, 多辯な。
mukha-capetikā 因 面を打つこと。
mukha-cāpalya 甲 多弁なこと。
mukha-cchada 男 顔の覆い, 眼帯。
mukha-cchavi 因 顔色, 容貌。
mukha-ja 男 (*Brahman* 神の口から生まれた), 婆羅門 (*brāhmaṇa*).
mukhatas 副 口から・において・の中にまたはによって; 面前で; 前面に, 前方に, 前面から; (圓) の前に. ~ *jātaḥ* 面生 *Mvyut.*
mukha-tuṇḍaka 男 甲 (?) [*Pali mukha-tuṇḍa*] 嘴, 口 (*Divy.*); 舌 *Divy.*: ~ *ena pādāv anup-arimārjya* 以舌舐其兩足 *Divy.* 387.
mukha-dvāra 甲 口, 口門, 面門, 面目 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*: *nānāgate ālope ~ m viva-riṣyāmaḥ* 未食勿得張口, 食未至我当不張口 *Mvyut.*; ~ *m vivariṣyāmaḥ* 張口 *Prāt-m.* VII. 71. ~ *ena* 圓 口中 *Prāt-m.*; 誦誦 *Bodh-bh.*
mukha-paṅka-ja 男 蓮花のような顔。
mukha-paṭa 男 ヴェール, 面紗。
mukha-padma 甲 蓮花のような顔。
mukha-piṇḍa 男 一口の食物。
mukha-puṣpaka 甲 花叢 *Mvyut.*
mukha-pūram 副 満口 *Śikṣ.*
mukha-pocchana, = *mukha-proñchana* の 副。
mukha-prasādhana 甲 顔を飾ることまたは彩ること。
mukha-priya 形 口当りのよい。
mukha-prekṣa 形 顔を注視する [顔つきから意向を悟るため].

mukha-proñchana 甲 手巾, 拭面巾 *Mvyut.*
mukha-phullaka 甲 花叢 *Mvyut.*
mukha-bandhana 甲 序文, 緒言。
mukha-bhaṅga 男 (一°) をもって面を打つこと; ゆがんだ顔, しかめつら。
mukha-bhaṅgi 因 顔のゆがみ。
mukha-bheda 男 [同上].
mukham 副 → *mukha*.
mukha-maṇḍala 甲 顔; 面, 面貌, 円面, 圓 [圓 (?)] 面, 面輪 *Mvyut.*, *Saddh-p.*
mukha-maṇḍikā 因 [病の名].
mukha-madhu 形 甘言の, 口先きの巧みな。
mukha-mātra 形 (因 -i) 口に達する。
mukha-māruta 男 (口の) 息。
mukha-mudraṇa 甲 (圓) の口を閉ざすこと。
mukha-mudrā 因 顔のゆがみまたは口をつくむこと。
mukha-moṭana 甲 唇を鳴らすこと。
mukhara 形 おしゃべりな, 騒々しい [鳥および蜂についても]; チリンチリンと鳴る(足くび飾り等), 響く; (一°) に雄弁なまたはで鳴り響く, (一°) を表わす, 流出する; 饒舌, 喚, 好亀語, 口悪, 口強, 嚏, 嘲諷; 響; 放肆 *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Suvik-pr.*, 梵雜.; 小鈴網圍繞 [*kiṅkiṇi-jāla ~*] *Mvyut.* → *a ~*. 男 張本人, 首領。
mukharaka 男 [ある悪漢の名].
mukhara-kakubh 形 山頂が響きを発する。
mukharatā 因 おしゃべり, 多辯。
mukharaya 名動 他 *mukharayati* おしゃべりにさせる, 話させる, 語らせる; 鳴らさせる, 響かせる。
過受分 mukharita 喧しく反響した, 響かせられた, 響く, 鳴る。
mukharā 因 [Nāga 女の名] (*Kār-vy.*).
mukha-rāga 男 顔色, 容貌。
mukharikā 因 くつわ。
mukhariki 因 [同上].
mukharita 過受分 → *mukharaya*.
mukhari-Kṛ, おしゃべりにさせる; 鳴り響かせる。
mukha-roga 男 口の病; 口患 *Saddh-p.*
mukha-lepa 男 口に油を塗ること; 太鼓の上部に油を塗ること。
mukhavat 形 口をもつ。
mukha-varṇa 男 顔色, 容貌; 面色 *Sukh-vy. I.*
mukha-vāsa 男 口中の香料 [息に香気を匂わせるために用いる].
mukha-vyādāna 甲 口を開くこと, あくび。
mukha-śāsin 男 月に似た顔。
mukha-śuddhi 因 口を清めること。
mukha-śeṣa 形 その顔または頭のみ残された. 男 [*Rahu* の称].
mukha-śodhana 形 口を清める; 鋭い, 烈しい(味). 甲 口を清めること。
mukha-śoṣa 男 口中の乾いたこと。
mukha-śri 因 容貌の美, 美しい顔。
mukha-sākṣin 形 対面 *Śikṣ.*
mukha-sukha 甲 発音の平易。
mukha-srāva 男 唾液の流出

mukhākāra (°kha-āk°) 男 様子, 風采.
mukhākṣepa (°kha-āk°) 男 鋤の刃で(土を)掘り返す
 ことならびに口から(出る)毒舌(一語二義の例).
mukhāṅga 甲 顔の部分.
mukhādītva (°kha-ād°) 甲 顔およびその他のものたる
 こと.
mukhāṅgila 男 息, 呼吸.
mukhābja 甲 蓮花のような顔.
mukhāmbu-ja 甲 [同上].
mukhāvaraṇa (°kha-āv°) 甲 顔の覆い, ヴェール.
mukhāsava (°kha-ās°) 男 唇の甘露.
mukhāsrāva (°kha-ās°) 男 唾液の流出.
mukhāsvāda (°kha-ās°) 男 接吻.
mukhin 形 門 *Abh-vy.*
mukhendu (°kha-in°) 男 月のような顔.
mukhendu-bimba 甲 [同上].
mukhotkirṇa (°kha-ut°) 男 [人名].
mukhoddarānā (°kha-ud°) 女 [*Tib. shal du lta*
ba] 対面して見ること (*Gaṇḍ-vy.*).
mukhoddeśa (°kha-ud°) 男 口授 *Bodh-bh.*
mukhoddeśatas (°kha-ud°) 副 口授 *Bodh-bh.*
mukhya 形 口または顔の中または上にある, 口に由来
 する; (一°) 中の頭首・首長・本源・先頭・第一ま
 たは最上である, 卓越した; 正, 尊, 正尊 *Mv-*
yut. 男 指導者.
mukhyatas 副 主として.
mukhyatā 女 卓越, (一°) の中で卓越している
 こと.
mukhyatva 甲 [同上].
mukhya-padārtha 男 真事 *Vijñ-t.*
mukhya-mantritva 甲 宰相の職.
mukhya-mantrin 男 宰相.
mukhyaśas 副 まず第一に.
mukhyārtha 男 (語の)主要なまたは本来の意義. 形 本
 来の意義をもつまたはに使用された.
mugdha 過受分 [Muh] 迷った(因); 惑わされた [き
 わめてまれ]; 愚かな, 鈍い [一般的でない]; 単純な,
 無邪気な, 卒直な, 若々しく魅力のある, 愛らし
 い, 美しい [乙女および若い女について: 通常の意義];
 若い; (一°) に酷似した. → Muh, mūdha.
mugdha-candramas 男 =mugdhendu.
mugdhatā 女 単純, 卒直.
mugdhatva 甲 上品, 魅力.
mugdha-dūrvā 女 若いまたは柔い *Dūrvā* 草.
mugdha-dṛś 女 明眸の女.
mugdha-dvipa 男 [ある島の名].
mugdha-dhi 形 鈍才の, 愚鈍な. 男 愚人.
mugdha-buddhi 形 [同上(形)].
mugdha-bodha 甲 [(無智な者を啓発することすなわち
vyākaraṇa), *Vopadeva* 作の文法書の題名].
mugdha-bhāva 男 単純, 無経験.
mugdhavat 過能分 (因) に当惑した, …に分別のな
 い.
mugdha-vadhū 女 若くて愛らしい女.
mugdha-vilokita 甲 美しい一瞥.
mugdha-svabhāva 男 卒直.

mugdha 女 若く美しい女.
mugdhākṣi 形 女 明眸の女.
mugdhāgra-nī 男 愚者の首領, 全くの白痴.
mugdhātman (°dha-āt°) 形 愚かな, 愚鈍な.
mugdhāloka (°dha-āl°) 形 見るからに愛らしい.
mugdhekṣaṇā (°dha-ik°) 形 女 明眸の女.
mugdhendu (°dha-in°) 男 新月.
muṅga 1. 男 [人名].
muṅga 2. 男 豆 [< *mudga, Tib. bla sran*]. 豆,
 小豆 *Lal-v. 171*.
muṅgaṭa 男 [人名].
muṅgi-bhūta 甲 花苗 *Mvyut.*
Muc, IV. 目 mucyate [きわめてまれ]; VI. 他 **mucati**
 (因) 他 目 **muñcati** (-te) (因, 華) (從, -tas) か
 ら離す・放つ・釈放するまたは解放する; [また 目
 または 受] (圓, 從, またはまれに 圓) から免れる, …
 から逃げる; 許す; (咽喉を)ゆるめる (=叫ぶ); (…
 から命を)解放する(=…の命を奪う); (因) へ去ること
 を許す, 退出させる, 去らせる; (因) へ派遣す
 る; (手綱を)ゆるめる; (場所, 座等を)去る, 離れ
 る; (ある人を)放任する, 見捨てる; 中止する, 放
 棄する, 廃止する [*kalevaram, deham* (体を)または
jīvitam, prāṇam (生命を)とともに=死ぬ]; 射出す
 る, 発射する; 発言する; (涙を)流す; 譲渡する,
 贈与する; (因, 圓, 因, prati) に向って 投げる・投
 げつける・投げ打つまたは射る; (從) から身を (*ātmā-*
nam) 投ずる; (圓) に逃げる (*Jāt-m.*); 解, 解
 脱, 得解脱, 脱; 開; 放; 捨, 捨除, 除; 擲下 *Abh-*
vy., Bodh-bh., Divy., Lan̄k., Madhy-v., Rāṣṭr.,
Saddh-p., Sāmkhy-k.; 演 *Lal-v.* 受 **mucyate** (圓,
 從) から解放される・放たれるまたは解除される;
 (罪または存在の繫縛から)救われる; (從) を節制す
 る; (圓) を奪われる; (圓) を欠くまたはもたない;
 開, 捨 *Divy., Lal-v.* 過受分 **mukta.** →
mukta. 不変分 **muktvā** (業) を除いて; 除
Abh-vy. 使役 他 (因) は 韻律 **mocayati** (te) (從,
 まれに 圓) から解放する, 自由にする; 放免する, 釈
 放する; 束縛を解く; 開く; (担保を)取り戻す; 譲
 渡する; (業) に (業) を放棄させる; (業) に (業) 涙
 を流させる; 免, 除, 令脱, 使得脱, 度脱,
 令解脱; 度, 拔濟; 得消除 *Aṣṭ-pr., Rāṣṭr., Suv-*
pr., Sūtr.: *mocayaṅtu ca mām bhayāt* 令我恐懼
 悉得消除 *Suv-pr. 25.* 希求 **mumuksati** (-te) (生
 命を)断念または放棄しようとする (他); (飛道具を)
 投げ打とうとする (他); 免れたいと思う (因); 求
 脱, 求解脱 *Abh-vy.*; [不規則] 目 **mokṣate** 免
 れたいと思う, 救出を求める; (業) から脱出する.
 使役 希求 他 **mumocayīṣati** (存在の繫縛から) 救
 いたいと思う.
ati- 受 **atimucyate** (業) を避ける, …から逃げる.
adhi- 信, 生信, 深信, 淨信, 生淨信心, 信
 解, 深信解, 發生信解, 解, 意解, 勝解; 証, 諦
 受, 度脱, 得底; 入; 謂 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-*
bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lan̄k., Mvyut.,
Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Sapt-pr. 受 **adhimuc-**
yate (業) 熱中する, 献身する (*Vajr-pr.*); 信

解 *Vajr-pr.* 過受分 **adhimukta** 熱中した, 献身した(*Lal-v.*). 現分 **adhimuçyamāna** 信解, 生信解, 甚深信解, 深信信解, 勝解 *Bodh-bh.*, *Gand-vy.* 使役 **adhimocayati** 令勝解 *Bodh-bh.* 希求 **adhimokṣa-** 信解 *Aṣṭ-pr.*: na pattiyaṣyanti na śraddhāsyanti nādhimokṣyanti 不信, 不信受 *Saddh-p.* 312.

vy-aṣa- (從)から(裝飾を)取り去る.

abhi- 放つ, 発する; 投ずる, 放射する.

ava- 束縛を解く; 自(從)から(自身の衣類, 裝飾等)を取り去るまたは解く; 脱 *Buddh-c.*, *Suv-pr.*: ābharaṇāni avamucya 脱身御服 瓔珞 *Suv-pr.* 213.

vy-ava- (靴を)脱ぐ.

ā- (衣類, 裝飾等を)着ける; (因)に(視線を)投げる. 過受分 **āmukta** 着けた(衣服など); (一°)で覆われた, (業)を着用した; 脱ぎ捨てた(衣服) [きわめてまれ].

un- 自由にする, (從)から自由にする; ゆるめる, 解く; (書状を)開封する; (衣服等を)脱ぐ; 放棄する; (負債を)返済する; 罷免する; 投げる, (因)に投げる; 捨, 棄捨, 放捨, 違失 *Daś-bh.* 圖 解放される, 救済される. 過受分 **unmukta** (一°)をもたないまたはを欠いた; 脱いだ(衣服); 発声された, (一°)によって発声された. 使役 **unmocaya-** 救う, (從)から救う; (髪を)解く; 取り去る.

pron (pra-ud)- 過受分 **pronmukta** ゆるい, 解け垂れた(髪).

sam-un- 過受分 **samunmukta** 同時に放棄された (=死んだ)(身体).

upa- 自(衣服等を)着る.

nir- 解放する, (從)から解放する; ゆるめる; 脱 *Lal-v.* 圖 **nirmucyate** (蛇が)脱皮する; (從)から免れる; (圓)を奪われる. 過受分 **nirmukta** 解放された, (圓)から逃れた; (從)から救われた; (從, 一°)のない; 分離された; [一° (形)] 放棄された, 失われた, 過ぎ去った; 投ぜられた, 放たれた; 脱皮した(蛇); (一°)を奪われたまたは欠いた. 使役 **nirmocaya-** (從)から救う; (從)から(担保を)取り戻す.

abhi-nir- 過受分 **abhinirmukta** [abhini-mlukta の誤].

vi-nir- (身体を)放棄する, 廃棄する(=死ぬ); 除 *Saddh-p.* 圖 **vinirmucyate** (圓)を脱する.

過受分 **vinirmukta** (圓, 從, 一°)から逃れた, …のない, …除いた, …から自由なまたはを免除された; 投ぜられた, 放たれた.

pari- (從)から解放する, …から自由にする; 自(圓, 從, 屬)から免れる; ゆるめる, 取り去る; 放任する, 委ねる, 放棄する; 放射する, 発する; 能 解脱, 得解脱 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.* 圖 **parimucyate** (圓, 從, 屬)から自由になる; (存在の繫縛から)解放される. 過受分 **parimukta** 脱した, (一°)から脱した; 取り去られた; 放棄された. 使役 **parimocayati** 抜, 令濟, 令除, 度, 救療, 救済, 令厭離, 令解脱 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*

使役 過受分 **parimocita** 救済された, 救出された (*Vaj-pr.*); 当度脱, 度 *Vajr-pr.*

pra- 解放する, (從)から解放する; ゆるめる, 解く, 離す; 駆逐する, 放棄する (因); 見限る, 放任する; 放射する, 発する, 放つ; 投ずる, 投げ打つ; 贈与する, 付与する; (涙 *aśrūni* を)流す (*Kār-vy.*);

放, 出, 散; 注; 敷演; 解脱 *Abh-vy.*, *Daś-bh.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.* 現分 **pramuñcat** 放, 隨 *Raṣṭr.*, *Vajr-pr.*: *aśrūni* ~ 隨涙 *Vajr-pr.* 30.

圖 **pramucyate** (圓, 從)から解放される; ゆるめられる; (果実が)落ちる, (從)から(果実が)落ちる; 中止する, 思い止まる. 過受分 **pramukta** (圓, 從)から解放された; 放任された, 見捨てられた;

放棄された; 放射された; 流された(涙)(*Kār-vy.*); 投ぜられた, 放たれた. 使役 **pramocaya-** (從)から解放する; (髪を)解く; 解, 解除, 解脱, 度脱, 過度, 拔出, 令離, 令得出 *Divy.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy.* I. 希求 他 **pramumukṣati** 放棄したいと思う.

vi-pra- 放免する; 取り去る; 投ずる, 放つ. 圖 **vipramucyate** (從)から解放される; 放免される, 刑罰を逃れる. 過受分 **vipramukta** (圓, 一°)から救われたまたは自由な; 投ぜられた, 放たれた.

prati- 他(圖, 屬, 因)に(業)を置く; 自[畢はまた 他] (自身の頭等に)(業)を置く, (ある形態を)取る; (因)に課する, 仕向ける; (因)に取りつけるまたは付着させる; 放免する, 駆逐する; 放任する, 放棄する; (負債を)支払う, (因)に投ずる, 放つ. 圖 **pratimucyate** (從)から解放される. 過受分 **pratimukta** (因)に貼布された(軟膏); (從)から釈放された, 解放された; やめた, 放棄された; 投ぜられた, 投げうたれた. 使役 **pratimocaya-** (從)から救う, …から奪還する.

vi- 自(自己の…を)はずす, ゆるめる, 解く; ゆるめられる, 自由にされる; 他 自(解く=)停止する; (衣類等を)脱ぐ; 釈放する, 容赦する; (場所を)去る; 放棄する; 立ち去る; (生命を)捨てる = 死ぬ; (高慢等を)放棄する, 避ける; (意識 *saṃjñā* を)失なう; (過失等を)許す; 放射する, 放つ, (涙を)流す; 生む, (卵を)産む; (音等を)発する; 投げる, 放つ, (因)に投げる, 放つ; (因)に身を(*ātmanam*)投ずる; (因)に贈与する; (ある形態を)取る; [naとともに] (河, 馬が)流れることまたは走ることを中止しない, 静止しない; 解脱, 得解脱, 痊愈, 得釈然 *Abh-vy.*, *Lanik.*, *Lal-v.* 圖 **vimucyate** ゆるめられる; (手綱が)ゆるめられる; (圓, 從, -tas)から救われるまたは解放される; 逃げる, (從)から逃げる; (從)の権力を脱するまたは逃げる; (存在の繫縛から)救われる, 最後の解脱を得る; (親類, 生命: 圓)を奪われる; 解脱, 永解脱 *Abh-vy.*, *Mryut.* 過受分 **vimukta** 束縛を解かれた, 放たれた(牛); 解け垂れる(髪); (圓, 從, 一°)から釈放されたまたは自由な; (從)から逃れた; 進水した(船); 救われた [とくに存在の繫縛から]; (一°)によって見捨てられた; 放棄された, 放任された [とくに一° (因)]; (一°)によって放た

れた；…から流れる；投げられた，投げ打られた；注がれた(雨)；(圓)に欠乏した；(最近)脱皮した(蛇)；冷静な；°—(形)= —°…から釈放された；(—°)と結合された。使役 vimocaya- 離す；束縛を解く；(從)から釈放する，救う，救助する；遠ざける，避ける；漢訳 解脱，令解脱，使得解脱，度，度脱，得消除 Bodh-bh., Gand-vy., Lal-v., Maddhy-vibh., Sūtr., Suv-pr. 希求 不變分 vimokṣya 漢訳 令脱 Bodh-bh.

pra-vi- 駆逐する，罷免する；放す；(身体を)捨てる，放棄する(=死ぬ)；漢訳 出現 Gand-vy. 受 pravimucyate (從)から免がれる。

sam- (涙を)流す。使役 sammocaya- 解放する，救助する。

muc 形 (—°)から解放するまたは救う；放射する，流す，放つ；投げ打つ。

muca 形 —° [同上] (まれに)。

muci 男 漢訳 [Cakravartin の名] 捨，能捨 Mvyut.

mucilinda 男 [Nāga の名] (Lal-v.)；[山の名] (Kār-vy.)；漢訳 [転輪王の名] 施持，持施，(堅捨) Mvyut.；音写 [山の名] 目真，目真隣，目真隣陀，目真隣陀(山)，目隣，目脂隣陀，牟真隣陀 Mvyut., Saddh-p., Sam-r., Sukh-vy. I., Suv-pr., 玄心；[竜の名] 目真陀 Sam-r.；[花の名] 目真隣陀(花)，林陀 Lal-v., Mvyut.

mucilindā 女 [Nāga 女の名] (Kār-vy.)。

mucukunda 男 [古王の名，Māndhatr の息子，諸神を助けるために悪魔を征服し，その報酬として不断の睡眠を与えられた]；漢訳 音写 [花の名] 莫姐君陀，(母注摺難) Mvyut.

[Muj, Muñj, 鳴り響く]。

muñca, [Muc の 現 形]。

Muñj → Muj.

muñja 男 蘆，すげ(菅)；[とくに藺の一種，学名 Saccharum munja. その繊維で婆羅門の聖紐を造る]；[諸人の名]；漢訳 麻，菓，草葛，鉤藤 Lal-v., Mvyut., Śikṣ.；腰帶索繫 Vajr-s. 音写 文閣，們又(草) Buddh-c., Mvyut.

muñja-keśa 形 Muñja 草に似た髪をもつ (Viṣṇu 神 および Śiva 神)。男 [諸人の名]。

muñja-dhārin 形 Muñja 草を(手に)持った。

muñja-nejana 男 Muñja 草の薄い液汁 (RV. 用例一回のみ)。

muñja-balbaja-jāta 形 [Pāli muñja-babbaja-bhūta] 漢訳 如鉤藤刺繡 Mvyut.；(音写) 如們又艸与波羅波艸 Mvyut.

muñjamaya 形 (因 -i) Muñja 草からなる。

muñja-mekhalin 形 Muñja 草の帯をもつ (Viṣṇu 神 および Śiva 神)。

muñjavat 男 [Soma 草の一種の称]；[Himalaya 山脈中の山の名]。

muñja-vāsa 形 Muñja 草の衣をもつ (Śiva 神)。

muñjātaka 男 [樹の一種]；[野菜の一種]。

muñji-Kr, Muñja 草に変える，(樹を)砕いて繊維とする。

Muṭ, I. 自 moṭate 破る，砕く。

un- 折り取るまたは裂き取る。

prati- 使役 pratimotayati 亡ぼす，殺す。

muṭa 男 または 田 (?) 束または籠 (Divy., Kār-vy.)。

muṇḍa 形 頭を剃った，毛を刈った；禿げた(頭)；角のない(牝牛，山羊)；梢に葉のない(樹)；尖端をもたない，鈍い；漢訳 剃除，剃除鬚髮，髮落，剔除 Divy., Kāśy., Śikṣ.：~h samvṛttah 鬚髮自落 Divy. 37. → śirastuṇḍa ~. 男 頭を剃った または禿頭の人；[ある Daitya の名]；[王侯の名]；[Śiva 神の称]；漢訳 音写 [王侯の名] 文荼 Divy. 田 剃った頭，頭。因 (-ā) 剃髮女 [仏教の尼を輕蔑している]。

muṇḍaka 形 [Pāli 同じ] = muṇḍa (形) (Divy.)；

漢訳 禿，禿頭 Divy. 男 樹木の幹，梁。

muṇḍakopaniṣad (°ka-up°) 因 [ある Upaniṣad の題名]。

muṇḍana 田 (頭を)剃ること [± śiraḥ]. → śiras-tuṇḍa ~, śiro ~.

muṇḍanā 因 乞食女；寡婦；[植物の一種]；漢訳 剃髮 Mvyut.

muṇḍa-maṇḍali 因 多数の剃髮者；劣った軍勢の 一 団。

muṇḍa-mālā 因 [ある Tantra の題名]。

muṇḍa-mālikā 因 [同上]。

muṇḍaya 名動 他 muṇḍayati [Pāli muṇḍeti] (頭を)剃る。過受分 muṇḍita 剃られた，刈られた；禿げた。

muṇḍa-śayanāsana-vārika (°na-ās°) 男 (?) [muṇḍa? vārika 管理人] 漢訳 管鋪張者 Mvyut.

muṇḍa-śiras 形 漢訳 剃除鬚髮，剔除鬚髮，髡頭剔鬚 [Tib. mgo bregs] Kāśy.

muṇḍāpaya 名動 使役 [muṇḍaya] 剃る (Divy.)。

不定 muṇḍāpayitum.

muṇḍita 過受分 → muṇḍaya.

muṇḍita-muṇḍa 形 剃髮した，禿頭の。

muṇḍita-mūrdhan 形 [同上]。

muṇḍita-śiras 形 [同上]。

muṇḍin 男 頭を剃った [また Śiva 神の称]；角のない

mutava 男 または 田 (?) 草(の一種)。

mutkala 男 [人名]。

Mud, I. 自 [他 韻律] modate (-ti) (因, 華) (圓, 因) で陽気である・喜ばしい・喜ぶまたは楽しむ；漢訳 喜，受快樂，受喜樂 Abh-vy., Sūtr. 過受分 mudita (圓, —°) で嬉しい・喜ばしいまたは楽しむ。使役 他 modayati 喜ばせる。

anu- (業) とともに喜ぶ；(業) でまたはを喜ぶ；(ある人を) 鼓舞する；よしとする，認可する；(業) に (動 因 の 爲) することを許す；喜んでよしとする (Kār-vy.)；漢訳 隨喜，生隨喜，歡喜，欣慶 Bodh-bh., Divy., Saddh-p., Suv-pr. 使役 anumodayati 喜ばせる；是認して受け容れる；漢訳 隨喜，終無悔 Bodh-bh., Gand-vy., Rāṣṭr., Suv-pr. 使役

過受分 anumodita 喜ばせられた；味方に引き入れられた，好意的にさせられた；(圓, —°) の認可をもつ；是認して受け容れられた，欣然として歓迎さ

れた；喜んでよしとされた (*Kār-vy.*).

abhy-anu- 随喜, 生随喜心, 随其欢喜 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.* 使役 **abhy anumodayati** 起随喜心, 歡樂 *Saddh-p.* 使役 過受分 (圓) の同意を得た.

ā- 芳香を放つ. 使役 過受分 **āmodita** (一°) によって芳香を放つ.

pra- 陽気になる, 喜ぶ, 非常に喜ぶ; 生歡喜, 心常歡喜 *Suv-pr.* 過受分 **pramudita** 狂喜した, 喜んだ, 喜ばしい; 豊かな, すばらしい(秋). 使役 **pramodayati** 喜ばせる.

anu-pra- 使役 **anupramodayati** 深生随喜 *Madhy-v.* 使役 過受分 **anupramodita** 同意または認可を得た.

abhi-pra- 歡喜, 欣慰 *Abh-vy.*

prati- (業) に狂喜する, …を喜んで受け容れる.

使役 固 **pratimodayate** 喜ばせる, 陽気にする.

saṃ- 和合する (*Divy.*).

prati-saṃ- (業) に丁寧に挨拶する (*Divy.*, *Jāt-m.*);

安慰開諭 *Gaṇḍ-vy.* 使役 **pratisaṃmodayati**

歡慰, 慶慰, 安慰, 慰問 *Bodh-bh.*

mud 喜悅, 愉快, 歡喜 [しばしば 種].

muda 男 (擬人化された) 歡喜; 喜 *Śikṣ.*

mudā 喜悅, 歡喜.

mudānvita (°dā-an°) 喜悅に満ちた, 満足した.

mudā-yukta 形 [同上].

mudā-yuta 形 [同上].

mudita 過受分 喜んだ等 → **Mud.** 喜, 歡喜, 喜心, 忻悅 *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.* 男 召使の一種.

mudita-puṣpā 女 [Gandharva 女の名] (*Kār-vy.*).

muditā 女 歡喜 (*Lal-v.*); 喜, 喜心, 發喜, 發喜心, 歡喜 *Abh-vy.*, *Bodh-c.*, *Dharm-s.*, *Mvyut.*; 歡(地), 歡喜(地), (初) 歡喜(地) *Lank.*

muditā-vihārin 形 住喜, 安住喜, 常住喜 *Aṣṭ-pr.*

muditāśaya (°ta-ās°) 形 勝喜心, 喜意樂 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*

mudira 男 雲.

mudga 男 隱元豆(の一種) [学名 *Phaseolus Mungo*: その植物および種子を称す]; 豆, 大豆, 小豆, 綠豆, 綠荳 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, 梵雜.

mudgara 男 槌; 槌状の武器; 槌, 金槌, 槌, 錘, 棒 *Divy.*, *Lank.*, *Muñj-m.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*; 音写 母訥訖囉 *Guhy-s.*

mudgaraka (女) **-ikā** = **mudgara** 男.

mudgarin 形 槌を持った.

mudgala 男 (歡呼), [諸人の名]; [聖仙の名]; [人名] 取綠豆女; 音写 勿伽羅, 沒力伽羅, 目健連 [=Maudgalyāyana (?)] 玄應.

mudra 形 陽気な, 喜ばしい (AV. 用例一回のみ).

mudraṇa 中 (一°) を封じることまたは閉ざすこと.

mudraya 名動 他 **mudrayati** 印を押す; 封じる; 印刷する; 印, 印封, 封印 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.* 過受分

mudrita 封じられた, 印が押された; (一°) の極印

または記号をもつ; (眠, 一°) で封じられた; 印刷された; 閉ざされた(目, 手, 花); 避けられた.

un- (書状を) 開封する, 破り開く. 過受分 **unmudrita** 解放された, 釈放された.

vi- 閉ざす, 栓をする; 開く, 始める.

mudrā 女 刻印つきの指環, 封印 [また押じた跡形: 通常の意義]; (木) 活字; 印章, 押した跡形; 記号, 表徴, 徽章; 封, 錠 [一° = 封せられた, 閉ざされた(目, 唇, 口)]; 秘密; (身体に印された神聖な) 記号; (宗教的礼拝または呪術的儀式における) 印契; 直接的の指名, (その) 本名をもって (あるものを) 呼ぶこと; 印, 封印, 印璽; 印契, 印母, 印相, 手印, 手算; 齒印 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Suvik-pr.*; 音写 [数の名] 姥達羅 *Mvyut.*; ~ayā **mudritam** 以齒印之, 以齒印印 *Divy.* 433.

mudrā-kara 男 作印契者 *Śikṣ.*

mudrākṣara (°rā-ak°) 中 印章の文字, 活字.

mudrāṅka (°rā-aṅ°) 形 [同下].

mudrāṅkita (°rā-aṅ°) 形 (一°) をもって印された, 記号をつけられた, …の捺印をもつ.

mudrā-bala 中 音写 [数の名] 目陀羅婆羅, 木陀羅婆羅 *Lal-v.*, *Mvyut.*

mudrā-yantra 中 印刷機.

mudrāyantrālaya (°ra-āl°) 男 印刷場.

mudrā-rākṣasa 中 **Rākṣasa** (ある大臣の名) と指環 [*Viśakhadatta* 作の戯曲の題名].

mudrā-lipi 女 捺印された書類, 印刷物.

mudrā-sthāna 中 刻印つきの指環をはめる(指の)場所.

mudrikā 女 刻印つきの指環; 指環; 刻印つきの貨幣; 印契; 環, 戒指印, 戒止印 *Mvyut.*

mudrita 過受分 → **mudraya**. 所印 *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Sapt-pr.* 中 (因) に捺印すること.

mudrita-pāṃsu 形 埃または砂の上に印をつける(水滴).

mudrita-mukha 形 口を閉じたまたは唇を合わせた.

mudhā 副 いたずらに, 無益に, 全く空しく; 偽わって, 不正に; 疑迷 *Śikṣ.*

muni 男 靈感を得た人(因); 賢人, 予言者, 苦行者, 隱者, [とくに] 沈黙の誓約をした者(團, まれに *Br.*); (心中の) 予言者 = 良心; (種) [七賢人 = 七人の *Rṣi* または大熊星座の七星]; [Buddha または *Arhat* の称]; [諸人の名]; [マンゴー樹の名, *Artemisia indica*, *Butea frondosa*, *Buchanania latifolia* および *Agati grandiflora*]; 仙, 仙人, 大仙, 神仙, 黙, 寂黙, 寂黙者, 仁, 尊, 仏 [Buddha の音写], 世尊, 如来 *Abh-k.*, *Buddh-c.*, *Divy.*, *Guhy-s.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Muñj-m.*, *Raṣṭr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*; (音写) 牟尼尊 *Bodh-bh.*; 音写 牟尼, 父尼, 茂泥 *Abh-k.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Sāṃkhy-k.*, *Sūtr.*, 玄應. 女 [Dakṣa の娘の名].

muni-keśa 形 **Muni** のように(長)髪を蓄える (AV. 用例一回のみ).

muni-gāthā 女 (音写) 牟尼之頌 *Divy.*

muni-jana-samstuta 形 神仙所讚 *Suv-pr.*

muni-tanayā 女 [ある Muni の娘の名].
 munitā 女 Muni としての状態または性格.
 munitva 中 [同上].
 muni-nātha 男 [Buddha の称].
 muni-patni 女 Muni の娘.
 muni-paramparā 女 中絶のない伝承.
 muni-putra 男 苦行者の息子.
 muni-vana 中 苦行者の(住む)森, 隠者の森.
 muni-vara 男 七 Muni 中の最上者, [大熊星座中の一である Vasīṣṭha の称]; 苦行者中の最勝者.
 muni-vṛṣan 男 最大である Muni.
 muni-veśa 男 苦行者の衣服.
 muni-vrata 形 苦行者の誓約(=沈黙)を守る.
 muni-śreṣṭha 男 漢訳 仏 [Buddha の 音写] Mañj-m.
 muni-suta 男 Muni の息子.
 munindra 男 苦行者の長, 大賢; [Buddha または Jina の称]; 漢訳 仁中尊 Lal-v.; 音写 牟尼尊 Śikṣ.
 munindratā 女 大賢人たること.
 munindrā 女 [Kimpnara 女の名] (Kār-vy.).
 munimuṣa, [地方の名].
 muniśa (°ni-iśa) 男 苦行者の王, 大賢人, 大苦行者, [Śākya-muni および Vālmiki の称]; 漢訳 法王 Lal-v.
 muniśvara (°ni-iś°) 男 [同上]; [Viṣṇu 神および Buddha の称].
 muny-anna 中 覆 苦行者の食物.
 mumukṣā 希求 女 [Muc] 解放の欲求, (從)からの解放の欲求.
 mumukṣita 希求 過受分 自由になりたいと思う.
 mumukṣu 希求 形 (從)から(業)を解放したいと思う; (業)を中止または放棄したいと思う; (業, 一°)を放射または発したいと思う; (因)に(矢 業)を放とうと思う; 自由になりたいと願う, 最後の解脱に向けて努力する.
 mumukṣutā 女 解放または最後の解脱の欲求.
 mumukṣutva 中 [同上].
 mumucu 男 [聖仙の名].
 mumūrṣā 女 死の希求; 瀕死の状態.
 mumūrṣu 希求 形 死を願うまたは覚悟した; 死に臨んだ, 瀕死の.
 mumokṣayiṣu (希求 使役) 形 [Muc] 救いたいと思うまたは望む.
 mumocayiṣu (希求 使役) 形 [同上].
 mummuni 男 [人名].
 mura 男 [Viṣṇu 神または Kṛṣṇa 神に殺されたある Daitya の名].
 muraci 女 [河の名].
 muraja 男 太鼓(の一種), 鼓.
 murajaka 男 [Śiva 神のある侍者の名].
 murajā 女 漢訳 大杖鼓 Mvyut.
 mura-jit 男 Mura の征服者, [Kṛṣṇa 神または Viṣṇu 神の称].
 mura-dviṣ 男 Mura の敵, [同上].
 mura-bhid 男 Mura の撃破者, [同上].
 mura-mardana 男 Mura の圧伏者, [同上].

mura-ripu 男 Mura の敵または圧伏者.
 murala 男 [淡水魚の一種]; (國) [住民の名]; Murala 族の王侯.
 muralā 女 [Kerala 国にある河の名].
 muralikā 女 [人名].
 mura-vāra 男 [Turuṣka 族の王侯の名].
 mura-vairin 男 Mura の敵, [Kṛṣṇa 神または Viṣṇu 神の称].
 mura-han 男 =mura-jit.
 murāri 男 =mura-vairin; [ある戯曲作者の名].
 muru 男 [国の名]; [Kṛṣṇa 神に殺された Asura の名].
 murucikā 女 漢訳 帶穗 Mvyut.
 muruṇḍa 男 [王の名].
 Murch → Mūrch.
 murmura 男 消えようとする余燼; 穀殻の火.
 mulālin 男 食用の蓮根.
 mulāli 女 [同上] (AV. 用例一回のみ).
 muśala 男 中 [=musala] 漢訳 杵 Divy.
 Muṣ, I. 他 moṣati (RV. 用例一回のみ); VI. 他 muṣati (寂詩 まれに); IX. 他 自 muṣnāti, muṣnite (因, 重) 強奪する, 盗む, 奪い去る, 略奪する; (業)から(業)を盗む, 強奪する(因); 除去する; (眼, 心を)魅惑する, 恍惚とさせる; 盲にする, (眼を)くらます; (光, 知性を)暗くする, 曇らす; 優れる, 凌駕する; 漢訳 奪, 偷 Buddh-c., Divy. 受 muṣyate 漢訳 所取, 劫奪 Madhy-v. 過受分 muṣita (業)を盗まれた, 略奪された [例外として: muṣita], 強奪された; 除去された; 盲にされた, 暗くされた; 魂を奪われた; 裸の; あざむかれた; 愚弄された.
 ā- 取り去る, 持ち去る(因).
 pari- (業)から(業)を強奪する.
 pra- 取り去る, …を剝奪する; 漢訳 失, 忘失 Bodh-bh. 過受分 pramuṣita 取り去られた, 略奪された [また pramuṣta]; 魂を奪われた; 心を取乱した, 茫然自失した.
 saṃ-prā- 漢訳 忘失 Bodh-bh.
 vi- 現分 vimuṣayat 取り去る, 破壊する. 過受分 vimuṣta 取り去られた, 破壊された.
 saṃ- 強奪する, 剝奪する.
 muṣ 形 (一°)を盗む, 奪い去る, 剝奪する; 破壊する, (暗黒を)駆逐する; 凌駕する.
 muṣanātā 女 漢訳 壊, 断 Kāśy., Śikṣ.
 muśala, [=musala]; 漢訳 杵, 杖, 又 Śikṣ.: ayoma-ya ~ 鉄又 Śikṣ. 75.
 muṣāya 名動 他 muṣāyati 盗む, 奪い去る (RV.).
 muṣita 過受分 → Muṣ. 漢訳 盗, 偷, 奪, 劫, 被劫 Bodh-c., Divy., 梵雜.; 失, 忘 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Lal-v., Mvyut., Śikṣ, Vijñ-t.: ~ā smṛtiḥ 失念, 忘念 Vijñ-t. 29; 念失 Sūtr.
 muṣitaka 中 盗まれた財産.
 muṣita-trapa 形 (恋愛によって)恥辱感を失なった.
 muṣita-smṛti 形 記憶を失なった; [Pali muttha-sati. < mṛṣṭa-smṛti]; 漢訳 失念, 失念者, 忘失正念, 忘失本念, 意失 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Suvik-pr.

muṣita-smṛtitā 因 失念しやすいこと、不注意；
 意…失、忘失念、失念 *Mvyut.*
 muṣivan 男 強盜 (RV. 用例一回のみ).
 muṣka 男 拳丸；(圖) 女陰.
 muṣka-deśa 男 拳丸のある場所、そけい (鼠蹊)部.
 muṣta 過受分 → Muṣ.
 muṣtā-muṣti 副 拳々相い撃って、接戦して.
 muṣti 男 因 握りしめられた手、拳；手一杯 [また量の単位]；把手、柄 (劍等の)；綱要；
 拳、手拳 *Divy.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*；掬、一掬、掬持、把 *Lal-v.*；秘吝 *Bodh-bh.* 41；慳 *Sūtr.*：saktū [刊本 muñja] ~ m iva mahā-mārutena 猶如一把碎末麦麩被大風吹 *Lal-v.* 334. → ācārya ~, puṣpa ~.
 muṣtika 男 (一) の手一杯；[手の特殊の姿勢の一種]；[ある Asura の名]；(圖) [ある賤民の名]. 甲 拳闘；
 拳 [=mauṣtika] *Mvyut.*；兇険戯者 [Tib. gol ba. 魔術師] *Saddh-p.* 279.
 muṣti-grāhya 形 (片) 手でかかえられる (腰).
 muṣti-ghāta 男 拳での打撃. ~m 圖 [Han とともに] 拳で打つ.
 muṣti-prahāra 男 拳での打撃.
 muṣti-bandha 男 拳；手を握って閉じること；手一杯；
 結拳、努拳、持法 *Divy.*, *Mvyut.*
 muṣti-meya 形 (片) 手で測られるまたはだかれる (腰).
 muṣti-yuddha 甲 拳闘.
 muṣti-yoga 男 手に一杯または少量を渡すこと；
 懷抱、口訣 (?) [Tib. hkhyud sby ar, mkhyud sbyar] *Mvyut.*
 muṣti-vadha 男 農作物の荒廢.
 muṣti-han 形 拳で打つ、接戦する.
 muṣti-Kṛ, 手を握りしめる；(手を)握りしめる.
 musa 男 [植物の名].
 musala 男 甲 杵；棍棒、金棒；(鐘の)舌；
 碓、槌棒 *Lal-v.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*
 musalaka 男 漢語 [山の名] 杵山 *Divy.*
 musalāyudha (°la-āy°) 男 [(棍棒で身を固めた), *Baladeva* の称].
 musalin 形 棍棒を(手に)持った (*Śiva* 神). 男 [Baladeva の称].
 musali-BHū, 棍棒となる.
 musalolūkhala (°la-ul°) 甲 團 杵と臼.
 musaliya 形 棍棒で打たれるのにまたは棍棒で死ぬまで打たれるのに価する.
 musalya 形 [同上].
 musāra 漢語 王、馬腦 梵千., 立応；
 音写 牟娑羅、牟娑洛、謨薩羅、摩娑羅、目娑羅 立応.
 musāra-galva 男 [珊瑚の一種]；
 漢語 車渠、碑磧；琥珀；馬腦、碼齒；紺色宝 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Sukh-vy.* I. II., 立応；
 (音写) 牟娑羅宝 *Bodh-bh.*；
 音写 牟娑落揭拉婆、目娑羅伽羅婆、目娑邏伽羅婆、摩娑羅伽羅婆 *Sukh-vy.* II., 立応.
 musta 男 甲 [芳香のある草の一種、学名 *Cyperus rotundus*]；
 漢語 附子、香附子 *Mvyut.*, *Suv-pr.*；
 音写 目窠哆 *Suv-pr.*
 mustaka 男 甲 [同上]；
 漢語 香附子 梵維.

mustakā 因 [同上].

mustā 因 [同上].

musti, [=muṣti] 拳 *Mañj-m.* 12.

Muh, IV. 他 (圖) muhyati (-te) (因, 圖) 当惑または困惑する、途方に暮れる；さ迷う、誤る、あざむかれる、惑わされる；意識を失なう；混乱に陥いる；失敗する；
 漢語 迷惑、迷乱、迷悶、迷没、迷障；
 疑、入疑、愚疑；
 醉、迷醉；
 忘、失；
 苦；
 不了；
 封著 *Abh-vy.* *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Kaśy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Śikṣ.*；
 漂 *Lal-v.* 194. 過受分 mugdha および mūḍha. 使役 他 (韻律 圖) mohayati (-te) 混乱させる、困惑させる、当惑させる、知覚を失なわせる、迷わせる；
 混乱に陥いらせる；
 失敗させる. 使役 過受分 mohita 混乱した、知覚を失なった等. 強意 圖 momuhyate 非常に困惑させられる.
 ati- 全く途方に暮れる. 過受分 atimugdha 啞然とした.
 vy-ā 圖 (因) において混乱に陥いる. 過受分 vyāmūḍha 困惑した、惑わされた. 使役 vyāmohaya- 混乱させる、惑わす、知覚を失なわせる、魅惑する；
 漢語 誑惑、迷誑 *Lank.*
 un- 過受分 unmugdha 困惑した；
 愚鈍な、愚かな.
 pari- 困惑または当惑する；
 さ迷う、誤る；
 過受分 parimūḍha 困惑した. 使役 parimohaya- 途方に暮れさせる；
 混乱状態に陥いらせる. 使役 過受分 parimohita 困惑した、知覚を失なった.
 pra- 困惑または失神する、氣絶する；
 漢語 迷、迷惑、愚盲 *Lank.*, *Rāṣṭr.* 過受分 pramugdha 知覚を失なった、知覚のない、氣絶した；
 全く魅惑する；
 pramūḍha 困惑した、知覚を失なった；
 魂を奪われた、愚かな. 使役 pramohaya- 困惑させる、知覚を失なわせる.
 vi-pra- 使役 vipramohaya- 知覚を失なわせる. 使役 過受分 vipramohita 困惑した、明瞭な意識のない.
 saṃ-pra- 困惑に陥いる、(精神が)曇る；
 漢語 迷乱 *Divy.* 過受分 saṃpramugdha, saṃpramūḍha 困惑した. 使役 saṃpramohaya- 困惑させる、明瞭な意識を奪う.
 prati- 使役 pratimohaya- 当惑させる. 因 prati-muhyate 漢語 所惑 *Lank.*
 vi- 困惑する、知覚を失なう、失神する；
 漢語 生迷、悶乱荒迷、忘失 *Gaṇḍ-vy.*, *Suv-pr.* 過受分 vimugdha 困惑した；
 vimūḍha (一) に関して途方に暮れた、当惑した、不確実な；
 愚かな. 使役 vimohaya- 困惑させる、知覚を失なわせる；
 惑わす、魂を奪う；
 (路を)消す. 使役 過受分 vimohita 困惑させられた等；
 魅せられた.
 saṃ- 困惑または無意識に陥いる；
 ぼんやりとしている、(圖)に(天空の方位が)不分明となる；
 漢語 迷惑、錯 *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.* 過受分 saṃmugdha 迷った；
 途方に暮れた、心の混乱した；
 明瞭に理解されない；
 saṃmūḍha 困惑した、知覚を失なった；
 (一) に関して途方に暮れた；
 愚かな；
 (圖)よりも一層愚かな；
 裂けた(雲). 使役 saṃmohaya- 困惑させる、知覚を失なわせる；
 惑わす、魂を奪う；

迷 迷, 惑, 迷惑 *Abh-vy., Daś-bh.*
muhu 副 にわかにか, たちまち (RV.).
muhur 副 にわかにか, たちまち [しばしば後に ā を伴う] (因); 一瞬間, しばらくの間 (RV.); それに反して (因); 毎瞬時, 繰返して, 間断なく (因): ~ ~ [同上]; **漢訳** 須臾, 須臾須臾, 須臾之間, 屢 *Buddh-c., Mañj-m., Śiks.* ~...~あるいは...あるいは, ある時には...またある時には.
muhús-cārin 形 繰り返し起る.
muhūrta 男 中 [名動] **漢訳** muhur の **過受分**, たちまち経過した] 瞬時, 即時; 四十八分の間 (一日の三十分の一); **漢訳** 須臾, 瞬息須臾, 少時, 時, 暫時, 分 *Abh-k., Bodh-bh., Buddh-c., Divy., Mvyut., Saddh-p., Śiks.*; **音写** 牟休多, 牟呼栗多, 目呼刺多, 摩睺多 *Abh-k.*, 空. ° 副 ただちに; ちよつとの間. ~m 副 **漢訳** 須臾, 須臾間, 暫時, 少許時 *Bodh-bh., Divy., Gand-vy., Lal-v., Prāt-m., Śiks.:* ~m āgamaya 請待須臾 *Lal-v.* 103.; āgamaya ~m 且待須臾 *Gand-vy.* 167.; ~m vicārya 暫時 斂念 *Gand-vy.* 468.; ~m anuvicintya 繫念須臾, 須臾繫念 *Gand-vy.* 145. 男 ~ena ただちに, やがて; **漢訳** 暫 *Suv-pr.* → eka~ena. 副 ~āt やがて, 即座に.
muhūrtaka 男 または 中 (?) 瞬間; 時間; **漢訳** 須臾 *Saddh-p.*
muhūrta-kovida 男 (吉兆の時に通曉した), 占星家.
muhūrta-mātra 中 **漢訳** 須臾之頃 *Sukh-vy.* I.
 ~m 副 **漢訳** 不久 *Suv-pr.* ~eṇa 男 副 **漢訳** 於須臾間 *Mañj-m.*
muhūrta-muhūrtam 副 **漢訳** 須臾須臾 *Bodh-bh.*
muhūrta-rāga 形 ちよつとの間熱烈なまたは執着した.
muhūrtā 因 (擬人化された) 時刻; [*Dakṣa* の娘の名].
 [Mū, I. 固 **mavate** 結ぶ, 縛る, 閉じる].
mūka 形 おし (啞) の, 無言の; 静寂な, 黙った;
漢訳 啞, 瘖, 啞者, 瘖者, 瘖瘖, 瘖瘖 *Aṣṭ-pr., Av-ś., Bodh-bh., Buddh-c., Lal-v., Lañk., Śiks.*
mūkatā 因 おし (啞) であること; 沈黙.
mūkatva 中 [同上].
mūkavat 副 おしのように.
mūkāṇḍa-ja 形 鳥の鳴かない (林).
mūki-Kṛ, おしにさせる, 黙らせる.
mūjavat 男 [山の名] (因); (因) [西 *Himālaya* 山脈中に住するある住民の名].
mūṭa 男 または 中 籠または束 (*Divy., Kār-vy.*). → muṭa.
mūḍha **過受分** [Muh] 迷った; 進路を失なった (船); (因), (一) について困惑した・混乱した・当惑したまたは不確実な; 愚鈍な, 愚かな, 鈍い, 低能な; 途方に暮れた; **漢訳** 癡, 癡迷, 癡者, 狂癡, 癡乱, 癡狂, 癡愚人; 迷, 迷惑, 迷愚, 荒迷, 愚, 愚癡, 愚癡執, 愚蒙, 愚瞶, 懷愚癡者, 凡愚, 昏愚, 呆子; 無明, 無知, 無覺 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Lal-v., Lañk., Mvyut., Prāt-m., Rāṣṭr., Saddh-p., Sāṃkhy-k., Śiks., Sūtr., Suv-pr.* 男 愚者, まぬけ; 因 (*Sāṃkhya* 哲学における) 諸要素

(の称) (因). 中 心の混乱.
mūḍha-citta 形 **漢訳** 狂癡心, 荒迷不覺知 *Suv-pr.*
mūḍha-cetana 形 愚鈍な, 愚かな.
mūḍha-cetas 形 [同上].
mūḍhatara 比較 **漢訳** 愚者 *Śiks.*
mūḍhatā 因 困惑, 知覺喪失, 夢中にさせること; 愚鈍, 愚昧.
mūḍhatva 中 [同上].
mūḍha-dṛṣṭi 形 鈍い目つきの, 愚鈍な, 愚かな.
mūḍha-dhi 形 鈍才の, 愚鈍な, 愚かな.
mūḍha-prabhu 男 愚者の長, 大まぬけ.
mūḍha-buddhi 形 精神の混乱した, 鈍才の, 愚鈍な, 愚かな.
mūḍha-mati 形 [同上]; **漢訳** 愚癡, 暗鈍 *Rāṣṭr.*
mūḍhavat 副 愚者のように.
mūḍha-śatha-khaṭuṅka 形 **漢訳** 愚癡, 詭詐剛強 *Bodh-bh.*
mūḍhātman (°ḍha-āt°) 形 意識しない.
mūḍhi 因 **漢訳** 癡, 無明 *Abh-vy., Vijñ-t.*
mūṭa 1. **過受分** → Miv.
mūṭa 2. 男 中 編み籠.
mūṭaka 中 小籠 (Br. 用例一回のみ).
mūṭa-kārya 形 籠のように作られた.
mūṭiba 男 因 [住民の名].
mūṭoḍi [*Pali mutoli*] 農夫の用いる袋または大きな容器; **漢訳** 倉, 治場; 穢器, 滓穢瓶, 團廁 *Śiks.*
mūṭra 中 尿; **漢訳** 尿, 小便, (大) 小不浄 *Divy., Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Śiks., Suv-pr., Vijñ-v., 梵千.*; 溺 *Divy.* ~m Kṛ 放尿する.
mūṭra-kṛcchra 男 中 尿通困難; [(八種の) 泌尿器病の一種]; **漢訳** 淋 *Mvyut.*
mūṭra-doṣa 男 泌尿器病.
mūṭra-nirodha 男 尿閉.
mūṭra-pariṣin 形 **漢訳** 從穢処根生 *Vajr-s.*
mūṭra-puriṣa 中 (男 固 因) 尿と糞; **漢訳** 大小便利 *Śiks.*
mūṭraya 名動 固 固 **mūṭrayati** (-te) 放尿する. 固 ...に放尿する. **過受分** **mūṭrita** 放尿した. **ava-** ...に放尿する.
mūṭra-rodha 男 = **mūṭra-nirodha**; **漢訳** 小便不通 *Mvyut.*
mūṭroccāra 男 (?) 糞尿の排泄. 因 副 糞尿を排泄する間に.
mūṭrotsarga (°ra-ut°) 男 放尿.
mūṭrya 形 尿に関係する.
 [Mūr, 硬化するまたは固形化する]. → Mūrch.
mūra 1. 形 ばく進するまたは理性なき (= **mūra** 2.) (馬) [Miv] (RV. 用例一回のみ).
mūra 2. 形 鈍い, 愚鈍な, 愚かな (因).
mūra 3. 中 = **mūla**, 根 (因).
mūrkhā 形 [Mūrch] 鈍い, 愚鈍な, 愚かな; (因) に無経験な; **漢訳** 愚, 愚懵, 愚癡 *Śiks., 梵千., 梵雜.* 男 ばか者, 愚かな人; **漢訳** 愚, 愚夫 *Bodh-c., Suv-pr.*
mūrkhā-jana 男 **漢訳** 愚癡類, 愚癡凡人 *Madhy-bh.*
mūrkhātā 因 愚鈍, まぬけ, 愚かさ.

mūrkhatva 甲 [同上]; 愚癡, 愚惑 Śikṣ., *Suv-pr.*

mūrkhā-panḍita 男 学問のある愚者.

mūrkhā-bāla 形 愚, 愚夫 Śikṣ.

mūrkhā-maṇḍala 甲 愚者の集合.

mūrkhālikā 因 鳥の心臓の形をした矢; 如燕心朴頭 *Mvyut.*

mūrkhā-vyasani-nāyaka 形 愚かで不徳な指導者によって導かれた.

mūrkhā-śata 甲 種 たくさんの愚か者.

mūrkhī-BHū, 愚鈍または愚か者となる.

mūrcca [韻律, =mūrccā] 迷悶 *Saddh-p.*

mūrccana 甲 [=mūrccana] 悶絶 *Vijñ-t.*

mūrccā 因 昏, 迷, 悶絶, 不念 *Mvyut., Vijñ-t.*

mūrccita 過受分 [=mūrccita] 沈昏, 悶絶 *Mvyut., Śikṣ.*

Murch, I. 固 [Mūr (固形化する) の 転成] mūrchatī

[固, 因] には非常にまれ] 凝結する, 凍結する, 固形化する [まれに]; 硬直する, 氣絶する, 卒倒する, 無意識となる; (闇が) 濃厚となる; 厚くなる, 強力または優勢となる; 増す, 増大される, 多数となる; 強烈となる; 拡大する, 行きわたる; (因) に対して力をもつまたは勝つ; (因) に影響がある; 声高に響かせる [まれに]; つんぼにする [まれに]. 過受分

mūrta 凝結した (因); (堅固となった), 固い, 有形の; 形体を賦与された; 肉体をそなえた; 氣絶した, 卒倒した, 無意識の; 質礙 *Nyay-pr.*; mūrchita 無意識の, 卒倒した; 氣絶した [また意味上の主語の 固 とともに]; 甲 [非入]; 厚い; 遠方にまで広がった; 強い, 有力な; 増加した, 増強した; 膨脹した; (一) に満ちたまたはの行きわたった; (一) とまじり合った; 反射した (光線); 動揺した, 興奮した. 使役 他 [韻律 はまた 固] mūrchayati (-te) 凝結させる (S.); …に形体を与える (U.); 知覚を失なわせる; 強力にする; 興奮させる; 響かせる.

un- 知覚を失なう, 氣絶する.

vi- 過受分 vimūrta 凝結した, 固形化した (因);

vimūrchita 固形の塊りに形作られた, 膠質となった; (一) に満ちた; (一) で鳴り響く.

sam- 凝結する, 固体化する; 勢力を増す, 増加する, 強化される; 声高に響く; 悶絶 *Suv-pr.*

過受分 sammūrchita 知覚を失なった; 増加した, 強化された; (一) に満ちた; 反射した (光線); 調節された (音). 使役 sammūrchaya- 氣絶させる.

abhi-sam- 墨 に関してまたは関係して固形化する.

過受分 甚だしい混乱に陥った; 増大, 変異成 *Abh-vy.*

mūrccana 形 知覚を失なわせる; (一) を強める,

…を増加する. 甲 卒倒; (病氣, 火の) 強いこと, 激しいこと; [また -ā 女] 音調の規則的高下, 転調, 旋律; 悶絶 *Vijñ-t.*

mūrccanā 因 → mūrccana.

mūrccā 因 凝結, 凝固 (水銀の); 氣絶, 卒倒; 知覚喪失, 昏迷; 旋律; 迷悶 *Lal-v.*

mūrccākṣepa (°chā-āk°) 男 氣絶によって (なにかに) 不満足なことを表示すること (隱語).

mūrccāpagama (°chā-ap°) 男 氣絶から恢復すること.

mūrccā-parita 形 氣絶した, 知覚を失なつた.

mūrccāmaya 形 卒倒に似た.

mūrccita 過受分 → Murch. 愚; 悶絶, 懊惱 悶絶, 被迷, 迷悶, 迷悶 (覺地), 心迷乱, 不能醒覺 *Buddh-c., Divy., Lal-v., Śikṣ.* 甲 歌 (の一種).

mūrca 過受分 おしつぶされた等. → Mr 2.

mūrta 過受分 [Mūr]. → Murch, a~.

mūrtatva 甲 物的形体, 具体性; 質礙性 *Nyay-pr.*

mūrtaya 男 [人名].

mūrta 因 [Mūr] 固体, 物質的形態, 体 [種 固形部分]; 顕現, 権化, 具体化; 人体, 形態, 骨格, 姿, 外觀; 肖像, 立像; 美; [Dakṣa の娘の名]; 形, 相 *Daś-bh., Mañj-m.* 男 [聖仙の名]. 一° 形 …の形態をとつた.

mūrtitva 甲 具体性.

mūrta-dhara 形 体をもつ, 具体化された, 権化の.

mūrtimat 形 物質的形態をもつ, 有形の; 具体化された, 権化の, 擬人的の. 一° …の形態をもつ.

mūrta-vighneśa (°na-iśa) 男 種 [Śiva 神の (八つの) 示現および種々の Gaṇeśa].

mūrta-vyūha 男 [Bhagavat の化身の称].

mūrta-saṃcāra 形 = mūrta-dhara.

mūrta-sanātha 形 …の偶像を所有する.

mūrta-sundara 形 美の化身である.

mūrdha 男 固 [<mūrdhan] 頭 *Śikṣ. 141*

mūrdhābhiṣikta 形 灌頂 *Śikṣ. 59.*

mūrdha 男 [しばしば 一° =mūrdhan] 頂 *Lal-v.*

mūrdha-ga 形 (人の) 頭上に坐る.

mūrdha-gata 形 [Cakravartin の名] (*Divy.*); 頂生 *Mvyut.*

mūrdha-ja 男 種 (頭上に生じた), 頭髮; 鬘.

mūrdha-ṭaka (?) 男 [Tantra 神の名] 頂行 *Mvyut.*

mūrdhatas 副 頭から, 頭上に.

mūrdhatā 女 頂相 *Bodh-bh.*

mūrdhatva 甲 頂, 如人頂 *Abh-vy.*

mūrdhan 男 ひたい; 頭蓋; 頭; もっとも高いまたは

もっとも突き出た部分, (樹の) 先端, (山の) 頂上, 峰, (天の) 絶頂, (戦闘の) 前線; 首領, 主長; [精神状態の一種] (*Divy.*); 頂, 頂上, 頂門, 尖,

頭, 尊 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-c., Divy., Gaṇḍ-vy., Lanḱ., Madhy-vibh., Mañj-m., Mvyut., Raṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I.*; mūrdhnena

pratigṛhya 頂受 *Saddh-p. 93.* 固 mūrdhnaḥ (因) (固) の頭に・前にまたは上に. 固 mūrdhni [同上];

頂上 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p.* mūrdhni Kṛ 頂受, 置於頂上 *Gaṇḍ-vy.* mūrdhni Vṛt 一切の上にある, 勝つ. mūrdhni DHṛ 頭上に持つ, 非常に

尊敬する. mūrdhni ā-Dā 頭上に戴く, 非常に尊敬する, (墨) に大きな価値を置く. mūrdhni mūrdhnā

頭上に, 前に, 上に. mūrdhnā Kṛ = mūrdhni ā-Dā.

mūrdhanya 形 頭蓋または頭の上にある；頭に形作られた，反舌音(セレブラル) (文法)；主な，抜群の。
 mūrdha-pratiṣṭhāna 形 覆住，其形如伏 Gand-
 vy.
 mūrdha-prāpta 形 為第一，最為其上，最為元首 Saddh-p.
 mūrdha-sthāyin 形 最在其上，立(諸法)頂 Saddh-
 p.
 mūrdhāgata (°dha-āg°) 中 [恍惚状態の一種] (Di-
 vy.).
 mūrdhāta 男 [太子の名] 頂生 Divy.
 mūrdhāna 男 頂 Madhy-bh.
 mūrdhānta 男 腦天。
 mūrdhābharāṇa (°dha-ābh°) 中 頭蔽 Mvyut.
 mūrdhābhiṣikta 形 (頭に水をそそがれた)，灌頂され
 た，神聖な即位式を行なった(王)；灌頂 Aṣṭ-pr.,
 Bodh-bh., Divy., Mvyut. 男 灌頂された王。
 mūrdhābhiṣeka 男 (王の)灌頂，神聖な即位式。
 mūrdhāvasikta 男 [混血種姓(階級)の一種，婆羅門
 と刹帝利の女との子孫]。
 mūrdhāvasthā 女 頂位 Sūtr.
 mūrvā 女 [大麻の一種，学名 *Sansevieria roxbur-*
ghiana，これで弓弦および刹帝利の紐帯を作る]。
 mūrvāmaya 形 Mūrvā 製の。
 mūla 中 [一°形 (因 -ā, -i)] [=mūra 3. (因)] 根；食
 用の根；つけ根(齒，指，腕，尾等の)；(山の)麓，
 基底，下部；地平線；底；すぐ隣；基礎，起
 原，本源，発端；要所，首都；元金；原典，
 原文 [註釈]；一時的所有者 [正当な持主]；
 平方根。 中 または 男 [第十一または第十九番目の
 Nakṣatra の名]。 一° 形 主要な； 一° 形 …に
 その根をもつ，…に基づく，…から派生した； 根，
 本，根本，能生根本，下，根下；尾 *Abh-vy.*，
Aṣṭ-pr.，*Bodh-bh.*，*Lank.*，*Mvyut.*，*Saddh-p.*，
Sāmkhy-k.，*Śikṣ.*，梵千，梵雜；羅葡 梵雜； 一° 下，
 側，辺 *Aṣṭ-pr.*，*Divy.*；因，由，*Buddh-c.*，*Lal-*
v.；āhāra ~ 由飲食 *Buddh-c.* 105；duḥkhasya
 ~ m 苦本 *Saddh-p.* 92. ~ m Kṛ 根を下す，根づ
 く，堅固な足場を得る。 ~ m Bandh [同上]。 ~ m
 kramataś ca [*Pāli* mūla-kāraṇato 参照] 初めから
 引き続いて正しく (*Divy.*)，mama ~ m 私の側に，
 私へ。 ~ āt 根底から，徹底的に。 ā ~ āt 発端
 から。 ~ ād ārabhya [同上]。
 mūlaka 形 (因 -ikā) …にその根をもつ，…から生じ
 たまたは派生した。 男 中 大根 (の一種)。 男 [王
 侯の名]。 中 根。
 mūla-karman 中 根を用いる呪法。
 mūla-kāraṇa 中 根本のまたは第一の原因。
 mūla-krechra 男 中 根 (のみを食べる) 苦行。
 mūla-khānaka 男 根を掘る者。
 mūla-grantha 男 原典；[*Śākya-muni* の説法の称]；
 根本，本典 *Mvyut.*
 mūla-citta 中 心根；根本心 *Sūtr.*
 mūla-cchinna 形 根元から切り除かれたすなわち消滅し
 た(希望)。
 mūla-ccheda 男 (樹を)根元から伐り倒すこと。

mūla-cchedin 形 原典を破壊する(出色の伶俐)。
 mūla-ja 形 根から成長する(植物)；(樹の)根元に作ら
 れた(蟻塚)。
 mūla-tattva 中 根本真実，本実 *Madhy-bh.*，
Madh-vibh.
 mūlatas 副 下に；[ā とともに] 根から；発端から(話
 す)。
 mūlataḥ-sarga 男 根生 *Sāmkhy-k.*
 mūlatā 因 (一°) の根本または本源たること。
 mūlatva 中 [同上]。
 mūla-deva 男 [諸人の名]。
 mūla-dvāra 中 正門；大門 *Divy.*
 mūla-nikṛtta 形 根折 *Divy.*
 -mūla-nikṛtana 形 (因 -i) 根本的に伐り除く，(一°)
 の根(も葉をも)を断つ，完全に無にする。
 mūla-parivāsa 男 別住 (parivāsa) を最初からやり直
 すこと；根本別住，随応挙過；(音写) 波利婁
 沙本 *Mvyut.*
 mūla-puruṣa 男 (根本の人)，(一族の)男性の代表者。
 mūla-prakṛti 女 根本のまたは未開展の原質 [*Sāmkh-*
ya 因，また *pradhāna* と称せられる]；(覆)(戦時
 において考慮されるべき)主な君主[四人を数える]；
 本性 *Sāmkhy-k.*
 mūla-praṇihita 形 密偵を介して当初から察知された
 (盗賊)。
 mūla-phala 中 根と果実；資本の利子。
 mūla-bala 中 根力 *Sūtr.*
 mūla-bhava 形 根から成長する。
 mūla-phāga 男 下部。
 mūla-bhṛtya 男 世襲の下僕。
 mūla-mantra 男 主要なまたは根本的な本文；呪文。
 mūla-mantramaya 形 (因 -i) 呪文を構成する，呪文
 のような効験のある。
 mūla-mānāpya (°na-āp°) 中 根本意喜 *Mvyut.*
 mūla-rāmāyaṇa 中 根本の(すなわち *Vālmiki* の) *Rā-*
māyaṇa。
 mūla-vacana 中 根本の語または本文。
 mūlavat 形 (食用の) 菜根を備えた(場所)，真直ぐに
 立つ。
 mūla-vāpa 男 (食用の) 菜根の栽培者。
 mūla-vijñāna 中 根本識 *Vijñ-t.*
 mūla-vināśana 中 完全な破壊。
 mūla-vyasana 中 非難すべき世襲的な職業。
 mūlavyasana-vṛttimat 形 世襲的な賤業を生業とし
 た。
 mūla-vyādhi 男 主要な病気。
 mūla-vratin 形 もっぱら菜根で生活する。
 mūla-sarvāsti-vāda 男 覆 [仏教部派の名]；説
 根由家，語一切有部，根本説一切有部，説言一切有
 部 *Mvyut.*
 mūla-sarvāsti-vādin 男 覆 [同上]。
 mūla-sādhana 中 主要な道具または方策。
 mūla-stambha 男 主要な支柱。
 mūla-sthāna 中 基本；主要な場所。
 mūla-sthāyin 形 本初から存続する(*Śiva* 神)。
 mūla-srotas 中 河の主流。

mūla-hara 形 (圖) の根を取り去るすなわち…を完全に打ち破る。

mūla-haratva 中 完全な崩壊。

mūlā 因 [第十七または第十九 Nakṣatraの名]; 根元, 尾, 尾宿 *Divy.*, *Mañj-m.*

mūlāpakarṣa-parivāsa 男 [Pali mūlāyapaṭikassana. Bhikṣu の罰の一種で別住 (parivāsa) の罪を犯した者が, 別住しつつある間にさらに罪を犯した時に再びもとの別住を初めから科すもの] (*Mvyut.*); 根本除却別住 *Mvyut.*; (音写) 応行波利婁沙行 *Mvyut.*

mūlāpakarṣa-mānāpya 中 [Bhikṣu の罰の一種で mānāpya (Pali mānatta) の罪を犯した者がその罰を受けつつある間にさらに罪を犯した時に再びもとの mānāpya を初めから科すもの] (*Mvyut.*); 根本除却意喜 *Mvyut.*; (音写) 応行摩那輒, 応行摩那埵行 *Mvyut.*

mūlāpatti (°la-āp°) 因 重罪, 犯重, 根本罪, 罪過根本 *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*; (音写) 謨羅波底 *Bodh-c.*: catasro ~ ayo gurvyah 四重罪, 四重禁, 四根本最極重罪 *Aṣṭ-pr.* 777.

mūlāyatana (°la-āy°) 中 根本の住所または所在。

mūlāsin (°la-ās°) 形 根で生活する。

mūlika 形 根本の; 根本 *Abh-vy.* 菜根で生活する苦行者; 苦行者 *Av-s.*

mūlikā 因 呪法に用いられる(木, 草の根)。

mūlin 形 根をもつ。

mūli-karaṇa 中 平方根を求めること。

mūli-Kṛ, 平方根を求める。

mūloccheda (°la-uc°) 男 根絶, 絶滅。

mūlotkhāta (°la-ut°) 形 根こそぎ掘り出された, 全く破壊された。中 根を掘り出すこと。

mūlotpāda (°la-ut°) 男 本生, 根本起 *Mudhy-v.*

mūlodddharāṇa (°la-ud°) 中 (圖) を根絶する手段。

mūlauṣadhi (°la-oṣ°) 因 [植物の一種]。

mūlya 形 根に付けられた。中 価格, 市価; 賃金, 報酬; 所得; 元金; 価, 価直, 価値, 直, 値 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-c.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*; 利, 財利 *Lank.*: koṭi-sahasra ~ 価直千億 *Saddh-p.* 89.; śata-sahasra ~ 価直百千 *Saddh-p.* 428.; ~ m upadiṣṭam 断直 *Divy.* 32. → alpa ~. ~ena 圓 圓 支払いとして。~ena Kṣam 価直 *Saddh-p.* ~ena Grah 買う。~ena Dā 売る。~ena Mārg 買おうと努力する。~ena pari-Vṛt 貿易 *Śikṣ.*

mūlyaka 中 価格, 価値。

mūlya-karaṇa 中 元金に繰り入れること, 正金に換えること。

mūlya-dravya 中 購買金。

mūlya-vivarjita 形 極めて貴重な。

mūṣ 男 因 はつかねずみ (RV.)。

mūṣa 中 [同上], ねずみ; 鼠 *Mvyut.*

mūṣaka 男 ねずみ, はつかねずみ; 盗人, 強盗;

鼠 梵千., 梵雑。

mūṣika 男 ねずみ, はつかねずみ; 鼠, 鼯鼠

Bodh-bh., *Lank.*, *Saddh-p.*, *Sur-pr.*, *Śikṣ.*

mūṣika-nirviśeṣa 形 はつかねずみと異なるない。

mūṣika-viṣa 中 鼠毒 *Lank.*

mūṣika-viṣāṇa 中 はつかねずみの角 (= 実在しないもの)。

mūṣika-sthala 中 もぐら塚。

mūṣikā 因 = mūṣika。

mūṣikākṛti (°kā-āk°) 形 ねずみの尾のような形の。

mūṣikā-hairāṇyika 男 [人名] 鼠金舗主, 鼠金商主 *Divy.*

mūṣikānta-kṛt 男 (ねずみを殺すもの), 猫。

mūṣikotkara (°ka-ut°) 男 = mūṣika-sthala。

mūṣitu-kāma 形 欲劫 *Divy.*

Mṛ 1., I. 他 自 marati (-te) (RV., 用例一回のみ) [三過

mamāra (吠, 華); VI または 受 mriyate (吠, 華) 叙詩

および 韻律 他 °ti] 死ぬ; 死, 終没 *Mudhy-v.*,

Saddh-p. 三過 能 分 mamṛvas; 受 mamruṣi 死にひ

んした人。受 mriyate 死, 死随, 命終 *Abh-vy.*

過受分 mṛta 死んだ; 去った; 無感覚な, なきがら

のような; (意識 samjñā) の去った; 無効な, 無益な,

無用な; 燬焼された(水銀)。使役 他 [叙詩] はまた

自 mārayati (-te) 死なせる, 殺す, 殺害する; 燬焼

する; 殺, 死 *Abh-vy.*, *Lank.*, 梵千。 孟羽

他 mumūrṣati 死にたいと思う, まさに死のうと

している。強意 marimarti 死の苦痛を受ける。

anu- (業) に続いて死ぬ, 殉死する。過受分 anu-

mṛta …に殉死したまたは殉死された。

abhi- 死をもって苦しめるまたは汚す。

upa- 使役 upamāraya- 水中に投ずるまたは沈める。

pari- (業) の廻りで死ぬ。

pra- 過受分 pramṛta 死亡した, 死んだ。使役

pramāraya- 死に導く。

Mṛ 2., IX. 他 mṛṇāti (吠) つぶす, 粉碎する, 破

壊する。過受分 mūrṇa おしつぶされた, 破壊され

た。

pra- おしつぶす, 破壊する。

vi- [同上]。

mṛkaṇḍa 男 [古聖者の名, *Mārkaṇḍeya* の父]。

mṛkaṇḍu 男 [同上]。

Mṛkṣ. [Mṛj の転成] VI. 他 mṛkṣati (RV.); I. 他

mṛakṣati (華) 擦る, なでる, 馬ぐしでこする;

塗, 坊 *Lal-v.*, *Mañj-m.* 過受分 mṛakṣita

塗られた, (圓) を塗られた。使役 他 mṛakṣayati

塗る; 詐称 *Divy.*

abhi- (圓) をもって擦るまたは塗布する (叙詩)。使役

ābhimṛkṣaya- [同上]。

sam- 過受分 samṛakṣita 摩擦された。

mṛkṣa 1. [Mṛj の三過の幹]。

mṛkṣa 2. 男 櫛 (RV. 用例一回のみ)。

mṛkṣiṇi 形 因 分解する, 破裂した (?) (RV.)。

mṛga 男 [Mṛj: 歩き回る] 森の獣, 野獣, 獵獣 [通

常の意義]; 鹿, かもしか [通常の意義]; じゃこう鹿;

(月中の) かもしか [月の黒点は野兎またはかもしかに

似ると考えられている]; (天空の) かもしか [= 月宿

Mṛgaśiras]; 磨羯宮 [十二宮の一]; 象(の一種); 舞

い上る大きな鳥 (RV.) [まれに]; じゃこう (= mṛga-

nābhi) ; 鹿, 麋鹿, 鹿, 野獸, 猛獸 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Lanik., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., 梵千., 梵雜.*
mṛga-kāka 男 鹿と鳥.
mṛga-kānana 中 獵獸の森, 獵区.
mṛga-kopa 男 森林の獸に対する怒.
mṛga-grahaṇa 中 鹿の捕獲.
mṛga-cakra 中 [技術の一種] (*Divy.*).
mṛga-cakra-lipī 女 鹿輪書 *Lal-v.*; (音写) 蜜履迦書, 弥伽遮迦書 *Lal-v.*
mṛga-caryā 女 鹿のように行動すること (苦行の一種); 常被鹿皮衣 *Śikṣ.*
mṛga-cārin 形 [同上 形].
mṛga-jambuka 男 鹿と豺.
mṛga-jāti 女 鹿の種類, 鹿の全種属.
mṛga-jivana 男 (狩猟で生活する), 獵師.
mṛga-trṣā 女 (鹿の渴望), 昼気楼.
mṛga-trṣṇā 女 [同上]; 渴獸, 鹿渴, 野鹿渴愛, 獸愛水, 渴獸取為水, 獸愛空水; 陽焰, 熱時焰, 春時焰, 空中焰 *Lanik.*
mṛga-trṣṇi 女 [同上].
mṛga-trṣṇikā 女 [同上]; 鹿渴, 鹿愛, 陽焰 *Lanik., Mvyut., Śikṣ.*
mṛgatva 中 かもしかたる状態.
mṛga-dāva 男 鹿の園; 鹿苑, 鹿野苑, 施鹿林, 野獸林 *Divy., Lal-v., Mvyut.*
mṛga-dṛś 男 磨竭宮 [十二宮の一]. 女 かもしかのような眼をもつ婦人.
mṛga-dvija 男 鳥獸.
mṛga-dhara 男 (かもしかを持った), 月 (太陰).
mṛga-nābhi 男 じゃこう; じゃこう鹿.
mṛganābhi-ja 形 じゃこう鹿に由来する.
mṛga-pakṣin 男 鳥獸; 禽獸 *Bodh-bh.*
mṛga-pati 男 野獸の王, 獅子または虎; 鹿の王, 雄のノロ鹿; 獸王, 獅子 *Divy., Sam-r.*
mṛga-prabhu 男 野獸の王, 獅子.
mṛga-prekṣin 形 …鹿をのように見る, 鹿のような目をもつ.
mṛga-mada 男 [また 覆] じゃこう; 麝, 麝香; 片腦 *Mvyut.*
mṛga-manda 男 [象の一種].
mṛga-mandā 女 [獅子 *Sṛmaras* (および *Camaras*) の神話的女性祖先の名].
mṛga-mandra 男 = *mṛga-manda*.
mṛgamaya 形 野獸に由来する.
mṛga-māmsa 中 鹿の肉, 狩猟で得た獸肉; 鹿肉, 麋肉 *Divy.*
mṛga-māsa 男 *Mārgaśīrṣa* 月.
mṛga-mukha 男 磨竭宮 [十二宮の一].
mṛgaya 名動 自 [叙譯 はまた他] *mṛgayate* (-ti) (野獸を) 狩る, 追う, 追跡する; 探す, 搜索する; 穿鑿する, 調査する; 訪ねる; (業) を探し求める・ねらうまたは得ようと努力する; (業) を (因, 属) *śakāśāt, -tas*) に請求するまたは乞う; 求, 求乞, 尋, 尋求, 徴 *Bodh-bh., Divy., Mvyut., Śikṣ., 梵千.* 現分 **mṛgayamāna** 求覓 *Divy.* 現分

mṛgyamāna 求, 尋求 *Madhy-v., Śikṣ.*
mṛgayas 男 野獸 (RV. 用例一回のみ).
mṛgayā 女 狩猟, 狩ること. [業 または因: 「行く」という意義の 動 (Gam, Yā, pari-DHāv) とともに 狩猟に行く; 遊行遊獵 *Divy*
mṛgayā-kriḍana 中 狩猟の楽しみ.
mṛgayā-kriḍā 女 [同上].
mṛgayāṇa, [mṛgaya の 現分].
mṛgayā-dharma 男 狩猟に関する規則, 狩猟法.
mṛgayā-yāna 中 狩猟に行くこと.
mṛgayāranya (°yā-ar°) 中 狩猟林, 獵区.
mṛgayā-rasa 男 = *mṛgayā-kriḍana*.
mṛgayā-vana 中 狩猟林, 獵区.
mṛgayā-vihāra 男 狩猟の楽しみ.
mṛgayā-vihārin 形 狩猟を楽しむ.
mṛgayā-veṣa 男 狩猟用の服.
mṛgayā-vyasana 中 狩猟の事故.
mṛgayā-śila 形 狩猟に没頭した.
mṛgayu 男 獵師.
mṛga-yūtha 中 鹿の群.
mṛgayūtha-pa 男 鹿群の長; 鹿王 *Av-ś.*
mṛga-rathāka 男 鹿車 *Bodh-bh., Saddh-p.*
mṛga-rāj 男 獸類の王, 獅子または虎; 獅子宮 [十二宮の一].
mṛga-rāja 男 [同上]; 月 (太陰); 獸王, 師 *Rāṣṭr., Śikṣ.*
mṛga-rājatā 女 獸類の王たること.
mṛgarāja-dhārin 男 [(月を戴いた, 月を頂の飾りする), *Śiva* 神の称].
mṛgarāja-lakṣman 形 獅子または月の標識または称号もつ.
mṛga-rājini 女 [Gandharva 女の名] (*Kār-vy.*).
mṛga-rocanā 女 鹿の胆汁で製した黄色顔料.
mṛgarkṣa (°ga-rk°) 中 鹿かもしかまたは熊.
mṛga-lakṣman 男 (かもしかを標幟とした), 月 (陰).
mṛga-lāñchana 男 [同上].
mṛga-lipsu 形 鹿を捕えようとまたは殺そうと思う.
mṛga-lubdhaka 男 獵, 獵師, 敗獵 *Lal-v., Saddh-p.*
mṛgalubdhaka-pāśa 男 鹿寄網 *Śikṣ.*
mṛga-lekhā 女 (月中の)鹿のような線条.
mṛga-lomika 形 羊毛の.
mṛgava 中 (音写) [数の名] 没哩迦嚙, 秘立伽麻 *Mvyut.*
mṛgavati 女 [熊および *Sṛmara* の祖先の名].
mṛga-vadha 男 捕獵, 遊獵 *Av-ś., Bodh-bh.* ~āya nirgataḥ 遊獵射戲 *Av-ś.II. 103.*
mṛgavadha-śikṣā 女 捕獵法 *Bodh-bh.*
mṛga-vadhū 女 牝鹿.
mṛga-vana 中 獵獸に富んだ森林, 獵区.
mṛgavya 中 狩猟, 狩ること.
mṛga-vyādha 男 野獸の殺戮者, 獵師; 天狼星, 座 (星座); [*Śiva* 神の称].
mṛga-vyāla-niṣevita 形 野獸および蛇の出没する.
mṛga-sāvika 女 かもしかの横臥した姿勢. ~m

かもしかのように静かに横たわる。
mṛga-sāva 男 若い鹿, 子鹿。
mṛga-sāvaka 男 鹿 鹿 鹿 *Ar-s.*
mṛgasāvākṣi 女 子鹿のような眼をもつ婦人。
mṛga-sīras 男 [(鹿頭), 第三(後世は第五)月宿の名];
 二十八宿の一] 鹿首, 荷, 荷宿 *Diry.,*
Mañj-m., Mvyut.
mṛga-sirṣa 男 [同上]; [Nāga の名] (*Kār-vy.*); 鹿頭, 鹿首 *Diry.*
mṛga-srṅga-vratin 男 鹿角行者 *Mvyut.*
mṛga-sreṣṭha 男 獣類の最勝者, 虎。
mṛga-sūkara 男 鹿と牡豚。
mṛga-han 男 獣類の殺戮者, 獵師。
mṛga-hantr 男 [同上]。
mṛgākṣi 女 かもしかのような眼をもつ婦人。
mṛgākḥara (°ga-ākh°) 男 獣の臥床(巢)。
mṛgāṅka 男 (かもしかのしるしのある), 月(太陰);
 [ある剣の名]; [人名]。
mṛgāṅkaka 男 [ある剣の名]。
mṛgāṅka-datta 男 [諸人の名]。
mṛgāṅka-dattiya 形 *Mṛgāṅkadatta* に関する。
mṛgāṅka-bandhu 男 月の友; 愛の神。
mṛgāṅka-maṇi 男 月長石。
mṛgāṅka-mālā 女 [人名]。
mṛgāṅka-mūrti 男 月(太陰)。
mṛgāṅka-mauli 男 [(月を頂の飾りとする), *Śiva* 神の称]。
mṛgāṅka-lekhā 女 [(月中の線条), *Vidyādhara* の王女の名]。
mṛgāṅkavati 女 [諸王女の名]。
mṛgāṅka-sena 男 [ある *Vidyādhara* の王の名]。
mṛgāṅganā 女 牝鹿, 牝かもしか。
mṛgājira 男 鹿の闘技場 (*Buddh-c.*)。
mṛgāṭavi 女 獵に富んだ森林, 獵区。
mṛgādhipa 男 獅子。
mṛgādhipatya (°ga-ādh°) 男 獣類の王たること。
mṛgādhirāja 男 獣類の君主, 獅子。
mṛgāra 男 [AV. 4, 23-29 の作者の名]; [*Prasenañjit* の大臣の名]。
mṛgāra-mātr 女 [人名] 鹿母, 鹿子母, 鹿母夫人, 獣母, 持獣女 *Diry., Lañk., Mvyut.*
mṛgārāti 男 鹿の敵; 獅子。
mṛgāri 男 獣類の敵, 獅子または虎。
mṛgāvati 女 [諸王女の名]。
mṛgi 女 牝かもしか, 牝鹿; 鹿 鹿 鹿 鹿 *Diry., Vajr-s.:* ~ *gyām jātaḥ* 生於鹿胎 *Vajr-s.*
 212.
mṛgi-kṣīra 男 牝かもしかの乳。
mṛgitva 男 牝鹿たる状態。
mṛgi-drś 女 かもしかのような眼をもつ婦人。
mṛgi-locanā 女 [同上]。
mṛgekṣaṇa (°ga-ik°) 男 かもしかの眼。
mṛgekṣaṇā (°ga-ik°) 女 かもしかのような眼をもつ婦人。
mṛgendra (°ga-in°) 男 獣類の王; 獅子; 虎; 獅子宮

[十二宮の一]; 獅子, 師子(王) *Gand-vy.,*
Lañ-v.
mṛgendratā (°ga-in°) 女 獣類の王たること。
mṛgebha (°ga-ibha) 男 鹿と(または)象。
mṛgeśvara (°ga-iś°) 男 獣類の王, 獅子。
mṛgottama (°ga-ut°) 男 かもしかの最上者, きわめて美しいかもしか。 [月宿 *Mṛga-sīras* の称]。
mṛgya 1. 未受分 搜索または発見されるべき; 追跡されるべき, 狙われるべき; 研究されるべき, 疑わしい, 不確実な; まれな (*Jāt-m.*); 求 *Sūtr.*
mṛgya 2. 名動 他 *mṛgyati* 狩る; 発見する。
Mṛc, X. 他 *marcayati* (因) 傷つける, 害する。
mṛcaya 形 滅びやすい (*Br.*)。
mṛc-chakatika (°rd-ś°) 男 小さい粘土製の車 [*Sūdraka* (西暦五世紀?) の十幕からなる戯曲の名]。
mṛc-chakatikā (°rd-ś°) 女 [同上]。
Mṛch, VI. 目 *mṛchate* 滅びる (因 用例一回のみ)。
Mrj, II. *mārj-* (*mārṣti*), *mṛj-* (*mṛṣte*) (因, 男: 通常の形); *mṛjati* (-te) (因, 男: まれに); *mṛjate* (因: きわめてまれ)。使役 *marjayati* (-te) (因), *mārjayati* (-te) ぬぐう, 清める, 磨く; 滑らかにする, (馬の毛を) すぐ; 整頓する [また 目 自身を飾る]; 擦る, 撫でる; ぬぐい落とす, ぬぐいとる, ぬぐい去る; 掃き去る, 除き去る; 片づける, (罪, 負債を) (因) に転嫁する; 摩, 摸 *Lañk., Mvyut.* 因 *mṛjyate* ぬぐわれる等。過受分 *mṛṣta* 清められた, 浄化された; 磨かれた, 輝く; 純潔な; 塗られた, (因) を塗られた; 塗りつけられた(油); 味のよい; 愉快な(語), 快い(香氣); *mṛjita* ぬぐい去られた, 除かれた (*P.* きわめてまれ)。使役 過受分 *mārjita* 清められた, 磨かれた; 清い, 輝く; 塗られた, (因) を塗られた; ぬぐい去られた, 除かれた。強意 *marmṛjyate, marimṛjyate* (因) 反覆してぬぐう, 清める等; 自己を清める等。
apa- ぬぐい去る, 除く; 自己からある人に移す。
abhi- ぬぐう, 清める。
ava- 下の方に撫でるまたはぬぐう; ぬぐい去る。因 *avamṛjyate* (自己の体, 四肢を) ぬぐう。
ā- ぬぐう, 清める; ぬぐい去る, 洗い落とす。
un- 上の方にぬぐうまたは撫でる; 清め尽す; 自己の口をぬぐう (不変分 *unmṛjya* のみ); 目 得る, 受ける (因)。過受分 *unmṛṣta* ぬぐい去られた, ぬぐい取られた。使役 過受分 *unmārjita* 清められた, 磨かれた。
sam-un- 撫で上げる, 下から上に擦る。
ni- 擦りつける; ぬぐう; (因) に与える (因); 目 得する (因)。
nir- ぬぐう, ぬぐい去る, 抹消する。過受分 *nirmṛṣta* ぬぐい去られた。使役 *nirmārjaya-* 洗 *Mvyut.*
pari 周囲をぬぐう, 擦る, 清める, 磨く; 浄化する; (眼(墨)から涙)をぬぐう; 口をぬぐう; 撫でる, 愛撫する; ぬぐい去る, 洗い落とす, 掃き落とす, 除く, 脱する; 摩頂 *Gand-vy.* 因 *parimṛjyate* 磨かれるまたは磨く(齒)。過受分 *parim-*

rṣṭa ぬぐわれた, ぬぐい去られた, 除かれた;
parimṛjita または parimārjita 摩擦された, 清めら
れた, なめらかにされた. 使役 parimārjayati 摩
摩, 摸 Divy., Mṛyut.

anu-pari- 使役 不変分 anuparimārjya 周囲をぬぐ
って (Divy.); 使役 舐 Divy.: mukha-tuṇḍakenā-
nuparimārjya 以舌舐 Divy. 387.

saṃ-pari- ぬぐい取る, ぬぐい去る (Divy.); 使役
抹 Divy. 使役 saṃparimārjayati 捫摸, 摩
触 Gand-vy.

pra- ぬぐう, 磨擦する, 清める; 撫でる, 愛撫す
る; ぬぐい去る, 洗い落す, 掃い落す; 除く, 消散
させる, 破壊する; (願望を)空しくする; 使役 払,
捫, 摩捫 Divy., Lal-v., Vajr-pr.: aśrūṇi pra-
mṛjya 捫涙 Vajr-pr. 30. 過受分 pramṛṣṭa 清め
られた, 摩擦された; (圓)で擦った; 滑らかにされ
た, 磨かれた, 輝いた; ぬぐい去られた, 散らされ
た, 除かれた.

saṃ-pra- 洗い清める, ぬぐい去る, 除く (譬喩);
使役 摩 Daś-bh.

vi- ぬぐう, 清める; 擦って乾かす; 撫でる, 愛撫
する; (涙を)ぬぐい去る; 塗る, (圓)を塗る.
過受分 vimṛṣṭa (蠟で)塗られた, (一°)をもって
仕上をされた.

abhi-vi- (圓)で擦るまたは塗る.

saṃ- 摩擦する, 研ぐ; 洗い清める; 払う, 清める
(譬喩); (Somaを)こす; (灰等を除いて火を)清める
(圓); 撫でる, 愛撫する; 払い去る, 除く. 過受分
saṃmṛṣṭa 洗われた, 掃かれた, 清められた.

mṛja 形 (一°)をぬぐい去るまたは除く.

mṛjā 因 清めること, 洗うこと, 沐浴; 清潔; 清浄な
皮膚, よい顔色; 顔色.

mṛjāvat 形 清浄な.

mṛjita 過受分 → Mrj.

mṛḍa 形 慈悲深い, 憐み深い. 男 [Śiva 神の称].

mṛḍana 因 ゆるすこと, 祝福.

mṛḍāni 因 Mṛḍa の妻, Pārvati.

mṛḍāni-pati 男 [Śiva 神の称].

mṛḍānīvara (°ni-iś°) 男 [同上].

mṛḍi 因 =mṛḍāni.

mṛḍi-kānta 男 Pārvati の愛人, Śiva 神.

mṛḍi-pati 男 Pārvati の夫, Śiva 神.

mṛḍ(i)ika 因 慈悲, 恩恵 (RV.). 男 [讃歌の作者の
名].

Mṛṇ, [Mr 2. の第九類 mṛnā, mṛṇ から] VI. 因
mṛṇati おしつぶす (因 きわめてまれ).

mṛṇāla 因 (おしつぶされやすい), (食用)蓮根, 蓮の
繊維; 使役 蓮牙, 蓮枝根, 藕, 藕根 Divy., Lal-v.,
Mṛyut., 梵雜.

mṛṇālaka 形 一°, [同上].

mṛṇāla-komala 形 蓮糸のように繊細な.

mṛṇāla-bhaṅga 男 蓮糸の小片.

mṛṇāla-bhañjam 因 [BHañj とともに] 蓮糸を断つよ
うに断つ.

mṛṇālamaya 形 (因 -i) 蓮根からなる.

mṛṇāla-latikā 因 蓮の巻ひげまたは茎.

mṛṇālavat 形 蓮糸をもつ.

mṛṇāla-valaya 男 蓮糸からなる腕環.

mṛṇāla-sūtra 因 蓮の茎またま根の繊維.

mṛṇāla-hāra 男 蓮糸からなる首飾り

mṛṇālāṅgada 因 =mṛṇāla-valaya.

mṛṇālikā 因 =mṛṇāla 蓮; [人名].

mṛṇālikā-pelava 形 蓮糸のように柔かい.

mṛṇālikā-maya 形 (因 -i) 蓮根からなる.

mṛṇālini 因 蓮 [根茎等を含む]; 蓮の群.

mṛṇāli 因 (小さな) 繊維質の蓮根.

mṛta 過受分 → Mr 1. 使役 死, 死滅, 寿終, 殞
Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Lank., Saddh-p.,
Śikṣ., 梵千., 梵雜. → a~. 男 死人, 死骸 [また動
物の]; 使役 死屍 Śikṣ. 因 死亡; 乞食すること,
乞食によってえた食物.

mṛtaka 男 死人, 死骸; 使役 死屍 Śikṣ. 因 死.

mṛta-kambala 男 死骸に巻く布.

mṛta-kalpa 形 ほとんど死んだ, 意識を失なった, 夢
心地の.

mṛta-kuṇapa 男 使役 死屍 Av-ś., Daś-bh.

mṛta-grha 因 使役 塚 Mṛyut.

mṛta-cela 因 屍衣.

mṛta-jāta 過受分 死んで産まれた.

mṛta-jivana 形 (因 -i) 死者を蘇生させる.

mṛta-deha 男 死体, 死骸.

mṛta-dhāra 形 死骸を担う.

mṛta-dhāraka 形 [同上].

mṛta-nātha 形 死者を主人とする.

mṛta-niryātaka 男 棺かつぎ(人夫).

mṛta-pa 男 死体の見張り人.

mṛta-pariṣkāra 男 使役 亡故財物, 亡者資具. Mṛyut.

mṛta-puruṣa-śarira 因 人間のなきがら.

mṛta-pūruṣa-deha 男 [同上].

mṛta-praja 形 (因 -ā) 子女の死んだ.

mṛta-bhartṛkā 形 因 夫の死んだ.

mṛta-mātṛka 形 母の死んだ.

mṛtavat 因 死んだように: ātmānam ~ saṃdarśya:
死んだように装って, 死を装って.

mṛta-vastra-bhṛt 形 死衣をまとった.

mṛta-vārṣika 男 または 因 (?) (二十四時間以内にやむ
短かい雨の期間 (仏教)).

mṛta-śabda 男 …の訃報, 人が死んだという噂.

mṛta-śarira 因 使役 屍, 死屍 Aṣṭ-pr., Lank., Śikṣ.

mṛta-saṃjivana 形 死者を蘇生させる. 因 死者の蘇
生.

mṛta-saṃjivani 因 [同上 (因)].

mṛta-saṃjivin 形 死者を蘇生させる, 生を回復さ
せる.

mṛta-sūtaka 因 死産. 男 [水銀剤の一種].

mṛta-sūta-kula 因 使役 死家及生家 Lank.

mṛta-stri 形 妻の死んだ.

mṛta-hāra 男 棺かつぎ(人夫).

mṛta-hārin 男 [同上].

mṛtāṅga 因 屍.

mṛtāṅga-lagna (過受分) 因 (?) なきがらに衣服を
とわせること.

mṛtāṇḍā 形 女 その胎児が死んだ。
 mṛtāśauca 甲 死者に起因している汚れ。
 mṛtāha 男 …の命日。
 mṛtāhan 甲 [同上]。
 mṛtāhas 甲 [同上]。
 mṛti 女 死。
 mṛtiman 男 死を免れないこと。
 mṛti-rekhā 女 (掌の) 死の兆候となる線。
 mṛti-sādhana 形 死をひき起こす。
 mṛtotthita (°ta-ut°) 過受分 死んで再び生きかえった。
 mṛt-kaṇa 男 粘土の小塊。
 mṛt-kaṇatā 女 [同上 翻]。
 mṛt-karman 甲 粘土細工。
 mṛtkarma-saṃpanna 形 粘土で覆われた。
 mṛt-khana 男 粘土の穴。
 mṛttika 男 甲 土, 泥土 *Prāt-m., Saddh-p.*
 mṛttikamaya 形 瓦器 *Mañj-m.*
 mṛttikā 女 [時として -a ° および 韻律] 粘土, 土;
 土, 土沙, 泥 *Bodh-bh., Divy., Gand-ry.,*
Mcyut., 梵千。
 mṛttikā-ghaṭaka 男 坏器 *Rāstr.*
 mṛttikā-tala 甲 土沙為地, 土沙以為其地 *Gand-ry.*
 mṛttikāvati 女 町の名]。
 mṛt-paca 男 陶器師。
 mṛt-paramāṇu 男 泥団微塵, 泥団与微塵 *Lañk.*
 mṛt-pātra 甲 土器; 甲 坏器 *Bodh-c.*
 mṛt-piṇḍa 男 粘土の塊り; 泥団 *Lañk.*
 mṛt-piṇḍatas 副 粘土の塊から。
 mṛtpiṇḍa-buddhi 男 (愚鈍な), 愚人, 愚か者。
 mṛt-prakṣepa 男 (浄化するため)…の上に土をまくこと。
 mṛtyu 男 死 [死の種類]; (死神として擬人化された) 死; (一°) に原因する死; 死, 死(屍), 夭, 命終 *Abh-k., Abh-ry., Lal-v., Rāstr., Śiks.;* 死魔 *Lal-v. : antarā ~* 中天 *Abh-k. III. 85.* 形 (一°) によって死ぬ。
 mṛtyuka 形 一°, 死の。
 mṛtyu-kanyā 女 死の女神。
 mṛtyu-kara 形 死を招来する。
 mṛtyu-kāla 男 死の時。
 mṛtyum-jaya 形 死にうち勝つ。男 [±man'ra. *Rg-veda VII. 59, 12* の讃歌の名]; [*Śiva* 神の称]。
 mṛtyumjaya-japa 男 *Mṛtyumjaya* 詩節を低誦すること。
 mṛtyu-tūrya 甲 葬式の時に(打たれる)太鼓。
 mṛtyu-dvāra 甲 死の門, 死の入口。
 mṛtyu-nāśana 甲 死を克服する薬, 不老不死の薬。
 mṛtyu-patha 男 死の路。
 mṛtyu-pā 形 死を飲む (*Śiva* 神)。
 mṛtyu-pāśa 男 死の足枷。
 mṛtyu-pratibaddha 形 死にやすまたは死にそうな。
 mṛtyu-bhaya 甲 死の恐怖; 死の危険。
 mṛtyu-bhīta 形 死を恐れる。
 mṛtyumat 形 死にそうな。

mṛtyu-māra 男 死魔 *Dharm-s., Śiks.*

mṛtyu-rāj 男 死の(王=)神。

mṛtyu-loka 男 死の世界; 死者の世界, *Yama* 神の住所。

mṛtyū-vijaya 男 [ある象の名]。

mṛtyu-śrama 男 死の苦痛。

mṛtyu-saṃdhita 形 死に陥いった。

mṛtyu-saṃmita 形 [同上]。

mṛtyu-sāt-Kṛ, 死にゆだねる。

mṛtyu-senā 女 死神の軍。

mṛtyūpapatti 女 死生 *Abh-k.*

mṛtsna 男 塵, 粉。

mṛtsnā 女 粘土, 土。

Mṛd, IX. 他 mṛdnāti; I. 他 [叙詩 はまた 自 mardati

(-te). 圧搾する, 烈しく圧するまたはおしつける; つぶす, つき砕く, 打つ, 粉碎する, 粉々に打ち砕く; 蹂躪する, 踏みつける; 荒廃させる, 圧倒する, 破壊する; 擦る, …へ擦りつける, …の上を滑らせる; (圓) と挽きまぜる, …と混和する; 擦り取る, ぬぐい取る, 除滅する; 踏, 踐踏 *Divy., Śiks.* 過受分 mṛdyamāna 被扱 *Divy.* 過受分 mṛdita

つぶされた, 粉にされた。使役 他 [韻律 はまた 自] mardayati (-te) 烈しく圧搾するまたは圧する; つぶす, 粉碎する; 踏みつける; 虐待する, 苦しめる, 悩ます; 擦る; 蹂躪させる; 摧滅, 輾壊, 輾壊摧滅 *Śiks.* 強意 marmar(t)ti つぶす (*RV.* 用例一回のみ)。

ati- 使役 虐待する, 悩ます。

abhi- 踏む, 踏みつける; 粉碎する, 破壊する;

能伏, 能降伏 *Ast-pr.*

ava- [同上]; 擦する; 勝伏 *Abh-ry.* 使役

avamardaya- 粉碎する, 破壊する。

upa- 除く, 破壊する。使役 upamardaya- 荒廃させる, 破壊する; 除く, 排除する。

pari- 踏みつける; 擦る, 撫でる; (涙を)ぬぐい去る; 凌駕する。過受分 parimṛdyate 擦りへらされる(齒)。

過受分 parimṛdita 粉にされた, つき砕かれた。使役 過受分 parimardayamāna 摧滅, 除滅 *Gand-ry.*

pra- 踏みつける; 粉碎する; 非常に苦しめる, 荒廃させる, 破壊する; 碎, 壊 *Lal-v.* 使役

pramardayati おしつぶす, 踏みつぶす; 摧伏, 摧滅, 輾除, 輾壊, 摧滅, 降伏 *Gand-ry., Śiks.*

使役 過受分 pramardita つぶされた, 踏みつけられた。

vi- つぶす, 打つ, 粉にする, 粉碎する; 荒らす; 擦る。使役 過受分 vimardita つぶされた, 打たれた, 破壊された; 踏みつけられた; 擦られた, (一°) で擦られた。

sam- つぶす。使役 sammardaya- つぶす; 擦る。

mṛd 女 (粉にされた土), 粘土, 肥土, 土; 土塊; 土の塚; 芳香のある土(の一種); 土, 泥, 土泥, 泥団, 瓦 *Abh-ry., Lañk., Mañj-m., Saddhp.*

mṛdaṅga 男 太鼓(の一種); 小鼓, 杖鼓 *Lal-v.,* *Mcyut.*

mṛdā 女 粘土, 肥土, 土。

mṛdita 過受分 → Mṛd.

mṛdita-kuṣika 形 [dāva とともに] 漢訳 [林の名] 蹂腹(林) Divy.

mṛdu 形 (女 -u または -vi) 柔らかい, 繊細な, 柔軟な, しなやかな; 温和な, 優しい; 弱い, 微かな; 遅い(歩み); 漢訳 軟, 軟, 柔, 柔軟, 細軟, 柔和, 軟滑, 軟品; 軽微; 小, 末, 小後; 下, 下品, 下劣, 劣; 鈍; 嫩 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Lank., Mvyut., Rāṣṭr., Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr. 男 中 優雅なこと; 漢訳 触 Madhy-v. 中 副 優しく, 柔らかく.

mṛduka 形 柔らかい; 漢訳 柔軟, 柔稜, 柔和, 調柔, 妙; 下品 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Saddh-p. ~m 副 優しく, 柔らかく.

mṛdukā 女 [ある Apsaras の名] (Kar-vy.).

mṛdu-kopa 形 温和な(容易に怒らない).

mṛdu-gandhika 中 漢訳 [花の名] 《麝香》, 妙香味 Mvyut.

mṛdu-gātra 形 漢訳 身柔軟, 身支柔軟 Mvyut.

mṛdu-gāmin 形 ゆるやかに行く, 静かなまたは穏かな歩み振りの.

mṛdu-gir 形 声の優しい

mṛdu-jihva 形 漢訳 舌柔軟, 舌美軟, 舌軟美 Mvyut.

mṛdu-taruṇa 形 漢訳 柔軟殊妙, 柔稜殊妙 Śikṣ.

mṛdutaruṇa-pāṇi-pāda 形 漢訳 [三十二相の一] 手足柔軟, 手足細軟 Bodh-bh.

mṛdutaruṇa-pāṇi-pādatā 女 漢訳 [三十二相の一] 手足細軟, 手足柔軟相 Bodh-bh.

mṛdutaruṇa-hasta-pāda-tala 形 漢訳 手足柔軟, 手掌足下細軟, 手足柔(如兜羅綿) Mvyut.

mṛdutaruṇahastapāda-talatā 女 漢訳 [三十二相の一] 手足柔軟相 Dharm-s.

mṛdutaruṇopacita-pāṇi-pāda (°ṇa-up°) 形 漢訳 手足柔軟細滑 Gaṇḍ-vy.

mṛdutā 女 柔らかいこと; 優しいこと; 弱いこと; 緩和すること; 漢訳 下品 Bodh-bh.

mṛdu-tikṣṇa 形 優しく(同時に)粗暴な.

mṛdu-tikṣṇatara [同上 比較].

mṛdu-tāmirika 形 漢訳 微髻, 輕翳眼 Bodh-bh.

mṛdutva 中 柔らかいこと, 優しいこと, 柔和なこと; 漢訳 下品, 軟(根)者 Bodh-bh.

mṛdu-pūrva 形 柔らかい, 温和な(語). ~m 副 優しく, 甘言をもって勧めて.

mṛdu-prayatna 形 僅かな努力をもって発音される.

mṛdu-prauḍha 形 全く優しい; 柔和でしかもごう慢な.

mṛdu-bhāva 男 優しいこと.

mṛdu-bhāṣitā 女 優しい言葉.

mṛdu-bhāṣin 形 優しく語る; 漢訳 楽談語, 語言時柔稜(可愛) Aṣṭ-pr.

mṛdu-madhya 形 (女 -ā) [kṣānti の称として] (Divy.); 漢訳 下中 Abh-vy., Bodh-bh.

mṛdu-madhyādhimātra 形 柔軟と中庸と過度の; 漢訳 下中上 Bodh-bh.

mṛdu-mṛdu 形 漢訳 下下品 Abh-vy.

mṛdu-yuddha 形 なげやりに戦う.

mṛdu-yuddhatā 女 [同上 編].

mṛdura 男 [水棲獣の一種]; [Svaphalka の息子の名].

mṛduri 男 [mṛduvid の異読].

mṛdula 形 柔らかい, 柔軟な, 優しい.

mṛdu-vacana 中 漢訳 柔軟語言, 聞皆敬受 Aṣṭ-pr.

mṛdu-vāc 形 優しく語る.

mṛduvid 男 [Svaphalka の息子の名].

mṛdu-sūrya 形 太陽が温和に照る(日).

mṛdu-sparśa 形 触感の柔らかい.

mṛdu-svara 男 漢訳 和音, 声微妙 Suv-pr.

mṛdū-Kṛ, 柔らかにする.

mṛdū-bhāva 男 和らげること; 減ずること.

mṛdū-BHū, 柔らかくなる, 心が和らぐ.

mṛd-ga 形 地中にある, 粘土中に生長する.

mṛd-ghaṭa 男 陶土製の瓶.

mṛd-bhājana 中 漢訳 瓦器, 土器 Abh-vy., Divy.

mṛd-bhāṇḍa 中 土器; 漢訳 器, 瓦器 Mañj-m., Saddh-p.

mṛdbhāṇḍāvaseṣam 副 (ただ)土器のみを残して=土器を除く他のすべてのものを(盗む).

mṛdv-aṅga 形 (女 -i) 四肢の柔軟な, 優美な姿の(婦人).

mṛdv-adhimātra 形 漢訳 下上 Bodh-bh.

mṛdv-adhimātratā 女 漢訳 下上, 上下 Abh-vy., Sūtr.

mṛdv-indriya 中 漢訳 鈍根 Bodh-bh., Saddh-p. 形 漢訳 軟根, 鈍根, 有鈍根, 下根 Bodh-bh., Mvyut.

mṛdvi, [mṛdu の 女]. → mṛdu.

mṛdvikā 女 ぶどうの木; ぶどう; 漢訳 蒲桃 Abh-vy., Kāśy.; 葡萄酒 Mvyut.; 音写 末度迦 Abh-vy.

Mṛdh, I. 中 mardhati (因) いやになる, 無視する, 忘れる, 見棄てる.

mṛdh 女 (因) 輕蔑; 侮る者.

mṛdha 男 中 戦い, 戦闘(軍).

mṛdha-bhū 女 戦場.

mṛdhas 中 輕蔑: [Kṛ とともにのみ] 侮る, 賤しめる, 輕蔑する (RV.).

mṛdhra 中 中 (RV.) 侮蔑, 輕蔑.

mṛdhra-vāc 形 輕蔑的に語る, ののしる (RV.).

mṛnmaya 形 (女 -i) 粘土または土で作られた, 土製の; 漢訳 泥, 泥作, 瓦 Divy., Lank.; 垢濁 Gaṇḍ-vy.: ~eṣu kṣetreṣu 垢濁世界, 垢濁国土, 垢濁(仏)刹 Gaṇḍ-vy. 男 中 陶製の物品または容器; 漢訳 瓦器 Bodh-bh. 中 [grha とともに] 粘土の家, 墓.

mṛl-loṣṭa 中 粘土または土の塊り.

Mṛs, VI. 中 (因) mṛsati (-te) (因, 軍) 触れる, 撫でる; 精神的につかむ, 反省する, 思考する; 漢訳 取 Lank.

ati- [編 atimarsam のみ] 付加音節を挿入して.

anu- つかむ (因); 思考する (叙詩)

abhi- (因) をもって触れる・つかむまたは握る. 使役

abhimarsayati 触れる; 触れさせる. 漢訳 abhi-

marmṛs- 握る+なわち待ち望む (因).

praty-abhi- 触れる, つかむ.

ava- (業) に触れる, ...をつかむまたは感ずる; 思考

する。

anv-ava- 触れる, つかむ。

praty-ava- つかむ; 反省する, 瞑想する。

ā- 触れる; (穀物等を) 食い尽くす; 精査する, 熟考する; 觸, 順摩 *Buddh-c., Mrvyut.* 過受分

āmrṣta 触れられた; 辱しめられた(婦人); つかまれた, 所有された。使役 **āmarśayati** 瞑想する。

parā- 触れる, …をつかむ, 握る; 粗雑に取り扱う, 襲う; (祭壇の) 神聖をけがす; (婦人に) 暴行する; 言及する, 意味する; 思考する; 捫, 摸; 取, 取著, 執受; 謂; 聞乘 *Ast-pr., Bodh-bh., Kāśy., Mrvyut.* 過受分 **parāmrṣyate** 意味される。

過受分 **parāmrṣta** 触れられた, つかまれた等。

pari- 触れる, 感ずる; つかむ; 握る; 思考する; 熟慮する; 試験する, (ある人に) 質問する; 知覚する, 観察する。

vi- 撫でる, 感ずる; 精神的につかむ, 思考する, 反省する [通常の意義: 非常にしばしば 不変分 **vimrṣya**]; (因) について(ある人を) 試験する, 試みる; (不定) することをちゅうちよする; 推求, 尋求; 観, 観察, 審観; 作念, 善簡択 *Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Madhy-v.* 使役 **vimarśayati** 考察する, 思考する, 熟慮する。

anu-vi- 思考する, 反省する。

saṃ-vi- [同上]。

sam- 觸 自 触れる, つかむ; 自 相互に触れまたはつかみ合う。

Mrṣ, IV. 自 (因, 華), 他 (華) **mrṣyate (-ti)** [しばしば **Mrś** の 詞] 忘れる, ゆるがせにする (RV.); 辛抱強く我慢する, 容赦する, 忍ぶ, 堪える, [通常の意義]; (屬) をゆるす, 勘弁する, 寛恕する; …(ある人) をこらえる, 好む [na とともに: こらえない, 好まない]; (不定) することを許可する, 認める; 忍 *Śikṣ.* 使役 他 自 **marśayati (-te)** 忘れさせる (因); 堪える, 忍ぶ; 容赦する, ゆるす, 看過する [一般に目的語なく]; (ある人が 屬) することを (現分 業) 許すまたは認める; (屬) から…されることを忍ぶ; [na とともに] 放置しない, 干渉する; 忍受, 忍辱, 容忍 *Divy., Madhy-bh., Madhy-vibh.* **api-** 忘れる, ゆるがせにする。

ā- 辛抱強く我慢する。使役 **āmarśayati (-te)** [同上]。

upa- 使役 **upamarśayati (-te)** 忍ぶ, 堪える, 看過する。過受分 **upamarśita** 認容された, 黙認された; 同意された, いやがられない; [na とともに] 好んで許容されない。

pra- (業は 自 とともに, 為は 他 とともに) をゆるがせにする, 忘れる (RV.)。使役 現分 **pramarśayat** 極忍 *Sūtr.*

mrṣa, [韻律 = **mrṣā**] 虚妄 *Saddh-p., Suvik-pr.* → a ~

mrṣatā 虚妄 *Suvik-pr.*

mrṣā 副 むなしく, 無益に, 目的なく; 不正確に, 誤って, 不真実に, 偽って, 架空に; 虚, 虚妄, 虚誑, 虚偽, 妄 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Madhy-v., Mrvyut., Saddh-p., Vajr-pr., 梵雜;* 妄

語, 妄言 *Mrvyut.* ~ **Kṛ** 偽る. ~ **Jñā** 誤ってまたは不真実に思考する. ~ **Man** [同上]. ~ **aiva (°ṣā-eva)** **tat** それは誤りである。

mrṣā-jñāna 誤った知識, 誤謬, 無知, 愚鈍。

mrṣātva 誤ったこと, 虚偽。

mrṣā-dāna 施与するというふりまたはその空約束。

mrṣā-dṛṣṭi 謬見をもつ。

mrṣā-dharma 誑詐 *Suvik-pr.*

mrṣānusāsanin (°ṣā-an°) 不正に罰する。

mrṣānusāsin (°ṣā-an°) [同上]。

mrṣā-bhāṣin 偽って語る. 男 うそつき。

mrṣā-moṣa 虚妄, 虚妄詐偽, 誑詐 *Daś-bh., Śikṣ.*

mrṣāmoṣa-dharmin 虚妄法 *Śikṣ.*

mrṣāya 名動 自 **mrṣāyate** 誤った見解を抱く。

mrṣārtha (°ṣā-ar°) 誤った目的をもつ, 不真実の。

mrṣā-lakṣaṇa 虚妄相 *Suvik-pr.*

mrṣā-vacana 妄語; 諷刺, 皮肉。

mrṣā-vāc 妄 [同上]; 妄語 *Bodh-bh.*

mrṣā-vāda 男 [同上]; 妄語者, うそつき; 妄語, 妄言, 虚誑語, 言虚妄, 虚誑無益談説, 妄, 誑 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Dharm-s., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mrvyut., Prāt-m., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.:* ~ **āt prativiratiḥ** 不妄語, 離虚誑語 *Mrvyut.*; ~ **ād vinivartayamānān** 除滅妄語, 不作虚誑無益談説 *Gaṇḍ-vy. 89.*; ~ **ād vinivārayati** 不妄言, 令禁止妄言 *Gaṇḍ-vy. 155.* 偽って語る。

mrṣāvāda-virati 妄 乘妄, 不妄語, 離虚誑語 *Mrvyut.*

mrṣā-vādin 妄語する, 嘘をつく; 妄語, 妄言, 虚妄言, 虚誑語 *Ast-pr., Gaṇḍ-vy.*

mrṣā-satya 妄諦, 虚妄諦, 虚妄実 *Bodh-bh.*

mrṣodya (°ṣā-ud°) 不正の陳述; 嘘をつくこと。

mrṣta 1. 過受分 → **Mrj.** 美; 瑩, 瑩飾, 莊嚴; 摩, 磨瑩, 光沢 *Bodh-bh., Daś-bh., Mrvyut., Sūtr., 梵千., 梵雜.; 糞 (?) 梵雜.*

mrṣta 2. 過受分 → **Mrś.**

mrṣta-kukṣi 腹光沢, 身無不脩 *Mrvyut.*

mrṣta-kunḍala 磨かれたまたは輝いた耳環をつけた。

mrṣta-gātra 身支光悦, 身光沢(如雕琢) *Mrvyut.*

mrṣta-yaśas 純正の榮譽または名声のある。

mrṣta-vākya 快く語る。

mrṣta-salila 清い水をもつ(河)。

mrṣtānulepana 軟膏を塗られた。

mrṣtāsin (°ta-ās°) 美食をとる。

mrṣṭi 清潔にすること, 注意して料理すること; 食物の注意深い調理。

me 1. [aham の 為 屬 附帶] 我, 我所 *Nyāy-pr., Sāṃkhy-k.*

me 2. 擬音: ~ ~ **Kṛ** (山羊が)メーメーとなく。

mekala 男 [山の名]; (種) [住民の名]。

mekala-kanyakā 女 [Mekala 山の娘, Narmada 河の称]。

mekala-śaila 男 Mekala 山。

mekalaśaila-kanyā 女 [Narmadā 河の称].
mekalā 女 [同上].
mekṣaṇa 田 [Miks] 木製の攪拌用匙, 柄杓.
mekhala 男 または 田 帯; (覆) [住民の名, 正しくは mekala]; 漢訳 絡腋, 宝鎖 Gand-vy., Guhy-s.; 音写 弥佉羅, 弥佉梨, 弥何羅 Gand-vy., Lan̄k.
mekhalā 女 [まれに -a 田] (男女の)帯, 腰帯; (馬の)腹帯; (三再生族に各固有な三本撚りの)紐帯 [婆羅門族は Muñja で作り, 刹帝利は弓弦で, 吠舍は羊毛, 亜麻または麻で作る]; 帯 [取り巻くまたは囲むものの 譬喩 に用いる]; 紐帯を締めて資格を授けること; (山の)斜面; [諸人の名]; 漢訳 帯, 腰帯, 金帯, 宝帯, 膊紹 Buddh-c., Lan̄k., Lal-v., Mvyut., Sukh-vy. I., 立応.; 音写 弥佉羅, 弥呵羅, 弥珂羅 Lan̄k., 立応.
mekhalā-dāman 田 帯, 腰帯.
mekhalā-pada 田 帯をまとう部分, 腰.
mekalā-bhu 形 一°…の地域に囲まれた.
mekhalin 形 帯を締めた; (一°)の帯またはである帯を締めた. 男 婆羅門の弟子, 宗教を修める学生, Brahmācārin.
mekhalottha (°lā-ut°) 形 帯から発する(音).
megha 男 雲 [一°, まれに = 多数]; [王侯の名]; [詩人の名]; [山の名]; 漢訳 雲, 浮雲, 雲雷, 雨 Abh-vy., Lan̄k., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sūtr., 梵千., 梵維.; 音写 弥伽 Gand-vy. → gr̄ha~, dharma~.
megha-kāla 男 雲の時, 雨期.
megha-kālī 女 漢訳 音写 [ある魔王の姉妹の名] 弥伽迦利 Buddh-c.
megha-kūṭābhigarjita-svara 男 漢訳 [菩薩の名] 雲雷震声, 積雷雨音光明 Lal-v.
megha-gambhira 形 雷雲の(響の)ように重々しい.
megha-ja 形 雲から生じた.
megha-ḍambara 男 雲のとどろき, 雷鳴.
megha-dundubhi 男 [ある Asura の名].
meghadundubhi-svara-rāja 男 漢訳 [仏の名] 雲雷音王 Saddh-p.
megha-dūta 男 雲の使者, [Mandākrānta 韻律で作られた Kalidāsa の有名な詩の題名].
megha-nāda 男 雲のとどろき, 雷鳴; [後に Indrajit と称せられた Ravana の息子の名]; [人名]; [ある蛙の名]. 形 雷鳴する, 雷のようにとどろく.
megha-nādin 形 雷鳴のようにとどろく(車). 男 とどろく戦車; [ある Dānava の称].
megha-nināda 男 漢訳 雷響 Lal-v.
megha-nirghoṣa 形 雷鳴する.
megha-puṣpa 男 [Viṣṇu-kṛṣṇa 神の四頭の馬の一の名].
megha-pr̄ṣṭha 男 [Ghṛtapr̄ṣṭha の息子の名]. 田 Meghapr̄ṣṭha の支配した Varṣa の名].
megha-bala 男 [人名].
megha-bhūta 形 漢訳 為大雲, 為大雲雨, 為慶雲 Gand-vy.
megha-mañjari 女 [王女の名].
megha-maṭha 男 [ある僧院(学林)の名].

meghamaya 形 (女 -i) 雲からなる.
megha-māla 男 [ある Rākṣasa の名]; [山の名]; [Kalki の息子の名].
megha-mālā 女 雲の環, 積雲.
megha-mālin 男 [(雲をまとった), 王侯の名].
megha-mukta 形 漢訳 雲所出 Saddh-p.
megha-medura 形 雲で濃密となった(暗黒).
megha-rava 男 雲のとどろき, 雷鳴; 漢訳 雲雷音 Bodh-bh.
megha-rāja 男 漢訳 [仏の名] 雲王, 雨(香)王 Lal-v.
megha-rāji 女 雲のしま.
megha-rekhā 女 [同上].
megha-lekhā 女 [同上].
meghavat 形 雲におおわれた; 曇った; 漢訳 如雲 Sūtr. 男 [山の名].
meghavatī 女 漢訳 [世界の名] 雲, 雨氏 Lal-v.
megha-vana 男 または 田 [ある Agra-hāra (婆羅門に下付された土地)の名].
megha-vapus 田 ある形をした雲のかたまり.
megha-varṇa 形 雲色の. 男 [人名]; [ある鳥の名].
megha-vāta 男 雲または雨をともなった風.
megha-vāsa 男 [ある Daitya の称].
megha-vāhana 男 [(雲に乗った), Indra 神の称]; [Kāśmīra の王侯の名].
megha-vṛnda 田 多くの雲.
megha-vega 男 [人名].
megha-śabda 男 漢訳 雷声, 雷霆 Abh-vy., Buddh-c.
megha-śyāma 形 雲のように暗い.
megha-saṃghāta 男 雲の集合または群れ.
megha-saṃdeśa 男 = megha-dūta.
megha-saṃbhava 形 漢訳 [Nāga の名] 出雲 Mvyut.
megha-sūtra 田 [経の名: 大方等大雲経 請雨品 第六十四, 大雲輪請雨経等].
megha-stanita 田 雷鳴; 漢訳 雷吼 Bodh-bh.
megha-svana 形 (雷雨をともなった)雲のような響きを発する.
megha-svara 男 漢訳 [仏の名] 雲声, 雷音, 音雨 Lal-v., Mvyut.
megha-svara-ghoṣā 形 女 漢訳 雷声, 如雲雷吼, 如雲雷吼音 Mvyut., Sūtr.
megha-svara-rāja 男 [仏の名].
megha-svātī 男 [王侯の名].
megha-hina 形 雲のない, 雨のない.
megha-hrāda 形 = megha-svana.
meghākṣa 男 [王侯の名].
meghākhyā (°gha-ākh°) 男 [同上, 異綴].
meghāgama (°gha-āg°) 男 雲の到来, 雨期.
meghāgaru 男 漢訳 雲香 Gand-vy.
meghācchādita (°gha-āc°) 形 雲で覆われた.
meghāṭoka (°gha-āt°) 密雲.
meghāḍambara (°gha-ād°) 男 雷鳴.
meghābhivṛṣṭa 形 漢訳 一雨所及 Saddh-p.
meghāya 名動 田 meghāyate 雲に類似する.
meghālamba (°gha-āl°) 男 雲がかかっている頂上.
meghāloka (°gha-āl°) 男 雲の出現.

meghāvali (°gha-āv°) 因 [女王の名].
 meghodaka (°gha-ud°) 甲 雲の水, 雨.
 meghodaya (°gha-ud°) 男 雲の上昇.
 meghopama (°gha-up°) 形 如雲, 猶如大雲,
 為雲; 密雲布 *Gand-vy., Sūtr.*
 mecaka 形 暗緑の, 暗黒色の, 黒てん色の; 薄暗い.
 男 孔雀の尾の眼のような斑紋; [宝石の一種];
 華瑪瑙 *Mryut.*
 mecakita 名動 過受分 暗緑の輝きをもつ.
 meṭha 男 象の番人.
 meḍa → mela.
 meḍi, meḍi 男 (因) 爆音を発すること, (火または風
 の)うなり.
 meḍhi-bhūta 形 すべてのものがその周囲を回転する
 中心点をなす. → methi, methi.
 meḍhra (男) 甲 [<Mih] 陰莖.
 meḍhra-carman 甲 包皮.
 meḍhra-ja 男 [*Śiva* 神の称].
 meṅṭha 男 象の番人; [ある詩人の名].
 meṅḍhaka 男 殺羊 *Diry.* 450.
 meṅḍhra 男 陰莖.
 Meth, → Mith.
 methana 甲 口ぎたない言葉.
 methi 男 柱, くい(杖); (とくに脱穀する床の中央の
 牡牛をつなぐ)くい(杖); 牡牛をつなぐくい(杖).
 methi 因 [同上].
 Med, → Mid.
 meda 男 脂肪; [混血種姓(階級)の一]; 脂
Mryut., Śikṣ.
 medaḥ-puccha 男 尾の太い羊.
 medaka 男 品質の劣った蒸溜酒.
 medaka-sthāli 因 坏器 *Śikṣ.*
 meda-pāṭa, [国の名].
 meda-siras 男 [王侯の名].
 medas-cheda 男 (身体から)脂肪を除去すること.
 medas 甲 脂肪; 肥満; 脂 梵雑.
 medasvin 形 脂肪のある, 肥満した; 強壯な, たくま
 しい.
 medin 男 仲間, 同僚, 同盟者 (因).
 medini (女) [韻律, =medinī] 世間 *Saddh-p.*
 394.
 medeni-tala 男 甲 [韻律 =medinī-tala] 地
Lal-v. 339.
 medini 因 大地; 土地, 土壤; 国土, 国, 領土; 地
 点, 場所; 地, 大地, 土, 土地, 率土 *Lank.,*
Lal-v., Mryut., Raṣṭr., Saddh-p., Sam-r.
 medini-ja 男 大地の息子, 火星.
 medini-tala 男 甲 大地 *Raṣṭr.*
 medini-dhara 男 大地を支えるもの, 山.
 medini-nandana 男 大地の息子, 火星.
 medini-pati 男 大地の主, 王.
 mediniśa (°ni-īśa) 男 [同上].
 medura 形 肥えた; 厚い, 濃厚な, (一°)のように
 濃厚な; (因, 一°)をもって満たされたまたは全く覆
 われた.
 medurita 過受分 (一°)によって厚くされた, 濃厚

にされた.

medo-doṣa 男 病的肥満, 肥大.

medya 形 肥満した; 固形の [流動体の 因].

Medh, → Midh.

medha 男 肉汁, 強壯飲料 (因); (犠牲獣の)主要な
 またはもっとも価値のある部分 (因); 犠牲獣, 供物;
 供獣祭, 祭式 [多くは 一°]; 祠, 祭, 供施 *Diry.*
 → aśva~, puruṣa~.

medha-ja 形 祭式から生じた (*Viṣṇu* 神).

medha-pati 男 供獣祭の主.

medhas 1. 甲 祭式.

medhas 2., 一° =medhā 知力, 理解力; 聡敏
Bodh-bh.

medha-śāti 因 知恵を得ること (RV.).

medhā 因 精神力, 知力, 理解力, 知恵; (因) 知力の
 産物, 知識; [しばしば *Dakṣa* の娘で *Dharma* の妻
 としてまたは時に *Sarasvati* の一形態として擬人化さ
 れる]; 慧, 智慧, 聡敏, 聡明, 念, 黠, 黠慧
Bodh-bh., Gand-vy., Lal-v., Lank., Sūtr.

medhā-kāma 形 (因) にまたはのために知力を望む.

medhā-jaṇana 形 知力を生ずる. 甲 [幼少年者に肉
 体的および知的優秀性をもたらすための儀式または
 mantra].

medhātithi (°dhā-at°) 男 [ある予言者の名]; [*Manu*
 の註解者の名].

medhāvati 因 [(理解力をもつ), 人名].

medhā-vara 男 [人名].

medhāvika 形 聡明な, 伶俐な (*Jāt-m.*).

medhāvin 形 知的な, 聡明な, 鋭敏な, 賢い; 聡
 慧, 聡敏, 智慧, 知慧勝, 知慧明了, 聡明智慧,
 具足聡慧, 智明望, 黠慧, 勝智者, 明達, 心伶俐,
 博識, 英 *Ast-pr., Bodh-bh., Diry., Gand-vy.,*
Lal-v., Lank., Mryut., Saddh-p., 梵千. 男 [諸人
 の名].

medhā-śakti 因 知恵の力.

medhira 形 聡明な, 賢い.

medhi 因 [stūpa の一部分の称] (*Diry.*).

medhya 形 供物に値する (因); 祭式に適する. 供物と
 して清浄な; 清い, 汚さない; 浄 *Mryut.* →
 a~, 男 [諸人の名].

medhya-carmottariya (°ma-ut°) 形 神聖な(かもし
 かの)皮を着た.

medhyatama 最上 もっとも清浄な.

medhyatara 比較 さらに清浄な, 一層清浄な.

medhyatā 因 祭式のために清浄なこと.

medhyatva 甲 [同上].

medhyā 因 [河の名].

medhyātithi 男 [ある Rṣi の名].

medhyi-bhūta 形 清浄 *Vijñ-v.*

menakā 因 [ある Apsaras の名, *Śakuntalā* の母].

menā 因 婦人(妾), (動物の)雌 (RV.); [*Himalaya*
 山の妻の名]; [河の名].

meni 因 復讐, 返報.

menilā 因 [王女の名].

memyat 強顯 現分 [Mi 2.] メーとなきながら.

meya 未受分 [Mā 1.] 量られる, (一°)によって量

- り得る；見分けられるべき，知られるべき，証明されるべき。→ a～。
- meraka** 男 または 中 樹皮を褥とする坐席 (*Divy.*)；
[漢語] 樹皮褥，具葉褥 *Mṛyut.*
- meraṇḍu** (?), =melāndhu インキつぼ (*Kār-ry.*).
- meru** 男 [*Jambū-dvīpa*の中央にあるとされる伝説上の黄金の山の名，その周囲を諸遊星が回転すると想像される]；数珠の中心の玉；(指のある位置に)突き出た関節；[諸人の名]；[漢語] [山の名]，高，高大，妙高，妙，妙勝，勝，妙高山，金山 *Gaṇḍ-ry.*, *Mṛyut.*, *Suv-pr.*；[音写] 弥楼，弥楼(山)，迷盧(山) *Mṛyut.*, *Saddh-p.*, *Sukh-ry. I.*；[sumeruの音写] 須弥，須弥(山) *Laṅk.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*
- meru-kalpa** 男 [漢語] [仏の名] (音写) 須弥相 [須弥は *sumeru* の音写] *Saddh-p.*
- meru-kūṭa** 男 または 中 *Meru*山の頂上。男 [漢語] [仏の名] 須弥峯，蘇迷盧積 [須弥および蘇迷盧は *sumeru* の音写] *Sukh-ry. I.*
- meru-guru** 形 *Meru* 山のように堅固な。
- meru-tala** 男 中 [漢語] (音写) 須弥峯 *Saddh-p.*
- merudu** 男 [漢語] [音写] [数の名] 謎嚕陀，貌盧独 *Mṛyut.*
- meru-duhitṛ** 女 *Meru*の娘。
- meru-devī** 女 [*Rṣabha*の母の名]。
- meru-dhāman** 形 *Meru* 山上に住所がある (*Śiva*神)。
- meru-dhvaja** 男 [王侯の名]；[漢語] [仏の名] 山幢；(音写) 須弥相 [須弥は *sumeru* の音写] *Sukh-ry. II.*
- meru-pradīpa** 男 [漢語] [仏の名] (音写) 迷盧光，須弥灯 [須弥は *sumeru* の音写] *Sukh-ry. II.*
- meru-prabhāsa** 男 [漢語] [仏の名] 山光；(音写) 須弥光 [須弥は *sumeru* の音写] *Sukh-ry. II.*
- meru-bala-pramardin** [漢語] (音写) [*Yakṣa* 王の名] 摧壞迷盧軍，摧壞大須弥 [須弥は *sumeru* の音写] *Mṛyut.*
- meru-mandara** 男 [山の名]。
- meru-yantra** 中 ぼうすい(紡錘)。
- meru-varḍhana** 男 [人名]。
- meru-vraja** 中 [町の名]。
- meru-śikhara-dhara** 男 [漢語] [*kumāra-bhūta* とともに] (音写) [菩薩の名] 持須弥頂孺童，持須弥頂法王子 [須弥は *sumeru* の音写] *Mṛyut.*
- meru-śrī** 女 [*Nāga*女の名] (*Kār-ry.*)；[漢語] 妙徳，妙勝吉祥；(音写) 勝須弥 [須弥は *sumeru* の音写] *Gaṇḍ-ry.*
- meruśrī-garbha** 男 [菩薩の名]。
- meru-susāmbhava** 形 [漢語] [*Kumbhāṇḍa*の王の名] 妙高甚出 *Mṛyut.*
- mela** 男 [*Mil*] 面会，交際；会合，集会；[漢語] 聚 梵千，梵雜；[音写] [数の名] 謎羅 *Mṛyut.*
- melaka** 男 会合，会議，集会。～ṃ *Kṛ* 集める。
- melana** 中 集り来ること，会合，連合。
- melanduka** =melānduka (*Kār-ry.*)；[漢語] 黒瓶，墨瓶 *Mṛyut.*
- melaphu** 男 [漢語] [音写] [数の名] 謎羅普 *Mṛyut.*
- melā** 女 集合，集会，結社。
- melānandāya** [名動] 自 *melānandāyate* インキつぼとなる。
- melāndu** (°lā-an°) 男 インキつぼ。
- melānduka** (°lā-an°) 男 [同上]。
- melāpaka** 男 [*Mil*の使役] から] 集めること，結合，(遊星の)会合。
- meḷi**, → *meḍi*.
- melu** 男 [漢語] [音写] [数の名] 謎羅，貌盧 *Mṛyut.*
- meluda** 男 [漢語] [音写] [数の名] 謎魯陀 *Mṛyut.*
- meṣa** 男 [*Miṣ*] 牡羊，羊；羊毛，羊毛製品 (因)；白羊宮 [黄道十二宮の一]；[漢語] 羊，白羊，羝羊，孺羊 *Mañj-m.*, *Vijñ-v.*, 梵雜。
- meṣa-vṛṣaṇa** 男 中 牡羊の辜丸。形 牡羊の辜丸をもつ。
- meṣa-śṛṅga** 男 [樹の一種]。
- meṣāya** [名動] 自 *meṣāyate* 牡羊のように振舞う。
[過受分] *meṣāyita* 牡羊のように振舞った。
- meṣi** 女 牝羊。
- meha** 男 尿。～ṃ *Kṛ* 放尿する。
- mehatas** 副 放尿によって。
- mehana** 中 男根。
- mehanā** 男 副 (流れをなして)，豊かに (*RV.*)。
- mehin** 形 (一°) 放尿する。
- maitra** 形 (女 -i) 友人に属するまたはによって与えられた；友情のある，好意のある，親切な；*Mitra*に属するまたはに關する；[漢語] 慈，慈愛，慈愍，慈善，慈(悲) *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*, *Raṣṭr.*, *Śikṣ.* 男 [混血種姓(階級)の一種]；友情に基づいた同盟(の一種)；肛門(因)。中 友情；(*Mitra*に支配される) *Anurādhā* 月宿；(*Mitra*に支配される) 糞便の排泄。～ṃ *Kṛ* 糞便を排泄する。
- maitraka** 中 友情。
- maitra-citta** 形 好意のある (*Lal-v.*)。中 好意 (*Kār-ry.*)；[漢語] 慈心 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
- maitra-cittatā** 女 [漢語] 慈心 *Bodh-bh.*
- maitratā** 女 好意；[漢語] 慈，慈心 *Kāśy.*, *Śikṣ.*
- maitra-bala** 男 [人名] (*Jāt-m.*)。
- maitra-manas** 形 [漢語] 慈意 *Saddh-p.*
- maitra-locana** 形 [漢語] 慈観 *Saddh-p.*
- maitrākṣa-jyotika** 男 [悪魔の一種]。
- maitrātmaka** (°ra-āt°) 形 [漢語] 慈，心懷慈愍 *Divy.*, *Mañj-m.*
- maitrāya** [名動] 他 *maitrāyati* 好意をもつ (*Divy.*)。
自 *maitrāyate* [漢語] 起慈心 *Bodh-bh.*
- maitrāyaṇa** (°ra-āy°) 男 種 [黒 *Yajur-veda* のある学派の名]。
- maitrāyaṇa** 中 親切な行為，好意；[漢語] 慈 *Daś-bh.*
- maitrāyaṇi** 女 [女性学匠の名]；[*Pūrṇa*の母の名]；[漢語] 慈行 *Gaṇḍ-ry.*；善知識 玄応；[音写] 弥多羅尼 弥多隸耶尼 *Gaṇḍ-ry.*, 玄應。
- maitrāyaṇiya** 男 種 [黒 *Yajur-veda* のある学派の名]
- maitrāyaṇiyopaniṣad** (°ya-up°) 女 =*maitry-upaniṣad*.
- maitrāyaṇi-saṃhitā** 女 [黒 *Yajur-veda* のある本集(題名)]

maitrāyaṇopaniṣad (°na-up°) 因 = maitry-upaniṣad.
maitrāyaṇy-upaniṣad 因 [同上].
maitrā-varuṇa 形 (因 -i) *Mitra* と *Varuṇa* とに関する・に属するまたはに由来する；*Maitrā-varuṇa* 祭官に関する。男 父系 *Mitra* と *Varuṇa* との息子；[祭官の一種で Hotr 祭官の主な助手].
maitrāvaruṇa-pātra 因 *Mitra* と *Varuṇa* とのための皿.
maitrā-varuṇi 男 *Mitra* と *Varuṇa* との息子，[諸人の父系].
maitrāsaya (°ra-ās°) 男 慈心 *Sikṣ.*
maitrin 男 朋友.
maitri 因 (因) に対する好意；友情，親交；(一°) との密接な接触または結合(無生物について)；(一°) との同等または相似；(*Dakṣa* の娘で *Dharma* の妻として擬人化された) 好意；慈，慈愍，慈念，慈心 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Dharm-s.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Laṅk.*, *Mṛyut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.*, 梵千.；等心 *Kāśy.*
maitri-karuṇā 因 慈悲 *Sūtr.*
maitrikaruṇā-mudita 男 [Samādhi の一種] (*Kār-vy.*).
maitri-citta 因 慈心，慈(悲)意 *Gaṇḍ-vy.*, *Suv-pr.*
maitri-dhyāyin 形 修慈(悲)静慮 *Sikṣ.*
maitri-pakṣa-pāta 男 友情に対する不公平.
maitri-paribhāvita-kāya 形 以慈修身 *Saddh-p.*
maitri-pūrva 形 友情を先にした.
maitri-bala 男 因 [仏陀の名]；[王侯の名]；慈心力，慈心之力，(大)慈(悲)力 *Saddh-p.*
maitri-bhāva 男 友情.
maitri-bhāvanā 因 修慈 *Bodh-bh.*
maitrimaya 形 (因 -i) 慈悲深い.
maitriya 名動 友情がある.
maitri-vihārin 形 安住慈，安住慈心者，常行慈 *Aṣṭ-pr.*, *Laṅk.*
maitri-vyākaraṇa 因 [経の名] 授記慈氏経；(音写) 弥勒授記经 *Mṛyut.*
maitri-saha-gata 形 慈俱行 *Bodh-bh.*：~m cittaṃ 所起慈心，起(平等)慈心 *Aṣṭ-pr.* 793.
maitreya 形 情深い。男 [諸人の父系 または 母系]；[混血種姓(階級)の一種]；[ある道化師の名]；[仏の名，菩薩の名，人名] 慈，慈氏 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mṛyut.*, *Sapt-pr.*, *Sikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Suv-pr.*, 玄応.；音写 弥勒，迷麗耶，梅任梨，梅但麗耶，梅但麗菓，梅但麗菓 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*, *Mṛyut.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, *Suv-pr.*, 玄応.；~s tathāgataḥ 梅但麗耶如来 *Abh-vy.* 21.；~o bodhisattvaḥ 慈氏菩薩，弥勒菩薩 *Aṣṭ-pr.* 734.
maitreyaka 男 [混血種姓(階級)の一種].
maitreya-gotra 因 音写 弥勒 *Saddh-p.*
maitreya-nātha 男 [Abhisamayālaṅkāra-kārikā の作者の名]；慈尊 *Bodh-c.*
maitreya-vimokṣa 男 [経の名] 慈氏解脱经 *Sikṣ.*

maitreyātmaka (°ya-āt°) 形 具慈性，具慈本性，為慈為性 *Mṛyut.*
maitreyānuśamsa 男 慈心功德 *Sikṣ.*
maitrya 因 友情.
maitryābhimukha 男 [maitry-abh°?] [Samādhi の一種] (*Kār-vy.*).
maitry-upaniṣad 因 [ある Upaniṣad の題名] = maitrāyaṇiya-, maitrāyaṇa-up°.
maithila 形 *Mithila* に関する。男 *Mithila* の王；(種) *Mithila* の住民；(撰) 音写 弥都利 *Buddh-c.*
maithili 因 *Mithila* の王女，[*Rāma* の妻である *Sitā* の称].
maithileya 男 母系 *Sitā* の息子.
maithuna 形 (因 -i) 一對の，夫婦の，つがいの；結婚によって結ばれた；性交に関するまたは性交中着用される；性交を期する [*dharma* とともに，性交]. 因 性的結合，性交，結婚，交尾；淫，姪，姪欲，姪愛，愛欲，欲染，染著 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Laṅk.*, *Prāt-m.*, *Sūtr.*, *Vajr-s.*, 梵維. ~m Gam... と性交する. ~m Car [同上]. ~m anu-Ās [同上]. ~m I [同上]. ~āya upa-Gam [同上]. ~āya upa-Kram [同上].
maithuna-gata 形 性交に従事した.
maithuna-jvara 男 性欲.
maithuna-dharma 男 姪欲法 *Bodh-bh.*, *Prāt-m.*
maithuna-dharmin 形 性交する.
maithunaya 形 性交に関連した.
maithunābhāṣaṇa (°na-ābh°) 因 姪欲言，說姪欲言，說鄙惡語，說妄言 *Mṛyut.*
maithunika 形 (一°) と性交する.
maithunin 形 性交する.
maithuni-bhāva 男 性交.
maithunopasaṃhita (°na-up°) 形 姪欲 *Prāt-m.*
maithunya 形 性交に関するまたは由来する，性交を期する.
maināka 男 [山の名，*Himālaya* 山と *Menaka* 山との子で *Indra* 神が諸山翼を切断した時 独りこの *Maināka* 山のみを残したとされる].
maināla 男 [mina から] 漁師 (VS. 用例一回のみ).
mainika 男 [同上].
maineya 男 種 [住民の名]；音写 [住民の名] 弥尼 *Lal-v.*
mainda 男 [ある猿王の名].
mairava 形 *Meru* 山に関する.
maireya 男 因 (砂糖と他の物質から作られた) 酒；木酒，米果甘蔗酒，調和酒 *Mṛyut.*, *Prāt-m.*, *Sikṣ.* 音写 迷隸耶，迷麗耶(酒) *Bodh-bh.*, *Prāt-m.*
maireyaka 男 因 [同上]. 男 [混血種姓(階級)の一種].
mailinda 男 蜂.
mo, [mā-u] (因) また…してはいけない.
moka 因 [Muc] (動物の) はいだ皮.
moki 因 [解放者：Muc] 夜 (RV.).
muktavya 未受分 解放されるべき；放棄されるべき，

引き渡されるべき(担保); 見棄てられるべき, 捨てられるべき, 免ぜられるべき(利子); (因, prati) に投げられるべきまたは放出されるべき; 得遺棄, 有別離 *Divy.*

mokṣ 男 (債務の) 弁済者.

mokṣ, [Muc の 希求].

mokṣa 男 (因, まれに 因, 一°) からの解放・釈放または脱出; (未来の) 輪廻からの解放, 永遠の解脱; 解脱に資するある讃歌; (*Rahu* に呑まれた天体の) 解放すなわち蝕の終ること; (木の葉等の) 落下, 脱落; 放出; (囚人の) 釈放; (涙等を) 流させること, 流すこと; (髪を) 解くこと; (問題の) 解決; (矢等を) 放つこと, 射ること, 発射すること; (穀粒を) 播くこと; (呪詛の) 唱誦; 拋棄, 放棄; 解脱, 真解脱, 冤解, 脱, 度脱, 出 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*

mokṣaka 形 ゆるめる, 解く, 解放する. 一° = mokṣa 永遠の解脱.

mokṣa-kāṅkṣin 形 解放または永遠の解脱を望む; 趣求解脱 *Vajr-s.*

mokṣa-kāma 形 [同上]; 求解脱, 欲求解脱 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*

mokṣaṇa 形 解放する, 放免する; 解脱 *Sikṣ.* 因 解放, 放免; (罪人の) 釈放; (結び目, 枷を) ゆるめること, 解くこと; (血を) 流させること; 手放すこと, 放棄; 解, 脱 *Madhy-v.*; 剝剝 [明蔵音積: 剝呂支切割也, 剝北角切割也] *Sikṣ.* 168.

mokṣaṇiya 未受分 手放されるべき, 放棄されるべき.

mokṣa-dā 因 [ある女性苦行者の名].

mokṣa-dvāra 因 救済の門, [太陽の称]; 解脱門 *Gaṇḍ-vy.*

mokṣa-dviṣ 男 [(終局の至福の敵), *Kāma-deva* の名].

mokṣa-dharma 男 解脱の法; [*Mahābhārata* 中のある章の題名].

mokṣadharmā-viruddhatva 因 解脱の法と相違すること (*Lank.*); 離(涅槃)解脱 [涅槃は *nirvāṇa* の 音写], 永背正解脱 *Lank.*

mokṣa-patha 男 解脱道, 解脱(八)正路, 菩提妙道 [菩提は *bodhi* の 音写] *Rāṣṭr.*, *Sikṣ.*

mokṣa-parāyana 形 解脱を主な目的とする.

mokṣa-pura 因 解脱之城 [= *nirvāṇa*] *Divy.*

mokṣa-praveśa-vyavasthāna 男 [Samādhi の一種] (*Kār-vy.*).

mokṣa-bhāgiya 形 解脱を取扱う (*Divy.*); 解脱分, 順解脱分, 解脱分能 *Abh-vy.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*

mokṣa-bhāva 男 救済または解脱の状態.

mokṣa-mahā-pariṣad 因 (解脱大会議) 大きな教団会議 [弘教].

mokṣaya, 因 [韻律は 因] **mokṣayati** (-te) (因) から解放する; (輪廻から) 解脱させる; 解く, はずす; (因) から引き出す; (因) から(業)を取り去る; (血を) 流させる; 投げる, 放つ.

pari- 解放する.

vi- (因) から(ある人を)解放する; 令解脱, 令所

免 *Bodh-bh.*

mokṣayitavya 使役 未受分 解脱させられるべき.

mokṣayitr (使役) 男 解脱させる人, 救済者, (因) から解放する人.

mokṣavat 形 救済または解脱に関する.

mokṣa-vārttika 形 終局的解脱を熟慮した.

mokṣa-sāstra 因 解脱の教義.

mokṣa-sādhana 因 救済または解脱の手段.

mokṣa-hetu 男 解脱因 *Lank.*

mokṣita 過受分 解放された.

mokṣin 形 救済に努力する; 解脱した.

mokṣecchā (°ṣa-ic°) 因 解脱の欲求.

mokṣya 未受分 解放されるべき.

mogha 形 [Muh] むなしい, 効果のない, 無益な, 成功しない, 取るに足らない; 虚妄, 擬暗 *Lal-v.* → a ~. ~m, ° 副 むなしく, 無益に, 理由なく.

mogha-karman 形 無益な行為をする.

mogha-jñāna 形 無益な知識をもつ.

moghatā 因 無効, 無用.

mogha-bāṣpa 形 むなしい涙を流す.

mogha-hāsin 形 理由なく笑う.

moghāśa (°gha-āśa) 形 むなしい希望をいただく.

moghi-Kṛ, むなしくする, 挫折させる, 落胆させる.

moca 因 パナナ (果物).

mocaka 形 (一°) から解放する; 解, 解脱, 散開 *Mṃyut.*, *Suv-pr.* → *granthi* ~.

mocana 形 (因 -i) (一°) から解放する; (一°) を投げる, …を放つ; (因) から釈放する, …から去らせる; (一°: 負債) から免れさせる; (車の) 装備を解く; (精液を) 出す, 射出する; 解脱, 度, 度脱 *Daś-bh.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.*

mocana-paṭṭaka 男または 因 節水, 水瀧, 紬緞濾, 紬緞(水)濾 *Mṃyut.*

mocanikā 因 [人名].

mocaniya 未受分 放免されるべき.

mocayitavya 使役 未受分 [同上].

mocayitr 男 解放者.

mocā 因 パナナ樹 [学名 *Musa sapientum*].

mocika 男 靴匠 *Mṃyut.*

mocita 過受分 解放された; 已救 *Saddh-p.*

mocitavya 未受分 放免されるべき.

mocin 形 (一°) から解放する.

mocya 未受分 解放されるべき; 返還されるべき(担保); (手足 業) を奪われるべき.

moṭa 男 [= *muṭa*, *mūṭa*, *mūḍha*] 籠, 袋または大きな容器 (*Divy.* 等).

moṭaka 男 因 丸薬.

moṭana 因 おし砕くこと, 破壊すること; 窒息させること; 破滅させること.

moṭanaka 因 窒息させること, 破滅させること.

moṭa-palli 因 [海国の名].

moda 男 [Mud] [しばしば 因] 喜び, 歡喜, 喜悅; 香料 [まれに]; 歡喜, 喜想 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*

modaka 形 (一°) を喜ばせる [まれに]; 糖菓, 菓, 美国, 歡喜丸

Abh-vy., Divy. 男 [混血種姓(階級)の一種, Kṣatriya の父と Śūdra の母との混血の子孫].

modaka-kāra 男 菓子製造人.

moda-kara 男 [あるMuniの名].

modakī 女 [神秘的棍棒の名].

modana 形 喜ばせる; 随喜 *Gaṇḍ-vy.* 男 喜ばせる行為.

modanā 女 欣樂 *Bodh-bh.*

modaniya 未受分 喜ばれるべき.

moda-sthāniya 男 歡喜処 *Bodh-bh.*

modin 形 喜ばしい, 愉快な; (一)を喜ばせる; 喜 *Lal-v.*

modoṣa 男 [学匠の名].

momugha 形 [Muh の 強意 から] 発狂した (*ŚB.*).

momuha 形 [Muh の 強意 から] 混乱した, 困惑した, 迷妄に陥った; 愚癡 *Bodh-bh.*

momuha-jātiya 形 愚癡類者 *Bodh-bh.*

momūha 形 [=momuha] 愚癡 *Bodh-bh.*; manda ~ tā 闇鈍愚癡 *Bodh-bh.* 372.

mora-candra 男 窟 [< mayūra-candra] 孔雀尾月, 孔雀画色 *Lank.* 365.

morāṭa 男 [味のよい汁液のある植物の一種]; (最近に子牛を生んだ牛の)乳.

morāka 男 [ある大臣の名].

morāka-bhavana 男 *Morāka*大臣の(建立した)殿堂.

moṣa 1. 男 [Muṣ] 盜賊, 強盜; 窃盜, 強奪, 略奪; 贓品; 奪, 劫奪 *Madhy-v.*

moṣa 2. [*Pāli* moṣa = mṛṣā] 虚妄, 妄取 *Madhy-v.* 237.; 失 *Śikṣ.* 204. → mṛṣā ~, smṛti ~

moṣa-kṛt 形 窃盜を予言する.

moṣaṇa 形 (一)を奪う. 男 窃盜すること, 略奪すること, こそどろを働くこと; 公金費消.

moṣa-dharma 1. 形 奪法, 劫奪法 *Madhy-v.*

moṣa-dharma 2. 形 [=mṛṣā-dharma] 虚妄法, 妄取相 *Madhy-v.* 237.

moṣa-dharmin 形 具誘法 *Mṛyut.*

moṣābhidaṛsana 男 強盜を見ることまたは目撃すること.

moha 男 [Muh] 意識の喪失, 当惑; 迷妄, 惑溺; 愚行, 誤謬; (真理の洞察を妨げまた人に世界の実在を信じさせる)心の迷妄 (男); 知覚喪失, 氣絶; (敵を)混乱させる呪術; 癡, 癡妄, 愚, 愚癡, 愚妄, 愚貪, 愚冥, 無明 *Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Lal-v., Lank., Madhy-v., Madhy-vibh., Mṛyut., Sapt-pr., Sāṃkhy-k., Śikṣ., Suv-pr., Vijñ-t.*; 音写 謨賀 *Guh-y-s.* ~ m Brū 他人を誤らせることを言う. ~ m Yā 誤謬におちいる. 男 ~āt 愚かさによってまたは夢中になって. ~s tatra na kāryas te それがために困惑してはいけない.

moha-kara 形 惑わせる.

moha-carita 形 愚癡, 多愚癡, 癡行者, 癡行多者, 愚癡多者 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p.*

moha-citta 男 精神の錯乱.

moha-jāla 男 (錯覚の網)現世的魅惑; 癡網 *Śikṣ.*

moha-timira 男 愚癡翳障 *Gaṇḍ-vy.*

mohana 形 (女 -i) 当惑させる, 知覚を失なわせる, 惑わせる, 夢中にならせる; 作昏 *Mṛyut.* 男 [愛の神の五矢の一の名]; [諸人の名]. 男 当惑, 迷妄, 惑溺; 知覚喪失; 性交; 困惑または当惑させること; 錯覚; 混乱させる方法; (敵を)当惑させる呪文; 迷惑, 惑乱, 冥駭, 過 *Daś-bh., Lank.*

mohanāstra 男 [愛の神の五矢の一の名].

moha-nidrā 女 (惑溺の眠り)無思慮な信賴.

mohani 女 [呪文の一種].

mohaniya 形 妄想に基づく 妄想から生ずる; 精神錯乱を生ずる.

moha-parimuktā 男 [Gandharva 女の名] (*Kar-vy.*).

moha-pāśa 男 愚癡 *Buddh-c.*

moha-puruṣa 男 愚人 (*Av-ś., Mah-u.*); 愚, 愚癡人, 愚癡者, 癡人 *Lank., Prāt-m., Śikṣ.*

moha-bahula 形 多愚癡 *Bodh-bh.*

moha-ma 男 [擬人法の一種].

moha-mantra 男 惑わせる呪文.

mohamaya 形 (女 -i) 妄想または誤謬からなる.

mohayitr 形 当惑させる者.

mohavat 形 錯誤を含む.

moha-vaśānuga 形 愚者心所樂 *Śikṣ.*

moha-vādin 形 愚癡説 *Lank.*

moha-vyūha 形 癡冥頑很 *Śikṣ.*

moha-śāstra 男 邪教, 邪説.

mohāndha-kāra 男 愚闇 *Madhy-v.*

mohāvidyā-timira 男 愚癡闇, 癡闇無明 *Gaṇḍ-vy.*

mohita 使役 過受分 → Muh. 愚, 愚癡, 癡, 妄, 迷惑, 不覚知 *Gaṇḍ-vy., Lank., Madh-v., Śikṣ.*

mohin 形 混乱させる, 夢中にさせる; 迷惑, 迷乱 *Lank.*

mohopamā (°ha-up°) 女 混同比喩 [あるものとこれに喩えられる他のものとの両者が混同されたことを表わす修辭法: 例 汝の顔を月であると思ひ我は汝の顔を慕って月を追う].

maukali 男 (大)鳥.

maukuli 男 鳥.

mauktika 1. 形 解脱(mukti)を得たいと努力する.

mauktika 2. 男 男 [muktā から] 真珠.

mauktika-dāman 男 真珠をつなぐ糸.

mauktika-mālā 女 真珠の首飾り.

mauktika-ratna 男 真珠.

mauktika-ratnatā 女 真珠たること.

mauktika-sara 男 =mauktika-dāman.

mauktikāvali (°ka-āv°) 女 真珠の首飾り.

mauktikāvali (°ka-āv°) 女 [同上].

mauktikā-hāra 男 [同上].

maukya 男 [mūka から] おし(啞)であること.

maukṣika 形 (太陽・月の)蝕の終り(mokṣa)に関する.

maukha 形 口(mukha)に関する; 口授に基づいた.

maukhara 形 [mukhara から] [ある家族の称].

maukhari 男 父系 [ある家族の名].

maukharya ㊦ 話好きなこと, おしゃべり.
 maugdhya ㊦ [mugdha から] 素朴, 純真, 無邪気.
 maughya ㊦ [mogha から] 無益.
 mauca ㊦ (mocā 樹に属する), パナナ (果実).
 maujāvata ㊦ *Mūjāvāt* 山に由来する (RV. 用例一回のみ).
 mauñja ㊦ (女 -i) Muñja 草で作った.
 mauñja-bandhana ㊦ Muñja 草の紐帯を締めて資格を与えること.
 mauñji ㊦ → mauñji.
 mauñjin ㊦ Muñja 草の紐帯をつける.
 mauñji ㊦ [時として -i 韻律]; すなわち mekhalā] Muñja 草の紐帯.
 mauñji-dhara ㊦ Muñja 草をつけたまたは運ぶ.
 mauñji-nibandhana ㊦ = mauñja-bandhana.
 mauñji-bandhana ㊦ [同上].
 mauñjiya ㊦ Muñja 草で作った.
 mauñjya ㊦ (Muñja 草からなる供物に値する) [擬人化されたある崇拜対象].
 maudhya ㊦ [mūdhya から] 愚かさ; 愚鈍.
 maudya ㊦ [muṇḍa から] 剃髪; はげ; 漢訳 剪鬚髪, 禿頭 *Abh-ty.*
 mautra ㊦ 腐蝕物, 多量の尿.
 maudga ㊦ 隠元豆 (mudga) で作った.
 maudgalya ㊦ *Mudgala* の子孫である. ㊦ [諸人の父系]; [混血種姓 (階級) の一種].
 maudgalyāyana ㊦ 父系 漢訳 [人名] 緑豆子, 緑豆挽取, 緑豆執取, 採菽氏 *Sapt-pr.*, 玄奘; 音写 目捷連, (大)目捷連, 没特伽羅(子), 目伽略(子), 毛駄伽羅(子) *Mvyut.*, 玄奘.
 maudrika ㊦ [mudrā から]; 漢訳 書字, 造印者 *Mvyut.*
 mauna ㊦ muni すなわち苦行者たる状態; 沈黙 [~m vi-DHā, ~m sam-ā-Car 沈黙を守る, 口をとぎす]; 漢訳 不言, 莫説, 默然, 寂黙 *Buddh-c.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*; 音写 牟那, 牟尼 *Abh-ty.* ㊦ [王朝の名].
 mauna-dhārin ㊦ 沈黙を守る.
 mauna-vṛtti ㊦ 沈黙の誓いを守る.
 mauna-vrata ㊦ 沈黙の誓い. ㊦ 沈黙の誓いを守る.
 mauna-vratin ㊦ [同上 (㊦)].
 maunitva ㊦ 沈黙.
 maunin ㊦ 沈黙を守る, 黙った; 漢訳 默然 *Mañj-m.*
 maunindra ㊦ [munindra から] 漢訳 仏 [buddha の音写] *Lank.*; 音写 牟尼 *Divy.*: ~m vacanam 牟尼聖教 *Divy.* 490.
 mauneya ㊦ (女 -ā) [muni から] [Gandharva および Apsaras の一類の称]. ㊦ [ある学派の名]. ㊦ Muni である状態; 漢訳 音写 牟尼, 牟那 *Abh-ty.*
 maurava ㊦ (女 -i) *Daitya Muru* に由来する.
 mauri ㊦ 漢訳 音写 [王朝の名] 毛釐, 冒狸 *Lank.*
 maurkhya ㊦ [mūrkhya から] 愚かさ, 暗愚.
 maurya ㊦ ㊦ [*Candra-gupta* を祖とする王朝の名]; 漢訳 孔雀, 孔雀姓 *Divy.*
 maurya-datta ㊦ [人名].

maurva 1. ㊦ (女 -i) [mūrva から] *Mūrvā* で作ったまたはに属するまたはに由来する.
 maurva 2. ㊦ (女 -i) [muru から] muru (と称せられる鉄) で作った.
 maurvi ㊦ *Mūrvā* (で作った) 紐帯; 弓弦.
 maurvika ㊦ 一° 弓弦の.
 maurvi-mekhalin ㊦ *Mūrvā* の紐帯をつけた.
 maula ㊦ [mūla から] 根から出た (毒); 遠い昔の, 長年の (習慣); 太古からの, 土着の (住民); 先代からの職を保持する, 世襲の (大臣); [pārthivāḥ ㊦ ㊦ とともに = mūla-prakṛtayah]; 漢訳 根, 根本, 本, 本 (生); 中; 真, 真実, 真如; 正禪 *Abh-ty.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.* ㊦ 世襲の大臣.
 mauli ㊦ ㊦ 頭; 頂き, 頂上. ㊦ ㊦ 王冠; 漢訳 天冠, 頭冠, 首巖; 三尖; 看景 *Divy.*, *Mvyut.* ~ au ni-DHā 頭に戴く, 恭しく受ける.
 maulika ㊦ [mūla] 根から出た, 根本の; 劣等の, いやしい素性の; 漢訳 根 *Abh-ty.* ㊦ 根を掘る人または売る人; (種) [民族の名].
 maulin ㊦ [mauli から] 頭にある, 主要な; 優越した; 王冠を戴く (また *Śiva* 神の称); 漢訳 孔雀 *Supr.*
 mauli-prṣṭha ㊦ 頭の頂き.
 mauli-bandha ㊦ 王冠.
 mauli-maṇi ㊦ 王冠の宝石.
 mauli-maṇḍana ㊦ 頭飾り.
 maulimaṇḍana-mālikā ㊦ 頭上につける花環.
 mauli-mālā ㊦ [同上].
 mauli-mālikā ㊦ [同上].
 mauli-mukuta ㊦ 王冠.
 mauli ㊦ 漢訳 冠 *Buddh-c.*
 mauli-sīras ㊦ 漢訳 著冠者, 華冠者, 帶冕 *Mvyut.*
 maulya ㊦ 根に付着した, 根元にある. ㊦ [=mūlyā] 価格, 代金.
 mauly-ābharāṇa ㊦ 頭飾り.
 mausika ㊦ はつかねずみ (mūsikā) に関するまたは雇する.
 mauṣṭika ㊦ [muṣṭi から] 欺瞞者, 詐欺師; 漢訳 佛像者 *Mvyut.*; [*Pali muṭṭhika*] 戯者, 兇戯, 戯者 *Mvyut.*, *Saddh-p.*
 mausala ㊦ (女 -i) [musala から] 棍棒の形をした, 棍棒で戦う (戦).
 mausala-parvan ㊦ [*Mahā-bhārata* 中の棍棒の戦いを記述した章の名].
 mauhūrta ㊦ [muhūrta から] 占星家.
 mauhūrtika ㊦ [muhūrta から] 一瞬間継続する, 間の; 占星術に熟練した. ㊦ 占星家; (種) [*Muhūrtā* の息子である神の一類の名].
 Mnā, I. ㊦ manati [Man の副次形].
 ā- 述べる, 語る; …であると言明する; …と見す. ㊦ āmnāyate 述べられる等; 記録される, えられる, 教えられる; 漢訳 誦, 説 *Abh-ty.* *Mvyut.* ㊦ 過受分 āmnāta.
 sam-ā- 述べる, 記録する, 列挙する; (義) であ

と考える；自 誦誦する。

Myakṣ, I. 他 **myakṣati** (因) [三過 **mimyakṣ-**, **mimi-kṣ-**] (因) に固定または安立している；結合する；存在する；属する。

sam- 他 自 連合される，一緒に住む。

Mrakṣ, → Mrkṣ.

mrakṣa 形 (一°) すりつぶす，砕く，破壊する。男 他人の美質を軽侮すること (*Lal-v.*, *Saddh-p.*)；覆 覆，覆蔽 *Abh-k.*, *Abh-ry.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Vijñ-t.*

mrakṣaṇa 中 油を塗ること；軟膏，油；覆 *Sikṣ.*；油 *Saddh-p.* → *pāda* ~

mrakṣita 過受分 → **Mrkṣ.** 覆；塗，塗摩；汚 *Av-s.*, *Lal-v.*, *Rāṣṭr.*, *Sikṣ.*, *Suv-pr.*: *rudhira* ~ *śarira* 血流出汚身 *Suv-pr.* 193.

mrakṣitaka 形 一° 因，塗 *Lank.* → *masi* ~

mrakṣya 中 [*Pali* *makkha*] 怒り，憤怒 (*Divy.*)；瞋恚不悅 *Divy.* 622.

Mrad, I. 自 **mradate** [*Mrd* の副次形] 摩擦する。

使役 他 **mradayati** 滑らかにする。

vi- 他 柔らかにする；自 柔らかにされる。

mradas 中 柔軟。→ *ūrṇa* ~

mradiman 男 柔軟；温和，柔和。

mradiyas 比較 {*mṛdu*} 一層柔らかな。

Mrit, IV. 他 **mrityati** (*Br.*) [まれに] 崩壊する，分解する。

vi- [同上]；粉砕する。

mriyamāṇa 現分 [*Mṛ*] 臨死，正死，将命終，臨欲終没 *Abh-ry.*, *Bodh-bh.*

Mruc, I. 他 **mrocati** [まれに]。

ni- (太陽が) 没する (因)。

abhi-ni- (業) に沈む。過受分 **abhinimrukta** (睡眠中のその上に太陽が) 沈んだ (因)。

Mred,

ā- 使役 他 **āmredayati** 繰り返す。過受分 **āmredita** 繰り返された。中 (単語の) 繰り返し，繰り返された第二語 (文法)。

mlapaya, [*Mlā* の 使役 形]。

Mlā, IV. 他 **mlāyati** (*Br.* 等)，自 **mlāyate** (叙詩 等)；

II. 他 **mlāti** (叙詩) 萎れる，しぼむ；(とくに病氣・悲歎または激情のために顔が) 青ざめる；疲労する，憔悴する；落胆する，意気沮喪する；消失する；萎，萎草，萎歇，頓，銷瘦 *Abh-ry.*, *Ast-pr.*, *Divy.*；(華) 合 *Divy.* 250。過受分 **mlāta** [因 まれに] なめして柔らかにされた (獣皮)；**mlāna** [普通の形] 萎れた，しぼんだ；疲労した，憔悴した；落胆した，意気沮喪した；消失した；黒い，黒色の。

使役 **mlāpayati** ゆるめる；他 **mlapayati** おしつぶす。

ā- 漢訳 消除，儘減 *Lal-v.* 過受分 **āmlāna** しぼんだ；僅かにしぼんだまたは萎れた。

pari- 消え去る。過受分 **parimlāna** しぼんだ，萎れた；憔悴した，消失した。

vi-pari- 過受分 **viparimlāna** 全くしぼんだ。

pra- しぼむ；消え去る。過受分 **pramlāna** しぼんだ；青ざめた；やせ衰えた；よごれた；きたない。

vi- 憔悴する。過受分 **pramlāna** しぼみ (かつ) 朽ちた (譬喩)。使役 他 **vimlāpayati** 萎れさせる。

mlāta 過受分 → **Mlā.**

mlāna 過受分 萎れた等。→ **Mlā.** 萎，痿，枯，半乾；昏 *Av-s.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Sikṣ.*

→ *a* ~ *gātrin.* 中 衰弱，光彩を欠くこと。

mlānatā 因 しぼんだまたは萎れた状態；倦怠。

mlānatva 中 [同上]。

mlāna-manas 形 意気沮喪した，意気消沈した。

mlāna-middha 形 昏睡 *Sikṣ.*

mlāna-vriḍa 形 恥を知らない，破廉恥の。

mlāna-sraj 形 しぼんだ花環をもつ。

mlāni 因 凋落，衰微；倦怠；消失；意気沮喪；不潔；卑劣。

mlāniman 男 凋落すること，衰微すること，衰弱。

mlānendriya (°*na-in*°) 形 感覚の弱められた。

-**mlāpin** (使役) 形 衰弱させる。

mlāyin 形 しぼんだ，衰えた，消失する。

M'ich, I. 他 **mleccati** [*Br.*, 叙詩: きわめてまれに] 異国語または理解しがたい語を話す。

Mluc, I. 他 **mlocati** (姿を消す，かくれる)，(太陽が) 沈む，休息する (*Br.*)。強意 **malimulucate** (因) に置き去る。

anu- (休息または隠れ場所から) 立ち上る (因)。

apa- 過受分 **apamlukta** 隠された (*RV.* 用例一回のみ)。

ni- 沈む；(業) その上に (太陽が) 沈む (業)。

abhi-ni- (睡眠中のその上に太陽が) 沈む。

Mlup [*Mluc* の副次形 (*Br.*, *S.*: きわめてまれに)]。

upa- 過受分 **upamlupta** 隠された。

abhi-ni- 過受分 **abhinimlupta** (睡眠中のその上に太陽が) 沈んだ。

mleccha 1. 男 他国人，野蛮人 (*Br.*, 業)；*Sanskṛt* を知らないこと，野蛮 [まれに]；(種) 蛮族；辺地人，楽垢穢人，卑賤，無道 (王) *Lank.*, *Mvyut.*, 梵雜., 玄応；音写 蔑戾車，篋戾車，篋利車 (王)，弥戾車，弥離車 *Lank.*, *Sikṣ.*, 玄応。

mleccha 2. 名動 **mleccati** **Mleccha** 人のように非アリアン語を話す，不明瞭にまたは野卑に話す。

mleccha-jāti 男 **Mleccha** 族に属する男，野蛮人，未開人，山中の住民 (*Kirāta*, *Śabara* または *Pulinda* のような)。

mleccha-taskara-sevita 形 蛮人と盗賊とに苦しめられた。

mlecchatā 因 野蛮人たる状態。

mleccha-deśa 男 非アリアン人の国または異国。

mlecchana 中 異国語を話すこと。

mleccha-nivaha 男 野蛮人の大勢または群集。

mleccha-vāc 形 野蛮なまたは異国の語を話す。

mlecchitaka 中 (余人に理解しがたい) 隠語。

Y

ya 代 関 [甲 yad] …するまたはであるもの：[ほとんど常に 相関 tad (± etad または idam) また時として idam (男 ayam), adas (男 asau), idrś, tādṛśa, etāvat, (時として (甲) yad に対応して tathā) をともなう；時として 関 または 相関 のどれかを略することがある]。[時として ya は「もし人が…ならば」という漠然とした意味に用いられる]；[特記すべき 関 代 の用法は次の通り：1. ya はしばしば (繫辞なしに) 主語を強めるために付け加えられる (例 ātma-parityāgena yad āsritānām rakṣaṇam, tan nitividām na sammatam 自身を犠牲にしてその眷族を保護することは処世学者の是認するところではない)。時として同様に単純な主語と並べて強意の目的なしに用いられることがある (例 andhaḥ sthaviraś ca yaḥ 盲人と老いた人)。まれに この種の 困 関 = 業 (例 sarvān rasān apoheta paśavo ye ca mānuṣāḥ 一切の調味料・家畜および人間を売ることを避けるべきである)；この強意的 関 代 の 甲 関 yad はしばしば性・数に関係なく用いられる、この場合は「…については、…に関しては」と訳すべきである (例 asi-dhārāvratam idam manye yad ariṇā saha samvāsaḥ 敵とともに住むことについては私はそれが刀の刃渡りと同様に危険だと思ふ)；関 の前におけるこの種の yad = すなわち (Br.)；iti に終る直接話法の直後では yad = …と考へて (→ 接詞 yad)。2. 同一文章においてしばしば二の 関 代 が用いられる、その時第二の 関 代 は「誰でも、なんでも、およそ人」と訳す (例 yad rocate yasmai, bhavet tat tasya sundaram およそ人を楽しませるものはその人にとって美しい)。3. 繰り返された (時として hi によって分離される) 場合の 関 代 は一般化を意味する：ya ya は誰でも、どれでも、なんでも (二または一の 相関 tad をともなう)。4. ya はしばしば他の 代 と結合される；すなわち i. tvam, sa, eṣa, ayam, asau 等 と結合する；ii. aham, (tvam 等) と結合する：yo 'ham …である私 = 私は…であるから、(また 関 の後に) その私は；iii. tad と結合する = 何ものであれ：yad vā tad vā なんでも、どんな種類のもので；iv. tvad と結合する：また他の何ものであれ (Br. まれに)；v. 関 代 ka と結合する：ka + ca (関, 業：普通), ka + cid (業：きわめて普通), ka + cid api (業：普通ではない), ka + cana (叙詩：まれに), ka + vā (業：まれに), ka + api (後世 業, Manu 以後) これらは概して連続するが時として分離されることがある：(男 yaḥ kaś ca, kaś cid, kaś cid api, kaś cana, ko vā, ko'pi；甲 yad kiṃ ca, kiṃ cid, kiṃ cid api, kiṃ cana, kiṃ vā, kiṃ api) = 誰でも、なんでも、何であるかを問わず、何人であるかを問わず]；[業 諸 Abh-vy. → yad.]

yaka 関 代 = ya；…であるもの等 [関：まれに]。

yakan, yakn [yakṛt の 関 幹]。

ya-kāra 男 ya の字または音；[業 関 (音写) 也字 [五十字門の一]。：～e yathāvad-dharma-prativedha-śabdaḥ (→ a-kāra) 唱也字時出通達一切法声 Lal-v. 128；[四十二字門の一] ～ṃ parikīrtayataḥ sambheda-kūṭam nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱也 [移我切] 字時能甚深入般若波羅蜜門名差別積集 Gand-vy. 449.]

yakṛt 甲 [困 および °一] 肝臓；[業 関 肝, 脾, 腸 Lal-v., Mvyut., Śikṣ. → yakan.]

Yakṣ, I. 困 yakṣati.

pra- [RV. まれに] 示す, 發揮する。

yakṣ, [Yaj の 三過 幹；yaṣi 二入 甲 関]。

yakṣa 甲 現われ, 形態；超自然的存在, 妖怪 (関)。

男 [Kubera 神の従者, 半神の一類の名]；[ある Muni の名]；[業 関 勇健, 能噉, 能噉鬼, 神, 鬼神, 傷者 Ast-pr., Mvyut., Suv-pr., 梵千., 玄志。；音写 夜叉, 葉叉, 閼叉 Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh., Gand-vy., Lal-v., Lan̄k., Mvyut., Śikṣ., Suv-pr., 梵雜., 玄志.]

yakṣaka 男 [Kubera 神の従者である半神の一類の名]。

yakṣa-graha 男 [(Yakṣa に憑かれること), 狂気の一類]；[業 関 鬼魅 Saddh-p.]

yakṣatā 女 Yakṣa たること。

yakṣatva 甲 [同上]。

yakṣa-dara 男 (?) [ある地方の名]。

yakṣa-dāsi 女 [人名]。

yakṣa-dṛś 形 驚くべき外観をもつ (RV. 用例一回のみ)。

yakṣa-deva-gṛha 甲 Yakṣa の祠堂。

yakṣa-pati 男 Yakṣa の主；[Kubera 神の称]。

yakṣa-bhavana 甲 Yakṣa の祠堂。

yakṣa-bhṛt 形 驚くべき力をもつ (? : RV. 用例一回のみ)。

yakṣa-malla 男 [五 Lokeśvara の一の名] (仏教)。

yakṣa-yuddha-parvan 甲 [Mahā-bhārata 中の一章の題名]。

yakṣa-rāi 男 Yakṣa の王 [Kubera 神の称]。

yakṣa-rāja 男 [同上]。

yakṣa-ruta 甲 [業 関 (音写) 葉叉詞, 夜叉言 Ast-pr.]

yakṣa-rūpa 甲 [業 関 (音写) 夜叉身 Saddh-p.]

yakṣa-lipi 女 [業 関 鬼書；(音写) 夜叉書 Lal-v.]

yakṣa-vitta 形 その所有物が Yakṣa のそれに似た, すなわち 所有物を監視するだけで自分では利用しない。

yakṣāṅganā 女 Yakṣa の妻。

yakṣādhipa 男 Yakṣa の王, [Kubera 神の称]。

yakṣādhipati 男 [同上]；[業 関 (音写) 夜叉王 Lan̄k.]

yakṣāyatana (°ṣa-āy°) 甲 Yakṣa の祠堂。

yakṣini 因 女性の Yakṣa ; 音写 葉利尼, 葉叱尼 Guhy-s.

yakṣiṇitva 田 女性の Yakṣa たること.

yakṣin 形 驚くべき力をもつ (Vuruna 神) (RV. 用例一回のみ).

yakṣi 因 女性の Yakṣa.

yakṣitva 田 女性の Yakṣa たること.

yakṣendra (°ṣa-in°) 男 Yakṣa の王 ; [Kubera 神の称] ; 音写 夜叉王, 葉叉王 Raṣṭr.

yakṣeśa (°ṣa-iśa) 男 [同上] ; 音写 夜叉王 Mañj-m.

yakṣeśvara (°ṣa-iś°) 男 [同上].

yakṣma 男 (やせ衰えさせる) 病氣 (因) ; 肺結核 [後世の 因 ; 圃 にはまれ].

yakṣma-grhita 形 肺結核にかかった.

yakṣma-grasta 形 肺結核に冒された.

yakṣma-graha 男 肺結核にかかること.

yakṣma-nāśana 形 (因 -i) 病を駆逐する.

yakṣman 男 肺結核.

yakṣmin 形 肺結核を患った.

yakṣya 形 驚くべき姿または力をもつ (RV. 用例一回のみ).

yakṣyamāṇa 因 田 [Yaj] 祭式を行なわんと欲する.

ya-ñ, [強意] の後接字 ya の文法上の称].

yañ-luk, [強意] の後接字 ya のないこと].

yac-ca, → yad (因).

yaccha, [Yam の 圃 翰].

yac-chandas 形 その韻律をもつ.

yac-chila (°d-ś°) 形 その特性をもつ.

yac-chraddha (°d-ś°) 形 その信仰をもつ.

Yaj, I. yajati (-te) 崇拝する, (神 圃) を祭る, (人または物 圃) のために祭る, (供物等 圃) をもって祭る [因 ではまれに部分 圃. 一般に主語は 圃 の場合 : 因 では Agni またはその他の媒介者, 圃 では祭式を執行する祭官 ; 圃 の場合 : 因では自己のために祭祀する者, 圃 では祭式の発願者] ; (圃, 因, prati: まれに) に (讃歌, 供物等 圃) を捧げる ; 圃 (圃) を目的にして崇拝する (RV.) ; 圃 Yājyā 頌をもつて祭式に招く ; 音写 作祠祀, 設 Bodh-bh., Lal-v. ; mahā-yajñam yajase 汝設大施食 Lal-v. 267. 過受分 iṣṭa 捧げられた, 犠牲にされた ; …に供犠された. 田 非因 [祭主の 圃, 祭式の 圃 とともに]. 使役 圃 (韻律 は 圃) yājyati (-te) 祭式において (圃) を援助する, (ある人の) 祭官としての役を勤める [祭式の 圃 とともに] ; (圃) によって (圃) をして祭式 (圃) を捧げさせる ; (圃) をして (祭式 圃) を行なわせる. 希求 yiyakṣati (-te) 祭式をしたいと思う.

abhi- 祭式をもつて尊敬する ; (祭式 圃) を捧げる.

ava- 祭式をもつて (災禍等) を除くまたは避ける.

ā- (因) 恭しく捧げる, 献ずる ; 崇拝する ; (圃) のために祭式をもつて (圃) を獲得する, (神々より人々のために) …を得る ; (圃 はまた) 自己のために得る. 過受分 eṣṭa 崇拝によって獲得された.

upa- 追加して祭式を行なう.

pari- (因) 祭式によって獲得する, 得る ; (ある人の) 前後において祭式をささげる, 追加の祭式を捧

げる.

pra- (因) 崇拝する, (圃) に祭式を捧げる.

sam- (神々を) 一緒に崇拝するまたは祭る ; 祭式を行なう ; 一緒に捧げる ; (圃) を尊敬する. 使役 sam-yājaya- 一緒に祭式を行なわせる, Patnīsamyāja (圃) を繰り返す ; (ある人 圃) の祭官としての役を勤める.

-yaj 形 祭式を行なう, 崇拝する. → deva ~.

yajata 形 因 崇拝すべき, 神聖な, 神性の, 崇高な.

yajati 男 圃 yajati (因 juhoti) によって示される祭式を指す術語 (puronuvākya, yājyā および vausaṭ を伴なって供物を火中に投ずる献供)].

yajatra 形 崇拝または祭式に価する (因).

yajatha [圃 のみ 不定] のような構文をもつ 崇拝すること, 祭式を行なうこと (RV.).

yajadhyai, [Yaj の 圃 不定] (RV.).

yajana 田 祭式を行なうこと ; 祭式の場所 ; 音写 供施, 設会 Mvyut. : 婆羅門六事 [1. yajanam 供施, 2. yājanam 令入供施, 3. adhyayanam 念誦, 4. adhyāyanam 令念誦, 5. dānam 布施, 6. pratigrahaḥ 取] Mvyut. → dharma-yajña ~.

yajaniya 1. 形 [±ahan] 祭式に適した (日).

yajaniya 2. 未受分 崇拝されるべき, 祭式を捧げられるべき.

yajamāna 現分 祭式を行なう. 圃 祭式の発願者 (施主) ; 祭式 (の費用) を支払 (いできる) 者, 富裕な人.

yajamāna-bhāga 圃 祭主の分け前.

yajamāna-loka 圃 祭主の世界.

yajamāni 因 祭式を行なう人の妻.

yajā 因 [守護神の一種].

yaji 形 (一°) を崇拝する, 祭式を行なう. 圃 祭式の遂行 ; [語根 Yaj] (文法).

yajin 圃 崇拝者, 祭主.

yajīṣṭha 最上 最上または最多の祭式を行なう (RV.).

yajīṣṇu 形 神々を崇拝する, 神々に祭式を行なう.

yajiyas 比較 一層よく・より多くまたは勝れて祭式を行なうまたは崇拝する.

yajurmaya 形 (因 -i) Yajus (祭詞) からなる.

yajur-vid 形 Yajus (祭詞) を知った.

yajur-veda 圃 [祭式の執行を主とし, Adhvaryu 祭官に属する Veda の名] ; 音写 祭祀智論, 作明供施 Mvyut. ; 名聞経 Divy. ; (音写) 祭祠因陀 Divy.

yajur-vedin 形 Yajur-veda に通曉した.

yajuṣṭas 圃 Yajus の側から・に関してまたはの範囲において, Yajur-veda に従って.

yajuṣmat 形 Yajus を伴なう ; [iṣṭakā 圃 とともに] [犠牲祭壇を作る際に用いられる特別な煉瓦の名].

yajus 田 宗教的尊敬, 崇拝, 祭式 (因) ; 祭式の際に用いられる文句, 祭詞 [rc (讃歌) および sāman (歌詠) の 圃] ; (圃 圃) Yajur-veda.

yajuḥ-svāmin 圃 [ある Purohita の名].

yajūdara 形 Yajus を腹とした (婆羅門).

yajña 圃 (祈禱または讃歌をもつてする) 崇拝 ; (一° に捧げる・のまたはによる) 祭式の儀礼, 祭式 ; 音写 祠, 祠祀 ; 会, 大会 ; 施, 施会, 施食, 供養 Ast-pr.,

Bodh-bh., Lal-v., Divy., Lal-v., Lank., Śikṣ. ;
 ~o yaśtavyaḥ 欲祠天, 欲大祠 *Aṣṭ-pr.* 946. ;
 ~m ārabdho yaṣṭum 施設大会 *Av-s.* I. 2.

- yajña-karman 田 祭式の儀礼. 形 祭式に従事した.
 yajña-kalpa 形 祭式に類似した.
 yajña-kāma 形 崇拜を望む.
 yajña-kāra 形 祭式に従事した.
 yajña-kāla 男 祭式の時.
 yajña-kṛt 形 祭式を遂行する; 祭式を執行させる
 (*Viṣṇu* 神).
 yajña-ketu 男 [ある *Rākṣasa* の名]. 形 祭式を旗印
 とする.
 yajña-kopa 男 [ある *Rākṣasa* の名].
 yajña-kratu 男 祭式の儀礼; 完全なまたは主要な祭
 儀.
 yajña-kriyā 因 祭式の儀礼.
 yajña-kṣayita-kalmaṣa 形 祭式によって罪過を消し
 た.
 yajña-gamya 形 祭式によって近づき得べき (*Viṣṇu*-
Kṛṣṇa 神).
 yajña-gāthā 因 祭式に関する偈文.
 yajña-ghna 男 祭式を攪乱する悪魔.
 yajña-cchāga 男 犠牲の山羊.
 yajña-turaṅga 男 犠牲の馬.
 yajña-trāṭṛ 男 [(祭式の守護者), *Viṣṇu* 神の称].
 yajña-dakṣiṇā 因 祭式の謝礼, 祭式を行なう祭官に
 対して与えられる報酬.
 yajña-datta 男 [諸人の名].
 yajña-dāsi 因 [人名].
 yajña-dikṣā 因 祭式のための潔斎.
 yajña-dṛś 形 祭式を見守る.
 yajña-deva 男 [人名].
 yajña-dravya 田 祭式に必要とされる物 (皿等).
 yajña-dhira 形 祭式に通曉した.
 yajña-ni 形 祭式を指導する.
 yajña-pati 男 祭主=祭式を執行させる人または祭式に
 より崇められる人; [*Viṣṇu* 神の称].
 yajña-patni 因 祭主の妻.
 yajña-patha 男 祭式の道, 祭式.
 yajña-pāśu 男 犠牲の動物.
 yajña-pātra 田 祭式の道具.
 yajña-puṃs 男 [*Viṣṇu* 神の称].
 yajña-puruṣa 男 [同上].
 yajña-pratyūha 男 祭式に対する妨害.
 yajña-ṅrāpya 形 祭式によって達されるべき (*Kṛṣṇa*
 神).
 yajña-priya 形 祭式を好む (*Kṛṣṇa* 神).
 yajña-pri 形 祭式を喜ぶ (因).
 yajña-phala-da 形 祭式に報いる (*Viṣṇu* 神).
 yajña-bandhu 男 祭式の仲間 (RV. 用例一回のみ).
 yajña-bāhu 男 祭式の腕, 火; [*Priyavrata* の息子の
 名].
 yajña-bhāga 男 祭式に対する分前. 形 祭式の前をもつ.
 yajñabhāga-bhuj 男 神.
 yajñabhāgeśvara (°ga-iś°) 男 [*Indra* 神の称].

- yajña-bhāṇḍa 田 祭式の道具.
 yajña-bhāvita 形 (いとして) 祭式で尊敬された.
 yajña-bhuj 男 (祭式を享受する), 神, [とくに *Viṣṇu*
 神の称].
 yajña-bhūmi 因 祭式の場所.
 yajña-bhṛt 男 祭式を執行させる者; [*Viṣṇu* 神の称].
 yajña-bhokṭṛ 男 祭式の享受者, [*Kṛṣṇa* 神の称].
 yajña-maṇḍala 田 祭式の場所.
 yajña-manas 形 祭式に専心した.
 yajña-mantra 男 祠祀呪術 *Divy.*
 yajña-manman 形 祭式に専心する (RV. 用例一回の
 み).
 yajña-mahotsava (°hā-ut°) 男 大祭.
 yajña-mukha 田 祭式の口すなわち開始 (因).
 yajña-muṣ 形 祭式の最中に盗む. 男 祭式を攪乱す
 る悪魔.
 yajña-ruci 男 [ある *Dānava* の名].
 yajña-rūpa 形 祭式の形をもつ.
 yajña-retas 田 [*Soma* の称].
 yajña-līṅga 形 [*Viṣṇu* 神の称].
 yajña-vacas 男 [ある学匠の名]; 種 [*Yajña-vacas* の
 種族].
 yajñavat 形 崇拜する.
 yajñavati 因 [人名].
 yajña-valka 男 [人名]; 樹皮仙 *Lank.*; 夜婆迦 *Lank.*
 yajña-vāta 男 祭式場; 施場 *Gaṇḍ-vy.*
 yajña-vāstu 田 [同上]; [祭式の一つ].
 yajña-vāha 形 祭式を(神々に)伝達する.
 yajña-vāhana 形 祭式を行なう; [(祭式を乗物とす
 る), *Viṣṇu* 神 および *Śiva* 神の称].
 yajña-vāhas 形 崇拜または祭式を捧げるまたは受ける
 (因).
 yajña-vāhin 形 = yajña-vāha → a~.
 yajña-vighna 男 = yajña-pratyūha.
 yajña-vid 形 祭式に通曉した.
 yajña-vidyā 因 祭式に関する知識.
 yajña-vibhraṣṭa 形 祭式に失敗した.
 yajña-viryā 形 祭式を威力とする (*Viṣṇu* 神). 男
 [*Viṣṇu* 神の称].
 yajña-veśasa 田 崇拜または祭式の妨害 (因).
 yajña-śatru 男 [ある *Rākṣasa* の名].
 yajña-śaraṇa 田 祭式のための小舎.
 yajña-śālā 因 祭式のための部屋.
 yajña-śāstra 田 祭式に関する学問.
 yajña-śiṣṭa 田 祭式の供物の残余.
 yajñaśiṣṭāmṛta-bhuj 形 祭式の残余である甘露を享
 受する.
 yajña-śīla 形 慣習的に祭式を行なう
 yajña-śeṣa 男 祭式の供物の残余; まだ完了しない祭
 式の部分.
 yajña-śrī 形 祭式を美しくする. 男 [王侯の名].
 yajña-śreṣṭha 男 最上の祭式.
 yajña-saṃsiddhi 因 祭式の成就.
 yajña-saṃsthā 因 祭式の基本型.
 yajña-sadana 田 祭式のための部屋.

yajña-sadas 田 祭式における人々の集合。
yajña-sammita 形 祭式に相応した。
yajña-sādh 形 祭式を遂行する (RV.)。
yajña-sādhana 形 [同上] (RV.): 祭式を執行させる (Viṣṇu 神)。
yajña-sāra 男 [(祭式の精髓), Viṣṇu 神の称]。
yajña-sūkara 男 [野猪に権化した Viṣṇu 神]。
yajña-sūtra 田 (左肩から右腕に掛ける) 祭式用の聖紐。
yajña-sena 男 [諸人の名]; [ある Dānava の名]。
yajña-soma 男 [諸婆羅門の名]。
yajña-stha 形 祭式に従事する。
yajña-sthala 田 祭式の場所; [ある Agra-hāra の名]; [ある村の名]; [ある町の名]。
yajña-sthāṇu 男 祭場の柱または材 (祭式における障害物)。
yajña-svāmin 男 [ある婆羅門の名]。
yajña-han 形 祭式をさまたげるまたは損なう。男 [Śiva 神の称]。
yajña-hartr 男 祭式を損なう者。
yajña-hut 男 祭官。
yajña-hṛdaya 形 祭式を好む。
yajña-hotṛ 男 祭式を行なう者; [Manu Uttama の息子の名]。
yajñāṃśa-bhuj 男 (祭式の分け前を享受する), 神。
yajñāgāra (°ñā-āg°) 田 祭式のための小舎。
yajñāṅga 田 祭式の部分・手段または器具。男 [Viṣṇu 神または Kṛṣṇa 神の称]。
yajñātman (°ñā-āt°) 男 [(祭式の本体), Viṣṇu 神の称]。
yajñānta 形 yajña (の語) で終る。
yajñā-yajñiya 田 [諸 Sāman の名]。
yajñāyatana (°ñā-āy°) 田 祭式の場所, 祭場。
yajñāyudha (°ñā-āy°) 形 祭式の器具。
yajñārtham 副 祭式のために。
yajñāvayava 形 祭式を肢体とした (Viṣṇu 神)。
yajñāvāsana (°ñā-āv°) 田 [Rāmāyaṇa の Uttara-kāṇḍa 中の一章の題名]。
yajñā-sah 形 [強 韌 -sāh] 祭式を支配する (RV. 用例一回のみ)。
yajñin 形 祭式に富む (Viṣṇu 神)。
yajñiya 形 崇拜または祭式に価する, 祭式の分け前を受ける, 神聖な, 神性の [諸神および諸神に関係したものである] についていう; 祭式に従事するまたは適した; 敬虔な, 信心深い; 祭式の, 神的な; [bhāga 男とともに] 祭式の分け前。
yajñiya 形 祭式に属するまたは適する。
yajñeśa (°ñā-iśa) 男 祭式の主; [Viṣṇu 神の称]。
yajñeśvara (°ñā-iś°) 男 [同上]。
yajñotsava (°ñā-ut°) 男 祭礼。
yajñotsavavat (°ñā-ut°) 形 祭式と祭礼の多い。
yajñopakaraṇa (°ñā-up°) 田 祭式の器具。
yajñopamanṛita (°ñā-up°) 形 祭式に (列するために) 招かれた。
yajñopavita (°ñā-up°) 田 (左肩から右腕に) 祭紐を掛けて資格を与えること; 祭紐 (罽); 淨繩, 絡

腋, 線絡腋, 持供 Manj-m., Mṛyut.
yajñopavitavat (°ñā-up°) 形 祭紐を掛けている。
yajñopavitin (°ñā-up°) 形 [同上]。
yajyu 形 崇拜する, 敬虔な; 崇拜すべき (RV.)。
yajvan 形 (女 yajvari) 崇拜する, 祭式を行なう; 敬虔な。男 崇拜者, 祭祀者, 信者。
yajvin 形 [同上 (形)]。
yañ, [y, v, r, l を総括する pratyāhāra]。
Yat, I. 田 yatati, (適材を) 適所に配置する, 配列する (RV.); (罽) と同調する, … と同列にある, … と競争する (RV.); 田 yatate (適所に) たち現われる, 整列する; 競う (RV.); (罽) と結合する (RV.); (罽) と結合されたいと努める, … に到達しようと試みる (罽); (一般に 罽, 不定; また 罽, 罽, -artham, -arthe, -arthāya, -hetos, prati; 時として 韻律 は 罽) を得ようと努める, … しようと努める, … に専念する, … を切望する (罽); 尽力する; 用心する (罽); (罽) に予め備える (罽)。過受分 yatta (叙詩, P.) 交戦する; (罽, 罽, prati) のために準備された; 用意した, 用心した; 導かれた (馬車, 馬); yatita (不定) しようと試みられた; (田 非人) (罽) は (不定) しようと努力した。使役 罽 yātayati 適所に配置する, 糾合する; 競わせる (RV.); 戦わせる (Br.); (罽) を (罽) の心に留めさせる (罽); 田 yātayate 各自の場所に置く, 整頓する (RV.)。罽 罽 (罽) を (罽, 罽) に譲り渡す (叙詩); 悩ます, 苦しませる, (敵意に) 仕返しする, 返報する; (kilbiṣam 罪を) 過失として叱責する (罽, 罽; 罽 この意味ではまれ); (負債を) 償わせる。ā- (罽) に入るまたはに住む, (罽) を得ようと努める (罽)。過受分 āyatta (罽, 罽) に存する (Br.); (罽, 罽, 一°) に依存した, … の自由に委ねられた; 努力する (P.); 用心している, 用意した (叙詩)。使役 āyātayati (罽) に達せさせる。
aty-ā- (罽) について全力を尽す。
anv-ā- 過受分 anvāyatta (罽, 罽) に関係した, … と結合された, … に依存する, … 存する (罽)。使役 anvāyātayati (罽, 罽) に従わせるまたは結合する。
sam-ā- 過受分 samāyatta (罽) に依存した。
nir- 使役 niryātayati 取り去る, 除去する; (罽) から持って来る; 引き渡す, 返還する; 贈る (Lal-ṅ., Saddh-p., Kar-ry.); (敵意に) 報いる (=復讐する), (時を) 費す; 施, 布施, 奉施; 奉上, 奉進, 奉事, 奉属, 献; 貢上; 与, 送与; 属; 捨; 以用布施, 威持供養 Ast-pr., Divy., Mañj-m., Rā-str., Saddh-p., Śikṣ., Suv-pr.; 還復 Bodh-bh. 166。
prati-nir- 戻す, 返還する。
pari- 罽む (罽)。
pra- 田 (韻律 罽) (罽, 罽, 罽, -artham, -arthe, -hetos) を得ようと努める, … しようと努める, … に専心する; 精勤, 勤方便, 専心作 Buddh-c., Mṛyut. 過受分 prayatta … に専心した; prayatita 田 非人。
saṃ-pa- 罽 (罽) を得ようと努める。
prati- (罽) に逆う。使役 pratiyātaya- (敵意に) 報いる (=復讐する)。
vi- 罽 種々の列に配列する (罽)。使役 viyātaya-

悩ます, 苦しめる.

saṃ- 廻 糾合する (RV.); 固 配列される; (圓) と結合される (RV.); 衝突する(因); (戦闘 saṃgrāma) を開始する. 過受分 saṃyatta 予め備えた, 用心した.

-prati-saṃ- 過受分 pratisaṃyatta 完全に用意した または支度した.

yata 過受分 抑制された等. → Yam.

yata-gir 廻 言葉を制止した, 沈黙した.

yata-cittātman (°ta-āt°) 廻 自分の心を制御した.

yata-cittendriya-kriya (°ta-in°) 廻 心と感官のすべての活動を抑制した.

yata-cetas 廻 精神の抑制されたまたは鎮静した.

yataniya 未受分 中 非人 (因) に努力すべきである.

yatama 廻 [中 yatamad] 多くの中のどれかの (因).

yata-maithuna 廻 性交を控えた.

yatara 廻 [中 yatarad] 両者のどちらかの (因).

yata-vāc 廻 言葉を制止した, 沈黙した.

yata-vrata 廻 誓約・意図を変えない.

yatas 圓 副 [数・性に関係しない ya の 従], それまたは彼から, そこから, それを (恐れる); そこに [通常]; そこへ [まれに]; そういうわけで, そういう理由から; ...である以上, なんとすれば [上来の記述を支持するためにしばしば詩句を以下に引用する]; その時以来 [通常+prabhṛti]; ...するや否や (RV.); ...であるとは [疑問に続いて: 例 われ何をかなせし, 汝が...するとは]; [また直説法を導く詞として用いられる]; 漢訳 故, 從彼, 由此, 因此 Abh-vy.; 若 Bodh-bh. ~o bhrāntiḥ 漢訳 乱...因 Madhy-bh. ~o ~ḥ それぞれいずこからなりとも; どちらへなりとも, いずれの方向にでも. ~o ~...tatra tatraiva 漢訳 在在処処 Ast-pr., ~o yata eva... tatas tata eva 漢訳 隨...皆能 Ast-pr. ~o ~... yasya yasya 漢訳 由彼各別...故種種 Bodh-bh. ~a eva kutaś ca いずれよりしても (Br.). ~tatas 誰からしても; どの方角からしても; どこからしても, どの場所にも.

yata-sruc 廻 祭匙を握りしめた (RV.).

yatātman (°ta-āt°) 廻 心を集中した, 自制した.

yatātmatvat (°ta-āt) 廻 [同上].

yatāhāra (°ta-āh°) 圓 節食する.

yati 1. 廻 圓 [因 圓 yati]...程多くの.

yati 2. 圓 指導者 (因); 世捨て人, 苦行者, 隱遁者; [人名]; (圓) [Bhṛgu 族と関係のある古代種族の称]; 漢訳 出家, 出家者, 我精進 Bodh-bh., Mvyut.

yati 3. 因 抑制, 制御, 指導 (因); (楽譜の)休止符; (詩行の)中間休止.

yati-cāndrāyaṇa 中 [贖罪的苦行の一種].

yatita 過受分 → Yat.

yatitavya 未受分 中 非人 努力すべきである, (因) のために努力すべきである.

yati-tāla 圓 音楽の拍子 (の一種).

yatitva 中 苦行者たること.

yatitha 廻 (因 -i) 何番目の (Br.).

yati-dharma 圓 苦行者の義務.

yatidhā 圓 いかほど多くの部分または場所に (AV.).

yatin 圓 苦行者.

yati-bhraṣṭa 廻 (必要な) 中間休止を欠いた.

yatendriya (°ta-in°) 廻 感覚器官を抑制した, 熱情を制した, 禁欲した, 純潔な.

yato-mūla 廻 それを根源とする.

yat-kāma 廻 それを欲する (因). ~m 圓; 漢訳 隨其所欲 Bodh-bh.

yat-kāmyā 副 その意向をもって (Br.).

yat-kāraṇam 副 そのために, その理由で; ...であるから, ...の故に.

yat-kāraṇāt 副 [同上].

yat-kāryam 副 その意向をもって.

yat-kiṃcana-kāraka 廻 (思いのままに)何でもする, でまかせに行なう.

yat-kiṃcana-kāritā 因 でたらめの行為; 早計 (Jat-m.).

yat-kiṃcana-kārin 廻 yat-kiṃcana-kāraka.

yat-kiṃcana-pralāpin 廻 でまかせにしゃべる; 漢訳 輕爾而發言 Ast-pr. → yad (yat-kiṃcana).

yat-kiṃcana-vāda 圓 だまかせの主張.

yat-kiṃcic-cāraka 圓 漢訳 通小者, 通諸有雜物人 Mvyut.

yat-kiṃcit-saṃjñin 廻 漢訳 有少分想, 起少心想, Lank. → yad (yat-kiṃcid).

yat-kiṃcid-api-saṃkalpa 圓 あれこれと望むこと.

yat-kiṃcid-duḥkha 中 種 あらゆる苦痛.

yat-kiṃcid-duḥkhaka 中 種 あらゆる種類の些細な苦痛.

yat-kula 廻 その家族の.

yat-kṛte 副 その人またはもののために.

yat-kratu 廻 そのような決心をもつ.

yatta 過受分 → Yat.

yatna 圓 意欲, 熱望 [まれに]; (圓 種) 努力, 尽力, 苦勞, 心勞, 難行, 骨折り; (因, 一°) に関する努力等; 明瞭な陳述 [まれに]; 漢訳 勤, 勤方便, 精勤, 勇猛; 苦勞, 艱辛; 用, 功用 Abh-vy., Bodh-bh., Buddh-c., Divy., Sūtr.; 憂, 愁惱 Śikṣ. 176. ~m ārabhate. 勤加功用 Bodh-bh. 206. → a~.

~m Kṛ (因) のために または (不定) しようと努力する・企てるまたは尽力する. ~m ā-DHā [同上].

~m ā-Sthā [同上]. ~m sam-ā-Sthā [同上].

~ena 圓 圓, ~ais 圓 種, 副 注意深く, 熱心に, 熱中して, 奮励して. ~enāpi あらゆる努力をするにもかかわらず. ~āt 従 副 あらゆる努力をもって; 注意深く, 孜孜として倦まず, 活発に.

yatnatas 副 =yatnāt (従); 漢訳 能, 堅固 Divy., Rāṣṭr. °— ころうじて.

yatnavat 廻 意欲を抱いた; (因) に骨を折る, ...に尽力する; 勤勉な, 熱心な; 漢訳 勤 Bodh-bh.

yatnānupālya (°na-ān°) 廻 漢訳 難持, 漸当沮壞 Śikṣ.

yat-parākrama 廻 そのような勇気のある.

yat-prabhava 廻 その根元をもつ.

yatra 圓 副 [因 は時として -ā; すべての数および性において ya の 因 に同じ] そこに, その場所に [通常の意義]; そこへ; その場合に, もし...ならば;

その時 [通例] ; それにつき [まれに] ; …するために [RV. : まれ] ; [釋 の後に] …とは ; 處, 是處, 於是處, 若處, 若是處, 於中, 此中, 於彼中 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Nyay-pr.*, *Sāṃkhy-k.* ; 隨 *Bodh-bh.* : ~ grāma-kṣetre prativasati tasmin 隨所居止国土城邑於中 *Bodh-bh.* 20 ; ~ śikṣante 所學處 *Bodh-bh.* 22. ; ~ yā ca yato bhrāntiḥ 亂境自性因 *Madhy-bh.* 69. ~ ~ どこでも ; どこへも ; 彼彼 *Bodh-bh.* ~ tatra なににおいても ; どこでも ; どんな所へも, いずれか知らないが ; あらゆる機会に, あらゆる時機に ; 隨所住處 *Ast-pr.* ~ tatrāpi どこであっても. ~ kutra なににおいても ; どこでも. ~ kutrāpi なににでも. ~ kva ca (因) なににおいても ; どこでも ; いつでも ; どちらへも. ~ kvacana なににおいても ; どこでも ; いつでも ; いずこへか知らないが. ~ kva vā どこでも (P.). ~ kvāpi, どんな場所へも, ここかしこへ (P.). ~ vā 或いはどこか他の場所に, ほかのところに.

yatra-kāman 副 希望する所へ.

yatra-kāmāvasāya 男 己の欲する所に (身を移す) 魔術の力.

yatra-kāmāvasāyitva 中 漢訳 住喜樂, 住於喜樂, 隨意住性 *Mvyut.*

yatra-tatra-śaya 形 どこにでも横たわる, 眠る所を 気につけない.

yatratya 形 そこに存在または居住する.

yatra-sāyaṃ-gṛha 形 (どこにでも) 日の暮れた所を 宿とする.

yatra-sāyaṃ-pratiśraya 形 [同上].

yatra-stha 形 そこに居住する.

yatrāstam-ita-śāyin 形 (どこにでも) 日の没した所で 休息する.

yatrecchaka (°ra-ic°) 形 どこにでも望むがままの.

yat-sāṃkhyāka 形 その数をもつ, …ほど多数の.

yat-sena 形 そのような(強い)軍勢をもつ.

yat-svabhāva 形 そのような本性をもつ ; 漢訳 如是性, 若自性, 可說自在 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*

yatharṣi (°thā-rṣi) 副 各々の聖仙に従って.

yatha-r-iva 副 俗 [韻律 <yathaiva (°thā-eva)] 漢訳 如 *Lal-v.* 55, *Saddh-p.* 32. : ~ gāṅga-vālikāḥ 如恒沙 *Saddh-p.* 32.

yatharcam (°thā-rc°) 副 各々の詩節に従って.

yathartu (°thā-rtu) 副 季節または定まった時に応じて.

yathartuka (°thā-rt°) 形 季節に応じた.

yathartukā-prāsāda (°thā-rt°) 男 漢訳 (三) 時殿 *Lal-v.*

yatharṣi (°thā-rṣi) 副 各々の聖仙に従って.

yathā 副 および 接詞 …のように, あたかも…のように [相関] tathā とともに ; 時として tathā tathā, tadvat, evam, eva (因) とともに ; (因) においては 不變辭 cid, ha, ha vai, ivāṅga, iva ha が加えられる ; 華 においては時として重複して iva が加えられる ; pāda の終りにおいて yathā が 時として iva と同じ語義に用いられる場合はアクセントがない ;

例えば ; [省略的に] (…である) または (…であった) ように [まれに] ; 適当に, 正しく [=yathāvat] ; …するために, …となるように [因 においては 因 または 因 とともに ; 華 においては 華, 因, 困, 三過, 三過, 三過 とともに ; 時として syāt または bhavet の省略法とともに] ; “…”と [直説話法 ± iti を導く : 言う, 考える, 知る, 疑う, 聞く等の 動 とともに] ; …するや否や [まれに] ; あたかも…であるかのように [因 とともに : まれ] ; 如, 如是, 如此, 如理, 如道理, 如何, 如…即如, 若如, 譬如 ; 猶 ; 謂 ; 隨 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-bh.*, *Mvyut.*, *Nyay-pr.*, *Saddh-p.*, *Sāṃkhy-k.*, 梵千, 梵維. : ~ vādi tathā kāri 隨說能行, 如說能行, 如說悉皆能作 *Ast-pr.* 285 ; ~ śikṣante 如是學 *Bodh-bh.* 22 ; ~ idam evaṃ rūpam 如是 *Saddh-p.* 17. ~…tathā …であるからそれゆえに, …が真実であると同様に [また ~…tena satyena, 文節の論理的順位は時として逆になることがある] ; 如 *Bodh-bh.* ~ ~ 如如 *Bodh-bh.*, *Sapt-pr.* ~ ~…tathā tathā [因 は また ~ ~…evaiva (eva eva)] …であるのに従って またはに比例してそのように, …であればあるほどますます ; 如如…如是如是 *Bodh-bh.* ~ ~ eva … であるように [因 とともに ; 相関 tad]. ~ tathā どんな方法でも ; どうであろうとも, とにかく [na とともに : 決して…ない, 実際…ではない] ; [註釈家はある語が副詞的に使用されたことを示すために用いる] …(である) ような方式で. ~ tathā tathā 展転相似, 無二差別 *Ast-pr.* ~ api = ~ api tad (*Di-vy.*). ~ api tad 期待の通りに, もちろん (*Di-vy.*) ; 謂, 又如. ~ katham-cid なんらかの方法で, なんとかして. ~ āpi nāma ちようど…のように (*Di-vy.*) ; 所以者何, 任他怎麼, 任他怎麼樣, 比喻, 比喻怎麼樣 *Mvyut.* tad ~ それは (次の通り) = すなわち, 例えば ; 如, 如此, 猶如, 譬如, 比喻, 謂 *Ast-pr.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Nyay-pr.*, *Mvyut.* tad ~ api nāma あたかも…であるかのように [因 とともに] ; 如譬如 *Ast-pr.*, *Vajr-pr.*, *Sukh-vy.* II.

yathā-kathita 形 (すでに) 述べられたように.

yathā-kaṇiṣṭham 副 最年少者から年令順に.

yathā-kartavya 未受分 (事情に) 応じてなされるべき. 中 行動の適当な経過.

yathā-karma 副 それぞれの活動または行為に.

yathākarma-guṇam 副 行為と (三) 徳とに 応じて.

yathā-kalpam 副 祭式に従って.

yathā-kāṇḍam 副 各篇に 応じて.

yathā-kāma 形 意のままの ; 意向通りに 行動する ; 隨欲 *Sūtr.* ~ m 副 望みに従って, 随意に, 意のままに, 心地よく ; 悠々と ; 隨所欲, 隨彼所欲, 隨所樂, 如所欲 *Bodh-bh.*

yathā-kāma-karaṇa 形 如其所欲 *Sikṣ.*

yathā-kāma-karaṇiya 形 如其所欲, 隨所欲為, 恣所欲, 如所欲隨所応作 *Bodh-bh.*, *Sikṣ.*

yathā-kāma-cāra 男 意のままの行為.

yathā-kāma-jyeya 形 意のままに 圧迫される.

yathā-kāmatā 因 隨意 *Daś-bh.*

yathā-kāma-prayāpya 形 意のままに出発させられるべき。

yathā-kāmam 副 → yathā-kāma.

yathā-kāma-vadhya 形 意のままに懲罰されるべき。

yathā-kāma-vicārin 形 意のままに徘徊する。

yathā-kāmārcitārthin 形 歎願者をその意のままに満足させる。

yathā-kāmin 形 意のままに行動する、拘束されない。

yathā-kārin 形 そのようなまたはあらゆる方法で行動する。

yathā-kārya 形 (事情に) 応じてなさるべき。

yathā-kāla 男 適当な時期。~m 副 適当な時または平常の時に、時宜を得て。

yathā-kāla-yathāśaya (°thā-ās°) 形 隨時節欲楽, Gand-vy.

yathā-kula-dharmam 副 家の慣習に従って。

yathā-kṛta 形 (一°) 適当になされた。→ a ~ ; 協定した。~m 副 常のように (RV.); たまたまなされたように; 協定したように。

yathā-klpti 副 適当な方法で。

yathā-kratu 形 決心した通りに。

yathā-krama 副 °一, 順序を追って, 順次に。

~m 副 [同上]; 如次, 如次第, 次, 次第, 如是次第, 依次第, 隨其次第, 次第而 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mṛyut., Suv-pr., Vijñ-v. ~eṇa 副 [同上]。

yathā-kriyamāna 現分 なされるままに, 平常の, 習慣の。

yathā-kritakam 副 依本価 Divy.

yathā-kṣamam 副 力に応じて, 出来る限り。

yathā-kṣipram 副 出来る限り速かに。

yathā-kṣemeṇa 副 安息に, 快適に。

yathā-khelam 副 陽気に。

yathā-khyāta (°thā-ākh°) 形 あらかじめ語られたように, 述べられたようにまたは言われたように。

yathā-khyānam (°thā-ākh°) 副 陳述に従って, 前述の通りに。

yathāgata (°thā-āg°) 形 通ってきた (道)。

~m 副, ~eṇa 副 通ってきた道によって。

yathāgama (°thā-āg°) 形 正統な。~m 副 伝統に従って; 依法 Bodh-c.

yathā-guṇam 副 性質または徳 (guṇa) に応じて。

yathā-gṛham 副 各自の家に。

yathā-gotra-kula-kalpam 副 種姓あるいは家族の慣習に従って。

yathāṅgam (°thā-an°) 副 各支分ごとに。

yathācāram (°thā-āc°) 副 慣習に従って。

yathā-cārin 形 行動の仕方に従って。

yathā-cittam 副 思考または意志に従って。

yathā-cintita 形 あらかじめ意図した通りの。~m 副 思った通りに。

yathā-cchandās 副 韻律ごとに。

yathā-jāta 形 あたかも (この世に) 生まれ出たかのような; 愚鈍な, 愚かな。

yathā-joṣam 副 思う存分に。

yathā-jñapta 形 指図されたまたは命ぜられた通りの。

yathā-jñapti 副 命令に従って。

yathā-jñānam 副 知識の及ぶ限り。

yathā-jñeyam 副 [同上]。

yathā-jyeṣṭham 副 最年長者から年令順に, 年長順に。

yathā-tattva 副 °一 または ~m 副 真実に従って, 真に, 正確に。

yathā-tatham 副 実際 (tathā) あるがままに, 情況に応じて, 正確に; 適当に, 適切に。

yathā-tathā 副 如実 Lanik.

yathā-tathya-darśana 形 如実能見, 得如実見 Lanik.

yathā-tathyam 副 真実に従って。

yathā-tathyena 副 [同上]。

yathātura-vaśāt (°thā-āt°) 副 病いに応じて;

依病, 以病故, 医病故 Lanik.

yathātmaka (°thā-āt°) 形 その本性に従う。

yathātma-bhāva (°thā-āt°) 形 形貌 Gand-vy.

yathātmāvatāra-kuśala (°thā-āt°) 形 能入自性, 善能入如自性 Mṛyut.

yathā-datta 形 与えられたような。

yathā-darśana 副 °一, そのつどに, 個々の場合において。~m 副 [同上]。

yathā-darśitam 副 示されたように。

yathā-dāyam 副 分け前に従って。

yathā-dik 副 基本方位に応じて, 相応する方角に従って。

yathādīg-deśa-sthita 形 隨其方処 Gand-vy.

yathā-dīśam 副 =yathā-dik.

yathādīṣṭa (°thā-ād°) 形 指示または陳述した通りの。

~m 副 指示または陳述に従って。

yathā-dikṣam 副 定められた注意に従って。

yathā-dṛṣṭa 形 如見, 如是見, 見如是 Lanik.

~m 副 見た通りに。

yathā-devatam 副 神ごとに。

yathā-deśam 副 場所に従って。

yathādeśam (°thā-ād°) 副 命令に従って。

yathā-dharmam 副 順序正しく; 本性に従って; 如法, 隨其所欲 Bodh-bh., Prāt-m.

yathādhikāra (°thā-adh°) 副 °一, 権能に従って;

地位または職務に従って (Jāt-m.). ~m 副 [同上]。

yathādhīta (°thā-adh°) 副 °一, ~m 学び得た通りに,

原典に従って。

yathādhyaṅgam (°thā-adh°) 副 教師に従って。

yathā-nikāyam 副 身体に従って。

yathā-niruptam 副 まき散らされたように。

yathā-nirdīṣṭa 形 列記・記述または特質を示したように; 如説, 如前説, 如前所説, 隨所説 Ast-pr., Bodh-bh.

yathā-nilayam 副 それぞれの巢または住居に。

yathā-nivāsin 形 どこにでも住むまたは止まる。

yathā-niveśam 副 それぞれの住居に。

yathānupūrvam (°thā-an°) 副 順次に, 順序正しく。

yathānupūrvya 副 [°一, または -ā (圓)] [同上]。

yathānubhūtam (°thā-an°) 副 経験に従って。

yathānurūpam (°thā-an°) 副 規則通りに, 正確に合

致して。
yathā-nyastam 副 寄託した通りに。
yathā-nyāyam 副 規則に従って、正当に、適当に。
yathā-nyāsam 副 Sūtra に記された通りに、文面の通りに。
yathā-nyupta 形 地上に置かれたまたは捧げられた順序に従った。
yathā-panyam 副 商品に応じて。
yathāparādha-daṇḍa (°thā-ap°) 形 罪過に応じて処罰する。
yathāparādhamī (°thā-ap°) 副 罪過に従って。
yathā-parikīrtita 形 如所称 Bodh-bh.
yathā-paripācita 形 随所応度、随所応化度 Gand-vy.
yathā-parittam 副 引渡された通りに。
yathā-paryeṣita 形 如所求 Bodh-bh.
yathā-parṣad 形 順衆 Bodh-bh.
yathā-pāṭha 形 列挙または読誦に従う。 ~m 副 読誦に従って。
yathā-puram 副 前のように。
yathā-pūrva 形 前のような；如本 Suv-pr. ~m 副 前のように；相ついで、次々に。
yathā-pūrvatva 中 [同上 (形) 副]。
yathā-paurāna 形 以前にあったような、以前の状態の (Jat-m.). ~m 副 如故 Divy.
yathā-prajñapta 形 如所施設、如(諸仏)所安立所説 Madhy-bh.
yathā-prajñam 副 知識の及ぶ限り。
yathā-pratijñam 副 約束または取極めに従って。
yathā-pratijñābhis 副 協定に従って、取りきめたように。
yathā-pratyakṣa-darśanam 副 あたかも実際に見るように。
yathā-pratyayam 副 随縁 Vijñ-t.
yathā-pratyaya-sambhava 形 随因縁而生、随縁而生起 Lanik.
yathā-pratyarha 形 如応 Lal-v. ~m 副 如各各相応、各自以以 Mvyut.
yathā-pradiṣṭam 副 定められたように、正当に。
yathā-pradeśam 副 各自の位置に；然るべき場所に、あらゆる方向に；規定に従って。
yathā-pradhānam 副 大きさに従って；優位の順に従って；随勝 Bodh-bh.
yathā-praveśam 副 入った時と同じように。
yathā-praśnam 副 質問に応じて。
yathā-prastāvam 副 最初の適当な機会において (Jat-m.).
yathā-prastutam 副 (すでに) 始められたように、遂に。
yathā-prāṇam 副 力量に応じて、全力をもって。
yathā-prāṇena 副 [同上]。
yathā-prāpta 形 偶然出会ったような、まず最初に生じる；(周囲の状況から) 起るような、適当な；(先行する文法規則から) 生ずる。 ~m 副 規則に従って、規則的に。
yathā-prārthitam 副 要求された通りに。

yathā-prīti 形 愛好に応じた、心ゆくばかりの。
yathā-prokta 形 如所説 Saddh-p.
yathā-phalam 副 結果に従って。
yathā-balam 副 力に応じて、全力を尽くして；軍隊(の状況)に応じて；随力、如力、随其勢力、如其力勢 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Saddh-p.
yathā-bijam 副 種子に従って。
yathā-buddhi 副 知る限りにおいて。
yathā-bhaktiā 副 全くの献身をもって。
yathā-bhavyam 副 所応、応理 Abh-vy.
yathā-bhāgam 副 分け前に応じて；各自の位置に；正しい位置に。
yathā-bhājanam 副 各自正しい位置に。
yathā-bhāva 副 あるがままの状態、真実の状態；運命。形 いかなる本性をもつ；如実 Cat-ś.
yathābhikāmam (°thā-abh°) 副 願望に従って；随所欲 Sutr.
yathābhiniṣṭa (°thā-abh°) 形 各自の認めるような (Jat-m.).
yathābhīprāya (°thā-abh°) 形 随心所樂 Śikṣ.
yathābhīpreta (°thā-abh°) 形 (一) 望まれた通りの望ましい；随欲樂、如(心)所欲 Gand-vy., Sutr. → a ~. ~m 副 願望に従って、(圓)の好む通りに；随其所樂 Bodh-ś.
yathābhīmata (°thā-abh°) 形 望まれた通りの。 ~m 副 望みに応じて、心ゆくまで。
yathābhīmata-deśa 副 望み通りの場所、(各自)好むがままの場所。
yathābhīrucita (°thā-abh°) 形 好み通りの、気に入った。
yathābhīlaṣita (°thā-abh°) 形 望まれた通りの、好ましい。
yathābhīṣṭa (°thā-abh°) 形 望まれた通りの。
yathābhīṣṭa-diś 副 (各自)望むがままの場所。
yathā-bhūta 形 如実、真実 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lanik., Madhy-bh. ~m 副 あるがままに、真実に、如実に (Lal-v.); 如実、真実、真正；機相 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lanik., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., Sutr.: ~m prajānāti 如実知、如是知、觀知如実境 Madhy-bh.
yathābhūta-jñāna 中 実智、如実智、如実真智、如実見知、如実真解 Abh-vy., Bodh-bh., Gand-vy., Sutr.
yathā-bhūtātā 副 如実相、如実之性 Aṣṭ-pr., Suvik-pr.
yathā-bhūtatva 中 如実 Bodh-bh.
yathābhūta-darśana 中 如実見 Madhy-vibh., Śikṣ., Suvik-pr.
yathābhūta-darśana-vibandhana 形 覆如実理、障真見、障如実見 Madhy-bh.
yathābhūta-darśin 形 如実見、見真正、如実見者 Mvyut., Śikṣ.
yathābhūta-parijñā 副 如実遍知 Bodh-bh.
yathābhūta-parijñāna 中 如実知、如実智、如実遍知、如実遍智、如実了知、能知如実 Bodh-bh., Madhy-v., Sutr.

yathābhūtaparijñānārtham 副 為欲如實了知 *Bodh-bh.*
yathābhūta-pratijñā 女 真の約束 (*Sukh-vy. I.*)
yathābhūta-pratyavekṣā 女 如實觀, 真實見 *Madhy-bh.*
yathābhūta-śruta 形 如聞言 *Madhy-vibh.*
yathābhūta-sampratipatti 女 如實正行 *Vijñ-t.*
yathābhūtārtha-sthāna 中 如實處, 如實住處 *Lank.*
yathā-bhūmi 副 それぞれの土地の中に; 如故 *Saddh-p.*
yathā-bhogam 副 おのおのの分け前に従って.
yathābhyarthita (°thā-abh°) 形 あらかじめ乞い求められた通りの.
yathā-maṅgalam 副 各々の習慣に従って.
yathā-mati 副 (國)に適當と思われるように; 理解する限りにおいて.
yathā-manas 副 心ゆくまで.
yathā-mānam 副 量または大きさに従って.
yathā-mukhyam 副 主要人物に関して.
yathā-mukhyena 具 副 主として, とりわけ.
yathāmnātam (°thā-ām°) 副 (原典に) 伝えられるように.
yathāmnāyam (°thā-ām°) 副 [同上].
yathā-yatham 副 適切に, 正しく, 正しい順序に; 次々に, 次第に.
yathāyuh-pramāṇa (°thā-āy°) 形 隨如是壽量 *Gaṇḍ-vy.*
yathā-yukta 形 (因)に関する. ~m 副 周囲の情況に依じて, 適當に.
yathā-yukti 副 =yathā-yuktam.
yathā-yuktitas 副 [同上].
yathā-yogam 副 [同上]; 慣習に従って; 如應, 如所應, 如其所應, 隨應, 隨所應, 隨其所應, 相應; 如理, 如道理, 如義相應, 如理相應; 隨便, 隨機, 隨其所得 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mṛyut., Śikṣ., Vijñ-v.:* ~ karaṇīyam 隨類知之, 應如前知, 次第皆亦如是 *Madhy-v. 568.*
yathā-yogānurūpa 形 隨其所應, 如應如宜 *Bodh-bh.*
yathā-yogena 具 副 周囲の情況に依じて, 適宜に.
yathā-yogyam 副 適當なように, 適當に, 適宜に; 其所應, 應理, 如宜 *Abh-k., Bodh-bh.*
yathā-yoni 副 母胎に従って; 本来のあり方に従って.
yathārabdha (°thā-ār°) 形 すでに着手したように.
yathārambham (°thā-ār°) 副 初めと同様に, 同じ順序で.
yathā-rasam 副 情緒に従って.
yathā-rucam 副 趣味に従って.
yathā-ruci 副 [同上].
yathā-ruta 副 如言, 如言說, 如說, 如所說, 如声, 如聞言, 如文義, 如名義, 隨言, 隨言說, 依語 *Lank., Madhy-vibh., Sūtr.*
yathāruta-dharma-sammohāpagama 男 離如聞言諸法迷謬, 滅離如言法無明 *Madhy-bh.*

yathāruta-vicāraṇa 中 (女 -ā) 如言而思義, 如(名字)言(語)思量義 *Madhy-bh.*
yathārutārtha 男 如言義, 同言語声義 *Lank.*
yathārutārtha-grahaṇa 中 依語而取其義, 著音声言語之義 *Lank.*
yathārutārtha-grāhin 形 依語取義, 著言語之義 *Lank.*
yathā-rūpa 形 いかなる形態をもつ; 相應する外見をもつ; 非常に美しい; 非常に大きな. ~m 副 適當に; 正しく, 順當に; 外見に従って.
yathā-rtukam 副 [=yathartukam (?)] 依時, 依時看 *Mṛyut.*
yathārtha (°thā-ar°) 形 事實に一致した, ふさわしい(名称), 適當した; 正しい, 真の [夢の場合にも用いる: 實現された], (語の)意義通りの (janman 人生); 如實, 如其實義, 如理, 真實義 *Abh-vy., Bodh-bh., Lank.* → a~, °—, ~m 副 目的または必要に応じて, 適切に, ふさわしく; 事實に従って, 正確に; 意のままに.
yathārthaka (°thā-ar°) 形 正しい; 真實となった(夢).
yathārtha-kṛta-nāman 形 適切に名づけられた.
yathārtha-tattvam 副 真實に従って, 現實の通りに.
yathārthatas (°thā-ar°) 副 真實に従って.
yathārthatā (°thā-ar°) 女 (名称の)適切なこと(とくに名称と意義との一致).
yathārtha-nāmaka 形 適切な名称をもつ.
yathārtha-nāmakatva 中 名称の適切なこと.
yathārtha-nāman 形 適切な名称をもつ.
yathārtha-śāstr 男 如理師, (大)師, 如理教, *Abh-k., Abh-vy.*
yathārthākṣara 形 字義通りに正しい.
yathārthākhyā (°thā-ākḥ°) 形 適切な名称をもつ.
yathārthita (°thā-ar°) 形 要求された通りの, 乞われたような.
yathārthitvam (°thā-ar°) 副 意向に従って.
yathārpita (°thā-ar°) 形 引渡されたような.
yathārha (°thā-ar°) 形 功績または資格に依ずる, 適當な; 如應, 應機, 如其所宜 *Bodh-bh., Sūtr.* °—, ~m 副 功績または価値に依じて, ふさわしく, 適當に, 正当に; [~m] 如應, 如宜, 隨所宜, 隨其所宜 *Bodh-bh.*
yathārhaṇam (°thā-ar°) 副 功績または資格に従って.
yathārhatas (°thā-ar°) =yathārham. 隨所應, 如次第 *Madhy-bh.*
yathā-labdha 形 獲得または入手したままの.
yathā-lābha 副 °—, ~m 現にそうであるように.
yathā-likhitānubhāvin 形 単に描かれただけであることを知った.
yathā-lingam 副 特徴に依じて.
yathāvakāśam (°thā-av°) 副 場所に従って; 適當な場所へ; 最初の機会に従ってまたは乗じて.
yathā-vacana-kārin 形 命令に従って行なう, 從順な.
yathā-vacanam 副 言葉に従って.
yathāvaj-jñāna-darsana 中 如實正智見 *Bodh-*

bh.

yathāvat 副 正にあるように またはあるべきように、
慣習に従って、正しい順序で、適当に、適切に、正
しく、的確に； =yathā...のように [まれに]；
如，如実，真実，随宜，如理，無倒，*Aṣṭ-pr.*，
Bodh-bh.，*Buddh-c.*，*Daś-bh.*，*Gaṇḍ-vy.*，*Lal-v.*，
Madhy-v.，*Śikṣ.*，*Vijñ-v.*

yathāvat-tathatā 因 如所有性 *Suvik-pr.*

yathāvattā 因 [同上] *Suvik-pr.*

yathāvad-bhāvikatā 因 如所有性 *Bodh-bh.*

yathā-vayas 副 年令に従って；同年令で。

yathā-varṇam 副 種姓(階級)に従って。

yathā-vaśam 副 意志または欲望に従って (因)。

yathāvasaram (°thā-av°) 副 機会あるごとに。

yathā-vastu 副 事実と一致して，的確に，真実に。

yathāvastham (°thā-av°) 副 状況または事情に従って。

yathāvasthitārtha-kathana (°thā-av°) 因 事実に従
って事柄を記述すること。

yathā-vādi-tathā-kāritā 因 如言而行，依言所
行，依言所作 *Raṣṭr.*

yathā-vādi-tathā-kārin 形 如説而作，如説行，
如設而行，随設而行 *Gaṇḍ-vy.*，*Lal-v.*，*Sam-r.*，
Sūtr.

yathā-vādin 形 如言，依言 *Mvyut.*： ~i tathā
kāri 依言所作，如言如是作，不食言 *Mvyut*

yathāvāsam (°thā-āv°) 副 各々の住居に。

yathā-vāstu 副 土地または場所に従って。

yathā-vittam 副 取得物に従って；財産に応じて。

yathā-vidha 形 このような種類の。

yathā-vidhānam 副 規定または規則に従って，正当に。

yathā-vidhānena 副 [同上]。

yathā-vidhi 副 [同上]；適当な形式で，適当に，(因)
資格に応じて。

yathā-viniyogam 副 所定の順序に従って。

yathā-vibhava 副 °—， ~m 資力または収入に応じて。

yathā-vibhavatas 副 [同上]。

yathā-vibhāgam 副 分け前に応じて。

yathā-viśayam 副 論題に応じて。

yathā-virya 形 いかなる力をもつ。 ~m 副 勇気に応
じてまたは関して。

yathā-vṛtta 形 起ったまたは生じた通りの；いかにふ
るまう。 因 以前の事件；事実，事件の詳細。 °—，
~m 副 たまたま，事実に応じて，情況次第で；韻
律に従って。

yathāvṛttānta 男 因 出来事，経験，冒険。

yathā-vṛtti 副 生活様式に従って。

yathā-vṛddha 副 °—， ~m 年令に従って，年長順
に。

yathā-vṛddhi 副 (月)の満ちるに従って。

yathā-vyavasitam 副 決心した通りに。

yathā-vyavahāram 副 慣習に従って。

yathā-vyādhi 副 病気に応じて。

yathā-vyutpatti 副 教養(の程度)に従って。

yathā-śakti 副 力に応じて，力の及ぶ限り，できる限
り； 如能，如所能，随能 *Bodh-bh.*，*Śikṣ.*

yathāśakti-yathā-balam 副 随力随能，随力所

能，随力能作 *Bodh-bh.*

yathā-śaktyā 副 =yathā-śakti； 随能，随力
Bodh-bh.

yathā-śabdām 副 如言，如(名字)言語 *Madhy-
vibh.*

yathāśaya (°thā-ās°) 形 随心，随心所樂，随心
之所樂，随其心樂，随(衆生)心，随(衆生)樂，如其深
心，随欲樂，随其(根)欲，応(群)機 *Gaṇḍ-vy.*，*Śikṣ.*
~m 副 願望に応じて；条件または前提に応じて；
随其心樂，随諸心樂，随其所応，普応其心
Gaṇḍ-vy.

yathāśaya-carya 形 随其心行 *Gaṇḍ-vy.*

yathāśayābhimukhābhyutthita 形 随(衆生)心
普現其前，随(衆生)所応悉現其前 *Gaṇḍ-vy.*

yathā-śāstra 副 °—， ~m 規定または法制に従って。

yathā-śīlam 副 性格に応じて。

yathā-śraddham 副 性向に応じて。

yathāśramam (°thā-ās°) 副 宗教生活の段階(すなわち
婆羅門の四住期)に応じて。

yathāśrayam (°thā-ās°) 副 関係に従って。

yathā-śrāddham 副 祖靈祭に従って。

yathā-śruta 形 聞いた通りの； 随聞，如其所聞
Sam-r.，*Śikṣ.* ~m 副 聞いた通りに；知識に従っ
て；[yathā-śrutiの副]； 如所聞，如是聞，
依所聞，按如是聞 *Mvyut.*，*Śikṣ.*

yathā-śruti 副 天啓すなわち *Veda* (の規定)に従って。

yathā-saṃvṛttam 副 起った通りに。

yathā-saṃstham 副 周囲の情況に従って。

yathā-sakhyam 副 友情に応じて。

yathā-saṃkalpam 副 願望に従って。

yathā-saṃkalpita 形 願望したような。

yathā-saṃkhyā 因 順次に相応する列挙 修詞(一群
の名詞とこれと同数の一群の動詞を挙げ，各群の第
一のもの同志，第二のもの同志が順次に相応するよ
うに配列するもの)。 ~m 副 数に従って，順次に
如次，如数，如次第，如其次第 *Abh-vy.*，*Ma
dhy-bh.*

yathā-saṃkhyena 副 [同上]。

yathā-saṃgam 副 必要に応じて，適切に。

yathā-satyam 副 真実に従って，真実に。

yathā-saṃdiṣṭam 副 指示されたように。

yathāśanna (°thā-ās°) 形 (手の)届くところにある
~m 副 近づくやいなや。

yathā-samayam 副 適当な時に。

yathā-samarthitam 副 適当と考えたように。

yathā-samāmnātam 副 述べられたように。

yathā-samihita 形 望まれたような。 ~m 副 願望
に応じて。

yathā-samuditam 副 協定されたように。

yathā-saṃpad 副 たまたま生ずるように。

yathā-saṃpratrayam 副 協定に従って。

yathā-saṃpradāyam 副 伝承に従って。

yathā-saṃbandham 副 関係に従って。

yathā-sambhava 形 可能な限りの，両立しうる。
副 適合して，結合に従って，それぞれに；
応，随所応，如理 *Abh-vy.*

yathā-sambhavin 形 相応する。
 yathā-sambhāvita 形 [同上]。
 yathā-sarvam 副 全体として、詳細な点において。
 yathā-savanam 副 Soma 液压榨 (savana) の順序に従って；時または季節に応じて。
 yathā-sāma 副 歌詠の旋律 (sāman) の順序に従って。
 yathā-sāram 副 性質に従って。
 yathā-siddha 形 たまたま準備のできた。
 yathā-sukha 副 〇—, 意のままに；気楽に、快く；愉快に、都合よく；随説 如其所樂 Bodh-bh. ~m 副 [同上]；随説 随意、任情、随所安、随便宜従其所安 Bodh-bh, Divy., Saddh-p.
 yathāsukha-mukha 形 望むがままの方向に顔を向ける。
 yathā-sūktam 副 讃歌ごとに。
 yathā-sūkṣma 形 種 最小なもの (から順次大きさ) に応じた。~m 副 [同上 副]。
 yathāstam (°thā-as°) 副 各自の住居へ。
 yathā-sthāna 中 [於の 單 複のみ] 適当な場所。形 適当な場所に存する。~m 副 適当な場所へまたはに；随説 随处 Abh-k. ~e 於 (および ~eṣu 於 複) 副 適当な場所に；最初のように (Divy.)；随説 如旧 Divy.
 yathā-sthitam 副 立場に応じて；あるがままに、確かに、確実に。
 yathā-sthiti 副 慣習に従って、通例のように。
 yathā-sthūla 副 〇—, ~m 荒削りに、詳細にわたらないで。
 yathā-smṛti 副 (自己の) 記憶に従って；法典の規則に従って。
 yathā-sva 形 各自の。〇—；~m 副 各人別々に、各々独自の方法をもって、各自に。
 yathā-svaira 副 〇—, ~m 思うがままに、思う存分に。
 yathāhāra (°thā-āh°) 形 (手当り次第に) なんでも食べる。
 yathekṣitam (°thā-ik°) 副 (眼前に) 見るように。
 yatheccha (°thā-ic°) 形 望み通りの；随説 如意 Bodh-c. 〇—, ~m 副 欲望にそって、思うがままに、好むように；随説 [〇—] 随意、恣意、随欲、如意欲 Gand-vy., Madhy-bh., Madhy-vibh.
 yathecchakam (°thā-ic°) 副 [同上 副]。
 yathecchatas (°thā-ic°) 副 [同上]；随説 随意 Guhy-s.
 yathecchayā (°thā-ic°) 真 副 [同上]。
 yathecchā (°thā-ic°) 因 随説 自在 Abh-vy.
 yath'etam (°thā-et°) 過受分 副 来た時と同じように。
 yathepsayā (°thā-ip°) 真 副 望みに応じて。
 yathepsita (°thā-ip°) 形 望んだような；随説 随意、随所欲；随其欲、随所樂 Bodh-bh., Mañj-m. ~m 副 願望に応じて；随説 任意、随所欲 Bodh-bh., Divy.
 yatheṣṭa (°thā-iṣ°) 形 望んだ通りの；随説 随其所欲 Śiks. 〇—, ~m 副 願望に応じて；随説 [~

m] 随意、随所欲、如其所欲 Gand-vy., Lal-v., Śiks., Sūtr.

yatheṣṭa-gati 形 好むところにどこへでも行く。
 yatheṣṭatas (°thā-iṣ°) 副 =yatheṣṭam.
 yatheṣṭa-samcārin 形 =yatheṣṭa-gati.
 yatheṣṭāsana (°ta-ās°) 形 好むように坐る。
 yathaika-divasam (°thā-ek°) 副 あたかも一日であったかのように。
 yathaicchā (°thā-ic°) 因 随説 称情 Gand-vy.
 yathaitam (°thā-et°) 副 =yathetam.
 yathokta (°thā-uk°) 形 語られたような、述べられたような、前述のような、先に記述または論究されたような；随説 如所設、如前所設 Abh-vy., Śiks. 〇—, ~m, ~ena (真) 副 所説のまたは所定の方法によって；請いに応じて。
 yathokta-kāritā 因 随説 如説而行 Sam-r.
 yathokta-kārin 形 (上記の) 規定通りに行なう。
 yathokta-vādin 形 言われた通りに語る、言われたことを報告する (使者)。
 yathocita (°thā-uc°) 形 相応した、適合した、相当した。〇—, ~m 副 ふさわしく、適合して、適当に。
 yathojjitam (°thā-uj°) 副 勝利の獲得に従って。
 yathottara (°thā-ut°) 形 順序に従う。~m 副 相次いで、連続して。
 yathotpanna (°thā-ut°) 形 随説 随得、随有所得 Bodh-bh.
 yathotpanna-bhoga-dāna 中 随説 随得施 Bodh-bh.
 yathotsāha (°thā-ut°) 形 力に応じた。~m 副 能力の及ぶ限り。
 yathodayam (°thā-ud°) 副 収入に比例して、資力に従って。
 yathodita (°thā-ud°) 形 述べられたような、前述のような。~m 副。
 yathodgamana (°thā-ud°) 副 〇—, 高まるのに比例して、進行するに従って。~m 副 [同上]。
 yathodgrhita (°thā-ud°) 形 随説 如所受 Bodh-bh.
 yathoddiṣṭa (°thā-ud°) 形 述べられたような、上列挙したような；(真) によって指示されたような。随説 如前説 Bodh-bh. ~m 副 所説の方法によって。
 yathoddesam (°thā-ud°) 副 教示された方法によって。
 yathodbhavam (°thā-ud°) 副 本源に従って。
 yathopacāram (°thā-up°) 副 礼儀の要求に従って (Jāt-m.).
 yathopajoṣam (°thā-up°) 副 思うがままに、快く
 yathopadiṣṭa (°thā-up°) 形 述べられたような、指示したような。~m 副 所説のまたは所定の方法によって。
 yathopadesam (°thā-up°) 副 述べられたように、えられたように、命令または教示に従って。
 yathopapanna (°thā-up°) 形 ちょうど手もとにあたまたま起きたような；自発的な、無理のない、然な。
 yathopapādam (°thā-up°) 副 たまたま起こる。に、たまたま起こる場所に。

yathopayoga (°thā-up°) 副 °—, ~m 用途・要求
または環境に応じて。

yathopalambham (°thā-up°) 副 まさに…を把握または
はに着手するように。

yathopādhi (°thā-up°) 副 条件または前提に従って。

yathopta (°thā-up°) 形 播かれたままの、種子に従っ
て。

yathaucityam (°thā-auc°) 副 適宜の方法によって。

yathaucityāt (thā-auc°) 副 [同上]。

yad 関 代 [ya の 中 困 業 團, およびその 幹 °—]
…するところのまたはであるもの；**彼**, 諸有, 所
有 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*: ~t tac chrūyate
昔聞 *Divy.* 40.; ~m ~m …tam tam [仏教梵
語では yam=yad, tam=tad] 一切皆, 皆悉 *Aṣṭ-pr.*
168.; yāni tāni 諸, 一切 *Aṣṭ-pr.* 195.; yena
bhagavāms tenāñjalim pranamya [yena 具 =
yatra] 向仏合掌恭敬 *Mvyut.* 接詞 …と, いわく…
[言う, 考える等の 動 に続いて直接語法を導く。た
だし通例 iti を伴わない]; …するように [まれに],
…である事実に関しては [相関 tad, それについ
て]; そういうわけで, そのために [まれに]; …する
またはである時 (因); もし…ならば (因) [Br. にお
いては 願 とともに実現されない条件を表わす]; …
であるから, …の故に, …であるをもって [相関
tad, その故に(通例)]; …するために [まれに]; **若**
若, 若事; 是何, 何物, 怎麼; 如是; 謂 *Abh-vy.*,
Bodh-bh., *Mvyut.*, *Nyāy-pr.* yena 具 **以** 那
箇, 為那箇, 為想那箇 *Mvyut.*: yena grhṇāti 執
具, 所用著法 *Madhy-v.* 465; ~c ca na vikal-
payati 由此無分別 *Madhy-bh.* yasmāt 由;
如此; 為何, 那等 *Bodh-bh.*, *Mvyut.* yasya 屬
孰 之; 是誰, 於誰 *Mvyut.* yeṣām 屬 **孰**
孰們的, 為誰們, 那幾個的 *Mvyut.* adha~たとい
…であっても, …といえども (RV.). ~ api …とい
えども. ~ idam すなわち; **謂** 日, 所謂; 此,
如此, 既此; 所; 是何, 何物, 怎麼 *Daś-bh.*,
Mvyut. ~ u…evam …であるようにそのように
(因). ~ uta すなわち (*Kar-vy.*); **謂** 謂, 所謂,
是謂; 是, 如是, 即是 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-
bh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.* ~t kim-cit 所有, 諸所
有, 一切 *Bodh-bh.*: yāni kāni-cit 所有 *Bodh-bh.*
263. ~t kila すなわち, ~t khalu なにとぞ(知
られたし) yac ca しかも, すなわち, たしかに; そ
の上. ~ ca…~ ca ならびに…もまた (*Divy.*). ~
vā さもなければ [副] においてはきわめて普通; しか
しながら. …~ vā…yadi vā もし…ならば…また
もし…ならば。

yad-anna 形 その食物を食べる。

yad-abhāva 男 : ~e 因 それの無いまたは欠けた場合
には。

yad-artha 形 それを目的とする. ~m 副 その故に,
その理由によって; その人のために; …なるが故
に, …であるをもって [まれに]. ~e 因 副 [同上]。

yad-avastha 形 如位 *Abh-vy.*

yad-aśana 形 それを食する。

yad-aḥas 副 その日に。

yadā 接詞 …であるまたはする時に [相関 tadā (まれ
に省略される) または時々 tatas とともに; 因] におい
ては āt, atha, adha, tad とともに; 繫辞はしばしば省
略される, [過受分] の後には特には特にそうである];
爾時, 是時; 若, 若時; 何時 *Abh-vy.*, *Bodh-
bh.*, *Mvyut.*, *Sapt-pr.* ~ kadā cid 何時でも, ど
んな場合にも. ~ tadā 常に; **故**, 由…故
Aṣṭ-pr. ~ kadā ca …するごとに (RV.). ~ ~…
するごとに [相関 tadā を重複または単一で用いる].
~ eva …tadaiva (°dā-eva) …するや否や直ちに,
正に…した時その時以来. ~ eva khalu…tadā
prabhṛty-eva [同上]。

yad-ātmaka 形 そのものの性質をもつ。

yadi 接詞 [因] はまた **yadi** (韻律) もし…ならば
[因] においては, 圓, 擧, 願, 困 または時として id,
u, uta, cid, ha vai 等の 不変辞 を伴う; た
だし帰結句には通常 不変辞 を省略する; 願 におい
ては *Manu* 以来次の六種の 動 とともに用いられ
る: 1. 現 とともに; 帰結句には, 現, 願, 諭, 困 ま
たは人称形の 動 なしに; 2. 願 とともに; 帰結句におい
ては, 願, 條件, 現, 諭, 困 または人称形の 動 なし
に; 3. 困 とともに; 帰結句においては, 困, 現 または
人称形の 動 なしに; 4. 條件 とともに; 帰結句におい
ては 條件; 5. 一過 または 三過 とともに; 帰結句に
おいては 條件, 願 とともに; 6. 人称形の 動 なしに;
帰結句においては, 現, 願, 困 または人称形の 動 な
しに. すべてこれらの場合における帰結句は tarhi,
tataḥ, tad, tadā, まれに atra, atha, tatra, tadānim,
tataḥ param を伴う]; もし…が確かであると
同様に [断言の場合は 諭 ± tathā または tena, 願
+ tad を伴う]; …かどうか [現, 願 を伴う
または人称形の 動 なしに; ~ …na vā …か…または
どうか]; …であることを(「信じない」, 「認めない」
を意味する 動 の後に); もし多分, 恐らく…ならば
[願 ± iti, 現, 困 とともに]; **若**, 設, 設使; 既
Abh-vy., *Ar-s.*, *Mvyut.*, 梵千. ~ ced もしも…な
らば. ~ tāvat もし…ならば(どうなるであろう)
[現 または 諭 とともに]. ~ api たとい…であるとする
も, …であるといえども [まれに api ~; 帰結句に
は ±tathāpi (°thāpi) または tad api]. ~ nāma も
し実に…ならば (*Jāt-m.*). ~ (vā)…~ vā …である
のかまたは…であるのか. ~ vā …~ [同上]. ~
vā…vā [同上]. vā ~ vā [同上]. yad vā…vā [同
上]. ~…vā na vā, …であるのかあるいは…でな
いのか. ~vā [単独に]. あるいはもし…ならば, あ
るいはむしろ…ならば, [時として]=ししながら。

yadiya 形 その人の, それの。

yadu 男 [*Veda* 時代の一種族またはその首長の名(通
例 *Turvaśa* とともに 挙げられる: turvaśā ~ū
画); 團 その種族またはその子孫=Yādava; 叙詞に
は *Yayāti* または *Cedi* の王侯 *Vasu* の息子または
Haryaśva の息子とされる; *Kṛṣṇa* の出た *Yādava*
族の先祖]。

yadu-nandana 男 *Yadu* 族の長, [*Kṛṣṇa* の称];
[*Akrūra* の称]。

yadu-puṁ-gava 男 *Yadu* 族の長, [*Kṛṣṇa* の称]。

yadu-pravira 男 [同上].
 yadu-vira-mukhya 男 [同上].
 yadu-sreṣṭha 男 [同上].
 yad-ṛchayā 男 副 偶然に, はからずも; 自然に; 不意に.
 yad-ṛchā 女 偶然; 自然, 忽然 *Lank.*
 yad-ṛchātas 副 = yad-ṛchayā.
 yadṛchā-mātrataḥ 副 全く偶然に.
 yadṛchā-lābha-saṃtuṣṭa 形 偶然の所得をもって満足した.
 yadṛchā-śabda 男 偶発語, 無意味な語.
 yadṛchā-siddhitā 女 随欲成 *Bodh-bh.*
 yad-gotra 形 そのような氏族に属する.
 yad-devata 形 そのような神格をもつ.
 yad-dhetos 男 副 そのような理由から, そういうわけで.
 yad-bala 形 そのような力の.
 yad-bhaviṣya 形 「なるようになる」と主張する. 男 宿命論者; [ある魚の名].
 yad-bhūyasā 男 副 大体 (*Divy.*); 多, 多分, 余衆多人 *Bodh-bh., Divy.*
 yad-bhūyasikiya 形 多, 《多人語》 *Mvyut.*
 yad-bhūyas-kārin 形 多行; 持多処, 能学多分 *Abh-vy., Mvyut.*
 yad-riyañc 形 その方向に向った (因).
 yadvat 副 そのように [tadvat または evam の 相関]; ; 如 *Abh-vy.*
 yad-vikārin 形 そのような種類をもつ.
 yad-vidha 形 そのような種類の.
 yad-virya 形 そのような勇力のある.
 yad-vṛtta 中 (偶発した事柄), 出来事, 事件, 冒険.
 yantave 男 [Yam の 不定] (*RV.*).
 yantavya 未受分 導かれるべき, 抑制されるべき, 制御されるべき.
 yantr 男 (馬または車の) 馭者, 御者; 象使い; 指揮者, 指導者; 支配者, 統治者. 形 創立する (因); 授ける (因); (因) を差しひかえる.
 yantrka 男 (一) [同上].
 yantra 中 保持する手段, 支柱, 防さく (因); 革の紐, (馬車の) 曳き革; (刃のない外科用の) 道具 [śastra 小刀の 因]; 器具, 装置, 機械のしかけ, 機械; 門, (戸の) 錠; (小舟の) 推進具 (= 撓, 帆等); °— または °—, 機械の (象等); 魔法の (車); 護符, (護符として使用する) 神秘的図形; 機, 機関; 礎; 冒険 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Lank., Śikṣ., Suv-pr., 梵雜.* → ghaṭi ~.
 yantraka 男 抑制する者; 器具匠.
 yantra-karaṇḍikā 女 魔法の籠.
 yantra-karma-kṛt 男 器具匠.
 yantra-karman 中 器具の使用.
 yantra-garuḍa 男 (自身で動くように工夫された) *Garuḍa* の像.
 yantra-gṛha 中 搾油所; 拷問室 (*Divy.*); 胡膠舎, 落可屋 [jatu-gṛha の 副 (?)] *Divy. 380*; 熱陶 (?) *Divy. 537.*
 yantra-ceṣṭita (過受分) 中 奇術, 魔法.

yantra-cchedya 中 [技術の一種, pattra-cchedya の 不確].
 yantraṇa 中 縋帯すること; (一) によって限定・抑止または束縛されること.
 yantraṇā 女 [同上]; 能堪忍, 能忍受 *Abh-vy.*
 yantra-takṣan 男 機械または魔術の仕掛けを作る者.
 yantra-dṛḍha 形 門でしっかりと締められた.
 yantra-dhārā-gṛha 中 灌水装置のある浴室.
 yantra-dhārā-gṛhatva 中 灌水浴室の状態または作用.
 yantra-nāla 中 人工の管または筒.
 yantra-putraka 男 操り人形.
 yantra-putrikā 女 [同上].
 yantra-pravāha 男 噴霧器または水の噴出器.
 yantramaya 形 (因 -i) 人工的に模造した, 機械装置の (動物等); 機関 *Divy.*
 yantra-mayūrika 男 人工の孔雀.
 yantra-mārga 男 水道, 運河.
 yantra-mukta 形 機械によって投げられた.
 yantraya 名動 中 yantrayati 縋帯をする. 過受分 yantrita 縋帯を巻かれた, 縛られた, 結びつけられた; (因, 因, 一) で束縛・抑止または強制された, …に依存する; 自己を制御した; 奮励努力する, (-kṛte のために) 奮励努力する.
 ni- 制御する, 抑制する. 過受分 niyantrita 縛られた, 束縛された; 提防で囲まれた; (因, 一) で抑止された, 支配された, …に依存する.
 saṃ- 過受分 saṃyantrita とめられた (車).
 yantra-yukta 形 (必要な) 道具または装置を取りつけた.
 yantravat 形 仕掛けのある.
 yantra-vimāna 男 または 中 自動の車.
 yantra-sāra 男 自動的 (に飛ぶ) 矢.
 yantra-sacakra 中 輻輳 *Śikṣ.*
 yantra-sūtra 中 操り人形の細綱.
 yantra-haṃsa 男 人工の鵝鳥または紅鶴.
 yantra-hastin 男 人工の象.
 yantrārūḍha (°ra-ār°) 形 (宇宙の) 機械 (舞台) に乗った.
 yantrikā 女 = yantraka.
 yantrita 過受分 → yantraya. 自競撰 *Bodh-bh.* → a ~.
 yantrita-katha 形 言葉を抑止された, 沈黙を強制された.
 yantrita-vihāratā 女 住自競撰, 心正念住 *Bodh-bh. 194.*
 yantrita-sāyaka 形 (それに触れれば自動的に 矢を発射する弓または機械に) 矢をつがえた.
 yantrin 形 装飾を施した (馬); 護身符を所有する; 悩ます. 男 悩ます者.
 yantroṭkṣiptopala (°ra-ut°, °ta-up°) 男 機械で発射された石.
 yantropala (°ra-up°) 男 種 ひきうすの石, ひ (碾) く機械.
 yan-nāmaka 形 某名 *Bodh-bh.*
 yan-nāman 形 そのような名称をもつ.
 yan-nimitta 形 それによって生じた. ~m 副 そう

いうわけで、その結果。

yanmaya 𑖦 それからなるまたは形成された。

yaṅ-mātra 𑖦 そのような量のある。

yan-mūrdhan 𑖦 その人の頭。

yan-mūla 𑖦 その中に根をもつ、その人または物に依存する。

Yabh, I. 𑖦 (𑖦), 𑖦 (𑖦) yabhati (-te) (女性と) 性的に関係する。𑖦 𑖦 yiyapsati …と性的に関係したいと思う。

pra- [同上]。

prati- [同上]。

Yam, I. yamati (-te) (𑖦), yacchati (-te) (𑖦, 𑖦)。

保つ、支える、支持する；𑖦 (𑖦) …を支えとする (𑖦)；(飛び道具を) 使用する；𑖦 (武器具) を振りあげる (𑖦)；(𑖦) に (つい立て等を) 立てるまたは置く (𑖦)；𑖦 (人の前 𑖦) に体を広げる [つい立て等のように, śarmavat (Br.)]；秤の一方を上げる、すなわち さらに重い (Br.)；(馬, 車等を) 抑える、抑制する、阻止する；(氣息・音声を) 抑止する；(精神・感情等を) 鎮める、制御する；(手綱を) ひく、しめる；(𑖦, 𑖦) に授ける・付与する・捧げるまたは渡す；𑖦 (𑖦) に従う (RV.)；(称讃等を) 捧げる (RV.)；(齒を) みせる (𑖦)；[mārgam Yam (𑖦) のために道を開く]；(prati + 𑖦) と引きかえに与える。𑖦 yāta. 𑖦 𑖦 [韻律には 𑖦] yamayati (-te) 制止する；(声を) 制する；(頭髪を) 整える、(爪を) 剪る。𑖦 𑖦 yamita.

adhi- (𑖦) の上に広げる。

anu- 𑖦 𑖦 案内する、指導する (RV.)；𑖦 従う (RV.)。

antar- 抑制する。

ā- (綱等を) 広げる；𑖦 (弓を) 引く、(矢を) つがえる、ねらう；(手等を) 差し出す、(padāni 歩度を) のぼす [=大股に歩く]；(心を) 制御する、(呼吸を) 停止する；…にまたはの方にもたらず、引き寄せる (RV.)；表示する；産出する。𑖦 āyata 引かれた (弓)；(一°) の方にのびる；延ばされた、長い (また時について)、幅広い (額)；…の方へ向けられた (RV.)。𑖦 āyāmayati (𑖦) にもたらず (𑖦)。

abhy-ā- (音調を) 長くする (Br.)；(𑖦) をねらう (𑖦)。

nir-ā- (𑖦) を取り除く。𑖦 nirāyata 延ばされた。

vy-ā- 引き分かつ；𑖦 (𑖦) のために争う、戦う；𑖦 勤、勤修、修習、修行、勤修行、発勤、精勤修学；策励；労苦；勇猛勤精進、勝進；求 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Dity., Guhy-s., Lan̄k., Mvyut. 𑖦 vyāyacchamāna 𑖦 勤精進、勇猛精進、勇猛劬劳 Bodh-bh. 𑖦 vyāyata 長い (腕)、遠い (走駆 一°)；遠方から行なわれる (戦闘)；強い (人)；強烈な。vyāyatam 𑖦 過度に、大いに。𑖦 𑖦 vyāyāmya 運動した後に。

sam-ā- (引き革を) 引く (RV.)；引きしめる。

ud- (腕, 武器等を) 上げる、挙げる；支えあげる (𑖦)；(讃歌を天上に) 運ぶ (RV.)；(供物, 祈願を) 捧げる (𑖦)；

(人に) 提供する、差し出す；覚醒する、鼓舞する (𑖦)；(馬を) 御す [叙詩にまれに]；(𑖦, -artham) に着手する、始める、準備する、用意する、尽力する、努力する；[時として = ud-Gam の 𑖦]；𑖦 策励 Divy. 𑖦 𑖦 udyata 挙げられた、上げられた；捧げられた (とくに食物)；着手した、始めた；(𑖦, 𑖦, 𑖦, 一°, -artham) の準備または用意をした、まさに…しようとする、…に心を傾けた、…しよう決心した、…に従事する；行動しよう準備した、専心している、精力的な；期待している。𑖦 𑖦 udyamayati 起こす。𑖦 𑖦 udyamyamiti (両腕を) 伸ばす (RV. 用例一回のみ)。

abhy-ud- 𑖦 𑖦 abhyudyata 挙げられた；捧げられた；(𑖦, 𑖦, 一°) しよう準備された、…しよう用意した、まさに…しようとする、…に従事する、…に専心している；[udgata の 𑖦] 上った、現われた。

prod (pra-ud)- 𑖦 𑖦 prodyata 振り挙げられた (棒)；まさに (𑖦) しようとする。

praty-ud- 𑖦 𑖦 pratyudyata 提供された；[pratyudgata の 𑖦]。

sam-ud- 挙げる；(馬を) 御す。𑖦 𑖦 samudyata 上げられた、挙げられた；提供された；手近かに用意されている；意図された；始められた；(𑖦, 𑖦, -artha-) しよう用意したまたはまさに…しようとする、(𑖦) に従事する；行動しよう準備した。

upa- 捉える、つかむ；支える、支えとして下に置く；提供する；受納する；取得する；𑖦 (𑖦) めとる、結婚する [通常の意味]；𑖦 (婦人と) 関係する。

ni- (車等を) とどめる、止め置く、(牧牛の) 迷い出ることを防止する (𑖦)；(𑖦) に固定するまたは縛る；(頭髪を) 結う；固持する、引き寄せる (𑖦)；(好結果に) 到達する；(状態を) 呈する；永久に授ける、植えつける (𑖦)；正しく (供物を) 捧げるまたは献供を執行する；手もとに留めおく、手もとから離さない (RV.)；𑖦 抑制される (RV.)；(手綱を) 引きしめる；(馬を) 御す；(𑖦) から抑制する・抑止するまたは思いとどまらせる；阻止する、支配する、制御する；せっかんする、罰する；(熱情を) しずめる；(呼吸を) 停止する；(談話, 感動を) 控える、(本性を) かくす；確定する、決定する；限定する、制限する；(音調を) 低くする、(anudātta アクセントで) 発音する；[しばしば ni-Gam の 𑖦]。𑖦 𑖦 𑖦 確定される、確立される；𑖦 就、約 Abh-uy. 𑖦 𑖦 niyata (𑖦) に結ばれた；握り締められた (両拳)；(𑖦) と結合された、…に依存する；阻止された、抑制された、抑止された；禁止された、中断された；確定された、確立された、固定した、確実な；不変な、一定した；制限された、(一°) に制限された；数を限られた；(𑖦) に専注する、…に専心する；(anudātta アクセントで) 発音された。𑖦 𑖦 𑖦 niyamayati とどめる、縛る、抑制する、抑止する、制御する；(呼吸を) 停止する；確定する、決定する；制限する。𑖦 𑖦 𑖦 niyamita (𑖦) に縛られた・結ばれた・固定させられたまたは定着せられた；(一°) によってさまたげられた；停止された (呼吸)；阻止された；軽減された (労力, 熱)；(𑖦 の意義をもつ 𑖦) さ

れるように決定されたまたは予定された。

upa-ni- 固定させる (?) (*Jat-m.*).

prati-ni- 使役 過受分 **pratiniyamita** それぞれ特殊の場合について決定された, 場合によってそれぞれ異なる。

vi-ni- 抑制する, 制御する; 引き込む, 引き戻す; 阻止する, 遠ざける。 過受分 **viniyata** 制御された; 制限された, 適度な。

saṃ-ni- (手綱を) 引きしめる; 抑制する, 抑止する, 制御する; (病気を) 阻止する; (感情を) 鎮める。

pra- 上げ延ばす (因); (因) に置く; (abhi) の方に (眼を) 向ける; (因) に (使者を) 派遣する; (因) に (供物を) 捧げる; 提供する, 贈る, 与える; 手離す, 手渡す, 引渡す; 持ち来る, ひき起す, 発生させる; (娘を) とつがせる; (毒薬を) 服用させる; (因) に (呪咀を) 唱える; (心 因) に浮べる; (*Veda* を) 教える; (回答を) 与える; (手厚く) もてなす; (*vikrayeṇa* 売物として) 呈出される (= 売る); (負債を) 返還する, 支払う; (恩恵に) 報いる; 施, 与, 施与, 授, 付; 給呢; 捨; 処 *Abh-ry., Av-ś., Divy., Lan̄k., Mvyut., Sāṃkhy-k.:* *bhiṣag-dravyaṃ prayacchati* 処方, 処薬, 授薬 *Lan̄k. 49.* 過受分 **prayata** 拡張された, 遠く上げられた (因); (因) に置かれた; 捧げられた, 贈られた, 提供された等; (因, 一°) に敬虔な心に向けた, 厳粛な儀式のために準備された, (祭式のために) 清浄な; 慎重な, 温和な; 自己を制した; 義務に忠実な。

anu-pra- 渡す, 与える, 贈る, 順次に与える (*Kār-ry.*); 与, 施, 布施, 恵施, 施与, 授, 賜, 奉上; 許; 教; 推 *Av-ś., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Saddh-p.;* 置, 著 *Bodh-bh., Divy.:* *āsanam nānuprayacchati* 不推(勝)座 *Bodh-bh. 161;* *dānam anuprayacchati* 恵施 *Bodh-bh. 4;* *nyāyopadeśam anuprayacchati* 如理為説 *Bodh-bh. 5;* *vivaram ~ 断壊 Saddh-p. 440;* *na tv akāle pārśvam anuprayacchati mañce* 終不非時脇著床 *Bodh-bh. 193.*

prati-pra- 返還する, (食物を次から次に) 渡す。

saṃ-pra- (因, 因) に (共に) 引渡す・捧げる・与えるまたは贈る; 返却する; (娘を) とつがせる。

vi- (因) に (庇護, 保護を) 及ぼす (因)。 過受分 **viyata** 上げられた。

saṃ- 保持する, (手綱を) 引きしめる; 抑止する, (馬を) 御す; (頭髪を) 結ぶ, 縛る, 束縛する; (戸を) 閉じる; 阻止する, 抑圧する, 中止する; 制止する, 服従させる。 過受分 **saṃyata** 固持された; 抑止された, 制御された; 自制した, (因, 因, 一°) について自制した; 結びつけられた, 縛られた, かせをつけられた, 束縛された, 拘禁された, 投獄された, 捕えられた; 整頓された (道具); 阻止された, 制止された, 鎮圧された, 征服された。 使役 他 **saṃyamayati** (敵を) 征服する; (頭髪を) 結ぶ, 整える; 止息 *Bodh-bh.* 使役 過受分 **saṃyamita** 征服された; 縛られた, 束縛された; (腕 因) で抱擁された; 敬虔な心をもつ。

abhi-saṃ- (因) へ差し伸べる; (火を) 維持する;

因 (帯を) 強くしめる (*Jat-m.*).

yama 1. 男 (制止するもの), 手綱 (RV. 用例一回のみ); 御者 (RV. 用例一回のみ); 抑圧, 抑止; 自制; 道徳の通則, 最高義務 [*niyama* 小さな義務の 因]; 慣例; 規則。

yama 2. 因 (因 -ā, -i) 一対をなした。 男 双生児 [因 ふたご, *Aśvin* 双神の称]; [*Vivasvat* の双生児の一方の名, 他方の妹を *Yami* といい, この両者は最初の一対の人間と称せられる] (RV.); [因 では, *Yama* は, 死んで天界にある祖先を支配する神; 因 では下界を支配する死の神で, その名は征服者または処罰者の意味と考えられ, また, *Manu* (最初の人間) の弟で南方の支配者とされ, 讃歌・法典の作者と想像される]; 土星; 雙世, 雙(王), 縛, 禁, 獄主, 獄帝 *Mvyut., Sūtr., 玄応.;* 音写 剡魔, 琰魔, 焰魔, 閻摩, 閻磨 (羅), 閻摩 (羅), 閻 (羅); 夜磨 (盧迦) [*yama-loka* の 音写]; 閻摩 (羅社) [*yama-rāja* の 音写] *Gaṇḍvī., Mañj-m., Mvyut., 玄応.;* (因) 夜摩天 *Bodhbh.* 因 一対。

yamaka 因 二様の, 二重の。 因 二重の縷帯; [異義同音の綴りを反復すること (修詞)].

yamaka-vyatyastāhāra-kuśala (°ta-āh°) 因 言音善巧能随世俗文同義異, 於对偶及反転文句善巧, 对偶消融善能接续者, 明雙於曠統里者 *Mvyut.*

yamaka-śāla-vana 因 (音写) [地名] 娑羅雙樹 ((林)) *Divy.*

yama-kiṃkara 男 *Yama* 神の従者, 死の使者。

yama-ketu 男 *Yama* 神の旗, 死の表徴。

yama-kṣaya 男 *Yama* 神の住居。

yama-gāthā 因 *Yama* 神 (を歌った) 偈。

yama-gṛha 因 *Yama* 神の住居。

yama-ghna 因 死を滅却する, [*Viṣṇu* 神の称].

yama-ja 因 ふたごの。 男 因 雙子。

yama-jāta 因 [同上 (因)].

yama-jātaka 因 [同上]. 男 = *yama-ja* (男)。

yama-jihvā 因 [(*Yama* 神の舌), 売春を媒介する女の名].

yamatā 因 *Yama* 神たること。 ~ *m Yā* (因) に対して死の神となるすなわち…を死なせる。

yamatva 因 [同上].

yama-damṣṭra 男 [ある *Asura* の名]; [ある *Rākṣasa* の名]; [ある武士の名].

yama-damṣṭrā 因 *Yama* 神の歯: ~ *antaram gataḥ* 死の口中に入った。

yama-daṇḍa 男 *Yama* 神のむち。

yama-diś 因 *Yama* 神の住する方角, 南方。

yama-dūta 男 *Yama* 神の使者。

yama-devata 因 *Yama* を神格とする。

yama-dolā 因 *Yama* または死のぶらんこ (振動・不安定)。

yama-dhāni 因 *Yama* 神の住居。

yamana 因 (因 -i) 制御する, 導く (因)。 因 制止または抑制の動作。

yama-nagarātithi 男 (*Yama* 神の都市の客) すなわち死者。

yama-paṭa 男 *Yama* 神 (と地獄の責苦を描いた) 有

片.
yama-paṭika 男 yama-paṭa を持ち廻る人.
yama-pada 中 反復した語.
yama-pālaka 男 Yama 神の従者 (獄卒) (*Kār-vy.*).
yama-pāla-puruṣa 男 [同上] (*Kār-vy.*).
yama-puruṣa 男 [同上] (*Kār-vy.*) ; 閻羅使, 焰魔使者 *Gaṇḍ-vy.*, *Śikṣ.*
yama-mandira 中 Yama 神の住居.
yama-mārga 男 Yama 神の通路.
yama-yāga 男 [yājyā の一種].
yama-rākṣasa 男 (音写) 琰魔卒 *Abh-vy.*
yama-rāja 男 [人名].
yama-rājan 形 Yama 神を王として戴いた. 男 Yama 王; Yama 神の臣下; 閻摩羅社 玄応.
yama-rājya 中 Yama 神の支配.
yama-rāṣṭra 中 神の領域.
yamala 形 対をなした, 二様の. 男 双生児, 二の数; 雙世 玄応.; 音写 閻羅, 閻磨羅 玄応.
yamalaka 男 雙生 *Mṛyut.*
yamalā 女 [衣類の一種または一對の衣類] (*Divy.*).
yamalārjuna 男 閻 [Kṛṣṇa 神の二人の敵の称. 後世には Kubera 神の二子である Nalakūbara および Maṇigrīva の変形と見なされる].
yamalārjunaka 男 [同上].
yamali 女 [二片よりなる衣服の一種]; 疊 *Divy.* 276.
yama-loka 男 Yama 神の世界; 獄世間 *Mṛyut.*; 餓鬼道 *Kāśy.*; (音写) 閻魔界, 琰魔 (王) 界, 閻羅之界, 閻羅 (王) 界, 閻羅趣, 琰摩羅界, 閻魔羅界 *Gaṇḍ-vy.*, *Kāśy.*, *Mṛyut.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*; 音写 夜磨盧迦 玄応.
yama-lokika 形 餓鬼 *Lal-v.* 86.
yamavat 形 自制した, (熱情を) 抑制する.
yama-viṣaya 男 Yama 神の領域; 焰魔境界 *Śikṣ.*
yama-vrata 中 Yama 神のための戒行; Yama 神の方法 (不公平のない司法).
yama-śikha 男 [ある Vetāla 妖鬼の名].
yama-sadana 中 Yama 神の住居.
yama-sabhā 女 Yama 神の法廷.
yama-sādana 中 Yama 神の住居.
yama-sū 形 ふたごを生む.
yama-sūkta 中 Yama 神の讃歌.
yama-svasṛ 女 [(Yama の姉妹), Yamunā の称].
yamānuga 形 Yama 神に仕える.
yamānucara 形 Yama 神の従者.
yamāntaka 男 死神 Yama; 忿怒王 *Guhy-s.*; [ārya ~] 勝除獄生, 勝除獄王, 勝除獄帝; (音写) 聖閻曼德迦 *Mṛyut.*; 音写 焰鬘得迦, 閻曼德迦 *Guhy-s.*, *Mṛyut.*
yamāya 名動 自 **yamāyate** 死の神を演ずる, Yama 神のようである.
yamāri 男 [(Yama 神の敵), Viṣṇu 神の称].
yamālaya (°ma-āl°) 男 Yama 神の住居.
yamita 使役 過受分 → Yam.
yamin 形 自制した.

yami 女 [Yama 神とともにふたごである妹の名]; [壘] では =yamunā].
yamunā 女 [河の名, 現今の Jumna 河]; [壘] では =yami]; [人名].
yamunā-datta 男 [ある蛙の名].
yamunā-pati 男 [Viṣṇu 神の称].
yamunā-prabhava 男 Yamunā 河の源 [巡礼(聖)地の一].
yamuṣa-deva, 織物 (の一種).
yayāti 男 [Nahuṣa の子で古代の族長の名].
yayāti-jā 女 [Madhavi の 父系].
yayāti-patana 中 [ある聖 (巡礼) 地の名].
yayi 形 [Yā] 競走する, 速い (RV.).
yayi 形 [同上].
yayu 形 [Yā] 速い. 男 馬, 犠牲の馬.
yarhi 接詞…である時 [固, 願, 相聞, tarhi, etarhi とともに TS. および Br. 現, 願, 一過, 二過, 三過, 相聞, atha, tatra, tadā, tat-prabhṛti とともに, または 動 を伴わないうで *Bhāgavata-P.* に用いられ, …であるから, …の故に, 等の意味をももつ].
yal-lakṣaṇa 形 如是相, 若相 *Aṣṭ-pr.*
yava 男 穀粒, 穀類 (因); 大麦 [壘: 覆 大麦の粒]; 大麦の粒 [度量の単位: 長さとしては = $\frac{1}{6}$ または $\frac{1}{9}$ aṅgula; 重量としては =六 または 十二の芥子粒, または $\frac{1}{2}$ guñjā]; 麦, 大麦, 穢麦, 蓬麦; 青顆 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Laiṅk.*, *Mṛyut.*, *Śikṣ.*, 雑梵.
yava-kṛita 男 [*Bharadvāja* の息子である聖仙の名, また yava-kri, yava-kri, yava-krin].
yava-kṣetra 中 大麦の畠.
yava-khala 男 脱穀場.
yava-godhūmavat 形 大麦と小麦とに富んだ.
yava-cūrṇa 中 大麦の粉.
yava-dvipa 男 [島の名, Java 島].
yavan 男 白月 (月の前半).
yavana 1. 形 [Yu 2.] [一°のみ] 遠ざける, 防ぐ. 中 [Yu 1.] (とくに水と) 混合すること.
yavana 2. 男 (語形によれば元来 *Ionia* 人), ギリシア人, ギリシア系の王侯; [種姓(階級)の一種]; 外国人, [後世では] 回教徒; (覆) ギリシア人; ギリシアの諸占星家.
yavana-deśa-ja 形 ギリシア人の国に由来する.
yavana-pura 中 ギリシア人の都市 [恐らくは *Alexandria* の称].
yavana-sena 男 [人名].
yavanādhipa 男 [王侯の名].
yavanāni 女 *Yavana* の書体.
yavanikā 女 ギリシアの婦人; 幕 [=javanikā]; 頂縵 *Mṛyut.*
yavani 女 ギリシアの婦人.
yavaneśvara (°na-iś°) 男 [あるギリシア系王侯の名].
yava-piṣṭa 中 大麦のあら粉.
yavamat 形 大麦を含む, 大麦と混合した. 男 穀物を耕作する人 (RV.). 中 穀物の豊富なこと (RV.).
yava-madhya 形 中央が大麦の粒に似た, 中央のもっとも厚い [この語はまたある種の韻律に関して用い

られる]. 田 大麦粒の直径[長さの一単位]; [Cāndrāyaṇa 十なわち一カ月にわたる苦行の一種].
 yava-madhyama 田 [同上 田].
 yava-maya 形 大麦から作られたまたはなる.
 yava-mardana 田 脱穀場.
 yava-muṣṭi 男 女 一握りの大麦.
 yavayasa 男 [人名]. 田 [Yavayasa の支配した *Plakṣa-dvīpa* における *varṣa* の名].
 yava-śasya 田 [°sasya?] [穀物の一種] (*Divy.*).
 yavasa 男 田 圃 田 草, 糧秣, 牧草; 漢訳 草 *Mvyut.*
 yavasa-muṣṭi 男 女 一握りの草.
 yavasād 形 牧草を食べる (*RV.*).
 yavasānodakendhana (°na-ud°, °ka-in°) 田 草と穀物と水と薪と.
 yavasendhana (°sa-in°) 田 草と薪.
 yavasodaka (°sa-ud°) 田 圃 糧秣と水.
 yavāgū 女 米のかゆ [また他の穀類のかゆ (粥) をもいう]; 漢訳 ((藥)), 麵湯 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
 yavāgū-cāraka 男 漢訳 通粥人, 通湯者 *Mvyut.*
 yavānkura 男 大麦の新芽または葉.
 yavāsaka 男 (雨季の初めにしぼむ) *Manna* 草.
 yavāhāra (°va-āh°) 形 大麦を食物とする, 大麦で生活する.
 yaviṣṭha 最上 [yuvan] もっとも若い [しばしばひきり棒 (鑽木) から生じたばかりの火または祭壇に置かれたばかりの火をいう; これから転じて *Agni* 神の称].
 yavinara 男 [諸人の名].
 yaviyas 比較 [yuvan] さらに若い [また古い上級三種姓(階級)に対して *Sūdra* を指す]; 一層小さな; 一層悪い. 男 弟; *Sūdra*.
 yaviyasi 女 妹.
 yavorvarā (°va-ur°) 女 大麦の畠.
 yaśa 男 一° = yaśas, → ati~. [韻律 = yaśas] 漢訳 名称 *Suv-pr.*; [人名] 譽, 名聞 *Divy.*, 玄応; 音写 [人名] 耶舍, 夜奢 *Divy.*, 玄応.
 yaśa-kāma 形 漢訳 求名 *Saddh-p.* 27.
 yaśaḥ-kāya 男 名声または光榮に満ちた身体, 非常な光榮または名声.
 yaśaḥ-ketu 男 [諸王侯の名].
 yaśaḥ-khaṇḍin 形 名声を破壊する.
 yaśaḥ-prakhyāpana 田 榮譽を弘めるまたは宣言する.
 yaśaḥ-śarira 田 = °kāya.
 yaśaḥ-śeṣa 形 名声のみ生き残った; 死んだ:
 yaśaḥ-śeṣatā 女 [同上 田]. ~ṃ pra-Yā 死ぬ. ~ṃ Ni 殺す.
 yaśaḥ-śeṣi-bhūta 形 死んだ.
 yaśas 田 美麗, 威嚴, 壯麗, 華麗 (因); 令名, 稱讚, 名声, 榮譽, 著名; 尊敬の対象 (*Br.*); 漢訳 名, 名称, 名聞, 名譽, 好名, 大名称, 稱, 美稱, 美称名, 稱讚, 譽, 美譽 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Rāstr.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. II.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*, 梵雜. 男 漢訳 [仏の名] 名聞, 名称 *Sukh-vy. II.*; [人名] 名聞 *Divy.*; 音写 [人名] 夜舍, 耶舍 *Divy.* 形 (因) 美麗な, 壮大な,

美事な; 誉高い, 尊敬された; 心地よい, 結構な.
 yaśas-kara 形 (女 -i) (一°) に榮譽を授ける, …を有名にする, …に光榮あらしめる. 男 [諸人の名].
 yaśas-kāma 形 名声を望む, 大望ある. 男 漢訳 [菩薩の名] 求名 *Saddh-p.*
 yaśas-kāmatā 女 漢訳 愛名聞 *Gand-vy.*
 yaśas-prabha 男 漢訳 [仏の名] 名聞光, 名称光 *Sukh-vy. II.*
 yaśas-prabhāsa 男 漢訳 [仏の名] 名光, 誉光 *Sukh-vy. II.*
 yaśasya 形 著名に導く, 光榮ある; 尊敬された.
 yaśasvat 形 (因) 美麗な, 美事な; 豪華な; 光榮ある; 結構な.
 yaśasvati 女 [人名].
 yaśasvin 形 美麗な, 美事な, 豪華な; 有名な, 著名な, 顕著な [一般に人について]; 漢訳 好名称, 好名善譽 *Suv-pr.*
 yaśākhyā (°śa-ākh°) 形 漢訳 名称 *Śikṣ.*
 yaśo-ghna 形 (女 -i) 名声を破る.
 yaśo-datta 男 漢訳 [仏の名] 施名称 *Lal-v.*; 音写 耶輸陀 *Lal-v.*
 yaśo-dā 女 [(名声を賦与する), *Kṛṣṇa* の養母で牧牛者 *Nanda* の妻の名].
 yaśodā-suta 男 [*Yaśodā* の子, *Kṛṣṇa* の 母系].
 yaśo-deva 男 [仏教比丘の名 (*Lal-v.*); [*Rāmacandra* の息子の名]; 漢訳 [仏弟子の名] 称天 *Sukh-vy. I.*
 yaśo-dhana 形 名譽をもって富とする, 名声に富んだ, 著名な (人物). 男 [王侯の名].
 yaśo-dhara 形 名声を担う, 名声を保つ. 男 [諸人の名].
 yaśo-dharā 形 [諸人の名]; 漢訳 名聞, 華色 *Mvyut.* 音写 耶輸陀羅 *Av-ś.*, *Buddh-c.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*
 yaśo-dhā 形 尊敬または名声を与える.
 yaśo-dhāman 田 榮譽の居処.
 yaśo-nandi 男 [王侯の名].
 yaśo-bhṛt 形 名声をもつまたは授ける.
 yaśomati 女 漢訳 [人名] 名称 *Av-ś.*
 yaśo-mitra 男 [諸人の名]; [*Abhidharmakośa-vyākhyā* 等の作者の名] (仏教); 漢訳 音写 [人名] 耶奢蜜多 *Av-ś.*
 yaśo-rāja 男 [人名].
 yaśo-rāsi 男 榮譽の累積, 光榮ある行為.
 yaśo'rthika (°śas-ar°) 形 漢訳 求名 *Saddh-p.*
 yaśo-lekhā 女 [王女の名].
 yaśovat 形 名声または榮譽をもつ; 漢訳 名称 *Mañj m.*
 yaśovati 女 [諸人の名]; 漢訳 音写 耶輸陀羅 *Lal v.*
 yaśo-vartman 田 光榮に至る道.
 yaśo-varmaka 男 一° [同下].
 yaśo-varman 男 [諸人の名].
 yaśo-viśāla 形 光榮に満ちた, 広く知れわたった.
 yaśo-han 形 美を破壊する; 名声をそこなう.
 yaśo-hara 形 名声を剝奪する, 面目を失なわせる.
 yaṣṭa 漢受分 漢訳 祠祀 *Lal-v.*; 男 [<yaṣṭr] 男

施 *Mvyut.*

yaṣṭave, [Yaj の ㊦ 不定] 祭祀のために (RV.).

yaṣṭavya ㊦ 奉げられるべき. ㊦ 奉げべきである; ㊦ 詞 *Aṣṭ-pr.*

yaṣṭi ㊦ 杖, 棒, 棍棒, 太い棒; 旗竿; とまり木; 幹, 小枝; 真珠の首飾り; かんぞう(甘草); [一° ㊦] 長い, 細りした(腕または体); 一° [㊦の語とともに]=刃; ㊦ 杖, 柱, 柄; 机杖; 錫杖, 樹, 樹牙; 命木; 竈; 耕犁; 扶策 *Av-s., Divy., Lal-v., Mañj-m., Mvyut., Rāṣṭr., Śikṣ., Suv-pr., 梵雜.*

→ indra ~.

yaṣṭikā ㊦ 杖.

yaṣṭi-grāha ㊦ [地方の名].

yaṣṭi-grāma ㊦ [地方の名].

yaṣṭi-nivāsa ㊦ 孔雀のとまり木, 柱の上にある鳩舎.

yaṣṭi-prāna ㊦ 杖を力とした, 杖がなくてはなにごと

もできない, 弱い.

yaṣṭi-bandha ㊦ 用鉄稍 *Divy. 58.*

yaṣṭimat ㊦ 棒または杖をもつ, 旗竿を具えた(戦車等).

yaṣṭi-madhu ㊦ かんぞう(甘草); ㊦ 甘草 *Mvyut.*

yaṣṭr ㊦ 崇拜者, 祭祀者.

yaṣṭy-utthāna ㊦ 杖の助けで起きること.

Yas, III. ㊦ *yayasti* (RV. 用例一回のみ); I. ㊦ *yasati* [きわめてまれに]; IV. ㊦ *yasyati* 泡立つ, 沸騰する (RV.); 自己を熱する, 努力する.

ā- 努力する, 精励する. ㊦ *āyasta* 煽がれた; (一°)に奮闘する, 努力する, 熱心に従事した; 疲れた, ゆるんだ; 意気阻喪した. ㊦ ㊦ *āyāsayati* はたらかせる, 疲労させる; 煩わす, 悩ます, 責める; (弓を)しばしば引く. ㊦ ㊦ 悩まされる.

pra- 泡立ち始める(㊦); [*prayasati*] 努力する.

㊦ *prayasta* 泡立ち溢れる(㊦); 努力する, 熱心な. ㊦ ㊦ *prayāsita* ㊦ 努力.

yaska ㊦ [人名]; (㊦) [*Yaska* の子孫およびある学派の名].

yasmāt ㊦ [ya の ㊦]…の故に [± ㊦ *atas, tatas, tad, tasmāt, tena*]; ㊦ 故 *Sāṃkhy-k.*

yahu ㊦ 若い, 若々しい力に富む. ㊦ 息子 (RV.).

[㊦ -vi 次の項をみよ].

yahva ㊦ (㊦ -i) (RV.) 休むことのない, 速く流れる, 常に流れる; 若い. ㊦ 娘.

yahvat ㊦ (㊦ -i) 常に流れる(水).

Yā, II. ㊦ *yāti* (㊦, ㊦) 動く, 行く, 歩く, 赴く; 前進する, 行進する, 敵に向かって前進する; 旅行する; 出立する, 去る, 立ち去る, 離れる; 遠ざかる; [± *palāyā*] 逃げる, のがれる; (道が)通ずる; 通過する, 過ぎ去る; 消滅する, 消失する; 生起する, 継起する; 振舞う; (1) [格に附随する場合]: (イ) [㊦ とともに] (耳, 結末)に至る, …に達する; (その手中)に入る; 邂逅する; …に到着する; …に向かって進む; (道が)…に通ずる; (-*patham, gocaram* + ㊦ または 一°) の範囲に来る; (*yātrām* 前進)を始める; (*adhvānam, gatim, panthānam, mārgam* 道または徑)に入る または を進む; (頭を地または脚下)にかがめる(お辞儀する); (婦女)に関係する; (遠方に)達する, (一定の時間, 一カ月等)

の間続く; (仕事)に着手する; (ある状態)に帰する, …に陥いる, …を招く, …を経験する, …に到達する [すなわち *Gam* または I のようにきわめてしばしば ㊦ ㊦ とともに用いられ, かつしばしば ㊦ によりまたは ㊦ によりまたは相応する ㊦ により「…となる」の意義として種々に訳される: ㊦ *samparkam* ~ 結合される; *nidhanam* ~ 滅びる; *darsanam* ~ 明らかとなる; *dveṣyatām* ~ 憎らしくなる]; (*utsavād utsavam* 祭を順次に) 経験する; (その本来の状態に) 帰る; (㊦) を (㊦) に乞うまたは懇願する (RV.); (ロ) [㊦ とともに] (㊦) のために行くまたはに向って行く [動詞状 ㊦, 例えば「集めること」のためにまたは「集めること」を目的として等]; (人を) 利する; (イ) [㊦ とともに] …へ行く; (心を)…に向ける; (2) [㊦ に附随する場合] …のために = …を目的として行く [㊦ 「遊ぶこと」のためにまたは「遊ぶこと」を目的として]; (3) [㊦ *prati* に附随する場合] …の方向に行く, …に向って進む; (4) [㊦ に附随する場合] *kṣemena* ~ 無事に免がれる; *khaṇḍāśas* または *dalaśas* ~ 粉々になる; *śatadhā* ~ 粉微塵にこわれる; ㊦ 趣, 詣, 還, 去, 脱, 随, 得 *Abh-k., Abh-vy., Divy., Lal-v., Lank., Rāṣṭr.*

㊦ *yātu* それは放っておけ, それはとにかく, どうでもよい. ㊦ *yāta* 去った等; 離れた; 逃れた, 逃げた; 消滅した, 滅びた; (㊦, 一°) に赴いた; (㊦: ㊦ その手中) に入ったまたは帰した. *yātam* ㊦ ㊦: *yātam mayā pādayoḥ* 私は(彼女の)足下にひざまづいた; *kva tad yātam* それは一体どうなったのか. ㊦ ㊦ *yāpayati* 出発させる, 去らせる; 行進させる; (㊦) に(凝視を)向ける; (羞恥)を取り除く, 払い去る; (時を) 過ごす, 費す; (㊦) をして(㊦)に到達させる; 扶養する, 養育する(*Divy.*); 生存する(*Divy.*); ㊦ 住, 存養, 存活, 為活, 能過(不死) *Aṣṭ-pr., Divy., Mvyut., Sukh-vy. II.*; *tiṣṭhanti dhriyante yāpayanti* 住 *Aṣṭ-pr. 850.*

㊦ *iyāyate* 動く.

accha- 近づく, 接近する.

ati- (ある場所を) 過ぎる, 通過する; 打ち勝つ; 越える; 違犯する.

anu- (㊦) に行くまたは赴く; 従う; 死んで(夫に) 従う [= 夫に殉じて身を焚く]; (名声を) 獲得するまたはに適當する, 模倣する; ㊦ 随, 侍従 *Lal-v.* ㊦ *anuyāta* [㊦ および ㊦ の意義がある].

apa- 去る, 退く, 離れる, 逃避する, (㊦) から去る等; (㊦) を中止する.

vy-apa- 去る, 遠ざかる, 退く, 避ける; (時が) 経過する; ㊦ 消散 *Buddh-c.*

abhi- 迎えに行く; …に向って進む; (天界に) 赴く または 行く [= 死ぬ]; 接近する; 攻撃する; …に身を捧げる; 到達する; ㊦ 親近 *Śikṣ.* ㊦ *abhiyāta* [㊦ および ㊦ の意味がある].

ava- (㊦) (ā + ㊦) から…に近づく; 転ずる, 回避する.

ā- (㊦) から近づく・前進するまたは接近する; (㊦) に

向ってまたはへ来る；獲得する，得る，経験する [単純動と同じく 捆 に附随して：例 bandhanam ā-Yā 縛られる；kṣayam ā-Yā 滅ぼされる；saṃko-cam ā-Yā 減らされる；toṣam ā-Yā 満足する；pañcatvam ā-Yā 死ぬ；hetutām ā-Yā 原因となる等]；(矢が) (業) に刺さる，…に振りかかる，生じる；(属：例 眠気が人を) 襲う；結果する；(属) にとり (不定) するに適する；**来**，入，往詣；得 *Bodh-c.*, *Divy.*, *Lañk.*；帰命 *Lal-v.* 3；求 *Abh-vy.*；還生，感生 *Abh-vy.* 394；evam-jātiyakam atrānyad apy āyāsyati 如是種類所餘諸法此中應求 *Abh-vy.* 129；punar ā-Yā 再び来る；再生する；astam ā-Yā (太陽が) 沈む；死ぬ；karna-patham ā-Yā 耳に入る；sammukham ā-Yā 迎えに行く。**過受分** āyāta 来た等；(abhimukham とともに) の方へ来た。**使役 過受分** āyāpita 扶育された (*Divy.*)。aty-ā- (業) を通過する (RV.)。upā (upa-ā)- (業)；または時として (人称) の (因) に近づく；…に来る (RV.)；(ある状態に) 達する；astam upā-Yā (太陽が) 沈む；死ぬ。abhy-upā (upa-ā)- 近づく。sam-upā (upa-ā)- (tatra または (人称) の (業) へ来る。**過受分** samupāyāta 来た。prā (pra-ā)- 近づく (RV.)。praty-ā- (業) に引き返す，…に戻る；迎えに行く。sam-ā- とともに近づく；会する [また道路について]；近づく，来る [また時について]；(因) から来る，(業 または 場所の (因) に来るまたは行く，(人称) の (業) に向う；(時が) 経過する；(属：例 眠気が人を) 襲う；(ある状態：例 増大，満足) を獲得する，…を得る。**過受分** samāyāta 近づいた，来た，到着した等。ud- (太陽が) 昇る (RV.)；(因) から出発するまたは去る；(弓 因) から飛び出す；上る，(業) に上る；起る；優越する。praty-ud- (友人または敵に) 出会う，会うために出て行く。**過受分** pratyudyāta 歓迎された，(一) に歓迎された。upa- 近づく，来る [また時について]；(業 または 場所の (因) または iha, yatra) を訪ねる，…に来るまたは行く，(とくに庇護を求めて) …を訪ねる等；(婦女 業) と関係する；遭遇する，振りかかる；陥いる，経験する，到達する，発見する [普通に単純動と同じく 捆 とともに (例 喜悅，落胆，瘦せたこと等)]；(業) にふける；**及**，近去；生 *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*；事 *Śikṣ.* **過受分** upayāta [(因) および (業) の意義がある]。praty-upa- (業 + prati, (因) に帰る。sam-upa- とともに近づく；(業) に赴くまたは行く；(ある状態等に (業) 至る；**随**，往待 *Lal-v.* ni- 因，(業) を駆って越えるまたは駆って横切る；に降ってくる；(罪 業) に陥いる。nir- 出て行くまたは進み出る；(因) から (業) にまたはの中へまたは (動詞状 因) の (因) を目的として行くまたは進み出る；(家を) 離れる；(因) から現われ出る；死ぬ；経過する；(金銭を) 蓄える；**出**，正出，定出，出離，出生 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Ma-*

dhy-vibh., *Mvyut.*；得，得度，到彼岸，証得，疾証，成弁，得成弁，成就，能成就 *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.* **過受分** niryāta 出て来たまたは現われた，(因，一) から出て来たまたは現われた；(業，一) を全く信頼した (*Lal-v.*, *Saddh-p.*)。使役 niryāpayati 出て行かせるまたは進み出させる；(業) から追い出す。使役 **過受分** niryāpita 除かれた，破壊された (P.)；着手された (P.)。

abhi-nir- (因) からまたは (動詞状 因) の (因) を目的として出て行くまたは進み出るまたはを離れる。

vi-nir- 出て行く，(因) から出て行く，(動詞状 因) の (因) を目的として出て行く，(prati) に向って出て行く；**出** *Divy.*；生 *Buddh-c.* **過受分** viniryāta (一) から出た，…から生じた。

pari- 徘徊する；巡歴する，歩き廻る；放浪する；とり巻く (RV.)；囲む，守護する (RV.)；避ける (RV.)；近づく；完全に廻転する (*Jāt-m.*)。

anu-pari- (諸方を) 順次に乗り廻す。

pra- 出て行く；出発する；(因) から (業 ± accha または prati, (因), tatra 等) に行くまたは赴く；(業) に向って進む；(業) に(道が)通ずる，(業) に向って(河が)流れる；(業) に到着する；行く，歩む；離れる，消える；飛散する，散る；離れる = 死ぬ；経過する 陥いる，経験する，得る，を招く [きわめて普通に 単純動と同じく 捆 とともに]；やってゆく，振舞う **上**，生 *Abh-vy.*, *Raṣṭr.*；墮，去 *Abh-vy.*, *Lal-v.* **過受分** prayāta 進む，行く，飛ぶ；…に赴いた；死んだ；経過した。使役 prayāpayati 出発させる。希求 使役 prayiyāsayati 出発したいと思う。

anu-pra- (ある人 業) に従い出発する，同行する；(業) に進む；**受** *Divy.* **過受分** anuprayāta [(因) および (業) の意義がある]。

abhi-pra- (業) に来る (RV.)；(業) に向って出発する；襲う；(因) から出発するまたは旅立つ (*Jāt-m.*) (一処より他処へ) 跳び上る (*Jāt-m.*)。

pari-pra- (業) を遍歴する (RV. 用例一回のみ)。

prati-pra- 近づく (RV.)；帰る，(業) に帰る；逆流する。

saṃ-pra- (業 ± prati) へ(ともに) 出発する，…へ行くまたは流れる；動く (星)；(ある状態に) 達する。

prati- (業) に来るまたは行く；(業) に帰る。**過受分** pratiyāta …に向って行った；帰った；返された，反対された。

vi- (車を) 駆って過ぎる，(車輪で) 切断する；横切る；出発する。

saṃ- 共に行く；共に来る，合同する；(業) と衝突する，戦う；(業 ± prati) へ行く；来る，近づく；(身体に) 入る，達する，(誕生を) 得る。

anu-saṃ- 上下する；(業) へ行くまたはを訪問する。

abhi-saṃ- (業) へ行くまたはを訪問する。

prati-saṃ- …に向って出発する，襲う。

-yā 1. 形 行く。

yā 2. 因 [ya の 因]。

yākṣa 形 Yakṣa に属する。

yāga 因 祭式；供養，贈呈。

yāga-karman ㊦ 祭式の儀礼。
 yāga-maṇḍapa ㊦ 祭式の小屋。
 yāgamaya ㊦ ㊦ 供施中出, 勝施中出 *Mvyut.*
 yāga-sūtra ㊦ 祭紐(=yajña-sūtra).
 Yāc, I. yācati (-te) ㊦ を ㊦ に懇願する・求める・乞うまたは切願する；(時として ㊦, まれに ㊦, 目的物は時としてまた -arthe, -artham, ㊦ + prati または動詞状 ㊦ の ㊦) …から…を求める；(娘を妻として) (㊦, まれに ㊦) から(ある人のために: kṛte, -arthe) 求める；(㊦) に(物 ㊦) を提供するまたは呈する；[punar とともに] (ある物の) 返却を求める；㊦ 乞, 索, 求, 求請, 勸請 *Bodh-bh., Lal-v., Rāṣṭr., Sūtr., Vin., 梵千.* ㊦ yācyate 求められる [まれにある物 ㊦ を]. ㊦ ㊦ yācita 懇望された, 乞われた；借用された；懇願された, (贈物を) 要求された, せがまれた. ㊦ ㊦ yācayati 求めさせる；(ある人 -arthe) のために(㊦) を請い求めさせる；㊦ 願 *Divy.*
 anu- (ある事についてある人 ㊦) に熱望する。
 abhi- ㊦ を ㊦ に熱望する・せがむまたは懇望する；(ある人 ㊦) に(娘 ㊦) を(妻として)求める；㊦ 請, 勸請 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Śikṣ.* ㊦ ㊦ abhi-yācita ㊦ を熱望されたまたは求められた。
 ā- 歎願する, (㊦) を歎願する；㊦ 請, 祈請, 禱祀；跪拜 *Av-ś., Divy.*
 upa- ㊦ ㊦ upayācita 求められた(人)；懇望された(物)。
 pra- ㊦ を ㊦ に熱望する・せがむまたは求める。
 sam- (ある人に) 懇願するまたは求める。
 yācaka ㊦ 歎願者, 乞食；㊦ 乞, 乞者, 求者, 来求索者 *Bodh-bh., Bodh-c., Rāṣṭr., Sūtr.*
 yācakī ㊦ 乞食女。
 yācana ㊦ (一°) を懇請・懇願または要求すること；(一°) を(妻として) 求めること；㊦ 請, 勸請 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*
 yācanaka ㊦ 乞食 (*Kār-vy.*)；㊦ 乞, 乞者, 乞人, 乞求者, 来乞, 来乞者, 来乞求者, 来乞丐, 乞丐者, 求, 求者, 来求者, 人所求索 *Bodh-bh., Divy., Kāśy., Lal-v., Madhy-vibh., Śikṣ., Sūtr.*
 yācanā ㊦ 要求, 懇願；(一°) を請求・請願または歎願すること；(ある人 一°) の懇願；㊦ 来求乞, 来請 *Bodh-bh.* ~m Kṛ 要求をみたす。
 yācaniṃya ㊦ ㊦ 請求されるべき。
 yācita ㊦ ㊦ 要求された等 → Yāc. ㊦ 求, 所求, 請, 求請, 所希求, 来乞, 索 *Av-ś., Bodh-bh., Rāṣṭr., Śikṣ.*；借, 仮借 *Lal-v., Rāṣṭr.*
 yācitaka ㊦ 借用した. ㊦ 借用額, 借用物；㊦ (忒彼) 所須, 仮借物 *Bodh-bh., Buddh-c.*
 yācitavya ㊦ ㊦ 求められるべき；(㊦) によって(娘 ㊦) が(妻として) 求められるべき。
 yācitṛ ㊦ 要求する, 乞う, 乞食する；求(婚)する。
 yācin ㊦ (一°) を乞い求める。
 yāciṣṇu ㊦ 求める, 懇願する. ㊦ 請願者。
 yāciṣṇutā ㊦ (恩寵を) 懇願すること。
 yācñā ㊦ (一°) を懇願または要求すること, 乞食, 乞食の境涯；請求, 歎願, 請願；(娘を妻として) 求め

ること；㊦ 乞, 尋取 *Mvyut.* ~m Kṛ 要求をみたす。
 yācñā-jivana ㊦ 乞食して生計を立てること。
 yācñā-bhaṅga ㊦ かなえられない請求。
 yācñā-vacas ㊦ ㊦ 懇願の言葉。
 yācñoparodhana (°ñā-up°) ㊦ ㊦ 惡逼 *Bodh-bh.*
 yācyā ㊦ ㊦ 請求されるべき, (施物を) 求められるべき；要求された；求められた；求婚されるべき(婦人). ㊦ 乞食, 乞食の境涯。
 yācyatā ㊦ 求婚されるべきこと。
 yāj ㊦ 祭主。
 yāja ㊦ (一°) の祭主；祭式；[ある Brahmarṣi の名]。
 yājaka ㊦ 祭官 [一°, 祭主および祭式を捧げられる神とともに]。
 yājakatva ㊦ [同上 ㊦]。
 yājana ㊦ (㊦ 一°) のために祭式を行なうこと；㊦ 入供施, 令入供施 *Mvyut.*
 yājaniya ㊦ ㊦ ㊦ (ある人のために) 祭官の役を勤めるべき。
 yājamānika ㊦ 祭主 (yajamāna) に関する。
 yājayitr ㊦ 司祭官。
 yājīn ㊦ 祭式を行なうまたは行なった. ㊦ 祭官 [一般に供物または神とともに 一°]。
 yājurvedika ㊦ *Yajur-veda* に関する。
 yājurvedika ㊦ [同上]。
 yājuṣa ㊦ (㊦ -i) *Yajus* に関する。
 yājña ㊦ 祭式に関する。
 yājñavalkiya ㊦ *Yājñavalkya* から出たまたはに関する. ㊦ *Yājñavalkya* の法典。
 yājña-valkya ㊦ ㊦ [ある古師の名, 白 *Yajur-veda* の始祖, *Upaniṣad* 哲学の巨匠で, 法典その他の著者とも伝えられる]。
 yājña-sena ㊦ [*Śikhandin* の ㊦]。
 yājña-seni ㊦ [同上]。
 yājña-seni ㊦ [*Draupadi* の ㊦]。
 yājñika ㊦ (㊦ -i) 祭式に属するまたは関する. ㊦ 祭式に通曉した者, 祭式学者；㊦ 能祠者 *Abh-vy.*；(音写) 延若師 *Abh-vy.*
 yājñikatā ㊦ 祭式精通者たること。
 yājñikatva ㊦ [同上]。
 yājñikya ㊦ 祭式学者の規則。
 yājñiya ㊦ 祭式に属するまたは適した. ㊦ 祭式に通曉した者, 祭式学者。
 yājya ㊦ ㊦ ㊦ (その人のために) 祭式が行なわれる；祭式を行なうことを許された. ㊦ 祭主。
 yājyatā ㊦ 祭主たること。
 yājyatva ㊦ [同上]。
 yājyā ㊦ 祭式用の詩節 [供物を捧げる時に唱えられる]。
 yāt 1. ㊦ ㊦ [Yā] 動く等。
 yāt 2. [㊦ ya- の ㊦] ㊦ ㊦ ㊦ …に関する限り；…の続く限り, …である間は。
 yāta ㊦ ㊦ → Yā. ㊦ 度 *Sūtr.* ㊦ 道程 (RV.)；運動；赴いた場所；過去時。
 yātana ㊦ 報復。

yātanā 因 [同上]; 処罰; 科料; [圀 國] 苦痛, 苦惱; 地獄の責苦; 漢語 刑害, 治罰 *Abh-vy., Bodh-bh.* ~m Dā 報復する.
 yātanā-gr̥ha 男 拷問室.
 yātanārthiya (°nā-ar°) 形 苦悩の運命を担った(身体).
 yātam 非人 → Yā.
 yātayaj-jana 形 人々を糾合する, 一致させる, 適材を適所におく.
 yātayat 使役 現分 漢語 逼害 *Vijñ-v.*
 yāta-yāma 形 道程を完了した, 使い尽くした, 使い古された; 害われた, 役立たない; 気の抜けた; (一°)に時を費した.
 yātave 因 不定 (因) 旅行すること.
 yātavya 来受分 …に向って行かれるべき, 攻撃されるべき. 因 非人 行くべきである, 出発すべきである, 進むべきである. 因 出発のために; 漢語 所趣, 去処 *Sūtr.*
 yātāyata (°ta-āy°) 因 行くことと来ること; 干潮と満潮.
 yāti 因 漢語 往 梵雜.
 yātu 男 魔術 (因); 悪魔 (の一種).
 yātu-dhāna 男 悪魔または妖精 (の一種).
 yātu-dhāni 因 [同上].
 yātr 1. 形 行く, 旅行する, 進行する; (因)を求めて行く, 探し求める; (一°)へ行くまたはに乗る. 男 馭者; 漢語 趣者 *Sūtr.*
 yātr 2. 男 報復者 (RV. 用例一回のみ).
 yātr 3. 因 夫の兄弟の妻.
 yātrā 因 行くこと, (一°)へ行くこと; 出発, 旅行; 行進, 遠征; 祭の行列, 行列; (毎年, 二年ごと等に神祠を)巡拝すること; 祝賀, 祝祭; 生計; 扶養; 交際; (劇的)娯楽 (の一種); 漢語 入, 乘, 遠行; 処生, 養, 養順; 儀, 儀軌 *Bodh-bh., Gand-vy., Mañj-m., Mvyut., Sūtr.*: mahā-jñāna-yāna ~ 乗大智舟 *Gand-vy. 41.* → loka ~. ~m Dā 遠征の道につく.
 yātrā-kara 形 扶養の力がある.
 yātrā-karana 因 旅行または行進を開始すること.
 yātrā-kalpanatā 因 漢語 存濟 *Bodh-bh.*
 yātrā-gamana 因 遠征.
 yātrā-mahotsava (°hā-ut°) 男 大きな祭の行列.
 yātrārtham (°rā-ar°) 副 行進のために.
 yātrika 形 行進または出征に関する; 生命の保持に必要な. 因 行進, 出征.
 yātrin 形 遠征の.
 yātrotsava (°rā-ut°) 男 祭の行列, 行列.
 yāthākāmya 因 [yathā-kāmaから] 欲望のままに行なうこと, 気まま.
 yāthātathya 因 真実の状態, 本来の道, 真理; 漢語 如実, 如実性, 如実相 *Daś-bh., Lanik.* ~m, ~ena 副 真に.
 yāthātmya 因 [yathātman (°thā-āt°)から] 本性.
 yāthārthya 因 [yathārtha (°thā-ar°)から] 本来の意義.
 yāthāsamstarika 形 元の位置に敷物を敷く; 漢語 随

敷座, 常随敷座, 随得敷具, 随処住, 処如常座 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*; 自然如常, 常乞食 *Mvyut.*
 Yād, [現分 yādamāna] 現分 (因)と密接に結合している (RV.).
 yādamāna 現分 → Yād.
 yādava 形 (因 -i) *Yadu* に関するまたはの後裔たる. 男 *Yadu* の子孫.
 yādava-kośa 男 [ある辞典の題名].
 yādava-śārdūla 男 [*Kṛṣṇa* 神の称].
 yādavācārya (°va-āc°) 男 [ある師の名].
 yādavi 因 *Yadu* の女性子孫.
 yādavendra (°va-in°) 男 [(*Yādava* の長), *Kṛṣṇa* 神の称].
 yādas 因 淫蕩 (因); 大きな水棲動物, 海の怪物 (漢). ~ām prabhuh 男 [*Varuṇa* 神の称].
 yādura 形 (因 -i) 淫蕩な, 熱烈に抱擁する (RV. 用例一回のみ).
 yādr̥g-guṇa 形 その種の徳性をもつ.
 yādr̥cchika 形 (因 -i) 偶然にまたは期せずして生じたまたはできた; でたらめに行動する; 漢語 任性行言; 欲王 *Mvyut.*
 yādr̥ś 形 そのような外貌をもつ, そのような種類の.
 yādr̥śa 形 (因 -i) [同上]; 漢語 如, 如是, 如是行相, 所有, 若干種, 有何相, 随彼有相 *Abh-vy., Bodh-bh., Rāstr., Sapt-pr.* ~ tādr̥śa 何(人)たるを問わず; 漢語 同, 如, 似, 極相似 *Bodh-bh.*: ~i teṣāṃ varṇa-puṣkalatā bhavati tādr̥śi tasya 同其色類 *Bodh-bh. 61*; ~ āroha-pariṇāhaḥ tādr̥śas tasya bhavati 如彼形量 *Bodh-bh. 61*; ~i svarguptis teṣāṃ tādr̥śi tasya bhavati 似彼言音 *Bodh-bh. 61*.
 yādr̥śaka 形 漢語 如是 *Saddh-p.*
 yādo-nātha 男 [(海の怪物の主), *Varuṇa* 神の称].
 yādr̥dhyaṃ 副 できうる限り; 最高速度で (漢).
 yādva 形 父系 *Yadu* (族)に属する (RV.).
 yāna 形 通ずる(道), (因, -trāで終る 副)に通ずる(道) (因). 因 行くこと, 歩くこと, 行進すること, 乗って行くこと, (因, 一°)に行くこと等; (因, 一°)に乗ってまたはまたがって行くこと等; (因+prati)に向って行くこと等; 道, 行路; (一°)にひかれる乗物・運搬具・馬車または戦車; (知慧および輪廻からの解脱に導く)乗物 (弘教); 漢語 乘, 車乘, 車輿, 輿, 輦, 騎乘, 車, 大車; 缸; 往趣 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gand-vy., Lanik., Mvyut., Śikṣ., Sūtr., Vajv-pr., 梵千., 梵雜.*: yena yena ~ ena 乘如是乘 *Aṣṭ-pr. 564.*; trīṇi ~ āni 三乘 [1. śrāvaka ~ m 声聞乘, 2. pratyeka-buddha ~ m 縁覚乘, 独覚乘, 3. mahā ~ m 大乘] *Dharm-s., Mvyut.*; dve yāne 二乘 [1. mahā ~ m 大乘, 2. hina ~ 小乗] *Mvyut.*
 yānaka 因 乗物; 漢語 車 *Saddh-p.*
 yāna-kara 男 車大工.
 yāna-ga 形 車に乗って行く.
 yāna-traya 因 漢語 三乘 *Bodh-bh., Lanik., Madhybh., Śikṣ., Sūtr.*
 yānatraya-dharma 男 漢語 三乘法 *Bodh-bh.*

yāna-dvaya 用 二乗 *Laik., Sūtr.*
 yāna-naya 用 乘理趣 *Bodh-bh.*
 yāna-pātra 用 航海用の船舶, 舟, 船; 船, 船, 船, 船, 海船, 船筏 *Av-s., Daś-bh., Gand-vy., Lal-v., Śikṣ., 梵書.*
 yāna-pātrikā 用 小船, 舟.
 yāna-bala 用 乘力, (大) 乘力, 乘威力 *Gand-vy., Mvyut.*
 yāna-bhaṅga 用 難船.
 yāna-bheda 用 乘差別, 乘建立 *Laik., Saddh-p.*
 yāna-yātrā 用 [刊本 °pātra] 航海 (*Divy.*).
 yāna-yugya 用 戦車と馬.
 yānavat 用 車をもつまたはを駆る.
 yāna-vāhana 用 輿 *Bodh-bh.*
 yāna-sālā 用 車庫; 象厩, 車馬厩 *Divy.*
 yāna-saṁdhi 用 使節による交渉 (?). 用 [*Mihābhārata* の 章の名].
 yāna-svāmin 用 乗物の所有者.
 yānānuttarya (°na-ān°) 用 無上乘 *Madhy-bh., Madhy-vibh., Sūtr.*
 yānābhirūḍha 用 乗…乗 *Gand-vy. nānā~* 乗種種乗 *Gand-vy. 88.*
 yānāyāna 用 乘非乗 *Laik.*
 yānārūḍha (°na-ār°) 用 乘乘, 乗騎人, 乗車者 *Mvyut., Sūtr.*
 yānāsana (°na-ās°) 用 行進および静坐.
 yānāstarāṇa (°na-ās°) 用 車のクッション.
 yānika 用 乘 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Laik., Saddh-p. → bodhisattva ~.*
 yāni-kṛta 用 [*Pali yāni-kata*] 旅行した; 習慣とした, 習熟した; 作道行, 作可行 *Mvyut.*
 yāpaka 用 授ける, 与える.
 yāpana 用 通過させる; (苦を) 軽減する; 生命を支える. 用 =yāpanā.
 yāpanā 用 (時を) 過すこと, 延期, 遅延; (苦痛を) 軽減すること; 支持, 保持; 実施, 実行; 持, 相續 *Abh-vy.*; 資養 (於身) *Śikṣ.*
 yāpanīya 用 =yāpya; (仏教) 快適な; 足 *Vin.*
 yāpanīyatara 用 比較 [*Pali* 同じ] 一層快適な (*Divy.*).
 yāpayitavya 用 未受分 (しりぞけられるべき), 些細な, 重要でない.
 yāpya 用 未受分 放免または放逐されるべき (証人); 軽減されるべき (病); 些細な, 重要でない; 賤しむべき (行動); 堪自支持 *Bodh-bh.*
 yāpyatā 用 嘲弄.
 yābha 用 性交.
 yābhis 用 [用] …するために (*RV.* 用例一回のみ.).
 yāma 1. 用 (因 -i) *Yama* から出た・に関するまたはのための.
 yāma 2. 用 [Yam] 停止, 終結 (因).
 yāma 3. 用 行くこと, 進路, 道路 (因); 車 (*RV.*); 夜番, 交代時間(更), 三時間; (因) [神の一部類]; 分, 更 *Mañj-m., Mvyut.*; [天の名] 唱楽天 *Abh-vy.*; 音写 [天の名] [また 因] 夜摩, 夜摩(天), 焰摩天 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Dharm-s., Mvyut. prathame ~e* 上半, 初夜, 於初夜, 於初更

Buddh-c., Mvyut.; *madhyame ~e* 中分, 中夜, 於中夜, 於中更 *Mvyut.*; *rātryāṁ madhyame ~e* 於中夜分 *Lal-v. 3*; *paścime ~e* 下半, 半夜, 於後夜, 於後更 *Mvyut.*; *dvitiye ~e* 於中夜時 *Buddh-c. 117.*

yāmaka-kareṇukā 用 指定された時間に (用意して待つ) 牝象.
 yāmaka-kuñjara 用 指定された時間に (用意して待つ) 牡象.
 yāma-kareṇukā 用 =yāmaka-kareṇukā.
 yāmakini 用 張り番または夜番を勤める女召使い.
 yāma-kuñjara 用 =yāmaka-kuñjara.
 yāma-ceṭi 用 =yāmakini.
 yāma-tūrya 用 (夜の時刻(更))を報ずるために打ち鳴らす太鼓.
 yāma-ḍundubhi 用 [同上].
 yāma-deva 用 音写 [天の名] 炎摩(天) *Sam-r.*
 yāman 用 (因) 行くこと, 進路, 飛ぶこと; 来ること; 前進, 侵入; (神に) 近づくこと, (神を招く) 祈願 用 [時として] =今度.
 yāma-bhadra 用 あずまや (の一種).
 yāma-mātra 用 ただの一更 (三時間).
 yāma-yama 用 時間 (ごとに) 規定された仕事.
 yāma-laukika 用 音写 (音写) 琰摩世界 *Bodh-bh.*
 yāmavati 用 (更をもつ), 夜.
 yāma-vṛtti 用 夜警または張り番を勤めること.
 yāma-stamberama 用 =yāmaka-kuñjara.
 yāma-hūti 用 途上で呼ぶこと (*RV.*).
 yāmātr 用 =jāmātr.
 yāmātrka 用 [同上].
 yāmādhīpatya (°ma-ādḥ°) 用 音写 (音写) 夜摩天 *Lal-v.*
 yāmāvasthita 用 定まった時刻に用意して待つ.
 yāmi. [jāmi の 翻].
 yāmika 用 張り番を勤める [puruṣa とともに 用, または ~bhaṭa 用 =夜番]; 刻分可 *Mvyut.* 用 夜番, 番人.
 yāmikatā 用 [同上 用 翻].
 yāmika-sthita 用 =yāmāvasthita.
 yāmini 用 (更をもつ), 夜; [人名].
 yāmini-dayita 用 夜の愛人, 月.
 yāmini-nātha 用 夜の主, 月.
 yāmini-pati 用 [同上].
 yāmini-priyatama 用 夜の愛人, 月.
 yāmini-ramana 用 [同上].
 yāmini-virahin 用 夜の間別れ別れにされた. 用 [vihaga とともに] *Cakra-vāka* 鳥.
 yāmi 用 夜 [通常 人格化された]; *Yamunā* 河; [*Dakṣa* の 娘の名].
 yāmiya 用 音写 夜摩, 夜摩(天) *Abh-vy.*
 yāmuna 用 *Yamunā* 河に属する・由来するまたはの中に成長する. 用 眼薬 (の一種). 用 [山の名].
 yāmya 用 *Yama* 神に属するまたはに関する; 南の [用 または 因 南に, 南方に]. 用 右手; *Yama* 神の従者; [*Śiva* 神および *Viṣṇu* 神の称].
 yāmya-pāsa 用 *Yama* 神のわなまたは足かせ.

yāmyā 因 南；**釋** 南，獄帝隅 *Mvyut.*
 yāmyāyana 因 (太陽の) 南寄りの行進。
 yāmyottara (°ya-ut°) 因 南方および北方の；南から北に行く。
 yāyajūka **強意** 形 絶えず祭式を行なう；**釋** 不断施，施不断絶，周徧供 *Mvyut.*
 yāyāta 形 (因 -i) *Yayāti* に属するまたはに関する。
 因 *Yayāti* の物語。
 yāyāvara **強意** 形 流浪する，一定の住居をもたない。
 因 遊行する乞食者。因 遊行する乞食者の生活。
 yāyin 形 (一°) へ行く・動く・乗って行く・走る・飛ぶ・旅するまたは行進する。
 yāva 1. 因 赤色染料，ラック染料。
 yāva 2. 形 大麦 (yava) で作ったまたはからなる。
 yāvaka 1. 因 =yāva 1.
 yāvaka 2. 因 因 大麦から製した食物 (の一種)。
 yāvac-chaktitas (°at-śa°) 副 力の限り。
 yāvac-chakyam (°at-śa°) 副 できうる限り。
 yāvac-cheṣam (°at-śe°) 副 残っただけ。
 yāvaj-janma 副 命のある限り，終生。
 yāvaj-jiva-, °— [同上]；**釋** 尽寿 *Bodh-bh.*
 yāvaj-jivam 副 [同上]；**釋** 尽寿，尽形寿，尽其形寿，尽其寿量，乃至尽寿，乃至尽寿已来，乃至尽其形寿，乃至命終，乃至存命，終身 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*
 yāvaj-jivika 形 終生の。~m 副 **釋** 臨終，乃至命終，一生可 *Mvyut.*
 yāvaj-jivena 因 副 終生。
 yāvat 因 形 [後続の 相関 tāvat (それほどに等) とともに] どれほどに大きな・多量な・多数の・遠い・長い・多様なまたはしばしばの；[因 とともに] …に至るまで (*Divy.*)；**釋** 随，如数量，所有若干 *Abh-vy.*, *Daś-bh.* ~c ca…~c ca (因，困，まれに因) から…まで。~c ca…~c ca…antarāt…と…との間に (*Divy.*)。~c carma dāru ca 皮と木だけ。~ tāvat いかほどあろうとも。iti ~以上の通り，すなわち…に等しい [しばしば註釈家が用いる]。因 因 どれほどに遠く・多くまたはしばしば，どれほどに [一般に後続の 相関 -tāvat (それほどに等) とともに]；…である間は，…である限り；その間に，ちょうど今 [因 現 または 因 命 とともに意図された動作を現わす]；…まで [因，因，困，因，または連辞を省略して]；…するや否や [因，因 因，因，または連辞を省略して]；**釋** 乃至，至；於；尽；所有 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Vajr-pr.* ~…tāvat **釋** 從…至… *Aṣṭ-pr.* tāvat…~**釋** 乃至 *Bodh-bh.* na~…tāvat …するや否や。~n na …しない間=…するまで [因，因，困，因，または連辞を省略して]；…でない限り，…でないとなれば。na param または kevalam…~ …であるばかりでなく，…さえ。~d ~…tāvat tāvat …だんだんに…となるように，そのように。
 ūrdhvam ~ **釋** 從此已後至 *Abh-vy.* 副 [一般に先行の 因 とともに] …間，中(例：一年間)；…まで，…に至るまで。(例：家まで) [時として 因 の代用とし

て 困+ iti とする]；…まで(例：夕方まで)；*adya* ~ 今日まで；[後続の 因 とともに]…まで [まれに]。因 ~ā…する限り；(因)するまで；(因)するや否や…であるをもって，…の故に；[na とともに] …しない間=…まで。因 ~i…する限り [相関 [tāvat]]
 yāvataka, °ttaka, °ntaka, °tika, °ttika 形 どれほど多くの；**釋** (yāvattaka) 所有 *Daś-bh.* 173-
 -kam 副 どれほど長い間に，…する限り。
 yāvatitha 形 順序を問わない。
 yāvat-kāmam 副 (自分が) 好む限り；**釋** 乃至所徧 *Bodh-bh.*
 yāvat-kālam 副 (あることが) 続く限り；**釋** 権 *Bodh-bh.*
 yāvat-kṛtvas 副 …するたびに。
 yāvat-tathatā 因 **釋** 如所有性 *Suvik-pr.*
 yāvat-pramāṇa 形 どれほどに大きな。
 yāvat-sattvam 副 智能を傾けて。
 yāvat-sampātam 副 可能な限り。
 yāvad-adhyayanam 副 暗誦する間。
 yāvad-antam 副 終りまで。
 yāvad-antya 形 一生の，生涯続く。
 yāvad-abhikṣam 副 一瞬間 (続く)。
 yāvad-arāti 副 それぞれの敵に従って。
 yāvad-artha 形 必要とするだけ多くのまたは多数の。°—, ~m 副 必要とするだけ多くまたは多数に；**釋** 随所欲，随其所施 *Bodh-bh.*
 yāvad-ā-bhūta-saṃplavam 副 生類の滅亡するまで，世界の終末まで。
 yāvad-āyuh-paryantam 副 **釋** 尽形 *Divy.*
 yāvad-āyuh-pramāṇa 形 終生の。
 yāvad-āyusam 副 生命のある限り (続く)，終生。
 yāvad-āyus 副 [同上]。
 yāvad-ittham 副 必要とする限り多く。
 yāvad-ipsitam 副 望む限り多く。
 yāvad-ukta 形 言われた限りの。~m 副 上述の限りにおいて。
 yāvad-uttamam 副 極度まで。
 yāvad-aupamyā 因 単なる比喩 (*Vajr-pr.*)；**釋** 乃至譬喩，乃至算数譬喩 *Vajr-pr.*
 yāvad-gamam 副 できうる限り早く行く。
 yāvad-grahaṇam 副 把握するまでまたは習熟するまで。
 yāvad-daśottara-pada-saṃdhi-lipi (°śa-ut°) 因 **釋** (音写) 夜婆達書鉢陀散地書，耶婆陀輪多羅書 (増句已上) *Lal-v.* 126。
 yāvad-balam 副 力の限り。
 yāvad-bhāvikatā 因 **釋** 尽所有性 *Bodh-bh.*
 yāvad-rājyam 副 全治世の間。
 yāvad-viṃśati 形 二十まで，第二十まで。
 yāvad-vyāpti 副 拡がる限り。
 yāvan 因 呪術師 (RV. 用例一回のみ)。形 (一°) に…く。
 yāvana 形 *Yavana* すなわちギリシアまたは外国に由する。
 yāvan-mātra 形 どれだけの量をもつ，どれだけの長さまたは広さをもつ；程よい，些細な，とるに…

りない。～m 副 (na とともに) …しない限り=…するまで(RV.); 少く, 多少。

yāvayad-dveṣas 形 敵を駆逐する (RV.).

yāvasika 男 草刈り人 (Lal-v.); 𑖦𑖩 売草 Mvyut.

yāsodhara 形 Yaśodhara の; 𑖦𑖩 音写 耶輸陀 Buddh-c.

yāṣṭika 形 杖または棍棒で武装した; 𑖦𑖩 執棒, 執棒者 Mvyut.

yāsiṣṭa. [Yā の Prec. 三人 四 句].

yāska 男 父系 [Nirukta の著者の名 (恐らくは西暦前 450年頃の人)]; (𑖦𑖩) Yaska の後裔.

yiyaṣu 希求 形 [Yaj] 祭式を行なおうと欲する.

yiyaṣā 女 行きたい欲望; 𑖦𑖩 欲 Buddh-c.

yiyaṣu 希求 形 (𑖦𑖩 𑖦𑖩 prati, 𑖦𑖩) に行こうとしている または行きたいと思う, …に 出発・飛去・行進または 攻撃しようとしているまたはしたいと思う.

yu 代 [yuvām, yuvas, yūyam, yuṣmān 等に於ける 三人 代 の 副].

Yu 1. VI. yuvati (-te) (𑖦𑖩); II. yauti, yute (𑖦𑖩 まれに) くびき(軛)をかける, 馬具をつける; 縛る, 固定する, 固持する; 獲得する. 過受分 yuta (𑖦𑖩; 𑖦𑖩 まれに) (一°) に固定された; つけ加えられた; (𑖦𑖩, 一°) に合同・連結・接合または供給された, …を伴なった, …を所有する; (一°) よりなる; (祭式 𑖦𑖩) を執行する; (一°) に関係した, …に関する. 希求 𑖦𑖩 yuyūṣati 固持したいと思う.

ā- (手綱, 翼)を引き寄せる, つかむ; (牽引用動物が 車を) 引く; (心を) 捉える; 混合する, 攪拌する.

過受分 āyuta (一°) に接合された, …を供給または 賦与された, …に取りつかれた [詩句の終りにおいてはつねに = -yuta].

abhy-ā- (𑖦𑖩) に舞い上る.

ud-ā- 攪乱する.

pary-ā- 混合する, 攪拌する.

sam-ā- 過受分 samāyuta (一°) で構成された; (一°) と結合されたまたはを賦与された.

ud- 過受分 udyuta 興奮した (心).

upa- 接合する, 使用する.

ni- 固定する; 賦与する.

pra- 攪拌する, 混合する; 履行する; 破壊する.

過受分 prayuta (𑖦𑖩) と混合された; 破壊された; 混乱した (夢).

vi- 離す; (𑖦𑖩) を奪う; 撒布する; 切り離される; (𑖦𑖩) を奪われる; (𑖦𑖩) を遠ざける (𑖦𑖩). 過受分

viyuta (𑖦𑖩, 𑖦𑖩) (𑖦𑖩, 一°) から離された, …を奪われた.

sam- (自己に合一する), 消費する; 伝達する; (𑖦𑖩) と結合する, 結びつく. 過受分 samyuta 縛られた; (𑖦𑖩 𑖦𑖩 saha, 一°) と結合または接合された; (𑖦𑖩 一°) を賦与された; (一°) だけ増加した, 加えられた; (𑖦𑖩) で構成された, (一°) を包含する; (一°) と関連または関係のある, …を意味する; 堆積した, 雑然とした.

Yu 2., III. 𑖦𑖩 [まれに 𑖦𑖩] yuyoti, (yuyute 𑖦𑖩); VI. 𑖦𑖩 𑖦𑖩 yuvati (-te) (𑖦𑖩); I. 𑖦𑖩 yavate (RV. 用例一回のみ). (𑖦𑖩) から遠ざける, 防ぐ, 分離する; (𑖦𑖩)

から保護する; 抑制する; 遠ざかる, (𑖦𑖩) から遠ざかる. 過受分 yuta 分離された. 硬役 𑖦𑖩 yāvayati [= 単純動詞].

apa- (𑖦𑖩, 𑖦𑖩) から駆除または除去する.

pra- 取り除く. 過受分 prayuta 放心した, 乱心した, 不注意な.

yukta 過受分 [Yu] くびき (軛) につながれた, (𑖦𑖩) に軛された, (𑖦𑖩) をもって軛された; (𑖦𑖩, 一°) に使用または専用された. …に従事した, …に専心した; 適用された; (𑖦𑖩, 一°) に備えられた, 用意された; (𑖦𑖩) に忙殺された, …に専念した; (𑖦𑖩) に熱中した; 集中した, 余念のない, 注意深い, [比喩 ~ tara, (𑖦𑖩) に対して非常に用心した; 最上 ~ tama 非常に専念したまたは余念のない]; (𑖦𑖩) に熟練した, 経験のある; 接合された, 結合された, 組合わされた; 規則的に継起する; (𑖦𑖩, 一°) を供給または賦与された, …を伴うまたは所有する; (星宿 𑖦𑖩) と会合した; (機会を: kālena) 利用する; (𑖦𑖩) と連絡するに至った; (一°) に関係のある; (一°) に束縛されたまたは従属する; (𑖦𑖩, 𑖦𑖩) に 適した・相当するまたはふさわしい; 正しい, 正確な; (一°) に適応した; 吉兆である, 運のよい (運命, 瞬間); 繁栄する, 繁昌する; (このように: tathā) 生活または行動する; 原語の [派生語の 𑖦𑖩] (文法); 𑖦𑖩 応, 相応, 応爾, 応有, 与…相応, 応理, 応正理, 理, 如理, 正理, 称理, 道理, 如法; 契; 具, 俱, 具足, 豊具, 豊足; 合, 成, 相和; 成就, 撰; 所集; 有, 応有 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Lal-v., Lan̄k., Madhy-v.: Mvyut., Sāṃkhy-k., Sikṣ., Sūtr.; 修, 合修行, 行, 勤行 (精進) Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Sikṣ.: guṇa ~ 有美事 Lal-v. 22; ~ aiḥ pada-vyañjanaiḥ 相応句文, 言字全 Mvyut. → a ~ ° —, ~ m 副 相応して, 適当に, 正当に, 正しく. ~ m yad …することは適当である. na ~ m anayos tatra gantum そこへ行くことは彼等兩人にとって不適当である. na ~ m bhavatā (不定) …することは貴下にふさわしくない. 𑖦𑖩 (軛につながれた) 一組の動物; 連結, 連合; 適当. 𑖦𑖩 ~ ena 適当に; (一°) (理性) に従って.

yuktaka 𑖦𑖩 小さい一対.

yukta-karman 形 適切に行なう, 目的にかなった.

yukta-kārin 形 ふさわしいことをなす, ふさわしく行なう.

yukta-kula 𑖦𑖩 𑖦𑖩 執理家, 用調地, 種類 Mvyut.

yukta-kṛt 形 = yukta-kārin.

yukta-grāvan 形 Soma 压榨用の石を動かし始めた.

yukta-cetas 形 精神を集中した.

yukta-ceṣṭa 形 正しく振舞う.

yuktatama 最上 → yukta.

yuktatara 不定 → yukta.

yuktatva 𑖦𑖩 (𑖦𑖩) の使用; 従事; 適当, 適切.

yukta-daṇḍa 形 刑罰を課する, 正当に処罰する.

yukta-daṇḍatā 女 刑罰を正当に課すること.

yukta-parihāsa 男 𑖦𑖩 称理談諺 Bodh-bh.

yukta-pratibhāna 形 𑖦𑖩 辯才相応, 理辯, 辯種

Mvyut.

yukta-mada 形 酔った。
 yukta-manas 形 注意深い。
 yukta-yogin 形 相應理 Śikṣ. → a~.
 yukta-rūpa 形 [圓 または 因 とともに] 相應した, 適
 当な, 適合した; 應理, 如理, 称正理, 随
 宜, 如其所宜 Abh-vy., Bodh-bh. ~m 副 適当に。
 yukta-rūpaka 中 適切な隠喩。
 yuktavat 形 動詞 Yuj の形を含む。
 yukta-vādin 形 ふさわしく話す。
 yukta-śiṭoṣṇa (°ta-uṣ°) 形 寒暖の程よい。
 yukta-sena 形 (進軍の) 用意の整った軍隊をもつ。
 yukta-svapnāvabodha 形 適度の睡眠と覚醒をもつ。
 yuktātman (°ta-āt°) 形 専念した; (一°) に没頭し
 た。
 yuktārtha 形 (適切な意義をもつ), 思慮のある, 意
 味深い, 合理的な; 有道理義 Bodh-bh.
 yuktārtha-pañḍita 形 義 (若有) 理義聡睿賢善, 於
 義於理中聡明 Madhy-bh.
 yuktāhāra vihāra (°ta-āh°) 形 適度の食事と享楽を
 もつ。
 yukti 因 合同, 連結; (語の) 結合, 文 [まれに];
 (動詞状 因 の 因 または 一°) のための準備; 適用,
 使用, 利用; (動詞状 因 の 因 または 因, または
 yathā+因) のための方法・方策・工夫・術策または計
 略; 魔術的作用; 推理, 論議; 論証, 立証; 理由, 動
 機 [まれに]; 相当, 穩当, 適當, 正当; 聡明な熟慮,
 状況の考察 (戲曲); 理, 道理, 正理, 理趣;
 法, 和合之法; 成, 合, 相應; 隨機; 事; 善解, 方便
 Abh-vy., Bodh-bh., Gand-vy., Lan̄k., Madhy-bh.,
 Madhy-v., Madhy-vibh., Mañj-m., Mvyut.,
 Nyāy-pr., Rāṣṭr. Sūtr. : sarva-gandha~ 調理之
 法, 調理和合之法 Gand-vy. 153. → a~ ~m Kṛ
 方策を発見する, 計略を用いるまたは指示する. ~tas,
 一°, 圓 (圍, 覆) (一°) によって. °一, 圓 巧
 妙に, 術策を弄して; 奸策によって, ある口実の下
 に. 圓, ~tas 相應に, 適当に, 正しく. ~tas 副
 論証によって。
 yukti-kathana 中 論証の陳述, 理由を述べること。
 yukti-kara 形 適当な, 正当とされるべき。
 yukti-jña 形 (適当な) 方策に通じた。
 yuktitas 副 → yukti。
 yukti-deśanā 因 相應説, 説相應 Lan̄k.
 yukti-prasiddha 男 道理極成, 道理成就
 Bodh-bh., Madhy-bh.
 yuktiprasiddha-tattva 中 道理極成真実
 Bodh-bh.
 yuktimat 形 (一°) と接合した; (不定) に熟練した;
 論証によって支持された; 適当な; 應道理
 Abh-vy.
 yuktimattva 中 論証によって支持されたこと。
 yukti-yukta 形 経験のある; 適当な, 正当とされる
 べき。
 yukti-vikalpa 男 理分別, 連立分別 Lan̄k.
 yukti-virodha 男 道理相違 Bodh-bh.
 yukti-śāstra 中 妥当なことを教える学問。

yukty-āgama 男 正理, 聖教正理, 理教 Lan̄k.
 Śikṣ.: (音写) 量阿含, 量及阿含 Lan̄k.
 yukty-upaparikṣā 因 如理觀察 Bodh-bh.
 yuga 中 軛 [例外的に 男]; 一對, 夫婦; (一文章を形
 成する) 二詩節; 人類; 世代; 生涯; 五 [時に六] 年
 の週期, 大祓い (とくに木星の六十年週期中における)
 ; 宇宙の年紀 [Kṛta (または Satya), Tretā, Duā-
 para, Kali の四 yuga があるとされる]; 兩,
 雙, 整; 軛, 轡, 車軛; 類, 相應; 世, 代, 時
 Buddh-c., Divy., Lan̄k., Mvyut., 梵千., 梵雜.:
 kṣine ~e 末世中 Buddh-c. 109; bhadra~m 善
 賢相應 Divy. 90; saṃghā vā gāṇā vā ~ā vā
 paśado vā 所有大衆群類聚集 Divy. 154. →
 pāṇi~.
 yuga-kṣaya 男 (宇宙期=) 世界の終末。
 yuga-dirgha 形 軛のように長い (腕)。
 yuga-dhāra 男 (軛を轅にとりつける) 栓。
 yugam-dhara 男 中 (軛を支えるもの), 轅. 男 [あ
 る住民の名] (覆); [王侯の名]; [山の名]; [ある森
 林の名]; [武器に対して唱えられる呪文の一種];
 [山の名] 持雙, 持雙山, 雙迹 Abh-vy., Daś-
 bh., Dharm-s., Divy., Mvyut., 志玄. 音写 由
 乾陀, 由乾陀羅, 由乾陀羅 (山), 庚健陀, 育乾達,
 捷陀羅, 踰健達羅, 逾健達羅 Abh-k., Abh-vy.,
 Daś-bh., Mvyut., Śikṣ., 志玄.
 yuga-naddha 形 二俱 Sūtr.
 yuganaddha-vāhin 形 雙運 Bodh-bh.
 yuganaddhavāhi-mārga 男 雙運道 Bodh-bh.
 yugapat-kāla 形 同時に起る. 男 一時, 俱時
 Lan̄k.
 yugapat pravaraṣaṇa 形 雨 (甘露), 霈 (甘沢)
 Śikṣ.
 yugapat-prāpti 因 同時に到着すること。
 yuga-pad 副 (同一步調で, 相並んで), 同時に, 一齊
 に, 同時刻に, 共に; 共俱, 俱時, 一時, 於
 一時中, 同時, 一齊, 一遭, 一遭, 頓, 忽然; 平
 等 Abh-vy., Bodh-bh., Gand-vy., Lan̄k., Madhy-
 v., Mvyut., Sāṃkhy-k., Sūtr., Vijñ-v. → a~
 pravṛtti.
 yugapat-bhāva 男 同時性。
 yuga-bāhu 男 (軛のような=) 長い腕。
 yuga-bhaṅga 男 軛を破壊すること。
 yuga-mātra 中 軛の長さ (= 4 手の長さ); 一尋
 Gand-vy., Śikṣ.
 yugamātra-darsin 形 ([同下] (Lal-v., Buddh-c.);
 視詭量, 平正視 Mvyut.
 yugamātra-dṛś 形 軛の長さの距離を (= 足下の地面
 を) 眺める。
 yugamātra-prekṣikā 因 低視, 前視一尋 Śikṣ.
 yugamātra-prekṣin 形 =yugamātra-dṛś; 諦視
 一尋 Gand-vy.
 yugamātrānusārin 形 視前六尺地, 前視一尋其
 Lan̄k.
 yugala 男 一對, 夫婦; 雙 梵千., 梵雜。
 yugalaka 中 [同上]; (一文章を形成する) 二詩節。
 yugalāya 名動 因 yugalāyate 一對を形成する。

過受分 yugalāyita (一〇) と一対を表す。
 yugalāyita **過受分** → yugalaya.
 yuga-vyāyata-bāhu 形 腕と同じ長さの腕をもつ、腕の長い。
 yuga-sahasrāya 名動 固 yugasahasrāyate 一千宇宙期と思われるすなわち無際限に長く見える。
 yugādi (°ga-ādi) 男 (宇宙期=)世界の初め。
 yugādhyakṣa 男 宇宙期の監督者, [Prajāpati の称].
 yugānta 男 くびき(軛)の末端; 一世代の終り; 宇宙期または世界の終末; 子午線. ~m abhirūḍhaḥ savitā 太陽が子午線上に達したすなわち今は正午である。
 yugānta-kāla 男 劫尽時 Bodh-c.
 yugāntara 中 他または後の世代; (太陽が天空に描く) 円弧のうち(子午線通過以後の)後半. ~m ā-rūḍhaḥ savitā 太陽が軌道の後半分に入ったすなわち今は正午過ぎである。
 yugāntāgni 男 世界の終末に発する猛火; 漢訳 劫火, 劫尽火焰, 劫尽時大火 Lank.
 yugāya 名動 固 yugāyate 一宇宙期=永劫の観を呈する。
 yugāvadhī 男 世界の終末または壊滅。
 yugorasya (°ga-ur°) 男 [軍隊の整列法の一つ].
 yugma 形 偶数の. 中 対, 夫婦; 双生児; 双女宮. [天体十二宮の一]; (一文章を形成する) 二詩節; 合流; [しばしば yugya の 韻]; 漢訳 雙 Mvyut.
 yugmaka 形 [同上 (形)]. 中 対, 夫婦; (一文章を形成する) 二詩節。
 yugma-cārin 形 対をなして徘徊する。
 yugma-janman 男 固 双生児。
 yugmāpatyā 形 固 双生児の後裔をもつ, 双生児の母である。
 yugya (未受分) 中 (軛でつながれるべき), 車; 漢訳 車 Lal-v. 男 中 牽引用の動物, 戦車の馬。
 yugya-yāna 中 漢訳 紡 Ast-pr.
 yugya-vāha 男 御者。
 yugya-stha 形 車中にある。
 Yuch, [Yu 2. の 現 韻], VI. 他 yucchati (固) から消滅する, 立去る (RV.).
 pra- 放心する [± manasā], 不注意である。
 Yuj, VII. (固, 韻) yunakti, yunkte; VI, yuñjati(-te) [叙詩 まれに]; II. yuj- [ほとんど常に 固; RV. に普通]; VI. 固 yujate (RV. 用例一回のみ); I. yojati (-te) [RV. まれに] (馬を) (固, 固) に繋ぐまたは(馬に)くびき(軛)をつける, (車を) (固) に繋ぐ; (譬喩) =用意する, (軍隊を)装備する, (祭式を)行なう, (祈禱を)捧げる; 使用する, 利用する, 適用する; (固) に対して(弓弦に矢を)つがえる; (装飾を)施す, 着ける; (固) の中または上に置く; (固, 固) に任命するまたはを委託する; (人 固) に(愛情を)寄せる; (固) に(精神または思考を)集中する; 他 固 (± yogam) 精神を統一する, 深く瞑想する; (事物を)想起する, 回想する (叙詩); 接合する, 合同する, 結合する, (固) と接合する等; 固 (固) と結婚する; (固) と交わる; (ある事とある人とを)結合する=(固) を供給するまたは賦与する; (あるもの 固) を(人 固,

固) に贈与する, (自己に: ātmani) 贈与する=自己の用に供する (固); 漢訳 勤 Sikṣ.; 可立, 立為 Abh-vy.: katham sā bodhy-aṅgeṣu yoksyate 如何可立為覚支, 云何於助覚立為分 Abh-vy. 129.
 固 yujyate (固) の用意をする; (固) に執着する [また 譬喩]; 接合または合同される [また結婚する]; (義務 固) で束縛される; (固 ± saha) と接合される =…を所有するに至る, 獲得する, 受ける, 到達する; (人 固) の所有に帰する; (固) に適合させられるまたは適合する, (固) 準備をさせられる; (人 固) に適当または相応する; 正しい; 適当する, ふさわしい; (固) たるに適するまたは値する; 当然(人 固, 固) に属するまたは相応する; 論理的に正当である; 漢訳 相応, 応理, 応爾, 応正道理 Abh-vy., Bodh-bh., Sūtr.; 勤修, 精勤, 思惟精進, 策励 Divy.: [na とともに] na yujyate (固, 固) にとり (不定) することは適しない・ふさわしくない・適切または適当でない, (固) の意義の (不定) とともに)されるべきでない; 漢訳 不相応, 不応理, 無道理 Vijñ-v.; 不成, 不得言 Lank.; 不可, 不然, 不応 Madhy-v. **過受分** yukta. → yukta. 使役 他 [韻律 固] yojayati (-te) (固) にまたは (固) とくびき(軛)で繋ぐ; (軍隊を)整列させる; 使用する, 利用する; (会話を)継続する; 着手する, 開始する; (固) に任命する, を委託する; (固) に強要または煽動する; (人を) (固) のために援助する; (畏, 網)を張る; (とくに矢を) (固) につがえる, (固) に(矢を)向ける; (琵琶の絃等)を (固) に張るまたは調整する; (固) に入れる, 挿入する; (固) に(精神を)集中する; (固) と接合する, 合同させる, 集合させる; 組み合わせる, 組織する; 整理する; (固) と抱擁する; 完結する; 支給する, 供給する, 賦与する, (固) を支給する等; (食物を) (固) と混ぜる; (固) に (固) を贈与する; 漢訳 応, 合, 和合 Abh-vy., Ast-pr. 使役 **過受分** yojita (固, 一〇) を支給された。希求 他 yuyukṣati 任命したいと思う; (固) に(矢を)射ようと思う。
 adhi- 載せる, 負わせる, 課する。
 anu- 追求する, 追跡する (Br.); (固) を尋ねるまたは問う, (固) に (固) を尋ねるまたは問う; (証人に)審問する; 教える; (固) に従属する, …に奉仕する。
 固 anuyujyate 漢訳 問, 検問 Prāt-m. **過受分** anuyukta 教えられた; (一〇) に伴われた; (固) に専心したまたは熱中した (Kar-vy.).
 pary-anu- [不変分 paryanuyujya, **過受分** paryanuyukta のみ] しつこく質問する。
 sam-anu- [不変分 samanuyujya, 固 samanuyujyate のみ] 尋ねる; (固) に指図する, に命令を与える; 漢訳 問 Divy.
 abhi- 固(固) に向って前進するまたはを襲う; 軍事行動をとる; (固) に着手する; (不定) なるべく準備する; (固) で治療を施す; 他 (固) を(人 固) に課するまたは託する; 漢訳 一心精進, 勤修精進, 奉行 Rāṣṭr. Saddh-p. 固 abhiyujyate (罪 固) を告発されるまたは負わされる。 **過受分** abhiyukta 攻撃された; とがめられた, 訴えられた; 集中した; (固, 一〇) に注意深い・専心したまたは熱中した; (固, 一〇) に

通曉したまたは熟達した；要求された，請求された。

使役 *abhiyojayati* (業) に (因) を供給する。

praty-abhi- 自 (業) を迎撃する。 **過受分** *pratyabhilyukta* (因) に攻撃された。 **使役** *pratyabhiyojayati* (業) を逆に告発する。

ā- くびき(軛)をつける，(因) に軛をつける；自 (裝飾を)着ける，調整する；(業) を (因) に与える。

過受分 *āyukta* (因) に軛でつながれた；集中した，熱中した；(因，因) に任命されたまたはを委任された；(一°) を所有する。 **使役** **過受分** *āyojita* (因) に置かれたまたは付着した；(一°) で構成されたまたは作られた。

upā (upa-ā) 自 (因) をつける (RV.).

sam-upā (upa-ā) **過受分** *samupāyukta* (因) をもって満たされた。

sam-ā- 用意する，装備する；(因) に (ある事業) を託する；(因) と争うに至る。 **過受分** *samāyukta*

(因) と関係した；(因，一°) と結合した，…と合同した，…を供給または賦与された。 **使役** *samāyojayati* (因) を支給する。

ud- (不定) するために用意する・準備するまたは着手する；出発する (Br.); **漢訳** 奮力營 (求) *Śikṣ.*

過受分 *udyukta* (因，因，prati+業，一°) のために準備した，用意した，熱心な，勤勉な，奮励する。

使役 *udyojayati* (因) のために刺激または煽動する；**漢訳** 弁具 *Lal-v.*

sam-ud- **使役** *samudyojayati* (因) のために激励または煽動する。

upa- 自 (因) をつける (因); (業) に参与する (RV.); (業) に従属するまたはに奉仕する；専有する；(因) について心配する；利用する，使用する；享受する；

食する，使い尽くす；**漢訳** 利益，相合 *Mvyut.* **受** *upayujyate* (人の 因，目的の 因，場所の 因) に使用される・適当・相応・有用であるまたは必須である；**漢訳** 応成，所用 *Abh-vy., Vijñ-t.* **過受分**

upayukta 使い尽くされた。使い尽くされた；(人 因) に適用できる・適当な・心要なまたは必須な；(因，一°) に適当な；価値のある，功労のある(人)。

使役 *upayojayati* (業) と接触する；使用する；(業) に (業) を使い尽くさせる。

pari-upa- **過受分** *pariyupayukta* 使い尽くされた。

vy-upa- (因) について心配する。

sam-upa- 使い尽くす。 **使役** *samupayojayati* 使い尽くす。

ni- [一般に 自] (因) に繋ぐまたは縛る [とくに犠牲獣を柱に繋ぐことをいう]；(ながえ (轅) に：dhuri に) くびき(軛) で繋ぐ，(また=) 先頭に置く，最も重い荷(仕事)を負わせる；(特殊な位置に手を)組み合わす；(人 因，因) に結合させるすなわち頼らせる；(因) を強制または強要する；(因，因，不定，-artham) に任命する・を委託する・命ずるまたは委任する(通常の意味)；(ある人)を (業) に任命する・(業) に (因) を課する；問責する [末受分 のみ]；(因) に置く，(路 因) に導く；(因，因) に (精神または視線を)向ける；

適用する；**漢訳** 使為 *Divy.* **過受分** *niyukta* 縛られた；命ぜられた，指示された，認可された，委任

された，任命された(通常の意味)，(因，因，不定，一°，-artham) に命ぜられた等；(因) の方へ向けられた；置かれた；規定された。 *niyuktam* **副** 必然に。 **使役** *niyojayati* 軛でつなく，(因) に軛でなく；(因) に付着または固定する；(因，prati+業，-artham) することを指令・激励または要求する；(因，-artham) することを強制するまたは強いる；(職務に) 任命する，(仕事 因) に使用する；(不定) するために (業) を (業) に任ずるまたはとする；(因) に (職務を) 授ける；(因) に置く，(畏を) かける，

運ぶ，もたらす；…に(心を)傾ける；(奴隷) に与る，(悲歎，危険 因) に引き込む；(因) に (業) を贈与する，(因) に専念する；(儀式に) 着手する またはを執行する；(知能を) 傾注する；(因) を (業) に贈与するまたは支給する；(因) をもって罰する；**漢訳** 為成弁；令入，令其証入；安住 *Bodh-bh., Gand-vy., Rāṣṭr.*；展転相成 *Śikṣ.*

anu-ni- (因) に従属させる，…に頼らせる。

vi-ni- 自 (因) ゆるめる，離す；(因) に (矢を) 射る；(因，因，-artham) に任命する・を委託するまたはに予定する；…に(心を)向ける；利用する，使用する，適用する；食う；**漢訳** 行，処置 *Bodh-bh.* **受**

vinijyate (家，身体が) 粉微塵となる，衰亡する。 **使役** *vinijayati* (因，-artham，-arthāya) に任命・指定またはを委託する；(業) に (因) を託する (因) に (業) を贈るまたは捧げる；利用する，使用する；実行する。

sam-ni- (苦痛 因) に陥らせる；(人 業) に命ずる・指示する；**漢訳** 修，具足 *Bodh-bh.* **過受分** *samniyukta* 命ぜられた，指定された；(一°) と結合された。 **使役** *samniyojayati* (因) にもたらす；(因，-artham，-arthāya) に任命するまたはを委託する；

配当する；**漢訳** 安処，安立，成就，授，勸 *Bodh-bh., Divy.*；hite samniyojayitavyaḥ 勸善 *Divy.* 556.

nir- **過受分** *niryukta* 樹立された，建立された。

pra- 自 (因) くびき(軛)をつける，(因) に軛でつなく；活動を開始させる，投ずる，ねらいをつける，(飛び道具を)射放つ，(因，因) に向って活動を開始させる等；(言語等を)発するまたは話しかける，(祝福を)唱える，(詩を)暗誦する；(因) に (憤怒，侮辱を)表わすまたは示す；(因) に (精神・思考を)傾注する；(因，因) することを指令する・命ずるまたは激励する；(業) を (業) として選ぶ；(業) へまたはに導くまたは来させる；(因) に置く；利用する，使用する [通常の意味]；実行する，する，完成する，工夫する，執行する；(舞台に)演出する，演ずる；着手する；生ずる，産する；(利用または利息のために)貸す；自 (人 因) に貸しつける (*Jāt-m.*)。 **受** *prayujyate* 利用される；(因) に適当である，適切である，…に資する；**漢訳** 修勤修，正勤修，精勤修，修習，勤修習，修業，脩作；行，修行，依行，勤修加行；学，修学，精勤修学；勤；作；精進；随順；進趣；起；作…方便 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gand-vy., Lank., Rāṣṭr., Śikṣ., Sūtr.*；abhinisṭpattaye prayujyate 方便要令究

された，任命された(通常の意味)，(因，因，不定，一°，-artham) に命ぜられた等；(因) の方へ向けられた；置かれた；規定された。 *niyuktam* **副** 必然に。 **使役** *niyojayati* 軛でつなく，(因) に軛でなく；(因) に付着または固定する；(因，prati+業，-artham) することを指令・激励または要求する；(因，-artham) することを強制するまたは強いる；(職務に) 任命する，(仕事 因) に使用する；(不定) するために (業) を (業) に任ずるまたはとする；(因) に (職務を) 授ける；(因) に置く，(畏を) かける，

運ぶ，もたらす；…に(心を)傾ける；(奴隷) に与る，(悲歎，危険 因) に引き込む；(因) に (業) を贈与する，(因) に専念する；(儀式に) 着手する またはを執行する；(知能を) 傾注する；(因) を (業) に贈与するまたは支給する；(因) をもって罰する；**漢訳** 為成弁；令入，令其証入；安住 *Bodh-bh., Gand-vy., Rāṣṭr.*；展転相成 *Śikṣ.*

anu-ni- (因) に従属させる，…に頼らせる。

vi-ni- 自 (因) ゆるめる，離す；(因) に (矢を) 射る；(因，因，-artham) に任命する・を委託するまたはに予定する；…に(心を)向ける；利用する，使用する，適用する；食う；**漢訳** 行，処置 *Bodh-bh.* **受**

vinijyate (家，身体が) 粉微塵となる，衰亡する。 **使役** *vinijayati* (因，-artham，-arthāya) に任命・指定またはを委託する；(業) に (因) を託する (因) に (業) を贈るまたは捧げる；利用する，使用する；実行する。

sam-ni- (苦痛 因) に陥らせる；(人 業) に命ずる・指示する；**漢訳** 修，具足 *Bodh-bh.* **過受分** *samniyukta* 命ぜられた，指定された；(一°) と結合された。 **使役** *samniyojayati* (因) にもたらす；(因，-artham，-arthāya) に任命するまたはを委託する；

配当する；**漢訳** 安処，安立，成就，授，勸 *Bodh-bh., Divy.*；hite samniyojayitavyaḥ 勸善 *Divy.* 556.

nir- **過受分** *niryukta* 樹立された，建立された。

pra- 自 (因) くびき(軛)をつける，(因) に軛でつなく；活動を開始させる，投ずる，ねらいをつける，(飛び道具を)射放つ，(因，因) に向って活動を開始させる等；(言語等を)発するまたは話しかける，(祝福を)唱える，(詩を)暗誦する；(因) に (憤怒，侮辱を)表わすまたは示す；(因) に (精神・思考を)傾注する；(因，因) することを指令する・命ずるまたは激励する；(業) を (業) として選ぶ；(業) へまたはに導くまたは来させる；(因) に置く；利用する，使用する [通常の意味]；実行する，する，完成する，工夫する，執行する；(舞台に)演出する，演ずる；着手する；生ずる，産する；(利用または利息のために)貸す；自 (人 因) に貸しつける (*Jāt-m.*)。 **受** *prayujyate* 利用される；(因) に適当である，適切である，…に資する；**漢訳** 修勤修，正勤修，精勤修，修習，勤修習，修業，脩作；行，修行，依行，勤修加行；学，修学，精勤修学；勤；作；精進；随順；進趣；起；作…方便 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gand-vy., Lank., Rāṣṭr., Śikṣ., Sūtr.*；abhinisṭpattaye prayujyate 方便要令究

された，任命された(通常の意味)，(因，因，不定，一°，-artham) に命ぜられた等；(因) の方へ向けられた；置かれた；規定された。 *niyuktam* **副** 必然に。 **使役** *niyojayati* 軛でつなく，(因) に軛でなく；(因) に付着または固定する；(因，prati+業，-artham) することを指令・激励または要求する；(因，-artham) することを強制するまたは強いる；(職務に) 任命する，(仕事 因) に使用する；(不定) するために (業) を (業) に任ずるまたはとする；(因) に (職務を) 授ける；(因) に置く，(畏を) かける，

運ぶ，もたらす；…に(心を)傾ける；(奴隷) に与る，(悲歎，危険 因) に引き込む；(因) に (業) を贈与する，(因) に専念する；(儀式に) 着手する またはを執行する；(知能を) 傾注する；(因) を (業) に贈与するまたは支給する；(因) をもって罰する；**漢訳** 為成弁；令入，令其証入；安住 *Bodh-bh., Gand-vy., Rāṣṭr.*；展転相成 *Śikṣ.*

anu-ni- (因) に従属させる，…に頼らせる。

vi-ni- 自 (因) ゆるめる，離す；(因) に (矢を) 射る；(因，因，-artham) に任命する・を委託するまたはに予定する；…に(心を)向ける；利用する，使用する，適用する；食う；**漢訳** 行，処置 *Bodh-bh.* **受**

vinijyate (家，身体が) 粉微塵となる，衰亡する。 **使役** *vinijayati* (因，-artham，-arthāya) に任命・指定またはを委託する；(業) に (因) を託する (因) に (業) を贈るまたは捧げる；利用する，使用する；実行する。

sam-ni- (苦痛 因) に陥らせる；(人 業) に命ずる・指示する；**漢訳** 修，具足 *Bodh-bh.* **過受分** *samniyukta* 命ぜられた，指定された；(一°) と結合された。 **使役** *samniyojayati* (因) にもたらす；(因，-artham，-arthāya) に任命するまたはを委託する；

配当する；**漢訳** 安処，安立，成就，授，勸 *Bodh-bh., Divy.*；hite samniyojayitavyaḥ 勸善 *Divy.* 556.

nir- **過受分** *niryukta* 樹立された，建立された。

pra- 自 (因) くびき(軛)をつける，(因) に軛でつなく；活動を開始させる，投ずる，ねらいをつける，(飛び道具を)射放つ，(因，因) に向って活動を開始させる等；(言語等を)発するまたは話しかける，(祝福を)唱える，(詩を)暗誦する；(因) に (憤怒，侮辱を)表わすまたは示す；(因) に (精神・思考を)傾注する；(因，因) することを指令する・命ずるまたは激励する；(業) を (業) として選ぶ；(業) へまたはに導くまたは来させる；(因) に置く；利用する，使用する [通常の意味]；実行する，する，完成する，工夫する，執行する；(舞台に)演出する，演ずる；着手する；生ずる，産する；(利用または利息のために)貸す；自 (人 因) に貸しつける (*Jāt-m.*)。 **受** *prayujyate* 利用される；(因) に適当である，適切である，…に資する；**漢訳** 修勤修，正勤修，精勤修，修習，勤修習，修業，脩作；行，修行，依行，勤修加行；学，修学，精勤修学；勤；作；精進；随順；進趣；起；作…方便 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gand-vy., Lank., Rāṣṭr., Śikṣ., Sūtr.*；abhinisṭpattaye prayujyate 方便要令究

された，任命された(通常の意味)，(因，因，不定，一°，-artham) に命ぜられた等；(因) の方へ向けられた；置かれた；規定された。 *niyuktam* **副** 必然に。 **使役** *niyojayati* 軛でつなく，(因) に軛でなく；(因) に付着または固定する；(因，prati+業，-artham) することを指令・激励または要求する；(因，-artham) することを強制するまたは強いる；(職務に) 任命する，(仕事 因) に使用する；(不定) するために (業) を (業) に任ずるまたはとする；(因) に (職務を) 授ける；(因) に置く，(畏を) かける，

運ぶ，もたらす；…に(心を)傾ける；(奴隷) に与る，(悲歎，危険 因) に引き込む；(因) に (業) を贈与する，(因) に専念する；(儀式に) 着手する またはを執行する；(知能を) 傾注する；(因) を (業) に贈与するまたは支給する；(因) をもって罰する；**漢訳** 為成弁；令入，令其証入；安住 *Bodh-bh., Gand-vy., Rāṣṭr.*；展転相成 *Śikṣ.*

anu-ni- (因) に従属させる，…に頼らせる。

vi-ni- 自 (因) ゆるめる，離す；(因) に (矢を) 射る；(因，因，-artham) に任命する・を委託するまたはに予定する；…に(心を)向ける；利用する，使用する，適用する；食う；**漢訳** 行，処置 *Bodh-bh.* **受**

vinijyate (家，身体が) 粉微塵となる，衰亡する。 **使役** *vinijayati* (因，-artham，-arthāya) に任命・指定またはを委託する；(業) に (因) を託する (因) に (業) を贈るまたは捧げる；利用する，使用する；実行する。

sam-ni- (苦痛 因) に陥らせる；(人 業) に命ずる・指示する；**漢訳** 修，具足 *Bodh-bh.* **過受分** *samniyukta* 命ぜられた，指定された；(一°) と結合された。 **使役** *samniyojayati* (因) にもたらす；(因，-artham，-arthāya) に任命するまたはを委託する；

配当する；**漢訳** 安処，安立，成就，授，勸 *Bodh-bh., Divy.*；hite samniyojayitavyaḥ 勸善 *Divy.* 556.

nir- **過受分** *niryukta* 樹立された，建立された。

Bodh-bh. 8; *bhāvanāyām prayujyate* 勤修, 能勤修行 *Bodh-bh.* 412, *Sūtr.* 90.; *evam prayujyate* 如是学, 作如是念 *Aṣṭ-pr.* 727; *na na prayujyeyam* 非不進趣 *Bodh-bh.* 200. 過受分 *prayukta* 軛で繋がれた; (風に) 動かされた; 使用された, 利用された; なされた; 貸された; 適当な, 適切な; …から結果する; 中 非人 (因, *prati* + 業) に対して振舞われたまたは行動された. 使役 *prajoyati* 投げる, (飛び道具を) 射放つ, (因) に投げる等; (祝福を) 唱える; (精神を) 集中する; (因, 因) に(感情を) 表わすまたは示す; (因) に駆り立てる, …へ送り出す; (因) に任命する; (業) に (因) を託する; 着手する; (舞台に) 演出する; (因) をして表示または明示せしめる; 利用する, 使用する; (利息を *vrddhim*) 取る; (資本を *prayogam*) 投ずる; 適当である; ねらう, 目指す; 修, 教修習, 安処令学 *Bodh-bh.*; 遣 *Saddh-p.*; 出(内)財産 *Saddh-p.*; 療治 *Saddh-p.* 139. 希求 *prayuyukṣate* 利用したいと思う, 要求する.

anu-pra- 固 付け加える, (因) に付加する; 追跡する (因); 従う (因).

prati-pra- 固 (…の) 代用として加える, 代用する (Br.); 固 (負債を) 支払う.

vi-pra- (因) から離すまたはを剝奪する; 遠離 *Divy.* 過受分 *viprayujyate* …から分離される. 過受分 *viprayukta* (因, 一°) から離された・遠ざけられたまたは自由な, …を欠いた. 使役 *viprayojayati* (因) から分離するまたはを剝奪する; (因) から自由にする.

saṃ-pra- 固 *saṃprayujyate* 接合される, (因) と接合される; (因) と肉体的関係をもつ; (因) に連坐するまたはの罪を負う; 相応 *Abh-vy.* 過受分 *saṃprayukta* (因, 一°) に接合・合同・結合または混合された, …を支給された; (因) と接触した; (固) 格闘した; (一°) に従事した; (因) に従属する; 励まされた; 專注した, 熱中した. 使役 *saṃprajoyati* 用意させる; 結合する; (因) と結合する; (問題を) 持ち出す; 利用する, 使用する.

prati- (業) に軛でつなぐまたは固着させる (RV.); (負債を) 支払う. 使役 *pratiyojayati* (矢を) 調整する. *vi-* 固 連絡を断つ, 分離する; 固 固 (因, まれに 固) より解放するまたはを剝奪する; 固 (人 業) を見放すまたは放棄する; 減ずる, 中止する. 過受分 *viyujyate* 離される, (因) から離される; (因) から解放されるまたはを剝奪される, …を失う; (誓約 因) を破る; ゆるめる, 熄む, 離れる; 殞歿 *Divy.* 過受分 *viyukta* 離された; 分離させられた; (因, 一°) から離された, 自由な, に欠乏した, …を欠いた. 使役 *viyojayati* 分離させる; (因) から解放する; (因) を剝奪する; (生命を) 奪う; 断, 乖離 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*: *jīvitena viyojayati* 断命根 *Śikṣ.* 60.

使役 過受分 *viyojita* (因, 一°) から離された; (因, 一°) を剝奪された.

saṃ- 固 集める, 結合する, 合同する; 縛る; 支給・供給または賦与する, (因) を支給する等; (固) 同盟する (RV.); (因) に (心を) 傾注する; 相

合 *Vijñ-v.* 固 *saṃyujyate* (肉体的 *grāmya-dharmatayā*) 関係をもつ; (因) に接合される; 結婚で結ばれる; (因) と遭遇するまたは邂逅する; (因) に所有されるに至る. 過受分 *saṃyukta* 接合された, 合同された, 結合された, みな一緒に [固]; 連結した(子音); 連結された, 関連した; (因, 一°) を供給された, …を賦与された, …をもって満たされた, …を伴なった, …を所有する; (一°) に連絡または関連する; (因) に置かれた. 使役 *saṃyojayati* 軛でつなぐ; (軍隊を) 装備する; (感覚を) 抑制する; (飛び道具を) 調整するまたは射放つ; (因) に (精神または視線を) 固定する; (因) に固着させる; 任命する; (固) に (業) を引き渡す; (因) と接合する・合同させるまたは合体させる; (因) を支給・供給・進呈または賦与する; 設ける, 実行する; 固 (精神) を集中する; 生結縛, 相与給侍, 相与和合 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*; 令学 *Bodh-bh.*

vi-saṃ- 過受分 *visamyukta* …から分離された, …に欠乏した, …を欠いた; (因) から遠ざかった, …を無視した.

yuj 形 一緒に軛でつながれた (因); (一°) を軛で繋いだまたはによって引かれた; (一°, 時として 因) に接合または合同された, …を支給された, …を所有する; (一°) を付与または贈与する; 偶数の. 固 同一の車に軛でつながれた動物; 僚友 (因); 一对, 夫婦.

yujāna 現分 固 (因) (業) を準備する; (因) と共同する.

yujya 形 (因) 接合した, 連合した, 関係した, 固く同盟した; 適当な. 固 連合, 親縁関係 (RV.).

yuñj 形 [固 *yuñ*] 一緒に軛でつながれた (RV.). 固 同一の車に軛でつながれた動物; 僚友 (因).

yuñjāna 現分 [Yuj]. 固 [Yogin の一種].

yuta 1. 過受分 接合された等. → Yu 1. 固 具, 具住 *Divy.*, *Sūtr.*

yuta 2. 過受分 分離された等 → Yu 2.

yuta-yogitā 固 住心相応 *Sam-r.*

yuti 固 (一°) との接合または合同; (因, 一°) の獲得; 合計.

yuddha 過受分 戦うた → Yudh. 固 戦闘, 戦争, 闘争; (遊星の) 衝; 戦, 戦闘, 闘敵; 相撲, 手搏 *Divy.*, *Lal-v.* 梵千., 梵雑.

yuddhaka 固 闘争, 戦争.

yuddha-kathā 固 論説戦事, 楽説戦闘事, 説戦陣事 *Aṣṭ-pr.*

yuddha-kāṇḍa 固 合戦の巻 [*Rāmāyana* 第六巻の題名].

yuddha-kāritva 固 衝突.

yuddha-kārin 形 戦争をする, 戦う.

yuddha-kāla 固 戦時.

yuddha-kṣmā 固 戦場.

yuddha-gāndharva 固 戦争音楽.

yuddha-jit 形 戦いに勝利を得る.

yuddha-tantra 固 兵法, 軍事学.

yuddha-dyūta 固 賭事としての戦争.

yuddha-dharma 固 戦争の掟.

yuddha-praviṇa 形 戦いに熟練した。
 yuddha-bhū 因 戦地。
 yuddha-bhūmi 因 [同上]。
 yuddhamaya 形 (因 -i) 戦いから生じたまたはに基づいた。
 yuddha-mārga 男 軍 種 兵法, 戦術。
 yuddha-medinī 因 戦場。
 yuddha-yogya 形 戦いに適する。
 yuddha-yogyatā 因 [同上 抽]。
 yuddha-yojaka 形 戦いに備える, 戦いを熱望する。
 yuddha-raṅga 男 戦場。
 yuddha-varṇa 男 戦争の種類。
 yuddha-vastu 因 兵器。
 yuddha-viśārada 形 戦いに熟達した。
 yuddha-vira 男 戦いの英雄, 勇士; (修辞) 武勇の情緒。
 yuddha-śālin 形 勇敢な。
 yuddha-sāra 形 好戦の気分のみなぎった, 戦いを好む, 挑発する(言葉)。
 yuddhācārya (°dha-āc°) 男 軍師。
 yuddhādhvan 形 戦いに赴く, 交戦する。
 yuddhārthin 形 戦いを熱望する。
 yuddhāvahārika 因 戦いの停止, 休戦。
 yuddhodyama (°dha-ud°) 男 強力な戦備。
 yuddhodyoga (°dha-ud°) 男 [同上]。
 yuddhonmatta (°dha-un°) 形 戦いに熱狂した; [ある Rākṣasa の名]。
 yuddhopakarāṇa (°dha-up°) 因 兵器。
 Yudh, IV. 因 [まれに 他] yudhyate(-ti) (真 ±saha, samam) と戦う, 戦争する; (因) のために戦う (RV.); (業) に対戦する, …を攻撃する, …を征服する [まれに]; 戦, 敵 Divy.; 相撲, 手搏 Lalv. 過受分 yuddha. 使役 他 [韻律 固] yodhayati(-te) 戦わせる; 敵対する, 匹敵する; 防御する; 闘戦, 相闘戦, 興戦諍, 征罰 Aṣṭ-pr., Divy. 希求 他 [因; 韻 韻律] 固 (業) yuyutsati(-te) 戦おうと思う, (真) と戦おうと思う。
 abhi- 対戦する, 征服する (RV.); 戦いで獲得する (RV.); (真) と戦う (P.).
 ā- 対戦する, 対抗する. 使役 āyodhayati [同上].
 prā(pra-ā)- (真) と戦う。
 ni- 戦う, (saha, sākam) と戦う。
 pra- 開戦する; (業) を攻撃する; 戦う. 過受分 pra-yuddha 戦闘した. 使役 prayodhayati 開戦させる; 対戦する, 攻撃する. 希求 prayuyutsati 戦おうと思う, (真) と戦おうと思う。
 sam-pra- 開戦する, 戦う. 過受分 samprayuddha 戦闘した。
 prati- (業) に対戦する, …と匹敵する, 戦う. 使役 pratiyodhayati (業) に対戦する, …と匹敵する。
 sam- とともに戦う; (真 ±sārdham) と戦う; (業) に対抗する. 使役 samyodhayati 対戦する。
 prati-sam- 攻撃に協力して抵抗する。
 yudh 男 戦士, 兵. 因 戦闘, 合戦。
 yudhaye 爲 不定 [Yudh] 戦うこと (RV.).
 yudhā-jit 形 戦いで征服する. 男 [諸人の名].

yudhā-manyu 男 [ある戦士の名].

yudhi-ṣṭhira 男 [(戦いで不拔な), Pandu および Kunt の長男(実際は Kuntī と Dharma 神との子)で Kuru 族との戦いにおける Paṇḍava 族の指揮者の名]; [Kāśmīra の二王子の名]; [ある陶工の名]; 堅固於陣 Mvyut.; [王の名] 匿男 險地瑟至囉, 險地瑟至囉 Vajr-s.

yudhma 男 戦士.

yudhvan 形 好戦的な (RV.).

Yup, (因) [まれに; ただ 三過, 過受分 使役 および 強意 み] こぼむ, さえぎる; 消す, 除く; さまたげる (法を) 犯す; 消される, 消える. 過受分 yupita. 使役 yopayati (記号を) 消す. 強意 yoypuyate 消らかにする.

ā- 使役 āyopayati 違背する.

sam- 使役 samyopayati 消す, 除く.

yupita 過受分 → Yup.

yuyutsā 因 戦闘欲.

yuyutsu (希求) 形 [Yudh] (真 ±sārdham) と戦おうと思う. 男 [人名].

yuyudhan 男 [Mithilā の王侯の名].

yuyudhāna 男 [Satyaka の息子の名].

yuyudhi 形 好戦的な (RV.).

yuva 代 翰 三入 → yu.

yuvaka 男 若者.

yuvat 1. [代 三入 韻 画 (因), および 若干の 合成] おける °-].

yuvat 2. 形 若々しい (RV. 用例一回のみ).

yuvatā 因 少壮.

yuvati 形 [yuvan の 因] 若い. 因 若い婦人, 処 [曙の女神または指について用いられ, 画 は夜と曙 天と地とについて言う(因)]; 処女宮 [天体十二宮一]; 麗人, 美女 Divy., Mvyut.; 年, 美少年 Mvyut.

yuvati-jana 男 若い婦人 [同上 因].

yuvati 形 因 =yuvati (形, 因).

yuvati-jana 男 =yuvati-jana.

yuvatva 因 =yuvatā.

yuvadrik 副 汝ら両者に向けられて (RV. 用例一回のみ)

yuvan 形 [弱 翰 yūn] 若い; 少, 年少, 少壮 Madhy-v., Mvyut., Prāt-m., Śikṣ., Sūtr. 男 若い男, 若者 [RV. では, Agni, Indra, Marut その他諸神をいう]; 年少の子孫 [年長の者がなお生ずる場合: 文法]; 正壮 Mvyut.

yuvanāśva 男 [諸人の名].

yuva-pratyaya 男 (父系 語の) yuvan を構成する 尾辞(文法).

yuva-mārin 形 夭折する.

yuva-rāja 男 皇太子, 摂政; 太子梵維.

yuva-rājatva 因 王位後継者の地位.

yuva-rājan 男 =yuva-rāja; 幼王, 王子, 天 Mvyut.

yuva-rājya 因 =yuva-rājatva.

yuvaśa 形 若々しい. 男 若者.

yuvāku 形 (RV.) 汝ら両者に属する [しばしば 不定 代 三入 韻 画 の意味に用いられる].

yuvānaka 形 若い。
 yuvām 代 二人 汝ら二人。
 yuvāma 男 [町の名]。
 yuvi-BHū, 若くなる。
 yuvi-bhūta 形 若くなった。
 yuṣṭa-grāma 男 [村の名]。
 yuṣṭa, 人称代 三人 複 翰 →yu.
 yuṣmat, [人称代 三人 複 翰 (因)]; 苦干の 合成 に
 おける 一]; 漢訳 卿等 Divy.
 yuṣmattas 副 (因) 汝らからまたはに関して。
 yuṣmad-artham 副 汝らのために。
 yuṣmad-āyatta 形 汝らに依存する。
 yuṣmadiya 形 汝らに属する, 汝らの. 男 汝らの国
 人。
 yuṣmad-vidha 形 汝らのような(者)。
 yuṣmāka 形 汝らの (RV.). ~m 中 [人称代 三人
 属 複] として用いられる] 汝らの。
 yuṣmā-dṛś 形 汝らのような(者)。
 yuṣmā-dṛśa 形 (因 -i) [同上]。
 yuṣmā-nita 形 汝らによって導かれた (RV. 用例一回の
 み)。
 yuṣmeṣita (°ma-iṣita) 形 汝らによって送りだされた
 (RV. 用例一回のみ)。
 yūka 男 しらみ; 漢訳 虱, 蚤 Mvyut., 梵雜.; 芥子
 Mvyut.
 yūka-devī 女 [王女の名]。
 yūkā 女 =yūka [yūka に比しさらに一般的語形];
 漢訳 虱, 蚤 Mvyut.
 yūkila 男 漢訳 蝨, 蟻虱 Aṣṭ-pr. 671.
 yūtha 中 (因, 属), 男 (属) [結合: Yu 1.] 家畜の群,
 鳥群; 大勢, 多数; 漢訳 群, 獸群, 衆, 軍隊 Divy.,
 Lal-v.
 -yūthaka, [同上]。
 yūtha-cārin 形 隊をなして徘徊する (属)。
 yūtha-nātha 男 隊または群の主長または指揮者。
 yūtha-pa 男 [同上 (とくに象に関していう)]; 漢訳 王
 Av.ś. →mr̥ga~.
 yūtha-pati 男 [同上]; 漢訳 獸群頭主 Divy.
 yūtha-paribhraṣṭa 形 家畜の群から迷い出た。
 yūtha-pāla 男 =yūtha-pa.
 yūtha-bandha 男 鳥群または家畜の群または軍隊。
 yūtha-bhraṣṭa 形 =yūtha-paribhraṣṭa.
 yūtha-mukhya 男 群衆の首長。
 yūtha-vibhraṣṭa 形 =yūtha-paribhraṣṭa.
 yūthāśas 副 群または隊をなして。
 yūtha-hata 形 yūtha-paribhraṣṭa.
 yūthāgra-ñi 男 群衆の指揮者。
 yūthikā 女 ジャスミン(素馨花)(の一種) [学名 *Jas-*
minum auriculatum]; 漢訳 (音写) 躑躅妙華,
 唵底迦花 *Guhy-s., Mvyut.*; 音写 玉提伽 *Mvyut.*
 yūthi-Kṛ, 一群を形成する。
 yūthya 形 群に属する (RV.); (一) の群衆に属す
 る。
 yūthyā 女 家畜の群, 人の群。
 yūn, [yuvan の 属 翰]。
 yūna 中 帶, 綱 (S.).

yūpa 男 柱, 梁, 支柱; とくに犠牲獣をつなぐ柱; 漢訳
 幢, 宝幢; 鋌 *Divy., Lal-v.*; 干供, 供養柱 *Mvyut.*;
 ~m iva kanakamayam 如融金鋌 *Lal-v. 321.*
 yūpatva 中 柱たること。
 yūpavat 形 供養柱を伴なう(儀式)。
 yūpa-vāha 形 供養柱を運搬する。
 yūpa-vraska 形 供養柱を切る。
 yūpākṣa 男 [ある Rākṣasa の名]。
 yūpākhyā (°pa-ākhyā) 男 [同上]。
 yūpi-Kṛ, 柱とする。
 yūpocchraya (°pa-uc°) 男 供養柱を建てる儀式。
 yūpolūkhālika (°pa-ul°) 形 供養柱および磔白を伴な
 う。
 yūyam, [人称代 三人 属 複] 汝等. →yu.
 yūṣa 男 中 スープ, 肉の煮汁; 漢訳 羹 *Divy.*
 yūṣan, [弱 翰 を用いる格のみ] [同上]。
 yūs, [属 のみ] [同上] (因)。
 ye, →ya.
 yena 副 接詞 [ya の 属] そこへ; そこに (*Kār-vy.*);
 その方法で, …のように [相属 tena]; それによっ
 て, その理由で, その故に; なんとすれば, …の故
 に [相属 tena]; [属 または 属 とともに] …せんがた
 めに; [属, 属 または 属 とともに] …である程それ程
 (tathā 等)。
 yeme, →Yam.
 yeya 未受分 …に行くべき。
 yeyajāmaṇa 男 [(Yājyā に先立つ) ye yajāmahe と
 いう文句の称]。
 Yeṣ, I. 他 yeṣati 泡立つ, 煮え立つ (因) [きわめてま
 れに]。
 yeṣṭha 最上 もっともよく進む または 速かな (RV.).
 yoktavya 未受分 適用または実行されるべき; 課せら
 れるべき(刑罰); (属)を供給または準備されるべき;
 集中されるべき(精神); (中) 罪人 (因) に備えなけ
 ればならない。
 yoktr 形 馬具を付ける, 轡を牛馬につける, 御する;
 激励する; (因)に努力する。
 yoktra 中 綱, 革紐, (馬などの)はずな(端綱), (馬
 などの)腹帯。
 yoktraya 名動 yoktrayati 巻く, 巻きつける。
 yoga 男 [Yu] 轡をつけること; (車につながれた)一
 組の動物; 乗物; (軍の)装具; 実施, 適用, 使用,
 応用, (属)の実施等; 医療, 治療; 手段, 方策; 策
 略, 詭計; 呪術, 魔術; 詐欺 [一 =にせの]; 機
 会; 企図(因); 合一, 接触, (属 ±saha, 一)との合
 一, 接触; 結合, 混合; 連結, 関係; (属, 一)との
 関連, …の取得; 所得, 利得; 順序, 連続; 総計,
 合計; 適合, 妥当; 奮励, 活動, 努力, 熱中, 勉勵;
 職業; 精神の集中, 組織的な超脱法, 瞑想, 静慮,
 心統一, 哲学体系としての *Yoga*; *Yoga* 派の学徒;
 解脱の方法: *jñāna°*, *karm°*, *bhakti°* [*Sāṃkhya*
 属]; (ある語とその語根との)関係, 語原論, (語の)語
 原的意義; (語の文章中における)従属関係, 構文;
 文法の規則; (諸星の)近接; 星座; 漢訳 軛, 繫;
 合, 相合, 聚; 成, 成就; 通 *Abh-vy., Cat-ś.,*
Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut., Vijñ-v. 雙 [*Tib.*

sbyor ba] *Bodh-bh.* 206; 平等 *Sūtr.*; 随, 因 *Buddh-c.* 77., *Sāṃkhy-k.*; 約 *Abh-vy.* 567; 相
 応, 応学, 理, 如理, 道理 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*,
Madhy-vibh., *Mvyut.*, *Sūtr.*, *Vijñ-t.*, 玄応.; 行, 修,
 習, 修行, 修学, 精勤修習, 精勤研究 *Ast-pr.*, *Bo-*
dh-bh., *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*; 観 *Lank.*,
Mvyut.; 方便, 巧便 *Bodh-bh.*; °— 侍従 *Divy.*
 639; 禅 [dhyāna の 音写] *Buddh-c.* 6.; 音写 瑜
 伽 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, 玄応.; ~h karaṇiyah 応
 精勤修習 *Lal-v.* 90., 当勤修学 *Bodh-bh.* 236, 勤
 精進 *Sūtr.*; tad ~āt 約(成)彼 *Abh-vy.* 567;
 mahā-yāna ~ 大乘行 *Lank.*; ~m āpattavyam
 精勤, 修習 [*Prajñ-vy.* 42. 参照] *Mvyut.* → a
 ~, nimitta~, pūrva~, yathā~m. ~m Kṛ
 修習, 精勤修習 *Bodh-bh.* ~m ā-Pad 修
 習, 勤修, 勤修学, 勤行, 修行, 精勤修学, 学,
 習, 勤加精進, 精進(供養)奉行; 思惟, 繫念思惟;
 善住相応 *Ast-pr.*, *Saddh-p.* ~ena 圓 方策または術
 策によって; (一°)によって, …の結果として, …
 に従って [また -yogāt, -yogatas]; 適当に, 正当
 に, 正しい方法で; 方便 *Bodh-bh.* → udā-
 haraṇa~. ~tas 副 [同上]; 奮励して, 勉勵し
 て.

yoga-kara 男 [Samādhi の一種] (*Kār-vy.*)

yoga-karaṇḍaka 男 [ある大臣の名].

yoga-karaṇḍikā 女 [ある遊行尼の名].

yoga-kriyā 女 修学 *Bodh-bh.*

yoga-kṣema 男 (單複) [圓 はまた 男 圓 および 中 圓]
 財産の所有または安全; 財産; 繁栄 [通常は財産の取
 得および保存を意味すると説明される]; 淨財; 完全
 な安穩, 最上の安全, 至福, [涅槃の称] (*Divy.*);
 成樂, 安穩, 寂靜, 解脱 *Lal-v.*, *Mvyut.*,
Suvik-pr. ~m Vah (圖 とともに)に生計を立てさせ
 る, …を扶持するまたは扶養する.

yogakṣema-kara 形 利得と安全をもたらす, 獲得し
 たものを保護する, 財産を管理する.

yogakṣema-vaha 形 生計の資を提供するまたは得さ
 せる.

yogakṣema-samarpitṛ 形 [同上].

yoga-gati 女 合同, 一体となること.

yoga-cūrṇa 中 魔法の粉末.

yoga-ja 形 瞑想または Yoga によって生じた.

yoga-tantra 中 Yoga の教理, Yoga に関する論;
 [典籍の一種] (仏教).

yoga-talpa 中 =yoga-nidrā.

yogatas 副 → yoga.

yoga-dāna 中 Yoga の贈与, Yoga の教義の伝達; 詐
 欺の贈物.

yoga-dharmin 形 Yoga を行ずる.

yoga-dhāraṇā 女 瞑想の持続または堅持.

yoga-nanda 男 にせの Nanda.

yoga-nidrā 女 Yoga (の実修)によって誘導された睡
 眠, 眠い状態, 仮睡; (1 kalpa の終りにおける)
Viṣṇu 神の睡眠.

yogaṃ-dhara 男 [諸人の名].

yoga-paṭṭa 男 瞑想している間その行者の膝や背中に

投げかけられた布.

yoga-paṭṭaka 男 [同上].

yoga-pati 男 Yoga の主 (*Viṣṇu* 神).

yoga-patha 男 Yoga への道.

yoga-pravṛtti 女 Yoga の実践, Yoga の効果.

yoga-bala 中 Yoga によって得られた力, 魔力, 超
 自然力.

yoga-bhāraka 男 荷物を(運搬するための)肩くびき
 (軛).

yoga-bhūmi 女 學境 *Sūtr.*

yoga-bhraṣṭa 形 信仰または瞑想から墮落した.

yoga-manasi-kāra 男 (音写) 瑜伽作意 *Bodh-*
bh.

yogamaya 形 (女 -i) 瞑想または Yoga から生じた.

yoga-māyā 女 魔法; 放心的瞑想によって生じた幻
 想.

yoga-mārga 男 Yoga への道; 所修行道, 如実
 道, 観行, 修行所観境界 *Lank.*

yoga-yajña 形 Yoga を祭祀として実践する.

yoga-yātrā 女 瞑想または Yoga に頼ること.

yoga-yukta 形 瞑想に専心した, Yoga を行ずる.

yoga-yogin 形 [同上], 男 修者, 修行者, 修修
 者 *Lank.*

yoga-ratna 中 魔法の宝石.

yoga-ratha 男 乗物としての Yoga.

yoga-rūḍha 形 語原的かつ伝習的な(意義をもつ) [例
 paṅka-ja 泥中に成長するものおよび蓮].

yoga-rocanā 女 魔法の膏藥(の一種) [姿をかくすま
 たは不死身にする].

yogarddhi-rūpavat (°ga-rd°) 形 完全な Yoga の形
 を具現する.

yogavat 形 結合した, 合一した; Yoga を行ずる.

yoga-vartikā 女 魔法の燈心.

yoga-vaśa-vartin 形 於観自在 *Lank.*

yoga-vaha 形 (一°)を惹起する, …を促す.

yoga-vāhaka 男 修行者 *Lank.*

yoga-vāhitva 中 陰謀.

yoga-vāhin 形 自己に受け容れるまたは同化する; 陰
 謀を企てる; (如実)修行人 *Lank.*; 雙趺 [*Tib.*
 sbyor ba pyed ciñ] *Bodh-bh.* 206.

yoga-vittama 最上 Yoga に非常に長じた.

yoga-vid 形 正しい手段または方法を知った; 相応また
 は適當するものを知った; Yoga に長じた.

yoga-vidyā 女 Yoga の知識.

yoga-vidhi 男 Yoga の法則; 禅道 [禅は dhyā-
 na の 音写] *Buddh-c.* 6.

yoga-vibhāga 男 一個の文法規則を二分すること.

yoga-vibhrama 男 行迷 *Sūtr.*

yoga-śabda 男 yoga という語; 語原から意味が明ら
 かになる語.

yoga-śaririn 形 Yoga を身体とする.

yoga-śāyin 形 瞑想の結果眠くなった.

yoga-śāstra 中 Yoga の教理(とくに *Patañjali* の).

yoga-saṃsiddha 形 Yoga において完成を得た.

yoga-saṃsiddhi 女 Yoga の完成.

yoga-samjñita 形 Yoga と呼ばれる.

yoga-samādhi 男 Yoga (から起る)精神集中。
yoga-sāra 男 万能薬；[種々な書物の名]。
yoga-siddha 男 Yoga によって完成した。
yoga-siddhi 因 同時の達成。
yoga-siddhimat 男 魔術に長ずる。
yoga-sūtra 中 Yoga に関する Sūtra [*Patañjali* に帰せられる]。
yoga-sevā 因 瞑想の実行または修練。
yoga-stha 男 Yoga に熱中した。
yoga-sthāna 中 方便処；(音写) 瑜伽処 *Bodh-bh.*
yogāgnimaya 男 Yoga の火を通過した。
yogāṅga 中 Yoga の構成支分[これに八，七または六の別がある]。
yogācāra (°ga-āc°) 男 Yoga の実修または遵守 [*Sa-mādhī* の一種] (*Kār-vy.*)；= *yogin* (*Mvyut.*)；(圓) [仏教学派の一]；(圓) *Yogācāra* の学徒；(圓) 修行，修行相，修習行，寂靜修行，相應行，觀行，修行者，如実行者，觀行者，修觀行者 *Ast-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*；(音写) 瑜伽師 *Ast-pr.*
yogācāra-nyāya 男 魔術の適用に関する規則。
yogācāra-bhūmi 因 [仏教論書の名]；(圓) 離垢比丘所 *Sikṣ. 55.*
yogācārin (°ga-āc°) 男 觀行に専心する(仏教僧)；(圓) 離(四)垢，離垢者 *Sikṣ.*
yogācārya (°ga-āc°) 男 魔法師；Yoga 派の学匠。
yogātman (°ga-āt°) 男 Yoga を本質とする，Yoga に没頭した；[*Śiva* 神の称]。
yogādhamana (°ga-ādḥ°) 中 詐欺的な担保または抵当。
yogādhamana-vikṛita 中 詐欺的な担保または売却。
yogānugatā 因 [ある *Kimnara* 女の名] (*Kār-vy.*)。
yogāpatti (°ga-āp°) 因 使用または適用の変更。
yogāmbara 男 [ある仏教の神の名]。
yogāyoga 男 適當な量；(圓) 適當と不適當。
yogārūḍha (°ga-ār°) 男 深い瞑想に没入した。
yogāsana (°ga-ās°) 中 瞑想に(適する)坐法。
yogitā 因 (一°) との結合または関係。
yogitva 中 [同上]；*Yogin* たること；(圓) 觀者 *Madhy-bh.*
yogin 男 (一°) と結合した，…を伴った；(一°) と協力する；(一°) と関連する，…に關係する；Yoga を行ずる；(圓) 勤(善)，住修行 *Lank.*, *Sūtr.* 男 Yoga の行者；(圓) 行者，修行者，修行人，修行師，修習士，觀行者，定者 *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*
yogini 因 女性の Yoga 行者；女魔法使，小仙女。
yogi-rāj 男 *Yogin* (男) 中の王。
yogēndra 男 [同上]；[*Yajñavalkya* の称]；[*Valmiki* の称]。
yogīśa (°gi-īśa) 男 = *yogi-rāj*。
yogīśvara (°gi-īś°) 男 [同上]；[*Yajñavalkya* の称]；妖術の達人。
yogēśvara (°ga-īś°) 男 魔術の大家；魔法の達人；[*Yajñavalkya* の称]；[ある悪魔の名]。
yogēśvari (°ga-īś°) 因 Yoga における女性の達人；小仙女；*Durgā* (の一形態)；[ある小仙女の名]。

yogodvahana (°ga-ud°) 中 (衣食の)扶助 (*Divy.*)；(圓) 濟，給濟，与，奉施 *Divy.*；*piṇḍakena* ~ *m* *Kṛ* 奉施飲食 *Divy. 312*；*bhaktena* ~ *m* *Kṛ* 濟(衣食)，与食分 *Divy. 87.*
yogya 男 牽引に適應した(因)；(因，圓，因，不定，一°) に役立つ，…に適當する，…に適するまたは適應する，…を能くする，…の資格あるまたはに十分の力量がある [動詞状 因 (一°) または 不定 はしばしば 因 の意義に用いる]；認知できる [まれに]；(圓) 宜，堪，相應，相屬，正可使；学技術 *Buddh-c.*, *Divy.*, *Lank.*, *Mvyut.* 男 牽引用の動物 (因)。
yogyatā 因 (一°) の能力，…への適合；意義の妥当性または適合性 (圓)；(圓) 能 *Sūtr.*；方便修習 *Bodh-bh.*
yogyatva 中 [同上]。
yogyā 因 (一°) の実習；体操，訓練。~ *m* *Kṛ* (圓) 一向修学 *Bodh-bh.*
yojaka 1. 男 軛を(牛馬に)つける者；使用者。
yojaka 2. 男 (圓) 綵綱 (?) [異本に *ecaka*, *ocaka* とある。 *Tib. bsdus pa*] *Mvyut.*
yojana 中 軛を(牛馬に)つけること；(車につながれた)一連の動物，車 (RV.) [まれに]；路 (因)；[距離の一単位，4 *krośa*，十なわち約九哩に等しい]；準備，整頓[また -ā 因]；煽動；建設；精神集中；(圓，一°) との結合，合同；(圓) 合，応，和合；建立，修造 *Abh-vy.*, *Sūtr.*, 梵雜., 玄応.; 三十里 玄応.; 駅 *Divy.*；(音写) 由旬，由延，踰旬，俞旬，踰膳那，踰繕那，踰繕那(量)，踰闍那 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, 玄応.: *ardha-tṛtiyāni* ~ *āni* 兩駅半 *Divy. 548.*
yojana-gandha 男 その香気が 1 *yojana* におよぶ。
yojana-gandhā 因 [*Satyavati* (*Vyāsa* の母)の称]。
yojana-bāhu 男 1 *yojana* (の長さ)の腕をもつ，過度に長い腕をもつ。男 [*Rāvāna* の称]。
yojana-sata 中 100 *yojana*。
yojanā 因 準備，整頓；文法上の構文。
yojanika 男 [一° 圓 とともに] …*yojana* の長さをもつ。
yojaniya 未受分 使用されるべき；…と結合または合同されるべき [~ *karmanā* = 仕事につかせられるべき]；文法的に結合または構成されるべき；(圓) 匪 (圓) と結合すべきである，…と考えるべきである。
yojanya 男 → *ṣaṣṭi* ~。
yojayitavya 未受分 使用されるべき；(圓) を供給されるべき；(圓) 応知，如理応知，如理応思，応如理推合，安立，応安立 *Abh-vy.*, *Madhy-bh.*
yojayitr 男 (宝石を)象眼する者。
yojita 使役 過受分 → *Yuj.* (圓) 駕 *Saddh-p.*
yojya 未受分 (因) の方に向けられるべき；(因，一°) に任命されるべき (価値のある)；(一°) をするように激励されるべき；使用されるべき；唱誦されるべき(祝福)；加えられるべき，(因) に加えられるべき；(圓) を支給または贈与されるべき；結合または構成されるべき；(圓) 応思，応自思，応弁，如理応思，応如理推合，応安立；相合 *Abh-vy.*, *Mvyut.*
yotaka 中 (圓) [= *yautaka*] 放，遣，音物 *Mvyut.*

yotra 甲 繩, 綱.
yoddhavya 未受分 戦闘または闘争されるべき; 甲 匪人 戦うべきである.
yoddhu-kāma 形 戦いたいと思う, 合戦を切望する.
yoddhṛ 形 (具) と戦う, (因) のために (具) と戦う.
男 戦士, 闘士, 兵士.
yodha 男 武士, 兵士; 兵, 軍兵; 兵戦, 戦闘; 武 *Divy.*, *Sādh-p.*, 梵千.
yodhaka 男 =yoddhṛ (男).
yodha-dharma 男 軍人の法, Kṣatriya カーストの義務.
yodhana 甲 戦闘. 男 [Rākṣasa の名] 勇猛 *Mañj-m.*
yodhaniya 未受分 戦われるべき.
yodha-mukhya 男 総指揮官.
yodha-vira 男 勇士, 戦士.
yodhāgāra 男 兵營, 兵舎.
-yodhin 形 戦う; 闘争する. 男 闘士.
yodhi-vana 甲 [地名].
yodhya 未受分 闘争されるべき. 男 種 [ある住民の名].
yoni 男 女 [RV. では 男 のみ. 因 ではまれに 女] 子宮, 陰門, 母胎; ひざ(すわって腰からひざまで); 生地; 家庭, 住所, 巢, 獣穴(因); 生産の場所, 起原, 出処; 貯蔵所, 容器, 所在, 場所; 出生=存在の形式, 血統, 種族, 家柄, 種姓(階級); 生門, 胞胎 *Buddh-c.*, *Divy.*; 生 *Abh-k.*, *Abh-vy.*; 本, 種子 *Lank.*; 正 *Sūtr.*; (一) 種類 *Bodh-bh.*: *catvāro ~ ayah* 四生 [1. *aṇḍa-jāh* 卵生, 2. *samsveda-jāh* 湿生, 3. *jarāyu-jāh* 胎生, 4. *upapādukāh* 化生] *Dharm-s.*, *Mvyut.* 一° 形 …から産出または発生する.
yoni-gata 形 子宮にある, (その)本源の所にある.
yoni-ja 形 胎生の; 胎生, 生, 入胎 *Lank.*, *Vajr-s.* → a~.
yonitas 副 家柄または血統によって.
yonitva 甲 (一) の本源であること, …を産すること; (一) に由来すること, …に基づくこと.
-yonin 形 =yoni.
yoni-mukta 形 転生を免れた.
yoni-vicaya 男 正観 *Sūtr.*
yonisās-cintā 女 如理思, 如理思惟 *Bodh-bh.*
yonisāh-śravaṇa 甲 如理聴聞 *Bodh-bh.*
yonisās 副 根本的に, 正当に (*Lal-v.*, *Vajr-pr.*); 賢明に (*Divy.*); 正, 如理, 依理, 如法, 深心 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*, *Suvik-pr.*, *Vajr-pr.*: ~ *upaparikṣitavyam* 如法察, 如法解悟, 応如理察 *Mvyut.*; ~ *pratyavekṣitavyam* 深心観察悟解 *Śikṣ.19.* → a~. ~o *manasi-Kṛ* 正思惟, 如理思惟, 如理正思惟 *Bodh-bh.*
yoniso-manasi-kāra 男 正思惟, 正作意, 如理作意, 如法思惟, 理聚, 心依理聚 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*
yoniso-manasi-kriyā 女 正憶 *Sūtr.*
yoniso-manas-kāra 男 正憶, 正憶念 *Sūtr.*
yoni-saṃkaṣa 甲 (母胎通過), 再生.

yoni-saṃkara 男 種姓(階級)上の(混合=)違法の通婚.
yoni-saṃbandha 男 血縁, (因) の血縁.
yonisas 副 [=yonisās] 如理 *Lal-v.417.*
yoni-svabhāva 形 子宮から生れた, 胎生の(生物).
yoni 女 =yoni.
yony-ajāta 形 子宮から生まれぬ (*Buddh-c.*).
yopayat 使役 毘分 [Yup].
yoṣaṇā 女 若い婦人, 処女; 妻.
yoṣā 女 [同上].
yoṣij-jana 男 女性[集合的に], 婦人達.
yoṣit 女 =yoṣaṇā; 雌(鳥について); 採女, 明妃 *Guhy-s.*, *Lal-v.*; 匿写 毘室多 *Guhy-s.*: *antarbhavana-vicāriṇyaḥ ~ aḥ* 宮闈之類 *Divy.558*; *sarva-tathāgata ~ bhageṣv abhiṣkramya* 安住一切如来明妃秘密行已 *Guhy-s.147.*
yoṣitā 女 =yoṣaṇā.
yoṣit-pratīyātānā 女 女の像.
yoṣid-grāha 形 (死去した男の)妻を娶る.
yoṣid-ratna 甲 宝石のごとき婦人, もっとも勝れた婦人.
yoṣinmaya 形 (女 -i) 女のように形造られたまたは女に扮する.
yos 不定 安寧, 幸福, 健康 [ただ *śam yoh* および *śam ca yoś ca* の句においてのみ (因)].
yaugaṃdharāyaṇa 男 父系 [Yugaṃdhara から] [*Udayana* 王の宰相の名].
yaugaṃdharāyaṇiya 形 *Yaugaṃdharāyaṇa* に関する.
yaugapadya 甲 [yuga-pad から] 同時性; 頓, 頓生, 齊, 俱時, 俱起, 俱時起 *Abh-vy.*, *Mvyut.*
具 副 *yaugapadyena* 同時に [=yuga-pad].
yauṅika 形 (女 -i) 治療に関する; 適用できる; 語原と一致する, 語原的意義をもつ; Yoga に関するまたは由来する.
yauṅika-rūḍha 形 語原的および伝習的の(意義をもつ). → *yoga-rūḍha.*
yautaka 形 (女 -i) (ある人に)専属する. 甲 贈物; 私財; 嫁の持参した財産.
yautuka 甲 [同上 (甲)].
yauthika 男 (一群 (yūtha) 中の一), 仲間, 伴侶.
yauḍha 形 好戦的な.
yauḍhā-jaya 甲 [諸 *Sāman* の名].
yauḍhiṣṭhira 形 (女 -i) *Yauḍhiṣṭhira* に関するまたは属する.
yauḍheya 男 種 [ある武士種族の名].
yauna 形 (女 -i) [yoni から] 結婚の, 結婚に基づく, 結婚に由来する, 結婚によって関係づけられた; (一) から産せられた. 甲 縁組, 結婚; 姻戚関係.
yaupa 形 (女 -i) 供犠柱に関する.
yauva 男 子 *Gand-vy.* → *dharma ~ rājya.*
yauvata 甲 若い娘または婦人の群; 若い婦人であること.
yauvana 甲 [yuvan から] 青年, 青春, 青年時代, 青年期, 成年; (種) 若々しい行為; 少壮, 少年, 壮時, 盛年, 血気 *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Vijñ-t.*

yauvana-darpa 男 青春の誇り, 青年の無思慮.
 yauvana-daśā 因 青年期.
 yauvana-padavi 因 青年の行路. ~m ārūḍha 青年期に入った.
 yauvana-prānta 男 甲 青春の終り.
 yauvanavat 形 青春を保持するまたはの時期にある, 若々しい; 少壮 *Av-ś*.
 yauvana-śri 因 若々しさの美.
 yauvana-sukha 甲 青春または恋愛の喜び.
 yauvana-stha 形 青春期にある, 青春期に達した, 婚期に達した.
 yauvanānta 形 青年期の終った, 若々しさの期末にある.
 yauvanārambha (°na-ār°) 男 青年時代, 青春の初め, 年若いこと.
 yauvanārūḍha (°na-ār°) 形 青年期または青春期に達した.
 yauvanāśva 男 [Māndhātṛ およびその子孫の 父系].
 yauvanāśvi 男 [Māndhātṛ の 父系].

yauvanika 男 甲 (?) 幼年, 盛年 *Lal-v*.
 yauvanin 形 若々しい.
 yauvaniya 形 青年期に属する.
 yauvaniya-dvār 因 青春への入口, 青年期.
 yauvaneśvara (°na-iś°) 男 [ある王侯の名 (*Yavaneśvara* の (不確))].
 yauva-rāja 甲 皇太子 (*yuva-rāja*) たる地位; 太子位 *Daś-bh., Divy*.
 yauṣṇiya 甲 女であること, 女らしさ.
 yauṣmāka 形 (因 -i) 汝等に属する, 汝等の.
 yauṣmākiṇa 形 [同上].
 yvāgu 女 [韻律, =yavāgū] 粥 *Lal-v*.
 ysa-kāra 男 *ysa* の字または音; (音写) 夷娑字 [四十二字門の一]: ~m parikirtayataḥ sarva-buddha-dharma-nirdeśa-viṣayaṃ nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱夷娑 [二合] 字時能甚深入般若波羅蜜門名演説一切佛法智 *Gaṇḍ-vy.* 450.

R

-ra 形 を取得した, 所有する; 授与する, 産出する.
 raṃsu 形 喜ばしい (RV.).
 Raṃh, [=Raṅgh] I. 形 *raṃhati* 流れさせる; 出発する; 目 *raṃhate* 流れる, 走る. 過受分 *raṃhita* 急いだ. 使役 *raṃhayati(-te)* [=単純動詞]. 強意 現分 *rārahāna* 急いだ (因).
raṃhas 甲 速力, 速度; 激烈, 急激.
raṃhāna 強意 現分 → *Raṃh*.
raṃhi 因 (因) 流れること, 流れ; 急速, 速度.
raṃhita 過受分 → *Raṃh*.
 ra-kāra 男 *ra* の字または音; (音写) 羅字 [五十字門の一]: ~e raty-arati-paramārtha-rati-śabdaḥ (→ a-kāra) 唱羅字時出厭離生死欣第一義諦声 *Lal-v.* 128; 囉字 [四十二字門の一]: ~m parikirtayato 'nanta-tala-sambhedam nāma prajñāpāramitā-mukham avakrāntam 唱囉字時能甚深入般若波羅蜜門名普遍顯示無辺際微細解 *Gaṇḍ-vy.* 448.
 rakka 男 [人名].
 rakta 過受分 [Rañj] 染まった; 赤い; 鼻音化した (文法); 美しい, 愛らしい, 心地よい (声); 憤激した; 熱情にみちた; (あることに 因, 一°; ある人に 因, 一°) 熱中した; 愛着した, 愛好する; 心酔した; (因) によって魅せられた; 染, 染着, 所染, 染汚, 染者, 染欲, 有染心, 愛着, 貪, 貪着, 懷貪欲者, 有欲心, 染染, 耽嗜 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Madhy-v., Mvyut., Raṣṭr., Saddh-p., Śiks.*; 赤, 赤色, 朱, 紅, 紅色, 紅潤 *Abh-vy., Buddh-c., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lan̄k., Mañj-m., Mvyut., Śiks., Suv-pr., 梵千., 梵維.* 甲 血液.
 raktaka 形 赤い.

rakta-kaṅṭha 形 美声の. 男 かっこう (郭公); [ある小仙女の名].
rakta-kadamba 男 赤い Kadamba 樹.
rakta-kamalini 因 紅蓮の群.
rakta-kṛṣṇa 形 暗赤色の.
rakta-candana 甲 したん (紫檀).
rakta-citta 甲 染欲心 *Śiks.*
rakta-cchada 形 赤い葉をもつ.
rakta-cchardi 因 吐血, 咯血.
rakta-ja 形 血液に由来する.
rakta-jihva 形 舌の赤い; 舌色赤, 舌鮮紅 *Mv-yut.*
raktatara 比較 非常に執着した.
raktatā 因 赤いこと; 血液たること.
raktatva 甲 赤いこと.
rakta-dant 形 赤い (=汚れた) 歯をもつ.
rakta-nayana 形 眼の赤い; 瞋目 *Gaṇḍ-vy.*
rakta-nila 形 青味のある赤色の.
rakta-netra 形 = *rakta-nayana*.
rakta-paṭa 男 (赤褐色のぼろを纏った), 仏教の僧侶.
raktapaṭa-vrata-vāhini 因 仏教の尼僧.
raktapaṭāmsukottariya 男 紅仙衣 *Mañj-m.*
raktapaṭi-Kṛ, 赤褐色のぼろを纏わせる, 仏教の僧とする.
rakta-paṭṭamaya 形 赤色の布からなる.
rakta-padma 甲 紅蓮.
rakta-pāda 男 脚の赤い鳥.
rakta-puṣpa 甲 赤い花. 形 赤い花をもつ.
rakta-pravāha 男 血の流れ.
rakta-phala 形 赤い果実を結んだ.

rakta-bindu 男 血液の滴り。
 rakta-bhāva 形 心を奪われた。
 rakta-maṇḍala 形 赤い円盤をした(月)；忠節な臣民をもつ。
 rakta-maṇḍalatā 因 [同上 捆]；悪い血行によって体に赤い斑点の現われること。
 rakta-mukha 形 赤い顔の。男 [ある猿の名]。
 rakta-varāmbara-nivāsa 形 身服朱衣 Gand-vy.
 rakta-varṇa 男 赤色；血液の色。形 赤く彩った。
 rakta-vāsas 形 赤い衣を纏った。
 rakta-vāsin 形 [同上]。
 rakta-virakta 過受分 気まぐれな (Śiva 神)。
 rakta-śmaśru 形 赤い顎鬚をもつ。
 rakta-śyāma 形 暗赤色の。
 rakta-sāra 形 血液の優勢な、多血質の。
 raktāmsūka 男 赤い光線；赤い上衣。
 raktākṣa 形 (因 -i) 眼の赤い；[ある梟の名]；赤目 Guhy-s.
 raktāṅga 男 [鳥の一種]；火星；[ある Nāga の名]。
 raktādharā 因 [(赤い唇), ある Kimnari の名]。
 raktānta 形 赤い隅をもつ。
 raktārakta 過受分 染不染 Gand-vy.
 raktābha (°ta-ābha) 形 赤い外観をもつ。
 raktāmiśāda (°ta-ām°, °ṣa-āda) 形 血と肉とを食べる。
 raktāmbara 因 赤い上衣。形 赤衣を纏った。
 raktāmbu-pūra 男 血液の流れまたは流出。
 raktāmbu-ruha 因 紅蓮。
 raktārūpa 形 血のように赤い。
 raktāśoka 男 赤い花をもつ Aśoka 樹。
 rakti 因 愛着, (因) に対する愛着；愛心, 交愛 Abh-vy.
 raktimat 形 美しい, 愛らしい。
 raktiman 男 赤いこと。
 rakti-Kṛ, 赤く彩る。
 raktotpala (°ta-ut°) 因 紅蓮 [学名 *Nymphaea rubra*]。
 Rakṣ, I. 因 rakṣati 防護する, 保護する；見張る, (家畜の)番をする, 世話をする；節約する；保存する, 保守する, 救護する。(因)から保存する等；(法規等を)遵奉する；(国を)支配する, 統治する；(業)を警戒する, …を用心する；護, 能護, 守護, 防護, 救護, 為救護, 作守護, 防援, 防制；持 Ast-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Divy., Rāṣṭr., Saddh-p., Sikṣ., Vijñ-t. 過受分 rakṣita 護られた。～m 因。使役 他 rakṣayati 保護する, (因)から保護する；保守する。希求 他 rirakṣiṣati (因)から保護したいと思う。強意 現分 rārakṣāna 熱心に防護する。
 anu- 保護しつつ随行する；守護する, 防護する；守, 善守, 防, 將護 Abh-vy., Bodh-bh.
 sam-anu- 注意する, 用心する (Divy.)。
 abhi- 防護する, 保護する, (因)から防護する, 保護する；慈しむ；(法規等を)保守する, 遵守する；(軍隊を)指揮する。

ā- 守護する, 防護する, 維持する, 警戒する。(因)から守護する等；隨護, 擁護 Bodh-bh., Suv-pr.

pari- 防護する, 保護する, 保存する；救護する, (因)から防護する等；保守する；(法規等を)遵守する；(都市等を)支配する；防, 護惜 Saddh-p., Sūtr.

pra- 保存する, 救護する, (因)から保存する, 救護する。

prati- 守護する, 防護する, (約束を)遵守する；…に対して防御の態度をとる；恐れる；遮護 Lal-v.

sam- 防護する, 保護する, 保存する, 救護する, (因)から防護する等；節約する；保守する；安全にする；守護, 善護, 救護, 愛念救護 Bodh-bh., Lanik.

rakṣa 形 (因 -i) 防護する, 保護する, 保存する, 保守する, 遵守する [一般に 一°]；護, 守護, 擁護 Bodh-bh., Mañj-m. → a~. 男 見張番, 番人 [一般に 一°]；護, 守護, 守護者, 護衛 Divy., Mvyut., Śikṣ., Sūtr.

rakṣaka 男 保護者, 防護者；張番, 見張人；護, 能護, 守護, 慎 Bodh-bh., Lanik., Sūtr. → cāritra~.

rakṣa-guṭti 因 衛護 Lal-v.

rakṣaṇa 因 防護すること, 保護すること, (家畜の)番をすること；世話, 保護, 保存, (因, まれに因, 一°)の注意等；守護, 護持, 掌護 Bodh-bh., Divy.

rakṣaṇā 因 防護すること, 保護すること。

rakṣaniya 未受分 防護または保護されるべき, (因)から防護または保護されるべき；節約されるべき；支配されるべき(価値のある), (因, 因)によって支配されるべき(価値のある)；警戒されるべき, 避けられるべき, (因)によって警戒されるべき等。

rakṣa-pāla 男 張番, 見張人。

rakṣa-pālaka 男 [同上]。

rakṣa-pālikā 因 見張りの婦人。

rakṣas 因 傷害 (RV.)；(夜間の)悪魔[祭祀をかき乱しかつ敬虔な者を傷つける]。男 夜間の悪魔(因)。

rakṣā 因 保護, 救助, 保存, [一般に 一°の]；まれに(一°)から；寒気から, または(一°)において旅行中；張番, 番人；防護物, 護符, 神秘的な物；護, 護持, 守護, 擁護, 擁衛 Ast-pr., Gand-vy., Guhy-s., Saddh-p., Śikṣ., Suv-pr.

rakṣā-karaṇḍaka 因 (魔法の)玉手箱。

rakṣā-gaṇḍaka 男 護符(の一種)。

rakṣā-gṛha 因 産室。

rakṣātma-bhāva (°ṣa-āt°) 男 護身 Śikṣ.

rakṣādhikāra (°ṣā-adh°) 形 男 [同下]。

rakṣādhikṛta (°ṣā-adh°) 形 (国家等の)保護を委された。男 任命された守護者。

rakṣādhīpati (°ṣā-adh°) 男 警察の長官。

rakṣā-parigha 男 防御用の門。

rakṣā-pāla-puruṣa 男 護衛者, 番人。

rakṣā-puruṣa 男 番人, 見張人。

rakṣā-pratisara 男 護符。
 rakṣā-pratisarā 女 [同上]。
 rakṣā-pradīpa 男 防護用燈火 [悪魔を遠ざけるために燃やし続けられる]。
 rakṣā-prasaṅga 男 一° を護る用意のあること。
 rakṣābhyaḥkṛta (°ṣā-abh°) 男 警察官。
 rakṣā-maṅgala 中 (悪魔を) 追い払う儀式。
 rakṣā-maṇi 男 魔除けの宝石; [また国王を指す[蘭]]。
 rakṣā-mahaṣadhi (°hā-oṣ°) 女 (悪魔払いに) 靈験のある薬草。
 rakṣā-ratna 中 魔除けの宝石。
 rakṣāratna-pradīpa 男 防護用の宝石燈 [灯中の宝石が悪魔を防ぐ光となる]。
 rakṣāvat 男 保護をうける, (男) によって保護された。
 rakṣāvaraṇa-guṇṭhi (°ṣa-āv°) 女 守護, 擁護 *Saddh-p.*
 rakṣā-sarṣapa 男 (悪魔払いの) 防護物としてののからし(芥子)の種子。
 rakṣika 男 番人, 見張人; [=rakṣikā(?)] 草子 *Lank. 31*; [音写] 頼提 *Lank. 31*。
 rakṣika-puruṣa 男 [同上]。
 rakṣikā 女 女の番人または見張人; [音写] 草子 *Lank.*; [音写] 頼提 *Lank.*
 rakṣi-jana 男 警察官 (*Jāt-m.*)。
 rakṣita 過受分 → Rakṣ. 護, 相護, 愛護, 所守護, 所防護, 所授受 *Gaṇḍ-vy., Mvyut., Śikṣ.*: *punya-bala* ~ 福力之所守護, 福力之所授受 *Gaṇḍ-vy. 221.* 男 [諸人の名]。
 rakṣitam 副 → Rakṣ.
 rakṣitavya 未受分 保護・防護または防衛されるべき, (男) から保護されるべき等; 番をされるべき(家畜); 防護 *Śikṣ.*
 rakṣitikā 女 [人名]。
 rakṣitu-kāma 男 欲守護 *Śikṣ.*
 rakṣitṛ 男 (男) からのまたは (男) の保護者または保存者; 看視者。
 rakṣitri 女 婦人の守衛者。
 rakṣin 男 防護する, 保護する; (一°) を避ける。男 (きわめて一般に (一°) の; まれに (一°) からの) 守護者, 保護者, 保存者; 門監, 守門 *Av-ś.*
 rakṣo-gaṇa-bhojana 中 [地獄の一種]。
 rakṣo-grha-sthiti 女 *Rākṣasa (Ravana)* の邸宅に滞在すること。
 rakṣo-ghna 男 *Rakṣas* を撃退または殺戮する。男 *Rakṣas* を殺戮する呪文。
 rakṣo-ghni 女 → rakṣo-han.
 rakṣo-jana 男 *Rakṣas* の一族。
 rakṣo-devatā 女 神のような *Rakṣas*。
 rakṣo'dhidevatā 女 *Rakṣas* を支配する女神。
 rakṣo-bhāṣ 男 *Rakṣas* のように吼える。
 rakṣo-han 男 (女 -ghni) *Rakṣas* を殺戮する。
 rakṣya 未受分 防護・保存・世話または慈育されるべき, (男) から防護されるべき等; 警戒されるべき, 避けられるべき。
 rakṣyatama 最上 もっとも注意深く防護されるべき。
 raghiyas (比較) 男 一層軽い (男)。

raghu 男 (女 -vi) [*Raṅgh=Ramh*] 急ぐ, 速かな (男)。男 駿馬 (男); [*Rama* の祖先である古代の王の名]; (男) *Raghu* の子孫。
 raghu-kula-kaumāra 中 *Raghu* 族の王子の性格。
 raghu-kula-devatā 女 *Raghu* 族の守護神 (*Gaṅgā* 河)。
 raghu-tilaka 男 [*Rāma* の称]。
 raghu-dru 男 疾走する (RV.)。
 raghu-nandana 男 *Raghu* の子孫, [*Rāma* の称]。
 raghu-nātha 男 [*Rāma* の称]。
 raghu-pati 男 *Raghu* 族の主長, [*Rāma* の称]。
 raghu-patvan 男 速く飛ぶ (RV.)。
 raghu-pratinidhi 男 *Raghu* の肖像または似姿, [*Aja* の称]。
 raghu-pravara 男 [*Rāma* の称]。
 raghu-vaṁśa 男 *Raghu* の種族, [*Kalidāsa* 作の戯事詩の題名]。
 raghuvaṁśa-samjivani 女 [*Mallinātha* の *Raghu-vaṁśa* 註釈の題名]。
 raghu-vara 男 [*Rāma* の称]。
 raghu-ṣyad 男 急ぎ進む (男)。
 raghu-svāmin 男 [*Rāma* の称]。
 raghūttama 男 [同上]。
 raghūdvaha 男 [同上]。
 raṅka 男 飢餓者, 乞食; 一° 餓死に瀕した, 飢えた。
 raṅku 男 かもしか(羚羊)(の一種)。
 raṅku-mālin 男 [ある *Vidyādhara* の名]。
 raṅga 男 [*Raṅj*] 色; [母音に鼻音の色彩を附すことすなわち母音の鼻音化 (区因)]; 劇場, 舞台, 場面, 闘技場; 観劇者; [人名]; 色, 染具, 顔料, 彩, 衆彩, 画, 彩図衆形, 彩国衆像 *Ast-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Lank., Mvyut., Śikṣ., Sutr.*; 健陀水 (?) *Divy. 404*; 戯場, 舞堂 *Samkhy-k., Śikṣ.*
 raṅga-kāra 男 染物匠。
 raṅga-cara 男 俳優; 剣闘士。
 raṅga-citra 中 彩画 *Daś-bh.*
 raṅga-dvār 女 舞台の戸。
 raṅga-dvāra 中 戯曲の序幕。
 raṅga-nātha 男 [諸人の名]; [地名]。
 raṅga-patākā 女 [人名]。
 raṅga-piṭha 中 舞踏場。
 raṅga-praveśa 男 舞台に登場すること, 演劇に従事すること。
 raṅga-prāśnika 男 観客。
 raṅga-prekṣin 男 [同上]。
 raṅga-bhūmi 女 戦場。
 raṅga-maṅgala 中 舞台上の祭。
 raṅga-maṇḍapa 男 中 劇場, 芝居小屋。
 raṅga-maṇḍala 男 中 戯場, 試場 *Lal-v.*
 raṅgavati 女 [人名]。
 raṅga-vastu 中 染料。
 raṅga-vāṭa 男 競技・演劇・舞踏を演ずるために囲まれた場所。
 raṅga-vārāṅgaṇā 女 舞妓。
 raṅga-sālā 女 劇場, 舞踏場; 看戲所, 看会所

Mvyut.

raṅga-stambhana 甲 𣎵 簪 Mvyut.

raṅgā 因 [河の名] (Divy.).

raṅgāṅga 甲 競技場.

raṅgāvataraṇa 甲 舞台への登場; 俳優の職業.

raṅgāvatāraka 男 舞台演技者, 俳優.

raṅgāvatārin 男 [同上].

raṅgika 甲 𣎵 色 Mañj-m.

raṅgita 名動 過受分 よく彩色された, 綺麗な.

raṅgin 形 (一°) に愛着した, …を好む; 舞台に登場する.

raṅgopajivin (°ga-up°) 男 (舞台で生活する), 俳優.

raṅgopajivya (°ga-up°) 男 [同上].

Raṅh, [=Raṅh] I. 𣎵 raṅhate 急ぐ, 走る.

raṅhas 甲 急速.

Rac, [使役 𣎵 のみ] racayati 構成する, 形成する, 作る, 建てる; 生ずる, 準備する, 整頓する; 飾る; 著作する; 固定する; (因) の中または上に置くまたは据える; (心を) (因) に留める. cintām または cintāh Rac 心配する. 過受分 racita 作られた, 形成された, 準備された等, (因, 一°) をもって作られた等; (因) の上または中に置かれた, 導入された, 固定された; (一°) に示された, 展示された; (因, 一°) で設備されたまたは飾られた; (一°) に従事する: [mr̥ṣā とともに] 案出された.

ā- 使役 āracayati 準備する; (因) で設備する; 現 Śikṣ.: iryā-patham āracayati (仮) 現威儀 Śikṣ.

267. 過受分 āracita 着られた.

upa- 使役 uparacayati 形成する, 作る, 産出する, 構成する. 過受分 uparacita 産出された等.

sam-upa- 過受分 samuparacita 工夫された, 形成された.

vi- 使役 viracayati 構成する, 作る, 形成する; (像を) 建てる; 遂行する; 産出する; 著作する, 案出する; 整頓する. 過受分 viracita 作られた, 形成された等; (因) で設備された.

racana 甲 整頓すること, 準備すること, 組み立てること; 修治, 砌 Sutr., 梵千.

racanā 因 整頓, 配置, 準備; 遂行, 完成; (一°) の形成, 産出 [しばしば具体的に用いられ, 産出物の義となる]; 著作, 作品; 文体; (軍隊の) 整列; 工夫, 案出; (衣服を) つけること; (人格化された) 配列; 結集 Bodh-bh. 292; 安布, 莊飾 Abh-vy.

racayitr 男 著作者.

racita 過受分 → Rac. 𣎵 蔽, 莊蔽, 莊飾; 錯綜; 扮; 嵌擺 Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut.

racita-catuṣka 形 白堊または赤色染料で周囲に四角をえがいた.

racitatva 甲 作られたこと.

racita-dhī 形 その精神を(因)に向けた.

racita-pūrva 形 以前になされた.

racita-maṅgala 形 吉兆な儀式を営んだ.

racita-sikhara 形 頂きを飾った.

racita-svāgata 形 歓迎を示された.

racitātithya (°ta-āt°) 形 款待を示された.

racitānati (°ta-ān°) 形 敬礼した.

racitārtha 形 目的を成就した.

racitotsava (°ta-ut°) 形 祭典を執行した.

Raj, Rañj, IV. rajyati(-te) 彩られる; 赤くなる, 赤い; (因) によって興奮させられる, 魅惑される, 喜ばされる; 喜ぶ, (因) を好む, …に心を奪われる, …に恋慕する; 染, 染著, 生染, 染, 起愛, 生愛樂, 愛著, 貪, 貪欲, 起於貪, 欲, 入姪 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-c., Divy., Kāśy., Lal-v., Lanḅ., Śikṣ. 過受分 rakta. → rakta. 受 rajyate 彩られる. 使役 𣎵 rañjayati, rajayati (因 用例一回のみ) 彩る, 赤くする; 照らす; 幸福にする, 喜ばす, 満足させる, 満足させて置く; 染, 令染 Mvyut., Prāt-m., Raṣṭr. 使役 過受分 rajita 誘い寄せられた(獲物); rañjita 彩られた, 赤くされた; 照らされた; 幸福にさせられた, 満足させられた.

anu- 同様に赤くなる; (因) で喜ばれるまたは満足させられる; (因, 因) に心を惹かれる・愛着するまたはを愛する. 過受分 anurakta 彩られた; 赤くされた; 愛された; 身をゆだねた, 愛着した, 愛する; (因, 因, 一°) を好む, 愛する; (因, 一°) を楽しむ; (一°) に左右された, …の勢力下にある. 使役 𣎵 anurañjayati 同様に彩るまたは赤くする; なだめる, 説きふせる; 愛情を起こさせる.

apa- 𣎵 色彩を失う; (因) に不満を覚える. 過受分 aparakta 色彩を失った, 蒼白の; (因) を嫌う. 使役 𣎵 aparañjayati 愛情を失わせる, 疎縁にする.

abhi- 𣎵 (因) で非常に喜ぶ; 起於欲心 Divy. 過受分 abhirakta (一°) に身をゆだねたまたは愛着した; 魅力のある.

upa- 過受分 uparakta 彩られた; 赤くされた; (日または月の) 蝕された; (因, 一°) (に染められた=) の影響下にある. 使役 𣎵 uparañjayati 彩る; 感動させる, 影響する.

vi- 色褪せる, 色彩を失う; (因, 因) に無関心となる, 興味を失う; 離, 離欲, 離貪欲, 厭患 Abh-vy., Mvyut., Śikṣ. 過受分 virakta 色褪せた; 無関心な, 気乗りしない, 不満な, (因, 因, prati+ 因, 一°) に対して無関心な等; 無関心になった, 興味を起こさない. 使役 𣎵 virañjayati 色褪せさせる. 使役 過受分 virañjita 無関心にされた.

sam- 𣎵 彩られる; 赤くなる; 生染著心 Śikṣ. 過受分 samrakta 赤くされた, 激昂させられた; 魅力のある; (歌うとき) 深く感動した. 使役 𣎵 彩る; 赤くする; 喜ばせる, 幸福にする.

anu-sam- 過受分 anusamrakta (因) に身をゆだねたまたは愛着した.

abhi-sam- 過受分 abhisamrakta (一°) に身をゆだねた.

raja 男 [まれに] 塵; 花粉; [=rajas]; 塵, 微塵 Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ.

rajaḅ-kaṇa 男 塵の粒; (因) 塵.

rajaḅ-pluta 形 激情(の性質)に満ちた.

rajaka 男 (染物業をも兼ねる) 洗濯屋; [卑賤な混血種姓(階級)の一種]; 浣, (善) 浣衣師, 染絲者, 染師 Mvyut., Sutr., Vajr-s.

rajaki 因 洗濯女；洗濯屋の妻。
 rajata 形 [Raj=Arj] 銀色の，白味がかった(因)；
 銀製の(因)；可染，銀，白銀 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*,
Saddh-p. 因 銀；銀，白銀 *Bodh-bh.*, *Lank.*,
Mañj-m., *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Suvik-pr.*, *Suv-pr.*；
 [病名] 串皮 *Mvyut.*
 rajata-kūṭa 因 田 [Malaya 山脈中の一峯の名]。
 rajata-damṣṭra 因 田 [ある Vidyādhara の名]。
 rajata-parvata 因 田 銀の山 [とくに婆羅門への贈物とし
 ての人工的なものを指す]。
 rajata-pātra 因 田 銀の容器。
 rajata-bhājana 因 田 [同上]。
 rajatamaya 形 (因 -i) 銀製の。
 rajatācala 因 田 銀の山，*Kailāsa* 山の称]。
 rajatādri 因 田 [同上]。
 rajatānvita 形 銀で飾られた。
 rajana 形 (因 -i) 彩色する(因)。因 光線 [まれに]。
 rajani 因 [韻律，=rajani] 夜。
 rajani-kara 因 田 (夜進行するもの)月。
 rajani-cara 因 田 夜歩むもの；*Rākṣasa*；番人。
 rajani-rākṣasi 因 田 *Rākṣasi* のような夜。
 rajani 因 田 (暗くする者)，夜；[ある *Apsaras* の名]；
 [ある河の名]；夜 *Mvyut.*
 rajani-kara 因 田 月(太陰)。
 rajani-kṣaye 因 田 夜分尽，夜分既尽 *Gaṇḍ-vy.*
 rajani-cara 因 田 夜間に動く(月)。因 田 夜の歩行者；*Rākṣasa*。
 rajanicara-nātha 因 田 夜の歩行者の主，月。
 rajani-pati 因 田 夜の主，月。
 rajani-mukha 因 田 宵の口，日暮れ。
 rajani-ramaṇa 因 田 夜の愛人，月。
 rajaniśa (°ni-īśa) 因 田 夜の主，月。
 raja-vinirgata 形 田 [=rajo-v°] 晨朝 *Lal-v.*:240。
 rajas 因 田 1. 因 田：空，空気，大気 [上方にある div また
 は svar すなわち 光界および天と区別され，その領
 域は上層と下層とからなると見なされるのでしばしば
 因 田 すなわち上空ならびに下空に用いられる；因 田 世界の
 諸方]；水蒸気，霧，薄暗がり；耕された土壌，耕
 された畠 (RV.) [まれに]；2. 因 田：塵，塵の粒子；花
 粉；月経，経水；[精神を激昂または曇らせる性質]激
 情，動性 [因 田 では三徳 (guna) すなわち *sattva*, *rajas*,
tamas の一]；塵，微塵，埃塵；境 *Av-ś.*,
Bodh-c., *Guhya-s.*, *Lank.*, *Mvyut.*, 梵千., 梵維.；憂，
 憂苦 *Saṃkhy-k.*；*pañca rajāmsi* 五境 [1. rūpam
 色，2. śabdah 声，3. gandhaḥ 香，4. rasaḥ 味，
 5. spraṣṭavyam 所触] *Mvyut.*
 -rajaska 因 田 塵穢 *Bodh-bh.*
 -rajaskatā 因 田 塵垢 *Bodh-bh.*
 rajas-tamaska 形 田 rajas および *tamas* に支配された。
 rajastara 因 田 重塵 *Lal-v.*
 rajas-toka 因 田 激情の子すなわち食欲。
 rajas-vala 形 (因 -ā) 塵をもって充たされたまたは覆
 われた，埃まみれの；(因) 月経のある；*rajas* (= *guna*
 の一)に充たされた。
 rajas-valā 因 田 月経のある女；結婚適齢の娘。

rajasvin 形 花粉にみちた；*rajas* (三 *guna* の一)にみ
 ちた。
 rajaḥ-kaṇa 因 田 塵埃。
 rajaḥ-pluta 形 田 rajas (三 *guna* の一)にみちた。
 rajaḥ-snāta 形 田 雲または薄暗がりに閉ざされた。
 rajaḥ-sprś 形 田 (塵すなわち)大地に触れる。
 rajaḥ-sveda-samanvita 形 田 塵と汗とにまみれた。
 raji 因 田 [*Indra* 神に征服された悪魔または王侯の名]；
 [ある *Āṅgīrasa* の名]；[*Āyu* の息子の名]。
 rajikā 因 田 洗濯女。
 rajita 因 田 役 過受分 → *Raj.*
 rajīṣṭha 因 田 最上 [rju から] (因) もっとも真直な；もっ
 とも正しい。
 rajo-gata 形 田 為塵 *Saddh-p.*
 rajo-guṇa-samudbhava 形 田 rajas (三徳の一)
 から生じた。
 rajo-juṣ 形 田 rajas (三徳の一)と結合した。
 rajonmīśra (°ja-un°) 形 田 花粉をまじえた。
 rajopama (°ja-up°) 形 田 塵に似た。
 rajo'paharaṇa 因 田 (?) 除糞人，梅陀羅 [*ca-*
ṇḍāla の音写] *Gaṇḍ-vy.*
 rajo-mala 因 田 塵垢 *Gaṇḍ-vy.*
 rajo-megha 因 田 塵の雲。
 rajo-lipta-gātra 形 田 塵土塗其身，以(灰)塵土(自)
 塗全身 *Suv-pr.*
 rajo-virikta-manas 形 田 その心が激情を離脱した。
 rajo-viśāla 形 田 熱情に満ちた (*Saṃkhy-k.*)；外憂
 苦 *Saṃkhy-k.*
 rajju 因 田 (一° の，まれに…のための)紐，綱；繩，
 繩線，素，素繩，綆；藤 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *La-*
nk., *Mañj-m.*, *Sikṣ.*, 梵千., 梵維. ~m ā-Sthā 綱に頼
 る，縊死する。
 rajjuka 形 (因 -ā) [同上]。
 rajjutva 因 田 繩体，繩自体 *Lank.*
 rajju-dāla 因 田 [樹木の一種]；野鳥。
 rajju-dālaka 因 田 野鳥。
 rajju-pīṭhikā 因 田 綱(で吊される)椅子。
 rajju-peḍā 因 田 綱(で吊された)籠。
 rajju-bandha 因 田 綱で結ぶこと。~ena *Bandh* (ある
 人を)綱で縛り上げる。
 rajjumaya 形 田 綱からなる。
 rajju-yantra 因 田 (操り人形の)綱の仕掛け。
 rajju-lamba 因 田 垂れさがる綱(縊死するための)。
 rajju-vartana 因 田 綱をより合わすこと (*Jāt-m.*)。
 rajju-ambara 因 田 なわでできた着物を着た。
 rajyat-kaṇṭha 因 田 情のこもったのど(=声)の。
 Rañj (Raj, Rj) 1., I. rñjati(-te) 因 田；IV. rjyati(-te)
 (RV.) 踏み出す(因)；(因)を得ようと努力する(因)。
 因 rñjasāna (RV.) 急ぐ；努力する。
 Rañj 2. = *Raj.*
 rañjaka 形 (因 -ikā) 彩る；愛嬌のある，魅力のある。
 因 田 染物師。
 rañjana 形 (因 -i) 彩る；(一°)を喜ばせる。因 田 彩
 色，染色；色；喜ばせること，愉快にさせること，
 幸福にさせること，満足させること；染，搗，
 穢 *Abh-vy.*, *Sukh-vy.* I.

rañjaniya 〔未受分〕 喜ばせられるべき, 満足させられるべき, 愉快な; 〔可〕 可愛, 愛樂, 令人愛着, 染, 転食, 将来貪 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Mvyut., Sam-r.* 〔中〕 可染, 所染法 *Madhy-v. 251.*

rañjita 〔使役 過受分〕 → Raj.

Raṭ, I. 〔他〕 raṭati 高く鋭い声を出す, 吼える, わめく, 叫ぶ; (鳥が)鳴く; (斧が)響く, (鈴が)鳴る; 高らかに声明する; 〔響〕 響発 *Divy.* 〔過受分〕 raṭita 称讃された.

ā- 叫ぶ, 呼びかける.

raṭana 〔中〕 称讃の叫び.

raṭaratāya 〔名動 自〕 raṭaratāyate (蛙, 鳥等が)鳴く.

raṭita 〔過受分〕 [Raṭ] 〔中〕 叫び, 咆哮, 号叫; きしむ音.

raṭṭā 〔因〕 [王女の名].

raḍḍa 〔男〕 [人名].

raḍḍā 〔因〕 [王侯婦人の名].

Raṇ, → Ran.

raṇa 〔男〕 [Ran] 喜悅 (因). 〔男 中〕 (戦いの喜悅), 闘争, 戦争, 合戦, (一)のための戦い; 〔可〕 戦, 闘戦; 闘打, 争, 諍, 闘諍, 喧諍, 誼雑; 陣 *Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Divy., Lal-v., Mvyut.*; 障, 塵, 煩惱, 煩熱, 憂諍 *Mvyut., Śikṣ.* → a~.

raṇaka 〔男〕 [王侯の名].

raṇa-karman 〔中〕 戦い.

raṇa-kāmya 〔名動 他〕 raṇakāmyati 戦いを熱望する.

raṇa-kārin 〔形〕 戦いをひき起こす.

raṇa-kṛt 〔形〕 喜悅をもたらす (RV. 用例一回のみ). 〔男 戦〕 闘者, 闘争者.

raṇa-kṣiti 〔因〕 戦場.

raṇa-kṣetra 〔中〕 [同上].

raṇa-kṣoni 〔因〕 [同上].

raṇa-kṣmā 〔因〕 [同上].

raṇa-khala 〔男 中〕 [同上].

raṇa-gocara 〔形〕 戦いに従事する.

raṇaṃ-gaha 〔男〕 [仏の名] (*Sukh-vy. I.*).

raṇa-cheda 〔男 断〕 断憂諍 *Śikṣ.*

raṇaṃ-jaya 〔男〕 [王侯の名].

raṇaṃ-jaha 〔形〕 [Pali 同] 欲または罪を捨てる; 戦いに勝利を得る (*Av-s., Lal-v.*); 〔断〕 [-jaya(?)] 勝他闘, 戦勝者 *Lal-v. 304, 423.* 〔男 断〕 [Samādhiの名] 捨喧諍, 離塵, 除煩熱, 離煩熱 *Mvyut.*

raṇat 〔現分〕 → Ran.

raṇat-kāra 〔男〕 リンリンいう音, ガラガラいう音, (蜂の)ブンブン唸る音.

raṇat-kāraṇa 〔中〕 [同上].

raṇa-dundubhi 〔男〕 陣太鼓.

raṇa-dhara 〔男〕 《舵手》 《舵手》, 執漿者 *Mvyut.*

raṇa-dhur 〔因〕 戦いの重荷 (危険).

raṇa-dhurā 〔因〕 [同上].

raṇa-priya 〔形〕 戦いを喜ぶ.

raṇa-bhaṭa 〔男〕 [人名].

raṇa-bhū 〔因〕 戦場.

raṇa-bhūmi 〔因〕 [同上].

raṇa-mārga-kovida 〔形〕 戦いの技術または方法に経験のある.

raṇa-mukha 〔中〕 戦いの第一線; 先鋒.

raṇa-mūrdhan 〔男〕 [同上].

raṇa-yajña 〔男〕 祭祀と見なされた戦争.

raṇa-raṅga 〔男〕 衝突の場所, 戦場, 闘技場.

raṇa-raṇaka 〔男〕 (愛する者を)愛惜すること; 愛の神.

raṇa-raṇakā 〔因〕 (愛する者を)愛惜すること.

raṇa-raṇāyita 〔名動 過受分〕 声高くガラガラ鳴るまたは音を立てる.

raṇa-rasika 〔形〕 戦いを切望する, (一)との戦いを切望する.

raṇa-lakṣmi 〔因〕 戦いの運; 戦いの女神.

raṇa-visārada 〔形〕 戦いに熟達した.

raṇa-sikṣā 〔因〕 戦術.

raṇa-sīras 〔中〕 戦いの前線; 先鋒.

raṇa-sīrṣa 〔中〕 [同上].

raṇa-sūra 〔男〕 合戦の勇士.

raṇa-sonḍa 〔形〕 [= -śauṇḍa] 〔断〕 ((勇者)); 陣上遺, 陣上遺失, 陣上遺或鈍, 耽樂 *Mvyut.*

raṇa-śauṇḍa 〔形〕 戦いに熟達した.

raṇa-saṃgrāma 〔男 断〕 闘諍, 戦諍 *Gaṇḍ-vy.*

raṇa-sattra 〔中〕 祭祀として見なされた戦争.

raṇa-samudyama 〔男〕 戦いの圧迫.

raṇa-saṃrambha 〔男〕 激戦.

raṇa-sonḍa 〔男 断〕 [= -śauṇḍa] 勇健軍 *Lal-v. 43.*

raṇa-stha 〔形〕 戦いに従事する.

raṇa-sthāna 〔中〕 戦場.

raṇa-svāmin 〔男〕 戦の主(としての *Siva* 神の像).

raṇā, → a~.

raṇāgni 〔男〕 聖火として見なされた戦い.

raṇāgra 〔中〕 戦いの前線; 前駆.

raṇāṅga 〔中〕 戦場.

raṇāṅgana 〔中〕 [同上].

raṇājira 〔中〕 [同上].

raṇātodya (°ṇa-āt°) 〔中〕 陣太鼓.

raṇāditya (°ṇa-ād°) 〔男〕 [諸人の名].

raṇānta-kṛt 〔形〕 戦いを終息させる (*Viṣṇu* 神).

raṇāpeta 〔形〕 戦いから逃げ去る.

raṇārambhā (°ṇa-ār°) 〔因〕 [王女の名].

raṇārambhā-svāmi-deva 〔男〕 [*Raṇārambha* の建てた像の名].

raṇāvani 〔因〕 戦場.

raṇita 〔過受分〕 → Ran. 〔断〕 吼, 爆, 動舞声 *Mvyut.* 〔中〕 鳴ること, リンリンと鳴ること, ガラガラ鳴ること; (蜂が)ブンブンうなること.

raṇeśa (°ṇa-iśa) 〔男〕 =raṇa-svāmin.

raṇeśvara (°ṇa-iś°) 〔男〕 [同上].

raṇotkṣa 〔形〕 戦いにおいて狂暴な.

raṇotsāha (°ṇa-ut°) 〔男〕 戦いにおける武勇.

raṇoddeśa (°ṇa-ud°) 〔男〕 戦場.

raṇḍa 〔男〕 (一)の裏切者.

raṇḍā 〔因〕 寡婦; [婦人の貶称] 自堕落な女.

raṇva 〔形〕 (RV.) 愉快的, 喜ばしい, 愛らしい; 嬉しい.

rata 〔過受分〕 喜んだ, 満足した, 喜ばしい; (圓, 因, 一)を喜んだ, …に身をゆだねた, …に耽った; (一)と性交する. → Ram. 〔断〕 楽, 可楽, 欣

楽, 忻, 楽娛樂, 楽著, 著, 執著, 愛 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Guhy-s.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.* → *dharma* ~. ㊦ 性の享樂, 性交.

rata-kila ㊦ 犬.

ratana ㊦ ㊦ [または 𑖀𑖄𑖅, =*ratna*] 𑖀𑖄𑖅 宝, 宝珠 *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sikṣ.*

ratana-cūḍa ㊦ ㊦ [=*ratna*-] 𑖀𑖄𑖅 [人名] 宝髻 *Ra-sṭr.* 23.

ratanocaya (°*na-uc*°) ㊦ ㊦ [=*ratnoc*°] 𑖀𑖄𑖅 宝積 *Suv-pr.* 136.

ratanopāsobhita (°*na-up*°) ㊦ ㊦ [=*ratnop*°] 𑖀𑖄𑖅 衆宝嚴淨 *Saddh-p.* 16.

ratavat ㊦ 語根 *Ram* (の語形)をもつ. 𑖀𑖄𑖅 満足した, 喜んだ.

ratānta ㊦ 愛樂の終り.

rati ㊦ [*Ram*] 休息 [まれに] (㊦); 快樂, 享樂, 満足, (㊦, 一°)の快樂等; 性の享樂, 性交; (*Kāma* 神の妻の一人として擬人化された) *Rati*; 𑖀𑖄𑖅 樂, 可樂, 愛樂, 欣樂, 快樂, 喜樂, 喜, 歡喜, 欣, 欣慰, 嬉, 愛, 遊戲, 大適悅, 恍惚, 塵愛, 染著 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Sukh-vy.* 1., *Sūtr.*, *Suv-pr.*; [魔女の名] 可喜, 能悅人 *Buddh-c.*, *Lal-v.* → *a* ~. ~*m* *Kṛ* (㊦) を楽しむ. ~*m* *Āp* [同上]. ~*m* *adhi-Gam* [同上]. ~*m* *Bandh* [同上]. ~*m* *Labh* [同上]. ~*m* *upa-Labh* [同上]. ~*m* *Vid* [同上].

rati-kara ㊦ (㊦ -i) 快樂を生ぜさせる. ㊦ 𑖀𑖄𑖅 [Sa-mādhi の名] 作喜, 発妙樂 *Mvyut.*

rati-kriyā ㊦ 性交.

rati-kriḍā ㊦ 𑖀𑖄𑖅 戲樂, 嬉戲 *Bodh-bh.*

ratikriḍā-vastu ㊦ 𑖀𑖄𑖅 戲樂具 *Bodh-bh.*

rati-kheda ㊦ 性的享樂の倦怠.

rati-gṛha ㊦ 快樂の家.

ratim-kara ㊦ =*rati-kara* (㊦); 𑖀𑖄𑖅 愛樂, 忻樂 *Sikṣ.*

rati-carāṇa-samanta-svara ㊦ 𑖀𑖄𑖅 [Gandharva の名] 喜行普音 *Mvyut.*

rati-jaha ㊦ 𑖀𑖄𑖅 [Samādhi の名] 捨愛樂, 離喜, 棄捨塵愛 *Mvyut.*

rati-jña ㊦ 愛(の技巧)に熟達した.

rati-dūti ㊦ 愛の使者.

rati-dūti ㊦ [同上].

rati-pati ㊦ *Rati* の夫, 愛の神.

rati-paricaya ㊦ 頻繁に性交すること.

rati-pradhāna ㊦ 𑖀𑖄𑖅 [城の名] 勝喜樂, 愛樂 *Ra-sṭr.*

rati-prapūrṇa ㊦ 𑖀𑖄𑖅 [Kalpa の名] 喜満, 樂満 *Saddh-p.*

rati-priya ㊦ 性交中に心地よい.

rati-priti ㊦ ㊦ *Rati* と *Pṛiti*.

rati-phala ㊦ 性交の快樂を生ずる, 催淫の.

rati-bandhu ㊦ 恋人, 夫.

rati-bahula ㊦ 𑖀𑖄𑖅 多著快樂 *Divy.*

rati-bhavana ㊦ 快樂の家.

ratimat ㊦ 喜ばしい, 嬉しい; (㊦) を喜ぶ; 魅せられた; *Rati* に伴われた.

rati-mandira ㊦ 愛の部屋.

rati-ramaṇa ㊦ *Rati* の愛人すなわち愛の神.

rati-rasa ㊦ 性的享樂, 愛の喜び. ㊦ 愛の情緒をもつ.

rati-rahasya ㊦ 愛の秘戯, [書物の題名].

rati-rāgā ㊦ 𑖀𑖄𑖅 [Tantra 神の名] 喜欲母 *Mvyut.*

rati-lola ㊦ 𑖀𑖄𑖅 [魔子の名] 喜著 *Lal-v.*

rati-varhdhana ㊦ 恋の歡樂を充足させる.

rati-valli ㊦ 愛の蔓草, (蔓草に比えた愛).

rati-samyoga ㊦ 交接.

rati-sarvasva ㊦ 性的快樂の精髓; [ある性愛書の題名].

rati-saha-cara ㊦ *Rati* の伴侶, 愛の神.

rati-sena ㊦ [王侯の名].

rati-rata ㊦ 𑖀𑖄𑖅 樂 *Sikṣ.*: *buddha* ~ 心樂於仏 *Sikṣ.* 335; *dharma* ~ 樂法 *Sikṣ.* 335; *saṃgha* ~ 樂衆僧 *Sikṣ.* 335.

ratīśa (°*ti-iśa*) ㊦ *Rati* の夫, 愛の神.

ratuna ㊦ ㊦ [=*ratna*] 𑖀𑖄𑖅 宝 *Daś-bh.* 78.

ratotsava (°*ta-ut*°) ㊦ 愛の祭.

ratoparata-samsupta (°*ta-up*°) 𑖀𑖄𑖅 性的享樂後に眠った.

ratna ㊦ [*Rā*または *Ram*] (㊦): 贈物; 財産, 富; 𑖀𑖄𑖅: 財宝, 宝石, 宝珠とくに真珠, [(一°)の宝石=最上のまたは最勝の]; 磁石; 𑖀𑖄𑖅 宝, 珍宝, 宝具, 如意宝, (三) 宝, 希貴 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, 梵千., 梵維.; 𑖀𑖄𑖅 勒那 *Suv-pr.*: (𑖀𑖄𑖅) ~ *āni* 三宝 *Sūtr.* 8; *anirgrhīteṣu* ~ *eṣu* (王夫人) 宝未蔵 *Prāt-m.* V. 82; *trīṇi* ~ *āni* 三宝 [1. *buddhaḥ* 仏, 2. *dharmah* 法, 3. *saṃghaḥ* 僧] *Dharm-s.*, *Madhy-v.*; *sapta* ~ *āni* 七宝 [1. *suva-rṇam* 金, 2. *rūpyam* 銀, 3. *vaidūryam* 毗琉璃, 4. *sphaṭikam* 水精, 5. *musāragalvaḥ* 馬腦, 6. *lo-hita-muktikā* 赤珠, 7. *aśma-garbham* 虎魄] *Mvyut.*; *cakra-vartinām* *sapta* ~ *āni* 輪王七宝または *sapta* ~ *samanvāgataḥ* 成就七宝 [1. *cakra* ~ *m* 金輪宝, 輪宝, 2. *aśva* ~ *m* 馬宝, 3. *hasti* ~ *m* 象宝, 4. *maṇi* ~ *m* 摩尼宝, 珠宝, 5. *strī* ~ *m* 玉女宝, 女宝, 6. *khadga* ~ *m* 主兵宝, 7. *pariṇāyaka* ~ *m* 主蔵宝, *Mvyut.* は 6. を *gṛha-pati* ~ *m* 家主宝とし, 7. を主兵臣宝と訳す] *Dharm-s.*, *Mvyut.* ㊦ [人名].

ratna-karaṇḍa ㊦ 𑖀𑖄𑖅 妙宝篋, 珍宝異物篋器 *Suv-pr.*

ratna-karaṇḍaka ㊦ 𑖀𑖄𑖅 宝篋, 宝函, 三宝器 *Mvyut.*, *Suv-pr.*; 小塔 *Suv-pr.*; [経の名] 玉三宝(経), 大方広宝篋(経) *Mvyut.*: *dhātum* ~ *e* *nikṣipya* 仏舍利…置宝函中, 仏舍利…置小塔中 *Suv-pr.* 12.

ratnakaraṇḍaka-sūtra ㊦ 𑖀𑖄𑖅 宝篋経 *Sikṣ.*

ratnakaraṇḍa-sūtra ㊦ 𑖀𑖄𑖅 宝篋経 *Sikṣ.* [文殊師利現宝蔵経, 大方広宝篋経].

ratna-karṇikā ㊦ 宝石のある耳環 (*Divy.*); 𑖀𑖄𑖅 宝珠璫 *Divy.*

ratna-kalāśa ㊦ [人名].

ratna-kirīṭin ㊦ [ある *Kiṃnara* 王の名] (*Kar-vy.*).

ratna-kirti ㊦ 𑖀𑖄𑖅 [仏の名] 宝称 *Lal-v.*

ratna-kumbha 男 宝石をちりばめた瓶。
 ratna-kusuma-sampūṣpita-gātra 男 寶華嚴身 [仏の名]
 寶華嚴身 *Sukh-vy. II.*
 ratna-kūṭa 男 [鳥の名]; [菩薩の名]; 寶積, 寶
 嚴, 珍寶之積 *Kāśy.*; [經の名] 寶積, 寶峯, 寶積
 (經), (大)寶積(經), 寶集(經), 寶頂(經), 寶樓閣(經)
Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Śikṣ. [古大宝
 積經(大宝積經第四十三會), 大迦葉問大宝積正法經,
 遺日摩尼寶經, 摩訶衍寶嚴經].
 ratnakūṭa-sūtra 男 [經の名] 寶積經 *Śikṣ.*
 ratna-keṭu 男 [Buddha の名] (仏教); [菩薩の
 名] 寶幢, 寶相, 寶勝 *Aṭ-pr., Mvyut., Sam-r.,*
Suv-pr.; [經の名] 寶幢, 寶炬, 寶頂(經), 寶髻(經)
Mvyut.
 ratna-keśa 男 [Yakṣa の名] 寶髮 *Suv-pr.*;
 音写 勒那翅奢 *Suv-pr.*
 ratna-koṭi 男 [Samādhi の名] 寶積, 寶頂,
 (大)寶際 *Mvyut.*
 ratna-koṣa-nicaya 男 寶石と財宝との堆積。
 ratna-kṣetra-kūṭa-saṃdarśana 男 [菩薩の名] (*Lal-*
v.).
 ratna-khacita 男 寶石をちりばめた; 寶嚴 *Lank.*
 ratna-khāni 女 寶石の鉱山。
 ratna-garbha 男 寶石に充たされたまたはをちりばめ
 た。男 [菩薩の名] 寶藏 *Lal-v., Mvyut.*
 ratna-garbhā 女 大地。
 ratna-guṇa 男 (三)寶功德, (三)寶所有功德
Bodh-bh.
 ratnaguṇa-saṅcaya-gāthā 女 [經の名, 仏母寶德藏般
 若波羅蜜經].
 ratna-candra 男 [寶石の産地を護る神の名]; [菩薩
 の名] 寶月 *Saddh-p.*
 ratnacandrā-mati 男 [比丘の名].
 ratna-cūḍa 男 [菩薩の名] 寶髻, 寶頂, 寶髻頂
Mvyut.; [王の名] 寶髮, 寶髻 *Lal-v.*; [經の名] 寶
 髻(經) *Śikṣ.*; [人名] 寶髻, (音写) 寶周羅 *Gand-vy.*
 ratnacūḍa-pariprechā 女 [經の名] 寶髻菩薩所
 問, 寶髻菩薩所問經, 大宝頂請問經 *Śikṣ., Mad-*
dhy-v. = [ratnacūḍa-sūtra].
 ratnacūḍa-sūtra 男 寶髻經 *Śikṣ.* [寶髻菩薩所
 問經(大宝積經第四十七會)].
 ratna-caura 男 寶石の盜人。
 ratna-cchatrābhyudgatāvabhāsa 男 [仏の名] (*Lal-*
v.).
 ratna-cchāyā 女 寶石の反射または光輝。
 ratna-chatra-kūṭa-saṃdarśana 男 [菩薩の名]
 現寶積蓋, 現寶蓋 *Lal-v.*
 ratna-jāla 男 寶網, 寶羅網, 寶帳 *Lank., Sad-*
dh-p., Sukh-vy. I.
 ratna-talpa 男 寶石をちりばめた寝台。
 ratna-tejo'bhyudgata-rāja 男 [仏の名] 寶威德
 上王, 寶超威王 *Saddh-p.*
 ratna-traya 男 三宝 [1. Buddha 仏, 2. Dharma 法,
 3. Saṃgha 僧] (仏教); 三宝 *Bodh-bh., Ma-*
dhy-bh., Madh-vibh., Śikṣ.
 ratnatraya-pūjā 女 供養三宝 *Bodh-bh.*

ratna-daṇḍa 男 以宝為茎 *Divy.*
 ratna-datta 男 [諸人の名].
 ratna-darpaṇa 男 寶石の鏡。
 ratna-dīpa 男 寶石の燈 [寶石が燈心の代用をする].
 ratna-druma 男 珊瑚; 寶樹 *Gand-vy.*
 ratnadruma-pāṅkti 女 寶樹行列 *Gand-vy.*
 ratna-dvīpa 男 島(の名); 寶所, 珍寶處, 寶洲,
 寶洲渚, 寶地 *Divy., Gand-vy., Saddh-p.*
 ratna-dha 男 (因) 贈物または富を与える; 富を所有す
 る。
 ratna-dhā 女 [同上].
 ratna-dhvaja 男 [菩薩の名] 寶幢 *Mvyut.*
 ratnadhvaja-sūtra 男 [經の名, 大宝積經寶幢分, 宝
 星陀羅尼經].
 ratna-nadi 女 [河の名].
 ratna-nābha 男 寶石を臍とした (*Viṣṇu* 神).
 ratna-nidhāna 男 寶藏, 珠寶藏, (地中)伏藏 *Av-*
ś., Lal-v., Śikṣ.
 ratna-nidhi 男 真珠の生産地, 海洋。
 ratna-parikṣaka 男 別寶者, 別寶人 *Divy.*
 ratna-parikṣā 女 [仏典の名].
 ratna-parvata 男 寶石の山(=倉庫), *Meru* 山; 寶石
 の山 (*Sukh-vy. I.*); 寶山, 妙寶山 *Divy., Ga-*
nd-vy.
 ratna-pāṇi 男 寶手 *Gand-vy.*; [菩薩の名] 寶
 掌 *Mvyut., Saddh-p.*
 ratna-pīṭhā 女 [ある Gandharva 女の名] (*Kār-vy.*).
 ratna-pura 男 [都市の名].
 ratna-puṣpa-puṭa 男 寶華滿掬 *Saddh-p.*
 ratna-peṭaka 男 寶瓶, 寶匣 *Mvyut.*
 ratna-peṭā 女 寶篋 *Sūtr.*
 ratna-prakāśa 男 [ある辞典の題名].
 ratna-pratimaṇḍita 男 寶莊嚴 *Saddh-p.*
 ratna-pradīpa 男 =ratna-dīpa.
 -ratna-pradīpaka 男 [同上].
 ratna-prabha 男 [人名]; 寶 [ある神群の名] (仏教);
 [天子の名] 寶光 *Saddh-p.*
 ratna-prabhā 女 大地; [諸人の名]; [ある Nāgi の名];
 [ある Apsaras の名]; [*Kathā-sarit-sāgara* の第七
 章の題名].
 ratna-prabhāsa 男 [都城の名] 寶光, 寶光明 *Ra-*
śtr.
 ratna-prāsāda 男 寶石の宮殿。
 ratna-bandhaka 男 寶石を売る人, 寶石商。
 ratna-bhāj 男 贈物を分配する; 寶石を所有する。
 ratna-bhūta 男 寶石に類似した。
 ratna-mañjari 女 [ある Vidyādhari の名].
 ratna-mati 男 [ある文典家の名]; [仏の名および
 王子の名] 寶意 *Av-ś., Saddh-p.*
 ratnamaya 男 (因 -i) 寶石からなる, 寶石に富んだ;
 寶, 寶性, 寶所成, 以寶成, 寶所作, 以寶所
 作, 寶具, 其性寶, 寶基, 自然寶 *Mvyut., Saddh-p.,*
Suv-pr.
 ratnamaya-vaṣaṇa 男 嵌寶鈕, 嵌寶珊瑚 *Mvyut.*
 ratna-mālā 女 寶石または真珠の首飾り; [諸書の題
 名]; [ある Gandharva 女の名] (*Kār-vy.*).

ratna-mālin 形 宝石の首飾りを着けた。
 ratna-mukūṭa 男 菩薩 [菩薩の名] 宝鬘, 宝冠 *Mvyut.*
 ratna-mudrā 男 [Samādhi の名] 宝印 *Mvyut.*
 ratna-mudrā-hasta 男 菩薩 [菩薩の名] 宝印手 *Mvyut.*
 ratna-megha 男 経 [経の名] 宝雲(経), (三)宝雲(経) *Mvyut., Sikṣ.*
 ratnamegha-sūtra 中 経 [経の名] 宝雲経 *Sikṣ. (Madhy-v.)* [宝雨経, 大乘宝雲経].
 ratna-yaṣṭi 男 仏 [仏の名] 宝幢, 宝林 *Lal-v.*
 ratna-rakṣita 男 [仏教のある学匠の名].
 ratna-ratna 中 真珠中の真珠..
 ratna-ratha 男 宝車 *Saddh-p.*
 ratna-rāji 因 一連の真珠.
 ratna-rāsi 男 宝玉の堆積, 多量の真珠; 宝聚, 大宝聚, 珍宝聚, 珍宝之聚 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sikṣ.*
 ratnarāsi-sūtra 中 宝積経 *Sikṣ.* [宝梁経(大宝積経第四十四会)].
 ratna-rekhā 因 [王女の名].
 ratna-lingeśvara (°ga-iś°) 男 [顕現した形態の *Svayambhū* の称] (仏教).
 ratnavat 形 贈物を添えられた (RV. 用例一回のみ); 宝石または真珠に富んだ, 宝石で飾られた。
 ratnavat-supariśuddha-citta 形 心如宝善清浄, 心情如美玉, 心如無瑕大宝 *Mvyut.*
 ratna-vardhana 男 [人名].
 ratna-varman 男 [ある商人の名].
 ratna-varṣa 男 [ある *Yakṣa* 王の名].
 ratna-varṣā 因 [Tantra 女神の名]; 雨宝, 雨宝母 *Mvyut.*
 ratna-vibhūṣita 形 宝飾 *Saddh-p.*
 ratna-viśuddha 男 仏国 [仏国の名] 宝浄 *Saddh-p.*
 ratna-vṛkṣa 男 宝樹, 妙宝樹 *Saddh-p., Sukh-vy. II., Suv-pr.*
 ratnavṛkṣa-mūla 男 宝樹下, 衆宝樹下 *Suv-pr.*
 ratna-vyūha 男 世界 [世界の名] 宝莊嚴 *Lal-v.*
 ratna-vyomaka 中 宝台 *Saddh-p.* 410; 円光 *Lal-v.*
 ratna-śalākā 因 宝石の若芽または小枝。
 ratna-śāstra 中 [ある書の題名].
 ratna-śikhara 男 中 (?) 宝山頂上 *Laṅk.* 男 菩薩 [菩薩の名] 宝頂, 宝尖, 宝髻 *Mvyut.*
 ratna-śikhi 男 仏 [仏の名] 宝髻, 宝勝 *Suv-pr.* 135.
 ratna-śikhin 男 人名 [人名] 宝光 *Divy.*; [仏の名] 宝髻, 宝髮, 宝勝 *Lal-v., Mvyut., Suv-pr.*
 ratna-śri 因 [仏の名] (*Sukh-vy. I.*); [仏の名] 宝火 *Sikṣ.*
 ratna-śaṣṭhi 因 [ある儀式の名].
 ratna-saṃsparsa 男 捉宝, 捉持宝物, 執持宝物 *Mvyut.*
 ratna-saṃghāta 男 多量の宝石。
 ratna-samudgata 形 [Samādhi の名] 宝盛, 宝徧盛, 宝大勝, 涌出宝 *Mvyut.*
 ratna-saṃjñā 因 宝想, 如妙宝想 *Bodh-bh., Sā-*

tr.
 ratna-saṃbhava 男 仏 [仏の名] 宝生 *Mvyut.*; [菩薩の名] 出衆宝 *Lal-v.*; [他方世界の名] 宝生, 宝成 *Saddh-p.*
 ratnasambhava-vajra-sri 因 [Samādhi の名] 宝生金剛吉祥 *Guh-y-s.*
 ratna-saṃbhavā 因 [他方世界の名] 出宝 *Lal-v.*
 ratna-saṃmata 形 似宝, 宝類, 珍宝類, 大宝, 共知真宝, 称宝酬価 *Bodh-bh., Mvyut., Prat-m.*
 ratna-sānu 男 *Meru* 山。
 ratna-siṃha 男 [仏教のある学匠の名].
 ratna-sū 形 宝石を産出する。因 大地。
 ratna-sūti 因 大地。
 ratna-sūtra 中 宝繩 *Gaṇḍ-vy.*
 ratna-stūpa 男 宝塔, 宝寺 *Saddh-p.*
 ratna-svāmin 男 [(*Ratna* の造った)像の名].
 ratnākara (°na-āk°) 男 宝石の鉱山; 大洋; [諸人の名]; [神話上の馬の名]; [町の名]; [諸著作書の題名]; 宝蔵, 宝篋, 宝積, 宝生, 宝来, 宝事, 宝台, 財宝, 種種宝, 種種雜宝, 珍宝処 *Aṣṭ-pr., Laṅk., Mvyut., Rāṣṭr., Sūtr., 玄応.* [仏の名] 宝蔵 *Sukh-vy. I.*; 羅刹迦婆, 刺那伽羅, 闍那伽羅, 羅鄰那竭, 曷刺怛那揭婆 玄応。
 ratnākara-mahā-yāna-sūtra 中 経 [経の名] *Madhy-v.*
 ratnākara-mekhalā 因 (海に囲まれた), 大地。
 ratnānkura 男 小さい真珠。
 ratnānguriyaka 中 宝石の指環。
 ratnānguliyaka 中 [同上].
 ratnā-devi 因 [王女の名].
 ratnādhipati 男 [(財宝の主), *Agastya* の称または王侯の名].
 ratnā-pura 中 [町の名].
 ratnābha (°na-ābha) 形 宝光明 *Gaṇḍ-vy.*
 ratnābhibhāsa 男 [仏の名] (*Sukh-vy. I.*)
 ratnāya 名動 自 *ratnāyate* 宝石または真珠に類似する (*Jat-m.*).
 ratnāyita 名動 過受分 宝石に類似した。
 ratnārcis 男 仏 [仏の名] 宝焰, 宝光 *Lal-v., Sikṣ.*
 ratnāvati 因 [人名]; [町の名].
 ratnāvabhāsa 男 [Kalpa の名] 宝明 *Saddh-p.*
 ratnāvali (°na-āv°) 因 一連の真珠; [諸人の名]; [諸著作書の名, とくに *Harṣavardhana* 王に帰せられる戯曲の名]; 瓔珞, 珠貫 *Buddh-c., Divy.*; [仏典の名 (宝行王正論)] *Madhy-v.*
 ratnāsana (°na-ās°) 中 宝石を付した座。
 ratnāharaṇa (°na-āh°) 中 奪宝 *Mvyut.*
 ratnin 形 贈物を所有するまたは受ける (RV.); 王の重臣と側近の一群。
 ratnendra (°na-in°) 男 非常に高価な宝石。
 ratneśvara (°na-iś°) 男 [諸人の名].
 ratnoccaya (°an-uc°) 男 宝積 *Suv-pr.*
 ratnottama (°na-ut°) 男 [仏陀の名] (*Kar-vy.*).
 ratnottamā (°na-ut°) 因 [Tantra 女神の名] 勝宝母 *Mvyut.*

ratnotpala-śri (°na-ut°) 男 [仏の名] 宝華徳、如紅蓮華勝徳 *Sukh-vy. II.*
 ratnodbhava (°na-ud°) 男 [人名].
 ratnolkā (°na-ul°) 女 [経の名] 宝炬(経), 宝炬母; (音写) 三宝答刺(経) *Mvyut.*
 ratnotkā-dhāraṇi 女 [経の名] (音写) 宝光明陀羅尼, 宝光明陀羅尼経 *Sikṣ.* [大方広総持宝光明経].
 ratha 男 車, (二輪の) 戦車; 乗物; 戦士; 勇士; 車, 能便車, 馬車, 輅 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Mvyut., Saddh-p., Sūtr., 梵雑.*; 御法 *Mvyut.*; 兵 *Divy.:* ~e kṛtāvi samvṛttaḥ 善能乗輅 *Divy. 58.*
 rathaka 男 小馬車 (*Jāt-m.*).
 ratha-kalpaka 男 車を装備する者, 馬具匠.
 ratha-kāya 男 (戦)車の部隊, 車; 車軍, 車兵, 車衆 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*
 ratha-kāra 男 車匠, 大工; [ある混血種姓(階級)の名, *Māhiṣya* と *Karaṇi* の子孫]; 車匠, 造車匠, 輓匠; 皮物 *Mvyut.*
 rathakāratva 中 大工の職.
 ratha-kuṭumba 男 御者.
 ratha-kuṭumbin 男 [同上].
 ratha-kūbara 男 中 ながえ(輓).
 ratha-kṛt 男 車匠, 大工.
 ratha-ketu 男 車の旗.
 ratha-kṣobha 男 戦車の揺れること.
 ratha-gata 形 乗車, 載車 *Aṣṭ-pr.*
 ratha-gṛtsa 男 熟練した御者.
 ratha-ghoṣa 男 車の響きまたは轟き.
 ratha-cakra 中 車の輪; 輪 *Sikṣ.*
 ratha-carāṇa 男 [同上].
 ratha-caryā 女 車を駆ること [しばしば].
 ratha-jñāna 中 車を御する知識.
 ratha-jñānin 形 車を御することに熟練した.
 ratha-durga 中 車の群.
 ratha-dhur 女 車のながえ(輓).
 ratha-dhurya 男 優秀な戦士.
 ratha-dhuryatā 女 [同上 中] (*Jāt-m.*).
 ratha-dhūr-gata 形 車の前部にある.
 ratha-nābhi 女 車のこしき(轂).
 ratha-nirghoṣa 男 車の轟き.
 ratha-nisvana 男 車の音.
 ratha-nīda 男 中 車の内部または座席.
 ratha-nemi 女 車輪の外縁.
 ratham-tara 中 [諸 *Sāman* の名]. 男 [Agni 神の一形相 (*Tapas* の子と見なされる)].
 ratha-puṃ-gava 男 戦士の長.
 ratha-praṇetr 男 御者 (*Buddh-c.*); 御者 *Buddh-c.*
 ratha-praṣṭha 男 車の先導者.
 ratha-bandha 男 車を締め結ぶもの; 武人間の同盟.
 ratha-bhaṅga 男 車の破損.
 ratha-maṇḍala 男 中 多数の車.
 ratha-mahotsava (°hā-ut°) 男 車 (に載せた神像の) 厳粛な行列.

ratha-mārga 男 車道.
 ratha-yātrā 女 =ratha-mahotsava.
 ratha-yāna 中 車に乗って行くこと.
 ratha-yuga 男 車の輓.
 ratha-yuj 形 車に輓をつける または輓で車につけられた(RV.). 男 御者.
 ratha-yuddha 中 戦車の戦い.
 ratha-yūthapa 男 戦士の長.
 ratha-yoga 男 車につながれた一組の動物; 車の使用, 車を御する術.
 ratha-yojaka 男 車に輓を付ける人, 車を装備する人.
 ratha-yodha 男 戦車に乗って戦う人.
 ratha-raśmi 男 車の引き綱.
 ratha-vaṃśa 男 多数の車.
 rathavat 形 車をもつ, 車に伴なわれた(RV.); ratha という語を含む.
 ratha-vara 男 優れた車.
 ratha-vartman 中 車道, 大道.
 ratha-vāha 形 (女-i) 車を引く. 男 車の馬; 御者.
 ratha-vāhaka 男 御者.
 ratha-vijñāna 中 御することの知識または熟練.
 ratha-vidyā 女 [同上].
 ratha-vithi 女 車道, 大道.
 ratha-vraja 男 多数の車.
 ratha-vrāta 男 [同上].
 ratha-śakti 女 戦車上の旗竿.
 ratha-sālā 女 車庫, 馬車置場.
 ratha-sikṣā 女 御する術.
 ratha-siras 中 車の前部.
 ratha-śreṇi 女 車の列.
 ratha-sattama 男 もっとも優れた車.
 ratha-sārathi 男 御者.
 ratha-sāhvayā 女 鷺鳥の一種の雌.
 ratha-sūtra 中 車輛製造の規則.
 ratha-stha 形 戦車の上に立つまたはの上から戦う.
 ratha-svana 男 車の響きまたは轟き.
 rathākṣa 男 車の軸, [長さの単位の名, 104 aṅgula].
 rathāgra 中 車の前部.
 rathāgratas 副 車の前部において.
 rathāṅga 中 車の一部: 車輪; 円盤(とくに *Kṛṣṇa* 神または *Viṣṇu* 神の); 陶工のろくろ. 男 鷺鳥(の一種 [学名 *Anas casarca*]); 雙輪鳥 *Buddh-c.*
 rathāṅga-dhvani 男 車輪の轟き.
 rathāṅga-nāman 男 =cakravāka.
 rathāṅga-nemi 女 車輪の輪ぶちまたは外輪.
 rathāṅga-pāṇi 男 [*Viṣṇu* 神の称].
 rathāṅga-saṃjña 男 鷺鳥(の一種).
 rathāṅga-sāhva 男 [同上].
 rathāṅgāhva (°ga-āh°) 男 [同上].
 rathāṅgāhvayana (°ga-āh°) 形 車輪と称せられる; [dvija 男 とともに] 鷺鳥(の一種).
 rathānika 中 車の大群.
 rathāntara 中 他の車.
 rathā-rathi 副 車と車と相對して.
 rathārūḍha (°tha-ār°) 形 車に乗った.

rathāroha (°tha-ār°) 男 戦車に乗って戦う人；車に乗ること。

rathā-vaṭṭa 男 [人名].

rathāvayavāyudha (°va-āy°) 男 [(車または円盤を手にした, Viṣṇu 神 (Kṛṣṇa 神) の称].

rathāśva 男 馬車馬. 田 車と馬.

rathika 男 車の所有者または御者.

rathita 形 車をそなえた.

rathin 形 車を所有する, 車で行く；戦車からなる(軍隊)；車に属する(馬). 男 車の所有者；戦車に乗って戦う人；御者.

rathira 形 車を所有する, 車で行く；速かな(RV.).

rathi 1. 因 小さい車, 車.

rathi 2. 形 車で行く, 車に属する(因). 男 御者(因)；戦車に乗って戦う人；持導者；主長.

rathitara 男 [ある学匠の名]；(因) [その子孫].

rateśa (°tha-iśa) 男 車の所有者；戦車に乗って戦う人.

rathesā (°tha-iśā) 因 車のながえ.

rathoḍupa (°tha-ud°) 男 田 車体, 車内の荷物入れ.

rathottama (°tha-ut°) 男 最上の車.

rathotsava (tha-ut°) 男 =ratha-mahotsava.

rathopastha (°tha-up°) 男 軍の座席, 御者台.

rathya 形 車に属する またはに慣れている. 男 馬車馬.

rathya-caya 男 車につながれた一組の動物.

rathyā 因 車道, 大道；多数の戦車；(因) 街, 街道, 大道, 街道, 街巷, 巷, 里 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mv-yut.*, 梵千.

rathyā-coḍaka 男 (因) 弊帛 *Divy.* 415.

rathyā-paṅkti 因 街路の並び, 街路.

rathyā-mukha 田 街路の入口.

rathyāli (°yā-ali) 因 =rathyā-paṅkti.

rathyopasarpaṇa (°yā-up°) 田 街路を歩むこと.

Rad, I. 田 田 radati(-te) 因 ひっ搔く, 剥ぐ, かじる, かむ, 裂く；(因)を搔く等；切る, (路を)開く；(因)の溝を掘る；(因)に与える.
pra- (溝を)掘る, (路を)区画する.
vi- 裂く；(願望を)聴許する.

rada 形 (一°)を割る；…をかじる. 男 齒；(象)牙.

rada-khaṇḍana 田 齒でかむこと.

radana 男 =rada (男).

radana-cchada 男 唇.

radanikā 因 [人名].

radāṅkura 男 齒の先端.

radāvali-dvandva (da-āv°) 名動 田 radāvalidvāndvati 二列の齒のように見える.

raddhā 過受分 → Radh.

Radh, Randh, IV. 田 radhyati (因) に従属する, …の餌食になる；(因)を(因)の手に渡す. 過受分 raddhā 克服された. 使役 田 (因) randhayati(-te) (因) に手渡す, …の手にゆだねる；悩ます, 苦しめる(叙詩)；破壊する(P.)；(食物を)準備する(S.).
ni- 使役 nirandhaya- (自己の)掌中に収める.
pari- 使役 過受分 parirandhita (P.) 破壊された, 亡ぼされた.

radhra 形 (RV.) 進んでする, 従順な.

Ran, I. 田 (因) raṇati(-te)；IV. 田 raṇyati [RV. まれに] 1. (因, まれに(因))を喜ぶまたはに満足する(RV.)；満足させる(RV.)；2. I. raṇati 鳴り響く, (鈴等が)チリンチリンと鳴る；(因) 擊 *Aṣṭ-pr.*, 発響, 出音, 吼 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Saddh-p.*；有諍, 諍競 *Śikṣ.* 263. → rana. 過受分 raṇat；raṇamāna (因) 和鳴 *Saddh-p.* 過受分 raṇita 響いた, チリンチリン鳴る. 使役 田 (因) raṇayati(-te) (因)を喜ぶ, 快く(因)にとどまる(RV.)；(因)をもってまたは(因)において(ある人を)励ます；(因) 響かせる(P.)；(因) 起煩惱, 煩惱諍 *Abh-vy.*
pra- 鳴り響く(因)；(因) 徧吼, 徧擊 *Aṣṭ-pr.*
saṃ-pra- [同上]；(因) 等徧吼, 等徧擊 *Aṣṭ-pr.*

rantavyā 未受分 因 [Ram] 共に戯むれるべき(女).

ranti 因 [Ram] 欽楽, 快適, 快く(因)のもとにとどまること(因).

ranti-deva 男 [月種族の王の名]；[ある辞典編纂者の名].

ranti-bhāra 男 [王侯の名].

rantu-manas 形 楽しみたいと思う, 性交を享楽したいと願う.

Randh, → Radh.

randhana 形 (一°)を破壊する. 田 破壊；(食物の)準備, 料理.

randhi 因 服従；準備または料理されたこと.

randhra 田 孔口, 割れ目, 裂け目, 孔；空虚な所；(人体の)孔 [頭蓋骨の中にあると想像される一つの穴を加えて全部で十個あると仮定される]；不足, 不完全；欠点または弱点；(因) 過, 過短 *Bodh-bh.*

randhra-prahārin 形 (敵の)弱点をつく.

randhrāgata (°ra-āg°) 田 馬の病氣(の名).

randhrānusārin 形 欠点をうかがう.

randhrānvešin 形 [同上].

randhropanipātin (°ra-up°) 形 穴または弱点を突入する(不幸についていわれる).

Rap, I. 田 rapati しゃべる, ささやく(因). 強意 rārapiti [同上](因).

rapas 田 肉体の欠陥, 虚弱, 傷害(因).

Rapś, I. 田 -rapśate (因).
pra- 拡がりゆく.
vi- 満ちる, (因)に充滿する；(因)を過分にもつ.

rapśad-ūḍhan 形 乳房のふくれた(RV. 用例一回のみ).

Raph, [過受分のみ]. 過受分 raphita 悲惨な(RV. 用例一回のみ).

Rabh, I. 田 (因) rabhate(-ti) = Labh] つかむ, 取る；抱擁する；(因) 増長 *Aṣṭ-pr.*；勤修 *Lal-v.* 使役 田 -rambhayati. 希求 田 -ripsati.
ā- つかまえる, 占有する；(因)にもたれる(因)；達する(RV.)；(因, 不定)に着手する, …を企てる, …を始める；行動する；形成する, 作る, 産出する, 組立てる；(因) 発, 発生, 発起, 起, 能起, 立；発勤, 勤行, 勉, 勤修, 勤精進, 造修, 勇猛, 不懈 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mv-yut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, 申 *Abh-vy.* 田 ārabhyate 始まる；(因) 発, 初起去 *Madhy-v.*

過受分 ārabdha (業, 不定) を始めた; [しばしば 受の意義を普通とする 不定 とともに] 着手された, 企てられた, 始められた, …始められた; 始まる; (圓) で作られた, 組立てられた; (圓) によって産出された. **不変分** ārabhya [業 または 受 とともに] …に始まって, …から以後, …以来, 以下[引用文の場合の iti に続いて]; …に関して, …について (Jāt-m.); 依, 依止, 相応 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh.; 約 Abh-vy.: adyārabhya (°ya-ār°) 今日から以後; tadārabhya (°dā-ār°) 爾来, その時以来.

anv-ā- 背後からつかむまたは触れる; 後に引き寄せられる. **過受分** anvārabdha [能 および 受 の意義をもつ].

vy-anv-ā- 諸方面に触れる.

sam-anv-ā 互いにつかみあう, 共につかむ. **過受分** samanvārabdha つかまれた; 互いに握り合う, つかむ, (ある人に)触れる.

abhy-ā- つかむ, 触れる; …の上を歩む; 着手する, 始める.

prā(pra-ā)- (業, 不定) を企てる, 始める. **過受分** prārabdha 始められた, 企てられた; 始めた, (不定) し始めた.

vy-ā- **過受分** vyārabdha 種々の方法でつかまれたまたはしっかりと握られた.

sam-ā- (業, 不定) に着手する, …し始める, …を企てる; 発, 得, 建立 Lal-v., Lank., Saddh-p. **過受分** samārabdha 始められた, 企てられた; 建て始められた; 始まった, 起こった; (業, 不定) し始めた.

pari- だきしめる, 抱擁する. 希求 pariripsati 抱擁したいと思う.

sam- 占有する, つかむ; 興奮する. **過受分** samrabdha (圓) と手をたずさえた, 密接に結合された; 刺激された; 煽動させられた; [通常の意義] 憤激または憤怒した, (prati) に対して立腹または憤怒した; 怒った(言葉); 増した, ふくれた.

abhi-sam- つかむ (RV.). **過受分** abhisamrabdha 興奮した, 憤激した.

rabha 男 [ある猿の名].

rabhas 男 激烈, 暴力. 圓 rabhasā 副 激烈に, しいて, 荒々しく.

rabhasa 形 猛烈な, 性急な; (一°) に熱烈な, …を熱望する; 強力な, 有力な; 兆猛 Divy. 男 激烈, 性急; 迅速; (一°) に対する熱望; [ある呪文の名], [王侯の名]; [ある猿の名]; °一, 圓 副 rabhasena 副 激烈に, 熱烈に; 急いで, 速かに; 争, 狭 Mvyut.

rabhasā 女 激烈, 性急; 迅速; (一°) に対する熱望.

rabhasvat 形 性急な (RV.).

Ram. I. 他 (他動 にのみ) 自 ramati(-te) とどめる, 休息させる, 固着させる(因); (業) を喜ばせる; 静止する, 休息する; とどまることを好む, (圓, 因) のもとにとどまることを好む; 喜ぶ, 満足する; [普通の意義] (圓, 因, 時として 不定) を喜ぶ, …を楽しむ, …を好む; (圓 ±samam, saha, sākam,

sārdham) と楽しむ, …と性交する; 樂, 受樂, 喜, 歓, 歓樂, 歓喜, 歓娛, 娛樂, 快樂, 適悦, 戲, 遊戯; 味著 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Mvyut., Raṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I.; 安, 自安, 安処 Aṣṭ-pr., Lal-v: āsaneṣu ramante 安処其座, 於本座能自安 Aṣṭ-pr. 885.; te svaka-svakeṣu na ramante sma (世導漸近五人) 所居之处. (是時五人) 皆自不安 Lal-v. 408. **現分** ramamāṇa 娛樂, 歡娛 Bodh-bh., Madhy-v. **過受分** rata 満足した, 喜ばしい; (圓, 因, 一°) を楽しむ, …に熱中するまたはふける, …を実行する; (一°) を享樂する, …と性交する. 使役 他 (因) rāmayati, 他 (因, 業) ramayati 停止させる(因); 喜ばせる, (とくに性的に) 楽しませる, 愛撫する; 楽しむ. 使役 **過受分** ramita.

ati- 非常に楽しむ.

anu- 他 やむ, 中止する; 自 …を喜ぶ. **過受分** anurata (因, 一°) を楽しむ; 恍惚とした.

abhi- 嬉しくまたは満足に感ずる; (圓, 因) を喜ぶまたは楽しむ; (sahe+ 圓) を享樂する; 樂, 愛樂 Śikṣ. **過受分** abhirata 喜んだ, 満足した; (因, 一°) を楽しむ, …に熱中するまたはふける, …を実行する. 使役 他 abhiramayati 喜ばせる, 楽しませる; (業) を享樂する.

ā 他 (語ることを) やめる; よす; (因) を楽しむまたは喜ぶ; (圓 ±samam) と (性的に) 楽しむ. **過受分** ārata 中止した.

upā(upa-ā)- 他 休む; やめる, (因) をよす. **過受分** upārata (因) に基づくまたは固着した; 中止したら(因) を止る; (因) から自由な.

upa- 他 (他動), 自 (自動) 立ち止まっている, 休息する(因); 活動をやめる, 静止する, (語ること・行動すること等を) 中止する, (因) をやめる, よす, 諦める; (業) を期待する (Br.); 息, 殄滅, 銷滅 Aṣṭ-pr. **現分** uparamat 正死, 正死人 Abh-vy. 111. **過受分** uparata 静止した; 弱まった, 中止した, 止んだ, (音の) ない, 沈黙した(音について), 見えなくなった; 永眠した, 死んだ; (因) をやめたまたは諦めた; (一°) に対して冷淡になった.

vy-upa- 他 自 やめる; (因) をやめる. **過受分** vyuparata 静止した; 止んだ.

ni- **過受分** nirata (圓, 因, 一°) に喜ばせられたまたは満足した, …を喜ぶ, …にふける, …を実行する, …に忠実な. 使役 他 nirāmayati 抑留する, 束縛する (VR.); 他 ramayati (性的に) 喜ばせる, 愛撫する (P.).

vi- 他 (自) (語ること等を) 中止する, 中断する, やめる, 弱める, (夜が) 明ける, (火が) 消える; (因) をやめる, 放棄する; 厭捨 Divy. **過受分** virata 中止した, 弱まった; (語ることを) やめた; (因 一°, まれに 因) をやめた, (因, 動詞的 因 の 一°) することをやめた; riratam 他 非人 [vācā とともに] 談話は終わった.

pra-vi- **過受分** pravirata (因) をやめた, 思いとどまった.

prati-vi- [Pali paṭivirati 参照] (因) をさし控える,

…をやめる(*Divy.*); 離 *Bodh-bh.*

saṃ- 固 (固)を喜ぶ。

rama 固 (一)を喜ばせる, 楽しませる; 悦可 *Saddh-p.*

ramakatva 固 愛, 愛情。

ramaṇa 固 (固-i)喜ばせる, 楽しませる。固 恋人, 夫。固 快樂; 性の快樂, (恋の) 戯れ; 喜ばせること; (鹿を)おびき寄せること。

ramaṇaka 固 [人名]; [ある *Dvipa* の名]; [ある *Varṣa* の名]; [都市の名] (*Divy.*)。

ramaṇa-vasati 固 恋人の住み家。

ramaṇi 固 愛らしい若い女; 恋人, 妻。

ramaṇiya 固 喜ばしい, 魅力のある, 愛らしい; 楽, 愛楽, 可愛, 所愛楽, 可愛楽, 甚可愛楽; 甚可観; 甚清浄 *Divy., Lal-v., Sam-r., Sukh-vy.II.*

ramaṇiya-carana 固 心地よい行為または振舞いの。

ramaṇiya-janman 固 吉兆な生まれの, 吉兆な星の下で生まれた。

ramaṇiya-dāmaratva 固 魅力のある驚くべき性質。

ramaṇiyatara 固 さらに魅力のあるまたは愛らしい。

ramaṇiyataratva 固 [同上] (*Jat-m.*)。

ramaṇiyatā 固 魅力, 愛らしさ, 美。

ramaṇiyatva 固 [同上]。

ramaṇiyā 固 [ある歌手の名]。

ramayantikā 固 [ある踊り子の名]。

ramā 固 [*Lakṣmi* 神の称]; 資産, 富; 美。

ramā-kānta 固 [*Ramā* の恋人], *Viṣṇu* 神または *Kṛṣṇa* 神の称]。

ramā-nātha 固 [(*Ramā* の主), *Viṣṇu* 神または *Kṛṣṇa* 神の称]。

ramā-pati 固 [(*Ramā* の夫), *Viṣṇu* 神または *Kṛṣṇa* 神の称]。

ramāśraya (°mā-ās°) 固 [*Viṣṇu* 神の称]。

ramita 使役 過受分 → Ram- 喜, 歓娛 *Bodh-bh., Rāṣṭr.*

rameśa (°mā-īśa) = ramā-pati.

rameśvara (°mā-īś°) 固 [同上]。

Ramb, I. 固 rambate [=Lamb] 垂れ下がる (RV. 用例一回のみ)。

ava- 垂れ下がる (RV. 用例一回のみ)。

Rambh 1., I. 固 rambhate [きわめてまれに] 吠える(P.)。

upa- [きわめてまれに] 反響させる, 音をもって充たす(P.)。

Rambh 2., → Rabh.

rambha 固 杖, 支柱。固 [諸王侯の名]。

rambhā 固 (芭蕉の一種 [学名 *Musa sapientum*]); 娼婦; [ある *Apsaras* の名]。

rambhā-stambhana 固 *Apsaras Rambhā* を柱に変えること。

rambhoru (°bhā-uru) 固 (固-u) *Rambhā* 樹の幹のような腿をもつ。

ramya 固 愉快的な, 喜ばしい, 愛らしい, 美しい; 可楽, 可愛, 最殊勝 *Lal-v., Lanik.*

ramyaka 固 [*Āgnidhra* の息子の名]。固 [八 *Siddhi* の一] (*Sāṃkhya* 固)。

ramyatā 固 愛らしいこと, 美しいこと。

ramyatva 固 [同上]。

ramya-dāruṇa 固 美しくかつ恐ろしい。

ramya-rūpa 固 愛らしい姿をもつ, 魅力のある。

ramyā 固 夜; [*Meru* の娘の名]。

ramyāntara 固 道中の愉快的な(旅行)。

raya 固 [Ri] 潮流, 水流; 速力, 速度; 激烈, 熱心; [*Purūravas* の息子の名]。固 *rayeṇa*, 固 *rayā* 固 速かに。

rayi 固 [まれに 固] (固, 固) [Rā:授ける] 資産, 富 (固); 財宝, 貴重品(固)

rayintama 固 非常に裕福な (RV. 用例一回のみ)。

rayimat 固 (固) 富と結合した; 富んだ。

rayivat 固 (RV.)。=rayimat.

rayyā, [rayi の 固] (RV. 用例一回のみ)。

rayyā-vaṭṭa 固 [人名]。

rarāṭa 固 額, 眉 [=lalāṭa]。

rarāṭi 固 [*Havir-dhāna* (Soma を運ぶ車) の小舎の東の入口。ここに *Darbha* 草の花環をかける]。

rarāṭya 固 額に関する。

rarāṭyā 固 水平線または地平線; =rarāṭi.

rarāṇa 固 [Rā] 与える。

rarimā, [Rā の 固 固]。

rallaka 固 [鹿の一種]; 羊毛の布, 毛布。

rava 固 [Ru 1.] 咆吼, 呼び声, 叫び; 歌; ブンブンいうこと; 躁音, 音響; 継続する躁音, 雷鳴; 音, 声; 哭; 雷 *Bodh-bh., Lal-v., Rāṣṭr., Sikṣ., 梵難.*

ravāṇa 固 吠える, 叫ぶ, 鋭く叫ぶ, 歌う等。固 らくだ; かつこう; せきれい。

ravanaka 固 有舌水濾, 瓶濾有舌者 *Mvyut.*

ravat 固 → Ru 1.

ravi 固 太陽, 太陽神; 日 *Gand-vy., Lal-v., Rāṣṭr.*

ravi-kāntamaya 固 日長石からなる。

ravi-kiraṇa 固 日光。

ravi-gupta 固 [ある詩人の名]; [古師の名] 日蔵 *Mvyut.*

ravi-graha 固 日食。

ravi-grahaṇa 固 [同上]。

ravi-ja 固 太陽の子, 土星。

ravita 固 卒暴音 *Mvyut.*: nāsti ~ m 口無失, 無卒暴音 *Mvyut.*

ravi-tanaya 固 =ravi-ja; *Yama* 神。

ravi-tulya-rūpa 固 太陽の形に等しい形をした。

ravitṛ 固 叫ぶ人, 大声で叫ぶ人。

ravi-dina 固 日曜日。

ravi-nandana 固 =ravi-ja; [*Manu Vaivasvata* の 固系, 猿 *Sugriva* の 固系]。

raviṃ-dīptivat 固 如日照 *Lal-v. 282.*

ravi-bimba 固 日輪。

ravi-maṇi 固 日長石。

ravi-maṇḍala 固 日輪。

ravi-ratna 固 日長石。

ravi-vaṃśa 固 日種族。

ravi-vāra 固 日曜日。

ravi-vāsara 固 [同上]。

ravi-saṃkrānti 因 太陽が(黄道帯十二宮の一に)入ること。

ravi-suta 男 太陽の子=土星または *Sugriva* 猿。

ravi-soma-sama-prabha 形 太陽と月とに似た光をもつ。

raśanā 因 紐, 綱, 革紐; ばろく(馬勒); 馬の腹帯; (とくに婦人の)腰帯, 帯; 指(の譬喩的称呼)(RV.); 金帯 *Mvyut.* 一° 形 …に囲まれた; …に依存した。

raśanā-kalāpa 男 数条の紐からなる婦人の帯。

raśanā-kalāpaka 男 [同上]。

raśanā-guṇāspada (°na-ās°) 因 帯紐をつける位置, 腰。

raśanopamā (°nā-up°) 因 带状直喩 [第一の upameya が第二の upamāṇa となり, 第二の upameya が第三の upamāṇa となる…, このような一連の譬喩をいう]。

raśami 男 [=raśmi] 漢語 光明 *La-v.357.*

raśmi 男 紐, 綱; 引き革; 手綱; 鞭; 繩尺; 指(の譬喩的称呼); 光線; 光り; 光輝; 絡繩, 扯(?) *Mvyut.*; 光, 光明, 大光明, 光耀, 日光 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daśbh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lank., Mañj-m., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ., Sukh-vy., Sūtr., Suv-pr., Suvik-pr.,* 梵千。

raśmi-kalāpa 男 五十四連からなる真珠の首飾り。

raśmi-keṭu 男 [ある Rākṣasa の名]。

raśmi-kriḍa 男 [同上]。

raśmi-jāla 因 光線の網, 多量の光線; 光網, 光明網, 網光, 大光明 *Gaṇḍ-vy., Suv-pr.*

raśmijāla-pramuñcana 因 放(大)光網 *Gaṇḍ-vy.*

raśmi-dhāra 男 馭者 (*Buddh-c.*)。

raśmin 形 一° 手綱。

raśmi-piṇḍa 男 円光 *Guhy-s.*

raśmi-pragraha 男 扯手 *Mvyut.*

raśmi-prabhāsa 男 [仏の名] 光明 *Saddh-p.*

raśmi-pramukta 男 [Samādhi の名] 放光, 極発光 *Mvyut.*

raśmi-pramokṣaṇa 因 放(大)光明 *Bodh-bh.*

raśmi-pramocaka 形 放光明 *Bodh-bh.*

raśmi-pramocana 因 放光 *Saddh-p.*

raśmi-maṇḍala 因 光輪。

raśmimat 形 輝く。男 太陽; [人名]。

raśmimaya 形 (因 -i) 光線からなる。

raśmi-mālin 形 光の環をもつ。

raśmi-muca 男 (光を放つ者), 太陽。

raśmivat 形 輝く。男 太陽。

raśmi-śata-sahasra-paripūrṇa-dhvaja 男 [仏陀の名]。

raśmy-avabhāsa 男 光明 *Mañj-m.*

Ras 1., I. 因 (自) rasati(-te) 吼える, わめく, 叫ぶ; 響く, 反響する。過受分 rasita 不明瞭な音を出す; 響く, チリンチリン鳴る。

anu- 過受分 anurasita 叫び声・わめき声等を伴った。

ā- 吼える, 絶叫する。過受分 ārasita 絶叫する。

prati- 反響する。

vi- 絶叫する。

Ras 2., I. 因 rasati; IV. 因 rasyati; X. 因 ra-

sayati(-te) 味わう; 賞味する; 感ずる。希羽 使羽

因 rirasayiṣati 味わいたいと思う。

rasa 男 [Ras 2.] (草木の)汁, 液, 果汁シロップ; 流動物, 液体; 水; (ある物の)本質, 心髄; 乳糜; 水銀; 一服の水薬, 妙薬; 一服の毒液; 味, 風味 [流動物の区別を表わす性質として使用する: 甘・塩・苦・酸・辛・渋の六種の別がある]; 味覚の対象物; 味覚器官, 舌; (因 ±upari, 一°) に対する賞味・嗜好・愛好または親愛; 欲望; 愛情; 快楽, 喜び; 魅惑; (詩における風味または基調), 情趣, 情緒, 情感 [一般に八が区別されるすなわち恋愛・勇武・嫌悪・激怒・歎笑・恐怖・憐愍・驚異であって, 時として第九寂靜, 第十柔和が加えられることがある]; (人間の性格中の) 主な情感; 聖音 om; 汁, 漿; 精; 淳; 味, 美味, 嗜於味, 飯食 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Lank., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Suv-pr., Vaiś-s., Vajr-pr. : ṣaḍ-vidhaḥ* 六味 [1. madhuraḥ 甘, 2. āmlaḥ 醋, 3. lavaṇaḥ 塩, 4. kaṭukaḥ 辛, 5. tiktāḥ 苦, 6. kaṣāyaḥ 渋] *Dharm-s.36.* (漢訳欠), *Mvyut.* → jyoti ~。

rasaka 因 肉のスープ。

rasa-karman 因 液体を啜る祭儀; 水銀の調製; 水銀によって行なわれる処置; 水金 *Mvyut.*

rasa-krama 男 順次に生起する情緒。

rasa-guṇa 形 味の特質をもつ。

rasa-graha 形 風味を解する; 快楽を味得する。男 味覚器官。

rasa-grāhaka 形 味を知覚する。

rasa-ghana 形 液汁にみちた, 全く液汁からなる。

rasa-ja 形 流動物で育てられた。

rasa-jña 形 (因 一°) の味を知る, …の快楽を味得する; (因, 一°) に精通した; 鑑識力のある。因 舌。

rasa-jñatā 因 (因, 一°) の味の知識または鑑賞, …に精通すること。

rasa-jñatva 因 [同上]。

rasa-jñā 因 舌。

rasa-tanmātra 因 五唯(tanmātra)の一 (*Sāṃkhya* 哲学)。

rasatama 男 諸液汁中の最上の液汁, 諸精髓中の最上の精髓。

rasatas 副 味に従って。

rasatā 因 流動性; 飲食 *Lank.* ~m upeta 液体となった。

rasatva 因 [同上]。

rasa-da 形 樹脂を滲出する。男 (薬を与える), 医者。

rasa-dhātu 男 味界 *Mvyut.*

rasana 1. 因 吼えること, わめくこと; 絶叫すること; カアカア鳴くこと; 反響すること等。

rasana 2. 男 たんまたはだ液。因 味; 味覚器官; 知覚; 舌, 嘗 *Madhy-v., Sāṃkhy-k.*

rasanā 1. 因 舌。

rasanā 2. 因 [しばしば raśanā と誤用されることがある]。

rasanā-mūla 因 舌のつけ根。

rasa-nāyaka 男 [*Kāma* 神の称]。

rasaniya 未受分 味わわれるべき。

rasanendriya (°na-in°) ㊦ 味覚器官。
 rasa-pati ㊦ 水銀。
 rasa-pācaka ㊦ 料理人。
 rasa-prabandha ㊦ (形 合成 -ā) 詩的作品とくに戯曲。
 rasa-bandhana ㊦ [(恐らくは)内臓の一部分の称]。
 rasa-bhāva*vid ㊦ 情緒および感情を知る。
 rasa-bheda ㊦ 諸種の混合剤；[水銀剤の一種]。
 rasa-bhedin ㊦ 味または風味の異なった；液汁を放出する(熟して裂けた果実)。
 rasamaya ㊦ (因 -i) 液汁・液体・水または水銀からなる；魅力のある。
 rasa-mātra ㊦ =rasa-tanmātra。
 rasayati ㊦ ㊦ 風味のあること。
 rasayitavya ㊦ ㊦ 味わわれるべき，風味のある。
 rasa-yoga ㊦ ㊦ 科学的に混合した液，調剤した混合液。
 rasa-rasāgratā ㊦ ㊦ [三十二相の一] 上味相，得味中上味，於諸味中得最上味，於諸味中常得上味相，次第得上味相，咽中津液得上味相 *Bodh-bh., Dharm-s., Mvyut.*
 rasa-rasāgra-prāpta ㊦ ㊦ [三十二相の一] 味中得上味，於諸味中得最上味，次第得上味 *Bodh-bh.*
 rasa-rasāgravat ㊦ ㊦ [三十二相の一] 味得上味 *Lal-v.*
 rasa-rāja ㊦ 水銀。
 rasa-vajra ㊦ ㊦ [菩薩の名] 金剛味 *Guhy-s.*
 rasavat ㊦ 液汁の多い，多汁の；風味のよい，風味のある；液汁でみたされた；湿気が多い(畑)；(因)であふれた；趣きのある，魅力のある。 ㊦ 趣きのある姿態。
 rasavati ㊦ 料理場；食事。
 rasavattā ㊦ 液汁の多いこと；味のよいこと；趣きのあること。
 rasa-varja ㊦ 味または風味を避けること。
 rasa-varjam ㊦ 味を除いて。
 rasa-vāda ㊦ 錬金術。
 rasa-vikrayin ㊦ 酒商，液汁商。
 rasa-vikretr ㊦ [同上]。
 rasa-vid ㊦ 味を知る；よい趣味をもつ。
 rasa-śāstra ㊦ 錬金術。
 rasa-śodhana ㊦ 水銀の浄化。
 rasa-siddha ㊦ (水銀に巧みな=)錬金術に熟練した；(詩的)情緒に熟達した。
 rasa-siddhi ㊦ (水銀に巧みなこと)，錬金術に熟練したこと。
 rasa-svabhāva ㊦ ㊦ [菩薩の名] 味自性 *Guhy-s.*
 rasā ㊦ 湿気 (RV.)；[世界と空界の周囲を流れる神話上の河] (RV.)；[河の名] (RV.)；地獄界(壘)；土地，大地(壘)。
 rasāgra ㊦ ㊦ 上味，上好味，最上味 *Bodh-bh., Śikṣ.*
 rasā-tala ㊦ (壘) 地下界，地獄；[七地獄中の第四または第七地獄の名]；地表。
 rasātmaka (°sa-āt°) ㊦ (因 -ikā) 液汁または甘露を本質とする(月)；上品な(言葉)。
 rasādhika ㊦ 上品な；快樂に富んだ。

rasādhipatyā (°sā-ādh°) ㊦ 地獄の主権。
 rasāntara ㊦ 趣味の差違；他の趣味または快樂；詩的
 情緒の変化。
 rasāntara-vid ㊦ 異なった趣味をもつ。
 rasābhāsa (°sa-ābh°) ㊦ ただ見かけだけの詩的情緒
 ；詩的情緒の不適當な表明。
 rasābhyantara ㊦ 水または愛に満たされた。
 rasāyatana (°sa-āy°) ㊦ ㊦ 味入，味処，味界 *Mvyut.*
 rasāyana ㊦ 延命薬，不死の靈薬 [時としてその関係
 する語の性に従う]，虫くだし；㊦ 取味，金丹
Mvyut.
 rasāla ㊦ まんごう樹；二十日鼠(の一種)。
 rasālā ㊦ 砂糖と香料を混ぜた凝乳；*Dūrvā* 草。
 rasāvāśeṣa-bhoktr ㊦ ㊦ 貪食残味，貪嗜残味
Śikṣ.
 rasāsvāda (°sa-ās°) ㊦ 快感。
 rasika ㊦ 趣味のある，審美的な；(因，一°)に対する
 趣味またはの感覚をもつ，…を好む，…を鑑賞する，
 …を理解する；特殊の趣味または道楽をもつ；(因，
 一°)に専念する；風流な；㊦ 喜，親 *Mvyut.*
 rasikatā ㊦ (因)に対する趣味または愛好。
 rasikatva ㊦ 専念，耽溺。
 rasita ㊦ ㊦ → Ras. 1. ㊦ 咆吼，わめき声，叫び
 声；反響，雷鳴；ガラガラ鳴ること，チリンチリン
 鳴ること。
 rasitavat ㊦ 味わった等。
 rasitāśin (°ta-ās°) ㊦ 単なる物音だけで破壊する。
 rasitr 1. ㊦ [Ras 1.] ほえるもの。
 rasitr 2. ㊦ [Ras 2.] 味わうもの。
 rasin ㊦ 液汁の多い；趣味のある，審美的な。
 rasendra (°sa-in°) ㊦ 水銀。
 raseśvara (°sa-iś°) ㊦ [同上]。
 rasona ㊦ [植物の一種，学名 *Allium ascalonicum*]。
 rasopeta (°sa-up°) ㊦ ㊦ 味具足 *Aṣṭ-pr.*
 rasollāsa (°sa-ul°) ㊦ (一°)に対する欲望の目覚め。
 rosollāsin (°sa-ul°) ㊦ (一°)に対する欲望の目覚め
 を感ずる。
 rasaukas (°sā-ok°) ㊦ ㊦ 地獄の住居。 ㊦ 地獄の住
 者。
 rasaujas (°sa-oj°) ㊦ ㊦ 滋味 *Suv-pr.*
 rasya ㊦ ㊦ 味わわれるべき；風味のよい。
 Rah, I. ㊦ rahati 分かつ，分離する。 ㊦ rahayati
 捨てる，見捨てる；(因)を断念させる。 ㊦ rahita
 見捨てられた，捨てられた，淋しい(場所)；
 (因，一°)から分離された，…から解放された，…に
 欠乏する，…を欠く；一° ㊦ 欠けている，不在の：
 rahite 淋しい場所で，ひそかに。
 vi- ㊦ virahayati 去る，見捨てる；㊦ 除，離
Abh-vy. ㊦ virahita 棄てられた，遺さ
 された；(因，一°)から分離した，…から解放された，
 …を欠く，…のない。 ㊦ virahitāt (因)を除いて
 (*Kār-vy.*)
 rahaṇa ㊦ 分離。
 raha-rūḍha-bhāva ㊦ 人目を避けて退いた，内密な，
 秘密な。

rahaḥ-śīla 形 内気な, 寡黙な。
 rahaḥ-śuci 形 秘密の使命を果たした。
 rahas 1. 中 隠退, 孤独; 淋しい場所; 秘密; 密, 隠, 竊, 屏, 屏処, 静処, 閑静, 独処, 寂静処, 空閑処, 独屏覆処, 無人見処 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Mvyut.*, *Prāt-m.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; ~i niṣadyā 屏処坐, 同居静処 *Mvyut.*; ~i sthānam 屏処立, 同立静処 *Mvyut.*; manuṣya~sevita 人不狎習 *Bodh-bh.* 8. → a~. 業 rahaḥ, 因 rahasi, rahassu, 副 淋しい場所で; 秘密に, 内密に。
 rahas 2. 中 =raṃhas.
 rahas-kara 形 (因)の秘密の使命を果たす。
 rahas-praticchanna 形 屏処 *Prāt-m.*
 rahaspraticchannāsana (°na-ās°) 中 独屏覆処 可姪処坐 *Prāt-m.*
 rahasya 形 秘密の [romāṇi とともに: 陰毛]. 中 秘密; 神秘, 神秘学説; *Upaniṣad*; 大密, 秘密, 秘要, 秘要之蔵 *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.* ~m 副 秘密に。
 rahasya-dhāriṇi 因 秘密を打明けられる(女性の)友。
 rahasya-dhārin 形 秘密をもつまたは内情に通じた。
 rahasya-nikṣepa 男 打明けられた秘密。
 rahasya-bheda 男 秘密の暴露。
 rahasya-bhedana 中 [同上].
 rahasya-saṃrakṣaṇa 中 秘密を守ること。
 rahasyākhyāyin (°ya-ākḥ°) 形 秘密(であるかのよう)に私語する; 秘密の報告をする。
 rahasyālocanā (°ya-āl°) 因 秘密事を熟慮すること。
 rahaḥ-sakhi 因 秘密の, または親密な女友達。
 rahaḥ-stha 形 淋しい場所に立つ, 離れてまたは独り立つ; 恋を享受している。
 rahita 使役 過受分 → Rah. 離, 遠離; 無 *Abh-vy.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Nyāy-pr.*, *Raṣṭr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*
 rahitatā 因 離, 遠離 *Madhy-vibh.*, *Vijñ-t.*
 rahitatva 中 (一)の欠乏; 離 *Sūtr.*
 rahita-ratna-caya 形 沢山の珠玉を欠いた。
 rahitāsura (°ta-ās°) 形 神格を欠いた。
 rahū-gaṇa 男 [ある讃歌の作者の名]; 種 [Āṅgīrasa 族に属する家族の名].
 raho-gata 形 淋しい場所に退いた, 孤独である; 秘密の; 独坐, 処閑静, 処空閑, 在空閑処, 於空閑処, 在寂静処, 住於空静, 居閑静, 住於空閑寂静之处, 独処閑静, 独一静処, 住独一静処 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Śikṣ.*: ekākiṇo ~āḥ 静居, 暗処寂止 *Mvyut.*
 raho'nuśāsaka 男 密師, 屏教師 *Mvyut.*
 raho-mānin 形 身を隠したと思っている (*Jāt-m.*).
 raho'vastha 形 共住屏処 *Śikṣ.*
 raho-vihāra 男 中 屏処 *Bodh-bh.*
 Rā 1., II. 中 (因, 中) rāti, 自 (因) rāte, 重字 rara (因), rarā, rari (因), riri (RV.) 与える, 授ける, 贈与する. 過受分 rāta.
 sam- (因) [=単純動詞].
 Rā 2., IV. 中 rāye'ti (RV.) ほえる; ほえつく.
 abhi- (因) ほえつく.

-rā 形 授ける, 贈与する。
 rākā 因 満月(の日を支配する)女神; 満月の日; 満月 [Āṅgīras の娘の名]; [人名]; [河の名].
 rākā-candra 男 満月。
 rākā-niśā 因 満月の夜。
 rākā-pati 男 満月。
 rākā-yajña 男 満月祭。
 rākā-ramaṇa 男 満月。
 rākā-vibhāvari 因 満月の夜。
 rākāvibhāvari-jāni 因 満月。
 rākā-śaśāṅka 男 [同上].
 rākā-śaśin 男 [同上].
 rākā-sudhākara 男 [同上].
 rākendivara-bandhu (°kā-in°) 男 [同上].
 rākendra (°kā-in°) 男 [同上].
 rākeśa (°kā-iśa) 男 [同上].
 rākṣasa 形 (因 -i) Rakṣas すなわち悪魔に属するまたは特有な, 悪魔の; [vivāha, dharma または vidhi とともに: 結婚の様式の名(掠奪結婚)]. 男 夜の悪魔, 悪魔; [Nanda の大臣の名]; 悪鬼, 魅 *Daś-bh.*, *Mvyut.*; 護者 立応; 音写 羅刹, 羅叉, 羅刹, 羅刹娑, 羅叉娑, 囉刹娑, 邏刹娑, 阿落刹娑 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Divy.*, *Guhy-s.*, *Lank.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, 梵雑., 立応.
 rākṣasa-graha 男 病魔(の一種).
 rākṣasatā 因 Rākṣasa たる状態。
 rākṣasatva 中 [同上].
 rākṣasa-pati 男 [Rāvaṇa の称].
 rākṣasa-bhāva 男 =rākṣasatā.
 rākṣasādhipati 男 音写 羅刹王, 夜叉 (=yakṣa)王 *Lank.*
 rākṣasi 因 女性の Rākṣasa すなわち魔女; 淫鬼 *Lal-v.*; (音写) 羅刹女 *Lank.*, *Saddh-p.*
 rākṣasi-Kṛ, Rākṣasa とする。
 rākṣasi-dvipa 男 中 鬼界 *Saddh-p.*; (音写) 羅刹鬼国 *Saddh-p.*
 rākṣasi-BHū, Rākṣasa となる。
 rākṣasi-bhūta 形 Rākṣasa となった。
 rākṣasi-saṃjñā 因 音写 羅刹想, 羅刹鬼想 *Gaṇḍ-vy.*
 rākṣasendra (°sa-in°) 男 Rākṣasaの王(とくに *Rāvaṇa* の称); (音写) 羅刹王, 夜叉 (=yakṣa)王 *Lank.*
 rākṣasesvara (°sa-iś°) 男 [同上].
 rākṣoghna 形 (因 -i) 悪魔退治者 (rakṣoghna) に関する. 中 [種々の Sāman の名].
 rāga 男 [Raj] 彩ること, 染めること; 色; 赤いこと; (因, 一)に対する情熱, 激しい欲望, 愛, 愛情 または同情, …における喜びまたは楽しみ; 鼻音化; 愛らしさ, (声または歌の)美しさ; 音階 [通常六種が数えられるが名称は一定しない: Śrirāga, Bhairava, Megha, Kauśika, Hindola Dipaka; または Śrirāga, Bhairava, Megha, Vasanta, Pañcama, Natanārāyaṇa; または Śrirāga, Vasanta, Mālava, Mallāra, Karnāṭa, Hillola; 時として七種または二十六種が数えられることもある]; 貪, 貪愛, 貪欲, 貪染, 貪怒慾; 欲, 欲著, 愛欲; 染, 染法, 愛染.

染愛心 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Dharm-s., Divy., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Madhy-v., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mṛyut., Saddh-p., Sam-r., Sāṃkhy-k., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr., Vijñ-t.*; 音写 囉訖 *Guhy-s.*: *tivram ~cittam utpādayām āsa* 心生愛染, 生染愛心 *Gaṇḍ-vy. 405.* → *padma ~, vita~.*

rāga-khāṇḍava 男 田 [砂糖製品の種類].

rāga-khāṇḍavika 男 [同上] を作る人.

rāga-grāhvat 形 わににたとえられるべき情欲をもつ.

rāga-grāhvat 形 [同上].

rāga-carita 形 貪欲, 貪欲多者, 貪行, 貪行者, 貪行多者, 貪行人, 多欲人, 多欲之人 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Sūtr.*

rāga-cikitsā 女 醫 治其欲著 *Sam-r.*

rāga-tattvārtha-cintaka 形 了貪法実義 *Guhy-s.*

rāga-doṣa 男 [恐らくは =*rāga-dveṣa*].

rāga-dravya 田 着色材, 染料.

rāga-dveṣa 男 田 愛憎.

rāga-dveṣa-moha 男 貪 貪腹癡, 貪恚癡 *Laṅk., Mudhy-bh.*

rāgadveṣamoha-parimokṣaṇa 男 [Samādhi の一種] (*Kār-vy.*).

rāga-niṣyanda 男 貪 貪生, 從貪欲生 *Abh-vy.*

rāga-nisūdana 田 消貪欲 *Mṛyut.*

rāga-parimuktā 女 [ある Gandharva 女の名] (*Kār-vy.*).

rāga-prāpta 形 欲望に応じた, 官能を満足させる.

rāga-bandha 男 愛情(のあらわれ).

rāga-bandhana 田 愛欲縛 *Sam-r.*

rāga-bhañjana 男 [ある *Vidyādhara* の名].

rāga-mañjarikā 女 [同下 音小].

rāga-mañjari 女 [人名].

rāgamaya 形 赤い; 熱愛する.

rāga-rakta 形 貪 貪求, 染染者, 染及染者, 染法染者, 染者及染法 *Madhy-v.*

rāga-rajju 男 愛の神.

rāga-lekhā 女 色彩の線; [人名].

rāgavat 形 赤い; 好む; 熱愛する.

rāga-śāḍava 男 [ざくろとぶどうと *Phaseolus Mungo* の液汁を混ぜて作った一種の砂糖菓子またはシロップ(一説に, しょうが・しょうずく・油・バターのシロップに漬けた未熟のまんごう)].

rāga-śāḍhava 男 [同上].

rāga-samutthita 形 貪 貪所起 *Bodh-bh.*

rāgāgni 男 貪 貪欲火 *Laṅk.*

rāgāṅka 男 貪 欲鉤 *Śikṣ.*

rāgātmaka (°*ga-āt*°) 形 (女 -*ikā*) 熱情からなる, 熱情のあふれた.

rāgāndha 形 情熱または欲望に目がくらんだ.

rāgiṇi 女 [*rāga* (音階)の変化形, 三十または三十六が数えられる].

rāgitā 女 (因, 一°)に対する欲望.

rāgin 形 彩られた, 染められた; 赤い; 情熱または欲

望にみちた; 熱情のあふれた; 愛に支配された, 愛する; (因, 一°)を熱烈に好む, …に献身するまに憧れる; (一°)を喜ばす [まれに]; 貪 貪, 著欲者 *Abh-k., Abh-vy., Buddh-c.* → *mandala*

Rāgh I. 田 *rāghate* できる, しうる.

rāgh 形 巧妙な. 男 有能な人.

rāghava 男 *Raghu* の子孫 [*Aja, Daśaratha* およくに *Rāma* の (因) *Rāma* と *Lakṣmaṇa* の (因) [大魚の一種]; 龍王の名] 悟子(?) *Mṛyut.* (音写) 羅瞿子 *Mṛyut.*

rāghava-pāṇḍaviya 田 [ある詩の題名, 各詩節は二の意味をもち, 同時に *Rāmāyana* と *Mahābhārata* との内容を盛ったもの].

rāṅkava 形 (女 -*i*) *Raṅku* と呼ばれる鹿に属するたは特有な; *Raṅku* の毛をもって製した, 毛織の男 毛織物, 毛布.

rāṅkava-kūṭa-sāyin 形 毛布の堆積の上に臥す.

rāṅkavājina-sāyin 形 毛皮の上に臥す.

rāṅkavāstarāṇa (°*va-ās*°) 田 毛織の掛けぶとん.

rāṅkavāstrta (°*va-ās*°) 形 毛布で覆われた.

Rāj, I. *rājati* (因, 音), *rājate* (音); II. 田 *rā* (*RV.*) [まれに], (他動 および 自動) 支配する, 治する; 王または首領である; (因)を支配する; 顕である, まばゆく輝く, 光る; (*iva*) のように見る. 過受分 *rājita* 顕著な, まばゆく輝く, 光輝る, (因, 一°)をもって顕著な等. 使役 他 *rājayati(-te)* 支配する.

nī(nis) 使役 *nirājayati(-te)* 輝かせる, 照らす; (因)に対して *Nirājana* と称する祭儀を行なう. 過受 *nirājita* 輝く; *Nirājana* 祭で清められた.

vi- 支配する(因); (因, 因)を支配する(因); (因)を越する; まばゆく輝く, 光る; (*iva*) のように見る; 照, 普照, 曜, 為照曜, 現, 高頭, 有光 *Lal-v., Laṅk., Rāṣṭr., Saddh-p.* 過受分 *virājī* (因, 一°)によって顕著な, …をもってまばゆく輝くまたは光輝ある. 使役 *virājayati(-te)* 輝かせる, らす, 明らかにする.

ati-vi- 非常によく輝く.

anu-vi- (因)に従って輝く, に従う (*RV.*).

saṃ- (因)を支配する.

rāj 男 [因 *rāt*] [因は 一°のみ] 支配者, 王.

rāja-ṛṣi 男 =*rāja-ṛṣi*.

rājaka 男 小王; [韻律 および 一° =*rājan*] 王; [人名]. 田 諸王の集会.

rāja-kathā 女 諸王の歴史; 說王事, 論說王事 樂說官事 *Aṣṭ-pr.*

rāja-kanyakā 女 王の娘, 王女.

rāja-kanyā 女 [同上].

rāja-kara 男 王に納めるべき貢.

rāja-karaṇa 田 法廷.

rāja-karṇa 男 象牙.

rāja-kartṛ 男 王を立てる人; 王を即位させる人々.

rāja-karman 田 王の義務; 王に対する奉仕; *Soma* 祭.

rāja-kalāśa 男 [諸人の名].

rāja-kalā 女 月輪の第十六の部分, 新月, 三日月.
 rāja-kali 男 悪王.
 rāja-kārva 中 王の務め, 国事; 王の命令; 漢訳 王事, 国事 *Gand-vy., Kāśy., Suv-pr.*
 rāja-kilbiṣin 形 王として違犯した.
 rājakiya 形 王の. 男 王臣.
 rāja-kuñjara 男 (象の王), 偉大なまたは有力な君主; 漢訳 大聖王 *Sam-r.*
 rāja-kumāra 男 王の息子, 王子; 漢訳 王子 *Lal-v., Rāṣṭr., Saddh-p.*
 rāja-kumārikā 女 王女.
 rāja-kula 中 王室 [種 諸王]; 王宮 [また法廷の用をする]; 大道; 漢訳 王家, 国王家, 王宮, 王宮宅, 宮殿, 城闕; 王座; 王族, 王種姓; 宮眷属; 官, 官司, 法官処 *Bodh-bh., Divy., Lal-v., Mvyut., Suv-pr., 梵千., 梵雜.*
 rājakula-bhaṭṭa 男 [ある詩人の名].
 rājakula-madhyagata 形 漢訳 在王族中, 住宮眷属中 *Mvyut.*
 rājakula-rātri-caryā 女 漢訳 宮殿中夜入, 宮殿中夜行, ((夜))八王宮門 *Mvyut.*
 rāja-kṛt 男 王を立てる人.
 rāja-kṛtya 中 王の義務, 国事; 漢訳 王事, 国事 *Aṣṭ-pr.*
 rāja-kośa 男 漢訳 官物 *Gand-vy.*
 rājakośa-vilopin 形 漢訳 竊盗官物, 私竊官物 *Gand-vy.*
 rāja-kratu 男 王の祭祀.
 rāja-kriyā 女 王の務め.
 rāja-gāmin 形 王の前にもたらされた(中傷).
 rāja-giri 男 [地名].
 rāja-guru 男 王の顧問または大臣.
 rāja-guhya 中 王の秘密.
 rāja-gṛha 中 王の住居, 宮殿; [Magadha 国の首府の名] [また -i 女]; 漢訳 王舎, 王舎城 *Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sukh-vy.I., Suv-pr., 梵雜., 玄応.; 音写 羅闍, 羅闍祇, 羅闍揭梨醯 *Sukh-vy.I., 玄応.*
 rāja-ghātaka 男 弑逆者.
 rāja-cakra 中 王の車輪, 統治. ~m pra-Vṛt (使役) 主権を獲得する, 統治する.
 rāja-cihna 中 漢 王室の記章.
 rāja-jambū 女 [樹の一種].
 rājata 形 (女 -i) 銀製の. 中 銀; 漢訳 銀 *Lanik.*
 rāja-tanaya 男 王の息子, 王子.
 rāja-tanayā 女 王の娘, 王女.
 rāja-taraṅgiṇī 女 [(諸王の流れ=絶えまのない歴史), *Kaḥaṇa* 著の *Kashmir* の王統記の題名]; [人名].
 rājatā 男 王から.
 rājatā 女 王たること, 王位, 王権.
 rājatādri 男 銀山, *Kailāsa* 山.
 rājatānvita 形 銀で覆われた.
 rāja-tāli 女 びんろう樹.
 rāja-tuṅga 男 [人名].
 rājatva 中 =rājatā; 漢訳 ~m kāritara babhūva 善治国土 *Suv-pr. 124.**

rāja-daṇḍa 男 王室の權威; 王(の課する)刑罰.
 rāja-dattā 女 [人名].
 rāja-danta 男 (主な歯), 前歯.
 rāja-darsana 中 王を見ること, 謁見. ~m Kṛ (使役) 王の前に(業)を導く.
 rāja-dāra 男 漢 王妃または王妃たち.
 rāja-dārikā 女 王の娘, 王女.
 rāja-duhitṛ 女 王女; じゃこうねずみ.
 rāja-duhitṛmaya 形 (女 -i) 諸王女からなる.
 rāja-dūrvā 女 [丈の高い *Dūrvā* 草の一種].
 rāja-daivika 形 王または運命から生ずる(不運).
 rāja-dvār 女 王門, 宮殿の門.
 rāja-dvāra 中 [同上].
 rāja-dvārika 男 王室の門番; 漢訳 守宮殿 *Mvyut.*
 rāja-dharma 男 王侯の義務; 漢 王に関する規則.
 rāja-dharman 男 [*Kāśyapa* の息子, 名高い鶴 *Nā-dijaṅgha* の称].
 rājadharma-bhṛt 形 王の義務を守るまたは遂行する.
 rājadharma-vid 形 王侯の義務を知る.
 rājadharmānusāsana-parvan 中 [*Mahābhārata* 中の章の題名].
 rāja-dhāni 女 王の居所, 首府; 漢訳 王都, 王京都, 王城, 城, 大城, 王処, 王宮周囲; 王国土 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Divy., Gand-vy., Mvyut., Suv-pr.* ~tas 漢 首府から.
 rāja-dhānya 中 穀物(の一種).
 rāja-dhāman 中 王の宮殿または首府.
 rājan 1. 男 [一° 形 (女 -jñī)] 王侯, 首長 [因では *Varuṇa* 神およびその他の神々に対して用いられる]; [月(太陰)の称] (男); 武士階級の人; [漢訳] で町または民族の名に続く少数の場合を除いて, *rājan* は *tat-puruṣa* としての一° にまれに用いられ, その他の場合は *rāja* がこれに代わる]; 漢訳 王, 国王, 帝王, 人皇, 皇帝 *Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Lanik., Mvyut., Prāt-m., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., 梵千.; 音写 [聖仙の名] 羅闍 *Lal-v.:* ~ā ārya-pudgalānām 諸聖人王 *Mvyut.;* ~ā śatānikah 百軍王 *Mvyut.;* ~ā sahasrānikah 千軍王 *Mvyut.*
 rājan 2. 中 指導 (RV. 用例一回のみ).
 rājana 中 [諸 *Sāman* の名].
 rāja-naya 男 王の政策, 政治的手腕.
 rāja-nirdhūta-daṇḍa 形 王の振るう杖を蒙った, 王によって罰せられた.
 rāja-niveśana 中 王宮.
 rāja-niti 女 王の政策, 政治的手腕; 漢訳 王正 *Bodh-bh.*
 rājaniya-prabha 男 [*Amitabha* 仏の属性] (*Sukh-vy.I.*).
 rājanya 形 王室の. 男 王族, 貴族; 武士階級の人 [武士階級を表わす最古の名称].
 rājanyaka 中 武士の集合.
 rājanya-kumāra 男 王子.
 rājanyatva 中 武士階級に属すること.
 rājanya-dāraka 男 武士階級の童子.
 rājanya-pota 男 [同上].
 rājanya-bandhu 男 王の伴侶 [一般に軽蔑的に用い*

る] (Br.); 武士階級の人すなわち Kṣatriya.
 rājanvat 形 (よい)王をもつまたはに支配された.
 rāja-pakṣman 男 瘡病 *Mvyut.*
 rāja-paṭṭa 男 宝石(の一種), 質の劣ったダイヤモンド; 青 *Mvyut.*
 rāja-paṭṭikā 因 王侯との交わり.
 rāja-patni 因 王妃.
 rāja-patha 男 王道, 大道.
 rāja-paddhati 因 [同上].
 rāja-parivarta 男 国王または政府の交替.
 rāja-pāda-mūlika 男 官属. *Lal-v.*
 rāja-pitr 男 王の父.
 rāja-puṃs 男 王臣または王室の役人.
 rāja-putra 1. 男 王の息子, 王子; *Rajput* 族; [混血種姓(階級), Vaiśya と Ambaṣṭhā または Kṣatriya と Karaṇi の子孫]; 月の子, 水星; 王子 *Aṣṭ-pr., Lanik.*
 rāja-putra 2. 形 諸王を子とする (*Aditi*) (RV. 用例一回のみ).
 rāja-putraka 男 王子.
 rāja-putratā 因 王子たること.
 rājaputra-loka 男 王子の集合.
 rāja-putrikā 因 王女.
 rāja-putri 因 王女; *Rajput* の女.
 rāja-pura 中 [(王の町)町の名].
 rāja-puri 因 町(の名).
 rāja-puruṣa 男 王臣, 王室の役人; 王臣, 官長, 吏民 *Aṣṭ-pr., Saddh-p.*
 rāja-pūga 男 [びんろう樹の一種].
 rāja-pūruṣa 男 (晉徂) = rāja-puruṣa.
 rāja-pauruṣika 形 (因 -i) 王に仕える.
 rāja-pauruṣya 中 仕王, 事王, 事王業, 勤王等事 *Bodh-bh.*
 rājapauruṣya-prayukta 形 勤王, 奉事王家, 親近国主 *Bodh-bh.*
 rāja-prakṛti 因 大臣.
 rāja-priyā 因 王の寵妃; 月の愛人.
 rāja-preṣya 男 王臣. 中 王に仕えること.
 rāja-bandin 男 [人名].
 rāja-bandhu 男 武士階級の人.
 rāja-bāndhava 男 王の親戚.
 rāja-bāndhavi 因 王の親戚の女.
 rāja-bijitā 因 王族種.
 rāja-bijin 形 王室の血統を引いた.
 rāja-bhakti-puras-kṛta 形 王に対する忠誠によって特徴づけられた.
 rāja-bhaṭa 男 王の傭兵, 兵士; 王臣, 押官, 王所揀別用者 *Divy., Mvyut.*
 rāja-bhaya 中 王に対する恐怖; 王からの危害.
 rāja-bhavana 中 王宮.
 rāja-bhāryā 因 王妃; 后, 王后 *Saddh-p.*
 rāja-bhūta 形 為王, 為国王 *Bodh-bh.*
 rāja-bhṛta 男 兵士.
 rāja-bhṛtya 男 王臣.
 rāja-bhauta 男 王に仕える道化者または愚かな王.
 rāja-bhrātṛ 男 王の兄弟.

rāja-maṇi 男 宝石(の一種).
 rāja-mantrin 男 大臣 *Lal-v.*
 rāja-mandira 中 王宮.
 rāja-mahā-mātra 男 大臣, 王臣, 増上宰王子大臣, 豪尊 *Bodh-bh., Lal-v., Prāt-m., Saṅg.*
 rāja-mahiṣi 因 王の第一夫人; 王妃.
 rāja-mātr 因 王の母, 皇太后.
 rāja-mātra 形 「王」の称号を要求する, 王の権威つ(人). 男 大臣, 王臣 *Divy., Sikṣ.; Sikṣ.*
 rāja-mānatva 中 [Rāj の 現分の 因] 光輝, 壮
 rāja-mānuṣa 男 王臣, 王室の役人.
 rāja-mārga 男 王道, 大道; 王の手段, 戦い; 王者道 *Sikṣ.*
 rāja-mārgi 副 [Kr とともに] 大通りにする (*Jat-n*)
 rāja-māṣa 男 [豆の一種, 学名 *Dolichos catjang*] 白荳 *Mvyut.*
 rāja-mukuṭa 男 中 王冠 *Sikṣ.*
 rāja-mukha 中 王の顔色.
 rāja-muni 男 王族出身の *Muni*.
 rāja-yakṣma 男 [悪疫の一種]; [後世には] 肺病.
 rāja-yakṣman 男 [同上].
 rāja-yakṣmin 形 肺病の.
 rāja-yajña 男 王の祭紀.
 rāja-yājaka 形 武士を祭主とする.
 rāja-yāna 中 王の乗物, かご.
 rāja-yoṣit 因 王の妃.
 rāja-ratha 男 王の車.
 rāja-rambhā 因 芭蕉(の一種).
 rāja-rākṣasa 男 *Rākṣasa* のような王, 悪王.
 rāja-rāj 男 諸王中の王, 最高主権者; 月.
 rāja-rāja 男 諸王中の王; [*Kubera* 神の称].
 rājarāja-giri 男 [*Himālaya* 山の称].
 rāja-rājatā 因 最高主権者の威厳.
 rāja-rājatva 中 [同上].
 rāja-rājya 中 すべての王を統治する主権.
 rājarddhi (°ja-rd°) 因 王の威力.
 rājarṣi (°ja-rṣi) 男 王族出身の仙人, 王仙; 仙 *Buddh-c., Lal-v.*
 rāja-lakṣaṇa 中 (未来に)王者たるの相.
 rāja-lakṣman 中 王の紋章. → a~.
 rāja-lakṣmi 因 王の栄光または威厳; [王女の名].
 rāja-loka 男 諸王の集合.
 rāja-vaṃśa 男 王族, 王朝.
 rāja-vaṃśya 形 王室の血統を引いた. 男 *Kṣatriya*
 rājavat 副 王 (困 または 罫) のような; 王の場合にけるように, 王に対するように. 形 王をもつ; またの王をもつ; 因 ~i = 王の面前で. 男 [人名]
 rājavati 因 [*Gandharva Devaprabha* の妻の名].
 rāja-vatsa 男 = rāja-putra.
 rāja-vadana 男 [人名].
 rāja-vandin 男 [人名, = rāja-bandin].
 rāja-varcasin 形 王室に仕える.
 rāja-vallabha 男 寵臣.
 rājavallabha-turaṅgama 男 王侯の愛馬.

rāja-vasati ㊦ 宮廷生活。
 rāja-vahana ㊦ 王を乗せる, 王の乗った。
 rāja-vāhana ㊦ [王の名]。
 rāja-vidyā ㊦ 王の才智, 政治的手腕。
 rāja-vihāra ㊦ 王室の娯楽場; 王室附属の僧院または王の建てた僧院。
 rāja-vijitā, =rāja-bijitā.
 rāja-vithi ㊦ 公道, 大道。
 rāja-vṛkṣa ㊦ [樹の一種]; ㊦ 牙皂 *Mvyut.*
 rāja-vṛtta ㊦ 王の行動または職。
 rāja-veśman ㊦ 王宮。
 rāja-veṣa ㊦ 王室の衣服。
 rāja-sabda ㊦ 王の名称。
 rāja-sārdūla ㊦ (虎のようなすなわち)著名な王。
 rāja-sāsana ㊦ 王の命令。㊦ 救 梵千。
 rāja-sāstra ㊦ 王者の学, 国家学, 政治学; ㊦ 王法正論 *Suv-pr.*
 rāja-śekhara ㊦ [諸作家の名]。
 rāja-śri ㊦ 王の栄光または威厳; [ある Gandharva 女の名] (*Kār-vy.*)
 rāja-śrotriya ㊦ =rājarṣi.
 rājasa ㊦ (㊦ -i) rajas (動性)に属するまたは関する, 激情を賦与された; ㊦ 憂 *Sāmkhy-k.*
 rājasatva ㊦ rajas (動性)に支配されること。
 rāja-saṁsraya ㊦ 王に依存するまたは保護された。
 rāja-saṁsad ㊦ 王によって開かれた公判。
 rāja-sattra ㊦ 王命による祭式。
 rāja-sadman ㊦ 王宮。
 rāja-sabhā ㊦ 宮廷; =rāja-saṁsad.
 rāja-samiti ㊦ 諸王の会議。
 rāja-sarṣapa ㊦ 黒からし, 黒からしの種子 [重量の一単位として = 3 likṣā]。
 rāja-sākṣika ㊦ 王が署名した(文書)。
 rāja-siṁha ㊦ (獅子のような王すなわち)勝れた王; [諸王侯の名]。
 rāja-sukha ㊦ 王の幸福。
 rāja-suta ㊦ 王の息子, 王子; ㊦ 王子 *Saddh-p.*
 rāja-sūnu ㊦ [同上]。
 rāja-sūya ㊦ ㊦ 王の灌頂式の祭儀。
 rājasūyārambha-parvan (°ya-ār°) ㊦ [*Mahābhārata* 中の章の題名]。
 rāja-sūyika ㊦ (㊦ -i) *Rāja-sūya* 祭儀に関係したまたはを取扱った。
 rāja-sūyika-parvan ㊦ =rājasūyārambha-parvan.
 rāja-sena ㊦ [人名]。
 rāja-sevaka ㊦ 王臣; *Rajput* 族。
 rāja-sevā ㊦ 王に仕えること。
 rāja-sevin ㊦ 王臣。
 rājasevopajivin (°vā-up°) ㊦ [同上]。
 rāja-saudha ㊦ ㊦ 王宮。
 rāja-stamba ㊦ [人名]。
 rāja-stambāyana ㊦ [同上 ㊦ 系], [古聖賢の名]。
 rāja-stri ㊦ 王妃。
 rāja-sthānādhikāra ㊦ 摂政の職, 太守。
 rāja-sthāniya ㊦ 太守, 総督。
 rāja-sva ㊦ 王の財産。

rāja-svāmin ㊦ [(諸王の主), *Viṣṇu* 神の称]。
 rāja-haṁsa ㊦, ㊦ [一° -ā] 鷺鳥(の一種), 紅色の脚・嘴をもつ; [諸人の名]; ㊦ 鵞王, 雁王 *Diry., Mvyut.*
 rāja-harmya ㊦ 王宮。
 rājāṅgaṇa ㊦ 王宮の中庭。
 rājādana ㊦ [(王の食物), 樹の一種]。
 rājādeśa (°ja-ād°) ㊦ 王の命令。
 rājādhikārin ㊦ 裁判官, 判事。
 rājādhikṛta ㊦ [同上]。
 rājādhideva ㊦ [*Śūra* の称]。
 rājādhidevi ㊦ [*Śūra* の娘の名]。
 rājādhipatya (°ja-ādḥ°) ㊦ ㊦ 王位 *Laik.*
 rājādhirāja ㊦ 最高の主権者, 諸王中の王; ㊦ 大王 *Abh-vy.*
 rājādhīṣṭāna ㊦ 王の居所, 首府。
 rājādhina ㊦ 王臣。
 rājādhvan ㊦ 公道, 大道。
 rājānaka ㊦ 小王侯; ㊦ 勇臣 *Mvyut.*
 rājānujivin ㊦ 王臣。
 rājānubhāva ㊦ ㊦ 王威徳力 *Aṣṭ-pr.*
 rājānta-karaṇa ㊦ 諸王を滅亡させる。
 rājānna ㊦ 王または *Kṣatriya* (が与える)食物。
 rājānyatva ㊦ 主権者の交替。
 rājāpasada ㊦ 王位を失った王。
 rājābhīṣeka ㊦ 王の灌頂式。
 rājāmātya ㊦ ㊦ 大臣, 王之臣下 *Mvyut., Saddh-p.*
 rājāya ㊦ ㊦ ㊦ *rājāyate* 王のように振舞う, 王の役を演ずる。
 rājārha ㊦ 王に価するまたはにふさわしい。
 rājārhaṇa ㊦ 王侯からの贈物。
 rājāvarta (°ja-āv°) ㊦ ㊦ 宝石の一種(*Lapis Lazuli*)。
 rājāvali (°ja-āv°) ㊦ [(王の系列), 王統記の題名, *Rājatarāṅgini* の続篇の名]。
 rājāvali (°ja-āv°) ㊦ [同上]。
 rājāvali-patākā ㊦ [同上]。
 rājāvavāda ㊦ 王侯に対する説論 (*Jat-m.*)
 rājāvavādaka ㊦ ㊦ [経の名] 諫王, 与王所訣 *Mvyut.*
 rājāvavādaka-sūtra ㊦ ㊦ 教示勝軍大王経 *Śikṣ.* [諫王経勝軍王所問経, 如来示教勝軍王経]。
 rājāsana (°ja-ās°) ㊦ 王の席, 王座。
 rāji ㊦ 線, 条, 列。
 rājika ㊦ [一°のみ] 王に関係する。
 rājikā ㊦ 黒からし, 黒からしの種子 [重量の一単位として用いられる]; ㊦ 芥子 *Guhy-s., Mvyut.*
 rāji-citra ㊦ (縞で彩られた), 蛇(の一種)。
 rājita ㊦ ㊦ ㊦ → *Rāj.*
 rājīn ㊦ 輝いた。
 rājimat ㊦ 縞のある。㊦ 蛇(の一種)。
 rājila ㊦ (縞のある) 蛇(の一種)。
 rāji ㊦ =rāji.
 rājika ㊦ ㊦ [民族の名]。
 rāji-karṇa ㊦ ㊦ 耳捲者 *Mvyut.*
 rāji-kṛta ㊦ 縞のある, すじを作る。

rājimat 形 縞のある。男 蛇(の一種)。
 rājiva 形 縞のある。男 魚(の一種)。中 青い蓮華。
 rājiva-netra 形 蓮華のような眼の。
 rājiva-mukha 形 蓮華のような顔の。
 rājiva-mukhi 女 蓮華のような顔の女。
 rājiva-locana 形 蓮華のような眼の。
 rājiva-vilocana 形 [同上]。
 rājiva-śubha-locana 形 [同上]。
 rājivini 女 蓮 [学名 *Nelumbium speciosum*]; 蓮の群。
 rājivini-jivita-vallabha 男 月。
 rājendra (°ja-in°) 男 諸王の王, 名声のある王, 最高の主権者; [Samādhi の一種] (*Kār-vy.*)
 rājesvara (°ja-iś°) 男 [人名]。
 rājopakarāṇa (°ja-up°) 中 王の標章。
 rājopacāra (°ja-up°) 男 王に対して(払う)注意。
 rājopasevā (°ja-up°) 女 王に仕えること。
 rājopasevin (°ja-up°) 男 王臣。
 rājñi 女 [rājan の 女] 女王。
 rājya 形 王室の。中 (因)に対するまたは(一°)の主権, 統治権; 王国, 領土; 王, 帝王, 王位, 国王位, 国位, 増上位; 国, 国城, 国土, 皇国 *Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Gand-vy., Lal-v., Lan̄k., Mañj-m., Mvyut., Raṣṭr., Saddh-p., Sikṣ., Suv-pr.*
 ~m upa-Ās 支配する, 統治する。~m Kṛ [同上]。
 ~m Kṛ (使役), [同上]; 治世, 治正, 正化, 治化, 当国事, 理人, 理於国, 為国王, 為帝王 *Avś., Bodh-bh., Divy.* ~m vi-DHā [同上]。
 rājya-kara 形 支配する。男 封臣諸侯の貢。
 rājya-kṛt 形 支配する。
 rājya-khaṇḍa 中 王国。
 rājya-cyuti 女 主権の喪失, 廢位。
 rājya-jana 男 所統僚庶 *Bodh-bh.*
 rājya-tantra 中 (中, 因) 行政組織, 政府。
 rājya-devi 女 [*Bāna* の母の名]。
 rājya-dravya 中 統治に必要なもの; 王の灌頂式に必要な物。
 rājya-dhana 中 国財 *Sikṣ.*
 rājya-dhara 男 (統治者), [人名]。
 rājya-parikriyā 女 統治権の行使, 行政。
 rājya-paribhoga 男 王位 *Saddh-p. : sarva ~ = ān utsrjya* 悉捨王位 *Saddh-p. 19.*
 rājya-paribhraṣṭa 形 王位を失なった。
 rājya-pratiṣṭhita 形 統領国土 *Suv-pr.*
 rājya-bhaṅga 男 主権の喪失。
 rājya-bhāj 男 王。
 rājya-bheda 男 王国内の不和。
 rājyabheda-kara 形 王国を分裂させる。
 rājya-bhoga 男 主権の享有。
 rājya-bhramśa 男 = rājya-cyuti。
 rājya-lakṣmi 女 王国の栄光。
 rājya-lābha 男 主権の獲得, 即位。
 rājya-lilāyita (名動 過受分) 中 王(の役)を演ずること。
 rājya-loka 男 [rāja-loka の誤]。
 rājya-lobha 男 支配の欲望, 野心。

rājya-varadhana 男 [王侯の名]。
 rājya-vastu 中 王事, 王爵((事)) *Bodh-bh.*
 rājya-vibhara 男 国力, 国威。
 rājya-vibhūti 女 [同上]。
 rājya-viṣaya 男 国土, 聚落; 国位 *Lan̄k.*
 rājya-śri 女 王室の威嚴 [また擬人化される]; [名]。
 rājya-sukha 中 王者の享楽。
 rājya-stha 形 支配する。
 rājya-sthāyin 形 [同上]。
 rājya-sthiti 女 支配, 統治。
 rājya-hara 形 王国を害なう(者)。
 rājyāṅga 中 王国の構成部分の一。
 rājyādhikāra 男 王国の支配。
 rājyādhidevatā 女 王位の守護神。
 rājyābhiṣikta 形 灌頂式の執行を受けた(王)。
 rājyābhiṣeka 男 王の灌頂; 得土, 灌頂王 *Divy.*
 rājyāśrama (°ya-ās°) 男 (王位の期間という āśrama 王位)。
 rājyāśrama-muni (°ya-ās°) 男 王位にある聖仙, 敬な王。
 rājyaiśvarya (°ya-aiś°) 中 王位富貴, 自在, 自在 *Divy, Suv-pr.*
 rājyopakarāṇa (°ya-up°) 中 王位の標章。
 rādhā 女 [西部 *Bengal* の一地方およびその首府の名]。
 rāṇāyaniya 男 [ある学匠の名]; 種 *Rāṇāyantiya* 派。中 *Rāṇāyantiya* 派の綱要書 (*Sūtra*)。
 rāta 過受分 与えられた。→ *Rā 1.* 男 [人名]。
 rāta-havya 形 (神々へ)進んで供物を捧げる (因)。
 rāti 形 進んで与える, 恵み深い(因)。女 (因)好意, 恩寵; 贈物。
 rāti-śāc 形 [-śāc, -śac の強語形] 恩恵または贈物を与える, 惜しまず与える(因)。男 惜しまず与える守護神(因)。
 rātra 中 夜 [独立語として 叙詩 に用例一回のみ]。
 男 中 [常に *rātri, rātri* の代用 一°]; 夜 *Abh-vy., Bodh-bh., Lan̄k., Prāt-m., Sikṣ. : śaḍ ~ 六夜 Prāt-m. IV. 28. → apara ~, aho ~, pūrva ~.*
 rātraka 形 (女 -ikā) 夜の。
 rātri 女 [RV. においては -i, AV. を経て次第に短音となる] 夜; [~paryāya の省略形], インドサフランまたはうこん草; 夜 *Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Lan̄k., Mvyut., Raṣṭr., Saddh-p., Sapt-pr., Sikṣ., Sūtr., 梵千., 梵維. : tasyā (eva) ~ ryā atyayena* 過彼夜分, 過夜至旦 *Mvyut., Suv-pr. 17.* 因 ~au, ~ryām 夜に。
 rātrika 形 夜の; [因 の後に 一°]…夜の間滞在するまたはの間続く。
 rātri-kara 男 月。
 rātri-cara 男 (夜歩く者), 夜警, 夜番; *Rākṣasa.*
 rātri-caryā 女 夜のさすらい; 夜の儀式。
 rātri-jāgara 男 夜眠らぬこと, 徹夜。
 rātriṃ-cara 男 *Rākṣasa.*
 rātri-devata 形 夜を神格とする。
 rātri-devatā 女 夜神, 主夜神, 夜天 *Gand-vy.,*

Sikṣ.: vāsanti ~ 春和主夜神, 春和淑氣主夜神
Gaṇḍ-vy. 128.

rātri-nātha 男 夜の主, 月.

rātriṃ-diva 中 夜と昼; 𑖀 日夜, 昼夜, 夙夜 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Saddh-p.* ~ā, ~m 副 昼夜に; 𑖀 昼夜, 日夜, 昼夜中, 於昼夜分 *Bodh-bh.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.* ~āni (𑖀) 副 𑖀 昼夜, 昼夜中, 若昼若夜 *Aṣṭ-pr.*

rātriṃ-divasa 中 昼と夜 (*Divy.*); 𑖀 昼夜, 日夜, 臥覚 *Bodh-bh.*

rātriṃ-divā 副 → rātriṃ-diva 昼夜に; 𑖀 昼夜, 若昼若夜 *Gaṇḍ-vy.*, *Suv-pr.*

rātri-paryāya 男 [*Atirātra* 祭において三回繰り返す行事の名].

rātri-prasānta 形 𑖀 夜暗 *Raṣṭr.*

rātri-bhujāṅga 男 月(太陰).

rātriṃ-ata 男 (夜の徘徊者), 悪魔.

rātrimaya 形 夜の.

rātri-rakṣaka 男 夜警.

rātri-vāsa 中 夜間の着物, 寝衣.

rātri-vihārin 形 夜間徘徊する.

rātri-śeṣa 男 夜の残余または後分.

rātri-sūkta 中 夜の女神への讃歌 [*Rg-veda* X. 127].

rātri 因 [(恐らくは → rāma), 夜 [rātri の古い形 (因)]; 𑖀 宵 梵千.

rātry-andha 形 夜間に見ることのできない.

rātry-andhatā 因 夜盲.

rātry-ahan 中 𑖀 [困 -i] 夜と昼.

rātry-āgama 男 夜となること.

rātry-upāya 男 夕暮れ.

rāthantara 形 (因 -i) *Rathantara* (Sāman) の.

rāthitara 男 [*Satyavacas* の 父系].

rāddha 過受分 → Rādh.

rāddhānta 男 [=siddhānta] 結論, 論証された命題.

rāddhi 因 成功または幸運, (因)における成功または幸運 (因).

rāddhita (名動) 過受分 論理的に証明された.

Rādh, I. 他 rādhati (RV.) [まれに]; V. 他 rādhnōti (Br., 叙詩) [まれに]; IV. 自 rādhyate (自動, 因), 他 rādhyati (𑖀), 成功する, (因)によって成功する; 繁栄する, 幸福である; 他 (因)に予言する; (𑖀)を成就する, 達成する, 準備する(因); (𑖀)をなだめる, 満足させる. 過受分 rāddha 成就された, 達成された, 完成された; 準備された, 用意した; 成功した, 幸運な; 獲得された. 使役 他 rādhayati ひき起こす; 満足させる.

apa- (的に)当らない; 有罪である; 非難されるべきである; (因)を犯す, (𑖀)を害する; [しばしば kim (何が)または kim-cid (何が)とともに=] 害する, 損なう, 違反する. 過受分 aparāddha (矢 因)を的にあてそこなった; 有罪の; (𑖀, まれに 因)を傷つけたまたは害した; (中 非人) (因, まれに 𑖀)によって(𑖀, まれに 因)に対して罪が犯されたまたは不正がなされた.

abhi- 過受分 abhirāddha なだめられた. 使役 abhirādhayati 満足させる; 𑖀 令歡喜, 無所違逆

Gaṇḍ-vy.

ava- 失敗する, やり損ずる, 不成功に終る.

ā- 使役 ārādhayati なだめる, 和解させる; 崇拝する; 仕える; 取得する, 獲得する; 遵奉する, 執行する (*Jat-m.*); 𑖀 拯濟 *Sikṣ.*: cittam ārādhayati 令心喜, 令生喜, 能令生喜, 令歡喜, 令得歡喜, 令生歡喜, 心生喜悅; 称順 *Aṣṭ-pr.* 781, 809, *Lank.*, *Mṛyut.*, *Raṣṭr.*, *Sam-r.*; 降伏 *Sikṣ.* 197. 不定 ārādhitum 𑖀 ārādhitum pravṛttaḥ 申啓請 *Divy.* 43.

upā(upa-ā)- 使役 upārādhayati (𑖀)に仕える.

sam-ā- 使役 samārādhayati なだめる, 満足させる, (𑖀)の承諾を得る.

prati- [ただ 副 の意味ある 不変分 pratirādhyā と 過受分 pratirāddha のみ] 反対行動をとる.

vi- (因)を奪われる(因); 害する; 侮辱する.

saṃ- 過受分 saṃrāddha 獲得された. 使役 saṃrādhayati 同意する; 満足させる.

abhi-saṃ- 使役 =saṃ-Radh (使役) (*Jat-m.*).

rādha 男 [*Vaiśakha* 月の名].

rādha-gupta 男 𑖀 [*Aśoka* 王の大臣の名] 成護, 善護 *Divy.*; 音写 羅提掘多, 羅提掘多 *Divy.*

rādhās 中 好意, 寛裕, 贈与(因); 恩恵(因); 成功 (P.); 努力すること (P.); 力 (P.).

rādhā 因 [*Kṛṣṇa* に愛され, 後に女神として崇められた牧牛女の名], [*Karna* の養母の名].

rādhā-kānta 男 [(*Radhā* の恋人), *Kṛṣṇa* の称].

rādhā-bhartṛ 男 [*Adhiratha* の称].

rādhā-ramaṇa 男 =rādhā-kānta.

rādhāvat 形 富んだ.

rādhā-suta 男 [*Karna* の 母系].

rādhika 男 [王侯の名].

rādhiki 因 [rādhā の 指小].

rādheya 男 [*Karna* の 母系].

rādheśa (°dhā-iśa) 男 [*Kṛṣṇa* の称].

rādheśvara (°dhā-iś°) 男 [同上].

rādho-deya 中 恩恵または贈物の授与 (RV.).

rādhopāsaka (°dhā-up°) 男 *Rādha* の崇拝者.

rādhyā 未受分 (因)実行されるべき; 得る価値のある; 満足させられるべき; 崇拝されるべき; 獲得されるべき.

rābhasikatā 因 激烈, 性急.

rāma 形 暗色の, 黒い(因); 気持のよい, 喜ばしい, 魅力のある, 愛らしい. 男 [人名: 因 の中では二人の *Rama* が挙げられる. それぞれ 父系 の *Mārgaveya* と *Aupatasvini* を伴う; 叙詩 は三人を区別する: (a) *Rama Jāmadagnya* または *Bhārgava* = *Paraśu-rāma*, (b) *Bala-rāma* または *Halāyadha* (*Kṛṣṇa* の兄), (c) *Rama Rāghava* または *Dāśa-rathi* = *Rama-candra* または *Sitā-rāma* (*Rāmāyana* の主人公)], [後世の 𑖀 の中にしばしば出る人名]; 𑖀 [人名] 魚息 *Divy.*; 音写 羅, 羅摩, 囉摩, 羅弥 *Buddh-c.*, *Divy.*, *Lank.*; [村の名], 𑖀(?) 羅摩 *Divy.* 中 暗黒 (RV. 用例一回のみ).

rāma-kṛṣṇa 男 [諸人の名].

rāma-giri 男 [山の名].

rāma-candra 男 [Daśa-ratha の息子].
 rāma-carita 中 Rāma (Daśa-ratha の息子)の行為.
 rāma-ja 男 [人名].
 rāmaṭha 男 種 [民族の名].
 rāmaṇiyaka 中 愛らしいこと, 美; 樂, 珍異, 勝事 *Saddh-p., Sapt-pr.*
 rāmaṇyaka 中 [同上].
 rāma-tapani 因 [ある Upaniṣad の題名].
 rāma-tāpaniya 中 [同上].
 rāma-tāpanopanīṣad (°na-up°) 因 [同上].
 rāma-tāpini 因 [同上].
 rāma-tirtha 中 [ある Tirtha の名]. 男 [諸人の名].
 rāmatva 中 Rāma (Daśa-ratha の息子)たること.
 rāma-deva 男 [Daśa-ratha の息子 Rāma, その他の人名].
 rāma-nātha 男 [同上].
 rāma-pāla 男 [人名].
 rāma-putra 男 [Rudraka の 父系] (*Lal-v.*).
 rāma-bhadra 男 [Daśa-ratha の息子 Rāma の名].
 rāmamaya 男 [śarman とともに] [*Mṛcchakatika* および *Vikramorvaśī* の註釈家の名]. 形 Rāma からなる.
 rāmala 男 [人名].
 rāma-lekhā 因 [王女の名].
 rāma-varḍhana 男 [人名].
 rāma-vratin 男 具勇樂, 令喜子行者 *Mvyut.*
 rāma-setu 男 [地名]; =setu-bandha.
 rāma-svāmin 男 [Rāma の像の名].
 rāma-hrada 男 [神聖な池の名].
 rāmā 因 魅力のある若い女, 美女; 主婦, 妻.
 rāmā-devi 因 [*Jaya-deva* の母の名].
 rāmānanda (°ma-ān°) 男 [諸人の名].
 rāmānuja 男 (Rāma の弟), [有名な Viṣṇu 派の改革者で特殊の Vedānta 派の開祖の名]. 中 *Rāmanuja* の教義 [すなわち *Viśiṣṭādvaita* 制限不二論].
 rāmāyaṇa 形 (因 -i) (*Daśa-ratha* の息子である) Rāma に関する. 中 [*Rāma* の行為を記す叙事詩の名, *Valmiki* の作とされ, 七篇あり約二万四千頌を含む].
 rāmāyaṇa-kathā 因 *Rāmāyaṇa* (の中に説かれた)物語.
 rāmāyaṇa-kavi 男 [*Valmiki* の名].
 rāmāvarānta 男 [町の名] 勝樂, 可樂 *Gaṇḍ-vy.*
 rāmāśraya (°ma-āś°) 形 Rāma を主題とし(同時に)魅力にとんだ(作品).
 rāmi 因 暗黒, 夜 (RV. 用例一回のみ).
 rāmuṣa 男 [地名].
 rāmeśvara (°ma-iś°) 男 [諸人の名].
 rāmeṣu (°ma-iṣu) 男 [人名].
 rāmopākhyāna (°ma-up°) 中 [(*Rāma* の挿話), *Mahābhārata* に存する Rāma の事蹟を要約した物語の称または *Paraśurāma* に関する物語とその個所の称].
 rāmyā 因 夜 (因).

rāya 男 [人名の°— または —°の場合 =rāja] 王.
 rāyas, [rai の 属].
 rāyas-poṣa 形 富を増大させる (*Kṛṣṇa* 神). 男 富増大.
 rāyi 因 [=rāji] 芥 徒干.
 rāraḁṣāṇa 強意 現分 → *Rakṣ.*
 rārahāṇa 強意 現分 → *Ramh.*
 rāva 男 咆吼, 喚声, 叫び, 叫声; 唄; プンブンいこと; 喧噪; 音.
 rāvāṇa 形 (屬, —°)について歎かせる. 男 [*Rākṣas* を支配した *Lanka* の王で, *Kubera* 神の弟として生まれ, *Rāma* に征服された十の頭のある魔王の名] [*Kāśmīra* 王の名]; 形 [*Yakṣa* の名] (音写) 婆那; 哮吼子 *Lank.*; [竜王の名] 音吼 *Mvyut.*
 rāvāṇi 男 [*Indra-jit* および *Simha-ṇada* の 父系] 種 *Rāvāṇa* の息子たち.
 rāvita 使役 過受分 → *Ru 1.* 中 音.
 rāvin 形 吼える, わめく, 叫ぶ, (—°)のように吼える, うなる, 叫ぶ.
 rāśi 男 堆積, 積み重ね, 集団, 多量, 多数; (—°)の堆積等; (星の群), (十二)宮, 黄道の十二分の一, (占星術の)宮; 聚, 衆, 集, 積, 蘊, 堆積 *Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Lank. Madhy-bh., Madhy-vibh., Mañj-m., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sāṃkhy-k., Sikṣ., Vajr-pr.*; 宮 *Mañj-m.*: mudga ~ 豆聚 *Sāṃkhy-k. 7.*; vṛścika ~ 蠟宮 *Mañj-m. 151.*; trayo ~ ayah [1. samyaktva-niyata ~ h 正性定聚, 2. mithyātva-niyata ~ h 邪性定聚, 3. aniyata ~ h 不定聚] *Mvyut.* dharmāṇām trayo ~ ayah 三聚法, 三種法聚 [諸如来以要言之於三聚法現等正覺 (*Bodh-bh. 404*) [1. arthōpasamhitānām dharmāṇām ~ h 能引義利法聚, 2. an-arthōpasamhitānām dharmāṇām ~ h 能引非義利法聚, 3. naivārthōpasamhitānām nānarthopasamhitānām dharmāṇām ~ h 能引非義利非非義利法聚] *Bodh-bh. 212.* → a ~ i-bhāva.
 rāśi-traya 中 (三法則), 比例算.
 rāśīśas 圓 積み重なって.
 rāśi-stha 形 積み重なった, 積み上げられた, 蓄積された.
 rāśi 因 [まれに] =rāśi.
 rāśi-Kṛ, 堆積させる, 積み上げる; 收持積聚 *Divy.*
 rāśi-kṛta 形 =rāśi-stha.
 rāśi-BHū, (—°)の堆積または蓄積となる.
 rāśi-bhūta 形 =rāśi-stha.
 rāṣṭra 中 [*Rāj*] 王国, 領域, 領地; 地域, 国土; 国民, 人民, 臣民; 国, 国土, 土, 国邑, 城, (他)境, 境界 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mañj-m., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sikṣ.*; 衆生 *Divy.* 男 [王侯 (*Kāśi* の息子)の名].
 rāṣṭraka. [形 —° =rāṣṭra] 領域. 形 国内に住む
 rāṣṭra-karṣaṇa 中 王国を苦しめることまたは圧迫すること.

rāṣṭra-kārya 甲 國務, 国事 *Lal-v.*
 rāṣṭra-gupti 乙 王国の保護.
 rāṣṭra-gopa 男 王国の保護者.
 rāṣṭra-tantra 甲 行政組織; 統治.
 rāṣṭra-devi 乙 [*Citrabhānu* の妻の名].
 rāṣṭra-pati 男 王国の主, 王.
 rāṣṭra-pāla 男 王国の保護者, 王; [諸人の名]; 護国 [人名] 護国 *Av-s., Rāṣṭr.*; [経の名] 護国経 *Śikṣ.*
 rāṣṭrapāla-paripṛcchā 乙 [経の名, 同下] 護国所問, 護国菩薩会説, 持国天王請問経 *Mvyut.*
 rāṣṭrapāla-sūtra 甲 護国経, 護国尊者所問経 *Śikṣ.* [護国尊者所問大乘経, 大宝積経護国菩薩会 (護国菩薩経)].
 rāṣṭra-pālikā 乙 [同上].
 rāṣṭra-pāli 乙 [*Ugrasena* の娘の名].
 rāṣṭra-piṇḍa 男 国土施食, 周国化縁食十方縁物 *Mvyut.*
 rāṣṭra-bhaṅga 男 王国の滅亡.
 rāṣṭra-bhaya 甲 王国に対する危険.
 rāṣṭra-bhṛt 男 封侯, 藩侯(因). 乙 [ある *Apsaras* の名]; 園 [ある詩節と供物].
 rāṣṭra-bheda 男 王国の分割.
 rāṣṭra-bhedin 男 王国の分割者, 謀反人.
 rāṣṭra-mukhya 男 王国の長.
 rāṣṭra-varḍhana 形 国の福祉を増進する. 男 [*Daśa-ratha* および *Rāma* の大臣の名].
 rāṣṭrānta-pāla 男 国境守護者.
 rāṣṭri 乙 女の支配者, 女王.
 rāṣṭrika 男 王国の住民, 臣民; 国の支配者.
 rāṣṭriya 男 王の義兄弟 [劇用語].
 rāṣṭriya-syāla 男 [同上].
 rāṣṭri 乙 女の支配者, 女王.
 rāṣṭriya 男 =rāṣṭriya.
 Rās, I. rāsati(-te) ほえる, うなる, 金切声をあげる, 叫ぶ. 強意 自 rārāsyaṭe 高声に叫ぶ.
 rāsa 男 [牧人の遊戯の一種, 牧牛女とともに *Kṛṣṇa* が踊る舞踏]; 遊戯.
 rāsaka 男 舞踏(の一種); 歌(の一種). 男 甲 演劇(の一種).
 rāsa-kṛida 乙 *Kṛṣṇa* と牧牛女との舞踏.
 rāsabha 男 [Rās] ろば.
 rāsabha-yukta 形 ろばを軛でつないだ.
 rāsabhārāva (°bha-ār°) 男 ろばのいななき.
 rāsabhi 乙 牝ろば.
 rāsa-maṇḍala 甲 *Kṛṣṇa* 神の円形舞踏場.
 rāhaviya 形 *Rahu* に属する等.
 rāhitya 甲 (一)が欠乏したことまたはを所有しないこと.
 rāhila 男 [人名].
 rāhu 男 [Rabh] (つかむ者) [悪魔の名, 海を攪拌して得た神酒を飲もうとした時, その頭を *Viṣṇu* に切り落されたが, 頭は神酒を飲んだため不死となり, その暴露者たる太陽と月を周期的に呑み込んで蝕をおこし, 復讐するという; 彼はまた 九遊星中の一と見なされる]; 蝕; (他の天体を) 掩蔽する瞬間; 障持, 覆障 *Mvyut.*; 音写

[*Asura* 王または神の名] 羅喉, 羅侯 *Gand-vy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Sikṣ., Suv-pr.*
 rāhu-ketu 男 両 *Rahu* と *Ketu*.
 rāhu-gata 形 蝕された(太陽または月).
 rāhu-grasana 甲 *Rahu* によって呑まれること, 蝕.
 rāhu-grasta 形 *Rahu* によって呑まれた, 蝕された; 障 (音写) 羅喉障, 羅喉(羅阿修羅王) 捉持障蔽 *Suv-pr.*
 rāhugrasta-nisā-kara 形 月が *Rahu* によって呑まれた(夜), 月蝕の夜
 rāhu-graha 男 悪魔 *Rahu*.
 rāhu-grahaṇa 甲 *Rahu* に捉えられること, (太陽または月の) 蝕.
 rāhu-darsana 甲 蝕.
 rāhu-mukha 甲 *Rahu* の口.
 rāhula 男 [人名, とくに釈尊の息子の名]; 障, 障月, 覆障 *Mvyut.*, 玄応; 音写 羅喉, 羅喉, 羅喉羅, 羅怛羅, 羅吼羅, 羅云, 羅雲, 何羅怛羅, 曷羅怛羅 *Buddh-c., Divy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Sam-r., Sukh-vy. I., II., Suv-pr.*, 玄応.
 rāhu-śatru 男 [*Viṣṇu* 神の称]; 月(太陰).
 rāhu-sapatna-vakra 形 月のような顔の.
 rāhu-sūtaka 甲 *Rahu* の(誕生=)出現, (太陽または月の) 蝕.
 rāhūgaṇa 男 [*Rahūgaṇa* から, *Gotama* の父系].
 rāhūpasarga 男 (*Rahu* の接触), 蝕; 月蝕 *Buddh-c.*
 Ri, Ri, IV. 固 riyate (因) [まれに]; IX. riṇāti. riṇite (因) 解放する, 放つ; 引き離す, 分離する, (固)から引き離す, 分離する; 授与する; 固 粉碎される, 分解される. 過受分 riṇa 消滅した(固).
 anu- (業)に従って流れる.
 ni- 砕く, 散らす, 覆えす, 破壊する.
 ni (nir)- (固)から引き離すまたは切り放す; 引きつける.
 vi- 裂く.
 saṃ- 組み立てる, 回復する.
 ri 1. 形 一° =rai.
 ri 2. 音階の第二音 [*ṛṣabha* の省略形].
 rikta 過受分 [Ric] からの, 空虚な; 露出した(腕); 困窮した, 貧しい; 無益な, 価値のない; くぼんだ(掌); (一°)を欠いた, …の乏しい; [dina または tithi とともに] 陰暦第六, 第九または第十四日; 空, 内空, 不実, 虚非実 *Bodh-c., Buddh-c., Daś-bh., Divy., Mvyut., Sikṣ.*
 riktaka 形 からの; 荷を持たない(人); 無, 無所有, 不実, 虚偽 *Aṣṭ-pr., Madhy-v., Suvik-pr.*
 riktatā 乙 空虚.
 rikta-tuccha 形 虚, 虚空 *Daś-bh.*
 rikta-pāṇi 形 空手の, 贈物を携えない.
 rikta-bhāṇḍa 甲 空虚な容器.
 rikta-mati 形 心の空虚な, 何も考えない.
 rikta-muṣṭi 乙 空拳, 持空 *Mvyut., Sikṣ., Suvik-pr.*
 rikta-hasta 形 =rikta-pāṇi; 贈物を受領しない.

rikta-hāra, [riktha-hāra の誤].

rikthi-Kṛ, 放つ, 捨てる; 除く; 捨, 失 *Aṣṭ-pr.*
rikthi-kṛta-hṛdaya 形 心が空虚にされたまたは心をつ
失った.

riktha 甲 [残された財産: Ric] 遺産, 遺贈; 財産.

riktha-grāha 形 相続する. 男 相続人.

riktha-bhāgin 形 男 [同上].

riktha-bhāj 形 男 [同上].

riktha-hara 形 男 [同上].

riktha-hāra 形 男 [同上].

riktha-hārin 形 男 [同上].

rikthāda (°tha-āda) 形 [同上 (形)]. 男 (相続人たる
息子).

rikthin 形 [同上 (形)]. 男 相続人; 遺言者.

Rikh, I. 他 [=Likh] rikhati.

ā- 裂く, 引き裂く (RV. 用例一回のみ).

Rinkh, I. 他 rinkhati [きわめてまれに] (まだ歩行でき
ない幼児が)はう, 腹ばう; ゆっくり歩む.

rinkhana 甲 (幼児が)ほふくすること, はうこと.

rinkhā 女 (馬の)歩調(の一種); 踊ること.

Riṅg, I. riṅgati(-te) [まれに] (幼児が)はう; ゆっく
りまたはかろうじて動く. 使役 他 riṅgayati はわせる.

riṅgi 女 運動.

riṅgita (過受分) 甲 (波の)うねり.

riṅgin 形 (幼児が)はうこと.

Ric, VII 他 rinakti (因), IV. 自 ricyate (因), 受 ricyate

(因, 畢), 空虚にする, 取り除く (因); 解放する,
放免する (因); 自 空にされる (因); 受 ricyate

(因) を奪われる, …から救われる; 無に帰す; 義訓
[また riñcati *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Sikṣ.*] 捨,

棄, 失, 棄捨, 捨離, 遠離 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*,
Lal-v., *Mvyut.*, *Rāstr.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.* 不変分 ricitvā

義訓 棄離 *Rāstr.* 使役 recayati 空にする; 捨て
る. 使役 過受分 recita 放たれた, 棄てられた.

ati- 自 受 追い越す, 超える, 凌駕する; 卓越する;
支配する; 過多である または 余す; 長過ぎる, 大き

過ぎる; (業, 従) より一層多い または 重い, さらに
善い または 悪い; …に優越すると自負する. 過受分

atirikta 過多の, 余分の, 過度の; 大き過ぎた, 多
過ぎた, 逆過ぎた; さらに多い; (因) だけ (業) にま

さる; (従, 一°) と異なった, 分離した, 特別な;
(一°) を過多にもつ; 凌駕する. 使役 atirecayati

過多にする; やり過ぎる.

aty-ati- 受 遙かに凌駕する.

vy-ati- 受 vyatiricyate (業, 従) 以上に広がる, …を
卓越する, …に優る; (従) から離される; (業, 因) と

区別される. 過受分 vyatirikta 過多の, 過度の;
(一°) を過分にもつ, …から余る; (従, 一°) と区

別される または 異なる; (一°) を免除された. 使役
vyatirecayati 義訓 成無, 無成 *Mvyut.*

ā- (業) を (因) に引き渡す (因). 使役 ārecayati (息を)
吐き出す; (場所を) 清める. 使役 過受分 ārecita 遊

び戯れる; 遊び好きの, いたずらっぽく (動く眉).

ud- 自 受 udricyate (従) を超える, …に優る.
過受分 udrikta あり余る, 過度の, 過多の, 残っ

た; (業) を凌駕する; (因, 一°) を豊富に備えた,
おいて勝れた; 高慢な. 使役 udrecayati 増強
る.

pra- 自 受 praricyate (因) に勝る (因). 使役 p
recayati (RV.) 残す; 捨てる.

vi- 自 受 (従) を超えて広がる (RV.). 過受分 vi
kta 清められた. 使役 virecayati 空虚にする;
つ; 清める.

riñcita 過受分 [=rikta] 義訓 *Saadh-p. 62.*

ritiya 名動 他 ritiyati(-te) [=rtiya° また ar(t)tiya
ārtiya°]; 義訓 生羞愧, 超羞愧, 生慚愧 *Bodh-b*

282. 現分 ritiyamāna 義訓 羞恥 *Bodh-bh. 17*
→ artiyate.

Rip, [RV. まれに] =Lip (因) に固着する [過受
ripta のみ]. あざむく [三過 riripus のみ]. 過受
ripta.

api- 過受分 apiripta 盲目にされた (RV.).

rip 女 (RV.); 詭計, 瞞着; 悪漢, 詐欺師; 大地また
世界(?).

ripu 形 惑わす, 背信的な (因). 男 悪漢, 詐欺師 (因
敵対者, 敵 (業)); [*Yadu* の息子の名]; 義訓 賊,

盗, (魔) 賊; 怨, 怨仇, 怨家, 怨憎者, 冤, 悪闘
Bodh-c., *Buddh-c.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Rāstr*

Sikṣ., *Sūtr.*, *Suv-pr.*

ripu-kāla 男 敵 (に) 対抗して祈念された) 死神 (*Jat-m*

ripu-ghāta 男 敵を破ること.

ripuṃ-jaya 形 敵を征服する. 男 [諸王侯の名].

ripūtā 女 敵意.

ripu-nipātin 形 敵を撲滅する.

ripu-pakṣa 形 敵に味方する. 男 敵.

ripu-rakta 甲 敵の血.

ripu-rākṣaka 男 [ある象の名].

ripu-rākṣasa 男 [同上].

ripu-varjita 形 敵から免れた.

ripu-sūdāna 形 =ripu-nipātin.

ripta 過受分 → Rip.

ripra 甲 (因) 汚物, 穢すこと, 汚すこと; 不浄.

ripra-vāha 形 不浄を運び去る または 取り除く (RV. 用
一回のみ).

Riph, IV. 他 riphati (因); I. 他 rephati (Br.) ち
なる. 受 riphate r と発音される (S.). 過受分

riphita r と発音された, r と書かれた.
ā- いびきをかく.
vi- 過受分 viriphita: の音を欠いた.
riphita 過受分 → Riph.

Ribh, I. 他 rebhati (因) きしる, (火が)パチパチと
音を立てる, (流動体が)ブツブツ音を立てる; しゃ
べる, 叫ぶ.

riraṃsā (希求) 女 享樂したいという欲望; 淫奔;
義訓 欲, 欲頭, 欲慈 *Abh-k.*, *Mvyut.*

riraṃsu (希求) 形 享樂したいと思う, (業) と享樂し
たいと思う; 淫奔な.

riraṃsā 女 [同下].

riraṃśiṣā (希求) 女 守護・保護または支えたいという
欲望.

riraṃśiṣu (希求) 形 守護・保護または支持したいと思

う。

rirakṣu 形 [同上].

Riś, VI. riśati(-te) [=Liś] (因) 収穫する。過受分 riṣṭa 位置を変えられた, 引きちぎられた, 引き裂かれた, 破られた。

ā- 自 (草, 若葉を)食う。

vi- 過受分 viriṣṭa 位置を変えられた, 引きちぎられた, 破られた。

riśādas 形 (財宝の世話をする?); [Marut 神および他の神々の称] (因)。

Riṣ, I. 他 reṣati (因) [きわめてまれに]; VI. 他 riṣati (因); IV. 他 riṣyati (因, P.), 自 riṣyate (華: 自動). 傷つく; 失敗する; (他動)傷つける, 害する。過受分 riṣṭa 害された; 不成功の。使役 他 reṣayati 傷つける; 害する; 失敗させる; 自 reṣayate 傷つく; 失敗する。希求 他 ririkṣati 害したいと思う (RV.)。

riṣanya 名動 他 riṣanyati 害しようとする; 失敗する; ためらう (RV.)。

riṣi 男 [<riṣi] 漢 仙 梵 千。

riṣṭa 過受分 → Riṣ, Riś. 甲 不幸; 悪い前兆; 漢 槐 (?) 梵 雜。

riṣṭi 因 傷害; 失敗。

Rih=Lih, VI. 他 rihati (因); II. 他 自 redhi (因) [きわめてまれに]. 現分 rihāna なめる; 愛撫する。過受分 -riḍha. 強意 自 rerihyate 繰り返しなめる, 接吻する。

sam- 共になめる。

rihāna 現分 → Rih.

Ri, → Ri.

-riḍha 過受分 [Rih].

riḍhā 因 無礼。

riṇa 過受分 → Ri.

riti 因 流れ, 急流; 運動, 進路; 線, 列; (事柄の経過), 仕方, 方法, 手段; 文体, 措辞 [三種を数える: Vaidarbhi, Gauḍi, Pañcali; または四種: 上の三種に Lātikā を加える; または六種: 上の四種に Āvantikā と Māgadhi を加える]; しんちゅう; 鉄の酸化物, さび; 漢 鋤, 鋤石 Divy., 梵 雜。

riti-Bhū, 整列する。

Ru 1., II. 他 rauti (Br., 華); IV. 他 ruvati (因, 華) ほえる, うなる, 金切声を発する, 高声に叫ぶ; ガアガア鳴く; ブンブンうなる; 反響する; 漢 鳴 Abh-vy. 現分 ruvat, [まれに] ravat. 過受分 ruta (一°)の叫び等で反響する。使役 他 rāvayati ほえさせる。使役 過受分 rāvita (一°)の叫び等で反響させられた。強意 roraviti, rorūyate 高くほえる, 叫ぶ, 響く。

anu- (業)の叫び等を模倣する; (業)の叫び等に答える, …にほえかかる。過受分 anuruta (一°)の叫び等で反響する。

abhi- …に向ってほえるまたは叫ぶ。過受分 abhiruta (一°)の叫び等で反響する。

ā- 高声に叫ぶ; …にほえる; 漢 作言, 暢 Daśbh. 強意 …に高声にほえる (RV.)。

vi- (鋭く)叫ぶ, 高声に叫ぶ, ブンブンうなる; きし

る; リンリン鳴る; 叫びかける, 呼びかける; 漢 啼, 震響, 為怪響, 出大叫声 Divy., Lal-v., Rāstr. 過受分 viruta (因, 一°)の叫びで反響する。使役 virāvayati 高声に叫ぶ; [ただし 使役 過受分 virāvita のみ] 反響させる。

Ru 2. [三過 rāviṣam および 過受分 ruta のみ] 破る, 粉碎する (因). 強意 現分 roruvat [同上].

ru 男 (語尾の連声音便による) r [=本来の s] (文法).

Rumṣ, 過受分 rumṣita 埃に覆われた。

adhi- 過受分 adhirumṣita [同上].

rumṣita 過受分 → Rumṣ.

rukma 男 [甲 (AV.)] 黄金の飾り (因); 金の円盤 (Br.). 甲 金 (華).

rukma-keśa 男 [王侯の名].

rukma-puñkha 形 先端に金の飾りのある(矢).

rukma-pura 甲 黄金の町, [Garuḍa の都の名].

rukma-prṣṭha 形 黄金で覆われた, 金めっきをした。

rukmamaya 形 (因 -i) 黄金からなる, 金色の。

rukma-ratha 男 [(黄金の車に乗る), Droṇa の称]; [その他の人名].

ruknavati 因 [Pradyumna の妻の名].

rukma-steya 甲 黄金の窃盗。

rukmaṅgada 男 [人名].

rukmaḥba (°ma-ābha) 形 金色に輝く。

rukmini 因 [Pradyumna の母で Kṛṣṇa によって誘拐され結婚した Bhīṣmaka の娘の名, 後に Lakṣmī と同一視される]; 漢 具金 Mvyut.

rukmiṇi-haraṇa 甲 漢 奪金, 奪具金 Mvyut.

rukmin 形 黄金で飾られた (因).

rukmin 男 [Bhīṣmaka の長男の名および Kṛṣṇa の敵対者の一人の名]; [その他の人名].

rukmeṣu 男 [王侯の名].

rukṣa 形 漢 不足 Sikṣ. 131.

rukṣma, [rūkṣa の 不確].

rug-anvita 形 苦痛を伴う, 苦痛を与える。

rug-ārta 形 苦痛に悩まされた, 病気の。

rugna 過受分 → Ruḥ. 甲 裂け目 (RV. 用例一回のみ).

Ruc, I. 自 [他 韻律] rocate(-ti) (太陽, 火等が) 輝く; まばゆく光るまたは輝く; 美しくまたは善く見える; (為, 屬)の気に入る (不定)を伴うことがある; (業)が気に入る, …を好む; 漢 欲, 愛, 願, 称揚 Divy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p. 現分 rocamāna. 過受分 rucita 愉快的な, 心地よい, 親愛な。使役 他 rocayati 輝かす (RV.); 照らす; 気に入らせる, 心地よくさせる; (業)をして (為)に対して快樂または欲望を感じさせる; 他 自 (業, 不)に快樂を見出だす, …を好む, …を正しいと考える; (業)を(業)として選ぶ; 目ざす; (為)の気に入る; 漢 欲, 愛, 望, 喜, 愛樂, 令愛樂, 好樂 Bodh-bh., Mvyut. 使役 因 快適なまたは心地よい。

ati- 自 (業)を横切って または の上に輝く; 光輝において (業)に優る。

abhi- まばゆく輝く; (為)の気に入る。過受分 abhirucita (為, 屬)にとって愉快的な または 心地よい; 好む。使役 他 (業)を(為)で喜ばせる; 他 自 (業, 不定)を好む; (為)の (為)することを決心する。

ā- 使役 ārocayati [Pali āroceti] 語る, 話す; 告げる, 説く; 告, 言, 報, 説, 白, 告…作如是言, 高声唱言, 請禱 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Sam-r., Suv-pr., Vajr-pr., Vin.*; 欲, 乞 *Mvyut.*; 作証 *Bodh-bh.*: *pareṣāṃ cākāṅkṣamāṇānām ārocayanti* 随其所欲能為他説 *Bodh-bh. 392.*
 pra- 固 輝き出る (RV.); 喜ばせる (Br.). 使役 固 *prarocayati* 照らす; 愉快地にさせる.
 prati- 固 (業)を喜ばせる (RV.).
 vi- 固 輝き出る, 光る; 眼に見える; まばゆく輝く; 光輝において優る; (困)のように見える; 喜ばせる; 演光明, 洋洋然 *Lal-v., Mvyut.* 使役 *virocayati* 輝かせる; 好む; 端巖 *Suv-pr.*
 ati-vi- 輝きわたる, …の上に輝く.
 abhi-vi- 顕赫焰熾 *Lal-v.*
 sam- 固 一斉に輝く; 光を放つ. 使役 *saṃrocayati* 好む; …を決心する, 選ぶ.
 ruc 固 光, 輝き, 光沢; 華麗, 美; 色; 外観 [一形]; 好み, 欲望.
 rucaka 男 中 黄金の飾り(の一種), 首飾り; 瓔珞 *Lank.* 男 [Uśanas の息子の名]; [山の名].
 rucā 固 好むこと.
 ruci 固 光, 光沢; 華麗, 美; 色; (固, 不定, 一)に対する好み, 趣味, 愛好; 食欲; 楽, 愛樂, 喜樂, 愛, 愛著, 耽著, 可愛樂, 欲 *Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Madhy-v., Madhy-vibh., Saddh-p., Sūtr., 梵雜., 玄應.*; 固 虚至, 楼至 玄應. 固 *rucyā* 欲望のままに, 随意に, 気のままに. 固 (一)を好む, …にふけるまたは凝る, …を熱望する; 楽 *Divy.* → *pradāna* ~. 男 [ある神話的人物の名]. ~m Dā (固)の気に入る. ~m ā-Vah (固)に対する好みを生ずる. *rucaye BHū* (固)の気に入る.
 ruci-kara 固 欲望を起こさせる; 食欲を生ずる.
 rucita 過受分 → *Ruc.* 固 所許 *Abh-vy.* 固 祖靈祭において発せられる感歎詞.
 rucitavat 固 (語根) *Ruc* のある語形を含む.
 rucitā 固 (一)に対する趣味, …における喜び.
 rucitva 固 [同上].
 ruci-deva 男 [人名].
 ruci-dhāman 男 光の住所, 太陽.
 ruci-bhartṛ 男 [太陽].
 ruci-pati 男 光の主, 太陽; 喜びの主, 夫.
 rucira 固 光る, 輝く; 光を発する, 美しい; (固, 一)の気に入る, …の心をひく; 妙光, 妙, 上妙, 微妙, 殊勝妙, 浄, 楽, 無不愛, 信 *Daś-bh., Gand-vy., Mvyut., Rāṣṭr., Suv-pr.*
 rucira-ketu 男 妙幢, 信相 *Suv-pr.*
 rucira-deva 男 [人名].
 rucira-prabhāsa-sambhava 固 出好明 *Mvyut.*
 rucira-bhāṣaṇa 固 美しく語る, 雄弁な.
 rucira-mūrti 固 美しい形をもつ.
 rucirānana (°ra-ān°) 固 麗しい顔をもつ.
 rucirāśva 男 [人名].
 rucirāpāṅgi 固 固 美しい眼をもつ.

ruciṣya 固 愉快的な, 心地よい.
ruci 固 [韻律, =*ruci*] 光, 光沢(固).
rucya 愉快的な, 光を発する, 美しい; 欲望を刺する.
 Ruj, VI. 固 *rujati* 破る, 粉碎する, 破壊する; (固)に苦痛を生じさせる. 過受分 *rugna* 破られ粉碎された. 使役 固 *rojayati* (固)に打撃を加え
 ā- 固 固 粉碎する, (髪を)むしる, (木を)根こにする, ずたずたに裂く.
 pra- 粉碎する.
 vi- 粉碎する, 破壊する.
 sam- 粉碎する; (業)を苦しめる.
ruj 固 (一)を押しつぶす, 粉碎する. 固 苦痛気, 疾患. *mānasi* ~ 心痛, 苦悶.
rujas-kara 固 苦痛を生ずる.
rujā 固 破ること, 切断; 苦痛, 苦悶.
rujā-kara 固 (固 -i) 苦痛を生じさせる.
rujāpaha (°jā-ap°) 固 苦痛を滅する.
ruj-ārta 固 苦しむ, 病弱な.
ruju 固 疾 *Saddh-p. 96.*
ruṇḍa 1. 固 切断された. 固 頭のない体, 胴体.
ruṇḍa 2. 過受分 固 固 泣くこと (*Mah-v. II. 218.* → *runna*.
ruṇḍaka 男 =*ruṇḍa* 1. (男) [一は固].
runna 過受分 [Rud 参照, *Pali runna, ronṇa*] いている (*Mah-v. III. 116.*).
runna-nayana 固 固 落眼涙 *Mvyut.*
ruta 過受分 → *Ru* 1. 2. 固 咆哮, 金切声, 叫びいなき; 歌, (鳥の)さえずり; (蜂が)ブンブンうる声; 音, 音声, 声, 語, 言, 語言, 説, 言説所説, 聞言, 文 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Gand-vy., Lal-v., Lank., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. II. Sūtr.* → *yathā* ~.
ruta-jña 固 (獣または鳥の)言葉を知る. 固 占卜者.
ruta-ravita-ghoṣa 男 言音, 音声語言 *Gand-v.*
ruta-vetṭṛ 男 =*ruta-jña*.
rutā 固 (?) 固 声 *Mvyut.*
rutānyatva 固 文異 *Sūtr.*
rutābhijña 固 =*ruta-jña*.
rutārtha, → *yathā* ~.
 Rud, VI. 固 *rudati* (吠, 叙詩), 固 *rudate* (叙詩); 固 *roditi*; I. 固 固 *rodati(-te)* (叙詩). 泣く, 嘆く; 悲しむ; 泣, 涕泣, 啼泣, 号泣, 悲泣雨涙, 哀泣流涙, 啼哭, 哭, 悲号啼哭, 啼哭懊惱, 流涙, 愁 *Aṣṭ-pr., Av-ś., Divy., Lal-v., Rāṣṭr. Saddh-p., Sam-r., Suv-pr.* 固 固 固 *rudyamān* 涕泣の聞こえる時に. 過受分 *rudita* 泣いた; 泣いている; 涙にぬれた. 使役 固 固 *rodayati* 泣かせる, 嘆かせる. 固 固 固 *rorud-* 激しく泣く.
 anu- 後で泣く; (業)のために泣く; (業)の悲しみに加わる, (業)に悔みを言う.
 ava- 固 号哭 *Buddh-c.*
 prā (pra-ā)- 固 啼泣, 悲泣 *Śikṣ.*
 pra- 泣き始める, 嘆き始める, 泣きわめき始める; 激しく泣く, 泣きわめく; (業)と共に泣く; 泣, 涕泣, 号泣, 悲啼 *Divy., Lal-v.* 過受分 *prarudita*

ワッと泣き出した, 泣いている.
 vi- 高声に泣く・嘆くまたはわめく.
rud 形 一° 嘆く, 泣きわめく.
rudita 過受分 → Rud; 漢語 啼哭, 憂 *Lal-v.*, *Saddh-p.* 甲 泣くこと, 嘆くこと, わめくこと.
ruddha 過受分 → Rudh 1.; 漢語 閉在, 所縛, 連縛, 所檢繫 *Daś-bh.*, *Śikṣ.*
ruddha-gir 形 言葉をさえぎられた.
ruddha-mukha 形 口を封じられた.
ruddha-vaktra 形 顔を覆われた.
ruddha-vasudha 形 地を満たす; 地を蔽うすなわち地に触れる.
ruddha-virya 形 力を押えられた.
ruddhâpāṅga-prasara 形 視野を妨げられた.
ruddhāloka (°dha-āl°) 形 視界をさえぎる, 暗い.
rudyamāne 受 現分 因 → Rud.
rudra 形 ほえる, 恐ろしい; 漢語 暴悪, 緊思 *Mvyut.*
 男 嵐の神 [*Marut* 神の長, *Rudra* 神は *Brāhmaṇa* (梵書)においては時として *Agni* 神の一形と見なされるが後には *Śiva* 神と同一視される: 覆 *Rudra* 神の息子たちすなわち *Marut* 神(十一または三十三を数える)]; [*Rudra* 神に捧げられた詩句の略称]; [人名]; 漢語 暴悪 立応.; 音写 律他, 魯達羅, 嚕捺羅 *Abh-vy.*, *Guh-y-s.*, 立応.
rudraka 男 漢語 音写 [人名] 烏特迦 *Lal-v.*
rudra-kośa 男 *Rudra* 作の辞書.
rudra-garbha 男 [*Agni* 神の称].
rudra-gita 甲 *Rudra* の歌.
rudra-japa 男 *Rudra* 神に捧げられた祈禱(の一種).
rudra-jāpin 形 *Rudra-japa* を口誦する.
rudraṭa 男 [人名, =*rudra-bhaṭṭa*].
rudra-tanaya 男 擬人化された罰.
radratva 甲 *Rudra* 神たること.
rudra-darśana 形 *Rudra* 神の(恐ろしい)形相をもつ, 恐ろしい.
rudra-pāla 男 [人名].
rudra-bhaṭṭa 男 [ある学匠の名].
rudrabhaṭṭācārya (°ta-āc°) 男 [同上].
rudra-yajña 男 *Rudra* 神に捧げる祭式.
rudra-rodana 甲 (ルドラの涙)黄金.
rudra-loka 男 *Rudra* 神群または *Rudra* 神の世界.
rudravat 形 *Rudra* 神または *Rudra* 神群を伴なう.
rudra-vartani 形 [*Aśvin* 双神の称].
rudra-śarman 男 [人名].
rudra-sāvarṇi 男 [*Manu* の名].
rudra-suta 男 *Rudra* 神の息子, *Skanda*.
rudra-soma 男 [ある婆羅門の名].
rudra-hāsa 男 [ある神聖な生物の名].
rudrākriḍa (°ra-āk°) 男 埋葬地.
rudrākṣa 男 [樹の名, 学名 *Elococarpus ganitrus*].
 甲 *Rudrākṣa* 樹の漿果 [数珠を作るのに用いられる].
rudrākṣa-mālā 女 数珠.
rudrākṣa-mālikā 女 [同上].
rudrākṣa-valaya 男 甲 [同上].
rudrāṅkuśa 男 *Rudra* 神の三叉戟.

rudrāni 女 *Rudra* 神の妃, *Pārvatī*.
rudrāyaṇa 男 漢語 [王の名] 仙道 *Divy.*
rudriya 形 *Rudra* 神または *Rudra* 神群に属する等(因) 男 (因, 覆) *Marut* 神群. 甲 *Rudra* 神の威力(因).
rudraikādaśini (°ra-ek°) 女 十一の *Rudra* 神讃歌
Rudh 1. [=Ruh 1.] I. 徧 **rodhati** (RV.) [きわめて, れに] 生長する, 発芽する.
 vi- [同上].
Rudh 2. VII. **ruṇaddhi**, **runddhe**; I. 徧 **rodhat** (叙詩); VI. 徧 自 **rundhati(-te)** (叙詩) さえぎるとどめる, はばむ, 阻止する; 抑止する, 妨げる, 抑圧する; (埃を)積む; 支える, 支持する; (因)に閉じ込める, 監禁する; 閉じる, (路または空間を)塞ぐ; 包む, 包囲する; (扉等を)閉じる; 覆う, 隠す, 不明瞭にする, 充たす; 留めておく, 保つ; (業)を惜しむ, …にけちけちする(因); 失なう (Br.).
 過受分 **ruddha** 妨げられた等; 確保された, 保たれた; 占有された; 無効の(呪文). 使役 徧 (徧 韻律 **rodhayati(-te)** 妨げる, 阻止する; (業)をして(業)を監禁させる; (因)によって包囲させる; 抑制する, 影響を与える; 苦しめる, 悩ます.
anu- 妨げる, (路を)塞ぐ; 取り囲む; 制御する, 支配する; (人の)すぐ後に続く; (不浄が)粘着したままである; …に愛着する, …を好む, …を固守する…に献身する, …を実行する [普通の意義: 一般に IV 徧 **rudhyate**]; …に適合する, を顧慮する, に従う; 徧 是認する; 混乱に陥らせる. 過受分 **anu-ruddha** (一°) に注意を払う.
apa- 追い払う; (財産または支配権を)奪う.
abhi- 遠ざける, かき乱す.
ava- (誰かを)とめる; (因)に閉じ込める, 禁固する, 囲いに入れる; 包囲する, 取り囲む; (徧)から追い払う・除外するまたは追い出す; 徧 含む; 獲得する.
 過受分 **avaruddha** 妨げられた; 閉じ込められた; 縛られた; 覆われた, 隠された; 認められない; 得られた. 希求 徧 **avarurutsate** 獲得したいと思う, 取り戻したいと思う.
ā- 閉じ込める, 禁固する; 包囲する, 攻囲する; 追い払う.
upa- 閉じ込める, (家畜を)囲う; (敵を)包囲する, (町を)攻囲する; (誰かを)とめる, 抑制する; 保有する; 所有する; 妨げる, 妨害する; かき乱す, 悩ます; 覆う, 隠す, 不明瞭にする; (命を)脅かす, 危くする; (王位から)退ける; 漢語 尽, 壊 *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
ni- はばむ, とめる, 妨害する, 抑制する; 追いつく; (車を)馱す; 封鎖する, (路等を)塞ぐ; 包囲する, 攻囲する; 遠ざける; 保有する; 閉じ込める; 閉じる; (外界から心または感覚を)遠離する; 抑圧する, 消滅させる [受 消え失せる]; 握る; 漢語 誤 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Śikṣ.* 現分 **nirudhyamāna** 漢語 滅時, 正滅 *Abh-vy.*, *Maahy-v.*
 過受分 **niruddha** (手に)握られた; 覆われた, 隠された; (因, 一°)で充たされた. 使役 **nirodhayati** 閉じ込める; 閉じさせる; 漢語 滅, 令没 *Lal-v.*, *Sapt-pr.*

saṃ-ni- 閉ぢ込める, 禁固しておく; (外界から感覚を) 遠離する; 抑圧する, はばむ; 滅, 不起 *Abh-vy.* 過受分 *saṃniruddha* しっかりと握られた; (因)に充たされた。

pari- (誰かを)抑制する。過受分 *pariruddha* (一)に充たされた。

pra- 引きとどめる; 阻止する。

prati- はばむ, 抵抗する; 閉ぢ込める; さえぎる; (外界から感覚を) 遠離する; 覆う, 隠す。過受分 *pratiruddha* 遮断された, かき乱された, 妨げられた, 除去された。

vi- IV. 固 (因, 韻律) (因 ± *saha*, 屬, 因, *prati* + 業) 相違する, 喧嘩する, 争う; (因)と衝突する, 矛盾する; 妨げる, 塞ぐ; 攻囲する; 閉じる (VII. 因); 違, 違背, 相違 *Abh-vy., Divy., Lan̄k., Śikṣ.*

過受分 *viruddha* (因, 屬, 一)と調和しない, …と反対の, …に敵対する; (食物の)合わない; (一)にとって不愉快なまたは嫌いな; (因, 屬, 一)と相反するまたは両立しない, …と論理的に反対の, …と矛盾した; 正反対の; 逆の, 反対の; 禁じられた; 危機の, 危険な; 妨げられた, 阻止された。

使役 *virodhayati* 相違を起こさせる; (業)と争う; (業)を反駁するまたはに異議を唱える。使役 過受分 *virodhita* (一)と争闘させられた; 捨, 壞 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*

saṃ- 引きとどめる; 妨げる; 閉ぢ込める; 捕虜とする; (道を)塞ぐ; 包囲する, 攻囲する; 妨げる, はばんで…させぬ; 攻撃する; しっかりと掴む, 鎖に繋ぐ; 抑制する; 中止する。過受分 *saṃruddha* (一)に囲まれた; つかまれた, 閉ざされた; (因)によって覆われた; 中止された, (一)に充たされた。使役 *saṃrodhayati* 堤防を築かせるまたは築く。

rudh 形 (一)を妨げる, 阻止する。

rudhira 形 赤い, 血まみれの (AV. 用例一回のみ)。男 火星 (= *Maṅgala*)。中 血 (Br., 業) サフラン; 血 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Av-ś., Bodh-bh., Lal-v., Lan̄k., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Sv-pr., 梵千., 梵維.*; 血病 *Mvyut.*; 音写 嚙地囉 *Guhy-s.*

rudhira-kardama 男 血流成泥 *Sv-pr.*

rudhira-tāmrākṣa 形 血のように赤い眼をもつ。

rudhira-pradigdha 形 血ぬられた。

rudhira-plāvita 形 血の中を泳ぐ, 血にひたった。

rudhira-makṣita-śarira 形 血流出汚身 *Sv-pr.*

rudhira-rūṣita 形 血で覆われた。

rudhira-lālasa 形 血に飢えた; 血なまぐさい。

rudhira-lepa 男 血痕。

rudhira-sāra 形 血の優勢な, 多血質の。

rudhirādāna (°*ra-ād*°) 中 出血。

rudhirāmaya (°*ra-ām*°) 男 出血。

rudhirāsana 形 血を常食とする(悪魔, 矢)。

rundh, [*Rudh 2.* の 弱 因 韻]。

Rup, IV. 因 *rupyati* (因) [きわめてまれに] けいれんまたは激痛を感じる。使役 因 (因) けいれんさせる; 突然止める。

rup 因 大地 (RV.) [きわめてまれに]。

rumaṇa 男 [ある猿の名]。

rumaṇvat 男 [人名]。

rumā 因 [*Sugriva* の妻の名]。

ruyyaka 男 [人名]。

ruru 男 [鹿の一種]; [人名]; [*Durga* に殺された *Dānava* の名]。

ruruka 男 [王侯の名]。

rurutsu (希求) 形 [*Rudh 2.*] (因)を抑制したいと思う。

rurudiṣā 因 泣こうとする欲望。

ruru-vidāriṇī 因 [*Durgā* の称]。

ruvanya 名動 因 *ruvanyati* 荒々しい音を出す (RV. 用例一回のみ)。

ruvat 現分 → *Ru 1.*

Ruś, VI. 因 [現分 因 *ruśantī* のみ] 収穫する, 新芽を)食う (AV. 用例一回のみ)。

ruśat 現分 (因 -i) 光る, 照り輝く(夜), 輝く, 白い (因); 嫌いな, 不愉快な, 耳ざわりな(言葉)。

ruśa(d)-vatsa 形 白い子牛を有する (RV. 用例一回のみ)。

ruśanā 因 [*Rudra* 神の妻の一人の名]。

ruśanti 現分 因 → *Ruś*。

Ruṣ, I. 因 *roṣati* (何事かで)悩まされる; (因)を不快にする; IV. 因 *ruṣyati* (因)に対して怒るまたは腹を立てる; 厭 *Śikṣ.* 過受分 *ruṣṭa*, *ruṣita* (因, 因, *prati* + 業)に対して怒った, 憤った, 激怒した。使役 因 (因, 韻律) *roṣayati(-te)* 怒らせる, 激怒させる; 能順 *Bodh-bh.* 使役 受 *roṣyate* 所順 *Bodh-bh.*

prati- 使役 *pratiroṣayati* 報復, 報怒 *Bodh-bh., Kāśy.*

saṃ- 過受分 憤った, 激怒した。使役 *saṃroṣayati* いらだたせる, 怒らせる。

ruṣ 因 [困 *ruṣ*] 怒り, 激怒, 憤怒。

ruṣā 因 [同上] [一般に 一 形]。

ruṣānvita (°*ṣā-an*°) 形 怒りに充たされた。

ruṣita 過受分 → *Ruṣ*; 因 瞋, 生瞋, 瞋恚, 生大瞋心, 被逼惱 *Divy., Lal-v.*

ruṣṭa 過受分 → *Ruṣ*; 因 瞋, 生怨, 可畏 *Buddh-c., Lal-v., 梵千., 梵維.* → *a*~。

ruṣṭa-citta 形 瞋心 *Śikṣ.*

Ruh I. 因 (因, 韻律) *rohati(-te)*; IV. 因 *ruhati* (叙詩) (業)に上るまたは登る (因); (欲望を)達する (RV.); 芽を出す, 生長する; 生長して藪り, (傷が)癒える; 生ずる, 起こる, 発育する; 繁茂する, 増大する; 茂 *Lal-v.* 過受分 *rūḍha* 成長した; 癒された; (一)から起こった, …から生み出された; 根ついた, 成長した, 繁茂した; 普及された, 広く知られた, 有名な; 伝統的の, 一般に認められた, 慣用の [語原と意味が没交渉であると考えられる言葉についていう], 使役 因 *rohayati* (因, 業), *ropayati* (業)起こす; (石を)立てる; (業, 因)に置く, …に入れる, …に取りつける, …に向ける; …に移すまたは委託する; 地面の中に入れる, 植える, 播く; (庭を)設計する; 生長させる; 増大させる; 癒やす; 令種 *Rāṣṭr.* 使役 過受分 *rohita* [まれに], *ropita*。

adhi- (業, 因 用例一回のみ) のぼる, 登る; (業)を踏

む；(業)に定着する；tulām ~ (圓)と平衡を保つ，…に匹敵する；立ち上る，高く飛ぶ；…に昇る，達する；parām koṭim ~ 最高位に達する；paraspara-tulām ~ 互に似て来る；**漢訳** 上，乗 *Lank.*, *Mvyut.* **過受分** adhirūḍha (業，一°)に昇ったまたは登った，…に坐した；上に位した；達せられた；(業，一°)に達した。使役 adhiropayati (業，因)上に昇らせるまたは登らしめる，…の中に置く；(弓を)引く；(靴を)はく；(王位に)就かせる，(光輝ある地位)に復させる；(因)に委任または委託する；(名を)つける；tantre ~ はた(織機)の上に広げる；mūrdhānam ~ (業)を(屬)の首位に置く。

sam-adhi- 昇る，登る。過受分 samadhirūḍha 登った；(業)について確信した；tulām ~ 危機に陥った。

anu- (業)に登る (RV.)；固 生長する (RV.)。

vy-apa- 使役 vyaparopayati (靴を)脱ぐ；(圓，因)を奪う；**漢訳** 断，奪，離，壊，害，損害 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Prāt-m.*, *Śikṣ.*：jīvitād vyaparopayati 断命，奪命，離命，殺，能令使死 *Av-ś.*, *Mvyut.*, *Prāt-m.*, *Śikṣ.*

abhi- 上る，登る；**漢訳** 上，昇，乗，坐 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.* 使役 abhirohayaṭi **漢訳** 令載，安 *Gand-vy.*

sam-abhi- **漢訳** 登 *Divy.*

ava- (因)から(業)へ降る；(因)を踏む；(因)から降って来る，(因)を奪われる。過受分 avarūḍha 降って来た；取り下ろされた(荷)。使役 avaropayati (因)から降りさせる，下ろす；(因)から取り下ろす；(因)を奪う；減少させる；覆えず，無に帰せしめる；**漢訳** 種，令種，種殖，積集 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Sukh-vy.1.*

upāva(upa-ava)- (業)に降りる；(因)から出現する。使役 -rohayaṭi (因)から出現させる [術語として燧木中に潜在する火を引き出すことをいう]。

praty-ava- (因)から(業)に再び降りて来る，降りる；(業)を迎えるためにうやうやしく(座席**因**)から降りる。使役 -ropayati (圓，因)から下ろす，…を奪う。

abhi-praty-ava- (業)に降下する。

vy-ava- 登る。使役 vyavaropayati (因)を奪う；**漢訳** 奪，害 *Aṣṭ-pr.*：jīvitād vyavaropayati 奪命，害身命 *Aṣṭ-pr.* 740。

ā- (業，因)に上る，登る，よじ上る；(天=死)に赴く；(火葬用に積んだ薪 業)に上る；(屬)と平衡(kakṣām)を保つ=…に匹敵する；(靴を)はく；乗る；増大する；張る [弓に弦を張る時にいう]；起こる，生ずる；(好意を prasādam) 示し始める；(誓を pratijñām) 立てる，誓う。過受分 ārūḍha (一°)によって登られた，乗られた；達せられた；(業，因，-upari，一°)に上った，登った，昇った，乗ったまたは立った，に坐した；…の上にかざされた(傘)；起こった，発生した；(危険または疑惑 業)に陥った，(高地または高所 業，一°)に達した；(因)に含まれた。使役 他 (固，韻律) āropayati (-te) (業，因)に上らせるまたは登らせる，(業，因)の上に置く；登る [きわめてまれに]；秤に (tulām, saṃśaya-

tulām) かける=危険に陥らしめる；(紙 pattram の上に)置く=書き下ろす；植える；(弓)に弦を張る；(弓に弦を)張る=に附ける；高める，即位させる；(主権に)就かしめる；(業，因)に置く，(因)に導く，(眼を) (因)に向ける；(欲望の対象 manoviṣayam) を作る=心に秘める；喚起する，産出する；あらわに示す；(因)に帰する，帰属させる，引き渡す；**漢訳** 置，供養，奉施，任(重負) *Divy.*, *Raṣṭr.*, *Śikṣ.* 過受分 āropita [malatvena とともに] しみであると誤り考えられた。

aty-ā- 限界を踏み越す。過受分 atyarūḍha 過度になった，過度の。

adhy-ā- 上る，登る；(道に)入る。使役 adhyāropayati 登らせる；(ある地位に 因)高めるまたは昇進させる；…の部類 (-pakṣam) に入らしめる；(屬)に(業)に関する虚偽の印象を与える；不当に(責任などを) (因)に負わせる；誇張する；**漢訳** 計 *Abh-bh.*；増 *Bodh-bh.*

anv-ā- (誰か 業)に続いて上る；登る；入る。過受分 anvārūḍha (圓)に従事するまたはを含む。

upā(upa-ā)- (誰かの所へ)近づく；登る；(証拠 pramāṇa-padaṅgam) として通る。過受分 upārūḍha (業)に登った；(因)に位する；近づいたまたは到来した(正午)；(業)に達した。

praty-ā- 使役 pratyāropaya 再び登らせる。

sam-ā- (業，因，-upari) にのぼる；(業)に登る，…に入る；始める，企てる；(圓)と平衡 (tulām) を得る=…と同等になる；**漢訳** 上 *Saddh-p.* 過受分 samārūḍha (圓)によって登られた，乗られた；(業，因，-upari) に上ったまたは登った；(業)に入った；成長したまたは増加した；(業)に同意した。使役 samāropayati (業)をして(業，因)に登らせるまたは上らせる；…に置く；上げる，持ち上げる；高める，即位させる；(祭壇を)建立する；(業)の中に置く；(象徴的に) (業，因)の中に(聖火を)置く；(弓に)弦を張る；(因)に(何かを)委任または委託する；(因)に帰するまたは帰属させる；明らかに示す，あらわに示す；**漢訳** 建立，妄建立，安置 *Av-ś.*, *Lank.*

upa- 治愈する。過受分 uparūḍha 癒えた(傷)；(ある状態 業)に移った；様相を変じた；(因)に付着した，…の中に存在する。

o- 俗 [<ava-] 不変分 oruhitvā **漢訳** 下 *Lal-v.* 241.；oruhya (韻律) 入 *Lal-v.* 271. 使役 oropayi [<avaropayet] *Saddh-p.* 331.

ni- 過受分 nirūḍha 成長した；堅く根ざした；通常の；語原的に説明し得ない，慣用の(語義)。pramāṇam 芽を出す，発芽する，生長する；癒着する；繁茂する，増加する，強くなる；**漢訳** 生 *Śikṣ.* 過受分 prarūḍha 生長した，成熟した；治愈した；外に拡がった，増加(大)した，強くなった；(一°)から起こった・生じたまたは形成された。使役 praropayati 植える；(因)に植える=与える；(因)に付着させるまたは入れる。

prati- 再び発芽する；**漢訳** 生，生長，出生，得生，成熟，登 *Aṣṭ-pr.*, *Gand-vy.*, *Kaśy.*, *Mvyut.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*：na pṛthivyām bija-grāmāḥ sasya-grā-

mā viroheyuh 苗稼不登 *Gaṇḍ-vy.* 325. 過受分
 pratirūḍha 模倣された。使役 pratiropayati 再び
 植える；再建する。
 vi- 発芽する，芽を出す；生，令生，増長，令
 増長，令得増長，能了生長 *Bodh-bh.*, *Kaśy.*, *Lank.*
 sam- 生長する；共に生長する；治癒する；出現す
 る。過受分 samrūḍha 生長した；治癒した；出現
 した；堅く根ざした。使役 samropayati 生長させ
 る；植える；(王を)立てる；播く；治癒させる。
 使役 過受分 samropita 播かれた = 再生された：
 samropite 'py ātmani 私自身が(彼女の中に)再生
 されたが = 私は(彼女に)息子を産ませたが。
 ruh 因 生長，発芽，若枝 (因)。因 [困 rut] (一°)
 の中に生長する (困)。
 ruha 因 (一°) の中にまたはの上に生長するまたは生ず
 る；生 *Lal-v.*: dharāṇi-tala ~ 地生 *Lal-v.*
 328.
 rūkṣa 因 [Rūṣ] ザラザラした，乾いた，乾燥した，
 焦げた；耳障りの(声，言葉)，不親切な(人)；陰気な
 (家)；轟，洪，不平 *Mvyut.*, *Suv-pr.* 因 困(?)
 毀訾 *Sikṣ.* 265.; 乾涇葉，轟涇葉 *Abh-vy.* 462.
 rūkṣa-keśa 因 頭蒙塵土 *Divy.*
 rūkṣa-cetas 因 心無慈愍，悪心堅固 *Lank.*
 rūkṣaṇa 因 瘦せさせる。因 脂肪を減ずる療法。
 rūkṣatā 因 ザラザラすること，乾燥；瘦せたこと；
 荒々しいこと，不親切。
 rūkṣatva 因 [同上]。
 rūkṣa-bhāva 因 荒々しいこと，不親切。
 rūkṣa-varṇa 因 (雲のように)暗色の；艶色 *Ma-*
nj-m.
 rūkṣa-vāc 因 荒々しい言葉。
 rūkṣa-vādin 因 荒々しく話す。
 rūkṣa-vāsin 因 荒々しく叫ぶ等。
 rūkṣaya 名動 他 rūkṣayati 瘦せさせる；汚す，曇ら
 せる。
 vi- 塗る。
 rūkṣa-svara 因 荒々しい音を出す。~m 副 荒々し
 い音を出して。
 rūkṣi-Kṛ, ザラザラにする，汚す，曇らせる。
 rūkṣi-kṛta 因 荒々しくされた，汚された，塗られた，
 覆われた。
 rūcaka-hāra 因 (音写) 盧遮迦宝瓔珞 *Sukh-vy.*
 I.
 rūḍha 過受分 → Ruh；同許，成立 *Abh-vy.*
 rūḍha-granthi 因 結び目をなしている。
 rūḍha-tṛṇānkura 因 屋根に草の若芽が伸びた(宮殿)。
 rūḍha-paricchada 因 家財を積んだ。
 rūḍha-bija 因 [刊本は gūḍha°] 堅種子，種子
 堅 *Lank.* 294.
 rūḍha-manyu 因 情熱が強められた。
 rūḍha-mūlatva 因 堅く根ざしたこと，堅固。
 rūḍha-yoga 因 Yoga の修行の増大した。
 rūḍha-yauvana 因 青春期に達した。
 rūḍha-rāga-pravāla 因 愛情の若芽が力強く成長す
 る。
 rūḍha-vaṃśa 因 高貴な系統の。

rūḍha-vraṇa 因 傷が癒えた。
 rūḍha-śmaśru 因 ひげが生えた。
 rūḍha-sauḥṛda 因 友人関係が強められた，友情に
 い。
 rūḍha-skandha 因 茎または幹が生長した，高い，そ
 え立つ。
 rūḍhi 因 [Ruh+ti] 上昇，登ること [また 譬喩]；
 長；決心；有名なこと；伝統的慣習；日常の用
 法；(語原から直接に推知しえない単語の)慣用的
 意味。~m I 高い地位に達する。~m Kṛ 決定
 する。dṛḍhām ~m Ni 確実な発展を助ける。
 rūḍhi-śabda 因 慣用的の意味に用いられた単語。
 rūḍhi-śabdatā 因 単語の慣用的な使用。
 rūṇa-nayana 因 眼を泣きはらした [=ruṇa] (*Lal-*
v. 195).
 rūpa 因 外観，色 [とくに 因]，形態，形 (*nāman* の因
 夢または幻に現われる形 (因)，(因)；肖像，像，映像
 文法上の形，派生語；美しい形，美，見目よい
 と；現象；記号，指示，しるし，象徴，顕現；特
 特質，性質；情況 [時または場所の 因]；類，種類
 (一°)の痕跡；単一の見本；戯曲；色，色相
 色法，色像，容色，形色，相，形，形好，形貌，
 相，像，顔貌，礙，礙色，塵 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *A-*
ś., *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*
Madhy-bh., *Madhy-v.*, *Mañj-m.*, *Nyay-pr.*
Samkhy-k., *Sikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*, *Vaiś-s.*, *Vaj-*
pr., 梵千.; 品類 *Bodh-bh.* → evaṃ ~, tathā ~
 tad ~, yukta ~, sprhayamāna ~. 因 ~er
 (一°)の形において。因 (一°: 美しい等)の形を
 つ；(一°)の形・外貌または色をもつ，…に類似
 た；(一°)から形づくられたまたは成る，…の形の
 [形または 過受分] とともに 一° はしばしばその意味を強
 めるが，時として冗言用法であることもある。~
 Kṛ 形をとる；(困，困，困，一°)の形をとる。
 rūpaka 因 譬喩的に示す。因 [貨幣の一種，現在の
 rupee]。因 外観，形 [一般に 一° 因 = を形成する
 から成る]；姿，像；顕現，種；隠喩；戯曲，劇
 種類 [uparūpaka に対して高級な劇十種を指す]。
 rūpaka-rūpaka 因 隠喩(の一種)。
 rūpa-kartṛ 因 [*Viśva-kṛt* の称]。
 rūpa-karman 因 彫鑿 *Lal-v.*
 rūpa-kāya 因 色身，妙色身，色像 *Bodh-bh.*
Gaṇḍ-vy., *Vajr-pr.*
 rūpa-kāra 因 彫刻家。
 rūpa-kṛt 因 [同上]；[*Tvaṣṭṛ* 神の称 (因)]。
 rūpa-kriyā 因 色業 *Abh-vy.*
 rūpa-gaṇa 因 諸色 *Sūtr.*
 rūpa-guṇa 因 色の特質をもつ。
 rūpa-grāha 因 取色相，取著色 *Lank.*
 rūpa-jitāpsaras 因 美において Apsaras を凌ぐ。
 rūpaṇa 因 譬喩的称呼；試験，調査；色，色成
 成色，変壞，変礙，墮壞 *Abh-vy.*, *Mvyut.*
 ~āt 因 副 有色，変壞故 *Mvyut.*
 rūpaṇā-lakṣaṇa 因 変礙為相，変壞為相 *Abh-vy.*
 rūpaṇiya 未受分 變礙，可変壞 *Abh-vy.*
 rūpatas 因 (外)形において；以色故 *Ast-pr.*

rūpatā 女 漢訳 形色 *Bodh-bh.*
 rūpa-darsana 中 漢訳 見色, 種々色, 観(衆)色像 *Abh-vy., Bodh-bh., Lank.*
 rūpa-dhara 形 (一)の形をもつ; …の形態または色をもつ. 男 [王の名].
 rūpa-dhātu 男 漢訳 色界 *Lank., Mvyut., Sapt-pr.*
 rūpa-dhāritva 中 形をもつこと.
 rūpa-dhārin 形 形をもつ; 美を賦与された.
 rūpa-dhṛt 形 =rūpa-dhara.
 rūpa-dheya 中 形と色, 外観(因); 美.
 rūpa-nāsin 形 形を損ずる.
 rūpa-parikalpanā 形 形をとること.
 rūpa-pratibhāsa 男 漢訳 影, 影像 *Gand-vy.*
 rūpa-pratisaṃyukta 形 漢訳 具色, 色所繫 *Mvyut.*
 rūpa-prasāda 男 漢訳 浄色, 色喜, 色亮 *Abh-k., Abh-vy., Mvyut., Sūtr.*
 rūpa-bahutvatā 女 漢訳 色多種 *Lank.*
 rūpa-bhava 男 漢訳 色有 *Abh-vy.*
 rūpa-bhāj 形 美を賦与された.
 rūpa-bhṛt 形 (一)の外見をもつ.
 rūpa-bheda 男 形態の差異.
 rūpa-bhraṃśa 男 漢訳 壊色, 醜陋 *Bodh-bh.*
 rūpa-mātra 中 匹敵するものない美しさ.
 rūpa-mātra-viyojita 形 無二の美しさの奪われた.
 rūpaya 名動 他 rūpayati …に形を与える, を表わす; 舞台上演ずる, 無言劇を演ずる, 身振りによって知らせる. 因 rūpyate 漢訳 変礙, 変壊, 悩壊 *Abh-vy., Mvyut.* 過受分 rūpita 演ぜられた.
 ni- 無言劇を演ずる, 身振りによって知らせる; 施行する, 行なう; 認める; 確かめる; 探し出す; 吟味する, 注意深く観察する, 考える, 熟慮する; 検査する, 調査する, 議論する; 決定する, 確定する; (業)を(業)として選ぶまたは指名する, (為, 因, 不定)に指名する; (矢を)放つ. 不変分 nirūpya [しばしば *nirupya(Vap)* の 不確]. 受 nirūpyate 漢訳 了知 *Bodh-c.*
 pra- 説明する; 漢訳 宣, 演, 明 *Daś-bh.*
 vi- 形を損なう, 醜い. 過受分 virūpita 醜くされた, 不具にされた.
 rūpa-yauvanavat 形 若くかつ美しい.
 rūpayiṣyamāṇa 使役 未 分 漢訳 当変礙, 応変壊 *Abh-vy.*
 rūpa-latā 女 [王女の名].
 rūpa-vajra 男 漢訳 [菩薩の名] 金剛色 *Guhy-s.*
 rūpavat 形 形あるまたは色を有する; 具現された, 有形の; 形のよい, 端麗な, 美しい; 美しい色をもつ; (一)の形態をもつ; 漢訳 端正 *Śikṣ.*
 rūpavati 女 [人名]; 美しい婦人.
 rūpavattama 最上 もっとも美しい, 非常に美しい.
 rūpa-varṇa 中 漢訳 色貌 *Gand-vy.*
 rūpa-vikala 形 漢訳 色相有欠壊者 *Śikṣ.*
 rūpa-vijñapti 女 漢訳 色識 *Sūtr.*
 rūpa-vijñāna 中 漢訳 色識 *Lank.*
 rūpa-viparyaya 男 形を損ずること, 醜くすること.
 rūpa-veśa-dhārin 形 [刊本 *rūpa-veśa°*] 漢訳 現衆色像 *Lank.*

rūpa-śarira 中 漢訳 色身 *Gand-vy.*
 rūpa-śālin 形 美しい.
 rūpa-śikhā 女 [人名].
 rūpa-saṃghāta 男 漢訳 色聚 *Abh-vy.*
 rūpa-saṃjña 形 漢訳 色想 *Bodh-bh.*
 rūpa-saṃjñā 女 漢訳 色想 *Mvyut.*
 rūpa-saṃjñin 形 漢訳 有色想 *Mvyut.*
 rūpa-sanātana 男 [ある著作者の名].
 rūpa-saṃrddha 形 形が完全に似合った; 全く美しい.
 rūpa-saṃpad 女 形の完成, 絶妙の美.
 rūpa-saṃpanna 形 美を賦与された; 修飾された; 漢訳 色相具足, 形色具足, 形相端嚴, 端正 絶倫 *Lal-v., Śikṣ.*
 rūpa-siddhi 男 [人名]. 因 (文法上の)形態の正確なこと.
 rūpa-sena 男 [ある妖精の名].
 rūpa-skandha 男 漢訳 色蘊 *Mvyut.*
 rūpa-stha 形 形状をもつ.
 rūpa-sparsavat 形 色と触感をもつ.
 rūpa-svabhāva 男 漢訳 色相, 色形相 *Lank.*; [菩薩の名] 色自性 *Guhy-s.*
 rūpasvin 形 美しい.
 rūpājiva (°pa-āj°) 形 美貌によって生活する, 売淫によって生活する.
 rūpājivā (°pa-āj°) 女 淫売婦.
 rūpātman (°pa-āt°) 男 漢訳 色体, 色性 *Lank.*
 rūpādhimukti 女 漢訳 樂色 *Śikṣ.*
 rūpābhisamkāra 男 漢訳 色行 *Aṣṭ-pr.*
 rūpāyatana (°pa-āy°) 中 漢訳 色処, 色人, 色界 *Mvyut.*
 rūpāyudha-bhṛt (°pa-āy°) 男 美しくかつ武器を携えた男.
 rūpāvacara 男 漢訳 色界, 色處, 色行, 行色 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Mvyut., Suv-pr.*; *sapta-daśa ~ ā devāḥ* 十七色界天 [1. *Brahma-kāyikāḥ* 梵衆, 2. *Brahma-purohitāḥ* 梵輔, 3. *Mahābrahmāṇaḥ* 大梵, 4. *Parittābhāḥ* 少光, 5. *Apramāṇābhāḥ* 無量光, 6. *Ābhās-varāḥ* 極光浄, 7. *Paritta-śubhāḥ* 小浄, 8. *Apramāṇa-śubhāḥ* 無量浄, 9. *Śubha-kṛtsnāḥ* 徧浄, 10. *Anabhrakāḥ* 無雲, 11. *Puṇya-prasavāḥ* 福生, 12. *Bṛhat-phalāḥ* 広果, 13. *Avṛhāḥ* 無煩, 14. *Atapāḥ* 無熱, 15. *Sudṛśāḥ* 善現, 16. *Sudarśanāḥ* 善見, 17. *Akaṇiṣṭhāḥ* 色究竟] *Mvyut.*
 rūpāvati 女 漢訳 [人名] 銀色女 *Divy.*
 rūpāvabhāsa 男 漢訳 色像 *Daś-bh.*
 rūpāśraya (°pa-ās°) 形 非常に美しい.
 rūpika-vyavahāra 男 漢訳 出納求利, 売買宝物 *Mvyut.*
 rūpiṇikā 女 (ある)淫売婦(の名).
 rūpita 過受分 → rūpaya; 漢訳 曾變礙, 已變壊 *Abh-vy.*
 rūpitva 中 漢訳 有色 *Bodh-bh.*
 rūpi-dāraka 男 美しい少年.
 rūpin 形 (因 -ni) 形あるまたは形をとった; 具現された, 有形の; 化身の; 美しい(人); (一)の形また様子をした; (一)によって特色づけられた, (一)

として現われる；**𑖀𑖩𑖪** 色，有色，有形，有形色，如色，外色，外種々相 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Vajr-pr.* → a~.

rūpendriya (°pa-in°) 田 形と色とを(知覚する)器官，眼。

rūpocaya (°pa-uc°) 男 美しい形の集まり。

rūpopajivana (°pa-up°) 田 美しい容貌によって生活すること。

rūpaudārya-guṇopeta (°pa-aud°, °ṇa-up°) 形 美と高貴との両性質を賦与された。

rūpya 田 銀；**𑖀𑖩𑖪** 銀，白銀，妙色；無色(?) *Abh-vy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Prā-m.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy.I., II.*, *Suv-pr.*, 梵千., 梵維。

rūpyaka 形 銀製の。

rūpya-ketu 男 **𑖀𑖩𑖪** 銀相，銀幢 *Suv-pr.*

rūpyate, → rūpaya.

rūpya-da 形 銀を与える。

rūpya-bhāṇḍa 田 **𑖀𑖩𑖪** 銀器，銀椀 *Suv-pr.*

rūpyamaya 形 (因 -i) 銀製の，銀を含んだ。

rūpya-rajju 因 銀製の綱または鎖。

rūpya-rukṃamaya 形 銀と金とからなる。

rūra 形 燃えるような(熱病)，熱い(火) (因)。

Ruṣ, **𑖀𑖩𑖪** **rūṣita** 塵で覆われた；(一°)をもって覆われた，…を塗られた；(一°)に固着した。

rūṣita **𑖀𑖩𑖪** → Ruṣ.

re 呼 **𑖀𑖩𑖪** [時として重複して用いられる]；**𑖀𑖩𑖪** 唯，唯唯 *Mvyut.*

reka 男 種姓(階級)の賤しい人。

reku 形 [Ric] 空虚な，見捨てられた(場所) (RV.)。

rekhā 因 [Rikh] (掻いた跡)，縞，線；因画，スケッチ；第一の子午線；外觀 [(因) 一° を装って]。~m na Labh 何の痕跡をもたない，少しも似ない。

rekhā-gaṇita 田 幾何学。

rekhā-nyāsa 男 略図。

rekhā-mātram 副 線または髪の毛の幅だけ。

rekhi-Kṛ, 列に入れる，並べる。

rec-ka 男 (Yoga 修行において)息を吐き出すこと。

recana 形 空虚にする；清める。田 空になること，減少；息を吐き出すこと；排泄。

recita **𑖀𑖩𑖪** **𑖀𑖩𑖪** 空にされた，放棄された等。→ Ric. 田 [馬の歩調の一種]。

Rej, I. 田 **rejati** 震えさせる (RV.)；田 **rejate** 震える，おののく (因)。**𑖀𑖩𑖪** **rejamāna** 揺れる。**𑖀𑖩𑖪** **rejayati** 震えさせる (RV.)。

rejamāna **𑖀𑖩𑖪** → Rej.

reṇu 男 塵；微塵；花粉；[人名]；**𑖀𑖩𑖪** 塵，土塵，微細 *Divy.*, *Lal-v.*, *Mañj-m.*；**𑖀𑖩𑖪** 連瓮 *Lal-v.*

reṇuka 男 [ある呪文の名]。

reṇu-kakāṭa 形 塵を捲き上らせる (因)。

reṇukā 因 [Jamadagni の妻で Paraśurāma の母の名]；**𑖀𑖩𑖪** 微塵，開門(?) *Divy.*

reṇukā-tanaya 男 *Reṇukā* の息子，[Paraśurāma の称]。

reṇukā-tanayatā 因 [同上 田]。

reṇukā-suta 男 =reṇukā-tanaya.

reṇu-kleśa 男 **𑖀𑖩𑖪** 煩惱 *Lal-v.*

reṇu-guṇṭhita 形 塵に覆われた。

reṇutva 田 塵の状態。

reṇu-bhū 男 **𑖀𑖩𑖪** [王の名] 地塵 *Lal-v.*

reṇuśas 副 [Kṛ とともに] 塵に帰する。

reṭaḥ-kulyā 因 精液の流れ。

reṭaḥ-pāta 男 精液の射出。

reṭaḥ-pātin 形 精液を射出する，(婦人 因)と性交する。

reta-ja 形 実の子。

retas 田 [Ri] 流出，流れ (因)；精液の射出；精液；種子，子孫，世代。~taso 'nte 精液を射出した後に，~to DHā 妊娠させる。

retasa 田 一° [同上]。

retasya 形 精液を運ぶ，…を支配する。

reṭaḥ-sicya 田 精液の射出。

reṭaḥ-seka 男 [同上]；(婦人 因)との性交。

reṭaḥ-sekṭṛ 男 妊娠させる人。

reṭaḥ-skandana 田 精液の射出。

reṭaḥ-skhalana 田 [同上]。

reto-dhas 形 妊娠させる，子を儲ける；[±pitṛ 男] 実父。

reto-dhā 形 妊娠させる (因)。

redhaka 男 [人名 (別の読み方 recaka)]。

repas 田 [Rip] 汚点 (RV.用例一回のみ)。

repha 男 [Riph] r の音，r の文字。

rephin 形 r の文字をふくむ。

rebha 形 [Ribh] 音を立てる，反響する (因)。**男** 歌う人；[人名]。

rebhamāṇa **𑖀𑖩𑖪** [Ribh]。

rebhāya **名動** 田 **rebhāyati** 輝く，光を放つ。

rebhin 形 (一°) 反響させる。

rebhila 男 [人名]。

rebhilaka 男 [同上]。

rerihya, [Rih の **𑖀𑖩𑖪**]。

revat 形 (因) [=rayivat] 富んだ；豊富な；光る，輝く。

revata 男 [王の名]；**𑖀𑖩𑖪** 室星 玄応；**𑖀𑖩𑖪** [仏弟子の名] 離越，螺越，蚕越，離婆多，梨婆多，梨波多，哩嚩帝，韻餘伐多 *Saddh-p.*, *Sukh-vy.I, II.*, 玄応。

revati 因 田 牝牛 (因)；大水 (因)；[ある Sāman の名]；田 (および 田) [月宿の名]；[人名，とくに *Balarāma* の妻の名]；**𑖀𑖩𑖪** [二十八宿の一] 奎，奎宿，流灌 *Divy.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*

revati-graha 男 **𑖀𑖩𑖪** 女魅，腹行魅 *Mvyut.*

revanta 男 [太陽の息子で Guhyaka (秘密主)達の長の名]。

revā 因 [河の名 = *Narmadā*]。

reṣaṇa 形 [Riṣ] 傷害する (RV.用例一回のみ)。田 (田) 失敗；傷害。

rai 男 [まれに 因] [Rā] 財産，富。

raikva 男 [人名]。

raikva-parṇa 男 田 [地名]。

raitika 形 [riti から] 真鍮製の，真鍮の。

raitya 形 [同上]；**𑖀𑖩𑖪** 黄銅 *Mvyut.*

raibhi 因 [ある祭儀用の詩節の名 (rebha という語を含む)].

raibhya 因 [人名].

raivata 形 (因 -i) 富んだ (RV. 用例一回のみ); *Manu Raivata* に関する. 因 (圍) [山の名]; [ある悪魔の名]; [人名]; 漢訳 [人名, また=revata, revati] 遇時, 室星 玄応; 音写 梨婆多, 梨波多, 利婆陀, 頡隸伐多 *Lal-v.*, 玄応.

raivataka 因 [山の名 (圍 その住者)]; [ある門番の名].

roka 因 [Ruc] 光明, 輝き; 光輝 (RV. 用例一回のみ).

rokas 因 あるいは roka 因 光輝 (RV. 用例一回のみ).

roga 因 [Ruj] 病弱, 病氣, 疾病; 患部; 漢訳 病, 病苦, 患, 疾苦, 疾病, 疾患, 疾疫, 疫病, 痛, 痊 *Abh-vy.*, *Av-s.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.* → a~.

roga-ghna 形 病気を撲滅する.

roga-da 形 病気を引き起こす.

roga-nirmukta 形 漢訳 痊愈 *Lal-v.*

roga-pālaka 因 看病人.

roga-prada 形 =roga-da.

roga-prāsamana 形 漢訳 除(諸)病苦, 除(一切)病 *Suv-pr.*

roga-bhāj 形 病気に加かった.

roga-vairūpya 因 病氣のために形が醜くなること.

roga-śama 因 病氣から回復すること.

roga-sambaddha 形 病気に加かった.

roga-sprṣṭa 形 漢訳 病者, 遇疫疾, (天)降疫病 *Mvyut.*, *Suv-pr.*

roga-hṛt 因 (病気の除去者), 医者.

rogādi-bhūta (°ga-ād°) 形 漢訳 病等苦逼, 疾苦所逼 *Abh-vy.*

rogāntara-kalpa 因 漢訳 (音写) 疾病劫, 疫病中劫, 疫病内劫, 疾疫中間劫, 劫中有疾疫 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*

rogāyatana (°ga-āy°) 因 身体.

rogārta (°ga-ār°) 形 病気に加かった, 病気に悩む; 漢訳 多疾患, 多有疾苦 *Suv-pr.*

rogārdita 形 [同上].

rogāviṣṭa (°ga-āv°) 形 [同上].

rogin 形 [同上]; 漢訳 病人 *Bodh-c.*

roca 形 [Ruc] 輝く (AV. 用例一回のみ); 漢訳 光明, 妙光, 意樂, 意喜; [花の名]色妙花 *Gand-vy.*, *Mvyut.*

rocaka 形 [Ruc] 食欲をそそる. 因 ガラス製造人, 模造宝石の製造人.

rocana 形 (因 -ā, -i) 光る, 輝く; 愉快的な, 愛らしい; 食欲を刺激する; 漢訳 照 *Gand-vy.*; 樂 (於和合), 欲樂, 喜 *Lank.*, *Śikṣ.* 因 (因) 輝き, 光輝; 光明の天界 [また 覆, 三を数える]; (覆) 天体, 星; 漢訳 照 玄応; 音写 盧舍那, 盧柘那, 盧折羅 玄応. 因 [人名].

rocana 因 (牛の)胆石; [人名]; 漢訳 愛樂 *Bodh-bh.*; 広令流布 *Bodh-bh.*; 牛黄 *Guh-y-s.*; *saddharma-pratirūpakānām* ~ *deśanā-vyavasthāpanā*

宣説建立像似正法広令流布 *Bodh-bh.* 289.

rocamaṇa 因分 [Ruc] 美しい. 因 (馬の)たてがみ.

rocamaṇā 因 漢訳 (音写) 盧支摩那書 *Lal-v.*

rocayatā 因 漢訳 愛樂 *Bodh-bh.*

rociṣa 因 [人名].

rociṣṇu 形 輝く, きらめく, 火花を発する; 派手に装った; 食欲をそそる.

rociṣmat 因 [Manu の子の名].

rocis 因 光明, 光輝; 優美.

roṭhamāna 因分 苦しめる.

roda 因 =rodana.

rodah-kuhara 因 天と地の間の空界.

rodana 因 泣くこと; 漢訳 哀, 哭 梵千., 梵維.

rodara (ra-ud°) 形 r の字を含む. 因 *Cakravāka* 鳥 [Anas casarca].

rodas 因 因 または °一 天と地.

rodasi 因 (因) 天と地; (因) [*Rudra* の妻で *Maru* 神群の伴侶の名]; 電光; 地.

rodita 因受分 漢訳 号泣, 啼哭 *Gand-vy.*, 梵千.

roditavya 因受分 (因) 非人 泣くべきである.

rodo-randhra 因 =rodah-kuhara.

roddhavya 因受分 [Rudh] 閉ざされるべき.

roddhṛ 因 攻囲者.

roddhos, [Rudh の 因 不定].

rodha 因 引き止めること, 抑制すること; (因)に閉じ込めること; (一°)による(道の)閉塞; 封鎖, 攻囲防止, 妨害, 阻止, 抑圧; 堤, 堰; 漢訳 違, 違逆, 逐, 断, 不通, 按 *Mvyut.*

rodhaka 形 (一°)を閉じる; 封鎖する.

rodha-cakra 形 堤に沿って転流れ(河) (因)

rodhana 因 禁固; 抑制, 停止, 阻止; 漢訳 拘禁 *Bodh-bh.*

rodha-bandhana 因 漢訳 囹圄 *Lal-v.*

rodhas 因 堤防, 堰; 岸, 高い堤; (井または雲の)急が壁; 山の斜面; 婦人の臀部.

rodhasvati 因 [河の名].

rodhin 形 (一°)を抑止する, 近づけない; (戸を)閉鎖する; 防止する, 妨害する, 邪魔する; (音を)消す; 満たす.

rodho-bhū 形 堤に生ずる.

rodhra 因 [樹の名, 学名 *Symplocos racemosa.* = *Lodhra*; 黄色の花がありその樹皮から紅粉を製する].

ropa 因 [Ruh の 因 役 から] 栽培; 矢.

ropaka 形 栽培する.

ropaṇa 形 (因 -i) 着る; (傷を)癒す. 因 建設, 建立; 治療, 治療薬; 栽培; 漢訳 植, 下種子, 安立 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*

ropaṇākā 因 [鳥の一種] (因).

ropaya, [Ruh の 因 役].

ropayitṛ 因 (業, 因) の着用者; 栽培者.

ropita 因 役 因受分 → Ruh; 漢訳 植, 種, 已種, 建, 建立 *Madhy-vibh.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*

ropitavat 因能分 漢訳 奉 *Divy.*

ropin 形 (一°)を栽培する.

ropya 因受分 植えられるべき, 播かれるべき; 治

されるべき。

roma 1. 一〇 形 =roman; 毛, 身毛 *Bodh-bh.*
Gand-vy.

roma 2. 男 ローマ市。

romaka 1. 中 [一般に 一〇 形 (女 -ikā)] 毛。

romaka 2. 男 ローマ市; (種) ローマ人。

romaka-pattana 中 ローマの都市。

roma-kūpa 男 中 毛孔; 毛孔, 毛端 *Gand-vy.*
Lank., Mvyut., Sikṣ., Sukh-vy. I.; 身毛 *Divy.*:
sarva ~ āny āhrṣṭāni 身毛皆豎 *Divy.* 35.

romakūpa-jāta 形 心驚毛豎 *Lal-v.*

roma-garta 男 =roma-kūpa.

romaṇvat 形 毛深い (RV. 用例一回のみ)。

roman 中 (人および動物の) 身体の毛 [一般に頭髪, 髭,
たてがみまたは尾を除く]; 羽毛; 魚のうろこ [まれ
に]; 毛, 身毛, 体毛, 毫 *Abh-vy., Divy.,*
Lank., Saddh-p., Sikṣ., 梵千., 梵雜. → loman.

romantha 男 反芻, 反芻すること; (キンマを) かむ
こと; しばしば反覆すること。

romanthāya 名動 中 romanthāyate 反芻する。

roma-pāda 男 [人名]; 如毛墮地 *Mvyut.*

roma-pulaka 男 毛の逆立つこと, 戦慄。

roma-baddha 形 毛で織られた。

roma-bandha 男 毛織物。

roma-bhrū 女 眉毛 *Mvyut.*

roma-mukha 中 毛孔 *Gand-vy., Sikṣ.*

roma-rāji 女 (とくに妙齡のしるしとして婦人のへその
上部にある) 毛の線または糸。

romarāji-patha 男 腰。

roma-rāji 女 =roma-rāji.

romavat 形 毛深い。

roma-vikriyā 女 身の毛のよだつこと, ぞっとするこ
と, 戦慄(とくに喜悅の)。

roma-vibheda 男 [同上]。

roma-vivara 中 =roma-kūpa; 毛孔 *Gand-vy.*

romaśa 形 毛の多い, 毛深い; [聖仙の名]。

roma-harṣa 男 (寒さ・恐怖・喜び・怒りまたは淫奔に
よって) 毛の逆立つこと, ぞっとすること, ぞくぞ
くすること; 毛豎, 身毛豎, 身毛喜豎, 毛髮
豎然 *Mvyut., Sam-r., Sikṣ., Suvik-pr.*

roma-harṣaṇa 形 (歡喜または恐怖によって) 毛を逆立た
しめる, ぞっとさせる。中 ぞっとすること; 毛豎
毛豎(戦掉) *Ast-pr., Lank.* 男 [人名]。

roma-harṣin 形 毛を逆立てた, ぞくぞくする(とくに喜
びのために)。

romāṅka 男 身毛または毛髪で作ったしるし。

romāṅkura 男 逆立った毛。

romāṅca 1. 男 身の毛のよだつこと, ぞっとすること。

romāṅca 2. 名動 他 romāṅcati 身ぶるいを感じる。

romāṅcaya 名動 romāṅcayati 毛を逆立てる。

romāṅcita 過受分 毛を逆立てた, (喜びで) ぞくぞく
する; [-hetu] 拳身毛豎 *Lank.*

romāṅcin 形 [同上]。

romānta 男 (手の) 毛のある側 (=手の甲); 毛孔
Suv-pr.

romāli (°ma-āli) 女 (婦人のへその上部の) 毛の列。

romāvali (°ma-āv°) 女 [同上]。

romodgati (°ma-ud°) 女 毛の逆立つこと, ぞっとす
ること。

romodgama (°ma-ud°) 男 [同上]。

romodbheda (°ma-ud°) 男 [同上]。

roraviti. [Ru の 強意]。

roruka 中 出生, 広大声 *Gand-vy.*; [城の名]
勝音 *Divy.*

roruvat 強意 現分 → Ru 2.

rola-deva 男 [ある画家の名]。

rolamba 男 蜂。

roṣa 男 (一〇) に対する激怒, 怒り; 瞋, 瞋恚,
瞋恨, 怨恨, 怨惡, 恚, 訶責 *Ast-pr., Bodh-bh.,*
Buddh-c., Lal-v., Raṣṭr., Sikṣ. ~ m Kṛ (prati) に
対して立腹する。

roṣaka 形 怒り猛った [*Pali roṣaka*]; 瞋恚, 瞋
恚, 瞋忿, 罵詈 *Bodh-bh., Divy.*

roṣaṇa 形 癩癧の, 激怒した; (一〇) に立腹する

roṣaṇatā 女 癩癧, 激昂し易いこと。

roṣa-tāmrākṣa 形 (女 -i) 怒りのために眼の血走っ
た。

roṣa-dṛṣṭi 女 怒りのまなざし。

roṣa-parita 形 怒りに満ちた。

roṣa-bhāj 形 怒った。

roṣamaya 形 怒りから生じた。

roṣa-rūkṣa 形 怒りのために荒々しい。

roṣāgni 男 情熱または怒りの炎。

roṣāvaroha 男 [ある戦士の名]。

roṣita 使役 過受分 激怒させられた, 憤怒した; 瞋
瞋, 怒, 違犯, 違忤, 逼惱 *Bodh-bh., Lal-v., Mvyut.,*
Sikṣ.: ~ ena na pratiroṣitavyam 人怒不違怒, 他
瞋不応返瞋 *Mvyut.*

roṣitavat 過能分 瞋恨 *Sikṣ.*

roṣin 形 怒った, 怒り猛った。

roha 形 [Ruh] (一〇) に登る, 乗った。男 上ること;
高さ; 生長; 増加。

rohaka 形 乗った。男 騎士。

rohaṇa 男 [山の名, セイロン島の Adam's Peak]。

中 (一〇) の上にのぼること, 登ること, 乗ること,
立つことまたは坐ること; 出現すること, 産出; 傷の
癒えること。

rohaṇi 女 菓草。

roha-sena 男 [人名]。

rohi 男 羚羊 (の一種)。

rohiṇa 形 *Rohiṇi* 星座の下に生まれた。男 [種々の
植物の名]。

rohiṇa-taru 男 [同上 (男)]。

rohiṇi 女 [rohin および rohita の 女] 赤い牝牛; [月
宿の名, 五個の星からなり, 車・殿堂または魚に似
ていると考えられる; *Dakṣa* の娘で月の妻として擬
人化される]; *Rohiṇi* に関連する(太陰暦の)日; (月
経の始まったばかりの)少女; 牝牛(種); [*Vasudeva*
の妻で *Balarāma* の母の名]; [二十八宿の一]
畢, 畢宿, 長育 *Divy., Mañj-m., Mvyut.*; [菓草の
名] 胡蓮, 藟香 *Mvyut.*

rohiṇi-kānta 男 月(太陰).
 rohiṇi-tanaya 男 [Balarāma の母系].
 rohiṇi-taru 男 [樹の名].
 rohiṇi-pati 男 月(太陰).
 rohiṇi-priya 男 [同上].
 rohiṇi-yoga 男 月と Rohiṇi 星座との会合.
 rohiṇi-ramaṇa 男 月(太陰).
 rohiṇiśa (°ṇi-iśa) 男 [同上].
 rohiṇi-śakaṭa 男 甲 Rohiṇi 星座の車形.
 rohit 女 赤い牝馬 (RV.); 牝の羚羊 [多くは 因].
 rohita 1. [Ruh の 使役 過受分].
 rohita 2. 過受分 赤い, 赤味があった. 男 赤いまたは栗色の馬(因); 鹿(の一種); 魚(の一種); 不完全な虹(の一種); [Hariścandra の息子の名]. 因 [韻律の一種]; 不完全な虹(の一種).
 rohita-vastu 因 漢訳 音写 [地名] 盧薩多婆蘇都 Lal-v.
 rohitākṣa 形 赤い眼をもつ; [人名].
 rohitāśva 男 [Hariścandra の息子の名].
 rohitendra-dhanus (°ta-in°) 因 因 完全な虹と不完全な虹.
 rohid-aśva 形 赤い駿馬をもつ (因).
 rohin 形 (因 -ṇi) 上る; (一°)まで上る; そびえ立つ, 丈の高い; (一°)の上にまたは中に生ずる; (数が)増す.
 rohi 女 =rohi.
 raukma 形 (因 -i) 金色の, 金(rukma)で飾られた.
 raukṣya 因 [rūkṣa から] 乾いたこと, 乾燥無味, 瘠せたこと; 荒けずり, 粗野, 残酷.
 raucanika 形 (因 -i) rocanā の色をもつ, 黄ばんだ.
 raudra 形 (因 -ā, -i) Rudra に属する・関するまたはに由来する; Rudra のような, 烈しい, 猛烈な, 野蛮な, 恐ろしい; 惡, 凶惡, 凶暴, 凶詭, 兇暴, 兇暴, 暴惡, 懷惡, 勇猛 Bodh-bh., Divy., Mvyut., Saddh-p., Sūtr. 男 Rudra の崇拜者. 因 (?) 熱. 因 野蛮, 恐ろしいこと, 畏怖; 憤怒の情緒 (修辭); [ある Sāman の名].
 raudra-karma 形 暴行する; 凶暴業 Bodh-bh.
 raudra-karman 形 [同上]; 兇暴業者 Bodh-bh.

raudra-karmin 形 [同上].
 raudra-citta 形 惡心, 懷惡心, 具害心, 兇暴心, 神情醜惡 Divy., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.
 raudratā 因 恐ろしいこと; 暴惡 Bodh-bh.
 raudra-damṣṭra 形 恐ろしい牙をもつ.
 raudra-bhaya-vikṛta 形 形貌可畏, 形貌醜惡 Gand-vy.
 raudrākṣa 男 [人名] 惡眼, 可畏 Divy., Raṣṭr.
 raudrāśva 男 [Puru の子孫の名].
 raudri-bhāva 男 Rudra の性質.
 raudhādika (°dha-ād°) 形 rudh で始まる語根(の種類すなわち第七類)に属する.
 raudhira 形 (因 -i) 血(rudhira)からなる, 血から発する.
 raupya 形 銀(rūpya)製の. 因 銀.
 raupyamaya 形 (因 -i) 銀製の.
 raupya-māṣaka 男 銀の重量の単位(マーシヤカ).
 raupya-rukṃamaya 形 金銀製の.
 rauma 男 [人名].
 raurava 形 (因 -i) (ruru) 羚羊から生じた. 男 [ある地獄の名]; 号, 号叫, 号叫地獄, 叫喚, 叫喚獄, 叫呼獄, 旱, 災旱 Abh-vy., Bodh-bh., Lank., Mvyut. → mahā~.
 rausadaśva 男 Ruśad-aśva の子, [Vasumanas の父系].
 rauhiṇa 形 (因 -i) Rohiṇi 星座に関する. 男 白檀の樹またはインドいちじくの樹; [Indra 神に征服された惡魔の名].
 rauhiṇeya 男 [Balarāma の母系].
 rauhi 女 牝鹿(の一種).
 rauhita 形 Rohita 国から来た. 男 [樹の名, 学名 Audersonia rohitaka].
 rtha-kāra 男 rtha の字または音; (音写) 曷囉他字 [四十二字門の一]: ~m parikīrtayataḥ saṃsāra-praticakra-jñāna-maṇḍalaṃ nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam, 唱曷囉他[三合上声] 字時能甚深入般若波羅蜜門名利益衆生無我無人智慧灯 Gand-vy. 449.

L

la 男 [すべての時法を包括する文法上の術語=定動詞(第一次接尾辞をもち定動詞と同様に扱われる若干の語形にも適用される)].
 la-kāra 男 la の字または音; (音写) 羅字 [五十字門の一]: latā-chedana-śabdaḥ (→ a-kāra) 唱羅(上声)字時出断一切生死枝条声 Lal-v. 128.; (音写) 羅字 [四十二字門の一]: ~m parikīrtayato nāma-vigatānālaya-vimalaṃ nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam 唱羅字時能甚深入般若波羅蜜門名離名色依処無垢汚 Gand-vy. 449.

lakuca 男 パンの木(の一種).
 lukuṭa 男 棍棒; 杖 梵雜.
 lakuṭāhati (°ṭa-āh°) 因 棍棒の強打.
 lakuṭin 形 棍棒をもつ.
 lakkaka 男 [人名].
 Lakṣ, I. lakṣa- 観察する, 認める, 理解する; 留意する.
 vi- 觀瞻 Saddh-p.,
 saṃ- 惟付 Divy.
 lakṣa 男 因 賭物 (RV.); 標章, しるし. 因 狙い, 目

標；見せ掛け，仮託：ākāśe ~m Bandh 天を凝視する，漠然と空を見る。 ㊦ ㊦ [数の名] 十万； ㊦ ㊦ 十万，百万，億 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, 梵千., 玄応.; ㊦ ㊦ 洛叉，洛沙，勒叉 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Guhya-s.*, *Lank.*, *Mvyut.*, 玄応.

lakṣaka ㊦ 暗示的に(=省略的にまたは譬喩的に)表現する。 ㊦ [人名]. ㊦ [数の名] 十万.

lakṣaṇa ㊦ 指示する，間接的に表現する；(一)によって特色づけられた；(一)を伴う；(一)の形をとる，(一)として現われる；…に關係のある，…の影響範囲にある；[時として *lakṣmaṇa* と混同]. ㊦ 標章，しるし，記号，特徴，属性 [㊦ は集合的に]；線條；(祭場に)引かれる線；標語(㊦)；幸運なまたは縁起のよい相，吉兆，瑞兆；(病気の)徴候；性の特徴，生殖器；記述，定義；名称，名；種，種類；狙い，目標，範囲；見せかけ；原因；結果，影響；機会，時機；料金； ㊦ ㊦ 相，能相，体相，顕相，色相，相好，相法，相貌，威容 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Nyāy-pr.*, *Raṣṭr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Vajr-pr.*; 箕 *Divy.* 513. : ~āni sthāpyante 作相 *Aṣṭ-pr.*; triṇi ~āni 三相 [1. parikalpita-lakṣaṇam 徧計所執相, 2. para-tantra ~m 依他起相, 3. pariniṣpanna ~m 円成実相] *Mvyut.*; dvātriṃśan mahāpuruṣa ~āni 大丈夫三十二相 [1. uṣṇiṣa-śiraskatā 頂上現烏瑟膩沙, 2. pradakṣiṇāvarta-keśaḥ 髮毛右旋, 3. sama-lalāṭaḥ 額広平, 4. ūrṇā-keśaḥ 白毫, 5. abhinila-netra-gopakṣmā 眼色紺青而眼睫如牛王, 6. catvāriṃśad-dantaḥ 四十齒具足, 7. sama-dantaḥ 齒齊平, 8. avirala-dantaḥ 齒無隙, 9. suśukla-dantaḥ 齒白淨, 10. rasa-rasāgratā 得味中上味, 11. siṃha-hanuḥ 頷如師子, 12. prabhūta-tanu-jihvaḥ 舌広薄, 13. brahma-svaraḥ 得梵音, 14. susaṃvṛtta-skandhaḥ 肩善円満, 15. saptotsadaḥ 七処円満, 16. citāntarāṃsaḥ 髀間充実, 17. sūkṣma-suvarṇa-cchaviḥ 身皮細滑金色, 18. sthitānavanata-pralamba-bāhutā 正立不屈二手過膝, 19. siṃha-pūrvārdha-kāyaḥ 身上半如師子, 20. nyagrodha-parimaṇḍalaḥ [身相]円満如諾瞿陀, 21. ekaika-roma-pradakṣiṇāvartaḥ 一毛右旋, 22. ūrdhvaṃga-romaḥ 毛上靡, 23. kośagata-vasti-guhyāḥ 勢峯藏密, 24. suvartitoruḥ 腿美円, 25. ucchāṅkha-pādaḥ 足跖脩高充滿, 26. mṛdutaruṇa-hasta-pāda-talaḥ 手掌足下細軟, 27. jālāvānaddha-hasta-pādaḥ 手足纏網, 28. dirghāṅgulīḥ 指纖長, 29. cakrāṅkita-hasta-pāda-talaḥ 手掌足下具輻輪相, 30. supraṭiṣṭhita-pādaḥ 足善安住, 31. āyata-pāda-pārṣṇīḥ 足跟広長, 32. aiṇeya-jaṅghaḥ 鑿泥耶踰] *Mvyut.* → a~.

lakṣaṇa-karman ㊦ 特徴の陳述，正しい定義； ㊦ ㊦ 所相 *Madhy-v.*

lakṣaṇa-guṇa ㊦ ㊦ 相功德 *Suv-pr.*

lakṣaṇa-citrita ㊦ ㊦ 諸相莊嚴，相好莊嚴 *Raṣṭr.*, *Śikṣ.*

lakṣaṇa-citrita-gātra ㊦ ㊦ 相好莊嚴身 *Śikṣ.*: va-ra~ 身相極殊特 *Śikṣ.* 329.

lakṣaṇacitritāṅga ㊦ ㊦ 備衆相，相好莊嚴身 *Śikṣ.*

lakṣaṇa-jña ㊦ (身体の)諸相を知る；(㊦)のよい特を知った； ㊦ ㊦ 善知相術 *Divy.*

lakṣaṇa-jñāna ㊦ ㊦ 相智 *Bodh-bh.*

lakṣaṇa-tattva ㊦ ㊦ 相真実 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*

lakṣaṇatva ㊦ 相または定義たること.

lakṣaṇa-duḥkhatā ㊦ ㊦ 相苦 *Madhy-bh.*

lakṣaṇa-nirodha ㊦ ㊦ 相滅 *Lank.*

lakṣaṇa-pariśuddhi ㊦ ㊦ 諸相清淨 *Aṣṭ-pr.*

lakṣaṇa-pariśodhana ㊦ ㊦ [Samādhi の名] 淨相，嚴淨相 *Mvyut.*

lakṣaṇa-bhūṣita ㊦ ㊦ 百福莊嚴 *Divy.*

lakṣaṇa-bhraṣṭa ㊦ (一切の)吉兆を奪われた，不な.

lakṣaṇa-maṇḍita ㊦ ㊦ 衆相莊嚴 *Śikṣ.*

lakṣaṇa-lakṣaṇā ㊦ 修辭法の一種，換喩 [㊦ *Gaṇḍ* 河の獣の群れ集まる所 = *Gaṇḍā* 河の岸の…].

lakṣaṇavat ㊦ (㊦)をもって特徴とする；(よい)相ある.

lakṣaṇa-vikalpa ㊦ ㊦ 相妄想，相分別，妄想分別 *Lank.*

lakṣaṇa-vyañjana ㊦ ㊦ 相好 *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-bh.*

lakṣaṇa-vyavasthita ㊦ ㊦ 相所成，就相建立 *Abh-vy.*

lakṣaṇa-sūnyatā ㊦ ㊦ 相空 *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*

lakṣaṇa-saṃkara ㊦ ㊦ 相雜 *Abh-vy.*

lakṣaṇa-satya ㊦ ㊦ 相諦，相実 *Bodh-bh.*

lakṣaṇa-saṃnipāta ㊦ 烙印を押すこと.

lakṣaṇa-saṃniveśa ㊦ [同上].

lakṣaṇa-sampad ㊦ ㊦ 相好具足，諸相具足，諸相成就，相好莊嚴，相好円満 *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-v.*

lakṣaṇa-sūtra ㊦ ㊦ (㊦)相好修多羅，諸相素嚢 *Bodh-bh.*

lakṣaṇa-sthiti ㊦ ㊦ 相住 *Lank.*

lakṣaṇa-svabhāva ㊦ ㊦ 相自性，相(性)自性 *Lank.*

lakṣaṇa-svabhāvatā ㊦ ㊦ 相無性 *Vijñ-t.*

lakṣaṇa-hetu ㊦ ㊦ 相因 *Lank.*

lakṣaṇā ㊦ 狙い，的；指示，間接または比喩的表示省略的表現，換喩 (metonymy)； ㊦ ㊦ 相，有相，能相 *Lank.*, *Sūtr.*

lakṣaṇānuvyañjana ㊦ ㊦ 相好，諸相隨好 *Gaṇḍ-vy.*, *Sūtr.*

lakṣaṇābhisaṃdhi ㊦ ㊦ 相節，相秘密 *Mvyut.*, *Sūtr.*

lakṣaṇin ㊦ (身体の)諸相をもつ；諸相を知る.

lakṣaṇi ㊦ ㊦ 相 *Abh-vy.*, *Madhy-v.*: tri~ 三相 *Madhy-v.* 145.

lakṣaṇiṇya ㊦ ㊦ 目に見える；省略的にまたは譬喩的に表現された； ㊦ ㊦ 有相 [刊本 °ṇā] *Lank.* 365.

lakṣaṇaikāntya (°ṇa-aik°) ㊦ ㊦ 相定 *Sūtr.*

lakṣaṇotpāda (°ṇa-ut°) ㊦ ㊦ 相生 *Lank.*

lakṣaṇopeta (°ṇa-up°) ㊦ ㊦ (衆)相具足，具真実相 *Lank.*

lakṣanya 形 標章として役立つ；(よい)相のある。

lakṣa-datta 男 [王侯の名]。

lakṣa-pura 田 [町の名]。

lakṣa-bhūta 形 標的となった，万人に求められる。

lakṣaya 名動 他 (自 韻律) lakṣayati(-te) 印を付ける；特性づける，定義する；指示する，間接的に表示する；目ざしている，意味する；(罽)を(罽)と考えるまたは見なす，(ある人 罽)を(直接話法 +iti)であると想定する；顧慮する，検査する；観察する，注意する，認める，見る [しばしば第二の同格的 罽 とともに用いられる；通常の意義]，(yad)であることを見る。 罽 lakṣyate 意味される；(罽)は(罽)と称せられる；(罽 ±iva)のように見える，のように思われる； 罽 可相，可得；知，応知 *Abh-vy.*, *Lank.*, *Saddh-p.* 罽 罽 罽 lakṣita (罽，一°)によって印を付けられた，指示されたまたは区別された；暗示によって表わされた；(一°)に狙いをつけた(矢についていう)；観察された，注意された，認められた，見られた，了解された。 罽 罽 罽 lilakṣayīṣita 表現しようとして意図された，意味せられた。

anu- 目ざしている。

abhi- 罽 罽 罽 abhilakṣita (罽)によって印づけられたまたは決定された；知らされた，報ぜられた；見られた，観察された。

ā- 観察する，注意する，見る [±同格的 罽]。 罽 ālakṣyate (罽)の相を呈する。 罽 罽 罽 ālakṣita 認められた，見られた；聞かれた。

upā(upa-ā)- 見る，見出す。

upa- 定義する；譬喩的に表現する；注目する，留意する；(罽)を(罽)と見なす；認める，観察する，注視する，見る [±同格的 罽；通常の意義]；認知する；聞く；感ずる [upa-Labh の異読あり]； 罽 罽 罽 観察 *Aṣṭ-pr.* 罽 upalakṣyate 譬喩的に表現される；(罽)を表わすために譬喩的に用いられる；(罽)が(罽)であるかのように見える； 罽 罽 罽 知 *Mañj-m.* 罽 罽 罽 upalakṣita (罽，一°)によって印づけられたまたは区別された，特徴づけられた；注目された。

abhy-upa- 注目する，認める。

sam-upa- 注意を向ける，観察する；認める，見る。
vi- 認める，観察する；(目標を見失う)，当惑する； 罽 罽 罽 観瞻 *Saddh-p.* 罽 罽 罽 vilakṣita 困惑した，当惑した；憤った。

sam- 認める，観察する，学ぶ [±同格的 罽]；聞く； 罽 罽 罽 観，知，謂，思惟，惟付，心念，作(是)念 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Śikṣ.* 罽 samlakṣyate 見える。

lakṣa-vedhin 形 標的に当てる。

lakṣa-saṁkhya 形 幾十万の。

lakṣa-supta 形 寝たふりをした。

lakṣā 女 罽 罽 [数の名] 一億 *Divy.*: suvarṇa ~ 真金一億 *Divy.* 535.

lakṣita 罽 罽 罽 → lakṣaya.; 罽 罽 罽 封 *Divy.* → sva-mudrā ~.

lakṣitatva 田 暗示による表現。

lakṣitavya 罽 罽 罽 定義されるべき。

lakṣin 形 よいしるしのある，吉兆のある。

lakṣi-Kṛ, ...を狙う；...に向う；計算する。

lakṣi-kṛta 形 (罽) に達する(数)。

lakṣi-BHū, (一°)の的となる。

lakṣeśa (°ṣa-iśa) 男 十万金の主。

lakṣmaka 男 [人名]。

lakṣma-kaṇikā 田 小さい点，斑点。

lakṣmaṇa 形 しるしのある。 男 鶴 [学名 *Ardea sibirica*]；[人名，とくに *Dāśaratha* の子で *Rama* の弟の名]；[*Duryodhana* の息子の名]。 田 標章，しるし，符号；[時として *lakṣana* と混同]。

lakṣmaṇa-svāmin 男 [*Lakṣmaṇa* の像の名]。

lakṣmaṇā 女 *Lakṣmaṇa* 鶴の雌；[王女の名]。

lakṣmaṇātmaja (°ṇa-āt°) 男 *Lakṣmaṇa* の息子，[*Candra-ketu* の名]。

lakṣman 田 標章，しるし，符号 [罽 は時として集合的に]；善い相，卓越；悪い相，汚点，瑕瑾；定義。

lakṣmi-varḍhana 形 幸運を増す。

lakṣmi-saṁpanna 形 幸運をもつ。

lakṣmi 田 標章，しるし (RV.)；[±pāpī] 悪いしるし，不幸 (AV.)；善いしるし [一般に 罽 においては *punya* とともに]，(近づく)幸運；(王の)守護神，(王の)威厳，栄光；富；美，光輝；繁栄と美との女神 [大海の攪拌から生じたもので *Viṣṇu* 神の妃]； 罽 罽 罽 吉祥，吉祥相，福德，功德，嘉慶，浄端嚴，力，威徳力 *Buddh-c.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.* → a ~ pāpa-duḥsvapna.

lakṣmika, 一° [同上 (罽)]； 罽 罽 罽 殊好色像 *Saddh-p.*

lakṣmi-kānta 男 [*Viṣṇu* 神の称]。

lakṣmitva 田 *Lakṣmi* と同一であること [*Sita* について]。

lakṣmi-dhara 男 [人名]。

lakṣmi-nātha 男 [*Viṣṇu* 神の称]。

lakṣmi-pati 男 王；[*Viṣṇu-Kṛṣṇa* 神の称]。

lakṣmi-ramaṇa 男 [*Viṣṇu* 神の称]。

lakṣmivat 形 幸運を有する，幸運な；端麗な，美しい。

lakṣmi-vasati 女 *Lakṣmi* の住居 = 紅蓮華 [学名 *Nelumbium speciosum*]。

lakṣmi-vinaya 男 罽 福と徳。

lakṣmi-vilāsa 男 罽 王の行為。

lakṣmi-sakha 男 幸運の女神の友または寵児。

lakṣmi-sena 男 [人名]。

lakṣya 罽 罽 罽 定義されるべき；指示されるべき，間接に表示または表現されるべき (罽) と見なされるべき；注目された；観察されるべき，(罽，一°)によって認知されるべき；見られるべき，知覚されるべき。 男 [ある呪文の名]。 田 狙われたもの，賞；目的，標的；十万；見せ掛け，仮託；二次的または間接の意味； 罽 罽 罽 所相，可相(法)，所観，所見，可見，所見相，的，相性之根 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*；箭把子 *Mvyut.* ~ m Labh 目的を達する。 ~ m Bandh (罽) にねらいを定める；[ākāśe とともに] 漠然と空中を凝視する。

lakṣyatā 女 目に見えること；目標たること。 ~ m Ni 見せる，示す。 ~ Yā 標的となる。

lakṣyatva 田 (一°) の目標たること。

lakṣya-bhūta 形 標的となった。
 lakṣya-bheda 男 的に当てること。
 lakṣya-lakṣaṇa 中 相可相, 能所相, 能見所見
Lak., Madhy-v.
 lakṣya-lakṣaṇa-bhāva 男 指示されるものと指示する
 ものとの関係。
 lakṣya-supta 形 眠ったふりをする。
 lakṣyābhiharāṇa 中 賞を取ること。
 lakṣyārtha 男 間接的の意義。
 lakṣyālakṣya 未受分 見えかつまた見えない, ほとん
 ど見えない。
 lakṣyi-Kṛ, (一)の目的とする; (一)のために目標
 となる。
 Lag, I. 中 lagati (因) に付着する, …に執着する,
 固着する; (心 因) をつき通す; (因) に功力を生ず
 る; (因) に触れる, …と接触する; 会合する, (線が)
 交叉する; 随伴する, (議論が) 起こる; (日) が経過
 する。 過受分 lagna (因, 一) に付着した, …に執
 着した, …を握る, …に触れる, …に固着した; …
 に随伴する; 過ぎ去った(日); (因) によって消費され
 た; (不定) …し始めた: *prṣṭhe, prṣṭhataḥ* とともに
 または *prṣṭha* ~ (人の) 背を抱きしめる = (人の) 後に
 随い行く; *mārge* ~ 道に留まる = 道を辿る; *hṛdaye*
 ~ 心を貫く。
 anu- 過受分 anulagna 直後に随伴する。
 ava- ぐずぐずする。 過受分 avalagna 垂れ下っ
 た; (一) まで垂れる。
 ā- …に執着する。 過受分 ālagna (一) に付着す
 る。
 pari- 過受分 parilagna (一) に執着する。
 vi- (因) に付着する。 過受分 vilagna (因, 一) に執
 着する, …に付着する, …を固執する; (身体 因) に
 突き当たる; 固定した(凝視); [一, *tira-* とともに]
 岸に沿って歩く; 籠に入れられた(鳥); 過ぎた, 費
 された(時間); 細い(腰)。
 sam- 過受分 saṁlagna (因, 一) に執着する, …に
 付着する, …に接触する; (一) から発する。
 laguḍa 男 棍棒, 杖; 杖 *Abh-vy., Divy.,* 梵千。
 laguḍa-sikhiyaka 男 杖髻外道, 杖勝外道
Abh-vy.
 laguḍa-hasta 形 棍棒を手にした。
 laguḍin 形 棍棒をそなえた。
 lagna 過受分 → Lag.; 著, 執, 連 *Divy.,*
Saddh-p., 梵千, 梵雑。 男 中 交叉点, 太陽および遊
 星が出る点; 星占い; (一) に対する縁起のよい幸
 運な時機; 時合, 時富 *Mvyut.*
 lagna-kāla 男 (事業に) 縁起のよい時。
 lagna-graha 形 固執する, 出しゃばりの。
 lagna-cintā 女 縁起のよい時を考えること。
 lagna-dina 中 (事業に) 縁起のよい幸運な日。
 lagna-divasa 男 [同上]。
 lagna-velā 女 = lagna-kāla。
 lagna-samaya 男 [同上]。
 lagnāha 男 (事業に) 縁起のよい日。
 laghaya 名動 他 laghayati 軽くする, 小さくする,
 減ずる; 緩める; 軽んずる, 賤しめる; 凌駕する。

laghiman 男 軽いこと; (自由に) 体を軽くする神通
 軽さの感覚; 浮薄; 軽蔑, 軽視; 軽 *Mvyut.*
 laghiṣṭha [laghu の 最上]。
 laghiyas [laghu の 比較]。
 laghiyastva 中 重要でないこと。
 laghu 形 (因 -vi, -u) [raghu の後世の形] 速かな
 活発な, 敏捷な; 軽い; 容易に消化される; 気
 な, 陽気な; 妨げられない, 従者のない; 容易な
 容易に明瞭に発音される(v の文字); (韻律上) 短い
 小さい, 小形の, 少い, 瑣々たる, つまらない;
 よわい, 憐れな, 賤しい, 低い; 温和な, 柔かな;
 い; 快い, 望ましい; 眉目のよい, 美しい; 小奇
 な(衣服); 少, 軽, 軽安, 軽利, 軽便 *Abh-vy*
Ast-pr., Lal-v., Mañj-m., Sāmkhy-k., Śikṣ., 梵千
 梵雑。 副 速かに; 速, 疾, 不久, 安穩 *A*
pr., Bodh-bh., Divy., Gand-vy., Lal-v., Suv-pr
 laghu laghv eva 速疾 *Bodh-bh. 5.* ~Man 軽ん
 ずる, 軽蔑する。 ~Kṛ 嘲る。
 laghu-koṣṭha 形 空虚な胃をもつ。
 laghu-kaumudī 女 小 *Kaumudī* [*Siddhānta-kaumu*
 の摘要書の名]。
 laghu-krama 形 速い歩調の, 急いだ。 ~m 副 速
 かに。
 laghu-gati 形 速かな歩調の。
 laghu-citta 形 気軽な, 移り気の。
 laghu-cittatā 女 [同上の 中]。
 laghu-citra-hasta 形 軽やかで器用な手をもつ。
 laghu-cintā 女 思いのままに軽くなりうる能力。
 laghu-cetas 形 小心な, 卑屈な。
 laghu-cchedya 形 破壊され易い[恐らくは -ucchedya
 の不確]。
 laghutara 形 [laghu の 比較]。
 laghutā 女 活発, 敏捷, 軽いこと; 気楽, 快活性; (韻
 律上) 短いこと; 小さいこと, 短いこと; つまらぬ
 こと; 軽率, 無思慮; 品位を欠いたこと, 軽蔑, 墮
 落。
 laghutva 中 [同上]; 軽, 軽利, 軽便, 軽動
Lal-v., Mvyut., Śikṣ.
 laghu-patanaka 男 (速かに飛ぶもの), [ある鳥の名]
 laghu-parākrama 形 速かに決意する。
 laghu-parikrama 形 敏捷に動く。
 laghu-pāka 形 速かに成熟する, 容易に消化する。
 laghu-pātin 形 (速かに飛ぶ), [ある鳥の名]。
 laghu-pramāṇa 形 短い。
 laghu-prayatna 形 僅少の努力をもって発音される。
 laghu-bhāva 男 安楽。
 laghu-bhuj 形 少食な。
 laghu-bhojana 中 軽い食事。
 laghu-bhrātr 男 弟。
 laghu-mātra 形 重要でない事柄, つまらないこと。
 laghu-mūla 形 取るに足りない根元をもつ, 最初は取
 るに足りない。
 laghu-laghu 副 速疾, 疾疾 *Bodh-bh. 190.*
 laghu-vāsas 形 軽いまたは清らかな衣服を着た。
 laghu-vikrama 男 速歩。 形 足の速い。
 laghu-vivaratva 中 孔の狭いこと。

laghu-vṛtti 形 気軽な, 軽い; 軽々しい.
 laghu-vṛttitā 因 軽卒.
 laghu-vedhin 形 容易に貫く, 巧妙に打つ.
 laghu-śighra-javam 副 軽捷迅速 *Sikṣ.*
 laghu-sattva 形 弱い性格をもつ.
 laghu-sattvatā 因 [同上 副].
 laghu-saṃtāpa 形 (病気の)苦しみの軽減された.
 laghu-saṃdeśa-pada 形 数語で要求を表明する(演説).
 laghu-samutthāna 形 (働こうとして)速かに立ち上る, 敏速な.
 laghu-samudiraṇatva 因 軽揺, 軽等動性 *Mvuyut.*
 laghu-sāra 形 取るに足りない, 無価値な.
 laghu-syada 男 敏捷な運動.
 laghu-hasta 形 軽妙な, 敏捷な(射手・書手等).
 laghu-hastatā 因 手先の敏捷なこと, 巧妙.
 laghu-hastatva 因 [同上].
 laghu-hārīta 男 (短い Hārīta), [*Hārīta* 法典の一本の名].
 laghu-hṛdaya 形 気軽な, 移り気な.
 laghū-Kṛ, 小さくする, 容易にする, 都合よくする; 短かくする; 面目を失わせる, 卑しめる; 軽視する.
 laghū-kṛta 形 重さを減じた, 軽んじられた.
 laghūkti 因 短縮した表現(法).
 laghūtthāna 形 速かに取りかかった; 早速の; 敏活な.
 laghūtthānatā 因 身軽なこと, 強壯, 敏捷, 健康 [*Pali* lahuṭṭhāna]; 体軽平, 起居軽利 *Mvuyut.*, *Saddh-p.*: ~ca yātrā ca 起居軽利 *Divy. 156.*
 laghūtthita 形 敏速な.
 laghv-āśin 形 少食な.
 laghv-āhāra 形 [同上].
 laghvi 形 [laghu の 因] 軽 *Mvuyut.*, *Sikṣ.*
 laṅ, [一過 の人称語尾(文因)].
 laṅkataṅkatā 因 [*Samdhya* の娘の名].
 laṅkā 因 [セイロンの首府の名]; セイロン [叙詩] では *Ravana* の支配下にある *Rākṣasa* の住地; 音写 [島の名] 楞伽, 婆伽 *Lank.*, 玄応.
 laṅkā-dvīpa 男 中 セイロン島.
 laṅkādhīpati (°kā-adh°) 男 [*Ravana* の称].
 laṅkā-nātha 男 [同上].
 laṅkānila (°kā-an°) 男 セイロンから吹いて来る風, 南風.
 laṅkā-patha 男 (音写) 楞伽道 *Gand-vy.*
 laṅkā-parivāsin 形 (音写) 楞伽国住者 *Mañj-m.*
 laṅkāri (°kā-ari) 男 *Lankā* の敵, [*Rāma* の称].
 laṅkāvatāra (°kā-av°) 男 [経の名] (音写) 入楞伽, 楞伽経 *Mvuyut.*
 laṅkāvatāra-sūtra 因 (音写) 入楞伽経 *Sikṣ.* [大乘入楞伽経, 楞伽阿跋多羅宝経].
 laṅkā-samara 男 (*Sita* を解放するための) *Lankā* の戦い.
 laṅkeśa (°kā-īśa) 男 [*Ravana* の称].
 laṅkeśvara (°kā-īś°) 男 [同上].
 laṅkodaya (°kā-ud°) 男 *Lankā* における日の出.
 laṅga 形 びっこの; 躄, 座短, 足残者 *Aṣṭ-pr.*,

Mvuyut., *Saddh-p.*

laṅgala 因 すき(犁) (=lāṅgala).

Laṅgh, I. [Raṅgh 参照] 因 laṅghate 横切る, 超える; 因 laṅghati (因) に跳び上る; 消耗する, 消費する. 使役 因 (因) laṅghayati(-te) 跳び超える, (境界を: *maryādām*, *sthitim*) 越える; (ある距離を)横切る; 通過する, 登る, 入る; 踏み越える, 犯す, 侵す, (命令等に)背く; 回避する, 逃れる; 防止する, 避ける, 背く; (通過する), 無視する, 怒らせる, 辱しめる, 傷つける; 優越する; 暗くする, (名声を)蔽う; 移す, 運ぶ; (食事を見すごさせる)断食させる; 違 *Guhya-s.* 過受分 laṅghita. ati- 使役 atilaṅghaya-(因) を跳び越える; 犯す. abhi- 使役 abhilaṅghaya- 跳び越えるまたはまたいで越える, 横切る; 犯す, 侵す; (ある人 因) に対して罪を犯す. ava- 使役 avalaṅghaya- 越える; (時を)過ごす. ul- 使役 ullaṅghaya- 越える, 越す, 横切る, 通過する; (ある距離を)通過する, (時を)費す; (因)に登る; 犯す, 侵す, 破る; (道を)棄てる; (因)を脱する, …を逃れる; 辱しめる. 過受分 ullaṅghita. sam-ul- 使役 samullaṅghaya- 犯す, 破る, 無視する; 横切る. pari- 使役 parilaṅghaya- (道を)棄てる. prati- (因)に坐る; 犯す, 破る. vi- 跳ぶ, (因)に上る; 超, 越 *Abh-vy.* 使役 vilāṅghaya- 跳び越える, 通過する, 横切る; (ある距離を)通過する; (限度を: *sthitim*) 越える; 逸する, (定刻を)違える; (天)までまたはの方へ昇る; 避ける; (因)と一致しない; 犯す, 破る; 打ち勝つ; 挫折させる, (努力を)空しくする; 取り消す, 棄てる; 凌駕する; 断食させる. ati-vi- 使役 ativilāṅghaya- (無視して)通過する. laṅghana 因 跳躍; 通過すること, 跳び越えること, (因, 一°)を横断すること, (道: 一°)を横切ること; (馬の)騰躍; (一°)までまたはの方へ上ること; (女性との)性交; (要塞の)攻略; 征服; (命令等の)背反; 軽蔑; 侵害, 傷害; [一° ātapa- とともに] (熱に)さらすこと; 断食; 跳 *Sikṣ.* laṅghaniya 未受分 渡られるべき, 横切られるべき; 追いつかれるべき; 背反されるべき(命令); 侮辱されるべき(人). laṅghanā 因 侵害. laṅghita 使役 過受分 → Laṅgh; 跳, 超越, 騰跳, 摧壞 *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvuyut.* laṅghya 未受分 跳び越えられるべきまたは通過されるべき, 横切られるべき; 過ぎ去るべき(道); 背反されるべき; 疎略にされるべき; 到達し得る; 攻撃されるべき; 断食せしめられるべき. Lajj, I. (因) 因 lajjate(-ti) (因)の前に恥じる, (誰か 因, まれに 因) を恥じる, (ある物: 因) を恥じる, (不定) することを恥じる. 過受分 lajjita (ある人 因, ある物 一°)に当惑したまたはを恥じた; 恥ずかしがる. 使役 因 lajjayati (ある人を)慚愧させる; 慚愧を感じしめる. vi- (不定) することを恥じる. 過受分 vilajjita (一°)

を恥じた。

sam- 恥じる。

lajjana 田 𣎵 恥, 恥心 *Abh-vy.*

lajjā 因 羞恥, 恥ずかしがること, 当惑; (一)を羞
じること; (人格化された)羞恥 (=Dharma の妻);
𣎵 恥, 羞, 羞恥, 慚恥, 慚愧, 生慚愧, 当惑
Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Śikṣ., Sātr., Vijñ-t.
→ a~.

lajjā-kara 形 (因 -i) (一)に恥ずかしめる, (一)に
とって不名誉な。

lajjākṛti (°jā-āk°) 形 恥ずかしい様子をする。

lajjāyita 名動 過受分 恥じた, 当惑した。田 当惑
(擧)。

lajjā-rahita 形 𣎵 無羞 *Sātr.*

lajjālu 形 恥ずかしい, おくびょうな。

lajjāluka 形 内気な。

lajjāvat 形 内気な; 当惑した; 𣎵 具慚愧, 具足慚
愧, 有慚有愧 *Daś-bh., Gaṇḍ-vy.*

lajjā-sīla 形 [同上]。

lajjāvaha (°jā-āv°) 形 不面目な。

lajjita 過受分 → Lajj. 田 恥, 内気。

lajjitva 田 𣎵 耻 *Abh-vy.*

lajjin 形 𣎵 慚愧, 有慚愧, 懷慚者 *Mvyut., Saddh-p.*

laṭ, [現在の人称語尾(因)因]。

laṭa-bha 形 愛らしい, 美しい, 惚々する。

laṭa-bhā 因 美少女。

laṭvākā 因 [鳥の一種]。

Laṭ, 1. I. 田 laṭati 動き廻る [きわめてまれに]。

Laṭ, 2. (=Lal),

upa- [=upa-Lal] 使役 upalādayati (=upalālayati)
やさしく扱う, 愛撫する, 可愛がる; 𣎵 出柔軟
語 *Divy. 503.*

laṭakā 因 𣎵 [民族の名]。

laṭa-ha 形 田 [=laṭa-bha] 愛らしい, 美しい, 惚々
する。

laṭita 過受分 [=lalita] 𣎵 戲 *Śikṣ.*; 嚴飾 *Lal-v.*

laṭṭi 因 田 𣎵 糞 *Divy. 513.* → laṇḍa.

laṭṭu 因 [糖菓の一種]。

laṭṭuka 因 田 [同上]; 𣎵 団, 喜団, 飯丸子 *Mv-*
yut., 梵千., 梵雜.

laṭvā 因 [人名]。

laṇḍa 田 排泄物。

laṇḍra, ロンドン (London) [おそらくは フランス 語
Londres から]。

latā 因 はい広がる植物, つる草 [通常の意義: しばしば
一, 眉・腕・頭髮・きゃしゃな肢体・劔の刃・電
光等を意味する語とともに美・細・柔等の意味を表わ
す]; 枝; *Madhavi* つる草 [学名 *Gaertnera race-*
mosa]; 鞭の革紐; 真珠の首飾; きゃしゃな婦人;
女; [*Meru* の娘の名]; 𣎵 蔓, 蔓草, 藤; 枝,
枝条, 樹枝; 笞, 鞭; 所纏 *Av-ś., Bodh-c., Lal-*
v., Mañj-m., Śikṣ., Suv-pr., 梵雜.; sāla~iva
猶如娑羅樹枝 *Suv-pr. 41.*

latā-gahanavat 形 つる草の發生した。

latā-grha 田 つる草のあずまや, 亭。

latānta (°tā-an°) 田 (?) 花。

latānta-bāṇa 因 (花の矢をもつ), 愛の神。

latā-pāśa 因 つる草の花づな(装飾として)。

latā-pṛatāna 因 つる草の巻きひげ。

latā-maṇḍapa 因 =latā-grha.

latā-mādhavi 因 *Madhavi* つる草 [学名 *Gaertnera*
racemosa]。

latārka (°tā-ar°) 因 𣎵 葱 *Mvyut.*

latālaya (°tā-āl°) 因 (ふくろうの)つる草の住居。

latā-valaya 因 田 つる草のあずまや。

latā-valayavat 形 亭をもつ。

latā-valli 因 𣎵 枝, 藤樹 *Mvyut.*

latā-vitāna 田 因 つる草からなる天蓋。

latā-veṣṭitaka 田 つる草がからみつくこと。

latikā 因 小さいまたは細いつる草 [腕・きゃしゃな身
体をこれに喩える]; 真珠の紐。

Lap, I. 田 (因, 韻律) lapati(-te) [*Rap* の後世の形]
喋る, 話す [また鳥についていう]; 囁く, 呷く; 悲
しむ; 𣎵 告言, 説(是)言, 誦念 *Lank., Mvyut.*
使役 田 lāpayati 語らせる。 𣎵 誦念 lālapiti 無駄口
をきく(因); lālapyate 悲しむ; 繰り返して話しかけ
る(叙詩)。

apa- 否定する, 拒む。 過受分 apalapita 横領され
た。

abhi- 話す, 喋る; 命名する, 名づける; 𣎵 説,
言説, 説言語, 有言説 *Bodh-bh., Lank.*

ā- 話しかける; (samam, saha とともに)と談話する;
語る, 話す; (業)に(業)を云う; 𣎵 言, 語…言,
告言, 申, 談論, 問訊 *Bodh-bh., Lal-v.*; 請, 請言
Daś-bh.; kaundinyam ālapati 語橋陳如等言 *Lal-*
v. 419. 使役 ālāpayati (業)と談話を始める, …に
語る。

upā(upa-ā)- …について語る, を挙げる。

sam-ā- (業)と談話する; 𣎵 談語 *Lal-v.*

ul- (言葉で)宥める; 𣎵 輕笑 *Saddh-p. 482.*:
uccagghanam kariṣyanti ullapiṣyanti 輕笑 *Saddh-*
p. 482. 使役 ullāpayati 愛撫する; 甘言でいざな
う; おもねる; 𣎵 輕弄, 輕易, 輕蔑 *Aṣṭ-pr. 771.*
sam-ul- 声を張り上げる, 話し始める。

pra- 輕卒にまたはむやみに話す, 無駄口をきく; 談
話する, 語る; 叫ぶ; 嘆く; 悲しげに言うまたは告げ
る; 哀願する; 𣎵 説, 妄説, 虚誑説, 誦語 *Bodh-*
bh., Lal-v., Lank. 使役 pralāpayati 語らせる。

vi-pra- 詳細に陳述する, 嘆く; 𣎵 啼泣 *Divy.*

vi- 意味不明の音を出す, 歎く, (prati)を悲しむ;
慟哭する, 悲しみ泣く; 様々に云う; 𣎵 涕泣, 啼
哭 *Divy.* 使役 vilāpayati 悲しませる; 多く話さ
せる。

sam- 談話する; 名づける; 𣎵 談論, 酬対, 共興
談論, 讚 *Bodh-bh.* 使役 samlāpayati (人に)話し
かける; 𣎵 説戲笑語 *Śikṣ.*

lapana 田 口。

lapanā 因 𣎵 諂, 虚談, 佞, 嬌妄, 諂佞語 *Abh-vy.,*
Bodh-bh., Mvyut.

lapita (過受分) 田 冗舌, プンブンいう声または音;
𣎵 説, 所説, 語 *Bodh-bh.* → saṃskṛta~.

lapitā 因 [人名]; 𣎵 語論 *Bodh-bh.*

lapeta 男 [小供に危害を加える悪魔].
lapsudin 形 あごひげのある(山羊)(因).
laba 男 うずら(鶉) [学名 *Perdix chinensis*]; [ある讃歌作者の名](因).
labdha 過受分 達せられた, 得られた, 発見された等.
→ Labh.; 漢訳 得, 已得, 既得, 有所得, 所獲得
Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., Sūtr., 梵雜. → a~.
labdha-kāma 形 希望を達した, 充たされた(要求).
labdha-cakṣus 形 漢訳 既得眼 *Saddh-p.*
labdha-janman 形 生じた.
labdha-tīrtha 形 機会を得た.
labdha-datta 男 受けたものを与えた(人の名).
labdha-nāman 形 (因)において名を得た, 名高い.
labdha-nāśa 男 得た(ものを)失うこと.
labdha-nidrā-sukha 形 睡眠を楽しむ.
labdha-para-bhāga 形 (因)より卓越する, …を凌駕する.
labdha-praṇāśa 男 =labdha-nāśa; [*Pañcatantra* 第四巻の題名].
labdha-pratiṣṭha 形 名声を得た.
labdha-pratyaya 形 (ある事に)確信を有する.
labdha-pratyayatā 女 [同上 因] (因).
labdha-prasamana 中 得たものを確保すること.
labdha-prasara 形 自由な活動範囲を得た, 妨げられない.
labdha-balādhānatva (°la-ādḥ°) 中 漢訳 得勝力, 諸力具足 *Aṣṭ-pr.*
labdha-lakṣa 形 (因)に勝利を得た, …を試みた.
labdha-lakṣaṇa 形 機会を得た.
labdha-lakṣya 形 =labdha-lakṣa.
labdha-lābha 形 目的を達した; 見事に(一°)を得た.
labdhavat 過能分 (彼は)得た; 漢訳 致得 *Saddh-p.*
labdha-vara 形 恩恵を得た. 男 [ある舞踊教師の名]; 漢訳 已受命 *Divy.*
labdha-varṇa 形 (文字=知識を習得した), (因)に通曉した.
labdhavarṇa-bhāj 形 学者を庇護する.
labdhavya 未受分 得られるべき.
labdha-śabda 形 名を得た, 名高い.
labdha-saṃjña 形 意識を回復した, 正気を取りもどした.
labdhāntara 形 機会をつかんだ.
labdhāntaratva 中 [同上 因].
labdhāvakaśa 形 機会または活動範囲を得た.
labdhāvasara 形 =labdhāntara.
labdhāspada (°dha-ās°) 形 足場を得た.
labdhi 女 [Labh+ti] (属, 一°)への到達, …の獲得; 利益, 利得; (生命の)保持; (一°)の発見または知覚; 確定; (数学上の)商.
labdhī 形 獲得する.
labdhodaya (°dha-ud°) 形 隆盛に達した(王); 生み出された.
Labh, I. 自 (因) labhate(-ti) [*Rabh* の後世の形] 捕える, 遭遇する, 発見する; 看取する; (因)から(業)

として取得する, 獲得する, 受け取る; 回復する; (不定; 動詞的 因の 因)する機会を得る; 所有する; 知覚する, 認識する, 確かめる; 漢訳 得, 速得, 獲得, 受, 取, 遇, 得遇, 遭, 値遇 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Lal-v., Lanik., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.: labheya samāgamam* 値, 奉事 *Suv-pr. 31. antaram* ~ 機会を見出す; (属)に印象づける. *avakāśam* ~ 活動の余地を見出す, 適当である. *kālam* ~ (動詞的 因の 因)するの(正しい)機会を見出す. *garbham* ~ 受胎する. *janma* ~ 生れる. *darśanam* ~ 見ることが出来る. *padam* ~ 足場を得る. *saṃjñam* ~ 意識を回復する. 因 labhyate 見出される, 邂逅する; 達せられる; (不定, 時として 因の 意義に用いられる)することを承諾されるまたは許される; 結果として生ずる; …によって包含される, …の概念に包摂される; 漢訳 可得, 所得 *Aṣṭ-pr.* 過受分 labdha. 使役 他 lambhayati (人 業)をして, (業, まれに 因)を得させる; (人 業)に合因(saṃjñam)を与える; 達する, 得る; 発見する, 見出す. 希求 他 (自, 韻律) lipsati(-te) (因)から…を捕えたいと思う, から…を手に入れたいと思う, から…を得たいまたは受け取りたいと思う, から…を切望する.
anu- 背後から捕える.
abhi- 触る; (因)から得る. 希求 abhilipsati 捕えたいまたは得たいと思う.
ā- 捕える; [しばしば足・頭・身体に, ±satyam, satyena, tena satyena, tathā: 宣誓の印として]触る; 捕える=神に捧げる(犠牲獣または供物を); 始める, 企てる(因); 達する, 得る. 使役 ālambhayati 捕えさせる. 希求 ālipśa- 触れたいと思う; 祭式を行ないたいと思う.
anv-ā- (背後から)捕える, 掴む, 触る; (業)に執着する.
upā(upa-ā)- 咎める, 叱る, 非難する; 漢訳 訶責 *Divy.* 使役 upālabhayati [同上].
sam-ā- 掴む, 触る; 得る, 達する; 油を塗る; 漢訳 獲 *Daś-bh.* 過受分 samālabdha(一°)と接触した.
upa- 捕える, 見出す; 達する, 得る; 知覚する; 経験する, 学び知る, 確かめる, 了解する, 知る; 漢訳 得, 有所得, 見, 了 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Bodh-c., Sapt-pr., Vajr-pr.:* nirvāṇam upalabhate 寂靜 *Aṣṭ-pr. 354.;* garbham upa-Labh 孕む. 現分 upalabhamāna 漢訳 可得 *Bodh-bh.* 因 upalabhyate 得られる; (因の 因)と認められる; [na とともに]知られない, 理解されない; 漢訳 得, 所得, 可得, 生, 見, 看 *Aṣṭ-pr., Abh-vy., Lanik., Madhy-vibh., Sūtr.* 使役 upalambhayati (人をして)得させる, …に授ける; 知らしめる.
praty-upa- 取り戻す, 回復する.
sam-upa- 得る; 知るに至る.
pra- 捉える; 得る; 欺く, 瞞す, 愚弄する.
vi-pra- 欺く, 騙る; 嘲笑する, 侮辱する; 漢訳 乖 *Buddh-c.* 使役 vipralambhayati 漢訳 欺罔, 作稽留 *Bodh-bh.*
prati- 回復する, 取り戻す [*darśanam* とともに=ふ

たたび見る]；達する，得る；(薬)を(薬)であると知る；…を待つ；得，獲得，獲，成就，生，至，起，証 *Abh-vy.*, *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Vajr-pr.* 使役 *prati-lambhayati* (薬)を(人に)支給する。

vi- 授ける，取得する；譲る，引き渡す，手渡す。

使役 *vilambhayati* (薬)を(薬)に授ける。

saṃ- 達する，得る。

labha 形 (一)得られる(*su°*, *dur°* 参照)。

labhana 中 発見または取得すること。

labhana-dvāra 中 戸牖 *Śikṣ.*

labhamāna 現分 得 *Śikṣ.*

labhya 未受分 見出されるべき；得られるべき，達せられるべき；理解されるべき，理解しやすい；似合う，適当な；[受の意義で非人]…することは許されるべきである；(薬)を支給されるべき；[naとともに] (不定)する権利を有しない；得，所得，証得 *Abh-k.*, *Abh-vy.*

labhyatva 中 所証得 *Bodh-bh.*

Lam, [=Ram] [三過 *lalāma* のみ] 性的享樂にふける (叙詩 用例一回のみ)。

lamna 男 種 [民族の名]。

lampaka 中 上身綿衣 *Mvyut.*

lampaṭa 形 食欲な，切望する；(因，一)を渴望する；多欲，饑，偏食 *Mvyut.*

lampaṭatva 中 食欲。

lampā 因 [町または王国の名]。

lampāka 男 種 [民族の名]。

lampāki 因 *Lampāka* の女。

Lamb, [Ramb の後世の形] I. 自 (他，韻律) *lambati* (-te) 垂れ下る，ぶら下がる；(因)から垂れる；沈む；(因)に執着する，…を固執する，…に付着する，…に依存する；ゆっくり歩く，逍遙する，延引する，躊躇する；懸，懸挂，掛 *Divy.*, *Mvyut.* 過受分 *lambita* 垂れ下る，(薬，一)に掛かる；(一)を固執する，…に執着する，…に依存する；ゆっくりした，正しく計られた(時)。使役 他 *lambayati* 垂らす，下げる；吊る，懸ける；手を(動詞的 因)の 因)するために延ばす。蓋羽 自 *lilambisate* まさに沈まんとする。

ava- 垂れ下る；沈む；(薬，まれに 因，因)を固執する，…に付着する，…に凭れるまたは依存する，…に信頼する；掴む，捉える；さしあげる，支える，支持する；(薬)に依るまたは頼る；(薬)に専念する；(薬)を得る；…に赴く，(ある方向に)向く；(薬)に基くまたは拠る，…と密接に結合する；攀，繫，抱 *Divy.*, *Lal-v.* 過受分 *avalambita* 垂れ下がる；(因)に垂れかかる；位置をとる；(一)に凭れかかるまたは依りかかる；支えられた，支持された。使役 *avalambayati* 垂れ下らせる，おろす；(因)に吊る，懸ける；(手を)握る；さしあげる，支える，支持する；(重荷を)(一 過受分)に移すまたは委ねる。

ā- (薬，まれに 因)に付着する，…を固執する，…に凭れる；掴む，捉える，握る；(都市を)攻略する，(心を)捉える；保持する，支持する；(薬)に依頼する，…に専念する；…を着る，…を装う；…を顕わす；

…に赴く，(ある方向を)取る；(薬)に拠る；縁，攪，取，影下，垂下，観，起想 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Sapt-pr.* 過受分 *ālambita* (一)から垂れ下る；さしあげられた，支持された；…に頼る。使役 *ālambayati* 吊る，懸ける。使役 過受分 *ālambita* …の上に置かれた(手)。

adhy-ā- 取，採取，接，為依附，大影下，於空而住 *Ast-pr.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*；縁慮 *Sapt-pr.*

upā-(upa-ā)- 難 *Ast-pr.*

vy-ā- (雲が)垂れ下る；方々に垂れ下る。

sam-ā- (薬)に付着する，(薬)に凭れる，信頼する；(人薬)に縋る；(薬)に関係する；掴む，捉える；頼る，執る；得る，達する；(思いがけなく)(誰か 因)の身の上にする。使役 *samālambayati* (因)に懸ける。

ul- 過受分 *-ullambita* 懸かる。使役 *ullambayati* 懸ける。

sam-ul- 過受分 *samullambita* 懸かる。

pari- (ある場所 因)に留まる；欠席する，来ない；ゆっくり歩く，逍遙する。

pra- 垂下する；垂，垂下，極垂下，極垂掛 *Mvyut.*, *Saddh-p.* 過受分 *pralambita* 垂れ下がる，懸かる。

abhi-pra- 垂懸，現前垂掛，影現最下 *Lal-v.*, *Mvyut.* 使役 *abhipralambayati* 垂，垂懸 *Lal-v.*

prati- 使役 *pratilambayati* 懸ける，吊る。

vi- 垂下する；(因)に垂れかかる；(太陽が)沈む；[prati とともに] ゆっくり歩く，逍遙する，延引する，躊躇する；遅廻，稽遲 *Lal-v.*；*mā vilamba* 宜応速(問) *Lank.* 14. 不変分 *vilambya* 躊躇して；緩慢に，徐々に；遅刻して。過受分 *vilambita* 垂下する；延引した；延引する，躊躇する；のろい，正しく計られた；(一)と密接に関係する；*vilambitam* 副 徐々に等。使役 *vilambayati* (因)に吊すまたは懸ける；(薬)をして躊躇せしめるまたは延引させる；(時を)浪費する；手間どる。

pra-vi- 使役 *pravilambayati* 懸ける。

lamba 形 垂下する，懸垂する；(一)に掛かるまたはまで垂れさがる；長い(髪等)；垂，下垂 *Mvyut.*, *Saddh-p.* 男 垂線；余緯度。

lambaka 男 [同上 男]；[*Kathāsaritsāgara* の(十八)の章の名]。

lambaka-pāla 男 音写 [国の名] 濫波 *Divy.*

lamba-karṇa 形 (因 -ā, -i) (長く)垂れ下る耳をもつ。

lamba-jāṭhara 形 垂れ下がる腹をもつ。

lamba-jihva 形 垂れ下る舌をもつ。男 [ある *Rākṣasa* の名]。

lambana 形 垂下するまたは垂下せしめる(*Siva* 神)。

男 従軍者。中 褶子 *Mvyut.*

lambanā 因 [*Dakṣa* の娘の名]。

lamba-payo-dharā 形 因 垂れ下る乳房をもつ(婦人)。

lambamāna 男 召使(の一種)。

lamba-sphic 形 大きな尻をもつ。

lambā 女 漢語 音写 [Rākṣasi の名] 藍婆 *Saddh-p.*
lambā-paṭaha 男 太鼓(の一種).
lambāḷaka 形 垂れ下った巻毛をもつ.
lambāḷakatva 中 巻毛の垂れ下がること.
lambita 過受分 → Lamb.
lambin 形 (一°)に垂れ下がる, に垂れかかる または
 まで垂れさがる.
lambuka 男 漢語 [竜の名] 行, 垂行 *Mvyut.*
lambodara (°ba-ud°) 形 (女 -i)垂れ下がる腹をもつ,
 布袋腹の; 漢語 腹垂 *Mvyut.* 男 [Ganeśa の称];
 [Andhra 王の名].
lambodaratā (°ba-ud°) 女 [同上 (形) 中].
Lambh, → Labh.
lambha 男 発見; 到達, 獲得; 回復; (要塞の)攻略.
lambhaka 形 発見する; =lambaka. 男 発見者.
lambhana 中 獲得; 回復; 達成.
lambhaniya 未受分 得られるべき.
lambhayitavya 使役 未受分 実施されるべき.
lambhita 過受分 獲得または取得された.
lambhita-lobha 形 …に飢えた.
lambhuka 形 (業)を得るのに慣れた.
laya 男 [Li 1.] 固着; (因, 一°)中に没するまたは吸収
 されること; 消滅, 瓦解, 破壊, 死亡; 休息, 安眠
 [まれに]; 精神的無気力, 昏睡または不活動; 遊戯; (音
 楽上の)拍子 [三を数える: 速 *druta*, 中 *madhya*,
 徐 *vilambita*]; 漢語 沈, 没, 沈没, 昏沈, 憂悔,
 懼, 怯弱, 下劣, 下劣心, 指屈 *Bodh-bh., Madhy-
 bh., Madhy-vibh., Mvyut., Saṃkhy-k., Sūtr.,
 Vijñ-t.*; 位 梵千.: ~m nāto 'dhivāsayet 勿起下劣
 心 *Sūtr.* 52. ~m Gam (人 因)に付着する; (因)
 中に没する, 溶解されるまたは吸収される. ~m Yā
 [同上]; 破壊される, 滅亡する.
layana 中 休息, 安眠; 休息処; 漢語 住, 怙, 婦,
 房, 舍, 宅, 室, 住房, 房住, 房舍, 住舍, 舍宅,
 屋宅 *Aṣṭ-pr., Av-ś., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut.,
 Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ.*
layana-parihāra 男 漢語 料顧房舍, 砌住 *Mvyut.*
layana-bhūta 形 漢語 如屋宅, 依処 *Gaṇḍ-vy.*
laya-madhyā 形 中庸の速度で行なわれるべき.
laya-śuddha 形 正しく行なわれるべき.
laya-sthāna 中 分解の場所.
layārka 男 世界の終末における太陽.
layālaya 男 漢語 破壊と非破壊.
layauddhatya (°ya-aud°) 中 漢語 昏沈掉挙, 下劣掉
 起 *Madhy-bh., Mabhy-vibh.*
lardaya 名動 [不定 *lardayitum*] 積む; 漢語 乘
Diry. 5.
 不変分 *lardayitvā* 漢語 運載 *Diry.* 334.
Lal, I. 他 (門, 韻律) *lalati(-te)* 遊ぶ, 戯れる, 遊戯
 する. 過受分 *lalita.* 使役 他 *lālayati* 遊び戯れ
 させる, 愛撫する, 慈愛をかける; 育てる, 養う;
 機嫌をとる, あまやかす; 波立たせる, 振う [まれ
 に]; 寵愛する. 使役 過受分 *lālita.*
anu- 使役 *anulālayati* (人をして)上機嫌ならしめ
 る.
ul- 使役 他 *ullalayati* 煽動する; 跳び上る.

upa- 使役 *upalālayati* 愛撫する, 慈愛をかける,
 撫育する, 優遇する.
saṃ- 使役 *samlālayati* [同上].
lala 形 輝かしい. 男 漢語 疥癩(?) *Aṣṭ-pr.*: (na)
 ~o bhavati (na) lallo bhavati (na) kallo bhavati
 癩疽疥癩痔病惡瘡, 疥癩癩疽乾瘡 *Aṣṭ-pr.* 819.
lalaj-jihva 形 垂れた舌を有する.
lalana 形 戯れる, (光, 色等の)輝く. 中 (舌の)垂下.
lalanā 女 淫奔な女; 女; 妻.
lalanā-varūthin 形 一団の婦人に囲まれた.
lalanikā 女 小さなまたは哀れな女.
lalalla, [舌の廻らない発音の 擬音].
lalāṭa 中 [rarāṭa の後世の形] 額; 漢語 額, 額皮
Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut., 梵千.
lalāṭa-taṭa 男 額の平面.
lalāṭa-deśa 男 額の部分.
lalāṭaṃ-tapa 形 額を焼きつける(炎熱の太陽).
lalāṭa-paṭṭa 男 額の平面.
lalāṭa-paṭṭaka 男 [同上].
lalāṭa-paṭṭikā 女 [同上].
lalāṭa-phalaka 中 [同上].
lalāṭa-likhita 形 額に(運命によって)書かれた.
lalāṭa-lekhā 女 額に(運命によって)書かれた線; (線
 のように)非常に狭い額.
lalāṭa-stha 形 額に存する.
lalāṭākṣa 形 (女 -i) 額に一眼を有する (*Śiva* 神).
lalāṭikā 女 (白檀等の粉で附せられた)額の印.
lalāma 形 (女 -i) 額の印を有する. 男 中 裝飾; 漢語
 幢, 稱, 幢稱 *Mvyut.*
lalāman 中 [同上 (男, 中)] (圍).
lalita 過受分 震える, 戦慄する; 技巧のない, 素朴
 な, 無邪気な; 愛らしい, 魅力ある, 美しい; 望ま
 しい, 好ましい, 楽しい, 愉快な; 漢語 莊嚴, 所
 莊嚴, 嚴飾, 妙好具足, 遊戯, 曜, 顯示 *Mvyut.,
 Suv-pr.*; 連続 *Mvyut.* 中 遊戯; 自然な行為, 飾
 り気のない行為; 無邪気, 優美, 魅惑, 媚態; 美,
 光輝.
lalita-pada 形 甘い言葉からなる, 優雅に作られた.
lalita-lalita 過受分 きわめて愛らしい.
lalita-locana 形 美しい眼を有する.
lalita-locanā 女 [ある妖精の名].
lalita-vistara 男 [*Śākya-muni* の行跡の詳細な記録
 で仏教經典の名]; 漢語 方広莊嚴, 普曜經, 大遊戯
 經, 大戲樂經, 方等本起經 *Lal-v., Mvyut., Śikṣ.*
lalitavistara-sūtra 中 漢語 大善誘經 *Śikṣ.* [普曜經,
 方廣大莊嚴經].
lalita-vyūha 男 漢語 [天子の名] 耀淨, 莊嚴遊戯
Lal-v.; [菩薩の名] 遊戯莊嚴 *Lal-v.*
lalitāngi 女 美人.
lalitāditya (°ta-ād°) 男 [*Kashmir* 王の名].
lalitāditya-pura 中 [*Lalitāditya* によって建設され
 た都市の名].
lalitāpida (°ta-āp°) 男 [*Kashmir* 王の名].
lalitārtha-bandha 形 愛の言葉またはなまめかしい意
 味を有する言葉で作られた.
lalittha 男 種 [民族の名].

lalyāna, [地名].
 lallā 男 [ある天文学者および大臣の名]. → lala.
 lallā 女 [ある淫売婦の名].
 lalliya 男 [人名].
 lava 男 [Lū] (麦の)刈取り, (花の)摘取り; 羊毛 [ま
 れに]; (牛の)毛 [まれに]; 部分, 断片, 片, 小片, 微
 片, 滴, 僅少 [一般に 一°]; (一秒の)少部分, 瞬間
 [しばしば人格化される]; (分数の)分子; [Rāma と
 Sita の子の名]; [Kashmir 王の名]; 頃, 頃
 刻, 限, 瞬息 *Daś-bh., Divy., Mvyut., Sukh-vy. I.*;
 音写 臘縛, 羅婆 *Abh-k., 玄応. ~m 圖.*
 lavaṅga 男 丁香(ちょうじ)の樹; 丁香; 丁香
Mañj-m., Mvyut.
 lavaṅga-puṣpa 田 丁香の花.
 lavaṅgikā 女 [人名].
 lavaṅgi 女 [ある *Apsaras* の名].
 lavaṭa 男 [人名].
 lavaṇa 形 塩水の, 塩気のある; 鹹, 辛 *Lal-v.,*
Mvyut., Śikṣ., Suv-pr. 男 塩海; [ある *Rākṣasa* の
 名]. 田 塩, 海塩; 優雅, 美 [一°のみ]; 塩,
 塩水, 鹹 *Lank., Mañj-m., Mvyut., Śikṣ., 梵千., 梵雑.;*
 善 *Mvyut.*; 音写 羅嚩拏 *Guh-y-s.*
 lavaṇa-kalāyi 女 [恐らくは *lavaṇa-kalāpi* の誤] 飼
 槽.
 lavaṇa-cūrṇa 男 鹽, 塩末 *Abh-vy.*
 lavaṇa-jala 形 塩水を有する, 塩水の. 男 海, 大洋;
 大海 *Divy.* 田 鹹水 *Lal-v.*
 lavaṇajala-dhi 男 塩海, 大洋.
 lavaṇa-jala-nidhi 男 [同上].
 lavaṇajalodbhava (°la-ud°) 男 貝.
 lavaṇatā 女 塩辛いこと.
 lavaṇa-toya 形 塩水を有する. 男 大洋.
 lavaṇatva 田 =lavaṇatā.
 lavaṇa-pāṭalikā 女 鹽袋 *Mvyut.*
 lavaṇa-bhadrika 男 [仏弟子の名] 善賢 *Mvyut.*
 lavaṇa-vāri 形 塩水を有する. 男 大洋.
 lavaṇa-samudra 男 塩海, 大洋.
 lavaṇā 女 [河の名].
 lavaṇākara (°na-āk°) 男 美の宝庫 (寶輪).
 lavaṇāntaka 男 [*Lavaṇa Rākṣasa* の殺戮者, *Śatru-*
ghna の称].
 lavaṇābdhi 男 塩海, 大洋.
 lavaṇāmbu-rāsi 男 [同上].
 lavaṇāmbhas 男 [同上].
 lavaṇārṇava 男 [同上].
 lavaṇālaya (°na-āl°) 男 [同上].
 lavaṇiman 男 恩恵.
 lavaṇotsa (°na-ut°) 田 [町の名].
 lavaṇoda (°na-uda) 男 海.
 lavaṇodaka (°na-ud°) 形 塩水を有する. 男 海,
 鹹海 *Mvyut.*
 lavaṇodadhi (°na-ud°) 男 塩海, 大洋.
 lavaṇa 田 (穀物の)刈取り, 収穫, 刈入れ; 刈取器,
 鎌, 大鎌.
 lavaṇa-kartṛ 男 収穫者, 刈り手.
 lavanya 男 [部族の名].

lavam 圖 → lava.
 lava-rāja 男 [ある婆羅門の名].
 lavalī 女 蔓草(の一種).
 lavalī-phala-pāṇḍura 形 *Lavalī* 樹の実のように青ざ
 めた.
 lavaśas 圖 粉々に.
 laśuna 男 [まれ], 田 にんにく(胡); 蒜 *Lank.,*
Mvyut., Śikṣ., 梵雑.
 Laś, I. 他 (自) *laśati(-te)* (業)を願う, …を切望する.
 abhi- (業)を願う, (不定)することを切望する; 欲,
 欲求, 楽, 楽求, 愛楽, 好楽, 志求, 希望, 深
 心欣慕, 心生渴仰 *Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-*
vy., Guhy-s., Raṣṭr., Śikṣ. 過受分 *abhilaṣita* 望ま
 れた, 願われた [または 不定 とともに].
 sam-abhi- 渴仰 *Divy.*
 Las, I. 他 *lasati* [現分 *lasat*, きわめてまれに *lasamāna*]
 輝く, 閃く, 光り輝く [現分 のみ]; 分明になる,
 現われる, 起る [現分 他 のみ]; 反響する [現分 他
 のみ]; 遊ぶ, 戯れる, 遊戯する. 使役 他 *lāsayati*
 踊る; 踊らせる, 踊を教える.
 ul- [ほとんどつねに 現分 または 過受分] 輝き出る, 閃
 く, 輝く; 起る, 現われる; 反響する; 遊ぶ, 戯れ
 る, 遊戯する; 動き廻る, 波打つ, 翻る; 成長する.
 過受分 *ullasita* 輝いた等; 生ずる; (鞘から)抜かれ
 た(剣); 大いに喜ぶ, 喜んだ; 動き廻る. 使役 *ullā-*
sayati 喜ばせる; 動かせる, 踊らせる, 翻らせる.
 aty-ul- 燦然と輝く.
 praty-ul- 現われる.
 prol(pra-ud)- 輝く; 反響する; 動き廻る. 使役
prollāsayati 喜ばせる.
 sam-ul- 輝く [現分 および 過受分 のみ]; 現われ
 る; 響く.
 upa- [現分 のみ] 輝き出る, 閃めく.
 vi- [一般に 現分 または 過受分] 閃めく, 輝く; 明白
 となる, 現われる, 生ずる; 響く; 遊ぶ, 戯れる,
 楽しむ; (電光が)きらめく. 使役 *vilāsayati* 踊ら
 せる.
 pra-vi- 明るく輝く; 突発する.
 las 形 一° 輝く.
 lasa 形 活潑な [a ~ '鈍い' においてのみ].
 lasat 現分 → Las.
 lasamāna 現分 → Las.
 lasikā 女 唾液, 唾.
 lasikā 女 黄水, 黄白涎, 膩 *Abh-vy., Mvyut.,*
Śikṣ.
 lahara 男 [*Kashmir* の一地方の名, 現今の *Lahore*];
 種 [民族の名].
 lahari 女 波, 大波.
 lahari 女 [同上].
 lahu 形 [=laghu] 軽 梵雑.
 Lā, II. 他 *lāti* [まれに] 掴む, 取る; 企てる. 不変分
lātvā …を取って=…をもって.
 lākṣika 男 下男.
 lākṣaṇika 形 (因 -i) 標識または符号を理解する; 譬
 喩的の意味を有する; (法)相, 依(法)相, 約(法)
 相, 実相, 実相起 *Abh-vy.* 男 標識の理解者.

lākṣaṇikatva 甲 譬喩的意味。

lākṣaṇya 形 = lākṣaṇika.

lākṣā 因 赤い染料(の一種), 樹脂 [燕脂虫またはある種の樹脂から採る]; 紫礦, 紫色, 胭脂 *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 玄応.; 音写 羅叉, 羅差, 羅若, 落叉, 洛沙, 勒叉, 勒荷 *Abh-vy.*, *Divy.*, 玄応.

lākṣā-gṛha 甲 樹脂で塗り固められた家。

lākṣā-bhavana 甲 [同上].

lākṣika 形 (因 -i) 樹脂で染められた。

lāghava 甲 迅速, 速力; (一)に巧妙なこと; 軽いこと; (心の)安楽, 慰安; 軽薄, 無思慮; 無価値, 卑賤, 細小; (韻律上)短いこと; 簡潔, (表現の)簡明; 重みまたは重要性を欠くこと, 品位の毀損; 輕蔑; 輕 *Bodh-bh.*; 違 *Buddh-c.*: guru ~ 輕重 *Bodh-bh.* 365.

lāghava-kārin 形 体面を汚す。

lāngala 甲 鋤; 犁, 耕 *Mvyut.*, *Śikṣ.*: ~ m Vah (使役) 耕墾 *Divy.* 76.

lāngala-dhvaja 男 (鋤を旗印とする), [*Bala-rāma* の称].

lāngalāpakarṣin 形 鋤をひく(雄牛).

lāngalikā 因 [植物の名, 学名 *Methonica superba*].

lāngalin 男 (鋤を有する), [*Bala-rāma* の称].

lāngali-puṣpa 甲 花繞; (音写)良伽利花 *Mvyut.*

lāngūla 甲 尾; 尾 *Av-ś.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*

lāngūla-cchinna 形 断陽者 *Mvyut.*

lāngūla 甲 = lāngūla [普通の用法].

lāngūla-cālana 甲 尾を振る。

lāngūla-vikṣepa 男 [同上].

lāja 男 圓 炒った穀物とくに米; 錫 *Divy.*

lājā 因 [同上]; 炒粳米, 香穀 *Mvyut.*

lājāya 名動 自 lājāyate 炒った穀物に似る。

Lāñch, (使役) 施 lāñchayati 印を附す, 区別する, 特性を表わす. 過受分 lāñchita (圓, 一)をもって印を附された・飾られたまたはを具えた。

lāñchana 甲 印, 記号, 標識. 形 (一)をもって印を附された・特性を表わされたまたはを具えた。

lāñchanatā 因 印を附せられまたは着色された状態。

lāñchita 過受分 → Lāñch.

lāṭa 男 [国の名, *Narmadā* 河の西方の地]; 種 *Lāṭa* 国の人民. 形 (因 -i) *Lāṭa* に属する。

lāṭaka 形 (因 -ikā) *Lāṭa* 国に属するまたはに行なわれる。

lāṭa-deśa 男 *Lāṭa* 国。

lāṭa-nāri 因 *Lāṭa* 国の婦女。

lāṭacārya (°ta-āc°) 男 [ある天文学者の名].

lāṭānuprāsa 男 [意義同一で適用を異にする語の] 反覆 (修辭).

lāṭi 因 *Lāṭa* 国の婦女。

lāṭeśvara (°ta-iś°) 男 *Lāṭa* 国の王。

lāṭyāyana 男 [Veda 祭式の学者で *Śrauta-Sūtra* の著者の名].

lāḍa 男 [人名].

lāḍika 男(男の子); 小成, 嬰孩 *Mvyut.* → lālika.

lāḍita 甲 (= lālika); 樂, 美, 妙, 遊戯, 娉婷 *Mvyut.*

lāḍuka 男 きゅうり。

lātavya 男 [*Latu* からの 父系].

lātvā 不変分 → Lā.

lāpana 男 說, 発辞 *Mvyut.*

lāpaya, [Lap および Li 1. の 使役].

lāpin 形 (一)を言う, 話す, 宣べる; 歎く。

lāba 男 鶉の(一種) [学名 *Perdix chinensis*].

lābaka 男 [同上].

lābha 男 発見, 会合; (圓, 一)の獲得, 取得; 所得, 利得, 利益; 得られた物, 所得; 捕獲; 理解, 知識; 得, 獲, 獲得, 利, 善利, 財利, 財物, 物, 利養, 養, 利益 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy.1.*, *Sūtr.*, *Vijñ-t.*, 梵千.; 価 *Divy.*: ~ena ~ niścikirṣā 以利求利, 以得欲得, 得欲得 *Mvyut.*; ~ena ~ niṣpādanam 以利成利, 以得修得, 猶修得 *Mvyut.* → a~.

lābha-kāma 形 貪利養 *Bodh-bh.*

lābha-kāraṇāt 形 利得のために。

lābha-nimitta 甲 為利養 *Bodh-bh.*

lābha-nivartaka 甲 招集利養 *Bodh-bh.*

lābha-lipsā 因 所得欲, 貪欲。

lābhavat 形 利得を得た; (一)を所有する。

lābha-satkāra 男 名利, 利誉, 利益, 利養, 利養恭敬, 供養, 財敬, 財物 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*, *Vijñ-t.* 形 重利養, 求利養, 貪利養 *Aṣṭ-pr.* 672.

lābhasatkāra-civara-guru 形 愛重名利衣服 *Aṣṭ-pr.*

lābhānuttarya (°bha-ān°) 甲 利無上, 得無上 *Mvyut.*

lābhālābha 男 圓, 甲 圓 得失。

lābhika 形 一得, 所得 *Abh-vy.*, *Mvyut.*

lābhin 形 (一)を得る, (一)を見出す; 得, 得者, 獲得, 已得, 具, 受 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Guhya-s.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Suv-pr.*

lāmajjaka 甲 [ある香草(学名 *Andropogon muricatus*) の根].

lālaka 形 (因 -ikā) 寵愛する. 男 道化役。

lālana 甲 [Lal の 使役 から] 寵愛, 愛玩, 愛育。

lālaniya 未受分 寵愛されるべき, 愛玩されるべき, 口説かれるべき。

lālapyana 甲 言音哀感, 言声哀感, 憂誑語, 追感傷歎 *Śikṣ.* 222.

lālaya, [Lal の 使役].

lālāsa 形 (因, 一)を熱望する, ...を渴望する, ...を喜ぶまたはに熱中する, ...に専念する. 男 (因)を熱望すること, ...に献身すること。

lālasatā 因 [同上(男)].

lālasā 因 [同上].

lālā 因 唾, 唾液; 涎, 涎唾, 涕唾, 株 *Divy.*, *Lal-v.*, *Śikṣ.*

lālā-kinna 形 唾で湿った。

lālāṭa 形 額 (lālāṭa) にある。

lālāṭika 形 [同上].

lālāṭi 女 額。
 lālā-pāna 中 唾液を呑むこと。
 lālā-pūrṇārṇava 男 唾で満ちた海。
 lālā-bhakṣa 男 [地獄の名]。
 lālāya 名動 中 lālāyate 唾を分泌する。過受分 lālāyita 口から泡を出す。
 lālita 使役 過受分 → Lal.
 lālīka 男 寵児, 愛人, 愛玩物。
 lālitya 中 [lalita から] 愛らしいこと, 優美, 魅惑。
 lālin 形 愛玩する, 口説く。
 lālya 未受分 愛玩されるべき, 口説かれるべき。
 lāva 形 (女 -i) (一)を切る, 切り離す, もぎとる; (一)を切り倒す, 殺す。
 lāvaka 男 刈る者, 切る者; 稷草人 *Buddh-c.*
 lāvaṇa 形 塩の, 塩味の。
 lāvaṇaka, [地名]。
 lāvaṇa-saindhava 形 (女 -i) 塩海にある。
 lāvaṇīka 形 (女 -i) 塩を商なう; 魅力ある, 愛らしい。
 lāvaṇya 中 塩辛いこと; 愛らしいこと, 美, 魅力; 塩味, 塩中味 *Lank.*
 lāvaṇya-mañjari 女 [人名]。
 lāvaṇyamaya 形 (女 -i) 完全に美からなる; 愛らしい, 美しい, 魅力ある。
 lāvaṇya-lakṣmi 女 美の輝き。
 lāvaṇyavat 形 愛らしい, 美しい。
 lāvaṇyavati 女 [人名]。
 lāvaṇya-śeṣa 形 美のみが残る。
 lāvaṇya-śeṣatā 女 [同上]。
 lāvaṇyārjita 形 美によって得られた [婦人の結婚に際してその義父から与えられる私有財産]。
 lāvam 總 [Lū とともに] (一)のように切離す。
 lāvāṇaka 男 [Magadha に近い地方の名]; [Kathā-saritsāgara の第三章の題名]。
 lāvānaka 男 [ある狩猟小屋の名]。
 lāsa 男 [Las] 飛躍, 跳躍, ここかしこに動くこと, 遊戯, 舞踊。
 lāsaka 形 ここかしこに動く。男 舞踊者; [ある舞踊者の名]; 舞, 倡伎 *Bodh-bh.* 男, 中 [武器の一種]。
 lāsana 中 ここかしこに動くこと。
 lāsavati 女 [人名]。
 lāsika 形 踊る。
 lāsikā 女 舞姫; 劇(の一種)。
 lāsin 形 輝く。
 lāsya 中 舞踊 [また 舞]; (歌と楽器とを伴なう)舞踊; 男 舞踊者; 歌舞, 窈窕相 *Aṣṭ-pr., Lank., Mvyut.*
 likuca 男 [植物の名, 学名 *Artocarpus lacucha*]。
 likṣā 女 小虫の卵, しらみの卵; [長さの一単位=八 trasareṇu]; 蟻, 蟻子, 蟻虱 *Abh-k., Lank., Mvyut., 梵雜*。
 Likh. VI. 中 likhati [Rikh の後世の形] 掻く, こする, 溝を造る, (地面を)裂く; 啄む; (±lekhām 線を)引く, 描写する, 画く, 写生する; 彫る, 記銘する, 書く, 記す; 書, 書写, 写, 注記 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Śikṣ., 梵千*。過受分 likhita [iva

とともに(±citra-)]ちょうど画かれたような=不動の使役 中 lekhayati 彫らしめる, 記銘せしめる, 書かしめる; 画かしめる; 掻く; 書く; 画く; 教人書, 書写, 令書写 *Bodh-bh., Kāśy., Saddh-p.* likhāpayati 画 *Divy. 547*。使役 過受分 lekhita。
 abhi- 記銘する, 書く; 写生する, 画く; (業)に書く。使役 abhilekhaya- 記さしめる, 書かしめる, 画かしめる。
 ava- 擦傷する, 傷つける; (文字を)消す。
 ā- 掻く, こする; 写生する, 描く, 画く; 書き誌す; 粉 *Mañj-m.*; 想 *Guhy-s. 18*。過受分 alikhita [iva とともに] ちょうど画かれたような=不動の。使役 ālekhaya- 画かしめる。
 vy-ā- こする, 触る; 書く; 画 *Lal-v.*
 sam-ā- 写生する, 描く; 彩る; 書く; 書 *Guhy-s.*
 ul- 掻く, こする, (因)に線を引く; 裂くまたは切り取る; 啄む, 摩擦する; (線を)描く; 彫刻する; 磨く; (楽器を)たたく; 拭い去る; 表現する; 目立たせる; 磨滅 *Śikṣ.*
 prol(pra-ud)- (業)の上に線を引く。
 sam-ul- (線で)指示する; 溝を造る, 刻る; (書物に)書き誌す, 記す。
 nir- (皮膚を)切り取る; 掻き取る; 搗食 *Mvyut.*
 pari- 周囲に線を引く; 周囲を平にまたは滑らかにする; 騰写する。
 pra- (業)を掻く, …の上に線を引く; 描く; 書く; 掻き集める; 髪を櫛る。
 prati- 返書する, 手紙で返事する。
 vi- 掻く, こする, 破る; 引き裂く, (業)に擦りつける; 写生する, 描く, 画く; 銘記する, 書く; 創 *Mvyut.*; 画 *Lal-v.* 使役 vilekhaya- 書かしめる。
 likhana 中 掻くこと; 銘記すること, 書くこと; 記述, 所見; 書, 書写 *Aṣṭ-pr., Lal-v., Mañj-m., Saddh-p.*
 likhita 過受分 書かれた等。→ Likh.; 書, 写 *Lal-v., 梵雜*。男 [Suikha の兄弟にして法典の著者の名]。中 書かれたもの, 文書。
 likhitatva 中 書き留められること。
 likhita-pāṭha 男 書かれた作品を読むこと, 書物から学ぶこと。
 likhita-pāṭhaka 形 写本から読む。
 likhitavya 未受分 画かれるべき。
 likhitṛ 男 画家。
 likhya 男 小虫の卵, 虱の卵。
 likhyā 女 [同上]。
 liṅ, [願望法 (optative) の人称語尾(文法)]。
 Liṅg. I. 中 liṅgate (…に附着する) → ā-Liṅg.
 līṅga 中 印, 記号, 標識, 象徴, 特徴; 標語; 偽りの標章 [まに] (叙詩); 証拠, 証明; (罪の)印, 盗まれた財産; 性の特相, 生殖器; (文法上の)性; (崇拜の対象としての) Śiva 神の男根, (神の)像 [まに]; [物質的身体に対する]微細身 [粗大にして目に見える身体の不滅な根源 (Vedānta 體)]; 名詞の語幹 [= prātipadika (文法)]; [隣接する単語の意味を決定するに役立つ語]; 相, 形相, 体相, 形, 状,

状貌, 細相, 記, 安名 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Nyāy-pr.*, *Saṃkhy-k.*, *Sapt-pr.*, *Sūtr.*; 没 *Saṃkhy-k.10.*

liṅga-joda 形 頤尖, 顔尖 *Mvyut.*

liṅgatva 甲 記号たること.

liṅga-deha 男 甲 微細身 (圓).

liṅga-dhara 形 特徴を有する.

liṅga-dhāraṇa 甲 (同一性を表わす)特徴をもつこと.

liṅga-nāsa 男 特徴の喪失.

liṅga-piṭha 甲 *Śiva* 神の男根を置く台.

liṅga-purāṇa 甲 [ある *Purāṇa* の題名].

liṅga-mātra 甲 知性.

liṅga-mūrti 形 男根の形をした (*Śiva* 神).

liṅgaya 名動 他 *liṅgayati* 性にしたがって (語を) 変ずる.

ul- 特徴によって推論する. 過受分 *ullīṅgita.*

liṅgavat 形 特徴を有する; (種々な)性を有する; 男根を有する (*Śiva* 教の一派).

liṅga-śarira 甲 微細身 (圓).

liṅga-śāstra 甲 (文法上の)性に関する論.

liṅga-śiras 形 頭小者 *Mvyut.*

liṅga-stha 男 苦行者.

liṅgākhyā (°ga-ākh°) 形 相名 *Saṃkhy-k.*

liṅgānūsāsana 甲 (文法上の)性に関する教説.

liṅgin 形 特徴を有する; (一°)の特徴または外見を有する; 偽の標章を着けた, 偽善の; (一°)の標章をつけた, …の風を装おう; (正しく)標章をつけた, 真面目な; 男根を具えた, 微細身を有する; 有相 *Saṃkhy-k.* 男 偽善者; 教団の一員, 苦行者; [*Śiva* 教の一派 (種)]; 原因.

liṅgi-veśa 男 修行期の学生の衣服または標章.

liṅgoddhāra (°ga-ud°) 男 男根を切断すること.

liṅgya 不変分 抱擁して.

licchavi 男 種 [王朝の名]; 細滑, 他族王種, 仙族王種 玄応.; (音写) 離車子 玄応.; (音写) 律車, 離車, 離昌, 栗咕婆, 離咕毘, 栗姑毘, 麗掣, 麗樹毗 *Divy.*, 玄応.

lit, 第二過去(の人称語尾 (文法)).

litsavi 男 [=licchavi, 国の名] 音写 梨車毘, 栗車毘 *Suv-pr.*

litsavi-kumāra 男 (音写) 梨車毘童子, 栗車毘国王童子 *Suv-pr.*

lindu 形 どろどろの. 男 膜(?).

Lip, VI. [Rip の後世の形] 油を塗る, (圓)に(圓)を塗る; 汚す, 潰す, 不潔にする, よごす, 染める; (圓)に(物 業)を附着せしめる [まれに]; 染, 能染, 塗, 汗, 著 *Bodh-bh.*, *Kāśy.*, *Lank.* 過受分 *lipta* 塗られた; 汚された; 毒を塗られた(矢); (圓)に執着した. 過能分 *liptavat* 汚れた. 使役 他 *lepayati* (業)に(圓)を塗るまたは塗布する; (業)を(圓)に塗る; (人に)罪を負わしめる.

anu- (圓)を塗るまたは塗布する; 圓 自身に塗る.

過受分 *anulīpta* (圓, 一°)を塗られたまたは塗布せられた. 使役 *anulepaya* 塗る.

ava- 塗る. 圓 *avalipyate* 自負する, 自慢する.

過受分 *avalīpta* (一°)を塗られた; 高ぶった, 誇

った, 尊大な.

ā- 油を塗る, 塗る; 著ける, (膏薬を)張る.

sam-ā- 使役 他 *samālepayati* 油を塗る.

upa- 塗る, 油を塗る; 汚す, 不潔にする; 塗布する; 麗 *Lal-v.* 使役 *upalepaya* (圓)によって汚すまたはを塗る.

pary-upa- 塗り潰す.

opa- [韻律, =upa-] 漢訳 染, 著 *Lal-v.*

ni- …に塗る, 圓 自身に塗る; 消えしめる; 圓 消える(因).

pra- 塗る, 汚す; 漢訳 塗 *Av-s.* 過受分 *pralīpta* (圓)に執着する.

vi- (圓)を塗る または 塗布する; (圓)を擦り込む.

過受分 *vilīpta* 塗られた, 汚された. 使役 *vilepaya* (圓)で汚すまたはを塗る.

sam- 塗る, 汚す.

lipi 因 塗ること, 油を塗ること; 書くこと, 筆記すること; 書かれた線または文字; 碑銘; 外観; 漢訳 書, 書字, 書画, 書疏, 書典, 字, 文字 *Abh-vy.*, *Av-s.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gand-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Suv-pr.*: ~m paṭhati 読誦書典 *Av-s. I. 179.*

~m Āp (圓)の觀を呈する. *citrām ~m Ni* 美しく裝飾する.

lipika 男 善知書人 *Divy.*

lipi-kara 男 左官, 漆喰を塗る人; 筆写する人, 写字者.

lipi-karman 甲 画くこと.

lipikarma-nirmita 形 画かれた.

lipi-jñāna 甲 書道; 漢訳 書 *Divy.*

lipi-nyāsa 男 書くこと.

lipi-phalaka 甲 書板; 漢訳 簡, 書隸 *Lal-v.* 男 漢訳 字板, 字本 *Mvyut.*

lipi-śālā 因 習字学校; 漢訳 学堂, 学堂処, 学房, 書堂 *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*

lipi-śāstra 甲 書道.

lipta 過受分 → Lip; 漢訳 著, 染著, 汚, 塗, 塗塗, 所染 *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*, *Sūtr.* → a~.

liptavat 過能分 → Lip.

lipti 因 膏薬.

lipyakṣara (°pi-ak°) 甲 漢訳 文字 *Aṣṭ-pr.*

lipyavayava (°pi-ak°) 男 漢訳 書分, 書類分 *Abh-vy.*

lipsa-kāma 形 漢訳 志求 *Mañj-m.*

lipsā 因 [Labh の 希求 から] (圓, 一°)を得ようとすゝる欲望, …に対する希望または憧憬.

lipsita 過受分 欲求された.

lipsitavya 希求 未受分 望ましい.

lipisu 希求 形 (業, 一°)を得ようと欲する, …を望む, …に憧れる.

libujā 因 纏繞植物, 蔓草 (因).

limpi 因 [Lip] 書くこと.

lilakṣayīṣita 希求 過受分 → lakṣaya.

Liś, VI. 自 -liśate [Riś の後世の形] [ā とともに] 生草を食べる.

vi- 裂かれる, 破る. 過受分 *vilīṣta* 破れた.

Lih, II. 𑀧 leḍhi, 𑀧 liḍhe [Rih の後世の形] 舐める, しゃぶる; (𑀧) を舐める; 舐め尽す; 破壊する (矢についていう) 𑀧 Buddh-c. 𑀧 liḍha 舐められた; 舐め尽された; 破壊された. 𑀧 lehayati 舐めしめる. 𑀧 lelihya, lelih 繰り返し舐める.

ava- 舐める, 口で触れる. 𑀧 avaliḍha 舐められた, 触れられた.

ā- 舐める, しゃぶる. 𑀧 āliḍha 舐められた; (𑀧) によって所有された; 磨かれた [異読 ulliḍha].

ud- 舐める. 𑀧 ulliḍha 磨かれた.

upa- 𑀧 舐める, 舐めることによって享樂する.

ni- 𑀧 niliḍha 舐め尽された = (一°) に捉えられた, 征服せられた.

pari- 舐める. 𑀧 舐めることを続ける.

prati- 𑀧 pratilehaya- (業) をして (業) を舐めさせる.

vi- 舐める, 舐め尽す. 𑀧 断えず舐める.

saṃ- 舐める; 享樂する.

lih 𑀧 [𑀧 liḥ] (一°) を舐める; 目読する.

liha 𑀧 [一° のみ] 舐める, 触れる.

Li 1., IV. 𑀧 liyate (𑀧) に抱きつく, 附着する; 定着する; (𑀧) に留まるまたは定住する; (寝台に) 横たわる; 畏縮する, 隠れる; (𑀧) に入り込む; (𑀧, 一°) の中に消える, … に吸収される; 𑀧 著, 耽著, 愛著 *Raṣṭr., Śikṣ.*; 退, 沈, 狷 *Mvyut., Śikṣ.*; 𑀧 lina (𑀧, 一°) に執着した, … に熱中した, … に専念する; 附着する; … にまたはの中に坐する; 潜んだ, 隠れた; (𑀧, 一°) 中に隠された; (𑀧, 一°) 中に消えたまたは溶解した.

abhi- しがみつく; 降りる, … に止まる. 𑀧

abhilina (𑀧) にしがみついた, はびこる; (一°) によって止まられた, 占有された.

ava- 滞る; (鳥が) 止る; (𑀧) 中に隠れる; 𑀧 沈, 退, 退没, 退屈 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*; 驚疑 *Sapt-pr.*: cittam avaliyate 驚 *Aṣṭ-pr. 660.* 𑀧 avalina 坐した; (𑀧, 一°) 中に潜んだ.

saṃ-ava- (𑀧) に吸収されるまたは没する.

ā- (𑀧) に附着する; 降りる, … に止まる; 畏縮する, 潜む; 𑀧 近 *Aṣṭ-pr.* 𑀧 ālina (𑀧) に附着する, 密着する; (蜜蜂をその) 中に宿した (蓮, 一°); (一°) に隠れた, 潜んだ.

ni- … に執着する, 密着するまたは附着する; (一°) に降りるまたは止まる; (𑀧) から (𑀧) に隠れる. 𑀧 nilina (𑀧, 一°) に密着する; (𑀧) に全く熱中した; (一°) に止まったまたは休んでいる; (𑀧) に隠れた, 潜んだ; (𑀧) によって隠された.

pra- (𑀧) 中に溶解されるまたは吸収される; 見えなくなる, 死ぬ. 𑀧 pralina (𑀧) の中に消えた, 去った, 死去した; 疲れ果てた, 意識不明な (人); 飛び去った.

saṃ-pra- 見えなくなる, (𑀧) の中に没する. 𑀧 saṃpralina 見えなくなった, (𑀧) の中に吸収されたまたは含まれた.

prati- 見えなくなる. 𑀧 pratilina 隠退した.

vi- しがみつく, (𑀧) に附着する, (鳥が) 止まる; 隠

れる, 秘かに去る; 見えなくなる, 死ぬ; 分解する, 融解する. 𑀧 vilina (𑀧, 一°) に附着した, … に注がれた (視線), … に熱中した; (一°) に坐した; 隠れた, 消えた, 死んだ; (𑀧) 中に消えたまたは消え行く; 分解した, 溶けた. 𑀧 vilāyayati 消えさせる, (𑀧) の中に消えさせるまたは吸収させる; 滅ぼす; 溶解させる.

ati-vi- 𑀧 積 *Abh-vy.*

anu-vi- (業) の中に分解される (Br.).

abhi-vi- 𑀧 abhivilāpayati 解けさせる.

pra-vi- 見えなくなる, 分解される, 破壊される; 𑀧 爛, 爛壞, 銷爛, 破壊, 消滅 *Aṣṭ-pr., Lal-v., Śikṣ.* 𑀧 pravilāpayati 消す; (𑀧) の中に吸収させる; 溶かす, 溶解させる.

saṃ- (業) にしがみつく, 密着する, 附着する; (𑀧) に入る, … に入り込む; 隠れる, 潜む; 畏縮する; 𑀧 没, 退, 狷, 越 *Aṣṭ-pr., Mvyut., Śikṣ.*; 迷悶 *Sapt-pr.*: cittam saṃliyate 怖 *Aṣṭ-pr. 660.* 𑀧 saṃlina (𑀧) と結合した, … に密着する; (𑀧) の中に

入った; (𑀧, 一°) に潜んだ; 畏縮した, 収縮した.

prati-saṃ- 𑀧 息 *Divy.*

Li 2., 𑀧 lelāya, lelaya, leliya, 動揺する, 振動する, 震える (𑀧).

liḍha 𑀧 → Lih.

lina 𑀧 → Li 1.; 𑀧 沈, 沈感, 沈心, 沈重, 著下, 下劣, 怯, 怯劣, 怯弱, 退弱, 退縮, 懈怠, 懶惰, 損贏, 狭小 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lanḅ., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.*: ~āni cittāni 下心 *Aṣṭ-pr. 542.* → a~.

lina-cittatā 𑀧 𑀧 心下劣性, 心性下劣, 下劣品心 *Madhy-bh., Madhy-vibh.*

linatā 𑀧 (𑀧) にしがみつくこと; (一°) の中に隠れること; 完全な隠棲.

linatva 𑀧 (何物かの中に) 隠れること; 𑀧 執着, 劣, 下 *Śikṣ., Sūtr.*

lipsitavya 𑀧 [Labh の 希求 から] 望ましい (Br.).

liyanā 𑀧 [Pali 同] 𑀧 懈怠 *Saddh-p. 235.*

lila 𑀧 𑀧 一° 如 *Divy.*: sarva-jña ~ ḥ 如一切智 *Divy. 385.*

lilā 𑀧 遊戯, 競技, 慰み, 気晴らし, 娛樂; 戯れに (恋人を) 模倣すること; (単なる) 遊戯, 児戯 (= 容易に行える行為); 単なる外観, (一°) への類似; 仮託, 変装, 見せかけ; 魅力, 優美; 𑀧 自在 *Bodh-c.* °—, ~ayā 𑀧 戯れに, 慰みに; 戯れに = (非常に) 容易に; 単に外観上; 偽って.

lilā-kamala 𑀧 玩具の蓮, 弄ぶための蓮.

lilā-kalaha 𑀧 冗談のまたは偽りの喧嘩.

lilā-khela 𑀧 遊び戯れる.

lilāgāra (°lā-ag°) 𑀧 娛樂処.

lilā-gṛha 𑀧 [同上].

lila-geha 𑀧 [同上].

lilā-catura 𑀧 いたずらっぽく魅力的な.

lilā-tanu 𑀧 単に遊戯のためにとった形態, 幻像.

lilā-tāmarasa 𑀧 = lilā-kamala.

lilā-dagdha 𑀧 容易に焼かれたまたは使い尽された.

lilā-naṭana 甲 [同下].
 lilā-nṛtya 甲 みせかけの踊.
 lilā-padma 甲 =lilā-kamala.
 lilā-parvata 男 [山の名].
 lilābja (°lā-ab°) 甲 =lilā-kamala.
 lilābharāṇa (°lā-ābh°) 甲 みせかけの飾 [例 蓮糸を以て編んだ腕環].
 lilā-manuṣya 男 外観だけの男, 仮装した男.
 lilā-mandira 甲 娯楽処.
 lilāmbuja (°lā-am°) 甲 =lilā-kamala.
 lilāya 名動 遊ぶ, 戯れる, 楽しむ.
 lilāyita 過受分 戯れる, 享樂する. 甲 遊戯, 娯樂; 容易に立てられた勲功.
 lilāyitatva 甲 漢訳 戯嬉, 変身, 身揺 *Mṛyut.*
 lilā-rati 女 (因)による娯樂.
 lilāravinda (°lā-ar°) 甲 =lilā-kamala.
 lilā-vajra 甲 金剛杵のような形をした器具.
 lilāvātāra (°lā-av°) 男 戯れに (*Viṣṇu* 神が)下界に権化すること.
 lilāvadhūta (°lā-av°) 形 戯れに揺ぶられた.
 lilāvāt 形 魅力ある.
 lilāvati 女 (人)を魅する婦人; [*Durgā* の称]; [人名].
 lilā-vāpi 女 娯樂池.
 lilā-veśman 甲 娯樂処.
 lilā-sādhya 形 容易に成就されるべき.
 lilodyāna (°lā-ud°) 甲 娯樂の園.
 luk 名 (接辞語尾)の脱落または消失 (文法). 形 落ちた (接辞語尾) (文法).
 luṅ, 第三過去(の人称語尾) (文法).
 luṅga 男 漢訳 科, 穂 *Abh-ry.* → mastaka ~.
 Luj, [=Ruj]. 受 luṅyate 漢訳 壊, 破壊, 毀壊, 変壊 *Abh-ry. 23, Aṣṭ-pr. 538, Mṛyut.* : luṅyata(rujyata) iti lokah 有壊謂世界 *Mṛyut.*
 pra- 受 praluṅyate [=praruṅyate] 漢訳 壊, 変壊, 哀 *Aṣṭ-pr., Śikṣ.*
 Luñc, I. 他 luñcati 摘む, 抜き出す; 皮を剥ぐ, さや(莢)を取る; 漢訳 抜, 擷 *Mṛyut.* 過受分 luñcita 莢を取られた; 髪を引き抜いた [±keśa または -mūrdhaja 種 *Jina* 教徒の称].
 ul- 過受分 ulluñcita 引き抜かれた, 摘まれた.
 vi- 引き抜く.
 luñcana 形 一° (髪を)引き抜く. 甲 漢訳 抜 *Abh-ry.*
 luñcita 過受分 → Luñc.
 Luṭ, [現分 luṭyat 転び廻る, および luṭat 散在する (まれに)のみ].
 luṭat 現分 → Luṭ.
 luṭyat 現分 → Luṭ.
 Luṭh I. 他 luṭhati 転び廻る, 転がる; 動き廻る, 羽ばたきして飛ぶ, ゆらめく; 触れる; 動揺させる. 過受分 luṭhita 転る. 使役 他 loṭhayati 動かす, 動揺させる. 希求 自 luluṭhiṣate まさに転がろうとする. 強意 他 loluṭhiti (酩酊者が)千鳥足で歩む. ul- ulluṭhati 痙攣的に動く.
 nir- 過受分 nirluṭhita 転がり落ちた, (母胎から)生

まれる. 使役 nirluṭhaya 転がす.

pari-nir- 転がり落ちる.

pari- 転げ廻る.

pra- (地上に)転がる.

vi- 転げ廻る, 跳び廻る.

Luṭh 2., X. 他 loṭhayati 奪う.

nir- 奪う, 盗む.

luṭhana 甲 廻転.

luṭhita 過受分 → Luṭh 1.

Lud, 過受分 luḍita. 使役 他 loḍayati 動かす, 攪拌する.

ava- 使役 avaloḍayati 掻き廻す.

ā- 使役 āloḍayati 動かす, 攪拌する, 混合する; 困らせる, 混乱させる; 漏れなく探す, (書物 漢)に精通する; 漢訳 相和 *Mañj-m.*; 散遍満 *Lal-v.*

nir- 使役 nirloḍaya- 残らず研究する. 使役 過受分 nirloḍita.

pari- 使役 pariloḍaya- 混乱に陥らせる, 乱す.

vi- 使役 攪拌する; 混合する; 投げ廻す; 動揺させる, 乱す; (業)に入り込む.

ati-vi- 覆えす, 荒らす.

saṃ- 使役 ちこちこち動かす; 動揺させる, 乱す.

因 saṃluḍyate 破壊される.

luḍita 過受分 漢訳 濁, 濁乱, 散乱, 雑乱 *Daś-bh., Gand-vy., Lal-v., Mṛyut.*

luḍita-pāniya 甲 漢訳 濁水 梵雜.

Luṅṭ, I. 他 luṅṭati [まれに] 盗む, 奪う. 過受分

luṅṭita 莢を取られた [異読: luñcita].

vi- 莢を取る [異読: Luñc].

luṅṭaka 男 盗人, 盜賊.

luṅṭita 過受分 → Luṅṭ.

Luṅṭh, I. 他 luṅṭhati 攪拌する, 動かす, 動揺させる. 因 luṅṭhyate 盗まれる. 過受分 luṅṭhita 盗まれた, 奪われた, 掠められた.

使役 他 luṅṭhayati 盗む, 奪う, 掠める; 莢を取る.

nir- 盗む, 掠奪する.

vi- [同上]. 過受分 viluṅṭhita 転げ廻る [=viluṭhita].

luṅṭha, [草の一種].

luṅṭhaka 男 掠奪者.

luṅṭhana 甲 (一°)の掠奪.

luṅṭhaka 男 盜賊, 掠奪者.

luṅṭhakatā 女 強奪.

luṅṭhi 女 掠奪, 強奪.

luṅṭhita 過受分 → Luṅṭh.

luṅḍikā 女 円い塊, 球.

luṅḍi-Kṛ, 共に転がる.

lutita 過受分 漢訳 濁 *Sūtr. 88.*

Lup, VI. 他 (韻律, 因) lumpati(-te) [*Rup* の後世の形; 因 にはまれ] 破る, 害する, 損ずる; 捉える, 襲う; 盗む, 掠奪する; 消費する; 抑圧する, 見えなくする. (文字・語等を)省略する; 漢訳 破壊 *Dirvy.*

因 lupyate 破られる, 裂かれる; 消費される; (誓等)が破られる, 犯される; (分け前)が失われる, 見えなくなる, 破壊される; 省略される. 過受分

luṭpa 害せられた, 奪われた; (一°)を剥奪され

lulita 過受分 → Lul. 甲 動作。
 lulita-kuṇḍala 形 耳環のゆれる。
 lulita-makaranda 形 (蜜蜂に) 蜜を奪われた(花)。
 lulita-srag-ākula 形 まき散らされた花環で覆われた(寝台)。
 lulitākula-keśānta 形 頭髪が乱れた。
 Lū, V. 廻 lunoti (Br.) [きわめてまれに]; IX. lunāti, lunite (草を)刈る, (穀物を)収穫する, (花を)摘む; 切り離す, 剪み切る, 伐る, 切り倒す, 分つ, 貫く; 断つ, 破壊する, 絶滅する; 漢訳 抜, 刈 Lal-v. 過受分 lūna 切られた, 切り離された, 伐られた, 摘まれた; 咬み切られた; 打ち抜かれた(歯); 分離された; 刺された; 破壊された。
 ava- 過受分 avalūna 切り離された。
 ā- 自 破りとる。過受分 ālūna 摘まれた。
 nir- 過受分 nirlūna 切り離された; 切り刻まれた。
 vi-pra- 過受分 vipralūna 切りまたは摘みとられた。
 vi- 切り離す。
 lūṇa 過受分 → Lū; 漢訳 [=lūna] 割截 Lal-v. 194.
 lūtā 女 蜘蛛; [皮膚病の一種]。
 lūna 過受分 → Lū; 漢訳 刈, 被刈, 芟, 捻, 無 Abh-vy., Lal-v., Mvyut. → ~ pakṣa. 甲 尾 [きわめてまれに]。
 lūna-pakṣa 形 翼を切りとられた; 漢訳 無翅 Lal-v.
 lūna-bāhu 形 腕を切断された。
 lūna-viṣa 形 尾に毒をもつ。
 lūha 形 窟 [<rūkṣa. Pāli lūkha] 漢訳 悪, 穢, 龕 悪, 龕弊, 弊悪, 下劣, 少 Bodh-bh., Divy., Śikṣ.
 lūha-civara 甲 窟 漢訳 破納衣 Divy. 81.
 lūhāhāratā (°ha-āh°) 女 窟 漢訳 食少 Śikṣ. 129.
 lṛṇ, 条件法(の人称語尾) (文法)。
 lṛt, 第一未来(の人称語尾) (文法)。
 lekuñcika 男 漢訳 音写 [比丘の名] 梨軍支 Av-ś.
 lekha 男 [Likh] 画, 線; 文書, 書簡 (甲 および 覆); 神, 神祇 [きわめてまれに]; (種)神(の一部類)(叙詩) [まれに]; 漢訳 文, 文字, 書, 書信, 書疎, 券疎 Mvyut., Raṣṭr., Saddh-p., Sūtr., 梵千., 梵雜. ~m Kṛ 計算する, 数える。
 lekhaka 男 筆者, 秘書, 写字生; 計算; 漢訳 書写者 Saddh-p.
 lekhana 形 (因 -i) 引掻く, 傷をつける, 切り裂く; 興奮させる, 鼓舞する; 稀薄にする。甲 筆記, 筆写; 漢訳 書写 Madhy-bh., Madhy-vibh.
 lekhana-sādhana 甲 書写の材料。
 lekhanā 女 筆, 画筆; 漢訳 書写 Mvyut.
 lekhanī 女 書写用のあし, あし筆; 漢訳 筆 Mvyut.
 lekhanīya 未受分 画かれるべき, 描かれるべき; 書かれるべき。
 lekha-pattra 甲 書翰; 文書。
 lekha-pattrikā 女 [同上]。
 lekha-pratilekha-lipi 女 漢訳 (音写) 戻法鉢羅底隸書, 梨伽波羅低梨伽書(往復) Lal-v. 126.
 lekhayitavya 使役 未受分 漢訳 令書写 Aṣṭ-pr.
 lekha-sālā 女 習字教習所。

lekha-saṃdeśa-hārin 形 書信を伝達する。
 lekha-hāra 男 書信を伝達する人。
 lekha-hāraka 男 [同上]。
 lekha-hārika 男 漢訳 使臣, 上任, 上大使官 Mvyut.
 lekha-hāritva 甲 (一°)の書信の伝達。
 lekha-hārin 形 (一°)の書信を伝達する。
 lekhā 女 [Likh] 条, 線, 画, 筋, 溝; (月の)蝕分, 新月; 端; 輪郭; 像, 肖像; 跡形, 印。
 lekhādhikārin 男 王の秘書。
 lekhikā 女 小条。
 lekhita 使役 過受分 → Likh.
 lekhin 形 (一°)に触れる。
 lekhi-Kṛ, 線にする。
 lekhyā 未受分 傷をつけられるべき; 書き留められるべき; 画かれるべき; 描写された, 画かれた; 数えられるべき(一°)。甲 書写, 書道; 転写; 線描すること, 絵をかくこと; 文書, 手紙; 碑銘, 刻文; 画像; 一° [gaṇanā とともに] = 目録, (一°)の一覧表; 漢訳 書, 画, 書画 Lal-v., Lanik.
 lekhyā-gata 形 画かれた。
 lekhyā-pattra 甲 文書, 手紙。
 lekhyā-padma 甲 画かれた蓮。
 lekhyamaya 形 画かれた。
 lekhyā-rūpa 形 [同上]。
 lekhyā-vicitra, → sa~.
 leṭ, 接続法(の人称語尾) (文法)。
 leṇḍa 甲 排泄物。
 ledari 女 [河の名]。
 lena, -ṇa 甲 または 男 [<layana] 漢訳 室, 静室 Saddh-p. 236, 282.: jinasya ~m praviśitvā 入如来室 Saddh-p. 236.
 lepa 男 塗ること, 油を塗ること; 膏薬, 軟膏, 漆喰; 斑点, 汚点, 不潔物, (とくに皿・手等に付着した)脂肪; 不道德の罪; 食物; 漢訳 塗, 抹, 拭, 着; 糝膠, 糞 Abh-vy., Mvyut., Raṣṭr., Śikṣ., Sūtr., 梵雜. → nir~.
 lepaka 男 左官, 漆喰師, 石工。
 lepa-kara 男 [同上]。
 lepana 甲 (因, 一°: 油・膏等)を塗ること, 油を塗ること, 膏薬を付けること; 膏薬; 石膏, 漆喰; 漢訳 塗, 泥塗 Bodh-bh., Saddh-p. 形 (一°)を塗られた。
 lepin 形 (一°)を塗る, 塗布する; …を塗られた, 塗布せられた。
 lepi-Kṛ, 塗料にする。
 lepya 未受分 型に入れて作られた, 模作された; 汚されるべき。
 lepya-kāra 男 原型を造る人, 煉瓦を積む人, 漆喰工。
 lebhe, → Labh.
 lelāya, lelāyati, -te, Li 2. の 強意。
 lelāyamānā 女 ゆらめく(祭火の七舌)。
 leliha 男 蛇。
 lelihāna 男 [Lih. の 強意 現分] 蛇。
 levāra 男 [ある agra-hāra (婆羅門に下付された土地)の名]。
 leśa 男 [Liś= Riś] 分子, 原子, しずく, 小片; (圓,

一°)の少量([きわめて普通に] 一° = 極めて少ない。僅かな, 取るに足りない); [間接的に叙述する修辭法: 例 *Sikhandin* の指揮下に *Bhīṣma* を殺した時の *Pāṇḍava* の誇りは我等のものとならん]; [普通利益として考えられるべきものが不利益として表わされる修辭法およびその反対の修辭法]; 少, 纖毫, 髣髴 *Abh-vy.*, *Bodh-c.* °一, 圓, ~tas 甚だ僅かにまたは簡単に。

leśa-mātra 甲 似片, 相似 *Prat-m.*: ~dharma 似片法, 相似法 *Prat-m. II. 9.*

leśāsas 副 小部分に。

leśika 男 草刈人。

leśin 形 (一°)の少量を有する。

leśya 男 光。

leśyā 因 [同上]。

leṣṭu 男 [Liś] 土塊, 粘土。

leha 男 [Lih] なめる者, 吸る者; 甜め薬, ねり薬。

lehana 甲 なめること。

lehari 男 [また lohari] 上任, 上大使官, 使臣 *Mvyut.* → *lekha-hārika.*

lehya 未受分 なめられるべき, 吸られるべき, なめて喰われるべき。

laiṅga 形 文法上の性に関する。甲 [ある *Purāna* の題名]。

laiṅgika 形 特徴または証拠に関するまたはより結果する, 推論された; 比量 *Vaiś-s.* 男 彫像師。

laiṅgodbhava (°ga-ud°) 甲 *liṅga* の起原に関する物語。

laisika 甲 少, 異非分, 仮根(謗) *Mvyut.*

Lok, I. 甲 **lokate** [=rokate, *Ruc*] 見る, 認める。
使役 他 **lokayati** 注視する, 見つめる; 看取する, 認める; 認知する, 知る。

abhi- 使役 **abhilokayati** 注視する, 眺める。

ava- 見る(ことを得る); 観, 観察, 諦観, 遍観, 挙目観見, 見, 顧, 顧視, 瞻仰 *Aṣṭ-pr.*, *Av-s.*, *Divy.*, *Laiṅk.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, 梵千。使役 **avalokayati** 見る, 見上げる; (園)を見つめる, 看取する, 眺める, 注視する, 先を見る, 前を見る; 注意する; (軍隊を)検閲する; 探す; 看視する; (占星術に於て遊星の状態を)観測する; 慇懃に見る; 認める; 観, 観察, 諦観 *Gand-vy.*, *Mañj-m.*, *Sikṣ* 通受分 **avalokita.** 不変分 **avalokya** 看 *Mvyut.*

vy-ava- 観, 観察, 視, 看 *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*, *Prat-m.* 使役 **vyavalokayati** 観, 観察, 普遍観察, 観達, 観察照見, 観見, 観照, 一心観, 照見, 顧望, 顧盼, 瞻, 瞻仰 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Prajñ-h.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*

sam-ava- 見る; 眺める, 注視する, 視察する; 認める, 看る。

ā- (園)を眺める; 認める; 見, 觀看 *Mvyut.*, *Sāṃkhy-k.* 使役 **ālokeyati** 見る, 看る; 注目する, 眺める, 注視する; 慇懃に見る, [±dhiyā, buddhyā] 考える, 省察する; (園)を(園)と認める, 認知する, 見出す, 知る; 照 *Sūtr.* **svapnam ālokeyati** 夢を見る, **hṛdi ālokeyati** 思い出す。

prā(*pra-ā-*) 使役 不変分 **prālokeya** 遠方を見て [異

読: *ālokyā*].

sam-ā- 観, 観察, 普観 *Laiṅk.* 使役 **samālo-kayati** 眺める, 注視する; 考える; 認める, 観察する, (園)を(園)であると認知する。

ul- 使役 **ullokayati** 観, 樂觀, 瞻仰, 瞻戴 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*

vi- 眺める; 省察する, 研究する [まれに]; 観 察 *Buddh-c.* 因 **vilokyate** 見える。使役 **vilokayati** 見ることを得る; 見る; 眺める, 注視する, 注目する, 視察する; …に注意を向ける, 省察する; 研究する [まれに]; 顧慮する [まれに]; 認める, 観察する; (垣根を)越して見る; 観 察, 顧, 窺 看 *Lal-v.*, *Gand-vy.*, *Saddh-p.*: *mahāvīlokītāni vilokayati sma* 遍観察 *Lal-v. 19.*

anu-vi 使役 **anuvilokayati** 見渡す, 完全に眺める; 考える, 熟慮する; 観 察 *Divy.*

pra-vi- 使役 **pravilokayati** 見る; 眺める, 注視する; (天文学的に)観察する; 考える, 熟慮する; 認める, 見出す。

sam- [ubhayataḥ とともに 因] 互に見合わす。

loka 男 [RV. では *uloka* の傍らに用いられる] (自由な)空間, 余地, 場所 (因); 地方, 地帯, 国; 世界, 宇宙の区分 [二世界=天界と地界; 三世界=二世界と空界; 普通には七世界を説く]; 天; 地; (園および園)人類, 一般の人民, 国民 [時として王に対する]; 男子(園: 女子の園); (園) 団体, 仲間 [しばしば 一°として集合因]; 日常生活, 慣例, 世事, 俗事 [Veda に対する]; 視ること [一°のみ: *cakṣur* ~ 眼で見ること]; 世, 世間, 世界; 百姓, 衆生 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Nyay-pr.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. II.*, *Sāṃkhy-k.*, 梵維; 世俗, 世間事業 *Aṣṭ-pr.*, *Gand-vy.* → a ~. (*urum*) ~ *m* *Kṛ* (園)のため広い空間を作る, …に自由を与える(因). **ayam** ~ *h* 此世, 現世. **asau** または **paro** ~ *h* 彼世, 来世. ~ *e* 因 (園)の代りに (*Br.*); 日常生活において, 一般の言葉で; 世間において, 地上において. **iha** ~ *e* 現世において. **kṛtsne** ~ *e* 全世界において。

loka-kaṇṭaka 男 (人類の刺), 有害な人。

loka-kathā 因 民間説話。

loka-kartṛ 男 世界創造者 [*Brahman* 神, *Viṣṇu* 神, *Śiva* 神の称]。

loka-kalpa 形 世界に似た; (世間によって)…と考えられる。男 紀元, 世界の世紀。

loka-kānta 形 世間に愛される, 全人類にとって親愛な。

loka-kāma 形 (ある)世界を願う。

loka-kāmyā 因 人間に対する愛。

loka-kāra 男 世界創造者 [*Śiva* 神の称]。

loka-kṛt 男 世界創造者。

loka-kṣit 形 天に住する。

loka-gati 男 人間の行為; 世間道 *Gand-vy.*

loka-gāthā 因 通俗的(伝承的)な詩歌。

loka-guru 男 世界のまたは人々の教師, *Brahman* 神; 世所尊, 世間尊者 *Laiṅk.*

loka-guruka 形 求世間名聞, 徇名誉 *Aṣṭ-pr.*

loka-cakṣus ㊦ 種 人々のまたは世間の眼。
 loka-cara ㊦ 世間を徘徊する。
 loka-carita ㊦ ㊦ 世間行 *Daś-bh.*
 loka-cārin ㊦ =loka-cara.
 loka-cāritra ㊦ 世間の道。
 loka-jit ㊦ 領土を獲得する (Br.); 天に達する。
 loka-jña ㊦ 世間または人間を知る; ㊦ 知世間, 善知世間, 善解世間 *Bodh-bh., Mvyut.*
 loka-jñatā ㊦ 世間に関する知識; ㊦ 世智, 知世, 善知世間, 善解世間, 善解世法 *Bodh-bh., Daś-bh.*
 loka-jyeṣṭha ㊦ ㊦ 世尊 *Mvyut.*
 loka-tattva ㊦ =loka-jñatā.
 loka-tathatā ㊦ ㊦ 世間如, 世間真如 *Aṣṭ-pr.*
 loka-tantra ㊦ 世界の秩序または組織。
 lokatas ㊦ 世人から, 風説から; 慣例に従って。
 lokatā ㊦ (自分の)世界をもつこと。
 loka-traya ㊦ 三界[天・地・空または地下界]; ㊦ 三世 *Sūtr.*
 loka-trayi ㊦ [同上]。
 loka-dambhaka ㊦ 世人を欺く。
 loka-dāsa ㊦ ㊦ 僮僕 *Gaṇḍ-vy.*
 loka-dūṣaṇa ㊦ 人間を害する。
 loka-dṛṣṭa ㊦ ㊦ 世見 *Sūtr.*
 loka-dvaya ㊦ 二世界[天界と地界]。
 loka-dvāra ㊦ 天界の門。
 loka-dharma ㊦ ㊦ 世法, 世見(八)法 *Bodh-bh., Mvyut., Sūtr.*: aṣṭau ~ āḥ 八世法 [1. lābhaḥ 利, 2. alābhaḥ 裏, 3. yaśaḥ 称, 4. ayaśaḥ 譏, 5. nindā 毀, 6. parśamsā 譽, 7. sukhaṃ 楽, 8. duḥkhaṃ 苦] *Mvyut.*; nava ~ āḥ 世法(略)有九種 [1. alābhaḥ 2. ayaśas 3. nindā 4. duḥkham 5. nāśa-dharmakasya nāśaḥ 6. kṣaya-dharmakasya kṣayaḥ 7. jarā-dharmakasya jarā 8. vyādhi-dharmakasya vyādhīḥ 9. maraṇa-dharmakasya maraṇam] *Bodh-bh.193.*
 lokadharmādhiṣṭhāna ㊦ ㊦ 世法処 *Bodh-bh.*
 loka-dhātu ㊦ ㊦ 世界, 世間, 界境, 国, 国土 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut., Saddh-p., Sukh-vy.I, II., Sūtr., 梵雜.*: cāturdvipako ~ ḥ 四州世界 *Mvyut.*; tri-sāhasra-mahā-sāhasre ~ au 三千大千世界 *Aṣṭ-pr.225*; dvisāhasro madhyamo ~ ḥ 中二千世界 *Mvyut.*; sāhasre cūḍikāyāṃ ~ au 小千世界 *Aṣṭ-pr.222.*; sāhasra-cūḍiko ~ ḥ 小千世界, 千總世界 *Mvyut.*
 loka-dhātṛ ㊦ 世界の創造者 [*Śiva* 神の称]。
 loka-nātha ㊦ 世界の主, [*Brahman* 神, *Viṣṇu* 神, *Śiva* 神および太陽の称]; 人民の保護者, 王; ㊦ 世尊, 世中尊, 世所尊, 導世師, 導師, 世間導師, 世間依止, 世依処, 世所依怙, 世間救護, 能救護世間, 世親, 世間親, (諸)仏 *Bodh-c., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lanik., Madhy-v., Mañj-m., Sam-r., Śikṣ., Sukh-vy.I., Suv-pr.* ㊦ 人類によって保護された。
 loka-nindita ㊦ 万人に非難された。
 loka-pa ㊦ 世界の統治者; 世界の守護者 [八を数える]。
 loka-pati ㊦ 世界の主, [*Brahman* 神, *Śiva* 神の称];

人民の主, 王。
 loka-patha ㊦ 一般のまたは普通のやり方。
 loka-paddhati ㊦ [同上]。
 loka-parokṣa ㊦ 世間から隠された。
 loka-pāla ㊦ 世界の守護者 [*Manu* の法典以来四方または八方に四または八の守護神を想定する。例外的に五を数える]; 人民の守護者, 王; ㊦ 護世, 護世者, 護世王, 護世(四)王, 護世(四)天王, (四)天王, (諸)天, 護世界, 持護世界 *Aṣṭ-pr., Lanik., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Suv-pr.*: catvāro ~ ā mahā-rājānaḥ 四天王, 護世四王, 護世四大天王 *Aṣṭ-pr.807.*
 loka-pālaka ㊦ =loka-pa; 王。
 loka-pālatva ㊦ ㊦ 護世 *Bodh-bh.*
 loka-pitāmaha ㊦ 人類の祖先, [*Brahman* 神の称]。
 loka-pitṛ ㊦ ㊦ 世父, 世之父 *Saddh-p.*
 loka-puṇya ㊦ [地名]。
 loka-pūjita ㊦ 人々によって尊敬された。㊦ ㊦ [仏の名] 世供, 世間王尊 *Lal-v.*
 loka-pradipa ㊦ ㊦ [また仏陀の称] 世灯, 世間灯, 照世灯, (智)灯照世王 *Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr., Śikṣ., Sukh-vy.I.*; 仏 *Gaṇḍ-vy.*
 loka-pradyota ㊦ ㊦ 世間灯, 世光, 照世間, 世光曜, 照世(円満)灯 *Gaṇḍ-vy., Lanik., Saddh-p.*; 世間眼 *Saddh-p.177*; 出世間 *Lanik.47.*
 loka-pravāda ㊦ 世間の噂, 俗諺, 諺。
 loka-pravāhin ㊦ 世間に流通する。
 loka-prasiddha ㊦ 世間に知られた; ㊦ 世間極成。(世)俗成(就) *Bodh-bh., Madhy-bh.*
 lokaprasiddha-tattva ㊦ ㊦ 世間極成真実 *Bodh-bh.*
 loka-prasiddhi ㊦ 一般的に通用すること: ㊦ 一般の慣例に従って。
 loka-bandhu ㊦ ㊦ 衆生 *Saddh-p.220*; 仏 *Saddh-p.214.*
 loka-bhartṛ ㊦ 人民の擁護者。
 loka-bhāvana ㊦ 人類の福祉を進める。㊦ [*Brahman* 神の称]。
 loka-bhāvin ㊦ [同上 ㊦]。
 lokamaya ㊦ (㊦ -i) 広々とした; もろもろの世界を包含する。
 loka-maheśvara (°hā-iś°) ㊦ 世界の大神, [*Kṛṣṇa* 神の称]。
 loka-mātr ㊦ 世界の母, [*Gauri* の称]。
 loka-mārga ㊦ 一般的慣習。
 lokam-prṇa ㊦ 世界に満ちる, 一切に行きわたった。
 lokam-prṇā ㊦ [火壇を築くのに用いられる通常の煉瓦の名 (lokam-prṇa という語で始まる詩節によって清められる)]。
 loka-yātrā ㊦ ㊦ 世事, 日常生活; 日々の糧, 生計; ㊦ 世, 世間, 世儀, 世儀軌, 世間理 *Bodh-bh., Mvyut.*
 loka-rakṣa ㊦ 人民の保護者, 王。
 loka-rañjana ㊦ 人々を満足させること。
 loka-rava ㊦ 世間の話, 噂。
 loka-locana ㊦ 世間の眼, 太陽; (㊦)世間(すなわち人々)

の眼。

- loka-vaṃśa 男 漢語 世俗家，凡夫家 *Gaṇḍ-vy.*
 loka-vacana 中 世間の話，噂。
 lokavat 副 日常生活におけるように。形 = lokamaya.
 loka-vartana 中 世界が存続する手段。
 loka-vāda 男 世間の話，一般の噂。
 loka-vārttā 女 世間の噂。
 loka-vikruṣṭa 形 公然と非難された；世間に不快な。
 loka-vicārin 形 漢語 随順世法 *Sikṣ.*
 loka-vicitratā 女 漢語 世事，世間事，世間種種事
Lank.
 loka-vijñāta 形 一般に知られた。
 loka-vid 形 諸世界を知る；漢語 [仏陀の称] 世智，
 世間解，世間解之士 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*,
Mvyut., *Saddh-p.*, 玄心；音写 路伽億，路伽甯，路
 伽備 玄心；～ām varah 無上世間解，大天仏 *Lank.*
 29.
 loka-vidviṣṭa 形 一般に嫌われた。
 loka-vidhi 男 世界創造者；世間で（一般に行なわれ
 る物事）の秩序。
 loka-vibhava 男 漢語 世間壊 *Mvyut.*
 loka-viruddha 形 世間の見解とは反対の，明らかに
 矛盾した；漢語 世間相違 *Nyay-pr.*
 loka-virodha 男 世間の考えに反対であること。
 loka-viśruta 形 一般に知られた。
 loka-visarga 男 世界の終末；世界の創造。形(女-ikā,
 -i) 世界創造に関する。
 loka-visargin 形 世界を創造する。
 loka-vistara 男 一般に行なわれること。
 loka-vira 男 種 世界の英雄。
 loka-vṛtta 中 一般的習慣，人々の間に行なわれる慣
 習。
 lokavṛttānta 男 世間における出来事；慣習。
 loka-vyavahāra 男 [同上]；通常の称呼；漢語 世俗
 施設，凡俗所為，世間言説，随世間而有言説 *Aṣṭ-*
pr., *Lank.*, *Saddh-p.*
 loka-vrata 中 一般的慣習または処置，一般的な生活方
 式。
 loka-śruti 女 世間に広まった評判。
 loka-śreṣṭha 形 世間で最上の。
 loka-saṃvṛti-satya 中 漢語 世俗諦 *Madhy-v.*
 loka-saṃvyavahāra 男 世人との商行為；漢語 世事，
 論世事，世俗言説，俗数言説 *Lank.*
 loka-saṃsṛṣṭi 女 人生の出来事。
 loka-saṃkara 男 人類または世間の混乱；世間を欺く
 こと。
 loka-saṃkṣaya 男 世界の破壊。
 loka-saṃgraha 男 世間(との交際によって得た)経験；
 世人に影響を与えること，人間をなだめること；諸
 世界の総体。
 loka-saṃgrāhin 形 人々をなだめる。
 loka-saṃjñā 女 漢語 世想 *Abh-k.*
 loka-saṃniveśa 男 漢語 世間執着 *Sapt-pr.*；世間衆
 生，一切衆生 *Lank.*
 loka-saṃpatti 女 漢語 官位 *Gaṇḍ-vy.*
 loka-saṃpanna 形 人生経験のある。

- loka-saṃbhava 男 漢語 世間出，出世間 *Mvyut.*
 loka-samatita 形 漢語 過世 *Sūtr.*
 loka-sākṣika 形 世間によって目撃された。～m 副
 衆人環視の中に。
 loka-sākṣin 男 世間の目撃者。
 lokasāt-Kṛ. …を共同財産とする。
 lokasāt-kṛta 形 公共のためにされた，共同財産とさ
 れた。
 loka-sādhana 形 世界を創造する。
 loka-sādhāraṇa 形 共通の(話題)。
 loka-sāraṅga 男 [Viṣṇu 神の称]。
 loka-siddha 形 世間に行なわれる，通常の。
 loka-simātivartin 形 通常の限界を越える，異常な，
 超自然的な。
 loka-sundara 形(女-i) 一般に美しいと認められた。
 男 漢語 [仏の名] 世善妙，世間端嚴 *Lal-v.*
 loka-saukhya 中 漢語 世樂，羣生樂，安樂諸羣生
Gaṇḍ-vy., *Sūtr.*
 loka-sthala 中 日常の出来事。
 loka-sthiti 女 世界の存続；普遍の法則。
 loka-hāsyā 形 世間に愚弄される。
 loka-hāsyatā 女 世間の愚弄。
 loka-hita 中 世界の安寧。男 漢語 救世(導師) *Ma-*
dhy-v.
 lokahitānukampaka 形 漢語 愍衆生 *Saddh-p.*
 lokācariya (°ka-āc°) 男 俗 [＜lokācārya] 漢語 導
 師 *Saddh-p.118.*
 lokācāra (°ka-āc°) 男 世間の慣習，一般の風習。
 lokātita 形 通常の限界を越える，異常な，超自然的
 な。
 lokātman (°ka-āt°) 男 世界の本体，Viṣṇu 神。
 lokādi (°ka-ādi) 男 世界の(初=)創造者。
 lokādhāra (°ka-ādh°) 形 人々によって支持されたま
 たはに依存する。
 lokādhika (°ka-ādh°) 形 通常でない。
 lokādhīpa 男 世界の主，神。
 lokānukampā 女 漢語 哀愍世間，悲愍世間，憐愍世
 間 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*
 lokānugraha 男 世界または人々の安寧。
 lokānugraha-kārin 形 漢語 益世間 *Bodh-bh.*
 lokānugraha-pravṛtta 形 漢語 饒益一切 *Divy.*
 lokānurāga 男 人類に対する愛，博愛。
 lokānuvṛtta 中 人民の服従。
 lokānuvṛtti 女 (他の)人に依存すること。
 lokāntara 中 来世。～m Gam または Yā 来世に行
 く，死ぬ。
 lokāntara-sukha 中 来世の幸福。
 lokāntarika 形(女-i) 諸世界の間に住するまたは位す
 る；漢語 世中，世内 *Mvyut.*
 lokāntarikā 女 漢語 国中間，世界中間 *Lal-v.*, *Sa-*
ddh-p.
 lokāntarita 形 死去した。
 lokāntari-bhūta 形 [同上]。
 lokāpavāda 男 世間の叱責，公けの非難，悪評。
 lokābhilāṣita 男 漢語 [仏の名] 世間欣樂，興人遊
Lal-v.

lokābhilāṣin 形 漢訳 世間敬 *Mvyut.*
lokābhyudaya 男 世界の安寧.
lokābhyudgata 形 漢訳 出過世間, 超出世間 *Aṣṭ-pr.*
lokāmiṣa (°ka-ām°) 中 漢訳 世財, 世財利, 世間財利, 世財食 *Bodh-bh., Sam-r., Śikṣ.*
lokāmiṣa-nimitta 形 漢訳 為世財食 *Bodh-bh.*
lokāmiṣa-phalābhilāṣin 形 漢訳 求世間有染果報 *Bodh-bh.*
lokāmiṣa-saṃgraha 男 漢訳 攝取世間財利 *Lank.*
lokāyata (°ka-āy°) 形 (物質界に限られた), 唯物論の; 漢訳 順世, 順世間, 世俗 *Bodh-bh., Mvyut.*
→ a~. 男 唯物論者; 漢訳 (諸)外道輩 *Lank.*
中 唯物論, *Cārvāka* の教理; 漢訳 世論, 世理経, 隨俗之論, 外道 *Divy., Lank., Saddh-p.*; 音写 路伽耶, 路伽耶陀, 盧伽耶陀 *Lank., Saddh-p.*
lokāyatana (°ka-āy°) 中 漢訳 世, 世俗法, 外道 *Kāśy., Lank.*; 音写 路伽耶 *Kāśy.*
lakāyata-naya 男 漢訳 世論法, 世論通, 世俗論 *Lank.*
lokāyata-mantra 男 漢訳 世間之論, 世間種種議論, 世俗語; (音写)路伽耶經 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*
lokāyata-sāstra 中 漢訳 世間処論 *Śikṣ.*
lokāyatika (°ka-āy°) 男 唯物論者; 世間の経験を有する人, 世なれた人; 漢訳 世俗, 世俗師, 世見, 世間論; (音写)路伽耶陀者 *Divy., Lank., Saddh-p.*; 音写 路柯耶底柯, 路柯耶底柯, 路迦耶毗(?) *Kāśy.,* 玄応.
lokāyatiki-Kṛ, 唯物論的であると見なす.
lokāloka 中 男 世界と非世界. 男 [可視の世界と暗黒の世界とを区別する(一方は loka 明, 他方は aloka 暗の)神話的山脈の名].
lokālokin (°ka-āl°) 形 諸世界を眺望する.
lokāvekṣaṇa 中 公衆の安寧に対する顧慮.
lokāstaṃ-gama 男 漢訳 世間壞 *Gaṇḍ-vy.*
lokika 形 [Pali 同]; 漢訳 世, 世間, 世俗 *Lank.*
→ laukika.
lokin 形 世界を有する. 男 世界の住人.
lokendra (°ka-in°) 男 漢訳 世主, 世間主, 世豪, 天王 *Gaṇḍ-vy., Sukh-vy. I.*; 仁. *Mañj-m.*
lokeśa (°ka-iśa) 男 世界の主.
lokeśvara (°ka-iś°) 男 [同上]; 漢訳 [菩薩の名] 觀自在(?) *Bodh-c.*
lokeśvara-rāja (°ka-iś°) 男 漢訳 [仏の名]世自在王, 世間自在王, 世饒王 *Sukh-vy. I.*; 音写 樓夷亘羅 *Sukh-vy. I.*
lokaiṣaṇā (°ka-eṣ°) 女 天界に対する欲望.
lokokti (°ka-uk°) 女 世間の噂; 俚言, 諺.
lokottara (°ka-ut°) 形 超世間的の, 異常な, 通常でない; 漢訳 出世, 出世間, 離世, 度世, 超出世間 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lank., Madhy-bh., Madhy-vibh., Vijñ-v.*
男 非凡な人.
lokottaratama 最上 漢訳 出世間上上(智) *Lank.*
lokottara-dharma 男 漢訳 出世法, 出世間法 *Bodh-bh., Madhy-bh., Madhy-vibh.*
lokottra-parivarta 男 漢訳 出世間品, 離世間品

Mvyut.

lokottara-vādin 男 漢訳 [仏教部派の名] 説出世部, 出世間語言部, 超出世間家 *Mvyut.*
lokya 形 世界または自由を与える; 世界に広がる; 慣習の, 合法的な; 正しい, 現実の; 通常の, 毎日の; 漢訳 世, 世間 *Lank.*
loga 男 [Luj=Ruj] 土塊(因).
Loc, I. 箇 -locate [→ Lok, Ruc]. 使役 -locayati.
ā- 熟考する, 思案する. 使役 ālocayati(-te) 見させる; 熟考する, 反省する, 思案する. 過受分 ālocita. 不変分 ālocya.
anv-ā- 使役 anvālocayati 熟考する, 反省する.
pary-ā- 使役 paryālocayati [同上].
sam-ā- 使役 samālocayati [同上].
nir- 使役 不変分 nirlocya 熟考して, 反省して.
locaka 男 瞳孔.
locana 形 照明する. 中 眼; 漢訳 眼, 觀 *Mañj-m., Saddh-p.*; sarva-sattva-kṛpa-maitra~ 慈眼視衆生 *Saddh-p. 453.* → maitra~.
locana-gocara 形 視野の内にある, 見える.
locana-traya-patha 男 (*Śiva* 神の)三眼の視野.
locana-patha 男 視野.
locana-paruṣa 形 眼差しの荒々しい.
locana-pāta 男 瞥見.
locanamaya 形 (因 -i) 眼からなる.
locanā 女 漢訳 眼, 眼母 *Mañj-m., Mvyut.*; [菩薩の名] 仏眼 *Guhy-s.* → buddha~.
locanāñcala 男 眼じり.
locanānanda (°na-ān°) 男 眼の喜び.
locanāpāta (°na-āp°) 男 瞥見.
locanikā 形 女 漢訳 目 *Lab-v.*
locanodḍāraka (°na-ud°) 男 または 中(?) [村の名].
locanotsa (°na-ut°) 男 または 中(?) [地名].
loṭ, 命令法(の人称語尾)(文法).
loṭikā 女 [王女の名].
loṭhakā 女 漢訳 帯, 鍍碗 *Mvyut.*
loṭhana 男 [人名]. 中 頭を振ること.
loḍana 中 苦しめること.
loḍita 過受分 動揺させられた, 悩まされた.
loṇa 中 [Pali 同], <lavaṇa] 漢訳 塩 梵雜.
lodhra 男 [=rodhra] [樹の名, 学名 *Symplocos racemosa*].
lodhra-prasava-rajasa 中 *Lodhara* 樹の花粉.
lopa 男 (音または接辞の)脱落または消失, → lup; (因, 一般に -°) の喪失, 欠乏, 不足, 中断, 消失; 剝奪; 違犯, 侵害; 漢訳 除, 略去, 断, 断滅, 壞 *Abh-vy.* → śāsana~.
lopaka 形 妨げる, 侵す, 破壊する. 男 侵犯.
lopana 中 (誓約の)違犯.
lopam 中 (業)を盗んで, 略奪して.
lopika 男 [略奪者: Lup] 豺(の一種) [まれに].
lopā-mudrā 女 [Agastya の妻の名].
lopāsa 男 豺, 狐(または同類の動物)(因) [きわめてまれに].
lopāsikā 女 牝豺, 狐 [きわめてまれに].
lopin 形 傷つける, 減少させる; 省略されうる.

loptṛ 男 妨害者, 侵害者.
 loptra 中 奪った財産, 分捕品.
 lopya 未受分 脱落または消失すべき(文法).
 lobha 男 [Lubh] (因, 因, 一°)に対する欲望, 熱望;
 性急[まれに]; 貪欲, 欲心, 貪らん[また人格化される]; 貪, 貪愛, 貪疑, 慳貪, 慳陪, 性貪, 利, 財利 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Mvyut., Sikṣ., Suvik-pr.*
 lobha-citta 中 貪心, 貪愛, 貪着之心 *Sikṣ.*
 lobhatas 副 貪らんに.
 lobhana 中 誘惑, そそのかすこと.
 lobhaniya 未受分 (一°)によってまたはに対して誘惑的なまたは魅惑的な.
 lobha-mañjari 因 (貪欲の花), 娼婦(の称).
 lobha-mohita 形 貪欲に目がくらんだ.
 lobha-viraha 男 貪欲を捨てること.
 lobhākṛṣṭa (°bha-āk°) 形 貪欲によって誘われた.
 lobhābhipātin 形 貪欲にかりたてられた.
 lobhābhibhūta 形 貪愛所蔽, 貪疑所縛, 慳貪所縛, 性貪所縛, 慳貪弊者, 耽嗜所蔽 *Bodh-bh., Mvyut., Sikṣ., Suvik-pr.*
 lobhitavat 過能分 誘惑した.
 lobhin 形 (一°)を貪る; 欲深い, 貪欲な; (一°)を誘惑する, 魅惑する.
 lobhopahata-cetas (°bha-up°) 形 貪欲によって心の歪められた.
 lobhya 形 貪, 歡喜, 倒想 *Lank.* → lobhaniya.
 lomaka, [二三の合成語の 一°] = loman.
 loma-kiṭa 男 虱.
 loma-kūpa 男 毛孔; 毛孔 *Sukh-vy.1.*
 loma-garta 男 [同上] (Br.).
 loman 中 [roman の後世の形] (人または動物の身体の)毛 [一般に頭髮・髭・たてがみ・尾を除く].
 一° 形 随順 *Sikṣ.*
 loma-pāda 男 [*Aviga* の王の名].
 loma-pravāhin 形 羽のついた(矢), 鋭い(矢).
 loma-vāhin 形 [同上].
 lomaśa 形 毛の多い, 羊毛の多い, 毛深い.
 lomasa 形 [= lomaśa] 毛髮 *Lal-v. 208.*
 loma-saṃharṣaṇa 形 身毛を逆立たせる.
 loma-harṣa 男 身毛を逆立てること, (喜びまたは恐怖によって)身の毛のよだつこと; 毛豎 *Sikṣ.*
 loma-harṣaṇa 形 (喜びまたは恐怖によって)ぞっとさせる. 男 [*Sūta* の名].
 loma-harṣin 形 ぞっとさせる.
 loma-hārin 形 = loma-pravāhin.
 lomāsi 女 狐 *Mvyut.*
 lola 形 [Lul] あちらこちらに動く, 廻転する, 波打つ, 震える, 動揺する; 静止しない, 不安定な; 変り易い, 無常な; (因, 不定, 一°)を切望する, …に熱心な, …を欲する; 動揺, 恒動, 浮, 不會休息; 求, 着, 愛着, 愛珍財 *Divy., Lal-v., Raṣṭr., Sikṣ., Suv-pr., Suvik-pr.*: abhra~ 浮雲 *Raṣṭr. 44*; kusuma~ 求尼 *Suv-pr. 188.* → a~ caksus.

lola-karṇa 形 (因 -i) 耳をそばだてる, 誰の語にも耳を傾ける.
 lola-cakṣus 形 (因)に秋波を送る.
 lolat 現分 → Lul.
 lolatā 因 (因)に対する熱心; 淫奔.
 lolatva 中 無休息, 不安定; 淫奔.
 lolad-bhuja 形 腕を振るう.
 lolamāna 現分 → Lul.
 lola-lola 形 一刻も静止しない.
 lola 因 電光; 気の変り易い(幸運の)女神; [人名].
 lolākṣikā 因 落着かない眼をもつ女.
 lolākṣi 因 [同上].
 lolāpāṅga 形 まな尻の震える(眼).
 lolita 過受分 → Lul.
 lolupa (薩意) 形 (因, 一°)を欲する, 熱望する, 貪る; 貪, 貪着, 貪愛, 着, 酷貪, 貪嗜, 虛動 *Bodh-bh., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Sikṣ.*: → āmiṣa ~.
 lolupatā 因 (一°)に対する熱心, 貪欲.
 lolupatva 中 [同上].
 lolupā 因 (因)に対する熱心, 熱望.
 lolubha (薩意) 形 (一°)を熱望する, 欲求する.
 lolekṣaṇa 形 落着かない眼をもつ.
 lolora 中 [町の名].
 loloṣṭha (°la-oṣ°) 形 唇の絶えず動く.
 loṣṭa 男 中 [Ruj] 土塊, 粘土; 塊, 土塊, 塊石, 石, 瓦石, 磚 *Bodh-bh., Divy., Mvyut., Raṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Sūtr.* 男 [人名].
 loṣṭaka 男 土塊.
 loṣṭa-guṭikā 因 土の小球.
 loṣṭa-ghāta 男 土塊で打つこと. ~m 網 [Han とともに] 土塊で殺す, 石で打ち殺す.
 loṣṭa-dhara 男 [人名].
 loṣṭan 男 = loṣṭa.
 loṣṭamaya 形 (因 -i) 粘土製の.
 loṣṭavat 副 土塊のように, 一塊の土くれのように.
 loṣṭaśa 男 [人名].
 loṣṭu 男 塊 *Kaśy.*
 loṣṭra, [恐らくは 不確] = loṣṭa.
 loha 形 赤味をおびた[まれに]; 銅製の (Br.), 鉄製の (S.). 男 中赤ばんだ金属, 銅(因); 鉄, 金属(因); 男 赤山羊; 鉄の釣針; 鉄製の物または容器; 鉄, 鍍, 金鉄, 金, 鉄(塵), 団鉄, 円鉄; 鉄鋌, 妙鉢 *Abh-k., Abh-vy., Cat-ś., Guhy-s., Lal-v., Mvyut., Sūtr., 梵雜.*
 loha-kāra 男 鍛冶屋; 鉄匠, 鍍匠 *Mvyut.*
 loha-kumbhī 因 護 *Madhy-v.*
 loha-carmavat 形 鉄または金属の板で覆われた.
 loha-cāraka 男 [地獄の名].
 loha-cūrṇa 中 鉄さび.
 loha-ja 形 鉄製の.
 loha-jaṅgha 男 [ある婆羅門の名].
 loha-jāla 中 鉄網, くさりかたびら.
 loha-daṇḍa 男 鉄杖.
 loha-dāraka 男 [地獄の名].
 loha-dharaṇi 形 鉄地 *Boah-c.*

loha-nagara 田 [町の名].
 loha-pāśa 男 鉄の鎖.
 loha-baddha 形 銅の先端をもつ.
 loha-maya 形 (因 -i) 銅または鉄製の.
 loha-mukha 男 種 [人民の名].
 lohara 男 田 (?) [地名].
 loha-rajasa 田 鉄のやすりまたはさび; 鐵塵, 金塵 *Mvyut.*
 lohari 男 → lehar:
 loha-liṅga 男 瘡瘡 *Mvyut.*
 lohavat 形 赤味をおびた.
 loha-saṅku 男 [地獄の名].
 loha-sayana 田 鉄の寝床.
 loha-sahasra 田 一千の鉄 [重量として].
 loha-stha 形 鉄中にある.
 lohāja 男 赤山羊.
 lohāmiṣa (°ha-ām°) 田 赤毛の山羊の肉.
 lohāyasa 田 銅質の金属, 銅.
 lohāri → lohari.
 lohita 形 (因 -ā 華 lohini 因, 華) [rohita の後世の形] 赤味をおびた, 赤い; 銅または金属製の (因) [まれに]; 赤, 丹, 丹色, 紅, 紅色 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut., Saddh-p., Sukh-vy.II.*, 梵千.: ~āni ~varṇāni ~nidarśanāni ~nirbhāsāni 赤色赤頭赤影赤光 *Aṣṭ-pr.933.* 男 [宝石の一種(紅玉ではない)] [きわめてまれに]; 火星. 田 赤い物質 (因) [まれに]; 銅, 金属 (AV. 用例一回のみ); 血 [通常の意義]; 血 *Aṣṭ-pr.*: ~m Kṛ 血を流す(因).
 lohitaka 形 (因 -ikā) 赤味をおびた, 赤い. 田 紅玉.
 lohita-kopapadhāna (°ka-up°) 形 赤い枕をもつ (寝椅子) (*mah-v.*)
 lohita-kṛtopadhāna (°ta-up°) 形 丹枕, 丹色枕 *Mvyut*: ubhayato ~m 二処背後放了紅靠背, 両処丹色枕 *Mvyut.* [*Saddh-p.75.* に ubhayato lohita-opadhānān (°takṛtop° 異読) とある. 羅什は「安置丹枕」と訳した].
 lohita-kṛtsna 形 赤遍(処定) *Gaṇḍ-vy.*
 lohita-kṛtsnāyatana (°na-āy°) 田 赤遍処, 赤遍処(定) *Mvyut.*
 lohita-kṣaya 男 血の喪失.
 lohita-grīva 形 赤い首をした. 男 [Agni 神の名].
 lohita-candana 男 田 (音写) 赤栴檀, 赤真檀 *Raṣṭr., Saddh-p.*
 lohita-cchavi-varṇa 形 肉色紅, 肉色太紅, 肉色紅者 *Mvyut.*
 lohita-tva 田 赤色.
 lohita-darśana 田 血が出ることまたは流れること.
 lohita-pāmsu 形 赤い土をもつ.
 lohita-pātra 形 (手に)赤い器をもつ.
 lohita-maya 形 (因 -i) 血のように赤い.
 lohita-muktā 因 赤珠, 赤真珠, 赤真珠宝, 紅真珠, 赤色真珠宝, 珊瑚 *Gaṇḍ-vy., Sukh-vy.I., II.*
 lohita-muktā-hāra 男 赤色真珠宝瓔珞, 紅真珠瓔珞 *Sukh-vy.I.*
 lohita-mukti 因 赤色真珠 *Divy.*
 lohita-muktikā 因 赤珠 *Mvyut.*

lohita-varṇa 形 赤, 赤頭 *Mvyut.*
 lohita-śata-pattra 田 紅蓮.
 lohita-śukla-kṛṣṇa 形 赤・白・黒の.
 lohita-kṣa 形 (因 -i) 赤い眼の; 目紅者, 赤精 *Divy., Mvyut.* 男 赤いさいころ.
 lohitaṅga 男 (赤い肢体の), 火星.
 lohita-mukhi 因 [棍棒の名].
 lohita-ya 名動 lohita-ya(-te) 赤くなる.
 lohita-ṛṇa 男 [人名].
 lohita-ṛdra (°ta-ār°) 形 血を滴らす.
 lohita-vabhāsa 形 赤味をおびた.
 lohita-śoka 男 赤い花が咲く Aśoka 樹.
 lohita-śva 形 赤い馬をもつ. 男 火.
 lohita-kā 因 赤珠, 赤宝 *Bodh-bh.*
 lohita-man 男 赤色.
 lohita-Kṛ, 赤くする.
 lohita-pala (°ta-ut°) 田 紅蓮華.
 lohita-oda (°ta-uda) 形 赤い水をもつ. 水の代りに血をもつ. 男 [地獄の名].
 lohita-padhāna (°ta-up°) 形 丹枕 *Saddh-p.* → lohita-kṛtopadhāna.
 lohitya 男 [村の名].
 lohini 因 [lohita の因].
 lohī 因 [=lohikā] 錢 *Divy.378.*
 laukāyatika 男 *Cārvaka* (Lokāyata) の徒, 唯物論者
 laukika 形 (因 -i) 日常生活に関するまたはに属するまたはに現われる, 普通の, 通常の, 日常の, 現在の [因 Veda 的または学問上の]; (一°)の世界に属する; 世, 世間, 世俗, 俗, 凡俗, 俗間, 凡, 凡夫, 処世 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lank., Madhy-bh., Madhy-v., Madhy-vibh., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.* 男 普通の人々 [因 学者, 達人]; 世なれた人々, 人々. 田 世事, 一般の習慣; 世俗, 世間事, 世間人 *Madhy-bh., Raṣṭr.*
 laukika-kārya 田 世間(無利)事業 *Śikṣ.*
 laukika-kṛtya 田 世俗造作 *Śikṣ.*
 laukika-jña 形 世間の慣習を知った.
 laukikatva 田 通例であること, 尋常なこと.
 laukika-mantra 男 世間言語, 世間語言 *Śikṣ.*
 laukika-mānasa 形 世心, 世俗心 *Abh-vy.*
 laukika-lokottara (°ka-ut°) 形 世出世, 世出世間, 世間出世間 *Bodh-bh., Sur-pr.*
 laukikalokottara-lokottara-tama 形 世間出世間出世間上上, 世間出世間, 世間出世間最上 *Lank.*
 laukika-vyavahāra 男 世務, 世事 *Bodh-bh.*
 laukikāgra-dharma 男 世第一法, 世間最勝法頂, 世間求勝法頂, 世間第一加行 *Mvyut.*
 laukikārthānuvyavahāra 男 世間事務言説 *Bodh-bh.*
 laukikya 形 世間 *Abh-vy., Gaṇḍ-vy.*
 laukya 形 世間に属する, 現世の; 通常の, 尋常な.
 laugākṣi 男 [Veda の学者で Sūtra の著者の名].
 lauṭha-ratha 男 [人名].
 laulāha, [地名].
 laulya 田 落着きのないこと; 不安定, 浮気, 移り気

(因, 一°)に対する激情, 熱望, 貪欲; 貪, 染, 樂貪 *Lank., Śikṣ.*
 laulyatā 因 渴望, 貪らん.
 laulyavat 形 貪欲な, 欲深い.
 lauha 形 (因 -i) 銅または金属製の; 赤い. 因 金属, 鉄.
 lauha-kāra 因 鍛冶屋.
 lauha-sāstra 因 金属に関する論文.

lauhācārya (°ha-āc°) 因 冶金術の教師.
 lauhāyasa 形 赤味をおびた金属または銅 (lohāyasa) 製の.
 lauhitya 因 [lohita の 因系] [河の名 *Brahma-putra*]. 因 赤色.
 lauhitya-kāra 因 鍛冶屋.
 l-ya-p, [不変分] の接尾辞 ya].
 lyuṭ, [kṛt 接尾辞 ana].

V

va 不変辞 [=iva] のように [きわめてまれ].
 vaṁśa 因 吠 罽 (藤竹類とくに)竹の茎; 横梁; 系譜 [世代を竹の節に喩える], 系統, 血統, 種族, 家族; 罽 あし笛, 笛; (同類物: 一°)の集合; 音符(の一種); 誇り, 尊大 [まれに]; 罽 竹, 竹林; 笛, 簫, 簫笛; 種, 種性, 性, 姓, 族姓, 継嗣 *Aṣṭ-pr., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lank., Mvyut., Saddh-p., Suv-pr., 梵千.*; 威徳 *Mañj-m.* → tathāgata~, loka~, hala~.
 vaṁśaka 因 大きなさとうきび(の一種), 管状の骨.
 vaṁśa-kāra 形 種族・王朝または氏族を永続させる. 因 一族の後継者; 息子; [人名].
 vaṁśa-karma-kṛt 因 竹細工師, 籠細工人.
 vaṁśa-kṛt 形 =vaṁśa-kāra (形).
 vaṁśa-kṛtya 因 笛の機能, 笛を吹くこと.
 vaṁśa-kramāgata (°ma-āg°) 形 家系に従って伝わった, 嫡流の, 世襲の.
 vaṁśa-kramāhita-gaurava (°ma-āh°) 形 家族代々尊重して来た.
 vaṁśa-gata 形 罽 随 *Lank.*
 vaṁśa-goptṛ 因 一族の保護者.
 vaṁśa-carita 王朝等の歴史.
 vaṁśa-cintaka 因 系図学者.
 vaṁśa-cchetṭṛ 因 (断つ人=)家系の最後の者.
 vaṁśa-ja 形 竹製の; (一°)の家に生まれた・属するまたはから出た; 同一家門に属する; [prāktanāḥ とともに=] 祖先.
 vaṁśa-dhara 形 一門を永続させる. 因 一門の継承者, 子孫.
 vaṁśa-nāḍikā 因 竹の管.
 vaṁśa-nāḍi 因 [同上].
 vaṁśa-nātha 因 種族・王朝または氏族の長.
 vaṁśa-nisreṇi 因 竹で作ったはしご.
 vaṁśa-pattra 因 竹の葉.
 vaṁśa-pota 因 竹の芽および良家の子.
 vaṁśa-bāhya 形 一族によって斥けられた.
 vaṁśa-brāhmaṇa 因 (古聖の系譜) [*Samaveda* 所属の Br. の名].
 vaṁśa-bhṛt 因 一族の継承者・主持者または長.
 vaṁśa-bhojya 形 代々享有すべき, 世襲の.
 vaṁśamaya 形 (因 -i) 竹製の.

vaṁśa-rāja 因 高いまたはそびえ立つ竹.
 vaṁśa-rājya-dhara 形 種族と領土とを永く伝える.
 vaṁśa-rocanā 因 罽 竹筍 *Mvyut.*
 vaṁśa-latā 因 罽 乾竹, 竹竿 *Suv-pr.*
 vaṁśa-lūna 形 (自分の)家族を奪われた, 天涯孤独な.
 vaṁśa-vana-gulma 因 罽 竹林 *Suv-pr.*
 vaṁśa-wardhana 形 種族・家族を増大するまたは永続させる. 因 種族・家族に繁栄をもたらすこと. 因 息子.
 vaṁśa-wardhin 形 [同上 (形)].
 vaṁśa-vitati 因 竹の茂み, 竹やぶ.
 vaṁśa-viśuddha 形 竹の茎に汚れがないまたはの正常な; 家系の正しい.
 vaṁśa-vistara 因 完全な系図.
 vaṁśa-veṇu 因 罽 竹 *Mvyut.*
 vaṁśa-saṁdhāraṇa 形 罽 護持種性 *Gaṇḍ-vy.*
 vaṁśa-sthā 因 [韻律の一種] (4 × 12 音節).
 vaṁśa-sthiti 因 一門の永続.
 vaṁśa-hina 形 家族または子孫を欠いた.
 vaṁśāgata (°śa-āg°) 形 世襲の.
 vaṁśāgra 因 竹杖の端.
 vaṁśānukirtana 因 世代の列挙, 系図.
 vaṁśānukrama 因 一族の次第継承, 系図.
 vaṁśānuga 形 代々相伝した.
 vaṁśānucarita 因 =vaṁśa-carita; 系譜.
 vaṁśi 因 笛.
 vaṁśi-rava 因 笛の音.
 vaṁśiya 形 (因)の家系に属する; 名門の出である.
 vaṁśya 形 大はり(梁)と結合した[まれに]; 一門に属する; (一°)の家門から出た. 因 家族の一員; 子孫; 祖先.
 vaṁśyānucarita 因 =vaṁśānucarita.
 vaṁśa-ga 因 牡牛.
 Vak 1., (因) [=Vac: vivakmi].
 Vak 2., [=Vañc] 回転する [RV.用例一回のみ: vāva-kre].
 vaka 因 [=baka] 罽 鷲 *Divy.*
 vakala 因 樹皮の内部(因).
 va-kāra 因 va の字または音; 罽 (音写) 婆字 [四十二字門の一]: ~ṃ parikīrtayato vajra-maṇḍalam nāma prajñā-pāramitā-mukham avakrāntam

- 唱婆 [羣我反] 字時能甚深入般若波羅蜜門名金剛輪道場 *Gand-vy.* 449. ; [五十字門の一] ~e varayāna-śabdah (→ a-kāra) 唱婆[上声]字時出最勝乘声 *Lal-v.* 128.
- vakula** 男 [=bakula] 漢語 [樹の名] (音写) 薄拘羅樹, 末俱羅樹 *Diry.* ; 音写 [仏弟子の名] 波鳩轟, 波鳩螺, 薄拘隸囊 [~ena] *Sukh-vy.I.*
- vakula-medhi** 女 漢語 [塔の名] (音写) 薄拘羅樹中心柱 *Diry.*
- vakkali**, 漢語 綿花, 花綿 *Mvyut.*
- vakkalin** 男 漢語 [Pali 同] = vakkalin 音写 [聖仙の名] 薄拘羅 *Diry.*
- vakkula** 男 漢語 [仏弟子の名] 善容 *Mvyut.* ; 音写 薄俱羅, 薄拘羅 *Mvyut., Sukh-vy.II.*
- vaktavya** 未受分 (人: 屬, 因) に対して言われるべき, 話されるべき, 誦されるべき, 述べられるべき, 宣言されるべき; (物: 業) に呼び掛けられるべき, 話し掛けられるべき; 非難されるべき; (屬, 一) に責任を負う, …に依存する; 漢語 說, 当說, 応說(言), 応答言; 責 *Abh-vy., Bodh-bh., Nyāy-pr.*: ~sya *kālāḥ* 話すべき時. 甲 非難, 譴責.
- vaktavyatā** 女 譴責; 責任. ~m Gam, Yā, Vraj 非難を受ける.
- vaktavyatva** 甲 [同上].
- vakti** 女 弁舌 [きわめてまれに].
- vaktu-kāma** 形 話したいと願う.
- vaktu-manas** 形 [同上].
- vaktṛ** 形 話す, 発言する; 漢語 作是說 *Bodh-bh.*
男 (屬 吠, 畢; 業, 一 畢) の話者, 宣言者; 雄弁家, 教師; 漢語 說, 說者, 能說, 有言, 人說, 宣說, 教師 *Abh-vy., Lank., Madhy-bh., Madhy-vibh.*
- vaktṛtā** 女 雄弁.
- vaktra** 甲 口; 顔; 動物の口部, (動物の)鼻; 漢語 面, 面頭, 面目, 面貌, 口 *Gand-vy., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Suv-pr.* ~m Kṛ 口を開ける.
- vaktra-cchada** 男 (象の)顔を覆う布.
- vaktra-dvāra** 甲 口.
- vaktra-paṭa** 男 (?) ヴェール.
- vaktra-parispanda** 男 (口の運動), 話, 演説.
- vaktrāmbuja** 甲 蓮のような顔.
- vaktrendu** (°ra-in°) 男 月のような顔.
- vaktva** 形 言われるべき, 誦されるべき (RV.).
- vakra** 形 彎曲した, 曲った, 歪んだ; 迂回する, ねじれた; 縮れた(毛); 逆行する(遊星の運行); あいまいな; 詐欺の, 欺く, 不正直な; 不運な; 漢語 曲, 曲戻, 歪, 邪歪, 誦曲(心) *Gand-vy., Mvyut., Saddh-p.* 男 火星, 土星; [Śiva 神の称]; 魔神(の名). 甲 (遊星の)逆行運動; 流れの彎曲.
- vakra-gati** 形 迂回する進路をもつ, 迂曲した.
- vakra-gāmin** 形 [同上].
- vakra-cañcu** 男 (口の曲った), おうむ.
- vakratā** 女 歪曲したこと.
- vakra-tuṇḍa** 形 歪んだ口の. 男 おうむ; [*Ganeśa* の称].
- vakratva** 甲 歪曲したこと; あいまいなこと; 詐欺的
- であること.
- vakra-dṛṣṭi** 形 斜に見る, 羨しそうに見る, 嫉妬深い. 女 曲った視線; 悪意, 敵意.
- vakra-dhi** 女 詐欺, 不正直. 形 欺く, 不正直な.
- vakra-nāsa** 形 曲った鼻またはくちばしをもつ. 男 [ふるふるの名].
- vakra-nāsika** 形 [同上 形]. 男 ふくろう.
- vakra-nitamba** 男 漢語 歪腰 *Mvyut.*
- vakra-pāda** 形 曲った足をもつ.
- vakra-pura** 甲 [町の名].
- vakra-pluta** 形 曲線を描いて跳ぶ.
- vakra-buddhi** 形 詐欺的な.
- vakra-bhaṇita** 甲 あいまいな言説.
- vakra-bhāva** 男 彎曲; 詐欺.
- vakra-mati** 形 = vakra-buddhi.
- vakra-vākya** 甲 あいまいな言説.
- vakrāṅga** 甲 曲った肢(体). 一° 形 (因 -i) 肢(体)の曲った.
- vakrāṅghri** 男 曲った足.
- vakrāṅghri-saṃgrāma** 男 (曲った足のまたはつまずきせる=)不正の戦い.
- vakrita** (名動) 過受分 曲った, 歪んだ, 彎曲した 逆行する(遊星).
- vakrima** 形 曲った (vakrita, 異読).
- vakriman** 男 彎曲; 遁辞, あいまい.
- vakri-Kṛ**, 曲げる.
- vakri-BHū**, 曲る, 歪む; 不運となる.
- vakri-bhūta** 形 不運な.
- vakretara** (°ra-it°) 曲っていない, ちぢれていない (髪).
- vakrokti** (°ra-uk°) 女 あいまいな表現, 同音異義語による表現, ほのめかし, 地口; [これによる修辭法].
- vakrolaka** 男 [村の名]. 甲 [町の名].
- vakva** 形 音を立てて流れる (RV.).
- Vakṣ**, [三過 vavakṣa のみ] 強くなる (RV.). 使 甲 **vakṣayati** 強くなる (RV.).
ati- 凌駕する, 優越する (RV.).
- vakṣaṇa** 形 (因 -i) 強くする, 元気づける (RV. 用一回のみ). 甲 元気づけること.
- vakṣaṇā** 女 (因) 腹, (山または天の)窪み; (河の)床.
- vakṣatha** 男 元気づけること, 成長 (RV.).
- vakṣas** 甲 (畢, 種) 胸; 漢語 胸, 胃 梵千.
- vakṣaḥ-stha** 形 胸の上にまたはにある.
- vakṣaḥ-sthala** 甲 胸, 胸部.
- vakṣaḥ-sthali** 女 [同上].
- vakṣo-grīva** 男 [*Viśvāmītra* の息子の名].
- vakṣo-ja** 男 女の乳房.
- vakṣo-maṇi** 男 胸飾りの宝石.
- vakṣo-ruh** 男 女の乳房.
- vakṣya**, [Vah および Vac の 困 鞞].
- vakṣyamānatva** 甲 [Vac の 未受分 からの 困] 後文
- va-gāḍha** 過受分 → Gāh.
- va-Gāh**, → Gāh.
- va-gāhya** 不変分 → Gāh.
- vagnu** 男 [Vac] 呼声, 叫声, ほえる声, 響き (因

vaghā 因 [動物の一種] (AV.).

vañka 男 浮浪人; 曲, 詔曲, 歪, 淫陋 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Mvyut., Rāstr., Saddh-p.* 因 無頼な; 窠曲, 囑斜 *Saddh-p.*

vañka-taka 男 [山の名].

vañkā 因 [Vañc] くら(鞍)の前橋.

vañkālā 因 [地名].

vañku 因 飛んで行く (RV.).

vañkri 因 肋骨; 屋根の棟木.

vañkri 因 [同上].

vañkṣaṇa 男 そけい(鼠蹊).

vañkṣu 男 [*Ganges* 河の支流], [*Oxus* 河の名].

vañga 男 本来の *Bengal*; [*Bengal* 人の祖たるある王の名]; (因) *Bengal* の住民; [樹の名(異読 °ka)].

vañgaka 男 [樹の名].

vañga-lipi 因 *Bengal* 文字.

vañgiri 男 [王の名].

vañgerikā 因 小さなかご.

Vac, III. 因 vivakti (因); II. 因 vakti (因), (因)を(因)にまたは(事物 因)を(人 因, 因)に言う・話す・告げる・知らせるまたは記述する; 名づける, 呼ぶ; 叱る; 説, 作説, 作言, 告, 告言, 謂言, 報言, 告之言, 言曰, 白, 啓, 表, 解説, 解釈 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-v., Lank., Nyay-pr., Saddh-p., Vajr-pr.* punar Vac 答える; 繰り返す. praśnam Vac 質問に答える. 因 ucyate 言われる等; (因)と呼ばれる, …と思われる; 妥当する; 反響する; [ity ucyate] 名, 説名 *Bodh-bh. yad ucyate* 世に言われるように. 過受分 ukta 言われた, 話された, 陳述された, 述べられた, 教えられた; (因)と宣言された, (因)によって意味された; 話しかけられた; (一°)によって求められた; (因) 非因 [とくに ity ukte, evam ukte の場合] このように言われて. 使役 vācayati 言わせる, 話させる, 暗誦させる, 唱えさせる [時として svasti (祝福)等を]; (書類にものを言わせる), 読む; 約束する; 誦読, 令教習読 *Aṣṭ-pr., Divy., Gand-vy., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy.I., Vajr-pr.* 希求 因 vivakṣati(-te) 言いたいと思う, 誦読したいと思う, 宣言したいと思う. 希求 因 意味される. 希求 過受分 vivakṣita 言おうと思われた等; 意味された, 意図された; お気に入りの.

ati- とがめる; 過度に叱るまたは賞める.

adhi- (因) のために弁ずる, …を祝福する.

anu- (詩歌等を)暗誦する; (因, 因)のために復誦する; 教える, 授ける; 因 (教師について)復誦する, 学ぶ, 研究する. 過受分 anūkta 研究された, 学ばれた, 聞かれた. 使役 anuvācayati (因)のために(勸請の詩節を)誦えさせる (S.); (因)に勸請させる (S.); 読む.

abhy-anu- (因)に関してまたはについて(因)に言う.

(Br.). 過受分 abhyānūkta (因)に関して言われた.

abhi- (因)に(因)を言う; (因)を(因)であると宣言する.

nir- 明白に述べる; (問題を)明瞭に表現する; 説明する; (因)から引き出す; 言葉をもって駆逐する

(因); 説 *Abh-k.* 過受分 nirukta 言い表わされた, …と宣言された; 明白に発音された; (その中に神が)明らかに挙げられた(詩節); 明白に述べられたまたは規定された. 因 → nirukta.

pra- (因, 因)に公言する・告げる・記述するまたは述べる; …について語る, 暴露する; 提議する; 賞讃する; (因)を(因)に語るまたは言う; (因)を(因)であると宣言するまたはと呼ぶ; 説, 開演 *Abh-vy., Daś-bh., Lal-v.* 過受分 prokta 宣言された, 教えられた, 記述された; 言われた, 語られた; (因)と言われた; …であると宣言された, と称された, 説かれた, いわゆる.

pari-pa- [三過のみ] 非難する; [因] pari-prokṣyati < paripravakṣyati [三人 因 因] 讚歎 *Aṣṭ-pr.772.*

prati-pa- 答える.

saṃ-pa- 十分に宣言するまたは述べる; 宣説 *Guhy-s.*

prati- 因 指摘する (RV.); (因)に(因)を答える・返事するまたは返答する; 反駁する; 誹謗 *Lal-v.* 過受分 pratyukta 答えられた. 使役 prativācayati 朗読する.

vi- 告知する; 明瞭にする, 説明する, (問題を)解決する; 決定する [*vivāka* を説明する場合に用いられる]; 論難する. 使役 vivācayati 毀謗, 訶責, 説悪 *Mvyut., Vin.*

saṃ- 告げる; (因 ±prati) に話すまたは言う; 説 *Sam-r.*

vacā-kuri 因 因 (*Pali vacca-kuṭi*) 因 梵維. → varcas.

vacāḥ-krama 男 種々の談論.

vacāḥ-pravṛtti 因 話そうとする試み.

vacana 因 語る, 雄弁な (RV.); (一°)を表現する, …を意味する; (因, 一°)によって発音された. 因 語ること; 発音; 発言, 宣言; 明白な言及; (一°) (あるものを)…であると述べること; 話, 語; (教師の)指令, 規則 (因法); 命令, 指示; 忠告; 声, 調子; (文法上の)数; ~m kṛ 指因通りに行なう, (因)の忠告に従う. ~e Sthā [同上]; 言, 語, 説, 所説, 所言, 所出言, 言語, 言説, 言辭, 言詞, 名, 教 *Abh-vy., Bodh-bh., Gand-vy., Lank., Nyay-pr., Saddh-p., Saṃkhy-k., Sam-r., Sūtr., 梵千.; 音写 嶗左囊. Guhy-s.: asmākaṃ ~ena... pṛccha* 汝…代我…問訊 *Divy. 19.*; ~m a ~m Kṛ 違語 *Divy. 41.* → a~, ādeya~, paryāya~, buddha~. ~ena [まれに] 因, ~āt 因, (一°)の名において. iti ~āt …と言われるから.

vacana-kara 因 (因-i) (因)の命令を行なう; 従順な.

vacana-kāraka 因 [同上].

vacana-kārin 因 [同上].

vacana-krama 男 話の次第, 談論.

vacana-gocara 因 会話の主題を形成する.

vacana-gaurava 因 命令への尊敬, 命令に対する服従.

vacanātā 因 (一°)を表現すること, …を意味すること.

vacana-doṣa 男 口過 *Gaṇḍ-vy.*
 vacana-paṭu 形 弁舌巧みな, 雄弁な.
 vacana-patha 男 言, 言路, 語言道 *Bodh-bh., Śikṣ.*
 vacana-racanā 因 弁舌に巧妙なこと, 雄弁.
 vacana-śata 田 百の演説, 繰返して演説することまたは言明すること.
 vacana-samartha 形 語言有所義利, 巧言善能酬対 *Aṣṭ-pr.*
 vacana-sahāya 男 会話の相手.
 vacani-Kṛ, 非難の対象にする.
 vacaniya 未受分 言われるべき, 話されるべき; 唱えられるべき; 呼ばれるべき; 非難されるべき; 請, 可説 *Bodh-bh., Sūtr.* 田 非難, 叱責.
 vacaniyatā 因 非難にさらされやすいこと.
 vacaniya-doṣa 男 非難されるべき欠陥.
 vacas 田 言葉, 語; 指図; 命令; 忠告; 言語; (文法上の)数; (鳥の)さえずり; 説 *Sūtr.* ~Kṛ (圓) の忠告に従う. ~ā mama 私の忠告に基づいて.
 vacasvin 形 雄弁な.
 vacā 因 [多く用いられる香料の根の名]; 菖蒲 *Mvyut.*
 vaco-gata 形 所説; 教 *Bodh-bh.*
 vaco-viparilopa 男 言葉の空費.
 vaco-hara 男 使者, 使節.
 vajira 田 窟 [<vajra] 金剛 *Gaṇḍ-vy. 145., Lal-v. 298.*
 vajira-nābhi 男 窟 [<vajra-nābhi] 金剛臍, 金剛臍 *Gaṇḍ-vy. 685.*
 vajira-sāra 形 窟 [<vajra-sāra] 堅如金剛 *Gaṇḍ-vy. 978.*
 vajjhāya (?) 男 窟 [<upādhyāya] 近誦, 親教師 玄応; 音写 和上, 恕闍, 郁波弟耶夜, 鄔波陀耶 玄応.
 vajra 男 田 雷電, とくに *Indra* 神の雷電または金剛杵 [時として他の神々のものをも称する; また神話的武器破壊的呪文等に適用される]; 金剛石 [一般に 田]; 金剛, 金剛杵, 金剛之電, 霹靂, 霹靂金剛, 鍔 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lanḍ., Mvyut., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr., Vajr-pr., 梵雜.*; 音写 嚙日羅, 和夷羅 *Guhy-s., 玄応.* 男 [陣形の種類]; [人名]; [山の名]; [Samādhi の名] 金剛, 金剛喩 *Mvyut.* 田 電撃を与えるもの (とくに言葉).
 vajra-kaṭhina 形 金剛石のように堅い, 残酷な, 厳しい.
 vajra-kaṭṭaka-cālmali 因 [地獄の名].
 vajra-karṣaṇa 男 [*Indra* 神の称].
 vajra-kalpa 形 如金剛, 猶如金剛 *Gaṇḍ-vy.*
 vajra-kiṭa 男 (木および石に孔を穿つと想像される)昆虫(の一種).
 vajra-kila 男 雷電.
 vajrakilāya 名動 形 vajrakilāyati 雷電に似る.
 vajra-kūṭa 田 [神話上の町の名]. 男 [山の名].
 vajra-garbhā 男 金剛蔵 *Gaṇḍ-vy., Lanḍ., Mvyut.*

vajra-ghāta 男 雷撃.
 vajra-ghoṣa 形 雷鳴のようにほえる.
 vajra-cchedikā 因 能断金剛經 *Śikṣ.*; [~prajñā-pāramitā] (音写) 能断金剛般若波羅蜜多經 *Śikṣ.* [金剛般若波羅蜜經, 金剛能断般若波羅蜜經, 大般若波羅蜜多經第九会].
 vajra-jvalana 男 (雷電の閃き), 電光.
 vajra-jvālā 因 [*Vairocana* の孫娘の名].
 vajra-tala-sthāna 田 金剛際 *Suv-pr.*
 vajra-tuṇḍa 形 金剛の(ように堅い)くちばしをもつ.
 vajra-damṣṭra 形 金剛の(ように堅い)牙をもつ. 男 [ある *Rākṣasa* の名]; [ある *Asūra* の名]; [*Vidyādhara* の王の名]; [ある獅子の名].
 vajra-daṇḍa 形 金剛石をちりばめた柄または棒をもつ
 vajra-datta 男 [人名].
 vajra-dṛḍha-netra 形 金剛堅眼, 如杵堅目 *Mvyut.*
 vajra-druma-kesara-dhvaja 男 金剛樹織幢, 金剛茂勝幢, 金剛蔵勝幢 *Mvyut.*
 vajra-dhara 形 金剛杵をもつ; 執金剛 *Guhy-s., Śikṣ.* 男 [*Indra* 神の称]; [王の名]; 金剛手 *Guhy-s.*
 vajradhara-mantra 男 執金剛真言 *Śikṣ.*
 vajradhara-prabhāva 形 *Indra* 神のように威力のある.
 vajra-dhātviśvari 因 金剛界母, 金剛界自在母 *Mvyut.*
 vajra-dhāra 形 先端が金剛石のように堅い.
 vajra-dhṛk 形 金剛杵(電撃)をもつ.
 vajra-dhvaja 男 [経の名] 金剛幡 *Bodh-c.*
 vajradhvaja-pariṇāmanā 因 [経の名] 金剛幢経, 金剛幢廻向 *Śikṣ.* [大方広仏華嚴経金剛幢菩薩十廻向品].
 vajradhvaja-sūtra 田 金剛幢経 *Śikṣ.*
 vajra-dhvani 男 雷鳴の破裂音; 雷震 *Buddh-c.*
 vajra-nakha 形 堅い爪をもつ.
 vajra-nagara 田 [*Dānava Vajra-nabha* の町].
 vajra-nābha 形 金剛石のへそ(臍)をもつ. 男 [ある *Dānava* の名]; [諸王の名].
 vajra-nābhi 男 金剛臍 *Gaṇḍ-vy.*
 vajra-nābhiya 形 *Vajra-nabha* と称する *Dānava* に関する.
 vajra-pañjāra 男 金剛石の籠=(圓, 一)の安全な難所または保護者; [ある *Dānava* の名].
 vajra-patana 田 落雷, 雷電.
 vajra-pada 田 金剛句, 金剛足, 金剛歩 *Gaṇḍ-vy., Madhy-bh., Madhy-vibh., Śikṣ.*: daśa ~ ā. 十金剛句, 十金剛足 [1. sadāḥattā, 2. aviparyāsa, 3. āśraya, 4. māyopamatā, 5. nirvikalpatva, 6. prkṛtiprabhāsvaratva, 7. samkleśavyavadāna, 8. ākāśopamatā, 9. ahinatā, (ahinatva), 10. aviśiṣṭat (anadhikatva)] *Madhy-vibh. 226.*
 vajrapada-vikramin 形 金剛歩勇猛, 金剛勇猛行 *Gaṇḍ-vy.*
 vajra-pāṇi 形 手に金剛杵(電撃)をもつ. 男 [*Indra* 神の称]; [*Yakṣa* の称, しほしほ仏陀の脇士とし

表現される]；[婆羅門の称]；[または菩薩の名] 金剛手，金剛神，金剛力士，執金剛，執金剛神，金剛密主，金剛密迹 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Suv-pr.* : ~rmahā-yakṣah 執金剛神，執金剛大業又主，執金剛業又神王 *Aṣṭ-pr.* 683.

vajra-pāṇin 男 [同上].

vajrapāṇi-yakṣa 男 [執金剛神] 玄応；[音写] 和夷羅洄閔又 玄応.

vajrapāṇi-rūpa 中 [執金剛身] *Saddh-p.*

vajra-pāta 男 落雷，雷鳴，電光。 [形] 雷のように落ちる.

vajra-pātana 中 金鋼杵(電撃)を投擲すること.

vajra-pura 中 =vajra-nagara；[音写] 金剛層(?) *Gand-vy.* 186.

vajra-pṛthivi-tala-saṁsthāna 中 [音写] 金剛為地 *Gand-vy.*

vajra-prabha 男 [ある Vidyādhara の名].

vajra-pramardin 男 [仏の名] 金剛消伏壊散 *Śikṣ.*

vajra-bāhu 形 手に金剛杵をもつ (RV.). 男 [音写] [人名] 跋闍羅婆休 *Buddh-c.*

vajra-bhṛkuṭi 女 [音写] 金剛忿怒，金剛忿怒母 *Mvyut.*

vajra-bhṛt 形 金剛杵をもつ。男 [*Indra* 神の称].

vajra-maṇi 男 硬玉，金剛石.

vajra-maṇḍala 男 [Samādhi の名] 金剛輪，金剛中田 *Mvyut.*

vajra-maṇḍā 女 [~dhāraṇi] [経の名] (音写) 金剛上味陀羅尼経，金剛場陀羅尼経 *Madhy-v.*

vajra-mantra-prabhāvana 中 [音写] 金剛明観想 *Guhy-s.*

vajramaya 形 (因 -i) 金剛の，金剛石のように堅い；[音写] 金剛造 *Divy.*

vajra-mukuta 男 [人名].

vajra-muṣṭi 形 手に金剛杵をもつ。男 [*Indra* 神の称]；[ある Rākṣasa の名]；[ある二人の戦士の名].

vajra-meru-śikhara-kūṭāgāra-dhāraṇi 女 [経の名] (音写) (大)金剛妙高山楼閣陀羅尼，金剛須弥頂楼閣陀羅尼経 *Mvyut.*

vajra-ratha 形 電撃を戦車とする，[Kṣatriya の称].

vajra-rātra 中 [町の名].

vajra-lakṣaṇa 形 電撃を特性としてもつ.

vajra-lepa 男 堅いしっくい.

vajra-lepāya 名動 固 vajralepāyate vajra-lepa のように固着する.

vajra-vālaka 中 [音写] 金剛環，金剛耳璫 *Abh-vy.*

vajra-yiṣkambha 男 [Garuda の息子の名].

vajra-vṛkṣa 男 [樹の一種，学名 *Cactus opuntia*].

vajra-vega 男 [ある Vidyādhara の名]；[ある Rākṣasa の名].

vajra-vyūha 男 [陣形の一種].

vajra-sīrṣa 男 [*Bhṛgu* の息子の名].

vajra-saṁsparśa 形 金剛のように堅固な.

vajra-saṁhata 男 [仏の名] 金剛堅固 *Lal-v.*

vajra-saṁhananā 女 [山の名] 金剛山，金剛堅固山 *Lank.*

vajra-saṁghāta 形 =vajra-saṁsparśa.

vajra-sattva 男 [音写] 金剛大士 *Guhy-s.*；(音写) 金剛薩埵 *Guhy-s.*

vajrasattva-jñāna-mudrā 女 [音写] 金剛勇識大喜智印母，金剛勇識大喜智手印母 *Mvyut.*；(音写) 金剛薩埵智印母 *Mvyut.*

vajra-samāna-sāra 形 金剛のように硬い.

vajra-samutkirṇa 形 金剛石またはそのように堅いものによって貫かれた.

vajra-sāra 形 金剛石のように堅い；金剛石製の；[音写] 金剛堅，金剛珍，金剛意 *Mvyut.* 男 中 金剛石。男 [人名].

vajra-sāramaya 形 (因 -i) 金剛石のように堅い，非常に堅い.

vajra-sāra-sariratā 女 [音写] 金剛堅固身 *Bodh-bh.*

vajrasāri-Kṛ, 金剛石のように堅くする.

vajra-suci 女 [同下].

vajra-sūci 女 金剛石の針；[音写] 金剛針論 [*Aśva-ghoṣa* の作とされる書物の題名].

vajra-sthāna 中 [地名].

vajra-hasta 形 手に金剛杵をもつ(一般に *Indra* 神).

vajrākara (°ra-āk°) 男 金剛石の鉞山.

vajrākṛti (°ra-āk°) 形 電撃の形状(X形)をもつ.

vajrākhyā (°ra-ākḥ°) 形 *Vajra* と称される.

vajrāghāta (°ra-āgh°) 男 雷撃，不慮の衝撃または災禍.

vajrāṅkuśi 女 [音写] 金剛鉤，金剛鉄鉤，金剛鉤母 *Mvyut.*

vajrātmaka (°ra-āt°) 形 [音写] 為金剛 *Lal-v.*

vajrāditya (°ra-ād°) 男 [王の名].

vajrābha (°ra-ābha) 形 [音写] 金剛光 *Gand-vy.*

vajrābhiṣeka 男 [音写] 金剛灌頂，金剛灌戒 *Mvyut.*

vajrāmbujā 女 [音写] 金剛蓮 *Mvyut.*

vajrāmaya-parvata 男 [=vajramaya°] [音写] 金剛山 *Saddh-p.*

vajrāya 名動 固 vajrāyate 電撃となる，電撃のように打つ.

vajrāyudha (°ra-āy°) 形 金剛杵をもって武装した。男 [*Indra* 神の称]；[人名].

vajrāsani 男 (*Indra* 神の)金剛杵；[音写] 降電 *Saddh-p.* 451.

vajrāsana (°ra-ās°) 中 [音写] 金剛座，金剛之座，金剛座処 *Mañj-m.*, *Suv-pr.*

vajrāsani 女 [=vajrāsani] [音写] 閃電 *Lal-v.*

vajrāhata (°ra-āh°) 形 金剛杵または電撃に打たれた.

vajrin 形 金剛杵をもつ。男 [*Indra* 神の称]；[*Viśve Devāḥ* の一]；[音写] 持金剛，金剛大士 *Guhy-s.*

vajrivās 男 =vajrin (RV.).

vajri-bhūta 形 電撃となった.

vajrendra (°ra-in°) 男 [人名].

vajrendra-ñila 男 [音写] 金剛帝青，金剛帝青(摩尼)[摩尼は maṇi の音写]；(音写) 金剛伊尼羅宝 *Gand-vy.*

vajrodari (°ra-ud°) 女 [ある Rākṣasi の名].

vajropama (°ra-up°) 形 [音写] 如金剛，金剛喩 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.* 男 [Samādhi の名] 金剛喩，如金剛杵，如杵 *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*

vajropama-parṣad (°ra-up°) 因 金剛衆会 *Suvik-pr.*
 vajropama-samādhi 男 金剛喩定; (音写) 金剛三昧 *Bodh-bh., Suvik-pr.*
 Vañc. I. 他 vañcati よろよろする, よろめく, 動揺する, 曲り行く(因); (業)に行く, 着く(圍) [きわめてまれに]. 因 vacyate (因) 揺れる, 転がる; (馬が)疾駆する. 使役 他 自 vañcayati(-te) (圍)から逃れる, 巧みにのがれる, …を避ける; あざむく, だます; (圓, 圓)をかたり取る; 惑, 誑, 誑惑, 欺誑, 抵誑, 乱 *Abh-vy., Bodh-bh., Buddh-c., Divy.*
 使役 受 vañcyate あざむかれる, だまされる. 使役 過受分 vañcita 逃れた; あざむかれた, (圓, 圓, 一)をかたり取られた; (一)を欠く.
 nir- 因 あざむく.
 pari- 使役 過受分 parivañcita あざむかれた, だまされた.
 vañcaka 形 惑わす, 詐欺の. 男 詐欺師, 悪漢; 豺.
 vañcana 因 あざむくこと, 詐欺, ごまかし; 幻想, 時間の浪費; 誑, 惑, 誑惑, 欺誑 *Bodh-bh., Śikṣ.* ~m または ~ām Kṛ あざむく, 偽る. ~m または ~ām pra-Āp または Labh あざむかれる.
 vañcana-cañcutā 因 詐欺に長じていること.
 vañcanatā 因 詐欺的なこと.
 vañcana-pravaṇa 形 詐欺またはごまかしの傾向をもつ.
 vañcana-yoga 男 詐欺またはごまかしの行為.
 vañcanā 因 =vañcana; 誑, 詭詐, 嬌妄, 哄誘 *Mvyut., Vijñ-t.*; 年暮 *Buddh-c.9.*
 vañcanā-panḍita 形 詐欺に巧みな.
 vañcanā-panḍitatva 因 [同上 因].
 vañcaniṇya 未受分 回避されるべき; 欺かれるべき.
 vañcayitavya 使役 未受分 欺かれるべき; (因) 非人 kiṃ ~m asti (圓)を欺くべきか.
 vañcita 使役 過受分 欺かれた等. → Vañc.; 誑 欺誑, 所欺誑, 被誑, 誑惑, 虚誑 *Bodh-bh., Cat-ś., Divy., Saddh-p.*; 捨去 *Śikṣ.*
 vañcitā 因 謎(の一種).
 vañjula 男 [種々の植物の名].
 vañjulaka 男 [同上]; [鳥の一種].
 vaṭ, [神に供物を捧げる際の 圓摺 (YV.)] [まれに].
 vaṭa 1. 男 (インド)いちじく, パンヤン樹 [学名 *Ficus indica*]; 子安貝 [まれに]; (将棋の)歩(フ) [まれに]; 尼俱陀 [nyagrodha の 音写] *Mañj-m.53.*
 vaṭa 2. [一° =vāṭa] 場 *Lal-v.364.*
 vaṭa-kaṇikā 因 (インド)いちじくのごく小さな部分.
 vaṭāraka 男 綱 [まれに].
 vaṭārakamaya 形 (因 -i) 綱製の(わな).
 vaṭārakā 因 =vaṭāraka.
 vaṭāroha (°ta-ār°) 男 パンヤン樹の空中に垂れる根.
 vaṭika 男 [また dhaṭika] 鑲辺, 縫辺 *Mvyut.*
 vaṭikā 因 (穴のある)菓子(の一種).
 vaṭi 因 小球, 丸菓 [まれに].
 vaṭu, → baṭu.
 vaṭeśvara (°ṭa-iś°) 男 [ある Liṅga の名].

vaṭodakā (°ta-ud°) 因 [河の名].
 vaṭṭa 男 [人名].
 vaṭṭa-deva 男 [人名].
 vaṭhara 形 愚鈍な; [*Pali* 同] かさ(嵩)のある, 大な (*Mah-v.*). 男 阿呆, 卑劣漢.
 vaḍabā 因 牝馬; Vivasvat の妻 [牝馬の姿をし, *Asvin* 双神の母となったといわれる]; 女奴隷 [れに]; 淫売婦 [まれに]; [人名]; [河の名]; [聖の名].
 vaḍabāgni (°bā-ag°) 男 海中の火 [南極にあると 像される].
 vaḍabānala (°bā-an°) 男 [同上].
 vaḍabā-bhartṛ 男 [神話の馬 *Uccaiḥśrava*].
 vaḍabā-mukha 因 牝馬の口=(南極にある)地獄の口. [形, ±agni] 男 海中の火.
 vaḍabā-vaktra 因 [同上 (因)].
 vaḍabā-huta-bhuj 男 =vaḍabāgni.
 vaḍabā-hṛta 男 [奴隷の一種].
 vaḍabhi, -i, → valabhi.
 vaḍavā 因 [vaḍabā の後世の綴り]; 騾馬, 草 *Divy., Mvyut.*, 梵雑.
 vaḍavā-mukha 因 [=vaḍabā°] 騾馬口, 海門 *Mvyut.*
 vaḍika 男 [人名] 音写 婆持加 *Av-ś.*
 vaḍiśa 因 魚釣針 [baḍiśa の方がむしろ正しい] 鈎, 鈎竿 *Śikṣ.*
 vaḍausaka, [地名].
 vaṇik-kaṭaka 男 隊商.
 vaṇik-karman 因 商人の事業, 商業.
 vaṇik-kriyā 因 [同上].
 vaṇiktva 因 商人の地位.
 vaṇik-patha 男 商人の職業, 商業; 商店; 商人; 秤宮 [天体十二宮の一].
 vaṇik-putra 男 商人の息子.
 vaṇik-puruṣa 男 商人.
 vaṇik-sārtha 男 隊商.
 vaṇik-suta 男 商人の息子.
 vaṇik-sutā 因 商人の娘.
 vaṇik-sūnu 男 商人の息子.
 vaṇig-grāma 男 商人同業組合.
 vaṇig-jana 男 商人; [集合的に] 商人達.
 vaṇig-vithi 因 市場街, 市.
 vaṇig-vṛtti 因 種 商業, 交易.
 vaṇij 男 [因 vaṇik] 商人, 交易者; 天秤宮 [天体十二宮の一]; 商, 商人, 商主, 商客, 買客 *ś., Gand-vy., Mvyut., Sūtr.* 因 商業 [まれに].
 vaṇija 男 商人; 商 梵千., 梵雑.
 vaṇija-vaka 男 [同上].
 vaṇijya 因 交易, 取引; 商買, 販売, 経営 *śtr., Śikṣ.*
 vaṇijyā 因 [同上]; 商, 商買, 商估, 殉利, 利 *Bodh-bh.*
 vaṇijyā-prayukta 形 營世生業, 市買販易, 利 *Bodh-bh.*
 Vaṇṭ, 分割する, 分配する [因 vaṇṭyate のみ]. 因 vaṇṭyamāna 分配された.

vaṅṭa 尾のない [きわめてまれに].

vaṅṭana 田 (財産の) 分割.

vaṅṭha 男 召使 [きわめてまれに]; 独身者.

Vat, I. 田 vatati (RV.).

api- 理解する. 使役 田 apivātayati 了解させる. 覚醒させる, (田)をして(信仰 田)を起させる.

vat 1. [副詞的 接尾, これに先行する 田 は如何なる格を意味してもよい] のように; 如, 猶如. 譬如, 似, 同 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Mvyut.*, *Nyāy-pr.*, *Sāṃkhy-k Sutr.*: bhājana ~ 似器, 如器 *Mvyut.* → pūrva ~.

vat 2. [形容詞的 接尾] をもつ, 所有する; 有 *Abh-vy.*, *Nyāy-pr.* prajñā ~, praṇidhāna ~ bala ~, vīrya ~ 等.

vata 田 = bata; 苦哉, 可憐 *Daś-bh.*

va-taṃsa 男 [=ava-taṃsa] 首飾り, 輪形の飾り.

va-taṃsaka 男 [=ava-taṃsaka] 蔽, 莊蔽. 莊耳花 *Lal-v.*, *Sikṣ.*: mālya ~ 鬘莊蔽 *Sikṣ.* 327

vatu 田 しいっ [きわめてまれに].

vatū 田 [同上].

vat-kāra 男 接尾音 vat.

vatkula 男 [=vakkula] 音写 [人名] 薄拘羅. 婆駒羅 *Divy.* 396.

vattu-sīras 田 有凸凹, 有結者 *Mvyut.*

vatsa 男 [*vat(a)s-a, 一年児] 子牛; (動物の)子; 子供 [田 親愛の語として]; 年 [tri-vatsa のみ]; [人名]; [国の名]; (田) *Vatsa* 国の住民; 犢, 犢子, 子, 善男子, 臆 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sāṃkhy-k.*; 玄応; 音写 婆蹉, 跋娑, 絛娑, 筏蹉, 和沙 *Lal-v.*, 玄応.

vatsaka 男 小牛; [*Sūra* の息子の名]; [ある *Asura* の名].

vatsa-tanti 田 短い綱で繋いだ個々の子牛を結びつける長いなわ.

vatsa-tantri 田 [同上].

vatsatara 男 乳を離れた子牛または(動物の)子, 若い牝牛.

vatsatari 田 若い牝牛.

vatsatva 田 子牛等たること.

vatsa-danta 男 (子牛の歯をもつ), 矢の一種(子牛の歯のような先端のある).

vatsa-dantaka 田 箭頭如犢齒, 朴頭如犢齒 *Mvyut.*

vatsa-nābha 男 [樹の一種, 神話的生物の名].

vatsa-pa 男 =vatsa-pāla.

vatsa-pati 男 *Vatsa* 族の王 (*Udayana*).

vatsa-pāla 男 子牛の番人; [*Kṛṣṇa* 神の称].

vatsa-pālaka 男 [同上].

vatsa-pitā 田 子牛に乳を飲まれた牝牛.

vatsa-pri 男 [RV. 讃歌のある作者の名].

vatsa-pṛiti 男 [同上].

vatsa-priya 田 *Vatsa-pri* 作の讃歌 [*Rg-veda IX.* 68. 等].

vatsa-bhūmi 田 *Vatsa* 族の国; [*Vatsa* の息子の名].

vatsara 男 (五または六年をもって一周期とする場合のその)第五または第六年; 年 [通常の意義; 時に人格化さ

れる(田 および 田)].

vatsa-rāja 男 *Vatsa* 族の王; [人名].

vatsa-rājya 田 *Vatsa* 族の王位.

vatsa-rūpa 男 子牛.

vatsala 田 子牛に愛着する(牝牛); (田, 田, prati, 一°)を愛する, 好む, …に対して優しい, 愛情を懐く; (一°)に献身する; (詩における)優しい(情緒); 慈, 慈愛, 慈愍, 愛心, 愛念, 起愛念, 生親愛, 憐愍, 憐愍心, 楽, 利楽, 甚喜, 心甚喜, 相厚, 甚相厚, 護念 *Av-ś.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sutr.*: dharma ~. 楽聞正法 *Lal-v.* 22.

vatsalatā 田 (一°)に対する愛好, 慈愛; (田, 一°)における喜び; 愛, 親愛 *Bodh-bh.*, *Sutr.*

vatsalatva 田 [同上]; 愛 *Sutr.*

vatsalaya 名動 田 vatsalayati 愛情(とくに母性の)を起こさせる; (ある人 田)を優しくする, …を情深くする.

vatsavat 田 子牛をもつ(牝牛). 男 [*Sūra* の息子の名].

vatsa-sālā 田 犢園 *Mvyut.*

vatsa-śri-sambhava 男 吉祥童子, 吉祥生童子 *Mvyut.*

vatsa-hāra 男 (音写) 末瑳宝瓔珞 *Sukh-vy. I.*

vatsā 田 牝の子牛; 少女 [田 親愛の語として].

vatsāya 名動 vatsāyati 子牛を真似する, 子牛に似る.

vatsikā 田 牝の子牛, 若い牝牛.

vatsin 田 子牛をもつ. 男 [*Viṣṇu* 神の称].

vatsiman 男 子供時代, 少年期.

vatsi 田 音写 婆雌, 故私 玄応.

vatsiya 田 子牛を見守る.

vatsiya-bālaka 男 子牛を見守る男児.

vatsesa (°sa-iśa) 男 *Vatsa* 族の王.

vatsesvara (°sa-iś°) 男 [同上].

vatsya, [Vas 3. の 田 田].

Vad, I. 田 vadati (yad) または (田)を(田)であると, またはであるかどうか(yadi)を, (田 田abhi, 田)に対して話す・発言するまたは言う; (田)を(田)に言う; (田)を(田, 田)に語る・告げる・通知する・報告するまたはについて語る; 宣言する, もらす, 示す, 指示する, 表わす; 定める, 仮定する; (田)を(田)であるとまたは(田)を(田 + iti)であると宣言する, 称する; 声を(土 vācam)あげる, 叫声を出す, (鳥が)歌う; 響く. 田 vadate (田)に言う, 話す; について話す, 告げる, 通知する, 名指す; (田)について協議する; (田)を要求する (Br.); 説, 作説, 言 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Raṣṭr.*, *Sapt-pr.* 過受分 *udita* (prati) について言われた, 話された, 述べられた; 話しかけられた, 言葉をかけられた; 通知された, 教えられた; 宣言された, 命ぜられた; 指示された. 使役 田 (田, 田) vādayati(-te) 語らせる, 言わせる; (楽器 田, まれに 田)を鳴らす, 打つ, 奏する; 弾, 鼓 *Divy.*: viṇāṃ vādayati 彈箏 *Divy.* 553. ; bahu vādayati 自分のことで大騒ぎする. 使役 過受分 vādita 話させられた; 奏せられた(楽器). 音写 田 vivadiṣati

言いたいと思う, 話したいと思う. ㊦ ㊦ vāvā-diti, ㊦ vāvadyate 声高く話す または 響く(㊦).
accha- 招く(㊦).

ati- より高くまたはよりよく話す, 言い負かす.

anu- ㊦ (誰か)のあとについて復誦する, (声・音を)模倣する; 語で(行作に)随伴する(RV.); (確証するために)繰り返す.

apa- (業, 屬)を悪口する, ののしる; (業)を談話をもって歓迎する; 除外する; 反駁する; ㊦ けなす, ののしる; ㊦ 謗, 毀謗, 生毀謗, 誹謗, 損滅 Bodh-bh., Lank., Vijñ-t. 使役 apavādayati あざける, 非難する; 否認する; 除外する.

abhi- 話しかける, 挨拶する; …に関して言う, …を挙げる, …に言及する, …を意味する; 表現する; (業)を(業)であると宣言する, 称する; ㊦ 説, 現説, 現前説, 讚歎 Bodh-bh., Di. ..., Mvyut.

使役 ㊦ ㊦ abhivādayati(-te) 言葉をかける, 挨拶する [しばしば目的語なしに用いる]; ㊦ (業)にうやうやしく挨拶する; ㊦ (楽器を)鳴らす, 奏する; ㊦ 礼 Divy.

praty-abhi- ㊦ 挨拶を返す, 答礼する. 使役 ㊦ pratyabhivādayate 挨拶を返す.

ava- 悪口する, けなす(Br.); 教える; ㊦ 教, 教授, 教示, 教誡, 能調 Aṣṭ-pr., Bodh-bh.; Divy., Prāt-m.

ā- (㊦)話しかける; 告げる.

upa- ㊦ 悪口する, 非難する, あざける; 話しかける; 乞う, 願う. 使役 ㊦ upavādayati 響かせる.

o- ㊦ [<ava-] ㊦ 教 Saddh-p. 351.

pari- ㊦ 非難する; 答める; ㊦ 毀皆 Saddh-p.

pra- ㊦ ㊦ 話し出す, 発言する, 語る, 公言する, 宣言する; (鳥獣が)声をあげる; (水が)噴出する; 断言する, 肯定する; (業)を(業)であると告げる, 称する; (業)の価格で売ろうと言う; ㊦ 説 Lal-v., Saddh-p., Sūtr. 使役 pravādaya- (楽器を)鳴らす, 奏する. 使役 ㊦ pravādyate ㊦ 演, 出音楽之声, 出伎楽之音 Lank. 使役 ㊦ 現分 pravādyamāna ㊦ 奏, 作伎楽 Lal-v., Saddh-p.

anu-pra- (誰か)のあとについて復誦する.

vi-pra- 使役 vipravādayati ㊦ 陥逗 [Tib. slu bar byed pa] Bodh-bh. 363.; 傾滅(?) [Tib. bslu bar bya ho] Bodh-bh. 122.

prati- ㊦ (業)に話す(㊦); 答える, (ある人 業)に答える; 繰り返して言う. ㊦ 現分 prativādat 反駁する (Br.).

vi- ㊦ (ある事 業)を否定する; ㊦ ㊦ (業)と(業)について議論する, 口論する; 反目する, 衝突する; ㊦ 諍, 諍論, 諍競, 諍訟, 違諍, 生毀謗 Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Śikṣ. 使役 ㊦ vivādayati (法廷で)裁判を開始する.

sam- (業, 韻律) ㊦ とともに語る, (業)と談話する; (業)に関して談合する; ㊦ ㊦ (業)に同意する, 承諾する; 意味を持つように結合する(虫喰いの跡についていう); ㊦ (業)に言う, (業)を(業)であると宣言するまたは称する; ㊦ 相応 Buddh-c. ㊦ 受分 samudita 一般に承認された, 習慣的な; 話しかけら

れた. 使役 ㊦ samvādayati (ある事に)同意する, 満場一致する; 首尾一貫して述べる, 正確に記述する; (ある人に)話せと要求する [異説]; (楽器を)鳴らす, 奏する.

prati-sam- ㊦ (ある人 業)に満足している旨を表わす (Br.).

vi-sam- ㊦ 協定を破る; 異論を唱える, 反駁する. 使役 vi-samvādayati ㊦ 欺誑, 誑惑, 為虚誑, 弄諍, 作不正論 Bodh-bh., Lank., Sapt-pr., Śikṣ.

使役 ㊦ 受分 vi-samvādita 一般に認められない, 異議の余地ある.

samyag- ㊦ 現分 samyagvadat ㊦ 正問, 問, 正答 Aṣṭ-pr.; samyagvadamaṇa ㊦ 正語 Vajr-pr.

vada ㊦ 話す. ㊦ (一°)の話者; ㊦ 言 Bodh-bh. → priyam~.

vadat ㊦ 現分 説く, 話す; ㊦ ~ām varah 尊中上無上尊, 説者中尊 [Tib. gsun baḥi mchog] Lank 23.

vadana ㊦ 話すこと, 語ること; 口; 顔; 前, 尖 [れに]; ㊦ 面, 面門, 面目, 顔, 顔姿, 容顔, 面貌 Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Suv-pr ~m Kṛ 顔をしかめる. → rṣi~.

vadana-paṅka-ja ㊦ 蓮のような顔.

vadana-pavana ㊦ 呼吸.

vadana-māruta ㊦ [同上].

vadani-BHū, 顔となる.

vadanodara (ṛna-ud°) ㊦ あご.

vadānya ㊦ [=avadānya] 寛大な. 物惜しみしない. ㊦ 寛大な人.

vadānyatā ㊦ 寛大.

vadi, (何々月の)黒月における [一°, 日付を示す].

vaditavya ㊦ 受分 話されるべき, 言われるべき.

vaditṛ ㊦ (業)の話者. ㊦ (業)について話す.

vaddivāsa, [地名].

vadya ㊦ 弁論, (一°)に関する議論.

vadyatā ㊦ ㊦ 語 Śikṣ. → priya~.

Vadh, I. ㊦ vadhati [㊦ ㊦ (㊦) きわめてまれに; ㊦ (㊦) において普通; ㊦ (業): この語根の頭文は Veda 文献においても時として b と書かれる]; つ, 斬る, 殺す, 打ち破る, 滅ぼす. ㊦ vadhya (業). 使役 ㊦ vadhayati 斬る, 殺す.

apa- (㊦) (木材を)伐る; (業)から駆逐する.

ni- (金剛杵を) (業)に投げる (RV.); 打ち倒す, 倒す.

pra- (敵を)破る.

vadha ㊦ 破壊者, 殺害者(㊦); 恐ろしい武器, (とく Indra 神の)金剛杵(㊦); (一°)のまたはによる殺害. 殺戮, 殺人, 破壊; (法典における)死刑または [さくに一般的に] 体刑; (事物の)絶滅; 予防 [まれに] ㊦ 殺, 殺害, 殺生, 戮, 断(人)命, 害, 損害, 壊, 刑 Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Mvyut., S mkhy-k. → prāṇi~, mṛga~.

vadhaka ㊦ 殺人者; 死刑執行者; ㊦ 殺, 殺者. 殺身者, 能殺害, 殺讎, 怨害賊, 魁膾 Bodh-bh. Mvyut., Raṣṭr., Śikṣ.

vadhaka-puruṣa ㊦ 屠人, 屠者 Divy.

vadha-karmādhikārin 男 死刑執行人。
 vadha-kāma 形 殺害しようとする。
 vadha-kāmyā 因 打ちまたは殺そうとする意向。
 vadha-jivin 男 (殺生を生業とする), 屠殺者; 獵師。
 vadhatra 中 恐ろしい武器 (RV.). 形 危害から護る。
 vadha-daṇḍa 男 体刑。
 vadhanā 因 恐ろしい武器 (RV.).
 vadha-nigraha 男 死刑。
 vadha-bhūmi 因 死刑執行の場所, 刑場。
 vadhar 中 飛び道具, 金剛杵(とくに *Indra* 神の) (RV.).
 vadharya 名動 [受分 *vadharyanti* のみ] 金剛杵 (= 電光) を欲する (RV. 用例一回のみ)。
 vadhas 中 = *vadhar* (RV.).
 vadhasna 男 または 中 [圓 種 のみ] *Indra* 神の金剛杵 (RV.).
 vadhita 受分 害 *Rāstr.*
 vadhira 形 [= *badhira*] 聾, 聾者 *Aṣṭ-pr.*, *Rāstr.*, *Suv-pr.*
 vadhu 因 女 [まれに]; 新婦 *Sikṣ.*
 vadhukā 因 寡女 *Saddh-p.*
 vadhū 因 [Vadh=Vah: 家に連れて来るべき] 花嫁, 結婚した若い女, 妻; 女; (動物の) 雌; 嫁, (若い親族の) 妻; 女, 新婦, 弟婦, 媳婦 *Lal-v.*, *Mvyut.*
 vadhū-jana 男 女達; 婦, 内人 *Divy.*
 vadhū-tikā 因 若い女 [まれに].
 vadhū-ṭi 因 [同上].
 vadhūtvā 中 花嫁の境遇。
 vadhūmat 形 雌馬によってひかれた (RV.).
 vadhū-yu 形 女を望む, 求婚する (RV.).
 vadhū-vara 中 圓 新郎新婦, 新婚の夫婦。
 vadhū-vastra 中 花嫁の衣裳。
 vadhopāya (°dha-up°) 男 体刑の方法。
 vadhya 受分 屠むられるべき, 殺されるべき; 当然殺されるべき, の殺される恐れのある; 死刑の判決を受けた; 懲罰に付せられるべき または 体刑に処せられるべき; 滅せられるべき; 被害, 所害, 所滅 *Abh-vy.*, *Saddh-p.* 男 為他所殺, 將臨刑者, 被臨刑者, 獄囚 *Lal-v.*, *Sikṣ.*, *Suv-pr.*
 vadhya-gata 形 被刑戮, 在牢獄 *Aṣṭ-pr.*
 vadhya-ghātaka 男 囚, 劊子手 *Mvyut.*, *Sikṣ.*
 vadhyatā 因 死刑または体刑。
 vadhya-paṭaha 男 死刑執行に際して打たれる太鼓。
 vadhya-prāpta 形 当刑戮, 臨当刑戮 *Suv-pr.*
 vadhya-bhū 因 死刑執行の場所, 刑場。
 vadhya-bhūmi 因 [同上].
 vadhya-mālā 因 死刑を宣告された者の(頭上に置かれる)花環。
 vadhya-silā 因 死刑執行または屠殺に用いられる石, 断頭台。
 vadhya-sthāna 中 死刑執行の場所, 刑場。
 vadhya-sraj 因 = *vadhya-mālā*.
 vadhyā 因 (一) の屠殺, 殺人。
 vadhyārha 形 必応刑戮, 罪応刑戮 *Gaṇḍ-vy.*
 va-DHyai, → DHyai.
 vadhra 男 草紐, 草帯。

vadhri 形 去勢された(因)。
 vadhrikā 因 革紐, 帯。
 vadhrimati 形 因 交接不能の夫をもつ (RV.).
 vadhri 因 = *vadhra*.
 Van, (因) I. *vana*; VI. *vana*; VIII. 形 *vanoti*. 中 *vanute* 好む, 愛する; 願う; 得る, 求める; 征服する, 勝つ; 所有する; 準備する, …に対して備える; (因) を助ける。受分 *vanita* (圓), *vāta* (因). 使役 形 *vānayati*.
 van, [= *vana*, 森; 因 *vaṃsu* または 圓 種 *vanām* のみ] (RV.) [まれに].
 vana 中 樹(因); 森(因, 圓); (あし等の) 繁み, 叢, (蓮の) 集まり, 群れ, 多量(圓); 木材(RV.); (Soma 液を容れる木製の) 槽; (天空の槽), 雲(因); 水(圓) [まれに]; 住所(圓) [きわめてまれに]; 林, 樹, 草木, 林藪, 叢林, 園, 園林 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Suv-pr.*, 梵千., 梵維.: 四園 [1. *nandana-vanam* 喜林苑, 2. *mīśrakā* ~m 雜林苑, 3. *pārūṣakā* ~m 經惡苑, 4. *caitraratha* ~m 衆車苑] *Mvyut.*
 vana-kapi 男 野生の猿。
 vana-karin 男 野生の象。
 vana-kāma 形 森林(中に生きることを)好む。
 vana-kāṣṭhikā 因 森の中の(ころがっている)枯枝。
 vana-kuñjara 男 = *vana-karin*.
 vana-kusuma 中 森の花。
 vana-khaṇḍa 中 木の群, 柴山; [= *vana-ṣaṇḍa*] 叢林, 稠密樹林 *Daś-bh.*, *Divy.*
 vana-gaja 男 = *vana-karin*.
 vana-gahana 中 藪。
 vana-gulma 中 森の中のまたは野生の灌木。
 vana-gocara 形 森に住んでいる。男 森の住者 [人または動物について用いる]。
 vana-grāmaka 男 森間の小村, 森林中のみじめな小村。
 vana-grāhin 形 森を探索する。
 vana-ghana 男 山林, 稠林 *Lank.*
 vana-cara 形 森を徘徊する, 森に出没する。男 森の住者 [人または動物について用いる]。
 vana-caryā 因 森の中を徘徊すること または 森の中に居住すること。
 vana-cārin 形, 男 = *vana-cara* (形, 男).
 vana-cchid 男 樵夫。
 vana-ja 形 森で生まれた, 森林の。男 森の住人。中 (水中に生じた), 青蓮。
 vanajākṣa 形 (因 -i) 蓮華のような目をもつ。
 vana-jāta 形 森の中に生じたまたは成長する, 野生の。
 vanatha 男 [Pali 同] 柴, 藪 (*Mah-v.*).
 vana-dāha 男 森の火事。
 vana-durga 形 森にさえぎられて近づきにくい。中 森にさえぎられて近づきにくい場所。
 vana-devatā 因 森の女神, 樹木の精。
 vana-druma 男 森の樹。
 vana-dvipa 男 = *vana-karin*.
 vana-dhānya 中 圓 野生穀物の粒。
 vana-dhārā 因 並木路。

vananā ㊦ 欲望 (RV. 用例一回のみ).
 vananiya ㊦ 望ましい.
 vananvat ㊦ 木 (vanan) で作られた(もの; 薪, 車, 槽)またはそれを所有する(RV.).
 vana-panna-ga ㊦ 森の蛇.
 vana-parvat ㊦ [(森林の章), Mahābhārata 第三篇の題名].
 vana-pārśva ㊦ 森の(側=)地域.
 vana-puṣpamaya ㊦ 野生の花で作られたまたはからなる.
 vana-pūrva ㊦ [村の名].
 vana-prastha ㊦ ㊦ 森の高原; 森の台地; [地名]; ㊦ 林藪 Bodh-bh.
 vana-barhiṇa ㊦ 野生の孔雀.
 vana-barhiṇatva ㊦ [同上 ㊦].
 vana-biḍāla ㊦ 野生の猫.
 vana-bhū ㊦ 森林地帯.
 vana-bhūmi ㊦ [同上]; ㊦ 林野, 林樹間, 閑処, 阿蘭若 [aranya の ㊦] Lanik.
 vana-mada ㊦ 野生の象のこめかみの分泌液.
 vana-mātaṅga ㊦ = vana-karin.
 vana-mānuṣikā ㊦ 森の乙女.
 vana-mānuṣi ㊦ 森林に住む女.
 vana-mālā ㊦ 野生の花の環(とくに Kṛṣṇa がつけた).
 vana-mālin ㊦ 野生の花の環をつけた(とくに Kṛṣṇa).
 vana-muc ㊦ 雨のように水を注ぐ.
 vana-mrga ㊦ 森のかもしか.
 vana-rāji ㊦ 樹木の列, 遠く広がった森.
 vana-rāji ㊦ [同].
 vanar-gu ㊦ 森・林・野原を徘徊する(㊦).
 vana-latā ㊦ 森の蔓草; ㊦ 林藤, 青苗林 Mvyut.
 vana-lekhā ㊦ = vana-rāji.
 vana-vara ㊦ ㊦ 妙園林 Lal-v.
 vana-vasa ㊦ [= vana-vāsa] ㊦ 住(山)林 Śikṣ.
 vana-vahni ㊦ 森の火事.
 vana-vāta ㊦ 森の風.
 vana-vāsa ㊦ 森林中の住居; 森の住人. ㊦ 森に住む.
 vana-vāsin ㊦ [同上 (㊦)]; ㊦ 住林 Gand-vy. ㊦ [同上 (㊦)].
 vana-vicaya-gata ㊦ ㊦ 於観察林, 遊走於林中 Mvyut.
 vana-veṇu ㊦ ㊦ 竹林 Saddh-p.
 vana-śvan ㊦ (野生の犬), 豺.
 vana-śaṇḍa ㊦ ㊦ 林, 林藪, 小林, 山林, 密林 Divy., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.
 vanaśaṇḍa-cārin ㊦ ㊦ 於山林 Saddh-p.
 vanas ㊦ 愛好 (RV. 用例一回のみ).
 vana-sad ㊦ 森に坐す (Rudra 神).
 vana-saṃnivāsir ㊦ 森の住人.
 vana-stha ㊦ 森に生活する. ㊦ 森の住人, 隠者.
 vana-sthali ㊦ 森林地帯.
 vanas-pati ㊦ (森の主), 森の木; 木; (外見上は花がなく, しかも果実をつけた)森の大樹(㊦); 幹, 樑, 柱, 材木(㊦); 植物の王, ソーマ液圧搾のための植物(㊦, P.); 犠牲獣をつなぐ柱(㊦, P.); ㊦ 木, 林,

樹, 樹木, 樹林, 叢林 Abh-vy., Lanik., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ., Suv-pr., Suvik-pr.
 vana-hari ㊦ 獅子(?).
 vana-hutāsana ㊦ 森の大火事.
 vanā ㊦ 鑽木(人格化された; RV. 用例一回のみ).
 vanāgni ㊦ 森の火.
 vanāṭana ㊦ 森林中の徘徊.
 vanādhivāsin ㊦ 森に住む.
 vanānta ㊦ 森林地帯, 森の辺, 森.
 vanānta-bhū ㊦ 森林地帯.
 vanāntara ㊦ ㊦ 森の内部(㊦ 森林: ㊦ 森林中で, 一°); ㊦ 森の中から; ㊦ 森の中で. ~ṃ pra-Viś, ~ṃ pra-Āp 森に入るまたは達する.
 vanāntara-cara ㊦ 森林中を徘徊する.
 vanāntara-cārin ㊦ [同上].
 vanānta-sthali ㊦ 森林地帯.
 vanābjini ㊦ 森に(成長する)蓮.
 vanāyu ㊦ ㊦ [民族の名].
 vanāyu-ja ㊦ [haya.とともに用いる]. ㊦ Vanāyu 国産の馬.
 vanāyu-deśya ㊦ [同上].
 vanārāma (°na-ār°) ㊦ ㊦ 園苑.
 vanāli (°na-āl°) ㊦ = vana-rāji.
 vanāśrama (°na-ās°) ㊦ 森林中の住居, (婆羅門の宗教生活における)第三住期.
 vanāśramin (°na-ās°) ㊦ 隠者, 第三住期にある婆羅門.
 vanāśraya (°na-ās°) ㊦ 森林中に生活する. ㊦ 森林の居住者.
 vanikā ㊦ 小林, 園(一°).
 vanikā-vāsa ㊦ [村の名].
 vani-carin ㊦ ㊦ 住山林者, 棲止林, 樹間習(寂)行 Śikṣ.
 vanita ㊦ 過受分 → Van.
 vanitā (過受分) ㊦ 最愛のもの, 妻; 少女; 女; 牝(鳥獣の); ㊦ 婦女 Rāstr.
 vanin 1. ㊦ (RV.) 望む; 与える.
 vanin 2. ㊦ [森に属する], 樹 (RV.): 隠者, 第三住期にある婆羅門(㊦).
 vaniṣṭhu ㊦ 内臓(㊦).
 vani ㊦ 森, 藪.
 vanipaka ㊦ ㊦ 乞匄, 乞丐 Av-ś., Śikṣ.
 vaniyaka ㊦ 乞食, 歎願者; ㊦ 乞匄, 乞人, 孤苦, 孤独 Divy., Mvyut.
 vaniyaka-jana ㊦ [同上].
 van-iyas ㊦ 比較 ㊦ より多く得る (RV.).
 vanu ㊦ 攻撃者 (RV.).
 vanuṣya ㊦ 名動 ㊦ vanuṣyati 攻撃する (RV.).
 vanus ㊦ (RV.) 熱心な, 熱望する; 愛する; 攻撃しようとして熱望する, 攻撃する. ㊦ 攻撃者.
 vane-cara ㊦ (㊦ -i) 森林中に徘徊するまたは住する. ㊦ 森林居住者(人および動物について用いる).
 vanaika-deśa (°na-ek°) ㊦ 森林中の一地点.
 vanoddeśa (°na-ud°) ㊦ 森林地帯, 森の中の場所.
 vanodbhava (°na-ud°) ㊦ 森林中に産するまたは存在する, 野生の.

vanopaplava (°na-up°) ㊦ 森の大火事。
 vanopeta (°na-up°) ㊦ 受分 森に隠退した。
 vanorvi (°na-ur°) ㊦ 森林地帯。
 vanaukas (°na-ok°) ㊦ 森に住する。㊦ 森の居住者、
 隠者；森の動物；猪。
 vanaugha (°na-ogha) ㊦ 大量の水。
 vanausadhi (°na-os°) ㊦ 森のまたは野生の草。
 Vand, I. (㊦) ㊦ vandate 賞讃する，讚歎する(㊦)；
 恭しく挨拶する，に敬意を表する，尊ぶ，崇拜す
 ；㊦ 礼，礼拝，礼敬，作礼，敬礼，致礼，供
 養，我礼，稽首，稽首礼 Lal-v., Lan̄k., Madhy-
 v., Raṣṭr., Saddh-p., Sikṣ., Sukh-vy. I., Sukh-vy.
 II., Vajr-pr., 玄心；㊦ 和南；婆南，槃淡 玄心；
 pādaū śirobhir~ 頭面礼足 Saddh-p.161.；mū-
 rdhnā~ 頂礼 Suv-pr.187. ㊦ ㊦ vandayati 恭
 しく挨拶する，に敬意を表する。
 anu- に敬意を示す。
 abhi- 恭しく挨拶する，に敬意を表する，(㊦)を尊
 敬する；㊦ 礼，頂礼 Aṣṭ-pr., Lal-v., Raṣṭr
 Saddh-p., Vajr-pr.；śirasā~ 頭面礼敬 Saddh-
 p.263.；pādaū śirasā~ 頭面礼足 Saddh-p.409.
 pra- 賞讃しはじめる，声高く讚歎する (RV.).
 prati- ㊦ に対し敬意を表する。
 sam- 恭しく挨拶する。
 vandana 1. ㊦ [Aśvin 神の被保護者の名]。㊦ 賞
 讃 (RV.)；恭しい挨拶，敬礼，尊敬；㊦ 礼，拝，
 礼拝，礼敬，礼讚，頂礼，敬礼，供養，恭敬作礼
 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Raṣṭr., Sa-
 ddh-p., Sapt-pr., Sikṣ., 梵千，梵維.；~m Kṛ 作礼
 Mvyut.；abhivādana~ 恭敬礼拝 Bodh-bh.378.
 vandana 2. ㊦ 寄生植物 (AV. 例用一回のみ)；発疹(四
 肢を冒す)(RV. 用例一回のみ)；悪魔の一種 [同上].
 vandana-mālā ㊦ 歓迎の花綵(門に掛けられた).
 vandana-mālikā ㊦ [同上].
 vandaniya ㊦ 受分 恭しく挨拶されるべき，敬意を表
 されるべき；㊦ 礼拝，敬礼，頂礼，頂供養，所
 応礼拝 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Sam-r.
 vandāru ㊦ 賞讃する，讚歎する(㊦)；尊重する，(一°)
 に対して敬意を表する(㊦)。㊦ 賞讃 (RV.).
 vandita ㊦ 賞讃された，賞揚された，祝われた；㊦
 礼拝，礼敬，敬礼 Saddh-p., Sapt-pr., Sikṣ.
 vanditavya ㊦ 受分 賞讃されるべき，恭しく敬礼され
 るべき。
 vanditṛ ㊦ 賞讃者(㊦).
 -vandin ㊦ 尊敬する。
 vandu-śiras ㊦ ㊦ 脳大者 Mvyut.
 vandya ㊦ 受分 褒めるべき，感心な；恭しく敬礼さ
 れるべき；崇拜すべき，尊敬すべき；㊦ 礼敬 Sikṣ.
 vandyatā ㊦ 崇拜すべきこと。
 vandyatva ㊦ ㊦ 礼敬 Sikṣ.
 vandyā ㊦ [ある夜叉女の名].
 vandhura ㊦ 御者席；戦車の座席。
 vandhya ㊦ 不妊の(女性)，果実を結ばない(植物)；効
 果のない，無益な；(㊦，一°)を欠いた；㊦ 空，
 虚，(倍)無益 Abh-vy., Bodh-bh., Satr.
 vandhya-guṇa-dhana-dāyaka ㊦ ㊦ 長聖財 Satr.

vandhyatā ㊦ 無効，無用；(㊦，一°)の欠乏。
 vandhyatva ㊦ 無効，無用。
 vandhya-phala ㊦ 実らない，無益な。
 vandhyaphalatva ㊦ 実らないこと，無益なこと。
 vandhyā ㊦ 不妊の女；㊦ 石女，無果，瞽者，不産
 婦人 Lan̄k., Mvyut., Nyay-pr.
 vandhyātva ㊦ 不妊性。
 vandhyā-duhitṛ ㊦ 石女の娘(=不可能事)；㊦ 石女
 Bodh-c.
 vandhyā-putra ㊦ 石女の息子(=不可能事)；㊦ 槃
 石女兒；(㊦)槃大子 Lan̄k.
 vandhyā-suta ㊦ 石女の息子(=不可能事)；㊦ 不産
 婦人，不産婦人子 Mvyut.
 vanya ㊦ 森に産する，森に生活するまたは成長する；
 ㊦ 野生動物；野生植物。㊦ 森の産物(野生植物の根
 および果実)。
 vanya-vṛtti ㊦ 森の産物を食して生活する。
 vanyāsana ㊦ [同上].
 vanyetara (°ya-it°) ㊦ 野生と反対の，馴らされた。
 ㊦ [nivāsāḥ とともに] 林棲と反対の住居。
 vanyebha (°ya-ibha) ㊦ 野生の象。
 Vap 1. I. vapa- 刈る，(髪，髻を)剪む；㊦ 自己の(髪
 等を)刈る；(地面を)耕す。㊦ 受分 upta 刈られた。
 ㊦ ㊦ vāpayati 刈らせる，剪ませる；㊦ 自己の(髪
 等を)刈らせる。
 pari- すっかり剃るまたは刈る。
 pra- (髪を)切りとる。
 Vap 2. I. ㊦ (㊦ ㊦) vapa- まき散らす，(種を)播
 く；撒く，撒布する。㊦ upyate 播かれる等；㊦
 種 Abh-vy. ㊦ 受分 upta 撒かれた，播かれた；
 (㊦，一°)をもって撒布された，…で覆われた；捧げ
 られた。㊦ ㊦ vāpayati 地中に置く，播く，植
 える；㊦ 下 Mvyut.；bijam~ 下種子 Mvyut.
 adhi- ㊦ (衣服を)着る (RV.).
 apa- 散らす，追い払う(㊦).
 abhi- 撒布する，覆う。
 ā- (㊦)の中に撒く，…に投ずるまたは入れる，…と混
 合する；(㊦)に挿入する (Br., S.). ㊦ 受分 opya.
 ㊦ ㊦ avāpayati 混ざる，加える。
 sam-ā- 一緒に投げる，混ざる；(㊦)に注ぎこむ。
 ud- (㊦)注ぎ出す；引き出す；発掘する；棄てる。
 ㊦ ㊦ udvāpayati 掘り出させる；注ぎ出すまたは取
 り出す。
 upa- (㊦)積み上げる；覆う，埋める。
 ni- (㊦)の上に撒く，…に投げる，…に下ろす。
 sam-ni- (火を)かき集める，積み上げる (Br.).
 nir- ㊦ ㊦ 注ぎ出す，引き出す，取り出す；(㊦)の
 中にまたは上に振りかけるまたは置く；(祭式のために
 堆積の中から幾握りかの穀粒を)取り分ける=(㊦，
 ㊦)の分として取り除く，…に捧げる；(祭式を)執行
 する，(供物として)(㊦)を捧げる。㊦ ㊦ nirvāpayati
 播く；播き散らす；(神々の分として)取り分ける。
 ㊦ 受分 -vāpita.
 anu-nir- 後から分配する(㊦).
 abhi-nir- (㊦)と混ざる (Br.).
 sam-nir- 一緒に分配する (Br.).

pra- 撒き散らす；(罽)の上に撒く；(罽)の上にまたは中に投ずる；撒布する。
 prati- (罽)の中にまたは上に挿入する，植えるまたは固着する；(罽)をもって象眼するまたはちりばめる。
 過受分 pratyūpta (罽，一°)に固着された，…に植えられた等；(一°)をもってちりばめられた。
 sam- …に注ぎこむまたは入れる(罽)。
 vapana 罽 1. 刈りこむこと，剃ること。2. 播くこと。
 vapaniya 未受分 罽 非入 播くべきである。
 vapā 罽 1. 大網膜，腸網膜；脂肪。2. 土手，蟻塚 (valmika とともに 一°のみ)。
 vapuḥ-prakarṣa 罽 優れた形，容姿の美。
 vapur-dhara 罽 肉体をもつ，美しい身体または形態をもつ；具体化した。
 vapur-mala-samācita 過受分 体を汚物で覆った。
 vapuṣa 罽 非常に美しい (RV.)。罽 驚嘆すべき美。
 vapuṣmat 罽 美しい形をもつ，美貌の；具体化した，化身した；vapus (という語)を含む；漢訳 顔貌 Divy.
 vapus 罽 驚くべき，非常に美しい (RV.)。罽 驚くべきこと，驚くべき美(罽)；美しい外貌，美；形，外貌；本性，本質(まれ)；肉体(一° 罽，罽 -uṣi)；漢訳 色貌，色相，身相，容徳 Buddh-c., Divy.
 vapoddharana (°pa-ud°) 罽 大網膜を引き出すための開き口 (S.)。
 vaptavya 未受分 播かれるべき。罽 非入 播くべきである。
 vaptṛ 罽 1. 刈り取る人，2. 種を播く人。
 vappaṭa-devi 罽 [王女の名]。
 vappiya 罽 [王の名]。
 vapra 罽 罽 [投げ上げられた(堆積)：Vap 2.] 塚，土壘，城壁，土壁；高い川堤(まれ)；丘の斜面，傾斜(まれ)；漢訳 傍岸，山巖 Buddh-c., Lan̄k.
 vapra-kriyā 罽 (象，牛が)堤または塚を戯れに突くこと。
 vapra-kridā 罽 [同上]。
 vaprābhigāta 罽 (牛が)堤または塚を突くこと。
 vapsas 罽 美しい現象または罽(詩人の名？，RV. 用例一回のみ)。
 Vam, I. 罽 vama- 嘔吐する，唾を吐く；遣わす，送り出す，放つ；(言葉を)発する (RV.)；漢訳 吐 Bodh-bh. 過受分 vānta 吐き出された，唾が吐かれた；流れ出た(雨)，放たれた；嘔吐した，落された(花環)。使役 罽 vāmayati 嘔吐させる。ud- 吐き出す，唾を吐く；送り出す，発する，放つ；案出する，完成する。
 vamathu 罽 嘔吐すること；(象の鼻から)噴出した水。
 vamana 罽 嘔吐すること；放射；催吐剤；漢訳 吐，吐出 Śikṣ.
 vami 罽 (また -i) 嘔吐すること，吐き気。
 vamitavya 未受分 嘔吐されるべき，吐き出されるべき。
 vamra 罽 (罽 -i) 蟻。
 vayat 現分 (Vā 4.)。
 vayana 罽 [香または香料の一種]；漢訳 草河車 Mvyut.

vayam 罽 我々。

vayas 1. 罽 鳥，とくに小鳥。2. 罽 [享樂：Vi 1.] 食事，食物(罽)；精力，力，(肉体的・精神的)健康(罽)；壮年，青春，青年；人生の時期，年齢(通常はこの意味に用いられる)；漢訳 年，年齒，少壯，青年 Bodh-bh., Lal-v., Mvyut.：～i vyavasthita 住年齒。
 vaysin 罽 一° =vayas 2. 年齢。
 vayaska 罽 一° [同上]。
 vayas-kṛt 罽 力を与える，青春を保つ。
 vayasya 罽 同一年齢である。罽 同時代人，友(しばしば呼びかけの語として)；漢訳 年，同齡，知識，先旧知識，倚靠 Bodh-bh., Divy., Mvyut.
 vaysyaka 罽 同時代人，友；漢訳 同学，親友，年事 Bodh-bh., Divy.
 vaysyā 罽 (婦人にとっての)同時代の女または女友達，腹心の侍女。
 vayah-saṁdhi 罽 (年齢の接合点)，思春期。
 vayah-sama 罽 年齢の等しい。
 vayah-stha 罽 成長した，成熟した；老年の(まれ)；漢訳 衰暮年 Buddh-c.
 vayah-sthāna 罽 青春の精力。
 vayah-sthāpana 罽 青春の精力を保存する。
 vayā 罽 1. (罽) 枝(また家族の 漢訳)。2. [RV. I. 165. 15, VII. 40. 5 では 'vayā=avayā '和解' とすべきである]。
 vayi 罽 織女 (RV. 用例一回のみ)。
 vayuna 罽 (罽)，規則，秩序，習慣；規則正しい順序，または配列；知識 (P.)。罽 規則に従って；[kṛśāśva の息子の名]。
 vayunavat 罽 規則正しい (RV.)。
 vayunā 罽 知識；[Svadhā の娘の名]。
 vayunā-vid 罽 規則を知る。
 vayo-gata 過受分 (老年に達した)，老いた。罽 高齢，青春の喪失。
 vayoti-ga (°yas-at°) 罽 老年に達した，老いた。
 vayo-dhā 罽 (罽) 健康または力を与える；強い，活力のある。
 vayodhika (°yas-adh°) 罽 年上または年長の；高齢の。罽 老人。
 vayoṇuprāpta (°yas-an°) 罽 漢訳 至旧，加齡 Mvyut.
 vayo-rūpa-samanvita 過受分 青春と美とを賦与された。
 vayovasthā (°yas-av°) 罽 人生の段階または時期。
 vāyo-viśeṣa 罽 年齢の差異。
 vayo-vṛddha 過受分 年老いた，老齢の。
 vayya 罽 [人の名] (RV.)。
 vara 1. 罽 [Vṛ 2.] (罽，罽，罽，一°)の中で最善の。最も精選された・最もすぐれたまたは美しい；(罽，まれに 罽)より一層よい，…よりすぐれた；(罽)の中で一層よい，…の中でよりすぐれた；漢訳 妙，上妙，最妙，第一，上，最上，勝，最勝，利，純，高，超世，極淨，端嚴 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Lal-v., Lan̄k., Madhy-v., Mvyut., Rāstr., Sukh-vy. I.：～m ā-KHyā 為高 Aṣṭ-pr. 135, 8.

varam 𑖦 (𑖦 𑖠ā; RV.) よりとくに・むしろまたは善く; (𑖦 または 𑖦 とともに) …ということとはまたは…ならばよりよいまたはよいであろう(この場合時に動詞は省略される); (𑖦 とともに) …ということとはさらに望ましいことであろう; (𑖦 をともなわず述語的に)(𑖦; 𑖦 においては 𑖦 𑖠ā) よりも善い: **varam** …na, na ca, na tu, na punaḥ, tad api na または **tathāpi na** (𑖦 または 𑖦 の 𑖦 とともに)(…ということとは)より善い, …よりむしろ好ましい; (繁辞を省略して述語的に)もっともすぐれている…(na を伴うものは)然らず, これに及ばない=…は(𑖦, ごくまれに 𑖦)よりもよい: **varam**…**varam** na または **na ca khalu varam**…は(𑖦)よりも善い; 𑖦 如, 寧 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*: **varam**…na tv eva… 寧如…不如…*Bodh-bh.*

vara 2. 𑖦 [Vr 2.] 選択, 願望; 贈物または報酬として選ばれる物, 贈物; 特権(まれ); 持参金(まれ). ~m Vr 贈物を選ぶ. ~m pra-Arth または Yāc 願望を表白する; 祝福を歎願する. ~m Dā 贈物または幸福を与える. ~m pra-Yam 願望をかなえる. **varam** ā または **varāya** 願望に従って, 心ゆくまで(RV.). **mad-varāt** 私が許容した願望の結果として; 𑖦 希, 願, 所願, 所須, 所求 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Suv-pr.*, 梵千., 梵雑.: ~eṇa pravāritaḥ 令…乞願 *Divy.439.*

vara 3. 𑖦 [Vr 1.] 周囲, 空間(𑖦); 妨害, 抑止(RV.).

vara 4. 𑖦 [Vr 2.] 求婚者; 愛人, 花婿, 夫; 養子(𑖦, まれ).

varaka 𑖦 新郎の付添人.

varaka-kirti 𑖦 [人名].

vara-kalyāṇa 𑖦 [王の名] (𑖦 𑖦); 𑖦 [転輪王の名] 勝善(最正真) *Mvyut.*

vara-jāta 𑖦 上妙 *Bodh-bh.*

vara-jñāna 𑖦 妙智 *Bodh-bh.*

varaṭā 𑖦 鷲鳥.

varaṇa 𑖦 [樹木の名(医薬および魔法の力を有する; 学名 *Crataeva roxburghii*)]. 𑖦 [Vr 2.] 選択すること, 願望すること; 求婚すること. 𑖦 [または dharāṇa に作る] 高単位の数; 𑖦 [数の名] 𑖦 波羅南 *Mvyut.*

varaṇaka 𑖦 覆う, 隠す (*Samkhy-k.*); 𑖦 覆 *Samkhy-k.*

varaṇa-mālā 𑖦 選択の花環(少女が自ら選んだ男に与える).

varaṇa-sraj 𑖦 [同上].

varaṇiya 𑖦 未受分 選択されるべき.

varaṇḍaka 𑖦 小さな土手; (二頭の格闘する象をへだてる壘).

vara-tanu 𑖦 (𑖦 -u) 美しい姿をもつ. 𑖦 美しい婦人.

vara-tantu 𑖦 [古師の名].

vara-tā 𑖦 祝福という状態.

varatra 𑖦 (=varatrā?); 𑖦 灌(!), (索) *Mvyut.*

varatrā 𑖦 革紐, 紐; 𑖦 索, 羈鞅 *Gaṇḍ-vy.*, 梵千.

vara-da 𑖦 贈物を授けるまたは与える; 𑖦 [積尊の異名] 施願, 勝施, (与願) *Guhya-s.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*

vara-dā 𑖦 [川の名].

vara-dātṛ 𑖦 𑖦 能与(一切衆生)願 *Suv-pr.*

vara-dāna 𑖦 贈物の授与.

vara-dundubhi-svara 𑖦 𑖦 [仏の異名] 微妙音, 勝鼓音 *Saddh-p.*

vara-dharma-bheri 𑖦 𑖦 最勝(大)法鼓 *Suv-pr.*

vara-dharma-mudrā 𑖦 𑖦 [samādhi の名] 妙法(手)印 *Mvyut.*

vara-nāri 𑖦 優れた婦人.

vara-pakṣa 𑖦 花婿の朋友.

vara-praṇidhāna 𑖦 𑖦 上願, 超世願 *Sukh-vy.1.*

vara-prada 𑖦 贈物を授けるまたは与える.

vara-pradāna 𑖦 贈物の授与; 𑖦 与願, 施願, 施恩 *Abh-vy.*, *Mañj-m.*

vara-prabha 𑖦 すぐれた輝きをもつ. 𑖦 𑖦 [菩薩の名] 妙光 *Saddh-p.*

varapravara 𑖦 𑖦 殊勝 *Bodh-bh.*

vara-bodhyuttamā 𑖦 𑖦 無上仏菩提 *Raṣṭr.*

vara-bhāryā 𑖦 𑖦 宝女, 聖王后 *Gaṇḍ-vy.*

varam 𑖦 → vara 1.

varaya, [Vr 2. の 𑖦 の 𑖦].

vara-yāna 𑖦 𑖦 大乘, 仏乘, 最勝乘 *Lal-v.*, *Raṣṭr.*

varayitavya 𑖦 未受分 (𑖦) の中から選択されるべき.

vara-yuvati (または -i) 𑖦 美しい乙女.

vara-yoga 𑖦 𑖦 建善 *Sūtr.*

vara-yogyā 𑖦 未受分 贈物をうける価値のある; 夫として適する, 結婚しうる.

vara-yoṣit 𑖦 美しい婦人.

vara-ra 𑖦 贈物を授ける.

vara-ruci 𑖦 贈物を好む (*Śiva* 神). 𑖦 [詩人・医学者・文法学者・辞典編集者である人の名, 時として *Kaṭyāyana* と同一視され, *Vikramāditya* の宮廷における九宝の一人に数えられる]; 𑖦 妙好 *Mvyut.*

vara-rūpa 𑖦 𑖦 [過去仏の名] 最勝色, 勝顔 *Lal-v.*

vara-labdha 𑖦 未受分 𑖦 具足(諸)願者 *Sikṣ.*

vara-varaṇa 𑖦 贈物の選択, 花婿の選択.

vara-varṇa 𑖦 𑖦 金.

vara-varṇin 𑖦 美しい顔色を有する.

vara-varṇini 𑖦 美貌の・美しいまたはすぐれた婦人; [*Durgā* の称].

vara-vṛta 𑖦 未受分 贈物として選ばれた.

varas 𑖦 広さ, 広がり (RV.).

vara-sundari 𑖦 非常に美しい婦人.

vara-surata 𑖦 愛の技巧に精通した.

vara-sūtra 𑖦 𑖦 大乘経典 *Saddh-p.*

vara-stri 𑖦 すぐれたまたは高貴な婦人.

vara-sraj 𑖦 新郎の花環(少女が自ら選んだ夫の首にかける).

varāka 𑖦 (𑖦 -i) 見すばらしい, 惨めな, 哀れな(一般に生物について); 品質の悪い(金); 𑖦 賤, 可憐愍, 無可尊重 *Bodh-bh.*, *Lank.* → avarāka.

varāgra 𑖦 𑖦 最, 最勝 *Gaṇḍ-vy.*

varāgra-bodhi 𑖦 𑖦 無上菩提 *Sikṣ.*

varāṅga 𑖦 (もっともよい部分), 頭; 女性の陰部; 主な部分; 𑖦 勝肢, 支体円満, 𑖦 伐浪伽 *Abh-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*

varāṅganā 因 美しい婦人。
 varāṅga-rūpin 形 端正, 最上色相, 具勝色支
Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut.
 varāṭa 男 子安貝(貨幣として用いられる); 紐。
 varāṭaka 男 (因 -ikā) 子安貝; 蓮の果皮。
 varāḍi-rāga 男 rāga (調子)の一種。
 varāḍi-rāga 男 [同上]。
 varāṇasi 因 [川の名]。
 varātisarga 男 贈物の授与。
 varānanā (°ra-ān°) 形 (因) 美貌の(女)。
 varāya 名動 贈物である, を表わす [ただ 過受分 ita
 のみ]。 甲 非人。
 varāroha (°ra-ār°) 形 美しい尻(腰)をもつ。
 varārthin 形 贈物を要求する。
 varārha 形 非常に尊敬された; 非常に価値のある;
 堪供, 堪勝義 *Mvyut.*
 varāśva 男 駿良馬 *Buddh-c.*
 varāsana (°ra-ās°) 甲 光輝ある席, 王座。
 varāha 男 因, 圍 野猪, 豚; 圍 (*Viṣṇu* 神の)化身と
 しての野猪(海底から牙で大地を持ち上げた); 猪の
 形をとった軍隊の陣形; [*Daitya* の名]; [人名];
 豕, 猪, 野猪, 家猪, 猪犬, 熊(?) *Kāśy., Lal-
 v., Mvyut., Śikṣ., 梵雜.*
 varāha-datta 男 [人名]。
 varāha-deva 男 [人名]。
 varāha-mihira 男 [天文学者の名, 西暦六世紀の人]。
 varāha-mūla 甲 [*Viṣṇu* 神の化身としての猪の像の
 ある地域の名]。
 varāha-svāmin 男 [神話上の王の名]。
 varāhu 男 猪 (RV.)。
 variman 甲 [Vr 1.] 広がり, 広い場所, 広い地域
 (V.)。 男 [同上]。
 varivas 甲 (因) [→ uru] 広がり, 空間, 広い場所;
 自由, 気楽。 *Kṛ, Dhā, Vid* とともに (因) に慰安ま
 たは自由をもたらす, (因) のために路を清める。
 varivasya 名動 他 varivasyati 自由な場所を与える,
 許容する (RV.); 仕える, 大事にする, いたわる
 (圍)。
 varivasya-māna 現分 [因 の意味をもつ]大事にされ
 る。
 varivasyā 因 献身, 奉仕, 近侍。
 varivo-dhā 形 自由を与える (RV.)。
 variṣṭha 最上 1. もっとも広い, もっとも広汎な, も
 っとも広大な(因)。 2. (主として 圍) (圍, 一°)のう
 ちでもっともすぐれた, …のうちで最善の; (因
 まれ)よりよい; (圍まれ)のうちで主な=最悪の。 男 [人
 名]。
 vari-tr 男 [Vr 2.] 求婚者(また 困 の意味に用いられ
 る)。
 variyas 1. 比較 [→ uru] (因) (因) より広い, …よ
 り広大な; より自由な。 甲 圍 より遠くに, さらに
 離れて。 甲 (因)より広い場所; 自由な場所, 自由。
 variyas 2. 比較 [→ vara 1.] よりよい, よりすぐ
 れた; (圍)のうちで最善の, …のうちでもっともす
 ぐれた。
 varuḍa 男 [混血種姓(階級)].

varuṇa 男 [*Veda* 神話の中に重要な地位を占める司
 法神で *Āditya* 神群の主長, (天上の)水と密接な関
 係をもち, 全知にして罪を罰し, 宥恕を乞われ, また
 病気を送るとされる。しばしば *Mitra* 神または *Indra*
 神と結合される(一° 圍); 圍 においては水または大
 洋の神で西方を主宰する]; 水天, 水神, 水王,
 四大海神 *Divy., Lal-v., Mañj-m., Mvyut., Śikṣ.*
 和輪, 和隣, 婆婁那, 婆楼那, 波楼那, 婆留那
Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lanḱ., Śikṣ.: ~o nāgarājā 水
 天, 水神竜王 *Mvyut.;* ~matih kumārabhūtaḥ
 水神志孺童, 水神慧孺童, 縛留拏慧法王子 *Mvyut.*
 varuṇa-grhita 過受分 *Varuṇa* によって捕えられた,
 罰せられた=病(とくに水腫)に襲われた(因)。
 varuṇa-deva 甲 (*Varuṇa* を神としてもつ), *Nakṣatra*
Śata-bhiṣaj; 水天; (音写)婆楼那天 *Gaṇḍ-vy.*
 varuṇa-pāśa 男 *Varuṇa* の羂索または足枷(罪人を縛
 し, 病患を与える)(因)。
 varuṇa-puruṣa 男 *Varuṇa* の召使。
 varuṇa-loka 男 *Varuṇa* の世界; *Varuṇa* の領域,
 水。
 varuṇa-sarman 男 [神話上の戦士の名]。
 varuṇa-senā 因 [王女の名]。
 varuṇa-senikā 因 [同上]。
 varuṇādri 男 [山の名]。
 varuṇāni 因 *Varuṇa* の妻。
 varuṇālaya (°ṇa-āl°) 男 *Varuṇa* の住所, 大洋; 因
 大海 *Divy.*
 varuṇāvāsa (°ṇa-āv°) 男 [同上]。
 varuṇya 形 *Varuṇa* に属するまたはに由来する(因)。
 varūtr 男 (因) (圍)の保護者。
 varūtri 因 守護女神(因)。
 varūtha 甲 [Vr 1.] 保護, 避難所, 安全な住所(因)。
 男, 甲 (戦車の)防護物または覆い(圍); 大軍, 獸群,
 群, 群集 (P.); [村の名]。
 varūthin 形 甲冑を着けた(因); (木製の)防護物をつ
 けた(車); 保護する, 庇護する; 戦車中に坐した;
 (一°)の群集または大群によって囲まれた。 男 戦車。
 varūthini 因 軍隊。
 varūthya 形 保護する, 庇護する(因)。
 vareṇya 未受分 [Vr 2.] 希望されるべき, 願わしい;
 (圍)のうちで秀でた, …のうちでもっともすぐれ
 た, …のうちで主要な。
 vareṇya-kratu 形 (因) すぐれた意力または知慧をも
 つ。
 varopeta (°ra-upa-ita) 過受分 因 円具 *Guhy-s.*
 varoru (°ra-uru) 形 (-ū) 美しい腿をもつ。
 varga 男 部分, (同種のもの)の集合, 集団, 組, 仲間,
 (圍, 一°; しばしば 圍 の代りに 圍)の部分等; 分類され
 た(語)群, 範疇; (子音の)系列(喉音, 顎音等); (書物
 の)章節; (RV. または *Bṛhaddevatā* 中の *Adhyaya*
 の)細別: 一° [数詞とともに] (例 三=dharma, kāma,
 artha) からなる一群または分類; 品, 多, 種,
 衆, 諸, 部, 類, 群, 聚, 聚会, 群聚, 名号,
 種或類 *Abh-vy., Buddh-c., Lanḱ., Mvyut., Rāṣṭr.,
 Saddh-p., Śikṣ., 玄奘.;* (音写) (vagga) 伐伽, 跋渠玄奘,
 僧祇律, 八度度論.: ~cārin 類行(部行), 衆会行, 類衆

行, 其類一角久行 *Mvyut.*

vargi-kṛta 過受分 所集 *Abh-vy.*

vargiya 形 (一°)の群・団体または範疇に属する; 品, 部 *Abh-vy.*

vargya 形 (一°) [同上]. 男 級友; 同僚.

varcaḥ-kūpa 男 糞坑 *Abh-vy.*

varcas 中 因 光, 光輝, (火または太陽の)光明; 光栄, 栄誉, 名声; 男 元氣, 精力, 活氣; 光輝, 光明; 色; 糞; 糞 *Abh-vy.*; 貌 *Buddh-c.* 男 [種々な人の名].

varcasa 中 (一°)光輝, 光芒; 色.

varcaska 中 光輝; 糞.

varcasya 形 元氣を与える.

varcasvin 形 元氣のある, 光輝ある. 男 精力家.

varcin 男 [*Indra* 神と戦う悪魔の名].

varco-mārga 男 穀道, (大便道) *Mvyut.*

varja 形 (一°)から自由な, …を欠く; 除く; 遠離 *Lank.*

varjana 中 回避, 棄捨; (男)の無視, …から離れること; 省略; 除外; 離 *Lank.*

varjaniya 未受分 回避されるべき.

varjam 總 °— 除外して, 除去して, …なしに.

varjaya 使役 [Vrj から].

varjayitavya 未受分 使役 回避されるべき.

varjayitr 男 回避者.

varjayitvā 不変分 使役 → Vrj.

varjita 過受分 使役 [Vrj] (男)を欠いた. → Vrj.

varjin 形 (一°)を避ける.

varjya 未受分 避けられるべき; 放棄されるべき; (一°)を除去する; 無, 除, 離, 遠離, 所應離 *Abh-k., Abh-vy., Lank., Rāṣṭr.*

varjyaniya 未受分 應遮離 *Abh-vy.*

varṇa 男 [Vr 1.] 覆い, 蓋(男) ; 外面, 外貌, 色; (善い)顔色(男); (書画用の)絵具(男); (色=)人種, 種, 種類; 性格, 性質, 特質, 形; 種姓(階級; 土着の住民とその白色の征服者との間の皮膚の色の相違に由来するといわれる); (色のついた印し), 文字; 音; 母音; 音節; 語; 音楽の音符(男); 賞讃(男); 名声, 著名(男); 色, 頭, 誦, 音, 讚, 性, 姓, 譽, 頭色, 讚嘆, 讚歎, 讚美, 称揚, 称讚, 称名, 讚念, 色身, 色像, 色形, 形色, 色類, 光色, 色相, 妙色, 德号, 族姓, 功德, 称揚讚美 *Abh-k., Abh-vy., Av-ś., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lank., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Sapt-pr., Śikṣ., Sukh-vy. I., Suv-pr., Vijñ-v.:* ~ m Bhāṣ 讚, 称讚, 讚說, 讚歎, 讚功德, 歎功德, 讚歎功德 *Aṣṭ-pr. 80, 196, 319, Bodh-bh. 196; buddhasya* ~ m Bhāṣ 歎仏功德 *Av-ś. 119; ~ sya hartā* 讚歎, 称揚 *Bodh-bh. 380; catvāro ~ āḥ* 四姓 [1. brāhmaṇa 婆羅門, 2. kṣatriya 刹帝利, 3. vaiśya 吠舍(吠舍), 4. śūdra 首陀(羅)] *Mvyut.*

varṇaka 形 (ikā) 叙述する. 男 中 標本, 手本. 男 絵具, 軟膏, 顔料. 中 節, 章(男); 塗身, 塗彩 *Mvyut.*

varṇaka-kambala 男 (中) 毘託 梵千.

varṇaka-krama 男 種姓(階級)の秩序.

varṇa-gandha-rasa-sparśa 男 色香味触 *Sūtr.*

varṇa-guru 男 王.

varṇa-grathanā 因 詩節を書く技巧的方法.

varṇa-caura 男 …の色を盗む者=(男)に色が似ている.

varṇa-jyāyas 比較 種姓(階級)上優越した.

varṇa-jyeṣṭha 最上 種姓(階級)上高いまたは最高の.

varṇaṭa 男 [人名].

varṇatva 中 種姓(階級)の本質; 色をもつこと.

varṇa-dūṣaka 形 種姓(階級)を汚す.

varṇa-dvaya-maya 形 (因 -i) = 音節の.

varṇa-dharma 男 男 および 種姓(階級)の規定・義務.

varṇana 中 (因 -ā) 記述, 説明; 陳述.

varṇa-nibha 形 如顔色 *Mvyut.*

varṇaniya 未受分 記述または叙述されるべき.

varṇa-paridhvaṃsa 男 (因 -ā) 種姓(階級)の喪失.

varṇa-pāṭha 男 アルファベット.

varṇa-puṣkalatā 因 色類 *Bodh-bh.*

varṇa-puṣkala-samyoga 男 色具足和合, 和合之所生…色境皆具足 *Lank.*

varṇa-buddhi 因 (特殊の)音と関連した概念.

varṇa-bhāṣaṇa 中 讚勝德 *Sikṣ.*

varṇa-bhāṣin 形 讚詠, 咨嗟 *Lal-v.*

varṇa-mātra 中 色だけであること.

varṇaya 名動 他 (自 韻律) varṇayati 彩色する, 画く; 描写する, 輪郭を描く, 記述する, 説く, 説明する, 述べる; 見なす, 考える(男); 説, 讚, 歎, 称讚, 称揚, 称歎, 説為善 *Abh-vy., Buddh-c., Lal-v., Lank., Saddh-p., Sam-r., Sikṣ. Sūtr.:* pūrvam eva tu ~ yanti 前説為善 *Abh-vy. 362.*

varṇita 過受分 記述された等.

anu- 記述する, 説く, 説明する, 述べる.

abhi- 記述する.

vy-ā- 記述する, 説く.

upa- 記述する, 解明する, 語る, 告げる, 述べる.

nir- (男)を注視する; 記述する, 描写する(男).

vi-nir- 注視する, 顧慮する.

vi- 絵画または描写にぬきんでる; 色を損ずる, 変色させる (*Jat-m.*); 非難する (*Divy.*); 壊色 *Lank.*

saṃ- 説く, 告げる, 賞讃する; 説, 讚, 讚嘆, 讚歎, 諮差, 称歎 *Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Saddh-p.*

anu-saṃ- 随順讚 *Divy.*

varṇayitavya 未受分 記述されるべき.

varṇayitr 男 叙述者.

varṇa-rāsi 男 アルファベット.

varṇa-rūpa 中 色相, 頭色, 顔色形 *Lal-v., Mvyut.:* ~-linga-saṃsthāna-śramaṇa 形容被服像如沙門, 色像沙門, 形服沙門, 行色相沙門 *Kaśy. 172.*

varṇa-lopa 男 文字の脱落.

varṇavat 形 色のついた; 妙色 *Bodh-bh.*

varṇa-vartī 因 絵筆.

varṇa-vartikā 女 [同上].
 varṇa-vāditā 女 讚美 Bodh-bh.
 varṇa-vādin 男 讚辞を呈する人; 讚, 称歎, 讚歎, 発声讚歎, 説称讚 Bodh-c., Mvyut., Śikṣ.
 varṇa-vikriyā 女 種姓(階級)の(規則に対する)違反.
 varṇa-viśuddhi 女 妙色, 色相清浄, 清浄妙色 Gand-vy.
 varṇa-vṛtta 中 音節(の数)によって(規定される)韻律.
 varṇa-vyatikrāntā 過受分 (女) (自己より下層の)種姓(階級)の男と性的な過ちを犯した(女).
 varṇa-vyavasthiti 女 種姓(階級)組織.
 varṇa-śikṣā 女 音声学.
 varṇa-śravaṇa-mātraka 形 暫得聞称揚讚美 Bodh-bh.
 varṇa-śreṣṭha 男 種姓(階級)で最勝の人, 婆羅門.
 varṇa-saṃsarga 男 (雑婚による)種姓の混乱.
 varṇa-saṃsthāna 中 形相 Ast-pr.
 varṇa-saṃhāra 男 諸種姓(階級)の(代表者の)集会.
 varṇa-saṃkara 男 色の混合(まれ); (雑婚による)種姓の混乱.
 varṇa-saṃghāta 男 (文字の結合), アルファベット.
 varṇa-saṃghāta 男 [同上].
 varṇa-saṃpat 女 形色具足 Bodh-bh.
 varṇa-saṃpanna 形 形色具足 Bodh-bh.
 varṇa-samāmnāya 男 (文字の結合), アルファベット.
 varṇa-sthāna 中 発音のための(口中の)場所.
 varṇātmaka (°na-āt°) 形 明瞭に聞き分けられる(音).
 varṇādharma 形 最下の種姓(階級)または種類の.
 varṇānuprāsa 男 音の反復(修辭).
 varṇāntara 中 他の文字, 音の交替; 他の種姓(階級).
 varṇāntara-gamana 中 種姓(階級)の変化.
 varṇānyatva 中 色彩の変化.
 varṇāpeta 過受分 種姓(階級)を剝奪された.
 varṇārha 男 応讚 Śikṣ.
 varṇavarṇa-śabda 男 耳聞毀誉 Sūtr.
 varṇāśrama (°na-ās°) 男 種姓(階級)と人生の段階(住期).
 varṇāśramavat 形 種姓(階級)および人生の段階(住期)に属する.
 varṇāśramin 形 [同上].
 varṇikā 女 絵具, 顔料, 軟膏; 俳優の仮面または衣裳.
 varṇikā-parigraha 男 仮面を着用することまたは役割りを演ずること.
 varṇita 過受分 → varṇaya. 讚, 讚嘆, 所歎, 説, 所説, 所演説, 称揚, 所称歎, 所讚美 Bodh-bh., Gand-vy., Lal-v., Lank., Mvyut., Raṣṭr., Saddh-p., Śikṣ.
 varṇitavat 過能分 説いた, 描写した等; 讚歎 Sūtr.
 varṇitāṅga 中 妙譬 Śikṣ.
 varṇin 形 彩色した; 一°の外貌を有する; (婆羅門等の)種姓(階級)に属する. 男 (四)種姓(階級)の一つに属する人; 第一の住期 (āśrama) にある婆羅門, 宗教的学習者, 梵行者 (brahmacārin); 覆 [ある僧

団].

varṇini 女 婦人; 高い種姓(階級)の婦人.
 varṇodaka (°na-ud°) 中 着色した水.
 varṇopeta (°na-up°) 形 種族または種姓(階級)を有する; 色具足 Ast-pr.
 varṇya 1. 形 色を生ずる. 2. 未受分 記述されるべき.
 varta 男 (通常 一°)の生活, …の生計; 偈頌 旋 Suvik-pr.
 vartaka 形 (一°)に耽るまたは専心する.; 行, 転, 転所依 Lank. 男 うずら. °kā 女 [同上], °potaka 若いうずら (Jat-m.).
 vartana 形 [Vrt から] 動かす, 急がせる(まれ). 中 (因)に逗留または滞在すること; (因)によって生活すること, 生活, 生計, 職業(通常の意味); 賃金; (saha)との連合; 処置, 行為; (一°)の適用; 転 Abh-k.
 vartanaka 男 音写 婆怛那, 婆咀那 Gand-vy.
 vartanātā 女 転, 作, 修習 Bodh-bh.
 vartanā 女 方隅, 方所 Abh-vy.
 vartani 女 (車輛の)外縁; 轍; 進路, 道, 径; (川の)水路; 睫毛; 路; 理, 道理 Abh-vy., Mvyut.
 vartani 女 入(住); 東方 Ast-pr., Mvyut.
 vartaniya 未受分 中 非入 (因)に意を用いるべきであるまたは心を注ぐべきである.
 vartamāna 現分 [Vrt から] 現在の, 現存する. 中 現在; 今, 住, 現, 現在, 現前, 現転, (於)今現在; 取現法 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Lank., Mañj-m., Mvyut., Vijñ-t.: ~ābhyatita 過現 Abh-k.; ~o'vasthita 於今現在安住 Bodh-bh.; ~ḥ paripāko nirvartate 現在成熟 Bodh-bh.; ~pratyayopasamhāra 現縁摂受 Bodh-bh.
 vartamāna-kāla 男 現在.
 vartamāna-grahaṇa 現分 中 現在取境 Abh-vy.
 vartamāna-pratyaya 男 現縁, 転時縁 Bodh-bh.
 vartamānā 女 現在(の人称語尾, 文法).
 vartamānakṣepa (°na-āk°) 男 現行の何かに対する不満の表明.
 vartamāni-karaṇa 中 成現在 Abh-vy.
 vartaya 使役 [Vrt から] 存在させる等.
 vartave 為 不定 [Vr 1. から] 覆うために (RV.).
 vartavya 未受分 [vartitavya の 不確].
 varti (または -i) 女 [Vrt から] (薬, 化粧品, 眼膏の)巻いたものまたは小粒; (ランプの)心; 魔法の灯心; 眼膏; 灯, 炷, 灯炷, 燧炷 Ast-pr.
 vartikā 女 1. [Vrt から] 灯心; 絵筆; 絵具 (varṇikā の 不確); 簞, 画 Abh-vy. 2. うずら.
 vartita 過受分 [使役] 回された, 旋回された, 転がされた; 存在させられた, ひきおこされた, 完成された; 撻撻 Śikṣ.
 vartitavya 未受分 滞留されるべき(国); 実行または遵守されるべき(行為); 処理されるべき. 中 非入 (因)にとどまるまたは滞在すべきである; (因)に従事すべきである; 生存または存在すべきである; (副)または (因)とともに(因, 因, 因 + saha) 対して対処または行動すべきである: asmad-vaśe ~ 我々に服従すべき

である；**漢** 転，(正)所応転 *Bodh-bh.*

vartitva 甲 (一°)に対するような取扱い。

vartin 形 (一般に 一°)に滞在している，…にとどまる，…に休息する，…に存する；(一°：ある状態等)にある；(一°)を実行する；(一°)に従事する，(一°：要求を)行なう；(一°または **副** とともに)ふるまうまたは行なう；(一°)に対して適当にふるまう；**漢** 転，起 *Abh-vy.* 男 (接尾語の)意味。

vartini 女 **漢** 広道 *Abh-vy.*

vartis 甲 巡回，巡行 (RV.).

varti 女 → **varti.** **漢** 燭 *Sikṣ.*：～m Kṛ 為燭 *Sikṣ.* 912.

vartura 甲 **漢** 円 梵雜。

vartula 形 [Vrt から] まるい。甲 円。

vartuli 男 **漢** 荳 *Mvyut.*

vartman 甲 [Vrt から] 轍，軌道；徑，道，路，進路 (**譬** 喻にも)；まぶた；(男 °*manā* または 因 °*maṇi* 一°)の道によって=沿って，…を通じて，…によって：*nady-adri-vana-vartmasu* 河・山および森を通過して；**漢** 道，行路，流 *Daś-bh.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*

vartma-pāta 男 道に踏み入ること。

vartma-pātana 甲 待伏せること。

vartmāccheda 男 **漢** (生死)道不絶 *Sūtr.*

vartmōccheda (°*ma-ucch.*°) 男 **漢** 永断道路 *Vajr-pr.*

vartra 形 [Vr 1.] 防護する (S.)；堰，築堤 (因)。

vardala 甲 雨天 (*Mah-v.*).

vardalikā 女 = *vārdala.* **漢** [*Pali vaddhalikā*] 雨天，陰雨，霖 *Divy.*

vardha 形 [Vrdh から] (一°)を増大する，…を悦ばせる。男 繁栄を与えること (RV. 用例一回のみ)。

vardhaka 1. 形 切り離す。男 大工。

vardhaka 2. 形 **漢** 増，増長 *Raṣṭr.*

vardhaki 男 大工。

vardhakin 男 [同上]。

vardhana 1. 形 (因-i) 成長する，増す，繁栄する，富を増す；(因において非常にしばしば 一°)増加させる，力を増大させる，繁栄させる，増大させる；(一般に 一°)悦ばせる。男 増進者，繁栄の賦与者；[*Kṛṣṇa* の息子の名]。甲 成長，増加，繁栄；力の増大；増加，向上；教育すること，飼育すること；強壯にするもの，栄養 (RV.)；**漢** 増，長，増長，増進，長養，生成；所愛 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.*

vardhana 2. 甲 [Vrdh 2. から] (一°)を切り離すこと；一°(町名とともに多分)=町(まれ)。

vardhana-svāmin 男 [ある寺院または彫像の名]。

vardhanikā 女 **漢** 浄瓶 *Mvyut.*

vardhaniya 未受分 [Vrdh 1. から] 増加されるべき；繁栄させられるべき。

vardhamāna 現分 甲 [Vrdh 1. から] 成長する等。男 [ある山岳および地域の名，現在の *Burdwan*；ある村の名]；[人名]；**漢** 増(上)，(増長)，増進，猶如樹文 *Mvyut.*, *Sūtr.*；画瓶 *Divy.*；**漢** 写(伐馱摩那) *Mvyut.*

vardhamānaka 甲 [人名]；**漢** [竜王名] 増長 *Mvyut.*

vardhamāna-pura 甲 [ある町の名，*Burdwan*].

vardhamāna-puriya 形 *Burdwan* に属する。

vardhamāna-mati 女 **漢** [菩薩名] 増意 *Raṣṭr.*

vardhamānā 女 [Gāyatri 韻律の一形式の名]。

vardhamāneśa (°*na-iś.*°) 男 [ある寺院または彫像の名]。

vardhaya 使役 [Vrdh 1. から] 増大させる等。

vardhayitr 男 (一°)の教育者，…の飼育者。

vardhayitri 女 [同上]。

vardhāpana 甲 [Vrdh 2. の 使役 から] 膺の緒を切ること，この儀式を記念すること；誕生日またはその他の祝祭。

vardhāpanaka 甲 [同上]；お祝いの贈物。

vardhāpaya 使役 他 1. 祝う；2. (膺の緒を)切る。

vardhika 男 **漢** 長養 *Sikṣ.*

vardhita 使役 過受分 → *Vrdh* 1. および 2. **漢** 増，増栄，長成 *Buddh-c.*, *Divy.*, *Sikṣ.* 甲 (?) 皿(の一種)。

vardhitavya 未受分 甲 非人 増大すべきである。

vardhini 形 女 (一°)を増大する。

vardhiṣṇu 形 成長する，増大する。

vardhra 甲 紐，革紐 (= *varatrā*).

varpas 甲 (RV.) 形態，美しい姿；変身，幻像。

varmakānaka 甲 **漢** (= *dharmakānaka?*，異読：*parmakanaka?* または *marmakānaka*) 有足水瓶，有足水濾；(法瓶?) *Mvyut.*

varman 甲 [包む；Vr 1. から] 甲冑，鎧 (因， 甲)；保護，庇護 (因)；しばしば 一° [刹帝利の人の名として]；**漢** 鎧，甲，盔甲，盔鎧 *Mvyut.*, *Raṣṭr.*

varmaya 名動 他 *varmayati* 鎧を用意する。

varma-hara 形 甲冑を着用する(のに適した年齢の)。

varmi 男 [魚の一種]。

varmita 過受分 [*varmaya*-から] 武装した；**漢** 穿甲 (被鎧)，被鎧，被甲冑，被甲，人身鎧 *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sikṣ.*, *Suv-pr.*

varmin 形 武装した。

varmi-matsya 男 *varmi* 魚。

varya 未受分 選択されるべき，適令の(因)；(因， 一°)の中で優れた，…の中で最もよい，…の中で主要な；**漢** 富貴 *Mañj-m.*

varvaraka 男 [人名] (より正しくは *barbaraka*).

varṣa 形 [Vrṣ から] (一°， 因)の雨がふる。男 (因)，甲 (因， 因)雨；(因， 一°：花，矢，埃等)の雨；雨季 (種：AV. まれ)；(普通年令に適用される)年；世界の区分，山脈間の平地(七または九と仮定される)。男 一年以内に。因 一年後；因 毎年(反覆して)；**漢** 雨；年，歳；雨際；夏，夏蔭(蠟)，夏安居，安居；大雨，風雨，時雨，時沢 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Gand-vy.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sikṣ.*, *Suv-pr.*, *Sūtr.*, *Vin.*, 梵千., 梵雜。

varṣaka 形 雨が降る，雨のように注ぐ；**漢** 夏房 *Mvyut.*

varṣa-karman 甲 降雨の作用。

varṣa-kāla 形 **漢** 夏 *Lal-v.*

varṣa-gaṇa 男 種 多年。

varṣaṇa 形 (因 -i) (通常 一°) の雨が降る。 甲 降雨，
にわか雨が降ること(譬喩にも)；(一°)に豊かに授
けること；漢訳 雨，降雨 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*
varṣatra 甲 雨傘。
varṣa-trāṇa 甲 [同上]。
varṣa-dhara 男 世界の区分を分かつ山脈；varṣa の支
配者；宦官。
varṣa-dhārā-dhara 形 にわか雨を含んだ(雲)。
varṣa-pada 甲 曆。
varṣa-pāta 男 雨が降ること。
varṣa-pūga 男 甲 甲 覆 多量の雨；多年。
varṣa-pratibandha 男 ひでり。
varṣaya 使役 → *Vṛṣ.*
varṣa-rātra 男 漢訳 夏五六月 梵雜。
varṣartu-māsa-pakṣāho-velā-deśa-pradeśavat (°ṣa-
rt°) 形 年・季節・月・半月・日・時刻・国および地
方を記述する。
varṣa-vara 男 宦官。
varṣa-śatka 甲 六十年の期間。
varṣa-śatika 甲 漢訳 百歳人 *Saddh-p.*
varṣa-sahasra 甲 一千年；漢訳 千年 *Gaṇḍ-vy.*
varṣa-śata 甲 漢訳 百年 *Lank.*
varṣasahasrāya 名動 自 varṣasahasrāyate 一千年の
ごとく思われる。
varṣā 因 雨(まれに)；(甲) 覆 雨期，雨の季節(きわめて
普通)；漢訳 雨，驟雨，夏，安居，夏安居(経) *Divy.*,
Mvyut.；～m upagacchanti 安居 *Divy. 18.*
varṣoṣita (°ṣā-us°) 過受分 雨期を過ごした (*Divy.*)；
漢訳 夏安居 *Vin.*
varṣākāra 男 [ある婆羅門の名] (*Divy.*)；漢訳 [大臣
名] 行雨 *Divy.*
varṣā-kāla 男 雨期。
varṣāgama (°sā-āg°) 男 雨期の到来+なわちはじめ。
varṣādhipati 男 漢訳 主雨大神，(音写) 勃里沙王
Suv-pr.
varṣāmbu (°sā-am°) 甲 雨水。
varṣā-vastu 甲 漢訳 安具時，(安居事)，坐夏根由
Mvyut.
varṣā-vāsana 甲 漢訳 夏安居 *Vin.*
varṣā-vusta 過受分 俗 [=varṣā-vasita] 漢訳 夏安
居，(自恣竟) *Vin.*
varṣā-śāṭi-gata 過受分 漢訳 雨衣過量，(於雨浴衣)
Mvyut.
varṣāśāṭi-gopaka 男 漢訳 収雨衣者，(蔵雨衣人)
Mvyut.
varṣāśāṭi-civara 甲 漢訳 [*Pāli vassika-sāṭika-civa-*
ra] 雨衣，雨浴衣 *Mvyut.*, *Prāt-m.*
varṣāśāṭy-akāla-pariṣṭi-dhāraṇa 甲 漢訳 或求或持
非時雨浴衣，執持非夏大夏布 *Mvyut.*
varṣi-samaya 男 雨期。
varṣika 形 (一°)(いくばくかの)歳をとった；漢訳
年，歳 *Lal-v.*, *Vin.*
varṣitā 因 (雨水または財宝の)降り注ぐこと。
varṣitr 男 雨を降らす者，賦与者。
varṣin 形 (一°，きわめて普通)の雨を降らせる，…を注ぐ，
…を賦与する；たくさんの涙を流す(まれ)；(一°；

まれ)(いくばくかの)歳をとった；漢訳 雨 *Sikṣ.*
varṣiṣṭha 最上 [varṣman に含まれる語基の最上]；
意味上は vṛddha の最上；ほとんどもっぱら 因] 最高
の，最上の，最長の，最大の；非常に大きい(P.)。
varṣiyas 比較 [前項参照] (主として 因) より高い，よ
り以上の；(因) より長い，…より大きい；大きい，
相当に大きい；繁栄する(大地)；(因) より良い；年
老いた。
varṣuka 形 雨の多い；(業；團)を雨降らす，…を注
ぐ。
varṣopanāyikā (°ṣa-up°) 因 雨期の近づくこと，雨安
居のはじまり (*Divy.*)；漢訳 [*Pāli vassūpanāyikā*]
備具(!)，(入雨安居)，坐 *Mvyut.*
varṣopala (°ṣa-up°) 男 ひょう(雹)。
varṣaugha (°ṣa-og°) 男 どしゃ降りの雨。
varṣman 1. 男 (因) 高処，頂；頭頂。2. 甲 高処，
頂，表面，至上(因，P.)；高さ，大きさ，広さ；身
体。
varṣya 形 因 雨の多い。
Val, I valati(-te) (業，因，abhimukham) を廻る，…
をめぐる，…に向かう；帰宅する；出発する，再び
出かける；勃発する，出現する。過受分 valita 廻
った，曲った；出発した；勃発した；(一°)に伴わ
れた。使役 他 vālayati (波を)うねらせる；回転さ
せる。
ā- 過受分 廻転させられた。
vi- 避ける。過受分 避けられた。
saṃ- 過受分 (團，一°)と会合・結合・混合または連
結させられた。
val, [y 以外のすべての子音に対する pratyāhāra]。
vala 男 ほら穴(因)；[水を奪いかくす悪魔で *Vṛtra*
の兄弟とされ *Indra* に征服される(しばしば *Bala* と
書かれる)]。
valaka 甲 行列；漢訳 戒指，戒止 *Mvyut.*
valañjita 過受分 仏教 [*Pāli* 同] 跡をたどる，踏
む，実行する，旅行する (*Mah-v.*)。
valana 甲 廻転すること；波うつこと；出現。
valantikā 因 身振り(の一種)。
valabhi (より普通に -i) 因 棟，家の頂上または尖塔。
valabhikā 因 [同上] 番小。
vala-bhid 男 *Vala* の破壊者，*Indra* 神。
valabhi 因 → valabhi；[*Saurāṣṭra* のある町の名]。
valaya 男 甲 腕環，腕飾り(男女とも着用する)；環；
周因(一° 形 …によって囲まれた)；漢訳 釧，(腕
環) *Mvyut.* 男 円陣 [の一種]；群衆，群(まれ)。
valayita 名動 過受分 (團，一°)によって包圍または
取り巻かれた；(腕に)巻かれた(腕飾り)；円形をな
す。
valayin 形 腕環をつけた；(一°)で取り巻かれた。
valayi-Kṛ, 他 腕環に変えるまたは腕環として用いる。
valayi-BHū, 他 円くなる。過受分 valayi-bhūta 取
り巻く。
valavat 形 *Vala* (という語)を含む。
vala-vṛtra 男 *Vala* と *Vṛtra*。
valavṛtra-niśūdana 男 [*Indra* 神の称]。
valavṛtra-han 男 [同上]。

valāka 男 [=balāka] → b(v)alāhaka; 雲
Lal-v.
valāhaka 男 [=balāhaka] 雨雲または雷雲; 雲;
雲翳, 雲霧 *Kaśy.*
vali 女 (または -i) 皮膚のひだ(皺), しわ(皺); 面
皺 *Av-ś.*; 音写 [花名] 波利 *Mvyut.*
valikā-saṃnāha 男 [=paṭṭikāsaṃnāha] 鏈環
甲(?) *Mvyut.*
valita 過受分 [Val から] 曲った等.
valitaka 男 谷輪鬘 *Mvyut.*
valina 形 しわ(皺)のよった, 縮んだ; 面皺 *Sad-*
dh-p.
vali-pracuratā 女 [面] 皺 *Sikṣ.*
vali-bha 形 しわ(皺)のよった, 縮んだ.
vali-mat 形 [同上].
vali 女 → vali; 皺, 皮皺 *Mvyut., Saddh-p.*
valika 形 一° …重のまたは…層の. 甲 突出したかや
ぶき屋根.
vali-nicita-kāya 男 膚色枯槁, 身体皮皺 *Lal-v.,*
Mvyut.
valimat 形 縮れた(巻き毛).
vali-mukha 男 (皺のある顔をもった), 猿; [ある猿の
名].
vali-vadana 男 猿.
valo moṭa 甲 黄蓮 *Mvyut.*
valka 男 甲 (木の)皮.
valkati-putra 男 [仏弟子の名] 婆檀提子. →
upasena ~ *Vin.*
valkala 男 甲 (木の皮); 樹皮製の布, 樹皮の衣服;
皮, 樹皮, 草衣, 衣樹皮 *Buddh-c., Divy.,*
Lal-v., Mvyut., 梵雜.
valkala-dhara 形 衣樹皮, 樹皮衣 *Gand-vy.*
valkalavat 形 樹皮製の衣服を着た.
valkalāgīna-saṃvita 過受分 樹皮と獣皮とをまと
った.
valkalin 形 樹皮を産する(枝); 樹皮製の衣服をまと
った.
valka-vāsa 甲 樹皮(製)の衣服.
Valg, I. 他 (自 韻律) valgati(-te) (特に喜びのあまり)
はね返るまたは躍る; 疾走する; 揺れる, (無生物が)
踊る; (言葉が)響く. 過受分 valgita 躍る, はね返
える; 揺える, あちこち動く, よく響く.
vyā- 疾走する; あちこち動く; (胸が)揺れる.
vi- 躍る, はね返る.
valgana 甲 はね返ること, 疾走.
valganā 女 (?) 開広 *Mvyut.*
valgā 女 馬勒; [人名].
valgita 過受分 → Valg. 甲 襲歩, ギャロップ; (喜
びのあまり)跳び上ること.
valgu 形 (とくに響き, 声, 言葉が)美しい, 美貌の, 見
事な, 愛らしい, 魅力のある; 微妙, 甘美,
深遠, 美妙, 和雅, 清妙和雅, 清激, 悦可意 *Aṣt-*
pr., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p.,
Sukh-vy. I, II., Sūtr.: ~ svara [仏の名] 妙声 *Av-*
ś. I. 167; 妙声, 微妙音, 深遠音 *Saddh-p. 174., 178.,*
368.

valgulikā 女 箱, 函.

Valbh, I. 自 valbhate 食べる (きわめてまれ).

valmika 男 甲 蟻塚. 甲 [ある地方の名].

valmikāgra 甲 [*Rāmagiri* 中の一峰の名].

valla 男 小麦(の一種); [重さの一単位]; 小荳,
草鬼見愁 *Mvyut.*

vallaki 女 琵琶(の一種); 琴瑟, 簫 *Lal-v., Sa-*
ddh-p.

vallabha 形 いとしい, (男, 女, 一°)の最愛の; (男)よ
りなつかしい. 男 寵愛される人; 愛人; [人名];
所愛念 *Saddh-p.*

vallabha-jana 男 最愛のもの, 情人.

vallabhatā 女 (男, 女, 一°)に対して人望のあること.

vallabha-deva 男 [ある詩人の名].

vallabha-śakti 男 [ある王侯の名].

vallabhācārya (°bha-āc°) 男 [*Viṣṇu* 派の師で新し
い一派の開祖の名].

vallabhi 女 [ある町の名].

vallari (または i) 女 巻きひげ(植物の), 蔓草(また巻き
毛等の 譬喩); 琴, 三弦琴 *Divy., Mvyut.*

vallarika 形 一° [同上 形].

vallā-pura 甲 [ある町の名].

valli (まれ) 女 蔓草(しばしば腕, 眉, 電光等の 譬喩).
→ valli.

vallika-lipi 女 (音写) 波履迦書(六十四書の一)
Lal-v.

valjikā 女 [valli の 指小].

valliki 女 [おそらく vallaki と同じ] ある特殊な楽器
(*Divy.*); 印度琵琶 *Divy., Mah-v.*

vallimat 形 (一°)の蔓をもった.

valli 女 [valli のより普通の形]; 蔓草, 行列
Lank.

vallūra 甲 乾肉; 脯 *Prat-m.*

valvaja, → balbaja.

valśa 男 芽, 枝 [男, P.; balśa と同綴られる].

Valh, I. 自 valhate (男, まれ) 試問する, 謎を提出す
る.

pra- [同上]. 過受分 pravalhita 謎のような.

vavra 形 [Vr 1. から] 身を隠す (RV.). 男 隠れ場
所, 洞窟 (RV.).

vavri 男 (RV.) [Vr 1. から] 隠れ場所; おおうこと,
衣服; 体.

Vaś, III. 重字 vivaś (男 用例二回のみ), vavaś (RV.
用例一回のみ), II. 他 韻律 vaś, 弱 us (男, 韻). (また 男
不定 とともに; RV.) を欲する, …を命令する; (男,
韻)望む, 切望する, 好む; (男 まれ)肯定する, 主張
する, 宣言する. 現分 usat, usāna, 強 韻 vavaśāna
(男) 欲する, 喜ぶ, 熱心な; usat (P.) 魅力ある.
現分 自 usamāna (RV. 用例一回のみ) 命令する, (権
力を)にぎる. 使役 他 vaśayati 支配下に収める,
征服する.

vaśa 1. 男 意志, 願望, 欲望; 力, 支配, 権威, 主
権; [*Aśvin* 神の被保護者の名]; [ある民族の名].

一° 力, 勢力 *Abh-vy., Aṣt-pr., Bodh-bh.,*

Lank., Śikṣ., Sūtr., Vijñ-v. → artha-vaśa. 一°

形 …に従う, …の勢力下にある, …に征服された;

近, 親近, 随, 随順 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Śikṣ.*
 圓, 徇, -tas (圓, 一般に 一°)の命令によって, …
 の力によって, …のゆえに, …によって, …に従っ
 て; 圓 由…力, 随勢力, 随 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-*
bh. → *praṇidhāna* ~. 徇 由, 以…故, 故 *Bodh-*
c.: *jñāna-vaśāt* 由於智. → *yathātura* ~, *chan-*
da ~. [圓 (また合成語として), ‘行く’ という意味
 の動詞すなわち *I*, *Gam*, *Yā* とともに] (圓, 一°)の支
 配下に落ちる, …に服従する, …に屈伏する; 圓
 随, 随意, 自在(行), 自在游逸 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*,
Madhy-bh., *Mañj-m.*, *Śikṣ.* [Ni または ā-Ni と
 とともに] 服従させる, 征服する. ~e *Bhū*, ~e *Vṛt*,
 ~e *Sthā* (圓, 一°)の支配下にある. ~e *Kṛ*, ~e
sthāpaya, ~e *saṁsthāpaya* 服従させる, 征服す
 る, 支配下におく; 圓 使役 (制), 《統治》 *Mv-*
vyut.: ~e *vartate* 自在, 自在転 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*;
citta ~e *prāptaḥ* 心得自在 *Sūtr.*
vaśa 2. 圓 液体状の脂肪 (圓, まれ).
vaśaṁ-gata 圓 圓 隨 *Lank.*
vaśaṁ-vada 圓 (一般に 一°)の意志に服従した, …に従
 順な, 全く…の勢力下にある, 全く…に依存する,
 …に満ちた, …によって征服された.
vaśaṁvadatva 圓 いんぎん.
vaśa-kara 圓 (圓 -i) 打ち勝つ, 征服する.
vaśa-kāraka 圓 屈服に導く.
vaśa-ga 圓 (圓, 一°)に服従する, …に従順な, …の
 支配下にある, …に依拠する; 圓 隨行, 降伏;
 自在而行 *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Saddh-p.*: *kleśā* ~ 不
 随煩惱自在而行 *Bodh-bh.* 369.; *cittasya* ~ 随心
 行 *Saddh-p.* 467.
vaśa-gata 圓 過受分 [同上]; 圓 順; 得(心)自在, 悉
 得自在; 所摂持, 所摂受 *Gand-vy.*
vaśa-gatva 圓 (一°)に依存すること.
vaśaṁ-karin 圓 圓 敬愛 *Mañj-m.*
vaśatā 圓 (圓, 一°) = *vaśa-gatva*; (圓)を支配するこ
 と.
vaśa-nī 圓 (圓)に服従する (RV.).
vaśa-vartana 圓 圓 自在転 *Bodh-bh.*, *Madhy-vi-*
bh.
vaśa-vartanatā 圓 圓 隨自在転 *Bodh-bh.*
vaśa-vartitā 圓 圓 自在, 自在転, 自在而転 *Bodh-*
bh., *Gand-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.* → *sa-bhaya* ~.
vaśa-vartin 圓 (圓, 一°)の支配下にある, …に服従す
 る, …に対して謙遜なまたは従順な; …を支配する,
 統治する; 圓 隨属 *Abh-vy.*; 自在 *Lal-v.*, *Lank.*,
Sūtr. 圓 圓 自在, 自在(天), 自在而転, 他化自
 在 *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*: ~ *ti devarāja* 他化自在
 天王 *Bodh-bh.*
vaśa-varti-manaskāra 圓 圓 自在作意 *Sūtr.*
vaśa-stha 圓 の支配下にある.
vaśā 1. 圓 牛(圓); 不妊の牝牛; 牝象(圓).
vaśā 2. 圓 (= *vaśā*) 圓 脂, 肪膏 *Śikṣ.*
vaśānuga 圓 (圓, 一°)の意志に従う; …の意志のま
 まになる, …に従順な; 圓 隨順, 自在隨行; 心
 所樂 *Abh-vy.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*
vaśika 圓 うつろな(きわめてまれ); 圓 (不)自在, 不

自在 *Aṣṭ-pr.*, *Suvik-pr.*: *ārambāna-vaśikāni* 力
 所縁境不自在 *Aṣṭ-pr.* 550.; ~ *svabhāva* 無実
Suvik-pr.
vaśitā 圓 あらゆるものを自分の意志に従わせる超自
 然的な力, 無限の力; 圓 自在, 得自在, 有力 *Bodh-*
bh., *Gand-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Mvyut.*
Saddh-p., *Sukh-vy.I.*, *Sūtr.*: ~ *prāpta* 得自在
Bodh-bh.; ~ *prāpti* 一切自在, 証得自在 *Bodh-bh.*
caturdhā ~ 四自在, 四種自在 [1. *nirvikalpa* ~
 無分別自在, 2. *kṣetrapariśuddhi* ~ 浄土自在, 3.
jñāna ~ 智自在, 4. *karma* ~ 業自在] *Madhy-*
v. 105.; *daśa bodhisattva* ~ 菩薩十自在 [1. *āy-*
 ~ 命自在, 2. *citta* ~ 心自在, 3. *pariṣkāra* ~ 身
 自在, 4. *karma* ~ 業自在, 5. *upapatti* ~ 生自在
 6. *adhimukti* ~ 勝解自在, 7. *dharma* ~ 法
 自在, 8. *praṇidhāna* ~ 願自在, 9. *ṛddhi* ~ 神通
 自在, 10. *jñāna* ~ 智自在] *Mvyut.* 26.
vaśitā-māhātmya 圓 圓 自在大 *Sūtr.*
vaśitāśraya (°*tā-āś*°) 圓 圓 自在(所)依(止), 自
 依(処) *Madhy-bh.*
vaśitva 圓 意志の自由, 独立; (圓)を支配すること
 克己; 圓 自在, 自在力, 順成(!), (自在性), 増
 無違 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*
Mvyut., *Sūtr.*: ~ *karāṇa* 所作自在(十八変の一
Bodh-bh. 58.
vaśin 圓 支配する; 喜んで…をする, 従順な(まれ)
 自己を抑制する(普通の意味); (自由に使用できる =
 空虚の(まれ); 圓 自在, 心得自在 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-*
bh., *Lal-v.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*: *na cittasya* ~ 心不自
Śikṣ. 20.; *dharme vaśi* 自在法 *Sūtr.* 圓 (圓)の
 配者, 主; 圓 自在者, 自在天, 自在宮 *Lank*
Rāṣṭr.
vaśini 圓 主婦 (RV.).
vaśi-prāpta 圓 [Pali *vasippatta*] …を支配す
 (Divy.).
vaśi-bhāvānuvartana 圓 圓 自在隨行, 隨從自
Abh-vy.
vaśi-bhūta 圓 = *vaśi-bhūta*; 圓 自在者 *Saddh-*
vaśi-rāja-mahāmaṇi-ratna 圓 圓 (音写) 自在王
 尼宝 *Śikṣ.*
vaśiṣṭha 圓 圓 音写 [牟尼の名] 婆私皷 *Buddh-*
vaśi-kara 圓 (一°)に従わせる, …に打ち勝つ.
vaśi-karāṇa 圓 (圓, 一°)の征服(魔法による場合に
 用いる); 圓 親昵, 愛敬, 生敬愛; 召伏, (敬
Aṣṭ-pr., *Mañj-m.*, *Mvyut.*
vaśi-kāra 圓 征服.
vaśi-Kṛ, 服従せしめる, 束縛する, 打ち勝つ.
vaśikṛta 圓 過受分 圓 制 *Bodh-c.*
vaśi-BHū, …に服従する; 圓 得自在 *Śikṣ.*
vaśi-bhūta 圓 服従した, 従順な, 謙遜な; 圓
 在, 得自在, 得真自在, 心自在, 具自在, 自在者
 心自在者(阿羅漢) *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Mvyut.*
Saddh-p., *Sam-r.*
vaśya 圓 …の力または意志に従う, 謙遜な, おとな
 い, 従順な. 圓 力, (だれかを支配する)超自然的
 力または(それを得るための)咒法; 圓 敬愛; 得

在；繫属 *Bodh-bh., Guhy-s.* → para ~.

vaśyatī 因 (因, 一) に服従すること；謙遜, 従順；
 自在随属 *Bodh-bh.*

vaśya-putra 男 孝子 *Bodh-bh.*

vaṣaṭ 不変 [yājyā 頌の終わりに *Hotṛ* 祭官によつて発せられる詞で, これと同時に *Adhvaryu* 祭官は供物を火中に投ずる(神の 因 とともに用いられる)]；**vaṣaṭ-Kṛ** 感嘆詞 'vaṣaṭ' を唱える；**婆娑**, 無遮地 *Lal-v., Mvyut.*

vaṣaṭ-kāra 男 感嘆詞 *vaṣaṭ.*

vaṣaṭ-kṛta 過受分 感嘆詞 *vaṣaṭ.* によつて神聖化された. **anu-vaṣaṭ-Kṛ** *ānuvaṣaṭkāra* (*Agni sviṣṭakṛt* に捧げられる献供に際し *Hotṛ* 祭官の唱える文句, 例:somasyāgne vihi) を唱える.

vaṣaṭ-kṛti 女 感嘆詞 *vaṣaṭ* (RV.).

vaṣaṭ-kṛtya 未受分 甲 非人 *vaṣaṭ* を唱えるべきである.

vaṣṭi 形 進んで行なう (RV. 用例一回のみ).

vas 1. 附帯 [第二人称の 業, 因, 属 の 因].

vas 2. 形 (一) を着た.

Vas 1. VI., 因 **ucchati**, (因) (夜が白むことについて) 明るくなる 輝やく(とくに夜明けに適用されて)；(因) に輝きわたる (RV.)；光明によつて(遠く *dūre*) (業) 駆逐する. 使役 *vāsayati* 他 輝かせる (RV.).

apa- 光をもって追い払う.

vi- 光る, 閃く, 夜が明ける；**vyuṣṭa** 明るくなった, (夜について)；(因, 業) 明けた.

pari-vi- (因) (から=) の後に輝やく.

Vas 2., II. 因 **vaste** 着ける, 着る(因, 業)；自身を包む(ある形等)をとる, 入りこむ(因). 使役 他 **vāsayati** (因, 業) (衣服を)纏わせるまたは着させる；(真) を着せる. 因 因 で自身を包む.

ni- 着る, 身につける. **nivasita** (真) を着た. 使役 *nivāsayati* (衣服を)着る；**著**, 著衣, 整理裳服 *Lal-v., Prāt-m., Vajr-pr.* **nivāsita** (真) を着けた；(一) に従事した.

saṃ- (真) で自身を包む (RV.).

Vas, 3. I. 他 **vasati** (業 では 自 韻律；因 ではただ 過受分 *vāvasāna* のみ, しかも *saṃ* とともに) (ある場所に) 留まる, (一晚)泊る(±*rātrim*), 休止する, 止まる, 滞在する, 滞留する, 住む, 生活する；存在する, (因) がある；(因) に留まる, 依存する；(業 とともにある状態に) 留まる, 住居(*vāsam, vasatim*)を定める, (純潔を)守る；(*dūratas* とともに)離れている；(*sukham* とともに) 楽しくまたは気楽に暮らす；**住**, 宿, 止住, 止宿, 居, (依)住 *Abh-k., Prāt-m., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy.I.* **uṣita** 過ぎされた, 過ぎ去った(時)；引退した(場所)；止まった, 夜を過ぎた, 留まった, 滞在した, 不在であった, 住んでいる, 待っている(場所は 因 または 一°, 時間は 業 または 一°)；…と (*saha*) 同食した；立っているまたは置かれている(物について, とくに夜通し)；場所は 因 または 一°, 時間は 業 または 一°. 甲 非人 (因) に滞在した, (因 において)時が過ぎた. 使役 *vāsayati(-te)* 他 自 夜通し休止または滞在させる, 宿泊させる；住まわせる；待たせる, 気をもませる (RV.)；

遅らせる, 手間どらせる；存在させる, 保存する；人々を住ませる；(因) の上に置く；(沈黙を *anadh-yāyam mukhe*) 守る；産出する.

adhi- 占める, (ある場所に)定住する. **adh-yuṣita** 占められた, 居住された；(因) に住んでいる. 使役 *adhi-vāsayati (-te)* 夜通しそのままにしておく；耐える, 我慢する；(因) に同意する, 受諾する；**起**, 受, 可, 肯, 許, 受請, 然可, 哀愍受, 受所請, 不制止, 忍, 忍受, 堪忘, 安忍, 能忍受, 樂為 *Bodh-bh., Divy., Lal-v., Lank., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr.*

anu- (業) に従つてある場所へ行く.

antar- …の内部に住む.

ā- (因) に留る, 住む；占める, 居を定める, 居住する；(教団)に入る；(女 業) と性交する；**住** *Lal-v.* 使役 *āvāsayati* 自己の家に迎える；占める, 定住する；休息する, (夜間に)野営する. **āvāsita** (一) によつて占められた.

adhy-ā- 占める, 居住する；(因) に住む；(業) に着手する, …に専念する；**在**, 在居, 処居；令安, 復安 *Aṣṭ-pr., Mvyut.*

sam-ā- 休止する, (夜間に)野営する；占める, 居を定める, 住む. 使役 *samāvāsayati* 休止する, 野営する, 居所を定める. **samāvāsita** (因 の意味を有する).

ud- 使役 他 自 *udvāsayati(-te)* その場所から移す(例祭壇から火を等)；荒廃させる.

upa- (業) にまたは (因) の中 とどまる；待つ；(食事を待つ), 断食する(食物または時の 業 とともに).

uपोषita 断食した, 断食している. 使役 *upavāsayati* 断食させる.

ni- (因) に留まる, …に住む；**住**, 在 *Raṣṭr.*

adhi-ni- 自己の住居として選ぶ.

saṃ-ni- (真) とともに住む, …とともに暮す.

nir- (終りまで)生き長らえる. 使役 *nirvāsayati* 自己の住居から追い出す, (因) から(業) に放逐するまたは追放する；**引出** *Bodh-bh.*

pari- (真) とともに留まる, …とともに住む；**saṃ-sargitayā** ~ (業) と連合する. **paryuṣita** 夜を過ぎた；一晩中留まった, 昨日の, 気のぬけた, 腐敗した(食物等). 使役 *parivāsayati* 一晩中放置する.

pra- 国外に滞在する, 家庭を離れる, 旅に出る, 出発する；見えなくなる, 止む. **proṣita** 留守である, 旅行中である, 国外に滞在している；抹殺された；没した(太陽). 使役 *pravāsayati* 追い出す, 追放する；**逐之**, 驅擯 *Bodh-bh., Mvyut.* 希求 他 *pra-vivatsati* 旅行をしようと思う, (因) からまさに出発しようとしている.

vi-pra- 旅に出る, 国外に行くまたは住む；**離**, 失, 遺失 *Daś-bh.* **vi-proṣita** 家にいない, (業) に出発した；追放された. 不変 因 **vi-prosya** 旅行した後に. 使役 *vipravāsayati* (因) から追放する. **saṃ-pra-** **見えなくなった**, 没した(太陽). **prati-** 住む；**住**, 処, 居止, 居住, 有, 安住, 安止 *Abh-k., Av-ś., Bodh-bh., Saddh-p.,*

Śikṣ. 使役 **prativāsayati** (自己の家)に宿泊させる, 迎える.
vi- (從)から去る; (時間を: 業)費す, 過す. 過受分
vyuṣita 留守の; (時間を: 業)過した; (一°)によ
 って住まれた. 使役 **vivāsayati** (自己の)居住から追
 放する, 追い出す, 解雇する.
saṃ- 他 固 一緒に住む; (業, 固 ±saha) と暮らす
 または同居する; (於)に住むまたは暮らす; (時間を)
 過す, 費す. 使役 **saṃvāsayati** (固 ±saha; 因)
 とともに生活させる; 自己の家に迎える, 宿泊させ
 る; 漢訳 住, 共宿; 熏習 *Abh-ry., Aṣṭ-pr., Prāt-m.*
Vas 4. 使役 他 **vāsayati** (きわめてまれ).
ud- 切り離すまたは取る (?).
ni- 過受分 **nivāsita** 生命を奪われた(異読 -pātita).
pari- (まわりを)切り離す, 切り出す (*Br., S.*).
vasati 因 一晚泊ること; 留まること, 住むこと, 滞
 在; 巢(因); 住所, 住居, 家; (屬, 一°)の座(譬喩);
 夜(まれ). ~m **Kṛ, Grah** または **Bandh** 夜を過ご
 す; (於)に住居を定める. **tisro vasatir uṣitvā** 三
 宿駅に留まって, 三夜を過ごして.
vasati-druma 男 その下で夜を過ごす樹木.
vasati-vari 因 覆 前夜に(汲んでおく)水(ソーマ祭の
 前夜に流れから汲まれる祭式用の水).
vasana 1. 固 (一°)に住むこと, …に滞在すること,
 …に居住すること; 漢訳 住 *Abh-k., Abh-ry.*
vasana 2. 固 着物, 衣服, 衣類(固: 上下衣); 一°, …
 を着た, また 譬喩 =…に取り囲まれた, (教義)に愛着
 をもつ; 漢訳 衣, 衣服; 貪欲, 貪劣 *Mṛyut., Śikṣ.,*
Sātr.
vasanavat 形 衣をまとった.
vasana-sadman 固 (布の家), テント.
vasanānta 男 漢訳 衣裏? **antariye vasanānti** (鬚頰)
 內衣裏 *Saddh-p.*
vasanārṇava 形 海に囲まれた.
vasanta 男 春(または擬人化されたもの); [人名];
 漢訳 春, 春正二月 *Aṣṭ-pr., 梵雜., 梵千.*
vasantaka 男 春.
vasanta-kāla 男 春季; 漢訳 春時 *Diry.*
vasanta-kāla-samaya 男 春分 *Lal-v.*
vasanta-gandhin 男 香春[仏名] (*Lal-v.*).
vasanta-tilaka 固 春の飾り; [韻律の一種], (また 因
 -ā). 男 [人名].
vasanta-puṣpa 固 春の花.
vasanta-bandhu 男 春の友, 愛の神.
vasanta-bhānu 男 [ある王の名].
vasanta-mahotsava (°hā-ut°) 春の大祭.
vasanta-yodha 男 春という戦士, 愛の神.
vasantā-rāja 男 春という王; [ある文法家の名].
vasanta-rājiya 固 [Vasantarāja によって作られた
 著作].
vasantartu (°ta-rtu) 男 春の季節.
vasanta-lekhā 因 [人名].
vasanta-śri 因 春の華美.
vasanta-sakha 男 春の友, [*Malaya* から吹いて来る
 風の称].
vasanta-samaya 男 春の時節.

vasanta-sahāya 男 愛の神.
vasanta-sena 男 [ある王の名].
vasanta-senā 女 [人名].
vasantā 固 春に (因).
vasantotsava (°ta-ut°) 男 春の祭礼.
vasar-han 形 暁に撃つ (*RV.* 用例一回のみ).
vasavāna 男 財産の所有者または保存者 (*RV.*).
vasavya 形 (因) 富裕な(神々). 固 富(因).
vasā 因 牛脂, 豚脂, 脂肪; 腦; 漢訳 脂肪, (肪)膏,
 膏 *Bodh-c., Mṛyut., Śikṣ.*
vasāti 因 暁 (?; *Nirukta* の引用文中に一度だけ)
 る. 男 [ある民族の名(覆)]; [人名].
vasā-maya 形 (因, -i) 脂肪からなる.
vasāvāśeṣa-malina (°sā-av°) 形 脂肪の残りです汚
 た.
vasā-homa 男 脂肪を神に捧げること.
vasika (= **vaśika**) 形 漢訳 得自在; 虚 *Lal-v., Ma*
dhy-v.
vasita 過受分 [Vas 3.]. 漢訳 在 *Lal-v.*
vaśiṣṭha (意味上 **vasu**) 最上 最善の, 最も優れた,
 も富んだ(因 叙詩). 男 [主なヴェーダ聖仙の一人の
 名], [*RV.* の第七 *Māṇḍala* の作者の名]; [固]
 おいては七聖仙の一人と見なされ立法者として挙げ
 られる(しばしば **vaśiṣṭha** と誤って綴られる)]; 漢
 安住(仙名) *Mṛyut.*
vasiyas (意味上 **vasu**) 比較 (從) よりよい, より
 く暮す, より富んだ(因).
vasu 形 [因 -vi] 善い, 善良な(因). 男 [諸神および
 一般に神々の 称; 覆 *Vasu* 神群, 神々の一部類,
 の数は通常八; *Indra* 神が, 後世には *Agni* およ
Viṣṇu 神がその首長]; 光線(固 まれ); [人名]. 固
 財貨, 富, 所有(因, 固 きわめて普通); 黄金(固 きわ
 てまれ); 宝石, 真珠(固 きわめてまれ); 漢訳 世,
 宝, 天, 物, 財物; 置写 婆藪(天), 婆蘇 *Buddh-c*
Madhy-v., Mṛyut., Raṣṭr.
vasu-kṛt 男 [*RV.* のある詩人の名].
vasu-kra 男 [同上].
vasu-da 形 富を与える.
vasu-datta 男 [人名].
vasu-dattā 因 [同上].
vasudatta-pura 固 [ある町の名].
vasu-dā 形 富を与える, 惜しまず与える(因).
vasu-dāvan 形 [同上] (因).
vasu-deva 男 (*Vasu* の神群を神格としてもつ), [あ
 王の名, *Kṛṣṇa* の父]; [諸人の名].
vasudeva-putra 男 [*Vasudeva* の子, *Kṛṣṇa*].
vasu-dhā 形 富をもたらす, 物惜しみせず与える (固
 まれ).
vasu-dhā 因 (固) 大地; 国土, 地域; 地面; 漢
 地, 大地 *Abh-ry., Mañj-m., Madhy-v.*
vasudhā-tala 固 大地の表面, 大地; 地面.
vasudhā-dhara 形 大地を支えているまたは保つ (*V*
ṣṇu 神). 男 山; 王.
vasudhādhipa (°dhā-adh°) 男 大地のまたは国土の主,
 王.
vasudhādhipati 男 [同上].

vasudhāhipatya ㊦ 主権。
 vasudhā-pati ㊦ 王。
 vasu-dhāra ㊦ 財宝を扱う(役人)。
 vasu-dhārā ㊦ 富または贈物の流れ。
 vasudhārā-maya ㊦ 富の流れからなる。
 vasu-dhāriṇi ㊦ 大地。
 vasudhāra-nanda ㊦ [ある王の名]。
 vasudhāra-nemi ㊦ [ある蛇神の名]。
 vasuṃ-dhara ㊦ 財宝を保持するまたは含む。 ㊦ [人名]。
 vasuṃ-dharā ㊦ 大地；国土；土壌；地面；[人名]；
 ㊦ 地，土地，塵土 *Buddh-c.*, *Lañk.*, *Saddh-p.*,
Śikṣ.
 vasuṃdharā-dhara ㊦ 山。
 vasuṃdharā-dhava ㊦ 大地の配偶者，王。
 vasuṃdharā-bhṛt ㊦ 山。
 vasuṃdharā-sunāsira ㊦ 王。
 vasu-pati ㊦ 富の主，[*Agni* 神，*Indra* 神 または
Savitṛ 神の称 (*RV.*)], [*Kubera* の称]；[*Vasu* 神
 群の首長(=*Kṛṣṇa*)].
 vasu-pālita ㊦ [人名]。
 vasu-bandhu ㊦ [ある有名な仏教学者の名]；
 ㊦ 世親，天親；
 ㊦ 寫婆蘇畔度，婆蘇槃豆 *Madhy-bh.*,
Mvyut., *Vijñ-v.*
 vasu-bhūti ㊦ [人名]。
 vasumat ㊦ 富を所有するまたは含む，富んだ，*Vasu*
 神群に伴われた。 ㊦ [人名]。
 vasu-mati ㊦ [ある婆羅門の名]；
 ㊦ 善才，具財，大地 *Lañk.*, *Suv-pr.*
 vasu-mati ㊦ (㊦)大地；国土，地域；地面；[人名]。
 vasumati-pati ㊦ 王子；王。
 vasumati-sūnu ㊦ *Vasumati* の息子，*Naraka*.
 vasu-mitra ㊦ [人名]；
 ㊦ 世友；
 ㊦ 寫婆須蜜多羅 *Abh-vy.*
 vasu-rakṣita ㊦ [人名]。
 vasu-lakṣmi ㊦ [*Agnimitra* の義妹の名]。
 vasu-vani ㊦ 富を切望するまたは与える(㊦)。
 vasu-vid ㊦ 富を発見する(㊦)。
 vasu-vinda ㊦ 財貨を獲得する。
 vasu-śakti ㊦ [人名]。
 vasu-śravas ㊦ 善きまたは *Vasu* 神としての名声をも
 つ (*RV.* 用例一回のみ)。 ㊦ [*Śiva* 神の 称] (㊦)。
 vasu-sampūrṇa ㊦ 富をもって満たされた。
 vasūyā ㊦ 富の欲望によって(㊦)。
 vasūyu ㊦ 富を欲する (*RV.*)。
 vastavya ㊦ 未受分 費されるべき(時間)。 ㊦ 非人 (㊦)
 の中に または…とともに滞在または居住すべきである。
 vasti ㊦ 膀胱。 ㊦ 下腹部(へソの下)。 ㊦ ㊦ 洗浄器；
 ㊦ 密処(勢峯) *Mvyut.*
 vasti-kośa ㊦ ㊦ 蔵隠，密(相) *Buddh-c.*
 vasti-guhya ㊦ ㊦ 勢峯，蔵密 *Bodh-bh.*
 vasti-mūla ㊦ (底=)膀胱の口。
 vasti-śirṣa ㊦ ㊦ または ㊦ 膀胱のくびれた部分。
 vastu 1. ㊦ (㊦)明るくなること，夜が明けること；
 朝。 *vastoh* ㊦ 朝に；*vastor vastoh* 毎朝；*vastor*

asyāḥ 今朝；*prati vastoh* 明け方に。
 vastu 2. ㊦ (㊦)所(まれ)；物，物質，事物；実在する
 物；適当な物。価値ある事物；(一°)の対象；事柄。
 事情；問題，題目，構想，主題，内容；
 ㊦ 物，事，法，諸法，具，実事，体相，体事，世事，事物，
 妙物，事相，事性，本有；依，依処，依止，依事，
 処(所)依縁事，所依法，種，種類及境界；類；根
 本，根本分 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gauḍ-
 vy.*, *Kāśy.*, *Lañk.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*, *Madhy-
 vibh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*, *Sūtr.*,
Vajr-pr., *Vijñ-t.*, 梵千., 梵雜.; 十七時分 [1. pravraj-
 yā-vastu ~ 出家事, 2. poṣadha- ~ 長淨事, 3.
 varṣā- ~ 安居事, 4. pravāraṇa- ~ 隨意事, 5. ka-
 ṭhina- ~ 羯耻那衣事, 6. civara- ~ 衣事, 7. carma-
 ~ 皮革事, 8. bhaiṣajya- ~ 藥事, 9. karma- ~
 羯磨事, 10. pratikriyā- ~ 改作事, 11. kālākālasaṃ-
 pad- ~ 合時非時事, 12. bhūmyantarasthacaraṇa-
 ~ 住行余処事, 13. parikarmaṇa- ~ 補戒分(?),
 14. karmabheda- ~ 破羯磨事, 15. cakrabheda- ~
 破輪事, 16. adhikaraṇa- ~ 諍事, 17. śayanāsana-
 ~ 牀座事] *Mvyut.*: ~...rūpādi-saṃjñaka 色等
 五陰 *Sūtr.* °— 實際に。
 vastuka ㊦ (一°)を内容として有する(anūna- 重大な
 内容を有する，異常な)；
 ㊦ 事 *Bodh-bh.*: sarva-
 vastukaṃ duḥkham 一切事苦 *Bodh-bh.*192. →
 anūna ~。
 vastu-kṛta ㊦ ㊦ 作物，当倚 *Mvyut.*
 vastu-grāhaka ㊦ ㊦ 事能取 *Bodh-bh.*
 vastu-jāta ㊦ 事物の集合。
 vastu-tantra ㊦ 事物に依存する，客観的な。
 vastutas ㊦ 實際に；(一°)の本性によって；
 ㊦ 品類 *Sūtr.*
 vastutā ㊦ (一°)の対象であること，真実。 ㊦ 實際
 に。
 vastutva ㊦ 真実；
 ㊦ 有物，実；法体 *Bodh-c.*,
Lañk.
 vastu-dāna ㊦ ㊦ 財行施，物施，施…施物 *Bodh-
 bh.*, *Sūtr.*
 vastu-dṛṣṭi ㊦ ㊦ (有無)事見，有無見，有無一切諸
 著 *Lañk.*
 vastu-dharma ㊦ ㊦ および ㊦ 事物の本性。
 vastu-patita ㊦ ㊦ 墮 *Śikṣ.*
 vastu-paryeṣāṇā ㊦ ㊦ 物求，縁物，事尋思 *Bodh-
 bh.*, *Sūtr.*
 vastu-pāṇi ㊦ 事物を手を持った。
 vastu-prativikalpa-vijñāna ㊦ ㊦ 分別事識 *Lañk.*
 vastu-prativijñapti ㊦ ㊦ 事表了，事施設 *Śikṣ.*
 vastu-bhāva ㊦ 真実。 ㊦ ㊦ 實際に。 → *ārya* ~。
 vastu-bheda ㊦ 事実上のまたは本質的な差異。
 vastumātra ㊦ ある主題に関する単なる梗概；
 ㊦ 唯…事 *Bodh-bh.*
 vastu-racanā ㊦ 事物の整理，構想を練ること。
 vastu-lakṣaṇa ㊦ ㊦ 事相 *Sam-r.*
 vastuvat ㊦ 事物を具えた。
 vastu-vidyā ㊦ (*Pāli* *vatthu vijjā*) 家相学，宅地学，
 ㊦ 相宅地 *Mvyut.*

vastu-vṛtta ㊦ 事実；美しい生物。
vastu-śakti ㊦ ㊦ および ㊦ 環境の力。-tas ㊦ 環境の力によって。
vastu-sāsana ㊦ 真正の布告，布告の原文。
vastu-sūnya ㊦ 真実性を欠いた，真実でない。
vastu-saṃgrahaṇi ㊦ ㊦ 撰事分 *Bodh-bh.*
vastūtthāpana ㊦ (㊦ -ā) 事物の案出，あり得ない原因による事件を作り出すこと(戯曲)。
vastūpamā ㊦ 二つの物を直接比較すること [その共通性は省略される。 ㊦ 汝の顔は蓮華のごとく(く美し)].
vastūpahita ㊦ ㊦ よい目的に対して払われた(労苦)。
vastya ㊦ 住居，家。
vastra ㊦ 着物，衣服；布；㊦ 衣，衣服，衣物，上衣；布，繒絲；畳，氈，氈布；氈衣段 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-c.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Laṅk.*, *Mṃyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suvik-pr.*, 梵千.: *vastreṇa pidhā* 裏著懐中 *Divy.* 31.
vastraka ㊦ [同上].
vastra-knopam ㊦ 衣服をぬらして。
vastra-cchedana ㊦ ㊦ 割截衣 *Laṅk.*
vastra-da ㊦ 衣服を給する。
vastra-daśā ㊦ 着物の縁。
vastra-dhāvin ㊦ 衣服を洗う。
vastra-dhvaja ㊦ ㊦ 衣幢 *Gaṇḍ-vy.*
vastrapa ㊦ ㊦ [民族の名].
vastra-parikṣā ㊦ ㊦ 別衣。
vastra-pūta ㊦ ㊦ 布で漉された；㊦ 漉 *Laṅk.*
vastra-peṭā ㊦ 衣類を入れる箱。
vastra-prada ㊦ ㊦ 施他衣服 *Bodh-bh.*
vastra-mukhya ㊦ 衣服を第一のものとする(装飾)。
vastra-yugala ㊦ 一組の衣服。
vastra-yugma ㊦ [同上].
vastravat ㊦ 美服を着た，美しく着飾った。
vastra-veṣṭita ㊦ ㊦ 衣服をまとった，美装した。
vastrāñcala ㊦ 衣服の縁。
vastrānta ㊦ [同上]. ㊦ 衣角，衣裏 *Divy.*, *Saddh-p.*
vastrāntara ㊦ (もう一つの衣=)上衣。
vastrāpahāraka ㊦ 衣服盗人。
vastrārtham ㊦ ㊦ 由衣服 *Suv-pr.*
vastrārdha ㊦ ㊦ 衣服の半分。
vastrārdha-prāvṛta ㊦ ㊦ 半衣を纏った。
vastrāvakarta ㊦ 衣服の小片。
vastrāya ㊦ ㊦ *vastrāyate* 衣服を表わす。
vastrin ㊦ (一°)=*vastraka*.
vastrotkarṣaṇa (°tra-ut°) ㊦ 衣服を脱ぐこと。
vasthita ㊦ ㊦ =*avasthita*. → *Sthā*.
vasna ㊦ 価格；価値。
vasnya ㊦ 売られる (RV. 用例一回のみ)。
vasman ㊦ 衣服 (RV. 用例一回のみ)；巢 (RV. 用例一回のみ)。
vasyas ㊦ ㊦ (従)よりよい，…よりすぐれた；…より有名な，…より富んだ。 ㊦ 富または繁栄の増大

すること。 → *vasiyas*.

vasv-anta ㊦ *Upagupta* の息子。

vasv-okasārā ㊦ [=*vasvaukasārā*].

vasv-auka-sārā ㊦ [*Kubera* の都の名]；[河の名]

Vah, I. vahati(-te) 1. ㊦ 輸送する，(車または舟)

㊦ 運搬する；(車を)引く，(馬を)馭する；導く

(空中に)運ぶ，(神々に供物を)もたらす (*Agni* 神

ついて)；水を運んで行く(川について)；(涙を)

㊦ 放散する，(詩を)普及させる；(岩等を)運び去るまたは運

㊦ ってくる(風について)；家に連れてくる，結婚する

とんど常に男の場合)；同伴する；(真， ㊦)にのせて

㊦ ぶ；(頭を)高く (*uccaistarām*) あげる；子を孕

(*garbham* とともに)；(着物を)着る；(大地を)支える

は維持する(=統治する)；耐え忍ぶ；所有する，肉を

(を)持つ；(火，毒，はかりによる試罪法)を受ける；

㊦ 験する，(苦痛等を)感ずる；装う，示す，(美等を)表

㊦ す；(罰金を)支払う；(時を)過ごすまたは費やす。

㊦ ㊦ 戦車にまたは馬に(真)乗る，(馬が)馬車を引く

㊦ 駆る，走る；舟で(真)行く；泳ぐ；(風が)吹く；遠

㊦ 去る，(年が)経過する；㊦ 御，乗御，乗策；漂

㊦ 流，簸颯，簸却；行，泛，遊，遊履；通，馳騁；

㊦ 牽引；運行；相続；懐；負，担，担負；擎捧 *A*

vy., *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*, 梵

㊦ ㊦ *uhyate* (真)によって・にのせてまたはに入れて

㊦ せられる・ひかれる・荷なわれるまたは運搬され

㊦ ㊦ *ūḍha* 運ばれたまたは連れ去られた，盗ま

㊦ た，(水によって)洗い去られた；結婚した；(一°

荷なわれた，…で運ばれた；示された，現わされた

㊦ ㊦ *vāhayati* ㊦ (自 韻律)(戦車を)御す，(馬を)

㊦ す；(馬車で)運搬する；(舟を)推進する；駆る，(

㊦)に駆って行く；(真)によって運ばせる；…によ

㊦ ㊦ 自分を運ばせる，(業)に乗る；(真)にのせて(業)に

㊦ ばせるまたは運ぶことを命ずる；(道を)横ぎる，

㊦ 行を)終る；(屠畜場を)就業させる，経営する，維持

㊦ ㊦ ㊦ *vāhyate* ㊦ 駆られる，押しやられる，

㊦ がされる(譬喩にも)；運ばれるまたは荷なわれる；

㊦ が踏まれる。 ㊦ ㊦ *vāhita* 運搬された

㊦ ㊦ 服用された(薬)；欺かれた。 ㊦ ㊦ *vāvahiti* (自

を)荷なう。

ati- …を通過して運ぶ(㊦)；(時を)過ごす。 ㊦ ㊦

vāhayati 輸送する；通り越す，見事に通過する

(時を)過ごす(普通の意味)。

adhi- 運ぶ。

anu- (業)を導く(㊦)；(業)に来る(RV.)。 ㊦ ㊦ まね

の如くなる。 ㊦ ㊦ 運ばれる(川によって)。

apa- 運び去る；馭り去る，除去する；(衣服を)脱

㊦ すてる；離れる，捨てる；㊦ 除 *Abh-vy.* ㊦

apodha. ㊦ ㊦ *apavāhayati* ㊦ 馭りまたは導き去る

㊦ ㊦ 逐する，退かせる；離す。

abhi- 持って来る；(業)に導く。 ㊦ ㊦ *abhivāha*

(時を)費やす(*ati* の誤)；㊦ ㊦ 守護；拔濟，

Gaṇḍ-vy.

ā- 導いて来る(㊦)；(業)に持参する；もたらす，

㊦ える，ひき起こす，生ずる(普通の意味)；(花嫁を)

㊦ 連れて来る；支払う(まれ)；(主権の重荷)を担う(

治する)；装う，現わす；**漢訳** 起，生；引，引生；捉 *Abh-ry., Lanik.* **使役** *āvāhayati* (とくに神々を祭式に)勸請する；**漢訳** 請召 *Suv-pr.* *abhy-ā-* もたらす。
upā- (*upa-ā*) 持って来る。
sam-ā- 集める，召集する；もたらす，漂わせる。 **圖** ともに来る (*Br.*)。
ud- 高く持ちあげる，差しあげる；(業)を(業)に放逐する；引き出す；(花嫁をその父の家より)連れ出す，娶る；持って行く，運ぶ，(其)で運ぶ(普通の意味)；(大地または主権)を支えるまたは維持する(=統治する)；心に (*manasā*) 銘記する=記憶する；耐える，忍ぶ；固執する；所有する，持つ，身につける；(称号を)有する(たとえば *Devī* の)；(ある感情を)現わすまたは示す；遂行する，完遂する；**漢訳** 負，荷負；相統；忍，悉能堪忍；成 *Bodh-bh., Buddh.* **使役** *udvāhayati* 嫁入りさせる，(其)に嫁入りさせる；(少女を)娶る。
Sam-ud- 揚げる；(少女を)娶る；(荷を)担う；忍ぶ；持つ，所有する，身につける；現わす，示す。
upa- 持ってくる；(業)に導く；もたらす，生ずる；(業)を(業)に導くまたは誘う。 **過受分** *upodha* もたらされた，生じた。
sam-upa- **過受分** 開始された(戦争)；のぼった(月)。
ni- (**圖**, **漢**)にもたらすまたはに落とす(因)；(世界を)支えるまたは維持する。
nir- (**圖**)から引き出す，…から救う，移す(因)；遂行する，成就する；目的を達する，成功する；(其)で生計をたてる；(属)に適合する；**漢訳** 出；荷負 *Rāstr., Śikṣ.* **使役** *nirvāhayati* (時を)過ごすまたは費やす；遂行する，成就する，確立する。
pari- 運ぶまたは運びまわる(因)；ひきまわす(叙譯)；流れまわる(因)；花嫁を導く(花婿の家に)，結婚させる (*RV., P.*)；**漢訳** 取 *Ast-pr.*
pra- 1. **自動** 持ち出す；(車を)引く；洗い流す；漂わせる，持ってくる，(業)に持ってくる。 2. **自動** **圖** 駆り進む (*RV.*)；流れ行く；疾走する，(風が)吹く；**漢訳** 飄蕩，漂蕩，漂激 *Lanik.* **使役** *pravāhayati* 洗い流させる；**漢訳** 洗滌 *Śikṣ.*：～ *snāpayati* 洗滌 *Śikṣ.163.*
anu-pra- 進む (*RV.*)。
abhi-pra- …に導く (*Br.*)。
vi-pra- **漢訳** 転 *Lanik.*
prati- **漢訳** 違，違逆；毀，誘毀 *Ast-pr., Bodh-bh., Dity.*
vi- 運び去る(*RV.*)，(車を)引く(*RV.*)；(花嫁をその父の家より)連れ去る，(少女を)娶る；**圖** 結婚式を挙げる，結婚する；迷う，とり乱す；**漢訳** 違 *Bodh-bh.* **過受分** *vyūḍha* 結婚した。 **使役** *vivāhayati* (**圖** または *saha* とともに)に(娘を)めあわす；**圖** (少女を)めとる。 **使役** **過受分** *vivāhita* (少女に(業)めあわされた。
sam- 運ぶ；持ってくる，漂わせる；(車に)荷を積む；表わす，示す。 **圖** *samuhyate* (其)によって運ばれる，…に乗る。 **使役** *samvāhayati* 集める，召集する；(戦車を)駆る；(妻を)娶る；(業)をなで

る，…を軽く打つ，…をこする；動かす。 **圖** *samvāhyate* (其)によって駆られるまたは推進される。
vah [一°のみ，強語基 *vāh*，弱語基 *uh* または *ūh*，これに先行する *a* と連結して *au* となる] 引く，運ぶ，担う，保持する。
vaha **圖** (一°)引く，運ぶ；貫流する，流入する，…の方に流れる；沿って運ぶ(川について)；もたらす；生み出す，生ずる；(名を)有する；持つ，支給されている；(熱心に)に身をさらす。 **圖** または **圖** (荷車用動物の)肩，(輓の)肩押材；**漢訳** (車)運載 *Śikṣ.*
vaham-liha **圖** 肩をなめる。
vahatu **圖** (因) (夫の家に向う)花嫁の行列；婚礼；促進する方法。
vaha-dhyai **圖** **不定** [*Vah* から] 乗るために。
vahana **圖** (一°)御する；運ぶ。 **圖** (供物を)運ぶこと；運搬すること；船，舟；**漢訳** 船，去 *Daś-bh., Sūtr.* → *bhāra* ~：
vahana-bhaṅga **圖** 難船。
vahana-simā **圖** **漢訳** 船橈竿 *Dity.*
vahanābhirūḍha **圖** **漢訳** 入於大海，駛流，載満船 *Saddh-p.*
vahani-Kṛ，乗物に変える，乗物とする。
vahaniya **未受分** 運ばれるべき，引かれるべき，導かれるべき；**漢訳** 流注相統，流注恒統 *Bodh-bh.*
vaha-rāvin **圖** 輓の下で呻く。
vaha-la **圖** 輓に慣れた，飼いならされた。
vahi **圖** **圖** [ある *Pisāca* の名(ある語源解釈による)].
vahitra **圖** 舟，船。
vahitra-bhaṅga **圖** 難船。
vahin **圖** よく引く，輓に慣れた(因)。
vahirdhā **圖** [= *bahirdhā*] 外に。
vahir-manaska **圖** [= *bahir*°] **漢訳** 志在於外 *Dity.*
vahiṣṭha **圖** 最もよく引くまたは御す(馬や車について) (因)。
vahis **圖** (= *bahis*) 外に。
vahiyas **比較** よりよくまたはより速く引く(因)。
vahuri **圖** **圖** または **圖** **漢訳** 香，炒米 *Mṛyut.*
vaheda **圖** **漢訳** [樹の名]川練 *Mṛyut.*
vahni **圖** (車を)ひくもの，駿馬(因)；戦車の御者 [**圖** 中の種々の神々についていわれる]；(神々に供物を)もたらす者とともに *Agni* 神(因)；火，火神(圖)；[*Daitya* の名]；[*Kṛṣṇa* の息子の名]；[猿の名]；**漢訳** 火，(増)火，火焰，燃 *Lal-v., Lanik., Madhy-bh., Madhy-ribh., Śikṣ., Sūtr.* *vahninā sams-Kṛ* 火で浄化する，荘厳に焼く。
vahni-kaṇa **圖** 火花。
vahni-kanyā **圖** **圖** *Agni* 神の娘たち。
vahni-kunḍa **圖** 聖火(を受け容れるための地面)の窩。
vahni-kṛt **圖** 火事を起こす。
vahni-kopa **圖** 猛火。
vahni-tama **圖** 最もよく(神々に)供物を運ぶ。
vahni-daivata **圖** *Agni* を神として有する。
vahni-patana **圖** 火中に身を投ずること。
vahni-prakhya **圖** **漢訳** 如増火 *Sūtr.*
vahni-priyā **圖** *Agni* 神の妃，*Svāha*。
vahni-bhojya-dravya **圖** 火を燃やし続けるために使

われるもの。

vahnimat 形 火をもつ, vahni という語を含む。

vahni-maya 形 (女 -i) 火よりなる。

vahni-loka 男 Agni 神の世界。

vahni-śikhā 女 火焰。

vahni-samskāra 男 火の聖礼, 火葬。

vahni-sākṣikam 副 火によって証を立てるために。

vahni-sāt-Kṛ, 焼く。

vahni-sphuliṅga 男 火花。

vahya 中 携帯用寝台, つり台, 一人乗りのかご, 寝いす(因)。

vahye-śayā 形 (女) つり台または寝いすに横たわる (RV. 用例一回のみ)。

vā 附帯 不変辞 または [一般には語の後にくるが韻律によって時としてこれに先行することもある]; …かまたは, 任意に; [=iva], …の如くに, …と同様に, あたかも…のように; [=eva], ちょうど等(まれ); しかし, しかるに(まれ); (因 とともに)すら, たとえ…であるとしても(まれ); 恐らくは, 願わくは [疑 または 問 の後で]; 漢訳 或, 若; 及; 麼然 *Abh-k., Abh-ry., Bodh-bh., Mṛyut., Nyāy-pr.* vā…vā…かまたは…か [二節からなるときは, 通例最初の動詞のみにアクセントがある]; 漢訳 若…若 *Aṣṭ-pr.*: śatam ~ sahasraṃ ~ śatasahasraṃ ~ 若百若千若百千 *Aṣṭ-pr.172. na ± vā…vā, kiṃ vā…kiṃ vā* または *na vā* …でもなく…でもない。 vā…na vā …かまたは…でないか; 恐らく…かまたは…でないか; …か否か。 *yadi vā…vā…かまたは…か* [vā で結合される二支分以上を含む文では vā はほとんどつねに反覆される。しかし冒頭にある否定辞が他のすべての支分にかかる場合は否定辞を反覆する必要はない; この場合 vā はしばしば ca および api と交替するか, 不変辞 api (± punaḥ), atha (± u, api または punaḥ), yad, yadi または uta と結合される]。

Vā 1. II. 他 vāti 吹く(風の場合); (業)に吹きつける(きわめてまれ); 香を放つ, (香気が)ただようまたはまき散らされる(まれ); (香を 罫)嗅ぐ(きわめてまれ); 漢訳 飄鼓 *Abh-ry.*

anu- …の方に吹く; (業)の後を追って吹く; 吹きつける, 扇ぐ, 点火する; 吹く。

apa- 発散する (RV.)。

abhi- (他動 および 自動) の方に吹く; …に吹きつける, 扇ぐ。

ā- (自動) の方に吹く, 吹く; (業)を吹き送る, …に吹きつける。

ud- (すき間風によって火が)吹き消される。

nir- (風が)吹く; (灯や昼間の明るさが)消える または消される; (吹き消される=) 静められる, 和らげられる, 元気づけられる。

; 漢訳 滅 *Abh-ry.* nirvāṇa 過受分 消された; (太陽が) 没した; 生命の光の消えた, 生存の束縛から脱した, 絶対の至福を享受した, nirvāyati(-te) 消える; 漢訳 涅槃, 入…滅, 住涅槃 *Lank.* 使役 他 nirvāpayati (因, 罫) 消す, 鎮める; 熱より解放する, 冷やす, 清冷にする; 静かにする, 和らげる,

軽減する; (眼を)眩惑する; 涅槃に導く(仏教); 漢訳 入涅槃, 令滅, 令涅槃; 止, 滅止 *Buddh-c., Divy Lal-v., Saddh-p.*

anu-nir- (業) に続いて消える。

abhi-nir- 漢訳 令入涅槃 *Aṣṭ-pr.*

pari-nir- (個人的) 生存を完全に滅する またはから脱する, 寂滅に達する(*Lal-v.*); 漢訳 涅槃, 滅度, 涅槃, 正般涅槃; 入涅槃, 入般涅槃, 得般涅槃, 円寂 *Abh-ry., Aṣṭ-pr., Bodh-b'i., Divy., Lank. Sapt-pr., Vajr-pr.* 使役 parinirvāpayati 漢訳 滅涅槃, 滅度, 円証寂滅, 令寂滅 *Daś-bh., Divy. Saddh-p.*

parā- 吹き散らす (RV.)。

pra- パツと開く, 吹く; (香が) 漂ようまたは発散する; 漢訳 吹, 出; 燄焔 *Rāstr., Saddh-p.*

ati-pa- (風が)強く吹く。

vi- 吹き散らす; 吹きぬける, 四方に吹く。

Vā 2. VI. 他 vāyati (因, 叙詩 vāyate) 疲労す (RV.); 吹く(叙詩, Vā 1. と混同される); (罫)をなう(RV.). 過受分 vāna 乾燥した。

abhi- 過受分 abhi-vāta 衰えた, 病んだ。

ud- (因) 衰える, 死去する, (火が)消える。 使役 udvāpayati (火を)消させる。

upa- 干あがる。 過受分 upavāta 乾燥した。

Vā 3. [Vanの派生形]。 過受分 -vāta 望まれた。 vivāsa 希求 得ようと欲する, 引き出そうとす (RV.)。

ā- 希求 (因) 他因 得ようと欲する, 呼び求める 招待しようとする; 因 礼拝をもって(罪を)贖う。

abhy-ā- 希求 他 に向って進む, 襲撃する (RV.)

Vā 4. IV. 他 vāyati 織る(聖歌, 演説等に関して比喩的に用いる), 構成する; 漢訳 織 *Divy.* 過受分 uta または ūta。

apa- 織物を解く (RV.)。

ā- 織り込む, 糸で縛る, (糸を)通す。 過受分 (因)に織り込まれた, 連ねられた, (因)にさし通された; (因)で浸透された。

ud- (因)に繋ぐまたは吊す。

pra- (因)の上に織るまたは付着させる。 過受分 pr (因, 一°)に繋がれた, で貫かれた, の上または中固定された, に刺しこまれた; (罫)によって浸透された; (雲の中に)浸された (*Śiva* 神の牡牛の角にいていわれる)。

vi- 過受分 vyūta (因) 織られた, 色雑の(衣服)。らにされた(道)。

sam- (因) 一緒に付着させる; 織り合わせる。

vāka 男 [Vacから] 暗誦, 詩句, 儀式の呪文(因, 罫) vāko-vākya 中 対話; [吠陀伝承のある部分の名]。

vāk-karaṇa 中 漢訳 語具 *Bodh-bh.*

vāk-karman 中 漢訳 語業, 口業, 語, 言 *Aṣṭ-pr. Bodh-bh., Divy., Gand-ry., Mṛyut., Sātr.*

vāk-kalaha 男 口論, 論争。

vāk-kelī 女 言葉のしゃれ, 機智に富んだ会話。

vāk-kṣata 中 言葉によって加えられた傷。

vāk-cakṣus 中 罫 言語と視線。

vāk-capala 形 言語に不注意な, 漫然と話す。

vāk-cāpalya ㊦ 言語に不注意なこと。
 vāk-citta-gocara ㊦ 口心境界, 語言心所行 *Lank.*
 vāk-chala ㊦ 声の見せかけ; (㊦または㊦) 偽りの話;
 (論議における) 遁辞。
 vāk-chalya ㊦ 言葉の矢, 人を傷つける言葉。
 vāk-paṭu ㊦ 弁舌に巧みな, 雄弁な。
 vāk-pati ㊦ 辯舌の主; (完成の域に達した) *Śiva* 派の
 聖者。
 vākpati-rāja ㊦ [ある詩人の名]。
 vāk-patha ㊦ 説話の機会; 表現の範囲 (atita~ ㊦
 名状しがたい); ㊦言 (語言道), 語言道, 言辞;
 言音, 音声 *Gand-vy.*, *Ratna-ut.* ~pāram avā-
 pita 言語に絶するにいたった。
 vākpathojjhita (°tha-uj°) ㊦ ㊦ 離於言説, 超過
 語言路, 遠離語言道 *Gand-vy.*
 vāk-pa ㊦ 言語を保護する。
 vāk-pāṭava ㊦ 雄弁。
 vāk-pāruṣya ㊦ 声の荒いこと; 下品な語。
 vāk-puṣṭā ㊦ [ある王女の名]。
 vākpuṣṭāṭavi (°tā-at°) ㊦ [ある王女の名に因んで名
 づけられた森の名]。
 vāk-puṣpa ㊦ (㊦) 言葉の花。
 vāk-pratyudāhāra ㊦ ㊦ 発言 *Bodh-bh.*
 vāk-pralāpa ㊦ 雄弁; ㊦ 発語号喝, 発声啼哭
Daś-bh.
 vāk-prasāsta ㊦ (食物に適するとして) あきらかに
 是認された。
 vāk-prasāri-kāma ㊦ (子供の) 話し方が上達すること
 を望む。
 vākya ㊦ [Vacから] (㊦または㊦) 発声, 発言, 言葉(普通
 の意味); (法律上の) 証言; 明白な陳述(linga「暗示」
 の㊦); 表現法; 論証(論理学における); 文章(文法に
 おける); ㊦言, 語, 説, 言辞, 言詞, 所詮, 所説,
 語言, 方言; 知言智; 文, 章 *Abh-k.*, *Abh-vy.*,
Bodh-bh., *Dīvy.*, *Lank.*, *Mcyut.*, *Sukh-vy. I.*,
Sūtr., *Suv-pr. mama vākyaṭ* 私の名において;
 vākyaṭva ㊦ 語, 話または文章たる状態; 語を本質
 としていること; 一° 発音。
 vākya-pūraṇa ㊦ 文章を補充する。
 vākya-prabandha ㊦ 連続した話, 物語。
 vākya-bheda ㊦ 陳述の差異; (㊦) 矛盾した陳述. vā-
 kyabhedād anighātaḥ 文章にはっきりした切れ目
 がある故に(すなわち新しい文章があるため)低アクセ
 ントがない(すなわち動詞は高アクセントを伴って発
 音される)。
 vākya-mālā ㊦ 文章の連鎖。
 vākya-vajra ㊦ (㊦または㊦) 雷電のような言葉。
 vākya-viśeṣa ㊦ 特殊の言葉。
 vākya-śeṣa ㊦ 文章の補充, 補われるべき語; ㊦
 言尾或余, 余言, 入言有余 *Mcyut.*
 vākya-samyoga ㊦ 文法上の構造。
 vākya-sārathi ㊦ 代辯者。
 vākya-svara ㊦ 文章のアクセント(語勢)。
 vākyaādhyāhāra ㊦ 文章を補充すること。
 vākyaṛtha ㊦ 文章の意味または趣意; ㊦ 語義
Madhy-v.

vākyaṛthopamā (°tha-up°) ㊦ (二つの事物が) 詳細に
 比較される直喩。
 vakyālaṃkāra ㊦ 語または文章の修飾。
 vāk-śalya ㊦ 言葉の矢, 傷つける語。
 vāk-śasta ㊦ 純潔であると明言された。
 vāk-samyama ㊦ 言葉または弁舌の抑制。
 vāk-samvara ㊦ ㊦ 口戒, 語戒, 護口 *Lal-v.*,
Sam-r.
 vāk-samskāra ㊦ ㊦ 語工, 語言行 *Abh-vy.*, *Bodh-
 bh.*
 vāk-satya ㊦ ㊦ [三諦の一] 語諦, 説諦, 口実
Bodh-bh.
 vāk-samatā ㊦ ㊦ 語等, 語平等 *Lank.*
 vāk-sampatti ㊦ ㊦ 語成就 *Sūtr.*
 vāk-sāyaka ㊦ 言葉の矢。
 vāk-sucarita ㊦ ㊦ 語妙行, 語善行 *Aṣṭ-pr.*, *Mv-
 yut.*
 vāg-adhipa ㊦ 言語の主, [*Bṛhaspati* の称]。
 vāg-apahāraka ㊦ (他人の) 語を盗む。
 vāg-apeta ㊦ 言語を欠いた, 啞の。
 vāg-ādambara ㊦ 多弁。
 vāg-īśa ㊦ 言語の主, 弁論の達人(しばしば学者の名と
 して一°); [*Brahman* の称]; ㊦ 弁自在 *Abh-
 vy.*; ㊦ 婆耆舍 *Abh-vy.*
 vāg-īśvara ㊦ ㊦ 言辞上妙而自在 *Sam-r.*
 vāgurā ㊦ 罾, 網, 係蹄。
 vāguri ㊦ [ある著作家の名]。
 vāgurika ㊦ 罾をかける人, 獵師; ㊦ 罾張, 網捕
 人 *Abh-vy.*
 vāg-guda ㊦ こうもり[の一種]。
 vāg-gocara ㊦ ㊦ 言所行 *Bodh-bh.*
 vāg-ghastavat ㊦ 語と手(hasta)をもった。
 vāg-jāla ㊦ 多量の語, 多弁。
 vāg-ḍambara ㊦ ㊦ [同上]; 大げさな言葉。
 vāg-daṇḍa ㊦ 訓戒. ㊦ 語と杖: ~yoh または ~jam
 pārūṣyam 言葉と答による苛酷な傷害, 罵詈と打擲。
 vāgdaṇḍa-pāruṣya ㊦ ㊦ [同上 ㊦]。
 vāg-dattā ㊦ (㊦) 言葉によって与えられた, 婚約し
 た. ㊦ 婚約した処女。
 vāg-dāna ㊦ 婚約。
 vāg-duścārīta ㊦ ㊦ 語罪, (語悪行) *Mcyut.*
 vāg-duṣṭa ㊦ 無礼な, 口ぎたない. ㊦ 無礼者, 誹謗
 者。
 vāg-devatā ㊦ 弁才の女神, *Sarasvatī* (弁才天女)。
 vāgdevatāka ㊦ *Sarasvatī* 女神に捧げられた。
 vāg-devī ㊦ =vāgdevatā。
 vāg-daivatya ㊦ =vāgdevatāka。
 vāg-doṣa ㊦ 誹謗, 悪口; ㊦ (三) 語過 *Sūtr.* ㊦ 声
 の過失によって。
 vāg-dvāra ㊦ 話の入口=叙述のはじまり。
 vāg-dhvani ㊦ ㊦ 言声 *Abh-k.*
 vāg-nirmāṇa ㊦ ㊦ 化語 *Bodh-bh.*
 vāg-baddha ㊦ 話すのをやめた, 沈黙した。
 vāg-bandhana ㊦ 沈黙. ~m pra-Kṛ を沈黙させる。
 vāg-bali ㊦ ㊦ 口力 *Lank.*
 vāg-bhaṭa ㊦ [種々の著作家の名, とくに修辞学者や

医者の名].
 vāg-bhāṣā ㊦ 漢訳 言語 *Abh-ry.*
 vāg-mātra ㊦ 漢訳 但有名字, 唯有言説 *Lank.*
 vāgmin ㊦ 雄弁な; 漢訳 巧説 *Sūtr.*
 vāgmitā ㊦ 雄弁.
 vāgmitva ㊦ [同上].
 vāg-yata ㊦ 声を抑えた, 沈黙した.
 vāg-yamana ㊦ 沈黙.
 vāg-yoga ㊦ 語の正しい使用.
 vāg-vajra ㊦ 漢訳 金剛語 (菩薩名).
 vāgvat ㊦ 言語を有する.
 vāgvastu ㊦ 漢訳 語言 *Aṣṭ-pr.*
 vāg-vijñapti ㊦ 漢訳 語表, 語表義 *Abh-ry., Bodh-bh.*
 vāg-vid ㊦ 雄弁な.
 vāg-vidagdhā ㊦ [同上].
 vāgvidagdhātā ㊦ 雄弁.
 vāg-virodha ㊦ 論争; 漢訳 語言相違 *Bodh-bh.*
 vāg-viśuddhi ㊦ 漢訳 浄語, 離悪妄語 *Bodh-bh.*
 vāg-viśaya ㊦ 漢訳 言境界 *Bodh-bh.*
 vāg-vira ㊦ 弁論の勇士または達人.
 vāg-vyavahāra ㊦ 多くの語の使用, 長い議論.
 vāg-vyāpāra ㊦ 話し方, 談話または会話の仕方.
 vāg-vyāhāra ㊦ 漢訳 声, 言説 *Bodh-bh.*
 vāghat ㊦ 祭祀者, 祭官(RV.).
 vāṅga ㊦ *Vaṅga* 人の王.
 vāṅ-madhu ㊦ 漢訳 蜜のようなまたは甘い語.
 vāṅ-madhura ㊦ 言葉の甘美な, 蜜のような語を話す.
 vāṅ-manas ㊦ 漢訳 および ㊦ 語と心.
 vāṅ-maya ㊦ (㊦-i) 語あるいは言葉からなる・と結合したまたはにもとづいた, 言葉の. ㊦ 雄弁, 弁舌.
 vāṅ-mātra ㊦ 漢訳 (聖) 言葉 *Śikṣ.*
 vāṅmātratva ㊦ 漢訳 但有言説, 唯有言説, 唯名 *Lank.*
 vāṅ-mādhurya ㊦ 言葉または声の甘美なこと.
 vāṅ-miśraṇa ㊦ 言葉を交わすこと, (㊦) との会話.
 vāc ㊦ [Vac から] 言語 (また動物の); 声, 音; 話, 叙述, 言説, 語; 弁舌 (擬人化された), 辯舌の女神 = *Sarasvatī*; 漢訳 口, 言, 語, 説, 舌, 辞, 言説, 言語, 語言, 言詞, 言辞, 発言, 言音, 所説, 語具, 徳号 *Abh-k., Abh-ry., Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v., Lank., Madhy-bh., Madhy-ribh., Ratnat., Saddh-p., Sāṅkhy-k., Sapt-pr., Sūtr., Vajr-pr.*, 梵千. *vācā* ㊦ 言葉に出して. ~*satyaṃ Kṛ* 言葉ではっきり結婚を約す, 婚約する. *vācaṃ Dā* (㊦) に話しかける.
 vācaṃ-yama ㊦ 話を禁制した, 沈黙した.
 vācamyatva ㊦ 沈黙.
 vācaka ㊦ 話す, 何かを (㊦) 言う; (㊦, 一°) について話すまたは論ずる, を陳述する; 言い表わす, 意味する, 表示する. ㊦ 話者, 誦唱者; 漢訳 説, 弁, 能説; 説者 *Diry., Lank., Mṛyut., Saddh-p.*
 vācakatva ㊦ 表示.
 vācaknavī ㊦ (㊦系 *vacaknu* から) [ある女学匠の名].
 vācana ㊦ (Vac の 漢訳 から) 暗誦させること; 暗誦

すること; 読誦すること; 言い表わすこと; 漢訳 [十種の *dharmacarita* の一] 披読, 読, 読誦 *Madhy-bh., Madhy-ribh., Mṛyut., Saddh-p.*; *svayaṃ ~m* 自披読, 自読 *Madhy-ribh. 211.*
 vācanika ㊦ (㊦-i) 明白な叙述(*vacana*) にもとづいた, はっきり述べられた.
 vācanopāsikā-vimokṣa ㊦ 漢訳 (音写) [経名] 解脱 観優婆夷言 *Śikṣ.*
 vācaka-pada ㊦ 意味を有する語を含むこと.
 vācaka-lakṣaka-vyañjakatva ㊦ 直接・間接および暗黙の指示.
 vācayitavya ㊦ 未受分 漢訳 応読誦, 宜…読誦 *Aṣṭ-pr., Divy.*
 vācayitu-kāma ㊦ 漢訳 樂説, 樂欲宜説 *Aṣṭ-pr.*
 vāca-saṃvara ㊦ 漢訳 口戒 *Sam-r.*
 vācas-pati ㊦ 言語の主 (人間生活を主宰する神仙), [*Soma, Viśvakarman, Prajāpati, Brahmā* の称]; 雄弁の主 [としての *Bṛhaspati* (神々の師で木星の主宰者) の称]; [*Rṣi* (仙人), 辞書編纂者, 哲学者等の名].
 ācaspatya ㊦ *Vācaspati* (*Śiva*) に関連した; 哲人 *Vācaspati* によって作られた. ㊦ 雄弁.
 vācā ㊦ 話, 語; 弁舌の女神.
 vācāta ㊦ 饒舌の, 話ずきの (鳥についてもいう); 傲慢な; (一°) の歌でみちた.
 vācārambhaṇa (°*cā-ār°*) ㊦ 語にもとづくこと, 語による把捉.
 vācāla ㊦ 多弁な, 饒舌な (鳥についても); 傲慢な; 騒がしい; (一°) の歌または音を反響する.
 vācālatā ㊦ 多弁, 饒舌.
 vācālatva ㊦ [同上].
 vācālanā ㊦ 饒舌にすること.
 vācālaya ㊦ 名動 ㊦ *vācālayati* 話ずきにする, 話すようにしむける; 騒がしくする, 騒音でみちた.
 vācālayita ㊦ 過受分 話ずきにされた; 騒音にみちた.
 vācā-sahāya ㊦ 饒舌の相手, 接待者.
 vācika ㊦ 語より生じた, 語にもとづく, 言葉の, 言葉によって犯された (罪); 明白な, さし迫った (破壊). ㊦ 口頭による伝達, 伝言; 漢訳 語, 口 *Abh-ry., Madhy-v.*
 vācin ㊦ (一°) 断言する; 表現する, 意味する, 表示する.
 vāco-yukti ㊦ 適切な話または語.
 vācya ㊦ 未受分 話されるべき, いわれるべき, 語られるべき, 叙述されるべき, 宣言されるべき, 記載されるべき, 列挙されるべき; 話題となるべき; に向かって語られるべき, 話しかけられるべき, 告げられるべき (㊦ または *iti* を伴った直接話法とともに); いい表わされるべき, 意味されるべき, (㊦, 一°) によってあきらかに意味されるべき; (㊦, ㊦) によって悪口をいわれるべき・咎められるべき・非難されるべきまたは糾弾されるべき. ㊦ 非人 (㊦) について話すべしまたは言うべし; 漢訳 可説, 所説, 説言辞 *Lank., Mṛyut., Sūtr.* ㊦ 譴責, 過失 (~*m Gam* 非難を招く); (叙述されうるもの), 実名詞.
 vācya-citra ㊦ 言葉の遊戯.

vācyatā ㊦ 非難, 譴責.
 vācyatva ㊦ 明白に表現すべき必要; (一°)をもって
 いいあわすこと.
 vācyamāna 現分 漢訳 唱持, 読誦, 誦読 *Gand-vy.*,
Madhy-bh., *Madhy-vibh.*
 vācyā-līṅga 形 実名詞の性をもつ, 形容詞の.
 vācyā-līṅgaka 形 [同上].
 vācyavat 副 実名詞のように=実名詞の性に応じて,
 形容詞的に.
 vācyā-varjita ㊦ 省略的表現.
 vācyā-vācakatva ㊦ 意味されるものと意味するもの
 の状態.
 vācyāya 名動 ㊦ あたかも(実際に)表現されたかの
 ようにみえる.
 vācyārtha 男 直接に表現された意味.
 vācyārthatva ㊦ 意味の直接表現.
 vāja 男 1. ㊦ 速力, 元氣, 氣力(とくに駿馬の; ㊦
 または ㊦); 競走, 闘争; 戦利品, 分捕品; 所得, 報酬;
 財宝, 価値ある所有物; (祭式用の)食物(まれ); 足
 の速い または 元氣のよい駿馬(とくに戦車における);
 [Rbhu 三神の一の名: ㊦ Rbhu 三神]. 2. ㊦ 矢に
 つけた羽根; [人名].
 vāja-pati 男 分捕品等の主.
 vāja-patni 女 分捕品または財宝の女王(㊦).
 vāja-peya 男 ㊦ Soma 祭[の一種].
 vāja-prasūta 形 力によって促がされた(RV.).
 vājaya 名動 ㊦ ㊦ vājayati (-te) 競争する, 競う,
 張りあう, 急ぐ; 促がすまたは駆りたてる.
 vājayu 形 (RV.) 競走する, 迅速な; 戦闘を熱望す
 る; 元氣な; 分捕品を獲得する.
 vāja-ratna 形 (RV.) 獲得した財宝で満ちあふれた.
 vājaratnāyana (-na-āy-) 男 [Somaśuśman の ㊦系]
 (Br.).
 vājavat 形 (㊦) 力を伴った; 元氣に満ちた; 軍馬
 からなる; Vāja または Rbhu を伴った.
 vāja-sani 形 分捕品または富を獲得する (RV.); 元氣
 を増す, 勝利をうる (RV.); 食物を贈与する, [Śiva
 神の称](㊦).
 vāja-saneya 男 [Yājñavalkya の ㊦系]. 男 ㊦ Vāja-
 saneya の学派.
 vājasaneyaka 形 Vājasaneya 学派に関係する・に
 よって編まれたまたはに属する. ㊦ Śatapathabr-
 ahmaṇa.
 vājasaneyin 形 Vājasaneya 学派に属する. 男 ㊦
 Vājasaneya 学派.
 vāja-sāti 男 (㊦) 分捕品を勝ちとること; 戦闘, 勝
 利.
 vājin 形 (㊦) 潑漉たる, 迅速な(軍馬; ratha とともに
 ㊦=戦車); 勇敢な, 好戦的な; 男らしい, 生殖力を
 有する; (㊦) 翼をもった; (一°) を翼としてそな
 えた; 羽根のついた(矢: -itā ㊦ 羽根をつけた状態).
 男 英雄, 勇士(㊦); 戦車の馬(㊦); 馬, 種馬(㊦);
 -itā 女 馬の性; ㊦ (戦車をひく)駿馬=諸天の馬
 (㊦); Vājasaneya 学派(太陽が馬の姿をとってある
 Yajus 頌を Yājñavalkya に啓示したのでそうい
 われる); ㊦ 馬 *Lank.*, *Mañj-m.*

vājina ㊦ (㊦) 競争, 闘争, 対抗; 男性的精力; 凝乳
 (きわめてまれに ㊦).
 vājīvat 形 (㊦) 駿馬を有するまたは駆る; 強い, 潑
 漉とした.
 vājīni-vasu 形 駿馬を有する (RV.)
 vāji-bhūmi 女 馬に適した国.
 vāji-medha 男 馬の犠牲祭,
 vāji-vāhana ㊦ 馬と車.
 vāji-viṣṭhā 女 (馬の溜場), インド産のいちじく樹
 (=aśvattha).
 vāji-sālā 女 馬小屋; 漢訳 馬厩 *Mañj-m.*
 vāji-karaṇa 形 精力をうみだす. ㊦ 媚薬.
 Vāñch, I. ㊦ vāñchati [Van の ㊦成] (業 または ㊦不定)
 を願う・を希望する・を好むまたはを望む; 主張する,
 想定する(㊦まれ); 漢訳 欲 *Bodh-c.* ㊦受分 vāñ-
 chita 願ったまたはを希望した.
 abhi- (業) を願うまたはを希望する; (㊦不定) すること
 を欲する. ㊦受分 abhivāñchita 願った, 希望した.
 sam-abhi- = Vāñch.
 ā- = Vāñch.
 vāñchā 女 (㊦, ㊦, prati, 一°) に対する願望・希
 望または切望; 想定(まれ). ~m Kr (㊦) を切望する.
 vāñchita ㊦受分 ㊦ 希求, 願望.
 vāt ㊦不變 [祭式のさいの叫び声] もたらし給へまたは受
 け給え.
 vāṭa 1. 形 インド産のいちじく樹(vāṭa)から作られ
 た.
 vāṭa 2. 男 囲い, 囲われた土地(しばしばそれが含む
 ものとともに 一°); 地区, 路; 漢訳 場 *Diry.* →
 maṇḍala~, yajña~.
 vāṭaka 男 囲い地, 庭園.
 vāṭa-dhāna 男 随姓婆羅門(=Vrātya)の父と婆羅門
 の母から生まれた子孫; [ある民族の名(㊦)]; [その
 民族の王侯または人間]; [その民族の国].
 vāṭa-mūla 形 インド産いちじく樹の根に住む.
 vāṭikā 女 囲い地, 庭園; 漢訳 園 *Diry.*
 vāṭi 女 [同上].
 vāṭya 1. 形 インド産いちじく樹(vāṭa)から作られ
 た.
 vāṭya 2. 男 焼いた大麦.
 vāḍa 男 漢訳 ㊦ *Mryut.*
 vāḍaba 形 海に由来する. 男 海中の火; 婆羅門(brāh-
 maṇa).
 vāḍabāgni 男 海中の火(南極にあると想像される).
 vāḍānala 男 [同上].
 vāḍabiya 形 (jyotis とともに) 海中の火. ㊦ 海中の火.
 vāḍava [vāḍaba の後世の綴り].
 vāḍīśika 男 =bāḍīśika; 漢訳 漁師, 捕魚者 *Śikṣ.*
 vāḍi 女 漢訳 菜園 *Mryut.*
 vāḍḍautsa 男 [人名].
 vāṇa 1. 男 (=bāṇa) 矢; 乳頭; 漢訳 箭 *Rāstr.*
 vāṇa 2. 男 (器) 楽(㊦); 堅琴, 琵琶(㊦); ㊦).
 vāṇa-śabda 男 琵琶の音(または矢の唸り).
 vāṇa-śāla 男 (女 -i) [要塞の名].
 vāṇārasi 女 (=vārāṇasi) *Banāras* (まれ).
 vāñja 男 商人; 漢訳 商估賈人 *Saddh-p.*

vāñijaka 男 [同上].
 vāñijika 男 [同上] (一°).
 vāñija 重 (女 -ā 母) 商人 (vāñij) の業務, 取引, 貿易; 漢訳 商人, 商估, 治生 *Bodh-bh.*
 vāñini 女 利口なまたはずるい女; 酔った女.
 vāñi 女 音楽 (種 聖歌) (RV.); 声, 音声, 音; 話, 言葉; 雄弁な言葉, すぐれた言葉づかい (まじ); 弁舌の女神, *Sarasvati* (母); 漢訳 説 *Buddh-c.*
 vāñici 女 楽器または音楽の一種 (賦).
 vāta 1. 過受分 [Vā 1. 吹くから] 男 風; 風神 (種 *Marut* 神群); 空気, (体液の一つとしての) 風; 風に由来する病氣; 漢訳 風, 微風 *Abh-ry., Bodh-bh., Gaṇḍ-ry., Lal-v., Mañj-m., Rāstr., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-ry. I., Sūtr., Sur-pr., 梵天;* 風 (病名), 風病 *Aṣṭ-pr., Lal-v.*; 風天 *Lal-v.*
 vāta 2. 過受分 [Vā 3. および Vā 2. (一°)].
 vāta-kara 形 風 (体液の一つ) を生じさせる, 鼓腸の原因となる.
 vāta-kṣobha 男 (体内の) 風の興奮.
 vāta-gaṇḍa 形 *Vātagaṇḍā* (とよばれる結社) に属する.
 vāta-gaṇḍā 女 [ある結社の名].
 vāta-ghna 形 風の不調を取り除く.
 vāta-java 形 風のように速い. 男 [ある悪魔の名]; 漢訳 捷疾 (魔子の名) *Lal-v.*
 vāta-jūta 形 風に追われた, 風のように速い (賦).
 vāta-dattikā 女 漢訳 編織, 刺芭圍繞 *Mṛyut.*
 vāta-paṭa 男 帆.
 vāta-pramī 形 風よりも速い (RV. 用例一回のみ).
 vāta-bhakṣa 形 風を食べて生きる.
 vāta-maṇḍala 中 漢訳 風輪 *Bodh-bh., Ratna-ut., Śikṣ.*; (音写) 風曼拏羅 *Guhy-s.*
 vāta-maṇḍali 女 漢訳 風輪 *Bodh-bh., Gaṇḍ-ry.*
 vātayati 使役 → *Vat.*
 vāta-yantra-vimānaka 中 風で走る車.
 vāta-yāna 中 漢訳 窓牖 *Lal-v.*
 vāta-ramhas 形 風のように速い.
 vāta-raśana 形 風を帯とした (賦). 男 裸形比丘 (種).
 vāta-recaka 男 一陣の風; 空虚な饒舌家.
 vātala 形 風のある, 風通しのよい; (体液としての) 風を発生させる.
 vātavat 男 [人名].
 vāta-varṣa 男 男 および 種 風を伴った雨.
 vāta-vāha 形 漢訳 風廻転 *Bodh-bh.*
 vāta-vṛṣṭi 女 = *vātavarṣa.*
 vāta-vyādhi 男 風疾 (リューマチ・神経痛その他 風が原因であると思われる病氣に用いられる語).
 vātaścika 形 [おぼろ *vāta-aśv-ika* の誤り], 風のように速い馬で急ぐ.
 vāta-saṃvartini 女 漢訳 風笑, 風幾 *Dāś-bh.*
 vāta-saṃghaṭita 形 漢訳 微風吹動 *Gaṇḍ-ry.*
 vāta-samaya 男 漢訳 風時 *Prat-m.*
 vāta-svana 形 風でうなる (*Agni* 神; RV. 用例一回のみ). 男 [ある山の名] (種).
 vāta-svanas 形 [同上]. (RV. 用例一回のみ).
 vātāgra-peṭikā 女 漢訳 門楼上涼所, 門楼上氣窓 *Mṛ-*

yut.
 vātāṇḍa 男 翠丸の腫れる病氣; 漢訳 落陽物, 陽陽相透 *Mṛyut.* 形 その病氣を患う.
 vātātapa-pariśuṣka (°ta-āt°) 男 漢訳 風飄日曝 (種 体) 乾枯 *Gaṇḍ-ry.*
 vātātmaja (°ta-āt°) 男 風神の息子, *Hanumat.*
 vātātman (°ta-āt°) 形 空気の性質をもった, 空気の.
 vātādhvan 男 風穴, 円窓.
 vātāpi (°ta-āpi) 形 風を味方とする (賦). 男 [Agaṣṭya 仙によって食われた Asura の名] (種).
 vātābhra 男 風に吹きとばされた雲.
 vātāyana (°ta-āy°) 男 [ある民族の 交系 (種)]; [ある侍従の名].
 vātāyana 形 風の中または空中を動く: 中 風穴, 円窓 (家の) 風通しのいい所, バルコニー, 玄関, 屋上の露台; 漢訳 窓, 牖, 隙遊, 窓牖, 牖孔, 軒窓 *Buddh-c., Divy., Lanḍ., Madhy-v., Mṛyut.*
 vātāyana-cchidra-rajas 中 漢訳 日光塵 (涼遊塵) *Mṛyut.*
 vātāyana-rajas 中 漢訳 窓中塵 *Divy.*
 vātāyana-stha 形 窓のそばに立つまたはいる.
 vātāli (°ta-āli) 女 旋風.
 vātāvata 男 [vātā-vat から] 交系].
 vātāvali (°ta-āv°) 女 旋風 (種).
 vātāśa (°ta-āśa) 男 (空気を食とするもの), 蛇.
 vātāśva 男 風のように走る馬, きわめて足のはやい馬.
 vātāhati (°ta-āh°) 女 一陣の風.
 vātika 形 (女-i) 風 (体液) によって生みだされた, 中 空虚な饒舌家, 阿諛者, 頌讚者; 漢訳 風病者, 風病 *Abh-ry.*
 vātula 形 風がある; 散漫または粗忽なる, 狂った.
 vātulānaka 男 [地名].
 vātula 形 狂った; (一°) に専念した.
 vātērīta (°ta-īr°) 形 漢訳 風動, 風所吹 *Saddh-p., Śikṣ.*
 vātāika-bhakṣa (°ta-ek°) 形 風だけを食とする, 中 食する.
 vātōdaka-vṛṣṭi (°ta-ud°) 女 漢訳 風水雨 *Bodh-bh.*
 vātyā 女 暴風, 旋風, 疾風; 漢訳 团風 *Abh-ry.*
 vātyā-cakra 中 旋風.
 vātyāya 名動 中 *vātyāyate* 嵐に似る.
 vātsalya 中 (屬, 因, 一°) に対する やさしさ・慈愛 または愛; 漢訳 憐愍, 愛念 *Bodh-bh.*
 vātsi 男 [vatsa から] 交系].
 vātsi-putriya 男 漢訳 犢子部, 寓母子部; (音写) 跋和弗多羅部 *Abh-ry., Mṛyut.*
 vātsya 形 *Vatsa* に関する. 男 [Vatsa から] 交系].
 vātsyāyana (°ya-āy°) 男 [Vātsya から] 交系]; [*Kāmasāstra* (迦摩舍薩世羅) の著者の名].
 vāda 形 (一°) を語る (まじ); 響かせる, 演奏 (まじ). 男 談話, 発言, 陳述 (話者または陳述の内容とともに 一°); (一°) に関して話すことまたはを述べること; 相談; 提議, 主題; 討論, 議論, 論難; (一°) に関する論争; (一°) に関する同意; 叫び, 鳴き声 (獣または鳥の); 音 (楽器の); 漢訳 言, 語; 説, 言

説；言説；論，評論，争；義；見 *Abh-ry.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Lank.*, *Mudhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Ratna-ut.* : kaḥ punar vādaḥ 況，何況 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Vajr-pr.* ; vāde bahu-karā dharmāḥ 言語要法，言愛要法 *Mvyut.* → uccheda-vāda, para-vāda. ~tas 副 議論において (勝つ).

vādaka 男 楽器の演奏者.

vāda-da 形 (一) と競争する.

vādana 男 [Vad の 使役 から] 楽器の演奏者(まれ).
 中 (一) 楽器の演奏；器楽.

vāda-nigraha 男 禁言 言語犯禁，言説犯禁，言語間断 *Mvyut.*

vāda-nihsaraṇa 中 離中出 *Mvyut.*

vāda-yuddha 中 口論，論難.

vādayuddha-pradhāna 形 議論に熱中している. 男 すぐれた論客.

vāda-vidhi-jñāna 中 知解言理 *Mvyut.*

vādādhikaraṇa 中 説或許 *Mvyut.*

vādādhīṣṭhāna 中 言根基 *Mvyut.*

vādālamkāra 男 言飾 *Mvyut.*

vādika 形 (一) を語るまたはを話す；(学説を) 主張するまたはを固持する. 男 魔法使 (異読あり).

vādita 過受分 [Vad の 使役 から] 言させた，響かせた；命，歎言；歌謡 *Bodh-bh.* 中 楽器；伎楽 楽器，伎楽 *Bodh-bh.*

vāditavya 未受分 中 [同上].

vāditṛ 男 論者，論師 *Gaṇḍ-ry.*

vāditra 中 楽器；音楽，奏楽；音楽隊；伎楽 楽器，音楽，伎楽 *Diry.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Sūtr.*

vādin 形 言う，話す，談論する (しばしば 一)；(一) に関して話すまたは談論する；(一) を公けにする・を宣言するまたはを告知する；述べる，指示する；(一，ある称号) で呼ばれるまたはをもって呼びかけられる. 男 話者；(一) の師；学説の提唱者または信奉者；論争者；起訴者；論，説，部，語，批評；論者，説者，論師 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.* → ucchedavādin, dharmavādin, prajñaptivādin.

vādinī 女 論者 *Lank.*

vādi-pramardana 中 摧諸異論 *Śikṣ.*

vādi-sūra 形 弁才雄猛 *Lal-v.*

vādi-siṃha 男 弁才師子，法師子，説師子 *Lal-v.*, *Mvyut.*

vādyā 1. 形 v で始る.

vādyā 2. 未受分 [Vad から]，言わるべきまたは話さるべき；響かせられるべきまたは演奏されるべき(楽器).
 中 談話(まれ)；(一) の演奏(楽器)；器楽. 男 中 楽器；楽，音楽，伎楽，伎楽，楽器 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Diry.*, *Gaṇḍ-ry.*, *Lank.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Suddh-p.*, *Sam-r.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*

vādyā-dhara 男 音楽家.

vādyā-bhāṇḍa 中 楽器；器楽，音楽器，音楽 *Diry.*, *Lal-v.*, *Lank.*

vādyamāna 現分 中 [Vad の 使役 から]，器楽.

vādh, vādha = Bādh.

vādhākāra 男 (=bādhākāra) 損害 *Śikṣ.*

vādhūya 形 (花嫁=vādhū に関する)，花嫁の. 中 花嫁のまたは婚礼の服 (因).

vādhri-nasa 男 犀，山羊，牡牛または鳥の一種(註).

vāna 1. [Vā 2. の 過受分].

vāna 2. 中 [Vā 4. の 過受分] 織ること，縫うこと；織得 *Mvyut.*

vāna 3. 形 (因 -i) [vāna から] 林または林住に関する. 中 密林.

vāna-prastha 男 (森林地に行く：vanaprastha)，第三生活期の婆羅門 (家庭生活から森林に隠退した者)，林棲者. 形 林棲者に関する. 男 (āśrama のこと) 婆羅門生活の第三住期，林棲期；居山林 *Mvyut.*

vāna-prasthya 中 林棲者であること.

vānara 男 [おそらく vanar から：森に住する動物] 猿，類人猿；猴，猿猴，獼猴，獸 *Diry.*, *Lank.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Śikṣ.* 形 (因 -i) 猿に属するまたはに特有の.

vānari 女 雌猿.

vāna-vāsi 女 [ある町の名].

vāna-vāsyā 男 *Vānavāsi* 市の王.

vānaspātya 形 木 (vanaspati) に由来する，木から調理された (Soma)；木製の；供犠用の柱に属する. 中 木の実.

vānāyu 男 = vanāyu [ある民族の名(種)].

vānāyu-ja 男 *Vānāyu* 国産の馬.

vānira 男 籐 [の一種：Calamus Rotang].

vāneya 形 森に生活または成長する，森林の.

vānta 過受分 [Vam から] 嘔吐した等；吐，唾，吐尽；除，離，遠離，洗滌 *Bodh-bh.*, *Diry.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Prāt-m.*, *Śikṣ.*

vānta-doṣa 男 離過，除過 *Mvyut.*

vānta-vṛṣṭi 形 雨を降らせた (雲).

vāntāda 形 吐物を食べる.

vāntāśana 中 變吐 *Bodh-bh.*

vāntāśijivin (°ta-ās°) 形 食吐活命，食吐 *Bodh-bh.*

vāntāśin (°ta-ās°) 形 吐物を食べる.

vānti 女 [Vam から] 嘔吐すること；吐 *Mvyut.*

vānti-kṛta 過受分 純熟，消除 *Mvyut.*

vānti-bhūta 形 永吐 *Abh-ry.*

vāpa 男 [Vap から] 刈ること，剃ること (kṛta- とともにのみ 一).

vāpana 中 剃らせること，剃ること.

vāpaya [Vap および Vā 1. の 使役].

vāpita 過受分 植 *Diry.*

vāpi 女 [堰きとめること：Vap 2. から] 長方形の貯水池，池；池，水池 *Diry.*, *Gaṇḍ-ry.* : dirghikā ~ 池水流渠 *Diry.* 457.

vāpika 形 一° [同上].

vāpi-jāla 中 湖の水.

vāpi-taṭa 男 池岸，池辺 *Gaṇḍ-ry.*

vāpya 1. 未受分 [Vap 2. から] 撒かれるべき. 2. 形 貯水池，(vāpi) に由来する.

vāpy-ambu 中 陞水 *Abh-ry.*

vām 1. 附帶 [第二人称 因 の 圓，因，圓，圓].

vām 2. 困 困=āvām (RV. 用例1回のみ).
 vāma 1. [Vā 3. から] 形 [-i, 困, -ā 困] 快い, きれいな, 愛らしい; 仁慈の; 親しい; 美しい, 上品な; (一)に励む, に熱心な. 困 財産, 富 (困).
 vāma 2. 形 左の, 左手にある (左腕または左眼がふるえるのは女性にとっては吉兆であり, 左腕がふるえるのは男性にとって凶兆である); 曲った, 斜の(まれに); 反対の方法または異なったやり方で行なう(まれに); 扱いにくい, 内気な(恋愛において); 逆(運)の; 無情な, 残酷な(愛); 邪悪の, 悪しき(まれに); 左 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lan̄k., Mañj-m., 梵雜.* 困 困 左側. ~ena 困 左側に. vāmād dakṣiṇam 左から右へ. 困 逆境, 不運.
 vāmaka 形 (困 -ikā) 左の; 反対の, 残酷な. 困 身振りの一種. 困 [カーシ国のある王の名]; 除害 [王名] *Mṛyut.*
 vāma-kukṣi 困 左脇 *Divy.*
 vāmatas 困 左側からまたは左側に.
 vāmatā 困 冷遇 (時として 困); 内気.
 vāmatva 困 冷遇.
 vāma-dakṣiṇa 困 両辺, 左右 *Gaṇḍ-vy., Rāṣṭr.*
 vāma-datta 困 [人名].
 vāma-dattā 困 [人名].
 vāma-drś 困 美しい眼の女.
 vāma-deva 困 [Gotāma の息子で RV. の第四 Maṇḍala の作者である Rṣi の名].
 vāma-devya 困 *Vāmadeva* に由来する. 困 [種々の Sāman の名].
 vāmana 困 身長の低い, 矮小な; かすかな(光), 短い(日); 下に曲げた, 低く曲った. 困 小人; *Viṣṇu* の化身である小人 (三步で計れるだけの土地を *Daitya Bali* によって約束された時, 三世界を跨ぎ越した者); [南方または西方にあって世界を支える象の名]; [人名, とくに *Kāryālamkāravṛtti* および *Kāśikāvṛtti* の著者の名]; 短者 *Mṛyut.*
 vāmanaka 困 矮人.
 vāmanatā 困 矮小.
 vāmanatva 困 矮小.
 vāma-nayanā 困 美しい眼の女.
 vāmanāśrama (°na-āś°) 困 [ある庵の名].
 vāmani 困 富をもたらす.
 vāmanitva 困 富を賦与する特質.
 vāmani-Kṛ, 矮人に変える.
 vāmani-Bhū, 曲がる, 身を屈する.
 vāma-pārśva 困 左脇辺 *Suv-pr.*
 vāma-bhrū 困 左の眉. (困) 困 美しい眉(眼)の女.
 vāmalūra 困 蟻塚.
 vāma-lokāyatika 困 左順世 (外道); (音写) 逆路伽耶陀, 縛摩路迦也底迦 *Saddh-p., 玄奘.*
 vāma-locana 困 美しい眼.
 vāma-locanā 困 美しい眼の女; [人名].
 vāma-śiva 困 [人名].
 vāma-śila 困 悪い性格の.
 vāma-stha 困 左側に立つ.
 vāma-svabhāva 困 高貴な性格の.
 vāmā 困 [Vāma 1. から] 美人; 女.

vāmākṣi 困 美しい眼の女.
 vāmārcis 困 左の方向に燃えさかる (火; 凶兆).
 vāmāvarta (°ma-āv°) 困 左の方に巻いた; 左ま/西の方に向けられた.
 vāmin 困 嘔吐する, 排泄する.
 vāmi 困 一° 雌の駱駝 (*uṣṭra-* とともに).
 vāmekṣaṇā (°ma-ikṣ°) 困 美しい眼の女.
 vāmetara (°ma-it°) 困 左でない, 右の.
 vāmaika-vṛtti (°ma-ek°) 困 つねに邪悪に行動す.
 vāmaika-vṛttitva 困 永久の邪悪.
 vāmorū (°ma-urū) 困 美しい腿をもつ女.
 vāmya 1. 困 *Vāma* (-deva) に属する. 2. 困 邪悪
 vāya 困 (一) 織匠; 織ること; 糸 [Vā 4. から]; 織; 女工; (音写) 防那, 防邪 *Prat-m., 玄奘. tantra* ~.
 vāyaka 困 織匠, 縫い手.
 vāyata 困 [Vayat から: *Pāśadyumna* の(父系)].
 vāyana 困 使織, 便織, 入織所 *Mṛyut.*
 vāyayitavya 困 未受分 [Vā 4. から]; 織作(衣) *Bo bh.*
 vāyava 困 (困 -i) 風・空気または風神に関する・に捧げられたまたはから生じた; 西北の.
 vāyavi 困 (± diś) 西北; 風隅 *Mṛyut.*
 vāyaviya 困 =vāyava.
 vāyavya 困 =vāyava. 困 [±pātra] (臼の形をしソーマの容器(の一種). 困 困 (困 -ā) 西北.
 vāyasa 困 (大きな) 鳥 (困); 鳥 (S., 困); 鳥鴉. 困 (-i) 鳥からなる (困); 鳥に関するまた特有な (困). 困 鷓鴣; 鷓 *Abh-vy., Mṛyut., Śikṣ.*
 vāyasa-ruta-lipi 困 摩瑜書 (六十四書の一(言善書); 迦迦婁多 (*kāka-ruta*) 書, (鳥音) *La*
 vāyasa-vidyā 困 識鴉音 *Mṛyut.*
 vāyasi 困 雌鴉 (困).
 vāyasi-Kṛ, 鳥に変える.
 vāyasi-Bhū, 鳥になる.
 vāyu 困 [Vā 1. から] 風, 空気 (五大の一, 七風をる); 風の神(種=*Marut* 神群); 呼吸; 生氣 (五る; *prāna, apāna, vyāna, udāna, samāna*; *nāga, kūrma, kṛkara, devadatta, dhanamja* (三体液の一としての)風; (人間を惑わす悪鬼としての)風; 風, 息風; 風災; 風隅, 神); 大猛風, 大風 *Abh-k., Abh-vy., Gaṇḍ-v. Laṭ-v., Lan̄k., Mṛyut., Ratna-ut., Saṅkhy. Śikṣ., Suv-pr., Vaiś-s., 梵千, 梵雜.*
 vāyu-kṛtsna 困 風遍処定 *Gaṇḍ-vy.*
 vāyu-kṛtsnāyatana (°na-āy°) 困 風遍処 [十遍処の一] *Mṛyut.*
 vāyu-gocara 困 西北.
 vāyu-grasta 困 風に冒された, 狂った.
 vāyu-cakra 困 風の及ぶ範囲.
 vāyu-diś 困 西北.
 vāyu-daivata 困 風天 *Divy.*
 vāyu-dhātu 困 元素としての空気 または 風; 風界, 風種, 風大, 風大界 *Abh-k., Lan̄k., M-v., Ratna-ut., Śikṣ.*
 vāyu-nighna 困 =vāyugrasta.

vāyu-patha 男 風の道, 空中の道; [王の名].
 vāyu-putra 男 風神の子, Hanumat.
 vāyuputrāya 名動 Hanumat を表わす.
 vāyu-bala 男 [神々の味方となって阿修羅と戦った戦士の名].
 vāyu-bhakṣa 形 空気を食べて生きる, 断食する.
 vāyu-bhakṣaka 形 [同上].
 vāyu-maṇḍala 中 旋風; 風輪 Abh-ry.
 vāyu-rugṇa 形 風によって吹き倒された(木).
 vāyu-vajra 男 金剛風 [菩薩の名] Guhy-s.
 vāyu-vega 男 風の速力. ~ena 男 音写 啣喻 尾疑那 Guhy-s.
 vāyuvega-yaśas 女 [人名].
 vāyu-saṃvartani 女 風怖, 以風壊 Mṛyut.
 vāyu-sama 形 風の如き.
 vāyu-samirita 形 有大風起 Gaṇḍ-ry.
 vāyu-skandha 男 風の領域; 大風, 大風輪 Gaṇḍ-ry.
 vāyvädhika (°yu-ādh°) 男 風疾 Diry.
 vār 中 水 (困 種 はきわめてまれに 男 または 女 のごとく -as となる). ~ām nidhi 大洋.
 vāra 1. 男 (=vāla) 尾の毛 (とくに馬の). 男 中 男 種 毛の篩 (ふるい) (RV.).
 vāra 2. 形 [Vr 1. から] 防ぐまたは保護する(一°のみ). 男 妨げとなるもの; 門, 戸口; 障 障 Diry.
 vāra 3. 男 [Vr 2. から] 1. (因)財宝(RV.) 2. (華) (何事かのために)定められた時間, (だれかの) 順番, (だれかの) 指定した場所(まれ); 回(数とともに例. 三回等); 週日, 日 (dina- あるいは divasa- の省略形, 一遊星の支配のもとにある一週日). ~m ~m 副 しばしば, 繰り返して, 再三再四; 返, 遍 Diry.
 vāra 4. 男 多量, 多数(まれに).
 vāraka 男 1. 反対者, 背反者. 2. 順番. ~ena 男 順に. 3. [vārddhaka の不確]; 年齢. 4. 容器の一種; 杓 Diry.
 vāra-kanyakā 女 (順番に買われる少女), 高等売春婦.
 vāraṅga 男 (小刀等の) 柄.
 vāraṇa 形 (女 -ni) [Vr 1. から] 防御する, 抵抗する, 反対する (華); 臆病な, 野生の (因); 危険な (RV.); 禁じられた (Br.). 男 (すべてに抵抗する), 象 (華); 象鉤 (華 きわめてまれに); 象 Rāṣṭr. 中 (華) (罽) を防ぐこと; 防御の手段 (まれに).
 vāraṇānana (°ṇa-ān°) 男 (象の顔をした), [Ganeśa の称].
 vāraṇiya 1. 未受分 防御されるべき (a- の形で 一°). 2. 象に属する. 男 (kara とともに) 象の鼻.
 vāra-nāri 女 (順番に買われる女), 高等売春婦.
 vāra-bāna 男 または 中 甲冑, くさりかたびら, 胴着 (=bāna-vāra 矢ふせぎ).
 vāra-mukhyā 女 高等売春婦; 姪女, 姪女 Bu-ddh-c.; Saddh-p.
 vārāya 使役 [Vr 1. から] 贈与する等.
 vāra-yuvati 女 (順番に買われる女), 高等売春婦.
 vāra-yoṣit 女 [同上].
 vāra-vadhū 女 [同上].

vāra-vāla 男 [ある Agrahāra の名].
 vāra-vilāsini 女 (順番に戯れる), 高等売春婦.
 vārāṅganā 女 [同上].
 vārāṇasi 女 [市の名], Banāras; 江遊城; 音写 婆羅痾斯, 波羅奈, 波羅捺; (音写, 波羅奈国, 巴羅納細, 波羅奈国 Av-s., Diry., Lal-v., Mṛyut., Saddh-p.
 vārāṇaseya 形 (音写) 波羅捺国 Av-s.
 vārāṇaseyaka 形 (音写) 婆羅痾斯, 波羅捺 Bodh-bh.
 vārāha 形 野猪 (varāha) から出たあるいはに関する; 豚の革で作った.
 vāri 1. 中 水; 水; 河, 大海水, 大水 Bodh-bh., Gaṇḍ-ry., Lal-v., Ratna-ut., Saddh-p.: vārisya sampūrṇo 含潤 Saddh-p. 126. ~tas 副 水によって.
 vāri 2. (または -i) 女 [Vr 1. から] 象を捕えるための柵あるいはつなぐための場所.
 vārika 形 掌, 管 Mṛyut. → upadhi~, bhājana~.
 vāri-kośa 男 (=kośavāri), 試罪法に用いられる聖水.
 vāri-gaṅbhodara (°bha-ud°) 形 雨をはらんだ重い(雲).
 vāri-cara 形 水棲の. 男 水棲動物; 魚.
 vāri-ja 男 (水中に生じた), 貝. 中 蓮; 蓮花 Sūtr.
 vārijākṣa 形 蓮のように (美しい) 目の.
 vāri-jāta (過受分) 男 貝.
 vārita → Vr 1.
 vāri-taraṅga 男 波.
 vāri-taskara 男 水盗人, [(光線によって水を取り去る) 太陽の称].
 vāritra 中 迴遮 Mṛyut.
 vāri-da 形 水あるいは雨を与える. 男 雨雲.
 vāridāgama (°da-āg°) 男 (雲の到来), 雨季.
 vāridānta 男 (雲の終り), 秋.
 vāri-dhara 形 水をもつあるいは含んでいる. 男 雨雲; 雲 Saddh-p.
 vāri-dhāni 女 貯水池, 水樽.
 vāri-dhārā 女 中 および 中 水の急流; 水, 雨, 雨沢, 衆流 Bodh-bh., Diry., Gaṇḍ-ry., Lal-v., Mṛyut., Saddh-p.
 vāri-dhi 男 水の容器, 大洋, (四海または七海といわれる) 海.
 vāri-nidhi 男 [同上].
 vāri-pa 形 1. 水を飲む. 2. 水を護る.
 vāri-patha 男 水路; 船乗り生活.
 vāri-pathopajivin (°tha-up°) 形 海上貿易によって生活する.
 vāri-pūrvan 副 前もって水を(注いで).
 vāri-prāsraṇa 男 大雨 Saddh-p.
 vāri-bandhana 中 水をせき止めること.
 vāri-bindu 男 水滴.
 vāri-maṇḍala 中 雨 Guhy-s.
 vārimat 形 水の豊富な.
 vāri-madhya 中 水中 Śikṣ.

vārimaya 形 (因-i) 水からなる, 水に特有の.
 vāri-muc 形 水あるいは雨を排出する. 男 雨雲.
 vāri-yantra 中 水車.
 vāri-ra 男 (水を与える), 雨.
 vāri-rāsi 男 多量の水, 大洋.
 vāri-ruha 中 (水中に成長する), 蓮華.
 vāri-vāraṇa 男 水象 (怪物の一種).
 vāri-vāha 形 水をもたらす. 男 雨雲; 雨の神.
 vārivāhaka 形 水をもたらす.
 vāri-vihāra 男 水中に戯れること.
 vāri-śaya 形 水中に生活する.
 vāri-sambhava 形 水中に生ずるまたはから得られた.
 vāri-stha 形 水に (位置する=) 映る (日輪).
 vāri 因 → vāri 1.
 vāriya 名動 自 水に似る.
 vāruṇa 形 (因-i) Varuṇaに属する・に関するまたはに
 捧げられた; (Varuṇaによって支配される)西方の.
 男 水棲動物, 魚. 因 (-i) 西; 蛇(の一種); Varuṇa
 の女性精力; Varuṇaの娘 [大洋を攪拌した時に生
 まれ, 火酒の女神と見なされる]; アルコール飲料,
 棕櫚酒.
 vāruṇi 男 (Varuṇaから) [種々の人の 父系].
 vāruṇi 因 水月隅, 水天隅 *Mṛyut.*
 vārṅṅa 形 (因-i) 木 (vṛkṣa) からなる・に属する・
 に関するまたはより生ずる, 木によって保護された
 (要塞); 木製の.
 vārṅṅa 形 [varṅṅaから] (文法的意味において) 音または
 文字に関する.
 vārtamānika 形 現在 (vartamāna) に関する, 現存
 の.
 vārtta 形 (事実: vṛttaに関する), 正当な, 正確な;
 健康な, 健全な; 通常の, 中庸の; 価値のない. 中
 安寧, 健康.
 vārttaya 名動 他 (業) と会話する.
 vārttā 因 生計, 職業; Vaiśyaの業務 (すなわち農業,
 牧畜および商業); (因, 一°: のまたはについての) 報
 知・音信・風聞または物語; (因, 因, 業とともになる
 uddiśya, 一°)に関する話合い. kā vārttā 何か変
 わったことでもあるのか? (因)に関して何が言え
 ようか? =は考えられないまたはは問題外である.
 vārttayā Kṛ (業) について話す. 一° 形 を食べて
 生きるまたは渡世する; 消息; 生 *Mṛyut.*,
 梵千.
 vārttā-ka 男, (因-i 主に) なす.
 vārttānujivin (°tā-an°) 形 商業または実業によって生
 活する.
 vārttā-mātrāvabodhana 中 風聞のみによる知識.
 vārttārambha (°tā-ār°) 男 商業上の企画, 実業.
 vārttā-vyatikara 男 凶報.
 vārttā-hara 男 使者.
 vārttā-hartṛ 男 [同上].
 vārttā-hāra 男 [同上].
 vārttā-hāriṇi 因 女使者.
 vārttika 1. 男 商人, 実業家; 使, 使節. 因 (-ā) 商
 業, 実業. 形 職業・業務に秀でた; 報道に関する.
 vārttika 2. 中 (Sūtraを) 増補し訂正する法則(もつ

とも有名なのは, *Pāṇini* の *Sūtra* に対する *Ka-*
tyāyana の *Vārttika* である); 大疏; 解釈,
 子注 *Lank.*, *Mṛyut.* 形 解釈上の, 語彙に関する.
 vārttika-kāra 男 *Vārttika* の作者.
 vārtraghna 形 (因-i) *Vṛtra* の殺戮者 (*Vṛtrahan*)
 に関する. 中 (havis とともに)=勝利を祈願する祭
 式. 男 [*Indra*の子とみなされる *Arjuna*の 父系].
 vārda 男 (水を与えるもの), 雨雲.
 vārddhaka 男 [vṛddhaから] 老人. 中 老齢. ~m
 DHā 老いる.
 vārddhaka-bhāva 男 老齢.
 vārddhakya 中 [同上].
 vārddhuṣa 男 高利貸.
 vārddhuṣi 男 高利貸; 累積した利子つきの借金.
 vārddhuṣika 男 高利貸.
 vārddhuṣin 男 [同上].
 vārddhuṣi 因 高利.
 vārddhuṣya 中 [同上].
 vārdhi 男 (水の容器), 大洋.
 vārdrāṇasa 男 犀, 老いた白色の牡山羊, または鶴の
 一種).
 vārdhri 因 革紐.
 vārmuc 男 雨雲.
 vārya 未受分 1. (因) から妨げられるべき・制御され
 るべきまたは引止められるべき. 2. 選択されるべき
 (因 まれ); 貴い, 価値ある (RV.). 中 宝, 財産, 福
 祉 (RV.).
 vāryupajivin (°ri-up°) 形 水によって生計を立てる.
 男 水運搬人; 漁師.
 vāryokas (°ri-ok°) 因 (?) (水中に生棲する), 蛭.
 vārvaha 男 雨雲.
 vārṣa 形 (因-i) 雨期 (varṣā) に属する; 年
Prāt-m.
 vārṣa-parvaṇa 形 *Vṛṣa-parvan* から派生した.
 vārṣala 形 *Sūdra* (vṛṣala) の特有の.
 vārṣākapa 形 *Vṛṣākapi* の性質を有する.
 vārṣika 形 (因-i) 雨の, 雨期に属する; 一年間持ち
 こたえる (食物等); 年々の, 一年の; (一°, 数詞
 とともに)年間持ちこたえる, 何歳の; 夏用(月);
 雨時; 夏間; 夏用護花; 寫 婆利師迦(花), 婆利師
 (華), 婆使迦, 婆師波利 *Diry.*, *Lal-v.*, *Mṛyut.*,
Śikṣ., *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, 玄応: ~tailapradīpa
 婆利師迦油燈 *Saddh-p. 418.*
 vārṣika-vāsa 男 夏間地 *Mṛyut.*
 vārṣiki 因 夏生, 雨生 *Mṛyut.*
 vārṣṇa 男 父系 [人名].
 vārṣṇeya 男 [vṛṣṇiから] [種々の人の 父系; *Nala*
 の御者の名].
 vārṣṇeya-sahita 形 *Vārṣṇeya* を伴った.
 vāla 男 [vāraの後世の形] 尾の毛, 馬の毛; 尾; 刺
 毛; 毛; 毛の篩 (因); 尾; 髪, 毛 *Saddh-p.*,
 梵千., 梵雜.
 vālaka 中 環, 耳環 *Abh-vy.*
 vāla-koṭi 因 毛端 *Daś-bh.*
 vāla-khilya 形 [mantrāh または rcah とともに: RV.
 VIII, 48 の後に挿入された十一の讃歌に適用され

る語]. 覆 または 中圍 [これらの讃歌を含む部分].
 覆 [拇指の大きさで、太陽と関係のある Rṣi の一部類].
 vāladhi 男 尾.
 vālapatha 男 毛端, 毛道; 毛端頭, 髮端 Gand-vy., Śikṣ.
 vāla-maya 形 毛からなる.
 vāla-vāyaja 中 猫眼石 (Vālavāya 山に産する).
 vāla-vāsas 中 毛の衣.
 vāla-vedha 過受分 能射毛端 Sapt-pr.
 vāla-vyajana 中 尾の毛とくにヤク (Bos grunniens = cāmara) の尾で作られた蠅払い.
 vālavyajani-BHū, 蠅払いとなる.
 vālāgra 中 毛端, 毛端(浄), 毛 (曇) Abh-vy., Suvik-pr.
 vālāgra-koṭi 女 毛端 Sukh-vy. I.
 vālāvitu 男 [人名].
 vāli 音写 婆羅 (曇) Suvik-pr.
 vālika 男 (女-ā) 砂; 沙 Bodh-bh., Lal-v., Ratna-ut., Śikṣ.; (=vālukā) Saddh-p., Sam-r., Sukh-vy. I., Sūtr.
 vālin 男 (尾を有する), [猿の名 (Sugrivaの兄で Indraの子)].
 vāluka 形 砂から作られた.
 vālukā 女 圍 あるいは一般に 覆 砂; 沙 Lank., Mṛyut., Ratna-ut., Vajr-pr. : gaṅgārādī-~upamāḥ kalpāḥ 如殍伽沙数大劫, 如殍伽沙劫砂 Aṣṭ-pr. 47.
 vālukātva 中 砂たること=無.
 vālukābdi (°kā-ab°) 男 砂の海, 砂漠.
 vālukāmaya 形 (女-i) 砂からなるまたは作られた.
 vālukāmbudhi (°kā-am°) 男 砂の海, 砂漠.
 vālukārṇava (kā-ar°) 男 [同上].
 vālka 形 樹皮製の. 中 樹皮 (vālka) 製の布または衣服.
 vālmika 形 Valmiki によって作られた; 青蟻; 音写 弥迦 Lank.
 vālmiki 男 [ある古聖の名, Rāmāyaṇa の作者].
 vālmikiya 形 Valmiki に関係したまたはによって作られた.
 vāllabhya 中 人気, 好意; 柔和.
 vāva 不変辞 [強調を示し関係節中にもっとも普通に用いられ, 語勢を有する語に続く], ちょうど, 実 (Br.にもっとも普通, TS., U. および Bhāgavata P. にも現われる).
 vā-vacana 中 二者択一を表わす陳述.
 vā-vad-ūka 強意 形 非常に雄弁な; 饒舌な; 議論ずきな.
 vāvasāna 強意 現分 [Vās から] 熱望する (RV.).
 vāvasāna 三過 分 自 [Vas 2. から] 着る.
 vāvāta 形 [Vā 3. から] 愛された. 男 お気に入り (RV.).
 vāvātā 女 王の寵妃 (mahīṣi には劣るが parivṛkti には勝る: 註).
 Vās I. vāsati 中 (因, 圍), 自 (圍), IV. vāsyate 中 (因, 圍), 他 (叙詩) (葉) 鳴く, 吼える; 叫ぶ, (鳥が) 金切り声をたてる; 鳴り響く. 使役 他 vāsayati 鳴かせ

る, 金切り声をたてさせる, 鳴らす, 轟かせる.
 強意 vāvāṣṭi, vāvāsyate 声高く吼える, 金切り声をたてる, 響く.
 abhi- にむかって鳴く, 吼えつく.
 prati- (葉) に鳴くまたは金切り声を立てる. 強意 [同上].
 sam- とともに鳴く等.
 vāsaka 形 (鳥が) 轉る.
 vāsita 過受分 中 咆哮, 叫び, 金切り声をたてること.
 vāsītā 女 牡牛を慕う牝牛; [同様に雄を求める他の動物についても使われる] とくに牝象; 女, 妻 (AV. 叙詩 および 圍 においてはつねに vāsītā と綴られる).
 vāsin 形 叫ぶ, (鳥が) 金切り声をたてる; 有自在力, 自在 Abh-vy.
 vāsi 女 鋭い小刀, 斧 (因, 圍; AV. および 圍 においては vāsi と綴られる).
 vāsimat 形 鋭い小刀を持った (Agni) (RV.).
 vāsra 形 吼える, 鳴く; 響く; 唸る (風).
 vāsrā 女 鳴いている牝牛; 牝牛.
 vāṣṭukā 女 [村の名].
 vāṣpa 男 (=bāṣpa); 氣; 雲霧 Divy.; 音写 [人名] 婆洪波 Divy.
 vāṣpa-mokṣa 男 啼哭, 啼泣 Divy.
 vāsa 1. 男 (vāsas の 韻律) 衣服, 着物; 衣 Lank.
 vāsa 2. 男 (とくに夜間の) 休息, 宿泊; (因, 一°) の休憩・居住または滞在; 住宅, 住所; (圍) の席; 一日の旅程 (まれ); 地位, 状態 (まれ). ~m Vas 住居を定める, 滞在する, 住む, 生活する. 一 形 (因) に住むまたは暮らす (圍); 処, 居, 住, 止, 地, 居処, 所在 Abh-vy., Bodh-bh., Kāśy., Lal-v., Lank., Mṛyut., Ratna-ut., Saddh-p., Suv-pr., 梵雜., 梵千.
 vāsa 3. 男 香水; 香り; 熏香 Śikṣ.
 vāsaḥ-khaṇḍa 中 ぼろ.
 vāsaka 1. 形 一° = vāsa 1. 衣服, 着物.
 vāsaka 2. 形 一° (…に) 住居, 住所. 中 寢室.
 vāsaka 3. 香料.
 vāsa-kalpana 中 所住 Sūtr.
 vāsaka-sajjā 形 女 寢室で用意の整った, (愛人を迎える) 用意を整えた婦人.
 vāsaka-sajjikā 形 女 [同上].
 vāsa-gṛha 中 寢室; 堂室 Divy.
 vāsa-geha 中 [同上].
 vāsa-tāmbūla 中 香料のついたきんま (の葉).
 vāsativara 形 [vasati-vari から] 一晚安置された水に関する.
 vāsatēya 形 避難所 (vasati) を与える.
 vāsanā 1. 中 [Vas 2. の 使役 から] 衣服, 着物; 函, 箱, 小箱.
 vāsanā 2. 中 [Vas 3. の 使役 から] 住まわせるまたは住むことを許すこと (まれ); 知識 (まれ).
 vāsanatā 女 熏習, 余習 Lank.
 vāsanā-mala 中 習気垢 Śikṣ.
 vāsanā 女 (因) についての考えまたはに対する願望; (一°) (心中に) 宿って (残された) 印象; 意見, 觀念; 謬見 (例: bheda ~ 差別ありという誤った考

え)；**熏**，**熏習**，**習**，**習氣**，(煩惱)習氣，有習，**繫習**，**殘氣** *Abh-ry.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-ry.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Ratna-ut.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Vijñ-t.*; 性 *Madhy-v.*

vāsanā-kleśa 男 **習煩惱**，**熏習煩惱**，**煩惱習** *Lank.*

vāsanā-nivartana 男 **習尽** *Sūtr.*

vāsanāmaya 形 観念に存するまたは基づく；(一°)の潜在印象に基づく。

vāsanāmayatva 男 [同上の語]。

vāsanā-vyādhi 男 **習** *Ratna-ut.*

vāsanā-samudaya 男 **習氣集**，**熏習集** *Madhy-bh.*

vāsanā-samudghāta 男 **永害習氣**，**断除諸習**，**永断**(煩惱)習氣 *Bodh-bh.*

vāsanā-hetu 男 **習氣因**，**因虚妄熏習**，**習氣為因** *Lank.*

vāsanā-hetuka 男 **熏因**，**習氣因** *Lank.*

vāsaniya 形 きびしい熟考によってはじめて理解される。

vāsanta 形 (女-i) 春に属するまたは産する，**春の**；**春和** *Gaṇḍ-ry.*

vāsantika 形 (女-i) 春の。男 春祭。

vāsanti 女 [種々の植物の名；森の女神の名]。

vāsa-paryaya 男 住居の変更。

vāsa-prāsāda 男 宮殿。

vāsa-bhavana 男 寢室。

vāsa-bhūmi 女 居住地，住所。

vāsaya 1. [Vas の 使役]。

vāsaya 2. 名動 他 (自 韻律) *vāsayati* (-te) 香らせる，香りをつける，匂わす。過受分 *vāsita* 香る，芳ばしい，匂う；(一°)に感染したまたはにひたった。

adhi- 香らせる，香りをつける；伝授する。過受分 香る；清められた；(圓，一°)に感染したまたは罹った。

ā- 香らせる。

sam-ā- …を克服する，魅惑する。

vāsa-yaṣṭi 女 (飼い馴れた孔雀のための，枝のある)とまり木。

vāsayitr 男 衣を着せる人；保護者，支持者。

vāsara 形 (女-i) 朝 (*vasar*) に関するまたは現われる，**早朝の**(RV.)。男 (黎明時，朝)，**昼**；日(一般に)；**曜日**。

vāsara-kṛtya 男 日々の慣例。

vāsara-maṇi 男 日の宝石，太陽。

vāsara-saṅga 男 夜明け。

vāsarādhiśa 男 太陽。

vāsareśa (°ra-iś°) 男 太陽；週日を司る者(太陽，月または遊星)。

vāsava 形 (女-i) *Vasu* 神群に関するまたはから出た(等)；*Indra* に関する (-i ±diś 女 東)。男 *Vasu* 神群の長，*Indra*；**天**(音写) [天の名] *婆蘇子 Lal-v.*；**王**(音写) [王の名] *摩娑婆 Divy.*, *Lal-v.*

vāsava-grāma 男 **婆索婆村** *Divy.*

vāsava-cāpa 男 *Indra* の弓，虹。

vāsava-dattā 女 **しばしば** [人名]；*Vasavadattā* の物語；[*Subandhu* の著した小説の題名]；**音写** *婆娑婆達多*，*婆須達多 Divy.*

vāsava-diś 女 *Indra* の方位，東。

vāsavāsā (°va-ās°) 女 [同上]。

vāsa-veśman 男 寢室。

vāsas 1. 男 [Vas から] 衣服，長衣，着物；布；**上**衣と下衣；**衣**，衣服，衣裳 *Divy.*, *Lank.*, *Śikṣ.*

vāsas 2. 男 夜の宿所(まれ)。

vāsā 女 **脂膏** *Divy.*

vāsāgāra (°sa-āg°) 男 寢室。

vāsita [Vas の 使役 と 名動 *vāsaya* との 過受分] **習**，**熏**，**熏修**，**熏習**，**所熏馥**，**所熏修** *Gaṇḍ-ry.*, *Lank.*, *Suv-pr.*；**熏香** *Śikṣ.* 28.

vāsita 女 → *vāsita*。

vāsin 1. 形 (一°) を着たまたは纏った。

vāsin 2. 形 (一般に 一°) (の内に・の間に・の間またはとして) 逗留する・滞在する・住するまたは暮らす；**居住**，**居在** *Sanddh-p.*

vāsiṣṭha 形 *Vasiṣṭha* から出た・によって作られた・に関するまたは属する。男 *Vasiṣṭha* からの 父系。女 (-i) *Vasiṣṭha* の女の子孫，[川の名]；**音写** *婆私*，*婆師希 Abh-ry.*

vāsi 女 → *vāsi*；**斧** *Divy.*

vāsuki 男 [ある神仙の名]；[竜王の名(八大竜王の一)]；[人名]；**広財子**(=竜王名)；**和修吉 Mṛyut., *Saddh-p.***

vāsudeva 男 [*Vasudeva* からの 父系] [*Puṇḍra* の王の名]；[*Kṛṣṇa-Viṣṇu* の名]；[人名]；**財子 Mṛyut.** 形 (女-i) *Vāsudeva* (*Kṛṣṇa*) に関する。

vāsudevaka 男 小 *Vāsudeva*；第二の *Vāsudeva*。

vāsumdhareya 男 [*Naraka* の 母系]。

vāsumdhareyi 女 [*Sitā* の 母系]。

vāsū 女 少女。

vāso-da 形 衣服を与える。

vāso-dā 形 [同上] (RV. 用例一回のみ)。

vāso-bhṛt 形 (一°) の衣服を纏った。

vāso-yuga 男 一對の衣服。

vāso-vāya 形 衣服を織る。(RV. 用例一回のみ)。

vāstava 形 (女-i) (現実の物 *vastu* に関して) 実の，**真実の**，**真理の**，**正真正銘の**。

vāstavika 形 [同上]。男 実在論者；園丁。

vāstavya 形 現場 (*vāstu*) に残った，残された (因) 居住する，定住する，止住する。男 住民，居住者。

vāstu 男 (P. へのみ) 男 [Vas から] 住所，家宅，家部屋(まれ)。

vāstu-karman 男 家の建築。

vāstu-jñāna 男 建築の知識，建築術。

vāstu-parikṣā 女 建築用地の調査。

vāstu-pāla 男 家の守護神。

vāstu-puruṣa 男 神格化された家の理想型。

vāstu-vidhāna 男 家の建築。

vāstu-sampādana 男 用地の準備。

vāstu-sthāpana 田 家の建設。

vāstu-ha 形 その場所を取残された。田 (?) 残留物。

vāstoṣ-pati 男 家宅の神 (安宅神)。

vāstoṣ-patiya 形 Vāstoṣpati 神に属する等。

vāsrā 女 vāsra の 不確。

Vāh, I. 田 vāhate おす。

pra- おす。使役 他 pravāhayati おす。

saṃ-pra- [同上]。

vāh 1. [Vāh (=Vah) の 爲 不定] vāhe のみ 牽くために (RV. 用例一回のみ)。

vāh 2. (一°) Vah の 田 田。

vāha 形 (一°) 牽く, 送る; 運ぶ; 流れる (川)。男

牽引用の動物; 馬; 牡牛; 乗物, 馬車; 運搬人, かつぎ人足; 容量 (=10 Kumbha または 2 Prastha)。

一° 形 …を乗物とするまたはに乗った。田 牽くこと, 乗ること, 駆ること; 担うこと, 運ぶこと; 流れ;

漢語 行, 流 Abh-ry., Lank.; 筈, 箭玄応; 音写 [量名] 婆訶 Abh-ry., 玄応: ~ād varṣāsatenaika-

tiloddharakṣayāyusaḥ 寿量如一婆訶麻百年除一尽, 從婆訶百年除麻尽為寿 Abh-ry. 849.

vāhaka 男 (女 -ikā) 運搬人; (一°) を担うまたは送る人; [人名]。形 (一°) (水を) 運ぶ; 動かす; 撫で

る; 漢語 荷, 担; 招致, 能生, 発生 Abh-ry., Lank.

vāhana 形 [Vah の 使役 から] 御する; 運ぶ; もた

らす。田 牽引または乗用の動物; 乗物, 運輸機関, 戦車, 荷馬車; 動物 (まれ); 牽くこと, 運ぶこと;

乗ること, 御すること; 除くこと; 一° 形 …に乗

った, を駆る; 漢語 車, 転, 乘 (引), 御 (者), 向, 運転, 輦輿, 挑牽; 篙, 棹; 遣除, 遣蕩; 音写

[数名] 婆喝那 Abh-ry., Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v., Madhy-v., Mvyut., Śikṣ.: ~ prajñāpti 婆訶

那若爾炎致 Mvyut.

vāhanatā 女 乗物の状態。

vāhanatva 田 [同上]。

vāhanā 女 軍隊。

vāhani-Kṛ, …を乗物とする。

vāhaniya 形 漢語 転, 所将 Abh-ry.

vāha-yoga 男 漢語 行度, 行相 Abh-ry.

vāhas 田 供物 (吠)。

vāhita 1. Vah の 使役 過受分。

vāhita 2. 漢語 除, 棄, 波除, (己除), 引発, 引将, 所遊; 転, 成 Abh-ry., Lal-v., Mvyut.

vāhitā 女 漢語 任運 Bodh-bh.

vāhin 形 (車を) 駆る; 一° 牽く; 流れ着く; 流れさす, 流す; (川が) 運ぶ, (風が) 浮動させる; もた

らす, 生ずる; 担う, 運ぶ; 纏う, 所有する, 有する; 遂行する, 実行する; 漢語 運, 運転, 運載; 転, 起, 漂動; 速進, 増長, 升進 Abh-ry., Bodh-bh., Gand-ry.

vāhini 女 (吠, 田) 軍隊; (田) 軍隊の一編成 (象 81, 戦車 81, 騎馬 234 および歩兵 405 から成る); 川。

vāhi-pati 男 軍隊の指揮者。

vāhiniśa 男 [同上]。

vāhiṣṭha 最上 (=vahiṣṭha) 最も多く運ぶまたはもた

らす (RV.)。

vāhya 未受分 牽かれる, 駆られる; 御される; (一°) によってまたはへ運ばれる。田 運搬または乗用の動物; 乗物, 運送機関; 漢語 転, 所引 Abh-ry.

vāhyāli (°ya-āl°) 女 騎乗の道。

vāhya-bhū 女 [同上]。

vi 1. 男 鳥; また馬および Marut 神群の 聖諭 (吠) では普通, 田 にはまれ。

vi 2. 副 動詞と結合する前置詞として, および名詞とともに 一° として分離, 欠除, 分散を表わす (別々に離れて, 隔って, 遠くに, …なしに等)。副 (副の省略法を伴い, 業とともに) …を通じて, の間に (RV. まれ)。

viṃvara 田 漢語 音写 [数名] 頻婆羅 Lank.

viṃśa 形 第二十番目の (例 bhāga または aṃśa とともに, 男 二十分の一); 二十を伴ったまたは増加する

(例 śata とともに, 田 百二十); 二十の部分から成る。田 二十; 男 二十分の一。

viṃśaka 形 二十を伴ったまたは増加する (例 śata とともに, 田 二十パーセント); 二十の部分から成る。田 二十。

viṃśatama 形 二十番目の (例 bhāga とともに, 男 二十分の一)。

viṃśati 女 [二個の十: (d)vi-m-(da)śa-ti] (同格の 複 とともにまたは 國 複 を支配する または 一°) 二十 (例 viṃśatir ghaṭānām 二十個の壺, viṃśatyā haribhiḥ 二十頭の馬をもって)。

viṃśatika 形 二十歳の; 二十 (の音節または paṇa: 罰金) から成る 田 二十。

viṃśatikā-vijñaptimātratā-siddhi 女 [書名, 世親作 二十頌から成る唯識論の名]; 漢語 唯識論, 大乘唯識論, 唯識二十論 Vijñ-v.

viṃśati-bhāga 男 二十分の一。

viṃśatima 形 二十番目の。男 二十分の一。

viṃśati-varṣa-deśīya 形 およそ二十歳ばかりの。

viṃśati-vārṣika (女 -i) 二十年間継続する, 二十年後に起る。

viṃśati-sahasra 男 漢語 二万 梵雄。

viṃśatiśa (°ti-iśa) 男 二十カ村の長。

viṃśatiśin (°ti-iś°) 男 [同上]。

viṃśāntara-kalpa 男 漢語 二十小劫 Saddh-p.

viṃśin 形 二十から成る。男 二十カ村の長。

vi-kaṅkata 男 [刺のある木の名(柄杓を作るのに用いられる木材)]。

vi-kaca 形 髪のない, 禿げた (まれ); ふくらんだ, 開いた (花); (一°) で光を放つ, 輝く。

vikaca-śri 形 輝くばかりに美しい; 髪的美しさを失った。

vi-kacita 名動 過受分 膨らんだ, 開いた (花)。

vi-kaci-Kṛ, (花が) 開く。

vi-kacchapa 形 亀を奪われた。

vi-kaṭa 形 [vikṛta の俗語形, 外観の改まった; RV. 田 例一回のみ, 田] 異常な様相をもつ, 怖ろしい, 恐るべき; 大いなる, 広い (まれ); 極度に美しい (まれ); 漢語: ~ otkātabhiṣaṇa 大悪可怖(相) Guhy-s. 14. ~ m 副 恐ろしく。男 [人名]; [ある鷲鳥の名]。

vikāṭaka 形 漢語 弱者, 大弱, 太弱 Mvyut.

vikāṭa-vadana 男 [Durgā 女神の一侍者の名]。

vikaṭa-varman 男 [ある王の名].
vikaṭākṣa 形 恐ろしい眼をもった. 男 [ある Asura の名].
vikaṭānana °(ta-ān°) 形 大きなまたは恐ろしい口をもった.
vi-kaṭi-Kṛ, 拡張する, 延長する.
vi-kaddhamāna 器 (vi-Kṛṣ の 現分) 漢訳 食噉(?)
Saddh-p
vi-kaṇṭaka-pura 田 [ある町の名].
vi-Katth, → Katth.
vi-katthana 男 自慢家, ほらふき. 田 自慢, 高言.
vikatthanatva 田 厭わしい賞讃.
vi-katthanā 因 自慢, 高言.
vi-kathā 因 不適切な話.
vi-Kamp, → Kamp.
vi-kampana 田 漢訳 肆軽躁 *Bodh-bh.* → avikampana.
vikampanatā 因 漢訳 傾動, 有傾動, 有動転 *Bodh-bh.* → avikampanatā.
vi-kampita 田 低下する音調の一種.
vi-kampitatva 田 漢訳 揺動, 動揺 *Bodh-bh.*
vi-kampya 未受分 → avikampya.
vi-karaṇa 1. 形 変化を生ずる. 男 ±pratyaya [語基を形成し(かつ, 語根と人称語尾の間に挿入される)接辞]. 田 変化, 変形; 漢訳 散 *Ratna-ut.*
vi-karaṇa 2. 形 感官を欠いた.
vikaraṇatva 田 感官の欠損.
vi-karāla 形 恐るべき, 怖ろしい.
vikarāla-mukha 男 [ある Makara の名].
vikarāla-vikṛta-damṣṭra 形 漢訳 嚙牙醜惡 *Mvyut.*
vi-karālā 因 [*Durgā* 女神の称].
vi-karṇa 形 耳のない, 聾の. 男 [(とりわけ) *Dhṛtarastra* の名], [ある *Sāman* の名].
vi-kartana 形 分ける. 男 太陽. 田 切断; 分割; 漢訳 解断 *Śikṣ.*
vi-karṭṛ 男 変化せしめる者; 侮辱者.
vi-karma-kṛt 形 不法な業務に従事する.
vikarma-kriyā 因 不法な行為の遂行.
vi-karman 田 不法な行為または業務.
vikarma-stha 形 不法な業務に従事する.
vi-karṣa 男 引離すこと; 半母音結合等の分離; 距離, 間隔.
vi-karṣana 田 引離すこと; (弓を)引くこと, 捜し出すこと, 穿鑿.
vi-kala 形 一部分を欠く, 欠陥ある, 不完全な; 効力のない, 無用の; 毀損された, 不具の; 傷ついた, 弱い; (圓, 一°)に欠陥がある, を欠いた; (眼が, 一°)盲いている; 疲弊した, 無神経の, 不健全な, 落胆した, 意気銷沈した; 漢訳 闕, 離, 欠, 減, 欠減, 欠壞, 闕乏, 置乏, 無有, 不現, 不具, 所有, 不具支, 不具足, 有置乏, 有置之者, 諸根不具 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v., Madhy-v., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ.*; ~indu 月(輪)欠 *Abh-k.* 62.
vi-kalaṅka 形 汚点のない.
vi-kalatā 因 欠陥, 不完全; 虚弱.

vi-kalatva 田 [同上].

vi-kala-bandhana 形 漢訳 不具縛, 不具煩惱 *Bodh-bh.*

vi-kalā 因 秒.

vi-kalāṅga 形 不具な手足を有する; 漢訳 支欠 *Aṣṭ-pr.*

vi-kali-kartavya 田 漢訳 応令断滅 *Bodh-bh.*

vikali-Kṛ, 大いに傷つけるまたは害する.

vikali-kṛta 過受分 漢訳 欠, 損 *Abh-vy.*

vikali-bhāva 男 漢訳 剋: cakṣur ~ 剋眼 *Bodh-bh.* 167.

vi-kalendriya °(la-in°) 形 漢訳 根欠, 根欠減, 根不具者, 根不全者, 諸根毀壞, 諸根欠減, 諸根不具足, 諸根不具者 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Saṣṭ-pr., Śikṣ.*

vi-kalpa 男 二者択一, 選択; 結合, 工夫; 変化; 区別(まれ); 不決定, 躊躇, 疑惑; 謬見, 空想; (衣服等の)贈与, 布施; 漢訳 分, 思, 念, 想, 思惟, 分別, 能…分別, 想作, 計著, 執著, 異分別, 虛分別, 種々分別; 易脱, 差別; 疑, 妄想, 虛妄分別 *Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Bodh-c., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lanḅ., Madhy-bh., Madhy-vy. Madhy-vibh., Ratna-ut., Saddh-p., Saṣṭ-pr., Sāṃkhy-k., Sūtr., Suvik-pr., Vijñ-t.*; 淨施 *Bodh-bh.*: ~ patita 虚妄分別 *Lanḅ.16.*, ~ varjita 無分別 *Saddh-p.* 57. 男 随意に

vikalpaka 形 漢訳 分別 *Abh-vy.*

vikalpakatva 田 漢訳 分別, 能分別 *Madhy-bh.*

vikalpa-jāla 田 多くの可能な場合, ディレンマ.

vikalpa-darśana 田 漢訳 分別見, 虚妄所見, 虚妄見 *Lanḅ.*

vi-kalpana 田 (因 -ā) 選択を許すこと; 区別; 誤まった観念または臆測; 漢訳 分別, 所分別, 異分別; 疑, 妄想 *Bodh-bh., Bodh-c., Lanḅ., Madhy-vibh., Sūtr., Suvik-pr.*

vi-kalpaniya 未受分 確かめられるべき.

vi-kalpa-prapaṃca 男 漢訳 分別戲論 *Bodh-bh.*

vikalpa-buddhi 因 漢訳 分別智, 分別解, 妄想覚知 *Lanḅ.*

vi-kalpayat 形 漢訳 説, 分別 *Nyāy-pr., Madhy-v.*

vi-kalpayitavya 未受分 二者択一に任ざるべき; 漢訳 可分別 *Ratna-ut.*

vi-kalpavat 形 不決定な, 疑わしい.

vi-kalpa-vikṣepa 男 漢訳 分別散乱 *Sūtr.*

vikalpa-hetu 男 漢訳 淨施因縁 *Bodh-bh.*

vikalpānupapatti 因 ディレンマを含むために妥当でないこと.

vikalpāsaha 形 ディレンマの吟味に堪え得ない.

vikalpāsahatva 田 ディレンマを含むために妥当でないこと.

vi-kalpikā 形, (因) 漢訳 分別 *Vijñ-t.*

vi-kalpita 過受分 漢訳 分別, 所分別; 疑, 妄想, 妄情, 妄分別, 分別所執 *Abh-vy., Bodh-bh., Lanḅ., Madhy-v., Madhy-vibh., Saddh-p., Sam-r.*; 作淨, 所畜 *Bodh-bh.*: ~ m rūpam 分別義色, 種類色 *Madhy-bh.*

vikalpitaiva 田 随意の選択.

vi-kalpin 形 (黒無憂花, 一°) と見誤まれがちな (髪).

vi-kalpya 未受分 配当されるべき, 計算されるべき, 状況に従って選ばれるべき; 可分別, 所分別 *Lañk.*

vi-kalmaṣa 形 無垢の, 無実の; 無染者 *Rāṣṭr.*

vi-kaśyapa 形 Kaśyapa 家の者を除いて行われた(祭式).

vi-Kas, → Kas.

vi-kasita 過受分 花開 *Mvyut.*

vi-kasvara 形 膨らんだ, 開いた(花); あいた(口, 眼); 卒直な(人); 明瞭な(音).

vi-Kāṅkṣ → Kāṅkṣ.

vi-kāra 男 変換, 変更, 変化, 変形, 不同, 一変したまたは異常な状態; 幻影, 幽霊(まれ); 異常ないたずら, 無節制(種, まれ); 産物; 根本原質(prakṛti)から転変したもの(十六個すなわち十一器官と五元素が含まれる: サーンキヤ哲学); 単語の派生形(まれ); 正常な肉体的状態の変化, 疾病, 疾患, 病気, (打撲, 一°)に原因する傷; 顔の歪み, しかめ面; 正常な精神状態の変化, 乱心, 動揺, とくに恋情; 感情の変化, 敵意, 強情, 背反: vidhehi mārāla~m 紅鶴の異常な歩調を装え; 変, 異, 転, 変異, 変易, 変異無常, 変壊, 転変, 変礙, 有差別; 反, 返, 馳散, 驛馳 *Abh-k.; Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Kāśy., Lañk., Madhy-bh., Madhy-vibh., Ratna-ut., Sāṃkhy-k., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr., Vijñ-t., Vijñ-v. : śaḍ-~m mahāpṛthivī-cālo 'bhūt* 大地六返震動 *Sapt-pr. 240.*; 種 *Aṣṭ-pr., Saddh-p.*; 患, 病, 病悩 *Madhy-v., Śikṣ. : ma-naso~m* 憂感 *Buddh-c. 108.* → avikāra, nirvikāra.

vikāra-kārin 形 能壊 *Rāṣṭr.*

vikāra-kāraṇa 中 [+kāraṇa の一]; 変壊能作, 変異因 *Madhy-bh., Madhy-vibh.*

vi-kāraṇa 形 根拠のない.

vikāra-dharminīva 中 転変, 変異法 *Madhy-bh.*

vikāravat 形 変化を受ける.

vikāra-vikāritva 中 変異 *Abh-k.*

vikāra-hetu 男 混乱または動揺の原因.

vikāra-hetutva 中 変因 *Abh-vy.*

vikārābhedyā 形 破諸分別 *Sūtr.*

vikārāvaraṇa (°ra-āv°) 中 変壊障, 変異障 *Madhy-bh.*

vi-kārita 過受分 [vi-Kṛ の使役]; 転, 転変 *Lañk., Sūtr.*

vi-kāritva 中 変化, 変更; 異, 転異, 有差別 *Abh-k., Abh-vy.*

vi-kārin 形 変化しがちな, 変化しやすい; (一°)に变化する; 感動または恋を感じやすい; 不忠となった, 謀叛した; (心)に变化をおこさせる, を墮落させる.

vi-kārotpatti (°ra-ut°) 中 変起, 有壊有起 *Sūtr.*

vi-kārya 未受分 変化しやすい.

vi-kāla 男 夕方; 夜, 暮, 日暮, 非時 *Divy.,*

Mvyut., 梵雜: ~bhojanavirati 不非時食 (離非時食) *Mvyut. 268.*

vi-Kāś, → Kāś.

vi-kāśa 1. 男 光明.

vi-kāśa 2. 男 vikāśa の不確.

vi-kāśin 形 輝く, 光を発する; 一° 明らかにする, 説明する.

vi-kāśa 男 [Kas から] (花の) 咲くこと, 膨らむこと, (口, 眼の) 開くこと; 心の開くこと, 感受性; 展開, 発展; 開, 伸 *Abh-vy., Divy.*

vikāśaka 形 (一°) 心を開くこと=賢明ならしめること.

vi-kāśana 形 開発せしめる. 中 発展すること.

vi-kāśitā 中 展開, 発展.

vi-kāśin 形 開花する, 膨らむ; 開いた(眼); 拡大する, 発展する; 広い, 巨大な(財産); (一°)が豊富な; 広開 *Madhy-v.*

vi-kira 男 (供儀を妨げるものを懐柔するために供物として) 撤布された米(等); [鶉鷄の一種].

vi-kiraṇa 中 撤くこと, 散布すること; 散, 錫, 破, 滅, 壊散, 摧伏, 降伏, 飄偃, 吹散, 普能吹, 普能吹倒 *Gaṇḍ-vy., Mvyut., Śikṣ.*

vikiraṇa 過受分 [vi-Kṛ] 撤布された等; 放, 散, 散乱, 已散, 参差 *Abh-vy., Prāt-m., Ratna-ut., Śikṣ. : puṣpa~* 散華 *Śikṣ. 340.*

vi-kukṣi 形 突き出た腹をもった. 男 [Ikṣvāku の子または孫の名].

vi-kuñcita → Kuc.

vi-Kuṭṭ, → Kuṭṭ.

vi-kuṭṭanā 中 壊, 遮礙 *Śikṣ.*

vi-kunṭha 形 鋭い, 貫通する, 抵抗しがたい(まれ).

男 [Viṣṇu 神の名称]; Viṣṇuの天国(=Vaikuṭṭha).

vi-kunṭhita → Kunṭh.

vi-Kup, → Kup.

vi-kurbaṇa 中 =vikurvaṇa; (神通), 変化 *Madhy-v.*

vi-kurvaṇa 男 (おそらく vikurvāṇa) [Śiva 神の名].

中 神通, 神変, 変現, 遊戯, 自在用, 神力自在, 神通変化, 作大神通 *Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lañk., Madhy-v., Mañj-m., Mvyut., Sam-r.*

vikurvaṇatā 中 変現 *Sam-r.*

vi-kurvāt 現分 自在 *Sam-r.*

vi-kurvamāṇa 現分 変幻, 神力 *Sam-r.*

vi-kurvā 中 神通, 変現, 変化, 自在力 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p., Śikṣ.*

vi-kurvāṇa 形 変化をうける, 自分自身を変える; 化, 幻化 *Mvyut.*

vi-kurvita 中 種々の形をとること; 神通, 神力, 神変, 自在, 変化, 変現, 化行, 神通力, 自在力, 威神力, 神通事, 遊戯神通, 自在神力, 広大神变, 大神通力, 神力変化 *Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lal-v., Madhy-v., Sam-r., Śikṣ., Sūtr.*

vi-Kūj, → Kūj.

vi-kūjita (過受分) 中 ぶんぶん唸ること, 囀ること

と。

vi-Kūṇ → Kūṇ.

vi-kūṇana 田 短縮.

vi-Kṛ, → Kṛ.

vi-Kṛt, → Kṛt.

vi-kṛta, 過受分 [Kr] 変化した等；不具の，醜惡な；不正な；(欲望に)染まった。田不具，かたわ；流産，変形；変化；**漢訳** 改変，顛倒，変相，形貌變壞 Bodh-bh., Lal-v., Mvyut.; 悪，醜 Bodh-c., Madhy-v.; 所著 Daś-bh. → avikṛta.

vikṛtatva 田 変形，変化.

vikṛta-daṁṣṭra 男 (醜い歯をした)，[ある妖精の名].

vikṛta-pāpa 形 **漢訳** 悪事発露 Divy.

vikṛta-buddhi 形 心変りした，仲違いした.

vikṛta-rūpa 形 **漢訳** 形貌可憎，形貌醜陋 Av-s., Divy.vikṛta-vadana 形 **漢訳** 形貌変相 Mvyut.vikṛta-varṇa-vastra 田 **漢訳** 改変壞色衣，壞色衣 Bodh-bh.

vikṛtākāra (°ta-āk°) 形 不恰好な様子をした；外觀の変わった.

vikṛtānana (°ta-ān°) 形 **漢訳** 音写 尾訖哩多那那 Guhy-s.

vikṛti 因 変態，変更，変化，変形，変異，変化した状態；妖怪，幽霊；産物；Prakṛti から転変したもの (=vikāra, Sāṃkhya 哲学用語)；派生形 (文法，まれ)；(種子の)発芽 (Br.)；(正常な精神状態)の変化，乱心；感情の変化，敵意，背反；**漢訳** 変，異，無常，変壞，変易，退転；種，殊品，形状有殊，形処顕現，形相雖殊 Cat-s., Lanik., Ratnaut., Sad-dh-p., Sāṃkhya-k., Sūtr.: ~ṃ Gam, ~ṃ Yā, ~ṃ Vraj および ~ṃ pra-Pad 変化を受ける.

vikṛtimat 形 変わり易い；気分の悪い，病んだ.

vi-Kṛṣ, → Kṛṣ.

vi-kṛṣṭa 過受分 [vi-Kṛṣ].

vi-Kṛī, → Kṛī.

vi-Kṛp, → Kṛp.

vi-kopa 男 **漢訳** 壊，乱，毀壞 Daś-bh., Sūtr.

vi-kopana 田 **漢訳** 壊，変，毀壞，変異，能動 Abh. vy. Daś-bh., Sūtr.: parā~ 非他所壊 Daś-bh-141.

vi-kopayitavya 未受分 **漢訳** 壊，起悪 Aṣṭ-pr.vi-kopita 過受分 **漢訳** 動乱 Bodh-bh. → avikopitavi-kopya 形 **漢訳** 悩 Ratna-ut.

vi-kośa 形 鞘から抜かれた，引き抜かれた(劍等)；包皮のない；**漢訳** 抜 Lal-v.

vikośa-garbha 男 **漢訳** 遠離胎藏 Ratna-ut.

vi-kautuka 形 好奇心または興味を欠く.

vi-Kram, → Kram.

vi-krama 男 (因 田) 濶歩，歩行；(田) 動作，足どり，歩調；力，強力な手段，強烈，高い程度；権力，武勇，勇猛；低音アクセントの一種 (文法)；(visarga が弱音に)変化しないこと (文法)；[人名]；また = Vikramāditya；**漢訳** 行，遊行，勤行精進，超過；威，威徳，奮迅，勇猛 Gaṇḍ-vy., Lal-v., Ratna-ut., Rāṣṭr. ~āt 田 強制的に. nāsti~eṇa 無理じいの

方法では為され得ない. ~ṃ Kṛ 剛勇または勇気を發揮する.

vikrama-kesarin 男 [王の名]；[大臣の名].

vikrama-caṇḍa 男 [Banāras のある 王子の名].

vikrama-carita 田 [Vikrama (-aditya) 王の勇敢な行為を讃えた三十二話からなる説話集の名 (=Si-mhāsanadvātriṃsika, Simhāsanadvātriṃśatika-tha)].

vikrama-caritra 田 [同上].

vikramaṇa 田 濶歩すること，歩行，(Viṣṇu 神の) 濶歩；威力，武勇，剛勇 (田).

vikrama-tuṅga 男 [二人の王の名].

vikrama-nidhi 男 [ある戦士の名].

vikrama-paṭṭana 田 Vikrama の都市，Ujjayini (鳥仗那).

vikrama-pati 男 = Vikramāditya.

vikrama-pura 田 [ある町の名].

vikrama-bāhu 男 [諸々の王たちの名].

vikrama-rāja 男 [ある王の名].

vikrama-lāñchana 男 = Vikramāditya.

vikrama-śakti 男 [諸々の戦士たちの名].

vikrama-simha 男 [諸々の王たちの名].

vikram-sena 男 [同上].

vikrama-sthāna 田 散歩場，遊歩場.

vikramānka 男 = Vikramāditya.

vikramānka-deva 男 [同上].

vikramānkadeva-carita 田 [Vikramānkadeva 王の生涯と行為を描いた Bilhana の作品の名].

vikramāditya (°ma-ād°) 男 (剛勇なる太陽)，[諸々の王達の名，ことにシャカ族の征服者で Vikrama 紀元 (56 B. C.) の創設者と考えられる (Viṣṇu 神) 王の名]；**漢訳** 音写 秘柯羅摩阿秩多.

vi-kramin 形 濶歩する，跨ぎ過ぎる (Viṣṇu 神)；雄々しい；**漢訳** 大勇健 Mvyut.

vi-krameśvara (°ma-iś°) 男 [Vikramāditya 王によって建てられた寺院の名].

vi-kramorvaśi (°ma-ur°) 因 剛勇によって勝ちとられた Urvaśi, [Kalidāsa 作の戯曲の題名].

vi-kraya 男 [vi-Krī から] 販売；**漢訳** 売，販 Bodh-bh., Divy., Mvyut., 梵維.

vikraya-pattra 田 販売証書.

vi-krayika 男 売り手.

vi-krayin 形 売る，男 売り手.

vi-krayya 未受分 売られるべき.

vi-krānta 過受分 [vi-Kram から] 雄々しい等，男 (通り過ぎた)，visarga を不変化のままにしておく sandhi の一種，田 歩調，歩み；歩態；勇気，剛勇；**漢訳** 行歩；勢，勇健，奮迅，勇猛，具芸 (超越)，具勇進 Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Ratna-ut., Sūtr.

vi-krānti 因 すべてに遍満する力 (因)；勇気，剛勇 (田).

vi-krāmin 形 **漢訳** 越；遊歩，游歩；力，勢，勇猛，鎮伏 Gaṇḍ-vy., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.

vi-krāyaka 男 売り手.

vi-kriyā 因 [Kr 1 から] 変態，変更，変化，変形；毀，消

損, 不恰好にすること; 失敗, 災難, 害 (dīpasya 消えること); 異常な現象; 生產品 (例牛乳の); 収縮, (眉)を皺めること; (髪が)突然動くこと (=身震い); 正常な肉体の状態の変化, 疾病, 罹病; 正常な精神状態の変化, 乱心, 不安; 感情の変化, 疎遠, 敵意, 背反: ~m Yā 悪化する, 低下する, 零となる; 轉変, 変異 *Ratna-ut., Vijñ-v.*

vikriyopamā (°yā-up°) 因 変形直喩 (あるものが他のものから生じたとして表現される: 例「汝の顔はあたかも月の面よりとりきたれるが如し」).

vi-Kri, → Kri.

vi-Kriḍ, → Kriḍ.

vi-kriḍa 男 運動場; 玩具.

vikriḍana 中 遊戯, 娛樂 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lal-v.*

vikriḍaṇa-karman 中 遊戯業 *Sūtr.*

vikriḍanatā 因 遊戯 *Bodh-bh.*

vi-kriḍā 因 遊戯, 運動.

vi-kriḍita (過受分) 中 遊戯, 運動; 子供の遊び, 最も容易になされた行為; 遊戯, 遊樂, 自娛, 神變, 所遊戯, 所遊戯 (処), 遊戯 (神通), 奮迅 *Aṣṭ-pr., Divy., Lal-v., Mvyut., Raṣṭr., Ratna-ut., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr.*

vikrita (過受分) → Kri 中 販売; 賣 *Bodh-c., 梵千.*

vi-kridita 中 =vikriḍita; 遊戯 *Śikṣ.*

vi-Kruś, → Kruś.

vi-kruṣṭa (過受分) [Kruś から] 中 救助を求める叫び.

vi-kretavya (未受分) [Kruś から] 売られるべき, 売りに値する.

vikretu-kāma 形 欲街売 *Bodh-bh.*

vikreṭṭ 男 売り手.

vikreya (未受分) 売られるべき, 販売可能な; 貨売 *Bodh-bh.* 中 (?) 売価.

vi-krośa 男 叫び, 救助を求める叫び声.

vi-krośana 男 [神話的存在の名]; [王の名].

vi-krośat 形 呼召 *Bodh-bh.*

vi-kroṣṭṛ 男 声をだしたまたは救助を求めて叫ぶ人.

vi-Klam, → Klam.

vi-klava 形 不安に駆られた, 混乱した, 困惑した; 驚かされた, こわがる, 臆病な, 内気な; 躊躇する, 悩まされた; (一°)に征服された; (追撃, 一°)を嫌う; 当惑した, 不安な(顔, 眼つき), どもった(演説), 不安定な(足どり), 損われた(感覚). 中 混乱, 当惑, 落胆; 困, 悩, 愁悩, 迷乱, 情混乱, 氣殆盡, 悲慨泣歎 *Buddh-c., Divy., Śikṣ.:* bhaya ~ 惶怖 *Śikṣ. 70.*

viklavatā 因 戦慄, 臆病等.

viklavatva 中 [同上].

viklavi-Kṛ, 悩ます, 困らす.

viklavi-BHū, 落胆する; 困篤, 涕泣不樂, 生大憂惱 *Divy.*

viklavi-bhūta 形 極重迷悶 *Divy.*

vi-klitti 因 湿脹 *Abh-vy.*

vi-kleda 男 [Klid から] ぬれること; 湿気; 分解, 崩壊.

vi-kṣaṇa 男 一念, 一時 *Daś-bh.*

vi-kṣata (過受分) [Kṣam] 中 傷; 潰爛 *Av-ś.*

vi-kṣara 形 (一°) 注ぎ出す. 男 流出 (因).

vikṣaraṇa 中 流出すること.

vi-Kṣal, → Kṣal.

vi-kṣālita, → Kṣal.

vi-Kṣip, → Kṣip.

vi-kṣipta (過受分) 散, 乱, 懈, 擲, 吹, 散乱, 散動, 迷乱, 擾乱, 狂乱, 散慢, 乱心, 乱想, 散心, 惑乱, 虚妄顛倒 *Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Bodh-c., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lanḅ., Madhy-bh., Mvyut., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr.* → Kṣip, avikṣipta.

vikṣiptaka 形 解散, 敗壞, *Mvyut.*

vikṣipta-keśa 形 頭髮被乱 *Śikṣ.*

vikṣipta-citta 形 乱, 心乱, 心懈, 心迷乱, 心躁擾, 心生散乱, 其心散乱; 心乱者 *Aṣṭ-pr., Mvyut., Raṣṭr., Suv-pr.* 中 乱心, 乱意, 散心, 散乱心 *Abh-vy., Lal-v., Mvyut., Ratna-ut., Sa-ddh-p., Sūtr.* → avikṣiptacitta.

vikṣiptacittaka 形 乱心 *Abh-vy.*

vikṣiptatā 因 散乱 *Suvik-pr.*

vikṣiptatva 中 散 *Abh-vy.*

vikṣipta-mati 因 乱慧 *Sūtr.*

vikṣiptikā-kṛta (過受分) 放衣掉, 以衣覆右肩, 全拳左肩上 *Prat-m., Vin.*

vi-Kṣud, → Kṣud.

vi-kṣuṇṇa, → Kṣud.

vi-kṣudra 形 小ささを異にする, 一方が他方より小さい (Br.).

vi-Kṣubh, → Kṣubh.

vi-kṣepa 男 撒布すること; 投げること, 投擲; 動揺, 波動, 投上げること (通常の意味); 不注意, 散心; 投影力 (± śakti, Māyā または Avidyā が本来実在しない現象世界を実在するかのごとくに現わす力: Vedānta 学哲); 揚, 動, 散, 乱, 擾動, 散乱, 散動, 壞乱, 紛乱, 雜乱, 憤乱, 動乱, 動揺, 蹴踓, 煩擾, 煩惱, 錯乱, 狂乱, 乱心, 乱意, 心乱 *Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Buddh-c., Divy., Kāśy., Lal-v., Lanḅ., Madhy-vibh., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., Vijñ-t., Vijñ-v.:* ~ sahaḡataṃ cittam 散乱心, 散乱俱心 *Aṣṭ-pr.;* ṣaḡvidha ~ 六 (種) 散動, 六 (種) 散乱 [1 prakṛti ~ 自性散乱, 2 bahirdhā ~ 外散乱, 3 adhyātma ~ 内散乱, 4 nimitta ~ 相散乱, 5 dauṣṭhulya ~ 重散乱, 6 manasikāra ~ 作意散乱] *Madhy-vibh. 214~216.*

vikṣepaka 形 乱 *Śikṣ.*

vikṣepaṇa 中 動揺.

vikṣepa-doṣa-darsana 中 見乱過失 *Sūtr.*

vikṣepa-pratipakṣa 男 乱心対治 *Sūtr.*

vikṣepa-lipi 因 (音写) 毘瑟波書 (六十四書の一) *Lal-v.*

vikṣepa-śaktimat 形 投影の能力を有する.

vikṣepa-samyama 男 心乱擾令住 *Sūtr.*

vikṣepa-sakti 因 散乱著 *Sūtr.*

vi-kṣobha 男 動揺；精神的動揺，乱心；自失，傷心；
漢訳 [数名] 動，一動；音写 維却班，維卻班 *Mv-*
yut.

vikṣobhana 中 漢訳 摧伏 *Gaṇḍ-vy.*

vi-khata 中 漢訳 音写 [数名] 維渴丹 *Mv-yut.*

vi-Khād, → Khād.

vikhāditaka 形 漢訳 虫食，壞爛 *Mv-yut.*

vi-Khyā → Khyā.

vikhyāta 過受分 一般に知られた，有名な，名高い；
として知られた，呼ばれた，名づけられた；公言さ
れた，明白な。男 漢訳 称，名称，名聞，分別而演
説 *Divy., Lal-v., Madhy-v., Mañj-m.*；音写 [数
名] 毗伽担 *Mv-yut.*

vikhyāti 女 名声，令名。

vikhyātṛ 男 漢訳 名聞…遍充滿，名悉遍到 *Suv-pr.*

vikhyāna 女 漢訳 光 *Sūtr.*

vikhyāpana 中 知らしめること，宣言すること；漢訳
顯，説 *Bodh-bh.*

vi-gadita 過受分 (=vigalita) 漢訳 朽，傾斜 *Saddh-*
p.

vi-Gaṇ, → Gaṇ.

vi-gaṇana 中 弁済，返済；数えること，計算するこ
と；考慮すること，熟考すること

vi-gata 過受分 [vi-Gam]；漢訳 離，除，棄，無，非，
超，遠離，已除，除断，断除，永離，得差 *Abh-*
vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Daś-bh.,
Divy., Laṅk., Ratna-ut., Saddh-p., Śikṣ., 梵千。

vigata-kaukṛtya 中 漢訳 無悔，不追悔，遣除惡作
Gaṇḍ-vy., Suvik-pr.

vigata-jana-pāpaka 形 漢訳 離惡衆生 *Bodh-bh.*

vigata-jvara 形 熱が去った，悲しみを脱した；漢訳
除熱惱，離諸苦惱 *Raṣṭr.*

vigatatva 中 消滅。

vigata-dveṣa 形 漢訳 離瞋 *Saddh-p.*

vigata-nivarana 形 漢訳 離諸蓋 *Bodh-bh.*

vigata-pāpa 形 漢訳 罪滅 *Śikṣ.*

vigata-pipāsa 形 漢訳 足飲 *Mv-yut.*

vigata-prema-gaurava 形 漢訳 無愛敬 *Bodh-bh.*

vigata-bhaya 形 無畏の。男 [人名]。

vigata-bhṛkti 形 漢訳 遠離罍登 *Bodh-bh.*

vigata-mala 形 漢訳 離垢 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-*
v., Saddh-p., Sam-r., Sapt-pr., Sukh-vy. I.,
Sūtr.

vigata-māna 形 漢訳 離慢 *Bodh-bh.*

vigata-moha 形 漢訳 離癡 *Saddh-p.*

vigata-rajasa 形 漢訳 離垢，遠離(一切)垢 *Aṣṭ-pr.*

vigata-rāga 形 漢訳 離欲 *Saddh-p.*

vigata-roga 形 漢訳 離病，除病 *Mv-yut., Suv-pr.*

vigata-lakṣaṇa 形 不幸な，不運な(人)。

vigata-śoka 形 漢訳 盡憂；音写 [人名] 瓊多輪柯
Divy.

vigata-saṃkalpa 形 決断なき。

vigatānuśaya 形 悔恨なき。

vi-gada 男 混乱した叫び声 (RV. 用例一回のみ)。形 健
康な。

vi-gandha 形 悪臭のある；香りのない。

vigandhaka 形 =vigandhika；漢訳 臭 *Lal-v.*

vi-gandhi 形 悪臭のある。

vi-Gam, → Gam.

vigama 男 出発，消滅，休止；不在，欠乏；回避；
漢訳 不，離，断，壊，除，無，遠離，失壊，除去，
分散 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., La-*
ṅk., Ratna-ut., Sam-r., Śikṣ., Sūtr.；音写 [数
名] 毘伽摩，毗伽摩 *Mv-yut.*

vigamāsaya (°ma-ās°) 形 漢訳 離心 *Sūtr.*

vi-Garh, → Garh.

vi-garha 男 漢訳 念，笑，毀 *Mv-yut.*

vigarhaka 形 漢訳 毀 *Bodh-c.*

vigarhana 中 譴責，非難：~ṃ Kṛ, 非難する。

vigarhanā 女 譴責，非難；漢訳 憎嫌 *Kaśy.*

vi-garhaṇiya 未受分 非難さるべき，悪い，邪悪な；
漢訳 凡鄙 *Divy.*

vi-garhita 過受分 → Garh；漢訳 呵責，所惡 *Lal-*
v., Raṣṭr.

vi-garhya 未受分 譴責すべき，非難すべき。

vigarhyatā 女 非難：~ṃ pra-Yā 非難を招く。

vi-Gal, → Gal.

vi-galita 過受分 [vi-Gal]. → Gal.

vigalita-vasana 形 衣服のない，裸にされた；漢訳
絃服 *Lal-v.*

vigalita-śuc 形 悲しみのない。

vigava 中 漢訳 音写 [数名] 毗伽婆，維伽班 *Mv-yut.*

vi-gāḍha 過受分 → Gāḥ.

vi-gāna 中 矛盾，不一致；嫌忌。

vi-Gāḥ, → Gāḥ.

vigāhana 中 漢訳 遁入 *Gaṇḍ-vy.*

vigāhya 未受分 入るべき (*Gaigā* 川)

vi-gita 過受分 → Gai.

vigitatva 中 矛盾，不一致。

vi-guṇa 形 糸のない；ある性質を欠く，(一)に欠陥
のある；無効な(命令，すなわち遂行されない命令)；
逆境の(運命)；特性のない；徳のない，無価値な，
悪い(人)；性質が変化した，不調となった(体液)；
漢訳 相違 *Bodh-bh.*

viguṇatā 女 混乱した状態；漢訳 無徳，不相順 *Abh-*
vy.

viguṇi-Kṛ, 弓(業)の弦を離す。

vi-Gup, → Gup.

vi-gulpha 形 豊富な。

vi-gūḍha 過受分 → Guh.

vi-gṛhita 過受分 → Grah；漢訳 別(彼我)，乖離(違
諍)，諍訟 *Daś-bh.*：bhinna ~ 乖離違諍 *Divy.*
42.

vi-gṛhya 1 未受分 分離または孤立さるべき，独立し
た (*Padapāṭha* において)。

vi-gṛhya 2 不変分 攻撃的に。

vigṛhya-gamana 中 敵対的行進。

vigṛhya-yāna 中 [同上]。

vigṛhyāsana (°ya-ās°) 中 (眞)をもって包圍するこ
とおよび不きげんになること。

vi-gopita 過受分 漢訳 (醜)露 *Lal-v.*

vigna 過受分 → Vij.

vi-Grath, → Grath.

vi-Grah, → Grah.

vigraha 男 分離；分割；(語の) 独立 (複合の反対, 文法)；(合成語の) 分解(文法)；(圓 ±saha, sārđham, sākam, upari をともなう 圓, 圓, 一) との不和, 喧嘩, 争闘, 戦争 (通常の意味)；(分離した=) 個々の形式または形態, 身体 (通常の意味；虹の形にも用いられる)；要素 (Sāṃkhya 哲学において)；裝飾 (叙詩)；**漢** 競, 諍, 鬪, 戦鬪, 違諍, 諍論, 鬪諍, 鬪訟, 諍訟；状, 身, 像, 形像, 色像, 形色, 法身 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Lal-v., Madhy-v., Mṛyut., Ratna-ut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sukh-vy. I., Suvik-pr. a~*, → ātmabhāva~, dhātu~. ~m **Kṛ**, 戦争をする. ~m **Kṛ**, **Grah** または **upa-ā-Dā**, 形をとる

vigrahaya 名動 池 (sārđham) と戦うまたは争う.

vigraha-rāja 男 [人名].

vigrahavat 形 具体化された, 化身した.

vigraha-vivāda 男 **漢** 諍論, 鬪訟諍競 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy.*

vigraha-vyāvartani 女 **漢** [竜樹 Nāgārjuna の作った論の名] 廻諍論 *Madhy-v.*

vigrahin 形 戦争中の. 男 軍務大臣.

vigrahitavya 未受分 詔.

vigrahecchu (°ha-ic°) 形 戦いを熱望する.

vi-grāhita 過受分 **漢** 悪見 (人) *Divy.*

vi-grāhin 形 **漢** 縛, 取 *Laṅk.*

vi-grāhya 未受分 と戦いを交えるべき.

vi-grīva 形 ねじれた首を有する (因).

vi-Ghaṭ, → **Ghaṭ**.

vighaṭana 中 分離, 破壊.

vi-Ghaṭṭ, → **Ghaṭṭ**.

vighaṭṭana 形 開く. 中 摩擦；動揺, 振動；衝撃；切り刻み；ほどくこと.

vighaṭṭanā 女 摩擦, 衝撃；分離.

vi-ghaṭṭin 形 摩擦する, 衝突する (一°).

vi-ghana 形 害する；堅固でないまたは非常に堅固な (一°)；雲のない.

vi-gharṣaṇa 中 摩擦すること.

vi-ghasa 男 中 食物の残物；**漢** 残食 *Mṛyut.*

vi-ghāta 男 (一° による打撲；粉碎すること (まれ), 防止すること；破壊；除去, 阻止, 妨害, 障害 (通常の意味)；**漢** 乏, 匱, 礙, 離, 乏少, 貧窮, 匱乏, 闕乏；害, 違害, 障難, 損惱, 徒勞 *Bodh-bh., Bodh-c., Divy., Sāṃkhya-k., Śikṣ., Sūtr.* → a~.

vighātaka, 形 撃退する, 阻止する；**漢** 離, 断 *Laṅk.*

vighātana 形 撃退する. 中 =vighāta.

vighātavat 形 **漢** 匱乏 *Bodh-bh.*

vighātārthika 形 **漢** 遂求, 除惱 *Bodh-bh.*

vighātārthika-sīla 中 **漢** 遂求戒 *Bodh-bh.*

vighātita 過受分 **漢** 断, 破 *Rāṣṭr.*

vighātin 形 対戦する, 撃破する；除去する, 遮る, 妨げる；**漢** 離, 乏, 匱乏, 損惱, 所患, 貧匱, 違害；有損惱者；求乞者 *Bodh-bh., Śikṣ., Sūtr.*

vi-Ghuṣ, → **Ghuṣ**.

vighuṣṭa 過受分 宣言または発表された；鳴りひびく；**漢** 普聞, 広布, 演暢, 名聞遍 *Kāśy., Lal-v., Rāṣṭr.*

vighuṣṭa-ghoṣa 男 **漢** [仏名] 普音 *Sam-r.*

vighuṣṭa-śabda 男 **漢** [仏名] 遍声 *Sam-r.* 形 **漢** 名振, 名聞遍, 名称普聞, 広布名聞 *Kāśy., Lal-v.,*

vighyuṣya 網 宣言して.

vi-Ghūrṇ, → **Ghūrṇ**.

vighūrṇana 中 因 (-ā) ぶらぶらと揺れること.

vighurṇamāna 現分 あちこちに揺れる, 動揺する.

vighūrṇamāna-sikhara 形 頂きがぐらつく.

vighūrṇita 過受分 揺れる, 動かされた.

vi-ghṛta → **-Ghṛ**.

vighna 男 [Han] 破壊者, 撲滅者；(叙詩では 中 も) 邪魔, 妨害, 障礙 (通常 一° また-ka)；**漢** 障, 礙, 遮, 障 (惱), 障難, 障礙, 留；作障者 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-c., Divy., Lal-v., Madhy-v., Śikṣ., Sūtr.*；[天名] 魔 *Mṛyut*；**音写** 尾伽那 *Guhy-s.*

vighna-kara 形 邪魔する, 阻止する.

vighna-kartṛ 男 障害をなす者.

vighna-kāra 形 妨害する；**漢** 障 *Sūtr.*

vighna-kārin 形 妨害する；**漢** 障 *Rāṣṭr.*

vighna-kṛt 形 邪魔する, 阻止する.

vighna-jit 男 障害に打克つ者, [*Gaṇeśa* の称].

vighnatā 女 妨害となること.

vighna-pratikriyā 女 障害を取除こうとするまたは打克とうとする行為.

vighnaya 名動 池 邪魔する, 遮ぎる, 妨げる. 過受分 **vighnita** 阻止された等.

過受分 **sam-vighnita** 阻止された

vighna-rāja 男 障害の主, [*Gaṇeśa* の称 (= *Vighna-jit*)].

vighnavat 形 障害ある.

vighnvattā 女 中 因 障害あること.

vighna-vivarjita 形 **漢** 無諸障礙 *Madhy-v.*

vighna-hanṭṛ 男 障害を破壊する者, [*Gaṇeśa* の称]

vighnāntaka 男 [同上].

vighnita-karman 形 その働らきを妨げられた (人・物).

vighnita-dṛṣṭi-pāta 形 視界を妨げられた.

vighnita-samāgama-sukha 形 結合のよろこびを妨げられた.

vighnitecchā (°ta-ic°) 形 願望を妨げられた.

vighneśa (°na-īśa) 男 障害に打克つ者, [*Gaṇeśa* の称].

vighneśvara (°na-īś°) 男 [同上].

Vic, VII. 中 **vinakti** (因, 中), III. 中 **vivekṣi** (RV. 用例一回のみ) (中) から (例えば 粃から穀粒を) 篩い分ける, 分離する；吟味する.

vi- (因では 中, 中では 中) から篩い分ける・分離するまたは区分する；区別する, 識別する, 見分ける；せんさくする, 研究する, 熟慮する, **使役** **vivecayati** 離す；研究する, 熟慮する, 識別する. **不定** **vivecayitum**；**漢** 離, 拔, 令遠離, 令毀厭 *Aṣṭ-pr., Bodh-c., Vin.* 過受分 **vi-vikta** 分離された, 区別さ

れた；孤立した，孤独な；(圓，一°)を脱した(まれ)；(不適當なものから切り離された)，清潔な，さっぱりした，きちんとした；純粹な；清浄な，明瞭な，明白な；**離**，棄，断，遠，空，閑，無，寂，遠離，寂靜，寂寞 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-c.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mṛyut.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*

pra-vi- 研究する。**過受分** **pravivikta** 引退した，孤独な；微細な。

vi-cakila 男 ジャスミンの一種。田 その花。

vi-cakra 形 輪のない。男 [ある Dānava の名]。

vicakropaskaropastha (°ra-up°) 形 輪・装備および腰掛けのない(戦車)。

vi-Cakṣ, → **Cakṣ**.

vicakṣaṇa 形 顕著な，眼に見える，明白な，明るい，輝いた(因)；明瞭な，知覚しうる(S.)；(因，一°)に関して目の利く，見分ける；経験に富む，伶俐な，用心深い，賢い(普通の意味，多くは圍)；**智** 智者，明了，聡明，聡叡，捷利，通達，善解，選択，有智者，聡慧者，黠慧者 *Bodh-bh.*, *Cat-ś.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*

vicakṣaṇatā 因 **捷利** *Bodh-bh.*

vicakṣaṇatva 田 弁別力のあること，賢いこと。

vicakṣaṇam-manyā 形 自分を賢いと思う。

vicakṣaṇavat 形 **vicakṣaṇa** (の語)を伴う。

vi-cakṣaṇā 因 *Brahmā* 神の座。

vi-cakṣus 形 眼のない，盲目の；**離眼** *Śikṣ.* : ~h Kṛ 破壊眼 *Aṣṭ-pr.* 78. 男 [ある王の名]。

vi-cakṣe 爲 不定[Cakṣから] 識別せんがために(RV.)

vi-cakṣya 絶 見て，

vi-cakṣnu 男 (時に vicakhyu) [王の名]。

vi-caṭana 田 **進**，壞，撮修 *Mṛyut.*

vi-candra 形 月のない。

vi-caya 男 搜索，検討；**択**，観，集，思択，決択，決定，簡択，観察，分別，選択計，如理簡択 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Madhy-bh.*, *Mṛyut.*, *Sūtr.*

vicaya-vidhi-jña 形 **達**，瑩徹 *Gaṇḍ-vy.*

vi-Car, → **Car**.

vicarita **過受分** 諸方に動く；**行** *Abh-vy.* 田 流浪，徘徊。

vicarcikā 因 **[病名]** 連瘡 *Mṛyut.*

vi-carcita **過受分** → **Carc**.

vi-carman 形 楯のない。

vi-carṣaṇi 形 非常に活動的な(RV.)

vi-Cal, → **Cal**.

vicala 形 揺れる，動く，不安定な；うぬぼれの強い；**動無** *Sūtr.*

vicalana 田 処々を放浪すること；高慢なこと。

vi-calita **過受分** (從)から外れた；混乱した，行きづまった。

vi-casta 男 **[数名]** 広周 *Mṛyut.*

vi-cāra 男 [Car] 行動，処置，手続(S. 寂語)；思考，反省，熟慮，識別，調査，研究，検討；躊躇；**観**，伺，檢，観察，伺察，所念，内思，細心，心之細 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-*

vy., *Lank.*, *Mṛyut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suvik-pr.*, *Vijñ-t.*, 梵千. ~am Kṛ 躊躇する vicāra-dolām ā-Ruh. 長時間熟考に耽る。

vicāraka 男 指導者，案内人；熟考する人；せんさくする人；**智** 智者 *Bodh-c.* → **avaciravicāraka**.

vicāra-jña 男 すぐれた識別力をもつ人，有能な裁判官。

vicāraṇa 田 思慮，反省，研究，調査，論議；疑念，躊躇；場所をかえること；**行**，観，観察，分別，思察，思量，弁察，遊行，分別行，思惟観察 *Abh-vy.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mṛyut.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*；離，遠離 *Guhy-s.*

vicāraṇā 因 種類，區別；**思**，観，行，思惟，思量，籌量 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Madhy-vibh.* → **avicāraṇā**.

vicāraṇā-citta 田 **観** 観察心 *Sūtr.*

vicāraṇiya **未受分** 慎重な考慮を要する。

vicāra-dṛś 形 密偵を眼として使わずに 慎重に物事を熟慮する。

vicāra-mūḍha 形 思慮の欠けた。

vicārayitavya **未受分** 熟慮を要する。

vicāravat 形 慎重に行動する，用心深い。

vicārīta **使役** **過受分** [Car] 熟慮された，判断された，議論された，決定された，確立された；議論の余地ある，不確かな，疑わしい。田 (圍または圍) 熟考；疑問，躊躇；**伺**，観，観察，視察，思惟，思量，籌量，曉了；能籌量 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.* *Suvik-pr.*；弁 *Nyāy-pr.*

vicārin 形 (因 -ni) 揺らめく(地；RV. 用例一回のみ)；放浪する；活動する；放恣な；反省する，考える，考査する；**遊**，修習，修行，有伺 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*

vicāru 男 *Kṛṣṇa* の息子。

vicārya **未受分** (長い) 反省を要する，疑わしい，問題とすべき。田 **非人** 反省または躊躇すべきである；**應** 応思，応思択，応審思択，応須思量 *Abh-vy.*

vi-cālana 形 (因 -i) (一°) 破壊する；**動揺** *Sam-r.*；観察，覚知 *Lank.*

vicālyatva 田 **傾動** *Bodh-bh.*

vi-Ci, → **Ci**₁, **Ci**₂.

vi-cikitsa = **vicikitsā**；**疑**，疑懼，狐疑心 *Saddh-p.*

vicikitsaka 形 **疑惑** *Śikṣ.* : a~ 無疑惑。

vicikitsat **現分** [vi-Citから]；**疑** *Abh-vy.*

vicikitsana 田 [Citの希求から] (因) に関して疑わしいこと。

vicikitsā 因 (一°) に関する疑惑，不確実；**疑**，滞，狐疑，疑惑，疑悔，疑難，猶予，狐疑惑 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mṛyut.*, *Ratna-ut.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Vijñ-t.* : ~sahagatam cittan 疑惑心，疑惑俱行之心 *Aṣṭ-pr.*

vicikitsā-katham-kathā 因 **疑** *Saddh-p.*

vicikitsā-samyojana 田 **疑結** *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*

vicikitsita **希求** **過受分** [vi-Cit] 識別することが詰まれた；不確定な。田 疑惑；**生疑**，猶予

Saddh-p.

viciciṣā ㊦ 探索せんとする欲望。

vi-Cit, → Cit.

vicita ㊦ 過受分 [vi-Ci] 探索または追求された。

viciti ㊦ (一) を追求または捜索すること；調査；

㊦ 集略 *Mvyut.*vi-citta ㊦ 無意識な；途方に暮れた、ほどこすすべがない；㊦ 狂乱 *Buddh-c.*

vicittatā ㊦ 無意識。

vi-citra ㊦ 雑色の、多彩な、光彩ある；種々の、多様な、不調の；珍奇な、驚嘆すべき；(変化ある)、魅力ある、愛らしい、美しい；面白い(物語)；㊦ 多、雑、異類、種々、(種種)；妙、嚴飾、端嚴、殊勝、為間錯 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Kāśy., Lank., Madhy-v., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr.* ㊦ [王の名]；[Manu Raucya の息子の名]；[蒼鷺の名]；㊦ [竜王名] 山綵、花綵 *Mvyut.* ㊦ 驚嘆。～m ㊦ 種々に。

vicitra-katha ㊦ (面白い話を話す)、[人名]。

vicitra-guṇa-varṇa ㊦ 示現種々功德 *Ratna-ut.*vicitratā ㊦ 雑多なこと；珍らしいこと；㊦ 種種、嚴好、莊嚴、種種事、種種嚴飾 *Aṣṭ-pr., Lank., Sūtr.*vicitra-dharma-sambhoga ㊦ 受種々法味 *Ratna-ut.*vicitra-bhāva ㊦ 現種々形 *Ratna-ut.*vicitra-bhūṣaṇa ㊦ 具諸種莊嚴 *Mvyut.*

vicitra-mālyābharāṇa (°ya-ābh°) ㊦ 種々の花鬘および裝飾をもった。

vicitra-rūpa ㊦ 多様な形をもつ、様々な；㊦ 種々妙好、妙身端嚴 *Suv-pr.*

vicitra-vākya-paṭutā ㊦ 非常に雄弁であること

vicitra-vāgurocchrāyamaya (°ra-uc°) ㊦ (㊦-い) 広げられた種々の網から成る。

vicitra-vikṛtānana (°ta-ān°) ㊦ 種々 いろんな風に顔が變形したまたはゆがんだ。

vicitra-vijñapti-vibodha ㊦ 諸識(身)覚 *Sūtr.*vicitra-virya ㊦ (驚くべき豪勇の)、*Sāmtanu* と *Satyavati* との息子の名(彼の死後、*Vyāsa* はその寡婦の腹によって *Dhṛtarāṣṭra*、*Pāṇḍu* および *Vidura* の三子を得た)。vicitra-veśa ㊦ = *vicitraveśa* ㊦ 種種形 *Bodh-c.*

vicitra-veśābharāṇa (°ṣa-ābh°) ㊦ 種々のまたは様々な色の衣服と裝飾品をもった。

vicitra-simha ㊦ [人名]。

vicitrāṅga (°ra-aṅ°) ㊦ 塗身 *Lank.*vicitrāpida (°ra-āp°) ㊦ [ある *Vidyādhara* 妖精の名]。vicitrābha (°ra-ābh°) ㊦ 種種現、見種種 *Lank.*

vicitrārtha-pada ㊦ 種々の意味を有する(単語)。

vicitrika ㊦ 榮、衆事、所有種 *Kāśy.*vicitrita ㊦ 過受分 名動 雑色にされた、多彩な、(一) によって飾られた；㊦ 嚴好、光飾、莊嚴、工画 *Saddh-p., Sūtr.*

vi-Cint, → Cint.

vicintana ㊦ を瞑想すること。

vi-cintā ㊦ 考慮、懸念、心配。

vi-cintita ㊦ 過受分 考えられた、考慮された、想像された；㊦ 思、忖、所念、思想、思察、籌量 *Daś-bh., Lal-v., Saddh-p.*

vi-cintitr ㊦ (圖) を瞑想する。

vi-cintya 1. 未受分 考慮されるべき、案出または工夫されるべき；疑わしい、疑問とすべき。

vi-cintya 2. ㊦ 見て、反省して；㊦ ～ ～ 勤数 数簡括 *Bodh-bh.*

vi-cinvāna ㊦ 現分 探求する。

vi-cirṇa ㊦ 過受分 [Car から] 通りすぎた；によって占められた。㊦ 贖罪、応報。

vicūrṇaya ㊦ 名動 ㊦ *vicūrṇayati* おしつぶす、圧倒する、崩す。

vicūrṇita ㊦ 過受分 粉碎された。㊦ [人名]。

vicūrṇi-BHū, 粉碎される。

vi-cūlin ㊦ 頭の頂にまげのない。

vi-Cṛt, → Cṛt.

vi-cetana ㊦ 無意識の；(あることがらについて) 全く自意識を有さない、放心した；生命のない、死んだ；感覚のない、非情な。

vi-cetayitr ㊦ 判明させる、区別する。

vi-cetavya 未受分 探索されるべき、探求されるべき、吟味されるべき；案出されるべき(方法)。

vi-cetas ㊦ 明瞭に見える(水)(RV.)；識別する、賢明な(RV.)；混乱した(圖)；感覚を有さない、馬鹿な(圖)；㊦ 所觀、応觀察 *Śikṣ.*

viceti-Kṛ, 感覚を奪う。

viceya 未受分 識別されるべきまたは数えられるべき(=数が少ない、星について)；探されるべき、充分探究されるべき。㊦ 調査。～am Kṛ 調査する。

viceya-tārakā ㊦ ㊦ 星の少ない(夜)。

vi-Ceṣṭ, → Ceṣṭ.

vi-ceṣṭa ㊦ 不動の。

vi-ceṣṭana ㊦ 手足を動かすこと；(馬が地上を)蹴ること；㊦ 越作用 *Bodh-bh.* → *aviceṣṭanā.*

vi-ceṣṭā ㊦ 行為、行状。

vi-ceṣṭita (過受分) ㊦ (身体または眼の)運動；身振り、動作、働らき；行為。

vi-c-CHad 1. 使役 *vicchādayati* おおいをとる、裸にする、あらわす。<CHad 1. の補遺>vi-cchandana ㊦ 捨欲 *Bodh-bh.* ㊦ 遮、除 *Abh-vy.*vicchandanaṭā ㊦ 勸令厭離(解脱) *Bodh-bh.*vi-cchandanaṭā ㊦ 中止；㊦ 壞、断、止断、毀皆、教令厭離 *Kāśy.*vicchandanaṭrtham (°nā-ar°) ㊦ 不變 ㊦ 為令捨所樂 *Bodh-bh.*vi-cchandaya ㊦ 名動 ㊦ *vicchandayati* ㊦ 毀、厭背、勸捨離、令永断 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-v.*

vi-echandas ㊦ 種々の韻律からなる(詩、讚歌)。

vi-cchāndya ㊦ 勸捨 *Bodh-bh.*

vi-cchāya 1. ㊦ 光沢または明彩を欠く、青白い。

vicchāya 2. ㊦ (賦)；使役 ㊦ *vicchāyayati* 窮地においこむ(Br.)。

ny-ā- (圖) におしつけるまたはこすりつける(圖)。

vicchāyatā 因 光沢のないこと, 分明でないこと, 薄暗いこと.

vicchāyaya 1. 他 使役 → vicchāya 2.

vicchāyaya 2. 名動 光沢を奪う (奪).

vi-cchāyita 過受分 色彩を失った.

vi-cchāyi-Kṛ, 光沢を奪う.

vi-cchitti 因 切断, 障礙, 阻止, 停止; (具)の欠乏(奪); (独得な=) 魅力ある考えまたは措辞 (修辭); 魅力的ではあるが投げやりな装飾; 膏薬, 塗料.

vi-c-CHid, → CHid.

vi-cchidya 網 (從)から分離して.

vi-cchidra 形 → chidra.

vi-cchindaka 形 断 Gand-vy.

vi-cchinna 過受分 切断された, 破れた, 分離された 中断された, 連続性が断ち切られた; 断 間隙, 有間, 隔別 *Vijñ-v.* → avicchinna.

vicchinnatā 因 不連続.

vicchinna-dhūma-prasara 形 煙が自由に出るのを妨げている.

vicchinna-śara-pātatva 中 お互いに矢の届く程に近い距離.

vi-cchurāṇa 中 まき散らすこと; 粉をつける.

vi-cchurita 過受分 まき散らされた, (具または一°)をちりばめた.

vi-cchettr 男 能除 Gand-vy.

vi-ccheda 男 割ること, 裂くこと; 分かつこと, 砕くこと; 滅尽, 破壊; (屬, 一°)からの分離または隔離; (屬, 一°)の阻止・不連続または停止; (一°)の除去; (一°)への損害; 相違(また一°=諸種の, 種); 隔, 差別, 断滅, 断絶, 断尽, 各別 *Abh-vy., Bodh-c., Vijñ-v.*

vi-cchedana 形 引き離す, 遮る. 中 切り捨てること; 除去, 破棄; 区別すること.

vi-cchedā 因 破壊し去ること (種).

vicchedin 形 破壊する; 切れ目または間隔のある; 能断 *Sūtr.*

vi-Cyu, → Cyu.

vi-cyuta 過受分 粉微塵になった, 分散した; (從)から転落した, 遠ざかった, はずれた.

vi-cyuti 因 (從)より落下すること; 転落; (從)からの分離.

vi-churita 使役 過受分 → CHur.

Vij, VI. 自 vijate (韻律 他 vijati, I. 自 vejate) 流れ出る, (波が)高まる (Br.); (從)から後退する, 逃げる(吠). 過受分 vigna (奪) 乱された, おびえた. 使役 他 vejayati ふやす; 動揺せしめる, 恐れさす. 強意 vevijyate (奪)に戦慄する; (從)から逃れる (RV.). 現分 vevijāna.

abhi- 顛覆する (自: 三人 單 三過 -vikta (RV. 用例一回のみ).

ā- 過受分 āvigna 動揺した, 恐れた.

ud- 身震いする, (...から)しり込みする, (具, 從, 屬)を恐れる; (從)を中止するまたは控える(まれ); (從)を嫌厭する; ...することにあきる(現分, 困); 恐れさす(まれ); 厭, 厭離, 令滅, 深厭離, 深心厭離 *Bodh-bh., Gand-vy., Lal-v., Saddh-p.,*

Śikṣ. 過受分 udvigna (具, 從, 屬, 一°)にしり込みする, 身震いする, 胆をつぶした; 混乱した; (具)に疲れた, あきた; 生活にあきた. 使役 身震いさす; 意識を回復させる; 恐れさす, 驚かさす(普通の意味); あきさせる, 悩ます, 傷つける.

sam-ud-...を恐れる. 過受分 samudvigna 恐れた. pra- (水が)ほとばしり出る (RV.). 過受分 pravi-kta 慄える, おののく.

vi- 過受分 vivikta 非常に恐れた (RV.).

sam- 過受分 samvigna 悩む, 恐れた; 口ごもる(言葉). 使役 恐れさす (RV.); 震怖 *Buddh-c.*

vij 男 または 因 賭博の賭け (RV.).

vijagha 中 音写 [数名] 維卓剛, *Mvyut.*

vi-Jaṭ, 使役 vijaṭapayati 擊 *Prāt-m.*

vi-jaṭa 形 編まれていない(髪).

vi-Jan, → Jan.

vi-jana 形 人のいない, 寂莫たる, 孤独の, 寂しい. 中 寂しい場所; 目撃者のないこと; 寂静処 *Guhy-s.* 因 寂しいところで, ひそかに; 目撃者なくして. vijanaṃ Kṛ 目撃者を追払う.

vijanatā 因 孤独.

vi-jani-Kṛ, (ある場所: 園)から一切の人または一切の目撃者を追払う; 愛する者から離す. 過受分 vijani-kṛta (愛する人から)離された.

vi-janman 男 [ある混合カースト(追放された *Vaiśya*の子孫)の名].

vi-jambha 男 音写 [数名] 毗瞻婆 *Mvyut.*

vi-jaya 男 勝利を争うこと (因); 勝利, 凱旋, 征服, (因, 奪); 調伏, 降伏, 摧伏 *Daś-bh., Guhy-s., Lal-v.*; 勝利の獲物, 分捕品 (因, まれ); 園 [軍隊の陣形の種類]; [人名]; [ある野兎の名]; 種 [ある民族の名]; 音写 [人名] 不勝, 無勝; 音写 毗闍耶 *Daś-bh.* 中 王の天幕 (園); [テントの種類]; [*Kāśmīr*のある聖なる区域の名]. 形 勝利に導く, 勝利を宣言する; 勝, 壞, 破, 最勝 *Daś-bh., Divy., Mañj-m., Madhy-v., Mvyut., Sūtr.*

vijaya-ketu 男 [ある *Vidyādhara*の名].

vijaya-kṣetra 中 [*Kāśmīr*のある聖なる区域の名] → vi-jaya.

vijaya-danda 男 [人名]; [月中の兎の名].

vijaya-datta 男 [人名]; [月中の兎の名].

vijaya- Dundubhi 男 勝利の太鼓.

vijayadundubhitā 因 勝利の太鼓の役割または機能.

vijaya-nagara 中 [*Karnāṭa*にあるある市の名].

vijaya-patākā 因 勝利の旗.

vijaya-pura 中 [(*Bijapur*等) 諸々の町の名].

vijaya-pratyarthin 形 勝利を願う.

vijaya-malla 男 [人名].

vijaya-mālin 男 [ある商人の名].

vijaya-mitra 男 [人名].

vijaya-rāja 男 [人名].

vijaya-labdha 形 能破 *Lal-v.*

vijayavat 形 勝利を得た, 光栄ある.

vijayavati 因 [蛇神 *Gandhamālin*の娘の名].

vijaya-varman 男 [人名].

vijaya-vega 男 [ある *Vidyādhara*の名].

vijaya-śri 女 勝利の女神。
 vijaya-siṃha 男 [諸々の王の名]。
 vijaya-sena 男 [ある戦士の名]。
 vijayā 女 [Durgā 女神の名], [Durgā 女神の従者の名]。
 vijayābhyupāya 男 勝利を博する手段。
 vi-jayin 形 勝利を得た。 男 征服者; 漢訳 尊勝, 最勝, 具尊勝 *Mvyut.*
 vijayesa (°ya-iś°) 男 [Śiva 神の称]; [ある聖所の名]。
 vijayesavara (°ya-iś°) 男 [ある聖所の名]。
 vi-jara 形 年をとらない, 不老の。
 vi-jarā 女 [梵天界のある川の名 (不老長寿をもたらす)]。
 vi-jarjara 形 老いぼれた; 病苦の; 腐った; 漢訳 朽故 *Saddh-p.*
 vi-jarjari-Kṛ, 弱める, 老朽化させる。
 vi-jala 形 水のない。 形 旱魃の時に。
 yi-Jalp, → Jalp.
 vi-jalpa 男 不当な非難。
 vi-jalpita 過受分 話された, 発言された。
 vijahanā 中 放棄; 漢訳 捨, 離 *Bodhdh-bh.* → avijahana.
 vijāga 男 漢訳 音写 [数名] 毗盛伽 *Mvyut.*
 vi-jāta 形 他のカーストに属する, 異種の。
 vi-jāti 形 [同上]。
 vi-jātiya 形 [同上]; 漢訳 異類, 不同種 *Abh-vy., Bodhdh-bh., Mvyut.*
 vi-jānaka 形 (圖) を知っている; 漢訳 解 *Lal-v.*
 vi-jānat 男 知者, 賢者。
 vi-jānatā 女 懶功, 狡猾。
 vi-jāniyā 圖 俗 = vijñāya 筆 不變分; 漢訳 既已知 *Saddh-p.*
 vi-jāman 形 [Jan から] 関連した, 対応した (因)。
 vi-jāmi 形 同一血統の, 親縁の (RV. 用例一回のみ)。
 vi-jāvan 形 肉体の, 自分の (因)。
 vi-Ji, → Ji.
 vi-jigita 過受分 [=°tha] [Gaiから] 著名な。
 vi-jigiṣā 女 (業, 爲, 一°) に打ちかたんとするまたは征服せんとする欲望。
 vi-jigiṣāvanta 形 勝たんと欲する, 征服を熱望する。 男 戦士, 敵, 侵入者。
 vi-jigiṣin 形 男 [同上]。
 vi-jigiṣu 希求 形 (議論においてもまた: 業, 一°) を征服せんと欲する; 征服の野心ある。 男 戦士, 侵入者, 反対者。
 vijigiṣutā 女 征服せんとする欲望。
 vijigiṣutva 中 [同上]。
 vi-jighatsa 形 飢餓にも動じない。
 vi-jighāmsu 希求 形 殺戮または破壊せんと欲する。
 vi-jighrksu 希求 形 戦争に赴かんと欲する。
 vi-jijñāsā 女 (一°) について学ばんとするまたは知らんとする欲望, …についての探究。
 vi-jijñāsitavya 希求 未受分 知らんと欲するべき。
 vi-jijñāsya 希求 未受分 知らんとまたは学ばんと欲するべき。

vi-jita 過受分 征服された, 獲得された; 漢訳 能勝 *Mvyut.* 男 征服地, 征服, 勝利; 漢訳 国, 王国, 臣民, 境内人 *Bodhdh-bh., Divy., Sam-r.:* ~ sam-grāma 不仮動兵戈, 入陣得勝 *Suvik-pr.*
 vijitavat 過能分 征服した, 勝利の。
 vijitāmītra 形 敵を征服した。
 vijitāri 形 [同上]。 男 [あるRākṣasaの名]。
 vijitāvin 形 漢訳 能伏, 善伏, 能勝性 *Gaṇḍ-vy.*
 vijitāśva 男 [*Prthu* の息子の名]。
 vijitāsana (°ta-ās°) 形 (王) 座を獲得した。
 vijitāsu 男 [ある賢人 (muni) の名]。
 vi-jiti 女 争闘, 戦争 (因); (一°) の取得または獲得。
 vijitin 形 勝った (Br.)。
 vijitendriya (°ta-in°) 形 自己の感官 (根) を制御した。
 vi-jitvara 形 勝った。
 vi-jihirṣā 女 楽しまんとする欲望。
 vi-jihirṣu 希求 形 遊歩せんと欲する; 楽しまんと欲する。
 vi-jihma 形 曲った, 歪んだ, しかめる (顔); 斜めの (まなざし)。
 vijihma-nayanā 形 女 斜視の。
 vijihma-śikha 形 先端が傾いたまたは横切っていく。
 vi-jihvaka 形 漢訳 無舌 *Śikṣ.*
 vi-Jiv, 生きかえる; 元気づく。 <Jiv の補遺>
 vi-jivita 形 生命のない, 死せる。
 vijugupsaka 形 ひどく嫌う, しりごみする; 漢訳 厭離 *Gaṇḍ-vy.*
 vijugupsanatā 女 [同上の描名] 漢訳 厭 *Gaṇḍ-vy.*
 vijugupsita 形 漢訳 朽 *Ratna-ut.*
 vi-Jṛmbh, → Jṛmbh
 vi-jṛmbha 男 (一°) 眉をひそめること。
 vijṛmbhaka 男 [ある Vidyādhara の名]。
 vijṛmbhana 中 あくび; 開花, 吹くこと, 展開。
 vijṛmbhā 女 漢訳 呵 *Mvyut.*
 vi-jṛmbhikā 女 喘ぐこと, あくび。
 vi-jṛmbhita 過受分 あくびした, 開いた。 中 あくび; 頭われ, 結果; (vira- とともに 一°) 行為; 漢訳 威, 奮迅; 欠, 欠哇, 嘸呻, 頻申, 頻申欠哇; 音写 尾日林毘多 *Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Lal-v., Lanḅ., Mvyut., Saddh-p.*
 vijṛmbhya, 漢訳 奮迅 *Lanḅ.*
 vi-jetṛ 男 征服者, 勝利者; 漢訳 勝, 大勝, 能勝, 能降伏, 普能降伏, 尊勝者 *Bodhdh-bh., Mvyut., Sutr.*
 vi-jeya 未受分 征服されるべき (ただ a- としてのみ)。
 vijja 男 [人名]。
 vijja-nāman 男 [*Vijja* にちなんで名付けられた僧院の名]。
 vijja-rāja 男 [人名]。
 vijjala 形 泥で汚れた。
 vijjalā 女 [人名]。
 vijjā 女 [人名]。
 vi-jña 形 識別する, 了別する; 聡明である, 知る, 学識ある。 男 学者, 賢者。 中 [=vijñāna]; 漢訳 有知, 有智; 解, 智; 智者, 聰慧者; 識 *Bodhdh-*

bh., *Daś-bh.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Vajr-s.*,
Sūtr.

vi-jñāpana 田 漢訳 開悟 *Gaṇḍ-vy.*

vijñā-puruṣa 男 漢訳 智者, 有智者 *Bodh-bh.*, *Sa-*
ddh-p.

vi-jñāpta 過受分 使役 [Jñā から] 知らしめられた等。
漢訳 所顕示, 了知; 表業生 *Abh-vy.*, *Gaṇḍ-vy.*,
Lal-v.

vi-jñāpti 因 (園) の要求または歎願; 話しかけ (長上の
者に対する); 漢訳 現, 顕, 示現, 顕現, 顕示; 了,
了別, 表, 示, 表示, 表色, 表義; 教, 有教, 説言,
言教; 建立, 施設, 仮名, 仮設, 仮施設; 識, 意識,
諸識, 唯識; 知, 普知, 悟入; 相, 相貌; 取, 所取,
説 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-c.*, *Daś-bh.*,
Gaṇḍ-vy., *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sam-r.*,
Śikṣ., *Sūtr.*, *Ratna-ut.*, *Vijñ-v.*: ~tattva 唯識真
実, 識真実 *Madhy-vibh.*; kāya ~ 身表, vāg ~
語表 *Abh-k.*; viśayasya ~ 了境, 了別境 *Vijñ-v.*
→ avijñāpti, ājñāpana ~. ~m Kṛ (園) に
対して請願する, 長上の者に話しかける。

vijñāptika 形 漢訳 了. *Vijñ-t.* → avijñāptika.

vijñāptikā 因 漢訳 令信, 令信受. *Madhy-vibh.*

vijñāpti-tathatā 因 漢訳 唯識如 *Sūtr.*

vijñāpti-pratibhāsa 男 漢訳 似了, 変似了, 似識
Madhy-bh., *Madhy-vibh.*

vijñāpti-mātra 形 田 漢訳 唯識; 是施設量, 唯是内
心, 但是仮名, 唯是自心 *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*,
Lank., *Sūtr.*, *Vijñ-v.*

vijñāptimātraka 田 漢訳 唯識 *Vijñ-t.*

vijñāptimātra-jñāna 田 漢訳 唯識智 *Madhy-vibh.*,
Madhy-v.

vijñāptimātratā 因 漢訳 唯識, 唯識 (実) 性; 唯識
理, 唯識理趣, 唯識義; 唯識論 *Vijñ-v.* *Sūtr.*,
Vijñ-t.

vijñāptimātratva 田 漢訳 唯識性 *Vijñ-t.*

vijñā-praśasta-śīla 男 漢訳 智所讚戒 *Sam-r.*

vijñāpya 未受分 使役 告げられるべき。

vijñā 因 漢訳 識, 知 *Abh-k.*, *Sāmkhy-k.*

vi-Jñā, → Jñā.

vi-jñāta 過受分 知られた, 認識された, 理解された;
漢訳 知, 所知; 識, 所識, 識知; 解, 覚, 覺了,
能了 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*

vijñātavya 未受分 知られるべき, 認識されるべき;
…と見なされるべき; 確実に推論されるべき; 漢訳
所応知, 正所応知 *Bodh-bh.*

vijñātārtha 男 漢訳 所説義…所了 *Bodh-bh.*

vijñāti 因 知識, 認識。

vijñātr 男 知者, 理解者; 漢訳 識者 *Sūtr.*

vijñāna 田 (因, 園) 識別; (一°) のまたはまれによる
知識; (園) 熟練, 上達, 技術; 教義; 策略, 詭計;
神聖でない知識, 世俗的な知識 [jñāna の 因]; 知
力, 判断力; 意識の器官 (=manas 意); …の義
であると了解すること, …と見なすこと; 漢訳 心,
心法, 知; 識, 意識; 解, 本識 *Abh-k.*, *Abh-vy.*,
Bodh-c., *Lank.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Rātna-*
ut., *Saddh-p.*, *Sāmkhy-k.*, *Sukh-vy. II.*, *Sūtr.*,

Vijñ-v., 梵千.: navavijñānāni 九識 [1. ālaya
~ m 蔵識, 2. ādāna ~ m 執持識, 3. kliṣṭamanah
染汚意, 4. cakṣur ~ m 眼識, 5. śrotra ~ m 耳識,
6. ghrāṇa ~ m 鼻識, 7. jihvā ~ m 舌識, 8. kāya
~ m 身識, 9. mano ~ m 意識]; aṣṭau vijñānāni
八識 [1. ālaya ~ m 蔵識, 2. kliṣṭamanah 染汚
意, 3. cakṣur ~ m 眼識, 4. śrotra ~ m 耳識, 5.
ghrāṇa ~ m 鼻識, 6. jihvā ~ m 舌識, 7. kāya
~ m 身識, 8. mano ~ m 意識] *Abh-vy.*, *Mvy-*
ut.

vijñānāyatana (°na-āy°) 田 漢訳 識処 *Bodh-c.*

vijñāna-kāya 男 漢訳 識身, 識聚 *Lank.*, *Madhy-*
vibh., *Sūtr.*

vijñāna-taraṅga 男 漢訳 識波, 識波浪 *Lank.*

vijñānatā 因 (因) に熟達すること; 知ること。

vijñāna-dhātu 男 漢訳 識種, 識界 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-*
pr., *Madhy-v.*, *Śikṣ.*

vijñānanā-lakṣaṇa 田 漢訳 神識相, 最識之性相
Mvyut.

vijñāna-nirodha 男 漢訳 識滅 *Suv-pr.*

vijñāna-pañcaka 男 漢訳 五識, 識 (共於) 五種 *La-*
nik.

vijñāna-pati 男 知識の王 (解脱のある段階に達した者
をいう)。

vijñāna-parāvṛtti 因 漢訳 転識, 転所依識 *Lank.*

vijñāna-pariṇāma 男 漢訳 識所変, 識轉變 *Vijñ-t.*

vijñāna-pratyaya 男 漢訳 識縁 *Suv-pr.*

vijñāna-buddha 形 漢訳 識仏, 識身仏 *Lank.*

vijñānamaya 形 知識よりなる, 知的な。

vijñāna-mātratva 田 漢訳 唯識性 *Vijñ-t.*

vijñānavat 形 知識を有する。

vijñāna-vāda 男 ただ識のみがある (そして外的現象は
真の存在を有しない) という教説。

vijñāna-vādin 形 ただ識のみが真の存在であると主
張する; 漢訳 言唯識者 *Mvyut.*

vijñāna-samāyukta 形 漢訳 有識属, 与識相応 *Abh-*
vy.

vijñāna-sthiti 因 漢訳 識住 *Abh-vy.*: sapta ~ tayaḥ
七識住 [1. nānātvakāyā nānātvasaṃjñinaḥ tad
yathā manuṣyā ekatyāś ca devāḥ 身異想異如人
一分天, 2. nānātvakāyā ekatvasaṃjñinaḥ tad
yathā devā brahmakāyikāḥ prathamābhinirvṛt-
tāḥ 身異想一梵衆天謂劫初起, 3. ekatvakāyā nānā-
tvasaṃjñinaḥ tad yathā ābhāsvarāḥ 身一想異如
極光淨天, 4. ekatvakāyā ekatvasaṃjñinaḥ tad
yathā devāḥ śubhakṛtsnāḥ 身一想一如遍淨天,
5. ākāśānantyāyatanam 空無遍処, 6. vijñānānty-
āyatanam 識無辺処, 7. ākiñcanyāyatanam 無所
有処] *Mvyut.*

vijñāna-svabhāva 男 漢訳 識性, 識色 *Lank.*

vijñānānamtyāyatana (°ya-āy°) 田 漢訳 識処; 識
無辺処, 識無辺入 *Abh-vy.*

vijñānāstitva-mātra-vādin 形 = Vijñānavādin.

vijñānālaya (°na-āl°) 形 漢訳 蔵識, 阿梨耶識 *Lank.*

vijñānitā 因 (一°) と親しいこと。

vijñānin 形 (ある物についての) 知識を有する, 知識

をもって活動する；一つの技術に熟達した，専門家の。

vijñāniya 形 (一) の教理を論ずる。

vijñāneśvara (°na-iś°) 男 [Mitākṣarā (Yājñavalkya 法典の註釈書) の著者の名]；

vijānaika-skandha-vāda (°na-ek°) 男 識が唯一の実在であると主張する説 (=Vijñānavāda.)

vi-jñāpaka 形 能令示教 Lal-v.

vi-jñāpana 中 (因-ā) 通信，通知；要求，歎願；見；知，予知，分別，了別，証知；所現，顕現；乞，勸導 Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Madhy-v., Mvyut.

vijñāpanatā 女 表示。

vi-jñāpaniya 未受分 宣言されるべき，告げられるべき(とくに目上の者に対して)；普覚，令解(声)，使他善了知 Mvyut., Sūtr.

vi-jñāpita 過受分 [Jñā の使役] =°jñāpta；乞，証 Prāt-m.

vi-jñāpin 形 (一) を告知する。

vi-jñāpya 使役 過受分 知らしめられるべき；(業)について告げられるべき。

vi-jñāya 不変分 已知 Sāṃkhy-k.

vi-jñāhāra (°ñā-āh°) 男 識食 Abh-k.

vi-jñu-puruṣa 男 [vijñu は Pāli viññu の Skt. 形]；有知男子 Prāt-m.

vi-jñeya 未受分 知られるべき，知ることのできる；人が知るべきである；(因 ±iti) と認められまたは見なされるべき；識，所識；応知，了知，所知，可了；易解；善了知，所了別；覚諸事 Abh-k., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Guhy-s., Mvyut., Sūtr.

vi-jya 形 弦のない(弓)。 ~m Kr 弦を取除く。

vi-jvara 形 熱病のない；心配または苦痛がない，快活な。

vi-jharjhara 形 不快な(音)。

viṭ, [困 罍] → viś, viṣ.

viṭa 男 浮浪人；遊冶郎，(娼婦に付添う)情夫；(王侯の伴侶たる)食客；誦，Mvyut.

viṭaka-viṭikā 因 特殊な形をしたびんろうの堅果の推積。

viṭaṅka, 中 (?) 最高点，頂上，先端。

viṭaṅka-pura 中 [ある町の名]。

viṭa-carita-kṛt 形 (因) 悪漢・詐欺師または色事師のように振舞う(者)。

viṭapa 男 中 枝，若枝，若葉；灌木，灌木の叢；葉；茎；枝，枝修；林 Bodh-bh., Daś-bh., Mañj-m., Mvyut.

viṭapaka 男 樹；悪漢，酒色にふける人 (=vita)。

viṭapanālamkāra 男 莊広 Daś-bh.

viṭapaśas 副 枝ごとに。

viṭapi 形 男 [viṭapin (-inām の形における) の韻律形]。

viṭapin 形 枝のある。男 木。

viṭa-prāyeṇa 副 悪漢気取りで，詐欺師に倣って。

viṭa-bhūta 男 [ある Asura の名]。

viṭ-kula 中 Vaiśya の家。

viṭ-panya 中 Vaiśya が売る商品。

viṭ-pati 男 人民の主，王；Vaiśya の長；女婿。

viṭ-sūdra 中 罍 Vaiśya と Sūdra.

vi-ṭhapana 中 (因-ā) (因) [Skt. vi-Sthā の使役から] (とくに 錯覚した または 束の間の) 固着，設定，創造または作成；成，積集；長養；変現，妄想；莊嚴 Gaṇḍ-vy., Mvyut., Śikṣ.

viṭhapita 過受分 積集，所積集 Aṣṭ-pr. → vi-ṭhapana.

viṭhapitatva 中 積集 Aṣṭ-pr.

viṭhapyate, [viṭhapyati の 罍?] 障 Madhy-v. → viṭhapana.

viḍ, (一) → viṣ.

viḍa 男 中 塩の一種。

viḍaṅgikā 女 露身；躑行，躑行，倚行，不足行 Mah-v., Prāt-m.

vi-ḍamb, → ḍamb.

vi-ḍamba 形 (一) の真似をする。男 嘲笑；神聖を演ずること，冒瀆。

viḍambaka 形 (一) を真似る，著しい類似を有する；(一)に恥辱を与える。

viḍambana 形 …を真似る，…の如く振舞う。中 (因-ā) 真似，模写，扮装，…の役を演ずること，幻化の形態をとること(とくに神が人の姿を)；愚弄，輕蔑，嘲笑；恥辱，墮落。 ~m または ~ām Kr 模写する，真似る；(業)を笑い草にする。

vi-ḍambita 過受分 [ḍambから] 真似られた，模写された等；誑，毀辱，令羞愧 Bodh-c., Divy.

viḍambiteśvara (°ta-iś°) 形 Śiva神を真似る，Śiva神の姿をする。

vi-ḍambin 形 (一) を真似る・の姿を装うまたは著しく似ている；嘲る=誇を失わせる，顔色なからしめる；貶する，侮辱する。

vi-ḍambya 中 軽べつの対象。

viḍa-lavaṇa 中 =viḍa..

viḍāla 男 =biḍāla；猫 Divy., Śikṣ., 梵雜。

viḍāla-pada 中 撮 Divy.

viḍāla-potaka 男 =biḍālapotaka；小猫児 Divy.

viḍina 中 斜めに飛行する行為。(鳥について)

viḍinaka 形 斜めに飛行する。

viḍ-ojas 男 (=biḍojas) [Indraの別名]；Vaiśyaとその商売(?)。

viḍ-aujas 男 [同上]。

viḍ-ja 形 糞またこやし(viṣ)に生じる。

viḍḍa-siṃha 男 [人名]。

viḍ-bhuj 形 糞を食する。

viḍ-bhedin 形 通じをよくする。

viḍ-bhojin 形 排泄物を食う。

viḍ-varāha 男 家豚。

viṇ, (一) → viṣ.

viṇ-mūtra 中 (罍まれに 罍) 糞と尿。

viṇmūtra-vajra 男 金剛甘露 Guhy-s.

vi-Taḍ, → Taḍ.

vitaṇḍana 中 輕毀，反欺 Mvyut.

vitaṇḍā 因 悪質な論評，論詰(Nyāyaの罍)；妄批 Mah-v

vi-tata 過受分 [Tan. から] 広げられた, 広い; 漢訳 樹; 張, 覆, 弥覆, 徧張, 敷設 Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mṛyut., Rāstr., Saddh-p.

vitatatva 田 大いなる広がり.

vitata-dhanvan 形 十分に弓を引いた (者).

vitata-prṭhutarāmbha-yatna (°ra-ār°) 形 雄大な企画への努力をなす.

vitatāyudha (°ta-āy°) 形 = vitatadhanvan.

vi-tati 因 範囲, 拡張 伸張, 大量, 大なる範囲, 境域を越えること. ~ti Kṛ 広げる.

vitatotsava (°ta-ut°) 形 祭典の準備をすませた.

vitatya 男 Vihavya の息子.

vi-tatha 形 (因 -ā) 不真実の, 虚妄の, 無益の, 不必要の, 空しい, (従)より脱した; 漢訳 悪, 虚妄, 不実, 非実, 不如, 顛倒, 錯謬, 不真実, 非真実 Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lan̄k., Madhy-v., Madhy-vibh., Rāstr., Sam-r., Śikṣ., Suvik-pr., Vajr-s., Vijñ-v. ~m Kṛ 取り消す, 無くする. ~i Kṛ 無益にする, 無効にする; 除去する, 追い出す. ~ena 漢訳 無有真実 Lal-v. 男 [Bhadradvāja の別名; その息子の別名].

vitathatā 因 不真実, 虚偽; 漢訳 顛倒 Lan̄k. ~m Gam 虚偽となる. → Gam.

vitatha-darsana 田 漢訳 悪邪見 Śikṣ.

vitatha-parikalpa 男 漢訳 無分別 Gaṇḍ-vy.

vitatha-pratibhāsa 男 漢訳 非真現, 顛現不如境 Madhy-vibh.

vitathapratibhāsatva 田 漢訳 非真現, 顛現不如境 Madhy-v.

vitatha-prayatna 形 努力が空しく終る.

vitatha-maryāda 形 態度の穏当でない.

vitathaya 名動 vitathayati 不真実にする, 虚偽を咎める.

vitatha-vādin 形 嘘をつく, 虚言を語る; 漢訳 不如語者 Vajr-s.

vitatha-saṃjñin 形 漢訳 妄想 Gaṇḍ-vy.

vitatha-hetuka 形 漢訳 顛倒因 Lan̄k.

vitathābhiniveśa 男 不真実への傾向.

vitathābhiniveśavat 形 不真実になり勝ちな.

vi-Tan, → Tan.

vi-tanitr̄ 形 (一°)を広げるまたは流布する (者).

vi-tanu 形 (または vi°) 極めて細い, 体の無い. 男 [愛の神 = Ananga].

vi-tantri 因 (因 -is) 調子の外れた絃.

vitapana 田 漢訳 灸 Prāt-m.

vitapana-prekṣin 形 漢訳 欲…灸 Prāt-m.

vi-tamas 形 闇の無い, 明るい.

vitamaska 形 [同上].

vi-taraṇa 田 (一°)の移譲; 賦与; 寄贈, 施物.

vi-taram 比較 副更に, 一層離れて (RV.).

vi-tarām 比較 副 [同上].

vi-taritr̄ 男 授与者.

vi-Tark, → Tark.

vi-tarka 男 推測, 想像 (普通の意味); 疑い, 考慮, 熟慮; [Dhṛtarāṣṭra の息子]; 漢訳 思惟, 思量, 臆度; 覚, 覚想, 思覚, 覚観; 尋, 尋伺, 尋思; 疑

惑, 妄覚; 心, 欲心, 欲覚, 欲念; 心之能, 能 Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Bodh-c Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lan̄k., Rāstr., Sukh-vy. I Suvik-pr., Sūtr., Vijñ-t. indor ~āt 何となれ! その中に月があると想像されるから.

vitarka-carita 形 漢訳 多尋 (伺), 欲覚多, 尋思行 欲覚 (亦) 多 Abh-vy.

vitarkaya 名動 他 vitarkayati 想像する; 反省する; 推定する; 確かめる. → Tark.

vitarka-vicāra 男 漢訳 尋伺 Bodh-bh.

vitarkavicāropasāma (°ra-up°) 男 漢訳 尋伺止 Bodh-bh.

vitarka-vihaga 形 思考が鳥のように過ぎ去る.

vi-tarkita 過受分 漢訳 尋, 覚, 思惟, 撰択 Abh-vy. Daś-bh., Suvik-pr.

vi-tarkya 未受分 考慮されるべき, 疑いのある.

vi-Tarj, → Tarj.

vi-tardi 因 内庭の台地, ベランダ; 漢訳 台坐, 台 Lal-v., Mṛyut.

vitardikā 因 [同上].

vi-tala 田 [七地獄の一つの名]; 地獄の底.

vitasta-datta 男 [仏教徒である商人の名].

vitastā 因 [Panjāb 地方の一つの河の名, ギリシ人によって Hyduspes 河と呼ばれるもの, 現在 Jhelum または Bihat 河].

vitastākhyā (°tā-ākḥ°) 田 [Kāśmīr 地方の Naga Takṣika の住地].

vitastādri (°tā-ad°) 男 [山の名].

vitasti 因 [Tan から] 長さの一単位 (12 aṅgula, 約9インチの長さ); 漢訳 札; 度, 尺. 一尺, 磔, 磔手, (一張手); 音写 毘多悉提 Abh-vy. Divy., Mṛyut., Muñj-m., Prāt-m., 梵千.

vi-tāna 形 [Tan から] 空の (→ avitāna); 喪心た. 男 田 膨脹, 延長, 範囲; 大量, 集積; 高度 多様; 遂行; 発展; 供儀; 天蓋, 日除け; 漢訳 帳帳, 蓋, 帳蓋, 宝帳, 頂幔; 弟兄 (?) Aṣṭ-pr. Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mṛyut., Saddh-p., Śik 男 聖火 (の分置).

vi-tānaka 田 (とくに 一°) 日除け, 天蓋; 大量; 漢訳 覆 Lan̄k.

vitānavat 形 天蓋を具えた.

vitāna-vitata 漢訳 帷幔, 掛頂幔 Mṛyut.

vitānā 因 [Sattrāyana の妻].

vitānāya 名動 (因 -yyate のみ 非人) 日よけまたは蓋を表わす.

vitāni-kṛta 過受分 広げられた; 漢訳 張施 Lal-v.

vitāni-BHū, 他 vitānībhavati 日よけまたは天蓋をわす.

vi-tāmasa 形 明るい, 輝く.

vitāyitr̄ 形 祭式を完了する.

vi-timira 形 明るい, 輝く. ~e jāte 明るくなったとき; 漢訳 離癡, 無習, 破諸闇; 離諸障, 無諸垢翳, 除滅癡翳, 除滅癡障 Gaṇḍ-vy., Saddh-p.

vitimira-karin 形 漢訳 能遣昏翳 Aṣṭ-pr.

vi-tilaka 形 (額に) 宗派標章がない → tilaka.

vi-tirṇa 過受分 → Tṛ.
 vi-Tud, → Tud.
 vi-tunna 過受分 → Tud.
 vitunnāṅga 形 (曇) で身体を射抜かれた。
 viturṇa 重 [高単位の数]; 漢訳 音写 毗觀羅, 維獨羅南 *Mvyut.*
 vi-tuṣa 形 殻をむかれた。
 vi-tuṣṭa 過受分 不満足な, 不快な。
 vi-tūrṇa 重 = viturṇa.
 vi-trīya 形 三日おきの (熱病の一種についていう) (AV. 聖師-1005). 重 第三 (Br., S.).
 vi-Trṛd, VII. 重 重 vitrṇatti, vitrṇtte 突き通す, 穴をあける, 裂く, 掘る. 漢訳 vitardayati [同上].
 <Trṛd vi- の補遺>
 vi-Trp, → Trp.
 vi-trpta 過受分 満足した; 漢訳 厭足, 無厭 *Gand-vy., Sūtr.* → avitrpta.
 vitrptaka 形 飽きた; (a-を付して) (曇) によってまだ満足しない。
 vitrpta-kāma 形 (a-を付して) 欲望を満たさない。
 vitrpta-dṛś 形 (a-を付して) 眼を満足させない。
 vi-trpti 女 漢訳 止足 *Buddh.c.*
 vi-trṣ, vi-trṣa 形 渴きから脱する, 欲望のない。
 vi-trṣṇa 形 [同上]; 漢訳 離愛, 離欲, 不愛樂 *Bodh-bh., Śiks.*
 vitrṣṇatā 女 欲望のないこと; 満足, 自足。
 vi-trṣṇā 女 [同上]; 強烈な欲望。
 vi-Tṛ, → Tṛ.
 vi-toya 形 水のない。
 vi-tolā 女 [河の名]。
 vitta 1. 過受分 知られた, 著名な. → Vid 1.
 vitta 2. 過受分 獲得された事. → Vid 2. 重 発見物 (Br. まれ), (獲得物), 財産, 富, 金銭(曇, 曇); (また 重) (曇); 漢訳 財, 財物, 財宝, 資財 *Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v., Saddh-p., Sukh-vy. I.*
 vittaka 形 よく知られている, 有名な。
 vitta-kāma 形 貪欲な。
 vitta-goptr 男 = vittanātha.
 vittatva-paramatā 重 漢訳 自在最勝, 自在無比 *Madhy-vibh.*
 vitta-dugdha 重 牛乳による富。
 vitta-nātha 男 富の神, [*Kubera* 神の称].
 vitta-nāsa 男 財産の喪失。
 vitta-pa 形 宝を守る. 重 [*Kubera* 神の称].
 vitta-pati 男 富の神, [*Kubera* 神の称].
 vittapa-puri 女 [ある町の名].
 vitta-pāla 男 富の守護者, [*Kubera* 神の称].
 vitta-puri 女 [ある町の名].
 vitta-peṭā 女 錢箱, 財布。
 vitta-peṭi 女 [同上].
 vitta-maya 形 (女-i) 富からなる。
 vitta-mātrā 女 金銭の額(総計).
 vittarddhi (°ta-rd°) 女 沢山の富。
 vittavat 形 富む, 豊富な。
 vitta-vivardhin 形 資本を増殖する。
 vitta-śāṭhya 重 金銭問題での詐欺。

vitta-samcaya 重 富の蓄積。
 vitta-hina 過受分 形 富の欠乏した, 貧しい。
 vittāgama (°ta-āg°) 重 富の獲得, 金銭を生み出す方法。
 vittādhyā (°ta-ādhy°) 形 富の多い, 富んでいる。
 vittādhipati 男 = vittagoptr.
 vittāpti (°ta-āp°) 女 富の獲得。
 vittānvita 過受分 富める。
 vittābhāva 男 財産の無いこと。
 vitti 1. 女 意識; 理解; 漢訳 受, 明, 智 *Abh-k., Abh-vy., Mvyut.*
 vitti 2. 女 獲得, 所得 (曇).
 vittesa (°ta-īsa) 男 富の神, [*Kubera* 神の称].
 vittesa-pattana 重 [*Kubera* 神の都].
 vittesvara (°ta-īś°) 女 富の神, [*Kubera* 神の称].
 vittehā (°ta-ihā) 女 富の欲求, 貪欲。
 vittaiṣanā (°ta-eṣ°) 重 [同上].
 vittopakarana (°ta-up°) 形 漢訳 財食衆具 *Bodh-bh.*
 vi-trapa 男 (恥知らずの), [人名].
 vi-Tras, → Tras.
 vi-trasta 過受分 → Tras.
 vitrastaka 形 恐れる, 臆病な, 内気な。
 vi-trāsa 形 (一°)を恐れる. 重 (一°)に関する驚愕, 恐怖; 漢訳 怖, 畏 *Lal-v.*
 vi-trāsana 形 (女-i) (曇, 一°)を恐れる。
 vi-trāsayitu-kāma 形 恐怖させようと欲する。
 vi-trāsita 形 恐れおののいた, 恐怖でふるえた。
 vithura 形 [*Vyath* から] よろめく, ふらつく (曇); 欠点のある (Br.).
 Vid 1., II. 重 vetti, vidanti (曇, 曇); I. veda (叙詩, まれ), 重 三過 veda (曇, 曇 ではまた 曇) に精通する・を見出す・を理解する・を知る・について知る・を意識するまたはの正確な概念をもつ; (不定) …する方法を知る; (曇) であると知るまたは (曇 または 曇+iti) であると考える; 注意する, 観察する, 記憶する (曇); みなす, (富)を重要視する; (曇)を認めるまたはに注意する; (曇, 曇 ではまた 曇)を経験するまたは感ずる; 考える, 想像する, (曇)を(曇)と考える; 知ろうとする, …について尋ねる(まれ); 漢訳 知, 覚, 覚知; 了, 了知; 見, 受, 領, 得, 解; 性, 分別, 作念, 能正覚知 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-c., Bodh-bh., Divy., Lanik., Saddh-p., Sūtr.*; na vidyate不可得 *Aṣṭ-pr.*; vetti sarvataḥ 円解 *Sūtr.*
 vidyāt 知るべきである, 理解されるべきである。
 ya evaṃ veda そのように知る者, この知識をもつ者 (Br. では普通). 過受分 vidita (曇) として確かめられた・知られたまたは認知された. 重 viditam (曇) の知識をもって. 過受分 vitta (きわめてまれ) 知られた; 有名な. 漢訳 重 (曇 まれ) vedayati(-te) 知らせる, 伝える, 宣言する, 通知する, 告げる; (曇)を(曇)に教えるまたは説く(まれ); …と知る, またほであると知る, (曇)を(曇)とみなす; 感ずる, 経験する; 漢訳 受, 得 *Bodhbh., Mvyut.* 希求 重 vividiṣati または vivitsati (曇)を知ろうとする, …について尋ねる.
 anu- 徹底的に知る。

揮, 命令, 号令, 支配; 集合, 連合, 会議, 集会, 宴会; 隊伍, 軍隊, 方陣(とくに *Marut* 神群について); 戦闘.

vidathya 形 (因) 集合に適する, 会議において有能な; 宴会の.

vi-dadankṣu 形 [Dams から] …を咬もうと欲するまたは食べようと欲する.

vidad-vasu 形 富を克ち得る (因).

vi-danta 形 牙齒のない.

vi-dara 1. 男 [Df から] 裂け目. 2. 形 裂け目または穴のない(地).

vi-darbha 男 [草のない=不毛の土地], [*Vindhya* 山の南麓の国の名, 現在の *Berār* に当り, 首府を *Kundina* とする]; 璽 [この国の住民]; 璽 *Vidarbha* の王.

vi-darbhana 璽 漢訳 説 *Meyut*.

vidarbha-tanayā 女 [*Vidarbha* 王の娘], [*Damayanti* の名].

vidarbha-nagari 璽 *Vidarbha* の都市 (*Kundina* のこと).

vidarbha-pati 男 *Vidarbha* の王.

vidarbha-putrī 女 [*Rukmiṇi* の父系].

vidarbha-rāja 男 = *vidarbhapati*.

vidarbharāja-putrī 女 [*Rukmiṇi* の父系].

vidarbhā 女 [*Vidarbha* の首府の名 (= *Kundina*)]; [ある河の名].

vidarbhādhipa 男 = *vidarbha-pati*.

vidarbhābhimukha 形 *Vidarbha* に面する.

vidarbhī-kaundinya 男 [ある教師の名].

vi-darsana 璽 漢訳 覲見, 能示, 示現, 観, 観察 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*; *sarvadharmasvabhāva* ~ 能示諸法(真実)自性 *Ast-pr.*

vi-darsanā 女 漢訳 慧, 見, 観, 示現 *Meyut.*, *Bodh-bh.*

vi-darsita 過受分 → *Drś.* 漢訳 已現 *Divy.*

vi-darsin 形 観察する.

vi-darsini 女 = *nidarśini*.

vi-Dal, → *Dal*.

vi-dala 形 破裂した, 割れた; 揚げられた, 咲き開いた(花). 璽 破片; 割れた竹; 弾けた豌豆.

vi-dalana 璽 (地が)裂けること; 裂け目ができること.

vi-dalita 過受分 揚げられた, 咲き開いた. → *Dal*.

vidaliṣyamāna 現分 未受分 [Dal から]引き裂かれる.

vidali-Kṛ, 割る.

vidali-kṛta 過受分 割られた.

vi-Dah, → *Dah*.

vi-Dā, → *Dā*. 1.

vi-Dā, (因) から自由にする, 解放する; 切り離す, 終わらせる. <*Dā* の補遺>

vidāna 1. 現分 → *Vid*. 2.

vi-dāna 2. 璽 分配, 分割.

vidāyya 未受分 見出されるべき (*RV.* 用例一回のみ).

vi-dāra 男 片々に裂くことあるいは寸断すること.

vidāraka 形 裂く, 寸断する, 切り裂く.

vidārana 形 (因-i) 裂く, 割る, 切り裂く, 破碎する. 璽 裂くこと, 割ること, 破碎すること; 穿つ

こと, 貫くこと, (枝等を)切り落すこと; 拒絶, 排斥; 漢訳 断除, 離散, 分析, 広大行 (?) *Guhy-s.*, *Sikṣ.*, *Lank*.

vi-dārīta 過受分 漢訳 裂, 破, 断 *Bodh-c.*, *Lank*. → *Dī*.

vi-dārin 形 (因-ni) 割る, 破碎する等.

vi-dārya 形 裂いて.

vi-dārva 男 [竜神の名].

vi-dāravya 男 [同上].

vi-dāsin 形 [Das から] 乾く (つねに a~ の形で); *avidāsin* 乾くことのない.

vi-dāha 男 熱.

vi-dāhin 形 燃える, 焦がす, 熱い.

vidi 漢訳 語根 *Vid* 1.

vidita 過受分 → *Vid*. 1. 漢訳 知, 察, 説, 分別, 了知, 領納, 善知, 能解, 解文字, 証知 *Abh-vy.*, *Ast-pr.*, *Daś-bh.*, *Ratna-ut.*, *Sapt-pr.*, *Sikṣ.*, *Sūtr*.

viditam 璽 → *Vid* 1.

vidita-pūrva 形 以前に知られた.

vi-Div, IV. 璽, 璽 **vidivyati(-te)** 賭博で失う; 賭博する. <*Div* の補遺>

vi-diś 女 (羅針盤の)中間にある(東南などの)方位; 漢訳 角, 隅, (四)維, 不順方 *Abh-k.*, *Gand-vy.*, *Vajr-pr*.

vi-diśā 女 [同上]; [河の名], [*Vidiśā* 河に臨む町の名=現在の *Bilsa*]; [*Vetravati* 河沿岸の町の名]; 漢訳 四維 *Saddh-p*.

vi-Dip, IV. 璽 **vidipyate** 輝く, 明るく光る. 使役 **vidipayati** 燈火をともし, 照明する. <*Dip* の補遺>

vi-dipaka 男 燈, 提燈.

vi-dipita 過受分 照された, 光った.

vi-dipta 形 輝く, 光る, 照る.

vidipta-tejas 形 明るく輝く, 光輝のみごとな.

vi-dirṇa 過受分 → *Dī*.

vidirṇa-mukha 形 口を開いた.

vidirṇa-hṛdaya 形 心を打碎かれた, 悲嘆にくれた.

vi-Du, → *Du*.

vidu 形 賢明な; 漢訳 叡, 智慧, 智者, 総慧(者) *Daś-bh.*, *Saddh-p.*, *Sikṣ.*, 梵千 → *avidu*.

vidu-panḍita 形 漢訳 総明多智慧, 具足智慧 *Suvik-pr*.

vidura 形 聡明な, 賢い; (一)に熟達した. 男 [*Vyasa* の息子で, *Dhṛtarāṣṭra* および *Pāṇdu* の弟の名].

viduratā 女 *Vidura* たること.

vidula 男 [蘆の一種].

vidulā 女 [人名].

vi-Duṣ, 璽 **viduṣyati** 汚れる, 過失または罪を犯す.

使役 **viduṣayati** 汚す, 墮落させる, はずかしめる. <*Duṣ* の補遺>

viduṣi → *vidvas*.

viduṣṭara 比較 [vidvas].

vidus 形 用心深い, 注意深い (*RV.*); 漢訳 総慧, 智者, 聖人 *Lal-v.*, *Ratna-ut.*, *Sūtr*.

vi-dūra 形 隔たった, 遠方の, [*Kṛ* とともに = 移動す

る]; (圖) から遠くに離れた, …によっては達せられない. ~m 副 遠方に(因, 圖). 圖または ~tas [同上]; 遠方から. 因 から (-tas) 遠方に. °—はるかに, 遠方から. 男 [人名]; [山, 町あるいは地方の名]; 漢訳 極遠 *Sūtr.* → avidūra.

vidūra-kramaṇa-kṣama 形 遠くまで歩行する能力のある.

vidūra-ga 形 遠方の; (香が)遠方に拡がる.

vidūra-gamana 中 遠くまで歩行すること.

vidūra-jāta 過受分 遠く離れて生じた, 遠くに生じた.

vidūratā 女 遠く離れた距離.

vidūratva 女 [同上].

vidūratha 男 [しばしば人名].

vidūra-bhūmi 女 [ある地方の名].

vidūraya 名動 他 遠方に駆逐する.

vidūra-vigata 過受分 (遠方から来る), 最低の身分の, 最低の家柄の.

vidurā-saṃśrava 形 遠方から聞える.

vidūri-Kṛ, 遠ざける.

vidūri-BHū, 遠方に離れる, 遠くなる.

vi-dūṣa 男 漢訳 笑説者, 狡猾者, 和技者, 和伎者 *Lank.*, *Mvyut.*

vidūṣaka 形 [vi-Duṣ から] 悪口する. 男 おどけ者, 道化者; (とくに演劇で種々の道化によって観客を笑わせる)主人公のひょうきんな相談役; [あるBrāhmaṇaの名].

vi-dūṣaṇa 形 汚す, 傷つける, 墮落させる. 中 非難, 悪口, 虐待, 皮肉, 風刺; 漢訳 毀壞, 破壊 *Bodh-bh.*

vi-dūṣanā 女 漢訳 汚, 悔過, 穢汚 *Abh-vy.*, *Śikṣ.*: ~samudācāra 悔過行 *Śikṣ.*

vi-dūṣaya, → dūṣaya 1.

vi-dṛti 女 頭蓋の縫合所.

vi-Dṛś, → Dṛś.

vi-dṛṣti 女 漢訳 邪見, 見 *Daś-bh.*, *Lank.*

vi-Dṛ, → Dṛ.

vi-degha 男 [人名] (Br.).

vi-deśa 男 外国; 特別な場所.

videśa-stha 形 外国に住む; 離れて立つ; 他の場所に起こる.

vi-deha 1. 男 (=videgha) [*Mithila* を首府とし, 現在の *Tirhut* にあたる地方の名; 種 その民族]; 男 [*Videha* の王とくに *Janaka*]; 漢訳 音写 毘提, 毘提(王), 毘提(国), 毘訶訶 *Abh-vy.*, *Bodh.*, *Av-ś.*, *Divy.*

vi-deha 2 形 肉体のない, 死んだ.

videha-jā 女 [*Janaka* の娘 *Sita* の名].

videhatva 中 肉体からの解脱.

videham-prāpta 形 死んだ.

videha-rāja 男 [*Videha* の王, とくに *Janaka*].

vi-doṣa 男 漢訳 離瞋, 無恚(心) *Daś-bh.*

viddha 過受分 [Vyadh から] 貫通された等; 漢訳 中, 入, 所中, 射, 中傷, 穿孔 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Śikṣ.*: śalya ~ 中(毒)箭, 箭入 *Aṣṭ-pr.*

viddhatva 中 貫通されたこと, …に冒されたこと.

vidman 中 (RV.) 注意(圖 注意深く); 知識(圖=不定 知るために, 学ぶために).

vidya 形 ° = vidyā; 漢訳 幻術 *Daś-bh.*

vidyamāna 現分 → Vid 2.; 漢訳 有, 所有, 実有, 現有, 有体 *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*

vidyamāna-gati 形 一策(=何らか他の方法)を有する.

vidyamānatā 女 漢訳 有, 所有 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*

vidyamānatva 中 [Vid 2. の現分からの圖] 存在.

vidyamāna-dharma 男 漢訳 有法 *Bodh-bh.*

vidyamāna-mati 形 英知を有する, 思慮ある, 賢明な.

vidyamānobhayāsiddha (°na-ubh°) 形 漢訳 有俱不成 *Nyāy-pr.*

vidyā 女 知識, 学問, 學術(とくに三 *Veda* の知識: 四, 十四, 十八および六十四種の學術について); 呪法, 呪術; 呪文; (五教) 明呪; 漢訳 慧, 解, 識, 明了, 明, 術, 明術, 明処, 五明処, 明論; 明咒, 咒禁, 咒術, 明咒力 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, 梵千.

vidyā-kāma 形 知識を願う, 知識を欲する.

vidyā-kośa-grha 中 図書館.

vidyākhyā (°yā-ākh°) 形 學術と名づけられる, 學問と称する.

vidyāgama (°yā-āg°) 男 知識の習得, 知識の研究.

vidyā-guru 男 (とくに *Veda* の) 學術の教師.

vidyā-grahana 中 學術の習得.

vidyā-carāṇa 中 漢訳 明行, 明行足 *Saddh-p.*; 音 毘修遮羅那, 鞞修遮羅那 *Aṣṭ-pr.*

vidyācarāṇa-saṃpanna 形 漢訳 明行足, 明行円 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Mah-v.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy.* I.

vidyā-jambhaka-vārttika 形 各種の呪術を行う.

vidyā-tirtha 中 神聖な沐浴場にたとえられる知識.

vidyātva 中 知識という概念.

vidyā-dāna 中 (神聖な)知識の伝授, 學術の教授.

vidyā-dhana 中 知識の財宝, 知識という富財.

vidyā-dhara 形 學術または呪文を把持する. 男 [*Śikṣ.* 神の侍者で神通力を有し *Himalaya* に住む(空中の守護神の一種), 妖精; [種々の学者の名]; 漢訳 明, 持明術, 持呪術, 持明者, 持明咒者, 持諸明力 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*

vidyādhara-cakra-vartin 男 妖精中の最上の主; 明転輪聖王, 持明呪輪王.

vidyādharatva 中 妖精の状態.

vidyādhara-piṭaka 男 中 漢訳 持明蔵 *Śikṣ.*

vidyādhara-mahā-cakra-vartin 男 全妖精中の最高主, 持明大転輪聖王, 大持明呪輪王.

vidyādharādhiśa 男 [同上].

vidyādharādhiśatā 女 [同上の圖].

vidyā-dhari 女 妖精, 空中の精, 持明呪女神.

vidyādhari-BHū, 妖精となる, 持明呪神となる.

vidyādharendra (°ra-in°) 男 妖精の主, 持明呪王.

vidyādharendratā (°ra-in°) 女 [同上 圖].

vidyādharendratva (°ra-in°) 中 [同上].

vidyā-dhāra 男 知識の器, 大学者.
 vidyādhigama (°yā-adh°) 男 =vidyāgama.
 vidyāhidevatā (°yā-adh°) 女 學術の守護神, Sarasvatī.
 vidyā-dhara 男 =vidyādhara.
 vidyānanda (°yā-ān°) 男 知識における歡喜.
 vidyānupālin (°yā-an°) 形 (伝統的な) 學術を忠実に保持する.
 vidyānulomā (-lipi) (°yā-an°) 女 [六十四書の一]; 覆調 音写 比陀阿奴路摩(書), 阿菟盧摩(書) Lal-v.
 vidyānta (°yā-an°) 男 弟子の期間の満期.
 vidyā-pati 男 (宮廷における) 学頭.
 vidyāpatitva 中 [同上の調].
 vidyā-pada 中 覆調 明句 Bodh-bh.
 vidyā-puruṣa 男 覆調 持明人 Guhy-s.
 vidyā-phala 中 學問の果実, 學問の成果.
 vidyā-bala 中 呪力.
 vidyābhikāṃkṣin (°yā-abh°) 形 知識を望む, 學問を欲する.
 vidyābhīpsin (°yā-abh°) 形 [同上].
 vidyābhīmānavat (°yā-abh°) 形 自己に學識があると想像する.
 vidyā-maṭha 男 僧院, 学林, 大学, 学校.
 vidyā-mada 男 學問の誇り.
 vidyā-mandira 中 学舎, 大学.
 vidyāmaya 形 知識からなる, 知識に没入する.
 vidyāraṇya (°yā-ar°) 男 (知識の林), [種々の學者の名, とくに Mādhavācārya の名].
 vidyā-ratna 中 知識の宝.
 vidyārambha (°yā-ār°) 男 研究の開始, 研究に従事すること.
 vidyārtha (°yā-ar°) 形 知識を望む.
 vidyārthin (°yā-ar°) 形 [同上].
 vidyā-vaṃśa 男 教師の年代表, 師資の系譜.
 vidyāvāt 形 學問のある.
 vidyāvataṃsa (°yā-av°) 男 [ある妖精の名].
 vidyāvadāta (°yā-av°) 過受分 學問に明るい, 學問に啓発された.
 vidyā-vadhū 女 詩の女神.
 vidyā-vayo-vṛddha 未受分 學問年齢ともに長じた.
 vidyā-vikraya 男 報酬をうるために教えること.
 vidyā-vid 形 學問ある.
 vidyā-vipakṣa 形 覆調 明所治 Abh-vy.
 vidyā-vimukti-rasa 男 覆調 明解脱一味 Ratna-ut.
 vidyā-viruddha 過受分 學術に矛盾する.
 vidyā-vihina 過受分 知識を欠く, 教養のない.
 vidyā-vṛddha 過受分 知識の増大した.
 vidyā-veda-vratavat 形 宗教的學術と Veda と戒行とを修了した.
 vidyā-(veda)-vrata-snāta 過受分 [同上].
 vidyā-veśman 中 学舎, 大学.
 vidyā-vrata-snāta 形 (Veda の) 學習と戒行とを終えた.
 vidyāvratasnātaka 形 [同上].
 vidyā-śruta-sampanna 過受分 世俗的な學術と神聖な學術を具備した.

vidyā-sadman 中 (學術の住所), 学校.
 vidyā-saṃpradāna 中 知識の伝授.
 vidyā-sāgara 男 知識の海, [大學者の稱].
 vidyā-sthāna 中 學術の部門; 覆調 明処 Buddh-c., Bodh-bh.: pañca vidyā-sthānāni 五明処 [1. śabda-vidyā 声明, 2. hetu~ 因明, 3. adhyātma~ 内明, 4. cikitsā~ 医方明, 5. śilpa-karma-sthāna~ 工巧明] Mvyut.; aṣṭādaśā vidyā-sthānāni 十八明処 [1. gandharvaḥ 音楽, 2. vaiśikam 春方, 3. vārttā 生芸, 4. sāmkyā 数, 5. śabdah 声, 6. cikitsitam 医方, 7. nītiḥ 礼方, 8. śilpam 工巧, 9. dhanur-vedaḥ 射方(弓術), 10. hetuḥ 因, 11. yogaḥ 相應, 12. śrutih 聞, 13. smṛtiḥ 念, 14. jyotiṣam 觀星, 15. gaṇita 算法, 16. māyā 幻法, 17. purāṇam 先世, 18. itihāsakam 古事] Mvyut., Sūtr.
 vidyā-snāta 形 (Veda の) 學習を終えた.
 vidyā-snātaka 形 [同上].
 vidyā-hina 過受分 知識を欠く, 無学の, 文盲の.
 vidyu 女 電光; 覆調 電, (月灯) Sam-r.
 vidyuc°, vidyuj°, (°—) → vidyut.
 vidyuc-cala 形 電光のように動く, 稲妻のように走る.
 vidyuc-chatru (°ut-śa°) 男 [ある Rākṣasa の名].
 vidyuc-chikhā (°ut-śa°) 女 [ある Rākṣasi の名].
 vidyuj-jihva 男 稲妻のような舌をもつ. 男 [ある Rākṣasa および Yakṣa の名].
 vidyut 1., → Dyut.
 vidyut 2. 形 閃光を發する(閃). 女 閃く武器(閃); 電光; 覆調 電, 電光, 電焰, 閃電 Bodh-c., Laik., Lal-v., Nyāy-pr., Ratna-ut., Saddh-p., 梵雜.
 vidyutaya 名動 他 vidyutayati. → dyutaya.
 vidyut-kampa 男 稲妻の震動, 閃めき.
 vidyut-keśa 男 [ある Rākṣasa の名].
 vidyut-parṇā 女 [ある Apsaras の名].
 vidyut-pāta 男 電撃, 落雷.
 vidyut-puñja 男 [ある Vidyādhara の名].
 vidyut-puñjā 女 [同上の妻の名].
 vidyut-pradipa 男 覆調 電燈, 電炬光 Mvyut.: ~ o nāma samādhiḥ 電燈三摩地, 電炬光三昧 Mvyut.
 vidyut-prapatana 中 電撃, 落雷.
 vidyut-prabha 形 電光のように輝く. 男 [人名].
 vidyut-prabhā 女 [人名]: (覆) [Apsaras の一部類].
 vidyutvat 形 電光を含む, 電光に満ちた(雲). 男 雷雲, [山の名].
 vidyut-saṃpātam 副 電光の閃めきのように; 瞬時に, 急に, 直ちに, 早速, 突然.
 vidyud°, vidyun°, vidyul°, (°—) → vidyut.
 vidyud-unmeṣa 男 電光の閃めき.
 vidyud-dāman 中 電光の閃めき.
 vidyud-dyotā 女 [ある王女の名].
 vidyud-dhvaja 男 [ある Asura の名].
 vidyud-ratha 形 電光の車に運ばれた(RV.).
 vidyudvat 形 =vidyutvat.
 vidyud-varcas 男 [ある神的存在の名].
 vidyud-valli 女 電光の閃めき.

vidyudvalli-vilasita 甲 つる草のごとき電光の顔え。
 vidyun-maṇḍalavat 形 電光の環に取囲まれた。
 vidyun-māla 男 [ある猿の名]。
 vidyun-mālā 女 電光の環；電 Gand-ry. 女 [人名]。
 vidyun-mālin 形 電光の環で巻かれた，電光を花輪とする；電光晃曜 Saddh-p. 男 [人名]。
 vidyu-mālin 形 =vidyun-mālin；電光 Raṣṭr.
 vidyul-latā 女 つる草のごとき電光；電，大光彩 Divy., Gand-ry., Lank.
 vidyul-lekhā 女 =vidyul-latā；[ある商人の妻の名]。
 vidyeśa (°yā-iśa) 男 知識の主(とくに Śiav 神)；[神秘的な Śiva 派信者中の解脱者の一団]。
 vidyeśvara (°yā-iś°) 男 [同上]；[ある呪術師の名]。
 vi-dyota 形 閃く。男 光輝；[人名]。
 vidyotā 女 [人名]。
 vi-dyotaka 形 照らす，明瞭にする。
 vi-dyotana 形 [同上]。甲 閃光，電光；雷電 Divy.
 vi-dyotayitavya 未受分 照らされるべき。
 vi-dyotita 過受分 暉晃 Daś-bh.
 vi-dyotin 形 (一°)を照す，明瞭にする。
 vidyopayoga (°yā-up°) 男 (因)から学問を習得すること。
 vidyopārjanā (°yā-up°) 女 知識の獲得。
 vi-drava 男 逃走；仰天，驚愕。
 vi-Drā, → Drā 1.
 vi-drāṇa 現分 → Drā 1.
 vi-drāvāṇa 形 逃走させる，おどす。甲 逃走(させること)；降，破，駭蹙 Daś-bh.
 vi-drāvita 過受分 分散せしめられた，駆逐された，打ち破られた，追い出された。
 vi-drāvin 形 逃走する，逃げ去る。
 vi-drāvya 未受分 逃走せしめられるべき。
 vi-Dru, → Dru.
 vi-druta 過受分 → Dru.
 vi-druti 女 逃走。
 vi-druma 甲 [特別の木]，珊瑚；珊瑚 Mvyut. 形 樹木のない。
 vidruma-cchāya 形 珊瑚色の；樹陰を与えない。
 vidruma-daṇḍa 男 珊瑚の枝。
 vidrumadaṇḍatā 女 珊瑚の(五)枝のような状態(手の美しさについていう)。
 vidruma-latā 女 珊瑚の枝。
 vidruma-vana 甲 [同上]。
 vi-Druh, IV. 自(自 三過 vidudruhe のみ) (為)を害する，…に害悪をなす。<Druh の補遺>
 vidvat 形 → vidvas.
 vidvaj-jana 男 智を有する人，智者，学者。
 vidvattā 女 学識。
 vidvattva 甲 [同上]。
 vidvad-gosṭhi 女 学者の集団。
 vid-vala 形 利巧な，狡猾な(因)。
 vidvas [現 三過 veda の 分：(強幹 -vāms, 甲幹 -vat, 弱幹 -us) 困男 vidvān, 女 viduṣī, 甲 vidvat] 知る，注意深い；賢明な，学識ある；(業，因，一°)

に精通した，…をよく知っている。男 賢者，学者；智，明智，大智，有智，具足智；智者，智人，智慧者，善人，黠惠 Abh-ry., Buddh-c., Cat-ś., Gand-ry., Lal-v., Lank., Madhy-v., Śikṣ. → a-vidvas.

vi-dviṣ 男 敵。

vi-dviṣa 男 謗 Ratna-ut.

vi-dviṣtatā 女 憎むべきこと。

vi-dviṣṭi 女 憎悪，敵意。

vi-dveṣa 男 (屬，因)に対する憎悪・敵意または嫌悪；(一°)に対する嫌悪の情；高慢な軽蔑(まれ)；厭，嫌，憎，悪，憎背，嫉妬，瞋恨，最嗔 Bodh-bh., Kāśy., Mvyut., Śikṣ., Saddh-p. ~m Kṛ (因)に対して敵意を示す。~m Gam 嫌悪を招く。~m Grah (因)に対して敵意を抱く。

vi-dveṣaka 形 (一°)を憎むまたはに敵意をいだく。

vi-dveṣaṇa 形 不和にさせる(RV.)。甲(屬，一°)に対する憎悪，…に対する敵意；敵意を抱くこと；憎悪または敵意をかきたてること；憎悪を生じさせる呪術的儀礼；憎，憎嫉，憎悪，憎嫌，瞋恚 Kāśy., Śikṣ.

vi-dveṣitā 女 憎悪，敵意。

vi-dveṣin 形 (女 -ni) 憎む；(一°)と争う。男 憎む者，敵。

vi-dveṣṭr 男 [同上 男]。

vi-dveṣya 未受分 (一°)にとって憎らしいまたは厭らしい。

Vidh, 1. VI 他(自) vidhati (因, P.) (具)をもって(神々：為，まれに業または因)を崇拜するまたはに奉仕する；うやうやしく献上する，贈与する；恩寵たれる(Indra 神について)。

upa- (業)に敬意を表する。

prati- [同上]。

Vidh, 2. VI 自 vindhate (RV. まれ) (業具)を欠く；…に不足する(?)；または満足する(?)。

Vidh, 3. → Vyadh.

vidh. 形 [Vyadh から] (一°)を貫く。

vidha 男 (一°)種，類，様式，…倍；種，折方便 Abh-ry., Bodh-bh., Buddh-c., Lank., Nyā-pr., Ratna-ut., Sūtr.

vi-dhana 形 財産のない，貧しい；貧窮 Bodh-

vi-dhanatā 女 貧乏。

vi-dhani-Kṛ, 貧乏にする。

vi-dhanuṣka 形 弓をもたない。

vi-dhanus 形 [同上]。

vi-dhanvan 形 [同上]。

vi-dhamaka 形 除，滅 Suv-pr.

vi-dhamana 形 (火：屬)を吹き消す；破壊する；断，除，破，破壊，消除，散壊，散滅，除滅 Lal-Mañj-m., Ratna-ut., Raṣṭr., Śikṣ. 甲 除 Mvyut.

vidhamanatā 女 滅，壊，能破，除滅，尽吹；能散滅 Gand-ry.

vi-dharaṇa 形 (女 -i) 妨げる，阻止する。

vi-dharṭr 男 (因)支配者；保存者。

vi-dharma 男 誤謬，不正。形 不正な，不法な；男

をもたない (*Kṛṣṇa*). ~tas 副 法に反して, 不正に.
vidharmaka 形 不法な.
vi-dharman 男 保存者, 支配者. 匣(吠) 容器; 限度; 配列, 分配.
vidharma-stha 形 法に触れる.
vi-dharmika 形 = vidharmaka.
vi-dharmin 形 法を犯す(言説); 違った種類の.
vidhava 系 副 匣 vidhavati 月 (vidhu) に似る.
vidhavatā 女 寡婦身分, やもめ暮らし.
vidhava-yosit 女 寡婦.
vidhavā 女 [先立たれた: Vidhā. (?)] (±stri, nāri 等) 寡婦, 未亡人; 元首を失った(国).
vidhavā-gāmin 形 寡婦と交わる.
vidhavā-vedana 匣 寡婦の再婚.
vidhavā-stri 女 寡婦.
vi-DHā, → DHā.
vi-dhā 女 (配列), 区分, 部分(まれ, しばしば 形 一° 数詞のあとでは -a で終わる = …重の, または 副 -ā); 様式, 方法(しばしば 一° 形 -a …種類の); 漢訳 種類, 作, 説 *Abh-vy.*, *Madhy-bh.*
vi-dhātavya 未受分 定められるべき(場所); 手に入れられるべき; 実行されるべき, 為されるべき; 心に抱かれるべき(心配); 思い起こされるべき; 使用されるべき, 任命されるべき. 匣 …であるように (*yathā*) そのように (*tathā*) 整えられるべきまたは処理されるべきである.
vi-dhātr 男 分配者, 分与者, 賦与者; 排置者, 創造者 (とくに *Brahmā* または *Brahmā* の子); 運命の決定者; (人格化された) 運命.
vidhātri 女 女性の著者または創造者.
vi-dhāna 系 (女 -i) 規定する(副). 匣 命令, 訓令, 規定, 教戒, 規則, 法規; 方法, 処置, 食餌(療法); 天運, 運命(±); (一°) に対する配列・分配または処置; 手段, 用具(±); (機械の) 設置; 創造, 形成(±); 仕事 (RV.); 実施, 実行; 象の食物(非常にまれ); 漢訳 法, 類, 教, 事, 品類, 法事; 儀則, 儀軌, 道理 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Guhya-s.*, *Madhy-v.*, *Mṛyut.*; 成, 結, 放, 審, 決定 *Abh-vy.*, *Lal-v.*, *Mañj-m.*, *Madhy-v.*, *Mṛyut.* 匣(匣 および 覆) または ~tas 規則または教戒に従って. **anena vidhānena** この規則に従って, このようにして. **deśa-kāla-vidhānena** 正しい場所で, かつ正しい時に. ~m ā-Car 規則に従う.
vidhānaka 匣 守られるべき規則.
vidhāna-jña 形 規則を心得た.
vidhāna-mati 女 漢訳 決定心, 意審 *Lal-v.*
vidhāna-yukta 過受分 規則に従った.
vidhāyaka 形 (一°) について規定するまたはに関する規則を含む; 実行する, 遂行する; 顕示する; 漢訳 起 *Sūtr.* 男 創始者, 建設者.
vi-dhāyin 形 (一°) を規定する・統制するまたはに関する規則を含む; 実行する, 遂行する; 生ぜしめる, 産出する. 男 創始者, 建設者.
vi-dhāraṇa 形 断ち割る, 分離させる. 匣(車を)止めること; (一°) の制圧または制止; 運搬すること; 担うこと, 支えること.

vi-dhārayitavya 未受分 維持されるべき.
vi-dhārin 形 阻止する, 圧迫する.
vi-DHāv 1., 逃げ去る, 流れ去る; (川の流れが) 消える. <DHāv 1. の補遺>
vi-DHāv 2., 洗いおとす. <DHāv 2. の補遺>
vi-dhāvana 匣 走り回ること.
vi-dhi 1. 男 [配置: DHā から] 訓示, 命令, 教戒, 訓令, 規則; 方法, 法律, 順序; 文法上の規則; 手順, 方式, 様式, 流儀; (因, 因, 一°) のための手段 または 方便; 行動, 行為, 実行, 業務(しばしば冗言法として 一°, とくに動詞的名詞とともに); 儀式, 祭典; 創造(匣 および 覆: まれ); 運命; 創造者; [梵天 *Brahmā* の称]; 漢訳 儀, 軌, 方, 言, 相, 作, 式, 法, 儀式, 儀則, 儀軌, 法式, 方軌, 規定, 次第, 法事, 方便, 要期, 得分, 擺布, 所為, 得分 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Madhy-v.*, *Mṛyut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*; 分別, 知, 善知, 善能了知 *Lank.* ~nā 匣 規則に従って, 正しく. **anena** ~ この規に従って, このようにして. **ko'yaṃ vidhiḥ** こはいかに? = 何たることであるか?
vidhi 2. 男 [Vidh 1. から] 奉仕者 (Br., 罽 まれ).
vidhi-kara 形 (女 -i) 命令を執行する. 男 下僕.
vidhi-kṛt 形 男 [同上].
vidhi-jña 形 規則を知った; 漢訳 知, 解, 善解, 弁了, 知儀(者) *Divy.*, *Lal-v.*, *Mṛyut.*, *Rāṣṭr.*, *Śikṣ.*
vidhi-jñāna 匣 漢訳 知…軌, 知解…理 *Mṛyut.*
vidhitasamāna 現分 希求 決定せんと試みる, 特定の目標を追求する.
vidhitasā 希求 女 [DHā から] (一°) に対する意図・願望または欲望; (ある人) を (一°) にしようとする願望.
vidhitasita 形 意図した. 匣 意図.
vidhitsu 希求 形 (業) を意図する. **ātithyam** ~ 手厚い待遇を示そうと望む.
vidhi-drṣṭa 過受分 (規則の中に見られる), 規則によって定められた.
vidhi-niṣedhatā 女 規則および(または)禁止.
vidhi-paryāgata 過受分 運命の働きで(あるものを)得た.
vidhi-pūrvakam 副 規則に従って, 正しく.
vidhi-pūrvam 副 [同上].
vidhi-mantra-puraskṛtam 副 儀軌と呪句(真言) とに則って.
vidhi-yajña 男 儀軌に従って行なわれた祭式.
vidhi-yuktaṃ 副 漢訳 依法 *Madhy-v.*
vidhi-yoga 男 儀軌の遵守; 運命の配剤. 匣 または ~tas 運命の支配に従って.
vidhi-lopa 男 命令の違反.
vidhi-lopaka 形 規則に違反する等.
vidhivat 副 規則に従って, 正しく.
vidhi-vadhū 女 梵天 (*Brahmā*) の妻, 弁才天女 (*Sarasvatī*).
vidhi-vasāt 副 運命の力によって.
vidhi-viparyaya 男 不運, 不幸.
vidhi-ṣedhatas 副 命令および禁止の規則に従って.
vidhi-ṣedhatā 女 = vidhiniṣedhatā.
vidhu 1. 男 (心臓の) 鼓動 (AV. 用例一回のみ).

vidhu 2. 形 寂しい, 孤立した (RV. 用例一回のみ). 男 月 (圓).

vidhu-kṣaya 男 月が欠けること, 月のない夜.

vidhuta 過受分 散らされた, 離された, 斥けられた, みすてられた; 離, 除 *Daś-bh.*

vidhufi 因 [°DHū] あちこちに動くこと, 振動すること, 動揺すること, 震動; 除去.

vidhutva 甲 月(たること)の状態.

vidhuṃ-tuda 男 (月の攻撃者), [*Rāhu* の称].

vidhu-maṇḍala 甲 月の輪.

vidhumaya 形 月からなる.

vidhu-māsa 男 太陰暦の月.

vidhu-mukhi 因 月のような顔をした女.

vidhura 形 一人残された, 孤独の, 恋に悩む, (愛情の対象から)ひき離された; 一°から分離された・を欠くまたに不足する; 害された; 苦しめられた, 悩まされた, 悲惨な; 落胆した; 敵対の, 友情なき, 不利益な. ~m 副 落胆して. 甲 逆境, 難渋. → avidhura.

vidhuratā 因 欠乏, 剝奪; 悲惨な状態.

vidhuratva 甲 [同上].

vidhura-darśana 甲 逆境の有様.

vidhuraya 名動 形 悲惨ならしめる, 落胆させる.

過受分 vidhurita 落胆した. 甲 獨 逆境, 災難.

vidhura-sthiti 形 苦境にある.

vi-dhurā 因 配偶者.

vi-dhuri-Kṛ, 落胆させる, 失望させる.

vidhu-vadanā 因 月のような顔をした女.

vi-DHū, ゆさぶる, 動かす, 分散させる, 駆逐する;

放棄する, うっちゃっておく. 使役 vidhūnayati ゆ

さぶる, 激しく振る, 苦しめる. 過受分 vidhūta

振られた, 除かれた, 棄てられた; 離, 能離,

離衆相, 能離相, 蓬乱 *Lal-v.*, *Lank.*; 浄 *Mvyut.*

甲 嫌悪. <DHū の補遺>

vidhūta-pāpa 形 離 浄諸業 *Mvyut.*

vi-dhūti 因 揺れること, 動揺.

vidhūnana 形 (因 -i) ゆさぶる. 甲 揺ること; 波立たせること; 拒絶, 否決.

vidhūpita 形 離 焼 *Śiks.*: nānāgandha ~ 焼種々香 *Śiks.*

vi-dhūma 形 煙のない, 煙を出さない(火); 因 (台所から)煙がたちのぼらない時に. 男 [ある *Vasu* の名].

vi-dhūmra 形 非常に暗い.

vi-dhūya 不変分 分散させて.

vi-DHṛ, → DHṛ.

vi-dhṛti 因 (因) 分離; 分割: 因 [Barhis (祭壇の敷草)と Prastara (特別のダルバ草の一束)の間を仕切る二枚の草の葉].

vi-DHṛṣ, 使役 vidharsayati いためる, 傷つける, 苦しめる. <DHṛṣ の補遺>

vi-dheya 未受分 手に入れられるべき; 命ぜられるべき, 規定されるべき; 肯定されるべき; 開頭または發揮されるべき; 準備されるべき; 実行されるべきまたはなされるべき (普通の意味); 御しやすい, 従順な; 全く(一°)の言うがままになる・に屈する・によっ

て支配または 圧倒される; 離 属, 射, 繫属, 善順, 随順, 建立 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Diry.*, *Sapt-pr.* 甲 為されるべきこと, 義務.

vidheya-jña 形 為すべきことを知る.

vidheyatā 因 規定; 服従; 離 随属 *Bodh-bh.*

vidheyatāpatti (°tā-āp°) 因 離 堪受法 *Sūtr.*

vidheyatva 甲 服従.

vidheya-vartin 形 従順な, …に屈する.

vidheyātman (°ya-āt°) 形 従順なまたは制御された自我をもつ.

vidheyi-Kṛ, 掌中に収める, 屈服させる.

vidheyi-BHū, (一°)に屈する.

vidhyant 現分 [Vyadh から] 貫く, 傷つける.

vi-dhauta 過受分 → DHāv 2.

vi-DHmā, → DHmā.

vidhy-aparādha 男 法則の違犯.

vidhyapāśraya (°pa-ās°) 男 法則を固守すること.

vidhy-alaṃkāra 男 [修辞の一種].

vidhy-alaṃkriyā 因 [同上].

vidhy-ātmaka 形 肯定形をとる(因 pratiśedhātmaka)

vi-DHvaṃs, → DHvaṃs.

vi-dhvaṃsa 男 崩壊; 破滅, 滅亡; 害; (婦女にたいする)凌辱.

vidhvaṃsaka 男 (婦女にたいする)凌辱者. → tr puravidhvaṃsaka.

vidhvaṃsa-kara 形 離 摧伏 *Lal-v.*

vi-dhvaṃsana 形 滅ぼす, 破壊する. 甲 破壊; (婦女にたいする)凌辱; 離 壊, 摧, 破壊, 敗壊, 降伏, 摧伏, 威伏, 能破 *Daś-bh.*, *Diry.*, *Gaṇḍ-vy.* *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Śiks.*, *Sukh-vy. I.*

vidhvaṃsana-kara 形 離 破, 能破, 摧伏, 能破 *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*

vi-dhvaṃsita 過受分 離 已尽 *Suddh-p.*

vi-dhvaṃsin 形 死滅する; 滅ぼす, 破壊する; (婦女を)凌辱する.

vi-dhvaṃsini 因 [呪文の一種].

vi-dhvasta 過受分 → DHvaṃs. 離 降伏, 惑乱, 憤乱 *Lal-v.*, *Śiks.*

vidhvastatā 因 破壊, 滅亡.

vidhvasta-parā-guṇa 形 他人の徳を中傷する.

vidhvasta-parṇa-kamala 形 落葉した蓮華をもつ.

vi-naṭana 甲 あちこちに動くまたは行くこと.

vi-naṭita 過受分 → Naṭ.

vi-nata 過受分 身をかがめた等. → Nam. 男 [人名・[猿の名].

vi-nataka 男 離 匿写 [山名] 尾那惺計 *Diry.*

vinata-namita 過受分 …に身をかがめた.

vi-natā 因 [*Kaśyapa* の妻で, *Suparṇa*・*Garuḍa*・*Aruṇa* 等の母である *Dakṣa* の娘の名]; [疫病をたらす魔女の名]; [ある *Rākṣasi* の名].

vinatā-tanayā 因 *Vinata* の娘, [*Sumati* の母].

vinatānana (°ta-ān) 形 顔をうつむけた, 頭をたれ; 凹まされた, 打倒された.

vinatā-suta 男 *Vinata* の息子: *Garuḍa* 等.

vi-nati 因 (因)への服従, …に叩頭すること.

vi-Nad, → Nad.

vi-nada 男 叫び。
 vi-nadin 形 鳴りひびく, 雷鳴がとどろく。
 vi-nadi 女 [河の名]。
 vi-Nand, 喜ぶ, 満足する。 <Nand の補遺>
 vi-Nam, → Nam。
 vi-namana 匣 身をかがめること。
 vi-namra 形 身をかがめる, 腰をかがめる, うつむく;
 頭を下げる; 従順な, 謙遜な。
 vi-naya 形 除去する(RV. 用例一回のみ)。 男 (華) 除去,
 (衣服を)脱ぐこと; 指導, 訓練, 教授, 鍛練; よい
 態度, 礼儀正しさ, 思慮, 礼儀正しい作法, よいし
 つけ, 慎しみ深い行為; 職務(まれ); 律(仏教); 漢訳
 律, 度, 化, 断, 教化, 戒律, 調伏, 離行, 正法律,
 律儀戒, 滅分得, 成熟(生) *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*,
Divy., *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*,
Sapt-pr., *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suvik-pr.*, 梵千., 玄応.; 音写
 毘尼, 毘奈耶, 毘那耶, 毘尼耶 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*,
Bodh-bh., *Rāṣṭr.*, *Sam-r.*, *Sapt-pr.*, *Sūtr.*, 玄応。
 vinaya-karman 匣 教育, 教授。
 vinaya-kriyā 女 漢訳 作業, 教化 *Ratna-ut.*
 vinaya-kṣudraka 匣 漢訳 [書名] 律雜事分, 律類事
 分) *Mvyut.*
 vinaya-jña 形 いかに身を処すべきかを知っている。
 vinaya-jyotis 男 [人名?]
 vi-nayat 過受分 [vi-Ni から]; 漢訳 伏 *Bodh-bh.*
 vi-nayatā 女 善き態度; 慎しみ深いこと。
 vinayatva 匣 漢訳 音写 毘尼 *Sūtr.*
 vinaya-datta 男 [人名]。
 vinaya-dhara 形 漢訳 持律 *Mvyut.*, *Prāt-m.*; (音写)
 誦毘尼 *Prāt-m.*
 vi-nayana 形 除去する, 追い払う。 匣 (因) にたいす
 る教育または教授; 漢訳 断, 調伏, 化尊, 応断 *Bo-*
dh-bh., *Sūtr.*
 vinayanatā 女 漢訳 調伏 *Bodh-bh.*
 vi-nayanam-dhara 男 [ある商人の名]。
 vinaya-piṭaka 匣 律蔵 (仏教)。
 vinayamaya 形 善くしつけられた。
 vinayavat 形 立派な態度の (a~ 形で用いられる)。
 vinayavatī 女 [人名]。
 vinaya-vibhāga 男 漢訳 除六蔽 *Sūtr.*
 vinaya-sūtra 匣 律に関する経典(仏教)。
 vinaya-syāmini 女 [人名]。
 vinayātisārin 形 漢訳 違律 *Mvyut.*
 vinayāditya (°ya-ād°) 男 [Jayāpīḍa 王の称]。
 vinayāditya-pura (°ya-ād°) 匣 [Jayāpīḍa 王によっ
 て建てられた町の名]。
 vinayādi-dhara (°ya-ād°) 男 [人名]。
 vinayādhāna (°ya-ād°) 匣 (因) にたいする教育または
 教授。
 vinayābhyupāya 男 漢訳 教化方便 *Ratna-ut.*
 vinayāvanata 形 慎しみ深く低頭した。
 vinayāvaloka 男 慎しみ深い眼ざし。
 vi-nayitu-kāma 形 漢訳 欲調欲化 *Bodh-bh.*
 vi-nayin 形 善いしつけの, 態度のよい, 慎しみ深い。
 vi-nayokti (°ya-uk°) 女 慎しみ深い言葉(種)。
 vinayopāya (°ya-up°) 男 漢訳 可化方便 *Ratna-ut.*

vinayopāya-jñatā (°ya-up°) 女 漢訳 解了調伏方便
Bodh-bh.
 vinayopāya-dhātu (°ya-up°) 男 漢訳 化衆生方便, 調
 伏方便界 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*
 vinayopāyāprameya (°ya-up°) 形 漢訳 調伏方便界
 無量 *Bodh-bh.*
 vi-Nard, うなり声をあげる, 吼える, 鳴く, 轟く。
 <Nard の補遺>
 vi-nardita 過受分 漢訳 [竜名] 発諸音, 石殿声
Mvyut.
 vi-nardin 形 吼える, [*Sāman* の歌い方の一種]。
 vi-Naś, → Naś 1.
 vi-naśana 匣 消失: (±*sarasvatyāh* または *sarasvatī* ~
 = *Sarasvatī* 河の地中に消え入る場所)。
 vi-naśvara 形 消失する; 破滅しやすい, 分解する;
 漢訳 具壊 *Mvyut.*
 vinaśvaratā 女 破滅しやすいこと。
 vinaśvaratva 匣 [同上]。
 vi-naṣṭa 過受分 消失した等。 → Naś 1.; 漢訳 壊, 滅,
 破壊, 失壊, 滅壊, 変壊, 散失, 不具足 *Abh-vy.*,
Aṣṭ-pr., *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Śi-*
kṣ. → *avināṣṭa*。
 vinaṣṭa-cakṣus 形 視力を失なった。
 vinaṣṭa-dṛṣṭi 形 [同上]; 漢訳 邪見 *Saddh-p.*
 vinaṣṭa-cāritra 形 漢訳 威儀不具足 *Saddh-p.*
 vinaṣṭa-citta 形 漢訳 悶絶, 迷悶失志 *Suv-pr.*
 vinaṣṭi 女 喪失。
 vinā 前 (因ではきわめてまれ) …なしにまたはを除いて(業,
 圓まれに 因) に先立ってまたはの後で用いられる。例
 外的に 一° の形をとる); 漢訳 無, 離, 離除, 闕,
 無有, 不能, 未有, 離於, 遠離 *Abh-k.*, *Abh-vy.*,
Bodh-bh., *Bodh-c.*, *Madhy-v.*, *Nyāy-pr.*, *Sāṃ-*
khy-k., *Śikṣ.*: ~ *phalena* 未有果故 *Bodh-bh.*
 vinā-kṛta 過受分 (圓, 因, 一°) から離れた・を奪わ
 れた・を失なった・を欠いたまたはからまぬがれた。
 vinā-kṛtya 不変分 …なしに。
 vi-nādikā 女 [時間の単位 = 60 分の 1 *nādikā* または
ghaṭikā = 24 秒]。
 vi-nādi 女 [同上]。
 vi-nātha 形 守護者を欠く。
 vi-nādin 形 (一°) 大声をあげる。
 vinā-bhava 男 (圓, 因) からの分離。
 vinā-bhāva 男 [同上] (a~ の形で用いられる);
 漢訳 別離 *Rāṣṭr.* → *avinābhāva*。
 vinā-bhāvika 形 漢訳 別離 *Saddh-p.*
 vinā-bhūta 過受分 (圓) から分離したまたはを奪われた。
 vi-nāma 男 (苦痛のあまり) 身もだえすること; (歯音
 の舌音への) 変化(文法)。
 vi-nāyaka 男 指導者, 案内者; (障害の) 除去者, [*Ga-*
neśa 神の称]; [人名]; 種 [魔神の一種]; [武器に関
 する呪文の一種]; 漢訳 将, 導師, 善導, 如来, 広
 説者 *Dāś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lab-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*;
 徧拔, 拔邪 *Mvyut.*; 音写 頻那夜迦 *Śikṣ.*
 vi-nāla 形 茎のない。
 vinā-vāsa 男 (愛する人から) 離れて住むこと。
 vi-nāsa 男 消失, 中止, 喪失; 分解, 破壊, 滅亡;

滅 滅, 壊, 破滅, 朽壊, 滅壊, 壊尽, 摧滅, 散壊, 敗, 敗壊, 能滅, 能壊, 毀犯, 損害; 死, 無常; 兵戈相伐 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Divy.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Ratna-ut.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*, *Vajr-pr.*, 梵千, 梵雜.

vināśaka 形 消失させる, 破壊する; **遮** 遮, 能破, 能滅, 壊, 破壊 *Abh-k.*, *Lank.*, *Mañj-m.*, *Sūtr.*

vināśa-dharman 形 破壊されやすい, 破滅しやすい, 無常な.

vināśa-dharmin 男 **敗壊之法** *Lank.*

vi-nāśana 形 (女 -i) 消失させる, 破壊する. 甲 破壊, 除去; **壊** 壊, 毀壊 *Mvyut.* 男 [ある Asura の名].

vi-nāśānta 男 死. 形 損失に終わる.

vi-nāśika 男 **敗壊** *Sapt-pr.*

vi-nāśita 過受分 [vi-Naś から]. → Naś.

vi-nāśitva 甲 破滅しやすいこと.

vi-nāśin 形 消失する, 破滅しやすい, 無常な; (圓, 一般に °-) を破壊する; **滅** 滅, 滅壊 *Abh-vy.*, *Nyāy-pr.*

vi-nāśya 未受分 使役 破壊されるべき.

vināśyatva 甲 [同上].

vi-nāśa-daśana 形 鼻と歯を奪われた.

vi-nāśita 過受分 [= °śita] **失利** *Div.*

vi-nikarttavya 未受分 [°Kṛt から] 切断されるべき, 打ち倒されるべき.

vi-nikāra 男 侮辱, 傷けること.

vi-nikirṇa 過受分 [Kṛt から] 散らされた, 砕かれた; 拡げられた; (圓 °-) で覆われた, で撒布された, で満たされた.

vi-nikirya 總 投げ捨てて.

vi-ni-Kṛ, → Kṛ.

vi-nikṛta 過受分 侮辱された.

vi-nikṛtta 過受分 [Kṛt から] 切り落された, 引き離された.

vi-nikṛtya 總 切り落として.

vi-nikṛntana 形 打ち倒す, 切りきざむ.

vi-ni-Kṛ, → Kṛ.

vi-ni-Kṣip, → Kṣip.

vi-nikṣepa 男 分離.

vi-nikṣepya 未受分 (因) に投げこまれるべき.

vi-nigadī-Kṛ, 足かせから解放する.

vi-nigadīkṛta 過受分 足かせから解放された.

vi-nigamaka 形 二者択一を決定する.

vi-nigamanā 女 二者択一の決定.

vi-ni-Guh, 隠す. <Guh の補遺>

vi-nigūhita 過受分 隠された.

vi-nigūhitṛ 男 (秘密を) 隠す者, 守る者.

vi-nigṛhya 總 抑制して, 阻止して.

vi-nigraha 男 分離; 制すること, 抑制すること, 服従させること; 制限; **摧** 摧, 伏, 摧伏 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*

vi-nigrāhya 未受分 制せられるべき.

vi-nighūrṇita 過受分 [GHūrṇ から] 動揺した.

vi-nidra 形 不眠の, 目覚めた; 覚醒状態において走る; 不眠の中に過ごされた; 開いた(花); 開かれた(眼); [呪文の名].

vinidraka 形 目覚めた.

vinidratā 女 不眠.

vi-ni-DHā, → DHā 1.

vinidhāya-samjñā 女 **転想**, 想転変 *Mvyut.*

vi-ni-DHvaṃs, 消え去る. **過受分** **vinidhvasta** 破壊された, 滅びた. <DHvaṃs の補遺>

vi-niniṣu 希求 形 案内しようと欲する.

vi-Nind, 非難する, ののしる. <Nind の補遺>

vi-ninda 形 すぐれた.

vinindaka 形 非難する; 嘲弄する; 凌駕する.

vi-ni-Pat, → Pat 1.

vi-nipatita 過受分 飛び降りた, 倒れた; **退榮** 退榮 圯頓; 厄難処; 病者 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*

vi-ni-Pā, → Pā 1.

vi-nipāṭya 總 割って.

vi-nipāta 男 落下, 崩壊, 破滅, 不幸, 災害; 死, 失敗; **墮** 墮, 滅, 退, 失, 退失, 退墮, 墮邪見 墮諸悪趣; 悪道, 悪趣; 深坑 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Daś-bh.*, *Div.*, *Kāśy.*, *Mvyut.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*: ~ ṃ na gamiṣyati 不墮 趣 *Div.* 69.; ~ gata 入滅 *Bodh-c.* 139.; ~ gāma 墮悪趣 *Bodh-bh.*

vinipātaka 形 滅ぼす, 破壊する.

vinipāta-pratikriyā 女 不幸または破滅を避ける手段.

vinipāta-pratikāra 男 [同上].

vinipāta-sthāna 甲 **深坑** *Abh-vy.*

vinipāta-hetu 形 破滅をひきおこす.

vi-nipātita 過受分 使役 → Pat 1.

vi-ni-Pid, 苦しめる, 悩ます, 困らす. <Pid の補遺>

vi-nipīḍya 總 (敵を) 粉碎して.

vi-nibaddha 過受分 → Bandh; **繫** 所繫, 繫縛, 持, 纏 *Daś-bh.*, *Śikṣ.*; 通達 *Lank.*

vi-nibandha 男 [°Bandh から] …に固着すること (仏教); **縛** 縛, 繫縛, 連繫, 彼繫 纏 *Daś-bh.*, *Mvyut.*

vi-nibandhana 甲 **連縛** *Daś-bh.*

vi-nibarhaṇa 形 投げ倒す, 粉碎する.

vi-nibarhin 形 [同上].

vi-ni-BHal, → BHal.

vi-nibhāga-gata 過受分 **異**, 別異, 殊異 *Daś-bh.*

vi-nimagna 過受分 [°Majj から] 沈められた, 浸された.

vi-nimaya 男 物々交換, 交換; (kārya-とともに) 相互作用; 抵当に入れること. ~ena 圓 交互に.

vi-nimitta 形 真の原因がない.

vi-ni-Mil, → Mil.

vi-nimilana 甲 (眼, 花が) 閉じること.

vi-nimilita 過受分 [°Mil から] 閉じた.

vinimilitekṣaṇa (°ta-ik°) 形 眼を閉じた.

vi-nimeṣa 男 瞬き.

- vi-niyata 形 [°Yam から] 制限された, 阻止された, 規制された; 削減された, 狭い; 漢訳 [唯識心所の名] 別境 *Mvyut.*, *Vijñ-t.*: *viniyatakleśāḥ* 五別境惑 [1. *chandaḥ* 欲, 2. *adhimokṣaḥ* 勝解, 3. *smṛtiḥ* 念, 4. *samādhiḥ* 等持, 5. *prajñā* 慧] *Mvyut.*
- viniyatāhāra [°ta-āh°] 形 適度に食事をとる.
- vi-ni-Yam, → Yam.
- vi-niyama 男 (陰) に対する制限または抑制.
- vi-niyamya 未受分 制限されるべき.
- vi-niyukta 過受分 → Yuj.
- vi-niyuktātman (°ta-āt°) 形 (陰) に心を向けた.
- vi-ni-Yuj, → Yuj.
- vi-niyoktr 男 (陰) への指命者; 使用者.
- vi-niyoga 男 配分; (陰: ある義務への) 任命; 訓令, 命令; 適用, 使用, 応用 (とくに祭祀の際の詩節について); 関係, 相互関係; 漢訳 旨 *Buddh-c.*
- vi-niyojana 中 漢訳 檢策 *Gand-ry.*
- vi-niyojita 過受分 …に運命づけられた事. → Yuj.
- vi-niyojya 未受分 適用・応用 または使用されるべき; 漢訳 処置 *Bodh-bh.*
- vi-nirgata 過受分 漢訳 過, 過已, 出, 從…中出 *Lal-v.*, *Lank.* → Gam.
- vi-nir-Gam, → Gam.
- vi-nirgama 男 (從) から出ていくことまたはから出発すること.
- vi-nirghoṣa 男 音, 響.
- vi-nirjaya 男 勝利; 漢訳 休, 能伏, 能降 *Sūtr.*
- vi-nir-Ji, → Ji.
- vi-nirṇaya 男 確認すること; (屬°一)の決定または權威ある解決.
- vi-nirṇiya 總 決定して.
- vi-nirdagdha 過受分 完全に焼き尽くされた. → Dah.
- vi-nir-Diś, → Diś.
- vi-nirdiṣṭa 過受分 [°Diś から] 指定された事; (陰)を課せられた.
- vi-nirdēśya 未受分 通告または報知されるべき.
- vi-nirdhavana 中 漢訳 除遣, 治淨 *Abh-ry.*
- vi-nirdhuta 過受分 [°DHū から] 振り落された, 散らされた(特に息によって), 追払われた, 動揺した.
- vi-nirdhūta 過受分 [同上].
- vi-nirdhūya 總 動揺させて, 追いはらって.
- vi-nirbandha 男 (一°)を固執すること.
- vi-nirbāhu (男) [劍で戦う特殊の型].
- vi-nirbhāgna 過受分 [°BHañj から] 粉碎された, 打ち倒された.
- vinirbhāgna-nayana 形 眼を打ちくだかれた.
- vi-nirbhartsya 總 音やかして, 侮辱して.
- vi-nirbhāga 男 (*Pāli* *vinibbhoga*) 識別, 区別, 差別; 漢訳 離, 相離 *Abh-ry.*, *Daś-bh.*, *Ratna-ut.* → *avinirbhāga*.
- vinirbhāga-dharma 男 漢訳 離…法 *Ratna-ut.*
- vi-nirbhāgin 形 漢訳 相離 *Abh-ry.*
- vi-nir-BHid, → BHid.
- vi-nirbhidyā 總 裂いて, 貫いて.
- vi-nirbhinna 過受分 → BHid.
- vi-nirbhūta 過受分 [°BHū から] 漢訳 離 *Abh-ry.*
- vi-nirbheda 男 (?) [°BHid から] 打ち砕くこと, 破壊すること; 漢訳 破 *Śikṣ.*
- vinirbhedana 中 [同上].
- vi-nirbhoga 男 漢訳 [劫名] 離衰 *Saddh-p.*; 離大財 *Saddh-p.*
- vi-nir-Math, → Math.
- vi-nirmathya 總 攪拌して; 絶滅させて.
- vi-nirmala 形 きわめて清浄な, 非常に無垢な.
- vi-nir-Mā, → Mā 1.
- vi-nirmāṇa 中 測量すること; 形成; 設立; 建築. 形 °— …で作られたまたはに従って形づくられた.
- vi-nirmita 過受分 [°Mā 1. から] (從または°—)で形づくられた・創造された・組み立てられたまたは準備された; 漢訳 化 *Lal-v.*, *Saddh-p.*
- vi-nirmiti 因 形成, 創造; 設立.
- vi-nirmukta 過受分 [°Muc から] (屬°—)から自由になったまたは免かれた; 放たれた, 発射された; 漢訳 外, 異, 捨, 放, 離, 遠離, 解脱 *Abh-ry.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Nyāy-pr.*, *Ratna-ut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.* → *adhvavinirmukta*.
- vinirmuktāgraha (°ta-āg°) 男 漢訳 随捨随受 *Bodh-bh.*
- vi-nirmukti 因 (°—)からの解放; 漢訳 離, 滅, 断 *Lank.*, *Ratna-ut.*
- vi-nir-Muc, → Muc.
- vi-nirmokṣa 男 (°—)からの解放; (一°)からの排除.
- vi-nirmokṣaṇatā 女 漢訳 解脱 *Bodh-bh.*
- vi-nir-Yā, → Yā.
- vi-niryāṇa 中 出発, 出立.
- vi-niryāta 過受分 → Yā.
- vi-nir-Yuj, 発射する, (矢を)射る. <Yuj の補遺>
- vi-nir-Vam, 吐く, 吐き出す. <Vam の補遺>
- vi-nirvamat 現分 吐く.
- vinirvarṇaya 名動 *vinirvarṇayati* 注意深く調べる.
- vi-nir-Vṛt, → Vṛt.
- vi-nirvṛtta 過受分 → Vṛt.
- vi-nirvṛtti 女 漢訳 転, 転滅 *Lank.*
- vi-nir-Hṛ, → Hṛ 1.
- vinivaraṇatva 中 漢訳 離諸障 *Sūtr.*
- vi-nivarta 男 [Vrt から] 漢訳 退, 遠離 *Gand-ry.*
- vinivartaka 形 反対にする.
- vi-nivartana 中 帰還; 中止; 漢訳 息, 滅, 断, 除, 免, 捨, 除断, 不退, 退転, 無有, 令離, 令…離, 令…捨離, 方便化導 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gand-ry.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Ratna-ut.*, *Śikṣ.*
- vinivartanatā 女 漢訳 除, 遠離, 捨離, 令捨, 令出 *Gand-ry.*
- vi-nivarti 因 (?) [意味上は = *Skt.* *vinivṛtti*] 転向, 解放, 中止 (*Divy.*); 漢訳 度 *Divy.*: *samsāra* ~ 度生死 *Divy.*, *samsāra* ~ *taye* 為度生死苦 *Divy.*
- vi-nivartita 過受分 使役 [°Vrt から] 止めさせられ

遠ざけられた等；**漢訳** 転, 捐棄 *Lal-v., Saddh-p.*
vi-nivartin 形 引き返す。→ *avinivartin.*
vi-nivartiya 不変分 = *vinivartya* **漢訳** 尽除, 除滅
Gaṇḍ-vy.
vi-nivartya 不変分 **漢訳** 捨離 *Ratna-ut.*
vi-nivarhaṇa 形 = *vinibarhaṇa.*
vi-nivāraṇa 甲 遠ざけること, 抑制すること。
vi-nivārya 未受分 取って代られるべき。
vi-ni-Vid, → *Vid 2.*
vi-ni-Viś, → *Viś.*
vi-niviṣṭa 過受分 → *Viś.*
vi-ni-Vṛ, → *Vṛ 1.*
vi-ni-Vṛt, → *Vṛt.*
vi-nivṛtta 過受分 → *Vṛt.*; **漢訳** 不, 捨, 離, 転, 超,
 不作, 遠離, 捨離, 得離 *Daś-bh., Lanḅ., Ratna-*
ut., Sāṃkhy-k.
vinivṛtta-kāma 形 欲望を抑えた。
vinivṛtta-dṛṣṭi 形 眼をそむけた。
vinivṛtta-vijñāna 甲 **漢訳** 離諸識, 離諸(一切心)識
Lanḅ.
vinivṛtta-sāpa 形 呪咀の(悪い結果から)自由になっ
 た。
vi-nivṛtti 因 中止; 断絶; **漢訳** 離, 除, 退, 遣,
 転, 壊, 断, 遮, 愈, 差, 遠離, 休息, 変壊, 滅除,
 永断 *Abh-vy., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lanḅ., Rat-*
na-ut., Sāṃkhy-k.
vi-nivedana 甲 通告。
vi-nivedita 使役 過受分 通告された。
vi-niveśa 男 下に置くこと, 着けること, 上に置く
 こと; (指の)跡形; 書き留めること, (書物に)記載
 すること; 適当な配分; **漢訳** 立, 仮立 *Abh-vy.*
vi-niveśana 甲 設立, 建築。
vi-niveśita 形 高められた, 立てられた, 建てられた;
 (因)に置かれたまたは固定された。
vi-niveśin 形 (一°)の上にもまたはの中に位する。
vi-niveśin, 形 = *viniveśin.*
vi-niśamya 絶 学んで。
vi-niścaya 男 (属, 一°)に関する確定した意見, 定ま
 った法則・決定または確固たる決意; **漢訳** 判, 頭,
 決定, 決択, 思択, 簡択, 決断, 解了, 善達, 論議
 決択 *Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lanḅ., Ma-*
dhy-vibh., Mṛyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Su-
kh-vy. I., Sūtr., Vijñ-v.
vinīścaya-jñā 形 …の確実性を知る; **漢訳** 能通 *Rā-*
ṣṭr.
vi-niś-Car, → *Car.*
vi-niścala 形 (一°のように)不動の。
vi-niścāyin 形 (一°)決定する, 最終的に定める。
vi-niś-Ci, → *Ci 2.*
vi-niścita 過受分 → *Ci 2.*; **漢訳** 決定, 決了, 思択
 決定, 已断疑(者) *Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy.,*
Sūtr. ~m 副 確かに, 決然と。
vinīścitārtha 形 確定した意味を持つ; **漢訳** 解其深
 義 *Rāṣṭr.*
vi-ni-Śvas, → *Śvas.*
vi-niṣūḍita 過受分 [°Sūd から] 絶滅した, 殺され

た。
vi-niṣūḍayitvā 絶 絶滅して。
vi-niṣ-Kram, → *Kram.*
vi-niṣkrānta 過受分 → *Kram.*
vi-niṣṭapta 過受分 [°Tap から] 焼かれた, 熱せ
 た。
vi-niṣ-Paṭ, 裂く。 < *Paṭ* の補遺 >
vi-niṣ-Pat, → *Pat 1.*
vi-niṣpatita 過受分 飛び去った等。
vi-niṣpāta 男 飛びおりのこと; (一°) (拳の)一
vi-niṣpādyā 使役 未受分 完成または成就されるべき
vi-niṣ-Piṣ, → *Piṣ.*
vi-niṣpeṣa 男 (互いに)摩擦すること。
vi-niḥ(s)-Śvas, → *Śvas.*
vi-niḥ(s)-Sṛ, → *Sṛ.*
vi-niḥṣṭa 過受分 → *Sṛ.*; **漢訳** 出, 出離; 所宣
 …因, 因於…和合…出, 依於…而出, 從…生 *Ga-*
ṇḍ-vy., Lal-v., Lanḅ., Sūtr.
vi-niḥṣṭa 過受分 [°Sṛ から] 射られた(天)。
vi-nihata 過受分 → *Han.*
vi-nihatya 不変分 **漢訳** 殺害 *Ratna-ut.*
vi-nihita 過受分 [°DHā から]; **漢訳** śirasī vini
 荷負 *Sūtr.*
vinihitadṛṣṭi 形 眼を…の上に固定する, 熱心に
 める。
vinihita-manas 形 心を…の上に結びつける, に
 する, 専念する。
vi-ni-Hnu, → *Hnu.*
vi-nihnuta 過受分 → *Hnu.*
vi-Ni, → *Ni.*
vi-nita 過受分 → *Ni.*; **漢訳** 化, 離, 調伏, 已語
 降伏, 教化, 所化, 所度, 所化度, 通達, 度脱
 和, 柔善, 調順, 善撰, 善順, 住戒 *Bodh-*
Buddh-c., Divy., Kāśy., Lal-v., Mṛyut., Ra-
ut., Saddh-p., Sapt-pr., Sūtr., Vin.: ~c
 善撰諸情根 *Buddh-c.*; mahāyāne ~ āni 住大
 得大乘道 *Gaṇḍ-vy.*
vinīta-kriya 男 **漢訳** 化 *Ratna-ut.*
vinītatā 女 善いしつけ, 礼儀, 謙遜。
vinītatva 甲 [同上]。
vinīta-mati 男 [人名]。
vinītavat 過受分 **漢訳** 度脱 *Saddh-p.*
vinīta-veśa 男 慎しみ深いまたは質素な服装。
vinīta-veśābharāṇa (°śa-ābh) 形 慎しみ深く着
 ・または着る。
vinīta-sattva 形 飼いならされた動物の住む(林)。
vinītātman (°ta-āt) 形 訓練された, 行儀のよい
vi-niti 互 謙遜; **漢訳** 令調 *Sūtr.*
vi-nitocita (°ta-uc) 過受分 教育ある人間にふ
 しい。
vi-niya 絶 教えて; **漢訳** 調伏 *Bodh-bh.*
vinīlaka 重 濃い藍色に変わった死体; **漢訳** 青赤
 青瘀 *Mṛyut., Śikṣ.*
vi-nivarāṇa 形 **漢訳** 無蓋, 離障, 離諸障要 *D.*
Mṛyut.
vi-nivi 形 腰布のない, 裸にされた。

vi-Nu, → Nu 1,2.
 vi-Nud, → Nud.
 vi-nunna 過受分 傷つけられた。
 vi-netu-kāma 形 漢訳 伏彼 Bodh-bh.
 vi-netṛ 男 (墨圖とともに) 教育家, 薰陶者, 教師; 訓練する者, 調御師; 漢訳 調伏, 導師 Bodh-bh., Sad-dh-p.
 vi-netra 男 教師, 薰陶者. 形 眼のない, 盲目な。
 vi-nemi-daśana 形 大輪と大釘のない (二輪馬車) (?).
 vi-neya 未受分 取り去られるべき; 教育または薰陶されるべき; 微罰されるべき. 男 弟子; 漢訳 伏, 化, 調伏, 所化 (生), 所化 (有情), 受化, 可化, 教化, 化人, 有情 (類), 可調伏, 所調伏, 可調柔, 所化者, 為教化; 機 Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Madhy-vibh., Ratna-ut., Sūtr., Vijñ-v.
 vineya-kārya 中 漢訳 伏, 所化事, 受化弟子利益事 Abh-vy., Divy.
 vineya-dhātu 男 漢訳 所調伏界, 可化衆生 Bodh-bh., Ratna-ut., Sūtr.
 vineya-saṃtāna-kṣetra 中 漢訳 所化衆生田 Sūtr.
 vineya-sasya-paripācana 中 漢訳 成熟衆生 Sūtr.
 vineyāprameya 形 漢訳 所調伏界無量 Bodh-bh.
 vinokti (°nā-uk²) 互 「甲は乙を有せざる場合においてのみ価値あり」または「甲は乙を有せずしては価値なし」とする叙述 (= 必要条件; 修証).
 vi-noda 男 除去; (倦怠を) 追い払うこと, (一°) をもって気晴らしすること・楽しませることまたは慰めること; 快樂, 遊戯, 競技; 漢訳 離 Lal-v.
 vinodana 中 気晴し等; 漢訳 離, 解, 開解, 除, 除遣, 滅, 令離 Bodh-bh., Mkyut., Saddh-p., Śikṣ.
 vi-nodani 女 漢訳 断除 Śikṣ.
 vi-nodavat 形 愉快的な。
 vi-nodita 過受分 追い払われた; 気を紛らせた, 楽しんだ。
 vi-nodin 形 (一°) を追い散らす, 取り除く; 愉快的, 楽しむ。
 Vind, → Vid 2.
 vinda 形 (一°) を発見する, を獲得する. 男 [人名].
 vindaka 男 [人名].
 vindu 形 1. (一°) を知る, …を熟知する 2. (一°) を発見する・求めるまたは獲得する. 男 滴 (→ bin-du).
 vindu-sāra 男 漢訳 [人名] 音写 頻頭莎羅, 頻頭娑羅 Divy.
 vindhya 男 [Madhyadeśa と Deccan 地方との境をなしつつ東西に走る山脈の名]; 漢訳 [山名] 音写 頻陀 Divy.; (音写) 頻陀山, 賓陀山 Buddh-c., Divy., Mkyut.
 vindhya-kāntāra 男 Vindhya 山中の茨のはびこった場所。
 vindhya-ketu 男 [Pulinda 族の王子の名].
 vindhya-giri 男 [Vindhya 山脈の名].
 vindhya-para 男 [妖精の王子の名].
 vindhya-parvata 男 = vindhyagiri.
 vindhya-vana 中 男 Vindhya 山中の森林.

vindhya-vāsin 形 Vindhya 山に住む。
 vindhya-vāsini 女 (±devī) Durgā 女神 (の一化身).
 vindhya-stha 形 Vindhya 山に住む。
 vindhyācala 男 Vindhya 山脈。
 vindhyāṭavi 女 Vindhya 山中の森林。
 vindhyāṭavi-bhū 女 Vindhya 山中の森林地域。
 vindhyādri 男 Vindhya 山脈。
 vindhyāntar 副 Vindhya 山中に。
 vindhyāya 名動 副 Vindhya 山脈に擬す。
 vindhyāvali 女 [Bali の妻で, Bāṇa の母の名].
 vinna 過受分 → Vid 2.
 vinna-pa 男 [ある王の名].
 vi-nyaya 男 位置。
 vi-nyasana 中 下に置くこと. pada ~ m Kṛ 足を下ろす, 大跨に歩む; 漢訳 遊踐 Abh-vy.
 vi-nyasta 過受分 [°As から] 置かれた; に下ろされた, に向けられた等; 漢訳 持 Mañj-m.
 vi-nyastikākṛta 過受分 漢訳 偏抄衣, 左右反抄衣 Prāt-m., Vin.
 vi-nyasya 未受分 に置かれるべき。
 vi-nyāsa 男 下に置くこと; (飾りを) 着けること; 運動, (四肢の) 位置; 配合, 配列; 拡張; (文学的作品等の) 制作; (一°, まれ) の發揮。
 vinyāsa-rekhā 女 引かれた線。
 Vip, I. 副 vepate, ふるえる, おののく, 揺れる. 使役 vipayati, vepayati 他 ふるえさせる, 揺れさせる; 漢訳 戦慄, 戦掉 Divy., Lal-v.
 ud- ふるえる, 揺れる. 使役 ふるえさせる; 驚かせる。
 pra- ふるえる, おののく, 揺れる. 使役 ふるえさせる, 揺れさせる; 漢訳 悚慄, 戦掉, 戦戦兢兢 Rāṣṭr., Saddh-p.
 vip 形 内面的に動かされた, 靈感を与えられた (RV.). 女 (RV.) 鞭, 棒, 矢柄; (Soma の調理に際し濾過器の底をなし, 濾し布を支える) 棒。
 vi-pakti 女 漢訳 所熟, 生果, 果生, 果報生 Abh-vy.
 vi-pakva 形 料理された, 煮えた; 成熟した, 熟した (果実); 十分に発達した; 漢訳 異熟, 受報已; 受於果報已 Bodh-bh., Madhy-v.
 vi-pakṣa 1. 男 反対者, 敵手, 敵; 恋敵; 反対者側の陳述, 反対の例; 漢訳 惑, 逆, 違, 対, 治, 除障, 所治, 治障, 対治, 障…過悪, 障礙, 過失, 不浄之垢, 翻別, 異品, 所対治, 対治法, 異品類, 非伴侶, 非助道 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Madhy-vibh., Nyāy-pr., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr.
 vi-pakṣa 2. 形 翼を失った。
 vipakṣatā 女 反対, 敵対。
 vipakṣatva 中 [同上]; 漢訳 相治 Abh-vy.
 vipakṣa-pratipakṣa 男 漢訳 所治, 能治, 能対治, 所対治, 対治障, 障対治, 対治不助法 Bodh-bh., Madhy-bh.
 vipakṣapratipakṣāṅga 中 漢訳 障治, 所治及能治, 非助道反助道品, 非助対治, 対治障支, 煩惱対治分 Madhy-bh., Madhy-vibh.
 vipakṣa-prahāṇa 中 漢訳 所対治断, 障断 Sūtr.

vipakṣa-prātipakṣika 形 漢訳 障治 *Bodh-bh.*
 vipakṣa-phala 中 障滅果, 対治果 *Madhy-bh.*, *Ma-*
dhy-vibh.
 vipakṣa-bhāva 男 敵愾心.
 vipakṣa-bhūta 形 漢訳 所対治 *Abh-vy.*
 vipakṣaya 名動 vipakṣayati 敵対者になる.
 vipakṣa-ramaṇi 女 恋敵.
 vipakṣa-rahitatva 中 漢訳 離彼障 *Sūtr.*
 vipakṣa-lābha 男 漢訳 所対治貪 *Sūtr.*
 vipakṣa-vyāpin 形 漢訳 異品遍転 *Nyāy-pr.*
 vipakṣa-vṛddhi 女 漢訳 障増 *Sūtr.*
 vipakṣa-sakti 女 漢訳 障礙著 *Sūtr.*
 vipakṣa-svabhāva 男 漢訳 所治礼 *Sūtr.*
 vipakṣa-hāni 女 漢訳 (六)蔽損滅, 治障 *Sūtr.*
 vipakṣa-hina 形 漢訳 治障障断 *Sūtr.*
 vipakṣānta 男 漢訳 所治辺, 非助道 *Madhy-bh.*,
Madhy-vibh.
 vipakṣika 形 漢訳 捨, 不樂 *Gaṇḍ-vy.*
 vi-pakṣi-Kṛ, 翼を奪う.
 vi-pakṣiya 形 敵意ある.
 vi-pakṣaikadeśa-vṛtti (°ṣa-ek°) 女 漢訳 異品一分転
Nyāy-pr.
 vi-Pac, → Pac.
 vi-pañcana 男 予言者, 占い師; 漢訳 相師 *Divy.*
 vipañcaya, 名動 vipañcayati 暴露する, 宣言する.
 vi-pañcika 男 =vipañcana.
 vi-pañcita 過受分 [*Jain Skt.* vipañcayati から] 漢訳
 釈, 演説, 細説, 無戲論 *Abh-vy.*, *Mṛyut.*, *Sam-*
r.
 vipañcita-jña 形 漢訳 [=Pāli vipañcitaññū] 広開
 智, 広顕智, 重説彼鈍根人遅得解 *Prajñ-vy.*, *Sūtr.*
 vi-pañci 女 印度琵琶.
 vipañcika 形 (°一) 琵琶をひく.
 vi-Paṭ, → Pat.
 vi-paṭumaka 中 =vipaṭumaka: 漢訳 爛壊, 虫蛆
Abh-vy., *Gaṇḍ-vy.*
 vi-paṭmaka 中 [同上].
 vi-Path, 通読する, 熟読する. <Path の補遺>
 vi-paṭumaka 中 =vipaṭumaka: 漢訳 (相) 虫啖
Mṛyut.
 vi-Paṇ, → Paṇ.
 vi-pana 男 販売, 貿易; 賭博; 取引場, 商店, 市場.
 vipaṇana 中 商売, 貿易.
 vi-pani 女 販売, 貿易; 商店, 市場(また -ni).
 vipaṇi-jivikā 女 取引によって生活すること.
 vi-panin 男 商人, 貿易者.
 vipaṇi-patha 男 市場街.
 vipaṇi-stha-panya 形 売りに出された商品を陳列した
 (町).
 vi-pani 女 =vipaṇi.
 vi-Pat, → Pat. 1.
 vi-patāka 形 旗を欠く.
 vi-pat-kāla 男 災害の時期.
 vi-patti 女 失敗; (時の)不利なこと; 不幸, 災害; 滅
 亡, 破壊, 死; 中止(まれ); 漢訳 敗, 衰, 毀, 犯,
 妄, 悪, 貧, 壊, 衰損, 損滅, 衰弊, 不成, 不遂,

別離, 分離, 無常, 憂苦損惱 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*
Divy., *Śikṣ.*, *Sūtr.*
 vipatti-kāla 男 逆境 または 災難の時期; 漢訳 若不
 不成就時 *Sūtr.*
 vipatti-sampatti 女 漢訳 興盛衰損 *Bodh-bh.*
 vipatti-sthita 形 漢訳 往衰損者, 不具足者 *Bodh-bh.*
 vi-patha 男 中 間違った路; 不正な道筋; 漢訳 惡道
 異路, 邪道, 僻路, 邪妄道 *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Mṛyut.*
 vipatha-gati 女 間違った路を行くこと.
 vipathāvapāta-paratā 女 間違った路または不正な道
 を行く傾向.
 vi-Pad, → Pad.
 vi-pad 女 失敗; 不幸, 災害, 不運; 死.
 vipad-daśā 女 悲惨な状態.
 vi-panna 過受分 → Pad; 漢訳 無, 毀, 邪, 失, 犯
 壊, 毀犯, 毀棄, 捨離, 厭離, 腐敗, 不具足 *Ab-*
vy., *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mṛyut.*, *Rāstr.*, *Śikṣ.*
 ~ātman 身壊 *Śikṣ.*; śila ~ 犯戒, 毀犯淨;
Bodh-bh. 男 蛇.
 vi-pannaga 形 蛇を欠いた.
 vipannatā 女 不幸, 滅亡. ~ m gataḥ 過受分 滅
 た.
 vipanna-didhiti 形 光輝または栄光を失った.
 vipanna-deha 形 死んだ.
 vipanna-pūrva 形 漢訳 從昔至今未曾損壊, 未始合
 一有損壊 *Gaṇḍ-vy.*
 vipanna-śila 中 漢訳 毀犯尸羅 *Śikṣ.*
 vipannārtha 形 財または幸運が破滅した.
 vi-panyā, -panyayā 男 副 (因)嬉しく; 不思議に.
 vi-panyu 形 (RV.)賞讃する, 喜ばせる; 感歎すべき
 vi-payas 形 水を欠いた, 水のない.
 vi-parākrama 形 勇気または活力を欠いた.
 vi-parikrānta 過受分 (戦闘で)勇気を示した, 勇気
 ある, 強力な.
 vi-pari-Gā, 中 転覆する(車についていう). <Gā
 補遺>
 vi-paricchinna 過受分 [°Chid から] 全面にわたって
 断された, 完全に破壊された.
 viparicchinna-mūla 形 根を完全に切断した, 根絶
 された.
 vi-pariṇata 過受分 変えられた, 変化した; 漢訳 変
 変異, 変相, (已壊) *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Mṛyut.*
Prāt-m.
 vi-pari-Nam, → Nam.
 vi-pariṇāma 男 変形, 変化; 交換; 成熟すること
 漢訳 壊, 失, 変易, 変壊, 変異, 敗壊, 壊敗 *Ab-*
vy., *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Mṛyut.*
 vipariṇāma-duḥkhatā 女 漢訳 壊苦, 变苦, 变易
Bodh-bh.
 vipariṇāmaduḥkhatā-satya 中 漢訳 [八諦の一] 壊
 性諦 *Bodh-bh.*
 vipariṇāma-dharmaka 形 漢訳 敗壊, 变壊之法, 敗
 敗之相 *Aṣṭ-pr.*
 vipariṇāma-dharmin 形 漢訳 有変異法 *Suvik-pr.*
 vi-pariṇāmin 形 (插图の具)に変化する; 漢訳 变壊,
 变異 *Abh-vy.*

vi-pari-Tap, 非常に苦しむ, 大きな苦痛をもつ。
 <Tap の補遺>
 vi-pari-DHā, → DHā.
 vi-paridhāna 田 交換。
 vi-pari-DHāv, 走り廻る, 走り抜ける; 追い越す。
 <DHāv の補遺>
 vi-paridhāvaka 形 いたるところ走り廻る。
 vi-pari-Pat, → Pat 1.
 vi-paribhramśa 男 失敗; (一°)の喪失。
 vi-pari-Muc, 因 viparimucyate (廻) から自由にされるまたは解放される。<Muc の補遺>
 vi-pari-Mlā, → Mlā.
 vi-parimlāna 過受分 [°Mlā から] → Mlā.
 vi-parilopa 男 喪失。
 vi-parivartana 形 (因 -i) 回転せしめる。田 回転すること(自動)。
 vi-parivartita 使役 過受分 → Vrt. 角朶 Lal-v.
 viparivartitādhara (°ta-ādh°) 形 唇を曲げた。
 vi-pari-Vrt, → Vrt.
 vi-parivṛtti 因 帰還。
 vi-parihāra 男 交換。
 vi-pari-Hṛ, → Hṛ 1.
 vi-pari, → I.
 vi-parita 過受分 反対にされた, 顛倒した; 反する, 反対の, 逆の; 反対に行動する, 交叉する; 分岐する; つむじ曲りの, 逆らう; 異, 翻, 犯, 邪, 倒, 顛倒, 有倒, 倒者, 已起倒者, 已生顛倒, 相違 Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Mañj-m., Madhy-v., Mvyut., Nyāy-pr., Ratna-ut., Saddh-p., Sāṃkhy-k., Sūtr. ~ṃ 副 顛倒 Buddh-c. → I.
 viparitaka 形 反対にされた。
 viparita-kārin 形 よこしまに行動する。
 viparita-grāhin 形 顛倒執, 顛倒受 Bodh-bh.
 viparita-citta 形 心がまがった, よこしまな; なにもによっても凌駕されない知性を授けられた; 心迷倒者 Bodh-bh.
 viparita-cetas 形 心がよこしまな。
 viparitatā 因 逆, 反対。
 viparita-drṣṭi 形 邪見 Bodh-bh.
 viparita-netra 形 眼目角朶 Saddh-p.
 viparita-buddhi 形 心がよこしまな。
 viparita-bodha 形 [同上]。
 viparita-mati 形 誤った意見をもつ。
 viparitavat 副 ひねくれて。
 viparita-vadha-krama 男 よこしまな殺害手段。
 viparita-vṛtti 形 よこしまにふるまう。
 viparita-vyatireka 形 倒離 Nyāy-pr.
 viparita-samjñin 形 狂, 失本心, 発邪想 Saddh-p.
 viparita-hasta-pāda 形 手脚繚戾, 手足了戾 Saddh-p.
 viparitākṣa 男 犯眼者, 眼歪者 Mvyut.
 viparitādhimokṣa 男 顛倒(信) Sūtr.
 viparitānvaya 形 倒合 Nyāy-pr.

vi-parokṣa 形 不現, 不現前 Bodh-bh. → avi-parokṣa.
 vi-parokṣāvasthita 過受分 不現前住 Bodh-bh.
 vi-parya 男 [数名] 顛倒 Mvyut.
 vi-paryak 副 反対に。
 vi-paryaya 形 (P. まれ) 顛倒した; (圓) に反対した; つむじ曲りの。男 置換, 交換; 変化, 交替; 顛倒, 反対 (例 samdhiviparyayau 平和とその反対=戦争; prabhāvasya ~ 強力の反対=衰弱; buddhi ~ 反対の意見); 悪化すること, 形を損うこと; 逆, 不運, 顛覆, 災害, 不幸(まれ); つむじが曲っていること; 意見の変化(まれ); 誤まった意見または考え, 誤謬; 対, 倒, 顛倒, 遠離; 異, 別異; 翻, 翻此; 疑, 疑倒; 反, 相違; 不平等, 与此相違 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Buddh-c., Laṅk., Madhy-bh., Madhy-v., Madhy-vibh., Ratna-ut., Sāṃkhy-k., Sikṣ., Sūtr. ~e 因 反対の場合, しからずんば。~ena 圓 [同上] 異, 翻, 相違 Abh-vy., Bodh-bh. ~m I 悪い結果に終る。~ṃ Yā 反対に変化する。
 viparyaya-gata 形 顛倒者 Madhy-v.
 viparyaya-nirodha 過受分 顛倒滅 Madhy-v.
 viparyayamāna 現分 顛倒時 Madhy-v.
 vi-pary-As, → As 2.
 vi-paryasta 過受分 → As 2. 翻, 倒, 顛倒, 取顛倒, 有顛倒, 与倒相雜 Abh-vy., Bodh-bh., Laṅk., Madhy-bh., Madhy-vibh., Ratna-ut., Sāṃkhy-k., Sikṣ., Sukh-vy. II.
 vipryasta-citta 田 心倒者 Bodh-bh.
 viparyasta-mati 因 倒心 Abh-k.
 viparyasta-manas-ceṣṭa 形 心と行動が(あるべき姿とは)逆になっている。
 viparyasta-manaskāra 男 顛倒作意, 顛倒思惟, 顛倒不正思惟, 顛倒邪思惟 Madhy-bh., Madhy-vibh.
 vi-paryāna 形 鞍をはずした。~i-Kṛ 鞍をはずす。
 vi-paryāya 男 反対(まれ)。
 vi-paryāsa 男 (馬車の)顛覆; 運送; 呼気; 交換, 顛倒, 変化; (一°)の逆またはの反対; つむじ曲り; 誤った考え, 誤謬。~ṃ pra-Āp または -Yā 等 変化する。翻, 倒, 虚妄, 顛倒, 乱倒, 有礙 Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Laṅk., Madhy-bh., Madhy-vibh., Prajñ-h., Ratna-ut., Sāṃkhy-k., Sūtr., Suvik-pr.: anityanitya ~ 無常常倒 Sūtr.
 viparyāsa-nimitta 田 顛倒相 Madhy-bh., Madhy-vibh.
 viparyāsa-paribhāṣā 因 呵顛倒 Sūtr.
 viparyāsa-bhūta-nirdeśa 男 顛倒 Ratna-ut.
 viparyāsa-vastutva 田 顛倒物 Sūtr.
 viparyāsa-sukha 田 倒樂 Sūtr.
 viparyāsa-hetu 男 [± samkleśa 七種因の名]; 顛倒因 Madhy-bh., Madhy-vibh.
 vipryāsābhirata 形 取四顛倒 Ratna-ut.
 viparyāsopamā (°sa-up°) 因 逆の比喩 (upamāna と upameya の関係が逆になっている比喩)。
 vi-palāy(°palā-I), → I.

vi-palāyin 形 逃避する。
 vi-palāsa 形 葉のない。
 vi-pallava 形 [同上]。
 vi-pavana 形 風のない。
 vi-Paś, → Paś.
 vipāścika 男 相師 *Divy.*
 vipāś-cit, 形 [靈感 vipas を知る] 靈感をうけた；賢い；(°—) に熟達する。
 vipāś-cita 形 (韻律) [同上] → avipāścita.
 vipāścin 形 [vipāśyin の誤] 勝観 *Mañj-m.*
 vi-pāśyaka 形 普示, 示, 顯 *Gaṇḍ.*
 vi-pāśyana 中 正しい知識；見, 勝観, (等) 観, *Aṣṭ-pr.*；音写 毘婆舍那 *Ratna-ut.*
 vi-pāśyanā 女 [同上]；観, 慧, 妙観, 正見 *Bodh-bh., Divy., Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr.*；音写 舍那, 毗婆奢那, 毗鉢舍那, 毗婆舍那, 毘鉢舍那 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Kāśy., Lal-v., Madhy-vibh., Mvyut., Sam-r., Śikṣ.*
 vipāśyanā-nimitta 中 観…相, 智慧相 *Madhy-bh.*
 vipāśyanā-pakṣya 形 観分 *Bodh-bh.*；(音写) 毘鉢舍那品, 毘鉢舍那分 *Bodh-bh., Sūtr.*
 vipāśyanā-bala 中 慧力 *Divy.*
 vipāśyanā-bhāvanā 女 観 *Sūtr.*；(音写) 修毘鉢舍那, 修毘婆舍那 *Madhy-bh.*
 vipāśyanā-manskāra 男 観 (音写) 毘鉢舍那作意 *Sūtr.*
 vipāśyanā-mārga 男 観道 *Sūtr.*
 vipāśyanā-vibhāga 男 修習(止)観 *Sūtr.*
 vipāśyin 形 男 [仏名] [*Pāli* vipassi(n)]；観, 見, 勝観, 妙観察, 種種見 *Gaṇḍ-vy., Mvyut., 玄応*；音写 毗婆尸, 毘婆尸, 毗鉢尸 *Divy., Mvyut., 玄応*。
 vipas 中 靈感 (vipāś-cit および vipo-dhā のように用いられる)。
 vi-Pā, → Pā 1.
 vi-pāṃsula 形 (=vipāṃsula) 塵のない。
 vi-pāka 形 熟した(RV. 用例一回のみ)。男 (華) 熟すること；(行為の果実が)成熟すること, 結果；消化；不運, 不幸(まれ)：°—, =後に；報, 果, 果報, 有報, 成熟, 異熟, 淳熟, 異熟果, 果異熟 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lanḱ., Madhy-bh., Madhy-vibh., Rāṣṭr., Ratnaut., Saddha-p., Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr., Suvik-pr., Vajr-pr., Vijñ-t., 梵千.*；asti kramāsti ~h 有業有報 *Sūtr.*；~ena… arthī bhavati 求果報 *Sūtr.*
 vipāka-kaṭuka 形 結果がきびしい。
 vipāka-ja 形 報, 報生, 異熟生, 果報生 *Abh-k., Abh-vy., Lanḱ.*
 vipāka-janaka 形 招於現報 *Suv-pr.*
 vipāka-jñāna 中 果報智 *Sam-r.*
 vipāka-tivra 形 (一°) の結果がきびしいまたは怖ろしい。
 vipāka-niḥsprhatva 中 不求果報 *Sūtr.*
 vipāka-nirapekṣa-samjñā 女 不期果報想 *Sūtr.*
 vipāka-niṣyanda-guṇa 男 依報=果功德 *Sūtr.*

vipāka-phala 中 果報, 報果, 異熟果, 果報果 *Bodh-bh., Madhy-bh., Mvyut., Śikṣ., Sūtr.*
 vipākaphala-darśin 形 示現果報, 示(其諸善)報 *Suv-pr.*
 vipāka-lakṣaṇa 中 果相 *Ratna-ut.*
 vipāka-visphūrjathu 男 雷電のような(悪行の)結果,
 vipāka-suddhi 女 報浄 *Sūtr.*
 vipāka-hetu 男 異熟因, 果報因 *Abh-vy., Bodh-bh.*
 vipākānapekṣa 形 不希異熟 *Bodh-bh.*
 vipākāvaraṇa (°ka-āv°) 中 異熟障 *Bodh-bh.*
 vi-pākin 形 熟する, 果実または成果をもった。
 vipākoccheṣa (°ka-uc°) 中 残異熟, 残業果報 *Abh-vy.,*
 vipācanā 女 捨, 捨成熟 *Sūtr.*
 vi-pāṭa 男 矢(の一種) (=vipāṭha)；[人名]。
 vi-pāṭaka 形 開く, 広げる；身隔者 *Mvyut.*
 vi-pāṭana 中 割ること；破壊。
 vi-pāṭala 形 非常に赤い。
 vipāṭala-netra 形 赤い眼をした。
 vi-pāṭha 男 矢(の一種)。→ vipāṭa.
 vi-pāṇḍava =vipāṇḍura.
 vi-pāṇḍu 形 蒼白な, 蒼い。
 vipāṇḍutā 女 蒼いこと。~m Yā 蒼くなる。
 vi-pāṇḍura 形 蒼白の, 蒼い。
 vi-pātana 形 退隨 *Gaṇḍ-vy.*
 vi-pādana 中 破, 壊, 破壊, 損害 *Abh-vy., Bodh-bh.*
 vipādanatā 女 破壊 *Bodh-bh.*
 vi-pādikā 女 足の水泡。
 vi-pādita 過受分 [°Pad から] 壊, 損害 *Abh-vy.*
 vi-pāpa 形 罪のない, 欠陥のない。
 vipāpā 女 [河の名]。
 vi-pāpman 形 罪のない；苦悩がない。男 [*Viśve Devāḥ* の一の名]。
 vi-pārśvena 副 傍に, 近くに。
 vi-pāla 形 牧者のいない(家畜)。
 vi-pāś 女 (=vipāśā), [*Panjab* 地方の河の名, 現在の *Beas* 河]。
 vi-pāśa 形 輪索をもたない；桎梏を脱した。
 vi-pāśana 中 桎梏を外すこと。
 vi-pāśā 女 =vipāś.
 vipina 中 森林；多量(まれ)。形 密生した(森林)。
 vipināya 名動 自 vipināyate 森林のようになるまたみえる。
 vi-Piṣ, → Piṣ.
 vi-piṣṭhi-BHū, [*Pāli* vipiṭṭhikatvāna を参照] 退縮 *Mvyut.*
 vi-piḍam 副 なんの苦痛もなく。
 vi-puṃsi 女 男まさりの女。
 vi-putra 形 (女 -ā) 息子または仔牛を失った。
 vi-Puth, 使役 vipothayati(-te) 砕く, 粉微塵にする。
 過受分 vipothita 砕かれた, 粉になった。<Put の補遺>
 vi-puruṣa 形 人間のいない, 荒廃した。
 vi-pula 形 [=vipura: Pr 1. から] 大きな, 広大な, 大

くひろがった, 莫大な, 広い, 幅広い, 厚い, 長い(また時間について), 深い, 沢山の, 夥多の, 豊富な, 数多の, 高い(声); 漢訳 大, 多, 広, 寛, 博, 大大, 広博, 最大, 広大, 弘広, 寛博, 弥曠, 無量 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Daś-bh.*, *Gand-vy.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Rāstr.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*, 梵千., 梵維.: ~āni cittāni 広心 *Ast-pr.* 男 [諸人の名]. → *avipula*.

vipulaka 形 非常に広大なおよび髪が逆立たない.

vipula-karuṇāśaya (°nā-āś°) 男 漢訳 広大悲愍意樂 *Bodh-bh.*

vipula-kārin 形 漢訳 所作広大 *Bodh-bh.*

vipula-gata 形 漢訳 大 *Sūtr.*

vipula-grīva 形 頸の長い.

vipula-jaghana 形 尻の大きい.

vipula-jñāna-sāgara 男 漢訳 大智海 *Gand-vy.*

vipulatara 比較 漢訳 多 *Bodh-bh.*

vipulatā 女 広大等 (*vipula* 補); 漢訳 広大 *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*

vipulatva 中 幅, [同上].

vipula-pārśva 男 漢訳 [山の名] 広面山 *Mvyut.*

vipula-prajña 形 広い知恵を具えた.

vipula-bodhi 男 女 漢訳 広菩提 *Sūtr.*

vipula-mati 女 漢訳 [菩薩の名] 広意 *Rāstr.*

vipula-manaskāra 男 漢訳 大作意 *Sūtr.*

vipulayat 名動 現分 広がる.

vipularddhi [°la-rd°] 女 漢訳 威徳自在 *Saddh-p.*

vipula-vrata 形 大きな誓いを立てた.

vipula-śroni 形 (女) 尻の大きい.

vipula-śroni-bharā 女 尻の大きな女.

vipula-samkṣipta 形 漢訳 広狭 *Gand-vy.*

vipula-hṛdaya 形 心の大きな.

vipulātmaka (°la-āt°) 形 漢訳 大 *Sūtr.*

vipulāpramānatā 女 漢訳 広大無量, 寛広難量 *Gand-vy.*

vipulāśaya (°la-āś°) 男 漢訳 広大心 *Sūtr.*

vi-pulināmbu-ruha 形 砂岸も蓮華もない(河).

vi-pulikaraṇa 形 漢訳 増長, 増長円満 *Gand-vy.*

vi-pulikartavya 未受分 漢訳 応…広博, 応…広大 *Gand-vy.*

vi-puli-Kṛ, (業) 拡張する.

vipuli-kṛta 過受分 漢訳 令成熟 *Gand-vy.*

vipulaujas 形 (°la-oj°) 形 非常に強い.

vi-puṣṭa 過受分 → *Puṣ*.

vi-puṣpa 形 花のない(木).

vi-puṣpita, [名動 *vipuṣpayati* の 過受分] 笑った; 漢訳 笑, 歔笑, 喜笑 *Divy.*

vi-Pū, 他 *vipunāti* 十分に清潔にする, 効果的に清める. <Pū の補遺>

vipūti-vastra 中 漢訳 爛衣 *Ratna-ut.*

vi-pūyaka 中 化膿, 不快な臭い; 漢訳 臭悪, 臭爛, 臭穢, 膿爛 *Gand-vy.*, *Mvyut.*, *Śiks.*

vi-prccham, [Prach の 案 不定] (RV.).

vi-vrthu 男 [Vṛṣṇi 族の王の名].

vi-prṣṭa 男 [Vāsudeva の息子].

vi-prṣṭhi-Kṛ, 憂うつにさせる, 落胆させる; …に背

を向ける, 捨てる; 漢訳 悔, 憂悔; 超, 能捨 *Ast-pr.*

vi-prṣṭhi-BHū, 憂うつになる, 落胆する; 漢訳 悔, 退縮 *Ast-pr.*, *Mvyut.*: na ~bhavati asya mānasam 其意不退縮 *Mvyut.*

vipo-dhā 形 靈感 (*vipas*) を与える (RV. 用例一回のみ).

vipaukas (°pa-ok°) 男 森の居住者, 猿.

vipra 形 (因) (内心を)動かされた, 靈感をうけた; 聡明な, 賢明な(しばしば神についていう); 学問のある. 男 讚誦者, 詩人(因); 学問のある神学者(因); 祭司, 家庭付祭司(圍まれ); 婆羅門(圍): 覆 [神的存在の一種](S.); 漢訳 婆羅門 *Div.*, *Lank.*, *Saddh-p.*; 梵志 *Lank.*

vi-prakarṣa 男 引き離すこと; 距離; 差異, 対照; 漢訳 福田 *Mvyut.*

vi-prakāra 男 虐待, 害.

vi-prakāśa 形 (一°) の外観をもつまたはに類似した.

vi-prakīrṇa 過受分 → *Kṛ*.; 漢訳 散, 散乱, 分散 *Abh-vy.*, 梵維.

viprakīrṇa-śiro-ruha 形 髪が乱れた, 髪がふさふさした.

viprakīrṇaika-pārśva (°na-ek°) 形 一方の脇が広がった.

vi-pra-Kṛ, → *Kṛ*.

vi-prakṛt 形 (因) を害する.

vi-prakṛta 過受分 [°Kṛ から]; 漢訳 変異(事) *Bodh-bh.*

vi-prakṛti 女 変更. ~m Ni 変更する, 変形する.

vi-pra-Kṛṣ, → *Kṛṣ*.

vi-pra-kṛṣṭa 過受分 → *Kṛṣ*.; 漢訳 遠, 懸遠 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*

viprakṛṣṭatva 中 距離.

viprakṛṣṭāntara 形 相当離れた.

vi-pra-Kram, → *Kram*.

vi-prakramaṇa 中 漢訳 起去 *Mvyut.*

vi-prakrānta 過受分 漢訳 往餘方 *Bodh-bh.*

vipra-cit 男 [ある Dānava の名].

vi-pra-Gam, 多方面に立ち去る.

<Gam の補遺>

vipra-citti 女 [同上]; [ある聖賢の名], (=vipra citta).

vi-pracintya 絶 (業) を思い出して, …を考えて.

vi-pracchanna 過受分 [°CHad から] 隠された, 秘密の.

vi-pra-c-CHid, → *CHid*.

vi-Prach, → *Prach*.

vipra-jana 男 祭司, 婆羅門; 婆羅門階級; [人名].

vipra-jāti 女 婆羅門の種姓(階級).

vi-pra-Nāś, → *Nāś* 1.

vi-pra-naṣṭa 過受分 [°Nāś から] 無くなった, 消え失せた.

vipranaṣṭa-viśeṣaka 形 区別が失われた.

vi-praṇāśa 男 全面的な消滅; 漢訳 失, 壊, 捨, 失壊, 壊滅, 変壊, 壊敗 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sam-r.*, *Sūtr.*

vi-pra-Ni, (因) に精神を向ける; (時が)過ぎるがままにする. <Ni の補遺>

vipratā ㊦ 婆羅門の位階。
vipra-tāpasa ㊦ 婆羅門の苦行者。
vi-pratikūla ㊦ 頑固な。
vi-pratipatti ㊦ 誤った知覚または考え；矛盾；意見の相違(普通の意味)；(二概念が)両立しないこと，二律背反；㊦ 害，迷，倒，邪行，悪行，無行，行悪者，不如法住，起諸邪行，異解行，違逆，違逆悪事 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Kāśy.*, *Sūtr.*, *Suvik-pr.*
vipratipatti-duḥkha ㊦ ㊦ 邪行苦 *Bodh-bh.*
vi-prati-Pad, → Pad.
vi-pratipanna 過受分 [°Pad から]。㊦ 迷，相違，疑網，乖違，毀壞正行 *Abh-vy.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*
vipratipannatva ㊦ ㊦ 迷，乖違 *Abh-vy.*
vipratipanna-sattva ㊦ ㊦ 顛倒衆生 *Ratna-ut.*
vi-pratibandha ㊦ ㊦ 遮，障 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*；要，要契 *Bodh-bh.*：～enāvatiṣṭhate 共彼，立要契，為立要，共立要契 *Bodh-bh.*
vi-prati-BHā, (㊦) として現われる；…のようにみえる。
vi-prati-śiddha 過受分 → Sidh 1.
vi-prati-Śidh, → Sidh 1.
vi-prati-śedha ㊦ 抑制；矛盾，(二つの陳述の)衝突；禁止，否定；(二つの規則間の)矛盾(㊦)。
vi-pratisāra ㊦ 後悔；㊦ 悔，追悔，疑悔，悔恨，追變，變悔，悔愧，改悔，後悔，長想，後燋，入心，留心意，懺悔謝過 *Abh-vy.*, *Av-ś.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.*, *Vijñ-t.*
vi-pratisārin ㊦ 後悔に満ちた，良心の呵責に悩む (*Lal-v.*)；㊦ 悔，後悔，憂悔，憂悔(自悩其心)，自責，悵然 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Śikṣ.* → avipratīsārin.
vi-pratipa ㊦ 強情な，敵意ある；反対にされた(㊦)。
vi-pra-Tṛ, → Tṛ.
vi-pratyanika ㊦ [= *Pāli* vipaccanika, °niya(ka) 参照] 性の合わない，反対した，敵意ある，喜ばれない；㊦ 難信，怨敵，所不信樂，所難値遇 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*
vipratyanika-vādin ㊦ ㊦ 諍論，怨敵異論 *Bodh-bh.*
vipratyanika-virodha ㊦ ㊦ 怨敵相違 *Bodh-bh.*
vipratyaniyaka ㊦ ㊦ 難信 *Saddh-p.*：-sarvaloka ~ dharmaparyāya 一切世間難信之法 *Saddh-p.*
vi-pratyaya ㊦ 不信任；㊦ 不信 *Buddh-c.*
vi-pratyayaniya ㊦ ㊦ 難信，極難信 *Sukh-vy. II.*
vipratva ㊦ (学問ある)婆羅門の地位。
vi-Prath, → Prath.
vi-prathita 過受分 → Prath.
vi-pra-Duṣ, → Duṣ.
vi-praduṣṭa 過受分 → Duṣ.
vipraduṣṭa-bhāva ㊦ 不正なまたは 邪悪な性質をもつ。
vi-pra-Dru, 異った方向に走る，逃走する，四散する。
<Dru の補遺>
vi-pradruta 過受分 四散した，逃げた。
vi-pradharsa ㊦ 困らせること，倦怠。
vi-pra-DHāv, 異った方向に走る，四散する。<DHāv

の補遺>

vi-pranaṣṭa 過受分 ㊦ 離，壊，失壊 *Bodh-bh.*, *Ratna-ut.* → avipranaṣṭa.
vi-pranāṣa ㊦ = vipranāṣa ㊦ 失，毀，(壊失)，失壊，壊滅，費廢 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
vi-pranāṣa-duḥkha ㊦ ㊦ 變壞苦 *Bodh-bh.*
vi-prapāta ㊦ 飛翔(の一種)；深淵。
vipra-putra ㊦ 婆羅門の息子，若い婆羅門。
vipra-priya ㊦ 婆羅門に愛される。
vi-prabuddha 過受分 → Budh.
vi-pra-bodhita 過受分 [°Budh の 使役 から] 言及された，論じられた。
vipra-bhāva ㊦ 婆羅門たる地位または威嚴。
vipra-maṭha ㊦ 婆羅門の僧院。
vi-pramatta 過受分 → Mad 1.
vi-pramanas ㊦ 心が悲哀に沈んだ，落胆した。
vi-pramādin ㊦ 全く不注意な。
vi-pramukta 過受分 → Muc.；㊦ 離，度，尽，脱，無，遠離 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Gand-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*：āsravā ~ 漏尽 *Divy.*；anu-rodhavirodha ~ 無所親疎 *Mvyut.* → ābādh ~。
vipramukta-bhaya ㊦ 危険から免れた，怖れから解放された。
vi-pra-Muc, → Muc.
vi-pramuṣita 過受分 → Muṣ.；㊦ 忘，忘失 *Gand-vy.*
vi-pra-Muh, → Muh.
vi-pramokṣa ㊦ 解放；(㊦)からの救助；㊦ 免離，解脱，免脱，寛宥 *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Da-bh.*, *Gand-vy.*
vi-pramokṣaṇa ㊦ (一°) [同上]。
vipramokṣārtham ㊦ ㊦ 為解脱 *Bodh-bh.*
vi-pramocya 未受分 (㊦) から解放されるべき。
vi-pramohita 使役 過受分 → Muh.
vi-prayāta 過受分 [°Yā から] (一°) 逃走した，離した。
vi-prayukta 過受分 → Yuj.；㊦ 失，離，遠離，不相応，不相応(行)，非相応 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*
vi-pra-Yuj, → Yuj.
vi-prayoga ㊦ (㊦ ±saha, ㊦, 一°) からの分離；如，不在；㊦ 断，離，別離 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Ratna-ut.*, *Śikṣ.*
viprayoga-bhaṅgura ㊦ ㊦ 離散 *Bodh-bh.*
viprayogānta ㊦ ㊦ 終別離 *Divy.*
vi-prayojita 過受分 [°Yuj から] (㊦) から解放された
vi-prayogin ㊦ (愛の対象から)切り離された。
vipra-rūpa ㊦ 婆羅門の姿をした。
vipra-rābha (°ra-rṣ°) ㊦ すぐれた婆羅門。
vipra-rṣi (°ra-rṣi) ㊦ 婆羅門の階級出身の聖仙。
vi-pra-Lap, → Lap.
vi-pralapta 過受分 [°Lap から] …について大いに；したまたは議論した。㊦ 議論，討議。
vi-pralabdha 過受分 [°Labh から] 欺かれた，だまされた；㊦ 誑惑 *Divy.*

vi-pra-Labh, → Labh.
 vi-pralabhya 未受分 欺かれるべき, 愚弄されるべき.
 vi-pralambha 男 欺瞞; 愛人の(失望=)離別; 詐 (他), 虚証, 本無有体 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*
 vipralambhaka 形 欺く, ごまかす; 詐証 *Divy.*
 男 不正直な反対者.
 vipralambhakatva 中 欺瞞.
 vi-pralambhana 中 欺瞞 (覆); 詐, 欺証 *Abh-vy.*
 vi-pralambhayitr 男 枉 *Bodh-bh.*: na~tā bhavati vipralobhyainām 無枉毫釐 *Bodh-bh.*
 vi-pralambhin 形 欺く, 偽りの.
 vi-pralaya 男 (因) に吸収されること; 消滅.
 vi-pralāpa 男 説明; 無益の雑談; 矛盾; 綺言, 号叫, 浮妄言説 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*: ~ān pramuñcamānān 号叫苦劇 *Gaṇḍ-vy.* 魚益の雑談をふくまない.
 vi-pralina 過受分 [°Li から] 四散した, 潰走した.
 vi-pra-Lup, → Lup.
 vi-pralupta 過受分 [°Lup から] 奪われた等; 中絶した, 乱された.
 vi-pra-Lubh, 使役 自 vipralobhayate そそのかす, 誘惑しようとする. <Lubh の補遺>
 vi-pralumpaka 形 強欲な.
 vi-pra-Lū, → Lū.
 vi-pralūna 過受分 → Lū.
 vi-praloḍita 過受分 [°Lud から] 覆った, 上下顛倒した.
 vi-pralopa 男 破壊, 破滅; 失, 滅, 失壊, 毀壞 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Sukh-vy. I.*, *Vajr-pr.*
 vipralopatā 女 敗壞, 壊敗 *Daś-bh.*
 vi-pralopin 形 (一°) むしり取る (*Jāt-m.*); 盗 *Gaṇḍ-vy.* → parasattvabhoga~.
 vipravat 副 婆羅門のように.
 vipra-varga 男 = viprajāti.
 vi-pra-Vas, → Vas 3.
 vi-pravasita 過受分 [°Vas 3. から] 出発した.
 vi-pravāda 男 背反した陳述.
 vi-pravādana 中 詐, 誑惑, 破壊衆生 *Sūtr.*
 vi-pravāsa 男 外国に住むことまたは旅行すること; (因, 一°) から離れて滞在すること; 障離, 相離 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Sūtr.* → avipravāsa.
 vi-pravāsana 中 国外に追放すること.
 vi-pravāsita 過受分 [°Vas 3. から] 遠ざけられた; 散らされた.
 vipravāsita-kalmaṣa 形 罪業が消滅した.
 vi-pravidha 過受分 → Vyadh.
 vipra-vira 男 英雄的な婆羅門.
 vi-praveśa 男 入, 悟入 *Lal-v.*
 vi-pravrājin 形 出家することを好む.
 vi-Praś, 問う.
 vi-praśna 男 (運命を)問うこと.
 vi-praśnika 男 占星家.
 vi-pra-Sañj, → Sañj.
 vi-prasanna 過受分 [°Sad から] 落ちついた, 静か

な; 寂靜, 清淨, 至清, 至喜 *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*

viprasanna-manas 男 意至清, 意至喜 *Mvyut.*

vipra-sāt-Kṛ, (業) を婆羅門に施与する.

vi-pra-Sṛ, → Sṛ.

vi-pra-Sṛp, 他 viprasarpati 曲りくねって流れる (川について). <Sṛp の補遺>

vipra-sevā 女 婆羅門に仕えること.

vi-pra-Sthā, → Sthā.

vi-prasthita 過受分 [°Sthā から] 出発した.

vipra-sva 中 婆羅門の財産.

vi-prahata 過受分 [°Han から] 攻撃された(軍隊).

vi-praharṣa 男 歡喜 *Av-ś.*

vi-pra-Hā, 他 viprajahāti [°Hā 2. から] 捨てる, 放棄する. → DHā.

vi-prahāṇa 中 見えなくなること, 中止.

vi-prahīṇa 過受分 [°Hā 2. から] (因) から除外された.

(圓) を失った, を欠いている; 無, 遠離, 已断, 相離 *Abh-vy.*, *Div.*, *Saddh-p.*

vi-prahīṇa = viprahīṇa.

vi-Prā, → Prā.

viprā 女 婆羅門の婦人.

viprādhīpa 男 月.

viprādhīpa-mukhā 女 月のような顔をした女.

viprāvamanyaka 形 婆羅門を軽蔑する.

vi-priya 形 疎遠にされた(因); (圓 一°) にとって不快なまたは嫌な(圓). 中(時として 覆) 不愉快なもの, 不快な行為(圓).

vi-pruta 過受分 → Pru.

vi-Pruṣ, → Pruṣ.

vi-pruṣ 女 [困: -pruṣ] 滴; 汚点, 斑点, 火花; (āś-carya とともに 一°) 現象: 覆 (談話中に口から出る) 泡.

vi-pruṣa 男 中 滴.

vi-pre (pra-I), 他 vipraitī 立去る, 出発する. <I の補遺>

vi-prekṣ (pra-Īkṣ), → Īkṣ.

vi-prekṣana 中 見まわすこと.

vi-prekṣita 中 瞥見.

vi-prekṣitr 男 見まわす者.

viprendra (°ra-in°) 男 卓越した婆羅門.

vipreman 男 疎遠.

vi-proṣita (°ra-uṣ°) 過受分 家に不在の, 異国にある, 流謫の身の; (圓) に出発した. → Vas 3.

viproṣita-kumāra 形 皇太子を追放した(王国).

vi-proṣya 不変 → Vas 3.

vi-plava 男 破壊, 滅亡, 喪失; (一°, …のまたはによる) 災禍, 災害, 大變災, 困苦, 悲慘; 騒乱, 喧嘩, 反抗; (婦女に対する) 暴行. 形 混乱した; 船を奪われた.

vi-plavin 形 消失する.

vi-plāvaka 形 外部に広がる, 公表する.

vi-plāvin 形 [同上].

vi-plāvita 使役 過受分 [°Plu から] 汩濫した; 壊れた.

vi-Plu, → Plu.

vi-pluta 過受分 → Plu.
 vipluta-netra 形 眼に(涙, 喜びなど)が溢れた.
 vi-plus 女 男 滴 (=viprus).
 vi-pluṣṭa 過受分 → Plus.
 vi-Phal, → Phal 1,2.
 vi-phala 形 果実をもたない(木); 実りのない, 無益の, 空しい; 失望した.
 viphalatā 女 実りのないこと, 無益なこと.
 viphalatva 中 [同上].
 viphala-preraṇa 形 空しく投げられた.
 viphalaya 名動 中 viphalayati 水泡に帰せしめる, (属)に(不定)することを許さない.
 viphala-śrama 形 空しく努力する.
 viphalaśramatva 中 無益な努力.
 vi-phali-Kṛ, 無益にする, 挫折させる.
 viphalī-bhaviṣṇu 形 無益となる.
 viphalī-BHū, 無益となる.
 vi-Bandh, → Bandh.
 vi-bandha 男 障害; 障, 縛, 遮, 障礙, 能遮, 能礙, 所治法, 所治障法 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-bh.*, *Mvyut.*, *Ratna-ut.*, *Śikṣ.*
 vibandha-bhūta 過受分 為礙 *Bodh-bh.*
 vi-bandhana 形 作障礙 *Sūtr.*
 vibandha-sthāyin 形 [菩薩の六 upāya の一]; 立要, 共立要契 *Bodh-bh.*: ~no bodhisattvasya 菩薩与(諸有情)立要契 *Bodh-bh.*
 vibandha-sthita 形 立要, 立要契, 立要已 *Bodh-bh.*
 vi-bandhu 形 親類のない.
 vi-Barh, → Barh 1,2.
 vi-barha 形 尾(に羽)のない.
 vi-bala 形 弱い.
 vi-balāka 形 さぎのいない.
 vi-bāṇa 形 矢のない.
 vi-bāṇa-jya 形 矢も弦もない.
 vi-bāṇa-dhi 形 矢筒のない.
 vi-Bādh, → Bādh.
 vi-bāli 女 [河の名] (RV. 用例一回のみ).
 vi-bāhu 形 腕のない.
 vi-bila 形 穴または孔のない.
 vi-buddha 過受分 → Budh. 覚, 悟, 正敷, 覚知, 成等正覚 *Lal-v.*, *Lank.*, *Ratna-ut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*
 vibuddha-kamala 形 蓮の花が開いた.
 vibuddha-cūta 男 花の開いたマンゴー.
 vi-buddhana 形 知, 所曉了 *Daś-bh.*
 vi-Budh, → Budh.
 vi-budha 形 非常に賢い. 男 神; 学者, 教師; [王侯の名]; 智者 *Rāstr.*
 vibudha-taṭini 女 神々の河, *Gaṅgā* 河.
 vibudha-priya 形 賢者または神々に愛せられた.
 vibudha-rāja 男 神々の王, *Indra* 神.
 vibudharṣabha (°dha-ṛṣ°) 男 神々のうちでもっとも卓越したもの.
 vibudha-vidviṣ 男 神々の敵, 悪魔.
 vibudha-sadman 中 神々の住所, 天.

vibudha-stri 女 天女.
 vibudhācārya (°dha-āc°) 男 神々の師, *Bṛhaspati.*
 vibudhādhipa 男 =vibudharāja.
 vibudhādhipatya 中 神々の統治権.
 vibudhānucara 男 神の従者.
 vibudhāvāsa (°dha-āv°) 男 神々の住所, 殿堂.
 vibudhetara (°dha-it°) 男 (神以外のもの), *Asura.*
 vibudheśvara (°dha-īś°) 男 神々の主.
 vi-budhya 中 知って.
 vi-bubhūṣā 女 みずからを顕現させる望み.
 vi-bubhūṣu 形 みずからを顕現させようと望む.
 vi-bodha 男 目覚めること; 認知すること; 覚, 成仏, 開化, 得仏道 *Daś-bh.*, *Sūtr.*, 梵千.
 vi-bodhana 中 目覚めることまたは目覚めさせること; 覚, 覚悟 *Gaṇḍ-vy.* → *bodhi* ~.
 vi-bodhayitavya 未受分 目覚めさせられるべき.
 vi-Brū, → Brū.
 vi-bhakta 過受分 → *Bhaj.*; 離, 散, 分散, 散乱, 分別, 分隔, 断隔, 開闢, 別釈, 嚴淨 *Abh-vy.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*; 音写 [数名] 維破伽丹(微薄帝) *Mvyut.* 中 分離.
 vibhakta-gātra 形 身体を(一°)で飾った.
 vibhakta-ja 男 (世襲財産の)分割後に生まれた息子.
 vibhaktatva 中 変化に富むこと.
 vibhakta-rūpatā 女 色相差別 *Gaṇḍ-vy.*
 vibhaktātman (°ta-āt°) 中 内面的に分裂した.
 vi-bhakti 女 分離, 分配; 差別, 変形; 名詞の語尾 変化, 格; 格または人称語尾; 差別, 分別, 音析 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Sukh-vy. I.*; 音写 [数名] 毗薄底 *Mvyut.*
 vibhaktitā 女 差別 *Daś-bh.*
 vi-bhaktr 男 (業または属とともに)分割者, 分配者(因); (一°)の整理者.
 vi-bhagna 過受分 [°Bhañj から] 砕かれた; 萎摧, 羸 *Lal-v.*
 vi-bhaṅga 男 (眉を)しかめること; 皺; 断絶, 中止, 頓挫; 欺瞞; 波; 分, 分別, 滅, 辯, 広辯 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*
 vi-bhaṅgura 形 躊躇する, ためらう.
 vi-Bhaj, → Bhaj.
 vi-bhajana 中 分離, 差別; 分別, 分析, 最久開, 広流通 *Abh-vy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*
 vibhajanatā 女 分別, 解, 辨析 *Gaṇḍ-vy.*
 vi-bhajaniya 未受分 分配されるべき.
 vi-bhajya 形 分割されるべき; 分別, 部分差別 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*
 vi-Bhañj, → Bhañj.
 vibhaṅḍaya, 名動 vibhaṅḍayati ゆがめる; 鳴翻鳴 *Div.*: mukhaṃ ~ 翻鳴其面, 鳴面 *Div.* 263.
 vi-bhaya 中 危険から免れること. 形 危険にさらされない.
 vi-Bharts, → Bharts.
 vi-bhava 形 富んだ(韻詩), まれ. 男 遍在(まれ); 発達(まれ); 威力, 権力, 威嚴, 偉大, 高位(普通の意味)

富, 財産; ぜいたく; (世界の)破滅(仏教); 富貴, 豪貴, 威勢力 *Bodh-c., Raṣṭr.*; 無, 滅, 断, 壊, 散, 非有, 無有, 不生, 無身, 除遣, 散滅, 散壊, 自在, 能尽除遣 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v., Lan̄k., Madhy-v., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Suvik-pr.*: bhava~ 断(一切)有 *Lal-v.*; ~ tṛṣṇāsatya [九諦の一] 無有愛諦, 断愛実 *Bodh-bh.*

vibhavatas 不変 地位に応じて(戯曲); 特別の事情に応じて.

vibhava-mati 因 [ある王女の名].

vibhava-lakṣaṇa 因 壊相 *Ratna-ut.*

vibhavavat 形 富んだ.

vibhava-hina 形 幸運を失った.

vibhavābhilāṣin 形 遠離求有 *Ratna-ut.*

vi-bhavin 形=vibhavavat.

vi-BHā, → BHā.

vi-bhā 形 輝く(因). 因 光輝, 美(圍).

vibhā-kara 男 (光を作るもの), 太陽; 王.

vi-bhāga 男 (因) 分配, 配分; (圍) 遺産の分配; 分割; (一)の分け前; 部分, 構成部分; (分数の)分子; 分離, 差別, 差異; [*Śiva* 神の称]; 散, 辨, 離, 離, 辨(離), 分散, 分析, 分析推求, 別説, 分別, 部分, 差別, 分位, 分離, 簡擇, 広分別, 分分…碎 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Lan̄k., Madhy-v., Mvyut., Ratna-ut., Sāmkhy-k., Śikṣ., Sūtr., Vajr-s.*: dhātu~m kṛtvā 分分身界碎為舍利 *Divy.*; vistara~h 広開諸相差別 *Bodh-bh.* 男 分離して, 別々に, 詳細に.

vibhāga-jña 形 (一)の差別を知る; 善知, 善分別, 知分別 *Lan̄k.*

vibhāga-dharma 男 (遺産)分割法.

vibhāga-rekhā 因 (圍)の間の境界線.

vibhāgavattā 因 分離, 差別.

vibhāgaśas 男 一部分一部分, 各部分に, 別々に; (一)に応じて; 分碎 *Bodh-bh.*

vi-bhāgita 形 (?) 剖判 *Daś-bh.*

vi-bhājaka 形 分配する; 分割する.

vi-bhājita 形 分割された.

vi-bhājya 未受分 分割されるべき.

vi-bhāṇḍa 男 [人名].

vi-bhāṇḍaka 男 [*Kāśyapa*なる父系をもつ賢者の名]; *R̥ṣyaśṛṅga*の父.

vi-bhāt 因分 (因-i) 遠くに輝く. 男 [*Prajāpati*の世界の名].

vi-bhāta 過受分 [°BHāから]. 因 夜明け.

vi-bhānu 形 輝く, 光を放つ (*Agni* 神) (RV. 用例一回のみ).

vi-bhāva 男 [*Śiva* 神の称]; 情緒を喚起する芸術的表現(修辭); 分別, 所見, 諸物 *Lan̄k.*

vibhāvaka 形 (一)を得る, 出現させる; 観察 *Sūtr.*

vi-bhāvan 形 (呼: -vas) 輝く, 光彩陸離たる.

vi-bhāvana (使役) 形 発展させる, 顕示する. 因 発展, 創造; 顕現; 認知; (心に喚起する), (一)を冥想すること; (芸術作品によってある)情緒を喚起する

こと; 観, 解, 観想, 観察, 観辯, 修習, 曉了, 剖判, 思量, 善知, 開示, 無擁, 善分別, (分別)観, 能正頭除 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Guhy-s., Lan̄k., Sūtr.*: ~bhāvanā 観修 *Abh-vy.*

vibhāvanatā 因 頭, 開示, 観察 *Bodh-bh., Sam-r.*

vi-bhāvanā 因 (原因が推測の域にとどまる)結果の表示; 修, 分別, 善知, 善分別, 観察, 壊相, 観相, 所観, 妄想 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Lan̄k., Mvyut.*

vibhāvanādhyātr 男 能観禅道, 行者修於定 *Lan̄k.*

vi-bhāvaniya 未受分 認知されるべき; 宣告されるべき.

vibhāvari 因 [vibhāvan から] (星の出ている)夜; 悪賢い女.

vibhāvari-mukha 因 (夜の開始), 夕方.

vibhāvari-kānta 男 月.

vibhāvarīsa (°rī-iśa) 男 月.

vibhā-vasu 形 さん然と輝く. 男 火; 火の神; 太陽; [神話上の王侯の名].

vibhā-vāyu 男 朝風.

vi-bhāvita (使役) 形 起こす, 出現させる; …が無い, …を欠く(仏教); 離, 壊, 遠離, 棄捨, 壊尽, 能除, 滅除, 滅尽; 観, 知, 修, 簡括, 観察, 修習已, 善解分別 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Sam-r.*

vi-bhāvin 形 威力ある; (一)を出現させる; 情緒をひき起こす; 知覚できる, 理解できる; 注意されるべき. 因 非入…に注意すべきである.

vi-bhāvi-Kṛ, 除遣 *Suvik-pr.*

vi-bhāvya 未受分 知覚できる, 認識できる; 心にかけるべき. 因 非入…に注意すべきである.

vi-BHāṣ, → BHāṣ.

vi-bhāṣā 1. 因 (仏教の)註釈書; 分別説, 広解, 広説, 種々説, 分分説 *Mvyut.*, 立応.; 音写 毘婆沙, 毗婆沙, 毗頗沙, 鼻婆沙 *Abh-vy.*, 立応.

vi-bhāṣā 2. 因 任意, 任意性. 因ときとして 因 任意に.

vi-bhāṣita 過受分 → BHāṣ.

vi-BHās, → BHās.

vi-bhās 因 光輝.

vi-bhāsa 男 [七つの太陽の一の名]; [ある Rāga].

vi-BHid, → BHid.

vi-bhidā 因 穿孔および謀反.

vi-bhinna 過受分 → BHid.; 各別, 種種, 離乖 *Bodh-bh., Sūtr.*

vibhinnāmbana (°na-āl°) 因 種々縁 *Sūtr.*

vi-BHī, → BHī.

vi-bhī 形 怖れのない.

vi-bhīta 過受分 → BHī.

vi-bhītaka 男 [樹木の名, *Terminalia Belerica*] (Br., 圍). 因 (上掲樹木の)果実(穀子として用いられる); [薬草名] 川練 *Mvyut.*; 音写 毗醯勒 梵雜.

vi-bhidaka 男 [同上] (RV., Br., S.).

vi-bhīṣana 形 驚かす, 怖がらせる. 男 [*Kubera* と *Ravana* の兄弟で, *Ravana* を敗ったのち *Rama* に

よって *Lanka* の支配者にされた高貴な *Rākṣasa* の名]; *Kāśmir* の二王の名]. ㊦ 怖れさせること; ㊦ [竜王名] 怖畏, 悪相 *Mañj-m.*, *Mvyut.*

vi-bhīṣā ㊦ 怖れさせようとする事.

vi-bhīṣikā ㊦ 脅迫, 怖がらせる方法.

vi-bhu ㊦ (㊦-ū, -vi) 遠くに広がる, 行きわたる, 遍在する; 豊富な, 永続する (㊦); 威力ある, 強力な; (㊦)の可能な, …できる. ㊦ (一°)の主・支配者・主権者 または 長; 全能の神 = *Brahmā*・*Viṣṇu* または *Śiva* 神; [Rbhu 三神の一の名, ㊦ Rbhu たち]; ㊦ 仏, 如来, 自在, 主尊, 徧主 *Guhy-s.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Ratna-ut.*, *Sūtr.*

vi-bhugna ㊦ [°BHuj から]; ㊦ 已変, 身蛇屈 *Mvyut.*

vi-bhutā ㊦ ㊦ 化(身) *Sūtr.*

vibhutva ㊦ 遍在; 全能, 最高権力; ㊦ 化, 通, 遍, 徧能, 変化, 神通, 自在, 自在力, 通力, 勢力 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Ratna-ut.*, *Sāṃkhy-k.*, *Sūtr.*: ~prāpti 能得自在 *Madhy-vibh.*

vibhutva-lābha ㊦ ㊦ 得通 *Sūtr.*

vibhutva-lābhin ㊦ ㊦ 得神通 *Sūtr.*

vibhutva-vipakṣa ㊦ ㊦ 自在障 *Madhy-bh.*

vibbhutva-vibhāga ㊦ ㊦ 諸仏変化 *Sūtr.*

vibhutva-saṃniśritā ㊦ ㊦ 勢力依止 *Sūtr.*

vibhutva-hetutva ㊦ ㊦ 自在因 *Sūtr.*

vibhumat ㊦ いたるところに広がる (RV. 用例一回のみ); *Vibhu* たち (= *Rbhu* たち) と結合した (㊦).

vi-BHū, → **BHū**.

vi-bhū ㊦ ㊦ = *vibhu*. ㊦ 自在, 周徧 *Lank.*

vi-bhūta ㊦ [°BHū から]; ㊦ 伏, 除, 離, 壊, 伏滅, 制伏, 除遣 *Bodh-bh.*; ㊦ [数名] 毗步多 *Mvyut.*

vibhūta-gama ㊦ ㊦ [数名] 毘浮因伽摩 *Lal-v.*

vibhūta-māna ㊦ ㊦ 断法門異慢 *Sūtr.*

vi-bhūti ㊦ (RV.) 広い, 豊富な; 威力ある, 力強い. ㊦ (㊦) 発達, 増加; 豊富; 力の顕現, 力(普通の意味); 最高権力, 偉大なこと; (祭式の) 首尾よき結果; 壮大, 光輝; 繁栄, 幸運; 富, 財(普通の意味: ㊦ または ㊦); 富の女神 *Lakṣmī*; 灰(まれ). ㊦ [*Viśvā-mitra* の息子]; [*Sādhya* の名]; ㊦ 妙事, 自在, 功德, 盛, 盛設, 勢力, 特殊, 嚴諸供具 *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Ratna-ut.*, *Sukh-vy. I.*

vibhūti-gama ㊦ ㊦ [数名] 維布的 *Mvyut.*

vibhūtimat ㊦ 力強い (㊦).

vibhūman ㊦ [*Kṛṣṇa* の名].

vibhūr-asi ㊦ (汝は力強い), [*Agni* 神の一形体の名]

vi-BHūṣ, → **BHūṣ** 2.

vi-bhūṣ ㊦ 裝飾のない.

vi-bhūṣaṇa ㊦ 飾る(まれ). ㊦ 飾り, 裝飾; 光輝, 美(きわめてまれ); ㊦ 嚴, 莊嚴, 嚴具, 飄揚 *Bodh-c.*, *Daś-bh.*, *Guhy-s.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*

vibhūṣaṇavat ㊦ 飾られた.

vibhūṣaṇodbhāsin (°ṇa-ud°) ㊦ 装具によって輝く.

vi-bhūṣā ㊦ 飾り, 裝飾.

vi-bhūṣita ㊦ [°BHūṣ から]; ㊦ 飾, 嚴, 嚴飾, 莊嚴, 嚴儀 *Divy.*, *Guhy-s.*, *Lal-v.*, *Lank.*,

Śikṣ.

vi-bhūṣin ㊦ (一°) で飾られた.

vi-BHṛ, → **BHṛ**.

vi-bhṛta ㊦ [°BHṛ から]; ㊦ [°BHṛ から]

vibhṛtra ㊦ 持ち運ばれる (RV.).

vi-bhetavya ㊦ [°BHṛ から]; ㊦ (㊦) を怖れるべきである.

vi-bhetṛ ㊦ 破壊者, 駆逐者.

vi-bheda ㊦ 破り去ること, 割ること; (眉を) しかるること; 交替, 変化; 攪乱; (*samam*: との間の) つれき, 不和; 差別, 差異; °一 ㊦ 諸種の… ㊦ 乖離 *Bodh-bh.*

vi-bhedaka ㊦ (㊦) を (㊦) から差別する.

vi-bhedana ㊦ 刺し通す, 割る. ㊦ 破ること; 不にすること.

vibhedin ㊦ (一°) を刺し通す; 除去する, 駆逐する

vi-bhedya ㊦ [°BHṛ から]; ㊦ 割られるべき等; ㊦ 乖離 *Bodh-bh.*

vi-BHraṃś, → **BHraṃś**.

vi-bhraṃśa ㊦ 衰微, 中止; 滅亡; (一°) の喪失.

vi-bhraṃśita ㊦ [°BHraṃś から]; ㊦ 落ちた

vibhraṃśita-jñāna ㊦ 理性を奪われた.

vibhraṃśita-puṣpa-pattra ㊦ 花と葉を落した(樹木)

vi-bhraṃśin ㊦ 落下する.

vi-BHram, → **BHram**.

vi-bhrama ㊦ あちこちに動くこと, (波が) 高まると, 不安定; 歩き廻ること; (一°, ときに ㊦) 熱烈, 度, 高度; 恋愛劇, 嬌態; 乱れ, 攪乱, 混乱; (罰の) 誤った適用; 動乱, 動揺; 心の混乱, 迷想, 誤; 幻影, 幻相, 幻; 優雅, 美; なまめかしい取乱し(女の場合とくに着物の乱れていることをいう). °一 の単なる類似; °一 単に外観上の; ㊦ (一 (それは…であった) とする妄想のもとに. ㊦ 乱迷, 誤, 迷謬, 迷没, 妄有, 迷乱, 動乱, 惑乱, 惑, 迷惑 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Kāśy.*, *Lank.*, *Sa-pr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*

vibhramārka ㊦ [人名].

vi-bhraṣṭa ㊦ [°BHraṃś から]; ㊦ 墮落, 退墮, 消滅, 毀裂 *Lal-v.*

vibhraṣṭa-timira ㊦ 闇から免れた.

vibhraṣṭa-harṣa ㊦ 喜びのない.

vi-BHrāj, → **BHrāj**.

vi-bhrāja ㊦ [王侯の名].

vi-bhrātṛvya ㊦ 敵対, 敵意.

vi-bhrānta ㊦ [°BHraṃś から]; ㊦ 欠, 乱, 散, 迷惑, 乱意(者) *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Gand-vy. Śikṣ.*

vibhrānta-nayana ㊦ 眼をキョロキョロさせる, 目動かす.

vibhrānta-manas ㊦ 心が乱れた.

vi-bhrānti ㊦ 攪乱, 動揺; 妄想, 錯誤.

vi-bhrāmana ㊦ ㊦ 迷(覆) *Śikṣ.*

vi-bhru ㊦ 王(*vibhu* の不確?).

vi-bhvan 1. ㊦ 遠くにとどく, 透入する (RV.). [*Rbhu* 三神の一の名].

vi-bhvan 2. ㊦ 熟練した. ㊦ 技術家 (RV.)

vi-Mamh, → **Mamh**.

vimacitrin 男 𑖀𑖩𑖪 音写 [阿修羅王名] 毗摩質多羅
Saddh-p.
vi-Majj, [=ni°?] 沈む。使役 沈ませる, 引き入れる。
<Majj の補遺>
vi-majjāntra 形 髓と腸がない。
vi-mata 過受分 → Man.
vi-mati 因 (因)に関する意見の相違; 嫌悪。形 鈍い,
愚鈍な; 疑, 惑, 疑惑, 顛倒, 疑念, 疑網, 疑
意, 二心, 猶予, 猶預, 愚癡暗 Abh-vy., Aṣṭ-pr.,
Bodh-bh., Mvyut., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p.,
Śikṣ., Vijñ-t.: ~ m Kṛ 疑, 言是非 Aṣṭ-pr.; ~
samudghāṭin [王子名] 除疑意 Saddh-p.; ~
śamakarīn 能断惑 Rāṣṭr.
vimatitā 因 愚鈍。
vimati-saṁdeha 男 疑惑 Bodh-bh.
vi-matta 過受分 → Mad.
vi-matsara 形 嫉妬を離れた。
vi-Math, → Math.
vi-mathita 過受分 → Math.
vi-Mad, → Mad 1.
vi-mada 1. 形 酩酊から離れた, 酔から覚めた; 発情
から離れた; 誇りを捨てた; 屏息狂醉 Divy.
vi-mada 2. 男 [神々の被保護者の名]; [Veda 讃歌の
作者の名]。中 音写 [数名] 維麻丹 Mvyut.
vi-madī-Kṛ, (象の)発情状態をとめさせる。
vi-madhya 中 (?) 中位; 中 Sūtr.
vi-madhyama 形 中者 Sūtr.
vi-Man, → Man.
vi-mana = vimanas 韻律。
vi-manas 形 正気を失った, われを忘れた, 取り乱し
た, 意気消沈した, 悲しみに沈んだ; 憂 Śikṣ.
vimanaska 形 当惑した, 悲しみに沈んだ; 憂
悩, 異心, 異意, 追悔, 意追悔, 有愁憂 Bodh-bh.
vimanāya 名動自 vimanāyate 悲嘆に沈む, 意気消
沈する。
vi-mani-Kṛ, 怒らせる。
vi-manikṛta 過受分 腹をたてた, 怒った。
vi-mantra 中 音写 [数名] 維滿多羅 Mvyut.
vi-Manth, → Math.
vi-manthana 中 攪乱。
vi-manyu 形 怒りを離れる。
vi-marda 男 粉碎すること, 傷つけること, 擦ること,
磨擦; 踏みにじること; 衝突, 遭遇, 格闘, 戦闘;
破壊, 荒廃; (一)の中絶, …の攪乱; 接触(まれ);
拒絶, 排斥(まれ); (日月などの)皆既蝕(まれ); 思量,
問難, 難撃 Bodh-bh., Sāṁkhy-k.
vimardaka 形 粉碎する, 破壊する。男 [人名]。
vimarda-kṣama 形 戦闘にふさわしい(土地)。
vi-mardana 形 圧する, 粉碎する; 破壊する。男 [妖
精の名]。中 粉碎すること; 衝突, 闘争; 破壊, 荒
廢。→ avimardana.
vimarda-saha 形 能堪忍 Bodh-bh.
vimarda-sahiṣṇu 形 堪任難撃 Bodh-bh.
vi-mardita 使役 過受分 → Mrd.
vi-mardin 形 (一)を粉碎する, 破壊する, 荒廢す
る; 駆逐する。

vi-mardha = vimarda.
vi-marma = vivarma(n).
vi-marśa 男 試験, 考慮, 反省; 議論; 聡明(まれ);
(演劇の筋の五段階の一)危機; 思量, 疑, 猶予
Abh-vy., Bodh-bh.
vi-marśana 中 試験, 反省。
vi-marśayat 過受分 精査している。
vi-marśitavya 過受分 調べられるべき, 考慮されるべ
き。
vi-marśin 形 (一)を反省する。
vi-mala 形 汚点のない, 明らかな, 輝く, 純粹な(ま
た譬喩); 透明な; 白い(象); 浄, 無垢, 離
垢, 無塵, 清浄, 離垢(仏), 無垢(天子), 離垢穢, 無有
垢穢, 遠離諸垢 Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mv-
yut., Prajñ-h., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Śik-
ṣ., Sukh-vy. I., Sūtr., Suv-pr.: ~ ā bhūmiḥ 離
垢地 Sūtr. 男 [人名]。中 [町の名]。
vimala-kiriṭa-hāravat 形 無垢の王冠と真珠の首飾り
をもつ。
vimala-kirti 男 [仏教のすぐれた居士の名]; 無
垢称, 浄名; 音写 維摩詰, 毗摩羅詰, 鼻磨羅鷄利帝
Madhy-v., 玄応。
vimalakirti-nirdeśa 男 [経名] (音写) 維摩詰経,
維摩詰所説経, 無垢称経, 説無垢称経 Madhy-v.,
Śikṣ.
vimala-garbha 男 [人名] 浄蔵, 離垢蔵 Saddh-
p.
vimalagarbha-samādhi 男 浄蔵三昧, 離垢蔵三
無 Saddh-p.
vimala-guṇa-nidhi 男 無垢功德蔵 Ratna-ut.
vimala-guṇa-yatatva 中 無垢功德具 Ratna-ut.
vimala-gaura 男 白浄 Rāṣṭr.
vimala-candra 形 [ある王の名] (仏教); 清浄月
Lalv.; ~ prabha...tāhāgata 無垢月光仏 Sūtr.
vimala-jñāna 中 清浄無塵垢大智慧 Ratna-ut.
vimalatā 因 汚点のないこと; 純粹なこと。
vimala-tejas 中 [人名] 浄威 Rāṣṭr.
vimala-datta 男 [王の名] (仏教); 浄徳, 離垢施
Saddh-p.
vimaladatta-samādhi 男 (音写) 浄徳(?) 三昧,
施離垢三昧 Saddh-p.
vimala-dattā 因 [人名] (仏教) 浄徳, 離垢施
Saddh-p.
vi-malanā 因 [<Skt. vimalayati+ana] 清めること
(仏教); 演習(?) Mvyut.
vimala-netra 男 [仏陀の名]; [王の名] (仏教); 浄
眼, 離垢目 Saddh-p.
vimala-piṇḍaka 男 [ある Nāga の名]。
vimala-pura 中 [ある町の名]。
vimala-pradipa 男 無垢燈 Mvyut.
vimala-prabhā 因 [ある王女の名]; 無垢光明,
光明清浄 Suv-pr.
vimala-prabhāsa 男 [仏名] 離垢光明 Lal-v.
vimalaprabhāsa-samādhi 男 (音写) 浄光明三昧,
離垢光三昧 Saddh-p.
vimala-buddha-guṇa 男 仏無量功德, 無垢諸仏

功 *Ratna-ut.*
vimala-buddhi 男 [人名].
vimala-maṇi-guṇa 男 大瑠璃明淨離垢功德 *Ratna-ut.*
vimala-mati 形 心の清浄な.
vimalaya 名動 他 明らかにするまたは清浄にする.
vimala-raśmi 男 浄光 *Guhya-s.*
vimala-vipula-bodhi 男 女 広浄菩提 *Sūtr.*
vimala-vega-śri 女 無垢力勝, 魚垢力祥 *Mvyut.*
vimala-vaiḍūrya-pṛthivī 女 無垢清浄瑠璃地 *Ratna-ut.*
vimala-samādhi 男 (音写) 離垢三昧 *Bodh-bh.*
vimalā 女 [Gandharva 女の娘の名]; 離垢, 無垢 *Bodh-bh., Lal-v., Mvyut., Sūtr.:* ~bhūmi 離垢地 *Bodh-bh.*
vimalākara (°la-āk°) 男 [王の名].
vimalātmaka (°la-āt°) 形 心が清浄な.
vimalātman (°la-āt°) 形 [同上].
vimalānana (°la-ān°) 男 [仏名] 離垢面, 無垢面 *Sukh-vy. I.*
vimalāmbu 中 清浄池水 *Ratna-ut.*
vimalāśoka 男 または 中 [巡礼地の名].
vimalāśraya (°la-ās°) 男 無垢界 *Ratna-ut.*
vimalāśvā 女 [ある村の名].
vī-maliman 男 清浄なこと, 明澄なこと.
vimalodakā (°la-ud°) 女 [ある河の名].
vimalodā (°la-udā°) 女 [同上].
vi-mastakita 名動 過受分 首を切られた.
vi-mahat 形 巨大な,
vi-Mā, → *Mā* 1.
vi-māmsa 中 悪いまたは禁じられた肉.
vi-mātr 女 継母.
vimātr-ja 男 継母の子.
vi-mātra 形 種々 *Gand-vy.*
vimātratā 女 種々, 差別, 不同, 種々不同, 種々差別 *Aṣṭ-pr., Gand-vy., Sam-r.*
vi-mātha-kara 形 滅, 能破 *Gand-vy.*
vi-māthin 形 打ち倒す (譬喩).
vi-māna 1. 形 (女-i) 測量する, 横切る (因, 叙詩). 男 または 中 (園) (神々の) 天上の戦車; 空中の車; 車, 棺架(まれ); (七階の) 宮殿; 塔(まれ); 宮, 処, 殿, 妙宮, 宮殿, 室宅, 天宮, 梵宮, 楼閣, 台観 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Divy., Gand-vy., Lal-v., Lan̄k., Mañj-m., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr., Sv-pr.*
vi-māna 2. 形 辱しめられた, 名誉を傷つけられた, 侮辱された. 男 軽蔑; 軽, 毀, 不遂 (=不敬?) *Sūtr., Sv-pr.*
vimānaka 形 一° = *vimāna* 1., 天上の車.
vimānatā 女 天上の車の状態.
vimānatva 中 [同上].
vi-mānana 中 不敬, 侮蔑, 屈辱; 拒絶(まれ).
vi-mānanā 女 [同上]; 軽慢 *Gand-vy.*
vimāna-pāla 男 天上の車の守護者.
vimāna-pratima 形 天上の車に類似する.
vimāna-yāna 形 天上の車で行く.

vi-mānayatavya 未受分 軽蔑されるべき.
vi-māna-lajja 形 不遂羞 *Sūtr.*
vimāna-śreṣṭha 中 妙楼閣 *Saddh-p.*
vimāna-harmya 中 七層の大宮殿.
vi-mānita 過受分 [°Manから] 軽蔑された, 名誉を傷つけられた.
vi-māni-Kṛ, 空中の車にする.
vi-mānya 未受分 軽蔑または侮辱されるべき.
vi-mārga 男 悪路; 不正の進路. 形 道をふみはずす 悪い道に入る.
vi-mārgaṇa 中 (誰か園) を探すこと.
vimārga-dṛṣṭi 形 誤った方向に眼を向ける.
vimārga-prasthita 過受分 = *vimārga* 形.
vimārga-sṭha 形 [同上].
vi-mita 中 (四本の柱で建てられた) 建築物, 宮殿.
vi-misra 形 混合した, 混ざりあった, 雑多の; (園一°) と混ざりあったまたはと結合した.
vimisraya 名動 *vimisrayati* 混合する.
vi-misrita 過受分 極雑乱 *Mañj-m.* → *miśray.*
vi-mukta 過受分 → *Muc.*; 離, 脱, 却, 消滅, 無解, 解脱, 遠離, 得解脱, 善解脱, 已解脱, 得脱, 已得解脱 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-v., Lan̄k., Mvyut., Ratna-ut., Saddh-p., Saṣṭ-pr., Sūtr.:* argala ~ 却関論 *Saddh-p. 249.*; *dukhād ~ ḥ* 脱苦 *Sūtr.*; ~ *ḥ paridāghaiḥ* 解諸熱 *Mvyut.* → *avimukta.*
vimukta-kaṇṭha 形 一° または ~ *m* 声をかぎに (叫ぶ).
vimukta-keśa 形 髪がほどけた.
vimuktatā 女 (園) の喪失.
vimukta-maunam 副 沈黙をすてて.
vimukta-saṅga 形 (世俗的な) 関係を絶ち切った.
vi-mukti 女 分離; 解放すること; (園一°) から放免または救助; 最終的な解脱; 脱, 離, 遠解, 解脱, 最解 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Gand-vy Lal-v., Lan̄k., Madhy-vibh., Mvyut., Rāṣṭr Ratna-ut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.;* 二種解脱 *samayavimuktiḥ* 時解脱, 2. *asamaya ~* 不時脱] *Mvyut.*
vimukti-kāya 男 解脱身 *Vijñ-t.*
vimukti-candra 男 解脱月 *Daś-bh.*
vimukti-jñāna 中 解脱智 *Sūtr.*
vimuktijñāna-darśana 中 解脱智, 解脱知見, 解脱智見 *Aṣṭ-pr., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr., Vir*
vimuktijñānadarśana-skandha 中 解脱智見 *Aṣṭ-pr.*
vimukti-rasa 男 脱解一味 *Ratna-ut.*
vimukti-tulyatva 中 解脱同 *Sūtr.*
vimukti-dharma-kāya 男 解脱身法身 *Ratna-*
vimukti-paripācini 女 成熟解脱 *Mudhy-bh.*
vimukti-paryeṣṭi 女 求解脱 *Sūtr.*
vimukti-lakṣaṇa 中 解脱相 *Sūtr.*
vimukti-samatā 女 解脱同 *Sūtr.*
vimukti-sāmānya 形 同解脱 *Sūtr.*
vimukti-skandha 中 衆解脱, 解脱蘊 *Aṣṭ-p Vin.*

vimukty-āyatana 田 解脱処, 解脱入 *Abh-vy.*
 vimukty-eka-rasatā 田 解脱一味 *Lank.*
 vi-mukha 形 顔をそむけた, 後ろを振り向いた; (圓) から顔をそむける, 失望して去る; (囹, 困, 圖+upa-ri, 一°)を嫌う, をやめる; (一°)に無關心な; 逆の(運命); 一°の欠けた; 背, 絶, 厭, 向背, 乖背, 厭背, 背面, 棄背, 違背, 能超, 不現前, 不現在前, 無所貪染 *Abh-vy., Bodh-bh., Buddh-c., Gand-vy., Sūtr.* → avimukha. ~ṃ Kṛ 逃走させる.
 vimukhatā 田 (困, prati, 一°)を嫌うこと; 背捨 *Ratna-ut.*
 vimukha-pūjā 田 不現前供養 *Bodh-bh.*
 vimukhaya 名動 田 vimukhayati 嫌わせる.
 vimukhita 過受分 嫌う, 敵対する.
 vi-mukhi-karaṇa 田 (一°)を嫌わせること.
 vi-mukhi-Kṛ, 逃走させる; 追いはらう; (困, 一°)を嫌わせる またはに無關心にさせる; 挫折させる; 深生厭離 *Gand-vy.*
 vimukhi-bhāva 男 嫌悪.
 vimukhi-BHū, 背をむける, 逃げる; (困)から顔をそむける; 遠離, 背捨, 背 *Gand-vy.*
 vi-mugdha 過受分 → Muh.
 vimugdhatā 田 愚かなこと, 愚鈍.
 vi-Muc, → Muc.
 vi-muc 田 (RV.) 軛をとりはずすこと, 下車すること. ~co napāt 案内者 (*Pūṣan* のこと).
 vi-muca 男 [ある Ṛṣi の名].
 vi-muda 男 [数名] 離橋慢 *Mvyut.*
 vi-mudraṇa 田 拡大させること.
 vi-Muṣ, → Muṣ.
 vi-muṣayat 現分 → Muṣ.
 vi-muṣṭa 過受分 → Muṣ.
 vi-Muh, → Muh.
 vi-mūḍha 過受分 → Muh.; 癡, 愚癡, 迷惑, 迷堅固 *Lank., Raṣṭr., Śikṣ.*
 vi-mūḍhātman (°ḍha-āt°) 男 愚癡人 *Ratna-ut.*
 vi-mūrchita 過受分 → Mūrch.; 迷悶 *Divy.*
 vi-mūrta 過受分 → Mūrch.
 vi-mūrdha-ja 形 禿げた.
 vi-mūla 形 根を抜かれた(また譬喩).
 vi-Mṛ, → Mṛ 2.
 vi-mṛkta 過受分 遠離 *Lank.*
 vi-mṛkti 田 離 *Lank.*
 vi-mṛga 形 野獣のいない(森).
 vi-mṛgya 未受分 求められるべき.
 vi-Mṛj, → Mṛj.
 vi-mṛtyu 形 不死の.
 vi-Mṛd, → Mṛd.
 vi-mṛdita 過受分 粉碎された.
 vi-Mṛś, → Mṛś.
 vi-mṛśa 男 = vimarśa.
 vi-mṛśat 現分 推求 *Bodh-bh.*
 vi-mṛśita 過受分 [°Mṛś から] = 2. vimṛṣṭa.
 vi-mṛśya 1. 未受分 [°Mṛś から] 試みられるべき, 試験されるべき.

vi-mṛśya 2. 不變 [°Mṛś から] 熟考してまたは考えて.
 vimṛśya-kārin 形 熟考の後に(不變分)はじめて行なう.
 vi-mṛṣṭa 1. 過受分 → Mṛj.
 vi-mṛṣṭa 2. 過受分 [°Mṛś から] 考えられた, 試みられた等.
 vimṛṣṭa-kāñcana-nibha 形 真金色 *Av-ś.*
 vi-moka 男 軛をとりはずすこと, 分離, 終結; (困, 一°)からの解放; (現世からの)解脱.
 vi-moktavya 未受分 解放されるべき; 放棄されるべき; (圖, 困)に発射されるべき.
 vi-mokṣa 男 ゆるむこと, ほどけること; (困, 一°)からの解放または救助; (魂の)救済, 解脱; (盗人を)釈放すること; 放棄; (涙を)流すこと; (富を)与えること; (矢を)放つこと; 解, 解脱 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gand-vy., Lank., Raṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Sam-r., Saṃkhy-k., Śikṣ., Sūtr.:* duḥkha ~ 苦解脱 *Bodh-bh.;* tri ~ mukha 三解脱門 *Aṣṭ-pr., aṣṭau ~ śāḥ* 八解脱 [1. rūpī rūpāṇi paśyaty ayam prathamo vimokṣaḥ 有色観諸色是第一解脱, 2. adhyātmam arūpasamjñī bahirdhā rūpāṇi paśyaty ayam dvitīyo vimokṣaḥ 内無色想観外諸色是第二解脱, 3. śubham vimokṣam kāyena sākṣātkṛtvopasampadya viharaty ayam tṛtīyo vimokṣaḥ 淨解脱身作証具足住是第三解脱, 4. sa sarvaśo rūpasamjñānām samatikramāt pratighasamjñānām astamgamān nānā-tvasamjñānām amanasikārād anantam ākāśam ity ākāśānantyāyatanam upasampadya viharat, ayam caturtho vimokṣaḥ 超一切色想滅有対想不思惟種種想入無辺空空無辺処具足住是第四解脱, 5. sa sarvaśa ākāśānantyāyatanam samatikramyānantam vijñānam iti vijñānānantyāyatanam upasampadya viharaty ayam pañcamo vimokṣaḥ 超一切空無辺処入無辺識識無辺処具足住是第五解脱, 6. sa sarvaśo vijñānānantyāyatanam samatikramya nāsti kiñcid ity ākiñcanyāyatanam upasampadya viharaty ayam ṣaṣṭho vimokṣaḥ 超一切識無辺処入無少所有無所有処具足住是第六解脱, 7. sa sarvaśa ākiñcanyāyatanam samatikramya naivasamjñānāsamjñāyatanam upasampadya viharaty ayam saptamo vimokṣaḥ 超一切無所有処入非想非非想具足住是第七解脱, 8. sa sarvaśo naivasamjñānāsamjñāyatanam samatikramya samjñāveditanirodham kāyena sākṣātkṛtvopasampadya viharaty ayam aṣṭamo vimokṣaḥ 超一切非想非非想処入想受滅身作証具足住是第八解脱] *Mvyut. 70.*
 vimokṣaka 形 一°を解放する(者).
 vimokṣa-jñāna 田 解脱門智 *Ratna-ut.*
 vi-mokṣaṇa 形 (一°)から自由にする; (髪を)解く. 田 (困, 一°)からの放免または救助(通常の意味); 放棄; (卵を)生むこと; 解脱, 流 *Abh-vy., Divy.*
 vimokṣa-trāya 田 三解脱 *Lank.*
 vimokṣatrāya-cārin 形 修三解脱, 修行三解脱 *Lank.*

vimokṣa-dvāra 甲 門, 解脱門 *Sam-r.*
 vimokṣa-dhyāyin 形 入解脱禪者 *Sutr.*
 vimokṣa-nimittam 副 為解脱 *Sāmkhy-k.*
 vimokṣa-bhavana 甲 解脱処 *Gaṇḍ-vy.*
 vimokṣa-mukha 甲 解脱門 *Aṣṭ-pr., Ratna-ut., Sam-r., Sutr.:* trīṇi ~ āni 三解脱門 [1. śūnyatā 空, 2. animittam 無相, 3. apraṇihitam 無願] *Mvyut.*
 vimokṣaya 名動 他 vimokṣayati 自由にする等.
 vimokṣa-viśeṣa 男 解脱勝 *Sutr.*
 vimokṣārtham 副 為脱, 為令解脱 *Sāmkhy-k.*
 vi-mokṣin 形 最終的な解脱をえた; 度 *Daś-bh.*
 vi-mokṣya 形 拔濟 *Bodh-bh.*
 vi-mogha 形 全く無益な; 虚妄 *Raṣṭr.*
 vi-mocaka 形 (一°)から放免するまたは救う; 解脱, 度脱, 能離 *Mañj-m., Saddh-p., Sutr.*
 vimocakatva 甲 能令一切衆生得解脱 *Sutr.*
 vi-mocana 形 (女-i) (一°)から自由にする. 甲 軛を取りはずすこと, 降りること(RV.); (仕事から)免除されること(吠); (從)からの救助(圍); 解脱, 令解脱, 令他解脱, 令他得解脱 *Bodh-bh., Madhy-bh., Madhy-vibh., Sutr.*
 vimocanātā 女 令免 *Gaṇḍ-vy.*
 vi-mocayitr 形 令脱 *Bodh-bh.*
 vi-mocita 使役 過受分 放免された等.
 vi-mocya 未受分 解放されるべき; 離 *Bodh-c.*
 vi-moha 男 心の混乱.
 vimohaka 形 (女-ikā) 心を混乱させる.
 vimoha-da 形 心の迷いを生ずる.
 vimohana 形 (心を)混乱させる. 甲 混乱; (心を)混乱させること.
 vi-mohita 使役 過受分 → Muh.; 所迷惑 *Raṣṭr.*
 vi-mauna 形 沈黙を破る.
 vimba = bimba; 像, 影像 *Lank.*
 vimbāka = bimbaka.
 vimbara = bimbara; 音写 頻婆羅, 頻婆囉 *Lank., Sukh-vy. I.*
 vimbi-sāra = bimbisāra; 音写 頻婆娑羅 *Aṣṭ-pr.*
 vimbopadhāna = bimbopadhāna.
 vi-Mrad, → Mrad.
 vi-Mrit, → Mrit.
 vi-Mlā, → Mlā.
 vi-mlāna 過受分 → Mlā.
 viyac-cara 形 空中を動く.
 vi-Yat, → Yat.
 vi-yat 1. 形 [現分 I から: 離れて行く, 伝播する] 出発する(まれ).
 vi-yat 2. 甲 (天地の間の)中間世界, 空; 大気; (元素としての)虚空(まれ).
 vi-yata 過受分 → Yam.
 vi-yati 男 [*Nahuṣa* の息子の名].
 viyat-patākā 女 (天空の旗), 電光.
 viyat-stha 形 空中にとどまる.
 viyad-gata 過受分 空中を動くまたは飛ぶ.
 vi-yantr 形 先導者を失った.

viyan-madhyā-haṃsa 男 太陽.
 viyan-maya 形 (女-i) 空気からなる.
 vi-Yam, → Yam.
 vi-Yā, → Yā.
 vi-yātātā 女 厚顔, 大胆不敵.
 viyāsa-gata 過受分 [*vyāsagata* の韻律] 受衆苦 *Suv-pr.*
 vi-Yu, → Yu 1.
 vi-yukta 過受分 → Yuj; 離, 脱, 遠離, 相離, 乖離 *Abh-vy., Buddh-c., Cat-ś., Lank., Ratna-ut., Śikṣ.*
 viyuktatva 甲 離, 不相応 *Abh-vy.*
 vi-Yuj, → Yuj.
 vi-yuta 過受分 → Yu 1.
 vi-yūtha 形 群から離れた.
 vi-yūha 男 = vyūha; 巖, 莊巖 *Gaṇḍ-vy., Lav., Sam-r., Śikṣ.*
 vi-yūhana 甲 = vyūhana. 莊巖 *Gaṇḍ-vy.*
 vi-yoga 男 (圓 ±saha, 從, 一°) からの分離, の喪失; 出発; 不在, 不足; (一°)の抑制; 無離, 斷, 捨, 散, 分離, 別離, 離散, 乖離, 離繫, 分析, 不相応 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Buddh-c., Divy., Madhy-vibh., Mvyut., Ratna-ut., Sāmkhy-k., Śikṣ., Vijñ-t.:* ~ m pra-Ā 滅, 斷 *Śikṣ.* ~ ena, ~ tas 副 (圓, 一°) が不在のために欠けているので. ~ m Gam 失う.
 viyoga-pura 甲 [ある町の名].
 viyogavat 形 (恋人から)離別した.
 viyogāvasāna 形 ついに分離し終る.
 viyogāśaya (°ga-āś°) 形 離心 *Sutr.*
 vi-yogitā 女 分離.
 vi-yogin 形 (一°)から引き離された(恋人).
 vi-yojana 甲 (一°)からの解放; (一°)からの分離
 vj-yojaniya 未受分 (圓)を奪われるべき.
 vi-yojita 使役 過受分 → Yuj.
 vi-yojya 未受分 (從)から分離されるべき.
 vi-yodha 形 戦士のいない.
 vi-yoni 女 動物の子宮; 下賤の出生, 動物, 動植物 形 子宮のない; 下賤の生れの.
 viyoni-ja 男 動物.
 vi-yoni 女 = viyoni
 vi-rakta 過受分 疎外された等. → Raj; 捨, 離食, 離染, 離欲, 無染心, 無愛憎, 離諸染著, 諸垢染 *Abh-vy., Buddh-c., Divy., Gaṇḍ-vy. Mvyut., Ratna-ut.*
 virakta-prakṛti 形 重臣が不満を抱く.
 virakta-bhāva 形 不満を抱く.
 virakta-hṛdaya 形 [同上].
 vi-rakti 女 (因, 圓)とともに upari, (業)とともに prati) 無関心なこと; (世俗にたいする)執着を離れていくこと.
 viraktimat 形 (因)にたいして無関心な; (現世俗にたいする)執着から自由になった.
 vi-Rakṣ, 甲 守る, 保護する.
 vi-raga 甲 [高単位の数]; 毗羅伽 *Mvy.*
 vi-Rac, → Rac.

- vi-racanā 因 配置, 裝飾. alakānām~ 綺麗に結ばれた頭髮.
- vi-racayitavya 未受分 作られるまたは形成されるべき.
- vi-racita 過受分 使役 → Rac.
- viracitā 因 [人名].
- viracita-pada 形 言葉を整えたまたは詩的な(作品等).
- viracita-vāc 形 演説を作成した.
- viracitokti [°ta-uk°] 形 [同上].
- vi-raja 形 塵埃のない, 清潔な, 純粋な(また譬喩); 激情から自由な; 離 (= virajas) 浄, 離, 離垢, 遠塵, 無垢, 無塵, 離塵, 無穢, 離欲, 離諸塵, 離垢穢, 離塵垢, 無有塵垢, 離於諸煩惱 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.* 男 [諸人の名]; 因 [神々の一部類の名]. 因 [巡礼地の名].
- virajaḥ-prabha 男 離垢光, 無垢光 *Sukh-vy. I.*
- virajaḥ-prabhāsavati 因 無垢光, 離垢光明 *Gaṇḍ-vy.*
- viraja-dhvaja 男 [世界 (lokadhātu) の名]; [菩薩の名]; 涌幢 *Suv-pr.*
- viraja-pada-vajra 男 [三摩地の名] 離塵金剛 *Guhya-s.*
- vi-rajās 形 = viraja (時として virajasa-). 男 [人名].
- viraja-samādhi 男 定, 勝定, 寂定, 離垢定 *Sam-r.*; (音写) 膳浄三昧, 浄勝三昧 *Sam-r.*
- virajaska 形 塵埃のない; 無垢, 除垢塵 *Daś-bh.* 男 [*Manu Sāvarni* の息子の名].
- virajas-karaṇa 因 塵埃をなくすこと, 浄めること.
- vi-rajā 因 [植物の名, *Panicum dactylon*].
- vi-raji-Kṛ, 塵埃をなくす, 浄める.
- vi-rañca, -rañci, -rañcya 男 [梵天 *Brahmā* の称].
- vi-Rañj, → Raj.
- vi-rañjita 使役 過受分 → Raj.
- virāḍi-kṛta 過受分 [virāḍa 仏教 = virala '乏しい, 稀な, まばらの' から]; 散 *Lal-v.*
- vi-Raṇ, 使役 virāṇayati 反響させる. <Raṇ の補遺>
- vi-rata 過受分 → Ram. 止めた等. 因 → Ram; 所離 *Abh-vy.* → avirata.
- viratatva 因 中止.
- virata-prasaṅga 形 (因) に従事することを止めた.
- vi-rati 因 中止; 終り; (因, 因, 一°) を止めること. 避けることまたはの放棄; 離, 遠離, 棄捨 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*; 善 *Madhy-v.* → āvirati.
- vi-ratha 形 車のないまたはを奪われた.
- vi-rathi-karaṇa 因 車を奪うこと.
- vi-rathi-Kṛ, の(戦)車を奪う.
- vi-rathi-BHū, の車を奪われる.
- vi-Rad, → Rad.
- vi-Rapś, → Rapś.
- vi-rapśa 形 (因-i) 豊富な (RV.). 男 豊富(RV.).
- vi-rapśin 形 豊富な, 精力旺盛な(因).
- vi-Ram, → Ram.
- vi-rama 男 中止, 減少; 日没; (一°) を避けること; 離, 遠離 *Abh-vy.*
- vi-ramaṇa 因 中止; (一°) を避けること; 不離 *Aṣṭ-pr.*, *prāṇātipāta* ~ 不殺生, 離害生命 *Aṣṭ-pr.* → *mithyādarśana* ~.
- vi-ramita 過受分 停止した.
- vi-rala 形 遠く離れた, まばらの; ゆるんだ; 稀な, 珍しい, 乏しい, わずかな; 疎 *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*; 駁奪 *Divy.* ~h ± ko'pi あちこちにまたはちらほら誰かがいる. °— および ~m 副 まばらに, 稀に → *avirala*.
- viralatā 因 稀なこと.
- virala-danta 形 落齒, 露齒, 齒牙疎 *Mvyut.*, *Saddh-p.*
- virala-bhakti 形 単調な.
- viralikā 因 [衣服の一種]; 縷布 *Mvyut.*
- viralita 過受分 遠くに離れておかれた(a- の形で使用される). → *aviralita*.
- vi-rali-Kṛ, 散らす; (林を)すかす.
- virali-bhūta 過受分 非常に稀になった.
- vi-raśmi 形 光線のない.
- vi-Ras, → Ras 1.
- vi-rasa 形 味のない, 味のうすい, 悪い風味の; 不快な, 気持の悪い; (一°) に趣味をもたない. 男 [ある悪鬼の名]. ~m 副 不快な方法で.
- virasatva 因 悪い味, 嘔気を催すこと.
- vi-rasi-Kṛ, 不快にさせる.
- vi-rasi-BHū, 不快を覚える.
- vi-Rah, → Rah.
- vi-raha 男 (因, 一°) からの分離(恋人同志について); (因, 一°) の不在または欠如. 形 一° を欠いている; 無, 離 *Lank.*, *Sūtr.*
- viraha-guṇita 過受分 分離のゆえにいや増した.
- viraha-ja 形 不在によって生じた.
- viraha-duḥkha 因 別離苦 *Bodh-bh.*
- vi-rahita 使役 過受分 → Rah; 除, 離, 滅, 無, 乏, 捨, 捨離, 棄捨, 不得, 喪失, 不親近 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Lal-v.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.* → *avirahita*, *ātmavirahita*.
- virahitatva 因 離 *Bodh-bh.*
- vi-rahin 形 (一°) から分離したまたは別れた(恋人同志について); 不在の; (一°) を避けるまたは免れる.
- vi-rahī-Kṛ, 分離する.
- vi-rāga 男 色の喪失; (因, 因, 一°) を嫌うこと(人について)またはに無関心なこと(物について); 俗事に無関心なこと. 形 種々の色をした, 雑色の; 激情を離れた, 無関心な; 離, 離果, 離欲, 離貪, 離染, 遠離, 離障, 離貪欲, 離煩惱, 斷煩惱, 無染欲 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Ratna-ut.*, *Sāṃkhy-k.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*; (音写) [数名] 維那剛 *Mvyut.*
- virāga-koṭy-anugata 過受分 住離貪際, 順離欲際 *Gaṇḍ-vy.*
- virāgatā 因 すべてのことにたいする無関心; 不随順, 不貪愛 *Sam-r.*

virāga-dharma 男 離法 Ratna-ut.
 virāgadharma-kāya 男 離垢法身 Ratna-ut.
 virāgaya 名動 virāgayati [=Pali. virāgeti, ārāgayati の対] (業)を嫌う・不快な気持ちにする。または不快にする；…から顔をそむける・を避ける。またはを除く；(因)をいとわしめる；厭 厭, 離, 倦, 厭背, 違離, 不值遇, 令不愛樂 Ast-pr., Bodh-bh. Divy., Gaṇḍ-vy., Mvyut.: na~ 不令厭, 生歡喜心, 得無厭心, 常不離 Gaṇḍ-vy., Mvyut.; śāstār-am ārāgayeyam mā virāgayeyam 得導師承事無倦 Divy. → ārāgaya.
 virāga-hetu 男 離因, 断煩惱因 Ratna-ut.
 vi-rāgita 形 (一°)に嫌悪感をもつ；背, 違犯, 毀破, 不得遇 Raṣṭr., Sam-r., Vajr-pr.
 vi-rāgitā 女 嫌うこと, 嫌悪；離 Ratna-ut.
 vi-rāgin 形 (因)を嫌悪する。またはに気乗りしない；貪 Ratna-ut.
 vi-Rāj, → Rāj.
 vi-rāj 形 (因)支配する；光り輝く。男 [困-rāt] 首長, 支配者, 主。女 女王；崇高(因)。女 (因)または男 (困) [思索の結果, 考え出された神的存在の名, Puruṣa, Prajāpati, Brahmā, Agni, そして後には Viṣṇu と同一視され, 時に Puruṣa, Prajāpati, Brahmā または Viṣṇu の娘(または息子)として現われる；Brahmaṇa 文献では種々の空想的寓話の主題とされる；Vedānta における virāj は多彩の光輝を発するがゆえに肉体によって条件づけられた Ātman を意味する]；[主として 10 音節の pāda をもつ種々な Veda 韻律の名]；微妙, 端嚴, 微蔵 Mvyut.
 vi-rāja 形 光り輝く。男 [人名].
 vi-rājat 現分 輝いた。
 vi-rājita 過受分 → Rāj. 輝いた, 莊嚴された；莊嚴, 晃耀, 出光明, 離諸塵, 離諸塵翳 Av-ś., Divy., Suv-pr.
 vi-rājin 形 光り輝く。
 vi-rājya 中 至上権, 統治権。
 vi-rāta 男 [Matsya 族の王の名].
 virāta-nagara 中 Virāta 族の市。
 virāta-parvan 中 [Mahābhārata のある章の名].
 virāttva 中 十または十重であること。
 virāt-suta 男 [ある祖霊群の名].
 vi-rātra 男 または 中 夜の終り。~e 中 夜の終りに。
 vi-rāddhṛ 男 侮辱者。
 vi-Rādh, → Rādh.
 vi-rādha 男 [ある Rākṣasa の名].
 virādha-gupta 男 [人名].
 virādha-han 男 Virādha の殺戮者, [Viṣṇu (Rāma) 神の称].
 vi-rāma 男 中止；終結, 終り；語または文の末尾, 終止, 休止(文法)；pāda の終り, pāda 中の中間休止；[子音文字の文に附して母音 a の含まれていないことを示す符号(本来は一文の末尾に限る)]. 一° 中 …で終る(文法)。~m Yā 休む；終結する。
 vi-rāva 男 叫び, 喧騒, 咆吼, 騒音；[馬の名].
 vi-rāvaṇa 形 騒音をたてる；叫ばせる。

vi-rāvita 過受分 → Ru 1.
 vi-rāvin 形 叫ぶ, 囀る, 吼える, 唸る；(因)で響く。男 [Dhṛtarāṣṭra の息子].
 vi-rikta 過受分 → Ric；変, 排出 Bodh-bh., Prāt-m.
 vi-Ric, → Ric.
 vi-riñca 男 [梵天の名]；[Viṣṇu 神の名].
 vi-riñcatā 女 Viriñca たること。
 viriñca-saṃvāda 男 梵天との対話。
 vi-riñci 男 =viriñca.
 vi-riñcyā 男 =viriñca.
 vi-riphita 過受分 → Riph.
 vi-ribdha 男 調子, 語勢。
 vi-riraṃsā 女 抑制しようと思むこと。
 vi-riṣṭa 過受分 → Riś.
 vi-Ri, → Ri.
 vi-Ru, → Ru 1.
 vi-rukmat 形 輝く, きらめく (RV.)。男 輝かしい裝飾 (RV.)。
 vi-Ruc, → Ruc.
 vi-ruca 男 [ある呪文の名].
 vi-Ruj, → Ruj.
 vi-ruj 女 激しい苦痛, 重い病氣。
 vi-ruja 形 1. 苦痛をおこす；2. 苦痛のない, 健康な。
 vi-ruta 過受分 → Ru 1. 中 叫び, 唸り, (鳥の)囀り, ぶんぶんいう音, 騒音；雑音響 Lal-v.
 vi-ruti 女 [同上中].
 vi-Rud, → Rud.
 vi-ruda 男 中 (散文と韻文をもって王に捧げる)頌詞。
 viruda-dhvaja 男 王の旗。
 viruddha 過受分 → Rudh 2. 違, 反, 壊, 諍, 相違, 反叛, 叛逆, 反逆, 違諍, 違害, 残害, 乖違, 忿諍, 犯復, 叛逆不順, 拒逆不従 Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Mvyut., Nyāy-pr., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr. 中 (=rūpaka 修辭) 矛盾する比喩(の一種) [甲を乙に喩える場合, 乙に存在する機能を甲が有することを否定し, 乙に存在せざる機能を甲が有することを肯定する]。男 [ある神群の名].
 viruddhatā 女 矛盾, 反対, 鬭争。
 viruddhatva 中 [同上]；不一致；敵意；離, 永背 Lanḅ. → mokṣadharmā~.
 viruddha-dhi 形 敵意を抱く。
 viruddha-hetuka 男 相違因 Nyāy-pr.
 viruddhāvyabhicārin 形 相違決定 Nyāy-pr.
 vi-Rudh, → Rudh 2.
 vi-rudhira 形 血を失った。
 vi-ruṣyamāṇa 現分 怒った, 怒りっぽい。
 vi-Ruh, → Ruh.
 vi-rūkṣa 形 粗い；ざらざらした。
 vi-rūkṣaṇa 中 粗くすること, 収斂剤のように行動すること。
 vi-rūkṣaṇiya 形 粗くすることに適した；悪口されべき。
 vi-rūḍha 過受分 → Ruh；出生 Gaṇḍ-vy.
 vi-rūḍhaka 男 中 発芽しはじめた穀物。男 [Kumb]

anḍa 族の王の名] (*Lal-v.*); [*Lokapāla* の名], *Prasenajit* の息子の名], [*Ikṣvāku* の息子の名] (仏教); 𑖀𑖩𑖪 [王名, 波斯匿王の太子の名] 増長, 勝生, 爽善 *Divy.*, *Mvyut.*, *Suv-pr.*, 玄奘; 𑖀𑖩𑖪 毘留勒, 毘楼勒, 毘留勒叉, 毘婁勒叉, 毘流離, 毗離, 毗楼勒迦, 鼻溜茶迦 *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Sam-r.*, *Suv-pr.*

virūḍhaka-kumbhāṇḍa 𑖀𑖩𑖪 𑖀𑖩𑖪 𑖀𑖩𑖪 毘楼勒叉鳩槃荼 (王) *Gaṇḍ-vy.*

virūḍha-tṛṇānkura 𑖀𑖩𑖪 若草が生い茂った。

virūḍha-bodha 𑖀𑖩𑖪 知性が生じた。

vi-rūḍhi 𑖀𑖩𑖪 発芽する; 𑖀𑖩𑖪 著 *Sūtr.*

vi-rūḍhita 𑖀𑖩𑖪 𑖀𑖩𑖪 増長 *Ratna-ut.*

vi-rūpa 𑖀𑖩𑖪 多色の, 多種の; 変化した; (一°) とは異なる; 異なった形体をもつ('同じ意味をもつ' (文法) の対); 形を損じた, 出来ぞこないの, 醜い(普通の意味)。

𑖀𑖩𑖪 [ある *Asura* の名]; [ある *Veda* 詩人の名等]. 𑖀𑖩𑖪 畸形, 醜いこと; 𑖀𑖩𑖪 悪, 広, 不似, 醜陋, 醜悪, 形鄙陋, 色相不具 *Av-s.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Sāṃkhy-k.*, 梵千。

vi-rūpaka 𑖀𑖩𑖪 (𑖀𑖩𑖪 -ikā) 形を損じた, 醜い; 不似合いな。𑖀𑖩𑖪 醜悪(ある人間の称); 𑖀𑖩𑖪 醜陋 *Śikṣ.*

virūpa-karaṇa 𑖀𑖩𑖪 (𑖀𑖩𑖪 -i) 形を害なう。𑖀𑖩𑖪 形を害なうこと; 害を加えること。

vi-rūpaṇa 𑖀𑖩𑖪 形を害なうこと。

virūpatā 𑖀𑖩𑖪 多様なこと; 醜いこと。

virūpa-dhṛk 𑖀𑖩𑖪 畸形の; 醜い。

virūpa-rūpa 𑖀𑖩𑖪 [同上]。

virūpa-śakti 𑖀𑖩𑖪 [ある妖精の名]。

virūpa-sarman 𑖀𑖩𑖪 [ある婆羅門の名]。

virūpākṣa 𑖀𑖩𑖪 (𑖀𑖩𑖪 -i) 不具の眼をもつ; 種々の仕事をもつ。𑖀𑖩𑖪 [ある神的存在の名] (*S.*); [*Śiva*, *Rudra* の名]; [ある *Yakṣa* の名]; 𑖀𑖩𑖪 悪眼, 醜眼, 広目; 雑語 *Sam-r.*, *Suv-pr.*, 玄奘; 𑖀𑖩𑖪 毘留羅叉(王), 毘婁博叉(天王), 毘留博叉, 鼻溜波阿叉 *Lal-v.*, *Suv-pr.*, 玄奘。

virūpākṣa-nāgarāja 𑖀𑖩𑖪 𑖀𑖩𑖪 (音写) 毘楼博叉竜王 *Gaṇḍ-vy.*

virūpāśva 𑖀𑖩𑖪 [王の名]。

virūpaya 𑖀𑖩𑖪 𑖀𑖩𑖪 *virūpayati* 醜くする, 不具にする。

virūpita 𑖀𑖩𑖪 𑖀𑖩𑖪 醜くされた。

vi-reka 𑖀𑖩𑖪 浄化すること; 下剤。

vi-reca 𑖀𑖩𑖪 浄化。

vi-recana 𑖀𑖩𑖪 開く。𑖀𑖩𑖪 浄化すること; 下剤; 𑖀𑖩𑖪 利, 薬, 下薬 *Lal-v.*, *Suv-pr.*

vi-roka 𑖀𑖩𑖪 (*RV.*) 光輝, (夜明けの) 光。𑖀𑖩𑖪 (𑖀𑖩𑖪) 空所, 穴。

vi-rokin 𑖀𑖩𑖪 輝いている (*RV.*)。

vi-roga 𑖀𑖩𑖪 健康。𑖀𑖩𑖪 無病の, 健康な。

vi-rocana 𑖀𑖩𑖪 照らす, 照明する(まれ)。𑖀𑖩𑖪 太陽, 太陽神; 月; [*Viṣṇu* 神の名]; [ある *Asura* の名]; [*Bali* の父]; 𑖀𑖩𑖪 照, 照耀, 普照, 曦輪 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*; 𑖀𑖩𑖪 毘盧舍 *Lal-v.*

virocana-vyūha 𑖀𑖩𑖪 𑖀𑖩𑖪 普皆嚴浄 *Gaṇḍ-vy.*

vi-rocanā 𑖀𑖩𑖪 [*Tvaṣṭr* 神の妻]。

vi-rociṣṇu 𑖀𑖩𑖪 輝く, 光る。

vi-roddhavya 𑖀𑖩𑖪 𑖀𑖩𑖪 戦われるべき。𑖀𑖩𑖪 (𑖀𑖩𑖪) (人) (𑖀𑖩𑖪) は戦うべきである。

vi-roddhṛ 𑖀𑖩𑖪 戦う → *aviroddhṛ*.

vi-rodha 𑖀𑖩𑖪 (𑖀𑖩𑖪 *saha*, 一°) と (𑖀𑖩𑖪; まれに 𑖀𑖩𑖪, 一°) との間の敵対関係・いさかいまたは争い; 論理的矛盾, 撞着, 両立しないこと, 不適合; 一° (具) との衝突, …を害すること (その犠牲または不利益において); (一°) によっては 𑖀𑖩𑖪 されること (まれ); 不運 (まれ); 強情 (まれ); 𑖀𑖩𑖪 違, 違背, 違害, 違順 (違逆), 相違, 相違反, 非不違; 妨; 疎; 災禍 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*

virodhaka 𑖀𑖩𑖪 反目させる, 激昂させる; (𑖀𑖩𑖪, 一°) と 両立しない。

virodha-kṛt 𑖀𑖩𑖪 …の間に不和をひきおこす, 反逆へと かけ立てる。

virodha-kriyā 𑖀𑖩𑖪 いさかい。

virodhata 𑖀𑖩𑖪 𑖀𑖩𑖪 乖反 *Bodh-bh.*; *pūrvāpara-* ~ *m* 後乖反 *Bodh-bh.* 402.

virodhana 𑖀𑖩𑖪 反対している。𑖀𑖩𑖪 いさかいすること; (𑖀𑖩𑖪) に対する抵抗, 反対; 害すること。

virodhavat 𑖀𑖩𑖪 矛盾を有する。

virodha-hetu 𑖀𑖩𑖪 相違因 *Bodh-bh.*

virodhābhāsa (°*dha-ābh*°) 𑖀𑖩𑖪 見せかけの矛盾(修辭)。

vi-rodhita 𑖀𑖩𑖪 𑖀𑖩𑖪 反対された, 争われた; 抵抗された; 攻撃された。

vi-rodhitā 𑖀𑖩𑖪 (一°) の間のまたは (*saha*) との敵対関係 または争い; 矛盾すること。

vi-rodhitva 𑖀𑖩𑖪 遠ざけること, 除去; 𑖀𑖩𑖪 相違, 極相違 *Abh-vy.*

vi-rodhin 𑖀𑖩𑖪 妨害する, かき乱す, 予防する; 消散させる; 敵意のある; 矛盾した, 衝突する, 対立した; 𑖀𑖩𑖪 違, 相違 *Abh-vy.*, *Śikṣ.*, *Vijñ-t.*; 違害 *Vijñ-v.* 𑖀𑖩𑖪 反対者, 敵。

virodhokti (°*dha-uk*°) 𑖀𑖩𑖪 矛盾。

vi-rodhya 𑖀𑖩𑖪 𑖀𑖩𑖪 離間されるべき, 不和にされるべき。

vi-ropaṇa 𑖀𑖩𑖪 癒えさせる。𑖀𑖩𑖪 (傷が) 癒えること。

vi-ropita 𑖀𑖩𑖪 𑖀𑖩𑖪 形を損われた等。

viropita-vraṇa 𑖀𑖩𑖪 傷の癒えた。

vi-rolita 𑖀𑖩𑖪 𑖀𑖩𑖪 [*virolayati* 'かき乱す, 動揺させる' 𑖀𑖩𑖪 から, *Skt. vilolita* 参照]; 𑖀𑖩𑖪 乱, 攪, 混 *Mvyut.*

vi-roṣa 𑖀𑖩𑖪 怒りを離れた; 激怒した (*saroṣa* の 𑖀𑖩𑖪)。

vi-roha 𑖀𑖩𑖪 (とくに植物の) 生長; (何か) が植えつけられた場所(譬喩)。

vi-rohana 𑖀𑖩𑖪 癒えさせる; 𑖀𑖩𑖪 長養, 増長, 能長 *Śikṣ.* 𑖀𑖩𑖪 (植物が) 発芽すること。𑖀𑖩𑖪 (植物の) 生育; [ある *Nāga* の名]。

vila 𑖀𑖩𑖪 = *bila*; 𑖀𑖩𑖪 穴, 小穴 *Divy.*

vi-lakṣa 𑖀𑖩𑖪 目標の定まらない; 標的を外れた(矢); 当惑した, 赤面した, 恥じた; 𑖀𑖩𑖪 離相 *Sam-r.*

vilakṣatva 𑖀𑖩𑖪 [同上]。

vi-lakṣaṇa 𑖀𑖩𑖪 性格の異なった, さまざまの; (𑖀𑖩𑖪, 一°) と異なった; 種々の, 多様な(まれ); 厳密に定義することができない(まれ); 𑖀𑖩𑖪 異, 異相, 非…相, 無相, 不如相, 不同相 *Daś-bh.*, *Lank.*, *Madhy-*

bh., *Sāṃkhy-k.*; *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*
 vilakṣaṇatva 甲 [同上] 相異, 不相似 *Abh-
vy.*, *Sūtr.*
 vilakṣaṇa-nairātmya 形 異相無我 *Madhy-bh.*
 vilakṣaya 名動 自 vilakṣayati (-te) 識別する,
 認識する, 観察する; 見失う, 惑乱する。
 vi-lakṣita 過受分 (圓, 一°) によって区別されたまたは
 特色づけられた; 認められた, 観察された, 注意さ
 れた; 混乱された, 惑乱された; なやまされた。
 vi-lakṣi-Kṛ, 標的を外させる, 失望させる; 狼狽させ
 る, 恥じ入らせる。
 vi-lakṣya 形 目標の定まらない。
 vi-lagna 過受分 [°Lagから] 固執する等; 著 *S-
addh-p.* 甲 星座の出現。
 vi-laṅghana 甲 (圓) を跳び越すこと; 衝突すること;
 攻撃, 傷害。
 vi-laṅghanā 因 越えること, 打ち勝つこと。
 vi-laṅghita 過受分 跳び越えられた等; 犯された; 頓
 挫した。
 vi-laṅghin 形 (一°) を踏み越える, …に違反する;
 衝突する, (空に)昇る。
 vi-laṅghya 未受分 渡られるべき(河); 克服されるべ
 ぎ, 堪えられる。
 vi-laṅghyatā 因 堪えうること。
 vi-lajja 形 恥を知らない。
 vi-lajjita 形 恥じた, 当惑した。
 vi-lapana 甲 号泣, 悲嘆。
 vi-lapita 甲 [同上]。
 vi-labha 過受分 引き離された; 授与された等。
 vi-labdhi 因 除去。
 vi-lamba 形 たれさがった(腕); 垂; 取著 *Lal-
v.*, *Śikṣ.* 男 遅々たること, 遅滞。一°, ゆっくりと。
 ~āt 因 遅く。~ena 圓 [同上]; あまりにも遅
 く。
 vi-lambaka 男 [ある王の名]。
 vi-lambana 甲 遅滞, 遷延。
 vilambana-sakti 因 慢緩著 *Sūtr.*
 vilambanā 因 [同上]。
 vilambā 因 毘藍婆[十羅刹の一] *Saddh-p.*
 vilambita 過受分 [°Lambから] 甲 遅滞; 留滞,
 稽留, 遅緩, 遅慢 *Bodh-bh.*, *Lal-v.* → avilambita。
 vilambita-gati 形 緩漫な歩みをする。因 [ある韻律]。
 vilambin 形 (因, 一°) に垂れ下る・に懸るまたは に
 もたれかかる。一° …に掛かる, あふれる(涙で);
 遅れている, ぐずぐずする, 気の進まない。
 vi-lambya 因 ためらいつつ, 緩漫に, 遅刻して。
 vi-lambha 男 徐, 穩 *Rāstr.*
 vilambha-gāmin 形 徐歩, 行歩穩 *Rāstr.*
 vi-laya 男 消失, 喪失, 破壊, 終局; 壊, 壊滅,
 散壊 *Divy.*, *Śikṣ.*; ~m samupanitā 除滅 *Lal-v.*
 373. ~m Gam または *Vraj* 消失する, 滅亡する。
 vi-layana 形 分解した。甲 分解, 破壊; 溶解; 乳製
 品の一つ。
 vi-lasat 現分 輝く, 光る等; 閃めく。
 vilasat-saudāmini 因 電光の閃めき。
 vi-lasana 甲 (女の)戯れ; (電光の)きらめき。

vi-lasita 過受分 [°Lasから] 甲 現われ; 戯れ; (圓お
 よび圓) いたずら, 行状; (電光の)きらめき。
 vi-lāpa 男 悲嘆。
 vi-lāpana 1. 形 悲しみを誘う(例えば武器)。甲 悲し
 むを誘うこと, (しばしば vilapana の詩形として用い
 る)。
 vi-lāpana 2. 使役 [°Liから] 形 消失させる; 除く。甲
 破壊, 死。
 vi-lāpayitr 男 [°Liの使役] 破壊者。
 vi-lāpin 形 悲しんでいる, 悲嘆にくれる; 嘆きの音
 声を発する。
 vilāyana 甲 = bilāyana。
 vi-lāsa 男 出現; 外見, 風采; 娯楽, 戯れ, 慰み(通常の意
 味); 行状; (女の)嬌態, 恋の戯れ(普通の意味); 淫奔
 (まれ), 快活(男性の8つの徳目の一 まれ); 魅力,
 あいきょう(まれ); 人名。
 vi-lāsaka 形 (女 -ikā) ここかしこに動く, 踊る; 優
 雅に揺れる。
 vilāsa-kodaṇḍa 男 恋愛の神。
 vilāsa-gṛha 甲 売春宿。
 vilāsa-cāpa 男 恋愛の神。
 vilāsa-dolā 因 ぶらんこ。
 vilāsa-dhanvan 男 恋愛の神。
 vilāsana 甲 = vilasana。
 vilāsa-pura 甲 [ある町の名]。
 vilāsa-bāṇa 男 恋愛の神。
 vilāsa-bhavana 甲 売春宿。
 vilāsa-bhitti 因 見せかけだけの壁。
 vilāsa-maṇi-darpaṇa 男 おもちゃとしての宝石の鏡。
 vilāsamaya 形 あいきょうに満ちた。
 vilāsa-mekhalā 因 おもちゃの帯。
 vilāsavati 因 なまめかしい女; [人名]。
 vilāsa-vasati 因 盛り場。
 vilāsa-vātāyana 甲 娯楽用バルコニーまたはテラス。
 vilāsa-vipina 甲 快楽の森。
 vilāsa-vihāra 男 遊歩, 散歩。
 vilāsa-veśman 甲 売春宿。
 vilāsa-sāyyā 因 快楽の臥床。
 vilāsa-sīla 男 [ある王の名]。
 vilāsa-sadman 甲 売春宿。
 vilāsālasa 男 娯楽または情事の果ての疲れ。
 vi-lāsikā 因 (情事に満ちた)一幕ものの芝居の一種。
 vi-lāsītā 因 戯れること, 媚態等。
 vi-lāsītva 甲 [同上]。
 vi-lāsin 形 輝いている, 光りを放っている; はためい
 ている(旗); 戯れる, ふざけたがる, 娯楽を好む;
 (一°) …を好む; 嬌態の; 心を奪われた。男 恋人
 夫。
 vi-lāsini 因 快活なまたは魅力のある女; 婦人; 主婦,
 妻; 浮気女, 妾; [人名]。
 vi-likhana 甲 引っ掻くこと。
 vi-likhita 過受分 引っ掻かれた, 描かれた。
 vi-liṅga 形 性の異なった。
 vilīṅga-stha 形 いかなる特徴をも有しない。
 vi-lipta 過受分 → Lip。
 vi-lina 過受分 → Li 1. 滅, 銷, 鎔 *Ast-pr.*

Divy., Śikṣ.: bhagna ~ 滅 *Śikṣ. 234.*

vilinatva 中 積 *Abh-vy.*

vilinākṣaram 副 音が喉につまるように.

vi-luṭhat 現分 転がっている, あちこち動く; ふるえる; (火花が)閃めく.

vi-luṭhana 中 揺れること.

vi-luṭhita 過受分 [°Luṭh] 中 転がること, 動揺.

vi-luṭhya 終 殻を剥ぎ終わって (luṭcitvā の 不確?).

vi-luṭhana 中 掠奪, 盗み; 動揺 (viluṭhana の 不確).

vi-lupta 過受分 もぎとられた等; 盗まれた, 奪われた, 消失した; 壊 *Raṣṭr.*

vi-lupya 未受分 破壊されうる (ただ avilupya のみ).

vi-lumpaka 男 盗人; 破壊者.

vi-lulita 過受分 諸方に移動された; (一) から墜落した, 覆された, 混乱に陥った, 潰走した.

vi-lekha 男 (一) をもって引っ掻くこと; 悩, 悔, 疑; 除; 漸赦 *Daś-bh., Prāt-m., Śikṣ., Sūtr.:* ~ apanayana 除 *Daś-bh. 81.*

vi-lekhana 形 引っ掻くこと. 中 搔痕を負わすこと.

vi-lekhin 形 (一) 引っ掻く; 体をこすりつける, すなわちに到達する.

vi-lekhyā 男 悔過, 後悔, 著意, 留心 *Mvyut.*

vi-lepa 男 膏薬, 軟膏.

vi-lepana 中 油を塗ること; 膏薬, 軟膏; [神話上の武器の名]; 塗, 塗香, 塗飾, 塗身香, 竹塗香 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lank., Mvyut., Raṣṭr., Saddh-p., Sūtr.*

vi-lepanin 形 油を塗る.

vi-lepin 形 [同上]

vi-lepya 未受分 油を塗られるべきまたはしっくい塗られるべきまたはモルタルや粘土で作られるべき.

vi-loka 男 一瞥.

vi-lokana 中 見ること; 凝視, 注視, 観察; 待ちまうけること, 見出すこと; 認めること, 調べること, 研究すること; 観, 観察 *Daś-bh. → avilokana.*

vi-lokayat 名動 現分 独居する, 淋しい.

viloka-stha 形 浮世を離れて住む, 隠棲する.

vi-lokita (過受分) 中 瞥見, 一見; 観察 *Gand-vy.*

vilokita-mūrdha 男 観頂 *Mvyut.*

vi-lokin 形 (一) を眺める; 熟視する, 認める.

vi-lokya 1. (未受分) 形 眺められるべき, 目に見える; 眺められた.

vi-lokya 2. 不変辞 観, 見, 見已 *Ratna-ut.*

vi-locana 1. 形 見せしめる. 視力を与える. 中 眼.

vi-locana 2. 形 眼をゆがめる. 男 [神話上の人物の名].

vilocana-patha 男 視界.

vilocana-pāta 男 一瞥.

vi-loṭhana 中 すべての方向に転がすこと.

vi-loḍana 中 かき乱すこと, 攪拌すること; はね散らすこと; 混乱に陥ること.

vi-loḍita 過受分 [°Luḍ から] かき乱された, 攪拌された等; 毀散 *Lal-v.*

vi-lopa 男 喪失, 傷害; 遮断, 騒乱; 強盗; 滅

損滅, 傾危, 侵擾 *Lal-v., Raṣṭr.*

vilopaka 男 破壊者; 掠奪者.

vilopa-kāraka 形 損滅 *Raṣṭr.*

vilopa-kāla 男 末法 (?) *Śikṣ.*

vi-lopana 中 破壊; 省略; (花環を)ばらばらにひきむしること; 盗むこと.

vi-lopin 形 (一) を破壊すること; 私竊, 竊盗 *Gand-vy.*

vi-loptṛ 男 盗人, 強盗.

vi-lopya 未受分 破壊されるべき.

vi-lobhana 中 そそのかすこと, 誘惑すること.

vi-lobhaniya (未受分) 形 (一) に対してそそのかす.

vi-loma 形 (毛または毛並みに逆った), 逆の, 反対の; 頑固な; 逆, 拒, 違逆, 不随順 *Bodh-bh., Śikṣ., Suvik-pr., 梵千. ~m* 副 後に, 反対の方へ.

viloma-ja 形 (毛並みに逆って)逆の順序で生まれた, 父より高いカーストに属する母から生まれた.

viloma-jāta (過受分) 形 [同上].

vi-loman 形 毛髪または毛並みに逆った, 反対の方向へ向けられた, 逆にされた; 無毛の. 男 [ある王の名].

中 不順 *Mvyut.*

vi-lomita 名動 過受分 逆にされた.

vi-lola 形 ここかしこに動く, 転げまわる, 揺れ動く, 不安定な; (網)より一層不安定な.

vi-lolana 中 ここかしこに動くこと.

vi-lohita 形 深紅の.

vi-lohitaka 形 相紅腐, 血塗, 相虫食, 壊爛 *Mvyut.*

vi-lohitā 因 七種の火炎の一.

vilva 1. 男 中 (=bilva) (音写) 頻螺果 *Divy.*

vilva 2. 中 池塘 *Mvyut.*

vi-va 形 [Vā 1.] 鳥に乗る.

vi-vakṭṛ 男 正しく暗唱するもの, 訂正者.

vivakṭṛtva 中 雄弁.

vi-vakvat 形 雄弁な (RV., 用例一回のみ).

vi-vakṣase 文脈に関係なく *Vimada* の讃歌の疊句中 (RV. X, 21, 1 等) に現われる語.

vi-vakṣā 因 [°Vac] 言おうとする, 宣言しようとする, 教えようとするまたは表現しようとする意図; (因, 一) の意味, 意義; (何かあることを) 言おうという望み=(一)に関する疑い; 欲説 *Mvyut.*

vi-vakṣita 過受分 希求 [°Vac] 意図された, 意味された. → vac.

vivakṣitatva 中 一定の意味における用法, 意義; 欲説 *Abh-vy.*

vi-vakṣitavya 未受分 当然意味された.

vi-vakṣu 希求 形 [°Vac] 声高く叫ぶ(因); (業, 一) を(業)に語ろう・言おうまたは告げようと望む.

vivat 形 vi という語を含んでいる.

vi-vatsa 形 (因 -ā) 子牛または子を奪われた.

vi-vatsu 希求 形 [°Vad] (vivadiṣu の 不確) 言おうと欲する.

vi-vadana 中 喧嘩, 論争.

vi-vadita 過受分 議論された.

vi-vaditavya 未受分 中 (因) について論ずべきであ

る。
vi-vadiṣu 希求 形 語ろうと意図する。
vi-vadha 男 [Vadh (=Vah) から] (荷を)運ぶ肩のくびき; 食糧, 穀物の貯え; 道(まれ)。
vi-vayana 甲 [Vā 4.] 編み細工。
vi-vara 男 甲 [Vr 1.] 口, 穴, 割れ目, 裂け目(普通の意味); 間隙, 間隔, 介在する空間; 差異(まれ); 破れ口; 弱点; 害(まれ)。甲 特に大きな数; 漢訳 内, 關開, (前路) *Divy., Ratna-ut.*; 音写 毘婆羅, 維波羅, 維波藍 [数の名] *Mvyut., Saddh-p.*; ~m *anupradāsyati* 門開 *Divy. 61.*
vi-varaṇa 甲 覆いを取る, 開くこと; 記述, 説明, 注解; 漢訳 開, 開示, 開頭, 顕示, 能頭, 広演, 注解 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut.* 形 漢訳 消除 *Madhy-v.*
vivaraṇatā 女 漢訳 開示, 広開 *Bodh-bh.*
vivara-sad 形 中間または中央に存在する。
vivarāntara 甲 漢訳 中間, 深峻処 *Saddh-p.*
vi-varita 過受分 漢訳 開 *Lal-v. → Vr 1.*
vi-varūtha 形 (車の安全を図るための)とめ木のない。
vi-varcas 形 光彩を欠いた。
vi-varjaka 形 (一°)を避ける, 免れる, 思いとどまる; 漢訳 離, 捨離 *Bodh-bh.*
vi-varjana 甲 回避, 放棄; (因)を思いとどまること(まれ); 漢訳 離, 捨, 遠, 遠離, 棄捨 *Bodh-bh., Kāśy., Lanik., Sam-r., Śikṣ.*
vivarjanatā 女 漢訳 離, 除, 遠離 *Lanik., Ratna-ut.*
vi-varjanā 女 漢訳 遠離 *Sam-r.*
vi-varjaniya 未受分 避けられるべきまたは放棄されるべき。
vi-varjayitavya 未受分 漢訳 遠離 *Ast-pr.*
vi-varjita 使役 過受分 (具, 一°)を欠いた, を奪われた, を除く; 漢訳 非, 無, 断, 離, 除, 遠, 除捨, 捨断, 遠離, 棄除, 棄捨, 不随 *Ast-pr., Bodh-bh., Divy., Guhy-s., Lal-v., Lanik., Madhy-v., Ratna-ut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.*
vivarjitatva 甲 漢訳 離 *Lanik.*
vi-varjitam 副 → *vrj.*
vi-varjya 結 漢訳 遠離 *Bodh-bh.*
vi-varṇa 形 色のない, 色あせた, 青ざめた; 漢訳 失色, 枯稿, 壊色 *Lal-v., Śikṣ.*; *virūpa~āḥ* 鄙陋 *Gaṇḍ-vy. 863.*
vi-varṇaka 形 漢訳 不讚 *Gaṇḍ-vy.*
vivarṇa-vaktra 形 漢訳 面無色 *Lal-v.*
vivarṇa-vadana 形 青ざめた顔をした。
vivarṇāmbuja 男 漢訳 萎華 *Ratna-ut.*
vi-varṇita 過受分 漢訳 所訶, 所呵, 訶毀, 毀訾, 所訶毀, 不称歎 *Bodh-bh., Daś-bh., Śikṣ.*
vi-varta 男 (回転する)天空(因); 渦卷; 変形; (*Vedānta* 哲学において) *Brahman* から現象界が仮現すること(因 *pariṇāma: pradhāna* または *prakṛti* からの開展); 幻影; 漢訳 成, 成立, 成相, 生成, 有成; 開; 捨, 壞, 退転, 退患, 退還; 捨離, 遠離; 棄捨, 断除, 已除, 令滅, 能令滅 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Ratna-ut., Sūtr., Suv-pr.*
vivarta-kalpa 男 漢訳 開劫 *Mvyut.*

vivarta-kāla 男 漢訳 劫生時 *Sūtr.*
vi-vartana 形 回転する; 変形する。甲 転ずること, 転げまわること; もがくこと; ここかしこにさまようこと; ふりむくこと; 帰還; 変形; 転回, 変化; 漢訳 転, 遠離 *Daś-bh., Sam-r.*
vi-vartanā 女 漢訳 気転 *Mvyut.*
vivarta-nāśa 男 漢訳 成壞 *Sūtr.*
vi-vartani 女 漢訳 成; 成劫, 成立, 已成, 成世界 *Abh-vy.*
vivarta-samvarta 男 漢訳 若成若壞 *Sūtr.*
vi-vartita 過受分 回転させられた; そむけられた; 形を損われた; 遠ざけられた。
vi-vartin 形 回る, 転がる, 回転する; 遠ざかる, (一°)に向って転ずる; 変化する; 住む。
vi-vartman 甲 邪道(雙論)。
vi-wardhaka 形 漢訳 増長, 増益 *Bodh-bh., Śikṣ.*
vi-wardhana 形 (女 -i, 例外的に -ā) (属, 一°)を増大させる, を助長する; 漢訳 増進, 増長 *Abh-vy.* 甲 増大, 生長, 繁榮; 漢訳 増, 増長, 増進, 長養, 漸増長 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Sūtr.* 捨離 *Gaṇḍ-vy.* 男 [ある戦士の名]。
vivardhanatā 女 漢訳 増長, 長養 *Śikṣ.*
vi-wardhaniya 未受分 増大せしめらるべきまたは助長すべき。
vi-wardhamāna 現分 漢訳 得増長 *Bodh-bh.*
vi-wardhayiṣu 希求 形 (業)を増大しようとする。
vi-wardhita 過受分 増大させられた, 拡大された, 助長された, 助成された, 満足させられた, 喜ばされた; 漢訳 長, 増長, 長成 *Daś-bh.*
vi-wardhin 形 (女 -i) (一°)を増大させる, 助長する(常に 女 であって *Śloka* の終りに用いられる)。
vi-varman 形 甲冑をつけない。
vivarya 甲 漢訳 音写 維波羅啞 [数の名] *Mvyut.*
vi-varṣiṣu 形 まさに雨を降らそうとしている(雲)。
vi-valita 過受分 迂回した, 方向を変えた。
vi-vaśa 形 意思を奪われた, 力のない, (一°のために) どうすることもできない; 気が進まない, 本意の, 自然に起る; 漢訳 不自由, 不自由 *Śikṣ.*
vivaśatā 女 どうにもならないこと。
vi-vaśi-Kṛ, 無力たらしめる。
vivaśi-kṛta 形 意思を奪われた, (行為等が) 自由でない。
vi-vasana 形 脱衣した, 裸の。男 ジャイナ教の裸修行僧。
vi-vastra 形 脱衣した, 裸の。
vivastratā 女 裸。
vi-vasvat 形 輝く, 光をまきちらす, 早朝にあらわれる(因)。*sadane ~āḥ* 輝くもの (*Vivasvat*) ので祭壇上で。男 [太陽神の名 (*VS., Br., 叙*) においては *Āditya* と呼ばれる; (因) においては *Yama* と *Yami* および *Aśvin* 双神の父)]; 太陽, 陽神(属); *Manu* の名 (= *Vaivasvata*); [ある *Datya* の名]。
vivasvat-suta 男 *Manu Vaivasvata*。
vi-vaha 男 [七風の一つの名]。
vi-vāka 男 判決を下すもの, 判事。

vi-vāc 形 互いに呼ぶ, 争う (RV.). 因 互いの叫び, 争い (RV.).

vi-vācana 男 (女-i) 仲裁人. 甲 決定的な発言, 権威.

vi-vāda 男 (國, 因, prati, 一°) に関する, (國 ± saha 一°) と (國, 一°) の間の論争; 論戦, 議論; 訴訟; 論争, 争論, 争語, 争闘, 争競, 諍, 諍論, 諍訟, 諍競, 闘諍, 違諍(欺凌), 競, 訟, 論, 語, 誹謗, 諸過 *Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Daś-bh., Gand-vy., Lal-v., Lanik., Mvyut., Prāt-m., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Suvik-pr., Sūtr.*

vivādaka 形 諍, 諍論 *Lal-v.*

vivāda-pada 甲 議論または訴訟の題目.

vivāda-vigraha 男 諍訟 *Saddh-p.*

vivādādhyāsita 過受分 論議の題目となった.

vivādārthin 男 原告, 起訴者.

vi-vādin 男 論争する人, 訴訟関係人; 漢訳 諍 *Prāt-m.*

vi-vāyamāna [°Vā] 復分 吹いている(風).

vi-vāra 男 (発音の際に) 声門が開くこと (因 sam-vāra).

vi-vārayiṣu 形 抑制または制止しようとする.

vi-vārin 形 (一°) を避ける.

vi-vāsa 男 故郷を離れること, 流謫; (國) からの分離; 漢訳 障 *Sūtr.*

vi-vāsana 甲 故郷からの放逐, 追放.

vi-vāsas 形 脱衣した, 裸の.

vi-vāsyā 未受分 追放せらるべき.

vi-vāha 男 妻をめとること, (國 ± saha) との婚姻, 結婚; 結婚の形式(これに八種類ある); 乗物または輿(結婚の意味に掛けて: *Ait. Br.*); 漢訳 婚, 婚姻, 嫁, 求婦 *Abh-vy., Bodh-bh., 梵語, 梵干;* 音写 [数名] 毗婆訶, 維波哈, 毘吠和 *Mvyut., Sukh-vy. I.* 甲 特に大きな数 (仏教); 漢訳 音写 毘婆訶 (百阿婆訶) *Lal-v.*

vivāha-catuṣṭaya 甲 四重の縁組.

vivāha-dikṣā 女 結婚の儀式, 結婚式.

vi-vāhaniyā 未受分 女 妻としてめとられるべき, 結婚させらるべき.

vivāha-paṭaha 男 結婚の太鼓.

vivāha-sat-kriyā 女 婚礼.

vivāhāgni 男 婚礼の祭火.

vi-vāhita 過受分 結婚させられた, 結婚した.

vi-vāhya 未受分 めとられるべき(娘); 縁組した. 男 婿.

vi-viṃśa 男 *Ikṣvāku* の息子.

vi-viṃśati 男 *Dhṛtarāṣṭra* の息子; *Cakṣuṣa* の息子.

vi-vikta 過受分 [°Vic] 甲 孤独, 淋しい場所; 清純; 離, 離相, 遠離, 性離; 空寂, 空閑, 寂靜, 解脱 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Lanik., Sapt-pr., Sūtr.*

viviktatā 女 差別, 区別; 分離; 清浄; 遠離; 楽寂, 如実解, 遠離寂 *Aṣṭ-pr., Lanik.*

viviktatva 甲 孤独; 遠離 *Aṣṭ-pr.*

vivikta-ga 形 孤独を求める.

vivikta-darsin 形 見寂靜 *Lanik.*

vivikta-dṛṣṭi 形 慧眼の.

vivikta-dharma 男 寂靜法, 寂靜之法 *Lanik.*

viviktadharmā-vihāra 男 住…如実空法; 修行寂靜諸法, 証寂靜空法 *Lanik.*

vivikta-rāman 男 [種々なる人の名].

vivikta-sāraṇa 形 隠棲する, 隠棲を求める.

vivikta-sevin 形 [同上].

viviktārtha 男 寂靜義 *Lanik.*

viviktāsana (°ta-ās°) 形 閑寂な場所に坐っている.

vi-vikti-Kṛ, 空にする, 片づける; 独りにする, 残す.

vivikti-kṛta 過受分 人の住まない, 寂しい; 空虚な, 棄てられた.

vivikṣu 希求 形 [Viś] 入ろうと欲するまたはまさに入ろうとする.

vi-vici 形 差別する, 区別する.

vivitsā 希求 女 [Vid 1.] 知ろうとする欲求.

vivitsita 希求 過受分 → Vid 2.

vivitsu 希求 形 知ろうとしている. 男 *Dhṛtarāṣṭra* の息子.

vi-vid → Vid 1.

vividiṣā 希求 女 知ろうとする欲求.

vividiṣu 希求 形 知ろうとしている.

vi-vidyut 形 稲妻のない(雲).

vi-vidha 形 [異なった種類を有する; vidhā] いろいろな種類の, 多種多様の; 種々雑多の; 漢訳 諸, 種々; 普; 無量; 間錯廁鉤 *Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lanik., Mvyut., Ratna-ut., Śikṣ.*

vividha-vinaya-vikalpa-vādin 形 漢訳 說種々毗尼, 妄說毗尼 *Lanik.*

vividhāgama (°dha-āg°) 形 種々の聖典を含んだ.

vividhopeta (°dha-up°) 過受分 = vividha.

vi-vibhaktika 形 格の語尾を欠いた.

vi-vita 男 囲われた牧草地.

vivita-bhartr 男 囲われた牧草地の所有者.

vi-vṛkṇa [°Vraśc] 過受分 打たれた, 切り刻まれた.

vi-vṛta [°Vṛ 1.] 過受分 現, 開, 起, 顕, 顕了, 開顕, 顕示, 弁, 弁了, 分別, 明了, 張, 発露, 明白演開(弁) *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., Suvik-pr.:* ~pāpa 発諸悪, 得過咎 *Śikṣ. 136.*

vivṛta-dvāra 形 入口を開いた.

vivṛta-dharmākhyāna (°ma-ākh°) 甲 顯了說法 *Bodh-bh.*

vivṛta-pāpa 甲 發露自惡 *Bodh-bh.*

vivṛta-pauruṣa 形 武勇を発揮した.

vivṛta-bhāva 形 率直な, 気さくな.

vi-vṛtā 女 弁了, 顕示 *Bodh-bh.*

vi-vṛti 女 記述, 説明, 註解.

vivṛtokti (°ta-uk°) 女 明らかまたは明瞭な表現.

vi-vṛtta 過受分 → Vṛt.; 成已, 過已 *Abh-k., Abh-vy.*

vivṛtta-daṃṣṭra (vivṛta° の不確?) 形 齒をむき出した.

vivṛttākṣa 形 眼を回転させる. 男 おんどり.

vivṛttāṅga 形 手足を痙攣させた.

vi-vṛtti 女 発展; 母音の連続(文法).

vi-vṛtya 開いて。

vi-vṛddha 過受分 [°Vṛdhから] 増大した；大なる，夥しい；長，長大，長養；増，増長，増進 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*

vi-vṛddhi 因 生長，増加，増大，拡大；繁栄；(母音の)延長；増，増長，増勝，能増，転，長養，増長満足 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Sāṃkhy-k.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suvik-pr.* ~ ṃ Gam または Yā 増加する，増大する。

vivṛddhi-nimittam 副 為増長 *Sāṃkhy-k.*

vivṛddhi-bhāj 形 増える(齡)。

vi-vṛścya 網 [°Vraścから] 打って，切り刻んで。

vi-veka 男 [°Vicから] 区別，差別；調査，論議，批判；識別，判断；離，遠離，厭，厭離，寂，空寂，断除，寂靜，寂然不動，永離，除，以智揀択 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*

viveka-khyāti 因 正しい判断。

viveka-gocara 男 裸抉智境界 *Śikṣ.*

viveka-cārin 形 遠離行 *Śikṣ.*

viveka-ja 形 離生，遠離生，浄念生 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*

vivekaja-priti-sukha 中 離生喜樂 *Bodh-bh.*

viveka-jñā 形 (一°) に関して正しい知識を有する。

viveka-jñāna 中 正しい知識。

vivekatā 因 → vivekitā；分析観 *Lal-v.*

viveka-nisṛita 中 居処寂靜 *Mvyut.*

viveka-padavi 因 熟考。

viveka-paripanthin 形 判断を妨げる。

viveka-bhaṅga 男 理性の破壊。

viveka-bhāj 形 分別のある，識別をする。

viveka-bhrāṣṭa 形 理性を失った，識別することを知らない。

viveka-mantharatā 因 判断の弱さ。

viveka-rahita 過受分 すき間なく密着している(乳房) および識別力を欠いた。

viveka-rata 形 常樂遠離 *Lank.*

vivekavat 形 賢明な，識別する。

viveka-viśrānta 形 分別を欠いた，愚かな，無知な。

vivekārtham 副 識別するために，差別を立てるために。

vivekitā 因 区別，識別，分別。

vivekitva 中 [同上]。

vivekin 形 (一°) を区別するまたは差別する；分離された(まれ)；検査する，批判する(まれ)；区別する，識別する，分別のある；相離 *Sāṃkhy-k.*

vivektavya 未受分 中 正しく判断すべきである。

vivektr 男 (一°) を区別する者；判断力または識別力のある人。

vivektr̥tva 中 (一°) を識別すること。

vi-vekya 未受分 区別されるべき。

vi-vecaka 形 区別する；正しく判断する，識別する。

vivecakatā 因 正しい判断，識別。

vivecakatva 中 [同上]。

vi-vecana 形 (因-i)-(一°) を区別する；調査する，吟味する，論議する，批判的に論ずる。 中 調査，吟

味，論議，批判的論じ方；正しい判断；分，頭，息，遮 *Abh-vy.*, *Madhy-v.*

vivecanatā 因 詞，呵諫，遠離，能審觀察 *Aṣṭ-pr.*

vi-vecayitavya 未受分 因 応生厭離 *Bodh-bh.*

vi-vecyamāna 現分 因 觀察，分別 *Lank.*

vi-vedayiṣu 形 (業) を (業) に知らせたいと思う。

vi-veṣṭita 過受分 巻きつけられた。 → Veṣṭ.

vi-vodhṛ 男 [°Vahから] 夫。

vi-vyathita 過受分 大いに悩まされたまたは驚かされた → Vyath.

vi-vrata 形 掟を異にする，不従順な (RV.)。

Viś, VI. 他 viśati, 自 viśate (網一般に 韻律では 自)。

(業, 因, 時に antar) の上に・の中に落ち着く・に入るまたはの中に行く；(火葬の薪: agnim) にのぼる；に入る(家, 舞台)；横になって休む(因)；(業, 因)；まれにの上に坐る；(軍隊に)加わる；(河が)流れ入る；の分担になる，(幸運, 等に)恵まれる；(考えが)心に浮かぶ；(業: 不運等)になるまたはに陥る；(業)に着手する，を始める。punar または bhūyas とともに (業) に戻る，に帰る。過受分 viṣṭa (業) の中に入った，(因)の中に含まれた；(因)によって満たされたまたは作られた。使役 veśayati 他 (業) に入らせる；(因)の上に坐らせる。希求 vivikṣati 他 (業) に入ろうとする；(火葬の薪: agnim) にのぼろうとする。

adhi- 使役 の上に置く；坐らせる。

anu- (業) に従って(業)の中に入る；(業)に入る(業)に従う。

apa- 使役 送り出す，去らせる。

ā- (業, まれに 因)に入る，浸透するまたは行きわたる(業)に接近する，来る (RV.)；(業)の上に坐る；(情緒等が業)を占める・占有するまたは圧倒する；達する，(ある状態に)陥る。過受分 āviṣṭa 1. [龍の意味で] (因, 一°)に入った・に浸透したまたはに固着している；(鳥が) (因)の上にとまる；空に舞う。2. [蜀の意味で] (因, 一°)によって満たされたまたは住まれた(因, 一°: 矢)に貫かれた；(因, 一°)によって占められた，とりつかれたまたは圧倒された；(悪霊に)とつかれた。使役 (因, まれに 業) の中へ入らせる，のへ導き入れる；(息を)集中する；(家の中に)連れ来る，手厚くもてなす；(因)に委ねるまたはまかせる(心を) (因)に向ける；中, 能入 *Aṣṭ-pr.*: śok śalyo vā'syāviṣet 中毒箭 *Aṣṭ-pr.*

prā- (pra-ā-) (業) に来る。使役 (因) の中へ導く sam-ā- (の中に)入る；浸透する，貫く；(因)の上坐る；(業)を占める；(情緒等が) (業)を占める。過受分 samāviṣṭa (因, 一°) によって占められたとりつかれた・圧倒された・をもって満たされたまたはを具備した；(因)によって(因)を教えられた使役導き入れる；(業: ある場所)に運ぶまたは導く(考え等を) (因)に向ける；(因)に委ねるまたはまかせ。upa- (業; ある人)に近づく (RV)；坐る，(動物が)たわる；野営する；(太陽が)沈みかける；(業)に着する，を實踐する。過受分 席に着いた，坐る(時に動詞として)；± anaśana-, (断食して)静かに(死を)つ；を獲得した，従事した。使役 (業: ある人)を(の上に)坐らせる；(因: ある場所)に連れて来る；

坐, 在, 坐着呢 *Lal-v., Mvyut., Saddh-p.*

abhy-upa- (業) の上に坐る, …のそばに坐る.

sam-upa- (業, 因, upari をともなう 因), の上に共に坐るまたはに着座する. 過受分 着座した, 坐る. 使役 坐らせる; 野営させる.

ni- 因 (自己の住居, 巢窟, 巢) に帰る, 帰宅する; (業, 因) に入る; (蛭が) 吸付く; 野営する; 休息のために横たわる; (因) の上に坐る; (人間が) 身を固める, 結婚する; (心を) (因) に向ける, (因) に献身する, を実践する; (怒り, 風が) やむ, 和らく (RV.); (心に: matau) 銘記される. 過受分 *nivīṣṭa* の中へ入った(ときに +antar をともなう), (因, 一°) にまたはの上に基づく, に付着した, に固着する; (因: 義務の道) を固守する; 野営した; 部署についた(夜番); (因, 一°) の上に または の中に着座したまたは坐る; 位置している; 設計された(貯水池); (因, 一°) に対して向けられた; (因) に献身した, を実践する; 占められた, 住まれた, 耕された(場所); 始められた(Br.). 使役 *nivēśayati* 野営させる; (軍隊を) 整列させる; 休むために横たえる(因); (因: 家) の中へ連れて来る, 宿泊させる; 身を固めさせる, (ある人と) 結婚させる; (因: ある場所) の中へ置く, に連れて行く; (路) の上に置く; (因: 芝居) の中に入れる, の中で演ずる; (建物等を) 建てる, (都市を) 創設する, (都市に) 人を住まわせる; (因) の上に着座する; (因) に(矢を) 放つ; (唇) の上に置く, …に着ける; (因) に固定させる, に付ける; (線, 印を) 描く, (名前等を) (因) の上に刻む, (因: 絵) に描く, (葉の上に) 書きつける; (因: ある役職等) に任命する, (王を) 即位させる; (貢物: kare) にする; (役職を) (因) に授ける, (業) を(因) に委ねる; (名前を) 授けるまたは与える; (因: 心または精神) の上に刻みつける; (因) に(視線を) 注ぐ, に(心を) 向ける または 用いる; 安, 安布, 安処, 安排, 令安置; 引入 *Bodh-bh., Guhy-s., Lank., Madhy-v., Mvyut., Sūtr.*

abhi-ni- 因 (他) (業) の中に入る; (業) に献身する; (因: ある人) に当てはまる(因: に欠ける); 適用され得る. 過受分 (因) によって貫かれた; を豊富にそなえた; (因, prati, 一°) に集中した, 専心したまたは没頭した. 使役 (因) に入らせる, に導く; (業) を(因) に坐らせる; (ある人の心を) (因) 向けさせる; 著, 計著, 執, 執着, 執著, 堅執, 生執着, 起執着, 虚妄執著, 随, 誑惑 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Lank., Śikṣ.*

upa-ni- 使役 (軍隊を) 野営させる; (都市を) 建設する.

prati-ni- 過受分 (因) に没頭した, に自己の心に向けた; 強情な; 入, 即便随入 *Lank.*

vi-ni- 過受分 (一°) の中に住む; (因) において起る; (因) の上に または に描かれた; (因) の上に記された(印); 設計された(貯水池). 使役 (因) におろすまたは置く; (因) に移す; (像等を) 建てる, (都市を) 創設する; (軍隊を) 整列させる; (因: 王座に) 据える; (因) に入らせる, に入れる; (因) の上に横たえる または置く; (器用さを) 発揮する; (因: 路の) 中へ導く; (因) に任命する; (因: 心に) 感銘を与える; (因) に

(視線または考えを) 集中させる.

sam-ni- (因) と交わる. 過受分 野営した; (因, 一°) に留まる, …に含まれた. 使役 (家) の中へ導く, (因) に宿泊させる; 下に置く, 保管する; (軍隊を) 整列させる, (軍隊を) 野営させる; (因) の中に導く・置くまたは確立する; (因) に(宝石を) 結びつける; (因) に任命する; (因: ある人) にまかせるまたは託する; 入 *Saddh-p.*

nir- (業, 因) に庇護を求める; 世帯を持つ, 結婚する; (借金を) 返済する, 支払う; (業) を享受する. 過受分 *nirvīṣṭa* (因, 一°) の中に入った, に固着している; 坐った(異読: ni-); 支払われた; 享受された; 得られた.

pra- (業, 因) に入る; (火葬用の薪: *agnim, vahnau,* 等) に登る; (心, *cittam* 等) を占有する; (家) に入る; (舞台に) 登場する(演劇の専門用語); (業) に達する; (業時として 因) を始める・に着手するまたはに献身する; (供物を) 受け取る, 享受する; (業: ある人) によって吸収される = によって顔色なからしめられる. 1. 過受分 *pravīṣṭa* [因の意味で] (因, 一°) に入った, に存する; [しばしば目的語なしに] (家, 舞台に) 入った; (因) において失われたまたは消失する; 始まった(時代); の真中(*madhya*) に入った = の信頼をからえた; (因) を始めた, にたずさわった; (因) と一致する; 2. [因の意味で] 入れられた; (金銭が) 利用された. 使役 *praveśayati (-te)* (業, 因) に入らせる, (ある場所に) 連れて来る・に導くまたは案内する; (家) に連れて来る, (舞台の上に) 登場させる[目的語なしに]; (業, 因) に置く・の中に入れるまたは投げ入れる; 入らせる = (ある状態, 眠り等) に送りこむ; 書きとめる; (業) の中に加入させる; (因: ある人に) 徐々に教え込む; (金銭を) 費す; 入, 遍入, 悟入, 随悟入; 生; 住; 来至 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Guhy-s., Lank., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Vajr-pr.*

anu-pra- (業, 時として 因) の中に入る; (業: ある人) に随って(家または部屋)の中に入る; (業: ある人) のもとに入る; (業) に浸透する・を熟知するまたはを徹底的に学ぶ; 入, 能入, 得入, 随悟入; 知 *Abh-vy., Bodh-bh., Lank., Mvyut.* *bhāvam* ~ の性質の一部となる, に適応する. 過受分 入った; (隊商等) に加わった; (因) に避難した. 使役 家にする (*Divy.*). **sam-pra-** (業) の中に入る; (ある人の心: *hṛdayam*) に参入する; 考え (*mānasam, dhyānam*) に没頭する; (業: 婦人) と性交する; (業) と交わる; 聞, 得聞 *Sur-pr.* 使役 (業, 因) の中に入らせる・の中に連れて来させる または導かせる; 置 *Saddh-p.* 過受分 *sampraveśita* (因) に帰ることを許された(因 追放された).

vi- 入る, 浸透する; 処 *Buddh-c.*

sam- 近づく(因); (業) に付着する, (因) と交わる; (業) に入った(因)の中に入る; (因, -upari) に横たわるまたは休む; (因) と共に眠る; (業: ある女と) 性交する. 過受分 横たわった, 休息した, 眠っている; (因) と一緒に坐った. 使役 横たわらせる; (因) の上に またはに横たえるまたは置く, に連れて来る.

anu-sam- (業) に向って就寝する(因); (*suptām*: 彼

女が眠った時彼女の)後に就寝する。

abhi-saṃ- 取り巻く。

prati-saṃ- 休息するために横になる。

viś 因(困 viṭ, 困 圃 vikṣu) 住居, 家敷, 家 (RV.); 圃, 圃 共同体, 種族, 部族, 人民 (圃: 臣民, 民衆, 軍隊 因); 圃, 圃 とくに人民 = 第三階級 Br., 圃 = Vaiśya): 圃 第三階級の人: viśas-pati = 家の主, Indra神および Agni 神の称. ~ām īśvara, pati または nātha 人民の主, 王. → viśāmpati. 圃 財産。

viśa 1. 圃(因 -ā) 一° = viś.

viśa 2., bisa の不確。

vi-śakala 形 粉碎された, 破壊された。

vi-śakali-Kṛ, 破壊する, 粉碎する。

vi-śaṅka 形 恐れのない; (一°) を心配しない; 危険のない, 安全な(道路). ~m 圃 恐れずに。

vi-śaṅkaṭa 形 広大な, 広い, 大きい; 恐ろしい, 非常にいやな(=vi-saṅkaṭaの不確, vi-kata 参照)。

vi-śaṅkaniya 未受分 疑われるべきまたは怪しまれるべき。

vi-śaṅkā 因 1. (因)に関する疑い; 疑惑; (圃, 一°)の疑い; 小心のためらい; 疑, 畏 Lan̄k. ~m Kṛ ためらう。

vi-śaṅkā 2. (P.) 恐怖が存在しないこと. 圃 恐れずに, ためらうことなく → nirviśaṅka.

vi-śaṅkita 過受分 恐れた, 疑った, (prati または 一°) について確信のない。

vi-śaṅkin 形 (一°) を推測する, を想像する; (一°) を恐れる; (圃+iti) ということ恐れる。

vi-śaṅkya 未受分 疑われるべき または 怪しまれるべき; 恐れられるべき。

vi-śada 形 [°Sad 1. から] 明瞭な, 輝く, 白く輝く, 汚点のない, 純粹の(また譬喩); 快活な(心); 判然とした, 明らかな, 聞きとれる, 知覚しうる; (感触の) 柔かな(食物, 風, 香まれ); (一°) に巧みな(まれ); 上妙清浄, 細軟, 広大, 広 Bodh-bh., Divy. ~m 圃 輝いて. 圃 [王侯の名]

viśadatā 因 明瞭なこと, 清純なこと。

viśadatva 圃 勝, 勝能 Abh-k.

viśada-dānatā 因 広大施 Bodh-bh.

viśada-pravāraṇa 圃 広恣, 自恣 Bodh-bh.

viśadaya 名動他 viśadayati 純化する, 明瞭にする, 説明する。

vi-śadita 過受分 [°Sad から]; 圃 開 Bodh-bh.

viśana 圃 (一°) に浸透すること。

vi-śaya 圃 [°Śi] 不確実, 疑; 圃 塵 Sāṃkhy-k.

viśayavat 形 疑わしい。

vi-śayin 形 [同上]。

vi-śārada 形 [viśārada の不確]。

vi-śārāru 形 落ちて粉々になる, 散り敷く; 脆い, 朽ち易い。

viśārārutā 因 脆いこ

vi-śārira 形 離身 Buddh-c.

vi-śalya 形 尖端のない(矢); 矢じりからまぬがれた, 矢傷のなおった; 苦痛のない; 離箭, 抜箭 Lal-v., Suvik-pr.

viśalyaya 名動他 viśalyayati 矢じりまたは苦痛から

救う。

vi-śalyā 因 [種々なる植物の名; また矢傷の特効薬の名]; [河の名]。

viśalyā(a)-karaṇa 形 (因-ni) 矢傷をなおす. 因 [ある不思議な薬草]。

vi-Śas, → Śas.

vi-śasana 形 (因-ni) 致死の. 圃 剣. 圃 虐殺すること, 切り刻むこと (RV., 圃); 虐殺(圃); 残酷な待遇(圃); [地獄の名]。

vi-śasitṛ 圃 虐殺者, 屠殺者, 切り刻む者。

vi-śastṛ 圃 [同上]。

vi-śasta 過受分 切り刻まれた; 害 Śikṣ.

vi-śastra 形 武器のない, 武装を解いた。

vi-śākha 派出した, 分岐した(因); 枝のない(叙詩); 手のない(叙詩). 圃 (圃) [Skanda の称; Skanda の権化の一つで, その息子と見なされる]; [人名]; [Śiva神の称]. 圃 熊手. (因 -ā) 圃圃圃第十四の(のちに第十六の)月宿; 圃 毘舍佉, 毘舍佉, 無枝; 氏, 善格 Av-ś., Divy., Mvyut.

viśākhaka 形 (因 -ikā) 分岐した. 因 先の枝分かれた竿; 熊手 (=viśākhikādaṇḍa).

viśākha-nakṣatra 形 圃 氏宿(二十八宿の一) Lal-v.

viśākha-datta 圃 [Mudrārākṣasa (8ないし9世紀)の著者の名]。

viśākha-yūpa 圃 [地名]。

vi-śākhikā 因 先の分かれた竿; 熊手。

viśākhikā-daṇḍa 圃 [同上]。

vi-śākhila 圃 [ある商人の名]。

vi-śāta 形 または圃 圃 細, 不平, 不斎, 不正 Mvyut.

vi-śātana 形 (因-ni) 破壊する. 圃 切り取ること; 伐り倒すこと, 破壊すること。

viśātaya 名動 viśātayati 粉碎する, 破壊する, 四散させる。

viśāda = vivāda の不確。

vi-śāpa 形 呪詛を免れた。

viśāmpati 圃 圃 方主, (方生), [王の名] Mvyut. → diśāmpati, viś.

vi-śārada 形 (因 または 一°) に経験のある・に熟練した・上達したまたはを熟知した; (言葉の) 巧みな; 秋の; 辯才のない; 大胆な, 無遠慮な; 無畏, 無怯弱, 無所畏; 無所畏者, 無有怖畏, 無有恐懼, 得無所畏者; 弁, 辯才 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Duś-bh. Divy., Mvyut., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Suvik-pr.

viśāradata 因 圃 無畏 Sam-r.

viśāradata 圃 圃 無所畏 Ratna-ut.

vi-śārīta 過受分 圃 抜除 Lal-v.

viśāla 形 広大な, 広々した, 幅広い, 広い, 大きい, 大きな; 強力な(軍隊); 著名な(家柄); 圃 広大, 広寛, 闊, 多, 脩広, 広長, 脩高, 広長 Abh-vy., Divy Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Lal-v., Lan̄k., Mvyut., Sāṃkhy-k., Suv-pr. 一° に充ちた. 圃 [Takṣaka の父の名]; [王の名]; [Asuraの名]; [菩薩の名]. 圃 [地の名]。

viśālaka 圃 [Yakṣa の名]。

viśālatā 因 広大な範囲。

vi-śālada 形 = viśārada; 圃 無怖懼 Lal-v.

viśāla-mati 男 [菩薩の名]; 廣慧 *Vijñ-t.*
viśāla-locanā 女 大きな目の女.
viśāla-varman 男 [人名].
viśāla-vijaya 男 [軍隊の配列(陣形)の一種].
viśālā 女 [都市 *Ujjayini* の名]; [河の名]; [種々の婦人の名].
viśālākṣa 形 (女 -ṣī) 大きな目をした; 眼長 *Mañj-m.* 男 [*Śiva* 神の称, とくにある *Śāstra* の作者としての]; [*Dhṛtarāṣṭra* の息子]. 田 [*Śiva Viśālākṣa* 作の *Sūtra* の名].
vi-śālita 過受分 別説, 広説 *Abh-vy.*
vi-śikha 形 頂髻を欠いた; 禿げた; 鈍い(矢); 炎のない(火). 男 鈍い矢; 矢; 箭 *Śikṣ.*
vi-śikhā 女 街; 街衢 *Aṣṭ-pr.*
viśikhāntara (°khā-an°) 田 街の内部.
vi-śiras 形 頭のない; 頂のない.
viśiraska 形 頭のない.
vi-śiśāsiṣu 希求 形 虐殺しようと欲する.
vi-śiśramiṣu 希求 形 休息しようと欲する.
vi-Śiṣ, → *Śiṣ.*
vi-śiṣṭa 過受分 (女 -tā) [°*Śiṣ* から] 区別された, 特殊化された, 性格づけられた; 異なった, 特殊な; 勝れた, 卓越した; 別, 異, 差別; 勝, 最勝, 殊勝, 最殊勝, 最勝無比, 最尊, 第一, 勝妙, 無等, 上; 維石娑丈(大), (微悉歩多) *Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Guhy-s., Lanḅ., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Ratna-ut., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr., Vijñ-t.:* ~cāritra [菩薩名] 上行, 上行意, 尊意行 *Saddh-p.;* ~tā *pratipatti* 差別正行, 勝修行 *Madhy-vibh.*
viśiṣṭatara 形 比較 よりすぐれた, 最上の; 勝, 殊勝, 最勝, 過 *Abh-vy., Aṣṭ-pr.*
viśiṣṭataratva 田 勝, 最勝 *Abh-vy.*
viśiṣṭatā 女 差別, 特異性, 優越; 勝, 増, 差別, 最勝, 殊勝, 差別性 *Madhy-bh., Nyāy-pr., Sūtra.*
viśiṣṭatva 田 [同上]; 勝, 増, 差別, 最勝, 殊勝 *Abh-vy., Madhy-bh.*
viśiṣṭa-dāna-pati 男 殊勝施主 *Sapt-pr.*
viśiṣṭa-dharma 男 殊勝法 *Śikṣ.*
viśiṣṭa-ratna 田 無上宝 *Saddh-p.*
viśiṣṭa-varṇa 形 とりわけ色のすぐれた.
viśiṣṭāgra 形 最尊最上 *Saddh-p.*
viśiṣṭādvaita 田 *Rāmānuja* の制限不二一元論 (*Brahman* は, その身体または様相としての個我と物質世界の両者に限定されており, 両者と同一であるとする学説).
viśiṣṭādvaita-vāda 男 [同上].
vi-Śi, → *Śi* 2.
viśirṇa 過受分 [°*Śi* から] 散らされた, 踏みつけられた; 分散, 摧朽, 圯圮, 壊, 毀壞 *Divy., Lal-v., Saddh-p.*
viśirṇatā 女 碎ける状態.
viśirṇa-dhāra 形 断続する, とだえる.
viśirṇa-paṅkti 形 断続した, 不連続線をなした.
viśirṇa-mūrti 形 肉体を破壊された (*Kama* 神).
vi-śirṣan 形 頭のない.

vi-śila 形 行状の悪い, 悪業をなす.
viśuṅḅi 男 [*Kāśyapa* の息子の名].
vi-śuddha 過受分 清浄にされた; 浄, 清浄, 極清浄, 究竟清浄, 寂静, 明顕, 皓, 皓然, 挺特 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Gaṇḅ-vy., Lal-v., Lanḅ., Madhy-bh., Madhy-vibh., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Sam-r., Sāṃkhy-k., Śikṣ., Sūtr.* → *Śudh.*
viśuddha-karaṇa 形 行為の清浄な.
viśuddha-cāritra 男 浄行 [菩薩名], 清浄行 *Saddh-p.*
viśuddhatara 形 清浄殊勝 *Bodh-bh.*
viśuddhataratā 女 転得明浄, 転増明浄 *Bodh-bh.*
viśuddhatā 女 清浄, 快浄, 極清浄 *Bodh-bh.*
viśuddhatva 田 純粹なこと, 清浄.
viśuddha-dṛṣṭi 女 見浄 *Sūtr.*
viśuddha-dharma 男 甚深妙法 *Suv-pr.*
viśuddha-dhiṣaṇa 形 清浄な心の.
viśuddha-dhi 形 [同上].
viśuddha-dhira 形 清浄で不動の.
viśuddha-pārṣṇi 形 背後を防護された.
viśuddha-bodhi 女 清浄覚, 清浄慧 *Suv-pr.*
viśuddha-bhāva 形 清純な性質または心をもった.
viśuddha-manas 形 = *viśuddha-dhiṣaṇa.*
viśuddha-mugdha 形 天真爛漫な.
viśuddha-lakṣaṇa 田 清浄実相法, 清浄真実相 *Lanḅ.*
viśuddha-vaṃśya 形 血統の正しい.
viśuddha-śila 田 浄戒, 戒浄 *Śikṣ., Sūtr.*
viśuddha-sattva 形 清浄な性質をもった; 黎庶清浄 *Saddh-p.*
viśuddha-sattva-vijñāna 形 純粹な人格と認識をもった.
viśuddha-sama-dantatva 田 上下齒平齊 *Ratna-ut.*
viśuddhāvasthā 女 清浄, 善浄時, 清浄位, 清浄位住, 最浄位住 *Madhy-bh., Madhy-vibh., Ratna-ut.*
viśuddhāsayatā (°*dha-ās*°) 女 善浄意楽 *Bodh-bh.*
vi-śuddhi 女 純化, 聖化, 清浄; 負債の決済(まれ); 完全な知識(まれ); 清浄, 浄, 性浄, 極清浄, 離欲清浄 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḅ-vy., Lanḅ., Madhy-bh., Madhy-vibh., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr.*
viśuddhi-guṇa 男 清浄功德 *Ratna-ut.*
viśuddhi-gocara-tattva 田 浄所行真実, 清浄境界真実[10種 *tattva* の一] *Madhy-bh., Madhy-vibh.*
viśuddhi-gotra 田 性, 清浄正因 *Ratna-ut.*
viśuddhi-dūratā 田 遠清浄 *Bodh-bh.*
viśuddhi-tattva 田 清浄真実 *Madhy-bh.*
viśuddhi-dharma 男 所浄法, 清浄性 *Ratna-ut., Sūtr.*
viśuddhimat 形 清浄な(まれ).
viśuddhitā 女 性浄 *Sūtr.*
viśuddhi-pārami-prāpta 過受分 到第一彼岸

Ratna-ut.

- viśuddhi-bhavyatā 女 漢訳 堪浄 Bodh-bh.
 viśuddhi-viśeṣa 男 漢訳 清浄勝, 極清浄 Sūtr.
 viśuddhi-yoni 男 漢訳 清浄 Ratna-ut.
 viśuddhi-hetu 男 漢訳 清浄, 清浄因 Ratna-ut.
 viśuddhy-ālabhāna 中 漢訳 浄境, 清浄境界 Madhy-vibh.
 viśuddhy-upāya 男 漢訳 清浄業方便 Sūtr.
 vi-Śudh, → Śudh.
 vi-Śubh, → Śubh 2.
 vi-Śuṣ, → Śuṣ 1.
 vi-śuṣka 形 干あがった, しぼんだ, 干からびた; 漢訳 竭, 乾竭, 枯涸 Gaṇḍ-vy., Lal-v.
 vi-śūnya 形 全く空っぽの.
 vi-śūla 形 槍のない.
 vi-śrīṅkhala 形 拘束されない, 制限されない, 束縛されない; 過度に音のするあるいはリンリンと鳴る; (一)に過度に富んだ. ~m 圓 阻止されずに.
 vi-śrīṅga 形 両角または一角を失った; 頂のない.
 vi-Śrī, → Śrī.
 vi-śeṣa 男 [°Śiśから] (圓と圓, 圓と圓, 圓と圓) の間の差異; 特徴的な差異, 特異性, 特別の性質, 特異; 種, 個; 特殊の事物, 事項(圓); 卓越, 優越, 優秀, 傑出; 特殊の差別; 特別の場所, 不思議な事物, 異常な事物; 個性化, 差別・特異点の叙述(修辭); 特殊性(圓 sāmānya 普遍性); 漢訳 異, 差異, 差別, 別, 有差別, 異相, 分別, 能別, 別類, 各各差別, 各各有差別, 各差別, 差別, 増, 増益, 勝, 殊, 殊勝, 最勝, 勝位, 殊特, 妙, 上妙, 最上, 勝利, 高勝, 勝妙, 勝因, 殊勝妙, 殊勝差別, 差特, 奇 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Bodh-c., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lank., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mañj-m., Mṛtyut., Nyāy-pr., Saddh-p., Saṅkhy-k., Śikṣ., Sūtr., Vajr-s., Vijñ-t., Vijñ-v. 一° (ときに °一) 特定の, 特殊の, 特別の(圓各種の, 種々の); 異常な, 卓越した, 精選された, 傑出した. 圓(一° 圓美)を際立たせるために. 圓, 圓, °一 非常に, 卓越して, 殊に, 特に, 甚だ. 圓(一°)という特別の理由によって, の結果として. yena yena viśeṣeṇa いかなる方法においても. 形 法外な, 多量の. → aviśeṣa, arthāntara-viśeṣa.
 viśeṣaka 形 一° (=viśeṣa) 特殊性; 区別する, 限定する. 男 中 (顔料絵具で画く) 額の印. 男 [初めに二つのものの類似点を挙げるが結局は両者の差異をいい表わす比喩表現: 圓 鳥と郭公鳥とは黒い, けれども春は両者の差異を知らせる].
 viśeṣa-karaṇa 中 改善.
 viśeṣa-gati 女 漢訳 差別趣 Madhy-vibh.
 viśeṣagaty-āvaraṇa 中 漢訳 差別趣障, 勝負捨離障 Madhy-bh.
 viśeṣa-gamana 中 漢訳 勝進, 進位 Bodh-bh., Sūtr.
 viśeṣa-gāmitā 女 漢訳 勝, 最勝, 進趣勝処, 趣向勝道 Lank., Śikṣ.
 viśeṣa-gāmin 男 漢訳 [王の名] 殊勝行, 勝行 Lal-v.
 viśeṣa-jña 形 (事物の) 差異を知る, 区別する, 思慮分

- 別のある. 一° 種々の…を知っている.
 viśeṣa-jñāna 中 漢訳 勝智 Sam-r.
 vi-śeṣaṇa 形 差別する, 特殊化する. 中 差別するのすなわち属性, 形容詞, 副詞, 同格語または述語; 別すること; 特殊化; 種, 類; に勝れること(まれ) 漢訳 差別, 能別, 簡別, 分別 Abh-k., Abh-vy. Bodh-bh., Lank., Madhy-v., Nyāy-pr.
 viśeṣaṇatva 中 形容詞的性質.
 viśeṣaṇa-pada 中 尊称.
 viśeṣaṇa-viśeṣyatā 女 述語と主語との関係.
 viśeṣaṇa-viśeṣya-bhāva 男 [同上].
 viśeṣatas 副 (一°) の差異によって, …に比例して 特殊的に, 単独に, 特別に, 就中; 漢訳 約勝(説), 過 Buddh-c., Śikṣ.
 viśeṣatā 女 漢訳 殊, 差別 Bodh-bh., Divy.
 viśeṣatva 中 差別; 特殊という概念.
 viśeṣa-drśya 形 異様な, 壯観を呈する.
 viśeṣa-niyama 男 特殊の規律または戒律.
 viśeṣa-prajñapti-paryeṣanā 女 漢訳 差別求, 縁差別 差別仮立尋思 Bodh-bh., Sūtr.
 viśeṣa-pratipatti 女 敬意を表わす特殊のしるし.
 viśeṣa-phala 中 漢訳 殊勝果, 勝位果 Madhy-bh. Madhy-vibh.
 viśeṣa-bhāgiya 形 漢訳 勝分, 勝進分, 順勝分 Bodh-bh.
 viśeṣa-maṇḍana 中 高価な装飾.
 viśeṣa-mati 女 漢訳 最上意[菩薩名], 増意[王子名 Raṣṭr., Saddh-p].
 viśeṣa-mārga 男 漢訳 勝進道, 勝徳道, 増進道 Abh-vy.
 viśeṣa-ramaniya 形 特に楽しい.
 viśeṣa-lakṣaṇa 中 漢訳 勝相 Ratna-ut.
 viśeṣa-vacana 中 形容詞, 同格語.
 viśeṣavat 形 特質または特性を有する, 卓越した, (一°) よりすぐれた; 区別のある(圓 a-の形で); 漢訳 奇特 殊勝, 最勝 Bodh-bh., Śikṣ.
 viśeṣa-vikalpa 男 漢訳 別相分別, 差別分別 Bodh-bh., Sūtr.
 viśeṣa-vid 形 =viśeṣa-jña.
 viśeṣa-śālin 形 すぐれた, 傑出した.
 viśeṣādhigama 男 漢訳 勝行, 差別証, 所証転勝 Bodh-bh., Śikṣ.
 viśeṣābhiṣeka 男 漢訳 殊勝灌頂 Bodh-bh.
 viśeṣārthitā 女 よりよきものを求めること.
 viśeṣārthin 形 卓越または優越を求める; 漢訳 欲求 進者, 求出世法, 精勤勝進, 欲証勝法, 欲得勝 Lank.
 viśeṣāvasthā 女 漢訳 殊勝位, 勝(徳)位 Madhy-bh. Madhy-vibh.
 vi-śeṣikatā 女 漢訳 殊勝性 Bodh-bh.
 vi-śeṣita 過受分 使役 において傑出した; によって 駕された; 漢訳 差別, 簡, 簡別 Abh-vy., Lank., Śiṣ. 1.
 viśeṣitatva 中 漢訳 増勝 Śikṣ.
 vi-śeṣin 形 区別のある, 個々の. 一° に優れようとする, と競う.

viśeṣakti (°ṣa-uk°) 因 (他の点では似ている二つの事物の) 差異を述べる事 (比喩表現).

viśeṣottara (°ṣa-ut°) 形 勝進, 上勝進上, 上勝進, 差別上上昇進 *Bodh-bh.*, *Lank.*

vi-śeṣya 使役 未受分 [°Śis から] 限定されるべき または特殊化されるべき; 漢訳 所別 *Nyay-pr.* 因 名詞, 主格.

vi-śoka 形 悲しみのない; 悲しみを取り除く. 因 悲しみの熄むこと; [*Bhima*の馭者の名]; [ある *Dānava*の名].

viśokatā 因 悲しみのないこと.

viśoka-parvan 因 [*Mahābhārata* 中の一章の題名].

vi-śodha 過受分 [visodha の不確] → *Sah.*

viśodhaka 形 清浄, 淨 *Lal-v.*, *Lank.*, *Mañj-m.*, *Sūtr.*

vi-śodhana 使役 [°Śudh から] 形 (因 -i) 清める; 洗っておとす. 因 清めること (祭儀上の用語としても用いる); 漢訳 清浄, 悉清浄, 能浄修治, 淨修治, 淨, 令清浄, 成, 令解 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*

vi-śodhayitavya 未受分 漢訳 清浄, 応浄治, 応浄 *Gaṇḍ-vy.*, *Śikṣ.*

vi-śodhita 過受分 [°Śudh から] 漢訳 淨, 清浄, 已淨, 離垢 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*

vi-śodhitva 因 清めること, 障害を除くこと.

vi-śodhin 形 清浄にする.

vi-śodhya 未受分 (因) から控除されるべき; 漢訳 清浄, 応浄 *Ratna-ut.*, *Sūtr.* → *aviśodhya.*

vi-śobhita 使役 過受分 [°Śubh 2 から] (因, 一°) をもって飾られた; 漢訳 嚴飾, 雅麗 *Saddh-p.*

vi-śoṣa 因 乾燥.

vi-śoṣaṇa 形 乾燥した; 恣す (傷を, 一°). 因 乾燥, 干上ること.

vi-śoṣita 過受分 [°Śuṣ から] = *viśoṣin.* 漢訳 枯竭 *Lal-v.*

vi-śoṣin 形 乾き上る, 萎える; 乾燥させる; 漢訳 枯竭摧拔 *Rāstr.*

viś-pati 因 (因) 部落または種族の長, 家長; 因 主人と主婦.

viś-patni 因 主婦.

viś-palā 因 [*Aśvin* 雙神によって足を取り戻した女の名] (RV.).

viśya 形 人間の社会を形成する または 種族に属する (RV.). 因 庶民または第三階級の人 (因).

vi-śyāparṇa 形 *Śyāparṇa* なしに行なわれた (祭式).

vi-Śraṇ, → *Śraṇ.*

vi-Śrath, → *Śrath.*

vi-śraddha 形 生橋恣心 *Saddh-p.*

vi-śrabdha 過受分 [°Śrambh から] 信頼した. 一° または ~m 因 信頼して, 躊躇せずに. → *aviśrabdha.*

viśrabdha-kārya 形 密命を受けた.

viśrabdha-pralāpin 形 打ちあけて話す.

viśrabdha-supta 形 安眠している.

viśrabhya 不変 = *viśrabdham.*

vi-Śram, → *Śram.*

vi-śrama 因 休息, 休養.

vi-śramaṇa 因 休息すること, 休養.

vi-śramita 使役 過受分 休息させた. → *Śram.*

vi-Śrambh, → *Śrambh.*

vi-śrambha 因 中止 (まれ); (因, 一°, まれに (因)) に対する信頼; 懇意, 親密. ~m *Gam, Labh* または *Kṛ* (因) の信頼を得る. ~eṇa, ~āt, °— 因 信じて. *kaśmai ~m kathayāmi* 私は誰を信頼したらよいだろう; 漢訳 親, 委信, 虔心 *Buddh-c.*

viśrambha-kathā 因 内密のまたは親しい会話.

viśrambha-kathita (過受分) 因 同 [同上].

viśrambha-garbha-kathā 因 = *viśrambha-kathā.*

vi-śrambhaṇa 因 信頼; (一°) の信頼を得ること. ~m *Gam* 信頼を得る.

viśrambhaṇiya 未受分 (因) に信頼を起させるべき.

viśrambhatā 因 信頼. ~m *Gam* 信頼の気持を起こさせる.

viśrambha-bhṛtya 因 腹心の召使い.

viśrambha-saṃkathā 因 = *viśrambhakathā.*

viśrambhārha 形 信頼に値する.

viśrambhālāpa (°bha-āl°) 因 = *viśrambhakathā.*

viśrambhāspadatā (°bha-ās°) 因 信頼の気持を起こさせること.

viśrambhita 過受分 安堵した.

viśrambhin 形 (一°) を信頼する, に信を置く; 信頼をうけた; 内密の (会話).

viś(s)rambhopagata (°bha-up°) 過受分 漢訳 情交親密 *Bodh-bh.*

vi-śraya 因 漢訳 依 *Sūtr.*

vi-śravas 形 有名な. 因 [*Pulastya* の息子で *Kubera*, *Ravana* 等の父である *Rṣi* の名].

vi-śrāṇana 因 (因, 一°) の授与, の贈物; (生命) の犠牲; 漢訳 開示 (?) *Gaṇḍ-vy.*

viśrāṇika 因 [*Rāmāyaṇa* 中のある章の名].

vi-śrānta 過受分 [°Śram から] 休息した等; 漢訳 休息, 息已, 息已, 息, 得休息, 休廢, 休懈, 既得止息 *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*

viśrānta-katha 形 語を失なった, 啞の.

viśrānta-puṣpodgama (°pa-ud°) 形 咲きやんだ.

viśrānta-rūpa 因 漢訳 息已 *Saddh-p.*

viśrānta-vigraha-katha 形 戦争または肉体を問題としない, 非好戦的な, 肉体のない (*Udayana* 王と愛の神に用いられる).

viśrānta-vilāsa 形 娛樂または快樂を捨てた.

viśrānta-vaira 形 敵意を捨てた.

viśrānti 因 安息, 休息, 休養; 中止, 終り (まれ).

viśrānti-bhūmi 因 休養の手段.

vi-śrāma 因 安息, 休息, 休養; 努力のあとで溜息をつくこと; 休息所 (まれ); 中止, 輕減, 失効; 漢訳 (小) 息, 歇息 *Mvyut.*, *Saddh-p.*

vi-śrāmaṇa 因 漢訳 息 (処), 休息, 止息 *Saddh-p.*

viśrāma-bhū 因 休息所.

viśrāma-bhūta 形 漢訳 息 *Saddh-p.*

viśrāma-veśman 因 休息部屋.

viśrāma-sthāna 因 安息所 = 氣ばらしの手段.

vi-śrāva 因 音; 名声.

vi-Śri, → *Śri.*

vi-śri-Kṛ, 美を奪う(=美しさで凌ぐ).
 vi-Śru, → Śru 1.
 vi-śruta 過受分 有名な等. 男 [人名]. 中 名声; 善聞, 普聞, 博聞; 名, 号曰, 名称, 美名称; 広流, 遍 *Abh-ry.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*
 viśruta-śriya 男 大聞徳[王の名] *Lal-v.*
 viśruta-śri-nṛpa 男 聞徳王, 多聞王 *Raṣṭr.*
 vi-śruti 女 名望, 名声.
 vi-ślatha 形 弛められた, たるんだ.
 viślathāṅgam 副 だらけた四肢で.
 vi-ślathita 過受分 =viślatha.
 vi-Śliṣ, → Śliṣ.
 vi-śliṣṭa 過受分 → Śliṣ.; 離 *Bodh-bh.*
 vi-śliṣya 不変分 (從)から分離して.
 vi-śleṣa 男 弛むこと, 分離, ばらばらに崩れること; 母音連続 (*sandhau* または *sandhi-* とともに 母音の非結合); (恋人との)別離; 乖離, 分離, 別離, 相離, 遠離, 分, 離, 弁別 *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Ratna-ut.*
 viśleṣa-kāraṇa 中 分離能作, 相離因 [10 kāraṇa の一] *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*
 vi-śleṣaṇa 中 分離.
 viśleṣāvaraṇa (°śa-āv°) 中 分離障, 相離障 *Madhy-bh.*
 vi-śleṣita 使役 過受分 → Śliṣ.
 vi-śleṣin 形 (女 -ni) 弛められた; (一°時に一°)分離した, (愛するものから)距てられた.
 viśva 形 ことごとくの, すべての, 全部の, 全体の (*Br.* しかし 後には *sarva* が用いられる); 一切に行きわたるまたは一切を含む (*Viṣṇu*, 靈魂, 智). 男 万人; 個によって限定された智 (*Vedānta* において); [ある王の名]. *viśve devāḥ* すべての神々; 特殊な一群の神々, 一切神. 中 一切, 宇宙, 世界; 諸 *Lank.*
 viśvaka 男 [*Aśvin* 雙神のある被保護者名].
 viśva-kartṛ 男 万有の創造者.
 viśvakartṛtva 中 万有の創造者であること.
 viśva-karman 1. 中 一°一切の行動.
 viśva-karman 2. 形 万物を成就するまたは創造する (因, 叙詞). 男 宇宙建造者の名 [*Prajāpati* と類似し, しばしば 彼と区別されない. 中 では神々の中の建設者および工匠のことで *Prajāpati* と呼ばれる. (また 父系名 *Bhauvana* を伴って *Berhiṣmatī* と *Samjñā* との父; 太陽の称 (まれ)]; 工巧天, 巧妙天, 自在天王, 好業(天子); 諸業者, 諸作者, 種種工業; 毘首羯磨天, 毘湿縛羯磨 *Divy.*, *Lank.*, *Mvyut.*
 viśva-kāya 形 宇宙を身体とする.
 viśva-kṛt 形 あらゆるものを創造する. 男 宇宙の創造者; (神々の中の)建造者および造物主, *Viśvakarman*.
 viśva-kṛta 過受分 *Viśvakarman* (?) によって創造された.
 viśva-kṛṣṭi 形 すべての種族に属する (*RV.*).
 viśva-kṣaya 男 世界の破壊.
 viśva-ga 男 [*Pūrṇiman* の息子の名].
 viśva-gata 過受分 遍在した.
 viśva-gandhi 男 [*Prthu* の息子の名].

viśva-guru 男 宇宙の父.
 viśva-cakṣas 形 すべてを見る (*RV.*). 中 宇宙の眼.
 viśva-carṣaṇi 形 =viśvakṛṣṭi (*RV.*).
 viśva-jana 男 人類.
 viśva-janina 形 あらゆる種類の人々を含む (因); あらゆる人々を支配する (因); 全世界に利益を与え (因, 中).
 viśva-janya 形 あらゆる人々を包含する (天と地) (因); 普遍的な, あらゆる人々に親しい (因); あまねく利益のある (論議).
 viśva-jayin 形 宇宙を征服する.
 viśva-jit 形 すべてを征服する (因, *P.*). 男 *Gavām yana* 祭におけるある *Ekāha* の名 (*Viśuvat* 後の第日に行われる) (*Br.*, *S.*, 中); *Agni* 神の一形態; [ある *Dānava* の名]; [種々の人名].
 viśva-jīva 男 宇宙精神.
 viśva-jū 形 すべてを促進する (*RV.* 用例一回のみ).
 viśva-tanu 形 =viśvakāya.
 viśvatas 副 四方から, 四方に, 至るところに.
 viśvato-mukha 形 すべての側に面を有する, あらゆる方向に面する. ~m 副 あらゆる方向に.
 viśva-toya 形 [女 -ā] すべての水を有するまたは水ですべてを悦ばせる (すなわち *Gaṅgā* 河の称).
 viśvatra 副 いたるところに, 常に.
 viśvathā 副 あらゆる方法で, 常に (因).
 viśva-damṣṭra 男 [ある *Asura* の名].
 viśva-datta 男 [ある 婆羅門の名].
 viśva-darsata 形 だれにでも見える (*RV.*).
 viśva-dānim 副 常に (因).
 viśva-dṛś 形 一切を見る.
 viśva-deva 形 完全に神的な. 男 種 すべての神々
 viśva-devya 形 あらゆる神々に関するまたはに親しい *Viśve Devāḥ* の性質をもつ (*RV.*).
 viśva-devyāvat 形 =viśvadevya; *Viśve Devāḥ* 伴われた (*Indra* 神).
 viśva-dharaṇa 中 宇宙の維持.
 viśva-dhā(a) 副 どんな場合でも, 常に (*RV.*).
 viśva-dhāman 中 万物の庇護所.
 viśva-dhāyas 形 すべてを扶養する (*RV.*).
 viśva-dhāra 男 [*Medhatithi* の息子の名または彼の名を与えた *Varṣa* の名].
 viśvadhā-virya 形 あらゆる場合に有効な (*AV.*).
 viśva-dhena 形 すべてを養う (*RV.*).
 viśva-nātha 男 宇宙の主; [*Śiva* 神の称]; [人名]
 viśva-nābhi 女 宇宙の臍.
 viśvaṃ-tara 形 すべてを服せしめる (仏陀). 男 [*Sauśadmana* をもつ王の名]; 普護 *Mvyu*
 viśva-pati 形 [特殊の火の名]; [*Mahāpuruṣa* の名] [*Kṛṣṇa* 神の称].
 viśva-pāvana 形 (因 -i) すべてを浄化する.
 viśva-piś 形 装飾のかぎりを尽した (*RV.*).
 viśva-prakāśa 男 万人の啓発者; [辞典の標題].
 viśva-prabodha 形 一切を啓発するまたは覚らせる
 viśva-psnya 形 すべての栄養をもたらす (因).
 viśva-bandhu 男 世界の友.
 viśva-bhartṛ 男 宇宙の維持者.

viśva-bhava 形 万物を発生させる。
 viśva-bhāva 形 万物の生成を司る。
 viśva-bhāvana 形 [同上]。
 viśva-bhuj 形 すべてを享受する。男 [特殊の火の名]；
 [Indra 神の息子の名]。
 viśva-bhṛt 男 =viśvabhartr̥。
 viśva-bheṣaja 形 (女 -i) すべてを治癒する。中 乾いたショウガ(罽)。
 viśva-bhojas 形 すべてを扶養する。
 viśvamaya 形 (女 -i) 全宇宙を含む。
 viśva-maha 男 [擬人格の一種]。
 viśva-maheśvara (°hā-iś°) 男 一切の偉大な主 (Śiva 神)。
 viśvam-inva 形 (RV.) すべてを動かす、一切を促進する。
 viśva-mūrti 形 宇宙を身体とする(=viśvakāya)または一切の形態をもつ(=mat)。
 viśvaṃ-bhara 形 すべてを支持する。男 火；[Viṣṇu 神の称]。
 viśvaṃbhara-kulāya 男 火の容器。
 viśvaṃ-bharā 女 大地。
 viśvaṃbharādhiśvara (°rā-adhi-iś°) 男 王。
 viśvaṃbharā-bhuj 男 王。
 viśva-yoni 男 女 宇宙の本源または創造者。
 viśva-ruci 男 [ある Dānava の名]、[ある 神的存在の名]。
 viśva-ruci 女 [七種の火炎の一]。
 viśva-rūpa 中 (罽)あらゆる形体。形(女 -ā, -i) 色とりどりの、多彩な(因)；あらゆる形をとる、多種の、さまざまの；[三個の首を Indra 神によって打ちおとされた Tvastṛ の息子の名]、[ある Asura その他の名]；**漢** 衆色、種々色、種々色像 *Lank.*
 viśvarūpa-gati 女 **漢** 勝道法 *Lank.*
 viśvarūpavat 形 あらゆる形体をとってあらわれる。
 viśva-rūpā 女 斑点のある牝牛(因)、大地；[ある詩の名 (Br.)]。
 viśva-rūpin 形 =viśvarūpavat。
 viśva-rūpi 女 [七種の火炎の一]。
 viśva-vāra 男 一切の財宝を含むまたは与える等(因)。
 viśva-vāsa 男 万物の容器。
 viśva-vikhyāta **過受分** 全世界に知られた。
 viśvaṃvid 形 全知の。
 viśva-vibhāvana 中 宇宙の創造。
 viśva-viśruta **過受分** 全世界に知られた。
 viśva-vedas 形 すべてを知る。
 viśva-saṃbhū 形 すべてに有益な。
 viśva-śuc 形 すべてを輝かす(RV.用例一回のみ)。
 viśvaścandra 形 あまねく輝く(RV.)。
 vi-Śvas, → Śvas。
 viśva-saṃvanana 中 すべてを魅惑する手段。
 viśva-saṃhāra 男 一切の破壊。
 viśva-sakha 男 万人の友。
 viśva-sattama **最上** 一切中の最勝な；[Kṛṣṇa 神の称]。
 vi-śvasaniya **未受分** 信頼されるべき、信頼に値する。
 中 **非人** (因)に信頼を置くべきである。

viśvasaniyatā 女 信頼の念を抱かせること。
 viśvasaniyatva 中 [同上]。
 viśva-saṃplava 男 世界の終末。
 viśva-saha 男 [人名]。
 viśva-sahāya 形 *Viśve Devāh.*に伴われる。
 viśva-sākṣin 形 すべてを見る。
 viśva-sāhvan 男 *Mahasvat* の息子。
 vi-śvasitavya **未受分** [°Śvas から]=viśvasaniya。
 viśva-sṛj 形 (因 -sṛk) すべてを創造する。男 宇宙の創造者；[*Nārāyaṇa* の称]。
 viśva-sṛṣṭi 女 宇宙の創造。
 viśva-saubhaga 形 すべての繁栄をもたらす(RV.)。
 vi-śvasta (まれに -ita) **過受分** → Śvas。
 viśvastam 中 全く信頼して。
 viśvastā 女 寡婦。
 viśvasta-ghātaka 形 信頼する者を破滅する。
 viśvasta-ghātin 形 [同上]。
 viśvasta-mānasa 形 **漢** 意堅、意合 *Muyut.*
 viśvasta-vañcaka 形 信頼する者を欺く。
 viśva-sphūrjī 男 [*Magadha* 王の名]。
 viśva-ha (または ā) 副 常に(因)。
 viśvā 女 [*Dakṣa* の娘で *Viśve Devāh* の母の名]；[河の名]。
 viśvāci (女) (viśva-añc から) 形 一切の方面に向かう (RV.)。女 腕と背の麻痺(罽)；[ある *Apsaras* の名]。
 viśvātithi 男 宇宙の客=至る所へ行く。
 viśvātman (°va-āt°) 男 宇宙精神。
 viśvād 形 すべてを食い尽す(因)。
 viśvādhāra (°va-ādh°) 男 宇宙の支持。
 viśvādhipa 男 宇宙の主。
 viśvā-nara 形 あらゆる人々に関するまたはに親しい等 (因)。男 [Agni の父の名]。
 viśvāntara 男 [王の名]。
 viśvā-puṣ 形 すべてを扶養する(RV.用例一回のみ)。
 viśvā-mitra 男 [*Rgveda* 第三巻の主作者で有名な Rṣi の名 (父系 *Gathina, Gādheya*, および *Jāhnavā* をもつ)、*Vasiṣṭha* の競争者]；**漢** 遍友 *Gaṇḍ-vy.*；**音写** 毘奢蜜多、毘尸婆、弥湿嚩弭恒羅 *Buddh-c.*, *Divy.*, *Lal-v.*
 viśvāmṛta 形 永劫不死の。
 viśvāyu (°va-āy°) 形 全寿命の間続く(因)。中 すべての人々 (RV.)。男 [*Purūravas* の息子の名]。
 viśvā-yaṭva 男 [人名]。
 viśvā-vasu 形 すべての財宝をもたらす。男 [*Gandharva* の名]；[*Siddha* 族の王子の名]；[*Viṣṇu* の称]。
 viśvāvāsa (°va-āv°) 男 =viśvavāsa。
 vi-śvāsa 男 (因、時として、**罽** *saha*, **罽**, または 一°)に 対する 信頼・信用・信仰；(一°)に打ち明けられた秘密(まれ)；**漢** 信、(妄)信、保信、倚信、親厚、深可倚信、不当妄信、与之同意 *Bodh-bh.*, *Kāśy.*, *Dity.*, *Suvik-pr.*
 viśvāsa-kāraka 形 (女 -kā) 信頼の念を起こさせる。
 viśvāsa-kāraṇa 中 信頼する理由。
 viśvāsa-kārya 中 内密の事柄。
 viśvāsa-gata 形 (罽)の信頼を得た。
 viśvāsa-ghāta 男 信頼を裏切ること。

viśvāsa-ghātaka 形 信頼を裏切る, 反逆する.
 viśvāsa-ghātin 形 [同上].
 vi-śvāsana 中 信頼の念を起こさせること.
 viśvāsanārtham 副 信頼の念を起こさせるために.
 viśvāsa-parama 形 全面的な信頼に備いする.
 viśvāsa-pātra 中 信頼の対象; 信頼するに足る人.
 viśvāsa-pratipanna 形 信頼の念をもった.
 viśvāsa-bhaṅga 男 信頼を裏切ること.
 viśvāsa-bhūmi 女 = viśvāsapātra.
 viśvāsa-sthāna 中 抵当, 質.
 viśvāsa-hantr, -hantr 形 = ²ghātaka. 男 謀反人.
 vi-śvāsika 形 信頼できる.
 vi-śvāsin 形 信用する, 信任する; 信頼するに足る;
 誠実, 吐実誠 *Bodh-bh.*
 viśvāsopagama (°sa-up°) 男 信用の増大.
 vi-śvāsya 未受分 信頼するに足る; 信頼の念を起こさ
 せる; 慰さめられるべき, 慰安を見出す; 同意
Bodh-bh.
 viśvāsyatara 比較 非常に信頼すべき.
 viśvāsyatā 女 仰信 *Bodh-bh.*
 viśvā-hā 副 常に (因).
 vi-Śvi, → Śvā.
 vi-Śvit, → Śvit.
 viśve-deva 男 種 *Viśve Devāḥ* → viśva.
 viśveśa (°va-iśa°) 男 宇宙の主 (*Brahman, Viṣṇu* およ
 び *Śiva* の称).
 viśveśitr (°va-iś°) 男 [同上].
 viśveśvara (°va-iś°) 中 男 [同上]; [人名].
 viśveśvara-sthāna 中 [地名].
 viśvaika-sāra (°va-ek°) 男 [聖地の名].
 viśvaujas (°va-oj°) 形 全能の (因).
 Viṣ, III. 他 *viveṣṭi, viviṣṭi* (RV.); I. 他 *veṣati*
 (RV., 叙詩, 非常にまれ); 随 随 *veveṣṭi, veviṣṭi* (因) 活
 動する; 遂行する, 働く, 為す; (水が) 流れる; …
 のために働く, 仕える; 捕える, 征服する, 支配す
 る; (食物を) 食する. 現分 *veviṣāna* (因) によって支
 持されたまたは導かれた. 過受分 *viṣṭa*.
 pari- 仕える, (業) に食物を供する; (食物を) 調理す
 る; 与食, 施食, 飲食供養 *Divy.* 使役 *pari-*
veṣayati (業) に食物を供する; 行飲食 *Divy.*
 viṣ 因 (因 -t) 排泄物; 不潔物; 亦大便 *Mvyut.*
 viṣa 1. 男 下僕, 侍者 (RV.).
 viṣa 2. 中 (効力のある) 毒, 毒液; 水(まれ); 毒,
 悪毒, 雑毒, 毒物, 毒薬, 箭毒; 毒害, 苦害 *Abh-*
vy., Bodh-c., Bodh-bh., Lan̄k., Lal-v., Mvyut.,
Ratna-ut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., 梵雑., 梵千.; 音写
 尾沙 *Guhy-s.*
 viṣa-kanyā 女 これと交接するものを死に至らしめ
 るとされる娘.
 viṣa-kumbha 男 毒壺; 毒器 *Rāṣṭr.*
 viṣa-kṛta 形 毒を入れた.
 viṣa-kṛmi 男 うじむし.
 vi-ṣakta, 過受分 → *Sañj*; 預託 任 *Buddh-c.*; *yaṣṭi*
 ~ 任杖 *Buddh-c.*
 viṣa-ghāta 男 解毒剤の調合者.
 viṣa-ghna 形 解毒の. 中 解毒剤.

viṣa-ghni 形 → *viṣahan.*
 vi-ṣaṅgin 形 固着する; 群れ集る.
 viṣa-cūrṇa 中 楚毒 *Av-s.*
 viṣa-ja 形 毒によって生ずる.
 viṣaja-druma 男 毒の木.
 viṣa-jala 中 毒の水.
 viṣa-jihva 形 毒舌の.
 viṣa-juṣṭa 形 毒を入れた.
 vi-ṣajjat 現分 (因 -ati) …に執着する または献身的な.
 viṣa-jvara 男 毒熱, 熱病 *Bodh-bh.*
 vi-ṣaṅṅa 過受分 [°Sad から] 落胆した等; 悩, 愁
 悩 *Av-s., Śikṣ.* → *aviṣaṅṅa.*
 viṣaṅṅa-cetas 形 落胆した; 生大恐怖 *Buddh-c.*
 viṣaṅṅatā 女 失意, 絶望.
 viṣaṅṅa-bhāva 男 [同上].
 viṣaṅṅa-manas 形 (= *viṣaṅṅacetas*) 落胆した.
 viṣaṅṅa-mukha 形 失望の色を表わす.
 viṣaṅṅātman (°ṇa-āt°) 形 (= *viṣaṅṅacetas*) 落胆し
 た.
 viṣa-taru 男 毒の木.
 viṣatā 女 有毒な状態. ~ *m sam-upa-l* 有毒となる.
 viṣatva 中 [同上].
 vi-Ṣad, → *Sad.*
 viṣa-da 男 (水を与えるもの), 雲; 無尽 *Sūtr.*
 viṣa-dāyak 男 毒を入れる者.
 viṣa-dāyin 男 [同上].
 viṣa-digdha 形 毒を塗った.
 viṣa-dūṣaṇa 形 (因 -i) 解毒の (因). 中 (食物による) 中
 毒(業).
 viṣa-druma 男 毒の木.
 viṣa-dhara 男 毒蛇; 貯水池.
 viṣa-dhāna 中 毒の容器.
 viṣa-nāsinī 女 [ある植物の名].
 viṣa-nimitta 形 毒によって惹起された.
 viṣanna 形 = *viṣaṅṅa*; 退屈; 加害 *Śikṣ.*: ~
astra 刀杖加害 *Śikṣ.*
 viṣa-panna-ga 男 毒蛇.
 viṣa-parvan 男 [ある *Daitya* の名].
 viṣa-pādapa 男 毒の木.
 viṣa-puṣpa 中 有毒の花.
 viṣa-pratikāra 男 消(諸)毒(類) *Śikṣ.*
 viṣa-prastha 男 [山の名].
 viṣa-bhakṣaṇa 中 食毒 *Bodh-bh.*
 vi-ṣama 形 平坦でない, 高低のある, 粗い; 不等の,
 不規則の, 不同の; 奇数の, 偶数でない; 横断しに
 い, 困難な, 不便な, 重大な, 危険な, 不利の, 恐
 ろしい, 悪い; 理解し難い; 不適當な, 不正の (まれ)
 不正直 (まれ); 不平, 不均 (不等), 不斉, 不
 等; 不順; 猛, 枉横; 危険, 極険; 邪; 背理 *Abh-*
k., Divy., Mvyut.: °—, ~ *m*, ~ *eṇa* 副 恐ろしく
 不等に; 非法 *Rāṣṭr.* 中 平坦でないすなわち
 低ある土地または場所, 悪路; 抗, 崖; 困難な立場;
 痛, 不幸; 不揃い, 不等 (因: 不等に); 不調和, 両
 しないこと (修辭); 高下, 險難, 險悪処; 悩乱
 疎, 悪, 邪, 妖, 暴, 邪悪, 險悪, 險隘; 不等,
 平等; 不正, 不相, 差別, 不相似 *Bodh-bh., Bu*

dh-c., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lank., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ., Suv-pr., 梵雜. → *aviṣama.*
viṣama-karman 甲 漢訳 悪業, 不平等業 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy.*
viṣama-kāla 男 漢訳 悪時, 非時.
viṣama-kula 甲 漢訳 悪人家, 悪種族 *Gaṇḍ-vy.*
viṣama-gata 形 苦境に落ち入った.
viṣama-citta 甲 漢訳 毒心 *Aṣṭ-pr.*
viṣama-cchada 男 [木の名 *Alstonia scholaris*].
viṣama-jvara 男 漢訳 [病名] 不尽疫 *Mṛvyut.*
viṣamatva 甲 不同であること, 不平等であること;
 漢訳 有彼此 *Saddh-p.*
viṣama-dṛṣṭi 女 漢訳 見不順, 不尽見 *Mṛvyut.*
viṣama-nayana 男 (奇数の眼を有する), [*Śiva* 神の名].
viṣama-pada 形 不同の足跡を持つまたは示す(路); 不同の *pāda*(行)を持つ(詩節).
viṣama-parivarjana 甲 漢訳 避険難, 離不安吉処 *Abh-vy.*
viṣama-pāda 形 不同の *pāda*(詩節の一行)からなる.
viṣama-mati 女 漢訳 邪見迷意, 邪曲迷醉, 邪見迷醉 *Lank.*
viṣamaya 形(女 *-i*, 男 *-ā*) 有毒の.
viṣama-rāga 男 漢訳 不平等貪 *Bodh-bh.*
viṣama-lobha 男 漢訳 不平等貪 *Bodh-bh.*
viṣama-varṣa 男 漢訳 暴雨, 悪雨 *Sapt-pr.*
viṣama-vāta 男 漢訳 悪風 *Sapt-pr.*
viṣama-viśikha 男 (奇数の=五矢を負った), [愛の神の名].
viṣama-śara 男 [同上].
viṣama-śilā 女 でこぼこした岩.
viṣama-śīla 男 [*Vikramāditya* の別称]; [彼の名にちなむ *Kathāsaritsāgara* の第十八 *Lambaka* の標題].
viṣama-stha 形 危険な場所に立つ; 苦境にある.
viṣama-sthita 形 [同上].
viṣama-hetu 男 漢訳 不平等因 *Madhy-vibh.*
viṣamahetu-kalpana 甲 漢訳 執…有不平等因, 分別立不平等因 *Madhy-bh.*
viṣama-jīva 男 漢訳 邪命 *Śikṣ.*
viṣamāya 名動 過受分 (路が)でこぼこになるまたはに見える.
viṣamāyudha (°*ma-āy*°) 男 (奇数の矢を負った), [愛の神の名].
viṣamāsana 甲 (多すぎたり少なすぎたりする)不規則な食事.
viṣamita 名動 過受分 通行不能にされた(堤); 歪められた, 乱された; 危険となった.
viṣamī-Kṛ, 不同にするまたは歪める.
viṣamī-bhāva 男 均衡の破れること.
viṣamī-BHū, 不同または不規則となる.
viṣa-muc 形 毒のある(言葉). 男 蛇.
viṣamekṣaṇa (°*ma-ik*°) 男 (奇数の=三箇の眼を有する), [*Śiva* 神の称].
viṣameṣu (°*ma-iṣ*°) 男 (奇数の=五本の矢を負った), [愛の神の名].

viṣaya 男 活動領域; 範囲, 限界, 区域, (目, 耳, 心等の)届く範囲; (生命の)持続; 地方, 部門, 領土, 仕事; 制限された通用範囲(文法); (圖)の余地または適切であること(まれ); 感覚の対象(五感に対する五境: 声, 触, 色, 味, 香); 感官の対象または快樂, 世俗的關心事, 肉の享樂(種); 客体(因主体); 話題, 主題; 目的, 標的; (圖, 圖, 一°)に適するもの; 比喩の主体(例比喩‘蓮の眼’において‘眼’は *viṣaya*, ‘蓮’は *viṣayin* すなわち容体である); 場所, 地点; 地方, 地域, 国, 王国(種 国土, 領地); 漢訳 行, 所行, 所行境, 所行境界; 境, 界, 境界, 妙境界; 処, 塵, 塵境界; 所知, 欲境, 五欲; 事, 土, 境土; 圍境; 国, 国土, 国界 *Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Bodh-c., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lank., Madhy-bh., Mṛvyut., Ratna-ut., Saddh-p., Sāṃkhy-k., Sapt-pr., Sūtr., Suvik-pr., Vijñ-t.,* 梵千., 梵雜. 形 (一°)の中にまたはとして現われる; 常に…の部類に限定されたまたはにのみ属する; …に關係する・を扱う・に關する・に向けられたまたはを狙った. ~e 因 (圖, 一°)の範囲においてまたはに關して; *atra* ~e これに關して; *chandasi* ~e *Veda* においてのみ.
viṣayaka 形 (一°)を対象とするまたはに關する.
viṣaya-kāmendriya (°*ma-in*°) 甲 漢訳 愛樂, 貪欲 *Lank.*
viṣaya-grāma 男 感覚の世界.
viṣaya-jña 男 専門家.
viṣayatā 女 (圖)の対象であること; (一°)との關係またはに対する依存性.
viṣayatva 甲 (一°)の対象であること・に現われることまたはの中で取扱われること; (一°)に(圖)を限定とすること; (一°)との關係またはに対する依存性.
viṣaya-nimitta 甲 漢訳 境相 *Vijñ-t.*
viṣaya-pati 男 漢訳 土官 *Mṛvyut.*
viṣaya-paratantra 形 漢訳 緣著 *Sūtr.*
viṣaya-pavana 男 漢訳 風境界 *Lank.*
viṣaya-pravaṇa 形 感覚の対象に心が向いた.
viṣaya-bandhana 甲 漢訳 境界是縛, 縛於境界 *Lank.*
viṣaya-lolupa 形 享樂を欲する, 熱望.
viṣayavat 形 感覚の対象に向けられた; 客観的な.
viṣaya-vāsin 形 ある国に住む. 男 住民.
viṣaya-vijñapti 女 漢訳 了境, 了別境 *Vijñ-t.*
viṣaya-vimukha 形 漢訳 絶於五欲 *Buddh-c.*
viṣaya-vilopa 男 漢訳 侵擾於境界(淨) *Suv-pr.*
viṣaya-saṅga-ja 形 感覚の対象に対する執着から生ずる.
viṣayātmaka (°*ya-āt*°) 形 感覚の対象に向けられた, 感覺的快樂に耽った.
viṣayādhikṛta 男 ある地方の支配者.
viṣayādhipa 男 [同上]; 王.
viṣayādhipati 男 [同上].
viṣayānta 男 国境.
viṣayābhilāsa 男 享樂.
viṣayāsakta-manas (°*ya-ās*°) 形 心が俗事に執着しているまたは專念している.

viṣayāsakti (°ya-ās°) 因 感覺的享樂に執着すること。
 viṣayita 過受分 漢訳 境界 *Aṣṭ-pr.*
 viṣayin 形 感覺的快樂に耽る。男 享樂主義者；物質主義者；恋人；臣下；主觀，自我；比較の対象(例，'蓮の眼'において'蓮'はviṣayin，'眼'はviṣaya)；
 漢訳 境，境界，有境 *Abh-vy.*, *Lank.*
 viṣayi-karaṇa 因 対象となすこと。
 viṣayi-Kṛ, 外に拓げる；自分の力の及ぶ範圍(漢)内に引き入れる；対象となす。
 viṣayī-bhāva 男 =viṣamibhāva の不離。
 viṣayī-BHū, (屬) の範圍内に入る；対象となる；
 漢訳 為境 *Vijñ-v.*
 viṣayoparama (°ya-up°) 男 離塵。
 viṣayopasevā (°ya-up°) 因 感覺的快樂に耽すること。
 viṣa-rasa 男 毒液。
 viṣa-ladduka 形 毒を入れた。
 viṣa-latā 因 毒蔓。
 viṣa-lāṭā 因 [地名]。
 viṣavat 形 有毒の；毒を入れた。
 viṣa-vallari 因 毒蔓。
 viṣa-valli 因 [同上]。
 viṣa-viṭapin 男 毒の木。
 viṣa-vimuktātman (°ta-āt°) 形 本性上無毒の。
 viṣa-vṛkṣa 男 =viṣaviṭapin。
 viṣa-vega 男 毒の効能，毒の効驗。
 viṣa-vaidyā 男 解毒剤の商人，蛇にかまれたのを治療する専門家。
 viṣa-vyavasthā 因 毒で害された状態。
 viṣa-sūka 男 地蜂。
 viṣa-stamba 男 毒樹。
 vi-Ṣah, → Sah.
 viṣa-han 形 (因-ghni) 毒を消す。
 viṣa-hara 形 (因-i) 毒を消す，解毒の。
 viṣa-hṛdaya 形 毒心の，心に毒氣を含んだ，悪意ある。
 viṣahya 未受分 [°Sah] 実行可能な；確かめ得る；征服し得る。
 viṣāgni 男 猛毒。
 viṣāgni-pā 男 [*Śiva* 神の名]。
 viṣāṅkura 男 毒のある芽。
 viṣāṅganā 因 =viṣakanyā。
 viṣāṅga 因 角；(象，猪または *Gaṇeśa* 神の) 牙(まれ)；(蟹の)はさみ(まれ)；*Śiva* 神の頭にある角のようなふさ；乳首；小刀；同類中の最高のもの；
 漢訳 角 *Abh-vy.*, *Lank.*, *Mṛyut.*；牙 *Lal-v.*
 viṣānavat 形(屬) 角のある；牙を持っている。男(屬) 猪。
 viṣāna-parivarjita 形 角を失った。
 viṣāna-bhūta 形 最高の，主要な。
 viṣānā 因 角(因)。
 viṣānin 形 角または牙を有する。五象；[ある民族の稱] (RV. 用例一回のみ)。
 viṣāda 男 弛緩，倦怠(まれ)；落胆，失意，氣落ち，無氣力，絶望；嫌悪，いや氣(まれ)；
 漢訳 憂，憂惱；闇；深歎，疑悔，屈，退屈，懈廢退屈 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sāṃkhy-k.*, *Sūtr.*；

~m āpadyate 退屈 *Bodh-bh.*
 viṣāda-kṛt 形 落胆させる，悲歎させる。
 viṣādāna 形 失望させる，落胆させる。
 viṣāda-pramada 男 悲嘆と歓喜。
 viṣādārta-vadana (°da-ār°) 形 憂いに沈んでいるようにみえる。
 viṣādavat 形 ろうばいした，落胆した，無氣力な。
 viṣādītā 因 ろうばい，落胆，無氣力。
 viṣādītva 因 [同上]。
 viṣādin 1. 形 ろうばいした，落胆した，無氣力な。
 viṣādin 2. (°ṣa-ād°) 形 毒をのむ。
 viṣānna 因 毒入りの食物。
 viṣāpaha 形 毒を消す，解毒の。
 viṣāmṛtamaya 形(因-i) 毒と甘露の性質を持った(少女)。
 viṣāya, 名動 因 viṣāyate 毒となる。
 viṣāsvāda (°ṣa-ās°) 男 毒を味わう者；毒を味わうこと。
 vi-ṣita 過受分 開かれた。
 viṣi-BHū, 毒になる。
 viṣu 副 (°—) 両側に，種々の方向に。
 viṣuṇa 形(RV.) 種々の；変化する(月)；避けられた嫌いな。因 かたわらに。
 viṣu-rūpa 形 種々の色または形をした(因)。
 viṣuva 男 因 昼夜平分時，春分または秋分。
 viṣuvat 形 真中にある(因) 男(例年の祝祭における) 中日(Br.) 因 春分または秋分。
 viṣuvat-samkrānti 因 太陽が春分または秋分点を通り抜けること。
 viṣuva-samaya 男 昼夜平分の季節。
 viṣūcikā 因 (まれに男または因-aka) [ある病気(コレラ)の名(両方向に排泄を伴う消化不良)；
 漢訳 (病名) 打噎，腹脹，宿食不消 *Abh-vy.*, *Mṛyut.*
 viṣūcina 形 すべての方向に拓がる(因, P.) 因 至るところに浸透する精神。
 viṣopama (°ṣa-up°) 形 毒に等しい。
 viṣoraga (°ṣa-ur°) 男 漢訳 毒蛇 *Gaṇḍ-vy.*
 viṣolbaṇa (°ṣa-ul°) 形 毒に満ちた。
 viṣka 男 二十歳の象。
 vi-ṣkambha 男 [°Skambh] 支柱；幅；(次の幕を解するのに必要な事を説明する) 幕台の劇；
 漢訳 闊，粗，深裏向(以幅) *Mṛyut.*
 vi-ṣkambhaṇa 因 漢訳 滅断，鎮伏，折伏，消除 *Mṛyut Sam-r.*, *Sūtr.*
 vi-ṣkambhaṇā 因 漢訳 能制伏，能伏滅 *Abh-vy.*
 viṣkambhanatā 因 漢訳 除 *Sam-r.*；障蔽，覆蔽 *Śikṣa*
 vi-ṣkambhita [-Skambh] 過受分 駆逐された，拒絶された；
 漢訳 永離，遮止，莊飾 *Divy.*, *Lal-v.*, *Śikṣa*
 vi-ṣkambhin 形 漢訳 除，蓋障 *Mañj-m.*, *Mṛyut.*
 vi-ṣkambhi 因 漢訳 除 *Mañj-m.*
 viṣkara 男 [ある *Dānava* の名] 因 戦闘の一形式
 vi-ṣkira 男 引つ掻く鳥の一種，鴉鵂類の鳥。
 viṣkila 男 鷹。
 Viṣṭ, 過受分 のみ *āviṣṭita* (真) に包まれた 因。
 viṣṭa 過受分 [Viṣ]；
 漢訳 入，趣入 *Śikṣa*, *Sūtr.*
 viṣṭatva 因(真) との関係。

viṣṭap ㊦ 頂上, 表面, (とくに天の)高さ(㊦).
 viṣṭapa ㊦ (まれに㊦) [同上]. ㊦ 世界(㊦).
 viṣṭapa-traya ㊦ 三界.
 viṣṭapa-hara ㊦ 世界を魅惑する.
 viṣṭapa-hārin ㊦ =viṣṭapahara.
 vi-ṣṭabdha ㊦(㊦) 固定された, 硬い; 固く結ばれた;
 引きとめられた, 阻止された; ㊦ 不生 *Mañj-m.*
 viṣṭabdha-carāṇa ㊦ 足が硬直した.
 vi-ṣṭabhya ㊦ 固定して, 引きとめて.
 vi-ṣṭambha ㊦ 支えること, (足を, 一) 踏みしめる
 こと; 支持; 防止, 停止.
 viṣṭambhana ㊦ (㊦-i) ささえる, 支持する. ㊦ (一)
 の制限, 圧迫.
 vi-ṣṭambhayiṣu ㊦ (㊦) を引きとめようとする.
 viṣṭambhita ㊦(㊦) 引きとめられた; 詰めこまれた.
 vi-ṣṭara ㊦ 座るための一握りのいぐさ, 草等 (S.,
 ㊦); *Viśve Devāḥ* 中の一神. ㊦ ㊦ 座席 (㊦, 普
 通の意味).
 viṣṭara-bhāj ㊦ 座席を占めた.
 viṣṭara-śravas ㊦ (広く知られた), [*Viṣṇu-Kṛṣṇa* の
 称].
 vi-ṣṭāra ㊦ 展開(?) (RV. 用例一回のみ).
 viṣṭāra-pankti ㊦ [韻律の一種(8+12+12+8 音節)].
 viṣṭāra-brhatī ㊦ 韻律の一種 [(8+10+10+8 音節)].
 viṣṭi 1. 努力, 奉仕(?) (㊦) (RV. 各一回のみ).
 viṣṭi 2. ㊦ 強制労働, 苦しい仕事; (集合的に) 奴隷;
 ㊦ 音写 唯西止, 唯西止二合 *Mṛyut.*
 viṣṭi-kara ㊦ (奴隷等の)主人.
 vi-ṣṭhā 1. ㊦ (㊦) 種々の位置, 場所; 種類, 形態.
 vi-ṣṭhā 2. ㊦ 排泄物(まれに㊦). ~m *Kṛ* または *Muc*
 糞便を排泄する; ㊦ 音写 尾瑟吒 *Guhy-s*; 糞,
 大小便利; 穢 *Mañj-m., Śikṣ., Suv-pr.*; 梯陞 *Divy.*
 viṣṭhāpana ㊦ ㊦ 能障, 能障礙 *Abh-vy.*
 viṣṭhā-bhū ㊦ うじ虫.
 vi-ṣṭhita ㊦(㊦) 住んでいる等 → *Sthā.*
 viṣṭhi-kṛmi ㊦ 糞虫, 糞中虫 *Lank.*
 viṣṇu ㊦ [天界の神(太陽の一面の神格化)の名, 三歩
 で世界を跨ぐ, *Indra* 神の伴侶, 始めは *Āditya*
 諸神の中に加えられなかったが, 後にはその首長と
 なる(㊦). 彼の頭は切り落された時太陽となる(Br.).
 (彼は三主神中の第二, 世界の維持者, *Lakṣmī* 女
 神または *Śrī* および *Sarasvatī* 女神の夫, 愛の神の父
 で, *Śeṣa* 蛇の上に休息し, *Garuda* 鳥に乗り, いろ
 いろな化身となって地上に降りる(㊦)]; [ある立法者
 の名]; ㊦ 音写 毗紐, 毘紐, 毘瑟笈, 毗搜紐, 毘
 瑟笈, 毗紐奴 *Lal-v., Lank., ㊦*; (音写) 毗紐天,
 毗細天, 毗搜紐天, 当幻惑 ㊦; 編入 *Mṛyut.*; 那
 羅延 *Lank.*
 viṣṇu-krama ㊦ *Viṣṇu* 神の歩み(祭主が *Vedi* と
Āhavanīya 火との間を歩む時の三歩).
 viṣṇu-gāthā ㊦ *Viṣṇu* 神に捧げられた讃歌.
 viṣṇu-gupta ㊦ [*Cānakya* の称]; [ある仏教徒の名].
 viṣṇu-jāmātr ㊦ 誼たる *Viṣṇu* 神, *Viṣṇu-Kṛṣṇa* の
 義兄弟.
 viṣṇutva ㊦ *Viṣṇu* 神たる性質.
 viṣṇu-datta ㊦ *Viṣṇu* 神より授かった. ㊦ [諸人の

名]; [*Parikṣit* の名].
 viṣṇu-dūta ㊦ *Viṣṇu* 神の使者.
 viṣṇu-nyāṅga ㊦ *Viṣṇu* 神の名が頻出する.
 viṣṇu-pada ㊦ 天頂; 空; [ある *Tirtha* の名]; [聖丘
 の名].
 viṣṇu-padī ㊦ *Gaṅgā* 河.
 viṣṇu-purāṇa ㊦ [十八 *Mahā-Purāṇa* の一の名].
 viṣṇumatī ㊦ [ある王女の名].
 viṣṇumaya ㊦ (㊦-i) *Viṣṇu* 神に関する, *Viṣṇu* 神の
 性質を帯びた.
 viṣṇu-mitra ㊦ [普通の人名 (*Lat.* の *Cajus* のように
 例として使用される)].
 viṣṇu-yaśas ㊦ [*Kalki* の名]; [*Kalki* の父の名].
 viṣṇu-rata ㊦ =viṣṇu-datta.
 viṣṇu-loka ㊦ *Viṣṇu* 神の世界.
 viṣṇu-vāhana ㊦ *Viṣṇu* 神の乗物, *Garuda* 鳥.
 viṣṇu-śakti 1. ㊦ *Viṣṇu* 神の性力, *Lakṣmī*.
 viṣṇu-śakti 2. ㊦ [ある王の名].
 viṣṇu-śarman ㊦ 諸人特に *Pañcatantra* および *Hito-*
padeśa の物語をする人の名].
 viṣṇu-sūkta ㊦ *Viṣṇu* 讃歌.
 viṣṇu-svāmin ㊦ *Viṣṇu* 神の寺または像; [諸人の名].
 viṣṇupanda ㊦ 震え, 打つこと, 鼓動; ㊦ 身, 身業
Madhy-v.
 vi-ṣṭpāś ㊦ (㊦-t) (㊦) の探偵者 (RV. 用例一回のみ).
 viṣṭpāṣṭā ㊦ ㊦ 不隠覆 *Sūtr.*
 viṣṭpita ㊦ 難儀, 危険 (RV.).
 vi-ṣṭphuliṅga ㊦ 火花.
 vi-ṣṭyanda ㊦ (=visyanda) 滴.
 vi-ṣṭyandana ㊦ (=visyandana) 滴ること.
 viṣṭvak ㊦ → viṣṭvañc; ㊦ 四 *Buddh-c.*: viṣṭvag
 (=viṣṭvag) vavau vāyuh (狂)風四激起 *Buddh-c.*
 III.
 viṣṭvak-kaca ㊦ 髪を乱した, 乱髪.
 viṣṭvak-sena ㊦ [*Viṣṇu* 神または *Kṛṣṇa* 神の名], [*Śiva*
 神の名]; [ある *Rṣi* の名]; [ある王の名].
 viṣṭvag-añcana ㊦ すべての方向に向けられた.
 viṣṭvag-aśva ㊦ [ある王の名], [*Prthu* の息子の名].
 viṣṭvag-gamanavat ㊦ すべての方向に動く.
 viṣṭvag-lopa ㊦ 一般的な混乱.
 viṣṭvag-vāta ㊦ すべての方向に吹く風.
 viṣṭva-ñc(㊦) ㊦ (㊦ viṣṭvai) 両方または四方に向けられ
 た, すべての方向から来るまたはへ行く, 一般の; あ
 らゆる状態を呈する; (㊦, ㊦)から分離された. ㊦
 (㊦ ㊦) viṣṭvak 両側に, 側に; 周囲に, 至るところ
 に, すべての方向に.
 viṣṭva-dryañc ㊦ (㊦ -drici) すべての方向に行く. ㊦
 -dryak かなたへ (RV. 用例一回のみ).
 vi-samyukta ㊦(㊦) ㊦(㊦) から分離された・孤立した・
 離れた・省略する・無視する; ㊦ 離, 離繫, 遠離;
 解脱; 不相応, 未相応 *Bodh-bh., Lank., Madhy-*
v., Sam-r., Śikṣ., Sūtr., Suvik-pr.
 visamyuktatva ㊦ ㊦ 不相応 *Sūtr.*
 vi-samyoga ㊦ 世間的束縛からの自由(㊦); ㊦ 離,
 相離, 遠離, 捨離, 滅離, 離繫, 永離, 別離, 乖離,
 離繫属; 無, 扱, 扱滅; 不具, 不相応 *Abh-k., Bodh-*

bh., Daś-bh., Lanik., Madhy-bh., Madhy-v.,
 Madhy-vibh., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr., Suvik-pr.
 visamyoga-phala 中 離, 遠離, 相離果, 離繫果,
 不和合, 遠離…智果 *Abh-vy., Bodh-bh., Lanik.,*
Madhy-bh., Madhy-vibh., Ratna-ut., Sūtr.
 visamyoga-vipāka-bhāva 男 遠離淳熟 *Ratna-ut.*
 vi-samyojana 中 離, 遠離, 不和合 *Lanik.*
 vi-saṃvāda 男 違約; (圓±saha, 因, 一°)との矛盾
 または不一致.
 visamvādaka 形 約束を破る; 虚妄, 欺誑, 誑惑
Bodh-bh., Raṣṭr., Śikṣ., Sūtr.
 visamvādana 中 違約 (a-の形で); 欺, 誑, 諍訟
 欺誤, 越諍 *Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Śikṣ.:* ~ātmaka
 多於諍訟 *Śikṣ. 230.*
 visamvādana-sīla 中 不相違戒 *Sam-r.*
 vi-saṃvādayitr 男 違捍, 抵捍 *Bodh-bh.:* na~
 tā bhavati 不違捍, 不抵捍 *Bodh-bh. 256.*
 vi-saṃvādika 形 誑惑 *Daś-bh.*
 vi-saṃvādita 形 失望させられた, 不満な; 一般に証
 明されない, 異議のある; 毀, 欺誑 *Śikṣ.*
 vi-saṃvādītā 因 違約 (a-の形で); (圓)と矛盾するこ
 とまたはとの不一致.
 vi-saṃvāditva 中 虚妄顛倒 *Ratna-ut.*
 vi-saṃvādin 形 矛盾する, 一致しない.
 vi-saṃśaya 形 疑問の余地のない, 確実な.
 visam-ṣṭhula 形 (=visamsthula) 不安定な, 堅固で
 ない, よろめく.
 vi-saṃsarpin 形 (斜めに, 一°) 広がる.
 visam-sthula 形 [同上].
 vi-saṃsthita 過受分 漢訳 住; 醜形, 形相鄙悪, 不具
 足身, 危脆身, 形容醜陋 *Gaṇḍ-vy., Lal-v.*
 vi-saṃcārin 形 動揺する.
 vi-saṃjñā 形 無意識の.
 vi-saṃjñā 因 失本性 *Śikṣ.*
 visamjñā-gati 因 音写 昆僧以若跋致[数名], (百
 薩婆婆羅) *Lal-v.*
 visamjñāvati 因 音写 維三隨的 *Mṛyut.*
 vi-saṃjñita 形 無意識の.
 vi-saṃjñin 形 想 *Lal-v.*
 vi-sadrś 形 不相似 *Bodh-bh.*
 vi-sadrśa 形 (因 -ā, -i) 同じでない, 異なった, 等し
 くない; 異, 非, 異類, 不相, 不似, 不相似
Abh-vy., Bodh-bh., Lanik., Madhy-v., Śikṣ.
 visadrśa-phalatā 因 結果が異なっていること.
 visadrśa-hetuka 形 不相似因, 因不相似 *Lanik.*
 visadrśotpatti (°śa-ut°) 因 變 *Sūtr.*
 vi-sandhi 男 副關節; sandhiのないこと(文法); 斷
 断 *Suvik-pr.;* 不相応 *Sam-r.* 形 關節のない; (誰と
 も)同盟しない; sandhiを欠いた(文法).
 vi-saṃnāha 形 武装していない.
 vi-sabhāga 形 漢訳 異, 異類, 別, 他, 不同, 不同
 分, 不同類, 不相似, 非同類, 非相似, 非同分, 非
 衆同分 *Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-v., Sam-r.,*
Śikṣ.
 visabhāgatā 因 異分 *Suvik-pr.*
 visabhāgāsaya (°ga-ās°) 形 不動, 異相(想?),

異分意樂 *Bodh-bh.*

vi-samāpti 因 不完成.

vi-saṃprayukta 過受分 不存(不相応), 不
Mṛyut.

vi-saṃbhoga 男 分離.

vi-saṃmūḍha 過受分 非常に当惑させられた;
 癡, 迷, 迷没, 癡惑, 迷惑 *Lanik.*

vi-sara 男 出て行くこと, すべての方向に広がるこ
 拡張; 多数, 多量; 放 *Ratna-ut., Sūtr.;* 音
 毗薩羅, 維娑羅[数名] *Mṛyut.*

vi-saraṇa 中 出て行くこと; (発疹が) 広がること;
 るむことまたはゆるやかになること; 乱, 動
 散動 *Bodh-bh., Madhy-vibh.*

visaratā 因 有違犯 *Bodh-bh.*

vi-sarga 男 [°Sṛj] 流出, 解放 (因, 圍); 停止, 終
 (因); 放出 (圍); (大便の)排泄; (人の)解雇; 授け
 こと, 与えること; 投げること, 放出すること,
 き散らすこと; 創ること; 創造, 産物; 語尾の気
 h (文法); 出, 漏失, 捨, 捨施 *Bodh-bh.*
Prāt-m., Vijñ-v.

visarga-cumbana 中 別れの接吻.

visarga-lupta 中 気音のないこと.

vi-sargin 形 施与をなす者; (一°)の創造者.

vi-sarjaka 漢訳 積 *Sūtr.*

vi-sarjana 中 停止, 終り, 除去(因叙詩); 創造する
 と (RV.); 放棄, 遺棄 (圍); 流出, 放出; 追いま
 こと, (人を)解雇すること; (一°牛を)牧場へ
 こと; 授けること, 与えること; 答, 回答,
 応; 施; 発遣, 請令廻 *Abh-vy., Mañj-m., Mṛy.*
 vi-sarjaniya 男 語尾の気音 = visarga (文法). 形
 れるべき, 放たれるべき; 施 *Śikṣ.*

vi-sarjayitavya 未受分 肛門から排泄されるべ
 應須捨棄 *Divy.*

vi-sarjita 使役 過受分 [°Sṛj] 棄てられた, 家か
 い出された; 送, 遣 *Divy.;* 己為(我)説 *L.*

vi-sarpa 男 伝播, 普及; 丹毒および同様の炎症.

vi-sarpaṇa 形 広がる. 中 變遷; 伝播, 増大.

vi-sarpin 形 (一°)に向って出て来る, 発する;
 まわるまたは滑りまわる; 広がる, 流布する;
 隨 *Abh-vy.*

vi-sāta 中 邪, 不正 *Abh-vy., Bodh-bh.*

vi-sāmagri 因 不和合, 不能和合 *Aṣṭ-pr., Su-*
pr.; 不集, 不具, 無和合 *Daś-bh.*

vi-sāmagrya 中 離和合 *Śikṣ.*

vi-sāra 男 融解; 伝播; 普及; 散乱, 散動
 散, 流蕩, 転布, 離 *Bodh-bh., Sūtr., Vijñ-t.*

vi-sārathi 形 御者がいない(車).

vi-sārathi-haya-dhvaja 形 馭者も馬も旗もない.

visāra-lajja 男 乱羞 *Sūtr.*

visāritā 因 普及.

vi-sārin 形 (洞穴, 一°)から発する(反響する);
 る, 普及する; 漫, 偏倒, 馳散, 散乱 *Abh-v.*

vi-sic 男 *Jaina* 教徒.

vi-sismāpayiṣu 形 (業)を驚かそうとする.

vi-sukṛt 形 善行をしない.

vi-sukṛta 形 善行を欠いた.

vi-sukha 形 喜びのない。
 vi-suta 形 子供のない。
 vi-suhṛd 形 友人のいない, 知るべのない。
 vi-sūta 形 馭者がいない。
 vi-sūtra 形 (紐がないから) 混乱した, 無秩序な; 当惑した。
 vi-sūtrāṇa 中 [visūtrāya 参照] 混乱に または 無秩序に陥し入れること; 追い払うこと。
 vi-sūtrāta 因 混乱, 無秩序; 惑乱。
 visūtrāya, 名動 混乱に陥し入れる; 駆逐する, 除去する。
 vi-sūtrita 過受分 → sūtrāya。
 vi-sūraṇa 中 悲哀(因)。
 vi-sūrya 形 太陽のない。
 vi-sṛjana 中 捨 Sūtr。
 vi-sṛjya 中 結果。
 vi-sṛt 因 流水 (RV. 用例一回のみ)。
 vi-sṛta 形 諸方へ行った, 散った; (一°) から現われるまたは発する; 拡げられた; 派遣された; 倒れるまたは落ちる; 突き出た, いちじるしい; 発言された; 漢訳 侵犯, 所侵犯 Bodh-bh.; 遍満; 普覆 Divy., Gand-vy。
 visṛta-guṇa 形 弦を弛めた。
 vi-sṛtvara 形 拡がる, 普及する。
 vi-sṛmāra 形 拡がる, 普及する; 滑る。
 vi-sṛṣṭa 過受分 送り出された, 放出された, 行かされた, 投げられた; 吐き出された; 取除かれた; (圓を欠く; 拡げられた, 広められた; 開かれた; (一°) に与えられた; 作り出された, 創造された, 創設された; 漢訳 注 Daś-bh。
 visṛṣṭavat 形 (使者を) 派遣した。
 visṛṣṭa-dhena 形 自由にされた流れをもつ (RV. 用例一回のみ)。
 visṛṣṭātman (°ta-āt°) 形 私心を棄てた, 利己的でない。
 vi-sṛṣṭi 因 放出; 創造; 漢訳 出, 泄 Mvyut。
 vi-soḍha 過受分 忍耐された。
 visota 男 漢訳 音写 毗素陀 Mvyut。
 visoda 中 漢訳 音写 維娑丹 Mvyut。
 vi-soma 形 Soma 酒を欠いた (Br.); 月のない (夜; 團)。
 vi-saukhya 中 苦惱。
 visaukhya-bhāj 形 苦を享ける。
 vi-saurabha 形 芳香を欠いた。
 vista 男 重量の一単位 (金の 1 Karṣa または 16 Māsa)。
 vi-stāra 形 広大な (きわめてまれ)。男 広さ; 多数; 大勢の仲間; 沢山のもの; 詳細, 微細な事項, 詳細な記述, 敷衍 (普通の意味): 一° 広範な; 漢訳 広, 開; 広説, 乃至広説; 大, 厚, 普, 覆, 具, 闊, 如理, 依前次第 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Lal-v., Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Ratna-ut., Saddh-p., Vajr-pr.: ~eṇa yāvad 広説 乃至 Bodh-bh. 圓, 因, -tas, -śas 詳細に, 委曲を尽して。
 vistaratā 因 拡張。
 vistara-lipi 因 (音写) 維耆多書, 密怛羅書 Lal-v。
 vistara-vibhāga 男 漢訳 広分別 Bodh-bh.

vi-stāri-Kṛ, 拡張または敷衍する; 漢訳 分布 Divy。
 vi-stāra 男 拡張, 拡大, 広さ; 詳細, 詳細な列挙または記述; 漢訳 広, 量広; 長, 広長; 寛; 深 Divy., Lal-v., Mvyut., Śikṣ。
 vistāra-gāmin 形 遠方へ行く。
 vi-stāraṇa 中 (足を) 伸ばすこと。
 vi-stārin 形 拡がる, 広範囲の, 巾の広い。
 vi-stirṇa 過受分 [°Stf] 広い, 巾の広い等; 漢訳 多, 広, 広大, 無量…広大, 広博; 衆; 寛, 寛広; 巨; 遍満; 多饒 Bodh-bh., Bodh-c., Buddh-c., Daś-bh., Divy., Lal-v., Mañj-m., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr., 梵維: tasya grhaṃ vipulam ~ m sampravṛttam abhūt 其室忽然広博嚴淨, 其室自然広博嚴事 Suv-pr. 72; mahatīm vipulām ~ ām 広大微妙 Suv-pr. 143; 墮落 Divy.; dantā ~ 齒悉皆墮落 Divy. 410。
 vistirṇa-karṇa 形 耳を延ばした; 巾の広い耳を有した。男 象。
 vistirṇatā 因 広大; 漢訳 広, 寛広 Daś-bh。
 vistirṇatva 中 [同上]; 漢訳 寛広, 遍満 Madhy-bh。
 vistirṇa-bhogatā 因 漢訳 多饒財宝 Bodh-bh。
 vistirṇavati 因 漢訳 広普 Saddh-p。
 vi-stṛṭi 因 広さ, 幅; 直径; 拡大。
 vi-spandana 中 漢訳 揺動, 馳散 Lanik。
 vi-spandita 過受分 漢訳 動 Lanik.; 所動作 Saddh-p.; 別 Aṣṭ-pr。
 vi-spaṣṭa 過受分 [°Spaś] 明瞭な; 明白な, まぎれもない, わかりやすい; 漢訳 頭, 頭了, 分明, 明諸事, 開示 Bodh-bh., Bodh-c., Mvyut., Sūtr。
 vispaṣṭārtha 形 明瞭なまたは明白な意味を有する。
 vi-sphāra 男 広く開くこと, 膨張; (弓の) 絃声。
 vi-sphārita 使役 過受分 [°Sphar] 広く開かれた, 引き裂かれた; 示された, 現わされた, 見せられた。中 弓をひきしぼることまたは放つこと。
 visphārita-sarvāṅga 形 四肢をもぎとられた。
 vi-sphuṭa 形 ぱっと開かれた, 大口をあけた。
 vi-sphuṭita 過受分 開いた, 裂けた; 漢訳 震裂 Saddh-p。
 visphurita-śastra 形 きらめく武器を有する。
 visphuritādhara 形 唇を震わした。
 visphuritekṣana (°ta-ik°) 形 眼を輝やかした。
 vi-sphuliṅga 男 火花。
 vi-sphūrja 男 °一 叫び声; 雷鳴; 突然の顕現。
 vi-sphūrjathu 男 (波, 一°) のとどろき; (一°) の突然の顕現。
 vi-sphūrjita 過受分 [°Sphūrj] とどろいた; 現われた。中 咆吼; (一°) の突然の顕現; 漢訳 力嚴 Mvyut。
 vi-sphoṭa 男 割れること, 砕けること; 水ぶくれ, はれもの; 漢訳 痘 Mvyut。
 vi-sphoṭaka 男 はれもの, 水ぶくれ; 漢訳 摧壞 Mvyut。
 vi-sphoṭikā 因 [同上]。
 vi-smaya 1. 男 驚き, 驚異, 驚愕, 昏迷; 誇り, 高慢 (まれ); 漢訳 怪, 愕, 怪愕, 驚愕, 驚異, 驚歎, 驚悚, 希有, 疑惑, 奇特想, Av-ś., Buddh-c., Cat-ś.

Divy., Lal-v., Saddh-p.

vi-smaya 2. 形 誇りまたは慢心のない。
 vismaya-kara 形 驚かせる。
 vismaya-kārin 形 [同上]。
 vismayaṅ-gama 形 驚かせる。
 vismayaniya 未受分 [同上]。
 vismaya-viśādat 形 驚愕し狼狽した。
 vismayānvita 過受分 驚かされた。
 vismayāviṣṭa (°ya-āv°) 形 驚きに満ちた。
 vismayin 形 驚いている。
 vismayotphulla-locana (°ya-ut°) 形 (=°nayana) 驚きに目をみはった。
 vi-smara 形 忘. 梵難。
 vi-smaraṇa 中 忘却; 忘失 *Bodh-bh., Mvyut.*
 vi-smartavya 未受分 忘れらるべき。
 vi-smāpana 使役 形 (因 -i) 驚愕させる。中 驚かすこと; 驚かす手段; 希有心 *Bodh-bh.*
 vismāpanā 女 生希有心 *Bodh-bh.*
 vi-smāpayaniya 形 驚かせる。
 vi-smāpita 形 怪 *Saddh-p.*
 vi-smāraka 形 (一°) を忘却させる。
 vi-smita 過受分 びっくりさせられた, 驚かされた, 当惑させられた; 驚く; 誇り高い, 高慢な; 生驚怪, 心生希有 *Divy., Lal-v.*
 vismitānana (°ta-ān°) 形 驚愕を顔にあらわした。
 vi-smṛta 過受分 忘れた, (業, 一°) を忘れてしまった; (具 属) によって忘れられた; 忘, 忘失; 不覚 *Abh-vy., Divy., Madhy-v., Saddh-p.*
 vismṛta-saṃskāra 形 とりきめを忘れた。
 vismṛtavat 過能分 忘れた。
 vismṛtāmara-katha 形 神々の物語を忘れさせた。
 vi-smṛti 女 忘れること, 健忘性, 忘却。
 vi-smera 形 [°Smi] 驚いた。
 vismeratā 男 驚愕。
 vi-syanda 男 =viśyanda。
 vi-syandana 中 =viśyandana。
 vi-sra 形 かびくさい(におい), 生肉等のおおいがする。
 vi-sraṃsa 男 衰頹, 弛緩, 減退。
 vi-sraṃsana 形 落とす, (衣服を)脱ぐ。中 墜落; 減退; 引き倒し。
 vi-sraṃsin 形 落ちるまたは滑り落ちる(花環)。
 visra-gandha 男 臭穢 *Divy.*
 visra-gandhi 形 [同上]。
 vi-sraṃbhopagata (°bha-up°) 過受分 (=°śram°) 情交極親密 *Bodh-bh.*
 vi-srava 男 流れ, 流水。
 vi-sras 女 分裂, 衰弱, 衰頹 (因)。
 vi-srasā 女 老齡。
 vi-srasta 過受分 → Sraṃs.
 visrasta-kusuma-sraj 形 花環の落ちた。
 visrasta-cetas 形 落胆した。
 visrasta-paumsna 形 精力の減退した。
 visrata-bandhana 形 繫縛が弛められた。
 visrasta-vasana 女 衣服の解けた。
 visrasta-siro-ruhāmbara 形 髪を乱し衣服の解けた。
 visrasta-srag-vibhūṣaṇa 形 花環と装身具とを振り落

した。

virastāṅga 形 四肢のだらけた。
 vi-srāva 男 流れでること。
 vi-srāvaṇa 使役 中 [Sru] 血, 膿等を流出させること, 出血。
 vi-srāvin 形 流れでる。
 vi-srāvya 未受分 流されるべき, 流れさせ得べき。
 vi-sruh 女 (RV., 用例二回のみ) 炎(?)。
 vi-svara 男 不協和音。形 音のない; 不協和音の; アクセントを間違えて発音された。
 vi-svaran 副 音調を外して, アクセントを誤って。
 vi-ha (一°の形においてのみ =vihāyas 2.) 空気。
 Viha-ga 男 空を行くもの, 鳥; 矢(まれ); 鳥, 飛鳥 *Divy., Mvyut.*
 vihaga-pati 男 鳥の主, *Garuda* 鳥。
 viharga-vega 男 [ある妖精の名]。
 vihagālaya (°ga-āl°) 男 鳥の住所, 空。
 vihaṅ-ga 男 空を行くもの, 鳥; 矢(まれ); 鳥 *Divy.*
 vihaṅgaka 男 (小)鳥。
 vihaṅgikā 女 [人名]。
 vihaṅgama 形 空中を動く。男 鳥; 太陽(まれ); [神の一部類の名]。
 vihaṅga-mithuna 中 一對の鳥。
 vihaṅga-han 男 捕鳥者。
 vihata 過受分 → Han. 壊(心) *Divy.*
 vihata-māra-pratyarthika 形 能破諸魔賊 *Saddh-p.*
 vihatāri-cakra 形 摧伏諸怨敵, 一切無怨敵 *Gaṅgavy.*
 vi-hati 女 打撃, 刺すこと, 発射; 妨害; 撃退, 撃破。
 vi-hantavya 未受分 破壊されるべき。
 vi-hantr 男 (属, 一°) を破壊するもの, 挫折させるもの。
 vi-hara 形 除去する, 変化する。
 vi-harat 男 分 [°Hr から] 住 *Bodh-bh.*
 vi-haraṇa 中 除去すること, 移転; (言葉の)置き換え(口を)開くこと; 歩きまわること, 散策(普通の意味)ここかしこと動くこと, (棍棒を)振りまわすこと 歩, 行, 離向 *Abh-vy., Sāṃkhy-k.*
 vi-hartavya 未受分 住, 応生 *Bodh-bh., Saṅg-pr.*
 vi-hartṛ 男 賊, 盜賊; 逍遙または楽しむ人。
 vi-harṣa 形 喜びのない, 悲しい。
 vi-hava 男 祈願。
 vi-havya 未受分 祈請または勧請されるべき(因) 男 [名]。
 vi-hasatikā 女 哄笑。
 vi-hasita 過受分 含笑, 作微笑 *Lal-v.*
 vi-hasitikā 女 哄笑。
 vi-hasta 形 手のない; 鼻のない(象), 当惑した, どうすることも出来ない; (一°)に完全に没頭した; (一°)に巧みな, に熟練した。
 vi-hastatā 女 鼻のないこと; 当惑, どうすることも出来ないこと。
 vi-hastita 名動 過受分 (一°)によって混乱され

または当惑させられた。

vi-hāni 因 失, 滅, 退捨, 退失 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*

vi-hānyā 因 失相, 令最作壞以 *Mvyut.*

vi-hāpita 使役 過受分 → *Hā.* 因 賜物, 贈物.

vi-hāya 不変分 減, 棄捨 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*

vi-hāyas 1. 形 (因) 力強い, 強い [種々の神の称].

vi-hāyas 2. 男 因 (因) [*Hā* 1. から: 離れて立っているもの] 空, 空間, 大氣, 空氣; 空中, 空界, 虚空, 虚空中 *Aṣṭ-pr.*, *Av-ś.*, *Divy.*, *Lal-v.*: *antarikṣe* ~ i 虚空中 *Aṣṭ-pr.* 744. ~ ā 因 空中を通過して, 高く(飛ぶ等);

vi-hāya-saṅgama 形 乘虚, 騰空, 飛行空中, 飛行虚空 *Abh-vy.*, *Lal-v.*

vi-hāyasāntarikṣa 形 虚空 *Śikṣ.*

vi-hāyasi-kuṭikā 因 重閣, 房重閣 *Prāt-m.*

vi-hāyas-tala 因 空.

vi-hāra 男 因 (言葉の)配置, 転置 (*Br.*, *S.* まれ); 三聖火(の配置)またはそれらの間の空間(*S.*); ぶらぶら歩き, 散歩; (一°)でまたはして気晴らしすること・享樂することまたは楽しむこと(普通の意味); 休養の場所; (仏陀の止住した園林), 仏教徒の(またはジヤイナ教徒の)僧院または寺院; [ある国の名], *Behar*; 一°を喜んでいる; 行 *Bodh-c.*, *Lank.*, *Saddh-p.*; 行住 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*; 遊 玄応; 遊歩 *Bodh-bh.*; 住 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Ratna-ut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*; 安住 *Bodh-bh.*; 所住, 住处 *Gaṇḍ-vy.*, *Sapt-pr.*, *Suv-pr.*; 境 *Lank.*; 静住 *Abh-k.*; 修業 *Bodh-bh.*, *Lank.*; 所在 *Sapt-pr.*; (静)室, 静室; 舎, 房舎, 廬舎 *Daś-bh.*, *Saddh-p.*; 寺, 寺門, 寺舎, 寺館, 塔寺, 伽藍 *Av-ś.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, 梵維; 房, 僧房, 僧坊, 精舎, 精舎齊堂 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; 大房 *Prāt-m*; 毗訶羅 *Abh-vy.*, *Divy.*; 鼻訶羅 玄応;

vi-hāra-kriḍa-mṛga 男 玩具のかもしか.

vi-hāra-gata 過受分 在住位 *Abh-vy.*

vi-hāra-gṛha 因 劇場.

vi-hāra-dāsi 因 僧房の婢.

vi-hāra-deśa 男 気晴らしの場所.

vi-hāra-paramatā 因 住最勝 *Bodh-bh.*

vi-hāra-parisodhana 因 修治諸住 *Bodh-bh.*

vi-hāra-bhadra 男 [人名].

vi-hāra-bhūmi 因 娛樂地.

vi-hārabhūmi-vibhāga 男 住相 *Sūtr.*

vi-hāra-yātrā 因 遊歩道.

vi-hāravat 形 休養の地を有する; (一°)を喜ぶ.

vi-hāra-vana 因 遊樂の森.

vi-hāra-vāri 因 遊戯用の水.

vi-hāra-sayana 因 飲樂のしとね.

vi-hāra-saila 男 遊樂の山.

vi-hāra-sukha 因 樂, 樂住, 樂法 *Lank.*

vi-hāra-stha 形 処僧房, 住寺, 在於寺中 *Śikṣ.*

vi-hāra-sthali 因 娛樂の場所.

vi-hāra-sthāna 因 [同上].

vi-hārājira 因 [同上].

vi-hāra-svāmin 男 寺主 *Av-ś.*

vi-hārāvastha 男 売春宿.

vi-hāritva 因 住 *Bodh-bh.*

vi-hārin 形 (因 -ini) (一°)の中または上を歩きまわるまたは動きまわる; (因, 一°)まで広がった; (一°)に依存する(まれ); (一°)を楽しんでいる・を享受する・をして喜ぶまたはを喜ぶ; 魅力のある(しり; ね); 住, 居, 安住, 常行 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*

vi-hāroddesaka (°ra-ud°) 男 管一所, 管僧舎者 *Mvyut.*

vi-hāsa 男 笑い.

vi-hiṃsaka 形 (因, 一°)を損うまたは害する.

vihiṃsatā 因 (因)に対する傷害.

vi-hiṃsana 因 [同上]; 壊 *Prāt-m.*

vi-hiṃsā 因 [同上]; 害, 加害, 損害, 殺害, 怒害, 悩, 悩害 *Abh-k.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Vijñ-v.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.* → *avihiṃsā.*

vi-hita 過受分 [°Dhā から]; 差別, 異相; 所造, 所立, 所弁, 説; 所引; 作行, 所行; 已作, 已発, 已増事; 化為; 相応; 蓋, 遮, 断 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Mvyut.*, *Vijñ-v.*, *Sūtr.*

vi-hita-kṣaṇa 形 (-artham) に心を向けた, 熱心な.

vi-hitatva 因 指示, 規定.

vi-hita-niyama 形 誓いを立てた.

vi-hita-pratiśiddha 過受分 命じられかつ禁じられた.

vi-hita-yajña 形 祭りをなし終えた.

vi-hitāñjali 形 合掌をした.

vi-hiti 因 やり方; (一°)の成就.

vi-hina 過受分 [°Hā から]; 乏, 失, 已失; 無; 劣, 小; 捨, 已捨; 滅, 滅除; 退; 衰敗; 不全, 不具足 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Ratna-ut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*

vi-hṛta 過受分 [°Hṛ から]. 安住 *Bodh-bh.* 歩 因 行.

vi-hṛti 因 膨張, 増加; 気晴らし, 快樂.

vi-hṛtya 不変分 安住 *Bodh-bh.*

vi-Heṭh, 使役 他 viheṭhayati 傷つける, 害する(仏教); 害, 嫉害; 悩, 悩乱; 逼 *Bodh-bh.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*

vi-heṭha 男 害, 損傷; 嫉害 *Bodh-bh.*

vi-heṭhaka 形 傷つける, 害する; 惹或侵; 損害, 破壊; 悩害者, 悩乱(者), 害人者; 逼悩 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*

vi-heṭhana 因 悩, 悩害, 損悩; 壊; 擾乱, 悩乱, 嫉乱; 不受 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Prāt-m.*, *Śikṣ.*, *Suvik-pr.* → *aviheṭhana.*

vi-heṭhanatā 因 損悩 *Bodh-bh.*

vi-heṭhanā 因 乱, 悩, 悩乱, 損悩, 擾乱, 嫉乱; 賊; 尋疵; 尋縫 *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Vijñ-v.*

vi-heṭhanā-marṣaṇa 形 忍彼悩 *Sūtr.*

vi-heṭhaya, 名動 他 viheṭhayati 傷つける, 害する(仏教); 傷; 悩, 悩乱, 悩害, 損悩, 逼悩; 侵害, 破壊, 嫉害; 困苦, 生劬勞 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Śikṣ.*

vi-heṭhā 因 害, 残害; 嫉, 嫉害, 嫉乱 *Aṣṭ-pr.*

Gaṇḍ-vy., Lal-v.

viheṭhābhiprāya 男 𑖀𑖩𑖪 惱乱心 Bodh-bh.
 vi-heṭhita 形 𑖀𑖩𑖪 惱, 惱害, 惱乱 Divy., Saddh-p.
 vi-hvala 形 疲れはてた; 悩まされた, かき乱された,
 当惑させられた; 𑖀𑖩𑖪 惶 Śikṣ. ~m 副.
 vihvalatā 女 [同上 𑖀𑖩𑖪].
 vihvalatva 中 [同上].
 vihvala-cetana 形 心悩める.
 vihvala-cetas 形 [同上].
 vihvala-tanu 形 …で身を疲れさせたまたは苦しめた.
 vihvala-locana 形 不安の眼差しをした.
 vihvala-hṛdaya 形 → vihvalacetana.
 vihvalāṅga 形 → vihvalatanu.
 vihvalātman (°la-āt°) 形 → vihvalacetana.
 vihvalita-sarvāṅga 形 全身を震わせる.
 vihvali-kṛta 過受分 悩める.
 vihvali-bhūta 形 𑖀𑖩𑖪 恐怖, 驚怖 Lal-v.
 Vi 1., II. 𑖀𑖩𑖪(𑖀𑖩𑖪)熱心に求める, または求めて近づく; 喜
 んで受ける・嘉納する; (武器を)執る; 得ようと努
 める, 獲得する; 復讐する; 襲う, 攻撃する. 過受分
 vita 欲求された, 愉快的(𑖀𑖩𑖪).
 abhi- 過受分 abhivita 欲求された, 求められた.
 ā- 着手する; 近づく; 捉える.
 upa- 得ようと求めるまたは努める.
 pra- 前へ行く; (𑖀𑖩𑖪)へ向って進むまたはの中に入
 る; 攻撃する; 入る, 豊饒にする, 受胎させる.
 prati- 受納する.
 Vi 2., II. 𑖀𑖩𑖪 veti (𑖀𑖩𑖪) 駆り立てる, 動かす, 刺激す
 る, 鼓舞する; (𑖀𑖩𑖪)を(𑖀𑖩𑖪)に導く(まれ).
 pra- 促す, 刺激する.
 Vi 3., 𑖀𑖩𑖪 veviyate 羽ばたく(RV. 用例一回のみ).
 ā- 𑖀𑖩𑖪 恐怖を感ずる(TS. 用例一回のみ).
 Vi 4., → Vyā.
 vi 形 1. (𑖀𑖩𑖪) 嘉納する(RV. 用例一回のみ). 2. (一°,
 parṇa- 翼)によって動かされた. 3. (一°, hiraṇya-
 黄金)によって またはでもって覆われた. 4. =vi,
 鳥(takva-vi 猛禽). 5. =vi 𑖀𑖩𑖪 一 (若干の合成語).
 vi-kāsa 男 光輝, 輝やき(=vikāsa).
 vikṣaṇa (°i-ik°) 中 見ること; 眺めること, 検査;
 瞥見, 凝視; 眼; 𑖀𑖩𑖪 願, 待 Lank.
 vikṣaṇiya 未受分 眺められるべき, 注目されるべき,
 考慮されるべき.
 vikṣā (°i-ik°) 女 眺めること, 顧慮; 調査; 知識: ~
 m Kṛ 調査する.
 vikṣita 過受分 [°īksから]. 中 瞥見.
 vikṣitavya 未受分 眺められるべき.
 vikṣitr 男 見るものまたは注視者.
 vici 女 詐欺, 誘惑(RV. 用例一回のみ).
 vici, °ci 女波(𑖀𑖩𑖪). 中 [ある地獄の名].
 vicikā 女 一° [同上].
 vici-kṣobha 男 波の立ち騒ぐこと, 大波.
 vici-hasta 男 手のような波.
 Vij, I. 𑖀𑖩𑖪 vijati, 𑖀𑖩𑖪 vijate あおぐ(また風について
 も); (水を)ふりかける. 使役 𑖀𑖩𑖪 vijayati あおぐ.
 受 vijiyate あおがれる. 過受分 vijita. 𑖀𑖩𑖪 招涼.
 Divy.

abhi- 使役 あおぐ.

upa- 使役 [同上].

pari- 使役 [同上].

vija 中 =bija; 𑖀𑖩𑖪 子種, 種子; 因 Ast-pr., Div

vijana 中 あおぐこと; 漂わせること; うちわ(まれ).

viṭā 女 丸い小石(子供の玩具で罰として口中にく
 えられる).

viṭikā 女 (衣服の)ボタン; 丸い玉, とくにキンマに
 料とともに巻かれたピンロージュの実.

Viḍ, X (𑖀𑖩𑖪) viḍayati, viḷayati 𑖀𑖩𑖪 堅固にする,
 定する. 𑖀𑖩𑖪 堅固であるまたは硬い. 過受分 viḷita
 い, 堅固な.

viḍu, viḷu (𑖀𑖩𑖪) 形 堅い, 堅固な. 中 堅固に固定さ
 したもの.

viḍu-pāṇi 形 堅い蹄をもつ(RV.).

viḍv-aṅga 形 堅固な肢体をもつ.

viṇaya 名動 → upaviṇaya.

viṇā 女 (インドの)琵琶; [ある河の名]; 𑖀𑖩𑖪 琴, 琵琶
 範絃, 箏篋, 琴瑟 Ast-pr., Buddh-c., Divy., L
 v., Lank., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Suv-pr
 梵千.

viṇā-karṇa 男 (琵琶耳), [人名].

viṇā-gaṇagin 男 楽団の指揮者.

viṇā-gāthin 男 琵琶の演奏者.

viṇā-datta 男 [ある Gandharva の名].

viṇā-rava 形 琵琶のように鳴る. 男 琵琶の音.

viṇā-ravā 女 [蠅の名].

viṇā-vatsa-rāja 男 [ある王の名].

viṇā-vāda 男 琵琶の演奏者; 琵琶の演奏.

viṇā-vādyā 中 琵琶の演奏.

viṇā-vinoda 男 [ある妖精の名].

viṇā-silpa 中 琵琶(演奏)術.

viṇā-hasta 形 手に琵琶を持った(Siva 神).

viṇin 形 琵琶を有する, 琵琶を演奏する.

vita 1. 過受分 [Vi 1. から] 近づいた; 望まれた, 女
 れた, 楽しい. 中 欲望(𑖀𑖩𑖪).

vita 2. 過受分 [Vi 2. から] 訓練された, 穏かな.
 (足と鉤で)象を導くこと.

vita 3. 過受分 [Vyā から] 隠された(RV.); (𑖀𑖩𑖪)
 まれた(P.).

vita 4. 過受分 [vi-I から] 去った, 消えた, 失われ
 𑖀𑖩𑖪 離, 遠離 Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Mvyut.
 諸具足 Mvyut. → avita.

vita 5. まっすぐの, 滑らかな(RV.).

vi-taṃsa 男 鳥獣を閉じ込める籠または網, 鳥籠,

vita-cinta 形 (𑖀𑖩𑖪)について心配しない.

vita-trṣṇa 形 𑖀𑖩𑖪 離愛 Mvyut.

vita-darpa 形 高慢の鼻をおられた.

vita-doṣa 男 𑖀𑖩𑖪 離恚, 離瞋 Ast-pr.

vita-prṣṭha 形 滑らかな背の(駿馬)(𑖀𑖩𑖪).

vita-bhaya 形 恐れなき, 大胆な.

vita-bhi 形 [同上].

vita-bhiti 形 [同上]. 男 [ある Asura の名].

vita-moha 形 𑖀𑖩𑖪 離痴 Ast-pr.

vita-rāga 形 情欲 または世間的な欲望を捨てた;
 に対する欲望を離れた; 𑖀𑖩𑖪 離, 漸愛, 離欲,

離欲, 離欲人, 離欲者, 離貪, 永離貪欲, 遠離貪愛;
離染, 無漏 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lank.*,
Sam-r., *Sūtr.*, *Vajr-pr.*

vita-vāra 形 滑らかな尾を有した(駿馬)(RV.用例一回のみ).

vita-viṣa 形 不浄を離れた, 澄んだ(水).

vita-vyatireka 形 分離または孤立されない.

vita-vriḍa 形 恥を知らない.

vita-sāṅka 形 = vitabhiti. ~m 大胆に, 恐れずに,

vita-śoka 形 悲しみのない. 男[ある樹木の名(*Aśoka*)];

漢語[人名]; 音写 毘多輪柯; 宿大哆(?); 毘多輪柯(經), 宿大哆(經) *Divy.*

vita-saṁdeha 形 疑惑を離れた.

vita-sūtra 中 聖紐.

vita-havya 形 そのものの供物が嘉納された(RV.). 男[人名].

vita-hiraṇmaya 形 黄金の(器)を欠いた.

vitā 因 列, 線.

viti 1. 因 (神々を祭式に)招くこと, 勧請; (供物の)享受(RV.). 男[ある特殊の *Agni*](Br., S.).

viti 2. 因 分離(因).

viti-hotra 形 (神々を)祭式に招く. 男火(團), 火の神; [人名].

vitottaram (°ta-ut°) 副 話すことなく, 返答に窮して.

vi-thi 因 列; 路, 街; 走路; (店の)並び; 市場通り; (画)廊; 一幕劇(の一種); 漢語 街道; 街巷, 巷陌 *Aṣṭ-pr.*, *Raṣṭr.*, *Sam-r.*

vithi 因 = vithi; 漢語 足跡, 徑跡, 巷路行迹; 市, 街; 里, 街巷, 巷陌, 街衢; 街輿廊, 看景 *Aṣṭ-pr.*, *Bodhb-h.*, *Divy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, 梵千.

vithi-kathā 因 漢語 街論, 街衢論, 街衢無義之論 *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*,

vithi-Kṛ, 整列させる.

vithi-rathyā 因 漢語 巷 梵千.

vithy-antara 形 漢語 衢路市肆 *Lank.*

vidhra 中 (?) 輝く空(因のみ: 因).

vi-nāha 男 井戸の覆い.

vipsā (vi-ip°) 因 配分(語の反覆によって表現される例 *vṛkṣam vṛkṣam siñcati* 木ごとに水をやる); (単語の)反覆; 漢語 效, 重, 種々; 後接, 探重 *Abh-vy.*, *Mvyut.*

vira 男 人, (特に)力のある人, 英雄; 戦士, 首長, 指導者; [男および種]人々, 人民; 部下, 従者(種); 英雄; [神々の称特に *Indra* 神](因); 夫(叙詩, P.); 男兒, 息子, (集合的に)男の子孫(因); 英雄的情绪(*rasa*) (修辭); [人名]; 漢語 仏; 勇, 猛, 勤, 勇健, 勇猛, 雄猛; 多力; 耐苦, 精勤不懈; 能幹; 不能退, 無畏憚 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gand-vy.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*, *Supr.*

viraka 男 小男; 哀れな英雄; [七聖仙中の一人の名]; 種[ある民族の名].

vira-karā 因 (=viramkarā) [ある河の名].

vira-karman 中 男らしい行為.

vira-ketu 男 [諸々の王たちの名].

vira-kṣurikā 因 短剣.

vira-kṣetra-sambhavatva 中 名門の生れ.

vira-gati 因 英雄の赴くところ, *Indra* の天国.

vira-gotra 中 英雄の家柄.

vira-ghoṣaṇā 因 英雄的宣言.

vira-ghoṣṭhi 因 英雄同士の会話.

vira-ghni 形 → virahan.

vira-cakṣuṣmat 形 英雄の眼を有する(*Viṣṇu*).

vira-carita 中 → viracaryā.

vira-caritra 中 → viracaryā.

vira-caryā 因 英雄の行為, 冒険的功業 [*Mahāvira-carita* の別称].

vira-jita 男 [人名].

viraṇa 中 [ある香りのよい草(学名 *Andropogon Muricatus*)]; 漢語 草 *Lank*; [ある *Prajāpati* の名].

viraṇaka 男 [ある *Nāga* の名].

viraṇa-stamba 男 *Virana* 草の一房.

viraṇastambaka 男 [同上].

viraṇi 因 *Virana* の娘.

viratama 最上 男 非常に力強い男, 優れた英雄.

viratara 比較 より強い, より大胆な. 男(種)より偉大な勇者. 中 [ある香りのよい草(*Andropogon Muricatus*)].

viratā 因 男らしさ, 勇ましさ.

vira-datta-paripṛcchā 因 漢語 [経名]無畏授所問経, 大宝積経第二十八会勤授長者会, 菩薩修行経, 無畏授所問大乘経 *Śikṣ.*

viratva 中 男らしさ, 勇壮.

vira-deva 男 [人名].

vira-dyumna 男 [ある王の名].

vira-dhara 男 [ある車大工の名].

vira-dharma 男 英雄または戦士の掟.

vira-nandin 形 漢語 [仏名]勤勇喜, 精進喜 *Śikṣ.*

vira-nātha 形 英雄を保護者とする. 男 [人名].

vira-paṭṭa 男 英雄の紐飾り(額のまわりにかける).

vira-patni 因 英雄の妻.

vira-pāna 中 (=virapāna) 英雄の酒(戦闘の前または後に飲む).

vira-pura 中 [*Kānyakubja* 領内のある町の名]; *Himālaya* 山中にあるという神話上の町の名].

vira-puruṣa 男 勇者, 英雄.

vira-pota 男 若き戦士, 英雄的な子供.

vira-prajāyini 因 英雄達の母.

vira-prabha 男 [人名].

vira-pramokṣa 男 [ある巡礼の名].

vira-prasavā 因 英雄または勇氣ある子供の母.

vira-prasavini 因 [同上].

vira-prasūvini 因 [*viraprasavini* の変形].

vira-bandhu 男 英雄にふさわしくない男, えせ英雄.

vira-bāhu 男 [*Dhṛtarāṣṭra* の一王子の名, 諸々の王たちの名]; [ある猿の名].

vira-bukka 男 [*Vidyānagara* の創設者の名].

vira-bhaṭa 男 勇ましい戦士; [*Tāmralipta* の王の名].

vira-bhadra 男 [*Dakṣa* の供犠を破壊した *Śiva* 神の化神名]; [ある戦士の名].

vira-bhvat 男 勇者(戦士に話しかける場合の尊称).
vira-bhāva 男 英雄的資質, 勇壯.
vira-bhuja 男 [二人の王の名].
vira-bhūta 形 漢訳 如君主, 善丈夫 *Gaṇḍ-vy.*
vira-matsya 男 鱈 [ある民族の名].
vira-mātr 女 英雄または勇気ある子の母.
vira-mānin 形 自らを英雄であると考え.
vira-mārga 男 英雄の道または生涯.
vira-mānya 形 自らを英雄であると考え.
viraya 名動 自 英雄の如く行動する, 勇壯さを發揮する(因).
vira-yoga-vaha 形 戦士を鼓舞する.
vira-yoga-saha 形 英雄または男子に抵抗する.
vira-rasa 男 英雄的情緒(修辭).
vira-loka 男 英雄の世界, *Indra* の天国; 勇 勇者.
viravat 形 臣下・従者または息子の多い; 男子からなる(因); 男らしい, 英雄的(RV.). 因 男子または息子からなる富(RV.). 因(-i) 夫がまだ生きていた女; [ある河の名]; [人名].
vira-vara 形 英雄達の中の最もすぐれた者, [いろいろな人々の名].
vira-varman 男 [人名].
virā-vah 形 勇士を運ぶ(馬または車, RV.).
vira-vākya 因 英雄的言説.
viravākya-maya 形 (因-i) 英雄的言説から成る.
vira-vāda 男 英雄の名声, 勇名.
vira-vikrama 男 [ある王の名].
vira-vyūha 男 勇ましい陣容.
vira-vrata 形 男らしく行動する, 自己の目的を固執する. 因 英雄的行為, 勇壯. 因 [人名].
viravrata-caryā 女 英雄的行為を遂行すること; 因 英雄的功績.
vira-śaya 男 戦死または負傷した勇士の(矢からなる)ふしど.
vira-śayana 因 [同上].
vira-śayyā 女 [同上]; [ある座法の名].
vira-śarman 男 [ある戦士の名].
vira-śāyin 形 (矢の)ふしどに横たわる(戦死した英雄).
vira-śekhāna 男 [ある *Vidyādhara* の名].
vira-śri 女 英雄の榮先.
vira-śreṣṭha 男 他に並ぶ者なき英雄.
vira-samanvita 過受分 戦士たちを共に従えた.
vira-sukha 因 英雄の幸福.
vira-sū 女 (英雄を生む)英雄または男子の母.
virasūtva 因 英雄または男子を生むこと.
vira-sena 男 (勇武の軍隊を有すること); [*Nala* の父および他の諸々の国王・勇士および, ある *Dānava* の名]; 漢訳 李 雄雄; [菩薩名] 勇健軍; [仏名] 勇猛軍; 精進軍 *Sam-r.*, *Śikṣ.*
virasena-suta 男 *Virasena* の息子.
vira-sthāna 因 [ある坐法の名].
vira-sthāyin 形 *Virasthāna* 坐法を修している.
vira-svāmin 男 [ある *Dānava* の名].
vira-hatyā 女 男子を殺すこと, 息子の虐殺.
vira-han 形 (因-ghni, -hani) 男子または敵を殺す.
virā 女 英雄的女性; [*Bharadvāja* の妻]; [ある河

の名].

virānaka, [ある地方の名].

virādhvan 男 英雄の道または生涯.

virāya 名動 英雄のように振舞う. 過受分 **virāyita** 因 非人.

virāśamsana (°ra-ās°) 因 (英雄を表示する), 戦場.

virāṣṭaka 男 [*Skānda* の侍者の名].

virāsana (°ra-ās°) 因 苦行者の坐法(の一種); 高所に坐すること; 露天に眠ること.

virīṇa 男 因 [香りよい根をもつ草 (*Andropogon muricatus*)].

virīṇi 女 [*Dakṣa* の妻の名].

virudh 女 (まれに 男) [*Rudh*=*Ruh*]植物, 草本(因, 園); 蔓草, 小さな灌木性の植物(園); (*Indra* の) 輪索(S.).

virendra (°ra-in°) 男 英雄の長.

virēśa (°ra-iśa) 男 [*Śiva* 神の一形態].

virya 因 男らしさ, 勇気; 力, 能力, 効力; 英雄的な行為; 男性の精力, 精液; 漢訳 力, 勤, 進, 精進, 正勤, 精勤, 勇健, 勇猛, 威猛, 強健(力), 勤勇, 進策, 勤精進; 音写 毗梨耶 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Rāṣṭr.*, *Ratnā-ut.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Vajr-pr.*, *Vijñā-t.*: ~caturdhā 四種勤 *Madhy-vibh.* → *ārabdhā* ~, *pāramitā* ~.

virya-kāma 形 男らしい力を欲する.

virya-ja 男 息子.

viryatama 最上 最も強い, はなはだ勇猛な.

viryatā 女 漢訳 精進 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*: *uttapta* ~ 熾然精進, 勤修精進 *Bodh-bh.*

virya-dhara 男 因 [*Plakṣadvīpa* の *Kṣatriya* 族の名]

virya-pana 形 武勇をもって獲得された.

virya-parihāṇi 女 漢訳 精進減 *Sūtr.*

virya-pāramitā 女 漢訳 進到彼岸 *Bodh-bh.*; 音写 毘梨耶波羅蜜, 毘梨耶波羅蜜, 毗離耶波羅蜜 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-vibh.*; (音写) 精進 羅多蜜 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Madh-vibh.*

virya-bala 因 漢訳 勤力 *Śikṣ.*

viryabala-vega 男 漢訳 勤精進力 *Saddh-p.*

virya-bodhy-aṅga 男 漢訳 精進覺 *Sūtr.*

virya-bhāvanā 女 漢訳 所修…精進, 修習正勤 *Madhy-bh.*

virya-matta 形 力に酔った.

viryavat 形 強い, 力強い, 効力ある; 漢訳 精進 有勤, 有精進, 行精進者, 精進勇猛 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*

viryavattva 因 力, 精力等.

virya-vibhūti 女 武勇を發揮すること.

virya-śālin 形 英雄的な, 強力な.

virya-śulka 因 代価としての勇武. 因 勇武をもって獲得された.

virya-śṛṅga 因 力の角(鬮).
virya-sattvavat 形 剛勇を具えた.
virya-sampanna 形 剛勇を具えた.
virya-saha 男 [*Saudāsa* の息子の名].

viryānvita 形 具足精進 Śikṣ.

viryāmbha (°ya-ār°) 形 精進, 精勤, 勇猛, 精勤策励, 発勤精進 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*, *Saddh-p.*: ~o mahāyāne 起大乘 *Sūtr.*

viryāmbha-kṣamatva 中 能発起精進 *Sūtr.*

viryāmbha-mahattva 中 勤大 *Sūtr.*

viryendriya (°ya-in°) 中 勤根, 精進根, 進根 *Abh-vy.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*

vilita 過受分 → Viḍ.

vivadha 男 → vivadha.

vivāha 男 (=vivāha) 結婚.

vividha 形 → vividha.

vivṛta 中 → vivṛta.

viśa 男 [重量の一単位=20 pala].

vusta 過受分 [*Pali* vuttha=vasita); 居 *Vi-jñ-v.*

Vr 1., I. varati (RV., 用例一回のみ); V. vṛnoti, vṛnute (因, 圍) 覆う, 隠す, 包む; 囲む, 包囲する; (戸を)閉じる; 制御する, 妨げる, 避ける; (路を)塞ぐ. 過受分 vṛta (圓, 一°) で隠された・包まれた・覆われたまたは満ちた; (圓, 一°) に包囲された; 止められた, 堰きとめられた(河); (圓, 一°) で満たされた・を備えたまたはで汚された. 使役 vārayati 他 自 (韻律の場合に限り圍では固) 引き留める, 捕えておく; 隠す; (間隙を)塞ぐ; 制御する, 止める, 防ぐ, (飛道具を)避ける, (病気を)予防する, 阻止する, (火を)消す, (因, 不定) から誰かを引き離す; 禁ずる, 許さない. 過受分 vārita (圓) に隠された; 禁ぜられた; 止, 遮, 払, 能遮, 相遮, 屏除 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*, 梵雜.

anu- (圓) で覆いつくすまたはで隠す; 包囲する. 使役 固 防ぐ.

apa- 蓋をあける, 開く(因). 使役 過受分 隠された(圍).

api- 隠す(RV.).

abhi- 過受分 abhivṛta (RV.) (圓, 一°) に包囲された, (圓) にはめこまれた; (圓) に覆われた; (圍)(一°) に包囲された.

ā- 覆う, 隠す, 秘める; 包囲する; (因) に閉じ込める; (路を)妨げる, 邪魔する; (門を)占拠する, (小屋を)占有する; 満たす, 浸透する; (望みを)遂げる(RV.). 過受分 āvṛta (圓, 一°) で包まれたまたは覆われた; (圓) をまとった; 暗くされた, 隠された; (圓, 一°) でとり囲まれた; 壁をめぐらされた; 閉じられた(家, 戸); さしひかえられた(報酬); 捕えおかれた; 占拠された, 占有された(家); (圓, 一°) が出沒するまたはで満たされた; (圓 罪) で穢れた; (圓 災厄) に悩まされた. 使役 覆う, 隠す; 満たす; 避ける; 利 Śikṣ.

apā (apa-ā)- 開く; 顕わす, 發揮する; 蓋をとる. 過受分 apāvṛta 開かれた, 開いた; 蓋をとられた; 表示された; 開, 開通 *Lal-v.*, *Saddh-p.*

paryā (pari-ā)- 過受分 覆われた, 隠された.

prā (pra-ā)- 覆う, 隠す; (衣服を)着る; (圓) を纏う. 過受分 prāvṛta (圓, 一°) で覆われた; (衣服を)着けた; (圓) で満たされた; 被, 著 *Divy.*,

Lal-v., *Saddh-p.*

vy-ā- 過受分 vyāvṛta 開いた, はっきりした(心); 捨, 減, 離 *Bodh-bh.*, *Lank.*

sam-ā- (圓) で包むまたは覆う; 満たす, 浸透する; 妨げる. 過受分 samāvṛta (圓, 一°) で覆われた; (圓) に包まれたまたはに保護された; (圓, 一°) に包れた; (一°) に満たされたまたはによって居住された; (圓: 人) に対して閉ざされた.

ud- 広く開く.

ni- 避ける. 過受分 nivṛta 隠された, 幽閉された(RV.). 使役 (因) から抑止または防止する; 近づけない, 阻む, 止める, 妨げる; 禁ずる, 禁止する; (影を)遮る; 取除く; (因) から除外または追放する; 止, 遮, 断, 除, 防, 護, 却追, 駈逐, 捨離, 掩蔽, 蔭蔽, 制止. 遮止, 減失, 諫止 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, 梵千.

prati-ni- 使役 遮, 息, 除, 離, 承 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*

vi-ni- 使役 近づけないまたは避ける, 妨げる, 防ぐ, 制する; 禁ずる; 取除く; (大臣を)罷免する, (王を)廢する; 遮, 令…離 *Lank.*

saṃ-ni- 使役 遮, 止 *Lank.*

nir- 過受分 nirvṛta 消えた; [覆い, 雲のない], 満足した, 気に入った, 幸福な; 入般涅槃 *Bodh-bh.*

pari- 覆う, 包む; 囲む, 包囲する, 囲う. 過受分 parivṛta (圓, 一°) に覆われた・包まれたまたはをちりばめた; (圓, 一°) に包囲されたまたは伴なわれた; parivṛta (因, P.) 覆われた; 隠された; (一°) に満ちた, とりかこむ(薄闇). 使役 包む, 抱く, 囲む, とり囲む, 伴なう. 過受分 parivārita (圓, 一°) にとり囲まれた; (圓, 一°) に覆われた, 包まれた.

anu-pari- 使役 遠, 囲遠, 所護, 護助 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Divy.*

saṃ-pari- 使役 とり囲む.

pra- 避ける(RV.). 過受分 pravṛta (prāvṛta の不確). 使役 pravārayati 避ける(叙詩).

prati- 使役 抑止する, 防ぐ; 反駁する. 過受分 妨げられた; 禁じられた.

vi- 他 自 覆いをとる, 開く; (剣の)鞘をとる; 分ける, (毛髪を)梳く; (闇を)照す(因); 顕わす, 明かす, 表示する; 説明する, 註解する. 過受分 vivṛta 覆いをとった, 露出された, 裸にされた, 裸体の, むきだしの; 顕わされた, 表示された; 説明された; 開いた(発音器官または特定意の発声についていう); 公共の, 公開の; 開; 張; 捨, 止, 離; 開示, 開現, 示発, 拳発; 能捨, 遠離 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gand-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.* ~m 副 公然と.

saṃ- 他 自 覆い尽す, 隠す; (戸を)閉じる; (着物, 髪を)整える, (鬘を)しめあげる; 顔をそむける, 拒絶する; 避ける, 阻む. 過受分 saṃvṛta (圓, 一°) に包まれたまたはで覆われた; (圓, 一°) を帯びたまたはでとりまかれた; (因)の中に包まれた; 隠された, 秘密にされた; 片付けられた, しまい込まれたまたは(衣服); (圓, 一°) に占められた・に満たされたまたは

で満ちた；(圓, 一°)を備えたまたはにつき添われた；妨げられた；下向きの(視線)；抑えた(調子)；閉じられた；閉じた(特定音の発音について)；覆われた = …の警戒下にある；**護持** *Abh-vy.*

abhi-sam- 覆う, 隠す. **過受分**(圓, 一°)に覆われたまたはで暗くされた；(圓)に取り囲まれた；(圓, 一°)で満たされたまたはに満ちた；(圓, 一°)を備えたまたはと結合した.

Vr 2. I. varati (RV. まれ), IX **他** (叙詩 まれ), **自** (因, 圍 きわめて普通), **vrñāti, vrñite**, V. **他** **自** **vrñoti, vrñute** (叙詩) 自身のために(使者等: 業)に選ぶ, を(友情等: 因, ときに圓または因)のために選ぶ；妻を選ぶ, (小女: 業)に求婚する；…のために(*kr̥te*) (業: 人)に求める, (業を) (業: 人)に乞う, (因)に懇願する, すること(不定)を(誰かに)求める；(因)よりも(業)を好むまたは欲する；(因)に(業)を与える(他)；(業)に贈物を授ける. **過受分** **vr̥ta** 選ばれた等. **使役** **vara-yati (-te)** **他** **自** 自身のために選ぶ, (業)としてまたは(因, 因, -artham)のために選ぶ, 懇願する, (業)を(業)に懇願するまたは乞う, 誰か(業)に(業)であるように求める；(因 - arthe) のためにまたは妻(±*dārām, patnīm, patnyartham*)として求婚する；**護持** 求, 求覓 *Aṣṭ-pr., Lal-v.*

ā …を選ぶまたは欲する(因)；(望みを)成就する(RV.)；(因)に…を授ける；選び出す, 選択する(因). **nir-** 選ぶ(因).

pari- **自** 選ぶ (RV.).

pra- **自** (他) (因)のために(業)として選ぶ；喜んで受納する. **使役** **pravārayati** 選ぶ；**pravārayati** (= *Pāli pavāreti*) 喜ばせる, 満足させる；差し出す, 提供する, 贈る；**護持** 恣, 与, 供給 *Av-ś., Bodh-bh., Divy, Prāt-m.* : *vareṇa ~ vārayati* 恣所願 *Av-ś. 58*

sam-pra- **使役** **sampravārayati** (= *Pāli sampavāreti*) 差し出す, 楽しませる, 給仕する；**護持** 供給 *Divy.*

Vr̥mh = Br̥mh, → Barh.

vr̥mhaṇa 形 大きくまたは強くする；**護持** 広, 増長 *Śikṣ.*

vr̥mhita (使役 過受分) 中 象によってあげられた叫び声. → **Barh.**

vr̥ka 男 狼；[人名]；**護持** 狼 *Laṅk., Mvyut., Svop., 梵雜.*

vr̥ka-karman 形 狼のように行動する, 狼のような(圍).

vr̥ka-devi 女 [*Vāsudeva* の妻の名].

vr̥ka-prastha 男 または 中 [ある村の名].

vr̥ka-ratha 男 [*Karna* の兄弟の名].

vr̥ka-sthala 中 [ある村の名].

vr̥kāyu 形 残酷な (RV. 用例一回のみ).

vr̥ki 女 牝狼.

vr̥kodara (°ka-ud°) 男 (狼のような腹をもつ), [*Bhīma* の別称].

vr̥kodara-maya 形 (女 -i) *Bhīma* から生じる.

vr̥kka 男 腎臓の脂肪(?) (RV. 用例一回のみ). 男 圍 腎臓 (因, 圍)；**護持** 腎 *Mvyut., Śikṣ., 梵千.*

vr̥kkaka 男 圍 腎臓(圍).

vr̥kna **過受分** [*Vraśc* の弱形 から] 切りたおされた, 切り裂かれた, こわされた.

vr̥kta **過受分** [*Vr̥j* から] 曲げられた, よじれた.

vr̥kta-barhis 形 供儀用の草を摘んだ = 神々を迎える準備をした, 祭式を行なう.

vr̥kṣa 男 木；植物(まれ)；(目に見える花と実を有する) 木(圍 まれ)；木の幹(まれ)；**護持** 樹 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Laṅk., Mvyut., Ratna-ut., Saddh-p., 梵雜., 梵千.*；花果樹 *Aṣṭ-pr.*

vr̥kṣaka 男 小さな木.

vr̥kṣa-keśa 形 木を頭髮としてもつ, 木の繁った (RV. 用例一回のみ).

vr̥kṣa-gahana 中 密樹林.

vr̥kṣa-gulmāvṛta (°ma-āv°) 形 樹木や灌木で覆われた.

vr̥kṣa-ghaṭa 男 [ある *Agrahāra* の名].

vr̥kṣa-cchāyā 女 木蔭.

vr̥kṣa-ja 形 木で作った, 木の.

vr̥kṣa-jaṭā 女 空中の根または蔓草.

vr̥kṣa-takṣaka 形 木を伐る.

vr̥kṣa-traya 中 三本の木.

vr̥kṣatva 中 木という概念.

vr̥kṣa-da 形 木を与える.

vr̥kṣa-dala 中 木の葉.

vr̥kṣa-devatā 女 樹木の神, 森の精.

vr̥kṣa-niryāsa 男 木からの分泌物, ゴム, やに.

vr̥kṣa-parṇa 中 木の葉.

vr̥kṣa-pāla 男 木の守護者.

vr̥kṣamaya 形 (女 -i) 樹木からなる, 木の.

vr̥kṣa-mūla 中 木の根；**護持** 樹下 *Bodh-bh., Laṅk., Mvyut., Saddh-p.*

vr̥kṣamūla-gata 形 **護持** 在樹下 *Aṣṭ-pr.*

vr̥kṣamūlatā 女 (苦行者が) 木の根の上に眠ること.

vr̥kṣa-mūlika 男 **護持** 居樹下, 坐於樹下, 坐樹下 *Aṣṭ-pr.*

vr̥kṣa-rāj 男 木の王；インド産のいちじくの木.

vr̥kṣa-ropaka 男 木を植える者.

vr̥kṣa-ropin 男 [同上].

vr̥kṣa-vanas-pati 男 **護持** 叢林諸樹木, 樹木 *Suvik-pr.*

vr̥kṣa-vāṭikā 女 木立；**護持** 後園 *Divy.*

vr̥kṣa-vāsyā-niketa 男 [ある *Yakṣa* の名].

vr̥kṣa-śākhā 女 木の枝.

vr̥kṣa-śāyikā 女 りす.

vr̥kṣa-ṣaṇḍa 男 木の繁み, 森.

vr̥kṣa-saṃkaṭa 中 やぶ, 雑木林.

vr̥kṣa-sarpi 女 牝の樹蛇 (AV. 用例一回のみ).

vr̥kṣa-secana 中 樹木に水をやること.

vr̥kṣa-stha 形 樹上または樹下にある.

vr̥kṣa-sthāyin 形 [同上].

vr̥kṣa-sthita 形 [同上].

vr̥kṣāgra 中 梢.

vr̥kṣāṅghri 男 木の根.

vr̥kṣādāna 男 (木にくい込むこと), 大工のみ.

vr̥kṣādhirūḍhi 女 (下から上へ)木が広がること；[花擁の一種].

過ぎ去った；没した，死んだ；存在する，有効な(力，一)；(自由に mukta) になった；(因) に対して行なったまたは振舞った。使役 *vartayati* 他 (自願律) 回転させる，渦かせる，うねらせる，投げる；丸くする，(電撃を) 転ずる；(涙を) 流す；(時間，生命を) 過ごす，費す；進行させる，遂行する；(大地を) 整える，整備する；(叫び等を) あげる，発する；發揮する，表わす；示す，述べる；(因) に教え始める；扱(う) (まれ)；(siras または *śirṣan* とともに =) 他のが試罪法によって無罪とされたなら，罰せられることに同意する；自身を処する；(因) に依存して生活する，生存する；存命する。強意 *varvartti*, *varivartti* (因), *varvṛtati*, *varivartyate* (Br.), *varivartate* 転ずる，回転する(因)；存在する，(感冒等が) 流行する。

ati- 他動 …を過ぎ去る；(河を) 渡る；越える，踏み越える；(一定の時間) 生存する；勝る，凌駕する；打ち勝つ，圧倒する，抵抗する，…から逃れる，(捕縛を) 免れる；通過させる，怠る，破る，犯す，(約束を) 破る；無視する，無関心に扱う，害する，…に対する義務を破る；自動 過ぎ去る (まれ)；(時間が) 過ぎる，遅刻する；(因) を止める。過受分 *ativṛtta* (業) の向うに横たわる；(因) から遙かに離れた，遠い過去の；強意 越，離，過，越度 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Sūtr.*

vy-ati- 他動 (海を) 横切る；…を克服するまたはから逃れる；自動 (時間が) 過ぎる；(因) から去る；強意 転，過，超越 *Ast-pr.*

sam-ati- 他動 …を過ぎる；から逃れる；自動 駈け去る。

adhi- (因) を越える；(副，因，-tas) …に飛ぶ；(路に) 入る。

anu- 他動 …のあとをまたはに沿って転がる，従う，追う；…に執着する・に導かれるまたはの意志に沿う；(因) において(ある人) と等しい；機嫌をとる，満足させる；従う，認める，…に一致する・に献身する；に依存する；(恐怖) のとりことなる；自動 …のうしろに従う，続いて来る；続く；流行する；効力を有している；前出の規則から補われる(文法)；(業，因) に向って行動する (P.)；強意 随，順，流，随順，随転，随従，随行，随逐，相続 *Abh-vy.*, *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Saddh-p.* 過受分 *anuvṛtta* 丸い，満ちた；続く；伝えられた，伝統的な；(因) によって次第に占領された；發揮された；同意した，従順な。使役 回転を続ける；先行するものから補う；使用する；暗誦する，繰返す；(ある人：業) を模倣する；強意 能随，能随行 *Daś-bh.*

sam-anu- 追従する，(業) に一致する；服従する；結果として起こる。

apa- 避ける；(馬車が) 路を離れる；(因) から転ずる，去る。過受分 すべり落ちた；射放された(矢)；覆えられた；失われた。使役 (因) からそむけさす (RV.)。

vy-apa- 避ける；(因) を止める。

abhi- 他動 転ずる，(ある人に) 身を寄せる・近寄るまたは接近する；…に向けて延ばす；攻める，攻撃する；(ある人) に出会う，…を所有する；好意をもって(ある物

を) 受ける；(出現を：darsanam) なす=(因) の眼前に現われる。自動 接近する；立上る，始まる；存在する，生起する。

ā- 他動 一般に (因) …に転ずる・に (ratham) を 向けるまたはに至る (RV.)；(右側を向けてその傍を：pradakṣiṇam) 通り過ぎる。自動 進む，接近する；転ずる；(太陽が) 沈む；(因) から (業) に帰る (= punar)；繰返される，新たにされる；(因) を免れる；強意 転 *Lal.*；還退転 *Buddh-c.*；成就 *Gand-vy.* 過受分 *āvṛtta* 回転する；もたらされた(水)；おしのけられた；回転させられた；(業) からそらされた；返還された；繰返された。使役 こちらに向ける，もたらず (因)；手前にひきよせる；転ずる，回転させる，逆転させる；(数珠を) つまぐって折る；繰返す；ひきつける，勝つ(おそらく *āvarjaya* の 不確)。強意 急いでまたは 絶えず動く，急ぐ；あちこちに動く (因)。

anv-ā- (ある人 業) に対して向う；強意 従う (因)。使役 誘授 *Divy.*

apā (apa-ā)- (因) から顔をそむける；(因) から帰る。過受分 転ぜられた；(因) から顔をそむけたまたはを輕蔑する；開かれた(戸) (*apāvṛta* の 不確)。使役 去らせる，除去する。

abhy-ā- (業) に転ずる・に至るまたは避難する。使役 (車を ratham) こちらに向ける，来る，接近する (RV.)；繰返す。

praty-ud-ā- 強意 還，退，去，退(失)，退還，還来，旋還，退走，退転，動作，動転 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*, *Śikṣ.*；隠，隠没 *Ast-pr.*

upā (upa-ā)- (業，因) に転ずる・に接近するまたはに至る；(因) を避ける；帰る；(業) を獲得する；存在する，生起する。過受分 *upāvṛtta* (業) に転ぜられた，(業) に来た；(時が) 到来した；…の傍に来たまたは帰還した。使役 (業) を (因) の方に向ける (因)；もたらず。

abhy-upā- (業) の方に向う，(業) の所有に帰する。

ny-ā- 使役 (ある人) に (因) を思いとどまらせる。

pary-ā- 回転する (自動)；(因) に帰る；(因) になるまたは変化する。強意 *paryāvivṛtsa* 他 転ずることを欲する (RV. 用例一回のみ)。

anu-pary-ā- (業) の方向に転ずる・に従う。の後に位置する (因)。

abhi-pary-ā- …に転ずる，回転する。

praty-ā- (業) の方に転ずる；帰る。過受分 振り戻けられた(顔)；返還された。

prā (pra-ā)- 強意 *prāvṛtya* 強意 覆 *Sapt-pr.*

vy-ā- (因) から離れる(因)，(因) の形で離れる(U)；(因，因) を避ける・と別れるまたはを脱する；(因) を断つまたはを止める；異なる方向に転ずる，(道が) 分れる；回転する；帰る；去る；(太陽が) 沈む；分離されるすなわち論争を鎮める (B.)；(因) からはずれる，と矛盾する；やむ，終わる；強意 退，捨，無，廻，廻転，退還 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lank.*

過受分 *vyāvṛtta* (因，一) を避けた，免れた；(一) とは異なる；避けられた；歪められた；(因) から離れた；(一) と矛盾する；やんだ，減少した。使役 (因，因) から分離する；回転する，避ける；撒く；

去する, (敵を) 破滅させる, (規則を) 廃する; 不, 捨, 転, 離, 転滅, 治転, 勤捨, 転去, 回転, 令禁止, 令止息, 復還棄捨 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.* 不変分 *vyāvartya* …を除外して.

sam-ā- 帰る, (研究を終えて弟子が) 帰宅する; 近づく. 過受分 帰った; 到着した. 使役 (闇を) 追い払う (*RV.*), (弟子を) 帰宅させる; 繰返す, 暗誦する; 令引 *Bodh-bh.*

abhi-sam-ā- 帰宅する(因).

ud- 過受分 *udvṛtta* 膨張した, 突起した; 動揺した, 波動する; 抑制されない, 行儀悪い. 使役 *udvartayati* 飛びださせる; 破壊する; (*Pali* の *ubhatteti*) 油を塗る, (客に) 香料を与える, 摩擦する.

過受分 *udvartita* (人の顔から) 飛び出した(眼); 油を塗った.

upa- 近づく; (業) に出会う, 加わる. 使役 (馬の疲れを) 回復させる.

sam-upa- 振舞う.

ni- (因) から(業±*prati*, 因) に帰る; 回転する(自動); 蘇生する, 再び生まれる; 戻る, (水が) 逆流する; (闘いに) 背を向ける, 逃げる; 転向する, (眼を) そらされる, (心が) 他に向く; (因) から自由になる, から逃げる; 戦闘を避ける(±*saṃgrāmāt*); (ある人) (因) を拒絶する; (欠点: 因) を無視する; (因) をやめる, 中止するまたは断つ; (語ることを) やめる, 沈黙する; やむ, 終わる, 消える; (訴訟が) 中止される; 効力を失う, (傘が) 無用になる; (因) をもって終わる; 省かれる, 実行されない, (相続権が) 差し止められる; (因) と比較して(ある人に対して *prati*) 否認される; (因) と転ずるまたはに向けられる; (因) に関して(意見が) こう(*evam*)ある. 過受分 *nivṛtta* (業) に帰った; 没した(太陽); (因, 一°) を拒絶した; (*prati*, 一°) から転じた; (因) を奪われた; やめた, 終わった, 消えた; 無力になった, もはや先行するものから補うことができない(文法上の規則); 省かれた; 一°(肉類を) 断った(報酬を欲さずに果たされた, 無欲の(行動)); *nivṛtta*, *vivṛtta*, *nivṛta* の不確; 生, 成 *Abh-vy.*; 還, 退, 断, 帰, 返, 返還, 還返, 退還, 退転, 廻去, 還更隱 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*; 捨, 離, 別, 分別, 棄捨 *Abh-vy.*, *Bodh-c.*, *Divy.*; 能壊 *Gand-vy.* 使役 帰らす, 戻す; (因) から退ぞけるまたは遠ざける, そらす, ひき込める; 拒否する, 棄てる; 差控える, (稼業, 商売) を取消す; やめさせる; 除去する; 否認する; 実行する; 廻, 捨, 滅除, 制 *Bodh-c.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*

abhi-ni- 帰る. 過受分 (一°) からかえった. 使役 繰返す, やめさせる; 生, 得, 有, 引, 増成, 増長 *Daś-bh.*

upa-ni- 帰る, 繰返される. 使役 再び携えてくる.

pari-ni- 死ぬ.

prati-ni- 回転する, 退ぞく, 戻る, 帰る. 過受分 (因, 一°) から帰った. 使役 戻らせる, ひき返させる, 避ける; 還廻, 廻顧, 退還, 棄捨, 復還棄捨 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*

vi-ni- 戻る, 帰る; (因) をやめる, を断念する; 退ぞく, 去る, やむ, 消える; (火が) 消される; 省かれる. 過受分 戻された, 帰った; (因, 一°) から顔をそむけた・目をそらしたまたはを嫌う; (一°) から脱した; (因) を中止する, 捨てた; 去った, 消えた, 終わった, (因) であることをやめた; 退, 退転 *Gand-vy.* 使役 *vinivartayati* 帰らせる, 呼び戻す, つれ戻す; (詐欺的取引を) 無効にする; (視線を) そらす; やめさせる, 除去する; 放棄する, (ある人に) (因) をやめさせる; 離, 除, 絶, 廻, 免離, 超出, 伏滅 *Daś-bh.*, *Gand-vy.*, *Śiks.*, *Vijñ-t.*

saṃ-ni- ひき返す, (因) から帰る; (因) をやめる.

過受分 帰った; そらされた(眼); 終わった. 使役 帰らせる, 送り返す, 連れ戻す; (因) からそらす; 終わらす, (愛着を) 抑える.

nis- (転がり出る), 生ずる, 起きる, 生産される, 開展する; (因) となる; 成就される; 完成される, 果たされる; 生, 退生 *Abh-vy.*, *Saṃkhy-k.*

過受分 *nirvṛtta* 生産された, 生じた; 建てられた; 完成された, 準備の整った; 十分に熟した(実); 実行された, 成就された, 遂行された, 終わった; [*nirvṛta* の不確]. 使役 持ち出す, 取除く, (因) から放つ; 展開させる, 産出する; (生計を) 弁ずる; 成就する, 実行する, 完成する(普通の意味); 終わらす, (日を) 暮らす; 乘, 引, 招, 生起 *Abh-vy.*

abhi-nis- 生産または展開される; 結果として生ずる; 生, 起, 出, 集, 発生 *Abh-vy.*, *Daś-bh.*, *Lank.* 使役 生産する, 成就する; 生, 起, 感, 受, 招, 能感, 成就, 成弁 *Abh-vy.*, *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*

vi-nis- 過受分 *vinirvṛtta* (因) から生産された; 終わった, 完成された.

parā- 回転する, (因) から戻る; 帰る; (因) を差し控える. 過受分 *parāvṛtta* (上に向って: *upari-*) 回転した, 戻った; (因) から退ぞいた, 消滅した, 過ぎた. 使役 (業) を回転させる.

pari- 回転する, 転ずる; 転がる; (業) を取り巻く; 彷徨する; あちこちと急ぎ歩く; (心に *hṛdi*, *hṛdaye*) 動揺する, 顛倒する; 帰る; (因) に再生する; 回る, 戻る; 異なった結果になる, 変化をうける(±*anyathā*); (因) に残存するまたは存する; (真 *ekatvena* = 同一物) として現われる; 振舞う, 行動する; 起, 没在 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.* 過受分 *parivṛtta* 揺れ動く(波, 眼); 続く, 耐える; 回された, 戻された; 経過した, 費やした; 消滅した, 消失した. 使役 回転させる; 回す, 戻す; (真) と交換する; (契約を) 更新する; (真) に変形する; (業) に変ずる = と偽わる; 完全に覆えず, 破壊する; 裏返す, 探索する; 転, 变成, 変作, 転作 *Divy.*; 貿易 *Saddh-p.*

anu-pari- 婉転, 遊戯 *Lal-v.*

vi-pari- 回転する; (地上に) 転がる; 乗り回す, 逍遙する; 変形させられる, 変化する; 絶えず(業) を悩ます; 馳逸 *Lal-v.* 使役 過受分 *viparivartita* そむけられた(唇).

saṃ-pari- 回る, 回転する. 使役 回す; 反

Divy.

pra- 動かされる, 行かされる; 出発する, 去る, 行く; (路, vartamanā または -i, pathā; 誤まった路 apathena) を進む; (廻) から生じる, 発する, 起こる, 生産される, (塵が) 舞い上る; 結果として生ずる, 起こる, 発生する; (不定) しはじめる; (囿, 囿, artham) に着手する・に献身する・に取り掛かる・に従事する; (囿) を起訴する・を相手どる・に害をなす; (囿) の方へ (囿, 囿) に従ってまたはによって行動する(しばしば 囿 とともに); 流行する; 囿…に向けられる, …に(眼が)据えられる; (囿分) し続ける; (互いに) 姦する; (望み, 悲しみが) 存在する; (囿, -artham) として役立つまたはに資する; (囿) の意味に使用される; 囿 生, 起, 転, 行, 発起, 運転, 流転, 随転, 顕現, 所現, 修行, 精勤, 能発起 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Buddh-c., Bodh-bh., Gand-vy., Lank., Raṣṭr., Saddh-p., Sapt-pr., Sāmkhy-k., Sūtr., Suvik-pr. 過受分 pravṛtta 普及された(本); (不定 -artham) せんとの意図をもって(-tas)から(囿, 囿; 南方 dakṣiṇena) に出発した, (路, pathā) を進む(譬喩); (廻) から産出された, 起こった, 生ずる; (一°) から発する; 生じた, 成就された; 始められた; (不定, 時として -vṛttavat) に着手したまたはし始めた; (囿, 囿, 一°) に志すまたはに熱中する; (囿, 一°) に従事する・に夢中になる・に献身するまたはを実行する; 行動する(囿 とともに); 存在する; (囿) となった; ある目的に向けられた, 利害に動かされた(行動); [pra-cṛta, pranṛta の不確]. 使役 向けさす, 転がす, 動かす; (電光を) 強く投げる (RV.); 押しのけるまたは投げすてる; 送る; 創始する, 普及させる; 紹介する, 任命する; (聖地等を) 創設する, 形成する, 作る, (堰を) 築く; (支払 vyaya-karma) を果たす, 成す; (物語を) 語る; 発揮する; 始める, 企てる; (あること: 囿) を(ある人)に勧めて行なわせる; 囿 修, 発, 転 Abh-vy., Bodh-bh.; 思惟(?) Aṣṭ-pr.

ati-pra- 過受分 (あること)に大いに熱中する.

anu-pra- 囿 生, 随転 Lank.

abhi-pra- (囿) の方へ(車を)動かす; 動かされる. 過受分 起こる; (囿) に従事したまたは専念した; 囿 生, 起, 現転 Lank., Madhy-v.

abhi-sam-pra- (廻) から生ずる, 起こる; 始まる(自動); (事件が) 起こる; (囿, 不定) に着手する; 行動する. 過受分 生じた, 現存する; 始まった; (囿; 囿, 不定) に着手した, (囿, 一°) に従事する. 使役 行かせる, 普及させる, 広める; 始める.

prati- (ある人: 囿) に対して生ずる.

vi- 転ずる, 回転する (RV.); 転がる; 発作的に動く, もがく; 回す; 退ぞく; 展開される; 囿 成, 転, 退, 衰, 離, 礙, 成立, 還退, 退転, 捨離, 障礙, 能断 Abh-k., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Gand-vy. 過受分 vivṛtta 諸方に飛ぶ(雷電, RV.); 回転した, 曲げられた, ねじられた; 開かれた(あご: vivṛta の不確). 使役 回転させる; 回転させて(囿)から(武器を)つくる; 除去する(囿), 離れ離れにする(RV.); あとに残す(RV.); 囿 捨, 棄 Divy., Gand-vy. 過受分 囿 回転させられた, そらされた

(視線), ひそめられた(眉); 回転する(塵); 本来あった場所から動かされた.

sam- (廻) から作られる, 起こる; たまたま起こる, 発生する, 生ずる, (時間が) 到来する, 始まる(普通の意味); ある, 存在する, もっている(人相の 囿 とともに); (囿, 囿) になる(普通の意味; 囿 起, 生, 成, 感, 得, 証, 盛, 能生, 能成就 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Daś-bh., Divy., Lank., Madhy-vibh. 過受分 到着した; たまたま起こった; (囿, 囿) になった; 囿 受 Bodh-bh. 使役 (こぶしを) 握る; (目を) 回転させる; 包む; …の方に向けられる, もたらす, (路) に導き入れる (RV.); 破壊する; 遂行する; 囿 成 Daś-bh.; 壊, 破壊 Abh-k., Bodh-bh.

adhi-sam- 起きる (RV. 用例一回のみ).

vṛt 1. 囿 (一°) を 囿む. 囿 同伴, 従者.

vṛt 2. 囿 (一°) 回転する, 動く, ある等; (数詞の後に来て) …重の(囿のあと). 囿 結尾, (語根表の) 終り (ādi の 囿).

vṛta 1. 過受分 [Vṛ 1.] 囿 覆, 覆蓋, 囿繞, 纏繞 Buddh-c., Divy., Gand-vy., Sūtr.

vṛta 2. 過受分 → Vṛ 2.

vṛtavat 過能分 選んだ.

vṛti 囿 囿い, 垣, 籬; 選りぬきの品, 賜物; [時として vṛtti の 不確]; 囿 障 Sūtr.

vṛti-bhaṅga 囿 垣根の割れ目.

vṛtta 過受分 [Vṛt]. 囿 環; 事例, 使用; 出現; (一°) の形; …のように (-vat) なること, …に変形すること; 出来事, 事件, 事柄, 事項; 行為, 態度, 行動 処置, 実行, 遵守 (普通の意味); 善い態度, 徳行; 詩節の終りのリズム; 一定数の綴りを含む韻律; 音律; 囿 方, 円, 輪 Abh-vy., Mvyut.; 在, 行, 禁, 事, 事業, 正事業, 戒行, 所有, 因縁, 妙善, 如…不異 Bodh-bh., Divy., Saddh-p.; 文, 譚, 音, 声, 文章, 誦得, 聞得, 種々妙声 Divy., Lank., Mvyut. 囿 [ある Nāga の名].

vṛtta-kāya 囿 丸い体をもった.

vṛtta-gandhi 囿 [韻文の部分を含む一種の技巧的 文].

vṛtta-gandhin 囿 [同上].

vṛtta-cūḍa 囿 剃髪式を終えた.

vṛtta-ceṣṭā 囿 振舞.

vṛtta-caula 囿 剃髪式を終えた.

vṛtta-pina 囿 丸々と肥満した.

vṛtta-bandha 囿 韻文.

vṛtta-bāhu 囿 丸い腕をもった.

vṛtta-bhaṅga 囿 善行を破ることおよび 韻律を破る と

vṛtta-vukta 過受分 善行の, 徳ある.

vṛttavat 囿 丸い; 善行の, 徳ある.

vṛtta-sālin 囿 → vṛttayukta.

vṛtta-ślāgin 囿 善行を賞揚された.

vṛtta-saṃpanna 過受分 善行の, 徳ある.

vṛtta-samācāra 囿 囿 (戒) 行 Bodh-bh.

vṛtta-sādin 囿 良俗を破壊する, 悪しく振舞う.

vṛtta-skhalita 囿 犯禁 Bodh-bh.

vṛtta-stha 囿 善行を固守する, 徳ある; 囿 住戒

住善 *Abh-vy., Bodh-bh.*

vṛtta-hina 過受分 善行を欠く, 悪行の。

vṛttākṣepa (°ta-āk) 男 ある出来事に満足しないこと
またはを信じないこと(修辭)。

vṛttānupūrva 男 丸くかつ相称的な。

vṛttānuvartin 男 → vṛttayukta。

vṛttānta 男 まれに 田 (事件の終り=全出来事), 物語,
歴史, 事件, 冒険, 行状, 生涯; (一°)の記事, 報道,
消息(男および女); 事件のなりゆき, 事件の起こりよ
う; 田 状 *Av-ś.*

vṛttānta-darsin 男 事件を目撃する。

vṛttāyata-bhuja (°ta-āy°) 男 丸くかつ長い腕をもつ
た。

vṛtti 因 (転がること), (涙の)迸り出ること; 行為の
過程, 生活の方式, 品行, (因, 一°)に対する行動(普
通の意味); 方法, 過程; (因, 一°)に対する丁寧なま
たは手厚い待遇(修辭); 一般的慣習, 規則(S.); あり
方, 性質, 種類; (因, 一般に 一° 因)にある(こと),
起こる(こと)または現われる(こと); (一°)が生起ま
たは存在すること; (因, 一°)への献身またはにふけるこ
と, …を実行すること, (一° 因 …に献身的な, …を実
行する); 田 田 (因による)生存, 生計, 生活, 職業,
生業(普通の意味); 活動, 作業, 機能; 気質, (心の)
状態; (ある言葉をある意味因で)用いること, その事
例; (発音または読誦の)方式(S.); 文体(因曲; *kai-
śikī, sāttvati, ārabhaṭi* および *bhāratī* の四種があ
る); 同じ子音をしばしば繰返すこと(修辭); 語の
形式または種類(文法); (経典の)註釈書; *Rudra* の妻;
田 田 転, 生, 起, 得, 事, 行, 修, 作, 用, 聚, 能,
生具, 所作, 能修 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh.,
Lank., Nyāy-pr., Ratna-ut., Samkhy-k., Sūtr.,
Vijñ-v.*; 疏, 注 *Mvyut.*; 品類 *Sūtr.*; 障 *Ratna-ut.*
~m *Kṛ* または *kalpaya* (因)で生存するまたは生活す
る; (因)に生活の資を供する。

vṛttika 男 生計の資を供する。

vṛtti-kara 男 (因 -i) 生計の資を供する。

vṛtti-karṣita 男 生計の道を欠いて苦しむ。

vṛtti-kāra 男 *Sūtra* の註釈書の著者。

vṛtti-kṣina 男 生計の道を欠いて苦しむ。

vṛtti-cakra 田 (車輪にたとえられる)相互の行為。

vṛtti-caryā 因 田 善行 *Raṣṭr.*

vṛttitā 因 (一°) 行為; 専念; 生存。

vṛttitva 田 生起; (一°)に献身すること。

vṛtti-da 男 生計の資を供する。 男 支持者。

vṛtti-dātṛ 男 [同上]。

vṛttin 男 生計の資を供する; …に献身する; 田 田
見, 住, 能転 *Lank.*

vṛtti-nibandhana 田 生計の手段。

vṛtti-bhaṅga 男 生計を失うこと。

vṛtti-bhāj 男 (敬虔な)行為をなす。

vṛttimat 男 (一°)によって生計を立てている; 機能
を果たす, 活動的な。

vṛtti-mūla 田 生計の資。

vṛtti-viśeṣa 男 田 田 転境 *Sūtr.*

vṛtti-hantr 男 (ある人: 田)から生計の資を奪う。

vṛtti-hetos 男 生計の資のために。

vṛttotsava (°ta-ut°) 男 祭典を挙行した。

vṛttaujas (°ta-oj°) 男 現実の力を有する, 精力を発
揮する。

vṛtṭya = vṛtta の不確。

vṛtṭy-anuprāsa 男 同じ子音をしばしば繰返すこと
(修辭)。

vṛtṭy-abhāva 男 無効能, 無有効能 *Abh-vy.*

vṛtṭy-artha 男 田 田 行, 行義 *Ratna-ut.*

vṛtṭy-artham 男 生計のために。

vṛtṭy-uparodha 男 生計に対する偏見。

vṛtṭy-upāya 男 生計の手段。

vṛtra 田 (一般に 田) [*Vṛ 1.*] 障礙敵, 敵軍 (RV.). 男
[同上]; [ある悪魔の名 (*Indra* によって殺戮される。
Tvaṣṭṛ の息子で天界の水を封じ込める者, しばし
ば *Ahi* とも呼ばれる)]; 雷雲 (まれ, 因); 田 田 音写
[悪魔の名] 毘梨多 *Buddh-c.*

vṛtratara 男 *Vṛtra* 以上の悪魔 (RV. 用例一回のみ)。

vṛtra-tur 男 敵または *Vṛtra* を征服する, 勝利を得た
(因)。

vṛtra-tūrya 田 敵または *Vṛtra* の征服, 勝ちいくさ
(因)。

vṛtra-druh 男 (*Vṛtra* の敵または殺害者), [*Indra* の
称]。

vṛtra-nāśana 男 [同上]。

vṛtra-putrā 男 因 *Vṛtra* を息子に持った, *Vṛtra* の
母 (RV. 用例一回のみ)。

vṛtra-vadha 男 *Vṛtra* の殺害。

vṛtra-vidviṣ 男 = vṛtradruh.

vṛtra-vairin 男 [同上]。

vṛtra-śatru 男 [同上]。

vṛtra-hatya 田 敵または *Vṛtra* との闘い。

vṛtra-hatyā 因 [同上]。

vṛtra-han 男 (因 -ghni) 敵または *Vṛtra* を殺害する, 勝
利を得た。 男 [*Indra* の称]。

vṛtrahantama 男 最上の *Vṛtra* 殺戮者 (RV.).

vṛtra-hantr 男 = vṛtrahan.

vṛtrāri 男 *Vṛtra* の敵, [*Indra* の称]。

vṛthag 男 [*Vṛ 2.*] 気儘に, 楽に (RV. 用例一回のみ)。

vṛthā 男 [*Vṛ 2.*] 意の向くままに, 楽に(因); 空しく,
無益に, 怠情に(普通の意味, 田); あやまって, 不当に
(田); 田 田 非理, 無用, 虚施, 唐捐, 空無所獲 *Abh-
vy., Buddh-c., Cat-ś., Divy., Kāśy.*

vṛthā-karman 田 自由行動, 非宗教的行為。

vṛthākāra (°thā-āk°) 男 無益の現象または事柄。 男
形が空虚なまたは虚妄の。

vṛthā-kula-samācāra 男 家柄と行いが何らの用もな
さない。

vṛthā-kṛsara-samyāva 男 豌豆と麦とで作られた無
用の(すなわち神に供えられない)食物。

vṛthā-kleśa 男 無益な苦痛。 男 徒らに苦しんだ。

vṛthācāra (°thā-āc°) 男 空しい行為, 不法な行為。

vṛthāṭyā (°thā-aṭ°) 因 漫步。

vṛthātmāyāsa (°thā-āt°, °ma-āy°) 男 無用の苦行。

vṛthātva 田 無益。

vṛthā-dāna 田 無用な贈物。

vṛthāna (°thā-an°) 自分だけのための食物。

vrthā-palita 形 空しく白髪となった(すなわち年ばかりとって、その割に知恵がつかない).

vrthā-pāsu-ghna 形 (供犠のためでなく) 無益に家畜を殺す.

vrthā-prajā 因 空しく子供を生んだ女性.

vrthā-BHū, 空しい, 無益である, 無用である.

vrthā-mati 形 愚かしいまたは誤った考えをもった.

vrthā-māmsa 因 (定められた規定に従わず) でたために食べられた肉, 自らのためにのみ用意された肉 (Br., 圃).

vrthā-līnga 形 真の理由がない.

vrthā-vāc 因 不適當なまたは非真実の言葉.

vrthā-vādin 形 偽りを語る.

vrthā-vrddha 過受分 空しく(すなわち知恵をつけることなく)老いた.

vrthā-vrata 因 偽りの誓戒. 形 その誓戒が偽りの.

vrthā-śrama 圃 徒勞.

vrthā-saṃkara-jāta 過受分 (異なったカースト間の) 雜婚によって無益に生まれた.

vrthotpanna (°thā-ut°) 過受分 無益に生まれた.

vrthodyama (°thā-ud°) 形 (=vrthodyāma) 空しく努力する.

vrddha 1. 過受分 [Vrdh] 成熟した, 十分に成長した; 増加された, 拡大された, ふやされた; 大いなる; 年をとった, 老年の, 老いた; (一) だけ年長の; 経験ある, 賢い; (圃, 一) で有名なまたはにすぐれている; 喜ぶ, 嬉しい(RV.); vrddhi によって ā, ai または au となった, 最初の音節に ā, ai または au を有するまたは有するものとして取扱われた(文法); 老, 長, 増, 耄長在, 年朽邁, 年齒老耄 Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Av-ś., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lan̄k., Saddh-p., Sūtr., 梵千., 梵雜. 圃 老人 (-ā 因 老婦人); 年長の後裔, 年長の後裔を示す父系語または母系語(圃 Gārgya は vrddha, Gārgya-yana は yuvan である); 老者 Mvyut.; 上座 Divy.

vrddha 2. 過受分 切り離された(とくに臍の緒について).

vrddhaka 圃 老人.

vrddha-kāya 形 身衰老 Śikṣ.

vrddha-kāla 圃 老年.

vrddha-kola 圃 老いた猪.

vrddha-kośa 形 多くの財宝をもった.

vrddha-krama 圃 年齢順.

vrddha-cānakya 圃 [Cānakya 箴言集の一異本の名].

vrddhatama 最上 著しく老年の, 尊敬すべき.

vrddhatara 比較 長老, 耆宿 Śikṣ., Vin.

vrddhataraka 圃 上座, 耆宿, 耆長, 年尊勝者 Bodh-bh.

vrddhatā 因 老年; (一) にすぐれていること.

vrddhatva 圃 老年.

vrddha-dyumna 圃 [人名].

vrddha-dvija-rūpin 形 老婆羅門の形をした.

vrddha-nara 圃 耆宿, 所尊重者 Gaṇḍ-vy.

vrddha-bāla 圃 または 圃 老幼.

vrddha-brhaspati 圃 Brha pati 法典の一異本.

vrddha-bhāva 圃 老年.

vrddha-manu 圃 Manu 法典の一異本.

vrddha-yosit 因 老女.

vrddha-raṅka 圃 老乞食.

vrddha-vayas 形 老齡の(RV. 用例一回のみ).

vrddha-ṛiṭa 圃 老いた遊蕩者.

vrddha-ṛiṣṇu 圃 Viṣṇu 法典の一異本.

vrddha-vivadhā 因 古老の訛, 伝統的慣習の絆.

vrddha-śarman 圃 [ある王侯の名].

vrddha-śākalya 圃 古い Śākalya (著者名).

vrddha-śilin 形 老衰した.

vrddha-śravas 形 大いなる名声を有する (Indra; 圃). 圃 [Indra の称].

vrddha-sṛgāla 圃 老いたジャッカル.

vrddha-sena 因 [Sumati の妻の名].

vrddha-sevā 因 高齢者に対する尊敬.

vrddha-sevin 形 高齢者を尊敬する.

vrddha-sevitva 圃 高齢者に対する尊敬.

vrddha-sthavira 圃 大徳耆舊 Śikṣ.

vrddhānuśāsana 圃 賢者の箴言.

vrddhānta 圃 長, 尊宿, 仏所, 上座, 老次第, 第一所, 上座所, 上座頭 Bodh-bh., Divy., Mvyut. ~e 圃 於上座前 Divy.

vrddhārka 圃 沈みゆく太陽, 夕陽; 夕暮れ時.

vrddhāsana (°dha-ās°) 圃 上座, 上座所坐之处 Divy.

vrddhi 因 [Vrdh+ti] 成長(圃); 愉快, 喜び(圃); 青年期; 増加, 増大, 発達, (生命の)延長(圃); (月の食分が)次第に大きくなること, (河や海の)増水すること; 進歩, 上昇, 富の増加, 力の延長; 富裕, 繁栄, 成功; 収益, 利得; 利子, 高利; 母音の最強級 (ā, ai, au) (文法); 増, 進, 勝, 益, 滋, 溢, 増長, 冒盛, 増勝, 増益, 増広, 増益, 増足, 転増, 長大, 滋息, 豊熟, 豊饒, 富樂 Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Bodh-c., Lal-v., Madhy-bh., Madhy-vibh., Ratna-ut., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr., Vijn-t., Vin.; 功德 Divy.; (樹神の名) 増上 Lal-v.: ~π gacchati 増長 Sūtr.

vrddhika 形 増長, 所昌盛 Bodh-bh.

vrddhi-kara 形 (因 -i) 成長を促す, 繁栄をもたらす.

vrddhikā 因 [ある森の精の名].

vrddhi-gamana 圃 令増上 Sūtr.

vrddhi-cikirṣā 因 (ある人: 圃) に繁栄を保証せんとする欲求.

vrddhi-jivaka 形 高利貸で生計を立てる.

vrddhi-jivana 形 [同上].

vrddhi-da 形 繁栄を与えるまたは助長する.

vrddhi-nayana 圃 増長 Sūtr.

vrddhi-bhāgiya 形 随順勝分 Bodh-bh.

vrddhimat 形 成長する, 増加する; 力を獲得した; vrddhi を生ずる(文法).

vrddhi-hetutva 圃 長因, 増長因 Abh-vy.

vrddhi-hrāsa 圃 増盛…減息 Sūtr.

vrddhi-BHū, 老年となる.

vrddhokṣa (°dha-uk°) 圃 老いた牡牛.

vrddhopasevin (°dha-up°) 形 高齢者を尊敬する.

vrddhy-upajivin 形 高利貸を業とする.

Vṛdh, I. vardhati 他動 他 増加する, 高める, 栄えさす; (称讃をもって神々を) 高揚する, 喜ばせる, 動かす (RV.). 自動 自 (夙 他 三過, 三過; 夙 他 條件, 困) 生ずる, 成長する, 増加する; 強くなる, 広がる; 栄える, 繁盛する, 成功する; (試罪法で秤が) あがる, 昇る (夙); (夙, 夙, 夙) …によって高揚される または 鼓舞される, を喜ぶ (夙); (夙) のゆえに喜び または 祝福の原因を持つ (一般に *diṣṭyā* とともに; 夙); 叙詩 ではしばしば *Vṛt* の 不確; 漢訳 増, 増長, 増上, 増盛, 円満, 生長, 滋長 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Divy.*, *Kāśy.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.* 過受分 *vṛddha*. 使役 **vardhayati** (夙では自 韻律) 生ぜしめる, 増加する, 増す, 高める, 長くする; 育てる, 哺育する, 大事にする; 高揚する, 力を得させる (夙); (神々を) 讃える, 賛美する, 光輝を添える (夙, 夙); (±*diṣṭyā*) 祝福する (夙); 漢訳 増, 加, 増長, 増益, 生長, 長養, 増進, 多饒 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Madhy-vibh.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.* 過受分 **vardhita** 成長した; 増加した.

ati- 自 (夙) よりも大きくなる.

abhi- (夙) において成長する・より大きくなる・増加する または 栄える; 漢訳 増, 増長 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.* 使役 増す, 増加する; 歓迎する.

ud- 過受分 **udvṛddha** 爆発した (怒り).

pari- 成長する, 増加する; *ud-Vṛt* の 不確; 過受分 成長した, 増加した; 強い, 激しい (怒り). 使役 (海洋を) 増水させる; 育てる, 養育する.

pra- 他 称揚する, 荘厳する (RV.); 他 自 生長する. 増加する, 力を得る, 栄える; 漢訳 増益 *Lal-v.*: 過受分 **pravṛddha** 生長した; 増加された, 強められた; 膨張した, ふくれた; 強烈な, 激しい; 大なる, 高い; 多くの (負債); 偉大な; 十分発達する; 年齢の高い, 老いた; *-vṛtta*, *-viddha*, *-buddha* の 不確; 漢訳 増益 *Lal-v.* 使役 増加する, 増進する, 広げる.

saṃ-pra- 生長する, 増加する, 栄える. 過受分 生長した; 次第に大きくなる, 増加する, 強化された.

vi- 生長する, 増加する, 膨張する, 長く延ばされる; 栄える; (夙) について自ら祝福すべき原因をもつ; 起こる, 産出される; 漢訳 生, 生長; 増, 増上, 増長, 増益 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.* 過受分 生長した, 十分に発達した; 増大した (怒り, 欲望), 増えた (富), 増加された (善); 大なる, 多い; 勢力を獲得した.

使役 **vivardhayati** 育てる, 養う; 揚げる, 増加する, 増やす, 強める; 進める, 繁栄させる; 漢訳 増長, 増益, 熾盛, 長養, 令得増長 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*, *Suvik-pr.*; 満 *Sūtr.*

pra-vi- 使役 過受分 大いに増加した.

saṃ- 他 (欲望を) 満たす; 他 自 生長する; 漢訳 長養 *Divy.* 過受分 **saṃvṛddha** 生長した, 成熟した; 増大した. 使役 (樹木を) 育てる, 慈育する, 養う; (炎を) 強める, 強化する, 増やす; 撫育する, (軍隊を) 訓練する; 栄えさせる, 美化する; (夙) を贈る; (欲望を) 満たす または 許容する; 漢訳 増, 愛育, 養

育 *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Sūtr.* 過受分 (一°) に富む; (夙) によって美しくなった (首飾り).

vṛdh 形 強い, 力強い (RV.); 一° [同上]; 増加する. **vṛdha** 形 偉大にする; 喜ぶ (RV.). 夙 強大にする者. 増大させる者, 援助する者. (RV.).

vṛdhanvat 形 語根 *Vṛdh* の一形を含む (夙).

vṛdhasāna 夙 [*Vṛdh*] 生長する, 喜ぶ (RV.).

vṛdhu 夙 (= *br̥bu*) [人名].

vṛdhe 爲 不定 夙 増加のために; 喜ばせるために.

vṛnta 夙 (葉, 花 または 果実の) 茎; 漢訳 根, 絲 *Mvyut.* **vṛntā** 夙 [長さの一単位].

vṛntikā 夙 (葉, 花 または 果実の) 茎.

vṛnda 夙 軍勢, 多数, 群集, 獸群, 羊群, 蜜蜂の群; [ある大きな数], 1千億; 漢訳 聚, 群衆 *Mvyut.* ~ *m*, ~ *m* または ~ *ais* 副 群をなして.

vṛndamaya 形 (夙 -i) (一°) の大群のように見える.

vṛnda-vṛndais 副 群をなして.

vṛndaśas 副 群・団 または 隊をなして.

vṛndā 夙 [*Kṛṣṇa* の妻たる *Radhā* の名].

vṛndāra 夙 神.

vṛndāraka 形 (夙 -akā または -ikā) 群衆の先頭にある, (夙, 一°) の中で最も美しい または 最上の. 夙 神, [*Dhṛtarāṣṭra* の息子の名].

vṛndā-vana 夙 *Vṛnda* の森, [*Mathurā* 附近の *Yamunā* 河左岸の神聖な森の名], [*Radhā* と *Kṛṣṇa* の愛の場].

vṛndin 形 多数の (一°) を含む.

vṛṣcad-vana 形 樹木を伐り倒す (RV. 用例一回のみ).

vṛṣcika 夙 さそり; さそり座 (十二宮の一); 漢訳 蝸, 蠍 *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, 梵雑.

vṛṣcika-rāsi 夙 [同上].

Vṛṣ, I. 他 varṣati (夙, 夙では韻律) 雨を降らせる (一般に *Parjanya*, *Indra*; 神, 空, 雲を主語とする. 時として非人称的にも用いられる); (夙, 夙) を降らせる, 流す; (夙まれ) を…の上に降らせる または で 圧倒する; 漢訳 注, 注雨, 洪注 *Abh-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.* 現分 夙 **varṣati** 雨中に. 過受分 **vṛṣṭa** (夙, 夙および中性の意味を伴う). 使役 **varṣayati** 他 雨を降らせる (目的語として雨, 空, *Parjanya*, *Indra* をとるが, 目的語をとらないこともある); …の上に (夙) を降らせる.

ati- 十分に雨を降らせる.

abhi- …の上に (夙) を降らせる または 注ぐ, 撒布する; (夙, 夙) を豊富に流す または 注ぐ; 漢訳 雨 *Lal-v.* 過受分 **abhivṛṣṭa** 注がれた; (夙) を撒布された; 雨を降らせた; 流された.

ā- 自 (飲料を: 夙, 夙 とともに または 目的語なしで) 自身に注ぎこむ (夙).

nis- 過受分 **nirvṛṣṭa** 降り尽くした, 雨の降り止んだ (雲).

pra- 雨を降らせ始める; 雨を降らせる; (夙, 夙) を豊かに流す; 漢訳 雨, 澍, 灑, 天雨 *Buddh-c.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. II.*, *Suv-pr.* 過受分 雨を降らせ始めた; (夙, 夙) を流し始めた.

abhi-pra- …の上に注ぐ; 雨を降らせる; 漢訳 雨,

普雨 *Gand-vy., Lank., Saddh-p.*

vṛṣa 男 牡牛(因では一°のみ), [*Śiva* 神乗用の獣でその象徴たるもの]; 金牛宮(十二宮の一); (一°のみ) 動物の雄; 男, 夫(まれ); 同種中の最上のもの, (因, 一°)の長; 正義または美德の牡牛, 正義の象徴; 德行; [*Viṣṇu* 神または *Kṛṣṇa* 神の称]; [*Kṛṣṇa* 神の称]; [ある *Asura* の名]; [種々の植物の名]; [種々の人物の名]; 精液; 牝牛, 牛王 *Madhy-v., Ratna-ut. gavām ~āḥ* 牡牛中の牡牛, 骰子競技における主なる骰子.

vṛṣaka 男 [*Gandhāra* 族の王の名].

vṛṣa-karman 形 牡牛のごとき・勇敢な行為をなす (*Indra* 神)(RV.); [*Viṣṇu* 神の称] 男[ある呪文の名].

vṛṣakā 女 [ある河の名].

vṛṣa-ketana 男 (表象として牡牛を有する), [*Paraśu-rāma* の称], [*Śiva* 神の称].

vṛṣa-ketu 男 [同上].

vṛṣa-gāyatri 女 牡牛に捧げられる特殊な *gāyatri*.

vṛṣaṇa 男 陰囊: 固 辜丸; 固 核 *Bodh-bh.*

vṛṣaṇvat 形 牡牛にひかれた(RV.); *vṛṣaṇ* という語を含む(因).

vṛṣaṇ-vasu 形 勇力に富む(RV.).

vṛṣatva 固 牡牛たること.

vṛṣa-daṃśa 男 (強い歯をもつ), 猫; [ある山の名].

vṛṣa-darbha 男 [*Kaśi* 国王の名(種その王朝の名)]; [*Śibi* の息子の名].

vṛṣad-gu 男 [ある王の名].

vṛṣa-dhara 男 [*Śiva* 神の称].

vṛṣa-dhvaja 形 表象として牡牛を有する. 男 [*Śiva* 神の称].

vṛṣaṇ 形因 (業 *vṛṣaṇam*; 固 種 *vṛṣaṇaḥ*) 男らしい, 力強い, 巨大な, 大いなる(生物および無生物について). 男 男, 牡牛, 種馬(因); [種々の神々の称](RV.); [*Indra* の称](RV., 固); 一°(kṣiti, kṣmā とともに)=*Indra*, (大地の)主(=王); [人名](因).

vṛṣa-nādin 形 牡牛のように吼える.

vṛṣantama 最上 最も男らしいまたは威力ある (*Indra*: RV.).

vṛṣa-parvan 形 力強い関節を有する (*Indra*: RV. 用例一回のみ). 男[ある *Dānava* の名](固); [ある *Rājarsi* の名]; [*Viṣṇu* 神の称].

vṛṣa-prabharman 形 力強きもの (*Soma*) が捧げられる (*Indra*: RV. 用例一回のみ).

vṛṣabha 形因 男らしい, 強力な. 男 牡牛(因 固); 有力者, (因, 一°)の長または主(因, 固); [種々の神々等の名]; [ある山の名](固); 固 牛, 牛王, 大牛王 *Aṣṭ-pr., Divy., Lal-v., Madhy-v., Mvyut., Rāṣṭr.*

vṛṣabha-ketu 男 (表象として牡牛を有する), [*Śiva* 神の称].

vṛṣabha-gati 男 [*Śiva* 神の称].

vṛṣabhatva 固 牡牛たること.

vṛṣabha-dhvaja 形 表象として牡牛を有する; [*Śiva* 神の称].

vṛṣabha-yāna 男 牡牛に牽かれた車.

vṛṣabha-ṣoḍaśā 形 固 (±go) 第十六番目として牡牛をもつ, 十五頭の牝牛と一頭の牡牛.

vṛṣabha-skandha 形 牡牛のような肩をもつ.

vṛṣabhākṣa 形 (因 -i) 牡牛のような眼をもつ.

vṛṣabhānka 男 [*Śiva* 神の称].

vṛṣabhita 形 固 威猛, 自在神力 *Saddh-p.*; 牛王 *Śikṣ.*

vṛṣabhītā 女 固 威力, 威神, 雄特性, 勝行処, 大仙尊位 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Gand-vy., Sam-r.*

vṛṣabhaika-sahasrā (°bha-ek°) 形 固 固 (go とともに) 千頭の牝牛と一頭の牡牛.

vṛṣa-manas 形 男らしい精神をもつ, 勇敢な(RV.).

vṛṣa-rāja-ketu 男 [*Śiva* 神の称](固).

vṛṣala 男 小男, 凡人(因); *Śūdra* (固); [*Candragupta* の称]; 固 駘物, 愚駘, 愚穴 *Divy.*

vṛṣalaka 男 悲惨な *Śūdra*.

vṛṣa-lakṣman 男 (表象として牡牛を有する). [*Śiva* 神の称].

vṛṣa-lāñchana 男 [*Śiva* 神の称].

vṛṣali 女 普通の女, 女の *Śūdra* (Br., 固).

vṛṣali-pati 男 *vṛṣali* の夫.

vṛṣali-phena-pita 形 *Śūdra* 女の(唇の)湿りを飲み込んだ, *Śūdra* 女の唇に接吻した.

vṛṣa-vāha 形 牡牛に乗った.

vṛṣa-vāhana 形 [同上]; [*Śiva* 神の称].

vṛṣa-vivāha 男 牡牛を放すこと.

vṛṣa-vrāta 形 強力な群をなす (*Marut* 群神)(RV. 用例一回のみ).

vṛṣa-śipra 男 [ある悪魔の名].

vṛṣa-śuśma 形 雄々しき力をもつ(RV. 用例一回のみ).

vṛṣa-sāhvayā 女 [ある河の名].

vṛṣa-sena 男 [*Karna* の名]; [第十の *Manu* の息子の名]; 固 牛群 *Divy.*; 音写 [人名] 毗黎沙斯那 *Divy.*

vṛṣa-skandha 形 = *vṛṣabhaskandha*.

vṛṣasya 名動 固 *vṛṣasyati* 男性を渴望する, 性交を欲する.

vṛṣasyanti 現分 固 多情な女.

vṛṣā, → *vṛṣaṇ*.

vṛṣā-kapāyi 女 [*Vṛṣakapi* の妻](RV. 用例一回のみ)

vṛṣā-kapi 男 [神話的猿の名](RV.); [太陽の別称](叙詩); [火の称](固); *Vṛṣakapi* の作と伝えられる讃歌(RV. X, 86; Br., S.).

vṛṣākṛti (°ṣa-āk°) 形 牡牛の形相を有する; [*Viṣṇu* 神の称].

vṛṣākhyā (°ṣa-ākh°) 固 [ある呪文の名].

vṛṣānka 形 表象として牡牛を有する. 男 [*Śiva* 神の称]

vṛṣāṇḍa 男 [ある *Asura* 名].

vṛṣāmitra 男 [ある婆羅門の名].

vṛṣāya 名動 固 *vṛṣayati* (ある人: 業) をして雨を降らせせる(RV.). 固 *vṛṣāyate* (因) 欲望にもえる(業, 固, 固) を熱望するまたははに向って進む; 牡牛のように吼える.

vṛṣā-yudh 形 牡牛(強力者)と戦う(RV. 用例一回のみ).

vṛṣā-rava 男 (牡牛のように吼える), [こおろぎの一種?](RV. 用例一回のみ).

vṛṣendra (°ṣa-in°) 男 非常に力の強い牡牛.

vṛṣodara (°ṣa-ud°) 男 [*Viṣṇu* 神の称].

vr̥ṣṭa 過受分 雨が降った；雨となって降った。因 雨が降った時に。果 雨が降った。
 vr̥ṣṭavat 過能分 雨を降らせた。
 vr̥ṣṭi 因 團 雨；一°(矢，花，視線)の雨；**漢** 雨，甘雨 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Mṛyut.*, *Prāt-m.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, 梵千., 梵雜.
 vr̥ṣṭi-nirhāraka 形 **漢** 興致(甘)雨，施降(甘)雨 *Bodh-bh.*
 vr̥ṣṭi-pāta 男 驟雨。
 vr̥ṣṭi-bhūta 形 **漢** 如時雨 *Gaṇḍ-vy.*
 vr̥ṣṭimat 形 雨が降る，雨を伴なう (RV., ŚB).
 vr̥ṣṭimaya 形 (因 -i) 雨から成る。
 vr̥ṣṭi-māruta 男 雨を伴なった風。
 vr̥ṣṭi-vani 形 雨を獲得するまたは降らしめる(因).
 vr̥ṣṭi-vāta 男 雨を伴なった風。
 vr̥ṣṭi-viṣṭambha 男 雨が止むこと。
 vr̥ṣṭi-samaya 男 **漢** 雨 *Prāt-m.*
 vr̥ṣṭi-sampāta 男 大雨の降ること。
 vr̥ṣṇi 形 雄々しい，力強い(RV.). 男 牡羊 (因)：種 [*Kṛṣṇa* の属する種族 (= *Yadava* および *Mādhava*) の名]；**漢** 音写 [種族名] 彌瑟賦 *Buddh-c.*
 vr̥ṣṇi-pāla 男 羊飼(因).
 vr̥ṣṇi-vareṇya 男 [*Kṛṣṇa* の称].
 vr̥ṣṇya 形 男らしい，強力な (RV.). 因 男らしい力，力(因).
 vr̥ṣṇyāvāt 形 男らしい力を有する，強力な(因).
 vr̥ṣya 形 性力を刺激する，催淫的な；**漢** 勢，増長 身心勢力 *Bodh-bh.*
 Vr̥h, → Barh 1,2,3.
 vr̥hat 形 =br̥hat；**漢** 弘 梵千.
 vr̥hat-phala 男 =br̥hatphala. **漢** [天名] 広果, *Aṣṭ-pr.*
 vr̥has-pati 男 =br̥haspati；**漢** 太白，広主 *Lank.*；[九曜の一] 太白，太白星，歳星 *Divy.*；**音** 写 [神名] 毗梨訶鉢底，毘利訶鉢底，(音写) 耆阿提 *Divy.*, *Buddh-c.*
 ve 男 (RV.) =vi, 鳥 (因 ves).
 vekṣaṇa 因 ca-ikṣaṇa の不確, =avekṣaṇa.
 vega 男 [Vij] 激突，衝撃 [因 團 まれに]；**團**：突進，衝突，(水，涙の)洪水，激流；(とくに飛道具の)推進力，力，速力，速度；**團**：激進，激烈；急ぎ，突然の衝動；(情熱等の)突発，勃発，興奮；(病気の)襲来；(毒の)循環，作用[時としては種]；衝動；**漢** 勢，猛疾，速疾，力，疾，迅速，勇進，威力，勢用；情急；海潮 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*；*Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mṛyut.*, *Vaiś-s.*：～dhārin 勇力持 *Gaṇḍ-vy.* 313.；sarvajñatā～ 一切智勇猛精進 *Gaṇḍ-vy.* 948.；citta～ 猛利心 *Gaṇḍ-vy.* → ākramaṇa, dharma～. ～tas 副 突然の衝撃をもって；速く，急いで，性急に。
 vega-ga 形 速く流れる(河)，
 vega-ghna 形 速く殺す。
 vegatara 男 より大なる速さ。vegād ～m Gam, 益々速く走る。
 vega-daṇḍa 男 象 (=vetanḍa).
 vega-darśin 男 [ある猿の名].

vegavat 形 性急の，急な，速い，精力盛んな，烈しい(風). 男 [ある Asura の名]；[ある Vidyādhara の名]；[ある王の名]；[ある猿の名]等；**漢** 疾具 *Abh-k.*
 vegavati 因 [ある Vidyādhari の名]；[ある河の名].
 vega-vāhin 形 速く流れる(河)あるいは速く飛ぶ(矢).
 vga-vāhini 因 矢。
 vega-viṣṭa 形 **漢** 深信趣入 *Gaṇḍ-vy.*
 vega-sara 男 騾馬；**漢** 騾 *Mṛyut.*
 vega-sarī 因 牝の騾馬。
 vegānīla 男 烈しい風。
 vegāvatarāṇa 因 急降下。
 vegita 名動 過受分 性急な，迅速な，急速の。
 vegin 形 [同上].
 vegila 男 [人名].
 vegodagra (°ga-ud°) 形 (毒薬が)急速に効く，猛毒の。
 veṅka 男 (種) [南インドのある民族の名].
 veṅkaṭa 男 [*Drāviḍa* 地方のある山の名].
 veṅgi 因 (または -i) [ある町の名].
 vejita 過受分 攪乱された，驚かされた。
 veṅhita 過受分 (*Pali* 同じ；=veṅhita) **漢** 裏 梵千.
 veṅhitvā 不変分 因 (團 *Vest* から) **漢** 織成 *Śikṣ.*
 veṇa 男 音楽家[ある混合カースト, *Vaidehaka* と *Ambaṣṭhi* の子孫]；[*Pṛthu* の父王の名] (=vena).
 veṇā 因 [ある河の名].
 veṇā-tāṭa 男 *Veṇā* 河の岸；種 [*Veṇā* 河の岸に住む民族の名].
 veṇavin 形 =vaiṇavin.
 veṇi 因 辮髪，[とくに喪の標章として一本に編んだ女の髪]；**譬** 水流；**漢** 髪，簪 *Mṛyut.*, *Prāt-m.*
 veṇikā 因 水流，間断なき流れ；組紐。
 veṇikā-vāhin 形 中絶なく流れるあるいは流れさせる。
 veṇi-grāhaṇa 因 **漢** 捉髪 *Prāt-m.*
 veṇin 形 辮髪をもつ。男 [ある Nāga の名].
 veṇi 因 =veṇi.
 veṇi-BHū 因 辮髪の形を呈するまたはなす。
 veṇi-saṃhāra 男 (*Draupadi* の) 辮髪を結ぶこと；[(第十世紀に生存した) *Bhaṭṭanārāyaṇa* 作の戯曲の題名].
 veṇi-skandha 男 [ある Nāga の名].
 veṇu 男 葦，籐，竹；笛，横笛，管；[*Yadava* 国の王の名]；**漢** 笛，簫笛 *Divy.*, *Lal-v.*；竹 *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
 veṇu-kāra 男 **漢** 竹匠 *Mṛyut.*
 veṇu-gulma 男 因 葦の叢，竹叢。
 veṇu-jā 形 一本の竹から生じた(火).
 veṇu-jāṅgha 男 [ある Muni の名].
 veṇu-dala 因 割り竹。
 veṇu-dāri 男 [ある王の名].
 veṇu-dārin 形 竹を割る。男 [ある悪魔の名].
 veṇu-maṇḍala 因 [*Kuśadvīpa* のある *Varṣa* の名].
 veṇumat 形 竹を持つ。男 [ある山の名]；**因** [ある林の名].
 veṇu-yava 男 (種) 竹の種子。
 veṇu-yaṣṭi 因 竹の茎；**漢** 竿 *Mañj-m.*

veṇu-vana 田 竹林；漢訳 [地名] 竹林 *Av-s., Mvyut.*
 veṇu-vādāna 田 笛を吹くこと。
 veṇu-vidāla 田 割り竹。
 veṇu-vaidāla 形 割り竹で作られた。
 veṇu-śayyā 女 葦の寝台。
 veṇu-haya 男 [ある *Yādava* の名]。
 veṇṇā, veṇvā 女 = veṇā.
 vetāṇḍa 男 象。
 vetāṇḍā 女 (=vetālā) [*Durgā* の一形]。
 vetana 田 報酬, 賃金；価格(まれに)。
 vetanaka 田 漢訳 価 *Saddh-p.*
 vetanādāna 田 賃金を支払わないこと。
 vetanin 形 報酬を受取った。
 vetasa 男 (女-i) 葦の一種 (*Calamus Rotang*)；籐；
 漢訳 楊枝 *Mvyut.* 田 [町の名]。音写 韓譯法 (!)
Mvyut. → āmla~。
 vetasaka 男 (種) [ある民族の名]。
 vetasa-gr̥ha 田 葦の小屋。
 vetasa-parikṣipta 形 葦によって囲まれた。
 vetasamaya 形 (女-i) 葦 (*Calamus Rotang*) からなる。
 vetasa-mālin 形 葦で包まれた, 葦がからんだ。
 vetasa-vṛtti 形 葦のように振舞うすなわしなやかな。
 vetasikā 女 [地名]。
 vetāḍa 男 漢訳 鬼, 鬼魅；起屍, 起屍翹翹 *Bodh-bh., Mvyut., Saddh-p.*；音写 葦陀羅, 毗陀羅 *Saddh-p.*
 vetāla 男 [死体を占有する鬼悪の一種]；[ある教師の名]；漢訳 鬼, 起屍鬼 *Daś-bh., Lanik., Saddh-p.*；
 咒咀(闇), 厭術(浄) *Suv-pr.*
 vetāla-pañca-vimśati 女 [書名] *Vetāla* が *Vikramā-ditya* 王に語った二十五話。
 vetāla-pañca-vimśatikā 女 [同上]。
 vetāla-yantra 田 漢訳 幻起屍機關 *Lanik.*
 vetāla-śodhana 田 *Vetāla* の恩寵を獲得すること。
 vetālā 女 [*Durgā* の一形]。
 veṭāli 女 [同上]。
 vetālotthāpana (°la-ut°) 田 *Vetāla* を出現せしめること。
 vetṛ 1. 男 [Vid 1.] (種 とともに, または 一°) 知る者；証人(まれ)；経験者(まれ)；漢訳 知, 智者 *Lanik.*
 vetṛ 2. 男 [Vid 2. から] 婚約者, 夫。
 vetya 田 (=vedhya)；漢訳 透 *Mvyut.*
 vetra 男 田 (杖を作るための一種の) 大きな葦；杖, 棒；漢訳 [樹名] 籐 *Mvyut.*；鞭杖 *Śikṣ.*
 vetra-kāra 男 葦細工人。
 vetra-kicaka-veṇu 男 種 [三種の葦の名]。
 vetrakiya-gr̥ha 田 [場所の名]。
 vetrakiya-vana 田 [同上]。
 vetra-grahaṇa 田 (杖を執ること), 門番の任務。
 vetra-grahaṇā 女 守衛女。
 vetra-dharā 女 [同上]。
 vetra-mūlaka 形 漢訳 藤根 *Gaṇḍ-ry.*
 vetra-yaṣṭi 女 葦または藤の棒。
 vetra-latā 女 [同上]。
 vetralatā-caya 男 沢山の葦棒。
 vetralatāmaya 形 (女-i) 棒葦からなる。

vetravat 形 葦をふくむまたはから成る。男 [神話上の
 一存在すなわち *Pūṣan* の息子の名]。
 vetravati 女 守衛女；[*Durgā* の一形]；[*Yamunā* 河
 の一支流の名]。
 vetra-vyāsakta-hasta 形 手に葦を握りしめた。
 vetra-hasta 男 杖(矛)を手にもつもの。
 vetrāsana (°ra-ās°) 田 籐椅子。
 vetrāsanaśina (°ra-ās°, °na-ās°) 形 籐椅子に坐る。
 vetrika 男 (種) [ある民族の名]。
 vetrin 男 執杖者, 守衛。
 veda 1. 男 [Vid 1.] 知識, 祭祀の知識(因)；(國, 種)
Rg-veda, Sāma-veda, Yajur-veda の (三つの知識
 trayi vidyā として伝えられた) 神聖な知識 (後に
 第四として *Atharva-veda* が加えられた。叙事詩で
 は *Itihāsa-purāna* もしくは *Purāna* が第五の *Veda*
 とされる)；知覚 (*Br.*, まれ)；[ある *Rṣi* の名]；[*Rṣi*
Āyoda の弟子の名]；漢訳 受, 受者, 分, 知 *Daś-*
bh., 立心；音写 吠陀, 韋陀, 韋陟, 韓陟 *Lanik.,*
Mvyut., 立心；四吠陀 [1. *Rg*~ 讚誦明論, 2. *Yajur*~
 祭祀智論, 3. *Sāma*~ 歌詠明論, 4. *Atharva*~
 禳災明論] *Mvyut.*
 veda 2. 男 [Vid 2. から] 見出すこと, 得ること (*suve-*
da の形で用いられる)；財産 (*Br.*, まれ)。
 veda 3. 男 (祭式で箒などに使われる) 強い草 (*Kuśa* ま
 たは *Muñja*) の束。
 vedaka 形 (女-ikā) 知らしめる；意識させる；漢訳
 受者, 知者, 智者, 覺者, 学者, 明者, 作明, 明了者
Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v., Madhy-v., Mvyut.,
Sam-r., Śikṣ. → *avedaka.*
 veda-karṭṛ 男 *Veda* の創作者；太陽。
 veda-kāra 男 *Veda* の作者。
 veda-kumbha 男 [ある教師の名]。
 veda-garbha 男 [*Brahmā* 神の名]。
 veda-gātha 男 [ある *Rṣi* の名]。
 veda-gupta 男 (*Veda* を護持する者), [*Parāśara* の
 息子 *Kṛṣṇa* の名]。
 veda-guhya 田 受分 *Veda* 中に秘められた, [*Viṣṇu* 神
 の称]。
 veda-cakṣus 田 眼としての *Veda*。
 veda-jña 形 *Veda* を知っている。
 veda-tattva 田 *Veda* の本質または精髓。
 vedatattva-vid 形 *Veda* の真義を知っている。
 vedatattva-vidvas 女 [同上]。
 vedatattvārtha 男 *Veda* の真義。
 veda-traya 田 (女-yi) 三つの *Veda*。
 vedatva 田 *Veda* の本性。
 veda-darśa 男 [ある教師の名]。
 veda-darśana 田 *Veda* の中に見出されることまたは言
 及されていること。種 *Veda* に従って。
 veda-darśin 形 *Veda* を洞察しているまたは知っている。
 veda-dāna 田 *Veda* を伝授すること。
 veda-dṛṣṭa 田 受分 *Veda* によって嘉みされたまたは認
 可された。
 veda-dhāraṇa 田 *Veda* を憶念すること。
 veda-dhvani 男 *Veda* (読誦)の音声。

vedana 1. 中 知識(例外的に -ā 女).
vedana 2. 形 (一) 見出す; 獲得する. 中 見出すこと(中); 結婚すること(両性において)(中); 財産, 品物 (RV., AV.).
vedanā 女 苦痛(例外的に a 中); 知覚, 感受. 中 (一) を知らせめること; 漢訳 [韻律はときに ~a] 受, 痛, 悩, 苦, 受性, 受隠, 苦痛, 苦悩, 苦樂, 苦切, 痛痒, 所受, 領納 *Abh-k., Abh-ry., Ast-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Div., Kāśy., Lan̄k., Madhy-bh., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Suv-pr., Sūtr., Vijn-t.*, 梵下: *kā-yiki* ~ 身受 *Abh-ry.*; ~ *trividhā* 三受 [1. *sukhāḥ* 樂, 2. *duḥkhāḥ* 苦, 3. *aduḥkhāsukhāḥ* 不苦不樂] *Mvyut.*
vedanā-gatānusmṛti 女 漢訳 受念住 *Lal-v.*
vedanā-citta-dharmāmbana (~ma-āl°) 中 漢訳 受心法縁 *Sūtr.*
vedanā-nimitta 中 漢訳 受資糧 *Madhy-bh.*
vedanā-nirodha 男 漢訳 受滅 *Suv-pr.*
vedanā-pratyaya 男 漢訳 受縁 *Suv-pr.*
vedanā-bahula 形 漢訳 受苦痛 *Ast-pr.*
vedanā-bhinna 形 漢訳 受苦触者 *Mvyut.*
vedanāvāt 形 知識をもっている; 苦痛を感ずる; 骨の折れる.
vedanā-sthāniya-dharma 男 漢訳 順受法, 受生縁(根塵等)諸法 *Madhy-bh., Madhy-vibh.*
veda-nindaka 男 *Veda* の誹謗者, 不信心者.
veda-nindā 女 *Veda* 誹謗, 異端.
vedanendriya (°na-in°) 中 漢訳 (樂等五根), 五受…根 *Madhy-bh.*
vedaniya 未受分 使役 [Vid 1.] (一) によって指示されるべき, 表現されるべきまたは意味されるべき; (一) によってまたはとして感ぜられる; 漢訳 受, 証, 報, 応知, 所受, 領受順…受, 能生…受 *Abh-ry., Bodh-bh., Daś-bh., Ratna-ut.*; *sukha* ~ 順樂受, 能生樂受 *Abh-ry., Bodh-bh.*
veda-patha 男 *Veda* の道.
veda-pathin 男 [同上].
veda-pāṭha 男 *Veda* の校訂本(リセンション).
veda-pāṭhin 形 *Veda* を学習する.
veda-pārāga 男 *Veda* に精通している者.
veda-puṇya 中 *Veda* の学習によって(得られた)功德.
veda-pradāna 中 *Veda* を伝授すること.
veda-pravāda 男 *Veda* の所説.
veda-phala 中 *Veda* の学習によって(生ずる)果報.
veda-bāhu 男 [*Kṛṣṇa* の息子の称].
veda-bāhya 男 不信心者.
veda-brahma-carya 中 *Veda* を学習する生活.
veda-brāhmaṇa 男 *Veda* を知っている婆羅門, 真の意味の婆羅門.
veda-bhāṣya 中 *Veda* の注釈.
veda-bhāṣya-kāra 男 *Veda* の注釈の作者, *Sāyana*.
vedamaya 形(女-i) 神聖な知識からなるまたはを含む.
veda-mātr 男 *Veda* の母, [*Sarasvatī, Sāvitrī* および *Gāyatrī* の称].
veda-mūla 形 *Veda* にもとづく.

veda-yajña 男 *Veda* に規定された祭式.
vedayita 中 [vedayate の過受分] 知覚, 感受; 漢訳 受 *Bodh-bh., Gaṇḍ-ry.*
vedayita-duḥkha 形 漢訳 受苦 *Bodh-bh.*
vedayitavya 未受分 知らしめられるべき, 伝えられるべき; 漢訳 当知 *Lan̄k.*
vedayitānupaccheda 形 漢訳 受不断 *Bodh-bh.*
vedayitr 男 知者; 漢訳 有受, 使受者 *Madh-ry., Suvik-pr.*
veda-rahasya 中 *Veda* の秘義, *Upaniṣad.*
veda-rāsi 男 全ての *Veda*.
veda-vākya 中 *Veda* の言葉.
veda-vāda 男 [同上]; *Veda* について語る事, 神学上の議論.
veda-vādin 形 *Veda* について語りうるまたは精通している.
veda-vāha 形 *Veda* の学習に捧げられた.
veda-vikrayin 形 *Veda* を金銭のために売る = 教える.
veda-vittama 最上 *Veda* にもっとも通じた.
veda-vittva 中 *Veda* の知識.
veda-vid 形 *Veda* を知っている.
veda-vidyā 女 *Veda* の知識.
veda-vidyādhigama (°yā-adh°) 男 *Veda* の学に通曉すること.
vedavidyā-vid 形 *Veda* 学に通曉している.
vedavidyā-vrata-snāta 過受分 *Veda* の学習と誓戒とを修了して沐浴の儀式を行なった.
veda-vidvas 分 *Veda* を知っている.
veda-viplāvaka 形 *Veda* を宣伝する.
veda-vedāṅga-tattva-jña 形 *Veda* と *Vedāṅga* との真義を知っている.
vedavedāṅga-pāra-ga 形 *Veda* と *Vedāṅga* に通曉する.
veda-vaināsikā 女 [河の名].
veda-vaināsikā 女 [同上].
veda-vyāsa 男 (*Veda* の整理者) [*Vyāsa* または *Bāḍa-rāyana* の名].
veda-vrata 中 *Veda* の学習期間に(定められた)遵守規定. 形 *Veda* の誓戒を立てた.
veda-śabda 男 *Veda* という語; *Veda* の言葉.
veda-śākhā 女 *Veda* 伝承の分派または学派.
veda-śāstra 中 (中) *Veda* の教義; (複) *Veda* と他の教典.
vedasāstra-purāṇa 中 (複) *Vedasāstra* と諸 *Purāṇa*.
veda-śira 男 [*Kṛśāśva* の息子の名].
veda-śiras 中 [ある *Ṛṣi* 等の名].
veda-śruta 男 複 [ある神群の名].
veda-śruti 女 *Veda* 聖典 (または -ti); *Veda* の読誦; [ある河の名].
vedas 中 知識 (RV.); (所得), 財産, 富(因).
veda-saṁhitā 女 一学派に属する全 *Veda* を集録したもの, *Veda* 本集.
veda-saṁnyāsika 形 男 *Veda* の学習(や祭式)を放棄して(瞑想にふける), 第四期の婆羅門.
veda-saṁnyāsin 形 男 [同上].
veda-samāpti 女 *Veda* 学習の完成.

veda-saṃmita 過受分 Veda に合致した。
 veda-sūtra 甲 Veda 所属の經典。
 veda-smṛtā (-ti) 乙 [河の名]。
 vedāṅga 甲 Veda の支分, Veda の補助的な学問
 および書物 (Śikṣā, Kalpa, Vyākaraṇa, Nirukta,
 Chandas, Jyotiṣa の六種がある)。男 [太陽の名]。
 vedātman (°da-āt°) 男 (Veda の本質), Viṣṇu 神。
 vedādi (°da-ādi) 男 Veda の始め。男 甲 聖音 om。
 vedādhiḡama 男 Veda の学習, Veda の読誦または復
 唱。
 vedādhyakṣa 男 Veda の監視者, Kṛṣṇa 神。
 vedādhyayana 甲 Veda の学習または読誦。
 vedādhyāya 形 Veda を学習するまたは学習した。
 vedādhyāyin 形 [同上]。
 vedānadhyaḡana 甲 Veda の復唱を放棄するまたは
 怠ること。
 vedānuvacana 甲 Veda の復唱または暗誦; Veda の教
 義。
 vedānta 男 Veda の終 (まれ); Veda 研究の終 (まれ),
 Veda の帰結または精髓をなす典籍, ウパニシャッ
 ド; それにもとづく神学的哲学体系 (Uttaramīmāṃ-
 sā または Vedānta 哲学)。
 vedānta-kṛt 男 Vedānta の著者。
 vedānta-ga 形 Veda の蘊奥をきわめた。
 vedānta-niṣṭha 形 Vedānta に基づいた。
 vedānta-praṇihita-dhī 形 Vedānta に思念を凝らした。
 vedānta-vijñāna 甲 Vedānta の知識。
 vedānta-sāra 男 Vedānta の精要, [Vedānta 哲学の
 綱要書の名]。
 vedānta-sūtra 甲 Vedānta 学派の根本聖典 (Bādarā-
 yana または Vyāsa の作とされ, Brahma-sūtra
 または Śāriraka-sūtra と呼ばれる)。
 vedāntābhīhita 形 Upaniṣad または Vedānta に含ま
 れた。
 vedāntāvabhṛtha-pluta 男 Veda の学習を修了して
 沐浴の儀式を行なった者。
 vedāntin 男 Vedānta 学派に属する人, Vedānta の
 徒。
 vedāntopagata (°ta-up°) 過受分 Vedānta から生ず
 る(報酬)。
 vedābhyāsa 男 Veda の学習, Veda の絶えざる反復。
 vedārtha 男 Veda の趣旨または意義。
 vedārtha-vid 形 Veda の意義を知る。
 vedārhatva 甲 Veda 研究に値すること。
 vedāvāpti 乙 Veda の修得, Veda に通曉すること。
 vedāśra 形 四辺形の。
 vedi 乙 (供犠を行うために) 地面を浅く掘った場所 (ふ
 っう藁で覆われ, 中に聖火の炉があり, 祭壇にあてら
 れる。その中央部分は狭く, しばしば婦人の腰をこ
 れにたとえる), (結婚式のため庭に設けられた) Vedi
 形の開いた小亭; 壇, 台, 腰掛け。
 vedikā 乙 Vedi 形の小亭 (= vedi); 壇, 腰掛け; 欄
 楯, 軒檻, 軒陸, 欄杆, 辺框, 台, 火供竈辺, (椽
 栂) Gand-vy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Sukh-
 vy. II.

vedikā-jāla 甲 欄杆網 Mvyut.
 vedita 甲 俗 = vedayita, vedayate の 過受分 感覚,
 感受; 漢訳 受; 境, 所行処, 行処, 境所 Abh-vy.,
 Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v., Lanik., Madhy-vibh.,
 Sūtr.
 veditavya 未受分 知られるべき, 学ばれるべき, …
 と見なされるべき, …の意味と考えられるべき;
 漢訳 当知, 応知, 当作是知, 所知, 名 Abh-vy.,
 Bodh-bh., Madhy-bh., Ratna-ut., Saddh-p.
 vedita-sukha 甲 漢訳 受樂 Bodh-bh.
 veditā 乙 (一°) を熟知していること, 認識または経験
 すること。
 veditṛ 男 (屬, 一°) を知る者; 漢訳 知者 Lal-v.
 veditopaccheda-sukha (°ta-up°) 甲 漢訳 受断樂 Bo-
 dh-bh.
 vedin 1. 形 (一°) と親しい・を知っているまたはを熟
 知している; 感ずる, 知覚する(叙詩, P. まれ); 告知
 する(叙詩まれ); 漢訳 知, 受 Mvyut.
 vedin 2. 形 結婚する。
 vedinī 乙 [ある河の名]。
 vedi-purisa 男 Vedi の柔かい土。
 vedi-mati 乙 [人名]。
 vedi-madhyā 形 Vedi 形の腰をもつ(女)。
 vedi-mekhalā 乙 Uttaravedi の境界を示す索繩。
 vedi-śad 形 祭壇の上に坐す(賦)。男 = [Pracina-bar-
 his].
 vedi-sambhavā 乙 [Draupadi の称]。
 vedikā 乙 あずまや。
 vedi 乙 = vedi。
 vediyas 比較 (業) よりよく見いだす (RV. 用例一回のみ)。
 vedokta (°da-uk°) 形 Veda 中に挙げられた・教え
 られたまたは含まれた。
 vedodaya (°da-ud°) 男 [太陽の名]。
 vedodita (°da-ud°) 形 Veda に規定された。
 vedopakaraṇa (°da-up°) 甲 Veda の補助学。
 vedopagrahaṇa (°da-up°) 甲 Veda の補遺。
 vedopanīṣad (°da-up°) 乙 Veda の秘義。
 veddhavya 未受分 [Vyadh] 貫かれるべき, 的にあて
 られるべき(矢)。
 veddhum, Vyadh の不定。
 veddhṛ 男 [Vyadh] (目標を) 貫く者または打つ者。
 vedya 1. 未受分 [Vid1.] 著名な, 有名な(賦); 知ら
 れるべき, 知られている(賦, 羣); (困または一°) と
 認められるべきまたはみなされるべき(羣); 漢
 感, 受, 領能感, 所知, 応証, 所覚, 順受, 受所
 Abh-k., Abh-vy., Lanik., Mvyut.
 vedya 2. 未受分 [Vid] 2. 獲得されるべき(賦); 結婚す
 べき (a- の形で用いられる; 羣)。
 vedyatva. 甲 知り得ること(羣)。
 vedyā 乙 (獲) [Vid1.] 知識 (RV.): 羣 (-ā) または 羣 の
 羣 知識をもって = 明白に, 現に, 実に (RV.)。
 vedha 男 [Vyadh] 貫通; (的に) 当てること; 破
 こと, 開くこと; 漢訳 中, 射 Mvyut., Sapt-pr.
 vedhaka 男 貫く者; 貫通者。
 vedhana 甲 (矢を) 貫き通すこと; (羣) によって害を
 えること; 漢訳 厚, 射, 損害 Abh-vy., Sapt-pr.

Śikṣ.

vedhas 形 [Vidh; 鑑は時として vedhām] 敬虔な, 信ずる(夙); 徳のある, 善い(=神々の称)(夙); 賢明な(夙). 男 神々の崇拜者(夙); 整頓者; 促進者, 指導者; 作者(夙); 造物主, 梵天 *Brahmā* (の称)(夙).

vedhita 使役 過受分 → Vyadh.

vedhitva, → marma~, śabda~.

vedhin 形 貫く; (的に)当てる.

vedhya 受受分 貫かれるべきまたは貫通されるべき.

Ven, I. 鑑 venati, (夙) 注視する, 洞察する; (夙) を慕う, …を渴望する; (生気が外に)向かう (Br.); 羨む.

anu- 惹きつけようとする, ふたたび得ようと望む(夙).

vi- そっぽを向く, 嫌う(夙).

vena 形 (夙) 洞察する; 慕う, 渴望する, 熱望する, 愛する(夙). 男 洞察者, 詩人, 祭官; 渴望, 欲望, 願望(夙); [空界の神的存在の名, *Indra* 神または太陽(註), 臍と結びつくことがある] (Br.); [*Pythu* の父およびその他の人の名] (鑑).

venya 形 洞察者の佳質をもつ (RV.).

Vep, → Vip.

vepa 男 振動, 身ぶるい.

vepathu 男 震えること, 振動すること, 揺れること.

vepathu-parita 過受分 身ぶるいに襲われた.

vepathu-bhrt 形 振動する(鑑).

vepathumat 形 [同上] (鑑).

vepana 形 振動する, 震える, (光が)明滅する. 至 身ぶるい(鑑).

vepana-kara 形 震える.

vepamāna 男分 身震いする.

vepas 至 [Vip] 震えること, 詩的靈感 (RV.).

vepita 過受分 [Vip] 至 身ぶるい.

vema 男 織機.

vemaka 男 機織工.

vemaki 女 機織工の妻.

vema-citra 男 [ある Asura 王の名] (仏教); 漢訳 妙織(?) *Mṛyut.*; 音写 毘摩質多, 毗摩質多羅, 毘摩質多羅, 吠摩質咀利 *Mṛyut.*, *Suv-pr.*, *Vijñ-v.*

vema-citrin 男 [同上]; 漢訳 淨妙王 *Dīvy.*; 音写 毘摩質, 維摩(神) *Lal-v.*, *Sam-r.*

veman 至 [Vā 4.] 織機または梭; 漢訳 齊密(機) *Mṛyut.*vemātra 男 漢訳 音写 [数名] 韓嬰担羅 *Mṛyut.*

vemuh, → Vam.

vela 男 漢訳 音写 [数名] 薛羅 *Mṛyut.*vela-jña 形 漢訳 知宜 *Lal-v.*

velam, → velā.

velā 女 尖端, 終り, 限界(まじ); (海と陸の)境界, 海岸, 浜辺; 時間の限界, 期間, 日中の時間, 時間; 機会, 場合; 潮, 満潮(干潮の 対); [海岸に現われた王女の名]; 漢訳 時, 候, 分, 限, 岸, 臨節, 期限 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Dīvy.*, *Lank.*, *Mṛyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*: tasyām ~ yām 即便, 即時, 爾時 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*; asatyām ~ yām 非時 *Śikṣ.* kā ~ ā 何時か; kā ~ ā tatrabhavatyāḥ prāptāyāḥ 彼女は何時からここにいたのか; velāyām (正しい)

時間に; andha ~ āyām 盲になる場合があるとき; artha ~ āyām 意味に関しては; ~ āṃ pra-Kṛ 機会をねらう. ~ am, 一° [数詞に続けて'回', '度'を示す].

velā-kūla 至 浜辺, 海岸, 河岸. 形 岸辺にいる.

velā-cakra 至 漢訳 影朝, 一日商矩 *Mṛyut.*

velā-jala 至 (至または種) 満潮.

velā-taṭa 男 (海)岸.

velātaṭanta 男 [同上].

velātikrama (°lā-at°) 男 時間を超過すること, 遅刻.

velātiga (°lā-at°) 形 氾濫する(海).

velādri (°lā-ad°) 男 海岸の山.

velānila (°lā-an°) 男 海岸の風.

velā-nilaya 男 岸辺の住民.

velāmbhas (°lā-am°) 至 満潮.

velā-vana 至 海辺の森.

velā-vittā 男 [役人の一種].

velā-vici 女 磯波, 砕ける波; 種寄せる波.

velā-vyāja 男 見せかけの潮.

velā-samudra 男 満潮の海洋.

velā-salila 至 [同上].

velā-hina 形 早熟の, 機会の熟さない.

velikā 形 (女) 海岸の(土地).

velu 男 漢訳 音写 [数名] 比盧 *Mṛyut.*veluva 男 漢訳 音写 [数名] 薛魯婆 *Mṛyut.*

velormi (°lā-ūr°) 女 磯(に砕ける)波, 大うねり.

Vell, I. 鑑 vellati, 震える, 揺れる. 一般には 現分 vel-lat または 過受分 vellita 波動する, 振動する, 上下する; 曲がった; ねじれた; からまった(腕).

anu- 過受分 押し下げられた.

ud- 振動しはじめる, あちこちに動く. 過受分 波動する, 上がる.

vi- 震える, 揺れる.

sam- 過受分 巻いている.

vellat 現分 → Vell.

vellana 至 (波が)寄せること; (馬が地上に)転がること.

vellita 過受分 → Vell.

vevijāna 強意 現分 → Vij.

vevidāna 強意 現分 → Vid 2.

veviṣāna 強意 現分 → Viṣ.

veśa 男 [Viś: 定住者] 隣人, 小作人, 家臣(夙); 売春, 娼家(鑑); 娼婦の振舞い(鑑); [しばしば veśa の訛として出る]; 漢訳 像, 形, 身, 形像, 作行, 被服, 容飾 *Dīvy.*; 力能 *Sam-r.* → veśa.

veśa-kula 至 娼婦たち.

veśa-dhārin 形 = veśadhārin; 漢訳 現…形, 作…像, 作…身 *Lank.*

veśana 至 入ること.

veśanta 男 池(夙).

veśa-bhāva 男 娼婦の状態またはありかた.

veśa-yuvati 女 娼婦.

veśa-yoṣit 女 [同上].

veśa-rūpa-dhārin 形 漢訳 変身, 化身 *Lank.*

veśavat 男 娼家の主人.

veśa-vadhū 女 娼婦.

veśa-vanitā 女 [同上].
 veśa-vāra 男 漢訳 諸辛 *Mvyut.*
 veśa-vāsa 男 娼家.
 veśa-stri 女 娼婦.
 veśa-sthā 女 [同上].
 veśas 男 家臣 (AV.).
 veśāntā 女 池 (Br.).
 veśin 形 (一°)に入る.
 veśi 女 [Viś] 針 (RV. 用例一回のみ).
 veśman 中 [Viś] 家, 住居, 住处, 部屋; 漢訳 宅, 舍, 宮, 房, 篋, 舍宅, 宮殿 *Divy., Lal-v., Mañj-m., Mvyut., Ratna-ut., Saddh-p., Suv-pr.*
 veśma-vāsa 男 寢室.
 veśma-stri 女 =veśastri.
 veśmānta 男 家の中.
 veśya 形 挿入さるべき. 中 隣接すること; 娼家; 漢訳 姪蕩 *Bodh-bh.*: ~m Vah 為姪女 *Divy.*
 veśya-stri 女 高級娼婦.
 veśyā 女 高等娼婦, 娼婦; 漢訳 姪女, 女人, 姪蕩 *Bodh-bh., Divy.*
 veśyā-grha 中 娼家.
 veśyā-ghaṭaka 男 売春仲介者.
 veśyāṅganā (°yā-aṅ°) 女 高級娼婦.
 veśyā-jana 男 (隕) 娼婦たち.
 veśyātva 中 娼婦の状態.
 veśyā-pana 男 娼婦の給料.
 veśyā-pati 男 高級娼婦の夫, 情夫.
 veśyāyatta (°yā-āy°) 形 娼婦に依存する: ~yatti-Kṛ 娼婦に依存させる.
 veśyā-veśman 中 娼家.
 veśa 男 [Viś] (一°, 女-ā, -i) 着物, 衣服, 外形 (普通の意味); 見かけの様子; 外観; 漢訳 相, 形, 像, 身, 相貌, 形像 *Ast-pr., Av-ś., Divy., Lanik., Mañj-m.* ~m Kṛ または ā-Sthā 着物をつける; ~m Gam または vi-DHā 外貌を呈する, 変装する.
 veśaṇa 中 奉仕 (RV.).
 veśaṇā 女 付添い.
 veśa-dhārin 形 (一°)の着物を着る.
 veśa-rūpa-dhārin 形 漢訳 変身, 化身 *Lanik.*
 veśavat 形 よい衣服を着た (sa veśavān の異説である suveśavān の異説).
 veśānyatva 中 着物を変えること.
 Veṣṭ, I. 自 veṣṭate ぐるぐる巻く; (脛)にからまる, …に固着する (AV.); (蛇が)脱皮する. 使役 他 自 veṣṭayati (-te) 包む, 包みこむ, 着物を着せる, 包装する; 包囲する, 取り巻く, 取りかこむ, 攻囲する; (罽)を…に結びつける, 罽を…に巻きつける(まれ); (綱)をよじる. 使役 漢訳 繞, 周匝 *Divy.* 過受分 veṣṭita 包まれた事; 漢訳 住, 卷, 纏, 縛, 囊 *Divy., Mvyut., Ratna-ut., 他.*
 anu- (筵を)拈げる.
 abhi- 使役 覆いかくす.
 ā- 使役 包む, 取り囲む, 覆う, 着物を着せる (隕, 隕); (綱を)よじる.
 ud- 使役 開封する, (手紙を)開く; (糸の)よじれを解く, (髪を)解く.

upa- 使役 ぐるぐるよじるまたはからます.
 pari- 使役 包む, からますまたは結びつける, からみつく; 包囲する, 取り巻く; 包みこむ, (矢で)圧倒する, かぶせる, (刺で)苦しめる; 漢訳 纏, 纏送 裹 *Ast-pr., Lal-v., Lanik., Saddh-p.*
 vi- 使役 包囲する, 取り巻く, 包む.
 sam- 使役 包む, 巻きつく; 取り巻く, 包囲する 覆う; 巻きあげる; 漢訳 纏 *Divy.*
 prati-sam- 縮む.
 veṣṭa 男 輪索.
 veṣṭaka 男 または中 鞞; ターバン; 漢訳 葛布 *Mvyu.*
 veṣṭana 中 取り巻くこと, 巻きつくこと, 包むこと, 包囲; 吊帯; 帯; 包帯; はち巻き, ターバン; 垣, 籬; 鞞. ~m Kṛ 縋帯をする.
 veṣṭamāna 現分 (蛇が)脱皮する.
 veṣṭita 過受分 → Veṣṭ
 veṣṭita-siras 形 頭を覆った; 漢訳 裹頭, 襍頭, 裹頭人, 人襍頭 *Mvyut., Prāt-m., Vin.*
 ves, [ve (鳥)の隕, vi (鳥)の隕; Vi 1. の 三人 三人 隕, 三過 または 三人 隕 injunctive].
 vesara 男 [通俗語源による, vegasara 参照] 驃馬; 漢訳 驃 梵語.
 vesavāra 男 [諸種の香料をもって作られる調味料または料理の名].
 vehat 女 流産するまたは不妊の牝牛.
 vehāra 男 [国名=Bihār].
 vai 不変辞 [先行する語を強調する, Saṃhitāではきめてまれ. Br. (冒頭の語の後に置かれてしばしば一文の始めを示す) および 叙語 ではきわめて普通. S. では一に yady u vai の形にかぎる. 叙語 と *Manu* では vai は単なる虚辞として pāda の末尾にきわめて普通. 用いられる. また他の 不変辞 とともに: vā u (RV.); ha vai, ha sma vai, eva vai (Br.); api vai, tu vai (隕)].
 vaikakṣa 中 [vikakṣa から] 肩にかかる花輪; 上衣, 外套.
 vaikakṣaka 中 両肩にかかる花輪.
 vaikakṣika (または -ya) 中 =vaikakṣaka
 vaikakṣyaka 形 一° 外套.
 vaikaṅka 男 [ある山の名].
 vaikaṅkata 形 (女-i) Vikaṅkata (*Flacourtia Sapida* に属する・からくるまたはよりなる).
 vaikaṅtika 男 [vikāṅta から] 宝石商.
 vaikarṇa 男 [vikarṇa から] [種族の名] (RV.); [vikarṇa から] 交系 (S.).
 vaikarta 男 [vikarta から] 食用に供せられる犠牲獣の一部, 腰部 (Br.).
 vaikartana 形 太陽 (vikartana) に関するまたは属する. 男 [Karna, Sugriva の交系の称].
 vaikartana-kula 中 太陽種族.
 vaikalpa 中 漢訳 諸相, 思惟想, 分別想 *Lanik.*
 vaikalpika 形 (女-i) [vaikalpa から] 随意的.
 vaikalpikatā 女 随意.
 vaikalpikatva 中 [同上].
 vaikalya 中 [vikala から] 脆弱, 弱いこと; 不完全, 欠点; 欠陥, 不足; 失意(まれ); 狼狽, 混乱 (vaikla

vyaの異読); 闕, 離, 無, 離散, 欠陋, 不具, 不足, 匱乏, 闕減, 不全, 非全, 乏少, 所闕, 不具足 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mryut.*, *Sāmkhy-k.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.* → *avaika-lyā*, *upakaraṇavaikalāya*.

vaikārika 形 (因-i) 変形 (*vikāra*) にもとづく, 変形しやすい. 重 気分の変化, 情緒.

vaikārya 重 変形.

vaikālika 重 [夕方 (*vikāla*) に起こること], 夕の勤行または食事.

vaikuṅṭha 男 [vikunṭha から] [*Indra* 神(まれ) および *Viṣṇu-Kṛṣṇa* 神の称]: [ある神群の称]. 男 重 [Viṣṇu 神の天界].

vaikuṅṭha-gati 重 *Viṣṇu* 神の天界に行くこと.

vaikuṅṭhatva 重 *Indra* 神たる性質, *Viṣṇu* 神たる性質.

vaikuṅṭha-bhuvana 重 *Viṣṇu* 神の天界.

vaikuṅṭha-svarga 男 [同上].

vaikuṅṭhiya 形 *Viṣṇu* 神の楽園に関する.

vaikṛta 形 [vikṛti から] 変形した, 派生した, 第二次の; 変形しやすい; 人工的な, 養子によって継承された(家族). 重 変形, 変更, 形を損ずること, 異常な状態, 変化した状態(普通の意味); 異常な現象, 前兆; 心の変化, 動揺; 感情の変化, 敵意; 変異, 変異得 *Sāmkhy-k.*

vaikṛtavat 形 (一) によって病的に影響された.

vaikṛta-vivarta 男 痛苦, 窮状.

vaikṛtāhankāra 男 変異我慢 *Sāmkhy-k.*

vaikṛti = **vaikṛta**.

vaikṛtya 形 [vikṛta から] 変形, 変更; 墮落, 退化; 前兆; 嫌悪; 敵意; 可惡 *Diry.*

vaikriya 形 変形 (*vikriyā*) しやすい.

vaiklava 重 [viklava から] 当惑; 失意.

vaiklavya 重 [同上]; 脆弱, 弱いこと; 心の弱いこと.

vaiklavyatā = **vaiklava**.

vaikhānasa 男 [vikhānasa から] [*Rṣi* (隠) の一部類の名]; (婆羅門の) 第三住期にある *Ārya*, 修道士, 隠者. 形 隠者に関する; *Rṣi Vikhanas* によって始められた.

vaikhānasa-mata 重 隠者のためのまたは *Vikhanas* によって創られた規則.

vaikhānasāsrama (°sa-ās°) 男 [ある草庵の名].

vaikhānasi 女 女隠者.

vaigaleya 男 [悪魔の一部類の名].

vaiguṇya 重 [viguṇa から] 不完全, 欠陥があること; 過失のあること, 悪いこと, 無器用なこと; (生まれの) 劣等性; 乏, 闕少, 闕少 *Bodh-bh.*

vaighasika 形 残飯を食べて生きる.

vaicakṣanya 重 [vicakṣana から] (因) における経験・熟達または熟練; 敏捷 *Bodh-bh.*

vaicittya 重 [vicitti から] 心の混乱, 放心.

vaicitra 重 [おそらく *vaicitrya* の 不確].

vaicitra-viryā 男 [*Dhṛtarāṣṭra*, *Pāṇḍu*, *Vidura* の 父系].

vaicitraviryaka 形 *Vicitravirya* に属する.

vaicitra-viryin 男 = **vaicitravirya**.

vaicitra-sattva-bhāva 男 衆生種々性, 衆生種々異, 衆生及諸物 *Lank.*

vaicitri 女 奇異, 驚異; 驚くべき美.

vaicitrya 重 [vicitra から] 多様, 多種, 驚くべき多様性; [vaicittya の 不確]; 別, 多異, 差別, 種種, 諸相, 多差別, 多種異, 多種不同 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Ratna-ut.*

vaicitrya-naya 男 義 *Ratna-ut.*

vaicitrya-pada 重 雜句, 種々句, 種々見 *Lank.*

vaijanana 形 子供の誕生 (*vijanana*) に関する; 土 **mās** 男 臨月.

vaijanya 重 [vijana から] 人里離れたこと, 孤独.

vaijayanta 男 [征服者 *vijayat* に属する] *Indra* 神の旗; 旗, 軍旗; *Indra* 神の宮殿; [ある山の名].

重 [Ayodhyā の一城門の名]; [ある町の名]; 勝幡, 勝殿, 天宮, 帝釈宮, 殊勝殿, 殊勝宮殿, 最勝法堂 *Abh-k.*, *Aṣṭ-pr.*, *Diry.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*

vaijayantikā 女 旗, 軍旗; 真珠の首飾(の一種) (Pr.).

vaijaya i 女 旗, 軍旗; 勝利を予知する花輪; [ある辞書の標題]; [*Viṣṇu* 法典のある注釈書の表題]; 幡, 最勝幡 *Lal-v.*, *Mryut.*

vaijayika 形 (因-i) 勝利 (*vijaya*) を授けるまたは予言する.

vaijayin 形 [同上].

vaijavana 男 父系 [*Paijavana* の 不確].

vaijavāpāyana 男 [本来 *bai*] [*Vaijavāpa* の子孫].

vaijātya 重 [vijāti から] 雜種, 異質.

vaidūrya 重 (まれに 男) 猫眼石(宝石の一種). 男 [ある山の名]. 形 猫眼石をもって作られた; (音写) 大毗瑠璃, 大瑠璃宝, 瑠璃珠, 瑠璃宝, 瑠璃座 *Ratna-ut.*, *Suv-pr.*; (音写) 瑠璃, 瑠璃, 毘瑠璃, 毗瑠璃, 吠瑠璃, 吠瑠璃, 鞞稠梨夜, 鞞頭梨, 鞞瑠璃 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Sukh-vy. II.*, *Suvik-pr.*, 玄奘, 梵維: *niṣaṇṇā(s)...* ~ e ca *prabhāsvare* 各処瑠璃座, 坐瑠璃座 *Suv-pr. 19.*

vaidūrya-kānti 形 猫眼石の色をもつ. 男 [ある剣の名].

vaidūrya-nirbhāsa 男 [ある仏の名]; (音写) 瑠璃光, 瑠璃光 *Sukh-vy. I.*

vaidūrya-prthivi 女 (音写) 瑠璃地 *Ratna-ut.*

vaidūrya-pratibimba 重 (音写) 瑠璃鏡像 *Ratna-ut.*

vaidūrya-maṇivat 形 猫眼石を含んでいる.

vaidūrya-maya 形 (因-i) 猫眼石からなる・から作られたまたはに類似する; 瑠璃合成 *Suv-pr.*

vaidūrya-sikhara 男 [ある山の名].

vaidūrya-śrṅga 重 [神秘的な山の名].

vaiṇa 男 竹細工人, 籠を作る人.

vainava 形 (因-i) 竹 (*venu*) からなるまたは作られた, 男 横笛.

vainika 男 [*vinā* から] 横笛の吹奏者.

vaitamsika 男 [*vitamsa* から] 捕鳥者. (一) を因として仕掛ける, (とくに徳 *dharma* を) 装う. 重 罟をもって捕えること.

vaitatya 甲 [vitata から] 広大なこと。
vaitathya 甲 [vitatha から] 虚偽。
vaitaraṇa 形 (女-i) 河を渡ろうと企てる。男 [ある
 医師の名]。因 (-i) [Kalingaにあるある聖河の名]、
 [地獄の河の名]。
vaitasa 形 (女-i) 葦からなるまたはに特有な。
vaitasi-vṛtti 因 葦のような行為(すなわちより大きな力
 に屈することまたは境遇に適応すること)。男、甲 葦
 細工の籠。
vaitasena 男 [Purūravas の父系]。
vaitasta 形 Vitastā (今の Jhelum 河)に由来するまたは
 に含まれた。
vaitastika 形 1 vitasti の長さのある。
vaitastya 形 =vaitasta。
vaitahavya 男 [Vitahavya の父系]。
vaitāna 形 [vitānaから] 三個所に分置された火(すなわ
 ち聖火)に関するまたはをもって執行された。甲 三聖
 火をもって執行された祭式。男 [vitāna の音律]天
 蓋。
vaitāna-kuśala 形 三聖火の祭式に通曉した。
vaitāna-stha 形 三聖火の祭式に従事する。
vaitānika 形 =vaitāna。
vaitāla 形 (女-i) vetāla に関する。
vaitālika 男 [vitāla から] 吟遊詩人、王の讃頌者(彼
 は一日中の時刻を宣言することを義務とする)。
vaitālika-vrata 甲 吟遊詩人の義務。
vaitṛṣṇya 甲 [vitṛṣṇa から] 渴をいやすこと；欲望を
 離れること、(一°)に対して無関心であること。
vaitta-pālya 形 Kubera に関する。
vaida, → baida。
vaidagdha 甲 [vaidagdhya の 不確]。
vaidagdhī 女 [vidagdhya から] 賢明、鋭敏、経験、
 熟達、熟練；莊嚴、美麗。
vaidagdhya 甲 (しばしば-dha) 鋭敏、聡明。
vaidagdhya-vat 形 賢い、熟達した、経験ある。
vaidabhṛti-putra 男 [ある教師の名]。
vaidarbha 形 (女-i) Vidarbha に関する。男 Vidar-
 bha の王；種または一° Vidarbha の民。
vaidarbhaka 形 男 [同上]。
vaidarbha-jamanī 女 Damayantī の母。
vaidarbhi 男 Vidarbha の末裔。
vaidarbhi 女 Vidarbha の王女；[(ritiを補って)平易
 にして口調よく且つ簡潔な文体 修辭]。
vaidarvya 因 [vaidarvya または vidarvi から出た父系]。
vaidala 形 (女-i) 割竹(vidala)から作られた。男 莢
 ある野菜または穀物。甲 柳細工(または小枝細工)の籠。
vaidalya 甲 能奪 Mṛyut.；音写 貝達 Mṛyut.
vaidika 形 (女-i) Veda に関する・に由来する・に一
 致するまたはに規定された、Veda の。甲 Veda の章
 句または教条；漢訳 音写 吠地迦 Bodh-bh.
vaidika-mantra 男 漢訳 (音写) 吠地迦呪 Bodh-bh.
vaidikādhyayana (°ka-adh°) 甲 種 Veda の学習。
vaidīśa 男 Vidiśa の王；種 Vidiśa の住民。甲 [Vi-
 diśa 河畔にあるある町の名]。
vaidurika 甲 Vidura の金言。
vaiduṣya 甲 [vidvas の 弱幹 viduṣ から] 学習。

vaidūra-pati 男 種 [ある王朝の名]。
vaidūrya =vaidūrya。
vaidūryāśmagarbha (°ya-aś°) 男=vaidūryāśmagar-
 bha) 漢訳 石蔵宝 Mañj-m.
vaidesika 形 (女-i) 他国(videśa)に属する、他国の。
 男 異邦人、外国人。
vaidesikatva 甲 外国人であること。
vaidesika-nivāsin 男 種 外来人と土着人。
vaidesya 形 =vaidesika。甲 空間的に隔たること、
 空間を隔てること。
vaidēha 形 (女-i) Videha 国に属する(因)。男 Vi-
 deha の王(因 種)、Videha の人民(種)；[ある混合
 カースト (Manu法典では Vaiśyaの父と Brāhma-
 na (婆羅門)の母の間、または Śūdraの父と Vaiśya
 の母の間に生まれた子孫で商業を職業とする)の
 名]；[胡椒の一種]。
vaidēhaka 形 Videha に属する；漢訳 勝身 Mṛyut。
 男 Vaideha カーストの人；商人。
vaidēhika 男 商人。
vaidēhī 女 Videha の王女、[とくに Sītāの名]；Vai-
 deha カーストの女；長い胡椒；漢訳 [人名・王妃名]
 勝身 Divy.；音写 韋提希、毘提訶、維提 Lal-v.,
 Saddh-p.
vaidēhī-putra 漢訳 (音写) 韋提希子 Saddh-p.
vaidēhī-bandhu 男 [Sītā の友または夫, Rāma の称]。
vaidēhimaya 形 (女-i) Sītāに心を奪われたおよび長い
 胡椒より成る。
vaidya 形 學術(vidyā)に熟達した、自己の問題を知
 っている、学識のある。男 医学に熟達した者、医者
 (Śūdra を父とし Vaiśya を母とする混合カースト
 と見なされる)；漢訳 医、医者、医師、医人、醫生、医
 王、医行、良医、藥良、藥 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Av-ś.,
 Bodh-bh., Bodh-c., Gaṇḍ-vy., Lanik., Mṛyut.,
 Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr., 梵雜。
vaidyaka 男 漢訳 悪師、呪師 Sam-r.
vaidya-cikitsaka 形 漢訳 善医方、善知医方、善解医
 明 Suv-pr.
vaidya-nātha 男 医王；[Śiva 神の一形態]；[人名]。
vaidya-puruṣa 男 漢訳 (良)医、士夫而為医術 Sad-
 dh-p.
vaidya-bhiṣaj 漢訳 医藥 Śikṣ.
vaidya-rāja 男 [Dhanvantari の名]；漢訳 医王 Lal-
 v., Ratna-ut., Śikṣ., Suv-pr.
vaidya-vidyā 女 医藥の学または典籍。
vaidya-visārada 男 漢訳 良医。
vaidya-saṃjñā 女 漢訳 医(王)想 Gaṇḍ-vy.
vaidyasika 形 → vaighasika の不確。
vaidyādhara 形 (女-i) Vidyādhara に関するまたはに
 属する。
vaidyuta 形 電光(vidyut)に属するまたはより生じた
 閃く、ぴかぴか光る(śikhin を伴って、男 電火)。目
 電火。
vaidyuta-kṛśānu 男 電光。
vaidruma 形 珊瑚(vidruma)より成るまたはで作ら
 れた。
vaidha 形 (女-i) [vidhiから] 指図された、はっきりと

課せられた。

vaidharmika 形 違法な。

vaidharmya 甲 違法であること, 不正; 不同, 異種; 異, 異法, 不相似 *Bodh-bh.*, *Nyāy-pr.*, *Ratna-ut.*

vaidharmyavat 形 不順法 *Mṃyut.*

vaidharmya-sama 男 (論理学にて) 異喩に基づく誤謬, 異法相似。

vaidhava 男 [Budhaの父系]。

vaidhaveya 男 寡婦 (vidhavā) の息子。

vaidhavya 男 寡婦であること。

vaidhavya-veni 女 寡婦の弁髪。

vaidhasa 形 (女 -i) 運命 (vedhas) に由来する (額に書かれていると言う)。男 [Hariscandraの父系]。

vaidhātra 形 (女 -i) *Brahmā* (梵天) または運命 (vidhātṛ) に由来する。

vaidhuri 女 (一) 不運。

vaidhurya 甲 [vidhura から] 孤立, 荒廢; 不足, 不在; 絶望的状态; 違, 闕, 差, 不相応, 不相称 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.* ~m vi-DHā 除去する。

vaidhrta 男 [Indra 神の称]。

vaidhṛti 男 [同上]; 覆 [神々の一部類]。

vaidheya 形 [vidhi から] (運命に悩まされた), 愚鈍な, 馬鹿な。男 馬鹿, 白痴。

vaidheyatā 女 (一) に依存すること。

vainateya 男 [vinatā から] [*Garuda* の母系]。

vainatya 男 [vinata から] 謙遜な態度。

vainayika 形 (女 -i) 道徳的行動に関する, 訓練ある; [と一] 調伏, 調伏者, 可得度, 可度者, 所応化, 所教化, 所化度, 応一受化者, 応一得度者 *Ast-pr.*, *Gand-vy.*

vaināyaka 男 (女 -i) *Ganeśa Vināyaka* に属する またはから派生した。男 覆 [悪魔の一部類]。

vaināśa 甲 壊, 滅, 壊者 *Laṅk.*

vaināśika 男 完全な絶滅 (vināśa) を信ずる。男 仏教徒; 壊, 滅, 壊者 *Laṅk.*

vaināśika-tantra 甲 仏教徒の教義または体系。

vaināśika-samaya 男 [同上]。

vaineya 形 (= *Pāli* *veneyya*) 教えられるべき, 教授を受け得る, 教え易い, (仏の) 教えを受けるべき素養のできた; 調伏, 可度, 応得度 *Laṅk.*, *Saddh-p.*

vaineya-vatsa 男 所化者 *Diry.*

vaineyika 形 度, 得度, 開化, 所度, 得調伏, 所応度 *Daś-bh.*

vainaika-sattva 甲 可化衆生 *Ratna-ut.*

vaindhya 形 *Vindhya* に属する。

vainya 男 [*Vena* の父系]。

vainya-svāmin 男 [この寺院の名]。

vaipaṅcaka 男 相師 *Lal-v.*

vaipaṅcanika 形 男 (= *Pāli* *veyyañjanika* = *vyañjanika*) 前兆を知る者, 易者, 予言者。

vaipaṅcika 男 術士, 風鑑者 *Mṃyut.*

vaiparitya 甲 [viparita から] 相反, 反対, 逆。

vaipaśyata 形 (女 -i) 賢者 (*vipaśyat*) に特有な。

vaipākika 形 [vipāka から] 異熟の; 果報の; 淳熟者, 報相仏; 実報仏 *Laṅk.*

vaipākya 形 異熟, 報徳 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*

vaipulya 甲 [vipula から] 広いこと, 大なること; 巾, 厚さ; 広, 大, 広大, 方広, 弥広, 増長, 深広, 広博, 方等, 大方広, 方広之教, 妙方便 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gand-vy.*, *Laṅk.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, 梵雑; 音写 毘仏略 *Bodh-bh.*

vaipulyatā 女 広大 *Bodh-bh.*, *Suv-pr.*

vaipulya-sūtra 甲 [経名] 方広経, 方等経 *Saddh-p.*, *Śikṣ.*

vaipulya-naya 男 広説, 方広 *Laṅk.*

vaipuṣpita 形 = *vipuṣpita* 笑露齒 *Diry.*

vaiphalya 甲 [viphala から] 結果のないこと, 無益; (とくに救済の) 不可能であること; 無果 *Nyāy-pr.*

vaibudha 形 (女 -i) 神々 (*vibudha*) に特有な, 神の。

vaibodhika 男 [vibodha から] 時刻を報じて王侯を起こす人, 吟唱詩人または王の讃頌者

vaibhakta 形 格語尾 (*vibhakti*) に関する。

vaibhava 甲 [vibhava から] 力, 勢力; 高位, 偉大; 壮大, 光輝, 莊嚴。

vaibhāṅḍaki 男 [*Rṣyaśṛiga* の父系]。

vaibhāṣika 形 [vibhāṣā から] 任意の。男 *Vibhāṣa* を奉ずる者, [ある仏教部派の名]; 分説者; (音写) 毘婆沙師 *Abh-vy.*, *Vijñ-v.*

vaibhāṣikiya 形 (音写) 符順毘婆沙義 *Abh-vy.*

vaibhiṣaṇa 形 *Vibhiṣaṇa* に属する。

vaibhutva 甲 [Vibhu から] 自在 *Madhy-bh.*

vaibhutva-vipakṣa 形 自在障 *Madhy-vibh.*

vaibhutviki 形 神通求 *Sūtr.*

vaibhūtika 形 自在足, 自足 *Mṃyut.*

vaibhrāja 男 [vibhrāj から] [ある世界の名]。甲 [天の林の名]; (音写) [人名] 毘跋羅 *Buddh-c.*

vaibhrājaka 甲 [同上]。

vaimatika 形 疑 *Diry.*

vaimatya 甲 [vimati から] 意見の差違。

vaimada 形 (女 -i) *Vimada* に関するまたはによって作られた。

vaimanasya 甲 [vimanas から] (しばしば) 落胆, 氣落ち, 憂鬱; 嫌恨 *Lal-v.*

vaimalya 甲 [vimala から] 無垢であること, 清潔; 清澄, 純潔 (また) 醫論; 離垢, 無垢, 離一切垢 *Abh-vy.*, *Ratna-ut.*

vaimalya-dhātu 男 無垢 *Ratna-ut.*

vaimalya-parisuddhi 女 離垢清淨 *Ratna-ut.*

vaimalya-viśuddha 形 離垢清淨 *Ratna-ut.*

vamalya-viśuddhi 女 無垢清淨 *Ratna-ut.*

vaimātrka 男 異母兄弟。

vaimātra 形 別の母 (*vimātr*) から出生した。男 [bhrātṛ とともに] 異母兄弟; [高単位の数の名]; [vīmātra から] 次第分明 *Mṃyut.*

vaimātraka 男 異母兄弟。

vaimātratā 女 [*Pāli* *vemattatā* = *vimātratā*] 差別, 次第 *Mṃyut.*

vaimātreya 形 他の母より出生した。男 異母兄弟。

vaimātrya 甲 漢訳 分別 *Gaṇḍ-ry.*
 vaimānika 形 (女-i) 天の車 (vimāna) によって運ばれる。男 [天人の一種]; 神。
 vaimukhya 甲 [vimukha から] (因, 一°) に対する嫌悪, 嫌忌; 漢訳 背, 捨厭(心), 背捨, 厭背, 棄捨, 棄背, 厭離, 乖背, 乖異, 憎背 *Abh-ry., Bodh-bh., Śikṣ.*
 vaimūdhaka 甲 [vimūdhā から] 婦女の衣裳を着けた男子の舞踊。
 vaiyagya, vaiyagrya の不確(?).
 vaiyagrya 甲 [vyagra から] (一°) に献身すること, …に没頭すること。
 vaiyadhikarāṇya 甲 [vyadhikarāṇa から] 格の不一致; 異なる主語に関すること。
 vaiyārthya 甲 [vyārtha から] 無益; 漢訳 壞, 空, 虚空, 虚妄, 無義, 無用, 無功, 空無義, 空無果, 空無益 *Abh-ry., Madhy-v., Laṅk.* → avaiyārthya.
 vaiyavadānika 形 漢訳 清浄 *Prajñ-ry.*
 vaiyavahārika 形 (より正しくは vyavahārika) 月並みの, 通例の, 毎日の。
 vaiyākaraṇa 男 [vyākaraṇa] 文法学者, 文法家; 漢訳 通釈, 表白 *Mvyut.*
 vaiyāghra 形 [vyāghra から] 虎に由来する, 虎の皮によって覆われたまたは作られた。至 虎の皮。
 vaiyāghra-padi-putra 男 [ある教師の父系]。
 vaiyāghra-padya-putra 男 [Ṛṣi Vaiyāghrapad の末裔]。
 vaiyātya 甲 [viyāta から] 大胆, 無礼。
 vaiyāpṛtya 甲 漢訳 [vyāpṛta から] 営務, 當事 *Śikṣ.*
 vaiyāpṛtya-kara 男 漢訳 衆主, (執事) *Bodh-bh.*
 vaiyāpṛtya-karman 甲 漢訳 礼業 *Bodh-bh.*
 vaiyāpṛtya-kāra 漢訳 當事, 多營衆務 *Śikṣ.*
 vaiyāpṛtya-kriyā 女 漢訳 供事, 營助 *Bodh-bh.*
 vaiyāvṛtya 甲 (*Pāli*=veyyāvaccā, 甲 vaiyāpṛtya) 奉公, 注意, 奉仕すること; 仕事, 労働, 委託; 事務, 義務; 漢訳 供給, 營務, 當事, 事業, 營(福業), 當事行 *Av-s., Divy., Śikṣ.*: ~m kṛtam 供給 *Av-s. II. 96.*
 vaiyāvṛtya-kara 男 漢訳 執事, 營事 *Mvyut., Śikṣ.*
 vaiyāsa 形 *Vyāsa* に由来する。
 vaiyāsaki 男 [*Vyāsa* からの父系]。
 vaiyāsika 形 (女-i) *Vyāsa* から出たまたはによって述作された。
 vaiyyāpatya 甲 =vaiyāpṛtya. ~m Kṛ 漢訳 執事 *Prāt-m.*
 vaiyyāpatya-kara 男 (=vaiyāpṛtyakara) (*Pāli*=veyyāvaccakara); 漢訳 執事人 *Prāt-m.*
 vaira 形 [vira から] 敵意のある, 仇をなす (AV.). 至 (至; まれに Br.) (因, 土saha または sārḍham, 一°) との敵対関係, 確執, 喧嘩, 不和 (しばしば 至); 敵軍 (まれに); 漢訳 怨, 恨悪, 怨恨, 怨悪, 怨嫌, 怨憎, 怨害, 嫌恨, 怨離, 怨敵, 怨結, 結恨, 瞋恚, 恚心, 結怨, 懷怨, 欣慶, 怨恚心, 怨害嫌恨 *Bodh-bh., Buddh-c., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-ry., Lal-v., Madhy-v., Mvyut., Vijñ-t., Śikṣ., -Sutr., 梵千.* → dṛḍha-vaira.

vaira-kara 形 敵意を起こさせる, 敵対させる; 漢訳 結怨讐 *Lal-v.*
 vaira-karaṇa 甲 敵対の原因。
 vaira-kāraka 形 (女-ikā)=vairakara.
 vaira-kāritā 女 喧嘩好き。
 vaira-kārin 形 喧嘩好きの。
 vaira-kṛt 形 喧嘩好きの, 敵意のある。
 vairaktya 甲 [virakta から] 無関心になること, 嫌うこと。
 vairam-kara 形 (因) に敵意を示す。
 vairāṅgika 形 [virāṅga から] 一切の世俗的欲望を離脱した。
 vaira-citta 甲 漢訳 怨害心 *Bodh-bh.*
 vairati-putra 男 漢訳 (音写) 毘羅毗子。
 vairatya, vairaktya の不確。
 vairatva 甲 敵意, 敵であること。
 vaira-dṛṣṭi 女 漢訳 邪異見 *Lal-v.*
 vaira-niryātana 甲 仇討ち, 復讐。
 vairanti 女 [ある城邑の名]。
 vairantya 男 [ある王の名]。
 vaira-puruṣa 男 敵。
 vaira-pratimocana 甲 敵意または怨恨を棄てること。
 vaira-pratīyātana 甲 =vairaniryātana.
 vaira-bhāva 男 敵意。
 vairamaṇa 甲 [viramaṇa から] *Veda* 学習の終結。至 漢訳 離, 遠離, 断止 *Śikṣ., Suv-pr.*
 vairambha 男 漢訳 迅猛風 至。 (音写) 随嵐, 旋嵐, 随藍婆, 施藍婆, 鞞嵐婆風 *Abh-ry., 玄。*; (音写) 日嵐, 吠藍, 鞞藍, 毘藍婆, 鞞嵐婆, 毘嵐婆, 吠藍婆 吠嵐婆 *Abh-ry., 玄。*
 vairambhaka 形 [風の名]; 漢訳 vairambhakā vāyavaḥ 無礙大風 *Divy.*
 vairambha-vāta 男 漢訳 (音写) 毘嵐風, 毘嵐猛風 *Ra-tr., Śikṣ.*
 vairambha-vāyu 男 漢訳 猛風 *Lal-v.*
 vaira-yātana 女 仇討ち, 復讐, 贖罪。
 vaira-rakṣin 形 敵意を排する, 怨恨を斥ける。
 vairalya 甲 [virala から] 欠乏, 少ないこと。
 vairavat 形 敵意のある。
 vaira-viśuddhi 女 怨みを報いること, 返報, 復讐。
 vaira-vṛttin 形 男 漢訳 懷怨, 懷悪人 *Laṅk.*
 vaira-vrata 甲 不俱戴天の敵。
 vaira-sādhana 甲 敵意の原因または動機。
 vairasa 甲 [virasa から] 嫌厭。
 vairaseni 男 [*Virasena* の息子, *Nahā* の父系]。
 vairasya 甲 [virasa から] 無味, 無風味, 惡味; (至 因, 一°) を嫌忌すること, …に嘔気を催すこと。
 vairāgya 甲 [virāga から] 蒼白になること (まれに) (至 因, 一°) を嫌うこと, …の嫌忌; 世俗的事物に対する無関心, 厭生; 漢訳 厭, 離欲, 離染, 厭捨 離貪(想) *Abh-k., Abh-ry., Bodh-bh., Buddh-c., Divy., Laṅk., Sāṃkhy-k., Śikṣ., Sātr., Vijñ-vairāgya-gamana* 甲 漢訳 越向離欲 *Bodh-bh.*
 vairāgyatā 女 (prati) に対する嫌忌; 漢訳 不染 *Sātr.*
 vairāgya-phala 形 離欲を結果としてもつ。

vairāgya-yukta 形 生存に倦んだ。
vairāgya-lābha 形 得離欲 *Sūtr.*
vairāgya-śataka 冊 世間解脱の百詩選, [*Bhartṛhari* の格言集の第三篇の標題].
vairāja 形 *Viraj* に属するまたは由来する; *Viraj* (という音律) に属するまたはに準ずる; 十よりなる, 十音節の; *Brahmā* に関する. 男 [*Puruṣa* の父系]; [*Ajita* の父]; 女 [祖霊の一部類]; [特殊な世界の名]; [*Brahmā* の世界]. 正 [ある *Sāman* の名]; 漢訳 石王, 松兎 *Mṃyut.*
vairājya 冊 広大な権勢または支配.
vairāta 形 (女 -i) *Matsya* の王 *Virāta* に関するまたは属する. 男 *Virāta* の息子(また -i). 女 [ある色の名], [その色の物体].
vairānubandha 男 消えない・永久のまたは永続する怨恨, 宿怨; 漢訳 懷怨, 結怨, 結恨 *Vijñ-t.*
vairānubandhin 形 敵意を永続する.
vairānubāndhitā 女 敵意の永続.
vairāya, 名 動 詞 *vairāyate* 敵意を示す; (異, *prati*) に対して敵意を持ち始める.
vairāyita (通受) 形 敵意.
vairāśamsana (*ra-ās) 冊 (*virāśamsana* の異読) 戦い.
vairāśaya (*ra-ās) 男 漢訳 怨, 怨結 *Bodh-bh.*
vairiñca 形 (女 -i) 梵天 (*viriñca*) に関するまたは属する.
vairiñcyā 冊 梵天の息子.
vairitā 女 (*saha*) に対する怨恨, 敵意.
vairitva 冊 [同上].
vairin 形 怨恨を含んだ, 敵意のある. 男 敵; 漢訳 冤, 怨讎, 懷怨結, 相入為讎 *Bodh-c., Divy., Gaṇḍ-ry., Mṃyut.* → *apakāra* ~.
vairiṇi 女 女性の敵.
vairi-BHū, 敵となる.
vairūḍhi 女 [*virūḍha* から] 漢訳 増長 *Vin.*
vairūpa 男 [*virūpa* から] [父系]; 女 [Anḡiras の一部類]. 冊 [種々の *Sāman* の名].
vairūpya 冊 [*virūpa* から] 多種, 多様, 差異; (一) によって作り出された畸形; 漢訳 異類, 毀形, 醜陋, 不端嚴, 毀形好 *Bodh-bh., Mṃyut., Śikṣ.*
vairūpyatā 女 醜いこと.
vairocana 形 太陽の. 男 [*Virocana* の息子], [*Bali* の父系] (また -i); [ある王の名]; 漢訳 遍照, 遍光, 普照, 普焰, 照明, 普照明, 現諸相, 衆明主, 光明遍照 徧一切処 *Daś-bh., Gaṇḍ-ry., Lal-v., Muñj-m., Mṃyut.*, 立; 音写 毗盧遮那, 毘樓遮那, 吠盧遮那, 鞞盧拓那 *Daś-bh., Gaṇḍ-ry., Mṃyut.*, 立.
vairocana-garbha 男 漢訳 明淨藏, 毘盧遮那藏 *Gaṇḍ-ry.*
vairocanagarbha-samādhi 男 漢訳 明淨藏三昧 *Gaṇḍ-ry.*; (音写) 毘盧遮那藏三昧 *Gaṇḍ-ry.*
vairocana-mahā-mudrā 女 漢訳 遍照尊大印 *Guhy-s.*
vairocana-raśmi-pratimaṇḍitā 女 漢訳 [世界の名] 淨光莊嚴, 莊嚴照明 *Saddh-p.*
vairocana-vajra 男 漢訳 [如来の名] 毘盧遮那金剛 *Guhy-s.*

vairodhaka 形 [*virodha* から] 適合しない食物. 男 [人の名].
vairodhika 形 漢訳 能違, 相違 *Bodh-bh.*
vairya 冊 [*virya* から] 漢訳 勇猛, 勇健 *Bodh-bh.*
vaila 形 (= *baila, bila* から) 穴居動物に関する.
vailakṣanya 冊 [*vilakṣana* から] (一) または (二) の意味の (一) 不一致, 差異; 漢訳 相異, 相不同, 不相似, 別異相, 無作者 *Abh-ry., Cat-ś., Lanḡ., Sūtr.*
vailakṣya 冊 [*vilakṣa* から] 羞恥の感情, 当惑.
vailakṣyavat 形 赤面した, 当惑した.
vailingya 冊 [*vilinga* から] 明瞭なしるしを欠くこと.
vailomya 冊 [*viloma* から] 転倒, 乱雑, 逆なこと.
vaivakṣika 形 [*vivakṣā* から] 当面の問題である, 企図された, 計画された.
vaivadhika 男 (= *vivadhika*) 運搬人.
vaivadhikatā 女 [同上].
vaivadhiki 女 女性の行商人.
vaivarnika 形 (= *Pāli vevañña*) (四) 階級 (*varṇa*) 外の. 男 自分のカーストから除外された人; 漢訳 醜陋 *Divy.* (法)
vaivarnya 冊 [*vivarna* から] 色の変化; カーストからの除外; 漢訳 毀色 *Bodh-bh.*
vaivaśya 冊 [*vivaśa* から] 自制の欠乏.
vaivasvata 形 (女 -i) 太陽 (*vivasvat*) に由来する; *Yama Vaivasvata* に関する またはに属する; *Manu Vaivasvata* に関する. 男 [*Yama* または *Manu* の父系]. 女 *Sūrya* の娘; 漢訳 日男 *Mṃyut.*
vaivasvatiya 形 *Manu Vaivasvata* に関係のある.
vaivāha 形 [*vivāha* から] 婚礼の.
vaivāhika 形 (女 -i) 婚礼の. 冊 婚礼.
vaivāhya 形 結婚式の(聖火); 結婚 (*vivāha*) によって結合された. 冊 婚礼.
vaiviktya 冊 [*vivikta* から] (一) からの解放.
vaiśadya 冊 [*viśada* から] 明瞭, 純粹; 光輝, 新鮮; はっきりしていること, 理解し易いこと.
vaiśanta 形 (女 -i) 池 (*veśanta*) に含まれたまたはを形成する(漢).
vaiśampāyana 男 [*viśampa* の父系] [古代の *Veda* 学匠の名(叙事詩においては *Vyāsa* の弟子)]; [鸚鵡に變形した *Śukapāsa* の息子の名].
vaiśasa 形 [*viśasa* から] 死をもたらす(日). 冊 殺戮者, 屠夫; 戦, 闘争; 乱暴; 破壊; 難儀, 災厄; (愛情の) 破滅.
vaiśasya, vaiśamya の不補.
vaiśākha 男 [*viśākhā* から] [月の名] (四月一五月) (*Br., S., 冊*); 攪拌棒(冊) 冊 [ある町の名]. 形 (女 -i) *Vaiśākha* 月に関する. -i 女 *Vaiśākha* 月の満月の夜; [*Vasudeva* の妻の名]; 漢訳 二月, 季春 *Mṃyut.*, 梵雑; 音写 別枝, 毘舍佉, 鼻奢佉, 立.
vaiśākha-pura 冊 [ある町の名].
vaiśākha-māsa 男 漢訳 (音写) 毘舍佉月 *Lal-v.*
vaiśākha-rajju 形 攪拌棒の綱.
vaiśārada 形 (女 -i) [*viśārada* から] 経験のある, 熟練した, 誤りのない(智等). 冊 深遠な学問.
vaiśāradya 冊 (一) に関する) 経験; 智力の明晰, 誤りのないこと; 漢訳 無畏, 無所畏, 無畏不怯弱

Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Madhy-vibh., Mvyut., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sūtr., Suvik-pr.: catur ~ 四無所畏 *Aṣṭ-pr.* [bodhisattvānām catvāri vaiśāradyāni 菩薩四無所畏—1. dhāraṇi-śrutodgrahaṇārtha-nirdeśa-vaiśāradyam 闍陀羅尼受持演說其義得無所畏 2. nairātmyādhigamāt para-viheṭhanā-nimitta-samudācāra-sahajānadhigateryā-patha-trikarma-pariśuddha-mahā-rakṣa-sampanna-vaiśāradyam 由証無我, 惱乱他相現行俱生不通達威儀路三業清淨大守護成就無畏 3. sadodgṛhita-dharmā-vismarāṇa-prajñopāya-niṣṭhāgata-sattva-nistāraṇa-prasāda-saṃdarśana-śubhānantarāyika-vaiśāradyam 常持法而不忘失, 畢竟通達慧方便, 救度有情見歡喜, 淨諸障難無畏 4. sarva-jñatā-cittāsaṃpramoṣānya-yānāniryāṇa-sampūrṇa-vaśitā-sarva-prakāra-sattvārtha-saṃprāpaṇa-vaiśāradyam 不忘失一切智心, 不於余乘而求出離, 能得圓滿自在一切種利益有情無畏; catvāri tathāgatasya vaiśāradyāni 如来四無所畏—1. sarva-dharmābhisambodhi-vaiśāradyam 諸法現等覺無畏 2. sarvāsrava-kṣayajñāna-vaiśāradyam 一切漏尽智無畏 3. antarāyika-dharmānanyathātva-niścita-vyākaraṇa-vaiśāradyam 障法不虛決定授記無畏 4. sarva-sampadadhigamāyanairyāṇika-pratipad-tathātva-vaiśāradyam 為一切具足出道如性無畏 *Mvyut.* 28, 8.

vaiśāradya-pratipad 女 漢訳 無所畏道 *Aṣṭ-pr.*

vaiśāradya-prāpta 男 漢訳 [仏の名] 得無畏 *Sukh-vy. I.*

vaiśāradya-vibhāga 男 漢訳 無畏 *Sūtr.*

vaiśāla 形 *Viśāla* 国に由来する.

vaiśālaka 形 漢訳 広巖城 *Divy.*

vaiśālākṣa 男 [*Śiva Vaiśālākṣa* が作ったと言う書物の名].

vaiśāli 女 *Viśāla* 国の王女; [*Viśāla* の王の建設した町の名]; 漢訳 広巖, 広巖城 *Divy., Mvyut.;* (音写) 韓奢隸夜(城) 玄応; (音写) 毘舍離, 毘耶離, 維耶離, 毗耶離, 毗舍離, 吠舍離 *Av-ś., Divy., Lal-v., Mvyut.,* 玄応.

vaiśāleya 男 [*viśāla* から] [*Takṣaka* の父系].

vaiśika 形 (女 -i) 売淫 (*veśa*) に関するまたはを扱おう; 高等娼婦の技巧に関連するまたはに通曉する. 男 売淫; 漢訳 春方 *Mvyut.*

vaiśiṣṭya 男 [*viśiṣṭa* から] 特異性, 区別, 差異, 卓越, 優越.

vaiśeṣika 形 (女 -i) [*viśeṣa* から] 特殊の, 特異の, 独特の; 顕著な, 卓越した; *Vaiśeṣika* の教義に関する. に基くまたはを扱おう. 男 *Vaiśeṣika* 派の学徒. 男 特異性; *Kaṇāda* の創始した *Vaiśeṣika* 哲学; 漢訳 勝, 殊勝, 勝進, 勝異, 勝論, 弁者(勝論), 勝論師, 勝論者; (音写) 韓世師, 毗舍師, 毗世師, 衛世師, 吠世師; (音写) 毘尸迦(論), 韓惠迦(論) *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lanḥ., Lal-v., Mvyut., Nyāy-pr., Sūtr., Vijñ-v.,* 玄応.

vaiśeṣika-guṇa 男 漢訳 勝徳, 勝品功德 *Madhy-bh., Sūtr.*

vaiśeṣikaguṇavarāṇa (°na-āv°) 男 漢訳 自在障(…勝徳成就) *Sūtr.*

vaiśeṣikatā 女 漢訳 勝進, 殊勝性 *Bodh-bh.*

vaiśeṣya 男 特異性, 区別; 卓越, 優越, 重要性; 漢訳 勝 *Bodh-bh.*

vaiśya 男 [*viś* から] 庶民すなわち第三階級 (*varṇa*) の男. 男 家来であること (TS.). 形 *Vaiśya* 特有の; 漢訳 坐, 商估, 工師; (音写) 吠舍, 毘舍, 吠耆, 韓舍 *Bodhbh., Daś-bh., Divy., Mvyut.,* 玄応, 梵語.

vaiśya-kanyā 女 *Vaiśya* の女子, *Vaiśya* の処女.

vaiśya-karman 男 *Vaiśya* の生業.

vaiśyatā 女 *Vaiśya* であること(地位). ~m *Gam Vaiśya* となる.

vaiśyatva 男 [同上].

vaiśya-putra 男 *Vaiśya* (の子).

vaiśya-bhāva 女 *Vaiśya* であること(地位).

vaiśya-yoni 女 *Vaiśya* の生まれであること, *Vaiśya* として生存すること.

vaiśya-vṛtti 女 *Vaiśya* の職業(商業, 農業).

vaiśyā 女 第三階級の婦女.

vaiśyā-ja 男 *Vaiśya* の婦人の子.

vaiśyā-putra 男 *Vaiśyā* の子; [*Yuyutsu* の父系].

vaiśrambhaka 形 [*viśrambha* から] 信頼をよびおこす. 男 [天界の森の名].

vaiśravaṇa 形 (女 -i) *Kubera* に関する. 男 [*viśravaṇa* から] [*Kubera* の父系]; 漢訳 多聞, 財主, 多聞子; (音写) 毘沙門, 毗沙門, 薛室羅末拏 *Aṣṭ-pr., Divy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Suv-pr.:* ~rūpa 毘沙門天王身, 息意天王形 *Saddh-p.* 433; ~ālaya 多聞室 *Abh-vy.* 342; ~mahāyā-kṣarāja 毘沙門夜叉王 *Gaṇḍ-vy.* 667.

vaiśravaṇānuga 男 *Kubera* の侍者.

vaiśravaṇānuja 男 [*Vaiśravaṇa* の弟, *Rāvaṇa* の名].

vaiśva-karmaṇa 形 (女 -i) *Viśvakarman* に由来するまたはに捧げられた(因).

vaiśva-jita 形 *Viśvajit* の供儀に關係のある(祭官) (Br.); *Viśvajit* の供儀を遂行した (S.).

vaiśva-deva 形 (女 -i) すべての神々または *Viśvadeva* に属するまたはに捧げられた等. 男 まれに 男 [ある *Śāstra* (讚誦)の名] (Br., S.); [*Śrāddha* の一種] 朝夕家長が *Viśvadeva* に捧げる献供(因).

vaiśva-devika 形 *Viśvadeva* に属するまたはに捧げられた等; *Viśvadeva* に捧げる *Śrāddha* として適当な.

vaiśva-rūpa 形 [*viśvarūpa* から] 多種の, 多様の. 男 宇宙.

vaiśva-rūpya 形 [*viśvarūpa* から] 多種の, 多様の. 男 多様であること, 多種であること; 漢訳 遍相 *Sāṃkhy-k.* ~eṇa 男 多様に.

vaiśvā-nara 形 (女 -i) 万人に属する; 普遍的な, 至る所において住むまたは崇拜される, 一般に知られる (*Agni*, 供儀) (因, 因); すべての人々からなる, 全員が出席した(因). 男 *Agni* の一形態; 太陽, 太陽の光(因); 粗身の集合によって制約された普遍智 (*Vedānta* 哲学); [人名]. 男 漢訳 [ある *Ṛṣi* の一族]; 漢訳 火闍, (火) *Mvyut.*

vaiśvānara-datta 男 [ある婆羅門の名].
vaiśvānara-patha 男 月または遊星の軌道のある部分.
vaiśvā-nariya 形 *Vaiśvānara* に属する または を取扱う.
vaiśvāmitra 形 (女-i) *Viśvāmitra* に関する. 男(父系) [人名].
vaiśvāmitri 男 *Viśvāmitra* の末裔.
vaiśvāmitri 女 *Viśvāmitra* の *gāyatri*.
vaiśvāṣika 形 信賴の念 (*viśvāsa*) を抱かせる, 信賴すべき; 信, 所帰信, 保信人 *Saddh-p.*, *Sūtr.*
vaiṣama 中 [*viṣama* から] 不等, 変化.
vaiṣamika 形 違反, 違変, 互違 *Bodh-bh.*
vaiṣamya 中 (大地の)凹凸; 不等, 多種, 不均等; 困難; 苦痛, 苦惱; 不正; 苛酷, 不親切; (因, 一に關する) 過誤; 違, 除, 乖適, 不安, 増損, 互違, 不調, 錯乱, 異因, 無因, 不平, 不平等, 不平和, 互相違, 不調適 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Laik.*, *Sāṅkhy-k.*, *Vijñ-t.* dhātu ~ 於界互違, 四大増損, 四大不調 *Bodh-bh.* 379.
vaiṣamya-tirtha-darśana 中 異因見外道, 無因不生論 *Laik.*
vaiṣayika 形 (女-i) 王国 (*viṣaya*) に関する; ある特殊の範圍に関する, (一) に関する; 感覺の対象に関する.
vaiṣuvata 中 [*viṣuvat* から] 昼夜等分の日.
vaiṣṭapureya 男 [*Viṣṭapura* の父系].
vaiṣṭi 女 (= *viṣṭi*) 使作 *Saddh-p.* ~ m Kr 強驅使作 *Saddh-p.* 113.
vaiṣṇava 形 (女-i) *Viṣṇu* 神に由来する・に關する・に属する・に捧げられたまたはを信奉する. 男 または 女 *Viṣṇu* 神の崇拜者. 男 [いろいろした神の父系].
vaiṣṇavi 女 *Viṣṇu* 神の女性性力 (*Durgā*・*Manusā* 神と同一視される).
vaiṣṇavatva 中 *Viṣṇu* 神の崇拜または信仰.
vaiṣṇu-vāruṇa 形 (女-i) *Viṣṇu* 神および *Varuṇa* 神に捧げられた (Br.).
vaisarpa 男 [病名] 火瘡 *Mṛyut.*
vaisādrśa 形 不相似 *Bodh-bh.*
vaisādrśya 中 [*visādrśa* から] 同一でないこと, 差異.
vaiṣṛpa 男 [ある *Dānava* の名].
vaiṣpaṣṭya 中 [*vispaṣṭa* から] 明瞭, 明晰, 明白.
vaiṣṭārika 形 [*vistāra* から] 廣, (深)廣, 増廣, 流布, (得)廣流布 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*: *vipulā pūjā kartavyā* ~ āś ca 当令流布廣設供養 *Saddh-p.* 411., ~ i-BHū 流布 *Saddh-p.* 484., ~ iṃ Kr 流布, 廣流布 *Aṣṭ-pr.* 488.
vaihaga 形 (女-i) 鳥 (*vihaga*) に属する.
vaiḥāyas 男 [*vihāyas* から] 虚空 *Aṣṭ-pr.*
vaiḥāyasa 形 (女-i) 空中 (*vihāyas*) に在るまたは動く, 空の. 男 空中の住者すなわち神々. 中 空中. 女 [ある河の名]; 虚空, 空中 *Divy.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*: ~ m antarikṣe 処虚空 *Saddh-p.* 149. ~ m gamanam 騰空, 飛行乗空 *Gaṇḍ-vy.* 1059. ~ m gamana 飛行自在, 飛行虚空 *Saddh-p.* 202.
vaiḥāyasa-gata 中 空中を翔けること.
vaiḥāra 男 [*Magadha* 国にあるある山の名].

vaiḥārya 未受分 楽しませられるべき, 冗談によって慰められるべき. 中 冗談, ふざけ.
vaiḥāli 女 追跡.
vaiḥvalya 中 [*vihvala* から] 疲労, 衰弱.
vokkāṇa 中 [国名] 歩迦拏 *Divy.*
voḍha 過能分 → *Vah*.
voḍhavya 未受分 [*Vah*] 牽かれるべき, 御されるべきまたは導かれるべき; 家に連れ帰られるべき, 娶られるべき(少女).
voḍhā 女 (妻として)連れ帰られる女, 妻. → *ūdhā*.
voḍhr 形 [*Vah*] 牽く, (運)をもたらす(運); 浮動する(運). 男 牽き馬(運); 牡牛(運); 御者; 少女を家に連れ帰る者, 夫, 許婚者; 持参人, 運搬人.
voṇḍa 男 虫壳 *Mṛyut.*
vopa-deva 男 [十二または十三世紀のある著者の名].
voruvāṇa, roruvāṇa の 不産.
vollaka 形 (?) → *bahuvollaka*.
vollāsaka [ある地方の名].
volhum 女 *Vah* の 不産.
vaudanya 中 [ある町の名].
vausaṭ 不産 献供の際に唱える祭詞 (Br., 叙述).
vyamsa 男 (= *vyamśa*) (離れた肩を有する, 広い肩の) [*Indra* に征服された悪魔の名] (RV.); [*Vipracitti* の名].
vyamsana 中 欺瞞.
vyamsaya, 名動 欺瞞 欺詐, 欺負 *Bodh-bh.*, *Divy.*
vyamsayitavya, 未受分 欺かれるべき, 瞞されるべき.
vyamsita 過受分 欺負 *Divy.*
vyakta 過受分 [°*Añ*] 明白な, 顕著な, 明晰な, 明瞭な; 顯, 真, 弁, 変; 末, 善, 分明, 顕示, 明了, 顯了, 総明, 明悟, 變異, 智慧深遠, 微妙清潔, 智慧明了 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sāṅkhy-k.*, *Sikṣ.*, *Vin.*: ~ pada 顯了句 *Sikṣ.* 111. ~ m 顯明瞭に; 確かに; 分明 *Cat-s.* ~ m Gam 現われる. → *avyakta*.
vyaktatā 女 明白なこと, 知覚または認知し得ること.
vyakta-darśana 形 正しい智見を獲得した.
vyakta-madhya 形 (存在の) 中間において知覚される.
vyaktamaya 形 (女-i) 知覚の対象たるものに関する.
vyakta-vāc 形 言語の明瞭な.
vyaktāvyakta-jñā 男 變性我 *Sāṅkhy-k.*
vyakti 女 示現, 出現; 明瞭, 明晰; 區別, 差異; 差別された物, 個物 (類 *jāti*); 文法上の性; 現 *Ratna-ut.* ~ m ā-Gam, ~ m ā-Pad 等明瞭となる. ~ m BHaj 明瞭に現われる.
vyakti-karaṇa 中 明白にさせること.
vyakti-Kṛ, 顯現させる.
vyakti-bhāva 男 明白になること.
vyakti-BHū, 明白となる.
vy-agra 形 (特定の) 一点に注意しない (類 *ekāgra*), 乱心した, 不注意な; 当惑した, 動揺した; 他の何物も念頭にない, (運, 運, 一) に熱中した・に心を奪われたまたはに没した (しばしば指, 手, 腕についていう); 回転している(車輪); 散, 分, 忙, 分

別, 間, 不順, 破乱, 不合, 異縁, 有(少)務, 離別心 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Mṛyut., Sāṅkhy-k., Śikṣ.:* ~karaṇa 離間 *Bodh-bh. 168.;* ~vādin 說隨順語 *Prāt-m. 489.;* ~hasta 執持 *Avś. I. 3.;* laguḍa~hasta 執杖 *Divy. 7.;* pātra-kara ~hastāh 瓶鉢在手 *Divy. 159.;* pātra-karaka~hastāh 執持瓶鉢 *Divy. 37.;* ~m 副 大いに興奮して. → avyagra.

vyagratā 因 (一)に熱中すること.

vyagratva 因 [同上]; 乱心.

vy-aṅkuśa 形 制止されない.

vy-aṅga 形 不具の, 跛の; 車輪のない(車); 漢訳 不具支節, 支不具者 *Bodh-bh.*

vyāṅgavyāṅgatā 因 漢訳 具支節不具支節 *Bodh-bh.*

vyāṅgatā 因 不具, 跛の状態; 不具にすること; 漢訳 不具支節 *Bodh-bh.*

vyāṅga-bhūta 男 汚れ (譬喩).

vyāṅgaya, 名動 他 四肢を奪う, 不具にする. 過受分

vyāṅgita 不具にされた, 四肢を奪われた.

vy-aṅgāra 形 炭火を有しない. ~e 形 炭火が燃え尽きた時に.

vyāṅgitā 因 [vyāṅgatā の異読].

vyāṅgitekṣaṇa (°ta-ik°) 形 眼に欠点のある, 片眼の.

vyāṅgin 形 = vyāṅgita.

vy-aṅgi-Kṛ, 他 (因) 不具にする.

vyāṅguli-kṛta 過受分 指を失なった.

vyāṅgya 未受分 明白にされるべき; それとなく表現された, 暗示された (修辭); 副 vācya 直接に述べられた; laksya 指示された).

Vyac, III. 他 vivyakti, vivic- 弱 包含する, 含む (因).

saṃ- [同上] (因); 捲きこむ, 包みこむ, 囲む (RV.).

vyacas 因 (因) 広さ, 容量, 範囲; 広い場所; 余地.

vyacasvat 形 (因) 広い; 広がった.

Vyaj=Vij, (vivyajus および vyajeta としてのみ) 扇ぐ.

vyajana 因 扇ぐこと; 扇, 払子 (しばしば因); 漢訳 扇, 払 *Divy.*

vyajana-kriyā 因 扇ぐ動作.

vyajana-cāmara 因 扇として用いられるヤク (*Bos Grunniens*) の尾, 払子.

vy-ajani-Kṛ, 扇として用いる.

vyajani-BHū, 扇または払子となる.

vy-añcana 因 (vyañjana の副); 漢訳 顕, 顕示, 能照, 了別 *Laṅk.*

vy-Añj, → Añj.

vy-añjaka 形 (因 -ikā) 現わす, 示す, 指示する; 暗示する (修辭); 漢訳 顕, 能照, 顕示, 了別 *Laṅk.* 男 感情の表現.

vyañjaka-hetu 男 漢訳 作明因, 明作因 *Mṛyut.*

vy-añjana 因 飾 (RV. 用例一回のみ); (因): 現わすこと 指示すること; 間接的または象徴的表現, 暗示; マーク, しるし, 徽章; 王侯の標識; 思春期の徴候 (髭, 乳房, 等, 因 および 因); ソース, 調味料; 子音; 漢訳 戲飾, 文飾; 令明; 形, 好, 菜, 形相, 相好; 身分; 根, 陽物, 隠処; 味, 名句味, 助味;

語, 文, 字, 文字, 言辭, 文辭, 文詞 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Kāśy., Laṅk., Madhy-vibh., Mṛyut., Laṅk., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Sūtr.*

vyañjana-kāra 男 調味料を作る者.

vyañjana-kāya 男 漢訳 文身, 辞身; 字, 語言; 味身 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*

vyañjana-pratisaraṇa 形 漢訳 依文, 依於文 *Bodh-bh.*

vyañjana-bhramśa 男 漢訳 壞文 *Bodh-bh.*

vyañjana-mātra-bheda 男 漢訳 義一名異 *Ratna-ut.*

vyañjana-sthāna 因 調味料の代用品. ~e 形 調味料のかわりに.

vyañjana-svara-mātra 因 漢訳 唯聽聞文字音声 *Bodh-bh.*

vyañjana-hetu 男 漢訳 了因, 顕了因, 顕示因 *Laṅk.*

vy-añjanā 因 暗示, 間接的な表現, 寓意 (修辭).

vyañjanābhisamskārārthin 形 漢訳 求世藻飾文辭 *Bodh-bh.*

vyañjanāmbana (°na-āl°) 因 漢訳 字縁 *Sūtr.*

vyañjanopeta (°na-up°) 形 (一) 外面的特徴を具えた (例 苦行者).

vy-añjita 過受分 [Añj の 漢訳 から] はっきり現われた, 目に見えるようにされた; 漢訳 広頭 *Bodh-bh.*

vyañjita-jña 形 漢訳 広頭智 *Bodh-bh.*

vyadḍa 男 [人名].

vyadḍa-maṅgala 男 [人名].

vy-ati 男 競走馬, 馬 (?) (RV.).

vy-atikara 男 混合, 混ぜ合わせること, 混ぜること; 接触, 合流, 合一; (一) への従事またはを企てること; 事故, 不幸, 災害; 一° 形 と結合された.

vyatikaravat 形 混合された, 諸種混淆の.

vyatikarita 名動 過受分 (真, 一°) と混ぜられた, によって充滿された.

vy-atikirṇa 過受分 分散された, 散乱させられた.

vy-ati-Kṛ, 因 vyatikriyate 大きな変化をうける, 大きく動かされる. <Kṛ の補遺>

vy-ati-Kṛ, 因 vyatikriyate 混合される, 混和される <Kṛ の補遺>

vy-ati-Kram, → Kram.

vy-atikrama 男 (因) の傍を通過すること・からそれること・から逸脱することまたは脱すること; (因 または 一°) の違反・違約・を等閑に附することまたは 遂行しないこと; (因, 一°) に対する違反, 犯罪; 顛倒した順序(まれ); 漢訳 離, 過, 悩, 違越; 害, 悩; 犯, 所犯, 犯触, 違犯, 侵犯, 毀犯, 有罪, 越罪 *Bodh-bh., Madhy-v., Ratna-ut., Śikṣ.*

vy-atikramaṇa 因 (一°) に対する罪過; 漢訳 超 *Laṅk.* → a~.

vyatikrama-pratyāpatti 因 漢訳 犯已還淨 *Bodh-bh.*

vyatikrama-saṃjñapti 因 漢訳 有所違犯, 他来諫謝 *Bodh-bh.*

vy-atikramin 形 (一°) に対して罪を犯す.

vy-atikrānta 過受分 → Kram. 因 罪過, 犯罪; 漢訳 過, 犯已 *Bodh-bh., Ratna-ut.*

vy-atikṣepa 男 争論, 闘争, (意見・利害等の) 衝突.
 vy-atigata 過受分 過ぎた (時).
 vy-ati-Gā, → Gā.
 vy-ati-Car, (一人 團 現 面 vyaticare のみ) (業) に違
 反するまたはに違犯する. <Car の補遺>
 vy-ati-Jalp, 雑談し合う, おしゃべりをする, 無駄口
 をたたく. <Jalp の補遺>
 vy-ati-Ji, (三人 軍 三過 面 vyatijigye のみ) 征服す
 る, 凌駕する, 卓越する. <Ji の補遺>
 vy-ati-Tan, (三人 面 三過 面 vyatanvātām のみ) 競
 って拓がる. <Tan の補遺>.
 vy-ati-Tī, → Tī.
 vy-atipāta 男 [ある 特殊な天文学上の Yoga の名 (そ
 の時太陽と月は反対の Ayana にあり同一の赤緯を
 有する; 両者の黄経の合計は 180°)]; 漢訳 令陸相
 Mṛyut.
 vy-ati-BHid, → BHid.
 vy-atibhinna 過受分 → BHid; 漢訳 碎, 分析, 彼
 此別 Bodh-bh., Lan̄k.
 vy-atibheda 男 一緒に または同時に突然破裂するこ
 と; 充満, 浸透; 漢訳 相離 Abh-ry.
 vy-atimīśra 形 混ぜられた, 混乱した; 漢訳 雜, 雜
 乱 Mañj-m.
 vy-ati-Yā, 過 vyatīyāti 完全に通過する, 浸透する,
 普及する, 行きわたる; (時間が) 流れる, 経過する.
 <Yā の補遺>
 vy-atirikta 過受分 → Ric; 漢訳 異, 離, 出過
 Abh-ry., Guhy-s.
 vy-atiriktaka 臣 [飛翔の一方法の名].
 vy-atiriktatā 女 面 相異.
 vy-ati-Ric, → Ric.
 vy-ati-Ruh, 面 vyatirohati 成長する; (別の状態:
 業) に達する. <Ruh の補遺>
 vy-atireka 男 分離; 排除, 除外; 否定; との区別また
 は対立; 対照, 対照法 (修證); 漢訳 別, 離, 過,
 越, 出, 遠離; 失, 忘失; 異, 廻返 Abh-ry., Bu-
 ddh-c., Daś-bh., Mṛyut., Nyāy-pr., Ratna-ut.
 ~ena 圓, ~āt 徒, 一° を排除して・除外してまたは
 なしに. ~tas 副 別々に.
 vyatireka-vacana 臣 漢訳 遠離言 Nyāy-pr.
 vyatirekin 形 (一°) を除外するまたは否定する.
 vy-atirecana 臣 (比較の際に) 対照させること.
 vy-atiropita 過受分 排斥された, 追放された; 王座
 を追われた.
 vy-atilaṅghin 形 滑り落ちる.
 vy-atividha 過受分 [°Vyadh から] 貫かれた; 突き
 刺された (腕).
 vy-ati-Vrt, → Vrt.
 vyativṛtta 過受分 凌駕せられた, 顔色なからしめら
 れた; 漢訳 離, 過, 超, 遠離, 解脱, 甚超越 Gand-ry.,
 Lal-v., Mṛyut., Ratna-ut., Śikṣ.
 vy-ati-Vyadh, → Vyadh.
 vy-ati-Vraj, → Vraj.
 vy-ati-Śī, → Śī.
 vy-atīṣakta 過受分 → Sañj.
 vy-atīṣaṅga 男 相互の結合, 関係; もつれ, 紛糾; (軍

隊の) 戦闘; 交換 (まれ)
 vy-atīṣaṅgin 形 (一°) に執着または固着する.
 vy-ati-Śaṅj, → Sañj.
 vy-atīṣaṅjita 過受分 → Sañj.
 vy-ati-Siv, → Siv.
 vy-ati-saṁ-Dah, 焼き尽す. <Dah の補遺>
 vy-ati-Sr, → Sr.
 vy-atīṣṛtya 不変 すべての場合に (?).
 vy-ati-Srṣ, → Srṣ.
 vy-ati-Sev, → Sev.
 vy-ati-Han, → Han.
 vy-atihāra 男 交換; 交互, 相互作用 → ekakrama-
 ~.
 vy-atihṛta 過受分 (一°) を欠くまたは奪われた.
 vy-ati [vy-ati-I], → I.
 vy-atita 過受分 → I.
 vyatita-kāla 形 時機を失した, 時宜を得ない.
 vy-atipāta 男 天文学上の Yoga の一種.
 vy-atyaya 男 交換; 変化; 顛倒; 不規則 (詔), (kar-
 maṇām ~, 間違った職業). ~ena 圓, ~āt 徒,
 一° 顛倒して; 不規則に (文法). ~am 交互に.
 ~e 徒 反対の場合に.
 vy-atyasta 過受分 [As₂] 転置された, 顛倒された,
 組まれた (両手); 辻褃の合わない (話); 漢訳 横, 転
 換, 曠平; 乱, 乱住; 覆, 覆住; 雜乱而住 Daś-bh.,
 Lan̄k., Mṛyut., Śikṣ; 音写 維啞多唾丹, 微爾薩
 多 [数名] Mṛyut.
 vyatyastatā 女 漢訳 乱住, 乱住相 Daś-bh.
 vyatyasta-samsthāna 臣 漢訳 乱住 Gand-ry.
 vy-atyāsa 男 交換, 変化; 顛倒した地位; 顛倒
 ~ena 圓, ~āt 徒 顛倒して; 交互に.
 Vyath, I. 面 (他, 體律) vyathate 揺れる, よろめ
 く, ふらふら歩く, 踏く, 害を蒙る (主として 賦);
 ふるえる (經譯); (毒が) 中和される (譯); 不安にさ
 れる, 動揺させられるまたは悩まされる, 苦痛を蒙る
 (賦, 圓); (誰か: 圓) を恐れる (經譯). 過受分 vy-
 athita よろめく; 変った (顔色); 不安にされた,
 動揺せしめられた, 乱された, 悩まされた, 苦しめ
 られた, 失意の. 使役 面 vyathayati 揺れさせる,
 迷わせる; (徒) からそらせる; 不安にする, 苦しめ
 る, 悩ます, 怒らせる, 苦痛を与える.
 pra- ふるえる, 驚かされる, 悩まされる. 過受分
 驚かされた.
 vi- 過受分 大いに不安になったまたは動揺した.
 vyathaka 形 不安にする, 苦しめる, 痛ましい (話し
 ぶり).
 vyathana 形 悩ます. 田 よろめき; 苦痛の感覚.
 vyathayitr 形 (業) を悩ます.
 vy-athā 臣 失敗 (圓); 害, 損失 (Br., 圓); 不安, 困
 惑, 苦惱, 苦痛 (普通の意味; 圓); 漢訳 難, 畏難, 厭
 悔, 怯弱; 苦, 苦惱, 疼痛 Bodh-bh., Bodh-c.,
 Śikṣ. ~m Kr, (圓) を苦しめる; 面 悲歎に暮れる.
 vyathākula (°thā-āk°) 形 苦痛, 苦惱または恐怖に
 襲われた.
 vyathākrānta (°thā-āk°) 過受分 [同上].
 vyathātura (°thā-āt°) 形 苦しむ, 悩む.

vyathita 過受分 → Vyath; 恐怖, 生(大)憂苦 Śikṣ.

vyathis 中 道程, 遍歴; 誤った道, 過失 (RV.).

vy-Ad, 噛み切る, あらゆる方面から噛む, 食べる, かじる. <Ad の補遺>

Vyadh, IV. 他 (自, 置) vidhyati 貫く, 孔をうがつ, 打つ, 傷つける; 貫通する, 圧倒する; (業)に(具)を与える, (業)に(具)によって影響を与える; 刺, 中, 割; 殺, 射, 決除; 刺射, 穿過, 擾動 Aṣṭ-pr., Divy., Lanik., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ. 受 vidhyate. 過受分 vidhya (於)を貫かれた, 突き刺された, 打たれた, 刺し貫ぬかれた; 傷つけられた, 害された; (具, 一°)を供給された. 使役 vyadhayati (能), 他 vedhayati (叙詩)=単純動詞. 過受分 vedhita.

ati- 貫く, 孔をうがつ.

vy-ati- 過受分 貫ぬかれた; 突き通された (腕).

anu- (すでに傷つけられたものを)さらに打つ; (具)によって遍満するまたは充たす. 過受分 anuvidhya 貫かれた, 打たれた; (具, 一°)と絡み合わされた・がはめこまれた・がかりばめられた・によって充たされた・によって遍満されたまたはを伴った.

apa- (敵を)追い払う, 棄てる; (聖火の保持を)怠る; (罪惡: 業)を免がれる; 捨 Abh-vy. 過受分

apavidhya 投げ捨てられた, 棄てられた; 占有されていない; 見捨てられた, 捨てられた (子); 放棄された, 無視された; 動かされた (ぶらんこ); 貫通された.

ava- 過受分 (於)に投げ落された (吠).

ā- (於)に投げ込む; 追い払う. 過受分 āvidhya 射られた(矢); 貫ぬかれた; 傷つけられた; 粉碎された(棍棒); 回転された, 振り廻された; 曲折した(河).

vy-ā- 過受分 回転する; 置き換えられた, 髪のもつれた, 歪められた.

sam-ā- 回転する, 振り廻す. 過受分 振動している.

ni- 投げる または 投げ下す (吠), (要塞を)破壊する (吠); 貫く, 貫通する (RV., 叙詩).

nis- 傷つける, 打つ; 殺害する.

pra- 落とす, 投げる; 貫通する, 傷つける; 遍撃 Divy.

vi-pra- 過受分 激しく揺れた (つる草).

prati- 射る, (...に向けて)射る (吠, 叙詩); 知, 悟, 得, 到, 通達 Bodh-bh., Madhy-v., Śikṣ.

vyadha 圓 貫くこと; (飛道具をもって)打つこと, 射当てること.

vyadhana 中 貫くこと; (一°)の追跡.

vy-adhikaraṇa 形 異なった格関係を含む (前分が後分と同格でない Bahuvrihi 合成語 例: śaravaṇa-bhava 「芦の茂みに起源を有する」).

vy-adhikṣepa 男 罵詈, 悪口.

vy-adhva 男 途上, 中途. ~e 因 途中で.

vy-adhvan 形 (空間を)つき進む (Agni); 中道 Aṣṭ-pr.: antarā ~i 於其中路 Aṣṭ-pr. 586.

vy-An, → An.

vy-anu-Nad, → Nad.

vy-anumeya 未受分 無譬喻知 Ratna-ut.

vy-anu-Sr, → Sr.

vy-antara 中 区別の無いこと; 間隔. 圓(中間の地位を占める), (ジャイナ教徒の間で認められている)妖精 (Piśāca, Yakṣa, Kinnara, Gandharva 等を含む).

vyanti-Kṛ, 遠ざける, 除く; 遠離 Aṣṭ-pr.; 無間 Madhy-vibh.

vyanti-kṛta 過受分 無辺際, 令無辺際 Mṛyut.

vyanti-bhāva 男 除去されていること; 成清淨 Mṛyut.

vy-apakarṣita 過受分 棄相 Mṛyut.

vy-apa-Kṛṣ, → Kṛṣ.

vy-apakṛṣta 過受分 引抜かれた, 取除かれた, 取去られた; 離, 住於寂靜処 Divy., Lal-v.

vyapakṛṣṭāmbara 形 衣服を脱いだ.

vy-apa-Kram, 去る, 離れる. <Kram の補遺>

vy-apagata 過受分 無; 除, 尽, 止息 Divy., Lal-v., Saddh-p., Sam-r.

vyapagata-vikalpa 形 離諸分別 Ratna-ut.

vy-apagama 男 (時の)経過; 消滅, 損失; 不来, 遠離 Abh-vy., Ratna-ut.

vy-apa-Trap, → Trap.

vy-apatrapā 女 恥ずかしがること, 羞恥.

vy-apatrāpitā 女 有愧 Ratna-ut., Sam-r.

vy-apatrāpin 形 具愧 Lal-v.

vy-apatrāpya 中 羞, 愧, 愧恥 Abh-vy., Bodh-bh.

vy-apa-Diś, → Diś.

vy-apadiṣṭa 過受分 指摘された; 知らされた; 所説, 宣説, 為処方 Bodh-bh., Divy. → Diś.

vy-apa-Dṛś, 受 vyapadrṣyate はっきりと見られる 確かに見られる. → Dṛś.

vy-apadeśa 圓 表示, 名称; 表現法, 陳述; (屬)に与えること; 姓(まれ); 口実, 遁辞; 名, 説, 曉教; 起, 従…生…; 舌倚, 因頼, 因頼倚舌 Abh-vy. Bodh-bh., Divy., Mṛyut. ~ena 圓 ある口実 (±kenacit). ~ena 圓, ~tas (一°)の口実でまたに見せかけて.

vyapadeśaka 形 指名する, 指示する.

vyapadeśa-bhāgin 形 ある称号を受ける資格を有する.

vyapadeśavat 形 名称をもつ, 指名された.

vyapadeśārtham 副 名声を博するために.

vyapadeśin 形 = vyapadeśavat; (一°)を指示する (一°)の忠告に従う.

vyapadeśopasaṃhāra (°śa-up°) 男 説授 dh-bh.

vy-apadeśya 未受分 指名されるべき; 非難されるべき.

vy-apanaya 男 撤去.

vy-apanayana 中 除去; 抜くこと.

vy-apa-Naś, 使役 vyapanāsayati 消滅させる, 追う, 除く. <Naśi. の補遺>

vy-apa-Ni, → Ni.

vy-apanutti 女 駆逐すること, 除去すること.

vy-apa-Nud, 追い払う, 除去する, 移す. <Nud の補遺>

vy-apaneya 未受分 除去されるべき.

vy-apa-Muc, → Muc.

vy-apa-Yā, → Yā.

vy-apayāta 過受分 → Yā.

vy-apayātavya 田 非人 (従) より去るべきである.

vy-apayāna 田 退却, 逃亡.

vy-apa-Rudh, (三人 田 強意 vyaparorudhaḥ のみ)

王権から追放する, 廢位する. <Rudh の補遺>

vy-apa-Ruh, → Ruh.

vy-aparopana 田 (毛髪) を抜くこと, (翼を) 切り取ること; 除去; 破壊.

vy-aparopita 過受分 殺 Dity.

vy-apavarga 田 二分すること, 切断; 差異; 休止.

vy-apavarjita 過受分 → Vri.

vy-apavidhā 過受分 [Vyadh] 貫れた, 打たれた;

投げ棄てられた, 廢棄された, 砕かれた.

vyapavidhā-brśi-maṭha 田 座も小房も棄て去られた (庵).

vy-apa-vrkta 過受分 → Vri.

vy-apa-Vri, → Vri.

vy-apa-Vrt, → Vrt.

vy-apa-Sr, → Sr.

vy-apasāraṇa 田 除去.

vy-apa-Srj, → Srj.

vy-apa-Srp, → Srp.

vy-apa-Han, → Han.

vy-apa-Hr, → Hr.

vy-apā-Krṣ, (不田 vyapākraṣṭum のみ) 引き離す, ひき裂く. <Krṣ の補遺>

vy-apā-Nud, 追い払う, 除去する. <Nud の補遺>

vy-apāya 田 出立; 終結, 最後; 不足, 不在.

vy-apāśraya 1. 田 席, 住所; 避難處, 信賴または頼みとする対象; 田 (一) に席をもつまたはにある; (一) に避難する・頼るまたは依存する. ~ena 田 (一) に信賴してまたは頼って.

vy-apāśraya 2. 田 (何人にも) 依存しない, 自己中心の.

vy-apā-Śri, → Śri.

vy-apāśrita 過受分 → Śri.

vy-apā-Hr, (田) から脱する. <Hr の補遺>

vy-ape (apa-I), → I.

vy-apekṣ (apa-Īkṣ), → Īkṣ.

vy-apekṣa → vyapekṣā.

vy-apekṣaka 田 (一) に注意深いまたは気をつける.

vy-apekṣā 田 (一) に対する注意, 考慮; 期待; 必要物, 前提 (sa-として); (文法上の) 支配; 一° -a 田 注意する, 考慮する; 期待する.

vy-apeta 過受分 → I.; 田 離, 超, 遠離 Lanik., Sātr.

vyapeta-kalmaṣa 田 罪のない, 汚れが取除かれた.

vyapeta-ghrṇa 田 慈悲心のない, 無慈悲な.

vyapeta-dhairya 田 堅固な性質を失なった.

vyapeta-bhaya 田 恐怖の念がない.

vyapeta-bhī 田 [同上].

vyapeta-harṣa 田 喜びの無い.

vy-apoḍha 過受分 [Ūh₁から] 追い払われた, 取除かれた, 破壊された; 現わされた, 見せられた, 展示された; 反対の, 矛盾した, 逆の.

vy-apoha 田 除去; 否定.

vy-apohana 田 除去すること.

vy-apohya 未受分 否定されるべき (a-として).

vy-abhi-Car, → Car.

vy-abhicaraṇa 田 不確定.

vy-abhicāra 田 相違, 分離; 変り易いこと; 失敗; (田, 田, 一°) に対する違犯, 不信, (とくに婦女の不貞); 変化 (a-として, 変化しない, 確固たる); (田) の違反または無視; (一°) を超えた拡張; 田 別, 相離, 改易 Abh-vy.

vy-abhicāritā 田 相違; 変り易いこと.

vy-abhicāritva 田 (意味の) 変り易いことまたは多様であること; 田 不決定 Abh-vy.

vy-abhicārin 田 (一°) からそれる; (田) からそれるまたは逸脱する; さ迷う, 誤まる; (田) に対して不貞な, 不実な (女); 変り易い (田 sthāyin, 不変の); (契約, 一°) に違犯またはを破棄する; 田 離, 変異, 別施行 Lanik. → a~.

vy-abhimāna 田 謬見, 誤った見解.

vy-abhihāsa 田 嘲笑.

vy-abhra 田 雲のない, 晴れた; 田 晴, 無雲, 無雲程, 晴明雲 (舜?) Kāśy., Ratna-ut.

vyaya 1., 田 動 田 vyayati, °te 費す, 徒費する, 浪費する. 過受分 vyayita.

vyaya 2. 田 滅亡すべき (avyaya とともにのみ用いられる). 田 破壊, 滅亡; 消失, 喪失; 減少, 欠乏; 放棄, 犠牲; (金銭: 田または一°) の消費または支出; (一°) のまたは(-arthe) のための支出または費用; 資産, 金銭 (まれ); 語尾変化 (文法) (まれ); [ある 蛇の名]; 田 壊, 滅, 敗壞; 尽; 去, 消除 Abh-k., Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh., Dity., Daś-bh., Lanik., Mudhy-v., Ratna-ut., Suddh-p., Sātr. ~ena 田 一° を犠牲にして. ~am Kr, 支出する, 支弁する. → āya~, udaya~.

vyayaka 田 支払う.

vyaya-kara 田 (田・i) 支払人.

vyaya-karman 田 会計の職.

vyaya-gata 田 財産を全部使い果した, 破産した, 零落した.

vyaya-guṇa 田 [同上]; 放蕩な, 金使いの荒い.

vy-ayana 田 迷い行くこと (RV. 用 田 のみ); 消費, 浪費 (田).

vyayamāna 田 費す, 浪費する; 田 死時 Bodh-bh.

vyayavat 田 多く費す, 贅沢な.

vyaya-sālin 田 放蕩癖のある, 浪費する, 金使いの荒い.

vyaya-śila 田 [同上].

vyaya-saha 田 (過度の) 消費に耐える, 無尽蔵の.

vyaya-sahiṣṇu 田 (わけなく) 損害に耐える.

vyayita 過受分 → vyaya 1.

vyayin 田 衰える, 衰微する, 転落する.

vyayi-Kr, 犠牲にする, 放棄する; 費す, 浪費する.

vy-artha 形 無用の, 無益の, もうからない, 無駄な (普通の意味); 金銭を持たない (まれ); (異) から除外されたまたはの資格がない; 意味のない, 矛盾した (まれ); 漢訳 虚, 無義, 無果, 唐損, 唐徒, 無有利益 *Abh-vy., Bodh-bh., Rāstr.* ~m 副 無益に, 無駄に.

vy-arthakatva 中 無用.

vy-arthakatā 因 [同上].

vy-arthatā 因 無益; 無意味; 虚偽. ~m Gam または Yā 無用となる. ~m niyate 無害になる.

vy-arthatva 中 矛盾.

vyartha-nāmaka 形 名実の一致しない, 名前が自己の性質と一致しない.

vyartha-nāman 形 [同上].

vyartha-pāṇḍitya 中 無用の知識または学識.

vyartha-yatna 形 その努力の無益な.

vyartha-śramatva 中 徒勞.

vy-arthi-Kṛ, 無用または無駄ならしめる.

vy-arthi-BHū, 無用となる.

vy-alam-Kṛ, → Kṛ.

vy-alika 形 虚偽の, 欺く, 偽善の. 中 苦痛, 悲哀; 虚偽, うそ, 詐欺 (ときとしては 覆); 罪過, 犯罪, 不正行為.

vyalika-niḥśvāsa 男 呻吟, 嘆息.

vy-alkaśā 因 [植物の一種] (RV. 用例一回のみ).

vy-avakiraṇā 因 漢訳 相合 *Mvyut.*

vy-avakirṇa 過受分 → Kṛ; 漢訳 雜, 雜乱, 間雜, 雜糞, 有間信 *Ast-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Śikṣ., Sūtr.*: ~vacana 漢訳 廣語 *Śikṣ. 126.* → a~.

vy-ava-Kṛṣ, 中 vyavakarṣati 退ける, 引き離す, 遠ざける. <Kṛṣ の補遺>

vy-avakṛṣṭa 過受分 漢訳 遠離, 寂靜 *Bodh-bh.*

vy-ava-Kṛ, → Kṛ.

vy-ava-Gāh, 中 (中) vyavagāhate (-ti) (水中に) もぐる, 飛び込む, 侵透する. 過受分 vyavagāḍha. <Gāh の補遺>

vy-avagāḍhavat 過能分 潜った.

vy-ava-Car, → Car.

vy-avacāra 男 漢訳 行, 輪転; 判, 觀察 *Abh-vy., Gand-vy.*

vy-avacāraṇa 中 漢訳 分別, 微細觀察 *Gand-vy.*

vyavacāraṇatā 因 漢訳 行, 觀 *Bodh-bh.*

vyavacāraṇā 因 漢訳 觀, 觀察 *Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh.*

vy-avacārayitavya 未受分 熟考されるべき, 考察されるべき; 漢訳 参, 参解, 参詳 *Mvyut.*

vy-avacārita 過受分 漢訳 觀, 修行 *Ast-pr.*

vy-ava-c-CHid, → CHid.

vy-avacchinna 過受分 → CHid; 漢訳 別, 断, 分, 断絶, 分断, 永断, 廃捨 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Lanik.* → a~.

vy-avaccheda 男 (異, 一) から離すこと; 分離, 分散 (a-として); 排除; 区別, 弁別; (矢を)飛ばせること; 漢訳 分, 断, 断除, 永離; 窮尽; 分別, 了別, 定判; 建立 *Abh-vy., Mvyut., Daś-bh., Śikṣ.*

vy-avacchedaka 形 区別する; 排除する.

vy-avacchedya 未受分 排除されるべき.

vy-ava-Dā, → Dā 4.

vy-avadāta 過受分 清潔な, 明らかな, 明るい; 漢訳 淨, 明淨, 清淨, 善淨, 極清淨 *Bodh-bh., Ratna-ut., Sūtr.*

vy-avadāna 中 淨化; 漢訳 淨, 清淨, 有淨; 白淨之法, 清淨法, 無垢法; 解脱 *Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh., Gand-vy., Kāśy., Lanik., Madhy-vibh., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr., Suvik-pr.*

vyavadāna-dhātu 中 漢訳 清淨性 *Ratna-ut.*

vyavadāna-nimitta 中 漢訳 清淨体 *Ratna-ut.*

vyavadāna-pakṣa 男 漢訳 淨品, 清淨品 *Madhy-vibh.*

vyavadāna-prakṛti 中 漢訳 本性清淨, 淨品自性 *Madhy-vibh.*

vyavadāna-satya 中 漢訳 清淨諦 [八諦の一] *Bodh-bh.*

vyavadānasatya-dvaya 形 漢訳 寂靜 *Ratna-ut.*

vyavadānasatyadvaya-lakṣaṇa 中 漢訳 二諦合為淨法 *Ratna-ut.*

vy-avadirāṇatā 因 漢訳 深生怯弱, (其心) 怯弱 *Bodh-bh.*

vy-ava-DHā, → DHā.

vy-avadhātavya 中 非入 それは分離されるべきである.

vy-avadhāna 中 介入, 挿入 (普通の意味); 隠蔽, 覆い; 区別, 弁別; 中断; 終結; 漢訳 覆障, 障礙 *Lanik., Sāṅkhy-k.*

vyavadhāna-kṛt 形 (一) に介入または介在する.

vyavadhānavat 形 (一) に覆われた.

vyavadhāyaka 形 (因 -ika) 介入する; 中断する 乱す.

vy-avadhāraṇa 中 明記, 明細.

vy-ava-DHāv, 異なる方向に走る; (從) から逃げる. <DHāv の補遺>

vy-avadhi 男 覆い.

vy-ava-DHū, 払い落とす, 妨ぐ, 取除く; ゆすぶる, 手荒にまたは無作法に扱う. <DHū の補遺>

vy-avadhūta 過受分 (すべての世俗の欲望を) 払い捨てた, 生活に無関心な, あきらめた.

vy-ava-BHās, → BHās.

vy-avabhāsita 過受分 照らされた.

vy-ava-Muc, → Muc.

vy-ava-Ruh, → Ruh.

vy-avalambin 形 漢訳 懸, 繫縛 *Diry.*

vy-ava-Li, もたれる, 横臥する; すくむ; うずくまる. <Li 1. の補遺>

vy-ava-Lok, → Lok.

vy-avalokana 中 (=Pali volokana) 些細に見る, 注意深く調べる; 漢訳 觀, 觀察, 審觀 *Ast-pr., Gand-vy., Lal-v., Ratna-ut.*

vy-avalokanā 因 漢訳 觀, 觀察, 遍觀 *Ast-pr., Bodh-bh.*

vy-avalokita 過受分 見おろされた, 眺められた, 見られた; 漢訳 觀察, 觀見, 所觀察, 周徧觀察 *Ast-pr., Diry., Gand-vy.*

vy-ava-Vad, 悪口を言う, 非難する; 語り始める, 沈黙を破る. <Vad の補遺>
 vy-ava-Śad, → Śad 2.
 vy-avasarga 男 捨, 施, 最捨 *Daś-bh.*
 vyavasarga-rata 男 喜捨, 喜捨 *Mvyut.*
 vy-ava-Sā → Sā 2.
 vy-avasāda 男 退没, 退失 *Aṣṭ-pr.*: ~m āp-atsyate 退没 *Aṣṭ-pr.* 586.
 vy-avasāya 男 激しい労働; (因, prati, 一°) に対する決意, 決心, 決定, 目的; (人格化された) 決心; 状態; 意, 心; 勤, 勤尋; 争; 事務; 勇猛, 堪能, 勇決; 定心, 決断, 誓願, 深心, 心決定, 決定志, 決定心, 勇猛心, 所作事業 *Buddh-c., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Śiks.*: ~sahiṣṇutā 耐勤苦, 能勤耐諸有勤苦, 精進勤忍, 精進勤能 *Bodh-bh.* 197. ~m Kṛ 決心をする.
 vyavasāya-dvitiya 形 決心した, 決定された.
 vyavasāyavat 形 決心した, 決定した, 企てる.
 vyavasāyākāra-bhāvana (°ya-āk°) 男 勤一種修 *Sūtr.*
 vyavasāyātmaka (°ya-āt°) 形 [同上]; 精力的な, よく働く; 了性 *Mvyut.*
 vy-avasāyin 形 [同上], 精力的な.
 vy-avasita 過受分 → Sā 2. 男 決心, 目的, 企て; 己了, 愛着 *Lal-v., Lan̄k.*
 vy-avasiti 因 決心, 決定, 決断心.
 vy-ava-Sthā, → Sthā.
 vy-avasthā 因 それぞれの差異, 区別; 同一の場所にとどまること(まれ); 固定, 不変; 一定の限界(まれ); 決定, 確立, (一°)に関する定則; (時間または場所の)一定の関係(区法); 状態, 事情; 事例(まれ); 時機, 機会(まれ); 立, 位, 住, 軌, 安立, 立義, 住持, 建立, 所住相 *Abh-vy., Cat-ś., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., 梵千.* ~ayā 男 定則によれば. ~āyām 因 それぞれの場合に.
 vy-avasthāna 男 (因, 一°)を持続することまたは継続すること; 確固たること; 条件, (圍, 覆)情況. 形 永続する (*Viṣṇu* 神の称号); 在, 摂, 明, 判, 説, 立, 演, 建立, 説法, 示現, 安立, 差別, 安置, 安処, 決了, 実定, 定評, 安住; 出生 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Madhy-vibh., Mvyut., Ratna-ut., Sam-r., Sūtr.*: anāgatādhva ~m 未来世摂 *Abh-vy.* 294; ~naya-jñāna 安立理趣妙智 *Bodh-bh.* 259, 260; ~prajñapti [数の名] 別波娑他那 (卑波娑他般若帝) *Mvyut.* 248; ~vijñapti [数の名], 卑波娑他般若帝 *Lal-v.* 148.
 vy-avasthāpaka 形 決定する, 定める, 決する.
 vy-avasthāpana 男 鼓舞または勇気づけること; 固定させること, 決定すること; 立, 安立, 建立, 安放, 衆安放 *Abh-vy., Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr.*
 vy-avasthāpanā 女 建立, 能成立 *Bodh-bh.*
 vy-avasthāpaniya 未受分 決定されるべき.
 vy-avasthāpita 使役 未受分 → Sthā; 住, 建

立; 説; 所制; 所立, 所施設, 所安立, 所為立 *Bodh-bh., Divy., Lan̄k., Ratna-ut., Sūtr.*
 vyavasthāpita-dharma 男 所立法 *Sūtr.*
 vy-avasthita 過受分 → Sthā; 有; 住, 本住; 定, 立, 在, 入, 安立, 安住, 成立; 決定, 堅住, 建立 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Lan̄k., Madhy-v., Ratna-ut., Saddh-p.* → avasthā ~.
 vyavasthitaiva 男 永久性, 固定性; 実成立 *Bodh-bh.*
 vyavasthita-viṣaya 形 領域または範囲が限られた.
 vy-avasthiti 因 区別; (因)に耐えること; 不変性, 確実性; 固定, 恒常; 定則; 立, 安立, 所立 *Bodh-bh., Sūtr.*
 vy-avahartavya 未受分 使用されるべき. 男 非人行動または着手するべきである.
 vy-avahartṛ 男 (男)に従事または没頭している人; 取扱人; 判事.
 vy-avahāra 男 振舞, 行動; (saha または 一°)との交わり; 慣例, 風習, 日常生活, 一般の慣行; (因, 一°)の行為または実行, …に対する惑溺, の業務または仕事; (一°)の処理・仕事・交易・取引; 契約; (saha)との訴訟・係争; 正義を行うこと, 処罰; 成年(法律上); (一°)に関する表現, 話; (男)の名称; 略; 説, 語; 俗; 理; 言説, 隨説; 大概, 施設; 言語, 語言, 数言; 時(事?)務; 仮名, 言辭; 受用, 所有; 世俗, 世諦, 俗諦; 大槩, 貿易, 出納, 所受, 事業; 世俗言, 世間説, 世間語言, (世俗)語言, 世間語言法, 世俗言語法 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Madhy-v., Mvyut., Prāt-m., Saddh-p., Śiks., 梵千.* → a ~, loka ~, laukika ~. *asmadājñāyā ~h kāryaḥ* すべての事は我々の命令通りになされねばならない. *tair evātra ~h* いま問題となっているのは正しくこれである.
 vyavahāraka 男 商人.
 vyavahāra-kārya 男 所作事業 *Śiks.*
 vyavahāra-jña 形 世事に通じた, 丁年に達した.
 vyavahāra-tantra 男 行為の規範.
 vyavahāratva 男 一般の慣行または慣習であること, 訴訟の機会であること.
 vyavahāra-darśana 男 司法上の審査, 裁判.
 vyavahāra-niti 因 決断事, 時務令儀軌範 *Bodh-bh.*
 vyavahāra-pada 男 訴訟; 世俗仮言, 世間名言 *Suvik-pr.*: aṣṭau ~āni 八言説句 *Bodh-bh.*
 vyavahāra-pāda 男 裁判における(告訴・弁護・証言・判決の四)段階.
 vyavahāra-bahiṣkṛta 過受分 取引または商売から除外された.
 vy-avahārayitavya 使役 未受分 (男)に専念または従事させられるべき.
 vyavahāravat 形 (一°)に専念または従事している. 男 商人.
 vyavahāra-vidhi 男 訴訟手続; 法令, 法典.
 vyavahāra-viṣaya 男 訴訟の対象.
 vyavahāra-sthāna 男 訴訟事件.

vyavahāra-sthiti 因 訴訟手続。
 vyavahārārthin 男 訴訟を起す者, 原告。
 vyavahārāsana (°ra-ās°) 甲 裁判の席。
 vyavahārika (vyāvahārikaの異読)。→ paura〜。
 vyavahārikā 因 下女 (vyāvahārikā の異読)
 vyavahārin 形 (一°) を行う または 手続きをする;
 業務を処理する。男 交易者, 商人。
 vy-avahārya 未受分 従事されるべき, 交際されるべき。
 vy-avahita 過受分 → DHā 1.; 障, 被障, 所障所間, 間隔, 所覆隔 *Abh-vy.*, *Lank.*
 vyavahitatva 甲 隔 *Abh-vy.*
 vyavahita-pṛtanā 因 敵の軍勢。
 vy-ava-Hṛ, → Hṛ 1.
 vy-avahṛt 形 (一°) を商う。
 vy-avahṛta 過受分 名づけられた, 指示された; 実行された, 使用された。甲 活動, 仕事, 商業; 説, 興易 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*
 vy-avahṛti 因 実行, 振舞, 行為; 交際; 商取引, 商売; 訴訟。
 vy-avāya 男 (具, 一°) による干渉または介入, 分離; 性交。
 vy-avāyin 形 干渉または介入する; 分離する。
 vy-aveta (°va-ita) 過受分 分離された, (とくに文字の挿入によって) 分けられた。
 vy-avetatva (°va-it°) 甲 (一°) による分離。
 vy-Aś, → Aś 1.
 vy-aśana 形 断食している。
 vy-aśva 形 馬のない (Br., 圃)。男 [ある Rṣi の名]。
 vy-aśvait 三人 圃 過 Śvit。
 vy-aṣṭi 因 獲得, 成功 (因); 単一のまたは個々の物, 個物 (Vedānta 哲学: 因 *samaṣṭi*)。男 [ある賢者の名]。
 vy-aṣṭi-samaṣṭitā 因 個体と全体。
 vy-As, → As 2.
 vy-asana 甲 [As 2.] (尾を) 振ること; (因) に熱中すること (まれ); (因, 一°) に対する強烈な執着または献身または過度の感溺; 熱情とくに悪しき欲情, 悪徳; 好みの仕事, 趣味; 災厄, 不幸, 災害, 困窮, 逆境 (しばしば 覆), 欠乏, 窮状 (もっとも普通の意味); (財宝の) 破滅, (軍隊の) 敗北, (武器の) 破損, (一°) におけるの事故, の悪結果; (太陽または月の) 没すること; 入; 貧; 貧, 苦, 難, 衰, 悪, 破, 死, 厄, 災, 災, 窮, 毀, 去, 衰惱, 衰亡, 喪失, 厄難, 艱辛, 障惱, 耽著事, 煩惱, 大苦惱, 耽溺者, 惱所逼 *Aṣṭ-pr.*, *Buddh-c.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mṛyut.*, *Saddh-p.*, *Śiks.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*: ~m āpanna 命過 *Divy.* 87.; ~e 遭難 *Buddh-c.* 32.
 vyasana-citta 甲 作苦心 *Sūtr.*
 vyasana-prasārita-kara 形 災難 (を与える) ために手を伸ばす。
 vyasana-brahmacārin 男 逆境の時の友。
 vyasana-mahārṇava (°hā-ar°) 男 苦の大海。
 vyasana-rakṣin 形 不幸から護る。
 vyasanavat 形 (一°) に関して損害を蒙った。

vyasana-vāgurā 因 不運または不幸の畏または陥穽。
 vyasana-śānti 因 息 (苦心) *Sūtr.*
 vyasana-saṃvartaniya 形 毀滅 *Śiks.*
 vyasana-saṃsthita 形 あるでき心または気まぐれにけている。
 vyasana-stha 形 住艱辛 *Bodh-bh.*
 vyasanāgama (°na-āg°) 男 不幸の到来。
 vyasanāgama-kāla 男 不幸の到来する時。
 vyasanātyaya 男 不幸または苦惱の終り。
 vyasanānvita 形 災厄に巻きこまれた。
 vyasanāpluta (°na-āp°) 形 不幸に打ちひしがれた
 vyasanāvāpa (°na-āv°) 男 禍の種のみを蒔く世界
 vyasanitā 因 (因, 一°) に対する好み; ひたむき心を傾けることまたは執着; 悪しき欲情。
 vyasanitva 甲 (一°) に対する感溺。
 vyasanin 形 はげしく働く (まれ); (一°) に対して情的に専心するまたは強烈に感溺している; 嗜好有する (まれ); 悪い欲情に感溺している, 放埒な悪習にふける; 不運の, 不幸の, (一°) について幸をもつ, (飢饉, 一°) と苦闘する。
 vyasanodaya (°na-ud°) 男 不幸の到来; 没すると昇ること。形 不幸な結果に終る。
 vy-asi 形 剣のない (鞘)。
 vy-asu 形 生命のない, 死んだ。
 vy-asta 過受分 → As 2.; 別, 離, 略, 広散, 各々 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mṛyut.*
 vyasta-nyāsa 形 しわくちやになった (寝床)。
 vyasta-pada 甲 混乱した抗弁。
 vyasta-vṛtti 形 本来の働きまたは意味が変えられた (語)。
 vyasta-samasta 因 若別若総 *Bodh-bh.*
 vy-Ah, → Ah.
 Vyā, IV. 圃 *vyayati* 覆う, 包む; 圃 *vyayate* 自を (圃, 因) の中に包む (因)。過受分 *vita* 隠された (RV.); (具) によって覆われたまたは取り巻かれた (P.)
 apa- 圃 (衣等を脱ぐ), 否定する (強意, 圃)。
 ā- (RV.) (覆いとして: 圃) 着る; (因) を身にまとう。
 upa- (左肩から右腋下に聖紐を) 着ける。
 ni- 着るまたは懸ける。過受分 *nivita* 聖紐を身にけた。
 pari- 着る, まとう; 圃 自己を……のなかに包む (因)。過受分 *parivita* (具, 一°) に包まれたまたは封じられたまたはによって取り囲まれた (因, 圃)。
 saṃ- 巻き上げるまたは覆う (RV.); (圃) を着る (圃) (具) にくるまる (圃, 因); ……を用意するまたはなえる (圃, 因)。過受分 *saṃvita* (具, 一°) にまれた; 覆われた; 取り巻かれた; によって隠された または が与えられた; 覆われた, (着を) 着せられた; (一°) によって見逃がされた。
 vy-ākaraṇa 甲 分離, 区別 (まれ); 展開, 創造 (圃) (分析), 文法; 文法的正確さ; 因 記, 答, 説, 受記, 受教, 授記, 記前, 授記前, 記論, 得記, 別, 授記経, 分別解釈, 分別解説; 圃 和伽 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Ma*

me, Madhy-vibh., Mryut., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Sūtr.: catvāri ~āni 四記問 [1. ekāmsā-~m 一向記, 初發授記, 一總授記, 一日定答, 2. vibhajya-~m 分明授記, 分別授記, 3. paripṛcchā ~m 反詰記, 反問授記, 復請問授記, 4. sthāpaniya ~m 捨置記, 未發授記, 不發授記, 一日置答] Mryut. 86.

vyākaraṇa-kathā 因 漢訳 授……記 Ratna-ut.

vyākaraṇa-pada 因 漢訳 記句, 記見 Lank.

vyākaraṇa-parivarta 男 漢訳 授記品, 授声聞決品 Saddh-p.

vyākaraṇātmaka (°ṇa-āt°) 形 分別の能力を具えた.

vyākaraṇa-mantra 男 漢訳 受記真言 Mañj-m.

vyākaraṇāvasthā 因 漢訳 取記位, 受記位 Madhy-vibh.

vyākaraṇiya 未受分 漢訳 忘記 Abh-vy.

vyākaraṇottama (°ṇa-ut°) 漢訳 無上記 Suv-pr.

vyākaraṇin 形 漢訳 説, 為記説 Ratna-ut.

vyākartavya 未受分 漢訳 忘記 Abh-vy.

vyākartṛ 男 (=Pāli vyākattar) 展開者, 創造者; 漢訳 講, 解説者 Divy.

vyākāra 男 発展, 詳細な記述.

vyākīrṇa 過受分 → Kṛ. 因 格の混乱.

vyākūla 形 (具, 一°) で充たされたまたはに満ちている; (眠気, 一°) に負けた; (一°) に熱心に従事しているまたはに忙殺された; 困惑させられた, 動揺させられた, 混乱させられた, 心を乱された (普通の意味); (物事が) 混雑している; 震える, 閃めく (電光); 漢訳 乱, 覆, 雑乱 Abh-vy., Bodh-bh., Śikṣ., Suv-pr.: patati kusumāvarṣam ~m 天花乱墜 Suv-pr. 193. °—, ~m 副.

vyākulatā 因 (一°) に熱心であること; 困惑, 動揺.

vyākulatva, 因 [同上]; 漢訳 雑乱 Abh-vy.

vyākūla-manas 形 心の動揺した, 悩んでいる.

vyākūla-mānasa 形 [同上].

vyākūla-mūrdhaja 形 髪を乱した.

vyākūlaya, 名動 他 動揺させる, 乱す; 混乱に陥らせる.

vyākūla-locana 形 眼がかすんだ.

vyākūla-hṛdaya 形 =vyākūlamanas.

vyākūlālāpa (°la-āl°) 形 辻褄の合わない話しをする, 調子外れの (琵琶).

vyākūlita 過受分 (一°) で充たされたまたは充ちた; 混乱した, 困惑した, 散乱した (普通の意味); 発狂した; 破壊された.

vyākūlī-kṛta 過受分 (具, 一°) によって充たされたまたは充滿した; 困惑した, 戸惑った, 混乱に陥った; 漢訳 乱, 壊乱, 迷惑, 所迷惑 Divy., Lank.

vyākūli-bhūta 過受分 混乱に陥った, 困惑した, 当惑した.

vyākūlendriya (°la-in°) 形 感官の混乱した.

vy-ā-Kṛ, → Kṛ.

vy-ākṛta 過受分 漢訳 記, 有記, 授記, 所説, 所言, 得決, 所授記, 得受記, 受記者, 已得授記 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Lank., Ratna-ut.,

Saddh-p., Sūtr. → a~.

vy-ākṛtāvya-kṛta 過受分 漢訳 已得授記未授記者, 已授記未授記 Gand-vy.

vy-ākṛti 因 分離, 區別 (Br.); 詳細な記述 (華); 説明 (華); 漢訳 記, 受記 Bodh-bh., Madhy-vibh.

vy-ā-Kṛṣ, → Kṛṣ.

vy-ākṛṣṭa 過受分 引き抜かれた, 除かれた, 根絶された; 脱がれた (衣).

vy-ākṛṣṭa-vasana 形 衣を脱いだ.

vy-ākṛṣya 總 自分の方に引き寄せて.

vy-ākopa 男 矛盾.

vy-ākōṣa 形 ふくらんだ, 咲いた; 開いた (手).

vy-ākōṣa-kokanada 形 開いた赤い蓮華をもつ.

vy-ākriyā 因 開展, 発生, 創造.

vy-ā-Kruś, 叫び声を発する, 嘆く. <Kruśの補遺>

vy-ākrośa 男 罵詈, 悪口.

vy-ākrośi 因 [同上]; 叫喚.

vy-ā-Kṣip, → Kṣip.

vy-ākṣipta 過受分 → Kṣip.

vy-ākṣipta-manas 形 心を奪われた, 放心した.

vy-ākṣipta-hṛdaya 形 [同上].

vy-ākṣepa 男 悪口 (まれ); (心の)散乱; 漢訳 誼, 散乱, 乱事 Abh-vy., Divy.

vy-ākṣepin 形 (一°) 駆逐する.

vy-ā-KHyā, → KHyā.

vy-ākhyā 因 説明, 解説, 註解, 註釈; 漢訳 論, 解, 釈 Lank., Madhy-vibh.

vy-ākhyāta 過受分 漢訳 釈, 説, 破, 已釈, 已辯, 演説, 前所釈, 所解暢, 同於上説 Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Madhy-v.

vy-ākhyātavya 未受分 説明されるべき, 解説されるべき, 註釈されるべき.

vy-ākhyāti 因 漢訳 謗 Ratna-ut.

vy-ākhyātr 男 説明者, 解説者, 註釈者.

vy-ākhyāna 形 (因-i) 華: 説明する, 解説する; (屬) を思い出させるまたはに似ている. 因 物語 (Br.); 朗誦 (Br.); 説明, 解説, 註釈 (Br., 華); 漢訳 釈, 説, 論, 講, 解釈, 解義 Abh-vy., Lank., 梵千, 梵雜.

vy-ākhyānaya, 名動 他 伝える, 物語る (因).

vy-ākhyā-yukti 因 [書名].

vy-ākhyā-sthāna 因 教場, 講義室.

vy-ākheya 未受分. 説明されるべき.

vy-āghaṭṭanā 因 摩擦.

vy-āghāta 男 一撃, 打撃, 射ること, 衝突; 敗北; 騒動, 動揺; 障害, 妨害; (論理上の) 矛盾; 一種の修辞学上の比喻 [相反対する効果が同一の原因から生起することが示される]; [天文学上のある Yoga の名]; 漢訳 礙, 相違 Sūtr. → a~.

vy-āghāta-karṭṛ 男 漢訳 破 Ratna-ut.

vy-āghāraṇa 因 (儀式において) ghrta (液状のバター) を灌ぐこと.

vy-āghuṭita 過受分 → GHuṭ.

vy-āghuṭya 總 掃って, 戻った後で.

vy-ā-GHuṣ, 使役 他 vy-āghoṣayati 大声を発する, 叫ぶ. <GHuṣの補遺>

vy-āghuṣṭa 形 鳴り響く.

vy-ā-GHūrṇ, 四方八方に動かす, あちこちに振る.
 <GHūrṇ の補遺>
 vy-āghūrṇita 過受分 動き回された, ころがりまわ
 る, よろめく, ふらつく.
 vyāghra 男 [GHrā; RV. になく, AV. にしばしばあ
 る] 虎(勇ましさをの典型); 一°, (圍)虎のごとく勇
 ましい(人), の中の虎=卓越した, 第一位の; [人
 名]; 漢語 虎, 豹, 虎狼 Bodh-bh., Bodh-c., Lan̄k.,
 Mañj-m., Śikṣ., 梵雜.
 vyāghra-ketu 男 [人名].
 vyāghra-ghātini 女 虎を殺す女.
 vyāghra-carma-cchada 男 虎の皮の覆いまたは被服.
 vyāghra-carman 男 虎の皮; 漢語 豹皮 Mañj-m.
 vyāghracarmamaya 形 (因 -i) 虎の皮で作られた.
 vyāghratā 女 虎であること, 虎の本性.
 vyāghra-turā 女 =vyāghraghātini.
 vyāghra-datta 男 [人名].
 vyāghra-pad 男 [人名].
 vyāghra-padya 男 [vaiyāghrapadya の 不補].
 vyāghra-parākrama 男 [人名].
 vyāghra-palli 女 小屋(の一種).
 vyāghra-pāda 男 [人名].
 vyāghra-bala 男 [人名].
 vyāghra-bhaṭa 男 [ある戦士の名].
 vyāghra-mārini, °māri 女 =vyāghraghātini.
 vyāghra-vadhū 女 牝虎.
 vyāghra-sena 男 [人名].
 vyāghra-hantri 女 =vyāghraghātini.
 vyāghrākṣa 男 [Asura 等の名].
 vyāghri 女 牝虎; 漢語 虎, 牝虎, 雌虎 Abh-vy.,
 Rāṣṭr., Suv-pr.
 vy-ā-Cakṣ, → Cakṣ.
 vy-ācakṣāṇa 現分 説明している等.
 vy-āja 男 (因) [Añj から] 欺瞞, 詐欺; 瞞着, 仮託,
 虚構, 口実: 一°, 欺いて, 詐って; どうみても,
 外観だけは, 擬態の, 詐偽の; 一° 形 ただ…の外
 観のみをもつ, ……の形をとって現われる. ~ena
 男, ~āt 徒(一°)の口実でまたは と見せかけて. ~
 m Kṛ 似させる, 装う.
 vyāja-kheda 男 見せかけの疲労.
 vyāja-guru 男 外見のみの教師, 似而非教師.
 vyāja-tapo-dhana 男 偽りの苦行者.
 vyāja-nidrita 形 眠りを装った, 狸寝入りの.
 vyāja-pūrva 形 ……の外見のみを有する.
 vyājamaya 形 (因 -i) にせの, 偽善の.
 vyājaya, 名動 他 vyājayati 欺く, 偽る.
 vyāja-viṣṇu 男 贗物の Viṣṇu 神.
 vyāja-saRhi 女 偽りの女友達.
 vyāja-supta 形 眠りを装った. 因 狸寝入り.
 vyāja-stuti 女 言葉とは裏腹の称賛または非難, 皮肉
 な賞めことば.
 vyāja-hamsāvali (°sa-āv°) 女 似而非 Hamsāvali.
 vyājābhiprāya 男 偽りの意図または意見.
 vyājāhvaya (°ja-āh°) 男 偽名.
 vyājokti (°ja-uk°) 女 (ある感情を虚偽の原因に帰し
 て)真相をかくす陳述 (修辭).

vyāḍa 形 悪意のある, 有害な. 男 猛獣; 漢語 蛇
 竜, 魍魎, 悪獣, 水獣; 悪, 暴, 大悪 Ast-pr., Boc
 bh., Buddh-c., Guhy-s., Lal-v., Mvyut.
 vyāḍa-kāntāra 男 因 漢語 悪獣難 Śikṣ.
 vyāḍakāntāra-madhyā-gata 形 漢語 在曠野有悪
 処, 在悪獣難中 Ast-pr.
 vyāḍa-mṛga 男 漢語 悪獣 Saddh-p.
 vyāḍa-yakṣa 因 蛇神(?) (Divy.).
 vyāḍi, °li 男 [vyāḍaから] [種々の人々の 父系].
 vy-ā-Tan, → Tan 1.
 vy-ātta 過受分 [Dā 1.] 広く開かれた. 因 開いた口
 vyāttānana (°ta-ān°) 形 口を開いた.
 vyāttāsyā (°ta-ās°) 形 [同上].
 vy-ātyukṣi 女 (戯れに) 相互に水をはねかけるこ
 vy-ā-Dā, → Dā 1.
 vy-ādāna 因 (口を) 開くこと; 開け放しているこ
 vy-ādāya 總 口を開けて.
 vy-ādītāsyā (°ta-ās°) 形 =vyāttānana.
 vy-ā-Diś 1., → Diś.
 vy-ādīś 2. 女 (おそらく羅針盤の) 二個の vidiś 男
 方角.
 vy-ā-Dip, 使役 あまねく照らす. <Dip の補遺>
 vy-ādirgha 形 長く伸びた.
 vy-ādirṇa 過受分 大きく開かれた(とくに口等).
 vyādirṇi-Kṛ, いっぱいに大きく開く.
 vy-ā-Dṛś, 因 vyādṛśyate あきらかに見られる. <
 の補遺>
 vy-ādeśa 男 詳細なまたは特殊な命令, 指示, 指
 号令.
 vyādha 男 [Vyadh] 獵師(混合カーストの一).
 vyādhatā 女 獵師であること, 獵師という生業.
 vyādha-giti 女 獵師の誘い寄せる声.
 vyādha-nara 男 漢語 獵師 Rāṣṭr.
 vy-ā-DHā, 因 vyādhiyate 離される, 分けられ
 不快を感じる, 気分が悪い. <DHā の補遺>
 vy-ādhitā 過受分 加減が悪い, 病気の.
 vyādhāya, 名動 因 師獵として振舞う.
 vy-ādhi 男 疾患, 疾病, 病気; 一° ときどき=の
 (=厄介な……); 漢語 病, 疾病, 痼疾, 疾疫
 瘧, 患苦, 苦患; 着諸病, 病名目; 消渴病,
 盲; 証, 病過証 Av-s., Bodh-bh., Bodh-c., G
 vy., Lan̄k., Mañj-m., Mvyut., Ratna-ut., Sa
 p., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr., 梵雜.
 vyādhi-kāntāra-praṇāśaka 漢語 疾疫病苦皆令
 能愈一切疫病 Suv-pr.
 vyādhi-kleśa 男 漢語 煩惱病 Sūtr.
 vyādhi-cikitsaka 漢語 善治病, 善療病苦 Suv-p
 vyādhi-cikitsā 女 漢語 息除諸病 Śikṣ.
 vyādhi-cikitsā-vidyā 女 医方明 Bodh-bh.
 vyādhi-cikitsā-śāstra 因 医方論 Bodh-bh.
 vy-ādhitā 過受分 病いに悩まされた, 病いにか
 た, 病気の; 漢語 疾, 病, 疾病, 病苦, 有疹
 見病苦, 疾病者, 為疾所苦, 遭遇疾疫 Bodh
 Lal-v., Śikṣ.: ~āh 形 漢語 病苦衆生 Lal-v.
 vyādhi-dharmaka 男 漢語 病法 Bodh-bh.: ~
 vyādhiḥ 病法病 Bodh-bh. 193.

vyādhi-paripīḍita 形 衆苦所逼，為諸苦惱之所逼切 *Suv-pr.*

vyādhi-pīḍita 形 病に苦しめられている。

vyādhi-prapīḍita 形 苦逼其身 *Suv-pr.*

vyādhi-prāśama 男 病除愈，救療疹疾，疾病救療，能愈衆疾，諸病得差 *Bodh-bh.*

vyādhiprāśama-pratijñā 女 能愈衆疾 *Bodh-bh.*

vyādhi-bahula 形 しばしば病に襲われる，病気の多い；衆多疾病 *Bodh-bh.*

vyādhi-samana 中 消滅(衆)疾，愈(諸)疾病 *Śikṣ.*

vyādhi-saṃsamanatā 女 療病苦 *Bodh-bh.*

vyādhi-sprṣṭa 過受分 有病 *Saddh-p.*

vyādhi-hetu 男 病因 *Ratna-ut.*

vyādhiṃ 形 獵師のいる(場所)。

vy-ā-DHū, → DHū.

vy-ādhmātaka 中 (=dhmātaka; *Pāli* uddhumātaka) (腐敗し)膨らんだ死体；腫脹 *Gand-vy., Śikṣ.*

vyādhmātaka-saṃjñā 女 想相青勃，想相青教，臍脹想，腫脹想 *Mṛyut.*

vyādhy-avanata 形 病力羸頓 *Bodh-bh.*

vyādhy-ādi-sūtra 中 良医経，医譬経 *Abh-vy.*

vyādhy-ārta 形 病にかかった。

vy-āna 男 [An] 氣息；[五種の主要生氣の一，身体全部に行きわたっているもの]，

vy-ānamra 形 (一°)によって撓められた，曲げられた。

vyānamri-Kṛ, 身を屈する，はずかしめる。

vy-Āp, → Āp.

vy-āpaka 形 (因 -ikā) 遍満する，広く行きわたった；常に随伴する，周延する，内属する(論理学において；煙における火のように)

vyāpakatā 女 [同上]。

vyāpakatva 中 [同上]。

vy-āpatti 女 災難，不幸；傷害，損害，失敗；零落，死；消失，(ある音または文字の他のものによる)代用。

vy-ā-Pad, → Pad.

vy-āpad 女 災難，不幸；損失，失敗；消失，破壊；致命的行為。

vy-āpana 中 遍満すること，充滿すること，周延；
遍満 *Madhy-vibh.*

vy-āpaniya 未受分 浸透または充滿されるべき，周延されるべき。

vy-āpanna 過受分 → Pad; 瞋，瞋恚，瞋害，惱害，瞋惱，起瞋惱 *Abh-vy., Ast-pr., Gand-vy.*; 退，退転 *Gand-vy.*

vyāpanna-citta 形 悪心をもった，意地悪の；
瞋，恚 *Gand-vy.* → a~.

vy-āpāda 男 零落，破壊，死；悪意；
恚，瞋，害，忿，諍，瞋恚，瞋(惱)，瞋(恨)，忿恚，瞋惱，損壞，恚害，怒恚心，瞋恨怨惡 *Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh., Gand-vy., Lal-v., Mṛyut., Sam-r., Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr.*

vyāpāda-nivarāṇa 中 害蓋，瞋恚蓋 *Abh-vy.*

vyāpādaka 形 致命的な(疾患)。

vyāpādana 中 破壊，殺すこと，(一°)による死。

vy-āpādaniya 未受分 破壊されるべき，殺されるべき。

vyāpādaniyatā 女 殺されるべき必然性。

vy-āpādayitavya 未受分 破壊されるべき，殺されるべき。

vyāpāda-vitarka 男 瞋訟，恚覚，瞋害心，鬪訟意 *Lal-v., Raṣṭr.*

vyāpāda-viramaṇa 中 不瞋(惱)，不瞋恚 *Ast-pr.*

vyāpāda-saṃjñā 女 恚想 *Vajr-pr.*

vyāpāda-saṃdhukṣaṇa 中 瞋害 *Śikṣ.*

vy-āpāra 男 [Pr 3.] 就業，仕事，用務，事業；行動，作業，機能；尽力，努力；一°に携わることまたはを実行すること等；用，使，所用，功用，功能，家業，作用，所能作，経営，経営違務 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Madhy-vibh., Nyāy-pr.:* ~m gacchati 方便拔濟 *Bodh-bh. 9;* ~ān gacchati 奨助 *Bodh-bh. 6.* ~m Kṛ (ある事柄に関して：tatra) 幹旋する，(圓)の仕事を行う，(他人のこと：因)に手を出す。~m Yā (圓)の世話をする。~m Vraj (因)に従事する。→ ~a.

vyāpāraka 形 (一°)をもって機能または職能とする。

vyāpāra-kalpana 中 執……作用，分別……作意事 *Madhy-vibh.*

vyāpāravat 形 効果のある。

vyāpāravattā 女 (一°)の機能または職能をもっていること。

vyāpāra-śata 中 百の企て。

vy-āpārīta 使役 過受分 → Pr 3.; 所激発 *Bodh-bh.:* → a~.

vy-āpārīn 形 (一°)に従事している。男 働く人，職人；商人。

vy-āpī-kāraka 形 (一°)に対抗する。

vy-āpī-kārīn 男 (一°)の役を果すまたはに従事する。

vy-āpīta 使役 過受分 → Āp.

vy-āpītvā 中 広範な伝播，普遍性；(一°)への拡張または延長；
徧至 *Ratna-ut.*

vy-āpīn 形 広範囲に広がった，すべてに遍満した；一°，……の上に広がった・に遍在したまたは到達した；
徧，普遍；徧，普徧；具分，徧至，遍満，遍転 *Abh-vy., Lank., Madhy-vibh., Nyāy-pr., Ratna-ut., Sāṃkhy-k.* ~i-śatena 劇 大変な努力を代償として。

vy-āpī-rodhin 形 (圓)の行為に抵抗する。

vy-ā-Pr, → Pr 3.

vy-āpṛta 過受分 → Pr 3. 男 役人；
行，勤，入者，思惟，役使 *Abh-vy., Mṛyut., Śikṣ.*

vy-āpṛtatā 女 職業。

vy-āpṛti 女 [同上]；
用，有用；事，有事 *Madhy-vibh.* → a~.

vy-āpta 過受分 → Āp; 飽 梵千。

vy-āpta-deha 形 全身にひろがった。

vy-āpti 女 獲得，成就(因)；遍満，充滿；(論理学における)不変の随伴，周延；普遍性；普遍的な規則；
徧，徧至 *Ratna-ut., Sūtr.*

vy-āptika, 一° 形 [同上]。

vyāptimat 形 ひろがる；すべてに遍在する，普通の。

vyāpty-avasthā 女 漢訳 遍満位 (住) *Madhy-vibh.*

vy-āpya 未受分 浸透されうる，入り込まれる，ある内属する特質を伴いうる。中 あるものの中に含まれているまたは内属しているもの (例：火が内属している煙)，所遍；推論の媒概念 (=sādhana, hetu).

vyāpyatva 中 [同上の 翻].

vy-ā-Bādh, → Bādh.

vy-ābādha 男 (=vyāvādha) 病氣，不健康；漢訳 壊，害，礙害，逼惱 *Abh-vy., Sukh-vy. I., Sūtr.* → a~, avyāvādha.

vy-ābādhana 中 漢訳 損害，惱害 *Abh-vy., Prajñ-h.*

vy-ābādhya 未受分 漢訳 損，惱害 *Bodh-bh.* → a~.

vy-ābhagna 過受分 → BHañj.

vy-ā-BHāṣ, → BHāṣ.

vy-ābhāṣita 過受分 はっきり語られた，宣言された。中 漢訳 話，談話。

vy-ābhāṣaṇa 中 話し方。

vy-ābhugna 過受分 → BHuj 1.

vy-āma 男 両腕を拡げた長さ，尋 (ひろ)；漢訳 尋，丈，托，一尋，七尺 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Mvyut., Sukh-vy. I.*

vyāma-prabha 形 [三十二相の一]；漢訳 常光一尋，円光一尋，常光面各一尋 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy.*

vyāmaprabhatā 女 漢訳 常光相，常光一尋，円光一尋相 *Bodh-bh.*

vyāma-prabhā 女 漢訳 円光 *Divy.*

vyāma-mātra 形 (女 -i) 一尋の長さの；漢訳 一尋 *Lank.*

vy-āmiśra 形 まざった，混合した；(圓，一°)と混合した・を伴ったまたは与えられた；多様な；あいまいな (語)；悩んだ，心の乱れた。~e 中 二つの場合が同時に起こる時に (文法)；漢訳 雜，雜立，雜乱；合，和合 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Sūtr.* 梵雜。

vyāmiśra-kārin 形 漢訳 造雜 (業)，作雜 (業) *Abh-vy.*

vy-ā-Mil, → Mil.

vy-ā-Muh, → Muh.

vy-āmūḍha 過受分 → Muh.

vy-āmṛṣṭa 過受分 消された，削除・抹殺された。

vy-āmoha 男 意識の喪失；精神の混乱，夢中になること；(一°)に関する不確定；漢訳 狂乱，愚痴，愚癡，迷惑，錯乱 *Bodh-c., Lank.*

vyāmohaka 漢訳 愚 *Lank.*

vy-āmohana 中 漢訳 網帽 *Vijñ-t.*

vy-āyacchita 中 漢訳 精進 *Bodh-bh.*

vy-āyata 過受分 → Yam.

vyāyatatā 女 (口が)開いていること。

vyāyatatva 中 頑健であること，筋肉の発達。

vyāyata-pātam 中 (矢が)遠くから飛んで来る。

vyāyata-pātin 形 遠くかつ広い範囲を走る (馬)。

vyāyata-saṃprahāra 形 長々と戦争を続ける。

vyāyatodyama (°ta-ud°) 男 大きな上昇。

vy-āyantavya 未受分 漢訳 応勤，勤方便 *Bodh-bh.*

vy-ā-Yam, → Yam.

vy-āyāma 男 戦闘，闘争 (まれ)；体操；(一°)における努力または実践；漢訳 勤，功，勞，疲，精勤，巧力，精進，勇猛，正勤，勤力，勤修，勤精進；方便，大方便 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v., Lank., Madhy-v., Madhy-vibh., Saddh-p., Sūtr.*

vyāyāma-karṣita 過受分 運動によってやせ衰えた。

vyāyāma-kalaha 男 中 争いと闘争。

vyāyāma-bhūmi 女 運動場。

vyāyāma-vidyā 女 体育学。

vyāyāma-śālā 女 体操場；漢訳 究竟諸道満足之处，(散) 勞之处 *Divy.*

vyāyāmika 形 (女 -i) 運動に関係のある，活潑な，技の。

vy-āyudha 形 武器のない，武装解除された。

vy-ārabdha 過受分 → Rabh.

vy-ā-Rabh, → Rabh.

vy-āroṣa 男 怒り，憤り；漢訳 妬，妬忌，肉動氣 *Vijñ-t., Mvyut.*

vyāla 形 裏切る，邪惡の，癖の悪い (とくに象について)。男 癖の悪い象；猛獸；蛇；漢訳 蛇 *Rat-ut.*

vyāli 女 雌蛇。

vyāli-BHū, 蛇になる。

vyālaka 男 蛇，猛獸。

vyāla-grāha 男 蛇を捕える人。

vyāla-grāhin 男 (女 -ni) [同上].

vyālatva 中 癖の悪い象であること。

vy-ā-Lamb, → Lamb.

vy-ālamba 形 たれ下った，ぶら下った。

vyālamba-hasta 形 鼻をだらりと垂らした (象)。

vy-ālambin 形 =vyālamba.

vy-ā-Likh, → Likh.

vy-ā-Lup, → Lup.

vy-ālola 形 ゆらぐ，揺れる，震える。

vyālolana 中 あちらこちらに動くこと。

vy-āvakrośi (°ā-av°) 女 相互にののしり合うこと

vy-āvadānika 形 漢訳 淨 *Madhy-vibh.*

vyāvarṇaya, 名動 → varṇaya.

vy-āvarṇya 中 詳述して。

vy-āvartaka 形 (女 -ikā) 分離する，取除く，除する，排除する；識別する，区別する；漢訳 離，滅 *Lank.*

vyāvartakatā 女 [同上の 翻].

vyāvartakatva 中 [同上].

vy-āvartana 形 (女 -i) 除去する，排除する；避け中 (道路の) 曲がりかど (因)；(蛇の) とぐる漢訳 轉，捨，離，断，轉向，廻出，廻轉 *Abh-vy., Bodh-bh., Lank., Vijñ-t., Śiks.*

vyāvartana-kausalya 中 漢訳 善巧廻轉 *Bodh-bh.*

vy-āvartaniya 未受分 取り戻されるべき。

vy-āvartayitavya 未受分 漢訳 捨，応捨 *Lank.*

vy-āvartita 過受分 漢訳 捨，離，解授 *Abh-vy. : mantrā ~āḥ* 解授咒 *Divy. 438.*

vy-āvartya 1. 未受分 除去または排除されるべき；**漢訳** 捨，棄捨 *Bodh-bh.*
 vy-āvartya 2. 不変分 → Vrt.
 vy-ā-Valg, → Valg.
 vy-āvalgita 過受分 突風となって突進するまたは吹きまくる（東風）。
 vy-āvasāyika 形 **漢訳** 起作 *Sūtr.*
 vy-āvahārika 形 (因 -i) 日常生活 (vyavahāra) に関する，世間一般に行なわれている，習慣的な，現行の；現実の(対：理想の)；訴訟に関係をもつ；社交的な。男 役人。田 商業，事務 (P.)
 vy-āvahārikā 因 → vyavahārikā.
 vy-āvahārya 未受分 使用し得る，まだ駄目になっていない。
 vy-āvādha 男 = vyābādha；**漢訳** 病，悩害，過失 *Daś-bh.*；*Divy.*；*Saddh-p.*
 vy-āviddha 過受分 → Vyadh.
 vy-āvivṛtsu 希求 形 (從，一°) から免れたいと思う。
 vy-ā-Vṛ, → Vṛ 1.
 vy-āvṛṇvāna 現分 [Vṛ 1.] 隠れる。
 vy-ā-Vṛj, → Vṛj.
 vy-ā-Vṛt, → Vṛt.
 vy-āvṛt 因 (吠) (因，属) との区別またはより優れていること；休止。
 vy-āvṛta 過受分 → Vṛ 1.
 vy-āvṛtta 過受分 → Vrt；**漢訳** 退，過，滅，遣，止息，転滅 *Bodh-bh.*；*Daś-bh.*；*Laṅk.*；*Nyāy-pr.* → a～。
 vyāvṛtta-gati 形 動きのとまった，和らいだ，鎮まった，(風が)ないだ，おさまった。
 vyāvṛtta-cetas 形 (從) から心が離れた。
 vyāvṛttatva 因 (一°) と両立しないこと；**漢訳** 離此因 *Nyāy-pr.*
 vyāvṛtta-sīras 形 頭をめぐらした。
 vyāvṛtta-sarvendriyārtha (va-in) 形 一切の感官の対象に無關心な，凡ての俗事に関心のない。
 vyāvṛttātman (°ta-āt) 形 = vyāvṛttacetā.
 vy-āvṛtti 因 (從) からの解放；(從) からの除外またはの喪失；排除されること(因)；識別，差別；差異；**漢訳** 遮，退，転，捨，離，滅，復回，退転 *Abh-vy.*；*Bodh-bh.*；*Laṅk.*；*Mṛyut.*；*Vijñ-t.*；*Saddh-p.*；*Sūtr.*
 vyāvṛttendriya (°ta-in) 形 感官を(一°)から避けた。
 vy-ā-Vyadh, → Vyadh.
 vy-āsa 男 [As 2.] 分離；詳細な記述(因，属，～tas，仔細に)；[種々の浩瀚な文献(*Veda*，*Mahābhārata*，*Purāṇa*，*Vedānta-Sūtra* 等)の有名な編纂者であり，*Parāśara* と *Satyavati* の子とされる神話上の聖者の名(編集者の意)]；**漢訳** 広，広大，広博[仙名]，広説 *Bodh-bh.*；*Laṅk.*；*Madhy-vibh.*；*Mṛyut.*；**音写** 毗耶婆 *Laṅk.*
 vy-āsakta 過受分 → Sañj.；**漢訳** 專 *Abh-vy.*
 vy-āsāṅga 男 執着，固守；(因，一°)に対する専念・渴望または熱情；連結(因)；気を散らすこと(まれ)；

漢訳 煩籠，遑務 *Bodh-bh.*
 vy-ā-Sañj, → Sañj.
 vy-āsatva 田 編者であること(その職務および称号)。
 vyāsa-vana 田 [ある聖なる森林の名]。
 vyāsa-samāsa 男 田 詳細と簡潔。～tas 田 詳細かつ(または)簡潔に。
 vyāsa-samāsin 形 詳細かつ(または)簡潔な。
 vyāsa-sthali 因 [地名]。
 vy-āsiddha 過受分 → Sidh 1.
 vy-ā-Sidh, → Sidh 1.
 vy-āseka 男 (*Pali* vyāsiñcati, avyāseka 参照) 汚染，よごすこと；**漢訳** 掛，散乱，馳散 *Abh-vy.*；*Mṛyut.*
 vy-āsedha 男 障礙，中断。
 vyāskandaka-samāpatti 因 **漢訳** 非非想処 *Mṛyut.*
 vy-āhata 過受分 → Han.
 vyāhatatva 田 矛盾していること；**漢訳** 相違，有礙 *Abh-vy.*
 vy-āhati 因 論理上の矛盾。
 vy-ā-Han, → Han.
 vy-āhanasya 形 極めて好色な (Br.)
 vy-āhantavya 未受分 犯されるべき，侵害されるべき。
 vy-āharaṇa 田 発言。
 vy-āharita 過受分 **漢訳** 喚，語 *Divy.*
 vy-āhartavya 未受分 (因) に対して告げられるべき。
 vy-āhāra 男 発言，談話，会話；(一°)について話すこと；(鳥の)囀り；こっけい味のある言葉，諧謔(戯曲)；**漢訳** 説，所説，言辞，戲論，言説 *Aṣṭ-pr.*；*Bodh-bh.*；*Saddh-p.*；*Sam-r.*
 vyāhāramaya 形 (因 -i) (一°) についての発言または談話からなる。
 vy-āhārin 形 (一°) を語る，話す；(鳥が) さえずる；…を以って鳴り響く。
 vy-āhāvam 總 *Āhāra* の挿入によって分離して (Br.)
 vy-ā-Hṛ, → Hṛ 1.
 vy-āhṛta 過受分 [Hṛ 1.] 田 語ること，話すこと，談話；発音の不明瞭な言語(動物について)；(鳥の) さえずり；**漢訳** 説 *Aṣṭ-pr.*
 vy-āhṛti 因 発言，宣言，声明；(祭儀において神秘的な単語，とくに bhūr bhuvah, または bhuvan, svar の三語を) 唱えること。
 vy-ā-Hvā, → Hvā.
 vy-ucchat 現分 [°Vas 3.]
 vy-ucchitti 因 中断；**漢訳** 断，滅 *Laṅk.*
 vy-uc-CHid, → CHid；
 vy-ucchinna 過受分 → Chid；**漢訳** 絶，断絶，永尽 *Laṅk.*；*Saddh-p.* → a～。
 vy-uccheda 男 = vyucchitti；**漢訳** 断絶 *Laṅk.*
 vy-ucya 未受分 田 罪人 [°Vac] 中断すべきである(因)。
 vy-uta, °ūta 過受分 → Vā 1.
 vy-ut-Kram, → Kram.
 vy-utkrama 男 違反；逆の順序。
 vy-utkrānta 過受分 [°Kram] 立ち去った。
 vyutkrāntaka-samāpatti 男 **漢訳** 超入禪，超一切悲

想, 超入超一切非想非非想 *Mvyut.*
vyutkrānta-jivita 形 生命が離れ去った, 生命のない, 死んだ.
vyutkrānta-dharma 形 法または義務をおろそかにする.
vyutkrānta-rajās 形 情念を離れた.
vy-ut-THā (vi-ud-Sthā), → Sthā.
vy-utthātavya 未受分 甲 非人 (随) をやめるべきである.
vy-utthāna 甲 覚醒 (*yoga* の一段階); 義務を怠ること; 漢訳 出, 起, 淨, 発起, 生起, 還淨, 能出, 出離, 出(定), 起(観) *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.* → a~tā, āpatti~.
vyutthāna-citta 甲 漢訳 出観心 *Abh-vy.*
vyutthānatā 女 漢訳 起 *Madh-vibh.* → a~.
vyutthānāsaya (°na-ās°) 形 漢訳 起期心, 更起心 *Abh-vy.*
vy-utthāpana 甲 漢訳 出, 能建立 *Prat-m.*, *Śikṣ.*: āpatti~āt 罪中出故 *Prat-m. II. 13, 486.*
vy-utthāya 不変分 漢訳 起 *Saddh-p.*
vy-utthita 過受分 → Sthā; 漢訳 出, 起, 出(観), 不住, 還出, 還出還淨 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.* 甲 意見の相違.
vy-utpatti 女 (語の) 派生, 語源; 知識の増大, 教育, 教養, 博学; 漢訳 学, 開曉, 解, 分解, 分成, 分析 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*
vyutpatti-bhāvanā 女 漢訳 開覚修, 覚悟修習 *Madhy-vibh.*
vyutpattimat 形 教養のある.
vy-ut-Pad, → Pad.
vy-utpanna 過受分 → Pad; 漢訳 生, 逆, 淨, 解, 用力, 己解了(者), 己解義 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Nyāy-pr.*, *Sūtr.*
vy-utpāda 漢訳 説明 *Madhy-v.*
vyutpādaka 形 (語を) 派生させる, 語源的に説明する.
vyutpādakatva 甲 [同上の随]; 漢訳 能了 *Bodh-bh.*
vyutpādana 甲 (随) から派生させること.
vy-utpādyā 未受分 派生されるべき; 説明されるべき; 漢訳 (受教) 開示 *Sūtr.*
vy-ut-Sad, → Sad.
vy-utsarga 男 漢訳 破, 離, 遮遣 *Madhy-v.*
vy-ut-Srj, → Srj.
vy-ut-Srp, → Srp.
vy-Ud, → Ud.
vy-udaka 形 水のない, 乾燥した.
vy-ud-Añc, → Ac.
vy-ud-As, → As 2.
vy-udasta 過受分 撒かれた, 投げ棄てられた.
vy-udāsa 男 廃棄 (まれ); 却下, 除外; 終局 (まれ); 漢訳 捨, 破, 壊, 遮, 離, 止, 乖離, 遮遣, 出離 *Abh-vy.*, *Lank.*
vy-ud-DHṛ (vy-ud-Hṛ), → Hṛ 1.
vy-unmīśra 形 (具) と混合した・によって汚された または不純にされた.
vy-upakāra 男 (義務等の) 完全履行・成就または充足.

vy-upaccheda 男 漢訳 泯絶 *Śikṣ.*
vy-upacchedana 甲 漢訳 永絶 *Gaṇḍ-vy.*
vy-upadeśa-karaṇa 形 漢訳 説 *Ratna-ut.*
vy-upa-parikṣ (pari-īkṣ), → īkṣ.
vy-upaparikṣaṇa 甲 漢訳 思惟 *Suv-pr.*
vy-upa-Yuj, → Yuj.
vy-uparata 過受分 → Ram.
vy-upa-Ram, → Ram.
vy-uparama 男 鎮静, 休止; (一日の) 終り; 漢訳 滅, 休息 *Madhy-vibh.*, *Ratna-ut.*
vy-upa-Yuj, → Yuj.
vy-upa-Śam, → Śam 2.
vy-upaśama 男 (= *Pāli* vūpasama) 休止; 漢訳 除, 滅, 息, 清淨, 寂滅, 寂靜, 能除, 断滅, 鎮静, 安心, 制止, 統制, 止息, 除滅, 滅除, 能除滅, 衆寂靜, 能令…断, 能令…離 *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Vijñ-t.*, *Sam-r.*
vyupaśamatā 女 [同上の随]; 漢訳 滅 *Ratna-ut.*
vyupaśamana 甲 漢訳 息 *Bodh-bh.*
vy-upaśamayitavya 未受分 漢訳 応永滅 *Bodh-bh.*
vy-upaśānta 過受分 漢訳 廢; 静, 寂靜 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*
vy-upasama 男 = *vyupaśama*; 漢訳 寂靜 *Lal-v.*
vy-upaskara 形 所属物を有しない.
vy-upasthāna 甲 漢訳 明了現前, 繫念安住 *Bodh-bh.*
vy-upta 1. 過受分 [°Vap 1. から] 刈られた.
vy-upta 2. 過受分 [°Vap 2. から] 散乱した, 混乱した.
vyupta-keśa 形 髪を乱した; 髪を刈られた.
vyupta-jaṭā-kalāpa 形 髻髪を乱した.
vy-uṣita 1. 甲 [°Vas 1. から] 夜明け (随のみ).
vy-uṣita 2. 過受分 → Vas 3.
vyuṣitāśva 男 [ある王の名].
vy-uṣṭa 過受分 → Vas 1. 甲 夜明け. 男 黎明 (人格 '化された').
vy-uṣṭi 女 曙光 (吠); (随, 随, 一°) に対する報い, (善または悪の) 応報; 優雅, 美 (まれ).
vyuṣṭimat 形 美しい; 報酬をもたらす.
vy-ūḍha (吠 -ūḷha) 過受分 → Ūh 1., Vah; 漢訳 莊嚴 *Mañj-m.*
vyūḍha-cchandasa 形 韻律が置き換えられた (Br).
vyūḍha-jānu 形 両膝を離した.
vyūḍhoras (°ḍha-ur°) 形 胸幅の広い.
vyūḍhoraska (°ḍha-ur°) 形 [同上].
vy-ūta 過受分 → Vā 4.
vy-Ūrṇu, → Ūrṇu,
Vyūh, (語根として扱われる) 他 自 叙詩 *vyūhati*, °te 他 諸方へ推しやる, 遠ざける, 分割する; 戦闘隊形に整列する (まれ, ほとんど 叙詩 に限られる). → Ūh.
prati- 自 (業) に対立する, (ある人) に対して (軍隊を) 配置する.
vyūha 1. 男 交替, 置換; (半母音または複合母音の) 分解; 分配, 配置 (まれ); 戦陣, 戦闘隊形をとった軍隊 (普通の意味); 集合, 群衆, 集団; (*Vāsudeva*, *Sanjkarṣaṇa*, *Pradyumna*, および *Aniruddha* とし

ての) *Puruṣottama* の四種の顕現；詳細な解説 (まね)；章，節；**𑖀𑖩** 嚴，莊嚴，嚴飾，綺飾，嚴淨 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. II.*, *Suv-pr.*, *Vajr-pr.*, 梵千。

vy-ūha 2. 男 推論，思弁。

vy-ūhana 𑖀 転置，分離した配置，発展；**𑖀𑖩** 長引，長引 *Abh-vy.*

vyūhani-Kṛ, 戦闘隊形に整列させる，配置する。

vyūha-mati 男 **𑖀𑖩** 嚴慧 (ある天子の名) *Lal-v.*

vyūha-racanā 女 軍隊の配置。~ṃ vi-DHā 戦闘的態度を取る。

vyūha-rāja 男 最高のまたは最良の戦闘隊形；**𑖀𑖩** 莊嚴王，淨王 [菩薩の名] *Lal-v.*, *Saddh-p.*

vyūharāja-samādhi 男 **𑖀𑖩** 莊嚴王三昧，嚴淨王三昧 *Saddh-p.*

vyūhālamkāra 男 **𑖀𑖩** 莊嚴 *Mañj-m.*

vy-R. → **R.**

vy-Rdh. **𑖀** *vyrdhyate* 不幸になる，成功しない，除外される，(𑖀) を奪われる。<Rdh の補遺>

vy-rddha. **𑖀** 過受分 不成功の，失敗した，欠陥のある，不完全な；罪のある，犯罪の。

vy-rddhi 女 除外，喪失 (𑖀)；失敗 (𑖀)；繁栄のないこと，(穀物等の) 欠乏 (𑖀)。

vy-enas 𑖀 罪のない (RV. 用例一回のみ)。

vy-eni 𑖀 女 多彩に輝く (*Uṣas*；RV. 用例一回のみ)。

vyo-kāra 男 鍛冶屋。

vyoma 男 [*Daśārhu* の息子の名] (*vyoman* の異読)。

vyomaka 男 **𑖀𑖩** 堂，台 *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.* 𑖀 **𑖀𑖩** 依空，依杖 *Mvyut.*

vyoma-keśa 男 [*Śiva* 神の名]。

vyoma-ga 𑖀 空を行く，飛ぶ。男 空中または天界の存在者。

vyoma-gaṅgā 女 天界の *Gaṅgā* 河。

vyoma-gamana 𑖀 (女 -i), *vidyā* とともに 女 空中飛行の神通力。

vyoma-gāmin 𑖀 空を行く，飛行する。

vyoma-cara 𑖀 [同上]。男 惑星。

vyoma-cārin 𑖀 [同上]。男 神。

vyoma-dhātu 𑖀 **𑖀𑖩** 空，虚空 *Ratna-ut.*

vyoma-dhvani 男 天から来る音。

vyoman 男 天，空，大気，空気；(原素の一としての) エーテル (まれ𑖀)；保全または領域 (?) (TS.)；**𑖀𑖩** 空，虚空 *Madhy-vibh.*, *Ratna-ut.* 𑖀 *vyomnā*, *vyomamārgaṇa*, *vyomavartmanā* 空中を (飛行する等)。

vyoma-prabhā 女 **𑖀𑖩** 円光一尋 *Suv-pr.*

vyoma-madhye 𑖀 中天に，天空に。

vyomavat 𑖀 **𑖀𑖩** 如虚空 *Madhy-vibh.*

vyoma-vartman 𑖀 天路。

vyoma-vyāpin 𑖀 空中に充滿している。

vyoma-śabda 男 = *vyomadhvani*。

vyoma-sarīt 女 = *vyomagāṅgā*。

vyoma-stha 𑖀 空中にある。

vyoma-spṛś 𑖀 天にとどく，きわめて高い。

vyomādhīpa 男 [*Śiva* 神の名]。

vyomābha (°ma-ābha) 男 **𑖀𑖩** 一尋光 *Lal-v.*

vyomāri 男 [*Viśve Devāḥ* の中の一神の名]。

vyomaikānta-vihārin (°ma-ek°) 𑖀 ただ空中のみを動く (鳥)。

Vraj. I. 𑖀 (𑖀𑖩韻律) *vrajati(-te)* 行く，歩む，進む，旅行する (道路については 𑖀, 𑖀；距離については 𑖀), (無生物，雲等が) 動く；(𑖀, まれに 𑖀) に行く，(𑖀) に達する；(不定，動詞状名詞の 𑖀 または 𑖀 𑖀)；**𑖀** 文法) するために行く；(婦女：𑖀) と性交する；(± *vidviṣam*, *dviṣato'bhimukham* 敵) を攻撃する；(従) から出発する，国を去る；(時が) 過ぎ去る；達する，得る，こうむる，(ある状態) になる (*Gam*, I ならびに 行くことを意味する他の動詞と同様にきわめて普通には 𑖀 𑖀 の 𑖀 を伴いまたそれらと同じように訳される)；**𑖀** 出，去，到，詣，安行 *Daśbh.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.* *adhas*~ (地獄に) おちる，下方に移る，(食物が) 消化される。 *anyataḥ*~ 他の場所に行く。 *dhuryaiḥ*~ 荷馬 (牛) 共に旅をする。 *padbhyām*~ 徒歩で行く。 *paramām gatim*~ 最高の至福を得る。 *punar*~ よみがえる。 *śaraṇam*~ (𑖀) に庇護を求める，に帰依する。

ati- 通り過ぎる；(鳥が) 飛び過ぎる；通過する，横切る。

vy-ati- (境界を) 踏み越える。

anu- (𑖀) について行く・従うまたは伴なう (普通の意味)；…へおもむく，訪れる；(ある状態) になる (まれ)；(*saṅgam* とともに) 執着する；**𑖀** 送 *Diry.*

ā- 近づく；(𑖀) に来るまたはに達する；(± *punar*) 帰る。

praty-ā- (道：𑖀) をひき返す。

praty-ud- 逢うために出掛ける。

pari- 歩きまわる；(𑖀) のまわりを歩きまわる；(宗教的修業者として) 遊行する。

pra- (従) から進むまたは出発する，(𑖀, 𑖀, 𑖀) へ出掛ける；(従) から (𑖀) へ (宗教的修業者として) 遊行に出る。 **𑖀** 過受分 *pravrajita* 去った，(𑖀) へ出立した；(第四生活期である遊行者となるためにまたは *vanam* とともに，第三生活期の林棲者となるために) 出家した。 **𑖀** 使役 *pravrajayati* 𑖀 (従) から (𑖀) へ追放する；**𑖀** 擯，出家，驅出，為出家 *Abh-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Prāt-m.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Vin.*

anu-pra- (*Pāli* *anupabbajati*) あとを追って配所に赴く；あとを追って出家する (仏教)。

anu-sam- (𑖀) について行くまたはに従う。

upa-sam- (家：𑖀) に入る。

vraja 男 (𑖀 RV. 用例一回のみ) 家畜を囲うところ，畜舎，牛小屋；牧者の居所 (𑖀)；畜群，群れ，大群，多数 (𑖀)；**𑖀** 行遠路 *Ratna-ut.*

vrajana 𑖀 歩きまわること，(他の場所へ) 行くこと (𑖀)；路 (RV. 用例一回のみ)。男 [*Ajamīdha* の息子の名]。

vraja-nātha 男 [*Kṛṣṇa* 神の名]。

vraja-sundari 女 女牛飼。

vraja-stri 女 [同上]。

vrajas-pati =vrajanātha.
 vrajāṅganā =vrajasundari.
 vrajāvāsa (°ja-āv°) 男 牛飼の居住地.
 vrajaukas (°ja-ok°) 男 牛飼.
 vrajyā 因 歩きぶり; 区分, 群, 組.
 vṛaṇa 男 (まれに 中) 傷; 触れると痛いところ, はれもの, 腫瘍; 瑕瑾, 欠点; 瘡孔, 瘡, 新痕, 失, 癩, 癩瘡, 癩瘡, 過悪, 瘡癩, 瑕斑, 瘡疱, 癩疽, 悪瘡 *Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Kāśy., Laṅk., Mṛyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.,* 梵千.
 vṛaṇa-granthi 男 傷跡.
 vṛaṇa-paṭṭa 男 傷の繻帯.
 vṛaṇa-paṭṭaka 男 [同上].
 vṛaṇa-paṭṭikā 女 [同上].
 vṛaṇa-bhṛt 形 傷ついた.
 vṛaṇa-mukha 中 瘡孔, 瘡 *Lal-v., Śikṣ.*
 vṛaṇaya, 名動 他 vṛaṇayati 傷つける. 過受分 vṛaṇita 傷つけられた; 潰瘍を生じた.
 vṛaṇa-yukta 形 =vṛaṇabhṛt.
 vṛaṇayuktatva 中 傷ついていること.
 vṛaṇavat 形 傷ついた.
 vṛaṇa-viropaṇa 形 傷を癒す. 中 傷を治癒させること.
 vṛaṇa-vedanā 女 傷の痛み.
 vṛaṇa-samrohaṇa 中 傷を快癒させること.
 vṛaṇa-sāmantaka 男 瘡辺, 瘡疤 *Mṛyut.*
 vṛaṇita 過受分 → vṛaṇaya.
 vṛaṇita-hṛdaya 形 心を傷つけられた, 悲嘆にくれた.
 vṛaṇin 形 傷ついた; 傷で覆われた.
 vṛaṇi-kṛta 形 瘡 有大瘡 *Raṣṭr.*
 vrata 中 1. 因 命令, 法則, 掟; 奉仕, 従順; 正規の領分または機能. 2. 因, 中 動作, 行為, 行状, 態度, 生活様式 (śuci とともに = 淨い良心); 宗教的儀式または勤行; (一°) に対する義務; 自分自身の上に課した宗教上または禁欲上の遵守, 苦行, 誓い, 掟, (断食および性的禁欲のような) 聖なる行い. 3. 中 誓い (一般に), (動詞状名詞の 因, 中; 一°) しようとする決心; 禁, 戒, 行, 禁戒, 遮止, 淨戒, 苦行, 難苦行, 戒行, 善行, 修業, 律儀, 威儀行, 清淨律儀 *Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Daś-bh., Lal-v., Muñj-m., Śikṣ. ~m Car* 誓いを守る, 純潔を守る. ~āt 誓いの故に.
 vrata-grahaṇa 中 宗教的な誓いを立てること, 乞食行者となること.
 vrata-grahaṇa-nimittam 中 宗教的な誓いを実践するために.
 vrata-caryā 女 宗教的行為または行事の実践.
 vrata-cāritā 女 誓いの遵守.
 vrata-cārin 形 宗教的行事を実行する, 誓いを守る.
 vrata-tapa 中 苦行 *Lal-v.*
 vrata-niyama 男 決定清淨律儀 *Bodh-bh.*
 vratati (時として -i) 女 蔓草.
 vratati-valaya 男 中 腕輪のように丸くまきついた蔓草.
 vrata-dāna 中 誓いを課すること.

vrata-dhara 形 (一°のみ) 誓いを実践する.
 vrata-dhāraṇa 中 (因, 一°) に対する宗教的誓いまたは義務を履行すること.
 vrata-pati 男 掟の主 (*Agni* 神; 因).
 vrata-pā 形 神聖な掟を守る (因).
 vrata-pāraṇa 中 断食の終結, 断食後の最初の食事.
 vrata-pradāna 中 断食を課すること.
 vrata-bandha 男 聖紐を授与すること.
 vrata-bhaṅga 男 誓いを破ること.
 vrata-bhṛt 形 神聖な掟または祭式を維持する (*Agni* 神).
 vrata-ruci 形 誓い等を喜ぶ, 宗教的な.
 vrata-lopa 男 誓いを破ること.
 vrata-lopana 中 [同上].
 vratavat 形 誓いを遂行するまたは実行する.
 vrata-vaikalya 中 誓いまたは宗教的実践が不完全であることまたは不十分であること.
 vrata-śayyā-grha 中 誓い(の遂行)のための寢室.
 vrata-sampādana 中 誓いまたは宗教的義務の遂行.
 vrata-stha 中 誓い等を実行している.
 vrata-sthita 形 [同上].
 vrata-snāta 形 自己の誓い (しかし *Veda* の学習はない) を完了して後で沐浴した.
 vrata-snātaka 形 [同上].
 vrata-snāna 中 自己の誓いを完了した後の沐浴.
 vrata-hāni 女 誓いを顧みないこと.
 vratādeśa (°ta-ād°) 男 誓いを課すること (とく *Brahmacārin* の第一の誓いについて言われる).
 vratādeśana (°ta-ād°) 中 誓いを課することまたは課すること.
 vratādeśana-visarga 男 誓いの開始と終了.
 vratāśa (°ta-āśa) 形 適度にかつ清淨な食物だけをべる.
 vratāśaya (°ta-āś°) 男 遮止意樂 *Bodh-bh.*
 vratika 中 禁戒 *Śikṣ.*
 vratin 形 宗教的掟に従事している, 誓いを実践している; (一°). を実践している; …を崇拜している; …のように振舞っている; 具勇行, (具 *Mṛyut.* 男 行人, 行者 *Guhy-s.*
 vratesa (°ta-iś°) 男 [*Śiva* 神の名].
 vratopavāsa (°ta-up°) 男 宗教的義務としての断食.
 Vrad, Vrand, 中 vradate 柔かくなる, 脆くなる (RV. 用例一回のみ).
 vradhna 形 =bradhna.
 vrandin 形 柔弱になる (RV. 用例二回のみ).
 Vraśc, VI. 中 vṛscati 切り倒す, 切りとる, 寸断する, 裂く, (樹木を) 切り倒す. 中 vṛscyate. 過受分 vṛkṇa 切り倒された, 伐採された, 裂かれた. ā- (因, 中) から離すまたはに敵対させる (因).
 vi- こなごなに切り刻む (因, P.).
 vraścana 形 切り倒す; 切り倒すに適當な. 中 切り倒すこと, こなごなに切り刻むこと; (樹木の) 目. 男 (樹木の) 切れ目から(得られる)樹液.
 vraścana-prabhava 形 (樹木の) 切れ目から生ずる.
 vrā 女 群れ, 大勢 (RV.).
 vrāta 男 集合, 大勢; 結合, 組合; (蜂の) 群れ

数, 群衆.

vrātamaya 形 (因 -i) 集合から成る.

vrātya 男 正統婆羅門の社会・慣習のそとにある者; 上層3カーストに属しながら適当な時期に浄法を受けず, 自己のカーストを失った者; Śadra の男と Kṣatriya の女から生れた者; 卑賤な人間, 放浪者.

vrātyatā 因 Vrātya であること.

vrātyatva 因 [同上].

vrātya-stoma 男 (±kratu) [Ekaha 祭の一種].

vrātyā 因 Vrātya の女.

Vrādh, ただ vrādhanta および 現分 vrādhata のみ, 強大となる: 現分 強大な (RV.).

vrādhata 現分 → Vrādh.

vrāś 因 指 (RV., 用例一回のみ).

Vriḍ, I. 自 vriḍate 恥じる. 過受分 vriḍita 恥じた, 狼狽した.

vriḍa 男, (より普通に) vriḍā 因 恥, 羞恥. ~ām Kṛ, ~ām upa-Gam はじらう.

vriḍā-dāna 因 慎み深く与えられた施物.

vriḍā-yuj 形 はじらっている.

vriḍāvat 形 恥じた, はじらっている.

vrihi 男 米: 圃 米粒; 穀, 稻, 種子 Abh-k., Abh-vy., Lank.

vrihi-drona 男 1 drona の米.

vrihimat 形 米をまぜた; 米を生長させる (田).

vrihimaya 形 (因 -i) 米から作られた.

vrihin 形 米を生長させる (田).

vrihi-yava 男 圃, 圃 または 圃 圃 米と大麦.

Vruḍ, ただ 過受分 vruḍita のみ, 沈んだ, (森のなかで) 道に迷った.

vruḍita 過受分 → Vruḍ.

Vlag, (ただ abhi とともに 不変分 abhivlagya のみ) 捕獲する (RV. 用例二回のみ).

Vli, IX. 他 vlināti, vlināti 砕く (因). 受 vliyate 崩壊する.

pra- 砕く. 過受分 pravlina.

Ś

śa 1. 一° = śaya. → giri~.

śa 2. 一° ...を破壊する.

śam-yu 形 情深い, 慈善心に富む (因); 繁栄する (圃). 男 [Bṛhaspati の息子の名].

śamyu-vāka 男 śamyohi で始まる祝福の祈禱.

śamyv-anta 形 śamyuvāka で終る.

śamvara 男 圃 → śambara.

śamvūka 男 圃 → śambūka.

Śams, I. 他 śamsati (自 一般に 韻律), (とくに神々に 対し讃歌または詩句を) 読誦する, 歌う (とくに 祭式における Hotṛ についていう: 因); 称賛する, 激賞する (因, 圃); 圃 を 圃 であると通告する・報告する・告げる または 宣言する, (圃, 因) に (ある人が 誰であるかまたはどこにいるか: 圃) を言う (圃; 普通の意味); 指示する, 示す, 露わす (圃); 通告する, (前兆によって) 予告する (圃). 受 śasyate.

過受分 śasta 読誦された, 歌われた (因); 称賛された, 激賞された, 推奨された; 吉兆の; 美しい; 幸福な; śamsita 称賛された, 称賛に値する (まれ). 使役 他 śamsayati 読誦させる; 通告する, 予告する; 説, 讚持 Sūtr.

ati- 余計に読誦する (Br.); 讚誦する時読み落す (Br.).

anu- (ある人に) 従って読誦または讚嘆する (因).

abhi- 非難する, そしる; 称讚する (叙詩 まれ). 受 評判が悪い. 過受分 非難された; 脅かされた.

ā- 自 āśamsate (まれに 他) (圃 ときには 為, 於, 不定, 困) を望む, 期待する, ...をあてにする, ...を得ようと努力する [na とともに, ...することを (困 または yadi+現 または 圃) 望まない]; (圃, 不定) をまたは せんことを願うまたは切望する; 読誦する; 通告す

る, 予告する (他); 讚嘆發起希望 (欲) Bodh-bh., Buddh-c. 過受分 āśamsita (圃) によって (困) であると宣言された. 使役 (於) に対する希望を持たせる (RV. 用例一回のみ).

praty-ā- 自 pratyāśamsate 期待する, 予想する, 望む; 求, 希 (希?) 求, 希望; 勧讚 Bodh-bh. pra- 宣言する, 称讚する, 激賞する; 予告する.

過受分 prasasta (於) のために称讚された または 激賞された; 推奨された, 認められた, 尊重された, よいまたは適当であると考えられた; 吉兆の; 讚歎, 讚美 Bodh-c., Śikṣ.

ati-pra- 大いに賞揚する.

vi- 読誦する (RV.); 部分に分けて読誦する (Br.). sam- 一緒に読誦する (因).

śamsa 男 (因) 呼びかけ, 祈願, 讚嘆; 約束; 祝福; 咒詛.

śamsatha 男 会話 (まれ).

śamsana 圃 読誦; 通告.

śamsaniya 未受分 ほめらるべき, 賞讚に値する.

śamsā 因 (圃) 讚嘆 (まれ); 通告 (叙詩, まれ).

śamsita 過受分 → Śams.

śamsitr 男 読誦者.

śamsin 形 (一°) を暗誦する; 告げる, 宣言する, 示す, ...のことを話す, 述べる; 予告する, 予示する.

śamsivas 形 (一°) を知らせるまたは宣言する.

śamstavya 未受分 読誦されるべき (Br.).

śamstr 男 = śamsitr.

śamsya 未受分 読誦されるべき (RV.); 賞讚に値する (因).

Śak 1., V. 他 śaknoti (不定, 動詞状名詞の圃, 圃).

困) することが出来る・する能力を有する または する力をもつ; 遂行する. 図 śakyate 克服される, 屈する; (しつこい要求に) 屈服する: 不定 とともに (= 圓) によって…されることのできる (= 不定 図: na śakyate niyantum 抑制されることが出来ない. 非人 可能である. 過受分 śakta (具, 器, 屬, 於, 一) する能力を有する・しうる または するに十分の力量がある; (圖, prati, 不定) と匹敵できる; śakta (na とともに) されえない (= 不定 受). 希求 śikṣati → Śikṣ 1.; 漢語 能, 可 Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Lan̄k., Madhy-v.

Śak 2., (本来 Śak 1. と同じ) II. 他 śagdhi (論) 等, (ある人: 器) を助ける (RV.); (あること: 圖) に役立つ (因).

ā- (RV.) [同上]; (器) をなしうるようにする.

śaka 1. 田 糞 (AV., まれ).

śaka 2. 男 種 [あるイラン民族の名, インドスキタイ (Indo-Scythian) 民族].

śaka 3. 男 [śuka の異読] → śuka.

śaka-kāla 男 (78 A.D. に始まる) Śaka 紀元.

śakaca 男 [人名].

śakaṭa 男 (まれ), 田 車, 荷車; 漢語 車, 車 (輪) Abh-k., Bodh-c., Divy., Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. II., 梵千., 梵雜. 田 (prājāpatya または rohiṇi とともに) 車とみなされた (星宿) Rohiṇi. 男 田 [陣形の一つ]. 男 [Viṣṇu 神または Kṛṣṇa 神に殺されたある Asura の名].

śakaṭa-cakra 田 漢語 車輪 Saddh-p.

śakaṭa-dāsa 男 [人名].

śakaṭa-patha 男 漢語 轍 梵千.

śakaṭa-vyūha 男 [陣形の一つ].

śakaṭa-sārtha 男 車の行列, 隊商.

śakaṭāpana (°ta-āp°) 男 種 (śakaṭāyana の不確) 車と商品.

śakaṭāya, 名動 他 śakaṭāyaṭi 車をあらわすまたは車に似る.

śakaṭāra 男 [ある猿の名].

śakaṭāla 男 [Nanda 王の大臣の名].

śakaṭāvila 男 [水鳥の一つ].

śakaṭikā 女 小車, 玩具の車.

śakaṭin 形 車を所有する. 男 車の所有者.

śakaṭi 女 車.

śakaṭoccatana (°ta-uc°) 田 車の転覆.

śakan 田 排泄物 (śaknā, śaknas および śakabhiḥ のみ). → śakṛt.

śakandhu 男 漢語 設建途 Abh-vy.

śakaṃbhara 形 排泄物を運ぶ (AV. 用例一回のみ).

śakara = śakala.

śakala 男 田 (木の) 切れはし, 丸太; 断片, 一片, 小片; 陶器の破片; (一° kṛśānu とともに) 火花; (candra-とともに, 半月) 半分; 卵殻の半分; 半詩節. ~āni Kṛ こなごなに壊す, 消散させる = śakali-Kṛ.

śakalaya, 名動 こなごなに壊す. 過受分 śakalita. vi- [同上].

śakalikāgni (°kā-ag°) 男 漢語 札火小星, 鉄小火星 Abh-vy.

śakalita 過受分 → śakalaya.

śakali-Kṛ, こなごなに壊す.

śakali-BHū, こなごなになる, 寸断する.

śaka-vatsara 男 Śaka 紀元の前.

śaka-varṣa 男 田 [同上].

śaka-sthāna 田 [ある国の名].

śa-kāra 男 ś の字; 王の側室の兄弟 (芝居の憎まれ役, 常に s および ś を ś と発音するのでそう呼ばれる); 漢語 (音写) 捨字 [五十字門の一]: ~e śamathavipaśyanāśabdaḥ (→ a-kāra) 唱捨字 時出一切奢摩他毘鉢舍那声 Lal-v. 128; 捨字 [四十二字門の一]: ~ṃ parikīrtayataḥ sarvabuddhānuśāsanīcakrarocaṃ nāma prajñāpāramitāmukham avakrāntam 唱捨 [上声尸我反] 字時能甚深入般若波羅蜜門名隨順諸仏教輪光明 Gand-vy. 449.

śakita 過受分 → Śak 1.

śakuna 男 (強い) 鳥 (とくに大きな鳥で前兆となるようなものについていう); 種 [ある民族の名]; 漢語 禽, 飛禽 Mañj-m. 田 吉兆; 漢語 兆, 近坡 Mvyut.

śakunaka 男 鳥; 漢語 鳥 Divy.

śakuna-jña 形 前兆を知る.

śakuna-jñāna 田 前兆の知識, 占い.

śakuna-devatā 女 吉兆を (支配する) 神.

śakuna-ruta 田 漢語 占鳥音, 占雀音 Mvyut.

śakuna-vidyā 女 (= Pali sakunavijjā) 鳥の鳴声または前兆の学問; 漢語 数学 (?) Mvyut.

śakuna-śāstra 田 前兆の教説.

śakunā 女 漢語 禽 Mañj-m.

śakunādhiṣṭhātri 形 女 吉兆を支配する (女神).

śakuni 男 (とくに大きな) 鳥; [ある Asura の名]; [ある Nāga の名]; [Subala の子で Kuru 王子らの母方の伯父である Gāndhāra 王の名]; [Asoka の祖父の名]; 漢語 鳥, 飛鳥; 禽, 飛禽; (野) 鳥; 音写 沙孤尼 [主名] Mvyut.; (音写) 大沙孤尼 Mvyut.; 舍居尼鳥 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Buddh-c., Divy., Gand-vy., Lan̄k., Mvyut., Rāṣṭr., Sūtr., Suv-pr., 梵雜. : pakṣi ~ ḥ 飛鳥 Gand-vy., Mvyut.; ~ iva cañcūryate 如鳥飛空, 如鳥投網 Suv-pr. 50.

śakunikā 女 雌鳥; [人名].

śakuni-graha 男 [子供の病気をおこす悪魔の名]; 漢語 禽魅 Mvyut.

śakuni-pada 田 漢語 鳥跡 Sapt-pr.

śakuni-vāda 男 (黎明における) 鳥の (最初の) 歌声 (Br.).

śakuni 女 雌鳥.

śakunta 男 鳥; 猛禽 (の一種); 漢語 飛鳥 Śikṣ.

śakuntaka 男 小鳥.

śakuntalā 女 [ある Apsaras の名 (Br.)]; [Viśvāmitra と Menakā の間に生れた娘の名 (Duśyanta の妻で Bharata の母; Kālidāsa の有名な戯曲 Abhijñānaśakuntalā に登場する女主人公)].

śakuntalopākhyāna (°lā-up°) 田 Śakuntalā 物語 [Mahābhārata I, 62-69 (crit. ed.) および 諸種の Purāṇa に伝えられる].

śakunti 男 鳥。
 śakuntikā 女 雌の小鳥。
 śakura 形 馴れたまたはおとなしい (動物)。
 śakula 男 魚(の一種)。
 śakṛt 中 (圍 困, 圍 糞, 圍 糞; 一°) 排泄物, 糞尿, 大便; 糞 大便, 屎, 糞 *Raṣṭr.*, 梵千。→ śakan。
 śakṛt-piṇḍa 男 糞の塊り。
 śakṛt-piṇḍaka 男 [同上]。
 śakṛd-deśa 男 肛門。
 śakṛd-dvāra 中 [同上]。
 śakṛn-mūtra 中 圍 大小便, 糞尿。
 śakkara 男 → śakvara。
 śakkari 女 → śakvari。
 śakta 過受分 …をなし得る等; 能, 能作, 堪能, 隨能; 成 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sāmkhy-k.* → Śak 1. 男 [人名]。
 śaktatva 中 得 *Ratna-ut.*
 śakta-rūpa 形 (...をなし) うるように見える。
 śakti 1. 女 (圍 困, 圍 困, 不定, 一°) をなし得る能力, 力量, 力, 強さまたは技能; (神の能力) 援助, 恩恵; (治療等の) 効力; 国王の力 (三種の要素すなわち *prabhāva* 威厳, *utsāha* 精力 および *mantra* 助言を含む); (神格の とくに *Śiva* 神の) 活動力または女性的性力; (ことばの) 力, 意義, 機能, (文法上の) 格の観念; (詩人の) 創作力, 想像力; 能, 堪能, 功能, 功力; 力, 威, 威力, 神力, 隨力, 力能 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mṛyut.*, *Ratna-ut.*, *Sāmkhy-k.*, *Śikṣ.*: *satyām ~au* 隨力所能 *Bodh-bh.*; *sva ~* 自力能 *Śikṣ.* → *yathā ~*. ~*yā* 圓 (±*ātma* または *sva*-) 能力に応じて; *param śaktyā* 全力を傾倒して. *śaktim ahāpayitvā* たゆまずに, 努力を怠ることなしに, 全力を尽くして. ~*tas* 圓 能力に応じて。
 śakti 2. 女 刀, 槍; 旗竿; 刀, 槍, 短鎗, 戈, 槩; 独鈷杵 *Lal-v.*, *Mañj-m.*, *Mṛyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, 梵千。
 śakti 3. [*Vasiṣṭha* の息子で *Parāśara* の父の名]。
 śakti-kara 男 力を生ずる。
 śakti-kumāra 男 [人名]。
 śakti-jña 形 (自己の) 力を知る。
 śaktitā 女 (一°) をなし得る能力。
 śakti-traya 中 国王の力の三要素 (*prabhāva*, *utsāha*, *mantra*) → śakti 1.
 śakti-deva 男 [人名]。
 śakti-dvayavat 形 二つの力をもつ。
 śakti-dhara 形 槍をもつ. 男 [*Skanda* 神の称]; [人名]。
 śakti-dhvaja 男 [*Skanda* 神の称]。
 śaktin 1. 男 = śakti 3.
 śaktin 2. 形 旗竿をもつ。
 śakti-nātha 男 [*Śiva* 神の称]。
 śakti-pāni 男 (手に槍をもっている), [*Skanda* 神の称]。
 śaktimat 1. 形 (不定, 動詞状名詞の 困) の力をもつ・に力強い・する能力があるまたはしうる; 女性の性力もっている (神). 男 [ある山の名 (*śaktimat* の

不確)].

śaktimat 2. 形 槍を所有する。
 śaktimati 女 [ある女の名]。
 śaktimattva 中 力を所有すること。
 śakti-mokṣa 男 力の喪失ならびに槍の投擲(一語二義)
 śakti-yaśas 女 [ある妖精の名 (*Kathasaritsāgara* の第十 *Lambaka* はこの名にちなんで名づけられている)].
 śakti-yoga 形 権能を身につけた。
 śakti-rakṣita 男 [*Kirāta* 族の王の名]。
 śakti-rakṣitaka 男 [同上]。
 śakti-lābha 男 堅牢 *Sūtr.*
 śakti-vara 男 [ある戦士の名]; [*śaktidhara* の異読]。
 śakti-vega 男 [ある妖精の名]。
 śakti-sena 男 [*Skanda* 神の称]。
 śakti-hara 形 力を奪う。
 śakti-hina 形 無力な。
 śaktu 男 (*saktuka* の不確); 妙 *Divy.*
 śaktuka 男 (*saktuka* の不確); 妙 *Divy.*
 śakty-apekṣa 形 力に関する。
 śakti, śaktin 男 (*śakti* 3, *śaktin*- の不確)。
 śakman 中 (RV.) 能力, 技能; 仕業。
 śakya 未受分 (圍 の意味のある 不定) 可能な, 実行できる, であることができる; (~*m* 中 は非人称的にまたは異なる性または数の主語とともに用いられる); 克服されるべき, 征服できる; 字義通りの, 明白な (意味: 比喩的に示された *lakṣya* または暗示された *vyāngya* の 困); 可, 得 *Madhy-v.*, *Ratna-ut.*
 śakya-karaṇa 中 所作 *Sāmkhy-k.*
 śakya-pratikāra 形 除去できる, 治療できる. 男 可能な治療法または反作用剤。
 śakya-rūpa 形 (圍 の意味がある 不定) であることができる; 可変色物, 有大勢力, 功能差別 *Bodh-bh.*
 śakya-śaṅka 形 疑いの余地がある。
 śakya-sāmantatā 女 隣境の諸王を征服することのできる状態。
 śakra 形 (困) 力のある, 強い (*Indra* 神の称). 圓 (圍) *Indra* 神; 積, 積迦, 積揭羅, 灑羯羅; (音写) 帝積, 天主; 天帝積, 帝積天主 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Lank.*, *Mṛyut.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Suv-pr.*: *śakro devendraḥ* 釈提桓因坻, 釈提桓因提梨 玄応。
 śakra-kārmuka 中 (*Indra* 神の弓), 虹。
 śakra-kāṣṭhā 女 (インドラ神の方角), 東。
 śakra-ketu 男 *Indra* 神の旗。
 śakra-gopa 男 コチニールえんじ虫。
 śakra-gopaka 男 [同上]。
 śakra-cāpa 中 (= *śakrakārmuka*) 虹。
 śakra-jānu 男 [ある猿の名]。
 śakra-jit 男 *Indra* 神の征服者 [*Ravana* の息子の *Meghanada* の称]。
 śakra-tejas 形 *Indra* 神のように力のあるまたは威光赫々たる。

śakratva 田 *Indra* 神の威力または権威；(音写) 帝釈，帝釈(天王)，釈身，天帝釈，帝釈性 *Bōdh-bh.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*

śakra-dantin 男 *Indra* 神の象すなわち *Airāvata*.

śakra-diś 女 *Indra* 神の方位，東.

śakra-deva 男 [*Kalinga* 王の名]；~ānām *indra* 釈提桓因 *Saddh-p.*

śakradevatā 女 [特別な新月の夜の名].

śakra-dhanus 田 (=śakrakārmuka) 虹.

śakra-dhvaja 男 *Indra* 神の旗.

śakra-nilaya 男 帝釈所居，帝釈所住，帝釈宮殿 *Gaṇḍ-vy.*

śakra-pāta 男 *Indra* 神の旗を下ろすこと.

śakra-pura 田 *Indra* 神の都城.

śakra-puri 女 [同上].

śakra-prastha 田 [ある町の名；= *Indraprastha*，現在の *Delhi*].

śakra-bāṇāsana 田 (=śakrakārmuka) 虹.

śakra-bhakṣa 男 または 田 (=śakrāsana) 大麻.

śakra-bhūta 男 真実帝釈 [= 娑羯羅] *Gaṇḍ-vy.*

śakra-rūpa 田 *Indra* 神の形姿をもつ；帝釈身 *Saddh-p.*

śakra-loka 男 *Indra* 神の世界.

śakra-sadas 田 *Indra* 神の座所，*Indra* 神の宮殿.

śakrāṇi 女 [*Indra* 神の妃 *Śaci* の名].

śakrātma-ja (°ra-āt°) 男 [*Arjuna* の 父系].

śakrābhilagna-maṇi-ratna 田 (音写) 釈迦毗楞伽宝，帝釈摩尼宝 *Sukh-vy. I.*

śakrābhilagna-ratna 田 (音写) 帝釈持宝 *Mv-yut.*

śakrāyudha (°ra-āy°) 田 (=śakrakārmuka) *Indra* 神の武器，虹.

śakrāvarta (°ra-āv°) 男 [ある巡礼地の名].

śakrāsana 田 大麻.

śakrāsana (°ra-ās°) 田 *Indra* 神の王座.

śakrotsava (°ra ut°) 男 [*Indra* 神の祭の名].

śakvan 田 (女-ari) 能力のある，堪能な，巧みな. 男 (因) 職人.

śak-vara 男 (力ある) 牡牛.

śakvari 女 [特定の詩節または讃歌の名 (種)]; [7×8 音節からなる *aticchandās* 韻律，後には 4×14 音節のすべての韻律を意味するに至った].

śagma 田 (因) 役に立つ，恵み深い，親切な；静かな (馬).

Śaṅk, I. (他) 田 śaṅkate (-ti) (従) について心配する・気遣うまたは信頼しない；(業) を恐れるまたはを畏怖する；(人：業) を信頼しないまたはを疑う；ためらう，懸念する；(業) を疑う；(人をまたはについて：業) 仮定するまたは信ずる，(業) を (業) であると想像する；考える，想像する，空想する. śaṅke 私 が思うに，けだし (しばしば挿入句として用いられる). 過受分 śaṅkita (従，属，一°) について懸念する・信頼しないまたは恐れる，(因，prati) について憂慮する；想像する，仮定する (まれ)；恐れられた (まれ)；疑われた，疑わしい. 使役 他 śaṅkayati (因) について心配させる.

ati- (業) を大いに疑う；(業) を誤って疑う. 過受分 (従) を大いに恐れる.

abhi- (業，属) を信頼しないまたはを疑う；憂慮する. 過受分 (属) について疑いを受けた；憂慮する，疑いをもつ；(従) を恐れた.

ā- 憂慮または恐怖する；(現分 困) することをためらう；(業) を恐れるまたは気づかう；期待する，予想する；(業) を (業) とまたは (困 + itī) と想定する・思うまたはみなす；(人：業) を信頼しない. 不変分 ity āśaṅkya 疑問が提出されたものと想像して，もしも反対が起るとすれば (しばしば 田 において). 過受分 恐れられた，懸念された.

pari- 懸念するまたは信頼しない；(人：業) を信用しないまたは疑う，(業) に関して疑いを抱く；(業) を (業) であると信ずるまたは想像する. 過受分 (従，一°) について懸念するまたは疑い深い；疑われた；期待された，予期された (a-pari- の形において用いられる)；(困 + itī) であると想像されたまたは信ぜられた.

vi- 懸念するまたは疑う；(従) を恐れる；(何か：業) を恐れる；(人：業) を信頼しない；(何か：業) について疑惑または嫌疑を抱く；(人：業) を (業) であるまたはを有すると憶測するまたは信ずる. anyathā ~ 誤った判断をする. 過受分 (一° または prati) に関して懸念する.

śaṅkaniya 未受分 信頼すべからざる，疑いを起さしめる；恐れられるべき，想像されるべきまたは…と 思われるべき (*bādhakatvena* = *bādhakaḥ*). 田 非人 想像すべきである.

śaṅkara 田 (女 -i) 繁栄させる，福利をもたらす (業). 男 [*Rudra* 神または *Śiva* 神の称 (因，属)]; [種々な著作者の名，とくに = *Śaṅkarācārya*]; 音写 [王名] 作樂，作樂者 *Mv-yut.*; [天名] 令樂 *Mv-yut.*

śaṅkara-giri 男 [ある山の名].

śaṅkara-gaurīśa (°ri-īśa) 男 [ある寺院の名].

śaṅkara-datta 男 [ある婆羅門の名].

śaṅkara-nṛtya-raṅga-deśa 男 墓地.

śaṅkara-priyā 女 *Śiva* 神の妃.

śaṅkara-vardhana 男 [人名].

śaṅkara-varman 男 [人名].

śaṅkara-vṛṣabha 男 *Śiva* 神の (白) 牡牛.

śaṅkara-śvaśura 男 (*Śiva* 神の義父), [*Himalaya* 山の別名].

śaṅkara-siddhi 男 [人名].

śaṅkara-stuti 女 [*Mahābhārata* 中の一章の題名].

śaṅkara-śvāmin 男 [ある婆羅門の名].

śaṅkarācārya (°ra-āc°) 男 [不二一元論を唱導した *Vedānta* 学派の有名な宗教家・哲学者 (およそ 700-750 A.D.) の名；その後継者の称号]. → śaṅkara-śaṅkarānanda (°ra-ān°) 男 [ある哲学者の名，*Ātmapurāṇa* その他 *Upaniṣad* 諸註釈書の作者].

śaṅkalā 女 [田 śṅkhalā の 田]；鎖，連鎖 *Abh-vy.* → *aṣṭhi-* ~.

śaṅkavya 田 木鉤 (*śaṅku*) として役立つ.

śaṅka-śukti 女 螺貝 *Nyay-pr.*

śaṅkā 因 (従, 一°, ときとして 因, prati) について
の懸念・恐怖または畏怖 (Br., 圍); 圍 (因)の嫌疑;
疑い, 躊躇, 危惧, 不確実: 一° 疑うこと; (一°)
(…は…であるということの) 想定・信念または仮定;
因 怯慮 *Vijñ-t. pāpa~ na-kartavyā* 悪である
と疑うべからず。

śaṅkāṅkita (°kā-āt°) 過受分 恐怖と憂慮とに圧倒
された。

śaṅkānvita (°kā-an°) 形 疑いに満ちた, 恐怖にとり
つかれた。

śaṅkābhiyoga (°kā-abh°) 男 (単なる) 嫌疑に (基
く) 告発。

śaṅkāmaya 形 (因 -i) 疑惑に満ちた, 恐れた, こわ
がった。

śaṅkāra 男 音写 [竜王名] 作樂 *Mvyut.*

śaṅkāspada (°kā-ās°) 因 嫌疑の根拠。

śaṅkā-sprṣṭa 過受分 恐怖で満たされた。

śaṅkitatva 因 驚懼 *Divy.*

śaṅkita-drṣṭi 形 怯えたまたは恥かしそうな眼差しを
もつ。

śaṅkita-manas 形 小心な, 臆病な。

śaṅkitavya 未受分 信用すべからざる; 恐れられるべ
き; 疑われるべき。因 非人 まさに (因) を信用す
べきではない。

śaṅkin 形 (一°; 普通の意味) を恐れる; (鳥: 一°) の
ように臆病なまたは信頼しない; 想定する, 仮定す
る, 期待する; 小心翼翼たる (奉仕)。

śaṅku 男 吠, 圍 木釘; 圍 爪, 大釘; 杖; 箭, 槍;
投槍 (悲哀等の 譬喩); [人名]; 釘, 槓, 鈎, 鈎
骨 *Abh-vy., Mvyut., Śikṣ.*; [数名] 載 *Mvyut.*

śaṅkuka 男 小さな木釘; [人名]; 釘, 鈎 *Abh-
vy.*

śaṅku-karṇa 形 (因 -i, -ā) 先のとがった耳をもつ。
男 [ある *Rākṣasa* の名]; [ある駱駝の名]; 螺
耳 *Mañj-m.*

śaṅku-puccha 因 (蜜蜂等の) 針。

śaṅku-mukhi 因 (先のとがった口をもつ) 蛭 (の一種)。

śaṅku-siras 男 [ある *Asura* の名]。

śaṅkya 未受分 信頼すべからざる; 期待または仮定さ
れるべき。因 非人 まさに恐れるべきである。

śaṅkyatama 最上 最も疑われるべき。

śaṅkha 男 因 貝, 螺貝 (吹奏楽器の一種, *Viṣṇu* 神
の象徴; 象の前足および耳に着けられる装飾の一種)。
男 こめかみ, こめかみの部分の骨; [*Kubera* 神の
宝の一]; [ある竜神の名]; [ある法典作者の名]; 貝,
螺, 珂, 蠶, 蠶貝, 珂貝, 螺貝, 螺文, 螺鼓,
珂鼓, 海螺; 内腮, 碑碑渠 *Ast-pr., Bodh-bh.,
Lal-v., Lanḅ., Mañj-m., Mvyut., Nyay-pr.,
Saddh-p., Śikṣ., Suv-pr., 玄應., 梵雜.; 股; 角鬚,
両(?)鬚; 内腮 *Bodh-bh., Mvyut.; 音写 商珂, 餉
佉 *Divy., Śikṣ.***

śaṅkhaka 男 貝, 螺貝; こめかみの部分の骨 (顛顛
骨)。

śaṅkha-cakra-pāṇi 形 螺貝と円盤を手にした (*Viṣṇu*
神)。

śaṅkha-cūḍa 男 [ある蛇神の名]。

śaṅkhaṇa 男 [人名]。

śaṅkha-tirtha 因 [ある *Tirtha* の名]。

śaṅkha-tūṣāra-nibha 音写 猶珂雪 *Raṣṭr.*

śaṅkhatūṣāra-supāṇḍala-danta 音写 其齒鮮白猶如
珂雪 *Suv-pr.*

śaṅkha-datta 男 [人名]。

śaṅkha-dhma 男 螺貝を吹くもの。

śaṅkha-dhvani 男 螺貝の音。

śaṅkha-nakha 男 蝸牛 (の一種)。

śaṅkha-pada 男 [*Manu Svārociṣa* の息子の名]。

śaṅkha-pātra 因 螺貝の形をした皿。

śaṅkha-pāda 男 [*Kardama* の息子の名; ある特殊の
宗派の長の名]。

śaṅkha-pālo nāga-rājan 男 護螺竜王; (音写) 又
護貝竜王, 商佉竜王 *Mvyut.*

śaṅkha-pura 因 [ある町の名]。

śaṅkha-puṣpī 因 [ある植物の名 (*Andropogon Acicul-
atus*)]。

śaṅkha-puṣpī-śṛta 形 *Śaṅkha-puṣpī* で煮られた。

śaṅkha-bhṛt 男 (螺貝をもつ), [*Viṣṇu* 神の別名]。

śaṅkha-muktā 因 真珠母貝; 貝殻と真珠。

śaṅkha-rāja 男 [ある王の名]。

śaṅkha-rāvita 因 螺貝の音。

śaṅkha-likhita 形 同種中の完全な, 欠点のない (王,
行為)。男 因 *Śaṅkha* とその弟 *Likhita* (二人の
法典作者)。

śaṅkhalikhita-priya 形 *Śaṅkha* と *Likhita* によっ
て愛される; 何物にも優って真実を愛する。

śaṅkha-varṇa 男 白形, 白色 *Suv-pr.*

śaṅkha-valaya 男 因 螺貝の腕輪。

śaṅkha-silā 因 (= *Pali samkhasilā*) 宝石 (の一種);
貝殻石, 真珠母 (青貝?) *Av-ś., Divy.*

śaṅkha-hrada 男 [ある湖の名]。

śaṅkhāntara 因 (両こめかみの間の間隔) 前額部。

śaṅkhāntara-dyotin 形 前額に輝く。

śaṅkhin 形 螺貝を有する; 螺貝を運ぶ (水)。

śaṅkhini 因 真珠母貝; ある種類の女 (性愛の經典に
よれば四種ある)。

śaṅ-gaya 形 (因 -i) 家庭を祝福する (因)。

śaciṣṭha 最上 最も力の強いまたは助けとなる (因)。

śaci 因 [śak 1.] 因 および 因 力, 強力な援助 (主とし
て *Indra* 神または *Aśvin* 双神について *RV.*); 好
意, 恩恵 (因); 熟練 (因); *Indra* 神の妃 (因);
設支, 舍支; 樂衆, 樂俱 *Mvyut., 玄應.*

śaci-tirtha 男 [ある *Tirtha* の名]。

śaci-nara 男 [ある王の名]。

śaci-pati 男 力の主 (*Indra* 神または *Aśvin* 双神につ
いて; (因); *Śaci* の配偶者; *Indra* 神 (因): 一°
大地を意味する語ととともに = 王; 帝釈 *Buddh-c.,
Divy.*

śaci-puraṃdara 男 因 *Śaci* と *Indra* 神。

śaci-ramaṇa 男 *Śaci* の愛人, *Indra* 神。

śaṅha 形 虚偽の, 詐偽の, 不信義の, 悪意のある。
男 悪漢, ぺてん師; 偽りの愛人; 諂諂, 諂曲,
諂詐, 諂偽, 諂心, 諂曲心, 諛諛, 諛諛 (者), 魔,
姦詐, 奸詐 *Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Madhy-*

v., *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Suvik-pr.*

śaṭha-dhi 形 邪悪な心をもった, 悪意のある.

śaṭha-pāpa-jana 男 漢訳 諂佞者 *Suv-pr.*

śaṭha-buddhi 形 = śaṭhadhi.

śaṭha-buddhitā 因 不信義, 邪悪.

śaṭha-mati 形 = śaṭhadhi.

śaṭhodarka (°ṭha-ud°) 形 結局偽りの または邪悪な.

śadha 形 (= śaṭha) 漢訳 諛諂 *Lal-v.*

śaṇa 男 大麻 (の一種); 漢訳 鹿麻 *Divy.*

śaṇa-gaura 形 大麻のように黄色い.

śaṇa-tāntava 形 (因 -i) 大麻のひもで作られた.

śaṇa-paṭṭa 男 大麻の包帯.

śaṇamaya 形 (因 -i) 大麻の, 大麻から作られた.

śaṇa-valka 男 因 大麻の皮.

śaṇa-śāka 因 大麻の実.

śaṇa-sūtra 因 大麻の綱.

* śaṇḍa 男 [Asura 達の Purohita, Śukra の息子の名].

śaṇḍā-marka 男 因 Śaṇḍa と Marka の両魔.

śaṇḍila 男 [人名].

Śat, X. 因 因 śāṭayati (-te) 区分する, 裂く, 分離する, 切り取る, 切り倒す, 摘む; 投げ落す, (軍隊を) 打ち倒す; 追い散らす, 破壊する. 過受分 śāṭita. pra- 摘む.

vi- ばらばらに切り刻む; 切り取る; (目, 歯を) 抜取る; 追い散らす.

śata (男) 因 (一° 形 -i) 100 (時としては 因 の代りに 因; 因 同格とともに, または 一°); より小さな数と合成される場合には付加の意 (asītisate=280) または倍数の意となり (tri-śatam=300) または合成語が序数となる (dvi-śata=第200番目の); -ka の形における数詞と用いられてパーセントの意味を示す (pañcakaṃ śatam=5パーセント); 倍数詞は合成語において数えられる対象によって分離される (caturvarṣa-śatam=400年); また時としては 一° の代りに 一° とすることがある; 漢訳 百 *Lanik.*, *Rāṣṭr.*, *Ratnat.*, *Vajr-pr.*

śataka 形 (因 -ikā) 100 からなる; 第100番目の. 因 100; 漢訳 百論 *Madhy-v.*

śata-kiraṇa 男 三昧 (samādhi の一種); 漢訳 百千光明 *Suv-pr.*

śata-kumbhā 因 [ある河の名].

śata-kṛtvā 副 百度.

śata-kesara 男 [ある山の名].

śata-koṭi 1. 因 因 10億.

śata-koṭi 2. 男 (100の先端を有する), Indra 神の雷電.

śata-kratu 形 100重の力または賢慮を有する (因); 100の祭式を含む (Br.). 男 Indra 神の名 (因); 一° (kṣiti- 等とともに) 大地の主, 君主, 王; 漢訳 帝釈, 釈提桓因 *Divy.*

śata-khaṇḍa 形 100片からなる. ~m Kr 100片に碎く.

śatakhaṇḍamaya 形 (因 -i) = śatakhaṇḍa, 百条の光線からなる.

śata-giri 男 漢訳 (音写) [夜叉名] 娑多 *Sam-r.*

śata-gu 形 100頭の牛を有する.

śata-guṇa 形 100倍の, 100倍に増大した, 100倍も強い, 100倍の価値あるまたは有効な等. 男 漢訳 百倍 *Bodh-bh.*, *Sūtr.* ~m 副 (因) より100倍も.

śataguṇādhikam 副 100倍以上も.

śata-guṇita 形 100倍も増加した, 100倍も長い.

śata-guṇi-bhāva 男 100倍の増加.

śataguṇi-BHū, 因 100倍に増加される.

śataguṇi-bhūta 形 100倍に増加された.

śata-gvin 形 100の牝牛からなる (RV.).

śata-ghnin 形 śataghi (武器の一種)を有する.

śata-ghni 因 致命的な武器(の一種). → śatahan.

śataghi-pāśa-śaktimat 形 śataghi とわなと槍を持った.

śata-cakra 形 100の輪を有する (RV. 用例一回のみ).

śata-candra 形 100の月で飾られた (剣または楯).

śata-carman 形 100枚の皮で作られた.

śata-jit 男 100に打勝ったもの; Viṣṇu 神の別名; [種々の人名].

śata-jihva 形 100の舌を有する (Śiva 神).

śatatama 形 (因 -ā, -i) 第100番目の; 漢訳 百, 百分 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*, *Vajr-pr.*: ~im kalām 百分中其一 *Bodh-bh.* 103.

śatana 因 = śātana; 漢訳 敗壞 *Divy.*

śata-traya 因 300.

śata-trayi 因 [同上].

śata-da 形 100を与える.

śata-dakṣiṇa 形 100重の報酬を与える.

śata-daṇḍārha 形 100 (パナ) の罰金に値する.

śata-dala 因 蓮華.

śata-dyumna 男 [種々の人名].

śata-dru 因 [ある河の名, 現在の Sutej 河].

śata-drukā 因 [同上].

śata-druti 因 [海神の娘で Barhiṣad の妻の名].

śata-drū 因 = śatadru.

śata-dvāra 形 100の出口 (穴) を有する.

śata-dhanu 男 [種々の人名].

śata-dhanus 男 [同上].

śata-dhara 男 [ある王の名].

śata-dhā 副 100通りに; 100重にまたは100の部分または切片に; ~BHūとともに (因) よりなる100の部分に分けられる; 漢訳 百 *Lanik.*

śata-dhāra 形 1. 100の流れを有する; 2. 100の先端または縁を有する. 男 (Indra 神の) 雷電 (因).

śata-dhṛti 男 [Brahmā および Indra 神の称].

śata-dhauta 過受分 100回清められた, 完全に清浄な.

śata-nirhrāda 形 (因 -ā) 100の音を発する.

śata-nitha 形 100の術策または奸計を有する.

śata-pattra 1. 因 (一°) 100葉; 100の乗物.

śata-pattra 2. 形 100の羽毛を有する (RV. 用例一回のみ). 男 きつつき; 孔雀. 因 日中に咲く蓮; 漢訳 蓮花, 紅蓮花 *Mvyut.*

śatapattra-yoni 男 [Brahmā の称].

śatapattrāyatekṣaṇa (°ra-āy°, °ta-ik°) 形 長い蓮のような目を有する.

śata-patha 形 100の路を有する；非常に多方面な。
 男 [ある *Brāhmaṇa* の名 (次項を見よ)].
 śatapatha-brāhmaṇa 甲 [白 *Yajurveda* に属する重要な *Brāhmaṇa* の名].
 śata-pad 形 (女 -i; 強 陰 -pād) 100本の足がある。
 男 (女 -i) むかで (百足)； 蛇 *Diry.*: mahati śatapadi 大蛇 *Diry.* 11.
 śata-parva-dhṛk 男 [*Indra* 神の称].
 śata-parvan 形 100の節または結び目を有する。
 śata-pavitra 形 100の浄化器を有する (RV. 用例一回のみ).
 śata-pāka 形 百度煮られた。甲 (+taila) ある特殊な軟膏。
 śata-pādaka 男 むかで (百足).
 śata-pāla 男 100の (村:國) の監督者。
 śata-punya-lakṣaṇa 男  百福相, 百福相, 百神徳相, 百福 (自) 莊嚴, 百福相好 *Saddh-p.*, *Suv-pr.*
 śatapunya-vicitrita 形  百福莊嚴 *Saddh-p.*
 śata-putra 形 100人の息子を有する。
 śata-putratā 女 [同上の 種].
 śata-puṣkara 形 100の青蓮華からなる。
 śata-bala 男 [ある猿の名].
 śata-balā 女 [ある河の名].
 śata-bali 男 魚 (の一種)；[ある猿の名].
 śata-bāhu 形 100の腕を有する。男 有害なある小動物；[ある *Asurā* の名]； 百臂 *Lal-v.*
 śata-buddhi 形 100の知力のある。男 [ある魚の名].
 śata-bradhna 形 100の先端を有する。
 śata-brāhmaṇa-ghāta-ja 形 100人の婆羅門の殺害によって生ずる (罪に等しい).
 śata-bhaṅgi-BHū, 100様に変わる。
 śata-bhāga 男 第100番目の部分, 100分の1。
 śata-bhiṣaj 男 女 [第22または第24の *Nakṣatra* (星宿) の名].
 śata-bhiṣā 女 [同上]； 百毒, 危 *Diry.*
 śata-makha 男 [*Indra* 神の称].
 śata-manyu 形 100重の怒りを有する。男 [*Indra* 神の称 (強)].
 śatamanyu-cāpa 男 甲 虹。
 śata-mayūkha 男 (100の光線を有する), 月。
 śata-māna 形 100倍の (強)；100 (*raktikā*, 強) の重さのある (強). 男 100 *māna* の重さの金製品。男 甲 (金または銀の) 100 *māna* の重量 (または贈物).
 śata-mukha 形 100の口または入口を有する；100様に可能な。男 [ある *Asura* の名].
 śata-yajña-cāpa 男 または 甲 *Indra* 神の弓, 虹。
 śata-yajvan 男 [*Indra* 神の名].
 śata-yātu 男 [人名].
 śata-yojana-yāyin 形 100 *yojana* を旅行する。
 śata-yūpa 男 [ある *Rājarsi* の名].
 śata-rasa 形 (= *Pāli* *satarasa*) 100の風味のある； 百味 *Ar-s.*, *Ast-p.*, *Siks.*
 śata-rātra 男 甲 [100日を要する祭式の名].
 śata-rudra 男 種 100の *Rudra* 神群。
 śata-rudriya (-iya) 形 100の *Rudra* 神群に属するまたは捧げられた。甲 100の様相をもつ *Rudra* 神

(*Śiva* 神) に捧げられた *Yajurveda* 中の有名な讃歌。
 śatarudriya-śiva-stotra 甲 [*Mahābhārata* 中の一章の題名].
 śata-rūpa 形 100の形態を有する。男 [ある *Muni* の名].
 śata-rūpā 女 [*Brahmā* の娘の名 (彼女はまた *Brahmā* の妻であり, その近親相姦の結果 *Manu Svayambhuva* が生れたと言われる)].
 śatarcin (°ta-rc°) 男 種 [RV.の第一巻 (*maṇḍala*) の作者たち].
 śata-lakṣa 甲 1000万。
 śata-vaktra 男 (100の口を有する) [武器に対して唱えられる呪文の名].
 śata-varṣa 甲 100年。形 100歳の；100年続く。
 śatavarṣa-jāta 形  百歳 *Saddh-p.*
 śatavarṣa-sahasrin 形 100,000万年生きる。
 śata-valśa 形 100の枝を有する。
 śata-śakti 形 100を与え得る。
 śata-śarkara 甲 甲 100の砂糖。
 śataśarkaratā 女 100の砂糖であること。
 śata-śalāka 形 100本の肋骨を有する (傘).
 śataśas 副 100様に, 数百となく (困 業 または 園に 関連して)；100回, 100倍； 百種, 百分 *Ast-pr.*, *Sutr.*
 śata-śākha 形 (女 -ā, -i) 100の枝をもつ (比喩にも用いる).
 śata-śārada 形 100の秋を含むまたは与える等 (強). 甲 100年の期間または年齢 (強).
 śata-śirṣa 形 100の頭を有する。男 [武器に対して唱える呪文の名].
 śata-śṛṅga 形 100の (角=) 峯を有する。男 [ある山の名].
 śata-saṃkhya 形 100を数える。男 [第10 *Manvantara* における一群の神の名].
 śata-saṃghaśas. 副 幾百となく (困 または 園に 関連して).
 śata-sani 形 100を得る。
 śata-saṃdhāna 形 100度矢を番える。
 śata-sahasra 甲 甲 種 10万 (園, 同格 とともに, または 一°)； 百千 *Bodh-bh.*, *Lank.*
 śatasahasradhā 形 10万の部分に。
 śatasahasra-pattra 甲  億弁 *Mṛyut.*
 śatasahasraśas 副 幾十万となく。
 śatasahasrāmsu 形 10万の光線を有する (月).
 śatasahasrānta. 形 10万の方向に拡がった (月).
 śata-sā 形 100を獲得する (RV.).
 śata-sāhasra 形 (女 -i) 10万の額に達する, 10万倍の。甲 甲 =śatasahasra.
 śatasāhasra-saṃkhya 形 10万を数える。
 śatasāhasrika 形 10万からなる； 百千 *Lank.*
 śata-sukha 甲 100重の幸福, 無限の幸福。
 śata-seya 甲 100重の (財宝の) 獲得 (RV. 用例一回のみ).
 śata-svin 形 100 (の財宝) を所有する (RV. 用例一回のみ).
 śata-han 形 (女 -ghni) 100を殺害する (強).
 śata-hali 形 100の大きな鋤を有する。

śata-hima 形 100 冬または 100 年生きる (因).
 śata-hradā 因 電光; *Rākṣasa Viradhā* の母.
 śatāṅga 形 100 の肢体を有する, 100 種の; 100 種に (多様に) 演奏される (楽器). 因 車の (一種).
 śatā-jit 形 = śatajit.
 śatātman (°ta-āt°) 形 100 の生命を有するまたは与える (RV.).
 śatādhika 形 100 を超える, 101 に達する.
 śatānanda (°ta-ān°) 男 [人名].
 śatānika 形 何百と言う隊形をもつ. 男 [種々の人名; ある Asura の名].
 śatā-padī 因 百足 *Saddh-p.*
 śatābda 形 100 年間続く (生命). 因 100 年, 1 世紀.
 śatāyus (°ta-āy°) 形 [(因 -ṣi) 100 歳の齢に達する. 男 [人名]. 因 100 年.
 śatāritra 形 100 の權 (かい) を有する (因).
 śatārdha 因 100 の半分, 50.
 śatārdhāra 形 50 本の輻を有する.
 śatāvārī 因 *Asparagus Racemosus*; 植物 (の一種); 天門冬 梵千.
 śatāvarta (°ta-āv°) 形 100 の巻毛を有する (*Śiva* 神).
 śatāṣṭa-vāra 男 一百八遍 *Guhy-s.*
 śatika 形 100 よりなる, 100 に達する; 第 100 番目の.
 śatika-vṛddhi 形 (賭博において) 100 を獲得する.
 śatin 形 100 重の, 100 (の財宝) を有する (RV.); 100 を有す (因).
 śatṛ [因 現分] を作る時に用いられる分詞後接字 -at (因).
 śatendriya (°ta-in°) 形 100 の感官を有する.
 śateśa (°ta-iśa) 男 100 (村) の首長.
 śataika-śirṣan (°ta-ek°) 形 100 の優れた頭を有する.
 śataikiya (°ta-ek°) 形 100 のうちの一つの.
 śatoti (°ta-uti) 形 100 の助力をもたらず (因).
 śatodara (°ta-ud°) 形 100 の腹を有する (*Śiva* 神). 男 武器に対して唱える呪文; [*Śiva* 神の従者の一人の名].
 śatya 形 100 より成る.
 śatru 男 敵, 競争者 (因, 因); 自然の敵, 隣国の王 (因); 怨, 怨敵, 怨家, 怨讎, 冤, 怨賊, 怨結, 怨敵, 怨仇, 冤家, 冤対; 設咄嚙 *Abh-v., Bodh-bh., Bodh-c., Buddh-c., Divy., Guhy-s., Lal-v., Saddh-p., Śikṣ., 梵雜.*; 所聞 (śruta?) *Lank. ~sād Gam* (使役とともに) 敵の手に渡す. ~tas 副 敵から.
 śatruka 男 敵.
 śatru-karṣana 形 敵を悩ます.
 śatru-karṣaṇa 形 [同上].
 śatru-kula 因 敵の家.
 śatru-ghātin 男 [*Śatrughna* の息子の名].
 śatru-ghna 形 敵を殺害する (まれ). 男 [人名, とくに *Daśaratha* の息子 および *Rāma* の末弟の名.]
 śatruṃ-jaya 形 敵を征服する. 男 [人名].

śatruṃ-tapa 形 敵を苦しめる.
 śatruṃ-dama 形 敵を征服する, 敵を服従させる.
 śatrutā 因 敵意, 憎悪. ~m I 敵となる.
 śatrutva 因 [同上] (RV. 因).
 śatru-nandana 形 敵を喜ばせる.
 śatru-nāśa-kṛt 形 敵を滅する.
 śatru-nāśana 形 [同上].
 śatru-nikāya 男 敵の大軍.
 śatru-nibarhaṇa 形 敵を滅する.
 śatru-nirghātana 因 破怨, 除怨 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*
 śatru-nilaya 男 敵の住み家.
 śatru-pakṣa 男 敵方. 形 敵に味方する.
 śatru-bādhana 形 敵を悩ます.
 śatru-bhaṭa 男 [ある Asura の名].
 śatru-madhya 因 怨讎中 *Rāṣṭr.*
 śatru-mardana 形 敵を滅する. 男 [人名]; [ある象の名].
 śatru-rūpa 形 敵の形をとって現われる.
 śatru-vaśa-ga 形 怨勝 *Sūtr.*
 śatru-vigraha 男 敵の侵入.
 śatru-vināśana 男 [*Śiva* 神の称].
 śatru-saṃkaṭa 因 敵による危険.
 śatru-saṃjñā-karaṇa 形 作怨家想 *Sūtr.*
 śatru-sāha 形 敵を防ぐ, 敵に抵抗する.
 śatru-sevin 形 敵を利するまたは敵に仕える.
 śatru-han 形 敵を殺す.
 śatrūya, 名動 (現分 -yat のみ) 敵としてふるまう, 敵意のある (因).
 Śad 1. 強意 śāsād- (因) のみ, 秀でる, 勝つ, 凱旋する.
 Śad 2. 三過 śāsāda, 因 śatsyanti および 過受分 śa-
 nna 落ちる, 離れ落ちる.
 vy-ava- 落ちて粉々になる (Br.).
 pari- 過受分 離れ落ちたまたはその側に落ちた (S.)
 śada 男 離れ落ちること (*parṇa-śada* において, 落葉); (ある国の) 物産 (S.).
 śanakais 男 覆 副 (śanais の 指小) やさしく, 柔軟に, 緩やかに, 静かに, 漸次.
 śani 男 (太陽の息子) 土星 (惑星).
 śani-vāra 男 土曜日.
 śanair-bhāva 男 漸進的なこと: 現分 とともに °— = 漸次に.
 śanais-cara 形 ゆっくり動く. 男 (太陽の息子) 土星 (惑星); 土星, 土大曜, 鎮星 *Divy., Mṛyut., Madhy-v.*
 śanais 男 覆 (ときに繰返される) 副 = śanakais; 漸, 徐々 *Abh-k., Abh-vy., Divy.*: ~r manda mandam *Divy.* 7.
 śaṃ-tanu 形 身体に有益な. 男 [人名]. (RV., Br. 因). → śaṃtanu.
 śaṃtanū-ja 男 *Śaṃtanu* の息子, *Bhīṣma* の 父系
 śaṃ-tama 最上 最も幸福または安寧をもたらす, 物にしみしないまたは喜ばせる (因, P.).
 śaṃ-tāti 形 幸福または安寧をもたらす (因). 因 安寧または健康をもたらす物 (RV.).

śamtātiya ㊦ [RV. VII, 35 の名].
 śantiva ㊦ 平和を好む, 親切的 (AV. 用例一回のみ).
 śanna ㊦ 過受分 → Śad. ㊦ 脱落 (S.).
 śam-no-devi ㊦ [RV. X, 9, 4 (AV. I, 6, 1) の名].
 Śap, I. ㊦ śapati (㊦) を呪う (一般に ㊦); (㊦) を叱る
 ののしるまたは侮辱する (㊦); ㊦ (㊦ は ㊦). (み
 ずからを呪う =) 誓う, 誓いを以って約束する, (㊦)
 …に対して (㊦) によって誓う; ㊦ (誰かに: ㊦, ㊦)
 誓 (懇) 願する (㊦). yadi とともに (若しも…ならば
 みずからを呪う =) …しないと誓う; anṛtam~, 偽
 の誓をする (RV., ㊦); śapatham または śapathān
 ~, 呪いの声を発する; 誓いをする. ㊦ ㊦ śapta
 呪われた; 誓願された (㊦); śapita 呪詛された.
 ㊦ ㊦ śaptavān (彼は) 呪った. ㊦ ㊦ śāpayati
 誓願する, (悪魔を逐い払う) (㊦); (㊦) によって誓
 わせる. ㊦ ㊦ śāpita (㊦) によって誓わせられ
 た; (一°) によって誓願させられた, 懇願させられ
 た; (一°) に責任を負わされた.
 abhi- 呪う. ㊦ ㊦ abhisapta 呪われた, ののし
 られた; 非難された. ㊦ ㊦ abhisāpayati (誰か:
 ㊦) に誓願する.
 sam- (誰かを) 呪う (㊦). ㊦ ㊦ 呪われた.
 śap [現在語幹の接尾辞 a (㊦)].
 śapatha ㊦ 呪い, 呪詛; 宣誓; 試罪法 (㊦).
 śapatha-karaṇa ㊦ 宣誓すること.
 śapatha-pūrvakam ㊦ 誓って.
 śapathottaram (~tha-ut-) ㊦ [同上].
 śapta ㊦ 過受分 → Śap. ㊦ 呪い; 宣誓.
 śapha ㊦ (㊦) 蹄; 8分の1 (牛の割れた蹄から,
 → pāda); 爪 (㊦); (火中から壺をあげるための
 木製の鉤 (Br.)).
 śapha-cyuta ㊦ 蹄によって蹴立てられた (塵埃,
 RV. 用例一回のみ).
 śaphara ㊦ (一° ㊦ ㊦ -ā) 鯉 (の一種) (Cyprinus
 Sophe); 大きな猛魚 (非常に㊦).
 śaphara-rūpa ㊦ 鯉または大魚の形.
 śaphari ㊦ 小魚.
 śaphari ㊦ 魚 (の一種).
 śapharuka ㊦ 小箱.
 śaphavat ㊦ 蹄を有する (RV.).
 śabara ㊦ ㊦ [Deccan 地方のある蛮族の名 (Br., S.)].
 ㊦ Śabara 族の男; 未開人, 蛮人 (㊦ = kirāta,
 pulinda, bhilla). ㊦ [人名]; ㊦ 山行, 山隠
 Mṛyut.
 śabaraka ㊦ 未開人.
 śabara-svāmin ㊦ [Śabarabhāṣya の著者の名].
 śabari ㊦ Śabara 族の婦人.
 śabala ㊦ 斑点のある, ぶちの, 雑色の (㊦, ㊦);
 (一°) と混じった・を具えたまたはで満ちた (㊦);
 ㊦ 雑, 雑色, 虎斑; 駁, 駁色 Abh-ry., Mṛyut.
 ㊦ ㊦ 雑 Ast-pr.
 śabala-cetana ㊦ 心乱れた.
 śabalatā ㊦ 混合.
 śabalatva ㊦ [同上].
 śabalā ㊦ [ある牝牛の名].
 śabalita ㊦ 過受分 ㊦ 雑色の.

śabaliman ㊦ 雑色.

śabali ㊦ (㊦ -i または -is) 豊饒の牛 (㊦).

śabali-Kṛ, 雑色にする.

śabda ㊦ 音; 声, 調子, 音調, 噪音; 語; ㊦: 語
 尾, 接尾辞 (㊦ ㊦); 名前, 名称, 題; (pra-
 māṇa かなわち 知識根拠としての聖言量 ㊦); ㊦
 音, 声, 声塵, 音声, 従声; 名, 言; 聞, 所聞; 法
 Abh-ry., Av-ś., Ast-pr., Bodh-bh., Cat-ś., La-
 nk., Madhy-ribh., Mṛyut., Nyāy-pr., Ratna-
 ut., Saddh-p., Sāṃkhy-k., Śikṣ., Sukh-ry. II.,
 Sūtr., Suv-pr., Vajr-pr., 梵千. ~m Kṛ 音を発す
 る, 声高に叫ぶ. ~ena ㊦ 語によって, 明白に.

śabda-karmaka ㊦ 「音」の意義を有する.

śabda-kalpa-druma ㊦ [Radhakāntadeva による現
 世紀のある百科辞典の題名].

śabda-kāra ㊦ 音を発する.

śabda-kośa ㊦ 言葉の宝庫, 辞書.

śabda-ga ㊦ 音を知覚する; 音を発する.

śabda-gati ㊦ 音楽, 歌曲. ㊦ 音を発する.

śabda-guṇa ㊦ 音声の性質として有する. ㊦ 音声の
 性質; 詩における言語上の美点 (10種を数う).

śabda-gocara ㊦ 言葉の対象.

śabdatva ㊦ 音声であること; ㊦ 声性 Nyāy-pr.

śabda-netr ㊦ (言葉の指導者), [Pāṇini の名] (㊦);

㊦ 出声論, 作声論 Lanik.

śabda-pati ㊦ 名前だけの支配者, 名目上の王.

śabda-pātin ㊦ (目に見えないものをその) 音によっ
 て打ちあてる (㊦).

śabda-brahman ㊦ 語におけるブラフマン, 聖典,
 ヴェーダ; 語ブラフマン; ㊦ 梵音, 音中梵 (声中
 梵) Mṛyut.

śabda-bhāḥ ㊦ (一°) の称号を有する.

śabda-bhid ㊦ 語の曲解.

śabda-bhrt ㊦ …という名だけある.

śabdāmaya ㊦ (㊦ -i) 音声からなる, (一°) という
 語からなる.

śabda-mātra ㊦ 単なる音声.

śabdāya, ㊦ ㊦ śabdāyati 音を発する, 声高に叫
 ぶ; 呼ぶ, 呼び求める; 喋る, ぺちやくちゃ喋る.

㊦ śabdyate 呼ばれるまたは名づけられる. ㊦ ㊦

śabdita 呼び求められた (神格); 名づけられた;

㊦ 報 Divy. ㊦ ㊦ śabdāpayati ㊦ 喚 Divy.

abhi- 論ずる, 挙げて言う; 指示する, 名づける.

㊦ ㊦ abhiśabdita 名づけられた.

saṃ- 叫ぶ; について語る; ㊦ 名 Abh-ry.

śabda-rūpa ㊦ 音声の性質; 特異な音; 語形 (㊦).

śabda-vajra ㊦ ㊦ 金剛声 [菩薩名] Guhy-s.

śabdavat ㊦ 鳴り響く; 音を発する; 音 (の性質) を
 もつ.

śabda-vijñapti ㊦ ㊦ 声 Sūtr.

śabda-vidyā ㊦ 語の学問, 文法; ㊦ 声明 Bodh-
 bh., Sūtr.

śabdavidyopādhyāya (°yā-up°) ㊦ 文法の教師.

śabda-virodha ㊦ (意味ではなく) 言葉の上の矛盾,
 見かけ上の矛盾.

śabda-viṣaya ㊦ ㊦ 声為塵 Sāṃkhy-k.

śabda-vedha 形 = śabdavedhin. 男 目に見えないがその音のみが聞かれるものを射るまたは打ち当てること；**㊦** 中响了 *Mvyut.*

śabda-vedhitva 中 **㊦** 遙聞響声射即懸著 *Lal-v.*

śabda-vedhin 形 (目に見えないものをその)音によって射るまたは打ち当てる。

śabda-śakti 因 言葉の力または意義。

śabda-śāsana 中 文法。

śabdaśāsana-vid 形 文法を知っている。

śabda-śāstra 中 文法；**㊦** 声論 *Lank.*

śabda-śeṣa 形 名(のみ)残っている；(一°)の称号(のみ)残った。

śabda-śravaṇa 中 **㊦** 聞声 *Abh-vy.*

śabda-śleṣa 男 同音異義の表現法。

śabda-śloka 男 **㊦** 歌頌 *Śikṣ.*

śabda-saṃjña 形 (一°)の名を有する。

śabda-saṃjñā 因 文法上の術語。

śabda-sādhana 形 音(のみ)によって(標的を)射る。

śabda-sparsā-rasa 男 **㊦** 音声と感触と味。

śabda-sphoṭa 男 (火が)ぱちぱちと音を立てること。

śabda-svabhāva 男 **㊦** 声自性[菩薩名] *Guhy-s.*

śabda-hīna 中 正式に承認されない語法。

śabdākhyeya (°da-ākḥ°) 采受分 高声に言われ得べき。

śabdāḍambara (°da-ād°) 男 冗漫，大言壮語。

śabdādimat 形 音等(の感官の対象)を有する。

śabdānurūpa 形 音に相応する。

śabdānusāsana 中 語の教え，文法。

śabdānuśiṣṭi 因 言葉の教え，文法上の知識。

śabdānusāra 男 音に従うこと。~eṇa 圓 音の方向に。

śabdāpaya, 名動 (誰かに)呼び掛ける；名づける。**㊦** 呼ばれる；**㊦** 喚，喚取，喚令使来 *Divy., Suv-pr.*

śabdābhivṛtya 男 **㊦** 声頌論 *Nyay-pr.*

śabdāya, 名動 自 śabdāyate 音を発する；叫ぶ，金切声を発する，いなく。

śabdārṇava 男 語の大海，[ある辞書の名]。

śabdārtha 男 音と意味(詞)；音の性質または意味；単語の意味；**㊦** 音義(声義) *Mvyut.*

śabdārtha-garbhavat 形 音と意味とを(実質上)有する。

śabdālamkāra 男 (同一子音反覆等のような)音韻上の修辭法。

śabdita 過受分 → śabdaya. 中 叫び。

Śam, 1. II. 自 śamiṣva, śamidhvam (因), IV. 他 śamyati (因, まれ), 骨折って働く，労する，(とくに祭式において)精励する；準備する。**㊦** 過受分 śasamāna 骨を折って働いている，熱心な，(とくに神事に)いそしむ。**㊦** 過受分 śamita.

Śam, 2. (本来 Śam 1. と同起源) IV. 他 (自は 韻律) śāmyati (-te) 静穩・平穩または平靜である；満足する；なだめられる，和らぐ，やむ，絶滅する；**㊦** 停，安隱滅尽 *Divy., Sutr.* **㊦** 過受分 śānta なだめられた，平静にされた，静穩な，激情から自由な，静かな，動かない，おとなしい；柔弱な，従順な；

(卜占において)吉兆の；消滅させられた；和らいだ，鎮った，除かれた，やんだ，停止した；就寝した；死去した；死に絶えた。~m pāpam (ときとして繰返される)悪が避けられるように=断じて悪のなからんことを！ ~m (単独にも用いる)[同上]；**㊦** dhik pāpam [同上]。~e pitari 父の死後。**㊦** 使役 他 śamayati 鎮める，静穩にする，やわらげる；終える，除く；(火を)消す；うち勝つ，鎮圧する，征服する；破壊する，殺害する；**㊦** 息，息住心，能寂靜，除滅，滅尽，滅除，断，令懺除，抑，折伏，制令不起 *Abh-vy., Lal-v., Madhy-v., Saddh-p., Śikṣ., Sutr., Suv-pr.* **㊦** 過受分 śamita. **㊦** 強意 śamśamiti 完全に消滅させる。

ava- **㊦** 過受分 avasānta 消滅させられた。

upa- 他 (自まれ)静かにまたは平穩になる；消滅する，和らぐ，やむ；**㊦** 息，滅，消除 *Ast-pr., Bodh-c., Sutr.* **㊦** 過受分 upasānta 鎮められた；消滅させられた；和げられた；やんだ。**㊦** 使役 upasamayati 静穩にする，鎮める，和らげる；消滅させる；やませる；**㊦** 息，滅 *Gand-vy.*

abhy-upa- **㊦** 過受分 abhyupasānta 和げられた。

vy-upa- 他 vyupasāmyati (自 -te は 韻律) 静穩になる；和らぐ，やむ；**㊦** 滅，止息；滅住心 *Abh-vy., Bodh-bh., Sutr.* **㊦** 使役 vyupasamayati **㊦** 息滅，除愈，永滅 *Bodh-bh.*

ni- 消滅する。**㊦** 過受分 niśānta 習慣的な，伝統上の。**㊦** 使役 niśamayati 静穩にする；落着かせる；(知覚の意味でとくに 絶 śāmya) 聞く，理解する，知る。

pari- **㊦** 使役 やませる。

pra- 他(自は 韻律) 静穩になる；消滅される；和げられる，やむ；**㊦** 息除，消散；滅，除滅；捨，消除，断静穩 *Saddh-p., Sukh-vy. I., Śikṣ.* **㊦** 過受分 prasānta 静穩になった，平穩な；不注意な(まれ)；(卜占において)吉祥な；消滅した；除かれた；和らいだ，やんだ，終った，消え失せた；休止した；死んだ。**㊦** 使役 prasamayati (ときとして prasamayati) 鎮める，なだめる；消滅させる；やませる，終結させる；破壊する；**㊦** 息，滅，滅除，息滅，殄息，能淹，令休息，令除差，令得差，能治，能息滅。**㊦** 過受分 prasamita やめさせられた；いやされた，鎮められた；滅ぼされた(敵)。

prati- **㊦** 使役 pratisamayati 回復する，もとにかえず，正しい状態に置く；ためて置く，とって置く，(欠を)かくまう，(秘かに)いただく(私教)；**㊦** 収，囑授，付与，各停 *Divy., Vajr-pr.*

saṃ- 完全に静穩になる，消滅される；やむ。**㊦** 過受分 saṃśānta 完全に静寂にされた・絶滅させられたまたは鎮められた；死んだ。**㊦** 使役 saṃśamayati 鎮める；絶滅する；やませる，除く；終らせる，かたをつける；**㊦** 除，息 *Bodh-bh.*

Śam, 3. IX. 自 śamniṣe, śamnithāsのみ，(誰れかを)傷つける(因)。

Śam, 4. X. 他 śamayati. (叙詞は śamayati)。

ni- (...であるまたはであったこと：**㊦**)を知覚する，聞く，学ぶ，知るに至る；**㊦** 聞，見 *Lal-v.,*

Madhy-v., *Saddh-p.*, *Suv-pr.* 不変分 *niśamya*, *niśamayya*, *niśāmya* (寂靜; P.).
abhi-ni- [同上]. 不変分 *abhiniśāmya*.
śam-ni- 聞く, 知るに至る.
śam 5. 不変 吉祥にも (吠). 囧 祝福, 安寧, 繁栄 (囧, 囧 とともに).
śama 1. 形 角のない (牡牛) (RV.).
śama 2. 男 (心の) 平静 または 静穩, 沈着, 寂靜; ...との (*sārdham*) 平和; 冷淡 (まれ); 鎮靜, 平穩, 鎮定, 緩和, 休止, 消滅; 静, 寂, 滅, 定, 涅槃, 寂靜, 寂滅; 禁戒; 制, 息, 息念 *Daś-bh.*, *Divy.*, *Kāśy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Raṣṭr.*, *Ratna-ut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.* ~m Kṛ 平静を示す, 気を落ち着ける, 静穩である.
śama-gir 女 心を落ち着かせることばまたは話.
śama-janman 中 生死与涅槃 *Sūtr.*
śama-pradhāna 形 静穩に対して専心している.
śama-priya 形 樂滅 *Sūtr.*
śama-sāmantaka 中 周圍一肘 *Mṃyut.*
śamatha 男 止; 寂止, 寂滅, 等靜, 消滅, 定心, 禪定, 攝寂靜; 音写 奢摩他, 舍摩他 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mṃyut.*, *Ratna-ut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*
śamatha-jñāna 正 寂靜智 *Sūtr.*
śamatha-nimitta 中 (音写) 止相, 禪定相, 舍摩他相 *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*
śamathanimitta-manaskāra 男 攝相作意 *Sūtr.*
śamatha-pakṣa 男 (音写) 止, 奢摩他分 *Sūtr.*
śamatha-pakṣya 形 止分; (音写) 奢摩他品 *Bodh-bh.*
śamatha-pragrahopekṣā-nimitta 中 止舉捨三相 *Sūtr.*
śamatha-bhāvanā 女 止觀 *Sūtr.*; (音写) 修奢, 奢摩 *Madhy-vibh.*
śamatha-manaskāra 男 (音写) 他作意 *Sūtr.*
śamatha-mātrābhīmāna 男 定慢 *Sūtr.*
śamatha-mārga 男 止道 *Sūtr.*
śamatha-yoga-bhāvanā 女 止觀双修 *Sūtr.*
śamatha-lakṣaṇa 中 止觀相 *Śikṣ.*
śamatha-vipaśyana 中 (音写) 奢摩他毘鉢舍那 *Śikṣ.*
śamatha-vipaśyanā 女 止觀 *Bodh-bh.*
śamathavipaśyanā-vihārin 形 依定慧住 *Divy.*
śamathavipaśyanābhyāsa (°nā-abh°) 男 (音写) 修習奢摩他毘鉢舍那 *Bodh-bh.*
śamatha-vibhāga 男 修習止觀 *Sūtr.*
śamatha-vaipulya-gamana 中 (音写) 增益奢摩他智 *Sūtr.*
śamathaikāgratā (°tha-ek°) 女 (音写) 奢摩他 (心) 一境性 *Śikṣ.*
śamathopasthabdha (°tha-up°) 形 (音写) 奢摩他力之所任持 *Bodh-bh.*
śamana 形 (因 -i) 鎮める, 静穩にする, 緩和する; 破壊する. 中 鎮靜, 緩和; 破壊; 犠牲獣を殺すこと; 除, 除滅, 消除, 遠離; 寂, 能寂, 能止

Madhy-vibh., *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*: *vyādhi* ~ 除病, 消除疾病 *Śikṣ.* 190. 男 [Yama 神の名].
śamaniya 形 和らげられるべき; 和らげる. 中 鎮靜劑.
śama-pratipakṣārtha-yoga 男 寂滅対治, 滅及対治 *Madhy-vibh.*
śama-priya 形 樂滅 *Sūtr.*
śama-buddhi 女 寂靜 *Lank.*
śama-bhāvānta 男 滅有辺 *Sūtr.*
śama-mātrābhīmāna 男 定慢, 因定増上慢 *Sūtr.*
śama-yamanodyama-parāga (°na-ud°) 形 寂靜能耐將意男 *Sūtr.*
śamayitr 男 緩和者; 破壊者, (犠牲獣の) 屠殺者.
śamala 中 汚点, 疵; 欠点, 損傷.
śamala-grhita 形 汚点を帯びた (Br.).
śamavat 形 静穩な; 平和を好む.
śama-śama 形 永遠の寂靜を享受する (*Śiva* 神).
śama-hetu 男 寂滅因 *Lank.*
śamāgāsa [ある他方の名].
śamānga [同上].
śamātmaka (°ma-āt°) 形 静穩を本質とする; 気持の静かな; 安靜 *Buddh-c.*
śamādhāna (°ma-ādh°) 中 定持 *Sūtr.*
śamānusikṣa 形 受持禁戒, 奉持禁戒 *Divy.*
śamānvita 形 静寂に捧げられた.
śamābhirāma 形 樂滅人, 樂寂滅人 *Sūtr.*
śamāya, 1. 名動 中 (祭式に) いそしむ, 努力する (RV. まれ).
śamāya, 2. 名動 他 心の平穩を得ようと努力する (U.); 自 休止させる, 殺す (吠).
śamālā 女 [ある地方の名].
śami 中 努力, 労苦, 仕事 (RV.). 男 [Andhaka の息子の名]; [Uśinaru の息子の名].
śamita 過受分 → Śam 1., 使役 Śam 2.
śamitr 男 1. 犠牲獣を屠殺し・解体し・調理する者 (吠); 屠殺者 (寂靜). 2. 心の平穩を保つもの; 息 (寂靜者), 能柔善, 能止息 *Mṃyut.*
śamin 形 静穩な, 平和的な. 男 [Rājadhīva の息子の名]; [Śūra の息子の名]; [Andhaka の息子の名].
śami 1. 女 努力, 労苦, 労働 (吠).
śami 2. 女 [(その材木から *Araṇī* すなわち鑽木が作られた) ある樹木の名 (*Prosopis Spicigera* または *Mimosa Suma*)]; (音写) 奢弥 (苟杞) 草, 枸杞根 (苦弾) *Suv-pr.*
śami-garbha 形 *Śami* の中に生育するまたは含まれた. 男 [Aśvattha 樹 (*Ficus Religiosa*) の名].
śami-taru 男 *Śami* 樹.
śamimaya 形 (因 -i) *Śami* 材からなるまたは作られた.
śami-latā 女 *Śami* 樹 (囧).
śami-vṛkṣa 男 [同上].
śamaikāyana-mārga (°ma-ek°) 男 寂靜一乘道, 一向趣寂, 決定寂靜 *Lank.*
śamopanyāsa (°ma-up°) 男 和平の提議.
śampāka 男 [ある植物の名 (*Cathartocarpus Fistula*)].

śampā-tāla, śamyātāla の [不確].
 śamba 男 棍棒, Indra 神の武器 (=Vajra 雷; RV. 用例一回のみ).
 śambara 男 [Indra 神によって征服された悪魔の名 (吠園)]; [愛神の敵の名(叙詩, 調)]; 鹿(の類); [ある王の名(異読: śambarāṇa および samvarāṇa)]; [ある奇術師の名(-siddhi のかわりに)]; [薩婆 勝樂 [Indra 神の名] 安勝; 鹿 *Mṛyut.*, 梵雜. 中 魔法 (調)].
 śambarāṇa 男 [ある王の名 (samvarāṇa の [不確]).
 śambara-dāraṇa 男 [愛の神の称].
 śambara-ripu 男 [同上].
 śambara-vṛtra-han 男 [Indra 神の称].
 śambara-siddhi 男 [ある奇術師の名].
 śambara-hatya 中 Śambara の殺害 (吠).
 śambara-han 男 [Indra 神の称].
 śambala 中 旅行用の糧食.
 śambā-Kṛ, 中 二度あるいは両方の方向に耕やす.
 śambin 男 漕手, 船頭 (AV.).
 śambu 男 [人名].
 śambuka 男 [ある Śūdra の名].
 śambūka 男 殻; 蝸牛; [Rāma によって殺害されたある敬虔な Śūdra の名].
 śambhala 男 [ある町の名].
 śambhala-grāma 男 Śambhala 町.
 śambhalagrāmaka 男 [同上].
 śambhali 女 売春を媒介する女, ぜげん.
 śambhaliya 形 ぜげんに屈するまたは関係した.
 śambhu (または -ū) 形 情け深い, 慈善心に富む (吠). 男 (園) [Śiva 神の名]; [Viṣṇu 神の名]; *Brahmā* 神の名]; [Rudra 神の名]; [第十 Manvantara における Indra 神の名]; [Daitya 族の王の名]; [Śuka の息子の名]; [Ambariṣa の息子の名]; [諸々の著者等の名]; [薩婆 樂生 *Mṛyut.*
 śambhu-kāntā 女 [Śiva 神の妃, *Gaurī* 女神の名].
 śambhu-rahasya 中 [ある書物の題名].
 śambhu-varḍhana 男 [人名].
 śambhū 形 =śambhu.
 śamyā 女 棒, 木釘, 釘, 止めくぎ, ある祭式用具 (吠); [薩婆 打籬, 銅鈴 *Mṛyut.*
 śamyā-kṣepa 男 śamyā の投げられる距離.
 śamyā-grāha 男 (おそらく) シンバルを奏するもの.
 śamyā-tāla 男 シンバル (の一種).
 śamyā-nipāta 男 =śamyākṣepa.
 śamyā-parāsa 男 =śamyākṣepa.
 śamyā-pāta 男 [同上].
 śamyā-prāsa 男 =śamyākṣepa; (=Pāli sammā-pāsa) 婆羅門教の祭式の一つ (仏教).
 śaya 形 (一 因 または 因 の義を有する語または時々 因 とともに) 臥している, 眠っている, 休息している; 住んでいる, 出没する. 男 (まれ) 睡眠; 寝台; 手.
 śayatha 男 野獣の穴, 住み家 (RV.).
 śayadhyai 中 不定 Śi (RV.).
 śayana 形 休んでいる, 眠っている (非常にまれ). 中 寝床, 臥床; 横臥, 睡眠, 休息; [薩婆 臥, 臥具, 床臥具; 床, 床櫓, 茵蓐 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-c.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mañj-m.*, *Nyāy-pr.*,

Sam-r., *Śikṣ.*, 梵千.
 śayana-gr̥ha 中 寢室.
 śayana-bhūmi 女 [同上].
 śayana-vāsas 中 寝衣.
 śayana-sakhī 女 (女性にとっての) 女の同食者.
 śayana-stha 形 寝台に入った.
 śayana-sukha 中 薩婆 臥樂 *Bodh-bh.*
 śayanāvāsa (°na-āv°) 男 =śayanagr̥ha.
 śayanāsana (°na-ās°) 中 眠ることと坐ること; 住居, 庵; [薩婆 臥具, 床臥, 床臥具, 床櫓 *Bodh-bh.*, *Mṛyut.*, *Saddh-p.*, 梵雜.
 śayanāsana-gata 形 薩婆 安処臥具 *Bodh-bh.*
 śayanāsana-vastu 中 薩婆 臥具分, 臥具相分 *Mṛyut.*
 śayanāsana-vārika 男 薩婆 管臥具者 *Mṛyut.*
 śayani-Kṛ, 中 臥床に変える.
 śayaniya 形 上に臥するまたは眠るのに適した. 未受分 中 非入 横たわるべきであるまたは眠るべきである. 中 寝台, 臥床.
 śayaniyaka 中 [同上].
 śayaniya-gr̥ha 中 寢室.
 śayaniya-tala 中 寝台 (の表面).
 śayaniya-vāsa 男 寢室.
 śayaniyāśṛta (°ya-ās°) 過受分 寝に就いた.
 śayā 女 [Śi] 臥床 (RV. 用例一回のみ).
 śayāna 現分 [Śi]; [薩婆 臥 *Śikṣ.*; 現睡眠 *Bodh-bh.*
 śayābja 中 蓮に似た手.
 śayālu 形 眠る, 睡眠に耽る.
 śayita 過受分 [Śi]; [薩婆 寝, 睡, 眠 *Lal-v.*, 梵下. 中 誰れかの臥したまたは眠った場所.
 śayitavya 未受分 中 非入 臥すべき, 休むべきまたは眠るべきである. *mayā hutavahe* ~ 私は身を火中に投ずべきである.
 śayu 形 臥する, 休む (RV.). 男 *Aśvin* 双神の被護者の名 (RV.).
 śaye 因 =śete, 中 非入 中 非入 → Śi.
 śayyā 女 [Śi: 上に臥せられるべき] (=Pāli seyya 臥床, 寝台 (普通の意味); 臥すこと, 休息すること 眠ること; [薩婆 臥; 臥具; 鋪, 臥処 *Aṣṭ-pr.* *Bodh-bh.*, *Diry.*, *Prāt-m.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*
 śayyā-gr̥ha 中 寢室.
 śayyā-pāla 男 (王の) 臥床の守護者.
 śayyā-pālaka 男 [同上].
 śayyāpālakatva 中 寢室護衛の職.
 śayyā-prānta-vivartana 中 寝台の一端から他端に向かうこと.
 śayyāvāsa-veśman (°yā-āv°) 中 寢室.
 śayyā-veśman 中 [同上].
 śayyāsana 中 園 臥床と座席; [薩婆 臥具; 床臥 *Mṛyut.*, *Saddh-p.*
 śayyāsana-bhoga 男 園 臥すこと, 坐ることまたはうこと.
 śayyāsana-stha 形 臥床または座席にいる.
 śayyotthāyam (°yā-ut°) 中 起床する時に, 朝早く
 śayyotsaṅga (°yā-ut°) 男 寝床の表面.
 śara 1. 男 吠 園: 芦の一種 (とくに 矢として用い

れる *Saccharum Sara*); 矢; [人名] (RV); [ある Asura の名] (叙詩); 漢訳 箭 *Bodh-bh., Divy., Mañj-m., Rāstr.*

śara 2. 田 水 (まれ); 漢訳 池 *Mañj-m.*

śara 3. 田 乳皮, 乳脂, サワークリーム (まれ).

śara-kuṇḍe-śaya 形 *Sara* 草に覆われた窪地にある.

śara-ketu 男 [人名].

śara-kṣepa 男 矢の射程 (距離).

śara-gulma 男 *Sara* 草の茂み; [ある猿の名].

śara-gocara 男 矢の範囲, 矢の射程距離.

śara-ghāta 男 矢を当てること.

śarac-candra 男 秋月 (pariṇata ~, 秋の満月).

śarac-candrikā 女 秋の月光 (pariṇata ~ 形 女 秋の満月を有する).

śarac-chaśin 男 = śaraccandra.

śarac-chāli 男 秋の米.

śara-janman 男 (芦の間に生じた) [*Kārttikeya* の称].

śara-jāla 田 多数の矢.

śarajālamaya 形 (女 -i) 沢山の矢からなる.

śaraj-jyotsnā 女 秋の月光.

śaraṇa 1. 田 [Śr] 粉碎, 崩潰.

śaraṇa 2. 形 [Śr 3.] 保護する, 防ぐ (吠, 叙詩).

男 (釋) [ある詩人の名]. 田 庇護物, 小屋, 住み家 (吠, 釋); 保護, 避難 (釋): 一°...の許にまたはを求めて避難すること; 漢訳 帰, 依, 帰依, 帰処, 帰趣, 所帰, 帰救, 帰拯, 帰仰, 為物帰; 護, 護保, 衛護; 救, 保護, 救済, 救護; 資随 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lañk., Mvyut., Rāstr., Ratna-ut., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr.,* 梵千., 梵雅.: ~ ṇu tavam upema 我今帰依 *Lal-v.* 267; dharmam ~ ṃ gacchāmi virāgāṇām agryam 帰依達磨離欲中尊 *Mvyut.*; buddham ~ ṃ gacchāmi 帰依仏 *Śikṣ.* 169; teṣāṃ jinānām ~ ṃ vrajāmi 我今帰依諸善逝, 我今頂礼最勝 *Suv-pr.* 27; 層処, 高樓, 屋 *Abh-vy., Av-ś.,* 梵千. ~ ṃ Gam, I または Yā など庇護を求めて (釋)に至る, (釋 まれに(釋)の許に庇護を求める.

śaraṇa-gata 過受分 漢訳 帰 *Abh-vy.*; 求帰依 *Ratna-ut.*

śaraṇa-gati 女 漢訳 帰依 *Sūtr.*

śaraṇa-gamana 田 漢訳 帰 *Abh-vy.*; 帰依 *Lal-v., Sūtr.*

śaraṇa-gamana-viśeṣa-saṃgraha 男 摂勝帰依 *Sūtr.*

śaraṇa-tala 田 漢訳 殿 *Divy.*

śaraṇatā 女 漢訳 帰, 依帰 *Śikṣ.*

śaraṇa-traya 形 漢訳 三宝 *Ratna-ut.*

śaraṇatvānuttarya 田 漢訳 無上帰依 *Sūtr.*

śaraṇa-da 形 庇護を与える.

śaraṇa-prṣṭha 田 漢訳 高楼上 *Divy.*

śaraṇa-pragata 形 漢訳 帰, 帰依勝, 帰依最為第一 *Sūtr.*

śaraṇa-pratipatti-viśeṣaṇa 田 漢訳 行差別 *Sūtr.*

śaraṇa-prada 形 庇護を与える.

śaraṇa-bhūta 形 漢訳 帰依処, 為帰依, 為帰依処 *Gaṇḍ-vy., Ratna-ut.*

śaraṇa-vipravādana 田 漢訳 依帰依誑惑衆生 *Sūtr.*

śaraṇa-vihina 形 漢訳 無救護 *Suv-pr.*

śaraṇāgata (°ṇa-āg°) 形 保護を求めて来た, 庇護を求める; 漢訳 来投 *Rāstr.* 男 避難所を求めるもの, 避難者.

śaraṇāgata-ghātaka 男 庇護を求めて来たものを殺すもの.

śaraṇāgata-hanṭr 形 [同上].

śaraṇārthin 形 避難所または庇護を求める.

śaraṇālaya (°ṇa-āl°) 男 避難所.

śaraṇi-Kṛ, 田 (釋) の庇護を求める.

śaraṇaiṣin (°ṇa-eṣ°) 形 = śaraṇārthin.

śaraṇonmukha (°ṇa-un°) 形 避難所を求める.

śaraṇya 形 (屬, 一°) に庇護・保護または援助を与える; (一° まれ) の許に避難を求める; 漢訳 帰依処, 所帰依; 堪帰, 庇護 *Divy., Mvyut., Ratna-ut., Suv-pr.* → a ~.

sara-talpa 男 矢で (作られた) 臥床, 死の床 (とくに戦死または負傷した将兵について言う).

śaratā 女 矢であること.

śarat-kāla 男 秋季.

śarat-kāṇḍa-gaura 形 漢訳 中秋月 (色), 秋満月座 *Mudhy-v.*

śarat-padma 田 秋の蓮.

śarat-prāvṛṣika 形 秋季と雨季との (rtū: 圃 とともに).

śarat-samaya 男 = śaratkāla.

śaratha-vāsa 男 漢訳 秋間地 *Mvyut.*

śarad 女 秋, 年; 圃 = 幾歳月; 漢訳 秋 *Mudhy-v., Śikṣ., Suv-pr.,*

śara-daṇḍa 男 芦の茎.

śara-daṇḍā 女 [ある河の名].

śarad-abhra 田 漢訳 秋雲, 秋空雲 *Śikṣ.*

śarad-ambudhara 男 秋雲.

śaradā 女 [人名].

śaradi-ja 形 秋に生ずる, 秋の.

śarad-indu 男 秋の月.

śarad-udāsaya 男 (秋以外の季節には酒渴する) 秋の池.

śaradendu (°da-in°) 男 漢訳 秋満月 *Divy.*

śarad-gata 形 秋の, 秋に現われる.

śarad-ghana 男 = śaradambudhara.

śarad-dhima-ruci 男 秋月.

śarad-dhrada (°ad-hr°) 男 → śaradudāsaya.

śaradvat 形 年老いた. 圃 [*Gotama* の息子または後裔の名].

śarad-vadhū 女 女のような秋.

śarad-varṇana 田 (秋の叙述), [*Bhāgavata Purāṇa* の中の一章の名].

śara-dhi 男 矢筒.

śara-nikara 男 雨のように降りそそぐ矢.

śaran-megha 男 秋雲.

śaranmeghavat 圃 秋雲のように.

śara-pañjara 田 = śaratalpa.

śara-pāta 男 = śarakṣepa.

śara-pravega 男 矢が速くとぶこと, 非常に速い矢.

śara-bandha 男 絶えまなく飛ぶ矢.

śara-barhis 罽 葦からなる敷草。
 śara-bha 罽 鹿 (の一種) (因); [伝説的八足獣] (ライオンおよび象の好敵手の; 罽); [人名]; [ある猿の名]; 罽 八足獅 *Mvyut.*
 śarabhatā 罽 [同上の罽].
 śara-bhaṅga 罽 [ある Rṣi の名].
 śarabhānanā (°bha-ān°) 罽 [ある女魔法使いの名].
 śara-bhrṣṭi 罽 葦の先端.
 śara-bheda 罽 矢傷および乳脂の不足 (一語二義).
 śaramaya 罽 (罽 -i) 葦から作られた.
 śara-maricimat 罽 矢を光線として有する.
 śarayu (-ū) → sarayu (-ū).
 śarala → sarala.
 śarava 罽 罽 [ある民族の名] (おそらく śabara の不確).
 śara-vaṇa 罽 葦の茂み.
 śaravaṇa-bhava 罽 (葦の茂みの中に生じた) [*Kārttikeya* の称].
 śaravaṇodbhava (°na-ud°) 罽 [*Kārttikeya* の称].
 śara-vana 罽 (śaravaṇa の不確).
 śara-varṣa 罽 雨のように降りそそぐ矢; 驟雨, 雨 (罽).
 śara-varṣin 罽 雨のように矢を降らす; 水を放出する.
 śara-vāraṇa 罽 楯.
 śara-viddha 罽 矢に貫かれた.
 śara-vega 罽 (矢のように速かな), [ある馬の名].
 śara-vrāta 罽 多数の矢.
 śara-śakti 罽 利刀兼箭 *Suv-pr.*
 śaravya 罽 標的, 目的.
 śaravyatā 罽 [同上の罽].
 śaravya-vyadha 罽 標的を射抜く.
 śaravyaya, 名動 罽 śaravyayati …を目標とする. ati- …に狙いを定める.
 śaravyā 罽 矢の発射 (因).
 śaravyāya, 名動 罽 śaravyāyate 目標をつくる.
 śaravyi-karaṇa 罽 目標を定めること.
 śara-śayana 罽 = śaratalpa.
 śara-śayyā 罽 [同上].
 śaras 罽 [*Śr 1.*] 乳皮, 煮沸した牛乳の上に出る薄皮, 乳脂 (因); 灰の薄層 (S.). → śara 3.
 śara-saṁdhāna 罽 矢を番えること → *bāṇasaṁdhāna*.
 śara-sambādha 罽 矢で覆われた.
 śarasāt-Kṛ, 矢を以って打ち当てる.
 śara-stamba 罽 葦の茂み.
 śarāya, 名動 罽 śarāyate 矢となる または 矢を表わす.
 śarāri 罽 あおさぎ (の一種).
 śarāru 罽 有害な, 危険な.
 śarāva 罽 罽 浅い陶器皿, 皿; 平たい皿覆い; 穀物の量目 (=2 prastha); 罽 盂, 瓦器, 椀器, 応器 *Av-ś., Bodh-bh., Divy., Madhy-v.*
 śarāvaka 罽 罽 (一° 罽 罽 -ikā) 容器 (の一種) または 容器の蓋. 罽 罽 碗 *Mvyut.*
 śarāvikā 罽 ある種のはれ物.
 śarāva-saṁpāta 罽 皿の出現. ~e vṛtte 料理が現

われるのをやめた時に+たわも食事が終わった時に.
 śarāva-saṁputa 罽 椀器 *Mādhy-v.*
 śarāvati 罽 [ある河の名]; [ある町の名]; 罽 片 *Mvyut.*
 śarāvāra (°ra-āv°) 罽 矢筒. 罽 楯 (または甲冑).
 śarāvāraṇa 罽 楯.
 śarāśani 罽 罽 雷電のような矢.
 śarā-śari 罽 矢と矢が相對して.
 śarāsa (°ra-āsa) 罽 弓.
 śarāsana 罽 (矢を放つこと), [*Dhṛtarāstra* の息子名]. 罽 弓.
 śarāsana-jyā 罽 弓の弦.
 śarāsana-dhara 罽 射手.
 śarāsana-vid 罽 弓術に長じた.
 śarāsanin 罽 弓で武装した.
 śarāsāra (°ra-ās°) 罽 雨のように降りそそぐ矢.
 śarāśya 罽 弓.
 śarin 罽 矢を備えた.
 śari-bhāva 罽 成膜, 生膏 *Abh-ry.*
 śarira 罽 (用例一回のみ). 罽 罽: 骨組; 瘦骨 (因); 罽: 身体; 罽: 固体 (罽); (自) 身; 罽 身, 身, 身色; 軀, 体 *Abh-ry., Ast-pr., Av-ś., Bodh-bh., Lanik., Mvyut., Madhy-vibh., Ratna-Saṁkhy-k., Sapt-pr., Śikṣ., Suv-pr., Sūtr.,* 形, 質, 形質; 像, 形像; 相 *Ast-pr., Bodh-bh. Daś-śh., Śikṣ.*; (音写) 舍利, 設利羅 *Ast-pr. Bodh-bh., Lal-v., Saddh-p., Śikṣ., Suv-pr.,*
 śariraka 罽 (一° 罽 罽 -ikā) みじめな非常にい身体; 貧弱な身体; 身体 (罽 *śarira* のに).
 śarira-karṭṛ 罽 父.
 śarira-karṣana 罽 身体の衰弱.
 śarira-kāyika 罽 身衆 (神) *Gaṇḍ-ry.*
 śarirakāyika-devatā 罽 身衆神 *Gaṇḍ-ry.*
 śarira-kṛt 罽 = śarirakarṭṛ.
 śarira-gati 罽 肉体 (自然の要求) の道 (罽); 便利 *Śikṣ.*: ~yā Gam 往便利 *Śikṣ. 348.*
 śarira-grahana 罽 肉身をとること.
 śarira-ja 罽 身体から産出された, 身体に属する体によって遂行された, 身体の. 罽 子孫, 息子の神.
 śarira-janman 罽 [同上].
 śariratā 罽 身体たること; 罽 身 *Bodh-bh.*
 śarira-tulya 罽 身体に等しい, (自分自身の) 身. ようにいとしい.
 śarira-tyāga 罽 身体の放棄, 生命を捨てること
 śariratva 罽 = śariratā.
 śarira-daṇḍa 罽 体刑.
 śarira-deśa 罽 身体の部分.
 śarira-dhātu 罽 身体の主成分 (肉, 血, 罽).
 śarira-dhātuka 罽 身界; (音写) 舍利 *Di*
 śarira-dhṛk 罽 身体を有するもの
 śarira-nāśana 罽 害身 *Saddh-p.*
 śarira-niścaya 罽 (おそらく śariraniścaya の誤).
 śarira-nipāta 罽 身体の衰弱, 倒れ死ぬこと.
 śarira-niścaya 罽 身体に関する確実性.

śarira-nyāsa 男 身体を放棄すること, 死.
 śarira-pakti 女 身体の浄化.
 śarira-pāta 男 身体の衰弱, 死.
 śarira-piḍā 女 肉体的苦痛.
 śarira-pūjā 女 設利羅供養 *Boḥh-bh.*
 śarira-prakāśa 中 梵千.
 śarira-prabhava 男 子をもうけるもの, 父.
 śarira-baddha 形 身体に縛せられた, 化身の.
 śarira-bandha 男 身体の繋縛; (新しい) 身体をうる
 こと, 再生. ~ena 男 肉体的には (消滅する).
 śarira-bhāj 男 身体を有するもの.
 śarira-bhṛt 形 身体を有する.
 śarira-bheda 男 身体の消滅, 死; 捨身 *Sāṃ-
 khy-k.*
 śarira-bhoga 男 財身 *Sūtr.*
 śarirabhoga-lābha 男 身…財 *Sūtr.*
 śarira-yaṣṭi 女 (杖のような身体), きゃしゃな身体,
 ほっそりした容姿.
 śarira-yātrā 女 身体の維持.
 śarira-yoga 男 身体の結合.
 śarirayoga-ja 形 身体の接触から生まれる.
 śarira-rakṣaka 男 守身, 護身者 *Mṛyut.*
 śariravat 形 身体を具備した; 実質的な; 有身,
 身法者 *Laṅk.* 男 身体を有するもの
 śarira-rakṣā 女 身体の防御.
 śarira-ratna 男 宝石のような身体, 優れた身体.
 śarira-vimokṣana 男 身体からの解放, 死.
 śarira-vṛtta 過受分 (自己の) 身体または生命に注意深
 い.
 śarira-vṛtti 女 身体の維持, 生命を支えること.
 śarira-vaikalya 男 身体に加減の悪いこと, 不機嫌,
 病氣.
 śarira-éušrūṣā 女 身体に対する配慮または世話.
 śarira-śoṣana 男 身体を苦しめること.
 śarira-saṃskāra 男 (saṃskāra の儀式による) 身体
 の浄化.
 śarira-saṃghāta 男 (音写) 全身舍利 *Dīṭy.*
 śarira-saṃdhi 男 身体の関節.
 śarira-sāda 男 身体の消耗, 衰弱.
 śarira-stha 形 身体の中に存する.
 śarira-sthiti 女 身体の維持.
 śarirākṛti (°ra-āk°) 女 身振り, 態度.
 śarirānta 男 身体の毛.
 śarirānta-kara 形 身体を終らせるまたは破壊する.
 śarirāntara 男 他の体.
 śarirāntara-cārin 形 他の身体の中で活動する.
 śarirābhiyukta 形 於身生愛恋 *Suv-pr.*
 śarirābhyadhika 形 自分よりもいとしい.
 śarirārdha 男 身体の半分.
 śarirāvayava 男 身体の部分, 身体各部, 肢体.
 śarirāvarana (°ra-āv°) 男 楯.
 śaririn 形 身体を有する, 有形の, 形体を与えられ
 た; (一) を身体として有する. 男 (樹等) 身体を
 授けられた物 (まれ), 具象物, 被造物, とくに人間;
 精神; 諸身, 衆生 *Laṅk.*
 śariri-BHŪ, 男 具象化する, 身体の形をとる.

śariropasthāna (°ra-up°) 男 於身承事 *Śikṣ.*
 śaru 女 まれに 男 飛道具, 投槍, 矢 (因).
 śareṣikā (°ra-iṣ°) 女 葦の茎.
 śaro-grhita 過受分 皮膚または薄皮で覆われた (Br.).
 śaraṣikā (°ra-aṣ°) 女 = śareṣikā.
 śaraugha (°ra-ogh°) 男 驟雨のように降りそぐ矢
 (因).
 śarkara 形 砂の (Br., S., まれ). 男 砂利, 小石 (ま
 れ); 砂, 砂礫; 粉砂糖 (叙詩 韻律 -ā の代り, ま
 れ); 礫, 石, 鉞, 瓦礫; 塵土 *Boḥh-bh., Lal-
 v., Laṅk., Saddh-p.*; (音写) 沙, 礫沙 *Boḥh-bh.,
 Ratna-ut.*
 śarkara-kāṭhalya 男 瓦礫 *Suvik.*
 śarkara-madhu 男 石蜜 *Laṅk.*
 śarkara-varṣin 形 小石を雨降らす.
 śarkarā 女 (因) 砂利 (因, 圍); 粉砂糖 (圍); 砂
 砂, 糖, 石蜜, 糖蜜 *Dīṭy., Lal-v., Mṛyut.*
 śarkarā-karṣin 形 砂を運ぶ.
 śarkarāvartā (°rā-āv°) 女 [ある河の名].
 śarkarā-varṣin 形 = śarkaravarṣin.
 śarkarāla 形 粗い砂を含んだ (風).
 śarkarāsava (°rā-ās°) 男 砂糖から精製した酒, ラム
 酒.
 śarkarila 形 砂の, 礫の.
 śarkari-Kṛ, 小石に変ずる.
 śarkalā 女 瓦 *Lal-v.*
 śardha 1. 形 [Śrdh] 反抗する, 大胆な (RV.).
 śardha 2. 男 群 (とくに *Marut* 神群; RV.).
 śardhat 因 現分 [Śrdh] 大胆な, 反抗する, 嘲笑的
 な.
 śardhana 男 放屁.
 śarma-kṛt 形 幸福にする.
 śarman 男 [Śr 3.] 避難所, 保護 (因); 庇護, 安全
 (圍, まれ); 快樂, 愉快, 幸福, 至福 (圍); [しばしば
 婆羅門の名の終りに用いられる (Kṣatriya には
 varman が用いられるように)]; 樂 *Buddh-c.*
 śarmaya, 名動 現分 śarmayat のみ, 保護する (RV.
 用例一回のみ).
 śarmavat 形 śarman (という語) を含む (名前).
 śarmin 形 幸福を有する, 幸福な.
 śarmiṣṭhā 女 (śarman の 最上) [*Vṛṣaparvan* の娘
 であり *Yayati* の妻の名].
 śarmopāya (°ma-up°) 男 幸福を得る方法.
 śarya 男 [śara から] 矢 (RV.).
 śaryānāvāt 男 [ソーマ草の名産地の名 (RV.)].
 śaryā 女 = śarya (RV.).
 śaryāta 男 [ある Ṛṣi の名].
 śaryāti 男 [*Manu Vaivasvata* の息子であるある王
 の名].
 śarva 男 [śaru から] [矢で殺すある神の名, *Bhava*
 および *Rudra-Śiva* 神の他の名と一緒に挙げられる
 (因)]; [*Śiva* 神の名 (圍)]; 作害 *Mṛyut.*
 śarvata 男 [人名].
 śarva-datta 男 [ある師の名].
 śarva-patni 女 *Śarvā* 神の妃, *Parvati* 女神.
 śarva-parvata 男 *Śiva* 神の山, *Kailasa* 山.

śarvaparvata-vāsini 因 [Durgā 女神の称].
 śarvari 因 Marut ; 星の輝く夜 (Br. ではまれ, 因
 では普通).
 śarvarīśa (°ri-īśa) 男 夜の王, 月.
 śarva-varman 男 [人名].
 śarvācala 男 Śiva 神の山, Kailāsa 山.
 śarvāni 因 Śiva 神の妃.
 śarvilaka 男 [人名].
 Śal, I. 因 śalati (前接辞とともにのみ用いられる).
 uc-, ucchalati (定動詞, きわめてまれ) 起きる. 現分
 ucchalat 跳び上る, 昇る. 過受分 ucchalita 跳
 び上った, 昇った, 起きた.
 pra-uc-, 現分 procchalat 跳び上る, (血が) 噴出す
 る.
 śala 男 棒 (因まれ). 男 または 因 (?) やまあらしの
 針, 一° 数詞とともにのみ (因).
 śala-bha 男 きりぎりす, いなご; または夜蛾; 因
 蝨 Sūtr.
 śalabhatā 因 [同上の因].
 śalabhatva 因 [同上].
 śalabhāya, 名動 因 いなごのように行動する, 無謀
 に火中に跳び込む (= 確実な死).
 śalala 因 やまあらしの針; また野猪の剛毛 (?)
 śalalita 過受分 針を有する.
 śalali 因 = śalala (髪を分ける儀式および眼膏をつけ
 るのに用いられる (因)).
 śalāka 男 (きわめてまれ), -ākā 因 小杖, 細い棒, む
 ち, (檻または窓の) 横木, (傘の) 骨, (眼膏をつける
 ための) 細い棒; 指, 足指 (まれ); 刺し通すための尖
 った道具, やじり, 針; 因 匙子, 箸, 棒, 櫛, 支,
 枝, 簪 Divy., Mvyut., Saddh-p., 梵千.
 śalāka-dhūrta 男 (śalākā を使うことによってだま
 す人) 捕鳥者.
 śalākāvṛtti (°kā-āv°) 因 特殊な飢饉 Divy.
 śalātu 男 因 未熟な果実. 因 未熟な (果実; まれ).
 śalātura, [Pāṇini の出生地の名].
 śalka 男 因 細片, 削り屑 (因); うろこ (因).
 śalkalin 因 うろこを有する, うろこ状の.
 śalki, kalki の 不確.
 śalpa(-ka), śalya(-ka) の 不確.
 śalmali 男 [ある樹木の名, Salmalia Malabarica
 (因)].
 śalmali 因 [同上].
 śalya 男 因 矢または槍の尖端; とげ, 刺すもの, 投
 槍 (因); 因 矢, 箭, 毒箭, 箭鏃, 刺 Abh-vy.,
 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Madhy-
 v., Raṣṭr., Śikṣ.; 逼迫 (性) Śikṣ. 男 [Yudhiṣ-
 ṭhira の叔父, ある Madra 王の名]; [ある王の名].
 因 śaitya の 不確.
 śalyaka 男 やまあらし; うろこのある魚 (まれ).
 śalya-kartana 男 因 [ある場所の名].
 śalya-kartṛ 男 矢を作るもの; = śalyakartṛ.
 śalya-kartṛ 男 外科医.
 śalya-kṛnta 男 [同上].
 śalya-parigata 因 因 箭入心 Aṣṭ-pr.
 śalya-pīḍita 過受分 矢またはとげで傷つけられた.

śalya-prota (°ra-uta) 因 矢で貫かれた.
 śalya-bhūta 因 とげまたは刺すもの (因) である.
 śalyavat 因 矢を持っている, 矢じりが突きささった
 (鹿); 矢じりを所有している (= 矢で殺した動物を
 所有している).
 śalya-vaśa 男 因 憂戚 Śikṣ.
 śalya-viddha 因 因 中 (毒) 箭, 箭入 Aṣṭ-pr.; 穿
 孔床 Lank.
 śalya-hartṛ 男 外科医; 因 拔 (毒) 箭 Śikṣ.
 śalya-hṛt 男 [同上].
 śalyita 過受分 矢を以って貫かれたような.
 śallaka 男 (śalyaka の代りに) やまあらし.
 śallakī 因 [同上], 香木 (Boswellia Thurifera).
 śallakiya 男 香.
 Śav, → Śū 2.
 śava 男 因 [Śū 2.] 死骸; 因 死尸, 死屍 Divy.,
 Lank.
 śava-karman 因 埋葬.
 śava-dhara 因 死骸を運ぶ.
 śava-pannaga 男 死んだ蛇.
 śava-bhūta 因 死骸となった または 死骸のような;
 因 死屍 Lank.
 śava-mandira 因 墓地.
 śava-rūpa 因 動物の一種 (S.).
 śava-vāha 男 死骸を運搬する人.
 śavavāhaka 男 [同上].
 śava-viśa 因 死骸の毒.
 śava-śatamaya 因 (因 -i) 百の死骸で覆われた.
 śava-śayana 因 墓地 (蓮華註); 因 塚墳 Śikṣ.
 śava-śibikā 因 棺架.
 śava-śiras 因 頭蓋.
 śavara, °la, → śabara, °la.
 śavas 因 [Śū 1.] 力, 剛勇, 勇気 (因; 時として 因).
 ~ā 因 猛烈に.
 śavasāna 因 非常に強力な (因).
 śavasīn 因 [同上] (RV.).
 śava-sprś 因 死骸に触れた (従って不浄な).
 śavāgni 男 火葬の火 (Br.).
 śavānna 因 葬式の食物 (Br., S.).
 śaviṣṭha 最上 [Śū 1.] 最も強大なまたは勇ましい (因).
 śavira 因 強力な (RV.).
 śavya 因 火葬, 葬式.
 Śaś, I. 因 śaśati, 跳ぶ, 躍る (きわめてまれ).
 uc-(chaś)- から跳び上る; 放棄する. 過受分 uccha-
 śita から跳び上った, 放棄された (きわめてまれ).
 śāsa 男 (かもしか同様, 月の中の斑点が似ていると
 想像される) 野兔, 飼い兔; 因 兔, 兔毫 Abh-k.
 Lank., Mvyut., Raṣṭr., 梵千.
 śāsaka 男 (小) 兔 (因).
 śāsaka-rajasa 因 因 兔毛. 兔上塵 Divy.
 śāsaka-viśāṇa 因 = śaśaviśāṇa.
 śāsaka-śiśu 男 野兔の子.
 śāsakādhama 男 憐れな小兔.
 śāsa-dhara 男 (兔のしるしを持っている) 月.
 śāsa-pada 因 野兔の足跡 (容易に越えられる).
 śāsa-bindu 男 月; ある王の名 (Citratha の息子; 因)

その後裔).

śāśa-bhṛt 男 (兎を持っている), 月.
 śāśaya 形 止むことのない, 尽きない (RV.).
 śāśa-rajas 中 (兎の上の塵), 長さまたは容量のある単位; 𑖦𑖧 兎毛塵 *Mṛyut*.
 śāśa-roma 中 (兎の毛) 𑖦𑖧 兎角 *Laṅk*.
 śāśa-lakṣaṇa 男 (兎のしるしを持っている), 月.
 śāśa-lakṣmaṇa, śāśa-lakṣaṇa の 不確.
 śāśa-lakṣman 中 (月の中の) 兎のしるし. 男 (兎のしるしを持っている), 月.
 śāśa-lāñchana 男 [同上]; 樟腦.
 śāśa-vāgura 男 𑖦𑖧 箭 *Mṛyut*.
 śāśa-viṣāṇa 中 兎の角 (不可能なことを表わす語); 𑖦𑖧 兎角 *Laṅk*.
 śāśa-śṛṅga 中 [同上]; 𑖦𑖧 兎角 *Laṅk*.
 śāśāṅka 男 (兎のしるしを持った), 月; [ある王の名]; 𑖦𑖧 月 *Bodh-c., Rāṣṭr., Ratna-ut*.
 śāśāṅka-kiraṇa-prakhyā 形 月光に似た.
 śāśāṅka-kula 中 月種族.
 śāśāṅkakula-bhūṣaṇa 中 月種族の飾りまたは誇り.
 śāśāṅka-pura 中 [ある町の名].
 śāśāṅka-mukuta 男 (月を王冠とする), [*Śiva* 神の名].
 śāśāṅka-lekhā 女 細い月, 弦月.
 śāśāṅkavati 女 [ある王女の名 (*Kathāsaritsāgara* の第十二 *Lambaka* は彼女に因んで名づけられている)].
 śāśāṅka-vadanā 女 月のような顔をした女.
 śāśāṅka-śekhara 男 [*Śiva* 神の名].
 śāśāṅkārdha 男 半月.
 śāśāṅkārdha-mukha 形 半月状の頭を有する (矢).
 śāśāṅkārdha-śekhara 男 [*Śiva* 神の称].
 śāśāṅkita 形 兎の印を有する (月).
 śāśi-kalā 女 細い月, 三日月; 月; [人名].
 śāśikalābharāṇa (°lā-ābh°) 男 [*Śiva* 神の称].
 śāśi-khaṇḍa 男 または 中 弦月. 男 [ある *Vidyādhara* の名].
 śāśikhaṇḍa-pada 男 [ある *Vidyādhara* の名].
 śāśi-ja 男 月の息子, 水星.
 śāśi-tejas 男 [ある *Vidyādhara* の名].
 śāśi-divākara 男 中 月と太陽.
 śāśin 男 (兎を有する), 月; [人名]; 𑖦𑖧 月 *Lal-v.*; 懐兎 *Nyay-pr*.
 śāśi-putra 男 月の息子, 水星.
 śāśi-prabha 形 月のように輝いている.
 śāśi-prabhā 女 [ある女の名].
 śāśi-bhṛt 男 月を持っているもの, [*Śiva* 神の称].
 śāśi-maṇi 男 月長石.
 śāśi-maṇḍala 中 月の平面, 月輪
 śāśimaya 形 月からなるまたはに関連した.
 śāśi-mukha 形 月のような顔をした; 𑖦𑖧 月面 *Gaṇḍ-ry*.
 śāśi-mukhi 女 月のような顔をした女.
 śāśi-mauli 男 (月を王冠とする), [*Śiva* 神の称].
 śāśi-rekhā 女 (月の光線), [ある女の名].
 śāśi-lekhā 女 三日月; [ある *Apsaras* の名; 人名].

śāśi-vamśa 男 月種族.

śāśivamśa-ja 形 月種族出身の.

śāśi-vimala 形 月のように穢れのない (+ *giri Kailāsa* 山).

śāśi-śaṅkha-pāṇḍarābhā 女 𑖦𑖧 白如珂月 *Saddh-p*.

śāśi-śikhā-maṇi 男 (月を王冠とする), [*Śiva* 神の称].

śāśi-śekhara 男 [同上].

śāśi-saṃnibha 形 = śāśiprabha.

śāśiyas 形 (śāśvat の 比較) より数多い, より頻繁な (RV.).

śāśīśa (°śi-īśa) 男 [*Śiva* 神の称].

śāśīśa-śīśu 男 *Śiva* 神の息子, [*Skanda* の名].

śāśvat 形 (女 -i) 常に繰返される, 無数の, 永遠の, 無終の (RV.); 頻繁な, 数多い (RV.); 一切の, すべての (因). 中 副 繰返して, 永遠に, 常に, 不断に (因, 華); 直ちに, 即刻 (Br. は一般に ha とともに; 華はまれ); もっともである, 確かに (Br.). śāśvat—śāśvat……するや否や直ちに (Br., まれ).

śāśvattama 最上 非常に頻繁な, 永遠の (RV.). ~m 副 無数の回数の後再び, もう一度 (RV.).

śāśvadhā 副 再三再四, 永遠に (RV., 用例一回のみ).

śāśkuli (または -i) 女 聴道, 耳の孔; 練り粉製の食品 (の一種).

śāśpa 中 若草, 発芽した稲等; 草. 中 (?) 冷静さを失うこと.

śāśpa-tulya 形 若草に似た.

śāśpa-hṛsi 女 *Kuśa* 草で作られた敷物.

śāśpa-bhuj 男 草を食うもの, 草食の動物.

śāśpa-bhojana 男 [同上].

śāśpāda (°pa-āda) 形 草食の.

śāśpi-Kṛ, 草に変える, 緑に色どる.

Śas, I. śasati (Br., S., 華), II. 中 śasti (RV., 用例二回のみ), śasti (VS., Br., S.) 切る, 殺す, 屠殺する。過受分 śasta 切り倒された (まれ).

api- (女 從 apisasas とし) 切り裂くこと.

vi- 寸断する, 犠牲獣を解体する, 殺戮する (因,

華); 𑖦𑖧 殺害 *Laṅk*. 中 副 visasyate 𑖦𑖧 剪割 *Sikṣ*.

śasana 中 屠殺 (RV., 用例二回のみ).

śasā 女 指示 (RV., 用例一回のみ).

śasta 1. 過受分 → Śams. 中 称讚 2. 過受分 切り裂かれた, → Śas. 3. 過受分 罰せられた (叙詩, まれ), → Śās. 4. 中 帯 (の一種).

śasti 女 [*Śams*] 称讚 (RV., 用例三回).

śastr 男 (犠牲獣を) 解体する者 (因).

śāstra 1. 中 [*Śams*] 祈願, 讚誦 (ソーマ祭において *Udgātr* 祭官の *stotra* (歌詠) に呼応して *Hotṛ* およびその助手によって行われる; Br., S.); 誦誦 (Br., S., まれ).

śāstra 2. 中 [切断の道具: Śas] 小刀, 短剣, 武器; 華: 矢 (まれ); 剣=戦い; 𑖦𑖧 刀, 刀子, 刀剣, 刀杖, 刀杖; 刀兵; 仗, 杖, 刃, 戎; 斤斧, 牟契; 器, 器仗, 器械, 手器, 手器械, 兵器, 兵戈, 兵仗; 箭 *Abh-ry., Aṣṭ-pr., Av-ś., Bodh-bh. Bodh-c., Divy., Kaśy., Laṅk., Mṛyut., Saddh-p., Sut-pr., Sūtr.,* 梵千.

śastraka 形 刀, 小刀, 刀兵 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*; 鉄 *Abh-vy.*
 śastra-karma-kṛt 男 外科医.
 śastra-karman 中 外科手術.
 śastra-kali 男 剣を以っての決闘.
 śastra-kopa 男 剣の荒れ狂いまたは戦い.
 śastra-kheṭa (?) 男 中 鉄槍 梵千.
 śastra-graha 男 剣を執ること, 戦闘.
 śastra-grāhaka 形 武器を携帯する, 武装した.
 śastra-grāhavat 形 海の怪物を武器として有する (河).
 śastra-grāhin 形 武器を執った, 武装した. 男 武装した男.
 śastra-ghāta 男 剣の一撃.
 śastra-devatā 女 戦争の女神 (種のみ).
 śastra-dhāraṇa 中 剣を携帯すること.
 śastra-nitya 形 常に武装を整えている.
 śastra-nidhana 形 剣によって死ぬ.
 śasṛta-niryāna 形 [同上].
 śastra-nyāsa 男 武器の放棄, 戦争をやめること.
 śastra-pāṇi 形 剣を手にした; 捉小刀, 執持兵杖刀刃, 捉刀人, 手執器械 *Mvyut.*, *Prāt-m.*, *Saddh-p.* 男 武装した戦士.
 śastra-pāṇin 形 [同上] (韻律).
 śastra-pāta 男 小刀による切目.
 śastra-pūta 形 (武器によって清められた), 戦死することによって罪が許された.
 śastra-prahāra 男 刀傷.
 śastra-bhṛt 形 武器を携帯した, 武装した. 男 戦士.
 śastramaya 形 (女 -i) 武器からなるまたは形成された (雨).
 śastravat 形 剣を以って武装した.
 śastra-vikrayin 男 武器商.
 śastra-vidvas 三過分 武器 (の操作) に通じた.
 śastra-vihita 過受分 剣に悩まされた.
 śastra-vṛtti 形 剣によって生活する, 武器を扱う職業に従事する.
 śastra-vyavahāra 男 武器を用いること.
 śastra-vraṇa-maya 形 (女 -i) 武器による傷からなる.
 śastra-śāstra 中 軍事学.
 śastra-śikṣā 女 剣を扱う手腕.
 śastra-śikhin 男 種 炎 (に比せられる) 武器.
 śastra-sampāta 男 種 飛道具の発射, 戦闘.
 śastra-samkṣobha 男 刀剣乱, 刀兵起 *Lank.*
 śastra-hata 形 剣によって殺された.
 śastrājiva (°ra-āj°) 形 (女 -i) 剣によって生活する. 男 戦士.
 śastrānta 形 剣によって死ぬ.
 śastrādāna (°ra-ād°) 中 執持刀剣 *Bodh-bh.*
 śastrāntara-kalpa 男 干劫 (刀兵中間却), 刀兵却, 刀兵中却, 刀兵内却, 却中有刀兵 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*
 śastrāyudha (ra-āy°) 形 剣を武器として用いる, 武器を扱う職業に従事する.
 śastrāvapāta 男 武器による傷.
 śastrā-śastri 中 剣と剣と相對して.

śastrāstra-bhṛt 形 剣と飛道具とを携えている.
 śastrāstrabhṛttva 中 軍務の遂行.
 śastrikā 女 刀, 短剣.
 śastri 女 [同上].
 śastri-syāma 形 小刀の刃のように青味を帯びた.
 śastrin 形 1. Śastraを唱誦する. 2. 剣で武装した
 śastropajivin (°ra-up°) 男 職業軍人.
 śasman 中 [Śams] 祈願, 称讚 (RV., 用例一回のみ).
 śasya 1. 未受分 [Śams] Śastra として唱誦されるべき (Br.); 称讚せらるべき (羣).
 śasya 2. 未受分 [Śas] 切られるべき, 殺されるべき 中 穀物, 穀粒.
 śasya, sasya の 不確. 中 苗, 苗稼; 穀, 穀類 *Bodh-c.*, *Diry.*, *Śikṣ.*
 śasyaka 中 粉 (=cūrṇa); (sasyaka の異読).
 śasya-sampatti 女 五穀成熟 *Diry.*
 Śā 1. III. (RV.) śisāti, śisite (三人 諭 śisihi および śādhi), 与える, 贈与する; (男) を贈呈するまたはもてなす. 過受分 śita.
 ā- (因) にあずからせるまたはを享受させる.
 ni- 贈呈する, 差し出す; もてなす; まき散らす, 拡げる.
 Śā 2. III. śisāti, śisite (因), IV. 廻 śyati (羣, きめてまれ). 現分 śyāna (S., きわめてまれ) 鋭くする, 自己の (武器等) を鋭くする. 過受分 śāta (因) くされた, 鋭い; 薄い. 過受分 śita (RV., 羣) 鋭された, 鋭い.
 ni- 鋭くする, 固 自分の為に鋭くする. 過受 nisāta, (羣) 鋭い; 薄い; nisita に鋭い (羣); (因) に鋭敏な, を熱望して.
 niḥ- 現分 niḥsyāna 自己の (剣) を鋭くする (Br. sam- 因 鋭くする, 固 自己の (武器等) を鋭くする; 燃え立たせる, 刺激する, (因) のために準備する. 過受分 samśita 鋭くされた (Br.); 鋭 (言葉; 叙詩); (人に関して) 用意が出来ている, 決した, (因) を決心した (因, 羣); (ものに関して) 備された, 装備された (因); 固守された, 厳格 (誓い等; 羣).
 śāmvatya 男 [śāmvat から] [ある師の名].
 śāmsapa 形 Śāmsapā (大きく美しい樹 *Dalbergia Sissoo*) に由来するまたはから作られた.
 śāmsapāyana 男 [ある古師の名].
 śāka 1. [Śak 2.] (RV.) 形 援助する. 男 能力, 援助者.
 śāka 2. 中 煮て食べる野菜, 野菜; 菜食; *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, 梵維, 梵千. 男 [ある樹木 (*Tectaria Grandis*) の名]; [ある *Dutpa* の名].
 śāka 3. 形 インド・スキティア人 (Śāka 族) またはその王侯に関する. 男 中 (+ śāmvatsara) シカ紀元 (西紀 78 に始まる) の年.
 śāka-kāla 男 シヤカ (Śāka) 紀元.
 śākatāyana (śakata から) 男 *Yaska* および *Paṇini* によって引用された古代の文法家の 因系
 śākatika (śakata より) 形 荷馬車に属するまたは荷馬車に乗って行く. 男 荷馬車の御者.
 śāka-dikṣā 女 種 野菜のみを採取すること.

śāka-pattra 甲 チークの木の葉；(おそらく=pattra-śāka) 葉からなる野菜；**■** 菜葉 *Bodh-bh.*
 śāka-pārthiva 男 野菜(を愛する)王(madhyama-pada-lopin **☐**成)の文法上の常套的な例).
 śāka-piṇḍi 女 野菜の団子.
 śākapūni (śākapūni から) 男 [Yaska 等によって挙げられた古代の文法家の **☐**系].
 śāka-bhakṣa 形 菜食の.
 śāka-bhakṣatā 女 菜食主義.
 śāka-rasa 男 (食用の)野菜の汁.
 śāka-rasi-Kṛ, 野菜の汁に変える.
 śākala 形 Śākala 派または Śākalya 派に関する・属するまたは由来する. 男 **☐**(=śākala) 細片, 断片 (Br., S.). 男 **☐** Śākalya の徒または学派；[蛇の一種 (Br.)]. 甲 Śākalya 派のテキスト・便覧・儀式等；[Madra におけるある町の名]；**■** **☐**音写 沙柯羅, 舍伽羅 *Divy.*
 śākala-homa 男 供儀の一種.
 śākala-homiya 形 Śākalahoma に属するまたは関係している.
 śākalya (śākala から) 男 [有名なヴェーダの学匠の **☐**系 (Rg-veda の Pada テキストの制作は彼に帰せられる)].
 śāka-vāṭa 男 菜園.
 śāka-vāṭaka 男 [同上].
 śāka-vāṭikā 女 [同上].
 śākāri, -ikā 女 (+bhāṣā) s および s を ś と発音する方言. → śākāra.
 śākāśana 形 野菜を食べるまたは常食とする.
 śākāhara (ka-āh°) 形 [同上].
 śākin 形 強大な, 救助する, 助けとなる (因).
 śākina 男 [同上 (RV., 用例一回のみ)].
 śākini 女 女の悪霊 (の一種).
 śākinitva 甲 Śākini であること.
 śākuna 形 (女 -i) 鳥 (śākuna) に属する・関するまたは由来する. 男 捕鳥者. 甲 占い.
 śākunika 男 捕鳥者；漁夫 (U., まれ)；**■** 捕禽者 *Mṛyut.*
 śākuni-kaurabhṛaka **■** 彼殺生者 *Lank.*
 śākuneya 形 Śākuni によって作られたまたは書かれた. 男 [ある聖者の名]；[Vṛka という Asura の **☐**系].
 śākuntala 男 Śākuntala の息子, Bharata の **☐**系. 甲 Śākuntala の物語；[Kalidasa 作の *Abhijñānaśākuntala*].
 śākta 形 Śiva 神の性力 (śakti) に属する・関係するまたは由来する. 男 師匠 (RV., 用例一回のみ)；Śiva 神の性力 (śakti) の崇拝者 (因).
 śāktika 男 [śakti から] 槍で戦う兵士.
 śāktya 男 (śakti から) 性力 (śakti) の崇拝者；*Gauriviti* の **☐**系；[二つの Sāman の名].
 śākman 甲 能力 (RV., 用例一回のみ).
 śākya 男 (śāka からの **☐**系) [*Kapilavastu* の王族の名, (その祖先は太陽より出で, 仏陀はその種族から生まれた)]；**■** **☐**音写 釈迦 *Abh-vy.*；(音写) 釈種, 釈迦種 *Lal-v., Lank., Saddh-p.*

śākya-kula 甲 **■** (音写) 釈氏 *Lal-v.*
 śākyakula-kulina 形 **■** 我種姓中 *Lank.*
 śākya-tanaya 甲 **■** (音写) 釈種 *Lank.*
 śākya-nāyaka 男 **■** (音写) 釈迦, 我釈迦 *Lank.*
 śākya-pāla 男 [ある王の名].
 śākya-puṅgava 男 **■** (音写) 釈師子, 大釈子(釈種中最勝者), 釈子尊, 最勝釈迦, 釈迦無上尊 *Gand-vy., Mṛyut.*
 śākya-putra 男 **■** 釈子, 沙門釈子 *Lank.*
 śākya-putriya 男 仏教の僧；**■** (音写) 釈門, 釈迦弟子 *Abh-vy.*
 śākyaputriyatva 甲 **■** 沙門釈子 *Lank.*
 śākya-bhikṣu 男 仏教の乞食僧.
 śākya-bhikṣuka 男 [同上].
 śākya-bhikṣuki 女 仏教の尼僧.
 śākya-muni 男 釈迦族の苦行者, [仏陀の名]；**■** (音写) 釈迦, 釈迦文, 釈迦牟尼, 釈迦如来 *Aṣṭ-pr., Mṛyut., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sukh-vy. II., Suv-pr.*；能寂, 釈迦寂靜, 能仁寂默 (能寂默) *Aṣṭ-pr., Mṛyut., Sukh-vy. II., Suv-pr.*
 śākyarṣabha (°ya-rṣ) 男 **■** 釈迦 *Sam-r.*
 śākya-vaṃśa 男 **■** (音写) 釈種, 釈迦種 *Lank.*
 śākya-varḍha 男 **■** (音写) 釈迦跋陀那 *Divy.*
 śākya-śāsana 甲 仏陀の教説または教え.
 śākya-simha 男 釈迦族の獅子, [仏陀の名]；**■** (音写) 釈師子, 釈迦師子, 釈種師子 *Lank., Mṛyut., Saddh-p., Sam-r.*
 śākra 形 (女 -i) *Indra* 神に関する・属するまたは捧げられた.
 śākri 女 [*Durgā* 女神の称]；[=*Indrāni*].
 śākriya 形 [同上]；+diś 女 東.
 śākvara 形 強大な (因)；Sāman Śākvara に属する等 (因). 男 馱牛. 牡牛 (因). 甲 [祭式の一種 (S.)]；[[*Śākvari* 詩節に基づく]六種の主要な Sāman の中の一つの名].
 śākha 男 *Skanda* 神の顕現 (彼の息子とみなされる)；**■** 枝 *Lank.*
 śākhā 女 (一 **☐** -ā, -i) 枝 (因, 因)；最端, 手足, 腕 (因, まれ)；指 (因, きわめてまれ)；種, 細別 (因, まれ)；*Veda* の支派, *Veda* の学派 (因)；**■** 枝, 枝葉, 樹枝；条, 梢 *Av-ś., Bodh-c., Divy., Gand-vy., Madhy-v., Mṛyut., Raṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr.*
 śākhāṅga (°khā-an°) 甲 手足.
 śākhāda (°khā-āda) 形 枝を食う. 男 枝を食うもの (山羊または象のような動物).
 śākhā-nagara 甲 郊外.
 śākhānta-ga (°khā-an°) 形 *Veda* の一学派の極意に達した.
 śākhāntara (°khā-an°) 甲 他の *Veda* 学派.
 śākhāntariya (°khā-an°) 形 他の *Veda* 学派に属する.
 śākhā-grāhikayā 男 **☐** 枝に引っかかって.
 śākhā-pāśu 男 (犠牲柱の代わりに) 枝に (繋がられた) 犠牲獣.
 śākhā-puṣpa-palāśavat 形 枝と花と葉とを有する.

śākhā-prakṛti 因 園 (戦時考慮されるべき八人の) 二次的な王 (mūla-prakṛti の 因).

śākhā-bāhu 男 枝のように (細い) 腕.

śākhā-bhṛt 男 樹.

śākhāmaya 形 (因 -i) (一) の枝からなる.

śākhā-mṛga 男 (枝の動物), 猿.

śākhā-rathyā 女 支路または脇道.

śākhā-vāṭikā 女 菜園, 草園 *Mvyut.*

śākhā-vilina 形 枝にとまった (鳥).

śākhā-stha 形 (木の) 枝の上に (つ) またはある.

śākhin 形 (園) 枝を備えた; 学派に分れた (*Veda*); 特定の *Veda* の学派を信奉する. 男 樹木; (特定の) *Veda* の学派の信奉者 (園, まれ).

śākhila 男 [人名].

śākhiya 形 (一) の学派に属する.

śākhoṭa 男 [小さな, 曲って醜い木の名 (*Trophis Aspera*)].

śākhoṭaka 男 [同上].

śāṅkara 形 (因 -i) *Śiva* (*Śaṅkara*) 神に関するまたは属する; *Śaṅkarācārya* に関する または由来する.

śāṅkari 男 [*Skanda* 神の 父系].

śāṅka-likhita 形 *Śaṅka* および *Likhita* によって作られた.

śāṅkuka 男 [ある詩人の名].

śāṅkhāyana 男 (śāṅka からの 父系) [ある *Brahmana* および二種の *Sūtra* はかれの名を冠する]; 園 彼の子孫. 形 (因 -i) *Śāṅkhayana* に関する. 男 *Śāṅkhayana* の著作.

śāṅkhika [śāṅka から] 形 法螺貝 または 貝から作られたまたはに關係ある. 男 法螺貝を吹くもの.

śāṅkhya 男 園 *Lank.*

śāṭa 男 (因 -i) 布 (片), 婦人下着; 園 舍勒衣; 衣, 衣裳, 內衣 *Divy.*, 玄衣.

śāṭaka 男 男 [同上]; 園 布, 裙, 手巾, 整小布 *Av-s.*, *Divy.*, *Mvyut.*, 梵雜.

śāṭikā 女 園 衣 *Divy.*

śāṭi 女 = śāṭa; 園 衣 *Mañj-m.*; 裙 梵千.

śāṭiya → tāṃra-śāṭiya.

śāṭyāyana 男 (śāṭya からの 父系) [ある学匠であり立法者であるものの名]; 園 その弟子達.

śāṭyāyanaka 男 *Śāṭyayana* の教義または論述.

śāṭyāyana-gotra 男 *Śāṭyayana* 氏姓.

śāṭyāyanin 男 園 *Śāṭyayana* の祖述者 [*Yajurveda* の一学派の名].

śāṭha 男 園 詔詐 *Bodh-bh.*

śāṭhā 女 園 揺, 具小州 *Mvyut.*; 舍拋 *Abh-vy.*

śāṭhiya 男 園 (= śāṭhya) 詔, 詔曲 *Gand-vy.*

śāṭhya 男 園 詐欺, 奸計, 不信, 悪業, 不正直; 園 詔, 詔曲, 詔詭, 詔詐, 詔誑, 詔偽; 奸, 奸詐, 奸詔; 誑, 欺誑; 曲, 偽, 姦偽; 僞 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*, *Vijñ-v.*

śāṇa 1. 形 (因 -i) 麻の. 男 麻の衣服.

śāṇa 2. 男, -ā 女 砥石; 試金石.

śāṇa 3. 男, -ā 女 [ある重量 = 4 māṣa].

śāṇaka-vāsin 男 園 舍那婆私, 商那和修 (比

丘名) *Divy.*

śāṇāsmaka 男 砥石, 試金石.

śāṇāsmān 男 [同上].

śāṇita 形 研がれた, 鋭利な.

śāṇi 女 麻の衣服.

śāṇopala (°ṇa-up°) 男 砥石.

śāṇḍila 形 *Śāṇḍilya* に由来するまたはによって規定された (Br., S.). 男 園 *Śāṇḍila* の子孫.

śāṇḍili 女 [Agni 神の母と見なされ, 神のような尊敬を受けるある婆羅門の女の名]; [人名].

śāṇḍili-putra 男 *Śāṇḍili* の息子.

śāṇḍili-mātr 女 *Śāṇḍili* の母.

śāṇḍilya 男 (*Śāṇḍila* からの 父系) [種々の師匠の名] 形 *Śāṇḍilya* に由来するまたは作られた.

śāṇḍilya-vidyā 女 *Śāṇḍilya* の教義.

śāṭa 1. 園 受分 [Śā 2.] 鋭い等.

śāṭa 2. 男 [Śat] (頭髮または爪の) 脱落.

śāṭa 3. 形 愉快的な, 気持のよい (仏教); 園 (= sata) 正 *Mvyut.*; 楽 *Śikṣ.* 男 喜悦, 歡喜 (まれ).

śāṭa 4. 男 詐欺師.

śāṭa-karṇi, -in 男 [種々の人名, とくに *Andhra* 王およびその王朝の名 = śātavāhana)]

śāṭa-kumbha [Śatakumbha 河から] 男 黄金 (時とし). 形 黄金の.

śāṭakumbha-drava 男 溶けた黄金.

śāṭakumbhamaya 形 (因 -i) 黄金の.

śāṭakaumbha 形 (因 -i) [同上].

śāṭakaumbhamaya 形 (因 -i) [同上].

śāṭa-kratava 形 (因 -i) *Indra* 神 (*Śatakratu*) に関する; + śarāsana 男 虹; + āsā 女 東方.

śāṭatya-kārin 形 園 無間修作 *Bodh-bh.*

śāṭana 形 (因 -i) 落下させる; 切り落す, (翼を) さみ取る; 破壊する, (身体を) 疲れさせる. 男 下させること, はさみ取ること, むしり取ること 破壊; (毛髪等を) 除く方法; 園 墮 *Av-s.*

śāṭa-giri 男 園 薩多琦梨; (園) 娑多山 *S. pr.*

śāṭapatha 形 (因 -i) *Śatapatha Brahmana* に関する. に属するまたはに基づく.

śāṭamanyava 形 (因 -i) *Indra* 神 (*Śatamanyu*) に関するまたは属する; + āsā 女 東方.

śāṭa-vāhaṇa 男 [*Andhra* 王およびその王朝の名]; とくに *Hala* の名]. → śāṭakarṇi.

śāṭa-hrada 形 電光 (*śatahradā*) に関するまたはする, 電光に特有な.

śāṭātapa (°ta-āt°) 男 [ある立法者の名].

śāṭita 園 受分 落された, 切られた, 打倒された, 壊された.

śāṭin 形 [Śat] (翼, 一) をはさみとる (もの).

śāṭodara (°ta-ud°) 形 (因 -i) 柳腰の.

śāṭrava 形 (因 -i) 敵意ある. 男 敵.

śāṭraviya 形 敵に属する, 敵意ある.

śāḍa 男 (parṇa- とし, 葉) の落下すること; 草の

śāḍana 男 落下すること.

śād-vala 形 草で覆われた; 緑の, 青々とした (園) 葉の茂った (樹); 園 薤, 軟草生 *Buddh-c.*,

〔圃〕圃 覆 草地, 緑地。
 sādvalavat 形 草深い (場所)。
 sādvalita 圃 草で覆われていること。
 sādvalin 形 草で覆われた, 草の生い茂った。
 sāna, sāna の 不確。
 sānac. 現在分詞 圃 の接尾辞 -āna (-māna) を示す
 術語 (文法)。
 sānan. 語根部にアクセントがない時の接尾辞 -āna
 (-māna) (圃 yajamāna 祭主)。
 sānita, sānita の 不確。
 sānais-cara 形 土星に関する; 土曜日に起る。
 sānta 過受分 → Sam 2.; 漢訳 寂, 寂定, 寂静, 静
 寂, 寂滅, 已寂, 湛寂; 静, 静妙; 停, 息, 自息,
 止息, 柔善; 尽; 冷, 無熱, 淡泊, 恬泊 *Abh-vy.*,
Ast-pr., *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*,
Lal-v., *Laṅk.*, *Madhy-v.*, *Mañj-m.*, *Mṛyut.*,
Rāstr., *Ratna-ut.*, *Sāṃkhy-k.*, *Sapt-pr.*, *Śiks.*,
Suv-pr., *Sūtr.*, 梵千, 男 [人名]。
 sānta-gata 形 漢訳 淡泊 *Saddh-p.*
 sānta-guṇa 形 その美德が滅した(人), 死んだ。
 sānta-ghora-vimūḍhatva 圃 静穏と激烈と愚鈍。
 sānta-cetas 形 落着いた, 冷静な。
 sānta-jvara 形 熱病または悲しみが和らげられた。
 sāntatara 比較 漢訳 微妙寂静 *Sapt-pr.*
 sāntatā 女 静寂, 激情からの自由; 漢訳 捨 *Sūtr.*
 sāntatva 圃 [同上]; 漢訳 寂静 *Ratna-ut.*
 sānta-darsin 形 漢訳 見寂滅徳 *Bodh-bh.*
 sānta-dānta-mānasa 形 漢訳 心調寂静 *Rāstr.*
 sānta-dharmatā 圃 漢訳 寂静 *Ratna-ut.*
 sānta-nirodha 形 漢訳 滅尽 *Śiks.*
 sānta-pāpa 形 漢訳 息罪, 消罪業 *Mṛyut.*
 sānta-pura 圃 漢訳 (静) 寂(大)城, 寂静(涅槃)城
Suv-pr.
 sānta-mati 男 漢訳 静慧, 寂意, 寂慧, 寂恵, 寂静
 慧 *Lal-v.*, *Madhy-v.*, *Śiks.*, *Sūtr.*
 sānta-manas 形 平静な。
 sānta-mānasa 形 漢訳 其心寂静 *Bodh-bh.*
 sāntanava 形 (女 -i) *Sāntanu* によって作成された。
 男 [Bhīṣma の 父系]。
 sāntanu 男 *Sāntanu* という人名の後代の形; 漢
 寂静苦行仙 [人名] *Buddh-c.*
 sāntaya, 名動 他 sāntayati (誰かを) 落着かせる。
 sānta-rajasa 形 塵または激情のない。
 sānta-raya 形 速力をゆるめた。 圃 [Dharmasārathi
 の 息子の名]。
 sānta-raśmi 形 光を失った (太陽)。
 sānta-rūpa 形 穏かな外見を有する, 静かな, 平静
 な。
 sānta-vāk-kāyatā 女 漢訳 身静口 *Sūtr.*
 sānta-saṃkalpa 形 なだめられた。
 sānta-samādhi 男 漢訳 定, 勝定, 三昧, 寂定, 勝
 妙定, 勝三昧, 寂滅定, 勝妙寂滅定, 寂滅最勝定,
 寂静難見定 *Sam-r.*
 sānta-sena 男 [Subāhu の 息子の名]。
 sānta-hṛdaya 形 = sāntacetasa.
 sāntātman (°ta-āt°) 形 = sāntacetasa.

sāntā 女 *Lomapāda* の養女となり, *Rṣyaśṛīga* の妻
 となった, *Daśaratha* の娘の名]; 漢 捨 *Sūtr.*
 sāntārcis 形 炎の消えた (火)。
 sāntārtha 男 漢 寂滅義 *Sūtr.*
 sāntāloka (°ta-āl°) 形 光輝の失せた。
 sānti 女 [Sam 2.] 心の静穏, 心の平和; (火が) 消え
 ること; 減少, 緩和, 停止, 除去; 災害を避けるた
 めの祭式(まれ); 平和, 好運, 繁栄; 破壊(まれ);
 永遠の休息, 死亡, 死(まれ); [書物の名]; 人格化さ
 れた静穏; 漢 滅, 寂, 寂滅, 寂静, 寂寞; 涅槃;
 息, 息災; 除滅, 安隱 *Abh-vy.*, *Bodh-c.*,
Divy., *Gaṇḍ-vy.*, *Guhy-s.*, *Laṅk.*, *Madhy-vibh.*,
Ratna-ut., *Saddh-p.*, *Śiks.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*, 梵千。
 圃 [Indra 神の息子の名]; *Viṣṇu* 神と *Dakṣiṇā*
 女神との息子の名]; [*Kṛṣṇa* 神と *Kalindī* 女神と
 の息子の名]; [*Nila* の息子の名]。
 sāntika 形 災害を避ける。 圃 災害を避けるための祭
 式; 漢 柔善, 息災, 息除災害 *Mañj-m.*, *Mṛyut.*
 sānti-kara 形 平和または繁栄を生ずる。 圃 [人名]。
 sāntikari 女 漢 寂静 *Śiks.*
 sānti-karman 圃 災害を避けるための祭式。
 sānti-kṛt 形 (呪文等によって) 災害を祓うまたは鎮静
 する。
 sāntim-gata 形 漢 入寂滅 *Divy.*
 sāntitva 圃 滅 *Abh-vy.*
 sānti-deva 男 [人名, とくに *Bodhicaryāvatāra* の
 作者]。
 sānti-devā 女 [*Devaka* の娘の名; *Vasudeva* の妻の
 一人の名]。
 sānti-patha 男 漢 寂静処 *Ratna-ut.*
 sānti-parvan 圃 [*Mahābhārata* の第12篇 (parvan)
 の題名]。
 sānti-prāpta 形 漢 安隱 (住) *Saddh-p.*
 sānti-bhājana 圃 鎮静の祭式のための水を容れる器。
 sānti-mārga 男 漢 寂静道 *Ratna-ut.*
 sānti-yukta 過受分 幸福または繁栄を伴う, 吉祥な。
 sānti-śila 男 [人名]。
 sānti-salila 圃 鎮静の祭式のための水。
 sānti-soma 男 [人名]。
 sānti-svasty-ayana 圃 漢 安隱, 安楽 *Suv-pr.*
 sānti-homa 圃 鎮静の祭式のための供物。
 sāntendriya (°ta-in°) 圃 漢 寂諸根, 諸根寂静
Gaṇḍ-vy., *Rāstr.*, *Śiks.*
 sānty-anuśamsa-darsaka 形 漢 示寂静法 *Ratna-
 ut.*
 sānty-avatāra-jñāna 圃 漢 入寂智 *Sam-r.*
 sānty-udaka 圃 鎮静の祭式のための水。
 śāpa 1. 男 [Śap] 呪い, (ある人: 圃) に対する悪口。 ~
 m Dā, Vac, ā-Diś, ny-As, pra-Yam または vi-Sṛj
 (圃, 圃, 圃, prati) に対して呪いを述べるまたは発
 する。
 śāpa 2. 男 浮遊物 (RV., AV., まれ)。
 śāpa-grasta 形 呪いをかけられた またはに苦しんでい
 る。
 śāpatā 女 呪いをかけられていること。
 śāpa-parikṣata 過受分 [同上]。

śāpa-pradāna ㊦ 呪いを発すること。
 śāpa-bhāj ㊦ 呪いに苦しむ。
 śāpa-mukti ㊦ 呪いから自由になること。
 śāpa-mokṣa ㊦ [同上]; 呪いの言葉を発すること。
 śāpa-yantrita ㊦ 呪いによってひきとめられた、抑制された。
 śāpa-suka ㊦ 呪いによって鸚鵡(に換えられた人)。
 śāpa-samāyukta ㊦ = śāpagraṣṭa.
 śāpānta ㊦ 呪いの終り。
 śāpāmbu ㊦ 呪いを発する時に用いられる水。
 śāpāstra ㊦ (呪いを武器とした), 聖仙(その呪いは神々にとっても恐ろしいものである)。
 śāpita ㊦ [Śap の 使役 から] 誓わせられた, (具) の名において誓約させられた, (具, 一) の責を負わされた; 呪われた。
 śāpeṭa ㊦ または ㊦ 岸に打ち上げられたすげ等(S., きわめてまれ)。
 śāpotsarga (°pa-ut°) ㊦ 呪いを投げかけること。
 śāpodaka (°pa-ud°) ㊦ = śāpāmbu
 śāpoddhāra (°pa-ud°) ㊦ 呪いから自由になること。
 śābari ㊦ Śabara 族の言葉。
 śābalya ㊦ [śābala から] 混合, 混成(P., きわめてまれ)。
 śābasta ㊦ [Yuvanāśva のある息子の名]; [Śābasti 市の建設者の名]。
 śābasti ㊦ Śābasta の後裔の ㊦ 系。
 śābasti ㊦ [Śābasta の建設した都市の名]。
 śābda ㊦ (㊦ -i) 声(śabda)に基づいた, 言葉で表現された, 口頭の, (神聖な) 言葉(Veda)によって規定されたまたはに基づいている。㊦ 文法学者; ㊦ [ある宗派]。
 śābdika ㊦ 音声を発する; 音または言葉に関する, ことばの, 言語に精通した。㊦ 文法学者; 辞書編集者; ㊦ 声論師 *Abh-vy.*
 śāmana ㊦ に終止符を打つ, 顔色なからしめる(śamana の異読)。㊦ 鎮静剤。
 śāmitra ㊦ (犠牲獣を) 解体する人(śamitr) に関する。㊦ (+agni) 犠牲の肉を料理するための火(具)。㊦ いけにえを殺す場所, 屠場; 屠殺者の職。
 śāmitra-karman ㊦ 犠牲獣を屠る役目。
 śāmila ㊦ (㊦ -i) Śamī の樹で作られた。
 śāmulya ㊦ 汚点のついた衣服(RV., 用例一回のみ)。
 śāmūla ㊦ [同上](Br., S.)。
 śāmba ㊦ [ある王の名]; śāmba の ㊦ 種。
 śāmbara ㊦ (㊦ -i) Śāmbara に属するまたは特有の。㊦ Śāmbara との戦い(RV., 用例一回のみ)。
 śāmbara-śilpa ㊦ 魔術。
 śāmbhava ㊦ (㊦ -i) Śāmbhu (Śiva 神) に由来する。に属する。に属するまたは捧げられた。
 śāmbhaviya ㊦ Śiva 神に属する。
 śāmya ㊦ 平和(śama)を目ざす。㊦ 平和, 和解; ㊦ 所寂, 応止令滅 *Madhy-vibh.*
 śāmyatā ㊦ [同上の ㊦]。
 śāmya-prāsa ㊦ ㊦ 平等祠, 隋所欲祭 *Divy.*
 śāyayitavya ㊦ ㊦ 使役(㊦)の上に基づかせられるべき; 眠らせられるべき。dirgham~, (自己の) 長い休息(即ち, 死)を取らしめられるべき。

śāyita ㊦ ㊦ ㊦ [Śi 2.] (……の中にまたは上に: ㊦) 横たえられた, 置かれた; 眠らされた。
 śāyitā ㊦ (一) 眠っていること; の中に含まれていること。
 śāyin ㊦ (の中に, の上に: ㊦, 一; の時において, のようにまたは副詞的意味の語とともに, 一) 横たわっている; 休息している, 眠っている, 住んでいる; ㊦ 臥 *Buddh-c.* → bhasma~。
 śāra ㊦ 種々にいろどられた, まだらの, 斑点のある。㊦ チェッカー盤の上で用いられる駒または骰子; ㊦ ㊦ 舍羅 ㊦ ㊦。
 śāraṅgi ㊦ (ある鳥の) 雌。
 śāraṇa ㊦ [人名(śāraṇa の不確)]。
 śāraṇika ㊦ 保護または避難所を求める。
 śāra-talpika ㊦ 矢の床から(臨終の武士によって言われた)。
 śārada ㊦ (㊦ -i) 秋の; 新鮮な(㊦, まれ)。㊦ 秋の穀物(㊦, まれ); ㊦ 秋, 秋分 *Suv-pr.*
 śāradā ㊦ [言葉の女神 *Sarasvatī* の名]。
 śāradina, -iya ㊦ 秋の。
 śāradya 1. ㊦ 秋の穀物。
 śāradya 2. [viśārada '臆病でない' から逆に造られた語] 臆病(㊦ *Sikṣ.*); ㊦ 性 *Bodh-bh.*; 威徳 *Sikṣ.*: parśacchā~ -bhaya 大衆威徳畏 *Bodh-bh.* 146.
 śāradvata ㊦ (śāradvat から), [*Kṛpa* の ㊦ 系; *Kaṇva* 仙の弟子の名]。
 śāradvati-putra ㊦ ㊦ ㊦ [人名] 舍利弗, 舍利子 *Av-ś., Bodh-bh., Divy., Madhy-v., Sapt-pr., Sikṣ.*
 śārambara, [ある地方の名]。
 śāri ㊦ ㊦ 美しい声の小鳥(ときとして śāri と綴る); 象の背に載せる輿; [仏陀第一の弟子(しばしば *Śāriputra* または *Śārisuta* と呼ばれる)の母の名]。㊦ チェッカー盤の上で用いられる駒または骰子(ときとして śār と書かれる)。
 śārika ㊦ ㊦ (㊦ ㊦) 舍利 *Divy.*; 春鷺, 黄鷺, 鷺鷥, 鷺鷥, 八哥鳥 *Mṛtyut.* → śārikā.
 śārikā ㊦ 鳥の一種(しばしば śārikā と綴られる); *Durgā* 女神(の一形態); ㊦ 鷺鷥, 鷺鷥 *Bodh-c.*
 śārikā-kūṭa ㊦ *Durgā* 女神の峯; [ある地方の名]。
 śārikā-piṭha ㊦ [ある地方の名]。
 śārīta ㊦ ㊦ ㊦ 異った色でまだらにされた, 斑点をつけられた。
 śāri-putra (= *Pali* śāri-putta) ㊦ *Śāri* の息子, [仏陀最初の弟子の名]; ㊦ ㊦ 舍利弗, 舍利富多羅, 舍利弗多羅 ㊦ ㊦; (㊦ ㊦) 舍利子 *Lal-v., Mah-v. Prajñ-h., Ratna-ut., Saddh-p., Sukh-vy. I., Sukh-vy. II., Sūtr.*; 身子, 秋露子, 鷺子 *Lal-v., Mṛtyut.*, ㊦ ㊦。
 śāri-prastara ㊦ [ある賭博者の名]。
 śāri-suta ㊦ = śāriputra; ㊦ ㊦ (㊦ ㊦) 舍利弗 *Sad-dh-p.*
 śāri 1. ㊦ 鳥の一種; ㊦ ㊦ 舍利(舍利弗の母) *Av-ś.*
 śāri 2. ㊦ ㊦, śāriḥ ㊦ ㊦, Śāra に属する(牝牛)(RV

用例一回のみ)。
 śāri-kṛta 形 雑色の、斑点のある。
 śāritaka 男 [ある村の名]。
 śārira 形 (因-i) 骨で作られた(きわめてまれ)；身体の、有形の、身体 (śarira) に属する・関するまたはの中に存する；+daṇḍa 男 体刑。因 排泄物。
 śāriraka 形 身体の。因 個我、身体を伴う精神またはその本性を探究する教義；=śārirakasūtra。
 śāriraka-sūtra 因 =vedāntasūtra。
 śārkara 形 砂糖から作られた；[] 石蜜 Lank。
 śārkarākṣya 男 Śārkarākṣa の [] 系。
 śārṅga 形 角 (śrṅga) で作られた；Śrṅga 樹に由来する(毒)。因 (とくに Viṣṇu 神または Kṛṣṇa 神の) 弓。男 (因-i) 鳥 (の一種)。
 śārṅgaka 男 (因-ikā) 鳥 (の一種)。
 śārṅga-dhanus 男 (śārṅga という弓を持っている) [Viṣṇu 神または Kṛṣṇa 神の称]。
 śārṅga-dhanvan 男 [同上]。
 śārṅga-dhara 男 [同上]；[人名]。
 śārṅgadhara-paddhati 因 [Śārṅgadhara 編の詩華集の標題]。
 śārṅga-pakṣin 男 Śārṅga 鳥。
 śārṅga-pāṇi 男 (手に Śārṅga という弓を持った) [Viṣṇu 神または Kṛṣṇa 神の称]。
 śārṅga-bhṛt 男 [Viṣṇu 神または Kṛṣṇa 神の称]。
 śārṅga-rava 男 [Kaṇva 仙のある弟子の名]；[] 彼の子孫。
 śārṅgarava-misra 因 Śārṅgarava およびその他のものたち。
 śārṅgin 男 (Śārṅga という弓を持った) [Viṣṇu 神または Kṛṣṇa 神の称]。
 śārṅgi 因 鳥 (の一種)。
 śārdūla 男 虎；一° (vyāghra と同様) の長または最上；[ある Rakṣasa の名]；[] Yajurveda のある Sākhā の名；[] 虎、豹 Mvyut。
 śārdūla-karṇa 男 [Trisanku の息子の名 (仏教)]；[] 師子耳；(音写) 舍頭諫 [太子名] 虎耳 Divy。
 śārdūla-carman 因 虎の皮。
 śārdūla-mṛga-sevita 形 虎と鹿が出没する。
 śārdūla-vikṛidita 因 (虎の遊び) [ある韻律 (4×16音節) の名]。
 śārmaṇya 男 ドイツ (十九世紀の語)。
 śārmaṇya-deśa 男 [同上]。
 śāryāta 男 [] 系 [śāryāti から]。
 śāryāti 因 Śāryāta の娘。
 śārva 形 (因-i) Śārva (Śiva 神) に関する・に属する・捧げられたまたはに由来する；+diś 因 東方。
 śārvara 形 (因-i) [śārvari から] 夜の。因 暗さ、闇。
 śārvarika 形 [同上]。
 śārvari 因 夜。
 Śāl, I. 自 śālate (まれ) 輝く、(因) をもって顕著な (註)。過受分 śālita (因、一°) をもって顕著な。
 śāla 形 小屋等の中にある (Br.)。~m 因 自分の家に。男 [家を建築するのに使用する高くて堂々とした木 (Vatica Robusta) の名 (しばしば sāla と綴る)]；樹

(まれ；時々 sāla と綴る)；[] 垣、墨壁(まれ；ときとして sāla と綴る)；[] 固 (林) 玄応；(音写) 娑羅 (樹) Divy.、玄応；舍 Ratna-ut。
 śāla-kaṭāṅkaṭa 男 [二人の神仙の名]。
 śāla-grāma 男 [ヴィシュヌ教徒の間で神聖視される村の名で Gaṇḍaki 河畔に位置している。その地に生じた śāla 樹からその名がある；そこから Viṣṇu 神の象徴である聖なる石(菊石)が出た；Śālagrāma において崇拜される Viṣṇu 神(まれ)。男 菊石。
 śālagrāma-śilā 因 菊石。
 śāla-kaṭāṅkaṭa 男 (=śālaṅkaṭāṅkaṭa) [ある Rakṣasa の名]。因 (=śālaṅkaṭāṅkaṭi) [ある Rakṣasi の名]。
 śālaṅkāyana 男 (=śālaṅkāyana) [ある聖仙の [] 系名]。
 śālaṅkāyani-putra 男 [ある学匠の名]。
 śāla-niryāsa 男 Śāla 樹の樹脂。
 śāla-puṣpa 因 Śāla 樹の花；[] (音写) 沙羅華 Lal-v。
 śālapuṣpa-nibha 形 Śāla 樹の花に似た (黄紅色の)。
 śālapuṣpamaya 形 (因-i) Śāla 樹の花から作られた。
 śāla-pota 男 Śāla 樹の若木。
 śāla-prāṁsu 形 Śāla 樹のように高い。
 śāla-bhañjikā 因 (Śāla 樹で作られた) 彫像；インド東部で行われる遊戯 (の一種)。
 śāla-bhañji 因 [同上]。
 śālabha 形 いなごまたは蛾 (śalabha) に特有の；+vidhi 男 ばったまたは蛾の習性 (火に飛込んで死ぬ)。
 śāla-vana 因 [] (音写) 娑羅林 Śikṣ. → bhadra ~。
 śāla-valaya 男 または 因 円形の墨壁。
 śāla-saṁkāśa 形 Śāla 樹に似た。
 śāla-skandha 男 Śāla 樹の幹、切株。
 śāla-stambha 男 [同上]。
 śālā 因 [Śr 3.] 小屋、家屋、部屋、室、広間；馬小屋；一° ときとして -a 因；[] 舍、家、堂、講堂；[] 厩 Av-ś., Divy., Madhy-v., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ. : vāji ~ 馬厩 Madhy-v. 53. → kūṭāgāra ~。
 śālā-karman 因 家を建てること。
 śālā-piṇḍa 男 [] 圈料 Mvyut。
 śālāgni (°lā-ag°) 男 家庭の火。
 śālājira (°lā-aj°) 因 皿 (の一種)。
 śālāturiya 形 Śālātura に属する。男 [Pānini の称]。
 śālā-mṛga 男 ジャッカル。
 śālāvata 男 [] Śālāvata の子孫。
 śālāvati 因 Śālāvata 族の王女。
 śālāvatiya 男 Śālāvata 族の王；[śālāvataからの [] 系]。
 śālā-sad 因 家または馬小屋にいること (Br.)。
 śālā-stha 形 馬小屋の中にいる。
 śāli 男 [] および [] 米 (または類似した種類の穀物)；じゃこうねこ (まれ)；[] (音写) 舍利 Madhy-v.、；米、秣、粳米；香秣；稻、稻穀、自然苗；稻梁 (甘果)；穀 Ahh-vy., Bodh-bh., Bodh-c. Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lank., Madhy-v., Mvyut.、

Raṣṭr., Ratna-ut., 梵雜: ~inam odanam 香杭飯 Divy. 559.; prādurbhavo ~r anuptakṛṣṭah 杭米 自然生, 稻梁(甘果)自然生 Gaṇḍ-vy. 886.

śālika 1. 𠄎 広間または部屋に関するまたは属する.
 śālika 2. 𠄎 米に由来するまたはから作られた.
 śāli-kaṇa 𠄎 米粒.
 śāli-kūṭa 𠄎 米の山.
 śāli-kedāra 𠄎 稲田.
 śāli-kṣetra 𠄎 [同上].
 śāli-gopi 𠄎 稲田の女番人.
 śāli-cūrṇa 𠄎 米粉.
 śāli-jāla 𠄎 多量の稲, 豊饒な稲田.
 śāliṭa 𠄎 𠄎 受分 → Śāl.
 śāli-taṇḍula 𠄎 米粒.
 śālitā 1. 𠄎 米であること.
 śālitā 2. 𠄎 (一°)の所有.
 śālitva 1. 𠄎 = śālitā 1.
 śālitva 2. 𠄎 = śālitā 2.
 śālin 𠄎 (家を所有する), 一°, を豊富に与えられた・を所有している またはに満ちている・に精通した・によってまたはの故に卓越した.
 śālini 𠄎 [人名]; [韻律の名 (4×11音節)].
 śāli-bhavana 𠄎 稲田.
 śāli-bhū 𠄎 [同上].
 śāli-vana 𠄎 𠄎 稲林 *Mvyut.*
 śāli-vāha 𠄎 米の運搬に使用される牛; 米の量の一単位.
 śāli-vāhana 𠄎 (米の運搬人), [*Satakarni* 王朝のある王の名].
 śāli-sūka 𠄎 𠄎 稲の(穂)のひげ. 𠄎 ある *Maurya* の名.
 śāli-saṃrakṣikā 𠄎 稲田の女番人.
 śāli-stamba-sūtra 𠄎 𠄎 [経典の名] 稻稈経, 大乘稻芋経, 了本生死経, 慈氏菩薩所説大乘縁生稻稈喻経; (音写) 大乘舍黎娑担摩経 *Madhy-v., Śikṣ.*
 śāli-hotra 𠄎 馬の詩的名称(米の供物を受ける=で養われる); [(馬についての最初の権威とみなされる)ある聖仙の名]. 𠄎 [馬に関する *Śālihotra* の著書].
 śālihotra-jña 𠄎 *Śālihotra* を熟知した.
 śāli 𠄎 𠄎 稻 *Śikṣ.*
 śāliṇa 𠄎 定まった住所を有する; 慎しみ深い, 内気の. ~m 𠄎. 𠄎 慎しみ深い態度; とくに施物を乞わないで(与えられたものを)受けること.
 śāliṇatā 𠄎 内気, 慎しみ深さ.
 śāliṇa-sīla 𠄎 内気な習性を有する.
 śāliṇasīlatā 𠄎 内気なこと.
 śāliya 𠄎 (?)稲田.
 śālūka 𠄎 食用に適する蓮根.
 śālūka-kandā 𠄎 [同上].
 śālūra 𠄎 蛙(まれ).
 śālendrarāja (°lā-in°) 𠄎 𠄎 (音写) 沙羅樹王[仏名] *Sam-r.*
 śāleya 𠄎 (因 -i) 稻(śāli)を育てる.
 śālmala 𠄎 (=śālmali) ぱんや(木綿)の木(一°のみ, まれ).

śālmali 𠄎 𠄎 または -i 𠄎 [同上]; *Semul* 樹(*Salmalia* または *Malabarica*: 刺があって赤い花を有する高い木; 地獄における拷問の木); 𠄎 𠄎 設拉末梨 *Bodhbh.*; 𠄎 末梨 *Abh-vy.*

śālmalika 𠄎 *Śālmali* 樹の.
 śālmali 𠄎 [地獄におけるある河の名].
 śālmali-phalaka 𠄎 *Śālmali* 樹の滑らかな板(洗濯用).
 śālmali-vana 𠄎 𠄎 鉄刺林, 鉄苦摩利林 *Abh-vy.*
 śāly-anna 𠄎 煮られた米, 米がゆ.
 śāly-odana 𠄎 𠄎 [同上]; 𠄎 粳米飯 *Divy.*
 śālva 𠄎 𠄎 [ある民族の名]; 𠄎 *Śālva* 族の王; 𠄎 𠄎 娑楼婆 *Buddh-c.*
 śālvaka 𠄎 *Śālva* 族に関する・属するまたはを支配する.
 śālvakini 𠄎 [ある河の名].
 śālva-rāja 𠄎 *Śālva* 族の王.
 śālva-rājan 𠄎 [同上].
 śālvāyana 𠄎 = śālvaka.
 śālveya 𠄎 𠄎 [ある民族の名].
 śālveyaka 𠄎 𠄎 [同上].
 śāva 1. 𠄎 動物の子.
 śāva 2. 𠄎 死骸(śava)に属する, 死体によってひき起された(不浄). 𠄎 死骸に基因する不浄.
 śāvaka 𠄎 動物の子または鳥のひな; 𠄎 子 *Lal-v* → *mṛga* ~.
 śāvāri, → śābari.
 śāvasta, → śābasta.
 śāśa 𠄎 野兎(śāśa)に属するまたは由来する: + *māms* 𠄎 野兎の肉.
 śāśa-bindu 𠄎 (因 -i) *Śāśabindu* の後裔である.
 śāśvata 𠄎 (因 -i) [śāśvatから] 不変の, 永遠の, 永の: ~iḥ *saṃāh* 永続する年の間, 永久に; 𠄎 常, 有常; 恒, 常恒; 不変, 不変異; 戒定, 永定久, 長久; 全常, 常住; 不壊 *Abh-vy., Aṣṭ-pr* *Bodh-c., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lan̄k., Madhy-v* *Madhy-vibh., Mvyut., Raṣṭr., Ratna-ut., Śik* ~ *saṃjñā*. 不壊想, 常恒想 *Madhy-v. 562.* ~ 𠄎 永遠に, 永久に. 𠄎 [ある辞典の作者の名]. 𠄎 続性~永久性; 𠄎 常 *Aṣṭ-pr.*
 śāśvatatva 𠄎 𠄎 不変 *Ratna-ut.*
 śāśvata-grāha 𠄎 𠄎 著常, 常執 *Madhy-v.*
 śāśvata-dṛṣṭi 𠄎 𠄎 常見, 常想 *Bodh-bh., Raṣṭr* *Ratna-ut.*
 śāśvata-pada 𠄎 𠄎 常句, 変見, 恒句 *Lan̄k.*
 śāśvata-lokādi (°ka-ādi) 𠄎 𠄎 常等 *Madhy-v*
 śāśvata-vādin 𠄎 𠄎 常論, 執著論者, 執著常論 *Bodh-bh*
 śāśvatādi (°ta-ādi) 𠄎 𠄎 常等 *Madhy-v.*
 śāśvatānta 𠄎 𠄎 常辺 *Bodh-bh., Madhy-vib* 常見辺 *Ratna-ut.*
 śāśvatāntāsād-graha 𠄎 𠄎 常辺邪執 *Bodh-bh*
 śāśvatāsāśvatādi (°ta-adi) 𠄎 𠄎 常無常等 *dhy-v.*
 śāśvatika 𠄎 = śāśvata; 𠄎 常住 *Abh-vy.*
 śāśvatoccheda (°ta-uc°) 𠄎 断常 *Lan̄k.*

[仏陀の称]; 師, 大師, 天師, 天人師, 仏大師, 教授, 善知識; 尊者; 仏, 世尊; 仏経; 能調, 調御師, 諸仏如来 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Sūtr.*, *Vajr-pr.*, 梵千; 教誡 *Śikṣ.*; : 六師 (ṣaṭ śāstārāḥ) [1. *Pāraṇah Kāśyapah* 富蘭那迦葉 (補刺孛迦葉波), 2. *Maskari Gośālīputrah* 末伽黎拘捺黎 (末塞羯梨瞿舍梨子), 3. *Sanjayi Vairāṭīputrah* 珊闍夜毘羅胝 (珊闍夷毗羅胝子), 4. *Ajitakeśakambalah* 阿耆多翅舍欽婆羅 (具無勝髮褐), 5. *Kakudah Kātyāyanah* 迦羅鳩駄迦旃延 (迦鳩陀迦多衍那), 6. *Nirgrantho Jñātiputrah* 尼犍陀若提子 (泥健連他若提弗怛羅) *Mvyut.* 179.

sāstr-kalpa 形 猶如大師 *Divy.*

sāstr-kula 中 仏家 *Daś-bh.*

sāstr-kṛtya 中 仏事 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*

sāstr-guṇa 男 調御師大丈夫 *Ratna-ut.*

sāstr-gaurava 中 恭敬世尊 *Ratna-ut.*

sāstr-saṃjñā 女 (導) 師想, 大師想, 世尊想, 仏想 *Sukh-vy. 1.*, *Suv-pr.*

sāstra 中 RV. (用例一回のみ), 圍: 命令, 教訓; 圍: 教授, 忠告, よい助言; 規則, 学理; 綱要, (学問の何らかの部門の) 提要, 法典, 学術的著述または規範的典籍, 聖典; 学問 (まれ); 論, 諸論; 伝, 因論, 論伝; 教, 聖教, 聖説; 典籍, 経論, 経書, 書論, 典籍, 義論 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Kāśy.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Nyāy-pr.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*, *Vijñ-t.*: ~ m uttamam 治国法, 第一勝論 *Suv-pr.* 125. ~tas 副 規定された規則に従って; 聖説 *Sūtr.*

sāstra-kāra, -kṛt 男 論書の著者; 論主, 法主 *Abh-vy.*

sāstra-gaṅja 男 [あるおうむの名].

sāstra-cakṣus 形 論書を目とする (王).

sāstra-cintaka 形 = sāstrajña.

sāstra-caura 男 = sāstradasyu.

sāstra-jña 形 論書に通曉した, 学問のある; 諸論, 善知論, 知 (一切) 論, (能) 知世典, 了知世典 *Bodh-bh.*

sāstra-jñatā 女 論書に通曉していること; 知法, 知論, 善知論, 善知諸論, 解世書籍, 知諸経論 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*

sāstra-darsana 中 論書に述べられていること. ~āt 規則に従って.

sāstra-dasyu 男 学問の盗人 (他者の説を自説の如く吹聴するもの).

sāstra-drṣṭa 形 論の中に述べられたまたは規定された, 学的な, 教訓または規定に一致した.

sāstra-drṣṭi 形 = sāstracakṣus.

sāstra-buddhi 女 学識.

sāstra-mati 形 訓練された, 学問のある. 男 専門家.

sāstra-loka-jñatā 女 論世智 *Bodh-bh.*

sāstravat 副 定められた規則に従って.

sāstra-vicitra 形 衆論 *Śikṣ.*

sāstra-vidhi-jña 形 善衆論, 弁論 (無倫大) 智者 *Śikṣ.*

sāstra-varjita 形 法に従わない.

sāstra-vāda 男 論書の陳述.

sāstra-vādin 男 教師.

sāstra-vid 形 論書に通曉した, 学問のある.

sāstra-vimukha 形 学問に対して冷淡な.

sāstra-śarira 中 論体 *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*

sāstra-saṃbandha 男 論法義 *Ratna-ut.*

sāstrātiga 形 論書に背いた.

sāstrādhyāpaka 男 教師.

sāstrānanuṣṭhāna 中 論書の無視.

sāstrābhijña 形 論書に精通している.

sāstrāvartā (°ra-āv°) 女 音写 差舍薩多婆, 婆多羅跋多 (如伏転) (書体の一種) *Lal-v.*

sāstrin 形 学問のある. 男 学者, 専門家.

sāstrārtha 男 諸論要義 *Nyāy-pr.*

sāstriya 形 論書の中で教えられた, (実際の) 論に属する, 理論上の; 論中出 *Mvyut.*

sāstriyatva 中 [同上の 中].

sāsya 1. 未受分 罰せられるべき, 懲らしめられるべき; 統御または統括されるべき.

sāsya 2. sasya の 不確.

sāha 中 [ある地方の名].

sāhi 男 [人名].

sāheva 男 [人名].

Śi, 鋭くする; → Śā 2.

śi, 困 圍 中 の 格語尾 i (文法).

śimśa 男 果樹 (の一種).

śimśapā 女 [大きくかつ美しい樹の名 (*Darberg Sissoo*)]; 実木 玄応; (音写) 申怒林, 申怒波 玄応.

śimśu-māra 男 いるか (因 用例二回のみ).

śikya 中 (因, 圍) (荷物を運ぶため綱で作られた) 索; これで運ばれる荷物; 天秤の皿; 網, *Mvyut.*

śikvan 形 [*Śak 1.*] 巧妙な, 技術に長じた (因).

śikvas 形 [*Śak 1.*] [同上] (RV.).

Śikṣ 1., I. śikṣati (-te) [*Śak 1.* の 希求 ……し得ことを願う], 他 試みる (因, まれ); 自 (他) (業) (従 または 圍 をともなった *sakāśāt*). から習得する 研究する, 学ぶ (因, 圍); (因) を修行する (圍) 学, 修学, 修行, 能正修学 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Prajñ-h.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.* 現分 *śikṣāma* 学んでいる; 学, 正学, 修学, 勤修学, 精勤修 *Bodh-bh.* *Sapt-pr.*; 音写式又摩那 *Prat-m.* 女 正学 *Abh-vy.* 学法女 (正学女) *Mvyut.*; 音写式 摩那 *Abh-vy.* 男 弟子 (RV.). 受 *śikṣyate* 学れる. 過受分 *śikṣita* 学ばれた; 鍛練された (声使役 *śikṣayati* 他 (物事を) 教える, (人に; とときと 業に 業を) (不定 …… することを) 教授する. 過 *śikṣita* 教えられた, 学んだ, (因, 一) を教えられた.

anu- (事物: 業) を (人: 従, 圍) から学ぶ; 業

学, 習学, 随学, 随従学 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.* 過受分 (一°) から学ばれた。

ā- 過受分 *aśikṣita* の不補。

upa- 自 (體 願律) (體) より学ぶ。

saṃ- 集学, 現受学 *Bodh-bh.*

prati-saṃ- 学, 教, 観, 勸, 志学, 思惟, 修行, 作是学 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*

Śikṣ 2., I. *śikṣati(-te)* [*Śak 2.* の 希求] (圖) を助けようと欲する, 助ける, 役立つ (RV.); 与えようと欲する, 賦与する (V.); (圖) に (圖) を贈ろうと欲する (Br., 圖, まれ); 圖(圖) に奉仕する (叙詩)。

upa- 圖 ひきつける, 招く (V.); 圖(圖) に奉仕する, ……の意のままに身を委ねる(叙詩)。

śikṣa 圖 = *śikṣā*.

śikṣaka 圖 教える, 教授する。 圖 教師。

śikṣaṇa 圖 学習行為, 知識の獲得; (因 または 一°) の教えまたは教授。

śikṣaṇa-śilatva 圖 常楽学 *Abh-vy.*

śikṣaṇiya 未受分 (圖) を教えられるべき。

śikṣamānā 因 音写式又摩那 *Bodh-bh.*

śikṣā 因 (因, 一°) の知識, 技術, 熟達; 教授; 教課, 教訓; 音韻・発音を教える学問 (六 *Vedāṅga* の一つ); [その教科書]; 法; 教; 学, 所学, 習学, 学処, 修学; 教誠事, 正所学; 戒, 戒徳仏戒, 淨戒, 所学戒 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Divy.*, *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*, 梵千.; 音写式又 (論) *Lal-v.*

śikṣā-karaṇiya 圖 (精勤) 修学 *Bodh-bh.*

śikṣākṣara (°*ṣā-ak*°) 圖 *Śikṣā* の規則通りに発音された音。 圖 *Śikṣā* の規則通りに発音された。

śikṣācāra (°*ṣā-āc*°) 圖 教訓通りに振舞う。

śikṣā-traya 圖 学処 *Sūtr.*

śikṣā-daṇḍa 圖 教訓としての懲罰, みせしめの刑罰。

śikṣā-dattaka 圖 与戒 *Mvyut.*; 与学 *Sūtr.*

śikṣā-pada 圖 道德の教訓 (仏教); 戒, 学処, 学足, 令其修学 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lank.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Vin.*: ~ṃ *prajñāpayati* 結戒 *Vin.* 5.

śikṣāpada-dravyatā-vyavacāra 圖 輕呵戒語 (輕学処事), 輕詐戒法, 欺壞戒法 *Mvyut.*

śikṣāpada-prajñapti 因 学戒 *Sūtr.*

śikṣā-prayukta 圖 勤学所学 *Bodh-bh.*

śikṣā-pāramitā 因 学竟彼岸, 学彼岸 *Aṣṭ-pr.*

śikṣāpita 過受分 学 *Divy.*

śikṣā-prajñapti-sukhopāyatva (°*kha-up*°) 圖 制戒楽方便 *Sūtr.*

śikṣā-bhaṅga 圖 犯禁 *Mvyut.*

śikṣā-bhraṣṭa 圖 壞学 *Mvyut.*

śikṣā-mārga 圖 学道 *Bodh-bh.*

śikṣāvāt 圖 知識を有する, 学識のある; 教訓的な。

śikṣā-viśeṣāpekṣatva 圖 待学差別, 観学勝能 *Abh-vy.*

śikṣā-virya 圖 修学精進 *Bodh-bh.*

śikṣā-saṃvara 圖 戒, 禁戒 *Śikṣ.*

śikṣā-samādāna 圖 学戒 *Sūtr.*

śikṣā-samuccaya 圖 [ある仏教論書の名]; 集学, 集戒, 大乘集菩薩学論 *Bodh-c.*, *Śikṣ.*

śikṣā-svara 圖 = *śikṣākṣara*.

śikṣita [*Śikṣ*] およびその 使役 の 過受分; 学; 解, 善解; 修, 修学 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, 梵千. 圖 教えること, 教訓。

śikṣitavat 過能分 已学 *Bodh-bh.*

śikṣitavya 未受分 圖 (圖) から学ばれるべき; 教えられるべき; 応学, 当学, 修学, 応修学, 応勤修学, 当勤修学 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lank.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*

śikṣitākṣara 圖 文字を教えられた = 読み書きを学んだ。 圖 生徒, 学者。

śikṣitu-kāma 圖 学習したいと思う, 初学者; 欲学, 欲修学, 楽欲修学, 欲勤修学者 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*

śikṣitukāmāsaya (°*ma-ās*°) 圖 求学意楽 *Bodh-bh.*

śikṣu 圖 助けとなる, 寛裕な (RV.).

śikṣeṇya 圖 教訓となる。

śikṣopasaṃhāra-pratikṣepa (°*ṣā-up*°) 圖 棄慢 禁戒, 棄近戒 *Mvyut.*

śikhaṇḍa 圖 髪のかさ; 孔雀の尾; 冠毛。

śikhaṇḍaka 圖 [同上] (圖)。

śikhaṇḍa-gaṇḍikā 因 冠毛。

śikhaṇḍi-ketu 圖 [Skanda 神の称]。

śikhaṇḍita 圖 [ある韻律の名 (4×11 音節)]。

śikhaṇḍin 圖 髪のかさを持っている, 冠毛のある。

圖孔雀; [(女子として生まれたがある *Yakṣa* によって少年に変形された, *Bhīṣma* の殺害者) *Drupada* の息子の名]; 頂髻 (太子名) *Divy.* 音写 始欠持 *Abh-vy.*

śikhaṇḍini 因 雌孔雀; [*Śikhaṇḍin* の少女の時の名]。

śikhaṇḍimat 圖 孔雀に富む。

śikhara 圖 とがった。 圖 田 峯 (山の) 頂上; (樹木の) 頂き; 小尖塔, 櫓; 上端; (歯の) 尖端; (象の背の) 高いところ; 圖 [人名]; 尖, 山頂, 山尖, 頂, 山上; 峯, 高峯; 嶺 *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Suv-pr.*, 梵千. 圖 [神秘的武器の名]。

śikhara-daśanā 圖 尖った牙を有する。

śikhara-sena 圖 [人名]。

śikharā, -ī 因 [ある神話上の棍棒の名]。

śikharin 圖 尖った, 頂きの尖った。 圖 山。

śikharīṇi 因 砂糖と香料を混入した凝乳; [ある韻律 (4×17音節)の名]。

śikhari-patrin 圖 翼あるまたは飛んでいる山。

śikharindra 圖 山の首長 (*Raivataka* の称, 圖)。

śikhā 因 髪のかさ (Br., S., 圖); 孔雀の冠毛(まれ); 炎; 光線(まれ); 尖端, 先端, 頂上; (衣服の) 縁; 日歩 (日々の利子) (= *vṛddhi*); 首髻 *Divy.*; 旗幟梵千; 火焰, 燄 *Lank.*: *vahneḥ* ~ 火焰 *Lank.* 32.

śikhā-jāta 圖 一かさの鬘を有する (残りの部分は剃られた)。

śikhā-dāman 田 王冠につけられた花環。
 śikhā-dhara 形 鋭い端 または先端を有する, 冠毛の
 ある。男 孔雀。
 śikhādhara-ja, 孔雀の羽。
 śikhābharāṇa (°khā-ābh°) 田 頭頂の飾, 王冠。
 śikhā-bandha 男 髪のかさ; 頂髪, 結髪 (荘束)
Divy., Mvyut.
 śikhā-maṇi 男 頭頂の宝石: 一° =中の最上者。
 śikhā-muṇḍa 形 一かすの髪 (を除いて) 剃られた。
 śikhāvat 形 燃える; とがっている。男 火; [人名]。
 śikhā-vṛddhi 女 髪のかさのように (増え) 利息。
 śikhitā 女 孔雀たること。
 śikhin 形 髪のかさを持っている (因, 圃); 最高の知
 識を得た; 紫髪 *Buddh-c.* 男 (圃) 孔雀 (冠毛
 のある); 火; アグニ; 彗星 (まれ); 孔雀; 持
 髻; 螺髻; 火頂; 妙識 *Lal-v., Mañj-m., Mvyut.,*
Saddh-p.; 音写 尸棄 *Mvyut., Saddh-p.*
 śikhi-diś 女 *Agni* 神の方角, 南東。
 śikhi-dyut 形 火のように輝く。
 śikhi-dhvaja 男 (孔雀を標識とする, [*Karttikeya*
 の称]. 田 [ある *Tirtha* の名]。
 śikhi-puccha 田 孔雀の尾。
 śikhopaniṣad (°kha-up°) 田 [ある *Upaniṣad* の名]。
 śigru 男 [ある民族の名 (種; *RV.*); 煮菜 (*Maringa*
Pterygosperma; 圃)。
 śigruka 男 [同上]。
 Śiṅh, I. 田 śiṅhati (嗅ぐ), *upa* とともにのみ, 接吻
 する (きわめてまれ)。
 śiṅhāṇaka 形 夷 *Bodh-bh.*
 Śiṅj, II. 田 śiṅkte (*RV.*, 圃), 金切声を出す, ぶん
 ぶんいう, ちりんちりと鳴る。現分 śiṅjana およ
 び śiṅjat, ぶんぶん言っている, うなっている, ち
 りんちりと鳴っている (圃)。過受分 śiṅjita ラッ
 パのような声を出す(象), ちりんちりと鳴る(足環)
 がちやがちや鳴る(甲冑)。
 ā- 過受分 ちりんちりと鳴る(足環)。
 śiṅjad-valaya-subhaga 形 腕環または腰帯の鳴る音が
 快い。
 śiṅjad-ṣaḍ-aṅghri 形 ぶんぶんと翅音を立てる蜂に
 満ちた。
 śiṅjā 女 ちりんちりん鳴る音, りんりん鳴る音; 弓
 弦。
 śiṅjā-latā 女 弓弦。
 śiṅjita 過受分 → Śiṅj. 田 ちりんちりんという音。
 ぶんぶん鳴る音。
 śiṅjini 女 (弓の) 弦。
 śiṭa 女 梯陞? *Divy.*
 śit 形 *anubandha* (文法上の黙字) として ś を有す
 る。
 śita 1., Śā 1. および 2. の 過受分。
 śita 2. 形 (śita の 不確) 白い。
 śitatā 女 鋭利なこと。
 śita-dhāra 形 鋭い刃を持った。
 śita-śara-śata 田 種 数百本の鋭い矢。
 śiti 形 白い; 黒い, 青黒い。
 śiti-kakud 形 白いこぶのある (因)。

śiti-kakṣa 形 白い肩を有する (因)。
 śiti-kaṅṭha 形 白い首を有する (因, まれ); 青い首を
 有する (圃)。男 (圃) 孔雀; [*Śiva* 神の称]; [人名]。
 śitikaṅṭhaka 形 青い首をした (孔雀)。
 śiti-gala 男 孔雀。
 śiti-pakṣa 形 白い翼のある。
 śiti-pad 形 (圃 圃 -pād, 女 -padī) 白い足を有する
 (因)。
 śiti-pāda 形 [同上] (圃)。
 śiti-prṣṭha 形 (因) 白い背を有する (他の一説には黒
 い背を有する)。
 śiti-prabha 形 白みがかった。
 śiti-ratna 田 サファイア。
 śiti-vāsas 形 暗色の服を着た。男 [*Balarāma* の
 称]。
 śiti-Kṛ, 研ぐ, 鋭利にする。
 śithira 形 (因) 弛い, たるんだ, しなやかな; 柔か
 な。
 śithila 形 弛い, たるんだ, ゆるめられた, 衰えた;
 しなやかな; 不安定な, ふるえる; 活気のない, 衰
 弱した; (因) に不注意な; 圃 圃 慢; 懈, 懈怠, 懈
 倦, 遅緩; 墮; 羸瘦, 衰撥 *Daś-bh., Lal-v., Śikṣ.*:
 ~āmbarām samekhalām śroniṃ darśayanti
 sma 衰撥內衣露現尻胫 *Lal-v.* 320. ~m 圃 よろ
 よろと(立つ)。
 śithila-gati 女 圃 圃 懈怠, 除緩 *Sutr.*
 śithila-prayoga 男 圃 圃 慢緩 *Bodh-bh.*
 śithilatā 女 弛緩. ~m *Gam* または *Vraj* 無視され
 る。
 śithilaya, 名動 田 śithilayati 弛める, 圃 śithilayate
 おろそかにする。過受分 śithilita 弛められた, や
 わらげられた, 力を抜いた。
 pari- 過受分 全く力を抜いた。
 śithila-samādhi 形 注意の緩んだ, 心をとりに乱した。
 śithilākula-mūrdha-ja (°la-āk°) 形 圃 圃 蓬頭 *Bu*
ddh-c.
 śithilāya, 名動 圃 śithilāyate 弛む。
 śithilita-jya 形 弦がゆるめられた (弓)。
 śithilita-mṛṇāla 形 ゆるい蓮の繊維を以って作られ
 た(腕環)。
 śithili-Kṛ, 弛める, 緩かにする; 減ずる, 軽減する
 過受分 弛められた, 等。
 śithili-BHū, 弛む, (自己の)努力をゆるめる; (圃) 圃
 い止まる; 圃 圃 得解脱 *Divy.*
 śini 男 [人名]。
 śini-pravira 男 *Śini* 族の英雄。
 śipi 男 (因, まれ) 家畜または光線(?)。
 śipita 過受分 過剰の (*Br.*)。
 śipi-viṣṭa 形 [同上] (因); 禿頭の (*S.*)。男 (因, 圃)
 [*Viṣṇu* 神の称]; [*Rudra-Śiva* 神の称 (まれ)].
 śiprvat 形 豊頬を有する (*RV.* 用例一回のみ)。
 śiprā 女 (*RV.*) 圃 口髭, 髭ある唇; 圃 かぶとの飾
 毛
 śipriṇivat 形 口髭を有する (*RV.* 用例一回のみ)。
 śiprin 形 [同上] (*RV.*)。
 śiphā 女 繊維のある根 (圃); 鞭. 鞭の一撃 (圃)。

śiro-mukha ㊦ 頭と顔.
 śiro-rakṣin ㊦ 護衛兵.
 śiro-ruj ㊦ 頭痛.
 śiro-rujā ㊦ [同上].
 śiro-ruha ㊦ 頭髮; 髮 *Mvyut.*
 śiro'rti (°ras-ar°) ㊦ 頭痛; 頭痛 *Divy.*
 śiro-vedanā ㊦ [同上].
 śiro-veṣṭana ㊦ 頭布; 額, 巾 *Mvyut.*
 śiro-vrata ㊦ [ある宗教儀式の名].
 śīla ㊦ (畑に残された)穀物の穂; 落ち穂拾い; [*Pariyatra* の息子の名].
 śīlaka ㊦ [人名].
 śīla-rati ㊦ 落穂拾いで満足した.
 śīla-vṛtti ㊦ 落穂によって生計をたてること.
 śīlā ㊦ 石, 岩, 巖; [ある河の名]; 石, 砥, 玉石, 美玉, 瓦石, 壁玉, 玻璃, 碧玉 *Aṣṭ-pr., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lan̄k., Mvyut., 梵千.*
 śīlā-kuṭṭa ㊦ 石工ののみまたは手斧; 石匠 *Mvyut.*
 śīlā-kusuma ㊦ 蘇合香 (*strax*) の花.
 śīlākṣara (°lā-ak°) ㊦ 石版刷.
 śīlā-gr̥ha ㊦ 洞穴.
 śīlā-ghana ㊦ 岩のように堅固な.
 śīlā-caya ㊦ 石の堆積, 山.
 śīlā-jatu ㊦ 瀝青; 五靈脂 [薬草名] *Mvyut.*
 śīlā-tala ㊦ 岩の平版; 石 *Mvyut.*
 śīlātva ㊦ 石たること.
 śīlāditya (°lā-ād°) ㊦ [ある王の名].
 śīlāndhas ㊦ 食糧としての落穂.
 śīlā-paṭṭa ㊦ 石板 (坐るためまたはつくための).
 śīlā-putra ㊦ 砥石; 碓, 磨 *Mvyut.*
 śīlā-putraka ㊦ 砥石; 石像; 石子 *Abh-k.*
 śīlā-prāsāda ㊦ 石造の寺.
 śīlā-bandha ㊦ 石壁.
 śīlā-bhāva ㊦ = śīlātva.
 śīlāmaya ㊦ (㊦ -i) 石で作られた.
 śīlā-varṣin ㊦ 石の雨を降らす.
 śīlā-vaha ㊦ 種 [ある民族の名].
 śīlā-vahā ㊦ [ある河の名].
 śīlā-veśman ㊦ 岩屋, 石窟.
 śīlā-śastra ㊦ 石の武器.
 śīlā-śita ㊦ 石で研いだ (矢).
 śīlāsana (°lā-ās°) ㊦ 石の上に坐った.
 śīlā-stambha ㊦ 石柱.
 śīlāhārin (°lā-āh°) ㊦ 落穂を拾う. ㊦ 落穂拾い.
 śīlikā-koṣṭha ㊦ [ある山村の名].
 śīliṣṭa ㊦ (= *Pali* *siliṭṭha*; *Skt.* *śliṣṭa*) にかじりついている; 棒 *Lal-v.*
 śīlindhra ㊦ バナナの樹 (*Musa Sapientum*) の花; キノコ.
 śīli-prṣṭha ㊦ [ある剣の称].
 śīli-bhūta ㊦ 石になった, 石のように堅くなった.
 śīli-mukha ㊦ [ある剣の称]. ㊦ 矢; 蜜蜂 (まれ); [ある野兎の名].
 śīlocaya (°lā-uc°) ㊦ (岩の堆積) 山; 妙高山 *Divy.*

śīloṅcha (°lā-uñ°) ㊦ 落穂を拾うこと. ㊦ あるいは ㊦ 落穂を拾うことおよび穀粒を拾い上げること.
 śīloṅchana (°lā-uñ°) ㊦ [同上].
 śīloṅcha-vṛtti (°lā-uñ°) ㊦ 落穂拾いによって生計を立てること. ㊦ 落穂によって生計を立てる.
 śīloraska (°lā-ur°) ㊦ 石の胸を有する (*Himalaya* 山).
 śilpa 1. ㊦ 雑色の (*YV.*).
 śilpa 2. ㊦ 種々様々の外見, 裝飾, 飾り (㊦); 芸術品 (㊦); 芸術的熟練, 術, 手練 (*Br., ㊦*); [ある種の *śastra* の名 (*Br., S.*)]; 工巧, 工巧論 *Abh-k., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Lan̄k., Madhy-vibh., Śikṣ., Sūtr.*; 芸 *Gaṇḍ-vy., Lal-v.*; 技術 *Divy.*; 伎芸 *Raṣṭr.*; 巧工, 工匠 *Divy.*; 人工, 人功 *Lan̄k.*; 造作 *Mvyut.*
 śilpa-karman ㊦ 手仕事, 手細工; 工業, 工巧 *Bodh-bh.*
 śilpakarma-sthāna ㊦ 工巧業処, 技芸工巧業処 *Bodh-bh.*
 śilpakarmasthāna-nirmāṇa ㊦ 工巧業処 *Sūtr.*
 śilpakarmasthāna-vidyā ㊦ 巧明, 諸工巧業処, 諸明処 (工巧業処明) *Bodh-bh., Sūtr.*
 śilpa-kalā-vidyā-pada ㊦ 工巧技術明処句, 工巧見, 巧明句, 技術句 *Lan̄k.*
 śilpa-kāra ㊦ 芸術家, 工匠.
 śilpa-kāri ㊦ 女流芸術家, 女工匠.
 śilpa-kārikā ㊦ [同上].
 śilpa-kāriṇī ㊦ [同上].
 śilpa-gr̥ha ㊦ 芸術家または工匠の仕事場.
 śilpa-jīvikā ㊦ 芸術または工芸で生計を立てること.
 śilpa-jīvin ㊦ 工芸によって生計を立てる. ㊦ 工芸家または芸術家.
 śilpa-jña ㊦ 閑修伎芸 *Lal-v.*
 śilpa-jñatā-sampatti ㊦ 智成就 *Sūtr.*
 śilpa-jñāna ㊦ 巧智 *Bodh-bh.*; 工巧技術明智, 工巧明智, 技術明淨智 *Gaṇḍ-vy.*
 śilpa-darśana ㊦ 現工巧 *Sūtr.*
 śilpa-prajāpati ㊦ [*Viśvakarman* の称].
 śilpavat ㊦ 芸術家または工芸家.
 śilpa-vidyā ㊦ 芸術家または工芸家の知識; 技術 *Lan̄k.*
 śilpavidyā-kalāgama (°lā-āg°) ㊦ 学種種技術, 解了工巧明 *Lan̄k.*
 śilpa-vṛttī ㊦ = śilpajīvikā
 śilpa-śāstra ㊦ 芸術または工芸に関する論書.
 śilpa-sthāna ㊦ 技芸の熟練, 機械による または手の技術; 所造作; 伎芸, 工巧処, 諸伎芸, 伎工巧, 工巧諸伎芸 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Ratnaut., Śikṣ.*
 śilpābhijña ㊦ 善知衆芸 *Gaṇḍ-vy.*
 śilpika ㊦ 諸伎芸に通曉した (*Śiva* 神に用いられる). ㊦ 手工芸, 機械工芸.
 śilpin ㊦ ある一つの伎芸に通曉した; 作者 *Mañj-m.*; 伎芸無不通達 *Suv-pr.* ㊦ 芸術家, 工芸家; (一) の造形者.
 śilpini ㊦ 女流芸術家.

śilpopacāra-yukta (°pa-up°) 形 圓 自己の芸能を用いて生計を立てるもの。

śilpopajivin (°pa-up°) 圓 芸術家, 工芸家。

śiva 形 親切的な, 好意のある, 恵みある; 愉快的な, 吉祥な, 繁栄する, 幸福な; 精; 柔善; 寂靜, 清涼; 淨, 清淨; 安, 樂, 常樂, 安隱; 妙; 福寿; 吉祥之事; 涅槃 *Cat-ś., Lank., Madhy-v., Mañj-m., Mvyut., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p.* 男 [吉祥なもの, *Rudra* 神の婉曲的な称, 圓においてはインド教徒の三位一体の一つ *Śiva* 神 (圓 *Śiva* 神とその妃)]; 豺; [人名]; 圓 [婆羅門の一階級の名]. 田 繁栄, 安寧, 至福. 男 吉祥, 安隱; 大自在天 *Divy., Madhy-v.* ~āya, ~ena 幸福に; ~āya gamyatām 道中御氣嫌よう!

śiva-kara 形 幸福または繁栄をもたらす, 吉祥な, 吉兆の。

śiva-kṣetra 田 *Śiva* 神に捧げられた区域; [ある地方の名].

śivaṃ-kara 形 = śivakara. 男 人格化された刑罰; [病気をひき起す悪魔の名]; 吉祥, 作吉祥 *Mvyut.*

śivatama 最上 最も幸運な, 甚だ幸運な。

śivatara 比較 より幸運な, 極めて幸運な。

śiva-tāti 形 幸福または繁栄に導く. 因 繁栄.

śivatva 田 *Śiva* 神であること; 清涼 *Ratna-ut.*

śiva-datta 男 [人名].

śiva-dāyin 形 繁栄を授ける.

śiva-dāsa 男 [人名].

śiva-diś 因 北東.

śiva-pathikā (*Pali* śivathikā) 因 死体が捨てられる場所, 墓地; 凄惨道, 澹泊路 *Śikṣ.*

śiva-pathi 因 塚間淨処; (音写) 尸陀林 *Lank.*

śiva-pura 田 (因 -i) [種々の町および村の名].

śiva-bhakti 因 *Śiva* 神への誠信.

śiva-bhūti 男 [ある大臣の名].

śiva-bhūtika 男 [同上].

śiva-mantra 男 *Śiva* 神の讚頌. → śimantra.

śivamaya 形 (因 -ā または -i) 繁栄に満ちた, 全く *Śiva* 神に帰依した.

śiva-mātra 男 音写 尸婆摩怛羅 *Mvyut.*

śiva-yogin 男 *Śiva* 派の修行者; [人名].

śiva-ratha 男 [人名].

śiva-rātri 因 [*Śiva* 神のために行われる断食と祭りの名 (*Māgha* 月の黒半月の第十四夜)].

śiva-rūpin 形 *Śiva* 神の形相を有する.

śiva-līṅga 田 *Śiva* 神の男根.

śiva-loka 男 (*Kailāsa* 山上の) *Śiva* 神の世界.

śiva-varāgra 田 最寂靜; (音写) 尸毘最勝 *Gaṇḍ-vy.*

śiva-varman 男 [ある大臣の名].

śiva-śakti 因 *Śiva* 神とその性力. 男 [人名].

śiva-saṃkalpa 形 親切的な意向を有する (因). 男 [*Va-jasaneyi-Saṃhitā* 34, 1-6 の名]; [後に拡大された *Upaniṣad* の名].

śiva-sūtra 田 圓 [(*Śiva* の作とされている) *Pāṇini* 文法の冒頭の14のストラの名称で, 文法の説明の

便宜に従って字母を排列したもの].

śiva-svāmin 男 [人名].

śivā 因 *Śiva* 神の妃 (として擬人化された) かれの性的能力; (一般に凶兆の動物と見なされている) 豺 (の婉曲語法); *Angiras* の妻; 野干 *Lal-v.*

śivākāra (°va-āk°) 形 情深い外貌をした, *Śiva* 神の形をした.

śivāgama (°va-āg°) 男 *Śiva* 神の教義; [ある著作の題名].

śivādesaka (°va-ād°) 男 占卜者, 占星家.

śivāyatana (°va-āy°) 田 *Śiva* 神の殿堂.

śivā-ruta 田 豺の叫び; 母狼声 *Mvyut.*

śivālaya 田 (°va-āl°) 男 *Śiva* 神の住所, *Kailāsa* 山; *Śiva* 神の殿堂.

śivāśīva 形 吉不吉事 *Mañj-m.*

śivi 男 音写 尸毗 [王の名] *Buddh-c.* → śibi.

śivikā 因 輿 *Buddh-c., Divy.*; 輦輿 *Saddh-p.*

śivin 形 音写 尸毗 *Lank.*

śivetara (°va-it°) 形 不幸な, 不吉な.

śīsaya 形 強力にする (*Sā* 2.), '物惜しみしない (RV. 用例一回のみ).

śīsaiṣu 希求 形 眠りたいと思う, 眠たげな.

śīsira 形 涼しい, 寒い. 男 田 初春, 寒冷季 (*Māgha* と *Phālguna* の月を含む六季節の一つ; 因, 圓); 寒冷, 霜 (圓); 涼しさ (圓); 冬, 冬時, 冬尽; 霜; 十一十二月 *Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Śikṣ., 梵雜.* 形 涼しい, 寒い; 清涼 *Buddh-c.*

śīsira-kara 男 月.

śīsira-kiraṇa 男 [同上].

śīsiratara 比較 さらに寒い, きわめて涼しい.

śīsiratā 因 涼しさ, 寒冷. → aśīsirata.

śīsiratva 田 冷たい光線を有すること.

śīsira-didhiti 男 月.

śīsira-mathita 形 霜で枯れた (蓮華).

śīsira-māsa 男 涼しい月.

śīsiraya 名動 他 śīsirayati 冷やす, 清涼にする.

過受分 śīsirayita 冷された.

śīsira-raśmi 男 = śīsirakiraṇa.

śīsiraṛtu (°ra-ṛtu) 男 寒季.

śīsira-śri 因 冷季の美しさ.

śīsira-samaya, 男 冷季.

śīsirā 因 神秘的武器 (の一種).

śīsirāṃsu 形 冷い光線を有する. 男 月.

śīsirātyaya 男 冷季の終り, 春.

śīsirāya, 名動 自 śīsirāyate 涼しくなる.

śīsiri-Kṛ, 冷やす.

śīsiri-BHū, 冷える.

śīsiropacāra (°ra-up°) 男 人工の冷却, 冷却器.

śiśu 男 [成長するもの: *Sū, Śvā*] 子供, 幼児; (動物の子 (若木および朝日についても言う)); 合成語中では一般に 一°; [*Skanda* 神の名]; [人名]; 初生, 少年 *Abh-k, Bodh-c.*

śiśuka 男 幼児; 水棲動物 (の一種) (*Delphinus Gangeticus*).

śiśu-kāla 男 幼年時代.

śiśu-cāndrāyaṇa 因 日出・日没に四口ずつ食する苦

行(の一種).

śīśu-jana 男 児童.

śīśutā 因 幼年時代; 小供らしさ.

śīśutva 因 [同上]; 嬰兒 *Buddh-c.*

śīśu-deśya 因 幼年期を未だ脱しない, 殆んど幼年の.

śīśu-nandi 男 [ある王子の名].

śīśu-nāga 男 蛇の子供; 象の子供; Rākṣasa の一種; [Magada 国のある王の名 (因) その子孫].

śīśu-pāla 男 [Damaghoṣa の息子で, Kṛṣṇa 神に殺害された Chedi 族のある王の名].

śīśupāla-vadha 因 Śīśupāla の殺害, [Magha 作の叙事詩 Kāvya の標題].

śīśupālavadha-parvan 因 [Mahābhārata 中の一章の標題].

śīśumat 因 子に伴われたまたは子を持った (因).

śīśu-māra 男 いるか (*Delphinus Gangeticus*); [ある星座の名 (擬人化されて: Doṣa と Śarvartī の息子または Bhrami の父)]; 鱷魚; 捉水獣鳥 *Mṛyut.*; 鱷魚 玄應; 音写 輪収魔羅 *Lank.*; 失収摩羅, 失守摩羅 玄應; (音写) 失守, 煞子魚 玄應.

śīśumāra-giri 男 膠魚山 *Vin.*; (音写) 失収摩羅山 *Divy.*

śīśumāra-sīras 因 いるか座のある天の一部分の名; 東北.

śīśu-yugma 因 一對の幼児.

śīśu-hariṇa-dṛś 因 若いかもしれないような眼をした娘.

śīśūla 男 幼児 (RV., 用例一回のみ).

śīśna 男 因 尾; (一般に) 男性生殖器.

śīśnatha 男 刺し通すこと (RV., 用例一回のみ).

śīśna-deva 因 男根崇拜者 (RV., 用例二回のみ).

śīśnodara (°na-ud°) 因 陰茎 (男根) と腹部.

śīśvi 因 su-śīśvi の形において用いられる.

Śiṣ 1., VII. 因 śiṣaṣṭi (Br., S., 因), VI. 因 śiṣṣati (Br., S.), 残す; IV. 因 または 因 śiṣyate 残される, 残る (単純動詞としては 因 にのみ用いられる);

na とともに, 欠けている (叙時). 過受分 śiṣṭa (因,

因) 残された, 残っている; (因) においては 一°,

時としてはたゞ……のみを残した; ……から免れた.

使役 śeṣayati 因 (因, 韻律) 残す, 節約する. 過受分

śeṣita 残された, 節約された.

ati- 残す; 因 残される.

ava- 因 残る. 過受分 (因, 一°) から残された,

節約された, 残存する; (因, 一°) のみ残された;

(一° 過受分 とともに) であったものから残った.

使役 残す. 過受分 残された; また非使役動詞の

過受分に同じ; sambhoktum nāvaseṣitā 食われる

のを免れなかった.

uc- (chiṣ)- 残して置く (因). 因 残して置かれる (因).

過受分 ucchiṣṭa (一°) によって残される, 残って

いる, (無用のものとして) 放置された; 不浄な. 因

供物の残り, 残饌.

pari- 残して置く (因). 因 残される. 因 因 śiṣya-

māna 最後に残っている. 過受分 pariśiṣṭa 残され

た, 残っている. 使役 残す, 余す, 節約する.

vi- (離して置く), 区別する, 特殊化する; (他のもの) から識別する, (因) よりよいとする; 増す, 強烈

にする (まれ). 因 (因) によってくわしく述べられるま

たは定義される; (因, 因) から区別される; 秀でた

または最もよいと認められる; (因, 因) より重みの

あるまたはよりよい, より優れたまたは一層好ましい;

(因, 因) の間では卓越している. 過受分 viśiṣṭa (因,

一°) によって区別された, 特殊化された, 特質づ

けられた; 異なった, 特殊の; (因, 一°) によって

秀でた, 卓越した, 区別された; (因) において優れ

ている; (因) の中で最上の, の中で最も顕著な;

(因, 一°) より優れた, 一層よいまたは一層悪い.

使役 区別する, 決定する, 定義する; (誰かを) より

好む; よりよく見せる; 凌駕する, 秀でる. (普通の

意味). 因 viśeṣyate 大いに尊重される. 因 viśe-

ṣita (因) の点で (因) より優れている; 凌駕された

勝, 過, 勝過; 異; 令見, 殊勝, 最勝, 為最

勝; 格量, 校量勝劣 *Abh-k., Aṣṭ-pr., Lal-v., La-*

nk., Madhy-vibh., Sāṃkhy-k., Sūtr.

pra-vi- 増大する.

Śiṣ 2., Śās の弱語形.

śiṣṭa 1. 過受分 (Śās) 教えられた等. 因 (一°) に関する

規則.

śiṣṭa 2. 過受分 (Śiṣ) 余った. 因 残り, 残余; 因

余 *Bodh-bh., Sūtr.*

śiṣṭatā 因 教養, 学識.

śiṣṭatva 因 [同上].

śiṣṭa-vikīram 因 棄飯食, 棄著手飯 *Prat-m.*

śiṣṭa-sabhā 因 学者の会合.

śiṣṭa-saṃmata 過受分 教養あるものによって認め

られたまたは好まれた.

śiṣṭa-smṛti 因 学者の伝統.

śiṣṭākaraṇa 因 命ぜられたことを怠ること.

śiṣṭāgama (°ta-āg°) 男 学者の伝統.

śiṣṭācāra (°ta-āc°) 男 学者の実践または振舞. 因 学

のように行動するまたは行儀のよい.

śiṣṭādiṣṭa (°ta-ād°) 過受分 学者によって規定され

または認められた.

śiṣṭānadhyaṇa 男 または 因 (異読: śiṣṭānadhya-

因) 貴賓到着の際の休暇.

śiṣṭārtham 因 教訓のために (異読: śiṣṭārtham).

śiṣṭāsana 因 残りものを食う.

śiṣṭi 因 [Śās] 懲罰; 命令; 教示.

śiṣya 未受分 [Śās] 教えられるべき; 教授される

き. 男 生徒, 弟子; 因 弟子 *Abh-vy., Bodh-*

Lal-v., Lank., Mañj-m., Rāṣṭr., Ratna-ut.

Saddh-p., Sāṃkhy-k.; 徒, 従弟 *Mṛyut., Rāṣṭr.*

弟 梵雑; 学徒 *Abh-vy., Divy., Rāṣṭr.*; 教 *Abh-vy.*

所開化 *Saddh-p.*; 徒衆, 眷属 *Rāṣṭr.*

śiṣyaka 男 弟子.

śiṣya-gaṇa 男 諸弟子 *Lank.*; 弟子衆 *Ratna-*

ut.

śiṣya-guṇa 男 調御師弟子 *Ratna-ut.*

śiṣyatā 因 弟子たること.

śiṣyatva 因 [同上] 弟子 *Śiṣ.*

śiṣya-pada 因 弟子句, 弟子見 *Lank.*

śiṣya-pratiśiṣyakā 女 弟子弟子 Divy.
 śiṣya-bhāva 男 弟子礼, 弟子法 Gaṇḍ-vy.
 śiṣya-rūpin 形 弟子の形相を有する.
 śiṣya-varga 男 諸弟子衆 Lank.
 śiṣya-sakha 男 弟子を友とした.
 śiṣyā 女 女弟子.
 śiṣyāya. 名動 自 (國) の弟子となる. 過受分 śiṣyāy-
 ita. 甲 非入.
 śiṣyī-Kṛ, (業) を (國) の弟子とする.
 Śis (Śiṣ), Śās の 弱翻, また (āśis 等の) 派生語として
 用いられる.
 Śi 1. IV. 自 śiyate 脱落する (因); 消え失せる, 追
 い払われる, 滅する (業).
 ava- 倒れる.
 Śi 2., II. 自 śete (因, 業), I. 他自 śayati (-te) (因 業,
 まれ), 横たわる, よりかかる, 休む; 使用されない
 ままである; 眠る; 眠るために横になる; 寝入る.
 過受分 śayita 横たわっている; 眠っている; 臥し
 た; 眠った; 寝入った. 使役 śāyayati 他(自, 韻律)
 下に置く, (因) の上に または の中に置く; 下に横た
 わらせる. 過受分 śāyita (一°) の上に置かれた.
 希求 自 śiśayīṣate 眠りたいと思う; 現睡眠
 Bodh-bh.; 寝寐 Lal-v.
 ati- 凌駕する. 過受分 atīśayita (業) を凌駕する;
 異常な, 尋常でない; 凌駕された. 希求 現分 ati-
 śiśayīṣamāṇa 凌駕しようと欲している.
 adhi- (業) においてまたはの上に横たわっているまた
 は休息する, ……の上に横たわる; (業) に住む.
 使役 (業) に (業) を横たえる.
 anu- (誰か: 業) の後に横たわる; 後悔する; 随眠
 随眠, 随増, 随増眠 Abh-vy., Mvyut.
 sam-anu- 随増 Abh-vy.
 ā- (業 まれに 因) にまたはの上に横たわる. (因, 業に
 においてはまれ).
 praty-ā- (何物かの) 前に横たわる (RV.).
 upa- (業) の側に横たわる; (因) の上に横たわる.
 pari- 周りに横たわる, 取り巻く, (業) の上でまたは
 において休む (因).
 prati- (誰か: 業) にもたれかかる=強要する.
 過受分 能 および 因 の意味をとともなう.
 vi- 長々と横たわる; (因) の上に依然として坐っ
 ている; 疑いを受けやすい.
 sam- [一緒に横たわる, 混乱する], 決断のつかない
 または疑う, ためらう; (因) に絶望する; 他 (業) に
 関して異なった意見を有するまたは(証人たちが)一致
 しない. 過受分 samśayita (一°) に関して不決断
 (優柔不断) である, 疑を抱いている; 怪しい, 不確
 実な, 危うくされた; 疑 Raṣṭr.
 Śi, → Śā および Śyā.
 Śik, I. 自 śikate (まれ), 滴る, 飛び散る. 過受分
 śikita 滴った (因). 使役 他 śikayati ふりかける
 (業).
 śikara 男 (通常 國) 細雨, 飛沫.
 śikara-kaṇa 男 霽.
 śikara-varṣin 形 細雨を降らせる, 霧雨が降る.
 śikarāmbu 甲 雨水.

śikarādra (°ra-ār°) 形 雨に濡れた.
 śikarin 形 飛沫を吹き送る (風); 水を噴出する (象
 の鼻).
 śighra 形 すばやい, 敏速な, 迅速な; 早, 急,
 速, 疾 Bodh-c., Raṣṭr., Saddh-p., 梵雜., 梵千; 音写
 尸伽唳 Guhy-s. ~m 副 すみやかに, 急速に; 速,
 疾, 忽然 Bodh-c., Lal-v., Saddh-p.
 śighra-kārin 形 迅速に行動する.
 śighra-kṛt 形 [同上].
 śighra-kṛtya 未受分 迅速に遂行されるべき.
 śighra-ga 形 速やかに動く, 迅速に走る. 男 [ある
 Agnivarṇa の息子の名]; [ある野兎の名].
 śighragatva 甲 迅疾な動き,
 śighra-gāmin 形 =śighraga; 去迅疾, 念即至,
 去速疾 Lank.
 śighra-cāra 形 (一°) [同上].
 śighra-cetana 形 速やかに意識をはたらかす (犬).
 śighra-jaṇa 形 迅速に動くまたは走る.
 śighratara 比較 より速やかな, 非常に速い; 迅
 疾 Saddh-p.
 śighrataratama-prāpti 女 急緩至 Abh-vy.
 śighratā 女 迅速, 急速; 敏捷, 捷利 Lal-v.
 śighratva 甲 [同上].
 śighra-parā-krama 形 迅速に活動する, 果敢な, 速や
 かに決断する.
 śighra-pātin 形 迅速に飛ぶ, 急速に動く, すみやか
 に仕事にかかる.
 śighra-pāyin 形 迅速に (血を) 吸う (蛭).
 śighra-yāna 甲 迅速な進行. 形 急速に動く.
 śighra-yāyin 形 [同上].
 śighra-vāhin 形 速かに駆る.
 śighra-vikrama 形 =śighraparākrama.
 śighra-vega 形 非常に速い.
 śighra-śighra 形 疾疾 Ratna-ut.
 śighra-samcārin 形 速やかに動く.
 śighra-srotas 形 急流を有する.
 śighrāstra 形 迅速に飛ぶ飛び道具をもつ.
 śighrāstratva 甲 [同上の 國].
 śighrin 形 急ぐ.
 śighrya 形 急な. 甲 速やかなこと, 速さ, 迅速.
 śit 擬音 副 Kṛ とともに, śit という音を発する (ぞく
 ぞくするような快感の表示).
 śīta 過受分 [Śyā] 涼しい, 寒い (因, 業); 音写
 徒多, 私多, 志陁, 私陁 立応; 冷, 寒, 冷河 Bodh-
 bh., Bodh-c., Divy., Sukh-vy. I.: aṣṭau śītanā-
 rakāḥ [1. arbudaḥ 水泡(皰), 2. nirarbudāḥ 水泡
 裂(皰裂), 3. aṭaṭaḥ 頰嘶吨, 4. hahavaḥ 嚙嚙婆, 5.
 huhuvaḥ 虎虎婆, 6. utpalāḥ 裂如優波羅(青蓮華),
 7. padmaḥ 裂如蓮華(紅蓮華), 8. mahāpadmaḥ 裂
 如大蓮(大紅蓮華)] Mvyut. 215. 甲 寒さ, 寒冷
 (業); (Pali śīta) 冷, 寒 Abh-vy., Sāṃkhy-
 k., Sūtr.; 帆 Jāt-m.
 śītaka 形 (女 -ikā) 涼しい (因).
 śīta-kara 男 (冷たい光線を有する) 月.
 śīta-kāla 男 寒い季節.
 śīta-kiraṇa 男 =śītakara

śīta-kriyā 因 冷却。
 śīta-gu 男 = śītakara.
 śīta-jvara 男 おこり；**漢訳** 虐 梵千。
 śītatā 因 寒さ。
 śītatva 因 [同上]。
 śīta-pāki 因 煮て食べる野菜 (の一種)。
 śīta-bhānu 男 月。
 śīta-bhita 形 寒さを怖れる。
 śītamaya 形 涼しい, 寒い。
 śīta-mayūka 男 月。
 śīta-raśmi 形 冷たい光線を有する。男 月。
 śītarāśmitva 因 光線の冷かなこと。
 śīta-ruc 男 (冷たい光線を有する) 月。
 śīta-ruci 男 [同上]。
 śīta-rocis 男 [同上]。
 śīta-la 形 冷たい, 寒い, 凍った, 冷やす; 激情を離れた (まれ); 優しい, 柔和な (人); 感情を刺激しない, 苦痛の感情を生じさせない (不幸); **漢訳** 寒, 清涼, 清冷, 陰涼, 安樂 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.* 因 寒さ, 冷かなること。
 śītala-jala 因 冷たい水; **漢訳** 清冷之水 *Śikṣ.*
 śītala-tara 比較 更に寒い。
 śītalatā 因 寒冷。
 śīta-naraka 男 **漢訳** (音写) 寒那落迦 *Bodh-bh.*
 śītalaya, 名動 他 śītalayati, 冷やす。
 śītala-hima-salila 因 **漢訳** 澄潔清冷水, 清冷水 *Suv-pr.*
 śītala-sparśa 形 触れて冷たい。
 śītalāya, 名動 自 śītalāyate, 冷くなる。
 śītalikā 因 **漢訳** 寒, 寒時 *Abh-vy.*, *Suv-pr.*
 śītali-Kṛ, 冷やす。
 śītali-BHū, 冷えるまたは寒くなる。
 śīta-vana 因 [ある巡礼地の名]; [*Magadha* 地方にある死体置場の名] **漢訳** (音写) 尸多婆那, 尸多婆立; (音写) 尸陀林, 屍陀林立; 寒林 *Divy.*, 立。
 śīta-vaha 形 冷水が流れている (川)。
 śīta-saṃsparśa 形 冷たい感触をもつ。
 śīta-sparśa 男 寒冷の感触。
 śīta-hara 形 寒さを取り除く。
 śītā 因 [ある河の名 (異読: śītā)].
 śītāmsu 形 冷やかな光線を有する。男 月。
 śītāmsutā 因 冷やかな光線を有すること, 月たること。
 śītāmsutva 因 [同上]。
 śītāmsumat 男 月。
 śītādhivāsa 形 涼しい場所に住むまたは冷やす。
 śītārta (°ta-ār°) 過受分 寒さに苦しめられた, 冷えた。
 śītalū 形 寒さに敏感な, ぶるぶる震える, 冷えた。
 śītikāvat 形 (因 -i) 涼しい (因)。
 śīti-bhāva 男 **漢訳** 清涼, 正真 *Lal-v.*
 śīti-bhūta 形 **漢訳** 清涼, 得清涼, 寂滅寂靜 *Abh-vy.*, *Ratna-ut.*, *Suvik.*
 śīti-Kṛ, 冷たくする, 寒くする; **漢訳** 清涼 *Rāstr.*
 śīti-bhāva 男 冷たくなること, 冷却; 冷たさ; 冷え

ること, 心の冷えること, 心の完全な静穩, 解脱。
 śīti-BHū, 冷たくなる; **漢訳** 為清涼, 清涼 (得清涼) *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*
 śīti-bhūta 形 涼しくなった; **漢訳** 清涼, 得清涼, 獲清涼, 清淨 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*
 śītetara (°ta-it°) 形 寒さの反対の, 暑い。
 śītetarārcis 男 太陽。
 śīteṣu (°ta-iṣu) 男 (冷たい箭), [神話上のある武器の名]。
 śītodā (°ta-udā) 因 (冷たい水を有する), [神話上のある河の名]。
 śītopacāra (°ta-up°) 男 冷却療法。
 śītoṣṇa (°ta-uṣ°) 形 寒いのと熱いのと, 寒暑の; **漢訳** 寒熱, 冷熱 *Lank.* 因 因 および 因 寒さと熱さ; **漢訳** 冷熱 *Sūtr.*
 śītoṣṇa-kiraṇa 男 因 月と太陽, 日月。
 śīt-kāra 男 *śīt* という音 (ぞくぞくするような快感の表示; またほとぼしる水の音および苦痛の叫びの表示; 時として *śītkāra* と書かれる)。
 śīt-kārin 形 *śīt* という音を発する。
 śīt-kṛta 因 *śīt* という音を発すること。
 śīdhu 男 = *śidhu*; **漢訳** 甘蔗酒 *Mvyut.*
 śīna 過受分 [*Śyā*]. 因 水 (VS.)
 śīpāla 男 因 (因) [水草の一種 (*Blyxa Octandra*)].
 śīphara 形 魅力のある。
 śībham 副 急いで, 迅速に (因)。
 śīra 形 [*Śā*] 尖った, 鋭い (因)。
 śīra-śocis 形 鋭い光線を有する (RV.)
 śīrṇa 過受分 → *Śī*; **漢訳** 破, 半乾, 余剩; 落, 断, 已随, 枯落, 枯竭, 零落, 衰朽 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*
 śīrṇatva 因 [同上の 因]。
 śīrṇa-danta 形 歯の抜けた, 歯のない。
 śīrṇa-pakṣa 形 **漢訳** 羽翮摧残 *Lal-v.*
 śīrṇa-parṇa 因 枯葉。
 śīrṇaparṇa-phala 形 葉も実も萎びた。
 śīrṇaparṇāśin (°ṇa-āś°) 形 枯葉を食べる。
 śīrṇa-palāsa 男 **漢訳** 葉落 *Mvyut.*
 śīrṇa-puṣpa 形 花の凋んだ。
 śīrṇa-vṛnta 男 スイカ。因 その実。
 śīrṇa-śīrṣan 形 頭を砕かれた。
 śīrṇi-Kṛ, 傷つける, 刺す。
 śīrṣa 因 (一°, 形, 因 -ā, -i) 頭; 先端, 頂き (また字についてもいう); **漢訳** 頭, 首, 頂, 頂上, 畔; 髑髏 *Abh-k.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Rāstr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*: *jamb dvipa* ~ 閻浮提畔 *Gaṇḍ-vy.* 216. ~ *tas* 副 (因) または頭上から; まっさかさまに; 頭において, 面で。
 śīrṣaka 因 頭; (試罪法に負けた時告発者が支払うとに同意した) 罰金; **漢訳** 斗, 斗撰 *Mvyut.* **漢訳** 甲, 盃 *Mvyut.*
 śīrṣa-kapāla 因 頭蓋骨 (因)。
 śīrṣaka-stha 形 (試罪法に負けた時) 罰金を支払うとに同意する。

śirṣa-cchinna 形 斬首された。
 śirṣa-ccheda 男 斬首。
 śirṣa-cchedya 形 (男) によって斬首されるに値いする。
 śirṣanya 形 頭上にある (因, 圍) ; 先頭に立っている, かしらである (圍, まれ). 因 (寝台の)頭の部分。
 śirṣavat. 形 頭を有する。
 śirṣa-trāṇa 因 かぶと。
 śirṣan 因 頭 (後代ではまれ; 因では 困 圍 を除く 圍 のすべての格があり, また 困 圍 圍 圍, および 困 圍 もある; 叙詩 P. ではまれ.)
 śirṣa-paṭṭaka 男 頭巾。
 śirṣa-pracālaka 因 搖頭, 転頭 *Prat-m., Mvyut.*
 śirṣa-bandhanā 因 頭巾。
 śirṣa-rogin 形 頭痛に悩むまたはを起させる。
 śirṣavat 形 頭を有する。
 śirṣa-vedanā 因 頭痛 (P).
 śirṣa-vyathā 因 [同上].
 śirṣānta 男 頭の近辺. ~āt 因 (寝台の)頭から. ~e 因 枕の下に。
 śirṣāvaśeṣi-Kṛ, 単に(圍)の頭のみを残す。
 śirṣāvaśeṣi-kṛta 形 単に頭のみが残された。
 śīla 因 (男) 習慣, 風習; 気質, 性向, 性格; ふるまい; よい行状または習慣, 高尚な品性, 廉直, 道徳性; きわめて普通に 一〇 形に慣れている, ……の気質のある, ……の傾向のある, または……にふける, ……を実行している; 因 (音写) 尸, 尸羅; 習; 性, 自性, 稟性; 戒, 持戒, 淨戒, 禁戒, 受持禁戒; 善戒, 戒行, 戒律; 善行; 常樂, 具; 威儀; 界 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-v., Lan̄k., Madhy-vibh., Mvyut., Rāstr., Ratna-ut., Saddh-p., Sam-r., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr.*; 梵千: na~m samādāya vartamte 不受淨戒, 不持禁戒, 不樂持戒 *Bodh-bh.* 252. ~tas 副. 品性に関して, 行為において。
 śīla-kathā 因 戒論 *Divy.*
 śīla-kṣānti-vīrya-dhyāna-prajñā-pāramitā 因 (音写) 戒・忍・精進・静慮・慧波羅蜜多 *Bodh-bh.*
 śīla-khaṇḍana 因 道徳に反することまたは貞操を犯すこと。
 śīla-gupta 過受分 品性の邪な, 狡猾な。
 śīla-jña 形 貞操または道徳を知っている。
 śīla-jñāna-nidhi 男 貞潔と智の宝。
 śīla-taṭa 形 善行をその防波堤としている。
 śīla-tanmayatā 因 戒成其性 *Bodh-bh.*
 śīlatā 因 高貴さ, 有徳性。
 śīla-tulyā 形 貞操に似た。
 śīla-tyāga 男 道徳性または廉潔の放棄, 貞操または名誉を棄てること。
 śīla-dṛḍhatā 因 於戒堅固 *Sam-r.*
 śīla-traya 形 三聚戒 *Sūtr.*
 śīla-dāna 因 戒施 *Sūtr.*
 śīla-dṛṣṭi 因 戒見 *Sūtr.*
 śīla-dhana 因 禁戒財 *Ratna-ut.*
 śīla-dhara 形 貞節な, 尊敬すべき. 男 [人名].
 śīla-nidhi 男 貞操の宝。

śīlana 因 (一〇) の練習, 実行, 研究, 養成; しばしば言及すること。

śīla-pada 因 戒句, 戒見 *Lan̄k.*

śīla-pāramitā 因 最高度の廉直; 因 (音写) 尸羅波羅蜜, 尸波羅蜜; (音写) 戒波羅蜜多, 淨戒波羅蜜多 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Madhy-vibh., Mvyut.*

śīlapāramitā-sahagata 形 (音写) 尸羅波羅蜜相応発心 *Sūtr.*; 尸羅到彼岸 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut.*; 讚歎持戒 *Sam-r.*

śīla-bhaṅga 男 道徳を破ることまたは廉直 (貞操) を捨てること。

śīla-bhāj 形 尊敬すべき。

śīla-bhramśa 男 廉直または貞操を失うこと; 破戒, 壞戒 *Bodh-bh.*

śīlamaya 形 (因 -i) 道徳的な性格またはよい行為からなる (仏教); 戒性 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*; 持戒 *Ratna-ut.*; (音写) 尸羅 *Ratna-ut.*

śīlaya, 名動 因 śīlayati 実践する, 修める; に (自己の) 全注意を注ぐ; 身につけている, 着る; 住む, (ある場所を) しばしば訪れる. 過受分 śīlita 住まわれた, しばしば訪れられた; 訪問された; 用意された, 整えられた。

anu- (ある人: 圍) のように行動する。

pari- 修める, 実行する; 研究する; 住む; 大事にする。

śīla-yoga 男 与戒相応 *Sūtr.*

śīla-vañcarā 因 (誰かある人の) 性格についてのごまかし。

śīlavat 形 よい性格または気質を有する, よい行状の, 道徳的な; ……の習慣または風習を有する; 持戒 *Bodh-bh., Kāśy., Saddh-p., Śikṣ., Vajr-s., Vin.*; 有戒 *Kāśy.*; 具戒 *Vajr-s.*; 持戒人, 有戒人 *Abh-vy.*; 戒究竟 *Vajr-s.*; 堅持淨戒 *Śikṣ.*; 遵奉禁戒, 遵奉戒業 *Lal-v.*; (音写) 具尸羅 *Bodh-bh.*

śīlavad-duḥśīla 形 持戒犯戒 *Bodh-bh.*

śīla-vipakṣa 男 戒所対治 *Bodh-bh.*

śīla-vipanna 形 壞戒, 毀淨戒者 *Bodh-bh., Mvyut.*

śīla-viplava 男 道徳または廉直の破滅, 貞操の喪失。

śīla-vilaya 男 [同上].

śīla-vṛtta 因 圍 および 圍 廉直とよい行状。

śīla-vṛtta-dhara 形 廉直とよい行状とを有する。

śīlavṛtta-vid 形 廉直とよい行状とを知った。

śīla-viśudhi 因 清淨戒 *Śikṣ.*

śīla-vrata-tapas 因 戒禁 *Lan̄k.*

śīlavrata-parāmarśa 男 戒禁取, 戒執取 [五見の一つ] *Abhy-vy., Lan̄k., Vijñ-v.*

śīla-śālin 形 有徳の, 尊敬すべき。

śīla-śuddhi 因 聖戒 *Sūtr.*

śīla-saṃvara 男 戒, 戒行, 禁戒 *Ratna-ut., Sūtr.*

śīlasaṃvara-samādāna 因 受律儀戒 *Bodh-bh.*

śīlasaṃvarasamādāna-karma-parisamāpti 因 (音写) 受戒羯磨畢竟 *Bodh-bh.*

śīla-saṃvṛti 因 大護 *Sūtr.*

śīla-samādāna 因 受戒, 受持戒 *Sūtr.*

śīla-sampanna 〔過受分〕 美德を具えた, 善行ある; 淨戒円満 *Suv-pr.*
 śīla-sugandhikatā 〔形〕 戒香普熏, 以戒香熏 *Ga-nd-vy.*
 śīla-skandha 〔男〕 戒蘊, 戒聚, 戒衆, 戒蔵, 戒身 *Ast-pr., Śikṣ., Sūtr., Vin.*
 śīla-skandhika 〔男〕 戒蘊, 戒聚 *Abh-vy.*
 śilāṅka 〔形〕 廉直によって特徴づけられた。
 śilāṅga 〔中〕 戒分, 戒支, 戒品 *Abh-vy., Lan̄k.*
 śilāḍhya (°la-ādh°) 〔形〕 誠実さに富む, 尊敬すべき。
 śilāditya (°la-ād°) 〔男〕 [種々の王の名(とくに 戒日王 *Harṣavardhana* の称)].
 śilānusmṛti 〔女〕 念戒 *Lal-v.*
 śilin 〔形〕 道徳的な, 尊敬すべき (人間); 一° (=śīla) に慣れているまたはを實踐している, 等; 護戒, 修戒, 行戒 *Bodh-bh.*
 śivan 〔形〕 (一°) 横たわっている, 休息している。
 śuka 〔男〕 [輝やく, けばけばしい: Śuc] おうむ (因, 園); 詩人 (園, まれ); [Vyāsa の息子の名]; 〔音〕 叔迦, 輪迦, 戊迦 *Lan̄k.*; 鷄鷄, 鷄鷄鳥, 鷄歌 *Abh-vy., Av-s., Bodh-bh., Lan̄k., Mvyut., Raṣṭr.,* 梵千。
 śuka-cchada 〔男〕 おうむの翼。
 śukatā 〔女〕 おうむたること。
 śukatva 〔中〕 [同上]。
 śuka-deva-caritra 〔男〕 [*Mahābhārata* 中のある一章の題名]。
 śuka-nalikā-nyāya 〔男〕 おうむと *Nalikā* 草のやり方。~ena 〔男〕 おうむが (理由なくして) *Nalikā* 草を見てびっくりするように。
 śuka-nāsa 〔形〕 おうむの口ばしのような鼻をもっている。〔男〕 家の上にある特殊な装飾; [ある *Rākṣasa* の名]; *Tārāpīḍa* の大臣の名]。
 śukavat 〔男〕 おうむのように。
 śuka-saptati 〔女〕 おうむ七十話, [ある物語集の題名]。
 śuka-hari 〔形〕 おうむのようにみどり色の。
 śukānana (°ka-ān°) 〔形〕 おうむの顔をした。
 śukānuśāsana 〔中〕 [*Mahābhārata* 中 *Śāntiparvan* にある一挿話の題名]。
 śukāraka 〔形〕 味咽, 嗜喫, 吸食 *Prāt-m.*
 śuki 〔女〕 雌のおうむ; おうむ類の神話上の母, *Kāśyapa* の娘または妻; [*Saptarṣi* の妻の名]。
 śuki-BHū, おうむとなる。
 śukotpatti (°ka-ut°) 〔女〕 [*Mahābhārata* 中 *Śāntiparvan* にある一節の名]。
 śukta 〔過受分〕 [酸酵した: Śuc] 酸くなる; 粗い, あらっぽい。〔中〕 (酸酵によって造られた) 酸い酒; 酸い米がゆ; 荒々しい言葉; 酢 梵千。
 śuktaka 〔形〕 酸い。〔中〕 酸いおくび。
 śuktatā 〔女〕 醋, 酢 *Abh-vy.*
 śukti 〔中〕 殻, とくに真珠貝, 真珠母貝; 中空の陶器の破片 (杯として使用される; まれ); (馬の頭または胸に生えた) 捲毛; ある重量の単位 (=1/2 pala または 2 karṣa, 約1オンス); 貝, 蚌, 蛤, 海巴 *Nyay-pr., Mvyut.,* 梵千。
 śukti-karṇa 〔形〕 貝殻形の耳を有する; [ある蛇の悪魔

の名]。

śuktikā 〔女〕 真珠母貝; 海巴, 蛤 *Mvyut.*
 śukti-khalati 〔形〕 真珠貝のように禿げた, 完全に禿頭の。
 śukti-ja 〔中〕 真珠。
 śukti-puta 〔中〕 真珠貝がその中にある殻貝中のくぼみ。
 śuktimat 〔男〕 [インドにある七つの主要な山または山脈の一つの名]。
 śukra 〔形〕 [Śuc] 輝やく, まばゆいばかりの (因, 園) においてはまれ; 明るい, 清い (因); 白い (因); 清浄な, 汚れない (因); 白 *Ast-pr.* 〔男〕 火, *Agni* 神 (園); [ある夏期の名 (因, 園)]; (*Bhṛgu* の息子, *Asura* の師として擬人化された) 金星; 純粹のソーマ酒 (因); 太白 (九曜の一つ), 金星, 金太曜 *Diry., Madhy-v., Mvyut.* 〔中〕 輝やき, 光 (時として 園); (因, 園) 清澄な液体, 水, ソーマ酒 (因); 液 (Br., S.; 時として 園); 精液 (因 まれ 園); 精, 精血, 不浄 *Mvyut., Śikṣ., Vijñ-v.,* 梵千。
 śukra-ja 〔形〕 (自分の) 精液より生じた, 自分自身の息子。
 śukra-danta 〔男〕 (白い歯をした), [人名]。
 śukravat 〔形〕 清浄な液あるいは Soma 酒を含んでいる (因); śukra という語を含んでいる (Br.)。
 śukra-varṇa 〔形〕 輝く色を有する, 輝やく (RV.)。
 śukra-vāra 〔男〕 金星の日, 金曜日。
 śukra-vāsa 〔形〕 輝やく衣をまとった (あけぼの; RV., 用例一回のみ)。
 śukra-visṛṣṭi 〔女〕 射精; 出津, 泄精, 故失精, 故出精, 故心泄精 *Mvyut.*
 śukra-visarga 〔男〕 (*Pāli* *sukkavissatti*) 出精 *Prāt-m.*
 śukra-śocis 〔形〕 輝やく光線を有する (*Agni* 神; 因)。
 śukra-śoṇita-sambhava 〔男〕 膿血和雜生, 衆所生長, 不浄所生長 *Lan̄k.*
 śukra-śoṇitā 〔女〕 精気 *Diry.*
 śukra-sadman 〔形〕 輝やく住居を持つ (あかつき; RV., 用例一回のみ)。
 śukrā-manthināu 〔男〕 ソーマ祭において特別杯 (*śukrāpātra* と *manthipātra*) をもってソーマ液を汲むこと (graha) (因)。
 śukriya 〔形〕 清浄な液を含む (因) 〔中〕 輝やき (S) [*Pravargya* 祭に属するある *Sāman* の名 (園)] *Pravargya* 章 VS: 36-40 (S., 園)。
 śukla 〔形〕 [śukra の後代の形] 輝やいている, 明る (十pakṣa 〔男〕 月がみちる白分の半月; 園); 白 (普通の意味; 因, 園); 清い (園); 白, 浄, 白法 鮮白, 清白, 青白; 浄, 清浄; 不浄, 浄赤白; 精血; 乾 *Bodh-bh., Diry., Kāśy., Lal-Lan̄k., Madhy-v., Mvyut., Ratna-ut., Saddh-Śikṣ.* 〔中〕 白色 (因); (眼球の) 白目; [*Viṣṇu* 神の名] [ある山の名]。
 śukla-keśa 〔形〕 白髪。
 śukla-gaṇa 〔男〕 善聚, 白法 *Sūtr.*
 śukla-janman 〔中〕 勝生 *Sūtr.*
 śukla-dat 〔形〕 白い歯を有する (Br., P); 四

浄 [三十二相の一つ] *Lal-v.*
 śukladantatā 因 [三十二相の一つ] 齒鮮白, 齒
 白浄相, 常光齒白 *Bodh-bh.*
 śukla-deha 形 身体清浄なる。
 śukla-druma 因 [ある樹木の名, (*Symplocos Racem-*
osa)].
 śukla-dharma 男 [白法, 白浄法, 白浄妙法; 善
 法; 清白之法 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Ratna-ut.,*
Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr.
 śukladharmāspada (°ma-ās°) 因 白法体 *Rat-*
na-ut.
 śukla-dhvaja-patākin 形 白い標識と旗を有する (*Śiva*
 神).
 śukla-pakṣa 男 (月がみちる) 白分の半月; [白
 月, 白分, 白品, 明分, 明分月, 上半月, 月漸円
 満, 初生, 月初 *Bodh-bh., Kāśy., Lal-v., Madhy-*
vibh., Mvyut., Sūtr., 梵雜.
 śukla-pakṣa-nava-candra 男 [新月 *Sūtr.*
 śukla-pakṣya 形 白品, 不染汚分 *Bodh-bh.*
 śukla-pākṣika 形 白助, 清白部 *Lal-v.*
 śukla-praṇidhāna 因 浄願, 白浄願 *Bodh-bh.*
 śukla-pravara-guṇa-yuta 過受分 白法円満, 与
 最上円満白法相応 *Sūtr.*
 śuklapravara-daṁṣṭra 男 二牙白踰雪 *Ratna-*
ut.
 śukla-bija 男 蟻の一種 (?).
 śukla-bhāsvara 形 明るく輝やく。
 śuklamaya 形 白法 *Sūtr.*
 śukla-yajñopavitavat (°ña-up°) 形 白い聖紐をつけ
 た。
 śukla-yoga 男 円白法 *Sūtr.*
 śukla-vastra 形 白衣をまとった。
 śukla-vṛtta 形 所行の清らかな。
 śuklā 因 [ある河の名].
 śuklāṁśa 男 善根 *Ratna-ut.*
 śuklāṁśika 男 白類 *Aṣṭ-pr.*
 śuklāguru 因 白い蘆薈(ろかい).
 śuklācāra (°la-āc°) 形 = śuklavṛtta.
 śuklāpāṅga 男 (白い目の縁を有している), 孔雀.
 śuklābhijātiya 形 清浄な種族から生まれた。
 śuklāmbara 男 白衣を有する。
 śuklāspada (°la-ās°) 因 白業 *Ratna-ut.*
 śukliman 男 白, 白色。
 śukli-Kṛ, 白くする。
 śukli-BHū, 白くなる。
 śukletara (°la-it°) 形 (白の反対の)黒い, 暗い, 不潔
 な。
 śuklodana (°la-od°) 男 白飯 (王) *Mvyut.*
 śuṅga 男 [人名]; マウリヤ王朝に続くある王朝の名
 (種); [シュンガ王朝の王]. 因 芽生え; 芽の萐(が
 く); 所産, 結果。
 śuṅgā 因 (とくに無花果の)芽の萐(がく).
 Śuc, I. śocati (-te), IV. 因 śucyati (Br., きわめてまれ),
 燃え上がる, きらめく, 輝やく, 焼ける(因); 因:
 (焼ける=)激痛を経験する, (因) ...を, ...のために
 悲しむ, 哀悼するまたは嘆く; (因) を嘆き悲しむ また

は悔む. 使役 śocayati 因 燃え上らせる, 焼く(因);
 苦痛を受けさせる (因, 叙詩); 悲しむ, 哀悼する
 (因); (因) を嘆き悲しむ, 悔む (因); 清める (因);
 因 śosucyate, śosukti 明るく輝やくまたは燃え
 上る (RV.); [悲, 憂, 憂念, 憂愁, 憂惱, 愁
 憂, 懊惱, 悲泣, 生極怨差, 懊惱発声, 涕泣懊惱;
 生怨嗟 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Raṣṭr.,*
Ratna-ut., Saddh-p.
 anu- (因) を残り惜しげに慕う・悲しみ嘆くまたは嘆
 く; 悲しむ. 使役 (因) を嘆き悲しむまたは惜しむ。
 apa- 因 炎で駆逐する (RV.).
 abhi- 火をつける, 燃やす (RV.); 焼く, 責めさい
 なむ (因); 悲しむ (叙詩).
 ā- こちらへ輝やく, (因) を照らす (RV.).
 uc-(chuc)- 輝やく (RV.). 使役 燃やす, 点火する
 (AV.).
 niḥ- 因 輝やく (RV.).
 pra- (RV.) 輝やく. 因 [同前].
 sam- 一緒に燃え上る (Br.); 悔いる, 嘆き悲しむ
 (叙詩); IV. 他 samśucyati (因) に苦痛を生じさせ
 る (Br.). 使役 嘆き悲しむ (叙詩).
 śuc 因 炎, 白熱, 熱 (因); (内部の燃焼), (一°; 因,
 因; 時として 因) に対する苛責, 悲しみ, 苦惱; 因
 涙. ~ā 因 苦惱のゆえに。
 śucad-ratha 形 輝やく車を有する (RV. 用例一回のみ).
 śucayat 因分 [Śuc] 燃える, 輝やく (RV.).
 śucā 因 苦痛, 悲哀。
 śuci 形 (因 因 śucyaḥ) 輝やく, 光を発する (因);
 白く輝やく (因); 明るい, 清い (因, 因); 純粋な,
 汚れのない, 罪のない, 正直な, 高潔な (因; 因);
 (祭式上) 清浄な (S., 因); 一° ...をまぬがれたまた
 はに煩わされない (因, まれ); [浄, 清浄, 鮮浄, 清
 白 *Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Buddh-c., Divy.,*
Gaṇḍ-vy., Madhy-v., Mvyut., Nyāy-pr., Ratna-
ut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., 梵雜., 梵千. 男 清浄,
 高潔 (因, まれ); 火 (P.); 夏, 夏期 (V., 因); [人
 名].
 śuci-kāma 形 純粋を愛する; [一切楽清浄者, 求
 清浄 *Lank.*
 śuci-kāmatā 因 [同上の因]; [求清浄人 *Lank.*
 śuci-kranda 形 清朗な声をもつ (*Bṛhaspati*) (RV. 用
 例一回のみ).
 śuci-carita 形 態度の正しい。
 śuci-janman 形 清浄なまたは輝やかなしい生れの (RV.).
 śucitā 因 明瞭, 純粋; 廉直, 廉潔; (祭式上の) 清浄。
 śuci-dant 形 輝やく歯を有する (RV.).
 śucin 形 = śuci; [清浄 *Divy., Saddh-p.*
 śuci-pā 形 清浄なソーマ酒を飲む。
 śuci-peśas 形 輝やくばかりに飾られた (RV. 用例一回
 のみ).
 śuci-pratika 形 顔が輝やいている (RV. 用例一回のみ).
 śuci-bhrājas 形 さんぜんと輝やく (RV. 用例一回のみ).
 śuci-mānasa 形 心の清い。
 śuci-vana 因 枯れた森 (= śuṣkavana 因).
 śuci-vastra 因 [鮮潔衣, 浄潔衣 *Suv-pr.:* ~air
 alamkṛtāḥ 応著鮮潔衣, 著浄潔衣 *Suv-pr. 3.*

śuci-vāsa 形 清い衣をまとった。
 śuci-vrata 形 行為が明るいまたは清い、行状の清い。
 śuci-śīla-jighraṇa 形 嗅仏戒香 *Ratna-ut.*
 śuci-śravas 形 [Viṣṇu 神の名].
 śuci-śveta-vastra-prāvṛta (°ra-āv°) 形 著浄衣服, 著鮮白衣, 著白浄衣 *Suv-pr.*
 śuci-śad 形 清澄な(天空)または清浄な場所にある浄行に止住する。
 śuci-saṃkṣaya 男 暑い季節の終り, 雨期の始め。
 śuci-samācāra 形 清浄な修行をする。
 śuci-smita 形 輝やく微笑をする, 可愛らしくほほえむ。 甲 明るい微笑。
 śuci, śuci の 形 女 (非常にまれ).
 śuci-Kṛ, 清浄にする。
 śuci-BHū, (祭式上) 清浄になる。
 śucy-upacāra 形 行為の清浄な。
 śunṭhi 女 (韻律 -i) ほしたショウガ; 薑 梵千; 乾薑 *Mvyut.*
 śunḍa 男 象の鼻; 象 (象の) 鼻 *Śikṣ.*
 śunḍā 女 象の鼻; 象鼻 *Lal-v.*
 śunḍā-daṇḍa 男 [同上].
 śunḍāra 男 若い象の鼻。
 śunḍin 男 火酒醸造者 (ある混合カースト).
 śutudri 女 [Panjāb にあるある河の名 (RV.) (後の *Śatadru*, 今の *Sutlej*)].
 śudi, 不変 (śukla- または śuddha-dina の省略), 一° (曆月の名とともに) の白分の半月において。
 śuddha 過受分 [Śudh] 清浄な等; 浄, 清浄, 極清浄; 鮮潔 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Lan̄k., Rāṣṭr., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr., 梵雜.* 男 (月がみちる) 白分の半月。
 śuddha-karman 形 行動の清い, 正直な。
 śuddha-kāḍa 形 (= -kālaka, *Pāli* *suddhakālaka*) 純黒 *Prāt-m.*
 śuddha-citta 甲 浄心, 心是浄 *Lan̄k.*
 śuddhacittānuvṛtti 女 随浄 *Sūtr.*
 śuddhacittāśaya-niṣpatti-praveśatas (ta-āś°) 副 浄心意楽成満趣入 *Bodh-bh.*
 śuddha-tattvārtha 男 真実清浄義 *Guhya-s.*
 śuddha-jñāna 甲 清浄智 *Bodh-bh.*
 śuddhatā 女 純粹, 純潔, 正直; 浄 *Lal-v.*
 śuddha-danta 形 純象牙製の。
 śuddha-dharma 男 清浄体 *Ratna-ut.*
 śuddha-dhi 形 清い心を有する, 正直な。
 śuddha-pakṣa 男 (月のみちる) 白分の半月。
 śuddha-paṭa 男 (清潔な衣服を着ること), [人名].
 śuddha-pada 甲 浄句 *Sūtr.*
 śuddha-pāyaścittika 男 (= śuddhaprāyaścittika) 隨不雜 *Mvyut.*
 śuddha-pārsni 形 背後を覆われた。
 śuddha-pratibhāsa 男 発明, 浄光, 明顕 *Mvyut.*
 śuddha-prabhā-maṇḍala-gātratā 女 身浄光円 帀 *Ratna-ut.*
 śuddha-prāyaścittika 男 犯諸令墮者 (諸単対治) *Mvyut.*

śuddha-buddhi 形 心の清らかな。
 śuddhabuddhikṣanārya (°dhi-ik°, °na-ār°) 男 浄慧諸聖人 *Ratna-ut.*
 śuddha-bhāva 形 心の清らかな。 男 心の清い状態。
 śuddha-bhūmika 形 浄地 *Sūtr.*
 śuddhabhūmi-gata 形 浄地所撰 *Ratna-ut.*
 śuddha-mati 形 心の清い。
 śuddha-mūla 形 根本清浄 *Ratna-ut.*
 śuddha-raśmi-prabha 男 浄光, 放光 [仏の名] *Sukh-vy. II.*
 śuddha-rāśi 男 清浄聚 *Aṣṭ-pr.*
 śuddha-locana 甲 清浄観 *Suddh-p.*
 śuddha-vaṃśya 形 清い種族から生まれた。
 śuddhavat 形 śuddha (という語) を含む。
 śuddhavati 女 覆 [詩節 RV. VIII, 84(通算 95), 7-9 の名].
 śuddha-vadha 男 苦しめないで屠殺すること。
 śuddha-vastra 甲 浄衣 *Ratna-ut.*
 śuddha-vimala 形 清浄無垢 *Ratna-ut.*
 śuddha-veṣa 形 清潔な衣服を着た。
 śuddha-śīla 形 清らかな性格を有する, 正直な。
 śuddha-sattva 形 清浄な性格を有する, 悪たくみをしな。 男 清浄尊者 *Divy.* 清浄, 諸出世浄人 *Ratna-ut.*
 śuddhasattvānuvṛtti 女 随浄, 清浄(声) *Sūtr.*
 śuddha-sāra 男 真妙 *Mvyut.*
 śuddha-snāna 甲 (塗油等を用いず) 浄水で沐浴すること。
 śuddha-svabhāva 男 = śuddhaśīla.
 śuddha-hṛdaya 形 心の清らかな。
 śuddhājīva (°dha-āj°) 形 浄命 *Aṣṭ-pr.*
 śuddhātman (°dha-āt°) 形 心の清らかな; 我浄 *Sūtr.*
 śuddhānta 男 (清浄なる内部), (王宮の内部における) 婦人部屋, 後宮; 覆 王の妻妾。
 śuddhādhimukta 過受分 信者 *Mvyut.*
 śuddhādhivāsa 男 浄居 *Buddh-c.*
 śuddhādhyaśaya 男 浄心, 正心, 直心; 清浄増上意楽, 増上清浄意楽 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy.*
 śuddhādhyaśaya-bhūmi 女 浄心地, 浄勝意楽地, 清浄勝意楽地 (清浄増上意楽地) *Bodh-bh., Sūtr.*
 śuddhādhyaśayika 形 浄行, 浄心人, 浄勝意楽 *Sūtr.*
 śuddhānta-cara 形 後宮に仕える。
 śuddhānta-cārin 形 [同上].
 śuddhānta-rakṣi 女 後宮の女看視人。
 śuddhābha (°dha-ābha) 形 完全に明瞭な。
 śuddhāvāsa (°dha-āv°) 男 浄居(天), 浄処, 浄舎, 浄宮, 浄光天 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy. Madhy-v., 玄忘.; 音写 林随婆娑, 私陀首随 玄忘.; (音写) 首陀会天 Lan̄k.*
 śuddhāsaya (°dha-ās°) 形 心の清らかな, 曇りのない良心を有する; 心浄, 浄心, 浄心地, 正直心, 浄意楽, 其心清浄, 清浄意楽, 意楽清浄 *Bodh-bh. Gaṇḍ-vy.*

suddhāsaya-bhūmi (°dha-ās°) 因 淨心地, 淨意樂地, (清淨意樂地) Bodh-bh.

suddhi 因 (一) から清めること, 清淨(また比喩的に); (危険なものを) 除去すること(まれ); (一) によって無罪を証明すること, または釈放すること(まれ); 真正性, 正確さ(の証明)(まれ); (負債等の) 清算, 弁済; (屬, 一°) に関する正確な知識; 無, 淨, 淨, 清淨; 聖 Abh-vy., Bodh-bh., Lank., Madhy-v., Madhy-vibh., Rāṣṭr., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr., Vijñ-t., 梵千. ~m Kṛ 正確な知識を獲得する. ~m Labh 正確な消息を入手する.

suddhiniṣṭhāgamana 因 得究竟淨方便 Bodh-bh.

suddhi-pada 因 淨句, 淨見, 清淨句 Lank.

suddhi-panthaka 因 音写 周梨槃陀迦, 周利槃陀伽 [仏弟子の名].

suddhy-adhyāsaya 因 淨勝意樂 Bodh-bh.

suddhyadhyāsaya-bhūmi 因 淨勝意樂地 Bodh-bh.

suddhi-prakṛti 因 自性淨 Ratna-ut.

suddhi-hetu 因 清淨因 Ratna-ut.

suddhimat 因 清い, 汚れない; 無罪の, 無罪であると証明された, 釈放された.

suddhi-vipravādana 因 依清淨誑惑衆生 Sūtr.

suddhi-vṛddhi 因 淨增長 Śikṣ.

suddhodana (°dha-od°) 因 清淨な飯を有する. 因 [(Śākya 族出身で仏陀の父である) Kapilavastu の王の名]; 音写 首因駄那(王), 輸頭檀, 怒頭檀, 閼頭檀 Divy., Lal-v., Suv-pr., 玄徳; 淨飯(王); 白淨(王) Av-s., Divy., Lal-v., Suv-pr., 玄徳.

Śudh, Śundh, I. 因 sundhati (因), II. 因 三人 因 sunddhi (S) のみ, 清める, 因 みずからを清める, 清淨になる(因); IV. 因 (因, 因律) sudhyati (因; 因まれ) 清淨になる(また祭式上の意味において); 明瞭になる, 疑いが除かれる; 弁済の余地がある; 因 淨 Lank. 過受分 suddha 清潔な, 明瞭な, 汚点のない(因, 因); 因; (また人について) 清い; 正確な(読み方等); 欠点のない, 良質の(畑), 瑕のない; 純粹の, 単純な, 混ぜ物のない(因 miśra); 純粹の(母音; 因 鼻音化された); 単なる, 単純な=如何なる付加もない(洗身, すなわち軟膏を用いない); 無条件の(死刑); 完全な, 全き; 吟味された, 調査された; 使役 sundhayati 因 清める, (因, 因まれ); sodhayati 因 [同上] (因) においてはまれ; 因; 因: 訂正する; (不淨等を) 除く; (負債を) 払う, 弁済する; 無罪にする; (誰かある人を) 試す; 調査する; 明瞭にする, 説明する; 因 淨, 淨治 Lal-v., Sūtr. 過受分 sodhita.

pari- (因) IV. 因 洗い清められる; 因 無罪を証明する. 使役 因 清潔にする; 支払う, 支出する, 弁済する; 試す, 調査する; 説明する; 因 淨, 淨治, 淨修, 清淨, 得清淨; 除滅 Bodh-bh., Daś-bh., Gand-vy., Lank., Saddh-p.

vi- (因) IV. 因 因 全く清淨となる(とくに祭式上の意味において); 因 淨, 淨化, 清淨; 証, 能証; 明瞭 Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Daś-bh., La-

nik., Sūtr., Suv-pr. 過受分 全く清められた, 淨化された, 明らかまたは清い(また譬喩的); きらきらと白い(齒); 徹底的に解決した, 十分に確立された; (完了した=) (年期奉公, 一°を) 了えた; 明瞭にされた(=検査して安全であることが分った); 掃き出された, 尽きた, 空になった(財宝); 因 淨, 清淨; 証 Bodh-c., Lank., Madhy-vibh. 使役 因 清淨にする(また祭式上の意味において); 無罪を証明する; 正当化する; 明らかに決定する; 因 淨, 淨修, 令淨, 清淨, 嚴淨, 令得清淨, 令共清淨; 修治, 能淨修治 Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh., Gand-vy., Śikṣ.

sam- 過受分 淨化された, 清い; 除かれた(不淨性); 支払われた, 支出された; 探究された, 検査された, 安全であることが分った; 因 淨, 潔淨, 修治 Mañj-m., Saddh-p., Śikṣ. 使役 因 清潔にする, 淨化する; 支出する, 支払う; (路を) 開く, (路を) 攻撃から安全にする.

śuna 因 成長, 繁栄, 幸運(因). ~m 因 成長または繁栄のために(因).

śunaṃ-haviyā 因 [(śunaṃ huvema という言葉で始まる) RV. III, 30, 22 の名(Br.)].

śunaḥ-puccha 因 (犬の尾), [人名].

śunaka 因 (小) 犬; [人名]; 因 Śunaka の子孫.

śunaṃ-kuri 因 農業の守護神(の一種).

śuna-prṣṭha 因 幸運を背中に担う(馬)(RV. 用例一回のみ).

śunaḥ-śepa 因 (犬の尾), [Veda のある Rṣi の名, Ajigarta の子で, Aitareya-Brahmana の有名な一挿話の主人公(異説: śunaḥśepa)].

śunā-śira 因 因 [穀物の生長に恩恵を与える2守護神の名(因)]. 因 因 [Indra 神の称(因, 因)].

śunāsana (°nā-as°) 因 (Indra 神の弓), 虹.

śuni 因 [śvan の 因] 牝犬; 因 狗 Abh-vy.

śuno-lāṅgūla 因 (犬の尾), [人名].

Śundh, = Śudh.

sundhyu 因 輝やく, うるわしい(因).

śupti 因 肩(RV. 用例一回のみ).

Subh, I. 因 śumbhate (因), VI. 因 śumbhati (因),

I. 因 śobhate (因, 因), 飾る, 飾り立てる, 美化する, 用意する(因); 因 (因) で身を飾る, 美しくまたは立派に見える, 有利に見える, きらきら輝やく; 準備する, に適当または好都合にする. 因 (因) のための用意をする(因): (iva または yathā または 因 とともに) …のように輝やくまたは見える; na とともに, 輝やかでない, 不利に見える; 因 妙, 好; 端嚴, 莊嚴, 照耀, 為妙 Bodh-bh., Divy., Lal-v., Rāṣṭr. 使役 śobhayati 因 輝やかせる(また譬喩), 裝飾する, 莊嚴する; 因 令端嚴 Bodh-bh. 過受分 (因, 一°) で飾られたまたはきらきら輝やく.

abhi- 因 (因) を以って身を飾る(RV.); 美しく見える(叙詩); 使役 過受分 abhisobhita (因) で飾られたまたは立派に見える.

upa- 因 美しく見える; 因 掃除; 照耀 Lal-v.

使役 因 飾る. 過受分 (因, 一°) で飾られた.

pra- 因 光り輝やく.

vi- 固 非常に美しくまたは立派に見える。〔便役〕
 過受分(眞, 一)で飾られた。
 sam- 美しく見える(因, 叙詩); (眞)と等しく輝やく(RV.) 便役 飾る。過受分(眞)で飾られた。
 śubh 固 美麗, 裝飾; 用意が出来ていること; (とくに Marut 神群の) 華麗迅速な進行。
 śubha 形 美麗な, 美しい, 立派な; 愉快的, 快適な; 有用な(動物); 役立つ, よい(土地, 種子, 等); 有能な(芸術家); 正しい, 真実の(法, 等); 吉祥な, 幸運な(日等); よい, 有徳の; 純粋な(行動); 淨, 淨処, 淨妙, 淨業, 清淨; 白, 白法, 白淨, 白淨法; 善; 真実; 潔; 端正, 端嚴; 嚴, 嚴正 *Aṣṭ-pr., Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lan̄k., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Raṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.*; 愛, 可愛 *Abh-vy., Madhy-v.* 男 [人名]; 漢訳 音写 輪婆 *Raṣṭr.* 固 魅力, 優雅(まれ); 安寧, 繁榮, 幸運, 幸福(普通の意味; 時として覆); 利益, 奉仕(まれ); 善行または有徳の行為; 漢訳 善, 福, 福業; 吉 *Bodh-c., Saddh-p., Śikṣ., 梵雜.*
 śubha-kṛtsna 形 遍淨天 *Ratna-ut.*
 śubha-dharma 男 漢訳 白法, 善法 *Lan̄k.*; 無漏諸法 *Ratna-ut.*
 śubhadharma-dhātu 男 漢訳 如来性, 清淨法界 *Ratna-ut.*
 śubham-yā 形 華麗迅速に飛ぶ(RV., 用例一回のみ)。
 śubham-yāvan 形 (RV.) [同上] (*Marut* 神群)。
 śubham-yu 形 華麗を愛する(RV., 用例一回のみ); 輝やかしい, 美しい(圍)。
 śubha-katha 形 上手にまたは快よく語る。
 śubha-kara 形 吉兆の; 漢訳 修善 *Sūtr.*
 śubha-karma-kārin 形 漢訳 善住 *Sūtr.*
 śubhakarman 固 善業。形 崇高に行為する; 漢訳 善業者 *Buddh-c.*
 śubha-karmin 形 漢訳 善業 *Madhy-v.*
 śubha-kṛtsna 男 覆 漢訳 遍淨 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy.*
 śubham-kara 男 [ある Asura の名]。
 śubha-janman 固 漢訳 勝生, 善生 *Sūtr.*
 śubha-jñāna-bala 固 漢訳 妙智力 *Saddh-p.*
 śubha-datta 男 [人名]。
 śubha-darśana 形 美しい, みめうるわしい。
 śubha-dina 固 吉日。
 śubha-dṛḍha-vrata 形 高潔で確乎とした主義を有する。
 śubha-daurbalya 固 漢訳 善羸 *Sūtr.*
 śubha-dvaya 形 漢訳 二聚 *Sūtr.*
 śubha-dhara 男 [人名]。
 śubha-dharma 男 漢訳 白法, 善法 *Lan̄k.*
 śubhadharma-cakra 固 漢訳 清淨法輪 *Suv-pr.*
 śubha-dharmākara (°ma-āk°) 形 漢訳 善法源 *Mvyut.*
 śubha-dhāraṇa 形 (真の) 幸福に心が向けられた。
 śubha-naya 男 [ある聖者の名]。
 śubha-nimitta 固 漢訳 淨妙瑞相 *Suv-pr.*
 śubha-nirhāra 男 漢訳 集諸善根 *Sūtr.*

śubha-parama-sukhākṣayākaratva (°ya-āk°) 固 漢訳 無尽樂藏 *Sūtr.*
 śubha-pratibhāsa 男 漢訳 淨光, 明顯; 發明 *Mvyut.*
 śubha-pratyaya 男 漢訳 諸縁 *Ratna-ut.*
 śubha-prada 形 吉兆の, 繁榮させる。
 śubha-bhāvanā 固 よい思想の形成; 漢訳 勤善 *Sūtr.*
 śubha-maṅgala 固 幸運, 繁榮。形 幸運な。
 śubha-manāpa-vastv-ālabhana (°na-āp°) 固 漢訳 縁淨妙可意事境 *Bodh-bh.*
 śubhamaya 形 (因 -i) 輝やかしい, 美しい。
 śubham-bhāvuka 形 美しく見える, 華麗な。
 śubhaya [Śubh] 固 (固) śubhayati (-te), 固 飾る, 固 身を飾る(RV.); 覆分 śubhayat 美しく輝く (*Marut* 神群) (用例一回のみ)。
 śubha-ratna-traya 形 漢訳 三宝 *Ratna-ut.*
 śubha-lakṣaṇa 形 吉兆のしるしをもつ; 漢訳 淨法, 相好殊特 *Ratna-ut., Suv-pr.*
 śubha-lagna 固 吉兆のまたは幸運な瞬間。
 śubha-locana 形 美しい眼をもつ; 漢訳 真觀 *Saddh-p.*
 śubha-varṇa-puṣkalatā 固 漢訳 形色微妙(威徳)具足 *Saddh-p.*
 śubha-vāsara 男 吉日。
 śubha-vṛddhi 固 漢訳 増善 *Sūtr.*
 śubha-veṇu-triveṇumat 形 美しい葦の triveṇu 車の部分をもつ。
 śubha-vyūha 男 [ある王の名(仏教)]; 漢訳 妙莊嚴, 淨復淨 *Saddh-p.*
 śubhavyūha-rāja-pūrṇa-yoga-parivarta 男 漢訳 妙莊嚴王本事品, 淨復淨王品 *Saddh-p.*
 śubha-vrata 男 善行を有する。固 [ある特殊な宗教的誓戒の名]。
 śubha-śamsin 形 吉祥を予言する, 吉兆ある。
 śubha-śakuna 男 吉兆の鳥。
 śubha-saṃjñā 固 漢訳 淨想 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy.*
 śubhasaṃjñā-bhāvanā 固 漢訳 修業如来藏淨 *Ratna-ut.*
 śubha-saṃjñin 形 漢訳 淨想 *Ratna-ut.*
 śubha-samanvita 過受分 魅力ある。
 śubha-sasya-hetu 男 漢訳 淨穀因 *Ratna-ut.*
 śubhas-pati 男 固 光輝の主 (*Aśvin* 双神; 因)。
 śubhāṅga 形 手足の美しい (*Śiva* 神)。固 [ある *Tuṣi* takāyika Devaputra の名]; [ある辞典編纂者の名] 漢訳 妙身 [兜率天子の名] *Lal-v.*
 śubhācāra (°bha-āc°) 形 高潔に行動する。
 śubhātmaka (°bha-āt°) 形 (因 -ikā) 気だてのよい。
 śubhānana (°bha-ān°) 形 美貌の。
 śubhānanā (°bha-ān°) 固 美女。
 śubhānuttaryāvaraṇa (°ya-āv°) 固 漢訳 無上淨障, 無上善障 *Madhy-vibh.*
 śubhāpāṅgā 固 (美しいめじりをもつ), 美女。
 śubhārthin 形 繁榮を欲する。
 śubhāvaha (°bha-āv°) 形 繁榮をもたらす, 吉兆の。
 śubhāśaya (°bha-āś°) 形 高潔な気質をもつ。
 śubhāsis (°bha-āś°) 固 祝禱。

śubhāśir-vāda 男 祝禱を述べる事。
 śubhāsubha 形 愉快なならびに(または)不愉快な; 善の
 ならびに(または)悪の。 中 禍または福, 善悪; 善悪
 Raṣṭr.
 śubhāsubha-phala 形 善または悪の結果を生ずる。
 śubhāsubha-viparyāsa 男 浄不浄顛倒 Madhy-v.
 śubhin 形 有善 Sūtr.
 śubhekṣaṇa (°bha-ik°) 形 美しいまたは吉祥な眼をも
 つ。
 śubhetara (°bha-it°) 形 善と反対な, 悪い, 不運な。
 śubhodarka (bha-ud°) 形 幸運な前途をもつ, 幸運な
 結末をもつ。
 śubhodarkatā 女 [同上の 圖]。
 śubhra 形 吠, 罽: 発光する, 荘麗な, 美しい; 罽:
 明瞭な, 汚点のない(名声); 白い(まれ); 罽 碾
 (?), 皎潔 Raṣṭr.; 清浄 Ratna-ut.
 śubhratā 女 白いこと, 白色。
 śubhratva 中 [同上]。
 śubhra-danta 形 (女-i) 白い歯をもつ。
 śubhra-bhānu 男 月。
 śubhri-BHū, 白くなる。
 Śumbh, → Śubh.
 śumbha 男 [ある Asura の名]。
 śumbha-niśumbha 男 圖 Śumbha と Niśumbha。
 śumbhamāna 現分 自 [Śubh 1., 2.]。
 śura 男 英雄 (śūra の誤読)。
 śurudh 女 罽 強壯薬, 葉草 (RV.)。
 śulka 1. 男 (まれ), 中 罽: 価格, 価値; 罽: 通行税 (市
 場, 道路等), 関税, 税; (少女の)価格, 結婚のため
 の贈物; 売淫の報酬(まれ); 罽 税, 塩 Mvyut.
 śulka 2. śukra および śukla の誤読。
 śulka-da 男 結婚の贈物を与える者, 許婚者。
 śulka-dharma 男 罽 貢税法 Divy.
 śulkayitvā 不変分 罽 輸税。 → a~. Divy.
 śulka-sālā 女 税関; 罽 輸税処 Divy.
 śulka-sālīka 男 罽 税官 Divy.
 śulka-sthāna 中 通行税取立て所, 税関。
 śulkāvāpta 形 持参金として受領された。
 śulkopajivin (°ka-up°) 形 通行税または税金または歳入
 によって生活する。
 śulba, śulva 中 (男, 女 -ā, -i) 糸, 綱, 紐。
 śulba-sūtra 中 [Vedi 築造に関する Sūtra の名]。
 śusuk-vana 形 [Śuc] 輝やく (RV. 用例一回のみ)。
 śusuk-vani 形 [同上] (RV. 用例一回のみ)。
 śusulūka-yātu 男 [ある種の鳥の形をとる呪術師]。
 śusulūkā 女 吠 (鳥おそらくふくろうの一種)。
 śusruvas 二過分 [Śru]. 男 (Veda の) 聴聞者。
 śusrū 女 母。
 śusrūṣaka 形 (罽, 一°) に従うまたは仕える; 罽 供
 養, 承事 Raṣṭr.
 śusrūṣaṇa 中 聞こうとする欲望(まれ); 従順, 奉仕
 (罽, 罽, 罽 とともに, 一°); (一°, 聖火)に忠実に
 仕えること; 罽 承事, 供養, 如教行, 如教而行
 Daś-bh., Raṣṭr.
 śusrūṣaṇatā 女 罽 数聞, 愛樂聴受 Aṣṭ-pr.
 śusurūṣaṇā 女 罽 聴受, 供養, 承事 Raṣṭr.

śusrūṣamāna 希求 現分 罽 欲聴, 殷重, 敬信, 敬
 信者 Bodh-bh., Mvyut.
 śusrūṣā 女 聞こうとする欲望; (罽, 罽, 一°) への
 従順; (一°, 聖火)に仕えること; 罽 孝順 Mv-
 yut.
 śusrūṣā-para 形 (罽) の奉仕に熱中している。
 śusrūṣita 過受分 → Śru.
 śusrūṣitavya 希求 未受分 従われるべき。 中 非人
 (罽) に従順であるべきである。
 śusrūṣitr 男 (罽) に従順なまたはに奉仕する者。
 śusrūṣin 形 (一°) [同上]。
 śusrūṣu 希求 形 聞こうと欲する, 学ぼうと熱望す
 る; (罽, 一°) 服従することを熱望する, 従順な。
 śusrūṣya 未受分 従われるべき。
 Śuṣ 1., IV. 他 (自 韻律) 他 (自) śuṣyati(-te) かわく
 またはひからびる, しぼむ; 罽 乾銷, 乾枯, 枯悴,
 羸瘦, 枯瘁, 乾竭, 枯尽 Lal-v., Madhy-v., Ma-
 ṅj-m., Saddh-p., Śikṣ. 使役 他 (自 韻律) śoṣaya-
 ti (-te) 乾上がらず, しほれさせる, ひあがらず
 (罽, 罽); 破壊する(罽); 罽 乾竭, 枯涸, 悉竭,
 永竭, 令乾消 Bodh-bh., Lal-v., Suv-pr. 過受分
 śoṣita 乾燥された, 吸い尽された, 排水される,
 かわかされた, 吸収された, 使い尽された, 空にさ
 れた; 罽 曬, 令枯涸, 羸瘦 Divy., Raṣṭr.
 anu- 次第に乾上がる, しぼみ切る, (罽) に従って
 衰える。
 ud- 乾上がる(自動); 罽 成乾, 枯涸, 枯竭 Mv-
 yut., Śikṣ. 使役 乾上がらず, 枯らす(他動); 罽
 竭, 枯涸, 乾渴, 枯涸, 乾竭, 消竭 Bodh-bh.,
 Daś-bh., Śikṣ.
 upa- 使役 [同上]; 罽 枯, 乾枯 Aṣṭ-pr.
 pari- 乾上げられる, ひからびる; 罽 乾, 枯竭
 Śikṣ. 使役 乾上がらず, 枯らす, やせ衰えさせ
 る; 罽 乾竭, 令乾消 Buddh-c.
 prati- 枯衰する(名声; RV. 用例一回のみ)。
 vi- 乾される, 衰える; 罽 乾 Lal-v. 使役 乾上
 がらず, 衰えさす; 罽 乾竭, 乾涸 Lal-v.
 sam- 乾される。 使役 乾上がらず(他動)。
 Śuṣ 2., VI. 他 śuṣati [Śvas の 罽 罽] (蛇が) シュ
 シュという鋭い音を出す (RV.)。
 ā- 自 熱中する, 躍起になる。 現分 āsuṣāṇa のみ;
 奨励する, 鼓舞する (RV.): āsuṣe, āsuṣāṇa のみ。
 śuṣ 形 (一°) 乾上がる, 衰える; 乾上がらず, 衰え
 さす。
 śuṣira 中 =suṣira; 罽 廢 Śikṣ.
 śuṣka 形 乾上げられた, 乾いた, 乾ききった, ひか
 らびた, しぼんだ(普通の意味); 空虚な, 無益な, 理
 由のない; 罽 涸, 枯, 燥, 竭, 萎, 乾, 曬, 乾
 燥, 枯竭 Abh-vy., Lal-v., Saddh-p., Śikṣ., 梵雜。
 男 [人名]。
 śuṣkaka 形 涸れた, 衰弱した, やせた。
 śuṣka-kalaha 男 根拠のないけんか, 偽りの喧嘩口
 論。
 śuṣka-kāṣṭha 中 罽 枯れた木片。
 śuṣkatā 女 乾燥していること。
 śuṣka-toya 形 水が涸れた(河)。

śuṣkatva 中 =śuṣkatā.

śuṣka-druma 男 枯樹 *Raṣṭr.*

śuṣka-nadi 女 枯河, 竭河流 *Śikṣ.*

śuṣka-pāṃsu 男 乾燥土 *Saddh-p.*

śuṣka-mukha 形 口の乾いている.

śuṣka-rudita 中 涙を出さずに泣くこと.

śuṣkaletra 男 [ある山または地方の名].

śuṣkavat 形 干上がった(湖).

śuṣka-vartikā 女 拷問(の一種); 曝曬(?) *Śikṣ.*

śuṣka-vāda-vivāda 男 役に立たないまたは無用の論議.

śuṣka-vigraha 男 無益の闘争.

śuṣka-vaira 中 理由のない敵意.

śuṣka-vairin 形 つまらぬことに喧嘩する.

śuṣka-vraṇa 男 癒された傷, 傷痕.

śuṣka-śrota 形 水流の涸れた(河川).

śuṣka-śrotas 形 [同上].

śuṣkāpa (°ka-āp°) 形 水の干上がった(海).

śuṣkārdra (°ka-ār°) 形 乾きかた濡れた.

śuṣṇa 男 [Śuṣ 2.] [*Indra* 神に殺された悪魔の名].

śuṣma 因 形 [Śuṣ 2.] シュシュという音を出す; 強烈な(RV.). 男 (因) 息の荒いこと, 荒い息吹, 勇力(火, 水, 風等について)(RV.); 衝動, 猛烈, 剛勇; 活力, 靈(まれ).

śuṣman 男 [怒号: Śuṣ 2.] 火; 力, 勇気, 精力.

śuṣmiṇa 男 [*Śibi* 族の王子の名](Br.).

śuṣmin 形 ほえたける(*Marut* 神群, *Agni* 神, 因), 強烈な(*Soma*, 因); 力の強い, 火のような, 剛勇の(因, 叙詩, P.).

Śū 1. 三過 *sūsu*, *sūsuv* (援 *sūsavāma*, 願 *sūsuyāma*, 因 *sūsuvās*)のみ, 優れているまたは勝利を得る(RV.).

Śū 2. 膨張する. → Śvā.

śū 擬音 [śū-kāra および śūkrta において].

śūka 男, 中 穀物ののぎ; 同情(*niḥśūka* の形においてのみ), 中 (昆虫の) 刺すこと; 麦王児 *Mvyut*.

śūkara 男 牲豚, 豚(より正しくは *sūkara*); 猪 *Śikṣ.*

śū-kāra 男 śū (という叫び) でおどすこと(因).

śū-krta 過受分 (因) śū (と言う叫び) でおどかされた. 中 (馬を) 駆り立てること, 拍車をかけること(RV. 用例一回のみ).

śūt-kāra 男 口笛を吹くこと, ピューピュー鳴ること等.

śūkṣma 形 (*sūkṣma* の 不確; 微妙 *Divy.*, *Lal-v.*

śūdra 男 第四のすなわち奴隷階級の人; 細民 *Divy.*; 悪種, 農, 農人 *Mvyut.*; 首陀, 戍陀, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*, 玄応, 梵雜.

śūdraka 男 [*Mṛcchakatikā* の作者として有名な王の名]; [ある軍人の名].

śūdra-kanyā 女 *Śūdra* の少女.

śūdra-jana 男 *Śūdra* 階級の者.

śūdra-janman 形 *Śūdra* 階級の生まれの. 男 *Śūdra* 階級の者.

śūdratā 女 *Śūdra* であること(身分, 地位, 条件,

状態).

śūdratva 中 [同上].

śūdra-dharma 男 *Śūdra* の義務.

śūdra-bhūyiṣṭha 形 主として *Śūdra* 族が住んでいる.

śūdra-yājaka 形 *Śūdra* のために供犠を行なう.

śūdra-yoni 女 *Śūdra* 階級の女の子宮.

śūdrayoni-ja 形 *Śūdra* 階級の女から生まれる.

śūdra-rājya 中 *Śūdra* が王である国.

śūdra-vṛtti 女 *Śūdra* の職業.

śūdra-saṃsparśa 男 *Śūdra* との接触.

śūdra-sevana 中 *Śūdra* 出身の主人に仕えること.

śūdra-hatyā 女 *Śūdra* を殺すこと.

śūdra-han 形 *Śūdra* を殺す.

śūdrā 女 第四のすなわち *Śūdra* 階級の女.

śūdrāna 中 *Śūdra* から受取ったまたは *Śūdra* に属する食物.

śūdrā-putra 男 *Śūdra* 階級の女(=Śūdrā)の息子.

śūdrārtha-yājaka 形 *Śūdra* の出費によって供犠を行なう.

śūdrā-vedin 形 *Śūdra* 階級の女(=Śūdrā)を妻として迎える.

śūdrā-suta 男 *Śūdra* 階級の女の息子.

śūdrocchiṣṭa (°ra-uc°) 形 *Śūdra* の残した.

śūdri 女 第四のすなわち *Śūdra* 階級の女.

śūdri-BHū, *Śūdra* となる.

śūna 1. 過受分 → Śvā.

śūna 2. 中 [膨張すること, 中空であること: Śū 2.] 空虚, 欠如.

śūnā 女 śūnā の不確.

śūnya 形 からの, 空虚な, 住む者のない, 捨てられた; 乗り手のない(馬); うつろな(凝視); 茫然とした, 取乱した; 貧困な; (圓, 一°)を奪われた・欠いている・から自由なまたは不足している; (一°)のないまたは存在しない; 空虚な, 空しい, 怠惰な. 中 空虚なまたは棄てられた(荒廃した)場所; 孤独; 空虚, 中空, 非存在; (一°)の非存在; 絶対的空(仏教); 零; 耳環(まれ); 空, 空無, 空虚, 空義, 空曠, 空閑, 空寂, 曠遠 *Abh-vy.*, *Ast-pr.*, *Buddh-c.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Raṣṭr.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ. Sūtr.*, *Vijñ-v.*

śūnyaka 形 空虚な, 欠如した; 空, 空寂 *Ast-pr.*, *Sam-r.* 中 不在, 欠如.

śūnya-karṇa 男 耳環で飾られた耳.

śūnya-grāma 男 空衆 *Suv-pr.*

śūnya-citta 形 放心した, 取乱した.

śūnya-jñāna 中 空智 *Saddh-p.*

śūnyatā 女 空虚, 孤独, 荒廃; 放心, 乱心; (凝視)うつろなこと; (一°)の欠如; 空, 無; 空無, 空性, 空相, 虚空, 性空, 空義, 空法, 門, 空寂, 空法性 *Abh-vy.*, *Ast-pr.*, *Bodh-b.*, *Kaśy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut. Prajñ-h.*, *Raṣṭr.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Sam. Śikṣ.*, *Sūtr.*: aṣṭādaśa ~ āḥ 十八空 [1. adhyāt ~ 内空, 3. bahirdhā ~ 外空, 3. adhyātr

bahirdhā ~ 内外空, 4. sūnyatā ~ 空空, 5. mahā ~ 大空, 6. paramārtha ~ 勝義空, 7. saṃskṛta ~ 有為空, 8. asaṃskṛta ~ 無為空, 9. atyan-ta ~ 畢竟空, 10. anavarāgra ~ 無際空, 11. anavakāra ~ 無散空, 12. prakṛti ~ 本性空, 13. sarvadharmā ~ 諸法空, 14. svalakṣaṇa ~ 自相空, 15. anupalambha ~ 不可得空, 16. abhā-va ~ 無性空, 17. svabhāva ~ 自性空, 18. abh-āvasvabhāva ~ 無性自性空] *Mvyut.* 37.; ṣoḍa-śavidhā ~ 十六空 [1.から12.までは aṣṭādaśa ~ āḥ 十八空に同じ, 13. lakṣaṇa ~ 相空, 14. sarva-dharma ~ 一切法空, 15. abhāva ~ 無性空, 無有空, 非有空, 16. abhāvasvabhāva ~ 無性自性空, 非有性空] *Madhy-vibh.* 52.

sūnyatānadhimukha (°tā-an°) 形 不信真如法空 *Ratna-ut.*

sūnyatāgāra (°tā-āg°) 中 空処, 野屋 *Laik.*

sūnyatāgāra-sthita 形 空閑林中, 空閑之处 *Laik.*

sūnyatā-gatika 形 空趣, 趣空, 以空為趣 *Aṣṭ-pr.*

sūnyatā-jñāna 中 空智 *Madhy-vibh., Ratna-ut.*

sūnyatādi-samādhi-traya (°tā-ād°) 形 空等三昧 *Sūtr.*

sūnyatā-dṛṣṭi 因 計空, 空見, 見有空, 計空為有, 諸法是空無也 *Laik., Madhy-v.*

sūnyatādhimukti (°tā-adh°) 因 信解空性 *Śikṣ.*

sūnyatādhimokṣa (°tā-adh°) 男 空勝解 *Bodh-bh.*

sūnyatā-pada 中 空句, 空見 *Laik.*

sūnyatā-paridīpaka 男 示空義 *Madhy-v.*

sūnyatā-lakṣaṇa 中 空相 *Madhy-vibh.*

sūnyatā-lambana-vimokṣa-mukha (°tā-āl°) 中 緣空解脱門 緣空為境解脱門 *Abh-vy.*

sūnyatā-vādin 男 能說空者 *Śikṣ.*

sūnyatā-vikṣipta-citta 形 散乱心失空 *Ratna-ut.*

sūnyatāvikṣipta-mati 因 因空乱意慧, 空虚妄顛倒, 妄着於空 *Laik.*

sūnyatā-vimokṣa-mukha 中 空解脱門 *Ratna-ut.*

sūnyatāsūnyatā (°tā-aś°) 女 空及与不空 *Laik.*

sūnyatā-sūnyatā 女 空空, *Laik., Madhy-vibh., Mvyut.* → sūnyatā.

sūnyatā-satya 中 [九諦の一] 空諦, 空実 *Bodh-bh.*

sūnyatā-samādhi 男 (音写) 空三昧, 空三摩地 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Sūtr.*

sūnyatāsamādhi-mukha-bhāvanā 女 修行…空智及種々三昧門 *Ratna-ut.*

sūnyatā-svabhāva 男 空自性 *Aṣṭ-pr.*

sūnyatāsvabhāvatva 中 自体空自体 *Sūtr.*

sūnyatva 中 =sūnyatā.

sūnya-dharma 男 空, 真空微妙法 *Suv-pr.;* ~ gatīngata 了達空法 *Saddh-p.* 186.

sūnya-pāla 男 (空席を守る者) 代理.

sūnya-bandhu 男 [Tṛnabindu の息子の名].

sūnya-bindu 男 ゼロの符号.

sūnya-bhāva 男 空虚.

sūnya-bhūta 形 空, 空寂 *Suv-pr.*

sūnya-manas 形 放心した, 取乱した.

sūnya-mūla 形 (配置の下手な軍隊に関して) 基地がからっぽのまたは無防備となっていない.

sūnyavat 形 ゼロのような, あたかも消滅したかのような.

sūnya-vāda 男 一切のものは実体を持たず空であるという学説, 仏教の教説.

sūnya-vādin 形 一切のものは実体を持たず空であると主張する, 中観派の. 男 中観派, 仏教徒, 無神論者.

sūnya-veśman 中 空空 *Guhy-s.*

sūnya-vyāpāra 形 占有されていない.

sūnya-śarīra 形 身体の中に何物をも持たない.

sūnyaśarīratā 女 [同上の 形].

sūnya-sūnya 形 まったくばかげた (話).

sūnya-hṛdaya 形 放心状態の, 取乱した; 心の失われた.

sūnyahṛdayatva 中 [同上の 形].

sūnyāgāra-gata (°ya-āg°) 形 在空宅, 在空室 *Aṣṭ-pr.*

sūnyāśaya (°ya-āś°) 形 =sūnyahṛdaya.

sūnyi-Kṛ, 砂漠と化す; からっぽにしておく, (家を) 去る.

sūnyi-BHū, 無人となる.

Sūr, IV. 固 三過 sūsūre, かれは (頭を) 打ち落とした (例 川例一回のみ).

sūra 形 [Sū 1.] 英雄的な, 好戦的な, 勇気ある, 勇敢な. 男 英雄; (ある人: 形) に対してまたは (ある物事: 固, 形, 一°) に関して英雄的行為をする人; (固, vinā とともに用いられたとき) 英雄的行為, 勇猛; [人名]; 種 [ある民族の名]; 勇, 勇猛, 勇健, 雄猛, 剛健, 精勤不懈; 壮士, 健人, 將軍, 健兒, 健士, 勇健者; 不連於維羅則勇, 連則能幹; 才大 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-c., Divy., Gand-vy., Guhy-s., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sukh-vy. I., Suv-pr.;* 音写 首羅, 手羅 *Divy.*

sūra-kiṭa 男 弱々しい英雄.

sūra-kūṭa 男 [仏の名]; 勇猛積, 勇猛峯 *Sukh-vy. I.*

sūraṅ-gama 男 勇行, 健行, 健相 *Mvyut., 玄心;* 音写 首楞嚴, 首楞伽摩 *Laik., Mvyut., 玄心;* ~ sūtra 首楞嚴經 *Śikṣ.* 8.

sūraṅgama-samādhi 男 音写 首楞嚴三昧 *Lal-v.;* ~ sūtra 首楞嚴三昧經 *Śikṣ.* 91.

sūra-ja 男 Sūra の息子; [人名].

sūraṇa 形 (=sūrarāṇa) 勇敢な闘志にみちた (駿馬; RV. 用例一回のみ). 男 (固; sūraṇa とともに扱られる) 食用に適する根 (*Amorphophallus Campanulatus*).

sūratama 形 最上 もっとも勇猛または勇敢な.

sūratā 女 勇猛, 大胆; 勇猛 *Rāṣṭr.*

sūratva 中 [同上].

sūra-datta 男 [仏の名]; 勇施 *Śikṣ.*

sūra-danta 男 [ある婆羅門の名].

sūra-deva 男 [人名].
 sūra-dhvaja 男 精進幢, 勇猛幢 *Gaṇḍ-vy.*
 sūra-pura 田 [ある町の名].
 sūra-bala 男 [ある天子の名]; 勇力 *Lal-v.*
 sūra-bhū, -bhūmi 女 [*Ugrasena* のある娘の名].
 sūra-maṭha 男 *Śūra* の建てた僧院.
 sūra-mānin 形 みずから英雄であると考えている.
 sūra-mūrdha-maya 形 (女 -i) 英雄たちの頭からなる.
 sūra-vākya 田 英雄の談話, 法螺ふきの言.
 sūra-vidya 形 勇猛を理解する, 英雄的な.
 sūra-sāti 女 戦闘 (因のみ, RV.).
 sūra-sena 男 [*Mathura* 周辺のある国の名]; 種 その国の住民; *Śūrasena* の王; [人名].
 sūrasenaka 男 種 *Śūrasena* の住民.
 sūrasena-ja 男 種 [同上].
 sūrasenā 女 [*Mathura* 市の名].
 sūraseni 女 *Śūrasena* 族の王女.
 sūri-Kṛ, …を英雄にする.
 sūreśvara (°ra-iś°) 男 [*Śūra*によって建立されたある像の名].
 sūrta 過受分 (RV. 用例一回のみ) 粉碎された. → Śī.
 sūrpa 田 箕; 箕梵雑.
 sūrpaka 男 音写 節羅 *Mṃyut.*
 sūrpa-karṇa 形 箕のような耳をもつ (*Ganeśa* 神).
 sūrpakarṇa-puta 形 [同上].
 sūrpa-ṅakhā, -i 女 [*Rākṣasi* で *Rāvaṇa* の妹の名].
 sūrpa-ṅakhā, -i 女 同上の 不確.
 sūrpa-puta 男, 田 箕の吹き口.
 sūrpa-śruti 男 (箕のような耳を持つ), 象.
 sūrpāraka 田 [ある町の名, *Bombay* 北方の商港, 現在の *Sopara*]. 男 [ある国の名, *Sopara* 地方]; 種 その国の住民.
 Śūl, I. 田 sūlate, IV. 田 sūlyati(-te) 傷つける, 苦痛を与える (きわめてまれ).
 sūla 男, 田 (因, 田) 焼き串; (田) 大釘, 投げ槍, (とくに *Śiva* 神の) 槍; 劇しい苦痛, とくに疝痛; 旗幟, 標章 (まれ); [ある星座の名 (まれ)]; 又, 槍, 鉗, 戟, 鉗杵, 股叉, 挿托, 挿杵 *Mañj-m., Mṃyut., Śikṣ.,* 梵千; 患, 痛, 苦惱, 痛苦 *Bodh-c., Mañj-m.,* 梵雑: karṇa ~ 患耳病 *Mañj-m.* 81. 男 (女 -ā) (罪人とくに盗賊を突き刺すための) とがった棒杭; 種 ~ am Kṛ 貫 *Divy.* 417.
 sūla-gava 男 (焼き串に適する牡牛) *Rudra* 神に捧げる供物(の一種).
 sūla-ghna 形 苦痛を殺す, 鎮静の.
 sūla-dhara 形 槍を身につけている, [*Rudra-Śiva* 神の称].
 sūla-dhṛk 形 [同上].
 sūla-pāṇi 形 手に投げ槍を持つ. 男 [*Rudra-Śiva* 神の称]; [人名].
 sūla-pāla 男 女郎屋の番人または常客.
 sūla-prota 形 串刺しの刑に処せられた, 突きさされた. 男 [ある地獄の名].
 sūla-bhṛt 男 [*Śiva* 神の称].
 sūla-mudgara-hasta 形 槍と棍棒とを手に持った.

sūla-vata 田 [ある神話上の武器の名].
 sūla-vara 田 [同上].
 sūla-stha 形 串刺しの刑に処せられた, 突きさされた.
 sūla-hasta 形 = sūlapāṇi.
 sūlā 男 娼婦 (まれ).
 sūlā-Kṛ, 串焼きにする.
 sūlā-kṛta 形 串焼きにされた.
 sūlāgra 田 槍または棒杭の先端.
 sūlāṅka 形 *Śiva* 神の槍の標識を有する.
 sūlādhiropita 形 串刺しの刑に処せられた, 突きさされた.
 sūlāya, 名動 田 sūlāyate 突き刺される.
 sūlāropaṇa 田 (°la-ār°) 串刺しの刑.
 sūlāvataṃsita 形 串刺しの刑に処せられた.
 sūlika 形 鉗または何か鋭利な道具をもっている. 田 種 [ある民族の名].
 sūlin 形 鎗で武装した; 疝痛に悩む (まれ). 田 [*Śiva* 神の称].
 sūlopama (°la-up°) 形 如挿托, 如挿杵 *Mṃyut.*
 sūṣa 形 [*Śū* 2.] 力強い, 有力な, 威力ある (戦士, 武器, 讃歌) (RV.). 男 威力ある讃歌 (RV.); 力, 生命力 (因).
 Śṛ 1. 煮る, → Śrā.
 Śṛ 2. = Śri 2.
 Śṛ 3. (śaraṇa 等において).
 sam-pari- 覆い尽す. 田 sampariśriyate (Br.).
 śṛgāla 男 → sṛgāla; 豺, 野干, 狗犬, 狗獾 *Buddh-c., Lal-v., Saddh-p., Sapt-pr.*
 śṛṅkhala 男 田 (女 -ā) 鎖, 足かせ; 鎖 梵雑.
 śṛṅkhalaka 男 足かせをつけられた (ラクダの子).
 śṛṅkhalaya, 名動 田 śṛṅkhalayati 足かせをつける.
 śṛṅkhalā-dāman 田 鎖, 足かせ; 束縛.
 śṛṅkhalā-pāśa 男 [同上].
 śṛṅkhalika 田 鉄索 *Mṃyut.*
 śṛṅga 田 (一°, 形 -ā, -i) 角 (飲んだり吹いたりするためにも用いられる); 田 (象) 牙 (まれ); 注射器 (まれ); 山頂, 峯; 小塔, 小尖塔; (月の) 角; 最先端, 先端 (AV. にも); 高さ, 頂点, 同類中で最上のもの; (角=) 自足, 矜持 (まれ); 愛の最初の目覚め (まれ); 角 *Lank., Mṃyut., Sūtr.*
 śṛṅgaka (一°, 形) 角; 注射器.
 śṛṅga-pura 田 [ある町の名]. → śṛṅgeripura.
 śṛṅga-bhuja 男 [人名].
 śṛṅga-rahita 形 角の無い.
 śṛṅgavat 形 角のある, 尖った.
 śṛṅga-vera 男 [ある蛇形の悪魔の名]. 田 生のまたは草いたしようが; 乾草 *Divy.*
 śṛṅga-śata 田 種 数百の峯.
 śṛṅgāṭa 田 三角形をした堅果 (の一種). 男 または 田 三角形, 三角形の場所.
 śṛṅgāṭaka 田 śṛṅgāṭa の堅果. 男 田 三角形; 数 (または四条) の路の交差する場所 (一°, 形, 田 -ikā); 菱; 橋, 丁字街, 四街道; 三岔, 三路; 台, 高台, 高勝処, (多人) 聚処 *Ast-pr., Divy Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mṃyut.*
 śṛṅgāntara 田 左右両角の間の場所, (有角獣の) 額.

śṛṅgāra 形 美しい, 立派な(まれ). 男 美しい服, 飾り(また象の装飾具についても); 性愛; (詩における) 性愛的情緒(sambhogaśṛṅgāra および vipralambhaśṛṅgāra の二種類がある); [人名]; 擧, 揺, 執 *Mṛyut.*

śṛṅgāra-ceṣṭā 女 恋のしぐさ, 媚態.

śṛṅgāra-mañjari 女 [人名].

śṛṅgāravat 形 性愛の.

śṛṅgāravati 女 [人名].

śṛṅgāra-śata 中 恋愛(に関する)百(の詩節), [*Bharatīhari* の百詩三部作中の最初の一編の標題].

śṛṅgāraśataka 中 [同上].

śṛṅgāra-śekhara 男 [ある王の名].

śṛṅgāra-siṃha 男 [人名].

śṛṅgārīta 名動 過受分 飾られた.

śṛṅgārin 形 飾られた; 美装した; 魅惑された; 性愛の.

śṛṅgārīya, 名動 他 śṛṅgārīyati, 恋にあこがれる.

śṛṅgin 形 角のある(因, 因). 男 角のある動物(因); 山.

śṛṅgerī 女 [*Mysore* 地方のある町の名(śṛṅgagiri の因)].

śṛṅgerī-pura 中 [同上].

śṛṅgerī-maṭha 男 中 [*Śṛṅgerī* にある(*Śaṅkara* によって建立されたと伝えられる)僧院の名].

śṛṅgotpādana (°ga-ut°) 形 角を生ずる. 男 角を生ずる呪文.

śṛṅgotpādini (°ga-ut°) 女 [角を生じ(人を動物に変ずる)ある *Yakṣiṇī* の名].

śṛta 過受分 [*Śrā*] 料理された, 煮られた. 中 料理された食物, とくに煮られた牛乳(因).

śṛta-pāka 形 完全に料理された(RV. 用例一回のみ).

Śṛdh 1., I. 他 śardhati (因), (に対して)挑戦する, (因)を意に介しない. 現分 śardhat, śardhamāna 挑戦的な, 嘲笑する.

Śṛdh 2., I. 因 śardhate 放屁する.

ava- 使役 avasardhayati (何かに対して)放屁する.

śṛdhyā 女 挑戦(RV. 用例一回のみ).

Śṛ, IX. 他 śṛnāti, śṛniti, 他 破る, 裂く, 粉碎する, 因 自己の…をこわすまたは破壊する(因); 他(獲物を)屠る, 殺害する(因); 焦(?)落 *Lal-v.*

因 śiryate (因 まれ; 因; 時としては 因 -ti), 破られる, 裂かれる, または粉碎される, (果実等が)落ちる; 萎む, 涸渇する; 消耗される; 折, 断 *Diry.* 過受分 śirṇa 破られた, 裂かれた, 粉碎された(Br. まれ; 因); 落ちたまたは散った(果実, 花, 葉); 衰えた, 腐敗した, 萎んだ(果実, 花, 葉); śirta 破壊できる(*aśirtatanu* および *duḥśirtatanu* においてのみ); śūrta 粉碎された(RV. 用例一回のみ).

vy-ati- 因 vyatiśiryate 粉々になる.

ava- 他 絶, 奔馳 *Lal-v.*

parā- 粉碎する, 破砕する(因).

pra- 破る.

vi- 因 viśiryate 破られる, 粉碎される; 衰微す

る; 散布される; (因)から分離される; 損傷または破壊される; 萎む, 消滅する; 散, 破壊, 粉碎, 破壊滅没 *Abh-ry., Diry., Guhy-s., Mṛyut.*

過受分 viśirṇa 破られた, 裂かれた, 粉碎された, 破砕された, 壊滅された; 散布された, 撒かれた; 抜けた(歯); 磨り落とされた(軟膏等); 無駄使いされた(財宝), 挫折した(企図).

saṃ- 他 破壊する, 破砕する, 粉碎する(因); 因 崩壊する, 意気銷沈する(因). 因 saṃśiryate 追い散らされる(因詩).

śekhara 1. 男 脳天(きわめてまれ); 山頂(まれ); 頭にかぶせられる小花冠, 冠, 王冠; 一°, …の中で最上のまたは最も美しいもの.

śekhara 2. 中 花冠, 花額 *Mṛyut.*

śekhara-jyotis 男 [ある王の名].

śekharaya, 名動 他 śekharayati, …を王冠とする.

過受分 śekharita 王冠として用いられる; (一°)で飾られた先端をもつ.

śekhari-Kṛ, …を王冠とする.

śekhari-BHū, 王冠となる.

śeḍa, śeḍḍa [地名(?)].

śepa 男 (因) 男性の生殖器; 尾(まれ).

śepas 中 男性の生殖器, 男根.

śepha 男 男根; 陰囊; 因 睪丸(Br.).

śephas 中 男根.

śephālikā 女 植物の一種(*Vitex Negundo*).

śemuṣi 女 (*Śam* の 因 因) 理解, 智慧; 決心, 目的(一°-ka).

śemuṣi-muṣ 形 智慧を奪う.

śela 中 山 *Sam-r.* → śaila.

śelu 男 小樹(*Cordia Myxa*)とその果実.

śeva 因 形 親愛な; 親切な → śiva.

śevadhī 男 財宝; 宝庫(まれ).

śevaraka 男 [ある *Asura* の名].

śevala 形 ぬるぬるした(?)(AV.). 中 = śevāla, śaivāla.

śevāra 男 (<*śeva-vāra) 宝庫(RV. 用例一回のみ).

śevāla 男, 中 *Blyxa Octandra*; 草 *Śikṣ.*

śe-vṛdha 形 (*<śeva-vṛdha) 福祉を増進する(RV.).

śeṣa 男 中 [*Śiṣ*] (因, 因, 一°)の残留物, 残余, 残物; 結果(まれ); 認知のしるし(まれ); 二次的な事柄, 事故; 補足; 余, 余地, 所余 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Lanḥ., Madhy-vibh., Saṃkhy-k., Saddh-p., Suv-pr.* 一° 単に…のみを(時として *mātra* を加えて)残す. ~tas 副 そうでなければ. ~e 因 その他については; 他のすべての場合においては. ~e rātrau その夜の残りの間. *iti śeṣaḥ* (註解の際にきわめて普通); (意味を完全にするために)…の語を補足すべきである. 形 残る(因 残余). (過受分)の(因)とともに, しかし一般には 一°, 例: *desāntaraṃ prāyātebhyo ye ~ās te* 他国に行ったものたちから残ったところの)他国に行かなかった少数のもの; *hata~āḥ* 殺されなかった少数のもの; 最後の, 最後に挙げられた; 余 *Madhy-v., Mṛyut.* 男 [大地を支持し *Viṣṇu* 神のためにその睡眠中に臥床となる蛇の名].

śeṣa-karaṇa 田 (一) を (残余として) 残すこと。

śeṣa-ja 形 余生 *Abh-vy.*

śeṣatva 田 二次的なこと；他の場合に適用し得ること。

śeṣa-pati 田 宮廷役人，行政官；管事者 *Mvyut.*

śeṣa-bhuj 形 残りものを食べる。

śeṣa-bhūta 形 残留する；第二義的な。

śeṣa-vistāra-pāṇḍu 形 残りの表面が青白い (雲)。

śeṣas 田 [残存者；Śiṣ] 子孫 (RV.)。

śeṣā 田 園 (供儀の後に) 残された (縁起のよい) 花；
園 (同上の) 花から作られた花環。

śeṣānā 田 余 *Ratna-ut.*

śeṣita 使役 遍受分；→ Śiṣ；余 *Abh-k.*

śeṣi-BHū, 残る。

śeṣya 未受分 取残されるべき，無視されるべき。

śaikṣa 形 [śikṣā] 正規の，正しい。田 新参者，初心者；学，学人，有学，有学位，有学聖人，有学聖位；有所作 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Di-vy.*, *Mvyut.*, *Madhy-vibh.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*：三学 [1. śaikṣaḥ 有学，2. aśaikṣaḥ 無学，3. naivaśaikṣanāśaikṣaḥ 非学非無学] *Mvyut.* 95；śaikṣā dharmāḥ 衆学法 [1. nivāsanena sapta 著裙，內衣，內衣有七条，2. parimaṇḍala-nivāsanam 齊整著裙，五衣应齊整円相，円整著泥婆珊，3. nātyutkrṣṭam 不太高，不得如磊，4. nātyapakrṣṭam 不太下，不得特長，5. na hastituṇḍāvalambitam 不象鼻，不要如象垂，不垂如象鼻，6. na tāla-vṛṇḍakam 不多羅葉，不得如多羅葉，不如多羅葉，7. na kulmāsapindakam 不如豆团，不得如米袋，8. na nāgaśirṣakam nivāsanam nivāsayiṣyāmiti śikṣā karaṇiyā 不蛇頭著裙应当学，下衣不得如蛇拳頭相，我不著裙如蛇頭是应当学，9. nātyutkrṣṭam civaram 齊整披衣，应当学不太高，上衣不得如磊，衣不太高，10. nātyapakrṣṭam civaram 衣不太下，袈裟不用甚長，11. parimaṇḍalacivarasusamvṛtaḥ 好正披，要円相，齊整衣好正覆，12. supraticchannāḥ 好正覆，上衣要齊正，好正被，13. alpaśabdāḥ 少語言，不要作声，14. anutkṣipta-cakṣuṣaḥ 不高視，不乱視，15. nodguṇṭhikayā 不覆頭，不裏頭，16. notkrṣṭikayā 不偏抄，不捲，17. notsaktikayā 不雙抄，不反抄，18. nodvyastikayā 不叉腰，不叉手於腦後，不叉，19. na paryastikayā 不拊肩，不要兩交搭於肩上，不拊，20. notṭāṅkikayā 不足指行，勿以脚掌面立行，21. nollaṅghikayā 不断行，不跳，22. notkuṭukikayā 不蹲行，不得蹲坐蹲行，不蹲，23. na kāyapracālakam 不搖身，不要搖身，24. na bāhupracālakam 不掉臂，不要举手，25. na śirṣapracālakam 不搖頭，不要搖頭，26. na soḍhaukikayā 不肩排，不要掉肩，27. na hastasamlagnikayā 不連手，不要連手，28. nānanujñatā 未請，不得未差而，未請不，29. nāpratyavekṣāsanam 不善觀察，不看坐，不觀察座不，30. na sarvakāyam samavadhāya 不放身坐，以重体用力坐，放全身不
31. na pāde pādām ādhāya 不累足，足不交錯，
32. na sakthani sakthy ādhāya 不重内踝，腿勿

交叉，33. na gulphe gulpham ādhāya 不重外踝，坐不可兩背式骨上下合，34. na samkṣipyā pādau 不急斂足，脚勿交勾，35. na vikṣipyā pādau 不長舒足，不可跨立，36. na viḍāṅgikayā 不露身，不露密相，37. satkrtya piṇḍapātām pratigrahiṣyāmaḥ 恭敬受食，取食要端正，38. na samatittikam 不得滿鉢受飯吏安羹菜，勿得飯上多添羹，勿滿，39. na samasūpikam 勿等羹菜，勿得飯上菜齊盛，40. pātrasamjñinaḥ 觀鉢食，觀看鉢盂，看鉢
41. nānāgate khādaniye bhojaniye pātram upānāmayiṣyāmaḥ 行至未至不預伸鉢，飯食未到勿得用鉢去接，嚼食嚼食未至我等当不伸鉢，42. nodanena sūpikam praticchādayiṣyāmaḥ sūpikena vā odanam 不得以飯覆羹菜亦不將羹菜覆飯，食飯勿得用菜蓋飯飯蓋米，43. satkrtya piṇḍapātām paribhokṣyāmaḥ 我等当恭敬而食，飲食端嚴，44. nātikṣuṇakair ālopaiḥ 不極小搏，斷食勿得過小，45. nātimahāntam 不極大，斷食勿得過大，46. parimaṇḍalam ālopam 円整而食，斷食合中，47. nānāgate ālope mukhadvāraṃ vivariṣyāmaḥ 食未至不張口，未食勿得張口，48. na sālopena mukhena vācam pravāharisyāmaḥ 食滿口勿得言
49. na cuccukārakam 不彈舌食，勿露酸相，50. na śśu-kārakam 不嚙嚙，勿露甜相，51. na thutthukārakam 不吹氣，勿露熱相，52. na phutphukārakam 不呵氣，勿露冷相，53. na jihvāniścā rakam piṇḍapātām bhokṣyāmaḥ 不舒舌食，食勿出舌，54. na sitthapṛthakkārakam 不散手食，勿捨一粒食，55. nāvaraṇakārakam 不毀譽，勿嫌憎，56. na gallāpahārakam 不填頰食，勿於左右腮，不取於頰，57. na jihvāsphoṭakam 不齧半食，齧勿作声，58. na hastāvalehakam 不離手，59. na pātrāvalehakam 不舐鉢，60. na hastasamdhunakam 不振手，手勿揮，61. na pātrasamdhunakam 不振鉢，勿得覆鉢，62. na stūpikṛtim avamṛdya piṇḍapātām paribhokṣyāmaḥ 不碎窠堵波形食施食，勿作塔樣食，63. na sāmiṣaḥ na pāṇinā udakasthālakam grahiṣyāmaḥ 不汚手捉淨水瓶，食飯汗手勿得水器，64. nāvadya napreksīṇāntarikasya bhikṣoḥ pātram avalokiyiṣyāmaḥ 不輕慢心觀比丘鉢中食，近坐比丘鉢盂得顧笑，65. na sāmiṣam udakam antargṛhe chrayiṣyāmas santam gṛhiṇam anavalokya 在白舍不棄洗鉢水，不得未問而洗鉢水棄白衣舍內，不見主在舍內棄汗水舍內，66. na pātreṇa vighasa chorayiṣyāmaḥ 我等当不得以殘食置鉢水中，殘勿得復入鉢盂而棄，67. nānāstirṇapṛthiviprade pātram sthāpayiṣyāmaḥ 地上無替不応安鉢，鉢不可放無坐，68. notthitāḥ pātram nirmādayiṣyāmaḥ 不立洗鉢，勿得立洗鉢盂，69. na tate prapāte na prāgbhāre pātram sthāpayiṣyāmaḥ 不於危險岸処置鉢，不可放險処岸下巖上不平処，置鉢危險崖岸，70. na nadyāhāryahāriṇyā pratisrotapātreṇōdakam grahiṣyāmaḥ 不逆流水，不可逆沓暴流水，我等当不逆急流河水以鉢水，71. notthitā niṣaṇṇāyāglānāya dharmā

deśayisyāmaḥ 人坐己立不為說法除病，不得立而為坐者說法除病， 72. na niṣaṇṇā nipannāyāglānāya dharmam deśayisyāmaḥ 人臥己坐不為說法除病，不得坐而為臥者說法除病， 73. na niṭatarake āsane niṣaṇṇā uccatarake āsane niṣaṇṇāyāglānāya dharmam deśayisyāmaḥ 人在高座己在下座不為說法除病，不得為高座者說法除病， 74. na pṛsthato gacchantāḥ purato gacchate aglānāya dharmam deśayisyāmaḥ 人在前行己在後行不為說法除病，不得前行者隨後說法除病， 75. notpathena gacchantāḥ pathena gacchante aglānāya dharmam deśayisyāmaḥ 人在道行己在非道行不為說法除病，不得為道中行者道邊而說法除病， 76. nodgunṭhikākṛtāyāglānāya dharmam deśayisyāmaḥ 不為覆頭者說法，不得為裹頭人說法除病， 77. notkṛṣṭikākṛtāyāglānāya dharmam deśayisyāmaḥ 不為偏抄衣者說法除病，不得為捲衣者說法除病， 78. notsaktikākṛtāyāglānāyā dharmam deśayisyāmaḥ 79. na vyastikākṛtāyāglānāya dharmam deśayisyāmaḥ 不為叉腰者說法除病，不得為衣纏頸者說法除病， 80. na paryastikākṛtāyāglānāya dharmam deśayisyāmaḥ 不為摺肩者說法除病，不可為無病肩上搭衣者說法， 81. noṣṇiṣāsīrase dharmam deśayisyāmaḥ 不為佻頂髻者說法，不得為挽髻者說法， 82. na kholāsīrase dharmam deśayisyāmaḥ 不為戴帽者說法，不得為帶帽者說法， 83. na maulīśīrase dharmam deśayisyāmaḥ 不為著冠者說法，不得為華冠者說法， 84. na veṣṭitāśīrase dharmam deśayisyāmaḥ 不為纏頭者說法，不可為覆頭人說法， 85. na hastyārūdhāya dharmam deśayisyāmaḥ 不為乘象者說法，不可為乘象人說法， 86. na svārūdhāya dharmam deśayisyāmaḥ 不為乘馬者說法，不可為乘馬人說法， 87. na śibikārūdhāya dharmam deśayisyāmaḥ 不為乘轎者說法，不可為坐轎者說法， 88. na yānārūdhāya dharmam deśayisyāmaḥ 不為乘車者說法，凡乘騎人不可為說法， 89. na pādukārūdhāya dharmam deśayisyāmaḥ 不為著履者說法，不可為著革履人木屨人說法， 90. na chatrapāṇaye dharmam deśayisyāmaḥ 不為持蓋者說法，不可為手執傘蓋人說法， 91. nāglānā utthitā uccāraprasrāvaṃ kariṣyāmaḥ 不立大小便除病，不得立大小便除病， 92. nāglānā udaka uccāraprasrāvaṃ khetam siṅghāṇakam vāntam viriktam chorayisyāmaḥ 不得水中大小便洩唾除病，無病勿得前後唾涕吐於水中， 93. nāglānāḥ saharitapradeśe uccāraprasrāvaṃ khetam siṅghāṇakam vāntam viriktam chorayisyāmaḥ 不得青草上糞大小便涕唾除病，不得生草葉上大小便涕唾除病， 94. nāsādhikam pauruṣyam vṛkṣam adhiroksyāma anyatrāpada iti śikṣā karaṇiyā 不得上樹過人樹除有難緣] *Prat-m.* 7, 527.; sambahulāḥ śaikṣa-dharmāḥ 諸戒法 *Mvyut.* 256.

aikṣa-bhūta 形 學(道) *Bodh-bh.*

aikṣa-bhūmi 因 學地 *Saddh-p.*

aikṣa-samvṛti-sammata 因 (?) [= *Pali* sekha-sam-

mata(?)] ; 學家耨磨 (?) *Prat-m.*

śaikṣāśaikṣa 男 學無學 *Saddh-p., Śikṣ.*

śaikṣā-pada 因 學処 *Bodh-bh.*

śaikṣi 形 (女) 學, 有學 *Abh-vy.*

śaikṣya 形 有學 *Abh-vy.*

śaikha 男 [śikhā から] 種姓から追放された婆羅門の子孫.

śaikhina 形 孔雀 (śikhin) に由来する・に属するまたはから来た.

śaighra 因 急速, 速さ, 速度.

śaighrya 因 [同上].

śaitya 因 [śīta] 涼しいこと, 寒いこと ; 冷, 涼, 清涼 *Abh-vy., Divy., Śikṣ., Sūtr.*

śaityātīśaya 因 極冷 *Abh-vy.*

śaithilika 形 だらしのない, 弛緩な, いいかげんな ; 放逸, 懈怠, 慢緩, 有慢緩者 *Bodh-bh., Lal-v., Śikṣ.*

śaithilya 因 [śithilaka] 弛いこと ; 弛緩 ; 減少 ; (凝視の)不安定, うつろなこと ; (歴, 一)について弛いこと, 怠慢または怠惰であること.

śaibya 形 Śibi 族に関する. 男 Śibi の子孫 ; Śibi 族の王.

śaimbya 形 [śimba から] マメ科植物に属する.

śairasa 因 [śīras] 寝台柱の上部.

śairiṣa 男 [śīriṣa から] *Acacia Sirissa* に由来する, *Acacia Sirissa* の色をした ; 音写 舍利, 舍利沙 *Divy.*

śairiṣaka-vimāna 因 天の宮殿 ; 音写 舍利窟, 舍利沙殿 *Divy.*

śaila 形 (女 -i) 石より成る ; 石の多い. 男 岩 ; 岡, 山 ; 石, 山石 ; 巖, 巖石 ; 山, 岳, 峰 *Bodh-bh., Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Sapt-pr., Śikṣ., 梵天.*

śaila-kanyā 因 (Himalaya) 山の娘 *Pārvati* 女神.

śaila-kūṭa 男 女 山頂.

śaila-guru 形 山のように重い. 男 諸山の王, *Himalaya* 山.

śaila-guhā 因 石洞, 窟洞 *Mvyut.*

śaila-taṭa 因 高巖 *Rāṣṭr.*

śaila-tanayā 因 = śailakanyā.

śailatā 因 山である状態.

śailatva 因 [同上].

śaila-duhitṛ 因 = śailakanyā.

śaila-dhātu 男 鉱物.

śaila-patha 男 山路.

śaila-pura 因 [ある町の名].

śaila-bāhu 男 山手 [ある竜王の名] *Mvyut.*

śailamaya 形 (女 -i) 石で作られたまたは石からなる.

śaila-mṛga 男 野生の山羊.

śaila-rāja 男 諸山の王, *Himalaya* 山 ; 須弥 *Lal-v.*

śaila-śikhara 男 山頂.

śaila-śekhara 男 [同上].

śaila-śṛṅga 因 [同上].

śaila-sāra 形 岩のように堅い.

śaila-sutā 因 (Himalaya) 山の娘, *Pārvati* 女神.

śailasutā-kānta 男 *Pārvati* 女神の夫, *Śiva* 神.
 śaila-setu 男 石の堤防.
 śailā 女 音写 世羅 *Divy.*
 śailāgra 中 山の頂上; 山頂 *Divy.*
 śailāṭaka 中 [ある薬草の名]; 寒水石汁 *Mvyut.*
 śailādhirāja 男 諸山の君主, *Himālaya* 山.
 śailādhirāja-tanayā 女 (*Himālaya*)山の娘, *Pārvati* 女神.
 śailāli 男 [śilālin から] ある学匠の 父系.
 śailālin 男 種 *Śilālin* の学派.
 śailāli-yuvan 男 舞踊者, 俳優.
 śaili 女 [śila から] 習慣, 風習, 行為, 処置.
 śailika 女 石 *Lank.*
 śailūṣa 男 [śilūṣa からの父系] 舞踊者, 俳優.
 śailūṣi 女 女の舞踊者, 女優.
 śailendra (°la-in°) 男 諸山の王, *Himālaya*山; 大山 *Gand-vy.*
 śaileya 男 中 (śilā から生じた), ベンジン, 瀝青等; 石, 艾納 *Lank., Sapt-pr.*; 音写 世黎也 *Sapt-pr.*
 śailopāsaila (°la-up°) 男 小石 玄応.
 śailpa-sthānika 形 [śilpasthāna から]; 上巧, 工巧処 *Abh-k., Abh-vy.*
 śaiva 形 (女 -i) *Śiva* 神に関する・属する・捧げる または由来する. 男 *Śiva* 神の信者 または 崇拜者; 柔善 *Mvyut.*
 śaivatā 女 *Śiva* 教徒であること.
 śaiva-darśana 中 *Śiva* 教徒の教理・哲学.
 śaivala 男 または 中 (?) [水草の一種 (*Blyxa Octandra*)]; 近重 [ある竜王の名] *Mvyut.*
 śaivalavat 形 *Śaivala* によって覆われた.
 śaivalin 形 [同上].
 śaivāla 中 =śaivala.
 śaivālaka, 一° [同上].
 śaiśava 中 [śiśu から] 少年期; 幼稚, 愚鈍 (まれ).
 śaiśava-yauniya 形 少年期および青年期を代表する.
 śaiśira 形 (女 -i) 寒い季節に関する または 属する; *Śiśira* に由来するまたはによって作られされた.
 śaiśiri 男 [Śiśira からの父系].
 śaiśiriya 形 *Śaiśiri* に関する.
 śaiśu-nāri (または -li) 男 おそらく *Śaiśupāli* の不確.
 śoka 男 [Śuc] 焰, 白熱 (因); (因, 一°)に対する苦悩, 悲しみ, 悲哀, 苦痛 (因, 因); 憂, 愁, 愁悲, 憂愁, 憂悲, 憂惱, 憂惑, 憂慘, 憂苦, 愁憂, 愁惱, 愁歎, 苦哀, 苦衰, 衆若 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Lal-v., Lank., Madhy-v., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Sapt-pr., Śikṣ., 梵雜.*
 śoka-carcā 女 悲しみに沈むこと.
 śoka-ja 形 悲しみより生じた.
 śoka-nāśana 男 悲哀の破壊者.
 śoka-parāyāṇa 形 悲哀に陥った.
 śoka-parideva 男 愁悲 *Bodh-bh.*
 śoka-prativinodana 中 離愁憂 *Bodh-bh.*
 śokamaya 形 悲哀より成るまたはに充ちた.
 śoka-vigata 中 [園名] 離憂 *Aṣṭ-pr.*

śoka-vinodana 中 令離愁憂 *Bodh-bh.*
 śoka-śalya 男 中 毒箭 *Aṣṭ-pr.*
 śokākula (°ka-āk°) 形 悲嘆にくれた.
 śokāgni 男 憂愁盛火 *Suv-pr.*
 śokāpagata 形 無憂 *Sukh-vy. I.*
 śokābhibhūta 過受分 生愁苦, 心愁怖 *Sapt-pr.*
 śokāyāsa (°ka-āy°) 男 憂愁 *Sapt-pr.*
 śokārta (°ka-ār°) 形 悲しみに悩まされた; 懷悲感 *Saddh-p.*
 śocana 中 女 -ā 悲嘆, 悲哀; 愁, 哀感, 思悽 *Sam-r.*
 śocaniya 未受分 悲しむべき, 嘆かわしい.
 śocaniyatā 女 嘆くべきこと.
 śocayitr 男 苦痛を生ぜしめるもの.
 śocita 過受分 [Śuc]; 苦 *Lal-v.*
 śocitavya 未受分 嘆かわしい; 悲しむべき.
 śociṣ-keśa 形 燃える髪を有する (*Agni* 神, 太陽).
 śociṣṭha śukra の 匠 (RV.).
 śocis 中 [śuc から] 因 (ほとんど常に *Agni* 神の) 焰, 灼熱, 光; 因: 色, 光輝, 美.
 śocya 未受分 悼むべき, 嘆かわしい. → aśocya.
 śocyatā 女 嘆かわしいこと.
 śoḍha, soḍha の 不確.
 Śoṇ, 三過 śuśoṇa としてのみ, 赤い, 赤くなる.
 śoṇa 形 赤い, 真紅の. 男 赤さ (因, まれ); [ある河の名] (*Pāṭaliputra*で *Gaṅgā* 河に注ぐ *Sone* 河(因)).
 śoṇatā 女 赤さ.
 śoṇāśva 形 赤い馬を有する, [*Droṇa* の称].
 śoṇita 中 [赤く彩色された, śoṇa の 名動 過受分] 血 (時には 因); 血, 赤, 精血, 不浄, 赤白和合 *Abh-vy., Bodh-c., Divy., Gand-vy., Lank., Rāṣṭr., Śikṣ. : mātā-pitr-śoṇita-śukra-sambhūta* 父母赤白和合 *Śikṣ. 229.*
 śoṇita-pāraṇā 女 血の朝食.
 śoṇitāśin (°ta-āś°) 形 血を飲む (因).
 śoṇiman 男 赤さ.
 śoṇi-Kṛ, 血のような紅に彩色する.
 śoṇottarā (°ṇa-ut°) 女 [人名].
 śoṭha 男 [Śū=Śvā] 膨張.
 śodha 男 浄化, 清め; 訂正, 正すこと; 支払い; 報復; 佳良, 浄修, 厳浄 *Daś-bh.*
 śodhaka 形 [Śudh] 清浄にする; 除, 能浄修治 *Bodh-bh., Lal-v.*
 śodhana 形 [同上]. 中 浄化の方法, 浄めること, 清浄にすること; 除去; 減法(引き算); 精算, ふるい分け, 調査, 試験; 清浄, 浄, 破断 *Bodh-c. Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.*
 śodhanaka 男 掃除 (と家の整頓とを任とする) 下僕.
 śodhaniya 未受分 浄化または純化されるべき, 返済または弁済されるべき.
 śodhita 使役 過受分 → Śudh; 掃, 抜, 銷, 清浄, 浄掃 *Lal-v., Śikṣ.*
 śodhin 形 清潔にする, 清める.
 śodhya 未受分 清められるべき; 矯正または訂正されるべき; 清浄 *Śikṣ.*
 śonita 中 śoṇita の 不確; 津血 *Lal-v.*

śopha 男 はれもの, 病的な隆起, 腫瘍.
 śobha 形 [Śubh] 輝かしい, 立派な, 顔だちのよい;
 妙, 浄, 端正, 端嚴, 莊嚴 *Bodh-c., Lanik., Abh-k., 梵雜.* 男 [人名]. → aśobha.
 śobhaka 形 (女 -ikā) 莊嚴な, 美麗な. 男 [人名].
 śobhana 形 (一) で素晴らしい・立派なまたは美しい; (一) で卓越したまたは顕著な; 幸先きのよい, 吉兆の. 男 繁栄, 幸運; 善いまたは道徳的行為; 善, 可, 宜, 極善, 難及, 安穩, 善事, 善利, 吉祥; 浄, 端正, 嚴峻, 莊嚴; 勝生 *Abh-vy., Divy., Śikṣ., Sūtr.* ~m 副 可意 *Divy.* → a~.
 śobhanaka 形 美しい; 清浄 *Śikṣ.*
 śobhanatara 比較 極妙 *Sūtr.*
 śobhanā 女 美しい女 (しばしば 呼として用いられる).
 śobhā 女 華麗, 美麗, 優雅, 愛らしさ (一 時として = 素晴らしい, 格別な); 色 (まれ); 莊嚴, 端嚴: 嚴, 嚴飾, 光飾 *Abh-k., Abh-vy., Divy.* kā~ (形) にいかなる善いことがあるか = 悪いことがある. → aśobhā, ātmabhāva~.
 śobhā-karatva 中 莊嚴 *Sūtr.*
 śobhāvati 女 [ある韻律の名]; [ある町の名]; [国名].
 śobhā-vākya 中 うるわしい言葉.
 śobhika 男 影絵芝居師 (仏教) = śaubhika.
 śobhita 男 [ある金持の Śākya 族の青年の名]; 莊嚴, 衆宝莊嚴 [ある比丘の名], 特殊妙好 *Ava-s., Saddh-p.*
 śobhin 形 素晴らしい, 立派な, 美しい; (一) で光り輝く・飾られたまたは卓越した. 一 形 [śobhā の代りに用いる].
 śobhiṣṭha 最上 最も燦然とした (RV.).
 śoṣa 形 (一) を乾燥させる; …を除去するまたは破壊する. 男 ひあがること, 萎縮, 衰減; 乾燥 酒, 枯, 煎消, 乾消, 消渴, 腎渴, 乾消, 乾枯病, 内傷 *Abh-vy., Buddh-c., Daś-bh., Lal-v., Mvyut., Sūtr.*
 śoṣaṇa 形 (女 -ni) ひあがる, 焦げる, 萎む; 除去する, 破壊する. 中 乾燥; 憔悴; 枯, 枯渴, 離 *Rāṣṭr., 梵千.*
 śoṣa-vṛddhi 女 由滋及由潤 *Sūtr.*
 śoṣita 使役 過受分 → Śuṣ.
 śoṣin 形 ひあがる, 憔悴する; 乾かしつくす, 萎ます.
 śaukta 形 真珠母貝 (śukti) でできた.
 śauklya 中 [śukla から] 白さ, 輝き.
 śauṅgeya 男 [śuṅgā から] Garuḍa の 母系; 隼, 鷹 (隼).
 śauca 中 清潔, 純潔, 清浄 (また祭式上の); (一) による浄化; 廉潔, 正直; 浄, 洗, 清浄, 洗浄 *Abh-vy., Divy., Śikṣ., 梵千.*
 śaucatva 中 [同上].
 śaucavat 形 純粹な, 清浄な (また 譬喩).
 śaucācāra (°ca-āc°) 男 浄化の儀式, 沐浴等によって身を浄める方法.
 śaucācāra-rata 形 浄行自居 *Mañj-m.*
 śauceya 男 洗たく屋. 中 清浄 *Abh-vy.*
 śauṭira 形 男らしい, 高慢な, 誇り高い (叙述). 男

戲器 *Mvyut.*

śauṭīrya 中 (一) の男らしさ, …の誇り.
 śauṭīryavat 形 精進 *Saddh-p.*
 śauḍa 男 [ある国の名].
 śauṇḍa 形 [śuṇḍā から] (一) 酒におぼれた; を熱愛するまたはに専念した; に熟達した; の誇りである.
 śauṇḍika 男 酒類醸造者, 酒類販売者; 売酒, *Mvyut.*
 śauṇḍiki 女 酒屋の女主人.
 śauṇḍikeya 男 [śuṇḍikā から] 子供に害を与える悪魔 (の一種).
 śauṇḍin 男 [同上].
 śauṇḍi 女 [同上].
 śauṇḍīrya 中 男らしさ, 誇り, 傲慢 (= śauṭīrya).
 śauddhodani 男 [śuddhodana から] 仏陀の 父系; 白浄王, 浄飯王子 *Buddh-c., Mvyut.*
 śaudra 形 Śūdra に属する・Śūdra に関するまたは特有な; Śūdra から生まれた.
 śauna 形 (女 -i) 犬 (śvan) に属する.
 śaunaka 男 [śunaka からの 父系] [多くの 著作家・教師の名 (とくに吠陀に関する多数の著作を残した有名な学匠の名)]. 中 その子孫およびその学派.
 śaunakiya 形 Śunaka によって著わされた.
 śaunaḥ-śepa 男 [śunaḥśepa からの 父系]. 中 Śunahśepa の物語.
 śaura-sena 形 (女 -i) Śūrasena 族に関する等.
 śaura-seni 女 [Śūrasena 族の言語 (Prākṛt の一種)].
 śauri 男 [Vasudeva 神 (まれ) および Viṣṇu-Kṛṣṇa 神の 父系].
 śaurya 中 [śūra から] 英雄的行為, 勇気, 勇敢な行為; 勇健 *Bodh-bh.*
 śaurya-karman 中 英雄的行為.
 śaurya-rāsi 男 武勇の模範.
 śauryavat 形 英雄的な, 勇敢な.
 śaurya-sāgara 男 武勇の模範.
 śauryonmādin (°ya-un°) 形 無謀な.
 śauryaudārya-śṛṅgāramaya (°ya-au°) 形 武勇と高貴と婦人への愛よりなる.
 śaulkika 男 [śulka から] 通行税の管理者, 税関吏; 税務, 税官; 銅匠 *Divy., Mvyut.*
 śauva 形 犬 (śvan) に関する, 犬の.
 śauvastika 形 明日 (śvas) に起るまたは明日まで続く.
 śca-kāra 男 室者字 (四十二字門の一): ścakāram parikirtayataḥ sattvagaganadharmaghana-nigarjitanirnādaspharaṇam nāma prajñāpāramitāmukham avakrāntam 唱室者 [二合] 字時能甚深入般若波羅蜜門名入虚空一切衆生界法雷大音遍吼 *Gaṇḍ-vy. 450.*
 Ścand, 強意 現分 canīscadat としてのみ, 輝く (RV. 用例一回のみ).
 ścandra 形 輝く (RV., まれ; また hariścandra 等の種々の合成語として).
 Ścam, ścamnan 中 としてのみ, なだめる, (憤怒を) 鎮める (RV. 用例一回のみ).
 Ścar, (= Car) [upa とともに upāścārat としてのみ] (中)

に近づく (YV.).

Ścut, I. 他 ścotati [重] ではほとんどつねに scyotati となる。すなわち Cyut と Ścut との混同によって生じた形] 自動 滴る, にじみ出る, ポタポタ落ちる, チョロチョコロ流れる。他動 ポタポタ落とすまたは流す, こぼす (重)。使役 ścotayati 他 流れさすまたは滴下さす (Br.).

ni- 自 niscotate にじみ出るまたは滴下する (重)。

pra- 他 praścotati, praścyotati, したたらす, ポタポタ落とす (重)。

ścut 形 一°, (因), ścyut 形 一°, 重 滴る, 流れる。

Śnath, II. 他 śnathihi, 現分 śnathat, 三過 śnathiṣṭam, śnathiṣṭana としてのみ, 突き刺す (RV.). 使役 śnathayati [同上]。過受分 śnathita.

ni- 打ちおろす。使役 [同上]。

pari-ni- [同上]。

śnathita 使役 過受分 → Śnath.

śmaśā 女 髭 (RV. 用例一回のみ)。

śmaśāna 中 埋葬地, 火葬地, 墓地; 祖先への祭儀 (まれ); 塚墓, 塚間, 尸林, 尸陀林, 塚壙, 塚壙間, 棄屍林, 焚屍之处, 焚燒之所, 火葬場, Av-ś., Bodh-c., Divy., Guhy-s., Lal-v., Lank., Rā-śtr., Śikṣ., Suv-pr.: kṣiptaḥ ~ne 棄在尸林, 捐棄塚間 Suv-pr. 52. ~m Sev 埋葬地へ度々行く = 考え得るありとあらゆる恐ろしい目にあう。

śmaśāna-dāru 男 焚屍柴 Rāśtr.

śmaśāna-pāla 男 墓地の番人, 墓守。

śmaśāna-vetāla 男 [ある賭博師の名]。

śmaśāna-saṃjñā 女 如塚墓想 Lal-v.

śmaśānika 男 居塚間, 住尸陀林, 住死屍間, 塚間…修行 Aṣṭ-pr., Lank.

śmaśru 中 ひげとくに口ひげ。複 ひげの毛; 鬚, 髭髮 Mañj-m., Mvyut., 梵雜。

śmaśru-dhara 形 ひげをつけた, ひげのある (重)。

śmaśrula 形 ひげのある。

śmaśrū 中 鬚 Saddh-p.

śmaśrūya, 名動 自 śmaśrūyate, ひげに似る。

śmaśānika 形 住塚壙間, 塚間, 塚間坐 Mvyut., Śikṣ.

Śyā, IV. 他 śyāyati 凍らせるまたは凝結させる (Br. まれ)。受 śiyate 凍る, 凝結する, 固まる, 寒い (因)。

過受分 śita 涼しい, 寒い (因, 重); śina 固まった, 凍った (重, まれ); śyāna 乾いた (重, まれ)。

ati- 自 凝 Abh-vy.

ā- 自 乾く (重)。過受分 āśyāna 固められた, 乾いた。

śyānatva 中 凝 Abh-vy.

śyāparṇa 男 [人名]; 複 その子孫 (因)。

śyāparṇiya 形 Śyāparṇa 家に属する (Br.).

śyāma 形 黒い, ねずみ色の, 緑のまたは青い, 陰気な, 暗い, 黒ずんだ (美しい顔色と考えられる); 黒, 垢黒, 紫色; 緑, 月白 Mañj-m., Mvyut., Rāśtr., Saddh-p.: ~-dantah 齒垢黒 Saddh-p. 350. 男 [Prayāga にある神聖ないちじくの樹の名]。

śyāmaka 男 草(の一種); 芎藭 (聞莫迦), 苕松 香 Suv-pr.

śyāmatā 因 黒さ, 暗い色; 火変黒鉄 Sutr.

śyāmatva 中 [同上]。

śyāma-phena 形 黒い泡を有する。

śyāmaphenatā 因 [同上の 中]。

śyāma-mukha 形 黒い顔の (雲); 黒い乳頭を有する。

śyāmala 形 暗黒色の; 烏, 烏色 Abh-vy.

śyāmalaka 男 [人名]。

śyāmalatā 因 黒さ, 暗色。

śyāma-latā 因 蔓草(の一種)。

śyāmalita 名動 過受分 暗くされた, おおい隠された。

śyāmaliman 男 黒さ, 暗黒。

śyāmali-Kṛ, 暗くする, おおい隠された。

śyāma-varṇa 形 暗色の。

śyāma-sabala 形 鬚 Divy.

śyāmā 女 (ある特徴をもつ妙令の) 婦人; 鳥(の一種); [種々の植物の名, とくに Priyaṅgu 蔓草の名]; [人名]。

śyāmāka 男 穀物(の一種, Panicum Frumentaceum); 苳子, 稗穀, 野穀, 野芝麻 Divy., Mvyut.; 紺顔 [人名] Divy.

śyāmāya, 名動 自 śyāmāyate 暗色を帯びる。

śyāmāvati 女 紺容 (夫人) Divy.

śyāmikā 女 黒さ; 不浄。

śyāmīta 名動 過受分 暗くされた。

śyāmi-Kṛ, 暗くする。

śyāmi-BHū, 暗色になる。

śyāla 男 → syāla; 男 梵千。

śyāva 形 暗褐色の, 褐色の。男 栗毛の馬。

śyāvī 因 栗毛の牝馬 (RV.); 夜。

śyāva-dant 形 褐色の齒を有する。

śyāva-danta 形 [同上]。

śyāvadantaka 形 [同上]。

śyāvadantatā 女 褐色の齒を有すること。

śyāvāśva 形 褐色の馬を有する。男 [人名]。

śyāvāśya (°va-ās°) 形 褐色の顔を有する。

Śyut 重 = Ścut.

śyeta 形 (因 -eni または -etā) 赤みのさした白色の, 白い。

śyena 男 鷲 (とくに人間に Soma をもたらした鷲 因 隼, 鷹; Ekāha 祭(の一種, S.); 陣形(の一種, 重)。形 鷲のごとき (胸; Br., S.); 鷹, 兎 Lank., Mvyut.

śyena-jivin 男 鷹匠。

śyena-patvan 形 鷲によって飛ぶ (車, RV., 用例のみ)。

śyenāvapātam 副 鷲または鷹のように空から飛びか

って。

śyeni 女 śyeta および śyena の 因。

śyaita 男 交系 [人名]。中 [種々の Saman の名]

śyaineya 男 [śyeni から] [Jatayu の 母系]。

Śraṇ, 使役 他 śraṇayati。

vi- (因) に与える・譲与するまたは授ける。

śrat-Kṛ, 他 約束する, 確約・保証する (因)。

Śrath, IX. 𑖀 (𑖀) (śrathnāti(-nite) (𑖀, 𑖀), VI.
 𑖀 śrathati (anu とともに TS.) 弛む, たわむ; 弛める, 武装を解く, 𑖀 (自己の絆等)を解く. 𑖀 (𑖀)
 𑖀 śrathayati 解く; (罪)を許すまたは恩赦する,
 𑖀 弛くなる, たわむ.
 vi- 𑖀 (𑖀) 弛める; (罪)を許すまたは恩赦する;
 破壊する.
 śrathāya, 𑖀 (RV.) 𑖀 śrathāya のみ.
 ava- 下から弛める.
 ud- 上から弛める.
 vi- 弛める.
 śraddadhānatā 𑖀 信仰; 𑖀 信解, 深信 Ast-pr.,
 Bodh-bh.
 śraddadhānavat 𑖀 信ずる.
 śraddha, 一° 𑖀 𑖀 正信 Bodh-bh. → nivista
 ~.
 śraddha-bala 𑖀 𑖀 信力 Śikṣ.
 śrad-DHā, 𑖀 𑖀 śraddadhāti (-dhatte) (𑖀; 𑖀)にお
 いてはまた人または事物の 𑖀, 事物の 𑖀)を信頼する・
 頼る・(誰かある人を)信ずるまたはを信仰する;(ある
 事: 𑖀)を(𑖀)であると信用するまたは信ずる;(ある
 人: 𑖀)から(あること: 𑖀)を期待する(𑖀);
 (𑖀)に同意するまたはを是認する(𑖀);(ある人)を歡
 迎する(𑖀);(あることを: 𑖀)欲する(𑖀);na とともに,
 信じない;…を是認しない. 𑖀 śraddadhāna 信
 頼している, 信じている; 𑖀 信, 信受 Madhy-
 vibh., Rāṣṭr. 𑖀 śraddhita 信頼された, 承認
 された; 歡迎された.
 śraddhā 𑖀 (𑖀)を信仰する, …を信頼する(𑖀). 𑖀
 (𑖀, 一°)にたいする信用・信頼・信仰または信念;
 忠実, 真摯, (𑖀, 𑖀); (𑖀, prati, 𑖀 または一般に
 一°)にたいする欲望 または 願望(𑖀); 好奇心(𑖀,
 𑖀); 𑖀 信, 住(?)信解, 敬信, 信受, 信敬, 淨信,
 至誠, 正信, 大信心, 清淨信, 心懷淨信, 能信仏語
 Abh-k., Abh-ry., Ast-pr., Bodh-bh., Divy.,
 Gaṇḍ-ry., Lal-v., Lanḅ., Madhy-vibh., Mvyut.,
 Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ.,
 Sūtr., Vijñ-t., Vin., 梵千.: na parasya ~ ayā gac-
 chati 不信他語, 不隨他語 Ast-pr. ~m ākhyāhi
 nas tāvat 語ってわれらの好奇心を満足せしめよ.
 śraddhā-gāmin 𑖀 𑖀 信…而行 Bodh-bh.
 śraddhā-jātādhimukti-gata 𑖀 𑖀 生信勝解 Bo-
 dh-bh.
 śraddhātavya 𑖀 𑖀 信すべきである.
 śraddhādi-kuśala-dharmābhāsa (°dhā-ādi; °ma-ā-
 bh°) 𑖀 𑖀 信等善法光 Sūtr.
 śraddhā-deya 𑖀 𑖀 信施 Divy., Kāśy., Sapt-pr.,
 Śikṣ.
 śraddhādeya-parihāra 𑖀 𑖀 避信施 Bodh-bh.
 śraddhādhimukta-mārga (°dhā-adh°) 𑖀 𑖀 信勝
 解道 Abh-ry.
 śraddhādhimukti (°dhā-adh°) 𑖀 𑖀 唯深信 Rat-
 na-ut.
 śraddhādhimukti-viśuddhi 𑖀 𑖀 信勝解淨 Bodh-
 bh.
 śraddhā-naya-pariśuddha 𑖀 𑖀 信眼明徹 Gaṇḍ-ry.

śraddhāniya 𑖀 𑖀 可信 Abh-ry.
 śraddhānusārin (°dhā-an°) 𑖀 𑖀 信行, 隨信行,
 隨信心 Abh-ry., Ast-pr., Mvyut., Sūtr.
 śraddhānusāri-bhūmi (°dhā-an°) 𑖀 𑖀 信行地
 Ast-pr.
 śraddhā-pratilambha 𑖀 𑖀 得淨信 Bodh-bh.
 śraddhā-prasāda 𑖀 𑖀 淨信 Bodh-bh.
 śraddhā-bala 𑖀 𑖀 信力, 淨信力, 不壞信心 Bo-
 dh-bh., Saddh-p.
 śraddhā-balādhānāvātāra-mudrā-sūtra (°la-ādḥ°)
 𑖀 𑖀 (入解信力) 財印經, 信力入印經, 信力財
 入印經 Śikṣ.
 śraddhāmaya 𑖀 信仰にみちた.
 śraddhā-mūla 𑖀 𑖀 信根 Śikṣ.
 śraddhālu 𑖀 信ずる; (一°)をはげしく渴望する.
 śraddhāvat 𑖀 信ずる; 同意する, 承諾する.
 śraddhāśaya (°dhā-āś°) 𑖀 𑖀 淨増上意 Bodh-bh.
 śraddhā-saṃpadi 𑖀 𑖀 信具足中 Bodh-bh.
 śraddhā-sāra 𑖀 𑖀 純有實事 Saddh-p.
 śraddhita 𑖀 𑖀 → śrad-DHā.
 śraddhin 𑖀 信ずる.
 śraddhiva 𑖀 信用すべき (RV.).
 śraddhendriya (°dhā-in°) 𑖀 𑖀 信根 Abh-ry.,
 Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr.
 śraddheya 𑖀 𑖀 信ぜられるべき; 信用すべき;
 𑖀 信奉, 可信, 所信, 信受, 衆所信 Bodh-bh.,
 Daś-bh. → a~.
 śraddheyatva 𑖀 信用できること.
 śrapaṇa 𑖀 [Śrā の 𑖀 から] 料理の火 (Āhavantya
 と Gārhapatyā). 𑖀 料理.
 Śram, IV. 𑖀 śrāmyati (𑖀, 𑖀), I. 𑖀 𑖀 śrāmati
 (-te) (𑖀, 𑖀; 𑖀), (𑖀)に倦きる; 努力する,
 徒勞に終る; 苦行する. 𑖀 śrānta 疲れた, 倦
 怠した, 疲れはてた. 𑖀 śrāmayati 疲れさせる,
 うんざりさせる.
 pari- 𑖀 𑖀 大いに疲労した, 疲れはてた; (一°)
 に倦きる. 𑖀 𑖀 pariśramayati 疲れさせる, う
 んざりさせる.
 vi- 休息する, 休む; 止む, 停まる; (𑖀)に休息す
 るまたは依存する; (𑖀)に頼る; くつろぐ. 𑖀
 viśrānta (一°)を離れて休息した; 休んでいる;
 減じた, 中止した, 停止した; (𑖀, 一°)において
 終る=に達する; (一°)を欠く. 𑖀 𑖀 viśrāma-
 yati 休息させる; (𑖀)に(塵を)堆積させる; 終ら
 せる. 𑖀 viśramita; 𑖀 息, 止, 休息, 住
 休息, 令憩定 Divy., Lanḅ., Saddh-p.
 pari-vi- 𑖀 𑖀 全く休息した.
 sam- 𑖀 𑖀 疲れはてた.
 śrama 𑖀 倦怠, 疲労, 疲弊; 努力, 練習, 労働, 骨折
 り仕事; 宗教的または学問的な努力; (𑖀, 一°)にた
 いして(払った)努力または労苦; 𑖀 乏, 歇息;
 疲, 勞, 疲労, 勤勞, 辛苦, 極疲倦 Bodh-bh.,
 Buddh-c., Divy., Kāśy., Mvyut., Rāṣṭr., Sūtr.
 śrama-kara 𑖀 疲労または苦勞をもたらす.
 śrama-karṣita 𑖀 𑖀 疲労困憊した.
 śrama-klama 𑖀 勞倦 Bodh-bh.

śrama-gha 形 疲労をとる。
 śrama-cchid 形 [同上]。
 śrama-jala 中 汗。
 śramaṇa 男 (肉体を苦しめる), 苦行者, 遊行僧, とくに仏教徒またはジャイナ教徒の修行者 (ときに仏陀自身に適用される); 漢訳 功, 修善, 功勞, 勤勞, 勤策, 息心, 静志 *Abh-vy.*, *Mvyut.*, 玄奘, 梵千; 音写 沙門, 沙弥, 桑門, 喪門, 室摩那拏, 舍羅磨拏, 室羅摩拏 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Laṅk.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, 玄奘. 中 努力, 尽力。
 śramaṇaka 男 修行僧。
 śramaṇa-kāraṇa 形 漢訳 (音写) 作沙門, 作沙門 *Mvyut.*; *catvāraḥ ~ ā dharmāḥ* 四法作沙門 [1. ākrūṣṭena na pratyākroṣṭavyam 他罵不應返罵, 2. roṣitena na pratiroṣṭavyam 他瞋不應返瞋, 3. bhaṇḍitena na pratibhaṇḍitavyam 他調不應返調, 4. tāḍitena na pratitāḍitavyam 他打不應返打] *Mvyut.* 269.
 śramaṇa-cāritra-kalpa 男 (音写) 漢訳 沙門行儀式 *Sikṣ.*
 śramaṇa-dūṣaka 形 漢訳 汚乱沙門, 汚沙門行, 毀謗沙門 *Rāṣṭr.*
 śramaṇa-pratirūpaka 形 漢訳 (音写) 相似沙門 *Lal-v.*
 śramaṇa-brāhmaṇa 男 漢訳 或沙門或婆羅門 *Bodh-bh.*
 śramaṇa-bhaktasamaya 男 漢訳 (音写) (外道) 沙門施食時 *Prāt-m.*
 śramaṇa-mala 形 漢訳 (音写) 具沙門垢 *Lal-v.*
 śramaṇa-vesa 男 漢訳 (音写) 沙門像 *Aṣṭ-pr.*
 śramaṇācārya (°ṇa-āc°) 男 仏陀。
 śramaṇāya, 名動 自 śramaṇāyate 修行僧になる。
 śramaṇikā 因 托鉢尼, 女の修者僧。
 śramaṇoddeśa (°ṇa-ud°) 男 [=śrāmaṇera, *Pali* samaṇuddesa]; 漢訳 求寂 *Divy.*; 音写 沙弥 *Prāt-m.*
 śramaṇoddeśikā 因 漢訳 求寂女 *Divy.*
 śrama-nud 形 疲労をとり除く。
 śrama-mohita 過受分 疲労に麻痺した。
 śrama-yāri 中 =śramajala.
 śramavāri-bindu 男 汗の滴。
 śramavāri-leśa 男 [同上]。
 śrama-vinayana 形 疲労を取除く。
 śrama-śikara 男 汗。
 śramādhāyin (°ma-ādh°) 形 苦痛または労苦をもたらす。
 śramāmbu 中 =śramajala.
 Śrambh, I. 自 śrambhate(ときに -srambhateと綴る). *prati-pra-*, *pratiprasrambha(ya)ti* (= *Pali* paṭi-passambhati) 鎮める, 和らげる, をやめる (仏教); 漢訳 断 *Gaṇḍ-vy.*
 vi- (因) を信用する・信頼するまたはに頼る; 漢訳 信受 *Rāṣṭr.* 過受分 *visrabdha* (*prati*) を信用する・に信頼をおくまたはを怖れない; 信頼を示すまたは起こす。°— または ~m 信頼して, ちゅうちよせず。使役 他 *visrambhayati* 自信を起こさせる,

励ます。

śrayaṇa 中 [Śri] (一) に頼ること。
 śrava 男 [Śru 1.] (一) を聞くこと; 耳; 漢訳 耳, 聞, 声, 聴聞 *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*
 śravaṇa 1. 中 [Śru 1.] 聞くこと; 学ぶこと; 名声, 評判 (まれ); 漢訳 聞, 聴, 聴受, 聴聞, 楽聞, 諦聴聞正法 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Laṅk.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.*, 雑.: *na ~ patham āgamisyati* 当不聞, 当不達於耳 *Mvyut.*; *dharma ~ 聴聞妙法* *Sikṣ.*; ~ *artha* 聴…故 *Saddh-p.* 男 (まれに 中) 耳; 漢訳 耳 *Madhy-v.*, *Mañj-m.* *iti ~ āt* そのように *Veda* のべられているから。
 śravaṇa 2. 形 跛の (=śrona. S., まれ) 男 (安-ā) (まれ) [(*Viṣṇu* 神によって主宰され, 三步を象徴すると考えられる三つの星を含む) ある *Nakṣatra* の名]; 漢訳 [宿名] 牛 *Mvyut.*
 śravaṇa 3. 中 [śravaṇa の 不随]。
 śravaṇa-kātaratā 因 聞こうとする切望。
 śravaṇa-gocara 男 聞こえる範囲, 声のとどく距離。形 声のとどく距離にある。
 śravaṇa-jñāna 中 漢訳 聞知 *Bodh-bh.*
 śravaṇatā 因 漢訳 聴受 *Bodh-bh.*
 śravaṇa-nidāna 中 漢訳 聞正法以為縁起 *Bodh-bh.*
 śravaṇa-patha 男 聞こえる範囲; 聴道, 耳; 耳の。たり; 漢訳 聞 *Ratna-ut.*
 śravaṇapatha-gata 形 耳に達する。
 śravaṇapatha-paryanta-gamana 中 耳に達すること
 śravaṇapathātithi 男 (誰かの) 耳に達すること ~ *tvam* l (因) の耳に達する。
 śravaṇavainayika 形 漢訳 聞已而調伏者 *Gaṇḍ-vy.*
 śravaṇa-paruṣa 形 耳ざわりな。
 śravaṇa-pāli 因 耳の端。
 śravaṇa-pūsaka 男 耳環。
 śravaṇa-prāghuṇika 男 (誰か) の耳に達すること
 śravaṇa-prāghuṇi-Kṛ, (因) の耳に達せしめる。
 śravaṇa-mūla 中 耳のつけ根。
 śravaṇa-vidāraṇa 形 耳をつんざく (談話)。
 śravaṇa-viṣaya 男 聴覚の範囲, 聞こえる範囲。
 śravaṇa-sukha 形 耳に快い。
 śravaṇa-subhaga 形 [同上]。
 śravaṇa-hārin 形 耳を魅惑する。
 śravaṇā 因 [ある *Nakṣatra* の名]; *Śrāvana* (月) 満月の夜; 漢訳 [宿名] 耳聡, 牛宿 *Divy.*, *Ma*
m.
 śravaṇā-karman 中 *Śrāvana* 月の満月の日に行われる儀式。
 śravaṇiya 過受分 聞かれるべき, 聞くに値する; 漢訳 楽聞, 楽聞声; 堪敬; 所聞通達 *Bodh-bh.*, *Mvy.*, *Sikṣ.*, *Sūtr.*
 śravaṇodara (°ṇa-ud°) 中 耳 (の内部)。
 śrava-vihāra 男 漢訳 聞受持, 聴聞受持 *Gaṇḍ-vy.*
 śravas 中 [Śru] 叫び声, 声高の称讃 (因); 名 光栄, 高名 (因, P.).

śravasya 1. 名動 他 śravasyati, 現分 śravasyat 称讚・勝利・賞品を得んとする, に邁進する(吠).
 śravasya 2. 中 (RV.) 称讚, 名声; 輝かしい行為.
 śravasyu 形 1. 称讚・勝利・賞品を得んと欲する.
 śravāyā 形 (吠) 称讚に価する.
 śraviṣṭhā 女 團 (團 または 團, 團) [月宿の名].
 śravya 奉受分 [Śru] 聞きうる, 聞くに値する.
 Śrā, (Śr 1.) 過受分 śrāta, śrta, (吠) 料理された, 煮られた, 焼かれた. 使役 他 (団) śrapayati (-te, 韻律) 料理する, 煮る, 焼く(吠, 團); (陶器を) 焼く(S.).
 śrāddha 形 [śraddhā から] 忠実な, 信ずる(まれ); 信, 淨信, 信解, 有信, 有淨信, 有信樂, 有心樂心 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Laṅk., Ratna-ut., Sapt-pr., Śikṣ., Sukh-vy. II., Sur-pr.* 中 祖先にたいする供養, その祭儀と饗宴(このとき婆羅門に贈物と食物が与えられる) → a~.
 śrāddha-karman 中 祖先祭, そのときの饗宴.
 śrāddha-kalpa 男 [同上].
 śrāddha-kula 中 淨心…家 *Bodh-bh.*
 śrāddha-deva 男 祖先祭の神 (*Manu Vairasvata, Yama Vairasvata, Vivasvat* および信仰深い婆羅門に適用される語).
 śrāddha-bhuj 男 祖先祭の饗宴に列する者.
 śrāddha-bhojana 中 祖先祭の饗宴に列すること.
 śrāddha-mitra 形 祖先祭の饗宴を通して友人となる.
 śrāddhika 形 祖先祭の饗宴に関する.
 śrāddhin 形 祖先祭を行なう; 祖先祭の饗宴に参加した.
 śrāddhiya 形 祖先祭の饗宴に関する.
 śrānta 過受分 [Śram] 疲れた等. 中 疲労; 難行苦行, 宗教的苦行の成果; 困, 疲極, 疲惫 *Saddh-p., 梵千.*
 śrāntāgata (°ta-āg°) 形 疲れて到着した.
 śrānti 女 倦怠, 疲労.
 śrāpin 形 [Śrā] 料理する.
 śrāmaṇaka 1. 男 または 中 点火法(の一種).
 śrāmaṇaka 2. 形 僧の; 沙門 *Sam-r., Śikṣ.*
 śrāmaṇera 男 修行僧生活の第一段階に入門した弟子, 新帰依者(仏教); 求寂, 求寂(男), 勤策男; 音写 沙弥, 沙門 *Bodh-bh., Divy., Mvyut., Prātm., Saddh-p.*
 śrāmaṇeraka 男 [同上] (仏教); 音写 沙弥 *Divy.*
 śrāmaṇerikā 女 (音写) 沙弥尼 *Mvyut., Prātm.*
 śrāmaṇeri 女 勤策女; (音写) 沙弥尼 *Abh-vy., Bodh-bh.*
 śrāmaṇya 中 宗教的苦行, 托鉢; 音写 沙門; (音写) 沙門性, 沙門道, 沙門法, 沙門果, 真実沙門, 敬事沙門; 道果 *Abh-vy., Bodh-bh., Kāśy., Lal-v., Mvyut., Śikṣ.*
 śrāmaṇya-phala 中 沙門果 *Bodh-bh.*
 śrāya 形 (因) を備えている (RV. 用例一回のみ).
 śrāvaka 形 [Śru] (一) を傾聴する; 遠方から聴け

る. 男 聴聞者, 門弟; 仏陀または *Jina* の弟子; 声聞, 弟子, 賢聖, 小乘人, 阿羅漢 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Laṅk., Madhy-v., Madhy-vibh., Raṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Sapt-pr., Sukh-vy. II., Sūtr*
 śrāvaka-gotra 中 声聞種姓, 声聞種性 *Bodh-bh.*
 śrāvakatva 中 声聞 *Laṅk.*
 śrāvaka-dharma 男 声聞法 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr.*
 śrāvaka-naya 男 声聞道 *Ratna-ut.*
 śrāvaka-niyāma 男 声聞離生 *Gaṇḍ-vy.*
 śrāvaka-piṭaka 中 声聞藏, 声聞藏法 *Bodh-bh., Sūtr.*
 śrāvaka-pūrvin 形 先是声聞 *Abh-vy.*
 śrāvaka-pratyeka-jñāna 中 声聞緣覺地, 弟子緣一覺 *Sam-r.*
 śrāvaka-pratyeka-buddha 男 声聞獨覺, 声聞緣覺 *Bodh-bh., Sūtr.*
 śrāvaka-pratyekabuddha-tirtha 中 声聞緣覺及外道, 声聞緣覺外道, 二乘外道 *Laṅk.*
 śrāvaka-pratyekabuddha-bhūmi 女 声聞辟支仏地 *Sam-r.*
 śrāvaka-pratyekabuddha-yāna 中 声聞獨覺乘 *Bodh-bh.*
 śrāvaka-pratyeka-bhūmi 女 声聞辟支仏道, 弟子緣一覺地 *Sam-r.*
 śrāvaka-bodhi-phala 中 声聞菩提 *Bodh-bh.*
 śrāvaka-bhūta 形 真是声聞 *Saddh-p.*
 śrāvaka-bhūmi 女 声聞地 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Saddh-p., Sam-r.*
 śrāvaka-manasikāra-parivarjana 中 遠離二乘心 *Sūtr.*
 śrāvaka-manaskāra-tyāga 男 捨下行, 離二乘作意 *Sūtr.*
 śrāvaka-yāna 中 声聞乘 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Laṅk., Madhy-vibh., Śikṣ., Sūtr.*
 śrāvakayānādhimukta 形 求小乘 *Sūtr.*
 śrāvaka-yāna-gotra 中 声聞乘種性, 声聞乘性 *Laṅk.*
 śrāvakayāna-naya 男 声聞乘理趣 *Bodh-bh.*
 śrāvakayānābhisamaya-gotra 男 声聞乘現解種, 声聞乘類性 *Mvyut.*
 śrāvaka-yānika 形 声聞人, 声聞乘 *Aṣṭ-pr. Ratna-ut., Sapt-pr.: ~h pudgalaḥ* 声聞乘人 *Aṣṭ-pr.*
 śrāvaka-yāniya 形 声聞, 声聞乘, 求声聞, 求声聞者, 諸声聞乘, 行声聞乘, 為羅漢道, 小乘補特伽羅 *Bodh-bh., Kāśy., Ratna-ut., Saddh-p., Śikṣ.*
 śrāvaka-rūpa 中 声聞身, 声聞形 *Saddh-p.*
 śrāvaka-vinaya 男 声聞律 *Śikṣ.*
 śrāvaka-vīrya 中 声聞作 *Sūtr.*
 śrāvaka-sāsana 中 声聞聖所教誡 *Bodh-bh.*
 śrāvaka-saṃnipāta 男 声聞衆 *Saddh-p.*
 śrāvaka-sāmagri 女 諸弟子衆, 常和無諍 *Bodh-bh.*
 śrāvakānta 男 声聞辺 *Madhy-vibh.*

śrāvakābhisamaya-gotra 甲 聲聞現觀種性 *Laṅk.*

śrāvakābhisamayagotraka 甲 聲聞乘現觀外道種性 *Laṅk.*

śrāvakiya 形 聲聞…乘, 聲聞乘 *Laṅk.*

śrāvāṇa 形 1. 耳 (śrāvāṇa) で知覚された, 聴きうる; 所聞 *Nyāy-pr.* 甲 聞かせること, 告知. 2. Śrāvāṇa (月宿)に関する. 男 [雨期の月(七月一八月)の名]; 季夏 *Mṃyut.* (音写) 室羅筏拳月 *Mṃyut.* → a~.

śrāvāṇatva 甲 聞こえること; 所聞性 *Nyāy-pr.* śrāvāṇi 女 Śrāvāṇa 月の満月の日; *Pāka-yajña* (の一種).

śrāvayitavya 使役 未受分 (國) の耳にもたらされるべき; (業) を聞かされるべき.

śrāvayitu-kāma 形 欲令…得聞 *Saddh-p.*

śrāvayitṛ 形 聞かせる.

śrāvasta 男 [ある王の名], Śrāvasti 市の創設者.

śrāvastī 女 [Kosala 国のある都市の名]; 舍衛, 室羅筏, 室羅伐, 舍婆提, 室羅伐悉底; (音写) 舍衛国, 舍衛(大城), 舍婆提城 *Ast-pr., Divy., Lal-v., Mṃyut., Rāṣṭr., Sapt-pr., Sukh-vy. II., Vajr-pr., 玄庇, 梵維.*

śrāvastiyaka 形 (音写) 舍衛城 *Divy.*

śrāvita 使役 過受分 → Śru.

śrāvītaka 男 聞(法)者 *Saddh-p.*

śrāvya 未受分 聞かれるべき, 聴きうる; 聞くに値する; 宣言されるべき; 告げられるべき.

Śri, I. śrayati, 1. 因: 他 (因) にもたせかける・にまたはのうえに横たえる・に向ける; (光を) (因) のうゑに拡げる. 自 (因) (業) に寄りかかる (叙評); (業, 因) または (副) を頼りにする・に結びつけられる・のうゑにまたはに休むまたは在る. 2. 業: 他 自 (とくに助力または保護) に頼るまたはを訴える; 自 (心など: 業, 因) に参入する, とりこにする(感情についていう). 他 自 達する, 経験する, (ある状態に) 入る, (ある形を) とる; 依, 帰命, 生愛重, 生於愛心 *Divy., Lal-v., Sūtr.* 過受分 śrita 1. 能 の意味: (業, 因, 一) に執着する・に立つ・に横たわる・にまたはのうえに休むまたは在る・に坐るまたはに含まれる (因, 業); (業, しばしば定動詞として) に訴える (業); (ある状態に) 達したまたは落ち入った (業), (ある形: 業, 一) を取った (業) 2. 因 の意味: 業: に頼られた, を占められた; 取られた, 選択された. 過受分 能 śritavat (業) に避難した; 就 *Sūtr.*

adhi- 他 (業, 因) に拡がる (因, 業); (とくに火のうゑに) 置く (因, 業); (業) に頼る・のうゑに横たわるまたは坐る (業). 過受分 adhisrita (業, 因) に執着する・にまたはのうえに休む (因); (とくに火: 因) のうゑに置かれた (因, 業); (因) でちりばめられた (P.); に頼った (業).

sam-adhi- に向って進むまたは前進する, 近づく, 攻撃する; 火の中に入れるまたは上に置く.

anu- 過受分 (因) に従われた.

apa- 過受分 (因) に寄りかかる または休むまたはかくされた (因).

ā- 因: 他 に付着する (きわめてまれ); 業: 他 自 (業) に寄りかかる・に付着する・に訴えるまたはに避難する. 他 (業) に執着するまたはに頼る. 他 自 (ある場所: 業) におもむく・来るまたは達する (RV. 用例一回のみ, 業); に頼る, …を選ぶ, (ある形) をとる, …を獲得する, (ある変化: 業) を受ける (業); (業) に起こる (業); 考える, みなす (業). 不変分 āsṛitya に頼って; に関して=のために. 因 (因) に従属する. 過受分 āsṛita 1. 能 の意味: (業, まれに 業, 一) に寄りかかる・によって支持された・頼る 庇護を求める・に献身したまたは服従する; (業, 一) にくっつく・執着したまたはに特有な; (因, 一) に依存するまたは基づいた; (業, 一) に関する; (ある場所: 業, 因, 一) にしげしげ通った・住む・居住する・立つ・坐る・横たわる・休むまたは…にもしくはのうえにある; (業) に達したまたは到着した; (一) (あるもの) の所有に帰した, またはに属した (財産); (業, 一) に頼った・を選んだ・に献身したまたはを獲得した; (報酬を) 顧慮した. 2. 因 の意味: に頼られたまたは庇護を求められた; (因) に支持された; (因, 一) によって住まわれた・占領された・に入られた; に耽った・に頼った・の形をとった・企てられた・選ばれた; …とみなされた, 考慮された.

apā (apa-ā)- 他 自 (業) に頼る または庇護を求める; (あるもの: 業) を頼りにする; 依, 著, 住止, 依著, 帰依 *Abh-vy., Lal-v., Madhy-v., 梵千.* 過受分 (業, 一) に寄りかかる; (業) に庇護を求めた; (業) に頼った.

vy-apā (apa-ā)- (業) に避難する; (教理を: 業) 公認する. 過受分 (業, 一) に頼った; (肉体を) とった. 生信敬 *Ast-pr.*

upā (upa-ā)- (業) に寄りかかるまたはによって支持される; (業) におもむく; (業) に頼るまたはに献身する. 不変分 upāsṛitya しばしば…の助けをかりて. 過受分 upāsṛita 1. 能 の意味: (業) に寄りかかるまたはに休む; (業) に避難した; (業, ときに 因) しばし通った・に到達したまたはにとどまる; (業) につたまたはに献身した. 2. 因 の意味: に寄りかかれた.

sam-upā (upa-ā)- 過受分 (業) に基礎をおくまたは基づいた; (業) に頼ったまたはに献身した; (因) によって占められた; 依 *Madhy-v.*

sam-ā- (業) から支持をうる; (業) に避難する; (他) に頼るまたは近づく (他, 自); 所有する, 占領する (他); (業) に頼る (他); 依執著 *Laṅk., Sūtr.* 過受分 1. 能 の意味: (業) にもたれる; (業) に帰した; (一) に基づくまたは依存する; (一) に関している, …に関している; (業, 因, 一) にしげしげ通った・住む・の上に立っている・のなかに位しているまたは固着している; 到達した (また-vat (業, 一) に頼った. 2. 因 の意味: ささえとしたよられた, たよられた; (因) を与えられたまたはけられた; に頼りにされた.

uc (ud)- 他 上げる, 建てる (因, 業); 自 立つま 立ち上る (因, 業). 過受分 ucchrita 上げられた

高められた；上がっている；直立した(蛇の鎌首)；高い，そびえ立つ；高められた，有力な；(一°)を高言するまたは自慢する；増加された，大きな，巨大な；**立** 梵雜。使役 **ucchrāpayati** 増大させる；**建** *Lal-v., Sukh-vy. I.*；**登** *Sukh-vy. I.* **abhy-uc(ud)-** **過受分** そびえ立っている，非常に高い；(具)を以って抜んでた。

proc (pra-ud)- **過受分** **procchrita** 上げられた，高められた；非常に高い。

sam-uc (ud)- **過受分** [同上]；渦巻く(波)。

upa- **他** (因)にもたれる(因)；**自** (因)に支えられるまたはに置かれている(RV.)；**他** **自** (ある人：業)の許へ来る。**過受分** (業，因)のなかまたはの上に置かれた。

ni- **坐**；依，依止，為依止 *Bodh-bh., Divy.* **upa-ni-** 近づく，側に置く(Br.)；**於**；近；住；依，依止；*Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Saddh-p.*

pari- 取り巻く，囲い込む(因)。**過受分** (圍)まわりに立つ；(具，一°)によって囲まれた。

saṃ-pari- 覆い尽す(Br.)。**過受分** 覆い尽された(Br.)。

pra- **過受分** (うやうやしく前にかがむ)，謙遜な，気取らない；あいまいな(意味)。

ati-pra- **過受分** きわめて慎み深い。

vi- **他** 離ればなれにする，開く，**自** 自己の……を引き離す；**自** 開かれるまたは分離される。

saṃ- **他** 一緒にする，**自** (具)と一緒にするまたは結びつけられる(因)；(具)を与えられる(RV.)；**他** (業)と交際させる(圍)；**他** **自** (業)に執着するまたはの保護を求める(圍)；**自** (業)に基づくまたは依存する(圍)；**他** **自** (ある場所：業)にしばしば通う(圍)；**他** **自** (業)にたよるまたはを手段として用いる(圍)；**他** (ある性格：業)を獲得する(圍)；**趣** *Divy.* **過受分** **saṃ-sṛita** 因：一緒にされた；**圍**：(具，一°)と結びついた；(業)にくっついた；(樹木)にすがりついた；(業，一°)の保護を求めたまたはに仕えた；(業，一°)に付着したまたは特有の；(因，一°)に関連する；(業，因，一°)に赴いた・のなかまたは上にとどまっている・住んでいる・横たわっている・位置しているまたは存在している；(一°)に含まれている；(業)に頼るまたはに耽る；謙遜な，ふさわしい(話)。**saṃsṛitavat** **過受分** **罷** (具)と結びついている。**abhi-saṃ-** **業** (他)に保護を求める(因，圍)；**他** (業)；耽るまたはに献身する(圍)；**受** 獲得される(圍)。**過受分** (圍) (ある人：業)に(とくに保護を求めて)おもむいた。

upa-saṃ- **業** (他)の奉仕に入る(圍)。

śrīṅkalā **因** **索** *Mañj-m.* → **śrīṅkhala**。

śrit **形** [Śrī] 一° 獲得した，**uddhati-śrit** として高くそびえ立ちかつ傲慢な。

śrita **過受分** → **Śrī**。

śriyā **因** (śrīの並存形) 繁栄，幸運(まれ)。

Śriṣ, I. **他** **śreṣati** (śreṣāmaとして，RV. 用例一回のみ)，合わせる，結びつける。

abhi- **因** **因**として，**abhiśriṣaḥ** 結びつけるため

に(RV. 用例一回のみ)。

ā- (因)に粘着する。

Śrī (=śrā) 1. IX. **他** **śrināti** 料理する。

Śrī 2., IX. **他** **śrināti** (具)と混合するまたはませる(因)。**過受分** **śrita** (具)と混合された(RV.)。

abhi- **他** (具)と混合する，ませる。

ā- **自** [同上](RV.)。

śrī **因** 光輝，美；繁栄，幸運，富；高位，栄光，威厳，王者の威厳(時としては擬人化される；**圍**)；王のしるし(**圍**，まれ)；[*Lakṣmi* 女神の名(美または繁栄の女神，*Viṣṇu* 神の妃，大海攪伴の際に生み出された(Br. まれ；**圍**))]；**圍**においてはしばしば一°，(=有名なまたは栄光ある)神々，人間，場所の名前，畜物の標題において(特異性 または卓越を表現するため)；時としてはまた一°(人名において)；**利**，勝，徳，勝徳，妙徳，威力，威徳，福德，功德；勝妙色，光沢，安謐，(最)尊；殊勝；妙相；祥，禄，吉祥，吉祥王，瑞相 *Abh-vy., Buddh-c., Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Suv-pr.*：～r mahādevī 功德天，大吉祥天女 *Suv-pr. 105.*～yā ca mahādevatayā 功德天，大吉祥天女 *Suv-pr. 2.* **śriye, śriyai** **因** 美わしく，すばらしく，堂々と(因)。**śriya ātmajāḥ** (美の息子達=)馬。

śrika, 一° **形** (因-ā) = śrī, 美，光輝，高位，王の威厳。

śrī-kaṅṭha **男** [*Śiva* 神の称]；[人名]；[*Bhavabhūti* の称]；[ある地域の名]。

śrīkaṅṭha-kaṅṭha **男** *Śiva* 神の頸。

śrīkaṅṭha-deśa **男** [ある地域の名]。

śrīkaṅṭha-nilaya **男** [ある国の名]。

śrīkaṅṭha-ṛiṣaya **男** [同上]。

śrī-kaṅṭhiya **形** *Śiva* 神に関する。

śrī-kayya-svāmin **男** [ある寺院の名]。

śrī-kara **形** 繁栄をもたらす。

śrī-kallaṭa **男** [ある *Siddha* の名]。

śrī-kāma **形** (因) 栄誉または栄光を欲する。

śrī-khaṇḍa **男** (因) (?) びやくだんの樹，びやくだん。

śrī-khaṇḍa-dāsa **男** [人名]。

śrī-khaṇḍa-pṛthvi-dhara **男** *Malaya* 山脈。

śrī-khaṇḍa-śaila **男** [同上]。

śrī-kūṭa **男** **勝積**；吉祥峯 *Sukh-vy. I.*

śrī-garbha **男** [*Viṣṇu* 神の称]；[ある商人の名]；**徳蔵**[菩薩名] *Saddh-p.*；徳蔵，功德蔵 *Mṛyut.*

śrīgarbha-ratna **因** **宝蔵** *Mṛyut.*

śrīgarbha-siṃhāsana (°ha-ās°) **因** **功德蔵師子宝座**，吉祥蔵師子之座 *Raṣṭr.*

śrī-guṇa-lekhā **因** [ある王妃の名]。

śrī-gupta **男** **管写** 尸利龜多；室利龜多；吉祥護 玄応。

śrī-ghana **男** **功德聚** *Sam-r.*

śrī-caṅkuṇa-vihāra **男** [ある仏教僧院の名]。

śrī-caṅḍa **男** [ある情熱的な人間の名]。

śrī-candra **男** [人名]。

śrī-dhakka，[ある地方の名]。

śrī-tejas **因** **祥威**，徳威 *Mṛyut.*；勝光明 *Lal-v.*

śrī-da **因** 繁栄を授ける。

śri-datta 男 [人名].
 śri-darśana 男 [人名].
 śri-deva 男 [人名].
 śri-dhara 男 *Viṣṇu-Kṛṣṇa* 神の称および形態]; [人名].
 śridhara-svāmin 男 [*Bhagavadgīta*, *Bhāgavata*-および *Viṣṇu-Purāna* の註釈者の名].
 śri-nagara 男 [ある町の名].
 śri-nagari 女 [同上].
 śri-narendra-prabhā 女 [ある婦人の名].
 śrinarendreśvara (°ra-iś°) 男 [*Śrinarendraprabhā* によって建立された *Śiva* 神の像の名].
 śri-nālanda 男 漢訳 無施厭; (音写) 那爛陀 *Mṃyut.*
 śri-nivāsa 男 *Śri* 女神の住み家; [*Viṣṇu-Kṛṣṇa* 神の称]; [人名].
 śri-pati 男 *Śri* 女神の夫, [*Viṣṇu-Kṛṣṇa* 神の称]; [人名].
 śri-parṇa 男 蓮.
 śri-parvata 男 [種々の山の名].
 śri-puṇya-teja-lakṣmī 女 漢訳 威光及福德, 功德威貌 *Suv-pr.*
 śri-prada 男 繁栄を与える.
 śri-phala 男 *Bilva* 樹. 男 *Bilva* の果実.
 śri-baka 男 [人名].
 śri-bhadra 男 漢訳 妙祥, 吉賢 *Mṃyut.*
 śri-bhartr 男 (*Śri* 女神の夫), [*Viṣṇu* 神の名].
 śri-bhuja, °— 高い位にある人の腕.
 śrimat 男 輝やかしい, 美しい; 黄金に富む (*Meru* 山); 著名な, 高名な, 高位のまたは高貴なる威厳を有する; 金持ちの; 繁栄に資する; 漢訳 極妙; 鮮潔; 有徳, 功德意 *Av-ś.*, *Divy.*, *Saddh-p.* 男 偉大なまたは著名な人: しばしば °— 名前 (= 猊下または殿下) および書物の標題において.
 śrimati 女 漢訳 有徳, 功德意; 吉祥慧 *Av-ś.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*
 śrimattā 女 美麗, 美しさ.
 śri-mālā 女 漢訳 勝鬘 *Lank.*
 śrimālā-siṃha-nāda-sūtra 男 漢訳 [経名] 師子吼勝鬘經 *Śikṣ.*
 śrila 男 美しい; 著名な, 有名な.
 śrilatā 女 顕著, 高位および高所にのぼる蔓草 (*śri-latā*).
 śri-lekhā 女 [ある王女の名].
 śri-vatsa 男 (象徴の一種, とくに *Viṣṇu* 神または *Kṛṣṇa* 神および他の神格の胸のうえに生えている卍形の) 毛の束または捲毛; 漢訳 徳字, 卍字 胸標, 胸卍徳処, 胸有徳字, 胸標徳相 *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mṃyut.*; 吉祥相, 吉祥鬘, 吉祥徳相; (音写) 室利毘瑤 *Mṃyut.*
 śri-vabhāsa (?) 男 [人名].
 śri-wardhana [人名].
 śri-vāsa 男 (快適なにおい), *Pinus Longifolia* の樹脂, 松脂精.
 śri-viśāla 男 繁栄に富む.
 śri-vṛkṣa 男 神聖な無花果樹 (*Ficus Religiosa*); (しるしの一種), (馬の胸に生えているこの形の) 捲毛 (まれ).

śri-vṛkṣakin 男 胸に捲毛のある.

śri-veṣṭaka 男 漢訳 (音写) 室利薛瑟得迦; 松脂 *Suv-pr.*

śri-śaila 男 [種々の山の名].

śri-ṣeṇa 男 [人名].

śri-saṃgrāma 男 [ある学院の名].

śri-samudaya 男 漢訳 供養 *Divy.*

śri-saṃbhava 男 漢訳 徳生 *Gaṇḍ-vy.*

śri-saubhāgya 男 漢訳 勝樂 *Divy.*

śri-svāmin 男 [人名].

śri-harṣa 男 [= *Harṣavardhana*]; [*Naiṣadhacarita* の著者の名].

Śru, V. 他 自 *śṛṇoti*, *śṛṇute* (聞) において (聞) (韻律), 聞く (自動, 他動), (業) について, (ある人: 男, 女, 男, -mikhāt; 聞) から, (業) であるということを聞く; (あること: 業; ある人: 男) に傾聴するまたは注意する; (教師から) 聞く, 学ぶ, 研究する; 漢訳 聞, 聴, 聴聞, 聴受, 樂聞, 諦聽 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mṃyut.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy. I.*, *Suv-pr.*, *Vajr-s.* 受 *śrūyate* (聞) (業) について (聞, 男, -mukhāt) から聞かれる; (聞) であるといわれるまたは知られる, 呼ばれる; 学ばれるまたは研究される; (書物: 聞) の中で教えられるまたは述べられる; 聞かれる = (語を) 話す際に発音 または用される; しばしば 非人 *śrūyate* (ある人: 聞) から (聞) について……であると言われる, ……と私は知っている, (聞) (書物) において述べられている *evam śrūyate* このように言われている, このよに聞かれている; 漢訳 聞 *Saddh-p.* 聞 *śrūyatām* 聞け; 三過 現分 他 *śuśruvas*, (業) (業) であるといわれている; (定動詞として使用される); 学んだまたは研究した (Br.). 過受分 *śrūta* 聞かれた, 学ばれた, に関してまたはついて聞かれた; べられた; 聖典のなかで述べられた; …… であると知られた, 名づけられた; 知られている, 有名な, 高名な; 漢訳 聞, 多聞, 博聞, 聞得, 所聞 依所聞 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mṃyut.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, 梵千. 使役 *śravayati* (聞), *śrāvayati* (聞, 聞), 他 (聞) (韻律) 聞かせる, 宣言する, 発音する; (ある人をして) すること: 業; ある人: 業, 男, 男) について (ある人: 男) を通じて聞かせる; に話し掛ける, 知らせる, 語る, 伝える; (業) に (ある人) が……であること (業) を告げる. 聞 *śrāvayate* (業) を告げられる. *śrāvita* 告げられた, 語られた; (業) について述べられた. 希求 聞 *śuśrūṣate* (他, 韻律) 聞きたと思うまたは聞くのを好む (聞, 聞); (業) に従う, えるまたは給仕する (聞); 漢訳 敬, 親近, 慈考, 順恭敬, 恭敬心聴, 恭敬能正行 *Abh-vy.*, *Ka* 受 *śuśrūṣyate* 仕えられる. 過受分 *śuśrūṣita* 仕られた. 希求 使役 *śuśrūṣayati* 他 (業) に仕えられている (まれ).

anu- 聞く, について聞く (聞, 聞); 新たに (U.). 聞 (聞) 言われる. 使役 漢訳 白, 言, 言説 *Divy.*

abhi- 聞く；使役 (ある人に) 聞かせる，(業) に話し掛ける。

ā- (あること：業) を傾聴する，(ある人の言うこと：因，屬) をよく聞く；聞く (因，業)；(あること：業) を (因) に約束する (因)。使役 āsrāvayati 知らせる，告げる (因)；話し掛ける，祈り呼ぶ (RV.)；(祭式において Adhvaryu 祭官が祭詞 śrausāt を唱えさせるために Agnidh 祭官に) 呼びかける (因)。

abhy-ā- 使役 (ある人に) 話し掛ける (Br.)。

upa- (従，-mukhāt, sakāsāt) から，(因) が (業) であるということ傾聴する，聞く，学ぶ (因，業)。希求 固 注意深く聴く。

pari- 聞く，(業) について聞く，(業) が (業) であると告げられる。過受分 聞かれた；(因 困) として知られた，とみなされた，説明された，名づけられた；有名な。

pra- 固 (RV.) (因の意味で) 聞かれる；知られるまたは有名になる。

ati-pra- 固 (他を) 超えて有名になる (RV. 用例一回のみ)。

prati- 傾聴する，耳を傾ける (RV., 業, まれ)；固 聴き取りうる，(RV., まれ)；(あること：業) を (ある人：因，屬) に約束する；(普通の意味；因，業)。

過受分 約束された；承；白言；対曰，楽聞，聞已，聴聞 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Mvyut., Raṣṭr. 固 非人 pratisrute 約束がなされて。

sā ca pitrādātum pratisrutā そして彼女は父親によって嫁にやることを約束された。

vi- 聞く；固 (因) 固 (業) 知られるまたは有名になる；固 聞かれる。過受分 visruta 聞かれた，(困) として知られた，名づけられた；広く知られている，有名な。使役 聞かせる，告げる；(自己の名前を) 挙げる。(ある人：業) に (あること：業) を語る；有名にする；鳴り渡らせる。

abhi-vi- 過受分 (困) として知られた，…と名づけられた。

saṃ- …から (-mukhāt) 聞く，学ぶ；(ある人：業) のいうことを聴く；(ある人：因，困) に対して約束する。固 (困) であると言われる。yathā saṃsrūyate 言われるように，人が言うように，我々が読む通りに。過受分 聞かれた；(困) において読まれた；(困) に対して約束された。使役 (自己の名前) を聞かせる，宣言する，告げる，(業) を (業，因) の耳に入れる；聞 Śikṣ.；説 Daś-bh., Lank., Saddh-p.；宣…言 Saddh-p. 過受分 読み尽された。

śrughnā 固 素魯揭群城 [城名] Divy.

śruṇitva 不変分 (=śrutvā) 固 聞 Saddh-p.

śrut 固 (一) を聞く。

śruta 過受分 固 聞かれたまたは学ばれたこと，伝承，学問，神聖な知識；聞くこと；教示；固 聞 Bodh-bh., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., 梵雜., 梵千.；會聞 Saddh-p.；所聞 Bodh-bh.；多聞，博聞 Saddh-p.

śruta-cintā-bhāvanā 固 聞思修 Lank., Sūtr.

śrutacintābhāvanāmaya 固 聞思修所成 Bodh-

bh.

śrutacintāmaya 固 聞思慧 Sūtr.

śrutacintāpa-tuṣṭatā (°tā-al°) 固 聞喜思喜 Sūtr.

śruta-cintita-bhāvita 過受分 固 聞思修己 Sūtr.

śruta-dhana 固 聞財 Mvyut.

śruta-dhara 固 聞いたことを覚えている，記憶力のよい；固 執聞 Mvyut. 男 耳；[人名]。

śruta-dhi 男 [人名]。

śruta-paryavāpti 固 多聞 Sūtr.

śruta-paryeṣṭi 固 求聞 Lal-v.

śruta-pāraga 固 極めて博学な。

śruta-pūrva 固 (因，屬) によって，(従) から以前に聞かれた，風聞によって知られた；固 會聞 Saddh-p.

śruta-prayoga 男 固 聞思修 Sūtr.

śruta-bandhu 男 [ある Veda 詩人の名]。

śruta-bala 固 聞力 Sūtr.

śrutamaya 固 聞，聞慧，聞生 (信)，聞所成 Abh-vy., Bodh-bh., Madhy-vibh., Sūtr.

śruta-mātra 固 聞未曾聞 Bodh-bh.

śrutamātra-kṛta 固 唯聴聞所作 Bodh-bh.

śrutamātra-saṃtuṣṭa 固 但聞覺作知足想，但聞已便生足想 Lank.

śrutamātrasaṃtuṣṭatva 固 聞喜 Sūtr.

śrutamātra-saṃtuṣṭi-prahāna 固 不得但聞而生歡喜 Sūtr.

śrutavat 過受分 固 (何か：業) を聞いた；学問のある；固 聞，聴受 Saddh-p.

śruta-var dhana 男 [ある医師の名]。

śruta-vipratipanna 固 壞正聞 Suvik.

śruta-vismṛta 過受分 聞いて忘れた。

śruta-vihina 固 闕正聞 Suvik.

śruta-vṛttopapanna (°ta-up°) 過受分 学問と徳を具えた。

śruta-vyasana 固 聞災，遺聞 Madhy-vibh.

śruta-śarman 男 [人名]。

śruta-śila 固 学問と徳性。

śrutaśilavat 固 学問と徳性を兼備した。

śruta-śrava 固 自聴 Sūtr.

śruta-saṃnicaya 男 固 積聞 Bodh-bh.

śruta-sampanna 過受分 [同上]。

śrutā 過受分 固 [人名]。

śrutākāra-dharmālokāvabhāsa (°ta-āk°, °ma-āl°)

男 固 聞行正法光明 Bodh-bh.

śrutādhāra (°ta-ādḥ°) 固 聞持，具足聞持 Bodh-bh.

śrutādhimukti-puṣṭi 固 正聞増長信 Sūtr.

śrutābhyāsa 1. 男 固 由現在聞持力而得 Sūtr.

śrutābhyāsa 2. 固 聞習 Sūtr.

śrutārtha 固 (あること：業) を聞いている。

śrutārthā 固 [人名]。

śruti 固 因 業 聞くこと，傾聴；音響，騒音；固 耳；音程 (一オクターヴに22ある)；(一) の報告，ニュース；噂，風聞；(一…に関する) 伝統的な宗教的教義，聖典 (固 聖典, Veda)；名前，称号(まれ)；

学問 (異読: śruta); 聞 *Mvyut.*, *Śikṣ.*; 所聞 *Sūtr.*; 教 *Saṃkhy-k.* ~m'abhiniya 聞くふりをして. ~au Sthā 噂のみによって知られる. iti ~eh そのように聖典または *Veda* 聖典の中に説かれているから. -śruteh ...ということが規定されまたは教えられているから.

śruti-guṇa 男 多聞功德 *Raṣṭr.*

śruti-cintāmaya-jñāna 中 聞思智 *Ratna-ut.*

śruti-dvaidha 中 *Veda* の教えの矛盾.

śruti-dhara 形 よい記憶力を有している (śruta-の方がよい).

śruti-patha 男 聞こえる範囲, 声の届く距離; 聴道. ~m Gam, pra-Āp または ā-Yā 耳に達する.

śrutipatha-madhura 形 聞いて心地よい.

śruti-prasādana 中 耳を喜ばせること, 注意の集中.

śrutimat 形 耳を有する; 学問のある (śrutavat の方が正確); *Veda* の文句によって支持された.

śruti-mahat 形 学問に優れた.

śruti-mārga 男 耳の道; 聴道, 聞くこと. 一° または 耳によって. ~m Gam, 耳に達する.

śrutimārga-praviṣṭa 過受分 耳にはいった.

śruti-mūla 中 耳のつけ根.

śruti-vacana 中 *Veda* の教え.

śruti-viṣaya 男 聴覚の対象, 音; 聴力の及ぶ範囲.

śruti-śiras 中 *Veda* 聖典の主要な章句.

śrut-karṇa 形 傾聴する耳を有する (因).

śrutkā 女 響 *Sūtr.*

śrutya 未受分 聞かれるにふさわしい, 栄光ある (因). 中 栄誉ある行為 (因).

śrutya-anuprāsa 男 (同一の発声器官によって生じた子音の反覆) 頭韻の一種.

śrunitvā 女 聞 *Madhy-v.*

Śruṣ, (Śru の 三過 翰 から派生した RV. における副次的語根) śroṣan, -śroṣantu, 現分 śroṣamāṇa のみ, 聞く.

ā- (ある人の言うこと: 因) を聞く.

śruṣṭi 女 (AV.; RV.) 親切, 心から尽すこと; (因) に対する信頼. ~i 男 自ら進んで, 直ちに.

~m Kṛ 従う. 形 進んで(あることを)する, 従順な.

śruṣṭivan 形 (女 -ri) 進んでする, 従順な.

śrūyamāṇatva 中 聞かれるという状態.

śreṇi 女 [Śri] 因, 圍: 連続, 線, 列; 圍: 群, 一団, 群衆, 大勢, (蜂の) 大軍; 団体, 仲間.

śreṇika 男 勝軍 [人名] *Aṣṭ-pr.*; 作熟, 東王作熟 *Mvyut.*

śreṇi-dat 形 列をなす歯を有する (RV. 用例一回のみ).

śreṇi 女 = Śreṇi: 條 *Mvyut.*: civara ~ 袈裟條 *Mvyut.* 280.

śreṇi-bandha 男 列をなすこと.

śreṇi-bhūta 過受分 列をなした.

śreṇya 男 瓶沙王 *Boddh-c.*

śreṇya-bimbisāra 男 影勝 (王) *Divy.*

śreman 男 [Śri] 卓越, 上位, 優位 (因).

śreyas 比較 [Śri] RV.: より美しい (まれ); 因, 圍: よりよい, より好ましい, より優れた, 一層秀でた; 圍: 更に一層顕著なまたは著名な; すぐれた, 拔

群の (まれ); (因) に対して好意のある, 吉兆の (まれ); 勝, 最勝; 最選者; 妙或善或大; 寧, 寧当; 增益 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Mañj-m.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Saṃkhy-k.* śreyān 男 一般には śreyas 中 (主語の如何にかかわらず) ~na, ...より...の方がよりよい (*varam-na* の用法と同じ). 中 (圍) よりよき状態または幸運; 安寧, 幸福; 善業 *Divy.*

śreyasa 中 幸運, 幸福 (一般に 一°).

śreyas-kara 形 (因 -i) 幸運または幸福を授ける, 有益な.

śreyaskaratara 比較 さらに一層幸福に資する.

śreyas-kāma 形 安寧または幸福を欲する.

śreyastva 中 より高い地位, 傑出.

śreyo'bhikāṅkṣin (°as-abh°) 形 → śreyaskāma.

śreyo'rthin (°as-ar°) 形 [同上]; 欲求勝法, 勝求者, 欲求勝法者 *Lank.*

śreyu (=śreyas) 副 吉 *Lal-v.*

śreṣṭha 最上 [Śri] の中で最も美しい (因) (因, 叙詩) (因, 因, 一°) の中で最良の, 最もすぐれた, 最高の, 主要な (因, 圍); (従, 圍) よりも更に優れた, 好ましい, よい, 卓越した (圍); 上, 妙, 勝, 殊妙, 殊勝; 最, 最上, 最勝, 最妙, 無勝, 最極, 無, 上, 最尊, 最尊勝 *Aṣṭ-pr.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Divy.*, *Lank.*, *Raṣṭr.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Vajr-s.*, *Vijñ-v.*; 奉, 処尖 *Mvyut.*; 尊, 尊敬 *Lal-v.*, 梵千.; 長者 *Gaṇḍ-vy.* 中 (圍) 最上のまたは主要なもの.

śreṣṭha-tattvārtha-gocara-jñāna 中 勝真義実義所行処智 *Bodh-bh.*

śreṣṭhatama 最上 たぐいなく最上の, すべてのなかで最も美しい.

śreṣṭhatā 女 卓越, 優越, 拔群; 最勝 *Bodh-bh.*

śreṣṭhatva 中 [同上]; 尊豪 *Divy.*

śreṣṭha-muṃsalā 女 (因) (śreṣṭha-musāra?) 王衆 梵千.

śreṣṭha-saṃniyojana 中 上 (根等) 安置 *Sūtr.*

śreṣṭha-sena 男 [ある王の名].

śreṣṭhātma-bhāvatā (°ta-āt°) 女 受身世間勝 *Sūtr.*

śreṣṭhika 形 長者 *Śikṣ.*

śreṣṭhin 男 卓越した人, 高位の人, 権威者 (Br.); 位の戦士; 高名の職人; 同一の商売またはなりわいに従事する組合の長またはかしら, 職人組合の会頭または親方 (圍); 長者 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-c.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Ratna-ut.*; 大富 *Bodh-bh.*; 商主 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 聚落主 *Divy.*

śreṣṭhi-dāraka 男 長者子 *Divy.*

śreṣṭhi-dārikā 女 長者女 *Śikṣ.*

śreṣṭhi-bhāryā-rūpa 中 長者婦女身, 長者夫形 *Saddh-p.*

śreṣṭhi-rūpa 中 長者身 *Saddh-p.*

śraīṣṭhya 中 優越.

śrona 形 あしなえの, 跛の (RV.).

śronā 女 [ある星宿の名, = Śraṇā; 因 P.].

śroni 女 (一° 形 因 -i) 臀部と腰部, しり; 祭

(vedi) または正方形のものの後部の隅; 𑖦𑖧𑖨 膀, 腰, 密間 *Mvyut.*, *Śikṣ.*
 śroni-kaṭāhaka 𑖦𑖧𑖨 𑖦𑖧𑖨 髁骨 *Śikṣ.*
 śroni-kapāla 𑖦𑖧𑖨 大腿骨.
 śroni-bimba 𑖦𑖧𑖨 まるいしり.
 śroni 𑖦 (śroni の後代の形).
 śroni-bhāra 𑖦 しのり.
 śrota 𑖦 または 𑖦𑖧𑖨 = srotas 流 *Sūtr.*
 śrotu-kāma 𑖦𑖧𑖨 欲聞 *Lank.*
 śrotavya 𑖦𑖧𑖨 [Śru 1.] 聞かれるべき, 聞くに値いする; 聴き得る; 𑖦𑖧𑖨 聴, 当聞 *Bodh-bh.* 𑖦 聞く瞬間. ~m idānim samvṛttam 聞く瞬間が今や来た.
 śrotavyaka 𑖦𑖧𑖨 声, 所聞 *Madhy-v.*
 śrotas 𑖦𑖧𑖨 流, 水 *Lal-v.*, *Śikṣ.* → srotas.
 śrotāpatti-phala (°ta-āp°) 𑖦𑖧𑖨 (音写) 須陀洹果, 須陀洹道 *Divy.*
 śrotr (𑖦 または 𑖦𑖧𑖨 とともに) 𑖦 聞く. 𑖦 聞き手, 聴衆 (𑖦, 𑖦); 未來としても用いられる; 𑖦𑖧𑖨 聞, 聞者 *Divy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*; 聴, 聴者, 聴法者; 能聴受 *Lank.*, *Ratna-ut.*, *Sapt-pr.*, *Sūtr.*
 śrotra 𑖦 [Śru 1.] 耳; 聞くこと; 𑖦𑖧𑖨 耳, 聴 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Ratna-ut.*, *Samkhy-k.*, *Sūtr.*; 耳通 *Mvyut.*
 śrotra-jña 𑖦 耳で知覚する.
 śrotrajñatā 𑖦 耳で聞くこと.
 śrotratā 𑖦 耳であること.
 śrotra-dhātu 𑖦 𑖦𑖧𑖨 耳界 *Mvyut.*
 śrotra-netramaya 𑖦 耳と眼からなる.
 śrotra-pati 𑖦 聞くことの主 (*Īsvara* の一形態).
 śrotra-padavi 𑖦 (音の) 聞える範囲. ~m upa-ā-Yā (𑖦) の耳に達する.
 śrotra-paramparā 𑖦 風聞, うわさ, 巷説.
 śrotra-pā 𑖦 耳を保護する (𑖦).
 śrotra-pāli 𑖦 耳たぶ.
 śrotra-puta 𑖦 [同上].
 śrotra-peya 𑖦 耳によって吸収されるべき, 注意深く聞かれるべき.
 śrotra-mārga 𑖦 聞える範囲. ~m Gam (𑖦) 耳に達する.
 śrotra-mūla 𑖦 耳のつけ根.
 śrotra-vartman 𑖦 (音が) 聞える範囲.
 śrotra-vikala 𑖦 𑖦𑖧𑖨 *Lal-v.*, *Ratna-ut.*
 śrotra-vijñāna 𑖦 𑖦𑖧𑖨 耳識 *Mvyut.*
 śrotravijñāna-dhātu 𑖦 𑖦𑖧𑖨 耳識界 *Mvyut.*
 śrotra-viśodhana 𑖦 𑖦𑖧𑖨 浄耳 *Śikṣ.*
 śrotra-vihina 𑖦 𑖦𑖧𑖨 𑖦𑖧𑖨, 聖者 *Sam-r.*, *Śikṣ.*
 śrotra-śukti-puta 𑖦 外耳のくぼみ.
 śrotrāyatana (°ra-āy°) 𑖦 𑖦𑖧𑖨 耳入, 耳界 *Mvyut.*
 śrotriya 𑖦 神聖な知識に通じた, *Veda* 聖典に通曉した. 𑖦 *Veda* 聖典に通じた博学の婆羅門, 学識のある神学者 (mantri-, 聖典に通じた博識の大臣); 𑖦 浄行婆羅門 *Mvyut.*
 śrotriya-sāt-Kṛ, *Veda* 聖典に通じた婆羅門に贈る.
 śrotrendriya (°ra-in°) 𑖦 𑖦𑖧𑖨 耳, 耳根 *Mvyut.*, *Ruv-pr.*

śromata 𑖦 立派な評判, 名声, 名声を博する行為 (?)(RV.).
 śrauta 𑖦 (𑖦 -i) 耳(śruti)に関連する; 言葉で表現された, はっきりと述べられた, 明白な(直喩・明喩: 𑖦 ārthi); 神聖な伝統に関連する, *Veda* 聖典に規定された・に合致するまたはに基づく.
 śrautarṣi (°ta-ṛṣi) 𑖦 *Devabhāga* の 𑖦𑖧𑖨.
 śrauta-mārga 𑖦 聞くこと.
 śrauta-sūtra 𑖦 三聖火を要する Śrauta 祭式を規定する Sūtra (𑖦 grhya-および smārta-sūtra).
 śrautra 𑖦 (𑖦 -i) 耳(śrotra)に関する.
 śrausaṭ 𑖦 供儀に際し Āgnidhra 祭官により発せられる祭詞(𑖦).
 ślakṣṇa 𑖦 つるつるすべる; 円滑な, 磨かれた; 柔かな; 温和な, 優しい(言葉, 声), おだやかな(人柄); 𑖦 細, 細滑; 軟, 軟語; 細軟, 柔軟; 候, 軟妙沢 *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Rāṣṭr.*, 梵雑.
 ślakṣṇa-keśa 𑖦 𑖦𑖧𑖨 髮嫩軟 *Mvyut.*
 ślakṣṇatva 𑖦 𑖦𑖧𑖨 軟, 滑, 細滑 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
 ślakṣṇa-bhrū 𑖦 𑖦𑖧𑖨 雙眉嫩軟 *Mvyut.*
 ślakṣṇa-sādhya 𑖦 𑖦𑖧𑖨 軟語調伏, 候語調伏 *Bodh-bh.*
 ślakṣṇa-sūkṣma-tvaktā 𑖦 𑖦𑖧𑖨 [仏陀の三十二相の一] 身皮細滑, 皮膚細軟相, 膚体細滑相 *Bodh-bh.*
 ślath, 弛む, たるむ, 屈する; 𑖦𑖧𑖨 ślathat (P.)のみ. 使役 𑖦 ślathayati 弛める, ゆるくする (𑖦, まれ). ā-, 𑖦 弛む (P.).
 ślatha 𑖦 弛い, 弛緩した; だらけた, かよわい(𑖦); 𑖦 鬆 *Mvyut.*; 緩, 慢緩 *Bodh-bh.*
 ślatha-lambin 𑖦 ゆるやかにかかっている.
 ślathānga 𑖦 四肢がだるい.
 ślathādara (°tha-ād°) 𑖦 (𑖦) に注意しない.
 ślathi-Kṛ, 弛める; 減少させる.
 ślathodyama (°tha-ud°) 𑖦 (自己の) 努力を弛める, 弱い抵抗を企てる.
 ślākṣṇya 𑖦 𑖦𑖧𑖨 柔軟, 柔順 *Sūtr.*
 ślāgh, I. 𑖦 ślāghate, (𑖦 韻律) (𑖦) を信頼する (Br., まれ); 𑖦: (𑖦, 𑖦) を自信をもって語る, 自慢するまたは誇る; (𑖦, まれ) にへつらう; (𑖦) を賞讃する; 𑖦 欲, 住 *Mvyut.*; 欲饒益 *Saddh-p.* 使役 𑖦 ślāghayati 慰安に努める; 賞讃する.
 ślāghana 𑖦 自慢する. 𑖦 (𑖦 -ā) 賞讃すること.
 ślāghaniya 𑖦 賞讃されるべき, 賞讃に値いする, 尊敬すべき.
 ślāghaniyatā 𑖦 賞讃に値いすること.
 ślāghā 𑖦 自慢すること; 推せん, 賞讃; 名声.
 ślāghin 𑖦 (一) を自慢するまたは誇る; 傲慢な; (一) で有名な; 賞讃している.
 ślāghya 𑖦 賞讃されるべき, 賞讃に値いする, 尊敬すべき. ~m 𑖦 賞讃にふさわしく.
 ślāghyatara 𑖦 𑖦 𑖦 賞讃されるべき.
 ślāghyatā 𑖦 名声.
 Ślis, IV. 𑖦 śliṣyati (𑖦) に粘着する・付着するまたはしがみつく; 抱擁する, 抱きしめる; 加わるまたは

合する；合体する；まとめる；**漢訳** 合 *Abh-vy.*
固 śliṣyate かならず結果として起る；**漢訳** 生，著
Ratna-ut. **過受分** śliṣṭa (因，一°) に粘着した，
 しがみついた；(自身)に密着した，個人的な(=他の
 人に影響しない)；一緒に結合された，相互に接近
 した，統合された，からみ合わされた；抱きしめら
 れた，抱擁された；(意味において抱合する)，両様の
 意味にとれる，あいまいな；**漢訳** 略相合 *Sūtr.* **使役**
固 śleṣayati 一緒に加える，接近させる。 **過受分**
 śleṣita (因) と結合された。

ā- (因) に附着する (因)；(業) にしがみつく (叙詩)；
 抱きしめる，抱擁する (普通の意味)；接触する (まれ)；
 推量する，見出す (まれ)。 **過受分** āśliṣṭa (因) に附
 着する (Br.)；(因，一°) を抱きしめる，しがみつ
 く；抱擁する (-vat 固 [同上])；抱きしめられた，
 抱擁された。

upā (upa-ā) 抱擁する。

sam-ā- (業) にしがみつく；抱きしめる，抱擁する。
過受分 抱擁された。

upa- (業) に接近する，抱きしめる；**漢訳** 親附 *Bo-*
dh-bh.；和合 *Madhy-v.* **過受分** upaśliṣṭa (因) に
 附着した，執着した (因)；(samipam) のもとに接
 近した・直接に触れるまたは接続する (固)。 **使役** (乗
 物を) 更に近ずける，近くへ駆る；(saha) と結びつ
 ける。

vi- 弛む；分割または分離される；(花が) 落下する；
 (固) から分離する。 **過受分** 弛められた，断たれた
 (きずな)；連絡のない；分離された；仲間から分離
 した；関節をはずされた (手足)。 **使役** (固) から分
 離する；(因) を奪う。 **過受分** viśleṣita 切断された；
 分離された；真二つにされた；分解された。

sam- (業) に執着する；抱きしめる，しっかりつか
 む，抱擁する；(因) と直接に結合させる；**漢訳** 貼
Mvyut. **過受分** samśliṣṭa 抱きしめられた；密接し
 た，触れる，接続した；(業，因 ±saha，一°) と一
 緒になった・結合したまたは結びつけられた；合体的
 な，不確定の (行為，すなわち善悪の区別をつけない
 ；まれ)。 kimcij jivitāśayā ~ 人生にかすかな希望
 を有する。 **使役** (因，因) と結びつける・合わせる・
 結合するまたは接触させる；(因) に移す。 ひきつけ
 る。 **過受分** 合わされた，結合された。

śliṣṭatva 固 **漢訳** 近隣 *Sūtr.*

śliṣṭa-paramparita-rūpaka 固 二義をもつ語句連続
 使用。

śliṣṭa-bhāvanā 固 **漢訳** 隠近修，習隠喻 *Madhy-vibh.*

śliṣṭa-rūpaka 固 二義をもつ譬喩的表現 (修辭)。

śliṣṭākṣepa (°ta-āk°) 固 二義をもつ言葉の使用によ
 る不満の表現 (修辭)。

śliṣṭokti (°ta-uk°) 固 二重の意味をもつ表現。

śli-pada 固 象皮病；**漢訳** 足病，足乏足病 *Mvyut.*

ślipadin 固 象皮病にかかっている；**漢訳** 青腿 (象皮
 病者) *Mvyut.*

ślila 固 [śrīla の代りに用いられる] a-ślila (固 醜悪
 な，粗野な，みだらなまたは下品な) としてのみ。

ślu, 第三類の動詞の 固 固 における接尾辞 -a の欠
 如。

śleṣa 固 (因) に固着すること；結合，関連；抱擁；
 性交；(修辞法としての) 結合 (一語句に二義をもた
 せること)；接頭母音字 (文法)；**漢訳** 隣，相隣接；恩
 愛 *Abh-vy.*，*Buddh-c.*

śleṣa-kavi 固 二義語の使い方に熟達した詩人。

śleṣatā 固 **漢訳** 生 *Ratna-ut.*

śleṣa-bhāvanā 固 **漢訳** 密合修習 *Madhy-v.*

śleṣita 使役 **過受分** → Śliṣ.

śleṣokti (°ṣa-uk°) 固 = śliṣṭokti；**漢訳** 二角相合，言
 二角相合，二旁相合 *Mvyut.*

śleṣopamā (°ṣa-up°) 固 あいまいさを含む比喻。

śleṣman 固 粘液；痰 (体液の一つ = kapha)；**漢訳**
 唾，痰，水，肺，痰，痰唾，唾汚，痰痰，痰病，痰
 痰，痰与唾合景 *Aṣṭ-pr.*，*Bodh-c.*，*Divy.*，*Gaṇ-*
vy.，*Lal-v.*，*Mvyut.*，*Sāṃkhy-k.*，*Śikṣ.*，*Suv-pr.*，
 梵千，梵雜。 固 帶，紐 (Br.)。

śleṣmaka 固 痰，粘液質の体液；**漢訳** 痰痰，水過肺
 病 *Suv-pr.*

śleṣma-kaṭāhaka 固 **漢訳** 盛唾器 *Mvyut.*

śleṣmātaka 固 (固 -i) 小さな木 (*Cordia Latifolia*)。

śleṣmātaka-phala 固 śleṣmātaka の果実。

ślaiṣmika 固 (固 -i) 痰の，痰に関する。

śloka 固 歌，音，響 (因)；評判，名声 (因，P.)；[韻
 律の一種 (4×8 音節 = Anuṣṭubh)] 詩節 (固)；
漢訳 偈，頌，詩。 記句；名，名称，名聞，讚頌；
 世俗名譽；**音写** 室路迦，輸蘆迦，首蘆迦，首蘆柯
Abh-vy.，*Bodh-bh.*，*Lal-v.*，*Mvyut.*，*Raṣṭr.*
Ratna-ut.，*Suv-pr.*，玄応，梵千，梵雜。

ślokārdha 固 **漢訳** 半偈 *Ratna-ut.*

ślokatva 固 [同上の 固]。

śloka-dvaya 固 一對の詩節。

śloka-baddha **過受分** Śloka で作られた。

ślokaya, 名動 固 ślokayati 響かせる (YV.)。

upa- 詩によって讚嘆する。

sam- [同上]。

śloṇa 固 (= śroṇa) びっこの (因)。

śva-kriḍin 固 道楽で犬を飼う。 固 競技用の犬の飼
 者。

śva-kharoṣṭra (°ra-uṣ°) 固 固 犬，ろばおよびらくた

śva-gaṇa 固 犬の群。

śva-gaṇika 固 獵犬の群を伴った。

śva-gardabha 固 固 犬とろば。

śva-ghnin 固 ばくち打ち，職業的賭博者 (因)。

Śvañc, I. 固 śvañcate うつ向く，讓歩する，受け
 れる (RV. では śasvacai のみ)。 **使役** śvañcayati
 下を向かせる，屈伏させる (他動，RV. 用例一回
 み)。

uc-, ucchvañcate 上を向く，聳える (自動，RV)

śva-dṛti 固 犬の膀胱。

śvan 1. 固 犬；**漢訳** 犬，狗，小犬，良犬，狗類 *Ab-*
vy.，*Bodh-bh.*，*Gaṇ-vy.*，*Lal-v.*，*Lañk.*，*Sada-*
p.，*Śikṣ.*，*Sūtr.*，*Vijñ-v.*

śvan 2. 一° (ある合成語の後分として。 固 mātaris
 an 等)。

śva-pac 固 (犬を料理する)，ある下層階級 (しばし
 Cāṇḍāla と同じ；固 固 のみ)。

śva-paca 男 [同上]. 因 (-ā, -i).
 śya-pad 男 野生の動物 (因).
 śva-pada 男 (烙印としての) 犬の足形.
 śva-pāka 男 (犬料理人), ある下層階級 (Kṣattr̥ と Ugrā の間に生まれた子孫).
 śvapāka-jātiya 男 凶害之類 *Divy.*
 śva-pāda 男 = śvapada.
 śva-puccha 男 犬の尾.
 śva-poṣaka 男 犬飼, 獵師.
 śvabhra 男 深い割れ目, 穴, 坑 (因, 罎); 坑, 坑, 坑坎, 黒溝, 峻峻, 險岸 *Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.* 男 (罎) 地獄; ある地獄 (まれ); [Kampanā の王の名].
 śvabhra-prapāta 男 丘坑, 坑坎 *Saddh-p., Suvik.*
 śvabhriya, 名動 他 śvabhriyati 穴または坑とみなす.
 śva-māmsa 男 犬の肉.
 śva-mukha 男 如狗面 *Mvyut.*
 śvayathu 男 [Śvi から] 膨張.
 śvavat 男 犬を飼っている.
 śva-vāla 男 犬の毛.
 śva-viṣṭhā 男 犬の糞便.
 śva-vṛtti 男 犬の生活 (奴隷状態または卑屈な職務に 関して用いられる用語).
 śva-vṛttin 男 犬をならして生活する人.
 śva-śirṣa 男 頭如狗者, 如狗頭著 *Mvyut.*
 śvaśura 男 義父, 女 および 義父母 (時として 男 のかわりに 女); 丈夫, 大公, 大家, 岳父, 外父 *Abh-vy., Mvyut.*
 śvaśuraka 男 親愛なまたは哀れな義父.
 śvaśura-rakṣitā 男 大公護 *Mvyut.*
 śvaśruya 男 夫 または 妻の兄弟, 義兄または義弟.
 śvaśrū 女 (śvaśura の 女) 義母; 義母と義父の他の妻; 丈母 *Mvyut.*
 śvaśrū-rakṣitā 女 大家護 *Mvyut.*
 śvaśrū-śvaśura 男 義父母.
 śvaśrū-snuṣe 女 姑と嫁.
 Śvas, II. 他 śvasiti (因, 罎) あえぐ, 鼻息を荒くする, シューという, ピューと鳴る; 罎: 呼吸する; 嘆息する; 歎息 *Lal-v.* 過受分 śvasita 生き返らせられた. 使役 śvāsyaati 他 呼吸させる.
 強意 分 śāśvasat 鼻をならしている (駿馬; 因).
 ati-niḥ- 深々と嘆息する.
 ā- 息をふき返す, 生き返る, 回復する, 勇気をおこす, 上機嫌になる; (因) を信頼する; 吸, (入), 活, 入息; 寂靜 *Lal-v., Rāṣṭr., Suv-pr.* 過受分 āsvasta 回復された, 生返らされた, 元気づけられた, 鼓舞された. 使役 再び息をふき返らせる, 生き返らせる, 元気づける, 宥める, 慰安する; 安, 撰, 安慰, 慰諭, 救済, 令安, 休息, 醒悟, 令安息, 令休息, 令安穩 *Ast-pr., Divy., Gand-vy., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Suv-pr.*
 praty-ā- 生き返る, 再び勇気をおこす. 過受分 復活された, 爽快な気分にした.
 sam-ā- 息をふき返す, 回復する, 気を落ち着ける, 勇

気をおこす; (因) を信頼する. 過受分 samāsvasta 復活された, 宥められた; 信頼に満ちた. 使役 息を吹き返らせる, 回復せしめる鎮める; 鼓舞する, 慰安する; 慰, 安慰 *Ast-pr., Divy.*
 uc- (chvas)- 休止する; 吐き出す; 呼吸する (普通の意味); 息を吹き返す, 復活する; (乳房等が) 隆起する, ふくらむ; (花が) 開く, 伸び開く; 氣通 *A-bh-vy.* 過受分 ucchvasta 宥められた, 鎮められた (まれ); ucchvasita [同上]; 復活された, 爽快な気分にした; (心等が) 伸々とした, 高まった; ふくらんだ (花), 広く開いた (目); ゆるめられた (帯, 衣服); 乱れた (髪). 使役 復活せしめる, 活気づける; 過受分 ucchvāsita 裂かれた (山の背); (抱擁; 一) から免れた.
 proc (pra-ud)- 激しく息をする.
 sam-uc- 息を吹き返す, 復活する; 発芽する. 過受分 男 非人 深い嘆息が洩らされた. 使役 過受分 消された (文字).
 ni- シューという, 鼻息をする (叙詩); 嘆息を洩らす; 歎息, 喘息長嘘, 歎歎哽咽 *Bodh-c., Divy., Lal-v.*
 vi-ni- 深く嘆息する; 歎息 *Lal-v.*
 niḥ- シューという, 鼻を鳴らす ため息をつく.
 vi-niḥ- 深く嘆息する.
 pra- 吹い込む; 吹, (出), 出息, 出氣 *Mvyut.*
 abhi-pa- (罎) に息を吹きかける.
 vi- 信頼するまたは恐れない, 確信する; (ある人: 罎, 罎, 因) に, (あること: 因) に頼る, 信頼する; 保 *Śikṣ.* 過受分 viśvasta 恐れない, 疑わない, 自信にみちた; (ある人: 罎) を信頼する. 使役…の信頼を得る, 信頼の念を吹きこむ.
 ati-vi- (罎, 因) に大きなまたは過度の信頼をおく.
 abhi-vi- 使役 (罎) に信頼の念を吹きこむ.
 śvas 男 明日, 翌日. śvaḥ śvaḥ 毎日 (因). śvo bhūte 翌日に (因); 明 *Divy.*
 śvasatha 男 あえぐこと (因).
 śva-sadṛṣa 男 狗譬 *Sūtr.*
 śvasana 男 シューという, あえぐ. 男 (罎) 風; 風の神; 生氣. 男 (罎) (蛇が) シューということ; 激しい息づかい; 呼吸, 息; 嘆息すること, 嘆息.
 śvasana-samirāṇa 男 息.
 śvasanāśana 男 (空気を常食とするもの), 蛇.
 śvāsita 過受分 男 呼吸すること, 息 (ときとして 罎).
 → Śvas.
 śvastana 男 翌日に関する. ~e'hani 翌日に.
 śvastani 男 翌日, 明日; 未来時制の特徴としての接尾辞 -tr̥.
 śvaḥ-sutyā 女 Soma 圧搾日の前夜. svargasya lokasya~ 天上へ導く Soma 圧搾日の前夜の儀式.
 śvaḥ-stotriya 男 翌日の Stotriya.
 Śvā または Śvi, IV. 他 śvayati 膨張する (因, 罎, まれ). 罎 śūyate 膨張する (罎, まれ). 過受分 śūna 膨張した.
 uc-, ucchvayati 膨張する. 過受分 ucchūna 膨張した; 増加した.
 vi- 膨張する (RV.).

sam- 過受分 膨張した。
 śvāgra 甲 犬の尾。
 śvājina 甲 犬の皮。
 śvātra 形 元気づける (ひと飲み: 吠)。甲 力, 元氣 (RV.)。
 śvāna 男 犬; 漢訳 犬, 狗 *Lank.*, *Mvyut.*, 梵千。
 śvāni 女 牝犬。
 śvānoṣṭra-khara-śrṅga 甲 漢訳 狗駝驢 (無) 角, 馳驢狗 (生) 角 *Lank.*
 śvānta 過受分 膨脹する。甲 豊かな獲物 (? RV. 用例一回のみ)。
 śvā-pada 男 甲 食肉獣; 漢訳 獣, 猛獣, 毒獣 *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*
 śvāpada-rājan 男 獣類の王。
 śvāpada-sevita 過受分 猛獣が出没する。
 śvā-vidh 男 (犬を貫く), やまあらし。
 śvāsura 形 (女 -i) 義父に属する。
 śvāsurya, śvaśurya の 不確。
 śvāsa 男 [Śvas] シューということ, あえぎ; 呼吸, 息; ため息をつくこと, 嘆息; 喘息; (子音の発音の際の) 氣息; 漢訳 息, 喘氣, 氣不順 *Abh-vy.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*
 śvāsa-viṣa 甲 漢訳 氣毒 *Mvyut.*
 śvāsin 形 シューという; 喘息の; 氣息を伴う (音)。Śvi, → Śvā.
 Śvit, 分 śvitāna, 三過 aśvait, aśvitan, aśiśvitat (RV.) および 現分 śvetamāna (華) のみ, 輝くまたは白い。
 ava- …の上に輝く (RV. 用例一回のみ)。
 vi- 遠くから輝く, 光る (RV.)。
 śvitāna 分 → Śvit.
 śvityaṅc 形 (女 śvitici) 白い, 輝く (RV.)。
 śvitra 形 白い (吠)。男 甲 白癩; 漢訳 癩 *Mvyut.*
 śvitrin 形 癩病の。
 Śvind, śiśvinde のみ, 白い (華)。
 śveta 形 [Śvit から] 白い, 輝く; 漢訳 白, 白色, 光白 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mañj-m.*, *Madhy-v.*, *Saddh-p.*, 梵千, 梵維。男 白馬 (Br.); [人名]; 漢訳 (白) 馬 *Mañj-m.*, *Madhy-v.* 甲 白目 (華)。
 śvetaka 形 漢訳 白色 *Mvyut.*
 śveta-kākiya 形 白い鳥に似た, 未聞の。
 śveta-kuṣṭha 甲 白癩。形 癩病の。
 śvetakuṣṭhatva 甲 癩病であること。
 śveta-ketu 男 [人名]; 漢訳 (仙人=) 白英, 白淨 *Lal-v.*
 śveta-gaṅgā 女 [ある河の名]。
 śveta-guṇavat 形 白の性質をもった。
 śveta-godhūma 男 小麦 (の一種)。
 śveta-candana 甲 漢訳 白檀 *Madhy-v.*
 śveta-cchatra 甲 白い傘。
 śvetacchatrāya, 名動 自 śvetacchatrāyate 白い傘に似る。過受分 -ita。
 śveta-dyuti 男 月 (一°)。
 śveta-dvīpa 男 甲 (白い島), [祝福されたものの伝説上の住居の名]; *Kaśī* の近くのある聖地の名]。
 śveta-dvīpāya, 名動 自 śvetadvīpāyate, 白い島に

似る。
 śvetanā 女 (Śvit から) (夜の) 明け白むこと (RV. 用例一回のみ)。
 śveta-pakṣa 形 白い翼をした。
 śveta-paṭa 男 [あるジャイナ教師の名]; 種 [ジャイナ教のある宗派の名]。
 śveta-patra 甲 白い傘。
 śveta-patrāya, 名動 自 śvetapatrāyate 白い傘に似る。
 śveta-padma 甲 白蓮。
 śveta-puṣpa 甲 白い花。形 (形 -i) 白い花をもった。
 śveta-bhānu 形 白い光線の (月)。男 月。
 śveta-bhikṣu 男 白衣の修行僧, Śvetāmbara。
 śveta-mayūkha 男 (白い光線の), 月。
 śvetamāna 現分 → Śvit。
 śveta-mukti 女 漢訳 白真珠, 白淨真珠 *Gaṇḍ-vy.*
 śveta-yāvari 女 白く流れる (河) (RV. 用例一回のみ)。
 śveta-raśmi 男 [白象にされたある Gandharva の名]。
 śveta-romāṅka 男 白髪 of 印。
 śveta-vaidūrya-maṇi 男 漢訳 (音写) 白瑠璃摩尼 *Gaṇḍ-vy.*
 śveta-sarṣapa 男 白からし菜, 白からしの粒; 漢訳 白芥子 *Madhy-v.*
 śveta-vāhana 形 白い駿馬で駆る。男 [Arjuna の称]。
 śveta-śaila 男 雪山または [ある山の名]。
 śvetasailamaya 形 白石または大理石でできた。
 śveta-hūṇa 男 種 白匈奴。
 śvetā 女 (白い), [人名]。
 śvetāmśu 男 月。
 śvetātapatra (°ta-āt°) 甲 白い傘。
 śvetāmbara 形 白衣を着た。男 [ジャイナ教のある宗派の名]。
 śvetāya, 名動 自 śvetāyate 白くなる。
 śvetārcis 男 (白い光線をもつ), 月。
 śvetāśva 男 白馬; [Arjuna の称]; [Śiva 神の弟子の名]。形 白馬を軛した (車)。
 śvetāśvatara 男 (白い騾馬をもつ), [ある学匠の名]; 種 Śvetāśvatara の学派。
 śvetāśvataropaniṣad (°ta-up°) 女 [ある Upaniṣad の名]。
 śvetāsthi 甲 (=Pali setatthika); 漢訳 白骨 *Divy.*
 śvetika 男 [人名]。
 śvetiman 男 白さ。
 śveti 女 [ある河の名 (RV. 用例一回のみ)]。
 śvetya 形 白い, 輝く (曙光; RV. 用例一回のみ)。
 śvelu 男 大きな数の単位; 漢訳 舍盧 *Mvyut.*
 śvaitari 女 形 [白い乳牛の名] (RV. 用例一回のみ)。
 śvaitāmsava 形 月の。
 śvaitya 甲 [śveta から] 白さ。
 śvaitrya 甲 [śvitrin から] 白癩。
 śvo-bhakta 甲 (次の日 śvas の食事); 漢訳 餉 *Sik.*
 śvo-bhāva 男 次の日の出来事。
 śvo-bhāvin 形 次の日に起こる。
 śvo-bhūta 過受分 [同上]。~e 因 翌日の夜明けに。
 śvo-marāṇa 甲 翌日に死ぬこと, 差し迫った死にいての考え。

śvo-vasiya 田 将来の繁栄。

śvo-vasiyasa 形 (因 -i) 将来の幸福を授ける。

śvo-vasyasa 形 [同上] (因)。

śvo-vijayin 形 翌日に勝とうとしている。

S

śa 形 =(pañcaśa における) śaś.

śa-kāra 男 形 (音写) 沙字 (五十字門の一つ): śakāre śaḍāyatanaṅgrahaṅābhijñānāvāptiśa-bdaḥ (→ akāra) 唱沙 (上声) 字時出制伏六処得六神道声 *Lal-v.* 128.; 麗字 (四十二字門の一つ): śa-kāraṃ parikirtayataḥ sāgaragarbhaṃ nāma-prajñāpāramitāmukham avakrāntam 唱麗 [史我反] 字時能甚深入般若波羅蜜門名為海藏 *Gaṇḍ-vy.* 449.

śac-chāstr 男 六人の師; 形 六師 *Rāṣṭr.*

śaṭka 形 六からなる。田 六の集合。

śaṭ-karṇa 形 六つの耳をもった、六つの耳によってきかれた (不幸にも第三者にきかれた秘密会議について言う)。

śaṭ-karman 田 (°-) (婆羅門に許さるべき) 六種の職業 (*Veda* の学習と教授、自らおよび他のために供犠をなすこと、自ら布施をなし、他から布施を受けること)。形 (許可されるべき) 六種の職業に従事する (婆羅門)。男 婆羅門。

śaṭkarmavat 男 婆羅門。

śaṭ-kāra 男 (vaṣaṭ における) 音節 śaṭ.

śaṭkikā 女 形 六 *Abh-vy.*

śaṭ-kṛtvas 副 六回; 形 六時 *Sūtr.*

śaṭ-catvāriṃśa 形 第四十六の。

śaṭcatvāriṃśaka 形 [同上]。

śaṭ-carāṇa 形 六足の。男 蜂。

śaṭ-carāṇāya, 名動 形 śaṭcarāṇāyate 蜂のように振舞う。

śaṭ-tathāgata-guṇa 男 形 六種句 *Ratna-ut.*

śaṭ-triṃśa 形 (因 -i) 三十六からなる; 第三十六の。

śaṭ-triṃśat 女 形 三十六 (同格または 形 同ととも)。

śaṭtriṃśatka 形 三十六からなる。

śaṭtriṃśad-aha 形 三十六日続く。

śaṭtriṃśad-ābdika 形 三十六年続く。

śaṭ-pañcamī 女 形 五……六, 五六 *Lanik.*

śaṭ-pañcāśa 形 第五十六の。

śaṭ-pañcāśat 女 形 五十六。

śaṭ-pad 形 (形 形 -pād, 因 -padi) 六足の; 六歩あゆむ, 進む。

śaṭ-pada 形 六足の; 六 pāda (詩節の行) からなる。

男 六足の動物または昆虫; 蜂; 形 蜂 *Rāṣṭr.*

śaṭpada-jya 形 (蜂を弦としている), [*Kāmadeva* の弓の名]。

śaṭ-pāramitā 女 形 (音写) 六波羅蜜, 六波羅蜜多, 六種波羅蜜; 六度 *Bodh-bh., Rāṣṭr., Saddh-p., Suv-pr.*

śaṭpāramitā-nirdeśa 男 *Samādhi* (の一種)。

śaṭpāramitā-paripūrṇa 男 (六つの完成を具えた), [仏陀の名 (仏教)] 形; 六度円満 *Diry.*

śaṭpāramitā-pratisaṃyukta 形 (音写) 応六波羅蜜 *Saddh-p.*

śaṭ-pudgala 男 形 六種人 *Ratna-ut.*

śaṭ-prakāra 形 六 *Nyāy-pr.*

śaṭ-śata 田 形 百六。田 形 六百。形 六百からなるまたはに達する。

śaṭ-śaṣṭi 女 形 六十六。

śaṭśaṭka 形 六十六 *Abh-vy.*

śaṭ-sapta 形 六または七。

śaṭ-saptati 女 七十六。

śaḍ-amśa 男 第六の部分。

śaḍamśa-bhāj 男 六分の一の享受者。

śaḍ-amhri 男 (六足を有する) 蜂。

śaḍ-akṣara 形 (因 -i) 六音節を有する。

śaḍ-āṅga 田 形 六種の *Vedāṅga* (-vid 形 …を知る)。形 六肢を有する; 六種の *Vedāṅga* を有する; 形 六支 *Sūtr.*

śaḍāṅga-vid 形 六種の *Vedāṅga* を知っている。

śaḍāṅga-samanvāgata 形 具六支 *Mṛyut.*; 六根具足 *Diry.*

śaḍ-āṅgini 女 六つの部分を有する (=完全な) 軍隊。

śaḍ-āṅguli 形 六指者 *Mṛyut.*

śaḍ-āṅghri 男 (六足の) 蜂。

śaḍ-abhijña 形 (因 -ā) 六智, 六通, 六神通, 具足神通, 具足六神通 *Bodh-bh., Mṛyut., Ratna-ut.*

śaḍ-artha 形 六種句 *Ratna-ut.*

śaḍ-aśita 形 (因 -i) 第八十六の。

śaḍ-aśiti 女 八十六。

śaḍ-aha 男 六日の期間とくに六日間の *Soma* 祭。

śaḍ-ānana, °- (Skanda 神の) 六つの口。形 六つの口を有する (*Skanda* 神)。男 [*Skanda* 神の称]。

śaḍ-āyatana 形 六つの *Āyatana* (*vijñāna*, 地, 水, 火, 風および *rūpa*) からなる。田 形 六入, 六処, 六根 (十二縁起の一つ) *Bodh-bh., Madhy-vibh., Mṛyut., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Śikṣ., Suv-pr.*

śaḍ-āyatana-nirodha 男 六処滅 *Suv-pr.*

śaḍāyatana-nirmukta 形 離六処 *Bodh-bh.*

śaḍāyatana-pratyaya 男 六処縁, 六入縁 *Suv-pr.*

śaḍāyatana-viśeṣa 男 六処殊勝 *Bodh-bh.*

śaḍāyatana-sambhava 男 生六入 *Madhy-v.*

śaḍ-āhuti 形 六つの供犠に対して使用される。

śaḍ-indriya 田 六根, 諸根 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy.,*

Ratna-ut., Suv-pr.

ṣaḍ-ūna 形 六だけ少い。

ṣaḍ-ūrmi 因 °一 六波 (六つの生存の苦しみ)。 → ūrumi.

ṣaḍ-rcā 男 田 六讃歌の集合。

ṣaḍ-ṛtu 男 漢 六時, 六節, 歳六時 *Lank., Suv-pr.*

ṣaḍ-gati 因 漢 六趣 梵千。

ṣaḍ-gava 男 田 六頭の牡牛の一组。 田 六頭の牝牛; °一 六頭 (の動物の) 集合。

ṣaḍ-guṇa 形 六重の; 六つのよい性質をもつ; 漢 六分, 六徳 *Lank.* 男 種 六つ (= 5官と *Manas*) によって (知覚される) 属性; 六つの長所; (外交政策における王の) 六つの方策。

ṣaḍ-guṇi-Kṛ, 六倍する。

ṣaḍ-guru-śiṣya 男 [(六教師の弟子) *Kātyāyana* の *Sarvānukramāni* の註解者の名 (12世紀の人)].

ṣaḍ-grāma 男 漢 六 (入), 村落 *Suv-pr.*

ṣaḍ-ja 男 (他の六つの調べから生じたまたはに基づく) インドにおける音階の第一音; 漢 具六 (第一音) *Mvyut.*

ṣaḍ-darśana 田 六派哲学。 形 六派哲学に通じた。

ṣaḍ-dig-bhāga 男 漢 六方 *Boḍh-bh.*

ṣaḍ-dvādaśāṣṭādaśaka 男 漢 六十八法, 六十二十八 *Lank.*

ṣaḍ-bhāga 男 第六部, 六分の一 (田 または 園 とともに, とくに王によって課せられた税)。

ṣaḍ-bhāj 形 (園) の六分の一を受ける。

ṣaḍ-bhuja 形 六臂の; 六角形の。

ṣaḍ-rasa 形 六つの味を有する (食物)。

ṣaḍ-rātra 男 六日の期間または六日続く祭り。

ṣaḍ-vaktra 形 六つの口を有する。 男 [*Skanda* 神の称]。

ṣaḍvaktri 因 六つの顔。

ṣaḍ-varga 男 六の集合体または群れ; 五官および *manas*; (人間の内的な) 六 (敵) (*kāma, krodha, lobha, harṣa, māna, mada*; とくして °一 *ripu-* または *śatru-* とともに)。

ṣaḍ-vargika 男 種 漢 六群 *Vin.*

ṣaḍ-vargiya 男 種 漢 六衆 *Divy.*

ṣaḍ-vārgika 男 漢 六群, 六部 *Mvyut.*

ṣaḍ-vārṣika-maha 男 漢 六年筵, 六歳筵 *Mvyut.*

ṣaḍ-vikāram 副 漢 六反, 六返; 六種 *Divy., Saddh-p., Sapt-pr., Suv-pr.*: ~ *prākampat* 六反震動 *Saddh-p.* 265; ~ *prthivi cacāla* 大地六種震動 *Suv-pr.* 186; ~ *mahāprthivicālo 'bhūt* 大地六返震動 *Sapt-pr.* 240.

ṣaḍ-vijñāna 田 漢 六識, 六種識 *Madhy-vibh.*

ṣaḍ-viṃśa 形 (-i) 第二十六; 二十六よりなる。

ṣaḍ-viṃśati 因 二十六。

ṣaḍviṃśatitama 形 第二十六。

ṣaḍ-viṃśatka 形 二十六よりなる。

ṣaḍ-vidha 形 六重の, 六種の; 漢 六種 *Madhy-v., Ratna-ut.*

ṣaḍvidha-vikṣepa 男 漢 六種散乱, 散動有六種 *Madhy-vibh.*

ṣaḍ-vidhāna 形 六重の一群を形成する。

ṣaḍ-viṣaya-āsrita 形 漢 随諸転, 依止六 (根) 境界 *Suv-pr.*

ṣaḍ-viṣāṇa 形 漢 *Lal-v.*

ṣaṇḍa 男 田 (しばしば *khaṇḍa* の異読) 樹木または植物の群 (つねに °一 *vana-, vṛkṣa-* および植物の名とともに); 堆積, 量, 集合; 漢 林 *Saddh-p.*; 叢; 密林 *Abh-vy., Lal-v.*: *vaṇa* ~ (版本は *vaṇakhaṇḍa*) 叢樹 *Lal-v.* 129.

ṣaṇḍaka 男 漢 扇茶 *Śikṣ.*

ṣaṇḍa-paṇḍa (= *ṣaṇḍha-paṇḍa*) 合成 漢 諸根欠減 *Madhy-v.*

ṣaṇḍāmaka, ṣaṇḍāmarka の 不種。

ṣaṇḍha 形 (-i) (性的に) 交接不能な。 男 去勢者; 男女両性を有する人。 男 または 田 中性。

ṣaṇḍhatā 因 去勢者であること, (性的に) 交接不能なこと; 漢 男 音写 扇髻, 黄門 *Abh-vy.*; 闍人 梵雑.; 生而隱官, 生而隱官, 生而隱害, 生来不男, 鬻害人, 鬻割人 *Mvyut.*

ṣaṇḍhatva 田 [同上]。

ṣaṇ-ṇavati 因 九十六。

ṣaṇḍha-paṇḍaka 男 漢 音写 扇髻半折迦, 扇髻半折 玄応; (音写) 半折迦 玄応; 黄門 玄応。

ṣaṇ-mātra 形 六音量を含む。

ṣaṇ-māsa 男 六ヶ月。 因 六ヶ月後に。

ṣaṇmāsa-nicaya 形 六ヶ月間の食糧を用意した。

ṣaṇmāsābhyantara 田 六ヶ月の間隔。

ṣaṇ-māsika 形 六ヶ月毎に与えられる (着物); 一年に二度起る。

ṣaṇ-māsya 形 六ヶ月毎に起る。 田 六ヶ月の期間。

ṣaṇ-mukha 形 六つの口または顔を有する。 男 [*Skanda* 神の称]; [人名]; 漢 六面子 [*Kārttikeya* の名] *Buddh-c.*

ṣatva 田 ṣ であること, ṣ が ś に変化すること。

ṣaṣ 因 種 (田 業 *ṣat*) 六 (例外的に 園 または °一 とともに) に名詞として用いられる。

ṣaṣṭa 形 第六十の, 六十から成る。

ṣaṣṭi 因 六十 (同格または 園 種 とともに, また時として °一 または °一 とともに); 漢 六十 *Rāṣṭr., Sapt-pr.*

ṣaṣṭik'odana 男 田 早稲米で作られた飯; 漢 雨月穀飯, 六十日飯, 六十日飯食 *Aṣṭ-pr.*

ṣaṣṭi-yojanya 形 六十 *Yojana* 隔った。

ṣaṣṭi-śata 田 園 百六十。

ṣaṣṭi-sahasra 田 種 六万。

ṣaṣṭi-hāyana 形 六十歳の (象)。

ṣaṣṭy-aṅga-sahasropeta-svara (°ra-up°) 形 漢 六千枝音 (音枝) *Mvyut.*

ṣaṣṭy-aṅgin 形 漢 六十種音声 *Sūtr.*

ṣaṣṭy-ākāra 男 漢 六十種 *Ratna-ut.*

ṣaṣṭha 形 (-i) 第六の; 漢 第六 *Abh-k., Abh-vy. Mvyut.* 男 *bhāga* または *aṃśa* とともに, 第六の部分 六分の一; *kāla* とともに, 一日のうちの第六時; (日目の夕方) の第六の食事。 ~ *m Kṛ* (前五回の食を省略して) 第六の食事だけを取る。 田 六分の一。

ṣaṣṭha-candra 男 [人名]。

ṣaṣṭhāṃśa 男 第六の部分, 六分の一, (とくに王によって徴集される) 六分の一税。

ṣaṣṭha-vṛtti 𑖦 (六分の一で生活する) 王, 君主.
 ṣaṣṭhāna-kāla 𑖦 第六の食事のみを取る, 三日目の夕方にのみ食う.
 ṣaṣṭhānakālatā [同上の 𑖦].
 ṣaṣṭhāna-kālika 𑖦 [同上].
 ṣaṣṭhi 𑖦 (半月の) 第六の日 (tithi を補足); 第六格 (vibhakti を補足), 属格; (主要な危険が去る子供の誕生後) 第六日(の擬人化); 𑖦 第六, 六地, 第六地, 第六菩薩地 *Lank., Madhy-vibh., Ratna-ut.*
 ṣaṣṭhi-jāgara 𑖦 (子供の誕生後) 六日目の寝ずの番(ある儀式).
 ṣaṣṭhi-tatpuruṣa 𑖦 (第一構成要素が 𑖦 の意味を有する) 属格 Tatpuruṣa 合成語.
 ṣaṣṭhi-samāsa 𑖦 (第一構成要素が 𑖦 の意味を有する) 合成語.
 ṣaṣṭhya 𑖦 六分の一.
 ṣaṣ-ūṇā 𑖦 (過受分) 二十から六を減じた, 十四.
 ṣāḍava 𑖦 砂糖菓子; [ある Rāga の名].
 ṣāḍavika 𑖦 菓子屋.
 ṣāḍguṇya 𑖦 六つのよい性質の集り; (外交政策における王の) 六つの方策.
 ṣāḍguṇyavat 𑖦 六種の美德を賦与された.
 ṣāḍvidhya 𑖦 六重であること.
 ṣāṇ-māsika 𑖦 (-i) 六ヶ月間続く, 六ヶ月毎の; 六ヶ月おきに与えられる.
 ṣāṇ-māsya 𑖦 六ヶ月毎の.
 ṣidga 𑖦 放蕩者, 色男.
 su 𑖦 では u, ū の後で su の代りに用いられる.
 ṣoḍaśa 𑖦 (-i) 第十六の; 十六からなる; aṃśa または bhāga とともに, 𑖦 十六の一; 𑖦 十六, 十六分 *Divy., Sapt-pr.*; 一° 𑖦 vṛṣabha- とともに, 𑖦 十五頭の牝牛と一頭の牡牛.
 ṣoḍaśaka 𑖦 十六からなる; 𑖦 十六 *Sāṃkhy-k.* 𑖦

十六の集り.
 ṣoḍaśa-kala 𑖦 十六の部分をもつ.
 ṣoḍaśadhā 𑖦 十六重に, 十六通りにまたは十六の部分において.
 ṣoḍaśan 𑖦 𑖦 (𑖦 -daśa) 十六の.
 ṣoḍaśa-pada 𑖦 十六 pada (句) からなる.
 ṣoḍaśa-bhāga 𑖦 十六分の一.
 ṣoḍaśa-bhuja 𑖦 十六の腕をもつ.
 ṣoḍaśa-vidha 𑖦 十六種の.
 ṣoḍaśāṃśa 𑖦 第十六の部分.
 ṣoḍaśin 𑖦 十六からなる, (とくに Stoma 等が) 十六重の. 𑖦 十六 stotra および十六 śāstra を伴う Soma 祭の一種; [その特徴をなす stotra および śāstra の名].
 ṣoḍaśi-sāman 𑖦 Ṣoḍaśistotra に用いられる Sāman.
 ṣoḍaśi-stotra 𑖦 十六の部分から成る stotra.
 ṣoḍhā 𑖦 六重に, 六つの方法で; 𑖦 六種 *Abh-vy.*
 ṣṭa-kāra 𑖦 𑖦 (音写) 瑟吒字 *Gaṇḍ-vy.*: ~parikīrtayataḥ samantadāhpraśamanaprabhāsam nāma prajñāpāramitāmukham avakrāntam 唱瑟吒 [=合上声] 字時能甚深入般若波羅蜜門名普照光明息除煩惱 *Gaṇḍ-vy.* 449.
 ṣṭhiv, ṣṭhiv, I. 𑖦 ṣṭhivati, (𑖦) に唾をする.
 ni- (𑖦) に唾をする. 過受分 niṣṭhyūta 唾を吐きかけられた; 発せられた.
 ava-ni- 唾をする.
 niṣ- [同上]; (なげやりに吐出す), 略記する.
 prati- …の上に唾をする.
 ṣṭhivana 𑖦 (𑖦) の上に唾をする; 吐き出された唾, 唾をとばすこと.
 ṣṭhu (=ṣṭhiv), 唾をする, ṣṭhutvā のみ (S, 非常にまれ).
 niṣ- 唾をする (niraṣṭaviṣam のみ).
 ṣṭhyūta 過受分 [ṣṭhiv] 唾をはきかけられた.

S

a 1. 𑖦 それ, (時としては弱められて冠詞となる), その (𑖦 𑖦 sa, 𑖦 sā, および, RV. において, 𑖦 sa-smin のみ; 𑖦 𑖦 の s は子音の前で常に省略される, 但し RV. においては p の前で一度および t の前で一度の例外がある; sa は時としてそれに続く母音と合体することがある); しばしば三人称の他の代名詞, ayam, eṣa および bhavān によって強められる; しばしば 第一人称 および 第二人称単数 (tvam または tvam) と結合される: so 'ham (このようなものとしての私); Br. において, sa は文章のはじめにおいてしばしば yah, yad, yadi および yathā と結合される, この慣習的な文頭の用法のゆえに冗言的にまたは構文が他の性または数を必要とするところでも往々にして関係代名詞とともに保留される: Sāṅkhyā 哲学においては, sa は (eṣa, ka および ya のように) Puruṣa を示すに用いられる.

sa 2., 一° 結合, 共有, 類似, 同等 (𑖦 a- 打消しの接頭辞) を表現する, 不可分離の 𑖦 𑖦, 一般に形容詞的合成語となる = 1. 所有する (𑖦 sa-pakṣa, 翼のある), 着ている (𑖦 sa-vāsa, 着物を着ている), 含む (𑖦 sa-phena, 泡をもつ), 現わす (𑖦 sa-hāsa, 微笑をしている); 2. …に伴なわれた, …と一緒に (𑖦 sa-bhārya); 3. …のほかにも, および (𑖦 sa-pādam paṇam, 一 Paṇa と四分の一); 4. 同一のものに属する (𑖦 sa-varṇa), 類似物をもっている, に似ている (𑖦 sa-rūpa); 形容詞的接尾辞 -in が, これらの合成語に加えられることがある (𑖦 sa-putrin = sa-putra).
 sa 3. 𑖦 一° [San] 獲得する, 与える (paśu-ṣa 家畜を授ける, および priya-sa 祝福を与える, において).
 sa 4. ṣaḍja の省略形.

sa-ṛṣika 形 聖者 (Rṣi) と共にある。
 saṃ-Yaj, → Yaj.
 saṃ-Yat 1., → Yat.
 saṃ-yat 2. 形 継続的の, 不断の (因). 因 一致, 契約 (Br., まれ); 定められた段階 (RV. 用例一回のみ); 戦, 戦闘 (墨, ほとんど常に 因).
 saṃ-yat 3. 現分 (因 -i), → I.
 saṃ-yata 過受分 → Yam; 密護 Śikṣ → a~.
 saṃyataka 男 [人名].
 saṃyatāhāra (°ta-āh°) 形 食を節する。
 saṃyatendriya (°ta-in°) 形 感官を制御した。
 saṃyatatā 因 感覚が制御されていること。
 saṃ-yatta 過受分 → Yat.
 saṃyad-vasu 形 中断することのない富を持つ (因).
 saṃyantavya 未受分 抑制されるべき。
 saṃyantr 男 抑制する人, 制御者。
 saṃyantraya, 名動 他 saṃyantrayati → yantraya.
 saṃ-yantrita 過受分 → yantraya.
 saṃ-Yam, saṃyacchati (-te) 止息 Bodh-bh. → Yam.
 saṃ-yama 男 阻止, 抑制; 感覚の制御, 自制; 束縛すること (まれ); (yogaにおける) 精神の集中; 努力 (廻, かるうじて, やっと); 破壊(P.); 戒, 律儀, 守護, 禁戒, 真戒, 実禁戒; 摂令住; 自調順 Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Śikṣ.
 saṃyamaka 形 護, 降伏 Madhy-v.
 saṃyama-dhana 形 自制心に富んだ。
 saṃ-yamana 形 (因 -i) 抑制する, 制御する, 抑える。
 因 抑制, 制御; 自制; 束縛すること; (手綱を) 引き締めること; 枷; [Yama の市の名 (また -i)]; 止息, 防息 Vijñ-t.
 saṃyama-puṇya-tirtha 形 抑制を巡礼の聖地とする。
 saṃyamavat 形 自制している, 儉約な。
 saṃ-yamita 使役 過受分, → Yam. 因 (声を) 抑制すること。
 saṃ-yamitā 因 自己制御。
 saṃyamin 形 激情を抑制している, 自己を制御した; 結ばれた (髪)。
 saṃ-Yā, → Yā.
 saṃ-Yāc, → Yāc.
 saṃ-yājya 因 祭式に参加すること。
 saṃyājyā 因 因 [Sviṣṭakṛt に唱えられる Yājyā および Puroṇvākya 詩節] (因).
 saṃyātrika, sāmyātrika の 不確。
 saṃ-yāna 因 (一°) と共に行くこと またはを同伴すること; 旅すること, 旅行; 乗物。
 saṃyāva 男 麦粉菓子 (の一種)。
 saṃ-Yu, → Yu 1.
 saṃ-yukta 過受分 → Yuj; 共, 勤, 繫縛, 相応, 所繫, 共生, 和合, 同用, 実具 (相応), 合集 Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Guhy-s., Lan̄k., Mañj-m., Śikṣ., Sūtr.
 saṃyukta-samyoga 男 結合されたものとの結合 (因 挽綱を馬に結びつけること)。
 saṃyukta-samavāya 男 結合されたものにおける内属 (Nyāya 哲学における六種の知覚の一; 因 容器

の色の知覚)。

saṃyukta-samaveta-samavāya 男 結合されたものに内属するものへの内属 (因 ある特殊な色をした瓶に色一般があることを知覚すること = ある特殊な色の結合された瓶においてそれに内属する色一般を知覚すること)。
 saṃyuktāgama (°ta-āg°) 具実旨, 実具旨, 雜阿含経 Mvyut.
 saṃ-yuga 因 接続, 結合 (まれ); 戦, 戦闘。
 saṃyuga-mūrdhan 男 戦の先陣。
 saṃ-Yuj, saṃyunakti (-yunkte) 使役 令学 Bodh-bh. → Yuj.
 saṃ-yuj 形 結合された, 関係のある。男 関係。
 saṃ-yuta 過受分 → Yu.; 依, 俱, 相応, 和合, 具足 Lan̄k., Sūtr.
 saṃ-Yudh, → Yudh.
 saṃ-Yup, → Yup.
 saṃ-yuyutsu 希求 形 [Yudh] 戦に熱心な。
 saṃ-yoga 男 (因, 一°, の, の間の, との; 因 saha との) 接続・連合・結合 または 接触; (因) との連合またはへの専心; (saha) との友好的関係またはとの(婚姻による)縁故; (因, 一°) との間の縁組; (saha) との肉体関係; (二つまたは二つ以上の) 子音の結合, 連合子音; 共通目的のための同盟。一°, 形 (研究または旅行) をしている最中の; 合, 遇, 聚, 結, 繫, 依, 会, 繫縛, 和合, 依…和合, 結縛, 合会, 会合, 相応, 聚集, 相合, 給侍, 繫属 Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Lan̄k., Madhy-vibh. Mvyut., Vajr-s., Vijñ-t., Vijñ-v., Saddh-p. Sāṃkhy-k., Śikṣ., Sūtr. 因 男 および因…に関連して, …の場合には, …に関して(は); dārāgnihotra ~ṃ Kṛ 結婚して Agnihotra 祭 (聖火) を絶やさないようにする。
 saṃyoga-ja 形 合生 Vajr-s.
 sāmyogaja-vitarka 男 結尋 Bodh-bh.
 saṃyoga-dravya 因 繫事 Abh-vy.
 saṃyoga-mantra 男 結婚式の時唱える聖句。
 saṃyogin 形 (因, 一°) と接触している, 連結された; 結ばれた (恋人); 結婚した; 連続の (子音)。
 saṃ-yojaka 形 (一°) をひき起こす。
 saṃ-yojana 因 (因, 因) と結びつくこと, 結合すること; (因) の結合; 合, 結, 煩惱, 和合, 結 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Lan̄k., Madhy-vibh., Mvyut., Ratna-ut., Saddh-p., Sam-saṃ-yojya 未受分 (因) に集中されるべき。
 saṃ-rakta 過受分 → Raj; 愛染, 徧貪, 著樂, 生染著己 Bodh-bh., Divy., Mvyut., Śikṣ.
 saṃ-Rakṣ, 他 (因) saṃrakṣati (-te) 觀 Bodh-bh. → Rakṣ.
 saṃ-rakṣa 形 守護する。男 守護者。
 saṃ-rakṣaṇa 因 (因, 一°) の, (一°) からの保護保存。
 saṃrakṣaṇā 形 解了 Bodh-bh.
 saṃ-rakṣaṇiya 未受分 見張られるべき, …に備え守護されるべき。
 saṃ-rakṣā 因 保護。

saṃ-rakṣita 過受分 持, 所護, 守護, 所守護
Lal-v., Saddh-p., Śikṣ. : śilaṃ ~ 持戒 Saddh-p.
 118.

saṃ-rakṣya 未受分 (因) から守護されるべきまたは保
 護されるべき; 保存されるべきまたは維持されるべ
 き; …に備えて守護されるべき.

saṃ-Raṅj, → Raj, Raṅj.

saṃ-raṅjani 形 女 喜 *Divy.*

saṃ-raṅjaniya 未受分 形 → sārāyaṇiya; 可
 染, 可愛, 和敬, 真愛, 真実愛; 成食, 令生歡喜
Daś-bh., Divy., Lal-v., Mvyut., Śikṣ. : ~ m
dharmam 和敬法 Divy. 404.

saṃ-rabdha 過受分 → Rabh.

saṃ-Rabh, → Rabh.

saṃ-Ram, → Ram.

saṃ-rambha 男 動揺, 激しい行動, 乱暴; (不定,
 一°) に対する熱心, 熱望; (因, 屬 + upari) に対
 する怒り, 激怒; (戦闘の) ほこ先; (情熱の) 強烈,
 激越; (形 とともに 一°) = 過度に; 嘖, 鬨争,
 鬨訟 *Bodh-bh., Bodh-c., Daś-bh.*

saṃ-rambhitva 中 激怒.

saṃ-rambhin 形 (一°) に熱心に没頭している; 怒っ
 た, 激怒した; 怒りっぽい.

saṃrarāṇa 三過分 → Rā 1.

saṃ-rāga 男 赤; 情熱, 激越; (因) に対する執着;
 貪, 染着, 徧貪, 婬欲 *Daś-bh., Mvyut.,*
Saddh-p.

saṃrāga-citta 中 瑕穢想, 瑕穢念, 欲心 *Divy.*

saṃ-Rāj, → Rāj.

saṃ-rāddha 過受分 → Rādh.

saṃ-Rādh, 使役 saṃrādhayati; 令喜 *Sutr. →*
Rādh.

saṃ-rādhaka 形 十分に集中された.

saṃ-rādhana 形 (因 -i) なためる (Br., S.). 中 深い
 瞑想 (因).

saṃ-rādhya 未受分 なためられるべき; 深い精神集
 中によって到達されるべき.

saṃ-rāva 男 騒がしい叫声, 咆吼.

saṃ-Rih, → Rih.

saṃ-Ri, → Ri.

saṃ-Ruc, → Ruc.

saṃ-Ruj, → Ruj.

saṃ-ruddha 過受分 → Rudh 2.

saṃ-Rudh, → Rudh 2.

saṃ-Ruṣ, → Ruṣ.

saṃ-ruṣita 過受分 → Ruṣ.

saṃ-Ruh, → Ruh.

saṃ-rūḍha 過受分 → Ruh.

saṃ-rodha 男 阻止すること, 妨げること, 抑制する
 こと, 控えること; 封鎖, 包囲, 攻囲; 抑制, 加
 害; 抑圧, 破壊; 皆滅 *Mvyut.*

saṃ-rodhana 中 抑制すること, 抑圧すること, 止め
 ること.

saṃ-ropana 形 癒す. 中 栽培.

saṃ-ropita 使役 過受分 → Ruh.

saṃ-rohana 中 治癒; 栽培.

saṃ-rohin 形 (一°) に生長する.

saṃ-Lakṣ, → Lakṣ.

saṃ-lakṣaṇā 女 解了 *Bodh-bh., Mvyut.*

saṃlakṣaya, 名動 他 (自) → lakṣaya.

saṃ-lakṣya 未受分 目に見える, 知覚し得る.

saṃ-Lag, → Lag.

saṃ-lagna 過受分 → Lag.

saṃ-lagnika 携 *Prat-m.*

saṃ-lagnikā 又, 連 *Mvyut.*

saṃ-Lajj, → Lajj.

saṃ-Lap, 他 saṃlapati 酬対, 吐請詳 *Bodh-bh.*
 → Lap.

saṃ-lapana 中 論, 談論 *Bodh-bh.*

saṃ-laptaka 説説 *Mvyut.*

saṃ-Labh, → Labh.

saṃ-Lal, → Lal.

saṃ-lāpa 男 (圓 ±saha, 屬) との, (一°) について
 の会話; (戯曲の中の) 対話 (の一種); 話談
Saddh-p.

saṃ-likhi(n) 形 厳しい苦行に耽る (仏教); 儉約
Bodh-bh.

saṃ-likhita 過受分 贏, 懈倦 *Śikṣ.*

saṃ-Lip, → Lip.

saṃ-Lih, → Lih.

saṃ-Li, → Li 1.

saṃ-lina 過受分 → Li 1.; 怯弱 *Bodh-bh. →*
a ~.

saṃlina-citta 形 心怯弱, 心愁惱 *Bodh-bh.*

saṃ-liyana 怯弱, 怯軟 *Saddh-p.*

saṃ-Luḍ, → Luḍ.

saṃ-Lubh, → Lubh.

saṃ-Lul, → Lul.

saṃ-lulita 過受分 → Lul; 乱 *Mvyut.*

saṃ-lekha 男 損, 捨, 戒禁, 遠離, 遠離行,
 離過行; 知足, 儉約, 輕財足; 厭足, 真道, 持戒; 持
 戒徳, 輕財, 減用物 *Daś-bh., Madhy-vibh., Mv-*
yut., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ. : a ~ 無厭足
Vijñ-t. 30.

saṃlekha-carita 中 行真道 *Saddh-p.*

saṃ-Lok, → Lok.

saṃ-lokin 形 (他人から) 見えるところにいる, (他人
 によって) 認められた.

saṃ-loḍana 形 混乱におとし入れる.

saṃ-lobhana 中 媚乱 *Lal-v.*

saṃ-Vac, → Vac.

saṃvat 1. 因 (因) 側; 地方, 地域.

saṃvat 2. 不變 saṃvatsare の省略 = …年に (とくに
Vikrama 紀元の); (時として) …の治世に.

saṃvatsam 副 一年間 (RV. 用例一回のみ).

saṃvatsara 男 (中) 年. ~m 一年間. ~eṇa 圓
 一年の後にまたは一年の間に. ~asya 圓, ~e 因
 [同上]; 一年以内に; 年, 歳, 壞却, 佈却
Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Mvyut.,
Saddh-p., 梵雜.

saṃvatsariṇa 形 一年ごとの (因).

saṃ-Vad, → Vad.

sam-vadana ㊦ 会話, 話.
 sam-vanana ㊦ (因・i) 因: なだめる, 気嫌をとる;
 罽: (一・寛大さを) 奨励する. ㊦ (因, 罽) 慰撫の手
 段; 鎮めるための呪文.
 sam-Vand, → Vand.
 sam-Vap, → Vap.
 samvara ㊦ ㊦ śambara の不種; ㊦ 護, 戒, 守,
 律儀, 防護, 安勝, 覆護, 自護, 威儀, 禁戒, 制
 止, 自將節, 堅持具足; (音写) 談摩梨(子); (音写)
 苦跋羅 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c.,
 Kāśy., Lal-v., Mvyut., Rāṣṭr., Ratna-ut., Sam-
 r., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr.
 samvaratā ㊦ ㊦ 堅持禁戒 Sam-r.
 samvara-karaṇiya ㊦ ㊦ 禁戒 Mvyut.
 sam-varaṇa 1. ㊦ [人名] (罽). ㊦ (祭式の場所とし
 ての) 罽地 (因); 隱匿, 秘密 (罽); ㊦ 防, 遮防,
 防護 Abh-vy.
 sam-varaṇa 2. ㊦ (夫の) 選択 (罽).
 samvaraṇa-sraj ㊦ (少女が夫として) 選んだ(男に与
 える) 花環.
 sam-varaṇiya ㊦ 未受分 隠されるべき.
 samvara-pariśodhana ㊦ ㊦ 戒, 護 Sūtr.
 samvara-rūḍha ㊦ ㊦ 貪者, 甚於戒 Mvyut
 samvara-śīla ㊦ ㊦ 律儀; 律儀戒 Bodh-bh., Sūtr.
 samvara-samvṛta ㊦ ㊦ 修制止 Śikṣ.
 samvara-samādāna ㊦ ㊦ 受護者, 誦誦禁戒 Śikṣ.
 samvara-stha ㊦ ㊦ 住護, 住律儀, 淨持戒 Gaṇḍ-
 vy., Sūtr.
 samvara-sthāyin ㊦ ㊦ 安住律儀 Bodh-bh.
 sam-varga ㊦ [°Vrj] (獲物を) かき集める (Agni
 神; 因).
 samvargam ㊦ (獲物を) かき集めて (RV.).
 sam-varṇana ㊦ ㊦ 歎, 讚, 称讚, 称歎, 讚歎,
 (讚說), 諸嗟宣揚 Gaṇḍ-vy., Mvyut., Saddh-p.
 samvarṇanatā ㊦ ㊦ 歎, 称讚 Gaṇḍ-vy.
 sam-varṇaya, ㊦ 名動 → varṇaya.
 sam-varṇita ㊦ 未受分 ㊦ 所說, 所歎, 所諸嗟, 同心
 慶悅, 称揚慶悅, 皆悉敬念 Bodh-bh., Gaṇḍ-vy.,
 Saddh-p.
 sam-varta ㊦ [共に転ずること: Vrt.] (人々の) 密集;
 雨を帯びた雲; 世界の終り すなわち 帰滅; [人名]
 (罽; RV. 用例一回のみ); ㊦ 壊, 敗, 破壊, 壊相,
 有壊 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Sūtr.;
 成 Sam-r.
 samvartaka ㊦ (共に転ずる), (世界の終りに) 万物を
 破壊する(火等). ㊦ 宇宙破壊の火; ㊦ 地獄の火; ㊦
 能起, 出生 Bodh-bh.
 samvartaniya ㊦ 未受分 ㊦ 感 Bodh-bh.
 samvartaniya-karman ㊦ ㊦ 能感…業(?), 起業感
 (?) Madhy-vibh.
 samvarta-kalpa ㊦ 壊劫, 怖劫 Mvyut.
 samvartanā ㊦ ㊦ 断除 Sam-r.
 samvartani ㊦ ㊦ 災, 怖, 壊 Abh-k., Abh-vy.,
 Mvyut.: 大三災 [1. tejah-~ 以火壊, 2. ap-~
 以水壊, 3. vāyu-~ 以風壊] Mvyut. 253.
 sam-vartaniya ㊦ 未受分 [Vrt]; ㊦ 招, 引, 感, 滅,

能感 Abh-vy., Bodh-bh., Śikṣ.
 samvarta-vivarta ㊦ ㊦ 成壊, 若成若壊, 破壊成立,
 次第成敗 Gaṇḍ-vy., Ratna-ut.
 samvartavivarta-kalpa ㊦ ㊦ 成壊劫 Gaṇḍ-vy.
 samvarta-sambhava ㊦ ㊦ 成壊 Abh-k.
 samvartikā ㊦ (巻き上った葉=) 若い蓮の花弁.
 samvartita ㊦ 未受分 ㊦ 曇 梵雜.
 sam-vardhaka ㊦ ㊦ 育 Bodh-bh.
 sam-vardhana ㊦ 增加する, 助長する. ㊦ [人名].
 ㊦ (子供の) 生長; (子供の) 養育; 成功; 助長する
 こと; ㊦ 生長, 田勝(?), 長養, 養育, 増長, 令
 増長, 能令増長, 能使増長 Abh-vy., Buddh-c.,
 Gaṇḍ-vy., Śikṣ.
 sam-vardhaniya ㊦ 未受分 育てられるべき(子供); 扶養
 されるべき(下僕); 増されるべきまたは養われるべき
 (徳).
 sam-vardhayitri ㊦ ㊦ 鞠養 Buddh-c.
 sam-vardhika ㊦ ㊦ 長養, 能長成 Abh-vy., Sūtr.
 sam-vardhita ㊦ 使役 ㊦ 未受分 → Vrdh; ㊦ 養, 増
 長, 所集, 生育, 長養 Abh-vy., Bodh-bh., Divy.,
 Lal-v.
 sam-Val, → Val.
 sam-valana ㊦ (敵の) 衝突; 混合, 連合.
 sam-valanā ㊦ [同上].
 sam-valita ㊦ 未受分 → Val.
 sam-Vas 1., → Vas 2.
 sam-Vas 2., → Vas 3.
 sam-vasati ㊦ 一緒に住むこと.
 sam-vasana ㊦ 住所; 祭式の会合 (RV. 用例一回のみ);
 ㊦ 住, 共住 Gaṇḍ-vy., Śikṣ.
 sam-vasu ㊦ 同居者 (因).
 sam-Vah, → Vah.
 sam-vaha ㊦ [七風の一つの名].
 sam-Vā, → Vā 4.
 sām-vāc ㊦ 会話 (因).
 sam-vāda ㊦ (罽 ±saha, 因, 一°) との会話 (因,
 罽); 一致, 相合, 相応, 類似, 同一 (罽).
 samvādaka ㊦ 一致する. ㊦ [人名].
 sam-vādana ㊦ 一致.
 sam-vādin ㊦ 会話する; (罽, 一°) と一致するまた
 調和する.
 sam-vāra ㊦ (発音に際しての) 声帯の) 収縮, 発音器
 の閉鎖, 鈍い発音 (因 vivāra); 妨害.
 sam-vārya ㊦ 未受分 秘せられるべき.
 sam-Vās, → Vās.
 sam-vāsa ㊦ (罽 ±saha, 一°) と共に住むこと
 (一°) との同棲; 居留, 居住; 共同の住居 (まね)
 ㊦ 住, 処, 会, 共住, 同止, 同住, 所居, 親近
 雜錯, 牌合, 行欲, 行合, 止住, 同会, 共停宿,
 同止, 共同集会 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Bodh-c.,
 Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Saddh-p.,
 Śikṣ., Suvik. → sukha~.
 samvāsānukūlatā ㊦ ㊦ 随順同行 Sūtr.
 samvāsānvaya ㊦ ㊦ 共住, 共住多時, 於長時
 彼住 Bodh-bh.
 samvāsika ㊦ ㊦ 住, 住者, 居 Mvyut. → a~

saṃ-vāsin 形 1. (一°)を着ている。2. 同棲する；
一°, に住む, 居住する； 住 Daś-bh. 男 同
棲者。

saṃ-vāśya, → a~.

saṃ-vāha 男 強要, 圧迫。

saṃ-vāhaka 形 (一°)をなでる。男, 女 (-ikā) 按摩。

saṃ-vāhana 甲 (雲の) 通過；(手で, 土hasta-, 四肢等
を, 一°)を撫でさすること； 按摩, 揉拭, 著
実麻 Mvyut. → parimardana~.

saṃ-vāhita 過受分 按摩 Lal-v.

saṃ-vāhya 未受分 運ばれるべき；(a~ の形で) 示
されるべき。

saṃ-vigna 過受分 → Vij.； 厭悪, 厭離, 懊
惱, 心驚, 生怖畏, 大悲惱, 懷恐懼 Buddh-c., Di-
vy., Lal-v.

saṃvigna-cetas 形 悲深 Sūtr.

saṃ-vighnita 過受分 → vighnaya.

saṃ-Vij, → Vij.

saṃ-vi-Jñā, → Jñā.

saṃ-vijñāna 甲 含蓄；知識。

saṃvijñāna-bhūta 過受分 一般に知られた。

saṃ-vitti 女 知識；(一°)の知覚または感覚； 思
惟 Bodh-c.

saṃ-Vid 1., → Vid 1.

saṃ-vid 2. 女 因 圍(一°)の意識；知識；(一°)に関
する理解, 一致, 契約(普通の意味)；圍(一°)の感情；
企て, 計画；(一°)についての会話；一般に承認さ
れた慣例, 習慣；名；満足； 悟, 無礙解, 無
礙弁 Bodh-bh., Nyāy-pr. ~am Kṛ, sthāpaya ま
たは vi-DHā (一°)に関して (為, 不定) するべく,
(男 土saha, 女)と協定する。~am laṅghaya または
vy-ati-Kram 協定を破る。

saṃ-Vid 3., → Vid 2.

saṃ-vid 4. 女 獲得, 財産 (因)。

saṃ-vida 形 (a~ の形で) 意識している (Br.)。甲
(おそらく saṃvid の 不確) 一致； 悟 Nyāy-pr.

saṃ-vidāna 現分 → Vid 2.

saṃ-vidita 過受分 → Vid 1.； 正知 Vijñ-t. →
a~.

saṃ-vi-DHā, → DHā.

saṃ-vidhā 女 配列, 工夫, 準備；生活方式； 方
便 Bodh-bh.

saṃ-vidhātavya 未受分 配列されるべき, 工夫され
るべきまたは取り扱われるべき。甲 罪人 行なわれる
べきである。

saṃ-vidhātṛ 男 配列者, 制定者, 創造者, 神。

saṃ-vidhāna 甲 配列, 工夫, 準備； 稽留 Bo-
dh-bh. → upāya~.

saṃ-vidhānaka 甲 特殊な行動様式。

saṃ-vidhi 男 配列, 準備, 用意。

saṃ-vidheya 未受分 実行されるべき。

saṃ-vi-BHaj, → BHaj.

saṃ-vibhajana 甲 分けもつこと； 施 Gand-vy.

saṃ-vibhajaniya 未受分 (為)の間で分配されるべき。

saṃ-vibhāga 甲 分割, 他人と分配すること；(為,
因)に分け前を与える；(一°)の授与または分配；

(一°)に参加させること；(命令を, 一°)与えるこ
と；分け前； 施, 分, 捨, 均布, 惠施, 分与,
供給, 分施, 等施, 令他解, 分布施, 分布施与, 平
等分布 Av-ś., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Mvyut.,
Saddh-p., Śikṣ., Sūtr. ~m Kṛ 固 (ある人：為)と
(何か：為)に参与する； 靡不均瞻 Gand-vy.

saṃvibhāga-kriyā 女 給施, 行惠施 Bodh-bh.

saṃvibhāga-śīla 形 他人と分配することに慣れた；
性, 能…平等分布；等施施捨, 尚好等施 Bo-
dh-bh.：~o BHū 尚好等施 Bodh-bh. 363.

saṃvibhāgasīlatā 女 善共同戒 Sam-r.

saṃ-vibhāgitva 甲 他人と分け合う徳。

saṃ-vibhāgin 形 他人と分つことに慣れた, (為)と分
つ習慣の；(為)の分け前を受ける。

saṃ-vibhāgya 形 (ある物)を贈られるべき。

saṃ-vi-BHṛ, → BHṛ.

saṃ-vi-Mṛś, → Mṛś.

saṃ-Viś, → Viś.

saṃ-viṣṭa 過受分 → Viś.

saṃ-vi-Has, → Has.

saṃ-vi-Īkṣ, → Īkṣ.

saṃ-vita 過受分 → Vyā； 圍繞 Buddh-c. 甲
着物。

saṃ-Vṛ, → Vṛ 1.

saṃ-Vṛj, → Vṛj.

saṃ-vṛj 男 専用者, 掠奪者 (因)。

saṃ-Vṛt. (固) saṃvartate 有, 起；能住；令…
得；破壊 Bodh-bh., Ratna-ut. → Vṛt.

saṃ-vṛta 過受分 [Vṛ 1.] 閉じられた, 閉じられた(発
音器官によって)発音された； 閉, 護, 栓,
蔵, 密, 有護, 防護, 防禦, 防禁, 密護, 攝護, 覆
身, 善禁, 得律儀 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh.,
Daś-bh., Mvyut., Śikṣ. → a~.

saṃvṛtatā 女 閉じられた状態。

saṃvṛtatva 甲 [同上].

saṃvṛta-mantra 形 (自分の)考えを胸に秘めてもら
さない。

saṃvṛtamantratā 女 もくろみを秘密にして置くこ
と。

saṃvṛta-śīlin 形 善護律儀戒 Bodh-bh.

saṃvṛtātman 形 能自防禁 Bodh-bh.

saṃ-vṛti 女 閉鎖；隠すこと, 秘密を守ること；隠
蔽, 偽善； 俗, 世, 護, 律儀, 世俗, 生死,
世説, 世諦, 世俗説, 隨俗説, 世俗理趣 Abh-vy.,
Bodh-bh., Daś-bh., Lank., Madhy-vibh., Mvyut.,
Sam-r., Śikṣ., Sūtr., Suvik.

saṃvṛti-jñāna 甲 世俗智 Bodh-bh., Mvyut.；
知俗諦 Mvyut.

saṃvṛti-naya 男 世俗理趣 Bodh-bh.

saṃvṛti-pada-sthāna 甲 世諦 Ratna-ut.

saṃvṛtimat 形 偽り隠すことが出来る..

saṃvṛti-lakṣaṇa 甲 世諦相 Sūtr.

saṃvṛti-sat 甲 俗有, 施設有 Abh-vy.

saṃvṛti-satya 甲 世諦, 俗諦, 世俗諦, 俗諦力
Bodh-bh., Mvyut., Ratna-ut.

saṃvṛtisatyatā 女 世諦, 世諦之實 Sūtr.

samvṛtisatya-dharmatā 女 世諦第一義諦 *Sūtr.*
 samvṛtisatya-yoga 男 世諦第一義諦相応 *Sūtr.*
 sam-vṛtta 過受分 → Vṛt.; 長, 生, 入, 到,
 円, 壊己, 己壊, 入昇, 長大, 円満, 壊已(空), 能
 成弁 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Divy.,*
Mvyut., Ratna-ut.: ~o bhavati tathāgatakule
 長如来家 *Bodh-bh. 339.*
 samvṛtta-skandhatā 女 肩 *Ratna-ut.*
 sam-vṛtti 女 共同のまたは連合の仕事; (samvṛti およ
 び多分 sad-vṛtti の 不確); 世俗 *Madhy-vibh.*
 samvṛtti-kāyatā 女 世俗体 *Ratna-ut.*
 samvṛtti-satyatva 中 俗諦, 世俗諦 *Madhy-*
vibh.
 sam-vṛddha 過受分 → Vṛdh.; 長大, 増長,
 所生育, 年既長大 *Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v.*
 sam-vṛddhi 女 發達; 力.
 sam-Vṛdh, 自 (他) samvardhate(-ti) 使役 増長
Ratna-ut. → Vṛdh.
 sam-vega 男 烈しい興奮または動揺; 激越, 強度, 高
 度; 厭, 厭悪, 厭離, 可厭, 紛擾, 憂惱, 怖
 畏, 厭(怖), 遠離, 戰慄, 厭離心, 怖畏心, 永倦
 怠, 諸倦怠 *Av-ś., Aṣṭ-pr., Buddh-c., Bodh-bh.,*
Daś-bh., Divy., Madhy-vibh., Mvyut., Rāṣṭr.,
Śikṣ. → a~.
 sam-vejana 中 呵, 厭離 *Bodh-bh., Prāt-m.;* 覺
 悟 *Sūtr.*
 sam-vejaniya 未受分 可厭, 可畏 *Bodh-bh.,*
Divy.
 sam-vejita 使役 過受分 知畏, 起厭心 *Divy.,*
Madhy-v.
 sam-veda 男 知覚, 意識.
 sam-vedana 中 知識; 感覺, 知覚; 告知, 報知;
 覺, 親 *Mvyut.*
 sam-vedya 未受分 (一°) から知られるべきまたは学
 ばれるべき; (一°) にわかりやすい; (因) に知らさ
 れるべきまたは伝えられるべき.
 samvedyatā 女 (因) にわかりやすいこと.
 sam-Vell, → Vell.
 sam-vellita 過受分 → Vell.
 sam-veśa 男 入ること(因); 臥すること, 眠ること,
 (塞); 部屋 (P. まれ).
 sam-veśana 形 (因-i) 臥させる(因), 中 臥すること,
 眠ること(因, 塞); 同棲 (S., 翕).
 sam-veṣita 過受分 住 *Gaṇḍ-vy.*
 sam-Veṣṭ, → Veṣṭ.
 sam-veṣṭa 中 (一°) に包むこと; 覆い. 一° 形…
 に包まれた.
 sam-veṣṭana 中 共に巻きあげられること.
 sam-Vyac, → Vyac.
 sam-vyavasya 未受分 [Sā] 決定されるべき.
 sam-vyavaharaṇa 中 日常生活において和合すること
 または折り合うこと.
 sam-vyavahāra 男 (因) との交際; (一°) に従事する
 ことまたはに耽溺すること; 商取引; 一般に理解され
 ている用語; 交, 言説, 所行, 言説事, 世間義
 説, 随世俗説 *Lank., Madhy-v.,* 梵千.: *sarva~*

āms ca laukikān 一切世俗法 *Madhy-v. 489. →*
loka~.

samvyavahāravat 男 実業家.
 sam-vy-ava-Hṛ, → Hṛ.
 sam-Vyā, → Vyā.
 sam-vyāna 中 包むもの, 布きれ, 上衣.
 sam-Śams, → Śams.
 sam-Śap, → Śap.
 sam-śapta 過受分 → Śap.
 saṃśaptaka 男 獨 (*Arjuna* を殺害しようと誓いつつ
 その計画半ばで滅亡した) 一味 (*Trigarta* およびか
 れの兄弟) (叙詩).
 sam-śabdana 中 記載 (時として 獨).
 saṃśabdaya, 名動 → śabdaya.
 sam-śabdita 過受分 名, 所表, 所説, 向所説,
 声所表 *Abh-vy., Bodh-bh., Lank.*
 sam-Śam, 名動 → Śam.
 sam-śamaka 形 除, 息滅, 能息, 能除 *Bodh-*
bh.
 sam-śamana 形 (因-i) 静める, 和らげる. 中 和解
 鎮静剤; 除, 息, 療, 消滅, 滅除, 能除 *Be-*
dh-bh., Gaṇḍ-vy. → vyādhi~.
 saṃśamita-kāma 形 欲除 *Bodh-bh.*
 sam-śaya 男 [Śi] (prati-, 歷, 一°) に関する疑い
 疑わしさ, 不確実さ, 懸念, ためらい; 疑わしい
 柄; (因, 因, 一°) に対する危険, 冒険; (次に
 を伴って)…か否かは疑わしい; 疑, 狐疑, 疑惑
 疑心, 疑網, 疑慮, 猶予, 愚痴網 *Abh-vy., Aṣṭ-pr.*
Bodh-bh., Bodh-c., Divy., Gaṇḍ-vy., Lank.
Mvyut., Nyāy-pr., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p.
Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr. nāsti (atra) ~
nātra ~h, na ~h (きわめて普通) および na hi ~h (
末にあって) 疑いなし, 疑いもなく.
 saṃśaya-kara 形 (因-i) (一°) に危険をもたらす
 saṃśaya-ccheda 男 断, 断疑, 疑網咸為決
Gaṇḍ-vy., Sūtr.
 saṃśaya-cchedana 中 除疑, 疑断, 断疑, 断
 疑, 有疑…決断, 能积衆疑 *Sūtr.*
 saṃśaya-cchedikatva 中 善断疑 *Sūtr.*
 saṃśaya-cchedin 形 (すべての) 疑いをぬぐい去る
 疑う余地のない.
 saṃśaya-cchedya 未受分 疑いの除去を必要とす
 (訴訟).
 saṃśaya-jahā 女 断疑 *Sūtr.*
 saṃśaya-nāśa 男 断疑網 *Sūtr.*
 saṃśaya-prāpta 形 疑惑, 随疑網, 心生疑念
 心生疑惑, 生疑惑心 *Aṣṭ-pr., Saddh-p., Suv-pr.*
 saṃśaya-vicchedin 形 能断諸疑網 *Sūtr.*
 saṃśaya-vinaya 形 断疑 *Sūtr.*
 saṃśaya-vimati 女 疑惑 *Gaṇḍ-vy.*
 saṃśaya-hānibodha 男 断疑覚 *Sūtr.*
 saṃśayātmaka (°ya-āt°) 形 疑いを受けやすい,
 疑わしい (方便).
 saṃśayātman (°ya-āt°) 形 懷疑にふける, 決断;
 ない.
 saṃśayālu 形 (因) に関して疑いを抱く; 懷疑的;

saṃśayāvaha (°ya-āv°) 形 (屬, 一°) に危険を生ずる。

saṃśayita 過受分 → Śi 2.; 起疑, 疑惑, 生猶予, 生疑念, 墮在疑網, 未断疑者 *Ast-pr.*, *Daś-bh.*, *Sūtr.* 甲 疑い, 不確定。

saṃśayita-jivita 形 生命が危険にひんしている, 生命を賭ける。

saṃśayitavya 未受分 疑わしい。

saṃśayocchedin (°ya-uc°) 形 疑惑を断つ。

saṃśayopacchedana (°ya-up°) 甲 漢訳 断疑 *Sūtr.*

saṃśayopamā (°ya-up°) 因 疑問の (形で表現された) 比喩。

saṃśaraṇa 甲 (ある人のところ) に避難すること。

saṃ-Śā, → Śā 2.

saṃśānta 過受分 → Śam 2.

saṃśānti 女 消滅。

saṃ-Śās, → Śās.

saṃ-Śikṣ, → Śikṣ 1.

saṃśita 過受分 → Śā 2.

saṃśita-tapas 因 厳しい苦行に身をまかせた。

saṃśita-vāc 形 荒々しい言葉を用いるまたは鋭い語調で語る。

saṃśita-vrata 形 自身の誓いを固く守る, 義務に忠実な, 正直な, 有徳の。

saṃśitātman (°ta-āt°) 形 堅く決心した。

saṃśiti 女 鋭くすること (Br.).

saṃ-Śi, → Śi 2.

saṃśita 形 寒冷な。

saṃśiti 女 疑い。

saṃśirṇa 過受分 墮落 *Saddh-p.*

saṃśilana 甲 実行; (具) との頻繁な交際。

saṃ-Śuc, → Śuc.

saṃśuddha 過受分 → Śudh.; 清浄 *Guhy-s.*

saṃśuddha-kilbiṣa 形 罪から浄められた。

saṃśuddhi 女 清浄; 清浄 *Sūtr.*

saṃ-Śudh, → Śudh.

saṃ-Śubh, → Śubh 2.

saṃ-Śuṣ, → Śuṣ 1.

saṃśuṣka 形 乾燥した, 渴いた, 萎んだ, しなびた, 衰弱した; 乾枯, 消尽, 枯槁 *Lal-v.*, *Saddh-p.*

saṃśuṣka-māṃsa-tvak-snāyu 形 肉・皮膚・筋が全く萎縮した。

saṃśūna 過受分 → Śvā.

saṃ-Śī, → Śī.

saṃśoka-ja 形 湿熱から生じた。男 湿熱から生じた害虫。

saṃśodhaka 形 止息, 能令…焦乾枯渴 *Suv-pr.*

saṃśodhana 形 (女 -i) 純化する。甲 清め。

saṃśodhita 過受分 → Śudh.

saṃśobhita 使役 過受分 → Śubh 2.; 莊嚴, 極嚴浄 *Diry.*

saṃśoṣana 甲 乾燥。

saṃśraddhāya 不変分 絶対的信仰を持って。

saṃ-Śram, → Śram.

saṃśraya 男 (屬, 一°) との関連, 結合; 相互防衛

のための同盟; 隠れ家, 避難所, 保護, 救護所; 住居, 居住; 言及, 閑説; (属, 一°) に助けを求めること (まれ); …へ頼ること, 熱中または専念; 依, 依附 *Bodh-bh.*, *Ratna-ut.* ~āt 因 (一°) の結果として; (一°) の助けによって, (一°) によって, 一° 形 …に住む, …に生活する, (師匠) のところに滞在する, (船) の中にいる, …の中にまたはの上にある, …の近くに生長する (樹木); …に閑説または言及する; …に献身している, …を実行している。

saṃśrayaṇa 甲 依, 取 *Abh-vy.*

saṃśrayaṇiya 未受分 …に頼らされるべき, …避難されるべき。

saṃśrayaṇiyatā 女 [同上の 因]。

saṃśrayatva 甲 依 *Bodh-bh.*

saṃśrayitavya 未受分 避難所として求められるべき (とりで)。

saṃśrayin 形 (ある人) の保護を求めるまたはに仕える; (一°) に住む・休むまたは滞在する, (一°) の中にまたはの上にある。男 従者, 召使い。

saṃśrava 男 聞くこと; 聴力の及ぶ距離; 約束; 聞, 聴 *Sūtr.* ~e 因 (屬) の聞こえる範囲内で。形 聴覚によって把握得る。

saṃśravaṇa 甲 聞くこと, (一°) について聞くこと; 声の届く距離。~e 因 聞こえる範囲内で, 声高く。

saṃśrānta 過受分 → Śram.

saṃśrāvaṇa 甲 令聞 *Sūtr.*

saṃśrāvayitṛ 男 宣言者, 報知者。

saṃśrāvita 使役 過受分 → Śru.; 得聴受 *Saddh-p.*

saṃśrāvita 形 聞 (法) 者, 聴受者 *Saddh-p.*

saṃśrāvya 未受分 (業) を聞かしめられるべき。

saṃ-Śri, → Śri.

saṃśrita 過受分 → Śri.; 趣, 座, 依止, 依処 *Divy.*, *Lank.*: vanam ~h 趣於山林 *Divy.* 62。男 従者, 召使い。

saṃśritavat 過能分 (具) にすぎる, …と結婚した。→ Śri.

saṃśritavya 未受分 saṃśrayitavya の 不確。

saṃ-Śri, → Śri 2.

saṃ-Śru, → Śru 1.

saṃśruta 過受分 → Śru 1.

saṃśrutya 男 [*Viśvāmitra* の息子の名]。

saṃ-Ślāgh, → Ślāgh.

saṃśliṣ, 他 因 saṃśliṣyati (-te) 現生 *Ratna-ut.* → Śliṣ.

saṃśliṣṭa 過受分 → Śliṣ.; 和合 *Ast-pr.*

saṃśliṣṭa-karman 形 その行為において (善悪が) 区別されていない, (自分の) 行為 (の道徳性) に関して無頓着な。

saṃśliṣṭa-sarira-kārin 形 身体を一緒にするすなわち一緒に住んでいるまたは生活している。

saṃśleṣa 男 (屬, 一°) との合併・結合または接触; 抱擁; 遮, 互触, 相触, 聚合 *Abh-vy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*; 服 *Buddh-a.*: kāṣṭha ~ 服製 *Bu*

ddh-c. 83. ~ṃ Labh 到達する。
 saṃ-śleṣaṇa 甲 結合すること；繋ぎ合わす手段，絆。
 saṃ-śleṣita 使役 過受分 → Śliṣ.
 saṃ-śleṣin 形 結合する。
 saṃ-ślokaya, 名動 → ślokaya.
 saṃ-Śvi, → Śvi (Śvā).
 saṃ-sakta 過受分 → Sañj; 樂，計著 *Lank.*
 → a~.
 saṃsakta-jala 形 一° と合流するまたは混合する。
 saṃsaktatā 因 執着の状態。
 saṃsakta-manas 形 ある対象に心が結合された。
 saṃsakta-yuga 形 くびきをかけられた，馬具を付けられた。
 saṃsakta-vadanāśvāsa (°na-ās°) 形 (息を口に固着させた) 息を殺した。
 saṃsakta-hasta 形 (一°) と手を結んだ。
 saṃ-sakti 因 (一°) との親密な結合または密接な接触。
 saṃ-saṅga 男 結合。
 saṃ-saṅgin 形 (因 -i) …に執着した，…を固守する，…と密接に結合した。
 saṃsaṅginitva 甲 (一°) と密接に結合していること。
 saṃ-Sac, → Sac.
 saṃ-Sañj, → Sañj.
 saṃ-Sad, → Sad.
 saṃ-sad 因 (共に座すること)，会合；宮廷または法廷；仲間，群集。
 saṃ-saraṇa 甲 彷徨うこと；輪廻，(輪廻の連続としての) 現世の生存；生死 *Sūtr.*
 saṃsaraṇa-dharmin 形 有流転法 *Suvik.*
 saṃ-saratā 因 生死，流転 *Bodh-bh., Sūtr.*
 saṃ-sarga 男 (圓，圓，一°) との結合・連合または接触；(一°) への耽溺または参与，(一°) との混合；(感覚世界との) 接触，官能的耽溺 (覆)；(圓 ± saha, 圓，因，一°) との社会的接触，結合または交際；(圓 + saha, 圓，一°) との性交；雜，近，会，触，相触；合，合時；親，親近；所合，相雜；共合，群衆，慣鬧，和合，聚集，習俗，喧嘩，交会，擾乱，合集，雜談説，相雜住，和合処，所耽着，所執着 *Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Daś-bh., Divy., Kāśy., Lank., Madhy-v., Mvyut., Ratna-ut., Saddh-p., Śikṣ., Suv-pr.*
 saṃsargata 形 処雜衆 *Bodh-bh.*
 saṃsarga-parikṣā 因 [中論第十四品の名]；觀合 *Madhy-v.*
 saṃsarga-doṣa 男 (一°) (特に悪人との) 交際によって生ずる過失または悪い結果。
 saṃsargadoṣatva 甲 [同上の 因]。
 saṃsarga-bahula 形 多所耽着，多有擾乱，多所執着 *Sikṣ.*
 saṃsargavat 形 (一°) と接触したまたは結合した。
 saṃsarga-vidyā 因 人々と交際する技術，社交の知識。
 saṃsarga-viveka 男 (遠) 離慣鬧 *Bodh-bh.*
 saṃsarga-saṃganika 形 慣鬧 *Śikṣ.*
 saṃsargitā 因 社会的關係。

saṃsargin 形 (一°) と結合した；(一°) を所有する。
 saṃ-sarjana 甲 (圓) との混合，結合；自身に近づけること，(屬) との和解。
 saṃ-sarpa 男 [第十三月の名 (因，圓)]。
 saṃ-sarpaṇa 甲 (屬) の上昇；這うこと，滑る動作。
 saṃ-sarpat 現分 匍匐する，滑る，流れる。
 saṃsarpad-dhvajini 因 進軍中の軍隊。
 saṃsarpaddhvajini-vimarda-vilasad-dhūli-maya 形 (因 -i) 形 進軍する軍隊の足踏みよって起こる塵埃でいっぱい。
 saṃ-sarpamāṇaka 形 這う，滑る。
 saṃsarpitā 因 (一°) への拡張。
 saṃ-sarpin 形 …に沿って這う；泳ぎまわる；…を滑る，(一°) に広がる。
 saṃ-sava 男 同時に行なう Soma 祭，(二人の競争者が同時に Soma 祭を行う時に起る) 供儀の混乱 (罪と考えられる) (*Br., S.*)
 saṃ-Sah, → Sah.
 saṃ-sādana 甲 拒而不答 *Bodh-bh.*
 saṃ-Sādh, → Sādh.
 saṃ-sādhaka 形 征服または獲得せんと欲する。
 saṃ-sādhana 甲 準備；遂行，成就；成就，正成 *Bodh-c., Śikṣ.*
 saṃ-sādhya 未受分 成就されるべき；獲得されるべき；打ち勝ち得る。
 saṃ-sāra 男 輪廻，(生の) 不断の連続，生存の循環，(あらゆる苦を伴った) 現世の生存；有，海，生死，輪廻，輪転，遊行，世間，輪回，生死流転，生死輪転，無始生死，生死之苦 *Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Av-ś., Buddh-c., Bodh-bh., Bodh-c., Divy., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lal-v., Lank., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Raṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Saṃkhy-k., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr. Vajr-pr. ā ~āt* 世界の始めから。
 saṃsāra-kūpa 男 現世的生存の陥穽。
 saṃsāra-gata 形 生死 *Sūtr.*
 saṃsāragata-prayoga 男 世間行 *Ratna-ut.*
 saṃsāra-gamana 甲 一つの生存の状態から他の生存の状態へ移ること，輪廻。
 saṃsāra-cakra 甲 輪廻の輪；生死輪廻 *Suv-pr.*
 saṃsāra-cārika 形 輪廻行，生死行 *Aṣṭ-pr.*
 saṃsāra-tantu 男 輪廻の糸。
 saṃsāra-taru 男 輪廻の樹木。
 saṃsāra-duḥkha 甲 輪廻の苦痛または悲哀；生死苦，世間苦 *Ratna-ut., Saddh-p.*；生死苦惱 *Sūtr.*
 saṃsāra-dharma 男 生死法 *Sapt-pr.*
 saṃsāra-nadi 因 生死河 *Śikṣ.*
 saṃsāra-nirvāṇa 甲 生死涅槃 *Sūtr.*
 saṃsāranirvāṇa-mukha-saṃdarsaka 男 開示輪廻涅槃門者 *Mvyut.*
 saṃsāranirvāṇa-samatā 因 世間涅槃平等 *Ratna-ut.*
 saṃsāranirvāṇāpti-mārga (°na-āp°) 男 世間涅槃道平等 *Ratna-ut.*
 saṃsāranirvāṇāsambhinna 形 生死涅槃無二別 *Gaṇḍ-vy.*

saṃsāra-nīṣṭita 過受分 著於生死 *Gaṇḍ-vy.*
 saṃsāra-nīṣevāṇa 中 親近生死 *Sūtr.*
 saṃsāra-patita 過受分 墮生死, 墮生死 (海) *Bodh-bh.*
 saṃsāra-padavi 女 現世的生存の道, 世間の路.
 saṃsāra-paritāpa 男 =saṃsāraduḥkha.
 saṃsāra-parivartana 中 輪廻の回轉.
 saṃsāra-parīśrama 男 輪廻の勞苦まれば苦惱.
 saṃsāra-pāśa 男 生死羂索, 生死羅網 *Suv-pr.*
 saṃsāra-pura 男 生死城 *Śikṣ.*
 saṃsāra-pravartaka 形 住世間 *Ratna-ut.*
 saṃsāra-bandhana 中 輪廻の繫縛.
 saṃsāra-bija 中 世種子, 生死種 *Lank.*
 saṃsāra-bhāga 男 現世の諸事, 世事.
 saṃsāra-bhāva 男 輪廻の生存.
 saṃsāra-bhīta 過受分 生死畏 *Sūtr.*
 saṃsāra-bhīru 形 怖畏於流轉 *Saddh-p.*
 saṃsāra-maṇḍala 男 中 輪廻の円環.
 saṃsāra-mārga 男 =saṃsārapadavi.
 saṃsāra-mūla 中 生死…根本 *Madhy-v.*
 saṃsāra-mokṣa 男 輪廻からの解放・解脱.
 saṃsāra-yāna-gotra 中 生死乗性, 世間所有乗性 *Lank.*
 saṃsāra-rātri 女 生死夜 *Gaṇḍ-vy.*
 saṃsāra-lagna 過受分 貧著於生死 *Saddh-p.*
 saṃsāra-vana 中 輪廻の森林.
 saṃsāra-vartmātyantānupaccheda 男 生死險道 不断絶 *Sūtr.*
 saṃsāra-vartmojjihita (°ma-uj°) 形 在世間險道 *Ratna-ut.*
 saṃsāra-śānty-eka-rasa 男 生死涅槃體是一味 *Sūtr.*
 saṃsāra-saṃsṛti 女 生死流轉 *Bodh-bh.*
 saṃsāra-saṅga 男 現世的生存への執着.
 saṃsāra-saṃgraha 男 著世間 *Lank.*
 saṃsāra-samudra 男 輪廻の海
 saṃsāra-saraṇi 女 =saṃsārapadavi.
 saṃsāra-sāgara 男 =saṃsārasamudra; 生死 海, 生死大海 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*
 saṃsāra-srotas 中 生死, 輪廻, 生死流, 世間 生死苦惱, 世間生死溝波 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy.*
 saṃsāra-hetu 男 生死因 *Abh-k.*
 saṃsārāṭavi-kāntāra 男 中 輪廻曠野 *Mañj-m.*
 saṃsārātyāga 男 不捨於生死 *Sūtra.*
 saṃsārātyanta-vihārin 形 六恒住 *Suvik.*
 saṃsārānta 男 輪廻の終り.
 saṃsārāpakarṣaṇa 中 離於生死.
 saṃsārāparityāga 男 不捨衆生, 不捨濟群生 *Sūtr.*
 saṃsārābhimukha-sattva 男 現前世間門為衆生 *Ratna-ut.*
 saṃsārābhirati 女 樂著取世間 *Ratna-ut.*
 saṃsārāvarçāra 男 生死中, 流轉生死不能出離 *Aṣṭ-pr.*
 saṃsārāsaṃkleśa 男 不捨生死而不染 *Sūtr.*
 saṃsārōdadhi (°ra-ud°) 男 =saṃsārasamudra.

saṃsārin 形 遠くに広がる, 該博な(知性); 輪廻の; 輪轉, 流轉法 *Lank.* → a~. 男 生物または人間.
 saṃ-sikta 過受分 [°Sic] 水をふりかけられた, 濡らされた.
 saṃ-Sic, → Sic.
 saṃ-siddha 過受分 → Sidh 2.; 成, 成就 *Abh-k., Abh-vy., Lal-v.*
 saṃsiddha-rūpa 形 その形が回復された(人).
 saṃsiddhārtha 形 目的が完遂された.
 saṃ-siddhi 女 完成, 成就, 遂行, 成功; (一°)における完全; 成就諸吉祥, 成就諸功德 *Suv-pr.*
 saṃ-Sidh → Sidh 2.
 saṃ-sidanā 女 驚怖 *Sapt-pr.* → a~.
 saṃ-supta 過受分 → Svap.
 saṃ-Sū, → Sū 2.
 saṃ-sūcana 中 示現, (言葉を)発すること.
 saṃ-sūcaya, 名動 → sūcaya.
 saṃ-sūcita 過受分 表明・顕示・証明された.
 saṃ-Sṛ, → Sṛ.
 saṃ-Sṛj, → Sṛj.
 saṃ-sṛj 女 (獲物を)かき集めること (RV. 用例一回のみ).
 saṃ-sṛti 女 =saṃsāra, 輪廻等; 縛, 流轉, 生死, 輪轉 *Bodh-bh., Lank., Ratna-ut., Sūtr.*
 saṃsṛti-cakra-vāla 中 輪廻の円環.
 saṃ-Sṛp, → Sṛp.
 saṃ-sṛṣṭa 過受分 → Sṛj. 中 親密さ. ~m Car (因) と親しくなる; 合, 雜, 触, 狎, 染, 混, 相雜, 相応, 所繫, 所雜, 相合, 合法, 已合, 所有, 共有 *Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Lank., Madhy-v., Mvyut., Śikṣ.* → gaṇa~, a~, madhya~, palāṇḍu~.
 saṃsṛṣṭatva 中 [同上の 因].
 saṃsṛṣṭa-bhāva 男 親密な関係, 友情.
 saṃ-sṛṣṭi 女 結合 (因); 一文章中における二つの修辭法の結合 (因).
 saṃ-sṛṣṭin 形 (財産分割後以前の分割を無効にして再び) 共同生活する.
 saṃ-seka 男 (一°)によって濡らすこと
 saṃ-Sev, → Sev.
 saṃ-seva 中 近 *Bodh-bh.*
 saṃ-sevana 中 …の使用; …に身を曝らすこと; …に仕えること, 奉仕; 倚, 親近, 真實 *Bodh-bh., Mvyut.*
 saṃ-sevā 女 しばしば行くこと, 奉仕; 使用; (一°)に対する偏愛; 近, 親近 *Bodh-bh.*
 saṃ-sevita 過受分 屢々訪れられる, 奉仕される; 親近, 所親近 *Śikṣ., Sūtr.*
 saṃ-sevin 形 (一°)を崇拜する; 所授, 親近 *Aṣṭ-pr. : pāpamitra~ 悪友所授, 親近悪知識 Aṣṭ-pr. 649.*
 saṃ-sevya 過受分 しばしば行かれるべき, 訪問されるべき; 崇拜されるべき; 使用されるべき, 偏愛されるべき.
 saṃ-skarāṇa 中 準備, 火葬; 修治 *Śikṣ.* → abhi~.

saṃ-skartavya 未受分 準備されるべき。
 saṃ-skartṛ 男 (食物の) 準備者; (saṃskāra の儀式) の執行者; 印象を造り出すもの。
 saṃ-skāra 男 準備, (食物の) 仕上げ; (金属等の) 精製; (宝石を) 磨くこと; 清めること, 浄化すること; 粉飾, 飾りつけ, 装飾; (動植物を) 育てること; 化粧, 服装 (まれ); (言語の) 正しい構成または使用; 訓練, 教育; (発音または表現の) 正しさ; 浄めの儀式, (懐妊・誕生・修学等, 上層3カーストの全員に適用され得る) 家庭における浄化の儀式; (死者の) 浄化, 火葬(まれ); (すでに無作用となった, そして時として, 前生から始まった諸原因によって残された) 潜在印象; (3種があるすなわち vega, sthitishāpaka, bhāvanā); 残存する作用; (物質的な諸現象およびそれと関連した一切のもののように, 実際には存在しないとは言え, 心によって実在するものと見なされる) 心の創造 (仏教); 諸行, 諸行, 行陰, 業行, 資助, 將養, 功用, 所作, 有為行, 之余氣, 作非法之余氣 *Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lank., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr., Vaiś-s., 梵千: anityā bata ~ āh 諸行無常, 諸為皆無常 Abh-vy. 182. → abhi~, vak~.*
 saṃskāraka 形 準備する, 用意する; 清める, 浄化する; 潜在印象を残す。
 saṃskāra-kṣaṇa 男 諸行刹那 *Bodh-bh.*
 saṃskāra-gata 過受分 有為 *Daś-bh.*
 saṃskāra-gati 因 生死, 生死海底 *Sam-r.*
 saṃskāra-janman 中 行生 *Bodh-bh.*
 saṃskāratā 因 (saṃskāra = 潜在印象に終る合成語を指す 因)。
 saṃskāratva 中 裝飾. *cakṣuṣāṃ ~ ṃ sam-Āp* 眼の保養・法楽になる。
 saṃskāra-duḥkhatā 因 行苦, 行苦性 *Bodh-bh., Mvyut., Madhy-vibh., Sūtr.*
 saṃskāraduḥkhatā-satya 中 行苦実, 行苦性諦 *Bodh-bh.*
 saṃskāra-dvāra 中 諸行門 *Sam-r.*
 saṃskāra-naya 男 諸行法 *Sam-r.*
 saṃskāra-nāman 中 命名の儀式において新生児に与えられる名前 (=キリスト教における洗礼名に相当する)。
 saṃskāra-nirodha 男 行滅 *Suv-pr.*
 saṃskāra-nirdeśa 男 諸行行説 *Sam-r.*
 saṃskāra-paribhāṣā-dvāra 中 呵責有為門 *Sam-r.*
 saṃskāra-parikṣā 因 [中論第十三品の名] 観行 (品) *Madhy-v.*
 saṃskāra-pratyaya 男 行縁 *Suv-pr.*
 saṃskāra-bhūṣaṇa 形 正確さを裝飾とする(ことば)。
 saṃskāra-mātra 中 唯行, 唯諸行 *Bodh-bh., Sūtr.*
 saṃskāramaya 形 (一) の清めの儀式に存する。
 saṃskāra-yukti 因 諸行相応 *Sam-r.*
 saṃskāra-yoga 男 起勤 *Sūtr.*
 saṃskāra-lakṣaṇa 形 有為相 *Sūtr.*

saṃskāravat 形 文法的に正しい。
 saṃskāra-viśiṣṭa 形 準備によって立派にされたまたは上手な料理によって美味しくされた(食物)。
 saṃskāra-sampanna 形 立派な教育を受けた, よく教育された。
 saṃskāra-skandha 中 行蘊 *Mvyut.*
 saṃskārādimat (°ra-ād°) 形 saṃskāra の儀式等を受けた。
 saṃskārāsaṃskṛtatva 中 有為無為 *Sūtr.*
 saṃskārāsāratva-darśana 中 見一切行性不堅' 牢 *Bodh-bh.*
 saṃskāropalambha-jñāna (°ra-up°) 中 諸行取著智 *Sam-r.*
 saṃ-skārya 未受分 浄められるべき(人); 葬式によって浄められるべき(死体); 潜在印象を受ける。
 saṃ-s-Kṛ, → Kṛ 1.
 saṃ-skṛta 過受分 [Kṛ 1.] 準備された等; 有為, 有為諸法 *Abh-k., Madhy-v., Madhy-vibh., Rāṣṭr. → Kṛ. 中 準備, 準備された場所; 洗練された言語 (因: 俗語), サンスクリット語 (因); 作, 行, 有為, 所作, 為度, 和合, 相聚, 善相合 *Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Kāśy., Lank., Madhy-vibh., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ., Vajr-pr. : ~ ā dharmāḥ 有為法 Abh-vy. 19. → abhi~, a~.*
 saṃskṛtatva 中 有為 *Sapt-pr.*
 saṃskṛta-dharma 男 有為法 *Bodh-bh., Ratna-ut.*
 saṃskṛta-parikṣā 因 [中論第七品の名] 観三相 観有為, 観有為相 *Madhy-v.*
 saṃskṛta-pada 中 有為句, 有為見 *Lank.*
 saṃskṛta-pura 中 有為城 *Gand-vy.*
 saṃskṛta-lakṣaṇa 中 有為相, 有為之相 *Bodh-bh., Madhy-v., Ratna-ut.*
 saṃskṛta-lapitādhimukta 男 信樂典語衆生 *Bodh-bh.*
 saṃskṛta-sūnyatā 因 [十六空の一] 有為 *Madhy-vibh.*
 saṃskṛtātman (°ta-āt°) 男 saṃskāra の諸儀式を受けた人。
 saṃskṛtāsaṃskṛta 形 為無為, 有為無為 *Gand-vy., Lank., Madhy-vibh.*
 saṃ-skṛti 因 準備(因); 形成(Br.); 浄化, 清め(因)。
 saṃskṛtokti (°ta-uk°) 因 洗練された表現。
 saṃskṛtopaskārā (°ta-up°) 形 家具家財のきわめて適切な, 注意の行き届いた(女)。
 saṃ-skriyā 因 準備, 形成。
 saṃ-skhalita 中 誤り, 誤謬。
 saṃ-stabdha 過受分 善聚 *Sūtr.*
 saṃ-Stambh, → Stabh.
 saṃ-stambha 男 堅固, 頑強, 抵抗, 固着力, 執拗 頑固。
 saṃ-stambhaniya 未受分 強固にされるべき, 勇気 けられるべき。
 saṃ-stambhayitṛ 男 止めるまたは抑制するもの, 制するもの; 支持するもの, 支持者。*

saṃ-stambhayiṣu 形 (退却する軍隊を)止めまたは停止させようと欲する。

saṃ-stambhin 形 止める, (危険を)さける。

saṃ-stara 男 [Stf] (草の)層, 寝台; (一°, 花の)まき散らされた量; 覆うこと; まき散らすこと (異読: saṃstarāṇa); 座, 敷, 蓐, 鋪, 布, 散, 坐具, 敷具, 臥具, 坐臥具 Av-ś., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Mvyut., Prāt-m., Rāṣṭr., Saddh-p.: tṛṇa ~ 草座, 鋪草, 草鋪地, 草布地 Divy. 424, Saddh-p. 421.

saṃstaraka 男 草の褥; (=Pali saṃtharaka) 覆, 蓋, 筵 Mah-v.

saṃstarāṇa 中 (葉等の)層, 寝床; 撤布すること, 覆うこと。

saṃstarāṇaka 男 褥, (所臥)褥処 Divy.

saṃstarika 男 敷座 Aṣṭ-pr. → yathā ~, yāthā ~.

saṃ-stava 男 一斉の称讃 (まれ); 称讃, 讚辞 (圍, 國); 言及 (まれ); (圍士 saha, 一°)との知り合い; 親, 串習, 讚歎, 称讃, 数習, 親近 Bodh-bh., Bodh-c., Lal-v., Lan̄k., Madhy-vibh., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ.: ~ m Kṛ 親近 Rāṣṭr. 19.

saṃstava-prīti 因 面識から起る情愛。

saṃstāra-pāṅkti 因 [韻律(12×8×8×12音節)の名]。

saṃ-stāva 男 合唱隊の場所または位置; 合唱による称讃。

saṃ-stirṇa 過受分 → Str; 布 Gaṇḍ-vy.: su-varṇavālikā ~ tala 底布金沙 Gaṇḍ-vy. 418., suvarṇavālukā ~ 金沙布底 Gaṇḍ-vy. 360. → a ~.

saṃ-stīrya 不変分 → Str.

saṃ-Stu, → Stu 1.

saṃ-stuta 過受分 Stu 1.; 熟, 称揚, 称歎, 所歎, 識, 知識, 慣習, 會習, 串習, 数習, 情交者 Bodh-bh., Kāśy., Mvyut., Saddh-p., Vijñ-t.: ~ vastu 慣習事, 串習事, 會習事 Vijñ-t. 25. → a ~.

saṃstutaka 形 引説 Mvyut.

saṃstutatva 中 称賛されるまたはすでにされている状態。

saṃ-stuti 因 称賛, 賛辞; 譬喩的表現法; 随親友 Mvyut.

saṃstutikā 因 知友 Divy.

saṃ-stūpa 男 集聚 Mvyut.: abhinnaḥ ~ ḥ 具 無逆集聚 Mvyut. 63.

saṃ-Str, → Str.

saṃ-strta 過受分 [Str]; 覆, 布, 遍布, 鋪排, 鋪列 Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Sukh-vy. II.

saṃ-styāya 男 [Styā]. 蓄積; 居住, 住所, 家。

saṃ-stha 因 (因, 一般には一°)に立っている・住している・ある・存しているまたは含まれている; (因または一°)にまたはとともにある=に属する; (一°)に基礎づけられたまたは依存している; (一°)を所有している; (一°)永続する (まれ)。男 (RV., 因のみ) 衝突: ~e (圍)のまん中または面前で; 住 Sūtr. → ātma ~.

saṃ-Sthā, → Sthā.

saṃ-sthā 因 (一°)と共に滞在または居住すること (叙述, まれ); 形, 外觀 (圍); 確立された秩序, 標準, 規則 (圍); 状態, 状況, 本性 (圍); 完成, 終結 (因); 終, 死 (P.); (祭式の基本的)形式 (Jyotiṣṭoma, Haviryajña および Pākayajña は7つのこのような形式をもつ); 自国内のスパイ (まれ); 一° 形 -a …の形を持つ, …として現われている。

saṃsthā-kṛta 形 確立された, 確定された。

saṃsthāgāra (°thā-āg°) 男 中 (=Pali saṃthāgāra) 会場, 集会所; 大殿 Lal-v.

saṃsthātva 中 形体であること。

saṃ-sthāna 中 地位, (一°, ある場所における)状態 (戦闘において)決然と立つこと; 生存; 生活; (一°)を墨守すること; 住所; (町の中の)公共の場所; 形, 形体, 外觀 (普通の意味; しばしば rūpa とともに); 状態, 状況, 性質 (まれ); 集合 (まれ); 形, 相, 貌, 住, 状, 如, 形色, 形相, 形状, 形量, 形貌, 形如, 標幟 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Lan̄k., Mañj-m., Ratna-ut., 梵千。

saṃsthāna-bhukti 因 (kālasya とともに)種々な期間を通過すること。

saṃsthāna-rūpa 中 形色 Mvyut.

saṃsthānavat 形 存在する; 種々な形を持つ。

saṃsthāna-vinivṛtti 因 形処壊, 形相休息, 形処変壊 Lan̄k.

saṃsthāna-saṃpanna 過受分 形成就 Sūtr.

saṃ-sthāpaka 形 確立させる。

saṃ-sthāpana 中 (圍, 一°)の固定, 樹立, 設立; (圍, 一°)の確立; (一°)の規制; 助発 Saddh-p.

saṃ-sthāpanā 因 元気づけること, 鼓舞すること。

saṃ-sthāpayitavya 未受分 元気づけられるべきまたは慰められるべき。

saṃ-sthāpita 過受分 → Sthā; 留, 命 Divy., Lal-v.

saṃ-sthāpya 未受分 圍:(圍)の(支配下に)置かれるべき; (圍)の(心: 因)に印象づけられるべき; 因: 終結されるべき(祭式)。

saṃsthāvayavavat (°thā-av°) 形 形と部分とを備えた。

saṃ-sthita 過受分 → Sthā; 有, 住, 処, 行詣, 変為, 所住, 趣求, 安住, 正安住 Guhy-s., Lal-v., Lan̄k., Mañj-m., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr.

saṃ-sthiti 因 圍:(圍, 因)との結合; (因, 一°)の上にあるまたは基づいていること; 地位; (因)に住まうこと, 滞在すること; 持続, 継続; 忍耐 (まれ); (因)を重要視すること; (圍, 一°)の存在・可能性; 形; 確立された秩序; 状態, 性質; 因: 終結 (まれ); P.: 終, 死 (まれ)。

saṃ-Snā, → Snā.

saṃ-Spand, → Spand.

saṃ-spardhā 因 競争, 嫉妬。

saṃ-spardhin 形 (一°)と競う; 嫉む。

saṃ-sparśa 男 (一°, との)接触, 交渉; 触。

- 捉, 捉持; 楽触身 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Lan̄k., Mādhy-v., Mvyut., Ratna-ut., Sūtr.*
- saṃsparśa-ja 形 触 *Ratna-ut.*
- saṃ-sparśana 形 接触する。 田 接触。
- saṃ-sparśin 形 接触する。
- saṃ-spaṣṭa 過受分 → *Spaś.*
- saṃ-Sprś, → *Sprś.*
- saṃ-sprś 形 接触する。
- saṃ-sprṣṭa 過受分 → *Sprś; 雜, 雜碎 Daś-bh. → a~tā.*
- saṃ-Sprh, → *Sprh.*
- saṃ-Sphur, → *Sphur.*
- saṃ-sphoṭa 男 激動。
- saṃ-smaraṇa 田 記憶すること, 回想すること。
- saṃ-smaraṇiya 未受分 記憶されるべき, 記憶の中でのみ生きている。
- saṃ-smartavya 未受分 記憶されるべき。
- saṃ-smāraṇa 田 (家蓄を) 数えること。
- saṃ-smārīta 使役 過受分 → *Smr.*
- saṃ-Smi, → *Smi.*
- saṃ-Smr, → *Smr.*
- saṃ-smṛta 過受分 → *Smr.*
- saṃ-smṛti 女 (圓, 一°) に関する記憶。 ~m *Labh* 記憶する。
- saṃsmṛtopasthita (°ta-up°) 過受分 思い出すやいなや同時に現われる。
- saṃ-Syad, → *Syad.*
- saṃ-syūta 過受分 → *Siv.*
- saṃ-srava 男 合流; 合流した液体, その残り (因); 流れる水。
- saṃ-sravaṇa 田 (*garbha~* という形で) 流産。
- saṃ-sraṣṭr 形 戦闘または競争に従事している; (一°) と関係または接触している または 参与している; 合者 *Madhy-v.*
- saṃ-srāva 男 合流 (因); 物質等の堆積 (華); 残留物, 残滓 (因)。
- saṃ-Sru, → *Sru.*
- saṃ-Svap, → *Svap.*
- saṃ-Svar, → *Svar 1.*
- saṃ-sveda 男 汗; 湿, 湿生 *Lan̄k.*
- saṃsveda-ja 形 (= *Pāli* *saṃsedaja*) 湿熱から生じた (害虫等); 湿生 *Abh-vy., Divy., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Vajr-pr.*
- saṃ-hat 因 [共に置くこと: *Han*] 堆積, たたまれたもの (*RV.* 用例一回のみ)。
- saṃ-hata 過受分 → *Han.*
- saṃhatatā 因 緊密な接触, 結合。
- saṃhatatva 田 [同上]; 緻密; 複雑, 合成; 積聚 *Nyay-pr.*
- saṃ-hatana 田 不毀 *Suv-pr.*
- saṃhata-bhrū 形 眉をひそめた。
- saṃhatabhrū-kuṭi-mukha 形 眉をひそめた顔をした。
- saṃhatāṅga 形 強い四肢のがっちりした; 近接した (岡)。
- saṃhatāñjali 形 合掌している。
- saṃ-hati 因 閉鎖; (身体の) 引き締まっていること; 儉約 (まれ); (圓) との結合・共同労作・合一・関連 (普通の意味); 縫い目; かたまり, かさ, 堆積, 集合, 多数。
- saṃhati-sālin 形 濃密な。
- saṃhatoru (°ta-ūru) 形 腿の太い。
- saṃ-hatya 不変分 → *Han.*
- saṃhatya-kārin 形 一緒にまたは共同に努力して働く。
- saṃ-Han, → *Han.*
- saṃ-hanana 形 緻密な, 堅固な。 田 緻密, 壮健; 堅固; 身体; 調和, 一致; 堅固 *Saddh-p.*
- saṃhanana-balopeta (°la-up°) 形 堅固と力とを備えた。
- saṃ-hananiya 形 緻密な, 堅固な, 力強い。
- saṃhananopeta (°na-up°) 形 強健な。
- saṃ-hantr 形 結合または統合する。
- saṃ-hara 男 一緒に引くこと; 収縮すること; 破壊すること; [ある *Asura* の名]。
- saṃ-haraṇa 田 捕獲; 採集, 収獲; (放たれた矢を魔術によって戻すこと; (世界の) 破壊; 集 *Bodh-bh.*
- saṃ-hartavya 未受分 集められるべき; 再び排列されるべき; 破壊されるべき (文字通りには, 回収されるべき。 因 放出されるべきまたは創造されるべき); 応満足, 応備具 *Gaṇḍ-vy.*
- saṃ-hartṛ 男 破壊者。
- saṃ-harṣa 男 身震い; よろこび, 喜悅; 競争心, 嫉妬。
- saṃharṣaka 形 令 (衆) 歡喜 *Saddh-p.*
- saṃharṣaṇa 形 (因 -i) 身の毛のよだつような; よろこばす。 田 競争, 嫉妬; 悦, 安慰 *Lal-v. Saddh-p.*
- saṃharṣaṇatā 因 令其歡喜 *Bodh-bh.*
- saṃharṣaṇā 因 慶慰 *Bodh-bh.*
- saṃ-harṣaṇiyatva 田 令喜, 喜心 *Abh-vy.*
- saṃ-harṣita 過受分 勇悦 *Daś-bh.*
- saṃharṣita-tanu 形 拳身毛豎, 歡喜踊躍, 歡無量 *Gaṇḍ-vy.*
- saṃharṣita-roma-kūpa-jāta 形 身毛為豎 *Lal-v.*
- saṃ-harṣin 形 (一°) よろこばせる; 嫉む。
- saṃ-Hā 1., → *Hā 1.*
- saṃ-Hā 2., → *Hā 2.*
- saṃ-hāta 男 (文体の) 簡潔 (異読: *saṃghāta*); 聚, 擣篩 *Abh-vy., Śikṣ.*
- saṃhātāmaya 形 擣篩和合 *Śikṣ.*
- saṃ-hāra 男 集めること, 蓄積; 蒐集; (発音器官の) 収縮, (象の鼻を) ひっこめること; (放った矢を魔術によって) 取戻すこと, (放った矢を) 引き戻す (魔術的方法; 凝縮, 要略; (世界の) 掃滅 (普通の意味: 収; 因: 放出, 創造); 破壊; 終結, (戯曲, 動作) の終り; 漸略 *Guhy-s.*
- saṃhāra-kārin 形 宇宙の掃滅をひきおこす。
- saṃhāra-kāla 男 (世界の) 掃滅の時。
- saṃhāra-kālāya, 名動 自 *saṃhāra-kālāyate*, (世界の) 掃滅の時のように思われる。

saṃhāra-buddhimat 形 (世界を)破壊しようという
意図をもつ。

saṃhāra-varman 男 [人名].

saṃhāra-vegavat 形 (世界を)破壊しようとして熱心に望
む。

saṃ-hārīta 過受分 蔵挙 *Dirvy*.

saṃ-hārin 形 (一)を破壊する (世界創造者が自己
の創造した被造物を回収する).

saṃ-hārya 未受分 集められるべき; 移されるべき;
(a-の形で)除去・阻止または停止されるべき;(a-の形
で)迷わされるべき, 随落しやすい; …に参与させ
られるべき, (因)に資格・権利をもつ; 可引
奪, 可移動 *Bodh-bh*.

saṃ-Hi, → Hi.

saṃ-hita 過受分 [DHā 1.] いっしょに合わされた,
…から作られた等. → DHā 1.; 結集 *Lank*.

saṃ-hitā 因 結合(まれ, U.); 連声 (=saṃdhi); 連声
(の規則)に従って編まれた Veda のテキスト(因:
連声の規則と関係なく pada すなわち単語の独立形を
列べたテキスト); 系統的に配列されたテキスト;
広範囲な編纂 (*Ramāyana*, 諸法典, 諸 *Purāṇa*等);
占星学の完全な体系(因: 科学的天文学).

saṃ-Hṛ, → Hṛ 1.

saṃ-hṛti 因 1. (世界の)破壊; 終結, 終末; 2. 語根
hṛ+saṃ.

saṃ-hṛtya 未受分 積集, 摂受 *Bodh-bh*.

saṃ-Hṛṣ, → Hṛṣ.

saṃ-hṛṣṭa 過受分 → Hṛṣ; 歡喜 *Śiks*.

saṃhṛṣṭa-manas 形 心に喜ぶ。

saṃhṛṣṭa-roma-kūpa-jāta 形 身毛皆堅 *Rāṣṭr*.

saṃhṛṣṭa-roman 形 (喜びで)髪の毛が立った, (喜び
や幸福で)わくわくした。

saṃhṛṣṭa-romāṅga 形 [同上].

saṃhṛṣṭa-vadana 形 顔が喜びに輝いた。

saṃ-hotra 因 祭りの共有 (RV. 用例一回のみ).

saṃ-Hrād, → Hrād.

saṃ-hrāda 男 大きな物音または叫び声等; 叫ぶ者,
[ある Asura (=Hiranyakaśipu の息子)の名].

saṃ-hrādāna 形 大きな音を立てる。

saṃ-hrādi 男 [ある Rākṣasa の名].

saṃ-hrādin 形 =saṃhrādāna. 男 =saṃhrādi.

saṃhrādiya 形 (Asura) Saṃhrādāに關係ある, 属す
る。

saṃ-hlāda [saṃhrāda の異読(または誤読)].

saṃ-hlādin 形 さわやかにする, 元気づける。

saṃ-hvayitavai, saṃ-Hvā の 因 不定。

saṃ-Hvā, → Hvā.

saka (代名詞 sa の) 指小. ā 因(因, きわめてまれ).

sa-kaṅkaṭa 形 甲冑を身につけた。

sa-kacchapa 形 亀とともにある。

sakaṭākṣam 因 横目でちらっと見て。

sakaṭānna 因 不純な人々の食物。

sakaṭuka 形 辛らつな, 荒々しい, 粗い。

sa-kaṅṭaka 形 刺のある, 刺の多い; 髪の毛が立っ
た; 稜棘 *Śiks*.

sakaṅṭha-rodham 因 声を押し殺して, 低い声で。

sa-kamala 形 蓮を伴う。

sa-kampa 形 震える. ~m 因。

sa-kampana 形 [同上]; 地震を伴った。

sa-karaṇiya 未受分 所応作, 有所作 *Ratna-ut*.

sakaraṇiyāvasthā 因 有所作位, 有功用位 *Ma-*
dhy-vibh.

sa-karuna 形 憐むべき; 慈悲深い. ~m 因。

sa-karṇa 形 耳をもつ, 聞く。

sakarṇaka 形 耳をもつ。

sakarṇa-pallava 形 耳の周囲に細枝を有する。

sakartṛka 形 行為の主体をもつ。

sakartṛtva 因 作, 作者 *Lank*.

sakarmaka 形 効力ある; 目的語に關係ある, 他動の
(動詞)。

sakarmatā 因 他動詞であること。

sakarmatva 因 [同上].

sa-karman 形 他動詞的な。

sa-kala 形 部分 (kalā) からなる, 分ち得べき, 物
質的な(まれ); 部分を(すべて)もっている, 完全な,
完成した, 一切を完全にもっている, 全部の(普通の
意味); 全部がそなわった健全な(因: vikala; まれ);
利息を支払う(まれ); 一切所有 *Ratna-ut*. 男
各人. 因 すべての物; 具, 尽, 具足, 一切
Abh-vy., *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Lank.*, *Sūtr*.

sakala-kaluṣa 男 因 [ある森林地域の名].

sakala-kāma-dugha 形 一切の望みをかなえる。

sakala-jana 男 すべての人。

sakala-bandhana 形 具縛, 具足煩惱 *Abh-vy.*,
Bodh-bh.

sakala-yajñamaya 形 (因 -i) すべての供犠を含む。

sakala-yūtha-parivṛta 形 獣の群全体に取り囲まれ
た。

sakala-rūpaka 因 完全な隠喩。

sakala-loka 男 =sakalajana.

sakala-vikala 形 具不具 *Bodh-bh*.

sakala-vidyāmaya 形 一切の知識を含む。

sakala-sampūrṇa 形 若具円満 *Bodh-bh*.

sakala-siddhi 形 欠けるところのない完成をそなえ
た. 因 万人の成功。

sakalārtha-bodha 男 円満覚 *Sūtr*.

sakalārtha-sampādakatva 因 一切衆生利成就
Sūtr.

sakalārthi-sārtha-kalpa-druma 男 すべての歎願者
の群の願望を叶える樹。

sa-kalika 形 蓄をもつ。

sa-kaluṣa 形 汚された, 濁った。

sakalendu (°la-in°) 男 満月。

sakalendu-mukha 形 満月のような顔をもつ。

sakalendriya (°la-in°) 男 具諸根, 具足根 *Abh-*
vy.

sakalesvara (°la-iś°) 男 宇宙万物の主; [ある著者の
名].

sa-kalpa 形 *Kalpa* (祭式の規定に関する *Sūtra*) を
含む。

sa-kaṣāya 形 情熱に支配された; 蔵濁, 垢心, 懐
不浄 *Kaśy*.

sa-kaśmīra 形 *Kaśmīra* と共にある。
 sa-kākola 形 *Kākola* (地獄) と共にある。
 sa-kātara 形 臆病な, 卑劣な。
 sa-kāma 形 欲望を満足させる(まれ); 望みの成就された, 満足した; 承諾する, 喜んで…する(少女); (一°)を欲する; 愛に充ちた, …に心を奪われた; 好色の(言葉)。
 sa-kāyā 因 有身求 *Sūtr.*
 sa-kāra 1. 男 文字 s. 形 *sākāra* の 不確。
 sa-kāra 2. 形 活動的な, 勇敢な。
 sa-kāraṇa 形 法律上の証拠をもつ。
 sakāraṇaka 形 (因 -ikā) (特別の)原因に基づく。
 sa-kāśa 男 (肉眼で見うること), 面前, 付近; 辺, 処, 所 *Divy., Gaṇḍ-vy., Saddh-p.* ~m 男 (一般に人)に(来る・行く・取るまたは送ることを意味する動詞とともに)。~e 因 の面前に・前にまたは近くに。~āt 因 または ~tas (因 または 一°)から(来る, 行く, 作られる, 奪う, 免れる, 聞く, 尋ねる, 買う); 従, 従…所 *Daś-bh., Lanḥ.*
 sa-kāśāya 形 褐色を帯びた赤い衣服を着ている。
 sa-kaṃkara 形 下僕をもっている, 下僕を伴った。
 sa-kaṃjara 形 象とともにある。
 sa-kaṃtumba 形 家族とともにある。
 sa-kaṃtuka 形 好奇心に満ちた。
 sa-kaṃtūhala 形 好奇心に駆られた。~m 男 好奇心で。
 sakuna 男 (=śakuna); 鳥 *Lal-v.*
 sa-kula 形 家族とともにある。男 (言葉のあやとして) =nakula マングース。
 sakula-ja 形 (因)と同じ家族に属する。
 sakulya 形 [同上]。男 親類。
 sa-kuśa 形 (手に) *Kuśa* 草をもっている。
 sa-kusumāstarāṇa (°ma-ās°) 形 花を撒布された。
 sakṛc-chruta-dhara 形 一度聞いたことを覚えておく。
 sa-kr̥t 形 同時に行動する (AV., きわめてまれ)。男 直ちに, 突然に (因, まれに 男); 男: 一度(普通の意味); (何回にも分けるのではなく)同時に; 一度, ある時または他の時(まれ); かつて, 以前に(まれ); 一度限り, 永久に; 往, 頓, 一, 往, 一時, 一往, 於一念頃 *Abh-vy., Bodh-bh., Lanḥ., Sūtr. mā~* 決して…せぬ。~d aḥnas 男 一日に一度。
 sakṛta-kara-puta 形 合掌 *Divy.*
 sakṛt-pratīlabdha 形 頓得, 頓証得 *Bodh-bh.*
 sakṛt-sāyīn 形 (苦行の期間に)一回沐浴する。
 sakṛdā 男 一度。
 sakṛd-āgāmin 形 一来, 一還, 一来者, 一来向 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Mvyut., Vajr-pr.*; 斯陀含, 須陀含 *Abh-vy., Lanḥ., Mvyut., Vajr-pr.*
 sakṛdāgāmi-pratīpannaka 形 入一還 *Mvyut.*
 sakṛdāgāmi-phala 男 (因) (斯陀含果 *Aṣṭ-pr., Lanḥ., Sam-r.*
 sakṛdāgāmi-phala-tathatā 因 一来果真如 *Aṣṭ-pr.*; (斯陀含果如 *Aṣṭ-pr.*
 sakṛd-āhṛta 形 一度に支払われる(利息)。
 sakṛd-ukta-grhītārtha 形 かつて語られた事柄の意

味を把握する。
 sakṛn-nandā 因 [ある河の名]。
 sakṛn-nārāśaṃsa 形 かつて *Nārāśaṃsa* (と呼ばれる *Soma* の容器)を伴った (Br.)。
 sa-kr̥pa 形 慈悲深い; 有悲人 *Sūtr.* ~m 男 慈悲深く。
 sakṛpaṇam 男 悲しげに。
 sa-keta 形 同じ意因を持つ (RV. 用例一回のみ)。男 [ある *Āditya* 神の名]。
 sa-ketu 形 旗を持つ。
 sa-keśa 形 毛髪を伴った; 毛髪を含む(食物)。
 sa-kaitava 形 人をだます。男 詐欺。
 sa-kopa 形 腹を立てた, 怒った。~m 男 怒って。
 sakopa-vikṛti 形 怒りに興奮した。
 sa-kautuka 形 (一°, 動名詞と共に)好奇心あるまたは熱心な。~m 男 [同上]。
 sakautūhalaṃ 男 好奇心をもって。
 sakta 男 過受分 → *Saṃj*; 滞, 淫, 着, 著, 愛, 染, 愛著, 貪愛, 愛樂, 留滞, 樂著, 障失, 耽嗜, 繫著, 所著 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Buddh-c., Mvyut., Saddh-p., Saṃkhy-k., Śikṣ., Sūtr.*
 saktatā 因 (世俗の事物に)執着すること。
 saktatva 男 (一°)に耽溺すること。
 sakta-vaira 形 (因)と不和の関係にある。
 sakti 因 [*Saṃj*] 結合, 連合; (因, 一°)に執着または耽溺すること; (世俗の事物に)愛着すること; 著, 貪著, 貪愛 *Buddh-c., Madhy-vibh., Sūtr.*
 sakti-bhoga 男 著財 *Sūtr.*
 sakti-vigama 男 離染著 *Sūtr.*
 saktu 男 [*Saṃj* から] とくに大麦の粗粉(一般に 種) (ときとしては飲料として液体と混合される); 麩, 麵 *Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Mvyut.*
 saktu-ghaṭākhyāyikā (°ṭa-ākḥ°) 因 粗粉の鉢物語, [*Pañcatantra* 中の一つの話の題名]。
 saktu-prasṛta 男 揣麩, 一麩团 *Bodh-bh.* → *prasṛta.*
 saktha 一° 形 (因 -i) =sakthan.
 sakthan 男 腿; 腿 *Mvyut.*
 sakthi 男 (因 -i) 腿; 足 *Divy.*
 sakman 男 窮境(?) (RV. 用例一回のみ)。
 sa-kratu 形 (因)と思慮を共にする (RV.)。
 sa-kriya 形 行動する, 能動的な; 有事 *Samkhy-k.*
 sa-krudh 形 怒っている, 腹を立てた。
 sa-krodha 形 怒っている。~m 男 怒って。
 sakrodha-hāsam 男 怒気を含んだ笑いで。
 sa-kleśa 形 有感, 有煩惱 *Abh-vy., Bodh-bh.*
 Sakṣ, 因分 sakṣat のみ, 求めている(?; RV. 用例一回のみ)。
 sakṣaṇa 1. [*Sah*] 形 勝利を博する (RV. 用例一回のみ)。
 sakṣaṇa 2. 形 (因)に対する暇をもつ。
 sakṣaṇi 形 [*Sah*] (因)を克服する (RV.), (因)に打ち勝つ (RV.)。
 sakṣit 形 並んで住むまたは横たわっている等。
 sa-kṣira 形 乳をもった, 乳の出る(植物)。
 sakha 男 仲間, 友人 (=sakhi), 一° (因 または 因の意

味をもつ 囧 とともに); 一° 囧 …に伴われた; の友である = (月) に似た; 囧 朋, 相親 *Bodh-bh.*, *Divy.*

saksi 男 (囧 -ā) 仲間, 伴侶, 同胞, 友 (ときとしては 囧 に用いる, とくに = i 一°, 囧 韻律); 囧 朋友, 眷属 *Mvyut.*, *Raṣṭr.*

sakhitā 囧 親交, 友情.

sakhitva 囧 (囧) に対する, (saha を伴う 囧, 一°) との友情・親交.

saksi-pūrva 囧 曾って友人であった. 囧 = sakhibh-āva.

saksi-bhāva 男 友情, 親交.

sakhila 囧 (囧 -ā) 友情ある, やさしい; 囧 入, 説衆生心行 *Mvyut.*; 善友 *Sūtr.*

saksi 囧 女の伴侶または友人; 愛人; (一°) を共にする, …に同情する婦人.

sakhika 一° 囧 [同上].

saksi-gaṇa-samāvṛta 過受分 囧 女友達の仲間を取巻かれた.

saksi-jana 男 (婦人の) 女友達 (また集合的に).

sakhiya, 名動 現分 のみ, (囧) と交際するまたはの交友を求める (RV.).

sa-khedam 副 悲しく.

sakhola [ある地方の名].

sakhya 囧 (囧) に対する交友または友情, (囧 ±saham, saha, sākam, sārddham; 一°) との交友または友情. ~m Vidhā, (囧) を思いやりをこめて眺める.

sa-gaṇa 囧 群を伴う, (囧) に囲まれた (囧); 従者に付き添われた (囧).

sa-gadgada 囧 どもり声の. ~m 副 どもって.

sagadgada-gir 囧 どもり声をもつ.

sa-gamana 囧 囧 共行 *Abh-vy.*

sa-gandha 囧 香のする, (囧, 一°) と同じ香りをもつ; 同類の (Pr.); 誇った (異読: sagarva).

sagara 男 (湿気を含むこと), 大気, 空気 (囧, まれ) [神話上の Ayodhyā 王の名 (その六万人の息子たちが犠牲馬を取戻すために大地を掘り返しているとき, Kapila 仙によって焼かれた; Sagara の子孫 Bhagtratha が, かれらの遺骸を清めるために, 天からもたらした Gaṅgā 河は, かれらの灰とともに海の中へ流れたが, その海はかれらに敬意を表して Sāgara (海) と名づけられた (囧)]; 囧 Sagara の息子たち; 囧 音写 娑伽羅 *Buddh-c.*

sa-garbha 囧 (囧, 囧) によって妊娠する.

sagarbhya 囧 同じ母胎から生まれた.

sa-garva 囧 高慢な, 傲慢な; (囧, 一°) を誇る. ~m 副 誇らしげに.

sa-guṇa 囧 紐をつけられた; 紐とともにある; 性質または徳性を具えた.

sa-guṇin 囧 徳性を具えた (まれ).

sa-gulika 囧 丸薬をもった.

sa-gotra 囧 (囧, 一°) と同じ家柄の, …と親戚の; 囧 姓, 我性; 種 *Divy.*, *Lank.*

sa-gaurava 囧 囧 敬, 具敬, 恭敬, 謙敬, 敬心, 尊重, 有敬重 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Kāśy.*, *Mvy-*

ut., *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, *Suv-pr.* ~m 副 威厳をもって.

sa-gdhi 囧 共通の食事 (囧).

sa-gauravat 囧 囧 恭恪 *Lal-v.*

sa-gauravatā 囧 囧 有敬, 有尊重 *Abh-vy.*

sa-graha 囧 鰐でいっぱい (河).

sa-grāha 囧 囧 持刃, 具持纏 *Mvyut.*

saṃkākṣikā 囧 囧 掩腋衣 *Mvyut.*

Sagh [=Sah], 囧 囧 saghnoti 引き受ける, 耐え得る (囧, まれ).

sa-ghana 囧 濃い (髪).

sa-ghṛṇa 囧 慈悲深い; (囧) を嫌う.

saṃ-kāṭa 囧 [集約された: 囧 = kṛta] 収縮した, 狭い; 濃密な, 光線等を通さない (森); 困難な, 危ない; 一° (危険な物) で一杯の; [人名]; [ある鷲鳥の雄の名]. 囧 狭い場所, 狭い通路, 峽路; (への, からの, 一°) 窮境, 困難, 危険状態, 困窮, 危険; 囧 難, 厄, 険道, 峻難, 厄難; 恐怖; 辛, 迫迫 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*

saṃkaṭāya, 名動 囧 saṃkaṭāyate あまりに狭くなる; 収縮する, 少なくなる.

saṃ-kathana 囧 (囧 ±saha, 一°) との会話.

saṃ-kathā 囧 (囧 ±saha, 一°) との会話, (一°) についての会話; 囧 論, 言論, 讚揚 *Bodh-bh.*

saṃ-Kamp, → Kamp.

saṃ-kampita 過受分 囧 震動 *Lal-v.*

saṃ-kara 男 混合, 混和; (不釣合の結婚によるカーストの) 混合 (= varṇasaṃkara); (叙詩ではときどき 囧) カーストの混合に相当する行為; (修辞法の) 混合; 囧 雜, 雜乱, 相雜, 襍乱 *Abh-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*

saṃkaraka 囧 (一°) 混合をひきおこす.

saṃkara-kṛtyā 囧 カーストの混合をひきおこす行為.

saṃkara-ja 囧 混合カーストから生れた.

saṃkara-jāta 囧 [同上].

saṃkara-jāti 囧 [同上].

saṃ-karin 囧 (カーストの) 混合を促すまたはそれに相当する行為を行なう.

saṃkari-karaṇa 囧 カーストの混合 (またはそれと同じ結果) をひきおこす行為.

saṃ-karṣaṇa 男 耕作者, [とくに Halāyudha の称 (Kṛṣṇa 神の兄で, Vaiṣṇava 教徒の間では Puruṣottama の四形相の中の第二のものと同じと見なされる)].

囧 引き出すこと; 結合の手段; 囧 合, 合会 *Ma-dhy-v.*

saṃ-Kal, → Kal.

saṃkala 囧 鎖 *Lank.* → asthi ~.

saṃ-kalana 囧 いっしょにするまたは結合すること; 囧 集, 総集, 和合; 衆名, 異名 *Abh-vy.*; 禁戒 *Mvyut.*

saṃkalana-citta 囧 囧 総聚心 *Sūtr.*

saṃ-kalanā 囧 付加.

saṃkalā 囧 鎖, 連鎖 (Skt. śṛṅkalā と関係); 囧 鉤鎖, 鉤鎖 *Lank.*

saṃkalā-mātra 囧 囧 唯是鎖, 唯鉤鎖体 *Lank.*

saṃkalikā 囧 囧 (= Pali saṃkhalikā) 鎖 *Śikṣ.*;

骨 *Sūtr.* → *asthi* ~.

saṃ-kalita 過受分 加え合わされた。

saṃkalitin 男 計算者, 占星学者。

saṃ-kaluṣa 甲 汚れ。

saṃ-kalpa 男 (に対する, への等: 圖, 因, 一°) (意 *manas* の) 決心・意志・目的・はっきりした意図・決定または欲望: 一°, =単に望むだけで, 欲望に従って, 特定の目的のために; 覺, 智, 願, 念, 志, 心, 思惟, 分別, 思念, 思察, 思覺, 計度, 想念, 念欲, 所願, 大願, 覺想, 正思惟, 正分別, 分別事, 樂所願, 憶想分別 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-v.*, *Lank.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.* ~ṃ *Kṛ* 決心する。

saṃkalpaka 形 決定する, 決心する, 志す, 願う; 能分別 *Samkhy-k.*

saṃkalpa-ja 形 意志から発する, 単なる欲望によって作られた, 利己的動機よりおこった。男 欲望; 愛, 愛の神。

saṃkalpa-janman 形 欲望から生れた。男 愛, 愛の神。

saṃ-kalpana 甲 (因 -ā) 欲望, 意向。

saṃ-kalpaniya 未受分 意図されるべき, 望まれるべき。

saṃkalpa-prabhava 形 欲望から生じた; 從憶想分別生 *Madhy-v.*

saṃkalpa-bhava 形 [同上]。男 愛, 愛の神。

saṃkalpa-mūla 形 ある觀念または利己的動機に基づいた。

saṃkalpa-yoni 形 (単なる) 意志または欲望から発する。男 愛, 愛の神。

saṃkalpavat 形 決意を持っている, 決定するもの, 決定者。

saṃkalpa-sampatti 因 欲望の実現。

saṃkalpa-sambhava 形 =saṃkalpamūla。男 愛, 愛の神。

saṃkalpa-siddha 形 意志によって達成された, 意志の力によって超自然的な力を獲得した。

saṃkalpā 因 [(*Dharma* の妻で *Samkalpa* の母である) *Dakṣa* の娘]。

saṃkalpātmaka (°pa-āt°) 形 意志をその本質とする, 意志からなる。

saṃ-kalpita 過受分 意欲された, 意図された, 志された, 決定された, 想像された等; 分別 *Aṣṭ-pr.* → *akalpita*。

saṃkalpita-mārgaṇa 形 擺布停当 *Mvyut.*

saṃ-kasuka (しばしば *śamkasuka* と書かれる) 形 粉碎する, (死体を)破壊する, [Agni 神の称]; 不決断な。男 [ある *Veda* 詩人の名]。

saṅkā 因 戦い, 戦争 (因)。

saṃ-kāra 男 掃き寄せ, 塵埃; 糞, 糞掃, 糞穢, 塵穢, 酒掃 *Divy.*, *Mvyut.*

saṃkāra-kūṭa 甲 廢物の山; 糞聚 *Divy.*

saṃkāra-dhāna 甲 諸糞穢 *Saddh-p.*

saṃ-kāśa 男 外觀 (因): 一° 因...の外觀をもつ, ...に見えるまたは似る; 如, 喻, 生, 可喻 *Bodh-c.*,

Divy., *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*: *ākāśa* ~ 喻虚空 *Bodh-c.* 592.

saṃ-kileśa 男 煩惱, 煩惑, 塵勞 *Sam-r.*

saṃ-kirṇa 過受分 → *Kṛ*; 雜, 雜乱, 雜糅, 喧雜, 煩鬧, 充滿, 無有欠減 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*: ~ṇo *viharati* 雜処住 *Mvyut.* 甲 (文章の) 混乱。

saṃkirṇa-cārin 形 雜乱行 *Śikṣ.*

saṃkirṇatā 因 (文章における言葉の) 混乱。

saṃkirṇa-bhojin 形 雜穢食, 雜種食 *Bodh-bh.*

saṃkirṇa-vihārin 形 住雜乱, 雜乱住, 親近煩鬧 *Śikṣ.*

saṃ-kirṇā 女 謎 (の一種)。

saṃ-kirtana 甲 記載; 暗誦; 称讚, 讚嘆; 名声 *Aṣṭ-pr.*

saṃkirtaya, 名動 → *kirtaya*。

saṃ-Kuc, → *Kuc*。

saṃ-kucita 過受分 → *Kuc*; 怯弱, 退没 *Bodh-bh.*; 手足短 *Mvyut.*

saṃ-kucitaka 形 蔵六 *Sūtr.*

saṃ-kucana 男 (縮めるもの), [病氣をおこすある惡魔の名]。甲 萎縮, 短縮; 屈 *Mvyut.*

saṃkuṭṭakā 女 槌 *Mvyut.*

saṃ-Kup, → *Kup*。

saṃ-kula 形 (圓, 一°) で満たされた・が群がった・と混ざった・で占められた・を備えた・に富んだ・憑かれたまたはに悩まされた; 濃い(煙); 烈しい(風) 乱された, 混乱した; 妨げられた, 邪魔された; 充滿, 和合 *Divy.*, *Lank.* 甲 群, 群集; 戦いの喧噪; 難儀, 苦勞。

saṃ-kuli-Kṛ, 寄せ集める, 混乱に陥らせる。

saṃ-kusumita 形 華, 開華 *Daś-bh.*, *Mañj-m.* *Madhy-v.*

saṃ-kusuka =saṃkasuka (因); 不決断。

saṃ-Kūj, → *Kūj*。

saṃ-kṛti 形 配列 (因): 男 [人名]。因 [ある韻律, の中に 4×24 音節のすべての韻律]。

saṃ-Kṛṣ, → *Kṛṣ*。

saṃ-Kṛ, → *Kṛ*。

saṃ-kṛpta 過受分 → *Kṛp*。

saṃ-kṛpti 因 意欲。

saṃ-keta 男 [Cit] (共同の目的), (圖) との約束またはあいびきの約束; あらかじめ協定した記号, 合図。一致; 承諾: 一° 協定に従って; 仮, 仮名, 立, 仮説, 俗数, 名字, 安立, 建立, 施設, 印定, 顯, 所顯; 表, 表示; 和合, 和合法; 世流布語, 俗假言説; 期契, 期会; 世俗 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.* *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Lank.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Ratna-ut.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*: *mana* ~ *cāriṇah* 随意之所行, 由心得自在 *Divy.* 426 ~ *mātra* 但有諸俗数, 但有於名字, 隨俗假言語 *Lank.* 339; ~ *-rutapraveśanāmasamādhi* 入施語音三摩地 *Mvyut.* 21. ~ṃ *Kṛ*, *kalpaya* また *Dā*, (*samam*, *saha*, *mithas*) と一致するまたは約する, (圖 + *saha*, 圖) とあいびきの約束をする 会合の場所として定める。~ṃ *Kṛ*, 合図する。

mketaka 男 約束, あいびきの約束.
mketā-dharmatā-labdha 過受分 受得及法得 *Sūtr.*
m-ketana 中 (恋人たちの) あいびきの約束の場所, 密会の場所.
mketā-niketa 男 [同上].
mketā-niketana 中 [同上].
mketā-bhūmi 女 [同上].
mketā-mātra 中 但有諸俗数, 但有於名字, 随俗仮言説 *Lank.*
mketaya, 名動 他 **saṃketayati** (属) と約束する; …に同意する, 告げられる, 学ぶ.
mketā-vākya 中 暗号, 合い言葉.
mketā-vyavahāra 男 世俗言説 *Bodh-bh.*
mketavyavahāra-naya 男 世俗言説道理 *Bo-dh-bh.*
mketā-stha 形 あいびきの約束によって現われる.
mketā-sthāna 中 あいびきの約束の場所; 記号によつて同意されたもの.
mketi-Kṛ, 会合の場所に指定する.
mketodyāna (°ta-ud°) 中 あいびきの場所として指定された庭.
m-koca 男 縮みあがること, 収縮, 圧縮; 短縮, 減少; 制限, 限定; (湖が) 干上がること; **akṣi-pakṣ-maṇoh** ~ 眼を閉じること; 合, 破, 沈没, 退没; 踏, 法, 或踏, 或怯, 恐怖, 怖畏, 退弱, 怯劣 *Bodh-bh., Divy., Lank., Mṛyut.*
m-koca-kārin 形 縮みあがる, 謙遜な, 慎しみ深い.
m-kocana 形 (女-i) (一°) 収縮する. 中 収縮; 破, 沈没 *Lank.*
m-koca-vikāsa 男 屈伸 *Abh-vy.*
m-kocin 形 閉じる(花); 減少する, 短縮する.
m-krandana 形 叫ぶ, 吼える. 男 [Indra 神の称]. 中 戦闘.
m-krandana-nandana 男 [Arjuna (および 猿 Vālin) の父系].
m-Kram, → *Kram.*
m-krama 男 いっしょに行くこと (因); 進路, 進歩; (因)に移ること, 移転; (太陽が新しい十二宮の一つに) 入ること; 橋(普通の意味); 階段(とくに水辺に至る); [ある妖精の王子の名]; 生, 入, 転, 超過, 去, 相似 *Lank., Madhy-v., Mṛyut.*; 橋, 橋梁 *Gaṇḍ-vy., Lal-v.* 中 音写 [数名] 僧羯羅摩, 参加羅合麻 *Mṛyut.*
saṃ-kramaṇa 中 入ること, 開始; (因, 一°)への推移, 入場; (太陽が新しい十二宮の一つに) 入ること; (あの世へ) 移ること, 死去; 至, 転, 運転, 転行, 往来, 向去, 去処 *Ast-pr., Daś-bh., Madhy-v., Mṛyut.*
saṃkramaṇaka 中 臥房 *Mṛyut.*; 遊行 *Divy.*
saṃkramaṇakā 女 往来道 *Divy.*
saṃkrama-bhūta 男 橋梁, 橋樑 *Ast-pr.*
saṃkrama-vikrama-samādhi 男 入出三昧 *Gaṇḍ-vy.*
saṃkrami-Kṛ, …の橋渡しまたは仲介をする. 不変 因 (属) によつて.

saṃ-krānta 過受分 至, 去, 遷 *Gaṇḍ-vy.* → *Kram.*
saṃ-krānti 因 (因, 一°) に入ること; 移転, 伝達; (太陽が次の十二宮に) 入ること またその通路 (一°): **payaso gaṇḍūṣa-tayaḥ** 水が嚙下に移ること = 飲用水; 歩, 移, 転, 移転, 流転, 趣至, 去行, 来去, 至向 *Bodh-bh., Lal-v., Lank., Ma-dhy-v., Suvik.* → *bhavasamkrānti.*
saṃkrāntitā 女 移転 *Daś-bh.*
saṃ-krāmaṇi 女 魔術(の一種) または 呪文; 還 *Divy.*
saṃ-krāmita 形 移された, 手渡された, 配達された. 連絡された; 移 *Saddh-p.*
saṃ-krāmin 形 (他へ) 移されまたは移りつつある.
saṃ-Kṛid, → *Kṛid.*
saṃ-kṛidat 現分 戲 *Śikṣ:* ~ *saṃkilikilāya-māna* 戲笑 *Śikṣ. 76.*
saṃ-kṛiḍa 男 遊戯, 競技; 覆 (*marutām* とともに) [*Sāman* の名].
saṃ-krośa 男 一緒に叫ぶこと, 喧噪, いかりまたは憤慨の叫び.
saṃ-krudha 過受分 → *Krudh.*
saṃ-Krudh, → *Krudh.*
saṃ-Kruś, → *Kruś.*
saṃ-klinna 過受分 → *Klid.*
saṃ-Kliś, → *Kliś*; 染, 有雑染, 可染, 染汚 *Madhy-vibh., Ratna-ut.*
saṃ-kliṣṭa 過受分 汚, 染, 穢, 雑染, 穢濁, 垢穢, 雑穢, 雑染行者, 不浄染汚 *Ast-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Madhy-vibh., Ratna-ut., Sam-r., Sūtr.:* ~ *āni cittāni* 染心, 染汚心 *Ast-pr. 541.*
saṃkliṣṭa-karman 形 辛うじて行なう.
saṃkliṣṭa-citta 中 雑染心 *Bodh-bh.*
saṃkliṣṭatā 女 垢相, 染相, 雑染相 *Daś-bh.*
saṃkliṣṭa-vyavadānatva 中 染浄(所依)性 *Ma-dhy-vibh.*
saṃ-kleśa 男 (一°) に浸み込むまたは濡れること.
saṃkleśa-bhūta 形 湿気のある塊を形成する(胎児).
saṃ-kleśa 男 苦痛, 苦惱; 染, 垢, 穢, 雑, 染汚, 有染, 有垢, 雑染, 不浄; 能損, 難, 悩乱, 惑障, 煩惱, 染惱, 塵欲, 塵勞, 雑染者, 染法者, 有汚者, 有穢汗法 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Kāśy., Lal-v., Lank., Madhy-v., Ma-dhy-vibh., Ratna-ut., Sūtr., Suvik.:* *tredhā* ~ *ḥ* 三雑染, 三種難: *trividhā* ~ *ḥ* 雑染有三, 染汚有三種 [1. *kleśa* ~ 煩惱雑染, 煩惱難, 2. *karma* ~ 業雑染, 業難, 3. *janma* ~ 生雑染, 生難] *Ma-dhy-vibh. 41.*; *dvedhā* ~ *ḥ* 二雑染, 二種難 [1. *hetu* ~ 因雑染, 因難, 2. *phala* ~ 果雑染, 果難] *Madhy-vibh. 41.*; *saptadhā* ~ *ḥ* 七雑染, 七難 [1. *viparyāsa-hetu* 顛倒因, 2. *ākṣepa-hetu* 牽引因, 3. *upanayana-hetu* 将導因, 将因, 4. *parigraha-hetu* 授受因, 授因, 5. *upabhoga-hetu* 受用引, 6. *ākaraṣaṇa-hetu* 引起因, 引出因, 7. *udvega-hetu* 厭怖因] *Madhy-vibh. 41.*

saṃkleśa-nirodha 男 染分減 *Sūtr.*
 saṃkleśa-pakṣa 男 染品, 不浄品, 煩惱明
Madhy-vibh., Sam-r.
 saṃkleśapakṣa-prātipakṣika 男 対治 *Sūtr.*
 saṃkleśa-lakṣaṇa 中 染相, 雜染相, 染汚相
Madhy-vibh., Sūtr.
 saṃkleśa-varjita 形 離二染 *Sūtr.*
 saṃkleśa-vyavadāna 中 [十Vajrapadaの一つ]
 染浄, 不浄浄, 雜染清浄 *Madhy-vibh., Sūtr.*
 saṃkleśavyavadāna-pakṣa 男 浄染二分 *Sūtr.*
 saṃkleśavyavadāna-paryeṣṭi 女 求染汚及清浄
Sūtr.
 saṃkleśavyavadāna-lakṣaṇa 中 染浄相 *Sūtr.*
 saṃkleśavyavadāna-saṃdesanātā 女 顕示染浄
Sūtr.
 saṃkleśa-satya 中 [八諦の一] 雜染諦, 穢汚諦
Bodh-bh.
 saṃkleśa-hetu 男 染汚諸因 *Sūtr.*
 saṃ-kṣaya 男 衰亡, 損失, 完全な消耗または消失;
 (水が)干上がること; 滅亡, 破滅; 終局; 尽,
 断, 滅, 悉尽, 滅尽 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Suv-pr.,*
Sūtr.
 saṃ-kṣālanā 女 洗濯, 洗浄, 沐浴.
 saṃ-Kṣi 1. → Kṣi 1.
 saṃ-Kṣi 2. → Kṣi 3.
 saṃ-Kṣip, → Kṣip; 略 *Sūtr.*
 saṃ-kṣipta 過受分 → Kṣip; 聚; 略, 摂, 極
 略, 略説; 狭, 狭小 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-*
bh., Divy., Śikṣ., Saṃkhy-k.: ~āni cittāni 摂
 心, 略心 *Aṣṭ-pr. ~ena* 圓 簡略に; 略説, 取
 要言之 *Saṃkhy-k., Sukh-vy. I.;* 要 *Divy. ~m*
 副 略 *Buddh-c. → Kṣip.*
 saṃ-kṣipti 女 投げ集めること, 圧縮すること, 短
 縮; 待伏せ; 主人公が急に変わることを同じ主人
 公の性格が急に変わることを(ある人々によると「簡単な工
 夫」) (戯曲).
 saṃkṣiptikā 女 [同上] (戯曲).
 saṃ-kṣubdha 過受分 → Kṣubh; 瞋 *Sūtr.*
 saṃ-Kṣubh, → Kṣubh.
 saṃ-kṣubhita 過受分 → Kṣubh; 恚礙, 恚恨
Aṣṭ-pr.
 saṃ-kṣepa 男 投げ集めること, 破滅(まれ); 省略,
 圧縮, 簡略, 簡単な叙述; (圓)の精髓; 総量, 集合
 体(まれ); 略 *Aṣṭ-pr., 梵千; 卷 Bodh-bh.;* 略
 説, 総略 *Śikṣ.;* 合集 *Daś-bh. ~ena* 圓 簡単に,
 簡潔に; 全体で; 略 *Guhy-s.;* 略説 *Aṣṭ-pr.,*
Gaṇḍ-vy., Lanḅ., Mvyut.; 以要言之 *Aṣṭ-pr.,*
Saddh-p.; 取要言之 *Gaṇḍ-vy.;* 挙要言之 *Lanḅ.*
 ~āt 圓 簡単に, 簡潔に; 略 *Buddh-c. ~tas*
 副 簡潔に, 簡単に; 全体で; 略 *Divy., Śikṣ.,*
Suv-pr.; 略説 *Divy.;* 略集 *Mvyut.:* ~to deśita
 略説, 略而説之 *Suv-pr. 48. → abhi~.*
 saṃkṣepa-nirdarśatas 副 略説 *Lal-v.*
 saṃ-kṣobha 男 激動, 衝動, 狼狽, 擾乱; 動揺, 興
 奮; 乱, 乱動, 動乱, 擾動; 尽; 濁, 不調;
 惱, 怖畏心 *Gaṇḍ-vy.:- Lanḅ., Śikṣ., Saddh-p.*

→ dhūtakṣobha, kalpakṣobha.
 saṃ-kṣobhita 過受分 惑乱 *Divy.*
 saṃ-kṣobhya 未受分 生債発 *Bodh-bh.*
 saṃ-KHād, → KHād.
 saṃ-khya 形 数え上げる, 計算するまたの総計する.
 男[人名]. 中 戦闘, 戦争(因のみ); 行写[数
 名] 僧伽摩 *Mvyut. → a~*
 saṃkhyaka 形 (一°)に達する.
 saṃ-KHyā, → KHyā.
 saṃ-khyā 女 数(因, 圓); 数字(S., 圓); 圓: 数え
 ること, 計算; 文法上の数(まれ); 熟慮(まれ); 名
 (=ākhyā, まれ): 一° 形 -a …勘定に入れられた;
 (数詞とともに)…に達する; 数, 算数, 制数, 算
 目 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-c., Lanḅ., Mvyut.,*
Saddh-p., Sūtr., Vajr-s.; 音写 僧祇 *Mvyut.;*
Aṣṭ-pr., Sapt-pr.: ~m Gam 得名 *Aṣṭ-pr. 173*
 説名 *Aṣṭ-pr. 58;* 数, 入数 *Bodh-bh. 301;* ~
 praviṣṭaḥ 在数, 在数中 *Aṣṭ-pr. 691.*
 saṃkhyāka 形 =saṃkhyaka.
 saṃkhyā-kalā 女 一少分 *Śikṣ.;* (音写) 称量
 羅 *Śikṣ.*
 saṃkhyā-kalāpa 男 一少分 *Śikṣ.*
 saṃkhyā-gaṇaka 男 善算数人 *Divy.*
 saṃkhyā-gaṇita-pada 中 数句, 数見, 算数
Lanḅ.
 saṃkhyānka-bindu (°yā-aṅ°) 男 零の記号.
 saṃkhyāta 未受分 [KHyā] 数えられた等; 数
 属, 隨数 *Bodh-bh., Mvyut.*
 saṃkhyātānudeśa 男 (前に挙げられた諸項と順次
 応する) 次の列挙.
 saṃkhyātr 男 計算者.
 saṃkhyātiga (°yā-at°) 形 無数の.
 saṃkhyāprameyatā (°yā-ap°) 女 数数無有
Sūtr.
 saṃ-khyāna 中 計算, 列挙; 数(まれ); 測量(まれ)
 saṃkhyā-nāman 中 数字.
 saṃkhyā-pada 中 [同上].
 saṃkhyā-maṅgala-granthi 男 (年齢の)数に(応じ
 紐に)結び目を(くくる)吉祥の(儀式).
 saṃkhyā-mātra 中 単なる計算.
 saṃkhyā-lipi 女 特殊な文字; (音写) 僧祇書
 僧伽書 *Lal-v.*
 saṃkhyāvat 形 数えられた; 聡明な, 学問のある
 saṃ-khyeya 未受分 数えられるべき, 計算し得
 多くはない.
 saṅga-1. 男 [Saṅj] (一° 形 -ā または -i)への粘
 妨害; (因, 一°)に執着または接触すること; (因,
 saha, 圓, 因, 一°)との合一または交際; (因,
 の愛好・嗜好またはに対する欲望(圓, 因 = 強
 望があるならば); 著, 欲, 礙, 滞, 愛著
 著, 執著, 貧著, 染著, 合集, 所取, 罣礙障礙
 愛処; 無障礙 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Buddh-c., B-*
bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lanḅ., Madhy-v.,
 → a~.
 saṅga 2. 男 (集まること), 鬭争, 衝突 (RV.).
 saṅgāṭa 男 (-ṭa=bhaṭa) [人名].

saṃ-gaṇanā 因 計算.

saṃgaṇaya, 名動 → gaṇaya.

saṃ-gaṇikā 因 (=Pali) 社会, 群衆, 連合; 交通, 連合, 交際 Divy.; 俗, 群聚; 衆鬧, 衆鬧, 衆憤鬧, 世俗戲論, 談說世事, 好合徒侶樂喜談 Ast-pr., Bodh-bh., Lan̄k., Śikṣ.

saṃgaṇikārāma (°kā-ār°) 因 樂憤鬧, 好憤鬧 Śikṣ.

saṃgaṇikārāma-kathā 因 論說衆事, 樂說世間雜事, 說世間種種雜事 Ast-pr.

saṃgata 過受分 [Gam] 適切な等. 因 相互の友情に基づく同盟. 因 (圓, 圓, 因, 一°) と会合すること; (圓, 圓, 一°) との交際, 交流, 親密さ; 一致 → aṣaṃgata.

saṃgatā 因 著, 著性, 親近 Sapt-pr., Sam-r., Sūtr.

saṃgatārtha 形 適当な意味の.

saṃ-gati 因 (圓, 一°) と会うこと; (ある場所) へ通うこと, (因) へしばしば行くこと; (圓 ±saha, samam, 圓, 因, 一°) との交際, 交わり (また性交); 同盟 (まれ); 偶然の出来事 (まれ); 適切さ, 妥当性; (圓, 一°) との関連, 関係; 合, 合 (生), 法, 事, 値, 合集, 和合, 和合相統, 自我和合, 長愛欲; 値遇; 縁和合; 善道 Bodh-c., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lan̄k., Madhy-v., Raṣṭr., Śikṣ. ~tyā 圓 偶然に, ふと.

saṃ-gaṭha 因 [Gam] 集まること, 一点に集中すること, 中心 (因).

saṃ-Gam, → Gam.

saṃ-gama 因 (味方または敵が) (圓 ±saha, 圓, 一°) と遭遇すること, (圓 ±saha, 圓, 一°) との結合・交際または交わり (また性交); 合流; (圓, 一°) との連関または接触; (圓) の獲得; 和, 使, 和合, 集会, 随眠 Abh-k., Abh-vy., Lan̄k., Śikṣ. anarth-ena ~ 害, 損害.

saṃgama-datta 因 [人名].

saṃ-gamana 形 (因 -i) 寄せ集める. 因 (圓) を寄せ集める人 (因). 因 (一°) との会合または結合 (因, 圓); (圓) との接触または…の獲得 (圓); 聚取 Lal-v.

saṃgama-svāmin 因 [人名].

saṃ-gara 因 圓 契約, 約束; 圓: (圓) のための, (圓) との戦闘または戦争.

saṃ-gava 因 搾乳のために牝牛が寄せ集められる時間, 搾乳時間; 一日を五分した中の第二の部分 (因); =10 nādikā (4時間) または 3 muhūrta (2時間24分).

saṃ-gavini 因 牝牛の搾乳場 (Br.).

saṅgika 因 [人名].

saṅgin 形 (一°) に執着する・固着するまたは粘着する; (一°) に触れるまたは接触する; (圓, 因, 一°) を好むまたはに専念する; 世俗的な.

saṅgiya 因 [人名].

saṃ-gita 過受分 → Gai. 因 合唱, (器楽の) 伴奏で歌うこと, 合奏; 歌.

saṃgitaka 因 [同上].

saṃgita-gr̥ha 因 合奏室.

saṃgita-veśman 因 [同上].

saṃgita-sālā 因 [同上].

saṃgitārtha 因 演奏会の道具または趣旨.

saṃ-giti 因 ともに歌うこと, 合奏, 音楽と踊りの結合した芸術; 集, 会, 撰集, 要集, 結集, 集結, 集会 Divy., Gaṇḍ-vy., Prajñ-h., Śikṣ., Sa-ddh-p.: dharma ~ 法集 Śikṣ. 124; 誦, 詠, 歌, 伎楽, 音楽, 歌詠, 歌頌, 妙歌, 演説, 敷演, 伎楽諸歌詠, 歌舞音楽 Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Sam-r., Sukh-vy. I.; 謳歌者 Mvyut.; 共読誦, 同発声 Saddh-p.: samam ~ tyā 俱同発声 Saddh-p. 271.

saṃgiti-kāra 因 結集者 Bodh-bh.; 真実収, 真実収入 Mvyut.

saṃgiti-kuśala 形 巧於問答 Saddh-p.

saṃgiti-ghoṣā 因 歌音 Sūtr.

saṃgiti-paryāya 因 [ある仏典の名]; 別誦, 有情法数, 有情類数, 集異門足論 Abh-vy., Mvyut.

saṃgiti-prasāda 因 合奏場, 会議所 (仏教); 戲房, 房唱, 歌客房, 音楽殿 Mvyut.

saṅgi-bhūta 形 苞初出 Sapt-pr.: pārijātam ~ 円生樹苞初出 Sapt-pr. 19.

saṃ-gupta 過受分 → Gup.

saṃ-guṭti 因 保護; 隱蔽.

saṃ-Guh, → Guh.

saṃ-gr̥dha 過受分 貧 Bodh-c.

saṃ-gr̥hita 過受分 捕えられた, 掴まれた, とられた, 受取られた, 集められた; より狭くされた, 収縮された, 省略された, 抑制された; 支配された; 親切に受け入れられた, 歓迎された; 撰, 撰受, 撰取, 所撰, 己撰, 総持, 所助 Abh-vy., Bodh-bh., Kaśy., Madhy-vibh., Mvyut., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr. → Grah.

saṃgr̥hitāvaraṇa (°ta-āv°) 因 撰障, 撰集障 Madhy-vibh.

saṃ-gr̥hiti 因 抑制すること, 馴らすこと.

saṃ-gr̥hitr̥ 因 戦車を駆る者; 支配者 (saṃgrahitr̥ の 不種).

saṃ-Gṛ, → Gṛ 1, 2.

saṃ-Gai, → Gai.

saṃ-gopana 形 隠す. 因 隱蔽.

saṃ-gopaniya 未受分 隠されるべき.

saṃ-Grath, → Grath.

saṃ-granthana-kausala 因 言…喜巧 Śikṣ.

saṃ-Gras, 嚙下す, むさぼり食う, 食い尽す. <Gras の補遺>

saṃ-grasana 因 たいらげること, むさぼり食うこと; 除, 撰伏 Mvyut.

saṃ-Grah, → Grah.

saṃ-graha 因 捕獲, つかむこと; 保つこと, 保留すること; (pattra-, 葉の) 獲得; (食物を) とること; (放たれた矢を魔術で) とり戻すこと; 蒐集, 集めること; 蓄積, たくわえ; (人々を) 召集または集合すること; 完全な列挙; 集積, 全体, 完全な摘要, 概略, 梗概 (普通の意味); 包含 (まれ); 抑制すること, 支

配すること(まれ);(圖)の防護または保護;支配者(叙詩);融和,厚遇,款待;[圖] 撰,略,取,持,受,得,獲,増,益,集,愍,撰受,撰取,相撰,所撰,撰持,撰集,能撰,総撰,普撰,饒益 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Kāśy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Nyāy-pr.*, *Rāṣṭr.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suvik.*;愛護 *Śikṣ.*;貯,儲蓄 *Abh-k.* ~eṇa 圓 完全に,全く. ~eṇa 圓, ~āt 圓 かいつまんで,簡潔に.

saṃgraha-kārikā 女 [書名] 撰論釈 *Śikṣ.*

saṃgraha-tattva 中 [十種 tattva の一] 撰愛真実, 撰取真実 *Madhy-vibh.*: ~m Kṛ 獲 *Aṣṭ-pr.* 18.

saṃgraha-prayoga 男 [圖] 為撰物 *Sūtr.*

saṃgraha-lakṣaṇa 中 [圖] 撰相 *Madhy-vibh.*

saṃgraha-vastu 中 [圖] 撰事, 撰法, 撰類, 四撰 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*: catvāri ~āni 四撰事 [1. dānaṃ 布施, 2. priyavādītā 愛語, 3. arthacaryā 利行, 4. samānārthatā 同事] *Mvyut.* 35.

saṃgraha-vibhāga 男 [圖] 四撰行 *Sūtr.*

saṃgraha-sahagata 形 [圖] 撰相応発心 *Sūtr.*

saṃ-grahaṇa 中 獲得;集めること, 蓄積;(一°, 宝石を) 嵌めこむこと;抑制すること;なだめること;(一°)との姦通;[圖] 撰受 *Bodh-bh.*;撰行 *Sūtr.*

saṃ-grahaṇiya 未受分 (因) に向けられるべき.

saṃ-grahin 男 蒐集者.

saṃ-grahitṛ 男 戦車を駆る者.

saṃ-grahitavya 未受分 [圖] 応撰, 応撰受 *Bodh-bh.*

saṃ-grāma 男 集合, 群集 (因, まれ);因 (samam, saha, sārddham, 一°) との遭遇戦・戦争または会戦;[人名] (華);[圖] 衆 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*;難 *Suvik.*;戦, 軍, 闘戦, 軍陣, 戦陣, 軍旅, 共戦闘 *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Lal-v.*, *Ratna-ut.*, *Śikṣ.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*: 因 戦時 *Suv-pr.*

saṃgrāma-karman 中 戦闘.

saṃgrāma-gupta 男 [人名].

saṃgrāma-jit 形 戦いに勝つ.

saṃgrāma-tulā 女 戦闘の試練.

saṃgrāma-tūrya 中 戦闘の太鼓.

saṃgrāma-datta 男 [ある婆羅門の名].

saṃgrāma-deva 男 [ある王の名].

saṃgrāma-nagara 中 [ある町の名].

saṃgrāma-pāla 男 [人名].

saṃgrāma-bhūmi 女 戦場.

saṃgrāma-bheri 女 [圖] 戦鼓 *Śikṣ.*

saṃgrāma-mūrdhan 男 戦闘の先鋒, 先陣.

saṃgrāmaya, [名動] [圖] 闘, 闘戦, 共戦, 決勝負 *Divy.*, *Śikṣ.*: ahaṃ tena sārddham saṃgrāmaṃ ~yiṣyāmi 我当共戦 *Divy.* 536.

saṃgrāma-rāja 男 [二人の王の名].

saṃgrāma-varadhana 男 [人名].

saṃgrāma-varṣa 男 [人名].

saṃgrāma-siṃha 男 [人名].

saṃgrāma-siddhi 男 [ある象の名].

saṃgrāmāgra 中 戦闘の先鋒, 先陣.

saṃgrāmāṅgana 中 戦いの庭, 戦場.

saṃgrāmāpiḍa (°ma-āp°) 男 [ある二人の王の名].

saṃ-grāha 男 拳;拳を握ること;[圖] 取 *Lank.*

saṃgrāhaka 形 (因 -i) 概括する, 概説する;[圖] 撰, 収者, (普能) 撰受 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.* 男 [圖] 御者 *Buddh-c.*

saṃgrāhaka-bhūta 形 [圖] 為導師 *Gaṇḍ-vy.*

saṃ-grāhin 形 集める, 蓄積する;(一°)を融和する.

saṃ-grāhya 未受分 掴まれるべき (Br.);阻止されるべき (華);(ある地位に) 任命されるべき;なだめられるべき;承諾されるべきまたは熟考されるべき (言葉);[圖] 撰受, 撰取, 諸取, 漸次生 *Lank.*, *Madhy-vibh.*

saṃ-gha 男 群, 多数 (ほとんど常に 圖 とともに, または 一°);(敵の) 大軍(まれ);組合;団体;共同体, 集合 (B.);僧団, (Jaina 教徒内の) 宗派;(saṅga の 不確);[圖] 多, 衆, 聚, 衆会, 広聚 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, *Vajr-pr.*;[音写] 僧, 僧伽 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Guhy-s.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Vajr-pr.*, 梵千: ~e viniścaya-gatāyāṃ kathāyāṃ vartamānāyāṃ 僧断事時 *Prāt-m.* 77.

saṃgha-kalpa 男 [圖] [音写] 僧可 *Mvyut.*;[音写] 僧伽諦 *Mvyut.*

saṃgha-kāraṇiya 中 [圖] (音写) 僧事: dharmika ~ 如法僧事 *Prāt-m.* 54.

saṃgha-cārin 形 群をなして行く, 群居する.

saṃ-Ghaṭ, → Ghaṭ.

saṃ-ghaṭana 中 (一°)との結合または連合.

saṃ-ghaṭanā 女 [同上].

saṃ-ghaṭita 形 一緒に集められた;会合した;打たれた(楽器);[圖] 不散 *Saddh-p.*

saṃghaṭita-kāya 形 [圖] 全身不散 *Saddh-p.*

saṃ-Ghaṭṭ, → Ghaṭṭ.

saṃ-ghaṭṭa 男 震動, 衝突, 軋轢, 摩擦;(真)との結合または連合(まれ).

saṃ-ghaṭṭana 中 軋轢, 衝突;摩擦;連合;[圖] 相撃 *Gaṇḍ-vy.*

saṃghaṭṭanā 女 連合.

saṃghaṭṭa-panita 中 賭けごと.

saṃ-ghaṭṭita 過受分 → Ghaṭṭ;[圖] 推排, 互撃 *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*

saṃgha-titha 形 多くの.

saṃ-gharṣa 男 摩擦;競争, 対抗,(に対する: pra 一°) 嫉妬.

saṃgha-bhadra 男 [人名];[圖] 衆賢, 妙聚;[音写] 僧伽跋陀羅 *Mvyut.*

saṃgha-bheda 形 [圖] (音写) 破僧, 僧破, 破和僧, 壊和合僧, 僧行不正 *Abh-vy.*, *Lank.*, *Prāt-m.* *Mvyut.*

saṃgha-mata 形 [圖] 衆許 *Śikṣ.*

saṃgha-madhya 形 [圖] 衆中, 在衆中 *Bodh-bh.*

saṃgha-manasikāra 男 [音写] 念僧 *Sukh-vy. II.*

saṃgha-rakṣita 男 𑖀𑖩𑖪𑖫 (音写) [人名] 僧護 *Divy.*
 saṃgharakṣitāvadāna 中 𑖀𑖩𑖪𑖫 (音写) 僧護縁起, 因縁僧護経 *Śikṣ.*
 saṃgha-ratna 中 𑖀𑖩𑖪𑖫 僧宝 *Ratna-ut.*
 saṃgharatna-guṇa-vibhāga 男 𑖀𑖩𑖪𑖫 僧宝功德差別 *Ratna-ut.*
 saṃgha-saṃgraha 男 𑖀𑖩𑖪𑖫 (音写) 僧会, 摄僧, 摄取僧伽 *Mvyut.*
 saṃgha-saṃmati 女 𑖀𑖩𑖪𑖫 (音写) 僧羯磨 *Prat-m.*
 saṃgha-sthavira 男 𑖀𑖩𑖪𑖫 上座, 上座比丘 *Divy.*; (音写) 僧維那 *Av-ś.*
 saṃ-gharṣaṇa 中 𑖀𑖩𑖪𑖫 摩擦, 衝突.
 saṃ-gharṣayitr 男 𑖀𑖩𑖪𑖫 競争者.
 saṃgharṣa-sālin 形 𑖀𑖩𑖪𑖫 ねたむ.
 saṃ-gharṣin 形 [同上], 羨む; (一°) と競う.
 saṃgha-śas 形 𑖀𑖩𑖪𑖫 多数で.
 saṃghāgra-bhetṭr-nara 男 𑖀𑖩𑖪𑖫 破壊和合僧 *Ratna-ut.*
 saṃghāṭa-sūtra 中 𑖀𑖩𑖪𑖫 [経名] 相融経 *Mvyut.*; (音写) 僧伽陀法義経, 大乘僧伽陀法義経 *Mvyut.*
 saṃghāṭi 女 𑖀𑖩𑖪𑖫 衣服 (の一種), 僧服; 𑖀𑖩𑖪𑖫 (音写) 僧伽低衣 *Divy.*
 saṃghāṭi 女 [同上]; 𑖀𑖩𑖪𑖫 衣服, 袈裟, 法服, 重複衣, 掩腋衣, 覆液衣 *Divy., Kāśy., Lal-v., Mvyut., 玄応*; (音写) 祇支, 竭支, 僧伽梨, 億伽胝, 僧伽致, 僧祇支, 僧竭支, 僧迦支, 僧迦瑪, 僧脚崎, 僧脚差; (音写) 僧伽胝衣 *Divy., Kāśy., Lal-v., 玄応.*
 saṃ-ghāta 男 (叙詩) ではときとして中 打撃(まれ, 𑖀𑖩𑖪𑖫); (門を) 閉じること(𑖀𑖩𑖪𑖫); 争い(𑖀𑖩𑖪𑖫, 𑖀𑖩𑖪𑖫); 𑖀𑖩𑖪𑖫: 圧縮, 簡潔さ; 緊密な結合, 集成, 収集, 合成, 量, 集合, 多数(普通の意味); (分割されていない) 合成語全体(𑖀𑖩𑖪𑖫 合成語の個々の部分 文法); 強烈さ, 猛烈(まれ); 合成物, 身体; 同じ韻律で作られた詩(修辭); 地獄; 𑖀𑖩𑖪𑖫 集, 聚, 和, 聚集, 総集, 聚色, 聚物, 和合, 衆合, 衆磕, 石磕, 和合色, 微聚物, 損害其命, 和合積衆 *Abh-vy., Bodh-bh., Lank., Mvyut., Nyay-pr., Saṃkhy-k., Śikṣ., Vijñ-v., 梵雜*; 全身 *Divy.*: śarira ~ 全身舍利 *Divy. 77.*
 saṃghātātva 中 [同上の𑖀𑖩𑖪𑖫]; 𑖀𑖩𑖪𑖫 積聚性 *Nyay-pr.*
 saṃghātavat 形 𑖀𑖩𑖪𑖫 密な, 茂った(竹藪); (一°) と緊密に結合する.
 saṃghāta-srotas 中 𑖀𑖩𑖪𑖫 聚流, (色) 聚相逼 *Abh-vy.*
 saṃghādhina 形 𑖀𑖩𑖪𑖫 (音写) 靠衆僧, 靠聖僧 *Mvyut.*
 saṃghānusmṛti 女 𑖀𑖩𑖪𑖫 念衆 *Lal-v.*; (音写) 念僧, 僧念 *Lal-v., Mvyut., Sukh-vy. II.*
 saṃghāpatti (°gha-āp°) 女 𑖀𑖩𑖪𑖫 (音写) 犯僧 *Śikṣ.*
 saṃghārāma (°gha-ār°) 男 𑖀𑖩𑖪𑖫 仏教徒の僧院; 𑖀𑖩𑖪𑖫 (音写) 僧伽羅磨 玄応.
 saṃghārtha 男 𑖀𑖩𑖪𑖫 僧義 *Ratna-ut.*
 saṃghāvāśeṣa 中 [一時的な破門で罰せられる罪の名(仏教)]; 𑖀𑖩𑖪𑖫 (音写) 僧伽婆尸沙 *Prat-m., Mvyut.*; (音写) 僧殘 *Mvyut.*: ~ā dharmāḥ 僧伽婆尸沙法 *Prat-m. 2.*
 saṃghi-BHū, 群をなす; 𑖀𑖩𑖪𑖫 僧成, 成僧 *Abh-vy.*
 saṃ-ghuṣṭa 𑖀𑖩𑖪𑖫 𑖀𑖩𑖪𑖫 → GHuṣ.
 saṃ-GHṛṣ, → GHṛṣ.

Sac, I. 𑖀𑖩𑖪𑖫 sacate, (𑖀𑖩𑖪𑖫, きわめて普通), 𑖀𑖩𑖪𑖫 (まれ) (𑖀𑖩𑖪𑖫) と結びついているまたは交流する; (𑖀𑖩𑖪𑖫) を所有するまたは享受する; (𑖀𑖩𑖪𑖫) に近い・に伴なうまたは属する; (𑖀𑖩𑖪𑖫) に専念する; (𑖀𑖩𑖪𑖫) に従う; (𑖀𑖩𑖪𑖫) を訪問する; 追求する(𑖀𑖩𑖪𑖫); (𑖀𑖩𑖪𑖫) を結果として持つまたは獲得する; 結合されるまたはともにある; III. 𑖀𑖩𑖪𑖫 siṣakti (RV.) (𑖀𑖩𑖪𑖫) に続く; (ある人を助けて) (𑖀𑖩𑖪𑖫) させる; (𑖀𑖩𑖪𑖫) に住むまたはある.

anu- (𑖀𑖩𑖪𑖫) に続く.

abhi- (𑖀𑖩𑖪𑖫) を求める・に至るまたはに親切にする.

upa- …に侍する(𑖀𑖩𑖪𑖫); 追求する(Br.).

saṃ- (𑖀𑖩𑖪𑖫) と結合される(RV.).

sa-cakitam 𑖀𑖩𑖪𑖫 震えながら, 驚いて, 驚いた態度で.

sa-cakṣus 形 𑖀𑖩𑖪𑖫 眼をもった, 見る; 𑖀𑖩𑖪𑖫 有眼者 *Ratna-ut.*

sa-canas 形 (𑖀𑖩𑖪𑖫) と協力する(RV.).

sacanasya, 名動 𑖀𑖩𑖪𑖫 やさしく扱う(RV. 用例一回のみ).

sa-camat-kāram 𑖀𑖩𑖪𑖫 驚いて.

sacasya, 名動 援助または保護をうける(RV. 用例一回のみ).

sacā 𑖀𑖩𑖪𑖫 RV.: 手近で; いっしょに; (𑖀𑖩𑖪𑖫 とともに) …において・の面前でまたは…といっしょに.

sacā-bhū 形 (𑖀𑖩𑖪𑖫) を伴なった(RV.). 男 仲間, 友人(RV.).

saci 𑖀𑖩𑖪𑖫 同時に(Br.).

sa-citta 形 心を同じくした, 理性ある; 𑖀𑖩𑖪𑖫 有心 *Abh-vy.*

sacittaka 形 𑖀𑖩𑖪𑖫 有心 *Abh-vy.*

sa-cittika 形 𑖀𑖩𑖪𑖫 有心 *Abh-vy.*

sa-citra 形 絵で飾られた; 絵とともに.

sa-cinta 形 思索に没頭した. ~m 𑖀𑖩𑖪𑖫 思慮深く.

sacintākulam (°ta-āk°) 𑖀𑖩𑖪𑖫 [同上].

saciva 男 友; (王の) 仲間, 顧問, 大臣; 煽動者(S., まれ: 一° 形 …によって助けられた, …を供給された; 𑖀𑖩𑖪𑖫 大臣 *Buddh-c., Divy.*

sacivatā 女 大臣の職務.

sacivatva 中 [同上].

saci-vid 形 互に知り合う; 親密な(RV. 用例一回のみ).

sa-cihna 形 烙印をおされた. ~m 𑖀𑖩𑖪𑖫.

sacet 𑖀𑖩𑖪𑖫 (Pali sace) もし…ならば; 𑖀𑖩𑖪𑖫 若, 設, 仮令, 仮使, 若是 *Aṣṭ-pr., Mvyut., Prajñ-h., Sa-ddh-p., Sapt-pr., Vajr-pr.*

sa-cetana 形 合理的な, 聡明な; 十分に意識している; 𑖀𑖩𑖪𑖫 有覚, 有心者, 有覚触 *Aṣṭ-pr., Lank.*

sa-cetas 形 満場一致の, 一致した(𑖀𑖩𑖪𑖫); 聡明な, 合理的な, (正しい) 心の状態にある.

sa-cela 形 まとった, 着衣した, 着物をつけた; 𑖀𑖩𑖪𑖫 着衣 *Madhy-v.*

sa-caila 形 [同上].

sa-cchala 形 詐欺の, 人を欺く.

sa-cchāya 形 陰のある; きらめく(宝石); (一°) と同色の.

sa-cchidra 形 欠陥ある, 欠点のある.

sa-cchidratva 中 𑖀𑖩𑖪𑖫 毀禁 *Sūtr.*

sa-jaḍatara 形 𑖀𑖩𑖪𑖫 瘰癧 *Śikṣ.*

sa-jana 𑖀𑖩𑖪𑖫 人々がしばしば赴くまたは住んでいる; 人

々といっしょの。~e 因 公然と。因 同じ家族の人、身内の男。
 sa-janiya 因 [('sa janāsa indrah' という疊句をもつ) 讃歌 RV. II, 12 の名]。
 sa-jala 形 水っぽい、しめっぽい、ぬれた。
 sajala-nayana 形 ぬれた眼をもつ(孔雀)。
 sajala-prṣata 形 水滴をもった。
 sa-jāgara 形 目覚めた、眠らない。
 sa-jāta 形 一緒にまたは同時に生れた、関係ある(因)。
 因 親戚、同郷の人(因)。
 sa-jāti 形 同一カーストに属する、同種類の、類いの。
 sa-jātiya 形 [同上]。
 sa-jātya 形 同じ種族または家族の(因、因)。因 同家系の子孫、親戚。
 sa-jāni 形 妻といっしょの。
 sa-jāmi 形 (sajāni の 不確)。
 sa-jāra 形 情夫といっしょの、愛人をつれた。
 sa-jāla 形 たてがみをもった。
 sa-jiva 形 活気のある、生活する、生きている；弓の弦を持っている。
 sajivatā 因 [同上の 因]。
 sa-jūs 副 同時に、更に(因)、副…とともに、(因)といっしょに(因)。
 sa-jrmbhikam 副 あくびして。
 sa-joṣa 形 (因) 結合された；(因) とともにあるまたはと調和して動作する。
 sa-joṣas 形 [同上]。
 sa-jja 形 [sajya からの同化による] 弦を備えた、弦の張られた(弓=すぐに使える)；弦に番えられた(矢)；(因、因、不定、一°)のために準備された・支度が整えられたまたは用意ができた(普通の意味)；
 待、已辦 *Daś-bh.*, *Divy.*
 sajjaka 形 (因 -ikā) (一°)の用意ある 男[人名]。
 sajjakarman 因 弦を張ること。
 sajjatā 因 (prati) に対して用意すること。
 sajjana 1. 形 [Sañj] (首、一°)からつりさがる。
 sajjana 2. 男 善良な・高潔な・親切なまたは(時として)賢明な男；[人名]。
 sajjaya, 名動 因 sajjayati, (弓の)弦を張る(まれ)；備える、準備する、用意する；
 因 韻律 [同上]；覚悟する。因 sajjyate. 過受分 sajjita 弦の張られた(弓)；(-artham または一°)のために準備された・を備えたまたはの用意がある；
 敷、莊嚴 *Madhy-v.*
 sajjala 男 [人名]。
 sajji-Kṛ, (弓の)弦を張る；備える、準備する、用意する；
 設、營辦、備辦 *Divy.* 過受分 (一°)のために準備された。
 sajji-BHū, (因)に備える。
 sajya 形 [jyā から] 弦のある(弓)；弦に番えられた(矢)。
 saiyotis 副 天体に従って=薄明の間(星の消える時と日の出との間または日没と星の現われる時の間)；
 ~iṣi-因 副 [同上]；太陽が地平線上にある間。
 sa-jvara 形 熱病にかかる；
 熾然 *Bodh-bh.*

sañcaka 男 または 因(?)型, 印。
 saṃ-Cakṣ, → Cakṣ.
 saṃ-cakṣe 因 不定 (RV.)。
 saṃ-cakṣya 未受分 眺められるべき (RV.)。
 saṃ-caya 男 因 および 因 蓄積、たくわえ、貯蓄、富、量、集合；集めること、集合すること(まれ)；
 因 さらに多くをもつために；
 集、聚、積聚、積集、聚積、和合、増長；儲、儲積 *Abh-vy.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suwik.*, *Vijñt.*, 梵千。
 saṃ-cayana 因 集めること、集合すること。
 saṃ-cayavat 形 財を所有する、富んだ。
 saṃ-cayika 形 (一°のみ)糧食をもつ。
 saṃ-Car, → Car.
 saṃ-cara 形 さまよう (mūrti- 肉体を有して歩む=化身)；…といっしょに行く、同時の(因)；
 行取相、具…行 *Lank.* 男 遊歩場、路、道、通路 (*Saṃkhya* 哲学における)開展。
 saṃ-carāṇa 男 (因 -i) 進むに適する、通過可能な、集合する(因)。因 (海の：)航海 (RV.)；(一°)による、(因)からのまたは(因、一°)における運動。
 saṃ-caritra 因 作媒嫁 *Mvyut.*
 saṃ-çaṛiṣṇu 形 動きまわる、徘徊する。
 saṃ-carvaṇa 因 咀嚼。
 saṃ-Cal, → Cal.
 saṃ-calana 因 ふるえること、揺れること。
 saṃ-cāra 男 歩きまわること、逍遙すること、徘徊すること 駆ること；運動；通過、通路；入口門；(一°)に移動または移転すること；(野獣の)跡、路(まれ)；
 移、伝、遷、度、行、易、練、移転、転進、増進、転易、至度 *Abh-k.*, *Abh-v.* *Lank.*, 梵千：indriya~ 練根 *Abh-vy.* 565。
 saṃ-cāraka 男 案内者。
 saṃ-cāraṇiya 未受分 さまよい歩かれるべき；(因)移転されるべき。
 saṃcāra-vyādhi 男 證、病過、病過證 *Mvy.*
 saṃ-cārita 使役 過受分 [Car] 動かされた、働かされた。
 saṃ-cārin 形 (因 -ni) (因、一°)の中を歩きまわ逍遙する、徘徊する、動く、動き得る；(一°)に透する；伝達された、伝染する、遺伝の(病気の)と接触するまたはに相接する；携帯される(一°)にあるまたはに従事した；付随的な(感情)ある人と提携する。
 saṃ-cārya 未受分 近づきやすい (asaṃcārya とし(一°)によって生じる)。
 saṃ-cikīrṣu 希求 形 実行しようと思う。
 saṃ-Ci, → Ci 1., 2.
 saṃ-Cit, → Cit.
 saṃ-cita 過受分 → Ci 1.; 集、聚、積、積集成、聚成、聚集、所集、所種、微集、微聚、集、可積集 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Gand-vy.*, *La Lank.*, *Mvyut.*
 saṃ-citi 因 積み重ねること、収集すること、たえること。
 saṃ-Cint, → Cint.

saṃ-cinti 因 故思 *Bodh-bh.*
 saṃ-cintya 未受分 考慮されるべき; (-vat) とみなされるべき. 不変 意, 心, 故, 故思, 如想, 思議, 以自在心, 正意思惟 *Bodh-c., Daś-bh., Divy., Mvyut., Prāt-m., Ratna-ut.*
 saṃcintya-janman 因 作意生処 *Sūtr.*
 saṃcintya-parigraha 男 故意受生 *Sūtr.*
 saṃcintya-bhavopapatti (°va-up°) 因 故意受生 *Sūtr.*
 saṃcintyopapatti (°ya-up°) 因 作意生処 *Sūtr.*
 saṃ-cinvānaka 形 財産または財宝を集めることに忙しい.
 saṃ-Cud, → Cud. 使役 告…言 *Raṣṭr.*; 令…覚悟; 彰 *Bodh-bh.*; 打破 *Ratna-ut.*
 saṃ-cūrṇaya, → cūrṇaya.
 saṃcūrṇita 過受分 → cūrṇaya.
 saṃ-cetanā 因 思, 作意 *Abh-k.*
 saṃcetanāhāra. (°nā-āh°) 因 思食 *Abh-k.*
 saṃ-cetaniya 未受分 故思 *Abh-vy.*
 saṃcetaniya-sūtra 男 故思經 *Abh-vy.*
 saṃ-cedana 男 伐, 斫伐 *Śikṣ.*
 saṃ-ceya 未受分 集められるべき.
 saṃ-Ceṣṭ, → Ceṣṭ.
 saṃ-codaka 男 開發, 覚悟 *Gaṇḍ-vy., Lal-v.*
 saṃ-codana 男 勸, 拳, 照, 拳罪, 覚悟, 教誡, 真実勸, 令覚知 *Bodh-bh., Buddh-c., Lank., Madhy-v., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ. : nimitta-~ hetu 為覚悟 Saddh-p. 190.*
 saṃ-codanā 因 開發, 覚悟, 勸発, 勸請, 諫海, 訶責, 諍難, 誹謗言, 覚悟勸請 *Bodh-bh., Lal-v., Suv-pr.*
 saṃ-codanin 形 照 *Mañj-m., Madhy-v.*
 saṃ-codayitavya 未受分 駆り立てられるべき.
 saṃ-codita 過受分 語, 教, 開悟, 勸発, 覚悟, 発起, 蒙覚悟 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Raṣṭr., Saddh-p., Śikṣ.*
 saṃ-cchanna 過受分 覆, 所覆, 纏, 彌覆 *Lal-v., Lank., Ratna-ut.*
 saṃ-CHad, → CHad 1.
 saṃ-channa 過受分 → CHad 1.; 覆, 入, 彌覆, 所覆, 徧覆, 遍覆, 覆翳, 覆障, 所蔽, 覆蓋, 充滿, 羅覆其上, 彌覆之所 *Daś-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lank., Lal-v., Saddh-p., Śikṣ. : padma~ 蓮華敷布, 蓮華充滿, 蓮華茵苕芬敷 Gaṇḍ-vy. 260.*
 saṃ-chādita 過受分 覆, 覆映, 遍覆, 充滿, 覆其上 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Raṣṭr.*
 saṃ-CHid, → CHid.
 saṃ-chinna 過受分 → CHid; 決除 *Lal-v.*
 saṃ-chettr 男 (疑いを) 晴らす者.
 Sañj, Saj, I. 他 sajati 附着する, 自 sajate …に愛着する (因); (因) に執着する (因); (因) に愛着するまたはに従事している (因). 受 sajyate (因) に執着している; (俗語的な同化をとめない) sajate (韻律 時としては 他) (因) にしがみつくと、執着する、…を固執する; ためらう; (因) の上に固定される・に愛着するまたは専念する. 過受分 sakta (因,

一) にしがみつくと、執着するまたは固執する; (一) を所有している; (一) の上に固定された, …に委せられた; (因, prati, 一) に対して執着した・におぼれた・専念する・に夢中であるまたはにたずさわる (普通の意味). 使役 他 sañjayati (因) に執着させるまたはと結合する; sajjayati (因) に執着させる; (心を) (因) に固定する; 売春をあっせんする. 希求 sisankṣati; 著, 計著, 相著, 染著, 執著, 繫著; 疑, 所礙, 障礙, 罣礙; 滯礙; 相糝; 延蔓 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Bodh-c., Buddh-c., Lank., Raṣṭr., Saddh-p., Śikṣ.*
 ati- 過受分 atīṣakta (因) と結合された (A.V.); (一) に熱心に専念する.
 vy-ati (-saja)- 他 相互に結びつける, からませる; (ある人を) …のなかに引き入れる, かかりあいにする. 過受分 vyatiṣakta 相互に結びつけられた, からませられた, まぜ合わされた.
 anu- 加える. 受 anuṣajyate (因) に執着する; …と結びつけられる, 先行のものから補われる; anu-sajjate (因) に執着するまたはに専念する. 過受分 anuṣakta (因) に愛着した; (因) と密接に連関した; (因, 一) と結びつけられたまたはによって影響を受けた, に依存する.
 abhi- 影響する; (ある人に) 呪いの言葉を発する; (因) を主張する, 要求する; 過受分 (因) に苦しめられた; 呪われた.
 ava- (因) に添付する, …に付着する; 指定するまたは…に委任する. 過受分 (因, 一) にしがみつくと、に頼る, 触れる; (因) に委ねられた.
 ā- (因) の上に固定する, …に留める, …からつるす; (因) の上に投げる・に対して譲渡するまたは委ねる; (業) に対してもたれかける, …にしがみつくと; (因) と (敵対関係) に入る. 受 āsajyate (因) に付着させられる・に執着するまたはに対して固定させられる (=を凝視する). 過受分 āsakta (因, 一) につるされた・に掛けられた・附着した・の上に置かれたまたはに基づいている; の上に固定された; 一° …のなかに含まれた; にふけた・専心したまたは熱中した; そなわっている; (足跡を) 尾行するまたは(足: pāda) もとに横たわっている. 使役 他 āsañjayati. (因) によって (因) の上に置かせられる.
 vy-ā- 自 白兵戦を始める. 過受分 (因, 一) に附着または執着した; …の上に固定された; (因, 一) に専心した, …に従事した; 抱きしめられた, 抱擁された.
 sam-ā- (因, 一) の上に置く; (因) に譲るまたはに委ねる. 過受分 (因) に附着した, に固定された; (因) に依存する; (因) に連関する; (因, 一) に専念した; (因) に委ねられた; (一) によって悩まされた.
 ut- 受 utsajyate, utśjyate の 不離.
 ni- 自 (因) (えびらを) 結びつける; 懸ける. 過受分 niṣakta (因, 一) に懸っているまたは附着した; に固定した.
 pra- 他 …をそなえる (Br.); (因) にしがみつくと; 結

果として起る, 従う, 適用し得る, 有効である;
 過, 失, 立, 応立 *Abh-vy.*, *Lank.* 因 *pra-*
sajya(-te, -ti), *prasajja(-te, -ti)* (因に執着する,
 しがみつく; (因)に専念する, 従事する; *prasajyate*,
 結果として起る, 従う, 適用しうる, 有効である。
 過受分 *prasakta* (因, 一)に(心等が)執着した・
 固着したまたは固定された; (因, 一)に専念した・
 にふける・に従事するまたはに夢中である; 世間的
 な; 魅惑された; (一)をそなえた; 結果として生
 ずる, 適用し得る; 継続する, 持続する。使役 因
prasañjayati 生起せしめる。

anu-pra- 過受分 (一)に付着したまたは固定された。
sam-pra- (*sajjate, -ti*) (因)に付着する; (因)によ
 って引きつけられる。過受分 付着した; (因)に従
 事している; 有過, 可立為 *Abh-vy.*

vi- (*sajjate*) (因)に付着するまたは専念する。過受分
viṣakta つるされた (因, 因); 因: (因)に付着した
 または固着した; (因, 一)に固定された; (一)に
 依存する; 産み出された, 植えつけられた。

sam- (*sajjate, -ti*) (因)に執着する; (因)との(戦
 闘において)接戦するに至る; (言葉が)どもる。

過受分 *samsakta* (因)に付着したまたは固定した;
 (因, 一)に専念する・耽るまたはに従事する; (一)
 と接触するに至る, 触れる, 結びつけられた, 連結
 されたまたはをそなえた; 隣接する, 密な, 濃い;
 続いている, 永続する; 連続的な, 繰返された; 依
 存する。

sañjaka 因 [人名]。

sañjatara 因 [ある町の名; おそらく 不確]。

sañjana 因 付着すること; (両手を)組み合わせること。

sam-janana 因 (因-i) (一)を産み出す; 生,
 出生, 能生, 令生, 令成就, 能令出生, 能令出起
Bodh-bh., *Gand-vy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.* 因 産出,
 創造; 生 *Bodh-bh.*; 普或妙或皆生 *Mvyut.*

samjanatā 因 作 *Ratna-ut.*

samja-pāla 因 [人名]。

sam-jaya 因 勝利を収めた(因)。因 勝利 (Br.); 軍隊
 の戦列の一種 (因); [人名], とくに *Uṣṣarastra* の御
 者の名; 正了知; 散脂 *Suv-pr.*

samjayin vairat(-d-)i-putra 因 (= *Pali Samjaya Be-*
latthiputta) [六師外道の一人の名]; 欲説男
 女具勝真 *Mvyut.*; 音写 珊蘭夜毘羅底 *Miyut.*

samjayin vairatti-putra 因 [同上]; 音写 珊
 逝移陸刺知子 *Divy.*

sam-jalpa 因 会話, 話し; 議論 *Av-s.*, *Divy.*;
 籌量訖 *Divy.*: *anonyam ~ m kurutaḥ* (将士)共
 論戦法 *Av-s. I, 56.*

sam-javana 因 (?) 四角形。

sam-jāta 過受分 → *Jan*; 出生 *Gand-vy.*

samjāta-kautuka 因 好奇心を刺激された。

samjāta-nidrā-pralaya 因 眠りが終わった, 十分に眠
 った。

samjāta-lajja 因 当惑させられた。

samjātāmarṣa 因 生嫌恨 *Divy.*

samjiva 因 等活, 更活, 更生 *Abh-k.*, *Abh-vy.*,
Mvyut.

samjātersya (°*ta-ir*°) 因 嫉妬深くなった。

sam-jighrksu 因 [°*Grah*] 集めようと思う, 要約し
 ようと思う。

sam-jiti 因 完勝 (因)。

sam-jivaka 因 (因-*vikā*) 活気づける。因 [ある牡牛
 の名]; °*ikā* 因 [人名]。

sam-jivana 因 (因-i) 活気づける, 蘇生させる。因
 ある地獄。因 活気, 生命。

sam-jivani 因 [*Kumārasambhava*, *Meghadūta* お
 よび *Raghuvaṃśa* に関する *Mallinatha* の諸註の
 標題]。

sam-jivin 因 活気づける, 蘇生させる。因 [鳥王
Neghavarṇa のある大臣の名]。

sam-jivini 因 = *samjivani*。

sam-jñā 因 一° = *samjñā* (*labdha-samjñatā* 因 意
 識の回復)。

samjñaka 因 一° (因-*ikā*) = *samjñā* 名前; 名,
 相, 想 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*

sam-jñapana 因 供儀の動物の絞殺; 欺瞞, 詐欺。

sam-jñapta 過受分 因 (= *Pali saññatta*) 晓諭 *Bo-*
dh-bh.

sam-jñapti 因 謝, 悔謝, 諫誨, 諫謝; 禱祝
Bodh-bh., *Mvyut.*

samjñapti-kriyā 因 教誨 *Bodh-bh.*

samjñapti-pratigrahaṇa 因 受悔謝 *Bodh-bh.*

sam-Jñā, → *Jñā*; 因 遍知 *Sūtr.*

samjñā 因 (因 因) 一致, 理解; 意識, 知識, 明瞭な
 概念; 因: (手等, 一)での身ぶり, 合因; 命名,
 名前, 術語(一 因と称せられる, 呼ばれる); [*Tv-*
aṣṭr (*Viśvakarman*) の娘の名, 太陽の妻, *Manu*,
Yama および *Yami* の母]; 号, 名号; 名, 名字,
 名想; 想, 想陰, 邪想, 憶想; 相, 少相; 思, 心,
 意, 智見; 悟, 蘇; 選択塵差 *Abh-k.*, *Abh-vy.*,
Aṣṭ-pr., *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Divy.*, *Gand-vy.*,
Lal-v., *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*,
Ratna-ut., *Saddh-p.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*, *Vajr-pr.*,
Vijñ-t.; 音写 珊若 *Mvyut.*

samjñāntara-viśeṣa (°*nā-an*°) 因 名別, 名差
 別, 名字相異 *Lank.*

samjñā-karaṇa 因 立号, 作想 *Abh-vy.*

samjñā-kṛta-bandhana 因 虚妄顛倒 *Ratna-ut.*

samjñā-gata 因 妄想顛倒 *Ratna-ut.*

samjñā-granthi 因 妄想顛倒 *Ratna-ut.*

samjñā-grāha 因 顛倒, 顛倒想 *Ratna-ut.*

samjñāna 因 調和を生ずる (Br.)。因 (因, 因; 因) と
 の合意, 調和; 意識 (Br., P. 等); 想 *Abh-vy.*

samjñānanā-lakṣaṇa 因 識会相, 会而識之相性
Mvyut.

samjñā-nimitta 因 想像 *Bodh-bh.*

samjñā-nirodha 因 想滅, 受想悉寂滅, 無想定
 滅尽 *Lank.*

samjñāpanatā 因 晓悟 *Bodh-bh.*

samjñā-bhikṣu 因 (音写) 比丘名, 名想苾
Abh-vy., *Mvyut.*

samjñā-nimitta 因 想像 *Bodh-bh.*

samjñā-mātra 因 唯有想 *Bodh-bh.*

saṃjñā-prāpti 因 𑖦 仮立想号 *Bodh-bh.*
saṃjñā-vikalpa 男 𑖦 憶想分別 *Saddh-p.*
saṃjñā-vijñāna 中 𑖦 想識, 識相 *Lank.*
saṃjñā-viparyāsa 男 𑖦 倒想, 想顛倒 *Abh-vy.,*
Aṣṭ-pr.
saṃjñā-vivarta 男 𑖦 轉諸想, 轉虛妄想 *Lank.*
saṃjñā-vedayita-nirodha 男 𑖦 想受滅 *Gaṇḍ-vy.*
saṃjñā-vedita 過受分 𑖦 少相, 少想 *Lank.*
saṃjñāvedita-nirodha 男 𑖦 滅受生, 滅度想定,
 滅受想定 *Mvyut.*; 滅想受定 *Abh-vy.*
saṃjñāveditanirodha-samāpatti 因 𑖦 滅想受定
Bodh-bh.
saṃjñā-saṃketa 男 𑖦 仮想施設 *Bodh-bh.*
saṃjñā-skandha 男 𑖦 想蘊 *Mvyut.*
saṃjñita 名動 過受分 (眉, 一) によって合因され
 た; 名, 想 *Madhy-vibh., Ratna-ut., Sūtr.*
saṃjñitva 中 𑖦 想 *Abh-vy.*
saṃjñin 形 意識している; (特殊の) 名称をもってい
 る; 相, 想, 有想, 少想, 作想, 住想, 為想, 生
 想 *Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lank., Mvyut.,*
Ratna-ut., Saddh-p., Śikṣ., Vajr-s.
saṃjñi-BHū, 𑖦 思惟 *Śikṣ.*
saṃjñeya 未受分 𑖦 正了知 *Suv-pr.*; 𑖦 散脂,
 僧慎爾耶 *Suv-pr.*
saṃjñopasarjani-BHū (°ñā-up°), 固有名詞または合
 成語の從属部分となる。
saṃ-jvara 男 熱, 熱病. ~m Kṛ, 心の動揺を感じる。
saṃjvara-kara 形 心を動揺させる (一°).
saṭa 中 (?) たてがみ; (いのししの) 剛毛。
saṭā 因 [同上].
saṭā-la 形 たてがみを有する。
saṭālu=salāṭu, 熟しない果実。
sa-dīṇḍimam 副 太鼓を打って。
saḍḍa 男 [人名].
saṃ-dīvin 男 [鳥の王 *Meghavarna* の大臣の名] →
 saṃjivin.
sat 現分 [As] (因 -i) 存在している, 現存している, 居
 合わせている; (因) にある; (因) に属している; 持
 続している, 永続している (世界); ...である (形容
 詞, 副詞 とともにまたしばしば 過受分 に時としては 現分
 に加えられる); 実際の, 現実の, 真正の; 正しい;
 よい, 有徳の; 有, 実, 真, 善, 善人, 善
 士; 正; 賢, 賢善; 智者; 微妙正; 共敬; 仁者
Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Lank., Ma-
dhy-vibh., Mvyut., Nyay-pr., Ratna-ut., Sūtr.
vibhave sati 金銭・財産がある時に, もしも資産
 があるならば. *vināṣe nāṣe vā sati* 損失かまたは死
 が生ずる時に. *nāṃni kṛte sati* 命名 (の儀式) が執
 行された時に. *tathā sati* そのようであるので, こ
 ういうわけだから. °— =sa-, ...を所有している。
 男 𑖦 生類 (RV.); 善人, 有徳の人または教育のある
 人, 賢者 (しばしば °— ; 𑖦); 慧者, 聡叡, 苦
 有, 上品諸人 *Buddh-c., Madhy-vibh.* 中 (現実に)
 存在しているもの, 實在, 現実の世界 (因, 𑖦); 善,
 利益 (因, 𑖦); 現在分詞の語尾 (因, 𑖦).

sat-Kṛ, 𑖦: 整理する, 準備する; 飾る, 裝飾する;
 尊重する, 優遇を受けるまたは優遇する; (火葬等
 によって) (因) の葬式を行なう (因); 尊敬する
 (因); 敬, 敬重; 重; 貴重, 尊重, 生尊重,
 殷重; 供養; 礼敬, 致敬, 恭敬 *Bodh-bh., Daś-bh.,*
Mvyut., Prāt-m., Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr. 過受分
 (一°) を以って飾られた; 尊敬された, 親切に遇さ
 れた。
sa-tata 形 [継続されている: Tan の 過受分] 絶えざ
 る, 不断の (一°); 常, 恒, 無間 *Abh-vy.,*
Bodh-bh., Saddh-p., Sūtr. °— または ~m 𑖦 絶え
 ず, 何時も, 常に, 永久に: na とともに決してし…
 ない; 常, 恒, 恒常 *Bodh-bh., Madhy-vibh.,*
Raṣṭr., Ratna-ut., Sūtr.
satatānubaddha 過受分 𑖦 常随逐 *Sūtr.* → Ban-
 dh.
satata-ga 男 風。
satata-gati 男 [同上].
satata-dṛṣṭi 因 𑖦 身見 *Sūtr.*
satatadṛṣṭi-kleśa-lakṣaṇa 中 𑖦 身見是染汚 *Sūtr.*
satata-dhṛti 形 常に断固とした。
satata-pravardhita 形 𑖦 増 *Sūtr.*
satata-yāyin 形 常に動いているまたは変化している。
satata-bhaiṣajya 中 𑖦 常 (受用) 藥 *Śikṣ.* → glā-
 napratyayabhaiṣajya.
satata-samitam 副 𑖦 常, 恒常, 恒時, 恒常無間;
 永不断; 無間無欠; 心不休息 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.,*
Daś-bh., Mvyut., Raṣṭr., Ratna-ut.
satatasamitābhīyukta 形 𑖦 常精進, 常恒精進,
 常応時 *Saddh-p.*
sa-tattva 中 眞の性質; 眞 *Sūtr.*; 有我 *Madhy-*
v.
satattvatas 副 眞実に。
satas 副 等しく (単に °— においてのみ用いられる)。
sa-tāpa 形 苦痛に満ちた。
sa-timira 形 闇に包まれた。
sati 因 [韻律の一種].
sati 因 現分 [As] 存在している等. 因 あなた (= *bhavati*); 善良な, 貞淑なまたは貞節な妻 (普通の意味);
 妻 (まれ); [*Viśvāmitra* の妃の名]; [*Dakṣa* の娘で
Bhava (*Śiva* 神) の妃の名].
satitva 中 妻の貞節。
sati-vrata 中 [同上].
sati-vratā 因 貞節な妻。
sati-saras 中 [Sati の湖 (*Kaśmir* にある湖の
 名)].
sa-tuhina 形 氷の, 冬の。
sa-tūrya 形 音楽を伴った. ~m 副 音楽に合わせて。
sa-tṛṣṇam 副 憧憬して, 慕って。
sa-tejas 形 光輝等に伴われた (因).
satera 男 𑖦 雙 (雙金銭) *Abh-vy.*
sato-bṛhat 形 等しく高いまたは大きい (因)
sato-bṛhati 因 [韻律の一種 (12×8×12×8音節)].
sato-mahat 形 等しく大きい (RV., 用例一回のみ).
sat-kathā 因 よい会話または話し。
sat-karaṇiya 未受分 𑖦 為…恭敬 *Bodh-bh.*: ma-

hājanakāyasya ~h 為諸大衆恭敬 *Bodh-bh.* 29.
 sat-kartavya 未受分 形 尊敬されるべき； 應恭敬， 当勤供養 *Saddh-p.*
 sat-kartṛ 男 恩をほどこす人， 恩人。
 sat-karman 中 善行， 有徳の行為， 善行を行なう。
 sat-kalā 女 美術。
 sat-kavi 男 よいまたは真の詩人。
 satkavitva 中 真の詩人の天賦。
 sat-kāya 男 存在している身体； 個体， 個性； 有身， 破身， 偽身， 虚偽身， 壞身； 无常身； 身見 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Ratna-ut.*, *Sapt-pr.*, 玄応； 音写 薩迦耶 *Bodh-bh.*, *Sapt-pr.*； 薩迦邪 玄応。
 satkāya-dṛś 女 身見 *Madhy-vibh.*
 satkāya-dṛṣṭi 女 我見 *Saddh-p.*； 身見(有身見)； 偽身見； 破身見， 離身見； 壞見； 貪身自見， 執著我見； 聚見 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*； (音写) 薩迦耶見(五見の一つ) *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Vijñ-t.*
 satkāyadrṣṭi-patita 形 身見 *Ratna-ut.*
 satkāya-nirodha 男 離身見 *Ratna-ut.*
 sat-kāra 男 親切的な待遇， 優遇； (王の) 称讃， 好意(一)； 敬， 恭敬； 養， 供養； 愛事， 尊重 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*； 名， 誉， 名聞， 讚歎 *Abh-vy.*, *Śikṣ.*, *Vijñ-t.*； ~rārtham 副 為供養 *Saddh-p.* 160； ~rārthāya 副 欲…恭敬 *Saddh-p.*
 satkāra-lābha 男 敬養， 利養， 恭敬供養 *Sūtr.*
 satkāraṛha 形 優遇するにふさわしい； 可敬， 所應敬， 應供養者 *Bodh-bh.*
 sat-kārya 未受分 成就された； 尊敬または款待に値いする。 中 (原因に内属する) 結果の必然的な存在； 因有果， 果先有， 前有果 *Cat-s.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Sāṃkhy-k.*
 satkārya-vāda 男 結果が(原因のなかにすでに可能態として)現実に存在するという説， 因中有果論(*Sāṃkhyā* 哲学)。
 satkārya-vādin 男 satkāryavāda 説の信奉者。
 sat-kāvya 中 すぐれた詩
 sat-kīrti 女 よい評判。 形 評判のよい。
 sat-kula 中 良家または高貴な家柄。 形 良家または高貴な家柄に属する。
 sat-kṛta 未受分 尊敬された， 優遇された。 中 名誉ある款待； 讚， 敬， 恭敬， 所尊敬， 所供養 *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sukh-vy.* I. → a~。
 sat-kṛti 女 親切的な待遇， 款待， 厚遇。
 sat-kṛtya 1. 中 敬重 *Abh-vy.*
 sat-kṛtya 2. 不変 親切に款待して； 恭敬， 一心， 致心， 正意， 尊重 *Bodh-bh.*, *Kār-vy.*, *Prāt-m.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*
 satkṛtya-kāritā 女 殷重所作 *Bodh-bh.*
 satkṛtya-kārin 形 恭敬， 作敬 *Mvyut.*
 satkṛtya-dharma-deśana 中 恭敬説 *Sūtr.*
 satkṛtya-pācanā 女 心恭敬 *Sūtr.*
 satkṛtya-prayoga 男 恭敬行 *Sūtr.*

satkṛtya-manaskāra 男 恭敬作意 *Sūtr.*
 sat-kriyā 女 整頓， 準備(まね)； 親切的な待遇， 手厚い款待(普通の意味)； (結婚の， 一) 祝典； 供養 *Aṣṭ-pr.*
 sat-kṣetra 中 よい田野。
 satta 未受分 [Sad] 坐っている。 → Sad.
 sattama 最上 (圓) の中の最上の， 最上の， 主要な。
 sat-tarka 男 哲学の正統学派。
 sattā 女 有， 存在； 実， 有， 有的， 有性， 有相 *Abh-vy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Vajr-s.*
 sattāvat 形 「ある」と言う賓辞がつけられる， 有性を有する。
 sattāsattā (°tā-as°) 女 有無， 有無物 *Lank.*
 satṭṛ 男 [とくに祭式において] 坐するもの (*RV.*)
 sattra 中 [坐ること： Sad] (多くの祭官によって遂行される 12 以上の Sutyā 日を含む) 長期ソーマ祭； Sattra (の遂行) に相当する価値のある行為； 病院， 收容所； 変装， 人をあざむく見せかけ(まね)； 森(まね)。
 sattra-grha 中 病院， 收容所。
 sattra-yāga 男 Sattra 祭。
 sattra-vasati 女 病院， 收容所。
 sattra-śālā 女 [同上]。
 sattra-sadman 中 [同上]。
 sattrāyana 中 数年続く祭式の会期 (*Br.*)
 sattrāyana-rūpa 中 長期の祭式の会期の特徴。
 sattrin 男 Sattra 祭を行なうもの， 饗宴を行なうもの (因， 圍)。 形 変装された(圍)。
 sattriya 形 長期の祭式の会期に属する等(因)。
 sattva 中 [有ること] 因， 圍： 有， 存在， 実在； 本質， 性質， 性分， 性格； 圍： 強い性格， 精力， 決心， 勇氣； (純粹) 善 (*Prakṛti* に内在する三つの構成要素の最初のもの)； 精神； 生氣， 生命； 実在物， 実体， 事物(まね)； 有， 有相； 力， 勇， 勇健； 喜， 喜樂， 剛決， 猛健； 情； (順) 境； 事； 心力； *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Nyāy-pr.*, *Sāṃkhy-k.*, 梵千； (音写) 薩埵 玄応。 男 生物， 動物； 幽霊， 悪魔， 妖精(まね)； 人， 彼， 他衆生， 有情， 有情者； 眷属； 黎庶， 寮庶； 含 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Su-pr.*； sarvasatvā api mama putrā abhūvan 一衆生皆是我子 *Śikṣ.* 19.； katy atra ~ s tathā pudalo vā 云何執有我衆生， 何処有人及以衆生 *Suv-p.* 52。
 sattva-kartṛ 男 生物の創造者。
 sattva-kaṣāya 男 衆生濁， 有情濁， 諸有情 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Sukh-vy.* II.
 sattva-kāya 男 衆生身 *Lank.*
 sattva-kāyādi (°ya-ādi) 男 衆生身等 *Sūtr.*
 sattva-kāraka 形 利群生 *Sūtr.*
 sattva-kārya 中 利衆生事 *Bodh-bh.*
 sattva-kṛti 女 有情(所応)作事 *Bodh-bh.*
 sattva-kṛtya 男 衆生業， 利益諸衆生， 有為， 有情事業 *Bodh-bh.*, *Lank.*
 sattva-kriyānuṣṭhāna 中 利益衆生 *Sūtr.*

sattva-guṇa 男 純質 (Prakṛtiの構成要素の一) (圖);
 衆生性, 一切衆生 *Ratna-ut.*
 sattva-gotra 中 衆生真如性, 衆生…業性 *Lank.*
 sattva-citta-caritāsaya (°ta-ās°) 男 衆生諸心
 行 *Ratna-ut.*
 sattvacitta-prakṛti-prabhāsvaratā 因 衆生自
 性淨心 *Ratna-ut.*
 sattvacitta-saṃtāna 男 衆生身中 *Ratna-ut.*
 sattva-jña 形 知衆生, 曉人 *Lal-v.*
 sattva-duṣṭatā 因 過失, 衆生障 *Sūtr.*
 sattva-deha 男 衆生身 *Lank.*
 sattva-dhātu 男 衆生, 衆生界, 衆生性, 衆生
 身, 有情界 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lank., Madhy-v.,*
Madhy-vibh., Ratna-ut., Sapt-pr., Sūtr.
 sattva-dhāman 中 純質(sattvagūṇa)の居所; [*Viṣṇu*
 神の称].
 sattva-nikāya 男 有情衆, 衆生聚, 衆生界中
Bodh-bh., Sūtr.
 sattva-nigraha 男 治罰衆生 *Gaṇḍ-vy.*
 sattva-nimitta 中 衆生 *Ratna-ut.*
 sattva-pada 中 衆生句, 衆生見 *Lank.*
 sattva-paritrāṇa 中 救一切諸衆生, 於顛倒衆生
 生救護心 *Ratna-ut.*
 sattva-paripāka 男 成熟, 成熟衆生, 教化衆
 生, 成熟有情 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Ratna-ut.,*
Suvik.
 sattvapariṣkāya 因 教化一切衆生, 教化
 諸衆生, 成熟有情行, 成熟衆生行, 熟衆生行 [四菩
 薩行の一つ] *Bodh-bh., Ratna-ut.*
 sattvapariṣkāya-samudāgama 男 成熟有情修
 証, 成熟衆生習起 [十種のsamudāgamaの一つ]
Madhy-v.
 sattva-paripācaka 形 成生, 成就衆生 *Sūtr.*
 sattvapariṣkāya 中 成熟他, 成熟衆生, 建立
 衆生 *Sūtr.*
 sattvapariṣkāya-sakti-yoga 男 成生 *Sūtr.*
 sattva-parisodhana 中 淨衆生 *Sūtr.*
 sattva-pāka 男 化衆生, 成熟衆生 *Sūtr.*
 sattva-pācana 形 成熟衆生 *Sūtr.*
 sattva-pragraha 男 利樂衆生 *Gaṇḍ-vy.*
 sattva-pratibhāsa 男 似根, 變似有情 *Madhy-v.*
 sattva-bhaya-hara 形 能除衆生怖, 能除衆生
 (一切) 怖畏 *Suv-pr.*
 sattva-bhavana 中 衆生身 *Ratna-ut.*
 sattva-bhājana-loka 男 器世間 *Ratna-ut.*
 sattva-bhāva 男 衆生及諸物, 衆生…性 *Lank.*
 sattva-bheda 男 有情異, 有情差別 *Abh-vy.*
 sattvamāyatā 因 有情類性 *Abh-vy.*
 sattva-rāsi 男 決意または勇気の典型; 衆生, 衆
 生界, 有情衆, (多) 衆生聚, 聚衆生 *Aṣṭ-pr.,*
Ratna-ut., Śikṣ.
 sattva-lakṣaṇā 形 妊娠の徴候を示している, 妊娠
 している。
 sattva-loka 男 有情世間, 衆生世界 *Bodh-bh.,*
Madhy-v.
 sattvavat 形 決然たる, 精力的な, 勇気ある; 善(の

性質)に富んでいる。男 強い性格の人。
 sattvavati 因 懐胎 *Divy.*; 具力蔵 *Mṛyut.*
 sattva-vastu 中 有情物 *Bodh-bh.*
 sattva-vādin 形 有論 *Nyāy-pr.*
 sattva-vikraya 男 売生靈 *Mṛyut.*
 sattva-vipratipatti 因 有違逆者 *Sūtr.*
 sattva-vimocaka 形 解脱諸衆生 *Sūtr.*
 sattva-visāla 形 喜樂多 *Saṃkhy-k.*
 sattva-visuddhi 因 衆生自性清淨性 *Ratna-ut.*
 sattva-sālin 形 精力的な, 勇気ある。
 sattva-sīla 男 [人名].
 sattva-saṃkhyāta 形 有情名, 有情数, 衆生名,
 衆生数 *Abh-vy., Bodh-bh.*
 sattva-saṃgraha 男 摂衆生, 摂受衆生, 摂取衆
 生 *Gaṇḍ-vy.*
 sattva-saṃjñā 因 有情想, 衆生想 *Madhy-v.,*
Sapt-pr.
 sattva-saṃtāna 男 彼衆生, 諸衆生 *Lank.*
 sattva-saṃrambha 男 並みはずれた勇気および動物の
 暴力または激怒。
 sattva-santānika 形 衆生身中 *Ratna-ut.*
 sattva-sāra 男 並みはずれた勇気; 堅固人, 無
 上士 *Gaṇḍ-vy.*
 sattva-sārathi 男 調御 (一切) 衆生, 衆生(作) 調
 御師 *Gaṇḍ-vy.*
 sattva-stha 形 性格の堅固さを固守する, 決然たる,
 精力のある; 純質 (sattvagūṇa) に依止する。
 sattva-hita 形 利有情; 利益衆生, 普利一切諸
 含識 *Ratna-ut.*
 sattva-hitāsaya (°ta-ās°) 男 利物 *Sūtr.*
 sattva-hitam-kāra 形 作大饒益, 利益衆生 *Suv-*
pr.
 sattva-hetu 男 為物, 為諸衆生 *Sūtr.*
 sattvākara (°va-āk°) 男 衆生, 衆生性, 衆生性
Lank.
 sattvākhyā (°tva-ākh°) 形 有情現 *Mṛyut.*; 有
 情摂 *Abh-k.*; 情数 *Abh-k.*
 sattvātman (°tva-āt°) 形 純質 (sattvagūṇa) を本性
 とする。
 sattvātma-samadarsana 形 見彼我無別 *Ratna-*
ut.
 sattvātma-samadarsika 形 自他平等 *Ratna-ut.*
 sattvādhika 形 決然たる, 精力のある (人); 勇気あ
 る (行動).
 sattvānūkampaṇa 中 憐愍衆生 *Sūtr.*
 sattvānūgraha 男 護念衆生, 饒益有情 *Bodh-*
bh., Gaṇḍ-vy.
 sattvānūgraha-janita 形 摂生衆 *Sūtr.*
 sattvānūgraha-prayoga 男 饒益有情加行 *Bo-*
dh-bh.
 sattvānūgraha-sīla 中 摂衆生成 *Sam-r.*
 sattvānūgrāhaka 形 饒益有情, 摂取衆生 *Bo-*
dh-bh.
 sattvānūrūpa 形 (自己の) 生来の氣質に従った; (自
 己の) 資産または資力に従った。
 sattvānūrṭti 因 隨生 *Sūtr.*

sattvāpakārākopa 男 衆生加損未瞋惱 *Sūtr.*
 sattvāparityāga-māhātmya 甲 利物大 *Sūtr.*
 sattvābheda 男 有情無別 *Bodh-bh.*
 sattvālabhana (°tva-āl°) 男 衆生縁 *Śikṣ.*
 sattvārtha 男 衆生, 大義, 有情義理, 利益衆生, 饒益衆生, 利益一切衆生 *Bodh-bh., Saddh-p., Sūtr.*
 sattvārtha-karman 甲 利有情業 *Bodh-bh.*
 sattvārtha-kāraka 形 利群生 *Sūtr.*
 sattvārtha-kriyā 女 利益衆生, 饒益有情, 作一切有情義利 *Bodh-bh.*
 sattvārthakriyādhiṣṭhāna (°yā-adh°) 甲 利他処, 利衆生処, 為利衆生処 *Bodh-bh.*
 sattvārthakriyānuṣṭhāna (°yā-an°) 甲 利益衆生 *Sūtr.*
 sattvārthakriyā-śila 甲 攝衆生戒, 饒益有情戒 *Bodh-bh., Sūtr.*
 sattvārthakriyā-sākalya 甲 利益一切衆生 *Sūtr.*
 sattvārtha-cintā 女 利益衆生思惟 *Sūtr.*
 sattvārtha-nirapekṣa 形 利益衆生, 棄捨離一切衆生 *Ratna-ut.*
 sattvārtha-prayukta 形 利他 *Sūtr.*
 sattvārtha-vaipākya 甲 利有情異熟 *Bodh-bh.*
 sattvālabhana (°va-āl°) 甲 衆生縁 *Sūtr.*
 sattvāvāsa (°va-āv°) 男 有情居, 衆生居 *Abh-k., Abh-vy., Mvyut.:* 1. nānātvakāyā nānātvasamjñinaḥ tad yathā manuṣyā ekatyās ca devāḥ 想各身各譬如諸人類, 想各身各, 譬如諸人為一身, 五趣雜居地, 2. nānātvakāyā ekatvasamjñinaḥ tad yathā devā brahmakāyikāḥ prathamābhinirvṛttāḥ 想一身各譬如梵天初天生, 離生喜樂地, 3. ekatvakāyā nānātvasamjñinaḥ tad yathā ābhāsvārāḥ 身一想各譬如諸光明天, 定生喜樂地, 4. ekatvakāyā ekatvasamjñinaḥ tad yathā devāḥ śubhakṛtsnāḥ 想一身一譬如諸広善天, 離喜妙樂天, 5. ākāśānantyāyatanam 空無辺処地, 捨念清淨地, 6. vijñānānantyāyatanam 識無辺処地, 7. ākimcanyāyatanam 無所有処地, 8. naivasamjñānāsamjñāyatanam 非非想処地, 非想非非想処地, 9. asaṃjñisattvāḥ 無想有情 *Mvyut.*
 sattvāvisṛjana 甲 於諸衆生不捨 *Sūtr.*
 sattvāvekṣā 女 顧念有情 *Bodh-bh.*
 sattvāśaya (°va-ās°) 男 衆生心, 衆生希望 *Lank.*
 sattvāśaya-samatā 女 等一切衆生心, 衆生希望等 *Gand-vy.*
 sattvāśraya (°va-ās°) 男 衆生身心 *Bodh-bh.*
 sattvāheta 男 不惱衆生 *Sūtr.*
 sattvendriya-saṃtoṣaṇi (°va-in°) 女 衆生根喜 (声) *Sūtr.*
 sattvocchrita (°va-uc°) 形 勇氣において秀でた.
 sattvotkarṣa (°va-ut°) 男 並みはずれた雅量.
 sattvotsāhavat (°va-ut°) 形 勇氣と精力とをもつ.
 sat-pati 男 偉大な主, 指導者, 擁護者 (因); よい主または支配者 (U., P., まれ); 善良な夫 (聖).
 sat-patha 男 よいまたは正しい道(一般に 譬喩); 正

道 *Rāṣṭr.*

sat-pātra 甲 価値のある人, りっぱな人物.
 satpātra-varṣin 形 価値ある人に恩恵を与える.
 sat-putra 男 よいまたは有徳な息子. 形 よい息子をもつ.
 sat-puruṣa 男 よい・優れたまたは(ときとして)賢明な人間; 上士, 大士, 正士; 善士, 善人, 人中善士, 善知識, 上善人, 丈夫, 善丈夫, 賢丈夫, 勝人, 勝丈夫, 勝妙丈夫, 仁者, 賢聖 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gand-vy., Mvyut., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sukh-vy. II., Sūtr., Suv-pr., Suvik.*
 satpuruṣa-karma-karaṇatā 女 作善丈夫業 *Sūtr.*
 satpuruṣatva 甲 善士趣, 賢聖人義 *Abh-vy.*
 satpuruṣa-prajñā 女 善士慧, 善人慧 *Bodh-bh.*
 satpuruṣa-śila 甲 善士戒 *Bodh-bh.*
 satpuruṣa-saṃsevā 女 親近善友 *Sūtr.*
 satpuruṣa-sevin 形 親近善士 *Bodh-bh.*
 satpuruṣāpāśraya 甲 近善士, 近善人, 依賢士 *Mvyut.*
 sat-pauruṣya 甲 丈夫 *Sūtr.*
 sat-pratigraha 男 有徳の人からの贈物を受納すること.
 sat-pratipakṣa 形 正当な反対にあいやすい. 男 (土 hetu) 正当な反対にあいやすい論議.
 sat-pratipakṣin 形 [同上].
 sat-pratyaya-kartṛtva 甲 作有縁性 *Nyay-pr.*
 sat-prabhā 女 まばゆい光.
 sat-phala 男 ザクロ樹. 甲 ザクロ.
 sat-phalin 形 よい果実を結ぶ.
 satya 形 実際の, 現実の, 純正の, 真実の; 上首尾の, ききめのある(祈願), 実現された(望み); 信賴するに足る, 忠実な, 誠実な; 確実な根拠のある(一致). ~m Kr 真実にする, 成就する. ~m 副 真実に, 実際に, 実に, 確かに, 正しく; (返答において) 大変結構である, (それは) その通りだが…(また tu, kim tu, tathāpi, 然し, でも とともに). ~ta 副 真実に, 真に, 実に. yat satyam, 実に, 確かに. 男 第九番の Kalpa すなわち宇宙的な期間; [Kṛṣṇa 神の称]; [ある守護神の名]; [人名]. 甲 現実, 真実 誠実, 真実を語ること; 約束, 誓い, 言質; 四 Yug 中の最初の(黄金)時代 (=kṛta); 七界中最高界の名; 真, 実, 諦, 真実, 真諦, 真諦理, 実諦 誠, 誠諦, 聖諦, 賢善; 有義利; 誓願事; 誓言, 至誠 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Gand-vy., Lal-v., Lank., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., 梵雜.* ~m ca te jñātvā, お前についての真実を(すなわちお前が実際にそうだとすることを)確めて ~m cikirṣamāna. (自分の) 言葉を守ろうと望んでいる. tena satyena, その真実を頼みにして, そのように真実に. yathā —tena または evaṃ satyena …が真実であると同じく——そのように確かに.
 satyaka 男 [人名]; 音写 薩遮 (尼乾子), 薩 (尼健子) *Gand-vy.*
 satya-kathā 女 真実語 *Śikṣ.*

satya-karman ㊦ 正直な行為, 誠実, 真実を語ること. ㊧ その行為が真実なる (RV. 用例一回のみ).
 satya-kāma ㊧ 真理を愛する (因). ㊨ [人名] 因.
 satya-kāra ㊧ ㊨ 真実 *Sam-r.*
 satya-ketu ㊧ ㊨ 真懂[仏名], 諦英[仏名] *Lal-v.*
 satya-kausalya ㊦ ㊨ 諦善巧, 諦勝智 *Madhy-vibh.*
 satyakausalyatā ㊦ ㊨ 令彼有情依言所作 *Raṣṭr.*
 satya-gir ㊧ (自分の) 言葉に忠実な.
 satyaṃ-kāra ㊨ 約束.
 satya-kṛta ㊧ 手付金として渡された.
 satya-guruka ㊧ ㊨ 尊重実語 *Bodh-bh.*
 satya-catustaya ㊧ ㊨ 四諦 *Madhy-vibh.*
 satya-jana-vimānatā ㊦ ㊨ 軽善, 毀諸善人 *Suv-pr.*
 satya-jā ㊧ 真理から生じた (Br.).
 satya-jit ㊧ 真に勝利を得た, 真理によって征服する (因). ㊨ [人名].
 satya-jñāna ㊦ ㊨ 諦知, 実諦知 *Sūtr.*
 satyatā ㊦ 真実, 真理 (Br., ㊨); 真理を愛すること, 真理を語ること (㊨); *agryasatyatām Gam* 真実の性質において認められる; ㊨ 実, 諦実, 誠諦, 諦者, 実諦者 *Śikṣ., Suvik.*
 satya-tāti ㊦ 真実. ~tā, ㊦ 真実において (RV. 用例一回のみ). ㊧ 真ならしめる (RV. 用例一回のみ).
 satya-titikṣāvat ㊧ 誠実にして忍耐強い.
 satyatva ㊦ 真実, 現実.
 satya-darśana ㊦ ㊨ 見諦, 見真諦 *Lank., Sūtr.*
 satya-darśin ㊧ 真理を見るまたは識別する; ㊨ 見諦, 見真実, 実見 *Lank., Sam-r.*
 satya-dṛś ㊧ [同上].
 satya-dvaya-lakṣaṇa ㊦ ㊨ 二諦相 *Ratna-ut.*
 satya-dvi-lakṣaṇa ㊦ ㊨ 二諦相 *Ratna-ut.*
 satya-dhana ㊧ 真実に富む, きわめて真実な.
 satya-dharma ㊨ 真理の法, 永遠の真理.
 satyadharma-patha ㊨ 永遠の真理の道.
 satyadharma-parāyaṇa ㊧ 真理と徳に専念する.
 satya-dharman ㊧ 真実な掟をもつ (因); 真実を固執するまたは語る (S.).
 satya-dhṛti ㊧ 真実な目的をもつ; 断然真実な. ㊨ [人名].
 satya-nāmatā ㊧ 名前の正確さ.
 satya-nāman ㊧ 正しい名前を有する, (自分の) 名前にふさわしい.
 satya-pada ㊦ ㊨ 諦句, 諦見 *Lank.*
 satya-parākrama ㊧ 真に勇敢な, 英雄的または強力な(人物).
 satya-prājñapti-vyavasthāna ㊦ ㊨ 諦施設建立 *Bodh-bh.*
 satya-bodhi-pakṣa-vimokṣa-mukha ㊦ ㊨ 諦菩提解脱門 *Sūtr.*
 satya-bhāmā ㊦ [Satrajit の娘および *Kṛṣṇa* 神の妃の一人の名].
 satya-bhāṣaṇa ㊦ 真理を語ること.
 satya-mantra ㊧ 真実または有効な言葉をもつ (RV.).
 satya-manman ㊧ 真実な思想をもつ (因).

satyamaya ㊧ (因 -i) 真理からなる, 真理の.
 satya-mārga ㊧ ㊨ 真諦道, 証諦道, 証於諦道 *Lank.*
 satya-mṛṣā-viveka ㊨ 真実と虚偽との識別.
 satya-yuga ㊦ 四 Yuga 中の最初の時代 = *Kṛta* 時代.
 satya-yoni ㊧ 真正の住居を有する (RV. 用例一回のみ).
 satya-rādhas ㊧ 真正の贈物を授ける (RV.).
 satya-rūpa ㊧ 真実な姿をもつ; 信用し得る, あり得る.
 satya-loka ㊨ 真実の世界(七つの世界のなかで最高の世界).
 satya-vacana ㊦ 真実を語ること; 約束を与えること, 神聖な保証; ㊨ 誓, 誓言; 実語, 誠諦言, 所言誠諦 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy.* ㊧ 真理を語る.
 satyavat ㊧ 真の, 真実の; satya (という語) を含む (Br.). ㊨ [人名].
 satyavati ㊦ [*Parāśara (Samtanu)* の妻および *Vyāsa* の母の名].
 satya-vadana ㊦ 真理を語ること.
 satyavadana-śila ㊧ 真実を語る習慣のある.
 satya-vara, sattvavara の ㊨ 不確.
 satya-varadhana ㊧ ㊨ 実増長 (菩提) 王 *Lal-v.*
 satya-varman ㊧ [人名].
 satya-vākya ㊦ 真の言語. ㊧ 言語の真実な.
 satya-vāc ㊦ 真実の語 (㊨); 保証 (RV.). ㊧ 真実の.
 satya-vācaka ㊧ 真実を語る, 真実の.
 satya-vāditā ㊦ 正直さ, 真実を語ること; ㊨ 実語, 諦語 *Bodh-bh.*
 satya-vāditva ㊦ [同上].
 satya-vādin ㊧ = satyavācaka; ㊨ 諦語者; 所言誠諦, 所言誠実 *Bodh-bh., Vajr-pr.*
 satya-vādinī ㊦ ㊨ 実語 [樹神の名] *Lal-v.*
 satya-vāhana ㊧ 真理を伝える (夢).
 satya-vikrama ㊧ 真に勇敢な.
 satya-vimokṣa-kuśala ㊧ ㊨ 善真諦解脱, 善入諸諦解脱, 実諦解脱 *Lank.*
 satya-vyavasthā ㊦ 真実の確定.
 satya-vyavasthāna ㊦ ㊨ 立諦, 諦仮建立 *Sūtr.*
 satya-vrata ㊦ 真実の誓い. ㊧ 誓いに忠実な. ㊨ [人名].
 satya-śila ㊧ 真理に熱心な.
 satya-śuṣma ㊧ 真に勇敢な (因).
 satya-śravas ㊦ 真の名声 (因). ㊨ [人名].
 satya-śrāvāṇa ㊦ 神聖な誓いをなす.
 satya-śrut ㊧ 真理に耳を傾ける (RV.).
 satya-saṃrakṣaṇa ㊦ 言葉を守ること.
 satya-saṃhita ㊧ 協約または約束に忠実な (Br.).
 satya-saṃkalpa ㊧ 真実の (= 実現される) 目的をもつ.
 satya-saṃgāra ㊧ 約束を守る.
 satya-satya ㊦ ㊨ 諦諦, 実諦, 実実 *Bodh-bh.*
 satya-sad ㊧ 真実に止住する.
 satya-saṃdha ㊧ 取り決めまたは約束に忠実な. ㊨ [人名].
 satyasamdhata ㊦ 約束に忠実なこと, 信頼するに足ること.

satya-sākṣin 男 真実の証人。
 satya-sthiti 中 實住, 住実諦 *Lank.*
 satya-stha 形 真実を固守する, (自己の) 言葉をまもる。
 satyādhiṣṭhāna 中 誓, 要誓至誠之願; 真摂持, 真摂受 *Mṛyut., Saddh-p.*
 satyābhisamaya 男 四諦観, 諦現観 *Abh-vy., Bodh-bh.*
 satyānanda (°ya-ān°) 男 真の歓喜。
 satyānanda-cid-ātman 男 真の歓喜と純粹知。
 satyānṛta 中 真実と虚偽 (因); 圍 真実と虚偽との実践, 商い, 取引 (圍)。
 satyāpana 中 (売買契約等の) 裁可。
 satyāpaya, 名動 使役 他 satyāpayati, [satya から] 他 裁可する。
 satyārya-vākya (°ya-ār°) 中 真実語 *Śikṣ.*
 satyāvatāra 男 入諦 *Sūtr.*
 satyokti (°ya-uk°) 因 真実の語 (RV. 用例一回のみ 圍)。
 satyottara (°ya-ut°) 中 真理の容認, 告白。形 主としてまたは本質的に真実な。
 satyaujas (°ya-oj°) 形 真に強力な (因)。
 satyāvabodha 男 諦能覚 *Bodh-bh.*
 sa-trapa 形 恥じた, 赤面している。~m 副 恥じて。
 satrā 因 副 一緒に; (真) とともに; 全く, はなはだしく; 永遠に。
 satrā-jit 形 徹底して勝つ (因)。男 (圍) [*Śatyabhāma* の父の名]。
 satrāñc 形 (因-āci) RV. 結合された, 合同の; 集中された, 全 (心, 等)。
 sa-trāsam 副 恐怖して, 臆病に。
 sa-tvac 形 樹皮をつけている (棒)。
 satvat 男 種 [南印におけるある人民の名] (Br.); = *Yadavaḥ* (男)。
 satvan 男 [sat から] 戦士 (因); 種 戦士, 家来, 軍勢。
 sa-tvara 形 迅速な, 急速な。~m 副 急いで, すみやかに; 急 *Bodh-c.*
 satvara-taram 比較 副 非常に急いで。
 satvara-racanam 副 急いで, すみやかに, 直ちに。
 sat-saṅga 男 善人とのつきあひまたは善人のつどい。
 sat-saṅgati 因 [同上]。
 sat-saṃnidhāna 中 [同上]。
 sat-samāgama 男 [同上]。
 sat-sampradāya 男 よい伝承。
 Sad, I. 他 (自 韻律) sadati (-te) (因), śidati (-te) [si-s(a)da] (因 圍), (とくに祭式において) (圍, 因); (因); 圍 においては非常にまれに, …のなかに, …の上に坐る; (圍; 因, まれ) を取り囲むまたは待ち伏せる; (重荷の下に) 沈む・沈下する・くずれ落ちる・しおれるまたは疲れる; 荒廃する, 朽ちるまたは滅する; (義務が) 妨げられる; 困る, 頼りない, 落胆する, 絶望する; 没, 迷没; 処; 起懈退之心 *Rāstr., Saddh-p., Śikṣ.* 過受分 satta 坐っている (RV.); sanna 因: 置かれた, 横たわっている; 死んだ; 圍: 沈められた; しおれている, ゆるめられた (手), 使い尽くされた; 消された (火); 滅せられた, 破壊

された; 動かない (杵)。使役 他 sādāyati 因: 坐らせる; (因) のなかまたは上にすえる; 圍: 苦しめる; 滅亡させる, 破壊する。

ati- 死ぬ。

ava- 沈む, つぶれる; 疲れきる, やせ衰える; 困っている, たよりない; 落胆する, 力を落とす; 終わる, 滅する。過受分 avasanna 沈んだ, 意気消沈した, しおれている; 沈没した; 深い; 枯渴させられた, 使い尽くされた; 悩まされた; 不適當な; 終わった; 失なわれた; (視力, 一°)。使役 他 avasādāyati 沈める, 浸す; 押しつぶすまたは圧迫する; 悩ます; 破壊する; 擯, 呵擯, 驅擯, 訶責; 退失; 加凌辱 *Aṣṭ-pr., Av-ś., Bodh-bh.*

vy-ava- 坐る, 沈む, 崩壊する; やせ衰えるまたはだんだん消耗する, 消滅する。

ā- 因 (圍, 因) に坐るまたは腰を下す; (圍) を主宰する; (圍) を待伏せする; 因圍: (ある場所に) 達する; 圍: (人に) 近づく; …とばったり出会う・に会うまたは…を見出す; 達する, 獲得する。過受分 āsanna 置かれた (因); 接近した (= 定動詞, 叙詩); 圍: (圍, 一°) に近い; さし迫った, 切迫した; この次の; (一°) と密接に結びつけられた; 獲得された, 所有された。使役 他 (自, 韻律) āsādāyati 因 着席させる, 下に置く; 圍: 達する, 得る; (圍) に近づく; (人に) 会う・出くわすまたはを見出す; (敵対行為等: 圍) に従事するまたは巻き込まれる; 追いつく, 襲撃する; 獲得する, 見出す, 手に入れる, (友人) として得る; (形を) 取る; (ある状態または気分) に陥いる (例 *samyogam* ~ …と結びつけられる: *vriḍām* ~ …を恥じる; *garvam* ~ 高慢になる); 買う; (苦痛等が) 不意に襲う; 得, 証, 証得; 値; 得直 *Bodh-bh., Divy., Lank., Śikṣ.*: *anuttarām samyaksambodhim āsādāyeyam* (方) 証無上正等菩提 *Bodh-bh.* 200. 不変分 āsādya 達した, 得た等, しばしば=副…の上に, のなかに, とともに, に従って, に関して, のために, の結果として, を通じて; 倚, 得, 遇 *Bodh-bh., Mṛyut.*: *pratyayān* ~ 遇勝縁 *Bodh-bh.* 290. *kālam* ~ 暫らくしてから。

abhy-ā- (圍) の上に坐る; 達する, 得る。

ny-ā- 他 (…のなかに, の上に, の間に, 圍, 因, RV.) 坐る。過受分 ā niṣatta 坐っている。

praty-ā- 近くにいる; 切迫している; (誰かある人: 圍) にふりかかろうとしている。過受分 *pratyāsanna* (圍, 一°) の近くに來たまたはの直ぐ隣りにある; さし迫った; と密接に結びつけられた。

sam-ā- 達する; (近所, 因) へおもむく; (人に) 近づく; (真) に出会うまたは出くわす; 達する, 得る; (時が) 近づく。過受分 *samāsanna* (一°) に近いまたは接近した。使役 他 *samāsādāyati* 達する; (圍) の状態になる; (人に) 接近する; (圍) に遭遇する・出くわすまたはを見出す; 攻撃する; 到達する, 得る。不変分 *samāsādya* しばしば=副 (正しい時と場所) において, (性質, 素性等) のゆえに。

ut- 因 (圍) を去る・見捨てるまたは脱出する; (火が) 消える; 圍: 破壊する。過受分 *utsanna* 上げら

れた(因押し下げられた); 中断された; 消失した, 失われた, 破壊された; 破滅した (=hata); 呪われた, みじめな (=dagdha). 使役 他 utsādayati かたずける, 取り除く (Br., S.); ...をやめる, 根絶する, 破壊する (圃); 油を塗る (圃).

prot(pra-ud)- 使役 他 protsādayati 駆逐する; 破壊する.

vy-ut- 出て行く, 去る.

sam-ut- 使役 他 samutsādayati 破壊する.

upa- (業; RV.) の上に座る; (誰か)の直ぐ近くに座る; 近づく (他動), とくにうやうやしくまたは教えを求めて; 真心から求める, 懇願する (因); 所有する (因, まれ); (家)がつぶれる (圃). 過受分 upasanna

(祭壇の)上または(祭火の)直ぐそばに置かれた(因); (うやうやしくまたは保護や教えを求めて)接近した.

使役 他 upasādayati 下に置く, の近くに置く (因); 接近させる, 持って来る (P.); 獲得する (P.).

sam-upa- (業)におもむく; (業)を獲得する.

ni- 他 niṣidati (因, 人間, 動物, 鳥について; 因, 圃)の上に坐る・横たわるまたはとまる; 沈殿する, 沈む. 下降する (圃); 他 圃 (因) (因)の上に置く; (圃)として任命する; 坐, 住, 居, 処, 安坐 *Aṣṭ-pr., Lank., Prāt-m., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ.*

三過分 niṣedivas (因)の上に坐っている, 着席している. 過受分 niṣatta 着席している;

niṣanna (Br., 圃) (因, 一°)の上に坐っているまたは横たわっている; (因, 一°)によって支えられているまたはに置かれている. 使役 他 圃 niṣādayati(-te) 置く(因); (業, 因)として任命する; ひざまずかせる (圃).

pari-ni- 他 pariniṣidati ...のまわりに坐す(RV.).

sam-ni- 他 samniṣidati 一緒に坐る.

pari- まわりに坐る, 取り巻く (因).

pra- 因: (業)の掌中に陥る; 圃: 明瞭になるまたは輝やく; (心が)静まる; (意味等が)明白または明瞭になる; (圃)に対して明るくなる・満足する・好意をもつまたは恵み深い; かたじけなくも...したまう (不定); (行動が)成功する: 圃恵み深かれ, 何とぞ;

清; 楽; 浄; 信, 浄信, 清浄, 信解, 信解堅固; 安住; 発生; 息, 制; 得寂定 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lank., Śikṣ.* 過受分 prasatta

(圃)満足した(RV.); prasanna (圃)明瞭な, 輝やく; 明晰なる(理解), 明白な(知覚); 正しい(想定); 静穏な(感覚等); (圃 因, prati)に対して満足した・好意のある・慈悲深いまたは親切な; 優しい(言葉).

使役 他 prasādayati 明瞭にする; (心を)明るくする, 喜ばす; (不定)動詞状名詞の 圃 圃, 圃を伴った arthe または artham とともに)鎮静する, 上機嫌にする, なだめる, 懇願する;

浄, 浄信, 心浄; 歓喜, 歓喜悦予; 合掌; 調暢適悦, 熙怡悦楽 *Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Suv-pr.* prasādayāmi tvām 私はお前に乞う.

ati-pa- 上気嫌となる.

abhi-pr- 使役 他 abhiprasidayati 好意をもたせる, 恵みまたは好意を乞う; 歡喜 *Bodh-bh.*; 深

信, 浄信, 生浄信, 倍清浄, 生敬信, 生帰信 *Bodh-bh., Divy., Śikṣ.*

anu-pa- (ある人: 圃)に満足するまたはを大いに喜ぶ.

upa-pa- (圃)のなかへ入る.

sam-pa- (圃)に対して上機嫌になる・親切な気持になるまたは恵み深くなる. 使役 他 samprasādayati なだめる, 和らげる.

vi- (ṣidati) がっかりするまたは落胆する, 失望する; 不幸な目にあう; 没; 退, 退没; 憂; 悔; 憂悔; 懈; 怯弱; 心驚怛; 屈意; 毀犯退屈 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Budh-c., Gaṇḍ-vy., Śikṣ.* 使役 落胆させる, 悩ます.

sam- 因: (圃)とともに(業)の上に坐る; 圃: (飢え; 圃)のためにやせ衰える; 困っている; 勇気を失う, 落胆する, 失望する; 没, 没溺, 壊没漏, 没; 憂; 屈; 減; 迷謬; 驚怖 *Aṣṭ-pr., Śikṣ.*

使役 他 samsādayati 下に置く (因); (業; P.)と結びつける; 失望させる(叙詩).

sad 形 (独立には一回だけ; 非常に普通に 一°)に坐っている, ...住んでいる.

sada 形 (一°)[同上]. 圃 果実. 圃 [供儀の動物の背中の一部分].

sa-dakṣiṇa 形 祭官への贈物を伴った.

sada-di 副 (因)一般に.

sadana 形 (因-i) 定住させるまたは留まらせる (RV. 用例一回のみ). 圃 席, 場所, 住所, 家, 家庭. 形 (一°)に住む.

sadam-di 形 永遠に続く, 永続する (AV. まれ).

sada-paribhūta 形 [頌] (=sadāparibhūta) [菩薩名] 常不軽 *Saddh-p.*

sadam 副 (因)常に, 永遠に; 何時でも.

sadama 男 数名 [数名] 調伏 *Mvyut.*

sa-dambha 形 偽善的.

sa-daya 形 (因)に対して同情あるまたは慈悲深き.

一° または -m 副 憐み深く, 慈悲深く; 温和に, 漸次に.

sad-artha 男 問題になっている事柄; 義境 *Sūtr. 19.*

sa-darpa 形 横柄な, 傲慢な, 無礼な. ~m 副 横柄に.

sad-alamkṛti 因 本物の飾り.

sad-alamkṛtītā 因 [同上の 圃].

sa-daśana-jyotsna 形 自分の歯の光沢を見せる.

sadaśanārcis 形 [同上].

sad-aśva 男 高貴な駿馬. 形 高貴な駿馬を持っている (RV. 用例一回のみ); 高貴な駿馬に牽かれた (車; P.).

sadas 圃 席, 場所, 住所, 居所(因); (Prācīna-vamśa の東方 Mahāvedī の中に建てられた)小屋(因); 祭式の期間, 集り(圃); 圃 天と地(=dyāvā-pṛthivī).

~i 因 公然と.

sad-asat 圃分 有と無の; 真と偽の; 善と悪の. 圃 存在するものと存在しないもの, 有と無; 真実と虚偽; 善と悪. 圃 圃 善人と悪人; 有無, 有非 *Lank., Madhy-v., Madhy-vibh., Ratna-ut., Sūtr.*

sadasat-kārya-vādin 形 漢訳 説有無諸法，妄説於有無 *Lank.*
 sadasat-tattva 中 漢訳 有無真実，亦有非有…真実 *Madhy-bh.*
 sadasattā 因 漢訳 有無，有非有 *Madhy-bh.*
 sadasat-pakṣa 男 有無見 *Lank.*
 sadasatpakṣa-pada 中 漢訳 有無立句 *Lank.*
 sadasatpakṣotpāda-pariṇāma-vādin (°ṣa-ut°) 形 漢訳 有無生轉變論，轉變従有無生有無轉變論 *Lank.*
 亦実亦不実 *Madhy-v.*
 sadasad-ātmaka 形 (因 -ikā) 存在と非存在の性質を有する。
 sadasad-bhāva 男 実在と非実在；真実と虚偽。
 sadasad-bhūta 形 漢訳 定不定，実不実，亦定亦不定 *Madhy-v.*
 sadasas-pati 男 神聖な境内のまたは（そこに集った）集会の主。
 sadas-pati 男 [同上]； 圖 *Indra-Agni* (RV. 用例一回のみ)。
 sadasya 形 祭場の小屋 (sadas) に属するまたはに在る。男 *Soma* 祭における第十七番目の祭官(ただしその存在は随意で，その役目は祭儀の監視)。
 sadā 副 始終，常に，何時でも：+na 決して…ず； 漢訳 永，恒，常，恒時 *Madhy-bh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Ratna-ut.*, *Sūtr.*, 梵千。
 sadā-kārin 1. 形 常に活動的な。
 sad-ākārin 2. 形 外貌の立派な。
 sadā-kālam 副 漢訳 恒時 *Sūtr.*
 sadā-gati 因 恒常性。形 絶えず動く。男 風。
 sad-āgama 男 良い教義。
 sad-ācāra 男 善い人々の実践，有徳の行為。形 有徳の行為をする。
 sadācāravat 形 [同上]。
 sadātana 形 永久的な。
 sadā-dāna 形 1. 常に施しをする；2. 絶えまなくこめかみから液を分泌する(発情期にある象)。
 sadādvaya (°dā-ad°) 漢訳 常住不二 *Ratna-ut.*
 sa-dāna 形 1. 贈物をもつ (RV. 用例一回のみ)；2. 発情期にある(象； 罽)。
 sad-ānana 形 美しい顔をした。
 sadānanda (°dā-ān°) 形 永久の至福を享ける。男 [種々の著者の名]。
 sadā-nirā 因 [ある河の名]。
 sadāparibhūta (°dā-ap°) 男 漢訳 [菩薩名]常不軽，常被軽，常被軽慢 *Saddh-p.*
 sadā-puṣpa 形 常に花咲く。
 sadāpuṣpa-phala-druma 形 常に花咲き実を結ぶ木がある(庭)。
 sadā-puṣpi 因 ある灌木 (*Calotropis Gigantea*)。
 sadā-prarudita 男 漢訳 [菩薩名]常悲，常啼，普慈，薩陀波倫，薩陀波崙 *Aṣṭ-pr.*, *Prajñ-h.*, *Suv-pr.*
 sadā-prasravaṇi 形 因 漢訳 月水常漏 *Mvyut.*
 sadā-phala 形 常に実を結ぶ。
 sadā-matta 形 常にさかりのついた(象)。男 圖 漢訳 [天名]常橋，恒橋 *Divy.*, *Mañj-m.*
 sadā-mada 形 [同上]；常に傲慢な。男 圖 漢訳 [天

名] (=sadāmatta) 恒橋，恒醉 *Abh-k.*, *Abh-vy.*
 sadā-māda 男 圖 漢訳 [天名] (=sadāmada) 常醉，美地，(恒橋) *Mvyut.*
 sadā-sānti 因 漢訳 常寂靜，常世尊 *Lank.*
 sadāsānti-samāhita 形 漢訳 常定，常在於定，常入…定 *Lank.*
 sa-dāra 形 妻を同伴した。
 sadāra-putra 形 妻子を同伴した。
 sadārjava (°dā-ār°) 形 常に正直な。
 sadāvikāritva-guṇa (°dā-vi°) 男 漢訳 不変 *Ratna-ut.*
 sadā-siva 形 常に親切な等。男 [*Śiva* 神の称]。
 sa-divas 副 (同日に； =sadyas) 直ちに (RV. 用例一回のみ)。
 sa-dinam 副 悲しげに。
 sa-duḥkha 形 苦のある，悩める，悲しい； 漢訳 有苦 *Bodh-bh.*
 sad-ukti 因 よい言葉。形 よい言葉をともなった。
 sa-dūrva 形 *Dūrva* 草で覆われた。
 sa-dṛkṣa 形 同様な；(罽)の如き，に似ている(因； P.； まれ)。
 sa-dṛś 形 (因 -n, 因； -k 罽) [同上] (罽 または 一°)。
 sa-dṛśa 形 (因 -i) (罽，罽，罽，一°) とまたは (罽，罽，一°) において，同じ様子の・似ているまたは同じような；(一°)に適当な，に適合した；(罽，一°)の価値ある，にふさわしい； 漢訳 如，似，等，類，随，譬，不異，同類，相似，相象，猶如，猶若，譬如，与等，如喻，譬喻，相似法，相似相对法 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Ratna-ut.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*, *Vijñ-v.* 一° または -m 副 適当に。
 sadṛśatva 中 類似(性)，近似。
 sadṛśa-vṛtti 形 同じように振舞う。
 sadṛśavṛttitā 因 行為の類似性。
 sadṛśāsadṛśa 形 漢訳 似非似，非譬所譬，相似不相似 *Lank.*
 sadṛṣṭi-kṣepam 副 見まわして。
 sadṛṣṭi-vikṣepam 副 [同上]。
 sa-devaka 形 漢訳 有天 *Abh-vy.*, *Suv-pr.*
 sa-deva-maṇi 形 (首に) 巻き毛がある。
 sadeva-manuṣāsura-loka 漢訳 世間天人阿修羅 *Sūtr.*
 sadeva-manuṣya 形 神々と人々とともに。
 sa-deśa 形 隣接した。
 sa-daivata 形 神々とともに。
 sado-gata 形 集会へ行ったまたはに出席した； 罽 集った。
 sado-gṛha 中 集会所。
 sadodyama (°dā-ud°) 形 絶えず努力する。
 sadopasthita-smṛtitā (°dā-up°) 因 漢訳 常住正念，常修正念心 *Bodh-bh.*
 sa-doṣa 形 1. 夜とともに；2. 瑕瑾または欠点をもつ； 漢訳 (=sadveṣa) 有瞋 *Aṣṭ-pr.*, *Sam-r.*
 sa-dausthulya-saṃskāra 漢訳 重大諸行，有重諸行 *Madhy-bh.*
 sad-gati 因 よい地位，幸運；よき人々の道； 漢訳 善

生, 正趣 *Mṃyut.*

sad-guṇa 男 良い性質, 徳. 形 有徳の.

sad-guru 男 良い教師.

saddatas 副 (=śabdātas). 以声 *Madhy-v.*

sad-dharma 男 よい法, 真の正義; [仏教徒およびジャイナ教徒が彼らの教義を呼ぶ名称]; 法(宝), 正法, 妙法, 経法, 仏法, 妙正法(輪), 勝妙法, 微妙正法 *Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lank., Madhy-v., Madhy-vibh., Mṃyut., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Sam-r., Sūtr., Vijñ-v.:* ~sya prakāśanam dhāraṇam ca 恒開示妙法及常受持 *Sūtr. 18*; ~sya sthitir dirghā 法住 *Sūtr. 19*; ~ānuvṛttir bhaviṣyati 正法住世 *Sūtr. 19.*

saddharma-kāya 男 法身 *Ratna-ut.*; 眞実法身 *Suv-pr.*

saddharma-gaṇja 男 正法蔵, 妙法蔵 *Gaṇḍ-vy.*

saddharma-cakra 中 妙法輪, 浄法輪 *Gaṇḍ-vy.*; 大法輪...勝妙法 *Ratna-ut.*

saddharma-cira-sthiti 女 正法久住世(間) *Aṣṭ-pr.*

saddharmacira-sthīkatā 女 正法久住 *Bodh-bh.*

saddharma-dhāraṇa 中 護持(菩薩)蔵 *Bodh-bh.*

saddharma-niṣṭhā-paryanta 男 正法滅尽 *Gaṇḍ-vy.*

saddharma-parigraha 男 護法, 守護正法, 摂護正法 *Aṣṭ-pr.*

saddharma-parigrahaṇatā 女 摂治妙法 *Sūtr.*

saddharma-puṇḍarika 中 妙法蓮華, 正法華経, 妙法蓮華経 [仏教經典の標題]; [経名] 妙法蓮華 *Saddh-p.*

saddharmapuṇḍarika-samādhi 男 法華三昧, 妙法蓮華三昧 *Saddh-p.*

saddharmapuṇḍarika-sūtra 中 正法華経, 妙法蓮華経 [仏教經典の標題].

saddharma-pratikṣepa 男 像法, 謗法, 正法像似, 像似正法, 誹謗正法 *Bodh-bh., Rāṣṭr., Saddh-p., Sukh-vy. I., Suv-pr.*

saddharma-pratipatti 女 正法随修行 *Sūtr.*

saddharma-pratibādhana 中 壊法 *Ratna-ut.*

saddharma-bhraṣṭa 形 法滅 *Saddh-p.*

saddharma-mahā-parigraha 男 受法 *Sūtr.*

saddharma-varṣa 男 法雨 *Saddh-p.*; 妙法雨, 妙法雲雨 *Ratna-ut.*

saddharma-vipralopa 男 正法滅 *Śikṣ.*

saddharma-sr-avaṇa 中 聞正法 *Bodh-bh.*; 聴聞正法 *Sūtr.*

saddharma-sambhoga 男 受用正法 *Sūtr.*

saddharma-supuṇḍarika 中 正法華, 妙法蓮華 *Saddh-p.*

saddharma-smṛty-upasthāna 中 [経名] 正法念処経 *Śikṣ.*

saddharmasmṛtyupasthāna-sūtra 中 [経名] 正

法念処経 *Saddh-p., Śikṣ.*

saddharmāntardhāna 中 正法滅, 法滅尽, 正法隠没 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh.*

saddharmāpavādaka 形 誹謗正法 *Lank.*

saddharmāmbanātā (°ma-āl°) 女 妙法為縁 *Sūtr.*

sad-bhāva 男 実在のもの, 存在; (事物の)真の状態, 真理; (作品の)真の趣旨; 正直; (prati) に対する優しい気だて, 親切, 愛情; 忠実; 有, 有性, 実有; 自性 *Abh-vy., Cat-ś., Lank., Madhy-vibh.*; 住, 決定有 *Madhy-v.*

sadbhāvābhāva 男 有無 *Madhy-vibh.*

sadbhāva-śrī 女 [ある女神の名].

sad-bhūta 形 よいあるいは真の; 定, 実, 決定, 定有, 有実, 決定有 *Daś-bh., Madhy-v., Madhy-vibh.*

sad-bhṛtya 男 善い召使い.

sadman 男 着席者, 陪席者, 見物人. 中 席, 場所, 住居, 居処; 祭場; 家; 厩, 小屋; 寺(園); 天と地 (RV); 台, 卓子 (RV. まれ); 宮 *Bodh-c.*

sadyaḥ-kṛtta 形 最近に切られた.

sadyaḥ-pātin 形 速かに沈むまたは意気沮喪する(心).

sadyaḥ-prajñā-kara 形 (女 -i) 直ちに知恵を生ずる.

sadyaḥprajñā-hara 形 直ちに知恵を奪う.

sadyaḥ-prasūtā 女 仔を産んだばかりの雌.

sadyaḥ-prāṇa-kara 形 直ちに活力を回復する.

sadyaḥ-prāṇa-hara 形 直ちに活力を奪う.

sadyaḥ-phala 形 直ちに実を結ぶ.

sadyaḥ-śakti-hara 形 直ちに力を奪う.

sadyaḥ-sauca 中 即時の浄化.

sadyaḥ-śrāddhin 形 最近祖霊祭 (Śrāddha) に参加した.

sadyaḥ-sutyā 女 同じ日に行うソーマ (Soma) の压榨.

sa-dyas 副 (吠, 罽) 同日に; 直ちに, 即座に, 即時に; 今しがた, 最近に; 吠 一日の中に, 毎日; 罽 突然に; 即 (果) *Sūtr.*; 遂, 随則 *Mṃyut.*

sad-yukti 女 正しい理論.

sadyo-bala 形 即時に力づける.

sadyobala-kara 形 [同上].

sadyobala-hara 形 即時に力を奪う.

sadyo-bhava 形 即時に現われる (割れ目).

sadyo-māṃsa 中 新鮮な肉.

sadyo-mṛta 形 最近に死んだ.

sad-ratna 中 純正の宝石または真珠.

sa-dravya 形 家具家財とともに.

sad-vaṃśa 男 美しい竹; 高貴な種族. 形 立派なつかを持つ (剣)および高貴な種族の出の.

sadvamśatva 中 [同上の 罽].

sadvamśa-jāta 形 高貴な種族から生れた.

sad-vacas 中 美しい言葉.

sad-vatsala 形 有徳な人に親切な.

sa-dvaṃdva 形 争い好きな, 訴訟好きな; 相反する感情を持つ, 正反対なものに耐え得る.

sad-vājin 男 高貴な駿馬.

sad-vārttā 女 よい知らせ. ~ṃ Prach, ある人の健

康を問う。

- sad-vigarhita** 形 有徳の人に非難された。
sad-viccheda 男 有徳の人から離れること。
sad-vidya 形 真の知識を有する, 見聞の広い。
sad-vidyā 女 真の知識。
sad-vrkṣa 男 美しい木。
sad-vṛtta 男 よく丸められた形; 有徳の人の振舞, 善行。形 品行方正な。
sadvṛtta-sālin 形 徳行のある。
sad-vṛtti 女 善行。
sad-velā 女 正しい瞬間。
sad-vaidya 男 立派な医者。
sadha 因 副 [同じ方法で, 一緒に =saha] ある合成語において, 〇一。
sa-dhana 形 裕福な; 財産とともに。
sadhanatā 女 [同上の 副]。
sadha-mad 因 男 (強 鞣 -mād に限る; 因 -t または -s) 飲み騒ぐ仲間, 宴会の友; 仲間。
sadha-māda 男 (因) 合同の饗宴, 底抜け騒ぎ, 宴会; 仲間であること。 ~m Mad, と酒宴するまたは飲み騒ぐ (因)。
sadha-mādyā 形 (因) 酒宴の, 祭日の。男 饗宴の友 (因)。 中 飲み騒ぎ, 饗宴 (因)。
sa-dharma 男 同じ性質。形 同じ法則に従う, 等しい, 類似の, 同じ性質の。
sadharma-cāriṇī 女 (同じ義務を行う), 妻。
sadharmatva 中 等質であること。
sa-dharman 形 (因, 副, 一) と同じ性質の・等質の・等しいまたは類似の。
sadha-stuti 女 共同の称讃 (RV.)。
sadha-stha 形 在席している (因, まれ)。 中 (因) 場所, 住所, 家庭; 空間。
sa-dhātu 形 一界 Madhy-v。
sadhis 中 決勝点, 場所 (因 きわめてまれ)。
sa-dhura 形 同じ軛につながれた, 調和した。
sa-dhūma 形 煙に包まれた。
sa-dhairyam 副 堅固に; 荘重に。
sadhricina 形 [sadhryaṅc の 弱 鞣 より] 同じ目的に向けられた, 連合した (因); 正しい方向に導く, 正しい (P)。
sadhryaṅc 形 (因 -dhrici) 同じ方向にいくまたは向けられた, 連合した (因); 正しい, 正確な (P)。男 友人, 仲間 (副)。 女 -dhrici 女の友人または仲間。 中 =manas。 副 -dhryak 連合して, 共に (RV.); 正しく。
San, V. 中 sanoti (因), 得る, 獲得する, (贈物として) 得る; 所有する; 授ける; 因 (きわめてまれ) 成就される。 三過 分 sasavas, 得た, 所有する, 享受する。 過受分 sāta, 獲得された, 得られぬ。 希求 siṣāsati, (因) 獲得しようまたは得ようと欲する; 授けようと (欲する)。
abhi-, 過受分 abhiṣāta, 獲得された (RV.)。
san [希求] を示す接尾辞 sa (文法)。
sana 形 古い (RV.)。男 [ある Ṛṣi の名 (副)]。
sanaka 形 (RV.) 以前の, 古い; 因 古来。男 [ある Ṛṣi の名 (叙詩)]。

- sanaj** 形 古い (RV. 用例一回のみ)。
sana-ja 形 以前に生じた, 古い (RV. 用例一回のみ)。
sana-jā 形 [同上] (RV. 用例一回のみ)。
sanatā (因) 副 古来常に, (+na) 決して...ず (RV. 用例各一回のみ)。
sanat-kumāra 男 (永遠の青年) [Brahma 神の精神的息子の一人で Skanda および Pradyumna と同一視されるある Ṛṣi の名]; 因 [人名] 帝釈子, 普施童子 Buddh-c., Mvyut.; 音写 [人名] 舎那鳩摩羅 Buddh-c。
sanad-rayi 形 財産を与える [San の 現分 から] (RV. 用例一回のみ)。
sanad-vāja 形 獲物を取得する または授ける (RV. 用例二回のみ)。
sa-nanda 男 [人名] =sanandana。
sa-nandana 男 [ある Ṛṣi の名 (Brahma 神の 4 人または 7 人の息子の一の名)]。
sanaya 形 古い (RV.)。
sa-nara 形 人々とともに (RV. 用例一回のみ)。
sa-narma-hāsa 形 おどけた笑いをともなった。
sana-śruta 形 久しく知られている, 古来有名な (RV.)。男 [人名] (Br.)。
sanā (因) 副 古来, 昔から (因)。
sanāt 因 副 [sana の 副] 古来, 昔から; 常に, 永遠に。
sanātana 形 (因 -i) 永続する, 永遠の, 永久の, 恒常の。男 [ある Ṛṣi の名 (Brahma 神の息子の名)]; 因 不動, 永中 Mvyut。
sa-nātha 形 (因, 一) を保護者としてもつ, によって保護された; 雑沓した (集合); (因, 一) によって占められた・を備えたまたは一杯の; 因 有依 Bodh-bh.; 不孤独 Ratna-ut。
sanātha-kriyā 因 作依怙 Bodh-bh。
sapāthatā 女 保護者または夫をもっていること。 ~m I, 保護を見出す。
sanāthi-Kṛ, 保護する; (場所を) 占める。
sanābhi 形 同じこしきまたは中心を持つ (輻; 指について) も言う; RV.); 同じ臍緒で結ばれた, 同母異父の (兄弟, 姉妹; 因, 副)。
sanābhika 形 有駁 Lal-v。
sa-nābhya 男 血族関係 (副)。
sa-nāma 形 (副) と同じ名前をもつ。
sanāma-rūpa 形 有名色 Suv-pr。
sa-nārāsaṃsa 形 Narāsaṃsa の詩節をともなった (Br.)。
sani 男 (因), 女 (Br.) 獲物, 報酬, 贈物。
sa-nigāḍa-carana 形 足に鎖をつけた
sanigāḍacaranaṭva 中 [同上の 副]。
saniti 女 獲得 (RV. 用例一回のみ)。
sanitr 形 (士 副, + 副) (因) 獲得する; 授ける。男 獲得者。
sa-nidarsana 形 現 Aṣṭ-pr.; 可見 Sutr.; 有見 Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr.; 有頭 Abh-vy., Raṣṭr.; 有指処 Mvyut。
sa-nidāna 形 修因 Ratna-ut.; 有因 Sutr.; 有因縁 Bodh-bh。

sa-nidra 形 眠っている。
 sa-nimitta-prayoga-niryāna 有出相方便 *Sūtr.*
 sa-ninda 形 非難をとまなう。～m 副 非難をこめて。
 sa-nimeṣa 形 瞬く(眼)。
 sa-niyama 形 限られた；内制(niyama)を実践している。
 sa-nirviṣeṣa 形 無関心な。
 sa-nirveḍa 形 退屈な(会話)；元気がない，絶望している。～m 副 全く無関心に。
 sa-niśvāsam 副 ため息をついて。
 sa-niḥśvāsam 副 =sanīśvāsam。
 sa-niṣy 形 獲ようと欲する，戦利品をほしがる(RV.)。
 sa-niḥsarāṇa 形 正出 *Bodh-bh.*；有離 *Abh-vy.*；有出罪 *Aṣṭ-pr.*；有出離 *Bodh-bh.*
 sa-niḥsāra 形 有離 *Abh-k.*，*Abh-vy.*
 sa-niḍa 形 (因) 巢をともにする，同族の，密接に結ばれた。男 または 田(圃) 附近。～e 因(圃，一°)の近くに。
 sanutar 副 (因) (從) のわきに・から離れてまたはから遠くに。～ Yu または DHā，近づけない，追い払う。
 sanutr 形 (女 sanutri のみ) 勝つ，獲ち得る(RV.)。
 sa-nemi 形 輪ぶちのついた(RV. 用例一回のみ)。田 副 完全に，常に(因)。
 sanemika 形 車輶を有する；有網 *Lal-v.*
 santa 形 =sat；有 *Saddh-p.* 男 物 *Divy.*
 santaka 形 (因 -ikā) (圃，一°) に属する(仏教)。
 saṃ-takṣaṇa 田 辛辣な諷刺：*vāksaṃtakṣaṇais* 痛烈な言葉によって。
 saṃ-tata 過受分 → Tan 1.
 saṃtata-varṣin 形 絶えまなく雨が降る。
 saṃ-tati 因 因 圃：連続，継続，持続；圃：(事物の)因果関係；絶えまない系列または流れ，多量，多数；…の濃度=濃い(圃，一°)；家系が絶えないこと，子孫(普通の意味)；民族，血統；不断の瞑想(まれ)；志 *Sikṣ.*；相続 *Abh-vy.*，*Aṣṭ-pr.*，*Bodh-bh.*，*Lanik.*，*Madhy-v.*，*Sikṣ.*，*Vijñ-v.*：～er anucchedāt 相続 *Sūtr.* 17。
 saṃtati-prabandha-vṛtti 因 相続刹那随轉 *Sūtr.*
 saṃ-Tan, → Tan 1.
 saṃ-tani 形 延長する(Br.)。男 または 因 音，音楽(RV.)。
 saṃ-Tap, → Tap.
 saṃ-tapta 過受分 → Tap；温 *Bodh-c.*；熱惱 *Bodh-c.*，*Lal-v.*，*Sikṣ.*；烧然 *Sikṣ.*；所烧害 *Lal-v.*；熾然烧煮 *Sikṣ.*：～manas 憂悲 *Buddh-c.* 48。
 saṃ-Tam； → Tam.
 saṃ-tamasa 田 (全般におよぶ) 暗黒。
 saṃ-taraṇa 形 (危険)を越える(因)。田(圃) 越えること(また 譬喩)；渡 *Lal-v.*
 saṃ-Tarj, → Tarj.
 saṃ-tarjana 形 叱る，脅す。田 脅迫，ののしり。
 saṃ-tarpana 形 爽快にする，元気にする。田 強くする手段；充足 *Bodh-bh.*；周給 *Sūtr.*；満足 *Lal-v.*：sarvasattva～ 施諸衆生 *Aṣṭ-pr.* 137。

saṃ-tarpita 過受分 [°Tṛp の使役 から]；令飽 *Divy.*；飽満 *Sikṣ.*；充足飽満 *Av-s.*
 saṃ-tāḍita 過受分 [°Tāḍ から]；打撻 *Sikṣ.*
 saṃ-tāna 男 圃：連続，継続；不断の系列，絶えまない流れ；絶えまなく(考え)続けること(まれ)；永続する同盟(娘が同盟者に与えられる；また -saṃdhi 圃)；家系が絶えないこと，子孫，後裔(また 田)；因：(*Veda* の読誦等における)連結，移行；網状の紐帯，躡；身 *Aṣṭ-pr.*，*Bodh-bh.*，*Lanik.*，*Sūtr.*；身心 *Abh-vy.*；行列 *Sikṣ.*；相続 *Abh-k.*，*Abh-vy.*，*Bodh-bh.*，*Gaṇḍ-vy.*，*Lanik.*，*Madhy-v.*，*Madhy-vibh.*，*Mvyut.*，*Sūtr.*，*Vijñ-v.*：sva～ 自眷属 *Sikṣ.* 126；para～ *Sikṣ.* 126；vṛtti～-bheda 行異相続異 *Sūtr.* 18。
 saṃtānaka 男 [天界の五種の樹の一]。
 saṃtānakamaya 形 (因 -i) *Saṃtānaka* 樹(の花)からなる。
 saṃtāna-bāhulya 田 心多 *Mvyut.*
 saṃtāna-bhūta 男 相続 *Abh-vy.*
 saṃtāna-bheda 男 相続異，相続差別，相続異(慢) *Sūtr.*
 saṃtānam 總 …を越えて拡がって。
 saṃtāna-vartin 形 在於続，有接続 *Mvyut.*
 saṃtāna-samatā-praveśa 男 於一切相続得平等 *Sūtr.*
 saṃtāna-sthāna 田 衆生心処 *Ratna-ut.*
 saṃtānānuvṛtti 因 常貪 *Mvyut.*
 saṃtānābhinnārtha 男 身無差別義，相続無差別義 *Madhy-vibh.*
 saṃtānābheda 男 身無差別，相続無差別 *Madhy-vibh.*
 saṃ-tāpa 男 熱；(因)における苦痛・苦惱・煩悶・心痛；後悔，悔恨；苦行(まれ)；感，憂 *Abh-vy.*；悲惱 *Saddh-p.*；悲塞 *Bodh-c.*；憂悲 *Bodh-c.*；熱惱，惱熱，火所烧 *Sikṣ.*；普照，悉知，悉覺 *Gaṇḍ-vy.* ～m Kṛ, (prati) に関して苦しむ。
 saṃtāpa-kārin 形 苦しめる。
 saṃtāpa-jāta 形 懷悲惱 *Saddh-p.*
 saṃ-tāpana 形 苦しめる，悩ませる。
 saṃtāpavat 形 苦しんでいる，悲しんでいる。
 saṃtāpa-hara 形 消熱する。
 saṃ-tāpita 過受分 [°Tap の使役 から]；焚烧 *Divy.*
 saṃ-tāra 男 (水，圃，一°)を渡ること。
 saṃtāraka 形 度脱 *Saddh-p.*；能度 *Daś-bh.*，*Saddh-p.*；正度，能濟度 *Daś-bh.*
 saṃ-tāraṇa 田 拔濟，普度 *Gaṇḍ-vy.*
 saṃtāraṇatā 因 能度，令度，令其得度 *Gaṇḍ-vy.*
 saṃ-tārya 未受分 渡られるべき(海)；打克たれるべき(譬喩)。
 saṃtāsanta 形 有無見，有無二見 *Lanik.*
 saṃ-tirakatva 田 明了決度 *Abh-vy.*
 saṃ-tiraṇa 田 (=Pali) 判断，判断力；推度 *Abh-vy.*，*Prajñ-h.*；決度 *Abh-vy.*
 saṃtiraṇā 因 觀察，虛妄推求 *Bodh-bh.*

sam-tirita 過受分 思 Sūtr. → mithyā~.
 sam-tirṇa 過受分 越 Lal-v.
 sam-Tul, → Tul.
 sam-Tuṣ, → Tuṣ.
 sam-tuṣita 男 音写 [天名] 兜率 Bodh-bh.,
 Gaṇḍ-vy., Lal-v.; 兜術 Bodh-bh.; 兜率陀 Daś-
 bh., Gaṇḍ-vy.; 兜術陀 Lal-v.; 珊都史多 Bodh-
 bh., Daś-bh.
 samtuṣitatva 中 兜率陀天性 Sukh-vy. I.
 samtuṣita-deva-pati 男 音写 兜率, 都史陀 Rāṣṭr.
 samtuṣitadeva-putra 男 [天名] 妙足 Mvyut.;
 (音写) 兜率天子 Mvyut.
 sam-tuṣṭa 過受分 → Tuṣ; 知足 Aṣṭ-pr.,
 Bodh-bh., Divy., Mvyut., Śikṣ.; 喜足 Aṣṭ-pr.,
 Bodh-bh., Śikṣ.; 歡喜 Suv-pr.; 生喜足 Śikṣ.:
 alpeccha~ 少欲而知足 Sam-r. 65; alpecchuḥ~
 ḥ 少欲知足 Śikṣ. 50; svabhoga~ 自財位(常)知
 止足 Daś-bh. → a~.
 sam-tuṣṭi 因 (具) で満足すること; 厭 Sūtr.;
 知足 Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut.; 喜
 足 Bodh-bh.; 為足, 歡喜, 喜満足 Sūtr.; 知止足
 Mvyut.: hṛdaya~kari 心喜, 心中喜 Mvyut. 27.
 samtuṣṭi-karin 喜 Sūtr.
 samtuṣṭi-prātipakṣika-manaskāra-bhāvana 对
 治知足…種修 Sūtr.
 sam-Trp, → Trp.
 sam-trṛpti 因 飽き足らせること。
 sam-trṣita 過受分 [°Trṣ から]; 乾, 枯槁 Lal-
 v.
 sam-Tṛ, → Tṛ.
 sam-toṣa 男 (具, 因) で満足することまたは充足して
 いること; 知足 Bodh-c. ~m Kṛ, (具) で満足
 する。
 sam-toṣaṇa 中 悦 Daś-bh.; 喜 Sūtr.; 満足
 Lal-v.; 愛敬 Mañj-m.; 歡喜 Daś-bh., Lal-v.;
 歡悦 Daś-bh.; 慰喻 Bodh-bh.; 令歡喜 Daś-bh.,
 使歡喜 Gaṇḍ-vy.; 発歡喜, 令得歡喜, 令生歡喜
 Lanḥ.; 能令…歡喜 Gaṇḍ-vy.; 能令…生歡喜 Ga-
 ṇḍ-vy.: sarvathāgata~ṇi 諸如来作喜母 Mvyut.;
 sarvendriya~ṇi 諸根満足, 諸根適悦 Mvyut. 20.
 samtoṣaṇā 因 愛念 Divy.-
 sam-toṣaṇiya 未受分 [°Tuṣ の 使役 から] 満足させ
 られるべきまたはなだめられるべき; 歡喜 Śikṣ.
 samtoṣavat 形 満足した, 充ち足りた。
 sam-toṣita 過受分 [°Tuṣ の 使役 から] 満足した,
 喜んだ, 慰められた; 充滿悦, 心安具足 Sa-
 ddh-p.
 sam-toṣin 形 満足した, 充ち足りた; (一°)を喜ぶ。
 sam-toṣṭavya 未受分 中 満足すべきである。
 santya 形 (呼のみ) 寛大な (Agni 神; RV.).
 sam-tyakta 過受分 → Tyaj.
 sam-Tyaj, → Tyaj.
 sam-tyajya 未受分 [°Tyaj から] 棄てられるべき。
 不變分 → Tyaj.
 sam-tyāga 男 棄てること, 放棄。
 sam-tyājya 未受分 棄てられるべき, 断念されるべ

きまたは避けられるべき。
 sam-Tras, → Tras.
 sam-trasta 過受分 → Tras.; 驚忙 Divy.; 驚
 畏 Sam-r.
 sam-trāṇa 中 救出, 救助。
 sam-trāsa 男 (因, 一°, -tas) に対する驚愕または恐
 怖; 怖 Śikṣ.; 畏, 怖 Lanḥ.; 驚怖 Bodh-bh.,
 Sapt-pr.; 驚悸 Śikṣ.; 生於驚怖 Lanḥ.: ~m ā-
 Pad 怖 Aṣṭ-pr. 460; 驚疑怖畏 Saddh-p. 233; na
 ~m āpadyate 不驚恐, 不驚懼 Mvyut. 99.
 samtrāsaka 怖 Sūtr.
 sam-trāsana 中 恐れさせること; 怖畏 Saddh-
 p.; 大忿怒 Guhy-s.
 samthakātyāyana 男 音写 [人名] 散他迦多衍
 那 Bodh-bh.
 sam-Damś, → Damś.
 sam-damśa 男 (唇の) 圧縮; 關係; はさみ道具; 親
 指と人指し指; (蟹の) 鉗; 節, 章。
 samdamśaka 男 一對の火箸。
 samdamśikā 因 [同上]。
 sam-darpa 男 傲慢, …を誇ること(一°)。
 sam-darbha 男 (花環を) 編むこと; (武器を) 積むこ
 と; 混合; (言葉, 調子等の) 芸術的組合せ; 創作,
 作曲。
 sam-dabdha 過受分 → Drbh.
 sam-darsaka 形 (因 -ikā) (=Pali samdassaka) 示
 す, 教示する; 示 Aṣṭ-pr.; 示現 Aṣṭ-pr.,
 Mvyut.; 開示 Mvyut., Saddh-p.; 演説 Mvyut.
 sam-darsatā 因 現, 顕示 Abh-vy.
 sam-darsana 中 見ること, 眺めること, 視ること
 (普通の意味); 視力; 凝視, 注目(まれ); 検査, 考慮;
 示現, 顕現; (因 土saha) と会うこと; (をまたげ
 に) 示すことまたは見せること; 出 Sūtr.; 表
 Śikṣ.; 示 Saddh-p.; 見 Sūtr.; 明 Saddh-p.; 現
 Aṣṭ-pr., Abh-vy., Lanḥ., Saddh-p.; 説 Ratna
 ut; 顯 Abh-vy., Madhy-vibh.; 觀 Bodh-bh.; 示
 現 Bodh-bh., Lal-v., Madhy-vibh.; Ratna-ut.
 Sūtr.; 現前 Sūtr.; 開示 Bodh-bh.; 顕示 Aṣṭ-pr.
 Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v.; 變現 Bodh-bh.; 能
 顯示 Gaṇḍ-vy. ~m Gaṇ svapne, 夢の中で(属
 に現われる。~m pra-Yam, (属)に現われる。~
 因(因, 一°)を考慮して。
 sam-darsaniya-prabha 男 可觀光 [Amitabh
 仏の称] Sukh-vy. I.
 sam-darsayitavya 未受分 所応示現 Bodh-bh.
 sam-darsayitr 形 見させる, 示す, 指摘する; 示
 示, 示悟, 能示, 顕示 Aṣṭ-pr.
 sam-darsika 形 (因 -ikā) 可示, 能示, 開示 Aṣ
 pr.
 sam-darsita 過受分 示された, 見せられた, 顕わ
 れた; 示 Saddh-p.; 所説 Bodh-c.
 sam-darsin 形 等觀 Lanḥ.
 sam-dalita 過受分 → Dal.
 sam-daṣṭa 過受分 → Damś.
 sam-Dah, → Dah.
 sam-Dā, → Dā 1,2,3.

saṃ-dāna 田 束縛, 足かせ, 端綱 (因). 男 (?) (象の膝の下にある) 足かせをつける場所.
 saṃdānatā 因 [同上の 田].
 saṃdānita, 名動 過受分 縛られた, 足かせをはめられた.
 saṃdānitaka 田 一つの文章を構成する三 śloka の結合.
 saṃ-digdha 過受分 疑わしい等. → Dih; 猶子 Bodh-c., Nyāv-pr.; 猶子智 Vajr-s. 田 曖昧な表現.
 saṃdigdhatva 田 不確実性.
 saṃdigdha-punar-uktatva 田 不確実と重複言.
 saṃdigdha-buddhi 形 疑心ある.
 saṃdigdhārtha 疑感 Sūtr.
 saṃdigdhāsiddha 形 猶子不成 Nyay-pr.
 saṃ-dita 過受分 → Dā 3.
 saṃ-Diś, → Diś.
 saṃ-Dih, → Dih.
 saṃ-dihyamāna 現分 起疑惑時 Nyay-pr.
 saṃ-dipaka 形 燃え上らせる, 嫉妬を起させる.
 saṃ-dipana 形 火をつける; 興奮させる, 挑発する. 男 [Kāma 神の五矢の一]. 田 火をつけること, 興奮させること, 刺戟すること.
 saṃ-dipta 過受分 → Dip.; 悽傷, 愁憂 Sv-pr.
 saṃ-Duṣ, → Duṣ.
 saṃ-duṣṭa 過受分 → Duṣ.
 saṃ-Duh, → Duh.
 saṃ-dūṣaṇa 形 (因 -i) 腐敗させる, 滅亡させる. 田 汚すこと, 侵犯すること; 滅亡の原因.
 saṃ-Drś, → Drś.
 saṃ-drś 因 (因) 光景; 外観; 見解, 指図.
 saṃ-drśe, °Drś の 因 不定.
 saṃ-drśta 過受分 善見, 明見 Lank.
 saṃ-drśtika 形 現証 Divy.
 saṃ-deśa 男 (因, 因) への命令・訓令・使いたまたは使命; 伝 梵雑; 使人 (?) Divy. ~tas 田 (因) の命令によって.
 saṃdeśaka 男 (一) の通信.
 saṃ-deśanatā 因 顯示 Sūtr.
 saṃdeśa-pada 田 通信文.
 saṃdeśa-hara 男 消息を運ぶもの, 使者, 使節.
 saṃdeśa-hārin 男 [同上].
 saṃdeśārtha 男 通信の内容.
 saṃ-deśya 未受分 指図されるべきまたは指示されるべき.
 saṃ-deṣṭavya 未受分 [同上]; (因) に告げられるべき.
 saṃ-deha 男 集積, 浮世のわずらわしさ (輕蔑の辞, Br.); 罽: (因, 因, 一) に関する疑い, 不確実さ; 疑わしい事柄 (まれ); 危険, 冒険; (修辞法の一つ: na または nāsti とともに) 疑いなく (挿入句として用いられる); 疑 Bodh-c., Lank., Saddh-p., Sūtr.; 惑 Bodh-bh.; 疑問 Bodh-bh.; 疑惑 Bodh-bh., Mañj-m., Ratna-ut., Śikṣ.: na~, 必是 Lank. 247; 355; ~syācchedaḥ 不断疑 Sūtr. 12.

saṃdeha-kara 形 生疑心, 生疑惑, 有疑問 Bodh-bh.
 saṃdeha-kūṭa 男 田 疑惑山 Gaṇḍ-vy.
 saṃdeha-jaha 断疑 Sūtr.
 saṃdeha-dāyin 形 (一) に関して疑念を起させるまたはを想起させる.
 saṃdeha-dolā-stha 形 不安な状態にいる.
 saṃdeha-pada 形 疑いを受けやすい, 疑わしい.
 saṃdeha-bhṛt 形 (因) に関して疑いを抱く.
 saṃdehokti (°ha-uk°) 因 錯問 梵雑.
 saṃ-doṣa 罽: ~m upaiti 作諸悪業 Sūtr. 5.
 saṃ-doha 男 乳しぼり; (牛群の) 乳の総量; 全体. 多数, 多量, 豊富.
 saṃ-dohana 形 乳をだす, 授ける.
 saṃ-Dru, → Dru.
 saṃdhaya, 名動 [saṃdhi より] 田 (因) と一緒にする・合わせるまたは一体にする; 執る, 取得する; 平和条約を結ぶ. 過受分 saṃdhayita 結び合わされた; 番えられた (矢); 適用された; (一) と一体にされた; 同盟した, 平和条約を結んだ.
 saṃ-Dhā, → Dhā.
 saṃ-dhā 因 因: 契約, 協定; 罽: 約束; 意図; 制限.
 saṃ-dhātavya 未受分 …と同盟を結ばれるべき. 田 非人 人は (因)…と (saha) 同盟を結ぶべきである.
 saṃ-dhāna 形 結び合わせる, いやす (まれ). 男 [ある大臣の名]; [長者名] 善続 Divy. 田 結び合わせること, 一体にすること; 接合, 連合; 集めること, 集合すること; 接合点, 関節; (弦に: 因) (矢を) 番えること; 単語の結合 (ときとして = saṃdhi, 連声); (因 ± saha) との和解・和平条約の締結, 同盟, 聯盟, 親しい関係; 合成する, 混合する, 蒸留する; 続 Abh-k., Madhy-bh.; 接 Abh-k.; 密縛 Lank.; 相接 Madhy-bh., Madhy-vibh.; 相続 Abh-vy., Lank., Madhy-vibh. ~m āyātaḥ, 入場を許された (使者).
 saṃdhāniya 未受分 …と同盟を結ばれるべき.
 saṃdhā-bhāṣita 形 (二義にとれるよう) 曖昧に語られた, 謎のように語られた; 隨宜説法 Saddh-p.
 saṃdhābhāṣita-nirdeśa 男 隨宜説法 Saddh-p.
 saṃdhā-bhāṣya 田 方便説, 秘密教, 権密言説 Sam-r.; 隨宜説, 隨義説, 隨宜所説, 方便隨宜説 Saddh-p.
 saṃ-dhāya 不変分 (反対者と) 折り合いをつけて, 妥協して; 密意而, 以…密意 Lank.
 saṃdhāya-gamana 田 和睦成立後の行進.
 saṃdhāya-bhāṣita 形 秘密教 Daś-bh.; 密意語言 Bodh-bh.
 saṃdhāya-vacana 田 密意語言 Bodh-bh.
 saṃdhāyāsana (°ya-ās°) 田 和睦成立後の休止.
 saṃ-dhāyin 形 (矢を) 番える.
 saṃdhāyokta (°ya-uk°) 形 依…故説, 依…密作是説, 約…説此言 Abh-vy.; 密意説言 Bodh-bh.
 saṃ-dhāraka 形 受持, 護持 Divy.
 saṃ-dhāraṇa 田 (一) に耐えること; 一緒にする, (生活, 一) を維持する; 持 Abh-vy.; Daś-bh., Mṛyut; 執 Abh-vy.; 執持 Abh-vy.; 任時

Mvyut.; 能持 *Abh-vy.*; *Gaṇḍ-vy.*; 受持 *Daś-bh.*, *Śikṣ.*; 護持 *Daś-bh.*; 普持 *Gaṇḍ-vy.*; 伝持 *Bodh-bh.*; 撰住 *Sūtr.*: kāya~ 治療於身 *Śikṣ.* 135.; *sarvatathāgatadharmanetri*~ 受持一切如来正法眼 *Gaṇḍ-vy.* 333.; ~citta 住持心, 守護心 *Gaṇḍ-vy.* 481; *sarvabuddhadharmadeśanā*~tā 持一切佛法 *Gaṇḍ-vy.* 202; *sarvabuddhasāsana*~tā 受持諸仏教海, 護一切仏教 *Gaṇḍ-vy.* 202.

saṃ-dhāraṇiya 未受分 維持されるべきまたは生かしておかれるべき。

saṃ-dhārita 形 任持 *Gaṇḍ-vy.*, *Śikṣ.*

saṃ-dhārya 未受分 保たれるべき; 養われるべき(召使); 保持されるべきまたは守られるべき。

saṃ-DHāv, → *DHāv* 1,2.

saṃ-dhi 男 [°Dhā から] 音:(圓)との結合または連合(U.も); (圓)との関連または交際;(政策の, 一°)全範囲; 協約, 契約(まれ); (圓 ±saha)と(圓)との間の講和・同盟 または 連盟;(一つの単語 または 文章における)音の結合:連声(文法); 工夫, 処理(まれ); 因, 音:接合, 境界, 間隔; 関節;(昼と夜との合間), 薄明; 地平線(Br., S.); 音:縫い目(まれ); (衣服の)襷; 壁;(壁の)穴, 破れ口, (盗人の作った)穴; 部分, 片(Br.も;まれ); (戯曲の)区分, これに五ある: mukha, vimukha, garbha, vimarśa, nirvahaṇa); Br. [ある *Stotra* の名]; 結 *Abh-k.*; 節 *Abh-vy.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*; 続 *Suvik-pr.*; 肢節 *Abh-vy.*; 指, 骨節 *Mvyut.*; 相続 *Lank.*, *Sam-r.*; 想応 *Sam-r.*; 密意 *Bodh-bh.*, *Lank.*; 旨趣 *Sūtr.*; 祭畔 *Gaṇḍ-vy.*; 密執, 深密, 密意説 *Lank.*: *uṣṇīṣavivaramūrdhnaḥ* ~ *praveśaḥ* 頂髻中入 *Mvyut.* 244. ~ *m avāpnoti* 随和合 *Mvyut.* 109. ~ *m CHid* または *BHid*, (壁に)穴または破れ目を作る。

saṃdhika 形 一° 合同の。

saṃdhi-kuśala 形 同盟(を作る)に巧みな。

saṃdhi-kriyā 因 和好, 往返和好 *Bodh-bh.*

saṃdhi-citta 因 託心, 続生心 *Abh-vy.*

saṃdhi-cchedaka 男 押込み強盗, 夜盗; 立家事, 穿竅房室 *Mvyut.*

saṃdhi-ja 形 接合から生じた; 連声によって生じた。

saṃ-dhitsu 希求 形 [°Dhā から] (圓)と平和条約または同盟を締結しようと欲する。

saṃdhin 男 同盟国の大員。

saṃdhi-nigraha-dvāreṇa 圓 (圓)と連合したり敵対したりして。

saṃdhi-nirmokṣa 男 積義 *Sūtr.*

saṃdhi-nirmokṣaṇa 中 積義 *Sūtr.*

saṃdhi-nirmocana 中 解深密, 能解密意, 広開真実経, 深密解脱経 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*

saṃdhini 因 さかりのついた牝牛。

saṃdhini-kṣīra 中 さかりのついた牝牛の乳。

saṃdhimat 形 平和に暮らす; 連盟した, 同盟した。男 [人名]。

saṃdhimati 男 [ある大臣の名]。

saṃdhi-vigraha 男 同盟(=外務)および軍事の大員。

saṃdhi-vigraha-kāyastha 圓 外務および軍事の書記。

saṃdhivigraha-kāryādhikārin 圓 外務および軍事の大員。

saṃdhi-vid 形 同盟に通曉した。

saṃdhi-velā 因 薄明の時刻。

saṃdhi-sambhava 形 連声(saṃdhi)によって生じた。男 二重母音。

saṃdhi-sarpaṇa 中 狭い通路を這うこと。

saṃdhi-sāmagri 因 和合, 和好, 和安 *Lal-v.*, *Śikṣ.*

saṃdhiśvara (°dhi-ś°) 男 [*Samdhimati* の身体各部を合祀した祠堂の名]。

saṃ-Dhuṣ, → *Dhuṣ*.

saṃ-dhuṣaṇa 形 燃える(怒り)。中 (火が)燃えること; 興奮させること, 刺激すること; 火焰, 燃; 増長 *Mvyut.*, *Śikṣ.*

saṃ-dhuṣita 過受分 燃えた, 火をつけた; 熱, 熾盛, 熾然 *Daś-bh.*

saṃdhūṣaṇa 形 擾乱 *Lal-v.*

saṃ-dhūnaka 形 振動を伴う; 振 *Mvyut.*, *Vin* → *hasta* ~.

saṃ-Dhṛ, → *Dhṛ*.

saṃ-dheya 未受分 連合されるべきまたは結合されるべき(+āsu-); 償われるべき(罪, a-としてBr.); ...と和合されるべき; (āsu-として)和解されるべき。中 非人(圓)と講和すべきである; (因)と和解されるべきである。

saṃdhyā 形 連声(saṃdhi)に基づいた; 相続輪廻, 不能離於 *Lank.*

saṃdhy-akṣara 中 連声(saṃdhi)によって生じた母音, 二重母音。

saṃdhy-asamdhi 男 深密義, 相続不相続 *Lank.*

saṃdhyā 因 (昼夜の)接続点, 朝夕の薄明(普通の意味)薄明の勤行, 朝夕の祈禱; (Yuga + なわち宇宙の年紀の)朝(および夕)の薄明; 一日の三部分(朝・正午・夕方)の接続点(まれ); *Brahmā* 神および太陽の妃の示現として擬人化された薄明(とくに夕方); 晡時 *Sukh-vy.* I.; 隠覆, 秘密 *Lank.* ~ *m Ās*, *anu-Ā* または *upa-Ās*, 朝夕の祈りを行う。

saṃdhyāṃśa (°yā-am°) 男 (薄明の部分), Yuga + なわち宇宙の年紀の夕の薄明。

saṃdhyā-kārya 中 朝夕の祈禱。

saṃdhyā-kāla 男 薄明の時期, 夕刻; 黎明, 暮 *Mvyut.*

saṃdhyā-kālika 形 夕方に属する。

saṃdhyātva 中 薄明の状態。

saṃdhyā-payoda 男 薄明における雨雲。

saṃdhyā-prayoga 男 朝または夕方の祈禱。

saṃdhyā-bali 男 薄明に捧げられる供物。

saṃdhyā-bhāṣya 中 隠覆之説, 秘密之説 *Lank.*

saṃdhyābhra 男 (°yā-abh°) 男 薄明の雨雲; 絳雲 *Buddh-c.*

saṃdhyāmaya 形 (因 -i) 薄明からなる。

saṃdhyāya, 名動 自 *saṃdhyāyate*, 薄明に似る。過受分 *saṃdhyāyita*.

saṃdhyā-rāga 男 薄明の輝き。

samdhyā-vacana ㊦ 發真実語, 常宣真実語 *Sam-r.*
samdhyā-vandana ㊦ 朝または夕の祈禱.
samdhyā-vāsa ㊦ [ある村の名].
samdhyā-vidhi ㊦ 朝または夕の祈禱.
samdhyā-śaṅkha-dhvani ㊦ 薄明の始めに吹かれる法螺貝の音.
samdhyā-samaya ㊦ 薄明の時, 夕刻.
samdhyopasthāna (°yā-up°) ㊦ 薄明の礼拝.
sam-DHyai, → DHyai.
sanna 過受分 [Sad から] 沈没した事.
sam-nata 過受分 (案, 圖, 圖) にお辞儀した; ㊦ 低 *Lal-v.*: → Nam.
samnatāngi ㊦ うつむきかげんの美人.
samnati ㊦ 輦: 降下, 低いこと; 減少, (負担を) 軽くすること; (圖; また図) に対する好意または慰勉; 服従; (図) に対する謙遜; ㊦ 退転, 退屈, 軟下心 *Buddh-c., Sūtr.*
sam-Nad. → Nad.
sam-naddha 過受分 武装した事. → Nah; ㊦ 摺, 摺被; 被(甲冑); 殿, 莊殿; 箸(甲冑) *Ast-pr., Bodh-bh., Divy., Lal-v., Mañj-m., Mvyut., Sapt-pr., Śikṣ., Sukh-vy. I.*
samnaddhavya 未受分 (°Nah から) ㊦ 応被鎧 *Ast-pr.*
samnaddhu-kāma ㊦ 欲闘戦, 欲戦諍 *Ast-pr.*
sam-Nam. → Nam.
samnamasya, 名動 → namasya.
sanna-musala ㊦ 杵が動かないでいる時に.
san-naya ㊦ 淨妙理 *Lal-v.*
samnaṣṭa 過受分 → Naś.
sam-Naś. → Naś.
sam-Nas. → Nas.
sam-Nah. → Nah.
sam-naḥana ㊦ 結び合わすこと; 準備; 紐; 設備; ㊦ 被甲 *Sūtr.*
sam-nātha ㊦ 有掃依処 *Ratna-ut.*
sam-nāda ㊦ 音, 騒ぎ, 叫び, 咆吼.
sam-nādana ㊦ 響かせる, 騒音で充たす.
sam-nāma ㊦ 征服; 修正.
sam-nāmayitavya 未受分 ㊦ 可降 *Divy.*
sam-nāmita 過受分 ㊦ 平定 *Divy.*
sam-nāha ㊦ 縛ること, 捲くこと; 準備, 設備; ㊦ 紐; 鎧, 甲冑; 馬具; ㊦ 莊殿; 鎧, 鎧甲; 甲, 甲冑, 盜甲, 摺甲, 盜鎧, 武装 *Ast-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut., Mañj-m., Sapt-pr., Śikṣ., Sukh-vy. I., Sūtr.*; ㊦ 雜; ㊦ 僧那 玄心.
samnāha-prayoga ㊦ 甲冑加行 *Bodh-bh.*
samnāha-manasikāra ㊦ 被甲作意 *Sūtr.*
samnāha-vīrya ㊦ 弘誓精進, 弘誓為自性 *Sūtr.*
samnāha-samnaddha ㊦ 著鎧, 着甲冑, 着鎧甲, 莊飾鎧, (大) 誓莊殿, 被甲莊殿, 被甲衣 *Ast-pr., Mvyut., Suvik-pr.*; 玄心; ㊦ 僧那僧涅陁, 膺那訶膺捺陁 玄心.
sam-nikarṣa ㊦ (一°) と一緒に引くこと, 近接, 密

な接触; (一°) との結合, との関係; 近いこと, 接近; ㊦ 隣, 対, 合, 和合 *Abh-vy., Buddh-c., Lank., Mvyut.* ~m ㊦ 近くに(行く等). ~āt ㊦ (ある人の) 面前より(去る等). ~e ㊦ (圖, 一°) の近所で.
sam-nikāśa ㊦ (一°) の外観をもつ.
sam-nikirṇa 過受分 → Kṛ.
sam-ni-Kṛṣ. → Kṛṣ.
sam-nikṛṣṭa 過受分 → Kṛṣ. ㊦ 近接; ㊦ 近, 親近 *Abh-vy., Mvyut., Saddh-p.* ~m ㊦ (一°) の近くに. ~e ㊦ (圖, 一°) の近くに.
sam-nicaya ㊦ 蓄積; 豊富, 沢山, 貯蓄; ㊦ 聚, 積, 積集, 聚積, 蔵積 *Bodh-bh., Mvyut., Sam-r., Sukh-vy. I.*
sam-ni-DHā. → DHā.
sam-nidhātṛ ㊦ 近くにいる者; (盗品の) 受取人; 任にある役人; ㊦ 保管者 *Mvyut.*
sam-nidhāna ㊦ (一緒に入れること), 容器; 近いこと, 接近, 面前; 現存. ~āt ㊦ (圖) から. ~e ㊦ (圖, 一°) の近くまたは面前で.
sam-nidhi ㊦ 併置; 近接, 附近, 面前, 存在; ㊦ 蔵 *Śikṣ.*; 祕蔵, 積蔵, 儲積 *Bodh-bh.* ~au ㊦ (圖, 一°) の面前でまたは近くで. ~m ㊦ (圖, 一°) の面前へまたは近くへ. ~m Kṛ, Bandh または vi-DHā, (㊦) の位置につく または住居を構える.
samnidhi-kāra ㊦ 貯蔵すること, 蓄積すること; ㊦ 穢汚, 集畜 *Mvyut.*; 貯積, 儲宿 *Abh-vy.*; 積聚, 所貯積 *Bodh-bh.*
samnidhi-prāpta ㊦ 貯蓄 *Bodh-bh.*
samnidhi-mala ㊦ 積蔵垢 *Bodh-bh.*
sam-ni-Ni. → Ni.
sam-ni-Pat. → Pat 1.
sam-nipatita 過受分 飛び降りた, 降りた; 寄り集った, 集合した; 現れた, 到来した; ㊦ 来 *Raṣṭr.*; 俱 *Lank.*; 集, 来会 *Daś-bh.*; 聚, 聚至 *Mvyut.*; 俱来 *Ast-pr., Lank.*; 雲集 *Divy.*; 和合 *Abh-vy.*; 悉来集会, 悉来聚集 *Supr.*; 俱来集会, 来普集会 *Daś-bh.*; 随縁而起 *Lank.*
sam-nipāta ㊦ (圖) との接触・衝突または遭遇; 接続, 結合, 集合, 混合ト(病的な結合=)(三体液の)混乱; 降ること, 降下 (*lakṣaṇa*-において); 衰弱, 死(まね); ㊦ 生 *Madhy-v.*; 和 *Abh-k., Vijñ-t.*; 合 *Madhy-v., Śikṣ.*; 集 *Lal-v., Sapt-pr.*; 衆 *Saddh-p.*; 會 *Daś-bh.*; 和合 *Abh-vy., Madhy-v., Śikṣ., Vijñ-t.*; 集会 *Mañj-m.*; 会集, 同集 *Sam-r.*; 聚集 *Śikṣ.*; 総集 *Suv-pr.*; 相對 *Daś-bh.*; 雜病 *Ast-pr.*; 雜症 *Mvyut.*; mahā~ 大会 *Vin.*
sam-nipātana ㊦ 来会 *Daś-bh.*
sam-nipāta-nidrā ㊦ 恍惚.
sam-nipātita 使役 過受分 集められた, 集合した.
sam-nipātya 未受分 (㊦) に射らるべき(矢).
sam-nibarhaṇa ㊦ (心の) 抑圧または制御.
sam-nibha ㊦ 似ている, のような(一°; とくとして色の名前と一緒に); ㊦ 如 *Gaṇḍ-vy., Lal-v., Suv-pr., Sūtr.*; 譬, 猶如 *Lank.*
san-nimitta ㊦ 吉兆; 善因. ~m ㊦ 善いことのため

に。

saṃ-nibaddha 過受分 → Bandh.

saṃ-ni-Budh, → Budh.

saṃ-nibhṛta 過受分 → BHṛ.

saṃ-ni-Majj, → Majj.

saṃnimantraya, 名動 → mantraya.

saṃ-ni-Mil, → Mil.

saṃ-niyacchana 甲 抑制すること, (馬を) 調教すること。

saṃniyacchanatā 因 禁制性 Bodh-bh.

saṃ-niyanṭṛ 男 抑制者。

saṃ-ni-Yam, → Yam.

saṃ-niyama 男 正確。

saṃ-niyoga 男 委任; 規定, 命令; 合 Bodh-bh.; 安処 Bodh-bh.: kuśalamūla ~ 令種善根 Bodh-bh. 167.

saṃ-nīyukta 過受分 → Yuj.

saṃ-ni-Yuj, → Yuj.

saṃ-niyojana 甲 安住 Gaṇḍ-vy.; 安置 Bodh-bh.; 安処 Bodh-bh.

saṃ-niyojayitr 男 安立 Bodh-bh.

saṃ-niyojita 使役 過受分 → Yuj.

saṃ-nir-Īkṣ, → Īkṣ

saṃ-niruddha 過受分 → Rudh 2.

saṃ-ni-Rudh, → Rudh 2.

saṃ-niroddhavya 未受分 閉じこめられるべき。

saṃ-nirodha 男 障害, 抑圧; 堰, 堰遏 Abh-vy.

saṃ-nirmita 過受分 → Mā 1.

saṃ-nir-Vap, → Vap 2.

saṃ-ni-Vap, → Vap 2.

saṃ-ni-Vas, → Vas 3.

saṃ-nivāya 男 結合。

saṃ-ni-vāsa 男 住止, 居処 Bodh-bh.

saṃ-ni-Vid, → Vid 1.

saṃ-ni-Viś, → Viś.

saṃ-niviṣṭa 過受分 [°Viś から] 一緒に坐った, 野営した, 集合した; (因, 一°) につけられた・固定された・留まっているまたは含まれた; (道, 路; 因) にある; (因) に依存している; に深く入った. 吸収されたまたは夢中になっている; 接触している, 隣接している, 存在する, 手許にある; 起 Sūtr.; 聚集 Abh-vy.; 備足 Bodh-bh.; 合安布 Abh-vy.; 安立深固 Bodh-bh.

saṃ-ni-Vṛ, → Vṛ.

saṃ-ni-Vṛt, → Vṛt.

saṃ-nivṛtta 過受分 → Vṛt.

saṃ-nivṛtti 因 帰ること (a- および abhūyah- として)。

saṃ-niveśa 男 入ること, 位置につくこと, 包含 (まれ); (印の, 一°) 刻印; 結合, 排列; 位置 (一° 形 …にまたは上に位置している); 形, 外観; 住処; 集合; 住 Lank.; 居 Mvyut.; 衆生 Lank., Mvyut.; 安立 Abh-k., Madhy-vibh.; 安住, 依処 Madhy-vibh.; 安布 Bodh-bh.; 居処 Śikṣ.; 執着 Sapt-pr.; 形相, 形量 Abh-vy.; 和合, 合会, 性処, 因縁和合 Lank. ~m Kṛ, (一°) の位置に就く; (一°) に場所をあげる。

saṃniveśa-tathatā 因 依止如 Sūtr.

saṃ-niveśana 甲 住処, 住居; 安立 Sūtr.

saṃniveśanā 因 安置 Bodh-bh.

saṃ-niveśayitavya 未受分 挿入されるべき。

saṃ-ni-Śam, → Śam 4.

saṃ-nīśraya 男 依 Abh-vy., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Madhy-vibh., Ratna-ut.; Sūtr.; 依止 Abh-vy., Gaṇḍ-vy., Madhy-vibh., Ratna-ut. 所依 Vijñ-t.; 所依止 Bodh-bh.: kalyāṇamitra ~ eṇa 依善知識故 Gaṇḍ-vy. 760.

saṃnīśrāyatva 甲 依, 依止 Abh-vy.

saṃnīśraya-dāna 甲 与依止 Bodh-bh.

saṃnīśrayādhiṣṭhāna 甲 依処, 依止処 Bodh-bh.

saṃ-nīśrita 過受分 …に結びついた・位置したまたは住む; …に専心した・依存した・支えられた; 基いた; 住, 持 Mvyut.; 依 Abh-vy., Sam-r. 依生, 依成 Abh-vy.; 依止 Abh-vy., Sūtr.; 計著, 依倚 Kāśy.: lābhasatkāra ~ āḥ 貪利供養 Sad-dh-p. 267.

saṃ-niṣaṇṇa 過受分 [°Sad から]; 坐 Ast-pr. Bodh-bh., Rāṣṭr.; 居 Mvyut.; 住止 Suv-pr. sukha ~ ḥ 安坐不動, 端然不動身心樂 Suv-pr. 136

saṃ-ni-Sad, → Sad.

saṃ-nihita 過受分 [°Dhā から] 近い等; 近 Bodh-c.; 放, 入蔵 Mvyut.; 会遇 Bodh-bh.

saṃnihitatā 因 会遇性 Bodh-bh.

saṃnihitatva 甲 在, 現前 Abh-vy.

saṃnihita-varjana 甲 棄積償, 食残宿食 Mvyut.

saṃnihitāpāya 形 破滅が近づいた, 滅する, 無常の。

saṃ-Ni, → Ni.

saṃ-ni-Kṛ, 満足させる。

saṃ-Nu, → Nu 1.

saṃ-Nud, → Nud.

saṃ-ny-As, → As 2.

saṃ-nyasana 甲 (世を) 棄てること。

saṃ-nyasta 過受分 [°As 2 から] 投げ捨てられた, 放棄された, 廃された, 捨てられた, 見棄てられた; 野営した; 預けられた, まかせられた, 引渡された 所嘱 Divy.

saṃ-nyāsa 男 =saṃnyasana; (因, 一°) の放棄; 契約 (まれ); 寄託, 委託; (博戯の) 賭金 (まれ); 瘡 Mvyut.

saṃ-nyāsin 形 (一°) を放棄する, 断念する; (世を) 棄てた (第四生活期にある婆羅門)。

saṃ-māṅgala 甲 善きまたは規定された儀式。

saṃ-maṇi 男 真正の宝石。

saṃ-mati 形 気だてのよい, 高貴な心を持った。

saṃ-mantra 男 すぐれた呪文。

saṃ-mātra 形 有のみの。

saṃ-mārga 男 正しい道 (譬喩); 正路 Bodh-c. 正道 Suvik-pr.

saṃmārga-yodhin 形 立派に戦う, 正々堂々戦う。

saṃmārga-stha 形 正道を歩く。

saṃ-mitra 甲 善いまたは真実の友; 善友 Sūtr.

善知識 *Gand-vy.*

sanyas 形 比較より老いた (RV. まれ).

Sap, I. 他 (ときとして 画) sapati (因) …を求める, 従う, 尊敬する, 仕える; 使役 画 [同上] (RV.).
abhi- [同上] (RV.).

sapa 男 男根 (因, まれ).

sa-pakṣa 1. 男 (立場を同じくする), 支持者, 友人; 参与者, 同じような立場にあるまたは同じような境遇にあるもの; [論理学において主張 (宗) と理由 (因)] と同類 (同品) の实例 (喩); 同品 *Nyāy-pr.*: ~evāsti 於同品定有性 *Nyāy-pr.*; ~evāstitva 同品決定有性 *Nyāy-pr.*; ~e sattvam 同品定有性 *Nyāy-pr.*; sapakṣaikadeśavṛttir vipakṣavyāpī 同品一分転異品遍転 *Nyāy-pr.*

sa-pakṣa 2. 形 翼のある; 羽根のついた (矢); 一味のものまたは友人を持つ; 大名辞 (major term) または推論の主題を含む.

sapakṣaka 形 翼のある.

sapakṣatā 女 支持者を持っていること.

sapakṣatva 画 [同上].

sapakṣa-pātam 副 献身的に.

sapakṣa-vyāpin 形 同品遍転 *Nyāy-pr.*

sapakṣānugama-vacana 随同品言 *Nyāy-pr.*

sa-paṅkaja 形 蓮花を有する.

sa-paṭaham 副 太鼓を打っている最中に.

sa-pana 形 賭を伴った.

sa-pattra 男 (羽根のある), 矢.

sa-pattrā-Kṛ, 羽根もろともに (矢で) 貫く.

sa-patna 男 [sapatni から] 競争者, 敵対者, 敵.

sapatnatā 女 競争, 敵意.

sapatnatva 画 [同上].

sapatna-dūṣaṇa 形 競争者をほろぼす.

sapatna-han 形 (女 -ghni) 敵を殺す.

sa-patni 形 女 同じ夫を持つ. 女 同じ夫を持つ妻; 敵対する情婦, 恋がたき; 怨 *Divy.*; 比, 無比 *Mvyut.*; 大歌, 妻妾 *Mvyut.*

sapatnika 形 妻を伴った.

sa-padi 副 現場で, 即時に, 瞬間に.

sa-padma 形 蓮花を持っている.

sapadmaka 形 蓮花を持っているおよび華麗な (padmā = śrī).

sa-parākrama 形 強力な, 勇敢な, 大胆な; 有勇決 *Bodh-bh.*

sa-parikrama 形 従者を従えた; 無妨 (処) *Prat-m.*

sa-paricāra 形 並諸眷属 *Śikṣ.*

sa-paricchada 形 従者を伴った. 必要品を持っている.

sa-paritoṣam 副 満足して.

sa-parivāra 形 従者を伴った; 与眷属 *Lank.*, *Saddh-p.*; 兼助伴, 共伴類 *Abh-vy.*; 与諸眷属 *Lank.*

sa-parihāsa 形 こっけいな.

saparya, 名動 他 (因) 注意深く仕える, 崇拜する.

saparyā 女 崇拜, 尊敬 (ときとして 画).

sa-paryāna 形 鞍を置いた.

sa-palāśa 形 葉で覆われた (枝; Br., S.)

sa-pāda 形 足を持っている; 四分の一を持つ.

sapāda-lakṣa 男 または 画 十二万五千.

sa-pāriṣadya 形 諸偶 *Lal-v.*

sa-pāla 形 牧夫に伴われた.

sa-piṇḍa 形 同じ祖霊に piṇḍa (祭餅) を供える. 男 自己を中心に尊属と卑属にわたり七 (時には十五) 世代におよぶ親族.

sapiṇḍatā 女 [同上の 画].

sapiṇḍi-karaṇa 画 *Sapiṇḍa* 親族となること, (死者最初の) 祖霊祭に参加させることまたはその執行.

sa-pitṛka 形 父または父祖とともに.

sa-pitṛ-rājanya 形 父祖の中の王族とともに.

sa-pidhāna 形 蓋のある.

sa-putra 形 息子または子供を伴った; 仔牛を伴った.

saputraka 形 (女 -ikā) 息子を伴った.

saputra-dāra 形 妻子を伴った.

sa-pulaka 形 毛を逆立てる, ぞっとした. ~m 副.

sa-puṣpa 形 花が咲いている (木).

sa-pūrva 形 祖先が所有した; 先行の文字とともに.

saptaka 形 七からなる. 画 七 (つのものからなる集合体).

sapta-kathāmaya 形 (女 -i) 七つの物語からなる.

sapta-kuṭiraka 七家, 七億家 *Lank.*

sapta-kṛt 形 七度 *Lal-v.*

sapta-kṛtvaḥ-parama 形 極七返 *Abh-vy.*

sapta-kṛtvo-bhava-parama 形 七回以上生れないよう定められている; 極七返有, 七往来身 *Ast-pr.*

sapta-kṛd-bhava-parama 形 [同上]; 初果七生, 初果七廻 *Mvyut.*

sapta-guṇa 形 七重の; 七倍 *Abh-k.*

sapta-cchada 男 (七枚の葉がある), ある木の名 (*Alstonia Scholaris*).

sapta-janma-bhava-parama 形 極七有生, 七返受生, 極七反生 *Lank.*

sapta-jihva 形 七つの舌をもっている. 男 火, 火神.

sapta-tantu 形 七本の糸をもっている, 七つの部分からなる (祭式; 因 画). 男 祭式 (画).

sapta-tāla 形 (音写) 高七多羅樹 *Lank.*

saptatāla-mātra 形 (音写) 高七多羅樹 *Lal-v.*, *Saddh-p.*

saptati 女 七十 (同格の 画 とともに, 画, 一°, ときとして 一); 七十年.

saptati-hāyana 形 七十才の.

sapta-triṁśat 女 三十七 (同格 とともに); 三十七, 三十七種 *Lank.*

saptatrimśad-ākāra-bhāvana 三十七種修 *Sūtr.*

saptatrimśad-bodhi-pakṣa-dharma 男 三十七品助道法, 三十有七道品之法 *Saddh-p.*

saptatrimśadbodhipakṣa-bhāvanā 修三十七覚分 *Sūtr.*

sapta-triṁśati 女 [同上].

saptatha 形 (女 -i) 第七番目の (RV.).

sapta-daśa 形 (女 -i) 第十七番目の; 十七からなる

(天).

sapta-daśan 形 覆 十七.
 sapta-dvīpa 形 覆 七つの島(陸)からなる.
 saptadvīpavat 形 [同上].
 saptadhā 副 七部分に, 七重に; 七倍に.
 saptan 形 覆 (天, 覆 sapta) 七 (不定数の複数を表わすためにも使われる).
 saptanali 因 鳥もち.
 sapta-navata 形 第九十七番目の.
 sapta-naiyāyika 漢 七衆 Bodh-bh.
 sapta-pattra 形 七葉の; 七頭の馬を車につないだ.
 男 木の種類 (*Alstonia Scholaris*; =saptacchada).
 sapta-pad 形 (因 -i) (結婚式の終了または条約の批准のために聖火のまわりを) 七歩あるく; 完結された, 確認された.
 sapta-pada 形 七歩あるく(=saptapad); 七つの pāda からなる.
 saptapada-karaṇa 因 (花嫁が) 七歩あるくことによって(結婚の)完了すること.
 saptapadi 因 七歩. → saptapad.
 sapta-parṇa 形 七葉の. 男 木の種類 (*Alstonia Scholaris*=saptacchada); 漢 七葉樹 *Abh-vy*.
 sapta-palāśa 形 七つの葉からなる.
 sapta-bodhy-aṅga 因 漢 七覚支, 七覚分 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*: ~ratnasamanvāgata 七菩提分皆悉具足 *Raṣṭr.* 2.
 saptabodhyaṅga-kusumādhyā (°ma-ādh°) 男 漢 [仏名] 開七覚華 *Divy*.
 sapta-bhaṅgi-naya 男 (ジャイナ教の弁証法で, syāt で始まる) 七表詮法.
 sapta-bhūma 形 七階ある.
 sapta-bhūmi 因 =rasātala; 漢 七住, 七地 *Lank.*; 初地至七地 *Sūtr*.
 saptabhūmika 形 =saptabhūma.
 saptama 形 (因 -i) 第七番目の.
 saptamī 因 半月の中の第七日; 第七格オナオチ於格(の語尾); 漢 七, 第七 *Lank.*; 七地 *Lank.*, *Madhy-bh*.
 saptamī-samāsa 男 その第一分が於格の意味をもつ tatpuruṣa 合成語.
 sapta-maithuna-samyukta-sūtra 因 漢 [経名] 七種合集経 *Śikṣ*.
 sapta-yojanī 因 七 yojana (由旬) の距離.
 sapta-ratna 漢 七宝 *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*: ~samanvāgata 七宝具足, 七宝成就 *Gaṇḍ-vy.* 714.; 具七宝 *Mvyut.* 181.; ~mayī *Sukh-vy.* II. 93.
 saptaratna-padma-vikrānta-gāmin 男 漢 [仏名] 踏七宝華, 度七宝蓮華 *Saddh-p*.
 saptaratna-paripūrṇa 形 漢 満…七宝 *Sūtr*.
 saptaratnānkura 男 漢 七宝芽, 七種芽 *Gaṇḍ-vy*.
 saptaratnopamatva (°na-up°) 因 漢 七宝相似 *Sūtr*.
 sapta-raśmi 因 七本の綱または引き革をもっている; 七本の手綱または七枚の舌をもっている.
 sapta-rātra 因 七夜の期間, 週; 漢 七日 *Gaṇḍ-vy.*, *Lank*.

saptarātra-vipravāsa 男 漢 七夜相離, 七日相離 *Mvyut*.
 sapta-ruci 形 七種の光線をもつ. 男 火.
 saptarca (°ta-ṛca) 形 七つの詩節をもつ. 因 七詩節からなる讃歌.
 saptarṣi (°ta-ṛsi) 男 覆 七人の Ṛṣi (聖仙); 大熊座の七星.
 saptarṣi-bali (°ta-ṛṣi) 男 七聖仙への供物.
 saptalā 因 [種々の植物の名(アラビヤ・ジャスミン, シャボンの木; *Mimosa Concinna*; *Abrus Precatorius*; *Bignonia Suaveolens*)].
 sapta-loka 男 覆 七つの世界.
 sapta-loki 因 七大陸, 全世界.
 sapta-vadhri 形 七本の革紐で束縛された(靈魂; P.). 男 [*Aśvin* 双神によって救われた人の名].
 sapta-varṣa 形 七才の.
 sapta-vārṣika 形 (因 -i) [同上].
 sapta-vimśa 形 第二十七番目の; 二十七からなる.
 sapta-vimśat 因 二十七.
 sapta-vimśati 因 二十七(同格とともに, 因, 一°).
 sapta-vidha 因 七重の, 七種の; 漢 七種 *Sūtr*.
 sapta-śatikā-prajñā-pāramitā 因 漢 [経名] 般若七百頌, 文珠所説般若経 *Mvyut*.
 sapta-śati 因 七百.
 sapta-saptata 形 第七十七番目の.
 sapta-saptati 因 七十七. vatsare ~au 七十年目に.
 sapta-sapti 形 七頭の駿馬をもっている. 男 太陽; 漢 日 *Ratna-ut*.
 sapta-saṃbodhy-aṅga 漢 七覚分 *Sūtr*.
 sapta-sthāna 因 漢 七処 *Bodh-bh*.
 saptāṅga 形 七つの肢体または構成部分をもっている.
 saptārcis 形 七つの光線をもっている. 男 火, 火神.
 saptārṇava-jale-śaya 形 七つの海の水に止住している.
 saptārtha 漢 七義 *Madhy-bh*.
 saptāsaya (°ta-ās°) 形 七つの口をもっている.
 saptāha 男 七日; 七日間の祝祭; 漢 七日 *Lank*. 七日七夜 *Gaṇḍ-vy*.
 saptāhika 漢 七日, 七夜 *Mvyut*.
 sapti 男 馬, 駿馬.
 saptivat 形 駿馬で疾駆する.
 saptotsada (°ta-ut°) 形 漢 身有七合, 七処充滿 *Divy.*; 七処齊満 *Lal-v.*; 七処平満 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*; 七処平満相 *Mvyut.*: ~kāya 於其身上…七処皆満 [三十二相の一] *Bodh-bh.* 375; ~āṅga 七処皆平満 *Raṣṭr.* 47.
 saptotsada-śariratā 因 漢 体相七種処満 *Ratna-ut*.
 saptonā (°ta-ūnā) 因 (+vimśati) 十三.
 sa-prakāraka 形 明細な.
 sa-praja 形 子孫をもつ.
 sa-prajātika 形 *Prajāpati* を伴った.
 sa-prajña 形 智慧のある.
 saprajña-jātiya 形 漢 智者, 有知, 有知者 *Śik*.
 sa-prajñapti 形 漢 仮, 有言説 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh*.

sa-praṇaya 形 愛情をもった, 腹心の, 友情がある, 親切的な。
 sa-praṇava 形 聖音オーム (om) を伴った。
 sa-praṇāṃmam 副 敬礼をもって。
 sa-pratigha 形 有対 Abh-k., Abh-vy.; 有礙 Abh-vy., Rāṣṭr.; 具碍, 具礙 Mvyut.
 sapratighatva 中 有対, 有礙 Abh-vy.
 sa-pratibandha 形 障害を伴う (法律において, 直系の男子相続者がいないため, 傍系, 寡婦等の手に渡る遺産について言う)。
 sa-pratibha 形 敏速な頭脳をもつ, 即断力のある。
 sa-pratibhaya 形 有怖 Bodh-bh.: ~ bhairava-sammata 全惧怕, 有称具惧怕者 Mvyut.
 sa-pratisaraṇa 形 有怙, 有依, 有所依 Bodh-bh.
 sa-pratikāśa 形 映像を伴った。
 sa-prativāpa 形 混合物を伴った。
 sa-pratiśa, °sa 形 (=Pali sappatissa, °tissa) 恭しい, 敬意を表する: 尊重, 親近, 恭敬 Śikṣ.; 愛樂, 持向心 Kāśy.; 具恭敬, 具畏敬 Mvyut. → a ~
 sapratiśatā 因 [同上の 中]; 有崇, 有自在 Abh-vy.
 sa-pratisa 形 =sapratiśa.
 sa-pratyaya 形 (因) を信用する; 信頼すべき, 確実な。
 sapratyayaka 形 後接字を伴った。
 sa-pratyāśam 副 予期して。
 sa-prathas 形 (因) 広大な; 広がる, 響き渡る, 遠く輝く。
 sa-prabha 形 (一°) と同じ輝きまたは外見をもつ; 明, 共光 Abh-vy.
 saprabhāva 形 力ある, 勢力ある。
 sa-pramāda 形 不注意な, 放逸な。
 sa-pramodam 副 喜んで。
 sa-prayatna 形 有功用 Sūtr.
 sa-prayojana 形 有用 Abh-vy.
 sa-praśrayam 副 恭しく, 慎しみ深く。
 sa-prasava 形 子孫に恵まれた; 妊娠した。
 sa-prasāda 形 慈悲深い. ~m 副 慈悲深く。
 sa-prahāsam 副 突然に笑い出して。
 sa-prāṇa 形 息をしている, 生きている。
 sa-prāṇaka 形 有蟲 Bodh-bh.
 sa-prāṇikodaka (°ka-ud°) 形 水有蟲 Prat-m.
 saprāṇikopabhoga (°ka-up°) 形 使飲水不顧微, 用水不顧微命 Mvyut.
 sa-prāṇi-jalopabhoga (°la-up°) 形 飲水吸入微命, 澆水有蟲水 Mvyut.
 sa-pratihārya 形 有神変, 正示現 Bodh-bh.
 sa-prema 形 愛する。
 sapremaka 形 親友, 朋親 Mvyut.
 sa-preman 形 (因) を喜ぶ。
 sa-phala 形 実を結ぶ; 稔り多い, 生産的な, 成功する, 成就する; 有果 Abh-vy.; 果満 Divy.; 具果 Mvyut.: ~m dānaṃ dattam 施及於施果普施於一切 Sūtr. 17. ~m Kṛ (約束を) 果す。
 saphalatva 中 稔り多いこと, 成功。

saphalaya, 名動 中 稔り多くするまたは成功させる。
 sa-phali-Kṛ, [同上]。
 saphali-BHū, 稔り多いまたは成功である。
 sa-phena 形 泡立った。
 sa-bandhaka 形 保証を伴った。
 sa-bandhu 形 同族の (因); 親族または朋友をもっている (因)。
 sabandhu-varga 形 眷属, 親属 Divy.
 sa-bala 形 勢力ある, 力ある; Bala (Kṛṣṇaの長兄) とともにある; 大力 Suv-pr.: ~ parivāra 并諸眷属, 及余眷属, 并単眷属 Suv-pr. 58.
 sabalatva 中 力, 権力。
 sabala-vāhana 形 軍隊と輸送力を具えた。
 sa-bahu-mānam 副 大いに尊敬して。
 sa-bādha 形 (属) に不利である。
 sa-bādhas 副 緊急に, 熱心に (因)。
 sa-bāṣpa 形 涙を流す. ~m 副 涙ながらに。
 sabāṣpa-gadgadam 副 泣きかっ口ごもって。
 sa-bāhyāntakaraṇa 形 外官 (外界の対象を感覚する器官) と内官を伴った: +ātman 因 = 自己の全存在。
 sa-bijatva 中 種起, 有種 Sūtr.
 sa-bibhatsam 副 憎悪または嫌悪をもって。
 sa-brahmaka 形 (音写) 有梵 Abh-vy.; 諸浄梵, 具浄梵 Mvyut.
 sabrahma-cārika 形 同輩の学生 (Brahmacārin) に関する。
 sabrahmacārin 因 (因 -i) 同輩の学生, 同じ Veda 学派 (śākhā) の学生; 一°, …の参加者または仲間; 同師, 同学衆 Divy., Kāśy.; 梵行人 Sūtr.; 同梵行者 Bodh-bh., Divy., Saddh-p., Śikṣ.; 同梵行人 Śikṣ.; 比行浄, 同梵行伴呂 Mvyut.; 修持梵行 Ast-pr. 形 (一°) と張合う。
 sa-brāhmaṇika 形 婆羅門の女を伴った。
 Sabh = Sah (pra-sabham として)。
 sa-bhaktikam 副 献身的に
 sa-bhaya 形 驚いた, 恐怖をもった: (一°) を恐れた; 怖畏, 有怖畏 Ratna-ut. ~m 副 おそるおそるまたは恐怖心をもって。
 sabhayatva 中 怖畏 Ratna-ut.
 sabhaya-vaśa-vartitā 因 有敬畏有随属, 有所忌難有所随属 Abh-vy.
 sa-bhasman 形 灰と混り合った。
 sabhasmāṅgin 形 (牛糞の) 灰で身体をおろす。
 sabhā 因 会堂, とばく場; 集合, 仲間; 宮廷または法廷 (因); 旅人の避難所, 隠家, 小屋 (因): 一°, …の宮殿・宮廷; 寺院・集合または仲間 (因); 衆 Bodh-bh.; 堂, 殿 Mvyut., Saddh-p.; 衙梵千; 天宮 Lank.; 聚処 Mvyut.
 sa-bhāga 形 同分 Abh-k.; 等分 Abh-vy.; 相似 Bodh-bh.; Madhy-v.; 同類 Abh-k., Abh-vy., Vijñ-v.; 衆同文 Vijñ-t.; 全倚 Mvyut.
 sabhāga-kuśala-mūla-sambhava 因 同善根行, 同種善根…同時誕生 Gand-vy.
 sabhāga-gati-viśuddha 形 同清浄趣 Gand-vy.
 sabhāga-carita 形 等分者, 等分行者 Gand-

vy.; 同行, 同類行 *Gaṇḍ-vy.*; 同外道行 *Ratna-ut.*
sabhāga-cari 行悉同彼, 同妙行, 悉与彼同
Gaṇḍ-vy.

sabhā-gata 法廷に現われる。

sabhāgatā 同 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*; 共
Gaṇḍ-vy.; 同分 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Su-*
vik-pr.; 劫中, 等分, 有分 *Mvyut.*; 同類 *Bodh-bh.*;
 同行者 *Gaṇḍ-vy.*: *sarvabodhisattva* ~ 与一切菩薩
 同類, 与一切諸菩薩同, 与一切菩薩善根等無異 *Ga-*
ṇḍ-vy. 202; ~ *opasaṃkrānti* 同類往趣 *Bodh-bh.*
 58.

sabhāga-buddhy-apramāṇa 同無量覺, 同菩
 提無量 *Gaṇḍ-vy.*

sabhāga-śīla-dṛṣṭi-sahāyakatva 同戒同見為
 伴侶 *Sūtr.*

sabhāga-smṛti-viśuddha 同清淨念, 同淨正
 念 *Gaṇḍ-vy.*

sabhāga-hetu 緣, 等因, 相応因 *Mvyut.*;
 同類因 *Abh-vy.*, *Mvyut.*

sabhāgendriya-pratīlabdha (°ga-in°) 同淨
 諸根, 同得諸根 *Gaṇḍ-vy.*

sabhā-gṛha 会堂。

sa-bhāgya 幸福な, 幸運な(人)。

sa-bhājana [sabhājaya から] 尊敬の念または注意を
 払うこと。

sabhājaya, 名動 他 自 [sa-bhājから] (業)に尊敬または
 注意を示す; 尊敬する, (物事を)賞讃する; しばし
 ば往来する。過受分 **sabhājayita**, 尊敬された, 賞
 讃された。

sabhā-pati 集会または会議の主または議長。

sabhā-maṇḍapa 会堂。

sa-bhārya 妻を同伴した。

sabhā-sad 集会または協会の会員; 陪席者, 議員,
 判事。

sabhā-sada 男 [同上]。

sabhā-sāha (他の) 同僚よりもすぐれている, 著
 名な(因)。

sabhika 男 とばく場の番人。

sabheya (因) 会議に熟練した; 会合に適した, 洗
 練された, 礼儀正しい。

sabhojana-kula 食家, 食家姪処 *Prat-m.*:
 ~ *niṣadyā* 臥居於家, 有宝強安坐 *Mvyut.* 261; ~
sthāna 臥立於家, 有宝屏処立 *Mvyut.* 261.

sabhoddeśa (°bhā-ud°) 男 小屋の周辺。

sabhya 集会に属する・適当な・出席している;
 社会に適した, 礼儀正しい, 洗練された(言葉)。
 男 (因) 陪席者, 議員, 判事; よい社会の一員, 洗練
 された人; 相手, 遊び仲間: 一° 宮廷に住ん
 でいる; 出衆, 令出徒衆 *Mvyut.*

sabhyetara (°ya-it°) 洗練されていない, 粗野な
 (会話)。

sa-bhrū-kṣepam 眉をしかめて。

sabhrū-bhaṅga 眉をしかめた: 一° あるいは ~m
 眉をしかめて。

sabhrū-bhedam = *sabhrūbhaṅgam*。

sam [動詞につく前置詞として, または 一° として

名詞を伴い結合または完全の意味を表わす]: 一緒に
 (因) においてはときとして動詞が補われねばなら
 ない, 全く。

sama 1. 附帯代 (RV.) 何かあるもの; あらゆるも
 の。

sama 2. 同 同 同: 平らな, 滑らかな, 水平の, 並行
 した(因)ではまれ; (因, 同, 一°: と, に; 同, 同,
 一°, -tas: に関して) 類似の・似た・等しい・同
 等の・同じ・同一の; 同; 不変の, (同, 同)に對し
 て公平に働く; 偶(数)の; 正常な; 普通の, 中等
 の; 無関心の, 中立の(まれ); 善良な, 正しい, 正
 直な(まれ); 容易な(任務); 同 *Madhy-v.*,
Sapt-pr.; 齊 *Lal-v.*; 類 *Śikṣ.*; 正 *Bodh-bh.*; 平
Mvyut.; 安 *Abh-vy.*; 並 梵干; 等 *Abh-vy.*, *Ast*
pr., *Bodh-bh.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*; 如
Lank., *Sūtr.*; 平等 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*
Madhy-bh., *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*
Śikṣ., *Sūtr.*; 同一 *Abh-k.*; 同等, 普等 *Saddh-p.*
 共同 *Bodh-bh.*; 平齊, 齊平, 正直 *Mvyut.*; 齊等
Śikṣ.; 平正 *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*; 安平 *Sam-r.*
 坦然 *Bodh-bh.*; 平坦 *Gaṇḍ-vy.*; 如...平等 *Lank.*
 猶如 *Lal-v.*, *Saddh-p.*; 等無有異 *Saddh-p.*; 俱
 時, 一時俱 *Abh-vy.* ~m *Kṛ.* (同)と同じ高さにお
 く; 正しく置く. *bhūmi*-~ または *bhūmeḥ* ~ 地面
 と同じ高さ(にするまたはになる). ~m または 一°
 同, 同: 等しく, 同様に, 同じように; 同: 一
 時に, 同時に (Br. にもまた); 丁度, 正しく, 精確
 (まれ); (同)とともに, 一緒に; (一°; まれ)と同
 時に・に従って. 男 (同) 平和 (おそらく *sama*, の同)
 [人名]. 同 同, 同: 平地, 平原; 同: 和解, 補償
 平靜; 一様性 (同 一様に); よい境遇; Br.: 正確
 量 (同 正確に)。

sama 3. 一° (若干の合成語において) = *samā*, 年。

samaka 同 等しい。

sama-kakṣa 同 等しい重さをもつ。

sama-kakṣā 同 平衡. ~m *Tulaya* 同 (相互に) 平
 を保つ。

sama-karaṇa 同 平正 *Lal-v.*

sama-karṇa 同 耳齊平 *Mvyut.*

sama-kāruṇya 同 平等(大)悲, 平等悲念 *Bodh-b*

sama-kāla 男 同時. 一° または ~m 同 (一°) と同
 時に; 同 同時 *Abh-vy.*; 一時 *Sūtr.*

samakālatva 同 [同上の同]; 同 等時, 時等 *M*
dhy-bh., *Madhy-vibh.*; 俱時 *Madhy-bh.*

samakāla-bhava 男 (一°) の同時代者。

sam-akta 過受分 [°Añj から] 準備された; 用意さ
 れた; (同)を備えた; (同)と組合された, 結合した

sam-akna 過受分 [°Ac から] 一緒に曲げられた;
 一緒にまたは同時に行くまたは動く, 行く, 動く。

sama-krama 同 歩調を揃える; 同 行歩正直 *M*
vyut.

sama-kriya 同 (因) においてまたはに向つて一様に
 く。

sam-akṣa 同 視線が会う, 目に見える(同); 同
 前 *Sūtr.* ~m (同, 同), ~e (同), 目の前に, 明
 々に; (同; 一°)の面前で(同)。

samakṣa-darśana 甲 目撃者として見ること。
 samakṣa-vṛtti 漢訳 現見生 Sūtr.
 sama-gandha 形 漢訳 香均 Mvyut.
 sama-gra 形 全き, 完全な, 全体の, 総ての, ことごとくの (因ではきわめてまれ); 罽: 絶対的な (暗黒); (圓, 一) で十分に用意された; 甲 (罽) すべての事物: 一, 全く; 漢訳 大, 勝 Gaṇḍ-vy.; 聚, 順 Mvyut.; 合 Mvyut.; 具, 聚集 Abh-vy.; 普集 Divy.; 綜集 Bodh-bh.; 和合 Lal-v., Prāt-m., Sūtr.
 samagra-vartin 形 専ら (罽) を凝視している (目).
 samagra-samagri 女 漢訳 聚会 Mvyut.
 samagra-sauvarṇa 形 全く金の, 純金の.
 samagrendu (°rā-in°) 圓 満月.
 samagri 女 漢訳 和合 Abh-vy.,
 samagrya 形 漢訳 具足 Lal-v.
 sa-maṅgala 形 吉兆の.
 samaṅgin 形 漢訳 行, 相応 Abh-vy.
 samaṅgini 女 漢訳 [樹神名] 善会 Lal-v.
 sama-catur-aśra 形 四つの等しい隅のある, 四角の. 男 甲 四角形.
 sama-catvāriṃśad-danta 形 漢訳 有四十齒齋 [三十二相の一] Lal-v.
 sama-citta 形 平静な心をもった; 漢訳 等心 Kāśy., Sukh-vy. I., Sūtr.; 心平等 Bodh-bh., Kāśy., Sam-r.; 平等心 Bodh-bh., Sam-r.
 samacittatā 女 [同上の 罽]; 漢訳 等心 Sūtr.; 平等, 心平等 Raṣṭr., Sūtr.; 平等心 Mvyut., Raṣṭr., Sam-r., Śikṣ., Sūtr.: ~parigraha 平等心撰 Sūtr. 20-21.
 samacittatva 甲 [同上].
 samacittāvasthāpanā 女 漢訳 能住自他平等 Sūtr.
 sama-cetas 形 =samacitta.
 sama-jātiya 形 等質の.
 sama-jivikā 女 漢訳 同口 Mvyut.
 sama-jivin 形 漢訳 平等養命 Bodh-bh.
 sama-jñā 女 漢訳 等想 Aṣṭ-pr.
 sama-jñāna 漢訳 平等智 Ratna-ut.
 sam-ajyā 女 集会の場所, 集会.
 sam-Añc, → Ac.
 sam-Añj, → Añj.
 sam-añjaniya 形 塗油に用いられる.
 sam-añjasa 形 正確な, 適当な, 正しい, 申し分のない, 卓越した. ~m 副.
 sama-tala 形 漢訳 平坦, 平相 Daś-bh.
 samatā 女 罽, 罽: (圓, 罽, 一) との平等性・同一性; 罽: 同一水平面または水準にあること; (罽, 一) に対して平等であること・公平であること; 均等性, 正常性; 平凡; 漢訳 皆 梵千; 共 Mvyut.; 等 Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Ratna-ut.; 平等 Bodh-bh., Guhy-s., Lanik., Madhy-bh., Mvyut., Ratna-ut., Sapt-pr., Sūtr.; 齊平 Mvyut.; 平等性 Abh-vy., Madhy-vibh., Mvyut., Śikṣ.; 音写 薩麻丹 Mvyut. ~m Ni 公正に決定または決着する.
 samatākāra-bhāvana (°tā-āk°) 漢訳 平等…種修 Sūtr.

samatā-gamana 甲 漢訳 証平等 Sūtr.
 samatā-citta 甲 漢訳 平等心 Lanik.
 samatā-jñāna 甲 漢訳 平等智 Lanik., Sūtr.; 平等性智 Mvyut.; 平等証智 Ratna-ut.
 samatānugata (°tā-an°) 形 漢訳 平等行 Sūtr.; 能随順 Gaṇḍ-vy.
 samatāpādāna (°tā-ap°) 甲 漢訳 平等行, 成立平等 Abh-vy.
 samatābhiprāya (°tā-abh°) 漢訳 念平等 Mvyut.; 平等意 Mvyut., Sūtr.
 samatā-vihāra 男 甲 漢訳 平等行 Guhy-s.
 samatāsaya (°tā-ās°) 漢訳 平等 Sūtr.
 samatā-sama 形 漢訳 称平等性 Aṣṭ-pr.
 sam-ati-Kram, → Kram.
 sam-atikrama 男 (罽) の省略または無視; 漢訳 超 Abh-vy., Bodh-bh., Lanik., Mvyut.; 離 Mvyut., Saddh-p.; 度 Lal-v., Sam-r.; 渡 Sam-r.; 過 Aṣṭ-pr.; 捨 Mvyut.; 犯 Kāśy.; 息, 能越 Lal-v.; 超過, 遠離 Lanik.; 永超 Divy.; 過度 Bodh-bh.: kleśa ~ āya samvartante 能破…煩惱 Kāśy. 45.
 sam-atikramaṇa 甲 漢訳 度 Lal-v.; 出, 過 Kāśy.; 超 Lanik.; 離 Śikṣ.; 越, 次第 Lanik.; 超越 Lal-v.; 越度, 遠離 Kāśy.
 samatikramatā 女 漢訳 超 Aṣṭ-pr.
 sam-atikrānta 過受分 [°Kram から]; 漢訳 出 Mvyut.; 超 Lal-v., Sapt-pr.; 過 Ratna-ut., Sam-r.; 出過 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Sam-r.; 超過 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-v., Sukh-vy. I.; 已超 Bodh-bh.; 超越 Divy.; 超出 Mvyut.; 違越 Bodh-bh.; 所不能及 Saddh-p.; 曾經処々遊歴 Divy. 甲 違犯, 誤謬.
 samatikrāntatva 甲 [同上の 罽]; 漢訳 過, 出過 Aṣṭ-pr.; 超過, 違越 Bodh-bh.
 samatikrānta-vāk-patha 男 漢訳 離於語言道, 超過語言道, 超出語言道 Gaṇḍ-vy.
 sam-atikrāmaṇa 甲 漢訳 超過 Lal-v.
 sam-ati-Vṛt, → Vṛt.
 sam-ati (°ati-I), → I.
 sam-atita 過受分 過去の, 過ぎ去った; 漢訳 過 Lal-v.; 極過 Śikṣ.
 sama-tulā 女 等価.
 samatva 甲 (罽, 罽) と等しいこと; 平静; 平等; (罽, 一) に対する一様な行為; 正常; 漢訳 平等 Abh-vy.
 sa-matsara 形 (samam) に腹を立てる; (uddiśya) を嫉妬する, 立腹した, 怒っている.
 samatha 男 =śamatha; 漢訳 音写 奢摩他 Sam-r.
 sa-mad 女 [共に怒ること], 鬪争, 戦闘 (罽; しばしは 罽 種). ~am Kṛ あるいは DHā, (罽) の間で争わせる.
 sa-mada 形 酔った, 激情にかられた; さかりがついた.
 sama-damṣṭra 形 漢訳 牙方, 牙平正 Mvyut.
 sa-madana 甲 鬪争 (RV. 用例一回のみ). 形 (罽) 心を奪われた; Madana の樹がある.
 sama-damta 形 漢訳 齒齊密, 齒齊平相 Mvyut.

sama-damṭatā 因 齒齊平, 齒齊相, 齒齊平相
[三十二相の一] Bodh-bh.

sama-darśana 形 同じように見える, 類似の, (一切の事物や人間を, ±sarvatra) 公平無私に見る.

sama-darśin 形 (因) を公平に見る, (一切の事物を) かつたよりなく考慮する; 平等観 Bodh-bh.

sama-duḥkha 形 (他人と) 同じ苦しみを味う, 同情心ある.

samaduhkha-sukha 形 苦楽を(他人と)分かちあう; 苦楽に関して無頓着な.

sama-dṛś 形 =samadarśin.

sama-dṛṣṭi 形 [同上]; 二つの目をもつ. 因 公平無私, 無関心.

sama-deśa 男 平地.

sama-dharaṇa 中 量等 Bodh-bh.

sama-dharma 形 (一) と類似した; 諸法平等 Ratna-ut.

samadharmatā 女 法体不変 Ratna-ut.

sama-dhā 副 (具, と) 等しく.

sama-dhāraṇa 中 等住 Lal-v., Lanik.

sam-adhika 形 (過剰を有する), 超過した, より多くの, 'さらに多くの; 過度の.

samadhikatarā 比較 形 より豊富な, 極度の, 余分の. 副 (一) 非常に.

samadhikatarā-rūpa 形 (因) よりさらに美しい.

samadhikatarocchvāsin (°ra-uc°) 形 より深い溜息を吐く.

samadhikārambha (°ka-ār°) 男 法外な企画.

sam-adhikṛtya 不変分 [°Kṛt] 余分にまたは完全に切り裂いて.

sam-adhi-Gam, → Gam.

sam-adhigata 過受分 近ずいた.

sam-adhigama 男 了解; 趣 Śikṣ.

sam-adhigamya 未受分 了解されるべき.

sam-adhi-Ruh, → Ruh.

sam-adhirūḍha 過受分 乗った; (業) を確信した.

sam-adhi-Śri, → Śri.

sam-adhi-Ṣṭhā, → Ṣṭhā.

sam-adhiṣṭhita 過受分 (業) の上に立った, (業) を満たす, 浸透する; (具) によって乗られたまたは導かれた.

sam-adhi (°adhi-I), → I.

sam-adhita 過受分 研究された, 読まれた.

sama-dhura 形 (具) と等しい負担をになっている.

sa-madhyama 形 適度の.

sam-adhy-Ās, → Ās.

sam-adhyāsita 過受分 …の上に共にすわった, 住む, 占拠する.

sam-An, → An.

samana 中 (因) 抱擁; 衝突; 会合, 祝祭; 交際, 追跡.

samana-ga 形 集会に行く (RV.).

sam-anantara 形 (間隙のない), (因, 具) にまたはから直接に引き続いた; 次, 即, 無間, 次第, 爾時, 相続, 弾指, 等無間, 無間相続 Abh-k., Abh-vy., Boh-bh., Gaṇḍ-vy., Lanik., Mvyut. ~m 副

(因, 一) のすぐうしろに; (具, 一) のすぐあとに; 適, 忽, 無間, 爾時 Abh-vy., Daś-bh., Divy., Lanik., Saddh-p. yac cātra ~m, そして直接にそれと関係しているもの.

samanantara-nirvartana 中 無間生, 次第生 Abh-vy.

samanantara-pratyaya 男 初縁, 次第縁, 等無間縁 Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.

samanantara-pradhvasta 形 次第滅, 即有滅, 無間相続滅 Lanik.

samanantara-bhāṣita 形 所言未竟, 所説未竟; 説是語時, 説此語時 Gaṇḍ-vy., Saddh-p.

samanantarānutpatti 女 次第不生, 不次第生, 不相続生 Lanik.

samanantarotpanna (°ra-ut°) 過受分 無間生 Abh-vy.

sa-manas 形 異議のない (因); 智力をもつ (P.).

samanā 具 副 (samana から) 共に; 突然; 一様に.

sama-nāmaka 形 同名, 同号, 同一号 Daś-bh. Saddh-p., Sam-r.

sama-nindā-navana 形 非難と称賛とに無関心な.

sam-anika 中 戦陣 (RV. 用例一回のみ, 麗). ~tas 副 戦陣において.

samanika-mūrdhan 男 戦闘の先鋒.

sam-anu-Kamp, → Kamp.

samanukampaka 形 憐愍 Sūtr.

sam-anukirtana 中 讃辞.

sam-anukramya 不変分 完全に通過または突破して.

sam-anu-Gam, → Gam.

sam-anu-Gā, 同時にまたは密接に続く. <Gāの補遺>

sam-anu-Grah, 再び集める, 集める, 整える, 組み立てる. <Grahの補遺>

sam-anucintaya, 名動 深く瞑想する; 記憶する.

sam-anuja 形 弟と共に居る.

sam-anu-Jan, (業) に似て生まれる. <Janの補遺>

sam-anu-Jñā, → Jñā.

sam-anujñāta 過受分 去ることを許された.

sam-anu-Diś, → Diś.

sam-anu-Dṛś, → Dṛś.

sam-anu-Dru, ある人について共に走る, 続く, 追う. <Druの補遺>

sam-anu-DHāv, [同上]. <DHāvの補遺>

sam-anu-Pad, → Pad.

sam-anu-Paś, → Paś.

sāmanupālaya, 名動 よく保護または保存する, (約束を) 守る.

sam-anupraviṣṭa 過受分 善入 Mañj-m.

sam-anu-prāp (pra-Āp), → Āp.

sam-anuprāpaṇa 中 得, 令得 Mañj-m.

sam-anuprāpta 過受分 → Āp; 得受 Mañj-m.

sam-anubaddha 過受分 随, 随侍, 奉侍 Lal-v. Saddh-p.

sam-anu-Bandh, → Bandh.

sam-anubandha 男 随, 趁, 管 Mvyut.

sam-anubuddha 過受分 証護, 暢達 *Lal-v.*
 sam-anubhaya 無異, 等無差別 *Lank.*
 sam-anu-BHū, → BHū.
 samanumata 過受分 → Man.
 sam-anu-Man, → Man.
 sam-anu-Yā, → Yā.
 sam-anu-Yuj, → Yuj.
 sam-anuvarṇita 過受分 よく叙述・陳述または説明された。
 sam-anuvartin 形 従順な, よく服従する, (屬)に骨身を惜しまない。
 sam-anu-Vid, → Vid 1.
 sam-anu-vikṣ (vi-Īkṣ), → Īkṣ.
 sam-anu-Vṛt, → Vṛt.
 sam-anuvrata 過受分 (業, に)完全に服従したまたは献身した。
 sam-anu-Śās, → Śās.
 sam-anusāsana 中 教誡 *Bodh-bh.*
 sam-anusāsitavya 未受分 諫 *Prāt-m.*
 sam-anu-Śi, → Śi.
 sam-anuṣṭheya 未受分 完遂されるべき。
 sa-manuṣya 形 人とともなる;しばしば人の出入りする。
 sa-manuṣya-rājanya 形 人中の王族とともなる。
 sam-anu-Smṛ, → Smṛ.
 sam-anta 因 形 (末端を共有する), 連続している, 隣接している;完結した, 完全な. ~m 因 副 (圓)とともに (RV. 用例一回のみ);(また 圓 では °一も)すべての方面に, まわりにぐるっと;完全に, 十全に; 普, 周, 遍, 徧, 普遍, 周遍 *Gaṇḍ-vy., Guhy-s., Lal-v., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Śikṣ., 梵千., 梵雜. ~tāt 因 (圓)すべての方面からまたはに, すべての方向に, ぐるっと四方に, (圓)のまわりに;完全に; 普, 普遍, 周遍, 周徧, 周匝, 四辺, 処々, 四面周匝 *Daś-bh., Divy., Lal-v., Mvyut., Vajr. ~tas [同上]; 普, 遍, 普遍, 周匝, 周遍, 周市, 周廻, 周繞, 周匝, 四面 *Abh-vy., Divy., Guhy-s., Mvyut., Rāṣṭr., Śikṣ., Sukh-vy. II., Sūtr.*
 samanta-kanaka-prabha 形 周遍有金光, 妙色晃耀 *Suv-pr.*
 samantaka-maula-samādhi-sahagata 形 三三昧想応 *Sūtr.*
 samanta-kusuma 男 [あるDevaputra名]; 普花 *Lal-v.*
 samanta-gandha 男 [同上]; 普香 *Mvyut., Saddh-p.*
 samanta-cakṣus 男 普眼, 普遍眼 *Gaṇḍ-vy., Lal-v.*
 samanta-cāritra-mati 因 普行慧, 諸行慧 *Mvyut.*
 samanta-java 普迅疾, 遍遊行, 速疾周遍 *Gaṇḍ-vy.*
 samanta-tala 衆中, 圍繞 *Mvyut.*
 samanta-darśin 男 [あるBuddhaの名]; 普光, 普見; 普現, 普示現 *Lal-v.***

samanta-deśanā 因 普門示現 *Gaṇḍ-vy.*
 samanta-nirghāta-vajra 男 [三昧 (samādhi)の名] 遍調伏金剛 *Guhy-s.*
 samanta-netra 形 男 [あるBodhisattvaの名]; 普眼, 徧目, 普徧目 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.*
 samanta-pañcaka 中 *Kurukṣetra*, [*Paraśurāma*が*Kṣatriya*を殺戮した*Kurukṣetra*のある場所の名].
 samanta-parikṣipta 形 周圍 *Abh-vy.*
 samanta-paryāyin 形 あまねく包括する (Br.).
 samanta-prabha 男 普光, 普明, 円光, 普照, 善徧光, 普徧光 *Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p.: -ā buddhabhūmiḥ 普光仏地 *Mvyut. 3.*
 samanta-prabhāsa 男 普明, 普光 *Saddh-p.*
 samanta-prāsādika 最微妙, 普端嚴, 觀無厭足, 見者皆生喜 *Mvyut.*
 samanta-bhadra 男 [菩薩名] 普賢 *Bodh-c., Gaṇḍ-vy., Lank., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Suv-pr.*
 samantabhadra-caryā 因 普賢行, 普賢妙行, 普賢所行 *Gaṇḍ-vy.: ~jñānāvaloka 能了照了普賢行, 能令明了普賢妙行, 智慧遍照普賢所行 *Gaṇḍ-vy. 252.*
 samantabhadra-bodhisattva-cari 普賢行, 普賢菩薩所行 *Gaṇḍ-vy.*
 samantabhadra-rūpa 中 普賢像 *Suv-pr.*
 samantabhadrā 因 普賢, 普賢母 *Mvyut.*
 samantabhadrotsāhana-parivarta (°ra-ut°) 男 樂普賢品, 普賢菩薩勸發品 *Saddh-p.*
 samanta-mukha 男 普門, 普遍品 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p.: ~parivarto nāmāvalokiteśvaravikurvāṇanirdeśaḥ 觀世音菩薩普門品, 光世音普門品 *Saddh-p. 456.; ~vijñaptindriya 遍策諸根, 諸根專向普門法門 *Gaṇḍ-vy. 393; ~viśuddhābhimukha 普門清淨, 普門妙行皆悉現前, 無垢境界妙心現前 *Gaṇḍ-vy. 200.*
 samanta-megha-śrī 男 普需吉祥 *Guhy-s.*
 samanta-ratna-kiraṇa-mukta-prabha 男 普放宝光 *Mvyut.*
 samanta-raśmi 男 [菩薩名] 普光 *Rāṣṭr.*
 samanta-vilokitā 因 普觀 *Lal-v.*
 samanta-vyūha 男 普莊嚴 *Gaṇḍ-vy.*
 samantavyūha-sāgara-caryā-vyavalokana 男 普嚴海行觀諸法 *Mvyut.*
 samanta-śubha 形 遍淨, 嚴淨, 普端嚴 *Gaṇḍ-vy.*
 samanta-sambhava 普遍 *Guhy-s.*
 samanta-spharāṇa-mukha-darśana 中 面普徧指示 *Mvyut.*
 samantānugata 中 平等, 普等, 普遍 *Sukh-vy. 1.*
 samantāloka (°ta-āl°) 男 普明, 普光, 普顯 *Kaśy., Mvyut.*
 samantāvabhāsa 男 遍照, 光明照一切, 普明照一切 *Gaṇḍ-vy.*
 samantāvabhāsa-spharāṇa 普照, 光明普照, 光明遍照 *Gaṇḍ-vy.******

samantāvalokita 男 護眼 [菩薩名] 普觀, 普明 *Rāṣṭr.*
 samanteryā-patha (°ta-ir°) 男 護眼 徧界, 諸行道 *Mvyut.*
 sa-mantraka 形 真言 (mantra) を伴った。
 sa-mantrin 形 大臣を伴った。
 sam-andhakāra 男 大暗黒。
 samandha-kāri-kṛta 形 闇によって包まれた。(比喩的に) 近寄り難くされた。
 sa-manmatha 形 魅せられた。
 sa-manyu 形 同じ考えの (RV.); 怒った, 激した (因); 悲しんだ (叙詩)。
 sam-anvaṅgi-bhūta 形 (具) によって所有された, 与えられた (仏教); 護眼 具足, 全備, 共受, 所受 *Aṣṭ-pr., Mvyut., Śikṣ.*
 sam-anvaya 男 直接の連結; 結合, 適用しうること; 護眼 応, 成就, 同随, 同性 *Abh-k., Abh-vy., Sāṃkhy-k. ~āt* 因 (一°) の結果。
 sam-anvāgata 過受分 → Gam; 護眼 成, 具, 造, 得, 有, 成就, 相応, 具足, 取証, 具作, 所成就, 与…相応, 具足成就, 已能円満, 皆悉具足 *Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Kāśy., Lal-v., Lan̄k., Madhy-bh., Mvyut., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Sam-r., Sapt-pr., Śikṣ., Sūtr., Vajr., Vin.:* aṣṭāṅga ~ opavāsāḥ 八關齋 [1. prāṇātipātaviratīḥ 離殺生, 2. adattādānaviratīḥ 離不与取, 3. abrahmacaryaviratīḥ 離非梵行, 4. mṛṣāvādaviratīḥ 離虚誑語, 5. madyapānaviratīḥ 離飲諸酒, 6. gandhamālyavilepanavarnakadhāraṇaviratīḥ 離持香鬘塗彩, 7. uccāśayanamahāśayanaviratīḥ 離高牀大牀, 8. vikālabhojanaviratīḥ 離非時食] *Mvyut. 268; ānantaryakarma ~ 成無間業, 造無間業者 Aṣṭ-pr. 793; gambhiradharmakṣānti ~ 甚深法忍具足成就 Rāṣṭr. 14.*
 samanvāgatatva 中 護眼 成就 *Bodh-bh.*
 sam-anv-ā-Gam, → Gam.
 sam-anvāgama 男 護眼 成就, 相応, 同随 *Abh-vy., Bodh-bh.;* 畢竟成就, 平等畢竟, 畢竟住持, 不相捨離 *Ratna-ut.*
 sam-anvārabdha 過受分 → Rabh.
 sam-anv-ā-Rabh, → Rabh.
 sam-anvārambha 男 後方から摺むこと。
 sam-anvārambhaṇa 中 [同上]。
 sam-anvāharāṇa 中 護眼 思想, 審慮; 起発, 発起; 敬受, 住持 *Madhy-v., Śikṣ.*
 sam-anvāhartavya 未受分 護眼 念, (恒時) 憶念, 能審觀察 *Aṣṭ-pr.*
 sam-anvāhāra 男 護眼 念, 憶, 憶念, 護念, 作意, 正念思惟 *Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Madhy-v., Śikṣ.*
 sam-anv-ā-Hṛ, → Hṛ.
 sam-anvāhṛta 過受分 護眼 護念, 憶念, 念哀, 常念, 嗟謫, 召請, 觀察, 護助, 随護念, 所護念, 生憶念, 共所護念, 常共護念, 咸共護念, 唯願哀愍 *Aṣṭ-pr., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Madhy-v., Śikṣ., Suv-pr.*
 samanvāhṛta-cetas 形 護眼 護念, 存念, 当証徴

誠, 願師垂念 *Suv-pr.*
 samanvāhṛta-samyak-sambuddha 護眼 為諸仏之所護念, 為諸仏所護念者 *Gaṇḍ-vy.*
 sam-anv-I, → I.
 sam-anvita 過受分 → I; 護眼 有, 具足, 具行, 相応 *Kāśy., Lal-v., Saddh-p., Sūtr.*
 sam-anv-Iṣ, → Iṣ 1., 2.
 sam-anv-eṣ (anv-ā-Iṣ), → Iṣ 2.
 sam-anveṣaṇā 女 護眼 普随尋 *Mvyut.*
 sama-pakṣa 男 護眼 朋党, 等力 *Śikṣ.*
 samapakṣa-pāta 形 公平な。
 sama-padoddeśa-dāna (°da-ud°) 中 護眼 或言談多順, 与未受大戒人同誦 *Mvyut.*
 sama-pāṇi-tala-jāta 形 護眼 平如手掌 *Mvyut.*
 sama-pravṛtti 女 護眼 同行 *Sūtr.*
 sama-prastara 形 護眼 平等, 坦然平正 *Saddh-p.*
 sama-prāpta 過受分 護眼 均平 *Abh-vy.;* 平等 *Abh-vy.;* 心平等 *Sūtr.*
 sama-prepṣu 希求 形 (因) に関して相等しい地位を欲する。
 sama-bhāga 男 護眼 等分 *Madhy-vibh., Suv-pr.*
 samabhāga-carita 男 護眼 等分者, 等分行, 等分行者, 平等諸行 *Gaṇḍ-vy., Madhy-bh., Madhy-vibh.*
 samabhāga-kṣubhita 護眼 諸雜病 *Gaṇḍ-vy.*
 sama-bhāva 男 同質, 一様性。
 sam-abhikruddha 過受分 はげしく怒った, 怒り狂う。
 sam-abhi-Gam, → Gam.
 sam-abhicchanna 過受分 (具) によってまったく覆われた。
 sam-abhitas 前 (業) の方に向かって。
 sam-abhi-Tyaj, 完全に放棄またはまたは断念する。
 <Tyaj の補遺>
 samabhityakta 過受分 完全に放棄された。
 samabhityakta-jivita 形 命を捨てた。
 sam-abhi-Dru, (業) に向って走るまたは急ぐ, 猛進する, 攻撃する, 襲う。 <Dru の補遺>
 sam-abhidruta 過受分 …の方向に走る, …に飛びかかる; 攻撃された, 襲撃された; 荒された; 護眼 逐, 驚逐; 普傷, 徧害 *Lan̄k., Mvyut. ~m* 副 急いで, 素早く。
 sam-abhi-DHā, → DHā.
 sam-abhidhā 女 (単に 一°, 形) の名前, 名称。
 sam-abhi-DHāv, …に向かって大急ぎで走る, 飛びかかる, 襲撃する。 <DHāv の補遺>
 sam-abhi-DHyai, 熟考する, 瞑想する。 <DHyai の補遺>
 sam-abhi-Nand, → Nand.
 sam-abhinandita 過受分 祝福された。
 sam-abhinihṛta 過受分 ほとぼしり出る, 湧き出る。
 sam-abhipālaya, 名動 保護する, 統治する。
 sam-abhi-Piḍ, 圧迫する, 苦しめる。 <Piḍ の補遺>
 sam-abhi-Pūj, 崇拜する, 賞讃する。 <Pūj の補遺>
 sam-abhi-Pṛ, 使役 満たす。 <Pṛ の補遺>
 sam-abhi-prekṣ (pra-īkṣ), 熟考する, 注視する。 <īkṣ の補遺>

sam-abhi-Plu, → Plu.

sam-abhipluta 過受分 → Plu.

sam-abhi-BHāṣ, 圓 (業) に語るまたは話しかける。

<BHāṣ の補遺>

sam-abhibhāṣaṇa 甲 (圓, 一°) と会話すること。

sam-abhi-Yā, (業) に近づく, …の方向にまたはそば

に行く, 進む。<Yā の補遺>

sam-abhi-Yāc, 哀願する, 懇願する。<Yāc の補遺>

sam-abhi-Rañj, 圓 または 圓 赤くなる, 赤いように見

える; 輝く, ひらめく。<Rañj の補遺>

sam-abhi-Ruh, → Ruh.

sam-abhi-Laṣ, 熱望する。<Laṣ の補遺>

sam-abhi-Vad, 使役 …に挨拶する, 敬意を表して話

しかける。<Vad の補遺>

sam-abhi-Vadh, 打つ。<Vadh の補遺>

sam-abhi-Vāñch, → Vāñch.

sam-abhi-vikṣ (vi-Īkṣ), → Īkṣ.

sam-abhi-Vṛt, 圓 (業) に近づくまたはの方向に進む;

攻撃する, 襲う; 接近する; 背を向ける, 帰る, 戻

る; 留る, 続く。tūṣṇim ~ 沈黙を守る。<Vṛt

の補遺>

sam-abhi-Vṛdh, 圓 大きくなる, 増す; 使役 大きく

ならせる, 大きくする, 強くする, 殖やす。<Vṛdh

の補遺>

sam-abhivyāhāra 男 同時に言及すること; (圓) と交

際すること。

sam-abhi-vy-ā-Hṛ, → Hṛ 1.

sam-abhivyāhṛta 過受分 共に言明または言及された。

sam-abhi-Śubh, → Śubh.

sam-abhi-Śic, → Śic.

sam-abhi-Ṣṭu → Ṣṭu.

sam-abhiṣṭuta 過受分 讚美された。

sam-abhi-Ṣṭhā → Ṣṭhā.

sam-abhisamvṛta 過受分 完全に取り囲まれた, 環状

に包囲された。

sam-abhi-saṃ-DHā, (陰) の中に置く; (業) をめざ

す, に向かって努力するまたは決心する。<DHā 1. の

補遺>

sam-abhihāra 男 反復。

sam-abhi-Hṛṣ, → Hṛṣ.

sam-abhi (abhi-I), → I.

sam-abhikṣ (abhi-Īkṣ), → Īkṣ.

sam-abhy-ati-Kram, (業) に入るまたはに向かって来る。

<Kram の補遺>

sam-abhy-Arc (abhi-Rc), → Rc.

sam-abhyarthayitṛ 男 歎願者。

sam-abhyāgata 過受分 → Gam.

sam-abhy-ā-Gam, → Gam.

sam-abhy-ā-Gā, 近づく, 不意に来る; (不幸等が) 襲

う。<Gā 1. の補遺>

sam-abhy-ā-Ni, …に向かつて導く, …に導き入れる。

<Ni の補遺>

sam-abhyāsa 男 近隣, 面前。

sam-abhy-utthā (ud-Sthā), → Sthā.

sam-abhy-ud-Gam, → Gam.

sam-abhyuddharāṇa 甲 (危険から) 救い出すこと,

救済。

sam-abhy-uddhṛ (ud-Hṛ), → Hṛ.

sam-abhyunnata 過受分 → Nam.

sam-abhy-upe (upa-I), → I.

sam-abhy-e (ā-I), → I.

sam-aya 男 因: 一緒に来ること, 会合の場所; 因,

圓: 一致, 同意, 契約, (一°, に関する) 取決め,

約束; 圓: 条約; 条件; (圓) との交際; (圓) のため

に指定されたまたはに適切な時間; 場合, 時間, 季

節; 機会, 好機; 情況または事情(の一致); 慣習, 一

般的なしきたり, ならわし, 慣行, 規則; 法令, 教

え, 戒しめ, 教義; (言葉の) 普通の意味または使用範

圍; 圓 約 Divy.; 時, 候, 劫 Abh-vy., Aṣṭ-pr.,

Lank., Mvyut., Rāṣṭr., Ratna-ut., Vajr., Saddh-

p.; 宗, 本文, 自宗義 Cat-s., Mvyut.; 音写 三

昧, 三摩野 Guhy-s.: anyatra ~ e 余時 Prāt-m.

4~6: apareṇa ~ ena 爾時 Divy. 33; tena ~

ena 其会, 爾時 Mvyut. 253; tena khalu punaḥ

~ ena 彼時 Mvyut. 244. ~ ṃ Kṛ, (圓 ± saha)

と協定または契約をする。~ ṃ Grah または prati-Pad,

条件を受け入れる, 協定に達する。~ ṃ Tyaj, BHid

または BHraṃś 約束に違背する。~ ṃ Dā 条件を

申し出る, 合意を提議する。~ ṃ ni-Viś 使役 または

Sthā 使役 条件を設定する。~ ṃ Brū, Vac または

abhi-DHā, 条件を述べる, 約束する。~ ṃ pālaya

または Rakṣ, 約束を順守する, 協定を守る。~ ṃ

mithaḥ saṃ-Vah, 相互に約束する。~ ṃ vilāṅgh-

aya, 約束を破る, 協定を破る。~ ṃ saṃ-Vad, 協

定をなす。~ ena 圓 合意にしたがって; 条件付き

で: tena ~ ena, この合意の結果。~ āt 圓 (また ~

tas, ある協定にしたがって; 条件付きで; ~ BHraṃś,

協定から退く (= 協定を破る)。~ e 圓 (また 一°) 定

められたまたは適切な時間に, その時が到来して;

(一°) …のままにその時に, その機会に: iha ~ こ

の場合, そのような情況の下で。~ Sthā, 約束または

言明を守る。~ Sthāpaya, (業, ある人) に関して決

定する; 協定する。~ ni-Veśaya, (業) に条件を課

する。

samaya-kriyā 因 義務を負わすこと: ~ ṃ Kṛ, 条件

を課する; 同意する, 約束する。

samaya-cyuti 因 正しい時間を無視すること。

samaya-jña 圓 時宜を心得た; 圓 知時分 Mvyut.

samaya-jñatā 因 圓 知時, 隨時 Śikṣ.

samaya-jñāna 甲 圓 (音写) 三昧智 Guhy-s.

samaya-dharma 男 協定に基づいた義務, 盟約, 同

意, 約束。

samaya-pada 甲 圓 協定事項。

samaya-parirakṣaṇa 甲 圓 契約の順守。

samaya-bhedin 圓 協定を破る。

samayam-anusmara 男 圓 (音写) 三摩野摩耨三摩

二合囉 Guhy-s.

samaya-vajra 男 圓 (音写) 金剛三昧 Guhy-s.

samaya-vidyā 因 占星学。

samaya-vimukta (男) 圓 時解脱, 諸時解脱 Mv-

vyut.

samayavimukta-mārga 男 圓 時解脱道 Abh-vy.

samaya-velā ㊦ 時期。
 samaya-vyabhicārin ㊦ 協約を破る。
 samayā ㊦ 副 (案, まれに㊦; ㊦)のまっただ中へまたはを貫いて; (㊦) 合計して, 全部で; (案, ㊦; 案)の近くに. ~BHū, (RV.) 間にはさまれる (時間に関して).
 samayācāra (°ya-āc°) ㊦ 慣用, 慣例。
 samayācārikā (°ya-āc°) ㊦ 精勤 *Av-s.*
 samayādhyuṣita (°yā-adh°) ㊦ 半ば昇った (太陽).
 samayāna-samprasthita ㊦ 同一事業, 平等安住 *Ast-pr.*
 samayā-ṣita ㊦ 半ば昇ったまたは没した。
 samayi-Kṛ, 約束する, 条件を付ける, 決定する。
 samayocita (°ya-uc°) ㊦ 時宜に適した. ~m 副 時宜にかなって。
 sam-ara ㊦ [共に来ること: R] 集合, 合流 (㊦); (saha) との闘争, 確執, 戦闘 (㊦ではまれ; 案); [人名].
 samara-karman ㊦ 戦闘。
 samara-kṣiti ㊦ 戦場。
 samara-jit ㊦ (戦闘に勝利を得る), [ある王子の名].
 sama-rañjita ㊦ 同色に着色された。
 sam-araṇa ㊦ 戦闘, 闘争 (RV:).
 samara-tuṅga ㊦ [ある戦士の名].
 samara-bala ㊦ [ある王子の名].
 samara-bhaṭa ㊦ [同上].
 samara-bhū ㊦ =samarakṣiti.
 samara-bhūmi ㊦ [同上].
 samara-mūrdhan ㊦ 先陣。
 samara-varman ㊦ [ある王子の名].
 samara-vijayin ㊦ 戦闘において勝利を得た。
 samara-vimukta ㊦ 闘争を嫌う。
 samara-vyasanin ㊦ 戦争を好む, 好戦的な。
 samara-śiras ㊦ 先陣。
 samara-śaṅdatā ㊦ 戦争の喜び。
 sama-rasa ㊦ 等味 *Ratna-ut.*
 samara-siman ㊦ または ㊦ =samarakṣiti.
 samara-svāmīn ㊦ [*Samara* の建立した寺院の名].
 samarāgama (°ra-āg°) ㊦ 戦闘の勃発。
 samarāgra ㊦ 戦闘の最前線。
 samarāṅgaṇa, °na ㊦ =samarakṣiti.
 samarājira ㊦ [同上].
 samarātithi ㊦ 戦闘において遭遇する者。
 sa-marud-gaṇa ㊦ *Marut* 神群の軍勢に伴われた。
 sama-rekha ㊦ 一直線をなす, まっすぐな。
 samarotsava (°ra-ut°) ㊦ 祝祭=戦闘の喜び。
 samaroddeśa (°ra-ud°) ㊦ =samarakṣiti.
 samaropāya (°ra-up°) ㊦ 戦略。
 sama-roma-bhrū ㊦ 眉毛平齊 *Mvyut.*
 sam-argha ㊦ 安価な。
 sam-ārtha ㊦ (案, 一°, に, のために) 適当な・至当なまたはふさわしい; (一°) に適当したまたはのためによい; 同じ意味をもつ (㊦); 意味上関係のある (㊦); (不定, ㊦, 一°, に, のために, について) 能力ある, 資格ある, 適任の, 出来る, 実力ある, 有能な, 可能な (普通の意味); (案) の上に権能をもつ,

に匹敵する(まれ). ㊦ 能力, 資格; ㊦ 能, 功能, 有能, 能用, 堪能, 能至, 便可 *Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., Śikṣ.*
 samarthaka ㊦ (不定) することができる: [samarthaya から] 確立する, 支持する, 確証を与える。
 samarthatā ㊦ (案, による, 案) 能力, 資格, 権能。
 samarthatva ㊦ [同上].
 sam-arthana ㊦ 反省, 熟考, 黙想; 確証, 弁明, 正当化; 能力, 資格; ㊦ 功用 *Bodh-bh.* ~m Kṛ, 熟考する. ~āt ㊦ (案) によって, のおかげで。
 sam-arthana ㊦ 熟考, 確信。
 sam-arthaniya ㊦ 未受分 確立・証明または明確化されるべき。
 samarthaya, ㊦ 準備する等; (文法的に) 関係づけるまたは解釈する. → arthaya.
 samartha-yukta ㊦ (㊦) をすることができるまたはする資格がある。
 samarthita ㊦ 未受分 能力または資格がある。
 samarthya ㊦ 未受分 確立・確証または正当化されるべき。
 sam-ardhana ㊦ (㊦ -i) 繁栄または成功させる。
 sam-ardhayitr ㊦ (㊦ -tri) 遂行者, 授与者。
 sam-arpaka ㊦ 配達する, 差し出す。
 sam-arpaṇa ㊦ …の上に置くまたは投げる (Br.); 案: 配達すること, 手渡すこと, 交付すること, 授けること; 知らせること, 伝えること。
 sam-arpāniya ㊦ 未受分 配達される・手渡されるまたは委ねられるべき。
 sam-arpayitavya ㊦ 未受分 [同上].
 sam-arpita ㊦ 使役 ㊦ 未受分 引き渡された等. → R; ㊦ 具, 得, 献, 受, 中, 入, 蒙, 具足, 豊足, 交付, 具豊足 *Ast-pr., Lal-v., Mvyut., Śikṣ.*
 sam-arpitr ㊦ 引き渡す者, 通報する者。
 samarya 1. ㊦ (RV.) 集合, 多数, 群集; 集会, 会合; 戦闘の騒擾。
 sa-marya 2. ㊦ (RV. まれ) 人々の集まる (祭祀); 軍勢に伴われた (*Indra* 神).
 sa-maryāda ㊦ 限定された, 制限内にとどめる, ㊦ をこえない. ~m 副 決定的に, 正確に。
 sam-Arh, ㊦ 使役 尊重する, 尊敬を表わす. <Arh の補遺>
 sam-arhaṇa ㊦ 尊重, 尊敬, 尊敬のしるし. ~m n DHā または pravartaya, 尊敬を表わす. ~m upa Hr, [同上].
 sa-mala ㊦ 汚点 またはしみのある, 汚れた, 不純な ㊦ 有垢 *Madhy-bh.*; 不浄 *Abh-vy.*; 有雑垢 *Ratna-ut.*; 一切煩惱垢 *Lank.*
 sam-alaṃ-Kṛ, 飾る, 装飾する, 美しくする。
 sam-alaṃkṛta ㊦ 未受分 みごとに飾られた; ㊦ 具, 荘嚴, 周匝荘嚴, 校飾嚴整, 荘校嚴飾, 成就荘嚴 *Divy., Lal-v., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. Iti Suv-pr.*
 sama-latāṭa ㊦ 額広平, 額広平齊 (相) *Mvyut.*
 samala-nirmalānityatā ㊦ 垢浄無常, 有垢無常 *Madhy-vibh.*
 samalāmala ㊦ 垢浄, 有垢無垢 *Madhy-vibh.*

sama-loṣṭa-kāñcama 形 土塊と金とを平等に見なす。
 sa-mallikākṣa 形 眼に白い点のある(馬)。
 sam-avakāra 男 [三幕よりなり, 勇武を内容とする戯曲の一種の名]。
 sam-ava-Kṛ, 広くまたは豊かに撒きちらす, 完全におおう。
 sam-ava-Kṣip, 投げ返す。 <Kṣip の補遺>
 sam-ava-Gam, 徹底的に理解する, 通曉する。 <Gam の補遺>
 sam-ava-guṇṭhita 過受分 完全に包まれた。
 sam-avaghāta 開許 Sūtr.
 sam-ava-c-CHad, 完全に覆う, 隠す, 暗くする。 <CHad の補遺>
 sam-avacchanna 過受分 完全に覆われた等。
 sam-avatāra 男 神聖な浴場。
 sam-ava-Tṛ, → Tṛ.
 sam-avattadhāna 形 (供儀の残饌)を集め入れるための(容器; S.)。
 sam-ava-Dā, → Dā 2.
 sam-ava-DHā, → DHā.
 sam-avadhāna 形 集められること, 一緒にされること, 会うこと; 見, 俱, 会, 遇, 値, 共, 合, 助, 俱起, 並起, 同伴, 和合, 俱生, 成就, 値遇, 共行, 共会, 逢遇, 親近, 集会, 会合, 和会, 相会, 相隨, 俱会, 現前, 令定, 同住, 同止, 俱得生, 共住止, 共同止, 共止頓, 等心和合, 俱与同止, 俱会一処, 同一集会 Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sukh-vy. II., Sūtr.: buddhotpāda ~ tā 値諸仏 Rāṣṭr. 14.
 samavadhāna-gata 形 遇, 値, 値遇, 歎会, 恋著 Gaṇḍ-vy., Śikṣ., Suv-pr.
 samavadhāna-durlabha 形 難可値遇, 難見難遇, 難見難値 Gaṇḍ-vy.
 samavadhiraya, 名動 あなどる, さげすむ, 考慮にいけない。
 sam-avana 形 援助, 助け, 保護。
 sam-ava-Ni, → Ni.
 sam-avapluta 過受分 とびはねながら遠ざかった。
 sam-ava-Budh, → Budh.
 sam-avabodhana 形 理解するまたは知ること, 完全な認識または理解。
 sam-ava-Rudh, 閉じこめる, 取り囲む。 samavarudhyate, 排斥または除外される。 <Rudh の補遺>
 sam-avaruddha 過受分 閉じこめられた等; 到達された, 獲得された。
 sama-varṇa 形 同じ階級の; 等色, 体皆同, 同共一体 Mvyut., Suv-pr.
 sama-vartin 形 (一°)から等距離の。
 sam-ava-Lamb, 形 捕える, 獲得する; 締めつける, 抱き締める。 <Lamb の補遺>
 sam-ava-Li, → Li 1.
 sam-ava-Lok, → Lok.
 sam-avaśaraṇa 形 (本来 = samavasaraṇa, しばしば Skt. śaraṇa と誤って関係づけられる)集まること, 集合すること, 結合すること, 集成; 依止,

親近 Śikṣ.

sam-avaśeṣita 過受分 残された, 残っている。
 sam-avaśṭabhya 形 持ち上げて, 立てて, 支えて, 確立して, ; 上に依止して, ...の助けて。
 sam-avasanna 過受分 くぼんだ, 意気沮喪した, 衰弱した, 憂いに沈んだ。
 sam-avasaraṇa 形 会うこと, 集合すること, 集会 (仏教); (Jina が天界から地上へ)降ることまたは降下する場所; 目的, 目標 (仏教); 入, 達, 現, 摂, 証入, 通達, 摂取, 所摂, 等導, 入門, 相入, 遍入, 普入, 遍往, 普遍, 究竟, 実聚, 等趣, 趣向, 真実聚, 聚真実, 悉能遍往, 靡不咸至, 平等理趣, 真実降伏, 真実相聚, 具諸真実 Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Madhy-v., Mvyut., Saddh-p., Sapt-pr., Suvik.: acintyaṃ buddhakṣetra ~ m adhimucyamānaḥ 觀察彼不思議普入仏刹, 解了彼不思議普入仏刹, 解了不可思議莊嚴仏刹 Gaṇḍ-vy. 218; ākāśa ~ 虚空等相, 入虚空相 Madhy-v. 51; ākāśadhātu ~ samatānugama 等虚空界, 等虚空界無不往 Gaṇḍ-vy. 165; ~ saṃdarśana 普現, 悉能示現 Gaṇḍ-vy. 449; sarvabuddhakāya ~ 現一切仏普遍色身 Gaṇḍ-vy. 388.
 samavarsaraṇatā 形 曲相, 善入相, 覆入相 Daś-bh.
 sam-avasarga 男 常断絶, 常断絶流, 後断絶流 Mvyut.
 sam-ava-Sā, → Sā 2.
 sam-ava-Sṛ, → Sṛ.
 sam-ava-Sṛj, → Sṛj.
 sam-avasṛjya 未受分 行かしめられるべき (Br.).
 sam-avasṛta 過受分 入, 到, 行, 雜入, 趣入, 所漂, 正住, 所繫属 Daś-bh., Lank., Śikṣ.
 sam-ava-Skand, → Skand.
 sam-avaskanda 男 胸墻, 胸壁, 壘壁。
 sam-ava-Sthā, → Sthā.
 sam-avasthā 形 同一のまたは類似の状態または条件; 状態, 条件, 情況. idṛśiṃ vayah ~ m pratipanno 'smi 私はそれほど老令となっている。
 sam-avasthāna 形 (形)に住すること; 存在, 発生; 条件, 状態。
 sam-avasthita 過受分 → Sthā.
 sam-avasrava 男 流出。
 sam-avahata 過受分 遺除 Abh-vy.
 sam-avahāra 男 (収集), 多量, 豊富; 混合。
 samavahāram 形 (業とともに)を集めて。
 sam-avahāsyā 未受分 嘲笑されるべき。 ~ tām Gam, 物笑いの種になる。
 sam-avahita 過受分 具, 和合 Aṣṭ-pr.
 sam-ava-Hṛ, → Hṛ 1.
 sam-avāp (ava-Ap), → Āp.
 sam-avāpta 過受分 獲得された, 到達された。
 samavāpta-kāma 形 望みを得た, 望みを達した。
 sam-avāya 男 (属, 一°)と一緒にすることまたは出会うこと; 会合, 集会, 群衆; 収集, 集合; 接触, 結合; (天体の)会合; 衝突; 密接な関連, 親密な結合, 隨伴, 併在, 固有, 付隨; 経過, 持続 (まれ,

- 〔叙詩〕；聚，和合，合集，聚集，相續 *Abh-vy.*, *Cat-ś.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.* *Vaiś-s.*, *Śikṣ.*
 ~ena 圓，~āt 圓 協同して，共同で。~e 圓 圓の間。~m (または ~ān) Kṛ, 相会う，結合する，群れる。
- samavāyi-kāraṇa** 圓 内属因，不可分離なまたは内在的な結合，質料因；和合因縁 *Nyay-pr.*, *Vaiś-s.*
- sam-avāyin** 圓 (諸種の体液 結合からなる；(一°)に併在・内在または付随し -puruṣa). 圓 (身体に) 結合された靈魂，肉体 うまたは個体化された靈魂。
- sama-vibhaktāṅga** 圓 各支分が鈞合のよくとれた。
- sama-vimukti** 圓 平等解脱 *Ratna-ut.*
- sama-viṣama** 圓 種 平坦な土地と平坦でない土地と；
 ~m loke samprakāśayisyati 明識世間帰於正道，必使世間明識陰陽，示導世間明識善惡 *Gaṇḍ-vy.* 292. ~e 圓 平坦な また平坦でない土地に。
- samaviṣama-kara** 圓 平坦な(または快い)ものとざらざらした(または不快な)ものとを産み出す(時間)。
- sama-virya** 圓 同等の力をもった。
- sama-vṛtta** 圓 正確に均整のとれたまたは円形をなした。
- sama-vṛtti** 圓 行為が一定不変な。
- sam-ave** (ava-I), → I.
- sam-avekṣ** (ava-Īkṣ), → Īkṣ.
- sam-avekṣita** 過受分 注視された，精察された，熟慮された。
- sam-aveta** 過受分 → I.
- samavetatva** 圓 附着，内在，内属。
- samavetārtha** 圓 意義深い。
- sama-vyatha** 圓 同一の苦痛に遭う。
- sam-Aś 1.**, → Aś 1.
- sam-Aś 2.**, → Aś 2.
- sama-śirṣikā** 圓 (圓，一°)との同等性。
- sama-śila** 圓 同一の品性または性格をもつ。
- sama-śilin** 圓 [同上]。
- sam-aśnuva** 圓 (圓 -i) 達する。
- sama-śreṇi** 圓 直線。
- samaśreṇi-gata** 圓 直線で書かれた(文字)。
- sam-aṣṭi** 圓 到達(圓)；集合，総数(圓 *vyāṣṭi*, 個体；圓)。
- samaṣṭitā** 圓 集合の状態。
- sam-As 1.**, → As 1.
- sam-As 2.**, → As 2.
- sama-saṁsthita** 圓 良い境遇に置かれた。
- sama-saṁkhyāta** 圓 数の上から言って(圓)に等しい。
- sama-saṁgiti** 圓 一心同声 *Saddh-p.*
- sama-saṁdhita** 圓 対等の条件で締結された(=どちらの側にも損失がない；盟約)。
- sama-sama** 圓 齊等，平等，平正，等等，相当，与等者，平等平等，度量相当 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*
- sama-samaya-vartin** 圓 同時に起こる。
- sama-samī-bhūta** 圓 相和 *Śikṣ.*
- sama-sarva-guṇa** 圓 種 一切の徳を等しく賦与された。
- sama-sahita** 圓 齊密 *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*
- sama-sādṛśa** 圓 如 *Lank.*
- sama-sūpika** 圓 得飯上菜齊盛 *Mvyut.* : ~pi-ṇḍapāta 等飯羹和合食 *Prāt-m.* 7.
- sama-saurabha** 圓 [人名]。
- sam-asta** 過受分 結合された，組合された等，→ As 2. ; 圓 総，俱，合，広，聚，収，全，集，即，聚集，総授，和合，広収，集言 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.* ~āt 圓 一切 *Lal-v.*
- samasta-dhātṛ** 圓 万物の保持者 (*Viṣṇu* 神)。
- samasta-mahāyāna** 圓 一切大乘 *Sūtr.*
- samasta-loka** 圓 全世界。
- samasta-vyasta** 圓 総別 *Bodh-bh.*
- sama-stha** 圓 隆盛な状態にある。
- sama-sthali-Kṛ**, 土地を平らにする，土を用いて平らにする。
- sam-asyā** 圓 結合，(一°)との結合；完成されるために他の人に提示される詩節の一部。
- sama-svabhāva** 圓 平等 *Lank.*
- samaha** 圓 とにかく，なんとか。
- samahita-kāma** 圓 平等利益作 *Sūtr.*
- sa-mahidhara** 圓 山のある。
- sama-hinottama** (°na-ut°) 圓 上下，下中上 *Lank.*
- samahinodbhava** (°na-ud°) 圓 如是生，依此起 *Lank.*
- samā** 圓 半年 (*AV.*, まれ)；季節，天候 (*Br.*, *S.*, ん)；年 (圓 華)。
- samāṁśa** 圓 等しい。~ena 圓 等しい分け前で。圓 等しい部分を含む；等しい分け前を得る；共肩 *Vajr-pr.*
- samāṁśaka** 圓 等しい分け前を得る。
- samāṁśin** 圓 [同上]。
- sa-māṁsa** 圓 食肉を伴う；肉のある。
- samākaraṇaya**, 名動 聴く，耳を傾ける，聴きいる。
- samākaraṇitaka** 圓 傾聴の身振り。~ena 圓 傾聴しながら。
- sam-ākarṣa** 圓 引証。
- sam-ākarṣaṇa** 圓 近づけること。
- sam-ā-Kāṅkṣ**, 待ちこがれる，熱心に欲するまたは期待する。<Kāṅkṣの補遺>
- samākāra** (°ma-āk°) 圓 (一°)と同じ外観を持つたはに似ている。
- sam-ākiraṇa** 過受分 → Kṛ; 圓 雲集，充滿 *Gaṇḍ-vy.*
- sam-ākuñcita** 使役 過受分 → Kuc.
- sam-ākula** 圓 (圓，一°)によって充たされたまたはみ合った・で一ぱいのまたはに富む；(一°)によって混乱におちいった・当惑または困惑させられた；具足，圍繞 *Guhy-s.*, *Lal-v.* ; 逼擾，迷悶，微 *Gaṇḍ-vy.*, *Guhy-s.*, *Sukh-vy.* II.
- sam-ā-Kṛ**, → Kṛ.
- sam-ā-Kṛṣ**, → Kṛṣ.
- sam-ā-Kṝ**, → Kṝ.

sam-ā-Krand, → Krand.

sam-ākrandana ㊦ 叫ぶこと, 泣くこと.

samākrandana-gir ㊦ 救助を求める叫び.

sam-ā-Kram, → Kram.

sam-ākramaṇa ㊦ (踏んで) 入ること, しばしば出入りすること.

sam-ākruṣṭa 過受分 叱責された, 怒罵された.

sam-āklinna 過受分 → Klid.

sam-ākledita 過受分 → Klid.

samākṣara 形 同じ音節数を有する.

sam-ā-Kṣip, → Kṣip.

sam-ākṣipta, → Kṣip.

sam-ākṣepa 男 (一°) に関する暗示.

sam-ā-KHyā, → KHyā.

sam-ākhyā 女 呼称, 名; 説明, 解釈.

sam-ākhyāta 過受分 → KHyā; 説 *Saṃkhy-k., Sūtr.*

sam-ākhyāna ㊦ 指名すること, 言及すること; 物語; 呼称, 名; 説 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Sūtr.*

sam-āgata 過受分 → Gam; 来, 来集, 来会, 悉来集会, 悉来聚集 *Daś-bh., Rāṣṭr., Saddh-p., Suv-pr.*

sam-āgantavya 未受分 ㊦ 非人 共に来るべきまたは近づきべきである.

sam-ā-Gam, → Gam.

sam-āgama 男 一緒に来ること, 結合; 合流; 集合; (男 土saha, 属, まれに 男 一°) と出会うまたは会うこと; 会, 集, 集会, 交会, 会合, 大会, 会集, 合集, 相見, 親近, 相逢, 同宿, 同集会, 咸衆会, 集一処, 共相娛樂 *Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Laṅk., Mvyut., Rāṣṭr., Śikṣ., Suv-pr.:* ~ saṅkata 共行 *Śikṣ. 118.*

sam-āgamana ㊦ 一緒に来ること, (一°) と出会うまたは会うこと; 性交.

samāgama-manoratha 男 一緒になろうとする欲望.

sam-āgalita 過受分 落下した.

sam-āghāta 男 衝突.

sam-ā-GHrā, → GHrā.

sam-āghrāṇa ㊦ ...を嗅ぐこと.

samāṅghrika 形 四肢の上に平衡を保って立っている(獅子).

sam-ā-Cakṣ, → Cakṣ.

sam-ācamya 總 (儀式において宗教的な行為として) 水をすすって.

sam-ā-Car, → Car.

samācāra (°ma-āc°) 形 所修行同, 修行無差別 *Suv-pr.*

sam-ācaraṇa ㊦ 行 *Sūtr.*

sam-ācaraṇiya 未受分 踏み入れられるべき(道).

sam-ācāra 男 (一°) における実行・行動または行為; 習慣, 慣行, 通例の方法; (一°) に関する習慣的な表示; 行 *Bodh-bh., Sūtr.;* 戒 *Bodh-bh.;* 行事 *Bodh-bh., Mvyut.;* 現行 *Bodh-bh.;* 大行 *Sūtr.*

samācāra (°ma-āc°) 男 等しいまたは類似した行為・方法 または 慣習, 徳義にかなった行為. 行為が

常に一樣な, 同一の方法を実行する.

samācāra-yukta 形 時不乖序, 時不越序 *Suv-pr.*

sam-ā-Ci, → Ci 1.

sam-āceṣṭita (過受分) ㊦ 行動, 動作, 品行.

sam-ā-c-CHad, 完全に覆い尽す, 包圍する; (譬喩) 暗くする, 曇らす, 濁らす. <CHad の補遺>

sam-āja 男 [群集: Aj から] 集合, 組合, 仲間 (普通の意味); (属, 一°) との遭遇または会合; 多数, 大勢; 会 *Prāt-m.;* 集 *Mvyut.;* 集会 *Guhy-s.:* ~ m Gam 雲集 *Guhy-s. 113.*

samāja-darśana ㊦ 看会 *Mvyut.*

sam-ā-Jñā, → Jñā.

sam-ājñā 女 呼称, 名.

sam-ājñāta 過受分 → Jñā.

sam-ājñāna ㊦ (一°) として認めること.

sam-ā-Tan, → Tan 1.

sa-mātr 女 義母.

sa-mātrka 形 母と共にある; 与母同処 *Divy.*

sam-ātta 過受分 (=samādatta) 採用された, 引き受けられた; 受 *Bodh-bh.;* 所受 *Abh-vy., Bodh-bh.;* 正受 *Bodh-bh.:* daśakuśalakarmapatha-~ 具行十善, 具足修行十善業道 *Gaṇḍ-vy. 714.;* ~ m rakṣati 護持 *Sūtr. 16.*

samāttatva ㊦ 依持 *Bodh-bh.*

samātta-śīla 形 所受戒, 受具足戒 *Bodh-bh.*

samātmaka (°ma-āt°) 形 =samacitta.

samātman (°ma-āt°) 形 [同上].

sam-ādatta 過受分 取られた, 取り上げられた, 把握された, 採用された, 受け取られた; 受 *Abh-vy.;* 受持 *Lal-v.*

sam-ā-Dā, → Dā 1.

sam-ādāna ㊦ 引き受けること, 背負いこむこと, 約定すること; 受 *Abh-vy., Bodh-bh., Laṅk., Mvyut., Sūtr.;* 得 *Abh-vy.;* 修 *Bodh-bh.;* 意 *Mvyut.;* 受持 *Abh-vy., Bodh-bh., Śikṣ., Sūtr.;* 所受 *Abh-vy., Bodh-bh.;* 受生 *Abh-vy.;* 正受 *Bodh-bh.;* 受学 *Bodh-bh.;* 撰受 *Madhy-vibh.;* 誓願 *Śikṣ.;* 実取 *Mvyut.;* 撰取 *Madhy-vibh.;* 自撰 *Sam-r.;* 現受 *Bodh-bh.;* 奉行 *Daś-bh.;* 至誠 *Aṣṭ-pr.;* 深心 *Aṣṭ-pr.;* 受所得 *Abh-vy.;* 果報 *Mvyut.:* śīlasaṃvara ~ 受戒 *Bodh-bh. 154.*

samādānatā 女 受 *Bodh-bh.*

samādāna-labdha 形 受得分 *Sūtr.*

samādāna-sāṃketika-cittotpāda (°ta-ut°) 男 受世俗発心 *Sūtr.*

sam-ādānika 形 実取中出 *Mvyut.*

sam-ādāpaka 形 (男) 教, 教導 *Aṣṭ-pr.;* 勸, 勸楽 *Kāśy.*

sam-ādāpana ㊦ 勸 *Lal-v., Sūtr.;* 勸修 *Bodh-bh.;* 令受 *Bodh-bh.;* 勸導 *Bodh-bh., Saddh-p.;* 勸学 *Kāśy.;* 勸発, 建立 *Sūtr.;* 教化 *Kāśy., Śikṣ.;* 教導 *Bodh-bh.;* 普化 *Kāśy.;* 勸化 *Śikṣ.;* 令得 *Saddh-p.;* 令開 *Saddh-p.;* 令勸修学 *Bodh-bh.;* 授与教授 *Bodh-bh.;* 教化令得 *Saddh-p.;* 布施等心 *Kāśy.:* tathāgatajñānadarśana ~ 令開

仏知見 *Saddh-p.* 40; śikṣāpada~tā 勸修学処 *Bodh-bh.* 133.

samādāpanatā 因 勸, 勸修, 勸導, 勸授 *Bodh-bh.*

sam-ādāpayitavya 未受分 教授, 所応教導 *Bodh-bh.*

sam-ādāpita 使役 過受分 教 *Saddh-p.*; 発, 勸発, 教化 *Gand-vy.*

samādāpitavat 使役 過能分 能令行 *Sukh-vy. I.*

sam-ā-Diś, → Diś.

sam-ādiṣṭa 過受分 → Diś.

sam-ādṛta 過受分 丁重な, 恭々しい.

sam-ādeya 未受分 受けられるべき.

sam-ādeśa 男 指揮, 指導, 教育; 命令, 指令; 等類 *Bodh-bh.*

sam-ā-Dru, …の方にまたは上に一緒に走る, 襲撃する. <Dru の補遺>

sam-ā-DHā, → DHā 1.

sam-ādhātavya 未受分 整頓・修理・回復または調整されるべき.

sam-ādhāna 因 調整, 解決, 決定; 和解; (陳述の) 正当化, 釈明; 論証, 証明; 精神集中, 注意; 深い瞑想または帰依・専心; 俱有, 並有 *Abh-vy.*; 回答 *Mvyut.*; 定 *Ratna-ut.*, *Śikṣ.*; 等持 *Śikṣ.* ~acyutau niyatipātaḥ 定業決定 *Sūtr. 19.* ~m

Kṛ, 注意する.

samādhāna-pratiṣṭhita 形 定持 *Sūtr.*

samādhāna-sukha 三昧…楽 *Ratna-ut.*

sam-ā-DHāv, …の方に一緒に走る, 飛びかかる, 馳せつける. <DHāv の補遺>

sam-ādhi 男 (圓, と) 組みあわせることまたは結合させること; (首の) 関節; 結合, 組みあわせ, 連合; 実行; 調整, 決定, 解決; (陳述の) 正当化, 釈明; 論証; (因) に注意すること, (一) に熱中していること; (最高我への) 深い瞑想, 深い専心 (普通の意味); [種々の修辭法の名]; 定 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Sapt-pr.*, *Sūtr.*; 入 *Bodh-bh.*; 禪定 *Gand-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*; 正定 立定; 寂定 *Lank.*; 等持 *Abh-vy.*, *Gand-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, 立定; (音写) 三昧 *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*, *Guhy-s.*, *Lank.*, *Lal-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*; 三昧地 *Mvyut.*; 三摩地 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Vijñ-t.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, 立定; 三摩提 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*, 立定; (音写) 三昧門 *Sūtr.*: prajñā-pāramitodbhavitāsamādhināmāni 般若經中所出禪定名号 [1. sūraṅgamo nāma~h 首楞嚴三昧地, 勇行禪定, 健行三昧 (または摩) 地. 2. ratnamudrā nāma~h 宝印禪定, 宝印三摩地, 3. su-candro nāma~h 妙月三摩地, 4. simhavikṛiḍito nāma~h 獅子遊戲三昧 (または摩) 地, 5. candradhvajaketur nāma~h 月幢相三摩地, 6. sarvadharmōdgato nāma~h 出諸法最勝禪定, 一切法涌三摩地, 7. sarvadharmamudrā nāma~h 諸

法印禪定, 一切法印三摩地, 8. vilokitamūrdho nāma~h 觀頂三摩地, 9. dharmadhātuniyato nāma~h 畢法性三昧, 真実界禪定, 法界決定三摩地, 10. niyatadhvajaketur nāma~h 真実畢幢相三昧, 決定相幢三摩地, 決定幢三摩地, 11. vajro (または vajropamo) nāma~h 金剛三摩地, 金剛喻三摩地, 12. sarvadharmapraveśamudrā nāma~h 入法手印三昧, 入法印三摩地, 13. samādhirājasupratīṣṭhito nāma~h 如静慮王尽居禪定, 善立定王三摩地, 14. raśmipramukto nāma~h 極発光禪定, 放光三摩地, 15. balavyūho nāma~h 嚴臂禪定, 精進力三摩地, 16. samudgato nāma~h 最勝禪定, 等涌三摩地, 17. niruktiniyatapraveśo nāma~h 必入辯才三昧, 真語決定禪定, 言語決定三摩地, 入言詞決定三摩地, 18. adhvācanapraveśo nāma~h 入真辭禪定, 等入真語三摩地, 等入言語三摩地, 19. digvilokito nāma~h 視諸方所三摩地, 觀方三摩地, 20. ādhāraṇamudrā nāma~h 執諸手印禪定, 總持印三摩地, 總持三摩地, 21. asampramoṣo nāma~h 無忘三昧, 無失三摩地, 無忘失三摩地, 22. sarvadharmasamavasaraṇasāgaramudrā nāma~h 攝諸法海三昧, 諸法真実聚海禪定, 諸法等趣海印三摩地, 23. ākāśaspharaṇo nāma~h 徧空禪定, 徧覆虚空三摩地, 24. vajramāṇḍalo nāma~h 金剛中毘禪定, 金剛輪三摩地, 25. dhvajāgrakeyūro nāma~h 幢頂臂嚴禪定, 幢頂臂嚴三摩地, 26. indraketur nāma~h 各了諸根禪定, 根頂禪定, 27. sroto'nugato nāma~h 隨流向禪定, 隨流向三摩地, 28. simhavijṛmbhito nāma~h 獅貢高禪定, 獅子威禪定, 獅子威三摩地, 29. vīratyasto nāma~h 消障禪定, 曠平禪定, 曠平三摩地, 30. raṇajaho nāma~h 除煩熱禪定, 離煩熱三摩地, 離塵三摩地, 31. vairocāno nāma~h 遍照禪定, 遍照三摩地, 32. animiṣo nāma~h 無不禪定, 不昫三摩地, 33. aniketasthito nāma~h 無依処禪定, 無相依三摩地, 無相住三摩地, 34. nisānā nāma~h 無実心禪定, 不思惟三摩地, 35. vimalāpradīpo nāma~h 無垢炬禪定, 無垢灯三摩地, 36. anantaprabho nāma~h 無尽明禪定, 無辺光明三摩地, 無辺光三摩地, 37. prabhākarā nāma~h 発(作)光明禪定, 発光明三摩地, 発光三摩地, 38. śuddhasāro nāma~h 真妙禪定, 真妙三摩地, 39. vimalāprabho nāma~h 淨光禪定, 無垢光明三摩地, 無垢光三摩地, 40. ratikaro nāma~h 作喜禪定, 発妙樂三摩地, 41. vidyutpradīpo nāma~h 電炬光禪定, 電灯三摩地, 42. akṣayā nāma~h 無尽禪定, 無尽三摩地, 43. ajeyo nāma~h 勝德禪定, 不敗三摩地, 44. tejovati nāma~h 威德禪定, 具光三摩地, 45. kṣayāpagato nāma~h 離尽禪定, 離尽三摩地, 46. candravimalo nāma~h 淨月禪定, 淨月三摩地, 47. sūryapradīpo nāma~h 日炬禪定, 日灯三摩地, 48. avaivarā nāma~h 無變息禪定, 無變異三摩地, 49. anīṇī nāma~h 不動禪定, 無動三摩地, 50. prajñāpradīpo nāma~h 慧炬禪定, 慧炬三摩地, 51. śubhāpratibhāso nāma~h 明顯禪定, 発光三摩地,

明三摩地, 52. āloka-kāro nāma ~ h 作現三昧, 能作明三昧, 53. kāryakāro nāma ~ h 作現禪定, 作行禪定, 作行三摩地, 54. jñānaketur nāma ~ h 智頂禪定, 智相三摩地, 智幢相三摩地, 55. vajropamo nāma ~ h 如杵禪定, 如金剛杵禪定, 56. cittasthito nāma ~ h 心住三昧, 住於心禪定, 住心三摩地, 57. samantāloko nāma ~ h 普顯禪定, 普明三摩地, 58. supraṭiṣṭhito nāma ~ h 極安住禪定, 善住三摩地, 59. ratnakoṭir nāma ~ h 寶積三昧, 大宝際禪定, 寶積三摩地, 60. varadharmamudrā nāma ~ h 妙法手印禪定, 妙法印三摩地, 61. sarvadharmasamatā nāma ~ h 諸法平等禪定, 一切法平等三摩地, 一切法平等性三摩地, 62. ratijaho nāma ~ h 離喜禪定, 捨愛樂三摩地, 63. dharmodgato nāma ~ h 到法頂三昧, 到法最勝禪定, 入法頂三摩地, 64. vikiraṇo nāma ~ h 能散三昧, 諸解散禪定, 飄散三摩地, 65. sarvadharmapada-prabhedano nāma ~ h 分別諸法言禪定, 分別法句三摩地, 66. samākṣarāvākaro nāma ~ h 置字平等禪定, 平等字相三摩地, 67. akṣarāpagato nāma ~ h 離字禪定, 離文字相三摩地, 離文字三摩地, 68. ārambānacchedano nāma ~ h 斷想念禪定, 斷所緣三昧地, 斷所緣三摩地, 69. aprakāro nāma ~ h 無種相禪定, 無品類三摩地, 70. avikāro nāma ~ h 無退轉禪定, 無變易禪定, 71. nāmaniyatapraveśo nāma ~ h 入美名禪定, 入名語三摩地, 72. aniketacāri nāma ~ h 無(処)止行禪定, 無相行三摩地, 73. timirāpagato nāma ~ h 無矇昧禪定, 離翳闇三摩地, 74. cāritravati nāma ~ h 具行三摩地, 75. acalo nāma ~ h 不動禪定, 不變動三摩地, 76. viśayatirṇo nāma ~ h 過境界禪定, 度境界三摩地, 77. sarvaguṇasamcayagato nāma ~ h 集諸德禪定, 集一切功德三摩地, 78. sthitaniścitto nāma ~ h 往無美心処三昧, 無心住三摩地, 79. śubhapuṣpitaśuddhir nāma ~ h 善花円滿禪定, 淨妙花三摩地, 80. anantapratibhāno nāma ~ h 無量辯禪定, 無辺辯三摩地, 81. bodhyaṅgavati nāma ~ h 菩提支禪定, 具覺支三摩地, 82. asamasaṃmā nāma ~ h 不平得平禪定, 無等々三摩地, 83. sarvadharmātikramaṇo nāma ~ h 超諸法禪定, 超一切法三摩地, 84. paricchedakāro nāma ~ h 斷除一切法禪定, 分別諸法三昧, 決判諸法三摩地, 85. vimativikiraṇo nāma ~ h 除暗禪定, 散疑網三摩地, 86. niradhiṣṭhāno nāma ~ h 無住処禪定, 無所住三摩地, 87. ekavyūho nāma ~ h 一布置為禪定, 一相莊嚴三摩地, 一莊嚴三昧, 88. ākārabhinirhāro nāma ~ h 成就現前禪定, 引發行相三摩地, 89. ekākāro nāma ~ h 衆轉為一禪定, 一行相三摩地, 90. ākāranapakāro nāma ~ h 無遺失禪定, (不)離行相三摩地, 91. nairvedhikasarvabhavatalopagato nāma ~ h 了諸有根禪定, 達諸有底散壞三摩地, 92. samketarutapraveśo nāma ~ h 表示入音禪定, 入施設語音三摩地, 入施設語言三摩地, 93. nirghoṣākṣaravimukto nāma ~ h 離字音禪定, 解脫音声文字三摩地, 94. jvalanolko nāma ~ h 燃炬光禪定, 炬熾然三摩地, 95. lakṣaṇapari-

śodhano nāma ~ h 淨諸相三昧, 嚴淨相三摩地, 96. anabilakṣito nāma ~ h 不念現前禪定, 無標幟三摩地, 97. sarvākāravāropeto nāma ~ h 具諸勝禪定, 具一切妙相三摩地, 98. akṣayakaraṇḍo(または °ḍako) nāma ~ h 不尽器禪定, 無尽篋相三摩地, 99. dhāraṇimatir nāma ~ h 總持慧禪定, 具陀羅尼三摩地, 100. samyaktvamithyātvasarvasaṃgrasano nāma ~ h 真實除諸邪禪定, 摺伏一切正性邪性三摩地, 101. sarvanirodhavirodhasaṃpraśāmano nāma ~ h 消除違逆禪定, 靜息一切違順三摩地, 102. sarvasukhaduḥkhanirabhinandī nāma ~ h 一切苦樂無喜禪定, 不喜一切苦樂三摩地, 103. anurodhāpratirodho nāma ~ h 無違順禪定, 離憎愛三摩地, 104. vimalaprabho nāma ~ h 淨光禪定, 無垢明三摩地, 105. sarasvatī nāma ~ h 具識禪定, 堅固三摩地, 具堅固三摩地, 106. paripūrṇacandra-vimalaprabho nāma ~ h 円月淨光禪定, 滿月淨光三摩地, 107. vidyutprabho nāma ~ h 電光禪定, 電光三摩地, 108. mahāvvyūho nāma ~ h 大莊嚴禪定, 大莊嚴三摩地, 109. sarvākāraprabhākāro nāma ~ h 諸光禪定, 照一切世間三摩地, 能照一切世間三摩地, 110. samādhisamatā nāma ~ h 三昧等三昧, 淨慮平等三摩地, 定平等性三摩地, 111. arajoviraṇayayukto nāma ~ h 無塵離塵具趣禪定, 無塵離塵具趣三摩地, 112. araṇasamavasaraṇo nāma ~ h 無煩惱聚真實三禪定, 無煩惱美聚禪定, 無煩惱美聚三摩地, 113. araṇasaraṇasarvasamavasaraṇo nāma ~ h 摺一切有諍無諍禪定, 無煩惱具煩惱具諸真實禪定, 有諍無諍平等理趣三摩地, 114. anilambhaniketānirato nāma ~ h 住無倚処精進禪定, 不樂一切住処精進三摩地, 又無巢穴無幟無愛樂之三摩地, 115. tathatāsthitaniścitto(または °cito) nāma ~ h 住性無美心禪定, 決定安住真如三摩地, 116. kāyakalisampramathano nāma ~ h 實際身過禪定, 離身穢垢三摩地, 離身穢惡三摩地, 117. vākkalividhvamsanagaganakalpo nāma ~ h 毀諸語過成虛空禪定, 離語穢垢三摩地, 118. ākāśāṅgavimuktinirupaleṇo nāma ~ h 如空無貪解脫無染禪定, 無染着如虛空三摩地] *Mvyut.* 21.; bodhisattvasamādhayaḥ 菩薩禪定名号, 菩薩等持 [1. ratnasamudgataḥ 宝大勝, 宝徧盛, 宝盛, 2. supraṭiṣṭhitaḥ 安住, 3. ākamphyāḥ 不動, 不揺, 4. avinivartaniyāḥ 不退, 無退, 5. ratnākaraḥ 宝生, 6. sūryaprabhatejaḥ 日威光, 日光威, 7. sarvārthasiddhaḥ 成就諸事, 一切義成, 8. jñānolkaḥ 智炬, 9. pratyutpannabuddhasaṃmukhāvasthitaḥ 現在仏面, 10. sūraṃgamāḥ 健行] *Mvyut.* 24: ~-prajñāskandhasya viśodhanā 定身清淨 *Sūtr.* 20-21. ~m Kṛ, (因) に注意を向ける.

samādhi-kāya 男 寂滅三昧 *Lank.*

samādhi-garbha 男 靜慮藏 *Mvyut.*

samādhi-gocara 田 定所行処 *Sūtr.*

samādhi-ja 羽 定生, 靜定所定 *Mvyut.*

sam-ādhiṭa 名動 過受分 和解させられた, 調整された.

samādhi-traya 三三昧, 三種三昧 *Sūtr.*

samādhitrāya-gocara 三定所行境 *Sūtr.*
samādhitrāya-vibhāga 修習三三昧 *Sūtr.*
sam-ādhitsu 希求 形 証明しようとする。
samādhi-dvāra 三昧門陀羅尼門 *Sūtr.*
samādhin 習諸定 *Sūtr.*
samādhi-nimitta 定相 *Bodh-bh.*
samādhi-niṣṭha 瞑想に専中している。
samādhi-niṣṭhitya-bhāvana 依止定心而思惟 *Sūtr.*
samādhi-bala 定力 *Mvyut.*; 三昧力 *Lank.*; 三昧自在力 *Sūtr.*
samādhi-buddha 三昧仏, 諸如来 *Lank.*
samādhi-bhaṅga 瞑想を中断または妨害すること。
samādhi-bhṛt 形 =samādhiniṣṭha.
samādhi-bheda 男 =samādhibhaṅga.
samādhi-maṇḍala 定中罍, 禪定中罍 *Mvyut.*
samādhimat 形 注意深い; 専念した, 信心ぶかい。
samādhi-matikā 女 [ある女性の名]。
samādhi-mada-magna 三昧酔…没, 住三昧昏墊 *Lank.*
samādhi-mada-matta 三昧樂境酔 *Lank.*
samādhi-mukha 三昧 *Ratna-ut.*; 三昧門 *Gaṇḍ-vy., Ratna-ut., Sūtr.*; 三昧樂, 三昧…之樂 *Lank.*: ~ānām dhāraṇimukhānām ca viśuddhatā 三昧門陀羅尼門極清淨 *Sūtr. 20-21*; ~dhāraṇimukhavyāpana 三昧門及陀羅尼門…遍滿 *Sūtr. 20-21.*
samādhi-yoga 男 定相應, 與定相應 *Sūtr.*
samādhirāja 男 [Samādhirājasūtra の略称] 禪定王經, 三昧經, 三摩地經 *Mvyut.*
samādhirāja-bhaṭṭāraka 男 =samādhirājasūtra.
samādhirāja-supraṭiṣṭhita 形 →samādhi.
samādhirāja-sūtra 男 [經名] 月灯三昧經, 月明菩薩經 (=Candrapradīpasūtra, また詳しくは ārya-sarvadharmasvabhāvasamatāvipaṅcitāt samādhēr yathālabdham samādhirājam nāma mahāyānasūtram) *Sūtr.*
samādhi-lābha 男 得定 *Sūtr.*
samādhi-lābhitā 女 受定 *Sūtr.*
samādhi-vajra 男 金剛定 *Guhya-s.*
samādhivajra-bimbopama (°ba-up°) 男 金剛喩三摩提, 金剛喩三昧 *Lank.*
samādhi-vaśa 男 定自在力 *Sūtr.*
samādhivaśa-vartitā 女 諸三昧自在 *Lank.*
samādhivaśa-vartin 三昧自在, 自在三昧 *Lank.*
samādhi-vaśitā 女 三昧力, 等持自在 *Bodh-bh.*; 於諸定出入得自在 *Sūtr.*
samādhi-vaśi-prāpta 形 得定自在 *Bodh-bh.*
samādhi-vaśitā 女 (=samādhivaśitā) 三昧自在 *Lal-v.*
samādhi-vikriḍita 諸定 (遊戲), 遊戲諸三昧 *Sūtr.*
samādhivikriḍitā 女 善能以禪 *Mvyut.*
samādhi-viśeṣa 男 勝定 *Madhy-vibh.*; 最上三摩地 *Mañj-m.*

samādhi-vyavacāra 男 諸三昧行 *Gaṇḍ-vy.*
samādhi-samāpatty-adhiṣṭhāna 男 令入三昧, 三昧正受…神力, 依三昧三摩提提住持力 *Lank.*
samādhi-samāpanna 形 入禪定 *Saddh-p.*
samādhi-saṃnīraya 男 由依定力得 *Sūtr.*
samādhi-saṃnīrita 形 依定 *Sūtr.*
samādhi-saṃbodhy-aṅga 男 定覺支, 定覺枝 *Mvyut.*
samādhi-saṃbhāra 男 等持資糧, 三摩提資糧 *Bodh-bh.*
samādhi-sukha 男 三昧樂 *Lank., Saddh-p.* 三昧門, 三昧門樂, 三昧樂門 *Lank.*
samādhisukha-gocara 男 三昧樂境, 三昧樂境界 *Lank.*
samādhisukha-vihāra 男 三昧樂住, 三昧樂行住三昧樂 *Lank.*
samādhisukha-samāpatti-mano-maya 形 入三昧樂意成身, 三昧樂正受意生身, 三昧樂三摩提提生身 *Lank.*
samādhi-skandha 男 定蘊 *Aṣṭ-pr., Mvyut.* 定衆 *Vin.*
samādhi-stha 形 =samādhiniṣṭha.
samādhi-sthala 男 [Brahmā 神の世界の中のある場所の名]。
samādhindriya 男 定根 *Mvyut., Śikṣ., Sūtr.*
sam-ādhitā 過受分 散った, 払いのけられた。
sam-ādheya 未受分 調整または決定されるべき; 教または訓戒されるべき; 承認または讓歩されるべき。
sam-ādhmāta 過受分 息を吹き入れる (樂器), 反させられた; 脹らんだ。
samādhy-ākāra-bhāvana 男 念…種修 *Sūtr.*
samādhy-ādhipatyā 男 定力生 *Sūtr.*
samādhy-āvāhakatva 男 能引三摩提 *Sūtr.*
samādhy-upaniṣattva 男 三三昧 (四印) 為依 *Sūtr.*
samāna 1. [sama から], 形 (因 -i, 因; 因 -ā) またく同じ, 同一の; (圓, 圓一°) に同類のまたは等しい (大きさ, 年令, 階級, 時間, 意味において); 種の (文字); 共通の, 結合した; すべての (因, 未受分 P.): °— または -m 圓 共同で, 一様に, 同様に (圓, 一°) と同じように; 同 *Abh-vy., Bodh-bh., Prāt-m.*; 等 *Abh-vy., Bodh-bh., Nyay-p.* 如 *Aṣṭ-pr.*; 齊 *Abh-vy.*; 平等 *Aṣṭ-pr., Lal-v., Madhy-vibh., Vijñ-v.*; 同類 *Aṣṭ-pr.*; 同一 *Aṣṭ-pr.*; 相似 *Sūtr.*: ~o 'rthah 等義 *Nyay-pr.*
sam-āna 2. 男 [An] 五種の生氣 (prāṇa) の一 (腹および内臓の内部に存在して消化に重要なはたらきをし下痢等をひきおこすもの)。
sa-māna 3. 形 (圓) によって尊敬される; 怒りっぽい; 有慢, 有増上慢 *Sūtr.*
samānaka 形 等 *Daś-bh., Saddh-p.*; 如 *Dś-bh.*
samāna-kartṛka 形 同じ主語を持つ (文法)。
samāna-karmaka 形 同じ目的語を持つ (文法)。
samāna-karman 形 同一の行為を表現する。
samāna-kāraka 形 (すべての事柄を) 等しくする

間).
samāna-kāryatva 甲 [同] 同作一事 *Sūtr.*
samāna-kāla 形 同時に起る, 同長のまたは同じ音量の (母音).
samāna-guṇa 形 同じ性質・能力を持つ.
samāna-grāma 男 同じ村.
samānagrāmiya 男 同じ村に属する.
samāna-citta 形 心平等 *Sūtr.*
samānacittatā 因 [同] 心平等 *Sūtr.*
samāna-janman 形 同一の生まれの (Br.); 同年令の (鞞).
samāna-jātita 因 親類関係.
samāna-jātiya 形 (一) と同種の; [同] 同類 *Abh-vy.*
samānatas 副 一様に (RV. 用例一回のみ).
samānatā 因 (具, 属, 一) と同等であることまたは類似していること; [同] (無体体) 無二 *Sūtr.*
samānatva 甲 [同上].
samāna-dharman 形 (具) と同じ性質を持つまたは類似する.
sam-ā-Nand, → Nand.
samāna-pratipatti 形 同等に理解力がある.
samāna-prasiddhi 形 同等の成功を持つ.
samāna-preman 形 (他と) 同様に愛する.
samāna-bandhu 形 同じ親族を持つ, 同族の.
samāna-bala 形 同等の力のある.
samāna-bhūmika 形 [同] 同地 *Abh-vy.*
samāna-māna 形 (具) と同等に尊敬された.
samāna-mārga [同] 同道 *Prāt-m.*
samāna-mūrdhan 形 (因・ni) 等しい頭を持つ.
samāna-ruci 形 好みが一一致する.
samānarucitā 因 [同上の 因].
samāna-rūpa 形 (属, 一) と同じ色を持つ.
samāna-vayas 形 同じ年令の.
samānavayaska 形 [同上].
samāna-varcasa 形 (一) と等しい光輝を持つ.
samāna-vidya 形 同等の知識を持つ.
samānavidyatā 因 [同上の 因].
samāna-vrata-bhṛt 形 類似した生活を送る.
samāna-sīla 形 類似した性格を持つ.
samānaśilatā 因 [同上の 因].
samāna-sukha-duḥkha 形 楽と苦とを共通に持つ.
samānasukhaduḥkhatā 因 [同上の 因].
samāna-sūtra-nipāte 副 まったく相対立する側に.
samāna-sthāna 形 同一の場所に存在する; (口の中で) 同一の場所を占める.
samānākṣara 甲 (長または短の) 単純母音 (因: sam-dhyakṣara, 二重母音 因法).
samānādhikarāṇa 甲 (一) と格が文法的に一致すること. 形 (具, 一) と同格関係になる; 同一の主語に関係する; [同] 従本, 順本 *Mvyut.*
samānābhiprāya 形 [同] 同一所趣 *Aṣṭ-pr.*
samānābhihāra 男 [同] 相似聚 *Saṃkhy-k.*
samānārtha 形 同一の目的を持つ; (具, 一) と同一の意味を持つ.
samānārthatā 因 [同上の 因]; [同] 同事 *Bodh-bh.,*

Sikṣ.; 同利 *Bodh-bh., Sūtr.*; 等侶 *Lal-v.*; 同利撰 *Sūtr.*

samānārthatva 甲 [同上].
samānārtha-prajojana 形 共通の目的と意図を持つ.
samā-nicaya 形 一年間の糧食をもつ.
sa-mānitam 副 尊敬の意を表して, 恭々しく.
sam-ā-Ni, → Ni.
sam-ānita 過受分 …の方にまたはの傍に導かれた, 集められた, 結合された, 召集された等.
samānuyāta 形 [同] 平等 (遍) 行 *Sūtr.*
samānottama-madhyamādharma (°na-ut°) 形 最上・中位・最下のものを同一視する (人).
samānodaka (°na-ud°) 形 (祖霊に対して単に) 共同して聖水を供えるのみの, 遠い親戚関係にある.
samānodaka-bhāva 男 同上の種類 of 遠い親戚関係.
samānodarya (°na-ud°) 同一の母から系統を引く.
samānopamā (°na-up°) 因 共通の語が音は同一であっても二つの意味に解釈されねばならない比喩法 (例 'bālā-iva-udyānamālā sālakānanaśobhini' という文章において sālakānana は sa-alaka-ānana '捲毛をもつ顔' および sāla-kānana 'サーラ樹の森' という二つの意味に解釈されるべきである).
samānopādhāya [同] 同学 *Divy.*
samānta (°mā-an°) 男 年末.
samāntara 1. (°mā-an°) 甲 一年の間隔. ~e 因 一年以内に.
samāntara 2. 形 (度量法の単位において) 恒常的な差違を持つ (例 samāntarāś ca puruṣas turaṅgas trisamāntarah, 人間が一単位を構成するならば, 一頭の馬は三単位となる, すなわち一頭の馬は三人の人間に等しい).
samānyā 副 共同で, 一緒に (因).
sam-Āp, → Āp.
sam-āpaka 形 完成させる, 完結させる.
sam-ā-Pat, → Pat 1.
sam-āpattavya 未受分 [同] 現入 *Sapt-pr.*
sam-āpatti 因 遭遇すること, 会うこと; 偶然のできごと, 不意, 偶然 (一); (一) の達成またはになること; [同] 定 *Abh-vy., Bodh-bh., Lanḥ., Mvyut.*; 受 *Lanḥ.*; 禪 *Mvyut.*; 等至 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Mvyut.*; 正受 *Bodh-bh., Lanḥ.*; 正定 *Bodh-bh.*; 禪定 *Lanḥ.*; 三昧 *Lanḥ., Ratna-ut., Sam-r.*; 平等 *Mvyut.*; 相續 *Gaṇḍ-vy.*; 入定, 入観 *Abh-vy.*; 交会, 交婚 *Vijñ-v.*; 正具足 *Sam-r.*; 寂滅定 *Aṣṭ-pr.*; 音写 三摩跋提 *Lanḥ.*; 三摩鉢底 *Mvyut.*
samāpatti-kāla 男 [同] 受生時, 入定時 *Abh-vy.*
samāpatti-citta 甲 [同] 入定心 *Abh-vy.*
samāpatti-dṛṣṭa 形 偶然に見られた.
samāpatti-viśeṣa-ja 形 [同] 従勝定生, 定差別生 *Abh-vy.*
samāpatti-sukha 甲 [同] 正受楽, 三昧楽 *Lanḥ.*
samāpattisukha-vihāra 男 [同] (現法) 楽正受住, (現法) 楽三摩跋提行門, (得現法) 楽甚深三昧 *Lanḥ.*
samāpattisukha-sakta 形 嗽定味者 *Sūtr.*
samāpatty-abhinirhāra [同] 禪定得起 *Sūtr.*

samāpatty-avatāra 男 入正具足 *Sam-r.*
 sam-ā-Pad, → Pad.
 sam-āpadana 証入 *Bodh-bh.*
 sam-āpadyanatā 女 入定 *Bodh-bh.*
 sam-āpana 形 完成させる。 中 完成；(肉体の)壊滅；
 部門, 章節。
 samāpanā 女 完成, すぐれた階位。
 sam-āpanna 過受分 → Pad; 入 *Abh-vy.*, *Di-*
vy., *Lank.*, *Saddh-p.*; 生 *Abh-vy.*; 得, 住 *Lank.*;
 有 *Mvyut.*
 sam-āpayitavya 未受分 …を供給 または 支給されるべ
 き。
 sam-ā-Pā, → Pā 1.
 sam-āpādana 中 引, 能平, 平等 *Abh-vy.*
 sam-āpita 過受分 成就された, 完結された。
 sam-āpin 形 完結させる。
 sam-āpipayīṣu 形 成就または完成を欲する。
 sam-āpūrṇa 過受分 → Pr 1.
 sam-ā-Pr, → Pr 1.
 sam-āpta 過受分 → Āp; 竟 *Abh-vy.*, 梵千.;
 入, 得 *Lank.*; 罷 梵千.; 円満 *Mvyut.*; 都尽 玄応.;
 已周 *Abh-vy.*
 samāptatva 中 究竟 *Abh-vy.*
 samāptālikhita (°ta-āl°) 形 無不記録 *Ratnā-ut.*
 sam-āpti 女 獲得(まれ); 完成, 完結, 終極; (肉体の)
 壊滅(まれ); 究竟 *Abh-vy.*; 円満 *Madhy-bh.*
 samāptika 形 学習を修了した; …を完了する。
 samāpti-phala 中 究竟果 *Madhy-vibh.*
 sam-āpya 未受分 達しられるべき(因); 実行または完
 遂されるべき(華)。 中 非入 完遂されるべきであ
 る。
 sam-āpyāyita 過受分 力をつけられた, 元気を回復
 した。
 samāpyāyita-cetas 資養心 *Sūtr.*
 sam-ā-Pyai, → Pyai.
 sam-ā-Prach, → Prach.
 sam-āplāva 男 浴すこと, 水につかること。
 sam-ā-Plu, → Plu.
 sam-āpluta 過受分 浴した, 水につかった; 溢れ出し
 た, 氾濫した。
 sam-ā-Bandh, → Bandh.
 sam-ābr̥mhayitr̥ 男 能抜, 能拔除 *Gand-vy.*
 sam-ā-BHā, → BHā.
 sam-ā-BHāṣ, → BHāṣ.
 sam-ābhāṣaṇa 中 (一°)との会話。
 sam-ā-BHuj, 完全に享受する, 所有する, 支配する。
 <BHuj 2. の補遺>
 sam-ā-BHṛ, → BHṛ.
 samāmantraya, 名動 (業) に暇乞いをする。
 sam-ā-Mnā, → Mnā.
 sam-āmnāta 過受分 述べられた等, 伝統的に伝えら
 れた, 伝統的な。 中 数えあげること, 列挙。
 sam-āmnātr̥ 男 *Veda* の編纂者。
 sam-āmnāna 中 数えあげること, 列挙, 目録。
 sam-āmnāya 男 [同上]; 文学作品; 伝統的な継承;
Veda の伝本; 聖典; 世界の破壊(=samhāra)。

samāmnāyamaya 形 (因-i) 聖典または伝統的典籍か
 らなる。
 sam-ā-Yat, → Yat.
 sam-āyata 過受分 広げられた, 長くなった。
 sam-āyatta 過受分 → Yat.
 sam-ā-Yam, → Yam.
 sam-āyasta 過受分 疲れた, 意気沮喪した, 憂いに沈
 んだ, 心を取り乱した。
 sam-ā-Yā, → Yā.
 sam-āyāta 過受分 → Yā.
 sam-āyin 形 (Br.) 同時に起る; (多人数によって)同
 時に到達されうる(世界:a-として)
 sam-ā-Yu, → Yu 1.
 sam-āyukta 過受分 → Yuj; 合 *Mañj-m.*
 付, 付嘱 *Aṣṭ-pr.*; 有属 *Abh-vy.*; 相応 *Abh-vy*
Lal-v., *Śiks.*; 結集, 所応 *Bodh-bh.*; 統攝, 実能
 成弁 *Aṣṭ-pr.*
 sam-ā-Yuj, → Yuj.
 sam-āyuta 過受分 → Yu 1.; 合 *Mañj-m.*
 sam-āyoga 男 (具±saha, 一°)との連合, 結合, 持
 続, 接触(普通の意味); 設備, 用意; 制立 *B*
dh-bh.; 和合 *Lank.* ~āt 因(圓, 一°) …の結
 として, …によって。
 sa-māraka 形 諸魔, 具諸魔 *Mvyut.*; 魔, 魔
Suv-pr.
 sam-ārata 過受分 [Ram] やめた, …することをや
 った。
 sam-ārabdha 過受分 → Rabh; 発, 造, 善
 作, 精勤造作, 用心造者 *Mvyut.*
 sam-ā-Rabh, → Rabh.
 sam-ārabhya 未受分 始めまたは企てられるべき。
 samārabhyatama 形 [同上の最上]。
 sam-ārambha 男 事業, 企て, 計画; 進取の気性, 冒
 心(まれ); 初め, 開始(まれ), ときに=°ṇa 中 =°āla
 bhana; 営 梵千.; 事業, 発趣, 発起 *Bod*
bh → uttara ~ bhāvanā.
 sam-ārambhaṇa 中 つかむこと; 軟膏(=°lambha)
 sam-ārāgita 過受分 得 *Divy.*
 sam-ārāṇa 三過分 → R.
 sam-ā-Rādh, 使役 → Rādh.
 sam-ārādhana 中 満足させること, なだめること
 (圓)をなだめる手段。
 sam-ārādhaniya 未受分 なだめまたは満足させられ
 べき。
 sam-ārurukṣu 希求 形 (業) に登ろうと欲する。
 sam-ā-Ruh, → Ruh.
 sam-ārūḍha 過受分 → Ruh; 入, 乘 *Aṣṭ-*
Daś-bh., *Mvyut.*; 在, 載, 行, 安住 *Aṣṭ-pr.*;
 乘御 *Daś-bh.*; 伏 *Mvyut.*; 住 *Sūtr.*; 逼切, 勇
Bodh-bh.; ekamārga ~ 同行一道, 共一道行
ṣṭ-pr. 815; ekayāna ~ 同乘一缸, 同載一乘
pr. 815.
 sam-āropa 男 (因) の中に置くこと; (弓に弦を
 ること; (因)に移動させること; 帰属させるこ
 立 *Madhy-v.*, *Sūtr.*; 増 *Abh-vy.*; 益,
Lank.; 増益 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vib*

建立 *Bodh-bh.*, *Lank.*: ~m na karoti 不応安立有 *Sūtr.* 11. → pudgala~anta.
sam-āropana 甲 移動, (弓を)張ること.
samāropāpavāda 男 有無' *Lank.*, *Ratna-ut.*; 損益, 建立誹謗 *Lank.*; 増益損減 *Madhy-bh.*
samāropāpavādin 誹謗於有無, 建立及誹謗 *Lank.*
sam-āropika 形 増益 *Abh-vy.*
sam-āropita 過受分 のぼらしめられた, (薬)の中にまたは上に置かれた; 表示された; (弦を)張られた(弓); 載, 安値 *Ast-pr.*; 住, 安住 *Gaṇḍ-vy.*
samāropita-kārmuka 形 弓に弦を張った.
samāropita-bhāra 形 重荷を負わされた.
samāropita-vikrama 形 勇敢なことを示した.
sam-ārohaṇa 男 (園)にのぼること (Br.). 甲 (園) (一°)にのぼること; (毛髪の)生長.
sa-mārgaṇa 形 矢で装備した.
samārgaṇa-guṇa 形 矢と弦を装備した.
sam-ārjana 積集 *Gaṇḍ-vy.*
sam-ārjita 過受分 起, 積集, 修集, 所修 *Gaṇḍ-vy.*
samārthaka 形 同一の意義をもつ.
samārthatā 女 同利 *Sūtr.*
sa-mārdava 形 柔軟性をもつまたはともなった.
samārbuda (°mā-ar°) 甲 十億年.
samārṣa (°ma-ār°) 形 同一の聖仙から出た.
sam-ālakṣya 未受分 目に見える, 知覚しうる.
sam-ā-Lap, → Lap.
sam-ālabdha 過受分 → Labh.
sam-ā-Labh, → Labh.
sam-ā-Lamb, → Lamb.
sam-ālabmbha 男 (犠牲獣を)殺すこと; 軟膏: 一° 形 …で塗油された.
sam-ālabmbhana 甲 (a-の形で); 軟膏.
sam-ālāpa 男 (saha; まだ anyonya-)との会話.
sam-ā-Likh, → Likh.
sam-ā-Liṅg, → ā-Liṅg.
sam-āliṅgana 甲 抱擁.
sam-āliṅgita 過受分 抱き締められた等.
sam-ā-Lip, → Lip.
sam-ā-Luḍ, かきまぜる, (圓)とまぜ合わせる; 動揺させる, 混乱させる. <Luḍの補遺>
sam-ā-Lok, → Lok.
sam-āloka 男 見ること.
sam-ālokana 甲 [同上]; 注視, 熟考, 検査.
sam-ālokin 形 (一°)を吟味または精査した.
sam-ā-Loc, → Loc.
sam-ā-locin 形 =samālokin.
sa-mālyā 形 花環を戴いた, 花環で飾られた.
samāvaj-jāmi 形 一様な (Br.).
samāvat 形 (因)類似した, 同等に大きいまたは多い.
sam-ā-Vad, 確実に肯定する, 言明する, 陳述する. <Vadの補遺>
samāvad-virya 形 同じ位強い (因).
sam-ā-Vap, → Vap 2.
sam-āvarjana 合和 *Mvyut.*
sam-āvarjita 使役 過受分 → Vrj; 掃滌 *Bodh-*

bh.

samāvarjita-ketu 形 (自己の)旗幟をおろした.
samāvarjita-netra-śobha 形 目を伏せた.
sam-āvarta 男 (因)に帰ること.
sam-āvartana 甲 帰ること, 再び入ること, 復帰; (*Veda*の学習を完了したのち子弟が)家に帰ること またその儀式; 雲集 *Ratna-ut.*
sam-āvartita 過受分 家に帰った(弟子).
sam-ā-Vas, → Vas 3.
sam-ā-Vah, → Vah.
sam-āvaha 形 (一°)をもたらすまたは生ずる.
sam-āvāpa 男 (聖火を)混ぜることまたはその儀式.
sam-āvāya 男 samavāyaの韻律.
sam-āvāsa 男 住所, 住宅.
samāvāsaya, 名動 → vāsaya 2.
sam-āvāsita 過受分 → Vas 3.
samāvāsita-kaṭaka 男 野営を設置した人.
sam-āvigna 過受分 動揺した, 恐れた, 震える.
sam-ā-Vid, 使役 → Vid 1.
sam-āviddha 過受分 → Vyadh.
samāvilaha-dantatā 女 齒齊密相, 齒齊不疎相, 齊平其齒無隙 *Bodh-bh.* → dvātr̥ṣān mahā-puruṣalakṣaṇa.
sam-ā-Viś, → Viś.
sam-āviṣṭa 過受分 → Viś.
sam-ā-Vṛ, → Vṛ 1.
sam-ā-Vṛj, → Vṛj.
sam-ā-Vṛt, → Vṛt.
sam-āvṛta 過受分 → Vṛ 1.
sam-āvṛtta 過受分 → Vṛt.
samāvṛtta-vrata 形 自己の(宗教的)誓いを完成した.
sam-āvṛtti 女 =samāvartana.
sam-āveśa 男 入ること; (一°)に専心すること; 同時に起こること, 共存(普通の意味); (一°)に同意・一致または相応すること.
sam-ā-Vyadh, → Vyadh.
sam-ā-Vraj, 帰る, 再び来る. <Vrajの補遺>
sam-ā-Śams 固 (園)を信頼または信用する.
samāśaya (°ma-ās°) 等心 *Sūtr.*: ~ena dhārayanti 等心 *Sūtr.* 19.
sam-āśāsti 女 求 *Sūtr.*; 希望 *Sūtr.*
sam-āśraya 男 (一°)との連結・関連; 隠れ場, 避難所, 救護所(普通の意味); 住所, 居住; 関係, 参考(まれ); (一°)に依拠すること. ~āt 固 …の結果, …によって. 形 (一°)に居住または位置している; …に関係している; 依止 *Ratna-ut.*, *Vijñ-t.*; 等依 *Vijñ-t.*; 成身, 境界, 諸境界 *Lank.*
sam-āśrayaṇa 甲 (一°)に頼るまたは属すること.
sam-āśrayaṇiya 未受分 庇護を求められるべき; 奉仕されるべき. 男 主人(因:samāśrita 召使い).
sam-āśrayin 形 (一°)を占有しているまたは手に入れている.
sam-ā-Śri, → Śri.
sam-āśrita 過受分 → Śri; 因 *Madhy-v.*; 依 *Madhy-v.*, *Sūtr.*; 住, 安住 *Gaṇḍ-vy.*; 依止

Śikṣ.; 取境界 *Lank.* 男 召使い。
samāśritatva 田 (一°, …の保護) にたよっていること。
samāśritavat 過能分 → Śri.
sam-ā-Śliṣ, → Śliṣ.
sam-ā-śliṣṭa, → Śliṣ.
sam-āśleṣa 男 抱擁。
sam-ā-Śvas, → Śvas.
sam-āśvasta 過受分 → Śvas.
sam-āśvāsa 男 蘇生, 救助, 激励; 慰め。
sam-āśvāsana 田 激励すること, 慰めること; 慰安; 安穩 *Śikṣ.*
sam-āśvāsita 使役 過受分 生き返らされた, 蘇生した, 元気を回復した; 寛意, 押領平定 *Divy.*: ~citta 安慰心, 正希望心 *Gand-vy.* 741.
sam-āśvāsya 未受分 慰められるべき。
sam-Ās, → Ās.
sam-āsa 男 [一緒に置くこと: As 2.] 結合, 連合 (*Br.*, *S.*); 凝縮, 簡潔な陳述; 合成語 (文法); 總 *Abh-vy.*; 略 *Abh-vy.*; *Bodh-bh.*, *Lank.*; 語積 *Mvyut.*: ṣaṭ ~āḥ 六合積 [1. dvandvaḥ 相違, 以傍折弁, 2. dviguḥ 雙粉, 3. tatpuruṣaḥ 依主, 彼男子, 4. bahuvrihiḥ 多財, 多子, 5. avyayibhāvaḥ 不変, 不可尽, 6. karmadhārayaḥ 持業, 持事] *Mvyut.* 209. ~ena 男 充分に, 全く (確かめる). ~ena 男, ~āt 從, °—, ~tas 簡潔に, 簡単に, 手短かに; 總 *Abh-vy.*; 略 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Ratna-ut.*, *Sāmkhy-k.*, *Sūtr.*; 略説 *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*; 略觀察 *Lank.*; 以要言之 *Bodh-bh.*; 実縁起要 *Lank.*
sam-āsakta 過受分 → Sañj.
sam-āsakti 因 (因) に対する執着. 男 専心に.
sam-āsaṅga 男 (因) への(仕事の)譲渡。
sam-ā-Sañj, → Sañj.
sam-āsatti 因 近接, 近隣。
sam-ā-Sad, → Sad.
samāsa-nirdeśa 男 略説 *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*: ~tas 略説 *Daś-bh.* 125.
sam-āsanna 過受分 → Sad.; 受, 近, 起, 隣逼, 漸次趣入 *Bodh-bh.*
samāsama 形 同 等と不等の(階級についても).
samāsa-vistara 男 若略若広 *Bodh-bh.*
samāsa-saṅgraha-nirdeśa 男 略説, 撮在一処 略説 *Bodh-bh.*
samāsānta 男 合成語の末尾 (につけられる) 後接字 (文法).
samāsārdha 形 半月を伴った。
sam-ā-Sic, → Sic.
samāsūtraya, 名動 → sūtraya.
sam-ā-Sev, → Sev.
samāsokta (°sa-uk°) 形 簡潔に表現された; 合成語に含まれた。
samāsokti (°sa-uk°) 因 簡潔な表現法 (甲の行為が, その作用・性または属性に関して類似しているために, 問題になっている対象乙に帰せられる修辭法の

一種, 例えば「賢者は, どうして自分の野心を完うしてしまふまで, 女性のことを考えることが出来ようか? 太陽は全世界を越えてしまふまで夕焼を求めない」).
sam-ā-Sthā, → Sthā.
sam-āsthita 過受分 → Sthā.
sam-ā-Svad, → Svad.
sam-āhata 過受分 → Han.
sam-ā-Han, → Han.
sam-āhara 形 (一°) を破壊する。
sam-āhartṛ 男 収税官(官吏); 市井, 収税, 収貢者 *Mvyut.*
sam-āhāra 男 集合, 要約; 総計; 収集, 集めること; (感官を外界から) 撤収すること; (感官の) 制御。
sam-āhita 過受分 → DHā 1.; 定 *Abh-vy.* *Aṣṭ-pr.*, *Divy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Sūtr.*, *Vijñ.* t.; 和 *Daś-bh.*; 得…定 *Divy.*; 定心 *Sūtr.*; 安布 *Śikṣ.*; 不離 *Suv-pr.*; 等引 *Abh-vy.*; 寂靜 *Gand-vy.*, *Sūtr.*; 無不定, 平等住, 住平等 *Mvyut.*; 樓正定 *Śikṣ.*; 入禪定 *Saddh-p.*; 於定已入 *Aṣṭ-pr.* 定淨(菩薩) *Sūtr.*; 安住三昧 *Lank.*; 三昧 *Lank.*; 三摩呬多 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*
samāhita-citta 形 定心, 心已定, 禪定已 *Sūtr.*; 心得定 *Bodh-bh.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*; 心已善一 *Bodh-bh.*
samāhitatva 田 定, 寂靜 *Sūtr.*
samāhita-bhūmika 形 三摩呬多地 *Bodh-bh.*
samāhita-mati 形 注意深い心をもった。
samāhita-manas 形 心を專注した; 等引心 *Śikṣ.*
samāhita-yogin 男 具勝三昧慧 *Ratna-ut.*
samāhitātman (°ta-āt°) 善定 *Sūtr.*
sam-āhitikā 因 [人名].
sam-ā-Hu, → Hu 2.
sam-āhuta 過受分 → Hu 2.
sam-ā-Hṛ, → Hṛ 1.
sam-āhṛta 過受分 → Hṛ 1.
samāhṛtodyama (°ta-ud°) 常無有休息 *Ratna-ut.*
sam-āhva 形 (一°) と同じ名前を有する。
sam-ā-Hvā, → Hvā.
sam-āhvaya 男 挑戦; 鬪争; (動物の) 格闘にかけすること; 名称, 名前。
sam-āhvātṛ 男 (因) への挑戦者。
sam-āhvāna 田 呼びかけること, 呼び集めること, 集; (戦うまたは遊ぶための) 挑戦, 召集。
sam-I, → I.
samiñjita 過受分 (*sammiñjita* の不確); 屈 *Bodh-bh.*
sam-it 因 [集まること: I] 鬪争, 戦争。
sa-mita 過受分 同量の, (因, 一°) と等しい; 量らた. ~m 副 常に; 相續 *Abh-vy.*
sam-ita 過受分 → I.
sam-iti 因 因, 圍: 集まること, 会うこと; 會議, 集合 因: 策略, 同盟; 圍: 鬪争, 戦闘; 結合 (まれ) 調定 *Daś-bh.*: ~m *asamitiṃ kṛtvā* 衆了己 *Divy.* 41.

samitiṃ-jaya 𠄎 戦闘に勝った。
sam-itha 𠄎 遭遇, 闘争 (RV.).
samid-idhma-vraścana 𠄎 (種々の) 薪を割る。
sam-iddha 𠄎 過受分 → Idh.
samidhâgni 𠄎 その聖火が点じられた (RV.).
samidhârthaka 𠄎 [人名].
samidvat 𠄎 燃料が与えられた (火; 𠄎); samidh と
 言う単語を含んだ (𠄎).
sam-idh 𠄎 燃え上る (RV. 用例一回のみ). 𠄎 丸太, 燃
 料 (普通の意味; 𠄎, 𠄎); 炎 (𠄎); 𠄎 薪, 祠薪
Divy. ~e 𠄎, 𠄎 不定 点火されるべき。
sam-idha, —° 𠄎 =samidh. 𠄎 柴 *Mañj-m.*; 燒木 *Mvyut.*
sam-Indh, → Idh, Indh.
sam-indhana 𠄎 点火すること; 燃料。
sam-ika 𠄎 [samyāñc の 𠄎 𠄎 から] 遭遇, 闘争, 戦
 い (𠄎, 𠄎); 𠄎 [ある Rṣi の名] (𠄎 𠄎).
sami-karaṇa 𠄎 平らにすること; 同化; (𠄎) と同じ
 高さにする; 平等にすること, 整頓すること; 𠄎
 一様和合 *Mvyut.*
sami-kartavya 𠄎 未受分 𠄎 応…坦蕩 *Gaṇḍ-vy.*: ~
 m' manyeta 謂相等 *Aṣṭ-pr.*
sami-Kṛ, 水平にする; 壊滅させる; 平等にする; と
 等しくする, (𠄎) と等しいと宣言する; 調節する;
 調停する; 𠄎 為相等, 等無有異 *Aṣṭ-pr.*; 究竟
 平等, 解了平等 *Gaṇḍ-vy.*
sami-kṛti 𠄎 秤ること。
sam-īkṣ, → *īkṣ.*
sam-īkṣaṇa 𠄎 𠄎 見 *Abh-k.*
sam-īkṣā 𠄎 知覚すること, 見ること; 見ようとする
 願望; 瞥見; (に) 関する, (*prati*) 意見; 深い洞察。
sam-īkṣitavya 𠄎 未受分 見出されるべき。
sam-īkṣya 𠄎 未受分 [同上]. 𠄎 *Sāṃkhya* (数論) 哲
 学。
samicina 𠄎 [samyāñc の 𠄎 𠄎 から] 一緒に向けら
 れた(すなわち中心に向って), 結合された, 完全な (𠄎);
 正確な, 正しい, 適した, 適当な (𠄎).
sam-īd, → *īd.*
samipa 𠄎 近い (時間についても), 手近の, 隣接し
 ている, 接近した; 𠄎 近 *Abh-vy.*, *Śikṣ.*, 梵千,
 梵維; 辺 *Abh-vy.*, *Suv-pr.*; 前 *Suv-pr.* 𠄎 近隣,
 接近, 面前; 切迫; 𠄎; 処 *Divy.* ~m (𠄎, —°)
 の方へ (運動を示す 𠄎 とともに). ~āt 𠄎 (𠄎, —°)
 から. ~tas 𠄎 手近に; (𠄎, —°) の近くにまたは
 面前で. ~e 𠄎 手近に; (𠄎, —°) の近くに・の
 側に・において・の前に・の面前で; (𠄎, —°) の
 方へ (運動を示す 𠄎 とともに); °— 手近に。
samipa-ga 𠄎 (𠄎, —°) に同伴する・の手近に また
 はの側に立っている。
samipa-gamana 𠄎 (𠄎) に近づくこと。
samipa-ja 𠄎 (𠄎) の近くになる; (—°) の近くにま
 たは許に来る。
samipatara-vartin 𠄎 より近くにいる。
samipatā 𠄎 近接。
samipatva 𠄎 [同上].
samipa-deśa 𠄎 近接地, 近隣。

samipa-nayana 𠄎 (𠄎) に導くこと; 𠄎 将導…去
Sutr.
samipa-vartin 𠄎 (𠄎) の近くにある。
samipa-vāsin 𠄎 𠄎 近住 *Śikṣ.*
samipa-stha 𠄎 (𠄎, —°) の近くにある; 近接の;
 差迫った (死).
samipa-sthāna 𠄎 近接, 接近。
samiya, 𠄎 𠄎 (𠄎) によって等しいものとして扱わ
 れるまたは考えられる。
sam-īr, → *īr.*
sam-ira 𠄎 風 (また身体中の).
sam-iraṇa 𠄎 動かす; 刺戟する. 𠄎 風; 風神。
samira-lakṣman 𠄎 (風のしるし), 塵。
samirita 𠄎 過受分 かき立てられた, 動かされた, 投げ
 上げられた, 投げられた; 発せられた, 出された
 (音); 𠄎 放, 動 *Lank.*; 教令 *Lal-v.*
sam-īh, → *īh.*
sam-ihā 𠄎 欲望, 切望, (—°) を求めること。
sam-ihita 𠄎 過受分 → *īh.* 𠄎 欲望, 願望; 𠄎 揺動
Lal-v.
sam-ukṣaṇa 𠄎 (水を) ふりまくこと, 水をかけるこ
 と。
sam-ukti 𠄎 𠄎 総説 *Abh-k.*, *Abh-vy.*; 総集 *Abh-*
vy.
sam-Uc, → *Uc.*
sam-ucita 𠄎 過受分 → *Uc.*
sam-uccaya 𠄎 (一緒に積上げること), かたまり, 多
 数; 総体, 集合体; (ca の) 接続的意味 (𠄎: *vika-*
lpa, *vā* の分離的意味); 𠄎 身, 種 *Lank.*; 集,
 積集 *Śikṣ.*
samuccayopamā (°ya-up°) 𠄎 「単に…のみならず…
 もまた」の意味をもつ直喩。
sam-uc-Cal, → *Cal.*
sam-uccāraṇa 𠄎 同時に発言または発音すること。
sam-uc-Ci, → *Ci 1.*
sam-ucciciṣā 𠄎 [*Ci* から] 集めるまたは要約しようと
 する願望。
sam-uccita 𠄎 過受分 蓄積された, 一緒に集められた,
 規則的に配列された; 𠄎 集 *Śikṣ.*
sam-ucciti-Kṛ, 結合する。
sam-uccetavya 𠄎 未受分 (一方のみならず他方も) 一緒
 に取られるべき。
sam-ucceya 𠄎 未受分 [同上].
sam-ucchitti 𠄎 𠄎 伐 *Divy.*; 断 *Vijñ-t.*
sam-uc-CHid, → *CHid.*
sam-ucchinna 𠄎 過受分 ずたずたに引き裂かれた, 根こ
 そぎにされた, 根絶された, 全く破壊された, 失わ
 れた; 𠄎 滅 *Śikṣ.*; 停息, 棄捨 *Lal-v.*; 永断
Bodh-bh.; 永滅無余 *Suv-pr.*
samucchinna-kuśala-mūla 𠄎 𠄎 断善根(者) *Abh-*
vy.; 普断諸善法 *Sutr.*
sam-uccheda 𠄎 完全な破壊, 根絶; 𠄎 絶 *Divy.*; 断
Abh-vy.; *Bodh-bh.*; *Suv-pr.*; 滅, 令捨 *Gaṇḍ-*
vy.; 永断 *Divy.*, *Lal-v.*; 除断 *Lal-v.*; 断滅 *Ma-*
dhy-vibh.; 断壊 *Bodh-bh.*, *Suv-pr.*..
sam-ucchedana 𠄎 [同上]; 𠄎 断 *Sutr.*

sam-ucchraya 形 生長する(生物). 圓 直立, 高めること(まれ); 高さ, 長さ; 高所, 山(まれ); 上昇, 高揚, 高い地位; 増大, 刺戟; 高 *Saddh-p.*; 身 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*; 量, 高擧 *Śikṣ.*; 崇高 *Divy.*; 化身 *Bodh-bh.*; 尊位, 貢高, 極尊貴位 *Bodh-bh.*

samucchrāya 圓 上昇すること, 増大, 生長, 高さ, 高位; 高 *Abh-vy.*; 勝事 *Bodh-bh.*

sam-uc-CHri (-Śri), → Śri.

sam-ucchrita 過受分 十分に上げられたまたは高められた; 大波が立つ, 高い; 昇進した, 力ある; 高 *Saddh-p.*; 立 *Mvyut.*; 覆 *Raṣṭr.*; 建立 *Bodh-bh.*; 所起 *Daś-bh.*; 高建 *Daś-bh.*; 高頭 *Saddh-p.*

sam-uc-CHvas (-Śvas), → Śvas.

sam-ucchvasita 過受分 深く呼吸するまたは嘆息する(甲は非入に用いられる). 甲 呼吸すること, 深い嘆息.

sam-uj-Jṛmbh, → Jṛmbh.

sam-uj-Jval, 形 激しく燃え上る, 非常に明るく輝く. 使役 火をつける, 点火する. <Jval の補遺>

sam-ujjala 形 輝く, 光る, (一°)においてまたはで素晴らしい.

sam-Ujjh, → Ujjh.

sam-utka 形 (一°)を切望している.

sam-utkaṇṭakita 過受分 毛を逆立てた, 身振りした.

sam-utkaṇṭhā 女 (一°)に対する切望.

sam-utkarṣa 男 (帯を)脇へおく; 高級, 高位; 傑出, 卓越; 実出 *Mvyut.*; 称誉 *Divy.*

sam-utkirṇa 過受分 → Kṛ.

sam-ut-Kṣip, → Kṣip.

sam-utkṣepa 男 (因)へ(ヒントを)与えることまたは暗示.

sam-uttāra 男 (一°)に打克つことまたは救済すること.

sam-ut-Tij, → Tij.

sam-uttirṇa 過能分 超 *Suvik-pr.*

sam-uttuṅga 形 高い.

sam-ut-Tī, → Tī.

sam-uttejaka 男 利, 讃励 *Aṣṭ-pr.*

sam-uttejana 甲 励ますこと, 教唆すること; 讃励, 照明 *Bodh-bh.*; 真実讃 *Mvyut.*

sam-uttejayitavya 未受分 所応讃励 *Bodh-bh.*

sam-uttejita 過受分 非常に興奮した・憤激したまたはいらいらした; 利 *Saddh-p.*

sam-ut-Tras, → Tras.

sam-uttha 形 (從, 一般に 從 ときとして 因 の意味をもつ単語とともに 一°)から生起する・生れた・造られたまたは派生した; (一°)に現われる; 所起, 等起, 発起 *Abh-vy.*

sam-ut-THā (-Sthā), → Sthā.

sam-utthāna 甲 起ること, 起上ること; (旗を)揚げること; (財産: 屬)の増大; (胃: 屬)の膨らむこと; 計画, 業務, 活動; 治療; *sambhūya*~ または *ekibhūya*~, 共同事業, 組合営業; 一°から生起するまたは造られた; 因 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*; 起 *Bodh-bh.*; 出 *Lal-v.*; 募 *Mvyut.*; 能発, 縁起

Abh-vy.; 起処 *Bodh-bh.*; 等起 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*; 発起 *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*; 所起処 *Bodh-bh.*; 普尋惹 *Mvyut.*

samutthānopāya (°na-up°) 圓 集起(業)方便 *Sūtr.*

sam-utthāpaka 形 起し上げる, 目ざめさせる, かきたてる(弘教); 発起, 引発, 能起 *Abh-vy.*; 普尋者 *Mvyut.*; 等起者 *Suvik.*

sam-utthāpana 甲 起, 発起, 勸立 *Daś-bh.*

samutthāpanatā 女 発起 *Bodh-bh.*

sam-utthāpika 形 生, 発 *Abh-vy.*; 成 *Sapt-pr.*

sam-utthāpita 過受分 有 *Ratna-ut.*; 発 *Abh-vy.*; 所起 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*; 所発 *Bodh-bh.*; 所発起 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*; 縁起生 *Abh-vy.* → a~.

sam-utthita 過受分 → Sthā.

sam-ut-Pat, → Pat 1.

sam-utpatana 甲 一諸に飛び上ること.

sam-utpatti 女 起原, 出生; 生 *Abh-k.*; 出世 *Gaṇḍ-vy.*

sam-utpattika 形 生 *Abh-vy.*

sam-ut-Pad, → Pad.

sam-utpanna 過受分 造られた, 生起された; 生 *Bodh-bh.*, *Lank.*; 起 *Bodh-bh.*; 所生 *Bodh-bh.*; 已生 *Abh-k.* → pratitya~.

sam-utpāda 男 産出; 生 *Lank.*; 起 *Madhy-bh.*, *Sam-r.*; 発 *Sūtr.*, 生起 *Madhy-bh.*; *Ratna-ut.*; 発心 *Sūtr.* → pratitya~.

sam-utpādita 過受分 深生 *Bodh-bh.*

sam-utpādya 未受分 造られるべきまたは惹起されるべき.

sam-utpiñja 男 混乱; 無秩序.

sam-utpidana 甲 圧迫すること, 締めつけること.

sam-utphulla 過受分 広く開かれた(眼).

sam-ut-Sad, → Sad.

sam-utsarga 男 (尿等の)排出; (精液の)射出; 施 *Bodh-bh.* ~m Kṛ (因)と性交する.

sam-utsāraka 形 分散する, 駆り立てる.

sam-utsāraṇa 甲 分散すること, 駆り立てること; 追い散らすこと, 撤去すること.

sam-utsāha 男 精力.

samutsāhatā 女 (因)に敏活であること.

samutsāhanatā 女 勸 *Sam-r.*

sam-utsuka 形 動揺した, 不安な, 心配な; (一°)を切望する, しきりに(不定)したがつている.

samutsukatā 女 願望, 切望.

samutsukatva 甲 動揺; 恋慕の情緒.

samutsukaya, 名動 恋慕の気持で一杯にさせる.

sam-ut-Sṛ, → Sṛ.

sam-ut-Sṛj, → Sṛj.

sam-ut-Sṛp, → Sṛp.

sam-utsṛṣṭa 過受分 一緒に注がれたまたは流された, 放出された; 全く放棄されたまたは捨てられた.

samutsṛṣṭaiṣaṇa (°ta-eṣ°) 形 棄尋覓 *Mvyut.*

sam-utsedha 男 高めること, 高さ.

sam-uthāpika 形 成 *Sapt-pr.*

sa-mud 形 喜ぶ.

sam-Ud, → Ud.

sam-udakta 過受分 → Ac, Añc.

sam-ud-Ac, → Ac, Añc.

sam-udanta 形 端の上にあがる; まさに溢れ出ようとする.

sam-udaya 男 連合, (諸力の) 合体; 結合, 衆合; 収入, 歳入(まね); 成功(まね); 生 Ratna-ut.; 合 Samkhy-k.; 集 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Ratna-ut.; 起 Ratna-ut.; 集起 Divy.; 和合, 集会 Lank.; 積集 Gand-vy., Lal-v.; 集苦, 集諦, 集聖諦 Mvyut. ~m Kr, (軍隊を) 集めるまたは集合する.

samudaya-jñāna 中 知集, 集智 Mvyut.; 集(聖) 諦 Madhy-vibh.

samudaya-satya 中 集諦 Madhy-bh.

samudaya-svabhāva 男 集自性, 集性自性 Lank.

samudaya-hetu 男 集起 Ratna-ut.

sum-ud-ā-I, → I.

sam-udāgata 過受分 完全な知識を得た, (一) に卓れた(仏教); 生 Lal-v.; 得 Bodh-bh., Saddh-p.; 修学, 所集 Śikṣ.; 習成 Bodh-bh.; 所修, 修行 Lank.; 修集 Bodh-bh.; 証得 Sapt-pr.; 成就, 満足 Gand-vy.; 真修, 将得, 得真成, 真成得, 成真修 Mvyut.; 得智慧 Gand-vy.; 所集成 Bodh-bh. → a~.

samudāgata-phala 中 已習成果 Bodh-bh.

sam-ud-ā-Gam, → Gam.

sam-udāgama 男 完全なまたは全き知識(仏教); 尋, 習, 至, 帰 Daś-bh.; 知 Gand-vy.; 修 Gand-vy., Sūtr.; 集 Aṣṭ-pr.; Bodh-bh., Daś-bh., Śikṣ.; 果 Sūtr.; 証 Bodh-bh., Sūtr.; 成 Mvyut.; 得 Sūtr.; 成就 Bodh-bh., Daś-bh., Gand-vy., Ratna-ut.; 衆具, 功德 Lank.; 証入, 所証 Gand-vy.; 後証, 至得, 正勤, 集徳 Sūtr.; 成弁 Bodh-bh.; 究竟 Aṣṭ-pr.; 積集 Gand-vy.; 積聚 Śikṣ.; 円証 Bodh-bh.; 修証 Daś-bh., Madhy-bh.; 所集 Bodh-bh., Lank.; 能集, 具足 Bodh-bh.; 真得, 真修, 将得 Mvyut.; 習起 Madhy-vibh.; 所行, 成就行 Gand-vy.; 得具足 Sūtr.; 得真成, 真成得, 成真修 Mvyut.; 聚集起 Madhy-vibh.; 所成弁 Abh-vy.; 具足諸行 Gand-vy.; 作意修得 Sūtr.; 能円満証 Bodh-bh.: daśavidhaḥ ~ h 十種修証, 十種習起 Madhy-vibh. 255.

sam-udāgamana 中 集, 成就 Aṣṭ-pr.

samudāgama-pratyupasthānatva 中 能現証得 Bodh-bh.

samudāgama-mahattva 中 畏大(?) 果大 Sūtr.

samudāgama-hetu 男 集...因 Ratna-ut.

sam-ud-ā-Car, → Car.

sam-udācarita 過受分 話しかけられた(仏教); 換 Divy.

sam-udācāra 男 (一) の贈与, 提供; よいまたは礼儀正しい振舞; (圓) との交際; 話しかけること; 行 Bodh-bh., Gand-vy., Lal-v., Madhy-bh., Mvyut., Śikṣ., Sūtr., Vijñ-v.; 生 Gand-vy.; 作 Abh-vy.; 集 Mvyut., Ratna-ut.; 因 Mvyut.; 習

Ratna-ut.; 起 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Ratna-ut.; 普出 Mvyut.; 所行 Bodh-bh., Lank.; 作意 Sapt-pr.; 現行 Abh-vy.; Bodh-bh., Daś-bh., Madhy-bh.; 現起 Abh-vy., Madhy-vibh.; 起行 Madhy-vibh.; 行起 Abh-vy.; 集起 Ratna-ut.; 集行 Śikṣ.; 威儀 Buddh-c.; 造行, 起行 Madhy-bh.; 正現行 Bodh-bh.

samudācāratā 女 行 Sam-r.

sam-udācārin 形 行, 現行 Abh-vy.

sam-udāna 集, 具足 Daś-bh.

sam-udānaya 男 集めること, 集合; ひき起すこと, 成就, 完成(仏教); 合 Av-ś.; 修集 Bodh-bh., 円満 Lal-v.; 妙合, 妙説, 妙聚故 Mvyut.

samudānaya 中 集 Daś-bh., Kāśy., Śikṣ.; 合 Mvyut.; 修 Kāśy., Mvyut.; 具 Kāśy.; 積集 Daś-bh., Śikṣ.; 積累 Daś-bh.; 引導, 修証 Bodh-bh.

sam-udānaya 過受分 成弁 Raṣṭr.

sam-udānaya 未受分 應積集 Gand-vy.; 應修習 Kāśy.; 可得成 Saddh-p.

sam-udānitavat 過能分 (=samudānitavat); 円満 Sukh-vy. I.

sam-ud-ā-Ni, → Ni.

sam-udānita 過受分 集 Saddh-p.; 習 Bodh-bh.; 得 Aṣṭ-pr.; 弁 Divy.; 已証 Aṣṭ-pr.; 調和 Lal-v.; 所集 Sapt-pr., Śikṣ.; 積集, 修集 Gand-vy.; 合集 Lal-v.; 修習, 造行 Saddh-p.; 化作 Divy.; 習所成 Bodh-bh. → a~.

samudānitavat 過能分 成, 円満 Sukh-vy. I.

sam-udānetavya 未受分 取, 採取 Divy.

sam-udānetṛ 男 集者 Daś-bh.

sam-udāya 男 結合, 収集, 集合, 全体; 類(圓象類); 聚集 Abh-vy., Śikṣ.

samudāyārtha 男 総義 Mvyut.

sam-udāyin 形 結合する, 集合を作る.

sam-udāhāra 男 会話; 演説 Lal-v.

sam-udāhāraka 語 Lal-v.

sam-ud-ā-Hṛ, → Hṛ 1.

sam-udāhṛta 過受分 → Hṛ 1.

sam-ud-I, → I.

sam-udita 1. 過受分 → I.; 聚, 総 Mvyut.; 総集 Abh-vy.; 具 Sūtr.; 増 Śikṣ.; 蔵 Divy.; 備具 Lal-v.; 具足 Lank.

sam-udita 2. 過受分 → Vad.

sam-uditatva 中 集 Abh-vy.; 集成 Bodh-bh.

samudita-mukha 形 異口同音の, 同時の.

sam-ud-Īkṣ, → Īkṣ.

sam-ud-Īr, → Īr.

sam-udiraṇa 中 動かすこと, 動くこと; 声をはりあげること, 声を立てること, 発音すること, 読誦すること; 等動 Bodh-bh.; 飄動, 輕転動 Lank.

samudiraṇatva 中 揺 Mvyut.; (輕) 動等性 Śikṣ.

sam-udirṇā 女 動, 輕動 Abh-vy.

sam-ud-Iṣ, → Iṣ.

samudga 男 まるい小箱; 人工的詩節の一種(一詩節

の前半と後半とが音形を同じくし、意味を異にするもの：例 *Kiratārjunīya XV, 16*); 𑀓𑀲𑀭 篋, 器篋 *Nvyut*.

samudgaka 𑀓𑀲 𑀧 丸い小箱; 𑀓𑀲𑀭 函 *Suv-pr.*

sam-ud-Gam, → *Gam.*

sam-udgama 𑀓𑀲 (太陽が) 昇ること, (塵が) 立つこと (乳房が) 隆起すること; 𑀓𑀲𑀭 涌出 *Saddh-p.*

sam-udgata 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 → *Gam.*; 𑀓𑀲𑀭 出 *Gand-vy.*; 生, 積 *Lal-v.*; 盛 *Mvyut.*; 起 *Sam-r.*; 出生 *Gand-vy.*; *Mañj-m.*; 無上, 高出, 安峙, 涌出 *Gand-vy.*; 等起 *Sam-r.*; 成就 *Lal-v.*; 等涌, 高峻 *Mvyut.*; 所生起 *Lal-v.*; 眞実勝 *Mvyut.*

sam-ud-GHaṭ, → *GHaṭ.*

sam-udghaṭana 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 吐出, 拔出 *Daś-bh.*

sam-udghāṭa 𑀓𑀲 取り去ること, 撤去.

sam-udghāṭana 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 開 *Saddh-p.*

sam-udghāṭin 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 除 *Saddh-p.*

sam-udghāta 𑀓𑀲 除去, 破壊, 根絶 (仏教); 𑀓𑀲𑀭 拔 *Gand-vy., Lank.*; 断 *Lank., Sūtr.*; 消 *Mvyut.*; 除 *Lal-v.*; 壊 *Śikṣ.*; 滅 *Abh-vy.*; 拔除 *Abh-vy., Lal-v.*; 除滅 *Abh-vy., Daś-bh.*; 被害 *Abh-vy.*; 永害, 断除 *Bodh-bh.*; 拔断 *Gand-vy.*; 消伏, 摧伏 *Śikṣ.*; 遠離 *Ratna-ut., Sam-r.*; 永尽 *Ratna-ut.*

sam-udghātita-śukla-dharma 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 普断諸白法 *Sūtr.*

sam-uddaṇḍa 𑀓𑀲𑀭 振り上げた (腕).

sam-ud-Diś, → *Diś.*

sam-uddiśya 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 不變分 → *Diś.*

sam-uddeśa 𑀓𑀲 説明, 教義; 地方, 場所.

sam-uddhata 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 → *Han.*

samuddhata-lāṅgūla 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 尾をピンと立てた.

sam-ud-DHan, → *Han.*

sam-uddhanana 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 皆笑, 永令笑, 永令野 *Mvyut.*

sam-uddharaṇa 𑀓𑀲 𑀓𑀲 上げること, 救出; 除去.

sam-uddharṭṛ 𑀓𑀲 (太洋, 危険: 𑀓𑀲) からの救助者; 撲滅者.

sam-ud-DHā, → *Hā 1.*

sam-uddhānana 𑀓𑀲 = *samuddhanana.*

sam-uddhāra 𑀓𑀲 抽出; 救済; 撤去, 破壊.

sam-ud-DHṛ, → *Hṛ 1.*

sam-ud-DHṛ, → *DHṛ.*

sam-uddhṛta 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 抜 *Lal-v.*

sam-ud-Bandh, → *Bandh.*

sam-udbandhana 𑀓𑀲 𑀓𑀲 吊るすこと. *ātmanah* ~ 縊死.

sam-ud-Barh, → *Barh 1.*

sam-ud-Budh, → *Budh.*

sam-udbodhana 𑀓𑀲 正気にかえること, 蘇生.

sam-udbhava 𑀓𑀲 産出, 起源; 現われること: 一° 𑀓𑀲 から生ずるまたは造られる, の源泉である; 𑀓𑀲 生 *Divy., Lank.*; 起 *Sūtr.*; 生起 *Budh-c.*

sam-udbhāsana 𑀓𑀲 照らすこと.

sam-ud-BHās, → *BHās.*

sam-ud-BHū, → *BHū.*

sam-udbhūta 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 → *BHū.*

sam-udbheda 𑀓𑀲 起源, 源泉.

sam-udbhrānta 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 → *BHram.*

sam-udyata 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 𑀓𑀲𑀭 → *Yam.*

sam-ud-Yam, → *Yam.*

sam-udyama 𑀓𑀲 持上げること; (𑀓𑀲, 𑀓𑀲, 一°) に対する尽力, 努力, 労働, に従事すること.

sam-udyamin 𑀓𑀲 努力する, 熱心な.

sam-ud-Yuj, → *Yuj.*

sam-udyoga 𑀓𑀲 使用, 利用(まね); 準備, 用意; 精力; (諸併因の) 併発

sam-udra 1. 𑀓𑀲 氷の集り, 天界の水 (𑀓𑀲); 海, 大洋 (𑀓𑀲𑀭: 7つ, 3つ, しかし一般に4つの海が数えられる); 大きな *Soma* の桶; 𑀓𑀲 海 *Abh-vy., Av-ś., Divy., Lank., Mvyut., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr.,* 梵雜, 梵千; 溟 *Bodh-bh.*; 大海 *Gand-vy., Mvyut., Saddh-p., Sūtr., Suv-pr.*; 巨海 *Lank.*; 十載 [數名] *Mvyut.*

sa-mudra 𑀓𑀲 捺印してある.

samudra-kaccha 𑀓𑀲 𑀓𑀲 海岸, 海澗, 海門処 *Gand-vy.*

samudra-kallola 𑀓𑀲 (大洋の波), [ある象の名].

samudra-ga 𑀓𑀲 海へ行くまたは流れ行く.

samudra-gamana 𑀓𑀲 𑀓𑀲 渉海 *Divy.*

samudra-gā 𑀓𑀲 河.

samudra-ja 𑀓𑀲 海中に生じたまたは見出された. -

samudra-jyēṣṭha 𑀓𑀲 大洋をその首領とする(水)(RV. 用例一回のみ).

samudra-taraṅga 𑀓𑀲 𑀓𑀲 海波浪, 大海水波 *Lank.*

samudra-tira 𑀓𑀲 海岸; 𑀓𑀲 海岸 *Divy.*

samudra-tiriyaka 𑀓𑀲 住海岸, 住海岸津辺 *Mvyut.*

samudra-datta 𑀓𑀲 [人名].

samudra-nemi 𑀓𑀲 (𑀓𑀲-i) 海に囲まれた(地球). -i 𑀓𑀲 地球.

samudra-patni 𑀓𑀲 海の妻, 河.

samudra-paryanta 𑀓𑀲 海に達する(大地); 𑀓𑀲 海辺 *Mvyut.*; 尽(大)海際 *Suv-pr.*: ~ ṃ pṛthivitalam 四海所有土地 *Suv-pr. 112.*

samudraparyanta-mahāpṛthivi 𑀓𑀲 大地闊辺 *Sūtr.*

samudra-phena 𑀓𑀲 (海の泡), (浮く程軽い) いかの骨

samudra-mathana 𑀓𑀲 大洋の攪拌.

samudra-malaya-śikhara 𑀓𑀲 𑀓𑀲 (音写) 南海海楞伽山頂, 大海畔摩羅耶山頂上, 大海浜摩羅耶山頂 *Lank.*

samudra-yātrā 𑀓𑀲 航海.

samudra-yāna 𑀓𑀲 [同上].

samudra-yāyin 𑀓𑀲 船乗り.

samudra-yoṣit 𑀓𑀲 (海の妻), 河.

samudra-raśana 𑀓𑀲 海に囲まれた(地球).

samudravat 𑀓𑀲 如海 *Sūtr.*

samudra-varman 𑀓𑀲 [ある王子の名].

samudra-vallabhā 𑀓𑀲 (海の愛人), 河.

samudra-yasana 𑀓𑀲 海を衣服とした, 海に囲まれた(地球).

samudra-vāsas 𑀓𑀲 (海を衣服とした), 水の中に覆たまたはかくされた (*Agni* 神, RV. 用例二回のみ).

samudra-veṭāḍin 𑀓𑀲 𑀓𑀲 海潮, 海潮処 *Gand-vy.*

samudra-velā 𑀓𑀲 上げ潮.

samudra-vyavahārin 形 海上貿易をする。
 samudra-śukti 因 海貝。
 samudra-śūra 男 [ある商人の名]。
 samudra-sena 男 [人名]。
 samudrānta 男 海岸。形 海に達する(土地)。
 samudrābhisāriṇi 因 海神の後を追う娘。
 samudrāmbārā 因 (海を衣服とした)大地。
 samudrāya, 名動 自 海ににている。
 samudrāyaṇa 形 海に流入する(河)。
 samudrārtha 形 海を目指している(水)(RV. 用例一回のみ)。
 samudrāvaraṇā (°ra-āv°) 形 海をまとった(地球)。
 samudriya 形 海に属するまたは流入する。
 sam-udreka 男 卓越。
 samudrodāharāṇa (°ra-ud°) 因 譬如巨海 Sūtr.
 sam-ud-Vah, → Vah.
 sam-udvigna 過受分 → Vij.
 sam-ud-Vij, → Vij.
 sam-ud-vikṣ, (-vi-Īkṣ) → Īkṣ.
 sam-udvega 男 厭, 厭離 Madhy-vibh.
 sam-udhāna 男 共会 Daś-bh.
 sam-unna 過受分 → Ud.
 sam-unnata 過受分 → Nam.
 sam-unnaddha 過受分 → Nah.
 sam-unnati 因 (乳房が)隆起すること; 高さ; 高揚, 高位, 顕職; 増大; (心が)高まること. cittam~m aśnute, 精神の高揚を覚える。
 sam-un-Nam, → Nam.
 sam-un-Ni, → Ni.
 sam-unneya 未受分 推論または結論されるべき。
 sam-un-Majj, → Majj.
 sam-un-Miṣ, → Miṣ.
 sam-un-Mil, → Mil.
 sam-unmukta 過受分 → Muc.
 sam-unmukhi-Kṛ, 上に揚げる。
 sam-un-Muc, → Muc.
 sam-unmūlana 因 根絶, 完全な破壊。
 samunmūlaya, 名動 使役 → unmūlaya.
 sam-un-Mrj, → Mrj.
 sam-upa-Kram, → Kram.
 sam-upa-gantavya 因 非人 人はおもむくべきである。
 na cāsya viśvāse ~vyam 人は彼を信頼すべきではない。
 sam-upajāta-kopa 形 怒りを生ぜしめられた, 憤慨させられた。
 sam-upanikṣ' 在 Saddh-p.
 sam-upaveśa, 男 座席。
 sam-upaveśana 因 [同上]。
 sam-upastambha 男 支え; 支持。
 sam-upasthita 過受分 → Sthā; 臨 Saddh-p.
 sam-upādaniya (°upa-ād°) 未受分 取 Śikṣ.
 sam-upārjana 因 達成, 獲得。
 sam-upārjita 過受分 所得 Saddh-p. → Arj.
 sam-upekṣa 男 捨, 除捨 Madhy-vibh.
 sam-upekṣaka (°upa-ik°) 形 見落す, 注意を払わない, 問題にしない, 無視する; 捨 Lal-v. →

Īkṣ.

sam-upeta (°upa-ita°) 過受分 得, 積累 Daś-bh. → I.
 sam-upepsu 希求 形 (業)を得ようと欲するまたは努力する。
 samula 男 高い位の数; 音写 娑母羅 Mvyut.
 sam-ullāsin 形 光を発する, キラキラ光る。
 sam-ullokita-mukha 男 観面 Mvyut.
 sa-mūla 形 因, 圍: 根をそなえた; 一面にはえた, 草深い, 緑の; 根と一緒にの; 圍: 完全に, ことごとく皆: 一° または -m 圍: -kāṣam 總 Kaṣ とともに, 全く根絶する; -ghātam 總 Han とともに, [同上]; 吉根 Sūtr.
 sam-ūha 男 因: 累積; 圍: 集合体, 塊, 多数, 集り, 集成(普通の意味); 団体(まれ); 総計, 本質(まれ); 和合; 集, 聚, 積聚, 聚集, 共積聚 Abh-vy., Bodh-c., Lank., Sapt-pr., Śikṣ., 梵千。
 samūhatva 因 合 Bodh-c.
 sam-ūhana 掃き集める, (塵芥, 一°)を推積する。
 samūhāgama (°ha-āg°) 男 集, 聚, 聚会 Lank.
 samūhin 形 集合体を形成する。
 sam-ṛta 過受分 → R.
 sam-ṛti 因 (RV.) 遭遇; 闘争。
 sam-ṛddha 過受分 [°Rdh] 富む, 豊富な, 繁盛する等; 増長, 豊盛, 富楽豊饒, 皆悉増盛 Bodh-bh., Gand-vy.
 samṛddha-puṇya 形 福德具, 功德具足 Suv-pr.
 samṛddhi 因 増大, 繁盛, 隆盛, 成功; 卓越; 豊富, 十分, 夥多; 富裕, 富(また 獲): 一° 形...によって増大させられた; 生; 得; 成; 如意, 自在; 尊位; 勝事; 楽, 富楽, 興崇, 隆盛, 成就, 皆悉成就, 現能成就 Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Madhy-vibh., Madhy-v., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr.
 samṛddhi-karaṇa 因 繁栄を手に入れる手段。
 samṛddhimat 形 完全に成功した。
 samṛddhi-samaya 男 隆盛の好機。
 samṛddhi-Kṛ, 富裕にする。
 sam-ṛdha 形 完全な, 完成した (RV. 用例一回のみ)。
 sa-megha 形 有雲 Abhy-vy.
 sam-eta (°ā-ita°) 過受分 [I] 一緒に来た等。
 sam-eddhṛ 男 点火する人 (RV.)。
 sa-medha 形 活力を有する(因)。
 sam-okas 形 (因) (圓)と一緒に住んでいるまたはと密接に結びつけられた; (圓)をそなえたまたは所有している。
 samotpatti (°ma-ut°) 因 同生, 俱生 Madhy-v., Madh-vibh.
 sam-odahana 男 (=samavadahana. Pāli の odahana に sam を冠したもの); 妙甚解 Mvyut.
 samopadeśa (°ma-up°) 男 等説 Sūtr.
 sa-moha 形 癡, 有癡, 有痴 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Sūtr.
 sam-pakva 形 やわらかに煮られた; 熟した; 完全に成熟した; 已熟 Sūtr.
 sampakva-mati 因 已熟 Sūtr.
 sam-paṭṭhita 過受分 (=samprasthita) 発趣立

応；**音写** 三拔致，三跋致 玄応。
saṃ-patti 因 合致 (S., まれ)；良結果，成功，成就；達成，獲得；…に變ずること，…になること (まれ)；存在 (まれ)；良好な状態，卓越；豊富，夥多；僥倖；繁榮，好運 (圍，覆)；**成**，成就，成熟，究竟；盛，盛事；福，榮；興，興盛，興盛事；利，財，富貴，富樂，榮光；遂，円満，樂具，具足，具足之利；成弁；合会；思愛 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Ratna-ut.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Vijñ-t.*: ~ sukheṣv asaktatā 不為人天勝樂醉其心 *Sūtr.* 20-21. 圓でたらめに，手当たりしだいに。
sampattika 形 一° 卓越。
sampatti-kāla 男 **成** *Sūtr.*
sampatti-tyāga 男 **棄捨** 勝位 *Sūtr.*
sampatti-niyati-pāta 男 **財成** 決定 *Sūtr.*
sampatty-utpatti 因 **財成** *Sūtr.*
saṃ-Pad 1., → Pad.
saṃ-pad 2., 因 因：合致，契約 (まれ)；總數，總計；**圍**：成功，成就，遂行；達成，獲得；…に變ずること，…になること (まれ)；存在 (まれ；一° 因=所有していること)；正しい状態；卓越，完成，美；豊富，潤沢，…の高い程度または過度 (= 高い程度のまたは過度の…)；(身にふりかかるもの)，運命 (まれ)；幸運，繁榮，富，財産 (圍，覆)；**円**，円満，円徳；成就；具，具足；興，興盛；果；徳，勝徳；善；成就，究竟；樂世間成就 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lank.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*
sampada 因 **正句** *Guh-y-s.*；満，最勝 *Raṣṭr.*
sampadana 因 **円満性** *Abh-vy.*
sampadā 因 **具足**，円足 *Divy.*, *Kāśy.*
saṃ-padin 男 **[人名]** 具足 *Divy.*；**音写** 三波地，式摩提，式摩婁 *Divy.*
saṃ-panna 過受分 [°Pad] **具**，足；獲；備；具足；成就，成立，円満；充滿；得円満，成就具足；茂盛，隆盛；有者；極鮮白 *Abh-vy.*, *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*, *Sūtr.*, 梵干。
sampanna-kṣirā 形 因 良質の乳を与える。
sampanna-kṣiratamā 最上 因 最も良質の乳を与える。
sampannatara 比較 非常に味のよい，比較的味な。
sampannatā 因 (一°) の所有。
sampanna-danta 形 齒を所有する。
sampanna-deśanā 因 **說成就** *Sūtr.*
sampanna-śrutamaya-jñānāśrayatva (°na-ās°) 因 **成就** 聞因智依止 *Sūtr.*
saṃ-parāya 男 死 (まれ)；鬪争，戰鬪；**後**，後世，後法，來世，當來，當來世，未來世 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*；現，現世 *Abh-vy.*
samparāya-guruka 形 **重** 後世 *Bodh-bh.*
samparāyānugraha 男 **(二世)** 隨授 *Sūtr.*
saṃ-parigraha 男 (圍) を丁重に歡迎すること；所有物；**授**，授受，授持 *Madhy-vibh.*, *Raṣṭr.*：~ m karoti (福聚智聚) 授令增長 *Sūtr.* 19.
saṃ-pariprṣṭa 過受分 **請問** *Ast-pr.*

saṃ-parivārayitavya 未受分 **護念**，護持 *Ast-pr.*
saṃ-parka 男 (…の，一°；…との 圓 ±saha, 圍，一°) 混合，結合，接觸 または 連合；(一°) との性交；**親**，親近；值遇 *Bodh-bh.*, *Vijñ-v.*
saṃ-pāta 男 圍：(因) に飛ぶこと・に速かに降下すること または に落下すること；飛行(の特殊の方法)；(saha) との衝突，衝擊，遭遇；合流；接觸点 (まれ)；入ること，出現，生起；因：(容器中の液体の) 残り滓，(供儀の) 残りもの；(Samhitā および儀式において) 接続している讚歌 (また sampātasūkta 因)。
saṃ-pāti 男 [伝説上のある鳥の名，*Aruṇa* または *Garuṇa* の息子で *Gatayu* の兄]。
saṃ-pātin 形 一緒に飛ぶ；ともに飛行する = 等しくはやい；落下する (花)。
saṃ-pādaka 形 獲得する，授ける；産出する，生じさせる；**弁** *Bodh-bh.*
saṃ-pādana 形 (因 -i) 獲得する，授ける；実行する，履行する。因 獲得，取得，成就，履行，執行，成績，生産；(家または敷地の) 掃除，整頓；**作**，成，具，悉具，成就，成満，成立，建立，修行，能成弁 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*
sampādanatā 因 **能成弁** *Bodh-bh.*
saṃ-pādaniya 未受分 獲得されるべき；仕上げられるべき，なし遂げられるべきまたは完成されるべき；なだめられるべき。
saṃ-pādayitr 男 獲得者；生産者，完成者。
saṃ-pādayitri 因 [同上]。
saṃ-pādita 過受分 [Pad 使役 から] ひきおこされた，成就された，履行された；**成**，習，修習 *Ast-pr.*, *Lal-v.*, *Sūtr.*
sampāditatva 因 (一°) による成就 または 遂行。
saṃ-pādin 形 (圓，一°) と符合する または …に適した；獲得する；成就する。
saṃ-pādya 未受分 ひきおこされるべき，生じさせられるべきまたは成就されるべき。
sampādyatva 因 成就。
saṃ-pārin 形 (舟について) 渡す (Br.)。
saṃ-piṇḍita-dharmāmbana (°ma-āl°) **作** 縁 *Sūtr.*
saṃ-pipādayiṣā 因 成就しようという欲求；正しいことを証明しようという希望。
saṃ-piḍa 男 圧迫。
saṃ-piḍā 因 苦痛，苦惱，困窮。
saṃ-piḍita 過受分 **遭苦**，所逼迫 *Saddh-p.*
saṃ-puñja 男 多数，多量。
saṃ-puta 男 半球形の鉢 (およびこのような形をしたのは何でも)；(宝石類を入れる) 丸い小箱；半球 (れ)；貸し，決算。~e Likh, (圍) の貸方に (圍) 記入する。
samputā 因 **椀器** *Mañj-m.*；合 (掌) *Mañj-*
saṃ-putikā 因 宝石入れ小箱 (金言および物語の宝庫)
saṃ-puraskṛta 過受分 **前後** 因邊 *Divy.*
saṃ-puṣṭi 因 完全なる繁榮，全盛。
saṃ-puṣpita 形 **開敷** *Raṣṭr.*
saṃ-pūjana 因 尊敬，敬礼。

sam-pūjā 女 尊敬すること, 尊崇.
 sam-pūjita 過受分 供養, 好供養, 好生供養;
 恭敬, 奉事 *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*
 sam-pūjya 未受分 尊敬されるべき; 供養 *Lank.*
 sam-pūrṇa 過受分 → Pr 1.; 円, 満, 円満,
 満身, 満足, 具足, 充足, 悉成満 *Abh-k.*, *Abh-vy.*,
Av-ś., *Divy.*, *Lal-v.*, *Mañj-m.*, *Nyāy-pr.*, *Ra-*
tna-ut., *Saddh-p.*, *Sūtr.*
 sampūrṇa-kāya 男 満(法)身 *Sūtr.*
 sampūrṇa-kālina 形 時満ちて(=正しい時に)起る
 (誕生).
 sampūrṇa-kumbha 男 満ちた壺.
 sampūrṇa-guṇānvita 過受分 功德悉成満 *Sad-*
dh-p.
 sampūrṇatā 女 完全, 完成; 満ちた量.
 sampūrṇa-dharma-kāya 満法身(菩薩) *Sūtr.*
 sampūrṇa-bhoga 有財 *Sūtr.*
 sampūrṇa-yukta 過受分 豊富を具有する, 豊富な.
 sampūrṇa-śarira 善満身 *Sūtr.*
 sampūrṇāṅga 形 (因-i) (その) 完全な部分を有す
 る, 完全な.
 sam-pūrṭi 女 成就, 完成.
 sam-pūrva 形 sam を合成語の前分とする.
 成された.
 sam-prkṭatva 中 結合.
 sam-prakampana 中 震動 *Daś-bh.*
 sam-prakampita 過受分 普動, 普徧動 *Mvyut.*
 sam-pra-Kās, → Kās.
 sam-prakāśaka 開示 *Sūtr.*
 sam-prakāśana 中 露見, 顕示; 説, 讚, 等照,
 顕示, 示現, 開示 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*
 samprakāśanatā 女 演, 顕示 *Bodh-bh.*, *Sad-*
dh-p.
 sam-prakāśayitavya 未受分 宣説開示 *Madhy-*
vibh.
 sam-prakāśayitṛ (能) 照 *Madhy-v.*
 sam-prakāśita 過受分 → Kās; 説, 所説, 広
 説, 所開, 顕現, 敷演, 誦念, 演説; 開示現
Bodh-bh., *Mvyut.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*
 samprakāśitavat 形 説, 敷演, 説分別 *Saddh-*
p.
 sam-prakāśya 未受分 暴露されるべき, 顕示されるべ
 き.
 sam-prakṣāḷana 中 (洗い去ること=) 洪水による(世
 界)の破滅.
 sam-prakṣubhita 過受分 普乱動, 普徧震 *Mv-*
yut.
 sam-prakhyāna 中 顕現, 最明, 甚念, 顕現,
 了知, 了別, 所言説, 所顕現 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*,
Madhy-vibh., *Mvyut.*
 samprakhyāna-kāraṇa 中 現似…因, 作顕現因
Madhy-vibh.
 samprakhyāna-nimitta 中 境光 *Sūtr.*
 samprakhyānākāra-bhāvana (°na-āk°) 正憶…
 種憶 *Sūtr.*
 sam-pragarjita 過受分 → Garj; 普徧擊, 極顯

倒 *Mvyut.*
 sam-pragraha 男 善授 *Sam-r.*
 sam-pracalita 過受分 普動, 普徧起 *Mvyut.*
 sam-prajānya 中 智, 正知, 正智 *Bodh-bh.*,
Madhy-vibh., *Śikṣ.*, *Sūtr.*
 sam-prajāna 形 現分 正知, 正智, 常如意知
Lank., *Saddh-p.*
 sam-prajānan-vihāritā 女 正知住, 正知而住,
 正智住 *Bodh-bh.*
 sam-prajāna-mṛṣā-vāda (*Pali* sampajānamusāvāda)
 男 故妄語, 故妄語罪 *Prat-m.*
 sam-prajñāna 中 慧, 善慧, 正知 *Abh-vy.*
 samprajñānatā 女 正慧 *Abh-vy.*
 sam-prajvalita 過受分 [Jval]; 熾焰, 極熾然, 燒
 徧燒 *Daś-bh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*
 sam-praṇaṣṭa 過受分 消滅した等. → Naś.
 sam-praṇeṭṭ 男 (軍隊の) 指揮者; (司法の杖を) 振る
 者, 断罪者; (圓) の維持者.
 sam-pratādāna 中 擊 *Suv-pr.*
 sam-pratāpana 中 焦熱; [ある地獄の名].
 sam-prati 副 因: 正反対に, (圓; まれに) の直ぐ前方
 に; 正確に, 正しく, 適当な時に; ちょうど(圓にお
 いてもきわめてまれに); 圓: ちょうど今, この瞬間に,
 現在, 今や: 一過とともに=直ちに, さっそく; 圓
 今, 便 *Buddh-c.*, 梵維.
 sam-pratigrahitṛ 男 信受 *Sapt-pr.*
 sam-praticchādāna 中 蓋, 善覆, 普覆 *Gaṇḍ-*
vy.
 sam-pratipatti 女 達成, 獲得: 正確な概念, 理解;
 (一)との合致; 承認, 自認; 正行, 明解, 真
 実解悟, 修習正行 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Vijñ-t.*
 sam-pratipādāna 中 授与.
 sam-pratibala 形 堪, 堪任 *Śikṣ.*
 sam-pratirodhaka 男 (盜賊等の) 鎮圧.
 sam-pratiṣṭhā 女 永続, 持續 (因: 最初または終極).
 sam-pratisāva 男 承認 (異読: -prasava).
 sam-pratikṣa (°ti-ik°) 形 (一) を予期する.
 sam-pratikṣya (°ti-ik°) 未受分 期待されるべき.
 sam-praticchana 中 受, 得, 正受, 具足 *Daś-*
bh.
 sampraticchanatā 女 受, 受持, 容受, 恒受
Gaṇḍ-vy.
 sampraticchana-manasikāra 男 領受作意 *Sūtr.*
 sampraticchā 女 領受 *Sūtr.*
 sam-pratiti 女 名声.
 sam-pratyaya 男 合意 (*yathāpratyayam* 参照); 信
 用, 信仰, 確信; 正しい觀念の獲得, 真の概念;
 信, 信受, 信解, 敬信 *Bodh-bh.*, *Madhy-vi-*
bh.: para~ 令他信受 *Sūtr.* 12.
 sampratyaya-kāraṇa 中 信解能作, 必比因
Madhy-vibh.
 sampratyaya-jāta 形 生信 *Bodh-bh.*
 sampratyaya-sahagata 形 信心相応 *Sūtr.*
 sampratyayākāra-bhāvana (°ya-āk°) 信心相応
Sūtr.
 sampratyayāvaraṇa (°ya-āv°) 中 信解障, 必

比障 *Madhy-vibh.*
 saṃ-pratyayita 過受分 可信 *Bodh-bh.*
 saṃ-pratyāyana-kāraṇa 中 令信因, 頭了能作 *Madhy-vibh.*
 saṃpratyāyanāyaraṇa (°na-āv°) 中 頭了障, 令信障 *Madhy-vibh.*
 saṃ-pratyēṣaka 形 中 求 *Daś-bh.*
 saṃ-pratyēṣana 中 受, 普受; 勤求 *Daś-bh.*
 saṃ-prathā, おそらく *suprathā* の 不確.
 saṃ-pradātavya 未受分 与えられるべき; 伝えられるべきまたは 教えられるべき.
 saṃ-pradātṛ 男 与える人, 施与者.
 saṃ-pradāna 中 与えること, 贈与, 贈呈; 引き渡し; 伝達, 教授; 授与; (嫁に) やること; 進物, 寄贈物; あるものを顧慮して(何か)なされる, 為格の観念; 施与 *Lal-v.*
 saṃ-pradāniya 未受分 与えられるべきまたは贈られるべき.
 saṃ-pradāya 男 贈与者(きわめてまれ); (...に関する, 一°) 口碑.
 saṃ-pradipta 過受分 焰然, 極熾焰 *Mvyut., Śikṣ.*
 saṃ-pradhāraṇa 中 (女 -ā) 熟慮.
 saṃ-pradhārya 未受分 考量または考慮されるべき; 審観, 熟思 *Abh-k.*; 応詳弁, 細商量, 勉観察, 妙観察行, 応共審思 *Abh-vy., Mvyut.*
 saṃpradhāryatva 中 応審思 *Abh-vy.*
 saṃ-prapatti-kṣama 極忍 *Sūtr.*
 saṃ-prapada 中 種 つま先で立つこと.
 saṃ-prapūraṇa 形 円満 *Bodh-c.*
 saṃ-prabuddha 過受分 正覚 *Gaṇḍ-vy.*
 saṃ-prabhaṇita 過受分 奏, 鼓吹 *Lal-v.*
 saṃ-pramāpaṇa 中 殺害.
 saṃ-pramoṣa 中 忘 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Saddh-p., Vijñ-t.*; 失 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh.*; 忘失 *Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Śikṣ., Suvik., Vijñ-t.*; 忘捨, 遺失 *Daś-bh.*
 saṃpramoṣa-dharma 男 忘失法 *Bodh-bh.*
 saṃ-prayukta 過受分 行, 懷 *Daś-bh.*; 応 *Bodh-bh., Saddh-p.*; 相応 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Lank., Madhy-vibh., Ratna-ut., Vijñ-t.*; 繫 *Abh-vy.*; 繫属 *Śikṣ.*; 受行 *Kāśy.*
 saṃprayuktaka 形 相応 *Abh-vy.*
 saṃprayukta-karmānta 形 為正事業, 善當事業 *Bodh-bh.*
 saṃ-prayuj 形 (一°) に握りしめられた, 取りまかれた.
 saṃ-prayoga 男 (宝石の) 留め具, 締めがね; (圓 ± saha, 一°; 普通の意味) との結合, 関連, 連合または接触; (一°) との夫婦のまたは性的結合; (月と星群との) 交会; 使用, 練習, 実践(まれ); 会 *Lal-v., Mvyut.*; 遇 *Mvyut.*; 繫, 結縛 *Bodh-bh.*; 俱起 *Abh-vy.*; 相応 *Abh-k., Abh-vy., Madhy-vibh., Suvik.*; 共相応 *Abh-k.*; 相応法 *Madhy-vibh.*
 saṃ-prayogin 形 相応 *Abh-vy.*

saṃ-praraṇita 過受分 普徧吼, 普舞動声 *Mvyut.*
 saṃ-pralāpa 男 雑談.
 saṃ-pravarjana 中 離 *Sūtr.*
 saṃ-pravartaka 形 行動を開始させる, 促進する; 生じさせる. 男 創造者 (*Śiva* 神).
 saṃ-pravartana 中 動き廻ることまたは乗り廻すこと.
 saṃ-pravartika 形 生 *Lank.*
 saṃ-pra-Vas, → *Vas.*; 作 *Sūtr.*
 saṃ-pravādana 中 同時発声 *Daś-bh.*; 撃 *Sāddh-p. : dundubhi~* 撃大法鼓 *Saddh-p. 16.*
 saṃ-pravādita 過受分 奏 *Aṣṭ-pr.*
 saṃ-pravāha 男 流れ, 連続.
 saṃ-praviṣṭa 過受分 入 *Sūtr.*
 saṃ-praviṭta 過受分 すでに起きた, 過ぎ去った.
 saṃ-pravṛtti 女 出現, 生起; 行, 起作 *Madhy-v.*
 saṃ-pravṛddhi 女 成長, 繁栄.
 saṃ-praveśa 男 (因, 一°) のなかへ入ること.
 saṃ-praśna 男 質問, 疑問; (一°) に関する尋問, 調査.
 saṃ-prasatti 女 (=saṃprasāda) 熟睡位のアートマン.
 saṃ-prasava 男 承認 (=pratisava).
 saṃ-prasāda 男 心の落着き(熟睡中の; *Br., まれ*); 恩恵, 恩寵(囀); 熟睡位のアートマン(囀, 囀); 浄 *Abh-vy., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v.*; 清浄 *Daś-bh.*; 澄浄 *Abh-vy.*; 正信 *Gaṇḍ-vy.*
 saṃ-prasādhya 未受分 制御または統制されるべき.
 saṃ-prasāraṇa 中 引き裂くこと(まれ); (a 音に従われた) 半母音がそれに相応する母音に変化すること(a 音は脱落, 文法: 例 *vad* が *ud* となるようなもの).
 saṃ-prasikta 過受分 → *Sic.*
 saṃ-prasthāna 中 発起, 願求 *Gaṇḍ-vy.*
 saṃ-prasthita 過受分 → *Sthā.*
 saṃ-praharṣa 男 喜悦; 欣举, 歡喜 *Abh-vy.*
 saṃ-praharṣaka 男 喜, 慶喜 *Aṣṭ-pr.*; 生歡喜, 心生歡喜 *Suv-pr.*
 saṃ-praharṣaṇa 形 喜 *Śikṣ.*; 欣喜 *Bodh-bh., Sam-r.*; 真実喜, 真実令喜 *Mvyut.*; 令喜, 慶慰, 令深歡悅 *Bodh-bh.*
 saṃpraharṣaṇatā 女 歡喜 *Bodh-bh.*
 saṃ-praharṣayitavya 未受分 応慶慰, 所応慶慰 *Bodh-bh.*
 saṃ-praharṣita 過受分 → *Hṛṣ.*
 saṃ-prahāra 男 (圓 ± saha, 一°) との争闘または戦い; 打撃, 突撃(まれ); 歩きぶり(まれ).
 saṃ-prahrṣṭa-tanū-ruha 形 髪の毛を逆立てた, 喜びに震えた.
 saṃ-prāpaka 形 至 *Lal-v.*; 得, 能得 *Bodh-bh.*
 saṃ-prāpaṇa 形 証 *Ratna-ut.*; 令至, 誨示 *Madhy-vibh.*; 令得, 令...得, 能令...得 *Daś-bh.*
 saṃ-prāpta 過受分 至 *Abh-vy., Daś-bh.*; 至 *Saddh-p., 梵雜.*; 到来 *Daś-bh.*; 獲得, 欣得 *Guhy*

s.; 至得, 証得 *Madhy-vibh.*; 得, 所得, 所至 *Abh-vy.*
saṃ-prāptavya 未受分 獲得されるべき。
saṃ-prāpti 因 (一°, 叙詩) へ到達すること; (屬, 一°) の達成または獲得; 至, 誨示, 令至, 証得, 至得 *Madhy-vibh.*
saṃ-prārpaṇa 形 給施 *Gand-vy.*
saṃ-priya 形 互いに愛する, (圓, 因) と仲がよい; 所樂 *Sikṣ.* 中 満足 (叙詩, まれ)。
saṃ-pṛiti 因 (因, 一°) を喜ぶことまたは…における歓喜; (…に対する, 圓 土saha) 好意, 友情, (屬, 因) に対する愛。
saṃ-prekṣana (°pra-ik°) 中 見, 観 *Lal-v.*
saṃ-prekṣita 過受分 瞻仰 *Lal-v.*
saṃ-preṣaṇa (°pra-iṣ°) 中 送ること, 派遣 (ときとして 因); 免職; 至, 令往 *Madhy-vibh.*
saṃ-preṣita 過受分 遣, 所遣 *Saddh-p.*, 梵難。
saṃ-praiṣa 男 招喚, (祭りの実務を行なっている祭官に対する) 指図 (因)。
saṃ-plava 男 (河川の) 合流, 出水, 洪水; (海の) うねり, 大波; 濃密なかたまり, 多数, 沢山; (戦いの) 喧騒 (一°); 沈下, 没落。
saṃ-phulla 過受分 拡大された, 開花した。
saṃ-pheta 男 口論, 激論。
saṃ-baddha 過受分 一緒に結ばれた, 結合された等。→ *Bandh*; 共 *Bodh-bh.*; 合 *Sūtr.*; 縛 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*; 属 *Abh-vy.*; *Aṣṭ-pr.*; 接, 為縁 *Abh-vy.*; 相応; 相續 *Abh-vy.*; 和合 *Lank.*; 相合 *Sūtr.*; 繫属 *Bodh-bh.*; 不相捨離 *Ratna-ut.* ~m 副 さらに, その上。
saṃbaddha-saṃbhūtatva 中 相引起, 相応発 *Abh-vy.*
saṃ-bandha 男 集めること (まれ); (…との, …に対する, 圓 土saha, 一°) 連関, 関係; (…との, 圓 土saha, 因, 一°) (結婚による) 結合, 縁組, 親族関係, 友情または親交; 男の同族; 友人, 味方; 一° しばしば *saṃbaddha* の 不確; 同, 合, 属, 続, 相属, 相續, 能続, 相依, 憑附, 等続起 *Abh-vy.*; 相応 *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*; 和合 *Madhy-vibh.*, *Sikṣ.*; 相符 *Nyāy-pr.*; 相續, 互相 *Lank.*: ~m *Kṛ.* 結婚, 結婚姻 *Divy.* 622。
saṃbandhaka 中 親戚等; *saṃbandhaja* の 不確。
saṃbandha-duḥkhatā 因 相応苦 *Madhy-vibh.*
saṃbandha-vaśa 依止自在 *Sūtr.*
saṃbandha-vikalpa 男 相續妄想, 和合分別, 相属分別 *Lank.*
saṃbandha-hetu 男 相續因 *Lank.*
saṃ-bandhi 男 相属, 相応 *Abh-vy.*
saṃ-bandhitā 因 所有物; (圓, 一°) との連関, に対する関係; (結婚による) 親戚関係, 縁故関係。
saṃ-bandhitva 中 (圓, 一°) との連関, に対する関係。
saṃ-bandhin 形 (屬, 一°) と結びつけられた・と関係したまたはに属する; (一°, まれ) と結合された, を所有する; (結婚によって) 関係させられた, 結びつけられた。 圓 関係, 連関。

saṃbara-viṣaya 男 最勝境界 *Guhy-s.* → *saṃbaraviṣaya.*
saṃ-bala 中 音写 参波藍 *Mvyut.*
saṃ-bahula 形 衆多 *Bodh-bh.*, *Prāt-m.*; 最多 *Mvyut.*; 無量 *Aṣṭ-pr.*
saṃ-bādha 男 羣: 群衆, 雜踏; 窮屈な場所; 圧力, 苦悩, 不幸 (因, 叙詩); 迫, 嶮難, 嶮処 *Bodh-bh.*; 厄難 *Divy.*; 不樂, 迄 *Prāt-m.*; 窄狭, 可慎 *Mvyut.* 形 (羣) 狭い, 短縮された; (圓) で詰め込まれた; 一° …で群がっている・殺到したまたはふさがった, 富む, 満ちている。
saṃbādha-pradeśa 男 総言 *Mvyut.*
saṃbādha-saṃkaṭa 中 迫迄, 難, 難事, 艱難事 *Bodh-bh.*
saṃ-buddha 過受分 → *Budh.* 男 仏 *Lank.*, *Madhy-v.*, *Ratna-ut.*, *Sūtr.*; 正覚 *Lank.*, *Sukh-vy. I.*, *Suv-pr.*; 等覚, 遍知, 遍覚 *Vajr-pr.*; 仏序 *Madhy-v.*; 等正覚 *Lank.*; 仏如来 *Ratna-ut.*; 正遍知 *Sūtr.*; 所識 *Sapt-pr.*: ~s *tridhā* 三種菩提 *Sūtr.* 18; ~o *bādhyate tridhā* 達仏三菩提 *Sūtr.* 18。
saṃbuddha-kāya 男 仏法身 *Ratna-ut.*
saṃbuddha-kārya 中 仏事 *Bodh-bh.*, *Ratna-ut.*: ~m *karoti* 施作仏事 *Bodh-bh.* 407。
saṃbuddha-garbha 男 如来蔵 *Ratna-ut.*
saṃbuddha-gocara 男 大智境界 *Sikṣ.*
saṃbuddhatā 因 仏 *Lank.*
saṃbuddha-dharma 男 所得法 *Saddh-p.*
saṃbuddha-pṛthivi 因 仏地 *Ratna-ut.*
saṃbuddha-bija 中 正覚子芽 *Ratna-ut.*
saṃbuddha-ratna 中 仏性金 *Ratna-ut.*
saṃbuddha-sūrya 男 仏日, 如来日 *Suv-pr.*
saṃ-bodha 男 知識, 理解; 覺 *Lank.* → *abhisambodha.*
saṃ-bodhana 形 目覚めている (まれ). 中 知覚していること, 注意していること; 認識; 想起; (ある人: 屬) に呼び掛けること; 呼格単数 (の語尾)。
saṃ-bodhi 男 因 成大妙覚尊 *Ratna-ut.*; 音写 菩提 *Lal-v.*; 三菩提 *Bodh-bh.*; (音写) 等菩提 *Bodh-bh.*: ~m *prāpnuvanti* 菩提得 *Sūtr.* 10; ~au *pariṇāmayati* 廻向 *Sūtr.* 20-21。
saṃbodhi-gāmin 形 (音写) 於菩提住 *Mvyut.*
saṃbodhi-cārikā 因 (音写) 菩提行 *Sam-r.*
saṃ-bodhita 過受分 覺悟 *Saddh-p.*
saṃbodhi-lola 形 (音写) 求菩提 *Sam-r.*
saṃbodhi-sattva 男 音写 菩薩 *Sam-r.*
saṃbodhi-saṃprakhyānākāra-bhāvana (°na-āk°) (音写) 於菩提正憶…種修 *Sūtr.*
saṃbodhi-sukha 中 (音写) 三菩提樂 *Bodh-bh.*
saṃ-bodhya 未受分 啓発さるべきまたは教授せらるべき。
saṃbodhy-aṅga 中 覺支 *Abh-vy.*, *Mvyut.*; 覺枝 *Mvyut.*; 覺分 *Abh-vy.*, *Sūtr.*
saṃbodhy-upāyācyuta 形 (音写) 菩提方便 *Ratna-ut.*
saṃ-bhakti 男 配分。

saṃ-bhaktṛ 男 配分者, 贈与者.

saṃ-bhakṣa 形 (一°) を常食とする, 食べる人またはむさぼり食う人; 会食, 共同の食事をする.

saṃ-bharaṇa 中 資糧 *Abh-vy.*; 満足 *Sūtr.*

saṃ-bhava 男 (一緒に存在すること), 性交, 同棲 (S., まれ); (因; 因, まれ) に余地を見出すまたは含まれている; 因 因: 産み出すこと, 出生, 起原, 根源 (普通の意味); 因: 原因, 機縁, 出現; 存在 (また *Up.*); (不定) の可能性. 一° 形 (因) … に起源する, … にまたはから生ずるまたは産み出される, … から作られる, … に生じた; … によって生じさせられたまたは引き起こされた; … のなかに起るまたは現われる; … によって可能にされた; 生 *Abh-vy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Ratna-ut.*, *Sāṃkhy-k.*, *Vijñ-v.*; 成 *Abh-k.*, *Lal-v.*, *Madhy-v.*, *Ratna-ut.*; 生成 *Abh-vy.*; 有 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Madhy-v.*, *Ratna-ut.*, *Vijñ-v.*; 集 *Madhy-v.*; 本, 所因 *Saddh-p.*; 出 *Śikṣ.*; 起 *Lank.*, *Sūtr.*, *Suvik.*; 合, 因 *Lal-v.*; 合生, 出現 *Bodh-bh.*; 出生 *Gaṇḍ-vy.*, *Guhy-s.*; 所生 *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*; 種, 興 *Lank.*; 容受 *Suvik.*; 受生, 容有, 得有, 容可得 *Abh-vy.*; 串習, 数習 *Madhy-vibh.*

saṃ-bhavat-pramāṇa 中 公理, 量有, 公量有理 *Mvyut.*

saṃ-bhavana 中 含んでいること; 起ること; 生ずること.

saṃ-bhava-pada 中 出生正句 *Guhy-s.*

saṃbhava-lakṣaṇa 中 生相 *Ratna-ut.*

saṃbhava-vibhava-parikṣā 因 観成壞 [中論第二十一品の名] *Madhy-v.*

saṃbhavābhāva 男 不生 *Sāṃkhy-k.*

saṃ-bhavin 形 あり得べき, 可能な.

saṃbhavaishin (°va-eṣ°) 形 求生, 尋求生 *Abh-vy.*

saṃ-bhāṇḍaya, 名動 糶 糧食を集める.

saṃ-bhāra 男 團: 一緒に持って来ること, 集めること; (一°) に対する用意; 家財道具, 富, 所有物; 多数; 量, 推積; (怒り, 愛等の) 過度; saṃcāra の不確; 因, 團: 團 團 装置, 材料, 必要物; 聚 *Gaṇḍ-vy.*, *Sūtr.*; 具 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*; 資 *Abh-vy.*; 資具 *Gaṇḍ-vy.*; 資糧 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*; 資糧 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lal-v.*; 衆具 *Bodh-bh.*, *Lank.*; 積集 *Divy.*; 莊嚴 *Bodh-bh.*, *Kāśy.*; 円満 *Lal-v.*; 福德 *Sūtr.*; 方便, 功德, 福智 *Lank.*; 節集 *Mvyut.*; 助道 *Gaṇḍ-vy.*; 助修 *Śikṣ.*; 器仗 *Aṣṭ-pr.*; 求生, 尋求生 *Abh-vy.*: ~ān pūraya(n)ti 二聚円満 *Sūtr.* 17; 令満二聚 *Sūtr.* 19.

saṃbhāratā 因 資糧 *Madhy-vibh.*

saṃbhāra-dvaya 二種業 *Ratna-ut.*

saṃbhāra-dvaya-pūri 満於二聚 *Sūtr.*

saṃbhāra-paripāka 聚満 *Sūtr.*

saṃbhāra-bhūmi 因 助道位 *Gaṇḍ-vy.*

saṃbhāra-mahattva 中 衆具大, 莊嚴大, 資糧大性 *Bodh-bh.*

saṃbhāra-vibhāga 二聚 (功德) *Sūtr.*

saṃbhāra-samanvāgata 形 備諸器仗 *Aṣṭ-pr.*

saṃbhārākaraṇa (°ra-āk°) 中 招引…二聚 *Sūtr.*

saṃbhāva 形 称讚, 取法 *Lank.*

saṃ-bhāvana 形 (一°, まれ) を高く評価する. 中 (因, まれ) (誰かある人と) 会うこと.

saṃ-bhāvanā 因 (一°, まれ) の集合; (一°, まれ) の獲得; 敬意を表することまたは尊敬を示すこと; (因) の尊重・顧慮または高い評価; 想定, 仮定; 有 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 矯, 信, 信重, 令信知 *Madhy-vibh.*; 信令 *Madhy-vibh.*

saṃ-bhāvaniya 未受分 (因) の臨席を以って名誉を与えられるべき; 想定されるべき, ありそうな.

saṃbhāvanojjhita (°nā-uj°) 過受分 (臆説として排斥された), 無論のこととは取られない, 疑われた.

saṃ-bhāvayitavya 未受分 尊敬されるべき; 想定または仮定されるべき, あり得べき.

saṃ-bhāvayitr 男 名誉を授与する人.

saṃ-bhāvita 使役 過受分 → Bhū. 中 想定; 疑 *Bodh-bh.*

saṃ-bhāvin 形 (ある人) に忠実である.

saṃ-bhāvya 未受分 尊敬されるべき; (因) とみなされるべき; 仮定または予想されるべき, あり得べき (普通の意味); (一°) によって仮定されるべき; 適した (まれ); (動 名 の 因) することが出来る (おそらく 不確).

saṃ-bhāṣa 男 (具 ±saha, 因, 一°) と語ることまたはとの会話.

saṃ-bhāṣaṇa 中 (因, 因, 一°) との会話; 言論 *Bodh-bh.*

saṃbhāṣaṇatā 因 嗚呼 *Saddh-p.*

saṃbhāṣaṇa-nipuṇa 形 話しの上手な.

saṃ-bhāṣā 因 [同上]; 約束, 契約.

saṃ-bhāṣita (過受分) 中 (一°) に関する談話.

saṃ-bhāṣin 形 会話している.

saṃ-bhāṣya 未受分 (因) によって会話がなされるべき; 話し掛けられるべき.

saṃ-bhinna 過受分 別 *Sūtr.*; 分別 *Daś-bh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*; 差別 *Lal-v.*; 有差別 *Gaṇḍ-vy.*; 雑 *Abh-vy.*, *Daś-bh.*; 相雑 *Abh-vy.*; 雑穢 *Daś-bh.*; 断 *Śikṣ.*; 離 *Abh-vy.*; 分離 *Mvyut.*

saṃbhinna-pralāpa 男 綺語 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.* *Sūtr.*; 綺言, 誑語, 閑雑語 *Mvyut.*; 邪綺 (語), 不相応語 *Bodh-bh.*; 無益語 *Aṣṭ-pr.*; 無義語 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*

saṃbhinnapralāpa-viramāṇa 中 不無義語, 不無益語 *Aṣṭ-pr.*

saṃbhinna-pralāpitā 因 散語, 雑穢語 *Abh-vy.*

saṃbhinna-pralāpin 形 離間 (語), 両舌 *Gaṇḍ-vy.*; 現行綺語 *Bodh-bh.*; 雑穢語, 無義語, 無益語 *Aṣṭ-p.*

saṃbhinna-vyañjana 中 氣閉, 断陽物者 *Mvyut.*

saṃbhinnāmbana (°na-āl°) 中 別縁 *Sūtr.*

saṃ-bhu 形 (一°) から産み出された, … から作られた; 所生 *Saddh-p.*

saṃ-bhujita 過受分 共食 *Prat-m.*

saṃ-bhūta 過受分 生 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Gu-*

hy-s., Lal-v.; 起, 有 Ratna-ut.; 出生 Guhy-s., Mvyut.; 生已 Daś-bh.; 所生 Abh-vy., Daś-bh., Lan̄k., Mvyut.; 所起 Bodh-bh., Lan̄k.; 所生起 Daś-bh.; 現 Gaṇḍ-vy.; 発, 能生 Gaṇḍ-vy.; 能起 Ratna-ut.; 資助 Śikṣ.; 同在 Daś-bh.; 所成 Abh-vy.; 所従生 Lan̄k.; 音写 娑磨二合布多 Mvyut.

sambhūtatva 中 産生 Abh-vy.; 起 Gaṇḍ-vy.

sam-bhūti 女 産出; 成長, 活気づけること (Br., S., まれ); 産生 Abh-vy.; 現起 Vijñ-t.

sam-bhūya 不変 共所作 Abh-vy.

sam-bhr̥ta 過受分 → Bhr̥. 中 準備; 集 Daś-bh.; 聚, 有聚, 善集, 聚集已 Sūtr.; 和合 Śikṣ.; 所有防護 Bodh-bh.; 積集 Daś-bh.; 蓄積, 積聚 Bodh-bh.: ~ān mocayanty āsu 令得解脱 Sūtr. 19.

sambhr̥ta-sri 形 (自己の) 愛らしさを増した, すばらしい (吠, 華).

sambhr̥ta-sambhāra 衆 集大聚 (位), 福智具足, 聚集福得已, 福智二聚円満 Sūtr.

sambhr̥ta-sneha 形 (於) に対する愛で満ちた.

sam-bhr̥ti 女 準備; 聚 Sūtr. → asambhr̥ti.

sambhr̥ti-dvaya 衆 二諦 Ratna-ut.

sam-bheda 男 紛争の種を蒔くこと (誦); 混合 (吠); 合流 (吠, 誦); 混合物, 結合, 連合 (誦); 拱 Abh-vy.; 壊, 分別 Ast-pr.; 分 Mvyut.; 雜 Daś-bh., Mvyut.; 別異, 差別, 錯謬, 有差別 Daś-bh.: ~tas samjñā 内心無動相 Ratna-ut. 177.

sam-bhedavat 形 (sārdham) と接触するに至る.

sam-bhedyā 未受分 刺し通さるべき.

sam-bhoktr̥ 男 享受する人.

sam-bhoga 男 吠, 誦: (一°) の享受; 誦: (一°) との性的享樂または結合; 受 Ratna-ut.; 食, 財 Sūtr.; 大樂 Guhy-s.; 受用 Bodh-bh., Lan̄k., Madh-vibh.; 受樂 Lan̄k.; 受樂仏 Ratna-ut.: sa-ddharma-~o bhavati 令得受用正法 Sūtr.

sambhoga-kāya 衆 報身, 解脱蘊 Mvyut.

sambhoga-viśeṣa 衆 受用勝 Sūtr.

sam-bhogin 形 相互に享受するまたは共に楽しむ (Br., S.); 一° (誦), …を享有している, 所有している.

sam-bhogya 未受分 享受されるべき; 受用 Ny-dy-pr.

sam-bhogyatā 女 享受, 使用.

sam-bhojana 中 共同の食事, 共同の馳走.

sam-bhojani 女 [同上].

sam-bhrama 男 (…の結果としての, 一°) 混乱, 擾乱, 動揺, 性急, 熱意 (普通の意味); 敬服, 尊敬; 誤謬, 妄想 (まれ); 優雅, 美 (異読: vibhrama): 一° 形…の錯覚的な見せかけを生ずる; 憂怖, 敬行, 敬勤, 審視 Mvyut., Śikṣ.

sam-bhramitatva 中 所乱, 所迷乱 Abh-vy.

sam-bhr̥nta 過受分 当惑させられた等. → Bhr̥m; 困 Divy.; 急 Lal-v.; 迷惑, 当惑 Lan̄k.; 妄失, 狂乱 Śikṣ.

sambhr̥nti 女 攪乱, 当惑; 迷惑 Lan̄k.

sam-mata 過受分 → Man. 中 意見; 似 Prat-m.; 類 Divy.; 想, 所勸 Śikṣ.; 達官梵雜; 共許 Daś-bh.; 尊敬, 同意 Bodh-bh.; 名字 Saddh-p.

~ena 圓, ~e 因 (圓) の見解に従って. ~e 因 (圓) の同意を得て.

sam-mati 因 意見, 見解 (まれ); 意見の一致, 是認; 尊崇, 尊敬; 想 Lal-v. ~tyā 圓 (圓) の賛同を得て.

sam-matta 過受分 陶醉した, 夢中になった. → Mad.

sam-mada 男 (一°) における喜び, 歡喜.

sam-mantrita 過受分 中 教 Saddh-p.

sam-madamaya 形 (女・i) 喜びに満ちている.

sam-Man, → Man; 供養 Sūtr.

sam-manas 形 満場一致の (吠).

sam-marda 男 摩擦; 衝撃; 合流, 集まり; 蹂躪; (一°) との遭遇; (一°) との争闘.

sam-mardana 男 [ある妖精の名].

sam-marśana 中 撫でること (吠); 忍 Sūtr.

sam-mā 女 均整, 同数.

sam-mātr̥ 形 同一の母を有する (吠).

sam-māna 男 (中) 尊敬, 名誉 (また 覆; しばしば不正確に sanmāna と綴られる); 敬, 恭敬 Suv-pr.

sam-mānana 女 尊敬すること, …に敬意を表すること.

sammānanā 中 [同上]; 恭敬 Bodh-bh., Daś-bh.; 供養, 恭敬供養 Bodh-bh.

sam-mānaniya 未受分 行思 Divy.

sam-mānita-vimānita 過受分 (初めに) 尊敬され (次いで) 辱しめられた.

sam-mānin 形 名誉心のある.

sam-mārga 男 拭い去ること, 清潔にすること; (薪を縛るための) 草の束 (S.).

sam-mārjaka 形 掃除する, 清潔にする. 男 掃除人.

sam-mārjana 中 拭い去ること, 清潔にすること, 掃除; 拭 Mvyut.; 掃灑 Av-ś., Śikṣ.

sam-mārjani 女 帚; 拭 Av-ś.; 掃帚 Divy., Mvyut.

sam-mārjanya 形 帚 Śikṣ.

sam-mita 過受分 男 [ある神話上の存在者の名]. 中 距離.

sam-mitatva 中 完全な対句 (修辭).

sam-misra 形 (圓, 一°) と混合された, まぜられた, 一緒にされたまたはを与えられた; 雜 Abh-vy.

sam-misraṇa 中 混合.

sam-miśla 形 (圓, 因; RV.) と混じる, 結びつけられる.

sam-milana 中 (眼を) 閉じること; 活動の休止.

sam-milita 過受分 → Mil; 閉塞 Saddh-p.

sam-mukha 形 (女・i, ときとして -ā) (圓, 一°) と直面するまたは向い合う; (ある人: 圓) にとって都合のよい, さい先のよい (好運); (因, 一°) に熱中している; 前 Gaṇḍ-vy.; 現前 Bodh-bh., Daś-bh., Sūtr.; 現見, 現在前 Bodh-bh. ~m 副 …の方へ向って (来る等); (自分の方 ātmanah) へ (引く); 顔を (のぞき込む); 面と向って; (圓) の反対の, 面前で. ~e 因 (圓) の反対の・前にまたは面前に: +BHū, (ある人: 圓) に反対する; +Sthā, (あ

る人：(圓)の顔をのぞき込む；°—，に向って；(ある人の) 面を冒して。

saṃmukha-darśana 中 現前得見 Śikṣ.

saṃmukha-vinaya 男 音写 応与憶念毘尼， 応与現前毘尼 *Mvyut.*

saṃmukhi-kurvāna 現分 現起， 現前 *Abh-vy.*

saṃ-mukhi-Kṛ, 対面するように置く， (自己の) 目的とする； 生， 起， 現前， 現前生起， 於現生中引生 *Abh-vy.*； 対， 現起， 令現在前 *Bodh-bh.*

saṃmukhi-kṛta 過受分 現前起 *Abh-vy.*

saṃmukhi-bhāva 男 現前 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*； 現， 現起， 現行， 現前生； 發生 *Abh-vy.* ~tas 副 於前 *Aṣṭ-pr.*； buddhānām bhagavatām ~h 於仏前 *Aṣṭ-pr.* 461.

saṃ-mukhina 形 対決している， 直面している， 反対側の； (圓) にとって好都合な。

saṃmukhinatva 中 直面する状態； 対面。

saṃmukhi-BHū, 反対側に自己を置く； 起 *Abh-vy.*； 和合 *Divy.* 過受分 saṃmukhi-bhūta 現在 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*； 面， 現前， 現在前， 親面對前 *Bodh-bh.*

saṃ-mugdham 過受分 副 秘密裡に。 → *Muh.*

saṃ-mūḍha 過受分 癡 *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*； 愚癡， 愚癡迷悶 *Bodh-bh.*； 痴闇 *Abh-vy.*； 愚 *Sūtr.*； 迷 *Lank.*, *Abh-vy.*； 惑迷 *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-v.*； 迷惑心， 雜， 雜乱 *Lal-v.*； 不識 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*； 忘， 不了 *Lank.* 男 有愚癡者 *Bodh-bh.*； 愚癡， 癡人 *Bodh-bh.*

saṃmūḍhatā 女 眩惑した状態。

saṃmūḍhatva 中 [同上]。

saṃmūḍha-buddhi 女 癡 *Sūtr.*

saṃ-mūrchana 中 凝結， 濃縮， 推積。

saṃ-mūrçhita 過受分 癡 *Saddh-p.*； (悶) 絶 *Lal-v.*； ~ā kṣititale prapateyu yūyaṃ 大衆聞皆絶倒地 *Lal-v.* 304.

saṃ-mrṣṭa 過受分 潔， 掃 *Aṣṭ-pr.*； 泥飾 *Divy.*； 平除 *Lal-v.*

saṃ-melana 中 会合すること， 混合， 結合。

saṃ-mokṣita 過受分 令脱 *Saddh-p.*

saṃ-modana 形 慶悦， 慰諭， 慰問 *Bodh-bh.*

saṃ-modani 形 慶悦； 慶慰， 慰諭， 歡喜 *Bodh-bh.*； 讚 *Divy.*

saṃ-modaniya 未受分 真喜悅， 真實喜悅 *Mvyut.*

saṃ-modika 形 善友 (Kern 本では saṃmodita) *Saddh-p.*

saṃ-moṣa 男 忘 *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*； 失 *Śikṣ.*； 忘失 *Madhy-vibh.*, *Śikṣ.*

saṃ-moṣaṇa 中 忘失 *Lal-v.*

saṃ-moṣā 女 忘失 *Bodh-bh.*

saṃ-moha 男 昏睡状態， 失神； 夢中， 妄想； 愚， 愚惑， 痴闇 *Abh-vy.*； 愚痴 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*； 痴迷， 癡冥 *Śikṣ.*； 迷悶 *Bodh-bh.*； 迷惑 *Bodh-c.*, *Gaṇḍ-vy.*； 迷謬 *Madhy-vibh.*； 忘錯 *Saddh-p.*； 無明 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*； 不了 *Lank.*

saṃ-mohana 形 (女 -i) まどわす， 夢中にさせる。 男

[愛の神の持つ矢の一つの名]。 中 迷わすこと， 夢中にさせること； [ある神話上の飛び道具]。

samyak 副 (samyāñc の 中), *RV.*, 副 翻： 一方に， ともに； 正しく， 正確に， 真に， 当然に， 適当に (ときとして 形 の代りに述語として用いられる)； 全く， 完全に (まれ； +na, 少しも…でない)； 正 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Sūtr.*, *Vajr-pr.*； 梵千； 直， 質直 *Śikṣ.*； 具足 *Divy.*； 正等， 正審， 無倒， 無顛倒 *Bodh-bh.*； 音写 三藐 *Bodh-bh.*； ~pradadhāti 正持 *Sūtr.* 18. ~Kṛ, (約束を) 実行する。 ~Sthā, (於) と提携する。

samyak-karma-pratipatti 女 修習正業 *Gaṇḍ-vy.*

samyakkarmānta 男 正業 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*

samyak-cintanā 女 正思， 無倒思惟 *Bodh-bh.*

samyaktā 女 正しさ， 正しいあり方。

samyaktva 中 [同上]； 完全； 正 *Abh-vy.*, *Sūtr.*； 正性 *Abh-vy.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.* 無倒 *Bodh-bh.*； 正位 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.* 真実位 *Madhy-bh.*

samyaktva-niyata 形 正定 *Lal-v.*

samyaktvaniyata-rāsi 男 真性蘊， 正性定聚 *Mvyut.*

samyaktva-niyāma 男 正位 *Aṣṭ-pr.*； 正性離生 *Aṣṭ-pr.*, *Suvik.*

samyaktvaniyāmāvakrānti 女 入正性離性 *Prajñ-h.*； 趣入正性離生 *Bodh-bh.*

samyaktvānumodita 過受分 正随喜 *Aṣṭ-pr.* → *Mud.*

samyak-parijñāta 過受分 正暁， 正分別 *Suv-pr.*

samyak-pariṇāmanā 女 廻向 *Sūtr.*

samyak-paribhoga 男 正所受用 *Śikṣ.*

samyak-parikṣita (°ri-ik°) 正觀 *Suv-pr.*

samyak-pālana 中 正当防衛。

samyak-prajāna 中 如實了知 *Aṣṭ-pr.*

samyak-prajñā 女 正智 *Madhy-v.*； 正慧 *Bodh-bh.*

samyak-praṇidhāna 中 正願 *Bodh-bh.*

samyak-pratipatti 女 正行 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*； 正修行 *Ratna-ut.*

samyakpratipatti-tathatā 女 正行如 *Sūtr.*

samyak-pratipanna 過受分 令正， 勤修正行 *Bodh-bh.*； 正行 *Gaṇḍ-vy.*

samyak-prayukta 過受分 正行 *Bodh-bh.*； 正方便 *Kaśy.*

samyak-prayoga 男 正しい使用； 正加行 *Bodh-bh.*； 方便同等， 平等教化， 正直方便 *Kaśy.* ~ena 圓， ~āt 副 正しい手段を用いることによつて

samyakprayogatā 女 行正方便， 令等住正行令順於正行 *Kaśy.*

samyakprayoga-vibhāga 形 (六種) 正行 *Sūtr.*

samyakprayoga-satya 中 正加行諦， 正方便諦 *Bodh-bh.*

samyakprayogāvaraṇa (°ga-āv°) 中 正行障， 正加行障 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*

samyak-pravāraṇā 女 善淨 (請) (語), 正広恣 Bodh-bh.
 samyak-pravicaya 男 正択 Sūtr.
 samyak-prahāṇa 中 意断 Kaśy.; 正勤 Abh-vy., Divy., Kaśy., Lal-v., Madhy-bh., Madhy-vibh., Śikṣ.; 正断 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Kaśy., Madhy-bh., Madhy-vibh., Śikṣ.; 正勝 Abh-vy.; 四正勤 Sūtr.
 samyakprahāṇa-vibhāga 四正勤 Sūtr.
 samyak-prāyogika 形 正加行 Bodh-bh.
 samyak-samādhi 男 正定 Sūtr., Madhy-vibh.; 正精進 Madhy-vibh.
 samyak-saṃkalpa 男 正しい意思; 正思惟 Ma-dhy-vibh., Mvyut., Sūtr.
 samyak-saṃcodanā 女 無倒諫誨, 等心訶責 Bodh-bh.
 samyak-saṃjñapta 過受分 以正言曉諭 Bodh-bh.
 samyak-saṃpādana 中 正發起 Bodh-bh.
 samyak-saṃbuddha 過受分 正等覺 Aṣṭ-pr., Lan̄k., Mvyut.; 正等正覺 Aṣṭ-pr.; 正遍知 Lan̄k., Saddh-p.; 正定, 正遍知覺 Mvyut.; 正遍知 Mvyut., Ratna-ut.; 仏如来 Ratna-ut.; 三耶三仏 三藐三仏陀 Saddh-p., 玄心.
 samyaksambuddhatva 中 正遍知, 正等覺体 Lan̄k.; 成正等覺 Bodh-bh.; 三藐三仏陀 Lan̄k.
 samyaksambuddha-yānika 形 正等覺乘 Sapt-pr.
 samyaksambuddhāśrama (dha-āś°) 男 正覺住, 正遍知住处 Gaṇḍ-vy.
 samyak-saṃbodha 男 (Buddha の) 完全な覺り.
 samyak-saṃbodhana 形 能正諫誨 Bodh-bh.
 samyak-saṃbodhi 女 正覺, 正等正覺, 正真之道 Sukh-vy. I.; 正真道 Raṣṭr., Sukh-vy. I.; 三藐三菩提 Bodh-bh., Lan̄k., Raṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Sukh-vy. I., Sukh-vy. II., Suv-pr.; (音写) 正等菩提 Bodh-bh.
 samyaksambodhi-yāna 中 正等覺乘 Bodh-bh.; (音写) 三藐三菩提乘 Bodh-bh.
 samyak-siṃha-nāda 男 正師子吼 Lan̄k.
 samyak-sthiti 女 正住 Sūtr.
 samyak-smṛti 女 正念 Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Sūtr.; 正慮 Mvyut.
 samyak-svaprajñā 女 正智慧 Ratna-ut.
 samyag-avabodha 男 正しい理解; 正覺 Lan̄k., Suv-pr.; 正智, 悟解 Lan̄k.; 実解, 通曉 Mvyut.; 正能覺了 Suv-pr.
 samyag-avavāda 男 正教授 Madhy-vibh., Vijñ-t.; 正教誨 Vijñ-t.; 正教, 正教授教誨 Ma-dhy-bh.
 samyag-aviparyasta 離戲論, 正離顛倒 Ratna-ut.
 samyag-ājiva 男 正命 Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut.
 samyag-ājñā 女 正智 Aṣṭ-pr.; 正教 Sam-r.
 samyagājñā-suvimukta-citta 形 正智解脫, 正

智無礙 Aṣṭ-pr.; 依正教心善解脫 Madhy-v.; 真知心得解脫, 以真知心得解脫 Mvyut.
 samyag-ānandanā 女 正喜, 善喜, 正慶悅 Bodh-bh.
 samyag-ālapanā 女 正実, 善先, 正言論 Bodh-bh.
 samyag-āśvāsanā 女 正安慰, 善無畏 Bodh-bh.
 samyag-upanidhyāna 中 正思惟 Bodh-bh.
 samyag-upāya-mārga 男 正方便通 Bodh-bh.
 samyag-gata 形 正至 Bodh-bh.; 正行 Divy., Śikṣ.; 正道 Śikṣ.
 samyag-guṇa 男 真の徳.
 samyag-goptr 男 真の保護者.
 samyag-jivita 過受分 正命 Gaṇḍ-vy., Śikṣ.
 samyag-jñāta 過受分 正知, 正解, 能了知 Suv-pr.
 samyag-jñāna 中 正しいまたは真実の知識; 正智 Lan̄k., Madhy-bh., Madhy-vibh.; 聖智 Lan̄k., Madhy-vibh.; 真識 Mvyut.; 正妙智 Lan̄k.
 samyag-darśana 中 真の洞察, (ジャイナ教において) 真の説, 真実の信仰.
 samyagdarśana-saṃpanna 形 真の洞察力をそなえた, 正しい見解を有する.
 samyag-darśikatva 中 正説 Sūtr.
 samyag-darśin 形 正しい洞察力または正しい見解を有する; 正見 Ratna-ut.
 samyag-dṛś 形 正見 Saddh-p.
 samyag-dṛṣṭi 女 正見 Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Ratna-ut., Saddh-p., Sūtr.; 智 Sūtr.
 samyagdṛṣṭi-phala-satya 中 正見果諦 Bodh-bh.
 samyagdṛṣṭi-satya 中 正見諦, 正見実 Bodh-bh.
 samyag-deśanā-vastu 中 応説事 Sūtr.
 samyag-deśikatva 中 正説 Sūtr.
 samyag-dharma-deśanā 女 正説法, 正法教 Bodh-bh.
 samyagdharma-prakāśana 中 開法, 演説正法 Sūtr.
 samyag-dhāritavya 未受分 応…持 Śikṣ.
 samyag-niryāna-vaktr 中 開出要 Sūtr.
 samyag-brahma-cārin 形 具正梵行 Śikṣ.
 samyag-mati 女 正思惟 Buddh-c. → samyaṅ-mati.
 samyag-rasa-pariṇāma-puṣṭi 女 不能消化増益四大 Lan̄k.
 samyag-vāk-karmāntājiva (°ta-āj°) 正語正業正命 Sūtr.
 samyag-vāc 女 正語 Madhy-vibh., Mvyut.; 正言 Madhy-vibh.
 samyag-vānta 過受分 残らず吐き出した(ひる).
 samyag-vijayin 形 完全に勝った.
 samyag-vṛtta 過受分 (於) に対して親切にふるまう.
 samyag-vyapadeśa 男 正教 Bodh-bh.
 samyag-vyavalohita 未受分 正解, 能正觀察 Suv-pr.

samyag-vyāyāma 男 正勤 *Madhy-vibh., Sūtr.;* 正精進 *Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut.*
samyān-mati 因 正確な意見。→ *samyagmati.*
samyānc 因 形 弱 弱 *samic;* 因 *samici, AV.)* 一緒にまたは一方に向った, 結合された, 完全な, 全部の; …の方を向いたまたは互いに向いあっている。
sam-rāj 男 (因 -t) 全世界のまたは最高の支配者 (*Varuna* 神, *Āditya* 諸神 および *Indra* 神, 因); 最高の君主または主権者(因, 因)。
sam-rājñi 因 女性の君主 (因)。
sa-yatna 形 努力する, 活動的な; (不定) しようと努める。
sa-yāvaka 形 ラックで染色された。
sa-yāvan 形 (因 -vari) (因) と一緒に行く, に同伴する (RV)。
sa-yuj 形 結合された (因)。男 仲間 (因)。
sa-yūthya 形 同一の獣群に属する (因)。
sa-yoga 形 ヨーガを伴う。
sa-yoni 因 形 (因) と共通の母胎すなわち起源を有する。
sayonitā 因 [同上の 因] (Br.)。
sayonitva 因 [同上] (因)。
sa-yauvana 形 若い。
sara 形 流動する (因); 一° (因 -i) に行く・走るまたは流れる (因)。男 ひも, 綱; 因 池 (= *saras*); 箭 (= *śara*) *Lal-v.*
saraka 男 因 酒杯, 盃; 酒精; 飲酒; 因 碗 *Mvyut.*
sarakta-citta 形 因 興瑕穢心, 起憂著心 *Divy.*
saragh 男 または 因 蜜蜂 (Br. きわめてまれ)。
saraghā 因 [同上] (因, 因)。
saraṭ (または *sarah?*) 男 または 因 蜜蜂 (因)。
saraṭa 1. 男 トカゲ, カメレオン。
saraṭa 2. 男 大きな数の名, = *saraṭa, sarala;* 因 音写 娑羅茶 *Mvyut.*
sa-raṇa 1. 形 有諍, 有闘争 *Abh-k., Bodh-bh.;* 具煩惱 *Mvyut.*
saraṇa 2. 形 走っている。因 運動, 随行; 因 流転 *Lal-v.*
saraṇa-jivin 形 走ることによって生活する。
saraṇi 因 (また -i) 路, 小道。
saraṇya, 名動 因 急ぐ (RV., まれ)。
saraṇ-yu 形 急いでいる, すばやい, 敏活な。因 [*Tvasṭr* 神の娘で *Yama* 神, *Yami* 女神 および *Aśvin* 双神の母の名] (RV., 用例一回のみ)。
sa-ratham 因 因 (因) と同一の車で; (因) とともに。
sarada-ghana 男 因 (= *śaradaghana*) 秋雲 *Lal-v.*
saradi-śāsin 男 因 (= *śaradiśasin*) 秋月 *Lal-v.*
sa-randhra 形 穴を有する, 穴をあけられた。
sa-rabhasa 形 猛烈な, 激しい。一° または -m 因 猛烈に, 大急ぎで, 突然, 直ちに。
saramā 因 (魔族に盗まれた家畜の隠し場を発見した *Indra* 神または神々の) 雌犬 (因, 因詩, P.)。
saramātmaja (° *ma-āt°*) 男 *Saramā* の子, 犬。
saramā-putra 男 [同上]。
saramā-suta 男 [同上]。

sarayu 因 [Sr] [(*Oudh* 地方の) ある河の名, 因 においては一般に *sarayū*]。
sarala 形 [Sr] まっすぐな; 伸ばした (手); 正しい, 正確な; 高潔な, 正直な, 誠実な, 無邪気な; 真の (ごまかしでなく, まれ)。男 松 (の一種) (*Pinus Longifolia*)。因 音写 (= *saraṭa*) 薩囉藍 *Mvyut.*
saralatā 因 単純さ; 正直。
saralatva 因 まっすぐなこと。
sarala-syanda 男 *Sarala* の分泌物, 松やに。
saralaya, 名動 因 まっすぐにする。過受分 *saralita.*
saras 因 [流れている: Sr] 水桶, 手桶 (RV.); 池, 湖 (因, 因); 因 池 *Ast-pr., Divy., Śikṣ.,* 梵雜; 海, 湖 *Mvyut.;* 池水 *Bodh-c.;* 池沼, 蓮華池 *Sar-pr.*
sa-rasa 形 因 醜: 液を含む, 汁の多い, 力強い; 因: しめった; 新鮮な, 新しい, 最近の; 風味ある; 趣味を解する; 快活な, 魅力のある; 愛に満ちた, 感激に満ちた。~m 因 狂喜して。
sarasatā 因 液の多いこと。
sarasatva 因 [同上]; 趣味を解すること。
sarasi-ja 形 池のなかに生じるまたは棲息している。因 蓮華。
sarasi-janman 男 [婆羅門 (*Brahmana*) の称]。
sarasija-mukhi 因 蓮華のような顔の婦人 (美人の異称)。
sarasijākṣi 因 蓮のような眼の婦人, 明眸の美人。
sarasi-ruha 因 蓮華。
sarasi-sujāta 因 蓮華 *Lal-v.*
sarasi 因 池, 湖 (RV. 用例一回のみ, 因)。
sarasi-Kṛ, ぬらす, 爽快にする, 慰める。
sarasi-ja 因 蓮華。
sarasija-locana 形 蓮華のような眼をした。
sarasi-ruh 因 蓮。
sarasi-ruha 因 [同上]。
sarasiruha-bandhu 男 太陽。
sarasiruhekṣaṇa (° *ha-ik°*) 形 蓮華のような眼をした。
saras-tira 因 池の土手。
sarasvat 形 (因, まれ) 池に富むまたは池と接触する; (因) を好むまたは楽しむ。男 [天上界のある神格の名, 水の守護神, 豊饒を与えるもの (因)]; [*Sarasvati* 神に相応する男性神の名 (YV.)]; 大海 (因, まれ)。
sarasvati 因 池の多い地方 (因詩, まれ); [海に注ぐ大河の名およびその守護神の名]; [ある神聖な小河の名 (この河は *Dṛṣadvati* とともに *Brahmāvarta* の境界を形成し沙漠に消失するが, 地下を流れて *Gaṅgā* 河 および *Yamunā* 河に合流すると想像されている) (因, 因)]; [諸々の他の河川の名]; [*Āpri* 讃歌における三女神の一つの名 (因)]; 弁才の女神 (因, 因); [因 雄弁の女神 (富と雄弁または学問が兼備されることはまれであるから, *Sarasvati* はときに *Śrī* または *Lakṣmi* 女神と不和とされる), *Viṣṇu* 神の妻 また *Durgā* 女神の一名]; 因: 言葉; 雄弁; 天上の声 または神託的な声; [*Śaṅkarācārya* を祖とする十出家僧団の中の一 (団員たちは *Sarasvati* という

語を名前に付加する)]; 弁梵千.; 弁才, 妙音 *Gaṇḍ-vy.*; 弁天, 弁天神, 弁才天女 *Suv-pr.*
sarasvati-kaṅṭhābharāṇa (°ṭha-ābh°) 匣 *Sarasvati* 女神の首飾; [*Bhojadeva* の作と言われる詩論の標題].
sarasvativat 形 因 *Sarasvati* 女神に伴なわれた.
sa-rahasya 形 奥義すなわち *Upaniṣad* を伴う; 秘密 *Divy.*
sarā 因 小川 (因).
sa-rāga 形 染められた, わずかに変色した; 赤くなった; 魅惑的な, 愛らしい; 愛に満ちた, 熱情的な; 有貪 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*; 起貪心 *Divy.*; 有欲, 有欲人, 有染者 *Abh-vy.* ~m 副 熱情的に.
sarāgatā 因 赤くなった状態, 赤さ; 有貪, 有欲 *Abh-vy.*
sarāga-doṣa-pratigha 離於貪瞋恚 *Lank.*
sa-rājaka 形 王と一緒の.
sa-rāti 形 同等の賜物を与える, 等しく好意ある (因).
sarāvati 因 音写 [河名] 撰伐羅仏底 *Divy.*
sa-rāṣṭra 形 王国とともなる.
sarit 因 [Sr] 流れ, 河: ~ām pati 男 諸河川の主または夫君, 大洋; 河 *Mañj-m.*
saritā 因 莊嚴, 長貪 *Mvyut.*; 常流 (声) *Sūtr.*
sarit-pati 男 諸河川の主または夫君, 大洋.
sarit-suta 男 (*Gaṅgā* 河の息子), [*Bhīṣma* の母系].
sarira 匣 大波, 洪水 (因).
sari-srpa 形 [Srp の 陸龜 から] 這っている, 爬行する. 男 (龜), 匣 (因) 爬行動物; 毒蟹 *Aṣṭ-pr.*; 蠍蛇 *Mvyut.*; 蛇蠍 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*
sa-ruc 形 非常に光輝ある, 威風堂々たる.
sa-ruja 形 苦しい; 病める.
sarujatva 匣 気分がすぐれないこと, 軽い病氣.
sa-ruṣ 形 怒った.
sa-rūpa 形 (屬, 一°) と同一の形態を有する, に似ている; 音声 (語) が同一の; 形態を有する, 形を与えられた; 美しい形を有している, 美しい; 似 *Samkhy-k.*; 同類 *Abh-vy.*
sarūpatā 匣 (一°) との均一性, 同一性.
sarūpatā-vatsā 因 同色の子牛を有する牝牛.
sa-retas 形 種子または精液を有する (因).
sa-roga 形 病んでいる, 病気の.
sarogatā 因 病身.
saro-ja 形 池に生ずる. 匣 蓮華.
saroja-netra 形 蓮華のような眼をした.
saro-jini 因 沢山のまたは群生した蓮; 蓮, 蓮池; とくとして蓮華.
saropānta (°as-up°) 匣 池または湖の付近.
saro-bindu 男 歌 (の一種).
sa-roma 形 毛深い.
sarorañca 形 剛毛を有する. ~m 副 [同上].
saro-rakṣa 男 池の番人.
saro-ruha 匣 蓮.
saro-ruhākṣi 形 因 蓮のような眼を有する.
saro-ruhini 因 沢山のまたは群生した蓮; 蓮; 蓮池. → *sarojini.*
sa-roṣa 形 激怒した, 怒った. ~m 副 憤然として.

saroṣa-sambhrama 形 怒って取り乱した.
saroṣa-smitam 副 怒ったような笑いを浮かべて.
sarkara 男 砂鹵, 沙礫 *Lal-v.*
sarga 男 [Sri] RV.: 発射; 噴出, 流れ; 一陣 (の風); (駿馬を) 出発させること; 競走; 放たれた獣群; 因, 匣 大軍; 匣: 射出, 流出; 創造 (普通の意味); 創造物 (*daiva* とともに, 神的存在, 神); 生得の性質, 気質 (まれ); 決心, 目的, 意思 (まれ); 節, 篇 (美文体 叙詩において); 生 *Samkhy-k.*; 品, 造化 *Buddh-c.*; 次序, 次第, 分品類 *Mvyut.* ~e 因 世界において. ā~āt, 世界の初めから.
sargaka 出生 *Ratna-ut.*
sarga-takta 形 疾走する (奔流, RV.). → *Tak.*
sarga-prataкта 過受分 [同上] (駿馬; RV., 用例一回のみ). → *Tak.*
sarga-bandha 男 篇 (章) に分けられた作品, 美文体 叙事詩.
sarja 男 (樹脂を滲出させるもの) [ある樹木の名 = *Śāla Vatica Robusta*].
sarjana 匣 創造すること, 創造物.
sarja-rasa 男 *Śāla* (娑羅) 樹の樹脂; 白膠; 白膠香 *Mvyut.*, *Siv-pr.*; 香檀 *Mvyut.*; 音写 薩折羅娑 *Suv-pr.*
sar-tave 因 不定 [Sr].
sar-tavai, [同上] (RV.).
sarpa 形 (因 -i) 這う, 爬行する. 男 蛇: 種 ある半神族 (地上, 空中, 天および地獄に住む); 竜 *Divy.*; 蛇 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*, 梵雜.; 毒蛇 *Madhy-v.*, *Raṣṭr.*; 音写 薩哩半 *Guhya-s.*
sarpa-rṣi 男 (蛇聖), [*Arbuda* の名].
sarpa-koṭara 匣 蛇穴.
sarpaṇa 匣 這うこと, 滑ること; ゆっくり飛ぶこと; 祭官の儀式的行列 (= *prasarpaṇa*) (祭).
sarpatā 因 蛇たること, 蛇の状態. ~m *Gam*, 変じて蛇となる.
sarpatva 匣 [同上].
sarpa-daṣṭa (過受分) 匣 蛇にかまれた傷.
sarpa-daivata 匣 竜神 *Divy.*
sarpa-dviṣ 男 孔雀.
sarpa-phana 男 蛇のかさ状の頸部.
sarpa-bali 男 蛇神への供物.
sarpa-rāja 男 蛇族の王.
sarpa-rājñi 因 蛇族の女王: 種 (または 屬) [RV., X, 189 (= TS. I, v, 4) の詩節の名].
sarpa-śiras 匣 蛇頭 *Śikṣ.*
sarpa-śirṣopama (°sa-up°) 形 如蛇頭 *Mvyut.*
sarpi 男 [人名] (Br.).
sarpiḥ-pradyotika 形 酥灯, 酥 (油) 炷 *Śikṣ.*
sarpi-taila 匣 酥油 *Raṣṭr.*
sarpin 形 這う, 滑る.
sarpi-maṇḍa 男 匣 酥 *Śikṣ.*; 醍醐 *Lal-v.*, *Mvyut.*
sarpir-āsuti 形 精製した牛酪をすする (RV.).
sarpiṣmat 形 精製牛酪を伴うまたは調理された.
sarpiṣvat 形 [同上].

sarpis 田 [滑る, 融ける; Srp] 澄んだ牛酪, ギー (=ghṛta) (液体または固体状; ときとして 田); 田 酥 *Abh-vy.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Prāt-m.*, *Śikṣ.*; 蘇 *Lal-v.*, *Śikṣ.*; 醍醐 *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*; 新酥油 *Mvyut.*; 純乳微妙乳 *Lal-v.*

sarpi 因 雌蛇.

sarpi-BHū, 蛇となる.

sarpeśvara (°pa-iś°) 田 蛇族の主 (*Vāsuki*).

sarva 田 全き, 全体の; 一切の, 各々の (RV. においては *viśva* がこの意味に用いられる); 田: 各種の, あらゆる種類の; 他の 田 とともに = 全く, 完全に (田; 田, 一°); 田 一切 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lanḅ.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*; 皆 *Saddh-p.*; 諸 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*; 総 梵千.; 全, 一切種 *Abh-vy.*; 一切法 *Madhy-bh.*; 衆, 普一切, 遍一切 *Bodh-bh.*; 一切時処 *Śikṣ.*; 田 寫 薩哩嚩 *Guhy-s.*: ~eṇa ~m ~thā ~m 於一切種一切時一切処 *Aṣṭ-pr.* 183; ~m idam nāmamātram 一切...唯有名 (言) *Madhy-bh.* 5. 田 田 各人; 田 田 みんな, 全員; 田 田 皆 *Bodh-bh.* 田 田 何もかもみな, 万事: ~h ko' pi 誰でもみな; ~e 'pi みな一緒に; +na, 田: みな...ではない, すべて...ではない; 少しも...ではない, そうではない, 決して...ではない. 田 [*Kṛṣṇa* 神の称].

sarvaṃ-saha 田 一切を耐え忍ぶ, すべてのことを忍耐強くこらえる.

sarvaṃ-sahā 因 大地.

sarva-karman 田 田 あらゆる種類の作業, 儀式または職業.

sarva-karma-vaṃśa-samatā 因 田 等一切業, 等一切衆生業, 一切業性等 *Gaṇḍ-vy.*

sarva-kalpa-saṃvāsa 田 田 尽一切劫住 *Gaṇḍ-vy.*

sarva-kāma 1. 田 田 すべての (種類の) 欲望; 田 衆願 *Gaṇḍ-vy.*

sarva-kāma 2. 田 田 すべてを望む; 一切の願望を成就する; 望むものをすべて手に入れた. 田 [*Rtuparna* の息子の名].

sarva-kāmin 田 [同上].

sarva-kāla ° 一 何時でも, 常に. 田 田 恒 *Sūtr.*, 梵千.; 恒時, 一切時 *Abh-vy.* ~m 田 田 どんな時でも, 何時でも, 常に (+na, 決して...でない); 田 恒 *Sūtr.*; 常 *Bodh-bh.*, *Vijñ-t.* ~e 田 田 何時も, 常に.

sarvakāla-dānatā 因 田 田 一切時施 *Bodh-bh.*

sarvakāla-mitra 田 田 常に変らぬ友人.

sarva-kāṣam, 田 +Kaś, 全く使い尽して.

sarva-kriyā 因 田 田 諸可有所作皆 *Madhy-v.*

sarva-kleśa-kośa 田 田 一切煩惱蔵, 一切煩惱使纏, 無量煩惱蔵 *Ratna-ut.*

sarvakleśa-prahāṇa 田 田 断煩惱 *Madhy-v.*

sarvakleśa-bandhana 田 田 諸縛 *Ratna-ut.*

sarvakleśa-mala 田 田 無明住地垢 *Ratna-ut.*

sarva-kṣaya 田 田 世界の破滅.

sarva-kṣetra 田 田 諸世間 *Ratna-ut.*

sarva-ga 田 田 すべてに行きわたる, 遍在する; 田 田 遍

Abh-k., *Sūtr.*; 遍在, 遍行 *Abh-vy.*; 遍諸処 *Ratna-ut.*

sarva-gaṇa 田 田 集団全体. 田 田 集団全体を有するまたは形成する (田).

sarva-gata 田 [Gam] すべてに行きわたっている; 普遍的に行きわたっている; 遍在する; 田 田 周遍 *Cat-ś.*; 虚通 *Madhy-v.*; 徧至 *Ratna-ut.*; 遍一切処 *Lanḅ.*; 遍一切, 一切遍 *Sūtr.* **papracchānamayaṃ** ~m かれは (かれらの) 全般的な健康のことを (=かれらがすべての点で健康であるか否かを) 尋ねた.

sarvagatatva 田 [同上の 田]; 田 田 遍 *Abh-vy.*

sarvagatva 田 田 徧処 *Ratna-ut.*

sarva-gandha-vaha 田 田 あらゆる種類の香りを漂わせる.

sarva-gātra 田 田 全肢.

sarva-gāmin 田 田 遍行 *Gaṇḍ-vy.*

sarva-guṇa 田 田 一切の徳, 全美点.

sarva-grāsam, 田 +Gras, 完全に貪り食って.

sarvaṃ-kaṣa 田 田 全く (人間を) 疲れ果てさせる, はなはだしく残酷な; すべてに行きわたる.

sarvaṃ-kaṣā 因 [*Śisupālavadha* に対する *Mullinātha* の註釈の題名].

sarva-cakrā 因 田 田 諸輪母 *Mvyut.*

sarva-caru 田 [人名] (Br.).

sarva-jagat 田 田 一切衆生 *Ratna-ut.*

sarvajagad-upajivya 田 田 衆生 *Ratna-ut.*

sarva-jana 田 田 すべての人.

sarva-janina 田 田 すべての人に関するまたは属する.

sarva-janman 田 田 一切生 *Madhy-vibh.*

sarva-jit 田 田 一切に打ち勝つ.

sarva-jña 田 田 一切を知っている, 全知の (神々または人間, とくに大臣または哲学者); 田 田 一切智 *Abh-vy.*, *Lanḅ.*, *Sam-r.*, *Sapt-pr.*, *Suv-pr.*, 五; 一切種智 *Divy.*, *Sam-r.*; 田 寫 薩云若, 薩芸然, 薩婆若, 薩伐若 五. 田 [人名]; 田 田 徧知, 一切知, 一切智 *Mvyut.*

sarvajña-cakṣus 田 田 一切智眼 *Ratna-ut.*

sarvajña-jñāna 田 田 一切智 *Lanḅ.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*; 一切種智, 一切知者智, 仏智, 仏一切智 *Saddh-p.*; 一切智人 *Lanḅ.*; 一切智智 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*, *Suvik.*; 一切種智智 *Sam-r.*; (田 寫) 薩婆若智 *Aṣṭ-pr.*

sarvajñajñāna-praṇidhāna 田 田 一切智願 *Saddh-p.*

sarvajñajñāna-mārga 田 田 一切智道 *Sūtr.*

sarvajñajñāna-viśaya 田 田 一切智境界, 一切種智知 *Ratna-ut.*

sarvajñajñāna-sāgara 田 田 一切智智海 *Gaṇḍ-vy.*

sarvajña-tattva 田 田 一切智 *Suv-pr.*: *mūlam* ~sya, 一切智根本 *Suv-pr.* 32.

sarvajñatā 田 田 全知; 田 田 一切智 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Sam-r.*; 一切智果 *Aṣṭ-pr.*; 普慧 *Mvyut.*; 一切種智 *Śikṣ.*, *Sūtr.*; 田 寫 薩婆若 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Kāśy.*

sarvajñatā-citta 田 田 一切智心 *Saddh-p.*, *Śikṣ.*

sarvajñatā-jñāna 甲 一切智智 *Gaṇḍ-vy.*
 sarvajñatā-dharma 男 一切智法 *Gaṇḍ-vy.*
 sarvajñatā-niryāta 形 遍知性中実出 *Mvyut.*
 sarvajñatā-pravaṇa 男 習普慧学, 通達及時 *Mvyut.*
 sarvajñatā-prāgbhāra 男 護無貪, 至普慧界 *Mvyut.*
 sarvajñatābhijñāvat (°tā-abhi°) 形 具一切智性神通 *Daś-bh.*
 sarvajñatābhimukha (°tā-abhi°) 形 向普慧方, 了諸方所 *Mvyut.*
 sarvajñatā-mārgāvatāra 男 入一切智道 *Aṣṭ-pr.*
 sarvajñatva 甲 全知; 一切智 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Saddh-p.*; 一切智性 *Aṣṭ-pr., Daś-bh.*; 一切智法, 一切智人法 *Aṣṭ-pr.*; 一切種智慧 *Saddh-p.*
 sarvajñatva-prāpti 女 為求一切種智 *Sūtr.*
 sarvajña-dharmatā 女 一切智 *Ratna-ut.*
 sarvajña-nārāyaṇa 男 [ある学者の名].
 sarvajña-mānin 形 一切智慢 *Divy.*
 sarvajña-mitra 男 [人名].
 sarvajñaṃ-manya 形 自分を一切智者とみなす.
 sarvajñaṃmanyatā 女 [同上の 通].
 sarvajña-līla 形 如一切智 *Divy.*
 sarvajña-viṣaya 男 如来境界, 一切智境界 *Ratna-ut.*
 sarvajña-saṃvartaniya 未受分 生一切智, 順一切智 *Gaṇḍ-vy.*
 sarvajñā-jñāna 甲 一切智智 *Lat-v.*
 sarva-jñāna 甲 一切智, 衆智慧 *Gaṇḍ-vy.*
 sarvajñāna-nimittatva 甲 諸智因 *Sūtr.*
 sarvajñāna-purojavānuparivartin 形 智為本展轉 *Ratna-ut.*
 sarvajñānamaya 形 一切の智識を含む.
 sarvajñāna-hārīka 能獲一切智 *Sam-r.*
 sarva-jñeya 一切所知境界 *Ratna-ut.*
 sarvajñeya-vastu 甲 徧一切境界 *Ratna-ut.*
 sarvajñeya-viṣaya 解一切 *Sūtr.*
 sarvajñeya-samāpatti 女 所知境界中…三昧 *Ratna-ut.*
 sarvajñeyāvaraṇa-suddhi (°ya-āv°) 女 無智障 *Ratna-ut.*
 sarvataḥ-pāṇi-pāda 形 至る所に手足を有する.
 sarvataḥ-prabhūta 過受分 遍自在, 於一切処皆充足 *Daś-bh.*
 sarvataś-cakṣus 形 眼が至る処にある.
 sarvataḥ-srutimat 形 至る処に耳を有する.
 sarvatas 副 すべての面から, 各方向に, 至る処に; (還)のまわりに; 全く, 完全に, 徹底的に; = 副 または 副 各々から, 各人から; 一切 *Abh-vy.*; 一切種 *Sūtr.*; 於一切中 *Daś-bh.*; 遍一切処, 於一切処 *Madhy-v.*
 sarvatā 女 全体, 総計; 一切性 *Daś-bh.*
 sarva-tāti 女 (因) 完全性, 完全なる安全または繁榮.
 ~tātā 副 一斉に, 全く.
 sarva-tathāgata-guhyasthāna 甲 一切如来境

界 *Ratna-ut.*

sarvatathāgata-gocara 男 一切如来行処 *Sam-r.*
 sarvatathāgata-dharma-vāg-niṣprapañca-jñāna-mudrā 女 諸如来言無為手印, 諸如来無戲言手印 *Mvyut.*
 sarvatathāgata-prajñā-mudrā 女 諸如来智慧手印 *Mvyut.*
 sarvatathāgata-bandhana-jñāna-mudrā 女 諸如来戒智手印 *Mvyut.*
 sarvatathāgata-vajrābhiṣeka-jñāna-mudrā 女 如来金剛灌頂智手印, 如来金剛灌戒智手印 *Mvyut.*
 sarvatathāgata-viśva-karma-jñāna-mudrā 女 諸如来諸事智手印 *Mvyut.*
 sarvatathāgata-viṣayāvatāra-jñāna-kuśala 形 善入諸仏境 *Mvyut.*
 sarvatathāgata-saṃtoṣaṇi 甲 諸如来作歡母 *Mvyut.*
 sarvatathāgata-samaya-vajra-ketu 男 [菩薩名] 諸仏三昧金剛幢 *Guhy-s.*
 sarvatathāgata-samājādhiṣṭhāna-jñāna-mudrā 女 如来海慧摂受智手印, 如来海慧摂授手印 *Mvyut.*
 sarvatathāgata-surata-sukhā 女 諸如来喜勝樂 *Mvyut.*
 sarvatathāgatākaraṇi (°ta-āk°) 女 諸如来召請母, 諸如来召諸母 *Mvyut.*
 sarvatathāgatānurāgaṇa-jñāna-mudrā 女 令喜諸如来智手印, 如来諸喜智手印 *Mvyut.*
 sarvatathāgatānurāgaṇi 女 諸如来作喜母 *Mvyut.*
 sarvatathāgatāsā-paripūrṇa-jñāna-mudrā (°ta-ās°) 女 一切如来密意令円満汝智手印, 如来諸思惟円満汝智手印 *Mvyut.*
 sarva-tirtha 甲 一切の聖なる沐浴場.
 sarva-tejo-maya 形 (女 -i) 一切の光榮ある.
 sarvato-gāmin 形 すべての方角に進む (武器).
 sarvato-bhadra 形 すべての点で喜ばしい. 男 [ある技巧的な詩節, すなわち各 pāda の半分を逆に読むと残りの半 pāda と全く等しい場合をいう (例 *Kira-tārjunīya XV, 25; Śiśupalavadha XIX, 40*).
 sarvato-mukha 形 (女 -i) あらゆる方向に向いた; 無制限の, 完全な; 一切門 *Bodh-bh.* 男 陣立て (の一種).
 sarvato-vṛtta 過受分 [Vrt] 遍在する.
 sarva-tyāga 男 完全なる放棄.
 sarva-tra 副 すべての点において, すべての場合に, 常に(ときとして *api, sarvadā* という語によって強められる); =sarvaの 副; +na, 如何なる場合にも…ではない; 決して…ではない等; 恒 *Laik.*; 皆 *Abh-vy.*; 遍 *Abh-vy., Gaṇḍ-vy., Nyāy-pr.*; 一切 *Bodh-bh., Ratna-ut.*; 一切時 *Bodh-bh.*; 一切所 *Aṣṭ-pr.*; 一切処 *Bodh-bh., Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Ratna-ut., Śikṣ.*; 一切時 *Laik.*; 遍一切処 *Daś-bh.*; 於一切処 *Śikṣ.*; 諸処, 於一切, 一切中 *Abh-vy.*; 無量境界 *Ratna-ut.*
 sarvatra-ga 形 一切に遍満する, 遍在する; 遍

Abh-vy.; 遍有 Bodh-bh.; 遍行 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Vijñ-t.; 普, 一切遍 Sūtr.; 徧一切, 徧至一切処 Ratna-ut.

sarvatra-gata 形 すべてのもので行きわたる, 普遍的な, 完全な.

sarvatragatatva 中 [同上の 遍].

sarvatraga-hetu 男 徧行因 Abh-vy., Nyāy-pr., Mvyut.

sarvatra-gāmin 形 徧行 Abh-vy.; 至処, 遍趣 Bodh-bh.; 一切処行 Śikṣ.

sarvatra-gāmini-pratipaj-jñāna-bala 中 遍趣行智力 Bodh-bh.; 知一切道智相力 Mvyut.

sarvatragārtha 男 徧行義, 遍滿義 Madhy-vibh.; 一切遍義 Sūtr.; 徧一切, 徧一切処 Ratna-ut.

sarvatra-jñāna 中 一切智 Abh-vy.

sarvatrānugata 形 普遍 Lal-v.; 遍行, 周遍, 徧至一切, 徧至一切処 Daś-bh.

sarvatva 中 完全, 十全; 普攝 Sūtr.

sarvathā 副 すべての際において, 是非とも (普通の意味); どんな方法でも; しかしながら (まれ); 全く, 全然, 極度に (まれ); +na 決して...でない, 全然...でない; 皆 Abh-vy., Rāṣṭr.; 一切 Bodh-bh., Madhy-v., Rāṣṭr.; 一切種 Abh-vy., Madhy-bh.; 遍一切種 Abh-vy.; 本, 諸相, 諸相本 Mvyut.; 必定 Divy.: ~nāsti, ~'bhāvaḥ (一切種性) 全無, 一向無, 一切永無 Madhy-bh.

sarvathā-jñāna 中 一切種智 Abh-vy.

sarvathābhāva (°thā-abh°) 男 全無, 永無 Madhy-vibh.

sarvathārtha-kṛt 形 作利益 Ratna-ut.

sarva-da 形 一切を与える.

sarva-dada 形 一切施 Rāṣṭr.

sarva-damana 形 すべてに打ち勝つ. 男 [Śakuntalā の息子 Bharata の称; ある Asura の名].

sarva-darsin 形 一切を見る; 諸仏 Ratna-ut.; 一切見 Daś-bh., Lanik.; 一切知見 Sam-r.; 普現, 普胆 Rāṣṭr.; 普觀衆生 Lanik.

sarvadā 副 常時, 常に, 永久に; +na 決して...ではない; 皆 Madhy-v.; 常 Vijñ-t.; 恒 Abh-vy., Bodh-bh.; 恒時 Sūtr.; 一切, 恒, 常 Madhy-vibh.; 一切時 Ratna-ut.

sarva-dāna 中 (自己の) すべてを与えること.

sarva-dānatā 女 一切物施 Bodh-bh.

sarva-dik-samudra 男 一切方海 Gand-vy.

sarva-dig-abhimukha-gocara 男 一切境界皆悉現前, 十方境界皆悉現前 Gand-vy.

sarva-diśam 副 すべての側から, すべての方向へ.

sarva-duḥkha 中 苦 Lanik.; 一切苦 Ratna-ut.

sarva-dṛṣṭi 女 諸見 Madhy-v.

sarvadṛṣṭi-gatāpagama 男 離一切見趣 Bodh-bh. → dṛṣṭigati.

sarvadṛṣṭi-prahāṇa 男 (悉) 断一切見 Madhy-v.

sarva-deva 男 一切神.

sarva-devatāmaya 形 (因 -i) 一切の神格を含む.

sarva-devatya 形 一切神に捧げられたまたは一切神を

あらわす.

sarvadevamaya 形 (因 -i) 一切神を含むまたはあらわす.

sarva-deśiya 形 各地方から来る.

sarva-dehin 男 一切身, 衆生身 Lanik.; 衆, 民人皆 Saddh-p.; 衆生, 一切衆生 Ratna-ut.

sarva-daivatya 形 一切神をあらわす.

sarva-doṣa 男 衆過患 Saddh-p.; 一切習気 Ratna-ut.

sarva-dravya 中 一切の事物.

sarva-dharma 男 諸法 Madhy-v., Ratna-ut.; 一切法 Abh-vy., Lanik., Madhy-v., Ratna-ut.; 一切諸法 Madhy-v., Ratna-ut., Sūtr.: ~ā an-ātmanah 一切諸法無我 (印) Sūtr. 18; ~āṇām parikalpitā 一切諸法但分別 Sūtr. 11.; ~paṭṭa-vābaddhābhiṣekaprāptibuddhadharmasaṅghaparyeṣṭisaṃdarśanānirvṛtta 便施諸法, 諸法得灌頂尋求佛法無有退轉, 便施諸法巧法以欲得灌頂尋求佛法, 無有退轉者 Mvyut. 29, 18.

sarvadharmatathatā 女 一切法如 Ast-pr.; 一切真如, 一切法門 Ratna-ut.

sarvadharmadhātu 男 一切諸衆生身 Ratna-ut.

sarvadharmānirabhilāpya-sūnyatā 女 一切法離言說空, 一切法無言空, 一切法不可說空 Lanik.

sarvadharmāniḥsaṃsaya-jñāna 形 會諸法無疑智具, 會諸法無疑智 Mvyut.

sarvadharmāniḥsvabhāvatvopadeśa (°va-up°) 男 以一法無自性而為教授 Sūtr.

sarvadharmānairātmya 中 一切法無我 Ratna-ut.

sarvadharmāparamāpārami-prāpta 過受分 所得一切諸法最上波羅密 Rāṣṭr. (音写)

sarvadharmāparamārthāvatāra-jñāna 中 入一切法第一義智 Bodh-bh.

sarvadharmāparikṣā 女 觀法, 觀察一切法 Lanik.

sarvadharmāpravṛtti-nirdeśa 男 [經名] 隨說諸法經 Śikṣ.

sarvadharmāmaya 形 一切の法を含む, 一切の事物を有する.

sarvadharmāyathāvad-anidarśana 男 一切法如實無見 Sivik.

sarvadharmāvaśa-vartin 形 於法自在, 於一切法而得自在 Lanik.

sarvadharmāvaśitā 形 於一切法皆得自在 Madhy-bh.

sarvadharmāvaśitā-prāpta 女 得一切自在 Ratna-ut.

sarvadharmāvid 形 一切法を知っている.

sarvadharmāvaipulya-saṃgraha-sūtra 中 集諸法方広經 Śikṣ.

sarvadharmāśūnyatā 女 諸法空 Mvyut.; 一切法空 Madhy-bh., Madhy-vibh., Mvyut.

sarvadharmāsamatā-jñāna-mudrā 女 令喜諸如来智手印, 諸法平等智印, 諸法平等手印 Mvyut.

sarvadharmasamatābhisambuddha (°tā-abh°) 男

平等証一切法 *Ratna-ut.*
sarvadharmā-samāśraya 諸法依止 *Ratna-ut.*
sarvadharmānāvaraṇa-jñānin 具法無障智 *Mvyut.*
sarvadharmāpravṛtti-nirdeśa 見示無生法, 諸法無行經, 諸法無行法經 *Mvyut.*
sarvadharmābhisambodha 覺一切, 如實覺諸法 *Ratna-ut.*
sarvadharmābhisambodhi-vaiśāradya 法無所畏, 一切智無所畏 *Mvyut.*
sarvadharmēśvara (°ma-iś°) 一切法自在, 諸法自在 *Mvyut.*
sarvadharmāśvarya-bala (°ma-aiś°) 一切法中得自在力 *Ratna-ut.*
sarva-nara すべての人.
sarva-nāmatva 代名詞の性質.
sarva-nāman (一般的な名前), 代名詞.
sarva-nāma-sthāna 強語基に付け加えられる格の語尾.
sarva-nāśa 完全な欠如; すべてのももの喪失, 完全な破滅. ~m Kr, すべてのもものを失なう.
sarva-nikṣepā 薩婆尼差波, 娑婆尼叉 *Lal-v.*
sarva-niyantr 一切を制御するもの.
sarvaniyantrtva [同上の 語].
sarva-nivaraṇa-viṣkambhin [菩薩名] 除蓋障 *Guhy-s.*
sarva-paṭṭamaya すべての種類の織物からなる.
sarva-pathina すべての道を占めている.
sarva-pariphulla 花開徹, 花卉開徹 *Mvyut.*
sarva-parśad-anuravitā 名称普徧, 随入一切衆会 *Mvyut.*
sarva-pāścād 最後 *Abh-vy.*
sarva-puṇya-samuccaya-samādhi (音写) 集一切功德三昧, 等集衆徳三昧 *Saddh-p.*
sarva-pūrvaka 最初 *Saddh-p.*
sarva-prakāram 一切種, 一切…品類差別 *Madhy-bh.*
sarva-prajā 万民 *Buddh-c.*
sarva-praṇidhāna-nīśraya-vigata 離諸願処 *Mvyut.*
sarva-prativīṣṭa 一切最勝 *Bodh-bh.*
sarva-prathamam 最初 *Abh-vy.*
sarva-prathamātara 比較 先来 *Cat-ś.*
sarva-prada 普施 *Sūtr.*
sarva-pradhāna 第, 最第 *Divy.*
sarva-prapañca-vikalpopaśāntatva (°pa-up°) 遠離一切戲論分別, 遠離一切戲論虚妄分別 *Ratna-ut.*
sarva-prabhu すべてのももの主.
sarva-prāṇa ~ena 全力を尽して.
sarva-prāyaścitta (因 -i) すべてのもものに対して償いをする (Br.). 償い; [Āhavanīya におけるある供儀].
sarva-bala (音写) 薩婆婆羅 *Lal-v.*; 薩里和婆羅 *Mvyut.*

sarvabāhātara 最大力者 *Suv-pr.*
sarva-bijaka 一切種 *Vijñ-t.*
sarva-buddha 一切諸如来 *Lank.*; 一切諸仏 *Ratna-ut.*
sarvabuddha-kṣetra 衆仏国, 一切仏刹 *Lank.*; 一切仏国土 *Lank., Ratna-ut.*; 一切諸仏国土 *Ratna-ut.*
sarvabuddha-guṇa 仏功德 *Ratna-ut.*
sarvabuddha-parigraha 一切仏所護念 *Saddh-p.*
sarvabuddha-praṇidhānādhiṣṭhāna 一切諸仏願持, 一切諸仏自願処, 一切諸仏自願住持 *Lank.*
sarvabuddha-pravacana-hṛdaya 一切仏語心, 諸仏教心, 一切諸仏所説法心 *Lank.*
sarvabuddha-viṣaya-kuśala 善知諸仏士, 善行諸仏士 *Mvyut.*
sarvabuddhaviṣayāvatāra-jñānālokālamkāra-sūtra (°na-āl°) [経名] 如来莊嚴智慧光明入一切仏境界経 *Ratna-ut.*
sarvabuddha-samatā 一切仏平等性 *Gand-vy.*
sarvabuddhasamatānugama (°tā-an°) 澄一切仏平等 *Gand-vy.*
sarvabuddhasamatā-prāpta 得諸仏平等性 *Mvyut.*
sarva-bodhisattva-saṃpraticchita-jñāna (音写) 智諸菩薩実受, 受智諸真実菩薩 *Mvyut.*
sarva-bhakṣa すべてのもものを食う, 雑食の.
sarva-bhakṣin [同上].
sarva-bhāva 全心または全靈; 完全な満足: 覆一切の対象; 一切法 *Madhy-v., Lank.*; 所有一切法 *Madhy-v.* ~ena, ~ais 全, 一°, (自己の) 全精神を傾けて (愛する等).
sarvabhāva-vigata 離一切性 *Guhy-s.*
sarva-bhūta 至る処に存在する. 一切の存在物: +na, 存在物ではない; 諸衆生, 一切衆生 *Lank.*
sarvabhūta-kṛt 一切の存在物を形成する.
sarvabhūtamaya (因 -i) 一切の存在物を含むまたは代表する.
sarvabhūta-ruta-grahaṇi 皆響 *Lal.*; (音写) 薩婆婁多書, 薩婆部多睺婁多書 *Lal-v.*
sarvabhūtātman (°ta-āt°) すべてのももの靈魂.
sarvabhūtātma-bhūta 一切有情猶如己身 *Lank.*
sarva-bhūmi 全地面を所有する.
sarva-bhogya すべてのもものによって享受されるべき, 一切にとって利益のある.
sarva-māṅgala あまねく縁起のよい. 一切の縁起のよいもの.
sarva-māṅgalā [Durgā 女神 (ときとしてまたは Lakṣmī 女神) の称].
sarva-manorama すべての人を喜ばす.
sarvamaya (因 -i) すべてのもものを含む.
sarva-malāpagata 離諸垢, 普離諸垢 *Mvyut.*

sarva-mahat 形 すべてのもの中のものの中の最大の。
 sarvamahattara 比較 他のすべてのもより大きい。
 sarva-māmsa 中 形 一切肉，一切諸肉 *Lank.*
 sarva-māmsāda 形 各種の肉を食う。
 sarva-māya 男 [ある Rākṣasa の名]。
 sarva-mitra 男 形 [人名] 一切友 *Divy.*; 音写 薩婆蜜多 *Divy.*
 sarva-medha 男 一切を捧げる祭式 (10日間続くソーマ祭)。
 sarva-medhyatva 中 完全に清浄なこと。
 sarva-yajña 男 あらゆる祭り：種 一切の祭式。
 sarva-yatna 男 一切の努力。～ena 男 (自己の) 全力を傾けて，(自己の) 能力の及ぶかぎり。
 sarvayatnavat 形 あらゆる(可能な)努力をする。
 sarva-yoni 女 一切の根源。
 sarva-yosit 女 種 一切の婦人，全女性。
 sarva-ratna 男 [人名]。
 sarvaratnamaya 形 あらゆる宝石からなる；全部宝石でちりばめられた。
 sarvaratna-samanvita 過受分 全宝石を所有する。
 sarvaratnākāra (°na-āk°) 男 形 無尽宝，無量宝 *Gaṇḍ-vy.*
 sarva-rasa 男 すべての種類の精または液体 (種 または °一)；すべての味：種 一切の美味なる食物。
 sarva-rātra 男 (?) 全夜：°一 または ~m 副 一晚中。
 sarva-ruta-kausalya-dhāraṇi 女 形 了一切音総持 *Saddh-p.*；(音写) 解一切衆生語言陀羅尼 *Saddh-p.*
 sarvarutakausalyānugata-dhāraṇi 女 形 曉一切方便総持 *Saddh-p.*；(音写) 解一切衆生語言陀羅尼 *Saddh-p.*
 sarvaruta-saṃgrahaṇi-lipi 女 形 (音写) 薩婆多僧伽訶書 *Lal-v.*
 sarva-rūpa 形 (因) 一切色を有する；全形態を有するまたは帯びる；あらゆる種類の。
 sarvarūpa-saṃdarsana 中 形 現一切色身 *Saddh-p.*
 sarvartuka (°va-rt°) 形 全季節に住むに適した(家)。
 sarva-liṅga 形 全ての性 (gender) を有する，形容詞的。
 sarva-loka 男 因 團：全世界；團：全人民；各人；種 または °一，一切の存在物；だれでも皆；形 世間，一切世間 *Ratna-ut.*
 sarvaloka-dhātu-prasṛta-kāya 形 形 身徧諸世間 *Mvyut.*
 sarvalokadhātūpadravodvega-pratyuttirṇa (°va-ud°) 男 形 度一切世間苦惱 *Saddh-p.*
 sarvaloka-priya-darsana 形 形 一切衆生喜見 *Suv-pr.*
 sarvaloka-bhayaṃkara 形 全世界を震撼させる。
 sarvaloka-maheśvara 男 [Śiva 神 および Kṛṣṇa 神の称]。
 sarvaloka-vipratyanīyaka-dharma-paryāya 男 形 一切世間難信之法 *Saddh-p.*
 sarvaloka-stha 形 形 一切 *Madhy-v.*
 sarvalokānīśrita-sīla 中 形 一切世間無所依戒

Gaṇḍ-vy.

sarvalokānukampaka 形 形 哀愍世間 *Lank.*
 sarva-loha 形 真紅の。中 すべての種類の金属(°一)。
 sarvalohamaya 形 (因-i) 全く鉄からなる。
 sarva-vāram 副 直ちに，同時に。
 sarva-vikrayin 形 あらゆる(種類の物品)を売る。
 sarva-vijñānin 形 すべてを知っている。
 sarva-vijñānitā 女 全知。
 sarva-vid 形 全知の。
 srava-vināśa 男 全滅。
 sarva-vinda 男 [ある神話上の存在]。
 sarva-viṣa-prasāmana 形 形 能銷諸毒，能銷衆毒 *Aṣṭ-pr.*
 sarva-viṣaya 形 すべてのもに関連する，一般の。
 sarva-vira 形 全く雄々しい，すべての人または英雄からなる，に関する，に伴われたまたはを導く(因)。
 sarva-vettr 男 形 一切知者 *Lank.*
 sarva-vedasa 形 (自己の) 全財産(の布施)を伴う(祭式；因)；(祭式終了後祭官に) 全財産を贈る(團まれ)。中 全財産(因)。
 sarvavedasa-dakṣiṇa 形 祭式の報酬として(自己の) 全財産を与える；因，團)。
 sarva-vedin 形 全知の；全 *Veda* を知っている。
 sarva-vaidalya-saṃgraha 男 形 能奪聚集経，仏説具達因縁経，根本薩婆多律撰 *Mvyut.*
 sarva-vaināśika 形 完全なる絶滅・寂滅を信ずる。男 仏教徒。
 sarva-vyasana 中 形 一切煩惱障，諸惱所逼 *Suv-pr.*
 sarva-vyākaraṇa-sarvākāra-lakṣaṇānupraviṣṭa 形 (音写) 入毘伽羅論一切種相 *Sūtr.*
 sarva-vyāpad 女 完全な失敗。
 sarva-vyāpin 形 すべてのもに行きわたる。
 sarva-vyūha-rati-svabhāva-naya-saṃdarsana 中 形 開示普喜自然理趣 *Mvyut.*
 sarva-vrata 中 普遍的な誓い。形 すべてのもを誓った。
 sarva-śakti 女 全力。～tyā 男 全力を尽して。
 sarva-śāṅkā 女 すべての人に対する疑惑。
 sarva-śabdānupraviṣṭā 女 形 入一切(声) *Sūtr.*；随入一切音，随諸音所入 *Mvyut.*
 sarva-śarīra 中 形 拳身 *Gaṇḍ-vy.*
 sarva-śas 副 全く，完全に，徹底的に，(因，團)；普遍的に，常に(因，まれ)；あらゆる点においてまたは何なるやり方においても(團，まれ)；全般に，一般に(種 または 集合名詞 團 に関して)；形 尽 *Lal-v. Saddh-p.*；皆 *Madhy-v.*；永，終 *Daś-bh.*；一 *Mvyut.*
 sarva-śāstra 形 一切諸論 *Lank.*
 sarvaśāstra-gatiṃ-gata 形 形 妙閑諸論，善解論 *Suv-pr.*
 sarva-sūnya 形 全く空虚な，何も無い。
 sarvasūnyatā 女 [同上の團]；す べてのものは空あるという説。
 sarvasūnyatva 中 [同上]。
 sarva-sūnya-vādin 男 すべてのもは空であると。

張する者。

sarva-saṃvyavahāra 諸(余)所有法 *Madhy-v.*

sarva-saṃskāra 一切有為行相 *Ratna-ut.*

sarva-saṃhārin 形 すべてを破壊する。

sarva-saguṇa 形 あらゆるものにおいて長所を有する。

sarva-saṃgraha 漢訳 総摂, 略摂 *Abh-k.*

sarva-saṃjñā 女 漢訳 (音写) 娑里喃餅 *Mvyut.*; 薩婆僧以若 *Lal-v.*; ~kṛtabandhana 一切虚妄顛倒, 一切妄想顛倒 *Ratna-ut. 45.*

sarva-sattva 中 漢訳 群生 *Śikṣ.*; 諸衆生 *Lañk.*, *Ratna-ut.*, *Suv-pr.*; 諸含識 *Suv-pr.*; 一切衆生 *Ratna-ut.*; 一切衆生界 *Lañk.*; 衆生 *Ratna-ut.*; (音写) 薩和薩, 薩婆薩堆 文。

sarvasattva-kṛpa-maitra-locana 中 漢訳 慈眼視衆生 *Saddh-p.*

sarvasattva-kleśa-vāsanā 女 漢訳 一切煩惱習氣 *Ratna-ut.*

sarvasattva-citta-carita 漢訳 一切衆生諸心行 *Ratna-ut.*

sarvasattvacitta-saṃtāna 漢訳 在於衆生身中 *Ratna-ut.*

sarvasattva-trātr 男 漢訳 救一切, 護群生, 救一切衆生 *Saddh-p.*

sarvasattva-dhātu-paritrāṇa 中 漢訳 救護一切衆生界 *Ratna-ut.*

sarvasattva-paritrāṇa 中 漢訳 救護一切諸衆生 *Ratna-ut.*

sarvasattva-puṇya 漢訳 無量功德勝一切衆生 *Ratna-ut.*

sarvasattva-priya-darśana 中 漢訳 一切衆生喜見 *Saddh-p.*, *Suv-pr.*

sarvasattva-bhavana-gata 形 漢訳 往一切衆生住处 *Gaṇḍ-vy.*

sarvasattva-viśuddhi 漢訳 諸衆生有清淨身 *Ratna-ut.*

sarvasattva-sama-citta 形 漢訳 無間諸有情 *Mvyut.*

sarvasattva-hita 形 漢訳 利益衆生 *Ratna-ut.*

sarvasattvahitābhyudyata 形 漢訳 勤利有情, 勤利諸有情 *Mvyut.*

sarvasattvārtha-kṛt 形 漢訳 為一切衆生而作利益業 *Ratna-ut.*

sarvasattvāsaya-suvidhi-jñā (°va-ās°) 形 漢訳 善知一切諸衆生心 *Ratna-ut.*

sarvasattvaikaputraka-prema (°va-ek°) 男 中 漢訳 於一切衆生(更相)親愛如一子 *Lañk.*

sarvasattvojoḥāri (°va-uj°) 女 漢訳 奪一切衆生精氣 *Saddh-p.*

sarvasattvopajivya-jñāna (°va-up°) 漢訳 無礙智慧 *Ratna-ut.*

sarvasattvopajivyatva (°ya-up°) 中 漢訳 利益衆生 *Ratna-ut.*

sarva-samatā 女 あらゆる事物に対して公平なこと。

sarva-samādhivasitā-pāramim-gata 形 漢訳 到諸禪定主彼岸, 諸禪定主到彼岸 *Mvyut.*

sarva-saṃrddha 形 全くよく整えられた(因) →

Rdh.

sarva-saṃpatti 女 あらゆる事柄における成功; あらゆる事物が豊富であること。

sarva-saṃpanna 過受分 すべてのもをそなえた。

sarvasaṃpanna-sasya 形 至る処に豊富に穀物を有する(大地)。

sarva-saha 形 あらゆる事物に耐える。

sarva-sādhana 形 あらゆる事物を成就・実現する。

sarva-sādhāraṇa 形 (女 -ā, -i) 一切に共通の。

sarva-sādhu 副 非常にまたは全くよい(感嘆詞として)。

sarva-sāmānya 形 一切に共通の。

sarva-sāra-saṃgrahaṇi 女 漢訳 (音写) 沙羅僧伽尼(書) *Lal-v.*

sarva-sārūpyopalabdhi-lakṣaṇa (°ya-up°) 中 漢訳 一切不同相同想相, 一切相同想相 *Mvyut.*

sarva-siddhārtha 形 すべての目的を達した, 望むすべてを成就した。

sarva-sukha-kṛt 形 すべての幸福をもたらす。

sarvasukha-samarpita 形 漢訳 具便樂 *Mvyut.* → R.

sarva-sūkṣma 形 漢訳 極細 *Abh-vy.*

sarva-sena 形 (自己の) 全軍勢を導く (RV.).

sarva-saukhya-pradātr 男 漢訳 与(無量)樂 *Suv-pr.*

sarva-sthāna-gavāṭa 男 [ある Yakṣa の名].

sarva-sva 中 全財産; 一°, の全体, 全部または合計。

sarvasva-phalin 形 全財産およびその収益を有する。

sarva-svara-pūraṇi 形 (女) 漢訳 円満一切音, 円満一切音声, 諸音満円 *Mvyut.*

sarva-svarṇamaya 形 (女 -i) 全部金の。

sarva-hara 形 すべてのもを自分のものとする; 一切を破壊する(死)。

sarva-haraṇa 中 全財産の没収。

sarva-hāra 男 [同上].

sarva-hāram 總...の全財産を没収して。

sarva-hāsyā 未受分 すべての人に嘲笑されるべき。

sarva-hut 形 完全に捧げられた(供儀; 因)。

sarva-huti 女 完全な供儀 (Br.).

sarvākāra (°va-āk°), °— または -m 副 すべての形態において, あらゆる方法で; 漢訳 衆相 *Bodh-bh.*; 一切種 *Bodh-bh.*, *Ratna-ut.*, *Sūtr.*; 無量種 *Ratna-ut.*

sarvākāra-jñatā 女 漢訳 一切種 *Sūtr.*; 一切種智 *Bodh-bh.*, *Lañk.*, *Sūtr.*; 一切相智 *Śikṣ.*

sarvākārajñatā-vibhāga 漢訳 種智 *Sūtr.*

sarvākāra-jñeya-praveśa-drśya-ḥattva 漢訳 入一切種所知所頭真実, 一切種所知撰一切法所頭真実 *Madhy-bh.*

sarvākāra-pariśodhanābhinihāra 漢訳 応淨一切種智 *Sūtr.*

sarvākāra-vara-jñāna 中 漢訳 一切種妙智 *Bodh-bh.*

sarvākāra-varopeta (°ra-up°) 形 漢訳 諸相具足, 具諸最勝, 具足諸最勝 *Mvyut.*; 一切種成就(声) *Sūtr.*

sarvākāra-vyūhatā 女 漢訳 一切相而莊嚴 *Gaṇḍ-vy.*

sarvāṅga 1. 中 (一° 女 -i) 全身; 獨 全肢体。

sarvāṅga 2. 形 (-i) 肢体の完全なまたは身体の健全な; (因) 完璧な (罪); 偏身 *Daś-bh. ~m* 副 すべての点において, 全く正確に,
 sarvāṅga-bhaṅga 男 完全な崩壊.
 sarvāṅga-sampūrṇa 形 満足一切身分 *Ratna-ut.*
 sarvāṅgiṇa 形 全身を覆っている, 満たしているまたはぞくぞくさせる (感触).
 sarvācāra-mala (°va-āc°) 漢訳 一切有漏法 *Ratna-ut.*
 sarvācārya (°va-āc°) 男 すべてのものの教師.
 sarvāñc 形 すべての方向を向いている.
 sarvātithi 形 各人を客として迎える.
 sarvātīśāyin 形 すべてのものを凌駕する.
 sarvātmaka (°va-āt°) 形 あらゆる事物を含んでいる.
 sarvātman (°va-āt°) 男 全人格; 万有のの靈魂, 普遍的な靈魂, 普遍我; 全存在または全本質; 遍体 *Abh-vy., Bodh-bh.* 形 個体または性質の完全な (因). ~ā 男 全力を尽して; 全く, 完全に.
 sarvātma-bhūti 女 全人格の幸福; [ある神格の名].
 sarvādhika 形 すべてのものに優れた.
 sarvādhikārin 形 すべてのものを管理・支配している.
 sarvādhva-ga 形 通三世 *Abh-vy.*
 sarvānavadyāṅga 形 (女 -i) 全く完全無欠な身体を有する.
 sarvānukrama 男 (とくに *Veda* に対する) 完全な索引.
 sarvānukramaṇikā 女 [同上].
 sarvānukramaṇi 女 [同上].
 sarvānna-bhūti 男 神格 (の一種) (疑わしい読み方).
 sarvānya 形 全く異なる.
 sarvāpti 女 一切の獲得 (Br.).
 sarvābharāṇa-bhūṣita (°va-ābh°) 形 一切の飾りを以って裝飾された.
 sarvābhāva 男 一切のものの欠如または不足; 絶対的無.
 sarvābhijñatā 女 漢訳 以智一切法 *Ratna-ut.*
 sarvābhiprāya-pūraṇa 形 漢訳 満足所求意 *Ratna-ut.*
 sarvābhibhū 形 漢訳 [如来名] 一切増上 *Divy.*; 無畏, 衆尊, 一切勝, 衆伏一切 *Lal-v.*
 sarvābhisamdhaka 形 あらゆるものをあざむく.
 sarvābhisamdhin 形 [同上].
 sarvābhoga-kriyā (°va-ābh°) 女 漢訳 一切諸世間心所作事 *Ratna-ut.*
 sarvāyu (°va-āy°) 形 完全な生命を有するまたは授与する (等) (因).
 sarvāyutva 男 [同上の 補] (因).
 sarvārambha (°va-ār°) 男 全精力. ~eṇa 男 全力を尽して.
 sarvārtha 男 種. または °—, 一切の事物, あらゆる種類の事物. 形 あらゆる目的に適した. ~m 副 全体のために; 漢訳 (自他) 一切種利 *Sūtr.*
 sarvārtha-kuśala 形 すべての事柄に熟練した.
 sarvārtha-cintaka 形 あらゆる事物に注意する. 男 一切の事柄を監督するもの, 長官.

sarvārtha-darśa 男 漢訳 見一切義, 示現一切義利 *Sukh-vy. II.*
 sarvārtha-bodha 漢訳 一切覚 *Sūtr.*
 sarvārtha-samṛddhi 女 漢訳 成一切事 *Bodh-bh.*
 sarvārtha-sādhaka 形 (女 -ikā) あらゆることを成就する, すべての事物に役立つ; 漢訳 成諸事 *Mvyut.*
 sarvārtha-sādhana 形 あらゆることを成就する; 漢訳 一切事成就 *Mañj-m.* 男 あらゆる事物を成就する手段.
 sarvārtha-siddha 漢訳 過受分 一切の目的を達成した, 望みをすべて達した; 漢訳 一切義成, 成就諸事 *Mvyut.*; 所作成就, 義利如意 *Lal-v.*
 sarvārtha-siddhi 女 一切の目的の達成.
 sarvālpa 形 漢訳 極少 *Abh-vy.*
 sarvāvāt 形 漢訳 普 *Saddh-p.*; 一切 *Lal-v.*; *Saddh-p.*; 皆, 周遍 *Lal-v.*; 普遍, 一切悉 *Divy.*; 具種々, 具諸種々 *Mvyut.*
 sarvāvaraṇa-vimukti-lakṣaṇa (°vā-āv°) 形 漢訳 離一切障 *Ratna-ut.*
 sarvāśā-paripūraka (°va-ās°) 形 漢訳 悉満所望 *Mvyut.*
 sarvāśin (°va-ās°) 形 一切 (の種類) の食物を) 食う.
 sarvāścaryamaya (°va-ās°) 形 一切の不思議を含むまたはから成る.
 sarvāśraya (°va-ās°) 形 一切に共通の.
 sarvāśrava-kṣaya-jñāna-vaiśāradya (°va-ās°) 男 漢訳 → sarvāśrava ~.
 sarvāstitva-vādin 男 一切の事物は実在であるという説を信奉するもの, 説一切有部.
 sarvāsti-dāna 漢訳 一切捨 *Sūtr.*
 sarvāsti-vāda 男 一切の事物は実在であるという説; 漢訳 説一切有部 *Sikṣ.*: ārya ~ 体毗履部, 聖所説部, 諸聖所説家 *Mvyut. 275.*
 sarvāśrava-kṣaya-jñāna-vaiśāradya (°va-ās°) 男 漢訳 漏尽無所畏 *Mvyut.*
 sarvendriya-samtoṣaṇi (°va-in°) 形 女 漢訳 諸根適悦, 諸根満足 *Mvyut.*
 sarveśvara (°va-iś°) 男 一切万有の主.
 sarveśvaratva 男 全能性.
 sarvocchedana (°va-uc°) 男 完全な絶滅.
 sarvottama (°va-ut°) 漢訳 最上 一切のなかの最上の.
 sarvodyukta (°va-ud°) 形 全力を尽した. → Yuj.
 sarvopakaraṇa (°va-up°) 男 漢訳 衆具, 一切資具 *Bodh-bh.*
 sarvopakleśa-mala (°va-up°) 漢訳 一切煩惱垢 *Ratna-ut.*
 sarvopakleśa-saṃnīraya 漢訳 一切煩惱染 *Ratna-ut.*
 sarvopadhi-pratinisarga (°va-up°) 男 漢訳 棄諸礙 *Mvyut.*
 sarvoparama (°va-up°) 男 一切の事物の休止, 絶対的静安.
 sarvoparamatva 男 [同上の 補].
 sarvopalambhopaśama (°va-up°; °bha-up°) 漢訳 諸法不可得 *Madhy-v.*

sarvaṣadhi (°va-oṣ°) 因 聖 種 あらゆる(種類の) 菓
草.
sarvaṣadhi-niṣyandā 因 音写 薩婆沃利地兩産
陸, 薩婆沙地尼山陸 Lal-v.
sarṣapa 男 からし; からしの種; からしの実の粒(非
常に多種の重量の単位として用いる); 芥
Lank.; 芥子 Divy., Guhy-s., Lal-v., Lank., Sad-
dh-p., Śikṣ., Suv-pr.; 白芥 梵子.; 白芥子 Divy.-
Mañj-m., Mvyut., Śikṣ.; 蔞蔞 Divy.; 音写 舍
黎沙婆 Lank.
sarṣapa-phala 因 芥子 Śikṣ., Suv-pr.
sarṣapaphala-mātra 因 芥子許 Śikṣ.; 如芥子
許 Saddh-p., Suv-pr.; 是芥子許 Suv-pr.
sarṣapa-mātra 因 如芥子許 Saddh-p.
sarṣapa-sneha 男 からし油.
sarṣapāruṇa 男 [子供に敵意のあるある鬼神の名].
a-lakṣaṇa 形 同一の特徴を有する, 相似した.
a-lakṣman 形 [同上].
a-lajja 形 恥じた, (媚びて) はにかむ; 狼狽した;
慚恥 Śikṣ.; 慚愧 Buddh-c.; (黙) 寂 Divy.
a-lajjita-sneha-karuṇam 副 羞恥と愛と慈悲を以つ
て.
alalūka 因 (?) 容赦(?) (RV. 用例一回のみ).
alila 形 [Sr] 因: 波立つ, 流れる, 動揺常なき.
因 洪水, 大波; 因: 因 種 水; 雨(まれ); 涙(まれ);
水 Divy., Lank., Ratna-ut., Śikṣ.; 泉流
Divy.; 大池 Ratna-ut.
alila-cara 男 水生動物.
alilacara-ketana 男 愛の神.
alila-ja 形 水中に生ずるまたは生息する. 男 水生動
物; 貝.
alila-da 男 雲.
alila-dhara 男 [同上].
alila-nidhi 男 大洋.
alila-pavanāśin (°na-ās°) 男 水または空気(だけ)で生
きていく.
alila-prarūḍha 過受分 水生物 Buddh-c.
alila-bhara 男 (大量の水) 池, 湖.
alilamaya 形 水から成る.
alila-muc 男 雲.
alila-rāsi 男 大洋, 大海原.
alilavat 副 猶如水 Sāṃkhy-k.
alila-saraka 男 因 一椀の水.
alila-stambhin 形 水をせきとめる.
alila-sthala-cara 男 (水中および陸上に住むもの) 兩
棲動物.
alilākara (°la-āk°) 男 たくさんの水; 大洋.
alilāñjali 男 (死者に捧げられるものとしての)一掬
の水; 甘露 Buddh-c.
alilāśaya (°la-ās°) 男 水の貯蔵所, 池, 湖.
alilodbhava (°la-ud°) 形 水中に生じた. 男 貝. 因
蓮華.
aliloraga (°la-ur°) 男 水蛇 Suv-pr.
alidam 副 飄然 Lal-v.
a-lila 形 戯れる, 努力しない; ふざける, あだっぼ
い(普通の意味); 娼, 修 Mvyut. ~m 副 あた

かも遊んでいるかのように(±iva); なまめかしく.
salila-gaja-gāmin 形 象儀緩歩 Mvyut.
sa-lekhyā-vicitra 形 彩画 Lal-v.
sa-loka 形 (具, 園; 因) と同じ世界に住む, 人々ま
たは住人とともに.
sa-lokatā 因 (具, 一°) と同じ世界に住むこと.
sa-lobha 形 貪欲な.
sa-loman 形 同じ方向をとる, (因) と相応するまたは同
じ広がりをもつ.
sal-lakṣaṇa 有相 Madhy-bh.
sal-lināśaya (°na-ās°) 形 其心下劣, 懈怠者
Gaṇḍ-vy.
sal-loka 男 善良な人々.
salha 男 [人名(ときとして sahla と綴る)].
salhaṇa 男 [同上].
sava 男 1. [Su 1.] (Somaの) 压榨(因). 2. [Su 2.]
因 刺激するもの, 指揮者; 扇動, 号令, 命令; 活
気づけること (Savitṛ 神の活動); Br.: 清めの儀
式, 入門式, 就任式; 因: 祭式.
savatha 男 [人名].
savana 因 因 因: (一日に三回, 朝と正午と夕方行わ
れる) Soma の压榨; ソーマ液, その献供または祭
儀; 因: 祭礼; 因 祭事, 祭式; 一日の(三つの) 期
間, 朝, 正午および夕方(因); 朝, 正午および夕方行
なわれる沐浴(まれ).
savana-karman 因 灌奠.
savana-pañkti 形 五度の灌奠が行われる.
savaniya 形 Somaの献供に属している等(因, まれにP.).
sa-vayas 形 体力または年齢の等しい, 同年輩の. 男
仲間, 朋友. 因 女友達.
savara 因 音写 娑婆羅, 娑婆囉那, 娑囉娑那
Mvyut.
sa-varṇa 形 因 因: 同じ色または外貌を有する; 因;
(因, 一°) と同種の, 同様の, 類似したまたは似てい
る; 同じ階階に属する; (一°) と同質の(音). 男
Kṣatriya 出身の女が産んだ婆羅門の息子.
savarnatva 因 (具) と色が同一である状態.
savarnā 因 同一の級級出身の妻.
sava-latā 因 (液を) 搾るのに(適した)植物.
sa-valga 形 馬勒または手綱を備えた.
sa-vastuka 形 有事, 有類 Abh-k., Abh-vy.
sa-vāk-chala 形 虚言する, 虚偽の.
sa-vācas 形 同じ談話をする, 同じ言い方をする.
savāya 因 (sava 2.) (因) を激励するために (RV.).
savāṣpa 形 啼泣 Divy.
sa-vāsanonmūlita-sarva-doṣa (°na-un°) 遠離
諸煩惱及一切習氣 Ratna-ut.
savāsana-kleśa-jñeyāvaraṇa (°ya-āv°) 因 煩惱
障智障 Ratna-ut.
savāsana-nirodha 習気滅 Ratna-ut.
savāsana-mala 一切習気, 智障煩惱障習 Rat-
na-ut.
sa-vāsanā 因 習気, 習使 Bodh-bh.
sa-vāsa 形 衣服をまとった, 衣服を有する.
sa-vikalpa 形 多様性または差異を有するまたは許す,
差別を生じさせられた; 解悟, 具妄想 Mvyut.

sa-vikalpaka 形 [同上]; 有妄想 *Mvyut.*
 sa-vikāra 形 展開物(変異)または派生物を伴った;
 (その)製品を伴った(乳); 魅惑された; 変化または
 腐敗しやすい(食物).
 sa-vikāśa 形 光る, 輝やく.
 sa-vikrama 形 力強い, 精力的な.
 sa-viklavam 副 落胆して, 無気力に.
 sa-vigraha 形 肉体化された.
 sa-vicāra 形 念, *Daś-bh.*; 有伺 *Abh-k., Mvy-*
ut.; 有観 *Divy., Lal-v.*; 有伺, 有観 *Bodh-bh.,*
Daś-bh.
 sa-vicikitsitam 副 疑深く.
 savitara, 名動 他 savitarati 太陽のように現われる,
 太陽に似ている.
 sa-vitarka 形 有覚 *Divy., Lal-v.*; 有尋 *Daś-*
bh., Mvyut.; 有尋, 有覚 *Abh-vy.*
 savitarka-vicāra 形 有覚有観 *Sutr.* ~m 副 考
 え深く, 沈思して.
 savitarka-savicāra 形 有尋伺, 有覚有観 *Abh-*
k.
 savitr 男 [Su 2.] 刺激者, 生気を与えるもの (*Tva-*
str., RV., まれ); *Veda* の神の名, 太陽の鼓舞・激
 励する力を神格化したもの; 圍: 太陽神; 太陽.
 savitri 因 母; 産出するもの.
 sa-vidiś 形 中間の方角を含んだ.
 sa-vidya 形 教養のある, 学識のある.
 sa-vidyut 形 電光を有する(雲).
 sa-vidha 形 同種類の(まれ). 田 付近, 接近, 隣接.
 ~i Kr, 近くへ持って来る. ~BHū, 近くへ来るま
 たは近くにある.
 sa-vinaya 形 育ちのよい, 謙遜な, おとなしい. ~m
 副 礼儀正しく, 謙遜して.
 sa-vipāka 形 異熟 *Abh-vy.*
 sa-vipravāsā 有障求 *Sutr.*
 sa-vibhaktika 形 格語尾を有する.
 sa-vimarsā 形 考慮または熟考する. ~m 副 熟慮し
 て.
 sa-vilakṣam 副 恥じてまたは狼狽して.
 sa-vilakṣa-smitam 副 困惑した微笑を浮かべて.
 sa-vilambam 副 ぐずぐずして, ためらって.
 sa-vilamba-vikrama 男 徐転 *Gand-vy.*
 sa-vilāsa 形 多情な, 媚態を示す.
 sa-vivāsā 有障 *Sutr.*
 sa-viveka 形 判断力を有する, 識別力のある; 明敏
 な.
 sa-viśeṣa 形 特殊の性質を有する(まれ); 抜群の, 独
 得の, 異常な, 並みはずれた; 識別力のある(主
 人): 一° または -m 副 詳細に, 細かに; 特に, 非
 常に.
 sa-viśeṣaka 形 特殊性を有する.
 sa-viśeṣa-kānta 過受分 非常に愛された.
 sa-viśeṣaṇa 形 属性を有する.
 sa-viśrambha 形 内密の(会話); 親しい(女友達).
 sa-viśvāsam 副 信頼して.
 sa-viṣa 形 有毒の; 毒を盛られた, 毒殺された.
 sa-viśāda 形 当惑した, 落胆した. ~m 副 当惑し

て, 落胆して.
 sa-viśāśis (°śa-ās°) 男 毒牙のある蛇.
 sa-visaṃkulam 副 極く落着いて, あわてずに.
 sa-vistara 形 詳細な. ~m 副 詳細に; 細かに.
 sa-vismaya 形 驚かされた, びっくりさせられた. ~m
 副 驚いて, 不意に.
 sa-vihaṅga 形 鳥と一緒にの.
 saviman 田 [Su 2.] 活気づける力, 命令, 指導(因;
 因のみ).
 sa-virya 形 (因)(具)に等しい力を有する, 匹敵す
 る; 力を有する.
 sa-vṛddhika 形 利息を生む.
 sa-vṛṣaṇa 形 舉丸を有する; 舉丸ととももの.
 sa-vedaka 形 有受 *Abh-vy.*
 sa-vega 形 (一°)と等しい速度の; 烈しい, 強い(突
 風).
 sa-vegam 副 猛烈に.
 sa-vetāla 形 *Vetāla* につかれた(死体).
 sa-vepathu 形 震える.
 sa-vepitam 副 震えて.
 sa-vaiklavayam 副 狼狽して, 落胆して.
 sa-vaira 形 敵意のある.
 sa-vairāgyam 副 嫌悪または無関心(の表現)を以っ
 て.
 sa-vailakṣya 形 恥じた, 当惑した. ~m 副 当惑し
 て.
 savailakṣya-smita 副 きまり悪そうな微笑を以て.
 savya 形 左の. ~m 副, ~ena 因(因では ~āも),
 ~e 因, °— 左側に. 男 左手または左腕(因,
 圍); 左足(S.). 田 (+yajñopavita) 左(肩にかけら
 れた)聖紐. ~m Kr, 左肩に聖紐を着ける.
 sa-vyatha 形 苦しんでいる, 悩む, 悲しんでいる.
 sa-vyapatrapa 形 内気な, 当惑した.
 sa-vyapekṣa 形 (一°)を必要とする, …に依存す
 る.
 sa-vyabhicāra 形 不正確におちいりやすい, 精密で
 ない. 男 不確定.
 savya-sācin 形 左ききの, 両手ききの.
 sa-vyāja 形 偽りの, 嘘つきの. ~m 副 偽って.
 sa-vyāpāra 形 従事したまたは忙しい; 有作用
Nyāy-pr.
 sa-vyābādha 形 有壊, 有礎害 *Abh-vy.*
 sa-vyāvṛt 形 左方を向いている.
 sa-vyāhṛti 形 *bhūr, bhuvah, svar* という感嘆詞に
 伴われた.
 sa-vyāhṛtika 形 [同上].
 savyāhṛti-praṇavaka 形 *bhūr, bhuvah, svar* とい
 う感嘆詞と(聖音)オームに伴われた.
 savyeta (°ya-it°) 形 左の反対の, 右の.
 sa-vrata 形 同一法に従う.
 sa-vriḍa 形 内気の, はにかんだ, 恥じた.
 sa-śakya 形 能 *Sikṣ.*
 sa-śanka 形 臆病な, 内気な; 疑い深い. ~m 副 恐
 れて, 臆病に.
 sa-śatru 形 敵を有する.
 sa-śabda 形 騒がしい, 反響する, こだます, 鳴

る；**サ** 有声 *śh-ry. ~m* **副** 騒がしく，大声で。

sa-sara **形** 矢を垂えた(弓)；矢ととももの。

saśara-cāpa-hasta **形** 矢をつがえた弓を手にした。

sa-salka **形** 樹皮をそなえた。

sa-salya **形** (体六に) 矢じりをもっている；刺された，傷つけられた **漢** 箭；**漢** 苦惱 *Ast-pr.*

sa-sastra **形** 武装した。

sa-sālmala **形** きわに樹を有する。

sa-siraḥ-kampam **副** 頭を振って。

sa-siras **形** 頭を有する。

sa-siraska **形** [同上]。

sa-siṣya **形** 弟子と一緒にの。

sa-suc **形** 悲しむ。

sa-sṛṅgāra **形** 飾った，装飾した。

sa-śeṣa **形** 残りを含んでいる，全くからにはされない；不完全な，未完成の。

saśeṣatva **形** 尽きないこと。~tvād āyusaḥ 寿命が未だ尽きない故。

sa-saila **形** **漢** 二三菽 *Diry.*

sa-soka **形** 悩まされた，悲しい。

Saśc [sa-s(a)c からの短縮：Sac]，I. saścati, saścata (三入 覆)，RV.：つ後に従う；(ある人：業)に属する；(ある人：業)を熱愛している；(ある人：圖)を喜ばす。現分 saścat 追跡者，敵。

anu- (ある人：業)に対して親切である。

sa-syāparṇa **形** *Syāparṇa* の出席する(祭り，Br.)。

sa-sraddha **形** 腹蔵のない，率直な；**漢** 信，信心 *Daś-bh.*

sa-srika **形** 愛らしい，美しい；繁栄した，富裕な。

saśrikatā **形** 美。

saśrikatva **形** [同上]。

sa-ślāgham **副** 自負を以て，尊大に。

sa-śvāsa **形** 呼吸する，生命のある。

Sas, II. **形** sasti, III. **形** sasasti, 眠る(眠)；何もしない(RV.)。

sasa **形** または **形** (RV.) 薬草，草；穀物；**漢** 草 *Rāṣṭr.*

sa-saṃrambha **形** 憤激した，怒った。~m **副** 怒って；急いで，非常に簡単に。

sa-saṃvāda **形** 同意した。~m **副** 同意して。

sa-saṃvid **形** …と同意した。

sa-saṃśaya **形** 疑う，疑わしい；半信半疑の。

sa-saṃskāra **形** **漢** 有功用 *Sutr.*

sa-sakhikā **形** 女(彼女の)友人に伴われた。

sa-sakhi-janā **形** 女 [同上]。

sa-saṃketa **形** …と協定を結んだ，秘密を共有する。

sa-saṅga **形** 付着した，粘着した；**漢** 有著 *Ast-pr.*

sa-saṅgatā **形** **漢** 著 *Ast-pr.*；親近 *Sam-r.*

sa-saṅgatva **形** 粘着，接触。

sa-saciva **形** 大臣と一緒にの。

sa-sattva **形** 男まじい；動物の生棲している；生物の棲んでいる(水)。

sa-sattvā **形** 女 妊娠した。

sa-sadbhāva **形** 愛情を有する。

sa-saṃtatika **形** 子孫を有する。

sa-saṃtāna **形** [同上]。

sa-saṃdeha **形** 疑う。

sa-saṃdhya **形** 朝の薄明とともになる。

sa-saṃdhyāmsā **形** 夕方の薄明とともになる。

sa-sabhya **形** 陪席判事または判事と一緒にの。

sa-saṃutthāna **形** **漢** 并能発，共縁起 *Abh-ry.*

sa-saṃpad **形** 繁栄している，幸運な，富裕な。

sa-saṃprayoga **形** **漢** 有相応 *Vijñ.*

sa-saṃbhrama **形** 動揺した，あわてた，激昂または熱意を示す。~m **副** 急いで，慌てて。

sa-sarpa **形** 蛇がはびこっている。

sa-sākṣika **形** 証人の眼の前で起る。~m **副** 証人の眼の前で。

sa-sāgara **形** 大洋を有する。

sa-sādhana **形** 手段または実現の方法を有する；兵力を有する。

sa-sādhvasa **形** びっくりした，驚愕した。~m **副**。

sa-sādhvika **形** *Arundhati* と一緒にの。

sa-sāra **形** 堅固な，強い。

sa-sāratā **形** 力。

sa-sārtha **形** 隊商と一緒にの。

sa-sitotpala-mālin (°ta-ut°) **形** 白蓮の花環を有する。

sa-suta **形** 息子または子供達と一緒にの。

sa-sura **形** 諸神と一緒にの。

sa-suhṛd **形** 友人を有する。

sa-sainyaka **形** **漢** 諸魔衆，魔羅并營從 *Gand-ry.*

sa-saurabha **形** 芳香のある。

sa-saurāṣṭra **形** *Saurāṣṭra* 族と一緒にの。

sa-sthāna **形** (圖)と同じ位置を占める；(圖)と同じ(口の)部分に生じた。

sa-sthūṇa-cchinna **形** 株とともに切り倒された。→ CHid.

sa-sni **形** [sa-s(ani):San] (圖)手に入れる，与える；獲得する，から得る。

sa-sneha **形** 油を有する，脂肪のある，あぶらでなめらかな；(圖)に対する愛情に満ちた；愛している。情愛こまやかな。~m **副** 愛情をこめて。

sa-sneha-bahumāna **形** 愛情と多大の尊敬をもった。

sa-sprha **形** (圖)を；…しようと(不定)欲する，渴望する；嫉妬深い。~m **副** 渴望して；嫉妬して。

sa-smaya **形** 自負に満ちた，高慢な。

sa-smita **形** 微笑を伴う，微笑している。°—または-m **副** 微笑して。

sa-smeram **副** 微笑を浮べて。

sasya **形** 収穫；穀物，穀粒；果物，農産物(しばしば不正確に śasya と綴られる)；**漢** 豆 梵千；穀 *Saddh-p., Sutr., Suv-pr.*；苗稼 *Rāṣṭr., Śikṣ., Suv-pr.*；稼穡 *Boḍh-bh.*；稻穀 *Rāṣṭr.*；果，果実，苗，稲，穀種 *Abh-ry.*；所種，百穀果実，穀麦苗稼，百穀諸薬草木 *Kāśy.*

sasya-kṣetra **形** 穀物畑，耕地。

sasya-paripācana **形** **漢** 熟穀 *Sutr.*

sasya-pāla **形** 畑番。

sasya-mālin **形** 穀物または作物を以って飾られた(大地)。

sasya-rakṣaka **形** 畑番。

sasya-rakṣā 因 畑を保護すること。
 sasyavat 形 豊かな収穫を生ずる, 豊作の(畑).
 sasyākaravat (°ya-āk°) 形 豊かな穀物を生ずる.
 sasyāvāpa (°ya-āv°) 男 穀物を播くこと.
 sasra [sa-s(a)rā: Sr] 流れる(河; RV. 用例一回のみ).
 sasri 形 [sas(a)ri: Sr] 滑る, 走る(馬; RV. 用例一回のみ).
 sasvar 副 (RV.) 人に気づかれずに, ひそかに; (従) なしに.
 sa-svara 形 (一°) と同一の音声を有する; (圓) と同じ音響またはアクセントを有する; アクセントを有する. ~m 副 大声に.
 sa-svāmika 形 有主 Prāt-m.
 sa-svāhā-kāra 形 svāhā (感嘆詞)を伴う.
 sa-sveda 形 汗でぬれた, 汗をかく.
 Sah, I 他 sahati, 自 sahate (他 一般に 羣 においては 韻律; 因 においては 語根 および 重複の音節はしばしば長い), 因; (敵等)を征服する, (戦闘等)に勝つ; 勝利を得る; 力を有する; (くびき)を負う; 羣: (感情)を克服する, 抑制する; (不定) …し得る, (動 名 の 形)に匹敵する; (攻撃, 逆境等)に耐える, こらえる, 抵抗するまたは逆らう(普通の意味); 許容する, 忍ぶ, 忍耐強く耐える, 静かに耳を傾ける, 見のがす(普通の意味); (人を)我慢する; (圓) に対して寛大である, (ある人を)赦す; 慎しむ; (ある人を)容赦する; (あることを)通用させる, 是認する; 待つ, (ある時間の間, kālam) 忍耐強く待つ, (猶予 kālakṣepam) を許す; +na, 忍耐しない; 恨む; 忍 Saddh-p., Śikṣ.; 当 Lal-v.; 持 Abh-vy.; 堪受 Abh-vy., Lal-v.; 堪忍 Śikṣ.; 堪任 Daś-bh.; 荷負 Raṣtr. 三過分 sāhvas, sāsahvas (RV.) 征服する, 勝利を得た. 現分 sahat, (RV.) (富等に関し)有力である. 過受分 sādha (因, まれ), sodha. 希羽 自 sikṣate, (現分 sikṣat) 克服することを欲する(因).
 abhi-, 因: 克服する, 服従させる; 羣: (娘を)凌辱・強姦する; 見のがす, 赦す.
 ut-, Br.: こらえる, 耐える; 羣: (不定, prati, -artham; 例 sekārtham, (木に水を注ぐ) ことが出来るまたは…能力がある; (羣)とともに (svārtham, 自己自身の事柄または目的を)処理し得る, 遂行し得る; 能 Daś-bh.; 忍 Saddh-p., Śikṣ.; 堪 Divy.; 任, 勤, 堪任 Lal-v.; 勤苦 Ast-pr.; 堪忍, 能堪忍 Śikṣ.; 勇悍無退屈 Bodh-bh. 使役 他 utsāhayati, (因)を励める, 促す; 刺激する, 扇動する; 欣勇 Bodh-bh.
 abhy-ut-, (ある人: 羣)を克服できるまたはよく耐え得る; (不定) …し得る; (圓)に強くひきつけられた.
 prot-(pra-ut)-, 大胆に (不定)する用意をする. 使役 protsāhayati, (因)ををするように励ます, 勤める; 促す, 刺激・扇動する; 忍 Saddh-p.; 勤 Bodh-bh., Saddh-p.; 勤諭勤修 Bodh-bh. 使役 不変分 protsāhya, そそのかして. 過受分 protsāhita.
 pra-, 因: 征服する, 勝利を得る; 羣: (羣)に匹敵

する; (感情を)押える, 抑制する; (不定)し得る; こらえる, 耐える, 抵抗する; 能 Ast-pr. 不変分 prasahya, 強いて, 強制的に; きびしく, 非常に, 大いに; 苦もなく; 必然的に, 絶対に, ぜひとも; +na 決して…ではない, 全然…でない; 頭 Bodh-bh.

abhi-pra-, (不定)し得る.

vi-, viṣahate, 因 羣: (羣)を克服する, 自己の支配下に置く, に匹敵する; 羣: (不定)し得る; こらえる, 耐える, 抵抗する(普通の意味); こうむる; 忍耐強く忍ぶ, 我慢する.

vi-, viṣahyati, おそらく viṣajyati に対する 不確.

過受分 visodha, 耐えられた.

sam-, (羣)に対して匹敵する; 耐える, 克服する, 抵抗する, もちこたえる.

sah 形 一° (強 幹 -sāh) こらえる, 耐える, 克服する.

saha 1. 1. 副 [Sa 2. から = 因 sa-dha-, sa-dhā] 共通に, 共同で, 一緒に, 同時に; 俱 Bodh-bh. Madhy-v.; 兼, 与…共, 与…俱 Bodh-bh.; 雙 Nyāy-pr.; 即時 Śikṣ.; 合, 同時 Madhy-v.: Grak または ā-Dā とともに, 携帯する; Dā とともに, 携帯するように与える; ~kṛtvā, (羣)と一緒に携帯する.
 2. 副 (因, 羣) (圓, きわめてまれに 従)と一緒にまたけと並んで; ときとしては冗言的に sam とともにまた 圓 とともに, とともに (=単純な 圓); 俱, 与…俱 Bodh-bh. anūrāgavat ~ …と恋におちいつている viyogaḥ ~ …からの分離; viśvāsaḥ ~ …に対する信頼; 3. 一° 動 名 とともに, (行動等の共同性をあらわす: 例 saha-kāra, 協力; たまは 形 合成を形成し行動における仲間をあらわす: 例 saha-kārin, 協力する).

saha 2. 因: 力の強い; 羣: (一°)克服をする; (圓, 一般に 一°; 普通の意味)をこらえる, 耐える, 抵抗する, にいどむ; (不定, 一° 動 名 とともに)し得る 忍 Bodh-bh.

sahā 因 大地.

sa-hamsa-vāla-vyajana 形 白鳥をはえ払いとして用いる.

sahaka 形 忍ぶ, 耐える.

saha-karṭṛ 男 協力者, 助力者, 助手.

saha-kāra 男 協力, 助力; (きわめてにのよい種の)マンゴー樹. 因 マンゴーの花; マンゴーの汁.

saha-kāratā 因 マンゴー樹の状態.

sahakāra-mañjari 因 [人名].

saha-kāirtā 因 協力者たる状態, 協力.

saha-kāirtva 中 相助, 共作 Abh-vy.

saha-kārin 形 協力する, 協同の. 男 補助因, 方便補助者.

saha-kṛta 過受分 (一°)に伴われた.

saha-kāri-pratyaya 男 助縁, 同生縁, 同作縁 取助縁 Mvyut.

sahakāri-hetu 男 同事因 Mvyut.

saha-kṛtvān 形 (圓)に協力する, を助ける.

saha-khaṭvāsana (°va-ās°) 中 (ある人と)同じ寝台

坐ること。
saha-gata 形 共 Bodh-bh.; 俱 Bodh-bh., Lank.; 俱起, 恒隋 Abh-vy.; 俱生 Lank.; 共行 Sutr.; 俱行 Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.; 相応 Abh-vy., Śikṣ., Sukh-vy.-I.; 經中生, 就生或具 Mvyut.; 与…俱 Śikṣ.
saha-gamana 因 (死去した) 夫に同伴すること, (夫の火葬に際し未亡人の) 焚死, 未亡人の殉死。
saha-cara 形 伴う; 共に随伴する (讃歌; Br.); 類似した。男 仲間, 同僚, 伴侶。
sahacari 因 女の仲間, 連れ, 配偶者, 妻。
saha-carāṇa 因 結合。
sahacara-sambandha 男 同体相連由, 同伴相連由 Mvyut.
saha-carita 過受分 共に行く, 一致する, 同種の。
saha-carīṣṇu 形 俱行, 俱起, 共行; 雜居 Abh-vy.
sahacariṣṇutā 因 俱行, 俱生事 Abh-vy.
saha-caryā 因 (示現一切) 善行 Sutr.
saha-cāra 男 共に行くこと, 同行 (因); 一致 (因)。
saha-cāritva 因 随伴, 不可分離。
saha-cārin 形 共に行くまたは生活する; 随伴する; (一°) に本質的に属する。男 相棒, 同僚, 仲間。
saha-cāriṇi 因 女性の仲間。
saha-citta-mātra 因 心所念, 諸衆生之所思念 Suv-pr.
sahacittotpāda (°ta-ut°) 男 纒念, 纒起心 Divy.
saha-ja 形 因 因 (因) と同時に生まれる, と共に生ずる; 因: 先天的な, 生得の, 遺傳的な, 自然の; °一, 生まれつき, 生来の, 生まれながらの; おのずからの, 自然の: +deśa, 男 出生地, 故郷; 因 共生 Mvyut.; 俱生 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Lank., Śikṣ.; 和合 Daś-bh.; 同生随生 Divy.; 因: 兄弟姉妹 Raṣṭr. 男 同じ両親から生まれた兄弟; [人名]。
sahajatva 因 [同上の 因] 因 共起, 俱生 Abh-vy.
saha-jānyā 因 [ある Apsaras の名]。
sahaja-pāla 男 [人名]。
sahaja-prabhāva 男 俱生威力 Bodh-bh.
sahaja-prāpti 因 共有得, 俱生得 Abh-vy.
saha-jāta 形 生得の; 同時に生まれた, 同年輩の。男 同年齢者。
sahatā 因 一° (saha 2. から), …の忍耐; …の能力。
sahatva 因 1. 共同; 2. (一°) の忍耐; 許容性。
saha-daṇḍa 形 軍隊と一緒の。
saha-darśana 形 以見 Saddh-p.
saha-devā 形 神々と一緒の (因); 具神, 神具 Mvyut. 男 [人名 (因, 因), 最年少の Pāṇḍava の称]。
saha-devi 男 sāhadevi の 不確。
saha-dharma 形 如法 Sam-r.
sahadharma-cara 形 (因 -i) 一緒に義務を果たす。
sahadharma-carāṇa 因 (夫と) 共同で義務を履行すること。
sahadharma-cari 因 (自分の夫の) 義務を分担する妻。

sahadharma-cārin 形 (因 -i) (因) と共同で義務を履行する; 同法行 Buddh-c.
sahadharma-cāriṇi 因 =sahadharmacari.
saha-dharmika 形 同法 Divy.
saha-dhānya 形 穀類食または生活手段をそなえている。
saha-dhārmika 形 同法, 同法者, 同法侶 Bodh-bh.; 法共, 行法比丘 Śikṣ.
saha-dhyai, Sah の 因 不定。
sahana 因 耐 Sutr.
saha-pāṃsu-kriḍana 因 (子供の頃) 一緒に砂で遊ぶこと。
saha-pāṃsu-kriḍita 過受分 (子供の頃) 一緒に砂で遊んだ。
saha-piṇḍa-kriyā 因 葬式の祭餅 (piṇḍa) を一緒に捧げること。
saha-pratīlambha 形 得…已 Saddh-p.: ~āc ca tasya samādheh 得此三昧已 Saddh-p. 406.
saha-prayāyin 形 一緒に旅をする。男 旅の道連れ。
saha-prasthāyin 形 一緒に旅をする。男 旅の仲間。
saha-bhasman 形 灰と共なる (Br., S.).
saha-bhāva 男 共通性; 不分離の関係; 雙 Nyāy-pr.; 並有, 俱有 Abh-vy.; 合, 合相, 同時, 同時起 Madhy-v.
saha-bhāvanika 形 Bhāvanika と一緒の。
saha-bhāvin 形 (一°) と結びつけられた。
saha-bhāvya 因 俱起, 俱時起 Abh-vy.
saha-bhū 形 (一°) もって生れた, 生まれつきの, 自然の; 因の片割れ; 俱有 Abh-k., Abh-vy.; 俱, 俱有, 俱起, 共生 Abh-vy.
saha-bhūtatva 因 共起, 俱有 Abh-vy.
sahabhūta-hetu 男 俱有因, 名共因, 共生因 Mvyut.
saha-bhojana 因 (一°) と会食すること; (因) を一緒に享受すること。
saha-manas 形 分別力のある, 思慮深い, 知性を有する。
saha-māda 男 連合の戦い。
saha-māna 男 因 等慢 Bodh-bh.
saha-yajña 形 祭式とともなる。
saha-yāyin 形 一緒に行く。男 道連れ。
saha-yaugamdharaṇa 形 Yaugamdharaṇa と一緒の。
sa-harṣa 形 歓喜した, 喜ぶ; 歡喜 Śikṣ. ~m 副 喜んで。
sahaṣa-mṛgayu-grāma-nināda-maya 形 うれしそうな獵人の群れの叫びで鳴り響く。
sahaṣa-sādhvasam 副 喜びと (しかも) 驚きを以て。
sahaṣākūtam (°ṣa-āk°) 副 喜ばしい様子で。
sahalin 男 音写 莎破羅 Divy.
saha-loka-dhātu 男 因 人々の住んでいる世界, 土地, 大地。
saha-vatsa 形 子牛とともなる。
saha-vasati 因 一緒に滞在すること, 共通のまたは共同の住所。
saha-vartin 形 共生, 俱転, 俱時生 Abh-vy.

saha-vārṣṇeya-sārathi 形 御者 Vārṣṇeya と一緒の。

saha-vāsa 男 一緒に住むこと, 住居の共有。

saha-vāsin 形 同居する。男 同居人, 隣人。

saha-vāhana 形 乗物と一緒にの。

saha-vijñāna 形 一切識, 諸識俱 *Lank.*

saha-vira 形 人々と一緒にの (因)。

saha-vṛddhi-kṣaya-bhāva 形 (月の) みち・かけにあずかる。

saha-śeyya 中 一緒に横たわること (RV., 用例一回のみ)。

sahas 形 力づよい, 勝利を得た。男 (因, 圃) ある冬の月 (=Mārgaśīrṣa)。中 力, 体力, 勝利, (因 P. においてはまれ)。~ā 男 圃 (力づくで), 突然, 思いがけず, 直ちに, その刹那に, その場ですぐ (因, 圃); 大あわてに, 軽はずみに, 無思慮に (圃); 卒暴, 卒疾 *Aṣṭ-pr.*; 卒爾, 忽促 *Abh-vy.*; 凶, 卒爾, 軽爾 *Bodh-bh.*; 堅, 驚, 忽然 *Divy.*; 同, 俱, 遂, 疎略, 降下 *Mvyut.*; 忽然, 俱時欬然 *Saddh-p.*; 倉卒 *Sikṣ.* (saho)-bhiḥ 男 圃 力強く (RV.)。

sa-hasa 形 笑っている。

saha-saṃvāsa 男 一緒に住むこと。

sahasamvāsānukūlatā 女 圃 能随順同行 *Sūtr.*

saha-saṃbhava 形 同時に生ずる。

sahasāna 現分 支配している, 力強い (RV.)。

sahasāvan 形 力強い, 勝利を得た (RV.)。

sahasodgata (°sā-ud°) 男 圃 善生 *Divy.*

sahas-kṛta 過受分 力によって生じた (*Agni* 神: 因); 元気づけられた, 増大された。

sa-hasta 形 手を有する。

sahasta-tālam 圃 拍手と共に。

sahastha 形 一緒にいる, 居あわせる。男 仲間。

saha-sthita 形 [同上]。

saha-sthiti 女 (一°) に一緒に滞在すること。

sahasya 形 力強い, 強い (因)。男 [第二の冬の月の名 (=Pauṣa)]。

sahasra 中 (まれに 男) 千 (また大きな数または多量をあらわすのに用いられる); とくに, 千頭の牝牛, 千パナ; 同格 (圃 または 圃), 圃, 圃 または 圃, 一° (まれに 一°) と共に用いられる; 形容詞的合成語では常に 一°; 圃 千 *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*

sahasraka 1. 中 千; 一° 形 (因 -ikā) 千を有するまたは千に達する。2. 形 千の頭を有する。

sahasra-kara 男 (千の光線を有する), 太陽。

sahasrakara-pada-netra 形 千の手・足および眼を有する。

sahasra-kalā 女 [人名]。

sahasra-kiraṇa 男 太陽; 圃 放千光, 赫炎放千光明 *Suv-pr.*

sahasra-kṛtvā 圃 千度。

sahasra-ketu 形 千本の旗を有する (RV. 用例一回のみ)。

sahasra-koṭi-śata-mūlya 形 圃 価直千万 *Saddh-p.*

sahasra-gu 形 千頭の牛を有する; 千の光線を有する。男 太陽。

sahasra-guṇa 形 千倍の, 千重の。

sahasraguṇatā 女 [同上の 圃]。

sahasra-guṇita 過受分 千倍にされた。

sahasra-cakṣu 形 千眼を有する (AV.)。

sahasra-jit 形 千を征服するまたは獲得する (RV.)。

sahasra-ṇitha 形 千の便宜または方便を有する (因)。男 [人名] (圃)。

sahasratama 最上 (因 -i) 千番目の。

sahasra-taya 中 一千。

sahasra-da 形 千 (頭の牝牛) を与える。

sahasra-dakṣiṇa 形 (バラモン祭官に対し) 千 (頭の牝牛) の報酬を伴なう。

sahasra-didhiti 男 太陽。→ sahasrakara。

sahasra-dvār 形 千の戸を有する (RV. 用例一回のみ)。

sahasra-dhā 圃 千倍に, 千部にまたは千の方法で。

sahasra-dhī 形 千の理解力を有する。男 [ある魚の名]。

sahasra-nayana 形 千眼を有する。男 [*Indra* 神の称]。→ sahasracakṣus。

sahasra-netra 形 圃 [同上]。

sahasra-pati 男 千 (の村の) 長。

sahasra-pattra 中 (千の花卉を有するもの), 蓮; 圃 千弁 *Mvyut.*

sahasra-pūraṇa 形 千番目の; 千を得る, 千を受け取る。

sahasra-poṣa 男 千倍の繁栄。 (因) 千倍に繁昌する (S.)。

sahasra-buddhi 形 = sahasradhi。

sahasra-bhakta 中 [何千という人々が食物を与えられるある祭日の名]。

sahasra-bhānu 形 千の光明を有する (因)。

sahasra-bhṛṣṭi 形 千の尖端のある (因)。

sahasra-maṅgala [ある地方の名]。

sahasra-mukha 形 千の出口を有する。

sahasra-yajña 男 圃 (音写) 千耶若 *Lai-v.*

sahasra-raśmi 形 千の光線を有する。男 太陽 (= sahasrakara)。

sahasra-liṅgi 女 千の Liṅga (男根)。

sahasra-locana 形 千眼の。男 [*Indra* 神の称]。

sahasra-vartman 形 千の路を有する。

sahasra-vāka 形 千の語句または語を含む。

sahasra-śata-dakṣiṇa 形 千百 (十万頭の牝牛) を (祭官に対する) 報酬として有する。

sahasra-śas 圃 (圃, 圃, 圃 に関して) 数千をなして; 圃 千度 *Divy.*

sahasra-śiti 女 圃 八万 *Saddh-p.*

sahasra-śirṣa 形 千の頭を有する。

sahasra-śirṣā 女 [ある詩節 (註釈に従えば RV. X, 90 の讃歌)]。

sahasra-śṛṅga 形 千の角を有する (RV.)。

sahasra-sani 形 千をかちうる (因)。

sahasra-sā 形 [同上]。

sahasra-sāva 男 千回の *Soma* の压榨。

sahasrāmsu 形 千の光線を有する。男 太陽。

sahasrāmsu-sama 形 太陽のような。

sahasrākṣa 形 千眼の。男 [*Indra* 神の称]。

sahasrātman (°ra-āt°) 形 千の性質を有する。

sahasrādhipati 男 一千 (人の) 指導者; 千 (の村) の

長.
sahasrānika 男 [ある領主の名]. 形 千軍 *Mv-
 'yut.*
sahasrā-magha 形 千の賜物を有する.
sahasrāyu (°ra-āyu) 形 一千年の生命を有する(Br.).
sahasrāyudha (°ra-āy°) 形 千の武器を有する. 男
 [人名].
sahasrāyus (°ra-āy°) 形 一千年の生命を有する(因).
 男 [人名].
sahasrāra 千輻 *Lank.*
sahasrāra-cakra 中 千輻輪 *Lal-v.*
sahasrārgha 形 千倍の価値のある(因).
sahasrārcis 形 千の光線を有する. 男 太陽.
sahasrāvartā (°ra-āv°) 形 千続母 *Mvyut.*
sahasrin 形 千倍の(因); 一千をかり得る(因); 千を
 有する(また一°; 圃); (罰金として) 千パナを支払
 う(圃).
sahasrekṣaṇa (°ra-ik°) 形 千の眼を有する. 男 [*In-
 dra* 神の名]; 千眼 *Lal-v.*
sahasvat 形 力のある, 勝利を得た(因; まれに P.);
 sahas (という語) を含んでいる(Br.).
sahas-vati 因 ある植物(?; 因).
sahā 因 堪忍 *Sukh-vy. II.*, 玄応; 能忍, 雑会,
 雑会世界 玄応; 音写 娑呵 *Lank.*; 索詞 *Bodh-bh.*,
 玄応; 娑婆 *Bodh-bh., Lank., Saddh-p., Sukh-vy.*
II., 玄応.
sahāgāra-sāyya (°ha-āg°) 形 共宿, 同室宿,
 共一房宿 *Prāt-m.*
sahādhyāyin 形 一緒に学ぶ. 男 学校友達; 同僚.
sahānucara 形 俱時随行 *Bodh-bh.*
sahā-pati 男 (音写) 娑婆主, 索詞主 *Ast-pr.,
 Bodh-bh.*; 索詞界主 *Bodh-bh.*
sahām-pati 男 堪忍界主 *Sukh-vy. II.*; (音写)
 娑婆界主 *Śikṣ.*; 娑婆主 *Mvyut.*; 娑婆世界主 *Ra-
 śtr., Saddh-p.*
sahāya 男 [I] (因, 一°) の仲間, 同僚, 補助; 一°
 形 …を仲間として有する, によって伴なわれた また
 は支えられた; 伴 *Buddh-c., Daś-bh., Divy.,
 Madhy-v., Śikṣ., Sūtr.*; 佐 梵千; 助伴 *Bodh-bh.*;
 伴類 *Bodh-bh., Sūtr.*; 眷属 *Raśtr., Saddh-p.*; 親
 友, 朋党 *Lal-v.*; 助, 同伴, 同事 梵雑; 侶, 朋,
 等侶, 伴侶, 知識 *Śikṣ.*
sahāyaka 男 伴 *Ast-pr., Śikṣ., Sūtr.*; 朋友
Mvyut.; 助 *Ast-pr.*; 同行者 *Śikṣ.*; 伴侶 *Saddh-
 p., Sūtr.*; 同学, 同学者 *Saddh-p.*
sahāya-kṛtya 中 援助, 助力.
sahāya-kriyā 因 助 *Bodh-bh.*
sahāyatana (°ha-āy°) 形 炬を有する.
sahāyatā 因 仲間つきあい, 援助, 助け
sahāyatva 中 [同上]; 伴 *Sūtr.*
sahāya-bhūta 形 伴助 *Bodh-bh.*
sahāyavat 形 仲間・伴侶を有する, (圃) を仲間とし
 てもっている; 一°, によって伴なわれた またはを
 そなえている, によって助けられた, に恵まれた.
sahāyika 男 伴, 伴侶 *Śikṣ.*
sahāyin 形 助伴 *Bodh-bh.*

sahāyi-bhāva 男 助伴, 同事, 助 *Bodh-bh.*:
 ~m *gacchati* 為助伴, 与同事 *Bodh-bh. 256.*
sa-hārda 形 真心からの, 情愛の深い(話しぶり).
sahārdha 形 半分を有する.
sahālāpa (°ha-āl°) 男 (一°) との会話.
sahā-loka-dhātu 男 忍世界 *Mvyut.*; 娑婆世界
Divy., Gaṇḍ-vy., Mvyut., Saddh-p.
sahā-van 形 力強い (RV.).
sahāvasthāna-virodha 男 同処相違 *Bodh-bh.*
sa-hāsa 形 笑いを伴なう, 笑っている, 洪笑する.
 ~m 副 笑いと共に, 笑いながら.
sahāsana (°ha-ās°) 中 一緒に坐ること.
sahāsa-rabhasa 副 激情的に笑いながら.
sahāsa-hā-kāram 副 笑って hā という音を発しなが
 ら.
sa-hita 過受分 [一緒に置かれた=samhita: DHā] 近
 くにいる; 接合された, 結合された(圃 両者一緒
 に; 圃 結び合わされた, 全部一緒の); (圃. 一°)
 によって伴われた, と結合されたまたはをそなえて
 いる, と一緒にいる; 共 *Daś-bh., Lal-v.,
 Lank.*; 同 梵雑; 俱 *Abh-vy., Lal-v., Lank., Vijñ-
 t.*; 伴 *Sūtr.*; 助伴, 称順 *Bodh-bh.*; 起, 齊 *Śikṣ.*;
 相因, 同居 *Divy.*; 有益(声) *Sūtr.*; 位相応 *Abh-
 vy.*: ~m 副 即於爾時 *Bodh-bh. 321.*
sahitāngāra 男 衆火相因 *Divy.*
sahitānguli 形 指連者 *Mvyut.*
sa-hima 形 雪を有する, 雪と一緒にの.
sahiṣṭha 最上 最も力のある.
sahiṣṭu 形 (圃, 圃, 一°) に耐える, をこらえる,
 我慢する; 忍従する; あきらめた, 忍耐強い; 忍
Divy.; 堪忍, 堪任 *Bodh-bh.*
sahiṣṭutā 因 忍 *Bodh-bh., Sūtr.*; 受 *Bodh-bh.*;
 耐 *Sūtr.*
sahiyas 比較 より力の強い; 非常に力の強い, 凌駕
 する.
sahila 男 [人名].
sahuri 形 力の強い, 勝利を得た.
sa-hūti 因 (他の神格と) 共同の勧請 (RV.).
sa-hṛdaya 形 因 圃: 心を伴う; 因 心からの; 圃:
 温い心の, 情深い; (美の) センスのある.
sa-hetuka 形 理由とともなる; 理由を有する, 正当
 な; 有因 *Abh-vy., Lank., Vijñ-v.*; 共因
Abh-vy.; 因, 因因, 有因 *Abh-vy., Madhy-vibh.*
sa-hemaka 形 金貨と一緒にの.
sa-hela 形 無関心・無頓着の; 遊び戯れる, ふざけ
 る, 好色な: 一° または -m 副 無造作に. 男 [人
 名].
sa-helaka 形 [同上].
sahaika-viṣaya-pravṛttatva (°ha-ek°) 中 与一
 境転, 与共一境起 *Abh-vy.*
sahaika-sthāna (°ha-eka°) 中 (ある人) と 一緒に只ひ
 とり立っていることまたは存在すること.
sahaikārtha 形 与同一利 *Śikṣ.*
sahaikāśaya (°ka-ās°) 形 同一味意楽 *Bodh-bh.*
sahodha (°ha-ūḍha) 形 奪い取った財産を保持してい
 る(盗人); (妻) と共にもたらされた(息子; 他の父

によってもうけられ結婚後生まれるもの。

sahotthāyin (°ha-ut°) 形 一緒に起きる, 一緒にたくらむ。男 (男, 一°) の共謀者。

sahotpanna (°ha-ut°) 過受分 俱生 *Bodh-bh.*

sahotpāda (°hā-ut°) 男 俱起, 初発 *Bodh-bh.*

sahodara (°ha-ud°) 形 (女 -ā, -i) 同じ腹から生まれた, 異父母系の。男 異父兄弟。女 異父姉妹; 譬喩 = (男, 一°) の生き写し。

sahopapati-veśman (°ha-up°) 形 (自分の) 妻の愛人と一緒に住んでいる。

sahya 未受分 耐えられるべき, 辛抱されるべき, 抵抗できる。男 [ある山とその付近の地方の名]。男 助け, 援助 (叙詩)。

sahyatā 女 耐えられること。

sa-hlādam 副 喜ばしく, 楽しく。

Sā 1., → San.

Sā 2., IV. 他 -syati; 使役 -sāyayati.

ava-, 他 因: (馬を馬車から) 解き放す, 解放する; 降りる, 立ち寄る, 止まる; 帰宅・帰郷する; とどまる, 滞在する; やめる, 中止する; 罽: 終る, 終了する; 終局に達する, 失敗する。過受分 **avasita** 因: 解き放された; 停止した, とどまっている, 同一の場所に滞在する; が終わったので (因 罽; Br.); 罽: 終った, 終結した; (ある文字, 一°) に終る; (罽, 一°) をやめたまたは思いとどまった; 定められた, 決定された; (因) を決心した。使役 因: (ある場所に) 停止させるまたはとどめる; 自分自身をはっきり示す。

adhy-ava-, 停止する (S.); 決心する, 選択する (因); 罽: (行動を) 決意する, (罽, 因, 不定) することを決心する, 企てる, 着手する (普通の意味); 仮定する, 前提とする, ありそうだとみなす, 確実だと仮定する; あやまって想定する (まれ); 思案する (まれ); **vaktum sukaram adhyavasātum duṣkar-am**, 言うはやすく行なうは難し; 罽 愛着 *Divy.*; 起愛着 *Śikṣ.*; 求, 起勤思慕 *Daś-bh.* 過受分 **adhy-avasita** 終結された, 終了された; することを決意した, 着手した; 断固とした; 確実であると認められた; 確定された。使役 過受分 **adhyavasāyita** かく決意された。

ud-ava-, (因) (祭式の場所から) 去る; 終りにする; (どこか他の処へ; 因) おもむく。

abhy-ud-ava-, (罽) を以って終る (Br.).

upā (upa-ā)-, 過受分 (罽) の近くに置かれた。

pary-ava-, 最終的結果となる; (因, prati) に終る, に帰する。過受分 住居を変えた, (罽) に行った; 完全に終った, 終結した, 終りに達した; 究極の, 最終的な; (因) に完全に精通した。

etāvati~, まさにこれだけに帰する。

vy-ava-, (罽, 罽, 因, 不定 -artham) する決心をする, 決意する, もくろむまたは企てる (普通の意味); 断固たる意見を形成するまたは有する, 思い込む, 確信する; (罽) に関するまたはの正しい観念を形成または所有する; (罽) を (罽) であるとみなす; “反省する, 熟考する; 罽 名, 説, 分別 *Abh-vy.*; 決定 *Śikṣ.* 罽 **vyavasīyate**, 決心される等。非人 過受分

vyavasita 終った (日); (ときとして 非人 罽 または 不定 とともに) することを決心した, …に着手した; (を, することを, 罽, 因, 不定) かく決意したまたは決定した; 確めた; 確信した。使役 (不定) させる勇気を与えるまたは説いて…させる。

sam-ava-, (罽) を決定する, 命ずる; (罽) に達する。

pra-, 過受分 (因) に献身した, 熱中した。

vi-(sā)-, (因) 解き放す, 解放する, 釈放する, 放出する, 流れさせる; 手綱をはずす, 拘束から解く; 開く; 和らげる。過受分 **viṣita** 開かれた等。

sā, 罽 **sa** の 女。

sāmyamanika 形 真禁戒 *Mvyut.*

sām-yātrika 男 [sām-yātrā から] 船乗り, 海の商人。

sām-yuga 形 (女 -i) 戦闘 (sām-yuga) に関したまたは適した; +ku 女 戦場。

sām-yugina 形 戦闘に関する, 好戦的な; 戦闘において勇敢な。

sām-yogika 形 相合中出 *Mvyut.*

sām-rāviṇa 罽 [sām-rāvin から] 全体の叫び, 騒動。

sām-lakṣika 形 少欲持戒 *Śikṣ.*

sām-vatsara 形 (女 -i) [sām-vatsara から] 年々の, 年一回の。男 曆に通曉した人, 占星家。

sām-vatsarika 形 例年の, 毎年の; 一年間または一年中続く。男 占星家。

sām-varika 男 持戒 (者) *Śikṣ.*

sām-vittika 形 (単なる) 感情に基づく, 主観的な。

sām-vṛta 形 世俗, 世智 *Abh-vy.*; 縁俗 *Sūtr*

sām-vyavahārika 形 (女 -i) 日常生活において普通の (sāmvyavahāra); 一般にわかりやすい; 罽 悉安名 *Mvyut.*

sām-śayika 形 (女 -i) 疑惑 (sāmśaya) を招きやすい, 疑わしい, 確かでない; 危険な (企て, 事業)。

sām-sargika 形 (女 -i) 接触または交際・交流 (sām-sarga) によって生じた。

sām-sārika 形 現世の存在 (sām-sāra) と結びつけられたまたはそれによって左右される; 罽 輪回, 車転 *Śikṣ.*

sām-siddhika 形 (女 -i) [sām-siddhi から] 根源的な自然に従う, 自然の; 罽 因善 *Sāmkhy-k.*

sām-hita 形 (女 -i) *Samhitā* 特有の, それに基づいている。

sām-hitika 形 [同上]。

sākam 副 一緒に, 同時に; (罽) と一緒に; 罽 共同, 独 *Mvyut.*

sākam-aśva 男 [人名]。罽 [ある *Sāman* の名 (Br.)]

sākali 罽 (音写) 舍利 *Divy.*

sākalya 罽, [sakala から] 完全, 全部, 全体性; 罽 一切 *Sūtr.* ~ena 罽 完全に, 全く; 罽 具 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*; 具足 *Abh-vy.*

sākāṅkṣa (sa-āk°) 形 欲望を感ずる; 補足を必要とする, 相関的な。~m 罽 欲求を以って, 欲し

て。
sākāra (sa-āk°) 形 形態を有する, 肉体をそなえた美しい形を有する, 美しい; 罽 并相 *Bodh-bh.* 有相 *Mvyut.*

sākāratā 因 [同上].

sākāsa (sa-āk°) 形 こちらの方へ来る光を有する.

sākula (sa-āk°) 形 当惑させられた.

sākūta (sa-āk°) 形 意味深長な; 注意深い, 正確な.

~m 副 意味深長に; 一定の意図において, 表情に富んで, 表現に富んで.

sāketa 因 [Ayodhya (Oudh) 市の名]; 納哲; 具処 Mvyut.

sākṣata 形 脱穀しない穀物を有する.

sākṣara 形 文字を含む; 雄弁な.

sākṣaratā 因 雄弁.

sākṣāt 因 [akṣa, 眼] 副 (自身の) 眼を以って (因); (眼前で), 明瞭に, 実際に, 明らかに (因, 因); みずから, 肉体を具えて (因); 直接に (因); 証, 現時, 隣近 Abh-vy.; 見 Aṣṭ-pr.; 親 Mañj-m.; 見, 親現 Bodh-bh. ~Kṛ, (自身の) 眼で見る, 悟る; 取 Lank.; 証 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lank., Saddh-p.; 得 Divy.; 著証 Saddh-p.; 証得 Aṣṭ-pr.; 証獲 Lal-v.; 作証, 取証 Bodh-bh. 過受分 sākṣātkṛta; 証 Bodh-bh.; 証得 Lal-v.; 現証 Divy., Śikṣ.; 証明, 覚証 Raṣṭr.; 所証, 能証悟 Aṣṭ-pr.; 已現 Mvyut.; 獲得 Divy. ~BHū, みずからあらわれる.

sākṣāt-karaṇa 因 証 Abh-vy.; 作証, 証滅 Madhy-vy.

sākṣāt-kartavya 未受分 応作証 Bodh-bh.

sākṣātkartavya-satya 因 証実, 応作証諦 Bodh-bh.

sākṣāt-kāra 因 知覚, 体得, まのあたりにみること.

sākṣāt-kārin 形 現証, 更証 Abh-vy.

sākṣāt-kriyā 因 証 Abh-vy., Lal-v., Sam-r., Śikṣ.; 証得 Abh-vy., Śikṣ.; 作証 Bodh-bh., Lal-v., Sūtr., Suvik.; 現証 Lal-v.

sākṣika 形 一°, sākṣin の代りに用いられる.

sākṣi-karma 因 証 (滅) Madhy-v.

sākṣi-kriyā 因 作証 Daś-bh.

sākṣi-jana 因 証教人, 堪為証者 Abh-vy.

sākṣitā 因 証人たること, 証言, 証拠. ~m Yā, (因) の証人となる.

sākṣitva 因 [同上]; 証義 Sāmkhy-k.

sākṣin 因 (因-ni) (因, 因, 一°) の目撃者, 傍観者, (法庭における) 証人; 証 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Lal-v., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ.; 試験 Lal-v.; 証者, 証知 Saddh-p., Śikṣ.; 現 Mvyut.; 現証, 証明 Śikṣ.; 真証, 第一証 Sukh-vy. I.; 為明証 Aṣṭ-pr. 因 (哲学上の) 主観 (因 客観); 試芸師 Lal-v.

sākṣi-prṣṭamānam (?) 合根, 破胎 Mvyut.

sākṣi-bhūta 因 証人である; 作証 Bodh-bh.; 為作証 Daś-bh.; 真実証明 Śikṣ.

sākṣimat 因 証人を有する, 証人の前で起る, 目撃された.

sākṣivat 因 証人のように.

sākṣi-Kṛ, 証人として喚問する.

sākṣi-kṛtya 未受分 因 所証明 Guhy-s.

sākṣepa (sa-āk°) 形 反対を含んでいる; 悪口をいう,

あざけり笑う. ~m 副 愚弄して, 軽蔑して.

sākṣya 形 (一°; まれ) にとって明らかな. 因 証拠, 証言. ~m Kṛ, (因) について証言する.

sākṣhilya 因 親言, 明言 Mvyut.; 同和 (心) Daś-bh.

sākṣhya 因 [sakṣi から] 仲間の同盟, 党 (因).

sāgara 因 [sagara; 伝説によれば, Sagara の息子たちによって掘られ, それを Bhagiratha は Gaṅgā 河の水を以って満たした大貯水場+なわち] 大海, 海 (広大, 無尽, 深遠, 危険を表現するためにしばしば 譬喩 として用いられる: 一°); 因 Sagara の息子たち; 因 [種々の人名]; 海 Bodh-c., Mvyut., Sūtr., Suvik-pr., 梵雑.; 大海 Lal-v.; 海水, 大海諸水大海竜王 Suv-pr.; 海蔵妙宝 Gand-vy.; 具毒 Mvyut.; 因 散拘, 娑伽羅, 娑底迦羅 Lal-v.; 娑揭羅, 娑竭羅 (王), 娑竭羅 [竜王] Suv-pr.

sāgara-gāmin 形 海へ流れる.

sāgarāṃ-gama 形 [同上].

sāgara-tira 因 海岸 Gand-vy.

sāgara-datta 因 [人名].

sāgara-dhira-cetas 形 海のようにしっかりした心をもつ.

sāgara-nāga 因 (音写) 娑竭羅竜 Saddh-p.

sāgaranāga-rāja 因 海竜王 Lank.

sāgaranāgarāja-paripṛcchā 因 海竜王請問經, 仏為海竜王說法印經 [經名] Mvyut.

sāgara-pura 因 [ある町の名].

sāgara-buddhi-dhārin 因 海持覚 [仏名] Saddh-p.

sāgara-mati 因 大海慧 Ratna-ut.

sāgarāmatī-paripṛcchā-sūtra 因 海意菩薩所問經 Śikṣ.

sāgarāmatī-sūtra 因 海意經, 大方等大集經海慧菩薩品, 海意菩薩所問淨印法門經 Śikṣ.

sāgara-mudrā 因 海手印 Mvyut.

sāgaravad-gambhira-citta 形 心深如海, 心如深海 Mvyut.

sāgara-vara-buddhi-vikriḍitābhijña 因 妙海勝覚遊戯神通, 神通遊持意如海 Sukh-vy. I.; 海持覚娛樂神通 Saddh-p.

sāgara-vira 因 [人名].

sāgara-śaya 形 大洋に休息する. 因 [Viṣṇu 神の称].

sāgara-śukti 因 貝殻.

sāgarānta 因 海岸. 形 海洋に終る, 海にかこまれた (大地).

sāgarāmbara 形 海にかこまれた (大地).

sāgarāmbarā 因 大地.

sāgarāvarta (°ra-āv°) 因 入江, 湾

sāgarikā 因 [人名].

sāgarikāmaya 形 Sagarikā のみから成る (因).

sāgarendra (°ra-in°) 因 竜 Lank.

sāgaropama (°ra-up°) 形 如大海 Sam-r.; 如大海水, 海喩, 猶如大海 Aṣṭ-pr.

sāgas (sa-āg°) 形 あやまち・罪を犯した (愛人).

sāgni 形 火を維持する.

sāgnika 形 火と一緒に。
 sāgni-purogama 形 Agni 神によって先行された。
 sāgra 形 完全な。
 sāgraha (sa-āg°) 形 (あることを) 主張する, 頑固な, 固執する。
 sām-kathya 中 話し, 対話, 会話; 説, 講, 宣説 *Ast-pr.*; 講論 *Das-bh.*; 論義 *Bodh-bh.*
 sām-kathya-maṇḍala 中 論議場 *Sikṣ.*
 sām-kathya-viniścaya 男 論議決択, 相難思択 *Madhy-vibh.*; 相連真語, 相連語経定, 相連誤経定 *Mvyut.*
 sām-karya 中 [sām-kara] 混合, 混同, 混乱; 雑, 乱, 散 *Mvyut.*
 sām-kārya 中 乱, 散 *Mvyut.*
 sām-kalpika 形 (因 -i) 意思または想像 (sām-kalpa) に基づくまたはそれから生ずる。
 sām-kāśya 中 光明; 音写 僧柯著 *Divy.*
 sām-kileśika 形 煩惱, 塵勞 *Sam-r.*
 sām-kṛtya 男 [Sām-kṛti からの 父系]。
 sām-kṛtyāyana (°ya-āy°) 男 [Sām-kṛtya からの 父系]。
 sām-kṛtyāyani 女 [乞食をする尼僧の名]。
 sām-keṭika 形 安象 *Mvyut.*; 世俗 *Abh-k., Sūtr.*; 仮名 *Abh-k.*
 sām-keṭika-cittotpāda (°ta-ut°) 形 世俗発心 *Sūtr.*
 sām-keṭika-jñāna 中 世俗智, 俗数智 *Bodh-bh.*
 sām-krandani 男 [Indra 神 (Sāmkrandana) の息子, 猿王 Valin の 父系]。
 sām-krāmika [sām-krama から] 他のものに移行した (諸性質)。
 sām-kleśika 形 雑染 *Abh-vy., Prajñ-h.*; 染, 不浄 *Madhy-vibh.*; 有染汚 *Abh-vy.*
 sām-kleśika-vaiyavadānika-dharma 形 染浄法, 不浄浄品 *Madhy-bh.*
 sām-kṣepika 形 [sām-kṣepa から] 簡単に表現された, 簡潔な。
 sām-khya 形 [sām-khyā から] 文法上の数に関係する。男 計算する人, 熟慮する人, *Sām-khya* 説の信奉者; 数 *Bodh-c.*, 玄応; 具者数 *Mvyut.*; 数論師 *Nyāy-pr.*; 数論 *Lank., Madhy-v.*; 音写 僧法 *Lank., Madhy-v.*, 玄応; 僧企耶 玄応。中 *Kapila* を開祖とする哲学体系 (25の原理を枚举, 開展説の一つ)。
 sām-khya-pakṣa 男 数論外道朋 *Abh-vy.*; (音写) 僧法義 *Abh-vy.*
 sām-khya-puruṣa 男 *Sām-khya* 哲学における *Puruṣa* (純粹精神, 絶対精神)。
 sām-khya-yoga 中 *Sām-khya* 学派と *Yoga* 学派。男 有神論的 *Sām-khya-Yoga* 学派。
 sām-khya-vāda 男 数論 *Lank.*; 音写 僧法 *Lank.*
 sām-khya-vādin 男 有神論的 *Sām-khya-Yoga* 説の信奉者。
 sām-khyā 女 数目 *Mvyut.*
 sām-khyāyana 男 [Sām-khya からの 父系] [ある教師の名]; 種 その学派。
 sānga 形 因: 支分を伴なう; 因, 圃: 一切の *Veda*

補助学を有する; 圃: 身体を所有した; 完全な; 仕上げられた, 終結された; 總 *Sikṣ.*
 sānga-glāni 圃 疲れ果てた肢体を以って。
 sām-gatika 男 [sām-gati から] 旧知。
 sām-gatya 中 (saha) との交際。
 sānguṣṭha 形 拇指を有する。
 sāngopānga (°ga-up°) 形 *Aṅga* と *Upānga* とを伴なう (*Veda*)。
 sām-grāmika 形 (因 -i) 戦争または戦闘 (sām-grāma) に関係した; +ratha 男 戦車; +mṛtyu 男 戦死; +vitta 中 戦利品。sām-grāmiki vārttā bhavīṣya 未来の戦争のうわさ=戦争が今にも起りそうだといううわさ。
 sāṅghika 形 僧 *Bodh-bh., Sikṣ.*; ~m draṅgyam 僧物 *Sikṣ. 170.*; 僧物 *Prat-m., Sikṣ.*; 衆物 *Raṣṭr.*; 現前僧物 *Sikṣ.*; 僧伽物 *Bodh-bh.*
 sāṅghika-vihāra 男 中 僧房, 比丘房舎 *Prat-m.*
 sām-caritra 中 媒媾 *Bodh-bh.*
 sāc, 一° = sac.
 sācāra (sa-āc°) 形 よく振舞う, 礼儀正しい。
 sāci 1. 圃 斜に, 横側に, 傍から。
 sāci 2. 形 [Sac から] 随伴する (Br.)。
 sācivya 中 [saciva から] 随伴者の職, 交際, 援助, 佐; 大臣の職。
 sācivyākṣepa (°ya-āk°) 男 同意または承認の形をう反対 (修辭)。
 sāci-Kṛ, 横に曲る, 避ける。
 sāci-kṛta 過受分 避けられた。~m, 圃 横から (める)。
 sāci-guṇa, [ある地方の名]。
 sājātya 中 [sajāti から] (圃; 因) と種姓を同じくすること; 同種 (圃)。
 sāñjali 形 叉手 *Buddh-c.*; 合十指 梵唄。
 sāṭopa (sa-āṭ°) 形 ごろごろ鳴る (雨雲); 誇り高傲慢な。~m, 圃 傲慢に。
 sāḍha, Sah の過受分。
 sāḍhṛ 男 [Sah から] 征服者 (RV. 用例一回のみ)。
 sāta 過受分 → San. 男 [ある *Yakṣa* の名]。
 sātata 形 恒 *Abh-vy.*
 sātatyā 中 [satata から] 連綿たること, 連続, 永常 *Bodh-bh.*; 恒, 恒時 *Abh-vy.*; 無間 *dh-bh., Sūtr.* ~ena 圃 常に, 絶えず。
 sātatyā-karaṇiya 中 常応作, 常所応作, 常習, 常所修習 *Bodh-bh.*
 sātatyākaraṇiya-vibhāga 形 必常作 *Sūtr.*
 sātatyā-kāritā 女 無間所作 *Bodh-bh.*; *Mvyut.*
 sātatyā-manaskāra 形 恒修作意 *Sūtr.*
 sātatyā-satkṛtya-prayoga 形 無間修 *Sūtr.*
 sāta-rūpa 形 欲境 *Ast-pr.*
 sāta-vāha 男 [ある王の名]。
 sāta-vāhana 男 [同上]; 辺行乘 *Mvyut.*
 sāta-sahagata 形 樂俱 *Sūtr.*
 sāta-sukha-sahagata 形 樂俱行 *Bodh-bh.*
 sāta-han 形 利得されたものを滅する (AV.)。

sāti 因 (RV.) 所得, 獲得, 利得, 財産; 戦利品を得ること。

sātireka 形 過度の; 過 Saddh-p.; 余 Divy.

sātisaya 形 優れた, 特によい, 秀でた。

sātisāra 形 不尽類, 不尽美; 違背十分 Mvy-ut.; 得越法罪 Divy.

sāttvika 形 (因 -i) 元気のよい, 精力の盛んな(人間); Sattva (三 guṇa の一つ) と関係したまたはそれによって支配された等; 内面的な感情または情緒を示す(修辭, 戲曲); 有勇 Lal-v.; 勇健 Bodh-bh.; 薩埵 Sāmkhy-k.

sātmaka (sa-āt°) 形 有我 Madhy-bh., Madhy-vibh.

sātmārpaṇa (sa-āt°) 形 自己の犠牲を伴なう。

sātmya (sa-āt°) 形 ある人に適した, 健康・身体によい。因 健康によいこと, 習慣。

sātyaki 男 [satyaka から] Yuyudhāna の(父系)。

sātyahavya 男 [satyahavya から] [ある Vasiṣṭha の名(因)]。

sātrājita 男 [sātrājit から] Śatanika の(父系)。

sātvat 男 種 (屬のみ) [ある民族の名]。

sātvata 形 Satvat または Sātvata 族に特有の; Sātvata (Kṛṣṇa 神) に関した; +vṛtti 因, ある特殊な戯曲のスタイル。男 Kṛṣṇa 神が属したある部族の名(=Yadava; 種); 混合カーストすなわち追放された Vaiśya の後裔。

sātvati 因 Satvat 族の王女。

sāda 男 [Sad から] 乗馬, 騎行 (RV. 用例一回のみ); (車輪の)沈降; 疲労, 極度の疲れ; 止滅; 破壊, 喪失; 失望。

sādada 形 (一°) を破壊する。

sādana 形 疲労させる, 困憊させる。因 (容器を) 下に置くこと; 因 席, 場所, 住居 (=sadana)。

sādara (sa-ād°) 形 …を顧慮する, 思いやりのある, 敬意を示す, うやうやしい, ていねいな, 注意深い; (一°) に没頭する; 願樂 Śikṣ.; 勤, 恭敬 Bodh-bh. ~m, 因 うやうやしく等。

sādin 形 馬に乗って行く。男 (一°) の騎者。

sādrśa 形 一°, に似た, のような (=sadrśa); 如 Saddh-p.; 相似 Lank.

sādrśaka 形 如 Saddh-p.

sādrśi 因 (一°) との類似, 相似。

sādrśya 因 [同上]; 肖像, 像; 似 Abh-vy., Bodh-bh.; 相似 Abh-vy., Bodh-bh., Lank.; 共法 Vijñ-t.; 等相似 Abh-vy.: sādrśyasya anuvṛtteḥ 相似随轉 Sutr. 18.

sādguṇya 因 [sadguṇa から] 卓越。

sādbhuta 形 驚いた, 驚かされた。

sādya 形 降伏 Mvyut.

sādyaska 形 [sadyas から] 直ちに起る。

Sādh, I. 他 sādhati, 因 sādhatē, RV.: 目標に達する, 目的を達成する; 真直ぐに導く, 完了する, 遂行する; 服従する; 同, 所成 Lank.; 成就 Mañj-m. 使役 sādhayati 他 (因, 韻律), 因: 真直ぐにする, 平らにする, (路を) 整える; 目標へ導く, (心等を) 正しく導く; 因 服従させる, 圧倒す

る, 誘って味方に引き入れる (普通の意味); を支配する, (悪霊・神霊を) 呼び出す; (負債者: 園) から支払いを強要する; (負債を) 取り戻す, (税を) 徴収する; 完了する, ひきおこす, 産む, 遂げる, 履行する, 用意する (普通の意味); (祈禱=祈願を) 繰返す; 入手する, 授ける, (願望等を) 叶える; 確保する, 獲得する, 得る; 見出す; 証明する; (園) を 園 にする, ならしめる; 行く, 去る; 成 Sutr.; 成就 Sāmkhy-k.; 能成立 Nyāy-pr., Sutr.; 教 Pra-t-m.; 作 Divy.: parārtham sādhayanti 令他利成 Sutr. 18. 過受分 sādhitā.

upa-, 使役 征服する; (食物を) 用意する。

pari-, 使役 征服する; (財産を) 取戻す。

pra-, 使役 因 園: 服従または隷属させる, 征服する; 完了・完成する, 遂行する; 園: 正す, 整頓する, ととのえる; 得る, 獲得する; 成, 申暢, 申述 Lank.

saṃ-, 使役 圧倒する; 完成する, 遂行する; 入手する, 果す; 確保する, 守る, 勝ち得る, 獲得する; (財産を) 取戻す, (支払いを) 強要・強制する。

sādhaka 形 (因 -ikā) (園, 一°) を完成する, なしとげる, 果す, 生み出す; 効果のある, 有効な; 目的に適応した, 有用な; 魔術的な; 証明する; 成 Lank., Śikṣ.; 作, 可作 Lank.; 充滿 Lal-v.; 能成立 Sutr.: artha ~ m, 財宝悉充滿 Lal-v. 387. 男 助手; 崇拜者; 魔術師; 修習士 Mvyut.; 行人, 修法者 Guhy-s.

sādhakatva 因 魔術。

sādhaka-varti 因 魔法の灯芯。

sādhana 形 (因 -ā, -i) RV.: 目標に導く, 正しく導く; 園: (一°) を入手する, 確保する; (亡霊・神霊, 一°) を呼び出す; (一°) を表現する, 明示する; 成就 Guhy-s., Mañj-m., Śikṣ.; 能成立 Bodh-bh. 因 征服すること, 敗北させること; (呪文によって) 支配すること, (亡霊・神霊を) 呼び出すこと; 遂行, 成就, 完成, 履行, 達成 (普通の意味); (食物の) 用意; 入手; (園, 一°) の獲得, 達成; (負債の) 取戻し; 証明; (園, 一°) に対する方便, 手段, 道具, 必要品 (普通の意味); 軍隊, 兵力 (園, 種); 戦い; 証拠; 結果; 名詞の観念 (因 動作), とくに主語または具格として (文法); 語根と人称語尾の間に挿入される接辞 =vikaraṇa, (文法); 成 Ratna-ut.; 管 梵千.; 作 Lank.; 因, 能立, 能成立 Nyāy-pr.; 能成 Madhy-v.; 成就 Mañj-m., Śikṣ.; 成立 Madhy-bh., Madhy-vibh.; 証成 Madhy-vibh.; 令成, 修習 Mvyut.

sādhana-kṣama 形 証明し得る。

sādhanatā 因 (一°) に対して手段たること。

sādhanatva 因 (属, prati, 一°) に対して手段たること; 有効性; 証明たること。

sādhana-doṣa 男 能立過失 Nyāy-pr.

sādhana-dharma 男 能成立法 Nyāy-pr.

sādhana-dharmāsiddha 形 能立法不成 Nyāy-pr.

sādhanavat 形 証明の手段をそなえた。

sādhanā 因 魔術。

sādhana-dhyakṣa 男 軍隊の司令長官。
 sādhana-bhāsa (°na-ābh°) 男 非正能立 Nyāy-pr.
 sādhana-lambana (°na-āl°) 田 能立所縁, 能成境界 Madhy-vibh.
 sādhana-vṛtta 形 能立不遺 Nyāy-pr.
 sādhana-vyāvṛtta 形 能立不遺 Nyāy-pr.
 sādhaniya 未受分 完成・遂行されるべき; 獲得されるべき; 証明されるべき。
 sādhana-pāya (°na-up°) (能) 成…者 Madhy-v.
 sādhayat 立 Nyāy-pr.
 sādhayitavya 未受分 完成・遂行されるべき, 成就されるべき。
 sādharaṇa-karmatā 因 同作一事 (sādhā° の誤読?) Sūtr.
 sādharmya 田 [sadharmā から] (圓, 一°) と性質を等しくすること, との同化または合致; 等 Abh-k., 如, 似 Abh-vy., Madhy-vibh.; 同法 Madhy-bh., Madhy-vibh., Nyāy-pr.; 相似 Abh-vy., Madhy-bh., Madhy-vibh., Ratna-ut., Sūtr.; 成立相似 Sūtr.; 種々法 Lank.; 相対法 Lank., Ratna-ut.; 相似相対法 Ratna-ut.: ~yena drṣṭāntābhāsa 似同法喩 Nyāy-pr.
 sādhāra (sa-ādḥ°) 形 支えを有する。
 sādhāraṇa (sa-ādḥ°) 形 (因 -ā, -i) [同一の基礎を有する] 因, 圓: (圓, 為, 圓, 一°) に共通に属する, と共通の; 圓: 一切に共通の; (...に, 圓, 一°) 等しい, 同じ, 同様の; 同じように振舞う; 中間の, 適度の, 温暖な (季節); 与 Aṣṭ-pr.; 共 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Lank.; Nyāy-pr., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr.; 同 Divy., Sūtr.; 共有 Divy.; 共分 Daś-bh.; 共同 Bodh-bh., Lank.; 共有 Aṣṭ-pr., Bodh-bh.; 同共 Bodh-bh.; 共之 Aṣṭ-pr., Sūtr.; 与衆 Bodh-bh.; 平等 Mañj-m., Śikṣ.; 俱 Bodh-bh.; 紹, 適中 Lal-v.; 同獲, 同得用 Śikṣ.
 sādhāraṇa-karmakatva 田 同一所作 Sūtr.
 sādhāraṇatā 因 [同上の 田]. ~m Ni, 共通の財産とする。
 sādhāraṇatva 田 [同上]; 共 Abh-vy., Nyāy-pr.; 因 Nyāy-pr.; 濫, 等 Abh-vy.
 sādhāraṇa-paribhogin 形 与衆同用 Bodh-bh.
 sādhāraṇa-phala 田 共果 Sūtr.
 sādhāraṇi-Kṛ, ...を共通のもの・共同の財産とする, ...と (saha) 分けあう; (一°) と等しくする。
 sādhāraṇi-BHū, 等しくなる。
 sādhāraṇya 田 普遍性, 共通性; 類似, 類推。
 sādhika 形 成 Lank.; 余 Divy.; 上, 過 Mvyut.; Prāt-m.
 sādhikaraṇa 田 治罰 Sūtr.
 sādhita 未受分 [Sādh から] 達成された等; 成立 Sūtr.; 成就 Bodh-c.: ~to bhavati 成立 Madhy-bh. 1.
 sādhī-daivata 形 守護神を伴なう (異読)。
 sādhībhūtādhīdaiva 形 Adhībhūta および Adhīdaiva を伴う。

sādhī-yajña 形 最高の祭式を伴なう。
 sādhīṣṭha 最上 [sādhū] 最も効果的なまたは優れた (因)。
 sādhīyas 比較 [sādhū] より正確な; より好ましい, より楽しい; 極端に固い; 善釈 Abh-vy. 田 更に熱心に (Br.); より高い程度において, 過度に。
 sādhū 形 (因 -vi) [目標に導く: Sādh から] 因: 真直ぐな, 正しい (路), 命中した (矢); 準備された, 用意された (Soma 等); 親切な, 気立のよい, 従順な (また 叙詩); 因 圓: 効果的な, 能率的・有効な; Br. (まれ), 圓: 優れた, 美しい, (圓, 因, 一°) に対してよい; 圓: (人間について) 高貴な, 有徳な, 善良な (普通の意味); 正確な; 善 Abh-vy.; 可 Saddh-p. 圓 圓: よい, 有徳な. ふさわしいまたは尊敬すべき人間 (普通の意味; Br. においては非常にまれ); 聖人, 聖仙; 宝石商. 田 圓: (また Br.) よい, 正しいまたは本当のことまたは行い; 親切, 慈善; 最勝 Abh-vy. ~Man, 圓 とともに (まれに 形 男 ~m とともに) (あることを) 善とみなす, 是認する. 副 真直ぐに, 正しく, 規則的に (因); よく, 正しく, 巧みに, 適当に, 快適に, 愉快に (因, 圓); よくやった! でかした! (感嘆詞として大抵は 圓, ときとして繰返される); 圓: よく = 非常に, 大いに; = 十分に (圓), はもう沢山だ; さあ! さあ早く! (圓 とともに または 一人称現在 とともに); 確かに; 快, 慶 Aṣṭ-pr.; 善 Abh-vy., Saddh-p.; 好 Abh-vy.; 諦 Mvyut., Raṣṭr., Vijñ-t.; 善法 Ratna-ut.; 善哉 Aṣṭ-pr., Lal-v., Lank., Mvyut., Prajñ-h., Raṣṭr., Vajr-pr., Saddh-p., Suv-pr., 立; 音写 婆度 立; (音写) 際, 際, 薩 立. ~Vrt, (因) に対してよく振舞う。
 sādhū-kāra 男 田 sādhū (でかした! よくやった!) という感嘆詞; 讚 Aṣṭ-pr., Prajñ-h., Saddh-p., Suv-pr.; 讚歎 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Suv-pr.; 讚言 Aṣṭ-pr., Suv-pr.; 善哉 Bodh-bh., Mvyut., Suv-pr.; 唱善哉 Śikṣ.; 讚善哉 Buddh-c.; 称讚 Suv-pr.; 称揚, 讚美 Lal-v.; 善言讚歌 Raṣṭr.
 sādhū-kārin 形 よくまたは正しく行動する; 器用な, 熟練した。
 sādhū-Kṛ, よくまたは正しく行なう。
 sādhū-kṛtya 田 埋合せ, 償い; むくい, 報復; 報酬, 利益。
 sādhū-cara 形 善行 Raṣṭr.
 sādhū-jana 男 善人または誠実な人, 紳士。
 sādhūtara 比較 良, 最勝 Abh-vy.
 sādhūtā 因 正しい状態, (文法上の形態の) 正しさ; 善良, 実直, 尊敬すべきこと。
 sādhūtva 田 [同上]; 卓越; 親切。
 sādhū-darśin 形 よく識別する。
 sādhū-dvitiya 形 宝石商に伴なわれた。
 sādhū-dhvani 男 喝采。
 sādhū-bhāva 男 善良な性質。
 sādhū-mati 因 善慧 Sūtr.
 sādhū-mati 因 善慧 Lank.; 妙慧母 Mvyut. 善慧地 Bodh-bh., Mvyut., Sūtr.

sādhumati-bodhisattva-bhūmi 第九菩薩善慧地

Ratna-ut.

sādhu-mātrā 因 正しい尺度. ~rayā 圓 適度に.

sādhuyā 副 (因) 真直ぐに; よく, 正当に, 正しく.

sādhu-rūpa 形 形貌端嚴 Divy.

sādhu-vāda 男 sādhu (よくやった! でかした!) という叫び, 喝采. ~m Dā, 拍手喝采する.

sādhu-vādin 形 正しく話す, 正当に話す; 喝采する.

sādhu-vṛt 形 (因) に対してよく振舞う.

sādhu-vṛtta 過受分 まるまるした; よい行状の, 有徳の, 行儀のよい.

sādhuvṛttatā 因 よい行動, 善行.

sādhu-vṛtti 形 [同上].

sādhu-śīla 形 よい性格を有する.

sādhūśilatva 因 性格のよさ, 有徳な素質.

sādhu-samācāra 形 品行のよい, 正直な, 廉直な.

sādhya 未受分 征服されるべき, 獲得されるべきまたは統御されるべき, 打ち勝ち得る; 従順な; 整理・処理されるべき; (医学的に) 治療されるべき, いやされるべき, 治癒できる (病気); 完成されるべき (能力); 成就されるべき, 成し遂げられるべき, 果されるべきまたは達成されるべき (普通の意味); 成し遂げられた, 起りつゝある; 推論されるべきまたは結論づけられるべき; 証明されるべき, 論証されるべき;

成, 所成, 得成; 可救療 Abh-vy.; 所立 Nyāy-pr.; 所成立 Bodh-bh., Nyāy-pr.; 調伏 Bodhbh.; 作, 所作 Lank.; 成就 Śikṣ.; 転心 Sutr. 男 團 [一群の神々]. 因 所成; 疑, 所疑 Madhy-v.

sādhyatva 因 癒し得ること; 完成されるべきこと; 実行可能性; 所成立 Nyāy-pr.; 成, 所成, 成弁, 成就, 方便修得 Abh-vy.

sādhya-dharma 男 成立法 Nyāy-pr.

sādhyadharmāsiddha 形 所立法不成 Nyāy-pr.

sādhyavat 形 証明・論証されるべきものを含んでいる.

sādhya-sama 男 (証明されるべきものと同一のもの), 論点の先取 (まだ証明されていないものを前提として論証することで, 誤謬推論の一種).

sādhya-sādhana 因 なされるべきことの成就.

sādhya-siddhi 因 企図の成功.

sādhyālambana (°ya-āl°) 因 所立所縁, 所成就境界 Madhy-vibh.

sādhyābhāva 所立無 Nyāy-pr.

sādhyāvṛtta 形 所立不遺 Nyāy-pr.

sādhvasa 因 [sa-dhvasa: Dhvas から] (圓, 一°) の驚愕, 恐怖, 恐慌, 恐れ.

sādhv-asādhu 形 よいまたは悪い. 男 團 善人と悪人. 因 善悪.

sādhvasādhutva 因 善非善 Abh-vy.

sādhv-ācāra 男 有徳な行為. 形 行状のよい, 正直な.

sādhvi 因 [sādhu] 有徳なまたは貞淑な婦人 (また sādhvīstri); 女性の聖者.

sānanda (sa-ān°) 形 (一°) に対して喜ばしい, 喜ぶまたは楽しむ: °— または -m, 副 喜んで, うれしそ

うに.

sānasi, (RV.) 形 [San から] 掠奪によってかちうるまたは戦利品を以て満載された, 勝利の (軍馬, 戦車); 祝福をもたらす.

sānāthya 因 [sa-nātha から] 援助, 救助, 助力; 依事, 依怙, 有怙性 Bodh-bh.

sānāthya-kriyā 因 作依怙等事 Bodh-bh.

sānu 男 因 頂上, 峰, 背, 表面 (因); 山嶺, 高原, 台地 (團); 頂, 山尖, 山頂 Mvyut.

sānuka 形 遠ざけられるべき (?) (RV. 用例一回のみ).

sānukampa 形 (因) に対して慈悲深い. ~m, 副 慈悲深く.

sānukūla 形 都合のよい, 有利な; 好意的な.

sānukūlya 因 援助.

sānukrośa 形 優しい, 慈悲深い, あわれみ深い; 尊親 Aṣṭ-pr. ~m, 副 慈悲深く.

sānukrośatā 因 憐愍, 慈悲.

sānuga 形 従者と一緒の; 并伴, 共伴類 Abh-vy.

sānucara 形 并伴 Mvyut.; 随行, 助伴 Abh-k.

sānucāra 男 随行 Abh-k.; 共彼伴類 Abh-vy.

sānutarṣam 副 渴きによって.

sānutāpa 形 後悔した.

sānunaya 形 礼儀正しい, 友情ある. ~m, 副 親切に.

sānunāsika 形 鼻音化した.

sānuparivarta 形 随転, 随従 Abh-vy.

sānubandha 形 連続した, 不断の; 結果を伴なう; (自己の) 所有物と一緒の; 有随縛 Bodh-bh.: ~ā viparyayā 無倒(有倒)随, 随(顛倒)不倒 Madhy-bh. 6.

sānubandhaka 形 表示的な文字または綴字 (anubandha) を有する(文法).

sānumat 形 山嶺または高原を有する (山). 男 山.

sānumati 因 [ある Apsaras の名].

sānurāga 形 愛着を有する, 愛情の深い; (因) に惚れた.

sānūsaya 形 後悔している; 怒りっぽい; (輪廻の因をなす業の) 残余を有する; 有随眠 Abh-vy., Bodh-bh.; 有縛心 Abh-vy.; 有使, 有煩惱, 与煩惱俱 Gand-vy.

sānūkāśa 形 後光を伴なう.

sānūpa 形 水に富む土地を有する, よく灌漑された土壌を有する.

sānta 過受分 (=sānta); 寂靜, 恬怕 Lal-v.

sāntaka 形 Antaka すなわち Yama と一緒の.

sāntapana 形 [sāntapana から] (とくに Marut 神群について), あたためる, あたためい(因). 男 因 (土 kṛcchra) 苦行 (の一種) (團).

sāntara 形 間隔または割れ目を有する; 異なった; 有間, 有間隙 Abh-vy.

sāntara-vyantara 有間無間, 有異品無異品 Madhy-bh.

sāntarāya 形 (因) から (時間の) 間隔によって離された.

sāntarāla 形 中間のカーストと一緒の.

sāntarottara (°ra-ut°) 形 上下衣過, 上下莊嚴

價錢 Mvyut.

sāntar-dīpa 形 内部に灯を有する。
 sāntar-nidāgha-jvaram 副 燃える熱を内に有する。
 sāntar-hāsa 形 内心で笑っている。～m, 副 内心の
 笑いを以って, 内心で笑って。
 sāmtāna-sabhāgika 形 説相続同類部, 執同類
 相続者 *Abh-vy.*
 sāmtānika 形 (因-i) 子孫を欲する; *Sāmtāna* 樹に
 由来する; 身 *Bodh-bh.*; 身中 *Ratna-ut.*; 相
 続 *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Ratna-ut.*; 眷属恩愛
Śikṣ.; 相続所起 *Sātr.*
 sāntva 中 副 親切なまたは懐柔的な言語・言葉;
 軟語 *Buddh-c.*
 sāntvana 中 (ときとして 覆) 親切な言葉を以ってなだ
 めること, (属, 一) の懐柔。
 sāntvanā 因 [同上]。
 sāntvaya, 名動 他 副 親切な言葉でなだめる, なだめ
 すかす, 懐柔する, (属) に親切に話す。過受分 *sā-*
ntvayita.
 abhi-, 他 [同上]。
 pari-, 他 [同上]。
 sāntvayitr 男 親切に語る人または行動する人。
 sāntva-vāda 男 副 親切な言葉。
 sāṃdipani 男 [saṃdipana から] [*Kṛṣṇa* 神および *Ba-*
larāma 神の師の名 (その師の息子は *Kṛṣṇa* 神に
 よって蘇生させられた)]。
 sāṃdṛṣṭika 形 見真正 *Mvyut.*
 sāndra 形 ねばり気のある, 粘着性の; 濃厚な, 稠密
 な, 密度の高い (普通の意味); 強い, 激しい, 強烈な;
 (属, 一) をもって密にちりばめられた, で満たさ
 れた; 柔らかい, 優しい。
 sāndratā 因 稠密, 濃厚; 激烈。
 sāndra-tvakka 形 厚いおおいを備えた。
 sāndri-Kṛ, 濃くするまたは密にする; 増す, 強化する。
 sāndhakāra 形 暗黒の, 暗い。
 sāṃdhi-vigrahika 男 戦争と平和について決定を下す
 大臣; 奏事臣, 掌法度臣 *Mvyut.*
 sāṃdhya 形 1. 結合または融合 (*saṃdhi*) から生ずる
 (音節)。2. たそがれ時または夕べ (*saṃdhyā*) に関す
 る。
 sāṃnahānika 形 [*sāṃnahana* から] (戦闘のための)
 準備に関した, 武力に訴える。
 sāṃnāyya 中 (新鮮な乳と酸乳との) 混合した供物。
 sāṃnāhika 形 [*saṃnāha* から] 戦闘の準備に関す
 る, 武力に訴える; 武装し得る。
 sāṃnāhuka 形 [同上] (*Br.*)。
 sāṃnidhya 中 [*saṃnidhi* から] 近所, 近接, 面前,
 親しく出席すること; 近 *Abh-k.*; 会, 会遇,
 具, 具足 *Abh-vy.* ～m *Kṛ*, (属) に出席する, 姿
 をあらわす, ～pakṣe *Jan*, (属) の代りにあらわれ
 る。
 sāṃnidhya-mātra 中 在, 現前 *Abh-vy.*
 sāṃnipātika 形 [*saṃnipāta* から] 合体する; (身体
 の体液の) 不調によって生じた; 和合 *Ast-pr.*
 sānvaya 形 (自己の) 子孫または家族と一緒に; 同一の
 家族に属している, 縁類の; 有意義な。
 sāpagama 形 出発を伴なう。

sāpatna 形 因 敵対者 (*sapatna*) に由来する; 團:
 敵対関係 または 宿怨に基づく; 敵対関係にある他の
 夫人から生まれた。
 sāpatneya 形 (因-i) 敵対関係にある他の夫人から生
 まれた。
 sāpatnya 形 敵対関係に基づく, 親の代からの (憎悪・
 不和); 敵対関係にある他の夫人から生まれた。因
 父 (または 異母) の兄弟姉妹の関係; 同一の夫の多数
 異の妻の間の敵対関係。
 sāpatnyaka 中 敵対関係。
 sāpatya 形 子供を有している。
 sāpatrapa 形 恥じた, 困惑した。
 sāpad (sa-āp°) 形 困苦または困難におちいっている。
 sāpadeśam 副 ある口実の下に。
 sāpamāna 形 軽蔑を伴なった。～m, 副 軽蔑的に。
 sāparādha 形 有罪の, 罪のある; 誤った; 毀
 犯, 犯重罪 *Śikṣ.*
 sāparādhika 形 得重罪 *Śikṣ.*; 不順… 違逆
Suv-pr.
 sāparānta 形 *Aparānta* 国ととももの。
 sāpavādaka 形 例外となりやすい。
 sāpahnava 形 偽る, ふりをする; 隠された, ベール
 で覆われた。
 sāpāya 形 逆境と戦う; 危険を伴なった, 危険な。
 sāpiṇḍya 中 *Sapiṇḍa* の親類関係。
 sāpekṣa 形 (因, prati) に対して顧慮を払う; (一)
 を心要とする, に依存する; 惜, 貪 *Raṣtr.*;
 顧恋, 貪惜 *Daś-bh.*; 顧念 *Bodh-bh.*
 sāpekṣatā 因 有悲恋 *Daś-bh.*
 sāpekṣatva 中 依存。～e 'pi gamakatvāt samāsaḥ,
 (合成語の一部分が合成語の外にある単語を) 心要と
 しているとしても, (直ちに) その意味が理解される
 から, 合成語である (これは, 合成語中のすべての単
 語は, それらだけで全体を構成すべきであり, 従っ
 て実際の文献に屢々見られるように, 合成語の外の
 V. かなるものも支配すべきではないと言うインド文
 法家の理論に言及している)。
 sāpekṣā 因 不捨, 顧恋 *Daś-bh.*
 sāpta-tantava 男 [*saptatantu* から] 覆 [ある宗派の
 名]。
 sāpta-pada 形 七歩歩むことによって完結された, 七
 歩に基づいている (友情)=誠実な, 真の (友情)。
 sāpta-padina 形 [同上]。中 友情。
 sāpta-puruṣa 形 七代にわたる。
 sāpta-pauruṣa 形 (因-i) [同上]。
 sāpta-rātrika 形 (因-i) 七日間続く。
 sāpramādika 形 不放逸 *Vijñ-t.*
 sāphalya 中 [*saphala* から] 成果の多いこと; 有益で
 あること, 利点, 利益をもたらすこと。
 sābādha (sa-āb°) 形 苦しんでいる, 不快な, 痛気の
 sābhāvya 中 [*sabhāva* から] 性質の同一性, 同種, 同
 性質。
 sābhāsa (°sa-ābh°) 形 似 *Nyay-pr.*
 sābhikāma 形 愛情を有する, 愛する, 愛情の深い。
 sābhijñāna, °一 または -m 副 認知の目じるしとど
 もに。

sābhiniveśa 形 (あるものに対して) 多大の偏愛を有する。

sābhiprāya 形 明白な目的を有する, (人の) 心を知っている; 目的をもって語られた(語)。

sābhimāna 形 自己満足・うぬぼれに満ちた, (因) を誇る; 利己的な(行状, 行為). ~m, 副 高慢に, 慢心して。

sābhirāma 形 喜, 愛樂 Abh-vy.

sābhilāṣa 形 (とくに異性に対して, 因, prati, 一°) 欲望を懐いている, …に対する憧憬に満ちた; 可 言 Sūtr.

sābhisamskāra 形 作意 Divy.; 有行, 有加行 Bodh-bh.: ~…svarasavāhitā 所作任運成 Sūtr. 14.

sābhisamskāra-par'nirvāyin 形 現行涅槃果, 現行天行涅槃果 Mvyut.; 有行般, 有行滅 Abh-vy.

sābhisara 形 仲間と一緒に。

sābhoga (sa-ābh°) 形 功力 Daś-bh.; 有開発 Bodh-bh.; 有功用 Bodh-bh., Daś-bh.

sābhyarthana 形 懇願を伴っている, 歎願と結びついた。

sābhyasūya 形 (因) を嫉む, 羨む. ~m, 副 ねたんで, 嫉妬して。

sābhyāsa 形 反復された。

sābhra 形 曇っている, 雲でおおわれた。

sāma-ga 形 Sāman を歌う. 男 Sāman の歌詠者(RV.).

sāma-gāya 男 Sāman の歌詠(男)。

sāmagri 女 [samagra から] 総体, 全体; (圓, 一°) に対する素材, 器具または手段の完備・完全; 合 Madhy-v.; 具 Daś-bh.; 集 Abh-vy., Daś-bh. 和, 和無諍 Bodh-bh.; 和合 Āst-pr., Abh-vy., Bodh-bh., Daś-bh., Lank., Madhy-v., Mvyut., Ratna-ut., Suvik-pr.; 会遇, 因縁会遇 Divy.; 和合義 Ratna-ut.

sāmagri-kṛta 過受分 從(縁)合生 Madhy-vy.

sāmagri-parikṣā 女 観因果, 観因果和合 Ma-dhy-vy.

sāmagri-phala 男 集果, 和合果 Abh-vy.

sāmagrya 男 =sāmagri; 和合 Abh-vy., Bodh-bh., Lank., Śikṣ.; 積集, 聚集 Abh-vy.; 和合生 Lank.

sāma-ja 形 Sāmaveda の中にある. 男 象。

sāma-jāta (過受分) 男 象。

sāmañjasya 男 [sāmañjasa から] 正確さ, 正しさ, 適切, 妥当, 公平, 正義。

sāmatva 男 Sāman たる状態。

sāma-dhvani 男 Sāman の音声・音響。

sāman 男 因 [Sā から] 取得, 所有; 富, 豊富; 因, 副: 旋律, 旋律に合わせて歌われる Veda の詩句; 副: 歌, (蜂の) ぶんぶんいう音(まれ); 因 Sāmaveda. 男 (TBr. のみ), 男 因 副: 親切なまたはなだめる言葉, 柔和; 懐柔, 交渉: °一 または 男 友好的な手段によって, 友好的な方法によって(男)。

sāmāna 形 (RV.) 友好的な(?)。

sāmānta 形 (きわめてまれ) すべての方面にある; 四方 Lal-v. 男 隣人; 臣下, 家臣, 大臣(普通の意味);

諸侯 Mvyut. 男 周囲, 近隣; 近分, 周匝 Divy.

sāmāntaka 形 男 隣国 Suv-pr.; 周囲; 預備, 将禪 Mvyut.; 近, 辺, 近分, 前分, 相隣, 眷属 Abh-vy.

sāma-pragātha 男 [三人の Hotraka によって歌われるべき詩節の名]。

sāma-bhṛt 形 Sāman をもたらす(RV. 用例一回のみ)。

sāmāmaya (sa-ām°) 形 Sāman から成る。

sāmāya 形 病気にかかった, 病気に苦しむ。

sāmāyācārika 形 日常生活(samayācāra)の慣習的な義務に関する。

sāmāyika 形 [samāya から] 同意に基づく, 慣習的, 因習的; 約束を守る; 同じ心の; (asāmāyika において), 時宜を得た, ちょうどよい。

sāmāyiki 女 形 時 Abh-vy.

sāmāyoni 形 Sāman から生じた. 男 象。

sāmāthyā 男 [sāmātha から] 適當, 適合, 妥当; (因, 一°)に対する正当化, 弁明; 意味の脈絡:(のための, に対する, 為, 因, 不定, 一°)力, 強さ, ききめ, 能力または才能; (語の)力, 意味または機能; 力 Abh-vy., Bodh-c.; 能 Bodh-bh.; 勢力, 神力 Divy.; 勇悍 Śikṣ.; 用, 能, 功能, 堪能 Abh-vy.; 火功能 Sūtr. ~m Kṛ, できるだけのことをする, 全力を尽す. ~āt 副(一°)によって, の結果, に従って. ~yogāt 副[同上]; 状況に応じて, 当然。

sāmāthyavat 形 なし得る, 力のある。

sāmāthyā-hina 形 力を奪われた, 弱い, 弱々しい。

sāmārsa 形 (prati) に対して憤った, 激怒した, 激昂した. ~m, 副 激怒して。

sāmārsatā 女 激怒, 憤激。

sāma-vāda 男 種 親切な言葉; 平等典 Divy.

sāmāvāyika 形 [sāmāvāya から] 付随する, 他のものと関連する, 内属する. 男 大臣; 集会参加者, 傍観者, 見物人(異読: sāmājika)。

sāma-vid 形 Sāmaveda を知っている。

sāma-veda 男 歌詠のための Veda; 作明美言, 礼儀美言智論 Mvyut.; (音写) 歌詠用陀 Divy.

sāma-sabda 男 Sāman の音声。

sāma-sādhyā 未受分 親切な言葉によって成就されるべき。

sāma-siddha 過受分 親切な言葉によって成就された。

sāmājika 男 [sāmāja から] 集会の参加者, 傍観者, 見物人。

sāmātya 形 同居者と一緒の(S.); 大臣と共の。

sāmātya-pramukha 形 主要な大臣と一緒に。

sāmānādhikarāṇya 男 [sāmāna- から] 文法上的一致, 格関係の一致, 同格; 同一主題に対する関係. 平凡な. 男 同等, 一致; 平衡, 平常の状態(まれ); 普遍性, 一般的なまたは基本的な観念; 同 Abh-k., Abh-vy., Daś-bh., Lank., Śikṣ.; 共 Abh-vy., Daś-bh., Lank., 梵千.; 通 Abh-k., Abh-vy.; 均 Nyāy-pr.; 総, 惣 Mvyut.; 等, 総同 Abh-vy.; 平等 Abh-vy., Śikṣ., Sāmkhy-k.; 等相似 Abh-vy. ~m, 副…風に, の一ように; 共同で, 共通に. ~

ena 圓, ~āt 圓, °一般に(因 viśeṣatas, 特に).
 ~tas 圓 [同上]; 同様に, 類推によれば.
 sāmānya 形 等しい, 同様の, 似た; (圓 ±saha, 一°)
 と共通の, 共有の; 普遍的な, 一般的な; 普通の,
 sāmānya-kleśa 男 同義 共相, 通相惑 *Abh-vy.*
 sāmānya-kāraṇatva 中 同義 通因 *Abh-vy.*
 sāmānyato-dṛṣṭa 中 (+anumāna) 共通に起ること
 から(普遍を)推論すること, 推論の一種; 同義 見
 同故比 *Vaiś-s.*
 sāmānyatodṛṣṭānumāna 中 同義 平等比量 *Sāṃkhy-*
k.
 sāmānya-lakṣaṇa 中 一般の定義; 同義 共相 *Bodh-*
bh., Lan̄k., Madhy-bh., Madhy-v.; 同相 *Lan̄k.,*
Ratna-ut.; 通相 *Madhy-bh., Madhy-vibh.*; 総相
Sūtr.; 因相 *Ratna-ut.*
 sāmānyalakṣaṇa-manaskāra 男 同義 共相作意, 通
 相作意 *Abh-vy.*
 sāmānya-pāpadeśanā 女 同義 同説罪 *Sikṣ.*
 sāmānya-vacana 形 (比喩において) 共通の性質を表
 わす(語); 一般的観念を表わす. 中 実名詞(因 修飾
 語).
 sāmānyavat 形 普遍性を有する, 一般の.
 sāmānya-viśeṣa 男 同義 同異性 *Nyāy-pr.*
 sāmānya-śabda 男 一般的な意味の語.
 sāmānyāvasthā 女 平衡の状態, 正常な状態.
 sāmānyāvasthāna 中 [同上].
 sāmāsikā 形 (因 -i) [samāsa から] 包括的な, 簡潔
 に述べられた, 簡単な; 合成語に属する. 男または
 中 合成語.
 sāmī 圓 早過ぎて, 時ならぬに(因); 不完全に, 部
 分的に, 半ば(因, 圓: しはしば°, 過受分) とともに,
 例 *sāmīkṛta*, 半ば完了した.
 sāmīdhena 形 薪と点火に関した (*Br.*).
 sāmīdhenī 女 薪を祭火に投ずる際に用いる詩節(因,
 圓).
 sāmīṣa (sa-ām°) 形 えじきを有する; 肉を伴なう
 (*Śrāddha* 祭); 同義 賦 *Vin.*; 有貨物 *Mvyut.*
 sāmīṣa-pāṇi 同義 汚手 *Prāt-m.*
 sāmīṣa-pātrodaka (°ra-ud°) 中 同義 汚水, 洗鉢水
Prāt-m.
 sāmīci 女 同義 跪, 和順, 敬礼 *Mvyut.*; 和敬, 恭
 敬 *Bodh-bh.* → *samyāñc.*
 sāmīci-karma 中 同義 和敬業 *Bodh-bh.*
 sāmīci-karaṇīya 中 同義 応敬礼 *Mvyut.*
 sāmīci-Kṛ, 同義 供養 *Bodh-bh.*
 sāmīci-pratipanna 過受分 同義 同得 *Sūtr.*; 順入, 入
 順境 *Mvyut.*
 sāmīti 女 同義 共通 *Divy.*
 sāmīpya 形 [samīpa から] 近隣の. 男 近所の人, 隣
 人. 中 近隣, (時間および空間の) 近いこと, 近接;
 同義 極近 *Lan̄k.*; 最近 *Sāṃkhy-k.*
 sāmīraṇa 形 風 (*sāmīraṇa*) に関した.
 sāmītkarṣaka 形 同義 増進, 増長 *Bodh-bh.*
 sāmītkarṣika 形 同義 最上, 最上妙, 最上勝妙 *Daś-*
bh.
 sāmīdra 形 海 (*sāmīdra*) に関した等, 海の. 男 水

夫, 船乗り; 圓 海国民 [ある人民の名]. 中 海塩.
 sāmīdraka 中 塩.
 sāmīdraka-lekhaka 男 (または 形) 同義 手軟曲者
Mvyut.
 sāmīdra-lakṣaṇa 中 同義 相海 *Mvyut.*
 sāmīdrika 形 船乗りの; 同義 海岸, 海辺, 大海辺
Aṣṭ-pr.; 大海舡 *Mvyut.*
 sāmīdrikā 女 ひる (の一種).
 sāmīhika 形 隊・群 (*sāmīha*) に配列された. 男 集
 合名詞を作る接尾辞.
 sāmīṛta 形 甘露・不死の靈薬をそなえた.
 sāmīoda (sa-ām°) 形 喜ばしい, 愉快的.
 sāmīparāya 男 [sāmīparāya から] 他の世界・来世への
 移行; 艱難; 闘争.
 sāmīparāyika 形 (因 -ā, -i) 他界への (移行) に関し
 た; 必要な場合に有益な, 苦難から助ける; 戦争に
 関する, 軍事上の; 戦闘準備の出来た(軍隊); 同義
 来世, 後世, 他世, 後法, 当来 *Bodh-bh.*; 未来世
Sūtr. 男 同義 後世者, 變易世 *Mvyut.*
 sāmīparāyika-gurukatā 女 同義 重後世善根 *Sam-r.*
 sāmīparāyika-phala 中 来世における果報.
 sāmīpādika 形 [sāmīpad から] 成就に必要な, 有効
 な.
 sāmīprata 形 [sāmīprati から] 適切な, 正しい; 現在
 の, 今の; 同義 現在 *Abh-vy., Raṣṭr. ~m.* 圓 今
 や, 現在; 同義 今 *Divy., Madhy-v., Mvyut.,*
Saddh-p.; 便 *Divy.*; 今時, 如是 *Mvyut.* 中 現
 在.
 sāmīprata-kāla 男 同義 現 *Sāṃkhy-k.*
 sāmīpratika 形 (因 -i) 適当な, 正しい; 現在の.
 sāmīpradāyika 形 伝統 (*sāmīpradāya*) に基づくまた
 はに従う, 伝統的な.
 sāmīpreya 形 同義 応 *Vin.* → *asāmīpreya.*
 sāmība 男 [*Kṛṣṇa* 神と *Jāmbavati* との間の息子の
 名 (*Purāṇa* 文献においては太陽崇拜と *Magi* 祭
 に関係している)].
 sāmībandhika 形 同義 連縛, 相応 *Abh-vy.*
 sāmībavati 女 [ある遊女の名].
 sāmību-vāsara 形 (意味不明) *Kathāsaritsāgara* 70,
 59.
 sāmībeśvara (°ba-īś°) 男 [*Sāmībavati* の建立した寺
 院の名].
 sāmībhogika 形 同義 受法楽仏 *Ratna-ut.*
 sāmībhogya 形 同義 食, 受用, 食身 *Sūtr.*
 sāmīmanasya 中 [sāmīmanas から] 一致, 合致, 意見
 の合致 (AV).
 sāmīmitiya 男 同義 正量部師 *Madhy-v.*
 sāmīmukhya 中 [sāmīmukha から] (一°) に直面する
 状態または行為; (ある人に対する) 愛好; (一°) への顧
 慮・配慮. 同義 現 *Abh-vy.*
 sāmīya 中 [sāmīya から] (との, に対する, 圓 ±saha
 屬, 因, 一°) 均等, 同一, 類似; (階級または地位
 の) 同等; 平衡, 正常の状態; (因, prati) に対す
 均等; 正義; 同義 *Abh-vy.*; 安, 調適 *Bodh-*
bh.; 等 *Abh-k., Abh-vy.*; 平等 *Bodh-bh.*; 相似
 対法 *Ratna-ut.* ~m *Kṛ*, (因) に対して正当に

動する。~m Ni, (火を) 消す; なだめる, 満足させる。
sāmyatā 因 (屬, 一°) と等しいこと。
sāmrajya 因 [samraj から] (屬, 因, 一°) に対する全世界的主権, 皇帝の統治・支配; 皇因廣大 *Mvyut.*
sāmrajya-krt 形 最高の主権を確保している。
sāya 因 逗留 (RV., 用例一回のみ); 日暮れ, 夕刻。~m Kr, 滞在する (RV., 用例一回のみ)。~m 副 夕方, 日暮れに; 夕暮れに; 暮 *Mvyut.*; 晩 *Bodh-bh.*; 今夜 *Śikṣ.*
sāyam-sūrya 男 夕陽。
sāyamsūryodha (°ya-ūdhā) 形 夕陽によってもたらされた (客人)。→ Vah.
sāyaka 形 [Si 2. から] 放擲するに決められた (RV.)。男 (屬), 因 (RV.) 飛道具, 矢。
sāyaka-puṅkha 男 矢の羽をつけた部分。
sāyakamaya 形 矢を以って構成された。
sāyakāya, 名動 自 (一°) の矢をあらわす。
sāyam-kāla 男 夕ぐれ, 夕方。
sāyam-kālīka 形 夕刻に属する。
sāyam-kālīna 形 [同上]。
sāyam-ghoṣṭha 形 夕刻に囲いのなかに追い込まれた (家畜, Br.)。
sāyana 男 [多数の *Veda*, 哲学および文法に関する著述に対する著名な註釈者の名 (1387年没; また *Sāyanamādhava* または *Sāyanācārya* と称せられる)]。
sāyantana 形 (因 -i) 夕刻の。
sāyam-dugdha 過受分 夕刻に乳を搾られた (Br.)。
sāyam-āsa 男 暝食, 晩食 *Abh-vy.*
sāyam-āhuti 因 夕刻の祭儀 (因)。
sāyam-prātar 副 夕方と朝において。
sāyam-bhojana 因 夕飯。
sāyāsa (sa-āy°) 形 労苦; 厄介を伴っている。
sāyāhan 因 夕方 (因, -i のみ)。
sāyāhna 男 [同上]; 夕, 半夜 *Mvyut.*; 日晡時 *Divy.*; 日入, 昼後分 *Bodh-bh.*; 日西已後 梵雜。
sāyāhna-kāla-samaya 男 日後時分 *Vajr-pr.*; 日後分, 後日分時 *Śikṣ.*
sāyujya 因 [sayuj から] 親密な結合, (とくに死後の神との因, 屬, 因, 一°) 交わり。
sāra 1. 形 [Sr から] (一°) を追い払う, 破壊する。男 進行, 歩み, 進路。
sāra 2. 男 因, 屬: 核, 芯; 力, 精力, エネルギー; 固さ, 堅固; 価値; 富, 財産; 真髓, 実体, 最良の部分, 精粹, 摘要 (普通の意味); 甘露 (まれ); 水 (まれ); クライマックス (の一種) (修辭); 心 *Mvyut.*; 核 *Śikṣ.*; 肉 *Bodh-bh.*; 氣 *Divy.*; 尊 *Sukh-vy. I.*; 堅 *Abh-vy., Divy., Mvyut., Ratna-ut., Sūtr., 梵雜.*; 実 *Lank., Ratna-ut.*; 固 *Bodh-bh., 梵千.*; 堅固 *Ast-pr., Bodh-bh., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr.*; 内実 *Ratna-ut.*; 堅実 *Ast-pr., Śikṣ.*; 堅硬, 堅牢 *Śikṣ.*; 堅法 *Divy.*; 牢実 *Śikṣ.*; 実法 *Lank.*; 真実 *Abh-vy.*; 貞実 *Abh-vy., Sa-ddh-p.*; 精純 *Bodh-c.*; 精妙 *Guh-y-s.*; 抜濟 *Ast-pr.* 形 (一°, para のように) を最良のまたは主要事

として有する; 堅い, しっかりした, 強い; 価値のある; 最良の; 正しい; 雑色の, まだらの (=sāra); +bala 男, 精兵, 選抜された部隊。~tas 副 価値に従って; (自己の) 資力に従って。
sāraka 形 (一°) で満ちた; 堅固 *Lal-v., Sa-ddhp.* 男 檀摩 娑羅迦 *Divy.*
sāra-ga 形 力の強い, 勢力のある。
sāra-gata 形 骨, 在肉, 在実 *Bodh-bh.*
sāragha 形 [saraghā から] 蜜蜂に由来する。男 蜜蜂, 蜂。因 蜜。
sāraṅga 形 (因 -i) 雑色の, まだらの。男 まだらのカモシカ (の一種); [種々の鳥の名 (とくに *Viṣkīra* または *Pratuda* の一種; 孔雀; *Rājahaṃsa*; *Cātaka* 等.)]。
sāraṅga-locanā 因 カモシカのような眼をした婦人。
sāraṅgākṣi 因 [同上]。
sāraṅgi 因 まだらのカモシカ (の一種)。
sāraṇa 因 (一°) に伴なうこと。
sāraṇā 因 (一° 形のみ) を伸ばす; (ある楽器で, 因) (音を) 鳴らす。
sāraṇi 因 流れ, 掘割, 運河。
sāraṇi 因 (血, 一°) の流れ。
sāratara 比較 因 よりよいもの。形 よりよい; 更に価値のある, より高価な。
sāratā 因 堅固; (因) に対する強固な信頼; 価値; 最高の段階, 極上; 堅固, 堅牢 *Bodh-bh.*; 実法 *Lank.*; 堅, 堅実 *Madhy-vibh.*; 真実 *Madhy-vibh.*; 真実法 *Lank.*
sāratva 因 堅実, 堅固; 要点, 主要事; 堅実, 貞実 *Abh-vy.*
sārathi 男 [saratha から] 馭者; 導 *Śikṣ.*; 御者 *Bodh-bh., Buddh-c.*; 調御者 *Bodh-bh.*; 馭者 *Lal-v.*; 調御之師, 調御大師 *Gaṇḍ-vy.*
sārathya 因 御者の職務。
sāra-phalgotva 因 価値または無価値, 善または悪, 比較的の重要性, 軽重。
sāra-buddhi 堅固解 *Sūtr.*
sārabuddhi-mati 堅固解 *Sūtr.*
sāra-bhāṇḍa 因 高価な品物。
sāra-bhūta 過受分 主要な, 最良の。因 主要なこと, 最良のもの。
sāra-mahat 形 極めて価値のある, 高価な。
sārameya 男 (*Sāramā* の息子) 犬。
sārameyatā 因 犬たること, 犬の状態。
sārambaṇa (sa-ār°) 形 有縁, 有所縁 *Ast-pr.*
sārālya 因 [sarala から] 真直ぐなこと, 簡単, 簡素, 正直。
sāravat 形 強い, しっかりした; 価値のある; 具足堅固 *Gaṇḍ-vy.*; 精実 *Śikṣ.*
sāravati 因 具堅固, 具識 *Mvyut.*
sāravattā 因 堅いこと, 確乎たること, 堅実なこと。
sāra-vastu 因 高価なものまたは重要なもの。
sāra-vid 形 (ある事物の) 価値を知っている。
sāra-sūnya 形 価値を欠いた, 無価値の。
sārasa 形 (因 -i) 湖 (*saras*) に属する。男 (一°, 因 -ā) (インドの) 鶴 (*Ardea Sibirica*); ときとしては=

hamṣa ; [あるせむしの名] ; 鶴 *Mañj-m.* ; 鴻 *Mvyut.* 田 蓮。
 sārasana 田 帯, 腰帯。
 sārasākṣi 田 蓮華のような眼をした女。
 sārasikā 田 雌の鶴。
 sārasī 田 雌の鶴。
 sārasvata 田 (-i) (女神または河である) *Sarasvati* に属するまたは関する, または由来する。 田 (*Sarasvati* 河流域に住んでいるある民族の名 (種)) ; [ある *Rṣi* の名 (*Sarasvati* の息子)]。 田 雄弁。
 sārāji (°ra-āji) 田 主戦, 主要な戦闘。
 sārāparādhataḥ 田 (犯人の) 富と犯罪 (の極悪) に比例して。
 sārārtha 田 内堅実 *Ratna-ut.*
 sārāva (sa-ār°) 田 叫ぶ, 大声で叫ぶ。
 sārāsāra 田 強弱, 相対的な力 ; よい性質または悪い性質, 相対的な性質 ; 善悪。 田 強いと弱い, 強いまたは弱い。
 sārāsaratā 田 強い側と弱い側。
 sārīka 田 鳩, 鸚鵡 *Raṣṭr.*
 sārīkā 田 [美声の小鳥の一種, つぐみ(?)] ; 腹心の友 (*Sārīkā* は戯曲において女主人公の忠実な侍女の名として用いられる)。
 sārīṇi 田 流れ, 溝。
 sārīn 田 1. [Sṛ から] 行く, 急ぐ, 一°, …に従う。
 2. (一°) の本質または最上のもの・精髓 (*sāra*) を有する。
 sārīva 田 穀物 (の一種) (まれ)。
 sārīṣṭa 田 むくろじの樹と一緒に ; 死期が迫る徴候を有する。
 sārīṣṭha 田 最も優れた, 最善・最良の。
 sārūndhatika 田 *Arundhati* と一緒にの。
 sārūpya 田 [sarūpa から] (との, に対する, 田) 外観の一致, 類似, 酷似, 相似 ; (無実の人を) 他の人と誤解 (して腹を立てて取り扱うこと) (戯曲) ; 田 同 *Saddh-p.* ; 随順 *Bodh-bh.* ; 応量 *Lal-v.* ; 如理趣 *Mvyut.* ~tas 田 一致の結果として。
 sārka 田 太陽と一緒にの。
 sārgala 田 門でとざされた, 妨げられた, 阻止された (欲望)。
 sārñjaya 田 *Srñjaya* からの 田 父系 ; [*Sahadeva* の息子の名]。
 sārtha 田 用事を帯びている (*Br.*) ; 目的をすでに達成した, 成功した (要請) ; 富裕な ; 有意義な ; 田 買 *Lal-v.* ; 商買 *Lank.* 田 旅をする商人の一群, 隊商 (ときとして種) ; 一団, 群れ, 群衆, 大衆 ; 田 衆 *Prāt-m.* ; 商衆 *Divy.* ; 商侶, 商旅 *Bodh-bh.* ; 諸商人 *Saddh-p.*
 sārthaka 田 利益のある ; 有意義な ; 田 須 ; 俱義, 有義 *Abh-vy.*
 sārthakatva 田 田 有義 *Madhy-bh., Madhy-vibh.*
 sārthakya 田 利益 *Sūtr.*
 sārtha-ghni 田 [sārthahan から] 隊商の破壊者。
 sārtha-ja 田 隊商のなかで生まれたまたは育てられた, 馴れた (象)。
 sārtha-dhara 田 [ある隊商の指導者の名]。

sārtha-maṇḍala 田 集合した隊商 (のサークル)。
 sārtha-vāha 田 隊商の隊長または首領, 行商団の長 ; 田 商主 *Av-ś., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lank., Mvyut., Raṣṭr., Saddh-p., Sam-r., Śikṣ., Sūtr.* ; 賞主 *Lank.* ; 導首 *Divy.* ; 導師 *Lal-v., Śikṣ., Sūtr.* ; 衆之導師 *Lal-v.* ; 買客, 商人 *Aṣṭ-pr.* ; 商人導 *Śikṣ.* ; 大商主 *Bodh-bh.*
 sārtha-vāhana 田 [同上]。
 sārtha-saṃcaya 田 多大の富・財産を所有すること。
 sārthika 田 隊商と一緒に旅行する ; (田) (ある人に) 旅行の際同伴する。 田 隊商の一員, 行商人 ; 田 買 *Lal-v.* ; 商人 *Lal-v., Śikṣ.* ; 商買 *Śikṣ.* ; 商旅, 商侶, 同宗, 宗侶 *Abh-vy.*
 sārthodgraha-parāvṛtti 田 田 義受転 *Sūtr.*
 sārdra 田 湿った, 湿気を含んだ, 湿っぽい ; 田 具潤 *Mvyut.*
 sārḍha 田 半分を伴なった ; 田 全 *Abh-vy. dve śate sārḍhe=250.* ~m 田 共同に, 一緒に (*Br.*, まれに 田 において) 田 (田 とともに, まれに 一°) とともに, と一緒に (田 ; まれに *Br., S.*, において) ; 田 与 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr., Sukh-vy. II., Vajr-s.* ; 共 *Bodh-bh.* ; 与…共 *Aṣṭ-pr., Sapt-pr.* ; 俱 *Lal-v., Lank., Raṣṭr., Saddh-p.* ; 同, 随, 及, 并 *Aṣṭ-pr.* ; 共, 同, 同面 *Mvyut.*
 sārḍha-vārṣika 田 一年半継続する。
 sārḍha-vihārin 田 田 同住 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.* ; 共住 *Abh-vy., Vin.* ; 共行 *Vin.*
 sārpa 田 蛇 (*sarpa*) に連関している。
 sārva 田 [sarva から] すべてのものにとって有益な。
 sārva-kāmika 田 (田 -i) すべての願望を満足させるまたは授ける。
 sārva-kāla 田 一切の時に起る。
 sārva-kālika 田 (田 -i) 永久の, すべての時代に通用する ; 田 一切時 *Ratna-ut.*
 sārva-janya 田 一般の, 普遍的な。
 sārva-jñya 田 [sarvajña から] 全知。
 sārva-trika 田 全面またはどこから (*sarvatra*) でも来る, どこにでも生起する, 普遍的に適用し得る, 一般的な。
 sārva-trikatva 田 普遍性。
 sārva-dhātuka 田 完全な語幹 (すなわち接辞をもって拡張された 田) に適用または附加される (田)。
 sārva-bhautika 田 すべての生類に関した。
 sārva-bhauma 田 [sarvabhūmi から] 全土に関する, に行きわたったまたは支配している。 田 全世界の支配者, 帝王 ; [北方の象の名, *Kubera* の車] ; 田 宰諸地 ; 玉 *Mvyut.*
 sārva-yānikī 田 田 一切来 *Aṣṭ-pr.*
 sārva-laukika 田 (田 -i) 全世界に知られたまたは全世界に行きわたっている, 普遍的な, 一般的な ; 各人に許された。
 sārva-varṇika 田 あらゆる種類の, 各種の ; すべての階級に属するまたは共通の。
 sārva-vedasa 田 全財産。
 sārva-vedasa-dakṣiṇa 田 (祭官に対する) 報酬として

(自己の)全財産(の贈与)を伴なう。
sārvāyusa (°va-āy°) 形 全活力を有する, 徹頭徹尾・活発な, 精力的な (Br.).
sārṣapa 形 からし (sarṣapa) に由来する。
sārṣti 形 同一の地位または価値を有する。
sārṣitā 因 (一°) と地位または状態を等しくすること。
sāla 男 ある樹木 (*Vatica Robusta*=sāla); 囲い, 柵, 塁壁; [ある王侯の名]; 堅固 *Gand-vy.*, *Lal-v.*; 音写 娑羅 *Gand-vy.*, *Suv-pr.*
sālaka 形 頭髪を以って飾られた。
sālaktaka 形 うるしを以って染められた。
sālaṃkāra 形 飾られた, 荘厳された。
sālaṃkāravasthā 因 有荘厳位 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*; 有荘厳位住 *Madhy-bh.*
sāla-puṣpa 中 天花 *Suv-pr.*; (音写) 娑羅花 *Av-ś.*; 娑羅華 *Suv-pr.*
sāla-bhañjikā 因 (音写) 娑羅花会 *Av-ś.*
sālamba (sa-āl°) 形 (一°) を根拠・支えとして有している。
sālambana (sa-āl°) 形 有所縁 *Abh-k.*, *Abh-vy.*; 有縁縁 *Abh-vy.*
sālambanatva 中 有所縁, 能縁境 *Abh-vy.*
sālambha (sa-āl°) 男 (=sārambha?) 搦力, 相撲, 驍剛勇 *Lal-v.*; 力士相, 殊勝持護 *Mvyut.*
sāla-vṛkṣa 男 堅固; (音写) 娑羅樹 *Mvyut.*
sālasa 形 ものうい, 元気がない, 怠惰な。
sālā 因 屋 *Lal-v.*
sālā-vṛka 男 狼, ハイエナまたはジャッカル(の一種)。
sāendra-rāja 男 (音写) 娑羅王 *Lal-v.*; 娑羅樹王, 娑羅帝王 *Sukh-vy. II.*
sālokya 中 [saloka から] (圓 +saha, 圓, 一°) と同一の世界を有すること, と同一の世界における居住。
sālopa (sa-āl°) 形 含食 *Mvyut.*, *Prāt-m.*
sālohita 男 親属 *Sam-r.*; 眷属 *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Madhy-v.*, *Śikṣ.*; 親眷 *Śikṣ.*; 親里 *Aṣṭ-pr.*; 親戚 *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*; 厚友, 尊長, 親父, 双親, 媳婦 *Mvyut.*
sālhaṇa 形 *Sālhaṇi* に属する。
sālhaṇi 男 [*Sālhaṇa* からの 父系]。
sāva 男 [su 1. から] *Soma* の献供。
sāvaka 形 (因 -ikā) 子供を産んだ。
sāvakāśa 形 適用されるべき。
sāvagraha 形 制限された; 分解された(合成語); (その水を)抑制する(雲); 有所制約 *Bodh-bh.*
sāvacāraṇa 形 適用を伴なう。
sāvajña 形 (因) に対して軽蔑的な, を侮蔑する。~m 副 侮蔑して, 軽蔑して。
sāvadya 形 非難されるべき(行為); 劣悪な(商品); 罪 *Abh-vy.*, *Daś-bh.*, *Sūtr.*; 障 *Sūtr.*; 過 *Daś-bh.*; 有罪 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Kāśy.*, *Lank.*; 有詞 *Abh-vy.*; 有諍, 内事 *Kāśy.*; 過患, 罪殃 *Daś-bh.*; 有呵責 *Mvyut.*
sāvadya-karma 中 悪業, 罪業 *Gand-vy.*
sāvadyatva 中 為…罪 *Śikṣ.*
sāvadya-paribhoga-pratiṣedha 中 遮有過受用 *Sa-*

tr.

sāvadhāna 形 注意深い, 用心深い, 配慮する。~m 副 注意深く。
sāvadhānatā 因 注意深さ。
sāvadhāraṇa 形 限定を伴なう; (前述されたもの以外すべてのものを除外するような) 制限的な。
sāvadhī 形 制限された, 限界を定められた。
sāvana 形 [savana から] (日に三度の) *Soma* の献供を規定する, すなわち正確な太陽運行時(年, 月, 日)に相応する。中 正確な太陽運行時。
sāvamarda 形 強情な。
sāvamāna 形 軽蔑をもって与えられた(少量, 小片)。
sāvayava 形 部分から成る; 有分 *Abh-vy.*, *Sāmkhy-k.*; 有方分 *Vin.*
sāvayavatva 中 [同上の 圓]; 有分, 有方分 *Abh-vy.*
sāvaraṇa (sa-āv°) 形 閉された(家); 隠された, 内密の(交渉)。
sāvārṇa 男 [savarṇa から], [ある Rṣi の名]; [ある *Manu* の名]。
sāvārṇi 男 [*Savarṇa* からの 父系, ある Rṣi の名]; [ある *Manu* の名]。
sāvārṇika 形 (因 -i) 同一の階級に属する; *Manu Sāvārṇa* または *Sāvārṇi* に関連している。男 [ある村の名]。
sāvārṇya 中 色の同一なこと; (音の) 同質性。
sāvalamba 形 支持された。
sāvalambana 形 有著処 *Bodh-c.*
sāvalepa 形 高慢な, 傲慢な, 尊大な。
sāvāśeṣa 形 残りを有する, 不完全な, 完成されていない; 残余の。中 残余, 残りもの; 余殃 *Aṣṭ-pr.*; 有余 *Divy.*
sāvāśeṣa-saṃyojana 形 有余炊惱 *Divy.*
sāvāśeṣā 因 有余 *Mvyut.*
sāvarta 形 具電閃 *Mvyut.*
sāvahita 形 注意深い。
sāvahela 形 侮蔑的の。~m 副 侮蔑的に。
sāvitra 形 (因 -i) *Savitṛ* 神に属するまたは捧げられた, *Savitṛ* 神に由来する。男 *Savitṛ* 神の息子または子孫。
sāvitrī 因 (+rc) *Savitṛ* 詩節, (とくに 'tat savitur vareṇyam' に始まるもの, RV. III, 62, 10; また *Gayatri* と称せられる); *Sāvitrī* により(カーストのなかに)加入すること, (再生族の)資格を授与されること(圓); [(*Savitṛ* 神の娘) *Sūryā* 女神の名, *Brahmā* 神の妻の名, *Aśvapati* の娘 (*Satyavat* の妻) の名および諸々の他の女性の名]; [ある河川の名]; 咒, 除罪律 *Divy.*
sāvitrī-patita 過受分 *Sāvitrī* (によるカーストへの加入)から除外されたすなわち適当な時に加入しなかった。→ Pat.
sāvitrī-paribhraṣṭa 形 [同上]。
sāvini 因 河川。
sāvegam (sa-āv°) 副 激して, 興奮して, 動揺して。
sāsamsam (sa-ās°) 副 願望, 希望または期待の表情を以って。

sāsānka 形 (因) を懸念する。～m 副 懸念して；
具可疑，故全縁 *Mvyut.*
sāsamkatva 中 疑慮，疑怖未息 *Abh-vy.*
sāsīti 形 80を伴うまたは 80を加えた。
sāścarya (sa-ās°) 形 驚かされた；驚くべき。～m 副
驚異を以って。
sāścarya-kautuka 形 驚きと好奇心を伴う。
sāsru 形 涙ぐんだ；随涙 *Av-s.*；哀泣，悲泣落
涙 *Divy.* 副 涙とともに，涙ぐんで。
sāsru-kaṇṭha 形 流涙交襟 *Divy.*
sāṣṭāṅga 形 身体の八つの部分（両手，胸，額，両膝
および両手）を以って行なわれる（平伏＝極端に尊敬
する）。～m 副 +pra-Nam, うやうやしく敬礼・平
伏する。
sāṣṭāṅga-pātam 副 +pra-Nam [同上]。
sāsa (sa-āsa) 形 弓を有する。
sāsava (sa-āsa°) 形 酒を以って満たされた。
sāsahi 形 (薬) を征服する，勝利を博した(因)；
一°，…耐え得る。
sāsāra (sa-ās°) 形 雨降りの。
sāsi 形 剣を有する。
sāsi-pāṇi 形 手に剣を持っている。
sāsū 形 生きている。
sāsusū 形 矢を有する。
sāsūrya 形 (prati) に対して憤激した，怒っている。
～m 副 怒って，憤激して。
sāsthi 形 骨を有する；因 骨のある動物。
sāsthi-svānam 副 骨の碎ける音を以って。
sāsna 因 (牡牛の) のど袋；
sāsra 形 涙ぐんでいる。～m 副 涙ぐんで，涙に濡
れて。
sāsra (sa-ās°) 形 有漏 *Abh-k., Abh-vy.,*
Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lank., Madhy-vibh.；有流
Abh-k., Abh-vy.；具漏 *Madhy-v., Mvyut.*；有
漏法 *Lank.*；～karmahetuka 有漏業因 *Ratna-*
ut. 65.
sāsra-jñāna 中 具漏識，識漏尽 *Mvyut.*
sāh (一°)，→sah (一°)。
sāha 形 [Sah から]力の強い(RV. 用例一回のみ)；一°
(-sāha または -śāha) を克服・征服する，に抵抗する。
sāham-kāra 形 自負に満ちた，自意識過剰な；
高慢 *Divy.*
sāhamkāra-manaskāratā 因 我執，有我執思惟
Madhy-bh.
sāhacarya 中 [sahacara から] (因，一°) との同侶，
つきあい；同行 *Mvyut.*；同聚 *Abh-vy.*；共
行，俱行，俱時行，相應，相應行 *Abh-vy.*
sāhajika 形 [sahaja から] 生まれつきの，生来の，
自然の。男 [人名]。
sāhadevi 男 *Sahadeva* からの 父系。
sāhasa 形 [sahas から] 大急ぎの，大あわての，無思
慮な，軽率な。男 中 刑罰，罰金。中 暴力，暴行，
略奪；大胆な，向う見ずの，無謀な，むちゃな行為
(普通の意味)；卒暴 *Bodh-bh.*；勇健 *Saddh-p.*
sāhasa-karaṇa 中 暴行，凌辱，乱暴。
sāhasa-kārin 形 無思慮に行動する，軽率な。

sāhasa-lāñchana 男 [人名]。

sāhasānka 男 [人名]。

sāhasika 形 (因 -i) 暴行を働いたまたは暴行罪を犯し
た；大胆な，向う見ずの；無謀な。男 命知らずの無
法者，強盗；[ある料理人の名]；不怯 *Mvyut.*；
勇猛 *Mañj-m.*

sāhasikatā 因 大胆なこと，冒険。

sāhasin 形 暴行をする，凌辱する；無理をし過ぎる。
→sāhasika。

sāhasra 形 (因 -ā, -i) 千を有する，から成るまたはに
達する；千倍の；極めて多数の。中 千。

sāhasraka 形 千に達するまたは千を含む。

sāhasra-loka-dhātu 小千世界 *Ratna-ut.*

sāhasri 男 父系(?)。

sāhasrika 形 千 *Bodh-bh.*

sāhāyaka 中 援助，助力。～m Kṛ, 援助する，助け
る。

sāhāyaka 中 援助，助け；助 *Divy.*；助伴 *Vijñ-*
t.；助之 *Sūtr.*；～m gacchanti 佐助 *Sūtr. 19.*

sāhāyaka 中 [同上]。

sāhāyaka-kara 形 (一°) を援助する。

sāhāyaka-kriyākṛ (一°) 助彼所作令不
退 *Sūtr.*

sāhāyaka-dāna 中 援助(を与えること)。

sāhitya 中 [sahita から] (因，一°) との結合；合致；
修辭的(文学的)作品，詩作法。～ena 中 …と結合
して，…と一緒に。

sāhitya-darpaṇa 中 詩作法の鏡 [15世紀 Viśvanātha
作の修辭学書の標題]。

sāhna 形 あるまたはその日と結びついた，を以って終
る，だけ続く(因 ahina；因)。

sāhya 中 [saha から] 援助，助力。～m Kṛ または Dā,
援助する，助ける。

sāhlāda (sa-āh°) 形 喜んでいる。～m 副 喜んで。

sāhva (sa-āh°) 形 名前を有する，名づけられた，と
呼ばれた。

sāhvayava (sa-āh°) 形 [同上]。

Si 1., IX. 他 sināti, 因 縛る。適受分 sita 因 縛：縛
られている；(因，一°) に伴われた。

pra-, 縛る，無害にする；prasiṣye 三過自 (因の
意味において) (因)。適受分 prasita (因) (因，因)
に専念している；続く，堪える。

Si 2., 投げる，なげうつ。

pra-, 適受分 prasita, 突進する (RV.)。

siṃha 男 獅子，ライオン；獅子座(十二宮の一つ)；
一°，獅子のような＝のなかで主要なまたは最上の，
卓越した；(また一°，ある合成語において)の主または
支配者；[人名]；師子 *Bodh-bh., Gaṇḍ-vy.,*
Lal-v., Lank., Raṣṭr., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-
vy. I., Sukh-vy. II., Sūtr.；獅子 *Mvyut.*

siṃhaka 男 師子 *Divy.*

siṃhaka-kalpā 因 師子劫 *Divy.*

siṃhaka-ketu 男 師子相，師子幢 *Lal-v.*

siṃhaka-keśarin 男 師子頂 *Divy.*

siṃhaka-gati 因 師子歩 *Buddh-c.*

siṃhaka-gupta 男 [ある王の名]。

siṃha-ghoṣa 男 [人名]; 師子音, 師子響 *Saddh-p.*
 siṃha-candrā 女 師子月 *Saddh-p.*
 siṃhatā 女 獅子の状態.
 siṃha-tuṇḍa 男 魚の一種.
 siṃhatuṇḍaka 男 [同上].
 siṃhatva 中 [同上].
 siṃha-damṣṭra 形 獅子のような歯を有する. 男 [ある Asura の名; *Sābara* 族のある王の名].
 siṃha-datta 男 [ある Asura の名].
 siṃha-deva 男 [ある 王の名].
 siṃha-dvār 女 (王の) 王宮の門.
 siṃha-dvāra 中 [同上].
 siṃha-dhvaja 男 師子相, 師子幢 *Saddh-p.*
 siṃha-dhvani 男 (獅子の) 挑戦的な叫び.
 siṃha-nāda 男 獅子の叫び声; ときの声, 戦いの雄叫び; 強い自信; [ある Asura, *Ravana* の息子および *Malaya* の王の名]; 師子吼 *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*
 siṃhanāda-nādin 男 師子音 *Mvyut.*; 師子吼 *Gaṇḍ-vy.*; 大師子吼 *Lank.*
 siṃha-nādin 男 師子吼 *Lal-v.*, *Sam-r.* 形 能獅子吼 *Divy.*
 siṃha-parākrama 男 [人名].
 siṃha-paripreçhā 女 師子所問経 *Śikṣ.*; 太子刷護経, 師子所問経, 獅子所問経, 獅子請問経 *Mvyut.*
 siṃha-pura 中 [ある町の名].
 siṃha-pūrvārdha-kāya 形 身如獅子, 身上半如獅子王 *Bodh-bh.*; 師子上身, 臆如獅子 *Gaṇḍ-vy.*; 上身如獅子, 上身如獅子相 *Mvyut.*
 siṃhapūrvārdhakāyatā 女 上身如獅子相, 身上半如獅子王 *Bodh-bh.*
 siṃha-bala 男 [ある王の名].
 siṃha-bhaṭa 男 [ある Asura の名].
 siṃha-bhū-bhṛt 男 [ある 王の名].
 siṃha-mahi-pati 男 [ある王の名].
 siṃha-ratha 形 獅子に(引かれる)車を有する, [*Durga* 女神の称]. 男 [人名].
 siṃha-rava 男 獅子吼, ときの声.
 siṃha-rāja 男 [ある王の名]; 師子王 *Lank.*
 siṃha-rotsikā 女 [ある村の名].
 siṃhala 男 セイロン, セイロン島: 種 セイロン人, セイロン島の住民; 師子胤 *Divy.*: ~dvīpa 師子洲 *Divy. 523.*
 siṃhalaka 形 セイロンまたはセイロン島に関する: + dvīpa 男 セイロン島.
 siṃha-vatsa 男 子師子 *Mvyut.*
 siṃha-varman 男 [人名].
 siṃha-vikrama 男 [伝説上のある王の名; ある盗賊の名]; 師威 *Mvyut.*
 siṃha-vikrānta 形 獅子のように勇敢な.
 siṃha-vijṛmbhita 形 師子頻甲, 師子奮迅, 師子王奮迅 *Gaṇḍ-vy.*
 siṃha-viṣṭara, 王座(?).
 siṃha-vyāghrāmiṣi-Kṛ (°ra-ām°), 獅子および虎の餌

食とする.
 siṃha-sāva 男 獅子の仔.
 siṃha-śīśu 男 [同上].
 siṃha-śri 女 [人名].
 siṃha-saṃvāsa 形 与雌師子共行慾事, 有牝師子与同遊処 *Lank.*
 siṃha-saudāsa 形 師子, 師子奴 *Lank.*; (音写) 師子蘇陀娑 *Lank.*
 siṃha-svara-vegā 形 女 師子声 *Sutr.*; 如獅子音, 如獅子音 *Mvyut.*
 siṃha-svāmin 男 (*Siṃharāja* を記念して建てられた神殿の名).
 siṃha-hanu 形 獅腮, 頰車如獅子, 頰車如獅子相 *Mvyut.*; 頰如獅子 *Lal-v.*; 頰如獅子, 頰事方如獅子 *Bodh-bh.*
 siṃhahanutā 女 方頰者相, 頰車方相, 頰如獅子 *Bodh-bh.*
 siṃhākṣa 男 [ある王の名].
 siṃhājāneya (°ha-āj°) 形 良獅子 *Mvyut.*
 siṃhāṇaka 男 または 中 (=siṃghāṇaka); 漢 漢 *Śikṣ.*; 鼻涕 *Divy.*, *Śikṣ.*
 siṃhāya, 名 動 自 獅子のように振舞う, 獅子の役を演ずる.
 siṃhāvalokana 中 獅子の振り向きながらの一瞥. ~ena 圓 または -nyāyena, 獅子の振り向きながらの一瞥の道理・方式に基づいて, (すなわち議論を進めながら主題を回顧的に取り扱うこと).
 siṃhāvalokanatā 女 師子視観, 師子王周廻顧視 *Lank.*
 siṃhāvalokita 中 =siṃhāvalokana.
 siṃhāsana (°ha-ās°) 中 獅子座, 王座; 師子座 *Saddh-p.*, *Suv-pr.*; 師子之座 *Gaṇḍ-vy.*; 獅子座 *Mvyut.*
 siṃhāsana-stha 形 在師子座 *Saddh-p.*
 siṃhikā 女 [*Dakṣa* の娘で *Rahu* の母の名].
 siṃhikā-tanaya 男 *Siṃhikā* の息子, *Rahu* の母系.
 siṃhikā-sūnu 男 [同上].
 siṃhi 女 雌獅子; *Uttaravedi* (の呼称) (中 -s; TS.); [種々の植物の名]; 牝師子, 雌師子 *Lank.*
 siṃhi-BHū, 獅子に変えられる, 獅子となる.
 sikatā 女 砂礫, 砂利, 砂 (一般に種); 圓 砂粒; 漢 沙 *Lank.*, *Ratna-ut.*
 sikatātva 中 砂利の本性; 砂である状態.
 sikatāvat 形 砂を含む, 砂の多い.
 sikata-sindhu, [ある地方の名].
 sikatila 形 砂礫, 砂利の多い.
 sikta 過受分 → Sic.
 siktatā 女 灌水された状態.
 sikti 女 流出 (咲).
 siktha 男 中 [Sic から] 飯; まるめられた飯; 蜜臘.
 sikthaka 中 黄蠟 *Mvyut.*
 sikthā 女 [同上]; 漢 飯, 飯食 *Vin.*
 siṅkalā 女 鎖 *Mañj-m.*
 siṅghāṇaka 中 漢 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Prāt-m.*, *Śikṣ.*; 涎, 汚漢 *Śikṣ.*
 Sic 1., VI. 中, 自 siṅcati(-te), (中) のなかまたはうえ

に注ぎ出す, 注ぐ, 流出する, 放出する; (因) のなかに注入するまたはしみこませる; (圓) を以ってふりかける, 湿らす, ぬらすまたは灌水する; 浸す; (因) (金属: 圓) から(圓)を鑄造する; 澆 *Prāt-m.*; 灑 *Divy., Lal-v., Saddh-p.*; 灌頂 *Lank.* 過受分 *sikta*, 灌 *Saddh-p.*; 灑 *Ast-pr., Lal-v.* 使役 *secayati*, (樹木等)に灌水する; 洒 (水), 灑, 掃灑 *Śikṣ.* 過受分 *secita.*

abhi-(ṣic)-, ふりかける, ぬらす; (水を以って)ふりかける, 神聖にする, (圓として; 因ときとして圓および 圓に,) 就任させる, 任命する; (因) の支配者として任命する. 圓, 圓 水浴する (圓動); 身を浄める. 使役 一般に 圓 ふりかける, ぬらす; (に, 因ときとして圓圓), (因) の支配者として就任させる, 任命する; 圓 (土 *ātmanam*) 就任する.

sam-abhi-(ṣic)-, ぬらす; 神聖にする, 清める, はらい清める.

ava-, (圓) の上に注ぎかける, 注ぎ出す, 流す; ふりかける. 使役 ふりかける, 注ぐ; 血を出す, 放血する.

ā-, 注ぎ入れる, 満たす (因); (圓; 因) のなかへ(河が)流れ入る; 注ぎ出すまたは注ぎ入れる (S.); ぬらす, 湿らす (圓). 使役 (水を)注入する, 加える, つぎ足す; (因) のなかへ注ぎ入れさせる; 盥 *Śikṣ.*

abhi-pary-ā, (因) のなかへ注ぐ.

sam-ā, 一緒に注ぐ.

ut-, 充たす, あふれるほど充たす (因). 圓 あふれる, 煮こぼれる; ふくらむ, 尊大になる. 過受分 *utsikta*, あふれている, 過剰の; (圓, 一°) によって得意にさせられた, 酔わされたまたは傲慢になった, 高慢な; 乱れた (心).

pari-(ṣic)-, 普治 *Saddh-p.*

prot-(pra-ut)-, 過受分 極めて尊大な.

upa-, (圓 因) を以ってふりかけるまたはぬらす.

ni-(ṣic)-, 下へ注ぐ, (因) のなかへまたは上へ注ぐ, の上にまき散らすまたはしたたらす; 水をふりかける, ぬらす. 過受分 *niṣikta*, 注がれた, そそぎ出された, 流された; 灌漑された. 使役 灌漑させる, ぬらす.

niṣ-(ṣic)-, 注ぎ尽すまたは注ぎ去る.

parā-, 因 注ぎ去る; 洗い流す; 棄て去る, 除去する. 過受分 *parāsikta*, 廃棄された, 無害なものとなされた (叙詩).

pari-(ṣic)-, (ある一つの容器から他のもののなかへ)注ぎ移す (因); 注ぎまわる, ふりかける (因, 圓).

過受分 *pariṣikta*. 使役 ふりかける, ぬらす.

pra-, 注ぎ出す; ふりかける, 灌水する; (容器を)満たす. 過受分 注ぎ出された. 使役 (因) のなかに注入する.

sam-, 一緒に注ぐ; ふりかける.

sic 2. 因 (因) 衣服の縁: 圓 両端=地平線; 圓 圓 (軍)の両翼.

sic 3. 三過 の接尾辞 s.

sicaya 圓 衣地, 衣服.

siñjita 過受分 → siñjita.

sita 1. 過受分 [Si 1. から] 縛られた.

sita 2. 因 [asita (黒い) の a- を; 否定辞と誤解して] 白い; 青白い; 輝やく, 明るい (月のみちる期間中の日または暦月); 素 *Buddh-c.* 圓 (太陰月の) 明るい半月; 白 *Mvyut.* → a~.

sita 3. 過受分 *śita* の 不確.

sita-puṣpika 因 汗斑 *Mvyut.*

sita-kamala 因 白蓮.

sita-kara 圓 (白い光線の), 月.

sita-cchatrita 名動 過受分 白いかさに変えられたまたはそれをあらわす.

sitatara 比較 極めて白い.

sita-tejas 因 白光を有する.

sita-didhiti 圓 月.

sita-dvija 圓 鷲鳥.

sita-pakṣa 圓 (暦月の) 明るい半月.

sita-puṇḍarika 因 白蓮.

sita-maṇi 圓 水晶.

sita-manas 因 清い心を有する.

sitamaya 因 水晶から作られた.

sita-ruci 因 輝やく色を有する, 白い. 圓 月.

sita-varman 圓 [ある大臣の名].

sita-sapti 圓 (白馬を有する), [*Arjuna* の称].

sita-hūṇa 圓 圓 (白色のフン族), 白匈奴 (*Hephthalites*).

sitā 因 砂糖.

sitāṃsu 圓 (輝やく光線を有する), 月.

sitātapatra (°ta-āt°) 因 白いかさ (王位の象徴).

sitātapa-vāraṇa 因 [同上].

sitānana (°ta-ān°) 圓 [ある *Śiva* 神の従者の名].

sitābhra 圓 白雲; しょうのう.

sitāmbara 因 白衣を着ている.

sitāsita 因 白と黒の, 黒白の.

sitāhvaya 圓 金星.

sitiman 圓 白さ.

siti-vāsas 圓 [*Balarāma* の称 (siti- の異読)].

siti-Kṛ, 白くするまたは輝やかせる.

sitetara (°ta-it°) 因 (白の反対), 黒い, 暗黒の, 青い.

sitetara-saroja 因 青い蓮華.

sitotpala (°ta-ut°) 因 白い蓮華.

sitopalā (°ta-up°) 因 砂糖.

siddha 過受分 [Sidh から] (的に) 的中した; 成就された, 遂行・達成された, 生じさせられた, 果された, 実現された, 成功した; 準備した (金); 用意された, したくのできた; 煮られた, 料理された (食物); 獲得された, 得られた; 特有の; 不変の; いやされた (人); 確立された; 固定された, 実証された, 証明された; (一°) においてよく知られている; 魔力を有する (事物); (ある人に) 服従するまたは奉仕する用意のある (精霊, 呪文); (圓) に熟達した, 習熟した; 完成した; 超自然的な力, 神通力を有する, 自然の法則から解放された; 成 *Abh-vy., Lank., Madhy-bh., Madhy-v., Madhy-vibh., Samkhy-k.*; 先成, 成己 *Madhy-v.*; 成立, 得成 *Samkhy-k.*; 成就 *Mvyut.*; *Madhy-bh., Sūtr.*; 得成, 極成, 自成; 所立, 所顯; 応知; 義得成, 理得成立 *Abh-vy.*; 験, 神験 *Bodh-bh.* 圓 先見者, 予言者,

魔術者, 魔法使い; 聖者, *Siddha* (*Kapila, Vyasa* 等のような神人族, 神通力を有し, とくに空を飛行する超自然的な力を有する者); = *Jina*. (ジャイナ教徒にとって); [人名]. ㊦ 魔力または神通力.

siddha-kārya ㊦ 目的を達した.

siddha-kṣetra ㊦ *Siddha* 族(の住む)地方, 楽土; [ある神聖な地域の名].

siddha-tāpasa ㊦ (因 -i) 超自然的な(知識と力をそなえた)苦行者, 修業者.

siddhatva ㊦ 正確; 確立, 表明, 証明; 完成.

siddha-dhāman ㊦ 楽土, 至福の人が死後おもむく世界.

siddha-parvata ㊦ 楽土の山.

siddha-bhūmi ㊦ 仙境, 魔法の国.

siddha-mantra ㊦ 呪文, 魔法の呪文.

siddha-yoga ㊦ 魔術の手段または効力.

siddha-yogini ㊦ 魔女, 女魔術師, 妖精.

siddha-ratna ㊦ 魔法の宝を有する.

siddha-rasa ㊦ 水銀.

siddha-rasāyana ㊦ 不老長寿の薬を有する.

siddha-rāja ㊦ [ある王の名].

siddha-lakṣa ㊦ 目標に命中した(矢).

siddhavat ㊦ 確定されたまたは証明されたものとして. ~*Kṛ*, 確定または証明されたものとみなす.

siddha-varti ㊦ 魔法の灯心.

siddha-vāsa ㊦ 至福の人の死後の楽土, [ある地方の名].

siddha-sambandha ㊦ その親族が世に知られている.

siddha-sarit ㊦ (有名な河) *Gangā* 河.

siddha-hetuka ㊦ 成就因 *Nyāy-pr.*

siddhāṅganā ㊦ 女性の *Siddha*.

siddhāñjana ㊦ 魔法の塗油.

siddhādeśa (°*dha-ād*°) ㊦ 予言者の予言(彼の予言は果たされる), 予言する人.

siddhānta ㊦ 確立された結論, 実証された真理, 確定した説; (反対論の排斥に続く) 真の(論理上の)結論; 天文学上の著作; 仏教徒 および ジャイナ教徒間の著作の一部類; ㊦ 実義本 *Sāṃkhy-k.*; 道理, 宗印; 成究竟; 各言其道之道 *Mvyut.*; 如来立…法 *Lank.*; ㊦ 悉檀 *Lank.*; 悉檀 *Abh-vy.*

siddhānta-kaumudī ㊦ 確定した結論の月光 [*Bhaṭṭoji* 作の文典の標題].

siddhānta-dharmāgama (°*ma-āg*°) ㊦ 規範的な法規.

siddhānta-naya ㊦ ㊦ 宗通, 宗趣法相, 建立正法相 *Lank.*

siddhāntanaya-deśanā ㊦ ㊦ 宗通及説通 *Lank.*

siddhāntanaya-lakṣaṇa ㊦ ㊦ 宗通相, 宗趣之相, 建立修行正法之相 *Lank.*

siddhānta-pratyavasthāna-naya ㊦ 如実法, 自宗通, 建立如実法相 *Lank.*

siddhāntaya, ㊦ 明らかにする, 確立する. ㊦ 過受分

siddhāntita, 真理として確立された, 論理的に実証された.

siddhārtha ㊦ 目的を達した; 有効な, 効験のある(まれ). ㊦ 白芥子(種子); [人名, とりわけ仏陀の名];

㊦ 義成, 一切義成 *Mvyut.*; 一切利成 *Lal-v.*; ㊦ 悉達他, 悉達多 *Lank.*; 悉達 *Mvyut.*

siddhārthaka ㊦ (因) 白芥子. ㊦ [二人の役人の名].

siddhārtha-buddhi ㊦ 成利慧, 成義意 *Raṣṭr.*

siddhārtha-mati ㊦ ㊦ 成就義, 吉義意 *Lal-v.*

siddhārtha-mānin ㊦ 目的を達したと考える.

siddhāśrama (°*dha-ās*°) ㊦ ㊦ 至福の人のいおり, [ある特殊の隠者のいおりの名].

siddhi 1. [Sidh 1. + ti] 廃棄, 除去.

siddhi 2. [Sidh 2.] ㊦ (因) (標的に) 命中すること; 完成, 遂行, 履行, 完全なる達成, 成功, (因, 因; 普通の意味); (一°) によって…を負かすこと, (病気を) 治療すること; 実施; 支払い, (未回収金の) 取り立て; 目的の達成, 幸運(普通の意味); (神通力の獲得を必然的に伴う人格の) 完成(因); 魔力(しばしば 一° 魔術的物件とともに); 効験, 効用, 効果, 巧妙, 熟達; 結果として生ずるもの, 確立, 実証; 芸術作品(まれ); (ある女神, *Durgā* 女神として擬人化される) 成功; [*Danu* の女友達の名]; ㊦ 成 *Abh-vy., Lank., Nyāy-pr., Sāṃkhy-k.*; 立 *Nyāy-pr.*; 成立 *Sāṃkhy-k.*; 成就 *Mvyut., Sāṃkhy-k., Sūtr.*; 円成 *Śikṣ.*; 円満 *Lal-v.*; 成満, 能成, 究竟 *Madhy-vibh.*; 自成就 *Sūtr.*

siddhika ㊦ 一° = **siddhi**, 魔術の力.

siddhi-kara (因 -i) 成功または幸運を生ずる.

siddhi-kari ㊦ [ある魔女の名].

siddhi-kāraka ㊦ (ある人) (因) をしてその目的を達成させる; 結果を生じさせる.

siddhi-kāraṇa ㊦ ㊦ 成(業)義 *Madhy-v.*

siddhi-kārin ㊦ (何かあること) (因) を成就する.

siddhi-kṣetra ㊦ 成功の領域, 首尾よく達成された目的.

siddhi-jñāna ㊦ 確実な知識.

siddhi-da ㊦ 成功または幸福を与える.

siddhi-darsin ㊦ (未来の) 成功を見る, 未来を知る.

siddhi-pūrvamāṅgama-māṅgalatva ㊦ ㊦ 初得吉祥一切事成 *Sūtr.*

siddhi-prāya ㊦ ほとんど完成した.

siddhimat ㊦ 成功した; 完全な(人間); 魔力を有する. ㊦ 完全な人.

siddhi-mārga ㊦ 仙境への路.

siddhi-yātrika ㊦ 魔術(を学ぶ目的)のためにさまざま. ㊦ 金持の女と結婚して富を得ようとするもの.

siddhi-yoga ㊦ 魔力の行使.

siddhi-varti ㊦ 魔法の灯芯.

siddhiśvara (°*dhi-iś*°) ㊦ 魔力の主, [*Śiva* 神の称].

㊦ *Śiva* 神に捧げられた地方の名.

siddhottamā (°*dha-ut*°) ㊦ ㊦ 勝成母 *Mvyut.*

siddhoḍaka (°*dha-ud*°) ㊦ [ある *Tirtha* の名].

siddhopanita (°*dha-up*°) ㊦ ㊦ 指示成就安名, 以成就指示或安名 *Mvyut.*

Sidh 1., 1. ㊦ **sedhati**, おどす, 追い払う(因). ㊦ 過受分

siddha. ㊦ **apa-**, 追い払う, 追い出す(因, 因); (因; 因) を防

ぐ、避ける。

abhi-, 過受分 abhiṣiddha, (ある人)の方へ追いやられた(家畜)(Br.).

ā-, 過受分 āsiddha, 逮捕された。使役 他 āsedhayati, 逮捕させる; 結びつける。

vy-ā-, 防ぐ, 防衛する。過受分 禁じられた。

ni-(ṣidh)-, 追い払う(因); (因)を防ぐ, 妨げる, 抑制する; 禁止する, 反対する; 凌ぐ。過受分 ni-ṣiddha, 防がれた, 防衛された, 妨害された; (不定)を禁止された, 許されない。過能分 niṣiddhavat, 防衛した, 守った。使役 他 niṣedhayati, 防ぐ, 抑制する; 許さない, 禁ずる; 反駁する。

prati-, 他 pratiṣedhati, 追い払う(RV.); 圍(因)から防ぐ, 防衛する, 抑制する; 許さない, 禁ずる; 反駁する。過受分 pratiṣiddha, 妨げられた; 断られた; 許されない, 禁じられた; 反駁された; 否定辞をそなえている。過能分 pratiṣiddhavat, 禁じた。

使役 防ぐ, 防衛する, 寄せつけない, 斥ける; 否定する, 反駁する; 破 Vijñ-t.; 遮止 Bodh-bh.; 毀, 沮壞 Ast-pr.; 隠蔽 Śikṣ.

vi-prati-, 過受分 禁じられた; 矛盾する, 衝突する。

Sidh 2., IV. 他(因) sidhyati, 因 圍: 完成するまたは履行される, 成功する(普通の意味); 圍(因)に命中する; 有効である, 容認される; 癒される(まれ); 結果として生ずる, 帰結として起こる, 証明または実証される; (ある人; 圍)に屈する; 目的を達する, 成果をあげる; 立 Nyay-pr.; 作 Abh-vy.; 成 Abh-vy., Divy., Lal-v., Lank., Śikṣ.; 成就 Bodh-c., Śikṣ.; 得成 Abh-vy.; 有驗 Bodh-bh. 過受分 siddha.

pra-, (ときとして 因), 生ずるまたは結果として起る, 成功する; 結果になる, 説明される。過受分 prasi-ddha, 整理された, 飾られた(髪; 圍); (よく)知られた(因, 圍)。

sam-, 完成・成就する, 成功する; 最高の目標に達する, 幸福になる, 至福に達する。過受分 samsi-ddha, 成就された, 満たされた; 到達された; 用意された(食物等), 作られた; 回復された, 癒された; (因)のために準備された; かくたく決心した; (因)に熟達した; 最高目標を達成した, 完成された, 幸福な, 至福を得た。

sidhma 形 1. 成功に富む(RV. 用例一回のみ)。2. 癩病の(因, まれ)。男 因 癩病(の一種)(圍); 闕, 汗斑 Mvyut.

sidhman 男 因 癩病(の一種)。

sidhmala 形 癩病の。

sidhra 形 (RV.) 目標に急ぐ; 成功に富む。

sina 因 (RV.) 資糧, 貯え。

sinivāli 因 [多産と安産の女神の名]; 新月の日(の女神)。

sindu-vāra 男 小木(Vitex Negundo)。因 漿果。

sindūra 因 鉛丹; 闕 黄丹 Mvyut.

sindūra-tilaka 男 鉛丹を以って(作られた)額のマーク。

sindūrīta 過受分 鉛丹ににせられた。

sindhu 男 因 流れ, 川, 河川; Indus 河; 闕 天竺

玄応; 音写 信度, 辛頭(河), 驗河, 印度, 身毒, 賢豆
玄応; 男 大水(因); 海洋; Indus 河の流域, Sindh 地方, Sindh 地方の人民(圍; 圍); [人名](圍)。

sindhu-gaṅja 男 [ある Sindh 地方の人によって建てられた宝庫の名]。

sindhu-ja 形 Sindh 地方で育った(馬)。因 岩塩。

sindhu-datta 男 [人名]。

sindhu-dvipa 男 [人名]。

sindhu-mada 男 Indus 河(また南方にある河)。

sindhu-nātha 男 (河の主), 海洋。

sindhu-piba 男 [Agastya 仙の称]。

sindhura 男 象。

sindhu-rāja 男 諸河川の王, 大海; Sindh 地方の王。

sindhu-vāritā 因 [ある種類の木]; 音写 先陀婆, 信度嚙囉 Gand-vy.

sindhu-ṣeṇa 男 [Sindh 地方のある王の名]。

sindhu-saṅgama 男 海との合流, 河口。

sip, 人称語尾 si.

siprā 因 [Ujjayini の側を流れるある河の名]。

siphinnā 因 [ある村の名]。

sima 形 一切の, 各々の(RV.)。

sima-simāya, 名動 因 泡立つ, パチパチと鳴る。

simā 1. 因 みずから(RV. 用例一回のみ)。

simā 2. 因 圍 Mahanāmi 詩節から成る Sāman (Br.)。

simi-simāya, 名動 因 刺す, 刺激する。

simba 男 [人名]。

simbhuka 男 [ある神話的な鳥の名]。

sirā 因 [Sri] 流れ(RV.); (体内の)血管, 静脈(圍); 脈 Mvyut., 梵千., 梵維。

sirā-jāla 因 静脈の網。

sirāla 形 多くのまたは大きな静脈をもつ。

siri 因 因 =śri.

siri 因 =śri; 闕 福德 Sam-r.

sili 闕 春鶯 Mvyut.

sillana 男 [人名]。

silla-rāja 男 [人名]。

Siv, IV. 他 sivyati (因, 因), 縫う, 縫い合わせる;

補 Divy. 過受分 syūta, 縫った, 縫いつけた。

vy-ati-, 縫い合わせる。

anu-, 過受分 anusyūta, 縫い合わされた; (一)と織りませられた。

ā-, 過受分 āsyūta, (因)と縫い合わされた。

ni-, 過受分 niṣyūta 縫いこまれた, 刺繍された。

ṣiṣādhayīṣā (希求 使役) 因 [Sādh] 証明しようとする欲望。

ṣiṣādhayīṣu 希求 形 なし遂げたいまたは完成したいと思う; 証明したいと思う。

ṣiṣāsu 希求 形 (因) 得たいと切望する[Sā]; いつでも喜んで与える。

ṣiṣnāsu 希求 形 [Snā] 沐浴したいと欲する。

ṣiṣṇu 形 [San] 喜んで与える, 気前のよい(RV. 用例一回のみ)。

ṣiṣvidāna 三過分 → Svid.

sisādhayīṣu 希求 形 =ṣiṣādhayīṣu.

sisikṣā 因 [Sic] ふりかけようとまたは濡らそうと欲する。
 sisorṣu 因 急ぎたいと思う。
 sisṛkṣā 因 [Sṛj] (因, 一) 創造しようとする欲望。
 sisṛkṣu 因 放出または射出したいと思う(まれ); 創造または産出したいと願う。
 sisnāṣu 希求 希求 = sisnāsu.
 [Si, 直線を引く, おそらく sitā を説明するために案出された語根.]
 sikṣ, 希求 Sah 1. [<si-s(a)h-s].
 sikṣat, 希求 因 → Sah.
 sitā 因 畝溝; [Sitā (Indra または Rama の妻として人格化される; また Lakṣmi と同一視される)].
 sitā-karaṇa 得奪戲, 奪得物与所樂物 Mvyut.
 sitā-jāni 男 [Rama の 名稱].
 sitā-dravya 因 農機具。
 sitā-yajña 男 畝溝への供儀. 因 畝溝へ供物をささげる。
 siti-bhāva 因 (=sītibhāva) 得清凉 Lal-v.
 sit-kāra 男 =sītkāra.
 sida, Sad の 因 因。
 sidhu 男 糖蜜から蒸溜された酒, 糖酒; 譬喩 = ネクター (神酒・甘露)。
 sim 附帶 業 因 (RV.; すべての性・数に用いられて) かれを, かの女を, それを, かれ (かの女, それ) を (通常非常に弱められた意味で): (因 を伴なって) いかなるもの…であれ。
 siman 男 (髪の毛の) 分け目 (因, 業: 因, 因 境界, 限界 (また 譬喩); 村落の境界; 上限, 絶頂; 界分 Mvyut.; 因 写 [数の名] 西麻麻 Mvyut.
 simanta 男 (毛髪) の分け目 (因, 業); 毛髪を分ける儀式 (=simantonnayana; 業)。
 simantaka 因 (女 -ikā) 毛髪に分け目をつける (懐妊のしるしとして)。
 simanta-dṛṣvan 因 限界を見了った, …に十分に熟達した。
 simanta-maṇi 男 頭頂に着けられた宝石 (=cūḍāmaṇi)。
 simantaya, 名動 他 分割線を引く = 直線的に横切る。過受分 simantita。
 simantavat 因 分けられた, 直線的に横切られた。
 simantin 因 分けられた, (髪に) 分け目をもつ (懐妊した女性)。
 simantini 因 婦人。
 simantonnayana (°ta-un°) 因 (懐妊した女性の) 毛髪を分けること。
 sima-liṅga 因 境界標。
 simā 因 (毛髪) の分け目 (→susima); 境界; 村落の境界; 界 Abh-vy., 梵千.; 疆 梵千.; 界分 Mvyut.; 疆界 Ast-pr.; 別住 Abh-vy. → a~。
 simā-kṛṣāṇa 因 境界線上を耕す。
 simā-giri 男 境界となっている山。
 simādhipa (°mā-adh°) 男 国境を警備する者。
 simānta (°mā-an°) 男 境界線, 辺境; 境界 (譬喩); 村落の境界。
 simānta-lekhā 因 極限の境界線。

simāntara (°mā-an°) 因 村落の境界。
 simāpahārin (°mā-ap°) 因 境界標を取り去る。
 simā-pāla 男 境界を警備する者。
 simā-bandha 男 断界 Mvyut.; 結界 Śikṣ., Suv-pr.
 simā-liṅga 因 境界標。
 simā-vāda 男 境界に関する論争。
 simā-vinirṇaya 男 境界に関する争論の (法的な) 裁決。
 simā-vivāda = simāvāda.
 simā-vṛkṣa 男 境界の役割をしている樹木。
 simā-saṃdhi 因 境界の交差; 関 梵千。
 simā-setu 男 境界の役割を果たしている堰堤, 境界標。
 sira 因 (因), 男 (業) 犁。
 sira-dhvaja 男 [Janaka 王の 名稱].
 sira-pati 男 犁の主 (因)。
 sira-bhṛt 男 耕作者, 農夫。
 sirā 因 (RV.) 流れ (→sirā)。
 sirāyudha (°ra-āy°) 男 [Balarāma の 名稱].
 sirin 因 耕す. 男 農夫; [Balarāma の 名稱].
 sirotkaṣaṇa (°ra-ut°) 男 溝を掘ること, 耕作。
 Siv, → Siv.
 siva 縫 梵千。
 sivana 因 縫うこと, 縫合; 封 梵千.; 裁縫 Su-kh-vy. I.
 sivani 因 縫, 蔵相 Bodh-bh.
 sisa 因 鉛; 鉛 Mvyut., Saddh-p.
 sisaka 男, 因 鉛 (業)。
 sisara 男 [神話上のある犬の名].
 sihanuka 師子条 Sam-r.
 Su 1., 因 他 sunoti, sunute, (ときどき 因) 押し出す, (Soma 等を) しぼり出す (因, まれに 叙詩). 因 分 sunvāna, suvāna. 過受分 suta 圧された, しぼり出された。
 abhi-(su)-, 押し出す. 因 abhiṣūyate しぼり出される. 過受分 abhiṣuta (因)。
 ā-, 押し出す, しぼり出す (因); (バター油を) 煮る, 調理する。
 pra-, 過受分 prasuta, (因) たえまなくしぼられた, たえまなくしぼった。
 Su 2., (=Sū 1.) sauti, suhi および 過受分 suta, 駆り立てられた, そそのかされた (ŚB.).
 Su 3., (=Sū 2.) prasavati (まれ), prasauti (まれ). 過受分 prasuta (息子) および suṣuti として。
 su 4., (因 ではまた sū) 副 よく, うまく, 実に, 正しく, 非常に, 十分に (詩節の最初には決して独立に用いられない; 業: ではまれに独立の 副 として用いられる; 非常にしばしば 因 または 因 と合して (一)); また 業 では 因 と合して (一) 用いられる); 善 Bodh-bh., Mvyut., Sūtr.; 妙 Abh-k.; 可 Bodh-bh.; 極善 Bodh-bh., Mvyut.; 最極 Bodh-bh.
 suka 男 (=śuka); 鷄 梵千. Lal-v.
 su-kaṅṭha 因 (因 -i) 美声の。
 sukaṅṭhi 因 [ある Apsaras の名].
 su-kathā 因 美しい話。
 su-kathika 因 善説法 Sutr.

su-kathita 善説 *Sūtr.*
 sukandaka 男 種 [ある民族の名].
 su-kanyā 女 [*Śaryata* および *Cyavana* 仙の妻の娘の名] (Br., 聖).
 su-kapola 形 美しい頬をもつ.
 su-kamala 中 美しい白蓮華.
 su-kara 形 (圓, 不定) するのが容易である; 易 *Daś-bh.*
 sukaratva 中 容易さ, 実行可能なこと; 易作 *Sūtr.*
 sukara-saṁdhi 形 たやすく結合された.
 su-karṇa 男 美しい耳; [ある *Rākṣasa* の名].
 su-karman 形 熟練した (因); 高潔な (聖). 男 技術家 (因).
 su-kalatra 中 良妻.
 su-kalita 形 よく用意された, 完全な.
 su-kalila 形 [同上].
 su-kalya 形 非常に健全な.
 su-kavi 男 立派な詩人.
 sukavitā 女 詩人の才能.
 su-kānta 形 非常に端麗な (青年).
 su-kālin 男 種 [一群の祖霊].
 su-kiṁśuka 形 *Kiṁśuka* 花で飾られた (*Sūrya* の車; RV. 用例一回のみ).
 su-kīrti 女 勝れた賞讃 (RV.). 形 大いに賞讃された (RV). 男 [RV. X, 131 およびその讃歌の作者の名].
 su-kucā 形 美しい胸をもつ.
 su-kumāra 形 (因 -i) 非常に柔軟なまたは優美な. 男 優美な青年; 軟 *Mvyut.*, *Śikṣ.*; 柔 *Buddh-c.*, *Śikṣ.*; 軟弱 *Bodh-bh.*; 婉樂 *Divy.*
 sukumāra-gātra 形 身色嫩軟, 容顔奇妙常若少年 *Mvyut.*
 sukumāratara 形 太極軟 (または濡) *Sāṁkhy-k.*
 sukumāratā 女 柔軟なこと等.
 sukumāratva 中 [同上].
 sukumāra-vana 中 [ある森林の名].
 sukumārāṅgi 形 非常に繊細な四肢をもつ.
 su-kula 中 高貴な家柄. 形 高貴な家柄出身の.
 sukula-ja 形 [同上].
 sukula-janman 形 [同上].
 sukulatā 形 高貴な生まれ.
 sukulina 形 =sukula.
 su-kuśala 形 極善. *Sūtr.*
 sukūrkura 男 [子供に危害をおよぼす悪鬼の名].
 su-kṛt 形 善をなす, 慈しみ深い; 正義の, 信仰深い. 男 種 (死去した) 篤信者たち; (他世界で徳行の果報を享受する) 祖霊たち (因).
 su-kṛta 1. 中 善行, 功德ある行為, 正義, 徳行; 道徳的功德 (因, 聖); 慈善, 慈悲, 厚情, 支援 (聖); 徳行の世界, 天界 (因 まれ). 形 よくなされた (RV. 用例一回のみ); 善事 *Rāṣṭr.*; 善修 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*; 善修習 *Daś-bh.*; 善修作 *Śikṣ.*
 su-kṛta 2. 過受分 よくなされた・作られたまたは実行された; よく形作られた, 飾られた, すばらしい; +karman, 中 よい仕事; +loka, 男 =sukṛtasya loka 徳行の世界 (因).

sukṛta-karma-kārita 形 善修作 *Śikṣ.*
 sukṛtakarma-kārin 形 善作, 作善業, 善作業 *Mvyut.*; 修諸善業 *Śikṣ.*
 sukṛta-karman 中 善行, 功德ある行為. 形 善行をなす, 有徳の.
 sukṛta-kṛt 形 =sukṛtakarman.
 sukṛta-bhāj 形 功德のある.
 sukṛtātman (°ta-āt°) 形 よく修練された精神をもつ, 清浄な.
 sukṛtārtha 形 目的を完全に成しとげた.
 su-kṛti 女 善行. 形 正義の, 有徳の.
 su-kṛtin 形 善行を行なう, 有徳の; 富裕な, 幸運な; 教養ある, 賢い.
 sukṛtocchraya (°ta-uc°) 形 崇高な.
 sukṛtya 中 なされるべき善行, 義務; 善行.
 su-kṛtyā 女 (RV.) 熟練; 正しい行動, 徳行.
 su-kṛṣṭa 過受分 [°Kṛṣ] よく耕された.
 su-kṛṣṇa 形 非常に黒い.
 su-keta 形 慈しみ深い (因). 男 [ある *Āditya* 神の名] (因).
 su-ketana 男 [*Sunttha* の息子の名].
 su-ketu 形 美しく輝く (曙; RV. 用例一回のみ). 男 [*Yakṣa* のある王子および種々な王の名] (聖).
 suketu-sutā 女 *Suketu* の娘, *Tādaka*.
 su-keṭṛ 男 ある擬人化された存在 (太陽と同一視される).
 su-keśa 形 (因 -i) 美しい髪をもった. 男 [ある *Rākṣasa* の名].
 sukeśānta 形 美しい巻毛をもつ.
 su-komala 形 非常に柔いまたはきゃしゃな.
 su-kratu 形 賢明な (神々; RV.).
 su-krudha 形 非常に怒った.
 su-krūra 形 非常に残酷な, 恐ろしい.
 su-kleśa 形 非常に苦しませる.
 su-kṣatra 形 (因) よく支配する (神々); 力を与える (富).
 su-kṣatriya 男 よい *Kṣatriya*.
 su-kṣiti 女 (因) よい住居, 安全, 避難.
 su-kṣetra 中 立派な田地, よい土壌; 好田 *Mvyut.*; 福田 *Śikṣ.* 形 すぐれた田地または住居を供給する, すぐれた田畑をもつ.
 su-kṣetriyā 女 すぐれた田畑を欲すること (RV. 用例一回のみ).
 su-kṣobhya 未受分 容易に動揺させられる.
 sukha 形 軽快に走る (RV. で車についてのみ用いる); 快い, 楽しい, 温厚な (因 ではまれ; 聖 ではきわめて普通); 聖: (一°, 耳などに) 快いまたは気分よのよい, (一°) の理由で快い等; (動名詞の 因) しやすしい. 男 (+daṇḍa) 軍隊の陣立て (の一種) (聖). 中 安楽, 慰安, 快楽, 享楽, 幸福, 歓喜 (聖; 因 ではまれ); 樂 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Nyāy-pr.*, *Sūtr.*, *Vaiś-s.*; 樂 *Mvyut.*, *Saddh-p.*; 快 *Mvyut.*; 安楽 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Rāṣṭr.*, *Vijñ-t.*, *Saddh-p.*; 安樂 *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; 悦樂, 慶快 *Aṣṭ-pr.*; 喜樂 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 怡樂 *Bodh-bh.*; 快楽, 喜心 *Sukh-vy*

I.; 樂易 *Sūtr.*; 樂受 *Mvyut., Sūtr.*; 安穩快樂 *Bodh-bh.*; 快樂安穩, 快樂喜安穩 *Sukh-vy. I.* ~m, ~ena 圓, °一, 幸福に, 安樂に, 快適に, 容易に, 苦もなく(圓; 因ではまれ); 安詳 *Ast-pr.: samyak~ena* 易 *Mvyut. 245.* ~m (不定) しやすい. ~m—na punah, …よりもっと容易に一. kadali~m, Kadali 樹のように容易に. mahatā~ena, 大いに楽しく.

sukha-kara 形 (因-i) 喜びを与える; (圓) によって実行または遂行されやすい; 適意, 歡喜, 快樂, 所愛樂 *Ast-pr.*

sukha-kāma 男 樂, 安樂, 求樂 *Bodh-bh.*

sukha-kārin 形 喜びを与える.

sukha-kārya 形 楽しみを目的としている.

sukha-kṛt 形 =sukhakārin.

sukha-gandha 形 芳香を放つ.

sukha-gama 形 通過しやすい(場所).

sukha-gamya 形 横切って行きやすい.

sukha-grāhya 形 把握または捕捉しやすい; 理解しやすい.

sukha-ghātya 形 殺しやすい.

sukha-citta 中 歡樂, 安樂, 安樂之心, 利樂之心 *Suv-pr.*

sukha-cchāyā 形 快適な木陰のある.

sukha-cchedya 形 破壊しやすい.

sukha-jāta 中 楽しいもの.

sukhatara 形 比較 より容易な. ~m 副 より容易に.

sukhatā 因 喜び, 幸福, 易しさ, 楽しさ.

sukha-traya 三 樂 *Sūtr.*

sukhatva 中 =sukhatā.

sukha-da 形 喜びを与える.

sukha-duḥkha 中 樂と苦.

sukhaduḥkhamaya 形 (因-i) 樂と苦とからなるまたは感ずる.

sukha-dhana 男 [ある商人の名].

sukha-para 形 快樂に専一な, 楽しみを探し求める.

sukha-pāramitā 因 樂波羅密 *Ratna-ut.*

sukha-peya 形 容易に飲まれる.

sukha-praṇāda 形 愉快に鳴り響く.

sukha-pratibandhitā 因 幸福に障害をなす行為.

sukha-pratyarthitā 因 [同上].

sukha-prada 形 =sukhada.

sukha-pravepa 形 震動しやすい.

sukha-praśna 男 幸福についての質問.

sukha-prasava 形 首尾よく出産する.

sukha-prasupta 形 穏やかに眠っている.

sukha-prāpya 形 獲得しやすい(少女).

sukha-prekṣya 形 見やすい.

sukha-plava 形 快適な沐浴を提供する(場所).

sukha-baddha 形 よく形成された, 優雅な.

sukha-bandhana 形 (世俗的な) 享樂にふけている (=束縛された).

sukha-bodha-rūpa 形 容易に理解される.

sukha-bhāgin 形 幸運にあずかる; 幸運な, 幸福な.

sukha-bhāj 形 [同上].

sukha-bhedya 形 容易に壊れる; 分離しやすい, 背反の傾向がある.

sukha-bhogya 形 享樂または処分しやすい(財産).

sukha-mada-maṭṭa 形 樂醉所醉, 樂著…醉, 樂之所昏醉 *Lank.*

sukhamaya 形 (因-i) 楽しみに満ちた.

sukha-mānin 形 (因) に喜びを見出す.

sukham-edhas 形 よく繁榮した.

sukhaya, 名動 他 …に喜びを与える, 元気づける, 楽しませる, 嬉しくさせる; 樂起 *Sūtr.: duḥkhitān sattvān~mānān* 有憂苦者令其快樂, 有憂苦者咸使快樂 *Gaṇḍ-vy. 221.* 過受分 **sukhita**, 楽しい, 嬉しい, 幸福な.

sukhayitavya 未受分 能安樂 *Ast-pr.*

sukha-yoga-nidrā 因 穏やかな深い眠り.

sukha-rasa 男 樂味 *Bodh-bh.*

sukha-rāja 男 [人名].

sukha-rūpa 中 快い外観をもつ.

sukhallikā 因 樂, 安樂 *Lal-v.;* 耽著 *Bodh-bh., Mvyut.;* 至樂, 福衰 *Mvyut.:* ~anuyogam anuyuktaḥ 受樂而住 *Lal-v. 264.*

sukhavat 1. 副 安樂のように等.

sukhavat 2. 形 快樂をもつ等.

sukhavattā 因 [同上の種].

sukha-vartman 形 平易な道をもつ.

sukha-varman 男 [人名].

sukha-vahana 樂去 *Sūtr.*

sukha-vāsa 男 快適な住居. 形 喜んで滞在した.

sukha-viśeṣa 樂勝 *Sūtr.*

sukha-vihāra 男 樂住 *Abh-vy., Lank., Sūtr.;* 樂行, 住…樂 *Lank.;* 安樂住 *Abh-vy.*

sukhavihāra-parivarta 男 安行品, 安樂行品 *Saddh-p.*

sukha-vedaniya 形 順樂受 *Bodh-bh.*

sukha-śayā 因 [ある魔術師の名].

sukha-śayita 形 快適に横臥しているまたは眠っている.

sukha-śayyā 因 快い寝床.

sukha-śita 形 快適に涼しい.

sukha-śobhārtham 副 安樂と名声のために.

sukha-śrava 形 聞いて楽しい.

sukha-saṃyāna 中 快適な航海.

sukha-saṃyoga 男 至福への到達.

sukhasaṃyogākāra (°ga-āk°) 興樂行 *Sūtr.*

sukha-saṃvāsa 形 可友, 助得安 *Mvyut.;* 易可同処 *Sukh-vy. I.*

sukhasaṃvāhya 形 運びやすい.

sukha-saṃvitti 因 幸福の経験.

sukha-saṃvṛddha 形 幸福の中で成長した.

sukha-saṃvedanā 因 喜樂 *Sūtr.*

sukha-saṃveśa 形 =sukhasaṃprasupta.

sukha-saṃsupta 形 [同上].

sukha-saṃsevya 形 得やすい.

sukha-saṃstha 形 快適な環境にいる.

sukha-saṃsthita 形 =sukhasaṃstha.

sukha-saṃsparśa 形 触れて快い; 触樂 *Mv-*

yut.

sukhasaṃsparaśatva 田 楽触 *Sūtr.*
 sukhasaṃsparaśa-vihāratā 田 触於安楽 *Mvyut.* ;
 安楽行, 所行安 *Saddh-p.*
 sukha-saṅga 男 快樂への執著.
 sukha-saṃcāra 形 歩きまわるまたはしばしば通うの
 に楽しい, 引きつける.
 sukha-saṃjñā 田 「安楽」という認識; 楽想
Aṣṭ-pr., Madhy-v., Saddh-p.; 安楽想 *Madhy-v.*
 sukha-saṃjñin 形 楽想 *Ratna-ut.*
 sukha-samāja 男 幸福の横溢.
 sukha-saṃbandhi 形 幸福な.
 sukha-saṃbodhya 形 覚りやすい, 道理に合った.
 sukha-saṃmanasya 田 喜楽, 心無愁惱 *Bodh-bh.* ;
 最勝妙楽, 最極妙楽 *Guhy-s.*
 sukha-salila 田 快い (= 生ぬるい) 水.
 sukha-sādhana 田 幸福を得るための手段.
 sukha-sādhya 形 到達しやすい; 制御しやすい; 容
 易に遂げられたまたは得られた.
 sukha-supta 形 穏かに眠っている.
 sukha-suptikā-praśna 男 安眠したか否かを問うこ
 と.
 sukha-secaka 男 [ある悪鬼の名].
 sukha-sevya 形 近づきやすい.
 sukhasavyatva 田 [同上の 田].
 sukha-saumanasya-bahula 田 喜楽 *Sūtr.*
 sukha-stha 形 好ましい状況にある, 幸福な.
 sukha-sthita 形 安坐, 住安楽, 住于安隠 *Sa-
 ddh-p.*
 sukha-sparaśa 形 = sukhasaṃsparaśa; 安楽住
Vin.
 sukhasparaśa-vihāratā 田 安楽住 *Divy.*
 sukha-svāpa 男 安眠.
 sukha-hasta 形 柔かみのある手をもつ.
 sukha-hetu 男 楽因 *Sūtr.*
 sukhākṣaya 田 無尽楽 *Sūtr.*
 sukhāgata (°kha-āg°) 田 歓迎; 他自与聴受,
 来施者応受 *Lank.*
 sukhājāta (°kha-āj°) 男 [*Śiva* 神の称].
 sukhāduḥkhāsukha-saṃjñitva 田 楽非苦楽想,
 楽不楽不苦想 *Abh-vy.*
 sukhādhāna (°kha-ādh°) 田 与...楽想 *Ratna-ut.*
 sukhādhyāśaya 田 極楽大心 *Sūtr.*
 sukhānubhava 田 楽受 *Sūtr.*
 sukhānusāṃsa 田 寂楽, 楽果 *Ratna-ut.*
 sukhāpa (°kha-āpa) 形 到達しやすい.
 sukhāpanārtham (°kha-āp°) 田 安穩故 *Sa-
 ddh-p.*
 sukhāpayitu-kāma (°kha-āp°) 田 欲令安隠, 欲令
 具足安楽 *Suv-pr.*
 sukhāpramatta 田 楽不放逸 *Sūtr.*
 sukhāplava (°kha-āp°) 形 = sukhāplava.
 sukhābhibhava 田 大悲苦勝 *Sūtr.*
 sukhābhiyojya 形 攻撃しやすい.
 sukhābhyudayika 形 幸福をうみ出す.
 sukhāya, 名動 自 幸福を感じる, 快い.

sukhārādhyā (°kha-ār°) 形 和らげやすい, 獲得し
 やすい.
 sukhārohaṇa (°kha-ār°) 形 よじ登りやすい.
 sukhārtha 男 享楽の対象. 田 慰安のために, 安
 楽のために.
 sukhārthin 形 幸福または至福を望む.
 sukhārha 形 幸福に値する.
 sukhāloka (°kha-āl°) 形 見つけやすい; 目に美し
 い.
 sukhāvagama 男 容易な理解.
 sukhāvagāha 形 容易に没入し得る.
 sukhāvati 田 [仏教において阿弥陀仏の浄土の名];
 田 極楽 *Śikṣ., Sukh-vy. I., Sukh-vy. II.*; 楽有
Sukh-vy. II.; 安楽 *Sukh-vy. I.*; 安養国 *Sam-r.* ;
 安楽世界 *Gaṇḍ-vy., Sam-r.*; 極楽世界 *Mvyut.* ;
 阿弥陀仏国, 無量寿極楽界 *Lank.* : ~ tyāṃ praṇi-
 dhānaṃ kariṣyanti 願生安楽国土 *Sūtr. 12.*
 sukhāvati-kṣetra 田 安楽刹, 極楽界, 安楽国
Gaṇḍ-vy.
 sukhāvati-lokadhātu 男 = sukhāvati; 安養
 国, 安楽世界 *Saddh-p.*
 sukhāvati-vyūha 男 [経典名] (大本と小本とあり,
 大本は「無量寿経」, 小本は「阿弥陀経」).
 sukhāvabodha 男 容易な理解.
 sukhāvaha (°kha-āv°) 形 (一°) に喜びを与える;
 田 安隠, 饒益, 利楽, 楽具 *Śikṣ.*; 与楽 *Sūtr.* ;
 引楽, 能引楽 *Abh-vy.*
 sukhāvaha-tāpaka 田 与楽 *Sūtr.*
 sukhāviyogākāra (°ga-āk°) 田 不離行 *Sūtr.*
 sukhāviyogāśayatva (°ga-ās°) 田 不離心 *Sūtr.*
 sukhāvṛta (°kha-āv°) 形 (屬) の喜びで一ぱいの.
 sukhāśa (°kha-āśa) 男 (喜ばしい食物), 胡瓜.
 sukhāśaya (°kha-ās°) 男 安楽意楽 *Bodh-bh.*
 sukhāśā 1. (°kha-āśā) 田 快樂の期待.
 su-khāśā 2. (su-kha-āśā) 田 非常にかすかな (= 空)
 期待:
 sukhāśraya (°kha-ās°) 形 快樂を生む.
 sukhāśakta (°kha-ās°) 男 [*Śiva* 神の称].
 sukhāśana (°kha-ās°) 田 快適な座.
 sukhāśikā (°kha-ās°) 田 安楽.
 sukhāśina (°kha-ās°) 形 くつろいで坐っている.
 sukhāśukha 田 喜びと悲しみ, 楽と苦.
 sukhāśvāda (°kha-ās°) 男 快樂の味, 美味, 喜び.
 sukhita 田 受分 → sukhaya; 田 楽 *Abh-vy.,
 Sūtr., 梵雜.*; 喜 *Sūtr.*; 安楽 *Abh-vy., Bodh-
 bh., Gaṇḍ-vy.*; 快樂 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Suv-pr.* ;
 歡喜 *Raṣṭr., Saddh-p.*; 有楽 *Bodh-bh.*; 有喜 *Sū-
 tr.*; 安隠 *Śikṣ.*; 勝事 *Aṣṭ-pr.*; 得安楽 *Abh-vy.,
 Daś-bh.*; 獲安楽 *Daś-bh.*; 生歡喜 *Lal-v.*; 勝妙
 楽 *Aṣṭ-pr.*; 具足快樂 *Aṣṭ-pr.*; 甚大歡喜 *Saddh-
 p.*; 悉受快樂 *Suv-pr.*; 得適悦快樂 *Aṣṭ-pr.*
 sukhita-duḥkhita 形 有楽有苦, (若)苦(若)楽, 受
 苦受楽不苦不楽人 *Bodh-bh.*
 sukhitā 田 満足の感情, 幸福.
 sukhitva 田 [同上].
 sukhin 形 楽しい, 嬉しい, 幸福な; 繁栄する; 快適

な、愉快な；**漢** (獲) 快樂 *Śikṣ.*；無病安樂 *Di-vy.*
sukhi-svabhāva 男 幸福な気分。
sukhi-nala 男 [*Sucakṣus* の息子]。
sukhi-BHū, **漢** 安隱 *Saddh-p.*
sukhuma 形 = *sūkṣma* (**漢** 仏教)；**漢** 微妙 *Saddh-p.*, *Sam-r.*；微細 *Sam-r.*
sukhetara (°kha-it°) 中 **漢** 歓喜と苦惱。
sukhendriya (°kha-in°) 中 **漢** 樂根 *Mvyut.*
sukhendriya-kāya 男 **漢** 諸根安樂，身受諸樂 *Su-v-pr.*
sukhaidhita (°kha-edh°) 形 幸福な環境で成長した。
sukhaiṣin (°kha-eṣ°) 形 (一°) の幸福を願う。
sukhocita 形 安樂に慣れている。
sukhocchedya (°kha-uc°) 形 抜き去りやすい，破壊または絶滅しやすい。
sukhodaya (°kha-ud°) 形 歓喜または幸福な結果をもつ。
sukhodarka (°kha-ud°) 形 [同上]。
sukhodya (°kha-ud°) 形 発音しやすい。
sukhopagamyā (°kha-up°) 形 到達しやすい。
sukhopadhāna (°kha-up°) **漢** 樂具 *Aṣṭ-pr.*；*Saddh-p.*；安樂事 *Aṣṭ-pr.*；順合，如意什物，作樂養，作樂用物 *Mvyut.*；安樂具 *Suvik-pr.*；安樂事 *Aṣṭ-pr.*
sukhopadhānatā 女 **漢** 樂具 *Bodh-bh.*
sukhopapatti (°kha-up°) **漢** 樂生 *Sūtr.*；樂生天 *Abh-vy.*
sukhopaviṣṭa (°kha-up°) 形 くつろいですわった。
sukhopasaṃhārāsaya (°kha-up°；°ra-ās°) **漢** 与樂 *Sūtr.*
sukhopasthāna (°ka-up°) 中 **漢** 樂具 *Aṣṭ-pr.*
sukhopāya (°kha-up°) 男 容易な手段；**漢** 樂方便，樂易方便 *Sūtr.* ~*ena* 男 たやすく，なんなく。形 たやすく得られる。
sukhoṣita (°kha-uṣ°) 形 夜をたのしく過した，快適に宿泊した。
su-ga 1. 形 横切りやすい (道；因)；近づきやすい (華)；得やすい (因，華)。中 (因) 良い道；容易なまたは上首尾な経過。
su-ga 2. みごとに歌う。
su-gaṇa 男 [*Rāgaputra* の名]。
su-gaṇita 形 よく計算された。
su-gata 形 よく行っている；うまく事が運んだ，楽しんだ。男 ある仏陀；仏教徒，仏教の師；**漢** 仏 *Bodh-c.*, *Ratna-ut.*；善逝 *Lank.*, *Mvyut.*, *Vajr-pr.*, 玄応；善趣 *Daś-bh.*；如来 *Lank.*；諸仏如来 *Ratna-ut.*；**音写** 修伽陀 *Prat-m.*, *Vajr-pr.*, 玄応；修伽多，修伽度 玄応；莎伽度 *Saddh-p.*；~*-kṣaudrasāravat* 諸仏如蜜堅 *Ratna-ut.* 159.；~*-vimalaratnavigraha* 無垢真金像 *Ratna-ut.* 159.
sugata-civara-gata **漢** 衣過仏衣量，無量數作袈裟 *Mvyut.*
sugata-cetanā 女 **漢** 思仏 *Saddh-p.*
sugata-vitasti 女 **漢** 仏磔 (搦) 手 *Prat-m.*
sugata-śāsana 中 仏教の教義または信仰。

sugatātma-ja (°ta-āt°) 形，男 **漢** 仏子 *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Sam-r.*；諸仏子 *Lank.*；善行子 *Madhy-bh.*；善逝体所生 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*
sugatātma-bhāva (°ta-āt°) 男 **漢** 如来藏 *Ratna-ut.*
sugatāyatana (°ta-āy°) 中 仏教寺院。
su-gati 女 安寧，幸福，至福；安全な避難所；**漢** 善趣 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Rāṣṭr.*；*Śikṣ.*, *Sūtr.*；善道 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Rāṣṭr.*, *Sūtr.*；善有 *Bodh-bh.*；樂行 *Mvyut.*；善処 *Rāṣṭr.*, *Saddh-p.*；趣善 *Saddh-p.*
sugati-gati **漢** 善趣 *Sūtr.*
sugati-gamana 中 **漢** 善道 *Sūtr.*；往善趣，向善趣，向於善趣 *Bodh-bh.*；昇善趣，入善道 *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*；歸於善趣 *Madhy-vibh.*
sugati-sthiti-dāyaka **漢** 善道…(心) 住 *Sūtr.*
su-gandha 男 芳香；香料。形 芳香のある；**漢** 香 *Abh-vy.*, 梵雜；好香 *Abh-vy.*；香味 *Mvyut.*
sugandha-gandhi 形 **漢** 香郁，妙香 *Aṣṭ-pr.*
sugandha-taila 中 **漢** 香油 *Divy.*；妙香油 *Lal-v.*；麻油香，酥油香氣 *Saddh-p.*
sugandha-durgandha 形 **漢** 若香若臭物 *Saddh-p.*
sugandhaya, **名動** 芳香を出す，匂わす。
sugandha-yukti 女 香料の調製。
sugandhavat 形 芳香のある。
sugandha-vasana-dhārin 形 **漢** 妙香塗身，塗以妙香 *Suv-pr.*
sugandha-vāha 男 こちよ微風。
sugandhā 女 [種々の植物の名]。
sugandhādhyā 形 (°dha-ādhy°) 形 芳香に富んだ。
sugandhāditya (°dha-ād°) 男 [人名]。
su-gandhi 形 芳香のある (因 てはまれ)；**漢** 香 *Madhy-v.*, *Saddh-p.*
sugandhika-vāsika **漢** **音写** 提陀婆希香 *Sam-r.*
sugandhitā 女 芳香。
sugandhi-tejana 中 [芳香をもつある種の草]。
su-gandhin 形 芳香のある。
sugandhi-siha 男 [人名]。
sugandheśa (°dhā-iś°) 形 [*Sugandhā* によって建立されたある寺院の名]。
su-gama 男 通過しやすい；近づきやすい；見出しやすい，理解しやすい，明白な。男 [*Dāvana* の名]。
sugamatva 中 **漢** 易了，易解 *Abh-vy.*
su-gamana 形 近づきやすい，うまくいっている。
su-gambhira 形 きわめて深い。
su-garhita 形 非常に非難すべき。
su-galā 女 (美しい首)，[人名]。
su-gava 男 たくましい牡牛。
su-gavya 中 よい牛の所有 (RV.)。
su-gāṅga 男 または 中 [ある宮殿の名]。
su-gātu 男 安寧。
su-gātuyā 女 繁榮への欲望。~*yā* 男 よい道のため (RV. 用例一回のみ)。
su-gātra 形 (因 -i) 美しい四肢をもった。
sugātri 女 美しい女性。

su-gita 田 美しい歌; 善説, 善哥 *Abh-vy.*
 su-githa 男 [ある Rṣi の名].
 su-gu 形 よい牛をもっている (因).
 su-guṇa 形 有徳の.
 su-guṇin 形 大きな功德のある.
 su-gupta 形 よく保護または監督された; よく隠された, よく秘密が守られた (圃); 好防護 *Divy.*
 ~m 圃 (圃) 非常に注意深く; きわめて秘密に.
 sugupta-lekha 男 きわめて秘密な手紙.
 su-gupti 因 重大な秘密状態. ~m ā-DHā, 重大な秘密状態を守る.
 sugupti-Kṛ, 注意深く監親する.
 su-guru 形 非常に重大な (犯罪).
 su-gūḍha 形 よく隠された. ~m 圃 きわめて秘かに.
 su-gr̥ddha 形 熱烈に渴望する.
 su-gr̥ha 形 (因-i) よい住居をもつ.
 su-gr̥hin 形 [同上].
 su-gr̥hita 形 堅固に把持された; …に執着した; よく修練または学習された; 吉兆として用いられた; 善取, 善摂, 堅持 *Bodh-bh.*: nimittam ~m karoti 善取…相, (中道) 相分明所得令成就 *Madhy-bh.* 5.
 sugr̥hita-nāmadheya 形 (よく発音された, すなわち) 縁起のよい名前をもつ.
 sugr̥hita-nāman 形 [同上].
 su-gehini 因 よい主婦.
 su-gopā 男 よい保護者 (RV.). 形 よく守護された (RV.).
 su-graha 形 よい取っ手をもつ; 獲得しやすい; 理解しやすい.
 su-griva 男 (美しい首をもった), [*Kṛṣṇa* 神の馬の名]; [(*Valin* の兄弟で *Rāma* の同盟者である) 猿の首領の名]; 妙峯, 和合 *Gaṇḍ-vy.*
 su-grīṣma 男 美しい夏.
 su-ghaṭa 形 成し遂げやすい.
 su-ghaṭita 形 組み立てやすい, よく工夫された.
 su-ghaṭṭita 形 (杵や槌等を用いて) 地面を搗きならす.
 su-ghana 形 非常に密な (森).
 su-ghora 形 非常に恐ろしい; 異常 *Lal-v.*
 su-ghoṣa 形 非常に騒々しい, 大きな音を出す; 楽しい響きをもつ. 男 [*Nakula* のほら貝の名]; [ある *Agrahāra* の名]; 善声, 善音 *Guhy-s.*; 妙音声, 微妙音声 *Suv-pr.*
 sughoṣaka 笙 梵千.
 sughoṣavat 形 =sughoṣa.
 su-ghoṣita 形 高い声で宣言された.
 suṅgi-bhūta 形 (=suṅgibhūta); 含花 *Lal-v.*
 Suc, (=Śuc) 梅 *Lal-v.*
 su-cakra 形 よい車輪をもつ. 男 よい戦車 (RV.).
 su-cakṣas 形 よい視覚をもつ, 鋭敏な視力をもった (因).
 su-cakṣu 男 [ある 河 (=Cakṣus) の名].
 su-catura 形 非常に熟練した.
 su-candana 男 美しい白檀の木.
 su-candra 男 [種々の人物の名]; [ある *Ficus Indica*

の名]; 妙月 *Mvyut.*: ~o nāma samādhiḥ
 妙月三摩地 *Mvyut.* 21.

su-carita 1. 形 よくなし遂げられた (誓い).
 sucarita 2. 田 圃 善行, 徳行 (因, 圃). 形 善く行
 為された; 善行 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*,
Gaṇḍ-vy., *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*;
 妙行 *Abh-vy.*, *Madhy-bh.*, *Madhy-vibh.*: ~ni
 śyandasambhūtavarna 善行果依色, 従善行所流色
 身, 普遍出現善行所流相似妙果色身 *Gaṇḍ-vy.* 920.
 sucarita-vrata 形 誓いを完全になし遂げた.
 sucaritārtha-pada 形 よく選ばれた意義と語とをも
 つ (話).
 su-cāru 形 非常に快適な, 好ましい, えも言われぬ
 端巖, 極端巖 *Gaṇḍ-vy.* 男 [*Kṛṣṇa* と *Ru
 kmini* との息子の名].
 su-citta 形 よい気質の.
 su-citra 男 [ある 悪鬼の名]; 巖飾 *Saddh-p.*
 śāla~ 妙極綵 *Mvyut.* 175.
 su-cintita 形 よく顧慮された.
 sucintita-cintin 善思惟 *Mvyut.*
 sucintitārtha 男 善思 *Lal-v.*
 su-cira 形 (時間に関して) 非常に長い; 久遠
Saddh-p. ~m, ~ena 圃, ~āya 圃, °-, 圃 非
 常に長い間; 昔已来 *Sikṣ.*; 従久来, 従昔来 *Su
 pr.* ~āt 圃 非常に長い時間ののちに.
 su-cirṇa-dhvaja 男 極行幢, 極参群幢 *Mvyut.*
 su-cetas 形 聡明な, 賢い; 慈悲深い. 男 [*Gṛtsama
 da* の息子の名].
 su-cetu 男 恩恵: (~nā 圃のみ) 好意をもって (RV.)
 su-ceṣṭa-rūpa 仏名 [仏名] 上色行 *Guhy-s.*
 su-caukṣa 形 清浄 *Mañj-m.*
 su-cchattra 男 [*Śiva* 神の称].
 su-cchada 形 美しい葉をもつ.
 su-jatru 形 美しい鎖骨をもつ.
 su-jana 男 善良なまたは慈悲深い男または人間 (時に
 性に関しても). svabhāva~o janah 良い性質を
 った男.
 sujanatā 因 善良な性質, 親切, 慈悲心.
 sujanatva 田 [同上].
 sujanākara (°na-āk°) 男 [人名].
 su-janiman 形 美しいものを創造する (RV.).
 su-janman 形 [同上] (因); 高貴のまたはめでたい生
 れの (圃).
 su-jaya 男 偉大な勝利. 形 征服しやすい.
 su-jala 形 良い水をもつ.
 su-jāta 形 因: よい生まれの, よく生産された,
 ぐれた種類または性質の; 高貴に生まれた, 高貴な
 純血の生まれの; 圃: よく形成された, 美しい (圃
 の意味); 純正な, いつわりのない (まれ); むなしく
 まれなかった (異読: sajātaḥ); 善生 *Lal-v.*
 直生 *Divy.*; 妙生 *Mvyut.*; 善生 *Divy.*
 su-jātaka 田 美.
 sujāta-vaktra 男 [ある教師の名] (S.).
 sujātā 因 [人名]; 善生 *Lal-v.*
 sujātāngi 形 因 よい形の四肢をもつ.
 sujita-śrama 形 よく努力に耐える, 疲れることを

らない。

u-jihva 形 (RV.) 美しい舌をもった; 美声の。

u-jirṇa 形 十分に使い古した, ぼろぼろの; よく消化した。

ujirṇa-śata-khaṇḍamaya 形 (因-i) 着古した百のぼろきれからなる。

u-jiva 非人 中 (因) にとって生きやすい。

u-jivita 形 幸福にくらしている。 中 結構な生活; 勝寿命 Gand-vy.; 最勝寿命, 善自活命 Ast-pr.

u-juṣṭa 形 非常に好まれた, 歓迎される (RV.); 甚靠 Mvyut.

ujjaka 男 [人名].

ujjaki 男 [人名].

u-jña 形 …をよく知っている。

u-jñāna 中 容易な理解, 良い知識。 形 良い知識をもつ; 知りやすい。

u-joyotis 形 輝く (因)。

u-ṭaṅka 形 鋭い, 耳をつんざく (音)。

u-dinaka 中 (鳥の) ある飛び方。

ut 形 (一) 圧する, 抽出する。

uta 1. 過受分 → Su 1. 男 罽 覆 Soma 液 (因)。

uta 2. 過受分 → Su 2. せきたてられた。

uta 3. 過受分 → Su 3. (=Sū 2.). 男 息子 (罽); 子 Lank., Saddh-p., Sūtr.; (愛) 子 Sūtr.; 兒子 Sūtr.; 仏子 Lank.

uta-kirti 因 Soma についての言及 (Br.).

utatva 中 息子であること。 ~ena Grah, (罽) を息子として養子にする。

uta-nirviśeṣam 罽 (...といかなる相違もなく, すなわち) ちょうど (自分の) 息子のよう。

u-tanu 1. 形 非常にほっそりした。

u-tanu 2. 形 美しい体形をもつ。 因 きれいな女; [人名]. 男 [ある Gandharva の名]; [ある猿の名].

u-tantu 形 立派な子孫をもつ。 男 [ある Danava の名].

u-tantri 形 リュートの伴奏に美しく合った (歌)。

u-tapas 形 あたためる (因); きびしい苦行を実行する (罽)。

uta-pā 形 Soma を飲む (RV.).

u-tapta 形 因, 罽: 非常に熱い; 罽: 強く熱された, 精錬された (金); 非常に苦しめられた; よく実行された (苦行)。

uta-bhūmy-anukramaṇa-gocara 男 超子地境界, 過仏子地境界, 超子地所行 Lank.

u-tara 形 渡りやすい (因, 罽); 過ぎ去りやすい (夜, RV.).

u-taraṇa 形 渡りやすい (川; RV. 用例一回のみ)。

utarām 罽 いっそう多く; はなはだしく, 非常に: +na, それほどよくなる; いっそう少く (時に否定辞が補われる)。

u-tarpita 形 まったく満足した。

u-tala 中 [ある地獄の名].

utavat 1. 形 suta という語を含む (Br.).

utavat 2. 罽 息子のよう。

uta-vatsala 形 (自分の) 子供達に対してやさしい。

男 やさしい父親。

su-taṣṭa 形 よく加工された。

suta-soma 形 Soma を調製させる, Soma 液を捧げる (RV.).

sutasoma-mahipati 男 蘇摩王 (音写) 蘇摩王, 大蘇摩王 Raṣṭr.

sutā 因 娘。

sutā-dāna 中 娘を嫁にやること。

sutā-bhāva 男 娘であること。

su-tāmra 形 深い赤色の。

su-tāra 形 非常に明かるい; 非常に高声の。

sutārthin 形 息子を欲しがる。

su-tāla 男 [(音楽で) ある拍子の名].

sutāvat 過能分 (Soma を) 調製した (RV.).

sutin 形 息子をもつ。

suti 因 息子の母親。

su-tikṣṇa 形 非常に鋭い (譬喩にもまた)。 男 [Agastya の兄弟の名].

sutikṣṇa-darśaṇa 男 [Śiva 神の名].

sutikṣṇa-prajña 男 [菩薩名] 大利智 Sam-r.

sutikṣṇam 罽 過度に。

suti-BHū, 息子となる。 過受分 sutibhūta, 息子となった。

su-tirtha 中 良い道 (因); 非常に神聖な沐浴場 (罽); 良い先生 (罽)。

sutirthaka 男 [ある神聖な場所の名].

sutuka 形 (RV.) 拍車をかけられた (刺戟された), (拍車をかけられて) 逃亡する (敵)。

su-tuṅga 男 [ある場所の名].

su-tumula 形 非常にそうぞうしい。

su-tuṣṭa 形 非常に満足した; 喜足 Śikṣ.

su-tejana 形 非常に鋭い。 男 鋭い矢。

su-tejas 形 燦然とした。

su-tejita 形 =sutejana.

su-toṣa 形 満足させやすい。

sutya 形 中 (±ahan) Soma をしぼる当日 (因; 準備の日)。

su-tyaja 形 捨てやすい。

sutyā 因 Soma の調製 (因); =sutya.

su-trāman 因 因 (因 同) よく保護する。 男 [Indra 神の称] (因)。

sutvan 形 Soma をしぼる (因)。 男 [人名] (Br.).

su-tsaru 形 美しい柄をもつ。

su-daṁṣita 形 密集した, 密着した。

su-daṁṣṭra 形 美しい歯をもつ。 男 [ある Rakṣasa の名]; 牙生 Lal-v.; 蘇達拏 Raṣṭr.

su-daṁsas 形 驚くべき行為に富む (RV.).

su-dakṣa 形 非常に実行力のある。

su-dakṣiṇa 形 (叙詩) 非常に器用な; 非常に礼儀正しい; すぐれた右手をもつ (RV.)

su-dakṣiṇā 因 [Dilīpa の妻の名].

su-datra 形 よい贈物を与える (因)。

su-dant 形 (因-dati) 美しい歯をもつ。

su-danta 形 [同上].

su-dayita 形 非常に愛された。

su-darpaṇa 形 美しい鏡をもつ, 美しく映る。

su-darśa 形 見やすい, 識別しやすい; 美しい.
 su-darśaka 形 易見, 可了 *Abh-vy.*
 su-darśana 形 見てころよい, 美しい, 上品な, きりっとした顔立ちの, 愛らしい; (圓) によって容易に見られる. 男 [人名]; [*Śiva* 神の 名稱]; [ある *Vidyadhara* の名]; [北方のある山の名]. 田 [(*Sumeru* 山上の) 神々のある池とある町の名]. 男 田 *Viṣṇu* 神の円盤 (太陽の円盤); 善見 *Divy., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Mvyut.,* 立応.; 妙見 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.;* 樂見 *Suṣ-pr.;* 善現 *Gaṇḍ-vy., Mvyut.;* 如意 *Mvyut.;* 善見天 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut.,* 立応.; 善現天 *Aṣṭ-pr., Gaṇḍ-vy.;* 善見山 *Mvyut.;* 善見大城 *Gaṇḍ-vy.;* 人所喜見 *Suṣ-pr.;* 音写 修騰娑那 *Abh-k.;* 蘇達梨舍那 *Abh-k., Mvyut.;* 蘇達利舍那 *Mvyut.;* 須達梨舍那 立応.
 sudarśana-pritikara 男 見令妙喜, 具見妙喜 *Mvyut.*
 sudarśanā 因 明るい (月が満ちる半月の) 夜 (因); [ある王女の名].
 su-darśaniya 形 見やすい; 妙好 *Saddh-p.;* 喜見, 樂見 *Śikṣ.*
 su-darśini 因 [ある蓮池の名].
 su-daśārha-kula (°śā-ar°) 形 幸福な運命に価する家族に属するまた *Daśārha* という高貴な家系に生まれた (一語二義).
 su-dāna 田 寛裕な贈物; 善与, 善施, 好施, 立応.; 音写 須大拏, 須達拏, 蘇陀沙拏 立応.
 su-dānu 形 潤いに富むまたは豊富に与える, 物惜しみしない (種々な神々に関して; 因).
 su-dānta 形 よく飼い馴らされた (馬); 善調 *Sam-r.*
 sudāntaka 形 能善調伏 *Mañj-m.*
 sudānta-citta 形 心調柔 *Saddh-p.*
 su-dāma 男 種 [ある民族の名].
 su-dāman 形 豊富に与える, 慈悲深い (*Indra* 神; *RV.* 用例二回のみ). 男 [人名]. 田 [ある神話上の武器の名].
 su-dāmita 形 所縛, 所纏, 微纏, 纏縛, 所繫縛 *Gaṇḍ-vy.*
 su-dāmini 因 [人名].
 su-dāya 男 結婚の贈物.
 su-dāru 田 よい木材.
 su-dāruṇa 形 非常に恐ろしい; 悪, 楚毒 *Saddh-p.;* 暴悪 *Bodh-c.;* 病苦 *Mañj-m.;* 惨悪 (可畏) *Śikṣ.;* 苦中苦 *Raṣṭr.*
 su-dās 男 [*Tṛtsu* 族のある王の名] (因; 圍). 形 豊かに与える [Dā].
 sudi 不変 *śudi* の 不確.
 su-dina 形 (*RV.*) 晴れた, 明るい, 澄んだ (日, 朝). 田 (因, 圍) 晴れた空, 晴天の日, 晴れあがった天気, 好い日, 幸福な時.
 sudinatā 因 快晴の天候.
 sudinatva 田 (日中の) 明かるさ; 音写 時 (*RV.*).
 su-div 形 明るく輝いている (*Agni* 神; *RV.*).
 su-diva 田 美しい日 (*AV.*).
 su-divasa 田 [同上] (圍).

su-diti 因 明るい火焰 (*RV.*). 形 明るく輝く, 燃えあがる (*RV.*).
 su-dipta 形 強烈に輝く.
 su-dirgha 形 (時間・空間に関して) 非常に長い.
 su-duḥkha 形 (不定; …することが) 非常に骨の折れるまたは困難な. 田 大きな苦痛; 難, 甚難 *Daś-bh.;* 極苦 *Sutr. ~m* 圓 非常に悲しんで.
 su-duḥkhita 形 非常に苦しめられた, 非常に不幸な 極苦 *Sutr.;* 衆苦所悩乱 *Saddh-p.*
 su-dukūla 形 非常に優良な材料で作られた.
 su-dughā 形 (因) よく乳を出す; 滋養に富んだ; 富な.
 sudughā 因 良い乳牛 (因).
 su-durādharṣa 形 非常に近寄りやすい.
 su-durāvarta 形 非常に制止しがたい.
 su-durāsada 形 非常に到着しがたい.
 su-durukti 因 非常に無情な言葉.
 su-durgama 形 非常に到着または通過しがたい.
 su-durgraha 形 非常に再認しがたい.
 su-durjaya 形 非常に征服・圧倒または獲得しがたい 難勝 *Bodh-bh., Mvyut.;* 極難勝 *Bodh-bh. ~ā* 難勝地 *Mvyut. 31.* 男 戦闘陣形 (の一種).
 su-durjara 形 非常に消化しがたい.
 su-durjñeya 形 非常に認識しがたい.
 su-durdama 形 難調 *Gaṇḍ-vy.*
 su-durdṛṣa 形 非常に見がたい; 難見 *Gaṇḍ-vy., Saddh-p.*
 su-durdharṣa 形 非常に近寄りやすい.
 su-durnirikṣaṇa 形 非常に注視しがたい.
 su-durbala 形 極度に弱い; 弱, 頓弊 *Saddh-p.;* 弱力 *Lal-v.;* 怯弱 *Śikṣ.*
 su-durbuddhi 形 非常に愚かな.
 su-durbhaga 形 非常に不幸な.
 su-durbhida 形 非常に破裂させがたい.
 su-durmati 形 非常に愚かな; 非常に気分が悪い.
 su-durmanas 形 非常にうち沈んだ.
 su-durmarṣa 形 まったく耐えがたい.
 su-durmedha 形 無智, 闇冥 *Saddh-p.*
 su-durlabha 形 非常に得がたい, まれな; 非常 (不定) しがたい; 難, 難可得 *Gaṇḍ-vy.;* 難 *Lal-v.;* 難遇 *Lank., Saddh-p.;* 甚難, 難値, 難得, 甚難得値 *Saddh-p.;* 難得見 *Lank.;* 極難得 *Saddh-p.;* 無人曾見当亦不見 *Lank.*
 su-durvaca 形 非常に返答しがたい.
 su-durvaha 形 非常に耐えがたい.
 su-durvida 形 非常に知りがたい.
 su-durveda 形 [同上].
 su-duścara 形 非常に近づきがたい; 非常に実行がたい (苦行).
 su-duścāla 形 近づきがたい; 非常にむづかしい.
 su-duścikitsa 形 非常に治癒しがたい.
 su-duṣrava 形 聞くのが非常に不快な.
 su-duṣkara 形 非常に為しがたい, 非常に支えがたい, 非常にむづかしい; 難行 *Sutr.;* 為難希有, 甚難作; 希有事, 極難事 *Saddh-p.;* 甚有, 甚奇希有 *Sukh-vy. II.*

u-duṣkula 田 非常に身分の低い家柄。
 u-duṣkṛta 形 非常に欠点だらけの。
 u-duṣṭa 形 非常に悪い；**漢訳** 甚悪 *Divy.*
 u-duṣprasādhya 形 非常に征服しがたい。
 u-duṣprāpa 形 非常に接近しがたい。
 u-duṣprekṣya 形 非常に確認しがたい。
 u-dustara 形 非常に横切り難い；非常に実行し難い。
 udustāra 形 = sudustara.
 u-dustyaja 形 捨てるのが非常に難しい。
 u-duṣsaha 形 非常に堪えがたい，打ち負かしがたい。
 u-duṣsparśa 形 触れるのに非常に不快な。
 u-duha 形 喜んで乳を出す(牝牛)。
 u-dūra 形 非常に遠い；**漢訳** 遠 *Saddh-p.*；遠離 *Kaśy.*；極遠，最遠 *Abh-vy.* ~m または °— 圃 非常にはるかに；大いに，まったく，非常に。~āt 圃 遠くから。
 udūra-ga 形 **漢訳** 遠去 *Sūtr.*
 udūra-vidūra 形 **漢訳** 遠中復遠 *Śikṣ.*
 u-dṛḍha 形 非常に固いまたは強い；非常に記憶力のよい；激烈な，強力な；**漢訳** 堅牢 *Bodh-c.*；堅利 *Śikṣ.*
 u-dṛpta 形 非常に尊大な。
 u-dṛś 形 (女：圃 同， 因 -i) 鋭敏な規力をもつ(因，圃)；外観の美しい(RV.)；美しい眼をもった。(普通は) 因 (美しい眼をもった) 婦人(圃)。
 u-dṛśa 男 **漢訳** 善現 *Mṛyut.*；善見 *Sam-r.*；善見(天)，善現(天) *Gand-vy.*；善見天 *Ast-pr.*；善現天 *Abh-vy.*，*Bodh-bh.*
 u-dṛśya 形 明らかに見ることができる。
 u-dṛṣṭa 形 鋭敏な視力をもった；**漢訳** 善見，善修，善知，善達 *Lank.*
 u-dṛṣṭi **漢訳** 善見 *Lank.*
 u-deva 男 良いまたは真実な神(因)；[人名]。形(因) 神々に恵まれた；正しい神々に捧げられるはずの。
 u-devana 田 熱中した賭遊び。
 u-devya 田 よい神々の群勢(RV.)。
 u-deśana 形 **漢訳** 善説 *Sūtr.*
 u-deśikatva 田 **漢訳** 善説 *Sūtr.*
 u-deṣṇa 女 [*Kṛṣṇa* の息子]。
 u-deṣṇā 男 [*Virāta* の妻]。
 u-deha 男 美しい身体。
 u-dogdhri 形(女) よく乳を出す。
 u-dyu 男 [ある *Cārupāda* の息子]。
 u-dyut 形 明かるく輝く(RV.)。
 u-dyumna 形 [同上](RV. 用例一回のみ)。男(圃) [人名]。
 u-dyeṣṭha 男 [*Maurya* 王朝のある王の名]。
 u-dvija 形 美しい歯をもつ。
 u-dhana 男 **漢訳** 善財 *Divy.*，*Gand-vy.*
 u-dhanus 男 [*Kuru* の息子]。
 u-dhanvan 形 強力な弓をもつ。男 [ある混合カースト(追放された *Vaiśya* の子孫)]；[人名]；神々の集会堂。
 udhaya, 名動 元気をつける。

su-dharma 男 正義，義務；**漢訳** [人名] 妙法，善法 *Saddh-p.*；妙法(堂) *Saddh-p.*
 sudharmatā 女 **漢訳** 妙法 *Sūtr.*
 sudharma-tirtha 田 **漢訳** 岸上有法堂，池上有法堂，池上妙法堂 *Gand-vy.*
 su-dharman 形 正義を行なう。男 神々の集会堂；**漢訳** 善法 *Divy.*
 su-dharmā 女 神々の集会堂；**漢訳** 妙法(堂) *Saddh-p.*；善法堂 *Abh-k.*
 su-dhā 1. 女 [良い位置：DHā 1.] 安楽，愉快(因)；**漢訳** 美 *Śikṣ.*
 su-dhā 2. 女 [良い飲物：DHā 2.] 神々の飲物，甘露；牛乳(まれ)；しっくい，焼き石膏；**漢訳** 妙食 *Divy.*；甘露 *Divy.*，*Mṛyut.*；天甘露食 玄応；白 玄応；白土 *Divy.*；石灰 *Mṛyut.*；**音写** 修陀 玄応；(**音写**) 須陀飯 玄応；蘇陀味食 *Divy.*
 sudhāmsu (°dhā-am°) 男 (甘露の光線をもつ)，月。
 sudhākara (°dhā-āk°) 男 甘露の宝庫；月。
 sudhā-kāra 男 左官，壁塗職人。
 sudhā-kṛtaka **漢訳** 白土 *Lal-v.*
 su-dhāta 形 よく清められた。
 su-dhātu-kāncana 田 **漢訳** 真金聚，聚金山 *Lal-v.*
 sudhā-didhiti 男 月。
 sudhā-drava 男 白色塗料。
 sudhā-dhavala 形 しっくいので白い，白色塗料を塗った；しっくいのように白い。
 sudhā-dhavalita 名動 **漢訳** 過受分 [同上]。
 sudhā-dhāman 男 月。
 sudhā-dhārā 女 甘露の流れ。
 sudhā-dhauta 形 = sudhādhavala.
 sudhā-pūra 男 甘露の流れ。
 sudhā-bhitti 女 白色塗料を塗った壁。
 sudhā-bhuj 男 (甘露を食物としている)，神。
 sudhā-bhojin 男 [同上]。
 su-dhāman 男 [ある *Rṣi* の名]。
 sudhāmaya 形(女 -i) 甘露からなるまたはを含んでいる。
 sudhāmṛta (°dhā-am°) 田 甘露。
 sudhā-raśmi 男 月(光)。
 sudhā-rasa 男 甘露。形 甘露のような味の。
 sudhārasamaya 形(女 -i) の甘露からなるまたはを含んでいる。
 sudhāvādāta (°dhā-av°) 形 = sudhādhavala.
 sudhā-varṣa 男 甘露の雨。
 sudhā-subhra 形 = sudhādhavala.
 sudhāsava (°dhā-ās°) 男 [ある軟膏の名]。
 sudhāsāra (°dhā-ās°) 男 甘露の雨。
 sudhā-sita 形 = sudhādhavala.
 sudhāsitatā 女 しっくいの白さ。
 sudhā-sindhu 男 甘露の海。
 sudhā-sūti 男 月。
 sudhā-seka 男 甘露をふりそそぐこと。
 sudhā-syandin 形 甘露を湛えて流れる。
 sudhāhartṛ (°dhā-āh°) 男 甘露の抽出者，[*Garuḍa* の称]。
 sudhā-hrada 男 甘露の湖。

su-dhita 因 形 [DHā 1.] よく立てられた(柱);よく整えられた,よく配列された;準備された,用意のできた(食事等);定められた,意図された;慈悲深い.
su-dhi 因 よい理解,知性(囀). 形 敬虔な思想をもった,信仰の篤い(RV.);聡明な,賢い(囀). 男 賢いまたは分別のある人(囀).
sudhi-Kṛ, 甘露にする.
su-dhira 形 非常に着実なまたは勇気のある; 勇猛 *Sūtr.*
su-dhur 形 (RV.) よくつながれた(馬). 男 戦車を牽く良馬(RV.).
su-dhura 形 =sudhur (RV. 用例一回のみ).
su-dhṛti (ときどき -dhṛt) 男 [人名].
sudhodgāra (°dhā-ud°) 男 甘露の洪水.
sudhodgāramaya 形 甘露の洪水からなる.
su-dhauta 形 よく清められた; 留, 滌 *Mvyut.*; 洗濯 *Śikṣ.*; 極浄洗 *Ratna-ut.*
sudhauta-snāna 因 洗濯 *Śikṣ.*
su-nakṣatra 男 [人名].
su-nanda 男 [人名]; 音写 蘇難陀 *Lal-v.*
su-nandana 男 [人名].
sunandā 因 [人名].
su-naya 男 賢明な行動.
su-nayana 形 美しい眼をもった.
sunaya-sālin 形 智慧をもつ.
su-nasa 形 美しい鼻をもつ.
su-nāsa 形 [同上].
sunāsākṣi-bhruva 形 美しい鼻と眼と額をもった.
sunāsika 形 =sunasa.
su-nikṛṣṭa 形 非常に低いまたは卑しい.
su-nikṣipta 形 (因)によく寄託された.
su-nikhāta 形 長髻 *Mvyut.*
su-nikhilam 副 完全に.
su-nigṛhita 形 摧伏 *Suv-pr.*
su-nigraha 形 制御または征服しやすい.
su-nitambini 形 (因)美しい尻をもつ.
su-nidra 形 よく眠っている.
su-nidhyapta 形 善了達 *Sam-r.*
su-ninada 形 美しい音をもつ.
su-nibaddha 形 繫 *Śikṣ.*; 善縛, 具足成満, 善究竟満足 *Lank.*
sunibaddha-buddhi 形 善縛所縛, 覚慧善入, 覚慧善住 *Lank.*
su-nibhṛtam 副 非常に秘密に.
su-niyata 形 よく制御された; +vācā 男, 言葉をさし控えて.
su-niyukta 形 よく組立てられた.
su-nirūpita 形 よく調べられた,よく考えられた.
su-nirgata 形 (因)からよく抜け出した.
su-nirghṛṇa 形 非常に残酷な.
su-nirṇikta 形 よく洗われた.
su-nirmala 形 まったく清浄な; 極浄 *Sūtr.*; 清浄 *Ratna-ut.*
su-nirmāṇa-rati-deva-putra 男 化楽天子 *Mvyut.*
su-nirmita 形 化, 妙変化, 善変化 *Gaṇḍ-vy.*

男 妙化, 善化(自在) *Bodh-bh.*; 善化天, 化楽天王 *Sukh-vy. I.*; 化楽天 *Gaṇḍ-vy., Lal-v.*; 化自在, 妙变化天, 善变化天 *Gaṇḍ-vy.*; 楽变化天 *Lal-v.*; 化楽(天王主) *Sam-r.*
sunirmita-deva-rāja 男 善化天王 *Gaṇḍ-vy.*
su-niryāṇa 形 善出 *Sūtr.*
su-nirlajja 形 非常に無恥の.
su-nirviṇṇa 形 全くあきあきした.
su-nirviṣa 形 無毒 *Lal-v.*
su-nirvṛta 形 まったく無関心な.
su-niviṣṭa 形 よく置かれた(護衛・見張り人等); (因)をよく身につけた;よく飾られた.
su-niṣita 形 よく尖った.
su-niścaya 男 固い決心. 形 (あるものについて)絶対に確かな.
su-niścita 形 固く決心された; 確立された, 確実な; 知 *Sūtr.*; 決定 *Mvyut., Rāṣṭr.*; 最正定, 最詳察 *Mvyut.* ~m 副 絶対に確かに, 非常な自信をもって.
suniścita-pura 因 [ある町の名].
su-niṣkṛta 因 良い応報.
su-niṣṭapta 形 完全に焼けた, 料理された; ちょうどいい頃合いの.
su-niṣṭhita 形 (因)によく精通した; 究竟 *Gaṇḍ-vy.*; 安立, 善安立 *Śikṣ.*
su-niṣṭhura 形 きわめて粗い.
su-niṣpanna 形 極成 *Sūtr.*
su-niṣphala 形 まったく無益な.
su-niṣṭhita 形 よく準備された.
su-niṣpṛha 形 不生喜樂 *Saddh-p.*
su-nistriṃśa 男 美しい剣.
su-nihata 男 音写 修尼喜多 *Divy.*
su-nihita 形 確立された.
su-nita 形 よく導かれた;よく実行された. 因 賢明な行動; 善順, 善立 *Abh-vy.*
su-niti 因 よい指導(因); 賢明な行動(囀). 形 よく導く(因).
su-nitha 形 よく指導する, よく導く(RV.). 男 [人名](因, 囀).
su-nihāra 形 非常に霧の濃い.
su-nṛpa 男 よい王.
su-nṛsaṃsa 形 非常に有害な.
su-netra 男 [人名], [ある猿の名]; 善目 *Abh-vy., Gaṇḍ-vy., Lal-v.*; 妙目 *Lal-v.*; 妙眼 *Abh-vy., Lank.*; 善眼 *Lank.*
sunetrādhīpati 男 妙目王 *Mvyut.*
sunthaṇā 形 褌子 *Mvyut.*
sunda 男 [*Viṣṇu* 神の称]; [あるAsura, すなわち *Upasunda* の兄弟の名]; 音写 孫陶 *Buddh-c.*
sundara 形 (因-i)美しい, 愛らしい, 端正な; 高貴な(まれ); よい, 正当な, 正しい(行為等); 善仁, 端正 *Divy.*; 極妙 *Mvyut.*; 音写 孫陀利 *Av-ś.*
sundaraka 男 [人名]; 孫陀利 *Av-ś.*
sundara-kāṇḍa 因 美しい茎.
sundaratā 因 美.

sundara-nanda 男 善妙 *Mvyut.*; 音写 難陀 *Lal-v.*; 孫陀羅難陀 *Mvyut.*, *Saddh-p.*
sundara-pura 田 [ある町の名].
sundaram-manyā 形 (自分自身を) 端麗だと思ふ.
sundara-sena 男 [ある王の名].
sundarikā 女 音写 孫陀梨 *Lank.*; (音写) 孫陀利女, 孫陀利外道女 *Lank.*
sundari 女 (美しい) 婦人; (鳥の) 雌(まれ); [ある木の名]; [ある神格の名]; [人名]; 音写 孫陀利 *Buddh-c.*
sundari-mandira 田 婦人の部屋, ハレム.
sunna 男 [人名].
sunvat 現分 [Su 1.]. 男 *Soma* の供養者.
sunvāna 現分 → Su 1.
sup. 因 圃 すべての格語尾の総括 (*pratyāhāra*), または 21 の格語尾の中のいずれか 1 つ; かかる格語尾をもつ単語 (文法).
su-pakva 形 よく煮られた; 完全に熟したまたは成熟した (譬喩にも).
su-paṅka 男, 田 よい粘土.
su-paṭha 形 読みやすい.
su-paṇḍita 形 音写 智人 *Sam-r.*: ~-tama 勝智慧 如実知法者 *Ratna-ut.* 215.
su-pati 男 よい夫.
su-pattra 形 美しい翼または羽をもつ, よく羽のついた(矢); 美しい車をもつ.
su-patni 形 (女) よい夫をもつ.
su-path 男 よい道.
su-patha 田 (因), 男 (圃) よい道 (因, 圃); 高潔な行跡 (圃).
su-pathin 男 (因 *supanthās*) よい道.
su-pad 形 (女 -i) 速い足をもった (RV. 用例一回のみ).
su-pada 田 美しい言葉.
su-paptani 女 (-i 圃) 速い飛行 (RV. 用例一回のみ).
su-parākrama 形 非常に力強い.
su-parikarma-kṛta 形 音写 修, 造作円満 *Aṣṭ-pr.*; 彫飾 *Sam-r.*
su-parigṛhita 形 音写 親近 *Gaṇḍ-vy.*
su-paricita 形 音写 久習, 善通利, 極善成熟 *Bodh-bh.*
su-parijñāta 形 よく確められた.
su-pariṇata 形 音写 妙熟, 広円満 *Mvyut.*
supariṇata-lalāṭa 形 音写 額広円満 *Mvyut.*
su-pariṇiṣṭhita 形 音写 善, 善閑, 巧妙, 精熟 *Aṣṭ-pr.*; 善瑩 *Daś-bh.*; 嚴飾, 無不具足 *Raṣṭr.*
su-pariṇiṣpanna 形 善成就 *Aṣṭ-pr.*
su-pariṇita 形 よくなし遂げられた.
su-paripakva 形 音写 熟, 焼熟 *Aṣṭ-pr.*
su-paripūrṇa 形 音写 具足 *Daś-bh.*, *Saddh-p.*; 円満 *Daś-bh.*, *Mvyut.*; 満足 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*; 善備 *Daś-bh.*; 逮致 *Lal-v.*; 極円満 *Bodh-bh.*; 善円満 *Aṣṭ-pr.*; 極善円満 *Bodh-bh.*; 善得円満 *Aṣṭ-pr.*
suparipūrṇottamaṅga (°ṇa-ut°) 形 音写 頭如摩陀那果 *Mvyut.*
su-paribhāvita 形 音写 行, 善修, 善修習 *Daś-bh.*
su-paribhūta 形 音写 極軽賤 *Sikṣ.*; 極遭軽毀 *Vajr-*

pr.

su-parirakṣita 形 よく守られた.
su-pariśuddha 形 音写 清, 無瑕, 最清浄 *Mvyut.*; 清浄, 嚴浄 *Saddh-p.*; 善浄 *Ratna-ut.*
su-pariśodhita 形 音写 浄修, 妙善修治 *Bodh-bh.*
su-pariśrānta 形 完全に消耗した.
su-pariṣkṛta 形 よく準備された; よく飾られた.
su-pariṣphuṭa 形 音写 周徧 *Saddh-p.*
su-parihara 形 避けやすい.
su-parikṣaṇa 田 念入りな検査.
su-parikṣita 形 念入りに検査された; 音写 極善思 *Divy.*
su-paritta-prajña 形 音写 少恵(者) *Sikṣ.*
su-parus 形 美しい節をもった(矢).
su-parṇa 形 (女 -i) 美しい翼をもった (RV.). 男 (大猛禽), 秃鷲, 鷲 (譬喩 太陽, 月および雲について; 圃 = 太陽と月と; 因); [*Garuḍa* と同一視されるある神話的な鳥] (圃). 田 美しい葉.
suparṇa-ketu 男 [*Viṣṇu-Kṛṣṇa* の称].
suparṇa-rāja 男 *Garuḍa* 鳥.
suparṇin 男 音写 金翅鳥 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*; 妙翅鳥 *Divy.*; 揭路荼, 迦婁羅, 伽婁羅鳥 *Abh-vy.*; 加楼羅 *Mvyut.*
suparṇi-pakṣin 男 音写 金翅鳥 *Av-ś.*
su-paryavadāpana 形 音写 浄, 清浄, 普浄, 受瑩飾 *Daś-bh.*
su-paryavadāpita 形 音写 浄修 *Gaṇḍ-vy.*
su-paryavasita 形 よくなし遂げられた.
su-paryāpta 形 非常に広い(家).
su-parvan 形 美しい接ぎ目をもつ; 美しい章または篇をもつ (*Mahābhārata*); 有名な. 男 神格.
su-palāyita (過受分) 田 巧みなまたは時宜にかなった後退.
su-pācanā 音写 善成熟 *Sutr.*
su-pāṇi 因 形 美しい手をした; 手先の器用な.
su-pāṇḍara 形 燦然と白い.
su-pāṇḍala 形 (= *supāṇḍara*); 音写 鮮白 *Suv-pr.*
su-pātra 田 よい容器, (とくに 贈物を受けるに) ふさわしい人物.
su-pāda 形 美しい足をもつ.
su-pāpaka 音写 罪 *Sikṣ.*
su-pāra 形 (RV.) 渡りやすい; 耐えやすい; 容易に通過する(雨); 繁栄した結果へ導く (TS. にもまた). 男 ある特別な化身.
supāra-kṣatra 男 (自己の) 支配権をよく成就する (*Varuṇa* 神; RV. 用例一回のみ).
su-pārsva 形 美しい横腹をもつ. 男 [人名].
supita 音写 夢 *Sikṣ.*
supina 男 = *svapna*; 音写 夢 *Gaṇḍ-vy.*, *Lal-v.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Saddh-p.*; 夢中 *Sam-r.*
supinopama (°na-up°) 形 音写 猶如夢 *Madhy-v.*
su-pippala 形 よい漿果を生ずる(因).
su-pihitavat 過能分 (耳: 圃) を注意深く閉じた.
supihitavati 女 (= 定動詞).
su-pita 形 完全に黄色な.
su-pina 形 非常に脂肪の多い.

su-puñkha 形 よく羽がつけられた(矢).
 su-puṇya 形 非常に優れた. 田 宗教的または道徳的に
 大きな価値.
 su-putra 男 よい息子; 孝子 *Gaṇḍ-vy.*, *Śikṣ.*
 形 多くのまたはよい子をもつ(因, 叙詩).
 su-puruṣa 男 ある特別な化身.
 su-puṣkala 形 非常におびただしい.
 su-puṣṭa 形 よく養われた; 肥壮 *Saddh-p.*
 su-puṣpa 形 美しい花をもつ.
 su-puṣpita 形 (名動 過受分) 美しい花で飾られた;
 華開敷 *Gaṇḍ-vy.*, *Saddh-p.*, *Suv-pr.*; 生妙
 花 *Suv-pr.*
 su-pūjita 形 大いに尊敬された.
 su-pūta 形 よく清められた.
 su-pūra 形 満たしやすい.
 su-pūrta 形 満, 経 *Saddh-p.*
 su-pūrṇa 形 よく満たされた, まったく一杯な.
 su-pūrvam 副 非常に朝早く.
 su-pūrvāhṇe 副 午前中早く.
 su-peśa 男 美しい織物. 形 よく飾られた, 美しい,
 優雅な.
 su-peśala 形 [同上].
 su-peśas 形 よく装飾された, 美しい, 綺麗な(因,
 まれに P.).
 su-poṣa 形 易養 *Śikṣ.*, *Mvyut.*
 supta 過受分 → *Svap.* 田 眠り; 寝 *Bodh-bh.*;
 臥, 臥寝 *Saddh-p.*; 睡 *Śikṣ.*; 夢, 睡夢 *Madhy-*
v.; 睡眠 *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*, *Madhy-v.*, *Mvy-*
ut.; 寢息 *Aṣṭ-pr.*; 久睡 *Raṣṭr.*
 suptaka 田 [同上]. *alika~m* または *vyaja~m Kṛ.*
 眠ったふりをする.
 supta-ghna 男 [ある *Rākṣasa* の名].
 supta-cyuta 形 睡眠中におちた.
 supta-pūrva 形 すでに眠り了った.
 supta-prabuddha 形 眠りからさめた.
 supta-pralapita (過受分) 田 寝言(覆のみ).
 supta-buddha 形 睡覺, 睡中寤 *Lank.*
 supta-mina 形 魚が眠っている(池).
 supta-raśmi 形 無光, 無精光 *Suv-pr.*
 supta-vākya 田 寝言.
 supta-vinidraka 形 眠りからさめた.
 supta-stha 形 眠っている.
 supta-sthita 形 [同上].
 supti 因 (深い) 眠り; ねむけ; (四肢の) 無感覚, 無
 気力.
 suptika 形 淳眠寐 *Lal-v.*
 suptotthita (°ta-ut°) 形 眠りからめざめた.
 su-prakāśa 形 よく照らされた; はっきりと見るこ
 とができる.
 su-prakāśita 形 善頭示, 善(無倒)開示 *Bodh-*
bh.
 su-praketa 形 明るい, はっきり見える, 著しい(RV.).
 su-prakṣāṭita 形 よく洗われた; 甚洗濯 *Mvyut.*
 su-pragupta 形 非常に秘密な.
 su-pracāra 形 輝かしく現われる.
 su-pracchanna 形 よくかくされた.

su-praja 形 よいまたは沢山の子をもつ.
 su-prajas 形 [同上].
 suprajastva 田 [同上の 田].
 su-prajña 形 非常に賢い(人物).
 su-prajñapaka 形 易知, 可説 *Abh-vy.*
 su-praṇihita 男 [人名]; 善願 *Divy.*
 su-praṇiti 因 安全な案内(因). 形 安全に導く(因).
 su-pratara 男 渡りやすい(川).
 su-pratarka 男 健全な判断.
 su-pratikara 形 報いやすい.
 su-praticchanna 形 要莊嚴好, 上衣要齊正 *Mvyut.*
 好覆身 *Prat-m.* ~m 副 非常に秘密に.
 su-pratijña 男 [ある *Danava* の名].
 su-pratipanna 形 修習, 学習, 決定明了 *Gaṇḍ-*
vy.; 最入, 深入 *Mvyut.*: ~-śiṣya 如実修行不相
 違…弟子 *Ratna-ut.* 35.
 su-prativarman 男 [人名].
 su-prativeddha 形 善解, 妙善通達 *Bodh-bh.*
 深悟, 深曉 *Mvyut.*
 su-prativedhāga 形 善知 *Lank.*
 suprativedhāga-viddha 形 善知, 善分別, 善分別
 知 *Lank.*
 su-pratiśraya 形 よい避難所をもつ.
 su-pratiṣṭha 形 しっかりと立っている; 堅固に支え
 ている. 男 戦闘隊形(の一種).
 su-pratiṣṭhāpita 形 (使役 過受分) よく組み立てられ
 た(像).
 su-pratiṣṭhita 形 しっかりと立っている; 適切に立
 てられた(石); (因)に完全に植えつけられた; よく
 確立した(名声; 因); 堅住 *Daś-bh.*, *Mvyut.*
 善住 *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*; 安住 *Mvyut.*; 妙住, 修
 行, 正向 *Gaṇḍ-vy.*; 安平, 善立, 尽居, 極堅固,
 極安住 *Mvyut.*; 具足 *Śikṣ.*; 甚確乎 *Lal-v.*; 足
 相平満 *Ratna-ut.*: *digmukhaṃ ...~m* 照現於
 諸方, 等鑒於諸方, 正住諸方現 *Gaṇḍ-vy.* 70. [田
 [Pratiṣṭhāna にあるある町の名].
 supratīṣṭhita-cāritra 男 安立行, 建立行 *Sad-*
dh-p.
 supratīṣṭhitatva 田 善安住 *Bodh-bh.*
 supratīṣṭhita-pāda 形 足下安平, 足堅住相 *M-*
vyut.: *supratīṣṭhitapādo mahāpuruṣaḥ sama-*
ākramati mahim 具大丈夫足善安住等案地相 [三
 二相の一] *Bodh-bh.* 375.
 supratīṣṭhitapādātā 因 足下平相, 足下安平相
 足下善安住相 *Bodh-bh.*
 supratīṣṭhitapādātva 田 足下平相, 足下安
 相, 足下善安住相 *Bodh-bh.*
 su-pratīṣṭhita 形, 男 安 *Saddh-p.*; 善住 *Lal-*
 su-pratika 形 美しい容貌をもつ, 端正な, 愛らしい
 男 [人名]; [神話上の象の名].
 su-pratita 形 よく知られた.
 su-pratur 形 (因-pratūs) 勝ち進む(RV. 用例一回のみ)
 su-pratūrṭi 形 [同上](因).
 su-pradarśa 形 見た目に美しい.
 su-pradhṛṣya 形 攻撃しやすい.
 su-pranṛtta 田 美しい舞踏.

su-prapāṇa 甲 よい水飲み場 (RV.).
 su-prabala 形 非常に力強い.
 su-prabuddha 形, 男 善覚 *Lal-v.*; 惺悟, 通達, 杜満 *Mvyut.*
 su-prabha 形 よい外観をもつ, 見事な, 卓越した; 妙光, 善光, 妙円光 *Gaṇḍ-vy.* 男 [ある *Devaputra* の名].
 suprabha-deva 男 [人名].
 su-prabhāta 形 曙光に美しく照らし出された. 甲 美しい黎明.
 su-prabhāva 男 大きな力.
 su-pramattaka 形 放逸, 迷酔 *Raṣṭr.*
 su-prayas 形 大いに喜んだ (因).
 su-prayā 形 踏み心地のよい (RV. 用例一回のみ).
 su-prayukta 形 よく発射された (矢); よく暗誦された; よく計画された (詐欺).
 su-pravartita-dharma-cakra 善転法輪 *Ratna-ut.*
 su-pravācana 形 賞讃に価する (RV.).
 su-praviṣṭa 形 入 *Ratna-ut.*
 su-pravṛtta 形 順序正しい状態にある.
 su-pravedita 形 善示 *Mvyut.*
 su-praveśa 形 易入 *Bodh-bh.*
 supraveśatva 甲 易入 *Sūtr.*
 su-pravrajita 形 妙出家, 善出家 *Mvyut.*
 su-prasānta 形 勝寂, 常空寂 *Śikṣ.*
 su-prasanna 形 非常に澄んだ (水); 非常に明るい, 静かなまたは喜んだ (顔等); 非常に親切な; 清浄 *Bodh-c.*; 心生歓喜, 其心悦豫 *Daś-bh.*
 suprasanna-manas 形 浄心 *Sam-r.*
 su-prasava 男 安産.
 su-prasāda 形 なだめやすい.
 su-prasādhita 形 よく飾られた.
 su-prasiddha 形 よく知られた.
 su-prahāra 男 [ある漁夫の名].
 su-prākṛta 形 非常に通俗の.
 su-prāñc 形 まっすぐ前に進む (RV. 用例一回のみ).
 su-prāta 甲 美しい朝.
 su-prāpa 形 獲得しやすい.
 su-prāpya 形 [同上] (a° として).
 su-prāyaṇa 形 踏むに快い.
 su-prāvi 形 非常に熱心な.
 su-prīya 形 非常に快い, 親愛の.
 su-prīta 形 (因) に非常に満足している.
 su-prīti 因 大歓喜.
 su-premaka 形 親近 *Av-s.*
 su-premaṇiya 形 甜, 滋, 勝 *Śikṣ.*
 su-praitu (°ra-etu) 形 喜んで踏入れられる (道) (RV. 用例一回のみ).
 su-prauḍha 形 十分に成熟した.
 su-prauḍhā 因 (過受分) 完全に成熟したまたは結婚可能な女子.
 su-phala 形 沢山のまたは良い果実を産む; 稔り多い; 美しい刃をもつ (刀).
 su-phulla 形 美しく花が咲く.
 su-baddha 形 固く結ばれた (RV. 用例一回のみ); 固く

握り締められた (拳; 罽).
 su-bandhana 甲 堅固な羈絆.
 su-bandhu 形 密接に結合したまたは関係した. 男 よい友; [人名].
 su-babhru 形 こげ茶色の.
 su-bala 男 [人名].
 su-bahu 形 (因 -hvi) 非常に多数のまたは多量の; 無辺, 無数 *Lal-v.*
 su-bāla 形 非常に幼稚な, 愚かな.
 su-bāhu 形 美しい腕をもった (因, 叙詩). 男 (罽) [人名; ある *Dānava* およびある *Rākṣasa* の名]; 善臂 *Lal-v.*; 善手 *Mvyut.*; 妙臂 *Sam-r., Sukh-vy. I.*; 妙手 *Mvyut.*; 音写 莎波乎 *Mvyut.*
 subāhu-paripṛcchā 因 妙手請問経, 妙臂菩薩所問経, 太子刷護経 *Mvyut.*
 subāhu-śatru 男 [*Subāhu* の仇敵, *Rama* の名称].
 su-bija 甲 よい種子.
 su-bibhatsa 形 非常に嫌悪の情をもよおさせる.
 su-buddhi 因 よい理解力. 形 物わがりのよい, すばしこい, 賢い. 男 善智 (固有名詞として), [ある鳥の名]; 妙覚, 善覚, 善意 *Lal-v.*
 subuddhimat 形 非常に物わがりのよいまたは聡明な.
 su-bodha 形 認識または理解しやすい.
 su-bodhini 因 (理解を助長する) [種々な註釈書の名].
 subdha 過受分 → Subh.
 su-brahma 男 善梵 *Lal-v.*
 su-brahmaṇya 形 婆羅門に非常に好意的な. 男 [*Udgatr* 祭官の三人の助手のうちの一].
 su-brahmaṇyā 因 (subrahmaṇya 祭官が) 神々を祭式に勧請する文句 (ときどき = subrahmaṇya 祭官自身).
 su-brahman 1. 甲 よい婆羅門 (Br.).
 su-brahman 2. 形 よい祈願を伴った (RV.).
 Subh, IX. 甲 subhnāti, VI. 甲 sumbhati, 窒息させる (YV. きわめてまれ). 過受分 subdha.
 subha 形 = śubha; 浄妙 *Lal-v.*
 su-bhakṣya 甲 すぐれた食物.
 su-bhaga 形 祝福された運命をもつ, 非常に恵まれた, 幸運な, 幸福な; 最愛の, いとしい (とくに妻); 魅力ある, 人好きのする; 愛らしい, 美しい (無生物もまた; 罽, とくに 因 呼びかけとして一般に); (皮肉的に) 感じのいい (奴); (一°) に適した (まれ). ~ m 副 魅力的に; 高度に, 非常に (まれ).
 subhagam-karaṇa 形 (因 -i) 幸福にする (因); 魅力ある (罽).
 subhagatva 甲 福利, 幸福 (因); 人気, 親愛 (とくに妻について; 罽).
 subhaga-mānin 形 自身を人気があると考える.
 subhagam-manyā 形 自身を幸福であるまたは愛されていると考える.
 subhagammanyā-bhāva 男 自負心.
 subhagā 因 いとしい妻.
 subhagākheṭa-bhūmi (°ga-ākh°) 形 立派な獵場をもつ.
 subhagākheṭabhūmitva 甲 [同上の 罽].
 su-bhaṭa 男 傭兵, 兵; [人名].

su-bhaṭā 因 [ある王女の名].
 su-bhadra 形 栄光に満ちた, 輝かしい, きわめてめでたい (因, 叙詩). 男 [人名]; 善賢 Divy.
 subhadra 形 賢聖 Saddh-p.; 勝妙 Sam-r.
 subhadra 因 [Kṛṣṇa 神の妹・Arjuna の妻の名]; [Asura Sumāya のある娘の名].
 subhayaṃ-kara 形 大きな恐怖または危険を産む.
 su-bhara 因 濃い, 豊富な; 易満 Mvyut., Śikṣ.; 重負 Śikṣ.
 su-bhāgya 形 非常に幸運な.
 su-bhānu 形 遠くに輝く. 男 [Kṛṣṇa 神の息子].
 su-bhāvanā 因 善修 Sūtr.
 su-bhāṣaṇa 男 [人名].
 su-bhāṣita 形 よく語られた, 雄弁な. 因 卓越した話しぶり, 巧妙なまたは機智に富んだ名句, 詞華, よい忠告; 善説 Bodh-bh., Sapt-pr.; 妙説 Bodh-bh., Mvyut.; 善言 Raṣṭr.; 善説法 Sūtr.; 説微妙法 Gand-vy.; 所説妙法 Śikṣ.
 subhāṣita-durbhāṣitārtha 説 善悪二義 Sūtr.
 subhāṣita-bhāṣin 善言詞 Mvyut.
 subhāṣitamaya 形 (因 -i) 名句からなる.
 su-bhāsa 男 [ある Dānava の名].
 su-bhāsvara 形 光を放つ.
 su-bhikṣa 形 豊富な糧食をもつ. 因 食料の豊富さ; 豊 Sam-r.; 豊樂 Aṣṭ-pr., Saddh-p., Suv-pr.; 豊年 Mvyut.; 豊饒 Saddh-p.; 豊熟, 豊稔, 安隱豊樂 Suv-pr.
 su-bhita 形 (属) を大いに恐れている.
 su-bhima 形 恐れおののいている.
 su-bhuja 形 美しい腕をもつ.
 su-bhū 因 すぐれた種類の; 強力な, 強い; 活気づける.
 su-bhūti 男 [人名]; 善実 Vajr-pr., Śikṣ., Sukh-vy. I.; 妙生 Vajr-pr., Śikṣ.; 妙地, 善地 Abh-vy.; 善業 Mvyut.; 善現 Vajr-pr.; 須楓 Sukh-vy. I.; 須菩提 Av-ś., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I., Vajr-pr.
 su-bhūmi 善地 Sūtr.
 su-bhūṣaṇa 形 よく飾られた.
 su-bhūṣita 好蔽身, 著浄衣 Suv-pr.
 su-bhṛta 形 よく養われた・世話されたまたは守護された (因); 重荷を負わされた (属).
 su-bhṛsa 形 力の強い, はげしい, 極度の.
 su-bhairava 悪, 恐怖, 恐れ, 甚可畏 Saddh-p.
 su-bhaiṣajya 苦渋薬 Sūtr.
 su-bhogya 形 享樂しやすい.
 su-bhoja 形 よく食べる.
 su-bhojana 因 よい食物; 膳, 善食, 美膳 Saddh-p.
 su-bhojas 形 (因) 慈しみ深い; 潤沢な.
 su-bhojya 美膳 Sūtr.
 su-bhrū 因 美しい眉; 美しい眉をした少女. 形 美しい眉をした.
 subhru-nāsākṣi-keśānta 形 美しい眉・鼻・眼と髪をもつ.
 suma 因 花 (まれ).

su-makha 形 活気あふれた, 元気な, 陽気な (因). 因 祭, 饗宴 (RV.).
 su-maṅgala 形 (因 -i, -ā) 幸運をもたらす, めでたい.
 sumaṅgalā 因 [人名].
 sumat 副 (RV.) 一緒に; (因) とともに.
 su-mati 因 慈悲心, 恩恵, 好意 (普通の意味); 掃投, 祈り; 属 (因にて) 享樂 (まれ). 形 (属) 賢い; (属) に熟達した. 男 [人名]; 善意 Lal-v., Saddh-p.; 慧善 Sūtr.: ~h kumārābhūtaḥ 妙慧孺童 Mvyut. 23.
 sumati-mahoragendra (hā-ur°; °ga-in°) 男 (音写) 妙智摩喉羅伽王, 摩喉羅伽王 Gand-vy.
 sumati-reṇu 智慧善勝 Mvyut.
 sumati 因 [Sagara の妻の名].
 su-madhura 形 非常にやさしいまたは愛らしい; 非常に美しく歌う.
 su-madhya 形 美しい腰をした.
 su-madhyama 形 1. 非常に平凡な; 2. 美しい腰をした.
 sumadhyamā 因 美しい腰の女.
 su-manas 形 因 (良い心を持った, 親切な), 気立てのよい, 好意ある, 親切な; 慈悲深い; 楽しい; 因, 属: 満足を感じている, 気嫌のいい, うれしい, 安楽な; 属: 賢い. 男 [人名]. 因 花 (属または合成で); [人名]; 喜, 喜心 Abh-vy.; 意悦, 深心歡喜 Bodh-bh.; 易悔, 易悔, 易化 Daś-bh.; 妙意, 浄意 Gand-vy.; 肉冠花 Mvyut.; 須曼 Lal-v., Saddh-p.; 須曼那 Av-ś., Saddh-p.; (音写) 須曼花 Av-ś.
 sumanaska 歡喜, 慰意 Bodh-bh.; 悅樂 Divy.; (音写) 蘇桓 Divy.
 sumanasya, 名動 現分 sumanasyamāna のみ, 親切である, 恵み深い, 好意的である; 上気嫌である, 元気がよい, 快適である.
 sumanā-taila-pradipa 須曼那油灯 Saddh-p.
 su-mano-jña 形 上妙, 可愛 Abh-vy.
 sumano-dāman 因 花環.
 sumano'bhirāma 形 非常に快い.
 sumanomattaka 男 [人名].
 sumanorama 形 非常に愛想のよい, 魅力ある; 悦意 Divy.
 sumano-latā 因 花の咲いている蔓植物.
 sumanohara 形 =sumanorama.
 su-mantu 形 容易に知られる, よく知られた (RV.). 男 [ある教師の名].
 su-mantra 形 よい忠告に従う. 男 [人名].
 su-mantrita 形 よく熟慮された, よく忠告された: 因 非人 よい忠告が採用された. 因 よい忠告. ~mKṛ, よい忠告を採用する.
 su-mantrin 形 よい大臣をもつ.
 su-manda 形 非常に遅鈍な.
 sumanda-bhāj 形 非常に不幸な.
 su-manman 形 よい願望を語る, 非常に敬虔な (RV.).
 su-marma-ga 形 関節を深く貫通する, 大きな苦痛を

引きおこす(矢).
su-marṣaṇa 形 耐えやすい。
su-mahat 形 非常に大きな, 巨大な, 広大な(時間, 空間, 量, 数, 程度に関して); 非常に重要な; 甚大 *Bodh-bh.*
su-mahas 形 栄光ある (RV.; つねに 同).
su-mahā, °—: 形 極めて大きな. 圃 非常に大きく.
sumahā-kakṣa 形 非常に高い壁をもつ。
sumahā-tapas 形 極めて苦行的なまたは敬虔な。
sumahā-tejas 形 非常に栄えある。
sumahātman (°hā-āt°) 形 非常に心の気高いまたは崇高な精神の。
sumahā-bala 形 極めて強力なまたは有効な。
sumahā-manas 形 非常に心の高尚な。
sumahārha (°hā-ar°) 形 すばらしい。
sumahaṣaḍha (°hā-oṣ°) 圃 驚異的な効能をもつ薬草。
su-māgadha 男 [人名].
sumāgadhā 女 音写 修摩伽陀, 蘇摩伽帝 *Divy.*
su-mānita 形 親近 *Śikṣ.*
su-mānitā 女 自己に対する(過度な)意識, 自尊心。
su-māpita 形 (使役 過受分) 度量 *Aṣṭ-pr.*
su-māya 形 すぐれた呪力をもつ (*Marut* 神群; RV.). 男 [Asura のある王子の名]; [ある妖精の名].
sumāyaka 男 [ある妖精の名].
sumāyā 女 [*Maya* のある娘の名].
su-mitra 男 親切な友; [人名(とくに王の)].; 善友 *Lal-v.*; 音写 頂曼提 *Buddh-c.*
sumitratā 女 近友, 善友 *Sūtr.*
sumitrā 女 [ある *Yakṣiṇī* の名]; [*Daśaratha* の妻であり *Śatrughna* および *Lakṣmaṇa* の母の名].
su-mukha 圃 美しい口; 晴れやかな顔. ~ena 圃 上気嫌に. 形 (因 -i) 美しい顔をした, 明るい顔をした, うれしい; (一°) する傾向または気質がある; 妙門 *Gaṇḍ-vy.*; 舒顔 *Sūtr.*: ~o *nāgarājā* 妙色竜王, 善面竜王 *Mvyut.*
sumukhi-kṛta 形 美しい尖端をもつ(矢).
su-muṇḍika 男 [ある Asura の名].
sumadritā 女 印種, 所印, 善印所印 *Lank.*
su-muṣita 形 極儉 *Divy.*
su-muhūrta 形 ちょうどよい時に来る. ~e 因 よい時期に。
su-mṛṇika 因 慈悲深い, 親切な。
su-mṛḍika 因 同 [同上].
su-mṛta 形 確かに死んだ。
su-mṛdu 形 軟滑 *Divy.*
su-mṛṣṭa 形 よく磨かれた; 非常に優美な。
sumṛṣṭa-puṣpādhya (°pa-ādh°) 形 非常に明るい花に満ちている。
su-meka 因 形 よく確立された, 堅固な; 不変な。
sumedhatā 女 念 *Sūtr.*
su-medhas 形 よい理解力をもつ, 知能の高い, 賢い (業 また *sumedhām*, RV.); 智者, 開智人 *A-bh-vy.*
su-medhā 女 妙慧 *Śikṣ.*
su-meru 男 [ある山の名 (=Meru)]; [ある妖精の名];

妙高 *Mvyut.*, *Vajr-pr.*; 妙高山 *Abh-vy.*, *Suv-pr.*, 玄応.; 妙光山 玄応.; 音写 頂弥 *Bodh-c.*, *Mvyut.*, *Vajr-pr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, 玄応.; 須弥盧 *Mvyut.*, *Śikṣ.*; 須弥楼 玄応.; 蘇迷盧 *Abh-vy.*, *Vajr-pr.*; (音写) 頂弥山 *Ratna-ut.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*; 須弥婁山 *Abh-vy.*
sumeru-kalpa 男 山崗 *Saddh-p.*; 妙高劫 *Su-kh-vy. I.*; (音写) 如須弥山 *Gaṇḍ-vy.*, *Sukh-vy. II.*; 須弥頂 *Saddh-p.*; 須弥劫 *Sukh-vy. I.*
sumeru-kūṭa 男, 圃 (音写) 須弥山 *Saddh-p.*
sumeru-tala 圃 (音写) 須弥山頂 *Gaṇḍ-vy.*
sumeru-parvata-rāja 男 (音写) 須弥山, 須弥山 *Mvyut.*: ~ *vadakampyacitta* 心不動如須弥, 不動須弥 *Mvyut. 30.*
sumeru-mātra 形 如妙高山 *Śikṣ.*; (音写) 如須弥山 *Lank.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; 如須弥, 量等須弥, 量若須弥, 高須弥山 *Śikṣ.*; 如大須弥 *Saddh-p.*
sumeru-mūrdha 男 (音写) 須弥頂 *Gaṇḍ-vy.*
sumeru-vatsa 子妙高 *Mvyut.*
sumeru-śṛṅga 須弥頂, 須弥…頂上 *Lank.*
su-mna 形 [*Mnā=Man*] 気立てのよい, 親切な(因). 圃 (因) 慈悲心, 親切, 恩恵; 帰依, 祈禱; 満足, 喜び, 平静。
sumnayu 因 敬虔な, 信仰心ある; 好意的な。
sumnāyu 因 = *sumnayu.*
sumnā-vari 女 慈悲深い, 喜びをもたらす(暁, RV., 用例一回のみ).
Sumbh, → *Subh.*
sumbha 害美, 妙言 *Mvyut.*
sumuni 男 [ある王の名].
su-yajña 形 よくまたは首尾よく祭式を行なう (RV.). 男 [人名].
su-yata 形 よく調御された(馬, RV.).
su-yantrita 形 固く縛られた; 堅牢 *Lal-v.*
suyantritatva 圃 [同上の 圃].
su-yama 因 導きやすい(馬); 秩序正しく保ちやすい, よく統制された。
su-yavasa 形 (RV.) 牧草の豊富な. 圃 (RV.) よい牧場。
su-yavasin 形 よい牧場をもつ (RV.).
su-yaśas 形 非常に名高い。
su-yaṣṭr 男 妙作供施 *Mvyut.*
su-yāma 男 音写 夜摩 *Raṣṭr.*; 須夜摩 *Gaṇḍ-vy.*, *Raṣṭr.*, 玄応.; 蘇夜摩, 作焰摩 *Bodh-bh.*; 処夜摩 *Raṣṭr.*; (音写) 焰天王 *Lal-v.*; 夜摩天, 炎摩(天) *Gaṇḍ-vy.*; 蘇焰摩天 *Sukh-vy. I.*
suyāma-devaputra 男 妙善, 切利天子 *Mvyut.*; (音写) 焰摩天子, 焰魔天子 *Mvyut.*
su-yukta 形 注意深い; 非常に適切な, まったくよく似合う; 非常な吉兆の; 勤 *Sūtr.*
suyukta-rūpa 順方 *Saddh-p.*
su-yukti 因 よい論議。
su-yuj 形 よく結びつけられた(因).
su-yuddha 圃 よいまたは活気ある戦闘。
su-yoga 善寂 *Sūtr.*
su-yojita 形 よく調製された(料理).

su-yodhana 男 [Dhṛtarāṣṭra の長男の名].
 suyya 男 [人名].
 suyyā 因 [Suyya の養母の名].
 suyyā-kunḍala 因 [ある村の名].
 suyyā-setu 男 [ある築堤の名].
 sura 男 神; 天 Lank., Mvyut., Rāṣṭr., 梵雜.; 天衆 Lank.
 sura-kanyā 女 天女 Daś-bh.
 sura-karin 男 神の象.
 sura-kāmini 因 神の女, Apsaras.
 surakāmini-jana 男 種 Apsaras 群.
 sura-kārmuka 因 神々の弓, 虹.
 sura-kārya 因 神々の義務.
 sura-kula 因 神の家, 神堂.
 sura-kṛta 因 神々によってなされた.
 su-rakta 因 深紅色の, 非常に感動した; 非常に魅力ある; 紅 Lal-v., Saddh-p.
 surakta-sīrṣa 因 妙首紅光 Lal-v.
 suraktākotita 因 如法染, 有正色者 Lank.
 su-rakṣita 因 よく守護された. 男 [人名]; 所敬 Saddh-p.; 守護 Śikṣ.
 su-rakṣin 男 よいまたは信頼できる保護者.
 sura-gaja 男 神々の象.
 sura-gaṇa 男 神々の群.
 sura-garbha 男 神の子; 天童 Buddh-c.
 sura-gāyaka 男 神々の歌い手, Gandharva.
 sura-giri 男 神々の山, Meru 山.
 sura-guru 男 神々の教師, Bṛhaspati 神; 木星.
 suraguru-divasa 男 木曜日.
 sura-gṛha 因 神の家, 神堂.
 su-raṅga 男 オレンジの木; 地下通路, 鉞坑.
 suraṅga-dhūli 因 オレンジの木の花粉.
 sura-cāpa 男, 因 虹.
 su-racita 因 結成 Divy.
 su-rañjita 因 よく着色された.
 su-raṇa 因 うれしい (RV.). 因 喜び (RV.).
 su-rata (過受分) 因 大きな喜び; 性的享樂; 喜勝 Mvyut.; 調伏 Sam-r.
 surata-kriḍā 因 愛欲的遊戯.
 surata-glāni 因 性的享樂による疲労.
 surata-pradipa 男 性的享樂の間ともしておく灯火.
 surata-prabhā 因 [人名].
 surata-prasaṅga 男 性的快樂への耽溺.
 surata-priyā 因 [人名].
 surata-mañjari 因 [妖精 Matamgadeva の娘の名 および Kathāsaritsāgara 第16 Lambaka の(彼女の名をとって名づけられた) 標題].
 sura-taraṅgiṇi 因 神々の河, Gaṅgā 河.
 surata-raṅgin 因 (因 -ini) 性的享樂を好む.
 surata-rasa 男 性的快樂の味, 情熱, 肉欲.
 sura-taru 男 神々の木, Kalpataru.
 surata-vāra-rātri 因 性的享樂に適している夜.
 surata-viśeṣa 男 性交の種類.
 surata-sambhoga 男 性的享樂.
 su-ratna 因 立派な宝物を所有する (RV.); 妙宝 Sūtr.

su-ratha 因 良い戦車をもつ (馬についてもいう); 良い戦車よりなる (富). 男 [種々な王子の名].
 suratha-deva 男 [ある使者の名].
 surathādhirūḍha 因 良い戦車に乗った.
 sura-dāra 男 種 Apsaras たち.
 sura-dāru 因 木 (=devadāru).
 sura-devatā 因 女神.
 sura-druma 男 =surataru.
 sura-dvipa 男 神々の象.
 sura-dviṣ 男 神々の仇敵, 悪魔; (とくに) Rahu (について).
 sura-dhanus 因 神々の弓, 虹.
 sura-nadi 因 神々の河, [Gaṅgā 河の名稱].
 sura-nāyaka 男 神々の指導者, (とくに) Indra 神 (について).
 sura-nimnagā 因 =suranadi.
 sura-pati 男 神々の首長, [Indra 神の名稱].
 surapati-tanaya 男 [Arjuna の名稱].
 surapatitva 因 神々の宗主権.
 surapati-dhanus 因 Indra 神の弓, 虹.
 surapati-sūnu 男 =surapatitanaya.
 sura-patha 男 神々の路 (天空の一部分).
 sura-pāṃsulā 因 Apsaras.
 surapāṃsulā-jana 男 Apsaras 群.
 sura-pādapa 男 =surataru.
 sura-pura 因 神々の城市, [Amarāvati の称].
 sura-purodhas 男 神々の司祭官 =Bṛhaspati.
 sura-puṣpa 因 天界の花.
 surapuṣpa-vṛṣṭi 因 天界の花の雨.
 sura-pratiṣṭhā 因 神像の建立.
 sura-priya 因 神々に愛されている. 男 鳥 (の一種); [Indra 神の名稱].
 sura-priyā 因 ある Apsaras.
 surā-bandhu 男 天女 Daś-bh.
 surabhaya, 名動 他 薫らせる; 有名にする. 過受分 surabhita, 芳香をつけられた, かんばしい.
 sura-bhāva 男 神である状態, 神性.
 su-rabhi 因 (因 同形; 因 では i もまた) 楽しい, 愉快な (因); 芳香ある (因, 因; 普通の意味); 評判のよい; 名声ある, 有名な (因); 妙香 Divy.; 甘美, 芬復 Lal-v.; 香馥 Mvyut. 男 (因) 春 (季節). 因 芳香ある物質, 香料 (Br., S., まれに 因).
 surabhi-kandara 男 [ある山の名].
 surabhi-keśa 因 首髪香馥 Mvyut.
 surabhi-gandha 男 快い香り.
 surabhi-gandhi 因 芳香ある.
 surabhi-gandhin 因 [同上].
 surabhi-tanaya 男 牡牛.
 surabhi-tanayā 因 牝牛.
 surabhi-dattā 因 [ある Apsaras の名].
 surabhimat 因 香料をもつ, 芳香ある.
 surabhi-māruta 因 (芳香ある微風をもつ), [ある森林の名].
 surabhi-māsa 男 春の月 (曆).
 surabhi-vatsa 男 [ある妖精の名].
 surabhi-samaya 男 春.

surabhi-srag-dhara 形 芳香ある花環を身につけた。
surā-bhi 因 神々に対する恐怖。
su-rabhi 因 [Dakṣa の娘で Kāśyapa の妻であり家畜の母である神話上の牝牛の名] (surabheḥ sutāḥ, Surabhi の子孫, 家畜); 牝牛 (まれ)。
surabhi-Kṛ, かんばしくする, 芳香で満たす; 広める (譬喩)。
surabhi-gotra 因 種 牛類, 牝牛と牡牛。
surā-bhūya 因 神として祭ること。
surā-mandira 因 神の住家, 神堂。
surā-muni 男 神である聖賢: 種 [大熊座の七星]。
su-ramya 形 非常に魅力的な; 最勝 Raṣṭr.
surā-yuvati 因 天界の少女, Apsaras.
surā-yoṣit 因 [同上]。
surā-rāja 男 神々の王, [Indra 神の名称]。
surarājatā 因 Indra 神の位。
surarāja-vṛkṣa 男 Indra 神の (Parijāta) 樹。
surā-rājya 因 神々に対する支配権。
surarṣabha (°ra-ṛṣ°) 男 Śiva 神。
surarṣi (°ra-ṛṣi) 男 神的な Ṛṣi, Devarṣi: 種 神々と Ṛṣi.; 天仙 Buddh-c.
surā-loka 男 神々の世界, 天上界。
suraloka-sundari 因 Apsaras.
surā-vadhū 因 [同上]; 婬女 Lal-v.; 天女 M-vyut.
surā-vana 因 神々の森林。
surā-vara 男 神々の長, [Indra 神の名称]。
surāvara-nagara 因 Indra 神の都城。
surāvara-vanitā 因 Apsaras.
surā-varman 男 [ある王の名]。
surā-vāhini 因 天界の Gaṅgā 河。
surā-veśman 因 神の家, 神堂。
surā-śatru 男 神々の仇敵, Asura.
surā-śākhin 男 神々の木 (=kalpavṛkṣa)。
su-raśmi 男 善光明 Lal-v.
surā-śreṣṭha 男 Śiva 神; Viṣṇu 神; Indra 神。
su-rasa 形 水の豊富な; よい味の; 魅力ある。男, -ā 因 ある植物 (めぼうき)。
surā-sakha 男 神々の友, [Indra 神の名称]: 種 Gandharva 群。
surā-saṅgha 男 神々の集団。
surā-sattama 形 最上 神々の中で最良の。
surā-sadana 因 神の家, 神堂。
surā-sadman 因 神々の住居, 天界; 神堂。
surā-sarit 因 神々の河, Gaṅgā 河。
surasarit-suta 男 Gaṅgā 河の息子, Bhiṣma.
surāsa-lepa 男 めぼうきによって塗ること。
surā-sindhu 因 神々の河, Gaṅgā 河。
surā-suta 男 神の息子。
surasutopama (°ta-up°) 形 神々の息子たちに似ている。
surā-sundari 因 天界の美女, Apsaras.
surasundari-jana 男 種 Apsaras 群。
surā-senā 因 神々の軍勢; [人名]。
surā-stri 因 天界の婦人, Apsaras.
surā-sthāna 因 寺院。

surā-srotasvini 因 Gaṅgā 河。
surā 因 [Su 1.] 蒸溜酒; 酒 梵千., 梵維.; 穀酒 Mvyut., Prāt-m.; 米酒 Śikṣ., 玄心.; (音写) 宰羅 Abh-vy., Bodh-bh.; 宰羅酒 Prāt-m.
surā-ghaṭa 男 (酒を入れる) 小瓶。
surāṅganā 因 天界の美少女, Apsaras.
su-rājan 男 良い王。
surājam-bhava 因 王たることの可能性。
surā-jivin 男 (酒で生きる), 居酒屋の主人または蒸溜酒製造業者。
surādri 男 神々の山, Meru 山。
surā-dhara 男 [ある Asura の名]。
su-rādhas 因 形 よい贈物を与える, 物惜しみしない; よい贈物を受ける, 裕福な。
surādhipa 男 神々の首長, [Indra 神の名称]。
surādhiśa 男 [同上]。
surā-dhvaja 男 居酒屋の標幟。
surānaka (°ra-ān°) 男 神々の太鼓。
surā-pa 形 (因 -ā, -i) 蒸溜酒を飲む。
surāpagā 因 神々の河, Gaṅgā 河。
surā-pāna 因 蒸溜酒を飲むこと。形 (因) 蒸溜酒を飲む。
surā-pāna 因 =surāpāna。
surā-pitha 男 蒸溜酒を飲むこと。
surā-bhājana 因 酒の杯。
surā-matta 形 Surā 酒で酔った。
surā-mūlya 因 飲みしろ, チップ。
surā-maireya-madyapāna 因 飲酒, 飲大米酒 Mvyut.
surāyudha (°ra-āy°) 因 神々の飛び道具。
surāri 男 神々の敵, Asura または Rakṣasa。
surālaya 1. (°ra-āl°) 男 神々の住居, 天界; 神の家, 神殿; 天上 Divy.; 諸天種 Lanik.; (音写) 阿脩羅 Lanik.
surālaya 2. (°rā-āl°) 男 居酒屋。
surāvāsa (°ra-āv°) 男 神々の住居, [ある神殿の名]。
surāśraya (°ra-ās°) 男 神の遊楽所, Meru 山。
su-rāṣṭra 形 美しい国土をもつ (因)。男 (因) [ある地方の名, Surat (Gujarat の一部)]: 種 Surat の人々。
surāsava (°rā-ās°) 男, 因 蒸溜酒。
surāsura 男 種 諸神と諸 Asura。
surāsura-vimarda 男 神々と Asura との格闘。
surāspada (°ra-ās°) 因 神の住居, 神殿。
suriya =sūrya; 日 Sam-r.
suri 因 女神。
suruṅgā 因 地下通路, 鉦山。
su-ruc 因 明るさ (因)。形 明るい, かがやく (因)。
su-rucira 形 非常に明るいまたは美しい; 妙 Sam-r.; 晃耀 Śikṣ.; 善淨 Suv-pr.
su-rūpa 形 美しい容姿をもつ, 美しい。
surūpatā 因 美しいこと。
surūpā 因 [ある蛇神の娘の名]。
su-rekha 形 美しい線または輪郭をもつ。
surekhā 因 [人名]; 美しい線またはわだち。
su-reṇu 因 妙商, 妙塵 Mvyut.

sureṇu-puṣpa-dhvaja 男 塵妙花幢, 花妙幢 *Mvyut.*
 su-retas 形 (因) 偉大な産出力をもつ。
 surendra (°ra-in°) 男 神々の首長, [Indra 神の名称]; [ある王の名].
 surendra-kāya 天主帝釈天 *Ratna-ut.*
 surendratā 因 神々の首長であること。
 surendra-loka 男 *Indra* 神の世界。
 surendravatī 因 [ある 王女の名].
 surendrābhā (°ra-ābhā) 因 天主光 *Gaṇḍ-vy.*
 surebha (°ra-ibha) 男 *Indra* 神または神々の象。
 sureśa (°ra-iśa) 男 神々の首長; [Indra 神, *Viṣṇu* 神および *Śiva* 神の名称].
 sureśī 因 [*Durgā* 女神の名称].
 sureśvara (°ra-iś°) 男 神々の首長; [Indra 神の名称]; [人名].
 sureśvara-dhanus 因 *Indra* 神の弓, 虹。
 sureśvara-prabha 男 天自在光 *Suv-pr.*
 sureśvari 因 [*Durgā* 女神の名称].
 sureśvari-kṣetra 因 [*Durgā* 女神にささげられたある 地方の名].
 surottama (°ra-ut°) 男 神々の首長。
 su-roṣa 形 非常に怒った。
 su-roṣaṇa 男 [ある 戦士の名].
 su-roha 男 [ある 王子の名].
 suraukas (°ra-ok°) 因 神々の住居, 神殿。
 su-lakkana 男 [人名].
 su-lakṣaṇa 形 吉兆のしるしのある。
 sulakṣaṇatva 因 [同上の 因].
 su-lakṣaṇā 因 [人名].
 su-lakṣita 形 注意深く調べられた; 莊嚴 *Bodh-bh.*
 su-lagna 形 (因) に執着する。男 (?) (占星学的に) 縁起のよい時。
 su-lapita 形 善言 *Bodh-bh.*; 善説法 *Sūtr.*
 su-labdha 形 善得 *Gaṇḍ-vy.*, *Suv-pr.*; 善利 *Lal-v.*; 大利, 大善利 *Daś-bh.*; 得大利益 *Gaṇḍ-vy.*
 su-labha 形 獲得または発見しやすい; (一°) に接近しやすい; 安価な; (一°) に適した・適合した・適当な・ふさわしい・似合うまたは固有な; 可得 *Bodh-bh.*; 易得, 有余 *Mvyut.*; 善得, 妙吉祥 *Gaṇḍ-vy.*
 sulabha-kopa 形 怒りっぽい。
 sulabhatva 因 頻繁, 安価。
 sulabha-buddhatva 因 易成, 諸仏易見 *Lank.*
 sulabha-rūpa 形 侍使易生 *Lank.*
 sulabhāvakāśa 形 (因) に近づきやすいまたは容易に反映した(像).
 sulabhā 因 [人名].
 sulabhetara (°bha-it°) 形 (sulabha の反対の=) 得やすくない。
 su-lalita 形 非常に美味な(肉); 非常に魅力的なまたは愛らしい。~m 喜んで, たやすく。
 sulalita-latā-pallavamaya 形 (因-i) 美しい蔓植物の若芽からなる。

su-lābha 易求 *Sūtr.*
 su-lekha 文字 *Sūtr.*
 su-locana 形 美しい眼をした; 善眼, 善明 *Lal-v.*
 sulocanā 因 [ある *Yakṣiṇī* の名]; [人名].
 su-lola 形 (一°) を熱望している。
 sullā-vihāra 男 [ある 僧院の名].
 sulhari 因 [ある 場所の名].
 su-vacana 因 雄弁; 善言, 善語 *Śikṣ.*
 su-vacas 善語, 善言 *Kāśy.*; 教意 *Mvyut.*; 述 *Śikṣ.*
 su-vajra 形 よい雷電をもつ (RV.).
 su-vadana 形 美しい顔をした。
 su-vadanā 因 美しい女性; [人名].
 su-varcalā 因 芸香(?) *Ruta Graveolens*; [*Sūrya* 神の妻の名]; [*Śiva* 神等の妻の名].
 su-varcas 形 生氣に満ちた, 活力のある, 熱烈なまっ盛りの; 輝かしい。
 su-varcasa 形 (因) [同上]; 名高い。
 su-varṇa 形 因, 因: 美しい色彩をもつ, 輝かしい, ぴかぴか光る, 金色に輝く; 金でできた(まれ); よい階級に属する(叙述, まれ)。因 (因, 因) 黄金; 富金 *Abh-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Ratna-ut Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, *Sukh-vy. II.*, *Sūtr.*, 梵雑梵千.; 好 *Saddh-p.*; 美 *Śikṣ.*; 金色 *Mvyut.*; 黄金 *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*; 真金 *Mvyut.*, *Ratna-ut* 好色 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, 梵雑.; 妙色 *Mvyut.*; 好 *Mvyut.*; 鮮色 *Saddh-p.*: ~m adhimucya 欲令(木)為金 *Sūtr. 4.* 男 (まれに因) ある金の重(1 Karṣa の金 = 16 Māṣa = 80 Raktikā). 男 [名].
 suvarṇa-kakṣya 形 金の帯をもつ。
 suvarṇa-kaṅkaṇa 因 金の腕輪。
 suvarṇa-kaṭaka 因 [同上].
 suvarṇa-karṭṭr 男 金細工人。
 suvarṇa-kāra 男 [同上]; 金師 *Bodh-bh.*; 工匠 *Mvyut.*; 金銀師 *Madhy-bh.*
 suvarṇa-keśa 男 金色明, 金色髪 *Mvyut.*
 suvarṇa-koṭī 因 10,000,000 (小片) の金。
 suvarṇa-garbha 男 金蔵 *Mvyut.*, *Sukh-vy. Suv-pr.*
 suvarṇa-gotra 因 金性, 種性金譬 *Sūtr.*
 suvarṇa-granthī 男 金を入れる財布。
 suvarṇa-ghaṅṭā 因 金鈴 *Gaṇḍ-vy.*
 suvarṇa-cūla 男 [ある 種の鳥].
 suvarṇa-caurikā 因 金盗人。
 suvarṇa-jambu-dhvaja-kāñcanābha (°na-ābha) 金幢光 *Suv-pr.*; (音写) 閻浮檀金幢光照 *Suv-pr.*
 suvarṇa-jina-dhātu 男 (音写) 金安闍那性 *Lal.*
 suvarṇa-tantu 男 金線, 針与線 *Lank.*
 suvarṇa-tāla 男 金の棕櫚。
 suvarṇa-dāna 因 金の贈物。
 suvarṇa-dāman 男 金繩 *Mvyut.*
 suvarṇa-dṛṣṭānta 真金, 真金譬喩 *Ratna-ut*
 suvarṇa-drava 男 泥金 *Mvyut.*

suvarṇa-śrīpa 男 三金の島, (おそらく) *Sumatra*
suvarṇa-śrīpa 金樹 *Ratna-ut.*
suvarṇa-pattra 男 [ある種の鳥].
suvarṇa-pārsva 男 [ある場所の名].
suvarṇa-pājara 男 白のように黄色い.
suvarṇa-paspa 男 花として金をもつ(地). 田 金
 花 *Ast-pr.*
suvarṇa-paspita 男 [同上].
suvarṇa-pyṣṭha 男 金箔を張った.
suvarṇa-prabhāsa 男 金光, 金光明 *Suv-pr.*
suvarṇa-prabhāsā 男 金光 *Lal-v.*
suvarṇa-prabhāsita 男 金照, 金光明 *Suv-pr.*
suvarṇa-prabhāsottama (°sa-ut°) 男 金光, 金光明
Suv-pr.
suvarṇa-prabhāsottama-dundubha 男 大金鼓, 金
 光手鼓 *Suv-pr.*
suvarṇa-prabhāsottama-sūtra 田 金光明経 *Mv-*
yu. Śikṣ.; 合部金光明経, 金光明最勝王経 *Śikṣ.*
suvarṇa-prabhāsottamasūtrendra-rāja (°ra-in°) 男
 金光最勝王経, 金光明最勝経帝王 *Suv-pr.*
suvarṇa-bindu 男 [ある寺院の名].
suvarṇa-bimba 男 (または 田) 金像 *Saddh-p.*
suvarṇa-bhājana 男 金器 *Ratna-ut.*
suvarṇa-bhāṇḍa 田 宝石箱; 金椀, 金器 *Suv-*
pr.
suvarṇa-bhāva 男 金, 金性, 金体 *Lank.*
suvarṇa-bhāsa 男 = *suvarṇa-prabhāsottamasūtra*;
 最勝金光明経 *Śikṣ.*
suvarṇa-bhujendra 男 金竜王, 金竜尊 *Suv-pr.*
suvarṇa-bheri 男 金鼓 *Divy.*
suvarṇa-maṇi-mukta-ja 男 金銀摩尼等, 金摩
 尼珠性, 金摩尼真珠 *Lank.*
suvarṇamaṇi-mukti-ja 男 金摩尼珠, 金銀諸珍
 宝 *Lank.*
suvarṇa-maṇḍapa 男, 田 金殿 *Divy.*
suvarṇamaya 男 (因 -i) 金からなる; 金 *Lal-v.*
suvarṇa-roman 男 (金色の羊毛でおおわれた), 雄羊.
suvarṇa-lakṣa 田 100,000 (小片)の金.
suvarṇa-lekhā 男 (試金石上の)金のすじ.
suvarṇavat 1. 男 あたかも金のように.
suvarṇavat 2. 男 金を含むまたはもつ, 豊かな.
suvarṇavat-suparyavadāta-citta 男 心如浄金, 心
 浄如真金 *Mvyut.*
suvarṇavati 男 [*Dakṣiṇā-patha* のある町の名].
suvarṇa-varṇa 男 金色 *Saddh-p.*; 紫金色 *Sam-r.*
suvarṇavarṇa-cchavi 男 金色皮 *Ratna-ut.*; 皮
 膚金色, 身真金色, 身如真金 *Gand-vy.*
suvarṇavarṇa-dhvaja 男 金幢, 金色幢 *Suv-*
pr.
suvarṇa-vastrādi (°ra-ād°) 田 貨幣と衣服など.
suvarṇa-siras 男 金製の頭をもつ.
suvarṇa-sinūra 男 [ある場所の名].
suvarṇa-siddha 男 金の魔術的取得法)の熟練者.
suvarṇa-sūtra 男 金線 *Mvyut.*; 金繩 *Saddh-p.*
suvarṇa-seya 男 金の空み.

suvarṇākhyā (°ṇa-ākh°) 男 *Suvarṇa* と呼ばれる.
suvarṇābha (°ṇa-ābha) 男 見金, 謂金 *Lank.*
suvarṇi-BHū, 金になる.
su-varṭita 男 よく作りあげられた; よく整えられた.
suvarṭitoru (°ta-ūru) 男 腿美円相, 足跟円好相
Mvyut.
su-varṣa 男 よい雨. 男 都合よく雨の降る.
su-vasanta 男 よい春.
suvasantaka 男 初春 *Lal-v.*
su-vastu-sampad 男 豊かな財産をもつ.
su-vastra 男 美しく装った. 田 美しい衣服: ~ā
svalamkṛtā 衆宝莊嚴, 上妙宝衣以為嚴飾, 上妙宝
 衣以為莊嚴 *Gand-vy. 881.*
su-vākya 男 雄弁な.
su-vāc 男 [同上] (因): ~k-karaṇa 善説 *Sutr. 165.*
suvāna 男 現分 → *Su 1.*
su-vānta 男 (吸った血を)まったく吐き出してしまっ
 た(蛙).
su-vāladhi 男 美しい尾をもつ(牝牛).
su-vāsa-kumāra 男 [*Kaśyapa* のある息子の名].
suvāsakumāraka 男 [同上].
su-vāsas 男 美しく着飾った, 飾られた.
su-vāsita 男 芳香ある.
su-vāsini 女 (既婚または未婚の)まだ父親の家に住ん
 でいる(未成人の)少女.
suvāstu 女 [ある河川の名, 現在の *Suwad* 川].
su-vāha 男 持ちやすい; 美しい馬をもつ; 美しい腕
 をもつ.
su-vikrama 男 勇猛, 剛勇.
su-vikrānta 男 大胆な, 勇敢な, 剛勇な. 田 大胆な
 または勇敢な行為.
suvikrānta-vikrāmin 男 勇猛(善)降伏経 *Mvyut.*
su-viklava 男 小胆な.
su-viguṇa 男 利点のない.
su-vigraha 男 美しい身体または外見をもつ. 男 [ある
 使者の名].
su-vicakṣaṇa 男 非常に明敏なまたは賢い.
su-vicārita 男 十分に熟考された; 妙弁 *Nyāy-*
pr.; 善観, 善観察 *Bodh-bh.*; 善思察, 善思量, 善
 分別 *Daś-bh.*
su-vicita 男 よく探求された.
su-vicitta 男 善解, 善能知, 善能通達 *Daś-bh.*
su-vicintita 男 (因)によってよく考え出された; 善
 択 *Bodh-bh.*
su-vijña 男 極智 *Sutr.*
su-vijñāna 男 識別しやすい (RV. 用例一回のみ); 非常
 に明敏な.
su-vijñāpaka 男 善学, 受教易, 易可化度 *Saddh-*
p.
su-vijñeya 男 識別しやすい.
su-viṭata 男 よく張られた(網).
su-vita 男 [su+ita] 進みよい(道), 首尾よくゆく
 (RV.). 田 (因)よい道, 都合のよい道, 福利, 繁栄,
 幸運.
su-vitta 男 十分な財産をもつ, 富んだ.
su-vidagdha 男 非常にぬけめのない.

su-vidatra 形 恩恵に富む、慈しみ深い、好意ある。
 田 慈悲心、好意(因)。
 su-vidatriya 形 [同上] (RV. 用例一回のみ)。
 su-vidita 形 よく知られた；了知、善分別 Śikṣ.
 su-vidirṇa 田 大殺戮。
 su-vidūra 形 極遠 Sutr.
 su-vidya 形 有明 Mañj-m.
 su-vidyā 因 よい知識。
 suvidyu 形 犁、雷、電光 Saddh-p.
 su-vidha 形 よい種類の。
 su-vidhāna 田 よい順序または配列。~tas 圃 正当に。
 su-vidhi 圃 適切な方法。~yā 圃 適切に。
 suvidhi-carāṇa 形 善方便 Sutr.
 suvidhi-jñā 形 能知 Lal-v.；善知 Ratna-ut.
 su-vinaṣṭa 形 完全に消滅した；尽きた。
 su-vinibaddha 形 使縛、深入計著、相撃深縛 Lank.
 su-viniścaya 圃 固い決心。
 su-viniścita 形 善決定 Bodh-bh.；決定已 Sutr.
 suviniścītārtha 形 了義諸義趣 Saddh-p.
 su-vinīta 形 よく訓練された(馬)；よい生まれの；
 善調 Sutr.；良善、善柔、柔善、極柔善 Mvyut.；
 善能教化調伏 Ratna-ut.
 suvinitatva 田 善能調伏、善能教化調伏 Ratna-ut.
 su-vineya 形 善順、善化、受教易、受化易、受律行、
 易可化度 Saddh-p.
 su-vipula 形 非常に偉大な、豊富ななど；諸 Śikṣ.；
 極広 Sutr.
 suvipula-karuṇā-megha-garbha 形 慈悲雲 Ratna-ut.
 suvipula-jñāna 形 廣大智 Ratna-ut.
 suvipula-guṇa-bodhi-vṛkṣa-vṛddhi 形 (音写) 増長菩提樹 Sutr.
 su-vipra 形 靈感に満ちた (RV. 用例一回のみ)。
 su-vibhakta 形 よく分配された、よく釣合いのとれた；
 よく飾られた；均平、好生分調 Mvyut.；~samāṅgapratyaṅgaśarīra 不長不短不龜不細、
 不長不短不白不黒身分具足 Gand-vy. 554.；sarvajagajñāna ~
 分別一切衆生、善分別諸衆生智、善巧分別諸衆生智 Gand-vy. 387.；
 sarvadharmadhātu ~śarīra 其身普詣一切道場尽於法界、
 其身普現一切道場尽于法界 Gand-vy. 388.；sarvabuddhakṣetra ~
 śarīra 具足淨身、分身遍往一切刹海、能善分身遍一切刹 Gand-vy. 215.；
 sarvalokadhātu ~kāya 分形遍往十方国土、分形遍往十方刹海、
 於一切世間現淨慧身 Gand-vy. 297.；~cittaprajñā 善契諸心智慧、
 善分別知心心智慧 Lank. 255.
 suvibhaktāṅga-pratyāṅga 形 支節均平、骨節如鈎鎖 Mvyut.
 su-vibhāga 形 善分別、善解知 Lank.
 su-vibhiṣaṇa 形 まったく恐しい。
 su-vimala 形 非常に澄んだまたは純粹な；離垢甚奇妙 Saddh-p.；
 善光明 Ratna-ut.
 su-vimukta-citta 形 心善解脱 Ast-pr.；心解脱者 Madhy-v.；
 心得解脱 Mvyut.

suvimukta-prajñā 形 慧善解脱 Ast-pr.；慧解脱者 Madhy-v.；
 慧得解脱、正智解脱 Mvyut.
 su-vimokṣa 形 善脱 Sutr.
 su-virūḍha 形 (Ruh) 完全に発達した。
 su-vivartoru (°ta-uru) 形 脾臟長 Lal-v.
 su-vivikta 形 非常に孤独な；よく決定された(問題)。
 su-viśada 形 非常に明白なまたは明瞭な。
 su-viśāla 形 非常に広大な。圃 [ある Asura の名]。
 su-viśuddha 形 完全に純粹な；妙 Divy.；寂靜、清淨 Ratna-ut.；
 極淨 Abh-vy.、Sutr.；善淨 Ratna-ut.、Saddh-p.；快淨、
 極清淨、最極清淨 Bodh-bh.；最清淨 Abh-vy.
 suviśuddha-cakṣus 形 極淨眼 Bodh-bh.
 suviśuddha-jñāna 田 善淨智、快淨智、善淨智慧 Bodh-bh.
 suviśuddha-darśana 田 極淨眼 Sutr.
 suviśuddha-dharma-dhātu 形 寂靜法界 Ratna-ut.
 suviśuddha-buddhi 形 胸意妙好、胸意明清 Mvyut.
 suviśuddha-śīla 形 戒淨(菩薩) Sutr.
 suviśuddhāgamopadeśa-lakṣaṇa (°dha-āg°, °ma-up°) 田 清淨教旨分別指示相 Mvyut.
 suviśuddhāvasthā 因 善淨時 Ratna-ut.
 su-viśrabdha 形 よく信用している、気がかりのない。
 su-viśvasta 形 確信に満ちた、まったく気がかりのない。
 su-vistara 圃 大きな範囲；非常に普及していること。~āt 圃 全く十分に、
 大いに詳細に。~m Yā. (財宝が)満たされる。形 非常に広いまたは大きな；
 非常に偉大な・強いまたは密接な等。~m 圃 大いに詳細に；
 非常にはげしく。
 su-vistirṇa 形 非常に広大なまたは偉大な。~m 圃 非常に詳細な方法で。
 su-viṣṭṛta 形 ~m sulakṣitam 極好緻好、好織緻広 Prāt-m. 4.
 su-vismaya 形 大いに意外に思うまたは驚く。
 su-vismita 形 [同上]。
 su-vihita 形 よく成し遂げられたまたは完遂された；(圃)を十分に備えている；
 善、善立 Abh-vy.
 su-vihvala 形 非常に疲れた・動揺したまたは心痛している。
 su-vithi-patha 圃 (宮殿への特別の)入口。
 su-vira 形 非常に力の強い、雄々しい；
 従者または英雄をもつ、を多数もつまたはに存する。圃 英雄(因)。
 su-vīrya 圃 男らしい活力、勇壯(因、きわめてまれに)；
 英雄的行為；多数の勇者、多数の英雄(因)。形 (圃)非常に効力のある(薬草)。
 su-vṛkti 因 すぐれた称賛、讚歌 (RV.)。形 みごとにほめたたえる (RV.)；
 称賛に値する(因)。
 su-vṛkṣa 圃 すばらしい木。
 su-vṛjana 形 よい(祭祀の)団居をもつ(部族)(RV. 用例一回のみ)。
 su-vṛt 因 形 よく(回転する=)走る(車)。
 su-vṛtta 形 十分に円形をなした；品行のよい、有徳の(とくに女性について；
 普通の意味)；みごとな韻律で作詩された。田 よい行動；圃 円厚 Lal-v.

suvṛttatā 因 円形および善行。
 suvṛttā 因 [人名]。
 su-vṛddha 形 非常に古い(家族)。
 su-vṛdh 形 よく繁栄する, よく成長した (RV.)。
 su-vṛṣṭi 形 好雨, 善禱雨者 *Mvyut.*
 su-vega 形 非常に速く走る・動くまたは飛ぶ; 力勝 *Mvyut.*
 su-veṇa 因 [人名]。
 su-veda 形 見出したまたは得やすい(因); *Veda* に通曉した(因)。
 su-vema 形 よい織機をもつ。
 su-veṣa 形 美しく装ったまたは飾った。
 suveṣavat 形 [同上]。
 su-vaīdya 因 大医 *Divy.*
 su-vaineya 形 易度, 順(法)律 *Saddh-p.*
 su-vyakta 形 非常に澄んだまたは明かるい; まったく明かな。~m 副 まったく明らかに, 明白に; 定 *Lal-v.*
 su-vyañjana 形 語善 *Divy.*; 言巧妙 *Lal-v.*; 語巧妙 *Saddh-p.*; 妙言辞, 字言妙 *Mvyut.*
 su-vyavastha 形 善成 *Sūtr.*
 su-vyavasthita 形 安住 *Gand-vy.*; 善住 *Sikṣ.*
 su-vyasta 形 完全に潰走させられた(軍隊)。
 su-vyākhyāta 形 妙演説 *Mvyut.*
 su-vyāhṛta (過受分) 因 よい言葉。
 su-vrata 形 よい掟をもつ(因); (自己の)義務をよく完遂する, 非常に徳行のある(因: しばしば 因): 静かな, 温和な(動物について; 因, まれ); 随順, 持戒, 善防護 *Sam-r.* 因 [人名]。
 suvrata-svara 因 懃息音 *Mvyut.*
 su-śamsa 形 (RV.) よく祝福を与える(神); よく称讃する, 祝福を述べる(人々)。
 su-śakuna 因 吉兆。
 su-śakti 因 たやすい事 (RV. 用例一回のみ)。
 su-śamī 因 注意深く, 勤勉に(因)。
 su-śaraṇa 形 安全な避難所を与える (RV.)。
 su-śarman 形 [同上] (因); 非常に快い(因) 因 [しばしば人名]。
 su-śasta 形 よく暗誦された (Br.)。
 su-śasti 因 よい讃歌(因) 形 称賛に値する (RV.)。
 su-śānta 形 非常に静穏な(水)。
 su-śāsita 形 よく制御された, よく訓練された(妻)。
 su-śikṣita 形 十分に教養または訓練を積んだ; 善覚 *Lank.*; 善学 *Saddh-p.*; 善閑, 学已精熟 *Aṣṭ-pr.*; 善修学 *Sikṣ.*
 su-śikha 形 明かるい火焰をもつ(灯火)。
 su-śithili-Kṛ, 大いに弛める。
 su-śipra 形 美しい髻をもつ (RV.)。
 su-śiśvi 形 [Sū: → śiśu] (すでに胎内で) よく育つ (RV. 用例一回のみ)。
 su-śiṣṭi 因 すぐれた助言 (RV. 用例一回のみ)。
 su-śiṣya 因 よい生徒。
 su-śighra, °- または -m 副 非常に速く。
 su-śita 形 非常に涼しいまたは寒冷な。
 su-śitala 形 [同上]; 涼 *Suv-pr.*
 su-śima 形 [Śi] もたれかかるのに快い (Br., まれ)。

suśima-kāma 形 (根深い愛情をもつ), 深く愛している。
 su-śila 因 よい性質。形 よい性質をもつ, 気立てのよい。因 [人名]。
 suśila-guṇavat 形 よい性質と(他の)よい資質をもつ。
 suśilatā 因 よい性質。
 suśilavat 形 よい性質をもつ。
 su-śukla-danta 形 齒白浄 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 齒鮮白, 齒色白 *Bodh-bh.*; 齒牙白浄, 齒白浄(相) *Mvyut.*: ~tā 齒鮮白, 白齒相, 齒白浄相 *Bodh-bh.* 380。
 su-śuddha 形 善浄, 快浄, 善清浄 *Bodh-bh.*
 su-śubha 形 非常に美しい(腕); 非常にめでたい(日); 非常に気高い(行為)。
 su-śeva 形 非常に親切な, 情愛のこもった, やさしいまたは親しい(因); 非常に繁栄する(路; Br.)。
 su-śoka 形 明かるく輝く (RV. 用例一回のみ)。
 su-śodhaka 形 清浄 *Saddh-p.*
 su-śodhita 形 巖端 *Kāśy.*; 好生掃, 好生打掃 塵 *Mvyut.*
 su-śodhitavya 形 : svagrham ~m 浄治一室, 応浄掃麗 *Suv-pr.* 107。
 su-śobhana 形 非常にりりしいまたは美しい; 非常に傑出した; 莊嚴 *Saddh-p.*
 su-śobhita 形 次第皆美, 莊嚴次第皆美 *Mvyut.*
 su-ścandra 形 非常に輝かしい(因)。
 su-śravas 形 非常に有名な(因, P.); よくまたは快くきく(因) 因 [人名]; [ある *Nāga* の名]。
 su-śrānta 形 非常に疲労した。
 su-śri 形 輝かしい; 豊かな。
 su-śruta 形 非常に有名な (RV. 用例一回のみ); 正しく聞かれた; うれしく聞かれた。因 [有名な医学書の作者の名]; [*Paṭmodbhava* のある息子の名]; 善聴, 善聞 *Bodh-bh.*; 妙聞, 用息聽 *Mvyut.*
 su-śreṣṭhin 因 豪富長者 *Sikṣ.*
 su-śroṇi 因 美しい髻部をもつ。
 su-ślakṣṇa 形 非常に骨らかな・柔らかな または優美な。
 su-śliṣṭa 形 よく接合または結合された; よく締結された, 非常に親密な 同盟; 非常に確信を持った(議論)。
 suśliṣṭa-guṇa 形 よく締められた帯をもつ
 suśliṣṭaguṇatā 因 [同上の 因]。
 su-śleṣa 形 親密な抱擁をともなう, (単語が) 音調よく結合した, または śleṣa (一語二義の修辞法) を伴う。
 su-śloka 形 よい音を出す, 上手に話す等 (因, P.); 有名な (P.)。
 su-ślokya 因 名声またはよく響く言葉, 讃辞。
 Suṣ, IV. 他, 因 乾, 碎, 枯涸, 滅除 *Lal-v.*
 su-śamsad 形 よい仲間をもつ (RV.)。
 su-śakhi 形 [sakhi] よい友人をもつ, 友好的な (RV.)。
 su-śaṇa 形 [sana] 得やすい (RV. 用例一回のみ)。
 su-śaṇana 形 [同上] (RV. 用例一回のみ)。
 su-śama 形 [sama] 光輝ある, 美しい; 理解しやす

su-ṣamā 因 輝き, 美しさ.
 su-ṣamidh 因 [samidh] よい燃料 (因). 因 よく照らす (Br., S.).
 suṣi 因 溝.
 su-ṣira 因 [sirā] 中空の. 因 中空, 穴; 因 穴, 孔, 竅 Śikṣ.; 空, 孔隙 Abh-vy.; 窟穴 Lal-v.
 suṣiratā 因 空虚.
 suṣira-vivara 因 (蛇の) 穴.
 su-ṣuta 因 [suta] よく搾られたまたは調製された (Soma 酒; RV.).
 su-ṣuti 因 安産 (RV. 用例一回のみ).
 su-ṣupta 因 [supta] よく眠った. 因 深い眠り.
 su-ṣupti 因 [supti] 深い眠り.
 su-ṣupsā 希求 因 [Svap] 眠りたいと望むこと, 睡気.
 su-ṣupsu 希求 因 眠い.
 su-ṣumat 因 強烈な力をもつ (RV. 用例一回のみ).
 su-ṣumna (または °mna: RV.) 因 [sumna] 非常に慈しみ深い (因).
 su-ṣumnā 因 頸動脈.
 suṣumnā 因 [同上].
 su-ṣū 1. 因 [Sū] よく搾られたまたは非常に刺戟を与える (因).
 su-ṣū 2. 因 たやすく生む (RV. 用例一回のみ).
 su-ṣeṇa 因 よい飛び道具をもつ (因). 因 [ある Gandharva の名 (因, P.); [ある妖精 および種々な人, とくに王たちの名 (因)]; 因 勝軍 Mañj-m.
 suṣeṇā 因 [ある王女の名].
 su-ṣtuti 因 非常な称讃 (因).
 su-ṣṭhu 因 [Sṭhā] 適当に, 適切に, うまく; 非常に, はなはだしく; 因 善 Ast-pr., Mañj-m., Rāṣṭr., Sukh-vy. I., Vajr-pr.; 最 Mvyut.; 諦 Mañj-m., Rāṣṭr.; 極 Mvyut., 梵維.; 快, 慶快 Ast-pr.; 極善 Ast-pr., Mvyut.; 苦切 Saddh-p. ~khalu きわめてたしかに. ~taram いっそう多く, さらにいっそう高度に.
 suṣṭhu-dvāra 因 よい入口を与える.
 suṣvaya, 名動 [suṣvi] suṣvayanta および suṣvayanti のみ, 走る, 流れる (因).
 suṣvi 因 [Su 1.] Soma 液をしぼる (RV.).
 su-saṃyukta 因 よく釣合いのとれた; (因) を豊かに具えた.
 su-saṃyuta 因 よく制御された.
 su-saṃrabdha 因 互に固くつかまり合った (RV. 用例一回のみ); 大いに怒った, 非常に憤った (因).
 su-saṃvita 因 よくおおわれた, 完全に着衣した; よく装った; (一°) を豊富に具えた.
 su-saṃvrta 因 よくかくされた, 非常に秘密に保たれた; 注意深く自身を守る; 因 護 Sutr.; 善護 Ast-pr., Sutr.; 善護持 Ast-pr.; 正直, 善好 Prat-m.; 最要謹慎 Mvyut.
 su-saṃvṛti 因 善護 Sutr.
 su-saṃvṛtta 因 因 円満, 平満 Lal-v.
 susaṃvṛtta-skandha 因 因 肩善円満, 両肩円満, 臂肘円満, 肩円相, 臂頭円相, 臂頭円満相, 臂肘円

満相 Bodh-bh., Lal-v., Mvyut.

su-saṃśita 因 よくとがれた, 非常に鋭い.
 su-saṃskṛta 因 よく飾られた (RV.); よく準備された; よく整理された; よいサンスクリット語.
 susaṃskṛtopaskara (°ta-up°) 因 道具がよく整頓された.
 su-saṃstabdhā 因 因 善聚 Sutr.
 su-saṃsthita 因 確立した; 因 端立 Divy.; 妙住 Mvyut.
 su-saṃhata 因 よく結合された, 密接に結び付けられた; 親密な接触をもつ; 非常に密度の高い. ~m Kṛ, 非常に固く閉じる.
 su-saṃhati 因 [同上].
 su-saṃhita 因 よく結合された.
 su-sakhi 因 (因 -ā) よい友.
 su-saṃkaṭa 因 よく閉じられた; (説明し) 難い. 因 難しい仕事.
 su-saṃkruddha 因 非常に憤激した.
 su-saṃgatā 因 [人名].
 su-saṃgama 因 楽しい会合 (の場所).
 su-saṃgrhita 因 よく統制または支配された (王国).
 su-saciva 因 よい大臣. 因 よい大臣をもつ.
 su-sajji-Kṛ, 完全に用意をする.
 su-saṃcita 因 よく集められた, 注意深く蓄積された. ~m saṃ-Ci, 注意深く集める.
 su-sat-kṛta 因 よく整えられた; 歓迎された, 尊敬されている; 最高の榮譽が与えられた; 因 普供養 Saddh-p.
 su-sattra 因 よい療養所.
 su-sattva 因 非常に決然とした.
 su-sadrśa 因 (因 -i) (因) に非常に似た.
 su-saṃtuṣṭa 因 完全に満足した.
 su-saṃtoṣa 因 満足させやすい.
 su-saṃdipta 因 あかあかと燃えあがる.
 su-saṃdrś 因 見て美しい.
 su-saṃdha 因 (自己の) 言葉に真実な, 約束を守る.
 su-sanna 因 [Sad] 完全に終わった, 計画をくじかれた.
 su-saṃniviṣṭa 因 因 牢固, 善安, 深入, 能善安立 Bodh-bh.
 su-sama 因 完全に平坦なまたはなめらかな.
 su-samākṛta 因 (因) をよく具えている.
 su-samāpita 因 因 装鉸 Ast-pr.
 su-samāpta 因 因 究竟 Daś-bh.; 最全, 善収, 妙円満, 最円満 Mvyut.
 su-samāyukta 因 因 円満 Bodh-bh.
 su-samārabdha 因 因 造 Mvyut.
 su-samārjita 因 因 満足, 善能積集 Gand-vy.
 su-samāhita 因 [DHā] よく積載された (荷馬車, Br.); 因: よく飾られた; 非常に注意深いまたは熱中している, 完全に専念している; 因 善定 Bodh-bh., Sutr.; 恒修正定 Lal-v.
 su-samidha 因 [Idh] よく燃やされた.
 su-samikṣita 因 因 平等見 Śikṣ.
 su-saṃrddha 因 [Rdh] 因: まったく完全な; 因: 非常に豊富な; 非常に富裕な.
 su-saṃrddhi 因 非常な富裕.

su-sampad 因 豊富, 非常な繁栄.
 su-sampanna 因 よく具えている; 成長した, 発達した; 極浄, 円満 *Bodh-bh.*
 su-sampīṣṭa 因 (因) 完全に打ち砕かれた (車; RV. 用例一回のみ).
 su-sampūrṇa 因 (因) で一杯のまたはを豊かに具えた; 満 *Sutr.*
 su-saṃprajñā 因 智 *Lal-v.*
 su-saṃpratapta 因 完全に悩まされた.
 su-saṃprasthita 因 端然而坐, 端然実坐 *Mvyut.*
 su-saṃbaddha 因 緊密に接合された.
 su-saṃbhava 因 善生, 善集 *Suv-pr.*
 su-saṃbhāra 因 善聚 *Sutr.*
 su-saṃbhṛti 因 必需品の適当な収集.
 su-saṃbhrama 因 大変な動揺または混乱, 極度に急ぐこと.
 su-saṃbhrānta 因 完全に困惑した, 混乱した.
 su-saṃlikhita 因 善調柔 *Sam-r.*
 su-sarva 因 まったく完全な (Br.).
 su-sahāya 因 よい同志または補佐をもつ.
 su-sahāyaka 因 善伴 *Sutr.*
 susahāyayat 因 =susahāya.
 su-sādhana 因 証明しやすい.
 su-sādhita 因 よく訓練された.
 su-sādhya 因 制御しやすい, 修正の余地ある; 易修 *Mvyut.*
 su-sāntvita 因 完全に鎮められた.
 su-sāman 因 非常に懐柔的な言葉.
 su-sāra 因 よき本質・樹液または実質; 実 *Ratna-ut.*
 su-sārthavāha 因 導師 *Suvik.*; 大導師 *Divy.*; 美商主, 賢美商主 *Mvyut.*
 su-sārathi 因 よい御者をもつ.
 su-sikta 因 好酒水者, 好生酒掃者 *Mvyut.*
 su-sita 因 純白な.
 su-siddha 因 よく調理された; 非常に効力ある, 大魔力をもった; (因) を完全に具えた.
 su-siddhārtha 因 目的を完全に達成した.
 su-siddhi 因 成 *Ratna-ut.*
 su-sima 因 よい(頭髪の)分け目をもつ(婦人). 因 [人名]; 功德 *Raṣtr.*; 宿尸魔, 修私摩, 蘇深摩 *Divy.*; 蘇尸弥 *Raṣtr.*
 susima-devaputra 因 妙梵天子, 妙善天子 *Mvyut.*
 su-sukha 因 非常に快適なまたは愉快的な; 勝樂 *Sikṣ.*: °—または -m 因.
 su-sukhin 因 [同上].
 su-sukhuma 因 =susūkṣma; 微細 *Sam-r.*
 susukhodaya (°kha-ud°) 因 非常に愉快にさせる.
 su-subhikṣa 因 食料が大変に豊富なこと.
 su-sūkṣma 因 非常に微細な・小さいまたは取るに足りない; 非常に微妙な(心, 感覚); 豪釐, 少許 *Madhy-v.*; 最極微細 *Bodh-bh.*: ~-cintāpara-mārthagahvana 細思惟稠林 *Ratna-ut. 161.*; ~-roma 毛柔 *Ratna-ut. 181.*
 su-sevaka 因 よい召使.

su-sevita 因 よく仕えられた(王); 相親 *Sikṣ.*
 su-saindavi 因 *Indus* 河流域地方 (=Sindh) 産の美しい雌馬.
 su-saubhaga 因 夫婦生活の幸福.
 su-stambha 因 よい柱.
 su-stri 因 よい婦人.
 su-stha 因 (よい状態にある), 安楽に暮らしている, 健康な, 気楽にしている, 繁栄する, 裕福な; 満ちた(月).
 sustha-kalpa 因 気楽にして(くつろいで, 裕福にして)いる.
 sustha-citta 因 幸福であると自覚する.
 susthatā 因 健康.
 su-sthāna 因 美しい場所.
 su-sthita 因 確立した, 安定した; 正しい道をたどる. 無垢清浄な; 安楽に暮らしている, 繁栄している, 裕福な, 気楽にくつろいでいる(普通の意味); 安住 *Aṣṭ-pr., Kāśy., Saddh-p.*; 和, 安定 *Aṣṭ-pr.*; 善住 *Aṣṭ-pr., Sutr.*; 正定 *Lal-v.*; 善安其所 *Bodh-bh.*
 susthitatva 因 安楽, 慰安, 繁栄.
 susthita-mati 因 [人名]; 正意, 安意 *Raṣtr.*
 susthitaṃ-manyā 因 (自身を)裕福だと考えている.
 su-sthiti 因 卓越した地位; 幸福.
 su-sthira 因 非常に堅実な・持続するまたは永続性ある.
 susthiraṃ-manyā 因 (自身を)安定していると考えている.
 susthira-varman 因 [人名].
 su-snāta 因 沐浴によって完全に浄められた; ~gātra 浄澡浴, 浄洗浴 *Suv-pr.*
 su-snigdha 因 非常に柔らかい, 優しい; 滋潤 *Mañj-m.*; 柔軟 *Sikṣ.*
 susnigdha-gambhira 因 非常に柔く深い(声).
 su-sparsa 因 触れて非常に快い.
 su-spaṣṭa 因 [Spaś] 非常に澄んだ・明らかなまたは明瞭な. ~m 因 きわめて明白に.
 su-svapna 因 美しい夢.
 su-svara 因 正しいアクセント. 因 美しい声をもつ; 旋律の美しい; 声高い; 妙音 *Bodh-bh.*; 和雅 *Raṣtr.*: ~brahmaghosa 妙如梵声 *Suv-pr. 214.* ~m 因 旋律的に, 声高らかに.
 su-svāgata 因 心からの歓迎. 因 厚遇を受ける.
 su-svāda 因 よい味をもつ, 上手に味つけされた, 美味な.
 su-svādu 因 非常に味のよい(水).
 su-svāmin 因 (軍隊の)よい指導者.
 sussala 因 [人名].
 su-hata 因 完全に打ちのめされた; 正当に殺された.
 su-hana 因 殺しやすい(因).
 su-hanu 因 美しい顎をもつ.
 su-hantu 因 =suhana (RV.).
 su-hava 因 (因) たやすく呼ばれる, 喜んで耳を傾ける; よく祈り願う. 因 (因) 上首尾の祈願.
 su-hasta 因 (因) 美しい手をもつ; 手先の器用な. 因 [Dhṛtarāṣṭra の息子の名].

su-hita 形 團：非常に適当な；非常に有益な；完全に満足した，十分に満足した(とくに飲食に；Br., S., まれに 團).

su-huta 形 因, 叙詩：よくささげられた(供物)；團：…によく供物を献じた；團 妙作焼施 *Mvyut.*

suhuta-hut 形 正しい献供を行なう(S.).

suhṛg-gaṇa 團 友人の集団.

suhṛc-choka-vivardhana 形 (自分の) 友達の悲しみを増す.

suhṛj-jana 團 友人, 友人たち；團 友人たち.

suhṛttama 最上 友人たちのうちで最もよい.

suhṛttā 因 友情.

suhṛt-tyāga 團 友人を捨て去ること.

suhṛttva 中 =suhṛttā；團 淳厚 *Buddh-c.*

suhṛt-prāpti 因 友得 *Sāṃkhy-k.*

su-hṛd 團 友人；同盟者(～o janāḥ 友人たち)；一°

形 …を好む，…にふけている；よく似ている；

團 友 *Sūtr.*；親 *Bodh-bh.*, *Bodh-c.*；親善, 親属 *Bodh-bh.*；眷属 *Bodh-c.*；心友 *Mvyut.*

su-hṛdaya 形 親切な心をもった(因)；-tama 最上.

suhṛd-druh 團 友人を裏切る者.

suhṛd-bruva 團 仮名為良朋 *Buddh-c.*

suhṛd-bhāva 團 友情.

suhṛd-bheda 團 友人たちとの離反.

suhṛd-bhedaka 形 團 能令兄弟有愛別離 *Divy.*

suhṛd-vadha 團 友人を殺害すること.

suhṛd-vākya 中 友人の言葉または忠告.

suhṛn-nāri 因 女性の友人.

suhṛn-mitra 中 團 友人たちと同盟者たち.

suhṛl-linga-dhara 形 友人らしく見せかけた.

su-hemanta 團 よい冬(S.).

su-hotṛ 團 よい hotṛ 祭官(因).

su-hotra 團 [人名].

suhma 團 團 [ある住民の名].

Sū 1., Su, VI. 團 (自, Br.) *suṅvati* (因)；II. 團 *sau-*
ti (Br., S.), 動かす, 刺戟する, 促す, 活気づける, 創り出す；与える (*Savitṛ* について)；聖職につける；自 聖職につく；許す, (ある者：團) に権限を授ける. 過受分 (因) *sūta*, *suta*.

abhi-(sū)-, 因：(團) のために聖職につける；(團) を与える.

ā-, (因) 送る, 与える (*Savitṛ* について).

ni-, 過受分 *niṅsuta*, (因) に投げこまれた (Br.).

nis-, 追い払う.

parā-, [同上] (因).

pra-, (因) 動き出させる, 活動に駆りたてる (*Savitṛ* について)；促す, せきたてる；許す, …に委ねる.

過受分 *prasūta* 発射された(矢)；追い払われた；促された, 強いられた, 命じられた；許された.

Sū 2., II. 自 *sūte* (因, 團), IV. 自 *sūyate* (團, Br.)；叙詩に 團もある), I. 團 *savati*, II. 團 *sauti*, 子をもうける (團 ではまれ), 子を産む (團 では普通の意味)；生産する (譬喩；團). 過受分 *sūtā*, 因 (子を) 生んだ, 子牛を生んだ.

abhi-, 生む.

pra-, 子をもうける, 子を産む, 子孫を得る；(実

を) 結ぶ(木)；生産する (譬喩)；團 生 *Abh-vy.*, *Lank.*, *Saddh-p.*, *Vajr.*；産 *Aṅg-pr.*, *Saddh-p.*；獲 *Aṅg-pr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*；得 *Aṅg-pr.*, *Saddh-p.*；起, 興発 *Saddh-p.*；感, 造作, 能作 *Aṅg-pr.*；*vairam*～ 懐折慶 *Av-ś. I.*；*bandhyāprasūyata* 石女生, 石女生子 *Lank. 9.* 團 *prasūyate*, 生まれるまたは生産される, 起こる. 過受分 *prasūta*, (團, 團) によってまたはから；(因, 一°) で生まれた・生産されたまたは発生した；-ā 因 お産の床についた, (團) を出産した(ときに=定動詞)；-a-mātra たった今お産の床についた.

saṃ-pra-, *saṃprasūte* (叙詩), *saṃprasūyate* (團), 子をもうける. 過受分 (によって・から：團, 因；において：因) もうけられたまたは産まれた.

sū 1. 團 父. 因 母 (因, まれ)；團 では一°, 同義. 形 (一°) を産み出す (團).

sū 2. 因 團 =su よく等.

sūkara 團 猪, 豚；團 猪 *Divy.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*

sūkara-karṇa 團 耳如猪者 *Mvyut.*

sūkara-gṛha 中 豚小屋.

sūkara-joḍa 團 顔如猪 *Mvyut.*

sūkaratā 因 豚の状態.

sūkara-danta 團 齒如猪 *Mvyut.*

sūkara-nāsa 團 鼻如猪 *Mvyut.*

sūkara-preyasi 因 いのししの愛人；牝猪 および大地 [いのししの形をした *Viṣṇu* 神によって, 大地が洪水から救出された神話による].

sūkari 因 雌豚；團 猪 *Divy.*

sūkta 過受分 よく語られたまたは暗誦された. 因, 因 團：美しい言葉, よい言葉, 讃歌；團：名言；*Veda* 讃歌, (一°) への讃歌；團 妙説 *Mvyut.*

sūkta-durukta 形 團 善悪説 *Sūtr.*

sūkṭi 因 よい格言または名言.

sūkṭi-muktā 因 團 真珠のような名言. ～

sūkṣma 形 微妙な, 微細な, 小さい；薄い；狭い(道)；短い；ささいな；繊細な；ほとんど聞こえない(音)；鋭い, 鋭敏な(知性, 心的作用)；結構な, 正確な；触知し得ない, 原子の：+*artha*, 團 とるに足りないこと；團 細 *Abh-vy.*, *Aṅg-pr.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Sāṃkhy-k.*, *Sūtr.*；深 *Lank.*；微細 *Aṅg-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Sāṃkhy-k.*, *Sūtr.*；微妙 *Aṅg-pr.*, *Dāś-bh.*, *Guhy-s.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*；細微 *Aṅg-pr.*, *Bodh-bh.*；幽微 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*；最細, 難知 *Abh-vy.*；有細, 細軟 *Mvyut.*；細滑 *Raṣṭr.*；深妙 *Lank.*；難解 *Aṅg-pr.*；細物 *Vijñ-v.* ～*m*, 團 鋭く, 熱心に, 一生懸命に(見る).

sūkṣma-gambhira-naya 團 微細法 *Ratna-ut.*

sūkṣma-tattva 中 團 細真実 *Madhy-vibh.*

sūkṣmatara 形 比較 團 微 *Śikṣ.*

sūkṣmatā 因 鋭敏な性質；團 微細 *Bodh-c.*；細性 *Abh-vy.*

sūkṣma-tikka 團 [人名].

sūkṣmatva 中 =sūkṣmatā.

sūkṣma-tvaktā 因 團 身皮細滑, 皮膚細軟相 *Bo-*

dh-bh.

sūkṣma-darsitā 因 鋭く見ること, (心の) 鋭敏さ.
 sūkṣma-darsin 因 鋭敏な(心).
 sūkṣma-dṛṣṭi 因 鋭い一瞥.
 sūkṣma-nimitta-prapañca 因 細相戲論 *Ratna-ut.*
 sūkṣma-pada 因 微妙句 *Śikṣ.*
 sūkṣma-pāṇaka 因 微細虫 *Ratna-ut.*
 sūkṣma-pāda 因 小さいまたはほっそりした足をした.
 sūkṣmapādatva 因 足の優美さ.
 sūkṣma-bhūta 因 微細な元素.
 sūkṣma-mati 因 繊細な心をもった; 妙慧, 微細識 *Lank.*
 sūkṣmamamatimat 因 [同上].
 sūkṣma-māna 因 少慢 *Sūtr.*
 sūkṣma-yoga 因 微妙行 *Guhy-s.*
 sūkṣma-rajopama (°ja-up°) 因 数如微塵, 数同大地諸微塵 *Suv-pr.*
 sūkṣma-roma 因 毛柔 *Ratna-ut.*
 sūkṣma-vastra 因 細軟衣 *Ratna-ut.*
 sūkṣma-śabda 因 細声 *Ratna-ut.*
 sūkṣma-śarira 因 微細な身体: 微細な身体を形成する六要素 (ahamkāra および五 tanmātra) の総称 (因: sthūlaśarira) (因).
 sūkṣma-ślakṣaṇa-tvacatā 因 身皮細滑, 身細軟(塵垢不著), 皮膚柔軟相 *Bodh-bh.*
 sūkṣma-suvarṇa-cchavi 因 皮膚細滑, 皮膚細滑紫摩金色(相) *Mvyut.*
 sūkṣmākṣa 因 眼光の鋭い, 明敏な(心).
 sūkṣmākṣatā 因 明敏であること(おそらく sūkṣmekṣitā の不確).
 sūkṣmāpatti-skhalita-samudācāra (°ma-āp°) 因 微細犯垢 *Sūtr.*
 sūkṣmārtha 因 微義, 微細之義 *Bodh-bh.*
 sūkṣmekṣikā (°ma-ik°) 因 鋭い眼力, 鋭敏であること(おそらく sūkṣmekṣitā の不確).
 sūkṣmailā (°ma-elā) 因 音写 確砂 *Mvyut.*
 sūkṣmodārānugama (°ma-ud°) 因 細入鹿, 小処置大 *Gaṇḍ-vy.*
 sūkṣmaudārika-dharma (°ma-au°) 因 細... *Ratna-ut.*
 sūkṣmaudārika-yukty-upāya-vidhi 因 微細衆生相応諸方便 *Ratna-ut.*
 sūcaka 因 (因 -ikā) (因, 一°) を指示する・見せるまたは名前以示す; 説, 開示 *Lank.* 因 教示者; 針 *Śikṣ.*; 釘子, 考察官, 考察者, 禁邪術者 *Mvyut.*
 sūcana 因 表示, 伝達; 説 *Sūtr.*; 頭, 相 *Abh-vy.*
 sūcanā 因 名 *Lal-v.*
 sūcaniya 未受分 表示されるべき.
 sūcaya, 名動 他 [sūci から] さし示す, 指摘する, 示す, 見せる, あらわす, あばく; 黙劇によって(観客に)示す(演劇用語); 頭 *Ast-pr., Daś-bh.*; 示, 宣説, 能示, 開示, 顕示 *Ast-pr.*; 説, 講 *Daś-bh.* 過受分 sūcita, (因, 一°) によって示された・あらわされた または あばかれた; 頭, 顕示

Abh-vy.

sūcayitavya 未受分 見出だされるべきまたは確かめられるべき; 示, 顕示 *Ast-pr.*
 sūci 因 針; 鋭い先端または突端; [ある種の戦闘隊形の名], 鋭い縦列; (指針), 索引 (インドの出版で普通-pattra, 因 とともに); 針 *Mvyut., Saddh-p., 梵雜.*
 sūcika 因 裁縫師; 銅匠, 成衣的人 *Mvyut.*
 sūcikā 因 [同上]; 抹 *Mvyut.*
 sūci-kulāya, 名動 自 針の集合のように見える.
 sūci-gṛhaka-sampādana 因 彫刻針, 骨牙角, 作針筒 *Mvyut.*
 sūci-ghara 因 = sūci-gṛhaka; 針筒 *Prāt-m.*
 sūcita 1. 過受分 → sūcaya.
 sūcita 2. 過受分 [Uc] 非常に適した.
 sūci-pattra 因 索引. → sūci.
 sūci-bhinna 因 先端で割れた(蕾).
 sūci-bhedyā 因 針で突き刺され得るほどに濃い(暗黒).
 sūci-roman, -roma 因 針毛, 針髪鬼神 *Suv-pr.* 灰毛針 *Sam-r.*
 sūci-śikhā 因 針の先端.
 sūci 因 針; 針 *Mvyut.*; 鍼 *Saddh-p.*; 針鋒 *Abh-vy.*
 sūci-karman 因 長線, 風繩, 攪長線 *Mvyut.*
 sūci-gṛhaka 因 針帯 *Mvyut.*
 sūci-chidra 因 針孔 *Divy., Śikṣ.*
 sūci-padma 因 [ある種の戦闘陣隊の名].
 sūci-bhedyā 因 = sūci-bhedyā.
 sūci-mukha 因 針の先端. 因 (因 -i) 針のように鋭い嘴(等)をもつ; 針のように鋭い または とがった (因). 因 (因) 鳥(の一種) または [ある鳥の名].
 sūcimukhāgra-sambhedyā 因 針の先端で突き通し得るほどに濃い(暗黒).
 sūcy-agra 因 針の先端.
 sūcy-āśya 因 針のようにとがった口をもつ. 因 蚊.
 sūta 1. 過受分 → Sū 1., 2.
 sūta 2. 因 御者(因 ではしばしば grāmaṇi とともに挙げられる王の従者; 叙詩では王宮の伝令の意にも用いられる; 因 では Kṣatriya と婆羅門女とのまたは婆羅門と Kṣatriya 女との間に出生した混合カースト); 御者 *Buddh-c.*; 掌馬人 *Divy.*
 sūtaka 因 出生; 出産; 出産により生じた(両親の)不浄; (一般的な)不浄.
 sūtaka-bhojana 因 出産の祝宴.
 sūta-karman 因 御者の職務.
 sūtakāna (因) 因 出産によって不浄となった食物.
 sūtakānnādya (因) 因 [同上].
 sūtātā 因 御者であることまたはその職務.
 sūtātva 因 [同上].
 sūta-putra 因 御者(の息子); [*Karna* の称].
 sūti 因 因, 因: 出生, 生産(一° 因にも用いる); 因: 分娩; (農作物の)生産; 出生地; 生産の原因または方法; 子孫.
 sūtikā 因 お産の床に付いている婦人; 最近出産したばかりの牝牛 (±go).

sūtikāgāra (°ka-āg°) 田 産室。
 sūtikā-gṛha 田 [同上]。
 sūtikā-geha 田 [同上]。
 sūtikā-madhya-sthita-bāla 嬰児 Ratna-ut.
 sūtikā-māruta 男 陣痛 (体内の特殊な生氣によって起ると考えられた)。
 sūt-kāra 男 sūt という音; (また)(馬の)鼻嵐。
 sūt-kṛta 田 [同上]。
 sūtthāna 形 非常に努力する。
 sūtya 田 =sutya。
 sūtra 田 [Siv] 因, 圍: 糸, 紐, 綱 (普通の意味); 圍: (上位三カーストが左肩にかけ) 聖紐; 墨繩; 繊維; 線; 草案, 計画; (繋ぎ合わせる糸=) 簡明な規則またはストラ; 簡単な規則からなる; 綱要書; 經典; 縷 Bodh-bh., Daś-bh., Divy., Lal-v., Śikṣ., Sukh-vy. I.; 繩 Aṣṭ-pr., Lan̄k., Rāṣṭr., Saddh-p.; 絲 Bodh-bh., Lan̄k.; 經 Abh-vy., Lan̄k., Madhy-bh., Mvyut., Ratna-ut., Sūtr., 梵維., 梵千.; 線 Bodh-bh., Divy., Mañj-m., Mvy-ut.; 縷 Divy., Lan̄k., 梵千.; 索 Divy., Rāṣṭr.; 縷 Mvyut.; 教 Lan̄k.; 鎖 Sukh-vy. I.; 絲縷 Bodh-bh.; 界線 Mvyut.; 經典 Bodh-bh.; 集略 Mvyut.; 契經 Abh-vy., Lan̄k., Mvyut.; 音写 修多羅 Bodh-bh., Lan̄k., Madhy-vibh., Mvyut., Ratna-ut., Sūtr., 玄應.; 素恒縷 Bodh-bh.: ~ gambhira 甚深經, 甚深經典 Suv-pr. 147.; ~ e'vatarati 入修多羅 Sūtr. I.
 sūtraka 田 糸, 綱; 縷 Abh-vy.
 sūtra-kartṛ 男 作經, 造經 Lan̄k.
 sūtra-karman 田 建築。
 sūtra-kāra 男 Sūtra のすなわち 經典の著作者。
 sūtra-jāla 田 綱の綱。
 sūtra-tantu 男 糸。
 sūtra-daridra 形 (糸に乏しい=) すれて糸の見える。
 sūtradaridratā 因 すれて糸の見える状態。
 sūtra-dhara 形 持經 Mvyut.; (音写) 誦修多羅 Prāt-m.
 sūtra-dhāra 男 大工, 建造者, 建築家; 劇団の指導者, 座頭; 一° 男, -i 因...における主導者; 弾線匠 Mvyut.
 sūtra-nidāna-parivarta 修多羅序分 Ratna-ut.
 sūtra-pada 修多羅句 Ratna-ut.
 sūtra-pāta 男 墨繩を使用すること。 ~m Kṛ または Car, 測る, 比べる。
 sūtra-piṭaka 男, 田 仏教經典の集或, 經藏; (音写) 素恒縷藏 Bodh-bh.
 sūtra-prota 形 紐に付けられた (=によって動かされる; 人形)。
 sūtra-bhṛt 男 =sūtradhāra。
 sūtraya, 名動 田, 自 つなぎ合わせるまたはいっしょにする; 考案する, 生じさせる, 生み出す; Sūtra の形に作るまたはで教える; 頌撰, 以文說 Abh-vy. ā-, 工夫する, 生じさせる。
 sam-ā-, [同上]。
 vi-, 追い払う, 追い散らす, 取り払う; 混乱におとし入れる。

sūtrayitavya 未受分 Sūtra の形に作られるべき。
 sūtra-rāja 男 經王 Suv-pr.; 諸經之王 Saddh-p.
 sūtrātman (°ra-āt°) 男 經系我, すなわち(集合体に条件づけられて, それゆえに一本の糸のように一切の事物を突き通している) ātman (因)。
 sūtrānta 男 教 Sūtr.; 經 Bodh-bh., Lal-v., Madhy-v., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr., Vajr-pr.; 經中 Lan̄k.; 經典 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Saddh-p., Vajr-pr.; 契經 Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Śikṣ.; 經部 Mvyut.; 言說 Vajr-pr.; 微妙經典 Bodh-bh.; (音写) 修多羅 Gaṇḍ-vy., Sam-r., Vajr-pr.; (音写) 修多羅中, 修多羅凡所有經 Lan̄k.: ~dhāraka 受持是經典 Saddh-p. 474.
 sūtrānta-dhara 持經者 Saddh-p.
 sūtrālamkāra 男 [ある仏教論書の名]; (大乘) 莊嚴經(論) Sūtr.
 sūtrikā 因 マカロニに似たある種の食物。
 sūtrita 過受分 → sūtraya。
 sūtritvatva 田 Sūtra に表明されているという事実。
 sūtrin 形 糸を備えている。 男 =sūtradhāra。
 Sūd, III. 田 suśūdati (因) 正しく導く。 使役 sūdayati 田 因: [同上]; 整える; 準備する, 生じさせる; 圍: 落着させる=終らせる, 殺す, (生物および無生物を) 壊す; 押しつぶす, 押しさく。
 ni-, 使役 niśūdayati 田 (圍) 殺す, 壊す。 sūlayām ~ 突き刺す。
 sūda 男 井戸 (RV.); 乾きあがった水たまりの泥(因); 圍: 温泉; 料理人(普通の意味); 肉汁(の一種)。
 sūda-karman 田 料理法の技術。
 sūdatva 田 料理人であること。
 sūdāna 形 (因 -ā, -i) 正しく導く (教師; RV. 用例一回のみ); (一般に 一°) を終らせるまたは壊す (圍)。 男 (一°) を殺すまたは破壊する者 (圍)。 田 破壊 (圍); 除, 善除 Lal-v.
 sūdayā 蘇 Divy.
 sūda-sālā 因 料理場。
 sūdgṛhita 形 善受, 具足摂受 Bodh-bh.; 善取 Madhy-vibh., Śikṣ.
 sūna 田 花。 男 息子。
 sūnara 形 (因 -i) うれしい, たのしい(因); 犬いに喜ばしい (RV.)。
 sūna-sāra 男 (花の矢を持った), 愛の神。
 sūnā 因 因: 編んで作った籠または皿(因); 圍: 屠殺場, 屠場; 殺す方法; 屠柵 Lal-v.
 sūnā-cakra-dhvajavat 男 種 肉屋と油屋と酒造り(または居酒屋の主人)。
 sūnika 男 屠殺者。
 sūnin 男 [同上]。
 sūnu 男 1. Soma 液を圧搾する人 (RV.). 2. 息子(因, 圍); (集合的に) 子孫 (RV., まれ); 弟 (圍, まれ)。
 sūnutā 因 息子であること。
 sūnṛta 形 恩恵に富む, 富裕な(因); 親切な, 礼儀正しい, 快く真実な(談話; 圍)。 田 (因) 恩恵, 寛裕。
 sūnṛtā 因 因: 恩恵, 賜物, 寛裕心; 圍: 友誼, 親切な言葉; 真実 (因 anṛta)。

sūnṛtāvāt 形 恩恵に富む, 寛裕な (因).
 sūnṛtā-vari 形 因 [同上] (RV. 用例一回のみ).
 sūpa 男 肉汁, スープ; 菜 Prāt-m.; 荳菜 Mv-
 yut.
 sūpa-kāra 男 (スープを作る人), 料理人; 多臥
 貝 Mvyut.
 sūpa-kṛt 男 [同上].
 sūpatirtha 形 涯岸平正 Lal-v.
 sūpalakṣa 形 易了知 Bodh-bh.
 sūpavañcana 形 よい避難所を与える (RV. 用例一回の
 み).
 sūpasampanna 形 威儀円満 Mvyut.
 sūpasthita 形 安 Lal-v.; 善住, (一心) 修習
 Aṣṭ-pr.
 sūpasthita-smṛti 形 安住 Madhy-vibh.; 住正念
 Śikṣ.; 正念正 (?), 繫念安住 Madhy-bh.
 sūpāya 男 よい手段.
 sūpāyana 形 近づきやすい (RV.).
 sūpāsita 形 親近 Sūtr.
 sūpika 形 菜 Mvyut.; 菜 Vin.
 sū-bharva 形 よく肥えた (牡牛; RV.).
 sū-mati 男 妙意 Lal-v.
 sū-yavasa 形 よい牧草をもつ.
 sūr=svar 太陽, 天 (因): -ā, -as, -e のみ.
 sūra 1. 男 压榨器から流れでる Soma.
 sūra 2. 男 太陽.
 sūra 3. 形 (=sūra); 猛実 Lal-v.; 勇健 Saddh-p.
 sūra-cakṣas 形 太陽のように明かるい (RV.).
 sū-rata 形 調伏, 調柔, 調善, 柔軟, 善調柔, 調
 伏柔軟 Sam-r.; 柔和, 心調柔 Daś-bh.; 調順 Ra-
 str.; 尊, 尊重 Mvyut.; 柔軟 Saddh-p.; 淳善, 調
 善 Sam-r.; 妙樂 Śikṣ.
 sū-ramaṇiya 形 甚可楽, 最安楽 Madhy-v.
 sūri 男 (因): (祭官に報酬を与える) 祭主 (圍=yajamā-
 na); 主, 長; Soma の压榨者 または 献供者; 圍: 賢
 者, 聖者, 大学者.
 Sūrks, Sūrksy, 形 sūrksati, sūrksyati, (圍, 圍) に
 ついて心配するまたは悩む (因, まれ).
 sūrta 因 過受分 踏まれた. → Sr.
 sūrpa (=sūrpa) 男 箴策 Lal-v.
 sūrmī 因 (水を導くための) 管(因); 管状の灯(因); (赤
 く熱して罪人とくに姦夫を焼き殺すための) 中空の金
 属製の像 (圍).
 sūrya 男 [svarから] 太陽; 太陽神; [人名] (圍); 日
 Abh-vy., Bodh-bh., Divy., Lan̄k., Mvyut.,
 Raṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Śikṣ., Sūtr.; 日輪
 Divy.; 日天 Śikṣ.; 日光 Abh-vy.
 sūryaka 男 [人名].
 sūrya-kara 男 太陽光線.
 sūrya-kānta 男 (太陽の愛人), 日長石, 日水晶 (日光
 にさらされると熱を放出するという寓話的特性をも
 つ水晶の一種; → candrakānta); 火晶 Mv-
 yut.
 sūrya-garbha 形 日蔵, 日蔵経 Mvyut.
 sūrya-ghoṣa 男 日音, 日音声 Sukh-vy. 1.
 sūrya-candra 男 [人名]; 日月 Bodh-bh.

sūrya-tapas 男 [ある聖者の名].
 sūrya-tejas 男 日光.
 sūrya-tvac 形 太陽のように明かるい皮膚 または 外被
 をもつ (RV.).
 sūrya-pariveśa 形 日暈 Mvyut.
 sūrya-pāda 男 太陽光線.
 sūrya-putra 男 太陽の息子, [Aśvin 双神, 土星 およ
 び Yama 神の父系].
 sūrya-putri 女 太陽の娘, [Yamunā 河の称].
 sūrya-pradīpa 男 日灯 Mvyut., Śikṣ.; 日炬
 Mvyut. → samādhi.
 sūrya-prabha 形 太陽のように明るい. 男 [Katha-
 saritsāgara 第8 Lambaka にその名を与えた王の
 名]; 日光 Gand-vy., Mvyut.
 sūryaprabhatā 女 [同上の圍].
 sūrya-prabhava 形 太陽から発祥した (種族).
 sūrya-prabhā 女 日光 Abh-vy.
 sūryaprabhā-tejas 形 日光威, 日威光 Mvyut.
 sūrya-prabhiya 形 Sūryaprabha 王に属する.
 sūrya-praśiṣya 男 [Janaka 王の称].
 sūrya-bimba 男, 男 太陽の環, 日輪.
 sūrya-bhūta 形 為日 Gand-vy.; 如日 Saddh-
 p.
 sūrya-maṇḍala 男 =sūryabimba; 日輪 Ratna-
 ut., Sapt-pr., Suv-pr.; 日光 Suv-pr.; 大日輪
 Ratna-ut.
 sūryamati 女 [ある王女の名].
 sūrya-māla 形 太陽を冠として頂いた.
 sūrya-mitra 男 日友 Suv-pr.; 音写 繡利密多
 Suv-pr.
 sūrya-ratha 男 太陽の車.
 sūrya-raśmi 男 太陽光線; 日光 Saddh-p.
 sūrya-ruc 女 日の光.
 sūryarc (°ya-rc) 女 太陽への讃歌.
 sūrya-vaṁśa 男 日種族 (に属する諸王); 日種
 Mvyut.
 sūrya-vaṁśya 形 日種族に属する.
 sūrya-varcas 形 太陽のように輝いている.
 sūrya-varman 男 [Dāmara の名].
 sūrya-vāra 男 日曜日.
 sūrya-vidyut-prabha 形 電光明, 日電光明 Lan̄k.
 sūrya-śiṣya 男 [Yajñavalkya の称].
 sūryaśiṣyānte-vāsin 男 [Janaka 王の称].
 sūrya-saṁkrama 男 太陽が (黄道12宮の新しい1宮)
 に入ること.
 sūrya-saṁkrānti 女 [同上].
 sūrya-siddhānta 男 [太陽に帰せられる天文学上の論
 著の名].
 sūrya-suta 男 (太陽の息子) 土星; (猿王) Sugriva.
 sūrya-sūta 男 太陽の御者.
 sūrya-stuti 女 太陽の讃美.
 sūrya-stotra 男 [同上].
 sūryā 女 太陽の娘; Sūryā と Soma (月) との (結婚)
 讃歌 (RV. X, 85).
 sūryāṁsu 男 太陽光線; 日 Divy. ~bhiḥ
 sprṣṭah 被日照身 Divy. 6.

sūryā-candramasā (因) または -au 男 困 困 太陽と月と; 日月 Divy., Mvyut.
 sūryātapa (°ya-āt°) 男 太陽の熱. ~e Dā, 太陽にさ
 らす.
 sūryānana (°ya-ān°) 男 日面 Lal-v., Sukh-vy.
 I.; 日天面 Lal-v.
 sūryāpāya 男 太陽の退去, 日没.
 sūryābhyudita 形 (睡眠中) 太陽が昇った (因).
 sūryāvarta (°ya-āv°) 男 [2 植物の名]; ひまわり(の
 一種), *Helianthus Indicus*; 太陽の進行に従って
 痛みが増減する頭痛; Samādhi の一種 (仏教);
 日転 Lal-v.
 sūryāvarta-samādhi 男 日転 (音写) 日旋三昧, 日転
 三昧 Saddh-p.
 sūryā-vasu 形 Sūrya を富として持つ (Aśvin 双神;
 RV. 用例一回のみ).
 sūryā-vid 形 Sūrya 讃歌 (RV. X, 85) を知っている.
 sūryā-sūkta 形 Sūrya 讃歌 (RV. X, 85).
 sūryāsta 男 日没.
 sūryodha (°ya-ūḍha) 形 (沈む) 太陽によってもたらさ
 れた, 日没に到達する (客).
 sūryodaya (°ya-ud°) 男 日の出; 昇, 早晨
 Mvyut.
 sū-sukhita 形 =susukhita; 受樂 Sam-r., Śikṣ.;
 最極樂 Śikṣ.; 受於快樂 Sam-r.
 Sr, I. 困 sarati, III. 困 (ときとして 困) sisarti (RV.),
 困, 困: 速く走る, 疾走する, 流れる, 滑る; (困) を追
 跡する; 困: (風が) 吹く; 走り去る, すべり落ちる,
 逃げる; (困, tatra) へ赴く; (困) を攻めたてる; (困) を
 渡るまたは横切る. ājim Sr, 競走する=努力する.
 uccakais Sr, (弓が) はね返る. 過受分 sṛta, 走る;
 bahis sṛta, すべり出たまたは出て来た; sūrta, 踏ま
 れた (因, まれ). 使役 sārāyati, 困 走らせる; 動か
 す, (弦楽器の弦) を弾つ; (困) から押しつける または
 (編髪を) 片よせる; 目に見えるようにする, 示す;
 困車で行く (S.); sarayate, 流す (RV. 用例一回のみ).
 希羽 sīsīṣati, 走りたいと欲する (因). 強意 (困)
 sarisarti, 大股で前後に歩く; 激しく吹く (風).
 ati-, 使役 通過させる; 増, 軽浮 Mvyut.
 vy-ati-, 不変分 vyatisṛtya のみ, 各場合に, あらゆ
 る機会に. 使役 vyatisārāyati, (kathām とともに) (話,
 会話を) する (仏教).
 anu-, に向って流れる (RV.); 困: (河の流れに) 沿
 って歩く, (道等に) 沿って行く, 追跡する, 渡る; (困)
 に向う, 赴く; (困) に達する (U にもある); (困) に
 従う; (困) に届く, 確認する; 随順 Lank.,
 Śikṣ.; 随流動, 随(心)流散 Lank. 過受分 anusṛta,
 (困) に従う; (困) から発する; 跡を追われた (道);
 (困, 一°) に伴われた; 渡られた; (困) に苦しめられ
 た, に服従した. 使役 従わせる; 従う, 追跡する.
 不変分 anusṛtya, (困) と一致して.
 vy-anu-, (困) をさまようまたは徘徊する.
 apa-, (車: 困) から滑り落ちる (RV.); 困: (車が,
 pāścāt とともに) 後進する; (困) から引下がる, 後退す
 る, 去る (普通の意味); 過ぎる, 経過する (日); (前

の陳述から) それる. 使役 取除く, 片付ける.
 vy-apa-, 出発する.
 abhi-, RV.: (困) へ急いで行く; (困): (ある人: 困)
 に近づく; 攻める; 赴く; (約束で, 愛人: 困) に会い
 に行くまたは(の家へ)行く; 行至 Divy. 過受分
 abhisṛta, 来た; (困) へ行った; (一°) を攻撃しに行
 った; (困) に訪問された. 使役 持って来る; (愛人
 と) 約束する (困); 訪問する.
 ava-, 入 Gand-vy.; 墮落 Saddh-p.
 sam-ava-, 入 Madhy-v.; 普入, 悉入, 入中,
 趣入, 遍入, 普撰, 撰取, 普遍趣入 Gand-vy.
 ā-, 因: 急いでこちらへ来る; 困: 近づく; 攻撃す
 る.
 apā-(apa-ā)-, (困) を過ぎ去る.
 ut-, とび上る (ud+plu の異読); (手) を差し伸べる.
 使役 駆逐する, 追払う, 追い散らす, 散らす, 取除
 く; 振り捨てる, 捨てる; 放棄する, 棄てる; (発言
 を) 取下げる; ばらまく.
 anūt-(anu-ut)-, 困 anūtsāram, 順次に(その場所
 を) 去って (Br.).
 prot-(pra-ut)-, 使役 駆逐する, 追い散らす, 追い
 払う; 提供する. 過受分 与えられた (席).
 sam-ut-, 使役 追い払う, 去らせる; 追い散らす,
 追い払う.
 upa-, (助け, 忠告等を求めて) …に行く (Br.); 近づ
 く, (困) を訪問する (困).
 ni-, 過受分 (nih- の韻律), 出発された; 引抜かれた
 (剣).
 nih-, (困 ±bahis) から (困) に流出する・出る・
 生ずる・出現する・発するまたは出発する; 放
 Sam-r.; 出離 Śikṣ. 過受分 nihsṛta, (困, 一°) か
 ら出かけた, 発した; 突き出た (目). 使役 (困) から
 駆逐する, 放逐する, 追放する, 取除く.
 abhi-nih-, 過受分 (困) から発する.
 vi-nih-, (困) から出て行く, 発する. 過受分 (一°) か
 ら発した, 始まった.
 pari-, 流転する, 歩き廻る. 過受分 (困) を渡った;
 あらゆる方面に広がった.
 pra-, (困) から流れる・噴出する・破れ出る・現わ
 れ出る・突発する (病気)・発する・生ずる・起る・
 拡がる (香) または顕現する; (火が) 拡がる; (困) へ出
 発する, 進む; (夜等が) 経つ, 過ぎる; (春, 祭が) 始
 まる; 優勢である; (仕事, 計画: 困) を続ける; (手)
 を拡げる; (腕) を伸ばす (RV.); 舒 梵准; 出
 生 Gand-vy.; 周徧 Saddh-p.; 流散 Śikṣ. 過受分
 流れ出た, 溢れ出た; 訪れた (暗黒); 鳴りひびく
 (音); (困) から発する, 生ずる; (困) に広く拡がる, 拡
 張した; 優勢な, 普通の; 強い (輝き), 偉大な (友情);
 出発した; 逃げた; 拡げた (手, 腕); (一°) に専念し
 た; (praśrita の不確), 慎み深い, 静かな. 使役 困 pra-
 sārāyati, (手等) を伸ばす, 拡げる (普通の意味); (商
 品を) 拡げる, (売りに) 出す; (眼, 口等) を大きく開
 ける; 広める, 普及させる, 公表する (まれ); 遂行
 する, 処理する; 舒 Divy., Raṣṭr.; 申 Daś-
 bh., Gand-vy.; 伸 Daś-bh., Raṣṭr.
 abhi-pra-, 使役 舒, 挙 Divy.

vi-pra-, 遠くへ広がる。

prati-, 戻る; 随, 依 *Aṣṭ-pr.*; 託, 解, 開解 *Bodh-bh.*; 流転 *Śikṣ.*; 依止 *Aṣṭ-pr.*; 不託余縁 *Bodh-bh.* 便役 押し返す, もとの場所へもどす; (帰らせる=) (暗黒) を追払う。

vi-, 貫流する(RV. 用例一回のみ); 広げられる(RV., (𑖀); (𑖁) から出て来る, 発する(𑖂). 過受分 伸された, 広げられた; (一) から発する, 生ずる。

pra-vi-, 過受分 噴出する; 激しい, 強烈な。

saṃ-, RV.: (𑖃) と合流する; 𑖄: 歩きまわる, 徘徊する, 歩く; 輪廻を経験する; 輪廻の過程に於て(𑖅) を獲得するまたはに入る; 𑖆 生, 往 *Abh-vy.*; 転 *Mvyut.*; 流転 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gand-vy.*, *Madhy-v.*, *Saddh-p.*; 輪転 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Sāṃkhy-k.*; 輪廻 *Rāstr.*; 往来 *Aṣṭ-pr.*, *Madhy-v.*; 在生死 *Aṣṭ-pr.*, *Rāstr.*; 住輪廻 *Śikṣ.*; 隨生死中 *Aṣṭ-pr.*; 生死流転 *Lank.* 便役 輪廻させる; (𑖇) に(糸) を通す; 延期する, 長引かす; 𑖈 出行 *Divy.*

sṛka 𑖉 槍, [*Indra* の武器の名] (RV.).

sṛkva 𑖊 喉, 下嚥子 *Mvyut.*

sṛkvaṇi 𑖋 口の角。

sṛkvan 𑖌 𑖍 [同上].

sṛkvi 𑖎 [同上].

sṛkviṇi 𑖏 [同上].

sṛgāla 𑖐 ジャッカル (異読: *śrgāla*); 𑖑 野干 *Mvyut.*

sṛgāli 𑖒 牝のジャッカル。

sṛgālikā 𑖓 [同上]; [人名].

Sṛj, VI. sṛjati(-te), 𑖔, 𑖕: (𑖖, 𑖗) に向って(飛道具を) 発射する・飛ばす・投げるまたは投げつける; 出す, 注ぐ, (雨等を) 降らす; (音を) 発する; (使者を) 派遣する; (視線を) 投げる, 向ける; 𑖘: (𑖖) に向って(駿馬等を) 急がせる; (戸を) 開ける; 公表する(𑖙); 行かせる, 解放する; (糸を) より合せる, 織る, 編む; 𑖚: あきらめる, 放棄する(まれ); 𑖛, 𑖜: (自身から発する=) 創造する, 造る, 生む(普通の意味; 𑖛 においては𑖙のみ); 𑖝: 授ける, 与える, 支給する; 使用する, 利用する, (利子を) 請求する; (𑖞) に(投げる=)(花環を) 置く, 固定する; 𑖟 生 *Abh-vy.*; 吐 *Lal-v.*; 造 *Bodh-bh.* 過受分 創造された; 𑖡: (一) を与えられた; (𑖢, 𑖣, 𑖤) で満された・おおわれた・一杯の・を決心した. 𑖥 *sisṛkṣati(-te)*, 𑖦 (𑖧), 𑖨 (𑖩) 創造したいと思う。

ati-, 𑖪: 通過させる, 行かせる; 休暇を与える; 𑖫: 授ける, 与える。

anu-, 行かせる, 流す(𑖬); (𑖭) を次々と創造する, にならって創造する(𑖮, 𑖯)。

vy-apa-, 投げる, (矢) を射る, (衣服を) 脱ぐ, 取去る。

abhi-, 𑖰: (𑖱) に注ぐ; (競技に) 出発する; 𑖲: 許しを与える; 授ける, 与える, 約束する. 過受分 (𑖳) に急ぐ(RV.); 放たれた, 出発した(Br.); 許された(𑖴); 与えられた(𑖵)。

ava-, 𑖶, 𑖷: (飛道具を) 投げる, 発射する, (雨を) 降らせる, (涙を) 流す; 𑖸: 放つ, 解放する; 放逐

する; 𑖹 退く, (王位を) 捨てる; 通過させる, 赦す; 𑖺 誦: 放棄する, あきらめる; 授ける, 与える; 𑖻: (𑖼) に(種子を) 投げ入れる; 造る; 投げる= (𑖽) に置くまたは固定する; 𑖾 捨 *Daś-bh.*

anv-ava-, (𑖿) へ送り出す。

upāva-, 𑗀: (𑗁) に近づくことを許す. 過受分 (搾乳時に子牛が母牛に) 近づかされた。

vy-ava-, (𑗂) に投げる, 落とす, 投げつける; 下に置く, 下に横たえる; 去らせる, 追払う; 分配する, 与える, (𑗃) に吊す, 固定する。

sam-ava-, 落とす(Br.).

ut-, 𑗄, 𑗅: 放つ, さまよわせる(犠牲獣); (牛舎を) 開ける; Br.: (関係: 𑗆) から分れる; 𑗇: (飛道具を) 投げる, 発射する; 注ぐ, (雨を) 降らせる, (涙を) 流す, (毒を) 吐き出す, (糞便を) 排泄する; (音を) 発する; かたわらに置く, 投げ捨てる, 取去る; (𑗈) に置く, (種子を) まく; 広げる, (旗を) ひるがえす; 追い払う, 放逐する; 捨てる, (ある人) を見捨てる; 見落す, (ある人) を無視する; (あるもの) をあきらめる, 放棄する, 廃止する(普通の意味); 通りすぎる, 省く(まれ); あとに残す, 余す(まれ); (火) が消えるままにする; (𑗉) に手渡す, 配達する; (娘を) 結婚させる; 𑗊 吐, 起 *Abh-vy.*; 失 *Aṣṭ-pr.*; 捨 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*; 投 *Aṣṭ-pr.*, *Daś-bh.*, *Lal-v.*; 放 *Abh-vy.*, *Mvyut.*; 縦 *Abh-vy.*; 湧 *Mvyut.*; 棄 *Aṣṭ-pr.*, *Śikṣ.*; 尽 *Mvyut.*; 離 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*; 聴, 聴許 *Aṣṭ-pr.*; 棄捨 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 引出 *Daś-bh.*; 退捨, 投入 *Bodh-bh.*; 輒去 *Saddh-p.*; 捨離 *Aṣṭ-pr.*; 遠離 *Lal-v.*; 捨去 *Divy.*: *adāsīm cotsṛjāmi* 賜姓而去 *Divy.* 25; *kāyāt prabhām utsṛjati* 演身光明 *Lal-v.* 71. 過受分 *utsṛṣṭa*. 伸びるままにされた(髪); 見捨てられた, 捨てられた; 放棄された(人生); 消えるままにされた(火). 過能分 𑗋 絶 *Rāstr.* 𑗌 𑗍 (牛を) 解き放したいと願う。

apot(-apa-ut-), 𑗎 除 *Divy.*

prot(-pra-ut-), 𑗏 投 *Rāstr.*

vy-ut-, 放棄する, あきらめる, 去る, 捨てる。

sam-ut-, 出す, (涙を) 流す; (呪いを) 発する; (𑗐) に(つば等を) 吐く, (𑗑) に(汚物を) 落とす; 放棄する, 投げ出す, 投げ捨てる; (地面に) おく, 預ける, (𑗒) に投げ入れる; (乱暴者を) 放す; 捨てる, さらす; 同時に断念する; あきらめる, 廃する; 𑗓 捨 *Divy.*; 施 *Bodh-bh.*

upa-, 𑗔: (水) を流れさせる; (𑗕, 𑗖) へ送り出す, 持って来る, 与える; (子牛が母牛に近づくのを) 許す(またはその逆); 加える; 𑗗, 𑗘: (𑗙) で散水する; (𑗙) で苦しめる; 𑗚: (𑗛) と接触する; 産出する. 過受分 *upasṛṣṭa*. 送られた; (𑗜) によって影響された, 苦しめられた, (病気に) かかった, (魔物) にとりつかれた; (*Rahu* によって) 苦しめられた. 日食の(太陽): *upasarga* (preverb) のついた。

ni-, 過受分 *nisṛṣṭa*. 自由にされた, 解放された(奴隷); 公認された, 許された; (𑗝) に委ねられた; 譲渡された, 任された, 授けられた。

prati-ni-, 𑗞 (*Pali* *paṭimissajjati*) 捨, 放, 擲

Mvyut.

prati-vi-ni-, 放, 擲 Mvyut.

niḥ-, (因)注ぐ, 流れるままにする; (因)から解放する, 自由にする; 分離する; 取除く; 捨 Prat-m.

prati-niḥ-, 棄 Mvyut.; 捨, 捨棄 Aṣṭ-pr.

pra-, (因): (業)へ放す, 流れさす, 追い出す; (因): (感情等)のおもむくままにする; 捨てる, 放棄する.

prati-pra-, 家へ送る.

vi-, (因), (因): 発射する, 射つ, (因), (因)ときとして(因), (因)prati)に投げ(視線も), 投げつける(呪いも); 流れさせる, 出す, 流す; (音を)発する; (因)から自由にする, 解放する; (因): 追い出す, (妻を)捨て去る; 放逐する;

(とくに使者を)派遣する; 捨てる, (ある人を見捨てる; 行かせる, かたわらにおく, 捨て去る, 投げ捨てる; あきらめる, 廃する, 放棄する (Br., S. も; (因); 許す, を免除する; (因), (因)まれに(因), (因)にゆずる; 託する; あきらめる, (席を)ゆずる; 与える, 授ける; 創造する, 産出する; (村を)建設する; 捨 Bodh-bh., Saddh-p.; 棄 Saddh-p.; 施 Sūtr.; 放 Lal-v.; 答 Saddh-p.; 施与 Bodh-bh. 過受分

visṛṣṭa, 流された, 出された等. 過能分 visṛṣṭavat, 派遣した. 使役 visarjayati, 発射する, (矢等)を射る; (因)に(視線を)投げる; 出す, 流す; (音を)発する; 自由にする, 解放する; (因)へ追い払う, 追放する; 免職する; (使者を)派遣する; (森: 因)に捨てる, 放棄する, さらす; (の命を)助ける; 行かせる, 放置する; 着ける, 適用する; あきらめる, 廃棄する, 避ける; 広く知らせる, (ニュースを)公表する; (人の手許: 因)に配達する; 譲り渡す; 答 Aṣṭ-pr., Divy., Saddh-p., Śikṣ.; 正答 Aṣṭ-pr.; 酬答 Aṣṭ-pr.; 令還 Saddh-p. 過受分 vis-arjita, 棄てられた等.

anu-vi-, の方向へ射る (因).

sam-, (因): (因)で打つ; (因)と(業)を結合する; (合する=) (因)で影響する・を与えるまたはを贈与する (因)ではきわめてまれ; (因), (因) (因)と(因)と結合される (因), (因)まれに(因); (因)と結合される, 接触する, 会う; 混ぜられる (因), (因)ではまれ; 合時 Madhy-v.; 相到 Śikṣ. 過受分 (因), (因): 結ばれた, 結合された; (因)と混合した, 混ぜられた; Br.: 混合した=色々の性質の; (因): 混じた=色々な種類の; 再び合同した (分割後におのおのの財産を合する兄弟について); (性交)を完了した. 使役 なだめる.

srj (一) 発射する, 出す, 流す; 創造する, 産出する.

srjati (因) 語根 Sṛj (名詞として用いられた (因)).

srjatva-karman (因) 出産.

srjana (因) 捨 Sūtr.

srñjaya (因) [人名]; (因) [家系または部族名]; (因) 音写 珊闍 Bodh-bh.

srñi (因) (象を駆るための) かぎまたは棒 (因).

srñi (因) 小鎌 (因).

srt (一) 早く走る.

sṛta 過受分 → Sr. (因) 足どり; 飛行.

sṛta-gava (因) 敏活さまたは融通性をなくした (Br.).

sṛti (因) 道路, 路 (因), (因); 徘徊すること, 輪廻 (因).

sṛtvan (因) (因-ri) 敏活な, すばやい (因).

Sṛp, I. (因), (因) (因) sarpati(-te), 這う, 腹這う, 滑る, 行く, 静かに動く (因), (因); (因)に滑り込む (Br.); そっと歩き去る, (祭官が頭を下げ, 手に手をとって) 這行する(とくに Sadas から Bahiṣpavamāna 祭儀の場所へ, (因); (因) sarpata, 出発! (因). 現分 sarpat, (因) 這うもの一切 (因). 使役 (因) sarpayati. 希羽 (因) sisṛpsati. 強意 (きわめてまれ) sarisṛpyate, 滑りまわる (因). 現分 sarisṛpat, 滑りつつある (P.).

ati-, (因) (業)をこえて這う・こっそり行くまたはすべる.

vy-ati-, (因) あちこち動く, あらゆる方向に飛ぶ(矢):

anu-, (業)について這う, 従う (因), (因); (業)に近づく (因).

apa-, (因)から出発する, 退く, 退屈する, 逸脱する; (業)を見つけ出す.

vy-apa-, 行き去る, 逃げ去る, のがれる.

ava-, (因), (因) 叙詩: 滑りおちる (夕日について); (大洋が) 退く. 使役 (大洋を) 退かしめる (叙詩).

anv-ava-, について滑る.

upod-(upa-ud)ā-, (蛇が) 穴から這い出る (Br.).

upa-, (因) 入, 成 Lank.; 来 Sūtr.; 近行 Mvyut.; 来詣 Bodh-c.; 親承 Aṣṭ-pr.

ut-, (因): (因)から滑り出る, 立ちあがる; (因): (堤に) 登る; (手が口: 業)まで上げられる; (高位に) 昇進する, 高められる; (因)に昇る; (因)から前進する; (因): そってゆっくり滑る. 過受分 utsṛpta, 昇った (太陽). 希羽 (業)へ昇りたいと思う (因, P.).

vy-ut-, 出て行く (Br.).

sam-ut-, (業)へ(煙が)昇る; (暗黒が) 始まる.

upa-, (因): へ這い上る, へ滑り込む; (因): (業), (因)の(因), (因)tatra)に近づいて来る, 近づく; (湖へ) 行く; (雲が) 動く; ゆっくり近づく; (破壊を)うける (=消滅する); (不定)しはじめる, を開始する. 使役 (因)へ来させる, 向わせる.

sam-up-, 近づく.

pari-, (因), (因): (業)をまわる; うろつきまわる.

pra-, (因): (業)へ這い上る, 滑りこむ; (因): 動く, 進む; 噴き出す; (暗黒が) 始まる; 広がる, 広められる; 活動を始める, 行動する; 至 Abh-vy.; 遍, 普照 Lank. 過受分 にそって這っている.

prati-, 這いもどる; 這いこむ, 入る.

vi-, 滑る, こっそり入る, 動きまわる, 飛びまわる (因); (因)ではきわめてまれ; (因)消散する (RV.); (業)の上に広がる, 広まる (因), (因)においてはまれ. 現分 visarpat; (因) 流 Abh-vy.

sam-, 一緒に行く (Br.); 動く, そって滑る (因).

sṛpta 過受分 → Sṛp. (因) 這って行く所.

sṛpra (因) 滑り易い, 油でぬるぬるした, なめらかな (RV.).

sṛmara (因) 湿地に出没する動物 (の一種).

sṛṣṭa 過受分 → Sṛj.

sṛṣṭi (因) (因): 放射; (因), (因): (抽象的ならびに具体的な) 創造 (普通の意味); (因): 内的な傾向, 性質 (まれ); 寛大

(まれ).

srṣṭitva 甲 𑖀𑖩 化作(世間), 能作(世間) *Lank.*
 srṣṭy-antara 甲 (*Brahma* 神によって) 創造された(四カースト)間の中間的(カースト)の一.
 srṣṭyantara-ja 𑖀 混合カーストの一から生れた.
 Se, 𑖀𑖩 𑖀𑖩 As 1., ある.
 seka 男 [Sic] 𑖀 𑖀: 放射, 流出; 𑖀: (一°)で散水する, 水をかける; 𑖀 潤 *Sūtr.*; 𑖀 掃 *Lal-v.*
 sekṭr 男 (一°)の散水車; 種馬.
 secaka 男 (𑖀)を注ぐ人.
 secana 甲 [Sic] 放射, 流出; (一°)で撒水する, 水をかける; (金属の) 鑄造; 𑖀 洗 *Mvyut.*
 secana-ghaṭa 男 如露.
 secita 使役 𑖀 𑖀分 → Sic.
 semjita 𑖀 𑖀分 𑖀 有動 *Abh-vy.*
 set 𑖀 it (結合母音 i) を有する(文法) [一般時称および準動詞の構成の場合に, 動詞の語根部と子音(yを除く)で始まる接尾辞あるいは語尾との間に結合母音を挿入するか否かによって, 古代インドの文法家は語根を set (it を伴うもの), anit (it を伴わないもの), vet (随意のもの) の三種に分類].
 setu 𑖀 [Si 1.] 縛る (RV., まれ). 男 RV.: 束縛, 足かせ(まれ); 𑖀, 𑖀: 堰, 水路, 土堤道, 橋; 𑖀: *Rāma* の橋(まれ); 境界線(まれ); (譬喩) 垣; 限界, 境界; 𑖀 橋 *Mvyut.*, 梵雑.; 偃 梵千.; 台 *Mvyut.*: ~samkramacittena 発 (如) 橋梁心 *Gaṇḍ-vy.* 1219.; ~m sarvajñātāyāḥ sampāśyan 善知識為橋, 善知識者則是趣向一切智橋 *Gaṇḍ-vy.* 239. ~m Bandh. 橋を建設する.
 setu-bandha 男 堰または橋(の建設); [ある Prākṛt で書かれた詩の標題].
 setu-bandhana 甲 橋または堰(の建設); 防壁(譬喩).
 setu-bhūta 𑖀 𑖀 為橋, 如橋梁 *Gaṇḍ-vy.*
 setu-bheda 男 堤防の破壊.
 setu-samudghāta 𑖀 令不生 *Mvyut.*
 setr 男 [Si 1.] 縛る人 (RV. 用例一回のみ).
 sedi 𑖀 [Sad] 疲労, 衰退(𑖀).
 sedhā 𑖀 はりねずみまたはやまあらし.
 sena 1. (sa-ina) 𑖀 主人をもつ, 他に依存する.
 sena 2., °—または一° = senā; 𑖀 部 *Mvyut.*
 sena-jit 𑖀 軍隊を征服する(𑖀). 男 [人名].
 senaṭa 男 [人名].
 senā 1. 𑖀 [Si 2.] 𑖀: 飛び道具, 投げ槍; インドラ神の妻(かれの雷電の人格化).
 senā 2. 𑖀 [Si] 𑖀, 𑖀: 戦闘隊形をとること, 軍隊; しばしば一°, (名前, とくに売春婦の名前に用いる); 𑖀 部, 軍 *Mvyut.*; 怨敵 *Lal-v.*
 senā-kathā 𑖀 𑖀 軍語, 軍論 *Mvyut.*; 論説軍事, 説軍衆事 *Aṣṭ-pr.*
 senāgra (°nā-ag°) 甲 軍隊の先陣.
 senāgra-ga 𑖀 軍隊の先頭を行く. 男 軍隊の指揮者.
 senāgra-gāmin 𑖀 [同上]. 男 [同上].
 senāṅga (°nā-aṅ°) 甲 軍隊の構成要素; 軍隊の区分.
 senāṅga-pati 男 師団長.
 senā-cara 男 兵士.
 senā-jivin 男 [同上].

senā-darsana 甲 𑖀 観軍士 *Mvyut.*
 senādhipa (°nā-adh°) 男 軍指令官.
 senādhipati (°nā-adh°) 男 𑖀 将 *Divy.*
 senādhyakṣa (°nā-adh°) 男 [同上].
 senā-ni 男 軍隊の指揮者, 指令官, 將軍(𑖀, 𑖀); [(軍神, 神々の軍隊の指揮者) *Skanda* 神の名(𑖀)].
 senā-pati 男 軍隊の指揮者, 將軍; 𑖀 大将 *Lal-v.*; 將軍, 部君, 軍官 *Mvyut.*, 梵雑.; (大)將軍 *Saddh-p.*; 大勇将 *Gaṇḍ-vy.*
 senāpati-rūpa 𑖀 將軍形, (天大)將軍身 *Saddh-p.*
 senā-patya 甲 將軍職 (*sainapatya* の不確).
 senābhigoptṛ (°nā-abh°) 男 軍隊の守護者(ある役職).
 senā-mukha 甲 軍隊の先陣.
 senā-mukhi 𑖀 [ある女神の名].
 senā-vāsa 男 野営; 𑖀 住軍中 *Mvyut.*
 senā-vyūha 男 戦闘隊形をとること.
 senā-samudaya 男 集合した軍隊.
 sendra (sa-in°) 𑖀 *Indra* 神と合した または に伴われた.
 sendra-cāpa 𑖀 虹で飾られた.
 sendratā 𑖀 *Indra* 神との結合.
 sendra-dhṛti 𑖀 *Indra* と共に剛勇をもつ(?).
 sendriya (sa-in°) 𑖀 男性的活力をもつ; 感覚器官をもっている.
 sendriyatva 甲 [同上の𑖀] (Br.).
 senya 男 槍兵, 戦士(𑖀).
 serṣya (sa-ir°) 𑖀 (一°)を羨む, 妬む.
 sela 男, 甲 (おそらく *śaila* の𑖀) 武器(の一種); 特殊な高単位の数(仏教); 𑖀 音写 細羅 [数名] *Mvyut.*
 sela-ga 男 待伏せする男, 強盗 (Br., S.).
 selu 男 = śelu; 𑖀 音写 色盧 [数名] *Mvyut.*
 selya-pura 甲 [ある町の名].
 Sev, I. 𑖀 (𑖀 韻律) sevate(-ti), (𑖀) 近くにいる (Br.); 𑖀: (𑖀) に留まる・立つ・滞在する・住む・しばしば通う・居住するまたはよく行く; (𑖀) に仕える・を世話する・に奉仕する・を喜ばせる・を尊敬するまたは 崇拜する; (子供を) 愛育する; (𑖀) を贈る; (𑖀) と性交する; 気分をさわやかにする, 扇ぐ(従者の扇ぐ風について); 𑖀 (まれ), 𑖀: 享受する, 使う, 使用する; 𑖀: 専心する, 耽る, 実践する, 修養する, 実行する; (𑖀) の中にまたは上に見出される; 𑖀 求 *Kāśy.*; 習 *Bodh-bh.*, *Kāśy.*; 修 *Sam-r.*; 随順 *Guhy-s.*; 親近 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*
 𑖀 𑖀分 *sevita*, 住まれた, しばしば通われた, 出沒する, 占められた; (一°) を具えた. 使役 *sevayati*, 𑖀 (𑖀) に仕える, 尊敬を示す; (植物を) 世話する, 育む.
 vy-ati-, 𑖀 *vyatisevyate*, (𑖀) を豊かに具えたまたは与えられた.
 anu-, 仕える, 尊敬する; 𑖀 資 *Divy.*
 ā-, (𑖀) に専心する, 耽る, を楽しむ; (𑖀) に身をさらす.
 sam-ā-, 実践する, 実行する.
 upa-, 居住する, しばしば訪れる, 訪問する, よく行く; に注意を払う, 尊敬を払う, 尊崇する, 崇拜する, 尊敬する, 奉仕する; に耽る, 実践する, 修

養する, に耽溺する; 享受する; 利用する; 往, 親近 *Lank.*
ni-, RV.: (因+sacā) と交渉をもつ; 圍:(圍) 住する, しばしば通う, よく行く; に侍する, に愛着する, 尊敬する, 仕える; (圍) と性交する; に耽溺する, に耽る, 実践する; 楽しむ; 用いる, 使用する; 苦しむ, (災難に) 耐えねばならない; (鹿を) 追う, 狩る; 作 *Rāstr.*; 修 *Bodh-bh., Rāstr.*; 習 *Bodh-bh.*; 安住 *Sam-r.*; 修習 *Bodh-bh., Daś-bh., Sam-r.* 過受分 *nisevita*, しばしば通われた. 使役 (地獄) へ落とす.
pari-, *parisevate, parisevate*, うやうやしく取扱う, 尊敬する; (対象を) 追求する; (圍) をしばしば楽しむ, 耽ける.
prati-, 仕える, 尊敬する; 起, 処 *Śikṣ.*; 食, 耽着 *Lank.*; 行習 *Prat-m.*; 親附, 窺近 *Śikṣ.*
saṃ-, しばしば通う, (洞穴) に住む; に侍する, 満足させる, 仕える, 尊敬する, 崇拝する; 親近 *Saddh-p.*
sevaka 形 (一°) 住する; 実践する, 耽ける, 耽溺する, 使用する; (植物を) 世話する; 尊敬する. 男 召使; (一°) の信奉者, 崇拝者; 隨事者 *Mvyut.*
sevakara 親 *Rāstr.*
sevana 1. 田 [Siv] 縫うこと; 縫目, (人体上の) 縫合線 (Br., 圍).
sevana 2. 田 [Sev] (一°) にしばしば通うこと, 訪問すること, よく行くこと; 侍すること, 仕えること, 奉仕; (一°) を尊敬すること・の崇拝; (一°) との性交; (圍, 一般に 一°) への耽溺・の実践・の實行・に耽けることまたはの使用; 所行 *Sam-r.*; 親近 *Divy., Ratna-ut., Sam-r., Śikṣ.*; 往返 *Sam-r.*; 依附 *Mvyut.*
sevanatā 因 行, 習, 親, 修習, 親近 *Kāśy.*
sevanā 因 近 *Śikṣ.*; 親近, 狎習 *Kāśy.*; 親附 *Saddh-p.*
sevaniya 未受分 しばしば行かれるべき (森); 敬礼されるべき, 求愛されるべき (若者); 親近 *Śikṣ.*
sevā 因 (一°) へしばしば通うこと; 訪問; (圍, 一°, まれに 因) の奉仕; (圍, 一°) の敬礼, 崇拝; (一°) に対する敬意; (一°) に対する耽溺, 専念, 実践, 使用, 狎れ親しむこと, 頻繁に楽しむこと; (一°) との性交; 親 *Bodh-bh.*; 近 *Divy., Guhy-s.*; 習 *Bodh-c.*; 事 *Gand-vy.*; 習近 *Bodh-bh.*; 親近 *Bodh-bh., Sūtr.*; 隨順 *Bodh-bh.*
sevā-vṛtta-saṃvidhāna 親附隨順繫属 *Bodh-bh.*
sevāñjali (°vā-añ°) 男 合掌による敬礼.
sevā-dharma 男 奉仕の義務または責任.
sevita 過受分 → *Sev.*; 奉事 *Sam-r.*; 狎習 *Bodh-bh.*; 田邊 *Śikṣ.*
sevitavya 未受分 実践されるべき, 実行されるべき, 服従されるべき; 世話されるべき; 受 *Ast-pr.*; 応習, 応事 *Abh-vy.*; 応親近 *Ast-pr., Rāstr.*; 応熏修, 応熏習 *Gand-vy.*; 应当親近 *Ast-pr.*
sevitṛ 男 侍者, 召使.
sevitva 田 (一°) へしばしば行くこと, 常に出入りする; (一°) を尊敬すること, 敬礼すること.

sevin 形 (一°) にしばしば出入りする・出沒する・住するまたはよく行く; 仕える; 尊敬する, 敬意を払う, 敬意を表する; と性交する; 耽る, 実践する; 楽しむ; 使用する; 侵, 密行 *Kāśy.*; 親近 *Bodh-bh.*
 → *paradāra* ~. 田 (一°) の召使.
sevyā 未受分 (圍) によってしばしば出入されるべき, しげく行くに価する; 従われるべき (道); 近づかれるべき; (圍) によって侍されるべきまたは仕えられるべき; 尊敬されるべき, 敬意を払われるべき; 肉欲を楽しむべき; 耽けられるべき, 修養されるべき, 実践されるべき, 使用されるべき, 楽しまれるべき. 男 主人 (因 召使); 修 *Ratna-ut.*; 受用 *Śikṣ.*; 可修 *Lal-v.*; 応習, 応事 *Abh-vy.*
sevyatā 因 [同上の圍].
sevyatva 田 [同上].
sevyā-sevaka 男 田 主人と召使.
saimha 形 (因 -i) ライオン (*simha*) に属する, ライオンの.
saimhala 形 セイロンに関する, セイロンの.
saimhikēya 形 *Simhikā* に由来する. 男 [Rāhu の母系].
saika (sa-eka) 形 一を伴ったまたは加えた.
saikata 形 (因 -i) 砂 (*sikatā*) からなるまたは作られた, 砂の (Br., 圍). 田 砂州, (河の) 砂浜; 砂地 (まれ).
saikatin 形 砂州または砂浜がある.
saikāvali (sa-ek°; °ka-āv°) 形 (因 -i) 一連の (真珠の首飾り) を持っている.
saitava 形 堰または橋 (*setu*) からなる. 男 [人名].
sainānya 田 [senāni から] 將軍職.
saināpatya 田 [senāpati から] [同上].
sainika 形 軍隊 (*senā*) に関するまたは属する. 男 兵士; 田 軍隊.
saindūra 形 朱 (*sindūra*) で色どられた.
saindūri-Kṛ, 鉛丹または朱で色どる.
saindhava 形 (因 -i) 海 (*sindhu*) に関係ある, 海の, 海上の; *Indus* 河または *Sindhu* 地方に属するまたは由来する. 男 *Sindhu* 地方の住民 (種); *Sindhu* 地方の王子; *Sindhu* 産の馬. 男 田 (*Sindhu* 地方に豊富に産する) 岩塩; 田 塩, 紅塩, 塩味 *Mañj-m.*; 戎塩 梵雜.
saindhavaka 形 *Sindhu* 地方の人々に属する.
saindhava-khilya 男 塩塊 (Br.).
saindhava-silā-sakala 田 岩塩の一片.
sainya 形 軍隊 (*senā*) に属するまたは由来する. 男 兵士 (因: 軍隊); 軍隊 (まれ). 田 軍隊 (きわめて普通); 野営 (まれ); 部 *Mvyut.*; 軍 *Divy., Lal-v., Mvyut.*; 衆 *Lal-v., Ratna-ut.*; 勇健軍 *Guhy-s.*
sainya-kṣobha 男 軍隊内の叛乱.
sainya-nāyaka 男 軍隊の指揮者.
sainya-pati 男 [同上].
sainya-pāla 男 [同上].
sainyamaya 形 (因 -i) 軍隊からなる.
sainya-vāsa 男 軍隊の兵營.
sainya-siras 田 軍隊の頭領.
saira 形 (因 -i) 鋤 (*sira*) に属する. 田 酒精飲料 (の

一種).

sairandhra 男 近侍, 従者; 混合カースト (*Dasyu* と *Āyogava* 女との子孫).

sairandhri 因 侍女, 女従者.

sairāvat 形 糧食をもった (船, Br.; 翻).

sairindhra 男 因 (-i) [sairandhra 男 因 (-i) の異読].

sairibha 男 水牛.

sairiya 男 (美しい花のある灌木), *Barleria Cristata*.

saireyaka 男 [同上]. 田 Sairiya の花.

saisaka 形 鉛で作られた (sisa), 鉛の.

So, → Sā 2.

so = sā + u (因).

socchvāsa (sa-uc°) 形 あえぐ. ~m 副 安堵のため息をして.

sodha 過受分 耐えられた等. → Sah.

sodhavya 未受分 [Sah] 耐えられるべき; がまんまたは容赦されるべき; 漢訳 忍 *Bodh-bh.*; 当忍 *Saddh-p.*

sodhum, 不定 [Sah].

sodhṛ 形 (因) に抵抗することが出来る; 辛棒強く耐える.

sotu 男 *Soma* を搾ること, *Soma* の献供.

sotr 男 [Su 1.] *Soma* を搾る人 (RV.).

sotka (sa-ut°) 形 切望に満ちた, 一, 副.

sotkaṅṅha 形 (prati) を切望するまたは熱望する; (一°) を後悔する, 悲嘆する. ~m 副 切望して; 悔んで.

sotkampa (sa-ut°) 形 震える, おののく.

sotkarṣa (sa-ut°) 形 すぐれた, 優秀な.

sottara (sa-ut°) 形 有上 *Abh-vy.*, *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*; 勝上 *Ast-pr.*

sotpattika (sa-ut°) 形 有因 *Bodh-bh.*

sotprāsa (sa-ut°) 形 皮肉な, 嘲笑する. ~m 副 皮肉に, 嘲笑して; あざわらって.

sotprekṣam 副 冷淡に, 不注意に,

sotsava (sa-ut°) 形 祭りの(日); 祝祭の, 陽気な, 大喜びの.

sotsāha (sa-ut°) 形 断乎とした, 精力的な, 勇気ある; おそろしい, 荒れ模様の(雲); 狂喜した. ~m

副 精力的に, 力をこめて; 大喜びで, 熱狂して.

sotsāhatā (sa-ut°) 因 活発, 敏活, 精力.

sotsuka 形 (因, prati, 一°) を切望する, あこがれる, しきりに…したがる.

sotseka 形 尊大な, 傲慢な.

sotsedha 形 高い, そびえ立つ. ~m 副 ぐいと引張って.

sodaka (sa-udd°) 形 水を含んでいるまたは一杯の.

sodaya (sa-ud°) 形 利益が増える, 蓄積された, 利子を伴った.

sodayana (sa-u°) 形 *Udayana* を伴った.

sodara (sa-ud°) 形 (因 -i) 同じ胎から生まれた, 同腹の, 同母異父の; 土 *bhrātr* 男 同母異父の兄弟;

譬喩 = 密接な関連のある, 最近親者の (因) *narmai-kasodaram hi navam vayah* 青年時代にはただ一人の兄弟すなわち娯楽があるだけである = 娯楽と手を携えて行く = 青春時代には人は遊ぶことしか考えな

い).

sodari (sa-ud°) 因 同母異父の姉妹.

sodarya (sa-ud°) 形, 男 = sodara.

sodarya-sneha 男 姉妹のような愛情, 兄弟愛, 友愛.

sodāyin (sa-ud°) 男 音写 蘇陀夷, 須陀夷 [人名] *Abh-vy.*

soddeśa (sa-ud°) 形 并説 *Bodh-bh.*

soddhāra (sa-ud°) 形 選ばれた部分をもった.

soddhāra-vibhāgin 形 選ばれた部分とともに自分の分け前を受取る.

sodbāṣpam (sa-ud°) 副 涙ながらに, 涙を流して.

sodbhava (sa-ud°) 形 現在 *Mañj-m.*

sodyama (sa-ud°) 形 争いまたは戦闘に備えた, 戦争の用意のできた.

sodyoga (sa-ud°) 形 孜々としてたゆまぬ, 勤勉な, 奮闘的な, 熱心な, 進取の気性に富む, 果敢な; (生命の破壊を) 目指す (= 危険な, 一°).

sodvega (sa-ud°) 形 動揺した, 心配している. ~m 副 興奮して, 心配して.

sonmāda (sa-un°) 形 ひどく興奮した, 狂乱した, 狂気の.

sopakāraka (sa-up°) 形 恩恵を受けた, 援助された.

sopagraham (sa-up°) 副 こびへつらって, なだめるように, 友好的に.

sopacaya (sa-up°) 形 有利な, もうかる.

sopacāra (sa-up°) 形 行為の規範にのっとった; いんぎんな (言葉). ~m 副 ていちように, いんぎんに.

sopadrava (sa-up°) 形 悩み・災難または危険を伴った; 漢訳 災難競起 *Kaśy.*

sopadha (sa-up°) 形 詐欺的な, 不正な; 直前の音ともの (文法).

sopadhi (sa-up°) 形 詐欺の. 副 欺いて.

sopadhi-śeṣa 形 (因) *nirupadhiśeṣa*. 漢訳 有余依 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*

sopadhiśeṣa-nirvāṇa 因 漢訳 有余依涅槃 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*; 余蘊涅槃 *Mvyut.*

sopadhiśeṣanirvāṇa-satya 因 漢訳 有余涅槃実, 有余涅槃諦, 有余依涅槃諦 [九諦の一] *Bodh-bh.*

sopapada (sa-up°) 形 従属的な単語を伴った.

sopama (sa-up°) 形 比喩を含んでいる; (因) と同じ方法で (因) を扱っている.

soparodham (sa-up°) 副 思いやり深く, 親切に.

sopasarga (sa-up°) 形 困難または障害にぶつかる; 不適切な, 不快な (言葉); 前置詞を伴う.

sopasveda (sa-up°) 形 湿気のある, 濡れた.

sopahāsa (sa-up°) 形 嘲笑的な, ばかにした. ~m 副 冷やかして; 嘲笑的に.

sopāka 男 墮落したカースト出身の人 (*Caṅḍāla* と *Pulkasi* との間に生まれた子供, *Manu X, 38*).

sopādāna (sa-up°) 形 質料 (因) を有する; 有取 *Abh-vy.*, *Lank.*; 可取, 妄取 *Lank.*; 共因 *Lank.*

sopādāniya (sa-up°) 形 有取 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*

sopādhi (sa-up°) 形 限定的属性をもった, ある条件によって限定された; ある特殊な属性または特徴をもっている. 副 条件つきで.

sopādhika (sa-up°) 形 限定された, 制限された.
 sopāna 中 (圖, 一)へのステップ・階段または梯子;
 梯子 *Mvyut.*; 階陸, 梯陸, 梯階 *Aṣṭ-pr.*; 階
 砌, 階陸 *Gaṇḍ-vy.*; 階道 *Gaṇḍ-vy., Lal-v., Ra-*
ṣṭr., Sukh-vy. II.; 階道 *Raṣṭr.*
 sopānaka 中 [同上].
 sopāna-kūpa 男 階段のある井戸.
 sopānatka 形 靴をはいた.
 sopānatva 中 段階の機能, 階段の状態. ~m *Vraj.*
 階段となる.
 sopāna-paṅkti 因 階梯, 階段, 一続きの階段.
 sopāna-patha 男 [同上].
 sopāna-paddhati 因 [同上].
 sopāna-paramparā 因 [同上].
 sopāna-phalaka 中 階; 梯橙 *Aṣṭ-pr.*
 sopāna-mārga 男 = sopānapaṅkti.
 sopānah (sa-up°) 形 (因 -t) 靴をはいた.
 sopāmbha (sa-up°) 形 非難を含んでいる. ~m 圖
 非難をこめて.
 sopāhanaka 圖 屣 *Prat-m.*
 sobhanā 因 圖 (=śobhanā) *Lal-v.*
 soma 男 [Suから] しばられた汁, *Soma*; *Soma* 草
 (因においては *rājan*, すなわち植物の王の称号をもつ);
 圖 *Soma* 祭(まれ); 因, 圖: (空中の滴, *indu* 参照)
 月, 月神(圖においては *rājan* の称号をもつ); 圖
 [*Atri* に帰せられる息子, 八 *Vasu* 神群中の一,
Viṣṇu 神 および *Śiva* 神と同一視される, ある 法典の
 有名な著者の名]; 月曜日; [人名]; 圖 月 *Lank.,*
Mañj-m., Mvyut.; 月光(酒) *Bodh-c.*
 somaka 男 [ある王の名(因, 圖)]; 圖 [ある国の名];
Somaka 国の王 または *Somaka* 国生まれの人.
 somakeśvara (°ka-iś°) 男 *Somaka* 国の王.
 soma-krayaṇa 形 (因 -i) *Soma* 草の代価として役立
 つ. 中 *Soma* の購入.
 soma-krayaṇi 因 *Soma* 草の代価として役立つ牛.
 soma-gupta 男 圖 月護, 月蔵 *Lank.*
 soma-graha 男 *Soma* の杯 または 容器(因); 月食(圖).
 soma-tirtha 中 [ある 巡礼地の名].
 somatva 中 *Soma* であること.
 soma-datta 男 [いろいろの王や婆羅門の名].
 soma-darsana 中 圖 見月 *Mvyut.*
 soma-dā 因 [ある 婆羅門女の名].
 soma-deva 男 *Soma* 神; 月神; [種々の男の名].
 soma-devatya 形 *Somr* を神格として有する, *Soma*
 に捧げられた.
 somadeva-bhaṭṭa 男 [*Kāthāsaritsāgara* の著者の
 名].
 soma-devi 因 [*Kāmapāla* の妻の名].
 soma-daivata 圖 月神 *Divy.*
 soma-nātha 男 [種々の学者の名]. 中 [*Gujarat*に
 あるある有名な *Linga* とその寺院の名 (1024 A.D.に
 破壊された)].
 soma-pa 形 *Soma* 汁を飲むまたは飲む資格のある(因,
 圖). 男 圖 [一群の祖霊の名].
 soma-pā 形 [同上].
 soma-pāna 中 *Soma* を飲むこと. 形 *Soma* を飲む.

男 *Soma* を飲む人.
 soma-pāyin 形 男 [同上].
 soma-pāla 男 *Soma* の守護者 (Br.); [種々の男の
 名].
 soma-pāvan 男 *Soma* を飲む人 (RV.).
 soma-piḍā 因 [ある 王女の名].
 soma-piti 因 (因) *Soma* の一飲(つねに 圖); *Soma* 祭.
 soma-piṭha 男 [同上(因)].
 soma-pithin 形 *Soma* の一飲にあずかっている.
 soma-putra 男 *Soma* の息子; 月の息子, 水星.
 soma-puruṣa 男 *Soma* の召使い.
 soma-prṣṭha 形 *Soma* を背に担っている(因).
 soma-poya 中 *Soma* の一飲(RV.).
 soma-prabha 形 月の輝きをもっている. 男 [人名].
 soma-prabhā 因 [人名].
 soma-pravāka 男 *Soma* 祭の布告者(因).
 soma-bhāskara 圖 日月 *Lank.*
 somabhāskara-nakṣatra-pada 圖 明星宿句, 日月
 星宿句, 日月星宿見 *Lank.*
 soma-mad 形 (強語幹 -mād) *Somā* に酔った (RV.
 用例一回のみ).
 soma-raśmi 男 [ある *Gandharva* の名].
 soma-rājan 形 (因 -ñi) *Soma* を王としている.
 soma-rāta 男 [人名].
 somala-devi 因 [ある 王女の名].
 soma-vaṃśa 男 [王の] 月種族; 圖 月種 *Lank.*
 soma-vaṃśya 形 月種族に属する.
 somavat 形 *Soma* を含んだ, *Soma* を伴った等.
 soma-valli 因 *Soma* 草.
 soma-vāra 男 月曜日.
 soma-vāsara 男 または 中 [同上].
 soma-vikrayin 形 *Soma* を売る. 男 *Soma* を売る人.
 soma-vṛddha 形 *Soma* によって元気づけられた
 (RV).
 soma-śarman 男 [種々の男の名].
 soma-śita 形 *Soma* によって鋭くされた.
 soma-śukla 男 圖 白月 *Mañj-m.*
 soma-śuṣman 男 [人名]. (Br.).
 soma-śūra 男 [人名].
 soma-saṃsthā 因 *Soma* 祭の基本形(agniṣṭoma, aty-
 agniṣṭoma, ukṭha, ṣoḍaśi, atirātra, aptoryāma
 および vājapeya).
 soma-sad 男 圖 [*Sadhya* 神群の祖先の名].
 soma-salila 中 *Soma* 水.
 soma-sut 形 *Soma* をしぼる. 男 *Soma* 液をしぼる
 人, *Soma* 祭式において *Soma* の液を供える祭官.
 soma-suta 男 月神の息子または子孫.
 soma-suti 因 *Soma* をしぼること.
 soma-sutvan 形 *Soma* をしぼる. 男 *Soma* を搾る
 人.
 soma-svāmin 男 [人名].
 somānanda (°ma-ān°) 男 [人名].
 somā-raudra 形 *Soma* と *Rudra* 神に属する. 中(+
 sūkta) 讚歌 RV. VI, 74 (圖).
 somikā 因 [ある 鳥の名].
 somin 形 (因 -i) (RV.) *Soma* を供える, *Soma* 祭

を行なう; Soma によって靈感を得た。

somila 男 [ある Asura の名].

somilaka 男 [ある 織工の名].

somi-kṛta 形 Soma にされた, Soma に変えられた.

somesvara (°ma-iś°) 男 [ある 神の名]; [人名]; [ある Cālukya の名].

somodbhavā (°ma-ud°) 因 [(月から発した) Narmada 河の称].

somya 形 (因) Soma に関する・に属する・からなる またはによって靈感をうける, Soma を愛する; (saumya の不確). 男 (因) Soma 祭の祭主.

soratya 因 柔輓 Kāśy.

sorna-bhruva (sa-ūr°) 形 眉間白毫峙 Bodh-bh.

sormi (sa-ūr°) 形 波のある, 大波の, 波立つ, うねっている; 疾駆する(馬), 急ぐ.

sormika 形 波浪, 具波浪 Mvyut.

sollāsa (sa-ul°) 形 喜んだ, 喜びに満ちた, 喜悅している. ~m 副 喜んで.

solluṅṭha (sa-ul°) 形 皮肉な, 風刺の. ~m 副 皮肉に.

soṣa (sa-ūṣa) 形 塩分を含んだ土と混合した.

soṣita 過受分 =śoṣita; 踏尽 Lal-v.

soṣmatā (sa-ūṣ°) 因 熱; 氣息(文法).

soṣman (sa-ūṣ°) 形 温かい, 暑い; 氣息を伴う. 男 氣息音.

soṣma-snāna-grha 因 熱い風呂のある部屋, 浴室.

saukara 形 (因-i) 豚(sūkara)に関する またはに属する, 豚のような.

saukarika 男 屠者, 屠猪 Divy.; 畜猪, 養猪 Saddh-p.; 売猪者 Mvyut.; 屠養猪, 屠猪 Bodh-bh.

saukarya 1. 因 [su-kara] 容易さ, 実行可能であること, 熟練, 巧妙. ~eṇa 副 最も容易に. ~āya 副 より一層便利なように.

saukarya 2. 因 [sūkara] 豚であること.

saukumārya 因 [sukumāra] 繊細さ, 柔かさ, 優しさ; (歩きぶりの) 優雅さ; 細軟, 快樂 Bodh-c.

saukṣmya 因 [sūkṣma] 微細, 微妙; 細, 細微 Ratnā-ut., Sāṃkhy-k.; 体細塵 Ratna-ut.

saukhaśāyanika 形 [sukhaśayana] 熟睡(したかどうかについて)尋ねる.

saukhya 因 [sukha] 安寧, 慰安, 享樂, 快樂, 幸福, 祝福; 樂 Bodh-bh., Bodh-c., Rāṣṭr., Sam-r., Sūtr., Suv-pr.; 安穩 Daś-bh., Śikṣ.; 善利 Śikṣ.; 快樂, 安樂 Suv-pr.

saukhyatā 因 安穩, 怡懌欽暢 Lal-v.

saukhya-da 形 喜びを与える, 安寧を与える.

saukhya-laukya 形 世間之樂 Sūtr.

saukhya-viśiṣṭa 形 勝安樂, 最勝安樂 Gand-vy.

saukhya-samarpita 形 樂具足, 受勝妙樂 Śikṣ.

saukhya-hitāśaya (°ta-āś°) 利益心 Sūtr.

saukhyārthin 形 求樂, 求樂衆生聚 Sūtr.

saugata 形 (因-i) [sugata] 仏教(徒)的な. 男 仏教徒; 此等事, 諸妙事 如是等物 Lank.; 騷揭多 玄応.

saugandhika 形 [sugandha] 芳香のある. 因 白い(ときに青い)水蓮; 勝香 Mvyut.; 蘇建-

提(花) Lal-v.

saugandhya 因 芳香.

saucika 男 [針仕事をする人: sūci] 裁縫師.

saujanya 因 [sujana] やさしさ, 善良, 親切, 温和, 慈悲心, (性格の) 気高さ.

saujanyavat 形 温和な, 愛想のよい, 親切な.

saujāta 男 [Sujāta の父系 (Br.)].

saujāmi 男 [sujāmi の父系] [人名].

sauṭirṇa 形 (=śauṭira) 吉祥 Aṣṭ-pr.

sautya 1. 形 御者(sūta)に関する. 因 御者の職.

sautya 2. 形 Soma 液をしぼること(sutyā)に関係ある.

sautra 形 (因-i) 糸からなるまたはで造られた; Sūtra に属する: +dhātu, 男 語源の説明のため文法書にのみ挙げられている語根.

sautrāntika 男 経量部の人: 因 [ある仏教部派の名]; 経部者 Mvyut.

sautrāmaṇa 形 (因-i) Indra 神(Sautrāman)に属する: +diś, 因 東.

sautrāmaṇa-dhanus 因 虹.

sautrāmaṇi 因 Indra 神(Sautrāman)に捧げられた(ある)祭式(因, P.).

sautrika 男 [sūtra] 織工. 因 織物.

sautsukya 形 [sotsuka] 期待している, 待ちきれない.

saudarya 形 [sodara] 兄弟のような. 因 兄弟であること.

saudāmani 因 [慈悲深いものすなわち Indra 神または雨雲(sudāman)に由来する] (雨雲から生ずる)電光:(しばしばシュローカ詩節の終りににおいて) vidyut
saudāmani yathā =(黒い)雷雲から(発する)電光のように; [Meghadūta に対する注釈の標題]; [Kāśyapa・ある Yakṣiṇī・ある Apsaras または種々の女性の名].

saudāmini 因 saudāmani (電光)の頻出する不確.

saudāsa 男 [sudās または sudāsa から] [種々の王の名(とくに Sudāsa 王の息子), Mitrasaha, または Kalmāṣapāda の名].

saudha 形 しっくい塗った, しっくい(sudhā)を備えつけた. 男 因 しっくい塗りの大邸宅, 宮殿.

saudhanvana 男 Sudhanvan の息子: 因 Rbhū 族.

saudharma 因 [sudharma] 正義, 正直, 実直.

saudhākara 形 [sudhākara] 月の.

saudhāṅga 因 宮殿の中庭.

sauna 形 [sūnā] +māṃsa. 因 屠殺場から持って来た肉. 因 [同上]. 男 屠殺人, 肉屋.

saunāga 男 因 Sunāga 学派.

saunika 男 [sūnā] 屠殺人; 狩人(まれ).

saundarya 因 [sundara] 美, 可愛らしさ, 優雅; 寛大.

sauparama 形 最第一 Bodh-bh.

sauparṇa 形 鷹等に関する・属する・由来する またはに似ている. 因 Suparṇa 讃歌(因).

sauparṇa-vrata 因 [ある苦行の名] (S.).

sauparṇya 形 =sauparṇa (Br.).

sauptika 形 [supta] 寝ている間または睡眠中に起こる. 因 (因) に対する夜襲.

sauptika-vadha 男 (眠っている *Pandava* 族の兵士達に対する) 夜襲による殺戮。
saubala 男 [*Subala* の父系] [*Śakuni* の名]。
saubali 女 [*Subala* の娘, *Gandhari* の父系]。
saubha 男 [*Hariscandra* によって支配された空中の都城の名]。
saubhaga 男 [subhaga] 男: 福祉, 好運, 幸福, 享樂 (男 好運の贈物, 喜び); P: 美, 可愛らしさ, 優雅。
saubhagatva 男 福祉, 幸福 (RV.)。
saubhadra 男 [*Subhadra* から] *Abhimanyu* の母系。
saubhara 男 (女 -i) *Sobhari* に属する。男 *Sobhari* の父系。
saubhari 男 [ある Rṣi の名]。
saubhāgya 男 [subhaga] 福祉, 幸運, 好運; 人気; 夫婦の幸福; 美, (人またはものの) 魅力; 楽 *Divy.*; 大楽 *Guhys.*
saubhāgyavat 男 幸運な, めでたい; 美を賦与された。
saubhrātra 男 [subhrātr] 兄弟間の愛情, 友愛。
saubhrātra-sneha 男 [同上]。
saumāngalya 男 [sumāngala] 福祉, 繁栄; 吉祥なもの (護符等)。
saumadatti 男 *Somadatta* の父系。
saumana 男 花。
saumanasa 男 (女 -i) 男: 花に由来する・からなる。男 気立のやさしさ, 慈悲深さ, 慈愛 (RV.); 悦楽, 満足, 上気嫌, 享樂 (より少ないが 男 のときもある); 男。
saumanasya 男 喜び, 楽しさ, 愉快; 正しい理解 (まれ); 花束 (P., まれ); 男 喜 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*; 快樂 *Sam-r.*; 悦意, 悦予 *Śikṣ.*; 心安 *Madhy-v.*; 歡喜 *Madhy-v.*, *Sapt-pr.*; 意悦予, 適悦意 *Śikṣ.*
saumanasya-jāta 男 歡喜 *Bodh-bh.*; 心中樂生 *Mvyut.*
saumanasya-priti 女 歡喜 *Guhys.*
saumanasyavat 男 楽しんでいる, 喜んでいる。
saumanasyin 男 喜, 有喜 *Abh-vy.*
saumanasyendriya (°ya-in°) 男 喜根, 意樂根 *Mvyut.*
saumanā 女 =saumana。
saumanta 男 *Sumantu* によって教えられた。
saumantriṇa 男 [sumantrin] よい大臣をもっていること。
saumika 男 (女 -i) *Soma* または *Soma* 祭に属する。
saumitra 男 [sumitrā から] *Lakṣmaṇa* の母系。男 [sumitra から] 友情。
saumitri 男 *Lakṣmaṇa* の母系: 男 *Lakṣmaṇa* と *Śatrughna*。
saumila, °lla 男 [ある詩人の名]。
saumilakā, °likā 女 積毛鬘魯 *Mvyut.*
saumi 男 saumya の女。女 月光 (叙詩)。
saumukhya 男 快活, 陽気; (一°) を喜ぶこと, …への好み; 男 誑喜 *Sūtr.*; 歡顔 *Bodh-bh.*
saumerava 男 (女 -i) *Sumeru* 山に属する。
saumya 男 (女 -i, 男; -ā 男; -ā RV. 用例一回のみ) 男, 男: *Soma* に関する・属する または 捧げられ

た; 涼しく湿った (男 *āgneya*, 熱く乾いた)。男: 北方の (まれ); (月のような, 月のように静かな), 気持よい, 楽しい; 親愛な, よい (友), 寛容な (呼びかけの語として, あなた, 君); 吉祥な (惑星等)。男 一群の祖霊; 男 *Budha* の父系, 水星; *Marga-śrīṣa* 月; 男 月; 男 蘇摩 *Raṣṭr.* 男 苦行 (の一種) (まれ)。男 寛容 (まれ); 男 正 *Śikṣ.*; 可樂 *Lank.*; 深善 *Mañj-m.*; 調和 *Lal-v.*
saumya-cittatā 女 調和心 *Lal-v.*
saumyatā 女 おとなしさ, やさしさ, 慈善; 美; 男 深善, 寂靜, 調柔 *Śikṣ.*
saumyatva 男 [同上]。
saumya-darśana 男 見て心地よい; 男 人樂観 *Suv-pr.*; 見者清涼 *Gaṇḍ-vy.*
saumyadarśanā 女 [ある王女の名]。
saumya-nāman 男 (女 -mni) 聞いて心地よい名前をもった。
saumya-mukha 男 快い顔をもった。
saumya-rūpa 男 (男) に対して親切なまたはやさしい。
saumyākṛti (°ya-āk°) 男 快い容貌をもった。
sauryavasi 男 (男) *Suryavasa* の父系。
sauryāmi 男 父系 [人名]。
saura 男 (女 -i) 太陽 (*sūrya*) に関する・属するまたは由来する, 太陽の, 太陽に捧げられた。男 太陽の崇拜者; 太陽の子, 土星。男 太陽神 (*Sūrya*) 讃歌の集成。
sauraka 男 [*Surendra* によって建設されたある町の名]。
saurata 男 性的喜び (*surata*) に関する。男 性的喜び, 性愛の楽しみ。
sauratya 男 [surata から] (に対する, 一°) 喜び; 男 樂 *Śikṣ.*; 安樂 *Daś-bh.*; 柔和 *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I*; 親近 *Bodh-bh.*; 敦厚, 重厚 *Mvyut.*; 柔和安雅 *Saddh-p.*: *dharma* ~ 法樂 *Śikṣ.* 46。
saurabha 男 [surabhi から] 芳香ある。男 芳香。
saurabheya 男 (surabhi) 牡牛: 男 家畜 (の群)。
saurabheyi 女 (男) (*Surabhi* の娘), 牝牛。
saurabhya 男 芳香, かおり; (蠶論) 全体に伝播すること, 蔓延; 男 仁和, 調柔, 温和, 質直 *Lal-v.*
saurasa 男 [*Surendra* によって建立されたある寺院の名]。
saurasaindhava 男 *Gaṅgā* 河 (*surasindhu*) に属する。
saurājya 男 善政またはよい統治。
saurāṣṭra 男 *Surāṣṭra* (*Surat*) の。男 男 *Surāṣṭra* の人民。
saurika 男 [surā から] スラー酒に対して支払われるべき (金)。
saurya 男 (女 -ā, 男; sauri, 男) 太陽 (*sūrya*) に関する, 太陽の。
saurya-prabha 男 *Sūryaprabha* に属する。
sauryodayikā (°ya-ud°) 男 日出 *Mvyut.*
saulakṣaṇya 男 [sulakṣaṇa から] 吉祥相をもっていること。
saulabhya 男 [sulabha から] 手に入れやすいこと, 美

行しやすいと；便利，便宜，容易。

sauva 形 (YV.) 天 [svar] の。

sauvarcala 形 [suvarcala から] (人造) 塩 (の一種)，

sochal 塩；青鹽 Mañj-m.

sauvarṇa 形 (因 -ā, -i) [suvarṇa から] 黄金の；金 Daś-bh., Lank.

sauvarṇa-bhṛṅgāra 形 金瓶 Divy.

sauvarṇika 形 一° (数詞 とともに) (それだけの) Suvarṇa (単位) の重さまたは価値のある。男 貼金匠，煉金匠 Mvyut.

sauvastika 形 誦妙讚 Mvyut.

sauvāsini 形 =suvāsini.

sauvidalla 形 後宮の守衛。

sauvidallaka 形 [同上]。

sauviṣṭakṛt 形 Agni Sviṣṭakṛt のための またはに關する (S.)。

sauviṣṭakṛta 形 (因 -i) [同上]。

sauvira 形 [suvira] [ある民族の名 (複)]；Sauvira 人の王。中 酸い粥。

sauśabdyā 形 [suśabda から] 文法的に正しい形成。

sauśilya 形 性格のよさ，よい性向；善戒 Bodh-bh.

sauśravasa 形 [suśravas から] 評判のよい (S.)。中 男 高い賞讃，よい名声 (RV.)。

sauśadmana 形 Suśadman の父系 (Br.)。

sauśirya 形 竅隙 Śikṣ.

sauśumṇa 形 [suśumṇa] 太陽光線 (の一種)。

sauśṭhava 形 [suśṭhu から] 卓越，健全，活気，柔軟；(しばしば lāghava とともに) 座法 (の一種)；餘，巧妙，莊嚴 Lank.

sauśṭhiya 形 善住 Guhy-s.

sauśvarya 形 [susvara から] 聞いて心地よい音。

sauśsala 形 Sussala に属する。

sauśhārda 形 [suhṛd から] (に対する，との：屬，因) 愛情・友情。～m Kṛ, (屬) と友誼を結ぶ。

sauśhārdya 形 [suhṛd から] [同上]。

sauśhitya 形 [suhita から] 飽満，満足；友情，親切；愛らしさ，あいきょう。

sauśhṛda 形 [suhṛd から] 友人に起因する (叙詩)。男 友人 (まれ)。中 (に対する，との：因，一°) 愛情，友情；に対する好み，(一°) への愛情。～m Kṛ, (saha) と友誼を結ぶ。

sauśhṛdayya 形 愛情，友誼 (まれ)。

sauśhma 形 Suhma 族の王子。

ska-kāra 形 (音写) 娑迦字 [四十二字門の一] Gaṇḍ-vy.

Skad, Skand, I. 形 (因) skandati (-te) 跳ぶ，とび上がる；噴き出す；落ちる，滴らす，こぼれる または 流れたす；滅ぶ (まれ)；とびかかる，交尾する (動物について；Br.)。過受分 skaana 落ちた，滴った，射精された (精液)，こぼれた；卑しめられた (一°)。

使役 skandayati 他 こぼす，流す，(精液) を射精する；とぼす，省略する，無視する。陰 kanīṣkan (三人) 形 中；RV. 用例一回のみ，(蛙が) 跳ぶ。

ati(-skad または -skad；因) 跳びかかる，交尾する；省く，軽蔑する；脱落する，倒れる。

ava- とび下りる；攻撃する，おそう。過受分 こぼれた；(一°) によって征服された (譬喩)。

sam-ava- 使役 攻撃する，おそう。

ā- 跳ぶ，とび上がる (因)；圍 (圍) のうえを踏む；(人 または 場所を) 攻撃する，おそう。

pra- 跳び進む，出すまたは下りる，跳び上がる；放出される，こぼされる，流される，(涙等が) ほとぼしり出る；おそいかかる，攻撃する；徹 Lal-v.；入，悟入 Abh-vy.

skanda 形 跳ぶもの (trṇaskanda としていなご，[人名])；(屬，一°) の流出または滴下；破壊；'攻撃者' 塞建陀 (軍神，神の軍隊の指揮者，また子供達をおそう病魔の首領，永遠の若さを有し [それゆえに Kumāra], Śiva 神 または Agni 神の息子であり，Kṛttika によって育てられた [それゆえに Karttikeya])；作瘦，作嘆 Mvyut.

skandaka 形 跳ぶ人；兵士。中 (?) 韻律 (の一種)。

skandaka-grāma 形 [ある村の名]。

skanda-gupta 形 [ある王 およびある 象番人の名]。

skanda-janani 形 Skanda 神の母，Pārvatī 女神。

skandatā 形 Skanda 神であること。

skandatva 形 [同上]。

skanda-dāsa 形 [ある商人の名]。

skandana 形 流出，放出；失敗，流産。

skanda-putra 形 Skanda 神の息子 (盗人に対する誇大辞)。

skanda-pura 形 [ある町の名]。

skanda-purāṇa 形 [ある Purāṇa の名]。

skandin 形 (一°) を流出する。

skandha 形 因 圍：肩；圍：幹の枝を出している部分，(木の) 幹 (S. でも)；区分，部分；(風の) 通路，道，領域 (まれ)；(論文の) 節 (まれ)；量，集合，集合体 (まれ)，(しばしば skanda の不確)；茎 Lal-v., Sukh-vy. I., Sūtr.；身，災 Ratna-ut.；肩 Bodh-bh., Rāṣṭr., Ratna-ut., Vajr-s., 梵維，梵干；臂 Mvyut.；蔵 Bodh-bh.；聚 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh., Kāśy., Mvyut., Sam-r., Sūtr., Suv-pr., Vajr-s.；蘊 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Gaṇḍ-vy., Kāśy., Lank., Madhy-v., Madh-vibh., Mvyut., Saddh-p., Śikṣ., Vajr-s.；陰 Abh-vy., Kāśy., Lank., Madhy-v., Madhy-vibh., Rāṣṭr., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr.；陰聚 Maṭhy-v.；音写 臂頭 Mvyut.；娑健量，娑健因 玄應：pañca ~ āḥ 五蘊 Aṣṭ-pr. 173；asamasamāḥ pañca ~ āḥ 無等等五蘊 (1. śīla ~ 戒蘊，2. samādhi ~ 定蘊，3. prajñā ~ 慧蘊，4. vimukti ~ 解脱蘊，5. vimuktijñānadarśana ~ 解脱智見蘊) Mvyut. 4.

skandhaka 形 Āryā 韻律 (の一種)。

skandha-kadambaka 形 陰集，陰聚，蘊聚 Lank.

skandhaka-pāncaka 形 陰 Lank.；五蘊，五陰 Abh-k.

skandha-kausāla 形 蘊善巧 Bodh-bh.

skandha-kausālya 形 陰方便智 Sam-r.；蘊善巧 Bodh-bh.

skandha-tathatā 形 陰如，蘊如，蘊真如 Aṣṭ-pr.

skandhatā ㊦ 蘊蘊, 諸陰陰 *Lank.*
 skandha-deśa ㊦ 肩(の部分); 胴体部.
 skandha-dhātva-āyatana ㊦ 陰界入 *Ratna-ut.*; 蘊界処 *Lank.*
 skandhadhātva-indriya ㊦ 陰界根 *Ratna-ut.*
 skandha-pada ㊦ 陰句, 陰見, 蘊句 *Lank.*
 skandha-parikṣā ㊦ 觀(五)陰, 觀(五)蘊 [中論第四品の名] *Madhy-v.*
 skandha-piṭha ㊦ 肩甲骨.
 skandha-prajñapti ㊦ 假蘊, 假名陰 *Abh-vy.*
 skandha-māra ㊦ 身魔 *Lal-v.*; 陰魔 *Saddh-p., Śikṣ.*; 蘊魔 *Lal-v., Śikṣ.*
 skandhavat ㊦ (太い) 幹 または 沢山の 幹 を 有する; 有陰 *Madhy-v.*
 skandha-vikalpa ㊦ 陰妄想, 陰虚妄, 諸蘊分別 *Lank.*
 skandha-vijñāna-pañcama ㊦ 五陰識 *Lank.*
 skandha-vyavasthāna ㊦ 五陰 *Sūtr.*
 skandha-sīras ㊦ 肩甲骨.
 skandhas ㊦ (木の) 梢(因).
 skandha-svabhāva-lakṣaṇa ㊦ 五陰体相, 諸陰自性相, 諸蘊自性相 *Lank.*
 skandhākṣa ㊦ 太細目 *Mvyut.*
 skandhātmatva-prasaṅga (°dha-āt°) ㊦ 陰即是人 *Sūtr.*
 skandhāyatana-dhātu (°dha-āy°) ㊦ 陰入界 *Ratna-ut.*; 陰界入 *Sūtr.*; 陰界諸入 *Madhy-v.*
 skandhālaya (°dha-āl°) ㊦ 五蘊宅, 五陰舎宅 *Suv-pr.*
 skandhāvāra (°dha-āv°) ㊦ (幹の庇護所=王), 野営における王の本部 または 館; 兵 梵千; 兵衆 梵雜.
 skandhi-kṛta ㊦ 為蘊 *Abh-vy.*
 skandhopaneya (°dha-up°) ㊦ (+samdhi) 条約(の一種)(肩に乗せて運び去られる報酬).
 skandhya ㊦ 肩に属する等.
 skanna ㊦ → Skad.
 Skabh, Skambh, IX. ㊦ skabhnāti ㊦. V. ㊦ skabhnoti 固定する, 支持する; 妨げる, 阻止する(因). ā- (因) に安全に置く または 確立する (RV. 用例一回のみ).
 prati- 反対する, 抵抗する (RV. 用例一回のみ).
 vi-(skabh)- 固定する(因); 伏所, 伏, 制伏 *Abh-vy.*; 遮伏, 遠離 *Aṣṭ-pr.* 使役 ㊦ viṣkabhita 固定された. ㊦ viṣkambhita 追い払われた, そらされた, はねつけられた.
 skabhana ㊦ 音声 (=śabda)
 skabhāya, 名動 ㊦ (因) 固定する, 支持する; 妨げる, 阻止する.
 vi-(skabhāya)- 固定する(因).
 skambha ㊦ 支柱, 柱(因).
 skambhana ㊦ [同上](因).
 skambhani ㊦ [同上](因).
 skambhākṛta ㊦ [*Pāli* khambhakata]; 扱腰 *Prāt-m.*; 又腰 *Mvyut.*
 skānda ㊦ *Skanda* 神に属するまたは由来する等.
 Sku, V. ㊦ skunoti 突く, つつく; 覆う. 強調 co-

skūyate 拾い集める, 集める (RV.).

ā- II. ㊦ āskauti (炭火を) つつく(因).

Skṛ, upa°, pari°, sam° を伴った Kṛ を見よ.

Skhal, I. ㊦ (目) skhalati (-te) つまづく, よろめく; それる, 揺れる, ゆらめく, 動揺する; どもる, 口ごもる; 間違ふ; 仕損ずる, 失敗する: +na 妨げられない, (命令が) ゆきわたる, 動揺しない, (心が) 確固としている, (心が) 不動である; 誤失 *Bodh-bh.*; 錯誤 *Śikṣ.* ㊦ skhalita つまづく, よろめく, ふらふらした(足どり), 揺れる, ゆらめく, 動揺する; 妨げられた, 妨害された, 中断された, 挫折された; どもる, 口ごもる; 滴りおちる, 少しづつ流れおちる(まれ); (に関して: 因) 間違ふまたは仕損ずる(まれ); (凶兆: 因) によってためにされた, くつがえされた; 犯, 誤失 *Bodh-bh.*; 過犯, 差違, 違犯, 錯謬 *Kāśy.*; 錯乱 *Lal-v.*; 有所犯, 有欠漏 *Bodh-bh.*; 誤失三短 *Kāśy.* ㊦ skhalitavat (~tas) からはずれたまたは逸脱した. 使役 ㊦ skhalayati つまづかせる.

pari- よろめく.

pra- つまづく, よろめく, ぐらぐらする. ㊦ つまづく, よろめく; 失敗した(譬喩).

prati- ㊦ 受けとめられた, 受け流された, かわされた(武器).

vi- つまづく, よろめく. ㊦ (言葉を) どもる(名前: 一°)を間違える.

skhala ㊦ つまづき(まれ).

skhalana ㊦ つまづくこと, 不確かな足どり; (言葉を) どもること; (衣服を) 着違えること; …に衝突するまたは突進すること; 摩擦, 接触; (手で) なでること; (精液の) 射出; (一°) に陥いること; (名前: 一°) を間違えるまたは誤ること.

skhalita ㊦ → Skhal. ㊦ つまづくこと, よろめくこと; しくじり, 失策, 誤り, 常軌を逸すること, (因, 一°) の違反; (愛情: 因) の喪失・損失; 失 *Bodh-bh., Mvyut.*; 短 *Rāṣṭr.*; 悪 *Mvyut.*; 過 *Rāṣṭr., Sūtr.*; 闕, 悞失, 有犯, 所犯, 違犯, 犯者, 毀犯, 愆犯 *Bodh-bh.*; 忘失 *Saddh-p.* 過失 *Rāṣṭr., Śikṣ.*; 垂謬, 迷謬, 錯謬 *Śikṣ.*; 已犯者 *Bodh-bh.*: → ātma ~ gaveṣin.

skhalita-codanā ㊦ 諫誨 *Bodh-bh.*

skhalita-samācāra ㊦ 行犯 *Bodh-bh.*

skhalita-subhagam ㊦ (岩床のうえを) 樂しげに突進してまたは飛んで(小川について言う).

sta-kāra ㊦ (音写) 娑哆字(四十二字門の一) *Gaṇḍ-vy.*

Stan, I. ㊦ stanati 雷が鳴る, 轟く(因, 因); 不明瞭な音を発する(因). 使役 ㊦ stanayati [同上]; (油についても言う, P.); (火が) ぱちぱち言う (Br.).

ni- 現分 ㊦ 震動声 *Bodh-c.*

stana ㊦ (一° 形, 因 -ā, -i) 女性または雌の乳房, 乳頭; 乳 *Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Suv-pr.*; 乳房 *Abh-vy.*

stana-kalāśa ㊦ 壺のような乳房; [ある吟遊詩人の名].

stana-kuṣmala ㊦ 蓄のような乳房.

stana-kumbha 男 壺のような乳房。
stana-koṭi 女 乳頭。
stana-koraka 男 田 蓄のような乳房。
stana-taṭa 男 田 (女性または雌の) まるい乳房。
stanatha 男 (ライオンの) 咆吼 (RV. 用例一回のみ)。
stanathu 男 [同上] (AV.)。
stana-dvaya 男 田 兩乳 *Rāṣṭr.*
stanam-dhaya 形 (因・i) (母親の) 乳房を吸う ([Dhā 2. から])。男 乳児, 幼児; 子牛。
stana-pa 形 男 [同上]。
stana-patana 田 乳房の弛緩; 乳房がだらりとたれさがること。
stana-pāna 田 乳房を吸うこと。
stana-bhara 男 乳房の重味, ふくらんだ胸。
stana-maṇḍala 田 女のまるやかな乳房。
stana-madhyā 田 二つの乳房の中間, 胸部。
stanayad-ama 形 雷鳴を轟かしつつ突進する (*Marut* 神群; RV. 用例一回のみ)。
stanayitnu 男 [Stan の使役から] 雷鳴 (田, 田; 因, 田); 雷雲 (田)。
stana-vepathu 男 乳房がふくらむこと, 乳房の隆起。
stanāṃśuka 田 胸衣。
stanāntara 田 二つの乳房の中間, (男女の) 胸の中心。
stanābhoga (°na-ābh°) 男 乳房の豊かなこと, 豊満な乳房。
stanāvaraṇa (°na-āv°) 田 胸衣。
stanāvaraṇatā 女 [同上の田]。
stanita (過受分) 田 雷鳴; 田 吼 *Bodh-bh.*
stanita-vimukha 形 雷鳴を控えた。
stanita-samaya 男 雷鳴のとどろく時。
stanita-subhagam 田 心地よい雷鳴を伴って。
stanottariya (°na-ut°) 田 胸衣。
stanya 形 母親の乳房に含まれた。田 (女性または雌等の乳房に含まれた) 乳。
stanya-tyāga 男 母乳をはなれること, 離乳。
stanyatyāga-mātraka 形 (+vayas), 田 離乳直後の年齢。
stabaka 男 (とくに花の) 束またはふさ; =(その題名が *latā, mañjari* 等を含む本のなかの) 章。
stabakaya, 名 田 花束を用意する。 (過受分) **stabakayita**。
stabdha (過受分) → *Stabh.*; 田 慢心, 傲慢, 傲慢心 *Rāṣṭr.*
stabdha-karṇa 男 [ある獅子またはかもしかの名]。
stabdhatā 女 堅いこと, 硬直; うぬぼれ, 尊大; 田 倨傲, 僞傲 *Vijñ-t.*
stabdhatva 田 [同上]。
stabdha-locana 形 動かない (=瞬きしない) 目をもっている。
stabdhi-Kṛ, 硬くする。
stabdhi-bhāva 男 硬直, 麻痺。
stabdhi-BHū, 硬直する; 麻痺する。
Stabh, Stambh, IX. 田 **stabhnāti** (因, 田), V. 田 **stabhnoti** (Br., まれ), 固定する, 確立する, 支える, 支持する (とくに天を; 因), (支持する=) (田) にまで達する (叙詩); 阻止する, くいどめる (因, 田);

田 (因) に留まるまたはよりかかる (田); 硬くなる; 固まる (まれ, 叙詩)。 (過受分) **stabdhita** 固定した, 支持された (因); **stabdha** (因) に達する; 硬直した, かたい, 固定した, 不動の, 麻痺した; 固体状になる (水); 誇り高い, 尊大な。 ~m 田 確乎として。
 使役 **stambhayati**, 田 固定させる, 支持する, 維持する; かたくするまたは硬直させる, 麻痺させる; 凝固させる; (魔術で) 止めるまたは阻止する; 抑圧する, 抑制する, (涙等を) おさえる。 **divya-kriyām** ~ 成功裡に試罪法を通過する: (過受分) **stambhita**。
ava- 固定する; 支持する, 維持する; 妨害する, 封鎖する; 掴む, 握る; 捕虜にする; 田 護, 助, 扶持, 近弁 *Das-bh.*; 偏覆 *Lanik.* (不變分) **avaṣṭabhya** に依存して=の助けを得て, の故に。 (過受分) **avaṣṭabdhā** 掴まれた, 捕えられた; 捕虜にされたまたはにされていた; 硬直した, 硬い。
pary-ava- 田 困む。
ud-(uttabh-) 高くまたは上に固定する, 立てる, 樹立する。 (過受分) **uttabhita, uttabdha**, 立てられた等。 (過受分) **uttabdhavān** (定動詞の代りに) (かれは) 尊大または傲慢にした。 使役 **uttambhayati** 起こすまたは揚げる; 目を醒まさせる, 興奮させる; 高める, 昇進させる。
praty-ud- 支持する, 定着させる (Br.)。
upa- 支持する, 支える。
vi- 田: 別々に支える, 定着させる, 固定する; 田: 励ます; 硬直させる; 止める, 抑止する, 圧する, (足を) しっかりと置く; (雲) にもたれる; (硬直させる=) (世界等に) 浸透する。 (過受分) **viṣṭabdhā** 固定した (Br.); しっかりと結ばれた (三重の杖); 硬い, 硬直した (手足等); 阻止された, 止められた。 使役 **viṣṭambhayati** 田 阻止する, 止める, 拘引する。
saṃ- 支持する, 維持する, 励ます; (感官を) 麻痺させる; (とくに魔術によって) 阻止する; 硬直させる; (水を) 凝固させる; 抑止する, (悲しみ・涙を) 抑える。 使役 支持する, 励ます; (水を) 動かなくする; 阻止する, 止める, 抑制する; 抑止する, (悲しみ・涙等を) こらえる。
stabhāya, 田 (因) 固定する, 支持する; 止める, 阻止する。
stamba 男 束, (とくに草の) 茂み; 田 柱 *Sāmkhy-k.*; 林, 樹 *Aṣṭ-pr.*
stambaka 男 やぶ, 茂み, 束。 田 田 花苞 [花名] *Mṛyut.*
stamba-kari 形 束またはふさをなす, しげみをなす。
stambakaritā 女 (米の沢山の) 束またはふさができること。
stambe-rama 男 (草むらを喜ぶもの), 象。
stambh, → *Stabh.*
stambha 男 柱, 支柱, 標柱, 円柱, (細い) 茎 (また腕の置論; 因, 田; 普通の意味); 強めること, 支持 (まれ); 硬直, 固定; 昏睡, 麻痺状態; 停止, 妨害, 抑圧 (魔術による場合にも); 誇り, 尊大; 田 柱 *Gaṇḍ-vy., Mṛyut., Saddh-p., Śikṣ.,* 梵維, 梵千.; 傲, 慢, 得 *Mṛyut.*; 貢高, 僞傲 *Bodh-bh.*
stambhaka 形 止める, 阻止する。 男 柱, 標柱; [*Śi-*

va 神のある侍者の名]; 欄杆柱 *Mvyut.*
stambhana 形 (因 -i) 硬くするまたは硬直させる, 麻痺させる; 止める, 妨げる, 阻止する, 抑止する; 降伏, 禁伏 *Guhy-s.*; 僵仆 *Mvyut.* 甲 強めること, 支持すること; 硬直させること, 麻痺させること; 止めること, 阻止すること.
stambhani 因 魔術 (の一種) (仏教); 施 *Divy.*
stambhita 過受分 → *Stabh.*; 遮止 *Divy.*
stambhin 形 柱または円柱を具えた; 支持する; 慢心した, 尊大な; 止める, 抑止する; 橋 *Saddh-p.*
stambhi-BHū, 標柱となる.
starāṇa 甲 [Str] 広げる または まき散らす行為.
stari 因 (困 -s) 不妊の または 子を孕んでいない牝牛 または 若い牝牛 (因).
staru 男 敵 (S.).
startavai, Str. の 為 不定 (Br.).
stava 1. 男 [Stu] 賞讃, 頌詞, 讃辞, 讃歌 (RV. 用例一回のみ); 詠 梵語; 讚 *Saddh-p., Sam-r.*; 称讚 *Lank.*; 讚詠, 讚歎 *Saddh-p.*
stava 2. 男 甲 ラック (lac); 赤銅 *Divy.*
stava-karṇin 男 銅磬 (?) [人名] *Divy.*
stavatha 男 讚辞 (RV. 用例一回のみ).
stavadhya, Stu. の 為 不定 (RV.).
stavana 甲 賞讃すること, 賞讃.
stavara 錦, 片金 *Mvyut.*
stavāraka 男 甲 織物 または 原料 (の一種).
stava-rāja 男 讃歌のなかの主要なもの, 主な讃歌.
stavāna, Stu. の 現分 因 (因).
stavārha 男 応讚 [独覚名] *Divy.*
stavita 過受分 → *Stu*, 讚歎 *Lal-v.*
stave, Stu. の 三人 單 現 (受動の意味をもつ).
stavya 未受分 賞讃されるべき, 賞讃に価する.
Stā, IV. 他, 現分 *stāyat* のみ, 秘密の, 内々の, 人目を忍ぶ (AV. きわめてまれ).
stāyat 現分 → *Stā*.
stāyu 男 盗む (VS.; =*tāyu*).
stāraka, → *tr̥ṇa* ~.
stāva 男 [Stu] 賞讃, 讃歌.
stāvaka 形 賞讃する. 男 賞讃者, 讃辞を述べる人.
sti 男 従者, 臣下 (異 複 *stin* のみ, RV. 用例二回のみ).
Stigh, V. *stighnoti, stighnute* (大股に歩く), 因 (まれ).
ati- (*atiṣṭigham* の場合に) 踏み越える, 乗り越える.
希求 *atitiṣṭighiṣati* 踏み越えよう または 乗り越えよう と欲する.
pra- 起き上がる, のぼる.
sti-pā 形 臣下を保護する (因).
stibhi 男 ふさ, 束 (S., まれ).
Stim, 過受分 *stimita* のみ, 不活発な; のろのろした; 静穏な; 平静な, 着実な, 不動の, じっと動かない (しばしば目または凝視について); 濡れた, 湿った (まれ); 不調暢 *Vijñ-t.*; 湛然安静 *Divy.* ~m 甲 静止, 不動.
stimitatā 因 静止, 不動.
stimitatva 甲 [同上].

stiyā 因 よどんだ水 (因, まれ).
stirṇa 過受分 → *Str*; 布地 *Divy.*
stirṇa-barhis 形 祭壇の敷草を敷いた (因).
Stu, I. 因 *stavate* (RV.), II. 他 *stauti, staviti* (因, 罽), 賞讃する, 讚美する, ほめたたえる; 賞讃をこめて唱える; *Sāman* を歌う (罽); 歎 *Lal-v.*; 讚 *Bodh-c., Lal-v., Śikṣ.*; 歎詠 *Lal-v.*; 称讚, 讚揚 *Śikṣ.*; 讚歎 *Rāṣṭr.* 因 *stūyate* 賞讃される; 称歎 *Bodh-bh.* 過受分 *stuta* 賞讃された; 賞讃をこめて読誦された. 使役 *stavayati* 他 賞讃する; *stāvayate* 因 賞讃させる. 希求 *tuṣṭuṣati* 他 賞讃しよう と欲する.
abhi-(stauti) 賞讃する, 讚誦する (罽 において, とくに *Hotṛ* 祭官に関して); 歎 *Lal-v.*; 讚 *Lal-v., Rāṣṭr., Saddh-p., Sukh-vy. I.*; 讚歎 *Saddh-p., Sam-r.*; 讚詠 *Saddh-p.*; 嗟歎, 嗟歎称誉 *Saddh-p.* 過受分 *abhiṣṭuta* 賞讃された; 清められた.
upa- 賞讃する, 賞める, 讚誦する (因; 罽 において, とくに *Hotṛ* 祭官に関して, Br.).
pari-(stauti) 賞讃する, 賞める.
pra- 声高に賞讃する (因; 叙詩ではまれ); 唱歌する (一般に, またはとくに *Prastotr* に関して; Br.); 罽: …について語りだす, …を話題として紹介する; 始める, 開始する, 着手する; 始めに置く (まれ). 過受分 *prastuta*, 因: 賞讃された; 罽 話題として紹介された, 会話の主題である, 問題になっている (普通の意味); 企てられた, 始められた; (不定) することを企てた. 使役 *prastāvayati* 他 …を話題とする, 暗示する. 過受分 *prastāvita*.
saṃ-pra- 過受分 (不定) を始めた.
saṃ- 賞讃する, 賞める, 祝う; 称揚 *Guhy-s.* 過受分 *saṃstuta* 一緒に賞讃された (因); 賞讃された, ほめたたえられた (罽); 一 *Stotra* として総合された, 総称された (Br., S.); (因, 一) と対等 または 同等である, よく知られた, 親密な (人またはもの; 罽).
[*Stu* 2., 滴る, 凝結する (*stuka, stukā, stoka* として)].
stuka 男 髪束の束.
stukā 因 (髪束) 束, (羊毛の) ふさ, (牡牛の前額にある) 卷毛 (因).
stukāvin 形 毛深い, もじゃもじゃの (RV. 用例一回のみ).
stut 形 (一) を賞讃する. 因 (因) 賞揚, 讚歌.
stuta 過受分 → *Stu*, 咨嗟 *Lal-v.* 甲 賞讃.
stuta-śāstra 甲 罽 *Stotra* と *Śāstra*.
stuti 因 讚 (歌), 讚美, 讚辞, 称讚, 賞讃; 讚 *Aṣṭ-pr., Śikṣ.*; 称讚 *Bodh-c., Mvyut., Sūtr.*; 称美 *Śikṣ.*; 讚歎 *Lal-v., Ratna-ut.*
stuti-gitaka 甲 讚歌; +*vaiṣṇava*, *Viṣṇu* 神の讚歌.
stuti-pāṭhaka 男 讚歌者.
stuti-vacas 甲 賞讃.
stuti-saṃgiti 歌讚, 讚詠 *Gaṇḍ-vy.*
stutya 未受分 賞讃されるべき, 賞讃に価する.
stutyatva 甲 賞讃に値いすること.
stupa 男 髪束の束, 頭髮 (因).
stubdha 過受分 → *Stubh.*

Stubh, I. 𑀓 stobhati, 𑀓 stubhāna, 𑀓 stub-
dha のみ, 音を発する, 感動的に歌う (一般に Sāman
に挿入される感嘆詞について言う; 𑀓), 𑀓 sto-
bhayati 𑀓 叫ぶ (RV. 用例一回のみ), 𑀓 stobhita
声高く挨拶された (P.).

anu-(stobha) に従って歌う (第四 Pāda が Gāyatrī
の三 Pāda に続くことから, anuṣṭubh という語が
ある).

pra- 叫び声を出して (馬を) 駆り立てる (RV. 用例一回
のみ).

prati- 叫び声で答える (RV.).

stubhāna 𑀓 → Stubh.

stūpa 𑀓 髪束の束, 頭頂 (𑀓); (家の) 主要な梁 (S., まれ);
仏塔 (仏教徒やジャイナ教徒の間で聖骨を収めてい
るドーム形の塔); 𑀓 塔 Divy., Rāṣṭr., Saddh-
p., Sam-r., Śikṣ.; 廟 Saddh-p., 玄塔; 塔廟 Sam-
r.; 墳 玄塔; 塔廟 Boddh-bh., Saddh-p.; 仏塔
Mvyut.; 大聚, 聚相 玄塔; 妙宝塔 Aṣṭ-pr.; (音写)
浮図, 仏図 Divy.; 偷婆 Bodh-bh., 玄塔; 塔婆, 兜
婆 玄塔; 罽堵波 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh.; 藪
斗波 Abh-vy., 玄塔; 蘇偷婆 玄塔; 素觀波 梵雜.

stūpa-bhedana 𑀓 𑀓 毀壞仏塔者 Mvyut.

stūpa-saṃdarśana-parivarta 𑀓 𑀓 見宝塔品, 七
宝塔 [品名] Saddh-p.

stūpākṛti (°pa-āk°) 𑀓 𑀓 塔様 Mvyut.

stūpāpatti (°pa-āp°) 𑀓 𑀓 犯塔 Śikṣ.

Str, V. strṇoti, strṇute (𑀓, 𑀓), IX. strṇāti, str-
ṇite (𑀓, 𑀓), I. 𑀓 starate (RV. 用例二回のみ), VI.
𑀓 stire (RV. 用例一回のみ), まき散らす, 撒布する (と
くに 祭りのための敷草; この意味の場合には 𑀓 では IX.),
おおう; V. (敵を) 倒す, 負かす (𑀓). 𑀓 stirṇa
撒布された, まき散らされた (𑀓); strṭa まき散ら
された (叙詩); 投げ倒された (𑀓).

ava- まき散らす, 撒布する; おおう; 満たす, ゆ
きわたる; 𑀓 (o(s)tariyati として) 壊 Saddh-p.

ā- まき散らす, 拡げる; 撒布する, おおう. 𑀓 stirṇa
まき散らされた, 撒布された; おおわれた;
āstrṭa まき散らされた, 拡げられた (𑀓); おおわれ
た (𑀓); 延長された, 広い (P.).

upa- (ある人: 𑀓) のうえに (あるもの) を拡げる (𑀓);
(具) でおおう (𑀓, 叙詩); 広げる (𑀓); おおいをな
すように (土ājyasya, 溶けた牛酪を) 注ぎ出す (𑀓,
Br., S.).

pari- まわりに撒布する, おおう; 広げる. 𑀓 paristirṇa,
paristṛta まわりに撒布された.

saṃ-pari- (草, によって) まわりに撒き散らす (火).

pra- 拡げる.

vi- RV.: (祭式用の草を) まき散らす, 撒布する; 𑀓:
(翼を) 延ばす; (名声を) 広める; (𑀓) について広く
言い触らす; 𑀓 布, 擺, 分擺 Mvyut.; 広…説
Divy. 𑀓 vistirṇa 撒布された, 散在する; 拡
げられた, 延長された; 広範な, 広い, 大きい, 偉
大な, 詳細な (普通の意味); vistṛta (一°) でおお
われた; 引き伸ばされた, 延長された; 広く開かれ
た; 発展した (行為); 広範な, 広い. 𑀓 vistāra-
yati 𑀓 (軍隊を) 散開する; (塵芥を) ふりまく;

(商品を) 売りものに出す; 見せる, (光明を) 放散さ
せる; 詳細に議論する. 𑀓 vistārya 詳細に
(語る).

saṃ- (相並んで) 拡げる; 撒布する, おおう; 𑀓
敷 Prāt-m.; 周遍敷設 Lal-v. 𑀓 samstirṇa 撒
布された, まき散らされた; おおわれた, 散り敷かれ
た. 𑀓 𑀓 布 Mañj-m.

str, star (具 𑀓 strbhiḥ としてのみ, 𑀓).

strṇa, bhū-strṇa として, 草 (の一種).

strṭa 𑀓 → Str.

strṭi 𑀓 撒布すること, おおうこと; 投げ倒すこと,
打ち倒すこと (YV.).

strṭya 𑀓 打ち倒されるべき (Br.).

stena 𑀓 [Stā] 盗人, 強盗.

stenaya, 名動 𑀓 盗む, 強奪する. vācam~, 言葉
に関して盗みを犯す, 言葉に関して不正直である,
不正直に語る.

steya 𑀓 [Stā] (の: 属, 一°) 窃盗, 強奪; 𑀓 賊
Mvyut., Prāt-m.; 盗 Daś-bh., Mvyut.; 竊 Bo-
dh-bh.; 劫盗, 偷盗 Daś-bh.

steya-kṛt 𑀓 (一°) の盗みをする.

steya-citta 𑀓 盗心 Mvyut.

steya-saṃvāsika 𑀓 𑀓 賊住, 偷居, 賊住者 Mv-
yut.

steya-sārtha 𑀓 賊衆 Prāt-m.

steyasārtha-gamana 𑀓 𑀓 与賊同行 Mvyut.

steyin 𑀓 盗人, 強盗.

stainya 𑀓 [stena] (一°) の窃盗, 強奪; 𑀓 恠取
Śikṣ.. → dharma~ka.

staimitya 𑀓 [stimita] 麻痺, 無感覚, 不動性, 無
精; 𑀓 不調暢 Vijñ-t.

stoka 𑀓 [Stu 2.] 点滴, 水滴 (𑀓; P. ではまれ). 𑀓 (𑀓)
大変小さいまたは僅かな; 少量の (𑀓); 𑀓 少 梵千;
唯片 Divy.; 少時, 尠少 Bodh-bh. °— または ~m
𑀓 𑀓 わずかに, 少し; 徐々に. bahutaram~ sto-
kam, …よりもむしろ ~の方がより多く~, stokāt
𑀓, °— (-ta で終る 𑀓 とともに), たった今;
最近.

stokaka 𑀓 (雨滴を求める) cātaka 鳥.

stoka-namra 𑀓 わずかに曲った.

stokaṣas 𑀓 一滴ずつ.

stoka-stokam 𑀓 𑀓 漸 Saddh-p.; 少時, 少時少
時 Bodh-bh.

stokiya, stokya 𑀓 点滴に関する (溶けた牛酪の供物
およびその滴がしたたりおちている間に用いられる
詩句について言われる).

stotavya 𑀓 称讃されるべき; 𑀓 所讃 Sam-r.

stotr 𑀓 称讃者, 崇拜者, 信者.

stotra 𑀓 讚歌, 讚頌; [Śastra に対応する歌詠 (𑀓)];
𑀓 讚 梵雜, 梵千; 称讃 Guhy-s.; 歌頌, 歌讚, 讚
歎 Bodh-bh.

stotriya 𑀓 Stotra に関する. 𑀓 (すなわち tṛca または
pragātha) [Bahispavamāna の第一部の名 (Br.,
S.)].

stotriyā 𑀓 (すなわち ṛc) Stotra に実施するために変
形された詩節 (Br., S.).

stotriya 形 男 [同上].
 stotriyā 女 [同上].
 stobha 男 (hum, ho 等のような) Sāman 唱歌中に発せられる感嘆詞; 禁伏 Guhy-s.
 stobhana 禁伏法 Guhy-s.
 stobhita 過受分 → Stubh.
 stoma 男 [Stu 1.] 讚(歌), 讚頌, 稱讚(因; P.ではきわめてまれ); 歌詠用詩節を技巧的に組み合わせた根本型式(その通常数は七; 罽); 塊, 量, 集り(罽).
 stoma-taṣṭa 過受分 賞讚の形にされた(=賞讚の主題となる) (RV.).
 stoma-bhāga 形 分け前として Stoma をもっている (Br.). 罽 [Agnicayana において, 第五層の煉瓦を積むときに用いられるある (29 の) 詩節の名] (因).
 stoma-bhāgā 女 [上述の煉瓦の名].
 stoma-varadhana 形 讚歌を喜ぶ (RV. 用例一回のみ).
 stoma-vāhas 形 (RV.) 讚歌を捧げる; 讚歌を受ける.
 stoma-vṛddhi 女 Stoma の増大.
 stomita 男 敬, (不) 連則訳讚 Mvyut.
 stomya 形 讚歌に値する (RV.).
 staupika 形 塔, 塔物 Śikṣ.; 仏塔 Rāṣṭr.; (音写) 窣堵波 Śikṣ.; 窣堵波物 Bodh-bh.
 Styā, IV. styāyate, かたまりになる, 凝固する, 稠密になる, 増加する. 過受分 styāna, 稠密になった, 凝固した; 麻痺した(心蔵).
 styāna 過受分 → Styā. 罽 強度; 無感情, 無關心; 疲 Abh-vy.; 昏沈, 昏沈 Bodh-bh.
 styāna-middha 罽 睡, 睡眠 Rāṣṭr.; 睡眠, 寢寐 Aṣṭ-pr.; 昏寢 Gand-vy.; 昏沈睡眠 Aṣṭ-pr.; 昏寢昏寢, 昏睡安寢 Gand-vy.
 styāyana 罽 稠密にすること, 蓄積; 昏 Abh-k., Abh-vy., Lal-v.; 睡 Lal-v.; 昏沈 Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Mvyut., Vijñ-t.; 無安, 疾弱 Abh-vy.
 stri 女 [罽 -s を欠く, 罽 因, 罽 striyam, 罽 strim もまた] 婦人, 女, 妻; 女性形または女性(文法); 女 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lank., Madhy-v., Madhy-vibh., Ratna-ut., 梵雜; 妻 Divy.; 婦 Mvyut.; 婦女 Bodh-bh., Madhy-v., Mvyut.; 此人 Madhy-v.; 女人 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Madhy-v., Madhy-vibh., Mvyut., Ratna-ut., Śikṣ., 梵雜; 采女 Gand-vy.; 嫗女 Aṣṭ-pr., Divy.; 侍女 Aṣṭ-pr., Bodh-bh.: ṛtumatī ~ 具月花婦 Mvyut. 188; sarvāḥ striyo nityanārā bhavantu 悉願女人變為男, 願諸女人皆成男子 Suv-pr.; ~ gurviṇi 孕婦 Mvyut. 188.
 strika, 一° 形 = stri.
 stri-kaṭi 女 女の尻.
 stri-kāma 形 女を熱望する(因, 罽); 女子を欲する.
 stri-kārya 罽 (後宮で) 婦人にかしづくことまたは彼女達を守ること.
 stri-kumāra 男 罽 女と子供.
 stri-kṛta 形 婦人によってなされた. 罽 交接 (S.).
 stri-kṣira 罽 母乳.
 stri-gamana 罽 女性との交際または性交.

stri-ghātaka 形 婦人または(自分の)妻を殺害する; 殺害女人(者) Divy.
 stri-ghna 形 [同上].
 stri-cchinna 男 罽 以婦人乏者 Mvyut.
 stri-jana 男 婦人; 女性(文法).
 stri-janani 形 女 女子だけを生む(妻).
 stri-jita 形 女に支配された, 恐妻家の, 妻の尻に敷かれている.
 stri-tva 罽 女性たること; 女性(文法); 女子身 Abh-vy.
 stri-dhana 罽 婦人の個人的な財産; 妻と財産.
 stri-dharma 男 婦人または妻の義務, 婦人に関する法規; 交接.
 stri-dharminī 形 月経のある (Divy.)
 strindriya (°ri-in°) 罽 女性の性器; 女根 Abh-vy., Mvyut.; 陰根 Mvyut.
 stri-puṃsa 男 罽 夫妻; 男性と女性(文法).
 stri-puṃ-dharma 男 夫婦に関する法規.
 stri-puṃ-napuṃsaka 罽 男女及不男, 女男及不男 Lank.
 stri-puruṣa-vyañjana-parivartana 罽 罽 男女転根 Sūtr.
 stri-poṣaka 形 罽 街売女色 Saddh-p.
 stri-pratyaya 男 女性接尾辞(文法).
 stri-prasū 形 女 女子だけを産む.
 stripsu-hetu (°ri-ip°) 罽 由貪愛女人 Suv-pr.
 stri-bhava 男 女性たること; 女身 Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Sukh-vy. 1.; 女像 Sukh-vy. 1.; 女人身 Aṣṭ-pr., Sukh-vy. 1.; 婦女身 Bodh-bh.; 女人之身 Aṣṭ-pr.
 stri-bhāva 男 女となること; 女身, 婦女身 Bodh-bh.
 stri-mantra 男 婦人の助言または術策.
 strimaya 形 (因 -i) 女性の; 女らしい, めめしい.
 stri-māyā 女 女の術策; 女人幻惑之法 Lal-v.
 striya, 名動 他 妻を欲する.
 stri-yantra 罽 男の単なる道具とみなされる女.
 stri-ratna 罽 宝石のような(=すぐれた)婦人; [La-kṣmī 女神の名称]; [転輪王七宝の一] 女宝 Divy., Gand-vy., Mvyut., Sūtr.; 玉女, 宝女 Gand-vy.; 玉宝女 Gand-vy., Saddh-p.; 玉女宝 Divy., Gand-vy., Mvyut.
 stri-rājya 罽 (極北にある) 女族の王国.
 stri-rūpa 形 婦人の姿をした; 女身 Saddh-p.
 stri-rūpa-dhara 形 罽 住女人色相 Guhy-s.
 stri-lakṣaṇa 罽 女性の特徴.
 stri-liṅga 罽 女性性器; 女性(文法). 形 女性の特徴(乳房等)を有する.
 stri-vaśa 形 女性に服従した, 妻に支配された.
 stri-vaśya 形 [同上].
 stri-vitta 罽 妻に由来する財産.
 stri-vivāha 男 女性との結婚.
 stri-viśaya 男 交接.
 stri-vyasana 罽 色耽著事 Bodh-bh.
 stri-samyoga 男 罽 女人纏綿, 諸女人和合, 女色纏綿 Lank.

stri-saṅga 男 女性との交際。
 stri-saṃgrahaṇa 中 婦人との姦通。
 stri-saṃbandha 男 女性との婚姻関係。
 stri-saṃbhoga 男 婦人との性交。
 stri-sevā 女 女色に耽溺すること。
 stri-svabhāva 男 女の本姓。
 stri-hatyā 女 婦女の殺害。
 straiṇa 形 (女-i) 牝の、女性の；女性(stri)に服従したまたは支配された。 中 女達、女性；女たること、女の本姓； 漢訳 女、女人 *Abh-vy.*
 stry-anukṛti-puruṣa 男 漢訳 婦人相男子 *Mvyut.*
 stry-abhigamana 中 (一°)の妻と不義を犯すこと。
 stry-ājiva 男 妻(の、売春等による収入)で生計を立てること。
 stha, śtha, 形 一° [sthā] (に、上に、間に)立っている、坐っている、ある、とどまる、住する、存在する；(ある年齢または状態)にある、に従事した、で忙しい、に専念した、…を實踐する； 漢訳 住 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Laṅk.*, *Ratna-ut.*；在 *Abh-vy.*；処、就 *Laṅk.*；隨在 *Bodh-bh.* → *utkuṭuka* ~, *prakṛti* ~, *madhya* ~。
 Sthag, 使役 他 *sthagayati*, 秘密にする、かくす、おおう；消失させる。 過受分 *sthagita*, かくされた、秘密にされた；閉された(戸)、妨げられた、中断された。
 sthagana 中 隠蔽。
 sthagayitavya 未受分 秘密にされるべき、隠されるべき。
 sthagikā 女 包帯(の一種)；ベーターの箱。
 sthagita, 過受分 → *Sthag*.
 sthaṇḍila 中 平地、地面。 ~e *kevale* 露出した地に。
 sthaṇḍila-śayyā 女 (苦行として)露出した地に横たわるまたは寝ること。
 sthaṇḍila-śāyikā 女 漢訳 地臥 *Divy.*
 sthaṇḍila-śāyin 形 露出した地に横たわるまたは眠る。
 sthaṇḍile-śaya 形 [同上]。
 stha-pati 男 [地方の長：Sthā] 知事、高官、長官(因； 漢訳 主はまれ)；建築家(漢)； 漢訳 導師 *Divy.*；人者 *Mvyut.*；内使、用人、卜者 *Mvyut.*；国主 *Av-ś.*；后母使用人 *Mvyut.*
 sthapani 女 眉間(まれ)。
 sthapuṭa 形 せむしの；険阻な、凹凸ある(道路)。 男 こぶ。
 sthala 男 章、節(まれ)。 中 高地、高み、隆起；乾燥地(因 湿った低地)；大地、陸地(因 水)； 漢訳 一° (*tata* と同様に)、局部(胸等身体の目だつ部分)；地面、土壤；場所；場合：*tathāvidhā* ~e, このような場合に； 漢訳 地 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*；岸 *Śikṣ.*；陸 *Bodh-bh.*；陸路 *Mvyut.*；陸地 *Daś-bh.*, *Lal-v.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*；原阜 *Daś-bh.*, *Śikṣ.*；灘渚 *Daś-bh.*
 sthala-kamala 中 陸に生える蓮 (*Hibiscus mutabilis*)の花。
 sthala-kamalini 女 陸に生える蓮の床。
 sthala-ga 形 乾燥地に生棲する。

sthala-gata 形 漢訳 到乾地 *Mvyut.*；到陸地 *Sam-r.* ~m *Kṛ* 漢訳 敷置岸上 *Śikṣ.*
 sthala-cara 形 = *sthalaga*.
 sthala-ja 形 陸地または乾燥地に成育するまたは生棲する；陸上(交通)に適用される(税)； 漢訳 地生 *Śikṣ.*；陸生 *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*；陸……衆生 *Bodh-bh.*
 sthalātā 女 陸地または乾燥地であること。
 sthala-nalini 女 陸に生える蓮 (*Hibiscus mutabilis*).
 sthala-patha 男 陸路(因 水路)；陸路による貿易。 ~ena 中 陸路によって(ある場所に達する)。
 sthala-pathi-Kṛ, 乾燥地に変える または陸路にかえる。
 sthala-padma 中 陸に生える蓮 (*Hibiscus mutabilis*).
 sthala-vartman 中 陸路。 ~ā 中 陸路によって。
 sthala-varman 男 [ある王子の名]。
 sthala-vigraha 男 陸戦、地上戦。
 sthalā 女 塚(因、まれ)。
 sthalāya, 名動 陸地 または乾燥地となる。
 sthalāravinda 中 陸に生える蓮 (*Hibiscus mutabilis*).
 sthalārūḍha (°la-ār°) 過受分 地上に降りた(車に乗っていない)または高地に登った。
 sthali 女 高所、台地(漢訳 一° 身体の目だつ部分について用いられる)；地面；場所、地点； 漢訳 分、川 *Mvyut.*
 sthali-devatā 女 地方神。
 sthali-BHū, 陸地または乾燥地となる。 過受分 高地にある(因)。
 sthaliya, 名動 他 (大洋を)陸地 または乾燥地と見なす。
 sthali-śāyin 形 露出した地に横たわるまたは眠っている。
 sthale-jāta 過受分 陸地 または乾燥地に成育する：+ *padmini*, 女 陸に生える蓮 (*Hibiscus mutabilis*).
 sthalotpalini (°la-ut°) 女 陸に生える蓮 (*Hibiscus mutabilis*).
 sthalaukas (°la-ok°) 男 陸地または乾燥地に生棲する動物。
 sthaviman 男 [Stū] 厚いまたは広い部分、広さ(因)。
 sthavira 形 (女-i, 因； -ā, 因, 漢) 広い、厚い、頑丈な(因；まれに 漢訳)；威力ある(因)；(充分成長した)、老いた、古い、尊敬すべき、敬われる(因, 漢, しかし *RV.* には出ない)； 漢訳 大徳 *Abh-vy.*；尊者 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Mvyut.*, *Vajr-pr.*；羅漢 *Mvyut.*；耆長、上座 *Bodh-bh.*；耆旧 *Śikṣ.*；尊宿、長老 *Sukh-vy. II.*：~e *kāle* または *bnāve*, 老齢において。
 sthavira-gāthā 女 漢訳 諸上座頌 *Divy.*
 sthaviṣṭha (sthūra または sthūla の) 最上 最も厚い、最も木きな、最も頑丈な；大變に厚いまたは 堅い。
 sthaviyas 比較 より厚い、より頑丈な、より威力ある。
 sthāśas 副 それぞれの場所に從って (*RV.* 用例一回のみ)。
 Sthā, I. tiṣṭhati, 因, 漢：(の中に、上に、またはにお

いて、(因)立つ；静止する、停止する、とまる；(水の)流れが止まる；滞在する、住する、とどまる；存在し続ける、耐える(因ではまれ)；(因)に依存するまたはもつづく；(因)：(戦車の上に)立つ・乗る(まれ)；(因)静止する=(因)のために(ある人：(因))に役立つ、服従する；(因、(因)；まれ)から起る；(因)を守る・固守するまたはに従う；(因)：(ある人：(因) 土 purah) に対して主張を曲げない；支持する、(ある人：(因))に忠実である；待つ；遅れる、躊躇する；…のままである(十(因) (因) 例 乙女=未婚である；十(因) 例 動じない)；続ける(十(因) 例 見続ける；十(因) 例 沈黙を守って；十(因) 例 maunena, 沈黙している；十(因) 例 tūṣṇim 沈黙している；(死んで)横たわる；(因)に存在する、住む、見出される、得られる、手近にある、現われる；(因)にまたはの上にある；(行為、義務等)を実践する、実行する；(因、(因)、(因))と一緒にいる、の自由になる、に属する；(因)に心が向けられているまたは集中されている；差し控える、やめる、(因)によって抑制される(まれ)；未決定のままである=考慮されないでいる または言及されないままにとどまる(因と(因)のみ)；(因)止 Aṣṭ-pr., Sapt-pr.；立 Saddh-p.；坐 Mvyut.；住 Abh-vy., Gand-vy., Mvyut., Rāṣṭr., Saddh-p., Sapt-pr., Saṃkhy-k., Sukh-vy. II.；置 Aṣṭ-pr.；安住 Abh-vy.；現在 Saddh-p., Sukh-vy. II.；antike~ 共住 Aṣṭ-pr. agre または agrataḥ~ (ある人：(因)の前に現われる. āhāraparityāgena~ 断食を続ける. jānubhyām~ ひざまずく. samam~ (因)に対して公平に振舞う. sukham~ 幸福に感ずる. svagrhanirviśeṣeṇa~ ちょうど家に(いるかのように)振舞う；(因) sthitvā 暫くたってから. ciram api~ 長い間待っても=遅かれ早かれ. (因) tasthivas (因)の上に立っている；不動の、固定した(因 jagat, 動いている)；(因)にあるまたはを占めている；(因)に従事している、を実践している. pituḥ sāśane~ 父の命令を守る、父に従う. (因) sthīyate. (土(因)の主語)のままである. (因) 現 Divy.；在 Saddh-p.；住時、現在時、現在世 Madhy-v. (因) sthita → sthita. (因) sthāpayati. (因) (因) 静止させる、とめる；Br.：阻む、抑止する；(因) (因)の上にまたは中に配置する、据える、置く、宿泊させる；堅持する、保持する；片づける；に据える、(ある職務：(因))に任命する；に確立する、(道等に)導くまたは連れ込む、(計画に：(因))引き入れる；(因)に譲る、(手に：(因))引渡す；たてる、建造する(因)；確立する、樹立する、創立する、耐久力あらしめる；固定する、決定する；(教説等)を紹介する；(命題を)立てる；(因)を(因)にするまたは任命する；(因) 安 Mvyut.；住 Lank., Madhy-v.；布 Lal-v.；没 Ratna-ut.；除 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Ratna-ut., Saddh-p., Śikṣ., Sukh-vy. I.；置 Bodh-bh., Ratna-ut.；著 Divy.；安置 Divy.；安住、建立 Lank.；令住 Bodh-bh., Lank., Suv-pr.；唯除 Aṣṭ-pr., Divy., Suv-pr.；張施 Divy. channam または pracchannam~ (何かを)かくす. rakṣitam または surakṣitam ~ 注意深

く保護するまたは世話する. rakṣārtham ~ 後見人として任命する. sajjam~ (ある人に)用意させる. hṛdi ~ 心に印象づける. baddhvā ~ 捕虜にしておく. svikṛtya ~ 説き伏せて完全に味方にする. ity evaṃ sthāpayen manas 人は心をこれに向けるべきである、人はこれについて明確な観念を抱くべきである.

ati- (因)の上に立つ、凌駕する(因).

adhi- (因、(因))の上に立つ、足で踏む、登る；住む、居住する、占める；(因)を制して(勝ち誇って)立つ・克服する・凌駕するまたはの優位に立つ；の先頭に立つ、導く、案内する、支配する、統治する；(威厳を)保つ；使用する、(好意を)示す；(因) 留 Abh-vy.；変 Aṣṭ-pr.；持 Abh-vy., Lank.；加、置、現 Daś-bh.；建立 Daś-bh., Lank.；加持、示現 Daś-bh.；守護 Saddh-p.；加被 Bodh-bh.；護持 Sapt-pr.；変成 Aṣṭ-pr.；引令住 Abh-vy.；加威神 Daś-bh.；如理安住 Guhy-s. (因) adhi-sthāya に頼って、によって；(因) 託、留 Abh-vy. (因) adhiṣṭhita と dhiṣṭhita 1. (因)の意味：立っている；突きささっている、(一)に付着する；(因、(因))に固着されまたは植え付けられている、…にまたはの上にある、占める；(…を)支配する、優位を保つ；(ある役職の：(因))首位にある；2. (因)の意味：(因、一)によって住まわれた、占められた、取巻かれた、充滿された；(愛、ねむけ)のとりこにされたまたはに負けた、(王の恩寵)に圧倒された、(因、一)でみたされた、一杯の管理された、預けられた(財産)、統治された(王国)、統轄された(役職、業務)、処理された(業務)；見張られたまたは守られた(家、馬)；案内された、率いられた、指揮された(軍隊).

sam-adhi- 案内する；管理する.

anu- (因)：(ある人に：(因、(因)))従って=と同時に静止する；(因)に従うまたは服従する；(因)：傍に立つ、…に付随する、…を助ける；(因) (何かの)後に従う、実行する、実践する、遂行する、仕遂げる、演ずる(普通の意味)；こうむる、(怠慢の)罪がある；(刑罰を)科する；(方策を)工夫する；(因) 作 Divy. (因) 作 Divy. (因) anuṣṭhita. 1. (因)の意味：(習慣に)従う、みならう；2. (因)の意味：実践された、実行された、仕遂げられた、遂行された、世話された；始められた：tathānuṣṭhite, このようになされたときに、このようになされたので. (因) anuṣṭhāsat (因) 実践したいと欲する.

abhi- (因)：を踏む、(因)の上に足を置く；(因)の上にもまたはを通過して昇る；抵抗する、征服する、克服する、熟達する.

ava- (因)に下りて行く(因)；(富：(因))から離れている・を欠く(RV.)；(因、(因))：静止する(普通の意味)；(因) (因)にとどまる・において引続き…する、(因) 現分、(因) 不変分 あるいは (因) 例 niḥśvāseṇa = 嘆息してある；またはある状態を表現するために(因) あるいは (因) 不変分；単純動詞参照(普通の意味)；とどまる；存在する、(ブラフマン：(因))と合一するまたはのなかに安住する；(因)に到る、を回復する(まれ)；固定

する, 確定する(まれ); 入, 残 *Divy.*, *Lal-v.*; 住 *Abh-vy.*, *Ast-pr.*, *Śikṣ.*; 安住 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*; 垂布 *Saddh-p.* 過受分 *avasthita* ときとして *vasthita*, (因, 一) に存する・置かれた・配置されたまたは含まれた(普通の意味); (ある事をしまたはある状態にあり: 困 困 または 圓 または 圓) 続ける; (因, 一) に従事している・で忙がしい・に献身した; (ある人: 因) の義務・責務である; (因) の用意ができてい; 確固とした; かたく決心した; 着実な, 確固とした, 信賴するに足る; 確実な地位を占めている; (...の状態・性質・事情に) ある.

evam avasthite. このような状態にあるときまたはであるので, このような状況のもとにおいて. 使役 留まらせる, あとに残す; (因) のなかにまたは上に置く; 確立する; 励ます, 慰める; (陳述を) 実証する; 立, 安立 *Abh-vy.*

pary-ava- 固(心が) 落着くまたは 確固となる; 遍満する. 過受分 置かれた, 配置された.

praty-ava-, 固 に対して立上る, 反対する. 使役 もとの状態に復する: +*ātmanam*, 再び我に返る.

vy-ava-, 固 それぞれに異なる; 停止する, 留まる, 残る; (論理的に) 筋道が通っている; (困) として現われる. 過受分 *vyavasthita* 規則正しく整列された; (に, 上に, おいて: 因, 一) 配置された・置かれた・立っている・ある; (ある人, 一) の側に立っている; (因) の意味に用いられている(語等); (因) に基づいたまたは依存している; (因, ときとして 一) を主張し抜く・固執している; 定着された, 確立された, 固定された; もっぱら(因) に特有のまたは限られた; 各特殊な場合に精確に決定された(二者択一: *vikalpa* または *vibhāṣā*); 存在する; (困, 圓, 不變分, 一, 圓) として現われている. 使役 下におろす, 置く; (因) に(心, 視線を) 向ける; 任命する; 維持する, 落ちるのを防ぐ; (言語を) 自然の状態に戻す; 確立する, 確定する; (論理的に) 筋が通ることを証明する; 立 *Abh-vy.*; 処 *Bodh-bh.*; 安立 *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*; 建立 *Abh-vy.*, *Divy.*; 安置 *Mvyut.* 因 説, 所安立 *Madhy-vibh.* 過受分 自然の状態に戻された(言語).

sam-ava- 過受分 立っている, 不動の.

ā- (因) の上に立つ; (圓) に昇る・登る; (靴を) はく; に赴くまたは行く; (一連の行動を) 開始する, に頼る, (振舞い) を採用する, (ある形を) とる, 従う, (ある規則を) 遵守する, (手段を) 用いる, (行進を) 始める, (努力を) する, (同情を) 示す; 採用する, 確認する, 真実と考える(固); (因) を重視する; 在, 住, 変, 発 *Divy.*; 示現, 現作 *Lank.* 過受分 *āsthita*, 1. (圓の意味): (圓) に立っているまたは坐っている; (に, 上にまたはにおいて: 圓) 留まる; (ある道) に入った; (圓) として (圓) をやってみた; (圓) を手に入れた; に頼った, 採用した, 企てたまたはに甘んじた; (人間の形を) とった; 存在する, (安楽に) 住む; 保持する, 真実とみなす; 2. (因の意味): の上に立たされたまたは坐らされた, 占められた; 頼られた, 着手された(一 -*udaya* とともに, 太陽について, 昇った). 使役 固 固 留まらせる, 延長

する(因); (因) に(圓) を打ち込む(Br.); (因) に入れる; (圓) に(危害を) 加える(RV.).

apā- (*apa-ā-*), (圓) に出発する(Br.).

prā (*pra-ā-*), 現分 往, 還復 *Ast-pr.*

sam-ā-, 登る; (圓) へ赴く; 着手する, に頼る, (行進を) 始める, (保護を) 求める, (因) に(精力を) 向ける. 過受分 (奴隷の身分) に入った; (圓) に頼った.

ut (*ud-*), 立ち上がるまたは起き上がる, (眠りまたは死からも) 起きる; (太陽, 月が) 昇る; (雲が) 集まる; (波, 乳房が) 高まる; (盜賊が) 突進する; (祭式: 圓) から立ち上がる=を終る(Br.); 出て来る, 出現する, 現われる, 生ずるまたは成長する, 形成される; (圓) から(収入が) 生ずる; 固(行動のために) 立ち上る, 奮起する, (戦闘, 行動: 圓, 因) のために精力的に準備する; 固(敵が) 勢力を増大する; 起 *Abh-vy.*, *Gand-vy.*, *Lank.*, *Vajras.*, 梵千; 充足 *Divy.*; 起来 *Mvyut.* 不變分 *utthāya* 立上って; 起 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*, *Suv-pr.* 過受分 *utthita*, 起こった, 起き上ったまたは踏び上った; 水かさを増した(太洋); 直立した, 真直ぐな; 上にまたは高く揚げられた; (一) から起こる; (圓, 一) から出て来た; 出現した; (圓) から出発した; (圓) から作られたまたは産み出された; 燃え出した(火); 姿を現わしたまたは現われた; 起こった, (収入等が) 生じた; いつでも行動できる, (圓, 因) に精力的に専念した, 充分に用意の整った; 意気の上った. 使役 *utthāpayati* 起き上らせる, 起こす, 揚げる; 目覚めさせる, (生き) 返らせる(*jivantim*); 設立する, 建立する; 揚げる=(泥沼から) 救出する; 外へ向けるまたは追い出す(Br.); 派遣する; (ほこりを) かき立てる; (欲望を) 喚起する(RV.); 産出する; 生命を与える(Br.); 励ます, けしかける, 駆り立てる; 起 *Madhy-v.*, *Śikṣ.*; 能発, 能起 *Abh-vy.* 希求(子供が) 立ち上ろうと欲する(RV.); (儀式が完結する前に) 去ろうと欲する=短かくしようとする.

anūt. (圓) に従って起き上る. 過受分 *anūtthita* (圓) に従われた.

abhy-ut (*ud-*), (圓) へ出発するまたは来る(因); (圓) に向って立つ; (ある人: 圓) に挨拶するためにまたは会うために立つ; (圓) を差し控える. 過受分 *ahhy-utthita*, 起き上った; (圓) 挨拶または会うために立った; 昇った(太陽, 月); 燃え上る(火); (圓) に着手した; 用意のできた.

upot (*upa-ud-*), (ある人) の前に立ち上る, 近づく(因); (圓) から起こる(RV.).

prot (*pra-ud-*), 跳び上る; 起き上る, 起きる. 過受分 *protthita*, 現われ出た(葉); (一) から生じた.

praty-ut (*ud-*), (圓) の前に立ち上る, 会うために立つ.

vy-ut (*ud-*), (圓) から背を向ける・を捨てる; 生 *Lank.*; 出 *Ast-pr.*, *Daś-bh.*; 起 *Ast-pr.*, *Divy.*, *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; 廻 *Divy.* 過受分 *vyutthita*, (意見が) 相違している; 非常に興奮した(心等); (義務から) それる(±*dharmāt*). 使役 (圓)

について一致しない；(ある人を) 廃する；片つける，(ある物を) 取除く；裏切って見捨てる；**出**，令出，出離，令離，拔濟 *Bodh-bh.*

sam-ut(ud)-，一緒に起き上る；起こる；起きる，(眠りから) 起き上る；生き返る；(雲が) 集る；(因) から出て来る・起きる・作られる；現われる；行動のために立つ，(因，不定) のための準備をする。過受分 起きた；聳え立つ(山頂)；(因) から発するまたは産出された；現われた；**発** *Daś-bh.*；生 *Lank.*；起 *Abh-vy.*，*Bodh-bh.*，*Lank.*；発起 *Abh-vy.*，*Gand-vy.*；所生 *Lal-v.*；所起 *Bodh-bh.*，*Daś-bh.*，*Śikṣ.*；所得 *Divy.*；発来 *Saddh-p. dhanam danḍa-~ṃ*，罰金から得られた金。過受分 **生** *Lank.*；起 *Lank.*，*Ratna-ut.* 使役 **起** *Daś-bh.*

upa-，**他**，**自** **因**：(業，因) にまたは近くに立つまたは身を置く；(祈禱または礼拝のために) 前に来るまたは近づく；(ある人の庇護) のもとに立つ；(業，因) に存在する；(業) に向かって立つ；**圃**：(太陽に：圃) 向って起きる；側に立つまたは留まる，(ある人に) かしづく；(太陽に) 赴く，近づく，達する；(神性を) 得る(=神になる)；姿を現わす；(因) をもって…に仕える・に尊敬を払う・を崇拜する；(因) を贈る；(圃) の自由になる・に生ずる；手近にある，見出される；(そこに存在する=) 補われねばならない(因法)；(圃) のために用意する；立ち続ける(異読：*ava-*)；**住** *Bodh-bh.*，*Madhy-vibh.*；起 *Abh-vy.*；経 *Aṣṭ-pr.*；供養 *Sukh-vy. I.*；安住 *Bodh-bh.*；奉事 *Lal-v.*；承事，能使，奉行 *Śikṣ.* **因** **圃** 療治 *Av.ś.* 過受分 **upasthita**，1. (圃の意味)：(ある人：圃；Br. 圃もまた) に近づいた，の許へ来た；圃：(業，因) に到達した；現われた，(因) にある；到達したまたは(時間が) 来た；手近の，差し迫った；の分け前になった，(ある人：圃，圃) に生じた；用意された，(のための) 準備ができている，(圃) の自由になる；(寝台：圃) の上に横たわっている；2. (圃の意味)：(圃) によってかしづかれた；(圃) をもって(圃) によって仕えられた；(圃) によってしばしば訪ねられた；(圃) を支給された。使役 (圃) の側にまたは向かって身を置かせる(圃)；持って来る，行って持って来る(因)；**起** *Śikṣ.*；作，行 *Aṣṭ-pr.*；住 *Vajr-s.*；生 *Daś-bh.*；畜 *Vin.*；発起，益加，転増，供養 *Aṣṭ-pr.*

anūpa-，**自** 相次いで…へ来る，…の側に身を置く(Br.).

abhy-upa-，**他** 崇拜する(P.). 過受分 到来した(時).

pari-upa-，過受分 来た，差し迫った，焦眉の。

praty-upa-，**自** に向かつて身を置く(因)；**住** *Vajr-s.*；起 *Śikṣ.*；酬対 *Bodh-bh.* 過受分 (ある人：圃) の許へ近づいた，来た；到来した(時)，差し迫った(死等)；(ある人の追憶 *smṛti-*) に現われた(=ある人の心に浮かぶ)；**現在前** *Abh-vy.* 使役 呼び起こす，顕わす。

sam-upa-，**他**，**自** …の側に立つ，仕える；(圃) にもたれる；(圃) に近づく；(ある人：圃) の分前となる。過受分 (ある人：圃) の近くに来た，近づいた，

(圃) に到着した；(ある人) の行手にあった(河=ある人が河の手前まで来た)；(因) に坐っているまたは横たわっている；到来した(時)，差し迫った(破綻)；発生してしまった(災害)，襲った(心の悩み)；時宜を得た(勇氣)；(ある人：圃) にやって来たまたはふりかかった。 *iti samupasthite*，このことが(ある人を) 待ちかまえているとき。使役 **圃** 建立，発起 *Daś-bh. ni-*，過受分 **niṣṭhita** (因) のなかにまたは上に立っているまたはある；(因) に精通している。

pari-ni-，(因) に充分精通する。過受分 **pariniṣṭhita**，(因) にある；(因) に充分精通した。使役 (圃) に(ある事を) 完全に教える。

niḥ-，(圃) から生ずる，生長する(因)；終らせる(U.)；(蜂蜜を) 作る(U.)。過受分 **ni[h]ṣṭhita-**，生長した(RV.)；完成された，準備のできている(因，圃)。

pari-niḥ-，過受分 全く完成された。

pari-，…の周囲に立つ，取巻く，ふさぐ，邪魔する(因)；まわりに群がる(圃)。過受分 **pariṣṭhita**，取巻かれた，ふさがれた(水)。使役 **pariṣṭhāpayati**，手近かに置く。

pra-，**他**，**自** **因**：立ち上がるまたは起き上がる，(とくに神前に) 進む；**圃**，**圃**：(勝利等：圃) を目指して，(不定) するために，(ある道：因) を通って，(圃 ± *prati*，因) へ向かって，(因) から出掛ける・出発する；**住** *Saddh-p.* 過受分 **prasthita**，**因**：展示された，準備された(祭式等)；圃：(圃 ± *prati*，圃，因) に向かつて，(圃) の目的のために出発した；(長旅：*dūra-*) に出発したまたはを続ける，(間違った道，一°) に入った，(空，一°) に達する。過受分 **prasthitavat**，出発した。使役 (圃，ときとして因) のために，(圃 ± *prati*)，(使者等) を派遣する，送り出すまたは家へ帰す，去らせる，追放する；(駿馬を) 駆る，疾走させる；**令発** *Aṣṭ-pr.* **希求** 出発しようと欲する。 **anu-pra-**，(ある人：圃) に従って出発する。 **abhi-pra-**，**他** (因)，**自** (因，圃) (圃 ± *prati*) に向かつて出発する。過受分 出発した。

vi-pra-，**自** (圃) 種々の方向に起こる，拡がる；出発する。

sam-pra-，**圃** 趣，発趣，趣求 *Aṣṭ-pr.* 過受分 (圃) に向かつて出掛けた，出発した；**去** *Divy.*；作，学 *Kāśy.*；発 *Aṣṭ-pr.*，*Kāśy.*；*Saddh-p.*，往 *Divy.*；趣 *Saddh-p.*，*Sapt-pr.*；安住 *Gand-vy.*，*Sam-r.*；前行 *Divy.*；等趣 *Bodh-bh.*；所趣 *Aṣṭ-pr.*；発引 *Divy.*： *anuttarāyāṃ samyaksambodhau ~ 已発無上等覚心 Aṣṭ-pr 188.*； *padbyāṃ ~ 自歩行 Divy. 7.*； *bodhaye ~ 発道意 Aṣṭ-pr. 330.*； *~ to bhaviṣyati 欲住，欲詣 Aṣṭ-pr. 521. → navayāna ~.*

prati-，**因** 立つ，住む；**圃**，**圃**：しっかりと立つ；(因) の上にまたはに基礎を置くまたは安んずる；確立されている，栄える；圃：(ある人：圃) に抵抗する；(圃) の上に拡がる；**住** *Bodh-bh.*，*Lank.*；安住 *Aṣṭ-pr.*；安処 *Bodh-bh.* 過受分 **pratiṣṭhita**，(因) にまたはの上に立っている・配置された・坐った・位置した・留まる・ある・含まれた；固着した，安全に置かれた，によって支持された；(因，一°)

に基づいているまたは依存している；確立した，証明された；(因)に定められた，適用しうる；定住した，(敵に)悩まされない(土地)；(因)に移された；企てられた(異読：anu-，この方がよい)。(使役) 因， 圃：下に置く，…の上に置く，(因)に導入する；圃：立てる(像を)建てる；(ある道：因)に連れこむまたは導き，入れる；(因)に任命する・に就任させる；(因， 因)に贈るまたは提供する・与えるまたは授ける；譲渡する；因(因)の上に確立するまたは支える；(因)住 Vin.；安，起，立 Saddh-p.；置 Lal-v.；著 Ast-pr.， Lal-v.， Lank.， Mvyut.， Rāstr.， Sapt-pr.；安住 Śikṣ.；安立 Bodh-bh.， Sukh-vy. I.；令住 Ast-pr.， Gaṇḍ-vy.；建立 Bodh-bh.；供養 Ast-pr.；敷設 Divy.；授受 Ast-pr.；令安住 Sukh-vy. I.；令建立 Bodh-bh.；最作堅固(令安住) Mvyut.；令其安住，使其發起，能令悟入，能令解了 Gaṇḍ-vy.

anu-prati, (使役) 因 教授 Sapt-pr.

saṃ-prati, (過受分) 確立された；(因)によって支持された・に存するまたは基づいている。

vi-, 圃(圃) 因：離れて立つまたは動く，(圃)の上にはまたはを通じて撒布されるまたは拡げられる；(土地， adhi-kṣami)の上に拡がる；(圃)から分離される；因， 圃：立つ；圃：静止する，残る，留まる；(戦闘において)持ちこたえる；(因) 休，疲 Gaṇḍ-vy.；住 Ast-pr.， Mvyut.；経 Ast-pr.；転，礙，断 Mvyut.；懈廢 Śikṣ.；恒無尽，恒相續 Gaṇḍ-vy.；不能安住 Ast-pr. (使役) 圃 悉成，莊嚴，徧滿，普徧，能成立 Kāśy. (過受分) viṣṭhita, 因 離れて立っている；撒布された，拡げられた；静止した(因 jagat, 動く)；圃(因 一°)の上に立つ；(因)にある。

anu-vi-, の上に拡がる(圃動)，(圃)に遍満する(因)。

saṃ-, (圃， 圃) 因：一緒に相近接して立つ；(因)の近くに來るまたは留まる；争う(RV.)；圃：静止する，残る・留まる；(因)に立つ・住む・ある；(因)を守る・に従う；終る，死ぬ；因(祭式が)終了する(圃ではまれ)；(因)住 Abh-vy.， Lank.；生，起 Sukh-vy. II.；居 Ast-pr.， Śikṣ. (過受分) saṃsthita, 圃：立っている(因 坐っているまたは横たわっている)；(因， upari, 一°)のなかにまたはの上に置かれる，横たわっている，坐っている，位置している，存在する，休らっている；残っている，(長い間)放置された(食物)；長持ちする，永続する；切迫している；(ある状態に)ある，(因， 一°)に耽った；(因)に基づく；(因， 一°)に関係ある；(圃， -abhimukha-)に向かって出発した；死んだ(因=もし人が死ねば)；(一°)の形をとる；しばしば訪られる(場所)；因， まれに 圃：終結された，完了された(祭式，日等)。

tathaiva ~， 同じ状態に留まっている。

masi-rūpeṇa ~ 骨炭の形で保存されている。

(過能分) saṃsthitavat, (定動詞の代りに) (幸福に， su-khena) 一緒に住んだ。(使役) 圃：(馬を)再び助け起す；再建する，(落ちぶれた王子達を)再興させる；励ます，慰める；(心， ātmānam, hṛdayam)を静める；(因)にまたはの上に置く；(upari)に加える；確立する，創立する，導入する，固着する，定着させる；因(息，射精を)抑制する・とめる；

(とくに祭式を)終結する，完了する；終らせる，殺す(ときとして圃でも)；(因) 授住心 Sūtr.

anu-saṃ-, 圃(祭式が)完結される(Br.)。(過受分) (ある人：圃)に従って死んだ・に殉じて死んだ。

pari-saṃ-, (使役) 圃 成，弁折 Gaṇḍ-vy.

sthā 圃(圃， 圃 圃 -s) 立っている(因)：しばしば一°，に立っている，存在している，ある；(因) 住，分位 Madhy-vibh.

sthāṇava 圃 [sthāṇu から] 樹の幹に由来する。

sthāṇaviya 圃 Śiva 神に属する(弓)。

sthāṇu 圃 [Sthā] しっかり立っている，静止している；(因) 平静 Divy. 圃 固定したものまたは静止したもの(圃)。圃 株，杭，柱(不動性の象徴としても用いられる)；(因， 圃)；[(その苦行の間木の幹のように不動な) Śiva 神の名]；(因) 机 Abh-vy.， Sāmkhy-k.；処 Śikṣ.；株机 Gaṇḍ-vy.

sthāṇu-ccheda 圃 木の株を切り倒すまたは木を切り払う。

sthāṇu-bhūta 圃 (木の)幹のように不動の。

sthāṇu-vanaukas (°na-ok°) 圃 Śiva 神の森に住む。

sthāṇv-iśvara 圃 [ある町の名]。

sthātavya (圃受分) 圃 (圃) 人は立つ・残る・留まるまたはくずぐずすべきである；人は(因)に従うまたはを固守すべきである；人(圃)は(ある状態：圃)に留まるべきである；(因) 応住 Ast-pr.

sthātu-kāma 圃 (因) 欲住 Saddh-p.， Śikṣ.；欲依，欲建 Śikṣ.

sthātr 1. 圃 案内者，(馬，戦車の)御者(RV.)；權威(因詩)；(因) 能住 Abh-vy. 2. 圃 静止したものまたは不動なるもの(RV.)。

sthāna 圃 圃：立つこと(Br. ても)；持続，滞在；(財物の)貯蔵；(軍隊の)堅実さまたは固守；連続した存在；中間的状态，(因 利得または損失)；(因， 一°)にまたはの上にあること；状態，条件(U. ても；一° 圃 的状态にある)；完全な寂靜(まれ)；地位，身分，階級(普通の意味)；因， 圃：住居，住所，場所，地点，地方，敷地(普通の意味)；圃：代り，場所(圃， 一° の代りに)；(圃， 一°)の容器；正しいまたは適当な場所；(ある神の)世界・領域(地，空，天)；要塞(まれ)；(音声が発せられる)場所，(発声)器官(のど，口蓋，齒，唇等)(因法)；声の調子，(音の)高さ(高い，大声の，等)；(王国の)構成要素(軍隊，国庫，首都，領土等)；事件，出来事；(圃， 一°)のまたはのための機会；(圃， 一°)の原因または対象(人についても言われる)；論題；一° 圃 の代りをする，を代表する；によって取ってかわられたまたは代表された；(因) 住 Bodh-bh.， Madhy-v.， Madhy-vibh.， Mvyut.， Rāstr.， Saddh-p.， Sapt-pr.， Śikṣ.， 梵千；令住 Madhy-vibh.；座 Lal-v.；具 Bodh-bh.；事 Abh-vy.， Mvyut.；所 Lank.， Mvyut.；処 Abh-vy.， Ast-pr.， Bodh-bh.， Gaṇḍ-vy.， Lank.， Mvyut.， Ratna-ut.， Saddh-p.， Sapt-pr.， Sūtr.， Vajr-s.， Vijñ-t.， 梵千， 梵維；法 Ratna-ut.；義，義処 Ast-pr.；職 梵千；明，地 Mvyut.；氣住 Mvyut.；能住 Bodh-bh.；住処 Ratna-ut.；処住 Ratna-ut.， Sam-r.；所在 Saddh-p.；勝事 Bodh-bh.；根本 Ratna-

有勢 *Bodh-bh.*; 大威徳(王) *Lal-v.*; 有弘誓 *Sūtr.*
sthāma-vīrya 田 大力勢 *Divy.*
sthāmasās 副 能正 *Abh-vy*
sthāya 男 容器 (jala-として).
sthāyitā 因 持続.
sthāyitva 田 [同上].
sthāyin 因 静止している, 留まっている, 滞在している, ぐずぐずしている, (一°)のなかにまたは上にある; 現にある, 現存する; 居住している (因 他の方の人); (ある状態, 一°)にある; 永続する, 耐える (普通の意味); 意思の強固な(王子); 住 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*; 保 *Abh-vy.*; 安住 *Bodh-bh.*; 停息 *Lal-v.*
sthāyi-BHū, 永続的または永遠となる.
sthāyuka 因 (因)に留まる; 永続する, 恒常の.
sthāla 田 鉢, 皿, 壺; (歯の)孔(まれ); 器 薩陀羅 *Mvyut.*
sthālakā 男 田 (= *Pali thālaka*) (小さい) 壺; 器 *Prāt-m.*
sthālikā 因 器, 盆 *Raṣṭr.*; 鑑 *Divy.*
sthāli 因 土製の皿, 調理用の鍋, 大釜; 器 *Lal-v.*, *Śikṣ.*; 釜 *Divy.*, 梵千; 鑑, 瓦釜 *Divy.*
sthāli-pāka 男 鍋のなかで料理された食物; (しばしば供物として牛乳のなかで)煮られた大麦または米の料理.
sthāvara 因 立っている, 静止した, 不動の (因 *jaṅgama*); 確乎とした, 永遠の, 恒常の, 長持ちする(まれ); 不動産に関する(まれ); 住 *Abh-vy.*, *Mvyut.*; 平安 *Mañj-m.*; 堅固 *Mvyut.* 男 山.
 男 田 園 植物界. 田 不動産; 安定性, 永続性 (異読: *sthiratva*).
sthāvaraka 男 [ある召使の名].
sthāvaratā 因 植物であること, 植物の状態または性質.
sthāvarā 因 安住, 自性不動 *Gaṇḍ-vy.*
sthāvira 因 年老いた, 高齢の, 老年の. 田 老年. 男 種 上座部 *Mvyut.*
sthāsaka 男 (馬具の上の)水泡の形をした装飾. 男 または 田 (?) 軟膏で作られた像.
sthāsnu 因 不動の; 長持ちする, 永続する, 永久の.
sthita 過受分 立っている, 立ち上がっている (因 歩いている, 坐っている, 横たわっている); (戦闘において)固守する; (ある場所: 因, 圃, 一°)に留まる・残る・位置している (普通の意味); (ある状態または立場: 因, 圃, 一°, 同格の 因); もっと普通には 圃, 過受分, 現分 または 不変分; 十現分 または 不変分 = 絶えず)にある (普通の意味); (因)に従事した・熱中した・耽った・献身した・実践する・に屈しない; に留まる, に順応する, (命令等, 因)に従う; 職務にある; 着実な, 守られた (協定, 助言); 定着した, 一般に受容された (*Br.* でも); 決定された, 決心された; 確信した; 固く (不定, 動詞状名詞の 因)する決心をした; (因)する用意がある; そこにある, 存在する, 現在の, 到来した(時); (因, 一°)へ向けられた (努力, 凝視); (因)にもとづくまたは依存する; (因)へ導く; 残る, 残された(まれ); 止めたまたは止まっ

た; (*Padapāṭha*において) *iti*を伴わない; ひとりで存在する; 有 *Ratna-ut.*; 在 *Lank.*; 住 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Ratna-ut.*, 梵難; 有住 *Madhy-v.*; 坐 *Bodh-bh.*; 立 梵千; 安住 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*; 常住 *Lank.*; 貪著 *Saddh-p.*; 佇立, 所住 *Aṣṭ-pr.*; 敦肅 *Bodh-bh.*; 暫息 *Abh-vy.*; 安住者 *Bodh-bh.*; *sthitā-citta* 心已住 *Bodh-bh.* 111.; ~o *bhūtakoṭyām* 住於真際 *Mvyut.* 19, 58.; ~ḥ *sarvasattvālokanīyāyām bhūmau* 坐觀諸有情地 *Mvyut.* 19, 58. ~m, 田 非人 (圃) によって立たれた=かれは待った. *anityam ~aḥ*, 永久には残らない, ほんの短い間留まる. *purah~*, =差迫った. *parasparam ~au*, (敵として)向い合って立つ. *muktākāratayā ~*, 真珠の形をしている (=のような) (水滴). *pade ~e*, =*Padapāṭha*において. 田 静止すること, 留まること.

sthitaka 因 立 *Daś-bh.*
sthita-citta 田 住心 *Sūtr.*
sthitatva 田 住 *Abh-vy.*
sthita-dhī 因 心の堅固な
sthita-nīscitta 男 無心住 *Mvyut.*
sthita-prajña 因 確乎とした知恵のある, 英知の堅固な.
sthita-bhāva 男 住法 *Madhy-v.*
sthitavat 過能分 (因)にある.
sthita-saṃvid 因 (自己の)協約に忠実な, 約束を守る.
sthita-saṃketa 因 [同上].
sthita-smṛti 田 安住正念 *Bodh-bh.*
sthitānavanata-pralamba-bāhutā 因 正立不屈 手過出, 正立不屈二手過膝 *Mvyut.*
sthitāyoga 田 無住 *Sūtr.*
sthitī 因 [Sthā] 圃: 立つこと; (ある人と共に…において, 上に, に: 因, 一°)残ること・滞在すること・駐留・居住 (普通の意味); (乳房の)まっすぐな状態, たれさがらないこと; 供託, (記録, 金銭の)保管; 休息の地, 住所(まれに *Br.* にも); 持場, 地位, 階級, 高位, 威厳; (因)に対する不断の傾注・耽溺および熱中; 確固性, 安定性; 持続した存在, 持続, 永続 (普通の意味; *U.* でも); 継続; 存在, 産出; 手続, 振舞, 行い; 状態, 条件; 法令, 勅令, 定まった規則, 格言 (*Br.* でも); 慣例, 習慣, 制度, 定見, 確信; (若さ: 因)に重きをおくこと; (義務または法を)固守すること, 品行方正; 限度, (とくに道德の)限界; 住 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Daś-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Ratna-ut.*, *Sāṃkhy-k.*, *Sapt-pr.*, *Sūtr.*; 位 *Bodh-bh.*; 在, 処 *Daś-bh.*; 安住 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-vibh.*; 令住, 定安 *Sūtr.*; 住持, 能住, 堅住 *Bodh-bh.*; 处在 *Daś-bh.*; 放在何一節間, 中間有的放下 *Mvyut.* ~m ā-*Car*, 立ち続ける. ~m *Kṛ*, *Grah*, *Bhaj* または *vi-Dhā*, 滞在する, 住居を定める.
sthitika, 一° 田 住 *Divy.*; 安住 *Divy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*; 依住 *Madhy-vibh.*

sthitikatā 因 住 Bodh-bh.
 sthiti-kāraṇa 因 住因, 住能作, 安住能作 *Ma-*
dhy-vibh.
 sthiti-tā 因 住, 常 *Ast-pr.*; 常住, 法本性, 法
 性本住処 *Lank.*
 sthiti-deśa 男 居住地, 住所.
 sthiti-bhāgiya 形 随順住分 *Bodh-bh.*
 sthiti-bhāva 男 住法, 住体 *Madhy-v.*
 sthitimat 形 確乎とした, 安定した, 持続する; (太
 洋が) 限界内に留まる; (道德の) 限界を守る, 有徳
 の.
 sthiti-varman 男 [ある王侯の名].
 sthiti-vikriḍita 形 遊戯 *Sūtr.*
 sthiti-viśeṣa-bhāgiya 形 住分及勝分 *Sūtr.*
 sthiti-sthāpaka 男 (+saṃskāra) (原状に戻す) 弾力
 性.
 sthiti-hetu 男 住因 *Abh-vy.*
 sthiti-hetutva 因 住因 *Abh-vy.*
 sthity-anyathātva 因 住異 *Abh-vy.*
 sthityanyathātva-pada 因 住異句, 住異見
Lank.
 sthity-utpatti-pralaya 男 生住滅 *Saṃkhy-k.*
 sthira 形 堅固な, 固い, 固体の, 硬直した, 強い;
 定着した, 不動の, 動かない; ぐらつかない (歩き
 ぶり, 凝視); 恒久の, 不断の, 持続する, 続く, 変
 化のない; しっかりした, 支持された, がまん強い;
 秘密にされた, 内密の (相談); (人について) 節操あ
 る, 忠実な, 信頼すべき; 非常に勇気ある; (不定)
 …することを堅く決心した; 確実な, 確かな, 疑
 いがない; 住 *Guhyās.*; 堅 *Abh-vy.*; 安住
Daś-bh., Śikṣ.; 堅住 *Abh-vy., Bodh-bh.*; 堅固
Ratna-ut.; 不動, 審詳 *Bodh-bh.*; 堅著 *Abh-vy.*;
 堅固, 常堅固 *Lank.* *manas* または *hṛdayam* ~*m*
Kṛ. 心を堅固にする, 心を鬼にする, 勇気を出す.
 因 (RV.) 抵抗: ~*m* *ava-Tan*, 因 (ある人: 國) の
 抵抗を砕く, 抵抗を弱める, 固 降参する. ~*m* *ā-*
Tan, 抵抗を企てる.
 sthira-karman 形 たゆまず行なう.
 sthira-citta 形 心の堅固な, 鞏固な, 決然とした, 沈
 着な.
 sthira-cetas 形 [同上].
 sthira-jivin 形 なかなか死なない, 長寿の, 強靱な
 生命力を有する. 男 [ある鳥の名].
 sthiratā 因 固さ; 不変性, 安定性, 恒久性; 恒常性,
 堅固性; 安住, 不動 *Divy.* ~*m* *upa-l* 落着
 く.
 sthiratva 因 不動性; 安定性, 恒常性.
 sthira-dhanvan 形 強弓を持っている (*Rudra* 神;
 RV. 用例一回のみ).
 sthira-dhī 形 思想堅固な, 不動の.
 sthira-pada 形 しっかりと根づいた.
 sthira-pratijñā 形 約束を守る.
 sthira-pratibandha 形 執拗な抵抗をする, 頑強な.
 sthira-buddhi 形 思想堅固な, 不動の, 決然とした;
 智慧固, 智慧堅固 *Ast-pr.* 男 [ある *Asura* の
 名].

sthirabuddhika 男 [ある *Dānava* の名].
 sthira-mati 因 堅固な心, 不動性. 形 確乎不動の.
 意堅 *Mvyut.* 男 [人名].
 sthira-manas 形 [同上].
 sthira-yauvana 形 永遠の若さを保つ, いつも若々し
 い.
 sthira-varman 男 [人名].
 sthira-vikramastha 形 住堅固奮迅 *Ratna-ut.*
 sthira-vīrya 大精進 *Raṣṭr.*
 sthira-saṃskāra 形 十分に洗練された, 深い教養の
 ある.
 sthirasaṃskāratā 因 完全な教養を有すること, 完全
 な教養.
 sthira-sthāyin 形 しっかりと立っている.
 sthirātman (°*ra-āt*°) 形 心の堅固な, 安定した;
 常の; 不動の, 決然とした, 断固とした.
 sthirānurāga 形 深く執着した, 愛情のぐらつかない
 sthirānurāgatva 因 [同上の 因].
 sthirānurāgitva 因 [同上].
 sthirānurāgin 形 =sthirānurāga.
 sthirāpāya 形 常に衰滅し続ける.
 sthirārambha (°*ra-ār*°) 形 企てがぐらつかない,
 でに着手したことを固守する, 忍耐力を有する.
 sthiri-kāraṇa 因 確証; 住, 令堅住 *Bodh-bh.*
 sthiri-kartavya 形 励まされるべき, 勇気づけられ
 べき.
 sthiri-kāra 男 確証, 確認.
 sthiri-Kṛ, 確かめる, 強化する; (馬を) 停める; 恒
 化する, 確立する; 確証する; (心を) 鬼にする;
 ます.
 sthiri-BHū, 勇気を出す.
 sthivi 男 (農家で使う) 箕 (RV. 用例一回のみ).
 sthivimat 形 箕を具えた (RV. 用例一回のみ).
 sthūla 因 テント (まれ).
 [Sthū, 厚いまたは強い, sthaviman, sthavira, sth
 āna, sthūra, sthūla として].
 sthūṇa 男 木柱 *Divy.*
 sthūṇā 因 くい, 柱 (一 形 -a); 木 *Ast-pr.*
 柱, 梁, 撐 *Mvyut.*; 薪 *Śikṣ.*; 音写 率吐奴 *M*
yut.
 sthūṇā-kāraṇa 男 軍隊の陣形 (の一種).
 sthūṇā-pakṣa 男 [同上].
 sthūṇā-rāja 男 支柱 (因).
 sthūṇopasthūṇaka (°*nā-up*°) 音写 率吐奴,
 波率吐奴 [村名] *Divy.*
 sthūra 形 厚い, 広い, 重い, 大きい, 偉大な (RV.
 肥 *Bodh-bh.*
 sthūri 形 一頭の動物によって引かれた, 一面的
 (因). 因 一頭立ての荷馬車 (因).
 sthūrikā 因 不妊の牝牛 (? *Manu VIII, 325*).
 sthūla 形 厚い, かさばった, 大きい, 大規模な
 頑丈な, 力強い; 粗い, 粗大な (譬喩にも, 因
 罪); 鈍い, 愚かな; 物質的な, 感知できる (因;
 sūkṣma); 因 粗大なまたは物質的身体; 厚
 肥 *Abh-vy.*; 粗, 細, 柴 *Mvyut.*; 龜 *Abh-v*
Raṣṭr., Śikṣ.; 多 *Lal-v.*; 殷重 *Lal-v.*; 藥物 *V*

v.; 麤相 *Abh-vy.*: ~kambala 大毛翟毳 *Mvyut.* 232.

sthūla-keśa 男 [ある Rṣi の名].

sthūla-koṣṭhaka 𑖀𑖩 [ある地名] *Av-ś.*

sthūlatā 女 大きいこと, 肥満, かさばること; 不細工; 愚鈍; 𑖀𑖩 肥 *Bodh-bh.*

sthūlatva 中 粗大性(𑖀).

sthūla-datta 男 [人名].

sthūla-nāsika (大きな鼻を有するもの), 野猪.

sthūla-prapañca 男 粗大な現象世界, 物質界, 外界.

sthūla-bāhu 男 [人名].

sthūla-buddhi 男 頭の鈍い.

sthūla-bhittikatā 女 𑖀𑖩 如堅壁 *Mvyut.*

sthūla-bhuja 男 [ある妖精の名].

sthūla-bhūta 中 粗大な元素.

sthūla-mati 形 頭の鈍い.

sthūla-madhya 形 真中が厚い.

sthūla-roma 形 毛深い.

sthūla-lakṣa 形 寛大な, 気前のよい; 大きな目標を射る.

sthūlalakṣatva 中 [同上の 𑖀].

sthūla-lakṣitā 女 [同上].

sthūla-lakṣya 形 =sthūlalakṣa.

sthūlalakṣyatā 女 [同上の 𑖀].

sthūlalakṣyatva 中 [同上].

sthūla-viṣaya 男 粗大な物質的対象. 外界の事物.

sthūla-śarira 中 粗大な身体.

sthūla-śiras 形 愚かな. 男 [ある Rṣi, Rākṣasa および Yakṣa の名].

sthūla-sūkṣma 形 大小の.

sthūlasūkṣma-prapañca 男 粗大な世界と微細な世界.

sthūlasūkṣma-śarira 中 粗大な身体と微細な身体.

sthūla-hasta 男 (象の)鼻.

sthūlātyaya 男 𑖀𑖩 粗罪, 麤罪 *Mvyut.*

sthūlāntara 中 大腸, 直腸.

sthūlāsthūla 形 粗大にしてかつ粗大でない.

sthūlāsthūlatara 形 𑖀𑖩 大變大きくかつ小さい.

sthūleccha (°la-ic°) 形 法外な願望をもつ.

sthūloccaya (°la-uc°) 男 (象の場合の早すぎもしなければ遅すぎもしない) 普通の歩調.

sthūlodara (°la-ud°) 形 𑖀𑖩 腹大 *Bodh-bh.*

stheman 男 [Sthiraの 𑖀] 堅固さ(因); 𑖀: 静止; 持続. ~mnā 男 根気強く.

sthema-bhāj 形 堅固な, 強い(𑖀).

stheya 未受分 [Sthā] 中 非人 静止すべきである; (因)に滞在するまたは留まるべきである;(圓. 不變分 または 𑖀 とともに) 振舞う・行動する・着手するべきである. 男 裁判官, 仲裁人.

stheyas 形 𑖀𑖩 [sthira] より重要なまたは重きをなす(人); 非常に持続するまたは恒常の; 大變に安定した(心).

stheyi-Kṛ, 仲裁者として撰ぶ.

sthairya 中 [sthira] 堅固さ, 定着, 固定, 安定性, 確固性; 持続, 恒久, 不動, 恒常; 忍耐;(因)に対する強固な執着・における永続的な喜び; 𑖀𑖩 堅

固 *Sūtr.*; 𑖀(?) , 𑖀整, 攝持 *Bodh-bh.*; 麤重 *Abh-vy.*

sthairyavat 形 しっかり立っている, 屈服しない, 耐える.

sthorā 女 𑖀𑖩 物, 駄 *Divy.*

sthaula-lakṣya 中 寛大さ.

sthaulya 中 [sthūla] 頑丈さ, 肥満; 大きなサイズまたは背たけ; 𑖀𑖩 龜 *Bodh-c.*

snāpana 洗うこと, 沐浴, 洗い清め; 𑖀𑖩 中 灌 *Divy.*

Snā II. 𑖀 snāti, (因, 𑖀), IV. 𑖀 (自 韻律) snāyati(-te) (叙詩) 沐浴する;(とくに誓いまたは学生期, 士avabhṛtham, の終わったときに) 沐浴の儀式を行なう;(灰: 圓)を体に塗る; 𑖀𑖩 洗 *Bodh-bh.*; 沐, 洗浴 *Lank.*; 沐浴 *Buddh-c.*; 澡浴 *Bodh-c., Lalv.* 過受分 snāta 洗われた;(とくに 家住期に入るに際し, 学生期の終るときに) 沐浴した;(𑖀)から浄められた;(因, 一°)に熱中したまたは精通した; 𑖀𑖩 洗 梵雜; 洗浴 *Rāstr.*; 沐浴 *Gand-vy.*; 澡浴 *Budh-c.; Lal-v.* 過能分 snātavat 沐浴した. 使役 snāpayati, 𑖀 洗う, 清める, 沐浴する, ふりそそぐ; 𑖀𑖩 盥 *Śikṣ.*; 洗拭 *Abh-vy.*; 澡浴, 洗滌, 洗濯, 洗除 *Śikṣ.*; 洗除令浄, 洗濯令清浄 *Suv-pr.*

ut- 水中から踏み出す, 出現する(因).

ni- 過受分 niṣṇāta, (因)に(没頭した=)精通した, 熟練した; 同意した, 一致した.

pari- 𑖀𑖩 洗身 *Divy.*

pra-(士 𑖀) 水中に入る(因). 使役 prasnāpayati 沐浴させる(因).

vi- 使役 𑖀𑖩 洗浴, 灌麗 *Lal-v.*

saṃ- 使役 saṃsnāpayati 入浴させる, 洗う.

snā 形 一° (ある 合成語の場合に)に浸された・で沐浴した.

snātaka 形 (学生期を終結する) 沐浴の儀式を行なった; 家住期に入るまたは入った. 男 家住期に入る学生; 𑖀𑖩 沐浴者 *Sam-r.*

snātaka-lopa 男 Snātaka の義務を怠ること.

snātaka-vrata 中 Snātaka の義務. 形 Snātaka の義務を実践する.

snātavya 未受分 中 非人 沐浴すべきである.

snātra 中 沐浴, 洗い清め, 洗浴すること; 𑖀𑖩 洗浴 *Aṣṭpr., Bodh-bh.*; 沐浴, 灌洗 *Bodh-bh.*

snātra-śāṭaka 中 𑖀𑖩 手巾 *Mvyut.*

snāna 中 沐浴すること, 沐浴, 洗い清め(普通の意味); 洗い落とすこと; 浴場の附属物, 沐浴用化粧粉または香水; 𑖀𑖩 洗, 浴 *Abh-vy.*; 洗浴 *Rāstr.*; 澡沐, 洗濯, 灌沐, 澡漱 *Śikṣ.*

snāna-kalāśa 男 たらい.

snāna-kumbha 男 [同上].

snāna-grha 中 更衣所, 浴室; 𑖀𑖩 浴室 *Bodh-c.*

snāna-tirtha 中 神聖な沐浴場.

snāna-droṇi 女 浴槽.

snāna-parikarman 中 𑖀𑖩 澡浴 *Lal-v.*

snāna-prāyaścittika 𑖀𑖩 洗浴 *Mvyut.*

snāna-bhū 女 沐浴場, 浴室.

snāna-vastra 中 浴用衣.

snāna-vāsas 甲 [同上].
 snāna-veśman 甲 沐浴場, 浴室.
 snāna-sāṭaka 男 洗濯, 洗浴之服 *Divy.*
 snāna-sāṭi 女 浴用下着, 入浴パンツ.
 snāna-sālā 女 浴室 *Divy.*
 snānāmbu 甲 沐浴用の水.
 snānin 形 沐浴する.
 snāniya 形 沐浴に適する. 甲 浴場の附属物, 浴用香水.
 snāniya-kaṣāya 男 順浴散 *Abh-vy.*
 snāniya-vastra 甲 浴用衣.
 snānodaka (°na-ud°) 甲 沐浴用の水.
 snānopakarāṇa (°na-up°) 甲 浴場の附属品.
 snāpaka 男 沐浴させる人, 主人の身体を洗う召使;
 沐浴 *Bodh-bh.*
 snāpana 甲 沐浴すること, 洗い清めること; 洗
Mvyut., Śikṣ.; 浴 *Śikṣ.*
 snāyitā 女 沐浴, 洗い清めること.
 snāyin 形 沐浴する, 洗い清める.
 snāyu 甲 因, 罽: 腱, 筋, 筋肉; 罽: 静脈; 弓弦;
 筋 *Bodh-bh., Mvyut., Śikṣ., 梵千.*
 snāyu-nirmīta 形 腱で作られた.
 snāyu-pāśa 男 弓弦.
 snāyu-bandha 男 [同上].
 snāyumaya 形 (因-i) 腱で作られた.
 snāyu-spanda 男 脈搏.
 snāvan 甲 (因) 腱, 筋; 弓弦 (まれ).
 snigdha [Snih] 過受分 粘着する, 油じみた, べとべ
 とした, なめらかな; 柔かい, 温和な, 穏かな; 油
 でぬるぬるした, 脂ぎった; 光沢のある, 光輝ある;
 (因)に執着した; やさしい, 情愛深い, 友情ある;
 濃い(影); 油 *Mvyut., Saddh-p.*; 妙, 柔
Śikṣ.; 軟 *Ast-pr.*; 膩 *Suv-pr.*; 潤 *Abh-vy.,*
Mvyut., Śikṣ., Suvik-pr. Vajr-s.; 深愛 *Buddh-*
c.; 肥膩, 肥濃 *Suv-pr.*; 親昵, 親愛, 親善 *Bodh-*
bh.; 柔軟 *Ast-pr., Gand-vy., Lal-vy. Mvyut.*;
 柔和 *Ast-pr.*; 微妙 *Saddh-p.*; 潤沢 *Daś-bh.,*
Sam-r., Śikṣ., Sūtr.; 潤益 *Daś-bh.*; 滋潤 *Bodh-*
bh., Daś-bh., Rāstr.; 沢潤 *Divy.*; 流沢 *Mvyut.*;
 軟滑, 柔悞 *Abh-vy.*; 滑沢 *Mvyut.*; 仁和, 潤順
Daś-bh. ~m 副 穏かに.
 snigdha-citta 形 柔軟心 *Śikṣ.*; 軟心, 親厚心,
 親厚想, 有親愛心 *Bodh-bh.*; 性調柔, 調柔意 *Gand-*
vy.
 snigdhacittatā 女 潤沢心 *Śikṣ.*
 snigdhatama 最上 大変油でべとべとした; きわめて
 愛情の深い.
 snigdhatā 女 軟かいこと; 油でべとべとしているこ
 と; 執着, 愛情.
 snigdhatva 甲 (因)への執着, 愛情.
 snigdha-nakha 形 指色滑沢 *Mvyut.*
 snigdha-pāṇi-lekha 形 手文具光, 手文具光色
Mvyut.
 snigdha-bhāva 男 軟悞 *Ratna-ut.*
 snigdhabhāva-svabhāva 形 思実体柔悞 *Ratna-*
ut.

snigdha-bhinnāñjana 甲 光沢ある粉末の眼膏.
 snigdha-bhrū 形 眉毛潤 *Mvyut.*
 snigdha-mudga 男 豆(の一種).
 snigdha-vacana 形 軟語, 語言柔和, 言詞柔悞
Ast-pr.
 snigdha-varṇa 形 顔色光潤 *Mañj-m.*
 snigdha-vāc 形 軟言, 言辭柔軟 *Rāstr.*
 snigdha-śīta-rūkṣa 形 滑りやすく, 冷たくかつ粗い.
 snigdhaśītarūkṣatva 甲 [同上の語].
 snigdhāñjana 甲 光沢ある眼膏.
 Snih, IV. 甲 (自韻律) snihyati (°te) 油でぬるぬる
 になる; (因)に(目が)すえられる; (因, 因)に執
 着する, に対して愛情を感じず. 過受分 snigdha
 → snigdha. 使役 snehayati, 甲 油でぬるぬる
 にする, なめらかにする(因); 柔軟にする, 服従さ
 せる (RV.); 沃潤, 滋潤, 潤漬 *Madhy-v.,*
Śikṣ.; 能潤 *Madhy-v.*
 upa- 使役 (業)の愛情をからとる.
 pra- 過受分 大変油でぬるぬるした; 大変やさしい
 またはやわらかい(音調).
 snih 女 (因-k または t) 湿気(因, まれ).
 snihan 男 または -ā 女 (鼻の)しめり (SB.).
 snihiti 女 湿気(因, まれ); 殺戮(?), 軍隊(?) (因,
 きわめてまれ).
 Snu, II. 甲 snauti 液を出す, 乳を出す 過受分
 snuta, 流れる(とくに母親の乳について).
 pra- 液を出す, したたる. 過受分 乳を出す.
 snu 甲 [=sānu] 表面, 高い, 高地 (因).
 snuṣā 女 (自分の息子の)嫁; 女 *Lal-v.*; 児婦
Ast-pr.; 新婦 *Divy.*
 snuṣā-ga 形 嫁と性交する.
 snuṣātva 甲 嫁であること, 嫁の身分・状態.
 Snuh, 1. IV. 甲 snuhyati, へどを吐く, 吐く; しめ
 っている.
 snuh 2. 形 (因-k または -t) 女 植物(の一種, *Euph-*
orbia antiquorum; この乳状の汁は催吐剤として用
 いられる).
 snuhā 女 [同上].
 snuhi 女 [同上].
 sneha 男 [Snih] 油を含むこと, 粘着性; 円滑 (譬喩
 にも); 脂肪の多いもの, 油, 脂肪; (因, 因, 一°)
 への執着, やさしさ, 溺愛, 愛情(普通の意味); (sa
 ha)との友情: 一° 形 が好きである(まれ); 油
Mvyut.; 湿 *Abh-k., Mvyut.*; 愛 *Abh-vy.,*
Bodh-c., Divy., Sūtr.; 潤 *Daś-bh., Madhy-v.,*
Śikṣ.; 眷 梵千; 水, 恋 *Daś-bh.*; 恩愛 *Daś-bh.,*
Divy.; 貪愛 *Sūtr.*; 哀情 *Buddh-c.*; 悲愛, 愛念
Sūtr.; 情欲 *Daś-bh.*; 沃潤, 滋潤, 潤漬 *Madhy-v.*
Śikṣ.; 湿潤 *Śikṣ.*; 穢湿, 湿穢, 泥水 *Bodh-bh.*
 津潤 *Lank.*; 深愛著 *Bodh-bh.*; 柔軟湿潤 *Lank.*
 仰恋心 *Buddh-c.*; ~āt 由親善故, 親愛故 *Bodh-*
bh. 196. → ātma~.
 sneha-gata 形 泥水, 泥濘, 穢湿 *Daś-bh.*
 sneha-ccheda 男 友情の破滅, 絶交.
 sneha-janita 形 愛生 *Sūtr.*
 sneha-jāta 形 常生歡喜 *Gand-vy.*

snehatva 甲 潤性 *Sikṣ.*
snehana 形 (因-i) 愛情を感じる。甲 油のようにねばねばしたこと；愛情を感じる事。
sneha-pankānkita 形 垢膩…可染 *Ratna-ut.*
sneha-pravṛtti 因 愛情，恋情。
sneha-prasrava 男 愛情の吐露または発露。
sneha-bhūmi 因 愛に値いする人間，愛の対象，いとしい人。
snehamaya 形 (因-i) 愛情に満ちた；愛情からなるまたは愛と称せられる。
snehala 形 愛情に満ちた，やさしい。(ある人：因)が好きである。
snehalatā 因 やさしいこと，愛情。
snehavat 形 油でぬるぬるした，脂肪の多い；愛情に満ちた，やさしい，好きである。
sneha-vaiśeṣya 形 大悲愛勝 *Sūtr.*
sneha-vyakti 因 愛情の表現，愛をあらわにすること；好意を示すこと…
sneha-samjvaravat 形 愛の熱情または情炎で満たされた，恋の炎につつまれた。
snehin 形 を好む，(一)を愛する。
snaigdhya 甲 円滑さ，しなやかさ。
Spand, I. 自 (他) spandate (°ti) ときどきする，動悸がする，ふるえる；胎動する；(動物が) 蹴る；動く(まれ)；活気づく，生き返る(まれ)；動 *Abh-vy.*；動転，揺動 *Lank.* 過受分 spandita, ふるえている。使役 spandayati, 他 (自 韻律) ふるえさせる；動かす(他動)。過受分 spandita, 動かされた，産み出された；動転 *Bodh-bh.* 甲 ふるえ，動悸(ときとして)；(心，一)の活動；動，動転 *Bodh-bh.*；動揺 *Lank.*
ava- 軽弄 *Bodh-bh.*
pra- 自 ふるえる，(鼓動が) 始まる。
vi- [同上]；争う，あらわれる。
sam- 身をふるわせる，胎動する，生き返る。
spanda 男 振動，ふるえ；運動。
spandana 男 ある木(因，華)。甲(華)ふるえること，動悸をうつこと；(胎児の)胎動；運動；動揺，動揺運動 *Lank.*
spandita 過受分 → Spand.
spandin 形 ふるえる，動悸をうつ。
sparāṇa 因 形 (因-i) 救う，救出する。
sparīśa 形 触 (sparsā の不確) *Lank.*
spardhā 因 [Sprdh] (真) に対する，(真 ±saha, 圓，一)との競争，張合い，争い；(一)に対する願望(まれ)；勝，競勝 *Bodh-bh.* ~ayā 真 互いに競争してまたは張合って。
spardhā-kara 形 (因-i) (一)と競争する，張合う。
spardhāvat 形 [同上]。
spardhin 形 [同上]。
spardhya 未受分 望ましい，価値ある，高価な。
sparsā 形 (一) [Sprs] に触れる(まれ)。男 接触，感触；(一，頭痛，嫉妬)の感情・感覚；快感(まれ)；触覚；(接触=)25の閉鎖音と鼻音の総称(文法)；ときとしてspaśāの不確；触 *Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Gand-vy., Lal-v., Madhy-vibh., Mv-*

yut., Rāṣṭr., Ratna-ut., Saddh-p., Suv-pr., Vajr-s., Vijñ-t., 梵千；更樂 Kāśy., Madhy-v.; 無疲倦 Saddh-p.

sparsā-kāya 男 聚触 *Madhy-v.*
sparsā-kliṣṭa 形 触れて痛い。
sparsā-kṣama 形 触知できる。
sparsā-gata 形 貪受諸触，受於輕軟触 *Suv-pr.*
sparsāna 甲 触れること，接触；感触，触覚；触 *Bodh-c., Madhy-v., Mañj-m.*；身 *Madhy-v.*；得 *Rāṣṭr.*；証 *Lal-v., Rāṣṭr.*；合会，對塵 *Madhy-v.*；覚知 *Sikṣ.*
sparsānā 因 得，証 *Rāṣṭr.*
sparsā-nirodha 形 触滅 *Suv-pr.*
sparsāniya 未受分 触れられるべき。
sparsā-pratyaya 形 触縁 *Suv-pr.*
sparsā-rasika 形 感触を好む，官能的な，好色な，多淫な。
sparsā-rūpaṇā 因 触中色，以触成色 *Mvyut.*
sparsā-vajra 男 金剛触[菩薩名] *Guhy-s.*
sparsavat 形 触知できる；触れて快よい；有触 *Vajr-s.*
sparsā-vihāra 形 樂，安樂 *Mvyut.*；安住 *Mvyut., Vijñ-t.*；安穩住 *Bodh-bh.*
sparsāvihāratā 因 安隱 *Saddh-p.*
sparsā-samcārin 形 接触伝染する；伝染する(病氣)。
sparsā-svabhāva 男 触自性[菩薩名] *Guhy-s.*
śparsānukūla 形 触って快よい，涼しくする。
sparsābhyupeta 形 覺妙触 *Sikṣ.*
sparsāhāra (°śa-āh°) 形 触食 *Abh-k., Mvyut.*；願食 *Mvyut.*
sparsita 過受分 証得 *Saddh-p.*
sparsitavya 未受分 触 *Ratna-ut.*
sparsin 形 (一)に触れる；にまで達する；に浸透する。
sparsopala (°śa-up°) 因 賢者の石すなわち化金石(これに触れると金となる)。
sparṣṭavya 未受分 (=sprasṭavya) 形 触 *Abh-k., Sikṣ.*
Spas, 現在語基は語頭のsを欠く，paśya, → Paś;
二過 paspaśe (因) および 三過 三入 四自 aspāṣṭa (RV. 用例一回のみ)，見る，ながめる，知覚する。過受分 spaṣṭa (因，華)，明瞭な，判然とした，明らかな，明白な；真直ぐな(まれ)；分明，明了 *Abh-vy.*；弁了 *Bodh-bh.*；明淨 *Divy.*；性明 *Sikṣ.* ~m 副 判然と等；(顔を)直(視する)；卒直に(尋ねる)；分明，明了 *Abh-vy.* 使役 spāśayati (因) 明らかにする，示す；観察する。
anu- 三過 分 anupaspaśāna, 示した (RV.)。過受分 anuspaṣṭa, 観察された。
vi- 過受分 明白な，明瞭な，明るい(夜)；判然とした，理解できる。
sam- 過受分 samspaṣṭa, 有名な。
spas 男 見張人，スパイ(因)。
spaśa 男 [同上] (Br., 華)。
spasādhyakṣa 男 スパイの長。
spaṣṭa 過受分 → Spas.

spaṣṭatā 因 明瞭性。
 spaṣṭaya, 名動 他 明瞭にする；(せむしの背を)真直ぐにする。
 spaṣṭākṣara 形 明瞭に発音された。
 spaṣṭārtha 形 意味の明瞭な, 理解できる。
 spaṣṭi-Kṛ, 照らす, 明らかにする, 解明する, 改訂する, 是正する。
 spārha 形 望ましい, 魅力ある (RV., まれに P.)
 Spūrdh, [Sprdh の傍系の形, きわめてまれ], VI. 他
 spūrdhati, 不定 spūrdhase, 対抗意識を起こさせるために (RV.).
 pra- 闘争を始める (RV. 用例一回のみ).
 Spr, V. sprṇoti, sprṇute, (因) (従) から解放する, 救出する；得る, ちかう。過受分 sprta (因).
 使役 spārayati, 他. [同上].
 apa- 自 (因) (従) から自由にする；駆逐する。
 ava- 自由にする (RV.).
 nih- [同上] (RV.).
 vi- 切断する 因。
 Sprdh, I. 自 (他 韻律) spardhate, (業, 具 ±saha) と競争する, 張合う, 争う；競走する；(因) のために努力する。過受分 spardhita, (能動 と 受動 の意味を伴う)。
 pra- (具, 因) と (因) に関して争う。
 vi- 争, 競 Divy.; 諍, 拏競 Lal-v.
 sprdh 因 (RV.) 闘争；競争者, 敵。男 (P.) 競争者；一° 形 (P.) と競争する；を欲している。
 Sprś, VI. 他 (自, 韻律) sprśati, (業) に触れる (普通の意味)；(因) に手を置く, なでる；(水, apah, udakam, jalam) に触れる=(水) で (体のある部分を) 洗う, (口等) をすすぐ (まれに 身体の部分の業 と 水の具 とともに)；触覚によって知覚する, 感じる (まれ)；触れる=(業, 因) に達するまたは浸透する；不愉快に影響する, 害する (まれ)；(業, 具) に匹敵する；(業) に作用する；影響する；を左右する；(業) に振りかかる, (ある人に) 不意におそいかかる；手に入れる, 獲得する, 経験する (普通の意味)；成 Raṣṭr., Śikṣ.; 証 Raṣṭr., Sutr.; 得, 摩 Lal-v.; 指, 触 Bodh-bh., Lank.; 通達 Saddh-p. karmam ~, 耳に入る。kriyām ~, 行動に立上る。girā ~, 言葉によって匹敵する=記述することができる。過受分 sprṣta, 触れられた；接触している (閉鎖音と鼻音について言われる)；半母音は iṣat-sprṣta, 歯擦音と h は nema-sprṣta)；(具, 一°) によって影響された；受 Divy.; 証 Sutr.; Bodh-bh., Mvyut.; 遇 Gand-vy.; 所触 Bodh-bh.; 触対 Bodh-bh. 使役 sparsayati, 他 (自 韻律) (業) に (業) を触れさせる, (具, 因) 直接接触させる；触覚で知覚する, 感ずる (まれ)；(あるもの) を (因) に引渡す, 与える, 贈る；得 Saddh-p.
 ā- 受 Madhy-v.
 upa- 触れる, へ達する；可愛がる, 愛撫する；(水, ± apah, jalam, vāri) に触れる=(手を水に) 突込む, (口を水で) すすぐまたは (水を) すする, 沐浴する, (因) の中で洗い清める (ときとして 身体の一部を 業, ± 水によって 具 とともに)；触 Bodh-bh.; 証

Ratna-ut., Sutr. 過受分 upasprṣta, (水に) 触れた, すすられたまたはすすった (水と人について)。
 sam-upa- (水: 具) で触れる；(因) で沐浴する。
 ni- (RV.), なでさするように触れる。
 sam- 他 触れる, (具) と接触する (自, 自 の意味のときまたは 韻律)；(業) に到着する または へ浸透する；達する (業), と密接な関係に入る；を不意に襲う, 振りかかる, 悩む, 苦しめる。過受分 (具) で苦しめられた。使役 接触させる (因)。
 sprś 形 一° (因 -k) に触れる；に達する；によって影響される, を経験する, 示す, もらす。
 sprśa 形 (一°) に触れる, に達する。
 sprśya 未受分 触れられるべき；触知できる；専用に使われるべき。因 触 -Abh-k.
 sprṣta 過受分 → Sprś.
 sprṣṭaka 因 抱擁 (の一種)
 sprṣṭatā 因 (閉鎖音と鼻音の発音の際の) 接触。
 sprṣṭi 因 接触。
 sprṣṭikā 因 (宣誓をしているときに, 体または足, 一° に) 触れること。
 sprṣṭin 形 (一°) に触れた。
 Sprh, [Sprdh の傍系], sprhayati, 他 (自 韻律) (業, 具, 具) を熱望する・渴望する；(業, 具, 具) をねたむ。うらやむ；深生愛樂 Gand-vy.
 sam- (業) を熱心に望む。
 sprha 因 求, 貪著 Sutr.
 sprhana 因 喜 Kāśy.; 求 Lal-v., Sutr.; 樂 Kāśy., Lal-v., Mañj-m.; 貪 Kāśy.; 羨慕 Gand-vy.
 sprhanā 因 求, 樂 Śikṣ.
 sprhaniya 未受分 (具, 具) にとって望ましい, 喜ばしい, 魅力的な, 魅惑的な；うらやむべき, (具) によってねたまれる；愛念 Suvik-pr.; 所貪慕, 所尊敬 Aṣṭ-pr.
 sprhaniyatā 因 願わしいこと。
 sprhaniyatva 因 [同上]；深願樂 Sutr.
 sprhayamāna-rūpa 因 希求品類, 深生愛慕 Bodh-bh.
 sprhayāyya 形 願わしい, 望ましい (RV.).
 sprhayālu 形 (因, 因) を望む, 喜ぶ。
 sprhayālutā 因 (一°) に対する願望。
 sprhā 因 熱烈な願望, 切望, (因, 一°；まれに 因, 具) を喜ぶこと；嫉妬 (まれ)；求 Bodh-bh., Śikṣ.; 借樂心, 所求 Raṣṭr.; 欲 Mvyut., Sutr.; 著, 貪著 Aṣṭ-pr.; 愛樂 Aṣṭ-pr., Raṣṭr.; 望喜 Mvyut.; 貪求, 貪著 Śikṣ.; 願樂 Saddh-p.; 欣樂, 常樂, 深心欣樂 Bodh-bh.; 恋着 Raṣṭr.; 尊重, 愛重 Kāśy.; 希求 Bodh-bh.; 趣求心 Aṣṭ-pr. ~m Kṛ または Bandh, (因, 一°) を望む。~m Kṛ, (ある人) (因) をねたむ。
 sprhā-jāta 因 欣樂, 生愛樂, 深生愛慕 Bodh-bh.
 sprhābhilāsa (°hā-abh°) 因 求, 希求 Daś-bh.
 sprhā-manaskāra 因 欲得作意 Sutr.
 sprhāvat 形 (因) を望む・願うまたは楽しむ；有欲 Sutr.

spraṣṭavya 未受分 触れられるべき。 甲 触 Abh-vy., Lan̄k.; Mvyut., Vajr-pr., Vijñ-v., Śikṣ.; 所触 Abh-vy.

spraṣṭavyatva 甲 [同上 甲]; 触 Abh-vy.

spraṣṭavya-dhātu 触界 Mvyut.

spraṣṭavyāyatana (°ya-āy°) 触入, 触界 Mvyut.

Sphaṭ, 過受分 sphaṭita, 破られた(きわめてまれ). 使役 過受分 sphaṭita (まれ), 破られた, 裂かれた, 割れた; 引きさかれた(衣服).

sphaṭika 男 水晶; 玉, 水晶 Mvyut.; 碧綠 Aṣṭ-pr.; 水精 Abh-vy., Bodh-bh., Bodh-c., Mvyut.; 氷玉, 白珠, 水玉, 玄珠; 音写 玻璃, 琉璃 Lan̄k., 玻瓈 Raṣṭr., Sukh-vy. II.; 頗梨 Sukh-vy. I., 梵維, 玄珠; 玻黎 Sukh-vy. I.; 頗黎 Saddh-p., Sukh-vy. I.; 白玻瓈 Lal-v.; 頗胝迦 Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Divy., Sukh-vy. II.; 頗梨柯 Abh-vy.; 私頗知迦 Divy.; 塞頗胝迦, 娑破致迦 玄珠.

sphaṭika-maṇi 男 [同上]; 音写 摩尼珠, 玻瓈珠 Lan̄k.

sphaṭikamaya 形 (因 -i) 水晶で作られた; 音写 琉璃; (音写) 玻璃器 Lan̄k.

sphaṭika-yaśas 男 [ある妖精の名].

sphaṭika-śikharin 男 [Kailāsa 山の名].

sphaṭika-śilā 因 水晶.

sphaṭika-saṃsthita-tala 音写 玻瓈為地, 地玻瓈色 Gand-vy.

sphaṭika-stha 水晶山 Mañj-m.

sphaṭita 過受分 → Sphaṭ.

sphaṭita-pāṇi-pāda 形 手鼓脚髀 Divy.

Sphar, 使役 sphārayati, 他 広く開ける; 曲げる, (矢を) 発射する; 起, 広 Abh-vy.; 出, 放 Aṣṭ-pr.; 充, 解 Gand-vy.; 普 Kaśy.; 覆 Gand-vy., Lal-v.; 遍 Lal-v.; 徧 Abh-vy., Kaśy.; 出現, 広大 Guhy-s.; 遍覆, 普覆 Gand-vy.; 徧滿 Abh-vy.; 徧滿 Bodh-bh., Gand-vy.; 徧現 Guhy-s.; 周徧 Mvyut.; 周匝, 周滿, 周徧, 至心 Bodh-bh.; 成就 Abh-vy.; 徧解, 徧週, 充滿 Gand-vy.; 能徧 Gand-vy.; 普起 Aṣṭ-pr.; 徧出現 Guhy-s.; 周匝普, 周匝徧照 Bodh-bh. 過受分 sphārita, 広く開かれた(目); 広く拡散した(光輝).

pari- 使役 悉円滿 Mvyut.

vi- 使役 広く開ける; 引く, (矢を) 射る. 過受分 広く開かれた(目).

spharāṇa 甲 徧 Gand-vy., Mvyut., Ratna-ut., Śikṣ.; 滿 Gand-vy.; 徧 Mvyut.; 普 Bodh-bh.; 覆 Abh-vy.; 充滿 Gand-vy., Śikṣ.; 流布, 普照 Bodh-bh.; 究竟 Gand-vy.; 徧滿, 徧覆 Mvyut.; 普覆, 普遍, 広大, 徧入, 普入, 徧周, 普周, 普照 Gand-vy.; 徧触, 觀察 Abh-vy.; 徧照 Daś-bh.; 漸広 Guhy-s.; 徧滿 Ratna-ut.; 無不徧, 悉充滿 Gand-vy.;

spharāṇatā 因 充滿, 普覆 Gand-vy.

Sphal, 使役 sphālayati, 他

ā- (薬) を打つ・はねかす; (リュートを) 鳴らす; (石: 因) に衝突する; (尾を) 振る; 撃 Bodh-c.

過受分 āsphāṭita たたかれた, 打たれた, に衝突された.

sphāṭika 形 (因 -ā, -i) 水晶で作られた (sphāṭika).

甲 水晶; サンドル(の一種); 音写 頗黎 Saddh-p.

sphāṭita 使役 過受分 → Sphaṭ.

sphāṭi 因 太らせること; (家畜の) 飼育(因); 繁栄(因, まれ).

Sphāy, I. 自 sphāyate (まれ), 太る, ふくらむ, 増大する; 響く. 受 sphiyate, 太る. 過受分 sphita, ふくらんだ; 栄える, 繁昌した, 繁栄する, 富んだ(国, 家等); 順境にある, 裕福な, 富んだ; (雨を含んで) 重い(雲); 濃い(煙); 豊かな, 潤沢な; に充滿しているまたは富む, のたくさんある, (圓, 一) で一杯の; 豊, 盛, 興 Lal-v.; 豊樂 Aṣṭ-pr., Divy., Raṣṭr.; 安樂 Lal-v.; 豊滿 Mvyut.; 多饒 Divy. 使役 sphāvayati, 他 太らせる, 肥えさせる; 強くする, 増大する.

sphāyitr 男 (家畜: 圓) の肥育係 (Br.).

sphāra 形 [Sphar] 広範な, 広い, 大きい, 偉大な; 豊かな; 濃い(霧); 大声の(叫び); 強い, 激しい: °一, 副. 男 平手打ち.

sphārika 音写 執牌者 Mvyut.

sphārita 使役 過受分 → Sphar.

sphāritra 甲 音写 白般, 船槳 Mvyut.

sphāri-BHū, 広く開かれる; 広がる, 増大する, 増加する.

sphāla 男 犁~, 犁鉄 Mvyut.

sphālana 甲 [Sphal] 軽くたたくこと, 平手打ちすること.

sphāvaya 使役 → Sphāy.

sphigi 因 しり(因).

sphic, sphij 因 (因 -k) [同上] (S., 圓); 腎, 腎, 尻 Bodh-bh.; 腕(?) 梵千.

sphija 甲 掃灰箒 Mvyut.

sphira 形 [Sphāy] 太った (RV. 用例一回のみ).

sphita 過受分 → Sphāy.

sphitātā, 因 福祉, 幸福, 繁栄している状態.

sphiti 因 [同上].

Sphuṭ, I. 他 sphoṭati, VI. 他 sphuṭati (音をたて) ぱっと開く, ひき裂かれる, ぱっと花開く, 広がる, 開花する; (指を) ぱちんと鳴らす; (火が) ぱちぱちと音を立てる; ぱっと視界に入る, 突然現われる; (病気が) 軽くなる(自動); 破 Saddh-p., Śikṣ.; 破壊 Guhy-s.; 碎裂 Lal-v. 過受分 sphuṭita, 破裂した, 裂かれた, 割られた, 破壊された; 広く開かれた(目等); 広げられた, 満開の. 使役 他 sphoṭayati, 破裂させる, 裂く, 割る, 破って開く, ひきさく; (目を) えぐり取る; 震わせる, 振る; (かんぬき) はずす. 過受分 sphoṭita 裂かれた等. ā- 使役 割る, 押しつぶす; 震わす, 振る; (自動) 拍手する.

pra- 使役 割る.

abhi-saṃ- 破, 傷, 破傷 Lal-v.

sphuṭa 形 開いた; 広げられた, 満開の; 明白な, 明らかな, 明瞭な, 判然とした, はっきりした, 理

解できる(普通の意味); 広がる, 広範な, 広い(まれ);
 布 *Sam-r.*; 放 *Lal-v.*; 開 *Mvyut.*; 満 *Lal-v., Śikṣ.*; 徧 *Śikṣ.*; 遍 *Lal-v., Saddh-p.*; 充滿 *Saddh-p., Suv-pr.*; 充遍 *Saddh-p.*; 了然 *Daś-bh.*; 分明, 明了 *Abh-vy.*; 所明, 積満 *Śikṣ.*; 普(放) *Sapt-pr.*; 照, 盛照 *Raṣṭr.*; 普照 *Bodh-bh., Lal-v., Raṣṭr., Sapt-pr.*; 遍照 *Saddh-p., Sam-r.*; 晃耀 *Divy.*; 所遍, 所覆, 周遍, 徧満 *Abh-vy.*; 遍満 *Lal-v., Saddh-p., Sam-r., Suv-pr.*; 惑乱, 所惑 *Divy.*; 華嚴 *Sam-r.*; 所照触 *Sukh-vy. I.*
 °— または *m*, 明白に等; 周遍 *Suv-pr.*
sphuṭatarākṣara 大變明瞭な(言葉).
sphuṭatā 明白なこと, 判然としていること. ~*m* *Gam* 明白となる.
sphuṭaya, 名動 他 明瞭または明らかにする.
sphuṭa-vakṭr はっきりとまたは率直に話す.
sphuṭa-valkali 樹(の一種).
sphuṭa-sābdam 判然と, 聞えるように, 声高に.
sphuṭārtha はっきりした意味をもっている, 意味の明瞭な, 理解できる.
sphuṭārthatā 意味が判然としていること.
sphuṭika 敷 *Lal-v.*
sphuṭikā 小断片.
sphuṭita 過受分 → *Sphuṭ.*; 開 *Divy.*; 満, 充滿 *Daś-bh.*; 開裂, 折裂, 皸劈 *Divy.*; 震裂 *Saddh-p.*
sphuṭi-karaṇa 明瞭または明白にすること, 表示, あらわにすること; 正すこと, 訂正.
sphuṭi-Kr, 明瞭または明白にする; 表示する; (感覚を) 鋭くする.
sphuṭi-BHū, 明瞭または明白になる.
Sphur, VI. 他 (自 韻律) *sphurati*, 因: 蹴飛ばす; 因, 團: 突進する, はね上る, 跳ぶ; 團 ふるえる, どきどきする, わななく, 振動する; 身もだえする, 苦闘する; きらめく, ひらめく, 火花を発する; 突然見える, 表示される, 示される, はっきりと現われる; 輝く, 目だつ, 名を挙げる; 見 *Lank.*; 起 *Bodh-c.*; 徧 *Sam-r., Sutr.*; 照 *Raṣṭr., Saddh-p.*; 普(覆) *Sam-r., Sapt-pr.*; 普照 *Raṣṭr., Sukh-vy. I.*; 遍照 *Saddh-p.*; 遍照 *Sukh-vy. I.*; 遍覆 *Daś-bh., Divy.*; 照耀 *Buddh-c.*; 徧満, 遍満, 普覆 *Daś-bh.*; 徧充滿 *Lal-v.* 過受分 *sphurita*, ふるえる, わななく; 苦闘する; 閃めく, 輝く, きらめく; 噴出する, 突然に起こる. 使役 *sphorayati*, 他 (弓を) 引く; (論証を) 提示する; (ある人を輝かせる=) 極度に賞賛する, 絶賛する.
niḥ- 投げ落とす (*RV.*).
pari- (魚が) あちこちへ突進する; 噴出する, 自身を目立たせる; 遠くまできらめく. 過受分 胎動する(胎児).
pra- 因: 追い払う; 因, 團: ふるえる, 身震いする; 團: ピカピカ光る, 火花を発する; 顕示される, 現われる; 輝く, 目だつ. 過受分 ふるえる, 身震いする; 顕示された.
vi-, 因: 別々に出発する, 別々の方向へはねとぶ; 團: ふるえる, 身震いする; あちこちへ突進する,

身もだえする, 苦闘する; ピカピカ光る, ひらめく; ; 噴出する, 現われる. 過受分 *visphurita*, ふるえる, 身震いする; ピカピカする, ひらめく. 現分 変化, 広大 *Guhy-s.*

saṃ- 一緒に突進するまたは打つ; きらめく, ピカピカ光る.

sphura 因 ふるえる, 振動する.

sphuraṇa 因 ピカピカ光る. 因 ふるえること; きらめくこと, 閃めくこと; , 突進すること; 視界に入ること, 顕現; 遍 *Sutr.*; 変化 *Guhy-s.*; 普及 *Śikṣ.*

sphurita 過受分 → *Sphur.* 因 ふるえること, 動悸をうつこと, おののき; (魚が, 一°) 突進すること; 閃き, ピカピカ光ること, 光耀; 生起する, (生物圖) の存在.

sphul, VI. 他 *sphulati* [*sphur* の後代の形]. 過受分 *sphulita* 視界に入った, 現われた.

vi-, あちこちへ動く.

sphulinga 團 [突進する, ピカピカ光る: *Sphul = Sphur*] 火花; 焰光, 猛焰 *Guhy-s.*

sphulingaka 團 [同上].

sphulinga-jvāla-saṃnibha 熾盛光明相 *Guhy-s.*

sphulingavat 因 火花を散らす.

sphulingāya, 名動 自 火花に似るまたはのように燃える.

sphulita 過受分 → *Sphul.*

Sphūrj, I. 他 *sphūrjati*, ゴロゴロと鳴る, ほえる, ガラガラと音を立てる; 噴出するまたは突発する, 顕示される. 使役 *sphūrjayati*, 他 パチパチと音を立てる(因).

ava-, ゴロゴロと鳴る.

vi-, 反響する; 鼻息をふく; 噴出する, 顕示される. 過受分 *visphūrjita*, 広げられた; 動揺した.

使役 (弓を) プーンと鳴らす.

sphūrjathu 團 雷.

sphūrjita (過受分) 因 うなり声.

sphūrṭi 因 [*Sphur*] ふるえ, 動悸をうつこと; 顕現, 現われること, 開示; 自慢すること, ほらをふくこと.

sphoṭa 團 [*Sphuṭ*] 破裂すること, 裂けること(自動); 開くこと, 錠を外すこと; 水泡, 膿泡; 小片, 碎片(まれ); うなり声, ガラガラと言う音; (分割できない) 創造力あることば(因); (音と単語のなかであって) 意味(を伝達するものとみなされている永遠にして知覚できない) 要素(文法); 明言, 声亮 *Mvyut.*

sphoṭana 因 裂く, 押しつぶす; (疑い, 一°)をはらす. 團 分割音(ある結合子音の間で聞かれる母音)(文法). 因 割ること, 裂くこと, こわすこと; (腕を) 振ること; (指を) パチパチと鳴らすこと.

sphoṭita 過受分 [*Sphuṭ*] の使役. 因 パチパチ音を立てること.

sphyā 團 (祭具として用いられる) 木刀, 木べら(因, 團); 円材 (*Br.*); 櫂(の一種)(叙詩).

sphyā-vartani 因 木刀または木製の小べらで(作られ

た)溝。

sma 1. 附帯 不変辞 (因 smā, śma も) 本来おそらく=かつて、後代にはまた確かに、実に;しばしば、とくに 圃においては弱められて単なる虚辞となる; 因 においては、他の 不変辞 (とくに ha), 関係詞, 前置詞, 動詞の後に用いられる; 圃 においては一般に 不変辞 iti と mā の後に用いられる; 圃 においては現在時称を過去時称に転ずる(しかし現在の意味が保留される場合もある)。

sma 2. 叙辞 ではときとして=smas 我々は…である。

smat. 圃 (RV.) 一緒に;同時に;圃 とともに, と一緒に (sumat 参照): (RV. の若干の合成語において) °— を伴なう, をそなえている。

smad-iṣṭa 圃 ある 目的または用命をもっている (見張人; RV. 用例一回のみ)。

smaya 圃 [Smi] 驚愕, 驚異 (まれ); (一°) に関しての尊大・誇り。

smayin 圃 (一°) 笑う, 微笑する。

smara 圃 [Smṛ] (一°) を記憶する (まれ), 圃 想起, 記憶; 愛; 愛の神; Veda 聖典の解説者 (まれ); 圃 念 Abh-vy., Śikṣ.; 憶念 Abh-vy., Bodh-bh.

smaraṇa 圃 (圃, 一°) を記憶すること・想起すること; 記憶力 (まれ); 教えること (まれ); 圃 念 Abh-vy., Śikṣ.; 憶, 憶持 Vijñ-v.; 思念, 思惟, 憶念 Śikṣ.; 記憶 Vijñ-t.

smaraṇa-padavi 圃 記憶の道, 死. ~ṃ gamitah 記憶の道に行かされた=死んだ。

smaraṇiya 圃 未受分 記憶されるべき; 圃 須念 Sa-ddh-p. ~ṃ smaram Kṛ, 愛の神 Kama 神を思い出させる: ~ām gatim Ni, (ある人: 圃) を記憶の道に導く=…を死にいたらしめる, 死なせる。

smaratā 圃 圃 念 Sūtr.

smara-tāpamaya 圃 愛の熱情からなる: +gada, 圃 =愛の熱病。

smara-dasā 圃 性愛の段階 (十段階ある: 目の喜び, 物思いに沈むこと, 思慕, 不眠, 憔悴, 世事への無関心, 羞恥心の放棄, 夢中, 気絶, 死; Mallinātha on Meghadūta 90 参照)。

smara-dahana 圃 Kama 神を焼くもの, Śiva 神。

smara-dāyin 圃 恋にめざめさせる。

smara-dipana 圃 愛の火を点火する, 恋の灯をともし。

smaramaya 圃 愛からなる, 恋から生じた。

smarayitavya 圃 未受分 圃 憶念, 作憶念 Bodh-bh.

smara-lekha 圃 ラブレター, 恋文。

smara-śatru 圃 Kama 神の敵, Śiva 神の名; 圃 貪 Mvyut.

smara-śaramaya 圃 (圃 -i) Kama 神の矢に満ちた (ある, 花)。

smara-śāsana 圃 Kama 神を懲らしめるもの, Śiva 神。

smara-śāstra 圃 性愛に関する論書, 性愛の教科書。

smara-sakha 圃 Kama 神の友人, とくに春。

smara-saha 圃 愛をめざめさせる または かき立てることのできる。

smara-sāyaka-lakṣya 圃 Kama 神の矢の標的。

smarasāyikalakṣyatā 圃 [同上の 圃]。

smarāri 圃 Kama 神の敵, Śiva 神。

smareṣudhi-Kṛ (°ra-iṣ°), Kama 神の箭または 矢筒に変える。

smartavya 圃 未受分 記憶されるべき。

smarṭr 圃 (圃, 一°) を記憶するもの; 教師。

smarya 圃 未受分 [同上]。

smahe, 圃 圃 圃 [As 1.] 我々は…である。

smāra 圃 [Smṛ] (一°) の想起, 圃 Kama 神に関係ある。

smāraka 圃 [Smṛ の 使役] 想起させる, 思い出させる; 圃 与念, 能念憶 Bodh-bh. 圃 心に呼び起こすこと, 思い出すこと。

smāraṇa 圃 圃 為作憶念 Bodh-bh.

smāram 圃 [Smṛ] (常に反復される:) (圃) を想起して。

smārīta 圃 使役 圃 過受分 → Smṛ; 圃 念, 使念 Śikṣ.

smārin 圃 (一°) を記憶する。

smārta 圃 [smṛti から] 記憶に関する, 記念の (まれ); 伝統にもとづく, 聖伝文学 (smṛti) によって規定された; 伝承に精通したまたは従う (まれ)。

smārtika 圃 (圃 -i) 伝統的な。

smārya 圃 記憶されるべき, 忘れがたい; 圃 応念 Raṣṭr.

Smi, I. 圃 smayate, 愛くるしく または やさしく 微笑する; 顔を赤らめる (因); ほほえむ (圃); 尊大である (P., まれ). 圃 過受分 smita, 微笑した; 揚げられた, 花開いた。

ava-, (因) の上に (電光が) さっと照らす (RV. 用例一回のみ)。

ut-, (とくに 誇らかに) 突然微笑する。

pra-, 突然ふき出して笑う。

vi-, (圃, 圃, 圃) に狼狽するまたは驚く; (苦行: 圃) を自慢する; 圃 生奇特想 Buddh-c. 圃 過受分 vismita, 狼狽した, 驚いた; 驚かす (まれ); 誇る, 尊大な (まれ). 圃 使役 vismāyayati, 圃 (圃) を驚かせる。

saṃ-, 顔を赤らめる, はじらう (因)。

smita 圃 過受分 → Smi. 圃 微笑; 圃 悦 Bodh-c.; 笑, 和色 Bodh-bh., 含笑 Bodh-bh., Sam-r., Śikṣ.; 微笑 Divy., Lan̄k., Sapt-pr.; 熙怡微笑, 即便微笑 Lan̄k.: smitaṃ prāviṣkaroti, 微笑 Suvik-pr. 126.

smita-pūrva 圃 まず微笑する. ~m 圃 微笑しながら。

smita-pūrvam̄gama 圃 前笑, 含笑為先 Bodh-bh.

smita-pūrvābhīhāṣitā 圃 微笑して話しかけること。

smita-pūrvābhīhāṣin 圃 微笑して話しかける。

smita-mukha 圃 圃 舒顔 Sūtr.; 含笑, 顔色和悦,

容貌熙怡 Lal-v.; 貌…温恭 Śikṣ.; 面常怡悦 Sam-r.

smitamukhatā 圃 圃 貌 (常) 温恭 Śikṣ.; 面常怡悦 Sam-r.

smitamukha-pūrvābhīhāṣaṇatā 圃 圃 歡喜与語, 含笑先意問訊 Kaśy.

smitamukhapūrvābhīlāpin 圃 圃 笑容真言, 笑容美語 Mvyut.

smitābhīlāṣin 圃 圃 含微笑 Raṣṭr.

smiti-mukha 圃 圃 含笑, 面悦顔 Lal-v.

Smṛ, I. 圃 (圃) smarati (圃, 圃; 過去の行為は 圃 過受分 +yad, または yad を伴わない未来によって表わ

される)を記憶する,心に留める,想起する,思い出す,遺憾に思う;伝える,教える,主張する(まれ);読誦する(まれ);**念** Lan̄k.;憶 Lal-v.;憶念 Abh-vy. **受分** smaryate,記憶される=伝えられる(+na,=能,黙って見のがす);(ある人:圓)によって...であると宣言される,(困,困)とみなされる。**受分** smṛta,記憶された,考えられた;伝えられた,教えられた;挙げられた;規定された;(困,まれに**受分** または**受分**)であると断言されたまたは言われた,みなされた,(困±iti)と名づけられた・呼ばれた;**念** Sapt-pr.;正念 Mvyut., Śikṣ.; 応知 Abh-k., Ratna-ut.; 謂 Sāṃkhya-k., kiṃ ~o'smi,何故私はあなたによって想起されたのですか? =あなたは何故私を召換したのですか? na ~m,許されない。bijād eva phalaṃ ~m,果実+種子からのみ生ずると言われる。**使役** 他 smārayati,より一般的ではないが smarayati,記憶させる,(ある人:圓,ときとして**受分**)に(圓)を思い出させる;**令省覚** Divy.; 為作憶念,与作憶念 Bodh-bh. **受分** smaryate,思い出さしめられる;(圓)を想起さしめられる。**受分** smārīta,思い出された;(圓)を想起さしめられた。**希求** susmūrṣate,(圓)を記憶しようと欲する。

anu-,記憶する,(圓)を思い出す;(罪を)告白する;**念** Mvyut., Raṣṭr.; 憶 Abh-vy., Bodh-bh.; 思念 Guhy-s.; 随念 Bodh-bh.; 思憶 Divy.; 憶持 Abh-vy.; 憶念 Abh-vy., Lal-v., Lan̄k.; 追憶,随憶念 Vijñ-t. **受分** anusmṛta,記憶された;規定された,教えられた;**甲** 罪人: yadaivānusmṛtaṃ devena,王が...であること(itiを伴った直接話法)を思い出した時に。**使役** 他 anusmarayati,(圓)を思い出させる;**念** 憶念,至心正念 Suv-pr.; 令憶念 Saddh-p. **受分** anusmārīta,(圓)を思い出された。

sam-anu-,**念** 尋念 Saddh-p.; 憶念 Lan̄k.; 随念 Bodh-bh.

apa-,忘れる。

upa-,(圓)を記憶する。

pra-,(圓)を記憶する;忘れる。**受分** 忘れられた。

prati-,(圓)を記憶する(RV.,**叙詩**)。

vi-,(圓)を忘れる;**忘** Divy.; 忌 梵干; 不希 Śikṣ.; 忘失 Gand-vy., Raṣṭr.; 思念有間断 Aṣṭ-pr.

受分 (圓,一°)を忘れた;(圓,圓)によって忘れられた。**受分** vismṛtavat,忘れた。**使役** 他 vismārayati,(あること:圓)を忘れるようにする;(ある人:圓)に(圓)を忘れさせる;**忘** Daś-bh. **受分** 忘れるようにされた;(圓)を忘れさせられた。

sam-,記憶する,(圓)を思う。**受分** 記憶された,思われた;規定された;名づけられた,呼ばれた。

使役 他 (ā),(ある人:圓)に(圓)を思い出させる,(圓)を心に思い浮べる;**令** 憶念 Gand-vy.

受分 (圓)を想起された;想起された。

anu-sam-,記憶する,(圓,圓)を思う。

smṛta **受分** → Smṛ. **甲** 想起。

smṛta-mātrāgata (°ra-āg°) **甲** 考えられるやいなやまたは思い出すやいなややって来た。

smṛti **因** (困,一°)の記憶・想起;記念;權威ある(天啓文学 Śruti +なわち Veda 聖典を除く)聖伝文学,伝統的法典,法律書の記載事項;**記** 梵雜; 智 Suv-pr.; 念 Abh-k., Abh-vy., Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Lal-v., Lan̄k., Madhy-vibh., Mvyut., Raṣṭr., Ratna-ut., Śikṣ., Sūtr., Vajr-s., Vijñ-t.; 正念 Bodh-bh., Raṣṭr., Śikṣ., Sūtr., Suv-pr.; 本心 Suv-pr.; 記念 Aṣṭ-pr.; 憶念 Abh-vy., Bodh-bh., Suv-pr.; 懐抱 Daś-bh. ~m api na te yānti,かれらは記憶すらされていない。

smṛti-karaṇa **甲** **作** 憶念 Bodh-bh.

smṛti-kārin **甲** 記憶を喚起する,想起させる。

smṛti-tantra **甲** 法典,法律書。

smṛti-da **甲** 記憶を強める。

smṛti-dāna **甲** **能** 施憶念 Bodh-bh.

smṛti-dauvārika-sampanna **甲** **守** 念具足 Mvyut.

smṛti-patha **男** 記憶の道。~m Gā,記憶の道に赴く,死ぬ。

smṛti-parihāṇi **因** **念** 減 Sūtr.

smṛti-pāṭhaka **男** 法典に精通した人,法律家。

smṛti-pradhāna **持** 念 Sūtr.

smṛti-bala **甲** **念** 力 Bodh-bh., Gand-vy., Mvyut.

smṛti-bhū **男** 愛の神。

smṛti-bhramṣa **男** 記憶喪失,思慮の喪失。

smṛtimat **甲** 思い出をもつ;(充分な)意識をもつ;記憶力のよい;法典に精通した;**正** 念 Aṣṭ-pr.; 具念,有念 Abh-vy.; 強識 Saddh-p.; 得本心 Suv-pr.; 得正念 Lal-v.; 具念力,有念力,恒住正念,常一其心 Aṣṭ-pr.; 志念堅固 Saddh-p.; 具足憶念 Bodh-bh.

smṛti-moṣa **失** 正心 Śikṣ.

smṛti-rodha **男** 記憶の減退,記憶の一時的中断,忘れっぽさ。

smṛti-lopa **失** 念 Vijñ-t.

smṛtivat **甲** **志** 念堅固 Saddh-p.

smṛti-vartman **甲** 記憶の道。~ma I,記憶される。

smṛti-vinaya **堪** 念化者;(音写) 応与憶毘尼, 応与憶念毘尼 Mvyut.

smṛti-vibhāga **念** 処,四念処 Sūtr.

smṛti-vibhrama **男** 記憶錯乱。

smṛti-viṣaya **男** 記憶の領域。~tām gamita,死んだ。

smṛti-virya-pratiṣṭhita **甲** **念** 進 Sūtr.

smṛti-vaikalya **失** 念 Aṣṭ-pr.

smṛti-śāstra **甲** 法典,法学。

smṛti-śīla **甲** **因** 伝統と慣習。

smṛti-śeṣa **甲** 記憶にのみ生き残る,破壊された,死んだ。~m Kṛ,破壊する。

smṛti-sabhāgatā **因** **同** 念,正念共法 Gand-vy.

smṛti-samagrata **因** **強** 記不忘,於諸念中為最勝 Suv-pr.

smṛti-samādhy-ādi-guṇa **念** 定等功德 Sūtr.

smṛti-saṃprajanya ㊦ 念倚, 念倚 *Sutr.*
 smṛti-saṃpramoṣa ㊦ 忘念, 念亡失 *Bodh-bh.*; 憶
 不忘 (*sic*) *Sutr.*
 smṛtisampramoṣatā ㊦ 念忘失 *Bodh-bh.*
 smṛti-sambodhy-āṅga ㊦ 念覺支, 念覺枝 *Mv-*
yut.; 念覺分 *Abh-vy.*
 smṛtindriya ㊦ 念根 *Mvyut.*, *Śikṣ.*, *Sutr.*: ~
 -vihina 忘失正念, 六情皆失念 *Suv-pr.* 203.
 smṛty-apramoṣatā ㊦ 無失念 *Śikṣ.*
 smṛty-asammoṣatā ㊦ 念無忘失 *Bodh-bh.*
 smṛty-upasthāna ㊦ 念住 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*,
Madhy-vibh.; 念処 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*,
Divy., *Kāśy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, *Madhy-vibh.*,
Sutr.: catvāri ~ āni 四念住 [1. kāya-smṛty-
 upasthānaṃ 身念住, 2. vedanā-~ 受念住, 3.
 citta-~ 心念住, 4. dharma-~ 法念住] *Mvyut.*
 38.; triṇy āveṇikāni ~ āni 三不共念住 [1. śu-
 śrūṣamāṇeṣu-samacittatā 於恭敬聽聞者住平等心,
 2. aśuśrūṣamāṇeṣu ~ 於不恭敬聽聞者住平等心,
 3. śuśrūṣamāṇāśuśrūṣamāṇeṣu ~ 於恭敬聽聞與
 不恭敬聽聞者住平等心] *Mvyut.* 11.
 smera ㊦ 微笑する (とくに顔と目について); 揚げられ
 た, 開花する (まれ); °一, で一杯の.
 sya, ㊦, ㊦, ㊦ (=sa), ㊦, ㊦, ㊦ syaḥ または sya, ㊦
 syā のみ.
 Syad, Syand, I. ㊦ (まれに ㊦) syandate, 流れる;
 走る (生物, 戦車について); (魚が) 突進する; (液
 土) を流す または 蒸溜する; (㊦) から発する;
 しばしば Spand と混同される; ㊦ 注 *Bodh-bh.*;
 出 *Divy.*; 動, 動発 *Aṣṭ-pr.*; 下流 *Divy.* ㊦
 syanna, 流れる, 走る.
 anu-, (㊦) に沿ってまたは 向って走る (RV.).
 abhi-, (㊦) に向って走るまたは 流れる; (液を) 流す,
 (雲が) 雨を降らす; (心が) 一杯になる. ㊦ abhi-
 syandayati, ㊦ 柔軟 *Mvyut.*
 ava-, (㊦) から流れ落ちる.
 ā-, に向って流れる.
 ni-, (㊦) のなかに流れ落ちる, 流れこむ.
 pari-, ㊦ pariśyandayati, ㊦ 悉柔軟 *Mvyut.*
 pra-, 流れる, 走る; ㊦ 流 *Śikṣ.*
 vi-, ㊦: (容器から) 溢れる; ㊦: 豊かに流れる; 溶
 解する, 溶ける. ㊦ viśyanna, 溢れる (㊦);
 ㊦ 注ぐ, (㊦) をふり注ぐ (㊦).
 saṃ-, ㊦ 一緒に走る, 一点に集まる, 会う; ㊦
 応, 会入, 与…相応 *Aṣṭ-pr.* ㊦ saṃsyandayati,
 一緒に走らせる.
 syantṛ ㊦ 疾走する (*Indra* 神; RV. 用例一回のみ).
 Syand, → Syad.
 syanda ㊦ 流れること, 滴ること; 滴る液, 汁.
 syandana ㊦ (㊦) 速い(車); (一°) 滴り落ちる. ㊦
 戦車, 車 (RV. 用例一回のみ, ㊦); 木 (の一種, *Dal-*
bergia Ougeinensis); ㊦ 車 *Bodh-bh.* ㊦ 流れ
 ること, 滴り落ちること.
 syandanā ㊦ ㊦ 動揺, 動転 *Suvik-pr.*
 syandaraka ㊦ または ㊦ 綿褥, 緞褥 *Mvyut.*
 syandin ㊦ 流れる; 湿気を出す (月長石), (自然に)

乳を出す (牝牛); (一°) とともに流れる, 蒸溜する,
 滴り落ちる.

syandini ㊦ (乳の) 流れる乳房をもっている牝の動物.
 syandra ㊦ (RV.) 疾走する; 速かに消えてなくなる
 (富).

syanna ㊦ ㊦ → Syad.

syamantaka ㊦ [太陽が *Satrajit* に与え, 後に *Kṛ-*
na 神の所有に帰したある宝石の名].

syāt, ㊦, ㊦, ㊦ [As 1.] それは…であるかも知れ
 ない, おそらく, ある観点から見れば [ジャイナ教
 徒の七表詮法にはこの語を含む七つの命題がある
 (1. syād asti, おそらくそれは…である, 2. syān
 nāsti, おそらくそれは…でない, 3. syād asti ca
 nāsti ca, おそらくそれは…であるがまた…ではな
 い, 4. syād avaktavyaḥ おそらくそれは言葉で表
 現され得ない, 5. syād asti cāvaktavyaḥ おそらく
 それは…であるが言葉で表現され得ない, 6. syān
 nāsti cāvaktavyaḥ, おそらくそれは…ではなくま
 た言葉で表現され得ない, 7. syād asti ca nāsti
 cāvaktavyaḥ おそらくそれは…であると同時に…
 ではなく, 言葉で表現され得ない].

syād-vāda ㊦ すべての命題は絶対的なものではなく,
 syāt (おそらく) という条件をつけなければならな
 いとするジャイナ教徒の相対主義; ㊦ 睡語
Mvyut.

syād-vādin ㊦ 同上の説を主張する人, ジャイナ教
 徒.

syāmaka ㊦ ㊦ 暎子, 闇摩 [人名] *Raṣṭr.*

syāmahe, I. ㊦ ㊦ [As 1.].

syāla ㊦ 妻の兄弟, 義兄弟 (しばしば śyāla).

syālaka ㊦ [同上].

syūta ㊦ [Siv] 縫われた等.

syūman ㊦ [Siv] 糸, 革紐, 手綱 (RV.); (頭蓋骨の)
 縫合線 (Br.). ~ā ㊦ 一本の糸に通されて=結合さ
 れた (単語).

syona ㊦ [Siv] 柔かい, (歩いたり, 坐ったりする
 のに) 快い; 心地のよい, 温和な, やさしい. ㊦ (㊦)
 やわらかな座席または寝台; 愉快的な状況.

Sraṃs, Sras, I. ㊦ sraṃsate, (㊦と㊦の場合には
 ㊦もある), (㊦) から下に落ちる または 滑り落ち
 る; ばらばらに落ちる, 粉々になる, 崩壊する; 消
 滅する, 消え失せる. ㊦ srasta, 滑り落ちた,
 下に落ちた, (㊦, 一°) から落ちた; たれ下がる,
 くつろいだ, ゆるんだ. ㊦ sraṃsayati, ㊦
 落下させる, 滑り落とすまたは下に垂らす; ゆるめ
 る, 解きゆるめる; ㊦ 捨, 懈, 懈廢 *Bodh-bh.*
 ㊦ sraṃsita, ゆるめられた.

ava-, 下に落ちる.

vi-, (㊦) の上に別々に落ちる, 崩壊する, ゆるめら
 れる, (毛が) 抜け落ちる. ㊦ 別々に落ちた,
 解き弛められた, 下に落とされた; ゆるんだ. ㊦
 ばらばらに落とす, 崩壊させる; ゆるめる, 解く,
 解体する; 落とす, 投げ捨てる; (計画を) もらす.

sraṃsa ㊦ ㊦ 毀犯, 損壞 *Cat-ś.*

sraṃsana ㊦ 下痢を起こす. ㊦ 流産; (一°) をゆる
 めること; 緩下剤; ㊦ 間 *Sutr.*

sraṁsitavat 過能分 懈, 止息 *Saddh-p.*
 sraṁsin 形 落ちて粉々になる, 崩壊する; 滑り落ちる (衣服); ゆるめられている。
 srakti 因 (因) (とくに Vedi の) 隅。
 srakva 男 または 因 口角, 口, 顎 (RV.).
 srag-dāman 因 花環; 因 花鬘 *Divy.*
 srag-dhara 形 花環をつけた, (一) を巻きつけられた。
 srag-vin 形 花環をつけた。
 sraj 形 (因 -t) (一) をねじる. 因 (因 -k) 鎖, 花環, 花冠; (一続き =) 多数の (一); 因 花鬘, 華鬘 *Buddh-c.*
 Srambh, → Śrambh.
 pra-, 因 清, 浄 *Mvyut.*; 休息, 令休息, 得休息 *Daś-bh.*; 得軽安, 獲軽安 *Śikṣ.* <Śrambh の補遺>
 prati-pa-, 因 除 *Divy.*; 息 *Bodh-bh.*; 化度 *Gaṇḍ-vy.*; 蒙捨息, 還収攝 *Divy.* <Śrambh の補遺>
 srava 男 [Sru] (一) の流れ. 形 (一) を流すまたはとともに流れる。
 sravaṇa 因 流 *Abh-vy.*
 sravat 形 流れる; したたる. 因 河 (因).
 sravathu 男 または 因 流れ (RV. 用例一回のみ).
 sravanti 因 [Sru の現分] 流れる水, 川。
 sraṣṭr 男 (水の) 放出者; 創始者, 原動者, 発起者; 造物主, (世界の) 創造者 (普通の意味); 因 生者, 起者 *Abh-y.*; 出者, 令出者 *Mvyut.*
 sraṣṭṛtva 因 創造者であること。
 Sras, → Sraṁs.
 srasta 過受分 → Sraṁs.
 srastatā 因 ぶらぶら垂れ下がっている状態。
 srastara 男 因 草のしとね, 寝台。
 srasta-skandha 形 因 縮肩 *Mvyut.*
 Srā (Śrā 参照), pra- とともにのみ用いられる. 使役 *prasrāpayati*, 因 消化する (Br. 用例一回のみ).
 srāma 男 [不具の状態] 病氣 (因). 形 不具の, びっこの (因).
 srāva 男 [Sru] 流れ; とくに 病的の出血, 流産。
 srāvaṇa 因 流れさせること, 流すこと; 因 潰 *Sūtr.* *rudhira-~m Kṛ*, (人の) 血を流す。
 srāvin 形 流れる; (一) を流れさせる; 因 溢, 流溢, 漏遷流 *Śikṣ.*
 Sridh, I. 因 *sredhati*, 過ちを犯す, 誤って行なう, 失敗する (RV. まれ).
 sridh 因 (因) 過ちを犯すもの, 敬虔でない者; 敵。
 Sriv, IV. 因 *srivyati* (Br., きわめてまれ), (種子が) 生えない. 使役 *srevayati*, 因 生えないようにする (RV. 用例一回のみ).
 Sru, I. 因 (自 韻律) *sravati*, 因, 因: (因) から流れる; 流す = (液汁を) しみ出させる, (水, 涙, 牛乳等を) 流すまたは注ぐ (ときとして, 十) ; もれる; (祭式が) 失敗する; 因: 滑り去る, 無に帰する, 滅する; 広がる, (秘密が) もらされる; (因) から (流れる =) に由来する; (利子が) 入る, 支払われる; 因 漏 *Bodh-c.*; 淪 梵干; 流, 流溢 *Lal-v.* 過受分

sruta, (一) から流れる, 流れ出る, 流出した. 使役 *sṛāvayati*, 流れさせる, 流出させる, 注ぐ.
 abhi-, (あるもの: 業) を (ある人: 因) に流す (RV.).
 ava-, 過受分 流れ落ちた; 因 漏 *Mvyut.*
 ā-, 流れる; 溢れる; (因) から (河が) 発する; 因 泄, 漏 *Abh-vy.* 使役 出血させる, 压榨する (因).
 ni-, (しばしば *niḥ-* の不)。
 niḥ-, 流れ去るまたは出る。
 pari-, まわりに流れる; (因) から豊富に流れる; (雨, 血を) 流す; (因) で泳ぎまわる; 流れる = (時が) 知らぬ間に過ぎ去る. 過受分 流れる, 流れ出る。
 pra-, (因) から流れ出る またはほとぼしり出る; 流れる; 流す (= 液体, 汁, 乳等を, ときとして 十) を出す. 過受分 (因) から流れ出る または発する; (業) を流す; 湿った, 濡れた. 使役 (因) 小便する, 放尿する (Br.).
 abhi-pa-, 流れ出す (Br.). 使役 (因) に向って小便または放尿する (Br.).
 vi-, (因) から流れ出る; 発する; (液: 業) を出す.
 sam-, とともに流れるまたは走る (因).
 srughna 男 [*Hastināpura* の北方にあるある都市の名].
 sruc 因 (因 -k) 溶かしたバターを祭火に注ぐのに用いる大きな木製の匙 (三種ある: *juhū*, *upabhṛt*, *dhruvā*. この順序で 因, 因, 因 で言及される).
 srut 形 (一) を流す・放出するまたはしたたらす。
 sruta (過受分) 因 洪水 (因).
 sruti 因 因: …の流れまたは噴出; (雪, 一) の落下; 因: 道, 道路, 小路。
 sruva 男 [Sru] (祭式用の小さな) 匙 (溶かしたバターを壺から大きな匙 *sruc* へ汲むのに用いられる); (ときとして 献供の際に *sruc* の代りに用いられる).
 sruvaka 因 因 火供漏杓 *Mvyut.*
 srū 因 匙 (RV. 用例一回のみ).
 sreka-parṇa 形 西洋夾竹桃に似た (因, Br.).
 sreha (または *u*), 精液 (S.).
 srota-āpatti 因 因 預流 *Abh-vy.*, *Mvyut.*; 音写 須陀洹 *Abh-vy.*, *Av-ś.*, *Lank.*
 srotaāpatti-pratipannaka 因 入預流向 *Mvyut.*
 srotaāpatti-phala 因 因 預流果 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*; (音写) 須陀洹果 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*
 srotaāpattiphala-tathatā 因 因 預流果真如 *Aṣṭ-pr.*; (音写) 須陀洹果如 *Aṣṭ-pr.*
 srota-āpanna 形 因 預流, 預流果: *Mvyut.*; 音写 須陀洹 *Lank.*, *Mvyut.*: 四果 [1. *srotaāpannaḥ* 預流, 2. *sakṛdāgami* 一來, 3. *anāgami* 不還, 4. *arhat* 阿] *Mvyut.* 223.
 srotas 因 [Sru] 流れ, 奔流; 河床; 流水, 河; 突進, (願望, 一) の激しい衝動; (身体中の) 管; (身体中の) 穴; 感覚器官 (まれ); 因 流 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*, *Vajr-s.*, *Vijñ-t.*, 梵干, 梵維; 流注 *Gaṇḍ-vy.*; 相續 *Abh-vy.*; 流水, 駛流 *Daś-bh.*, *Suv-pr.*; 流駛, 駛流水 *Suv-pr.*: ~o 'nugato nāma samādhiḥ 随流向禪定, 随流向三摩地 *Mvyut.* 21.

srotastā 因 流れの状態。圓 徐々に。
 srotasvini 因 (流れをもっているもの), 河。
 srotāpatti 因 (srotaāpatti の不確); 預流, 逆流
 修無漏; 音写 須陀槃那果 *Lank.*
 srotāpatti-phala 因 (srotaāpattiphala の不確); 預流
 (音写) 須陀洹果, 須陀洹…果 *Lank.*
 srotāpanna 因 (srotaāpanna の不確) 預流者
Vajr-s.; 音写 須陀洹 *Lank.*
 sroto'ñjana 因 長石, 理石 *Mvyut.*
 sroto-randhra 因 (象の) 鼻の割れ目。
 sroto-vah 因 河。
 sroto-vahā 因 [同上]。
 srotyā 因 [Sru] 流れる水, 流れ, 大波 (因)。
 srautovaha 因 河 (srotovahā) に関する, 河川の。
 sva 1. 因 自身の, 私, の, 汝の, 彼の, 彼女の, 我々の,
 君達の, 彼らの: 厳密には最も近い主語に関係する
 が, しばしば漠然と他の単語と関係する (例 *bhrāta-*
raṃ svapuram preṣayām āsa, 彼は彼の兄弟を彼
 の, ナナワラ兄弟の, 町に送った)。因, 因 (重) 自分
 自身, 自我 (例 *svam ca brahma ca*, 自我とブラフ
 マン): 斜格では, (ātman のように) 再帰代名詞と
 して用いられる (例 *svam nindantaḥ*, 自分自身を
 責める)。因 (重) 自分の部族の人, 親族, 友人: 獨
 自分の人民, 友人達; 同じカースト出身の人。-ā 因
 同じカースト出身の女; 因 自 *Abh-vy.*, *Bodh-*
bh., *Lank.*, *Saṃkhy-k.*; 己 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*,
Madhy-v., *Mvyut.*; 人 *Ratna-ut.*; 賊 *Bodh-c.*;
 自己 *Bodh-bh.*; 各各 *Abh-vy.*; 財宝 *Śikṣ.* 因 (因)
 因 自分の所有物, 財産。
 sva 2. 因 叙詩 *svas* (As 1. 二人 因) の代りに, 我々二人は
 …である。
 svaka 因 (因 -ā, -ikā) 自分の等 (=sva 1.); 因 自
Abh-vy., *Bodh-bh.*, *Sapt-pr.*; 己 *Bodh-bh.*, *Mv-*
yut., *Saddh-p.*; ~āyām bhūmau 於自地中, 於
 自地法 *Aṣṭ-pr.* 336; karma-~jñānabalam 属業
 智力 *Abh-vy.* 646。因 自分の部族の人, 親族, 友
 人: 獨 自分の人民, 友人達。因 自分の品物, 財
 産; 因 自事 *Bodh-bh.*; 音写 輪迦 [婆羅門名]
Lal-v.
 svaka-guṇa 因 自功德 *Sūtr.*
 svaka-jana 因 臣 *Lal-v.*
 sva-karaṇa 因 (女を) 自分のものにする事, 結婚す
 る事。
 sva-karma-kṛt 因 作自業, 作自事 *Abh-vy.*
 svakarma-ja 因 自身の行為から生ずる。
 svakarma-doṣāvaraṇa-vṛta (°ṣa-āv°) 因 惡業
 所纏 *Lank.*
 sva-karman 因 自身の行為; 自身の仕事または職業;
 自身の義務; 因 私事 *Śikṣ.*
 svakarmānuṣṭhāna 因 家業 *Divy.*
 svakarmodbhāva (°ma-ud°) 因 自業, 依自業而有
Ratna-ut.
 sva-kalpa 因 自妄想, 自所分別, 自心虚妄分別
Lank.
 svakalpa-kalpita 因 分別, 從自分別 *Lank.*
 svaka-svaka 因 各 *Saddh-p.*, *Sapt-pr.*; 各各 *Sa-*

ddh-p., 梵雜; 各別 *Bodh-bh.*
 svakātma-ja (°ka-āt°) 因 自所生子 *Suv-pr.*
 sva-kāya-dṛṣṭi 因 身見 *Madhy-v.*; 有身見
Aṣṭ-pr., *Madhy-v.*; (音写) 薩迦耶見 *Aṣṭ-pr.*
 svakāyadṛṣṭivat 因 如身見 *Madhy-v.*
 sva-kāra 因 婆嚩字 [四十二字門の一] *Gaṇḍ-vy.*
 sva-kāraṇa 因 自因, 自性 *Lank.*
 svakārtha 因 己利 *Aṣṭ-pr.*, *Saddh-p.*; 自義, 自
 事義 *Bodh-bh.*; 自利 *Sūtr.*
 sva-kārya 因 己事, 己務, 自利事, 自所作, 己
 所作 *Bodh-bh.*
 svakārya-saṃtuṣṭa 因 唯求自利 *Gaṇḍ-vy.*
 sva-kāla 因 自分の時間, 適当な時間。~e 因 正しい
 ときに。
 svakiya 因 自分の等 (=sva 1.)。因 獨 自分の身内の
 人, 友人達。
 svakiyatva 因 自分に属していることまたは関係して
 いること。
 sva-kukṣi 因 胎 *Ratna-ut.*
 sva-kula 因 自分の家族。因 自分の一族の。
 svakula-ja 因 [同上]。
 sva-kulya 因 [同上]。
 sva-kuśala 因 己徳 *Śikṣ.*
 svakuśalamaya 因 (因 -i) 自分の幸福または安寧に関
 する (知らせ)。
 sva-kṛta 因 自分でなされた・行なわれた・建設され
 た(都市)・作られた(本)または定めた(関心); 自然
 の, 自発的な(因); 因 自作 *Madhy-v.* 因 自分で
 なした行為(叙詩)。
 svakṛtārtha 因 自事己弁 *Bodh-bh.*
 sva-kṛtya 因 自事, 各…事 *Lank.*
 sva-kaukṛtya 因 自悪作 *Bodh-bh.*
 sva-kriyā 因 一切所作事 *Ratna-ut.*
 sva-kleśa 因 自煩惱 *Sūtr.*
 sv-akṣa 1. 因 すばらしい車軸をもった。因 すばらし
 い車軸をもった車。
 sv-akṣa 2. 因 (因 -i) 完全な感官をもった; すばらし
 い眼をした, 美しい眼をもった。
 sva-kṣatra 因 自己を制した, 独立の, 自立した, 自
 由な (RV.)。
 sva-gata 因 自己に属する, 自分の。~m 因 自分自
 身に, わきを向いてそっと(言う, 考える)。
 sva-garbha 因 大海水 *Ratna-ut.*
 sva-guṇa 因 自分の徳。因 自分の徳をもった, 適切
 な; 因 功德, 功能 *Lank.*
 svaguṇa-kāśana 因 称揚自己徳 *Śikṣ.*
 sva-gūrta 因 自ら満足した, 喜ばしい (RV.)。
 sva-grha 因 自分の家。
 sva-gocara 因 自分に従う。因 自己の領域または区
 域; 因 境界 *Lank.* ~m Kr, 自身に服従させる。
 sva-gotra-vihāra 因 自種性住 *Bodh-bh.*
 sv-agni 因 よい *Agni* または火をもつ。
 sva-grāma 因 自身の村。
 sv-aṅga 因 美しい体をした, すばらしい四肢をもつ
 (RV.)。
 sv-aṅguri 因 美しいまたは器用な指をもつ (因)。

sva-caryā-vipraṇaṣṭa 敗壞自行 *Suvik-pr.*
 sva-citta 心 *Ratna-ut.*; 本心 *Bodh-bh.*; 自心
Gand-vy., Lank.; 己心 *Gand-vy.*; 自意 *Sūtr.*:
 ~mātra 唯心, 但是一心, 唯是自心 *Lank. 80.*
 svacitta-citra-darśana 自心種種見 *Lank.*
 svacitta-jñāna 自心智 *Vijñ-v.*
 svacitta-dṛśya 自心現量, 自心所見, 以見自心,
 為見所見 *Lank.*: ~-gati 自心現量, 心見諸法, 自
 心所見境 *Lank. 121.*; ~-mātra 自心所現, 自心
 想見, 自心現量, 但是心見 *Lank. 9.*; ~vikalpa-
 mātra 自心現妄想量, 但是自心虛妄分別 *Lank.*
 237.
 svacitta-doṣa 自心過失, 自心倒惑 *Lank.*
 svacitta-dvaya 自心二, 自心二法, 見内外法
Lank.
 svacitta-pratibaddha 属自心 *Bodh-bh.*
 svacitta-vikalpa 自妄想, 自分別, 自心分別
Lank.
 sva-cetas 自自分の考え, 自身の思想または心. ~ā
 自自分の考えで.
 sv-accha 美しく澄んだ, 透明な, 明るい; 明瞭な,
 はっきりした(話し方); 純粹な(心, 行為等); 清
 楚千; 静 *Sāmkhy-k.*; 淨, 恒淨, 自性清淨 *La-*
nk.; 清淨 *Bodh-c.*; 喜甚, 最喜 *Mvyut.*
 svacchaka 美しく澄んだまたは明るい.
 svacchatā 完全な明澄または透明; 心の純粹.
 svacchatva 同[同上].
 sva-cchanda 自自分の意志または自由意志. ~ena 自
 ~āt 自, ~tas 自自分の意志で, 気ままに; 自発的に.
 自自分の意志に従う, 気ままに振舞う; 独立した,
 支配されない, 無制限の; 自在 *Bodh-c.* ~m
 意のままに, 気ままに; 自発的に.
 svacchanda-cara 意のままに動きまわる, 独立の.
 svacchanda-cāriṇī 因習から解放された婦人.
 svacchanda-cārin 同=svacchandacara.
 svacchandatā 独立した行為, 自由な振舞, 放縦な
 挙動.
 svacchāviralā-dantatā 深密内外明 *Ratna-ut.*
 Svaj, Svañj, I. 自(抱) *(韻律)* svajate, しっかり摺
 む, 抱きしめる, 抱擁する; 扶抱 *Buddh-c.*
 abhi-(svaj)-, [同上]; 貪著, 執着 *Abh-vy.*
 pari-(svaj)-, [同上]; 抱 *Divy.* 過受分 pari-
 svakta, しっかり摺まれた, 抱かれた; (圓, 一)に
 よって囲まれた.
 sva-ja 自生の, 自分の, 同族の. 毒へび(因).
 sva-jana 同族の一人, 親族のもの: 團(集合的に)
 一族; 親 *Divy., Lank.*; 親友 *Divy.*; 眷属
Lank.; 親戚 *Mvyut.*
 svajana-gandhin 同(團)にかすかに関係がある, の
 遠縁の.
 svajanatā 同(團)との親戚関係.
 svajana-bandhu-varga 眷属 *Divy.*
 sva-janaya, 名動 抱 svajanayati, (團)に関係がある
 =似ている.
 sva-janāya, 名動 自 svajanāyate, 親族となる.
 svajanāvṛta (°na-āv°) 自自分の一族または家来に取

囲まれた.
 sva-jāta 過受分 自自分の産んだ, 実の, 肉身の. 團 自
 分の産んだまたはもうけた子, 実子.
 sva-jāti 因 自自分の子供または家族; 自自分の種族, 生ま
 れまたはカースト; 自類 *Abh-vy.* 同 自自分と同
 族の, 自自分と同じ種族または生まれの.
 svajāti-lakṣaṇa 真相, 自性, 自真相 *Lank.*
 sva-jātiya 同 [同上]; 同種 *Mvyut.*: ~-dṛṣ-
 tāntopasaṃhāralakṣaṇa 自己近彼相合想, 自本与
 喻相合想 *Mvyut. 199.*
 sva-jātya 同 [同上].
 sva-jivita 自(身)命 *Sūtr.*; 自身命 *Bodh-bh.*
 sv-añc 同 よく走る, 駿足の(馬; *RV.*).
 svaṇata 寛 梵千:
 sva-tantra 同 (自己を権威とすること), 自立, 独立,
 自由; 自派. 同 自由な, 独立の, 支配されない,
 無制限の: +pada, 同 独立した単語; 実, 真
 実 *Lank.*; 自力 *Abh-vy.*; 自由 *Bodh-c.*; 自在
Abh-vy., Bodh-bh., Mvyut., Vijñ-t.; 不依於他
Sūtr.
 svatantra-grāha 自在執, 執自在転性 *Madhy-*
vibh.
 svatantratā 同 独立, 自由; 独創性.
 svatantratva 同 自在転性 *Madhy-vibh.*
 sva-tantraya, 名動 (°yām-cakreのみ), 自自分の意志に
 従わせる.
 svatantra-vṛtti 自在転 *Vijñ-t.*
 sva-tavas 同 因: おのずから強い, 先天的に強力な;
 勇敢な.
 svatas 同 ひとりでに, 自発的に; 本性上; 自自分の財
 産から; 自性 *Abh-k.*; 従自 *Mudhy-v.*: ~o
 'nyah 除自余 *Abh-vy.* ~o'msāt, 自自分の分け前か
 ら. rakṣer apacāraṃ ~aḥ parato vā, 罪を犯さ
 ないように自分と他人とを守れ.
 svatā 同 所有権. ~m paśyati, (すべてのものは)
 彼に属するまたは彼のためであると信ずる. rāja~m
 upapadyate, 王の所有に属する.
 svatva 同 (因)に対する所有権(團); 独立(因).
 Svad, Svād I. svadate, 自, 因, 團: (團, 團)にと
 っておいしい, の口に合う; 因: (團)を賞味する;
 叙詩(因)を喜ぶ; 楽しむ; 同 口に合わせる, 味つ
 けする(因); svādati, °te 食べる(團, 丸, Khādの
 不確). 過受分 svātta, (因)風味よくされた, 味つ
 けされた; (agniśvāttaにおいて)味わわれる. 使役
 svadayati, °te, 同 風味よくする, 味つけする, 料
 理する, 調理する(因); 起愛著 *Śikṣ.* 過受分
 svadita (因, 團)上手に調理された, 風味のよい.
 使役 svādayati, 同 味わう, 賞味する(團).
 ā-, 使役 āsvādayati, 味わう, 楽しむ, 賞味する
 (團); 取, 著 *Śikṣ.*; 味, 貪味 *Bodh-bh.*; 愛
 楽, 味著, 著其味 *Śikṣ.*; 生味著 *Abh-vy.*
 sam-ā-, 使役 samāsvādayati, 味わう, 楽しむ(團).
 prati-, 使役 pratiśvādayati, [同上](團).
 sva-darśana 同 自見 *Lank.*
 sva-dṛṣṭi 同 自見, 自悪見 *Lank.*
 sva-deśa 同 自自分の国, 祖国, 自自分の家; 家眷

Divy.

svadeśa-ja 形 自分の国で生まれた。男 同国人，同郷の人。

svadeśa-smārin 形 自分の国にあこがれる，ホームシックにかかっている。

sva-deha 男 因 其自身 Divy.；自身命 Sūtr.

svadeha-dāna 因 自分の体を布施すること。

svadeha-parityāga 男 捨身，施自身命 Sūtr.

sva-doṣa-ja 形 自分の過失から起こる(不運)。

svadoṣa-nāśa 男 個人的罪過をなくすこと。

sva-dharma 男 自己の権利；自分の義務；自分の属するカーストの義務。

svadharmatā 因 自法，我身中法性 Ratna-ut.

sva-dhā 1. 因 [自己決定：Dhā] 因：習慣，風習，規則，法律；慣れた場所，家；(しなれた状態)，安易，安楽：[+anu]，習慣に従って；安易にまたは随意に，望むままに；邪魔されないで；守地界 Mvyut. ~ayā 男 または ~bhiḥ 男 自分のやり方で，習慣に従って；喜んで；意のままに，自由に，自発的に；気ままに。

sva-dhā 2. [sudhā 参照] 神酒，(祖霊への)供物(ギーナなわち溶かしたバターからなる)；(意味が弱められて供物の代わりにまたはとともに，祖霊(因，因)に対して発せられる単なる感嘆詞となる)；音写 蘇絶 Lal-v.

svadhā-kāra 形 svadhā (という感嘆のことばを発して祖霊に)呼びかける。

svadhā-kāra 男 svadhā という感嘆詞。

sva-dhātu 因 自界 Sūtr.

svadhātu-sthāna-yoga 因 自界処忘学 Sūtr.

svadhā-ninayana 因 svadhā (という感嘆詞を発して) 供えること。

svadhā-bhuj 男 因 (葬式の供物を楽しむ)，祖霊。

svadhāvat 因 形 慣習または法に忠実な，規則的な，不変の，誠実な(一般に Agni 神と Indra 神について)。

svadhiti 因 斧，(屠殺夫の)包丁(因，きわめてまれに P.)。

sv-adhiṣṭhita 形 よく仕込まれた(象)。

sv-adhita 形 博学の，充分教えられた。因 たくみな暗誦，立派な学習。

sva-dhṛti 因 独りでじっと立っていること(因)。

svadhyāyamāna 因 念誦，読誦 Sv-pr.

sv-adhvara 形 祭事をよく執行する，祭式に適した(RV.)。因 立派な祭式(RV.)。

Svan, 1. 因 (自韻律) svanati (因：因では三過のみ)，音を出す，ほえる，反響する；好声 Bodh-c.

使役 svanayati, 因 [同上](RV., P.)。

ava-, 下に向って叫ぶ(RV.)。

vi-, visvanati 音を発する；(ジャッカルの)ほえる；viṣvanati 騒々しくむさぼり食う。

svana 男 (因)では風，水，火等のうなり声；[+]：(あらゆる種類の)音，(雷)のごろごろという音，(車の)がらがらという音，(群衆の)ざわめき，(動物の)咆哮，(楽器の)音，(鳥の)鳴き声；声 Abh-vy.

sva-naya 男 自通，真実，自説道，如実理 Lan̄k.

svanaya-pratyavasthāna 因 真実，解自通，決定名号真実 Lan̄k.

svanavat 形 音を発する，反響する，とどろく。

sva-nāman 因 自分の名前。形 自ら名前(名声)をもつ(=有名な)。

svanāmokta (°ma-uk°) 形 如自名撰，如自名所説 Abh-vy.

sva-nāśa 男 自滅。

sv-anika 形 美しい容貌をした(RV.)。

sv-anuṣṭhita 形 立派に行なわれたまたは成就された。

sv-anta 形 結末のよい，うまく終る；吉兆の，幸運な；究竟 Abh-vy.

Svap, II. 因 svapiti, I. 因 (自韻律) svapati (因，因，まれ) 眠る，寝入る；(因)の上に横たわる；死の床につく，永眠する，死んで横たわる(叙詩)；眠 Bodh-bh., Lan̄k.; 寝，臥 Abh-vy. varṣasatam~, 百年=永遠に眠る。三過 分 suṣupvas, suṣupāna, 眠っている。因 非人 supyate. 過受分 supta, 眠りにおちる，眠っている；感覚を失った，無感覚の(四肢)；眠った=閉じた(花)；休む，不活発な。潜在的な。使役 svāpayati, 因 眠らせるまたは寝つかせる；横たえて休ませる；殺す。希求 suṣupsati, 因 眠ろうと欲する。

ni-, (RV.) 眠りにおちる；死ぬ。使役 (RV.) 寝つかせる；殺す。

pra-, 眠りにおちる，眠る。過受分 prasupta, 眠りにおちた，眠っている；眠りおえた(まれ)；眠るために横になった(まれ)；麻痺した，感覚のなくなった(四肢)；休息している，不活発な，潜在的な。

sam-, 過受分 samṣupta, 眠りにおちた，眠っている。

sva-pakṣa 男 自分の翼；自分の仲間・党派；自分の党派の一員；自己の(側の)意見または主張；自分 Śikṣ.; 自法，自宗，我宗 Lan̄k.; 我党 Mvyut.; 自伴侶 Śikṣ.; 自朋友 Lal-v.

svapakṣotkarṣaṇa (°sa-ut°) 自分高強 Śikṣ.

sva-paṇa 男 自分の賭，自分の賭け金。

sva-patita 形 自分で落ちた。

sva-pati-Kṛ, (因)を(彼女の)夫にする。

sv-apatya 形 よい子孫をもつ(RV.)

svapatyā 因 よい子孫(RV.; 為 svapatyai)。

sva-pada 因 自分の場所または住居；自分の位置または地位。

svapana 形 (因)眠い。因 眠ること，睡眠(因)。

sva-para 自他 Lan̄k., Madhy-vibh., Sūtr.:

~doṣāvahana 自惱他，自身他身有如是過 Lan̄k. 251.;

~rātmahitakāma 欲利自他 Lan̄k. 248.;

~robhayārtha 利自他，自利利他 Lan̄k. 14.

svapara-cittānurakṣaṇa 因 護自他心 Sūtr.

svapara-pratāraka 形 自他ともにだます。

svapara-lakṣaṇa 自他相，自相他相 Lan̄k.

svapara-samacittāvasthāpanā 因 能住自他平等 Sūtr.

svapara-samatā 因 自他平等，自他平等性 Ma-dhy-vibh.

svapara-sāntānika 形 自他相續 Madhy-vibh.

svapara-hita 男 漢訳 自他利 *Sūtr.*: ~-pratipatti-sampad 自利利他円満, 彼我俱安 *Bodh-bh.* 386.
 svaparānugraha 男 漢訳 自他二撰, 撰自他二利 *Sūtr.*
 svaparārtha 漢訳 自他利 *Bodh-bh.*, *Ratna-ut.*, *Sūtr.*; 自利利他 *Bodh-bh.*, *Ratna-ut.*
 svaparārtha-satya-kathana 中 漢訳 説自他利諦 *Ratna-ut.*
 sv-aparāhṇe 因 午後おそく, 夕方近く (因).
 sv-apas 形 よい仕事をする, 勤勉な, 巧妙な, 芸術的な (因). 男 熟練工, 名工 (RV.).
 svapasya, 名動 自 svapasyate, よく働く, 活動的である.
 svapasyā 因 勤勉, 活発, 熟練, 器用さ (RV.).
 svapitṛ 1. 男 眠る人.
 sva-pitṛ 2. 男 自分の父: 種 自分の祖霊.
 sv-apivāta 形 [Vat] よく理解する (RV. 用例一回のみ).
 sva-putra-māmsa 漢訳 子肉 *Lank.*
 sva-pudgala 男 漢訳 人 *Madhy-v.*
 svapudgala-kṛta 形 漢訳 人自作 *Madhy-v.*
 sva-pura 中 自分の都市.
 sva-pū 因 [Pū] ほうき (RV. 用例一回のみ).
 svapna 男 因, 罽: 眠り; 夢 (普通の意味); 罽: 睡気 (まね); 眠りに耽ること, 無精 (まね); 漢訳 夢 *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Mvyut.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*; 眠睡, 寝臥 *Abh-vy.*; 夢境, 夢幻 *Madhy-vibh.* ~m *Dṛś* または *Paś*, 幻を見る, 夢を見る.
 svapna-kārya 中 漢訳 夢中事, 夢中作事 *Lank.*
 svapnaj 形 (因-k) 眠りに耽る, 眠い.
 svapna-ja 形 夢のなかで作られた, 夢で見られた.
 svapna-darśana 中 夢を見ること; 漢訳 見夢 *Vijñ-v.*
 svapna-nidarśana 中 [同上].
 svapna-pada 漢訳 夢句, 夢見 *Lank.*
 svapna-bhāj 形 眠りに耽る.
 svapna-mānavaka 男 (夢の小人) 実現することを夢に見させる一種の呪法.
 svapna-rūpa 漢訳 夢中見色 *Lank.*
 svapna-labdha 形 夢の中で得られた (=現われる).
 svapna-vṛtta 形 夢のなかに現われる.
 sv-apnas 形 富んだ (RV.).
 svapna-sthāna 中 寝室.
 svapnādhyāya 男 夢に関する章, [ある作品の名]; 漢訳 占夢 *Lal-v.*, *Mvyut.*
 svapnādhyāya-vid 男 夢の解釈者.
 svapnānta 男 睡眠または夢の状態.
 svapnānta-bhūta 漢訳 夢中 *Śikṣ.*
 svapnāntara 中 [同上]; 漢訳 夢中 *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; 夢寝中 *Śikṣ.*: anyatra ~āt 除夢中 *Pr.it-m.* II.
 svapnāntara-gata 形 漢訳 夢 *Mvyut.*; 夢中 *Aṣṭ-pr.*, *Śikṣ.*: 睡夢中 *Madhy-v.*; 在夢中 *Sukh-vy.* I.; 於夜夢中, 即於其夜夢見 *Suv-pr.*
 svapnāntar-gata 形 漢訳 夢中 *Gaṇḍ-vy.*
 svapnāntika-rūpa 中 漢訳 夢中物 *Mvyut.*
 svapnāya, 名動 自 眠りたいと望む, 眠い; 夢に似て

いる.

svapnopabhoga (°na-up°) 男 漢訳 夢 *Ratna-ut.*
 svapnopama (°na-up°) 形 漢訳 如夢 *Aṣṭ-pr.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*; 如夢所見 *Aṣṭ-pr.*
 svapnopamatva 中 漢訳 如夢 *Sūtr.*
 sva-prakāśa 形 おのずから明白なまたは明瞭な.
 sva-prakṛti 女 漢訳 自性清浄 *Ratna-ut.*
 sva-prajña 漢訳 智慧 *Ratna-ut.*
 sva-pratyaya 男 漢訳 師心 *Sūtr.*
 sva-pratyātma 漢訳 内身, 自証 *Lank.*: ~jñāna 縁自聖見, 縁内身聖見, 自証聖智 *Lank.* 35; ~buddhi 自智, 自覚, 自思惟, 自内智慧 *Lank.* 133.; ~bhūmi 証地, 自覚地, 自証地 *Lank.* 214.; ~adhigama 自覚, 所証, 自身内証 *Lank.* 119.
 svapratyātmārya-jñāna (°ma-ār°) 中 漢訳 自覚聖智, 自証聖智, 自身内証聖智 *Lank.*
 sva-pradhāna 形 独立の, 自立した.
 svapradhānatā 因 独立の状態または性質.
 sva-pramāṇānurūpa 形 自己の力に適した.
 sva-prayoga 男 罽 自分ひとりで, 他人の助力なしに.
 sva-bandhu 男 自分の親類または友人.
 svabandhu-bhāva 男 漢訳 六親眷属…常為眷属, 衆生皆是親属 *Lank.*
 sva-bala 漢訳 自力, 自成…力 *Lank.*
 sva-bāndhava 男 =svabandhu.
 sva-bāhu-balopārjita (°la-up°) 形 漢訳 自修手力, 以我手力所成 *Mvyut.*; 自力所集 *Bodh-bh.*
 sva-bimba 漢訳 自見影, 自見其影 *Lank.*
 sva-bija 中 漢訳 自種 *Lank.*, *Vijñ-v.*; 種子 *Sūtr.*; 自種子 *Vijñ-v.*
 sva-buddha-dharma 男 漢訳 一切仏法 *Bodh-bh.*
 svabuddha-buddhatā 女 漢訳 自悟悟他, 自性自覚覚他, 如来法身之相自身及他俱入無疑 *Lank.*
 sva-buddhi 女 漢訳 自覚, 自智, 証智 *Lank.*
 sva-bhakta 漢訳 自料 *Divy.*
 sva-bhavana-stha 形 漢訳 住自宮殿中 *Bodh-bh.*
 sva-bhānu 形 自ら光を発する (RV.).
 sva-bhāva 男 固有のあり方, 生まれつきの性質または素質, 本性 (罽: 後天的性質); 漢訳 性 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*, *Prajñ-h.*, *Rāṣṭr.*, *Sūtr.*, *Vijñt.*; 体 *Abh-vy.*, *Ratna-ut.*, *Sūtr.*; 相 *Aṣṭ-pr.*; 定相, 有性 *Madhy-v.*; 自性 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Prajñ-h.*, *Rāṣṭr.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*, *Suvik-pr.*, *Vijñ-t.*; 自体 *Abh-vy.*, *Lank.*, *Madhy-v.*, *Suvik-pr.*; 自相 *Abh-vy.*; 体性 *Prajñ-h.*, *Rāṣṭr.*, *Ratna-ut.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*; 実体 *Ratna-ut.*; 自然本性 *Mvyut.*; 真如体性 *Rāṣṭr.*; 自体相続流 *Sūtr.*: trividhaḥ ~h 三性 *Vijñ-t.* 41.; 三自性, 三種自性 *Madhy-vibh.* ~ena 罽, ~āt 罽, °-, -tas 生来, 生まれつき; ひとりで, 自発的に.
 svabhāvaka 漢訳 自性, 法体相 *Lank.*
 svabhāva-kṛta 形 本性によってなされた, 自然の.
 svabhāva-kṛpāṇa 男 (生まれつきけちけちして), [ある婆羅門の名].

svabhāva-ja 形 (一°) に生まれつきの・先天的の・本来の。
 svabhāva-janita 漢受分 [同上]。
 svabhāvatā 因 漢訳 自性 *Bodh-bh.*, *Suvik-pr.*; 体, 性, 実体 *Ratna-ut.*
 svabhāva-traya 甲 漢訳 三性, 三自性 *Madhy-vibh.*; 三種体 *Ratna-ut.*
 svabhāvatva 甲 漢訳 性 *Abh-vy.*; 自性 *Bodh-c.*
 svabhāva-drṣṭi 因 漢訳 因陀諸見, 外道因陀邪見 *Lank.*
 svabhāva-dvaya 甲 漢訳 二自性; 二自体, 二自性法 *Lank.*
 svabhāva-dveṣa 男 生まれつきの憎悪, 宿怨。
 svabhāva-dharma 男 漢訳 自然之法 *Saddh-p.*: ~
 -samanvāgata 自然之法思惟奉行, 心意質直 *Saddh-p.* 481.
 svabhāva-nidhyapti 因 漢訳 観法性, 観察諸法本性 *Gaṇḍ-vy.*
 svabhāva-niḥsvabhāva-dharmābhisamaya-gotra 甲 漢訳 離実法証性, 自性無自性法, 離自性法無間種性 *Lank.*
 svabhāva-pada 甲 漢訳 自性句, 離自性見 *Lank.*
 svabhāva-parabhāva 男 漢訳 自他性, 自性他性 *Madhy-v.*
 svabhāva-paramārtha 男 漢訳 無有実体以為第一義 *Lank.*
 svabhāva-parikṣā 因 漢訳 [中論第十五品の名]。
 svabhāva-paryavasthāna 漢訳 著定性 *Madhy-v.*
 svabhāva-prajñapti-paryeṣaṇā 因 漢訳 観性, 観有無 *Madhy-v.*; 自性求, 縁自性 *Sūtr.*
 svabhāva-bhāva 男 生まれつきの性質, 自性, 本性。
 svabhāva-mudrā 因 漢訳 体性印, 自性印 *Sam-r.*
 svabhāva-lakṣaṇa 甲 漢訳 性相, 実相 *Gaṇḍ-vy.*; 自性, 自性相, 自体相 *Lank.*
 svabhāva-vaśa 漢訳 自体自在 *Sūtr.*
 svabhāva-vikalpa 男 漢訳 自性分別 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*; 自性妄想, 自体分別 *Lank.*
 svabhāva-vigraha 男 漢訳 身, 自身 *Lank.*
 svabhāva-vimukta 形 漢訳 自性遠離, 自性解脱, 性即解脱 *Aṣṭ-pr.*
 svabhāva-śarira-vastu 甲 漢訳 自性体事 *Bodh-bh.*
 svabhāva-śubha-dharmopahita-dhātu (°ma-up°) 漢訳 無漏法界 *Ratna-ut.*
 svabhāva-śūnya 形 漢訳 自性空 *Mvyut.*, *Sam-r.*, *Śikṣ.*; 有法空 *Mvyut.*; 体空寂, 体性空 *Sam-r.*
 svabhāva-sadbhūta 形 漢訳 定有性 *Madhy-v.*
 svabhāva-saṃtati 因 漢訳 性習 *Sam-r.*
 svabhāva-sama 形 漢訳 自性平等, 平等自性 *Aṣṭ-pr.*
 svabhāva-saṃbhūta 形 漢訳 自然生 *Madhy-v.*
 svabhāva-siddha 形 生来固有の, 生まれつき確立した, 生まれつきの, 生得の; 自明の, 明らかな。
 svabhāva-hetu 男 漢訳 自性真語 *Mvyut.*
 svabhāvāṅga 甲 漢訳 自性分 *Madhy-vibh.*, *Sūtr.*; 自体分 *Madhy-vibh.*
 svabhāvānyatva 甲 漢訳 性転変, 自性変異 *Madhy-vibh.*

svabhāvābhīniveśa 男 漢訳 自性相計著, 執著…体相, 執著…自性相 *Lank.*
 svabhāvābhīniveśa-vikalpa 男 漢訳 自性妄想, 分別執著 *Lank.*
 svabhāvārtha 漢訳 体, 自体性, 実体 *Ratna-ut.*; 自性, 法界性義 *Sūtr.*
 svabhāvāsvabhāvatva 甲 漢訳 自性無自性, 実及於不実 *Lank.*
 svabhāvokta (°va-uk°) 形 自発的に述べられた。
 svabhāvokti (°va-uk°) 因 事柄の本質に即した陳述, 活写。
 sv-abhikṣṇa-dānatā 因 漢訳 数数施 *Bodh-bh.*
 sv-abhiṣṭi 形 (RV.) よい援助を与える; よい援助を受ける。
 sv-abhisambuddha 形 漢訳 妙善現正等覚 *Bodh-bh.*
 sv-abhisambhava 形 漢訳 易得, 易可信解 *Aṣṭ-pr.*
 sva-bhū 形 自力によって存在する。 因 自身の国, 故郷。
 sva-bhūta 形 自分のものである, (属) に属する; 漢訳 各自, 各各 *Abh-vy.*
 svabhū-tyāga 男 自分の故国を捨てること。
 sva-bhūmi 因 自身の国, 故郷。
 svabhūmika 形 漢訳 自地 *Abh-k.*, *Abh-vy.*
 sva-bhṛtya 男 漢訳 親属, 親戚, 自親属 *Bodh-bh.*
 sv-abhyalaṃkṛta 形 漢訳 莊校, 莊敬校飾 *Saddh-p.*
 sv-abhyūhita 形 漢訳 善思 *Bodh-bh.*
 sva-maṇḍala 甲 漢訳 自壇法 *Guhy-s.*
 sva-mata 甲 漢訳 自通, 自身内智証法, 自智所証之法 *Lank.*; 自許 *Śikṣ.*
 sva-mati 因 漢訳 自心, 自生 *Lank.*
 svamati-nihnava 男 自分の考えを隠すこと。
 svamati-vikalpa 男 漢訳 自妄想, 自心分別 *Lank.*
 sva-manīṣikā 因 自身の意見または判断。
 sva-mantra 男 漢訳 自明 *Guhy-s.*
 svamantra-puruṣa 男 漢訳 自持明人 *Guhy-s.*
 sva-māṃsa 甲 自己の肉または身体; 漢訳 自身肉 *Bodh-bh.*
 svamāṃsa-dāna 甲 漢訳 施自身肉 *Śikṣ.*
 sva-mudrā-lakṣita 形 漢訳 自封印 *Divy.*
 svayaṃ-yāna 甲 漢訳 自往 *Abh-k.*; 自伏, 自化伏, 望風順化 *Mvyut.*
 svayaṃ-rata 甲 漢訳 自樂 *Sūtr.*
 svayaṃ-vara 形 自分で選ぶ, *kanyā* とともに, 因 自身で自分の夫を選ぶ少女。 男 自己選択, 自由選択 (とくに夫の; *kṣatriya* 階級の娘は一群の求婚者たちの間から自由にしかも公けに自己の夫を選択する権利を有することが認められていた。)
 svayaṃvara-kathā 因 svayaṃvara への言及またはに關する陳述。
 svayaṃ-varaṇa 甲 (一°) による(夫の)自由選択。
 svayaṃvara-prabhā 因 [ある *Daitya* の妻の名]。
 svayaṃvarāgata (°ra-āg°) 形 自発的に来た。
 svayaṃ-vaśa 形 自立している, 自由な。
 svayaṃ-vāda 男 自分自身の陳述, 自分の主張。
 svayaṃ-vādy-asiddha 形 漢訳 犯性不成, 争不成於己 *Mvyut.*

svayaṃ-vikṛita 形 自身によって売られた。
 svayaṃ-viśirṇa 形 ひとりでに落ちた；おのずからこ
 われた。
 svayaṃ-vṛta 形 自身によって選ばれた。
 svayaṃ-śirṇa 形 =svayaṃviśirṇa.
 svayaṃ-samyoga 男 (具) との (結婚による) 自由意
 志にもとづく結合。
 svayaṃ-samrddha 形 それ自身で完全な (Br.).
 svayaṃ-sambhava 漢訳 自然破壊 *Suvik-pr.*
 svayaṃ-sthita 形 漢訳 自然住 *Sūtr.*
 svayaṃ-kāra 形 漢訳 此作, 自作 *Madhy-v.*
 svayaṃ-kārin 漢訳 自修, 独立, 自営弁 *Śikṣ.*
 svayaṃ-kṛta 形 自身によって作られた・準備され
 た・実行された・遂行された・ひきおこされたまた
 は著作された；養子の (息子)；自然の, 自然発生的
 な；*vigraha* とともに, 男 自身の利益のために企てら
 れた戦争；漢訳 自作 *Bodh-bh., Madhy-v.*；自, 自
 造, 自造作, 自所作, 自成熟, 自然造作, 自身現作
Bodh-bh.；自生, 従自生 *Madhy-v.*
 svayaṃkṛta-pūjā 漢訳 自作供養 *Bodh-bh.*
 svayaṃ-krānta 形 独力でのぼった (王座).
 svayaṃ-guṇa-parityāga 男 紐 および徳行の自発的な
 放棄 (一語二義).
 svayaṃ-gurutva 中 (それ) 自身の重さ.
 svayaṃ-graha 男 自分で (無断で) 取ること, むりや
 りに略奪すること.
 svayaṃ-grahaṇa 中 [同上].
 svayaṃ-grāha 男 [同上]. 形 自然に生ずる (情愛):
 ~m, 副 むりに, 強制的に；°一 [同上]；自然に.
 svayaṃ-ja 形 自然に湧いた (水, RV. 用例一回のみ).
 svayaṃ-tyakta 形 自ら進んで捨てられた.
 svayaṃ-datta 形 自己を与えた (養子として自身を与
 える少年について言われる).
 svayaṃ-dāna 中 (結婚における娘の) 自発的な贈物.
 sva-yatna 男 自身の努力.
 svayaṃ 不変 自身 (彼自身等)；ひとりでに, 自ら進
 んで, 自発的に；中 では (主語または述語として) 困
 と, (論理上の主語として) 具 と, または 具 (ときには 具
 または 具) と意味の上で一致する；漢訳 自 *Abh-vy.,*
Bodh-bh., Lanḅ., Nyāy-pr., Ratna-ut., Sūtr.；自
 身 *Abh-vy.*；自然 *Abh-vy., Bodh-bh., Ratna-ut.,*
Sūtr.；随自 *Nyāy-pr.*
 svayaṃ-agurutva 中 自身の軽快さ.
 svayaṃ-anuvṛtti 中 漢訳 自亦如是行 *Sūtr.*
 svayaṃ-anuṣṭhāna 中 独力による遂行.
 svayaṃ-apodita 形 中 非人 (ある人が) ひとりで (困) か
 らまぬがれた (Br.).
 svayaṃ-abhāva 漢訳 自無 *Sūtr.*
 svayaṃ-arjita 形 自身によって得られた.
 svayaṃ-avasthāna 中 漢訳 自住 *Sūtr.*
 svayaṃ-āgata 形 自発的に来た.
 svayaṃ-āhṛta 形 自身によってもたらされた.
 svayaṃ-ihita 中 自身の努力.
 svayaṃihita-labdha 形 自身の努力によって得られた.
 svayaṃ-udyata 形 自発的に提供された.

svayaṃ-patita 形 自然に落ちた (果実).
 svayaṃ-prakāśa 形 おのずから現われる.
 svayaṃ-prakāśamāna 具 中 形 おのずから輝く. -*tvā*
 中 [同上 中].
 svayaṃ-prabha 形 おのずから輝く. -*ā* 女 [人名].
 svayaṃ-praśirṇa 形 おのずから落ちた (困).
 svayaṃ-prātibhānīki 漢訳 具自弁才 *Bodh-bh.*
 svayaṃ-bhu, svayaṃbhū の 形 および 中. 男 *Brahman*
 および *Śiva* 神の 名稱；漢訳 仏 *Śikṣ.*；自然 *Saddh-p.*
 svayaṃbhū-jñāna 中 漢訳 自然智 *Saddh-p.*
 svayaṃbhutva 中 漢訳 自然覚性, 自然智性 *Aṣṭ-pr.*
 svayaṃbhūva 形 漢訳 自在 *Lal-v.*；自然 *Saddh-*
p.
 svayaṃbhū 形 (中 -u) 自身で存在する, 独立自存す
 る, 自立の；仏陀に関する (まれ). 男 [*Brahmā* 神
 の 名稱]；[仏陀の 名稱]；漢訳 世尊 *Divy.*；大覚,
 善逝 *Gaṇḍ-vy.*；如来 *Gaṇḍ-vy., Ratna-ut.*；自覚
Ratna-ut.；自然 *Aṣṭ-pr., Divy., Lanḅ., Sam-r.*；
 自在 *Ratna-ut.*；自然起 *Sūtr.*；大自在 *Raṣṭr.*；自
 然人, 自然悟, 自然而悟 *Lal-v.*；自然性 *Vijñ-t.*；
 無師 *Gaṇḍ-vy., Śikṣ.*；無師者, 自在者 *Lanḅ.*；無
 師自然 *Bodh-bh.*
 svayaṃbhū-jñāna 中 漢訳 自在智, 無師智 *Ratna-*
ut.；自然智 *Aṣṭ-pr., Suvik-pr.*；自然智慧, 自在之
 慧, 自覚知, 無師自然妙智 *Bodh-bh.*
 svayaṃbhūtā 女 漢訳 無師道 *Gaṇḍ-vy.*
 svayaṃbhūtva 中 漢訳 自起, 自然起 *Sūtr.*；自然法,
 自在智, 自然覚性, 自然智法 *Aṣṭ-pr., Ratna-ut.*
 svayaṃbhū-dharma 男 漢訳 自然法, 自然人法, 自
 然智法 *Aṣṭ-pr.*；自覚法, 無師法, 自然者法 *Gaṇḍ-*
vy.
 svayaṃbhū-parśad 漢訳 自然衆会 *Suvik-pr.*
 svayaṃ-mṛta 形 自然に死んだ (自然死).
 sva-yāśas 形 おのずから輝かしいまたは顕著な, 自足
 している (困).
 sva-yukti 女 自身の一連 (の馬). ~*yā* 具, ~*tas* 副
 自然に, 当然のこととして, 自明のこととして.
 sva-yuj 男 同盟者 (困).
 sva-yoni 女 自身の子宮, 母胎, 自身の出生地 または
 出所；自身の種姓の胎. 形 (女 -i) 血縁でつなが
 った, 血族の.
 Svar 1., I. 中 svarati, 音を発する, 鳴り響く (困)；
 (業) を鳴り響かせる (RV.)；(業) を讚美して歌う
 (RV.). 使役 svarayati. 中 Svarita アクセントを
 つけて発音する. 受 svariyate, Svarita アクセント
 をもつ. 過受分 svarita, 響かされた；アクセント
 をつけて発音された；Svarita アクセントをもつ.
 ati- 音を長く発音する.
 abhi- 歌で迎える；(讚歌に) 同調する (RV.).
 sam- (困) 一緒に歌う；合唱して讚美する.
 abhi-sam- いっせいに歓迎するまたは祈る (困).
 Svar 2., I. 中 svarati (困, きわめてまれ) 輝く. 使役
 svarayati, 中 [同上].
 svar (YV. では また *suvar*), 不変 (=困, 具, 困, 具,
 困), RV.: 太陽；困: 日光；光, 光輝；空間；明
 るい空間, 天空 (また 諸神 および 天界に 赴いた人々

の居所；因，圍)；(祭式において用いられる祭詞 bhūr bhuvah svar のうちの)天地界等の七つの世界のうちの第三界，天界。

svara 因 圍，圍：音，ひびき，騒音；圍：声；S., 圍：音調(読誦等において，強度または高低にしたがって区別される)；アクセント；音楽の音(7または6ある)；母音；漢訳音 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*, 梵千；声 *Abh-vy.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*；言，語 *Mvyut.*；音声 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Supr.*；音詞 *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*；音韻 *Mvyut.*；発声 *Sūtr.*；言音 *Abh-vy.*；言語 *Mvyut.*；*sapta svarāḥ*(?) 七音(?) [(1. *madhyamaḥ* 中令，中婦，2. *Ṛṣabhaḥ* 神仙，神仙曲，3. *gandhāraḥ* 持地，持地調，4. *ṣaḍjaḥ* 具六，5. *pañcamāḥ* 五，等五，6. *dhaivataḥ* 明意，聰明，7. *niśādaḥ* 近聞] *Mvyut.* 219.；*ṣaṣṭy-aṅga-svarāḥ* 六十種音 (1. *snigdā* 流沢，柔軟，2. *mṛdukā* 妙，柔軟，3. *manoḥjā* 悦意，如意，4. *manoramā* 可樂，得意，可樂声，5. *śudhā* 清浄，真実，6. *vimalā* 離垢，無垢，離於垢声，7. *prabhāsvarā* 明亮，明頭，8. *valguḥ* 甘美，入耳甘美，9. *śravaṇiyā* 楽聞，堪敬，10. *anelā* 無劣，不能，11. *kalā* 円具，闍，12. *vinitā* 調順，柔善，13. *akarkaśā* 無澁，不粗俗，14. *aparusā* 無惡，無尽意，15. *suvinītā* 善柔，柔善，極柔善，16. *karṇasukhā* 悦耳，悅耳鼻，17. *kāyaprahlādanakārī* 適身，18. *cittaadbilyakārī* 心生勇銳，滲於心，19. *hṛdayasamtustīkārī* 心喜，心中喜，20. *pritisukhajanani* 悅樂，発喜樂，21. *nisparidāhā* 無熱惱，無煩惱，22. *ājñeyā* 如教令，周知，23. *vijñeyā* 善了知，覺諸事，24. *vispaṣṭā* 分明，明諸事，25. *Premaṇiyā* 善愛，作意，26. *abhinandaniyā* 令生歡喜，現前喜，27. *ājñāpaniyā* 使他如教令，徧知，28. *vi-jñāpaniyā* 使他善了知，普覺，29. *yuktā* 如理，30. *sahitā* 利益，相連，31. *punaruktadoṣajahā* 離重複過失，言無過，32. *siṃhasvaravegā* 如獅子音，(如)獅音力，33. *nāgasvaraśabdā* 如竜音，如象音，34. *meghasvaraghoṣā* 如雲雷吼，如竜音，35. *nāgendrarutā* 如竜王，如竜音，如竜王音，36. *gandharvasaṃgitighoṣā* 如緊那羅妙歌，37. *kalaviṅkasvararutā* 如迦陵頻伽声，頻伽鳥音，38. *brahmasvararutāravitā* 如梵王，梵音，梵王如音，39. *jivam-jivakasvararutāravitā* 如共命鳥，響錢音，如共命鳥音，40. *devendramadhuranirghoṣā* 如天主妙音，如天帝釈美妙音，41. *dundubhisvarā* 如振鼓，鼓音，如震鼓音，42. *anunnatā* 不高，不満足，43. *anavanatā* 不下，不低，44. *sarvaśabdānupraviṣṭā* 随入一切音，随諸音所入，45. *apaśabdavigatā* 無欠減，無邪言，46. *avikalā* 無破壊，無不備具，47. *alinā* 無染，無退縮，無染汗，48. *adinā* 無希取，無劣，49. *pramuditā* 令衆生歡喜，具足，令衆意歡喜，50. *prasṛtā* 莊嚴，具足，51. *śakhilā* 入，説衆生心行，52. *sarītā* 長食，莊嚴，53. *lalitā* 連続，顯示，54. *sarvasvarapūraṇi* 円満一切音声，諸音円満，円満一切音，55. *sarvendriyasamtoṣaṇi* 諸根適悦，諸根満足，56. *aninditā* 無譏毀，不欺，57.

acañcalā 無輕轉，58. *acapalā* 無動揺，不察，59. *sarvapaṣadanuravitā* 随入一切衆会，名称普徧，60. *sarvākāravaropetā* 諸相具足，具足諸最勝] *Mvyut.* 20.

svara-guṇti 因 漢訳 言音 *Bodh-bh.*；音声語言 *Divy.*

sv-aramkṛta 因 よく準備された(祭式；RV. 用例一回のみ)。

svaratā 因 漢訳 声 *Ratna-ut.*

svara-bhakti 因 r または l と子音の間に挿入される母音(例えば *varṣa* は *varīṣa* と発音される)。

svara-bhūta 因 母音化された(すなわち半母音+母音から i または u へと変えられた)。

svara-bheda 因 音声の不明瞭なこと，しわがれ声；作り声；声によって正体をあらわすこと；アクセントの相違；音調の相違。~*ena* 因 偽りの音声で。

svarabheda-bhaya 因 声によって正体をあらわすことに対する恐れ。

svara-maṇḍala-vainayika 漢訳 聞音声而調伏者，以音声教化 *Gaṇḍ-vy.*

svara-yoga 因 音の結合，声。

svaravat 因 (Br.) 高らかに響きわたる；旋律的な声をもつ；アクセントを有する(また 圍も)。

sva-raśmi-gamana-pratyāgamana 因 漢訳 大光明往来 *Bodh-bh.*

sva-rasa 因 固有のまたはまじりけのない液汁；同族の人々に対する気持または感情；固有の意向，性情；漢訳 無功用 *Sūtr.*；自然 *Ratna-ut.* ~*ena* 因 漢訳 任運，由自性 *Abh-vy.* 101.；淳至，任運自然 *Bodh-bh.* 321. 因 お気に入りの，性に合った(妻)。

svara-samyoga 因 音の結合，音声；(歌の)連續的な音調。

svara-saṃsvāravat 因 正確なアクセントをもつ，正しく詠唱された(韻文)。

svara-saṃkrama 因 音色の調和，音声の抑揚。

svarasa-nirodha 因 漢訳 自然滅，自然生 *Mvyut.*

svara-saṃdeha-vivāda 因 社交的遊技(の一種)。

svarasa-bhaṅga-bheda 因 漢訳 自之散壊，自然而滅，自然掃滅 *Lank.*

svara-sampad 因 好調音，ころよい音声。

svarasādhyupekṣaṇa 因 漢訳 作心捨 *Ratna-ut.*

svara-sāman 因 [Gāyāmāyana の Visuvat 前後の3日間(=前半年の最後の3日間および後半年の最初の3日間)の 名稱]。

svarāṅga 因 漢訳 音響 *Śikṣ.*；音詞支具 *Bodh-bh.*

svarāṅga-ghoṣa 因 漢訳 音声身 *Sam-r.*

sva-rāj 因 (因・t) みずから統治する，みずから導く(因)。因 因：みずから統治する者；圍：独立した王；[*Brahma*, *Viṣṇu*, *Kṛṣṇa* およびある *Manu* の 名稱]。因 [種々の韻律の名]。

sva-rājya 因 独立統治(因)；自身の王国，独立王国(圍)。

sva-rāṣṭra 因 [同上]。

svarita 使役 過受分 → Svar. 因 因 (高まった後さがる) Svarita アクセント。

svaritatva 因 Svarita によるアクセント法；付加。

svaru 男 (因) 杭, 祭式に用いる柱; 祭柱の木片 (器).
 sva-ruci 因 自身の随意または好み. ~yā 男 自身の意思のままに, 形 自身の好みにしたがう.
 sva-rūpa 因 自身の形または姿; (因, 一°) の形; 語それ自体 (±śabda- または śabdasya; 因 同義語, 類語); 自身の状態・特性・特質または性質; できごと, 事件 (まれ): nāmnām-, 名前それ自体: °一 または ~tas, 副 自分自身の形で, 生来, 実際に, ひとりで; 因 自相 Guhy-s., Nyāy-pr.; 自性 Mvyut., Nyāy-pr.; 本形, 其身 Divy.; 本面 Mvyut.; 自体相 Abh-vy.
 svarūpatā 因 自身の形. ~tayā 男 文字通りに, 実際に.
 svarūpa-dhārin 形 自分自身の形をもつ.
 svarūpa-bhāva 男 (名前の) 正しい形の使用.
 sva-rūpin 形 自身のまたは自己本来の形をもつ; (一°) の形をとってあらわれる; 体现された.
 svarūpotprekṣā (°pa-ut°) 因 直喩 (の一種).
 sva-rocis 形 それ自身で輝く.
 sv-arka 形 美しく歌う (因).
 svar-ga 形 (因) 光 または 天に行くまたは 導く, 天の; +loka, 男 (また 因) 光明世界, 天界, 男 (因, 因) 天国 (諸神および祖霊の住居); 天上の至福; 因 天 Abh-vy., Raṣṭr., Śikṣ., Suv-pr.; 天宮 Lank., Śikṣ., Suv-pr.; 天道 Abh-vy.; 天趣 Śikṣ.; 善趣 Cat-ś., Sūtr.; 天界 Raṣṭr.; 天上 Divy.; 上種 Mvyut.; 生天 Divy., Ratna-ut., Sapt-pr.
 svarga-kathā 因 因 生天之論 Divy.
 svarga-kāma 形 生天したいと思う; 因 求生天. 求欲生天, 欲得天身 Bodh-bh.
 svarga-gata 形 因 生善道 Sūtr.
 svarga-gati 因 天に行くこと; 死; 因 天堂, 善趣門 Divy.
 svarga-gamana 因 [同上].
 svarga-gāmin 形 天に行く.
 svarga-cyuta 形 天界から降下した.
 svarga-jit 形 天界を得た.
 svar-gata 形 天界に去ったまたはに存在する; 死んだ.
 svarga-taraṅgini 因 天上の川; [Gaṅgā 河の 名称].
 svarga-tāru 男 楽園の木 (天界に生育する樹木).
 svar-gati 因 天に行くこと; 死.
 svarga-dvāra 因 天界の門.
 svarga-nirvāṇa-dvāra 因 因 天人路, 人天涅槃門. 諸天涅槃門 Gand-vy.
 svarga-pati 男 天界の主, [Indra 神の 名称].
 svarga-patha 男 天界への道; 銀河; 因 天趣 Śikṣ.; 人天路, 天人路 Gand-vy.
 svarga-puri 因 [天界の都市, Amarāvati].
 svarga-praticchanda 男 因 天のような喜び.
 svarga-bhartṛ 男 天界の主, [Indra 神の 名称].
 svarga-mandākinī 因 天界の Mandākinī (Gaṅgā) 河.
 svarga-mārga 男 天界への道; 天上の路, 天の川; 因 天路 Śikṣ.
 svargamārga-didṛkṣu 形 天界への道を見ようと望む.

svarga-yāna 形 (因 -i) 天界に行くまたは 導く. 因 天国に至る道.
 svarga-yoni 因 天界を保證するもの.
 svarga-rājya 因 天界の王国.
 svarga-loka 男 (ときどき 因) 天上の世界, 天界; 因 天 Śikṣ.; 天上 Bodh-bh., Suv-pr.; 天界 Śikṣ.; 天世界 Bodh-bh. 形 天界に属する またはに住んでいる.
 svarga-sad 男 (天に住むもの), 神, 生天した人.
 svarga-stri 因 天女, Apsaras.
 svarga-stha 形 天界に住む, 死んだ.
 svarga-sthita 形 [同上] 男 神; ある生天した人.
 svar-gāmin 形 天界に行くまたは 行ってしまった; 死にかかっている, 死んだ.
 svargārohaṇa (°ga-ār°) 因 (天へ) 昇ること, 昇天.
 svargārgala 男 または 因 天界 (の門) のかんぬき.
 svargārtha 男 因 求善趣 Sūtr.: ~m 為受天快樂 Bodh-bh.
 svargin 形 天界を所有する; 天に行った, 死んだ. 男 神; 生天した人, 死者, 故人.
 svargiya 形 天界に関する, 天上の; 天界に導く.
 svargotpatti (°ga-ut°) 因 因 得生天界 Śikṣ.
 svargopaga (°ga-up°) 男 因 生善道 Sūtr.; 生天上, 転生天上, 当生天上 Ast-pr.; 生於人天 Mvyut.
 svargopapādana (°ga-up°) 因 因 得生善道 Sūtr.
 svargopavarga (°ga-up°) 男 因 天道及二乘 Gand-vy.
 svargaukas (°ga-ok°) 男 天界に住むもの, 神; 生天したもの.
 svargya 形 =svargiya.
 svar-jit 形 光明 または 天界を獲得する (因). 男 [祭式の一つ] (因).
 svarṇa 因 [suvarṇa の縮小形] 金; (重量単位として) 1 Karṣa の金; 赤チョーク (の一種) (まれ); 因 金 Sukh-vy.
 svarṇaka 因 金.
 svarṇa-kāra 男 金細工師.
 svarṇa-keśi 因 因 金色髪神 Suv-pr.; 因 蘇跋拏 鷄舍 Suv-pr.
 svarṇa-khaṇḍāya, 名動 因 金になる.
 svarṇa-cūḍa 男 青かけす; [ある王の名].
 svarṇa-cūla 男 青かけす.
 svarṇa-jāla 因 因 純金網 Sukh-vy. I.
 svarṇa-da 形 金を与える.
 svar-ṇadī 因 天上の川, Gaṅgā 河.
 svarṇa-dvipa 男 因 (=suvarṇa-) 黄金島, おそらく = Sumatra 島.
 svarṇa-dhurya 因 因 黄金と荷物運搬用動物.
 svarṇa-puṅkha 形 金の羽毛を末端につけた (矢). 男 金の羽毛を末端につけた矢.
 svarṇa-prabhasottama (°sa-ut°) 因 因 金光明最勝 Suv-pr.
 svarṇa-bhṛṅgāra 男 金製の水瓶.
 svarṇa-mūla 男 [ある山の名].
 svar-ṇara 男 光輝の主, [Agni 神, 太陽, および Soma

の [名称] (因).

svaraṇa-rekhā 因 (試金石上の) 金のすじ; [ある仙女の名].

svaraṇa-sikha 男 (金の冠毛のある), 青かけす.

svaraṇa-sū 形 金を産出する (山).

svaraṇa-sūtra 因 鎖, 金鎖, 金縷 *Sukh-vy. I.*

svaraṇākara (°ṇa-āk°) 男 金鉞.

sv-ārtha 形 立派な目標を追う, 価値ある目的に向けられた (RV.); 義善 *Divy.*; 妙義, 義妙 *Mvyut.*; 其義深遠 *Lal-v., Saddh-p.*; 義達微妙 *Lal-v.*; 其義微妙, 文義殊勝 *Rāstr.*

svār-dṛś 形 (RV.) 光明または太陽を見る; 太陽のように見える.

svār-dhenu 因 天の牝牛 (=kāma-).

svār-nagari 因 天の都, *Amarāvati.*

svārnagari-kṛta 形 天の都に変えられた.

svār-pati 男 光の主 (因); [*Indra* 神の名称] (因).

svār-bhānu 男 [日食および月食をひきおこす悪魔の名]; 因では = *Rāhu*

svār-miḍha 形 = svār-miḥa.

svār-miḥa 形 光をその戦利品とする (争闘). 因 光を獲得するための闘争 (RV.).

svārya 形 (-ā, 因; -i, 因) 反響する, ほえる, 咆哮する, ひゅうと鳴る, がちゃんと音を立てる (RV.); 音声に有益な (因).

svār-yāta 形 天に行った; 死んだ.

svār-yoṣit 因 天女; *Apsaras.*

svār-loka 男 天界; [*Meru* 山の名称].

svārvat 形 輝く, 天の (因), svār という語を含んだ.

svār-vadhū 因 天女, *Apsaras.*

svār-vāhini 因 天上の川, *Gaṅgā* 河.

svār-vid 形 光, 太陽または天を獲得または所有する, 天の (因).

svār-veśyā 因 天界の娼婦, *Apsaras.*

svār-vaidya 男 二人の天の医者, *Aśvin* 双神.

svār-ṣā RV. 形 [=Sā=San]=vid.

svār-ṣāti 形 光または天を獲得すること (RV.).

sva-lakṣaṇa 形 自身に特有の性質をもっている; 因 相 *Ratna-ut.*; 自性 *Abh-k., Abh-vy., Bodhbh., Lan̄k., Madhy-vibh., Nyāy-pr., Ratna-ut.*; 自…相 *Lan̄k.*; 別相 *Abh-vy., Madhy-vibh.*; 体相 *Madhy-vibh., Ratna-ut.*; 自体相 *Abh-vy.*; 性類 *Abh-k.*; 自己相, 自己性相 *Mvyut.*: ~tā 相自然 *Madhy-v. 63.*

svalakṣaṇa-prajñāpti 因 仮立自性 *Bodh-bh.*

svalakṣaṇa-manaskāra 男 自相作意, 自相思惟 *Abh-vy.*

svalakṣaṇa-sūnya 形 自相空 *Aṣṭ-pr.*

svalakṣaṇa-sūnyatā 因 自相空 *Mvyut.*; 自相本空 *Aṣṭ-pr.*

sv-alamkṛta 形 よくまたは美しく飾られた; 因 妙嚴飾 *Sukh-vy. I.*

sva-lābha 男 自財利, 自所得, 自所有物 *Śikṣ.*

svalābha-saṃtuṣṭa 形 少欲知足, 己利止足 *Saddh-p.*

sva-liṅga 因 自相 *Madhy-v.*

svaliṅgavat 形 常住 *Madhy-v.*

sv-alpa 形 非常に小さい, 僅少な, 短い (時間), または取るに足りない; 因 少 *Divy., Sūtr.*; 劣 *Bodh-bh.* 因 短時間で. ~tas 副 きわめて徐々に.

svalpaka 形 (因 -ikā) [同上].

svalpa-tantra 形 短い章節からなる, 簡潔に書かれた.

svalpatantratva 因 [同上の因].

svalpatara 形 比較 きわめて些細な.

svalpa-duḥkha 因 きわめてわずかの苦痛.

svalpa-dṛś 形 非常に近視的な (譬喩).

svalpa-bala 形 極度に弱いまたは非常に弱々しい.

svalpa-vayas 形 非常に若い.

svalpa-silāya, 名 動 自 非常に小さな岩になる.

svalpāntāra 形 因 殆不異 *Buddh-c.*

svalpi-BHū, 小さくなる, (長所が)消え去る. 因 過受分 ほとんど枯渴しきった.

svalpiyas 形 比較 非常にわずかの (財産).

sva-vamśya 形 自己の一族に属する.

sv-avagraha 形 抑制または統御しやすい.

sva-vacana 因 因 自語 *Nyāy-pr.*

svavacana-viruddha 形 因 自語相違 *Nyāy-pr.*

svavat 1. 副 あたかも自身の所有であるかのよう
に. 2. 形 裕福な.

sv-avadāpita 形 因 善治 *Ratna-ut.*

sva-vargiya 形 自身の血族に属する; 自身の (子音) 群に属する.

sva-vaśa 1. 形 自制力のある, 独立の, 自由な.

sv-avaśa 2. 形 全然自制しない.

svavaśa-ga 形 因 自在, 失調伏 *Rāstr.*

svavaśatā 因 独立, 自由.

sv-avas 形 十分な保護を与える, 助けになる (RV.).

sva-vāda 男 因 自論 *Bodh-bh.*; 自法 *Lan̄k.*

svavāda-vyavasthāpana 因 因 成立一切自論 *Bodh-bh.*

sva-vāsini 因 (未成熟でいまだ) 自身 (の父) の家に住んでいる既婚または未婚の娘.

sva-vikalpa 男 因 自分別 *Bodh-bh., Lan̄k.*; 自妄想, 自心分別, 自所分別 *Lan̄k.*; 自相分別 *Sūtr.*

svavikalpa-citta-mātra 因 自妄想心量, 自心虚妄
覚知, 令知所見皆是自心 *Lan̄k.*

svavikalpa-prasiddha 形 因 自分別, 共所成立
Bodh-bh.

svavikalpābhisamaya 男 因 自分別現証, 自妄想無
間, 分別自分別 *Lan̄k.*

sva-vigraha 男 自己の身体; 因 = 自身を (再帰代名
詞).

sva-vidhi 男 自身の方法. ~inā 因 自身の方法で; 正
しい方法で, 正当に.

sva-vidheya 未受分 独力でまたはみずからなされるべき.

sva-viśaya 男 自国, 故郷; 自身の領域または活動
範囲; 因 境界, 外境, 内外法 *Lan̄k.*; 自国境
Suv-pr. kasmīṣcit ~e 彼の王国のある部分にお
いて.

sva-vṛkti 因 (RV. 用例一回のみ) 我物にすること; 因
因 自身の責任で.

sva-vṛtti 因 自己の生き方；自己の生存または存在；
 独立。～yā, ~qhiḥ 因 因自身の生命を犠牲にし
 てまたはかえりみないで。
 sva-veṣa 漢訳 本身 Av-ś.
 sva-vairitā 因 自分自身に対する敵意。nijāyusaḥ ~
 ṃ Kṛ 自殺する。
 sva-śakti 因 自己の勢威または力；(神の)能力；
 自能 Vijñ-v.；自功力 Bodh-bh. ~yā 因 自己の力
 の最善をつくして、全力を尽して。
 sva-śarira-gatopasthāna (°ta-up°) 漢訳 自身詣彼承
 事 Śikṣ.
 svasārira-jivita 漢訳 身命 Sūtr.
 sva-śāstra-mati-buddhi 因 漢訳 自宗, 自心論 Lank.
 svaśura 男 (=śvaśura)；漢訳 舅 Lal-v.
 svaśrū 因 (=śvaśrū)；漢訳 姑 Lal-v.
 sv-aśva 形 よい馬をもっている (RV.).
 svaśvya 因 (或) よい馬を所有すること；馬術に熟達
 していること。
 sva-samvid 因 自身または真実の存在についての認
 識。形 自己自身を知っている。
 sva-samvṛta 形 自己を守る, 用心している。
 sva-samvedana 因 漢訳 自覚 Mvyut.
 sva-samvedya 未受分 自身にだけ理解できる。
 sva-sadṛśa 形 自己自身に似たまたはふさわしい。
 sva-saṃtāna 男 漢訳 宿習 Ast-pr.；自相統 Abh-ty.
 svasaṃtāna-paripāka 男 漢訳 自身成熟 Sūtr.
 svasaṃtānāvabhāsa 男 漢訳 照自身 Ratna-ut.
 sva-samāna 形 =svasadṛśa.
 sva-samuttha 形 それ自身(燃料)の内に起こる(火)；
 それ自身で生まれたまたは存在する, 自然の。
 sva-sambaddha 形 漢訳 繫屬於自 Bodh-bh.
 sva-sambhūta 形 自身から生まれた。
 sva-sara 因 因 家畜の囲い, 畜舎；いつもの慣れた場
 所, 住居；巢。
 sva-sāmānya 漢訳 自共(相), 自(相)共(相), 自(相)
 同(相) Lank.
 svasāmānya-lakṣaṇa 因 漢訳 自共相, 同相別相, 自
 相同相 Lank.
 sv-asita 形 全く黒い。
 sva-siddha 形 自発的に起こった, おのずから達成さ
 れた；本来それに属している(武器.)
 sva-siddhānta 男 漢訳 自行内法；(音写) 自悉檀 La-
 nk.：～naya 如実, 自宗通, 建立自法, 建立正法
 Lank. 171.
 sva-siddhi 因 漢訳 自性, 自相宗, 自体相. Lank.
 sva-sukha 漢訳 自樂 Sūtr.
 sva-sutavat 形 漢訳 猶如己子, 猶如一子 Bodh-bh.
 svasṛ 因 姉妹(また密接に関係しあいかつ文法上の性が
 女性である事物についての譬喩, 例えば指)；
 外母, 岳母 Mvyut.
 sva-sṛt 形 自身の道を行く。
 svasṛtva 因 姉妹であること, 姉妹の間柄。
 sva-setu 形 自身の橋または土手をもつ (RV.).
 sva-sainya 因 自身の軍隊。
 sva-saukhya-saṅga 漢訳 己樂, 希求己樂 Śikṣ.
 sva-stara 男 自然に撒布された草(寝床として)。

sv-asti 因 福祉, 好運, 成功(因；まれに P., 漢訳 に
 おいて)：因 因 -i, 因 因 よく, 幸福に, 首尾よく(因,
 因)；因 因 とともに, =さようなら；ごきげんよう(手紙
 の冒頭に)；(この 因 因 から外見上 因 因 因 因 を生
 じた, =因 因 または 因 因) 安寧, 繁栄, 僥幸(因, 因)；
 漢訳 吉, 福, 吉慶, 妙樂善 Mvyut.；安穩 Ast-pr.,
 Śikṣ.；安樂 Ast-pr.；吉祥 Bodh-bh.；無病, 無惱
 Divy.；獲吉祥 Śikṣ.
 svastika 男 吟唱詩人(の一種)(まれ)；吉兆のしるし,
 (まんじ) 十字標(卍)；両手を胸に組み合わせるこ
 と；十字型菓子(の一種)。因 因 両脚を組んですわること；
 漢訳 万字 Divy., Sakh-ty. I.；吉祥, 具吉祥
 Mvyut.；蓮花文 Raṣṭr.；(音写) 莎悉帝迦相 Raṣṭr.
 svasti-kāra 男 「svasti, さいわいあれ」と叫ぶ吟唱
 詩人；感嘆語 svasti.
 svastitā 因 安寧または福祉 (Br.).
 svasti-dā 形 安寧または福祉を与える (RV.).
 svastimat 形 幸福に暮す, 無事な, 幸福な(因, 因).
 吉兆の (RV.)；svasti という語を含む (Br.).
 svasti-vāc 因 祝福の言葉, 祝詞。
 svasti-vācana 因 ある祭式を始める際に婆羅門に対し
 て祝福の言葉を述べるように要請する準備的祭式；
 (このような場合に贈られる) 謝礼。
 svasti-vācanika 形 (何かについて) 祝福を述べる。
 svasti-vācya 形 (宗教的儀式の開始に際して) 祝福の
 言葉を述べるように求められるべき。因 =svasti-
 vācana.
 svastya 形 [svasti から] 幸福な, 繁栄する。
 svasty-ayana 因 因 因 幸運な進展, 成功, 好運；祝
 福(の言葉), 祝禱, 祝賀；漢訳 安穩 Saddh-p.；
 成妙善樂 Mvyut.：～ṃ Kṛ, 除(其) 衰患 Saddh-
 p. 400. ~ṃ vācayati, 祝福(の言葉)を求める。
 sva-stha 形 自己に安住している, 自身のありのまま
 の状態にある, ぐあいのよい, 健全な, 健康な(身
 体と精神とにおいて)；害されていない(堤防)；悩ま
 されていない(状態)；快適な, 気楽にしている；
 漢訳 善住 Ratna-ut.；安穩 Divy.；無病, 不病
 Bodh-bh.；身安 Buddh-c.；痊愈 Lal-v.；静住 Sa-
 mkhy-k.；安穩快樂, 住於自性(処) Lank.；除苦惱,
 無復(衆) 患, 身体安穩 Saddh-p.
 svastha-citta 形 心の健全な；漢訳 定 Sūtr.；令心安
 住, 安樂而住 Suw-pr.
 svasthatā 因 安寧, 健康, 安樂。
 sva-sthāna 因 自分の場所, 故郷；漢訳 自処, 自住処
 Lank.
 svasthi-BHū, 自己の本来の状態にもどる, 冷静にな
 る。
 svasthi-bhūta 過受分 漢訳 愈, 得差病 Divy.
 svasya-pūrva-praṇidhāna 因 漢訳 過去願 Ratna-ut.
 svasriya 男 姉妹の息子, 甥：-ā 因 姉妹の娘, 姪。
 sva-sva 漢訳 各各自 Bodh-bh.
 svasva-kāla 男 各自に適した時間。
 svasva-prāṇa 男 因 各自のそれぞれの生氣または生命。
 svasva-bhāva 男 自己生来の性質または氣質。
 svasva-rūpa 因 自己の真実の性質, 性格。
 sva-svāmi-lakṣaṇa-sambandha 男 漢訳 主僕相連続之

縁, 根縁相連続 *Mṛyut.*

svah-sad 形 天上に居住している。男 神。

svah-sarit 形 天上の川, *Gaṅgā* 河。

svah-sindhu 形 [同上]。

svah-sundari 形 天女, *Apsaras.*

svah-stri 形 [同上]。

sva-haraṇa 形 財産の没収。

sva-hasta 形 自分の手, 自筆; 漢訳 自手 *Bodh-bh.*, *Prāt-m*: ~balena 自営為 *Divy.* 499.

svahasta-gata 形 (過受分) 自分自身の手の中に落ちたまたはにある。

svahasta-svastika-stani 形 腕を組んで乳房を覆い隠す。

svahastikā 形 鉞, 鶴嘴鋤, つるはし。

sva-hastita 形 (過受分) 自分の手で保たれたまたは支えられた。

sva-hita 形 (過受分) 自身に有益な; 自分に好意をもっているまたは親切な。形 自身の安寧。

svahita-pratipatti 形 漢訳 自利行 *Bodh-bh.*

svākāra 1. (°va-āk°) 形 みずからの性質, ありのままの氣質, 固有の性質。

sv-ākāra 2. 形 尊敬すべき容貌をもつ, 堂々たる風采の; 漢訳 根性淳熟 *Lal-v.*

sv-ākṛti 形 器量のよい, 顔立ちのよい, 美しい。

sv-ākoṭita 形 漢訳 堅牢, 堅固円満 *Ast-pr.*

sv-ākhyāta 形 漢訳 善説 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Sūtr.*: ~o bhagavato dharmah 演説如来法, 世尊之法 善言 *Mṛyut.* 63.

sv-āgata 形 (過受分) 歓迎された, 正当にまたは合法的に手に入れられたまたは獲得された(財産)。形「歓迎」の挨拶, 歓迎; 安寧, 健康(ま); 漢訳 [人名] 善来 *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-ry.*, *Mṛyut.*, *Sukh-ry. I.*; 善生 *Suv-pr.*: ehi~h 善来 *Bodh-bh.* 146., *Mṛyut.* 281.; 過來, 前來, 好生來, 前來 善来也 *Mṛyut.* 281. ~m te (astu) ようこそいらっしゃいました, 漢訳 善来 *Gaṇḍ-ry.*: ~ kulaputra 善来童子, 善来善男子 *Gaṇḍ-ry.* 595.

svāgata-praśna 形 健康について尋ねること。

svāgata-vacanatā 形 漢訳 先言善来 *Sam-r.*

svāgata-vāditā 形 漢訳 言詞和雅 *Sam-r.*

svāgati-Kr, (その叫びを) '歓迎' に変える(孔雀)。

svāṅga 形 自身の四肢または身体; 字義通りの意味での四肢または身体。

svāṅga-cchāyā 形 漢訳 自(見)其像, 影自(見)影 *Lank.*

svāṅga-bhaṅga 形 自身の身体を傷つけること。

sv-ācāra 形 よい行為, よい行状, よいしつけ(ときどき)。形 行いのよい, 行儀のよい。

svācchāndya 形 [sva-cchānda から] 独立, 自由。形 自発的に。

svājanya 形 [svajana から] 親族関係; 漢訳 為親属, 莫非親 *Lank.*

sv-ājivya 形 安易な生活を可能にする。

svājñā (sva-āj°) 形 自分の命令; 漢訳 (自)解 *Sūtr.*

svātantrya 形 [svatantra から] 独立, 意思の自由; 漢訳 自在 *Abh-ry.* 形 独立して, 自分で, 自分の

ために。

svāti (または i) 第十三(または第十五)番目の月宿; 漢訳 亢 *Divy.*, *Mṛyut.*; 善元 *Divy.*

svāta 過受分 → Svād.

svātman (sva-āt°) 形 自己, 自身(= 正體 代); 自己の本質(ま); 漢訳 自 *Lank.*, *Madhy-v.*; 自体 *Bodh-bh.*, *Madhy-v.*; 自心 *Sūtr.*; 自相 *Madhy-v.*

svātma-prasādhita 形 漢訳 成就果, 応自成 *Lank.*

svātma-bhāva 形 漢訳 己身, 其身 *Lank.*

svātma-vadha 形 自殺。

svātma-hita 漢訳 利自我 *Sūtr.*

svātmāntara-stha 形 漢訳 自身中 *Ratna-ut.*

Svād → Svad.

svāda 形 味, 美味; (詩の)魅力(修辭); 漢訳 味 *Ast-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*; 可味; 巧語著味 *Lank.*

svādāna 形 味わうこと; 漢訳 味 *Lal-v.*; 上妙甘 *Sam-r.*

svādāniya 未受分 風味のよい; 漢訳 美味 *Lal-v.*

svādāna (sva-ād°) 形 自分が当然受けるべきものを受け取る。

svādin 形 [Svad] (一°) を味わう, 享受する。

svādīman 形 美味, 甘味。

svādīṣṭha 形 最上 最も美味な, 最も愛らしいまたは最も快適な(嘆, 麗); (従)より美味な(麗)。

svādīyas 形 比較 (従)より美味なまたは風味がある(嘆, 麗)。

svādu 形 (因-vi) 美味な, 口に合う, 風味のよい; (従)より美味な; 漢訳 美 *Abh-ry.*

svādu-kāma 形 美味または甘美を好む。

svādukāmatā 形 漢訳 愛嘗, 愛嘗, 欲美味, 嘗欲美 *Mṛyut.*

svādum-kāram 形 美味にまたは香ばしくして。

svādutā 形 美味, 甘美。

svādu-rasa 形 美味なまたは快い味をもつ; 漢訳 滋味 *Śikṣ.*

svādūpabhojya 漢訳 美食 *Ratna-ut.*

svādman 形, 男 美味 (RV.)。

svādya 未受分 味わわれるべき, 風味のある, うまい。

svādhikāra 形 自己の職務, 特別の任務。

svādhigama 形 漢訳 自所証, 自所得 *Madhy-vibh.*

svādhīṣṭhāna 形 自身の場所; 身体の6つの *Cakra* の一つ。

sv-ādhi 形 思慮に富んだ, 用心深い, 信心深い (RV.)。

svādhina 形 自身を頼りとする, 独立した, 自由な; 自身の勢力または支配の及ぶ範囲内にある, 自身の自由になる; 漢訳 自在 *Ast-pr.*; 単己, 主宰 *Śikṣ.*

svādhinatā 形 自由, 独立。

svādhina-patika 形 夫を尻の下に敷いている。

svādhina-bhartṛka 形 [同上]。

svādhyātavya 未受分 漢訳 応読誦 *Ast-pr.*

svādhyāya 形 一人で復唱すること, (Veda 聖典の) 学習; (Veda 聖典を) 声高に暗誦すること; 漢訳 誦 *Ast-pr.*, *Divy.*, *Madhy-vibh.*, *Saddh-p.*; 誦誦 *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; 誦誦 *Madhy-vibh.*; *Saddh-p.*; 誦念 *Lal-v.*; 習誦 *Saddh-p.*, *Sūtr.* ~m śrāvayati Veda 聖典を高声に

暗誦させる。
 svādhyāya-kriyā 因 讀歎, 吟詠讀誦 *Bodh-bh.*
 svādhyāya-dhṛk 形 *Veda* 聖典を学習する。
 svādhyāyana 因 誦讀 *Madhy-vibh.*, *Mañj-m.*,
Mvyut.; 誦讀 *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*
 svādhyāyanikā 因 誦讀 *Divy.*
 svādhyāya-rata 形 樂誦 *Saddh-p.*
 svādhyāyavat 形 =svādhyāyadhṛk.
 svādhyāyita 過受分 誦 *Divy.*; 誦讀 *Divy.*, *Sa-*
ddh-p.
 svādhyāyinikā 因 誦讀 *Divy.*
 svādhvika 形 自世 *Abh-vy.*
 svāna RV. 形 [Svan] あえぐ(馬); ガタガタ走る
 (車). 男 音響, 騒音, ガタガタ鳴ること(RV.); (弓
 の弦が)ブウンと鳴る音(響).
 sv-ānama 形 引き寄せられやすい, 誘惑されやすい
 (婦人).
 svānubhāva 男 財産を享有するまたは好むこと.
 svānurūpa 形 自身に似ている; 自分の流儀(仕方)に
 かなう。
 svānuvṛtti 因 自行 *Sūtr.*
 svānta 男 自己の終り; 自己の死; 自己の領域, 領
 土. 因 (自我の領域), (喜怒哀楽の感情の座として
 の)心(普通の意味).
 svānta-ja 男 (心から生ずる)愛, 恋愛.
 svāntavat 形 心をもっている。
 svāpa 男 [Svap] 眠り(普通の意味); 夢; (手足の)麻
 痺。
 svāpateya 因 [sva-pati から] 自己の財産, 富; 主
 宰, 自作主宰 *Mvyut.*
 svāpana 形 [Svap 使役] 眠らせるまたは寝つかせる。
 svāpaya, Svap 使役. → Svap.
 svāpa-vyasana 因 過度に眠りにふけること, 怠惰。
 sv-āpi 男 よい親族または仲間(因).
 svāpika 因 [ある城塞の名].
 svāpimat 形 svāpi(という語)を含む(Br.).
 sv-āpta 形 非常に豊富な; 非常に巧みなまたは信頼で
 きる。
 svāpyaya 男 自身のなかに帰入すること(睡眠 *svapna*
 の説明として).
 svābhāvika 形 (因 -i) [svabhāva から] 自身の本質
 に属する, 自然の, 本来の, 独特の, 生得の, 固有
 の; 性, 自性身 *Sūtr.*; 実体, 自性 *Lank.*; 有
 自体, 有自性, 自有性 *Madhy-v.*; 自然得, 自体本
 有, 実仏, 実法 *Madhy-vibh.*, *Ratna-ut.*
 svābhāvika-kāya 実体身 *Ratna-ut.*
 svābhāvikatva 因 自体本有, 自然得 *Madhy-vi-*
bh.
 svābhāvika-vapus 実法身 *Ratna-ut.*
 svābhāviketara (°ka-it°) 形 生得でない。
 svābhāvya 因 [svabhāva から] 特性, 天性; 自
 性 *Bodh-bh.*; 自体, 定性 *Madhy-v.*
 svābhimukha 形 互向自面 *Abh-vy.*
 svābhisambodhi-sthāna 因 証得 *Ratna-ut.*
 sv-ābhū 形 (RV.) 豊富に存在する, 手渡す準備ので
 きた; いつでも助ける用意のある, 親切な。

svāmika 形 一°, =svāmin, …の主人等; 主宰
Bodh-c., *Śikṣ.*
 svāmi-karman 因 主公務 *Śikṣ.*
 svāmi-kāryārthin 形 自分の主人の利益を求める。
 svāmi-kumāra 男 [(*Svāmin* および *Kumāra* と呼ば
 れる)軍神の名].
 svāmi-guṇa 男 統治者の徳。
 svāmitā 因 (屬, 一°)の所有権, 主権または支配権。
 svāmitva 因 [同上]; 主, 是主 *Sūtr.*
 svāmin 男 [sva から] (屬, 因, 一°)の所有者・支配
 者または主人;(軍隊の)指揮者; 夫; [*Skanda* 神の
 名稱]; (しばしば一°)(ある神, とくに *Śiva* 神の)像;
 [人名]: -i 因 女主人, 主婦, 女性の支配者; 主
 主 *Aṣṭ-pr.*, *Av-ś.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, 梵千., 梵維.;
 王 *Lal-v.*, *Mvyut.*; 君 梵千.; 夫 *Divy.*; 尊 *Mv-*
yut.; 主宰 *Śikṣ.*; 国主, 土主, 牛主 *Abh-vy.*; 其
 主, 家主, 宰官 *Bodh-bh.*; 曹主 *Divy.*; 宅主 *Sa-*
ddh-p.; 自在主 *Śikṣ.*; sva~ 所主能主 *Mvyut.*
 201.; ~vat 似我 *Mvyut.* 208.
 svāmi-pāla 男 圖 (家畜の)所有者と牧者(番人).
 svāmi-prasāda 男 因 閣下のお許しによって(=失礼
 ですが).
 svāmi-bhūta 形 為主, 為家主, 得自在身 *Bodh-*
bh.; 居士位 *Sūtr.*
 svāmi-sevā 因 主人に仕えること, 奉公; 夫に仕える
 こと。
 svāmi-hita 因 主人の幸福。
 svāmya 因 [svāmin から] 所有権, 主権, 統治権, (あ
 る人に対する)支配力。
 svāyatta (°va-āy°) 形 (過受分) 自身に頼っている
 またはもたづんでいる, 自己の意のままになる。
 svāyattatva 因 [同上 因].
 svāyatti-Kṛ, (業)を自身に従わせる。
 svāyambhuva 形 自存者 (*Svayambhu*, *Brahman*)
 に関するまたはに属する; *Manu Svāyambhuva* に
 関する等. 男 ある *Manu* または *Marici*, *Atri* および
Nārada の交系。
 sv-āyasa 因 形 よい金属で作られた(斧, ナイフ).
 sv-āyuj 形 くびきをつけやすい (RV. 用例一回のみ).
 sv-āyudha 形 よく武装された(因).
 svāra 男 [Svar] 音, (馬の)いななき (RV. 用例一回の
 み); (*Svarita*)アクセント (S.). 形 *Svarita* アクセ
 ントをもつ. 因 *Svarita* で終る *Sāman* (Br., S.).
 sv-ārakṣita 形 善護, 常護 *Sukh-vy. I.*
 sv-ārakṣya 形 守りやすい, 保護しやすい。
 svārasika 形 [svarasa から] 自然の, 自明の。
 svārājya 因 [svarāj から] 自治, 他から制限されるこ
 とのない主権。
 sv-ārādhita 形 (過受分) よくなだめられた, 大いに崇
 拝された, 忠実に仕えられた(君主).
 sv-ārociṣa 男 [svarocis から] [第二の *Manu* の交系].
 形 *Manu Svārociṣa* に関する。
 svārjita 形 自得の。
 svārtha 男 自身の事柄または事情, 個人的な問題または
 利益, 自身の目的または対象; (語の)固有の(=本来
 の)意味(文法). ~m または ~e 自身のために. 形

自身に向けられた、自分本位の；その目的に適合した；**漢訳** 自義 *Bodh-bh.*, *Sūtr.*；自利 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Ratna-ut.*；自事 *Sāṃkhy-k.*；自境、自塵 *Abh-vy.*

- svārtha-kriyā** 因 **漢訳** 自事 *Bodh-bh.*
svārtha-ghātin 形 **漢訳** 自害 *Śikṣ.*
svārtha-niṣṭhā 因 **漢訳** 自利究竟 *Sūtr.*
svārtha-para 男 自身の利益だけを考えている。
svārtha-prayatna 男 自己本位の企て。
svārtha-prāpti 因 **漢訳** 自利 *Sūtr.*
svārtha-māhātmya 因 **漢訳** 自利大 *Sūtr.*
svārtha-saṃpatti **漢訳** 自利成就 *Sūtr.*；成就自身利益 *Ratna-ut.*
svārtha-saṃpad 因 **漢訳** 自利益，示現自利益，為自利利益 *Ratna-ut.*
svārtha-sādhaka 形 自身の目的を促進する，自己の目的に奉仕する。
svārtha-sādhana 因 自身の目的の促進または達成。
svārthika 形 [svārtha から] 本来の意味を保持する，他の意味を加えない (接尾)。
svārthin 形 **漢訳** 自利，自利心 *Sūtr.*
sv-ārdra 形 非常にぬれた，大変しめった。
svālakṣaṇya 因 [svālakṣaṇa から] 固有の特徴，特性，独特の性質；**漢訳** 自相 *Sāṃkhy-k.*
svāvaśya 因 [svavaśa から] 自決，自己決定 (Br.)
sv-āvṛj 形 得やすい (RV. 用例一回のみ)。
sv-āveśa 形 近寄りやすい。
svāśiṣātman (sva-āś°, °sā-āt°) 形 自身の欲望だけを考える。
svāśraya (°va-āś°) 形 **漢訳** (如) 身量 *Abh-vy.*
sv-ās 形 (RV.) 美しい口をした (*Agni* 神)；鋭い口をした，鋭い刃をもった (斧)。
sv-āsanaka 形 **漢訳** 安穩而坐 *Divy.*
svāsantānika 形 **漢訳** 自相続 *Madhy-vibh.*
sv-āsa-stha 因 形 よい座にすわった；よい座を提供する。
svāsāntānika 形 **漢訳** 自相続 *Abh-vy.*, *Madhy-vibh.*；自身，相続，自相続，数習力 *Abh-vy.*
svāsāstarāṇa (°sa-ās°) 形 よいしとねをもつ。
svāsāstirṇa (°sa-ās°) 形 [同上]。
svāsthya 因 [svastha から] 快適または健全な状態，健康，安楽；**漢訳** 無病 *Ratna-ut.*
svāhata (°va-āh°) 形 自分自身で打ったまたは鑄造した。
svāhā 不変 (神格の爲；に対してまたはの上に) 幸あれ！祝福あれ！祈禱の終りに用いる：そわか：+Kr, (業) にむかって “svāhā” とする；**漢訳** 安定，侵地界 *Mvyut.*；**音写** 莎呵 *Bodh-bh.*；莎賀 *Guhy-s.*；莎訶 *Prajñ-h.*；娑婆訶 *Lal-v.*, *Prajñ-h.*；僧莎訶，薩婆訶，莎婆訶，娑縛訶，娑嚩訶 *Prajñ-h.*；嚩波訶 *Bodh-bh.* 因 *Dakṣa* の娘および *Agni* の妻として擬人化されたもの。
svāhā-kāra 男 感嘆詞 “svāhā” の発声またはによって清めること。
svāhā-kṛta 形 “svāhā” によって清められたまたは奉獻された。

- svāhā-kṛti** 因 “svāhā” による清め；[*Āpri* 讃歌のある神格の名]。
svāhā-pati 男 *Svāha* の夫，*Agni* 神。
svāhā-vallabha 男 [同上]。
sv-āhuta 形 (過受分) …によく捧げされた，に対して正しい献供を行なった (RV.)。
sv-āhvāna 形 勸請しやすい。
Svid, I. 他 *svedati*, IV. 他 (自韻律) *svidyati* 汗をかく，発汗する。**三過分** *siṣvidāna* 汗をかいている (RV.)。**過受分** *svinna* 汗をかいている，発汗している；汗だらけにされた (他動)；煮られた (食物)。**使役** *svedayati* 他 汗をかかせる，発汗剤を用いて治療する。**過受分** *svedita* 蒸された，柔かにされた (くしがや類の雑草)。
svid 1. 形 (一°) 汗をかく。
svid 2. **附帯** **不変辞** おそらく，どうぞ：一般に **四代** *ka* (およびその **転成**) の後に用いられ，ときどき (*api* および *cana* と同様に) 不定の意味を与える：*kaḥ svid* …する人はだれでも，何人でも；また **不変辞** *api* (**四代**)，*uta*，および *āho* の後に用いられる；また二重疑問において，*kim nu—svid*, 等。
svinna **過受分** → *Svid*.
sv-iṣṭa 1. 形 大いに望まれた，大変愛された (人)。
sv-iṣṭa 2. 形 (過受分) よく献供された，正しく供えられた。因 正しい献供。
sviṣṭa-kṛt 形 正しい献供を行なう；[とくに *Agni* 神の名称]；*Agni Sviṣṭakṛt* に属するまたはささげられた等。
sviṣṭakṛd-bhāga 男 *Agni Sviṣṭakṛt* の分け前。
sviṣṭakṛd-bhājana 因 *Agni Sviṣṭakṛt* の代わりとなるもの，代用。
sv-iṣṭi 因 上首尾の献供，成功した献供。
svi-karaṇa 因 自身のものにする，受け取る，何かを手に入れること；妻にめとること，結婚；同意すること，承諾。
svi-kartavya 形 (未受分) 受け取られるべき；**漢訳** 応取積 *Bodh-bh.*
svi-kartṛ 男 (誰かを) 手に入れようと欲する人。
svi-kāra 男 獲得；(ある人の) 受入れ；同意，約束。
svikāra-graha 男 強奪。
svi-kārya 形 (未受分) …が手に入れられるべき；受け取られるべき；自分の支配下に置かれるべき (人)；…に同意されるべき。
svi-Kṛ, 自, 他 (業) 自身のものにする，手に入れる；(ある人) を自身のものにする，結婚する (めとる)；独力で得る，(心等) を自由にする，支配する；自 受け取る，…を承諾する，裁可する。**使役** (ある人) をして…を手に入れさせる，(業) に (業) を贈る；**漢訳** 受 *Bodh-bh.*, *Prāt-m.*；肯 *Śikṣ.*；耽樂，耽著 *Bodh-bh.*；摂受 *Daś-bh.*；作己有，為自利 *Śikṣ.*；執為己有 *Bodh-bh.* *bhāryārthe* ~ 妻にめとる；*snuṣāt-vena* ~ 嫁に選ぶ。
svi-kṛta **過受分** **漢訳** 為己有，為自境 *Abh-vy.*
sviya 形 自身 (sva) に属する，固有の。男 因 自身の身内 (家族，部下)，自分の親戚，血族。
sviyā 因 (真に) 自身の (ものと呼ばれ得る) 妻。

sviyi-Kṛ, 自身のものにする, …を占有する(異読).
 sveccha (sva-ic°), 副 〇— または -m, 自身の願望にしたがって, 気の向くままに, 随意に, 自発的に, 自由意志で.
 svecchā (sva-ic°) 因 自身の欲望 または 意志, 自由意志; 自欲樂 Bodh-bh. 圓, 〇—, または tas, 自身の欲望にしたがって, 随意に, 自身の自由意志によって.
 sveta 形 =śveta; 白 Divy.
 sveda 男 [Svid] 汗(汗のしずく); 発汗剤(医薬上の); 汗 Bodh-c., Divy., Mvyut., Śikṣ.
 sveda-ja 形 汗または湿気のある熱から生じた(害虫). 因 害虫.
 sveda-jantuka 男 細汗虫, 髮汗虫 Abh-bh.
 sveda-jala 中 汗, 発汗.
 svedajala-kaṇa 男 汗のしずく.
 svedajala-kaṇikā 因 [同上].
 svedana 中 発汗させること, 発汗治療.
 sveda-bindu 男 汗のしたたり.
 sveda-malāvaksipta 形 汗染諸垢, 流汗染垢費力以成者 Mvyut.
 sveda-leśa 男 =svedabindu.
 sveda-vāri 中 汗
 svedāmbu 中 [同上].
 svedāyana 中 汗の道, 毛孔.
 svedodgama (°da-ud°) 男 発汗.
 svedya 使役 未受分 [Svid] 発汗剤によって治療されるべき.
 sveṣṭa (sva-iṣ°) 過受分 自分にとって可愛い.
 sveṣṭa-devatā 因 自己の敬愛する神格, 親愛な神.
 sveṣṭa-daivata 中 [同上].
 svaira 形 ゆっくりまたは注意深く動いている(まれ).
 ~m 副 (自己の) 好みまたは意志にしたがって, み

ずから進んで, 何の妨げもなく, 何の苦もなく, むやみに, でたらめに; 自由に, 腹蔵なく, 遠慮なく(話す); おそく, 静かに, 注意深く; 恐れずに; 随意 Abh-vy. 因 圓 svaireṣu 腹蔵のない場合, 無関係の事柄において.

svaira-kathā 因 遠慮のない会話.
 svairakam 副 単刀直入に, 率直に, あからさまに, 遠慮せず.
 svaira-gati 形 自由にさまよう, 自由勝手にふるまう.
 svaira-cārin 形 思うがまままたは気ままにふるまう, 自由な.
 svaira-vihārin 形 随意に歩きまわる; 反抗を受けることのない(命令).
 svaira-vṛtta 過受分 (自己の) 欲する通りに行なう.
 svaira-vṛtti 形 気ままにふるまう, 抑制されずに行動する.
 svaira-stha 形 無頓着な, 無関心な, 気苦労のない, 平静な.
 svairācāra (°ra-āc°) 形 自由奔放にふるまう.
 svairālāpa (°ra-āl°) 男 遠慮のない会話.
 svairin 形 自由の, 独立の,(とくに婦人について)放縦な.
 svocita (sva-uc°) 過受分 自身に適した または ふさわしい → Uc.
 svojas 形 非常に強い (Indra 神; RV.).
 svottha (sva-ut°) 形 自身のなかに生じた, 生まれつきの, 生来の.
 svotthita 過受分 自己のうちに生じた または 自己に起因した. → Sthā.
 svopārjita (sva-up°) 過受分 自身によって獲得された, みずからかちとった.
 svoras (°va-ur°) 中 自己の胸.
 svola 男 音写 率歩羅, 率薛羅 Mvyut.

H

ha 1. 附帯 不変翻 (先行する語をわずかに強調する); (S. においては) 勿論, 確かに(ある見解についての著者の同意を表明する); (因 においては) きわめて普通に単なる付加語としてとくに詩の終りに用いられる).
 ha 2. 形 [Han から] (一°) を殺害する・破壊する. 男 …の殺害者.
 ha 3. 形 [Hā から] (一°) を去る・棄てる.
 haṃsa 男 がちょう(渡り鳥, Brahman の乗物) または 水鳥の一種(因 においては Soma を水から, 因 においては牛乳を水から分離する力を所有する); (がちょうのように白くかつ移り住む), 靈魂, 個我, ときとして世界靈魂(U., 因): Nārāyaṇa, Viṣṇu, Kṛṣṇa および Virāj の諸神(と同一視される); 苦行者(の一種); [人名]; 鵞 Bodh-c., Divy., Mvyut., Raṣṭr.; Śikṣ., Sukh-vy. II., 梵雜.; 雁 Lal-v.; 鴈

Divy.; 白鵞 Sukh-vy. II.; 鵞鳥 Buddh-c.
 haṃsaka 男 (小さなまたは劣った) がちょう. 男 または 中 足首の飾り.
 haṃsa-gāmini 形 因 Haṃsa のような足取りで歩む, 優雅に歩む.
 haṃsa-cihna-dukūlavat 形 がちょうの図柄の(織り込まれた)衣服をまとった.
 haṃsatā 因 がちょうの状態.
 haṃsa-tūla 中 がちょうの綿毛.
 haṃsatva 中 =haṃsatā.
 haṃsa-dvāra 中 がちょうの門, [Mānasa 湖に至る通路の名].
 haṃsa-dvipa 男 [ある島の名].
 haṃsa-nāda 男 [ある妖精の名].
 haṃsa-pada 中 (標識としての) がちょうの足.
 haṃsa-padikā 因 [Duṣyanta の最初の妻の名].

haṃsa-mālā 因 がちょうが群れをなして飛んでいくことまたはその群。
haṃsa-yāna 因 乗物としてのがちょう, がちょうにひかれた車. 形 (因-i) がちょうの背にまたがる。
haṃsa-ratha 男 [人名].
haṃsa-rāja 男 がちょうの王, 大がちょう. 男 [人名].
haṃsavat 形 haṃsa (という語) を含む (Br.).
haṃsavati 因 [人名, とくに *Duṣyanta* の最初の妻の名].
haṃsa-vāhana 男 (がちょうの背に乗る), [Brahmā の 名稱].
haṃsa-vikrānta-gāmin 形 形如鶴, 行法如鶴王 *Mvyut.*
haṃsa-vega 男 [人名].
haṃsāya, 名動 因 がちょうを表わす, がちょうのようである。
haṃsāvati 因 [人名].
haṃsāvali (°sa-āv°) 因 がちょうの群れ; [人名].
haṃsikā 因 雌のがちょう; 因-i [同上].
haṃsendra (°sa-in°) 男 鶴王 *Mvyut.*
haṃho, 呼びかけの 因投。
ha-kāra 男 喚 梵千; (音写) 呵字 *Lal-v., Lanik.*
hañje, 呼 不変辞 (舞台上で侍女に呼びかける際に用いる).
haṭṭa 男 市, 縁日; 漢 市 *Mvyut.*, 梵 梵千.
haṭṭha 男 力, 暴力; 頑固; 絶対的な必然性 (一切の存在の原因としての); 不自然な瞑想 (多大の苦行を伴うヨーガの一種); 漢 勉勵, 率意 *Bodh-bh.* ~ena 因, ~āt 因, °一, 力によって, 力づくで, 強制的に; 絶対的な必然性を以て, 不可避的に, やむを得ず, いやおうなしに; ~āt 因, °一, 執拗に, ねばり強く; °一 また = 形 無理な, 不自然な。
haṭṭha-karman 因 暴行, 暴力行為。
haṭṭha-yoga 男 不自然なヨーガまたは瞑想の一種 (心を外界の対象から内面へと無理に向けさせること; *Svātmarāma* の著 *Haṭṭhapradīpikā* のなかで取り扱われているが, 例えば片足で立つとか両腕をあげるとか, 逆立ちして煙を吸い込むとかいうような多大の苦行を伴って行なわれる); 漢 逼遣方便; 率意方便 *Bodh-bh.* → *rājayoga.*
haṭṭha-sarman 男 [ある 婆羅門の名].
haṭṭhādeśin (°ṭha-ād°) 形 (因) に対して強制的な規則を指示する。
haṭṭhāśleṣa (°ṭha-ās°) 男 無理やりに抱擁すること。
haṭṭhikā 因 大喧噪, 大音響。
haṭṭi 男 ある 蔑視されたカースト; 漢 伽 *Divy., Lal-v.*
haṭṭi-nigāḍa 因 伽鎖, 杵械 *Saddh-p.*
haṇḍe 呼 不変辞 (舞台上で下級の人を呼び掛けるのに用いられる).
hata 過受分 → Han.
hataka 形 (一°) によって苦しめられた (運命); 一° (一° の代りに, 一般に名前の後に), 呪われた, あわれむべき。
hata-kilbiśa 形 (自己の) 罪を抹殺したまたはぬぐい去った。

hata-cetas 形 落胆した, ろうばいした。
hata-cchāya 形 魅力を奪われた, 美しさを失った。
hata-jivana 因 呪われた生, みじめな生活。
hata-jivita 因 [同上].
hata-iyotir-niśitha 男 星のない夜。
hatatva 因 害, 滅除 *Abh-vy.*
hata-tviṭka 形 光を奪われた, 輝きを失った。
hata-tviṣ 形 [同上].
hata-putra 形 その息子または息子達が殺害された。
hata-buddhi 形 理解力を失った, 知性を失った。
hata-mati 形 知性を失った, 狂気の。
hata-māna 形 慢断 *Sātr.*
hatt-mānasa 形 落胆した, 失意の。
hata-mūrkhā 男 大馬鹿, あほう。
hata-varcas 形 力を失った, 衰えた, 朽ちた (AV.).
hata-vidhi 男 呪われた運命. 形 不運な, 悪い星のもとに生まれた。
hata-viṣa 男 除毒, 去毒, 伏毒 *Mvyut.*
hata-vṛtta 形 韻律の不完全な, 欠陥のある。
hata-śiṣṭa 形 殺害を免れた, 生き残った。
hata-śeṣa 形 [同上].
hata-satkāya-sāra 形 害身見 *Ratna-ut.*
hata-hṛdaya 因 呪われた心または悲嘆に沈んだ心。
hatāyus (°ta-āy°) 形 寿命損減 *Sivik-pr.*
hatāśa (°ta-āśa) 形 希望を失った, 絶望した; 見込みのない, 救いようのない = あわれむべき, 愚かな, 邪悪な (ときとして 戯れて用いられる).
hati 因 [Han から] (一°) で打つこと, 打撃; 殺害; 破壊; 喪失, 消失; 追放; 欠陥。
hatnu 形 [Han から] 致命的な, 死すべき (RV. 用例一回のみ).
hatya 因 (一°; 因) の殺害・殺戮。
hatyā 因 [同上].
hatha 男 打つこと, 打撃等 (因).
haduna 因 音写 哈独南 [数の名] *Mvyut.*
Han, II. 因 hanti (因 ha, ghn; 因 jahi). I. 因 ji-ghnate (因), 因 を打つ, たたく, (因) にあてる; うち落す; たたき落す; 命中する; 殺す, 殺害する; いためる, 害する, 破壊する, (暗黒を) 追い散らす; 因: 死刑を課す, 死刑を執行させる; (心等を) 傷つける, 苦しめる; 妨げる, 妨害する; 抑制する, 断念する, 放棄する; 破 *Madhy-v.*; 打 *Mvyut.*, 梵 梵千; 殺 *Abh-vy., Mvyut., Prāt-m.*; 害 *Sātr.*; 滅 *Abh-vy.*; 壊 *Aṣṭ-pr.*; 除, 降伏 *Suv-pr.*; 撃 *Saddh-p.*; 崩壊 *Buddh-c.* 過受分 hata, 打たれた, たたかれた (また太鼓について); 殺された, 殺害された; 破壊された, 失われた; 因: はねられた (首); まき上げられた, 上げられた (塵); (因, 一°) によって命中された; (悲嘆, 病気等; 因, 一°) によって打ちのめされた, 苦しめられた, 悩まされた, …と苦闘する; 傷つけられた; 喪失された, 消失した (きわめて普通 °一 = を奪われた); 破滅・零落した (絶望した人について); 無価値な, 無益な; 欠陥のある; 呪われた, みじめな; あざむかれた, だまされた; を奪われた, (善行, -tas) …から墮落した; (視界, 一°) から引込められた; 乗じられた, 掛けられ

た(数学); 破 中 *Lal-v.*; 除 *Divy.*, *Lal-v.*; 損減 *Suv-pr.*; 減, 殺已, 損害 *Abh-vy.*; 打, 刺, 捶 *Mvyut.*; 所内 *Abh-vy.* 使役 毘 *ghāṭayati* → *ghātaya*; 破, 制 *Lal-v.*; 開 *Av-s.* 希羽 *jigh-āṃsati* 毘 (自 韻律) 命中させようと思う, 打ち倒そうとする, 殺害または破壊しようとする; 殺, 害意 *Abh-vy.* 毘 (自 韻律) (RV.) *janghanti*, *janghanati*, (業, 毘) を踏みつぶす; 殺害する; 破壊する. 現分 *janghanatjanghnat* および *janighnat*.

vy-ati- (業) を打ち返す; 相互に打ち合う, 共に戦う.

apa- (業) を打ちはらう; 撃退する, 追い払う. 自 自己から防ぐ・撃退する. 過受分 *apahata* 打ち落された(首); えぐり出された(眼); 撃退された, はねつけられた, 追い払われた; 挫折した.

vy-apa- 妨げる.

abhi- (強打または飛道具を用いて) 打つ; 殺害する; (太鼓を) たたく, (法螺貝を) 鳴り響かす. 毘 (業, 一) によって苦しめられたまたは攻撃された.

過受分 *abhihata*, 打たれた, たたかれた, 打ちのめされた; 打ち砕かれた; (業, 一) によって攻撃された・影響されたまたは悩まされた; 毘 撃 *Divy.*; 指 *Lal-v.*; 最憂愁 *Mvyut.*

ava- 打ち落とすまたはたたき落とす; 打ち返す, はねつける, 撃退する, 防ぐ; 打殺する.

ā- (業, 毘) を打つ, …に命中する; (太鼓を) 鳴らす, (鈴, 楽器を) 鳴り響かせる; 襲う, 攻撃する; 自己を害する (自). 過受分 *āhata*, 毘: 打たれた, 打ちのめされた; (火花, 一) によって焼き焦がされた; 打たれた (太鼓), 鳴らされた(鈴, 楽器); 槌打たされた, 刻印された(黄金); (鋤, 一) によって掘り返された; 立てられた(塵); RV.: (輪に) はめこまれた(軸); 毘: 苦しめられた, 害された; (一) によって覆われた; 破壊された, 挫折させられた; 乗じられた, 掛けられた; 合同した(aに先だたれた *visarga* が o に変じた場合について).

abhy-ā 打つ, 命中する. 過受分 打たれた, たたかれた; (一) によって攻撃されたまたは苦しめられた.

praty-ā- 過受分 防護された, 撃退された.

vy-ā- 打つ; 苦しめる; 妨げる, 妨害する. 過受分 打たれた; 撃退された, 打ち負かされた; 妨げられた, 妨害された(普通の意味); 矛盾している; 毘 礙, 相衰, 違犯 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*

sam-ā- 一緒に打つ; 打つ, …の上をまたはに対して打つ; 打ち倒す, 殺害する; (太鼓を) たたく.

過受分 一緒に打たれた; 結合された; 命中された, たたかれた(太鼓).

ud-(dhan) 持ち上げる, 投げ上げる(RV.); 自 くびをつって死ぬ. 過受分 *uddhata*, Br.: (徒) よりも高められた; 毘: 舞い上げられた(ほこり); 増水した(河川等); 非常に高い(雲); 上げられた; 激しい, 強烈な, 過度の; 得意満面の, 誇り高い, 高慢な; (業, 一) でふくれあがったまたはで満ちた; かき乱された, 興奮した, 憤激した(正確とはいえないが *uddhuta* または *uddhūta* の代りに用いられる.

upod(upa-ut)-(dhan), 希羽 解明しようとする. *sam-ud-* 過受分 上げられた(ほこり); うねる, 増水する(水); (一) の上に高く流れる(河); 上にあげられた, 持ち上げられた; 強烈な, 過剰な; 得意になった, 慢心した, 傲慢な; (一) でふくれあがった, 一杯になった; 動かされた, 動揺させられた, かき立てられた(*samuddhuta* より正しくない).

upa- 毘: …に対して打つ, …と衝突する, 触れる; (業) の上にとまる, 降りる; 躊躇する, (読誦する際に) 言葉につまる; 毘, 毘: 妨害する, …に干渉する; 害する, 傷つける, 破壊させる; 毘 謬 *Saddh-p.*; 破, 害 *Sutr.*; 悩, 損悩 *Bodh-bh.*; 減, 為損, 損害 *Abh-vy.* 過受分 触れられた; まき散らされた, 覆われた; 殺害された; 苦しめられた, 攻撃された, 傷つけられた; だめにされた, 汚された, 曇らされた; 圧倒された; 落胆させられた; (業) によって腐敗・墮落させられた; 非難された, 論議された(*an-*として).

sam-upa- 過受分 害された(知性).

ni- (業) の中にまたはの上に打つ; (業) に投げつける; 射当てる; 襲う, 攻撃する; 打倒する, 殺害する, 殺す(普通の意味); 征服する, 運命を克服する; 罰する; 破壊する; 無効にする, 挫折させる, 除去する; 低められた音調 すなわち *Anudātta(nighāta)* によって発言する; 毘 滅 *Abh-vy.*; 除, 推滅 *Divy.*; 滅除 *Buddh-c.*; 損壊 *Sikṣ.*; 離 *Sutr.* 過受分 *nihata*, RV.: 投げつけられた; 毘: 打ち当てられた; 打ち落された; 打倒された, 殺害された, 殺された; 破壊された; 破滅した(人, 困っている人); 失われた, 見えない(路); *Anudātta* アクセントによって発言された.

abhi-ni-, つばを吐きかける(RV.); 毘: …に打ってかかるまたはにぶつかる; (太鼓を) たたく.

upa-ni- 破 *Lal-v.*

pra-ni- (業, 業) を破壊する.

vi-ni- 打つ, 打ち落とす, 打倒する; 殺害する, 殺す, 破壊する. 過受分 打ち倒された; 殺害された, 殺された; 破壊された; 追い散らされた(暗黒); 無視された(命令); 毘 降 *Lal-v.*, *Sam-r.*; 伏 *Lank.* 降伏 *Lank.*, *Sikṣ.*; 滅, 破尽 *Raṣṭr.*

nir- 毘: (両眼, 歯を) たたきだす, えぐり出す; 払い払う, 破壊する, 除去する; (業) に対して(飛道具)を飛ばす; 毘 殺害する(*ni-*より正しくない).

adhi-nir- (徒) から抹消する.

parā- 投げ捨てる, 顛覆する(RV.); 切り取る (毘 叙詩); 毘 撃 *Lal-v.*, *Saddh-p.*, *Sukh-vy. I.*, 梵維; 槌撃 *Lal-v.*; 按 *Gand-vy.*; 指 *Lal-v.* 過受分 (業) 追い払われた; そむけられた(顔); 争いあう, 相容れない; 取りのぞかれた, 論破された.

pari-, 毘 変化を受ける; ゆるめられる, 減少する. 過受分 *-hṛta* に対する不正確な代用.

pra- 打つ, …に打ってかかる; 打ち倒す, 殺す. 過受分 打たれた; たたかれた(太鼓); 打ち砕かれた, 粉々にされた; 切り倒された(樹木); 殺害された. 使役 毘 殺, 殺害, 毀壞 *Divy.*

niṣ-pra- (業) を打ち倒す, 殺す.

prati- (圖; Br.) にぶつかる; RV.: 押しつぶす, 破る; 焼串の上に置く; 圖: 攻撃する; 打倒する; はねのける, 防護する, 反対する, 抵抗する, 追い払う, 妨げる, 抑制する (普通の意味); (命令: ājñā を) 無視する; 圖 礙 *Sam-r.*; 遮, 解除 *Abh-vy.*; 侵害, 壊除 *Divy.*; 行加害 *Bodh-bh.*; 為対害 *Śikṣ.* 圖受分 …に衝突した; (因, 一°) にぶつかった; はねかえされた, 防護された; 追い払われた, 撃退された; 抑制された, 妨げられた, 妨害された. 圖 壞 *Saddh-p.*; 障礙, 所障礙, 所罣礙 *Ast-pr.*; 滅失, 樂著 *Śikṣ.*

vi- 因 破る, 打ち砕く, 破壊する; 追い散らす; (皮を) 括げる; 圖: 避ける, はねつける; 中断する, かき乱す, 妨害する, 挫折させる; (要請を) 拒絶する, 斥ける; 破壊する; しばしば *nihan* に対する不正確な代用; 圖 障 *Abh-vy.*; 匱乏 *Bodh-bh.* 圖 當受苦報, 受諸劇苦 *Ast-pr.*; 憂悩, 受諸苦悩, 没在於苦悩 *Saddh-p.* 圖受分 苦しめられた; はねつけられた (人); 防護された; かき乱された, 妨害された.

saṃ- (両手を) 一緒に置くまたは合わせる; (両眼を) 閉じる; 固くなる; 圖 一緒に突進する (RV.); **prthivyādi-bhāvena~**, 大地等の形態に凝結する.

圖 不變分 *saṃhatya*, (圓) と結合されて. 圖受分 一緒に置かれた, 結合された, 閉じられた; 隣接した; (圓) と密接に結びついたまたは同盟を結んだ; 一緒に存在または行動する, 結合された, 一体化された; 凝結された, 凝固された; 緻密な, 堅固な, 硬い; しっかりした; 圖 息 *Mañj-m.*; 和集, 堅固 *Vijñ-v.*

abhi-saṃ- 圖 使役 和合, 合集 *Ast-pr.*

han 1., 一° 圖 (ghni) を打つ, 殺害する, 殺す; …を破壊する, 追い散らす等. 圖 …の殺害者.

han 2. 過去を示す *a* (augment) なしの 圖 圖 圖 または 圖.

hana 圖 一° (因 -i) [同上] (まれ).

hanana 圖 打つこと, 打ち当てること; (花, 一°) をたたき落すこと; 殺すこと, 破壊すること; 除去, 追い散らすこと; 圖 己殺 *Mvyut.*

hanu 因 あご; 圖 頰 *Lank., Raṣṭr., Śikṣ.*; 頰 *Bodh-bh., Raṣṭr.*; 輔, 頰輔 *Lank.*; 頰頤 *Śikṣ.*

hanumat 圖 (強い) あごを有する. 圖 [猿將の名, 風神の子で, *Sita* を取戻すため *Lanka* (セイロン島) へ遠征する *Rama* の同盟者; 種々の人名].

hanumat 圖 *Hanumat* (猿將).

hanta 圖 圖 (行動に対する勧告を表わす), さあ!; (とるために) ここへ, 取れ!; (注意を喚起するために) 見なさい! ほら!; 圖: 深い悲しみを表現するのにもまた用いられる: ああ!; 驚き, 喜び, 急用をあらわす: おお! ああ!; 圖 今 *Śikṣ.*; 然則, 一同 圖 *Mvyut.*

hanta-kāra 圖 *hanta* という叫び; 供物, 布施, 施物.

hantave, hantavai, 因 *Han* の 圖 不定.

hantavya 圖 未受分 斬殺または殺害されるべき, 死刑に処せられるべき; 犯されるべき (法律); 論破されるべき (まれ).

hantu-kāma 圖 殺害を欲する.

hantr (圖 や 圖 とともに) 圖 打撃を加える人, 殺害者, 殺人者, 人殺し; 破壊者, 攪乱者; 圖 滅, 去抜 *Mvyut.*; 降伏 *Lal-v.*

hante 圖 大徳 *Sam-r.*

hantri-mukha 圖 [子供に有害な悪鬼の一種].

han-man 圖 または 圖 打撃, 突撃, 一打 (RV.).

ham, 圖 圖 (きわめてまれ), 時として *bhoḥ* とともに 用いられる (*ham bhoḥ* = *hamho*).

hama 圖 [ある化身].

hamba 圖 [人名].

hambhā 因 (牛 または 子牛の) 鳴声.

hammira 圖 [*Śakambhari* のある王の名 (14世紀の人)].

haya 圖 單馬, 馬; 圖 馬 *Lal-v., Lank., Mañj-m., Mvyut., Raṣṭr.,* 梵千. 圖 (*aśvahaya* において) 駆り立てる.

haya-kovida 圖 馬の扱いに熟練した, 馬術に長じた.

haya-griva 圖 馬のたてがみを有する; 圖 馬頭 *Guhya-s.*; 馬首 *Mañj-m.* 圖 [*Viṣṇu* 神の一形態; ある *Asura* および 種々の人名].

haya-jña 圖 馬術に熟達した. 圖 馬術の達人; 馬商い; 馬丁; 競馬の騎手.

hayajñatā 因 馬の知識.

haya-jñāna 圖 馬の知識.

haya-tattva-jña 圖 馬の真の性質を知っている.

haya-pa 圖 馬丁; [ある王の名].

haya-pati 圖 [ある王の名].

haya-medha 圖 馬の祭り, 馬祠 (*aśvamedha*).

haya-rājan 圖 馬王 *Raṣṭr.*

haya-lilāvati 因 [馬に関するある論文の題名].

haya-vidyā 因 馬 (を調御する) 方法, 馬術; 馬匹学.

haya-śāstra 圖 [同上].

haya-siras 圖 馬の頭, 馬頭. 圖 馬の頭を有する (*Viṣṇu* 神の名稱).

haya-sīśu 圖 馬の子, 子馬.

haya-saṃgrahaṇa 圖 馬の止めぐつわ, 馬に止めぐつわをつけること.

hayā 因 牝馬.

hayārūḍha (°*ya-ār°*) 圖受分 馬に乗った.

hayāroha (°*ya-ār°*) 圖 騎手, 馬術家.

hayī 因 牝馬.

haye, 因 圖 図 おお! ほう!

hayottama (°*ya-ut°*) 圖 優秀なまたは高貴な馬.

hara 圖 一° (因 -ā, ときとして -i) を運ぶ, 身につける; 取っている, 運搬している; (*prati*) に対して (ニュースを) もたらす; 取り去る, …から奪う・剝奪する; 凌駕する; 除去する, 追い散らす, 破壊する; 受け取る, 獲得する; (取る =) 魅惑する; 圖 奪, 失 *Ratna-ut.*; 断 *Bodh-c.*; 除, 能除, 消除, 永断 *Śikṣ.* 圖 破壊者, [*Śiva* 神の名稱]; [人名]; 圖 音写 詞羅 *Prajñ-vy.*

hara-gala-garala-tamāla 圖 *Śiva* 神の頭にある *Tamāla* 状の毒 (すなわち *Tamāla* 樹のように黒ずんでいる).

haraṇa 圖 (因 -ā, -i) を運搬する, 含む; 取り去る,

除去する。因 もたらすこと、連れて来ること；捧げること；運び去ること、盗むこと、窃盗、(少女の)誘拐；差し控えること；(財産の)没収；獲得；(一)の除去または破壊；**𑀧𑀭𑀯𑀭** 奪 *Mvyut.*；侵奪，劫奪 *Śikṣ.*

- hara-datta** 男 [人名].
hara-pura 因 [ある町の名].
hara-bala 男 [人名].
hara-vṛṣabha 男 *Śiva* 神の牡牛.
haras 因 因 [Hr 1.] 把持, 把握；(飲む際の) 一飲み；(火, 電光等の) 焼き尽す力(普通の意味)；エネルギー, 鋭利, 火.
hara-sakha 男 *Śiva* 神の友, [Kubera 神の**𑀧𑀭𑀯𑀭**].
hara-sūnu 男 *Śiva* 神の息子, *Skanda* 神.
hara-svāmin 男 [人名].
harasvin 形 精力旺盛な, 燃えるような, 烈しい.
harādri 男 *Śiva* 神の山, *Kailāsa* 山.
harāyatana (°ra-āy°) 因 *Śiva* 神の神殿.
harārdha 男 (?) *Śiva* 神の半分.
harārdhatā 因 [同上の**𑀧𑀭𑀯𑀭**].
harāvāsa (°ra-āv°) 男 *Śiva* 神の住居.
harāspada (°ra-ās°) 因 [同上] = *Kailāsa* 山.
hari 形 [Hr 3., 黄色である] 黄褐色の, 黄色の(とくに馬について)；緑色を帯びた(まれ, **𑀧𑀭𑀯𑀭**). 男 (**𑀧𑀭𑀯𑀭**) 駿馬(とくに *Indra* 神の)；獅子；猿；[*Indra* 神 およびより普通に *Viṣṇu-Kṛṣṇa* 神の**𑀧𑀭𑀯𑀭**]；[種々の人名]；**𑀧𑀭𑀯𑀭** 音写 哈利 *Mvyut.*, 訶梨 *Prajñ-h.*
hari-keśa 形 黄褐色の毛髪を有する.
hari-gaṇa 男 一群の馬；[人名].
hari-ghoṣa 男 [人名].
hari-candana 男 (?) *Indra* 神の白檀樹 (*Indra* 神の楽土における五樹の一つ)；白檀樹(の一種). 因 黄褐色の白檀.
hari-candra 男 [人名].
hari-cāpa 男 因 *Indra* 神の弓, 虹.
hariṇa 形 (因 -i) 黄色を帯びた, 黄褐色の(また不健康な顔色について)；みどりの. 男 かもしか, ガゼル；**𑀧𑀭𑀯𑀭** 花鹿 *Mvyut.*；**𑀧𑀭𑀯𑀭** 梵雑；山羊 玄応；音写 何履伽, 曷利拏 玄応.
hariṇaka 男 **𑀧𑀭𑀯𑀭** ガゼル.
hariṇa-dhāman 男 かもしかの住居, 月.
hariṇa-nayanā 因 かもしかのような眼をした女.
hariṇa-lakṣman 男 (かもしかのしるしを有する), 月.
hariṇa-lāñchana 男 [同上].
hariṇa-locana 形 かもしかのような眼をした.
hariṇa-śiśu 男 子鹿.
hariṇākṣa 形 (因 -i) かもしかのような眼をもつ.
hariṇākṣi 因 かもしかのような眼をした女性.
hariṇāya, **𑀧𑀭𑀯𑀭** 因 かもしかをあらわす, かもしかとなる.
hariṇāyatekṣanā (°na-āy°, °ta-ik°) 因 かもしかの眼のように切れ長の眼をもった女性.
hariṇāsva 男 (黄褐色の馬を有する), 風.
hariṇi 因 (*hariṇa* の) 因, **𑀧𑀭𑀯𑀭**；牝鹿；ガゼル；**𑀧𑀭𑀯𑀭**；黄金像；[ある *Apsaras* の名].

- hariṇi-dṛś** 因 かもしかのような眼をした婦人.
hariṇi-nayanā 因 [同上].
hariṇi-rūpāya, **𑀧𑀭𑀯𑀭** 因 かもしかに似ている.
hariṇekṣaṇa (°ṇa-ik°) 形 かもしかのような眼をした. -ā 因 かもしかのような眼をした婦人.
hariṇeśa (°ṇa-iśa) 男 鹿の王, 獅子.
harit 形 [Hr 3.] 黄色を帯びた, 黄褐色の；緑色を帯びた(まれ, P.). 男 (**𑀧𑀭𑀯𑀭**) 太陽の馬；緑玉(まれ, P.). 因 黄褐色の牝馬(因)；方角(因, **𑀧𑀭𑀯𑀭**).
harita 形 (-ā, **𑀧𑀭𑀯𑀭**；**hariṇi**, 因) 黄色の, 黄褐色の；(驚愕のために) 青ざめた；緑色を帯びた；緑の(**𑀧𑀭𑀯𑀭**)；**𑀧𑀭𑀯𑀭** 青 *Mañj-m.*；緑 *Guhy-s.* 因 黄金(因)；野菜(**𑀧𑀭𑀯𑀭**)；**𑀧𑀭𑀯𑀭** 草 *Prat-m.*
haritaka 形 緑の. 因 草；野菜.
harita-kapiśa 形 黄色味がかかった褐色の.
harita-keśa 形 **𑀧𑀭𑀯𑀭** 髪緑者 *Mvyut*
harita-cchada 形 緑の葉をもつ.
harita-dhānya 因 緑の穀物=未熟な穀物.
harita-patramaya 形 (因 -i) 緑葉からなる.
harita-śādvala 因 **𑀧𑀭𑀯𑀭** 塘 *Mvyut.*；粟草 *Divy.*
harita-sraj 形 黄色(または緑)の花づなをもつ(樹木 AV.)；金の鎖でかざられた(馬；Br.).
haritā 因 *Dūrvā* 草.
haritāya, **𑀧𑀭𑀯𑀭** 因 黄色または緑になるまたは見える.
haritāla 因 黄色の雄黄；**𑀧𑀭𑀯𑀭** 雌黄 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*
haritāla-kanaka 因 **𑀧𑀭𑀯𑀭** 黄金, 閻浮檀金 *Lank.*
haritālamaya 形 (因 -i) 雄黄から成る.
haritāla-lepana 因 **𑀧𑀭𑀯𑀭** 雌黄塗 *Bodh-bh.*
haritāśman 男 トルコ石.
hariti-Kṛ, 緑に塗る.
haritopala (°ta-up°) 男 緑の石, エメラルド(P.).
harit-pati 男 基本方位の中の一の主.
hari-datta 男 [*Dānava* および諸人の名].
haridattā 因 [人名].
harid-asva 男 (黄褐色の馬を有する), 太陽.
haridrā 因 うこん；**𑀧𑀭𑀯𑀭** 姜黄 *Mvyut.*；黄物, 黄薑 *Divy.*；音写 呵黎勒 玄応.
haridrā-rāga 形 うこん(の色と同じ長さだけ続く) 愛情をもつ, 移り気なまたは浮気な, 気まぐれな.
hari-dru 男 [ある樹木の名].
hari-dvāra 因 *Viṣṇu* 神の門, [ある神聖な都市 (*Hurdwar*) の名].
harin 形 **𑀧𑀭𑀯𑀭** 奪 *Lal-v.*
harin-maṇi 男 緑の宝石, エメラルド.
hari-piṅga 形 黄色味を帯びた褐色の.
hari-piṅgala 形 [同上].
hari-prabha 形 黄褐色に彩られた.
hari-bha 因 **𑀧𑀭𑀯𑀭** 音写 哈力班 *Mvyut.*
hari-bhakti 因 *Viṣṇu* 神に対する誠信.
hari-bhaṭa 男 [人名].
hari-bhaṭṭa 男 [種々の学者の名].
hari-madhyā 形 因 黄褐色の腰部をもつ；*Viṣṇu* 神を思い出させる腰をもつ.
hariman 男 黄色いこと, 黄疽(因).
hari-rāja 男 [ある王の名].

hariva 男 𑖀𑖩𑖪 音写 訶理婆 *Mvyut.*
 hari-vaṃśa 男 *Hari* (*Viṣṇu* 神) の種族. 男 𑖀 (すなわち *Purāna*) *Mahabharata* に対する周知の付録の題目 (ときとして 𑖀).
 harivat 𑖀 𑖩 黄褐色の馬に伴なわれたまたは引かれた (*Indra* 神); 黄色い *Soma* と結合された等; *hari* (という語) を含む.
 hari-vara 𑖩 猿のなかの最も優れた. 男 [ある王の名]. 𑖀 [ある都市の名].
 hari-varpas 𑖩 黄金色の外観をもつ (大地, *Indra* 神, *RV.* 用例二回のみ).
 hari-vāhana 𑖩 黄褐色の馬に引かれた. 男 [*Indra* 神の 𑖩].
 harivāhana-diś 𑖩 *Indra* 神の方角, 東.
 hari-vrata 𑖩 黄褐色の活動領域をもつ (*Agni* 神; *RV.* 用例一回のみ).
 hari-śayana 𑖀 *Viṣṇu* 神の眠り.
 hari-śarman 男 [人名].
 hari-śikha 男 [人名].
 hari-ścandra 𑖩 黄色いまたは黄金の光輝を有する (*Soma*, *RV.* 用例一回のみ). 男 [*Iksvaku* 族のある王の名; 叙詩においては *Trisanku* の息子のこと, 彼はその臣下達と共に天界にあげられたが傲慢のためにそこから追放され彼の都市 *Saubhar* と共に中空に懸ったままである]; 𑖀 獅子目 *Mvyut.*
 hari-śmaśāru 𑖩 黄褐色の髭をもつ (*RV.* 用例一回のみ).
 hari-śmaśru 𑖩 [同上] (叙詩).
 harisa 𑖀 𑖀𑖩𑖪 音写 訶理三 *Mvyut.*
 hari-simha 男 [ある王の名].
 hari-soma 男 [人名].
 hari-svāmin 男 [人名].
 hari-hadaukasa 男 [人名].
 hari-haya 𑖩 黄褐色の馬をもつ, [*Indra* 神の 𑖩].
 hari-hara 男 𑖀 (一 個体としての) *Viṣṇu* 神と *Śiva* 神; 𑖀 または 𑖀, *Viṣṇu* 神 および *Śiva* 神; [諸人の名].
 harihara-kathā 𑖩 *Viṣṇu* 神と *Śiva* 神に関する話.
 hari-hūti 男 (円盤 すなわち *cakra* にちなんで名づけられた), *Cakravāka* または赤いがちょう (*Anas Casarca*).
 hari-heti 𑖩 *Indra* 神の武器, 虹; *Viṣṇu* 神の武器. 円盤.
 harihetimat 𑖩 虹で飾られた.
 haritaka 男 (𑖀) [harit] 黄色いミロバナン樹 (*Terminalia Chebula*).
 haritaki 𑖩 [同上]; 𑖀 柯子 *Mvyut.*; 𑖀 訶梨, 訶梨 *Lank.*; 𑖀 訶梨勒 *Lal-v.*
 haruṇa 男 𑖀 音写 訶魯那 *Mvyut.*
 hareṇu 男 [豌豆の一種].
 hartavya 𑖩 𑖩 取り去られるべき, 力に訴えて取られるべき, わがものとされるべき, 専有されるべき; 獲得されるべき.
 hartṛ 男 運ぶもの, もたらすもの, 持参者; 専有するもの, わがものとする人, 盗人, 強奪者, 盗賊; 税を課する人 (王); (一) の除去者または追放者; 破壊者; 𑖀 抜 *Lal-v., Śikṣ.*
 harmya 𑖀 砦, 城塞, 宮殿, 館 (𑖀, 𑖀); 牢獄 (*RV.*,

𑖀); 𑖀 楼閣 *Bodh-c.*; 危楼 *Gand-vy.*; 檻, 楼房, 涼房, 棲家, 乳口 *Mvyut.*
 harmya-tāla 𑖀 宮殿の扁平な屋根; 𑖀 楼閣 *Buddh-c.*
 harmya-prṣṭha, -sthala, -agra 𑖀 [同上].
 harmya-śikhara 𑖀 𑖀 躰口上, 乳口上 *Mvyut.*
 harmye-ṣṭhā 𑖩 家または畜舎にとどまっている (*RV.* 用例一回のみ; =gharmye-ṣṭhā, *RV.* 用例一回のみ).
 harya, 𑖀 𑖀 (𑖀 𑖀) (𑖀) を欲する・熱望する (*RV.*); (𑖀) を楽しむ (*RV.*). 𑖀 𑖀 *haryat*, 熱望している, 喜んでいる (*RV.*).
 prati- 喜んで受け入れる, 憧憬する (𑖀).
 hary-akṣa 𑖩 黄褐色の眼を有する (𑖀, 𑖀). 男 (𑖀) 獅子; 猿; [病気を起こすある悪霊の名].
 hary-āṅka-kula 𑖀 (𑖀) (𑖀) 訶梨名族 *Buddh-c.*
 haryata 𑖩 欲せられるべき, 望まれるべき, 愉快な (𑖀).
 hary-āsva 𑖩 黄褐色の馬に引かれた (*RV.*). 男 (𑖀) [*Indra* 神の 𑖩]; [人名].
 haryaśva-cāpa 男 𑖀 *Indra* 神の弓, 虹.
 harṣa 男 [Hṛṣ] (体毛の) 逆立つこと; 戦慄; 欽喜, 喜び, うれしさ, 悦楽; [ある *Asura* の名]; [人名 と共に *Ratnāvati* 等の著者 (また *Śriharṣa* = 戒日王 *Harṣadeva*) の名; *Naiṣadhacarita* の著者の名 (また *Śriharṣa*)]; 𑖀 喜 *Bodh-bh.*; 𑖀 欽 *Abh-vy.*; 欽喜 *Abh-vy., Guhy-s.*
 harṣa-krodha 男 𑖀 喜びと怒り.
 harṣa-garbha 𑖩 喜びに満ちた, 喜んでいる.
 harṣa-gupta 男 [人名].
 harṣa-carita 𑖀 [*Bāṇa* の作品の題目].
 harṣa-ja 𑖩 𑖀 喜びから生ずる. 𑖀 精液.
 harṣa-jāta 𑖩 𑖀 生喜, 心喜 *Mvyut.*; 欽喜 *Saddh-p.*
 harṣaṇa 𑖩 ぞくぞくさせる; 喜ばせる, 楽しませる, 𑖀 喜ばせること; 欽喜; 𑖀 頑 *Mvyut.*; 欽喜 *Lal-v.*
 harṣatā 𑖩 喜び, 欽喜.
 harṣa-deva 男 [*Ratnāvati* の著者の名 (また *śri-*)].
 harṣa-nāda 男 欽呼, 欽喜の叫び声.
 harṣa-nivāna 男 [同上].
 harṣa-niṣvāna 男 [同上].
 harṣa-pura 𑖀 [ある町の名].
 harṣa-mitra 男 [ある王の名].
 harṣayatā 𑖩 𑖀 欽喜 *Bodh-bh.*
 harṣayitnu 𑖩 喜ばせる, 満足させる. 男 息子.
 harṣa-yukta 𑖩 𑖩 喜びで満たされた.
 harṣavat 𑖩 喜びでいっぱい. 𑖀 うれしげに, 喜んで.
 harṣavati 𑖩 [ある王女の名; ある町の名].
 harṣa-vardhana 男 [ある王子の名].
 harṣa-varman 男 [同上].
 harṣāśru 𑖀 喜びの涙, うれし涙, 随喜の涙.
 harṣita 𑖩 𑖩 直立させられた, 逆立つ (頭髪等); 喜ばされた, 魅惑された, 満足した, 幸福な. 𑖀 (*ṣa-* として), 喜び; 𑖀 欣慶 *Daś-bh.*; 欽喜 *Raṣṭr.*

harṣin 形 喜ばしい; (一)を期待する; (一)をうれしがらせる, 喜ばせる.
 harṣula 形 うれしい, 陽気な, 上機嫌の; 喜んでいる.
 hal, 子音に対する pratyāhāra すなわち 全子音.
 hala 男 田 すき(また武器として); 犁 *Mvyut.*, *Śikṣ.*, 梵千.; 耕 *Mvyut.*, 梵千.; 槩 *Mvyut.*
 hala-daṇḍa 男 犁把, 鐮 *Mvyut.*
 hala-dhara 形 すきを手にした. 男 農夫; [(すきで武装した), *Balarāma* (すなわち *Kṛṣṇa* 神の兄)の名称; [諸人の名].
 hala-bhṛt 男 [*Balarāma* の名称].
 hala-mārga 男 溝.
 hala-vaṃśa 男 鐮, 犁把 *Mvyut.*
 halahalā (賛成の) 間投.
 halā 呼 不変分 (舞台上で女友達に呼掛けるのに用いられる).
 halāyudha (°la-āy°) 形 すきを武器として持つ. 男 [*Balarāma* の名称]; [諸人の名].
 halāhala 男 田 劇毒(の一種).
 hali 男 (śata-として) 大すき.
 halin 男 耕作者, 農家; [*Balarāma* の名称 (±rāma)].
 halibha 田 音写 吟力班 *Mvyut.*
 halibhu 男 音写 訶理蒲 *Mvyut.*
 hallīśa 男 (一人の男と七・八人の女で演ぜられる一幕劇の一種). 田 (一人の男によって導かれた女性達によって演ぜられる) 舞踏.
 hava 1. 男 [Hu 1.] 祭式, 献供.
 hava 2. 形 [Hū] 呼び掛ける (RV.). 男 呼び掛け, 祈願 (因).
 havana 1. 田 [Hu 1.] 献供; 焼 *Mvyut.*
 havana 2. 田 [Hū] 祈願 (因).
 havana-srut 形 祈願を聴く (因).
 havani 因 祭式用のさじ.
 havaniya 未受分 [Hu 1.] 火とともに供えられるべき. 田 (?) 祭りの供物, 溶かしたバター, ギー.
 havala 田 音写 哈波藍 *Mvyut.*
 havava 男 音写 訶婆婆, 和波波 *Mvyut.*
 havavat 形 hava (という語)を含む (Br.).
 havin 形 [Hū] 呼び掛ける (AV.); 助力を懇願する (Br.).
 havir-ad 形 供物を食べる (RV.).
 havir-adya 田 供物を味わうこと (因).
 havir-ucchiṣṭa (過受分) 田 供物の残余.
 havir-guṇa 男 供物の食物の性質.
 havir-dā 形 供物をもたらず (RV.).
 havir-dāna 田 供物を与えること.
 havir-dhāna 男 [RV. X, 11-15の作者といわれる詩人の名]. 田 (供物の容器), (擦られるべき *Soma* 草を運搬するための) 車 (普通は二台; 因); *Soma* 車の格納小屋 (因); 祭式の場所 (叙述).
 havir-dhāni 因 [(神話上の牛) *Surabhi* または *Kama-dhneu* の名].
 havir-bhuj 形 供物を食べ尽くす. 男 火; 火の神; 田 *Kṣatriya* 族の祖霊.
 havir-yajña 男 供物を供えること (祭式の一種), 溶かしバター等を捧げる単純な祭式 (Br., S.).

haviryajña-samsthā 因 *Haviryajña* の基本的な形態.
 havir-vah 形 (困 -vāt) 供物を運ぶ (RV. 用例一回のみ).
 haviṣ-kṛt 形 供物を用意する (因).
 haviṣ-kṛti 因 供物の用意 (RV.).
 haviṣ-pāṅkti 因 全部で五種類からなる供物, 五種類の供物 (Br.). 形 五種の供物からなる (因).
 haviṣ-pati 男 供物の主, 施主.
 haviṣ-pā 形 供物を飲む.
 haviṣ-pāntiya 形 haviṣ pāntam (RV. X, 88, 1) で始まる.
 haviṣmat 因 供物を用意した, 供物を捧げる; 供物を伴ったまたは含んだ. 男 [種々の *Rṣi* の名] (因, 田): 田 ある祖霊 (すなわち *Anigiras* の息子たち) の名 (因).
 haviṣya 形 (とくに米, 大麦その他の種類の穀物について) 供物に適したまたはそのために用意された. 男 田 穀物の献供.
 haviṣyāhāra (ya-āh°) 男 素食 *Mañj-m.*
 havis 田 [Hu 1.] (穀物, *Soma*, 乳またはバターのように) 火中に投げられる供物; 火 (田, まれ). ~s *Kṛ* 供物を用意する, …の供物を捧げる.
 haviḥ-śeṣa 男 供物の残余.
 haviman 男 または 田, [Hū] 呼び掛け, 祈願 (RV.).
 havai 間投 (まれ; Br., S.).
 havya 1. (未受分) 田 [Hu 1.] 供えられるべきもの, 供物 (田 においてはきわめて普通に *kavya* と結合される); 祭天, 仏蔵 *Mvyut.*
 havya 2. 未受分 (Hū) 呼び掛けられるべき (因).
 havya-juṣṭi 因 供物の享受 (因).
 havya-dāti 形 供物を運ぶ (因). 因 祭式の贈物, 供物 (因).
 havya-lehin 男 (供物をなめる), 火 (の神).
 havya-vah 形 (困 -vāt) (神々に対して) 供物を運ぶ (因, 田). 男 火 (の神) (田).
 havya-vāha 形 [同上] [鑽木 *Araṇi* は *Aśvattha* の木で作られるから *Aśvattha* 樹の名]; 男 火 (の神) (田).
 havya-vāhana 形 [同上]. 男 火 (田).
 havya-sūd 形 供物を用意する (RV.).
 havyād 形 供物を食べる (RV. 用例一回のみ).
 havyāśa (°ya-āśa) 男 (供物を食べる) 火.
 Has, I. 田 (自 田) *hasati*, (因) を笑う・嘲笑する (因) をあざ笑う・ひやかす; ばかにする, 凌ぐ; 大する, (花を) 開く; 戲笑 *Ast-pr.*, *Buddh.*; 嗤笑 *Ast-pr.* 過受分 *hasita*, 笑っている; 哄笑した (=定形動詞); 嘲笑された; 凌駕された; 笑 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Raṣṭr.*, *Śikṣ.*, 梵千 田 非人 ~m *tayā*, 彼女は (*prati*) を嘲笑した. 田 *hāsayati*, 田 (因) を笑わせる; (因) を嘲笑する 過受分 *hāsita*, ばかげた; 笑わせられた, まっぴらにされた. 希求 *jakṣ* [= *jah(a)s*], 笑う: 単に 現分 *jāhasyate*: 現分 *jāhasyamāna*, 絶え間なく笑う.
 ava- 嘲笑する; 譏, 嗤, 嗤笑 *Bodh-bh.*
 ud-(dhas), 笑い出す=(電光が) ひらめく.
 upa- 嘲笑する; 婉曲語法として=(田) と性交を

なう；**諷** 譏，嗤，嗤笑 *Bodh-bh.* **過受分** 嘲笑された。**使役** あざ笑う，ひやかす。
pari- (圓) (ある人)をからかう；嘲笑する；**諷** 戲笑，現談譚 *Bodh-bh.*
pra- 他 (自は 韻律)，笑い出す (±*hāsam*)；(圓) (ある人と)一緒に笑う；(何かを)笑う；嘲笑・嘲弄する。**過受分** 笑っている；またきらめいている，輝いている。**使役** 笑わせる。
vi- 笑い (出す)；(圓) まれに(圓)を笑うまたは嘲笑する。**過受分** 笑っている；嘲笑された，あざけられた。
saṃ-vi- 笑い (出す)，嘲笑する。
hasa 男 大喜び，笑い。
hasana 形 (圓) とともに笑っている。中 嘲笑。
hasanā 因 冗談；激励の叫び (RV. 用例一回のみ)。
hasaniya 未受分 笑われるべき，(圓)の嘲笑に値いするまたはさらされる。
hasantikā 因 火皿，火鍋。
hasita (過受分) 中 笑い，嘲笑 → *Has.*
hae-kartṛ 男 歡喜をひきおこすもの，喜ばすもの，鼓舞するもの (RV. 用例一回のみ)。
has-kāra 男 (天界の)笑い，電光，稲妻 (RV. 用例一回のみ)。
has-kṛti 因 愉快，陽気，笑い (RV. 用例一回のみ)。
hasta 男 手 (普通の意味)；鬮：(象の)鼻；(尺度として) = 前膊 または 腕尺 (約 46 cm)；筆跡 (まれ)；豊富 (一° 毛髪を意味する諸語の後に)；[人名]；因，鬮：第十一 (または 第十三の) 月宿；**諷** 手 *Abh-vy.*, *Bodh-bh.*, *Lank.*, *Mvyut.*, *Saddh-p.*, *Suvik-pr.*, 梵千.; 肘 *Abh-k.*, *Abh-vy.*, *Divy.*, *Guhys.*, *Mañj-m.*, *Mvyut.*, 梵千., 梵雜. 一° 形 手の中に (ときとしてはで) 持っている；**諷** 持 *Guhys.*, *Lal-v.*；執，手持，手擎 *Lal-v.* ~ *m Gam* (一°) の手の中におちる。~ *e Kṛ* (自己の) 手中に取る；また…を所有するに至る，(自己の) 支配下におさめる；(ある娘と) 結婚する。~ *e nyasta* (彼女の) 手の上に (顔を) 伏せる。 *tasya haste lokadvayaṃ sthitam.* 二つの世界は彼の手中にある = 彼に確保されている。
hastaka 男 手；支える手；一つかみまたは一にぎり (一°)；焼串 (異読 *-ika*)；**諷** 肘 *Abh-k.*, *Abh-vy.*
hasta-ga 形 (一°) の手の中に (落ちた =) ある；**譬喻** = 自身の，確保された。
hasta-gata 過受分 [同上]；**諷** 随順，親近，所授 *Aṣṭ-pr.*；用，所用，至手 *Bodh-bh.*；得，逮 *Saddh-p.*
hasta-gāmin 形 [同上]。
hasta-gr̥hita 過受分 手を縛られた。
hasta-gr̥hya 不変 手をとって (因)。
hasta-graha 男 手をとること；結婚；(あるものを) 手にとること。
hasta-grābha 形 (ある娘の) 手を握る，結婚した (RV. 用例一回のみ)。
hasta-grāha 形 [同上]；**諷** 捉手 *Prāt-m.* 男 夫。
hasta-grāhaka 形 (人の) 手を捉える = 押しつけがましい。
hasta-ghna 男 (弓の弦に対する) 手甲 (RV. 用例一回のみ)。

み)。
hasta-cyuti 因 両手の迅速なる活動 (RV. 用例一回のみ)。
hasta-tala 男 **諷** 手掌 *Mvyut.*, 梵雜.; 掌 *Gaṇḍ-vy.*
hastatala-gata 形 掌の中にある = 支配下にある。
hasta-tāḍa 男 **諷** 擊掌 *Sikṣ.*
hasta-tulā 因 天秤としての手；圓 はかりの代りに両手を用いて。
hasta-dipa 男 提灯，手灯。
hasta-dhāraṇā 因 手で支えること；手をとること = (ある娘と) 結婚すること。
hasta-pāda 中 鬮 手足；**諷** 手足 *Sikṣ.*
hastapāda-ccheda 男 **諷** 別手足 *Bodh-bh.*, *Gaṇḍ-vy.*；断手足 *Gaṇḍ-vy.*
hasta-pr̥ṣṭha 中 **諷** 手背 *Mvyut.*
hasta-prada 形 手を与えるまたは差し伸べる，支える，助ける。
hasta-prāpta 過受分 (自己の) 手中におちた = (自己の) 手中にある (= *ga*)；**諷** 如可承攬 *Saddh-p.*
hasta-prāpya 未受分 手によって達しられるべきまたは獲得されるべき (形)。
hasta-bhraṣṭa 過受分 (ある人の) 手から脱した，逃亡した。
hasta-mātrā 因 **諷** 一尺 *Saddh-p.*；一肘量 *Guhys.*
hasta-lekha 男 肉筆。
hastalekhi-Kṛ, 描く，写生する。
hastavat 形 手を有する (因，鬮)；器用な (鬮)。
hasta-vartin 男 [ある王の名]。
hasta-saṃlagnika **諷** 携手 *Prāt-m.*；連手 *Mvyut.*
hasta-saṃvācaka 形 **諷** 手表示 *Mvyut.*
hasta-saṃvācikā 因 **諷** 手代言者 *Bodh-bh.*
hasta-saṃsparsa 男 **諷** 摸 *Divy.*
hasta-saṃjñā 因 手によってする合図，手まねき。
hasta-saṃdhunaka 形 **諷** 振手 *Mvyut.*；著手振 *Vin.*
hasta-sūtra 中 (娘が結婚する前にその) 手首にかけられる紐。
hasta-stha 形 手の中にある。
hasta-svastika 男 両手を組合わせること，吉祥手。形 (一°) の上に手を組み合わせた。
hasta-hārya 未受分 両手で握まれるべき，触知し得る，明白な。
hastā 因 **諷** 軫 *Divy.*, *Lal-v.*, *Mvyut.*, 梵雜.; 象 *Divy.*
hastāgra 中 手の先端，指；象の鼻の先端。
hastāgra-lagnā 形 因 …の指をかたく握る = (圓) のところへ嫁にいった。
hastānguli 因 **諷** 手指 *Sadh-p.*
hastābharāṇa (°*ta-ābh*°) 中 **諷** 手蔽 *Mvyut.*
hastāmoṣa (°*ta-ām*°) **諷** 以手触物 *Sūtr.*
hastālamba (°*ta-āl*°) 男 支えの手 = 安全な避難所。
hastālabhana (°*ta-āl*°) 中 [同上]。
hastāvadhūnaka 副 **諷** 振手 *Prāt-m.*
hastāvalamba 男 支えの手；安全の手段。
hastāvalehaka 形 **諷** 舐手 *Mvyut.*, *Prāt-m.*

hastāvāpa (°ta-āv°) 男 (弓の弦に対する) 手甲.
 hastā-hasti 男 手近に, 接近して, 白兵戦で.
 hasti-kakṣya 中 象腋, 象脇 *Lank.*, *Mvyut.*;
 縛象 *Lank.*
 hastikakṣya-sūtra 中 仏説衆腋経 *Madhy-v.*
 hasti-kaccha 中 象腋 *Mvyut.*
 hasti-karṇa 男 (象の耳), [種々の植物の名]; [ある地
 の名]; 象鼻, 耳如象者 *Mvyut.*
 hasti-kāya 男 象兵, 象軍 *Aṣṭ-pr.*; 象衆, 象衆
 兵 *Mvyut.*
 hasti-garbha 男 竜蔵, 象蔵 *Gaṇḍ-vy.*
 hasti-grivā 女 象頭, 乘象 *Mvyut.*
 hasti-cārin 男 (象に乗るもの), 象の馭者.
 hasti-jāgarika 男 象の番人.
 hasti-joda 形 顔如大象, 頰如大象 *Mvyut.*
 hasti-tuṇḍāvalambita 中 要如象鼻垂 *Mvyut.*
 hasti-danta 男 象牙. 形 牙如大象 *Mvyut.*
 hastin 男 手を有する, 器用な; +mrga, 男 手 (=
 鼻)を有する動物, 象(を意味する最古の単語)(*RV.*,
AV.). 男(因, 圍) 象; [人名](圍); 象 *Abh-vy.*,
Bodh-bh., *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Saddh-*
p., *Śikṣ.*; 竜 *Gaṇḍ-vy.*; 香象 *Aṣṭ-pr.*; 大象, 牛
Mvyut.; 像 *Sūtr.* -ini 女 女象(因, 圍); [性愛文
 学におけるある種の女性(圍)].
 hasti-nakha 男 (都市の城門におけるバリケードの
 類).
 hasti-nāga 男 象 *Divy.*; 竜象 *Saddh-p.*
 hastinā-pura 中 [ある都城の名, その遺跡は *Gaṅgā*
 河の旧河床の堤のうえ, *Delhi* の北東75マイルの地
 点にある]; 象城 *Divy.*, *Lal-v.*; 鼻如象 *Mv-*
yut.; 竜閣象閣 *Divy.*; 音写 那布羅 *Divy.*
 hasti-nyamsa 形 調伏象 *Mvyut.*
 hasti-pa 男 象の番人または馭者.
 hastipaka 男 [同上].
 hasti-pada 中 象跡 *Aṣṭ-pr.*
 hasti-pāla 男 象の番人または御者.
 hasti-pālaka 男 [同上].
 hasti-pota 形 象子 *Śikṣ.*
 hasti-bandha 男 象を捕えるための柵.
 hasti-malla 男 *Indra* 神の象; 象酒 *Divy.*
 hasti-yāsasa 中 象の華麗さ.
 hasti-yūtha 中 象の群れ.
 hasti-ratna 中 象宝 *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Mvyut.*,
Satr.
 hasti-rathaka 男 象車 *Bodh-bh.*
 hasti-rāja 男 王者の風格のある象; (一群の) 象の首
 領.
 hasti-vaktra 男 (象の顔をした), [*Gaṇeśa* 神の名稱].
 hasti-vadha 男 象の殺戮.
 hasti-sāyā 形 象臥, 白象 *Lank.*
 hasti-sālā 女 象小屋; [ある場所の名]; 象房
Mvyut.; 象廐 *Suv-pr.*
 hasti-śikṣā 女 象の調教; 調象 *Divy.*
 hasti-śuṇḍa 男 象鼻 *Prāt-m.*
 hasti-snāna 中 象を洗うこと.
 hastodaka (°ta-ud°) 中 手中に(保たれた)水.

hastopaga (°ta-up°) 男 手釧 *Divy.*; 手蔽 *Mv-*
yut.

hastya 形 手に属する(因), 手でなされた, 手中に保
 たれた.

hasty-aśva 中 象と馬.

hastyaśva-ratha-ghoṣa 男 象と馬と戦車の響き.

hasty-ājāneya 形 良象 *Mvyut.*

hasty-ārūḍha 形 → *Ruh.*; 乘象処 *Mvyut.*

hasty-āroha 男 象に乗る人, 象の御者.

hasra 形 笑っている(*RV.* 用例一回のみ).

hahava 音写 囉囉婆 *Mvyut.*, 玄応; 訶訶婆
Divy.

hahā 音写 ああ! 悲しいかな!

hahāhā 音写 [同上].

Hā, 1. III. 目 jihite (因, 圍), 因: はね去る; (因)に

道を開く, 譲歩する; 去る; (圍)にとびかかる; (圍)

(圍)におもむく; (ある状態: 圍)におちいる. 因

-jihāna 前方へとぶ(*RV.*); とんでいる(矢, 圍).

ati- 因: 見逃す, 逸する; P.: (因)から(圍)へとぶ
 (命令に)違反する.

anu- 因: (圍)を急いで追う; 追いつく; (ある人: 圍)
 の後を追うまたはに随行する.

apa- 急ぎ去る(*RV.*).

abhi- 捕える(因).

ud-(dhā) 急に立ち上がる, 起きる(因, 圍); 死ぬ(圍)

prod(pra-ud)- (炎が)とびはねる(*RV.*).

sam-ud- 生ずる, 現われる.

upa- (圍)に降りる(圍).

ni- …に頭を下げる(因).

nir- (煙が)立ち昇る(圍).

pra- 急いで去る(*RV.*); とびあがる(因).

vi- ばらばらにとぶ, 別々に行く, 大きく口をあけ
 る, あくびをする(因).

sam- 起き上がる(因); 達する(圍).

pari-sam- (因)から生ずる・発する(*RV.*).

Hā 2., III. 他 jahāti, 因, 圍: 捨て去る, 置き去

にする, 捨てる, 断念する, 見捨てる; 流出する,

放出する; 片づける, 除去する; 圍: (ある場所を)置

ち去る; 落下させる, 横たわったままにして置く;

(衣服・飾りを)脱ぐ・取り去るまたは脇へ置く; 諦め

る, 辞する, 放棄する, 避ける, …を差控える; (義務

等を)無視する, (忠告等を)顧みない, -(誓い等を)

破る; 失う, …を奪われる; (罪, 悲しみを)除く,

免れる; 身体 (*śarira* 等)または生命 (*jīvita* 等)から

離れる=死ぬ; 捨 *Abh-vy.*, *Saddh-p.*, *Sapt-*
pr.; 除 *Śikṣ.*; 減 *Aṣṭ-pr.*, *Lank.*, *Sapt-pr.*; 捨

棄 *Mvyut.*; 減, 減少, 減損 *Saddh-p.*; 滅除 *Budh-*
c.; 相離 *Divy.* 不変分 *hitvā*, 無視して; 除

て; 除 *Abh.k.*, *Abh.vy.*; 為外 *Abh.k.*; 退

退隨 *Abh-vy.*; 丟下, 此外, 不同丟, 丟下此外 *Mv-*
yut. 因 *hiyate*, (*ŚB*), 因 背後に残される, (因)に

達しない; 不足する, 欠けている; (圍)に追いつか
 れる; 失われる; 圍: 負かされる, 傷害または損失
 をこうむる, 悪化する; (秤の試罪法・において)目
 方が軽い; 減少される, 減る, 衰微する, 過ぎ去る,
 終る, 失敗する; 放棄されるまたは避けられる; (圍)

困, 一°) を奪われる, 失う; 短 *Abh-vy.*; 減 *Bodh-bh., Divy., Suvik-pr.*; 減失 *Śikṣ.* 現分 *hiyamāna*, より弱まっている (困力が増大している); 退屈 *Sutr.*; 退落, 下劣, 下類 *Abh-vy.* 過受分 *hāta*, 放棄された, 断念された (P., まれ); 過能分 *hātavat*, (妻, 園; 異読) を失った; *hina*, RV.: 見捨てられた (妻); 園: (困) から逸脱した; 困, 園: 劣った, (階級 または 文化の) 低い; 園: (棄てられた=) 低次の, 卑しい, 悪い, 貧弱な, 小さな; より弱い (敵); (訴訟において) 負けた; 欠陥のある, 欠点を有する, 不十分な, 欠けている (また B.); (園, 困, 一°) が不足している・欠けている・…から自由な・…を有しない; 下 *Abh-vy., Bodh-bh., Lank., Saddh-p., Śikṣ., Sutr., Suv-pr.*; 小 *Mvyut., Sutr.*; 少 *Madhy-vibh., Mvyut.*; 劣 *Abh-vy., Ast-pr. Bodh-bh., Daś-bh., Madhy-vibh., Mvyut., Suv-pr., 梵千.*; 弊 *Lal-v., Saddh-p.*; 失 *Sutr.*; 賤 *Daś-bh.*; 悪 *Saddh-p.*; 断 *Sutr.*; 減, 除, 鄙 *Abh-vy.*; 乏, 下者, 卑劣者, 狭小 *Bodh-bh.*; 醜, 不具足 *Saddh-p.*; 卑劣 *Bodh-bh.*; 減 *Madhy-vibh.*; 下劣 *Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh., Lal-v., Lank, Vijñ-t.*; 少信 *Sutr.*; 劣者 *Śikṣ.*; *jahita*, 棄てられた, 見放された (困). 使役 園 *hāpayati*, (園 韻律) 無視する; (時間を) 無駄にする; (園) に欠けている; (生命を) 放棄する; 失う; (論題を) 断念する; 損壊 *Raṣṭr.* *na hāpayisyate vidhātum uttaram*, 答えを与えるのに躊躇はないであろう. 過受分 *hāpita*, 損害を受けた (預金); (園) を奪われた. 希求 園 *jihāsati* 断念しようと思う または 去ろうとする; 軽侮をもって斥けようと思う; (園) から逃れたいと思う. *apa-* 去る, 立ち退く (単に 不定, 不変分 にのみ); 棄 *Lal-v.*; 捨 *Śikṣ.* 不変分 *apahāya*… を避けて; (形式を) 捨てて; (園) から解放されて; (園) を無視して; (園) を除いて, …は別として; 断 *Abh-vy.*; 捨, 廃, 発遣 *Bodh-bh.* *ava-* 置き去りにする (困); 放棄する, 断念する (園持). 園 (困) によって棄てられる (RV.). *ni-* 園 位を下げられる, 破滅に沈む (RV.). 過受分 (園) (階級が) 低い, 生まれの卑しい, 俗悪な. *pari-* (ある人) を見捨てる; (あるものを) あきらめるまたは捨てる; (儀式を) 無視するまたは省略する; (命令を) 無視する; 減 *Suv-pr.*; 損, 損減 *Lal-v.*; 減少 *Saddh-p.*; 棄捨 *Divy.*; 退失, 退隨 *Abh-vy.* 園 (食物が) 避けられる; 無視される; 失敗する, 欠けている, 不足している; 減ずる, やむ, 終る; 負ける, 不幸な目にあう; (園) によって克服される; (園) をやめるまたははずれる; (園) を奪われる・失う; (以前の状態, 園) に通じていない; 退 *Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh.*; 退失 *Abh-vy., Ast-pr., Bodh-bh.*; 退転 *Bodh-bh.*; 退隨 *Śikṣ.*; 減 *Ast-pr., Bodh-bh.*; 減失 *Ast-pr., Śikṣ.*; 減, 減尽 *Śikṣ.* 過受分 *-hina* (ときとして *-hina* と綴られる), 省略された; (光沢が) 消え失せた; (*-tas*) 差控えている; (園, 困, 一°) を欠いている または のない. 使役 あきらめさせる; 見捨てる, (仕事) を放置し

て置く; (ある人) から (園) を奪う; (義務を) あきらめる・断念する・放棄する または 犯す, (約束を) 破る. 園 (園) によって捨てられる; 失敗する, 死ぬ. *pra-* 去る; 見捨てる, 断念する, 放棄する, (義務に) 違背する, (約束を) 破る; 投げる, ほうる, やむ, 消え去る; 捨 *Sapt-pr., Śikṣ.*; 減 *Abh-vy., Daś-bh.*; 断 *Abh-vy., Lal-v.*; 損 *Śikṣ.*; 脱, 離, 伏断, 減尽 *Abh-vy.*; 断滅, 断除, 棄捨 *Bodh-bh., Śikṣ.*; 棄捨 *Divy., Śikṣ.*; 捨離 *Śikṣ.*; 破, 棄損 *Daś-bh.*; 壊, 自破, 自壊 *Lank.* 過受分 *prahina* 投げ棄てられた, 着古された (衣服); (事業, 園) に失敗した; (罪, 一°) が消えた; (一°) が欠けている.

vi-pra- 捨 *Raṣṭr.*

vi- 困, 園: 置き去りにする, 棄てる, 断念する; 園: (ある場所を) 立ち退く; あきらめる, 放棄する; …を除去する, 失う; (古着を) 脱ぎ捨てる; (園); をやめる; 捨 *Abh-vy., Lal-v., Lank., Saddh-p.*; 辞 *Buddh-c., Bodh-bh.*; 離 *Lank., Raṣṭr.*; 捨離 *Bodh-bh.*; 遠離 *Ast-pr.*; 違反 *Raṣṭr.*

vihāya 不変分 顧みないで; 避けて; …にもかかわらず; …を除いて; 脇へのけて = (沢山の宝石) 以上に; 捨 *Sutr.* 園 (愛情が) 減る; 捨 *Abh-k., Abh-vy.* 過受分 (カーストの) 低い; (一°) を欠いている; (園, 困, 一°) を欠いた または 奪われた, …から分離された または 自由な.

pra-vi- あきらめる, 放棄する; 捨, 棄捨 *Lal-v.*; 遠離 *Raṣṭr.* 不変分 顧みないで または 見逃して. *sam-* 一緒に捨てる (S.); あきらめる, 放棄する (園).

hā, 園 (苦痛・驚きまたは 満足の) ああ! 悲しいかな! (呼の前 または 後に用いられる, ときとして 次に来る園とともに = に対して, ああ, 悲しいかな!; また *kaṣṭam, dhik* および *hanta* と結合される); 烏呼 *Mvyut., Raṣṭr.*; 嘆嗟 *Mvyut.*; 苦哉苦哉 *Divy.*: ~ *tāta* ~ *tāta* 嗚呼嗚呼阿爺阿爺 *Lal-v.* 301. ~ *kaṣṭam* 哀哉, 嘆息 *Mvyut.* 244.

hā-kaṣṭa-śabda 園 *hā kaṣṭam* という感嘆詞 (ああ, 悲しいかな!).

hā-kāra 園 *hā* という感嘆詞; 嗚 *Lal-v.*

hā-citta 園 怨心 *Abh-vy.*

hāṭaka 園 [ある国の名: 園 その民族]; 園 園 喝 吒迦 *Śikṣ.* 園 (*Hāṭaka* から産出したもの), 黄金.

hāṭakamaya 園 黄金の.

hāṭakeśa, hāṭakeśāna (°*ka-iś*) 園 *Hāṭaka* の主, *Śiva* 神 (の一形態).

hāṭakeśvara (°*ka-iś*) 園 [同上].

hāḍi 園 [人名].

hāḍi-grāma 園 [ある村の名].

hāta 過受分 → *Hā 2.*

hātavat 過能分 → *Hā 2.*

hātavya 未受分 あきらめられるべき または 断念されるべき.

hāna 園 捨て去ること, 断念・放棄; 欠乏; 休止;

減 *Abh-vy.*; 減 *Suvik-pr.*

hāna-bhāgiya 園 退分, 順退分, 損減分 *Bodh-*

bh., Sūtr.

hānāya-āvṛtta 形 還俗 Vin.

hāni 因 断念, 放棄; (飾りを, 一°) 取り去ること; 不十分なこと, 不足額; (一°) だけ減少すること; (因) を奪うこと; (因, 一°) の損失 (普通の意味); 破滅; (訴訟上の) 失敗; 休止, 消失, 欠如, 非存在 (普通の意味); 減 Lal-v., Madhy-vibh., Mvyut., Sapt-pr., Sūtr.; 減失 Śikṣ.; 損減 Madhy-vibh.; 所減, 所損減 Saddh-p.; 減 Sūtr.; 減減, 減失 Śikṣ.; 退 Abh-k., Abh-vy., Mvyut., Ratna-ut., Sūtr.; 退減, 退隨, 退墮 Bodh-bh.; 断 Ratna-ut., Sūtr.; 壞 Lan̄k.; 失, 離 Ratna-ut.

hāni-kara 形 有害な, 不利にする; (一°) を消失させる.

hāni-kṛt 形 害する, 破壊する; 損害を与える.

hāni-vipakṣa 形 蔽損減 Sūtr.

hāni-vṛddhi 形 減増, 増減 Madhy-vibh.

hāpana 中 (使役) 減少.

hāmi-grāma 男 [ある村の名].

hāyaka 形 あきらめる, 放棄する. 中 破遣 Śikṣ.

hāyana 男 中 (一° 形 i) 年. 男 赤い米 (の一種). 形 年に関係のある, 一年間続く, 年々の (AV.); 一° 一年間続く, 幾年も続く (因, 因).

hāra 形 (因 -i) 一° [Hr 1.] …を担っている; もたらず; 取り去る; (税を) 徴集する. 男 1. 直珠の紐または首飾り; 荷 Abh-vy.; 莊嚴 Raṣṭr.; 胸蔽 Mvyut.; 瓔珞 Daś-bh., Gaṇḍ-vy., Lal-v., Lan̄k., Saddh-p., Śikṣ., 梵雜. 2. (因) (一°) の捕獲または没収; 除去 (まれ).

hāraka, 一° 形 (因 -ikā) を担っている; もたらず; 運び去る; 盗む; 除去する, (汚れを) 一身に引き受けている; 強姦する. 男 盜賊; 真珠の首飾り; 担者 Prat-m.

hāra-kūṭa 形 鉄, 仮金瓔珞 Lan̄k.

hāra-muktā 因 首飾りの真珠.

hāra-yaṣṭi 因 (一°, -i) 真珠のひもまたは首飾り.

hāra-latā 因 [同上]; [人名].

hārārtha-hāra 男 瓔珞 Divy., Saddh-p.

hārāvali (°ra-āv°) 因 真珠のひも (一°, -i).

hārāhāra (°ra-āh°) 男 取捨 Sukh-vy. I.

hārika 形 奪 Abh-vy.

hāri-kaṇṭha 形 魅力のある (喉=) 声を有する; 首に一さしの真珠をつける.

hāriṇa 形 harīṇa (と呼ばれるかもしか) から生じた.

hārīta Hr 1. の [使役 過受分]. 男 鳩 (の一種); 教他取 Śikṣ.

hārīti-putra 鬼子母 (五百) 子 Lal-v.

hāridra 形 うこん (haridrā) の色をした, 黄色の.

hāridra-keśa 形 黄髪 Mvyut.

hāridrava 男 [Haridru] 黄色い鳥 (の一種) (RV. 用例二回のみ).

hārin 形 1. [Hr 1.] を担う, もたらず; 取り去る, 盗む, 強奪する; 除去する, 破壊する; 専用にする; (税を) 徴集する; 凌駕する; 魂を奪う, 恍惚とさせる, 魅力のある, (心, 眼等, 一°; …によって, 一°) をひきつける; 奪 Saddh-p. 2. 真珠の首飾り

(hāra) を身につけている.

hārīta 男 鳩 (の一種); [ある立法者, 医師, 文法家等の名].

hārītaka 男 鳩 (の一種).

hārītaki 因 音写 柯子 Mvyut.

hārīti 因 鬼子母 Suv-pr.; (音写) 訶利帝母神 Suvpr.: ~bhūta-mātā 訶利底母神, 鬼子母神 Suv-pr. 4.

hārd =dur-hārd および su-hārd における hrd.

hārda 形 心臓 (hrd) のなかにある. 中 (因, 一°) への愛情・愛.

hārḍi 男 [Hrd] 心臓 (AV.); 満足 (因). 中 (因) 心臓; (身体の) 内部.

hārya 未受分 (一°) によって担われるべきまたは運ばれるべき; (一°) によって運搬されるべき, 支えられるべきまたは吹き飛ばされるべき; (一°) 取り去られるべき, 没収・盗用・私用されるべき または強奪されるべき; ゆるがされるべき (決心); によってかちとられるべき, 墮落しやすい; (演劇が) 演ぜられるべき; 引 Bodh-bh.; 可奪 Sūtr.; 牽引 Abh-vy.; 退隨 Sūtr.

hālā 因 アルコール分の多い酒.

hālāhala 男 (まれ). 中 致命的な毒 (の一種); 音写 喝羅羅 Śikṣ.; 訶邏喝羅 Guhy-s.; (音写) 訶羅訶羅毒 Mvyut.

hālīka 男 [hala] 農夫.

hāva 男 [Hū] (色っぽい女の) 呼掛け・追従; 惚れた女の誘惑の手管, 女の嬌態, こび.

Hās, I. 自 hāsate (因, 非常にまれ), (因) と競走する. 使役 他 hāsayati, 競走させる (RV. 用例一回のみ).

hāsa 男 [Has] 笑うこと, 笑い; 哄笑, 歓楽 (しばしば); (因) の嘲笑 (非常にまれ); 冗談, たわむれ (ākhyāna-, =おかしな話); (あるもの例えば真珠の首飾りの) 目のくらむような白さ (笑うと白い歯が顯著であるが故にその笑いとみなされる); ほこり高慢; 笑 Lan̄k.; 戯笑, 談笑, 呵呵大笑, 哈哈大笑, 能笑大笑 Bodh-c.

hāsaka 男 笑, 笑戯 Bodh-bh.

hāsa-kara 形 笑いを誘う; (一°) 笑わせる.

hāsana 形 [Has: 使役] (ある人を) 笑わせる.

hāsavati 形 具笑母 Mvyut.

hāsin 形 (一°) を笑う; (笑う=) まばゆいほど白く (一°) で光り輝くまたは飾られた; 欽喜 Mañm.

hāstika 形 象 (hastin) から成る. 中 象の群れ, 群象

hāstina 形 象に属する (AV.); 一頭の象の深さを測る (水; 因).

hāstina-puṣa 中 =hastināpura.

hāsya 未受分 [Has] (因, 一°) によって嘲笑されるべき; 笑うべき, 馬鹿らしい. 中 笑い; ひやし, 冗談, たわむれ, 娯楽; 笑 Mvyut., 梵雜, 梵千.; 戯笑 Ast-pr., Kāśy., Saddh-p.; 嗤 Sam-r.; 軽笑 Raṣṭr.; 俳諧 Lal-v.

hāsya-kara 形 =hāsa-kara.

hāsyatā 因 馬鹿らしさ. ~m Yā, (一°) の笑い草なる.

hāsyatva 田 [同上].

hāsyā-padavi 因 (笑いへの道), 冗談, しゃれ. ~m Yā, 笑い草となる.

hāsyā-prekṣya 戲笑 Prat-m.

hāsyā-bhāva 男 馬鹿らしさ. ~m Yā, 馬鹿らしくなる.

hāsyā-rasavat 形 諧謔味のある, 喜劇的な.

hāsyāspada (°ya-ās°) 田 嘲笑的, 笑い草.

hāhā 1. 閻投=(繰返される) hā. 2. 男 [ある Gandharva の名].

hāhā-kāra 男 感嘆の hā hā (馬を駆るのにもまた用いられる), 悲嘆の叫び, 嘆き; 男 醜悪形 Ma-nj-m.

hāhā-bhūta 過受分 ああ悲しいかなと叫んでいる, 悲しみに沈んだ.

hāhā-rava 男 悲嘆の叫び, 嘆き.

Hi, V. 田 田 hinoti, hinute, I. 田 田 hinvati, hinvate, 因: 動かす, 駆り立てる, 促進する; 動かされるまたは駆り立てられる, 急ぐ(田); (田) を刺激するまたは助ける; 運搬する; 因, 田: 投げる, ほうる; P. (=Hā 2.): 捨てる, 断念する; …を除去する. 過受分 hinvāna 速力を出している等. 過受分 hita (因) 駆られた, 速力を出している; 大声で呼び掛けられた, 呪文で呼び出された, 祈念された. pari- もたらす, 捧げる (RV.).

pra-(hinoti) 駆り立てる, 刺激する (RV.); 因, 田: (田) に運ぶまたは送る, 授ける; (ある人のところへ, 田 ± prati, 田, 田, antikam または pārśvam + 田; ある場所へ, 田 ± prati; ~するために 田, 不定) (使者を) 派遣する・追い払う・去らせる・送る・遠くへ送る (普通の意味); 田: (田, 田) に向かって投げる・ほうるまたは発射する; (田) に対して(凝視を) 向ける; 棄てる(非常にまれ=prahā). **prajighyati, -tu, (Br.)** おそらく-jigāti, tu に対する 不確. 過受分 prahita P.: 駆られた, 刺激された; 田: (田) に対してほうられたまたは発射された; (一) に対して(眼, 凝視, 心を) 向けられた; 肉にくいこんだ(爪); 運搬された, 送られた(事物); 遠くへ送られた, 追放された; 因, 田: (ある人のところ, pārśve + 田) に派遣された・遣わされた(使者等). **prahitavat** 過能分 = 定動詞 (彼は) 派遣した.

anu-pra 過受分 呼びにやられた.

sam- 組立てる, 企てる (RV.).

hi 不変 (決して文頭に立たず, 通例最初の語の次に来る; また他の位置においては強調語の後に来る; 文章中の動詞は常にアクセントをもつ). 因, 田: なぜならば, …の故に(しばしば指示詞, 関係詞, 疑問詞の後に置かれる); ちょっと, どうぞ(田または 田 とともに; ときには 田 とともに, 例 paśyāmo hi, 我々はちょっと見よう); 真に, 確かに, 実に; 田: (しばしば単に詩句を補うため, とくに母音接続を避けるためまたは長母音を得るため, ときとして同一の文意のなかで二回用いられることさえある); 故 Ast-pr., Ny-ay-pr.; 即, 唯, 定, 謂 Ast-pr. hi~tu, hi~punar, …はもっともであるがしかし….

Hims, VII. 田 (田 田) hinasti, 傷害を与える, 害す

る, 傷つける; 殺害する; 騒がす, (誓いを) 破る; 破壊する; 減 Abhvy.; 害, 傷害 Lal-v.; 損, 殺害 Saddh-p. 田 himsyate 殺される. 過受分 himsita. 使役 田 himsayati 傷つける, 害する, 殺す, 殺害する. 希求 田 jihimsiṣati, 傷つけることを切望する, 傷つけようとする (Br.).

ā- 傷つける.

upa- 傷つける, 傷害を与える.

vi- 傷つける, 損う; 傷害 Bodh-bh.

himsa 形 害する, 傷害を加える (RV. 用例一回のみ).

himsaka 形 [同上]; 害 Lal-v.

himsaṇa 田 傷を与えること; 傷つけること; (動物の, 一) 屠殺.

himsaniya 未受分 傷つけられるべき; 屠殺されるべき(動物).

himsā 因 (生命または財産に対する) 傷害, 損傷, 一° 通例…に対しての, ときとして…からの; 害 Abhvy.; 害害 Buddh-c.; 傷害, 殺生, 殺害 Bodh-bh.

himsā-dāna 田 殺生布施, 殺害而行恵施 Bodh-bh.

himsita [Hims の過受分] 田 傷害. -tā 因 害 Lal-v.

himsitos Hims の 田 不定.

himsya 未受分 傷害または殺害され得る.

himsra 形 有害な, 害のある, 害を与える, 有毒な (RV. 用例一回のみ, 田); 一°, …を苛酷に扱う(田). 男 禍をかもす者, 残酷な商売をしている人間, 生物を殺害することを喜ぶ人; 猛獣; 害害心 Buddh-c. 田 残酷(田).

himsra-jantu 男 猛獣.

himsra-paśu 男 [同上].

himsrātmatā (°ra-āt°) 因 害害心 Buddh-c.

Hikk, I. 田 田 hikkati, hikkate, しゃっくりをする(きわめでまれ). 使役 田 hikkayati, しゃっくりをさせる(きわめでまれ).

hikkā 因 しゃっくり; 音写 饑寒嗚, 饑寒呃, 饑寒嘔 Mvyut.

hiñ, 閻投 (+Kr), 牛の鳴くような音を発する(因).

hiñ-kāra 男 hiñ と言う音(因).

hiṅgu 男 *Asa foetida* 樹. 田 その樹脂(根から取られ, 薬および調味料として使用される); 興渠, 興渠 Lank., 玄麻; 音写 阿魏 Mvyut.

hiṅgu-gandha 田 与渠, 与渠 Lank.

hiṅgu-rāta 男 [人名].

hiṅgula 田 朱, 朱色; 銀朱 Mvyut.

hiñjira 男 (象の) 足の鎖.

hiḍimba 男 [Bhīmasena によって殺害されたある Rāksasa の名]. -ā 因 [Hiḍimba の姉妹の名].

Hiṅḍ, I. 田 hiṅḍate (一過 ahiṅḍanta, 三過 jhiṅḍe のみ) 行く, 動く, さまよう.

ā- さまよう, ぶらぶらする(田); 随处走 Divy.

anv-ā 遍, 涉路而行 Av-s.; 普遍 Divy. 使役 田 転, 転而後 Mvyut.

upā(upa-ā)- 遍 Divy.

pari- 飛び廻る.

hita 1. [Hi の過受分].

hita 2. 過受分 [Dhā] 因: (因) のなかへ置かれた, 横たえられた; (因) に位置した・横たわっているまたは含まれている; 建てられた, 用意された, 並べられた; (ある人: 因, 圃) に割り当てられた・因, 圃: (ある人: 因) ときとして因; 圃では圃も, 一) に対してまたはのために有益な・ためになる・有利な・好都合な・適したまたは愉快的な; 好意ある; 圃: 好意を有する, 友好的な, 親切な. 圃圃圃 (圃) ためになること, 利益, 有利, 安寧, 善; よいまたは有益な忠告; 圃圃圃 利 *Raṣṭr.*, *Ratna-ut.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.*; 利益 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Divy.*, *Gaṇḍ-vy.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Raṣṭr.*, *Ratna-ut.*, *Sukh-vy. I.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*; 利濟 *Mvyut.*; 饒益 *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Lank.*, *Madhy-vibh.*, *Raṣṭr.*, *Saddh-p.*, *Śikṣ.*; 祐益 *Daś-bh.*; 利行 *Bodh-bh.*; 為, 哀念 *Raṣṭr.*; 益有情, 作饒益 *Madhy-vibh.*

hita-kara 圃 (ある人: 圃) に対して善を行なう・親切な・有用なまたは有利な; 圃圃圃 利益 *Sutr.*; 利益者 *Lal-v.*

hita-kāma 圃 (他人の) 善または福祉を欲する, 慈善心のある, 好意を有する, 親切な; 圃圃圃 樂利益, 樂施利益 *Bodh-bh.*; 利益作 *Sutr.*

hita-kāmyā 圃 (圃のみ) (ある人: 圃) を益しようとする欲望; 圃圃圃 為利群生故 *Sutr.*

hita-kāraka 圃 友好的な (圃 敵対的な). 圃 友人.

hita-kāraṇa 圃 圃圃 為益 *Suv-pr.*

hita-kāritā 圃 親切な行為.

hita-kāritva 圃 [同上].

hita-kārin 圃 友好的な, 親切な.

hita-kṛt 圃 親切な, 有用な.

hita-carāṇa-saṃkrama 圃 圃圃 入行利益, 行利益入 *Mvyut.*

hita-citta 圃 圃圃 利益心 *Aṣṭ-pr.*; 思利益 *Suv-pr.*

hitacittatā 圃 圃圃 利益心 *Bodh-bh.*

hita-pakṣya 圃 圃圃 有利益品 *Bodh-bh.*

hita-pathya 圃 有用で健康によいならびに pathyā (= *haritaki* すなわち黄色の *myrobalan* 樹) を得ている (一語二義の例).

hita-prada 圃 圃圃 与利益 *Bodh-bh.*

hita-prayas 圃 祭式の食物を並べたてた, (...のために) いけにえをひろげているまたは用意している (RV.).

hita-buddhi 圃 好意をもっている, 親切な.

hita-vacana 圃 忠告, 有益な助言. 圃 圃圃 言饒益 *Aṣṭ-pr.*

hitavat 圃 有利な, 有用な.

hita-vādin 圃 有益な忠告を与える. 圃 有益な助言を与える人.

hita-sukha 圃圃 樂, 利益安樂 *Bodh-bh.*; 安樂利益 *Bodh-bh.*, *Suv-pr.*

hitasukha-kriyā 圃 圃圃 行利他 *Sutr.*

hita-hita 圃 [人名].

hitā (過受分) 圃 堤防, ダム.

hitādhāyitā (°ta-ādḥ°) 圃 善行.

hitādhāyin (°ta-ādḥ°) 圃 よいことをしている.

hitādhyāsaya 圃 圃圃 利益意樂 *Bodh-bh.*; 利極大心 *Sutr.*

hitānubandhin 圃 よい結果を伴なう.

hitānvaya 圃 圃圃 利益種類 *Bodh-bh.*

hitā-bhaṅga 圃 ダムの破壊.

hitāya, 圃圃 圃 ためになるまたは有利である.

hitārtha 圃 圃 または圃 (圃, 一) の幸福・利益または便宜のために, -ā 圃圃 ある (身体内の) 脈管の名.

hitārthin 圃 (自身の) 幸福を求める; (ある人: 圃) の安寧を求める.

hitāvaha (°ta-āv°) 圃圃 利彼 *Sutr.*

hitāsaya (°ta-ās°) 圃 圃圃 利意, 利益意樂 *Bodh-bh.*; 利益心, 利益意 *Sutr.*

hitāhita 圃圃 圃 有利でかつ不利な, 有用でかつ有害な; 圃圃 善惡 *Mañj-m.* 圃 利害.

hitecchā (°ta-ic°) 圃 (他人の) しあわせを願うこと.

hitaiṣitā (°ta-eṣ°) 圃 慈善; 圃圃 利樂 *Aṣṭ-pr.*

hitaiṣin (°ta-eṣ°) 圃 善意を有する, (他人の) しあわせを求める; 圃圃 救 *Guhy-s.*; 利益令得安樂 *Suv-pr.*; 能饒益, 能作饒益 *Divy.*; 利益者 *Divy.*: *sarva-loka* ~ 一切世間利益者 *Divy. 51.*

hitopadeśa (°ta-up°) 圃 有益な教訓, 忠言, 忠告; [よく知られたる寓話集の表題].

hitopadeṣṭr (°ta-up°) 圃 有益な教訓を与える人, 有益な教授者.

hitvāya Hā 2. の 圃圃 圃 (RV.).

hitvi [同上] (RV.).

hina 圃圃 =hi, なぜならば (RV. 用例一回のみ).

hin-tāla 圃 ヤシ (の一種) (*Phoenix paludosa*).

hin-dola 圃 ぶらんこ.

hinva 圃 刺激者 (RV. 用例一回のみ).

him 圃圃 =hiñ.

hima 圃 寒さ (圃, 圃); 冬 (まれ, 圃). 圃 雪, ときとして氷 (圃, Br. においては非常にまれ); 圃圃 雪 梵雜., 梵千.

himaka 圃 [人名].

hima-kara 圃 (冷たい光線を有する), 月.

hima-garbha 圃 冷たさを含んでいる (光線), 雪で覆われた.

hima-giri 圃 雪山, ヒマラヤ.

himagiri-sutā 圃 ヒマラヤ山の娘, *Pārvatī* 女神.

himāgirisutā-kānta 圃 [*Śiva* 神の 圃圃].

hima-gu 圃 (冷たい光線を有する), 月.

hima-gṛha 圃 冷凍室.

himagṛhaka 圃 [同上].

hima-tviṣ 圃 (冷たい光線を有する), 月.

hima-didhiti 圃 [同上].

hima-dyuti 圃 [同上].

hima-dhātu 圃 圃圃 雪 *Śikṣ.*

hima-dhāman 圃 =himatviṣ.

hima-pāta 圃 冷雨; 降雪.

hima-rajata-nibha 圃 圃圃 皎潔如雪 *Lal-v.*

hima-raśmi 圃 月.

hima-rāja 圃 [ある王の名].

hima-ruci 圃 (冷たい光線を有する), 月.

himartu (°ma-rtu) 圃 寒い季節, 冬.

himavat 圃 寒い, 雪の多い, 氷の多い (まれ); みずがらを寒さにさらしている (まれ). 圃 雪山 (圃); とくくヒマラヤ山脈; 圃圃 雪 *Mvyut.*; 雪山 *Bodh-bh.*

Lal-v., *Mvyut.*, *Saddh-p.*; 音写 鷓摩越 玄応。
himavat-parvata 田 雪山 *Lal-v.*
himavatparvata-rājan 男 雪山王 *Gand-vy.*
himavat-pura 田 ヒマラヤ山上の町。
himavan-mekhalā 因 ヒマラヤ(地帯=)山脈。
hima-sikharin 男 雪山, ヒマラヤ。
hima-subhra 形 雪のように白い。
hima-saila 男 雪山, ヒマラヤ。
himaśaila-ja 形 ヒマラヤ山上に生長する。-ā 因 (ヒマラヤ山の娘), [*Pārvatī* 女神の名]。
himaśaila-sutā 因 ヒマラヤ山の娘, [*Pārvatī* 女神の名]。
hima-samghāta 男 深雪。
hima-srut 男 月。
hima-sruti 因 降雪。
himā 因 (śata とともにのみ) 寒い季節, 冬 (因)。
himāṃsu 男 =himakara, 月。
himāṃsu-mālin 男 [同上]。
himāgama (°ma-āg°) 男 (寒冷=) 冬の始まり。
himācala 男 雪山, ヒマラヤ山。
himācalendra (°la-in°) 男 [同上]。
himātyaya 男 寒い季節の終り。
himādri 男 ヒマラヤ山。
himāni 因 [Hima] 堆雪, 深雪。
himānta 男 冬の終り。
himāmbhas 田 冷水。
himālaya (°ma-āl°) 男 雪の住居, ヒマラヤ山; 雪山 *Mañj-m.*
himāhati (°ma-āh°) 因 降雪。
himita 名動 通受分 雪または氷となった。
himi-Kṛ, 雪または氷に変える。
himopacāra (°ma-up°) 男 冷凍。
himmaka 男 [人名]。
hiraṇmaya 形 (因 -i) 黄金の, 黄金色の。
hiraṇya 田 [Hr 3.] 因, 圍: 金塊 (因 *suvarṇa*), 黄金, 貴金属 (圍 においてはまた = 鑄造された金貨); 因: 黄金の器具または飾り; 金片または金貨 (Br. においては他の金属と区別するため一般に *suvarṇa* とともに用いられる); 金 *Lank.*; 七珍, 珍宝 *Suv-pr.*; 宝具 *Mvyut.*; 金銭 *Divy.* 形 黄金の (圍, まれ)。男 [*Kāśmir* のある王の名]。
hiraṇyaka 男 [あるネズミの王の名]。
hiraṇya-kaśipu 男 黄金のじゅうたん, 黄金で飾られた座 (因); [*Narasimha* の形をした *Viṣṇu* 神に殺害された *Daitya* の名]。形 黄金のじゅうたんをもつ。
hiraṇya-kula 男 [ある王の名]。
hiraṇya-keśa 形 (因 -i) 黄金の髪をもつ, 黄金のたてがみをもつ。
hiraṇya-keśin 男 [ある *Gṛhya-sūtra* の著者の名]。
hiraṇya-garbha 男 黄金の子宮または胎児; [宇宙開闢の根本原理 (とくに人格的なブラフマン神) の名]; [ヴェーダーンタにおいて, 属性によって制約された *Ātman* の名]; [人名]; [あるフラミンゴの名]; 金胎 *Prajā-h.*, *Mvyut.*; 金蔵 *Prajā-h.*
hiraṇya-gupta 男 [人名]。

hiraṇya-cakra 形 黄金の車輪をもつ (RV. 用例一回のみ)。
hiraṇya-da 形 黄金を与える。
hiraṇya-datta 男 [人名]。
hiraṇya-dant 男 黄金の歯をもつ (RV. 用例一回のみ)。男 [ある *Baida* の名 (Br.)]。
hiraṇya-dā 形 黄金を与える。
hiraṇya-nābha 男 [種々の人の名]。
hiraṇya-parṇa 因 形 黄金の翼をもつ; 黄金の葉をもつ。
hiraṇya-pāni 形 黄金の手をもつ; 宝手 *Av-ś.*
hiraṇya-pātra 田 黄金の容器または皿。
hiraṇya-pura 田 [大海のかなたにあり空中に懸っている *Asura* の都市の名]; [*Kāśmir* におけるある町の名]。
hiraṇya-bāhu 形 黄金の腕をもつ。男 [*Sone* 河の名稱 (異読: -vāha)]。
hiraṇyamaya 形 黄金からなる; 真金, 成金光 *Lank.*
hiraṇyaya 因 形 (因 -i) 黄金の, 黄金に富む。
hiraṇya-ratha 男 黄金の または 黄金で満ちた車 (因)。
hiraṇya-rūpa 形 黄金に似ている (RV.)。
hiraṇya-retas 男 (黄金を種子または精子としてもつ), 火。
hiraṇyavat 因 形 黄金を所有している, 黄金からなっている または 黄金を与えられた。田 黄金の所有 (RV.)。
hiraṇyavati 因 [人名]; [第三の世期における *Ujjayintī* の名]。
hiraṇya-varṇa 形 黄金色の, 黄金に似た (因, 圍 においてはまれ)。
hiraṇya-vartani 形 黄金の通路または進路を有する (因)。
hiraṇya-varṣa 男 [人名]。
hiraṇya-vāsi 形 黄金の斧を振っている。
hiraṇyavāśimat 形 (最上 -tama としてののみ) [同上] (RV. 用例一回のみ)。
hiraṇya-vāha 男 [*Sone* 河の名稱]。
hiraṇya-vimīta 田 黄金の宮殿。
hiraṇya-śarira 形 黄金の身体をもつ。
hiraṇya-suvarṇa 形 金銭 *Av-ś.*
hiraṇya-stūpa 男 (黄金の房をもつ), [人名]。
hiraṇya-hasta 形 黄金の手をもつ (因)。男 [人名]。
hiraṇyākṣa 形 黄金の眼をもつ (因)。男 [いのししの形をした *Viṣṇu* 神に殺害された *Daitya* の名]; [人名]。
hiraṇyābja 田 黄金の蓮。
hirā 因 脈管 (因)。
hiri 因 (=hri) 慚 *Lal-v.*, *Sam-r.*
hirimat 形 慚 *Sam-r.*
hiri-mantatā 因 有慚 *Sam-r.*
hiru 男 利益 *Divy.*
hiruk 因 (因; 因) を去って, …の視界のそとに; 離れて (圍)。
hiruka 田 利益 [国名] *Divy.*
hilla 男 [人名]

His, 𑖦 hisati, hiṣati, hiṣyati, いなく; 悲鳴 Lal-v.
 hi, 𑖦 (驚き, 恐怖, 欽喜, 満足をあらわす).
 Hid, 𑖦 jihida, jihīḥa, 𑖦 悩ます, 感情を害する (因); 𑖦 怒る (因); 𑖦 過受分 hiḍita, hiḍita, 激怒した (因). 使役 𑖦 𑖦 のみ ajihidat むしり取る (AV.).
 hina 𑖦 過受分 [Hā 2.]. 𑖦 不足, 欠乏. velā-hine 不都合なときに.
 hinaka 𑖦 (一°) を欠く.
 hina-karman 𑖦 卑しい職業に従事している; (自己の) 義務を怠っている.
 hinakarma-sevin 𑖦 下賤下律儀, 卑賤巧業 Ast-pr.
 hina-kāya 𑖦 諸根不具 Suv-pr.
 hina-kula 𑖦 下賤之家 Gaṇḍ-vy.
 hina-kulina 𑖦 卑姓, 下姓, 下種姓 Bodh-bh.
 hina-kuśalamūla 𑖦 善根不具足 Sūtr.
 hinakuśalamūlatva 𑖦 劣起 Sūtr.
 hinacitta 𑖦 不劣心 Ast-pr., Madhy-vibh.; 下劣品思惟 Madhy-vibh.
 hinacittatva 𑖦 心下劣 Madhy-vibh.
 hina-jātika 𑖦 下生, 貧賤, 貧窮 Ast-pr.
 hinatā 𑖦 欠乏, 不在; (一°, 一°) に欠けること; 劣 Bodh-bh., Suv-pr.; 少, 減 Madhy-vibh.
 hina-tulya-viśiṣṭa 𑖦 下中勝, 劣等勝, 劣等勝品, 上中下人 Bodh-bh.
 hinatva 𑖦 劣っていること; (一°) が欠けていること, 不足していること; 劣 Abh-vy.
 hina-daridra 𑖦 貧賤 Śikṣ.
 hina-dina 𑖦 困厄者, 貧類 Divy.
 hinadinānukampaka 𑖦 (情存) 哀愍 (極濟) 貧乏 Divy.
 hina-durbala 𑖦 卑下劣弱 Sūtr.
 hina-dhātu 𑖦 小界 Sūtr.
 hina-dhātuka 𑖦 身悪 Mvyut.
 hina-pakṣa 𑖦 保護されていない.
 hina-prajña 𑖦 劣慧, 智慧下劣 Ast-pr.
 hina-praṇita-dharma 𑖦 法…優劣 Ratna-ut.
 hina-prākṛta 𑖦 不肖 Lal-v.
 hina-bhūmi 𑖦 下地 Sūtr.
 hina-bhūmika 𑖦 下地 Sūtr.
 hina-madhyā-viśiṣṭa 𑖦 下中上 Lanḥ.; 下中勝 Rana-ut.; 有下中上 Sūtr.
 hina-mānasa 𑖦 心怯劣 Suv-pr.
 hina-yāna 𑖦 劣小な乗り物, 小乗 (因 mahāyāna 大乘); 小乗 Bodh-bh., Mvyut., Saddh-p; 下乗 Bodh-bh., Kāśy., Lal-v., Sūtr.; 劣乘, 声聞乘 Bodh-bh.; 下劣乘 Madhy-vibh.; 羅漢道 Kāśy.
 hinayāna-gamana 𑖦 趣小乗 Sūtr.
 hinayāna-citta-pariṇāmana 𑖦 起二乗心 Sūtr.
 hinayāna-prayukta 𑖦 於下乗 Sūtr.
 hinayāna-sprhana 𑖦 求小乗 Sūtr.
 hinayānādhimukta 𑖦 樂小乗者, 樂小法者, 志意下劣 Gaṇḍ-vy.
 hina-rātra 𑖦 短い夜をもつ.

hina-ruci 𑖦 樂著小乘法 Ratna-ut.
 (hina)-lokottara (°ka-ut°) 𑖦 出世間 Sūtr.
 hina-varṇa 𑖦 低い階級の, 身分の卑しい.
 hina-vādin 𑖦 訴訟に負ける.
 hina-vīrya 𑖦 劣精進, 下劣精進 Ast-pr., Bodh-bh.; 無勇勢 Suv-pr.
 hina-vṛtta 𑖦 行動の卑しい, 悪行をする.
 hina-vṛtti 𑖦 [同上]
 hina-samjñā 𑖦 怯弱心 Ratna-ut.
 hina-sattva 𑖦 下劣有情, 凡夫下劣, 凡夫下劣人 Ast-pr.
 hina-sahāya 𑖦 小伴 Sūtr.
 hina-sevā 𑖦 身分の卑しいまたは下賤な人に仕えること.
 hināṅga 𑖦 (因 -ā, -i) 手足に欠陥のある; 不完全な.
 hinātiriktāṅga 𑖦 (因 -i) 少なすぎるまたは多すぎる手足をもつ.
 hinādhika 𑖦 すくなすぎるまたは多すぎる.
 hinādhimukta 𑖦 小欲, 愚劣, 劣信解 Saddh-p.
 hinādhimukta-sattva 𑖦 劣意之有情 Bodh-c.
 hinādhimukti 𑖦 小信 Sūtr.
 hinādhimuktika 𑖦 少信 Lal-v.; 劣解脱 Guhy-s.; 劣信解, 下劣信解 Ast-pr., Suvik-pr.; 劣解, 樂不浄, 下賤不浄 Gaṇḍ-vy.; 品底, 慢賤者 Mvyut. 下劣勝解 Ast-pr.
 hinānavadya-viśaya 𑖦 以小無障 (衆生) 為 (可羞境 Sūtr.
 hinābhīrata 𑖦 樂小法, 樂下劣, 志樂小法 Saddh-p.
 hinārtha 𑖦 (自己の) 利点 または 利益を失った.
 hināsaya (°na-ās°) 𑖦 下心 Sūtr.
 hinita 𑖦 名動 過受分 [hina から] (自己のもの, すなわ 家族または幸福を) 奪われた, (一°) を欠いた, …から切り離された.
 hinenāsamtuṣṭa-prayoga 𑖦 於下劣善, 不生足, 起勝加行 Bodh-bh.
 hinendriya (°na-in°) 𑖦 根残 Ast-pr.
 hinotkarṣa-sthāna (°na-ut°) 𑖦 下上 Sūtr.
 hinotkrṣṭa (°na-ut°) 𑖦 勝劣 Bodh-c.
 hinotkrṣṭa-madhyama (°na-ut°) 𑖦 上下中 Lanḥ.
 hira 𑖦 金剛石; 金剛 Mvyut.
 Hu i., III. 𑖦 𑖦 juhoti, juhute, (火の中に) 注ぐまたは投げ入れる, (因) の中に (因) に対して (因, 因) 捧げる・供える; (因) によって (ある人: 因) に対し捧げる: (ときとして火中に捧げられないものについても用いられる); (因) の上に (油を) ふりかけ (因); 奉事 Buddh-c.; 修祭祀 Lal-v.
 hūyate, 捧げられる, 供えられる. 過受分 huta げられた; …に対して捧げられたまたは供物を供られた; 焼施 Mvyut. 使役 𑖦 hāvayati, 捧させる, 供えてもらう, 供えさせる; 希求 𑖦 juhṣati, 捧げたいと欲する. 願 𑖦 johaviti, (しばしば) 供える.
 abhi …に供物を注ぐ, (供物を) 捧げる, …に対しまたはのために供える. 過受分 abhihuta (供物を

灌ぎかけられた；捧げられた，…に捧げられた。
 ā- (因)，(ある人：因)のために(因)の中に捧げる；
 (因)に供物を灌ぎかける。過受分 āhuta 供えられ
 た；…に捧げられた；火中に置かれた(死体；RV.)
 opa- (供物を)供える。
 pra- 捧げる，供える。
 Hu 2. (まれに過受分)に使用される) = Hū, Hvā.
 abhi-huta 折念された(S.)
 ā- 過受分 āhuta 召し出された，招かれた(叙詩，
 P.)
 sam-ā- 過受分 一緒に呼び出された。
 hu 因投 (まれ，因)。
 humkāra 男 (おどしまたは嫌悪をあらわす) humとい
 う音声；(象の)ラッパを鳴らすような音，(牛の)も
 ーという鳴き声，(弓の)ぶーンとうなる音。
 hum-kṛta 過受分 → hum. 因 (怒りをあらわす) hum
 という音；(牛の)鳴き声；(雷の)とどろき。
 hum-kṛti 因 hum. という音声 (=kāra).
 huḍu 男 雄羊。
 huṇḍa 男 [同上]。
 huṇḍikā 因 証文。
 hut 因 (一)を捧げる。
 huta 過受分 [Hu 1.]. 因 供物を捧げること，献供。
 huta-bhuj 男 (供物を食べるもの)，火，Agni 神；
 焼食，連則，無禁火禁焼食 *Mvyut.*
 huta-vaha 男 (供物を運ぶもの)，火，Agni 神；
 火 *Lal-v.*
 hutavaha-jvālā-sama 因 火炎のような，燃えるよう
 に暑い。
 huta-śeṣa 男 供物の残り。
 hutāgni 男 祭火。
 hutād 因 供物を食べる(因)。
 hutāsa (°ta-āsa) 男 (供物を食べるもの)，火，Agni
 神。
 hutāsana 男 [同上]；
 火 *Lal-v.*，*Raṣṭr.*，*Śiks.*；
 火焰 *Lank.*；炬火 *Saddh-p.*；猛燄 *Divy.*；焼食，
 連則，不連則火，無禁火禁焼食 *Mvyut.*；盛火，大
 火聚 *Lank.*
 hutāsanavat 因 火が供給された。
 hutāsanāya, 各動 火のようになるまたは火のように見
 える。
 huti 因 (一)を捧げること，…の供物。
 hum 因投：Kṛ とともに，hum (という音)を発する，(ほ
 ら貝が)響き渡る；(因)に荒々しく話しかける。
 過受分 もーと鳴いている，anu-hum-Kṛ, 因 うな
 り声で応ずるまたは答える。
 huraś-cit 因 こっそりとひそんでいる。
 huras 男 こっそりと，ひそかに(RV. 用例一回のみ)。
 huruk 男 脇へ(RV. 用例一回のみ) → hiruk.
 huluko nāga-rājan 明見竜王 *Mvyut.*
 hulluro nāga-rājan (音写) 戸魯陸竜王，呼婁茶
 竜王 *Mvyut.*
 huviṣka 男 [ある王の名]。
 huṣka 男 [ある王の名]。
 huṣka-pura 因 [*Huṣka* によって創られたある都市の
 名]。

huhu 男 [ある Gandharva の名]。
 huhuva 音写 呼呼婆 *Divy.*；虎虎婆 *Mvyut.*
 huhuva-naraka 男 音写 郝郝凡那落迦 玄応。
 Hū1. 呼ぶ → Hvā.
 hū2., 因 (一)を呼ぶ。
 hūm-kāra 男 = humkāra.
 hūm-kṛti 因 (いびきをかくときの) hūm という音；
 (蜜蜂の)ぶんぶんいう音。
 hūṇa 男 因 [ある民族の名]，フン族。
 hūta 過受分 [Hvā]. 因 呼ぶ。
 hūti 因 呼びかけ；名前。
 hūna-lipi 因 匈奴書 *Divy.*；(音写) 護那書 *Di-*
vy.
 hūm 因投 = hum.
 Hūrch, I. 因 hūrchati (因；まれ)，曲って行く，よろ
 めく，落ちる；(因)から離脱する。使役 因 hūr-
 chayati, (因)から落下させる(因)。
 hūhū 男 [ある Gandharva の名]。
 Hr 1., I. 因 (自 まれ) harati, II. 因 harmi (RV. 用
 例一回のみ)，因，因：(因)の上にまたはに入れて保つ
 または運ぶ；もたらす，持って来る；贈る，提供す
 る；(因)へ持ち去る；(因)に(メッセージを)伝達
 する；(一緒に)連れ去るまたは運び去る，捉える，盗
 む，強奪する(普通の意味)；因(因 また 因)自己のために
 取る，(贈り物を)受け取る，得る，(とくに相続人とし
 て)…を所有する，(因)から取る，(貢物を)取り立て
 る；因：取り去る，切断する，撃ち落とす，(頭を)切
 り落とす，(首を)はねる；(顔を)そむける；(少女と)
 結婚する；圧倒する，支配する，連れ去る，獲得す
 る；凌駕する；運び去る，奪い去る，魅惑する，と
 りこにする；運び去る，除去する，消散させる，挫
 折させる，破壊する(普通の意味)；引っこめる，引き
 とめる，保留する；引き延ばす=(時を)かせぐ；
 取 *Bodh-bh.*；出 *Śiks.*；盗 *Raṣṭr.*；奪 *Lank.*，
 梵難；漂 *Saddh-p.*；能引 *Abh-vy.*；却去 *Mvyut.*；
 却奪，却取 *Aṣṭ-pr.*；却奪，侵奪 *Suv-pr.* 過受分
 hrta 取られた等；
 所侵奪 *Bodh-bh.* 使役 因
 hārayati (因，因)をして運ばせる；(因)をして持
 って来させる または運んで来させる；奪い取る，自
 分のものにする；(ある人)から奪い取らせる，(とく
 に，遊びにおいて)負ける。過受分 hārita, (一)
 によって運ばれた；(どこかあるところから：-tas)
 得られた；運び去られた；負けた(とくに遊びにおい
 て；普通の意味)；凌駕された，しのがれた；(因)を失
 っている。希求 因 (自 韻律) jihīṣati, 取る(取り
 去る)ことを切望する，欲しいとあこがれる；
 賦歛 *Buddh-c.*：ṛṣibhyaḥ kanakam jihīṣuḥ 賦
 歛仙人金 *Buddh-c.* 87。
 ati- 持ち越す，…を横切って達する，…を越えて拡
 がらせる(因)。
 adhi- もたらす，獲得する。
 anu- (…に似る)，(因)をまねる；(因，また 人物の
 因)に似る；(ある状態：因)に達する；因(因)をま
 ねる。
 apa- 因：になう，運ぶまたは引き去る；取り去るま
 たは取り除く，除去する；(顔を)そむける；因 因：

運び去る, 無理やり取り去る, 不当に専有する, 奪い取る; 強奪する (普通の意味); 罽: 引き裂く, 分離する, (頭を) はねる; 運び去る, 圧倒する, 夢中にさせる; 連れ去る, 移す, 消散させる, 破壊する, 挫折させる, 無益なものとする; 取り戻す; 罽取, 脱, 強奪 *Siks.*; 止息, 将去; 奪, 竊取 *Divy.*
使役 過受分 *apahārta* 運び去られた, 強奪された.
vy-apa- (頭を) 打ち落す; 取り去る, 破壊する.
abhi- 進呈する, 提供する.
ava- 下に置く, 側に横たえる; 凌駕する.
anv-ava より低くする, ひくめる.
abhy-ava- (水: 罽) の中に投げる; 取る, 食べる; 罽服 *Saddh-p.*; 食, 嚙喰 *Siks.* 罽食, 飲喰 *Abh-vy.* **使役** 着る; (あるもの: 罽) を食べさせる, (罽) に食物を与える.
upāva- 持って来る, 降ろす (罽).
praty-ava- **使役** 中止する, やめさせる.
vy-ava- 罽: 交換する; 罽, 罽: (罽, 罽) と交際する; 罽: (罽 ± *sārdham*) と戦う; (罽) に対して行動する, ふるまう (普通の意味); 自己の職業に従事する, 働く; (罽, 罽, 罽) を商う, 取り扱う; (罽) を賭ける; (罽) を使用する, 利用する; ぶらぶらする. 罽 *vy-ava-hriyate*, 称せられるまたは名づけられる. **使役** 行動することを許す, (人が好むことを) 自由にさせる.
anu-vy-ava- 罽 随所宣説 *Bodh-bh.*
sam-vy-ava- (罽) と交わる.
sam-ava- 集める.
ā- 罽, 罽: 自身に取る, もって来る, 取って来る (普通の意味); 提供する, 贈り物を与える, 授与・贈与する, 与える; 自身のために持って来る, 獲得する, 受け取る, 取る (普通の意味); 罽: (罽) のために手に入れる; 取得する, …を所有するに至る, ちかうる; 運び去る, 強奪する; 自分の(妻として) 娶る; (罽) によって (息子を) はらむ; 味方につける, 贈賄する; (頭を) 切断する; (罽) から (感覚器官) を引っ込めるまたは退かせる; 取り去る, 破壊する; 凌駕する; 摂取する, 食べる; 示す, あらわす; 罽受 *Lal-v.*; 食 *Lal-v.*, *Lank.* 罽引生 *Abh-vy.* **過受分** *āhṛta* 取られた等. **使役** 持って来させる; もって来る; (貢物を) きびしく取り立てる, 徴収する; 取る, 食べる; 示す, あらわす; (涙を) 流す.
adhy-ā- (言葉を) 補充する.
sam-anv-ā- 罽 知 *Siks.*; 念 *Ast-pr.*, *Lal-v.*, *Raṣṭr.*; 観察 *Divy.*; 正念 *Lal-v.*; 存念, 愛念, 思惟 *Divy.*; 一心, 一心念 *Saddh-p.*; 摂, 護念, 專志 *Bodh-bh.*; 成就, 摂取 *Siks.*; 故犯, 故作 *Daś-bh.*; 常念, 眷念, 能念, 護念; 取, 得; 思惟, 覚知; 引当 *Ast-pr.*; 澄知, 悉共観察 *Suv-pr.*
ud-ā- 罽: 頂上に置く; 罽, 罽: (明らかにする), (ある人: 罽) に (ある事: 罽) をまたはについて挙げる・引用する・発言する・暗誦する・詳しく語るまたは述べる; 罽 名前を挙げて言及する, …と名づける, 呼ぶ; 実例として引用する (文法); 罽 説 *Gand-vy.*, *Guhys.*, *Lank.*, *Saddh-p.*; 談説 *Bodh-bh.*;

宣説 *Bodh-bh.*, *Guhys.*; 演説 *Daś-bh.* 罽 呼ばれる. **過受分** 呼ばれた.
abhy-ud-ā 取って来る; 付け加えて言及する.
upod-ā- (°pa-ud-) 付け加えて言及する.
praty-ud-ā- (ある人: 罽) に答える; 逆の例を引用する (文法).
sam-ud-ā- 話す, 言う. **過受分** 話しかけられた; 話された, 発言された; 言及された; 名づけられた; 断言された=決定された; 罽 説 *Madhy-v.*; 現, 所説 *Sūtr. tasyāṃ tu sarvavidyānām ārambhāḥ samudāhṛtāḥ* それの上にすべての学問の発端が基礎づけられている.
upā(upa-ā)- 取って来る, (ある人のために) 取って来るまたは連れて来る; 提供する, 贈る; (自己の) 勢力下に入れる, 味方につける; 着手する; 完遂する, (罽) からそらす; (首を) 切り落とす.
sam-upā(upa-ā)- 取って来る, 連れて来る; (供物を) 供える; みずからを犠牲にする; (入門を) 開始する.
praty-ā- 後退する; (感覚器官を世間的な対象から) 引っ込める; 取り換える; 取り戻す, 再開する, 回復する; 報告する; (創造されたものを) 撤収する, 破壊する; 罽 答, 示 *Lank.*; 牽出 *Abh-vy.*
vy-ā (持ち出す), 発音する, 発言する, 話す, (子供が) 語り始める, (罽) に言う, (saha) と会話・会談する. 罽 入, 居 *Lal-v.*; 言, 講授 *Saddh-p.*; 説 *Daś-bh.*, *Lank.*, *Saddh-p.*; 語 *Prat-m.*; 演説 *Daś-bh.*, *Saddh-p.*; 称, 讃言, 教, 教化 *Daś-bh.* **過受分** *vyāhṛta* 発言された; 話された, 言われた, 述べられた.
anu-vy-ā- 相前後して発言する (U.); 呪う, 悪口を言う (Br., 罽).
abhi-vy-ā- 発言する, 復誦する. **使役** 発言せさせるまたは復誦させる; 発音する; 罽 語, 告言 *Ast-pr.*
sam-abhi-vy-ā- 同時に発音するまたは挙げる.
pra-vy-ā- 罽 対日 *Buddh-c.*; 発, 普発, 宣揚, 宣伝, 演説, 解説 *Daś-bh.*
sam-ā- 一緒にする, 集める, 取って来る, 連れて来る; 結合する; その場所 (罽) に返還する; (創造されたものを) 撤収する=(諸世界を) 破壊する. **過受分** 一緒にされた, 集められた, 取って来られた, 連れて来られた; 集合された; 一緒に連れて来られた, 全部結合された; 張られた (弓の弦).
ud-(dhr) 罽, 罽: (罽) から取る・持ち上げる・ひばるまたは引き出す (普通の意味); 上へあげる, 高め (普通の意味); (危険から) 引き出す, (罽) から救う救出するまたは解放する; 選択する, 選り抜く…の方を好む; 除外する; 罽: (雑草を) 引き抜く (衣服から手を) 伸ばす=裸のままにして置く; (己の食物: 罽) から取る; (税を) 課する; 分離する, 離す; 除去する; 絶滅する, 破壊する; (荷を) になう, (罽) を継続する; 高揚する, かき立てる, 強化する; (自己の目的を) 促進する; 提供する; 証明する; 罽 断 *Lal-v.*; 取去 *Ast-pr.*; 出 *Abh-vy.*; 発掘, 抜濟, 抜取, 罽 出 *Divy.*; 抜, 救濟, 抜濟 *Daś-bh.* **不変分** *uddhṛtya* …

除いて；**𑖀𑖩** 穿取 *Divy.* **𑖀𑖩** 取り出された等；また=(蓮, **𑖀𑖩**) から彫刻された(顔)；高められた等。**𑖀𑖩** **𑖀𑖩** *uddhārayati* (**𑖀𑖩**) によって(矢を)引き抜かせる, 引き抜いてもらう；(𑖀𑖩) から救い出す, 救済する, 解放する；専有する；保有する；**𑖀𑖩** 挑取, 穿取 *Divy.* **𑖀𑖩** 救助または援助することを切望する。

abhy-ud-(**𑖀𑖩**) から救い出す；取り出す,(水)をくみ出す；(黄金を)集める；あげる, 救済する, 促進する, 援助する；(財産を)取り戻す, **𑖀𑖩** 抜滅 *Daś-bh.*

prod(pra-ud)-(**𑖀𑖩**) から引き抜く,(水)をくみ出す；救う, 解放する。

praty-ud-(**𑖀𑖩**) から救うまたは解放する。

vy-ud- 分配する；(𑖀𑖩) から引き抜く。

sam-ud-(**𑖀𑖩**) から取る・引き出すまたは引き抜く；抜く, 根こそぎにする；(𑖀𑖩) から救うまたは解放する；(遺産の分け前を)前もって控除する；根絶する, 破壊する；高めるまたは持ち上げる；(貨幣を)拾う；起こす, 強化する。

upa- 持って来る, 取って来る, 連れにゆく；(とくに食物を)提供するまたは贈る；…を贈呈する；(水)を汲みあげる。

nir-(**𑖀𑖩**) から取り出すまたは取り去る・引き出すまたは引き抜く；(重荷を)取り除く；(神格の身体の部分)を取る；(商品)を輸出する；(罪等) **𑖀𑖩** からまぬがれる；(ある人の衣服)を(他の人のもの) **𑖀𑖩** とごちゃまぜにする；破壊する；**𑖀𑖩** 出生 *Saddh-p.* **𑖀𑖩** (死体を)運搬させる。

abhi-nir- **𑖀𑖩** 生 *Aṣṭ-pr., Lank., Sukh-vy. I.*；得 *Saddh-p.*；獲 *Daś-bh.*；出生 *Gand-vy.*；出現 *Sukh-vy. I.*；起 *Daś-bh.*；発起 *Śikṣ.*；引生 *Abh-vy.*；引発 *Aṣṭ-pr., Daś-bh.*；引堪 *Bodh-bh.*；普念, 令其出離 *Gand-vy.*

vi-nir- 取り出すまたは引き出す；(利息)を取る；除去する。

pari- **𑖀𑖩** 運びまわる；**𑖀𑖩**, **𑖀𑖩**：囲む, 取り巻く；**𑖀𑖩**：置き去りにする；(ある人)を容赦する；避ける, よける, 免れる(普通の意味)；(ある人) **𑖀𑖩** に(苦痛) **𑖀𑖩** を与えないで済ます；(𑖀𑖩) から離れて超然としている, (𑖀𑖩) を警戒している；(支持出来ないとして)斥ける, 反駁する, 論破する；**𑖀𑖩** 防 *Abh-vy.*；釈 *Madhy-vibh.*；教授 *Lal-v.*；免, 遮止, 遠離, 避護 *Bodh-bh.*；頂戴, 荷担 *Saddhp.*

vi-pari- まぜあわせる, 間違って交換する(**𑖀𑖩**)。

pra-(賞讃)を与える(*praharmi*, *RV.* 用例一回のみ)；前進する, 広がる(**𑖀𑖩**)；(𑖀𑖩)の中に入れる(*RV.*)；**𑖀𑖩**, **𑖀𑖩**：(𑖀𑖩)にほうり投げる・放つまたは投入する；(火中に)投げる(*Br., S.*)；(こぶし等)を差し出す(=**𑖀𑖩**, **𑖀𑖩**)；まれに**𑖀𑖩**, **𑖀𑖩**)を打つまたは攻撃するまたはに打撃を与える(**𑖀𑖩**においてはきわめてまれ)；**𑖀𑖩** 悩乱 *Divy.* **𑖀𑖩** 打たれた等；**𑖀𑖩** **𑖀𑖩** (**𑖀𑖩**)によって(𑖀𑖩)に対して打撃が加えられた。**prahr̥te sati**, 打撃が加えられたときに, **𑖀𑖩** (**𑖀𑖩**)によって(𑖀𑖩)に対して打撃を加えたいと欲する。

anu-pra- 後で(火中に)投げる。

abhi-pra-(**𑖀𑖩**)に打ちかかる。

prati- *Pratihartṛ* 祭官として *Sāman* の詠唱に加わる(*Br., S.*)。

vi- **𑖀𑖩**：ばらばらにする；切り離す, 開く；別々にしておく；(とくに詩句を)置き換える；ひきちぎる, 傷つける；**𑖀𑖩**：運び去る, 除去する；(𑖀𑖩)から引き抜く(時く；(取り去る=)(時間) **𑖀𑖩**)を費す；(𑖀𑖩)とともに(間を)とくに愉快に過す・享受する・楽しみのためにぶらぶら歩く, 散歩する(普通の意味)；(涙)を流す；**𑖀𑖩** 在 *Bodh-bh., Lal-v., Lank., Rāṣṭr., Saddh-p.*；住 *Aṣṭ-pr., Vajr-pr.*；安住 *Bodh-bh., Daś-bh.*；安立 *Bodh-bh.*；行 *Aṣṭ-pr.*；遊 *Saddh-p.*；遊行 *Śikṣ.*；詣 *Lal-v.*

sam- **𑖀𑖩** 一緒にする, 集める；寄せ集める, まぜあわせる；**𑖀𑖩**, **𑖀𑖩**：寄せ集めて一つにする,(手足)を縮める；**𑖀𑖩**：(こぶし)にぎりしめる；(心)を, (**𑖀𑖩**)に集中する；(武器)を回収する；(カーテン)を引く；(𑖀𑖩)から(凝視, 感覚器官)を引っ込める；(仮の姿)を捨てる；一緒に引く,(糸)をぴんと張る；(徳)を取り戻す；(𑖀𑖩)から(金銭等)を引き出す；(眼)を惹く；自身のために(分け前)を取る, 我が物とする；撤収する, 破壊する(**𑖀𑖩** *Sṛj.*, 流出する, 創造する；普通の意味)；取り去る, …を奪う(また *Br.*)；抑止する, 停止する, 抑制する(普通の意味)；(**𑖀𑖩**)から(光)を抑える；**𑖀𑖩** 略 *Guhy-s.*；収, 集 *Divy.*；積集, 堪受 *Bodh-bh.* **𑖀𑖩** **𑖀𑖩** 衰, 所破壊 *Śikṣ.*

apa-sam- **𑖀𑖩** 惑乱 *Saddh-p.*

abhi-sam- **𑖀𑖩** 集 *Vajr-s.*

upa-sam- 簡潔にまとめる, 要約する；(武器)を収める；(𑖀𑖩)から(影)を取り上げる；抑止する, 停止する, 抑制する(普通の意味)；撤収・破壊する(**𑖀𑖩** 創造する)；**𑖀𑖩** 与 *Bodh-bh., Daś-bh.*；授与 *Aṣṭ-pr., Bodh-bh., Daś-bh.*；起, 開, 引発, 施与 *Daś-bh.*；饒益, 堪, 能引, 令生, 惠施 *Daś-bh.*；還授 *Saddh-p.*；增益 *Aṣṭ-pr., Sukh-vy. II.*；奉施 *Bodh-bh.*；撰, 遣解 *Divy.*；奉献 *Daś-bh.*

prati-sam- **𑖀𑖩** 拘検 *Bodh-bh.*；撰, 毀, 沮壞 *Aṣṭ-pr.*

Hṛ 2., IX. **𑖀𑖩** *hr̥ṇite* (*RV.*, まれ) (**𑖀𑖩**)に対して激怒する, 怒る。

Hṛ 3. 黄色である。

hr̥chaya (*hr̥d-śa°*) **𑖀𑖩** 心臓のなかに住んでいる；+ *muniḥ purāṇaḥ* 心のなかの古賢=良心, **𑖀𑖩** 愛；愛の神。

hr̥chaya-piḍita **𑖀𑖩** 愛によって責めさいなまれた, 恋煩いの。

hr̥chaya-varḍhana **𑖀𑖩** 恋をつのらせる。

hr̥chayāviṣṭa (*°ya-āv°*) **𑖀𑖩** 愛に夢中になった。

hr̥ṇāyat **𑖀𑖩** 激怒している(*RV.* 用例一回のみ)。

hr̥ṇiya **𑖀𑖩** 激怒する(*RV.* 用例一回のみ)。

hr̥t **𑖀𑖩** (一)を持って来る；盗む, 強奪する；取り去る, 追い払う, …に終止符を打つ, …を終らせる。

hr̥ta-dravya **𑖀𑖩** (自己の)財産を奪われた。

hr̥ta-vāsa **𑖀𑖩** (自己の)衣服を失ったまたは奪われた。

hr̥ta-śiṣṭa **𑖀𑖩** 略奪をまぬがれた。

hr̥ta-sarvasva **𑖀𑖩** 自己の一切または全財産を失った。

完全に破滅した。

- hṛta-sāra 形 最良の部分を奪われた。
 hṛti 因 取り去ること；占有，略奪，（一°）の強奪。
 hṛttas 圃 心から（RV. 用例一回のみ）。
 hṛt-tāpa 男 心痛，心の悩み。
 hṛt-padma 圃 心蓮，蓮のような心。
 hṛt-sphoṭa 男 胸がはりさけること，断腸の思い，失意。-m 圃 失意のために（死ぬ）。
 hṛd 圃 （とくに情緒および心的活動の座としての）心臓（普通の意味；因，圃）；（身体）の内部，（とくに）胸，胃（因）；因 心 Ratna-ut。
 hṛdam-sani 形 （圃）の心をかちえる（RV. 用例一回のみ）。
 hṛd-ambhoja 圃 心蓮，蓮のような心。
 hṛdaya 圃 心臓（また心の働きのあり場所として）；（身体）の内部（まれ）；中心（まれ）；核（=最もよいもの，最もいとしいもの，または最も秘密なもの）；因 心 Bodh-bh., Daś-bh., Lal-v., Lank., Mañj-m., Mvyut., Suv-pr., 梵千.; 胸 Bodh-bh. ~e Kr, 銘記する。
 hṛdaya-kampana 形 心を震動させる，心をふるわす。
 hṛdaya-kṣobha 男 心の動揺，心の悩み。
 hṛdaya-gata 過受分 心のなかにある，心中に宿った。
 hṛdayagata-salya 形 利刺貫心 Buddh-c.
 hṛdaya-granthi 男 （結び目=）心の困惑，心を悩ますもの。
 hṛdaya-grāhaka 形 心を掴む，（人を）確信させる。
 hṛdayam-gama 形 心に触れる，気に入った，愛すべき，かわいい；因 心行 Śikṣ.; 能入（其）心，通徹 Saddh-p.; 能感衆心 Bodh-bh.
 hṛdaya-cora 男 心の盗人。
 hṛdaya-caura 男 [同上]。
 hṛdaya-cchid 形 心を刺し貫く。
 hṛdaya-jvara 男 心の激しい苦痛，苦悶。
 hṛdaya-dāhin 形 心を焦がす，激しい苦痛をひきおこす。
 hṛdaya-deśa 男 心臓部。
 hṛdaya-pradeśa 男 心間 Mvyut.
 hṛdaya-pramāthin 形 心を動揺させる。
 hṛdaya-priya 形 心にいとしい，愛された；心をさわやかにする（食物）。
 hṛdaya-vallabha 男 意中の男，情人，恋人。
 hṛdaya-vṛtti 因 心の性向，性癖，気質。
 hṛdaya-vyathā 因 心痛。
 hṛdaya-vyādhi 男 心臓病；心の病い。
 hṛdaya-sūla 男 （犠牲獣の）心臓（を火に焙る）ために使用される串。
 hṛdaya-samsarga 男 心と心の結合。
 hṛdaya-samtuṣṭi-kārin 形 心喜 Mvyut.
 hṛdaya-stna 形 心の中にはぐくまれた。
 hṛdaya-hārin 形 心を魅了する。
 hṛdayānuga 形 心を満足させる（友，演説）。
 hṛdayāvarjaka (°ya-āv°) 形 （圃）の心をかちとる。
 hṛdayā-vidh 形 心を刺し貫く（RV.）。
 hṛdayeśa (°ya-īśa) 男 心の主，恋人，夫。
 hṛdayya 形 心の中にある（因）；いとしい（圃）。
 hṛdi-sāya 形 心から離れない。

- hṛdi-stha 形 心の中にある；いとしい。
 hṛdi-sprś 形 心に触れるまたは心を魅惑する。
 hṛd-ga 形 心臓にまで達する（水）。
 hṛd-gata 過受分 心に影響を与える または心の中にはぐくまれた。
 hṛdya 形 因：心の中にある，深奥の；因 圃：心にとっていとしい，愛された；圃：味のよい（食物等）；愉快な，魅力のある；因 親愛 Mvyut. -tā 因 心地よさ。
 hṛd-roga 男 内部疾患すなわち心臓病（RV. 用例一回のみ）；圃：（ある種の）病気；心の苦しみ。
 hṛn-mudrā 因 心印 Guhy-s.
 hṛi-lāsa 男 心臓の動悸。
 Hṛṣ, I. 圃 harṣate (RV.), …を期待して喜ぶ，しきりに（因）をしたがっている；喜ぶ：圃（また 圃分）；IV. 圃（圃）hṛṣyati (°te) 喜ぶ（普通の意味）；（喜びまたは恐れのために体毛が）逆立つまたは直立する；スリルのある，震えている；因 喜 Lal-v. 過受分 hṛṣta (体毛が)逆立つ；スリルのある，ぞうっとする；硬直した，ぴんとした（尾等）；喜ばしい，愉快な，快活な（普通の意味）；因 挙身毛豎 Lank.; 歓喜 Śikṣ. hṛṣita 圃：逆立った（毛）；新鮮な，凋んでいない（花，花環）；RV., 圃：喜んでいる，嬉しい，愉快な。使役 圃（圃 韻律）harṣayati, RV.: (勝利を)しきりに望ませるまたは鼓吹する；RV., 圃：喜ばせる，楽しませる；圃：喜んでいる，うれしがる（まれ）；毛を逆立たせる（まれ）；因 歓喜 Bodh-bh.; 令…悦予 Saddh-p. 過受分 harṣita 喜ばされた，楽しまされた；（髪を）逆立たされた。強意 圃 jarhṛṣti (因) 大いに刺激される；大いに興奮する。
 anu- I. (AV.), IV. (Br 圃), (ある人：圃)とともに喜ぶ。
 abhi- 使役 嬉しがらせる。
 ḍd-(dhṛs)- I. 圃 …をもどかしがる または熱望している（因）；（火が）活発に燃え上る（Br.）；（花が）開く（P.）。過受分 uddhṛṣita (圃 寒さ)のために震えているまたはにおののく。
 prod(pra-ud)- 過受分 逆立った（髪）；身震いしている。
 ni- IV. 圃（炎が）消える（Br.）。
 pra- 喜ぶ，嬉しいまたは愉快である。過受分 逆立った（体毛）；楽しまされた，嬉しい。使役 嬉しがらせる，元気づける。過受分 嬉しがらされた，喜ばされた；因 歓喜 Bodh-c.
 sam-pa- 過受分 喜んでいる，嬉しい。使役 喜 Divy., Saddh-p.; 慶慰，歓喜 Bodh-bh.; 悦予 Lal-v.; 生喜，慶喜，生歓喜心 Ast-pr.; 令其歓喜 Gand-vy.
 prati- IV. 圃（圃 韻律）（何かを）もらった代りに喜びを示す。
 sam- IV. 圃 嬉しい，喜ぶ；ぞくぞくさせられる，身震いする；因 歓喜 Saddh-p.; 生歓喜 Divy. 過受分 嬉しい，喜ばされた；楽しまされた；逆立った（髪）；因 喜 Saddh-p.; 歓 Raṣtr.
 prati-sam- 再び喜ぶ。
 hṛṣita-sraj-rajo-hina 過受分 (直立した=)新鮮な花

環を有し塵に汚れていない。

hr̥ṣi-keśa 男 (髪の逆立ったもの), [Viṣṇu-Kṛṣṇa 神の名稱].

hr̥ṣivat 形 喜ばしい (RV.).

hr̥ṣṭa-citta 形 心で喜んでいる; 欽喜, 欽喜心 *Suv-pr.*; 起欽喜心 *Bodh-bh.*

hr̥ṣṭa-tuṣṭa 形 大欽喜, 踊躍欽喜 *Rāstr.*

hr̥ṣṭa-puṣṭāṅga 形 はねまわりかっ肥った (身体を有する).

hr̥ṣṭa-manas 形 心で喜んでいる; 欽喜 *Lal-v.*

hr̥ṣṭa-mānasa 形 心で喜んでいる; 稱喜, 欽喜 *Bodh-bh.*

hr̥ṣṭa-roman 形 (身)毛の逆立った. 男 [ある Asura の名].

hr̥ṣṭi 因 喜び.

he (呼び掛けの 圖 通例 圖 の前に); 唯, 唯唯 *Mvyut.*

Heṭh (または °dh), I. 他 (自) heṭhati(°te) 邪悪である; なやまず, 傷つける, 傷害を加える:

vi- 傷つける, 害する. 使役 heṭhayati 悩 *Divy.*; 損悩 *Bodh-bh.*

heṭha 男 悩ますこと, 妨害, 傷害; 障, 害悩, *Sūtr.*

heṭhanā 因 擾, 悩乱 *Rāstr.*

heṭhāpahatva 形 障断 *Sūtr.*

heḍa, heḷa 男 [Hiḍ] (神々の) 怒り・激怒 (因).

heḍas 因 [同上] (因).

heḍāvuka 男 ばくろう.

heti 因 (因, 圖), 男 (圖), [Hi] 飛び道具, 武器 (因, 圖); *Agni* 神の武器, 火炎 (圖); 発射, (弓の弦の) 衝撃 (RV.).

hetu 男 (因, 一°, まれに 圖 圖) の原因・動機 (因においてはきわめてまれ); 圖 理由, 論議, 論証 (論理学において, 五つの支分から成る推論式の第二の支分); 手段; 価格 (まれ); (生存・生計の) 必須の条件; 仕方 (まれ) (使役動詞の) 動作主体 (文法); 第一次的原因 (因 pratyaya, 第二次的原因: 因); (靈魂の繫縛の) 原因, 感性界, (自然, 外界 (Pāśupata 派において); (目的達成のための) 必須条件 (を述べる短い演説 (圖); 因 *Aṣṭ-pr.*, *Bodh-bh.*, *Lanik.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*, *Mvyut.*, *Nyay-pr.*, *Ratna-ut.*, *Saṃkhy-k.*, *Saddh-p.*, *Sūtr.*, *Suv-pr.*, 梵千.; 因力, 因相 *Sūtr.*; 由 *Buddh-c.*; 縁 *Madhy-v.*, *Ratna-ut.*, *Saddh-p.*; 過 *Madhy-v.*; 因縁 *Bodh-bh.*, *Buddh-c.*, *Ratna-ut.*, *Saṃkhy-k.*, *Sapt-pr.*, *Śikṣ.*, *Suv-pr.*; 正語, 成語, 定評 *Mvyut.*; 為, 正因 *Ratna-ut.*; 音写 薩都 *Mvyut.*; ṣaḍ dhetavaḥ [1. kāraṇa-hetu; 相応因, 能作因, 2. sahabhū~ 共生因, 俱有因, 共因, 3. vipāka~ 異熟因, 4. samprayukta~ 同類因, 自種因, 皆因, 5. sarvatraga~ 徧行因, 6. sabhāga~ 縁, 等因, 相応因] *Mvyut.* 2259. 圖 hetunā. 因 圖 hetoh まれに 圖 または 因 …の原因 または 理由のために, (圖, 一°) の理由によって, …のために. 因 (因, 一°) 故 *Bodh-bh.*, *Saddh-p.*; 為 *Lal-v.*, *Saddh-p.*; *Sam-r.*: āhāra~ 為飲食 *Sam-r.* 65.

yato hetoh, …の故に. iti hetoh この理由のために. 一° 形 …を原因として有する, …によって引き起こされた・押し進められた または ひきつけられた.

hetuka (一°) 形 (因-i) 引き起す, を生ずる; …によって引き起されたまたは生じさせられた; 因 *Abh-vy.*, *Lanik.*, *Mvyut.*, *Nyay-pr.*, *Ratna-ut.*; 為因 *Bodh-bh.*, *Saṃkhy-k.*

hetukatva 因 因 *Lanik.*

hetu-kāraṇa 因 因 *Madhy-v.*, *Saddh-p.*

hetuki 因 因 *Ratna-ut.*

hetutā 因 原因であること, 因果関係; 因 *Bodh-bh.*

hetutva 因 [同上]; 理由または第一原因たること; (使役動詞の) 動作主体たること; 因 *Abh-vy.*, *Madhy-v.*, *Madhy-vibh.*; 成因 *Abh-vy.*; 因性 *Madhy-vibh.*; 因相 *Madhy-v.*; 因縁 *Sūtr.*

hetutva-grāha 男 因執, 執因性 *Madhy-vibh.*

hetu-pariṇāma 男 因能変 *Vijñ-t.*

hetu-pratyaya 男 因縁 *Bodh-bh.*, *Lal-v.*, *Lanik.*, *Mvyut.*, *Śikṣ.*

hetupratyaya-nirmukta 形 離因縁 *Madhy-v.*

hetupratyaya-yukti 因 縁合, 因縁和合 *Śikṣ.*

hetupratyaya-visāmagri 因 因縁壊散 *Ratna-ut.*

hetupratyaya-vaikalya 因 因縁離散 *Śikṣ.*

hetupratyaya-saṃgrhita 形 因縁和合 *Ratna-ut.*

hetupratyaya-saṃbhūta 形 從衆縁出 *Madhy-v.*

hetupratyaya-sāmagri 因 因縁和合 *Aṣṭ-pr.*

hetu-prabhava 男 因果 *Lanik.*

hetu-phala 因 因果 *Lanik.*, *Madhy-vibh.*

hetuphala-bhūtā 因 因果性, 生成因果 *Abh-vy.*

hetuphala-saṃmūḍha 形 不識因果 *Gaṇḍ-vy.*

hetu-bala 因 因力 *Bodh-bh.*, *Śikṣ.*, *Sūtr.*

hetu-balika 形 因力 *Bodh-bh.*

hetu-bhāva 男 因 *Bodh-bh.*; 因性 *Bodh-bh.*, *Madhy-vibh.*; 因事 *Madhy-vibh.*

hetu-bhūta 形 因 *Divy.*

hetumat 形 原因を有する, 引き起こされた; 理由または証拠のある, 十分な根拠のある; 議論の余地のある; 有因 *Saṃkhy-k.*; 有因縁 *Buddh-c.* 男 結果.

hetumatva 因 因, 因生 *Lanik.*

hetu-mātratā 因 単なる手段であること, 単なる口実.

hetumātramaya 形 手段または口実としてのみ役立つ.

hetu-rūpaka 因 理由を挙げて説明する隠喩, 根拠のある隠喩.

hetu-lakṣaṇa 因 因相 *Ratna-ut.*

hetu-vāda 男 有因説, 説有因 *Lanik.*

hetu-vādin 形 説因 *Lanik.*

hetu-vikalpa 男 因妄想, 因分別 *Lanik.*

hetu-vidyā 因 弁証法, 論理, 論理学; 因明 *Bodh-bh.*, *Mvyut.*, *Sūtr.*

hetu-vaiśeṣya 因勝 *Bodh-bh.*
 hetu-śāstra 因論 *Bodh-bh.*
 hetu-saṃkleśa 因難, 因雜染 *Madhy-vibh.*
 hetu-saṃgrhita 因授 *Bodh-bh.*
 hetu-satya 因實, 因諦 *Bodh-bh.*
 hetu-samutpanna 因依彼生, 彼相因法 *Lank.*
 hetu-saṃpanna 因円満, 具足正因 *Aṣṭ-pr.*
 hetu-saṃbhava 因…生 *Lank.*
 hetu-sthāniya 如因 *Bodh-bh.*
 hetu-svabhāva 因自性 *Lank.*
 hetu-hila 音写 何都兮 *Mvyut.*; 醯兜奚羅 *Lal-v., Mvyut.*
 hetu-hina 無因 *Sūtr.*
 hetūccheda 因斷滅 *Ma hy-v.*
 hetūpalabdhi 知因 *Sūtr.*
 hetūpalabdhi-tuṣṭi-manasikāra 知因作意 *Sūtr.*
 hetv-adhipati-samanantara-pratyaya 因縁…増上縁…次第縁 *Sūtr.*
 hetv-apavāda 損減因 *Madhy-vibh.*
 hetv-ārtha 因 *Ratna-ut.*; 因義 *Madhy-vibh.*
 hetv-avasthā 因位 *Madhy-vibh.*
 hetv-ākṣepa 理由(が挙げられた)にもかかわらず 不満を述べること(修詞), 理由を伴う異論.
 hetv-ābhāsa 誤った理由または証明, 誤謬, 似而非 推論 [五種類あると言われる: vyabhicāra (または savyabhicāra), viruddha, asiddha, sat-pratipakṣa および bādha (または bādhitā)]; 似因 *Nyay-pr.*; 如体现, 如因明, 如因顯, 如因行顯現 *Mvyut.*
 hetv-āvaraṇa 因障 *Madhy-vibh.*
 hetv-indriya 音写 醯都因陀利 *Lal-v.*; 何諦 尹諦力 *Mvyut.*
 hendhu (=Sindhu) 月; 音写 天竺, 身毒, 賢豆, 印度 立.
 hema 金 *Lank., Mañj-m., Mvyut.*
 hemaka 金(貨).
 hema-kakṣa 黄金の腰帯.
 hema-kamala 黄金の蓮.
 hema-kartṛ 金細工人.
 hema-kāra 同上].
 hema-kāraka 同上].
 hema-kūṭa 黄金の峰(北ヒマラヤのある山の名).
 hema-giri 黄金の山(*Meru* 山の名).
 hema-candra 黄金の月で飾られた(車). 男 [ある 有名なジャイナ学者の名. 12世紀の人で, サンスクリット, プラークリットのあらゆる領野にわたる多くの著述を残した].
 hema-jaṭa 男 種 [Kirāta 族(の一種)].
 hema-jāla 金網 *Mvyut.*
 hemajālāṃkṛta 金網荘嚴 *Lal-v.*
 hema-dāman 金帯, 金釧 *Mvyut.*
 hema-dināra 金貨.
 heman 1. 衝動 (RV. 用例一回のみ).
 heman 2. 黄金(普通の意味); 金貨: 黄金の飾り; 金 *Mañj-m., Ratna-ut.*; 真金 *Ratna-ut.*
 heman 3. heman としてのみ, 冬に(因).

hema-niṣka 金釧 *Sam-r.*; 金荘嚴 *Mvyut.*
 hemanta 冬, →hima; 冬 *Mvyut.*; 寒 *Abh-k., Suv-pr.*; 冬九十月 梵. ~śiśirau 冬と冷期.
 hemantaka 寒, 寒際 *Abh-vy.*
 hema-pratimā 黄金に似ていること, 黄金の像.
 hema-prabha 男 [ある妖精の名]; [あるおうむの王の名].
 hema-prabhā 女 [ある妖精の名].
 hemamaya 黄金の.
 hema-mṛga 黄金色の鹿, 金色の鹿.
 hema-ratnamaya 黄金と宝石からなっている.
 hemaratnavat 黄金および宝石を含んでいるまたはそれからなっている.
 hema-latā 黄金のつる草; [ある王女の名].
 hemavat 黄金で飾られた.
 hema-varṇa 黄金色 [仏名] *Lal-v.*; 真金之色 *Mañj-m.*
 hema-śṛṅga 金色の角.
 hema-sūtra 黄金の(糸=)首飾り.
 hemāṅka 黄金で飾られた.
 hemāṅga 黄金(からなる)手足または部分をもつ. 男 [*Meru* 山の名稱].
 hemācala 黄金の山, [*Meru* 山の名稱].
 hemāṇḍa 黄金の宇宙卵.
 hemātra 音写 奚麼怛羅 *Mvyut.*
 hemādri 黄金の山, [*Meru* 山の名稱]; [ある著者の名].
 hemābha (°ma-āb°) 黄金のように見える.
 hemāmbuja 金色の蓮.
 hemāmbhoja 同上].
 hemālaṃkāra 黄金の飾り.
 heyā 未受分 [*Hā* 2.] 去られるべき, 見捨てられるべき, 断念されるべき, 避けられるべきまたは回避されるべき; 滅 *Abh-k.*; 断 *Abh-k., Ratna-ut.*; 滞 *Ratna-ut.*; 所断, 所滅 *Abh-vy.*; 断 *Sūtr.*
 heyopādeya (°ya-up°) 未受分 取捨, 取与捨 *Mvyut.*
 heramba 男 [*Gaṇeśa* 神の名稱]; 水牛.
 heri 姦細, 耳聰 *Mvyut.*
 heruka 男 [*Gaṇeśa* 神の名稱]; [人名].
 Hel, I. 自 helate, 軽率に行動する, 浮薄にふるまう (叙詩, まれ). 使役 他 helayati, 嘲笑する, あざける (P., まれ).
 helana 嘲笑, あざけり, 無視.
 helā 女 (好色女の) 奔放な行為(の一種); 軽率, 気安さ. °— および 圓 helayā 浮薄に; 安々と, もめごと または 騒ぎもなく (trṇa-, それがあたかも薬であるかのように楽々と). -krṣṭa 未受分 激怒にひきずられた.
 helā-cakra 男 [人名].
 helā-rāja 男 [ある著者の名].
 helu 男 [ある村の名].
 heluga 音写 奚魯伽 *Mvyut.*

helu-grāma 男 [同上].

heluya 男 [音写] 醜魯耶 *Mvyut.*

heluvu 男 [音写] 和盧弗 *Mvyut.*

hevara 男 [音写] 奚婆羅, 哈波蘭 *Mvyut.*

hevāka 男 気まぐれ, 移り気.

hevākitā 因 …に対する献身.

hevākin 形 (一)に献身している・に没頭した.

Heṣ, I. 他 heṣati, いななく (RV. 用例一回のみ, 圃).

abhi- …に対していななく (Br., 叙詩).

heṣa-kratu 形 力強くほえる (RV. 用例一回のみ).

heṣas 中 傷; 噴鳴 *Buddh-c.*

heṣā 因 いななき.

heṣāya, 名動 自 いななく (まれ).

heṣita 受分 中 圃 および 圃 いななき.

heṣta 沈下 *Suv-pr.*; 下 *Saddh-p.*, 梵. ; 下際 *Sam-r.*

heṣtā 因 下 *Saddh-p.*: ~prariḥbhāga 下方 *Saddh-p.* 310.

heṣtima 最上 下 *Saddh-p.*

heṣthi 副 下方 *Lal-v.*

heṣthe 因 副 下 *Sam-r.*

hai 因 呼 不変辞.

haiṅgula 形 [hiṅgula] 朱色の.

haituka 形 (因-i) [hetu] (一)によってひきおこされた, …に依存している; 理由を尋ねる, 合理主義的な, 懐疑的な. 男 合理主義者, 懐疑論者.

haima 1. 形 雪・氷 または 霜 (hima) によってひきおこされた; 雪で覆われた; 雪 *Raṣṭr.*

haima 2. 形 *Hema(-candra)* によって著作された. 男 *Hemacandra* の辞書.

haima 3. 形 (因-i) 黄金 (hema) からなる, 黄金の; 金 *Abh-k., Lank.*; 真金 *Lank.*

haimana 形 (因-i) 冬 (heman) に属する, 冬の.

haimanta 形 (因-i) 冬 (hemanta) に属する, 冬の.

haimantika 形 [同上]; 冬時 *Mvyut.*, *Śikṣ.*; 冬用 *Divy.*, *Śikṣ.*; 隆冬 *Lal-v.*

haimantika-vāsa 男 冬間地 *Mvyut.*

haimavata 形 (因-i) *Himavat* に属している・位置している・生長している・育てられたまたは由来する; 雪山 *Sam-r.*, *Suv-pr.*; 雪山部, 雪山家 *Mvyut.*

haimavati 因 *Gaṅgā* 河 および *Pārvatī* の因系.

haimācala 男 雪山, ヒマラーヤ.

haimi-Bhū, 黄金になる.

haiyaṃ-gavīna 中 前日 [hyas] の (牛 go から得られた) 乳脂から作られたバター, 新鮮なバター.

hairanya 形 [hiranya] 黄金の; 黄金を有する (河; 叙詩).

hairanyaka 男 金細工人.

hairanya-garbha 形 *Hiranyagarbha* に属している等. 男 [Manu の因系].

hairanya-stūpa 形 (因-i) *Hiranyastūpa* によって作られた.

hairanyika 金商主, 金舗主, 鬻金為業 *Gaṇḍ-vy.*

hairamba 形 *Heramba* (*Gaṇeśa* 神) に関する. 男 *Heramba* の崇拜者.

hairika 男 間諜, スパイ.

haihaya 男 [ある民族の名] *Haihaya* 族の王子.

ho, 圃 (人を呼びかけるのに用いられる), ほう!

hodha 男 または 圃 盗まれた財産, 盗品.

hodhā 因 [同上].

hotavya 未受分 [Hu 1.] 捧げられるべきまたは供えられるべき; …に供えらるべき.

hotṛ 男 [祭りを行なう人: Hu 1.] ホートリ祭官, 主要な祭官(最古のヴェーダ時代においては *Adhvaryu* 祭官のみが彼と共同して事に当った); Br. においては四種の主要な祭官の最初のもの(また最も広義において, これら四種の祭官を彼等の助手とともに包括して言う場合の術語); 圃: (また *tri* 因, *tr* 中; 圃, 一)の祭式を行なうもの; 作焼施 *Mvyut.*

hotṛ-camasa 男 *Hotṛ* または *Hotṛ* たちの杯 (因).

hotṛ-japa 男 *Hotṛ* の低音の暗誦.

hotṛtva 中 *Hotṛ* 祭官の職.

hotṛ-varya 中 (Br.) *Hotṛ* 祭官の選出.

hotṛ-vūrya 中 (RV., S.) [同上].

hotṛ-veda 男 *Hotṛ* 祭官の儀式 (因).

hotṛ-śadana 中 *Hotṛ* 祭官の座席 (因).

hotra 中 祭式(その行為および供え物; 因, 圃 においてはまれ); 祭ること, *Hotṛ* 祭官の機能 (因); 祭祀 *Divy.*

hotraka 男 *Hotṛ* 祭官の助手(最広義に用いられる場合にはすべての主要な祭官をも含める: Br., S).

hotrā 1. 因 (因) [Hu 1.] 祭官の職, とくに *Hotraka* の職能: また *Hotraka* (自身).

hotrā 2. 因 [Hū 2.] 呼びかけ, 祈念 (因); また擬人化される.

hotrā-vid 形 祈念・呪文を知っている (RV.).

hotrā-śamsin 男 (*Hotraka* の受持ち部分を暗誦する), *Hotṛ* の助手, *Hotraka* (Br., S.).

hotriya 中 (*Hotṛ* 祭官 または 祭主に関して), 祭官職 (RV. 用例一回のみ).

hotriya 形 *Hotṛ* または *Hotraka* に属している等 (因).

homa 男 [Hu 1.] (火の中に) 注ぐこと, 捧げること, 献供 (因, 圃: RV. には存在しない); 焼施 *Mvyut.*; 音写 護摩 *Mañj-m.*

homa-karman 中 祭式.

homa-kāla 男 祭式の時.

homa-turamga 男 祭式のための犠牲馬.

homa-dhenu 因 祭式のための(乳を出す)牛.

homan 1. 中 [Hu 1.] 献供, 祭式.

homan 2. 中 [Hū] (讚美の言葉を) 発すること (RV. 用例一回のみ).

homa-bhāṇḍa 中 祭具.

homaya, 名動 他 供物を捧げる, (あるもの: 圃) を (圃) に捧げる; 捧げさせる.

homāgni 男 祭火.

homānala 男 [同上].

homin 形 (一)を祭る.

homiya 形 祭式または供物に属する または のために意図された.

homopakaraṇa (°ma-up°) 中 焼施, 焼施所有物 *Mvyut.*

horā 因 [ωρα] 時刻; 十二宮の半分; 星占い, 占星術.
 horā-sāstra 因 占星術.
 hola 因 [人名].
 holada [ある場所の名].
 holarā 因 [同上].
 holā 因 [ある町の名].
 haurā 因 Hotr に関する. 因 Hotr の職能.
 haumya 因 供物または祭式 (homa) に属する.
 Hnu, II. 因 (因 また 因 とともに) hnute, 取り去る, …を奪う (非常にまれ).
 apa- 因 拒否する, 排斥する (RV. 用例一回のみ); 否認する, 否定する (因, 因); (因) から秘密にする・隠す (因); (因) に対して償いをするまたは言い訳をする (Br.).
 ni- 因 (因) に対して (因) を償う, を詫げる (因): (祭式においてこの術語は償いの象徴的な行為にも適用される (Br., S.); 否定する (因); 隠す (因).
 過受分 nihnuta, 隠された; 秘密にされた; (何か) 異なったものとして表現された.
 ati-ni- 強情に否定する (不変分) としてのみ).
 apa-ni- 因 否定する.
 vi-ni- 否定する. 過受分 隠された.
 hyas 因 昨日; 因 昨日 Saddh-p.
 hyas-tana 因 (因 -i) 昨日に属する.
 hyastani 因 一過の人称語尾.
 hrada 因 一面の水, 水たまり, 湖, ときとして海; +gā-nga, ガンジス河の水; 因 水 Lal-v.; 河 Aṣṭ-pr.; 池 Abh-vy., Daś-bh., Lal-v., Mañj-m., Ratnat., Sapt-pr.; 小池, 小海 Mvyut.; 泉 Śikṣ.; 泉池 Bodh-bh.
 hrada-tira 因 河岸 Av-ś.
 hradin 因 水たまり または 水に富む (河川).
 hradini 因 河.
 Hras, I. 因 (因) hrasati (hrasate), より少なくなる または より短くなる, 縮小する, 減る; (因) から下降する. 過受分 hrasita 縮められた. 使役 因 hrāsayaṭi より少なくなる, 切りつめる, 減少させる.
 nir- 縮められる. 過受分 nirhrasita 短かくされた (母音).
 hrasīṣṭha 最上 最も短い, 最も小さい.
 hrasiyas 比較 より短い, より小さい, より少ない; より短い (母音).
 hrasva 因 短い, 小さい, 少ない; (身長)の低い, 低い (入口); 重要でない; 弱い (母音); (因) だけ少ない; 短い (母音; 文法); 因 短 Bodh-c., Daś-bh., Lanḥ., 梵千.; 天 Śikṣ.; 卑小 Saddh-p. 因 短母音.
 hrasvaka 因 非常に短かいまたは小さい.
 hrasvatā 因 (背)の低いこと.
 hrasvatva 因 (母音)の短いこと; 因 短 Abh-vy.; 短体 Vajr-s.
 hrasva-dirghatva 因 長短 Lanḥ.
 hrasva-bāhu 因 (因) 短い腕を有する. 因 [Rtuparna に仕えているときの Nala の仮の名].
 hrasvāṅga 因 短軀の, 背の低い.

hrasvikaraṇa 因 令乏短 Bodh-bh.

Hrād, I. 因 hrādate, 響く (非常にまれ). 使役 因 hrādayati 響かせる.

ni- 使役 因 響かせる, (太鼓を) 打つ (因).

nir- 使役 [同上] (因).

saṃ- がらがら一緒に鳴る (因). 使役 (一緒に打つこと) によって響かせる; 声高に反響する.

hrāda 因 音, 騒音, (雷の) とどろき; [人名].

hrādin 因 声高な騒音 または やかましく響く音を生ずる, 大声を出す, 大変に大声の.

hrādini 因 電光.

hrāduni (または -i) 因 [がらがらいう] あられ (因).

hrāsa 因 [Hras] 切りつめること, 縮小, 減少; 因 減 Abh-vy., Bodh-bh.

hrāsana 因 短縮, 減少.

hrāsaniya 因 縮小または減少されるべき.

hrāsa-vṛddhi 因 増減 Bodh-bh.

hriṇiya, 因 名動 因 hriṇiyate (ある人: 因) を恥じる: +na, (因) の前にいることを恥じない = との比較に堪える.

Hri, III. 因 jihreti, (ある人: 因) を または (あるもの: 因) を恥じる; 因 俯愧 Buddh-c. 過受分 hrita, 恥じた, 困惑した, はにかんだ, 赤面した; hriṇa (まれ), [同上]. 使役 因 hrepaṭati, 恥じ入らせる, 恥かしがらせる, はにかませる, 面目を失わせる (また 譬喩 = を凌駕する). 因 jehriyate, 大いに恥じる; 因 生慚, 深懷慚恥 Bodh-bh.

hri 因 恥; はにかみ, 赤面; 因 慚 Abh-k., Abh-vy., Bodh-bh., Lal-v., Mvyut., Sūtr., Vijñ-v.; 愧 Mvyut.; 慚 Sūtr.; 慚羞 Bodh-bh., Sūtr.; 慚愧 Bodh-bh.; 愧恥 Raṣṭr.; 因 寫 唎 Guhy-s.

hrita-mukha 因 恥ずかしそうな顔をした, 顔を赤らめた, はにかんだ.

hriti 因 恥; はにかみ, 赤面.

hri-dhana 因 慚財 Mvyut.

hri-dhṛti-rahita 因 無慚愧, 無慚恥, 無慚無愧. Raṣṭr.

hri-pada 因 恥の原因.

hri-bhaya 因 恥への恐れ, 恥を恐れること.

hriṃat 因 困惑した, はにかんだ; 恥じている; 因 有羞 Sūtr.; 具慚, 具慚羞 Abh-vy.; 生慚, 有慚愧, 懷慚恥 Bodh-bh.

hri-mūḍha 過受分 恥のために惑わされた.

hri-yukta 因 慚具足 Sūtr.

hri-viraha 因 無慚 Sūtr.

hri-vyapatrapitā 因 有慚…有愧 Sam-r.

hri-vyapatrapya 因 慚愧 Bodh-bh. -tā 因 修慚愧, 修習慚愧, 生慚愧心 Bodh-bh.

Hru, IX. 因 hrūṇāti: 過受分 hruta, 曲った.

vi- 逸脱させる, (賜物を) そらす (RV.). 過受分

vihruta, 曲った, 位置の狂った (RV.).

hrut 因 邪魔物, 障害物 (RV.).

hretavya 因 忘慚 Bodh-bh.

hrepaṇa 因 [Hri の使役 から] 恥, 困惑; 因 羞愧 Mvyut.

hrepaya, Hri の使役。

Hreṣ, I. 自 hreṣate, いなくな(まれ)。使役 他 hreṣayati, いなくなさせる(まれ)。

hreṣā 因 いなき。

hreṣita 過受分 中 いなき。

hry-apatrāpya-sampanna 影 具足慚愧 Lal-v.

Hlād, I. 自 hlādate, 爽快になる, 喜ぶ(まれ)。使役

hlādayati(°te), 他 自 爽快にする, 爽快になる; 喜ばせる, 楽しませる。過受分 hlādita; 滅除熱惱 Lal-v.; 令悦予, 能令悦予 Bodh-bh.

ā- 使役 [同上]。

pra- 爽快になる, 喜ぶ。使役 爽快にする, 喜ばせる; 悦予, 令悦予, 令得悦予, 清涼, 令清涼 Daś-bh.

hlāda 男 爽快にすること, 喜び; 無畏 Satr.

hlādaka 影 (因 -ikā) 冷やす, 爽快にした(因)。

hlādana 影 爽快にする。中 爽快にすること, 元気回復。

hlādikāvati 因 清涼に富むもの (RV. 用例一回のみ)。

hlādin 影 爽快にする。

hlika 影 [=hrika] 恥じた(因)。

hva-kāra 男 (音写) 訶囉字 (四十二字門の一)

hvakāram parikirtayataḥ sarvasattvābhavyavalokanabalasamjātagarbham nāma prajñā-pāramitāmukham avakrāntam; 唱訶囉 [無我反二合] 字時能甚深入般若波羅蜜門名觀察一切微細衆生方便力出生海藏 Gand-vy 450.

hvaras 中 [曲ったこと: Hvṛ] (Soma のこし器にある) ねじ曲げられたまたは編み合わされた羊毛(RV.); 陰謀(因)。

Hval, I. 他 (自 韻律) hvalati [Hvṛ の後世の形], 曲がって行く, さまよう, つまづく, 落下する, 失敗する(因)。使役 他 hvalayati, 震えさせる, 震動させる, (因, 非常にまれ)。

vi- よろめく, 不安定である。過受分 vihvalita, よろめく。

hvala 影 つまづく, よろめく。

hvalana 影 [同上]。

Hvā, Hū, II. ho-, hū- (因, まれ), III. juhū- (RV.

非常にまれ), VI. huva- (因), IV. hvayati(-te), 呼ぶ, 召す, 呼び掛ける, 呪文によって呼び出す, 祈願す

る, 祈る(因, 因), nāmnā~, 名前を呼ぶ(因)。

過受分 hūta, 呼ばれた, 召された(因, 因)。使役

他 hvāyayati. 希來 他 juhūṣati. 強意 johūyate, johaviti, 呼ぶ等(因, P. においては非常にまれ)。

anu- 再び呼ぶ, 呼び返すまたは追いかけて呼ぶ。

ā- 呼び掛ける, 呪文で呼び出す, 祈願する, 召喚する(法的な意味でも), 招く(因, 因; 普通の意味);

(Āhāva または Āhvāna の形において Hotṛ 祭官が Adhvaryu 祭官に呼び掛ける召喚について) 呼ぶ

(Br., S.); 自 (他 韻律) (戦うよう・競うようまたは賭博するよう) 挑戦する(因, 因); 叫ぶ; 復唱する(Br.,

S., 因, まれ); 集, 喚 Divy. 過受分 āhūta 呼び掛けられた等; 挑戦された。使役 召喚させる,

呼びにやる。強意 大声に呼びかける (RV.)。

abhy-ā- (因) に対して(召喚 Āhāva を) 行なう(因)。

pary-ā- 自 …前後に Āhāva を行なう (Br.)。

vy-ā- 自 (Āhāva を挿入すること) によって分離する (Br., S.)。

sam-ā- 召集する, 集合させる; 召喚する; (戦うようまたは賭博するよう) 挑戦する。

ud-(dhvā) 呼び出す, 引き出す(因)。

upa- 自 (他 まれ, 因) (因, 因, 因) に呼び出す・召喚するまたは招く(因, まれに因); 励ます, ほめたたえる (Br., S., まれ)。

ni- 自 呼びおろすあるいは呼び入れる, 呪文で呼び出す, 祈願する(因)。

pra- 呪文で呼び出す, 呼び掛ける, 祈願する (RV.)。

pra-hvaya 他 は prahva の 名動 でもある 因。

vi- 自 あちこちへ呼ぶ, 競って祈願する; (あるものを) 求めて争う; 呼んで他方へそらせる (Br.)。

sam- 召集する(因)。

hvāra 男 [曲りくねっているもの: Hvṛ から] 蛇(因)。

Hvṛ, I. 自 hvarate 曲がる, 落下する (YV.)。使役

(因) 曲がって行かせる, 迷わせる, あざむく。自 さまよう。三過 jihvaras, juhuras. 因 juhurat,

juhurāṇa。

ā- 迷わせる, 苦しめる, 悩ます (RV.)。

upa- 自 迂回または遠廻りして行く。

vi- つまづく, 落ちる(因)。使役 ひっくりかえす, 転覆させる。